

知多地方教育計画案

小学校

令和 2 年度発行版

知多地方教育事務協議会

知多の教育の目指す人間像

豊かな教養を身に付け
たくましい生活力をもち
郷土並びに国家の発展に尽くす
人間愛に満ちた民主的な日本人

序

21世紀を生きる子どもたちのために、学習指導要領の趣旨を踏まえ、特色ある学校づくりを目指して日々の教育に絶え間ない努力をしていただいていることに心より感謝申し上げます。

知多地方教育計画案は改訂を繰り返しながら、子どもたちに必要な力を育むための「教育課程の礎」として、知多管内の先生方に広く活用されてきました。

今回の知多地方教育計画案の改訂に当たっては、前回改訂の留意事項に加え、以下の点に留意して作成いたしました。

- 1 教科書等の内容変更に伴い、単元目標や年間計画等を見直して、カリキュラムを再編成する。
- 2 各教科等の目標や内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で整理する。
- 3 評価規準についても、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点に整理する。
- 4 外国語科の導入による全面改訂。

また、前回同様、本計画案を様々なスタイルで活用できるようにデータでの提供としています。PDF形式のデータについては、各校のサーバーに入れていただくことで、いつでも検索・閲覧したり、必要な部分を印刷したりすることが可能となります。

本計画案を基に、先生方の創意工夫によって、学校、地域、生徒の実態に応じた教育計画を編成する手掛かりとして活用していただき、知多の教育が更に発展・向上することを心から期待しています。

終わりに、本計画案の改訂に当たって、常に献身的にご尽力いただきました作成委員並びに関係各位に厚くお礼を申し上げ、刊行の序といたします。

令和2年3月

知多地方教育事務協議会長

知多地方教育計画案について

知多地方教育計画案は、「知多の教育の目指す人間像」に示された人間の育成を目指して作成された地域教育計画案である。各学校では、本計画案を基にして十分な検討を加え、適切な学校教育計画案を作成し、実施するものとする。

1 基本方針

本計画案は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の実現を図り、児童に「生きる力」を育むことを目指して作成した。

主なねらいは、次のとおりである。

- (1) 「知多の教育の目指す人間像」に示された人間の育成を基本原則として、小学校学習指導要領の趣旨の具現化を図る。
- (2) 基礎的・基本的な知識や技能の習得をさせるとともに、それらを活用する学習を通じて、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

2 作成上の主な留意点

本計画案は、知多地方の指導者が日々の教育活動を円滑に進めていくことができるように作成したものである。そのために、「何を」「どのように」考えて学習活動を構成するとよいか、その手掛かりを具体的に提示した。また、少経験者の教員が、指導要領の趣旨を踏まえながら基礎的・基本的な学習内容を落とさず指導に当たることができるように、標準的な授業展開について確認できるようにした。

主な留意点は、次のとおりである。

- (1) 各教科等の指導を通した、「資質・能力」の育成

- ・各教科等の目標や内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理する。

※知多地方教育計画案本文の小単元（音楽・図画工作・家庭は「題材」）において、目標が三つない場合がある。ただし、「学びに向かう力、人間性等」については、必須項目としている。

- ・各教科等の単元における授業展開例では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点を示した上で、評価する際の基になる活動やポイントを示す。

※主体的に学習に取り組む態度を評価する場合は、

- ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うとする側面と、

- ②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、

という二つの側面を評価することが求められる。そのため、各教科等の特質に応じて、児童の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行うよう留意する。

(2) カリキュラム・マネジメント等の重視

- ・児童や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てる。指導計画では，単元を構想する上での留意点に示す。
- ・他教科，他学年との関連やスパイラルな学習について，教科書の内容を踏まえて示す。
- ・幼保小中学校での学習内容の円滑な接続を踏まえる。

※「スパイラルな学習」とは，基礎・基本の定着のために，内容の一部を重複させた複数の学習機会を通して，効果的に定着を図る学習である。

(3) 言語活動の重視

- ・各教科等において言語活動を重視し，その内容や場面について示す。
- ・各教科等における記録説明，論述，討論といった学習活動を充実させる。
- ・言語活動の重視に当たっては，コミュニケーション能力の育成とともに認識・思考・判断という言語の働きについて，児童の能力を高めることを意識する。

(4) 伝統や文化に関する教育の充実

- ・我が国や郷土の伝統や文化を受け止め，継承・発展させるための教育を充実できるように，それらについて言及できる学習活動や場面を示す。

(5) 道德教育の充実

- ・道德の教育計画例を作成し，各内容項目について，小・中学校で併せて指導案例を示す。
- ・道德と教科等との関連を示し，各教科等でそれぞれの特質に応じて道德の内容を適切に指導できるようにする。
- ・各学校の道德教育全体計画の別葉を作成するための参考例を提示する。

(6) 小学校外国語活動・外国語科

- ・外国語科については，検定教科書の内容を基にした教育計画案を作成し，提示する。
- ※外国語活動についても，文科省から出される外国語活動新教材の内容を基に参考資料として作成

(7) 情報活用能力の育成

- ・学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作に関する内容や場面を示す。
- ・プログラミングを体験しながら，コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けることができる内容や場面を示す。

3 授業時数等の取り扱い……………＜資料 1＞

学習指導要領に示された授業時数は，資料 1 の表のとおりである。第 1 学年は年間 34 週，その他の学年は 35 週として各教科・領域別授業時数を示してある。各学校においては，この標準授業時数を満たすように，計画を立てて授業を実施しなければならない。

また，各教科等の特質に応じ，10 分から 15 分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合（モジュール型）において，その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができる。

4 教育課程実施上の配慮事項

学習指導要領第1章総則第3「教育課程の実施と学習評価」に示された次の9項目について配慮するとともに、教育委員会の指導や従来の実践、研究の成果を生かして、教育課程の適切な実施に努めることが必要である。

○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱が偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学習の過程を重視すること。

- (2) 言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、児童の言語活動を充実すること。あわせて、読書活動を充実すること。

- (3) 情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。

あわせて、各教科等の特質に応じて、次の学習活動を計画的に実施すること。

ア 児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動

イ 児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動

- (4) 児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。
- (5) 児童が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。
- (6) 児童が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。
- (7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学び

の実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

○ 学習評価の充実

学習評価の実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習の状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- (2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

- 5 知多地方教育計画案本文凡例……………＜資料 2＞
- 6 学習指導案例……………＜資料 3， 4＞
- 7 年間計画例……………＜資料 5＞
- 8 日案例……………＜資料 6＞

<資料１> 授業時数等の取り扱い

年間授業時数一覧表

	１年	２年	３年	４年	５年	６年	計
国語 ※書写含む	306 (9)	315 (9)	245 (7)	245 (7)	175 (5)	175 (5)	1461
社会			70 (2)	90 (2.6)	100 (2.9)	105 (3)	365
算数	136 (4)	175 (5)	175 (5)	175 (5)	175 (5)	175 (5)	1011
理科			90 (2.6)	105 (3)	105 (3)	105 (3)	405
生活	102 (3)	105 (3)					207
音楽	68 (2)	70 (2)	60 (1.7)	60 (1.7)	50 (1.4)	50 (1.4)	358
図画工作	68 (2)	70 (2)	60 (1.7)	60 (1.7)	50 (1.4)	50 (1.4)	358
家庭					60 (1.7)	55 (1.6)	115
体育	102 (3)	105 (3)	105 (3)	105 (3)	90 (2.6)	90 (2.6)	597
道徳	34 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	209
特別活動 ※学級活動	34 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	209
総合的な学習の時間			70 (2)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	280
外国語活動			35 (1)	35 (1)			70
外国語科					70 (2)	70 (2)	140
合計	850 (25)	910 (26)	980 (28)	1015 (29)	1015 (29)	1015 (29)	5855

※ () は週授業時数

○年

单元名	单元内容	单元目标	单元评价
第一单元	1. 认识自然数 2. 认识分数 3. 认识小数	1. 理解自然数的意义 2. 理解分数的意义 3. 理解小数的意义	1. 自然数的认识 2. 分数的认识 3. 小数的认识
第二单元	1. 认识整数 2. 认识分数 3. 认识小数	1. 理解整数的意义 2. 理解分数的意义 3. 理解小数的意义	1. 整数的认识 2. 分数的认识 3. 小数的认识
第三单元	1. 认识自然数 2. 认识分数 3. 认识小数	1. 理解自然数的意义 2. 理解分数的意义 3. 理解小数的意义	1. 自然数的认识 2. 分数的认识 3. 小数的认识
第四单元	1. 认识自然数 2. 认识分数 3. 认识小数	1. 理解自然数的意义 2. 理解分数的意义 3. 理解小数的意义	1. 自然数的认识 2. 分数的认识 3. 小数的认识
第五单元	1. 认识自然数 2. 认识分数 3. 认识小数	1. 理解自然数的意义 2. 理解分数的意义 3. 理解小数的意义	1. 自然数的认识 2. 分数的认识 3. 小数的认识

単元の目標

- (1) 「知識及び技能」 (2) 「思考力、判断力、表現力等」 (3) 「学びに向かう力、人間性等」の順に三つの資質・能力に合わせて整理する。

「グループ活動を取り入れた展開例」や「発展的な展開例」など複数の展開例を示す場合もある。

標準的な展開例

【教材名・準備物等】 ○○○○○

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本時ごと、まとまりごとの学習課題を★で示してある。</p> <p>★○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習の流れを追って、主な活動内容を○で示してある。○一つが1時間とは限らない。</p> <p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>具体的な内容や児童の反応などを・で示してある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○○○○○○○○○○○○ ・○○○○○○○○○ ・○○○○○○○○○ </div> <p>2～3 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1時間ごと、または複数時間のまとまりで学習活動を要約して示してある。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>・ 左の学習活動を進めるに当たって、以下のことが示してある。 ・ 具体的にねらう事柄 ・ 指導のポイント ・ 補足すべき事柄 ・ 間違えやすい事柄 ・ 有効な手立て 等</p> </div> <p>【評】～する活動を通して、「○○（観点）」を評価する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価をする際の基にする活動と評価のポイント及び評価の観点を示してある。ただし、具体的な学習活動を左側で表現できないため、児童の具体的な姿や評価方法については言及していない。</p> </div> <p>・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○。</p> <p>・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○。</p> <p>・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○。</p> <p>・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。</p> <p>【評】～する活動を通して、「○○（観点）」を評価する。</p> <p>・ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○。</p>

【備考】

展開例を補足する内容を示している。
(他教科との関連，プログラミング的思考を扱う内容等)

児童の実態を踏まえ、指導案を立てましょう！

令和2年6月〇日 〇曜日 第〇時■ (〇〇室)

指導者

- (1) 三つの資質・能力に合わせて、目標を示す。(知識及び技能、思考力・判断力・表現力
(2) 等、学びに向かう力、人間性等の順) 学習指導要領に沿い、本単元の学習を通して身に
(3) 付けさせたい力を、児童の立場で記述する。学びに向かう力、人間性等は「～しようとする」、他の観点は「～することができる」の表現を用いる。※計画案本文参照

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
○ ○ ○	<p>1 ■○○○ 1 単位時間の流れに沿って学習活動と学習内容を児童の立場で、簡潔に記述する。</p> <p>■(1)■○○</p> <p>(2) 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>○ 本時の目標や主たる学習活動を踏まえ、児童に提示できる分かりやすい言葉で記述する。 ○</p>	10	<p>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ■○○○○○○○。</p> <p>児童の学習活動を促すための指導者の手だて、発問・指示・板書・教材教具の活用等で配慮すること、予想されるつまずきに対する支援を具体的に記述する。左側の学習活動とできるだけ位置を合わせて書く。</p>

- 1 → 主な学習活動, 学習内容
- (1) → 1 を受けた具体的な学習活動, 学習内容
 - → (1) をさらに具体化・細分化した学習内容
 - ・ → 予想される児童の反応, より具体的な学習内容

3 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○。
(1) ○○○○○○○○○○○○○○○○。
○ 段階の大まかな区切りだけでなく、
○ 学習活動の区切りにも、予定時間を
○ 必要に応じて記入する。

30 ()には評価するもの、ことを書く。
机間指導等、指導者の活動は書かない。

○ 4 ○○○○○○○○○○○○○○○○○。

○ 0 ○○○○○○○○ 「本時の目標」

0 ○○○○○○○○○○○○○○○○。

「本時の目標」が複数ある場合は、それぞれの目標に対応させて「本時の評価規準」を設定する。

■ ■ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○している。()

() には、評価できるもの、ことを書く。机間指導等、指導者の活動は書かない。

5 備考

○ ○ 本時の学習活動に関わる学級の実態、現職教育の主題に対する実態等を記述する。 ○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

- ☐ ○○ 本時の目標を達成するために、本時のどの場面で、どのような方法で指導をするか、
- ☐ ○ 指導者が特に力を入れて指導することを、現在形で記述する。

以下に示すもの等について、授業参観者からの意見や指導を踏まえ、授業後に自己評価を記述し、今後に生かす。 ※本時の目標、評価規準、手立て、発問、板書、ワークシート

＜資料 4＞ 學習指導案例（細案）

■■■■■■■■■■第○学年○組 ○○科学習指導案■■■■■■■■■■

令和2年6月〇日 〇曜日 第〇時

指導者

1 单 元

音楽・図画工作・家庭は「題材」

2 単元設定の理由

- (1) 児童観について示す。本単元の学習に関連した、児童の興味・関心やその教科の理解度等についての実態を記述する。
- (2) 教材観について示す。本単元では、どのような教材を用いて、どのような学習をするのかを記述する。また、教材の特色や教科学習で目指すものとの関連等についても記述する。
- (3) 指導観について示す。単元全体の指導の構想について、指導のねらいや手順、手立て等を記述する。

3 単元の目標

4 学習の計画

＜資料3＞ を参考に、略案よりも詳しく書く。

5 本時の学習指導

6 備考

- [illegible]

- (3) ○○○○ (資料○)
- その他、本時の学習活動及び学習指導に必要なことを記載する。
※板書計画、座席表、抽出児童の捉え、教室配置図

7 指導と評価

＜資料 5＞年間計画例

第○学年 ○○科 年間計画（標準○○時間）

1 学期 (〇〇時間)

単元名	配当時間	備考

2 学期 (〇〇時間)

単 元 名	配 当 時 間	備 考

3 学期 (〇〇時間)

単 元 名	配当時間	備 考

※備考には複数の展開例があることや、学習分野など教科で必要な情報を示している。
※各教科等によって、形式に違いがある。

<資料6> 日案例（知多カリマネージャー様式） ※主幹教諭が入った形式もあり

第 週 校長 教頭 教務主任 担任

	/	/	/	/	/
	月	火	水	木	金
1	/	/	/	/	/
2	/	/	/	/	/
3	/	/	/	/	/
4	/	/	/	/	/
5	/	/	/	/	/
6	/	/	/	/	/
備考					

時間 数 集 計	教科・領域	実施	累計	教科・領域	実施	累計	教科・領域	実施	累計	学期集計		
							道 徳				実施	計
							外 国 語			教 科		
							総 合			道 徳		
							学 活			外 国 語		
							児 童 会			総 合		
							ク ラ ブ			特別活動		
							行 事					

令和元年度（2019年度） 知多地方教育計画案作成委員会（小学校）名簿

作成委員会代表：池田 森太郎（富木島小）

	教科等代表	編集委員			顧問
国語	内田 美幸 （船島小）	渡邊 秀平 （片葩小）	井上恵里子 （野間小）	伊藤 雅彦 （雁宿小）	横井 学 （雁宿小 校長）
		渡邊 真由 （平洲小）	平井 綾香 （岡田小）	濱嶋辰太郎 （旭南小）	
書写	大須賀奈津子 （共長小）	岩田 浩樹 （草木小）	荒木 弘美 （横川小）		高木久美子 （岩滑小 教頭）
社会	守山 佑介 （大野小）	加古 愛 （緒川小）	氏家 拓也 （緑丘小）	水野 裕貴 （鬼崎北小）	鬼頭 学 （緒川小 校長）
		青木 孝輔 （新知小）			
算数	竹内 永 （師崎小）	日比 直人 （衣浦小）	相川 忠行 （富貴小）	酒井 貴司 （乙川中）	幾世 稔 （岩滑小 校長）
		及川 裕樹 （平洲小）	音瀬 正義 （大府小）	神山 雄樹 （つつじが丘小）	
理科	杉本 憲保 （横川小）	成田 梓 （緒川小）	永田 貴郎 （上野間小）	間瀬 彰宏 （乙川小）	山中 陽一 （加木屋南小 教頭）
		東間 綾子 （旭北小）			
生活	荒尾 敏雄 （佐布里小）	鈴木 麻美 （英比小）	鈴木真梨英 （富木島小）		松尾 由美 （常滑東小 教頭）
音楽	市江真理子 （大東小）	鈴木 佳代 （緒川小）	近藤 香織 （緑陽小）	戸田 晴香 （八幡小）	森田 裕泰 （有脇小 校長）
図工	蟹江 紗代 （横須賀小）	森川 祐加 （緑丘小）	柴川 良美 （大東小）	井上 和人 （旭南小）	山本 創 （横川小 教頭）
体育	榊原 章仁 （東部小）	井田 秀一 （緑丘小）	高下 隆史 （亀崎小）	大岩 浩子 （新田小）	上野 忍 （上野中 校長）
家庭	長谷真理子 （西部中）	杉江 清恵 （乙川東小）	竹内 真紀 （旭北小）		林 智子 （加木屋南小 校長）
外国語	森 木綿子 （加木屋小）	上村 篤史 （八幡中）	田中 怜子 （渡内小）	柳田 真弥 （大府小）	千賀 秀樹 （加木屋小 校長）
道徳	万浪 真広 （大府南中）	須崎 陽子 （卯ノ里小）	大村 章仁 （鬼崎中）		長谷川浩一 （東部小 校長）
情報	三浦 隆之 （石浜西小）	山下 将弘 （加木屋小）			堀木 研一 （有脇小 校務）

令和2年度 知多地方教育計画案

プログラミング教育

プログラミング教育

1 ねらい

文部科学省は「小学校プログラミング教育の手引（第一・二版）」「教育の情報化に関する手引」の中で、以下のように学習活動を六つに分類するとともに、プログラミング教育のねらいを示している。

【学習活動の分類】

- A 学習指導要領に例示されている単元等で実施するもの（算数科，理科等）
- B 学習指導要領に例示されていないが，学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの
- C 教育課程内で各教科等とは別に実施するもの
- D クラブ活動など，特定の児童を対象として，教育課程内で実施するもの
- E 学校を会場とするが，教育課程外のもの
- F 学校外でのプログラミングの学習機会

【ねらい】

- ① 「プログラミング的思考」を育むこと※

※プログラミング教育を通じて，児童がおのずとプログラミング言語を覚えたり，プログラミングの技能を習得したりすることは考えられるが，それ自体を，ねらいとはしない。

- ② プログラムの働きやよさ，情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることなどに気付くことができるようにするとともに，コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり，よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこと

- ③ 各教科等の内容を指導する中で実施する場合には，各教科等での学びをより確実なものとする

上記，ねらいを達成するためには，学習指導要領に示すとおり，児童がプログラミングを「体験」し，自らが意図する動きを実現するために試行錯誤することが極めて重要である。

2 プログラミング教育で育む資質・能力

「小学校段階における論理的思考力や創造性，問題解決能力等の育成とプログラミング教育に関する有識者会議『議論の取りまとめ』」では，各教科等で育む資質・能力と同様に，資質・能力の「三つの柱」で以下のとおり，整理している。

(1) 知識及び技能

身近な生活でコンピュータが活用されていることや問題の解決には必要な手順があることに気付くこと

(2) 思考力，判断力，表現力等

発達の段階に即して，「プログラミング的思考」（自分が意図する一連の活動を実現するために，どのような動きの組合せが必要であり，一つ一つの動きに対応した記号を，どのように組み合わせたらいいのか，記号の組合せをどのように改善していけば，より意図した活動に近付くのか，といったことを論理的に考えていく力）を育成すること※

※「プログラミング的思考」の育成を考える際，「情報活用能力」との関係を確認しておくことが重要である。

(3) 学びに向かう力，人間性等

発達の段階に即して，コンピュータの働きを，よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること

3 プログラミング教育のねらい実現に向けて

プログラミング教育のねらいを実現するためには、各学校において、プログラミングによってどのような力を育てたいのかを明らかにし、必要な指導内容を教科等横断的に配列して、計画的、組織的に取り組むこと、さらに、その実施状況を評価し改善を図り、育てたい力や指導内容の配列などを見直していくこと（カリキュラム・マネジメントを通じて取り組むこと）が重要である。

しかし、カリキュラム・マネジメントを通じてプログラミング教育を進めていくに当たっては、以下の点について留意する必要がある。

(1) コンピュータを用いずに行う指導の考え方

学習指導要領では児童がプログラミングを体験することを求めており、プログラミング教育全体において児童がコンピュータを用いないということは望ましくないことに留意する必要がある。コンピュータを用いず「プログラミング的思考」を育成する指導を行う場合には、児童の発達の段階を考慮しながらカリキュラム・マネジメントを行うことで児童がコンピュータを活用しながら行う学習と適切に関連させて実施するなどの工夫が望まれる。

(2) プログラミング言語※や教材選定の観点

複数の言語や教材の中から、それぞれの授業においてプログラミングを取り入れるねらい、学習内容や学習活動、児童の発達の段階等に応じて、適切なものを選択し活用することが望まれる。また、児童の発達の段階や学習経験を踏まえて、児童の負担にならない範囲で、学習内容等に応じて使用する言語を変更することも考えられる。

※プログラミング言語を用いてプログラムを記述・修正したり実行したりするためのソフトウェア（ツール群）を「開発環境」と呼ぶが、ここでは、プログラミング言語と開発環境とを厳密に区別せずに、「プログラミング言語」としている。

4 プログラミング教育の評価

プログラミング教育を各教科等の内容を指導する中で実施する場合には、「プログラミング的思考」等を育むとともに、それぞれの教科等の学習をより深いものとするのが重要である。

プログラミングを実施した際の評価については、プログラミングを学習活動として実施した教科等において、それぞれの教科等の評価規準により評価するのが基本となる。すなわち、プログラミングを実施したからといって、それだけを取り立てて評価したり、評定をしたりするものではない。

その上で、各学校がプログラミング教育で育みたい力を明らかにし、各教科等において「プログラミング的思考」等を育むための学習活動を計画し実施して、児童の資質・能力の伸びを捉えるとともに、特に意欲的に取り組んでいたり、プログラムを工夫していたりなど、目覚ましい成長の見られる児童には、機会を捉えてその評価を適切に伝えること等により、児童の学びがより深まるようにしていくことが望ましい。

また、教育課程内で各教科等とは別に実施する場合は、教科等の評価規準により評価したり、評定をしたりすることはないが、それ以外は前述と同様に児童を見取り、その評価を適切に伝えるなどすることが望ましい。

5 プログラミングに関する学習活動の分類と指導例・・・・・・・・・・＜資料１＞

6 プログラミング教育全体計画例・・・・・・・・・・＜資料２＞

7 プログラミング教育年間計画例・・・・・・・・・・＜資料３＞

8 プログラミング教育学習指導案例・・・・・・・・・・＜資料４＞

<資料 1>プログラミングに関する学習活動の分類と指導例

1 教育課程内で実施するもの（A～D分類）

A 学習指導要領に例示されている単元等で実施するもの

- ・算数（第 5 学年）
プログラミングを通して、正多角形の意味を基に正多角形をかく場面
- ・理科（第 6 学年）
身の回りには電気の性質や働きを利用した道具があること等について、プログラミングを通して学習する場面
- ・総合的な学習の時間①
「情報化の進展と生活や社会の変化」を探究課題として学習する場面
- ・総合的な学習の時間②
「まちの魅力と情報技術」を探究課題として学習する場面
- ・総合的な学習の時間③
「情報技術を生かした生産や人の手によるものづくり」を探究課題として学習する場面

B 学習指導要領に例示されていないが、学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの

- ・音楽（第 4 学年）
様々なリズム・パターンを組み合わせて音楽をつくることについて、プログラミングを通して学習する場面
- ・社会（第 4 学年）
都道府県の特徴を組み合わせて 47 都道府県を見付けるプログラムの活用を通して、その名称と位置を学習する場面
- ・家庭（第 6 学年）
自動炊飯器に組み込まれているプログラムを考える活動を通して、炊飯について学習する場面
- ・総合的な学習の時間
課題について探究して分かったことなどを発表（プレゼンテーション）する学習場面

C 教育課程内で各教科等とは別に実施するもの

- ・プログラミングの楽しさや面白さ、達成感などを味わえる題材などでプログラミングを体験する例
- ・各教科等におけるプログラミングに関する学習活動の実施に先立って、プログラミング言語やプログラミング技能の基礎についての学習を実施する例
- ・各教科等の学習を基に課題を設定し、プログラミングを通して課題の解決に取り組む学習を展開する例
- ・各教科等の学習を基に、プログラミングを通して表現したいものを表現する学習を展開する例

D クラブ活動など、特定の児童を対象として、教育課程内で実施するもの

2 教育課程外で実施するもの（E～F分類）

E 学校を会場とするが、教育課程外のもの

F 学校外でのプログラミングの学習機会

＜資料２＞プログラミング教育全体計画例

令和〇〇年度 〇〇小学校プログラミング教育 全体計画

＜児童の実態＞	＜学校の教育目標＞	＜地域の実態＞
＜保護者・地域の願い＞	＜プログラミング教育の目標＞ 論理的思考力を育むとともに、プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータをはじめとする情報技術によって支えられていることなどに気付き、身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピュータ等を活用してよりよい社会を築いていこうとする態度などを育み、教科等で学ぶ知識及び技能等をより確実に身に付けることができるようにする。	＜教師の願い＞

＜育成を目指す資質・能力＞

観点	観点の説明	低学年	中学年	高学年
知識及び技能	身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付く。	<div> ・発達段階に応じた内容を示す。 ・コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができる体験等を通した、資質・能力の育成を目指す。 ・プログラミングを実施したからといって、それだけを取り立てて評価したり、評定をしたりするものではないため、評価規準のように取り扱わないよう留意する。 </div>		
思考力、判断力、表現力等	発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を育成する。			
学びに向かう力、人間性等	発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養する。			

＜関連する各教科等の力＞

国語科	社会科	算数科	理科	生活科	音楽科
<div> ・プログラミング的思考に関わる内容を示す 例) 国語科：筋道を立てて考える力 社会科：社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりする力 算数科：事象を数理的に処理する技能 </div>					
図画					な き 間

＜道徳教育及び道徳科との関連＞

・情報モラルについての学習 ・

＜各団体等との連携＞

・ICT支援員 ・学習支援ボランティア ・

＜活用する情報機器等＞

・ICT端末 ・

<資料3>プログラミング教育年間計画例

令和〇〇年度 〇〇小学校プログラミング教育 年間計画

1 各教科等で実施するもの（A・B・D分類）

国語科	社会科	算数科	理科	生活科	音楽科																																								
	都道府県の名 称と位置 (4年：4月)	筆算(加・減法) (2年：5月) 筆算(加・減・乗法) (3年：5月) 筆算(除法) (4年：5月) 倍数の見付け 方(5年：9月) 円の面積 (6年：9月) もののいち (1年：12月) 条件に合う整 数の見付け方 (6年：12月) 正多角形の作 図(5年：3月)	電気の性質や 働き (6年：2月)		音楽づくり (3～6年:随時)																																								
○プログラミング的思考 については、プログラ ミング体験を設定しな くとも、学習を通して 自然と育まれていくも のも多くある(例…算 数科「筆算」：アルゴ リズム化された表現処 理)ため、B分類の内 容は今後、年間計画に 示していく必要がある と考えられる。			○内容、対象学年が分かるように示す。 ・例では、＜資料1＞で例示したも の及び各教科書会社よりweb上で 掲載されている内容を示している。 ・内容については、単元名等でもよい。 ・未来の学びコンソーシアム※による「小学校を中心としたプログラミング教育ポータル」 (https://miraino-manabi.jp/) に各分類の実践例が掲載されているため、各学校において活用を検討する。 ※文部科学省、総務省、経済産業 省が連携して、教育・IT関連 の企業・団体等とともに設立し たコンソーシアム																																										
図画工作科	家庭科	体育科	外国語科 外国語活動	特別活動	総合的な 学習の時間																																								
多色刷り版画 (5年：12月)	炊飯 (5年：10月)			Dクラブ活動 (4～6年:年間)	情報に関する 探究的な学習 (4年：4月) (6年：9月) (5年：11月) (3年：1月)																																								
ドリーム・プロ ジェクト (6年：2月)	○今後、実践を重ね実施単元等が増加した場合は、以下の ように、各学年で年間計画を作成する。 第〇学年 プログラミング教育年間計画 <table><tr><td></td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>国</td><td colspan="12" rowspan="2">・各月に単元名や簡潔な内容を示す ・⇄等を活用して、各教科の関連も示すとよい</td></tr><tr><td>社</td></tr><tr><td>算</td><td colspan="12"></td></tr></table> ○教育課程内で実施するA～D分類で年間計画を作成する。					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	国	・各月に単元名や簡潔な内容を示す ・⇄等を活用して、各教科の関連も示すとよい												社	算													発表(プレゼン テーション) (5～6年：随時)
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																	
国	・各月に単元名や簡潔な内容を示す ・⇄等を活用して、各教科の関連も示すとよい																																												
社																																													
算																																													

2 各教科等とは別に実施するもの（C分類）

- ・「Scratch」を利用したプログラミング技能の基礎（3年:5月）

<資料4>プログラミング教育学習指導案例

第6学年O組 算数科学習指導案

令和2年12月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 算数ラボ（B分類：条件に合う整数の見付け方）

2 単元の目標 A～D分類の内容が分かるように単元等の後に（ ）で示す。

- (1) プログラムの作り方を理解し，数の表を活用したプログラムを作ることができる。
- (2) 命令の組合せ方に着目し，いろいろな条件に合う数の表を活用したプログラムを考えることができる。
- (3) 命令の組合せ方に興味をもち，プログラムの作り方の手順を考えようとする。

3 学習の計画 （1時間完了）

第1時（本時） 条件に合う整数を見付けたり，プログラムをつくったりする。P

4 本時の学習指 ．「目標」や「学習の計画」は各教科等で示しているとおりとす。

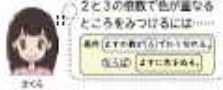
- (1) 目 標 ．※本指導案例の単元はプログラミング教育の教材であるが，倍数
- (2) 準備・資料 ．や公倍数の内容である。

- 教師…… ．「学習の計画」中に，プログラミング体験及びプログラミング的
- (3) 関 連 ．思考の内容があれば，文末にPと示す。

5年 算数

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
課題をつかむ	<p>1 本時の学習課題について考える。</p> <p>(1) プログラムの意味を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プログラム…命令の組合せ <p>(2) P.182 の問題1を読み，本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>条件に合う整数を見付けるプログラムを考えよう。</p> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータやロボットが動く仕組みについて，簡単に説明する。 ○大型TVで啓林館オリジナル版コンテンツ（以下，コンテンツと示す）を映し，P.297 の表を全体に見せる。
追究する	<p>2 プログラムのつくり方について考える。</p> <p>(1) ミッション①について，考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> </div> <p>(2) ミッション②について，考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを配布する。 ○数の表の1からスタートすることを確認させる。 ○大型TVでコンテンツを映し，プログラムのつくり方について，視覚支援をする。 ○「色をぬる」「進む」「…ならば～」などの動作や，それらの組合せ方（プログラムのつくり方）について確認させる。 ○命令は，順番を決めて組み合わせてできることを確認させる。 ○プログラムを見て「同じプログラムの繰り返し」になっていることを確認させる。 ○示されたプログラムがどのような

追究する	<ul style="list-style-type: none"> 2の倍数を見付けることができた。 	15	整数を見付けるためのものかを考えさせる。
	3 3の倍数を見付けるためのプログラムを考える。 (1) 3の倍数を見付けるプログラムをつくる <ul style="list-style-type: none"> 3でわり切れる条件が必要。 3大きい数に進むから始めるプログラムにする。 (2) 作成したプログラムについて、ペアで確認する。	25	<ul style="list-style-type: none"> 今まで同様、数の表の1からスタートすることを確認させる。 ワークシートに3の倍数を見付けるプログラムを記述させる。 評 3の倍数を見付けるプログラムの作り方を理解し、作成している。 (ワークシート)
	(3) 全体で確認する。		<ul style="list-style-type: none"> 互いに考えたプログラムを伝え、正しく3の倍数を見付けられるか確認させる。
深める	4 2と3以外の整数の倍数や公倍数を見付けるためのプログラムを考え、交流したり発表したりする。 <ul style="list-style-type: none"> 5や7の倍数 2と3の公倍数 	40	<ul style="list-style-type: none"> つくったプログラムを交流する活動を設定する。 評 条件に合う倍数や公倍数を見付けたり、条件を考えてプログラムをつくったりしている。 (ワークシート、交流、発表)
			評 条件を意識して、プログラムをつくらうとしている。(ワークシート)
まとめる	5 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 命令を組み合わせることがプログラムと分かった。条件に合う数を見付けたり、条件を考えたりすることをもっとやってみたい。 	45	<ul style="list-style-type: none"> 分かったことやもっとやってみたいことをノートに書かせ、数人を意図的指名し、発表させる。

(5) 本時の評価規準

- 倍数を見付けるプログラムの作り方を理解し、プログラムを作成している。
(ワークシート)
- 倍数の性質に着目して、条件に合うものを見付けたり、プログラムをつくるための条件を考えたりしている。
(ワークシート、交流、発表)
- 試行錯誤しながら条件を考え、プログラムをつくらうとしている。
(ワークシート)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 分数の加法・減法において、倍数の考え方が定着しておらず、通分を苦手とする児童が多い。コンピュータに興味をもつ児童は多く、総合的な学習の時間に実施したプログラミング体験では、命令を組み合わせたアニメーション作成は、意欲的に行うことができた。本時でも、プログラムづくりを通して、倍数への抵抗感が減少することを期待したい。

(2) 指導の力点

- プログラムのつくり方を確認する際に、コンテンツを大型TVに映すことで、低位の児童に視覚支援をする。
- つくったプログラムを交流する時間を設定し、楽しむ中で自然に倍数や公倍数の考え方が身に付くことを期待したい。

6 指導と評価

令和2年度 知多地方教育計画案

スタートカリキュラム

スタートカリキュラム「みんな なかよし いちねんせい」

1 スタートカリキュラム

スタートカリキュラムとは、小学校に入学した児童が、幼稚園・保育所等（以下、幼児教育施設と称す）での遊びを中心とした学びを基盤として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくために作成された1年生入学当初における特別なカリキュラムのことである。

2 スタートカリキュラムの編成の意義

前回の小学校学習指導要領（平成20年告示）では、スタートカリキュラムの目標を「学校生活への適応が図られるよう」にすることと、「小1プロブレムの未然防止」としていた。しかし、今回の小学校学習指導要領（平成29年告示）では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること」と、「資質・能力の育成」を目標として定めた。すなわち、学習する子どもの視点に立ったスタートカリキュラムの編成が一層求められていると考える。

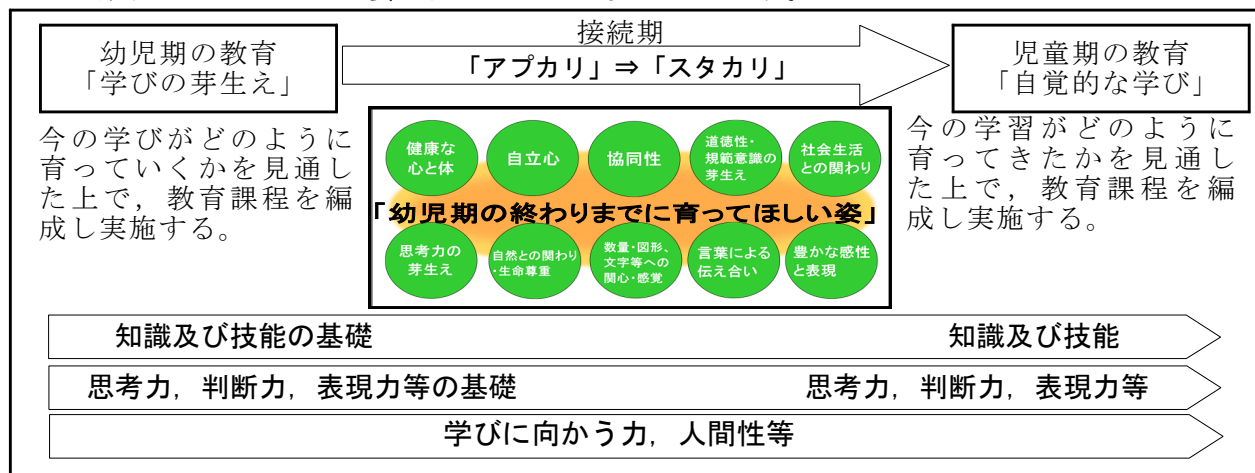
3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（以下、10の姿と称す）とは、次の10項目とその内容（内容については割愛）を指す。

(イ) 健康な心と体	(ロ) 自立心	(ハ) 協同性	(ニ) 道徳性・規範意識の芽生え
(ホ) 社会生活との関わり	(ヘ) 思考力の芽生え	(ト) 自然との関わり・生命尊重	
(チ) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	(リ) 言葉による伝え合い		
(ヌ) 豊かな感性と表現			

これら10項目については、幼児教育施設における遊びを中心とした学びの中で育ってきていると考える。したがって、スタート期においては、アプローチカリキュラムの内容や成果を確認し、幼児期と児童期のつながりを意識しながら、その成果が発揮できるようにスタートカリキュラムを編成したり、実施したりすることが求められる。ゼロからのスタートではないということである。

なお、今次学習指導要領で示された「育成を目指す資質・能力の3つの柱」と「10の姿」との関係については、研究者の間でいろいろな議論がなされているところであるが、「10の姿」とは、3つの柱としての「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が、幼稚園段階から高等学校段階にかけて継続的に育成されていく中で、接続期において期待される子どもの姿と捉えることが妥当であろう。



4 指導の工夫とは

「小学校学習指導要領」第1章総則第2の4学校段階等間の接続において、「低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるように工夫すること。(略)生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。」とあり、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の重要性が改めて示された。スタートカリキュラムにおける指導の工夫とは、自分との関わりを通して総合的に学ぶという、この時期の児童の発達の特徴を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導のことを指している。

- ・合科的な指導…各教科等のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元または1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの。
- ・関連的な指導…各教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの。

5 スタートカリキュラム「みんな なかよし いちねんせい」の編成方針

知多地方教育計画案におけるスタートカリキュラムを「みんな なかよし いちねんせい」と名付け、前述した3、4を基に、生活科を中心とした合科的・関連的な編成とした。また、「小学校学習指導要領」、「小学校学習指導要領解説生活編」、「スタートカリキュラムスタートブック」（文部科学省、国立教育政策研究所、教育課程研究センター編 平成27年）、「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」（同上 平成30年）を参照し、以下のような方針で、スタートカリキュラム「みんな なかよし いちねんせい」の編成に当たった。

(1) 一覧表と本文の使い方

スタート期は1学期まで続くものの、小学校入学直後の20日間を学校全体でスタートカリキュラムに取り組む期間として設定した。（学校スタカリ）

一覧表…学年だけでなく、全教職員に配付し、指導方針を共有したり、協力を求めたりする場合に有効な計画表のモデルである。保護者に対しては、入学説明会や学年懇談会等でも使用できる。学校の実態に合わせて、調整されたい。

本文…一覧表に従って実施する際のモデルである。指導方法だけではなく、指導の意義にも触れているので、参照されたい。また、学年や学級の実態に合わせて、調整されたい。

なお、学級担任は一覧表や本文を参照しつつ、週案を活用して、自らの個性をも発揮しながら授業展開をされたい。（学級スタカリ）

授業時間数は69時間とし、次のように振り分けている。

第1週…各日3時間×5日	第2週…各日3時間×5日
第3週…3時間×1日、4時間×4日	第4週…各日4時間×5日

(2) 各教科等のねらい

合科的・関連的な編成・実施とするものの、スタート期における各教科等のねらいと実施時間については、次のように定めている。

生活	……学校の施設の様子及び、学校を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活をすることができる。
国語	……学校生活の言葉や適切な声量を知り、本や文字、言葉に親しむことができる。
書写	……文字に興味をもったり、適切な姿勢・鉛筆の持ち方・筆圧で、線や文字を書いたりすることができる。
算数	……体験的な活動を通して数の感覚を豊かにして、物の個数を数えたり唱えたりすることができる。
音楽	……拍や速度、強弱、曲の気分を感じ取りながら、楽しく音楽表現することができる。
体育	……固定施設で遊んだり、簡単なゲームで遊んだりして、体を動かすことの楽しさを感じることができる。
図画工作	……クレヨンを用いて、自分の好きなものや伝えたいことを表現することを通して、表現することの楽しさを味わうことができる。
道徳科	……進んで気持ちのよい挨拶をしたり、きまりを守ったりしようとする。
学級活動	……学級の友達と仲良くして、学校生活に慣れ、学校生活を楽しもうとする。

生活	国語	書写	算数	音楽	体育	図工	道徳	特別活動			合計
								学活	児童会活動	学校行事	
13	15	2	7	6	5	4	3	8	1	5	69

また、ここでは合科的・関連的な編成としているため、各教科・領域の時間数の計上は、4週間実施後まとめて行うことができる（パッケージ方式）。「みんな なかよし いちねんせい」の全てを実施した場合、上段の時間数を計上することができる。なお、一覧表には学校裁量の時間を6時間位置付けているが、学校の実態に合わせて実施されたい。

(3) 大単元に中・小単元の位置付け

スタート期における各教科等のねらいが達成できるように、「みんな なかよし いちねんせい」を大単元として捉え、3つの中単元とそれぞれの小単元を次のように設定した。

【大単元】 みんな なかよし いちねんせい 69時間 《目標》 ①安心して学校生活をスタートし、自分らしさを出すことができる。 ②他者と関わりながら、楽しく学校生活を送ることができる。 ③幼児期の学びを生かして、意欲的に活動や学習に取り組むことができる。		
【中単元】 27時間 はじめまして、よろしくね 《目標》 ・学校生活のことが分かり、自分らしさを出すことができる。	【中単元】 27時間 がっこう だいすき 《目標》 ・学びに対する期待感をもって、学習に意欲的に取り組むことができる。	【中単元】 15時間 がっこうたんけんはじめよう 《目標》 ・学校生活は多くの人が関わっていることに気づき、安心して学校生活を送ることができる。

【小単元】 ・にゅうがくしきにさんかしよう ・しぎようしきにさんかしよう ・じぶんでできることをふやそう ・とうげこうのしかたをおぼえよう ・ともだちとうたうごいてはなしてあそぼう ・すてきなものをみつけよう ・ほけんしつにいつてしんたいそくていをしよう ・ともだちいっばいにこにこひょうをつくろう ・いちねんせいをむかえるかいにさんかしよう ・そうじのしかたをおぼえよう	【小単元】 ・がっこうでのごしかたをしろう ・かぞえてみよう ・たいいくかんへいつてうんどうしよう ・えんぴつをもってかいてみよう ・みつけたはるでつくってみよう ・おいしいきゅうしょく ・にこにこだいさくせんをしよう ・ひなんくんれんのしかたをしろう ・かずとすうじ ・うたにあわせていつてみよう ・からだをほぐしてばらんすをとろう	【小単元】 ・どきどきわくわくがっこうをあるこう ・いろいろなことをみつけよう ・みつけたことをおはなししよう ・もつとくわしくしりたいな ・みんなのはっけんをききあおう
---	---	---

このように、活動しながら考えたり、考えながら活動したりして、その中から生活に必要な習慣や技能を身に付けたり、知識を習得したりできるように、具体的な活動や体験を重視した編成とした。

(4) 必要感・必然性のある設定とすること

学校において必要なこと（学校生活上の基礎と基本）を児童が重要であると考え、授業が展開できるように、必要感・必然性のある学びや活動となるように編成した。特に、「がっこうたんけん」については、学校のことを知りたいと思っている子どもたちにとっては、大変有効であるため、5回設定した。ただし、「がっこうたんけん」の振り返りは、スタートカリキュラム終了後に行う。

6 スタートカリキュラム「みんな なかよし いちねんせい」の実施方法

(1) 学校全体の取組とすること

スタートカリキュラムは、小・中学校9年間の義務教育の入り口を支える大切なカリキュラムである。学校全体で意義を共有して、教職員全体での取組とする。

(2) 保護者への適切な説明を行うこと

スタートカリキュラムの目標やその概要を、入学説明会、おたより等を通して家庭に説明し、理解を得ることが望ましい。（参照：生活科の教科書口絵P. 1）

(3) 幼児期の教育との違いを理解し、指導に当たること

そもそも幼児期の教育と児童期の教育とは、教育内容や教育方法が違う。この違いをしっかりと理解した上で、指導に当たりたい。

また、「10の姿」がスタート期において安心して発揮できるように「ゼロからのスタートではない」という意識をもって指導に当たりたい。なお、一覧表や本文には、「10の姿」を（イ）から（ヌ）までの記号で関連付けているので、意識されたい。

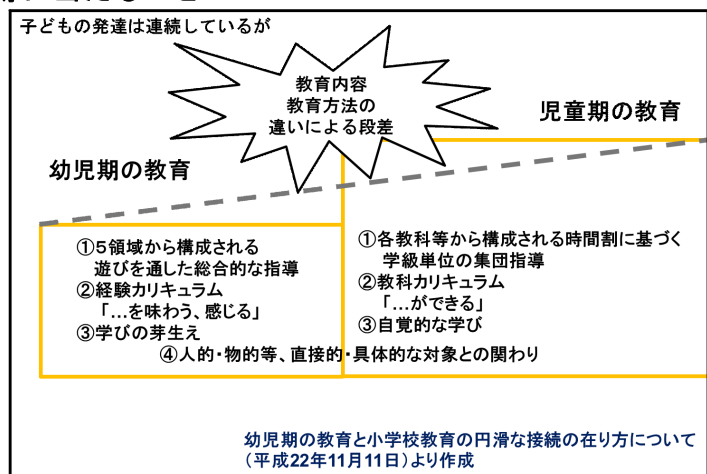
子どもたちの自立し、生活を豊かにしていく姿を想定して実施したい。

(4) 柔軟に実施すること

目の前の子どもの姿を柔軟に捉えて、実施することが大切である。計画どおりにスタートカリキュラムをこなすことが目的ではないことを肝に銘じたい。

(5) 学習環境を工夫すること

幼児期の教育は「環境を通して行う教育」を基本としている。児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように学習環境を工夫することに留意した。児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で、児童を取り巻く学習環境を工夫したい。



7 「みんな なかよし いちねんせい」における各教科等の学習内容と時間計上（計69時間）及び生活科、「10の姿」との関連

各教科等	学習内容（単元名・教材名・学習分野）	時間	「10の姿」との関連
生活	がっこう だいすき	5	(リ)(ホ) (ロ) (リ)(ハ) (ロ)(ホ) (リ)(ハ)(ニ) (リ)(ロ)
13	あいさつ できるよ きちんと おけるよ ちゃんと できるよ こまったな どうしよう なかよく なりたいね やって みたいな		

生活 13	あそびに いこうよ	あんぜんの ペえじ	2	(ニ)
	がっこう たんけん	みつけた はるで あそぼう	2	(ト) (ヘ) (ヌ)
		ときどきわくわく がっこうを あるこう	2	(リ) (ト) (ホ)
		いろいろな ことを みつけよう	1	(リ) (ハ) (ト) (ホ)
		みつけたことを おはなししよう	1	(リ) (ハ) (ト) (ホ)
		もっと くわしく しりたいな	1	(リ) (ハ) (ホ)
国語 15	いい てんき	みんなの はっけんを ききあおう	1	(リ) (ヌ)
	さあ はじめよう	おはなし たのしいな	2	(リ) (ハ)
		あつまって はなそう	1	(リ) (ハ)
		えんぴつと なかよし	1	(ヘ) (チ)
		どうぞ よろしく	3	(リ) (ロ) (ヘ) (チ)
		なんて いおうかな	2	(ハ)
書写 2 数 7		こんな もの みつけたよ	2	(リ) (ハ) (ロ) (ヘ)
		うたに あわせて あいうえお	2	(ヌ)
	はじめての がくしゅう	がっこうの もじたんけん	1	(チ) (リ)
		じを かく しせい／えんぴつの もちか	1	(チ) (ハ)
		た／たのしく かこう	1	(ロ) (ヘ) (チ)
		オリエンテーション	3	(ヘ) (チ) (ハ) (ロ)
音楽 6	かずと すうじ	5までの かず	4	(チ) (ヘ)
	どんな うたが あるかな	ちょうちょう／ことりのうた／ちゅうりつ ぷ／やぎさんゆうびん／おつかいありさん ／こいのぼり／めだかのがっこう／かえる のがっしょう／ばすごっこ／いぬのおまわりさん	1	(イ) (ハ) (ヌ)
	おんがくに あわせて あるこう	ゴー アンド ストップ	1	(イ) (ハ) (ヌ)
	うたに あわせて かもつれっしやに なって あそぼう	かもつれっしや	1	(イ) (ハ) (ヌ)
	おんがくに あわせて からだを うごかそう	サンダーバード／ピンク・パンサーのテーマ／ どうけしのギャロップ／なみをこえて／ ぞう	1	(イ) (ハ) (ヌ)
	うたに あわせて おはなに なって あそぼう・わらべうた で あそぼう	ひらいた ひらいた／おちゃらか／なべ なべ	1	(イ) (ハ) (ヌ)
体育 5	うたに あわせて みぶりで あそぼう	かたつむり	1	(イ) (ハ) (ヌ)
	オリエンテーション		1	(イ) (ヘ) (ロ)
	器械・器具を使つての運動遊び（固定施設）		1	(イ) (ニ)
	ゲーム（鬼遊び）		2	(イ) (ヘ)
	体づくり運動（体ほぐし）		1	(イ) (ハ)
			1	(イ) (ハ)
図工 4	オリエンテーション・すきな かたちや いろ なあに		1	(ヌ) (ヘ) (ロ)
	かきたいもの なあに		2	(ヌ) (ヘ)
	はさみ／のり／クレヨン・クレパス		1	(ヌ) (ヘ)
道徳 3	がっこう だいすき		1	(ロ) (ホ)
	たのしい ことが いっぱい		1	(ロ) (ホ)
	あいさつの ことば		1	(イ) (ニ) (ロ)
学級活動 8	にゅうがくしきに さんか しよう（入学式後）		2	(ハ)
	ぼくも わたしも 1ねんせい	机・ロッカーの使い方、朝の用意／トイレ の使い方／帰りの支度／下校の仕方／学習 の準備／靴箱、手洗い場の使い方／雨の日 の用意／朝の会・帰りの会／雨の日の下校	3.5	(イ) (ロ) (ハ) (ニ)
	おいしい きゅうしょく		1.5	(イ) (ハ)
	そうじの しかたを おぼえよう		1	(イ) (ハ) (ロ)
	1ねんせいを むかえるかいに さんかしよう		1	(ハ) (ホ)
			1	(ハ) (ホ)
学校行事 5	にゅうがくしきに さんかしよう（入学式）		1	(ホ)
	しぎょうしきに さんかしよう		1	(ホ)
	とうげこうの しかたを おぼえよう		1	(ホ) (ニ)
	ほけんしつに いって しんたいそくていを しよう		1	(イ) (ニ)
	ひなん くんれんの しかたを しろ		1	(イ)

大単元		みんな なかよし いちねんせい									
日 に ち	時間 <small>単元・計上</small>	1時間目	2時間目		3時間目	4時間目					
第1週	1日目	中小単元 時間 単元・計上 行「入学式に参加する。(木)」	はじめまして、よろしくね 「にゅうがくしきに さんか しょう」								
	2日目	中小単元 時間 単元・計上 行 始業式に参加する。(木)	はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる こと を ふやそう」①		はじめまして、よろしくね 「とうげこうの しかたを おぼえよう」①						
	3日目	中小単元 時間 単元・計上 学「ぼくもわたしも 1ねんせい」自分の机の中の整理の仕方やロッカーの使い方が分かる。(ロ)	学「ぼくもわたしも 1ねんせい」用具や提出物の出し方が分かる。(ロ)	国「おはなし たのしいな」読み聞かせをしてももらった体験を語ると、自分の好きな本を発表する。(ハ)(リ)	音「どんな うたがあるかな」友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶことができる。(ス)(イ)(ハ)	学「ぼくもわたしも 1ねんせい」お便りや荷物のしまい方が分かる。(ロ)	学「ぼくもわたしも 1ねんせい」靴箱の使い方が分かる。(ロ)	学「ぼくもわたしも 1ねんせい」学年下校の仕方が分かる。(ハ)(二)			
	4日目	中小単元 時間 単元・計上 音「おんがくにあわせて あるこう」挨拶したり、握手したりしながら、仲よく歌うことができる。(ス)(イ)(ハ)	生「なかくよく なりたいね」自分の好きなことを伝えたり、朝の気持ちや伝えたり、友達と仲良く遊ぶことができる。(リ)(ハ)(二)	学「ぼくもわたしも1ねんせい」手洗いの正しい方法を分ける。(イ)(ロ)	生「ちゃんと できるよ」1日の学校生活や家庭生活の中で、楽しくよく生活するために必要なことを発表できる。(リ)(ハ)(二)	生「こまったな どうしよう」こまったときは、どうしたらよいかを理解することができる。(ロ)(ホ)	国「いいてんき」絵を見て話したり応答したりすることができる。(リ)(ハ)				
	5日目	中小単元 時間 単元・計上 音「おんがくにあわせて あるこう」友だちと歌いながら、手遊びをしたり、体を動かしたりして楽しく遊ぶことができる。(ス)(イ)(ハ)	国「おはなし たのしいな」読み聞かせをしてももらった体験を語ると、自分の好きな本を発表する。(ハ)(リ)	生「なかくよく なりたいね」自分の好きなことを伝えたり、朝の気持ちや伝えたり、友達と仲良く遊ぶことができる。(リ)(ハ)(二)	生「ちゃんと できるよ」1日の学校生活や家庭生活の中で、楽しくよく生活するために必要なことを発表できる。(リ)(ハ)(二)	生「こまったな どうしよう」こまったときは、どうしたらよいかを理解することができる。(ロ)(ホ)	国「いいてんき」絵を見て話したり応答したりすることができる。(リ)(ハ)				
第2週	6日目	中小単元 時間 単元・計上 国「どうぞ よろしく」友達をたくさん呼ぶために、自己紹介をしようことを知る。(ロ)(リ)	国「どうぞ よろしく」名前カードをたくさん友達と交流することができる。(リ)(ハ)(ロ)	がっこうだいすき 「にここに だいさくせん(めいし こうかん げえむ)を しょう」①				学校裁量の時間			
	7日目	中小単元 時間 単元・計上 音「うたにあわせて かみつれしやに なって あそぼう」曲に合わせて、足踏みしたり、手拍子したり、行進したりすることができる。(ス)(イ)(ハ)	国「どうぞ よろしく」名前カードをたくさん友達と交流することができる。(リ)(ハ)(ロ)	がっこうだいすき 「にここに だいさくせん(めいし こうかん げえむ)を しょう」②				学校裁量の時間			
	8日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「えんぴつを もって かいて みよう」			学校裁量の時間	
	9日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「かぞえて みよう」①			学校裁量の時間	
	10日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「かぞえて みよう」②			学校裁量の時間	
第3週	11日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「とうげこうの しかたを おぼえよう」③			学校裁量の時間	
	12日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「おいしい きゅうしょく」①				
	13日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「おいしい きゅうしょく」②				
	14日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「かぞえて みよう」③				
	15日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「かぞえて みよう」④				
第4週	16日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「かぞえて みよう」⑤				
	17日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「かぞえて みよう」⑥				
	18日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「かぞえて みよう」⑦				
	19日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「かぞえて みよう」⑧				
	20日目	中小単元 時間 単元・計上 国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	国「えんぴつと なかよし」鉛筆の正しい持ち方を分ける。(ハ)(チ)	がっこうだいすき 「かぞえて みよう」⑨				

日・時間	学 習 活 動	留 意 事 項
1 日 目 3	<p>1～3 はじめまして、よろしくね 「にゅうがくしきに さんかしよう」</p> <p>○ <u>入学式（学校行事）</u>に参加する。 ・当該校の計画による。</p> <p>○ <u>学級活動</u>に参加する。 ・学級担任の話を聞く。</p> <p>・学校名、学級名、学級担任の名前を知る。</p> <p>・自分の名前を呼ばれたら、大きな声で返事をする。</p> <p>・明日の予定を聞く。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 学活 「10の姿」：（ホ）社会生活との関わり （ハ）協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待っている時間に、歌や簡単な手遊び等で緊張感をほぐすとよい。 ・式の前にトイレに行かせる。 ・おじぎ、「ありがとうございます」の練習、式に参加する心構えを話してから、入場させる。 ・補助の教師が最後まで付き添い、学級担任の補助をする。 ・教師に注目をさせてから話すようにする。「おへそを先生の方に向けて」「椅子ごとこちらを向いて」等の指示をすると伝わりやすい。 ・短冊を貼ったり、黒板に書いたりして、学校名、学級名、学級担任の名前を示し、教師の後に続けて言わせるとよい。 ・教師が元氣よく右手を挙げて「はい」と返事するなど、手本を示すとよい。 ・教師が児童の近くに行き、視線を合わせながら、呼名する方法もある。その際、一人一人の返事の仕方でもかった点を具体的に取り上げ、称賛するとよい。 ・持ち物、登校の仕方、服装・安全帽・名札、下校予定時刻・下校方法等を、学年便りなどを利用して、簡潔に説明する。 ・明朝、教室に来たら、ランドセルを机の上に置いて待つよう、児童に指示しておくとい。 ・保護者と一緒に、ロッカーや靴箱、傘立ての場所を確認させてから下校させる。
2 日 目	<p>1 はじめまして、よろしくね 「しぎょうしきに さんかしよう」</p> <p>○ <u>始業式（学校行事）</u>に参加する。 ・当該校の計画による。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 「10の姿」：（ホ）社会生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式の前にトイレに行かせる。 ・静かに整列させる。 ・教室で、隣の子と手をつながせて、席から順番に並ばせるとよい。 ・廊下を歩くときは、右側を2列で静かに歩くことを伝える。
	<p>2 はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる ことを ふやそう」①</p> <p>○ <u>生活科</u>の教科書口絵P.2「あいさつ できるよ」を基に、朝、登校するときに関わる人によどのような挨拶をするとよいか発表する。 「朝、家を出るときに、行ってきますと言っています。」 「通学団で集合するとき、みんなにおはようと言います。」</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 学活 「10の姿」：（ホ）社会生活との関わり （ロ）自立心（リ）言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学校に対する興味・関心を大切に、学校生活への安心感と期待感を高めさせる。 ・挨拶に関心をもち、挨拶を進んでできるようになりたいという意欲を高めさせる。 ・みんなの前では、「はい」と返事をして、丁寧な言葉遣いで話すことができるとよいことを伝える。

2 日 目	<p>「交通指導員さんに、おはようございますと言っています。」 「外靴は自分の下駄箱の場所に入れます。」 等</p> <p>○生活科の教科書口絵P.3「きちんと おけるよ」を基に、用具を机の中に整理してしまう、ランドセルをロッカーにしまう、提出物を出す等、登校後に行うことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランドセルを机の上に置く。 ・持ってきたものを机の上に出す。 ・持ってきたものを机の中に整理をして入れる。 <p>・ランドセルをロッカーにしまう。</p> <p>・提出物を出す。</p> <p>○トイレの場所、使い方、スリッパの揃え方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの場所を知る。 ・トイレを使う。 <p>・スリッパを揃える。</p> <p>・手を石鹸で洗い、ハンカチで拭く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3日目に指導する学活「ぼくもわたしも 1ねんせい」の学習内容と関連させて、用具を机の中に整理してしまう、ランドセルをロッカーにしまう、提出物を出す等、登校後にやることを知らせる。 ・帽子がある場合は、ランドセルの横に置くように声掛けする。 ・ランドセルの向きを逆にすると、中の物が取り出しにくいことに気付かせる。 ・絵などの掲示物を貼るときは、児童の目の高さに掲示するとよい。 ・道具箱を机の中に入れる場合は、箱のふたと本体とを並べ、左側に学校に置く道具類（お泊まり箱）、右側に教科書・ノート類（持ち帰り箱）を入れるなど、学年で約束を決めて指導する。 ・机の中へのしまい方が、いつ見ても確認できるように絵で示し、掲示しておくといよい。 ・お泊まりの箱の整理については、大きい物は下にする、向きをそろえる、よく使う道具は取り出しやすい手前や上にする等、活動をさせながら教えるとよい。 ・ロッカーに、児童の名前を書いたテープなどを貼っておくといよい。 ・帽子や上着の扱いについては、学校や学年の方針による。 ・ランドセルを入れる向きを確認させる。 ・この時期は、保護者からの連絡も多いので、提出箱などを用意しておくといよい。 ・連絡帳は、毎日開いて提出させるようにする。 ・朝の支度がスムーズにできるようになるまで、絵や言葉で順序を簡潔に示したカードなどを黒板に掲示するといよい。 ・幼児教育施設と比べて小学校のドアは大きく、圧迫感があるので、抵抗感を少なくするために、ドアに動物の絵などを掲示しておくといよい。 ・足を置く位置が分かるように足形マークを床に貼っておくといよい。 ・トイレ前に並ぶ位置を示すテープを貼っておくと、落ち着いて待てるようになる。 ・排泄の手順をイラストで示し、個室トイレの内側に貼っておくといよい。紙の長さを表すイラストをトイレトペーパーホルダーの横に掲示しておくといよい。 ・スリッパを逆にしたままだと次の人が履きづらいことに気付かせる。 ・履きやすい向きに揃えることは、次の人のために役立つ行為であることに気付かせる。 ・みんなが気持ちよく使うには、マナーを守ることが大切であることに気付かせる。 ・ハンカチは、毎日持参するように伝える。
3	<p>はじめまして、よろしくね 「とうげこうの しかたを おぼえよう」①</p> <p>○通学団会（学校行事）に参加して、登校の仕方を知り、きまりを守って下校する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学団の名前、班長の名前、集合場所と集合時刻を知る。 ・交通のきまりについて知る。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 「10の姿」：(木) 社会生活との関わり (二) 道徳性 ・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学団の班長が教室まで1年生を迎えに行ったり、連絡帳に貼り付ける「連絡カード」に必要な事項（通学団の班長の名前、学年・学級等）を記入したりできるよう、職員会議などで依頼をしておくといよい。 ・通学団の担当者は、右側通行、一旦停止と左右確認、手上げ横断、信号機の色の意味等を絵や掛図などを使って説明し、児童の安全な登下校への意識を高めさせ

3	<p>・通学団ごとに並び、交通のきまりを守って下校する。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区の通学路の実態に合わせた指導をする。 ・必要なきまりについては取り上げて指導する。 ・通学班の班長が1年生のペースに合わせて歩けるように、職員会議などであらかじめ依頼をしておくとうい。 ・朝、班長が迎えに行くのをいつまでにするか決めておくとうい。
3 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に安心感をもたせるために、登校後に行う支度について、視覚的に理解できるように絵や言葉で示しておくとうい。視覚的な掲示により、分からなくなったら何度でも見直すことができる環境をつくっておく。 ・用具を机の中にしまう、ランドセルをロッカーにしまう、提出物を出す等、登校後に行うことを確認する。 ・自分でできた児童を称賛し、「友達が困っていたら、教えてあげよう」と声掛けすると、子ども同士が教え合って早く手順を覚えるようになる。
	<p>1 はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる ことを ふやそう」②</p> <p>○ <u>学活</u>「ぼくもわたしも 1ねんせい」</p> <p>○ <u>国語</u>の教科書P.10～11</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 国語 「10の姿」：(ロ) 自立心 (ハ) 協同性 (リ) 言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>「きちんと おけるよ」(2日目)と関連させ、自分の机の中の整頓の仕方やロッカーの使い方を確認する。 ・提出物の出し方を確認する。 ・健康観察では、名前を呼ばれたら、「はい」と返事をした後、「元気です」「お腹が痛いです」等、体調を表す事例を挙げるよう指導する。 ・手の挙げ方や発表の仕方等については、定着するまで繰り返し指導する。 ・「おはなしたのしいな」では、教室の前に児童を座らせ、教師が読み聞かせを行うとうい。 ・読み聞かせの本を選ぶに当たっては、次の時間の音楽の曲とのつながりを意識するとうい。
	<p>2 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」①</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P.2～3</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>こどりのうた、ちゅうりっぷ、やぎさん ゆうびん、ちょうちょ、おつかいありさん、 こいのぼり、めだかのがっこう、かえる のがっしょう、ばすごっこ、いぬのおま わりさん 等</p> </div>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張感が強く動けない児童が見られたり、幼児教育施設での取組が様々であったりと、音楽経験に差があることが考えられる。ここでは、音楽の学習が楽しく活動できるようにしながら、児童が拍や速度、強弱、曲の気分を感じ取りながら、音楽に浸って、楽しく表現できるように進める。 ・スタートカリキュラム3日目であることから、まだ教科書を使わずに、音楽の授業を行ってもよい。教科書を使うならば、P.2～3の挿絵を見て、どんな歌が隠されているか、全員で探すとよい。 ・「どんな うたが あるかな」の歌詞はP.64～65を参照する。これらの曲を全て覚え、歌えるようにする学習ではなく、みんなで歌っていくような楽しい場をつくり、交流しながら表現を楽しめるようにする。 ・児童がどの曲をどのくらい知っているかを把握し、その後の授業のウォーミングアップとして活用することも考えられる。 ・歌を歌うときは、幼児教育施設での経験を基にして、体を動かしながら歌うとうい。
	<p>3 はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる ことを ふやそう」③ 「とうげこうの しかたを おぼえよう」②</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 「10の姿」：(ロ) 自立心 (ハ) 協同性 (二) 道徳性・規範意識の芽生え</p>

3 日 目	<p>○配付物や机の中の用具をランドセルにしまうなど、帰りの支度の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡袋に連絡帳や学校からのお便りを入れる。 <p>・ランドセルを持ってきて机の上に置く。</p> <p>・ランドセルの中に用具をしまう。</p> <p>○学年下校の仕方を知り、下校する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校グループ名、メンバー、並ぶ位置や並び順を知り、交通のきまりを守って下校する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学活「ぼくもわたしも 1ねんせい」の学習内容として取り扱う。 ・お便りの角と角を合わせ、片手で紙を押さえ、もう片方の手で折り目を付けるときに、「手でアイロンがけてね」と声掛けをしながら、教師が手本を見せるとよい。 ・お便りなどをすぐになくしてしまう児童には、名前を書くように声掛けするとよい。 ・ランドセルの金具が顔に当たらないように、注意させる。 ・上着、帽子の準備をさせる。 ・学校に置く道具類（お泊まり箱）について、説明する。 ・教科書・ノート類（持ち帰り箱）を取り出し、机の上で整理して、大きいものから順番にランドセルの中に入れるよう説明する。 ・自分の持ち物かどうかを確認させる。 ・通学団や方面別に色やマークを指定し、表示することで、自ら行動できる児童を育てる。 ・学級の中で同じ通学団ごとにグループの編制を行ってから、学年のグループを編制して、並び順を決めるなど、事前に学年間で共通理解を図っておく。 ・下校方面別児童の一覧表を用意し、補助の教員が対応できるように配慮する。 ・解散場所から家までの危険箇所については、指導を徹底する。 ・方面別の下校時には、事前に補助の教師や保護者に依頼し、児童の安全確保に努める。 ・お迎え当番表（保護者の連絡先が入ったもの）を用意し、教務主任に渡して情報を共有し、協力を依頼しておくとうい。
4 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」②</p> <p>○音楽の教科書P.4～5</p> <hr/> <p>2 はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる ことを ふやそう」④</p> <p>○手洗い場の使い方を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育施設での生活を小学校にも取り入れることによって、児童に安心感をもたせるようにする。例えば、教室や廊下の一角にコーナーを設けたり、低学年図書室や学習室などの特別教室が近くにあれば、それらを開放したりするとよい。 ・積み木や折り紙等を用意し、登校後に支度を終えてから、自分のやりたい遊びを考えたり、選んだりできるようにするとよい。 <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 生活 「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (リ)言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゴー アンド ストップ」の曲を聴きながら歩いたり止まったりすることで、音が鳴っているときとないときの違いや、速度や強弱の変化などに気付き、音楽を集中して聴く力を身に付けることをねらいとする。 ・児童の「予測した動き」を避けるために、3通りある音源を利用するとよい。 ・「はくに あわせて」では、教師の規則的な拍打ちに合わせて手拍子や足踏みなどを行うことで、少しずつ拍感を身に付けるようにし、友達との関わりをもたせる。 ・生活科の教科書口絵P.6～7「なかよく になりたいね」学習と関連させて、友達と仲良くなりたいという気持ちを高める。 <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：学活 生活 「10の姿」：(イ)健康な心と体 (ロ)自立心 (リ)言葉による伝え合い (ハ)協同性 (ホ)社会生活との関わり</p>

4	<ul style="list-style-type: none"> ・順番に並ぶ。 ・水の出し方と止め方を知る。 ・石鹸を使って、指の間や手首まで洗う。 <p>○生活科の教科書口絵P.4～5「ちゃんとできるよ」「こまったな。どうしよう」を基に、学校での生活を想像する。</p> <p>「手を洗ったらハンカチで拭きます。」 「ハンカチ、ティッシュは毎日持ってきます。」 「トイレは使ったら水を流します。」 「爪がのびていたら切ります。」等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容として取り扱う。 ・児童の数より蛇口が少ないことに気付かせ、みんなで順序よく使うように指導する。手洗い場には、並び方を示すテープを床に貼っておき、自分で考えて行動させるとよい。 ・手洗い場には、手を洗うポイントが示された掲示物を貼り、指と指の間や指先など、細かい部分も意識して手を洗うように指導する。 ・教科書の挿絵を示しながら、おなかが痛くなったときや教室が分からないとき、自分の靴を入れる場所が分からないとき等、困ったことがあった場合は担任の先生に相談するとよいことを伝え、児童に安心感をもたせる。
3 日 目	<p>3 はじめまして、よろしくね 「すてきな ものを みつけよう」①</p> <p>○国語の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む、書く、話す、聞くなど言葉の勉強 <p>○準備の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まる前に用具を準備する。 <p>○国語の教科書の開き方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表紙の折り目を付ける。 ・裏表紙の折り目を付ける。 ・教科書の真ん中辺りを開き、上から手で押さえる。 <p>○国語の教科書巻頭～P.5「いい てんき」を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P.5までの挿絵から、見付けたものを発表する。 <p>「海が見えます。」 「鳥が飛んでいます。」 「みんなでピクニックに行っています。」 「子どもたちがたくさんいます。」 「先生が手を振っています。」 「看板にやま、まちと書いてあります。」 「大きなきのこがあります。」 「大きな魚がジャンプしています。」等</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語</p> <p>「10の姿」：(リ)言葉による伝え合い (ハ)協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」「書くこと」の他に、「話すこと」「聞くこと」が大切であることを知らせる。 ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・筆箱の中身を確認させる。 ・準備する用具は、学年便りなどを通して、前もって家庭に連絡しておくといふ。 ・時間割の読み方を教え、家庭においては、連絡帳や時間割表を確認しながら、翌日の学習用具を早めにそろえるように指導し、習慣化させる。 ・新しい教科書を開くのは初めてなので、他の教科でも応用できるよう、教科書の開き方を丁寧に教える。 ・「指アイロン」「手のひらアイロン」などの言葉を使い、指や手のひらで折り目をしっかりと付けさせるとよい。 ・教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）があれば、活用を図る。 ・発表するときの手の上げ方、指名されたときの返事の仕方、答え方を指導し、練習させる。 ・「はい、〇〇です」「はい、〇〇ます」という基本的な話型を教える。 ・アリ、ゾウなど動物の大きさで、活動ごとの声の大きさの目安を視覚的に伝えるとよい。 ・友達が見付けた物を指で押さえさせたり、教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）を活用して確認させたりする。 ・挿絵から、「たのしいこと」がたくさん始まろうとしていることに気付かせる。 ・自由に発表させる。
5 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <p>1～2 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れ、机の上に出す物等は、いつも決まった場所に表示し、視覚に直接訴えるようにするとよい。子どもたちの集中力を高めるために、教室前面はシンプルにしたい。教卓やロッカーの上など、子どもの目に入る所は、できるだけ物を置かないようにし、常にきちんと整理しておく。 <p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語 生活 体育</p> <p>「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (リ)言葉による伝え合い</p>

5 日 目	<p>○ <u>音楽</u>の教科書P. 4～5</p> <p>○ <u>国語</u>の教科書P. 10～11</p> <p>○ <u>体育</u>の仲間づくりのゲームとして、「ゲーム（鬼遊び）」を行い、たくさんの友達と仲良く遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼遊びのルールを決める。 ・鬼遊びをする。 	<p>(二) 道徳性・規範意識の芽生え (へ) 思考力の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍に合わせて手を打ったり、友達と手を合わせたりする。テンポの違いによって動作が変わる楽しさを感じさせる。 ・「おはなし たのしいな」では、教室の前に児童を座らせ、教師が読み聞かせを行うとよい。 ・幼児教育施設で読み聞かせをしてもらった経験を想起させ、自分の好きな本を発表し、伝え合う時間にしてもよい。 ・<u>生活科</u>の教科書口絵P. 6～7「なかよく なりたいね」での学習を基に、どんな遊びがしたいかを考えさせながら、鬼遊びへとつなげる。 ・「ゲーム（鬼あそび）」は、<u>体育</u>として計上するが、ここでは、遊びの一環として行わせる。 ・赤白帽子を着用させる。 ・鬼の決定、逃げてよい場所、鬼の交代の仕方等、児童の意見を取り入れながら、ルールを決めさせる。 ・友達と名前を呼び合い、仲良く活動する中で、攻めたり逃げたりすることのおもしろさに気付かせる。 ・こおり鬼、しっぽ取り、手つなぎ鬼、ふえ鬼、たかたか鬼等、幼児教育施設でやったことのある鬼ごっこから始めるとよい。 ・鬼になる子が偏らないように配慮し、運動量が均等になるように交代させる。 ・ルールを守っているか見守り、必要に応じて助言する。また、児童の様子を見て、よりよいルールに変更するとよい。 ・時間があれば、いろいろな鬼遊びを紹介するとよい。 ・しっぽ取りを行う場合は、しっぽになるもの（はちまき、赤白帽子など）を準備する。 ・「じぶんで できる ことを ふやそう」④の学習を想起させ、手洗いの仕方について確認し、外から帰ったら、うがいと手洗いをすることを習慣化させる。
3	<p>3 はじめまして、よろしくね 「すてきな ものを みつけよう」②</p> <p>○ <u>国語</u>の教科書P. 6～8「いい てんき」を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P. 6～7の挿絵から、見付けたものを発表する。 「大きなきのこがあります。」 「きのこの上でお弁当を食べています。」 「ねずみさんたちもお弁当を食べています。」 「雲の上に乗っている子がいます。」 「虹が見えます。」等 ・P. 8の詩を読む。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語</p> <p>「10の姿」：(リ)言葉による伝え合い (ハ)協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」「書くこと」の他に、「話すこと」「聞くこと」が大切であることを知らせる。 ・教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）があれば、活用を図る。 ・発表するときの手の上げ方、指名されたときの返事の仕方、答え方を重ねて指導し、練習させる。 ・友達が見付けた物を指で押さえさせたり、教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）を活用して確認させたりする。 ・自由に発表させる。 ・ひらがながまだ読めない児童にも配慮し、まず教師が範読する。範読後の追いかけ読み、供読み、一斉読みなど、読み方を工夫して音読指導を行う。 ・詩を読むことを通して、これからの学習に期待感をもたせるようにする。
6 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <p>1～3 がっこうだいすき 「ともだち いっぱい にこにこ げえむ (めいし こうかん げえむ)を しょう」①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4時間目は学校裁量の時間とする。 <p>時間計上にかかわる各教科等：国語</p> <p>「10の姿」：(ロ)自立心 (リ)言葉による伝え合い (へ)思考力の芽生え (チ)数量や図形、標識や文字</p>

- 国語の教科書P. 16を見て、友達をたくさん増やすために、自己紹介をし合うことを知る。
- 教科書P. 16の挿絵に着目させ、自己紹介するときに名刺カードを渡していることに気付かせる。これから、どんな名刺カードをつくりたいか思いをふくらませる。

- 名刺カードを作るために、教科書P. 14を見て、正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢で書くことを知る。
 - ・「唱え歌」を唱えながら、鉛筆の正しい持ち方、正しい姿勢を知る。

えんぴつ つまんで
もちあげて
すうっと たおして
なかゆび まくら
きちんと じょうずに
もてたかな

あしは ペったん
せなかは びん
おなかと せなかに
ぐう ひとつ
かみを おさえて
さあ かこう

- ・正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢に気を付けて、P. 14～15の直線や曲線をなぞる。

- 「い・ち・ね・ん」と組や自分の名前をひらがなで書く。
 - ・ 国語の教科書P. 17に自分の名前を書く。

- 名刺カードを複数枚つくる。
 - ・ 名刺カードに自分の名前を鉛筆で書く。
 - ・ 名刺カードに自分の好きな物を描く。

などへの関心・感覚

- ・ 黒板に学級全員の写真を貼るとよい。
- ・ 黒板に座席表の枠を書き、児童から発表された名前を一人一人書き入れ、全員の名前を書くようにする。
- ・ 友達の名前を聞くことで、友達への関心を高め、友達と仲良くなりたいという気持ちを高めさせる。
- ・ 名前を呼ばれたときの返事の仕方、答え方を指導し、練習させる。
- ・ 教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）を活用して、正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢を拡大し、視覚的に捉えやすいようにするとよい。
- ・ 教師が手本を見せる。また、資料は常時掲示しておくとうい。
- ・ 「唱え歌」の拡大紙を準備しておき、日頃からの指導に役立てる。
- ・ 鉛筆を3本の指できちんと支えているか個別に確認する。
- ・ 正しい鉛筆の持ち方が身に付くまでは、根気強く繰り返し指導する。
- ・ 机間指導をして、姿勢のとり方が上手な児童を具体的に称賛すると、他の児童がまねようとする。
- ・ 姿勢は、椅子の腰掛けから注意し、足、背筋、腹、手の順に正していくよう指導する。

- ・ 筆箱の中には、2 BまたはBの三角鉛筆か六角鉛筆を用意させておく。
- ・ なぞる際には、矢印の方向を意識させ、ゆっくりとなぞるようにさせる。なぞりが多少はみ出しても、ゆっくり、じっくりと取り組んでいる児童を称賛する。
- ・ 鉛筆の持ち方や正しい姿勢、線なぞり等の指導については、書写の教科書P. 2～6で改めて行うため、ここでは無理の無い範囲で行う。
- ・ 机に貼ってある名前シールや、黒板に書かれている座席表の名前を見て書くように指示する。
- ・ 支援が必要な児童には、教師が薄く下書きをしたり、鉛筆を持って書かせたりするとよい。
- ・ 書いた字を一人一人確認し、書けたことを褒めながら丸を付ける。
- ・ 自分の名前と好きな物をかくスペースを設けた簡単なカード（A 5サイズ）を準備し、配付する。
- ・ 名刺カードの拡大版を用意し、右半分に自分の名前、左半分に好きな物の絵を描くよう指導する。ただし、自分の名前を丁寧に書くことを優先し、時間を見ながら、好きな物の絵等を描いてもよいことを伝える。また、作った名刺の分だけ友達と名刺交換することができると知らせる。
- ・ 自分の好きなものをたくさん友達に知らせたいという思いを膨らませるようにする。
- ・ 右半分に大きく濃く書かせる。
- ・ フェルトペンでなぞらせてもよい。
- ・ 絵を描くときはクレヨンを使ってもよい。
- ・ 左半分に大きく濃く描かせる。
- ・ クレヨンの使い方の指導に当たっては、図工の教科書P. 61を参照するとよい。
- ・ 好きな物が思いつかない児童には、「好きな食べ物は何ですか」などと対話をしながら、児童が描きたい物を自分で決められるように支援する。
- ・ 描くことができない児童には、果物・花・車等の絵カードを用意し、見ながら描いてもよいことを伝える。

3		<ul style="list-style-type: none"> ・次回は、名刺カードを交流することを伝え、明日の学習への期待感を膨らませるようにする。
7 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体性、意欲、自発性、児童自身が活動の意義を見いだすことを大切にしたい指導を行う。「園ではどうしてた?」「どうしたらいいと思う?」等と尋ね、児童自身が考える場や時間を作り、待つことを心掛ける。 ・4時間目は学校裁量の時間とする。
	<p>1～2 がっこうだいすき 「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）を しょう」②</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P.6～7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うたに あわせ て かもつれっしやになって あそぼう」 <p>○ 「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）」の方法を知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①音楽に合わせて教室の中を歩き、音楽が止まったときに、近くにいた友達とペアになる。</p> <p>②握手をして、じゃんけんをする。 ※今回はじゃんけんに勝っても、かもつれっしやにならずに、勝った方から自己紹介をすることを伝える。</p> <p>③勝った友達が、自分の名前と好きな物を伝える。 「わたしの名前は、〇〇です。 〇〇が大好きです。 よろしくお願いします。」</p> <p>④負けた友達が、自分の名前と好きな物を伝える。</p> <p>⑤名刺カードを交換し、握手をする。</p> </div> <p>○ 「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、名前、好きな物を等を伝え合い、たくさん友達と交流する。 <p>○ 「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）」を振り返り、楽しかったことを伝え合う。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語</p> <p>「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性 (リ) 言葉による伝え合い (ロ) 自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて曲の感じをつかみ、歌詞の表す情景を想像しながら主旋律を歌う。汽車になったつもりで、拍子について腕を振りながら歌うと、曲の気分を感じ取りやすい。「がっちゃん」の後にじゃんけんをして、勝った人の組を前にするというルールを知らせる。 ・名刺カードをつくったことを想起し、「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）」をすることを知らせる。 ・<u>国語</u>の教科書P.16「どうぞ よろしく」として取り扱う。 ・代表の児童と一緒に、「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）」の方法を説明するとよい。 ・自分がつくった名刺カードは全て持たせ、友達からもらった名刺カードは、一番下にさせるとよい。 ・つくった名刺カードの数だけ「ともだち いっぱい にこにこ げえむ（めいし こうかん げえむ）」ができるが、なくなった児童には、口頭で行わせてもよいことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、グループの様子を見て回り、うまくペアがつかない児童の支援をする。 ・友達との距離が縮まるように、笑顔で楽しんで行うように支援する。 ・児童の反応を観察し、一人一人のよさを認めたり、支援したりする。 ・「友達と学習することは楽しい」という気持ちを最後に共有し合えるようにさせる。
	<p>3 はじめまして、よろしくね 「ともだち いっぱい にこにこ ひょう（たんじょうび ひょう）を つくろう」</p> <p>○ <u>図工</u>の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.2～3を見て、幼児教育施設での経験を思い出しながら、これからどんなことがしたいか発表する。 ・絵を描いたり、新しい物をつくったりする勉強であることを知らせる。 ・自分の好きな形や色を見付け、発表する。 <p>○ 「ともだち いっぱい にこにこ ひょう（たんじょうび ひょう）」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ともだち いっぱい にこにこ ひょう 	<p>時間計上にかかわる各教科等：図工 生活</p> <p>「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (ヘ) 思考力の芽生え (ロ) 自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・<u>図工</u>「オリエンテーション」「すきなかたちやいろなあに」として取り扱う。 ・これからしてみたい思いや願いを十分にださせながら、学習への意欲を高める。 ・<u>生活科</u>の教科書口絵P.6～7「なかよく になりたいね」での学習を想起させ、友達と仲良くなるために、「ともだち いっぱい にこにこ ひょう（たんじょうび ひょう）」をつくることを知らせ、活動への関心を高

7 日 目 3	<p>う（たんじょうび ひょう）」をつくることを知り、自分が誕生した月を発表する。</p> <p>・クレヨンでカードいっぱい自分の顔を大きく描いて、塗る。</p> <p>・はさみの使い方を知り、輪郭から周り1センチくらいを残して切る。</p> <p>・同じ誕生月ごとに集まり、教師が用意した台紙に自分が描いたカードをのりで貼る。</p>	<p>めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にこにこひょう」でつくったカードは、学級目標、係や当番表に活用することも考えられる。 ・クレヨン、はさみ、のり、新聞紙の下敷きを準備させる。 ・新聞紙の下敷き（新聞紙を複数枚合わせて、周りをガムテープで貼り合わせた物）を敷かせる。 ・下敷きの作成については、学年便りなどを通して、事前に保護者に依頼をしておく。 ・あらかじめ教師が風船、列車など12か月分の台紙と自分の顔を描いた見本をつくっておくとよい。 ・八つ切り画用紙を半分に切った用紙を配る。あるいは、A 5 サイズ程の紙を用意し、上の枠に自分の顔を描き、下の枠に名前を書かせて、はさみを使わずにそのまま貼り付けることも考えられる。 ・<u>図工</u>の教科書P. 61のクレヨンの使い方を参考にして、教師と一緒に順番に描かせるるとよい。 ・自分の顔の輪郭を指でなぞって、形や大きさを感じ取らせてから、紙にまず指で描かせ、その後クレヨンを持たせて描かせるると大きく描ける。 ・顔の輪郭が小さくならないように、大きさの例を示す。 ・ゆっくりと丁寧に描かせる。 ・<u>図工</u>の教科書P. 64を基に、はさみの持ち方や紙を動かして切る方法など、切り方を教える。13日目に行く<u>生活科</u>「みつけたはるであそぼう」でも、はさみやのりの使い方について重ねて指導する。 ・刃先を人に向けてない、使わない時はしまうなど、安全な取り扱いについて約束させる。 ・「顔の周りを指一本くらい空けて切りましょう」と指示をするとよい。分からない児童には、切るところを鉛筆で薄く描いてやるとよい。 ・あらかじめ児童の生年月日を確認しておき、児童の顔の絵を貼る位置を確保しておく。また、貼らせる場所の下に、児童の生まれた月・日と名前を書いておくのと貼る場所の目安になる。 ・<u>図工</u>の教科書P. 65を基に、指の腹を使って、紙の隅々まで薄くのりをつけることを教える。 ・スティックのりを使用させてもよい。 ・所定の場所に貼るように指導する。
8 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <p>1～2 がっこうだいすき 「たいいくかんへ いって うんどう しょう」</p> <p>○<u>体育</u>の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体のはたらきをよくするために、体を動かしたり、動かし方を練習したりする勉強 <p>○準備の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まる前に体操服に着替えることを知る。 <p>○体操服への着替え方、畳み方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操服入れを机の上に置き、体操服を出す。 ・服を脱いで、体操服に着替える。 ・着ていた服を簡単に畳んで、机の上に置く。 	<p>・学校生活に必要なルールについて分かりやすく伝える工夫をしたい。例えば、体操服のたたみ方や片付け方など、全員が行う決まり事は、各工程が分かるように写真付きで掲示するとよい。</p> <p>・4時間目は学校裁量の時間とする。</p> <p>時間計上にかかわる各教科等：体育 学活</p> <p>「10の姿」：（口）自立心 （へ）思考力の芽生え</p> <p>（イ）健康な心と体 （二）道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>P. 8「やってみたいな」での学習と関連させて、体育館に行き、学習することを伝える。 ・<u>体育</u>として取り扱う。 ・準備する物は、学年便りなどを通して、前もって家庭に連絡しておく。 ・半袖、長袖、短パン、赤白帽子、体育館シューズなどの名称を教える。 ・上の服を脱いだ後、上の体操着を着て、下の服を脱いだ後、下の体操着を着るようにさせる。 ・脱いだ服を裏返しのままにしたり、畳まなかったりすると、着る時に不便なことを知らせる。 ・衣服は脱いだ物から順に畳んでいくと、着るときに便

<p>8 日 目</p>	<p>○並び方を知り、体育館に行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼ばれた順に、教室の後ろに並ぶ。 ・並ぶ順番を覚える。 <p>・前へならえをして、整列の練習をする。 「前へならえ。」「なおれ。」「気を付け。」「休め。」</p> <p>○<u>体育</u>の「ゲーム（鬼あそび）」をする。 〈ライン鬼〉 コートの中に田んぼの「田」の字になるようにあぜ道を作る。鬼はその十字架にかかれたあぜ道しか移動できない。逃げる人は、あぜ道以外を時計回りに移動するように逃げる。 〈手つなぎ鬼〉 エリアの中を手をつないで逃げる。 〈じゃんけんしっぽ取り〉 エリアの中で、勝ったらしっぽを取りに行く。また、勝ったら相手を交わして逃げる。</p> <p>○教室に戻り、体操服のしまい方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操服を脱いで、服に着替える。 ・体操服を畳んで、体操服入れに入れる。 	<p>利であることを教える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女別の出席番号順に並ばせる。 ・自分の出席番号と前後の友達を覚えさせる。 ・同じ場所にもう一度並ぶことを話し、期待感をもたせてから、自分の場所（席）に戻り、再度並ぶ練習をさせてもよい。 ・「前へならえ」をするときに、先頭の児童は腰に両手を当てることを教える。 ・「トントン前」からやらせてもよい。 ・男女別の背の順、赤白に分かれた並び方などを指導するとよい。 ・慣れてきたら、先頭の位置や向きを変えてすばやく並ぶ練習をするとよい。 ・<u>学活</u>「ぼくも わたしも 1ねんせい」として、取り扱う。 ・<u>国語</u>の教科書P.18～19「なんて いおうかな」を想起させ、「お願いします」「ありがとうございました」などの挨拶をさせる。 ・3，4年生の「E. ゲーム」の領域につながるように、エリアを設けてその中で活動させるとよい。 ・約束として、確認しておくとうい。 <p>（指導例） ピッ・ピーの笛…「しゅっ・ごー（集合）」の合図。 指輪並び…輪になって集合する。 扇子並び…教師を中心に、扇子状に集合する。 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逆の順番で、体操服から服に着替えさせる。 ・教師が手本を示し、体操服入れを机の上に載せ、袋の口を開いて中に入れると入れやすいことを知らせる。
	<p>3 がっこうだいすき 「えんぴつを もって かいて みよう」</p> <p>○<u>書写</u>の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字の形をまねて美しく書く勉強 <p>○準備の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まる前に用具を準備する。 <p>○<u>書写</u>の教科書P.2～5「じを かく しせい」 「えんぴつの もちかた」を見て、字を書く姿勢と鉛筆の持ち方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字を書く姿勢を確認する。 ・<u>国語</u>の教科書P.14～15の「唱え歌」を全員で発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>えんぴつ つまんで もちあげて すうっと たおして</p> </div>	<p>時間計上にかかわる各教科等：書写 「10の姿」：（口）自立心 （へ）思考力の芽生え（ち）数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>の教科書口絵P.9「やって みたいな」での学習を想起させ、字を書くことへの関心を高めさせる。 ・「しょしゃ」と「かきかた」の言葉を混同して使うと児童が分からない場合もあるので気を付ける。 ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・準備する用具は、前もって学年便りなどを通して家庭にも連絡しておくとうい。 ・筆箱の中には、2 BまたはBの三角鉛筆か六角鉛筆を用意させておく。 ・字を書くときの正しい姿勢の掲示資料を使い、教師が手本を見せる。また、資料は常時掲示しておくとうい。 ・字を書く姿勢を指導する際は、「こし ぴん」「あしぺた」「ぐう ひとつ」を徹底する。 ・国語で使用した「唱え歌」の拡大紙を使うとうい。 ・机間指導をして、姿勢のとり方が上手な児童を具体的に称賛すると、他の児童がまねようとする。 ・正しい鉛筆の持ち方の掲示資料を使い、教師が手本を見せる。また、資料は常時掲示しておくとうい。 ・鉛筆の持ち方は、<u>国語</u>の教科書P.14を参考にするとよい。 ・鉛筆を3本の指できちんと支えているか個別に確認す

<div>8</div> <div>日</div> <div>目</div>	<div> <p>なかゆび まくら きちんと じょうずに もてたかな</p> <p>あしは ペったん せなかは ぴん おなかと せなかに ぐう ひとつ かみを おさえて さあ かこう</p> </div> <div> <p>○ 書写の教科書P. 6～7「たのしく かこう」に例示されている線をなぞったり、自分の名前を書いたりする。</p> </div>	<div> <p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい鉛筆の持ち方が身に付くまでは、根気強く繰り返し指導する。 ・手を用紙に対して斜めに添えさせる。 ・下敷きを必ず敷くことを指導する。教師が見本を見せながら、書くときは紙をかるく押さえ、字を消すときも紙を押さえることを伝える。 </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・線をなぞる際は、速さを競うことにならないよう、正しい鉛筆の持ち方と姿勢でのびのびと書くようにさせる。 ・フェルトペンを使わせてもよい。 ・筆圧が強すぎたり弱すぎたりする児童には、机間指導の際、教師が個別に手本を示すようにする。 ・書いた字を保管しておくとし、3月に学習する「もうすぐ2年生」で、自分の成長を実感できる材料となる。 </div>
<div>9</div> <div>日</div> <div>目</div>	<div> <p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> </div> <div> <p>1 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」④</p> <p>○ 音楽の教科書P. 8～9</p> <div> <p>サンダーバード ピンク・パンサーのテーマ どうけしのギャロップ なみを こえて ぞう</p> </div> <p>○ 国語の教科書P. 10～11</p> </div>	<div> <ul style="list-style-type: none"> ・4時間目は学校裁量の時間とする。 </div> <div> <p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語 生活</p> <p>「10の姿」：(又)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (リ)言葉による伝え合い</p> <p>(二)道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科の教科書口絵P. 6～7「なかよく なりたいね」での学習と関連させ、自分の好きな曲や本を伝える場とする。 ・幼児教育施設で歌ったことがある曲があるかどうか児童に聞いてみるとよい。 ・様々な2拍子、3拍子の曲に合わせて体を動かしながら、拍の流れや曲想に気付くようにさせる。 ・曲に合わせて体を動かすことをねらいとし、どんなふうに動いてみたいか考えさせるとよい。 ・曲に合わせて手や膝を打つてもよいことを伝える。 ・曲の気分に合わせて動きをしている児童がいたら取り上げ、その理由を問うなどして、曲想を共有していくとよい。 ・一人一人の動きのよさを認め、動きを工夫している児童を称賛する。 ・「おはなし たのしいな」では、教室の前に児童を座らせ、教師が読み聞かせを行うとよい。 ・国語の教科書に示されている本を読み聞かせすること以外にも、音楽の曲に合わせた本を選んだり、児童に読んでほしい本を聞いたりして、読み聞かせをすることも考えられる。 </div>
<div>2</div>	<div> <p>2 がっこうだいすき 「がっこうでの すごしかたを しろう」①</p> <p>○ 道徳科の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちや考えを友達と一緒に話し合うことによって、心を磨く勉強 <p>○ 道徳科の教科書P. 2～5「どうとくの がくしゅうが はじまるよ」「どうとくでは こんな がくしゅうを するよ」を確認する。</p> </div>	<div> <p>時間計上にかかわる各教科等：道徳</p> <p>「10の姿」：(ホ)社会生活との関わり (ロ)自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科は1時間単位で取り扱う。 ・学活と関連させて学習を行うとよい。 ・道徳科の内容項目「C よろよい学校生活、集団生活の充実」として、「がっこうだいすき」を取り扱う。 ・知多カリの上記の内容を見ると、「教師が児童一人一人と愛情のある触れ合いをすることによって、教師を敬愛しようとする心が育まれるようにすることが大切である。また、様々な学習活動を通して上級生に親し </div>

9 日	<p>○ <u>道徳科</u>の教科書P. 6～7</p>	<p>みをもったり、学校生活を支えている人々との関わりを深めたりしながら、敬愛の心を育て、学級や学校の生活を自分たちで一層楽しくしようとする態度を育てる必要がある。」とある。道徳科の授業を通して、学校のことを知りながら、集団の中での行動の仕方を学ぶとともに、自分の居場所をつくっていけるような指導をすることが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を拡大して提示し、児童に視覚的に捉えやすくさせるとよい。 ・学校生活の様々な場面を取り上げ、誰がいるのか、何をしているのかを考えさせる。 ・見付けたことを自由に発表させる。 ・見付けたことは、黒板に分類しながらまとめるとよい。 ・車いすに乗っている児童にも着目させ、学校はいろいろな人が共に学習する場であることを知らせる。 ・動物の飼育や花の栽培にも着目させ、これらは生活科で行う学習であることを伝えることで、学習への期待感をもたせたい。 ・教科書P. 7の左上の絵にも着目させ、図書館は本を貸し借りするところ、静かに本を読むところなど、児童の経験に基づきながら図書館のはたらきやルールについて考えさせたい。 ・学校が大好きになるように、児童の思いや願いを十分に出しながら発表させることを大切にしつつ、楽しさだけでなく、学校は集団生活のルールについて学習する場であることにも触れたい。
3 目	<p>3 がっこうだいすき 「かぞえて みよう」①</p> <p>○ 指を使って数を数える練習をする。 ・教師の手拍子の数を指を使って数える。</p> <p>○ 音の数だけ仲間を集める「かず あわせ げえむ」をして、遊ぶ。 ・タンブリンの音を指を使って数える方法で行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①音楽が鳴っている間は、歩く。 ②音楽が止まったら、その場で止まり、タンブリンの音の数を聞く。 ③タンブリンの音の数を指を使って数えて、同じ人数で集まって座る。</p> </div> <p>○ 文字の数だけ仲間を集める「かず あわせ げえむ」をして、遊ぶ。 ・カードに書かれた文字数を指を使って数える方法で行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①音楽が鳴っている間は、歩く。 ②音楽が止まったら、その場で止まり、教師が用意したカードを見る。 ③文字の数を指を折って数えて、同じ人数で集まって座る。</p> </div>	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 生活 「10の姿」：(リ)言葉による伝え合い (ロ)自立心 (ハ)思考力の芽生え (ニ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>の教科書口絵P. 8～9「やって みたいな」での学習を想起させ、数への関心を高めさせる。 ・<u>算数</u>「オリエンテーション」として計上するが、遊びを通して、数の感覚を豊かにすることを目的とする。 ・<u>算数</u>の教科書見開きページ「わくわく すたあと」を見て、幼児教育施設での経験を想起させ、そこでの経験がこれから始まる学習へとつながっていくことを知らせる。 ・全員を座らせ、静かな環境の中で、指を折って数えさせる。 ・机を移動して行うとよい。 ・「さんぽ」など、<u>音楽</u>の教科書P. 68「おんがくランド」の曲を使う。 ・ここではまだ、折った指とタンブリン音の数が1対1で対応できればよい。 ・動物名や果物名などを活用するとよい。 ・カードには、例えば「ぞ・う」「き・り・ん」「ぱ・ん・だ」のように児童がよく知っている動物にするとよいが、慣れてきたころに、「じゃ・い・あ・ん・と・ぱ・ん・だ」など、長い名前や知らないような名前を出すと盛り上がる。(動物名の場合) ・ここではまだ、折った指と文字の数が1対1で対応できればよい。 ・「もうじゅうがり」で行う方法もある。
3	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4時間目は学校裁量の時間とする。

	<p>1 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」⑤</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P. 8～9</p> <p>○ <u>国語</u>の教科書P. 10～11</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語 「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かすことを伝える。 ・「なみを こえて」は流れるような3拍子、「ぞう」は拍のはっきりした3拍子と違いがあるため、「なみを こえて」で横に揺れるような動きをしていたり、「ぞう」でステップを踏んだりしている子がいたら、取り上げる。 ・どうしてそういう動きをしたのか、その理由を友達に伝え合わせるようにする。 ・一人一人の動きのよさを認め、動きを工夫している児童を称賛する。 ・「おはなし たのしいな」では、教室の前に児童を座らせ、教師が読み聞かせを行うとよい。 ・<u>国語</u>の教科書に示されている本を読み聞かせすること以外にも、音楽の曲に合わせた本を選んだり、児童に読んでほしい本を聞いたりして、読み聞かせをすることも考えられる。 ・<u>道徳科</u>の授業と関連させて、図書館に行き、読みたい本を探してもよい。
<p>10 日 目</p>	<p>2 はじめまして、よろしくね 「ほけんしつに いって しんたいそくていを しよう」</p> <p>○ 体操服への着替え方、畳み方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操服入れを机の上に置き、体操服を出す。 ・服を脱いで、体操服に着替える。 <p>・着ていた服を簡単に畳んで、机の上に置く。</p> <p>○ 並び方を知り、保健室に行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・番号順に、教室の後ろに並ぶ。 ・整列の練習をする。 <p>「前へならえ。」「なおれ。」 「気を付け。」「休め。」</p> <p>○ <u>身体測定(学校行事)</u>について知り、挨拶をして、身体測定をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体測定の意義を知る。 ・内容を知る。 ・受け方を知る。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 「10の姿」：(イ) 健康な心と体 (ニ) 道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室に行き、身体測定をすることを伝える。 ・身体測定では、着替えることを知らせる。 ・上の服を脱いだ後、上の体操着を着て、下の服を脱いだ後、下の体操着を着るようにさせる。 ・脱いだ服を裏返しのままにしたり、畳まなかったりすると、着る時に不便なことを知らせる。 ・衣服は脱いだ物から順に畳んでいくと、着るときに便利であることを教える。 ・男女別の出席番号順に並ばせる。 ・「前へならえ」をするときに、先頭の児童は腰に両手を当てることを教える。 ・健康手帳を見せながら、成長の記録として身体測定は大切なものであることを説明する。 ・順番を待つ間は、静かにすることを教える。 ・<u>国語</u>の教科書P. 18～19「なんて いおうかな」を想起させ、「お願いします」「ありがとうございました」などの挨拶をさせる。
	<p>3 がっこうだいすき 「かぞえて みよう」②</p> <p>○ 「ともだち いっぱい にこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」を見て、各誕生月の児童の数を数えたり、数の大小について確かめたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各誕生月の児童の数を指を使って数える。 <p>・各誕生月の児童の数の大小について、1対1対応をさせながら調べる。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 「10の姿」：(チ) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (ヘ) 思考力の芽生え (ハ) 協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>の教科書口絵P. 6～7「たのしい がくしゅう」での学習を想起させ、「ともだち いっぱい にこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」を使って、数を数えることへの関心を高めさせる。 ・<u>算数</u>「オリエンテーション」として計上をするが、遊びを通して、数の感覚を豊かにすることを目的とする。 ・「ともだち いっぱい にこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」を掲示する。 ・「4月生まれのお友達の数を指を使って数えましょう」などと声掛けしながら、各誕生月の台紙に貼られた児童の顔の絵の数を指を折って1対1対応(絵と指)をさせながら数えさせる。 ・折った指の数だけ、黒板に○を付けていくとよい。 ・「○月生まれのお友達と○月生まれのお友達とでは、

10 日 目 3		<p>どちらの月のお友達の方が多いですか」などと質問をしながら、○月生まれと○月生まれの児童の顔の絵を1対1対応(絵と絵)をさせながら調べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 慣れてきたら、「1番多い月は5月ですが、その次に多い月は、何月ですか」「生まれた人数が同じ月は、何月と何月ですか」等、月の人数を比較しながらいろいろな問題を出すといよい。
11 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1 はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる ことを ふやそう」⑤</p> <p>○傘のしまい方と置く場所や、レインコートの畳み方と置く場所を知る。また、雨の日の過ごし方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 傘を閉じる。 傘を置く。 レインコートを畳む。 レインコートを置く。 雨の日の過ごし方を考える。 「教室で静かに遊びます。」 「本などを読んで過ごします。」 等 朝の会の仕方を知る。 日直の仕事について知る。 朝の会の仕方について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会では、挨拶、健康観察、今日の予定などを確認する。児童に安心感をもたせるために、毎日必ず行うことはパターン化するとよい。 4時間目は学校裁量の時間とする。 <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：学活 生活 「10の姿」：(口) 自立心 (木) 社会生活との関わり (二) 道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> 11日目の計画は、雨の日を想定している。晴れた場合は、日程の入れ替えをして実施するとよい。 生活科の教科書P.5「こまったな どうしよう」の内容を想起させ、雨の日に用具をどのようにしまったらよいのか、雨の日の過ごし方はどうしたらよいのかを考えさせる。 学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容として、取り扱う。 傘を閉じてくるくと巻き、最後に留め金をしっかり留めるとよいことに気付かせる。 一人一人仕切りのある傘立てには、名前や番号を記しておくといよい。 袖と袖を合わせて畳み、袋に入れるようにさせる。 フック等がある場合は、乾くまで干させてもよい。 袋に入れたレインコートを置く場所を確認させる。 考えたことを実行して過ごすように声掛けをする。 「がっこうでの すごしかたを しろう」①での学習を想起させ、集団生活上必要な朝の会や帰りの会への関心を高めさせる。 学級の実態に応じて、仕事の内容などをあらかじめ決めておくといよい。 一巡目は、挨拶の号令、朝・帰りの会の簡単な司会程度にして、慣れてきたら仕事の内容を増やしていくといよい。 朝の会の時間を考慮して、会の内容をあらかじめ決めておくといよい。 初めは、なるべく単純な流れにしておき、スムーズに進められるようになったら、スピーチタイムや歌等、内容を増やしていくといよい。 <hr/> <p>2 がっこうだいすき 「がっこうでの すごしかたを しろう」②</p> <p>○道徳科の教科書P.8～9</p>
	<p>2 がっこうだいすき 「がっこうでの すごしかたを しろう」②</p> <p>○道徳科の教科書P.8～9</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：道徳 生活 「10の姿」：(口) 自立心 (木) 社会生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳科は1時間単位で取り扱う。 学活と関連させて学習を行うといよい。 生活科の教科書P.8～9の「やって みたいな」の学習を想起させ、学校生活についての興味を高める。 道徳科の内容項目「C よりよい学校生活、集団生活の充実」として、「たのしい ことが いっぱい」を取り扱う。 教科書P.8では、季節ごとに、どんな行事や活動があるのかを考えさせる。 教科書P.9では、どんな学習や活動をしているのかを

11 日 目	<p>3 はじめまして、よろしくね 「とうげこうの しかたを おぼえよう」③</p> <p>○生活科の教科書P.122を開き、学校の行き帰りに、どんなことに気を付けて歩いたらよいかを知る。</p> <p>○身の回りの整頓、帰りの支度について確認する。</p> <p>○帰りの会の仕方を知る。 ・帰りの会の仕方について知る。</p> <p>○雨天時の下校の仕方を知る。 ・並ぶ場所や並び方を知る。 ・交通に関わるきまりを再確認する。</p>	<p>考えさせる。 ・自由に発表させる。 ・雨の日の過ごし方については、この時間を使って考えさせてもよい。</p> <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：生活 学活 「10の姿」：(ロ) 自立心 (二) 道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>・場面絵を見ながら、気を付けるべき行動について考えさせ、○や×をなぞらせるとよい。</p> <p>・「子ども110番」の看板がついた家が、地域に必ずあることを知り、登下校の際に困ったことがあったときは、大人の人に知らせるとよいことを伝える。</p> <p>・防犯ブザーの役割や使い方についても指導する。</p> <p>・生活科の教科書P.123の内容は、交通安全教室や不審者避難訓練等と関連させて指導するとよい。</p> <p>・生活科の教科書P.3「きちんと おけるよ」を想起させ、帰りの支度をする際に、ロッカーやお道具箱、身の回りの片付けができていくか、入学以後の生活を振り返り評価させるとよい。その際、入学以来、自分のできることが増えたことを評価し、個々の自己肯定感を高められるようにしたい。</p> <p>・「じぶんで できることを ふやそう」⑤での学習を想起させ、集団生活上必要な朝の会や帰りの会への関心を高めさせる。</p> <p>・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容として、取り扱う。</p> <p>・帰りの会の時間を考慮して、会の内容をあらかじめ決めておくとうい。</p> <p>・初めは、なるべく単純な流れにしておき、スムーズに進められるようになったら、内容を増やしていくとうい。</p> <p>・学年で統一した事項を教室で簡単に説明した後、実際の場所で指導するとよい。</p> <p>・音をよく聞いて、周りをよく見て歩くよう指導する。</p>
12 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」⑥</p> <p>○音楽の教科書P.8～9</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>サンダーバード、ピンク・パンサーのテーマ、どうけしのギャロップ、なみをこえて、ぞう</p> </div> <p>○国語の教科書P.10～11</p> <p>○約束やルールを守って「ゲーム（鬼遊び）」をする。 〈ラインおに〉</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語 体育 「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性 (リ) 言葉による伝え合い (ヘ) 思考力の芽生え</p> <p>・音楽に合わせて手や膝を打つてもよいことを伝える。</p> <p>・どうしてそういう動きをしたのか、その理由を友達に伝え合わせるようにする。</p> <p>・一人一人の動きのよさを認め、動きを工夫している児童を称賛する。</p> <p>・国語「おはなし たのしいな」では、教室の前に児童を座らせ、教師が読み聞かせを行うとうい。</p> <p>・国語の教科書に示されている本を読み聞かせすること以外にも、音楽の曲に合わせた本を選んだり、児童に読んでほしい本を聞いたりして、読み聞かせをすることも考えられる。</p> <p>・読み聞かせの感想を聞いて交流するとよい。</p> <p>・体育として計上をするが、体操服には着替えずに遊びの一環として取り扱う。</p> <p>・幼児教育施設でも、遊ぶときに約束やルールが必要で</p>

12 日 目	<p>コートの中に田んぼの「田」の字になるようにあぜ道を作る。鬼はその十字架にかかれたあぜ道しか移動できない。逃げる人は、あぜ道以外を時計回りに移動するように逃げる。</p> <p>〈手つなぎ鬼〉 エリアの中を手をつないで逃げる。</p> <p>〈じゃんけんしっぽ取り〉 エリアの中で、勝ったらしっぽを取りに行く。また、勝ったら相手を交わして逃げる。</p>	<p>あったことに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3, 4年生の「E. ゲーム」の領域につながるように、エリアを設けてその中で活動させるとよい。 ・他にも、たかたか鬼、いろ鬼等の鬼遊び、遊具を使った「ゲーム（鬼遊び）」をすることも考えられる。また、生活科の教科書P. 46～47「みんなで あそぼう」にあるだるまさんがころんだ、けいどろを行ってもよい。
	<p>2～3 がっこうだいすき 「みつけた はるで つくってみよう」①</p> <p>○生活科の教科書P. 38～39</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭で遊具を使ったゲーム（鬼遊び）をした後、校庭や花壇にある樹木や草花に親しんだり、それを使って遊んだりする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>セイヨウタンポポ オオイヌノフグリ レンゲソウ シロツメクサ ナズナ ハルジオン 等</p> </div> <p>○校庭や花壇で見つけた花を発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>チューリップ、パンジー、ビオラ、サクラソウ、ヒヤシンス、クレサンセマム、ワスレナグサ 等</p> </div> <p>○図工の教科書P. 10～11</p> <p>○自分が描いた花を紹介する。 「たんぽぽを描きました。小さいおひさまみたいでかわいいです。」 「チューリップを描きました。お母さんのスカートみたいできれいです。」 等</p> <p>○片付けの仕方を知る。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 図工 「10の姿」：(ト) 自然との関わり・生命尊重 (ヘ) 思考力の芽生え (ヌ) 豊かな感性と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間目の体育の学習との連続性の中で、生活科「みつけた はるで あそぼう」の学習を行うとよい。 ・外でみんなと遊ぶと楽しいことを感じ取らせるとともに、春の樹木や草花にも着目させる。それらを使ってどんな遊びがしたいか、児童の願いや思いを出させる。 ・幼児教育施設やこれまでの経験を聞き、春の樹木や草花を使って、どんな遊びができるかを児童に聞くとよい。 ・本時では、春の自然物に触れることを主眼とし、生活科の教科書P. 46「ものしり のうと」にある春の自然物を使った遊びについては次の日に行う。 ・必要な物を教室に持って帰ってもよいことを知らせる。 ・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容を想起させ、教室に入る前に、手洗い場でうがい・手洗いをすることを伝える。 ・花の名前が分からなくても、花の色や形、大きさなど、見つけたことを自由に発表させる。 ・好きな形や色で描くことを楽しむとともに、好きなものや描きたいものを表現して伝え合うことをねらいとする。 ・見つけた春の中で、何を描きたいか考えさせる。 ・図工の教科書P. 61「クレヨン・パスで かいて みよう」を見て、持ち方や書き方を確認し、いろいろな表し方があることを伝える。 ・画用紙は、八つ切を半分にした大きさにしておき、描きたい絵を何枚か描かせるとよい。または、記録カードに絵を描かせてもよい。 ・気付きに着目させて、発表させる。 ・「〇〇みたい」という言葉を使って、比喩表現させると気付きが広がる。 ・どんどん描くのは楽しいという気持ちを高め、次は何を描こうかなという思いや願いをもたせたい。 ・クレヨンに違う色が付いたときは、ティッシュペーパーで拭き取るとよいことを伝える。使った後は、元あった箱の部屋に戻すことを伝える。 ・使った物をきれいに整頓している子、大切に扱っている子を称賛し、全体に広める。
	<p>4 がっこうだいすき 「おいしい きゅうしょく」①</p> <p>○給食について知っていることを発表する。 「園でも給食を食べていました。」</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 学活 「10の姿」：(イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性 (リ) 言葉による伝え合い (ロ) 自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科の教科書P. 8～9「やって みたいな」を想起させ、集団生活上必要な給食の配膳や会食への関心を高

	<p>「はしやスプーン、フォークで食べました。」 「デザートがありました。」 等</p> <p>○給食の準備の仕方について知る。</p> <p>○給食の準備をして、配膳をする。 ・当該校の計画による。 〈活動例〉</p> <table><tr><td>給食当番や机拭き当番</td><td>その他</td></tr><tr><td colspan="2">・会食のためのグループをつくる。 ・手洗いをし、消毒する。 ・マスクをする。</td></tr><tr><td>・配膳台や児童机を拭く。 ・エプロンを着ける。 ・ワゴン配膳室から運ぶ。 ・配膳する。 ・エプロンやマスクを脱ぐ。</td><td>・静かに着席する ※セルフ方式の場合は、給食を取りに行く ・マスクを外す</td></tr></table> <p>○会食をする。 ・揃って「いただきます」の挨拶をする。 ・分量を加減する。 ・会食を始める。</p> <p>・食べられる児童は、おかわりをする。 ・揃って「ごちそうさまでした」の挨拶をする。</p> <p>○後片付けをする。 ・食器などを返し、机を戻す。 ・机拭きをする。 ・ワゴンを返却する。</p> <p>○歯磨きをする。 ・当該校の方法による。</p>	給食当番や机拭き当番	その他	・会食のためのグループをつくる。 ・手洗いをし、消毒する。 ・マスクをする。		・配膳台や児童机を拭く。 ・エプロンを着ける。 ・ワゴン配膳室から運ぶ。 ・配膳する。 ・エプロンやマスクを脱ぐ。	・静かに着席する ※セルフ方式の場合は、給食を取りに行く ・マスクを外す	<p>めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none">・初めて給食を食べる日に合わせて実施する。・幼児教育施設では、持参した弁当を食べたり、準備してもらった給食を食べたりしていたが、小学校では、自分たちで準備をしないと食べられないことを知らせる。また、準備をして食べることこそが小学校の給食の楽しさでもあることを伝える。・アレルギーのある児童の保護者と連絡を密に取る。特に、給食の献立に変更があった場合は、速やかに対応をする。・給食当番の役割分担が分かるような当番表を事前につくり、その見方と役割について説明する。・給食当番のグループは、教師があらかじめ考えておく。・机拭き当番について説明する。・給食の時間と合わせて、実際に活動をさせながら教えることよい。・消毒薬の取り扱いや保管については、安全に関わることで、教師が行う。・約束やきまりは、明確にして伝える。・机拭き用の台拭き雑巾の絞り方や、拭き方については、手本を示しながら、当番になった児童から順に指導することよい。・髪が落ちないように、帽子の中に入れさせる。・トイレに行きたいときは、着替える前に行くようにさせる。・当番以外の児童は、静かに座って待つように指導する。・食缶等を置く場所は、学年間で統一しておくことよい。・食缶等を置く場所に、ラミネート加工した絵マーク等を貼っておくと、指導がしやすい。・エプロンが、袋の中から飛び出さないようにしませる。 <p>・楽しい雰囲気の中で、会食をするように配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none">・食べることが遅い児童、少食の児童、偏食の児童には、給食への不安を取り除くような声掛けをする。・食事の量については、個への対応にも配慮する。入学初期に無理強いさせると給食嫌いになり、それが原因で登校を渋る児童が出てくることもあることに留意したい。・給食に慣れてきたら、徐々に食育に関わる指導を献立に合わせて行い、食の大切さを実感させていくことよい。 <p>栄養教諭が所属する学校については、支援を依頼することよい。</p> <ul style="list-style-type: none">・おかわりの仕方を知らせる。・「ごちそうさま」をする時間を時計に図示するなど、時間を意識できる工夫をすることよい。・食器の返し方やごみ処理の仕方について、具体的に説明し、一つ一つ確かめながら行わせる。 <p>・磨き残しがないようにするために、歯を磨く順番や磨き方のポイントを示す掲示物を作っておくことよい。</p>
給食当番や机拭き当番	その他							
・会食のためのグループをつくる。 ・手洗いをし、消毒する。 ・マスクをする。								
・配膳台や児童机を拭く。 ・エプロンを着ける。 ・ワゴン配膳室から運ぶ。 ・配膳する。 ・エプロンやマスクを脱ぐ。	・静かに着席する ※セルフ方式の場合は、給食を取りに行く ・マスクを外す							
13日目	朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。							

13	<p>1 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」⑦</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P. 10～11</p> <p>○ 校庭の固定施設で遊ぶときの約束やルールを考えて、遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校庭で、見付けた遊具を発表し、幼児教育施設の遊具と比べ、似ているところや違うところを発表する。 「遊具が大きいです。」 「遊具がたくさんあります。」 「変わった遊具があります。」 等 遊ぶときの約束やルールを考えて発表する。 「友達を押しません。」 「順番を守ります。」 「慌てて行動しません。」 「譲り合います。」 等 正しい遊具の使い方を理解して遊ぶ。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 体育</p> <p>「10の姿」：(又) 豊かな感性と表現 (イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性 (ニ) 道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて曲の感じをつかみ、歌詞の表わす情景を想像して歌うことをねらいとする。 蓮華の花についての情景を豊かにするために、教科書の挿絵を利用するとよい。 遊び方を知り、8人程度を目安に手をつないで輪になり、拍に合わせて歩きながら歌うとよい。 体育として計上するが、体側服に着替えずに、遊びの一環として取り扱う。 一度に多くの児童が使用するので、約束やルールが必要なことに気付かせる。 危険な遊び方をすると、大きなけがにつながることに気付かせる。 遊具の使い方については、一つ一つ説明する。 遊びの約束やルールを守って、みんなで楽しく遊んでいる児童を称賛し、みんなに広め、友達のよいところをまねるように促す。 約束やルールを守って遊ぶことの楽しさをに気付かせる。
目 目	<p>2～3 がっこうだいすき 「みつけた はるで つくってみよう」②</p> <p>○ <u>生活科</u>の教科書P. 42～43</p> <ul style="list-style-type: none"> 校庭や花壇にある樹木や草花を使った遊び道具をつくる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>タンポポ・・・腕時計、人形、風車 レンゲソウ・・・サングラス シロツメクサ・・・かんむり、プレスレット カラスノエンドウ・・・笛 ナズナ・・・鈴、でんでん太鼓</p> </div> <p>○ 見付けた春で遊ぶ。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 図工</p> <p>「10の姿」：(ト) 自然との関わり・生命尊重 (ヘ) 思考力の芽生え (又) 豊かな感性と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 固定施設を使った遊びの後、春の自然物に目を向けさせ、校庭や花壇で見付けた春の自然物を教室に持ち帰って遊び道具をつくることを伝える。 <u>図工</u>の教科書P. 64「はさみを つかって かみをきろう」を基に指導する。幼児教育施設ではさみを使った経験を確認しながら、持ち方と切り方について指導する。はさみを人に渡すときは、刃の方を持って渡すことを確認する。 <u>生活科</u>の教科書P. 46～47「ものしり のうと」を見ながら、以下のものを作成するとよい。 タンポポの腕時計は、タンポポを二つに割いて手首に巻く。人形は、葉を縦に二つに折って巻く。風車は、はさみなどを使って茎に切り込みを入れ、水で濡らした後、松葉を通す。 レンゲソウのサングラスは、タンポポの茎を切り取って、はさみなどで切り込みを入れ、レンゲソウを2本その間に入れる。 シロツメクサはできるだけ長めの茎の方が編み込みやすい。2～3本を交差させ、交差部分をしっかりと押さえて上の茎をくると下の茎に巻き付けていく。3，4本目も同じ手順で巻き付ける。最後にまとめる用の1本をつなげて結ぶ。大きさを変えればプレスレットにもなる。 カラスノエンドウのさやをはさみを使って割き、中の豆を出す。しっぽの方をくわえて吹くと笛になる。 ナズナのハート型の実の部分を持ち、下に引っ張る。実がぶらぶらとした状態になったら、耳のそばに持って行く。ナズナの茎を持って振ると、パチパチという音が鳴る。また、ナズナの茎を親指と人差し指でつまみ、指を前後にスライドさせると、実がでんでん太鼓のようにぶつかって音がする。 友達とつくったものを見せ合い、何をつくったか、どうやって遊ぶかを伝えさせるようにする。 活動が終わったら、使った物を後片付けすること、手

13 日 目	<p>4 がっこうだいすき 「おいしい きゅうしょく」②</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食の準備をして、配膳をする。 <ul style="list-style-type: none"> 当該校の計画による。 会食をする。 <ul style="list-style-type: none"> 揃って「いただきます」の挨拶をする。 分量を加減する。 会食を始める。 食べられる児童は、おかわりをする。 揃って「ごちそうさまでした」の挨拶をする。 後片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> 食器などを返し、机を戻す。 机拭きをする。 ワゴンを返却する。 歯磨きをする。 <ul style="list-style-type: none"> 当該校の方法による。 	<p>を洗って清潔にすることを指導する。</p> <p>時間計上にかかわる各教科等：学活</p> <p>「10の姿」：(イ)健康な心と体 (ハ)協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> 学活「おいしい きゅうしょく」として取り扱う。 「おいしい きゅうしょく」①は、学校生活でやってみたいこと、楽しみなことを児童から引き出して給食指導につなげることをねらいとし、「おいしい きゅうしょく」②は、給食指導として行う。 栄養教諭が所属する学校については、支援を依頼するとよい。
14 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1～2 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽の教科書P.10～11 <ul style="list-style-type: none"> 校庭の固定施設で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 国語の教科書P.12～13 <ul style="list-style-type: none"> 教師の示した絵（いぬ、ねこ、ライオン、ゾウ、パンダ）を見て、好きなものを選ぶ。 同じものを選んだ人で集まり、選んだ理由を伝え合う。 違うものを選んだ人に選んだ理由を伝えたり、相手の話を聞いて感想を話したりする。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 体育</p> <p>「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (二)道徳性・規範意識の芽生え (リ)言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した「ひらいた ひらいた」を歌う。歌詞に合わせて、どのように歌うかや、どのように遊ぶかを考えて歌わせる（1番と2番の歌詞の違い、ふさわしい強弱や速度など）。 本時では、わらべうたで歌いながら、動きを合わせて遊ぶことを伝える。 鑑賞音源を聴いて曲の感じをつかみ、歌詞や遊び方を覚える。幼児教育施設での経験を聞き、曲を知っている児童がいたら、教え合うようにして遊ばせる。 「なべ なべ」は慣れたら、二人組だけでなく四人組でも遊ぶと楽しい。 音楽の教科書P.13の「うたで おはなし」では、教師が手拍子を打ちながら、歌で話しかける。旋律は自由だが、ラ・ソの2音などから始めると歌いやすい。また、「好きな遊びは何ですか？」などと、問いかけを続けると楽しい。 外の遊具で遊ぶのが好きという児童の願いを基にして、校庭にある固定施設を使った運動遊びにつなげるとよい。 体育として計上をするが、体操服には着替えずに遊びの一環として取り扱う。 約束やルールを守って遊ぶことの楽しさをに気付かせる。 外で遊んだ後は、うがい・手洗いをするように指導する。 黒板に絵を掲示する（教科書には動物の絵が示されているが、児童の興味・関心に合わせて、色、食べ物、遊びなどの絵にしてもよい） 伝え合うときの約束を確認する。教科書のように手をつないで発表させることも考えられる。 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞かせるようにする。 伝え合うことが苦手な児童には、教師が聞いたり、伝え合わせたりする。

14 日 目	<p>3 がっこうだいすき 「ひなん くんれんの しかたを しろう」</p> <p>○「避難訓練」(学校行事)を実施する。 ・当該校の計画による。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 「10の姿」：(イ)健康な心と体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の仕方は、当該校の計画に従う。 ・避難訓練の意義を事前に話しておく。 ・「おはしも」「おうた」が、おはしもの後に続く場合もある)や「シェイクアウト」(まず低く、頭を守り、動かない)等の各避難訓練に必要な事前指導を行う。 ・避難経路図について説明する。 ・事後指導を行う。 ・<u>生活科</u>の教科書P.124「あんぜんの ペえじ」を活用したい。
	<p>4 たのしい がくしゅう 「かず とすうじ」①</p> <p>○<u>算数</u>の学習について知る。 ・数や数字に関わるきまりを覚えたり、数字で考えたりする勉強</p> <p>○準備の仕方を知る。 ・授業が始まる前に用具を準備する。</p> <p>○<u>算数</u>の教科書P.2～7を基に、数の大小について判断したり、数の量感を確認したりする。 ・タンポポや亀などの集まりに丸を付ける。 ・鳥と巣を線で結んで、1対1で対応させて数の大小を判断する。</p> <p>・かえるとはすの葉を線で結んで、1対1で対応させて数の大小を判断する。</p> <p>・バケツやじょうろの上に数図ブロックを置き、その後、ブロックを固め、数の量感を確かめる。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 「10の姿」：(チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (ヘ)思考力の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>の教科書口絵P.8「やって みたいな」での学習を想起させ、数の学習への関心を高めさせる。 ・<u>算数</u>の教科書のP.2～7を基に、「お話づくり」をさせ「算数」の学習のイメージをふくらませる。 ・ぞうといぬ、りすが、学校に登校するまでに、何を見付けるのかというストーリーを考えさせるとよい。 ・教科書拡大図(デジタル教科書や掛図)を活用するとよい。あるいは、教科書P.2のQRコードを活用するとよい。 ・お話づくりは教科書のP.13まで続くことを知らせ、今後の展開に興味をもたせる。 ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・準備する用具は、学年便りなどを通して、前もって家庭に連絡しておくとうい ・数図ブロックを準備させる。 ・<u>算数</u>「オリエンテーション」として、初めて算数の教科書を使って学習をさせるが、ここでも数の感覚を養うことを重視して指導に当たるようにする。 ・「ともだち いっぱい にこにこ ひょう(たんじょうび ひょう)」を使った学習活動を想起させるとよい。 ・鉛筆を使って、教科書に直接丸を付けさせる。 ・1対1で対応させる方法は、算数の学習の基礎となるので、机間指導をして、確実にできているかを個別に確かめる。 ・1対1での対応とならない事例を確認することで、数の大小に気付かせる。 ・1つの絵に数図ブロックを1個を置くことに注意させる。 ・具体物と半具体物が1対1で対応することを知らせ、この半具体物が数であり、数字へと展開していくことを感覚的に捉えさせる。
	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p>	
15 日 目	<p>1～4 がっこうたんけん はじめよう 「わくわく どきどき がっこうを あるこう」</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 生活 国語 書写 算数 「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (リ)言葉による伝え合い (ロ)自立心 (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (ホ)社会生活との関わり (ヘ)思考力の芽生え (ト)自然との関わり・生命尊重</p>

	<p>○ <u>音楽</u>の教科書P. 14～15</p> <p>○ <u>生活科</u>の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して、いろいろなことに気付いたり、表現したりする勉強 <p>○ <u>準備</u>の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まる前に用具を準備する。 <p>○ 教科書P. 2～3を開き、学校はどんなところか、何があるか、だれがいるかなどを伝え合う。</p> <p>「教室がたくさんあります。」(場所) 「階段や運動が保育園よりも大きいです。」(物) 「学校には、校長先生がいます。」(人)等</p> <p>○ 校舎内をみんなで探検する計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、曲の感じをつかみ、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌う。 ・<u>生活科</u>の教科書口絵P. 8～9「やって みたいな」を参照させ、もっと学校のことを知りたい気持ちを高める。 ・生活科のねらいは、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくことであることを教師自身が必ず確認しておく。 ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・準備する用具は、学年便り等を通して、前もって家庭に連絡しておくといよい。 ・校内には、興味深い場所や物、働いている人や上級生がいることに気付かせ、場所、物、人に着目させながら自由に発表させる。
15	<p><めあて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいな、不思議だなと思った場所や物を見付ける。 ・いろいろな人を見付ける。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>の教科書P. 4～5を参考にし、音楽室や理科室など上級生の活躍が見られる場所や、学校の特色が表われている場所を選ぶようにする。 ・教師の引率により、校舎内をみんなで探検することを伝える。 ・場所、物、人に着目するよう伝える。 ・どんな人がいたかを尋ね、「人に会いたい」という気持ちも高めさせる。 ・約束については、教科書P. 5の「やくそく」を参考にしながら、なぜそのような行動をするのかを児童に考えさせ、約束事を意識して探検するように促す。 ・<u>国語</u>の教科書P. 18～19「なんて いおうかな」の挿絵を拡大しておき、場面に応じた言葉や動作を考えさせるとよい。 ・事前に教職員に連絡をしておき、協力を依頼しておく。 ・探検の観点を、児童自身が興味のあるものだけでなく、出会った人や幼児教育施設との相違点や共通点にも目を向けることを促す。 ・<u>書写</u>の教科書P. 1～2を参照し、教室、図書室、職員室、体育館、手洗い場、廊下、配膳室等にある文字に目を向けさせるとよい。 ・<u>算数</u>の教科書P. 15を参照し、ほうきの数、水槽のメダカの数、跳び箱の段の数などに目を向けさせるとよい。 ・消火器や AED など安全や救護の道具があることにも目を向けさせるとよい。 ・児童のつぶやきがあった場所などの写真を撮り、後で振り返られるようにしておく。 ・出会わせたい人には、事前に活動する時間を伝えて依頼をしておき、自然な形で出会えるようにするとよい。 ・歩いている途中で、諸感覚を使って何かに気付いている児童を見取る。音やにおいなどに気付いている児童がいたら、取り上げて称賛し、全員に広げる。 ・発見カードは、絵で表したり、絵と文字で表したりするなど、一人一人に合わせた方法を探る。 ・児童同士の伝え合いは難しいので、教師が話を聞き取り、それを全体に広げるとよい。 ・友達の発表に対する感想をつぶやいた児童や自分の感想を交えて発表した児童を取り上げ、友達のよさを見付けたことを称賛する。
目	<p><約束></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 ・授業の妨げにならないように、2列で並び、静かに廊下を歩いて見学する。等 	
目	<p>○ 教師引率の下、校舎内を探検する。</p> <p>○ 校舎内を探検する。</p> <p>「知ってる文字を見付けたよ。」 「跳び箱は8段あったよ。」 「消火器は火を消す道具だね。」 「AED の場所は覚えておこう。」</p> <p>○ 校舎内を探検して見付けたことを発見カードに書き、伝え合う。</p> <p>「校長室に行きました。校長先生がお仕事をしていました。」 「音楽室に行くと、養護の先生がいました。どんなときに保健室に来るのか教えてもらいました。」</p>	

15 日 目 4	<p>「用務員さんに会いました。どんなことをする人なのか、今度聞いてみたいです。」 「体育館がありました。みんなが運動をしていました。」 等</p> <p>○発表が終わったら、カードを校内マップに貼っていく。 「同じ音楽室でも、気付いたことが違うね。」 「〇〇さんの図書室のカードを見て、もう一度図書室に行ってみたくなったよ。」 「学校にはたくさんの教室があるんだね。」 「校内マップを発見カードでいっぱいになりたいな。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マップを近くで見せ、思ったことを自由につぶやいてもよい場を設ける。 ・学校には様々な施設があり、多くの人がいてくれることに気付かせるとともに、学校は安全で楽しいところだと実感させる。 ・明日も学校探検をすることを伝え、学校に来るのが楽しみだという気持ちを高める。 ・ここを出された場所、物、人を各教科等との学習と関連させていくようにする。 ・今後、国語、算数の学習と関連させることができる。
16 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1～4 がっこうたんけん はじめよう 「いろいろなことをみつけよう」</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P.14～15</p> <p>○校庭を探検する。 ・みんなが大きな声で体操しているね。 ・鉄棒が高いな。 ・池にオタマジャクシがいるね。</p> <p>＜約束＞ ・門の外には出ない。 ・帰ってきたら手洗い、うがいをする。</p> <p>○校庭を探検して見付けたことを発見カードに書き、伝え合う。 ・飼育小屋にかわいいうさぎがいました。触ってみたいです。 ・花壇にきれいなお花がありました。2年生が1年生の入学式のために育ててくれたと聞きました。1年生も花を育てるのかな。</p> <p>○発表が終わったら、カードを模造紙に貼っていく。</p> <p>○ <u>道徳科</u>の教科書P.10～11</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語 生活 道徳 「10の姿」：(又)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (ヘ)思考力の芽生え (ニ)道徳性・規範意識の芽生え (ロ)自立心 (ホ)社会生活との関わり (ト)自然との関わり・生命尊重 (リ)言葉による伝え合い (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、曲の感じをつかみ、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌う。 ・拍に合わせて腕を振るなどして、拍を聴き取りながら歌う。 ・校内マップを使って、これまでの学習を想起させ、学校探検にまた行ってみたい気持ちを高める。 ・担任が引率して、学級全体で探検をする。 ・児童が安全面や衛生面について意識を高められるように声掛けをする。 ・<u>生活科</u>の教科書P.6～7を見て、探検で見付けたいものを参考にさせてもよい。 ・児童のつぶやきがあった場所を中心に写真を撮り、後で振り返られるようにしておく。 ・<u>書写</u>「がっこうの もじ たんけん」と関連させ、校庭にある人、物、場所（こと）に関する文字にも目を向けさせる。 ・気付いたことや発見したことを、発見カードにかかせる活動は、<u>国語</u>「こんな もの みつけたよ」として取り扱う。 ・発見カードは、絵で表したり、絵と文字で表したりするなど、自分に合った方法で取り組むように促す。 ・模造紙の中心に校舎を描き、遊具や飼育小屋などの位置関係が分かるようにする。 ・模造紙を近くで見せ、思ったことを自由につぶやいてもよい場を設ける。 ・校庭にもたくさん発見があったことを確認し、学校は安全で楽しい場所であることをより実感させるような声掛けをする。 ・道徳科は1時間単位で取り扱う。 ・前回と今回の学校探検を通して、出会った人と挨拶を交わしたことを想起させる。 ・道徳科の内容項目「B 礼儀」として、「あいさつのことば」を取り扱う。 ・知多カ리의上記の内容を見ると、「はきはきとした気

16 日 目 4		<p>持ちのよい挨拶や言葉遣い、話の聞き方や食事の所作などの具体的な振る舞い方を身に付けることを通して、明るく接することができる児童を育てる。」とある。道徳科の授業を通して、日常生活を送るために欠かせない基本的な挨拶について具体的な状況の下での体験を通して実感的に理解を深めさせることが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の挿絵を拡大して提示し、様々な場面において、挨拶にはどんな言葉があるかを考えさせる。 ・吹き出しに挨拶の言葉を書かせてもよい。 ・感謝する気持ちを形に表すことも挨拶の一つであることを捉えさせたい。 ・自由に発表させる。 ・気持ちのよい挨拶を、進んで行おうとする気持ちを高める。
17 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1～2 がっこうたんけん はじめよう 「みつけた ことを おはなし しよう」</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P. 14～15</p> <p>○ 校内マップや写真を見て、もっと知りたいことを伝え合い、次の探検の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この写真は図書室です。本が読める部屋で、たくさん本がありました。 ・この写真の人は校長先生です。校長室にいました。 ・この写真は音楽室です。太鼓の他にどんな楽器があるのか知りたいです。 <p>○ 学校のことを詳しく知る方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度探検する。 ・会いに行って、直接お話を聞く。 <p>○ 児童の興味のある場所や人を挙げ、コースやグループ決めをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ4～5人にする。 ・複数箇所を探検してもよいが、必ず1回はインタビューができるようなコースにする。 <p>○ 聞きたいことを考え、インタビューの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「失礼します。こんにちは。用務員さんは何のお仕事をするのですか。 (インタビューが終わったら) ありがとうございました。」 ・相手に聞こえる声で、目を見て話す。 <hr/> <p>3 がっこうだいすき 「うたに あわせて いって みよう」①</p> <p>○ <u>国語</u>の教科書P. 22～24「うたに あわせて</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 書写 生活 国語</p> <p>「10の姿」：(又)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (ホ)社会生活との関わり (ト)自然との関わり・生命尊重 (リ)言葉による伝え合い (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、拍に合わせて腕を振るなどして、拍を聴き取りながら歌う。 ・付点のはずみリズムを感じながら歌うとよい。 ・<u>生活科</u>の学校探検をすることを伝える。まず写真を見せ、何の写真であるかクイズ形式にして、児童の学習意欲を高める。 ・思い出させる活動を通して、学校探検でわくわくした気持ちやもっと知りたくなった気持ちを想起させる。 ・なかなか意見が出ないときは、「どんな道具があったか」「どんな仕事をするか」などの問いかけをし、知りたい気持ちをもたせる。 <p>・2回目の探検は、児童のみで探検に行くことを伝える。</p> <p>・児童からのもっと知りたいという思いや願いを取り上げ、学校にはまだまだ秘密があることを伝え、2回目の学校探検につなげる。</p> <p>・児童同士での話し合いが難しい段階であるため、生活班もしくは児童の興味に合わせて意図的にグループを組み、後からコースを考える。また、児童の意見を基に探検コースを幾つか用意し、児童に選ばせてもよい。</p> <p>・<u>生活科</u>の教科書P. 11の「ものしりのうと」を見て、インタビューの仕方や挨拶の必要性について考えさせる。</p> <p>・<u>国語</u>の教科書P. 18～19「なんて いおうかな」の挿絵を拡大しておき、場面に応じた言葉や動作を考えさせるとよい。</p> <p>・教職員の顔写真を用意しておき、まだ関わっていない人が学校にはたくさんいることに気付かせてもよい。</p> <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：国語</p> <p>「10の姿」：(リ)言葉による伝え合い (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱CDを活用したり、教師の範読を聴かせたりする

17 日	<p>あいうえお」を繰り返し読む。</p> <ul style="list-style-type: none">・「うたに あわせて あいうえお」の歌を聞き、様子を浮かべたり、歌まねしたりする。・「うたに あわせて あいうえお」を自分たちで声に出して読む。・「うたに あわせて あいうえお」を読み、気付いたことを伝え合う。 「あかるい <u>あ</u>さひだ <u>あ</u>いうえお と最初に <u>あ</u> がついています。」 「楽しい歌です。かえるさんも楽しそうです。」 「今日も朝日を見ました。」 等・気付いたことや見付けたことを思い出しながら、「うたに あわせて あいうえお」を口形に気を付けて読む。 <p>○国語の教科書P.22～23「うたに あわせて あいうえお」の「あ・い・う」を指でなぞる。</p> <p>○国語の教科書の「あ・い・う」の文字を書いて練習する。</p>	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none">・体を動かしたり、手足でリズムを取ったりさせる。・姿勢、口の開け方、声の大きさ、リズム、テンポなどに気を付けさせる。・「い」「う」「え」「お」についても同様に答えさせることができる。・言葉から、連想することなどを発表させる。 <p>・写真の口形を参考にさせる。</p> <p>・青い部分が一画目であることを押さえる。</p> <p>・筆順を丁寧に教える。</p>																														
4 目	<p>4 がっこうだいすき 「かず とすうじ」①</p> <p>○教室の中にある数字を見付ける。</p> <div><p>時計… 1 時, 2 時～ カレンダー… 1 月, 2 月～, 1 日, 2 日～ 出席番号… 1 番, 2 番～ 友達の数… 1 人, 2 人～ 等</p></div> <p>○算数の教科書P.8～9</p> <ul style="list-style-type: none">・挿絵に数図ブロックを対応させて、5までの数を数えたり、唱えたりする。 <div><table><tr><th></th><th>(数える)</th><th>(唱える)</th></tr><tr><td>ぼうし</td><td>……………○</td><td>→ 1</td></tr><tr><td>消しゴム</td><td>……………○○</td><td>→ 2</td></tr><tr><td>本</td><td>……………○○○</td><td>→ 3</td></tr><tr><td>鉛筆</td><td>……………○○○○</td><td>→ 4</td></tr><tr><td>ボール</td><td>……………○○○○○</td><td>→ 5</td></tr></table><p>・挿絵の数を唱える。</p><table><tr><th></th><th>(唱える)</th></tr><tr><td>ちりとり</td><td>…………… (○) → 1</td></tr><tr><td>ほうき</td><td>…………… (○○) → 2</td></tr><tr><td>箱</td><td>…………… (○○○) → 3</td></tr><tr><td>かばん</td><td>…………… (○○○○) → 4</td></tr><tr><td>車の絵</td><td>…………… (○○○○○) → 5</td></tr></table></div>		(数える)	(唱える)	ぼうし	……………○	→ 1	消しゴム	……………○○	→ 2	本	……………○○○	→ 3	鉛筆	……………○○○○	→ 4	ボール	……………○○○○○	→ 5		(唱える)	ちりとり	…………… (○) → 1	ほうき	…………… (○○) → 2	箱	…………… (○○○) → 3	かばん	…………… (○○○○) → 4	車の絵	…………… (○○○○○) → 5	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 「10の姿」：(へ) 思考力の芽生え (ち) 数量や図形、 標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none">・身の周りには、たくさんの数字があることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none">・教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）を用いて、視覚的に考えさせるとよい。あるいは、教科書P.8にあるQRコードを読み取り、映像を見せるとよい。・挿絵と数図ブロックを1対1で対応させ、数図ブロックの塊が数であることを知らせる。・塊になっている数図ブロックを数えてから唱えさせる。・イヌの挿絵に着目させ、具体物（挿絵等）と半具体物（数図ブロック）と数字を対応させて、数の概念を養うとよい。・慣れてきたら、数図ブロックを数えずに唱えさせる。・ペアで、唱える練習をさせるとよい。・教科書の挿絵を見ながら、他にも5までの数が隠れていないか見付けさせてもよい。
	(数える)	(唱える)																														
ぼうし	……………○	→ 1																														
消しゴム	……………○○	→ 2																														
本	……………○○○	→ 3																														
鉛筆	……………○○○○	→ 4																														
ボール	……………○○○○○	→ 5																														
	(唱える)																															
ちりとり	…………… (○) → 1																															
ほうき	…………… (○○) → 2																															
箱	…………… (○○○) → 3																															
かばん	…………… (○○○○) → 4																															
車の絵	…………… (○○○○○) → 5																															
18 日 目	<p>1～3 がっこうたんけん はじめよう 「もっと くわしく しりたいな」</p> <p>○学校探検に行くことを知らせる。</p> <p>○グループに分かれて、学校探検をする。</p> <ul style="list-style-type: none">・職員室、音楽室、理科室コース	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 国語 「10の姿」：(り) 言葉による伝え合い (ロ) 自立心 (ち) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (ハ) 協同性 (ホ) 社会生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none">・<u>生活科</u>の教科書P.8「やって みたいな」を想起させ、学校探検に行くことへの意欲を高める。・学校探検に行く前に、<u>生活科</u>の教科書P.5の「やくそく」を見て、<u>国語</u>「なんて いおうかな」の学習を想起させながら、挨拶の仕方について確認する。・入ってはいけない場所には、あらかじめ「×」などの貼り紙をしておくとい。・児童の実態に配慮しながら、教師が主導してグループをつくることも考えられる。・声の大きさや話し方、振る舞いに気を付けて、学校にいる人たちに積極的にインタビューをしながら、探検																														

18 日	<ul style="list-style-type: none"> ・用務員さん、保健室、掲示物コース ・図書室、特別支援学級、校長室コース 等 <p>○分かったことや気付いたことを発見カードにかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長先生の似顔絵の近くに「こうちょうせんせい」と書きたいな。 ・図書室には、本の並び方も分かるようにかきたいな。 <p>○分かったことや気付いたことをペアで伝え合う。</p>	<p>させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで何度も練習させる。 ・事前に教職員に探検についての連絡をして、探検の約束が守れない児童への指導を依頼しておくとうい。 ・探検の様子が振り返られるように写真を撮っておくとうい。 ・気付いたことや発見したことを発見カードに書かせる。発見カードは、絵に加えて、単語や文でも表現できるとよい。 ・校内で見付けたものを思い出させるために、探検の様子を撮影した写真を提示するとよい。 ・国語「こんなもの みつけたよ」として取り扱い、校舎内で見付けたものを思い出して、紹介したいことを考えながら絵に描かせ、友達に紹介する活動とする。伝え合う際は、国語の教科書の例示のように、「(場所)に、○○がありました。(感想)です。」という話型を使って発表させる。
目 4	<p>4 がっこうだいすき 「かずと すうじ」②</p> <p>○<u>図工</u>でつくった「ともだち いっぱい にこにこ ひょう(たんじょうび ひょう)」を使って数字を唱えるなど、日常生活にある5までの数を探し、数を唱える。</p> <p>○<u>算数</u>の教科書P.10の絵を見て、5までの具体物の数を数えたり、唱えたり、数字でかいたりする。</p> <p>○具体物の増加や減少に合わせて、数図ブロックを操作し、数の系列を理解する。</p> <p>○挿絵、数図ブロック、数字のどれかを提示し、他の物を対応させ、数を理解する。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 「10の姿」：(へ)思考力の芽生え (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣れない児童には、数図ブロックを使用させ、具体物と対応させてから、唱えさせるとよい。 ・赤鉛筆を使って丸の中に、対応する数だけ色を塗らせる。 ・正しい書き順で書いているか、鏡文字になっていないか等を机間指導で確かめる。 ・1に1増えると2になることなどを数図ブロックの操作を通して理解させる。 ・具体物(挿絵等)と半具体物(数図ブロック)と数字との関連が分かるよう、5までの数字で繰り返し練習をさせる。
19 日 目	<p>1 はじめまして、よろしくね 「いちねんせいを むかえるかいに さんかしよう」</p> <p>○「1ねんせいを むかえるかい」(児童集会)に参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該校の計画による。 <p>2～3 がっこうたんけん はじめよう 「みんなの はっけんを ききあおう」</p> <p>○発表の練習をする。</p> <p>○発見カードの内容を伝え合う。</p> <p>「用務員さんにお話を聞きました。用務員さんのお仕事は、校内の掃除や草花のお世話をしていることが分かりました。学校で会ったら、自分からあいさつしたいです。」</p> <p>「校長室を見ました。校長室には、大きなソファや賞状がありました。校長先生には○○学校のいいところを教えてくださいました。学校のことがもっと好きになりました。」</p> <p>「保健室の○○先生とお話しました。『おなか痛くなったり、気分が悪くなったりしたときは、いつでも保健室に来てくださいね』と言ってくださいました。」</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：児童集会 「10の姿」：(ハ)協同性 (ホ)社会生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生の入学を全校児童が祝福する会であることを事前に話しておく。 ・入学の嬉しさを再度実感させたい。 <p>時間計上にかかわる各教科等：生活 図工 「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (ヘ)思考力の芽生え (リ)言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表はグループ単位で行う。 ・一人一箇所を担当させ、2～3文話せるようにする。見聞きしたことに加え、自分の感想や考えたことを話すように促す。国語「こんなもの みつけたよ」と関連させて発表させる。 ・グループ内でカードの内容がなるべく重ならないように指導する。 ・グループごとで、話す順や内容を相談する時間や練習の時間を設ける。 ・見付けたことを称賛し、自分自身への気づきを促すような声掛けをするとよい。 ・ただ単に人だけを発表させるのではなく、児童がそこに着目した意図も伝えられるように指導する。 ・教師が1対1で話を聞き取り、それを自然な形で全体に広げるとよい。 ・見付けたことを称賛し、自分自身への気づきを促すよ

19	<p>「音楽の〇〇先生が音楽室に入れてくれました。特別に、校歌をピアノで弾いてくれました。とても、上手でした。早く校歌を聞きたいです。」 等</p> <p>○校内マップに発見カードを貼る。</p>	<p>うな声掛けをするとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校にはいろいろな人がいて、自分たちのために働いてくれていることに気付かせる。 ・「みつけたよ こおなあ」をつくるなどして、児童が見付けたことをいつでも情報交換できるようにしておく。 ・学校探検の学習の振り返りは、スタートカリキュラム終了後に実施する。 ・校舎内のものについては校内マップに、学校で働く人については白紙の模造紙に発見カードを貼っていく。 ・<u>図工</u>「かきたいもの なあに」の学習として取り扱い、学校探検を通して自分が描きたいものを描かせる時間としてもよい。
<div>日</div> <div>目</div> <div>4</div>	<p>4 がっこうだいすき 「かずと すうじ」③</p> <p>○<u>算数</u>の教科書P.11の上段の絵を見て、5までの具体物の数を数えたり、唱えたり、数字でかいたりする。</p> <p>○<u>算数</u>の教科書P.11の下段の囲いにある絵を見せ、具体物や半具体物を用いて、4や5を分解したり合成したりして、数の楽しさを味わう。</p> <p>《4この ふうせん》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分解する。 「4は、2と2に分けられます。」 「4は、1と3に分けられます。」 《5この おはじき》 ・合成する。 「1と4で、5になります。」 「2と3で、5になります。」 「3と2で、5になります。」 「4と1で、5になります。」 	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 「10の姿」：(へ) 思考力の芽生え (ち) 数量や図形、 標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで、唱える練習をさせるとよい。 ・正しい書き順で書いているか、鏡文字になっていないか等を机間指導で確かめる。 ・初めは、具体物を用いるとよい。 ・具体物による分解や合成の理解ができたなら、おはじきなどの半具体物を使って、ゲームをしながら数の分解や合成に慣れさせる。 ・両手におはじきを分け、片手を開いて見せて、もう片方の数を当てさせるとよい。 ・「5は、4と1に分けられます」など、反対の言い方もできることに気付かせ、数の楽しさに触れさせるとよい。
<div>20</div> <div>日</div> <div>目</div>	<p>1 がっこうだいすき 「うたに あわせて いって みよう」②</p> <p>○<u>国語</u>の教科書P.22～24「うたに あわせて あいうえお」を繰り返し読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うたに あわせて あいうえお」の歌を聞き、様子を浮かべたり、歌まねをしたりする。 ・「うたに あわせて あいうえお」を自分たちで声に出して読む。 ・「うたに あわせて あいうえお」を読んでも、気付いたことを伝え合う。 ・気付いたことや見付けたことを思い出しながら、「うたに あわせて あいうえお」を口形に気を付けて読む。 <p>○<u>国語</u>の教科書P.24「うたに あわせて あいうえお」の「え・お」を指でなぞる。</p> <p>○<u>国語</u>の教科書の「え・お」の文字を書いて練習する。</p> <p>○「あいうえお」を声に出して唱えたり、ノートに書いて練習したりする。</p> <p>○これまでに習った文字を使って言葉を作り、ノートに書いて言葉集めをする。</p> <p>2 がっこうだいすき 「からだを ほぐして ばらんすを とうろく」</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語 「10の姿」：(り) 言葉による伝え合い (ち) 数量や図形、 標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範読CDを活用したり、教師の範読を聴かせたりする。 ・体を動かしたり、手足でリズムを取ったりさせる。 ・姿勢、口の開け方、声の大きさ、リズム、テンポなどに気を付けさせる。 ・言葉から、連想することなどを自由に発表させる。 ・写真の口形を参考にさせる。 <p>・青い部分が一画目であることを押さえる。</p> <p>・筆順を丁寧に教える。</p> <p>・ノートのマス目に合わせた小型黒板や、マスを書いた用紙を用意し、ノート指導を行うとよい。</p> <p>・机間指導をして筆順を確認する。</p> <p>・言葉をたくさん集めた児童を称賛し、全体に広める。</p> <p>時間計上にかかわる各教科等：体育 「10の姿」：(い) 健康な心と体 (は) 協同性</p>

20 日	<p>○<u>体育</u>の「体づくり運動（体ほぐし）」をする。 （活動例）</p> <p>＜体のバランスをとる運動遊び＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リラックスしながら、ペアでストレッチをする。 ・心が弾むような動作で、リズムに乗って運動を行う。等 <p>＜体を移動する運動遊び＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁にタッチしたら戻る。 ・蟹走りをする。 ・スキップをして走る。 ・回転を3回入れて走る。等 <p>＜用具を操作する運動遊び＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを使って、つかむ、持つ、下ろす、回す、転がす、運ぶ、投げる等の運動をする。 ・フラフープを使って、持つ、回す、転がす、くぐる、運ぶ、投げる、捕る等の運動をする。 <p>＜力試しの運動遊び＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を押す、引く動きや力比べをしたり、人を運ぶ、支える動きをしたりする。 <p>○集合の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示に従い、集合したり、並んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしは、心ほぐしでもあることを理解して、運動することの楽しさや心地よさを実感させる。 ・ストレッチや相手の肩や頭、腕をほぐす「きゅうりの塩もみ」などの活動を教師が示し、体の状態を確認し合わせるとよい。 ・幼児教育施設で行ったことのある遊戯や、簡単なリズム運動を取り入れるとよい。 ・きまりを守らせる。 ・楽しく体を動かしながら、多様な基礎感覚やバランス感覚を身に付けさせる。 ・約束として、確認しておくといよい。 <p>（指導例）</p> <p>ピッ・ピーの笛…「しゅっ・ごー（集合）」の合図。指輪並び…輪になって集合する。</p> <p>扇子並び…教師を中心に、扇子状に集合する。等</p>
目	<p>3 がっこうだいすき 「かずと すうじ」④</p> <p>○<u>算数</u>の教科書P.10～11を基に、具体物の数字と数唱を確認し、数字を正しくノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数字…1, 2, 3, 4, 5 ・数唱…「いち」「に」「さん」「し」「ご」 <p>○5までの数の合成と分解を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分解する。 「4は、2と2に分けられます。」 「4は、1と3に分けられます。」 ・合成する。 「1と4で、5になります。」 「2と3で、5になります。」 <p>○隣同士、ペアになり、5までの数の大小を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が出した数字カードの数に合わせて、数図ブロックを並べる。（ならべよう） ・1から5まで、5から1までを一人で数唱する。その後、ペアになって数唱する。 （いってみよう） ・お互いに出した数字カードの大きさを比べる。 （くらべよう） ・音の数を聞き、それに合う数字カードを出す。（かぞえよう） 	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 「10の姿」：（へ）思考力の芽生え（ち）数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5までの数について学習のまとめをし、量感をつかませる。 ・ノートのマス目に合わせた小型黒板や、マスを書いた用紙を用意し、丁寧にノート指導を行う。 ・感覚的に素早く反応できるよう、繰り返し確認する。 <p>○<u>算数</u>の教科書P.16～17の活動を例に、5までの数を使って行わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素早く反応できるよう、繰り返し確認し、数の感覚を豊かにさせる。
	<p>4 はじめまして、よろしくね 「そうじの しかたを おぼえよう」</p> <p>○掃除をする前の教室の汚れを調べ、掃除の意義について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「汚いと、やる気が出ません。」 「汚いと、病気になります。」等 	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 「10の姿」：（イ）健康な心と体 （ハ）協同性（ロ）自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>学活</u>「ぼくも わたしも 1ねんせい」として、取り扱う。 ・初めて掃除をさせる日に合わせて実施する。 ・小学校では、自分たちが使った場所は、自分たちで掃除をすることを知らせる。 ・掃除をしないと汚れて、清潔に毎日を過ごすことがで

<p>20</p> <p>日</p> <p>目</p> <p>4</p>	<p>○ 掃除道具の正しい使い方や掃除道具のしまい方について知る。</p> <p>○ 掃除場所，当番と役割分担を知る。</p> <p>○ 教室掃除の仕方を知る。 ・ 当該校の方法による。</p>	<p>きないことを実感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで教室をきれいにしようとする意欲を高めさせる。 ・ この日までに，学級で必要な掃除道具を準備しておく。 ・ 掃除道具に，番号を付けておくなど，当番が迷わず使用できるようにしておく。 ・ 教師が一つずつ使い方の手本を示し，児童に体験させる。 ・ 事前に当番表をつくり，その見方と役割について説明する。 ・ 一人一人の児童が自分の役割が分かるよう細かく分担し，責任をもって掃除できるようにするとよい。 ・ 始めの挨拶の仕方，机・椅子の運び方，掃き方，ごみの始末の仕方，後片付けの仕方，終わりの挨拶の仕方等を掃除させながら指導する。 ・ 掃除の仕方は学年で統一しておくとい。 ・ まずは，教室の掃除の仕方を定着させ，その他の箇所については，随時指導に当たる。
--------------------------------------	---	--

下のように「こどものひを いわおう」を実施する場合は、「みんな なかよし いちねんせい」の学習活動の一部と入れ替えて実施する。

日・時間	学 習 活 動	留 意 事 項
付 録	<p>こどものひを いわおう①</p> <ul style="list-style-type: none"> こどもの日の行事や飾り物などについて知っていることを話し合う。 「端午の節句とも言います。」 「鯉のぼりや兜を飾ったり、菖蒲湯に入ったりします。」等 「こいのぼり」の歌を歌う。 鯉のぼりづくりをする。 うろこをつくる。 うろこを着ける。 「こいのぼり集会」ですることを話し合う。 	<p>計上：図工，生活，音楽，学活等で2時間分</p> <ul style="list-style-type: none"> 元々は男子の健やかな成長を祈願して、行われた行事である。 こどもの日に鯉のぼりを揚げたり、兜を飾るいわれについて考えさせたり、話をさせたりする。 大空にこいのぼりが泳いでいる様子を想像させながら歌を歌い、自分たちで鯉のぼりづくりをすることへの期待感を膨らませる。 「こいのぼり集会」をすることを知らせる。 戸外に揚げる大きな鯉のぼりを力を合わせてつくることを知らせる。 胴体については、あらかじめカラービニル袋を切って輪にし（3～4枚分位）、布ガムテープでつなぎ合わせておく。 口に針金を入れて、丈夫にしておくといよい。 目、ひれ、尾を貼っておく。 うろこの形に切った色紙などに、絵と名前をかく。絵については、一人一人の顔や好きな動物をかいた物でもよいし、手形を押した物にする方法もある。複数枚つくらせる。 セロハンテープで貼る。 時間があれば、新聞紙で兜をつくらせてもよい。 どんな内容で楽しむかを話し合っておくといよい。 ペア活動や縦割り活動を利用して「こどもの日」の行事を計画してもよい。
	<p>こどものひを いわおう②</p> <ul style="list-style-type: none"> 「こいのぼり集会」をする。 <ul style="list-style-type: none"> つくった鯉のぼりを飾る。 「こいのぼり」の歌を歌う。 計画に沿った活動をする。 「こいのぼり集会」を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 楽しかったこと 自分ががんばったこと 等 	<p>計上：生活，音楽，学活等で2時間分計上</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年で時間を合わせて行うようにするとよい。 口にひもをつけて国旗掲揚塔などに揚げるとよい。 歌うことによって、「こいのぼり集会」への意欲を喚起する。 みんなで歌ったり、ゲームをしたりして楽しむ。 簡単な絵と言葉で表現できるような記録カードを用意する。 友達と協力し合って楽しく活動できたことや、みんなで大きな鯉のぼりをつくったことなど児童のよさを称賛し、活動への満足感や入学してからの自分たちの成長が自覚できるように声掛けをする。

令和2年度 知多地方教育計画案

国語科

国 語 科

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

教科の目標では、まず、国語科において育成を目指す資質・能力を国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とし、国語科が国語で理解し表現する言語能力を育成する教科であることを示している。今回の改訂で示す国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは、国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力、国語を使って内容や事柄を適切に表現する資質・能力であるが、そのために必要となる国語の使い方を正確に理解する資質・能力、国語を適切に使う資質・能力を含んだものである。

正確に理解する資質・能力と、適切に表現する資質・能力とは、連続的かつ同時に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考え等を形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要であることから、今回の改訂では「正確に理解」、「適切に表現」という順に示している。

「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。

また、言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成する。言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するとしているのは、この考え方を示したものである。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 目標及び内容の構成

① 目標の構成の改善

国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。また、このような資質・能力を育成するためには、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であることを示している。

② 内容の構成の改善

三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、「知識及び技能」（言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項）、

「思考力、判断力、表現力等」（Ａ話すこと・聞くこと，Ｂ書くこと，Ｃ読むこと）に構成し直した。

(2) 学習内容の改善・充実

① 語彙指導の改善・充実

語彙を豊かにするとは、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高めることである。このことを踏まえ、各学年において、指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに、語句への理解を深める指導事項を系統化して示した。

② 情報の扱い方に関する指導の改善・充実

話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、話や文章の正確な理解につながり、また、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現することにつながるため、このような情報の扱い方に関する「知識及び技能」は国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つである。こうした資質・能力の育成に向け、「情報の扱い方に関する事項」を新設し、「情報と情報との関係」と「情報の整理」の二つの系統に整理して示した。

③ 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

「思考力、判断力、表現力等」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。また、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けた。

④ 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

「伝統的な言語文化」，「言葉の由来や変化」，「書写」，「読書」に関する指導事項を「我が国の言語文化に関する事項」として整理し、第１学年及び第２学年の新しい内容として、言葉の豊かさに関する指導事項を追加するなど、その内容の改善を図った。

⑤ 漢字指導の改善・充実

都道府県名に用いる漢字 20 字を「学年別漢字配当表」の第４学年に加えるとともに、児童の学習負担に配慮し、第４～６学年の配当漢字及び字数の変更を行った。

(3) 学習の系統性の重視

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながり、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の向上を定着することを基本としている。このため、小・中学校を通じて、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の指導事項と言語活動例のそれぞれにおいて、重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化を図った。

(4) 授業改善のための言語活動の創意工夫

「思考力、判断力、表現力等」の各領域において、どのような資質・能力を育成するかを指導事項に示し、どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかを言語活動例に示すという関係を明確にし、各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点から、従前に示していた言語活動例を言語活動の種類ごとにまとめた形で示した。

(5) 読書指導の改善・充実

各学年において、国語科の学習が読書活動に結び付くよう「知識及び技能」に「読書」に関する指導事項を位置付けるとともに、「読むこと」の領域では、学校図書館などを利用して、様々な本などから情報を得て活用する言語活動例を示した。

第 1 ・ 2 学年 国語科

1 学年の目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

知 識 及 び 技 能	<p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p> <p>イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。</p> <p>ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ「」の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>エ 第 1 学年においては、学年別漢字配当表の第 1 学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第 2 学年においては、学年別漢字配当表の第 2 学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第 1 学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第 2 学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>オ 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。</p> <p>カ 文の中における主語と述語の関係に気付くこと。</p> <p>キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。</p> <p>ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。</p>
	<p>(2) 情報の扱い方に関する事項</p> <p>ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解すること。</p>
	<p>(3) 我が国の言語文化に関する事項</p> <p>ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。</p> <p>イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。</p> <p>ウ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。</p>

思考力、判断力、表現力等	A 話す・聞く	<p>ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。</p> <p>イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を決めること。</p> <p>ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。</p> <p>エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。</p> <p>オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。</p>
	B 書くこと	<p>ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。</p> <p>ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。</p> <p>エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。</p> <p>オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。</p>
	C 読むこと	<p>ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えること。</p> <p>イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。</p> <p>ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。</p> <p>エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。</p> <p>カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。</p>

3 内容の取り扱い

(1) 知識及び技能

① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 語彙を豊かにするために、身近なことを表す語句の量を増やすとともに、意味による語句のまとまりがあることに気付かせる。
- 文章を読んだり表現したりするとき、主語と述語との関係に気付くことができるようにする。
- 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れさせる。以前は「話すこと・聞くこと」に「敬体と常体との違い」として示されていたが、今回の改訂で「言葉遣い」に関する「知識及び技能」として整理し、敬語と併せて示されている。
- 音読や朗読に関する指導については、「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」だけでなく、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」の指導事項や「知識及び技能」の他の指導事項とも適切に関連付けて指導することが重要であるため、今回の改定では、「知識及び技能」として整理し、示している。

② 情報の扱い方に関する事項

- 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する「知識及び技能」の育成に向けて、今回の改定で新設された事項である。
- 第1,2学年では、事柄同士の共通点や相違点を見付けることや、事柄の順序を考えることが、理解したり表現したりする上で大切であることを理解することが重要である。

③ 我が国の言語文化に関する事項

- 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くことで、伝統的な言語文化に触れ、楽しさを実感できるようにする。

- いろはうたやかぞえうた，しりとりやなぞなぞ，回文や折句，早口言葉，かるたなどの言葉遊びに触れる中で，言葉の豊かさに気付かせる。
- 日常的に読書に親しませるために，新しい知識を獲得したり物語の世界を疑似的に体験したりできる読書の楽しさや面白さを感じさせることが大切である。
- 身の回りには，物語，昔話，絵本，科学的な読み物，図鑑などのいろいろな本があることを知らせ，読書に興味をもたせる。

(2) 思考力，判断力，表現力等

① A 話すこと・聞くこと

- 話題として決めた身近なことや経験したことなどに関連する事柄を具体的に思い出し，伝え合うために必要かどうかを判断して選ばせる。
- 話の相手としては，教師や友達，幼稚園児や保育園児など身近な人々が考えられる。人数についても，ペアから小グループ，学級全体へと広げていく。
- 大事なところは特に大きな声でゆっくり話すなど，自分が話す内容や何を伝えたいのかを意識した上で声の大きさや速さを工夫させる。また，聞き手に届く音量，音声が明確に聞こえる速さで話すことにも留意させる。
- 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを聞き落とさないために，事柄の順序を意識しながら聞くことと，集中して聞き取ることを指導する。
- 話し合いでは，互いの話に関心をもって聞き，相手の発言に関連した質問や復唱，共感，感想を述べることで話をつなぐようにさせ，話がつながる楽しさやよさを実感できるようにする。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は，次のような言語活動を通して指導する。

ア 紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。

イ 尋ねたり応答したりするなどして，少人数で話し合う活動。

② B 書くこと

- 各教科等の学習や児童の日常生活での経験などに関連させ，児童一人一人にとって書くことのよさを実感できるようなものとなるよう留意する。
- 伝えたいことを明確にするために，書くために必要な事柄を思い出したり想像したりして，ノートやカードに書き出すとともに，書き出した事柄を見て，書こうとする題材に必要な事柄かどうかを確かめさせる。
- 構成を考えることによって自分の考えを明確にしていくことを重視し，「始め—中—終わり」などの文章構成も意識させる。
- 前後の語句や文のつながりを大切にし，一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えるとともに，離れたところにある語と語や文と文とのつながりについても考えて記述させる。
- 間違いに気付いて正すことでよりよく伝わる文章になることを実感させるために，文章を読み返す習慣を身に付けさせる。
- 書いた文章を互いに読み，順序の分かりやすさ，語と語や文と文との続き方などを観点として感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができるようにする。
- 「書くこと」の指導内容は，次のような言語活動を通して指導する。

ア 身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。

イ 日記や手紙を書くなど，思ったことや伝えたいことを書く活動。

ウ 簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。

③ C 読むこと

- 説明的な文章の読み取りでは，時間の順序，事柄の順序に加え，文章表現上の順序にも留意させる。
- 文学的な文章では，場面の様子や登場人物の行動，会話などを手掛かりとしながら，物語の登場人物や主な出来事，結末などを大づかみに捉えさせる。

- 説明的な文章の読み取りでは、書き手が述べている事柄を正確に捉えるために、時間や事柄の順序に関わって文章の中で重要になる語や文、読み手として必要な情報を適切に見付ける上で重要になる語や文を文章の中から見付けさせる。
- 文学的な文章の読み取りでは、物語の展開に即して各場面の様子に変化したり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。
- 文章の内容を自分の知識や実際の経験と結び付けて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりして、感想をもたせる。
- 文章の構造と内容を把握し、精査・解釈することを通して、「おもしろいな」と感じたり「なるほど」と気付いたりしたことを共有し合うようにする。
- 「読むこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア	事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。
イ	読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。
ウ	学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、楽しんで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

第3・4学年 国語科

1 学年の目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

知識 及 び 技 能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常に使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。 エ 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 カ 主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。 ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。
	(2) 情報の扱い方に関する事項 ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報の関係について理解すること。 イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
	(3) 我が国の言語文化に関する事項 ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。 ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。 エ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
A 話 す ・ 聞 く	ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。

思考力、判断力、表現力等	A 話す・聞く	エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。 オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。
	B 書くこと	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を確認すること。 オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
	C 読むこと	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。 ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

3 内容の取り扱い

(1) 知識及び技能

① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 自分の思考や感情を表すという言葉の働きを理解し、感想や意見を伝えたり共有したりするためには、適切な言葉によって表すことが大切であることに気付くことが求められている。中学年では、言語感覚の基礎を養わせるために、漢字仮名交じり文という日本語の表記の仕方に関心をもち、その利点に気付いて、読みやすい表記を考えながら書くことを指導する。
- 送り仮名については、一つ一つの具体的な語の送り仮名の指導をするだけでなく、活用語尾を送るという送り仮名の原則的な付け方についても指導する。
- ローマ字は生活の中で身近なものになっていることから、第3学年の事項とし、ローマ字を使った読み書きができるよう指導する。
- 国語辞典や漢字辞典の使い方を理解させるとともに、自分で調べる活動を積極的に取り入れ、習慣として定着するようにする。
- 主語と述語が照応することへの理解を深め、修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾との関係にも気を付けて、文の構成を理解させる。
- 指示する語句や接続する語句の役割を理解し、文章を書く様々な機会をとらえて文脈に沿って使わせる。
- 文章を記述する際、相手や目的に応じて敬体と常体を意識的に使い分けることや、文末表現に注意して書くようにさせる。
- 文章全体として何が書かれているのかを大づかみで捉えたり、登場人物の行動や気持ちの変化などを大筋で捉えたりしながら音読させる。なお、黙読を活用し、文章の内容の理解を深めるようにすることも重要である。

② 情報の扱い方に関する事項

- 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する「知識及び技能」の育成に向けて、今回の改定で新設された事項である。
- 第3，4学年では，理解や表現をする上で，考えがどのような理由や事例によって支えられているかを吟味することと，話や文章の全体を大づかみに捉えて中心(話や文章の中心的部分)を把握し，全体をより明確に捉えることが重要である。
- 情報を整理する際，観点を明確にして比較したり分類したりすること，必要な情報によって落としてはいけない語句を適切に捉えて書き留めること，文章や図表，グラフ，絵や写真を引用する場合はその部分をかぎ(「 」)でくくることが，著作権の尊重や保護のために出典(引用元の書物や典拠など)を示すことを十分留意して指導する。
- 辞書や事典を他教科等の調べる学習や日常生活の中でも積極的に利用できるように留意する。

③ 我が国の言語文化に関する事項

- 響きやリズムを体感できるような作品や親しみやすい作者の作品，代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりして，短歌や俳句の文語調に親しむことができるようにする。
- ことわざや慣用句，故事成語の意味を知り，日常生活で用いることができるようにする。
- 「へん」，「つくり」，「かんむり」，「あし」，「たれ」，「かまえ」，「によう」などの部首と他の部分とによって漢字が構成されることを理解させる。
- 多様な本や文章があることを知り，読書する本や文章の種類，分野，活用の方法など，自分の読書の幅を広げるとともに，疑問を解決したり新しい世界に触れて興味が広がったりする読書の楽しさを味わうことができるようにする。

(2) 思考力，判断力，表現力等

① A 話すこと・聞くこと

- 話題については，学校や家庭，地域のことなどで児童が興味や関心をもっている事柄の中から一つに絞って決めさせる。
- 話す内容を構成する際は，相手のことを踏まえて理由や事例を選び，伝えたいことの中心が聞き手に分かりやすくなるように，内容を明確にして構成するよう指導する。
- 話の中心を明確に捉えて，相手の親疎やその人数，目的や場の状況などを意識し，声の出し方や言葉遣い，抑揚，強弱，間の取り方，視線などに話し方を工夫することが重要である。
- 重要な語句は何か判断しながら聞いたり，聞いた後に話の内容を振り返ったりして必要な内容を記録すること，聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問すること，それらのことを基に自分の考えをまとめ，表現する際に役立たせる。
- 話し合いでは，司会や提案など，話し合いの規模に応じて児童一人一人がそれぞれの役割を果たす機会を設ける。また，互いの意見の共通点や相違点に着目し，一つの結論を出したり，自分の考えをまとめたりさせる。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は，次のような言語活動を通して指導する。

- | | |
|---|---------------------------------|
| ア | 説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。 |
| イ | 質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。 |
| ウ | 互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。 |

② B 書くこと

- 集めた材料を共通点や相違点に着目しながら比べたり，共通する性質に基づいて分けたりして，伝えたいことが明確になるように書く材料を整理させる。
- 書く文章の種類や特徴を踏まえ，段落と段落との関係に気を付けて文章の構成を考えることによって，自分の考えを明確にしていくことを重視し，「始め－中－終わり」などの文章構成も意識させる。

- 考えを支える理由を記述する際は、「なぜなら～」、「その理由は～」、「～ためである」などの表現を、事例(書き手の考えをより具体的に説明するために挙げられた事柄や内容)を記述する際は、「例えば～」、「事例を挙げると～」、「～などがそれに当たる」などの表現を用いることができるようにする。
- 間違いに気付いて直すことでよりよく伝わる文章になることを実感させるために、文章を読み返す習慣を身に付けさせる。
- 書いた文章を互いに読み、書こうとしたことが明確になっているかを観点として感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができるようにする。
- 「書くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。
 イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。
 ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。

③ C 読むこと

- 説明的な文章の読み取りでは、段落相互の関係(考えとその事例、結論とその理由といった関係)に着目しながら、書き手の考えがどのような理由や事例によって説明され具現化されているのかなどを、叙述を基に正確に捉えさせる。その捉えた文章の構造や内容を基に、必要な情報を見付けて要約(文章全体の内容を把握した上で、本文や自分の言葉を用いて文章の内容を短くまとめること)をさせる。
- 文学的な文章の読み取りでは、登場人物の気持ちを、行動や会話、地の文、境遇や性格などの複数の叙述を基に捉えさせる。また、情景を具体的に想像する際は、場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の気持ちと併せて考えていくことが重要である。
- 文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基にして自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えをもたせ、それを共有し一人一人の感じ方などの違いがあることに気付くようにする。
- 「読むこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。
 イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
 ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、言葉がもつよさに気付こうとしているとともに、幅広く読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

第 5 ・ 6 学年 国語科

1 学年の目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさに認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

知識 及 び 技 能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 イ 話し言葉と書き言葉の違いに気付くこと。 ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 エ 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 オ 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ケ 文章を音読したり朗読したりすること。
	(2) 情報の扱い方 ア 原因と結果など情報と情報の関係について理解すること。 イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
	(3) 我が国の言語文化に関する事項 ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言の違いを理解すること。また、仮名の及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 エ 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。
A 話 す ・ 聞 く	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考え

思考力、判断力、表現力等		と比較しながら、自分の考えをまとめること。 オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
	B 書くこと	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
	C 読むこと	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に捉え、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

3 内容の取り扱い

(1) 知識及び技能

① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 挨拶などの日常会話において見られるように、言葉には話し手と聞き手(送り手と受け手)の間に好ましい関係を築いて継続させる働きがあることに気付かせる。
- 話し言葉と書き言葉の特色や役割の違いに気付かせ、それぞれの特徴に配慮した使い分けができるようにする。
- 「漢字仮名交じり文」という日本語の表記の仕方を踏まえ、文や文章の読みやすさと意味の通りやすさを考えて、漢字と仮名を適切に使い分けるようにする。また、正しい仮名遣いで表記できるようにする。
- 多くの文章を繰り返し読んで優れた表現に触れたり、自分の表現に生かしたりして、語感や言葉の使い方に関する感覚を養うようにする。
- 主語と述語の関係に着目して文を単文・重文・複文に分けること、「序論―本論―結論」などの話や文章の組立てや説明などにおける論の進め方、話や文章の種類(紹介、提案、推薦、案内等)とその特徴、それらを理解させる。
- 日常生活の中で、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れさせる。
- 多様な文章に表れる様々な表現の工夫(比喻や反復、倒置など)に気付かせる。
- 自分の思いや考えが伝わるように音読(声の大きさや抑揚、速さや間の取り方を生かして読む)や、朗読(思ったことや感じたことを聞き手に伝えようと、表現性を高めて文章を声に出して読む)をさせる。

② 情報の扱い方に関する事項

- 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する「知識及び技能」の育成に向けて、今回の改定で新設された事項である。
- どのような原因によって起きたのか把握したり明らかにしたりするなど、様々な情報の中から原因と結果の関係を見いだし、結び付けて捉えることができるようにする。

- 情報と情報との関係付けの仕方とは、複雑な事柄などを分解して捉えたり、多様な内容や別々の要素などをまとめたり、類似する点を基にして他のことを類推したり、一定のきまりを基に順序立てて系統化したりするなどを身に付けさせる。
- 図示などにより語句と語句の関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを理解させる。

③ 我が国の言語文化に関する事項

- 古文や漢文、近代以降の文語調の文章とは、言葉のリズムを実感しながら読めるもの、音読によって内容の大体を知ることができるようなもの、唱歌や文語調の校歌、各地域に縁のある作品など、児童にとって親しみやすいものとし、音読の楽しさを実感させる。
- 古典を解説した文章を読むことで、昔の人々の生活や文化などの背景を理解しやすくし、古典への興味・関心を深めさせる。能，狂言，人形浄瑠璃，歌舞伎，落語などを鑑賞させたり，年中行事や地域に伝わる祭事などを調べたりすることも考えられる。
- 伝統的な言語文化に触れることによって，時間の経過による言葉の変化に気付き，自分たちの言葉への関心を深めるとともに，言語文化としての古典に親しみ，受け継いでいく態度を養う。また，世代や年齢，地方・地域による言葉の違いを知り，場に応じた適切な言葉遣いができるよう指導する。
- 日常生活の中で読書の楽しさや有効性を実感しながら，主体的・継続的に読書を行い，読書によって多様な視点から物事が考えられるということに気付くようにする。

(2) 思考力，判断力，表現力等

① A 話すこと・聞くこと

- 話す目的や意図，聞き手の求めていることに応じて話す材料を集め，内容ごとにまとめたり，それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりさせる。
- 話す内容を構成する際は，自分の立場や結論などが明確になるように，事実と感想，意見とを区別したり，詳しい説明を付け加えたりするよう指導する。
- 分かりやすく伝えるために，必要な文言や数値等を引用したり，実物や画像，映像などを用いたり，図解したものや重要語句の定義付けを明示したりするなどの工夫をさせる。
- 話を聞くときには，話の目的や意図，伝えたいこと，共に考えたいことなど，相手の話の内容を十分聞き取らせる。また，話し手の考えと自分の考えとを比較し，共通点や相違点，共感した内容や納得した事例を取り上げたりして自分の考えをまとめることができるよう指導する。
- 話し合いでは，互いの立場や意図を明確に示し，事前に内容や順序，時間配分，目的や方向性を検討し計画的に進めさせる。また，話し合いを通して様々な視点から検討し，自分の考えを広げたり，互いの意見の共通点や相違点，利点や問題点等をまとめたりさせる。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は，次のような言語活動を通して指導する。

- ア 意見や提案など自分の考えを話したり，それらを聞いたりする活動。
- イ インタビューなどをして必要な情報を集めたり，それらを発表したりする活動。
- ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。

② B 書くこと

- 家庭や地域，学校生活で感じたり考えたりしたことの中から，選択して書くことを決めさせる。また，集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり，それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりさせる。
- 目的や意図に応じて，構成の型を効果的に用いて，自分の考え及び読み手の理解が明確になるように文章を構成させる。
- 事実と自分の感想，意見などを区別して書くことを重視させ，その目的や意図に応じて，詳しく書かせたり，簡単に書かせたりして，それぞれの記述の仕方を工夫させる。
- 「引用」については，原文に正確に行うこと，引用した部分と自分の考えとの関係などを

明確にすることを指導する。

- 推敲の観点として、文章全体を見たときに内容や表現に一貫性があるか、目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの用い方は適切かを指導する。
- 互いの書いた文章を読み合い、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて、具体的に感想や意見を述べ合い、自分の文章のよいところを見付けることができるようにする。
- 「書くこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。
ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。

③ C 読むこと

- 説明的な文章の読み取りでは、要旨(書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や、書き手の考えの中心となる事柄)を把握するために、全体を通して文章がどのように構成されているのかを正確に捉えさせる。その際、事実と感想、意見などとの関係を押さえるようにする。また、書き手は自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのか、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのかなどについて考えをもたせる。
- 文学的な文章の読み取りでは、直接的に描写されている登場人物の心情だけでなく、人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている描写にも着目しながら読み進める。また、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基に、その世界や人物像を豊かに想像して物語の全体像を捉えるとともに、優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読むように指導する。
- 文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基に、既知の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えを形成させる。また、その考えを共有し、互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりさせる。
- 「読むこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを話し合ったり文章に述べたりする活動。
イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。
ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、進んで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

第1学年 国語科 年間計画（標準272時間）

	月	単 元 名（教材名）	時間	備 考
一 学 期	4	※スタートカリキュラム参照	15	生活
	5	つづけよう①（こえに だして よもう／ ききたいな、ともだちの はなし／たのしいな、ことばあそび）	5	生活
		はなの みち	6	道徳
		としょかんへ いこう	2	
		かきと かぎ	2	
		ぶんを つくろう	4	
		ねこと ねっこ	2	
	6	わけを はなそう	2	生活，算数
		おばさんと おばあさん	2	
		くちばし	8	道徳
		おもちゃと おもちゃ	2	
		あいうえおで あそぼう	3	
		おおきく なった	4	生活
		おおきな かぶ	6	道徳
	7	はをへを つかおう	3	
		すきな もの，なあに	7	知多の友，生活
		おむすび ころりん	5	
		としょかん と なかよし	2	（知多の友）
		こんな ことが あったよ	6	知多の友，生活
		復習・予備	7	
二 学 期	9	つづけよう②（こえに だして よもう／ ききたいな、ともだちの はなし／たのしいな、ことばあそび）	6	
		おはなしを たのしもう（やくそく）	8	道徳
		かたかなを みつけよう	2	
		よんで たしかめよう（うみの かくれんぼ）	8	道徳
		かずと かんじ	4	
	10	おもいうかべながら よもう（くじらぐも）	8	
		くわしく かこう（しらせたいな，見せたいな）	10	知多の友，生活
		まちがいを なおそう	2	
		ことばを たのしもう	2	
		かん字の はなし	6	
	11	せつめいする 文しょうを よもう（じどう車くらべ）	7	
		せつめいする 文しょうを かこう（じどう車ずかんを つくろう）	5	
		かたかなを かこう	2	
		きいて しらせよう（ともだちの こと，しらせよう）	6	
		本は ともだち（むかしばなしを よもう／おかゆの おなべ）	8	
	12	ことばって，おもしろいな（ものの 名まえ）	6	
		きいて たのしもう（わらしべ ちょうじゃ）	1	道徳
		日づけと よう日	3	
		てがみを かこう（てがみで しらせよう）	6	知多の友，生活
		復習・予備	7	
三 学 期	1	つづけよう③（こえに 出して よもう／ ききたいな、ともだちの はなし／たのしいな、ことばあそび）	6	
		すきなところを 見つけよう（たぬきの 糸車）	8	
		かたかなの かたち	3	
		ことばを 見つけよう	6	
	2	くらべて よもう（どうぶつの 赤ちゃん）	10	
		ふたりで かんがえよう（これは，なんでしょう）	4	
		よんで かんじた ことを はなそう（ずっと，ずっと，大すきだよ）	8	道徳
	3	にて いる かん字	3	
		おもい出して かこう（いい こと いっぱい，一年生）	10	知多の友，生活
		復習・予備	14	

第2学年 国語科 年間計画（標準280時間）

	月	単 元 名 (教材名)	時間	備 考
一 学 期	4	オリエンテーション (じゅんばんに ならぼう／つづけて みよう)	1	
		おはなしを 読み, やくに わかれて 音読しよう (ふきのとう)	9	道徳, 生活
		本は ともだち1 (図書館たんけん)	1	
		きせつのことば1 (春が いっぱい)	2	道徳, 生活
		思い出して 書こう (きょうの できごと)	4	知多の友, 生活
		だいじな ことを おとさずに, 話したり 聞いたり しよう (ともだちを さがそう)	4	
	5	聞いて たのしもう (いなばの 白うさぎ)	2	
		じゅんじょに 気をつけて 読もう (たんぼぼの ちえ／じゅんじょ)	10	道徳, 生活
		ていねいに かんさつして, きろくしよう (かんさつ名人に なろう)	10	知多の友, 生活
		同じ ぶぶんを もつ かん字	2	
	6	うれしい ことば	2	
		かん字のひろば1 (1年生で ならった かん字1)	2	
		お話を 読んで, しょうかいしよう (スイミー)	9	道徳
		かたかなの ひろば	2	
		あつめる ときに つかおう (メモを とる とき)	3	生活
		組み立てを 考えて 書き, 知らせよう (こんな もの, 見つけたよ／丸, 点, かぎ)	10	知多の友, 生活
	7	しつもんをしあって, くわしく考えよう (あったらいいな, こんなもの)	8	
		きせつのことば2 (夏が いっぱい)	2	道徳, 生活
		本はともだち2 (お気に入りの本をしょうかいしよう／ミリーのすてきなぼうし)	6	(知多の友)
		復習・予備	7	
二 学 期	9	しを たのしもう (雨のうた)	2	
		たいわのれんしゅう (ことばでみちあんない)	3	
		かん字のひろば2 (1年生でならったかん字2)	2	
		読んで考えたことを 話そう (どうぶつ園のじゅうい)	12	道徳, 生活
		ことばあそびをしよう	2	
		なかまのことばとかん字	2	
	10	かん字のひろば3 (1年生でならったかん字3)	2	
		そうぞうしたことを, 音読げきであらわそう (お手紙)	12	道徳
		主語と述語に 気をつけよう	2	
		かん字の読み方	2	
		きせつのことば3 (秋がいっぱい)	2	道徳, 生活
		みんなで話をつなげよう (そうだんにのってください)	8	道徳
	11	せつめいのしかたに 気をつけて読み, それをいかして書こう (馬のおもちの作り方／おもちの作り方をせつめいしよう)	14	知多の友, 生活
		かたかなで書くことば	2	
		聞いて楽しもう (せかいーの話)	1	
		かん字の広場4 (1年生でならったかん字4)	2	
		自分とくらべて, かんそうを書こう (わたしはおねえさん)	10	
		まとまりに分けて, お話を書こう (お話のさくしゃになろう)	10	知多の友, 図工
	12	きせつのことば4 (冬がいっぱい)	2	道徳, 生活
		復習・予備	20	
三 学 期	1	詩の楽しみ方を見つけよう (ねこのこ／おとのはなびら／はんたいことば)	2	
		にたいみのことば, はんたいのいみのことば	2	
		かん字の広場5 (1年生でならったかん字5)	2	
		だいじなことばに気をつけて読み, 分かったことを知らせよう (おにごっこ／本でのしらべ方)	12	体育
		ことばについて考えよう (ようすをあらわすことば)	4	生活
		詩を作ろう (見たこと, かんじたこと)	6	知多の友
	2	つたえたいことをきめて, はっぴょうしよう (楽しかったよ, 二年生)	8	生活
		カンジーはかせの大はつめい	2	
		ことばを楽しもう	1	
		読んで, かんじたことをつたえ合おう (スーホの白い馬)	14	道徳
	3	思いをつたえる手紙を書こう (すてきなところをつたえよう)	12	知多の友, 生活
		復習・予備	7	

第3学年 国語科 年間計画（標準215時間）

	月	単 元 名（教材名）	時間	備 考
一 学 期	4	オリエンテーション（よく聞いて、じこしょうかい）	1	
		詩を楽しもう（どきん）	1	
		読んで、そうぞうしたことをつたえ合おう（きつつきの商売）	8	道徳
		本は友だち1（図書館たんていだん）	1	
		国語辞典を使おう	2	総合
		漢字の広場1（2年生で習った漢字1）	2	
		きせつの言葉1（春のくらし）	2	
	5	漢字の音と訓	2	
		ききたいことを考えて、しつもんしよう （もっと知りたい、友だちのこと／きちんとつたえるために）	6	道徳
		漢字の広場2（2年生で習った漢字2）	2	
		段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう （言葉で遊ぼう／こまを楽しむ／全体と中心）	8	道徳
	6	大事なことを考えて、あんないの手紙を書こう （気持ちをこめて「来てください」）	6	知多の友 社会、総合
		漢字の広場3（2年生で習った漢字3）	2	
		登場人物のへんかに気をつけて読み、感想を書こう（まいごのかぎ）	6	
		声に出して楽しもう1（俳句を楽しもう）	1	
		こそあど言葉を使いこなそう	2	
		あつめるときに使おう（引用するとき）	3	社会
	7	組み立てをを考えて、ほうこくする文章を書こう （仕事のくふう、見つけたよ／符号など）	1 2	知多の友、社会
		きせつの言葉2（夏のくらし）	2	道徳
		本は友だち2（はじめて知ったことを知らせよう／鳥になったきょうりゅうの話）	5	（知多の友）
		復習・予備	1	
二 学 期	9	詩を味わおう（わたしと小鳥とすずと／夕日がせなかをおしてくる）	2	
		対話の練習（山小屋で三日間すごすなら）	3	
		生活の中で読もう（ポスターを読もう）	2	
		へんとつくり	2	
		ローマ字	4	
	10	場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう（ちいちゃんのかげおくり）	1 0	道徳
		修飾語を使って書こう	2	
		きせつの言葉3（秋のくらし）	2	道徳
		進行を考えながら話し合おう（はんで意見をまとめよう）	8	社会、総合
	11	漢字の広場4（2年生で習った漢字4）	2	
		れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう （すがたをかえる大豆／科学読み物での調べ方／食べ物のひみつを教えます）	1 5	知多の友
		つたわる言葉（ことわざ・故事成語）	4	
		漢字の意味	2	
		声に出して楽しもう2（短歌を楽しもう）	1	道徳
	12	漢字の広場5（2年生で習った漢字5）	2	
		組み立てをとらえて、民話をしょうかいしよう（三年とうげ）	6	道徳、総合
		組み立てにそって、物語を書こう（たから島のぼうけん）	1 0	知多の友
		きせつの言葉4（冬のくらし）	2	道徳
		復習・予備	4	
三 学 期	1	詩の楽しみ方を見つけよう（詩のくふうを楽しもう）	4	
		カンジーはかせの音訓かるた	2	
		漢字の広場6（2年生で習った漢字6）	2	
		読んで感想をもち、伝え合おう（ありの行列）	7	理科、道徳
	2	言葉について考えよう（つたわる言葉で表そう）	5	社会、総合
		しょうかいして、感想をつたえ合おう（これがわたしのお気に入り）	1 2	知多の友、図工
		コンピュータのローマ字入力	2	総合
		つたえたいことを、理由をあげて話そう（わたしたちの学校じまん）	8	総合
	3	登場人物について、話し合おう（モチモチの木）	1 2	道徳
		復習・予備	3	

第4学年 国語科 年間計画（標準215時間）

	月	単 元 名（教材名）	時間	備 考
一 学 期	4	オリエンテーション（こんなところが同じだね）	1	
		詩を楽しもう（春のうた）	1	道徳
		場面と場面をつなげて、考えたことを話そう（白いぼうし）	7	
		本は友達1（図書館の達人になろう）	1	社会，総合
		漢字の組み立て	2	書写
		漢字辞典の使い方	2	
		きせつの言葉1（春の楽しみ）	2	道徳
		大事なことを落とさずに聞こう （聞き取りメモのくふう／話し方や聞き方から伝わること）	6	社会，総合
	5	漢字の広場1（3年生で習った漢字1）	2	
		筆者の考えをとらえて，自分の考えを発表しよう （思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える／考えと例）	8	総合
		カンジーはかせの都道府県の旅1	2	社会
		気もちが伝わる手紙を書こう（お礼の気持ちを伝えよう）	6	知多の友， 社会，総合
	6	漢字の広場2（3年生で習った漢字2）	2	
		場面の様子をくらべて読み，感想を書こう（一つの花）	7	社会，道徳
		つながぎ言葉のはたらきを知ろう	2	
		声に出して楽しもう1（短歌・俳句に親しもう（一））	1	道徳
		集めるときに使おう（要約するとき）	2	総合
		事実を分かりやすくほうこくしよう（新聞を作ろう／アンケート調査のしかた）	1 2	知多の友，社会
	7	カンジーはかせの都道府県の旅2	2	社会
		季節の言葉2（夏の楽しみ）	2	道徳
		本は友達2（事実にもとづいて書かれた本を読もう／ランドセルは海をこえて）	5	（知多の友）
二 学 期	9	詩を味わおう（忘れもの／ぼくは川）	2	
		対話の練習（あなたなら，どう言う）	3	
		生活の中で読もう（パンフレットを読もう）	2	
		いろいろな意味をもつ言葉	2	
		漢字の広場3（3年生で習った漢字3）	2	
		気持ちの変化を読み，考えたことを話し合おう（ごんぎつね）	1 2	道徳
	10	季節の言葉3（秋の楽しみ）	2	道徳
		役わりをいしきしながら話し合おう（クラスみんなで決めるには）	8	道徳
		漢字の広場4（3年生で習った漢字4）	2	
		中心となる語や文を見つけて要約し，調べたことを書こう （世界にはこる和紙／百科事典での調べ方／伝統工芸のよさを伝えよう）	1 6	知多の友，道徳
	11	慣用句	2	
		声に出して楽しもう2（短歌・俳句に親しもう（二））	1	道徳
		漢字の広場5（3年生で習った漢字5）	2	
	12	登場人物の変化を中心に読み，物語をしょうかいしよう（プラタナスの木）	8	道徳
		心の動きを言葉にして，詩を書こう（感動を言葉に）	7	知多の友
		季節の言葉4（冬の楽しみ）	2	道徳
		復習・予備	1 3	
三 学 期	1	詩の楽しみ方を見つけよう（自分だけの詩集を作ろう）	4	
		熟語の意味	2	
		漢字の広場6（3年生で習った漢字6）	2	
		きょうみをもったことを中心に，しょうかいしよう（ウナギのなぞを追って）	8	理科，社会 道徳，総合
	2	言葉について考えよう（つながりに気をつけよう）	4	
		考えたことを書き，読み合おう（もしものときにそなえよう）	1 2	知多の友，社会
		調べて分かったことを話そう（調べて話そう，生活調査隊）	8	道徳
	3	まちがえやすい漢字	2	
		読んで感じたことをまとめ，伝え合おう（初雪のふる日）	7	道徳
		復習・予備	5	

第5学年 国語科 年間計画（標準145時間）

	月	単 元 名（教材名）	時間	備 考
一 学 期	4	オリエンテーション（教えて、あなたのこと）	1	道徳
		詩を楽しもう（かんがえるのって おもしろい）	1	
		登場人物どうしの関わりをとらえ、感想を伝え合おう（なまえつけてよ）	4	
		本は友達1（図書館を使いこなそう）	1	
		漢字の成り立ち	2	
		季節の言葉1（春の空）	2	道徳
	5	話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう（きいて、きいて、きいてみよう／インタビューをするとき）	6	社会、総合
		漢字の広場1（4年生で習った漢字1）	1	
		文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう（見立てる／言葉の意味が分かること／原因と結果）	7	外国語、道徳 総合
		和語・漢語・外来語	2	
	6	言葉をよりすぐって俳句を作ろう（日常を十七音で）	3	知多の友
		声に出して楽しもう1（古典の世界（一））	2	道徳
		集めるときに使おう（目的に応じて引用するとき）	2	理科、社会、総合
		調べたことを正確に報告しよう（みんなが過ごしやすい町へ）	10	知多の友、社会 理科、道徳、総合
	7	同じ読み方の漢字	2	
		季節の言葉2（夏の夜）	2	道徳
		本は友達2（作家で広げるわたしたちの読書／カレーライス）	5	（知多の友）
二 学 期	9	詩を味わおう（からたちの花）	1	
		対話の練習（どちらを選びますか）	2	
		生活の中で読もう（新聞を読もう）	3	社会、総合
		敬語	2	道徳
		物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう（たずねびと）	6	
		漢字の広場2（4年生で習った漢字2）	1	
	10	漢字の読み方と使い方	2	
		季節の言葉3（秋の夕暮れ）	2	道徳
		たがいの立場を明確にして、話し合おう（よりよい学校生活のために／意見が対立したときには）	6	社会、総合
		漢字の広場3（4年生で習った漢字3）	1	
	11	資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう（固有種が教えてくれること／統計資料の読み方／グラフや表を用いて書こう）	11	知多の友、算数、 社会、理科、家庭科
		伝えられてきた文化（古典芸能の世界 ― 語りで伝える）	1	
		カンジー博士の暗号解読	2	
		声に出して楽しもう2（古典の世界（二））	1	道徳
	12	漢字の広場4（4年生で習った漢字4）	1	
		伝記を読んで、自分の生き方について考えよう（やなせたかしーアンパンマンの勇気）	5	道徳、総合
		読み手が納得する意見文を書こう（あなたは、どう考える）	6	知多の友、 社会、総合
		季節の言葉4（冬の朝）	2	道徳
三 学 期	1	詩の楽しみ方を見つけよう（生活の中で詩を楽しもう）	2	
		方言と共通語	2	
		漢字の広場5（4年生で習った漢字5）	1	
		事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう（想像力のスイッチを入れよう）	6	総合
		複合語	2	
	2	言葉について考えよう（伝わる表現を選ぼう）	3	
		相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう（この本、おすすめします）	7	知多の友
		事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう（提案しよう、言葉とわたしたち）	6	社会、総合
	3	日本語の表記	1	
		漢字の広場6	1	
37		すぐれた表現に着目して読み、物語のみりよくをまとめよう（大造じいさんとガン）	6	

第6学年 国語科 年間計画（標準145時間）

	月	単 元 名（教材名）	時間	備 考
一 学 期	4	オリエンテーション(つないで、つないで、一つのお話)	1	
		詩を楽しもう(春の河／小景異情)	1	
		視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう(帰り道)	4	道徳
		本は友達1(地域の施設を活用しよう)	1	
		漢字の形と音・意味	2	
		季節の言葉1(春のいぶき)	2	
	5	話の内容をとらえて、自分の考えをまとめよう(聞いて、考えを深めよう)	6	
		漢字の広場1(5年生で習った漢字1)	1	
		筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう (笑うから楽しい／時計の時間と心の時間／主張と事例)	7	
		話し言葉と書き言葉	1	
	6	言葉を選んで、短歌を作ろう(たのしみは)	3	知多の友
		文の組み立て	2	
		声に出して楽しもう(天地の文)	1	
		集めるときに使う(情報と情報をつなげて伝えるとき)	2	
	7	具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう (私たちにできること)	10	知多の友 総合、道徳
		季節の言葉2(夏のさかり)	2	
		本は友達2(私と本／森へ)	5	(知多の友)
二 学 期	9	詩を味わおう(せんねん まんねん)	1	
		対話の練習(いちばん大事なものは)	2	
		生活の中で読もう(利用案内を読もう)	3	
		熟語の成り立ち	2	
		漢字の広場2(5年生で習った漢字2)	1	
		作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう (やまなし／イーハトーヴの夢)	8	
	10	言葉の変化	2	
		季節の言葉3(秋探し)	2	
		目的や条件に応じて、計画的に話し合おう (みんなで楽しく過ごすために／伝えにくいことを伝える)	6	道徳
		漢字の広場3(5年生で習った漢字3)	1	
	11	表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう (『鳥獣戯画』を読む／調べた情報の用い方／日本文化を発信しよう)	11	知多の友、図工、 社会
		古典芸能の世界―演じて伝える	1	
		カンジー博士の漢字学習の秘伝	2	
		漢字の広場4(5年生で習った漢字4)	1	
	12	伝統文化を楽しもう(狂言 柿山伏／「柿山伏」について)	4	
		書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう(大切にしたい言葉)	6	知多の友
		漢字の広場5(5年生で習った漢字5)	1	
		季節の言葉4(冬のおとずれ)	2	
三 学 期	1	詩の楽しみ方を見つけよう(詩を朗読してしょうかいしよう)	2	
		仮名の由来	1	
		筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう (メディアと人間社会／大切な人と深くつながるために／ プログラミングで未来を創る)	6	社会、算数
		漢字を正しく使えるように	2	
	2	人を引きつける表現	3	
		形式と表現を工夫して書こう(思い出を言葉に)	7	知多の友
		資料を使って、効果的なスピーチをしよう(今、私は、ぼくは)	6	
	3	漢字の広場6(5年生で習った漢字6)	1	
		登場人物の関係をとりえ、人物の生き方について話し合おう(海の命)	6	
		卒業するみなさんへ(中学校へつなげよう／生きる／ 今、あなたに考えてほしいこと)	4	道徳

第4学年O組 国語科学習指導案

令和2年10月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう（ごんぎつね）

2 単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などの違いに気付くことができる。
- (3) 読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方などの違いに気付こうとする。

3 学習の計画 (12時間完了)

- 第1次 第1時 新美南吉のブックトークを聞き、新美南吉について知る。
 第2時 登場人物に焦点を当てて読み、初発の感想を書く。
 第3時～第5時 第1～3場面を読み、登場人物の行動や気持ちの変化を捉える。
 第6時（本時） 第4・5場面を読み、登場人物の行動や気持ちの変化を捉える。
 第7時～第8時 第6場面を読み、登場人物の行動や気持ちの変化を捉える。
 第2次 第9時～第12時 物語や登場人物についての考えをまとめ、交流して考えを深める。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 文章中の言葉に着目して、登場人物の気持ちを読み取ることができる。
 - 文章を読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方の違いに気付こうとする。
- (2) 準備・資料

教師……挿絵を拡大したもの
- (3) 関 連

3年 国語 場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう「ちいちゃんのかげおくり」（場面ごとに出来事や登場人物の気持ちを考えながら読み、心打たれた場面の感想文を書く。）

5年 国語 すぐれた表現に着目して読み、物語のみりょくをまとめよう「大造じいさんとガン」（心情や場面の様子を味わいながら読み、効果的な表現に着目して、物語の魅力について自分の考えをまとめる。）

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかむ	1 前時までの学習を想起し、本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ごんの行動や会話からごんの気持ちを読み取ろう。 </div>	5	○ 各自のノートを基に、前時までの内容を確認させる。
考える	2 第4場面の登場人物の気持ちを読み取り、発表する。 (1) 「ぶらぶら」出かけるごんの気持ちを考えて発表する。 ・楽しいことないかな。 ・今日は何して遊ぼうかな。		○ 事前に教科書に貼った付箋を基に、各自で考えてきたことを発表させる。 ○ まず隣同士で発表してから、全体に発表させる。 ○ 友達の発表を聞いて、新たに考えたことや事前に考えたことと違うことも発表してよいことを伝える。 ○ 「ぶらぶら」という言葉に着目し、楽しげな様子をつかませる。 ○ 「月のいい」という言葉にも着目させ、楽しげな気持ちをつかませる。

考 え る 深 め る ま と め る	(2) 二人の会話に耳を傾けているごんの気持ちを考えて発表する。 ・何の話をしているのかな。 ・おれの話をしているんじゃないか。 ・もっと話を聞きたいな。	15	<ul style="list-style-type: none"> ○ ごんの好奇心の強さが、このような行動を起こさせることも押さえる。 ○ 挿絵を拡大したものを使って、位置関係を確認させる。 ○ 兵十の熱心な話しぶりに対する加助の気のない返事についても触れておく。
	3 第5場面の登場人物の気持ちを読み取り、発表する。 (1) お念仏がすむまで、いどのそばにしゃがんでいるごんの気持ちを考えて発表する。 ・話の続きが聞きたいな。 ・早くお念仏が終わらないかな。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4場面の脚注を使って「お念仏」の意味を押さえる。 ○ 終わるまで時間がかかりそうなのに、しゃがんで待つまでも話を聞きたいごんの気持ちを考えさせる。
	(2) 二人の後を、かげぼうしを「ふみふみ」行くごんの気持ちを考えて発表する。 ・話が聞こえるようにして行かなきゃ。 ・そろそろおれの話が出てくるかな。	25	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見付かるかもしれないのに、二人の後を付けていくごんの気持ちを考えさせる。 ○ 「ふみふみ」という言葉に着目させ、うきうきした、楽しい様子を押さえる。 ○ 「かげぼうしをふみふみ」の行動を動作化させ、二人との距離が縮まってきていることを体感させて、気持ちを読み取らせる。
	4 「おれは引き合わないなあ。」にこめられた、ごんの気持ちを考える。 (1) 自分の考えをノートに書く。 ・少しは、感謝してほしいなあ。 ・骨折り損だなあ。 ・もう少しおれだと分かるようにしてみようかな。 (2) 意見を交流する。	40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「引き合わない」の意味を押さえる。 ○ 前の場面では気の悪い返事をしていた加助の言葉が、場面展開のきっかけになっていることに触れる。 ○ 「つまらないな」という言葉にも着目させる。
	5 本時のまとめをする。	45	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノートに書いたことを発表させる。 ○ 第6場面では、兵十とごんのお互いに対する気持ちを考えることを知らせる。

(5) 本時の評価規準

- 手掛かりとなる言葉からごんの気持ちを想像し、自分の言葉で書いている。(ノート)
- 自分が考えたことを交流する中で、一人一人の感じ方に違いがあることに気付こうとしている。(話合いの様子)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級では、各自で「読書の記録」を付けさせている。これは、本の題名や一言感想を記入し、読んだ本のページ数を積み上げていく、本学級独自のものである。読書の記録を見ると、児童は物語をよく読んでいるが、表現に工夫が凝らしてある内容のものはあまり読んでいない。また、物語を楽しんで読んでいるが、言葉に着目して読むことにはまだ慣れていない。

(2) 指導の力点

- 事前にごんの気持ちが分かる言葉や文章に波線を引き、想像したごんの気持ちを付箋に書かせ、教科書に貼らせてある。自分の考えをもたせた上で、文章中の言葉に着目させることにより、授業内で考えが変わったり、深まったりできるようにさせる。

6 指導と評価

単元名 つづけよう①

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
 (3) 詩の音読を楽しみ、詩に描かれた様子を想像しながら、よりよい音読の仕方を意識して練習しようとする。

標準的な展開例

01010102_001

【教材名】 こえに だして よもう／ききたいな、ともだちの はなし／たのしいな、ことばあそび
 (上 P. 26～P. 31)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 詩を楽しんだり想像を広げたりして読む。 ★様子を思い浮かべて「あさの おひさま」を読もう。 ○「あさの おひさま」を声に出して読む。</p> <p>○朝日や海の様子や想像したことを話す。 ○言葉の響きやリズムに気を付けながら、暗唱する。</p> <p>2～3 友達の好きな遊びを聞いて、分かったことや感想を全体に知らせる。 ○教科書 (P. 28～29) を読み、教師の説明を聞いて、活動内容を知る。 ○友達とペアになり好きな遊びを聞いて、分かったことや感想を声の大きさや速さに気を付けて全体に知らせる。 ○聞き手と話し手を交代して、同じ活動をする。</p> <p>4～5 言葉集めをする。 ○教科書 (P. 30) を見て「あ」で始まる言葉は、いろいろあることを知る。</p> <p>○「い、う、か」など、既習の平仮名で始まる言葉集めをする。</p>	<p>・声の大きさやリズムを工夫してはっきりと読むようにさせる。 【評】 詩の音読を楽しむ活動を通して、様子を想像しながらよりよい音読の仕方を意識して練習しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】 詩を読む活動を通して、言葉のまとまりや響きに気を付けて音読する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 29) の挿絵を参考に、話し手を見て話を聞くことを知らせる。 【評】 ペアでの活動を通して、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・手を打ちながら1音節1文字であることに気付き、2文字3文字4文字の言葉があることを知らせる。 ・「あ」で始まる教科書以外の言葉集めをさせる。 【評】 言葉集めの活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにするという「知識・技能」を評価する。 ・手を打ちながら行うことで、文字数を意識させる。 ・これまでに習った文字を使って言葉を見付けて、ノートに書かせる。 【評】 言葉集めの活動を通して、たくさんの言葉を見付けようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 はなの みち

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 語のまとまりや、言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
 (2) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
 (3) 想像を広げながら物語を楽しみ、友達と協力して音読を聞き合おうとする。

標準的な展開例

01010103_001

【教材名】はなの みち (上 P. 32～P. 39)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「はなの みち」を読み、学習のめあてをつかむ。 ★くまさんやりすさんになって、「はなの みち」を読もう。 ○教師の範読を聞く。 ○地の文と会話文に分かれて、音読する。</p> <p>2～5 お話の内容を確かめながら、場面の様子やくまさんの行動について考える。 ○教師の後に続いて、音読する。 ○4枚の挿絵を見て、何をしているところかを話し合う。 ○挿絵(P. 34とP. 38)の違いを見付けて発表する。 ○挿絵の違いを参考に、花の一本道ができた理由を話し合う。 ○全文を音読する。</p> <p>6 好きな挿絵の場面を選んで音読する。 ○二人組で音読を聞き合い感想を伝え合う。</p>	<p>・「 」が会話を示す記号であることを押さえる。 【評】音読する活動を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付ける「知識・技能」を評価する。</p> <p>・文と挿絵を対応させながら、内容のあらましを理解させる。 ・野原や動物たちの様子を比べさせ、季節の変化を捉えさせる。 ・花の一本道と袋の中身の関係をつかませる。</p> <p>【評】全文を読む活動を通して、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】音読を聞き合う活動を通して、想像を広げながら物語を楽しもうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 としょかんへ いこう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。
(3) 学校図書館めぐりを楽しみ、図書館から読みたい本を見付けようとする。

標準的な展開例

01010104_001

【教材名】 としょかんへ いこう (上 P. 40～P. 41)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学校図書館へ行く。 ★図書館の使い方を学ぼう。 ○図書館めぐりをして、図書館の様子を知る。</p> <p>2 学校図書館でのきまりについて考え、本を選んで読書に親しむ。 ○きまりについて知る。</p> <p>○読みたい本を選んで読書に親しむ。</p>	<p>・知っている本などを探させるなどして、たくさん本があることに気付かせる。 【評】 いろいろな本があることを知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・学校図書館の利用方法（貸し出し、返却、閲覧など）を指導する。 ・読書サポーターや司書の方と連携し、児童が図書館に通いたくなるように工夫する。 ・みんなの本であることに気付かせ、大切に扱うことや静かに読むことなどの約束を知らせる。 ・読み終わったら、元の場所に返すことを伝える。 【評】 学校図書館めぐりの活動を通して、図書館から読みたい本を見付けようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 かきと かぎ

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 平仮名を読み，書くことができる。
 (3) 唱え歌を楽しみ，濁音を含む単語をたくさん見付けようとする。

標準的な展開例

01010105_001

【教材名】 かきと かぎ (上 P. 42～P. 43)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 濁点を含む単語を，唱えたり書いたりする。</p> <p>★「゛」の付く言葉を読んだり書いたりしよう。</p> <p>○教科書(P. 42)の唱え歌を，いろいろな言い方で楽しく読み，濁音に気付く。</p> <p>○教科書(P. 43)にある単語を，一語一語唱えながら濁音の有無を確認する。</p> <p>○濁音を含む単語を見付けてノートに書く。</p> <p>○唱え歌を暗唱し，まとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的に濁点を取って読んだり，付けて読んだりして濁点に着目させてもよい。 ・児童には濁点を「点々」などの言葉で分かりやすく説明する。 ・濁点の付いた言葉の発音に気を付けさせ，発音の違いが分かるように読んだり，聞き取ったりするように助言する。 <p>【評】平仮名を読み，書く活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早口やひそひそ声など，いろいろな読み方で唱えさせる。 <p>【評】唱え歌を楽しみ，濁音を含む単語を見付ける活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **ぶんをつくろう**配当時間 **4時間**

- 単元の目標 (1) 文の中における主語と述語との関係に気付くとともに、句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。
 (2) 語と語の続き方に注意することができる。
 (3) 自分の書いた文の語と語との続き方を確かめることで、日常生活に生かそうとする。

標準的な展開例

01010106_001

【教材名】ぶんをつくろう (上 P. 44～P. 45)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 「わたしが、はなす。」「みんなが わらう。」を読む。 ★「一が一。」の文を作ろう。 ○教科書(P. 44)の挿絵を見て、「わたしが はなす。」「みんなが わらう。」を読む。</p> <p>○主語・述語・句点を意識して、教科書(P. 44)の文を視写する。</p> <p>3～4 「一が一。」の文を見付けたり、ノートに書いたりする。 ○教科書(P. 45)の挿絵を見て、「一が一。」の文を見付けたりノートに書いたりする。</p> <p>○日常の生活の中から、「一が一。」の文を見付けたりノートに書いたりする。</p>	<p>・主語や述語に注意し、「一が一。」の文型であることに気付かせる。 【評】文を読む活動を通して、文の中における主語と述語との関係に気付く「知識・技能」を評価する。 ・文の終わりに、句点を打つことを確かめる。</p> <p>・句点の書き方とマス目のどの位置に句点を打つかを知らせる。 【評】文を作る活動を通して、「一が」と「一する。」の続き方に注意して文を書く「思考・判断・表現」を評価する。 【評】文を作る活動を通して、文の終わりに句点を打つ「知識・技能」を評価する。 【評】文を作る活動を通して、日常に生かそうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **ねこと ねっこ**配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 促音の表記，助詞の「は」の使い方，句読点の打ち方を理解し，文の中で使うことができる。
 (2) 語と語の続き方に注意することができる。
 (3) 唱え歌を楽しみ，促音や半濁音のある言葉をたくさん見付けようとする。

標準的な展開例

01010107_001

【教材名】ねこと ねっこ (上 P. 46～P. 47)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 促音のある言葉を見付けて，読んだり書いたりする。</p> <p>★「っ」の付く言葉を読んだり書いたりしよう。</p> <p>○教科書(P. 46)の唱え歌をいろいろな言い方で楽しく読み促音に気付く。</p> <p>○教科書(P. 47)を見て，一語一語唱えながら促音の読み方を確認する。</p> <p>○教科書(P. 47)を見て，促音のある言葉を平仮名で書き，促音のある言葉を集める。</p> <p>2 半濁音のある言葉を見付けて，読んだり書いたりする。</p> <p>○教科書(P. 47)の言葉の中の清音，濁音，半濁音を書き順や濁点，半濁点の位置に気を付けて書く。</p> <p>○濁音，半濁音のある言葉と助詞「は」を使って，簡単な文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童には促音を「つまる音」などの言葉で説明する。 ・「ねこ」と「ねっこ」の発音と意味の違いを理解させる。 ・口でためて発音することを意識させる。 ・小さい「っ」は，ます目の右上4分の1の場所を書くことを知らせる。 <p>【評】促音・濁音・半濁音のある言葉集めや，唱え歌を楽しむ活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「°」の書き方を指導する。 ・言葉を声に出しながら書かせるようにする。 <p>【評】簡単な文作りを通して，促音の表記，助詞の「は」の使い方，句読点の打ち方を理解し，文の中で適切に使う「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 わけを はなそう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
 (2) 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。
 (3) 話す事柄の順序を考えながら、気持ちとわけを話そうとする。

標準的な展開例

01010108_001

【教材名】わけを はなそう (上 P. 48～P. 49)

【準備等】挿絵を拡大したもの

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書 (P. 48) の話型を確認し、教科書 (P. 49) の挿絵を見て、顔の表情と出来事から、女の子の気持ちやそのわけを考える。</p> <p>★気持ちやわけを話そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○顔の表情から、どんな気持ちかを考え、「わたしは□です。」に気持ちを表す言葉を考える。 ○「どうしてか」というと、□だからです。」に理由となる出来事を入れる。 ○気持ちとわけを話す練習をする。 <p>2 自分が経験したことを、学んだ話型を使って話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書 (P. 49) の挿絵や教師の用意した絵等をもとに、ペアで学んだ話型を使って伝え合う。 ○自分で経験したことを、学んだ話型を使って話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を参考に、なぜその気持ちなのかも考えさせ、理由につなげる。 ・「うれしい」などの気持ちを表現する言葉を考えさせる。 ・想像を広げて、楽しく活動できるようにさせる。 <p>【評】気持ちやわけを話す活動を通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで交流した後、グループや全体で発表させる。 ・日直などのスピーチで活用し、継続的に練習させてもよい。 <p>【評】友達との交流を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 おばさんと おばあさん

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 長音の表記, 助詞の「を」の使い方, 句点の打ち方を理解し, 文の中で使うことができる。
(2) 語と語の続き方に注意することができる。
(3) 唱え歌を楽しみ, 長音のある言葉をたくさん見付けようとする。

標準的な展開例

01010109_001

【教材名】おばさんと おばあさん (上 P. 50～P. 51)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 長音の読み方や書き方を理解する。 ★のばす音のある言葉を読んだり書いたりしよう。 ○教科書 (P. 50) の唱え歌をリズムに気を付けて読む。</p> <p>○教科書 (P. 51) の長音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。</p> <p>2 長音のある言葉を見付けたり, 助詞の「を」を使った文を書いたりする。 ○長音のある言葉を集めてノートに書いたり, 友達と交流したりする。 ○長音のある言葉を使って文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「おばさん」と「おばあさん」のように, 長音になると違う言葉になることを知らせる。 ・手をたたきながら読むことで, 音節を意識させる。 ・長音「ア列, イ列, ウ列, エ列, オ列」の言葉が集まるようにする。 ・エ列長音は「おねえさん」など特別な場合以外は「い」, オ列長音も特別な場合以外は「う」と表記することを確認する。 ・オ列長音の特別な場合, 「おおきい」「とおい」「おおかみ」「とおる」「とお(十)」「おおい」「こおり」「こおろぎ」などがあることを押さえる。 <p>【評】唱え歌を楽しみ, 長音のある言葉を見付ける活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「—を—。」という助詞の「を」を使った文を書かせる。 <p>【評】長音の表記, 助詞の「を」の使い方, 句点の打ち方を理解し, 文を書く活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 くちばし

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 文の中における主語と述語の関係に気付くことができる。
 (2) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
 (3) 文章の内容の大体を捉えるとともに、ペアで協力して、音読しようとする。

標準的な展開例

01010110_001

【教材名】くちばし (上 P. 52～P. 59)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★「問い」と「答え」を考えて「くちばし」を読もう。 ○鳥やくちばしについて、知っていることを出し合い、興味をもつ。 ○教師の範読を自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。</p> <p>2～6 教材文を読み、内容の大体を捉える。 ○写真を見ながら、教材文を読む。</p> <p>○「きつつき」の文を読み、問いの文を視写する。 ○「これは、一です。」という答えの文を視写する。</p> <p>○「おうむ」「はちどり」についても同様に視写する。</p> <p>7 いちばん興味をもったくちばしについて、わけとともに伝え合う。</p> <p>8 学習を振り返る。 ○「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら、ペアで音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・くちばしだけの挿絵を使い、クイズにして興味付けしてもよい。 ・3種の鳥のくちばしの文章であることを確かめる。 ・本文と写真とを対応させながら読むようにする。 <p>【評】「くちばし」を読む活動を通して、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】視写を通して、文中における主語と述語の関係に気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのくちばしについて「問い」と「答え」を確認し、答えの後に、詳しく説明している部分があることを確かめさせる。 ・くちばしの形とえさの関係に着目させる。 ・鳥のえさの取り方については、児童の発言がなければ、教師が説明する。 ・児童の実態に応じて、穴埋めにしてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・わけを話すときには「どうしてか」というという文型を使えるようにする。 ・生き物の本や図鑑を利用してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・問いと答えに分け、意識させて読ませる。 <p>【評】ペアで音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 おもちやと おもちや

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 拗音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。
(2) 語と語の続き方に注意することができる。
(3) 唱え歌を楽しみ、拗音のある言葉をたくさん見付けようとする。

標準的な展開例

01010111_001

【教材名】おもちやと おもちや (上 P. 60～P. 61)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 拗音の読み方と書き方を理解する。</p> <p>★小さい「や」「ゆ」「よ」の付く言葉を読んだり書いたりしよう。</p> <p>○教科書 (P. 60) の唱え歌を、リズムに気を付けて読み、「おもちや」と「おもちや」の言葉の違いに気付く。</p> <p>○教科書 (P. 61) の拗音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。</p> <p>2 拗音のある言葉を使って文を書く。</p> <p>○拗音のある言葉を集めて、ノートに書いたり交流したりする。</p> <p>○「—へ—。」という助詞「へ」を使った文を書く。</p>	<p>・何度も声に出して言えるよう、一文ずつ読んだり、男女で分かれて読んだりするなど、読み方の工夫をする。</p> <p>・手をたたきながら読ませることで、音節を意識させる。</p> <p>・拗音は、ます目の右上4分の1の場所に書かせる。</p> <p>・文を音読してから、書くようにする。</p> <p>・身の回りの物から探させる。</p> <p>【評】唱え歌を楽しみ、拗音のある言葉を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】拗音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】文を作る活動を通して、語と語の続き方に注意して書く「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 あいうえおで あそぼう

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 平仮名を読み、書くことができる。
(3) 言葉遊びを楽しみ、五十音表をいろいろな読み方で読もうとする。

標準的な展開例

01010112_001

【教材名】 あいうえおで あそぼう (上 P. 62～P. 65)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書 (P. 62～63) の言葉遊び歌「あいうえおで あそぼう」を読む。 ★平仮名の言葉を読んだり書いたりしよう。 ○前に学習した教科書 (P. 22～23) の「うたに あわせて あいうえお」を声に出して読む。 ○教科書 (P. 62～63) の「あいうえおで あそぼう」を声に出して読む。 ・分担をかえて ・声の大きさをかえて ・声の表情をかえて ・読む速さをかえて</p> <p>2 「あいうえおで あそぼう」の替え歌を作る。 ○「あいうえおで あそぼう」の歌の仕組みを確認する。</p> <p>○自分たちの「あいうえおで あそぼう」を作る。</p> <p>○言葉を替えて「あいうえおで あそぼう」を読む。 〈替え歌例〉「あさだよ おはよう あいうえお」 「かぼちゃ ことこと かきくけこ」</p> <p>3 教科書 (P. 64～65) の五十音表を見て、縦に読んだり横に読んだり、言葉集めをしたりする。 ○教科書 (P. 64～65) の五十音表を読む。 ・縦に・横に・短く切って・長くのばして ・早口で・ゆっくり・ひそひそ声で</p> <p>○教科書 (P. 64～65) の下段の「しりとり」を参考にしてしりとり遊びを楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいうえお」の口形を確かめる。 ・調子のよい言葉のリズムに気付き、節を付けて歌うように読ませる。 ・何度も読んで、言葉遊び歌の仕組みに気付かせる。 ・手拍子などに合わせて読ませる。 ・「あいうえお」に関する言葉の絵本を紹介して、音読させてもよい。 ・行のはじめが「あかさたな・・・」で始まっていることや、最後が「あいうえお」「かきくけこ」になっていることなどに気付かせる。 ・グループや列ごとに、分担して作るとよい。 ・教科書 (P. 62～63) の吹き出しや教科書 (P. 129～130) の平仮名表を参考にして好きな行を作らせる。 【評】「あいうえおで あそぼう」の替え歌を作る活動を通して、平仮名を読み、正しく書く「知識・技能」を評価する。 ・クラスで作った替え歌を、声に出して読ませる。 ・口形に気を付けて縦や横に読んだり、各行や列の音の特徴に気を付けて読んだりさせる。 ・区切ったり伸ばしたりいろいろな声の大きさを読んだりして、楽しく音読させる。 【評】言葉遊びを楽しみ、五十音表をいろいろな読み方で読む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・一字ずつの平仮名カードにマグネットを付けたものを作り、平仮名を組み合わせ、言葉づくりをしてもよい。

【 備 考 】

単元名 おおきく なった

配当時間 4 時間

- 単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、語を文章の中で使うことができる。
 (2) 観察したことなどから書くことを見付けるとともに、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。
 (3) 植物を観察しながら、書くために必要な事柄を集め、友達と交流しようとする。

標準的な展開例

01010113_001

【教材名】おおきく なった (上 P. 66～P. 67)

【準備等】観察記録用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 観察する観点を知る。</p> <p>★よく見て、くわしく書こう。</p> <p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○どんな観点で観察したいかを出し合う。</p> <p>○観察記録の書き方を知る。</p> <p>3～4 観察記録を書く。</p> <p>○観察記録を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かず ・かたち ・いろ <p>○書いたものを友達と交流する。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに生活科で使用した観察記録を用意して、確認させてもよい。 ・生活科で育てている植物の様子を想起し「よくみて くわしくかく」という学習課題を確認する。 ・出し合ったものを、教科書 (P. 66) の観点でまとめたり、教科書に出ていないものをクラス全体で共有したりする。 ・教科書 (P. 66～67) の二つの作例を読み、書かれている観点と書き方の共通点・相違点を見付けさせる。 ・どんなことが書かれていると「詳しい」のか発表させる。 ・生活科で育てている植物を観察し、観点を想起して気付いたことをメモしたり絵に描いたりさせる。 ・メモを見て、二つの作例の書き方から選んで観察記録を書くようにさせる。 ・教科書 (P. 124) を参考にして、横書きのカードの書き方を知らせ、生活科の学習にも生かすようにさせる。 <p>【評】観察記録を書く活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】観察記録を書く活動を通して、観察したことから書くことを見付けて、必要な事柄を集めたり確かめたりする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流しながら、友達の観点や書き方について共通点・相違点に気付かせたい。 <p>【評】友達と交流する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな観点から観察することで、様子を詳しく記録できることに気付かせたい。

【 備 考 】

単元名 おおきな かぶ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
 (2) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
 (3) 音読を楽しみ、登場人物の行動を確かめながら、友達と協力して劇遊びをしようとする。

標準的な展開例

01010114_001

【教材名】おおきな かぶ (上 P. 68～P. 79)

【準備等】劇で使う「かぶ」

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 「おおきな かぶ」を読み、学習の見通しをもつ。 ★「おおきな かぶ」の劇の発表会をしよう。 ○教師の範読を聞き、内容の大体を捉える。</p> <p>○教科書(P. 78～79)を見て、劇をした経験を思い出し、これからの学習に意欲をもつ。 ○教師の後に続いて全文を音読する。</p> <p>2～3 物語の大体をつかむ。 ○登場人物と、増えていく順序を確かめる。</p> <p>○工夫して音読する。</p> <p>4～5 グループごとに、劇の練習をする。 ○グループで役を決めて登場人物になりきって音読する。 ○登場人物になりきって劇遊びをする。</p> <p>6 発表会をする。 ○音読や劇の発表をする。 ○学習の振り返りをする。</p>	<p>・挿絵も参考にして、話の筋を視覚的につかませる。</p> <p>・「かぶは ぬけません」の前の接続詞「けれども」等の読み方を工夫させる。 【評】音読する活動を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付ける「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】場面の様子や登場人物の行動を読む活動を通して、内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。 ・繰り返しの言葉や副詞に着目して読ませる。</p> <p>・繰り返しのおもしろさやリズムを楽しめるようにする。</p> <p>・動作やせりふを考えて楽しませる。 ・グループの児童で、互いのよさや改善点を助言し合いながら練習させる。 【評】劇遊びをする活動を通して、登場人物の行動を確かめ、音読を楽しむ「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・繰り返しや、言葉の響きやリズムを楽しみながら、学習したことを確かめる。</p>

【 備 考 】

単元名 はをへを つかおう

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
 (2) 語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
 (3) 助詞の使い方を確かめながら、文を作ろうとする。

標準的な展開例

01010115_001

【教材名】 はをへを つかおう (上 P. 80～P. 81)

【準備等】 短冊黒板

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書 (P. 80) の「わに」の唱え歌をリズムに気を付けて読む。 ★「は」「を」「へ」を使った文を考えて書こう。 ○教師の範読を聞く。 ○教師の後に続いて読む。 ○いろいろな読み方で読む。 ・一斉に ・一行ずつ交代で ・一人で</p> <p>2 唱え歌を視写する。 ○「わ」と「は」の使い方をつかむ。 ○教科書の文を視写する。 「わに は あらう。」 ○「お」と「を」の使い方をつかむ。 ○教科書の文を視写する。 「かお を あらう。」 ○「え」と「へ」の使い方をつかむ。 ○教科書の文を視写する。 「いえ へ かえる。」</p> <p>3 教科書 (P. 81) の文型に合わせて文作りをして、発表し合う。 ○教科書のわにの絵を見て、文を考える。 「わに は かお を あらう。」 「わに は いえ へ かえる。」 ○体験を基に、文を考えて書く。</p> <p>○作った文を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「は」「を」「へ」について、発音と仮名遣いの違いを押さえる。 ・何度も声に出して読めるよう、読み方の工夫をする。 【評】唱え歌を音読する活動を通して、楽しみながら読もうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・短冊黒板に「() は () 。」と書いて、文型を意識させる。 ・短冊黒板に「() を () 。」と書いて、文型を意識させる。 ・短冊黒板に「() へ () 。」と書いて、文型を意識させる。 【評】助詞を文や文章の中で使う活動を通して助詞の正しい使い方を理解する「知識・技能」を評価する。 ・短冊黒板に、「() は () を () 。」「() は () へ () 。」と書き、文型を意識させる。 ・帽子や本などの身の回りの小道具を使って、動作化しながら、文を考えさせる。 【評】文を作る活動を通して、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書く「思考・判断・表現」を評価する。 【評】文を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 すきな もの、 なあに

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
 (2) 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶとともに、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
 (3) 伝えたいことや表し方を考え、自分が好きなものとその理由を紹介しようとする。

標準的な展開例

01010116_001

【教材名】すきな もの、 なあに (上 P.82～P.85)

【準備等】知多の友、清書用紙(知多の友の該当ページを増し刷りしたもの)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 教科書(P.82～85)を見て、学習の見通しをもつ。 ★自分の好きなものを話したり、書いたりして紹介し合おう。 ○自分の好きなものを友達に話したり、書いたりして紹介し合うことを確認する。 ○友達に伝えたい自分の好きなものを決めて、絵に描く。</p> <p>○友達と自分の好きなものについて伝え合う。 ○聞いたことについて、感想を話したり理由を聞いたりする。</p> <p>4～6 自分の好きなものとその理由を書く。 ★自分の好きなもののこととその理由を分かるように書こう。 ○教科書(P.84)の文章を視写する。 ○知多の友(P.7)に自分の好きなものと好きな理由を知らせる文を書く。</p> <p>○清書用紙に書く。</p> <p>7 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ★文章を読み合って、感想を伝えよう。 ○書いた文章と絵を見せながら、発表したり、感想を伝え合ったりする。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・知多の友(P.5)に自分の好きなものの絵を描かせる。 ・何が好きなかを()に言葉でも書かせる。</p> <p>【評】好きなものを書く活動を通して、友達に伝えることに興味をもって、紹介しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友(P.6)に視写させ、語や文の続き方、句点などを意識させる。 ・知多の友(P.5)を基に、自分の好きなものと好きな理由について、2文以上の文章を書かせる。 【評】好きなものを書く活動を通して、「好きなもの」と「好きな理由」の順に2文で書き表す「思考・判断・表現」を評価する。 【評】好きなものを書く活動を通して、好きなものや好きな理由を言葉で表す「知識・技能」を評価する。</p> <p>・発表が終わったら、書いた物を掲示して読み合うようにさせる。 【評】書いたものを友達と読み合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 おむすび ころりん

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読するとともに、昔話を聞いて我が国の伝統文化に親しむことができる。
(2) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
(3) 昔話の内容を捉え、これまでの学習を生かして音読しようとする。

標準的な展開例

01010117_001

【教材名】おむすび ころりん (上 P. 86～P. 93)

【準備等】読み聞かせをする本

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「おむすび ころりん」を聞き、学習の見通しをもつ。 ★お話を楽しく読んで、お話会をしよう。 ○これまで読んだ昔話について、おもしろかったところを発表する。 ○教師またはCD等による範読を聞き、おもしろかったところや好きなところを発表する。</p> <p>○音読発表会を開くことを知る。</p> <p>○みんなで音読する。</p> <p>2～3 お話の内容を捉えて、音読の仕方を工夫する。</p> <p>○畑で仕事をするおじいさんになって、音読する。</p> <p>○ねずみになって、音読する。 ○家に帰ってきたおじいさんとおばあさんになって、音読する。</p> <p>4 グループで音読の分担を決めて練習する。 ・おじいさん役 ・おばあさん役 ・ねずみ役 ・地の文役 ○役割を決めて、役になりきって音読する。</p> <p>5 音読発表会を開く。</p> <p>○「おむすび ころりん」の音読をする。</p> <p>○音読発表会の感想を伝え合う。</p>	<p>・おもしろいと思ったところや好きなところを見つけて聞く等の観点を示しておく。 【評】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞く活動を通して、我が国の伝統的な言語文化に親しむ「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「おおきな かぶ」での音読や劇遊びを思い出して、音読発表会をすることを知らせる。</p> <p>・初めは、追い読みをさせるとよい。</p> <p>・おじいさんやねずみになって音読するところと、全員で音読するところとに分ける。</p> <p>・「おむすび ころりん すっとんとん」の歌のところは、拍子木などを使ってリズムをとってもよい。</p> <p>・何度も音読をして、繰り返しや、言葉のリズム（七五調）に気付かせる。</p> <p>・挿絵をもとに、場面の様子やおじいさんの行動を読み取らせる。</p> <p>【評】場面の様子や登場人物の行動を読み取る活動を通して、内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・第2～3時の学習で工夫した点を想起させ、それをふまえて練習させる。</p> <p>・音読に合わせて動作を付けて、楽しんで演じさせてもよい。</p> <p>【評】協力して音読したり演じたりする活動から、昔話を楽しもうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・拍子木を打ってから始めるなど、雰囲気作りをする。</p> <p>【評】音読をする活動を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 としょかんと なかよし

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。
 (3) 読書に親しみ、読みたい本の見付け方を知ること、本を選ぼうとする。

標準的な展開例

01010118_001

【教材名】 としょかんと なかよし (上 P. 94～P. 95)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 学校図書館へ行って、読みたい本を見付ける。 ★図書館で読みたい本を選んで読もう。 ○図書館めぐりをして、図書館の様子を知る。 ○読みたい本の見付け方を知る。 2 読みたい本を選んで読む。 ○おもしろいところや、心に残るところを見付けながら読む。 ○本を読み終わったら、教科書 (P. 95) を参考にして、読書記録をつける。	・表紙や題名、本の中を見る。 ・司書の先生や、読書サポーターがいれば、協力してもらうとよい。 【評】図書館めぐりをする活動を通して、いろいろな本があることを知る「知識・技能」を評価する。 ・一年を通して、読書記録を累積できるようにする。 ・知多の友 (P.) を使い、読書感想文の指導へとつなげていくのもよい。 【評】読書に親しむ活動を通して、読みたい本の見付け方を知り、本を選ぼうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 **こんな ことが あったよ**配当時間 **3時間**

- 単元の目標 (1) 平仮名の長音や拗音などの表記や助詞を正しく使うことができる。
 (2) 知らせたい体験を決めて、必要な事柄を思い出して集め、語と語、文と文のつながりに注意して書くことができる。
 (3) 体験したことを思い出して、分かりやすく文章に書こうとする。
 (5) 長音、拗音などの表記や助詞を正しく使うことができる。

標準的な展開例

01010119_001

【教材名】こんな ことが あったよ× (上 P. 96～P. 97)

【準備等】知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 楽しかったことやうれしかったことを書くことを知り、学習の見通しをもつ。 ★楽しかったことやうれしかったことの書き方を知ろう。 ○最近の出来事を思い出して、発表し合う。 ○教科書 (P. 96～P. 97) を見て、「楽しかったことを文章に書いて交流する」という学習課題を知る。 ○教科書 (P. 96) の作例を読み、文章の書き方を知る。 ・したこと ・見たこと、見付けたもの ・聞いたこと ・思ったこと 2 体験を知らせる文章を書く。 ★楽しかったことやうれしかったことを書こう。 3 書いた文章を読み合い、感想を交流する。 ★文章を読み合って、感想を伝えよう。	・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。こっちはありません ・知多の友 (P. 19) を読み、体験分を書くことに関心をもたせる。 ・日付を書かせる場合には、書く場所を知らせる。

【 備 考 】

単元名 つづけよう②

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
 (3) 楽しんで詩を音読したり、話を聞いて質問や感想を述べたり、言葉遊びを作ったりしようとする。

標準的な展開例

01010201_001

【教材名】 こえに だして よもう／ききたいな、ともだちのはなし／たのしいな、ことばあそび (上 P.98～P.103)

【準備等】 指導書付録CD (いちねんせいの うた、発表会の様子)、挿絵を拡大したもの、視写用の画用紙、発表メモ用ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 「いちねんせいの うた」を音読して、気付いたことを話し合う。 ★工夫して楽しく音読しよう。 ○教科書の挿絵を見て、気付いたことを話し合う。</p> <p>○「いちねんせいの うた」の範読を聞き、感想を話し合う。 ○範読に続いて全員で詩を読む。</p> <p>○「お気に入りの1行」を見付けて発表する。</p> <p>2 読み方を工夫して、「いちねんせいの うた」の音読の練習をする。 ○読み方を工夫して音読練習をする。</p> <p>○詩を視写して、様子を想像したり、気付いたことを話し合ったりする。</p> <p>○視写した文に1年生の自分の絵を添えて、工夫して音読する。 ○CDを聞き、「いちねんせいの うた」を歌う。</p> <p>3 「おはなしかい」を開くことを知り、発表準備をする。 ★友達の話をよく聞き、知りたいことを聞いたり、感想を言ったりしよう。 ○「おはなしかい」を開くことを知る。</p> <p>○夏休みの出来事を思い出して題材を決める。</p> <p>○知らせたいことの内容を考える。</p> <p>4 「おはなしかい」を開く。 ○発表の方法を知る。</p> <p>○「おはなしかい」を行う。</p> <p>○「おはなしかい」の感想を発表し合う。</p> <p>5 教科書 (P.102) を見て隠れている言葉を探す。 ★言葉遊びをしよう。 ○縦・横・斜めに隠れている言葉を探し、丸で囲む。</p> <p>○見つけた言葉をノートに書き、発表する。</p> <p>6 自分でも問題を作り、友達と出し合う。</p>	<p>・教科書 (P.98) の「このほんよもう」の「ちきゅうはメリーゴーラウンド」を読み聞かせてもよい。</p> <p>・2学期最初の単元なので、発言の仕方や聞くときの姿勢などを思い出させるようにする。</p> <p>・挿絵を拡大したものを掲示するとよい。</p> <p>・リズムを感じながら、元気に読ませたい。</p> <p>・声の大きさ、速さ、読む人数などを変えて工夫して音読させ、内容に合った読み方を考えさせるとよい。</p> <p>【評】詩を音読する活動を通して、語のまとまりや言葉の響きに気を付けて読む「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「お気に入りの1行」は、何行か選んでもよいことにする。</p> <p>・音読の工夫が児童から出ない場合は教師から提示するが、児童の意見を取り入れながら行っていくとよい。</p> <p>・画用紙に書かせる。実態によっては、罫線を引いたものを準備するとよい。</p> <p>【評】話し合い活動を通して、場面の様子や登場人物の行動など内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】詩を音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「友達の夏休みの様子を、しっかり聞こう」という学習課題を確認する。</p> <p>・夏休みの出来事を思い出し、みんなに知らせたいという意欲をもたせる。</p> <p>・教科書 (P.100) を参考に、夏休みの経験を話す際の具体的なイメージをつかませる。</p> <p>・発表する内容をメモするワークシートを用意するとよい。</p> <p>・知らせたいことを絵に描いて準備したり、絵日記を活用したりしてもよい。</p> <p>・みんなが聞きやすい話し方（声の大きさや速さ）を考えさせる。</p> <p>・教科書 (P.101) を参考に、聞く時の姿勢や質問の仕方、答え方に気付かせる。</p> <p>【評】「おはなしかい」の活動を通して、友達の発表に対して質問や感想を言う「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】隠れている言葉を探す活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・分類しながら板書するとよい。</p>

- 教科書（P.103）の表に自分で問題を作る。
- 友達と問題を出し合って楽しむ。

【評】問題を出し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 おはなしを たのしもう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
 (2) 場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像し、内容の大体を捉えることができる。
 (3) 登場人物の行動を確かめながら、声に出してお話を楽しもうとする。

標準的な展開例

01010202_001

【教材名】やくそく (上 P.104～P.111)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「やくそく」を読んで、大体の内容をつかむ。 ★お話の好きなところを見付けて声に出して読もう。 ○題名の「やくそく」という言葉から連想することや、想起する体験を出し合う。 ○教師または、CD等による範読を聞く。 ○お話に興味をもって音読する。</p> <p>2～5 場面ごとに動作化しながら読み、登場人物の行動を捉える。 ○題名と作者を確認する。 ○登場人物を確認する。 ○青虫が木の葉を食べている様子を読み取る。 ○青虫がそっくりの青虫たちと言い合いする様子を読み取る。 ○上まで登って話をしている様子を読み取る。</p> <p>6～7 好きな場面を音読する。 ○ペアやグループで音読し、感想を伝え合う。 ○音読発表会をして楽しむ。</p> <p>8 学習を振り返る。 ○教科書(P.111)の「たいせつ」を確認し、登場人物の気持ちになりきって音読したことを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との約束や、友達との約束を思い出させる。 ・文と挿絵を照らし合わせて聞かせる。 ・追い読みや交代読みなどで読ませる。 <p>【評】動作化しながら読む活動を通して、場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(上)では他の物語の作者が見付けられないので、図書館の絵本などを見せて、題名と作者について確認するとよい。 ・場面ごとにペアで動作化させる。 ・いくつかのペアに全体で発表させるとよい。 <p>【評】動作化しながら読む活動を通して、場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループで音読を聞き、助言し合うようにさせる。 ・青虫になりきって役割読みをさせる。 ・場面を選んだわけを話してから音読させる。 <p>【評】音読発表会を通して、物語を楽しみ、登場人物の行動を確かめながら協力して音読する「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】音読発表会を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 かたかなを みつけよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。
(2) 語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。
(3) 身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見付け、楽しみながら簡単な文を書こうとする。

標準的な展開例

01010203_001

【教材名】かたかなを みつけよう

(上 P.112～P.113)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書 (P.112) の唱え歌を音読し、片仮名を書く。 ★片仮名を見付けよう。</p> <p>○繰り返し音読し、読み慣れる。</p> <p>○唱え歌に出てくる片仮名を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コップ ・サラダ ・パン ・ジャム ・スープ ・スプーン ・ゼリー <p>○片仮名を書く。</p> <p>2 身の回りから片仮名で書く言葉を探す。</p> <p>○身近な物の中から片仮名で書く言葉を探す。</p> <p>○教科書 (P.126～127) の「かたかなひょう」を参考にして、長音と促音、拗音に気を付けながら簡単な文を書く。</p>	<p>【評】片仮名を読んだり書いたりする活動を通して、片仮名の長音、拗音、促音、撥音を理解して使う「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めは、文を指でなぞりながら読ませるとよい。 ・長音や促音、拗音の表し方を説明する。 <p>・筆順やはらいなどを確認しながら書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ッ」「ャ」「ー」を書く場所や、「〇 (れい)」と「^〇」の書き方の違いを確認する。 ・「ツ」「シ」の違いを説明する。 <p>・教室の中や学級文庫の絵本などから探させるとよい。</p> <p>【評】言葉集めの活動を通して、身の回りから片仮名で書く言葉を見付けるとともに、楽しみながら簡単な文を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】片仮名を使った簡単な文作りの活動を通して、語と語との続き方に注意しながら文を書き表す「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 よんで たしかめよう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。
 (2) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
 (3) 文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、分かったことを伝えようとする。

標準的な展開例

01010204_001

【教材名】 うみの かくれんぼ (上 P.114～P.119)

【準備等】 教科書の写真を拡大したもの、生き物カード用の用紙、生き物に関する図書

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「うみの かくれんぼ」を読んで、学習の計画を立てる。 ★「いきものカード」を作ろう。 ○生き物を見つけたときのことを思い出し、話し合う。</p> <p>○教科書(P.114～115)の写真を見て、隠れている生き物を予想する。 ○教師またはCD等による範読を聞き、音読する。</p> <p>○「くちばし」の「問い」と「答え」の構成を思い出す。</p> <p>3 「問い」と「答え」の構成を捉える。 ○「問い」の文を探す。 ○「答え」を探す。</p> <p>4～6 「問い」に対する「答え」を確かめながら読み、「いきものカード」にまとめる。 ○「はまぐり」の「隠れている場所」「体の特徴」「隠れ方」を読み取り、カードに書く。</p> <p>○「たこ」の「隠れている場所」「体の特徴」「隠れ方」を読み取り、カードに書く。 ○「もくずしよい」の「隠れている場所」「体の特徴」「隠れ方」を読み取り、カードに書く。</p> <p>7～8 他の生き物のカードを作る。 ○生き物探しをしたり、図鑑を参考にしたりして、「何がどこに、体の作り、隠れ方」などを調べ、生き物カードに書く。</p> <p>○友達とカードを読み合う。</p>	<p>・これまでに見付けたことのある生き物について思い出させる。</p> <p>・追い読みや句点読みなどで、何度も声に出して読ませる。</p> <p>・「くちばし」の学習で使用した掲示物等を見せるとよい。</p> <p>・児童には、「読んでいる人に聞いている文」など分かりやすい言葉で説明する。</p> <p>・海の生き物が三つ書かれていることに気付かせ、「答え」が三つあることを確かめる。</p> <p>・「問い→答え→答え→答え」の構成になっていることを押さえる。</p> <p>・「くちばし」との一問一答形式との違いを確認する。</p> <p>【評】「問い」の文と「答え」を探す活動を通して、文章の重要な語や文を考えて選び出す「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・同じ形式のカードを作成しておき、どの生き物も三つの観点で書き込めるようにしておく。</p> <p>・教材文の3文を色分けして提示すると、共通した構成に気付かせやすい。</p> <p>【評】それぞれの生き物についてカードにまとめる活動を通して、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】それぞれの生き物の「隠れている場所」「体の特徴」「隠れ方」を読み取る活動を通して、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・図書館を活用するとよい。</p> <p>・生活科と関連させてもよい。</p> <p>【評】生き物カードを作る活動を通して、学習に「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】生き物カードを書く活動を通して、文の中における主語と述語の関係に気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・後から感想を言い合えるように、事前に読む観点を示しておく。</p>

【 備 考 】

単元名 かずと かんじ

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 第1学年に配当されている漢字を読み，漸次書くことができる。
 (2) 語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。
 (3) 数え方に興味をもち，漢字を使って数え歌を書こうとする。

標準的な展開例

01010205_001

【教材名】 かずと かんじ (上 P.120～P.123)

【準備等】 漢数字カード用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書 (P.120～121) の数え歌をリズムカルに楽しく読む。 ★漢字を読んで，書いてみよう。</p> <p>2 数を表す漢字を練習し，いくつかの読み方があることを知る。</p> <p>3 身の回りにあるものを数えてノートに書く。</p> <p>4 教科書 (P.122～123) を参考に，折り紙，鉛筆，車などの数え歌を作って友達と読み合う。</p>	<p>・1行読むごとに「こぶた」の鳴き声を入れるなどして，楽しく読ませる。</p> <p>【評】 数を表す漢字をノートに書いたり読んだりする活動を通して，第1学年に配当されている漢字を読んだり書いたりする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・算数科の学習と関連させて，実物で確かめて数えさせる。 ・それぞれの物の数え方を確認して，数え歌を作らせる。</p> <p>【評】 数え歌を作る活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】 数え歌を作る活動を通して，語と語との続き方に注意しながら文を作る「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 おもいうかべながら よもう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
 (2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
 (3) 想像力を広げて物語を読み、想像したことを友達に伝えようとする。

標準的な展開例

01010206_001

【教材名】くじらぐも (下 P. 4～P. 16)

【準備等】挿絵を拡大したもの、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○扉の詩「ともだち」を声に出して読む。 ○目次を見て、今後の学習への見通しをもつ。 <p>2 学習の見通しをもつ。</p> <p>★役に分かれて音読を楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題名や挿絵から想像を広げ、お話に興味をもつ。 ○教師またはCD等による範読を聞く。 ○学習の見通しをもつ。 <p>3 教材文を読み、あらすじを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挿絵の順序を考える。 ○登場人物を考える。 ○子どもたち、くじらぐも、地の文に分かれて、音読をする。 <p>4～6 音読を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが、くじらぐもに出会う場面を音読する。 ○くじらぐもが子どもたちのまねをする場面を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが、くじらぐもに乗ろうとする場面を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> ○くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちになって会話文を書く。 <p>7～8 音読を発表し合い、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○好きな場面を選び、グループで役を決めて音読の練習をする。 ○音読を発表し合い、楽しかったところや互いのよかったところを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館などから、なかがりえこさんの本（ぐりとぐらシリーズ）を用意し、紹介してもよい。 ・「おむすびころりん」「おおきなかぶ」等、これまでに音読を楽しんだ教材を思い出させて、音読を楽しもうと声を掛ける。 【評】あらすじを捉える活動を通して、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。 ・拡大した挿絵をばらばらにしたものを、あらすじに沿って並び替えさせる。 ・誰が話した言葉なのかを確認してから、音読するとよい。 ・動作を交えながら音読させてもよい。 ・子どもたちとくじらぐもの位置関係から、間や声の大きさ、速さなどの変化を考えさせるとよい。 ・「」のところは、様子が分かるように読ませる。 【評】音読の活動を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する「知識・技能」を評価する。 ・30センチ、50センチの高さが実際に分かるようにするとよい。 ・同じ言葉でも回を重ねるごとに大きくするなどの工夫を伝える。 【評】場面の様子を読む活動を通して、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する「思考・判断・表現」を評価する。 ・会話文は「」を使って書くことを伝え、「はます目の右下4分の1の場所、」はます目の左上4分の1の場所に書かせる。 【評】会話文を書く活動を通して、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。 ・教科書（P. 15）の「たいせつ」を確認し、「おもいうかべながら」読むことを確認する。 【評】物語の音読を楽しみ、友達と交流することを通して、想像を広げることのよさに気付こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 くわしく かこう

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、書き表すことができる。
 (3) 知らせたいものを観察し、見付けたことを文章にして伝えようとする。

標準的な展開例

01010207_001

【教材名】しらせたいな、見せたいな

(下 P. 17～P. 20)

【準備等】知多の友、短冊カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「しらせたいな、見せたいな」を読んで、学習の見通しをもつ。 ★学校にいる生き物や見付けたものをよく見て、文に書こう。 ○教科書 (P. 17～20) を読んで、学習の見通しをもつ。 ○家の人に知らせたいことについて、題材集めをする。</p> <p>○カードや文章の書き方を知る。</p> <p>○カードの書き方の練習をする。</p> <p>3～4 知らせたいことを決めて、カードに書く。 ★家の人に知らせたいことを決めて、カードに書こう。 ○集めた題材の中から、何について書くかを決める。 ○知らせたいことをカードに書く。</p> <p>5～8 カードを基にして、文章を書く。 ★家の人に知らせる文章を書こう。 ○見付けたことをどのように文章にするのかを考える。</p> <p>○見付けた一つ一つの事柄を文章にして、短冊カードに書く。</p> <p>○短冊カードに書いたことをどのような順序で文章にするのか考える。 ○考えた順序に沿って、文章を書く。</p> <p>9 書いた文章を声に出して読み返す。 ★書いた文章を見直して、よりよいものにしよう。 ○教科書 (P. 20) を参考にして、書いた文章を読み返し、句読点や助詞の「は」、「を」及び「へ」を正しく使っているか確認する。</p> <p>10 書いた文章を基に、交流する。 ★文章を読み合って、感想を伝え合おう。 ○発表会をする。</p> <p>○家の人に読んでもらい、感想を書いてもらう。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・教科書や知多の友 (P. 26) の挿絵を参考にして題材をいくつか挙げさせ、知多の友 (P. 28～29) に書き込ませる。 【評】題材を集める活動を通して、見付けたことを文章にして伝えようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 30) を利用して、カードに書く練習をし、色・形・様子などを観察して書けばよいことに気付かせる。</p> <p>・教科書 (P. 18) の例を参考にして、知らせたいことを知多の友 (P. 31) のカードに書かせる。 【評】カードに書く活動を通して、経験したことなどから書くことを見付ける「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書の文章 (P. 19) とカード (P. 18) を見比べ、カードに書いた内容を文章にしていくことを知らせる。 ・カードの絵や単語を手がかりにして、短冊カードに一文ずつ書かせる。 ・短冊カードは実態に応じて、まず目付きのものを準備するとよい。 【評】短冊カードを書く活動を通して、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表す「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 19) とカード (P. 18) を見比べて書く順序を考えさせるときの参考にさせる。 ・知多の友 (P. 32～33) に書かせる。 【評】知らせたいものをカードに書く活動を通して、必要な事柄を集めたり確かめたりする「思考・判断・表現」を評価する。 【評】カードに書く活動を通して、助詞やかぎ（「」）、句読点を文や文章の中で正しく使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 34) を見て、句点や文字が正しく書いているかを確認させる。 【評】自分が書いた文章を読み返す活動を通して、間違いを直したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・友達の書いた文章を読み、感想を伝え合い、互いの文章のよいところを認め合うようにさせる。 ・家に持ち帰らせ、知多の友 (P. 35) に家の人からの励ましの言葉や感想を書いてもらうようにする。</p>

○「教科書」(P.20)の「たいせつ」にある，文書を読み返すときの観点を確認し，学習の振り返りをする。

うに依頼する。

【 備 考 】

単元名 まちがいを なおそう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。
 (2) 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正すことができる。
 (3) これまでの学習を生かして文章の文字を見直し、適切な表記に正そうとする。

標準的な展開例

01010208_001

【教材名】まちがいを なおそう (下 P. 21)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「しらせたいな、見せたいな」の学習で、文章を読み返して間違いに気付いた経験や、日常的に文章を読み返す習慣が付いているかを振り返る。 <p>★間違いを見付けて、正しく直そう。</p> <p>2 文章の中から表記の間違いを見付けて直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 (P. 21) の文章例を読み、文字の間違いを直す。 <ul style="list-style-type: none"> 「は」「へ」「を」が出てくる文章を考えて、クイズを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな間違いだったかを発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> 実際に以前に自分の書いた文などを読み返させて間違いを見付けさせてもよい。 <p>【評】間違いを直す活動を通して、表記の間違いを見付けるとともに、学習したことを日常に生かそうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】間違いを直す活動を通して、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正す「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】クイズを出し合う活動を通して、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して、文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 ことばを たのしもう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 言葉遊びを楽しんだり，早口言葉に進んで挑戦したりしようとする。
 (5) 音節と文字の関係や，単語とそれを構成する文字の関係に気付くことができる。

標準的な展開例

01010209_001

【教材名】 ことばを たのしもう (下 P. 88～P. 89)

【準備等】 早口言葉の本

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「ぞうさんのぼうし」を声に出して読む。 ★声をそろえて，はっきり読もう ○教師に続いて読む。</p> <p>○全文を丁寧に視写する。</p> <p>○工夫して音読する。 ・声の大きさを変えて ・声の表情を変えて ・手や足でリズムをとって ・動作化しながら ・読む分担を変えて</p> <p>2 「はやくちことば」を読む。 ○教師に続いて「はやくちことば」を読む。 ○他の早口言葉を見つけて，唱える。</p> <p>○好きな早口言葉を紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タンバリンやカスタネットなどの打楽器でリズムを取り，一文字が一音節に対応することに気付かせる。 ・「ざくろ」や「でんぐりがえり」などの言葉の説明をする。 ・児童の考えた方法で読んでみるとよい。 ・音読の仕方を工夫しながら何度も読ませたい <ul style="list-style-type: none"> ・調子よくはっきりと読むことを意識させる。 ・あらかじめ教師が早口言葉の本を準備しておく ・児童が紹介した早口言葉をみんなで唱えて楽しむようにする。 ・「早口言葉大会」を開くのもよい。 <p>【評】言葉遊び歌や早口言葉を唱える活動を通して，「関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>【評】言葉遊びや早口言葉を唱える活動を通して，音節と文字の関係に気付く「言語事項」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元では言葉遊び歌や早口言葉を声に出して楽しむ。言葉の響きのおもしろさや発音上のおもしろさを楽しみながら，濁音・半濁音などの言語事項を復習できる。早口言葉は早く唱えるだけでなく，リズムに合わせて，はっきりと唱えるように働きかけ，言葉を大切にしながら楽しく学習できるようにしたい。また大きな声ではっきりと読んだり，友達の読みを聞いたりする活動が次単元「ふたりで かんがえよう」の「話す・聞く」活動に生かされるようにしたい。

単元名 かん字の はなし

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
 (3) 漢字の成り立ちに興味をもち、漢字を使った短い文を書こうとする。

標準的な展開例

01010210_001

【教材名】かん字の はなし (下 P.24～P.27)

【準備等】絵文字カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 教材文を読み、漢字の成り立ちを知る。 ★漢字を覚えて、楽しく使おう。 ○教科書(P.24～25)の教材文を読み、絵からできた漢字について読み取る。 ○絵と漢字を見比べ、絵から漢字ができていることを理解する。</p> <p>3～4 漢字の書き順を理解して、練習する。 ○「山」について正しい筆順を知る。 ○1画ずつ書く。 ○他の漢字も同様に書く。 ○絵を漢字に直して、ノートに書く。 ○筆順リレーをして、学習した漢字を書く。</p> <p>5～6 習った漢字で短文を作り、読んだり書いたりする。 ○教科書(P.26～27)の絵を言葉に直しながら、声に出して読む。 ○教科書(P.26～27)の絵を言葉に直して、文を視写する ○絵文字カードを見て、文作りをする。 ○作った文を発表し、みんなで読み、学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に絵文字カードを貼り、それぞれどう読むかを予想させる。 ・表意文字であることを意識させる。 <p>【評】絵と漢字を対応させる活動を通して、漢字の成り立ちに興味をもつ「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1画ずつ「1, 2, . . .」と声に出しながら、児童と一緒に空書きをする。 ・色チョークで、1画ずつ色を変えながら、板書する。その際に、1画目の色は赤、2画目の色は青等、常に同じ色を使用するようにする。 ・書く順番に色を決めて並ばせ、黒板に1画ずつ書くリレーを行わせる。 <p>【評】視写する活動を通して、第1学年に配当されている漢字を読み書きし、文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習った漢字の絵文字カードを用意しておき、絵を見ながら文作りをさせる。 <p>【評】文作りの活動を通して、語と語の続き方に注意しながら書く「思考・判断・表現」と漢字を使った短い文を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 せつめいする 文しょうを よもう

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
 (2) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
 (3) 文章を読み、説明における順序の重要性を知ること、自分が説明するときに生かしたいことを見付けようとする。

標準的な展開例

01010211_001

【教材名】じどう車くらべ (下 P. 28～P. 32)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★それぞれの車の「しごと」と「つくり」を読もう。 ○自動車について知っていることを発表する。</p> <p>○教師またはCDによる範読を聞き、学習のめあてをつかむ。</p> <p>2～5 「しごと」と「つくり」を確かめながら、教材文を読む。</p> <p>○「問い」と「答え」の構成に気付く。</p> <p>○「バスやじょうよう車」の「しごと」と「つくり」を書き出す。 ○「トラック」の「しごと」と「つくり」を書き出す。 ○「クレーン車」の「しごと」と「つくり」を書き出す。</p> <p>○三つの車を比べ、自動車のつくりの違いは仕事の違いによることを知る。</p> <p>6～7 説明の仕方について確かめる。 ○身近な自動車から順に登場していたことを押さえる。</p> <p>○はしご車の「しごと」とそのための「つくり」についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知っていること、経験したことなどを自由に発表させて、学習の意欲化を図る。 ・いろいろな車の仕事とつくりがどんなふうで紹介されているか考えながら、読み進めていくことを確認する。 ・教科書(P. 32)を参考にして、「しごと」と「つくり」を書き、「そのために」がつかないであることを知らせる。 ・「問い」の文を確認する。 ・三つの事例が書かれていることを押さえ、「問い」と「答え」の関係を確認する。 ・ワークシートを準備しておくといいが、ノートに書いてもよい。 <p>【評】各事例を読む活動を通して、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】構造を捉えて読む活動を通して、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】教材文を読む活動を通して、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】説明の仕方について確かめる活動を通して、順序の重要性を知り、自分が説明するときに生かしたいことを見付けようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・次時では、クラスで「じどう車ずかん」を作することを伝え、活動意欲につなげる。</p>

【 備 考 】

単元名 せつめいする 文しょうを かこう

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
(2) 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。
(3) 分かりやすい説明の仕方について興味をもち、説明の順序に気を付けながら、自動車図鑑を作ろうとする。

標準的な展開例

01010212_001

【教材名】 じどう車ずかんを つくろう (下 P. 33～P. 35)

【準備等】 紹介カードの用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★自動車図鑑を作ろう。 ○「じどう車くらべ」の学びを思い出す。</p> <p>○一人一人が自動車紹介カードを書き、クラスでまとめて自動車図鑑を作ろうという課題を確認する。</p> <p>2～4 自動車紹介カードを作る。 ○紹介したい自動車を選ぶ。</p> <p>○説明の観点に着目しながら、「しごと」と「つくり」を書く。</p> <p>○カードに文章を清書し、絵や写真を添える。</p> <p>5 カードを交換して読み、学習を振り返る。 ○友達の作ったカードを読み、感想を伝え合う。</p>	<p>・「しごと」と「つくり」が「そのために」でつながれていたことを確認する。</p> <p>・学校図書館だけでなく、市町の図書館の団体貸し出しを利用するとよい。また、事前に児童に呼びかけ、家庭から持ってくるようにするとよい。</p> <p>・ワークシートやノートに書かせる。 【評】自動車紹介カードを書く活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・句読点や文字が正しく書けているか、「しごと」や「つくり」が書かれているかを確認してから清書させる。 【評】自動車紹介カードを書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・教科書 (P. 35) の「たいせつ」を確認して振り返らせる。</p>

【 備 考 】

単元名 かたかなを かこう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。
(2) 語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。
(3) 片仮名の表記の仕方に気を付けながら、文の中で使おうとする。

標準的な展開例

01010213_001

【教材名】かたかなを かこう (下 P. 36～P. 37)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書 (P. 36～37) にある語を視写する。 ★片仮名を使って、文を書こう。 ○教科書 (P. 36～37) の語を声に出して読む。 ○長音の表し方を知り、視写する。</p> <p>○促音や発音の表し方を知り、視写する。</p> <p>2 片仮名で表記する語を集め、短文を作る。</p> <p>○身の回りにある片仮名で表記されている語を集める。</p> <p>○片仮名の語を使って、短文を作る。</p> <p>○作った短文を友達と交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆順や字形に注意して書かせる。 ・平仮名と片仮名では長音の表し方が異なることを押さえる。 ・平仮名と同様に、小さい文字を書く場所にも注意させる。 <p>【評】短文作りを通して、語と語との続き方に注意しながら書き表し方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の中にある物の中から探させたり、本や図鑑、子ども向けの新聞等を準備しておいたりするとよい。 ・発表させて板書した後、ノートに書かせてもよい。 ・例文をいくつか示しておくとうい。 ・文末には句点を付けることを確認しておく。 <p>【評】片仮名を使って短文作りをする活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流することで、正しく書けたかどうか確かめさせる。

【 備 考 】

単元名 きいて しらせよう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
- (3) 紹介するという見通しをもって友達に質問し、友達について書こうとする。

標準的な展開例

01010214_001

【教材名】ともだちの こと、しらせよう

(下 P. 38～P. 41)

【準備等】紹介文の用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★友達のことを紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師がインタビューする様子を見る。 <p>○教師による紹介を聞く。</p> <p>2 音声CDを聞いて、尋ね方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書 (P. 39) を読んで、インタビューの仕方を理解する。 ○CDを聞いて、インタビューのイメージをつかむ。 ○メモの書き方を知る。 <p>3 友達に質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ペアにインタビューする。 <p>4～5 友達から聞いたことを文に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書 (P. 40) を読んで、紹介文の書き方を理解する。 <p>6 書いた文章を読み合い、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書 (P. 41) の「たいせつ」を読み、交流の観点を確認する。 ○友達にインタビューしたとき、それを文章にしたとき、文章を読み合ったときの学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が児童にインタビューし、質問と応答のやりとりを見せて、イメージをつかませる。 ・児童が答えたことを板書する。 ・児童にインタビューしたことを、紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことを聞いていたのか、質問の内容を板書する。 ・クラスの実態に合わせて、メモを書くワークシートなどを用意してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 (P. 39) の「たいせつ」で友達の話聞くときに気を付けることを確認する。 ・インタビューしたことをノートやワークシートにメモさせる。 <p>【評】インタビューの活動を通して、伝え合うために必要な事柄を選び、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないようにして集中して聞く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】インタビューの活動を通して、紹介するという見通しをもち、友達に質問し、友達について書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改行の仕方や句読点の打ち方を確認する。 <p>【評】紹介文を書く活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やして使うとともに、意味による語句のまとまりがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】紹介文を書く活動を通して、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】文章を読み合う活動を通して、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 本は ともだち

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。
 (2) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。
 (3) 世界の昔話を読み、感想をカードに書いて伝えようとする。

標準的な展開例

01010215_001

【教材名】むかしばなしを よもう／おかゆの おなべ (下 P. 42～P. 55)

【準備等】おはなしカード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★いろいろな昔話を読んで、友達に知らせよう。 ○教科書 (P. 42～43) を見て、知っている昔話について発表し合う。</p> <p>2～3 カードの書き方を学習する。 ○「おかゆの おなべ」を読む。 ○お話の好きなところやおもしろかったところなどを伝え合う。 ○教科書 (P. 55) 参考に、カードの書き方を確認する。</p> <p>4～5 読みたい昔話を選んで読み、カードに書く。 ○読みたい昔話を選んで読む。 ○読んだ昔話の内容を、おはなしカードに書く。</p> <p>6～8 カードを読んで感想を伝え合い、学習を振り返る。 ○おはなしカードを読み合い、さらに昔話を読んだり、おはなしカードに対する感想を書いたりする。 ○学んだことや感じたことを振り返る。</p>	<p>・図書館から本を持ってきて、ブックトークを行ってもよい。 ・読んだことのある児童に簡単なあらすじを話させる。</p> <p>・題名と登場人物、好きなところやおもしろかったところ、自分の名前を書くことを確認する。 【評】本を読む活動を通して、読書に親しみ、いろいろな本があることを知る「知識・技能」を評価する。 ・学校図書館だけでなく、市町の図書館の団体貸し出しを利用するとよい。 【評】昔話を読む活動を通して、世界の昔話を読んで、感想をカードに書いて伝えようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】おはなしカードを書く活動を通して、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。 【評】おはなしカードを読み合う活動を通して文章を読んで感じたことや分かったことを共有する「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 ことばって、おもしろいな

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付くことができる。
(2) 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。
(3) 言葉の上位語と下位語に関心をもち、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとする。

標準的な展開例

01010216_001

【教材名】ものの 名まえ (下 P. 56～P. 61)

【準備等】おみせやさんごっこで使うものの材料

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★お店やさんごっこをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○買い物をしたときの経験を出し合い、店での言葉のやりとりに関心をもつ。 ○教科書 (P. 60～61) を見て、お店やさんごっこのイメージをもつ。 <p>2～3 「ものの 名まえ」を読み、一つ一つの名前（下位語）とまとめた名前（上位語）があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材文に出てくる物の名前を上位語と下位語に整理してノートに書く。 ○身の回りの物の名前を集め、上位語と下位語に分けてまとめる。 <p>○集めた言葉を発表し合う。</p> <p>4～5 お店やさんごっこの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○店で売る品物の、絵と名前をカードに書き、店の看板を作る。 ○お店を宣伝するちらしを作る。 <p>6 お店やさんごっこをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「お店の人」と「お客さん」に分かれて、言葉のやり取りを楽しむ。 <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・くだものと、魚以外のものも集める。</p> <p>【評】物の名前を集めて上位語と下位語に分ける活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】お店やさんごっこの準備を通して、言葉を集めてお店やさんごっこをしようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】お店やさんごっこの活動を通して、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 きいて たのしもう

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。
(2) 文章を読んで感じたことを共有することができる。
(3) 昔話の読み聞かせを楽しみ、内容や感想を共有しようとする。

標準的な展開例

01010217_001

【教材名】 わらしべちょうじゃ (下 P. 62～P. 63)

【準備等】 挿絵を拡大したもの

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「わらしべちょうじゃ」の読み聞かせを聞く。</p> <p>★昔話を楽しもう。</p> <p>○挿絵を見て、どんなお話か想像する。</p> <p>○挿絵を見ながらお話を聞く。</p> <p>○おもしろかったところや気に入ったところについて、友達と感想を伝え合う。</p> <p>○教科書 (P. 126) を参考に、お話の楽しみ方について話し、もう一度お話を楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 (P. 62～63) の6枚の挿絵を見て、出会う人物や、物に着目させる。 教師は、あらかじめCDを聞き、発音や間の取り方を確かめておく。 挿絵を拡大したものを準備し、読んでいる場面を指し示すようにする。 【評】読み聞かせを聞く活動を通して、我が国の伝統的な言語文化に親しむ「知識・技能」を評価する。 疑問に思ったところや分からなかったところなど、あいまいな場面でもよいことにする。 隣の席の友達と対話をしてから、クラス全体で感想の交流を行うとよい。 【評】感想を交流する活動を通して、文章を読んで感じたことを共有する「思考・判断・表現」を評価する。 【評】昔話を読み、感想を交流する活動を通して、昔話の読み聞かせを楽しみ、内容や感想を共有しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 友達の発表したおもしろかったところやよく分からなかったところを、今度はよく聞いてみようとする観点を示す。 教科書 (P. 126～129) を自分で読んだり、友達と読み合ったりしてもよい。

【 備 考 】

単元名 日づけと よう日

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
 (3) 日付や曜日を表す言葉に関心をもち、自分でも唱歌を作ろうとする。

標準的な展開例

01010218_001

【教材名】日づけと よう日 (下 P.64～P.65)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 日付の読み方を知り、日付歌を唱える。 ★日付や曜日の読み方を知ろう。 ○日付歌を正確に唱える。 ○漢数字と日付の読み方を比べて、読み方の違いを知る。 ○自分の誕生日の言い方を発表する。 2 曜日の読み方を知り、曜日歌を唱える。 ○曜日歌を正確に唱える。 ○曜日歌をノートに書く。 3 自分の日付歌、曜日歌を作って発表する。 ○日付歌、曜日歌のどちらかを選び、漢字を正しく使って歌を作る。 ○自分の作った歌を発表し合う。	・リズムに合わせて唱えるとよい。 ・できれば暗唱できるまで読ませるとよい。 ・必要な場合は挿絵の説明をする。 ・同じ読み方と違う読み方があることに気付かせる。 ・追い読み、交替読みなど、いろいろな音読の方法で、繰り返し読むようにする。 ・曜日歌の挿絵を描かせてもよい。 【評】自分の日付歌や曜日歌を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・全て作るのではなく、難しい場合は教科書の文をそのまま使ってもよいことを知らせる。 【評】日付歌や曜日歌を作る活動を通して、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。 【評】日付歌や曜日歌を作る活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 てがみを かこう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。
 (2) 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して手紙を書き、文章を読み返して正しくすることができる。
 (3) 書いた文章を見直して、身近な人に手紙を書こうとする。

標準的な展開例

01010219_001

【教材名】 てがみで しらせよう (下 P. 66～P. 67)

【準備等】 知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★うれしかったことや楽しかったことを手紙に書いて伝えよう。 ○手紙を書いたり、もらったりした経験を発表し合う。 ○教科書 (P. 66) 「たかしおじさんへの手紙」を読み、気付いたことを発表する。 ○学習の進め方を確認する。</p> <p>2～3 誰に、どんなことを知らせたいか考える。 ★手紙の相手と内容を考えよう。 ○うれしかったことや楽しかったことを考える。 ○知多の友 (P. 39) に、手紙を出したい相手と伝えたい内容を書き出す。 ○グループで読み合い、手紙の相手と内容についてアドバイスし合う。 ○どんな手紙にするか決める。</p> <p>4～5 題材を選び、出来事や自分の気持ちが伝わるように手紙を書く。 ★伝えたいことを分かりやすく手紙に書こう。 ○教科書 (P. 67) 「さかもとせんせいへの手紙」を読み、手紙の書き方について知る。 ○知多の友 (P. 41～43) に手紙を書く。</p> <p>○書いた文章を読み返し、正しく書けたか確かめたり、直したりする。</p> <p>6 友達と読み合って、よいところを伝え合う。 ★手紙を読み合って、よいところを伝え合おう。 ○書いた手紙をグループの友達と読み合う。 ○手紙を読んでよかったところを伝え合う。</p> <p>○教科書 (P. 67) 「たいせつ」にあることがしっかりと書くことができたかを確かめ、学習の振り返りをする。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・児童が書いた手紙や、教師の手紙を例文として挙げてよい。</p> <p>・敬体で書かれていることを押さえる。 【評】敬体で書かれた手紙を読んで考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 38) を活用する。 ・知多の友 (P. 39) を活用する。</p> <p>【評】最近の出来事から手紙で伝えたいことを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】手紙を書く活動を通して、書いた文章を見直ししながら、手紙を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 41～43) を活用する。 ・書けた児童には読み直しをさせる。間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりして、読み手に分かりやすい文になっているか確認させる。 【評】手紙を書く活動を通して、語と語や文と文との続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 45) を活用し、読み返す際の観点を示す。 【評】書いた文章を読み返す活動を通して、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】手紙を読み合い、よいところを伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 つづけよう③

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
 (3) 詩の内容を捉えて、音読を楽しんだり、言葉遊びを楽しんだりしようとする。

標準的な展開例

01010301_001

【教材名】 こえに 出して よもう／ききたいな、ともだちの はなし／たのしいな、ことばあそび
 (下 P. 68～P. 73)

【準備等】 「のはらうた」などの詩集、拡大した挿絵

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 作者の気持ちを想像しながら詩を音読する。 ★作者になりきって、詩を読もう。 ○題名や挿絵を基に、詩の内容を想像する。</p> <p>○音読する。</p> <p>○かたつむりやこぐまの思いを想像して話し合う。</p> <p>○話し合ったことを基に、音読の仕方を工夫して読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を開かず、拡大した挿絵を見せるとよい。 繰り返し音読できるよう、分担を変えて音読させるとよい。 詩を読んで感じたことや気付いたことなどを自由に発言させる。 【評】 思いを想像して話し合う活動を通して、場面の様子など内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する 話しかけるように読んだり、動作化して読んだりして、いろいろな読み方を楽しめるようにする。 【評】 詩を音読する活動を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する「知識・技能」を評価する。
<p>2 お気に入りの詩を音読する。 ○お気に入りの詩を選び、音読の仕方を考える。</p> <p>○発表する。</p> <p>○よかったところを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> クラスの実態に応じてグループの発表でもよい。 教科書 (P. 69) の「この本、よもう」の「のはらうた I」の詩集などを用意しておくとうい。 よかったところを交流することをあらかじめ伝えるなど、聞く観点を示しておく。 【評】 詩の音読発表を通して、音読を楽しもうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 実態に応じて、伝え方の話形を掲示するとよい。
<p>3～4 好きな本を紹介する。 ★好きなお話を伝え合おう。 ○教師のお手本を聞き、学習の見通しをもつ。</p> <p>○紹介する本を選ぶ。</p> <p>○教科書 (P. 70～71) を参考に、発表の仕方と質問の仕方答え方を知る。</p> <p>○グループで本を紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 題名、登場人物、おもしろいところを紹介する。 今後も読めるように、紹介する本は学校図書館から探すとよい。 だれが、どこで、いつ、どうしてなど質問の例を板書しておく。 【評】 発表の仕方を考える活動を通して、伝え合うために必要な事柄を選ぶ「思考・判断・表現」を評価する。 グループは、3～5人にするとうい。 実際に本を持たせて紹介させてもよい。 【評】 本を紹介し合う活動を通して、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 本の紹介を通して、友達の話の聞き、質問や感想を述べようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】 本を紹介する活動を通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。
<p>5 言葉遊びの仕組みを理解する。 ★言葉遊びをしよう。 ○教科書 (P. 72) を見て、言葉遊びの仕方を理解し、ノートに書く。 ○教科書 (P. 73) の「へんしんさせましょう。」をノート</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「上に」「あいだに」「下に」の意味を確認する。 必要に応じて、挿絵の言葉を確認する。 教科書 (P. 72) を参考にしておき。 【評】 言葉集めをする活動を通して、身近なこ

<p>に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書（P.73）の「こんな　へんしんにも　ちょうせんして　みましょう。」を見て，二字増やしたり濁点を付けたりして変身する言葉を集める。 <p>6 問題を作って出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分で言葉遊びのルールを決め，問題を作る。 ○問題を出し合う。 	<p>とを表す語句の量を増やし，語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に問題の例を教師が示すとよい。 <p>【評】問題を出し合う活動を通して，言葉遊びを楽しもうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
--	--

【 備 考 】

単元名 すきな ところを 見つけよう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
 (2) 場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、内容の大体を捉えることができる。
 (3) 場面の様子に着目し、好きな場面を音読しようとする。

標準的な展開例

01010302_001

【教材名】 たぬきの 糸車 (下 P.74～P.85)

【準備等】 すきなところカード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 「たぬきの糸車」を読んで、学習の見通しをもつ。 ★好きなところを見付けて、みんなに知らせよう。 ○教師の範読を聞いて、あらすじをつかむ。</p> <p>○学習の見通しをもつ。 ○好きなところを見付け、文章に線を引く。</p> <p>2～5 みんなの「すきなところ」のおもしろさを伝え合う。 ○全文を場面に分ける。</p> <p>○場面ごとに、「たぬきがしたこと」と「おかみさんがおもったこと」を考える。</p> <p>6 「すきなところ」カードを作る。 ○改めて好きなところを選び、カードに文を写す。 ○裏に絵を描いてカードを仕上げる。</p> <p>7～8 カードをつなげて紹介する。 ○グループの中で、お話の筋が通るように、カードの順番を決める。 ○自分が選んだ文を読む練習をする。</p> <p>○グループごとに紙芝居風に発表する。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・挿絵を手がかりにして、文章の大体を捉えさせる。</p> <p>・教科書の六つの挿絵と、文章を照らし合わせ場面の番号を書かせる。 ・「たぬきがしたこと」を整理し、「おかみさん」の心情の変化に着目させる。 ・なぜ登場人物がそのような行動をとったのかも想像させる。 【評】場面ごとに読み取る活動を通して、場面の様子や登場人物の行動など内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・文に合うような絵を描かせる。</p> <p>・グループは、4～6人で構成する。</p> <p>・グループ内で音読を聞き、助言し合うようにさせる。 ・会話だけでなく、「キークルクル」「くるりくるり」「びよんぴよこ」などの擬声語や擬態語にも着目して読ませる。 ・声の大きさや読む速さを考えて練習させる。</p> <p>【評】音読を練習する活動を通して、場面の様子に着目して、好きな場面を音読しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】「すきなところ」カードを発表する活動を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P.84)の「たいせつ」で、お話にはまとまりがあることを確認する。</p>

【 備 考 】

単元名 かたかなの かたち

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
 (3) 形の似ている字を探し、片仮名の言葉を使った文を書こうとする。

標準的な展開例

01010303_001

【教材名】かたかなの かたち (下 P. 86～P. 87)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 平仮名と片仮名の形を比べたり、形に注意して片仮名を書いたりする。 ★形に気を付けて、片仮名を書こう。 ○教科書 (P. 86) の形の似ている平仮名と片仮名や、片仮名と片仮名を比べて、相違点を発表する。 ○教科書 (P. 130～131) の「かたかなとひらがな」を見て形の似ている字を探す。</p> <p>○相違点に注意しながら、形の似ている片仮名を書く。</p> <p>3 教科書 (P. 87) の片仮名の語句を使って文を作る。</p> <p>○教科書 (P. 87) の片仮名を声に出して読み、ノートに書く。 ○教科書の語句を使って、短文を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・直線と曲線、止め、はらいなどの違いに着目させる。 ・一字ずつ声に出して読み、形は似ているが違う文字であることを認識させる。 【評】形の似ている字を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・相違点を確認しながら、一字一字丁寧にノートに書かせる。 ・書き順や運筆にも注意して練習させる。 【評】片仮名の語句を使って文を作る活動を通して、片仮名を文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。 ・長音、拗音の書き方に注意させる。 ・文の中で片仮名を使う練習をして、習熟を図る。 ・身の回りにある片仮名を見付けさせ、見付けた片仮名を使って文を書かせるのもよい。 ・時間があれば、作った短文を発表し合うのもよい。 【評】短文作りの活動を通して、片仮名の言葉を使って文を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】短文作りの活動を通して、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 ことばを 見つけよう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
(2) 語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
(3) 身近なことを表す語句を使った文を書き、語彙を豊かにしようとする。

標準的な展開例

01010304_001

【教材名】 ことばを 見つけよう (下 P.88～P.91)

【準備等】 クイズカード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 言葉遊びの意味を理解し、□の中の言葉を考える。 ★言葉クイズを作って、みんなで解き合おう。 ○「かばんの 中には、かばが いる。」の意味を理解する。 ○教科書 (P.88) の□に、言葉を入れる。 ○「みかんの 中には、かんが ある。」の意味を理解する。 ○教科書 (P.89) の□に、言葉を入れる。</p> <p>3～5 「ことばクイズ」を作る。 ○教科書 (P.90～P.91) を見て、「ことばクイズ」の作り方を知る。 ○グループで相談して、「ことばクイズ」カードを作る。</p> <p>6 クイズ大会をする。 ○クイズを出し合う。 ○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「かばん」の中に「かば」という言葉が隠れていることを理解させる。 ・「はちまき」の「はち」の部分をまるで囲ませてから□に書かせるとよい。 ・「いる。」と「ある。」の使い方の違いに気付かせる。 ・「ある。」は、物が主語になることを確認する。 <p>【評】言葉遊びの活動を通して、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すいとう」の「いと」の部分をまるで囲ませてから□に書かせるとよい。 ・() の言葉の中に隠れている□の言葉を考える。 ・「いる」「ある」の使い分けに注意させる。 ・必要に応じてワークシートを用意しておくとうよい。 <p>【評】クイズ作りを通して、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】クイズ作りの活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】「ことばクイズ」を作る活動を通して、身近なことを表す語句を使った文を書き、語彙を豊かにしようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにブースを作るとよい。 ・作った文を発表させ、みんなで声に出して読ませる。

【 備 考 】

単元名 くらべて よもう

配当時間 10時間

単元の目標 (1) 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
 (2) 文章の中で重要な語や文を考えて選び出すとともに, 内容の大体を捉えることができる。
 (3) 文章の内容を比べながら読むことで, 本から得たことを友達に知らせようとする。

標準的な展開例

01010305_001

【教材名】 どうぶつの 赤ちゃん (下 P. 92～P. 101)

【準備等】 ワークシート, 動物の赤ちゃんについて調べることができる本

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★動物の赤ちゃんについて書かれていることを比べながら読もう。 ○いろいろな動物の赤ちゃんの写真を見て, 動物の赤ちゃんへの興味・関心をもつ。 ○動物の赤ちゃんについて知っていることを発表する。 ○学習課題を確認する。</p> <p>2 教師の範読を聞く。 ○初めて知ったことや不思議に思ったことを話し合う。</p> <p>3～6 「ライオンの赤ちゃん」と「しまうまの赤ちゃん」の様子や成長を比べながら読み取る。 ○問いの文を確認する。 ○ライオンの赤ちゃんの様子を読み取る。 ・生まれたばかりの様子 ・大きくなっていく様子 ○しまうまの赤ちゃんの様子を読み取る。 ・生まれたばかりの様子 ・大きくなっていく様子 ○ライオンとしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子や, 大きくなっていく様子を比べ, 違いを発表する。</p> <p>7～10 他の動物の赤ちゃんについても比べる。 ○教科書 (P. 100～101) の「もっと よもう」を読む。 ○ライオン, しまうまとの違いを読み取る。 ○その他の赤ちゃんについての本を読む。 ○分かったことや感想を書く。 ○感想を交流し, 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知っていたことと初めて知ったことを分けて発表させる。 ・感想を整理しながら板書し, 動物の赤ちゃんの成長の違いに気付かせる。 ・ライオンとしまうまの違いについて読み取ることができるように, 違いを書き込めるワークシートを用意する。 ・「じどう車くらべ」と同様に, 二つの問いの文があることを確認する。 ・「大きさ」「目や耳の様子」「お母さんに似ているか」「歩き方」「えさの取り方」等の共通した観点で読み取らせ, 違いをつかませる。 <p>【評】動物の赤ちゃんの様子を読み取る活動を通して, 文章の中の重要な語や文を考えて選び出す「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】比べて読む活動を通して, 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】比べて読む活動を通して, 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライオンやしまうまと同様に, ワークシートにまとめるとよい。 ・教科書 (P. 99) の本などを参考に, 動物の赤ちゃんについて書かれた本をあらかじめ用意しておく。 <p>【評】動物に関する本を読む活動を通して, 読書に親しみ, いろいろな本があることを知る「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】本を読んで分かったことを知らせる活動から, 本から得たことを友達に知らせようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 (P. 99) の「たいせつ」を確認してまとめる。 <p>【評】感想を交流する活動を通して, 文章を読んで感じたことや分かったことを共有する「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 ふたりで かんがえよう

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
 (2) 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。
 (3) 二人で話し合い、協力してクイズを作ろうとする。

標準的な展開例

01010306_001

【教材名】これは、なんでしょう (下 P.102～P.105)

【準備等】話すポイント・聞くポイント(掲示用)、指導書付録CD

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★二人で問題を考えて、クイズ大会をしよう。 ○教師の出したクイズで遊ぶ。</p> <p>○クイズ大会を開くことを知る。 ○教材文を読んで問題の作り方を理解し、クラスでクイズの問題作りをする。</p> <p>2 ペアでクイズの問題を考える。 ○クイズの答えになるものを出し合う。 ・学用品 ・乗り物 ・動物 等 ○問題の答えになるものの特徴をノートに書く。</p> <p>3 問題の出し方を話し合う。 ○CDを聞き、問題の出し方を確かめ、話し合いの仕方を学ぶ。 ○書き出したヒントをどのような順番で言うのかを決め、練習する。</p> <p>4 クイズ大会をする。 ○クイズ大会のルールを確認する。 ・聞く態度 ・質問の仕方 ・ヒントの出し方 ・質問の数やヒントの数 ○クイズ大会をする。</p> <p>○クイズ大会の感想を伝え合い、学習のまとめをする。</p>	<p>・あらかじめ、身の回りの持ち物や人物、動物などで数種類のクイズの問題を作っておく。</p> <p>・答えの出にくい問題も作っておき、児童から質問を出させる。</p> <p>・色や形、働き、様子などをヒントにするとよいことに気付かせる。 ・クラスで作った問題を当てはめて、出題の練習をさせるとよい。 【評】問題の作り方を学習する活動を通して、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・特徴を三つ程度出させ、ヒントにするよう助言する。 【評】クイズの問題を作る活動を通して、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・はっきりと大きな声で、聞く人の方を見て発表できるように練習させる。 ・話すときのポイントを掲示しておく。 ・早くできたペアは、二問目、三問目を作らせる。 【評】クイズ作りの活動を通して、二人で話し合い、協力してクイズを作ろうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・聞くときのポイントを提示し、話すポイントとともに掲示する。</p> <p>・グループでできるように、教室をいくつかのコーナーに分けてもよい。 【評】クイズ大会の活動を通して、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐ「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書(P.104)の「たいせつ」を確認し、まとめる。 ・継続学習として、朝の会などでクイズを取り上げていくとよい。</p>

【 備 考 】

単元名 よんで かんじた ことを はなそう

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。
 (3) 友達の考えや感想を知ろうとし、読んで感じたことを伝え合おうとする。

標準的な展開例

01010307_001

【教材名】ずうっと、ずっと、大すきだよ

(下 P.106～P.117)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★お話を読んで感じたことを話そう。 ○ペットを飼っている児童に、ペットとの関わりを紹介してもらおう。 ○学習課題を確認する。</p> <p>2 お話を読んで感想を伝え合う。 ○教師の範読を聞く。</p> <p>○「いいな」「すきだな」「どうしてかな」など、心に残ったところを出し合う。 ○出し合った感想を基に、みんなで話し合いたいことを決め、これからの学習計画を立てる。</p> <p>3～4 話のあらましをつかむ。 ○エルフがどんな風が変わっていったかを確かめる。</p> <p>○主人公の「ぼく」が、エルフのことが大好きだと分かるところを見付ける。</p> <p>5～7 話し合いたいことについて、考えを出し合う。 ○学習計画に沿って話し合う。 (例) エルフが「せかいでいちばんすばらしい犬なのはどんなところでしょう。」 (例) 「ぼくは、なぜとなりの子にバスケットをあげたのでしょうか。」</p> <p>8 学習を振り返る。 ○教科書 (P.117) の「たいせつ」を確認して、学習を振り返る。</p>	<p>・教科書 (P.117) 「やくす」「やくしゃ」について知らせる。 ・心に残ったところに線を引かせてもよい。</p> <p>【評】 感想を話し合う活動を通して、読んで感じたことを伝え合おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・挿絵をもとに考えさせるとよい。 【評】 話のあらましをつかむ活動を通して、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 話のあらましをつかむ活動を通して、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・第2時にみんなで決めた話し合いたいことについて考えを出させる。 【評】 話し合い活動を通して、文章を読んで感じたことや分かったことを共有する「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 話し合い活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>・今後の読書生活に生かしていくとよい。</p>

【 備 考 】

単元名 にて いる かん字

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
 (3) 漢字の形に注意し、楽しみながら文を書こうとする。

標準的な展開例

01010308_001

【教材名】にて いる かん字 (下 P.118～P.119)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 似ている漢字に気を付けて、文を書く。 ★漢字の形や書き順に気を付けて書こう。 ○教科書(P.118)にある漢字を見比べて、似ているところと違うところを発表する。</p> <p>○似ているところと違うところに気を付けて、ノートに例文を視写する。 ○教科書(P.119)にある漢字を、書き順に気を付けて書く。 ○書き順に気を付けながら例文を視写する。</p> <p>3 教科書にある漢字を使って、文を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の例文を音読し、形は似ているが、読み方と意味が異なることを意識させる。 ・似ている漢字を並べて板書し、違う部分を色分けするなどして、違いを視覚的に捉えさせる。 ・教科書を見ながら一文字ずつ丁寧に書かせ、定着を図る。 <p>【評】漢字を読み書きする活動を通して、形や筆順に気を付けて書く「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】文を作る活動を通して、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】文を作る活動を通して、楽しみながら文を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 おもい出して かこう

配当時間 10時間

単元の目標 (1) 言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
 (2) 自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。
 (3) 事柄の順序に沿って構成を考えながら、1年生の思い出を伝える文章を書こうとする。

標準的な展開例

01010309_001

【教材名】 いい こと いっぱい、1年生

(下 P. 120～P. 123)

【準備等】 知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「いい こと いっぱい、1年生」を読み、学習の見通しをもつ。 ★ 1年生の「おもい出アルバム」を作ろう。 ○ 写真やアルバムを見ながら1年間の振り返り、心に残っていることを話し合う。 ○ 教材文を読み、学習の進め方を確認する。</p> <p>2～4 1年間の出来事を振り返り、メモを書く。 ★ 書きたいことを選んで、メモしよう。 ○ 教科書(P. 121)を参考に、「がんばったこと」「できるようになったこと」などの観点から思い出す。</p> <p>○ 写真や絵を見たり、家の人に聞いたりする。</p> <p>5～9 メモを基にして文章を書く。 ★ 伝えたいことを分かりやすく書こう。 ○ 教科書(P. 122)「がんばった玉入れ」を読み、書き方について考える。</p> <p>○ 「 」の使い方を理解し、練習する。 ○ 順番を考えながら、文章を書く。 ○ 絵を描いたり、写真を貼ったりする。 ○ 書いた文章を読み返し、句読点や文字の間違いを直す。</p> <p>○ 清書して、カードを時間的な順序に並べ、表紙を付けてアルバムを完成させる。</p> <p>10 友達と読み合って、よいところを伝え合う。 ★ アルバムを読み合ってよいところを伝え合おう。 ○ アルバムをグループの友達と読み合う。 ○ よかったところや感想を交流する。 ○ 教科書(P. 123)の「たいせつ」にある内容をしっかり書くことができたか確かめ、学習の振り返りをする。</p>	<p>・ 本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・ 絵を描いたり、写真を貼ったりして書くことを知らせる。</p> <p>・ 知多の友(P. 47)を活用する。 【評】出来事を思い出す活動を通して、経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。 【評】1年間の出来事について思い出す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 知多の友(P. 48)を使って、ます目の中における「 」を書く位置や、前後の改行の仕方などを丁寧に指導する。 ・ 知多の友(P. 48～49)を活用する。 ・ 知多の友(P. 50, 52)を活用する。 ・ 書いた児童には読み直しをさせる。間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりして、読み手に分かりやすい文になっているか確認させる。 ・ 知多の友(P. 54)で、読み返す観点を示す。</p> <p>【評】文章を書く活動を通して、自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 知多の友(P. 51, 53)を活用する。 【評】手紙を清書する活動を通して、句読点や「 」を文中で正しく使う「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 オリエンテーション

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。
 (2) 自分が聞きたいことを落とさずに集中して聞くことができる。
 (3) 自分が聞きたいことを集中して聞き、声を掛け合おうとする。

基本的な展開例

02010101_001

【教材名】じゅんばんに ならぼう／つづけて みよう (上 P.1～P.12)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 2年生の国語の学習に見通しをもつ。</p> <p>★言葉の準備運動をしよう。</p> <p>○扉の詩「たんぽぽ」を読んで音読する。</p> <p>○教科書(P.10)「じゅんばんにならぼう」の説明を聞く。</p> <p>○正確に並ぶことのできる方法を考える。</p> <p>○一言作文に取り組む。</p>	<p>・一人読み、一斉読み、グループ読み、追い読み、暗記読みなど読み方を工夫し、児童のよいところを見付けて褒めたい。</p> <p>・ゲームをしながら、大事なことを落とさないように聞くことや、自分の場所を見付けるために声を掛け合うことに気付かせる。</p> <p>【評】正確に並ぶ方法を話し合う活動を通して自分が知りたいことを落とさないように集中して聞く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】正確に並ぶゲームを通して、積極的に声を掛け合おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・心に残った出来事や発見したことを一言で書き、伝え合わせる。</p> <p>・教科書(P.12)「つづけてみよう」で、書き方を押さえる。</p> <p>・一言作文や日記など、年間を通して継続して取り組むとよい。</p> <p>・教科書(P.153)「ことばのたからばこ」を参考にさせるとよい。</p> <p>【評】一言作文を書く活動を通して、言葉には事物の内容を表す言葉があることに気付いて文を書く「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 おはなしを 読み、やくに わかれて 音読しよう

配当時間 9 時間

- 単元の目標 (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
 (2) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
 (3) 登場人物の行動などの内容を捉え、音読を聞き合い、感想を伝え合おうとする。

標準的な展開例

02010102_001

【教材名】 ふきのとう (上 P. 13～P. 27)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 本文を読み、学習の見通しをもつ。 ★学習の計画を立てよう。 ○今までの音読の学習を振り返る。</p> <p>○教師またはCD等による範読を聞く。</p> <p>○学習課題を設定し、学習の進め方を確認する。</p> <p>2～5 登場人物の行動や会話を整理し、内容をおおまかに捉えて音読する。 ★様子が分かるように工夫して読もう。 ○教材文を読み、感想を交流する。</p> <p>○行動や会話を基に、人物を登場順に整理する。</p> <p>○会話文とその前後の地の文を読んで、読み方の工夫を考える。 ○様子が分かるように音読をする。</p> <p>6～7 グループで役割を決めて音読する。 ★グループの中で役に分かれて、音読をしよう。 ○グループで読み方の工夫を考える。</p> <p>○役を決めて、自分の役の練習をする。</p> <p>○グループ内で友達と音読を聞き合い、読み方の工夫について感想を伝え合う。</p> <p>8 グループごとの音読を聞き合い、読み方の工夫について感想を伝え合う。 ★音読を聞き合い、よいところを伝えよう。 ○グループごとの音読を聞き合う。</p> <p>○ほかのグループの音読を聞いて、よかったところを伝える。</p> <p>9 学習を振り返る。 ★学習のまとめをしよう。</p>	<p>・1年生で学習した教材について発表させたり教科書(P. 8)「一年生のまなびをたしかめよう」で振り返ったりする。</p> <p>・挿絵を見て、季節や登場人物等のイメージをもって聞くようにさせる。</p> <p>・二次元コードを読み込み、工藤直子さんの音読を聞かせるのもよい。</p> <p>・役に分かれて音読することを伝える。</p> <p>・音読で気を付けることを教科書(P. 25)で確認させる。</p> <p>・2～3文で感想を簡潔に書かせ、ペアで読み合ったり発表し合ったりする。</p> <p>・教科書(P. 24)で登場人物という言葉を確認させたり、「たいせつ」(P. 26)で物語の読み方を確認させたりする。</p> <p>・どの会話を誰が言っているかを丁寧に確認する。</p> <p>・読み取ったことを動作化させながら、物語の大体をつかませる。</p> <p>【評】音読の活動を通して、物語の大体の内容をつかみ、語のまとまりや言葉の響きなどに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・登場人物の会話の面白さだけでなく、どんなにおいがするのかわ、何が聞こえてきそうなのかわ、他に何がありそうかなど、想像を広げながら音読できるようにする。</p> <p>【評】話し合いの活動を通して、場面の様子や登場人物の行動などを正確に読み取る「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 25)「音読で気を付けること」を確認する。</p> <p>・姿勢、口の開け方、声の大きさ、読む速さなど、音読の基本を確実に押さえ、身に付けさせたい。</p> <p>・教科書(P. 24)下段を参考にクラスで話し合い「ふんばっている」や「小さなこえ」等、様子が分かる言葉があることに気付かせる。</p> <p>・自分が想像した様子や感じた気持ちを織り込みながら楽しく音読させる。</p> <p>・よかったところやもっと工夫するとよいところを伝え合わせる。</p> <p>【評】音読練習の活動を通して、友達と相談しながら、よりよく音読できるように練習しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 25)下段のアドバイスの方法を確認させ、音読を聞く観点を伝える。</p> <p>【評】役に合うように音読を工夫する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・全体の印象や、一人一人の音読の工夫についてよかったところを発表させる。</p> <p>・教科書(P. 25～26)の「ふりかえろう」や「</p>

○物語を音読するときの工夫についてまとめる。

○読書に興味をもち、読書記録を付ける。

たいせつ」を読んで、振り返りと身に付けた力を確認させる。
・教科書（P.26）「この本、読もう」で春に関する本に興味をもたせ、読書記録を付ける意識をもたせる。

【 備 考 】

単元名 本は ともだち1

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。
(3) 読書に親しみ、気付いたことを発表しようとする。

標準的な展開例

02010103_001

【教材名】図書館たんけん (上 P. 28～P. 29)

【準備等】簡単な図書館地図

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 図書室で見付けたい本を工夫して探す。 ★図書室の本の並び方を見付けて、読みたい本を探そう。 ○本の並び方を見付けるという学習課題をもつ。</p> <p>○図書室へ行き、どのように本が並んでいるか各自で見回り、気付いたことを発表する。</p> <p>○教科書 (P. 29) の三冊の本を探す。</p> <p>○自分の見付けたい本を決め、探す。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書サポーターや司書等がいれば、連携して行う。 ・図書室には、自分の読みたい本が効率よく探せるような工夫があることを伝える。 ・分かったことを簡単な図書室地図に書き込ませ、それを基に発表させる。 ・教科書 (P. 29) 「本の分け方」「本のならべ方」を確認させ、図書室の本の配置に気付かせる。 <p>【評】図書室の利用方法を知り、気付いたことを発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類番号から探させたり、あいうえお順から見付けさせたりする。 ・題名や作者名、分類番号シールに着目させて探させる。 <p>【評】読書に親しみ、いろいろな本があることを知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を探すときに何に気を付けるとよいかを考えさせ、発表させる。

【 備 考 】

単元名 きせつのことば1

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。
 (2) 経験したことや想像したことから書くことを見付けることができる。
 (3) 言葉の働きに気付き、経験を文章に表そうとする。

標準的な展開例

02010104_001

【教材名】春が いっぱい (上 P. 30～P. 31)

【準備等】春発見カード、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 春に関わる言葉を探し、発表する。 ★春を感じる言葉を見付けよう。 ○「はなが さいた」を音読する。 ○春に関わる言葉を見付け、発表する。</p> <p>○見付けた言葉をまとめる。</p> <p>2 春発見カードに自分の感じた春について書き、感想を交流する。 ★自分の感じた春を発見カードに書こう。 ○「はなが さいた」を音読する。 ○どんなものを見たときに、春の訪れを感じるか、発表する。 ○春を感じたときの経験を文章にしてカードに書く。 ○書いたものを読み合い、お互いのカードについての感想を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詩のリズムを感じさせながら音読させる。 ・教科書の言葉や挿絵を手がかりに、春に関わる言葉から想像したことを話したり、自分たちで探したりさせる。 ・校庭や登下校で見付けたものや店で売っているものなど、児童の経験につなげていく。 【評】季節を感じる言葉を楽しんで探し、共有する活動を通して、言葉のもつよさに気付こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・見付けた場所ごとに分けたり、生き物、草花、食べ物、感じたことなどに分けたりして、言葉をワークシートに分類させる。 【評】春に関わる言葉を探してまとめる活動を通して、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気付く「知識・理解」を評価する。 ・春発見カードなど、四季を通じて同じ形式のカードを使い、1年分のカードを綴じるなどして、児童が季節の移り変わりを振り返られるようにする。 ・さまざまな花が咲く春のイメージを表現するように音読させる。 ・前時のワークシートなどを基に「春がきた」と児童自身が感じたことを発表させ、イメージを広げさせる。 ・実感が伴わない児童には、テレビや絵本などで見た春でもよいことを伝える。 ・見付けたものやそのときの気持ちをカードに書かせる。 ・教科書(P. 30)を参考にさせる。 ・文章だけでなく絵を描き、言葉とイメージがつながるようにしてカードを書かせる。 ・グループなどでお互いのカードを交流し、さまざまな春があることに気付かせる。 ・言葉集めに使用するワークシートや、春を感じたときの経験を絵と文章でかいたカードは、掲示したり、クラスで一冊に綴ったりして、互いの作品を読み合う機会を作るとよい。 ・発見カードとワークシートをまとめて綴り、学習の振り返りができるようにまとめるのもよい。 【評】カードに文章を書く活動を通して、経験したことを文章で書き表そうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】春を感じたときの経験をカードに書く活動を通して、経験したことや想像したことから書くことを見付ける「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 思い出して 書こう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
 (2) 経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 経験から伝えたいことを明確にし、日記を書こうとする。

標準的な展開例

02010105_001

【教材名】きょうの できごと (上 P. 32～P. 33)

【準備等】知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日記の書き方を捉える。 ★日記の書き方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日記を書いた経験を発表する。 ○どのようなことを書けばよいか話し合う。 ○日記の書き方を捉える。 ○上手に書かれているところや、様子がよく分かるところを見付け、発表し合う。 <p>2～3 日記の材料を探し、日記を書く。 ★材料を見付けて、日記を書こう。 ○日常生活の中から日記の材料を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日記に書く題材を決定し、時間の順序に沿って日記を書く。 <p>4 友達と読み合い、振り返りをする。 ★友達と日記を読み合おう。 ○日記を友達と読み合い、よいところを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習を振り返り、日記を書くときに気を付けることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。 ・生活作文や長期休暇の絵日記などを振り返らせる。 ・身の回りでの出来事をそのときの自分の気持ちを添えて書いていることに気付かせる。 ・教科書(P. 32～33)の日記例から日記の書き方を捉えられるようにする。 ・教科書(P. 32)「たいせつ」にある内容が書かれているところに線を引かせる。 ・内容にまとまりがあることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・日記の材料になりそうな出来事を知多の友(P. 5)に書く。 ・したことや見たこと、思ったことなど、いくつか書かせる。 <p>【評】日記の材料探しを通して、経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知多の友(P. 7)を活用する。 ・教科書(P. 153～154)「ことばのたからばこ」も参考にして日記を書かせる。 ・出来事が起こった時間の順序に沿って書くように声を掛ける。 <p>【評】日記を書く活動を通して、言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】日記を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知多の友(P. 9)を活用する。 ・様子がよく分かるところや自分の思いが上手に書けているところを見付けるように、読む観点を確認する。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらうのもよい。 ・知多の友(P. 9)に丸を付けさせる。 ・教科書(P. 32)「たいせつ」にある内容がしっかりと書けたかを確認し、身に付けた力を押さえる。 ・日記を継続してクラスに掲示していくのもよい。

【 備 考 】

単元名 だいじなことをおとさずに、話したり聞いたりしよう

配当時間 4時間

単元の目標 (1) アクセントによる語の意味の違いなどに気付くことができる。
 (2) 自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。
 (3) 自分が聞きたいことを集中して聞き、メモしながら聞き取ろうとする。

標準的な展開例

02010106_001

【教材名】ともだちを さがそう (上 P. 34～P. 37)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 遊園地の挿絵を見ながら、友達探しをすることを知り、学習の見通しをもつ。 ★どのような人がいるか絵を見て話そう。 ○学校生活で先生や友達のお知らせを聞くときに、気を付けていることやそのわけを話し合う。</p> <p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○教科書 (P. 35) の挿絵を見ながら、どのような人がいるのか話し合う。</p> <p>2 「まいごのお知らせ」を聞き、「ゆかさん」を探す。 ★お知らせをよく聞いて迷子を探そう。 ○話を聞くときに大事なことを話し合う。</p> <p>○迷子のお知らせを聞いて、絵の中から探す。</p> <p>○ゆかさんのいる場所を確認し、聞き落としていたら困っていたことを話し合う。</p> <p>3 絵の中から人物を選び、ペアで迷子のお知らせをしてその子を探す。 ★ペアで迷子探しをしよう。 ○迷子のお知らせをするときに必要なことを確認する。</p> <p>○迷子の人物を決め、お知らせを考える。</p> <p>○ペアで迷子探しゲームをする。</p> <p>4 学習の振り返りをする。 ★話を聞くときに大切なことを振り返ろう。 ○教科書 (P. 37) 「音のたかさ」を読み、あめという言葉の音の高さと意味について考える。 ○「はし」や「しろ」など、音の高さで意味の変わる言葉を見付ける。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>・話の内容を正しく聞き取り、絵の中の人物を見付ける学習であることをつかませる。</p> <p>・教科書 (P. 5) 「一年生の まなびを たしかめよう」で話すときや聞くときに大切なことを確認させる。</p> <p>・聞き落として困った経験なども話させるとよい。</p> <p>・話の内容を正しく聞き取り、絵の中の人物を見付けることをつかませる。</p> <p>・年齢や性別、服や持っている物など、どのような情報があるとその人のことが分かりやすいのか考えさせる。</p> <p>・聞くときには、大事なことを選択して聞けるようにする。</p> <p>・迷子のお知らせの場合、どのような情報があるとよいか考えさせる。</p> <p>・二次元コードを読み込み、音声「まいごのお知らせ」を聞かせるとよい。</p> <p>・大事なことはメモすることを伝え、単語でメモを取らせるようにする。</p> <p>・教科書 (P. 36) を参考にして、メモの取り方を考えさせる。</p> <p>・服の模様や帽子の色、持ち物の案内がなかったり、聞き漏らしたりしたら、探せたかどうかを考えさせる。</p> <p>【評】迷子探しの活動を通して、話を集中して聞き、聞くときに大事なことは何かを考え、日常に生かそうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・メモにどのようなことが書いてあればよかったのか確認させる。</p> <p>・話すときは、大事なことを順序よく、はっきりとした発音で話すことを確認させる。</p> <p>・聞き手が人を探すためにはどのような情報があればよいか考えさせる。</p> <p>・聞き手と話し手に分かれて、実施させる。</p> <p>【評】迷子探しゲームの活動を通して、自分の聞きたいことを落とさないように集中して聞く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・大事なところを落とさずに話したり、聞いたることができるかを、相互評価させる。</p> <p>・聞き手のメモは、単語や簡単な言葉で書かせるようにする。</p> <p>・アクセントの違いで意味が変わってくことに気付かせる。</p> <p>・実際にアクセントを変えて音読させて確認させる。</p> <p>【評】音の高さで意味の違い言葉探しの活動を通して、アクセントによる語の意味の違いなどに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 37) 「たいせつ」で、話すときや聞くときに大切なことをまとめさせる。</p> <p>・教科書 (P. 37) 「ふりかえろう」で学習を振り返らせる。</p>

【 備 考 】

単元名 聞いて たのしもう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。
(3) 神話の読み聞かせを聞き、感想を伝えようとする。

標準的な展開例

02010107_001

【教材名】 いなばの 白うさぎ (上 P. 38～P. 40)

【準備等】 地域に伝わる昔話や神話の本

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 知っている昔話や神話について出し合い、「いなばの白うさぎ」を聞く。 ★昔話を聞いたり読んだりしよう。 ○知っている昔話や神話を出し合う。 ○挿絵からどんなお話を想像する。 ○「いなばの白うさぎ」の読み聞かせを聞く。 ○誰が出てきて、どんな出来事が起こったのかについて話し合う。 ○面白さを感じたところについて話し合う。</p> <p>2 自分の住む地方の昔話や神話などに興味をもち、図書館で本を探して読む。 ○教科書 (P. 40)の「この本読もう」を見て、知っている昔話について話し合う。 ○愛知県や知多半島に伝わる昔話を聞く。 ○図書館に行き、昔話や神話の本を探して読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに読み聞かせなどで読んでもらった話を思い出させる。 ・オオクニヌシの髪型や服装が現代の人々と異なっていることに気付かせる。 ・児童にとって聞き慣れない言葉が少なくないので、読み聞かせは感情を込めてゆっくりはっきりと読み、児童の理解を助ける。 ・3部に分かれていることが分かるように、うさぎの回想部分は間を取って読む。 <p>【評】想像を広げて神話の読み聞かせを聞く活動を通して、我が国の伝統的な言語文化に親しむ「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじとともに、印象に残ったところやその理由などについても話し合わせる。 ・印象に残った場面を絵に描いて、ペアで感想を伝え合うなど、児童の実態に応じて話し合い活動を工夫する。 <p>【評】感想を伝え合う活動を通して、自分の印象に残った場面を伝えようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本各地にさまざまな神話や昔話が伝わっていることに気付かせる。 ・教師が図書館などで用意した郷土の昔話や神話を読み聞かせする。 ・見つけた本を紹介させたり、交換して読ませたりして、関連読書を広げていく。 <p>【評】さまざまな神話や昔話に触れ、紹介し合う活動を通して、内容や感想を共有して、神話や物語に親しもうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 じゅんじょに 気をつけて 読もう

配当時間 10 時間

- 単元の目標 (1) 順序など情報と情報との関係について理解することができる。
 (2) 時間的な順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
 (3) 時間的な順序を考えて内容を捉え、文章を読んで思ったことを書こうとする。

標準的な展開例

02010108_001

【教材名】たんぽぽの ちえ／じゅんじょ (上 P. 41～P. 51)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「たんぽぽのちえ」を読み、学習の見通しをもつ。 ★順序に気を付けて読み、分かったことを書こう。 ○教科書 (P. 41)の題名やリード文から文章を想像し、たんぽぽについて知っていることを出し合う。</p> <p>○教師または、CDによる範読等を聞く。</p> <p>○初発の感想を書き、交流する。 ・面白いと思ったところ ・不思議だと思ったところ ・初めて知ったところ</p> <p>3～8 たんぽぽがどんなときに、どんな「ちえ」を働かせているかを読み取り、様子とわけをノートに整理して書く。 ★たんぽぽのちえとそのわけをまとめよう。 ○咲いているたんぽぽの様子を読み取る。</p> <p>○花と軸を休ませている様子を読み取る。</p> <p>○綿毛ができて広がる様子と、そのわけを読み取る。</p> <p>○倒れていた花の軸が起き上がり、伸びていく様子と、そのわけを読み取る。 ○天気によって綿毛が開いたりすぼんだりする様子と、そのわけを読み取る。</p> <p>○たんぽぽの「ちえ」と「わけ」をまとめる。</p> <p>9 教科書 (P. 51)「じょうほう」を読み、説明における順序の種類や効果を確認する。 ★順序を考えて話そう。 ○たんぽぽのちえの中で賢いと思うところをノートに書き抜き、思ったことをまとめる。</p> <p>○書いた文をペアで読み合う。</p> <p>○教科書 (P. 51)「じょうほう」を読み、説明における順序の種類や効果を確認する。 ○「あさおきてからしたこと」「きゅうしよくのじゅんぴのしかた」を順序に気を付けて話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 (P. 41)の写真も参考に、なぜ題名に「ちえ」と付いているのか考えさせる。 教科書 (P. 7)「一年生の まなびを たしかめよう」を読んで、説明文の読み方を確認する。 順序に気を付けて範読を聞くことを意識させる。 二次元コードを読み込み、画像付きの音読を視聴させてもよい。 感想につながりそうな文章にサイドラインを引かせるとよい。 発表したり、友達と交換して読み合ったりすることで、感想を交流させる。 いくつかのちえがあるのか確認させながら音読させる。 たんぽぽの様子を表す言葉にサイドラインを引かせる。必要な言葉のみ、引くよう指導する。 挿絵と時を表す言葉を結び付けながら、たんぽぽが変わっていく順序に気を付けて読ませる。 【評】順序に気を付けて読む活動を通して、情報と情報との関係について理解する「知識・技能」を評価する。 ちえには、わけがあることを確認させ「ちえ」と「わけ」に分けられることを指導する。 分かったことや考えたことも書かせる。 文と挿絵を対応させて、具体的なイメージをもたせる。 【評】4つの「ちえ」と「わけ」をまとめる活動を通して、時間的な順序などに気を付けて内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。 教科書 (P. 48)「見とおしをもとう」の「ふかめよう」を読み、「～のです。」「～からです。」という、理由を表す文の文末表現に注意させる。 【評】「ちえ」と「わけ」をまとめる活動を通して、文章の中の重要な語や文を考えて選出す「思考・判断・表現」を評価する。 教科書 (P. 49)の「思ったことを書くときのことば」を確認させ、「ちえ」「わけ」「思ったこと」に分けてまとめさせる。 友達の考えに対して、「ぼくも同じだよ。」「私は、～の方が不思議に思ったよ。」などと、共感や考えの違いについて、簡単に伝えさせる。 時間、仕方、大切さなどに順序があることを確認させる。 時間、仕方、大切さの中のどの順序を使って話せばよいか考えさせる。 【評】順序に気を付けて話す活動を通して、説明における順序の重要性を知り、自分の説明に生かそうとする「主体的に学習に取り組む

- 10 学習の振り返りをする。
- ★学習を振り返り，たんぽぽのちえをまとめよう。
 - 教科書（P. 49）「ふりかえろう」で学習を振り返る。
 - 教科書（P. 50）「この本，読もう」でさまざまな本に触れる。

態度」を評価する。

- ・教科書（P. 50）の「たいせつ」を参考にし，説明的な文章を読むときに気を付けることをまとめさせる。
- ・科学読み物の本に興味をもち，読書意欲を高められるようにする。

【 備 考 】

単元名 ていねいに かんさつして, きろくしよう

配当時間 10 時間

単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし, 文章の中で使うことができる。
 (2) 経験したことから書くことを見付け, 必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。
 (3) 書くために必要な事柄を集めたり確かめたりし, 観察記録文を書こうとする。

標準的な展開例

02010109_001

【教材名】 かんさつ名人に なろう (上 P. 52～P. 57)

【準備等】 知多の友, 記録用紙, 今までの観察記録 (生活科)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★観察名人になろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科などで観察したことを振り返り, 気付いたことを話し合う。 今までに書いた観察記録文を読み合い, クラスの「かんさつ名人」を選ぶ。 学習の進め方を確認する。 <p>2～5 生活科の学習などを参考にして, 観察するものを決めて, メモを書く。 ★丁寧に観察して, 文章に書くことを決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察するものを決める。 観察したことをメモに書く方法を確認する。 様子や動きに気を付けて観察し, メモする。 メモを基に友達と話し合っ, 観察記録文に書きたいことを明らかにし, 決定する。 <p>6～8 メモを基に観察記録文を書く。 ★観察したことを記録する文章を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書(P. 55)の作例を読み, 観察記録文のイメージをもつとともに, 書くときに大切なことを整理する。 教科書(P. 56)「気がついたことや, 見つけたことを書くときにつかうことば」を確認する。 観察記録文を書く。 <p>9 観察記録文を推敲する。 <ul style="list-style-type: none"> 作った観察記録文を読み返し, 推敲する。 </p> <p>10 観察記録文を友達と読み合う。 <ul style="list-style-type: none"> よかったところを伝え合う。 学習を振り返る。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 本単元は「知多の友」に掲載されているので十分に活用したい。 今までの観察記録を振り返り, よいところやもっと詳しく知りたいところを見付けさせる 絵ではなく, 文の分かりやすさで選ぶようにさせる。 理由を話し合うことにより, どのような文がよいかについて共通理解を図る。 知多の友(P. 11)を活用する。 生活科等での経験を想起させてポイントを発表させた後, 知多の友 (P. 12)を読み, 観察の仕方を整理する。 知多の友(P. 11～13)を活用する。 【評】書きたいことを決定する活動を通して, 必要な事柄を集めたり確かめたりする「思考・判断・表現」を評価する。 【評】友達と話し合って書くことを決める活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 作例に引かれたサイドラインや説明から, 観察記録文の簡単な構成をつかませる。 主語, 述語の関係をはっきりさせることや「みたいだ」や「ようだ」等の言葉の働きについて指導する。 観察記録文を書くときによく使う言葉を他にも探させる。 知多の友(P. 14)に書かせる。 様子が伝わるように書けているかどうか読み直させて考えさせる。 記録文に合わせて, 絵を描かせる。 【評】記録文を書く活動を通して, 身近なことを表す語句の量を増やし, 文章の中で正しく使う「知識・技能」を評価する。 【評】観察記録文を書く活動を通して, 事柄の順序に沿って簡単な構成を考える「思考・判断・表現」を評価する。 知多の友(P. 16)を活用する。 知多の友(P. 17)を活用する。 教科書(P. 57)「ふりかえろう」で学習を振り返り, 「たいせつ」を参考にして観察記録で大切なことをまとめる。

【 備 考 】

単元名 同じ ぶぶんを もつ かん字

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。
(3) 漢字の同じ部分を意識して、読んだり書いたりしようとする。

標準的な展開例

02010110_001

【教材名】同じ ぶぶんを もつ かん字 (上 P. 58～P. 59)

【準備等】漢字を書くカード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書 (P. 58) の挿絵を基に、漢字の同じ部分を探して、漢字の意味やつながりについて話し合う。 ★漢字のひみつを見付けよう。 ○教科書 (P. 58) の漢字を見て、同じ部分を探す。</p> <p>○漢字の同じ部分に気を付けながら、例文を声に出して読んだり、ノートに書いたりする。</p> <p>2 同じ部分をもつ漢字を探して、話し合って仲間分けをする。 ○同じ部分をもつ漢字を探し、ノートに書き出す。</p> <p>○見付けた漢字をカードに書き、漢字の仲間分けクイズをする。</p>	<p>・音読したりノートに書かせたりして、「木」が共通して書かれていることに気付かせる。</p> <p>・同じ部分を探させながらノートに書かせる。その際、同じ部分を赤などで色分けするとよい。</p> <p>【評】同じ部分の漢字を意識して書く活動を通して、既習漢字を読んだり、文や文章の中で使ったりする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 148)の「これまでに ならったかん字」から探させる。</p> <p>・漢字を一文字ずつカードに書き、同じ部分をもつ漢字の仲間で分けるクイズをペアで出し合う。</p> <p>・一人でクイズを作らせることが難しい場合には、グループで作らせるなどの工夫をするとよい。</p> <p>【評】漢字クイズを作る活動を通して、漢字のつくりに興味をもって漢字を探したり、文章の中で使ったりする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 うれしい ことば

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
 (2) 経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 言葉の働きに気付き、うれしい言葉に関する文章を書こうとする。

標準的な展開例

02010111_001

【教材名】うれしい ことば (上 P.60～P.61)

【準備等】うれしいことばカード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 これまでの生活を振り返り、いつ、誰にどんなことを言われたことがうれしかったかを発表する。 ★うれしい言葉を見付けて、みんなに伝えよう。 ○これまでの生活を振り返り、どんなときに、誰にどんな言葉を言われたことがうれしかったかを思い出して発表する。</p> <p>○教科書 (P.60)の挿絵を見て、どんなときにどんな言葉を言ってもらおうとうれしさを思い出して発表する。</p> <p>○教科書 (P.61)の作例を読み、感想を発表する。</p> <p>2 うれしい言葉の一つを選び、そのときの出来事と気持ちを文章にする。 ○教科書 (P.61)の例文を参考に「うれしいことばカード」の書き方を知る。 ○自分の体験の中から「うれしいことば」の一つを選び、文章を書く。 ・うれしい言葉を題名にする。 ・出来事とそのときの気持ちを3文程度で書く。 ・会話文はカギ(「」)を使う。</p> <p>○書いた文章を読み返し、推敲する。</p> <p>○書いた文章を友達と読み合い、感想を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面を思い出せるように、クラスの出来事を例に挙げるなど、児童が身近な場面を想起できるような導入を工夫する。 ・運動会などの全ての児童が思い起こせる行事から、「がんばったとき」「こまったとき」などに言われてうれしかったことを発表させてもよい。 ・ここでは、言ってもらう立場で考えさせる。 ・教科書に吹き出しを書いて、記入させてもよい。 【評】うれしいことばを発表する活動を通して経験したことを伝える言葉の働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。 ・なぜうれしいのかや、自分が言ってもらいたい言葉などを中心に感想を発表させる。 ・後で掲示したり、作文を綴じて本にしたりして共有できるように用紙を工夫する。 ・「どんなときに」「だれに」言われたのか、言われたときや思い出したときに自分がどう思ったのかを順序立てて書かせる。 【評】うれしい言葉に関する文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・みんなに伝えることを意識させ、分かりやすい文になっているかを確認させる。 【評】文章を推敲させる活動を通して、経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。 ・自分たちがたくさんのうれしい言葉に支えられていることや、自分自身も身近な人をうれしい言葉で喜ばせることができることに気付かせる。 ・ここでの学習を、学級活動や道徳などに関連させ、児童の日常生活に還元されるようにしたい。

【 備 考 】

単元名 **かん字のひろば1**

配当時間 **2時間**

- 単元の目標 (1) 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 語と語との続き方に注意することができる。
 (3) 学習した漢字の読み方や書き方を確かめ、楽しみながら文章を書こうとする。

標準的な展開例

02010112_001

【教材名】 1年生でならったかん字1 (上 P.62)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 教科書の漢字と挿絵を見て、島の様子を想像して文を書く。</p> <p>★挿絵の中の漢字を使って、島の様子を書こう。</p> <p>○提示された漢字の読み方を確認し、海に囲まれた島の様子を発表する。</p> <p>○挿絵の中の漢字を使い、島の様子を表す文を作る。</p> <p>○書いた文を見直す。</p> <p>○書いた文を友達と読み合ったり、発表したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵と対応させながら、漢字の読み方を確認する。 ・挿絵を見て、どんな島なのかを自由に想像させ、見付けたものを発表させる。 ・例文を音読させて絵と対応させたり、漢字の部分を穴埋めクイズにしたりして、文を書くようにさせる。 <p>【評】既習の漢字を使って文を書く活動を通して、正しく漢字を書き、文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文の終わりに句点を打っているか、語と語のつながりに気を付けているかを確認させながら見直しさせる。 <p>【評】書いた文を見直す活動を通して、語と語との続き方に注意する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の文と比べ、同じ漢字を使っているけど違う文ができることに気付かせる。 <p>【評】友達と文章を発表し合い、学習した漢字の読み方や書き方を確かめ、楽しみながら漢字を使って文を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 お話を 読んで、しょうかいしよう

配当時間 9 時間

- 単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
 (3) 場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、物語の紹介文を書こうとする。

標準的な展開例

02010113_001

【教材名】スイミー (上 P. 63～P. 76)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★お話を読んで、感想をもとう。 ○教師または、CD等による範読を聞く。</p> <p>○学習の流れを確認する。</p> <p>○初発の感想を書き、交流する。 2～4 物語を読み、あらすじを書く。 ★どんなお話か、あらすじを書こう。 ○あらすじについて理解する。</p> <p>○作品の流れを確かめる。</p> <p>○スイミーの行動や会話に着目し、スイミーの人物像や出来事をまとめる。</p> <p>○あらすじをまとめる。</p> <p>5～7 物語を読み、場面の様子が分かる言葉を見付け、想像したことを話し合う。 ★お話の様子を想像しよう。</p> <p>○「はじめ」の部分を読み、想像したことを読み取り、話し合う。 ○「中」の部分を読み、スイミーの気持ちを様子が分かる言葉から想像させる。</p> <p>○「おわり」の部分を読み、大きな魚を追い出したスイミーたちの気持ちを想像させる。</p> <p>8 物語の紹介文を書く。 ★「スイミー」を紹介する文章を書こう。 ○紹介文の書き方を確認する。</p> <p>○教材文を読み、思ったことを書く。</p>	<p>・教科書 (P. 63) のリード文や挿絵から物語についての想像を広げさせたり、興味をもたせたりする。</p> <p>・教科書 (P. 26) 「おはなしをたしかめる」を振り返り、内容を確認させながら範読を聞かせるようにする。</p> <p>・物語を読み取った後、紹介文を書いて読み合うことを知らせ、学習の見通しをもたせる。</p> <p>・挿絵を手がかりにした感想発表もよい。</p> <p>・教科書 (P. 74, 156) を参考にして、あらすじについて確認させる。</p> <p>・教科書 (P. 74) 「お話のながれをたしかめる れい」を参考にして、初め、中、終わりという作品構成を理解させる。</p> <p>・初めの部分を読み、スイミーの人物像を捉えさえ、ノートにまとめさせる。</p> <p>・場面ごとに「できごと」と「スイミーがしたこと、言ったこと」を区別して、サイドラインを引かせ、ノートやワークシートに短い言葉でまとめさせる。</p> <p>【評】人物像や出来事をまとめさせる活動を通して、紹介文を書くために物語の内容を把握しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 76) を確認させ、あらすじをまとめるときに気を付けることを意識させる。</p> <p>・ノートを確認しながら、それぞれの出来事を短い言葉で書き、お話の順につなげさせる。</p> <p>【評】あらすじをまとめて書く活動を通して、出来事を短い言葉で書き、順につなげて分かりやすくまとめる「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書の文章中から、様子を表す言葉を探して、出来事を想像させる。</p> <p>・教科書 (P. 74) 「たとえをあらわすことば」を確認し、想像を広げられるようにする。</p> <p>・スイミーにどんな言葉を掛けてあげたいかを考えさせることから想像させてもよい。</p> <p>【評】様子を表す言葉を見付ける活動を通して身近なことを表す語句の量を増やしたり、語彙を豊かにしたりする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・挿絵を活用させ、みんなで大きな魚を追い出したことなどを想像しやすくする。</p> <p>【評】様子を表す言葉を基に、読む活動を通して、登場人物の行動を具体的に想像する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 75) 「文しょうの れい」を参考にし、紹介文があらすじと思ったことを中心に書かれていることに気付かせる。</p> <p>・これまでの学習を通して、自分が一番感動したり、感心したりしたことを中心として感想を書かせる。</p> <p>【評】感想を書く活動を通して、大事な言葉や</p>

<p>○家の人へ「スイミー」の紹介文を書く。</p> <p>○自分の書いた紹介文を推敲する。</p> <p>9 紹介文を友達と読み合い、よいところを伝え合う。</p> <p>★「スイミー」のお話を紹介し合おう。</p> <p>○ペアでお互いの紹介文を読み合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>文を選んで感想を書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじと思ったことを組み合わせて、紹介文を書かせる。 ・短い言葉で書かれているか、話の内容が伝わるかなどを読み返させて確認させる。 <p>【評】紹介文を推敲する活動を通して、自分文を正しく直す「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も真似したいなと思ったところや、あらすじが分かりやすかったところなど、友達の紹介文のよいところを見付けながら読むようにさせる。 <p>【評】紹介文を読み合う活動を通して、よりよい紹介文を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 (P. 75)「ふりかえろう」で、学習の振り返りを行わせ、教科書(P. 76)「たいせつ」を確認させる。 ・図書室などにある、レオ＝レオニの他の作品を紹介し、読書意欲を高めさせる。 ・クラスや児童の実態に応じて、実際に家の人に渡したり読んで伝えたりする活動を入れてもよい。
---	---

【 備 考 】

単元名 かたかなの ひろば

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 片仮名を書くとともに、文の中で使うことができる。
 (2) 語と語や文と文の続き方に注意することができる。
 (3) 片仮名を使った文を書こうとする。

標準的な展開例

02010114_001

【教材名】かたかなの ひろば (上 P.77)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 動物たちの行動や様子を想像して発表をする。</p> <p>★片仮名を使って、文を書こう。</p> <p>○教科書の挿絵を見て、動物たちが何をしているのか想像して発表する。</p> <p>○提示されている片仮名の言葉を読み、表している挿絵を見付ける。</p> <p>○片仮名の表記の決まりを確かめる。</p> <p>2 挿絵と片仮名で書かれた言葉を見て、片仮名の言葉を使った文を書く。</p> <p>○教科書 (P.77) の「れい」を参考にして、提示された片仮名を使って文を書く。</p> <p>○できた文をペアで見せ合う。</p> <p>○身の回りにある片仮名で表現できる言葉を探す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誰が、何をしているかを意識させながら、発表させる。 ・主語のない発言には、問い返すなどして文作りにつなげさせる。 ・挿絵を参考にして、正しく読めているかを確認させる。 <p>【評】片仮名で表記されている絵を探す活動を通して、片仮名に興味をもち、文作りに生かそうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 (P.140) を使って、長音や拗音、促音濁音、半濁音の決まりを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の〈れい〉の文が、「何が」「どうした」という文になっていることを確認し、語や文のつながりの整った文を書かせるようにする。 <p>【評】短文作りを通して、片仮名を正しく使って文を書く「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】絵を見て文を作る活動を通して、語や文の続き方に注意する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片仮名が正しく書けているか、文が整っているかの観点を示し、お互いに確認させる。 <p>【評】ペア交流の活動を通して、片仮名の決まりを意識して、文の中で使おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】片仮名探しの活動を通して、身の回りにある片仮名を意識して探したり使ったりしようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 あつめる ときに つかおう

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。
 (2) 必要な事柄を集めたり、確かめたりすることができる。
 (3) 必要な事柄を集め、知らせたいことをメモに取ろうとする。

標準的な展開例

02010115_001

【教材名】メモをとる とき (上 P. 78～P. 79)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★知らせたいことをメモに取ろう。 ○メモを取るよさを話し合う。</p> <p>○教科書 (P. 79) のメモを見て気付いたことを話し合う。</p> <p>○メモの書き方を確かめる。</p> <p>2～3 教室の中で知らせたい物を決め、メモに取る。 ○教室にある物の中から、知らせたいものを決め、メモに取る。</p> <p>○できあがったメモを友達と読み合い、よさを伝える。</p> <p>○メモを取るときに気を付けたいことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでにメモを書いた経験を思い出させ、メモの役割やよさに気付かせる。 ・短い言葉で、箇条書きで書かれていることや絵が描かれていることなどに気付かせる。 ・メモには、覚えておきたいことや、後で確認したいこと、知らせたいことなどを短い言葉で書くことよきことを確認させる。 ・メモは、後から見ても分かりやすいように書くことが大切であることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことがメモに書いてあると分かりやすいかを考えさせ、それを正しく短い言葉で書くように意識させる。 <p>【評】短い言葉でメモを取る活動を通して、伝えたいことを選び、簡潔に表す「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたメモは自分で読み返すようにさせ、そのメモを基にして、相手に様子を詳しく知らせることができるか、考えさせる。 <p>【評】メモを書く活動を通して、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】メモを取る活動を通して、知らせたいものを決めようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ物についてメモを取った児童でペアを組ませ、そのメモを見比べさせるのもよい。 ・どんなメモが分かりやすかったかを発表させて板書し、全員で共有できるようにする。 <p>【評】メモのよさについて話し合う活動を通して、メモのよさに気付き、日常生活に生かそうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 組み立てを 考えて 書き, 知らせよう

配当時間 10 時間

- 単元の目標 (1) 句読点の打ち方, かぎ (「」) の使い方を理解して, 文や文章の中で使うことができる。
 (2) 事柄の順序に沿って構成を考えたり, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫したりすることができる。
 (3) 事柄の順序に沿った構成を考え, 組み立てを考えて文章にまとめようとする。

標準的な展開例

02010116_001

【教材名】こんな もの, 見つけたよ／丸, 点, かぎ

(上 P. 80～P. 85)

【準備等】知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 みんなに知らせたいものを伝える文章を書くことをつかみ, 学習の見通しをもつ。 ★組み立てを考えて, 知らせたいことを書こう。 ○教科書(P. 80)の挿絵を見て, 気付いたことを自由に話し合う。 ○「きょうのできごと」や「かんさつ名人になろう」で行った活動を振り返る。 ○教科書(P. 80)を読み, 学習の進め方を確認する。</p> <p>2～4 見つけたものや気付いたことをメモする。 ○知らせたいことや出来事を書き出し, 発表する。</p> <p>○素材集めの視点を確認する。 ・大きさ, 形, 色 ・数・におい・さわった感じ ○材料集めのメモから, 書くことを決める。 ○教科書(P. 81)を読み, 詳しいメモの書き方を確認する。</p> <p>○選んだ事柄について取材し, 詳しくメモする。</p> <p>5～7 メモを基に組み立てを考える。 ○教科書(P. 82)を読み, 初め, 中, 終わりの基本構成を確認する。 ○メモを基に, 文章の組み立てを考えて表に書く。</p> <p>○知らせたいことを「中」に具体的に書く。</p> <p>○できた構成を友達と読み合い, 分かりやすい組み立てか相談する。</p> <p>8～9 構成を意識して文章を書く。 ○句読点やかぎの使い方を確かめる。</p> <p>○自分の考えた構成に基づいて, 文章を書く。</p> <p>○書いた文を推敲する。</p> <p>10 書いた文章を読み合い, 感想を伝え合う。 ○友達の文章を読むときの観点を確認する。</p> <p>○作文を交換し, 感想を伝え合う。 ○学習の振り返りをする。</p>	<p>・本単元は, 「知多の友」に掲載されているので, 十分活用したい。</p> <p>・「誰が」「何をしているのか」等を問いかける。</p> <p>・これまでに, 課題設定や取材の方法について学習したことを思い出させる。</p> <p>・「おもしろいな」と思ったものやこと, 出来事について, 友達に知らせる文を書くことを伝える。</p> <p>・知多の友(P. 18)を活用する。</p> <p>・素材集めのメモには, なるべく短い言葉や文で端的に表すようにする。</p> <p>・自分がいちばん伝えたいものを選ばせる。</p> <p>・「素材集めのメモ」と「詳しいメモ」を比較させながら考えさせる。</p> <p>・メモに書くときよい項目を確認させる。</p> <p>・「詳しいメモ」を書くための取材時間を, 生活科と連携させて確保できるとよい。</p> <p>・それぞれの段階でどのようなことが書かれているか確認させる。</p> <p>・知多の友(P. 19)を活用する。</p> <p>【評】組み立てを考える活動を通して, 事柄の順序に沿って簡単な構成を考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「中」には, 短い言葉で複数の内容を書くように伝える。</p> <p>・グループやペアで読み合わせる。</p> <p>・教科書(P. 85)「丸, 点, かぎ」を読み, 使い方を確かめられるようにする。</p> <p>・知多の友(P. 20～21)を活用する。</p> <p>・自分の考えた構成の表に言葉を足したり, 文をつなげたりして文章を書かせる。</p> <p>【評】文章を書く活動を通して, 句読点の打ち方, かぎの使い方を理解して, 文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】文章を書く活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・句読点やかぎを正しく使っているか, 分かりやすいかなどを確認させる。</p> <p>・自分の書いた文章を音読して確認させる。</p> <p>【評】文章の推敲の活動を通して, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 84)の吹き出しを参考に, 初めて知ったことや分かりやすかったことを伝えるようにする。</p> <p>・観点に沿って感想を伝えるようにする。</p> <p>・教科書(P. 84)「ふりかえろう」や「たいせつ」で, 文章を組み立てて書くときに大事なことを押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 しつもんをしあって、くわしく考えよう

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて適切な言葉を使うことができる。
(2) 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
(3) 話を集中して聞いて内容を捉え、質問や感想を述べようとする。

標準的な展開例

02010117_001

【教材名】 あったらしいな、こんなもの (上 P. 86～P. 89)

【準備等】 教師の考えたあったらしいなと思う道具の絵、絵を描く画用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★「あったらしいなこんなもの」発表会に向けて準備をしよう。 ○教師が例示する「あったらしいな」と思う道具を聞き質問をする。</p> <p>○学習課題を設定し、学習の進め方を確認する。</p> <p>2 「あったらしいな」と思うものを考える。 ★あったらしいなと思うものをかこう。 ○「あったらしいな」と思うものを発表する。</p> <p>○「あったらしいな」と思うものを考えて、絵に描く。</p> <p>3～6 ペアで質問し合い、考えを明確にする。 ★質問をして、詳しく発表できるようにしよう。 ○考えた道具の形や色、大きさ、働き、あったらしいと思うわけについてペアで質問し合う。</p> <p>7 グループで発表会をする。 ★「あったらしいなこんなもの」発表会をしよう。 ○グループで自分の考えた道具を発表する。</p> <p>○聞いた人は、感想を伝える。</p> <p>8 学習の振り返りをする ★発表や質問をするときに大事なことを考えよう。 ○丁寧な言い方と普通の言い方は、どのように使うのか話し</p>	<p>・絵を提示し、イメージを持ちやすくする。</p> <p>・質問しやすい道具を提示し、質問をすることで道具の説明がより詳しくなることに気付かせる。</p> <p>・教科書 (P. 5) 「一年生の まなびを たしかめよう」で、話すとき、聞くときに気を付けることを確認させる。</p> <p>・個人で考えるときの参考になるように、いくつかの例を挙げておく。</p> <p>・教科書 (P. 86) の挿絵も参考にさせるとよい。</p> <p>・道具の効果について、短い言葉で絵の近くに書き添えさせる。</p> <p>・発想の面白いものやユニークなものは積極的に紹介し、考えるヒントにさせる。</p> <p>・道具が詳しくなるには、どのようなことが分かるとよいかを発表させ、質問することの視点を与えるとよい。</p> <p>・音声CDや、教科書 (P. 88～89)、二次元コードの動画「ふたりでしつもんしあう」を参考にするなどして、詳しく聞くために気を付けることを確認させる。</p> <p>・ペアの組み合わせを変えて、何回か質問できるようにする。</p> <p>【評】 道具についての質問をする活動を通して友達を発表を聞き、質問したり答えたりしようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・質問に対する答えをメモさせておく。</p> <p>【評】 ペアで質問し合う活動を通して、伝え合うために必要なことを考えて質問する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・自分の描いた道具の絵を見せながら発表させる。</p> <p>・「です」「ます」などの丁寧な言い方で発表や質問、感想を伝えさせる。</p> <p>・発表は、原稿を読むのではなく、メモを参考に発表させる。</p> <p>【評】 道具の発表をする活動を通して、丁寧な言い方で発表をする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・感想だけでなく、質問をしてもよいことを伝える。</p> <p>・詳しくなまって分かりやすかったところなどを感想で伝えられるように声を掛ける。</p> <p>【評】 感想の発表を通して、話の内容を落とさずに聞き、内容を捉えて感想を伝える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・聞き手の印象や場面を比較させ、どんな違い</p>

し合う。
○ 発表したり, 質問したりするときに大事なことを確認する。

○ 学習を振り返る。

があるのか気付かせる。
・ 教科書(P. 89)「たいせつ」を参考に, 話す人の考えを詳しく聞くため, 自分がどのような質問をしたのかまとめさせる。
・ 次に質問をする機会があればどのようなことに気を付けたいかも考えさせるとよい。
・ 教科書(P. 89)「ふりかえろう」で, 振り返りをする。

【 備 考 】

単元名 きせつのことば2

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。
 (2) 経験したことや想像したことから書くことを見付けることができる。
 (3) 言葉の働きに気付く、経験を文章に表そうとする。

標準的な展開例

02010118_001

【教材名】夏が いっぱい (上 P. 90～P. 91)

【準備等】夏発見カード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 夏に関わる言葉を探し、発表する。 ★夏を感じる言葉を見付けよう。 ○「みんな」を音読する。</p> <p>○夏に関わる言葉を見付け、発表する。</p> <p>○見付けた言葉をまとめる。</p> <p>2 夏を感じたときのことを夏発見カードに書く。 ○「みんな」を音読する。</p> <p>○自分がこれまでに見て、夏を感じたものを発表する。</p> <p>○自分が感じたときの経験を文章にしてカードに書く。</p> <p>○書いたものを読み合い、お互いのカードについての感想を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科の学習との関連を図るとよい。 ・音読をさせ、韻を踏んでいる詩を楽しみながら読めるようにする。 ・追い読み、一人読み、一文交代読みなど、楽しく音読ができるように工夫する。 ・教科書の挿絵を手がかりに、夏に関わる言葉を探させる。 ・ウェビングを使うなど、言葉のイメージが広がっていくように工夫する。 ・春のときと同様に、言葉を生き物、植物などに分類させる。 <p>【評】夏に関わる言葉まとめの活動を通して、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読させながら、前時に見付けた夏を思い出させるようにする。 ・前時にまとめたものを参考に、児童自身が自分のこれまでの生活の中で夏を実感したものを発表させる。 ・見付けたものやそのときの気持ちを発見カードに書かせる。 ・文章だけでなく、絵を描き、言葉とイメージがつながるようにしてカードを書かせる。 <p>【評】夏発見カードに書く活動を通して、経験したことや想像したことを文で表す「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】夏発見カードの記入の活動を通して、自分の経験を基に文章に表そうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループなどでお互いのカードを交流し、自分では見付けられなかった夏があることに気付かせる。

【 備 考 】

単元名 本は ともだち2

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。
 (2) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。
 (3) 読書に親しみ、お気に入りの本を紹介しようとする。

標準的な展開例

02010119_001

【教材名】お気に入りの本をしょうかいしよう／ミリーのすてきなぼうし
9)

(上 P. 92～P. 10

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 これまでの読書生活を振り返り、学習の見通しをもつ。 ★お気に入りの本を紹介しよう。 ○これまでの読書を振り返り、簡単な感想を発表する。</p> <p>○紹介文を書くことを確認する。</p> <p>2 自分が紹介したい本を選ぶ。 ○図書室の本から自分の紹介したい本を選ぶ。</p> <p>3～4 紹介メモの書き方を確かめ、「ミリーのすてきなぼうし」を読む。 ○紹介メモで大切なことを確認する。</p> <p>○「ミリーのすてきなぼうし」を読んで、場面ごとに、どのような出来事があったかを整理する。 ○面白かったところや不思議だったところを発表し合う。</p> <p>○「ミリーのすてきなぼうし」で紹介メモを書く練習をする。</p> <p>5～6 紹介文を書き、友達と本の紹介をし合う。 ○自分の紹介したい本を読み、紹介メモを書く。</p> <p>○友達と本の紹介をし合う。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生になってからの読書記録を振り返ったり、自分が読んで思い出に残っている本などを発表させたりする。 ・自分の好きな本やおすすめの本を紹介することを確認する。 ・図書室の本の他に、教科書 (P. 141～143) で紹介されている本にも触れさせるとよい。 【評】紹介したい本選びの活動を通して、たくさんの本に触れ、自分の紹介したい本を探そうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・最初から一冊の本に決めるのではなく、実際に多くの本を見ながら選ぶように伝える。 ・教科書 (P. 95) のメモを確認させ、どのような内容をメモするのか確認させる。 ・題名や登場人物だけでなく、どのようなお話か、自分の好きなところなどもメモすることを意識付けする。 ・挿絵も参考にし、いつ、どこで、だれが、どうした(どうなった)を整理させる。 ・面白かったところとその理由をペアで発表させるなど、紹介文につながる活動にする。 ・教科書 (P. 95) の紹介メモを基に、短い言葉で簡単に書くように指導する。 ・教科書 (P. 153～154) の「ことばのたからばこ」も参考にさせ、自分の感想をより適切な言葉で記入できるようにする。 【評】紹介メモを書く活動を通して、内容を正しく理解して読書メモを書く「知識・技能」を評価する。 ・「ミリーのすてきなぼうし」の紹介メモを参考にして、題名、書いた人、登場人物、どんなお話か、好きなところを簡潔に書くようにさせる。 ・紹介文を書いて読むのではなく、紹介メモを基に紹介することを伝え、メモの内容を組み合わせて伝えられるように練習させる。 【評】自分のおすすめの本を紹介する活動を通して、文章を読んで感じたことや分かったことを友達と共有できるように発表する「思考・判断・表現」を評価する。 ・グループになって紹介をさせ、最後に感想を交流させる。 【評】本の紹介をし合う活動を通して、友達の発表から、さまざまな本があることを知り、読書に親しむ「知識・技能」を評価する。 ・「たいせつ」で本を紹介するときのポイントを確かめ、今後学校での読書週間などで生かせるようにする。 ・知多の友 (P. 22～29) 「本はともだち」で読書感想文の指導を行ってもよい。

【 備 考 】

単元名 しをたのしもう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
 (2) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。
 (3) 語のまとまりや言葉の響きに気を付け、詩のよさが伝わるように音読しようとする。

標準的な展開例

02010201_001

【教材名】雨のうた (上 P.110～P.111)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「雨のうた」を音読し、好きなところについて話し合う ★詩を楽しんで読もう。 ○雨のイメージを出し合い、音を想像する。</p> <p>○「雨のうた」を音読し、好きなところを話し合う。</p> <p>2 好きなところが伝わるように、詩を音読する。 ○「雨のうた」の自分の好きなところのよさが伝わるように音読する。</p> <p>○友達の音読を聞き、感想を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「雨の音はどんな音だろう」と質問し、児童からさまざまな雨の音を挙げさせてもよい。 ・繰り返しや呼びかけの表現に着目させて音読させる。 ・それぞれの児童の好きなところを出させ、その理由を簡単に発表させる。 <p>【評】好きなところを探しながら音読をする活動を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読をする「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よさが伝わるようにするために、どう音読するかを発表させてから音読してもよい。 <p>【評】好きなところが伝わるように音読する活動を通して、感じたことや分かったことを読み方の工夫で表現する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや間の取り方、リズムなどの工夫が感じられるかなどの聞くポイントを、音読を聞く児童へ与えておく。 <p>【評】音読を聞き合う活動を通して、相手に詩のよさが伝わるように音読しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 たいわのれんしゅう

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
 (2) 相手に伝わるように, 話す事柄の順序を考えるとともに, 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように聞くことができる。
 (3) 話す事柄の順序を考え, 道案内をしようとする。

標準的な展開例

02010202_001

【教材名】 ことばでみちあんない (上 P. 112～P. 113)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 道案内することのよい点と難しい点を話し合う。 ★分かりやすい道案内の仕方を見付けよう。 ○これまでに道案内した経験を思い出し, よかったことや難しかったこと, 困ったことを話し合う。 ○学習課題を確認する。</p> <p>2 みどりさんの道案内の仕方を考える。 ○みどりさんの案内したとおりに地図で待ち合わせ場所を確認し, たどり着けるか確認する。 ○みどりさんの案内で, 分かりにくかったところを発表する。 ○正しく伝えるためのポイントを考える。</p> <p>3 友達と道案内をし合う。 ★分かりやすい道案内をしよう。 ○グループで道案内ゲームをする。 ○待ち合わせ場所を確認する。 ○学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道案内の経験がない場合, 学校の一つの部屋を知らない人に案内する例を出すなどして, そのよさや難しさをイメージしやすくする。 ・自分の説明で分かりやすく道案内できるようにすることを確認させる。 ・最初に聞き手には地図を見せずに道案内を聞かせ, その後地図を見て待ち合わせ場所にたどり着けるかを確認させてもよい。 ・教科書(P. 112)の挿絵を使い, どのベンチが正しい待ち合わせ場所か考えさせる。 ・分かりにくかったり, 迷ってしまったりしたところなどを発表させるだけでなく, なぜ分かりにくかったのか理由も付け加えさせる。 【評】 分かりやすい道案内の仕方を考える活動を通して, 共通, 相違, 事柄の順序などの情報と情報との関係を理解する「知識・技能」を評価する。 ・初めに案内する場所を伝えること, 目印になるものを入れて説明すること, 左右を正確に伝えるとよいことに気付かせる。 ・道案内する児童のみ地図を見て案内し, 他の児童はメモを取るようにする。 【評】 分かりやすく道案内する活動を通して, 話す事柄の順序を考えて相手に伝わりやすく話す「思考・判断・表現」を評価する。 ・それぞれが道案内を聞いて待ち合わせ場所だと思ったところを発表し, 案内が分かりやすかったか確認する。 【評】 道案内を聞く活動を通して, 相手が伝えたいことや自分が聞きたいことを落とさずに聞く「思考・判断・表現」を評価する。 ・自分の家から学校までの道順を説明する活動を取り入れるなどして, 目印になるものや曲がる場所, 方向を正しく伝えないと分からないことを確認させる。 【評】 自分の知っている道の案内を通して, 話す事柄の順序を考え, 分かりやすく道案内をし合おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 **かん字のひろば2**配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 語と語の続き方に注意することができる。
 (3) 第1学年の配当漢字を使って、文を書こうとする。

標準的な展開例

02010203_001

【教材名】1年生でならったかん字2 (上 P.114)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 教科書の挿絵を見て、男の子が何をしているか考え、1週間の出来事を文に書く。 ★挿絵の中の言葉を使って、1週間の出来事を書こう。 ○挿絵を見て男の子が曜日ごとに何をしているのか考え、発表する。 ○漢字の読み方を確認し、1週間の日記を書く。</p> <p>○書いた文を友達と読み合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子の1週間の出来事が書かれている挿絵を見て、気付いたことを自由に発表させる。 ・教科書(P.114)の例文のように、出来事に思ったことや感想を一文付け加えてもよいことを伝える。 ・児童の実態に合わせて、全部の漢字を使うなどの目標を設定する。また、どの曜日から書いてもよいこととする。 <p>【評】日記を書く活動を通して、1年生で習った漢字を書き、文章の中で正しく使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】日記を書く活動を通して、語と語の続き方に注意して書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】漢字を使って文を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ絵を見て漢字を使っても、お互いの文章が違うことに気付かせる。

【 備 考 】

単元名 読んで考えたことを 話そう

配当時間 12 時間

- 単元の目標 (1) 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
 (2) 時間的な順序や事柄の順序を考えながら, 内容の大体を理解し, 自分の経験を結び付けて感想をもつことができる。
 (3) 文章と経験を結び付けて感想をもち, 考えたことを話そうとする。

標準的な展開例

02010204_001

【教材名】 どうぶつ園のじゅうい (上 P.115～P.126)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 本文を読み, 学習の見通しをもつ。 ★「どうぶつ園のじゅうい」を読んで, 感想をもとう。 ○動物園について知っていることや, 知りたいことを話し合う。</p> <p>○「どうぶつ園のじゅうい」を読み, 初発の感想を書く。</p> <p>○学習活動の見通しをもつ。</p> <p>3～8 獣医の仕事について, 教材文を読んで整理する。 ★獣医の仕事をまとめよう。 ○時間の順序に気を付けて, 獣医がいつ, どんな仕事をするのかをまとめる。</p> <p>○「仕事をしたわけ」, 「仕事の工夫」を見付け, 感じたことを話し合う。</p> <p>○「毎日すること」と「この日だけしたこと」に分け, その違いについて話し合う。</p> <p>9～11 教材文を読んで考えたことや気付いたことをまとめる。 ★読んで考えたことを話そう。 ○獣医の仕事について自分の知っていることや体験と比べて, 気付いたことや驚いたこと, もっと知りたいことを書く。</p> <p>○書いたものを発表し, 感想を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の挿絵や写真などを参考に, 動物園について興味をもたせる。 題名から動物園の獣医に目を向けさせ, どのような仕事をしているのか想像させる。 初めて知ったことや疑問に思ったことを簡単に書かせる。 文章を読んで考えたことや気付いたことを話す活動をするを伝え, 学習の見通しをもたせる。 教科書(P.41)「たんぼぼのちえ」や, (P.51)「じゅんじょ」を想起させ, 順序に気を付けて読む学習をしたことを話題にする。 いつ, どんな仕事をするかを分けて書かせる 教科書(P.124)のノートの例を参考に, 表にまとめさせる。 時間を表す言葉に着目させる。 【評】獣医の仕事を時間の順序に気を付けてまとめる活動を通して, 時間の順序などの情報と情報の関係を理解する「知識・技能」を評価する。 獣医の仕事を読み取ることを通して, 仕事へのやりがいや動物の命に関わることへの責任についても感じ取らせるようにする。 「いつも」なのか「ある日」なのか根拠を言わせ, 違いを確認させる。 文末表現の「～です。」「～のです。」にも目を向けさせる。 【評】獣医の仕事をまとめる活動を通して, 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 内容を捉える「思考・判断・表現」を評価する。 教科書(P.124～125)の「話すことのれい」を確認させ, 初め, 中, 終わりの構成で書くように伝える。 初めには, 感じたことやわけ, 中には, 獣医の仕事, 終わりには, 考えたことや気付いたことを書かせる。 自分の体験や経験と比べて書いていることにも気付かせて, 終わりの部分に取り入れさせる。 【評】自分の経験と比べ, 考えたことを書く活動を通して, 文章の内容と自分の経験とを結び付けて感想をもつ「思考・判断・表現」を評価する。 【評】考えたことを書く活動を通して, 文章と自分の経験を結び付けて感想をもち, 考えをもって話そうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 友達の発表を聞いてどう思ったのかを話させる。 ペアやグループ, クラス全体など感想が交流しやすいように発表の場を工夫する。 感想を言うときには, 「いいところに気付いたね」「私もそう思ったよ」など, 簡単な言

- 12 学習を振り返る。
○学校での1日を文章で書き、学習のまとめをする。

葉で感想を言わせる。

- ・教科書(P.125)「ふりかえろう」や教科書(P.126)「読んで、考えをもつ」を読み、文章について自分の考えをもつために大切なことを確認させる。
- ・学習したことを生かして、自分の学校での1日を順序に気を付けて文章で書かせる。
- ・読んでもらう相手を家の人にして、書かせてもよい。

【 備 考 】

単元名 ことばあそびをしよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。
 (3) 言葉の豊かさに気付く、言葉遊びを楽しもうとする。

標準的な展開例

02010205_001

【教材名】 ことばあそびをしよう (上 P. 127～P. 129)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 教材文を音読したり、自分で文を作ったりして言葉遊びを楽しむ。</p> <p>★声に出して楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「あいうえお」「あかさたな」を音読し、詩と題名の関係に気付く。 ○「あいうえお」「あかさたな」を使って文を作り、発表する。 <p>○言葉遊びのうたを音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数えことば数えうた ・ことばあそびうた <p>○古くから伝わる歌や言葉を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉によるリズムを体感させるため、声に出して読む活動を多く取り入れる。 ・一人読みや列読み、リレー読みなど、音読の形態に変化をもたせて楽しんで読めるように留意する。 ・「あいうえお」や「あかさたな」だけでなく教科書(P.140)を参考にし、五十音の中で自分が書きたい部分を選んで、詩を書かせてもよい。 ・5人でグループを作り、自分達が決めた行を一字ずつ担当を決め、詩を作らせるなどして楽しんで取り組めるようにする。 ・できた文を発表し合い、クラスオリジナルの「あいうえお」の詩を作ってもよい。 <p>【評】 文作りを通して、長く親しまれている言葉遊びのよさや言葉の豊かさに気付く、言葉遊びの文を書く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数え言葉や数えうたは、言葉の響きやリズムを感じられるように音読させる。 ・「ことこ」の詩では、どこで区切ったらよいかを考えさせて、音読させるとよい。 ・音読をした後に、漢字に直させてもよい。 <p>【評】 言葉遊びうたを音読する活動を通して、言葉の豊かさに気付く、言葉遊びを楽しもうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いろはうた」や「ちいきのかるた」を紹介し、音読するなど、親しめるようにする。 ・他の言葉遊びうたなども紹介してもよい。

【 備 考 】

単元名 なかまのことばとかん字

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味があることに気づき、語彙を豊かにすることができる。
 (3) 言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、言葉を集めて仲間分けをしようとする。

標準的な展開例

02010206_001

【教材名】 なかまのことばとかん字

(上 P. 130～P. 131)

【準備等】 言葉カード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 提示された言葉を仲間に分け、理由を話し合う。 ★言葉を仲間分けしよう。 ○教科書に提示された言葉で、仲間分けゲームをする。</p> <p>○仲間分けした理由を発表し、「～のなかま」という名前を付ける。</p> <p>2 既習漢字などを基に、仲間の言葉集めをする。 ★仲間の言葉集めをしよう。 ○グループで、仲間の言葉集めをする。 ・動物の名前 ・動きを表す言葉 ・体の部分 など</p> <p>○集めた言葉で仲間分けゲームをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P130～131)の言葉をカードに書いて黒板に提示し、仲間分けゲームを取り入れて興味をもたせる。 ・それぞれの漢字の読み方も確認する。 ・児童やクラスの実態に合わせて、言葉の仲間分けが見やすいワークシートを用意してもよい。 ・漢字で書けるものは漢字で書かせる。 ・教科書(P. 153)「ことばのたからばこ」なども参考にして集めさせる。 ・仲間集めゲームに生かすために、三つ程の観点で仲間集めをさせる。 ・仲間集めに困っているグループには、いくつかの観点を提示し、その仲間を集めさせる。 【評】仲間の言葉を集める活動を通して、語彙を豊かにし、意味による語句のまとまりがあることに気付く「知識・技能」を評価する。 ・カードに自分たちが集めた言葉を書かせる。 ・ゲームなので、集めるまでの時間を計るなどのルールを決めて楽しめるようにする。 【評】仲間分けゲームの活動を通して、言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、言葉を集めたり、仲間分けをしたりしようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 **かん字の ひろば3**

配当時間 **2時間**

- 単元の目標 (1) 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 語と語の続き方に注意することができる。
 (3) 第1学年に配当されている漢字を使って、文を書こうとする。

標準的な展開例

02010207_001

【教材名】 1年生でならったかん字3 (上 P.132)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 挿絵と漢字を見て、学校の様子を想像し、文を書く。 ★絵の中の漢字を使って、学校の様子を書こう。 ○提示された漢字の読み方を確認し、描かれた学校の様子を発表する。</p> <p>○提示された漢字を使い、「は」や「を」を適切に使って文を書く。</p> <p>○できた文を友達と交換し、読み合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵と対応させながら、漢字の読み方を確認する。 ・何をしている場面なのかを、具体的に発表させ、絵のイメージを言葉に置き換えていく。 ・例文を読み、助詞の「は」「を」の働きを押さえる。 ・児童の実態に合わせ、文中に「は」「を」の一方または両方を使って文を作らせる。 <p>【評】文を書く活動を通して、「は」「を」の助詞を正しく使い、語と語の続き方に注意して書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】文を書く活動を通して、第1学年に配当された漢字を正しく文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】文作りの活動を通して、漢字を使って文を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **そうぞうしたことを、音読げきであらわそう**

配当時間 **12 時間**

単元の目標 (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
(2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像したり、文章を読んで感じたことや分かったことを共有したりすることができる。
(3) 場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、音読劇に取り組もうとする。

標準的な展開例

02010208_001

【教材名】お手紙 (下 P. 11～P. 26)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★「お手紙」を読んで、想像したことを音読しよう。 ○扉の詩「赤とんぼ」を読む。</p> <p>○「お手紙」の範読を聞き、学習課題をつかむ。</p> <p>○教科書(P. 24～25)を見て、学習の進め方を確認する。</p> <p>2～3 教材文を読み、大まかな内容をつかむ。 ★がまくんとかえるくんの行動を読み取ろう。 ○各場面の二人の様子や行動を、言葉や挿絵を手がかりにして確かめる。</p> <p>4～8 物語の世界を想像し、音読したいところを探しながら読む。 ★がまくんとかえるくんの気持ちの変化を読み取ろう。 ○がまくんの家の中で、来ない手紙を待っている二人の気持ちを考える。</p> <p>○かえるくんが家の中で、手紙を書いているときの気持ちを考える。</p> <p>○がまくんの家で、かたつむりくんの届ける手紙を待つ二人の気持ちを考える。</p> <p>9 音読の工夫を考える。 ★どのように音読するか考えよう。 ○音読したい部分を選び、ノートに書き写す。</p> <p>○音読したい部分を書いた文にどのように読むのか、工夫を書き込む。 ・だれが言ったか ・どのように読むか ・どんな動きをするか</p>	<p>・扉の詩を読み、目次や教科書(P. 4)「二年生の国語のまなびを見わたそう」を確認して、今後の学習への見通しをもたせる。</p> <p>・詩の内容や挿絵の色合いにも気付かせ、季節の変化も感じ取らせたい。</p> <p>・簡単に「ゆうびんのマーク」や「金色の空」が何を表しているのかを押さえる。</p> <p>・教科書(P. 26)「この本、読もう」を紹介し、「がまくんとかえるくん」シリーズの並行読書を促す。</p> <p>・図書室よりシリーズを借りて、コーナーなどを作ってもよい。</p> <p>・最後には読み取ったことを生かして音読劇をすることを知らせておく。</p> <p>・教科書(P. 24)「たしかめること」を基に、がまくんとかえるくんの様子や行動をまとめる</p> <p>・がまくんの家、かえるくんの家のそれぞれの場面での行動をまとめさせる。</p> <p>・挿絵なども提示し、イメージをつかみやすくする。</p> <p>【評】様子や行動の読み取りを通して、場面の様子から二人の登場人物の行動を具体的に想像してまとめる「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・場所の移り変わりに着目して、場面ごとに読み取っていく。</p> <p>・挿絵を提示し、表情からも読み取れるようにする。</p> <p>・二人の行動と会話を軸に、気持ちを読み取っていく。</p> <p>・読み取ったことを音読で表現できるようにして、がまくん役、かえるくん役、地の文などに分けて読ませる。</p> <p>・教科書(P. 22)「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」の音読の仕方を考えさせる。</p> <p>・教科書(P. 14)「ああ。いちども。」と教科書(P. 22)「ああ。」を比べて、気持ちを考えさせるとよい。</p> <p>【評】登場人物の心情の読み取りを通して、文章を読んで感じたことや分かったことを発表し、友達と共有する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・声の大きさ、口調、表情など、音読することに重点を置いて、さまざまな読み方を工夫させる。</p> <p>・読み方によって、聞き手に伝わる印象が違うことを、教師が具体例を示して理解させ、音読を工夫することの必要性をつかませる。</p> <p>・教科書(P. 25)「ノートのれい」を参考にして音読の工夫を書き入れさせる。</p> <p>・書き込みの内容によって色を変えたり、線の種類を変えたりさせる。</p>

○自分の書き込みを見て、音読の練習をする。

10～11 音読劇の練習をする。

★音読劇の練習をしよう。

○グループに分かれて音読劇の練習をする。

12 音読劇をし、感想を交流する。

★がまくんとかえるくんになって音読劇をしよう。

○音読劇をする。

○友達の音読を聞いた感想を発表する。

○学習の振り返りをする。

- ・動きを入れて音読劇をしてもよいことも伝える。
- ・ペアなどになって、どのように読むかを伝えてから音読をし、音読の工夫が伝わるか聞き手に感想を言わせてもよい。

【評】音読の練習を通して、気持ちが伝わるように語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する「知識・技能」を評価する。

- ・前時に音読したい部分が同じ児童同士で5・6人のグループを作っておくとよい。
- ・グループの友達で聞き合い、読み方や体の動きなどを助言し合う。
- ・同じ部分を読んでも、音読の仕方が違うことに気付かせる。

【評】音読劇の練習を通して、場面の様子に着目し、読み取った登場人物の行動や心情を音読劇に取り入れて発表しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・自分がなぜその部分を選んだのかを発表してから、音読劇を披露させる。
- ・クラスの実態に合わせ、クラス全体やグループごとなど、発表会の仕方を工夫する。
- ・それぞれの工夫のよかった点や真似したいと思った点などを発表させるのもよい。
- ・自分が演じることで、読み取りを深めるだけでなく、友達の音読と聞き比べ、感想を深められるようにする。
- ・教科書(P.25)の「ふりかえろう」で学習の振り返りをし、教科書(P.26)の「たいせつ」を確認させる。
- ・教科書(P.25)「この本、読もう」で、シリーズの本に興味をもたせて、読書意欲へとつなげたい。

【 備 考 】

単元名 主語と述語に 気をつけよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。
(3) 主語と述語の関係に気付き、話したり書いたりしようとする。

標準的な展開例

02010209_001

【教材名】主語と述語に 気をつけよう (下 P. 27～P. 28)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 主語と述語の役割を知る。</p> <p>★主語と述語に気を付けて読んだり書いたりしよう。</p> <p>○例文や「お手紙」を使って、主語と述語の定義を確認する。</p> <p>○教科書(P. 27) の課題に取り組む。</p> <p>2 主語と述語に気を付けて話したり書いたりする。</p> <p>○主語と述語を文章から探すゲームをする。</p> <p>○単語だけの文を主語と述語の文に直したり、主語と述語の整った文を書いたりする。</p> <p>○主語と述語について分かったことを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語という言葉も、知らせる。 ・例文を提示し、サイドラインを種類分けをして引かせ、主語と述語が分かるようにする。 ・練習問題を解かせながら、主語が文頭にくるとは限らないことを押さえる。 <p>【評】主語と述語探しの活動を通して、主語と述語の関係に気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お手紙」の本文から、例文を提示し、ペアで主語と述語を探させる。 ・教科書(P. 28)「ぼうしが。」の例で「どうした。」がないと、言いたいことが伝わらないことをロールプレイなどを行い、理解させる。 ・日常生活で児童が使うような場面を取り上げて考えさせてもよい。 <p>【評】主語と述語の整った文を書いたり話したりする活動を通して、主語と述語を使った文を話したり書いたりする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の言いたいことを相手に正確に伝えるために、主語と述語のつながりが大切であることを確認し、生活場面でも生かそうという気持ちをもたせる。

【 備 考 】

単元名 **かん字の読み方**配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。
 (3) 第2学年までに配当されている漢字を使い、漢字の異なる読み方に気を付けて読もうとする。

標準的な展開例

02010210_001

【教材名】かん字の読み方 (下 P. 29～P. 31)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 複数の読みがある漢字を知る。 ★漢字のいろいろな読み方を知ろう。 ○「九」や「日」のには、さまざまな読み方があることを知る。 ○「九」や「日」の漢字を使って書き表す言葉を集めてノートに書く。 ○「上」と「下」のさまざまな読み方を知る。</p> <p>○「上」と「下」を使った例文の読み方を確認したり、送り仮名の働きを知ったりする。</p> <p>2 練習問題を解き、複数の読み方がある漢字を探す。 ○教科書(P. 31)下段の問題を解く。</p> <p>○教科書(P. 156～158)「これまでに ならったかん字」から複数の読み方がある漢字を探し、文を作る。</p> <p>○書いた文を紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し音読させ、同じ漢字でも違う読み方があることに気付かせる。 ・漢字の言葉集めをした後に、それぞれの読み方ごとに仲間分けしてもよい。 ・「うえ」「うわ」などの細かい違いにも注意させる。 ・「川上」「下山」などの児童の聞き慣れない言葉については、意味も説明する。 ・漢字の読み方をはっきりさせるためには、送り仮名が重要であることを押さえる。 ・再度「上」や「下」の例文を読み、読み方によって送り仮名が変わっていることを押さえる。 ・ただ問題を解かせるのではなく、「送り仮名クイズ」などのクイズ形式で提示するなどして意欲を高めさせるとよい。 ・送り仮名の違いに気を付ける。 ・同じ漢字を使って、読み方の違う文を2種類以上作らせる。 【評】文を作る活動を通して、漢字を正しく読み、文や文章の中で適切に使って文を書く「知識・技能」を評価する。 ・ペアやグループでクイズをして、発表し合う方法で紹介し合ってもよい。 【評】文を紹介し合う活動を通して、さまざまな読みのある漢字を使ったり読んだりする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 きせつのことば3

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。
 (2) 経験したことや想像したことから、書くことを見付けることができる。
 (3) 言葉の働きに気付き、経験を文章に表そうとする。

標準的な展開例

02010211_001

【教材名】秋がいっぱい (下 P. 32～P. 33)

【準備等】秋発見カード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 秋に関わる言葉を探し、発表する。 ★秋を感じる言葉を見付けよう。 ○「やま」を音読する。</p> <p>○教科書の挿絵や身の周りから秋に関わる言葉を見付け、発表する。</p> <p>○見付けた秋の言葉をまとめる。</p> <p>2 秋発見カードを書き、感想を伝え合う。 ○「やま」を音読する。</p> <p>○秋を感じるものをカードに書き込む。</p> <p>○書いたものを読み合い、お互いのカードについての感想を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音読をさせ、秋のイメージを広げさせるとともに、音やリズムも感じられるようにする。 一人読み、追い読みなど読み方を工夫して、楽しみながら読めるように工夫する。 生活科の学習との関連を図るとよい。 ウェビングを使うなど、言葉のイメージが広がっていくように工夫する。 【評】秋を感じる言葉を探して発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 生き物、植物、食べ物などに分類させ、ノートなどにまとめさせておく。 【評】秋の言葉探しの活動を通して、それぞれの言葉には秋を感じさせたり、秋を表したりする働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。 音読を通して、前時に見付けた秋を思い出せるようにする。 前時にまとめたものを参考に、自分が一番秋を感じるものを選ばせる。 教科書(P. 32)のカードの例を確認させ、絵と文でかくことを理解させる。 見付けたものを書くだけでなく、自分の感想や周りの人の反応などもカードに書くとよいことを伝える。 【評】秋カード作りを通して、自分の経験や体験から秋を感じるものを見付けて絵と文で表現する「思考・判断・表現」を評価する。 同じものを書いた人を探したり、違うものを書いた人を見付けたりするなど、ゲームのようにして交流させてもよい。 自分では見付けられなかった秋があることに気付かせる。 書いたカードは、季節発見カードとして春から順に綴じておき、冬につなげる。

【 備 考 】

単元名 みんなで話をつなげよう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
 (2) 互いの話に関心をもち, 相手の発言を受けて話をつなげたり, 伝え合うために必要な事柄を選んだりすることができる。
 (3) 相手の発言を受けて話をつないで, 話し合おうとする。

標準的な展開例

02010212_001

【教材名】 そうだんにのってください

(下 P. 34～P. 38)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 これまでの経験から相談をしたり, されたりしたときのことを思い出し, 学習の見通しをもつ。 ★友達の相談を聞いて, 考えを出し合おう。 ○これまでに, 人に相談した経験を発表する。</p> <p>○学習の流れを確認する。</p> <p>2～3 話題を決める。 ○学校や普段の生活から, 友達に相談したいことを出し合う。</p> <p>○出し合った相談事の中から, 話し合いができそうな話題を選ぶ。</p> <p>4～5 話し合いの仕方を話し合う。 ○話し合いの仕方を確かめる。</p> <p>○考えを言うとき, 聞くときに気を付けることを, 確認する。</p> <p>○話のつなげ方を確認する。 つなげ方のポイント ・質問する ・確認する ・共感する ・感想を伝える 等</p> <p>6～7 グループで話し合う。 ○話し合いの流れを確認する。</p> <p>○話し合いをする。</p> <p>○話し合いの結果を発表する。</p> <p>8 学習を振り返る。 ○グループで話し合ってよかったことを伝え合う。</p>	<p>・児童から出てこない場合は, 教師が相談をして解決した経験を伝える。</p> <p>・教科書(P. 34)の学習の進め方を見て, 自分達で話題を決め, 話し合って解決することを知らせる。</p> <p>・教科書 (P. 35)を参考にして, 悩んでいることだけでなく, これからしたいと思っていることや, 学習のことで確認したいことなど, さまざまな観点から話題を出させる。</p> <p>・今後グループで話し合いをするため, グループで1つ以上は話題が出るようにする。</p> <p>・話し合いの結果, さまざまな意見が出やすい話題や, 答えがまとまりやすい話題などになるよう, 教師が把握した上で選ばせる。 【評】 話題選びを通して, 経験したことなどを基に伝え合うために必要な話題を選ぶことができる「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 35)を確認し, 話し合いの流れや「話題」という言葉の意味を確認する。</p> <p>・相談をする人が司会者をする。</p> <p>・これまでの学習を想起させ, 自分の考えを言うときに気を付けることや, 聞くときに心がけていることを発表させる。</p> <p>・どのような聞き方をされると, 相談したいと思うかを考えさせ, 聞くときに気を付けることを発表させるとよい。</p> <p>・「あったらいいなこんなもの」の学習を想起させ, 話題が詳しくなっていくためには, 質問をしたり, 感想を伝えたりするとよいことを伝える。 【評】 話のつなげ方を確認する活動を通して, 話のつなげ方を理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書の二次元コードを利用し, 話し合いがどのように流れるか確認する。</p> <p>・話し合いを聞かせた後に, 教科書の挿絵などを参考に, どのような意見を伝えると話し合いが円滑に進むか確認する。</p> <p>・司会が進行をし, 話し合いを進めさせる。</p> <p>・話し合いの最後には, 相談者がどうすることになったか必ず結果を伝えるようにする。 【評】 話し合いを通して, 友達の話に関心をもち, 相手の発言を受けて話をつなぐ「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 話し合いを通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・どのような相談をして, どのような結果になったのかグループごとに発表させ, クラスで共有する。</p> <p>・相談者に, 相談をしてどのようなことがよかったのかを発表させる。</p> <p>・話し合いの内容だけでなく, 話し合いの仕方のよかったところも発表させる。</p> <p>・相談することのよさと, 話し合いの仕方のよさを分けてノートに書かせる。</p>

○教科書(P.38)の「ふりかえろう」で学習を振り返る。

・グループで話し合った相談することのよさと話し合いの仕方のよいところをグループで発表させ、グループ全体のまとめにする。

【 備 考 】

単元名 せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう

配当時間 14 時間

単元の目標 (1) 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
(2) 事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉え, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。
(3) 事柄の順序に沿って構成を考え, おもちゃの作り方を説明する文章を書こうとする。

標準的な展開例

02010213_001

【教材名】馬のおもちゃの作り方／おもちゃの作り方をせつめいしよう

(下 P. 39～P. 49)

【準備等】知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 おもちゃの作り方を説明することを知り, 学習の見通しをもつ。 ★自分が説明するおもちゃを探そう。 ○自分で作ったことのあるおもちゃを紹介する。</p> <p>○自分が説明するおもちゃを探す。</p> <p>3～5 「馬のおもちゃの作り方」を読んで, 説明の工夫を見付ける。 ★説明の工夫を見付けよう。 ○「馬のおもちゃの作り方」を読んで, 文章のまとまりや順序を確認する。</p> <p>○説明が分かりやすい文章に線を引く。</p> <p>6～7 説明の工夫を紹介し合う。 ○自分のおもちゃ作りにも使えそうな表現を発表する。</p> <p>○教科書 (P. 45) 「たいせつ」を確認し, 説明の仕方で気を付けたいことを確認する。</p> <p>8～9 本文を読み, 学習の見通しをもつ。 ★説明する文章の書き方を知ろう。 ○教科書 (P. 46～47) を読み, 学習の進め方を確認する。</p> <p>○教科書 (P. 48～49) 「けん玉の作り方」を読み, 説明の工夫が使われているところを見付ける。</p> <p>10～12 説明する文章を書く。 ★おもちゃを説明する文章を書こう。 ○説明する題材を決める。</p> <p>○作り方を順番に書き出す。 ○説明する文章を書く。 ・材料と道具 ・作り方 ・遊び方</p> <p>13 書いた文章を読み返し, 推敲する。 ★書いた文章に間違いがないか確認しよう。 ○書いた文章を読みながら, 実際におもちゃを作るなどして, 必要なところを修正する。</p> <p>14 説明する文章を読み合い, 読んだ感想を伝え合う。 ★説明する文章を読み合って, 感想を伝え合おう。 ○教科書 (P. 49) 「ふりかえろう」で学習を振り返り, 手順を説明するときに気を付けることを確認する。</p>	<p>・本単元は, 「知多の友」に掲載されているので, 十分に活用したい。</p> <p>・生活科と関わらせ, おもちゃ作りを想起させて発表させる。</p> <p>・自分の作ったおもちゃの中から探させる。</p> <p>・「材料と道具」「作り方」などのまとまりに分けて書かれていることに気付かせる。</p> <p>・まず, 次に, さいごになどの順序を表す言葉の働きを確認する。</p> <p>・実際に, 説明の通りおもちゃを作らせ, 分かりやすかった文章やあるとおもちゃが作りやすくなる文章に気付かせ, 線を引かせる。</p> <p>・教科書 (P. 44) 「せつめいのくふうを見つかる」を参考にして発表させる。</p> <p>・説明するときに, 絵や写真があるとより分かりやすいことを確認させる。</p> <p>・前単元を想起させ, 学んだ「説明の工夫」を使って, おもちゃの作り方を説明する文章を書くことを知らせる。</p> <p>・順序を表す言葉に着目させる。</p> <p>・分かりやすいと思う言葉にサイドラインを引かせる。</p> <p>・絵が果たしている役割についても, 確認させる。</p> <p>【評】例文を読み, 書かれている内容を考える活動を通して, 情報と情報との関係に気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・生活科や図画工作科で作った物から決めさせるとよい。</p> <p>・知多の友 (P. 30) を活用する。</p> <p>・知多の友 (P. 31～33) を活用する。</p> <p>・手順に合わせて, 順序を表す言葉を適切に使うよう指導する。</p> <p>【評】説明する文章を書く活動を通して, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】説明する文章を書く活動を通して, よりよい説明の仕方を考えようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・文のねじれや誤字, 脱字がないかを確認させる。</p> <p>・同じおもちゃを作った児童同士で交換させて読ませるのもよい。</p>

【 備 考 】

単元名 かたかなで書くことば

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 片仮名を書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。
(2) 語と語との続き方に注意することができる。
(3) 片仮名で書く語の種類を知り、片仮名を使って文を書こうとする。

標準的な展開例

02010214_001

【教材名】かたかなで書くことば (下 P. 50～P. 51)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 片仮名で書く言葉の種類を知り、片仮名で書く言葉を集める。 ★片仮名で書く言葉を集めよう。 ○片仮名言語クイズをする。</p> <p>○どのような言葉を片仮名で書き表すか、確認する。</p> <p>2 教科書(P. 51)の絵を見て、片仮名を読んだり、片仮名を使った文を書いたりする。 ○片仮名で書かれた言葉を読む。</p> <p>○絵を見て、動物たちが何をしているのかを考え、文を作る。</p> <p>○できた文を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・片仮名を平仮名で書いた文を提示し、どの部分を片仮名で書くか考えさせる。 ・片仮名言語クイズをして、どのような言葉が片仮名になっているのか確認する。 ・擬態語や擬音語は混同しやすいので、丁寧に扱う。 ・外来語は児童にとって区別しにくいものもあるので、分かりやすいものを取り上げて確認させる。 ・動物の名前も片仮名で書くものが多いことに気付かせる。 ・シヤツ、ソトンなど児童が間違えやすい片仮名の書き方を確認する。 【評】文作りを通して、どの言葉を片仮名で書くのかを知り、文や文章の中で片仮名を使う「知識・技能」を評価する。 【評】文作りを通して、語と語の続き方に注意して文を書く「思考・判断・表現」を評価する。 【評】文作りを通して、片仮名で書く言葉の種類を考え、片仮名を使って文章を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・グループやクラスなど、発表の仕方を工夫して交流させる。

【 備 考 】

単元名 聞いて楽しもう

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。
(2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
(3) 昔話の読み聞かせを聞き、面白いと思ったことを伝え合おうとする。

標準的な展開例

02010215_001

【教材名】せかい一の話 (下 P. 52～P. 53)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 読み聞かせを聞き、面白いところを発表する。 ★話を聞いて面白いところを発表しよう。 ○どのようなお話か想像する。</p> <p>○読み聞かせを聞く。</p> <p>○一番面白いと思ったところを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を基に、何が世界一と思うか考えさせたり想像させたりして、どのような話か想像させる。 ・昔話の話し方を意識して読み、物語の世界を楽しませる。 【評】読み聞かせを聞く活動を通して、昔話の中の言葉遣いなどに親しんで聞く「知識・技能」を評価する。 【評】読み聞かせを聞く活動を通して、場面の様子から、登場人物の行動を想像する「思考・判断・表現」を表現する。 ・教科書(P. 53)の「こんな言い方をつかってみましょう」の話形を意識させて、面白かった場面を発表させる。 【評】感想の発表を通して、自分が面白いと思ったことを伝え合おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 かん字の広場4

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 語と語との続き方に注意することができる。
 (3) 第1学年に配当されている漢字を使って文を書こうとする。

標準的な展開例

02010216_001

【教材名】1年生でならったかん字4 (下 P.54)

【準備等】ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 挿絵を見て町の様子を想像しながら、数を表す言葉を使って算数の問題を作る。 ★絵の中の言葉を使って、算数の問題を作ろう。 ○挿絵を見て、誰や何がいるのか、何をしているのかを発表する。 ○数字を表す漢字の読み方を確認する。</p> <p>○教科書(P.54)の例文を参考に、提示された言葉を使って算数の問題を作る。</p> <p>○作った問題文を友達と読み合い、問題を解いたり、問題の感想を伝えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・細かいところまで、発表させて問題作りにつなげられるようにする。 ・絵と対応させながら漢字を確認させる。 ・大根や鉢植え、花束など、物の数え方も全体で確かめる。 ・作った文を交換して、問題を解き合うことができるように、ノートやワークシートに書かせる。 ・「あわせて」「みんなで」「ちがいは」「おつりは」など、足し算や引き算になるような言葉を考えさせる。 ・問題を作ることが難しい場合には、穴埋めをして問題を作れるようなシートを用意するなどの支援をする。 <p>【評】文章を書く活動を通して、正しく漢字を書いたり、文や文章の中で適切に使ったりする「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】問題作りを通して、語と語との続き方に注意して問題文になるように書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで問題を出し合い、答える活動をして、作った文が問題として成立しているのか確認させる。

【 備 考 】

単元名 自分とくらべて、かんそうを書こう

配当時間 10 時間

- 単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を想像するとともに、自分の体験と結び付けて、感想をもつことができる。
 (3) 文章と体験とを結び付けて感想をもち、物語の感想を書こうとする。

標準的な展開例

02010217_001

【教材名】わたしはおねえさん (下 P. 55～P. 70)

【準備等】感想を書くカード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 本文を読んで学習の見通しをもつ。 ★「わたしはおねえさん」を読んで、感想を書こう。 ○題名を読み、1年生の頃の自分と比べて「お兄さん、お姉さんになった」と思うことを発表する。</p> <p>○教師または、CD等による範読を聞く。 ○学習のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>○初発の感想を書く。</p> <p>○初発の感想を読み合う。</p> <p>2～4 物語のあらすじを捉える。 ★すみれちゃんはどんな子が想像しよう。 ○題名の「わたし」が誰のことか、確認する。</p> <p>○本文を音読して、物語の設定を確認する。</p> <p>○登場人物の言動などから、すみれちゃんの人物像をまとめる。</p> <p>○心に残ったところをカードに書く。</p> <p>5～7 登場人物と自分を比べる。 ★すみれちゃんと自分を比べてみよう。 ○すみれちゃんの言動で同じ気持ちのところや、違う気持ちのところなどを出し合う。 ○自分が書いたカードから一番心に残ったところを選び、自分と比べる。</p> <p>○心に残ったところと、そのわけを発表する。</p> <p>8～9 心に残ったことについて感想を書く。 ★心に残ったところを選び、感想を交流しよう。 ○心に残ったところについて感想を書く。</p>	<p>・学校行事や生活科の学習など、1年生との交流体験を具体的に想起させる。 ・学校だけでなく、家での様子も発表させる。</p> <p>・自分と比べて感想を書くという課題を確認する。 ・気持ちに分かるところや、自分の心に残った言葉などを中心に感想を書けるように声を掛ける。 ・初めはペアやグループなどの小さな集団で読み合った後、全体で発表し合うとよい。</p> <p>・「わたし」だけでなく、自分のことを「かりんちゃんのお姉さん」と言っている一面もあることをつかませる。 ・登場人物や時などを確認して、物語の大まかな流れを捉えさせる。 ・音読の際には、歌の部分工夫させたり、会話文と地の文で役割読みをさせたりして、楽しく音読させる。 【評】物語の設定を確認する活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、豊かにする「知識・技能」を評価する。 ・すみれちゃんがどんな子か分かるところに、サイドラインを引かせてまとめさせる。 ・人物像をまとめる際にも、自分と似ているところや違うところを意識させる。 【評】人物像の読み取りを通して、場面の様子の叙述から、登場人物の行動を想像する「思考・判断・表現」を評価する。 ・カードは、一枚でなくてもよいことを知らせる。 ・書いたカードはグループで交流させる。 【評】心に残ったことをカードに書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・自分の経験から似た体験を振り返らせ、そのときの気持ちを想起させる。 ・前時に書いたカードから自分が特に心に残ったカードを一枚選び、自分の経験を基に比べさせる。 ・比較させる際、自分ならどうするか、自分にも同じようなことはなかったか考えるなど、比べる視点を与える。 ・グループで発表会をさせる。 ・自分が選んだ一番心に残ったところと、なぜ心に残ったのかを発表させ、お互いの考えを交流させる。</p> <p>・教科書(P. 69)を参考に、自分の体験などを取り入れさせながら感想を書かせる。 ・選んだ部分を、引用させたり要約したりして分かるように書かせる。 ・自分と比べて考えたことを書き入れるように</p>

<p>10 感想を友達と交流し，学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感想文を発表する。 ○教科書（P. 69）「ふりかえろう」で振り返りをする。 ○図書館で，「すみれちゃん」シリーズの本や，同年代の主人公が出てくるお話を読む。 	<p>指導する。</p> <p>【評】感想を書く活動を通して，物語の内容と自分の体験を結び付けて感想を書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手は，自分と比較しながら聞き，「その気持ち分かる」や「そんな気持ちになるのか」などといった感想を伝えられるようにする ・簡単な考えを書けるようなワークシートなどを用意してもよい。 ・教科書（P. 70）「この本，読もう」などを紹介して，本を選び，自分と似ているところや違うところを意識させて読むようにさせる。 <p>【評】感想交流の活動を通して，自分の経験と結び付けて感想をもとうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
---	---

【 備 考 】

単元名 まとまりに分けて、お話を書こう

配当時間 10時間

単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、文章の中で使うことができる。
(2) 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って、簡単な構成を考えることができる。
(3) 事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、物語を書こうとする。

標準的な展開例

02010218_001

【教材名】お話のさくしゃになろう

(下 P.71～P.75)

【準備等】知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教材文を読み、絵本作りの見通しをもつ。 ★お話の作り方について知ろう。 ○今までに学習した物語の題名と作者を思い出す。</p> <p>○教科書(P.71)を読んで、学習の進め方を知る。</p> <p>2～4 絵を見て、お話を考える。 ★絵を見て、どんなお話にするか考えよう。 ○登場人物や出来事を考える。 ○出来事の例を提示したり、「中」「おわり」の場面を描いたりする。</p> <p>5～6 まとまりに分けて、お話を説明する。 ★まとまりに分けて、お話を説明しよう。 ○「はじめ」「中」「おわり」の内容を考える。</p> <p>○絵を見せながら、友達に考えたお話を話す。</p> <p>7～9 お話を書く。 ★お話を書こう。 ○書き出しを考える。 ○教科書(P.74)「お話のれい」を参考に、適切な言葉を考えながら書く。</p> <p>○自分のお話を見直し、間違いを直す。 ・誤字、脱字 ・文のねじれ ・分かりにくいところ</p> <p>○題名を付ける。</p> <p>10 書いた話を読み合い、学習を振り返る。 ★みんなで話を読み合い、感想を伝え合おう。 ○グループで交換して読み合い、工夫しているところを話し合う。</p> <p>○教科書(P.75)「ふりかえろう」や「たいせつ」を読んで振り返りをする。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・「スイミー」「ミリーのすてきなぼうし」「お手紙」などの教材文を想起させ、物語のイメージをもたせる。</p> <p>・挿絵を見て、物語の基本構成を確かめる。</p> <p>・「はじめ」の挿絵から、二人がどのような人物か、どのような出来事が起こるかを考えて物語を書くことを伝える。</p> <p>・知多の友(P.35)を活用する。</p> <p>・会話文やあらすじを自由に作っていける楽しさを感じ取らせる。</p> <p>【評】お話作りの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】物語の構成を考える活動を通して、自分の思いや考えを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・知多の友(P.36)を活用する。</p> <p>・会話文も入れながら、知多の友(P.37～)に書かせる。</p> <p>・人物が言ったことが分かるように書くことを押さえる。</p> <p>・習った漢字をできるだけ使い、正しく書くようにさせる。</p> <p>【評】お話作りの活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、文章の中で正しく使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>・知多の友(P.41)を活用する。</p> <p>・知多の友(P.42)を活用する。</p> <p>・クラスだけでなく、2年生の他のクラスや1年生に読み聞かせてもよい。</p> <p>・会話文があることや場面のつなぎ言葉が入っていることの効果を確かめさせる。</p> <p>【評】工夫を話し合う活動を通して、自分や友達の文章のよいところを見付ける「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・知多の友(P.41)を活用する。</p> <p>・知多の友(P.43)の作品を紹介し、学習をまとめる。</p>

【 備 考 】

単元名 きせつのことば4

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。
 (2) 経験したことや想像したことから書くことを見付けることができる。
 (3) 言葉の働きに気付き、経験を文章に表そうとする。

標準的な展開例

02010219_001

【教材名】 冬がいっぱい (下 P. 76～P. 77)

【準備等】 冬発見カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 冬に関わる言葉を探し、発表する。 ★冬を感じる言葉を見付けよう。 ○「ゆき」を音読する。</p> <p>○教科書の挿絵や身の回りから、冬に関わる言葉を見付け発表する。</p> <p>○見付けた冬の言葉をまとめる。</p> <p>2 冬を感じたときの経験を文章に書き、感想を交流する。 ○「ゆき」を音読する。</p> <p>○冬を感じるものをカードに書き込む。</p> <p>○書いたものを読み合い、お互いのカードについての感想を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音読させ、冬のイメージを広げさせるとともに、音やリズムも感じられるようにする。 音読後、音楽に合わせて歌わせてもよい。 生活科の学習との関連を図るとよい。 ウェビングを使うなど、言葉のイメージが広がるように工夫する。 これまでに、春、夏、秋で見付けた言葉から考えさせてもよい。 【評】冬を感じる言葉を探して発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 生き物、植物、食べ物などに分類させ、ノートにまとめさせておく。 【評】冬の言葉探しの活動を通して、それぞれの言葉には冬を感じさせたり、表したりする働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。 音読を通して、前時に見付けた冬を思い出させる。 前時にまとめたものを参考に、自分が一番冬を感じるものを選ばせる。 教科書(P. 76)のカードの例を確認させ、絵と文でかかせる。 見付けたものを書くだけでなく、自分の感想や周りの人の反応などもカードに書かせる。 【評】カード作りの活動を通して、自分の経験や体験から冬を感じるものを見付けて、絵と文で表現する「思考・判断・表現」を評価する。 同じものについて書いた人を探したり、違うものを書いた人を探したりしながら交流させる。 同じものでも、人によって感じ方が違うことや、自分では見付けられなかった冬があることに気付かせたい。 書いたカードは、季節発見カードとして綴じて、四季の違いを感じられるようにする。

【 備 考 】

単元名 詩の楽しみ方を見つけよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
 (2) 詩を読んで感じたことを共有することができる。
 (3) 詩を読んで感じたことを共有し、詩を紹介しようとする。

標準的な展開例

02010301_001

【教材名】ねこのこ／おとのはなびら／はんたいことば

(下 P. 78～P. 79)

【準備等】カードの用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 詩を工夫して音読する。 ★詩を楽しんで読もう。 ○「ねこのこ」を音読する。</p> <p> ○「おとのはなびら」を音読する。 ○「はんたいことば」を音読する。</p> <p> ○三つの詩から一つ選んで、視写する。</p> <p>2 詩の贈り物をする。 ★友達に詩の贈り物をしよう。 ○図書館で友達に紹介したい詩を見付ける。</p> <p> ○自分の選んだ詩をカードに書いて、友達にプレゼントする。</p> <p> ○カードの交換をして、読み合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆうゆう」や「ごろごろ」などの読み方を工夫させて読ませる。 ・リズムを感じさせながら読ませる。 ・声の強弱や読む速さを工夫して読ませる。 ・読んだ後に、他の言葉を入れて読ませてみよ。 <p>【評】詩を音読する活動を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて読む「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つの詩を何回か音読させ、自分の好きな詩を選ばせる。 ・詩を音読して思い浮かんだ情景や気持ちを絵に描かせてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・事前に詩集などを用意して、その中から選んでもよい。 ・教科書(P. 79)「この本、読もう」も参考にする。 ・カードの表には選んだ詩を書き、裏には理由を書かせる。 ・表には絵を描かせてもよい。 <p>【評】詩の贈り物作りの活動を通して、自分の好きな詩を友達に紹介しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアなどで交換をさせ、全員にカードが渡るようにし、お互いのカードを読み合わせる。 <p>【評】詩の交換活動を通して、詩を読んで感じたことを共有する「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 にたいみのことば, はんたいのいみのことば

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付くことができる。
 (3) 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く, 似た意味の言葉や反対の意味の言葉の組を作ろうとする。

標準的な展開例

02010302_001

【教材名】にたいみのことば, はんたいのいみのことば

(下 P.80～P.81)

【準備等】挿絵を拡大したもの

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 似た意味の言葉と反対の意味の言葉を集める。 ★似た意味の言葉と反対の意味の言葉を見付けよう。 ○教科書(P.80)の上段の挿絵を見て, 文の()に入る言葉を考える。 ・「男の子が友達に()。」 ・話す, 言う, しゃべる 等</p> <p>○教科書(P.80)下段の「しぼる」, 「うつくしい」の似た意味の言葉を集める。</p> <p>○教科書(P.81)の上段の挿絵を見て, ()に入る言葉を考える。 ・「このケーキは()。」 ・大きい, 小さい</p> <p>○「ぬぐ」の反対の言葉を考える。</p> <p>○「上」, 「少ない」, 「立つ」の反対の言葉を考える。</p> <p>2 似た意味の言葉や反対の意味の言葉の組を作り, 発表する。 ○似た意味の言葉や反対の意味の言葉を探す。</p> <p>○似た意味の言葉クイズや反対の言葉クイズをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を拡大して提示する。 ・()に入る言葉を考えて, 文を完成させるようにし, 複数の言葉を思い付いた児童は, ノートにいくつ書いてもよいこととする。 ・「声に出して伝える」ことを表すための似た意味の言葉であることを理解させる。 ・自分の知っている言葉や, 教科書の中などから見付けさせる。 ・見付けた言葉を発表させ, 多くの言葉に触れさせる。 ・挿絵を拡大して提示する。 ・ノートに視写させ, ()の中の言葉を赤で書かせるなど, 反対の言葉に目が行くようにする。 ・反対の意味を表す言葉であることを理解させる。 ・同じ「ぬぐ」でも, 「かぶる」や「着る」「はく」など, 脱ぐ物によって, 反対の意味の言葉が変わることがあることも理解させる。 ・実際に動作化させたり, 状況を考えさせたりして反対の意味の言葉を考えさせる。 <p>【評】似た意味の言葉や反対の意味の言葉を考える活動を通して, 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P.161～162)「ことばのたからばこ」などを参考にして, 言葉を探させる。 ・どうしても思い付かない児童には, いくつかの言葉を用意しておき, その中から選んで考えさせる。 ・自分が探した言葉を発表して, その言葉の似た意味の言葉や反対の意味の言葉を考えさせる。 ・クイズをし, 楽しみながら発表できるようにする。 <p>【評】言葉探しと言葉ゲームの活動を通して, 似た意味の言葉や反対の意味の言葉を考えようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **かん字の広場5**配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 第1学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うことができる。
 (2) 語と語との続き方に注意することができる。
 (3) 第1学年に配当されている漢字を使って，文を書こうとする。

標準的な展開例

02010303_001

【教材名】1年生でならったかん字5 (下 P.82)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 挿絵の中の提示された言葉を使って，公園の様子を文に書く。</p> <p>★挿絵の中の言葉を使って，公園の様子を書こう。</p> <p>○挿絵の中で見付けたものや，誰がどのようなことをしているのかを発表する。</p> <p>○提示された漢字の読み方を確認する。</p> <p>○教科書(P.82)の例文を読み，提示された言葉を使って主語と述語のつながりに気を付けて文を書く。</p> <p>○書いた文を友達と交換して読み合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文作りにつなぐため，誰がどんなことをしているのかを意識させながら発表させる。 ・絵と対応させながら，読み方を声に出させて確認する。 ・送り仮名についても確認する。 ・例文を使いながら，「○○は，△△です。」「○○が，△△する。」などの主語と述語の整った文の作り方を説明する。 <p>【評】文作りの活動を通して，語と語とのつながりに気を付けながら主語と述語が明確な文章を書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】漢字を使って文を書く活動を通して，第1学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で適切に使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】第1学年配当の漢字を使った文作りの活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで読み合い，主語と述語の整った文か，確認し合わせる。

【 備 考 】

単元名 だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう

配当時間 12 時間

単元の目標 (1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。
 (2) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出して理解し、感じたことや分かったことを共有することができる。
 (3) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、本を読んで分かったことを説明しようとする。

標準的な展開例

02010304_001

【教材名】おにごっこ／本での調べ方

(下 P. 83～P. 93)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★調べたことを分かりやすく伝えよう。 ○知っている鬼ごっこや自分の好きな鬼ごっこ遊びについて出し合う。 ○リード文や教科書(P.90～91)「見通しをもとう」を参考にして、学習の見通しを立てる。</p> <p>2～5 説明の仕方を確かめながら文章を読む。 ★おにごっこの工夫を見付けよう。 ○「おにごっこ」の範読を聞き、知っている遊びやしたことのある遊び方を見付ける。 ○何についての文章か、確かめる。</p> <p>○「おにごっこ」に出てくる遊び方を整理する。</p> <p>○遊び方にはどんな面白さや工夫があるか考えて、まとめる。</p> <p>○もっと面白くするためにどんな遊びがあるか考え、発表する。</p> <p>6 本での調べ方を学習する。 ○教科書(P.93)「本でのしらべ方」を読んで、知りたいことを本で調べる際の調べ方を確認する。</p> <p>○遊びについて書かれた本を読む。</p> <p>7～10 おにごっこや他の遊びについて本を読んで調べ、説明し合う。 ★遊び方を説明しよう。 ○遊びについて書かれた本を選んで読む。</p> <p>○発表メモや発表原稿を作って、発表の仕方を練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 好きな鬼ごっこをランキングなどにして提示し、なぜ人気なのかを考えさせる。 大事な言葉に気を付けて読み、分かったことを説明することを確認させる。 知っている遊びやしたことのある遊びにサイドラインを引かせながら読ませるとよい。 説明文では、初めの方に、何についての説明かが書かれていることが多いことを伝える。 疑問の形で書かれていることに気付かせる。 どのような事柄がどのような順で説明されているか、確かめさせる。 本文の「」の中に遊び方が書かれていることに気付かせる。 教科書(P.90)「せいりをするときのれい」を参考に、ノートに整理して書けるよう指導する。 それぞれの「遊び方」がどんな面白さにつながるのかを考えさせる。 本文では、「遊び方」の紹介の次に「おもしろさや工夫」が書かれていることに気付かせる。 個人で考えさせた後、グループで発表をしてさまざまな工夫があることに気付かせる。 【評】遊びをまとめたり考えたりする活動を通して、文章を読んで感じたことや分かったことを共有する「思考・判断・表現」を評価する。 知りたいこと確かめて読むことや、分かったことをメモしながら読むことを確かめる。 メモは以前に学習したことを想起させ、簡単な言葉で書くこと、筆者名と題名も書くことを指導する。 図書館などで事前に遊びの本を選び、コーナーを作っておくことよい。 読書サポーターや司書等がいる場合、連携して行うことよい。 「遊び方」を探しながら繰り返し読ませる。 調べたこと、大事なことを箇条書きでメモする。 メモを使って、紹介する事柄の順序を決め、説明の仕方の構成を考える。 【評】遊びの本を読む活動を通して、読書に親しみ、いろいろな本があることに気付く「知識・技能」を評価する。 【評】メモを取る活動を通して、文章の中から説明するための重要な語や文を考えて選び出す「思考・判断・表現」を評価する。 教科書(P.91)の吹き出しを参考にし、構成を考えさせて、発表原稿を作らせる。 【評】本を読んで調べ、説明し合う活動を通し

<p>○グループで発表会をする。</p> <p>11～12 説明がどう伝わったか確かめ合い、学習の振り返りをする。</p> <p>○実際に説明された通りに遊んで、伝わり方を確かめる。</p> <p>○学習の振り返りを行う。</p>	<p>て、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表を行い、どの子の発表が分かりやすかったか考える。 ・もっと面白くするために、どのような遊び方をすればよいか、工夫を話し合ってもよい。 <p>・遊んでいて不都合があった場合、どのような説明があるとよかったのか考えさせる。</p> <p>・説明し合ったグループで遊んだり、クラスで代表の子の説明を使って遊んだりさせる。</p> <p>・教科書(P.91)「ふりかえろう」(P.92)「たいせつ」で振り返りを行い、文章を読むときには、大事な言葉や文を見付けることを確かめる。</p>
---	--

【 備 考 】

単元名 ことばについて考えよう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くことができる。
- (3) 身近なことを表す語句の量を増やして語彙を豊かにし、様子を表す言葉を使って文を書こうとする。

標準的な展開例

02010305_001

【教材名】 ようすをあらわすことば (下 P.94～P.97)

【準備等】 雨の降っている写真または絵

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 写真の様子を表すのに適した言葉を考え、発表する。</p> <p>★様子を表す言葉について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 雨の写真を見て、様子が分かるように言葉を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 雨が () 降っている。 ○ 考えた言葉を発表し、様子に合っているか話し合う。 ○ 考えた言葉を、似た者同士でいくつかのグループに分ける。 <p>2～3 教材文を読み、様子を表す言葉について整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材文を音読する。 ○ 教材文の中から様子を表す言葉を探し、発表する。 ○ 様子を表す言葉には種類があることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どれくらいかを表す言葉 (形容詞) ・ 言葉の響き、音 (オノマトペ) ・ 例え (比喩表現) ○ 前時に自分で出した言葉を3つのグループに分ける。 <p>4 様子を表す言葉を使って文を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書(P.97)の三つの挿絵から、どんな様子が分かるかを話し合う。 ○ 三つの挿絵について、様子を表す言葉を使って、文を作る。 ○ 作った文を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を提示し、雨が降った経験を想起させ、そのときの様子を自由に表現させてから取り組ませる。 ・ ノートに思い付く言葉を書かせる。 ・ さまざまな表現の仕方があることに気付かせたい。 ・ 何に注目してグループ分けしたのかも考えさせる。 ・ 初めは教師が範読し、その後各自で音読させる。 ・ 様子を表す言葉に線を引きながら音読させてもよい。 ・ 発表された言葉を形容詞 (形容動詞)、オノマトペ、比喩表現に分けて板書する。 【評】 言葉探しの活動を通して、言葉には意味のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。 ・ 例文を読み比べ、文の印象が違うことに気付かせる。 ・ 様子を表す言葉を使うことで、より詳しく分かりやすくなることや、表現が広がることにも触れる。 【評】 様子を表す言葉を整理する活動を通して言葉には事物の内容を表す働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。 ・ それぞれの表現の特徴を考えながら、使い分けできるようにする。 ・ 挿絵を見て、どのような様子か、自由に話し合わせる。 ・ 聞こえてくる音や、描かれている人物が思っていることなどを考えさせ、想像を広げさせる。 ・ 3種類の様子を表す言葉を使って書くようにする。 ・ 一つの挿絵で複数の表現を使って、いくつかの短文を使ってもよいこととする。 【評】 様子を表す言葉を使った文作りの活動を通して、語と語、文と文の続き方に注意してつながりのある文を書く「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 文作りを通して、語彙を豊かにし、様子を表す言葉を使って文を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ ペアで読み合い、表現の仕方のよいところや気に入った表現を伝え合わせる。

【 備 考 】

単元名 詩を作ろう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。
 (2) 経験したことや想像したことなどから、書くことを見付けることができる。
 (3) 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、詩を書こうとする。

標準的な展開例

02010306_001

【教材名】見たこと、かんじたこと (下 P.98～P.99)

【準備等】知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★詩の書き方を知ろう。</p> <p>○教科書(P.98)の詩を読み、身近な出来事や物事を言葉で表現していることに気付く。</p> <p>○「見たこと、かんじたことを詩に書こう」という学習課題を設定する。</p> <p>2～3 詩の材料を見付ける。 ★詩に書くことを見付けよう。 ○教科書(P.99)を読み、生活の中で心が動いたことを振り返る。 ○見たり聞いたりしたことや、五感で感じたことなどを思い出して書き出す。</p> <p>4～5 これまでに学習した表現の工夫を使って詩を作る。 ★詩を作ってみよう。 ○教科書の三つの詩を参考にしたり、「ようすをあらわすことば」で学習したことを振り返る。</p> <p>○読む人に伝わるよう表現を工夫して、詩を作る。</p> <p>6 作った詩を読み合い、感想を伝え合う。 ★詩を読み合って、よいところを伝え合おう。 ○作った詩をグループの友達と読み合う。 ○詩を読んでよかったところを伝え合う。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・個人読み、一斉読み、指名読み、交互読みなど、さまざまな音読をさせ、それぞれの詩の特性をつかませる。</p> <p>・知多の友(P.44)の参考作品を活用する。</p> <p>・知多の友(P.45)を活用する。</p> <p>・教科書(P.99)「たいせつ」を読み、イメージを広げやすくする。 【評】詩の題材を見付ける活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で正しく使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P.94)やノートから、同じ雨の降り方でも、さまざまな表現ができたことを振り返らせる。</p> <p>・知多の友(P.46～47)を活用する。</p> <p>・様子の表し方を工夫させる。 【評】詩を作る活動を通して、経験したことや想像したことを基に詩を作る「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・完成したら、読み返すようにし、適切に直させる。</p> <p>・絵を描いてもよいことを伝える。</p> <p>【評】詩の交流を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 つたえたいことをきめて、はっぴょうしよう

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 姿勢や口形，発声や発音に注意して話すことができる。
 (2) 身近なことや，経験したことなどから，話題を決め，伝えたい事柄を選び，その事柄や相手に応じて，声の大きさや速さを工夫して話すことができる。
 (3) 伝え合うために必要な事柄を選び，経験したことを紹介しようとする。

標準的な展開例

02010307_001

【教材名】楽しかったよ，二年生 (下 P.100～P.103)

【準備等】1年間の写真や日記，付箋，思い出を書くカード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1年間を振り返り，発表会をすることを確認して学習の見通しをもつ。 ★2年生の思い出を発表する計画を立てよう。 ○1年間の学校生活を振り返り，学んだことや遊んだことを思い出す。 ○学習の進め方を確認する。</p> <p>2～3 1年間の学校生活を振り返り，話すことを決める。 ★1年間を振り返って，話すことを決めよう。 ○2年生での思い出を振り返り，カードに書いて黒板に貼る。 ○話すことを一つ決定する。 ○自分が決めた思い出についてメモを作る。</p> <p>4～6 組み立てを考えて，発表の練習をする。 ★発表の仕方を考えて，練習をしよう。 ○発表のメモを基に，原稿の書き方を考える。 ○文章の組み立てを考え，発表原稿を書く。 ・初めに心に残ったことを書く。 ・中にしたこと，思ったことを書く。 ・終わりにまとめの言葉を書く。 ○書いた文章を推敲する。 ○聞きやすい発表の仕方を考える。 ○発表の練習をする。</p> <p>7～8 発表し，感想を伝える。 ★練習したことを生かして発表会をしよう。 ○発表し合う。 ○感想を伝え合う。</p>	<p>・2年生の出来事が思い出せるような写真や日記などを用意しておく。 ・教科書(P.100)の「がくしゅうのすすめ方」を確認し，2年生での思い出について原稿を書き，発表会をすることを知らせる。</p> <p>・カードを行事，勉強，遊びなどの項目に分けて黒板に掲示する。 ・黒板に貼ったカードの中から，一番心に残っていることを選ばせる。 ・メモには，「したこと」「思ったこと」「友だちがしたこと，言ったこと」などが書けるようにする。 ・メモは付箋に書かせてもよい。 ・思い出しにくいことがある場合，友達に聞いたり，写真などで確認したりしてもよいことを伝える。 【評】話す事柄を選び，メモを書く活動を通して，話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶ「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書(P.102)の作例を参考に，初め，中，終わりの三つに分けて文章を書くことを確認する。 ・時間の流れ，重要度，印象の強さなどの点から話す順番を考え，メモや付箋で組み立てを考える。 ・初め，中，終わりにそれぞれ何を書けばよいかわかりやすい教科書(P.102)を参考に考えさせ，メモを基に文章を書かせる。 ・メモの内容に付け足して書いていく。 【評】文章の構成を考える活動を通して，相手に伝わるように話す事柄の順序を考える「思考・判断・表現」を評価する。 ・書いた文章を読み返し，分かりにくい部分や間違った文字を訂正させる。 ・二次元コード「みんなの前で話す」などで発表の様子を聞かせ，どのように発表するか確認させる。 ・発表する声の大きさ，視線，速さについて考えさせる。 ・発表原稿に，赤鉛筆で発表の仕方の工夫を書き込ませ，それを基に練習させる。 【評】発表練習の活動を通して，伝えたい事柄に応じて，声の大きさや速さなどを工夫する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・4月からの出来事の順に発表させるなど，発表会の仕方を工夫するとよい。 【評】発表する活動を通して，姿勢や口形，発声や発音に注意して話す「知識・技能」を評価する。 【評】発表する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・感想タイムを設定し，発表の仕方や原稿の構</p>

○振り返りをする。

成について感想を発表させる。
・教科書(P.103)「ふりかえろう」「たいせつ」で学習の振り返りをし、スピーチで気を付けることを確かめる。

【 備 考 】

単元名 **カンジーはかせの大はつめい**

配当時間 **2 時間**

単元の目標 (1) 第2学年までに配当されている漢字を読むことができる。
(3) 第2学年までに配当されている漢字を読み、漢字クイズに取り組もうとする。

標準的な展開例

02010308_001

【教材名】カンジーはかせの大はつめい (下 P.104～P.105)

【準備等】「へん」と「つくり」カード, ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 漢字を合体させる機械の仕組みを理解し、設問に取り組む。</p> <p>★漢字クイズ大会を開こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字を合体させる機械や、漢字を作る弓矢の仕組みを確認する。 ○設問に取り組む。 <p>2 グループごとに問題を作り、漢字クイズ大会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループごとにワークシートに問題を作る。 ○漢字クイズ大会を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「へん」と「つくり」カードなどを用意し、カードを合わせて漢字ができるようにするなど、視覚的に分かりやすくする。 ・できた問題をペアで確認させる。 ・できた漢字の読み方を確認する。 <p>【評】設問に取り組む活動を通して、第2学年までに配当されている漢字を読む「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字合体問題と弓矢問題のどちらに取り組ませてもよいことにする。 ・一人ずつ問題作りに取り組ませてから、グループで出し合い、問題を何題か作る。 ・各グループごとに問題を出し合い、クラス全員で考えさせる。 <p>【評】漢字クイズ大会の活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 ことばを楽しもう

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。
(3) 言葉の豊かさに気付き、回文遊びを楽しもうとする。

標準的な展開例

02010309_001

【教材名】ことばを楽しもう (下 P.106)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 回文の決まりを知り、回文作りをする。</p> <p>★回文を作ろう。</p> <p>○回文を音読して、どんな決まりがあるか考える。</p> <p>○どのような意味の文か考える。</p> <p>○上から読んでも下から読んでも同じ意味になる言葉を探す。</p> <p>・トマト、こねこ、たいやきやいた など</p> <p>○簡単な回文を作る。</p>	<p>・何回も音読させ、上から読んでも下から読んでも同じになることに気付かせる。</p> <p>・言葉の切れ目や、意味を考えさせ、上から読んでも下から読んでも同じで、意味も通る文であることを理解させる。</p> <p>【評】回文の決まりを考える活動を通して、言葉の豊かさに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・単語でも短文でもよいことにする。</p> <p>・作った回文はカードなどにし、発表させる。</p> <p>【評】回文作りを楽しむ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 読んで、かんじたことをつたえ合おう

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やすことができる。
 (2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を想像するとともに、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。
 (3) 文章を読んで感じたことを共有し、物語の感想を交流しようとする。

標準的な展開例

02010310_001

【教材名】スーホの白い馬 (下 P.107～P.126)

【準備等】モンゴルの写真、地図、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 2年生で学習した物語文を振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>★どんなお話か想像しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでに読んだお話を思い出し、心に残っていることを出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ふきのとう」 ・「スイミー」 ・「お手紙」 ・「わたしはおねえさん」 ○扉のリード文や挿絵を参考にして、どのような物語か想像する。 <p>○物語を読み、心に残ったことを発表し合う活動をすることを確認する。</p> <p>2～3 「スーホの白い馬」を読み、大体の内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師またはCDの範読を聞く。 <p>○登場人物や出来事などを簡単に確認する。</p> <p>○初発の感想を書き、交流する。</p> <p>4～8 話の順に人物の言動を確かめ、そのときの人物の様子を想像する。</p> <p>★人物の様子が表れている言葉に気を付けて読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書(P.124)「お話のじゅんにたしかめる」で、どの順で読み取るのか確かめる。 ○スーホの人物像と、白馬との出会いを読み取り、様子を想像する。 ○ひつじをおおかみから守る白馬について読み取り、様子を想像する。 ○殿様に白馬を取り上げられたスーホについて読み取り、様子を想像する。 ○殿様のところから逃げてスーホのところに帰ってきた白馬について読み取り、様子を想像する。 ○馬頭琴を作るスーホについて読み取りをし、様子を想像する。 <p>9～11 強く心に残ったところを交流する。</p> <p>★強く心に残ったことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スーホや白馬の行動や会話で、強く心を動かされたところにサイドラインを引く。 ○強く心を動かされたところをノートに書き抜き、その理由も書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ心に残ったのかを発表させ、読み取り、想像を広げた学習をしたことを想起させる。 ・モンゴルという国の話であることや馬が出てくる話であることなど、自由に想像させ、興味をもたせる。 ・いろいろな国の昔話や民話のコーナーを作って、いつでも読めるようにしておく。 ・これまでの学習のまとめであることを意識させる。 ・モンゴルという国の昔話であることを知らせ地図やモンゴルの写真などを提示しながら読む。 ・挿絵を使いながら、時間の経過ごとにどのような出来事があったのかを確認させる。 ・二次元コードで、馬頭琴の画像を見せるとよい。また、馬頭琴の音色などがあれば聞かせるとよい。 ・心に残ったことをノートに書かせる。 ・書いた感想をペアやグループで発表させる。 ・6つの順で、それぞれの場面のスーホや白馬の気持ちと様子を読み取ることを、理解させる。 ・前書きに着目させ、物語を説明し、引き込ませる役割を果たしていることを押さえる。 ・スーホの人物像を押さえることで、後で殿様との対比につなげられるようにする。 ・「心をこめてせわした」「ひつしにふせいでいました」「兄弟に言うように」など、スーホと白馬のつながりの深さが分かる文にサイドラインを引かせ、読み取りやすくする。 ・白馬の気持ちにも着目させ、お互いの気持ちの強さを感じとらせる。 ・馬頭琴を作る前、作っている最中、完成した後のスーホの気持ちを考えさせる。 ・馬頭琴の音色などを聞かせ、どのような気持ちが伝わるかを考えさせてもよい。 【評】人物や場面の様子を読み取る活動を通して、登場人物の行動を具体的に想像する「思考・判断・表現」を評価する。 ・いくつか線を引かせ、その中から選ばせてもよい。 ・読み取ったスーホや白馬の気持ち、場面の様子が感想に表れるように、理由をしっかりと書かせる。 【評】感想と理由を書く活動を通して、身近な

<p>○感想を交流する。</p> <p>12～14 世界の昔話や民話を読み，強く心に残ったところを交流する。</p> <p>○学習を振り返る。</p> <p>○世界の昔話や民話を読む。</p> <p>○強く心に残ったところとその理由をメモに書く。</p> <p>○グループで感想を交流する。</p>	<p>ことを表す語句の量を増やし，文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P.125)「話し方のれい」を参考にして，グループで交流させる。 ・聞き手は感想を聞いて思ったことを伝えるようにし，どのような場面で友達がどのように感じたかなどを考えさせる。 <p>【評】感想を交流する活動を通して，文章を読んで感じたことや分かったことを共有する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】感想を交流する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P.125)「ふりかえろう」や(P.126)「たいせつ」などを読み，読んで感じたことを伝え合うときに気を付けることなどを振り返る。 ・昔話や民話のコーナーや図書館を活用し，自分が興味をもった外国の物語を読ませる。 ・教科書(P.126)「この本読もう」も参考にする。 ・メモができるワークシートを用意し，学習してきたことを生かして，心に残ったところと理由を書けるようにする。 ・グループで交流し，さまざまな本があることに気付かせる。
---	---

【 備 考 】

単元名 思いをつたえる手紙を書こう

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けながら使うことができる。
 (2) 経験したことから書く題材を決めて必要な事柄を集め、順序や文と文の続き方に注意して書くとともに、文章を読み返して間違いを正すことができる。
 (3) 文章を読み返して間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりして、手紙を書くとする。

標準的な展開例

02010311_001

【教材名】すてきなところをつたえよう

(下 P. 127～P. 132)

【準備等】知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★友達のすてきなところを手紙で伝えよう。 ○教科書(P. 130)「やすださんの手紙」「なかはらさんの手紙」を読んで感想を伝え合い、学習課題を設定する。 ○教科書(P. 127)を見て、学習の進め方を確かめる。 ○友達のすてきなところを思い出す。</p> <p>2～3 手紙で伝えたい相手と内容を決める。 ★友達のすてきなところを書こう。 ○誰のどのようなところがすてきか、書く。 ○教科書(P. 129)を読む。</p> <p>4～6 題材を選び、出来事や自分の気持ちが伝わるように手紙を書く。 ★伝えたいことを分かりやすく手紙に書こう。 ○教科書(P. 130)「やすださんの手紙」「なかはらさんの手紙」を読み、手紙の書き方について考える。</p> <p>○手紙を書く。</p> <p>7～9 書いた手紙を読み返して推敲し、清書する。 ★さらによい手紙にしよう。 ○教科書(P. 131)「手紙を読みかえそう」を読み、文章を読み返すときに確かめることを知る。 ○見付けた間違いや分かりにくい部分を書き直した後で、清書する。</p> <p>10～11 書いた手紙を交換し合い、相手に返事を書いて交流する。 ★手紙を読み合って、思ったことや相手のよいところを伝え合おう。 ○教科書(P. 132)を参考に、手紙を読んでよかったところを伝え合おう。 ○相手から手紙を受け取って読み、どのような返事を書いたらよいか考えて書く。</p> <p>12 学習を振り返る。 ★手紙を書いたり、もらったりして思ったことを伝え合おう。 ○教科書(P. 132)「ふりかえろう」を読んで、振り返りをする。 ○手紙を交換する活動を通して、思ったことを書く。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・知多の友(P. 49)を活用する。 ・友達との関わりを思い出せるような写真などを用意しておく。 【評】心に残っていることを思い出す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 50)を活用する。 【評】友達のすてきなところをカードに書く活動を通して、経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・友達のすてきなところと、そう思ったときのことを分けて書いていることに気付かせる。</p> <p>・文章の最後に、相手に呼び掛けるような言葉が書かれていることに気付かせる。 ・知多の友(P. 51～54)を活用する。 【評】手紙を書く活動を通して、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・書けた児童には、読み直しをさせる。 ・知多の友(P. 57)を活用させる。 ・間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりして、読み手に分かりやすい文になっているか確認させる。 【評】手紙を書く活動を通して、語と語や文と文との続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 55)を活用する。</p> <p>・返事を書いたら、知多の友(P. 57)を活用して読み返す。 【評】手紙を読み合い、よいところを伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・友達のさまざまな思いを聞くことができるようにグループやクラス全体で交流させる。 ・教科書(P. 131)「たいせつ」を読み、読む人に分かりやすい文章の書き方を押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 **オリエンテーション**

配当時間 **1 時間**

単元の目標 (1) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。
(2) 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる。
(3) 相手を見て話したり聞いたりし、自己紹介をしようとする。

標準的な展開例

03010101_001

【教材名】よく聞いて、じこしょうかい (上 P. 1～P. 11)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 1年間の国語の学習を見通し、自己紹介をする。</p> <p>★友達の話をよく聞いて、相手によく分かるように自己紹介をしよう。</p> <p>○扉の詩「わかば」を読み、目次や教科書(P. 4)「三年生の国語の学びを見わたそう」や教科書(P. 9)「分ける・くらべる」を見て、1年間の国語の学習を見通す。</p> <p>○自分の「好きなもの」を一つ考え、順番に紹介し合う。</p> <p>○自分たちの話し方・聞き方を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを自由に発表させる。 ・国語の学習を進めるに当たって、決まりや約束になることを指導する。 ・前の人の話を繰り返してから、自分のことを話すようにさせる。 ・教科書(P. 11)下段の話し方・聞き方を確認させる。 <p>【評】話し方に気を付けて自分のことを話す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】前の人の話を聞いてくりかえしてから話す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】前の人の話を聞いたり、自分のことを話したりして友達と関わる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P. 5)「二年生の学びをたしかめよう」を読み、「話す・聞く」の学習の流れを押さえる。

【 備 考 】

単元名 詩を楽しもう

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。
 (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
 (3) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら、楽しんで音読しようとする。

標準的な展開例

03010102_001

【教材名】 どきん (上 P.12～P.14)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 詩を楽しみ, 感じたことを伝え合う。</p> <p>★言葉の調子を楽しみながら音読し, 感じたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知っている擬態語や擬音語を出し合い, 声に出して読み合う。 ○行末の擬声語, 擬態語や, 2つの連の構成に注意しながら「どきん」を音読する。 ○自分がおもしろいと感じたところをクラスの友達に伝えるために, 「どきん」に音読記号を付けて, 練習する。 ○音読を発表し, 感じたことを伝え合う。 ○授業のまとめをノートに書く。 ○教科書(P.14)「つづけてみよう」を読み, 日記の書き方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり, はっきり音読しながら, リズムや声の大きさ, 強さに気を付けて読むように指示する。 【評】詩を楽しんで音読する活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・声の大きさ, 速さ, はっきりした発音, 姿勢に注意して音読できているかを確認する。 【評】擬声語や擬態語に注意しながら音読する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・強く, 弱く, ゆっくり, 速くなどの音読記号を付けさせる。 【評】「どきん」を工夫して音読し, 感じたことを伝え合う活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・年間を通した継続的な活動にできるとよい。

【 備 考 】

単元名 読んで、そうぞうしたことをつたえ合おう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。
 (2) 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。
 (3) 登場人物の行動や気持ちを捉え、読んで想像したことを伝え合おうとする。

標準的な展開例

03010103_001

【教材名】きつつきの商売 (上 P.15～P.29)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教材文を読み、学習の見通しをもつ。 ★学習の計画を立てよう。 ○「きつつきの商売」の題名から、どんな動物が出てくるか話し合う。</p> <p>○全文を音読して感想を書く。 ○学習課題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>2～3 「1」と「2」の場面を整理し、書かれている様子を思い浮かべながら音読する。 ★様子を思い浮かべながら音読しよう。 ○教材文を読み、きつつきがどんな商売をしているか話し合う。 ○二つの場面の様子を調べて、ノートに書き出し、話し合う。 ・場所・天気などの様子 ・登場人物がしたこと ○好きな場面を選んで、書かれている様子を思い浮かべながら音読する。</p> <p>○「きつつき」が聞かせた音について、叙述を基に具体的に想像し、話し合う。</p> <p>4 音を聞いた登場人物の気持ちを考えて、伝え合う。 ★音を聞いた登場人物の気持ちを考えよう。 ○教師の範読を聞く。</p> <p>○音を聞いた登場人物の様子を整理する。</p> <p>○音を聞いた登場人物の気持ちを想像し、話し合う。</p> <p>5～7 「3」の場面を作る。 ★「3」の場面を考えて、よいところを伝え合おう。 ○登場人物や出来事などを考える。 ・登場人物 ・場所や天気など ・音 ・出来事など ○想像した「3」の場面の内容を書く。 ○書いたものを友達と紹介し合い、感想を交流する。</p> <p>8 学習を振り返る。 ○教科書(P.27)「ふりかえろう」で、単元の学びを振り返る。 ○教科書(P.28)「この本、読もう」で読書へのつなげ方や読書記録の付け方を知る。</p>	<p>・読む前に、題名から内容を予想させ、物語への関心を高める。 ・二次元コードで、「木のうろ」や、「たちつぽすみれ」の画像を見せると、イメージをつかみやすい。 ・挿絵を活用し、場面の変化を押さえる。 ・教科書(P.4)「三年生の国語の学びを見わたそう」を参考にする。</p> <p>・教科書(P.26)「読んで、そうぞうしたことをつたえ合おう」を読んで、ノートを書くときの整理の仕方を確認する。</p> <p>・教科書(P.26)「読んで、そうぞうしたことをつたえ合おう」の「音読のしかた」を参考にし、自分ならどう音読するかを考え、グループで交流させる。 【評】二つの場面を整理して音読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】言葉から人物の気持ちを想像して音読の工夫を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】叙述を基に聞かせた音について、話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・音を聞いた登場人物の気持ちが分かる行動や会話、様子、出来事などに線を引かせる。 ・教科書(P.27)「ノートのれい」を参考に、ノートに整理させる。 ・ノートに整理した音を聞いた登場人物の様子から、叙述を基に考えさせる。 【評】登場人物の気持ちを想像し、考えを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書(P.27)「ノートのれい」を参考にして看板に必要なことを押さえる。</p> <p>・ノートを基に想像した内容を書かせる。 ・友達の書いた内容を聞いて、「いいな」「おもしろいな」と思ったことを伝えさせる。 【評】想像した「3」の場面を伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書(P.28)「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 本は友だち1

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
(3) 図書館利用に関わることを知ろうとする。

標準的な展開例

03010104_001

【教材名】図書館たんていだん (上 P. 30～P. 31)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 本の分類について理解する。</p> <p>★図書館で、本を探す方法を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書(P. 30)を読み、図書館では内容による本の分類があることを知る。 ○学校図書館に行き、本の分類を確認する。 ○グループで学校図書館の地図を作り、棚ごとにどのような種類の本があるのか調べる。 ○見付けたい本がどの棚にあるのか、予想して確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書サポーターや司書等、連携できる場合は共同で行う。 <p>【評】学校図書館の地図を作成する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「詩の本」「サッカーのルールが分かる本」「草の育てそだて方をしらべられる本」など本の種類を示して予想させる。 <p>【評】指定された本の分類を予想し確認する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 国語辞典を使おう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 辞書の使い方を理解し、使うことができる。
(3) 辞書の使い方を理解し、使おうとする。

標準的な展開例

03010105_001

【教材名】国語辞典を使おう (上 P. 32～P. 34)

【準備等】国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 国語辞典を使う目的と使い方を知る。</p> <p>★国語辞典の使い方を知ろう。</p> <p>○国語辞典を見て、何が載っているかやどんなときに使うのかなど、考えたことを話し合う。</p> <p>○国語辞典を使って調べる方法を理解する。</p> <p>○見出し語の見付け方を理解する。</p> <p>2 見出し語の並び方や言葉の形について知り、いろいろな言葉の意味を調べる。</p> <p>★国語辞典でいろいろな言葉の意味を調べよう。</p> <p>○清音・濁音・半濁音の並び方や長音を含む語の配列を知る。</p> <p>○形の変化する言葉は言い切りの形で調べることを知る。</p> <p>○教科書 (P. 34) の課題に取り組み、自分の使う辞書の語の並び方を確認する。</p> <p>○教科書 (P. 34) の課題に取り組み、意味が複数ある中から文脈に適した意味を選ぶ。</p> <p>○教科書 (P. 34) の課題に取り組み、辞書で言葉の意味を調べ、適切な語を選ぶ。</p> <p>○調べて分かった意味をノートにまとめる。</p>	<p>・国語辞典を使った経験を発表させ、学級や個人の実態に応じて学習を進めていく。</p> <p>・二次元コードを読み込み、動画を視聴させてもよい。</p> <p>・国語辞典を開き、教科書 (P. 32) 「国語辞典のれい」の内容を確認させる。</p> <p>・国語辞典では、どのような決まりで言葉が示されているかを知らせる。</p> <p>・教科書 (P. 140) 「ひらがなとかたかな」を参考に、五十音の並び方を確かめて、言葉を調べさせる。</p> <p>【評】国語辞典の使い方を理解する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 33) の「ホール」「ボール」「ポール」「シール」「プール」などの語を実際に引いて配列を確かめさせる。</p> <p>・教科書 (P. 33) を読んで、形の変化する言葉は言い切りの形で調べることを押さえる。</p> <p>・すぐに辞書を引かせるのではなく、どちらが先に出ているか予想させてから調べさせる。</p> <p>・辞書を引く前に文脈から意味を予想させてから、当てはまる意味を辞書を使って確認させる。</p> <p>・調べた意味をノートにまとめさせる。</p> <p>・国語辞典の仕組みと使い方を知り、使い慣れておくことで、分からないことは自分で調べられるという自信をもたせ、今後の学習で積極的に国語辞典を活用できるように指導したい。</p> <p>【評】国語辞典を使って文字や語句を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場1

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。
 (3) 第2学年までに学習した漢字を確認め、文の中で適切に使おうとする。

標準的な展開例

03010106_001

【教材名】 2年生で習った漢字1 (上 P.35)

【準備等】 短冊，教科書の絵の拡大図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書(P.35)の絵の中の言葉の読み方と意味を確認し、動物園の中の様子を話し合う。 ★漢字の読み方を確認し、動物園の様子を説明しよう。 ○提示されている言葉の読み方と意味を確認する。</p> <p>○例文を読んで、文の作り方を確認する。</p> <p>○一つの場面に限定して、文作りの練習をする。</p> <p>2 絵に描いてある動物の様子や物、人間がしていることなどを説明する文を書く。 ★絵の中の言葉を使い、グループで動物園の中の様子をレポートしよう。 ○前時を想起し、本時のめあてを確認する。</p> <p>○グループで話し合い、担当する場所を決める。</p> <p>○自分の担当の場所の文作りをする。</p> <p>○グループの友達と読み合い、推敲する。</p> <p>○短冊に書き写して拡大図に貼り、読み合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 動物園に入って進んでいく様子がイメージできるように、下の入口から読ませ、動物の名前も確認させる。 語尾が変わってもよいことや、絵の中にない言葉を使ってもよいことを知らせる。 一つの場面に限定することで、文作りの方法を丁寧に確認する。 <p>【評】絵の中の様子を提示された言葉を使って説明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物園の絵の拡大図に前時の文を短冊に書いたものを貼り付けて見せ、活動の見通しをもたせる。 前時に作った場所以外の所をグループで分担し、共同作品を作ることを知らせる。 <p>【評】第2学年で習った漢字を適切に使って文を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】主語・述語の関係などに気を付けて書いたり直したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他のグループのレポートを読み合わせる。 場面を分担して文を作り、できた文をつなげて一つの文章を作り上げてよい。

【 備 考 】

単元名 きせつの言葉1

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 語句の量を増やし、春らしさを表現したを書こうとする。

標準的な展開例

03010107_001

【教材名】春のくらし (上 P. 36～P. 37)

【準備等】国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 春の行事に関わる言葉を探す。 ★「春」から思い浮かぶ言葉を集めよう。 ○「みどり」を朗読し、感じたことを話し合う。</p> <p>○校庭や地域に出て、生活の中で春を感じるものを探す。</p> <p>○教科書の言葉から知っているものを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。</p> <p>2 春を感じたものについて文章を書く。 ★春を感じたものについて書こう。 ○自分の身の回りで見付けた春を感じたものについて文章を書く。</p> <p>○書いた文章を交流する。</p>	<p>・詩を朗読することで明るい雰囲気を作り、春についての興味をもたせる。</p> <p>・教科書の絵から想像するだけではなく、実際に目で見たり肌で感じたりするなど、五感を働かせて春を感じさせる。</p> <p>【評】春に関する言葉を発表したり、連想したものを出し合ったりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・前時の学習を想起したり、教科書（P. 36）の例を参考にしたりして書かせる。</p> <p>【評】春を感じたものについて書く活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の音と訓

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。
 (3) 漢字の音と訓に関心を持ち、よりよく漢字を学ぼうとする。

標準的な展開例

03010108_001

【教材名】漢字の音と訓 (上 P. 38～P. 39)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 漢字の読み方に「音」と「訓」があることを知り、特徴を理解する。 ★漢字の「音」と「訓」について知ろう。 ○同じ漢字に二通りの読み方があることに着目し、音と訓の特徴を理解する。</p> <p>○音訓二通りの読み方がある理由を知る。 ・漢字は中国で生まれたこと ・訓読みは日本の古くからの読み方に由来していること</p> <p>○音訓の両方を習った漢字を使って文を作り、発表する。</p> <p>2 漢字の読みの使い分けについて習熟する。 ★漢字の「音」と「訓」を使い分けよう。 ○教科書 (P. 39) の問題を解く。</p> <p>○音と訓を判別する問題を作る。</p> <p>○作った問題を出し合い、交流して楽しむ。</p>	<p>・教科書 (P. 38) 下段の「朝」の二通りの読み方を見て、児童の気づきを大切にしながら確認する。</p> <p>・教科書 (P. 38～39) の説明を読み、分かりにくい点は補足説明する。</p> <p>・児童によく定着している漢字を例に、二通りの読み方を使った文を作らせる。児童の実態に応じて一文に両方が入った文に挑戦させてもよい。</p> <p>【評】漢字の音読みと訓読みについて理解し、文を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・前時の学習を想起し、音と訓の特徴を使って予想してから、教科書 (P. 148～151) 「これまでに習った漢字」で確認させる。</p> <p>・「これまでに習った漢字」を活用して短い文を考えさせる。</p> <p>・グループで問題を交換し、お互いに音と訓を判別し合う。</p> <p>【評】習った漢字の音読みと訓読みを調べて問題を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 ききたいことを考えて、しつもんしよう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意して話することができる。
(2) 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。
(3) 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりしようとする。

標準的な展開例

03010109_001

【教材名】 もっと知りたい、友だちのこと/きちんとつたえるために

(上 P. 40～P. 45)

【準備等】 指導書付録CD（話し合いの様子）、スピーチメモ用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ★友達が話したいことは何かを考えながら聞き、質問をしたり、感想を言ったりしよう。 ○友達からさらに話を聞きたくなった経験を発表し合う。</p> <p>○「友だちの話をきいて、さらにききたいことを考えてしつもんしよう」という学習課題を設定し、学習の計画を立てる。</p> <p>2 学校や家での出来事から、友達に知らせたいことを決める。 ★友達に知らせたいことを決めよう。 ○友達と話を聞き合うために、自分が話し手として知らせたいことを決めて、ノートに書く。</p> <p>3 自分たちが普段はどんな話の聞き方をしているのかを話し合い、「よい聞き手」について考える。 ★質問や話の聞き方について考えよう。 ○教科書(P. 41)の表を見て、質問の種類や話の聞き方を整理する。</p> <p>4～6 友達の話を聞いて、質問する。 ★話を聞いて、もっと聞きたいことを質問しよう。 ○3, 4人のグループになり、一人ずつ話をする。</p> <p>○聞き手は、話を聞いて質問したいことをカードに書く。</p> <p>○カードに書いた中から、特に知りたいことを質問する。</p> <p>○友達の話や質問とその答えを聞いて、心に残ったことを伝え合う。 ○学習を振り返る。</p>	<p>・教科書(P. 40)を読み、学習の流れや学習課題をつかませる。</p> <p>・教科書(P. 41)下段のメモの例を参考にさせる</p> <p>・二次元コードを読み込み、動画「話を聞いてしつもんする」を視聴するとよい。</p> <p>・教科書(P. 44)「きちんとつたえるために」を学習し、相手にきちんと伝えるために落としはけないことや正しい指示語を理解させる。</p> <p>【評】 グループになって話をする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・聞き手に、もっと知りたいことを考えながら聞かせる。</p> <p>【評】話を聞いて質問をカードに書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】特に知りたいことを選び、質問する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 43)「ふりかえろう」で、話を聞いて質問するときに大切だと思ったことを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押させる。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場2

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 第2学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして，文や文章を整えることができる。
 (3) 第2学年までに学習した漢字を確認め，漢字を適切に使った文を作ろうとする。

標準的な展開例

03010110_001

【教材名】2年生で習った漢字2 (上 P.46)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 掲示された漢字を使い，男の子が宝物を探す冒険をする話を考える。 ★絵の中の言葉を使って，宝物を探しに出かけたお話を作ろう。 ○宝物を探しに出かけた男の子の話を簡単に考える。 ○提示されている漢字の読み方，書き方を確認する。 ○「そこで」「けれども」などの接続詞の使い方を確認する。 ○提示されている漢字を使って，文を書く。</p> <p>○書いた文を友達と読み合い，交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P.46)から，登場人物や人物の行動を確認し，物語のあらすじを想像させる。 【評】学習した漢字を確認する活動を通して，「知識・技能」を評価する。 ・〈れい〉を使い，接続詞の使い方をつかませる。 ・最初から書かせるのは難しい児童に対しては書こうとするお話を声に出させてから，文章を書くようにさせる。 【評】提示された漢字を使って文を書く活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・自分で読んだり，友達に読んでもらったりして，文と文のつながりが間違っているところを書き直させる。 【評】書いた文を読み，文を正しく直す活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 段落の役割について理解し、全体と中心など情報との関係について理解することができる。
(2) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。
(3) 段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、読んで考えたことを文章にまとめようとする。

標準的な展開例

03010111_001

【教材名】言葉で遊ぼう／こまを楽しむ／全体と中心

(上 P. 47～P. 59)

【準備等】いろいろな種類のこま

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「言葉で遊ぼう」に紹介されている三つの言葉遊びを体験し、学習の見通しをもつ。 ★段落とその中心を捉えて読み、感想を伝え合おう。 ○教科書(P. 47)の絵やリード文を見て、内容を予想し、知っている言葉遊びについて発表する。</p> <p>○「段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○「言葉で遊ぼう」を読む。</p> <p>○「問い」の「答え」を見付けながら③④段落を読む。</p> <p>○感想を友達と話す。 ○友達と話した感想を全体で交流し合う。</p> <p>○みんなの感想がどのまとまりから感じたことが多いのか考える。</p> <p>3～6 「こまを楽しむ」の構成を捉える。 ★段落やまとまりの役割を考えて、読もう。 ○題名から内容を予測し、学習のめあてをつかむ。</p> <p>○「こまを楽しむ」を読んで「問い」を見付ける。</p> <p>○段落に番号をつける。 ○全文を通読し、文章の組み立てを考える。</p> <p>○「問い」の答えを見付けながら、「中」の段落を読み、内容をノートに整理する。 ・こまの種類 ・楽しみ方</p> <p>○教科書(P. 59)「全体と中心」を読み、文章における全体と中心の関係やその捉え方について考える。</p> <p>○「おわり」を読み、「中」で書かれた六つのこまが、どのような言葉でまとめられているか考える。</p> <p>7～8 自分が一番遊んでみたいこまを選んで、感想を発表する。 ★一番遊んでみたいこまについて伝え合おう。 ○六つのこまの中から一番遊んでみたいものを選び、理由をノートにまとめる。 ○一番遊んでみたいこまについて、グループで発表する。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・「言葉」を使った遊びにはどんなものがあるか知っていることを発表したり、一緒に楽しんだりして関心を高める。</p> <p>・教科書(P. 159)「段落」を確認させる。 ・教科書(P. 160)「問い」を確認させる。 ・各段落に書かれていることを確かめながら音読させる。</p> <p>・「問い」の答えを探しながら通読した後、初発の感想を話し合うことを知らせる。 ・③④段落から「問い」の「答え」にあたる部分に線を引かせる。 ・ペアやグループで短く感想を話し合わせる。 ・どの段落の遊びのことを感想としているのかを板書して整理する。 ・「段落」「初め」「中」「終わり」の言葉を使って書いたり話したりさせる。</p> <p>・第1教材の「言葉で遊ぼう」を想起させ、学習の流れを確認させる。 ・教科書(P. 56)「ノートのれい」を参考にして「問い」を二つに分けノートに書かせる。</p> <p>・全文を「初め」「中」「終わり」のまとまりで捉えさせる。 ・教科書(P. 56)「文章の組み立て」を参考にしまとまりについて確認させる。 【評】「初め」「中」「終わり」のまとまりで文章の組み立てを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・音読した後、中心となる言葉や文を確かめさせる。 【評】紹介されているこまの種類や楽しみ方を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書(P. 59)下段の話の中心を考える問題に取り組ませる。 【評】全体に対する中心がどこか考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】六つのこまがどのようにまとめられているか読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 57)の例を参考に、感想を伝えるために適切な表現を使うようにさせる。 【評】一番遊んでみたいこまについてまとめ、話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書(P. 57)「ふりかえろう」で段落の文章の組み立てについて学んだことを振り返らせる。</p>

- ・教科書(P.58)「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。
- ・教科書(P.58)「この本、読もう」に触れ、関連読書を勧める。

【 備 考 】

単元名 大事なことを考えて、あんないの手紙を書こう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。
 (2) 相手や目的を意識して、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくって文章の構成を考えることができる。
 (3) 相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にし、丁寧な言葉を使って行事を案内する手紙を書こうとする。

標準的な展開例

03010112_001

【教材名】気持ちをこめて「来てください」 (上 P. 60～P. 63)

【準備等】知多の友、手紙の清書用紙(縦書き)、封筒(縦書き)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★大事なことを考えて、案内の手紙を書こう。 ○手紙をもらった経験を想起させ、手紙のよさについて話し合う。 ○教科書(P. 60)を読んで、学習課題と学習の進め方をつかむ。 ○運動会や授業参観など見に来てほしい行事や、手紙を送りたい相手について話し合い、学習の計画を立てる。</p> <p>2 手紙を送る相手を決め、伝える内容について考える。 ★相手を決め、伝えることを考えよう。 ○手紙を送る相手を決める。</p> <p>○伝える内容について確かめる。 ・日時 ・場所 ・行事の説明 ・気持ち など</p> <p>3 伝えることをメモに整理する。 ★伝えることを整理しよう。 ○手紙に必要な内容を知多の友(P. 5)に書き出す。</p> <p>4～5 手紙の組み立てについて確かめ、組み立てに沿って手紙を書く。 ★組み立てを確かめて書こう。 ○教科書(P. 62)「森川さんの手紙」を読んで、手紙の組み立てについて知る。 ○組み立てに沿って手紙の下書きをする。</p> <p>○声に出して読み、推敲する。 ・丁寧な言葉か。 ・正しく読みやすい字か。</p> <p>○下書きに沿って清書する。</p> <p>6 手紙を出し、学習を振り返る。 ○住所と宛名の書き方を知る。</p> <p>○封筒に宛名を書き、手紙を出す。</p> <p>○知多の友(P. 10)で、学習の振り返りをする。</p>	<p>・本単元は「知多の友」に掲載されているので十分に活用したい。</p> <p>・知多の友(P. 4)の学習の手順を読み、見通しをもたせる。 ・保護者や地域の人を学校に招く行事に合わせて、学習を進めるとよい。</p> <p>・これまでに世話になった人を具体的に思い出させ、招待の手紙を書く場面を設定するとよい。</p> <p>・教科書(P. 61)「森川さんのメモ」を参考にして書かせる。</p> <p>・知多の友(P. 9)で手紙の組み立てについて確認させる。 ・知多の友(P. 6)を活用する。 ・知多の友(P. 11)「きせつのあいさつ例文」を参考にとよい。 【評】手紙の組み立てに沿って書く活動を通して、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。 ・文末表現を確かめたり、文字の間違いを正したりする。 ・クラスの実態に合わせ、ペアやグループで行ってもよい。 【評】推敲する活動を通して、丁寧な言葉遣いや敬体で書く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 137)「あて名の書き方」を参考にさせる。 ・知多の友(P. 8)で練習させる。 ・住所などが書けるように、あらかじめ準備をさせておくとうい。 ・郵送するかどうかは、学級の実態に合わせて行う。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場3

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。
 (3) 積極的に文を作り、第2学年までに学習した漢字を文の中で適切に使おうとする。

標準的な展開例

03010113_001

【教材名】2年生で習った漢字3 (上 P.64)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書(P.64)上段の絵を見て、日曜日の出来事や人物の行動を文に書く。 ★絵の中の言葉を使って、文を作ろう。 ○日曜日の出来事について、漢字の読みを確認め、絵に示された様子を話し合う。</p> <p>○日曜日の出来事について、時を表す言葉を見付ける。 ・日曜日 ・午前 ・午後 ・朝 ・夜</p> <p>○例文を読んで、文の書き方を確認する。</p> <p>○日曜日の出来事を文に書く。</p> <p>2 教科書下段の絵を見て、今週の予定を文に書く。 ★絵の中の言葉を使って、今週の予定を書こう。 ○前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>○どのような書き方をすればよいか考える。</p> <p>○絵の中の言葉の読み方と、絵に示されている内容を確認する。 ○時を表す言葉を発表する。</p> <p>○今週の予定を文に書く。</p> <p>○提示された言葉を使っているか、時を表す言葉が入っているか見直す。</p> <p>○書いた文を友達と読み合い、交流する。</p>	<p>・女の子が学校へは行かずに家で過ごしている様子と、下段では家族の今週の予定が描かれていることを確認する。</p> <p>・教科書の女の子になったつもりで主語を「わたし」とすることや、時を表す言葉がない時には自分で付け加えてもよいこと、一文の中で全部の言葉を使わなくてもよいことを知らせる。</p> <p>・過去形で書くことを押さえる。 【評】時を表す言葉や絵の中の言葉を使って文を作る方法を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】文を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書下段の絵を見て、今週の予定を書くことを確認する。</p> <p>・日曜日の出来事を文に書いた場合と異なり、月曜日からすることを現在形で書くことを押さえる。</p> <p>・時を表す言葉がない場合は、自分で考えて入れさせる。 【評】時を表す言葉や第2学年で習った漢字を文の中で使う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・分りにくいところや間違いがあった場合は直させる。 【評】自分が作った文を見直す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 登場人物のへんかに気をつけて読み、感想を書こう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像し、叙述を基に捉えることができる。
 (3) 登場人物の気持ちの変化を想像し、物語の感想を書こうとする。

標準的な展開例

03010114_001

【教材名】まいごのかぎ (上 P. 65～P. 84)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「まいごのかぎ」を読んで話し合い、学習計画を立てる。</p> <p>★不思議な出来事に出会った登場人物の行動や気持ちに気をつけて読み、感じたことを伝え合おう。</p> <p>○扉のリード文や絵を見て、物語の内容を想像する。</p> <p>○学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>○「まいごのかぎ」を読み、初発の感想を書く。</p> <p>3 場所と出来事に気をつけて、場面に分ける。</p> <p>★物語を場面に分けよう。</p> <p>○各場面で起こったことと、そのときの「りいこ」の様子や気持ちをノートに整理する。</p> <p>4 物語の最初と最後で「りいこ」にどのような変化があったか考える。</p> <p>★「りいこ」の気持ちの変化を考えよう。</p> <p>○物語の最初と最後で、不思議な出来事に対する「りいこ」の考え方にどのような変化があったか考える。</p> <p>○物語の最初と最後で、「りいこ」の気持ちにどのような変化があったか考える。</p> <p>5～6 感想を書き、伝え合う。</p> <p>★友達と感想を伝え合おう。</p> <p>○「まいごのかぎ」を読んで、感じたこととその理由を文章にまとめる。</p> <p>○感想を友達と読み合い、自分の考えとの相違点を伝え合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・「りいこ」が何を見付け、その後何が起こるかなど、話の展開を想像させる。</p> <p>・「登場人物のへんかにきをつけて読み、感想を書こう」という学習課題を設定する。</p> <p>・教科書 (P. 82) 上段「とらえよう」を参照し様子を表す言葉に着目して、不思議な出来事を想像しながら読ませる。</p> <p>・教科書 (P. 82) 「ノートのれい」を参考に、ノートに整理させる。</p> <p>【評】「りいこ」の様子や気持ちをノートに整理する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・場面ごとに「ぼく」の気持ちが分かる部分をノートに整理し、「ぼく」の気持ちの変化を捉えさせる。</p> <p>【評】「りいこ」の考え方や気持ちの変化を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 83) 「まとめよう」「感想のれい」を読んで、自分の感じたことを書き、まとめさせる。</p> <p>【評】自分の感じたことがより伝わるように表現を工夫する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・読んで感じたことを発表し合う交流の場を設定することで、友達の感じ方から新たな考えをもったり、自分の考えを深めさせたりさせたい。</p> <p>・友達の発表を聞いて考えたことや違う点をノートに書かせる。</p> <p>・教科書 (P. 83) 「ふりかえろう」を読み、どのように登場人物の変化を捉えたか確認させる。</p> <p>・教科書 (P. 84) 「たいせつ」を読み、物語の読み方について確認させる。</p> <p>・教科書 (P. 84) 「この本、読もう」に触れ、関連読書を勧める。</p>

【 備 考 】

単元名 声に出して楽しもう1

配当時間 1時間

単元の見目標 (1) 易しい文語調の俳句を音読したり、暗唱したりして、言葉の響きやリズムを楽しむことができる。
(3) 易しい文語調の俳句を繰り返し音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しもうとする。

標準的な展開例

03010115_001

【教材名】俳句を楽しもう (上 P. 85～P. 87)

【準備等】指導書付録CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 言葉のまとまりや調子、響きを楽しみながら、声に出して読む。 ★声に出してリズムよく読もう。 ○俳句の決まりを知る。</p> <p>○区切りを確認し、リズムを意識しながら俳句を繰り返し音読する。</p> <p>○俳句の情景や作者の心情を想像して話し合う。 ○気に入った俳句や「いろは歌」を音読したり、暗唱したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として俳句は「五・七・五」の十七音でできていることや、季語があることなどを確認する。 ・CDや二次元コードの音声、教師の範読を聞いて、区切りを確認させる。 <p>【評】五七調の調子を楽しみ、リズムをつかんで音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知っている言葉を手がかりに考えさせる。 ・1音ずつ手をたたくなどして、言葉のまとまりや調子、響きを楽しみながら、声に出して音読させる。 <p>【評】五七調のリズムに気を付けて音読し、好きな俳句を暗唱する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **こそあど言葉を使いこなそう**

配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 指示する語句の役割について理解することができる。
(3) 指示する語句の役割を理解し、日常の読んだり書いたりする場面に当てはめ、使おうとする。

標準的な展開例

03010116_001

【教材名】こそあど言葉を使いこなそう (上 P. 88～P. 89)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「こそあど言葉」の働きや使い方を理解する。</p> <p>★「こそあど言葉」について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書(P. 88)を読んで、「こそあど言葉」が日常でどのように使われているか発表する。 「こそあど言葉」の使い分けについて理解する。 「こそあど言葉」によって、文が簡潔に表現できることを理解する。 教科書(P. 89)下段の問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書(P. 88)上段の挿絵から日常で「こそあど言葉」が使われている場面を想起させる。 <p>【評】日常で「こそあど言葉」がどのように使われているか考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書(P. 88)の表を参考にし、相手との距離や目的などによって使い分けられていることを知らせる。 <p>【評】「こそあど言葉」の使い分けを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書(P. 89)上段の文章を例として示す。 <p>【評】「こそあど言葉」を使い、文を簡潔にすることを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】「こそあど言葉」が指す語句を見付ける問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 あつめるときに使う

配当時間

3時間

単元の目標 (1) 引用の仕方や出典の示し方について理解し、使うことできる。
 (2) 自分の考えとその理由や事例との関係を明確にし、書き方を工夫することができる。
 (3) 引用の仕方を学び、本などで調べたことを引用して文章を書こうとする。

標準的な展開例

03010117_001

【教材名】引用するとき (P. 90～P. 91)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 引用の決まりや示し方を理解する。 ★引用の仕方を知ろう。 ○教科書(P. 90)を読み、引用について知る。</p> <p>○文章の中で引用をする際の決まりを理解する。 ○正しく引用するためのメモの取り方を理解する。 ○人から聞いたことを引用する書き方を理解する。</p> <p>3 引用して文章を書く。 ★正しく引用して、文章を書こう。 ○「こまを楽しむ」から引用して、興味をもったこまとその遊び方を紹介する文を書く。</p> <p>○書いた文章を友達と読み合い、正しく引用できているか確かめる。</p>	<p>・教科書(P. 160)でも確認する。 ・本などから調べたことを報告する際には、自分の考えと区別しなければならないことを知らせる。 ・教科書(P. 90)下段を参考に、引用の決まりを確認させる。 ・教科書(P. 91)上段を参考に、メモの取り方を確認させる。 ・教科書(P. 91)下段を参考に、文章の中での書き方を確認させる。 【評】引用の決まりや示し方を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・興味をもった理由とこまの遊び方を正しい引用の仕方で作かせる。 【評】理由や事例を正しく引用して文章を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】書いた文章を読み合い、正しく引用できているか確かめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 組み立てを考えて、ほうこくする文章を書こう

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 改行の仕方や句読点の使い方を理解して文や文章の中で使うとともに、比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方を理解し使うことができる。
 (2) 伝えたいことを明確にし、内容のまとめで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
 (3) 内容の中心が明確になるよう、書く工夫をして構成を考え、調べたことを報告する文章を書こうとする。

標準的な展開例

03010118_001

【教材名】仕事のくふう、見つけたよ/符号など (上 P.92～P.97)

【準備等】知多の友、仕事について書かれた本、報告清書用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★組み立てを考えて、報告する文章を書こう。 ○学習計画を立てる。 ○身の回りの仕事について話し合う。 ○自分が調べたい仕事を決める。</p> <p>2～4 仕事について調べる。 ★仕事についてくわしく調べよう。 ○本などで確かめ、知りたいことを明確にする。 ○地域の店舗や施設などを訪ね、インタビューをしたり、見学をしたりしてメモをする。 ○見つけた工夫の中から、友達に伝えたいことを選ぶ。</p> <p>5～6 報告文の組み立てを確かめる。 ★報告する文章の組み立てを確かめよう。 ○教科書(P.94)を読み、報告する文章の組み立てを確かめる。 ・調べたきっかけや理由 ・調べ方 ・調べて分かったこと ・まとめ ○事柄ごとに下書きをする。</p> <p>7～10 報告文を書く。 ★報告する文章を書こう。 ○符号の練習をする。 ○下書きを読み返したり、友達と話し合ったりして、文章の間違いを正したり書き直したりする。 ○下書きをもとに報告書を書く。</p> <p>11～12 報告文を読み合い、学習を振り返る。 ★読み合って、感想を伝えよう。 ○友達と報告書を読み合い、感想を伝え合う。 ○「ふりかえろう」「たいせつ」を読んで、学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元は「知多の友」に掲載されているので十分に活用したい。 ・知多の友(P.12)の学習の手順を読み、見通しをもたせる。 ・知多の友(P.13)を活用する。 ・できるだけたくさんの仕事を書き出したり発表させたりして、その中から興味があるものを選ぶようにする。 <p>・仕事に関する本を用意し、大まかな内容を調べられるようにしておく。図書館司書の協力を得られるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知多の友(P.14)を活用する。 ・店舗や施設に見学に行く場合は、事前に了解を得ておく。 <p>【評】集めた材料から友達に伝えたいことを選ぶ活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知多の友(P.15)に、組み立てのメモを書き込ませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・知多の友(P.16～17)を活用する。 ・伝えたいことを内容ごとにまとまりを分けて整理させる。 <p>【評】下書きをする活動を通して、書く内容の中心が明確になるように工夫する「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P.97)を読み、句読点の使い方に注意させる。 ・知多の友(P.18)を活用する。 ・教科書(P.94)を見て、気を付けることを確認させる。 ・報告書の用紙は、横書きのものを用意する。 <p>【評】報告書を書く活動を通して、改行の仕方や句読点の使い方を理解して適切に使う「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の構成や調べた内容についても、感想を言えるようにするとよい。 ・知多の友(P.19)を活用する。

【 備 考 】

単元名 きせつの言葉2

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 語句の量を増やし、季節らしさを表現した文章を書こうとする。

標準的な展開例

03010119_001

【教材名】夏のくらし (上 P. 98～P. 99)

【準備等】国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 生活の中で、夏らしさを感じる言葉を探す。 ★「夏」を感じる言葉を集めよう。 ○「はなび」を朗読し、感じたことを話し合う。 ○校庭や地域に出て、生活の中で夏を感じるものを探す。</p> <p>○教科書の言葉から知っているものを発表したり、連想するものを出し合ったりする。</p> <p>2 夏を感じたものについて文章を書く。 ★夏を感じたものについて書こう。 ○身の回りで見付けた夏を感じたものについて、文章を書く。</p> <p>○書いた文章を交流する。</p>	<p>・教科書の絵から想像するだけでなく、実際に目で見たり肌で感じたりするなどして、五感を働かせて夏を感じさせる。 【評】夏を感じるものを探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】夏に関する言葉を発表したり、連想したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・前時の内容を想起したり、教科書(P. 99)を参考にしたりして書かせる。 【評】夏を感じたものについて書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 本は友だち2

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 読書が必要な知識や情報を得るために役立つことに気付くことができる。
 (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。
 (3) 幅広く読書に親しみ、本を読んで驚いたり感心したりしたことを発表しようとする。

標準的な展開例

03010120_001

【教材名】 はじめて知ったことを知らせよう/鳥になったきょうりゅうの話 (上 P.100～P.111)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★図鑑や科学読み物について知ろう。 ○本を読んで、何かを知った経験について話し合う。</p> <p>○学習計画を立てる。</p> <p>○図鑑や科学読み物などの本の種類について知る。</p> <p>2 「鳥になったきょうりゅうの話」を読んで初めて知ったことをまとめる。 ★初めて知ったことをまとめよう。 ○「鳥になったきょうりゅうの話」を読む。 ○初めて知ったことをノートに書く。</p> <p>3～5 本を選んで読み、知ったことを発表する。 ★本を読んで初めて知ったことを発表しよう。 ○学校の図書館や地域の図書館へ行き、本を選ぶ。</p> <p>○選んだ本を読み、初めて知ったことをノートに書く。</p> <p>○ノートに書いた内容に、思ったことを付け加えて発表する。</p> <p>○発表を聞いた感想を伝え合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・読書記録を見返させるなどして、本から新しい知識を得た経験を想起させる。 【評】 本から新しい知識を得た経験について話し合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P.100)「学習のすすめ方」を参照させる。</p> <p>・教科書(P.102)下段を参照し、目次や索引の使い方を知らせる。</p> <p>【評】 初めて知ったことをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P.103)「この本、読もう」を参考にし、本を選ばせてもよい。 【評】 選んだ本を読み初めて知ったことをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P.104)「発表のれい」を参照させるとよい。 【評】 本を読んで思ったことを発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・驚いたり感心したりしたこと、読みたいと思った本などについて伝え合わせる。 【評】 発表を聞いた感想を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書(P.104)「たいせつ」で身に付けた力を押さえ、読書の意義について考えさせる。</p> <p>・「知多の友」を使って、読書感想文を書く活動につなげてよい。</p>

【 備 考 】

単元名 詩を味わおう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。
 (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
 (3) 友達との感じ方の違いに気付こうとし、詩を読んで思ったことや感じたことを深めようとする

標準的な展開例

03010201_001

【教材名】わたしと小鳥とすずと/夕日がせなかをおしてくる (上 P.112～P.115)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 二つの詩の似ているところや違うところを話し合う。 ★好きな詩を選んで、音読しよう。 ○二つの詩を音読する。</p> <p>○それぞれの詩を、一連と二連を比べながら音読する。</p> <p>○連と連の関係に着目し、二つの詩の似ているところや違うところについて話し合う。</p> <p>2 好きな詩を選んで、音読を発表する。 ○二つの詩から、心に残った言葉や表現を見付ける。</p> <p>○選んだ言葉や表現について友達と話し合う。</p> <p>○友達と話し合って気付いた、二つの詩のよさを改めて出し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・ ゆっくり、はっきり音読しながら、リズムや声の大きさ、強さに気を付けて読むように指示する。</p> <p>・ 連について教科書(P.159)「学習に用いる言葉」で確認させる。 【評】連に着目して、音読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 声に出して読んだり、ノートに試写したりしながら、自分の好きな言葉や表現を見付けさせる。</p> <p>・ なぜその表現を選んだのか、その理由も言わせるようにする。 【評】心に残った表現や言葉を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】詩を読んで思ったことや感じたことを改めて出し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 教科書(P.115)「この本、読もう」を読んで詩集の読み広げに意欲をもたせる。</p>

【 備 考 】

単元名 対話の練習

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 比較や分類の仕方を理解し、使うことができる。
 (2) 目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。
 (3) 互いの意見の共通点や相違点に着目し、グループで話し合おうとする。

標準的な展開例

03010202_001

【教材名】 山小屋で三日間すごすなら (上 P. 116～P. 117)

【準備等】 付箋

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 山小屋で三日間すごすなら、したいこと、持っていきたい物を出し合う。 ★山小屋で三日間すごすなら、したいことと持っていきたいものを考えよう。 ○教科書(P. 116)を読み、「山小屋で三日間すごすなら何をもっていくか」という話題を確かめる。 ○グループでしたいこと、持っていきたい物をたくさん出し合う。 ○考えを付箋に書き出し、共通点で分類して整理する。</p> <p>2～3 山小屋で三日間すごすなら、したいこと、持っていきたい物をグループで話し合う。 ★山小屋で三日間すごすなら、したいことと持っていきたいものを話し合って決めよう。 ○グループでしたいことを決め、持っていきたい物を五つ選ぶ。</p> <p>○各グループの話し合いの結果を発表する。 ○それぞれのグループの話し合いにどのような違いがあったかについて、感じたことを発表する。 ○学習を振り返る。</p>	<p>・考えを広げることが目的の話し合いであることを確認する。 ・分類の仕方は、教科書(P. 117)上段を参考にさせる。 【評】 考えを書いた付箋を整理する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・考えをまとめる話し合いであることを知らせる 【評】 考えをまとめる話し合いをする活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「考えを広げる話し合い」「考えをまとめる話し合い」のときに大切なことについて、教科書(P. 117)を参考にして確認させる。</p>

【 備 考 】

単元名 生活の中で読もう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 比類や分類の仕方を理解し、使うことができる。
 (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
 (3) ポスターを読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもち、友達と伝え合おうとする。

標準的な展開例

03010203_001

【教材名】ポスターを読もう (上 P. 118～P. 121)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 ポスターを見て、工夫していることについて話し合う。 ★ポスターの工夫を見付けよう。 ○ポスターについて知っていることを発表する。</p> <p>○教科書(P. 118)「ポスターのれい」を見て、工夫していると思うことを話し合う。</p> <p>2 二つのポスターを比べて読む。 ★二つのポスターを比べて、共通点や相違点を考えよう。 ○教科書(P. 120～121)の二つのポスターを比べて、どちらの方が参加したくなるか、話し合う。 ○二つのポスターを比べて、共通点や相違点をノートに整理する。</p> <p>○二つのポスターに相違点がある理由について話し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・校内に掲示されているポスターがあれば、参考にさせる。 【評】ポスターの工夫を見付けて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・理由についても考えさせる。</p> <p>・「どちらにもあること」「どちらかだけにあること」「しめされ方がちがうところ」についてノートに分類させる。 【評】読み取ったことをノートにまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・目的や知らせたい相手について考えさせる。 【評】二つのポスターの相違点を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・学習の内容を踏まえて、改めて教科書(P. 118)「ポスターのれい」を見て、感じたことを発表させる。</p>

【 備 考 】

単元名 **へんとつくり**配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 漢字がへんやつくりなどから構成されていることを理解することができる。
 (3) へんやつくりなど漢字の構成について関心をもち、理解しようとする。

標準的な展開例

03010204_001

【教材名】 へんとつくり (上 P. 122～P. 123)

【準備等】 「へん」や「つくり」を書くカード、国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 漢字の「へん」と「つくり」を調べる。</p> <p>★「へん」と「つくり」を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の組み合わせゲームを行い、「へん」と「つくり」について知る。 ○同じ「へん」をもつ漢字を集める。 <ul style="list-style-type: none"> ・きへん ・にんべん ・さんずい ○それぞれの「へん」の意味を考える。 ○同じ「つくり」をもつ漢字を集める。 <ul style="list-style-type: none"> ・おおがい ・ちから ○それぞれの「つくり」の意味を考える。 ○漢字組み合わせゲームの問題を作り、ゲームを楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の神経衰弱ゲーム ・漢字の計算ゲーム <p>例 木+反=板 人+主=住</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを取り入れて、楽しみながら漢字の構成を理解させる。 ・教科書(P. 148～151)「これまでに習った漢字」から見付けさせる。 ・国語辞典を活用してもよい。 ・同じ「へん」をもつ漢字を見て、何に関係した字が多いか考えさせる。 ・同じ「つくり」をもつ漢字を見て、どんな意味を表しているか考えさせる。 <p>【評】 「へん」や「つくり」の意味を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた漢字を二つの部分に分けて、カードに記入させる。 <p>【評】 漢字集めや漢字ゲームなどの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 ローマ字

配当時間 4時間

単元の目標 (1) ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。
 (3) ローマ字を読んだり、ローマ字で書いたりしようとする。

標準的な展開例

03010205_001

【教材名】ローマ字 (上 P. 124～P. 128)

【準備等】四線紙, ワークシート, 名刺カード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 身の回りのローマ字で書かれているものからローマ字の特徴を知り、ローマ字の表記の仕方を理解する。 ★ローマ字で書かれたものを読んだり、ローマ字で書いたりできるようにしよう。 ○教科書 (P. 128) を参考に、身の回りで使われているローマ字を見付ける。</p> <p>○ローマ字表を見て、気付いたことを話し合う。</p> <p>○ローマ字表を利用して、五十音を読む。</p> <p>2～3 ローマ字表記について知り、書き方を練習する。 ○五十音の書き方を練習する。</p> <p>○ローマ字の特別な書き表し方の決まりを知り、声に出して読んだり書いたりする。</p> <p>4 自分の名前や教室にあるものを、ローマ字で書く。 ○自分の名前を練習し、ローマ字の名刺を作って友達と交換する。 ○教室にあるものをローマ字で書く練習をする。</p>	<p>・具体的な場所や使われ方を確認することで、身の回りでローマ字が使われていることを実感させる。</p> <p>・縦列には、母音一字が入っていること、横列には、各行で同じ一字が使われていることに気付かせる。</p> <p>・一つ一つのアルファベットについて確認しながら読む練習をさせる。</p> <p>・二次元コードを読み込み、動画「アルファベットの書き方」を参考にするとよい。</p> <p>・ローマ字用の四線紙やワークシートなどを用意して、書く練習をさせる。</p> <p>【評】ローマ字で五十音を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・大文字と小文字の違いがあることや、濁音、拗音、長音、促音、撥音の表記の仕方、「し」「ち」のように書き方が二つあるものがあることを押さえる。</p> <p>【評】ローマ字でいろいろな単語を読んだり書いたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・名字と名前の初めの文字が大文字になっているかどうかや、長音の表し方を確認する。</p> <p>・簡単な単語を読んだり書いたりして習熟を図る。</p> <p>【評】簡単な単語をローマ字で書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 登場人物の気持ちや性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて想像し、理解したことに基づいて感想や考えをもつことができる。
- (3) 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて想像し、物語を読んだ感想をまとめようとする。

標準的な展開例

03010206_001

【教材名】ちいちゃんのかげおくり (下 P.11～P.28)

【準備等】国語指導CD、戦争に関する本

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 教材文を読み、学習の計画を立てる。</p> <p>★場面の移り変わりを捉えて、感想文を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書(P.11)の扉から、どんな物語なのか予想する。 教師やCDの範読を聞き、初発の感想を書く。 <p>○学習計画を立てる。</p> <p>3～7 場面ごとに出来事や登場人物の気持ちを考えながら読む。</p> <p>★場面ごとの出来事や登場人物の気持ちを読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1場面と第4場面の「かげおくり」を比べて、相違点を読み取る。 二つの「かげおくり」の間の出来事や、その間の「ちいちゃん」の状況や気持ちを考える。 第4場面と第5場面の間の出来事を想像し、第5場面がある意味を考える。 第5場面について友達の意見を聞いて、自分の考えが変わったところを発表する。 <p>8～10 感じたことを文章にまとめ、読み合う。</p> <p>★読んで感じたことを文章にまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、読んで感じたことを理由とともに書く。 <p>○友達と感想文を読み合う。</p> <p>○感想文を読んだ感想を話し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> よく晴れた日に実際に「かげおくり」をすると、ちいちゃんの感動を共有でき、児童も関心をもちやすい。 表に書き出して比べ、二つの「かげおくり」がどのような「かげおくり」なのかを考え、それぞれの場面のちいちゃんの気持ちを考えさせる。 時や出来事、ちいちゃんの周りから失われたものをノートに整理し、ちいちゃんの気持ちを想像させる。 第5場面があるのとないないのとはどう違うか自分の考えを理由とともにノートに書いて発表させる。 友達の意見を聞いて考えたことを書き留めて発表させ、一人一人の感じ方や考え方には違いがあることに気付かせる。 【評】各場面を読み、出来事や人物の気持ちを考えて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 教科書(P.27)下段「まとめ方のれい」を参考にさせる。 まず自分が感じたことを短い言葉で表し、次にその理由を書かせる。 【評】理由を明確にして感想を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】登場人物の気持ちや場面の様子から想像し、感じたことを書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 グループごとに読み合い、印象に残った場面は同じでも、一人一人の感じ方や書き方に違いがあることに気付かせる。 考え方の違いや書き方の違いについて話し合わせる。 【評】感想文を読み、一人一人の感じ方の違いについて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 教科書(P.27)「ふりかえろう」、教科書(P.28)「たいせつ」で学んだことを振り返らせる。 教科書(P.28)「この本、読もう」で関連読書を勧める。

【 備 考 】

単元名 修飾語を使って書こう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 主語と述語の関係, 修飾と被修飾の関係について理解することができる。
(3) 修飾と被修飾の関係について理解しようとし, 言葉の役割や性質を捉え直そうとする。

標準的な展開例

03010207_001

【教材名】修飾語を使って書こう (下 P. 29～P. 31)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 修飾語の働きや使い方を理解する。 ★修飾語について知ろう。 ○主語と述語について既習の内容を確認する。</p> <p>○教科書(P. 29～30)を読んで, 「修飾語」について知る。</p> <p>2 修飾語について, 理解していることを確かめる。 ★修飾語を使って文を書こう。 ○修飾語の働きについて確認する。</p> <p>○教科書 (P. 31) の問題に取り組む。</p>	<p>・主語と述語だけでは様子がよく分からないことに気付かせる。</p> <p>・修飾語を付け加えることで, 様子が分かりやすくなっていくことを理解させる。</p> <p>・教科書から取り上げた一文を示し, 主語・述語・修飾語に分けさせる。 【評】文を主語・述語・修飾語に分ける活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「いつ」「どこで」「だれが」「どんな」などのヒントを提示し, 参考にさせる。 【評】修飾語の働きを理解して, 修飾語を付け足す活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 きせつの言葉3

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 語句の量を増やし、その季節らしさを表現した文章を書こうとする。

標準的な展開例

03010208_001

【教材名】秋のくらし (下 P. 32～P. 33)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 秋のくらしに関わる言葉を探し、話し合う。 ★「秋」から思い浮かぶ言葉を集めよう。 ○「虫の声」を朗読し、学習課題を確認する。 ○秋らしさを感じることを発表する。</p> <p>○教科書(P. 33)を見て、秋らしさを感じる言葉について話し合う。</p> <p>2 秋を感じたものについて文章を書く。 ★秋を感じたものについて書こう。 ○身の回りで見付けた秋を感じたものについて、文章を書く。 ○書いた文章を交流する。</p>	<p>・社会科での地域学習と関連させるとよい。</p> <p>・給食の献立の中から秋らしい食べ物を探させたり、秋の行事に関することを挙げさせたりする。 【評】秋を感じるものを探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書の言葉から知っていることを発表させたり、連想する言葉を出し合ったりさせる。 【評】秋らしさを感じる言葉や、連想したものを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】秋を感じたものについて書く活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 進行を考えながら話し合おう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増やし，話や文章の中で使い，語彙を豊かにすることができる。
- (2) 目的を意識して伝え合うために必要な材料を選び，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめることができる。
- (3) 目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら，グループで話し合い，考えをまとめようとする。

標準的な展開例

03010209_001

【教材名】はんで意見をまとめよう (下 P. 34～P. 39)

【準備等】発表メモ，I Cレコーダー等，指導書付録C D，付箋

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 学習の見通しをもつ。</p> <p>★話し合う目的を確認しよう。</p> <p>○教科書(P. 34)を読み，話し合う目的を確認する。</p> <p>○自分の考えを付箋に書く。</p> <p>○学習の計画を立てる。</p> <p>3 グループに分かれ，役割・進め方を確認する。</p> <p>★話し合いの役割を決めよう。</p> <p>○役割を決め，進め方を確認する。</p> <p>○話し合いの進め方をノートに書く。</p> <p>4 上手な話し合いの仕方を整理する。</p> <p>★上手な話し合いの仕方を考えよう。</p> <p>○上田さんのグループの話し合いを聞いて，上手な話し合いの仕方を整理する。</p> <p>5～7 グループで話し合い，意見をまとめる。</p> <p>★話し合いをして，本を一冊に決めよう。</p> <p>○本を一冊に決めるために，グループで話し合う。</p> <p>8 学習を振り返る。</p> <p>★学んだことを振り返ろう。</p> <p>○教科書(P. 39)「ふりかえろう」を基に，話し合いの仕方でもよかったところなどを伝え合う。</p> <p>○教科書(P. 39)「たいせつ」を読み，話し合いをするときに大事なことを確認する。</p> <p>○次に話し合いをするときに気を付けたいことをノートにまとめる。</p>	<p>・行事や学年・学級に実態に応じて，実際に活動できるような目的・内容にするとよい。</p> <p>・教科書(P. 34)の活動の流れを参考にさせる。</p> <p>・これまでの話し合い活動で学習したことを振り返らせ，班で意見をまとめる話し合いをすることを知らせる。</p> <p>・司会，記録，計時などの役割を決めさせる。</p> <p>・教科書(P. 35)「ノートのれい」を参考にさせる。</p> <p>・音声C Dやデジタル教科書，二次元コード「グループで話し合う」を視聴するとイメージが付きやすい。</p> <p>・司会と参加者が気を付けることを，整理させる。</p> <p>【評】話し合いの仕方について整理する活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・自分の役割を意識して，意見と理由を明確にして話し合いをさせる。</p> <p>・教科書(P. 36)下段を参考に，考えを書いた付箋を活用しながら，話し合いの様子を整理させる。</p> <p>【評】付箋などの操作で，考えを比較したり分類したりする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】自分の役割を意識して話し合いをする活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場4
配当時間 2時間

- 単元の目標** (1) 第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。
 (3) 第2学年までに学習した漢字を文を書くときに適切に使うとする。

標準的な展開例

03010210_001

【教材名】 2年生で習った漢字4 (下 P.40)

【準備等】 国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 絵の中の町の様子について、どこに何があり、だれがどこで何をしているのか想像し、説明する。</p> <p>★絵の中の言葉を使って、町の様子を伝えよう。</p> <p>○教科書の絵を見て、町にはどんなものがあるか、どのような人があるか気付いたことを発表し合う。</p> <p>○示されている言葉の読み方や書き方を確認する。</p> <p>○教科書の絵を見て、町の様子を説明する。</p> <p>○例文を読んで、文の書き方を確認する。</p> <p>○提示された漢字を使い、町の様子を説明する文を書く。</p> <p>○隣同士で読み合い、文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典を準備させておき、分からない言葉の意味や別の読み方についても調べられるようにしておく。 ・方角を表す言葉「東西南北」について押さえる。 <p>【評】学習した漢字を確かめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語がきちんと書かれているか確認し主語の後に適切に読点を打つようにさせる。 ・赤い線が引いてある語を一文の一つ以上入れさせる。 <p>【評】提示された漢字を使って文を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された語や句読点が使われているか、説明していることに間違いはないか、アドバイスし合うようにさせる。 <p>【評】書いた文章を読み、正しく直す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかしてかこう

配当時間 15 時間

単元の目標 (1) 考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報との関係について理解するとともに、比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解して使うことができる。
 (2) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書くことができる。
 (3) 考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、それらを明確にして書き表し方を工夫しようとする。

標準的な展開例

03010211_001

【教材名】すがたをかえる大豆/科学読み物での調べ方/食べ物のひみつを教えます (下 P. 41 ~P. 55)

(下 P. 41

【準備等】知多の友、国語辞典、清書用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★例の書かれ方について気を付けて読み、それを生かして書こう。 ○教科書(P. 41)を読み、学習の見通しをもつ。 ○大豆について知っていることを話し合い、学習計画を立てる。 ○「すがたをかえる大豆」を読み、初発の感想を書く。</p> <p>2 文章の組み立てに注意して、教材文を読む。 ★「すがたをかえる大豆」の組み立てを考えよう。 ○段落番号を付け、「はじめ」「中」「終わり」の三つのまとまりに分ける。 ○筆者が「中」で挙げている具体例を表などにして、ノートに整理する。</p> <p>3～5 筆者の説明の工夫を考えながら読む。 ★「すがたをかえる大豆」を読み取る。 ○「はじめ」の部分に問いを入れたら、どんな「問い」を入れるか考える。 ○「中」について、段落の順序を表す言葉や中心になる文を確かめながら読む。 ○筆者の工夫をまとめる。 ・文章全体と各段落の組み立て ・言葉の使い方 ・写真の効果</p> <p>6～7 食べ物について書かれた本を読む。 ★食べ物について書かれた本を読む。 ○読みの観点をもとに、食べ物に関する本を読む。 ○自分が読んだ本の内容と説明の工夫について、友達と話し合う。 ○教科書(P. 50)「科学読み物での調べ方」を読み、本を活用する方法を知る。 ○学習の見通しをもつ。</p> <p>8 学習の見通しをもつ。 ★食べ物のひみつを分かりやすく説明する文章を書こう。 ○「すがたをかえる大豆」を学習して、食べ物について知りたくなったことを発表し合う。 ○学習の計画を立てる。 ○分かりやすいやさしい説明に必要なことを確認する。</p> <p>9～11 食べ物について本で調べ、調べたことを整理する。 ★材料を決め、調べたことをまとめよう。 ○食材を「米」「麦」「牛乳」「とうもろこし」「魚」「いも」の中から選ぶ。 ○おもしろく食べる工夫や食品の例について、学校図書館を利用して調べる。 ○調べた内容を整理する。</p>	<p>・本単元は「知多の友」に掲載されているので十分活用したい。</p> <p>・教科書(P. 41)のリード文を読み、見通しをもたせる。</p> <p>・大豆を使った食品や大豆の実物、給食の献立表を見せ、大豆が形を変えているいろいろな食品で使われていることに気付かせる。</p> <p>・「いる」「にる」のように、大豆に手を加えるときの言葉を探し、言葉の意味を国語辞典で確かめさせる。 【評】文章中の言葉を辞書で調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・段落の順序を表す言葉やそれぞれの段落の中心となる大事な文に線を引かせる。 ・どのような順序で事例が挙げられているかを押さえる。 【評】叙述を基に読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「書かれたことについて」「説明の仕方について」という二つの観点を意識させる。 ・聞くだけでなく、簡単な説明をしたり、考えを伝えたりするようにさせる。 【評】説明の工夫を意識して食べ物の本を読む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 34)の学習の手順を読み、見通しをもたせる。 ・段落に分けて書くことや、「はじめ」「中」「終わり」の構成、例を挙げること、接続語の使い方を押さえる。</p> <p>・知多の友(P. 35)を活用する。</p> <p>・本の所在を確認しておく。</p> <p>・教科書(P. 52)を参考にさせる。</p>

○文章の組み立てを考える。

12～13 説明する文章を書く。

★組み立てを考えて、説明する文章を書こう。

○組み立てに沿って下書きをする。

○友達と読み合い、気付いたことを助言し合う。

14 友達と読み合い、感想を伝え合う。

★友達と読み合おう。

○「書き方について」「内容について」の観点で感想を伝え合う。

15 学習を振り返る。

★学習のまとめをしよう。

○教科書(P.55)「たいせつ」「ふりかえろう」を読み、学習を振り返る。

【 備 考 】

- ・知多の友(P.36)を活用する。
- ・さらに調べたいことを別の本で調べたり、家の人に聞いたりする。
- ・「すがたをかえる大豆」で学習したことを想起させ、例の挙げ方を工夫させる。
- ・知多の友(P.36～37)を活用する
- ・知多の友(P.38～39)を参考にさせるとよい。

【評】組み立てを考える活動を通して、文書の構成を考える「思考・判断・表現」を評価する。

- ・知多の友(P38～39)を参考にするとよい。

【評】下書きをする活動を通して、書き表し方を工夫する「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・誤字脱字を直したり、より分かりやすい説明にする書き方をアドバイスできるようにさせる

- ・よいところを見付け、感想を伝え合うようにさせる。

単元名 つたわる言葉

配当時間

4時間

- 単元の目標 (1) ことわざや故事成語の意味を知り、使うことができる。
 (2) 目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) ことわざや故事成語の意味を知ろうとし、調べたことをまとめて書こうとする。

標準的な展開例

03010212_001

【教材名】 ことわざ・故事成語 (下 P. 56～P. 59)

【準備等】 国語辞典, ことわざ辞典, カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 ことわざや故事成語について知る。</p> <p>★ことわざや故事成語の意味を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知っていることわざや故事成語を発表する。 ○教科書(P. 56)を読み、ことわざについて知る。 ○教科書(P. 57)にあることわざの意味を調べる。 ○教科書(P. 58)を読み、故事成語について知る。 ○教科書(P. 58)の、故事成語の意味や由来を調べる。 <p>3～4 ことわざ辞典を作る。</p> <p>★ことわざ辞典を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○好きなことわざや故事成語の意味を調べる。 ○ことわざや故事成語の意味と文例をまとめたカードを作成する。 <p>○グループごとにカードを集め、ことわざ辞典を作る。</p> <p>○ことわざ辞典を読み合い、感想を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ことわざの本で調べるときは、目次や索引を使わせる。 <p>【評】 ことわざの意味を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 故事成語の意味や由来を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人三つ程度調べさせる。 ・調べたことわざや故事成語の意味をカードにまとめさせる。 ・文例を考えさせ、カードに書かせる。 <p>【評】 ことわざや故事成語の意味や文例をまとめる活動を通して、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 好きなことわざや故事成語の意味を調べまとめて書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】 ことわざや故事成語の意味を理解し、文例を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような順で綴じるか話し合わせる。 ・教科書(P. 59)「この本、読もう」を紹介し、読書意欲へとつなげる。

【 備 考 】

単元名 漢字の意味
配当時間 2時間

単元の目標 (1) 第3学年までに配当されている漢字を読むことができ、第2学年までに配当されてる漢字を書くことができるとともに、これらの漢字と仮名を用いた表記を理解して、文や文章の中で使うことができる。
(3) 漢字と仮名を用いた表記を理解しようとし、文や文章の中で使おうとする。

基本的な展開例

03010213_001

【教材名】 漢字の意味 (下 P. 60～P. 61)

【準備等】 国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 漢字の意味の違いについて話し合い、同音（訓）異義語を見付ける。 ★意味の違いに気を付けて漢字を使おう。 ○教科書（P. 60）の例文を基にして、漢字の意味を考える</p> <p>○教科書（P. 60）の問題を解く。</p> <p>○教科書（P. 61）の例文を基に、漢字の働きについて考える。</p> <p>2 同音（訓）異義語の問題を解いたり、自分で探したりする。 ★同じ読み方の漢字を使い分けよう。 ○教科書（P. 61）の問題を解く。</p> <p>○同じ読み方で意味の違う漢字を見付けてノートに書き出す。 ○見付けた漢字を使って短文作りをしたり、問題を作ったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（上P. 38～39）「漢字の音と訓」の学習を想起させる。 ・教科書（P. 60）の挿絵を見て、平仮名では意味の区別がつかないが、漢字だと区別がつくことに気付かせる。 ・同じ読み方の意味の違う漢字があることに気付かせ、絵が表す意味に合う漢字を考えさせる。 ・漢字と仮名を交ぜて書くことで、意味が分かりやすくなることに気付かせる。 <p>【評】漢字と仮名を用いた表記について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典を有効に活用し、漢字の意味を理解し、語彙を増やすようにする。 <p>【評】漢字の意味を考えて適切に同音（訓）異義語を区別する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書（P. 148～152）「これまでに習った漢字」を活用させる。 ・教科書の例文や穴埋めの問題文を参考にさせる。 <p>【評】同音（訓）異義語を探したり、短文や問題を作ったりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 声に出して楽しもう2

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
(3) 易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しもうとする。

標準的な展開例

03010214_001

【教材名】短歌を楽しもう (下 P.62～P.63)

【準備等】国語指導CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 短歌を言葉のまとまりや調子、響きを楽しみながら、声に出して読む。 ★声に出してリズムよく短歌を読もう。 ○短歌について知る。</p> <p>○区切りを確認し、リズムを意識しながら短歌を繰り返し音読する。</p> <p>○短歌四首を音読する。</p> <p>○気に入った短歌を暗唱する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌は「五・七・五・七・七」の三十一音で作られていることを押さえる。 ・CDや教師の範読、二次元コードの「短歌を聞いてみよう」を聞いて、区切りを確認させる。 ・知っている言葉を手がかりにして情景や作者の心情を想像し、古人が見たものや感じたことを今の私たちと比べさせる。 <p>【評】五七調の調子を楽しみ、リズムをつかんで音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の調子や響きを楽しみながら声に出して音読させる。 ・気に入った理由を説明させるのもよい。 <p>【評】五七調のリズムに気を付けて音読し、好きな短歌を暗唱する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場5

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。
 (3) 第2学年までに学習した漢字を使った文を作ろうとする。

標準的な展開例

03010215_001

【教材名】 2年生で習った漢字5 (下 P.64)

【準備等】 国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 絵を見て、提示された漢字を使って短い文を書く。</p> <p>★絵の中の言葉を使って、日記を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の絵を見て、それぞれの教科でどのようなことをしているか気付いたことを話し合う。 ○示されている言葉の読み方を確認する。 <p>○例文を読んで、文の書き方を確認する。</p> <p>○提示された漢字を使って、学校の様子を日記をつけるように書く。</p> <p>○ペアで読み合い、文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て、人物が何の教科の時間にどんなことをしているか自由に話し合わせる。 ・国語辞典を準備させておき、分からない言葉の意味や別の読み方についても調べられるようにしておく。 <p>【評】学習した漢字を確かめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例文に「わたしは」などの主語を付けた場合と、主語のない場合とを比べ、主語がない理由を考えさせる。 ・提示された言葉を1文に一つ以上入れるようにさせる。 <p>【評】提示された漢字を使って文を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された語や句読点が使われているか、説明していることに間違いはないか、アドバイスし合うようにさせる。 <p>【評】書いた文章を読み、正しく直す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 組み立てをとらえて、民話をしようかいしよ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 登場人物の行動や気持ちの変化について、叙述を基に捉え、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
- (3) 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、物語を紹介しようとする。

標準的な展開例

03010216_001

【教材名】三年とうげ (下 P. 65～P. 80)

【準備等】世界の昔話・民話の本、指導書付録CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 民話や昔話のおもしろいところを紹介し合い、学習計画を立てる。</p> <p>★いろいろな国の民話や昔話のおもしろいと思うところを紹介しよう。</p> <p>○今まで読んだり聞いたりした民話や昔話を発表し合い、どんなところがおもしろいかを説明し合う。</p> <p>○学習の計画を立て、学習の見通しをもつ。</p> <p>○お気に入りの民話や昔話を紹介する計画を立て、並行読書を始める。</p> <p>2～4 組み立てや内容を整理しながら「三年とうげ」を読み物語のおもしろいと思ったところと理由を発表する。</p> <p>★「三年とうげ」を読んで、おもしろいと思うところを紹介しよう。</p> <p>○「三年とうげ」を読む。</p> <p>○物語の組み立てに沿って、それぞれの場面でどのように物語が展開しているか整理する。</p> <p>○人物の気持ちの変化を読み取る。</p> <p>○物語のおもしろいと思ったところや心に残る言葉、文をノートに書いて、紹介する。</p> <p>5～6 図書館などで見付けたり、これまでに読んだりした本の中から、おもしろいと思った民話や昔話を選んで紹介する。</p> <p>★お気に入りの物語を紹介しよう。</p> <p>○自分が選んだ民話や昔話の内容を整理する。</p> <p>○お気に入りの民話や昔話を紹介する。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・「ばけくらべ」「おむすびころりん」「うらしまたろう」など、起承転結の話の組み立てになっている物語を例示するとよい。</p> <p>・「三年とうげ」を物語の組み立てに沿って読み取り、自分のお気に入りの民話や昔話を選んで紹介する活動の後、次の単元で自分でも物語を作るという学習の見通しを示す。</p> <p>・教科書(P. 77)「この本、読もう」を参考にさせる。</p> <p>・教師やCDの範読を聞く。</p> <p>・挿絵を手がかりに物語の組み立てや内容を確認する。</p> <p>・「始まり」「出来事」「解決」「むすび」という組み立てで物語を捉える。</p> <p>・中心人物「おじいさん」の気持ち分かる言葉に注目させて気持ちの変化を読み取り、「トルトリ」の人物像について自分の意見を発表し合う。</p> <p>【評】物語の組み立てを理解し、中心人物の気持ちを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・物語の組み立て、登場人物の行動や気持ちの変化、言葉の使い方や文の調子などの観点を示す。</p> <p>・教科書(P. 78)「言葉」を参照し、行動や様子を表す言葉や声に出して読むと調子のよい表現に着目させる。</p> <p>【評】行動や様子を表す言葉や、文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 79)の例を参考にさせ、おもしろいと思うところとその理由をまとめさせる。</p> <p>・グループ内で発表をし、感想を交流させる。</p> <p>【評】お気に入りの物語を紹介する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 79)「ふりかえろう」を基に教材文のおもしろかったところや、民話や昔話を紹介するときに気を付けたいことを振り返らせる。</p> <p>・教科書(P. 80)「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 組み立てにそって、物語を書こう

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えて書くことができる。
- (3) 想像を広げて、構成や表現を工夫しながら、物語を書こうとする。

標準的な展開例

03010217_001

【教材名】 たから島のぼうけん (下 P. 81～P. 85)

【準備等】 知多の友、清書用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★組み立てに沿って、物語を書こう。</p> <p>○好きな冒険物語や登場人物について話し合い、学習の見通しをもつ。</p> <p>○学習計画を立てる。</p> <p>2 想像を広げ、物語の構想を練る。</p> <p>★地図を見て、想像しよう。</p> <p>○教科書(P. 82)の地図を見て、考えを広げて構想メモを書く。</p> <p>・登場人物 ・時 ・場所 ・出来事</p> <p>3 組み立てと場面の様子を整える。</p> <p>★組み立てと場面の様子を考えよう。</p> <p>○物語の組み立てを考える。</p> <p>・始まり</p> <p>・出来事が起こる</p> <p>・出来事が解決する。</p> <p>・むすび</p> <p>4～7 考えた組み立てに沿って物語を書き、読み返す。</p> <p>★物語を書いて、読み返そう。</p> <p>○構想を基に物語の下書きを書く。</p> <p>○物語を推敲し、清書する。</p> <p>8～9 できあがった物語を読み合う。</p> <p>★友達と読み合い、感想を伝え合おう。</p> <p>○できあがった物語を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>・おもしろかったところ</p> <p>・まねしたいところ</p> <p>10 学習を振り返る。</p> <p>★学習のまとめをしよう。</p> <p>○教科書(P. 85)「たいせつ」「いかそう」「ふりかえろう」を読み、学習を振り返る。</p>	<p>・本単元は「知多の友」に掲載されているので十分に活用したい。</p> <p>・教科書で学習した物語や知っている物語について話し合うと分かりやすい。</p> <p>・知多の友(P. 40)の学習の手順を読み、見通しをもたせる。</p> <p>・教科書(P. 82)「物語のないようをかかんがえるときには」を参考にするとよい。</p> <p>【評】物語を書くために考えを広げていく活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 83)「物語の組み立ての例」を参考にすると良い。</p> <p>・知多の友(P. 41)を活用する。</p> <p>・知多の友(P. 42～45)を活用する。</p> <p>・常体と敬体が混在しないように気を付けさせる。</p> <p>【評】組み立てに沿って物語を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 46)の項目を確認しながら、主述の関係、文末の統一、字の誤りなどについて推敲させる。</p> <p>【評】物語を書く活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・クラスへ発表する、グループで読み合うなどクラスの実態に応じて行う。</p> <p>・知多の友(P. 46)を活用する。</p>

【 備 考 】

単元名 きせつの言葉4

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 語句の量を増やし、その季節らしさを表現した文章を書こうとする。

標準的な展開例

03010218_001

【教材名】冬のくらし (下 P. 86～P. 87)

【準備等】国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 冬のくらしに関わる言葉を探し、話し合う。 ★「冬」から思い浮かぶ言葉を集めよう。 ○教科書の言葉から知っている言葉を発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 ○身の回りにある冬を感じる言葉を集める。 ○雪にまつわる言葉を探したり、冬に美味しいとされる食べ物挙げたりする。</p> <p>2 冬を感じたものについて文章を書く。 ★冬を感じたことについて書こう。 ○身の回りで見付けた冬を感じたものについて書く。</p> <p>○書いた文章を友達と読み合い、交流する。</p>	<p>・教科書（P. 86）の文例を参照させる。 【評】冬に関するものを探す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・冬に関わる言葉を集めた前時のノートを参考に作らせる。絵札と読み札と作って遊ぶのもよい。 【評】冬を感じたものについて書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】冬らしさを表現した文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 詩の楽しみ方を見つけよう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。
 (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や意見をもち、それを伝え合うことで自分の文章の良いところを見付けることができる。
 (3) 詩を読んで感想や考えをもち、詩のおもしろさを紹介する文章を書いたり、詩を創作したりしようとする。

標準的な展開例

03010301_001

【教材名】詩のくふうを楽しもう (下 P. 88～P. 91)

【準備等】詩集、詩集を作る用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 6編の詩の音読をし、どんなところがおもしろいか発表する。 ★詩を音読し、おもしろさを伝え合おう。 ○ 6編の詩を音読する。 ○ 6編の詩からおもしろいところを見付けて、発表したり音読で表現したりする。</p> <p>2～4 書いた文章や詩を作り、友達と交流する。 ★詩を紹介したり、書いたりしよう。 ○ 活動を選ぶ。</p> <p>○ おもしろい工夫だと思うものを見付け、紹介する文章を書く。</p> <p>○ 詩を創作する。</p> <p>○ 書いた文章や詩を読み合い、感想を交流する。</p> <p>○ 学習を振り返る。</p>	<p>・ 比喩や繰り返しの表現に着目させる。 【評】 詩のおもしろさを見付けて発表したり、音読で表現したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 「おもしろい工夫だと思うものを見付け、紹介する文章を書く」か「詩を創作する」のどちらかの活動を選ばせる。 ・ 教科書(P.91)を参照させる。 ・ これまでに読んだ詩の中からおもしろいと思う工夫を見付けさせる。 【評】 詩のおもしろさを紹介する文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 6編の詩で見付けた工夫を使わせる。 【評】 詩を創作する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 自分の文章の良いところを見付けさせる。 【評】 文章に対する感想を伝え合う活動を通して、自分の文章の良いところを見付ける「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 活動を通して、気付いた詩のおもしろさを発表させる。 ・ 教科書(P.91)「この本、読もう」で詩集の読み広げに意欲をもたせる。</p>

【 備 考 】

単元名 **カンジーはかせの音訓かるた**

配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 第3学年までに配当されている漢字を読み, 第2学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うことができる
(3) 漢字の音訓や送り仮名に着目し, 漢字を適切に使った文を作ろうとする。

標準的な展開例

03010302_001

【教材名】カンジーはかせの音訓かるた

(下 P. 92～P. 93)

【準備等】国語辞典, かるた用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～2 音訓両方の読み方がある漢字を探し, 音訓かるたを作る。 ★漢字の音訓かるたを作ろう。 ○「カンジーはかせが作った歌」を音読する。 ○音訓かるたを作る手順を確認する。 ○グループで音訓かるたを作る。 ○音訓かるたで遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・音訓かるたを作るという目的意識をもたせ, 学習への関心を高める。 ・リズムに乗りながら何度も音読することで, 漢字の読みを自然に身に付けさせる。 ・教科書 (P. 93) の作り方を参照させる。 <p>【評】音訓かるたを作る活動を通して, 漢字を適切に使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】音訓かるたを作る活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい音と訓が使えているか確認させる。

【 備 考 】

単元名 漢字の広場6

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。
 (3) 第2学年までに学習した漢字を確認め、漢字を使った文を作ろうとする。

標準的な展開例

03010303_001

【教材名】 2年生で習った漢字6 (下 P.94)

【準備等】 国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 教科書の絵を見て、季節ごとの人物の行動や周りの様子を説明する。 ★絵の中の言葉と修飾語を使って、季節の様子を表そう。 ○示されている言葉の読み方を確認する。</p> <p>○教科書の絵を見て、それぞれの季節でどのようなことをしているか気付いたことを話し合う。 ○例文を読んで、文の書き方を確認する。</p> <p>○それぞれの季節の様子を説明する文を考える。</p> <p>○隣同士で読み合い、文の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典を準備させておき、分からない言葉の意味や別の読み方についても調べられるようにしておく。 【評】学習した漢字を確認める活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・中央に「春夏秋冬」の言葉があり、季節の様子を表していることに気付かせる。 ・修飾語を使って周りの様子を詳しく書くことを知らせる。 ・例文で使われていない言葉について文を作らせる。 【評】提示された漢字を使って文を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・提示された語や句読点が使われているか、説明していることに間違いはないか、アドバイスし合うようにさせる。 【評】書いた文章を読み、正しく直す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 読んで感想をもち、つたえ合おう

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。
 (2) 文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、それを伝え合うことで一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
 (3) 一人一人の感じ方の違いに着目し、科学読み物を読んだ感想を伝え合おうとする。

標準的な展開例

03010304_001

【教材名】 ありの行列 (下 P. 95～P. 104)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ありやありの行列について話し合い、学習の計画を立てる。 ★ありの行列についての研究が書かれた文章を読んで感想をもち、伝え合おう。 ○教科書(P.95)の扉を読み、ありやありの行列について知っていることを発表する。 ○通読して、学習課題を設定し、学習目標を立てる。</p> <p>2～5 「ありの行列」を読んで、説明的文章の内容や構成を理解する。 ★段落のつながりに気を付けて「ありの行列」を読もう。 ○段落に番号を付け、「はじめ」「中」「終わり」の三つの部分に分ける。 ○「問い」「答え」がどの段落にどのように書かれているかを探す。 ○段落ごとに内容を確認する。 ○指示語や接続語の役割について理解し、「問い」から「答え」までの論の進め方を確認する。</p> <p>○ウィルソンの研究の進め方、ありが行列を作る仕組みについて書かれていることを要約する。 ○文末などに着目して、「調べたこと」と「考えたこと」を読み分ける。</p> <p>6 「ありの行列」の感想を書く。 ★「ありの行列」の感想を書こう。 ○「ありの行列」を読んで思ったこと、考えたことを文章に書く。</p> <p>7 「ありの行列」の感想を交流する。 ★「ありの行列」の感想を伝え合おう。 ○友達と読み合い、感想を交流する。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・二次元コードを読み込み、動画「ありの行列ができる様子」を視聴させるとよい。</p> <p>・教科書(P.8)「いつも気をつけよう・読む」を使って確認させる。 【評】段落や文章全体の構成を理解し、「答え」に至る過程や根拠を読み取る活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・文章中に使われる指示語の内容を明らかにし接続語に着目して段落相互の関係を捉えさせる。 ・教科書(P.102)「つながりを考えるとき」を参照させる。 【評】文章中に使われている接続語の働きや指示語の内容を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・教科書(P.102)「短くまとめるために」を参照させるとよい。 ・「～ました。」で終わる文と、「～です。」「～ます。」で終わる文の内容の違いに気付かせる。</p> <p>・「ありの行列」と教科書(P.101)「もっと読もう」から引きつけられたことや、もっと知りたいと思ったこと、考えたことなどを書かせる。 ・教科書(P.103)「感想のれい」を参照させる</p> <p>【評】思ったことや考えたことを文章に書く活動を通して、文章に基づいて感想や考えをもつ「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書(P.104)「たいせつ」を確認させる。 ・自分と似ているところや違うところ、工夫している表現などについて話し合わせる。 【評】文章を読み合って感想を交流する活動を通して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く「思考・判断・表現」を評価する。 【評】感想を伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書(P.103)「ふりかえろう」を基に、どのような言葉に着目したか、友達の感想を読むとどんな発見があったかなどを振り返らせる。</p>

【 備 考 】

単元名 言葉について考えよう

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くとともに、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。
- (2) 自分の考えとそれを支える理由や事柄との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
- (3) 相手に伝わる文章を書くための語句を増やして、それを使って伝えたいことを文章にしようとする。

標準的な展開例

03010305_001

【教材名】 つたわる言葉で表そう (下 P.105～P.108)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 伝えたいことをうまく伝えるための言葉の選び方を知る。</p> <p>★相手に伝わる文章を書く工夫を知ろう。</p> <p>○教科書(P.105)を読み、自分の伝えたいことがうまく伝わらなかった経験について話し合う。</p> <p>○教科書(P.106)の田中さんの運動会の感想を読む。</p> <p>○教科書(P.107)を読んで、自分の気持ちや表したい様子に合う言葉を選ぶことが大事であることを理解する。</p> <p>4～5 言葉を選びながら、相手に伝わる文章を書く。</p> <p>★相手に伝わる文章を書こう。</p> <p>○冬休みの出来事とそのときの気持ちを200字で書く。</p> <p>○文章を読み合い、感想を交流する。</p>	<p>・くわしく思い出すことが大切であることに気付かせる。</p> <p>【評】言葉の選び方について考える活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】出来事とそのときの気持ちを書く活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・よく伝わる部分とそうでない部分を教え合わせる。</p>

【 備 考 】

単元名 **しょうかいして、感想をつたえ合おう**

配当時間 **12時間**

単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
(2) 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、書き表し方を工夫することができる。
(3) 自分の考えとそれを支える理由の関係を明確にして、書き表し方を工夫し、紹介する文章を書くこととする。

標準的な展開例

03010306_001

【教材名】これがわたしのお気に入り (下 P.109～P.113)

【準備等】知多の友、作品の写真、清書用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 学習の見通しをもつ。 ★お気に入りの作品を紹介する文章を書き、感想を伝え合おう。 ○3年生の学習を振り返り、作った作品を発表し合う。 ○学習課題をつかみ、学習の計画を立てる。</p> <p>3～4 作品を選び、詳しく書き出す。 ★作品を選び、詳しく書き出そう。 ○自分が作った作品を思い出し、その中から紹介するものを選ぶ。 ○選んだ作品について詳しく書き出す。 ・工夫したところ、がんばったところ ・自分や周りの人の感想</p> <p>5～6 組み立てメモを書く。 ★組み立てを確かめよう。 ○組み立てを確かめる。 ○教科書(P.111)「高山さんのメモの組み立て」を参考にし、組み立てメモを書く。</p> <p>7～10 紹介する文章を書く。 ★紹介する文章を書こう。 ○教科書(P.112)「しょうかいする文章のれい」を読み、文章を書くときのポイントを確認し、下書きをする。 ○推敲し、清書をする。</p> <p>11～12 書いた文章を読み合い、学習を振り返る。 ★感想を伝え合おう。 ○書いた文章を読み合い、書き方の内容の面から感想を伝え合う。 ○「たいせつ」「いかそう」「ふりかえろう」を読み、学習を振り返る。</p>	<p>・本単元は「知多の友」に掲載されているので十分に活用したい。</p> <p>・図画工作のまとめと関連して行くとよい。 ・知多の友(P.48)の学習の手順を読み、見通しをもたせる。</p> <p>・知多の友(P.49)を活用する。</p> <p>・教科書(P.110)「高山さんが書き出した例」を参考にし、マッピングを利用して書き出させる。 ・知多の友(P.50)を活用する。 【評】詳しく書き出す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P.112)「しょうかいする文章のれい」を読み、文章の組み立てについて確認させる。 ・知多の友(P.51)を活用する。 【評】組み立てメモを書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「作品の説明」と「紹介したい理由」が分かるように、段落の分け方や説明の仕方を考えて書かせる。 ・知多の友(P.52～53)を活用する。 【評】段落の分け方に気を付けて書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・よいところや、分かりやすいところを伝えさせる。</p>

【 備 考 】

単元名	コンピュータのローマ字入力	配当時間	2時間
単元の目標	(1) 日常で使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。 (3) コンピュータを使ったローマ字入力に取り組み、簡単な単語を入力したり変換したりしようとする。		

標準的な展開例	03010307_001
【教材名】コンピュータのローマ字入力 (下 P. 114～P. 115)	
【準備等】コンピュータ	

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～2 ローマ字の復習をし、コンピュータでローマ字入力に取り組む。 ★コンピュータのローマ字入力に挑戦しよう。 ○ ローマ字の復習をする。 ○ 教科書 (P. 114～115) を読み、コンピュータのローマ字入力の方法を知る。 ○ コンピュータのローマ字入力を練習する。	・ 撥音，長音，促音，拗音の入ったものも含めて，既習事項をまんべんなく確認できるようにする。 ・ 「入力」「変換」の意味を確認し，教科書に示された単語を入力させる。 【評】簡単な単語をローマ字で入力したり変換したりする活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ グループで単語を入力して，しりとりをさせるなどしてローマ字入力に慣れさせる。 【評】ローマ字表記されたものを読んだり入力したりする活動を通して，「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 つたえたいことを、理由をあげて話そう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意し、敬体と常体に注意しながら話することができる。
- (2) 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように話の構成を考え、話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫することができる。
- (3) 言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意し、発表に向けてグループで練習してよりよくしようとする。

標準的な展開例

03010308_001

【教材名】わたしたちの学校じまん (下 P.116～P.120)

【準備等】指導者付録C D, 教師用デジタル教科書

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 これまでの話し合い活動を振り返り、学習の計画を立てる。</p> <p>★伝えたいことを、理由を挙げて話し、私達の学校自慢をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の学校の自慢したいところやその理由を出し合う。 ○学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2～5 グループで発表したいことを決め、発表原稿を作る。</p> <p>★組み立てを考え、発表原稿を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループで話し合い、自慢したいことを決める。 ○自慢したい理由を出し合って、相手に伝わりやすいかどうかを話し合い、発表するものを決める。 ○自慢したい理由に合わせて、発表で使う資料を集める。 ○発表原稿を作る。 <p>6 発表の仕方を確認し、話し方の工夫を考えてグループで練習をする。</p> <p>★話し方の工夫を考えて練習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し方の工夫を確認する。 ○話し方の工夫を意識しながら発表の練習をする。 ○発表の内容や仕方について、グループ内で助言し合う。 <p>7～8 発表会をする。</p> <p>★学校の自慢について発表会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発表会をする。 ○話し合いや発表の練習で助言し合ったことを思い出し、よかったところを伝え合う。 ○学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表する場、相手、目的に合ったものを考えさせる。 ・教科書(P.119)「発表のれい」を参照し、「はじめ」「中」「終わり」の組み立てを考えさせる。 ・役割分担をして、発表原稿を作らせる。 ・聞き手の立場になって、伝え方の工夫を考えさせる。 【評】発表原稿を作成する活動を通して、話の構成を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。 ・音声CDや指導者用デジタル教科書で話し方の例を聞かせたり、二次元コードの動画「しりょうを見せて、発表する」を見せたりする 【評】話し方の工夫を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・気付いたことを発表原稿に書き込ませる。 【評】発表の練習をし、助言し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】学校の自慢を発表する活動を通して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意する「知識・技能」を評価する。 ・教科書(P.120)「ふりかえろう」で単元の学びを振り返らせる。 ・教科書(P.120)「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。 ・次に話し合うときに気を付けたいことをノートにまとめさせる。

【 備 考 】

単元名 登場人物について、話し合おう

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像するとともに、感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などの違いに気付くことができる。
 (3) 登場人物の性格について場面の移り変わりと結び付けて想像し、感じたことや考えたことをまとめて友達と伝え合おうとする。

標準的な展開例

03010309_001

【教材名】モチモチの木 (下 P. 121～P. 136)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「モチモチの木」を読んで、学習の見通しをもつ。 ★登場人物の性格や気持ちを考えながら読み、登場人物について話し合おう。 ○教科書(P. 121)の扉の挿絵を見て、モチモチの木がどんな木なのか想像し、発表する。 ○「モチモチの木」の範読を聞き、初発の感想を書く。</p> <p>2～8 「豆太」や「じさま」の性格や気持ちを読み取る。 ★登場人物の性格や気持ちを読み取る。 ○「豆太」と「じさま」の人物像を読み取る。</p> <p>○各場面での「豆太」と「じさま」の行動や会話、様子をノートに整理する。</p> <p>○「霜月二十日のばん」の場面の「豆太」と「豆太は見た」の場面の豆太を比べて違いを話し合う。</p> <p>○「豆太」はどうしてモチモチの木の灯を見ることができたのかについて、自分の考えと理由をノートに書く。</p> <p>9～12 「豆太」の気持ちの変化や性格について感じたことを話し合う。 ★「豆太」の気持ちの変化について話し合おう。 ○「豆太」の気持ちの変化や性格について、感じたことや考えたことを話し合う。 ・「豆太」はどんな人物か。 ・「豆太」は変わったか。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・登場人物の会話や行動に注目するように、物語を聞く視点を与える。</p> <p>・教科書(P. 134)「とらえよう」を確認し、語り手や他の登場人物の視点で書かれているところに着目して読ませる。 【評】登場人物の性格や気持ちを読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・教科書(P. 134)「ノートのれい」を参照し、ノートに整理させる。 【評】登場人物の行動や会話、様子をノートに整理する活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書やこれまでのノートを見直して、豆太の変化を捉えさせる。 【評】場面の違いを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「医者様」と「じさま」の発言を比べて考えさせる。 【評】自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 134～135)「話し合いのれい」を見て、話し合いの仕方を確認させる。</p> <p>・自分の考えが、どの叙述から考えたのか述べさせる。</p> <p>・自分の経験と比べて考えをまとめさせる。</p> <p>・友達と自分の考えを比べながら話し合いをさせる。 【評】登場人物の気持ちの変化や性格について考えたことを伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 135)「ふりかえろう」を基に、友達と話し合うことで登場人物への見方が深まったことなどを振り返らせる。</p> <p>・教科書(P. 136)「たいせつ」や「いかそう」で、登場人物の性格や捉え方などについて押さえる。</p> <p>・教科書(P. 136)「この本、読もう」で他の本への読み広げに意欲をもたせる。</p>

【 備 考 】

単元名 オリエンテーション

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。
 (2) 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。
 (3) 友達と話し、共通点を見付けるために、相手の伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えようとする。

標準的な展開例

04010101_001

【教材名】こんなところが同じだね (上 P.1～P.11)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 扉の詩を読み、目次を見て上巻の学習の見通しをもち、「こんなところが同じだね」をする。</p> <p>★友達との共通点をさがそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「かがやき」のイメージを広げてから、扉の詩「かがやき」を音読する。 ○1年間の見通しをもつ。 ○「こんなところが同じだね」を行う。 ○二人一組になって2分間で共通点を探す。 ○二つの組で4人グループを作り、5分間でできるだけ多くの共通点を探す。 ○みんなに教えたい共通点を一つ発表する。 ○友達との共通点を知って、どのように感じたかを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の学習を進めるに当たって、約束となることを指導する。 ・目次や教科書(P.4)「国語の学びを見わたそう」を読み、4年生で学習することを確認する。 ・好きなものや、起きる時間など、目に見えないものにも注目させる。 <p>【評】共通点を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人一組で見付けた共通点を参考にさせるとよい。 <p>【評】友達と話す活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】相手が伝えたいことを聞き取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 詩を楽しもう

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。
 (2) 登場人物の気持ちの変化や性格, 背景について, 場面の移り変わり と結び付けて具体的に想像することができる。
 (3) 詩全体の構成や内容の大体を意識し, 音読しようとする。

標準的な展開例

04010102_001

【教材名】春のうた (上 P.12～P.14)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 「春のうた」の音読を練習し, 発表し合う。</p> <p>★様子を思い浮かべながら, 詩を音読しよう。</p> <p>○「春のうた」の判読を聞いて, 様子を思い浮かべたり, 人物の気持ちを想像したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所はどこか。 ・どんな人物がでてくるか。 <p>○読み方を工夫して, 音読する。</p> <p>○友達と聞き合って感想を伝え合う。</p> <p>○教科書 (P.14) 「つづけてみよう」を読み, 年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生までの学習を振り返り, 音読するときに気を付けることを確かめる。 <p>【評】様子を思い浮かべる活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱, 速さ, 声の調子, 間の取り方を工夫させる。 <p>【評】表現の仕方や言葉のリズムを楽しみながら読む活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの実態に応じて全体発表やグループ発表など, 学習形態を工夫する。 ・発表を聞きながら感想をもったり, 工夫を探したりするように伝えておく。 ・いいところを認め合うようにさせる。 <p>【評】詩全体の構成を意識しながら音読する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 場面と場面をつなげて、考えたことを話そう

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。
 (2) 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉え、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことができる。
 (3) 登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、考えたことを話し合おうとする。

標準的な展開例

04010103_001

【教材名】白いぼうし (上 P. 15～P. 29)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★場面と場面をつなげて、考えたことを話そう。 ○教科書 (P. 15) の題名やリード文から物語を想像する。</p> <p>○学習課題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>○本文を読み、初発の感想を書く。</p> <p>2 場面と登場人物を整理し、中心となる人物の様子に気を付けて音読する。 ★人物の様子を考えながら音読しよう。 ○物語を読み、場面と登場人物について整理する。 ・中心となる人物と場面ごとの登場人物 ・どの場面で、誰が何をするか ○中心となる人物の様子に気を付けて音読する。</p> <p>3～5 不思議だと思った出来事を友達と話して、問いについて話し合う。 ★不思議だと思った出来事について考えよう。 ○不思議だと思った出来事をノートに書き出す。 ○不思議だと思った出来事を問いの形にし、発表し合う。 ・「女の子」はなぜ消えてしまったのか。 ・「松井さん」には、どうして「ちょう」の声が聞こえたのか。 ○問いについて、つながりのありそうな描写に着目して考える。</p> <p>○問いについて考えたことを友達と話し合う。</p> <p>○友達の考えを聞いて、もう一度読み返したり、他の見方がないかを考えたりする。</p> <p>6 問いについて考えたことをまとめる。 ★考えたことをまとめよう。 ○問いについて考えたことをノートにまとめる。</p> <p>7 全体を通して考えたことを発表して、学習のまとめをする。 ★考えたことを発表しよう。 ○考えたことを発表し合う。</p> <p>○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。</p> <p>○「この本読もう」を読み、読書記録について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 (P. 7～8) を読み、3年生で習った物語の学習を想起させる。 並行読書をする場合は、教科書 (P. 28) 「車のいろは空のいろ」シリーズ作品を読ませ、人物の人柄を読み取らせるとよい。 一年間を見通して、国語辞典の使い方や漢字の学習の進め方、ノートの取り方などのルールを決めておくことよい。 新出漢字や難語句を確認する。 <p>・一行空きによって場面が分かれていることを確認させる。</p> <p>・場面ごとに表にまとめておく。</p> <p>【評】内容を意識しながら音読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・前後の場面の様子に気を付けて読ませる。</p> <p>・色・におい・人物の様子を表す言葉に注目させる。</p> <p>【評】問いについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・教科書 (P. 26～27) の「話し合いの例」を参考にするとよい。</p> <p>・叙述に基づいて発表し合うようにする。</p> <p>【評】叙述をもとに話し合ったり読み取ったりする活動を通して、考えをもつ「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 (P. 27) の「発表の例」を参考にさせる。 どの場面のどんな言葉からそう考えたのかも伝えるようにさせる。 「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。 教科書 (P. 28) 「この本読もう」で、読書を広げる観点を確かめ、読書記録例を参考に、読書記録をつける意識をもたせる。

【 備 考 】

単元名 本は友達1

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
 (3) 読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く、地域や学校の図書館の役割や工夫について話し合おうとする。

標準的な展開例

04010104_001

【教材名】図書館の達人になろう (上 P. 30～P. 31)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 図書館には様々な工夫がされていることを知る。 ★図書館の工夫を見付けよう。 ○自分の地域の図書館について思い出す。 ○図書館には様々な工夫がされていることを知る。 ・本を探しやすくする工夫 ・本以外の資料 ○地域の図書館はどんなときに役立つと思うか、友達と話す。 ○自分の学校の図書館の工夫を見付ける。	・教科書 (P. 30～31) の写真を見せて、説明する。 【評】読書の大切さについて考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・学校図書館に行つて、実際に探すとよい。 【評】学校図書館の工夫を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 漢字の組み立て

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。
 (3) 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解し、漢字の組み立てについて考えようとする。

標準的な展開例

04010105_001

【教材名】漢字の組み立て (上 P. 32～P. 33)

【準備等】漢字を二つの部分に分けたカード (10枚)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 カードを分類し、漢字は幾つかの部分から組み立てられていることや、部分に名前があることを知る。 ★漢字の組み立てについて知ろう。 ○「へん」と「つくり」を復習する。 ・左がへん、右がつくり ・さんずいは水に関係がある。 ○カードを組み合わせて漢字を作る。</p> <p>○漢字を組み立てている部分には名前があることを知る。 ・かんむり ・たれ ・あし ・かまえ ・によ</p> <p>2 漢字のへん、つくりなどの構成について知り、漢字の組み立てについて考える。 ★同じ部分をもつ漢字を集めよう。 ○教科書 (P. 33) の問題に取り組む。 ・たけかんむり ・れっか ・しんによ ○他の部首についても調べる。</p> <p>○部首を使った漢字集めゲームをする。</p>	<p>・へんは「さんずい・きへん・にんべん・いとへん」、つくりは「おおがい・ちから」の学習をしている。 【評】漢字を組み立てている部分の名称や意味を知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・部首には意味をもつものもあることを知らせる。 ・新出漢字を学習する際に触れるとよい。</p> <p>・これまでに習った漢字から集め、意味を考えるとよい。</p> <p>【評】漢字を組み立てている部分に興味をもち調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書 (P. 146～151) 「これまでに習った漢字」を参照してもよい。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字辞典の使い方

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 漢字辞典の使い方を理解し、使うことができる。
 (3) 漢字辞典の使い方を理解し、漢字辞典を使おうとする。

標準的な展開例

04010106_001

【教材名】漢字辞典の使い方 (上 P. 34～P. 37)

【準備等】漢字辞典・国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 漢字辞典の仕組みや引き方を知り、漢字辞典を使う練習をする。 ★漢字辞典の使い方を知ろう。 ○教科書 (P. 34) や漢字辞典を見て、基本的な作りと使い方について知る。 ○教科書 (P. 35) を読み、部首・画数の意味を知る。</p> <p>○「音訓さくいん」「部首さくいん」「総画さくいん」の三つの索引方法があることを知る。</p> <p>2 これまでに習った漢字などを出し合い、漢字辞典を使うことに慣れる。 ★漢字辞典で調べよう。 ○教科書 (P. 37) の問題に取り組む。</p>	<p>・読めない漢字があるときに、漢字辞典を使うと便利であることに気付かせる。 ・音は片仮名で、訓は平仮名で示されていることを押さえる。 ・漢字辞典を用意し、実際に触れて扱えるようにする。</p> <p>・漢字辞典を使う場面と国語辞典を使う場面について教えておくとよい。 【評】漢字辞典の使い方を理解し、正しく使う活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】漢字辞典を使う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 きせつの言葉1

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 語彙を豊かにし、行事を説明する文章を書こうとする。

標準的な展開例

04010107_001

【教材名】春の楽しみ (上 P. 38～P. 39)

【準備等】行事について書くカード、国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 挿絵や写真を見たり、俳句を読んだりして、春の行事や様子を表す言葉を考える。 ★春の行事や様子を表す言葉を考えよう。 ○絵を見て自分の知っている言葉を書き出し、グループで交流する。 ○自分の地域に伝わる行事や、それに関する言葉がないか話し合う。</p> <p>2 春の行事と、その行事の簡単な説明を書く。 ★春の行事を説明する文章を書こう。 ○自分の住む地域の春の行事と、その簡単な説明を書く。</p> <p>○友達と読み合う。</p>	<p>・分からない言葉は、国語辞典を使って調べるとよい。 ・年間を通して季節に関する言葉を継続して探そうにしたい。 【評】季節を感じる行事や、それを表す言葉を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】春の行事についての文章を書く活動を通して、伝えたいことを明確にして書く「思考・判断・表現」を評価する。 【評】春に関係する言葉を使って文章を作る活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 大事なことを落とさずに聞こう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解して使うことができる。
- (2) 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。
- (3) 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、工夫してメモを取ったり、それを基に発表したりしようとする。

標準的な展開例

04010108_001

【教材名】聞き取りメモのくふう／話し方や聞き方から伝わること

(上 P. 40～P. 45)

【準備等】指導書付録C D (掲示係の説明)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★大事なことを落とさずに聞き、メモを取るときの工夫を見付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メモを取った経験を思い出し、うまくいったときや失敗したときのことを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな場面で何のために ・メモを取ってよかったこと ・「こんなメモを取ればよかった」と思うこと ○聞くことに関するこれまでの学習を教科書 (P. 5) で振り返り、学習計画を立てる。 <p>2 音声C Dで掲示係の説明を聞き、メモを取る。</p> <p>★話を聞きながらメモを取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話を聞きながらメモを取る。 <p>3 メモの取り方の工夫について考える。</p> <p>★メモの取り方の工夫について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書 (P. 42) のメモの例を見て、それぞれの工夫を見付け、自分のメモと比べる。 ○グループで互いのメモの取り方を比べる。 ○メモの取り方の工夫を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・必要なこと ・大事な言葉 ・短く ・記号 ・箇条書き <p>4～5 クラスの友達がよく知らないことについて詳しい人に話を聞き、メモを取る。</p> <p>★詳しい人に話を聞いて、メモを取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書 (P. 44) 「話し方や聞き方から伝わること」を読み、メモを取りながら話を聞くときに大切なことを考える。 ○何を誰に聞くかを決める。 ○話を聞き、聞き取りメモを取る。 <p>○聞き取りメモを基に、話の内容をクラスの友達に伝える</p> <p>6 目的に合ったメモの取り方について考え、学習を振り返る。</p> <p>★メモの取り方について振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。 ○教科書 (P. 44～45) を読み、話し方や聞き方の違いで相手に伝わることについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・顔の向き ・間の取り方 ・話す速さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習や社会科などで、校外学習や社会見学に行ったときのことを思い出させるとよい。 ・教科書 (P. 40) 「学習の進め方」を読み、見通しをもたせる。 ・「後から自分で説明する」ことを意識してメモを取るようにさせる。 <p>【評】さまざまな工夫をしてメモを取る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記号や線を用いたり、箇条書きにしたりしていることに気付かせる。 <p>【評】適切なメモの取り方について考える活動を通して、必要な語句などの書き留め方を理解する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す人が受ける印象について考えさせる。 ・教科書 (P. 43) を参考にさせる。 ・教師は、話を聞きに行く人に事前に依頼をしておく。 <p>【評】話し手の伝えたいことや自分が聞きたいことを書き留める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。 ・ロールプレイで交互に演じてみるとよい。

【 備 考 】

単元名 漢字の広場1

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 3年生までに習った漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを直したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文章を整えることができる。
 (3) 3年生までに配当されている漢字を書き、文を書こうとする。

標準的な展開例

04010109_001

【教材名】 3年生で習った漢字1 (上 P.46)

【準備等】 国語辞典, 漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 町や周りの様子を紹介する文章を書く。 ★習った漢字を使って、町を紹介する文章を書こう。 ○漢字の読みを確認する。 ○教科書(P.46)の絵を見て、想像したことを発表する。 ○教科書の絵を見て、〈例〉を参考にして文章を書く。</p> <p>2 書いた文章を読み合う。 ★町を紹介する文章を読み合おう。 ○書いた文章を友達と読み合い、推敲する。</p> <p>○完成した文章を紹介し合う。</p>	<p>・読み間違いは適宜確認する。</p> <p>【評】町を紹介する文章を書く活動を通して、3年生までに習った漢字を適切に使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】町を紹介する文を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・推敲の方法を確認するとよい。</p> <p>【評】推敲する活動を通して、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・短冊に書いて前へ掲示する、クラスで発表する、グループで書いたものを交換する、ペアで読み合うなど、クラスの実態に応じて行うとよい。</p>

【 備 考 】

単元名 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 考えとそれを支える理由や事例との関係や、段落の役割について理解することができる。
 (2) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、感想や考えをもつことができる。
 (3) 考えとそれを支える理由や事例との関係などを捉え、自分の考えを発表しようとする。

標準的な展開例

04010110_001

【教材名】思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える／【じょうほう】考えと例
 ～P. 59)

(上 P. 47)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★筆者の考えを捉えて、自分の考えを発表しよう。 ○教科書 (P. 47) を読み、題名やリード文から説明文について学習することをつかむ。</p> <p>○「思いやりのデザイン」を読み、初発の感想を書く。</p> <p>2 「思いやりのデザイン」を読み、筆者の考えを捉えて自分の考えをもつ。 ★「思いやりのデザイン」を読み取ろう。 ○文章構成と話題を確かめる。</p> <p>○筆者の考えとその示し方を確かめ、例を対比することでどんなことが分かるのかを考える。 ○筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。</p> <p>3～4 「アップとルーズで伝える」を読み、段落同士の関係を考える。 ★筆者の考えを読み取ろう。 ○「アップとルーズで伝える」を読み、段落に分ける。</p> <p>○段落と写真の対応関係を考える。</p> <p>○筆者の考えが書かれた文章を見付ける。</p> <p>○筆者の考えがどのように伝えられているかをつかむ。</p> <p>5 「アップ」と「ルーズ」をどのように対比しながら説明しているかを捉える。 ★対比して説明するよさについて考えよう。 ○「アップ」と「ルーズ」を対比して説明することのよさについて考え、話し合う。</p> <p>6 筆者の考えに対する自分の考えをもつ。 ★自分の考えをまとめよう。 ○自分の考えをまとめる。 ・自分が何かを伝える場面を思い浮かべる。 ・本文を引用する。</p> <p>7 「アップとルーズで伝える」ということについて考えたことを発表し、学習を振り返る。 ★自分の考えを発表しよう。 ○考えたことについて発表し合う。</p> <p>○教科書 (P. 57) 「ふりかえろう」、教科書 (P. 58) 「たいせつ」を読み、学習を振り返る。 ○教科書 (P. 58) 「この本、読もう」で読書を広げる観点を確かめる。</p> <p>8 「考えと例」を読み、情報と情報との間に「考えと例」があることとその大切さを確かめ、例を挙げて自分の考えを伝える。 ★単元のまとめをしよう。 ○教科書 (P. 59) 「考えと例」を読む。</p>	<p>・教科書 (P. 7～8) で、これまでの説明文で学習したことについて想起させる。 ・3年生で学習した段落の意味について、教科書 (P. 160) を読んで、確認する。 ・対比について教科書 (P. 49) や教科書 (P. 160) を読んで、確認する。</p> <p>・「初めー中ー終わり」の大まかな内容を捉えさせる。 ・比べて分かるのはどんなことかを押さえる。</p> <p>・自分が何かを伝えるときのことを思い出して考えさせる。</p> <p>【評】段落の役割を理解し、分ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・教科書 (P. 50～53) の写真について、それぞれ説明している段落を見付けさせる。 【評】写真と文章を対応させて読む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・第3段落から一文を書き抜かせる。 【評】筆者の考えを見付ける活動を通して、叙述を基に捉える「思考・判断・表現」を評価する。 ・初めと終わりに同じような文章が書かれていることに気付かせる。</p> <p>・対比していなかったらどうか、考えさせるとよい。 【評】対比して説明することのよさについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」について評価する。</p> <p>【評】筆者の考えに対する自分の考えを書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 57) 下段の「発表の例」を参考にさせるとよい。</p> <p>・「人に伝える」ということについて書かれた本を紹介する。</p> <p>・伝えたいことと例の結びつきが大切であることを押さえる。</p>

○好きな遊びについて，具体的な例を挙げながら話す練習をする。

・自分が伝えたいことと例との結びつきを確認するようにさせる。

【 備 考 】

単元名 **カンジーはかせの都道府県の旅1**

配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 4年生までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。
(3) 4年生までに配当されている漢字を読むとともに、都道府県名を使った文を作ろうとする。

標準的な展開例

04010111_001

【教材名】カンジーはかせの都道府県名の旅1 (P.60～P.61)

【準備等】社会科の教科書などの資料

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 都道府県の旅というテーマで、線が引いてある都道府県名を使った文を考え、書く。 ★都道府県名を使った文を書こう。 ○都道府県名の漢字の読みを確認する。 ○都道府県名を使った文を作る。</p> <p>2 線が引いてある都道府県名を、ローマ字で書く。 ★都道府県名をローマ字で書こう。 ○教科書(P.136)でローマ字の表を確認する。 ○都道府県名をローマ字で書く。</p>	<p>・読み間違いは適宜確認する。 ・社会科で学習したことを生かし、名産品やその土地ならではの行事を調べて文章にするなど、さらに興味を広げていけるとよい。 【評】今までに習った漢字を読んだり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】都道府県名を使った文を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ローマ字の練習を適宜行う。</p>

【 備 考 】

単元名 気持ちが伝わる手紙を書こう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付き、丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体の違いに注意しながら書くことができる。
- (2) 相手や目的を意識して、書くことを選び、伝えたいことを明確にするとともに、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
- (3) 書く内容の中心を明確にし、構成を考え、手紙を書こうとする。

標準的な展開例

04010112_001

【教材名】お礼の気持ちを伝えよう (上 P. 62～P. 65)

【準備等】知多の友、縦書きの便箋、封筒

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★お世話になった人に、お礼の気持ちを伝える手紙を書こう。</p> <p>○書くことに関するこれまでの学習を教科書 (P. 6) で振り返り、学習課題をつかむ。</p> <p>○学習計画を立て、誰にどんなお礼を伝えるのかを話し合う。</p> <p>2 誰に何のお礼を伝えるのかを決め、手紙の型に沿って、内容を考える。</p> <p>★手紙の型に沿って内容を考えよう。</p> <p>○教科書 (P. 63) を参考にしながら、知多の友 (P. 5) に誰に何のお礼を伝えたいのかを書き出す。</p> <p>○教科書 (P. 63) を読み、「初めのあいさつ」「本文」「むすびのあいさつ」「後づけ」という手紙の型を確かめる。</p> <p>○内容を考える。</p> <p>3 手紙の下書きをする。</p> <p>★手紙の下書きをしよう。</p> <p>○知多の友 (P. 6～7) に手紙の下書きをする。</p> <p>○下書きを読み返し、推敲する。</p> <p>4～5 手紙を書いて読み返し、手紙を送る。</p> <p>★手紙を清書しよう。</p> <p>○手紙を清書する。</p> <p>○教科書 (P. 65) を参考にして、知多の友 (P. 9) に練習した後に、封筒に宛名と差出人を書く。</p> <p>○手紙と封筒の書き間違いがないか確かめ、手紙を送る。</p> <p>6 学習を振り返る。</p> <p>○手紙で気持ちを伝えることのよさを話し合う。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・これまでにお世話になった人を具体的に思い出させ、お礼の手紙を書く場面を設定するとよい。</p> <p>・知多の友 (P. 4) の学習の手順を読み、学習の見通しをもたせる。</p> <p>【評】手紙の相手や内容について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・敬体で書くことを押さえる。</p> <p>・初めのあいさつの文例をいくつか用意し、提示できるようにしておくといよい。</p> <p>・四つの部分を落とさないように、意識して書かせる。</p> <p>・文末の表現や文字の間違い、言葉遣いに誤りがないかを確認させる。</p> <p>・友達と読み合い、推敲してもよい。</p> <p>【評】推敲をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】伝えたいことを明確にし、構成を考えて手紙を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・縦書きで書ける便箋と封筒を準備しておく。</p> <p>・知多の友 (P. 8) を活用し、手紙を読み返したり、友達と読み合って感想を書いたりさせる。</p> <p>【評】用件や気持ちが伝わるように手紙を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・住所や宛名が書けるように準備しておく。</p> <p>・手紙の書き方を確実に習得し、社会科や総合的な学習などでお世話になった方へ、お礼状を書くなどの場面で活用していきたい。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場2

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 3年生までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを直したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。
 (3) 3年生までに配当されている漢字を書き、文を書こうとする。

標準的な展開例

04010113_001

【教材名】 3年生で習った漢字2 (上 P.66)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 夏の楽しみを紹介する文章を書く。 ★習った漢字を使って、夏の楽しみを文章に書こう。 ○漢字の読みを確認する。 ○教科書(P.66)の絵を見て想像したことを発表する。</p> <p>○教科書の絵を見て、〈例〉を参考にして文章を書く。</p> <p>2 書いた文章を読み合う。 ★書いた文章を読み合おう。 ○書いた文章を読み合い、推敲する。</p> <p>○完成した文章を紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み間違いは適宜確認する。 ・あらかじめ絵を見て気付いたことを発表する活動を入れると、児童のイメージが広がり、書き方が分かってくるため、教科書の中の例文を取り上げて、ルールを決めておきたい。 【評】3年生までに習った漢字を確認し、漢字を使った文章を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】3年生までに習った漢字を適切に使う活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・推敲の方法を確認する。 ・主述の対応や、句読点が適切かを確認させる。 【評】文章を読み合って推敲する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・短冊黒板を使って前へ掲示する、クラスへ発表する、グループで書いたものを発表する、ペアで読み合うなど、クラスの実態に応じて行う。

【 備 考 】

単元名 場面の様子をくらべて読み、感想を書こう

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像して捉え、感想や考えをもつことができる。
 (3) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、物語の感想を書こうとする。

標準的な展開例

04010114_001

【教材名】一つの花 (上 P. 67～P. 80)

【準備等】ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★場面の様子を比べて読み、感想を書こう。 ○教科書 (P. 67) で題名やリード文から物語を想像する。</p> <p>○「これまでの学習」を参考にこれまでの物語の学習で学んだことを振り返り、学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 ○「一つの花」を読み、初発の感想をもつ。</p> <p>2 物語の設定を確かめ、内容を捉える。 ★物語の内容を捉えよう。 ○教師の範読を聞く。</p> <p>○初発の感想を発表し合い、物語の設定や登場人物、場面を確かめる。</p> <p>3～4 「一つだけ」という言葉に着目して読む。 ★「一つだけ」という言葉について考えよう。 ○「一つだけ」の言葉に着目し、本文にサイドラインを引く。</p> <p>○「一つだけ」の言葉に対応する登場人物の気持ちと世の中の様子や出来事をまとめる。</p> <p>○まとめたノートやワークシートを見て、気付いたことを発表する。 ・最後の場面では、「一つだけ」という言葉が出てこない。</p> <p>○「一つだけ」という言葉が最後の場面にだけ出てこないのはなぜかを考える。 ・お父さんがいなくなったから。 ・平和な世の中になったから。 ・戦争が終わって豊かになったから。 ・ゆみこが大きくなって成長したから。</p> <p>5～6 詳しく読んで考えが変わったところを中心に、感想をまとめる。 ★考えが変わったところについて感想を書こう。 ○「登場人物の行動や会話」「題名から受ける印象」など視点をもって感想をまとめる。</p> <p>7 感想を伝え合い、学習を振り返る。 ★単元のまとめをしよう。 ○感想を読み合い、考え方や感じ方の違いが表れているところを見つけて伝え合う。</p> <p>○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。</p>	<p>・「一つの」という言葉に着目した発言を取り上げ、読み進めていくキーワードとして知らせておきたい。</p> <p>・戦争に関する言葉などの難語句は、説明を加えながら読んだり、二次元コードを活用したりして、理解できるようにする。 ・感想の発表を基に全体の構成や場面を捉えることができるよう、感想を広げたり、発問したりして板書でまとめていく。</p> <p>・教科書 (P. 80) 「たいせつ」「いかそう」を参考に、物語の中で特別な言葉を見付ける方法を確かめる。 ・誰の言葉なのかを考えながら探すことができるよう助言する。 【評】物語の中の特別な言葉を見付ける活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。 ・教科書 (P. 78) の表を参考に板書でまとめてノートにまとめさせる。ワークシートを準備してもよい。 ・様子、出来事（戦争が激しい、食べるものがない、勝つために我慢する）は、本文の言葉を使って簡潔に書くようにする。 ・「一つだけ」という言葉に着目させ、それにかかわる人物の行動や会話を中心に考えさせる。 【評】人物の気持ちの世の中の様子、出来事をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・「コスモスの花」「食べ物」「登場人物の行動」に注目して、戦争中と戦争後の場面を比べる。 【評】戦時中と戦争後の場面の様子を比べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 79) 下段「感想の例」を参考にするとよい。 【評】感想を書く活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】感想を読み合って、伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p>

・特別な言葉に着目する大切さを押さえ、「この本，読もう」で，読書を広げる視点を確認する。

【 備 考 】

単元名 つなぎ言葉のはたらきを知ろう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 接続する語句の役割について理解することができる。
 (3) 接続する語句の役割を理解し、使い分けようとする。

標準的な展開例

04010115_001

【教材名】 つなぎ言葉のはたらきを知ろう (上 P. 81～P. 83)

【準備等】 画用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 つなぎ言葉のはたらきを知る。 ★つなぎ言葉のはたらきを知ろう。 ○教科書 (P. 81) の問題を考え、「だから」「しかし」の使い方をまとめる。 ○つなぎ言葉の役割について理解する。</p> <p>○教科書 (P. 82) の表を参考にして、教科書 (P. 83) の練習問題に取り組む。</p> <p>2 つなぎ言葉を使って短い文を書く。 ★つなぎ言葉を使って文を作ろう。 ○さまざまなつなぎ言葉を使って、文を作る。</p> <p>○作った文を発表し合う。</p> <p>○つなぎ言葉作文リレーをする。 ① 4, 5 人のグループに分かれる。 ② 一人目が初めの文を画用紙に書く。 ③ 教師がつなぎ言葉を一つ指定して言う。 ④ 二人目は教師が指定したつなぎ言葉を使って前の人に続く文を作り、画用紙に書く。 ⑤ 教師が次のつなぎ言葉を指定し、続けていく。 ⑥ できた文章を発表する。 ○学習を振り返る。</p>	<p>・「だから」「しかし」は使い方が違うことに気付かせる。 ・「つなぎ言葉」という用語を確認する。 ・つなぎ言葉を入れることで、内容と内容のつながり方がはっきりすることを押さえる。 【評】練習問題に取り組む活動を通して、つなぎ言葉の役割を理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・初めに例文を教師が提示し、提示された文に続く文を考えさせて、ノートに書かせてもよい。 ・ペアやグループでさまざまな意味のつなぎ言葉を使った文が発表できるようにしたい。 【評】つなぎ言葉を使って文を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書の問題だけでなく、接続語ゲームをする、例文作りをするなど、児童が興味をもって主体的に取り組むことのできる活動を取り入れながら伝えたい。</p> <p>・「いかそう」を読み、学んだことを今後にかそうとする意欲をもたせる。</p>

【 備 考 】

単元名 声に出して楽しもう1

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
(3) 言葉の響きやリズムに親しみ、音読したり暗唱したりしようとする。

標準的な展開例

04010116_001

【教材名】短歌・俳句に親しもう（一）（上 P.84～P.85）

【準備等】短歌や俳句の情景が分かる写真や資料

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 何度も声に出して読み、言葉のまとまりや調子、響きを楽しむ。</p> <p>★短歌や俳句を音読したり、暗唱したりしよう。</p> <p>○区切りを確認し、リズムを意識しながら短歌・俳句を繰り返し音読する。</p> <p>○情景や作者の心情について想像し、話し合う。</p> <p>○情景を想像しながら気に入った短歌や俳句を音読したり暗唱したりする。</p>	<p>・3年生で学習した短歌や俳句を思い出し、親しみをもたせる。</p> <p>・原則として短歌は五・七・五・七・七、俳句は五・七・五でできていることを確認する。</p> <p>【評】五七調の語感やリズムに気を付けて音読・暗唱する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・イメージを広げる手助けとなるように、写真などを用意するとよい。</p> <p>・添えられた大意を参考にするとよい。</p> <p>・解釈することよりも子どもなりに様子や心情を想像することができるように、分かる言葉を手がかりにイメージさせるようにする。</p> <p>・五七調の語感やリズムに気を付けて音読・暗唱させる。</p> <p>【評】区切りやリズムを意識しながら短歌や俳句を音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 集めるときに使おう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
(2) 目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約することができる。
(3) 目的を意識して，中心となる語や文を見付け，文章を要約しようとする。

標準的な展開例

04010117_001

【教材名】要約するとき (上 P. 86～P. 87)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 要約について知る。 ★要約について知ろう。 ○これまでに，話や文章の内容を相手にうまく伝わらなかった経験について話し合う。 ○教科書 (P. 86) を読み，要約するときに気を付けることについて考える。 ・目的 ・分量 ・元の文章に合わせてまとめる ・要約した部分と自分の感想・意見を区別する ○説明する文章や意見を要約するときに大切なことを考える。 ・話題を押さえる ・繰り返し出てくる言葉 ・まとまりの中心となる文 ・全体のまとめ ・問いに対する答え ○物語のあらすじを伝えるときに大切なことを考える。 ・中心となる登場人物 ・いつ，どこで，何をしたか ・起こる出来事 ・人物の変化 2 「思いやりのデザイン」を要約する。 ★「思いやりのデザイン」を要約しよう。 ○要約するときに大切なことを確認し，教科書 (P. 48～49) 「思いやりのデザイン」を要約する。 ○要約した文章を友達と読み合う。</p>	<p>・教科書 (P. 160) も活用するなどして「要約」という言葉を押さえる。 【評】要約するときに大切なことを理解する活動を通して，「知識・技能」を評価する。 ・教科書 (P. 87) 上段の要約文の例を参考にさせる。 ・内容を知らない人に説明するつもりで要約することを押さえる。 【評】要約する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】目的を意識し，中心となる語や文を見付けて要約する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 ・「必要な言葉や内容が抜けていないか」「まとめ方を工夫しているところはあるか」という観点で感想を伝え合わせる。 ・総合的な学習などで，多くの情報から内容を整理する際にも活用できるようにしたい。</p>

【 備 考 】

単元名 事実を分かりやすくほくくしよう

配当時間 12時間

単元の目標 (1) 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方を理解して使うことができる。
 (2) 相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にするとともに、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
 (3) 相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、構成を考えて学級新聞を作ろうとする。

標準的な展開例

04010118_001

【教材名】新聞を作ろう／アンケート調査のしかた

(上 P. 88～P. 97)

【準備等】知多の友、新聞の清書用紙、国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★読む人に分かりやすい新聞を作ろう。</p> <p>○身近な新聞を見て、新聞の特徴について気が付いたことを発表する。</p> <p>○教科書 (P. 89) を見て、新聞の特徴についてまとめる。</p> <p>○教科書 (P. 94) の新聞を見て、どのような新聞を作るか見通しをもつ。</p> <p>2 どんな新聞を作るかについて話し合う。 ★どんな新聞を作るかを話し合おう。 ○教科書 (P. 90) 「どんな新聞を作るか話し合おう」を読んで、グループで新聞の内容を話し合う。 ・何について書くか ・読み手に伝えたいこと ・調べ方 ・どんな話題を載せたいか ○記事を書く人を分担する。</p> <p>3 教材文を読み、新聞の特徴や作り方の手順、割り付けの工夫を学ぶ。 ★新聞の作り方を確かめよう。 ○知多の友 (P. 10) の学習の手順を読み、新聞作りの手順を確認する。</p> <p>4～6 取材の方法を話し合い、取材をする。 ★取材をしよう。 ○教科書 (P. 90) を読んで、取材の方法や注意点を確認する。 ○教科書 (P. 96) 「アンケート調査のしかた」を読む。</p> <p>○出来事や事柄を正しく伝えるために、どの取材のしかたがよいかを話し合い、取材の方法を決める。 ・見学 ・インタビュー ・図書館やインターネット ・アンケート</p> <p>○取材の準備をする。 ・見学の依頼 ・インタビューの依頼 ・書籍やネットの下調べ ・アンケート作り</p> <p>○取材をする。</p> <p>7 取材メモを基に、割り付けを考える。 ★割り付けについて話し合おう。 ○教科書 (P. 91) を読み、割り付けについて確認する。</p> <p>○取材した中から、中心になることや最も伝えたいことを考えさせて、内容に優先順位をつけさせる。</p> <p>○写真や図、表などの大きさや場所を考える。</p> <p>8～9 取材メモを基に、記事を書く。 ★記事を書こう。 ○教科書 (P. 92) を読み、記事の下書きをする。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・総合的な学習や理科、社会科など、他の学習で調べたことを新聞に表す活動に置き換えてもよい。</p> <p>・文字の多い新聞に対して、苦手意識のある児童もいるため、易しい内容のものを提示し、学習への意欲を高める。</p> <p>・知多の友 (P. 11) に書かせ、書いていないものが意見で出た場合は書き足させる。 【評】新聞の特徴を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・グループごとにテーマが選べるように、出てきた意見を黒板に列挙する。 【評】友達と協力して新聞作りをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 12) を活用する。</p> <p>・知多の友 (P. 19) の新聞の例を見せ、見通しをもたせるとよい。</p> <p>・「取材」の意味を、教科書 (P. 159) を活用するなどして押さえる。</p> <p>・アンケートの目的や方法を押さえる。</p> <p>・自分が記事を書くときのイメージをもちながらアンケートを作ることを押さえる。</p> <p>・グループごとの活動になるため、教師は児童の実態に合わせて必要なものを準備したり、取材前の確認を行ったりする。</p> <p>・校外で見学・インタビューを行う場合は、事前のアポイントメントを行う。</p> <p>・知多の友 (P. 13) を活用する。</p> <p>・「わりつけ」の意味を、教科書 (P. 159) を活用するなどして押さえる。</p> <p>・知多の友 (P. 16) を活用する。</p> <p>・一番大きく取り上げたいものは何か、取材した内容を分かりやすく伝えるために必要な大きさはどの程度かなどから、記事の大きさや場所を考える。</p> <p>・何を言葉で伝え、何を写真や図などで伝えるのかを考える。</p> <p>・知多の友 (P. 17) に書かせる。</p>

○見出しをつける。

10～11 記事を推敲し、清書して仕上げる。

★新聞を仕上げよう。

○記事を推敲する。

○下書きを基に、記事を清書する。

12 完成した新聞を読み合い、学習を振り返る。

★新聞を読み合い、感想を伝えよう。

○新聞を読み合い、感想を伝え合う。

○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。

【評】取材したことを基に記事を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
・様々な見出しを例として見せ、短い文章で最も伝えたいことが書かれていることを押さえる。

・教科書（P.93）や知多の友（P.18）を活用して、どのようなことに気を付ければよいかを確認する。

【評】下書きを推敲する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・写真や図、表やグラフの特徴を明らかにしながら、言葉との役割の違いを生かして選べるようにする。

・知多の友（P.18）は仕上げる時に使うようにする。

・内容や書き方について、よかったことを伝えて、今後の学習に前向きに取り組めるようにしたい。

・「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。

【 備 考 】

単元名 **カンジーはかせの都道府県の旅2**

配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 4年生までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。
(3) 4年生までに配当されている漢字を読むとともに、都道府県を使った文を作ろうとする。

標準的な展開例

04010119_001

【教材名】カンジーはかせの都道府県の旅2

(上 P.98～P.99)

【準備等】社会科の教科書などの資料

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 都道府県の旅というテーマで、線が引いてある都道府県名を使った文を考え、書く。 ★都道府県名を使った文を書こう。 ○都道府県名の読み方を確認する。</p> <p>○都道府県名を使った文を作る。</p> <p>2 線が引いてある都道府県名を、ローマ字で書く。 ★都道府県名をローマ字で書こう。 ○教科書 (P.136) のローマ字の表を確認する。 ○都道府県名をローマ字で書く。</p>	<p>・読み間違いは適宜確認する。 【評】4年生までに配当された漢字を読む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・社会科で学習したことを生かして、名産品やその土地ならではの行事を調べて文章にするなど、さらに興味を広げていけるとよい。 【評】都道府県名を使った文を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ローマ字の練習を適宜行う。</p>

【 備 考 】

単元名 季節の言葉2

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。
- (3) 語彙を豊かにし、行事の様子を俳句で表そうとする。

標準的な展開例

04010120_001

【教材名】夏の楽しみ (上 P.100～P.101)

【準備等】風景の写真, 国語辞典, 百科事典, 俳句・短歌集, 俳句歳時記, 俳句を書く用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 写真を見たり, 俳句や短歌を読んだりして, 夏の風景や様子を表す言葉を集める。</p> <p>★夏の行事や様子を表す言葉を考えよう。</p> <p>○教科書(P.100～101)を見て, 夏の行事や様子を想起させる。</p> <p>○自分の地域に伝わる行事や, それに関係する言葉がないか話し合う。</p> <p>2 夏の風景を表した俳句を作り, 友達と交流する。</p> <p>★夏の行事の様子を俳句で表そう。</p> <p>○「おりひめ」「たんざく」「ゆかた」など, 夏の行事に関する言葉を一つ選んで, 夏の行事や様子を表す俳句を作る。</p> <p>○俳句を読み合い, 感想を伝え合う。</p>	<p>・できるだけ多くの言葉に触れさせ, 語彙を増やすようにする。</p> <p>【評】季節を感じる行事や言葉を見付ける活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・提示された季語を入れることや, 五・七・五の音数を押さえてから行う。</p> <p>【評】夏に関する言葉を使って俳句を作る活動を通して, 「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・夏の様子がよく表れていると思うところについて感想を言うようにするとよい。</p> <p>・「歳時記」についても図書館に置き, 児童に紹介しておくとうい。</p> <p>【評】俳句を発表し合い, 交流する活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 本は友達2

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
 (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
 (3) 幅広く読書に親しみ、読んだ本をポップ等で紹介しようとする。

標準的な展開例

04010121_001

【教材名】事実にもとづいて書かれた本を読もう／ランドセルは海をこえて (上 P. 102～P. 113)

【準備等】ノンフィクションの本、本を紹介する用紙、知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★事実に基づいて書かれた本を読もう。 ○今までに読んで印象に残っているノンフィクションを紹介し合う。 ○教科書 (P. 102) 「学習の進め方」を読んで、今後の学習の流れを確認する。</p> <p>2～3 教科書 (P. 104) を参考にして、読みたいノンフィクションを選んで読む。 ★読みたい本を選んで読もう。 ○教科書 (P. 107) 「ランドセルは海をこえて」を読み、感じたことや考えたことをノートに書く。 ○感じたことや考えたことを伝え合う。</p> <p>4 教科書 (P. 105) の例を参考にして、読んだ本のよさを紹介する方法を考え、紹介するものを作る。 ★読んだ本を紹介し合おう。 ○読みたいノンフィクションを選んで読み、どの本を紹介するか決める。 ○教科書 (P. 105) 「ポップで紹介する例」を見て、読んだ本のよさを伝える方法について考える。 ○本を紹介するものを作る。</p> <p>5 読んだ本のよさを紹介し、学習を振り返る。 ★単元のまとめをしよう。 ○本を紹介するものを読み合う。 ○教科書 (P. 106) 「たいせつ」を読み、学習の振り返りをする。</p>	<p>・教科書 (P. 103) を参考にさせる。</p> <p>・普段さまざまなものを「読む」行為は、実は情報を読み取っているのだということに気付かせるようにする。 【評】文章を読んで、感じたことを伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・これまでに読んだことのある本、今回新たに読んだ本、「ランドセルは海をこえて」のどれかから選ぶとよい。 【評】読書に親しむ活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】ポップなどの本を紹介するものを作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教室や図書室に掲示して読み合う、グループで読み合うなどクラスの実態に応じて行う。</p> <p>・「読んだ作品を紹介し合おう」で読書紹介をすることで、選書の仕方や読書の楽しみ方を知る手がかりにしたい。</p> <p>・知多の友 (P. 20～33) 「本は友達」を活用して、読書感想文を書く活動へつなげてよい。</p>

【 備 考 】

単元名 詩を味わおう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。
 (2) 詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、それを共有することで感じ方の違いに気付くことができる。
 (3) 詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、それを述べようとする。

標準的な展開例

04010201_001

【教材名】忘れもの／ぼくは川 (上 P.114～P.117)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 二つの詩を音読し、詩の表現の工夫について話し合う。 ★様子を想像しながら詩を読もう。 ○「忘れもの」「ぼくは川」を音読する。</p> <p>○「忘れもの」の表現の工夫を見付ける。 ・倒置法 ・呼びかけ ・擬人法 ・体言止め</p> <p>○「ぼくは川」の表現の工夫を見付ける。 ・リズム ・川の躍動感</p> <p>○場面の様子や人の気持ちを想像しながら音読する。</p> <p>2 それぞれの詩の「ぼく」はどんな思いをもっているかを考える。 ★「ぼく」の思いについて考えよう。 ○「ぼく」の思いがどのような言葉で表現されているかに着目し、考えたことを伝え合う。</p>	<p>・教師の後に続いて読んだり、児童同士で交代して読んだりして、さまざまな形態で繰り返し音読させる。</p> <p>・3年生で学習した「連」を思い出させる。第1連の倒置法、第3連の呼びかけや擬人法、第4連の体言止めなど、表現技法について押さえる。</p> <p>・リズムのよさや、動詞で表現された川の躍動感について押さえる。 【評】詩を読んで考えたことを伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】詩の内容を想像しながら音読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・詩にはいろいろな感じ方や見方があり、一人一人違うことに気付かせる。 【評】詩を読んで考えたことを共有する活動を通して、感じ方に違いがあることに気付く「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 対話の練習

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くとともに、考えとそれを支える理由や事例との関係について理解することができる。
- (2) 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。
- (3) さまざまな立場でやり取りを行い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめようとする。

標準的な展開例

04010202_001

【教材名】あなたなら、どう言う (上 P. 118～P. 119)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書 (P. 118) を読み、グループで役割を決めてそれぞれの立場でやり取りをする。</p> <p>★お姉さんと弟の役になってやり取りをしよう。</p> <p>○教科書 (P. 118) を読み、場面について理解する。</p> <p>○グループで「お姉さん」「弟」「聞く人」に分かれ、やり取りをする。</p> <p>2 それぞれの立場の人が、なぜそのような言い方をしたのかを話し合う。</p> <p>★よりよい言い方を考えよう。</p> <p>○「お姉さん」「弟」がどのような発言をしたかを確認する。</p> <p>○なぜそのような言い方をしたのか話し合う。</p> <p>○よりよい対話をするためにはどうしたらよいか話し合う</p> <p>3 自分とは違う立場になって考えることのよさについて考える。</p> <p>○教科書 (P. 119) を読み、自分とは違う立場になって考える大切さを知る。</p>	<p>・互いが納得する言い方を考えさせる。</p> <p>・役割を交代して何度か行わせる。</p> <p>【評】それぞれの役でやり取りをする活動を通して、言葉の働きに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・言われたときにどんな気持ちになったかについても、感想を伝え合うようにする。</p> <p>【評】互いの意見の共通点や相違点に着目して話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】よりよい対話をするために必要なことを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・日常の場面を想起させ、どのような言い方をするとよいか考えを広げていけるとよい。</p>

【 備 考 】

単元名 生活の中で読もう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 目的を意識して、中心となる語や文を見付け、パンフレットを読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことができる。
- (3) 読んで理解したことについて基づいて感想や考えをもち、パンフレットの工夫について話し合おうとする。

標準的な展開例

04010203_001

【教材名】パンフレットを読もう (上 P. 120～P. 123)

【準備等】パンフレット

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 パンフレットについて気付いたことを話し合う。</p> <p>★パンフレットを読んで話し合おう。</p> <p>○身の回りでどんなパンフレットを見たことがあるかを紹介し合う。</p> <p>○教科書 (P. 120) を読み、パンフレットの特性を捉える</p> <p>○教科書 (P. 122～123) のパンフレットを読み、気付いたことを話し合う。</p> <p>2 パンフレットの工夫について話し合う。</p> <p>★パンフレットの工夫を考えよう。</p> <p>○知りたい情報を得るためには、パンフレットをどのように読めばいいか考える。</p> <p>○パンフレットの工夫について話し合う。</p>	<p>・事前に何種類かパンフレットを集めておく。</p> <p>・パンフレットに共通することを考えさせる。</p> <p>・パンフレットのよさに注目させる。</p> <p>【評】パンフレットを読む活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 121) ②を例にして考えさせる。</p> <p>【評】パンフレットを読む活動を通して、必要な語や文を見付ける「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・パンフレットは、作られた目的や伝えたい相手に応じて工夫されていることを押さえる。</p> <p>【評】パンフレットの工夫について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】パンフレットの工夫について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **いろいろな意味をもつ言葉**
配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増やすとともに, 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し, 語彙を豊かにすることができる。
 (3) 語彙を豊かにし, 国語辞典で言葉の意味を調べたり, 言葉遊びの詩を作ったりする。

標準的な展開例

04010204_001

【教材名】 いろいろな意味をもつ言葉 (上 P.124～P.125)

【準備等】 国語辞典, 「とる」(川崎洋) が掲載されている本

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 「とる」の詩や例題を読み, いろいろな意味をもつ言葉があることを知る。 ★いろいろな意味をもつ言葉を調べよう。 ○教科書(P.124)「とる」の詩の一部を読んで, 気付いたことを発表する。 ○それぞれの「とる」を動作化する。 ○それぞれの「とる」を他の言葉に代える。 ○教科書(P.124～125)の例題に取り組む。 2 いろいろな意味をもつ言葉を使って, 言葉遊びの詩を作って発表する。 ★言葉遊びの詩を作って発表しよう。 ○多義語を使った言葉遊びの詩を作る。 ・あがる ・ひく ・つく ・かける ・みる ・いる ○作った詩を発表する。 ○学習を振り返る。	・「とる」にはそれぞれいろいろな意味があることに気付かせる。 ・「とる」の詩の続きを紹介し, 多義語について興味をもたせる。 【評】 多義語を動作化したり, 他の言葉に代えたりする活動を通して, 語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。 ・他の意味を調べるときには, 国語辞典を使うと便利であるということを指導する。 【評】 国語辞典を使って多義語を調べる活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・学級の実態に応じて, 個人で行うかグループで行うかを設定する。 【評】 詩を作る活動を通して, 言葉の性質を理解して使う「知識・技能」を評価する。 ・発表を聞くだけでなく, 作った詩を動作化したり群読したりして, いろいろな多義語に触れる機会をつくる。 ・発表を聞いて気付いたことや知ったことを発表し, 全体で交流する。

【 備 考 】

単元名 漢字の広場3

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 3年生までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。
 (3) 3年生までに配当されている漢字を使って、文を作ろうとする。

標準的な展開例

04010205_001

【教材名】 3年生で習った漢字3 (上 P.126)

【準備等】 国語辞典, 漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 昔話を書く。 ★習った漢字を使って、二つの昔話を書こう。 ○漢字の読みを確認する。 ○教科書(P.126)の絵を見て、どんな昔話なのか発表する。 ・おむすびころりん ・浦島太郎 ○教科書の絵を見て、〈例〉を参考にしながら昔話を完成させる。</p> <p>2 書いた文章を読み合う。 ★書いた昔話を読み合おう。 ○完成した昔話を友達と読み合い、推敲する。 ・漢字にできる語句はないか。 ・つなぎ言葉を正しく使っているか。 ・漢字の送り仮名は正しいか。</p>	<p>・読み間違いは、適宜確認する。</p> <p>・習った漢字は使うこと、句読点を打つこと、送り仮名に気を付けること、つなぎ言葉を使うことをあらかじめ伝えておく。</p> <p>・学級の実態に応じて、段落を意識させるとよい。</p> <p>【評】 習った漢字を使って昔話を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】 習った漢字や接続する語句を使って文を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・推敲の観点を示して、推敲の方法を確認するとよい。</p> <p>【評】 推敲する活動を通して、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認める「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもち、一人一人の感じ方などの違いに気付くことができる。
 (3) 読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方などの違いに気付こうとする。

標準的な展開例

04010206_001

【教材名】 どんぎつね (下 P. 11～P. 33)

【準備等】 知多の友、新見南吉の本

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 学習の見通しをもつ。 ★気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう。 ○扉の詩を読み、目次を見て下巻の学習を見通す。</p> <p>○教科書 (P. 11) の題名やリード文から物語を想像し、学習の見通しをもつ。</p> <p>○「どんぎつね」を登場人物に焦点を当てて読み、初発の感想をもつ。</p> <p>3～8 「どんぎつね」を読み、登場人物の行動や気持ちの変化を捉える。 ★「どんぎつね」を読み取ろう。 ○第1場面を読む。</p> <p>○第2場面を読む。</p> <p>○第3場面を読む。</p> <p>○第4、5場面を読む。</p> <p>○第6場面を読む。</p> <p>○「どん」と「兵十」の気持ちの変化についてまとめ、読みを深める。</p> <p>9～11 物語や登場人物について考えたことをまとめ、交流する。 ★「どんぎつね」を読んで、考えたことをまとめよう。 ○詳しく読んで分かったことを基に、物語や登場人物についての考えをまとめる。</p> <p>○考えたことをグループで話し合い、友達の考えと比べながら、自分の考えを深める。</p> <p>○グループでの話し合いを通して広がったり深まったりした自分の考えを書く。</p> <p>12 学習を振り返る。 ○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。</p>	<p>・目次や教科書 (P. 4) 「四年生の国語の学びを見わたそう」、教科書 (P. 9) 「分ける・くらべる」を見て、下巻で学ぶことを確認する。</p> <p>・今までの物語の学習で、どのような読み方をしてきたか、どのような言語活動を行ったかを想起させ、確認する。</p> <p>・感想が書けない児童への支援として、どんに着目させ、自分と同じところや違うところを考えさせるとよい。</p> <p>・教科書 (P. 30) 「ノートの例」を参考に、「どんが兵十にしたこと」「そのときのどんの気持ち」に分けて各場面ごとに整理させる。</p> <p>・各場面において情景や場面の様子がよく分かる表現を探し、押さえる。教科書 (P. 30) 「ふかめよう」に触れておくと、情景描写に注意して読む意識をもたせることができる。</p> <p>・どんが後悔している気持ちが分かる表現を音読させ、どんの心情を理解させる。</p> <p>・どんの気持ちの変化が分かる言葉を見付けさせて、どんの人物像に迫るようにする。</p> <p>・「つまらない」「引き合わない」という言葉がなぜ出てきたのか、その背景を十分読み取らせたい。</p> <p>・どんの気持ちと兵十の気持ちを、叙述を基にまとめさせる。</p> <p>【評】 会話や心情表現、行動から人物像や気持ちを読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 31) 「ふかめよう」を参考にするとよい。</p> <p>【評】 場面の移り変わりと登場人物の気持ちの変化を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 物語を読み取る活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 31) 「まとめよう」のテーマの例を参考にするとよい。</p> <p>【評】 読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 31) 「ひろげよう」の「話し合うときに気をつけること」を確認してから話し合わせる。</p> <p>【評】 読んで考えたことを話し合う活動を通して、自分の考えを深める「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p>

○新美南吉の作品を知る。

○読み終わった本の感想を交流する。

- ・教科書 (P. 32～33) 「この本，読もう」を紹介する。
- ・図書館司書や読書サポーター等と協力して「南吉コーナー」を作るなど，読書の幅を広げさせたい。
- ・知多の友 (P. 64～65) 「ミニ事典」「新美南吉について学ぶ」を活用するとよい。

【 備 考 】

単元名 季節の言葉3

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。
- (3) 語彙を豊かにし、行事の楽しさを伝える手紙を書こうとする。

標準的な展開例

04010207_001

【教材名】秋の楽しみ (下 P. 34～P. 35)

【準備等】国語辞典，百科事典，俳句・短歌集，俳句歳時記，手紙の用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 挿絵を見たり，短歌を読んだりして，秋の自然の様子や行事を表す言葉を考える。</p> <p>★秋の行事や様子を表す言葉を考えよう。</p> <p>○教科書の挿絵や短歌から，秋の言葉を探す。</p> <p>○自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか話し合う。</p> <p>○短歌を読み，「から紅に水くる」等，秋の風景を表す言葉からその様子を豊かに想像する。</p> <p>2 好きな秋の行事の楽しさを知らせる手紙を書く。</p> <p>★秋の行事の楽しさを知らせる手紙を書こう。</p> <p>○秋の言葉を使って，秋の行事の楽しさを知らせる手紙を書く。</p> <p>○書いた手紙文を紹介し合う。</p>	<p>・分からない言葉は，国語辞典，百科事典，俳句集，俳句歳時記を使って調べるとよい。</p> <p>【評】季節を感じる行事や言葉を見付ける活動を通して，語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・日付や宛名等，手紙の書き方を確認する。</p> <p>【評】秋に関する言葉を使って手紙を書く活動を通して，「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・秋の語句を使って工夫しているところについて感想を伝え合うとよい。</p> <p>【評】手紙文を紹介し合う活動を通して，語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 役わりをいしきしながら話し合おう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方を理解して使うことができる。
 (2) 目的を意識して日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝え合うために必要な事柄を選んで話し合うことができる。
 (3) 司会などの役割を果たしながら話し合い, 考えをまとめようとする。

標準的な展開例

04010208_001

【教材名】クラスみんなで決めるには (下 P. 36～P. 41)

【準備等】指導書付録C D (話し合いの様子)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★役割を意識しながら, よりよく話し合おう。 ○話し合い活動で困った経験を振り返る。 ○話し合いや対話に関するこれまでの学習を振り返り, 学習計画を立てる。</p> <p>2 役割を決め, 議題と目的を確かめる。 ★役割を決め, 議題と目的を確かめよう。 ○教科書 (P. 37) を読み, 話し合いにおける役割について知り, 役割を決める。 ・司会グループ (司会, 記録係, 時間係) ・提案者 ・参加者 ○議題と目的を決める。</p> <p>3～4 話し合いの準備をする。 ★話し合いの準備をしよう。 ○教科書 (P. 38～40) の話し合いの例を音声C Dで聞く。 ○話し合いのときに気を付けるとよいことを考え, 話し合う。 ○司会グループ・参加者が気を付けることをまとめる。 ○司会グループは進行計画, 提案者は議題に対する提案, 参加者は自分の考えをまとめておく。</p> <p>5～8 クラス全体で話し合い, 話し合いについて気付いたことを話し合う。 ★クラス全体で話し合おう。 ○「よりよい話し合いのしかた」を意識しながら, 進行に沿って話し合う。</p> <p>○話し合いを振り返り, よかったところや次に気を付けたことを伝え合う。 ○振り返ったことを基に, 別の議題で役割を変えて話し合う。 ○教科書 (P. 41) 「ふりかえろう」を読み, 学習のまとめをする。</p>	<p>・教科書 (P. 36) 「学習の進め方」を読み, 学習の見通しをもたせる。</p> <p>・日常生活の中から必要性の高い議題を選ぶとよい。 ・教科書 (P. 37) 「議題の例」を参考にさせるとよい。 【評】 目的を意識して議題を決める活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・文章で読ませたり, 指導者用デジタル教科書で聞かせたりしてもよい。 【評】 話し合いのときに気を付けることを話し合う活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書 (P. 38～39) の下段を読み, 「よりよい話し合いのしかた」としてまとめさせる。 【評】 必要な事柄を考え, まとめる活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 37) 「進行計画の例」を参考にさせる。 ・教科書 (P. 9) 「分ける・くらべる」を参考に, 意見を比べたり整理したりしながら話し合わせる。 【評】 司会などの役割を果たしながら話し合う活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 よりよい話し合いのしかたを意識して話し合う活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「たいせつ」「いかそう」で, 身に付けた力を押さえる。 ・国語の授業だけでなく, 実際の学級活動の話し合いにおいても活用したい。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場4

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 3年生までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。
 (3) 3年生までに配当されている漢字を書き、文を書こうとする。

標準的な展開例

04010209_001

【教材名】3年生で習った漢字4 (下 P.42)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 ある日の学校の様子を文章に書く。 ★習った漢字を使って、ある日の学校の様子を書こう。 ○漢字の読み方を確認する。 ○教科書(P.42)の絵を見て、想像したことを発表する。 ○〈例〉を参考にし、想像したことを加えて文章を書く。</p> <p>2 書いた文章を推敲し、読み合う。 ★学校の様子を書いた文章を読み合おう。 ○書いた文章を推敲する。 ・漢字や送り仮名が正しく使われているか。 ・想像したことが加わっているか。 ・句読点が正しく使われているか。</p> <p>○完成した文章を紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み間違いは適宜確認する。 ・想像したことを加えて、文章を書くことを伝える。 <p>【評】学校の様子について文章を書く活動を通して、3年生までに習った漢字を適切に使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】学校の様子について文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推敲の観点を示し、推敲の方法を確認するとよい。 <p>【評】推敲する活動を通して、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認める「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスへ発表する、グループで書いたものを交換する、ペアで読み合うなど、クラスの実態に応じて行くとよい。

【 備 考 】

単元名	中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう	配当時間	16時間
単元の目標	(1) 事典の使い方を理解して使うとともに、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。 (2) 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約するとともに、内容の中心を明確にして文章の構成を考え、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き方を工夫することができる。 (3) 中心となる語や文を見付けて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫したりして、調べて分かったことをまとめて書こうとする。		

標準的な展開例

04010210_001

【教材名】世界にほこる和紙／【じょうほう】百科事典での調べ方／伝統工芸のよさを伝えよう (下 P. 43～P. 57)

【準備等】原稿用紙、知多の友、リーフレットの見本、リーフレットの用紙、百科事典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★中心となる語や文を見付けて要約し、調べたことを書こう。 ○教科書 (P. 43) を読み、伝統工芸や和紙に対するイメージを広げる。 ○学習課題や内容を知る。 ○「世界にほこる和紙」を読み、初発の感想を書く。</p> <p>2～5 「世界にほこる和紙」を読み、要約する。 ★中心となる語や文を見付けて要約しよう。 ○文章全体の組み立てについて考える。</p> <p>○筆者の考えの理由を大まかに捉え、「中」を二つのまとまりに分ける。 ・和紙のもつよさ ・使う紙を選ぶ気持ち ○「中」に書かれている例についてまとめる。</p> <p>○「初めー中ー終わり」のまとまりごとに、中心となる語や文を書き出す。 ○「世界にほこる和紙」を200字以内で要約する。</p> <p>○要約した文章を読み合う。</p> <p>6～7 伝統工芸に関する本を読み、伝統工芸のよさが書かれていると思う部分を中心に要約する。 ★伝統工芸についての本を読み、要約しよう。 ○教科書 (P. 52) 「百科事典での調べ方」を読み、百科事典での調べ方を確かめる。</p> <p>○伝統工芸に関する本を読み、よさが書かれている部分を要約する。 ・織物 ・扇子 ・陶磁器 ・竹工品 ・漆器 ・和楽器 など ○要約した文章を読み合い、要約の仕方や伝統工芸品のよさについて感じたことを伝え合う。</p> <p>8 伝統工芸についてのリーフレットを作る見通しをもち、調べたいものを決める。 ★伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作ろう。 ○学習の見通しをもつ。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・伝統工芸について調べ、リーフレットを作ること知らせる。 ・範読を聞きながら、段落番号を記入させ、10の段落があることを確かめさせる。</p> <p>・段落番号を確認し、全体を「初めー中ー終わり」に分ける。 【評】文章の組み立てについて考える活動を通して、段落の役割について理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 50) ノートの例を参考にするとい。 ・何を説明するために、どのような例を挙げているかを考えさせる。 ・教科書 (P. 50) を参考にする。</p> <p>・中心となる語や文を使うことを知らせる。 ・教科書上 (P. 86) 「要約するとき」を再確認するとよい。 ・まず目のある紙を用意し、二百字を意識しながら書かせるとよい。 【評】中心となる語や文を見付けて要約する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・要約の仕方について気付いたことを伝え合わせる。</p> <p>・見出し語が載っている巻を探し、「柱」や「つめ」を手がかりにして調べるとよいことを押さえる。 【評】事典の使い方を理解して使う活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・本を探すことが難しい児童には、個別支援をする。似た内容の児童とグループを組んでもよい。 【評】目的を意識して要約する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書 (P. 51) 「たいせつ」で学習を振り返る。</p> <p>・知多の友 (P. 40～41) や教科書 (P. 56～57) のリーフレットの例を見せ、どのようなものを作るか見通しをもたせる。</p>

- 身近な地域にどのような伝統工芸があるかについて話し合い、調べたいことを決める。
- 9～10 選んだ伝統工芸について詳しく調べ、分かったことを書き出す。
- ★くわしく調べて整理しよう。
- 選んだ伝統工芸についての本を読む。

- 調べたことを整理する。

- 11～12 組み立てと資料の使い方を考える。
- ★組み立てと資料の使い方を考えよう。
- リーフレットの書き方を知る。

- どんな組み立てにするか考える。

- 写真や絵などをどのように使うか考える。
- 13～15 考えた組み立てに沿って説明する文章を書き、読み合う。
- ★説明する文章を書いて完成させ、読み合おう。
- 説明する文章を書く。

- 書いた文章を推敲する。
- 表紙や裏表紙を作り、リーフレットを仕上げる。
- 完成したリーフレットを読み合い、分かりやすく書けているところを伝え合う。
- 16 学習を振り返る。
- 「ふりかえろう」で単元の学習を振り返る。

- ・知多の友（P. 34）の学習の手順を読み、学習の計画を立てる。
- ・知多の友（P. 35）を活用する。

- ・あらかじめ伝統工芸についての資料の所在を確認しておく。
- ・教科書（P. 54）「目的におうじた資料の選び方」を参考に、本や資料を探させるとよい。
- ・知多の友（P. 35）を活用する。
- ・教科書（P. 54）「よさについてまとめた例」を参考にするとよい。

- ・教科書（P. 56～57）「リーフレットの例」を参照させる。
- ・資料の使い方、参考図書の示し方等を押さえる。
- ・先行の「パンフレットを読もう」を想起させ組み立てや写真に対応する説明の文章を考えさせるようにしたい。
- ・教科書（P. 55）「組み立ての例」を参考にさせる。
- ・知多の友（P. 35）を活用する。
- 【評】説明文の書かれ方の工夫を取り入れながら組み立てを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・知多の友（P. 36～37）を活用する。
- ・参考にした本は出典として、文の終わりに書かせる。
- 【評】伝統工芸について説明する文章を書く活動を通して、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして書く「思考・判断・表現」を評価する。
- ・知多の友（P. 38）を活用する。

- ・クラスへ発表する、グループで読み合うなどクラスの実態に応じて行うとよい。
- ・知多の友（P. 39）を活用する。

- ・「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。

【 備 考 】

単元名 慣用句

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使うことができる。
 (2) 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にして書くことができる。
 (3) 慣用句の意味を知り、文を作るときに使おうとする。

標準的な展開例

04010211_001

【教材名】 慣用句 (下 P. 58～P. 59)

【準備等】 国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書 (P. 58～59) を読み、昔から伝わる慣用句について知り、慣用句の意味を調べる。 ★慣用句の意味を調べよう。 ○教科書 (P. 58) を読み、昔から伝わる慣用句について知る。 ○国語辞典を使って教科書 (P. 59) の慣用句の意味を調べる。</p> <p>2 国語辞典を作る人になったつもりで、提示された慣用句の例文を作る。 ★慣用句の例文を作ろう。 ○教科書 (P. 59) 下段の慣用句の意味を調べ、慣用句を使った例文を作る。 ○作った例文を友達と交換し、読み合う。</p>	<p>・「慣用句」という言葉の意味を押さえる。</p> <p>・国語辞典にどのような例文が書かれているかを確認させる。 【評】 慣用句に興味をもち、意味を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】 慣用句の例文を作る活動を通して、「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・正しく慣用句を使えているかどうか確かめ合わせる。 【評】 正しく慣用句を使っているか確認する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】 作った例文を読み合い、感想を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 声に出して楽しもう2

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
(3) 言葉の響きやリズムに親しみ、音読したり暗唱したりしようとする。

標準的な展開例

04010212_001

【教材名】短歌・俳句に親しもう (二)

(下 P.60～P.61)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 短歌・俳句を何度も声に出して読み、言葉のまとまりや調子、響きを楽しむ。</p> <p>★短歌や俳句を音読したり、暗唱したりしよう。</p> <p>○区切りを確認し、リズムを意識しながら短歌・俳句を繰り返し音読する。</p> <p>○短歌・俳句の大意を捉え、様子を想像しながら音読したり暗唱したりする。</p>	<p>・短歌（五七五七七の三十一音、首と数える）俳句（五七五の十七音、季語がある、句と数える）を確認し、歴史的仮名遣いや古語の説明をする。</p> <p>・添えられた大意を、情景を思い浮かべる参考にする。</p> <p>【評】区切りやリズムを意識ながら短歌や俳句を音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】五七調の語感やリズムに気を付けて音読や暗唱をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場5

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 3年生まで配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を書くことができる。
 (3) 3年生までに学習した漢字を書き、文を作ろうとする。

標準的な展開例

04010213_001

【教材名】 3年生で習った漢字5 (下 P.62)

【準備等】 国語辞典, 漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書 (P.62) を見て、休日の様子を文章に書く。 ★習った漢字を使って休日の様子を文章に書こう。 ○漢字の読みを確認する。 ○教科書 (P.62) の絵を見て、どこで、どんな人が、どんなことをしているかを発表する。 ○休日の様子を紹介する文を〈例〉を参考にして書く。</p> <p>2 書いた文章を推敲し、読み合う。 ★休日の様子を書いた文章を読み合おう。 ○書いた文章を推敲する。 ・どこで、どんな人が、どんなことをしているか。 ・漢字や送り仮名が正しく使われているか。 ・句読点が正しく使われているか。 ○完成した文章を読み合う。</p>	<p>・読み間違いは適宜確認する。 【評】 3年生までに習った漢字を確認め、漢字を使った文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】 3年生までに習った漢字を適切に使って文を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・推敲の観点を示し、推敲の仕方を確認するとよい。 【評】 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・クラスへ発表する、グループで書いたものを交換する、ペアで読み合うなど、クラスの実態に応じて行うとよい。 ・日常生活と密着した言葉が多く配置されているので、日記などで日常的に使うように意識付け、定着を図りたい。</p>

【 備 考 】

単元名 登場人物の変化を中心に読み、物語をしようかいしよう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、捉えることができる。
 (3) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、物語の魅力を紹介する文章を書こうとする。

標準的な展開例

04010214_001

【教材名】プラタナスの木 (下 P. 63～P. 76)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★登場人物の変化を中心に読み、物語を紹介しよう。 ○教科書 (P. 63) で題名やリード文から物語を想像する。 ○学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 ○「プラタナスの木」を読み、初発の感想を書く。</p> <p>2～3 「プラタナスの木」を読む。 ★場面の様子や出来事をまとめよう。 ○「プラタナスの木」のあらすじをつかむ。</p> <p>○場面展開から「マーちゃん」たちのプラタナスの木への思いの変化を捉える。</p> <p>4～5 話し合って考えを深める。 ★物語を読み深めよう。 ○物語の最初と最後での「マーちゃん」の変化を捉える。</p> <p>○「マーちゃん」が変わるきっかけとなった出来事について話し合う。</p> <p>○最後の場面での「マーちゃん」の気持ちや、「おじいさん」との再会の可能性について話し合う。</p> <p>6～7 物語の魅力について考え、紹介する文章を書く。 ★物語の魅力を紹介する文章を書こう。 ○登場人物の変化とそのきっかけを中心に、物語の魅力を紹介する文章を書く。</p> <p>○書いたものを友達と読み合い、友達の文章のよさやまねしてみたいところを伝え合う。</p> <p>8 学習を振り返る。 ○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。</p> <p>○「この本、読もう」を読み、同じ年くらいの年の人物が出てくる物語について知る。</p>	<p>・これまでの物語の学習を想起させる。</p> <p>・叙述を根拠にして感想を考える、自分の体験から感想を考えるなど、根拠を明らかにして感想を書くようにさせたい。</p> <p>・どの部分に、どんな感想をもったのか、本文を要約したり引用したりしながら感想をまとめさせるとよい。</p> <p>・教科書 (P. 74) 下段「ノートの例」を参考に場面ごとの様子や出来事をまとめるとよい。 【評】様子や行動、気持ちの変化を表す語句を見付ける活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「プラタナスの木への思い」「ものの見方や考え方」の観点から読み取らせる。</p> <p>・教科書 (P. 74) 下段「考えを伝え合うときの言い方の例」を参考にさせる。 【評】物語を読み取る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】登場人物の変化について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 75) 下段「しようかいする文章の例」を参考にするとよい。 【評】紹介文を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p> <p>・自分と同じくらいの年の人物が出てくる物語を読むときには、自分と照らし合わせながら読むとよいことを伝える。</p>

【 備 考 】

単元名 心の動きを言葉にして、詩を書こう

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 自分の思いが伝わるように言葉を選んで詩を作り、それを読み返してよりよく整えることができる。
- (3) 心を動かされたときのことを詩に書き、読み返してよりよくしようとしたり、友達の作品のよさを伝え合ったりしようとする。

標準的な展開例

04010215_001

【教材名】感動を言葉に (下 P. 77～P. 79)

【準備等】知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★心の動きを言葉にして、詩を書こう。</p> <p>○学習計画を立てる。</p> <p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>2 詩に書きたいことを決める。</p> <p>★詩に書きたいことを決めよう。</p> <p>○心を動かされたことを思い出す。</p> <p>・考えたこと ・思ったこと ・見たこと</p> <p>・聞こえたこと ・うれしかったこと</p> <p>・がんばっていること など</p> <p>3 詩の組み立てを考える。</p> <p>★詩の組み立てを考えよう。</p> <p>○教科書 (P. 78) 「ニンジン」「およぐ」を読み、作者は何に心を動かされたのか、どのような書き方の工夫をしているかについて考える。</p> <p>○詩の組み立てを考えて、詩を書く。</p> <p>4～6 言葉を選んで、詩を書く。</p> <p>★言葉を選んで、詩を書こう。</p> <p>○心を動かされたときのことを書き出す。</p> <p>○書き出した言葉や文の中から言葉を選んだり、組み合わせたりして詩を書く。</p> <p>○書いた作品を読み返し、整える。</p> <p>7 友達と詩を読み合い、学習の振り返りをする。</p> <p>★友達の詩の工夫を見付けよう。</p> <p>○友達と詩を読み合い、よさを伝え合う。</p> <p>○「ふりかえろう」で単元を振り返る。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・これまでに詩を読んだり書いたりしたことを振り返り、日常生活の中で感動したことなどを想起する。</p> <p>・知多の友 (P. 42) の学習の手順を読み、見通しをもたせる。</p> <p>・知多の友 (P. 43) を活用する。</p> <p>・改行の仕方や、連に分かれていること、表記の仕方に目を向けさせる。</p> <p>・知多の友 (P. 145) 「表現方法のいろいろ」を活用し、表現を工夫させる。</p> <p>・知多の友 (P. 44) を活用する。</p> <p>・できるだけ多く書き出させる。</p> <p>・知多の友 (P. 46) を活用する。</p> <p>【評】心を動かされた言葉を書き出す活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 47) を活用する。</p> <p>【評】詩を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 49) を参考にして推敲する。</p> <p>【評】書いた詩を推敲する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・詩の音読発表会をするなど、クラスの実態に応じてまとめをする。</p> <p>・知多の友 (P. 49) を活用する。</p> <p>・「ふりかえろう」「たいせつ」を読み、身に付けた力を押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 季節の言葉4

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 語彙を豊かにし、行事の楽しさを伝えるかるたを作ろうとする。

標準的な展開例

04010216_001

【教材名】冬の楽しみ (下 P. 80～P. 81)

【準備等】国語辞典，百科事典，俳句集，俳句歳時記，かるたの用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 挿絵や写真を見たり，俳句を読んだりして，冬の行事や様子を表す言葉を考える。 ★冬の行事を表す言葉を考えよう。 ○絵を見て，自分の知っている言葉と知らない言葉に分ける。</p> <p>○自分の地域に伝わる行事を表す言葉を，考えたり調べたりする。</p> <p>2 自分の住む地域の冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作る。 ★冬の行事に関する言葉を入れたかるたを作ろう。 ○集めた言葉を使ってかるたを作る。</p> <p>○完成したかるたで遊ぶ。</p>	<p>・分からない言葉は，国語辞典，百科事典，俳句集，俳句歳時記を使って調べるとよい。 【評】言葉を見付ける活動を通して，「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・家族や地域の人に聞くようにするのもよい。</p> <p>・読み札と書き札の書き方を確認する。 【評】冬の様子を表す言葉を入れたかるたを作る活動を通して，「知識・技能」，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・読み札の表現で工夫しているところを褒め合う。</p>

【 備 考 】

単元名 詩の楽しみ方を見つけよう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
 (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
 (3) 集めた詩で詩集を作り、読み合って感じたことを共有しようとする。

標準的な展開例

04010301_001

【教材名】自分だけの詩集を作ろう

(下 P.82～P.83)

【準備等】詩集・詩集を作る用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 三編の詩を読んで、感じたことを伝え合う。 ★詩の楽しみ方を見付けよう。 ○月に關する三編の詩を読む。 ○三編の詩について感じたことを話し合う。</p> <p>2 テーマを決めて詩を集める。 ★テーマを決めて、詩を集めよう。 ○詩集のテーマを決める。 ・取り上げる事柄に共通点がある詩 ・同じ詩人の詩 ・言葉や書き方の面白い詩 ○テーマとなる共通点を意識しながら、たくさんの詩を読む。 ○集めた詩と、その理由をノートに書く。</p> <p>3～4 集めた詩の中から自分の詩集に載せる詩を選び、本にする。 ★自分だけの詩集を作ろう。 ○自分の詩集に載せる詩を選び、載せる順番を決める。 ○表紙や目次を付けて、本にする。 ○できあがった詩集を読み合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの詩から想像される「月」が全く違うことに気付かせる。 ・自分と友達の感じ方にも違いがあることに気付かせる。 ・同じテーマで複数の作品を読むことの楽しさやよさに目を向けさせ、詩集を作ることへの意欲につなげる。 <p>【評】詩を読んで感じたことを交流する活動を通して、一人一人の感じ方に違いがあることに気付く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩集が十分にあるかを事前に確認しておく。 <p>【評】幅広く読書に親しむ活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・言葉の使い方や書かれ方に目を向けさせる。 【評】テーマを意識しながら詩を集める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意図するテーマが明確になるように、集めた中からどの詩を載せるか検討させる。 <p>【評】詩集を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意図するテーマについての説明を最後のページに載せるように伝える。 ・友達と詩集を読み合い、テーマが伝わるかどうかや感じ方の違いについて交流させる。 <p>【評】詩集を読み合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 熟語の意味

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 4年生までに配当されている漢字を読むことができる。
 (3) 4年生までに配当されている漢字や熟語を正しく読んだり書いたりしようとする。

標準的な展開例

04010302_001

【教材名】 熟語の意味 (下 P. 84～P. 85)

【準備等】 漢字辞典, 国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 訓を手がかりにして、熟語の意味を考える。 ★訓を手がかりにして、熟語の意味を考えよう。 ○教科書 (P. 84) 上段のような例を提示する。</p> <p>○教科書 (P. 84) 下段を読んで、訓を手がかりにすると意味の分かる熟語について知る。 ○教科書 (P. 84) 下段の問題を考え、訓を手がかりにして熟語の意味を考える。</p> <p>2 熟語を漢字の組み合わせから熟語の意味を考える。 ★漢字の組み合わせを手がかりにして、熟語の意味を考えよう。 ○教科書 (P. 85) を読んで、熟語で構成する漢字の組み合わせについて知る。 ○漢字の組み合わせを手がかりに熟語の意味を考え、友達と説明し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字辞典, 国語辞典を用意しておき、いつでも活用できるようにする。 ・2字以上の漢字でできた言葉を「熟語」ということを押さえる。 ・クラスの実態によって、実際に意味が分からなかった例を挙げるとよい。 ・熟語の読み方が分からない児童には、欄外の読み方を参考にさせる。また、訓が分からない児童には、漢字辞典を使って調べさせる。 <p>【評】 4年生までに習った漢字を読む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典や漢字辞典を引き、熟語の意味と自分たちの説明が一致するか確かめさせる。 <p>【評】 漢字や熟語を読んだり書いたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場6

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 3年生までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うことができる。
 (2) 間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして，文や文章を整えることができる。
 (3) 3年生までに配当されている漢字を書き，文を書こうとする。

標準的な展開例

04010303_001

【教材名】 3年生で習った漢字6 (下 P.86)

【準備等】 国語辞典，漢字辞典，出来事を書く用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1年間の出来事をまとめる学級新聞を書く。 ★ 1年間の出来事を，学級新聞の記事にしよう。 ○ 教科書 (P.86) の絵の中の漢字を正しく読む。 ○ 絵や漢字を見て，何をしているところかを想像し，発表する。 ○ 〈例〉を参考にしながら，提示された語句を使って1年間の出来事を記事に書く。</p> <p>2 書いた文章を読み合う。 ★ 書いた文章を読み合い，よりよくしよう。 ○ 書いた文章を推敲し，友達と読み合う。</p> <p>○ 完成した文章を学級新聞にまとめる。</p>	<p>・ 読み間違いは適宜確認する。 ・ 実際の体験の様子やそのときの感想も加えるようにさせる。 【評】 1年間の出来事を書く活動を通して，3年生までに習った漢字を適切に使う「知識・技能」を評価する。 【評】 1年間の出来事を書く活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】 推敲する活動を通して，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりする「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 完成した新聞は，増し刷りしたり掲示したりして発表するとよい。</p>

【 備 考 】

単元名 きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。

(2) 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約するとともに、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

(3) 文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、紹介する文章を書こうとする。

標準的な展開例

04010304_001

【教材名】ウナギのなぞを追って (下 P. 87～P. 100)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★興味をもったことを中心に、紹介しよう。</p> <p>○教科書 (P. 87) で、題名やリード文から説明的な文章の内容を想像する。</p> <p>○学習課題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>○「ウナギのなぞを追って」を読み、初発の感想を書く。</p> <p>2 教材文を読み、内容を整理する。</p> <p>★「ウナギのなぞを追って」を読み取ろう。</p> <p>○何の調査について書かれ、どの調査はどんな結果になったのかを捉える。</p> <p>○教科書 (P. 96～97) 「もっと読もう」を読み、自分が興味をもったことを明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レプトセファルスの旅 ・一つの研究に長い年月がかかること ・次第になぞが解けていくこと <p>3～6 興味をもったことに沿って文章全体を読んで、要約する。</p> <p>★興味をもったことを中心に、要約しよう。</p> <p>○内容のまとまりごとに、興味をもったことに沿って大事な言葉や文を書き出す。</p> <p>○書き出した言葉を使ったり、自分の言葉を用いたりして文章を要約する。</p> <p>○友達と読み合う。</p> <p>7 教材文を紹介する文章を書く。</p> <p>★興味をもったことを中心に、紹介しよう。</p> <p>○興味をもったことに沿って読んだり、要約したりしたことを通して、筆者の調査についての感想をまとめる。</p> <p>○「何の話か」「要約」「感想」という構成で、教材文を紹介する文章を書く。</p> <p>○友達と紹介文を読み合う。</p> <p>8 学習を振り返る。</p> <p>○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。</p> <p>○「この本読もう」で読書を広げる観点を確かめる。</p>	<p>・「これまでの学習」を参考に、説明的な文章の学習で学んだことを想起させる。</p> <p>・文章の読み取りと、要約を行うことを知らせる。</p> <p>・「なぞ」について想像させると、興味をもって読むことができる。</p> <p>・教科書 (P. 98) 下段の「文章への着目のしかたの例」を参考にさせるとよい。</p> <p>【評】文章を読み取る活動を通して、語句の量を増やす「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 98) 下段「整理の例」を参考にするとよい。</p> <p>・段落ごとに大事な言葉をまとめて書いておけるワークシートを準備するとよい。</p> <p>・要約するとき大切なことを確認しておく。</p> <p>【評】大事な語や文を見付けて要約する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・興味をもったことによって要約が違ったものになることに気付かせる。</p> <p>【評】友達と読み合う活動を通して、感じ方に違いがあることに気付く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】興味をもったことに沿って読む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・構成に気を付けて書かせる。</p> <p>・教科書 (P. 99) 下段「しょうかいする文章の例」を参考にさせる。</p> <p>【評】紹介文を書く活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・自分と違うところや「いいな。」と思うところを伝え合わせる。</p> <p>【評】紹介文を読み合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p> <p>・生き物の謎に迫る本を紹介する。</p>

【 備 考 】

単元名 言葉について考えよう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 主語と述語の関係、修飾語と被修飾語の関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。
- (2) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。
- (3) 主語と述語の関係、修飾語と被修飾語との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解し、つながりに気を付けて文章を書こうとする。

標準的な展開例

04010305_001

【教材名】 つながりに気を付けよう

(下 P. 101～P. 104)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 学習の見通しをもち、主語と述語の対応について考える。</p> <p>★つながりに気を付けて、分かりやすく書くポイントを見付けよう。</p> <p>○自分の書いた文章について「分かりにくい」と感じた経験について話し合い、学習課題をつかむ。</p> <p>○主語と述語の対応について考える。</p> <p>○何を修飾しているかを明確にすることについて考える。</p> <p>3 一文の長さについて考える。</p> <p>★文の長さについて考えよう。</p> <p>○例文を読み、一文の長さについてどちらが読みやすいかを考える。</p> <p>○例文を読み、一文にまとめることで分かりやすくなることもあることを知る。</p> <p>4 教科書 (P. 104) の文章を、分かりやすくなるように書き直す。</p> <p>★分かりやすくなるように、書き直そう。</p> <p>○教科書 (P. 104) の文章をノートに書き直す。</p> <p>○どのように直したか友達と伝え合う。</p>	<p>・例文や教師の用意した文の述語を書き直し、分かりやすい文章に直させる。</p> <p>・例文や教師の用意した文に読点を打ったり、言葉の順番を入れ替えたりして分かりやすい文章に直させる。</p> <p>・例文や教師の用意した文を、内容の切れ目で分けたり、省いたり、指示語に置き換えたりすることで分かりやすくさせる。</p> <p>・どう書くと読む人にとって分かりやすいかを考えるようにさせる。</p> <p>【評】 分かりやすい文章について考える活動を通して、言葉のつながりに関心をもち、分かりやすい文章にするための工夫を考える「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「読む人に分かりやすくなるように」という観点で直させる。</p> <p>【評】 文章を書き直す活動を通して、主語と述語、修飾語と被修飾語の役割について理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・どうしてそのように直したか、理由も説明させるとよい。</p> <p>【評】 どのように直したか伝え合う活動を通して、文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 考えたことを書き、読み合おう

配当時間 12時間

単元の目標 (1) 主語と述語の関係、修飾語と被修飾語の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。
 (2) 相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にするとともに、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係も明確にして、書き表し方を工夫することができる。
 (3) 調べたことを基に自分の考えを書き、読み合って、文章に対する感想や意見を伝え合おうとする。

標準的な展開例

04010306_001

【教材名】もしものときにそなえよう (下 P.105～P.111)

【準備等】知多の友、百科事典、図鑑、国語辞典、清書用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★もしものときの備えについて考えたことを書き、読み合おう。 ○学習課題をつかむ。 ○学習の見通しをもつ。 ○「もしものとき」には、どんなことがあるか話し合う。</p> <p>2～4 テーマを決めて調べる。 ★テーマを決めて、調べよう。 ○テーマを決める。 ・台風 ・大雨 ・大雪 ・かみなり ・じしん ・つなみ など ○テーマに合った方法で調べる。 ・本や図鑑 ・関係する施設に行く ・インターネット ・詳しい人に聞く</p> <p>○気になったことや分かったことを知多の友 (P.52～53) に書き出す。</p> <p>5 調べたことを整理する。 ★調べたことを整理しよう。 ○読む人にとって役立つかどうかを考えて、内容ごとに分類する。</p> <p>6～7 文章の組み立てを考える。 ★組み立てを確かめよう。 ○教科書 (P.108～109) を読み、自分の考えを伝えるための書き方の工夫を見つける。 ○知多の友 (P.55) に大まかな組み立てを考えて書く。</p> <p>8～10 自分の考えをまとめた文章を書き、書いた文章を読み返す。 ★考えを伝える文章を書こう。 ○自分の伝えたいことが伝わるように、組み立てを意識しながら文章を書く。</p> <p>○書いた文章を声に出して読み、読みづらいところがないか確かめる。 ○清書する。</p> <p>11～12 文章を読み合い、感想を伝える。 ★文章を読み合い、感想を伝えよう。 ○書き手が伝えたいことを考えながら読み、感想を伝え合う。 ○「ふりかえろう」を読み、学習の振り返りをする。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・教科書 (P.6) 「たしかめよう」で、既習事項を振り返らせる。 ・知多の友 (P.50) の学習の手順を読み、見通しをもたせる。</p> <p>・知多の友 (P.51) を活用する。</p> <p>・関係する施設に行ったり、詳しい人に聞いたりする場合は事前に了解を得ておく。 ・図書館司書の協力を得られるとよい。図書館の利用の仕方やマナーについても確認しておく。 ・分からない言葉は国語辞典で調べさせる。 ・出典についても明記させる。 【評】調べたことを書き出す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書 (P.9) 「分ける・くらべる」を参考にする。 ・知多の友 (P.54) を活用する。 【評】内容ごとに分類する活動を通して、目的を意識して比較・分類する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「初めー中ー終わり」の組み立てを、押さえる。</p> <p>・知多の友 (P.56～57) を活用する。 【評】伝えたいことが伝わるように書く活動を通して、書き表すことを工夫する「思考・判断・表現」を評価する。 【評】考えを伝える文章を書く活動を通して、段落の役割について理解する「知識・技能」を評価する。 ・知多の友 (P.58) の推敲のポイントを参考にするとよい。</p> <p>・気になったことや、詳しく知りたいことは質問させる。 ・知多の友 (P.59) を活用する。 ・「たいせつ」「いかそう」を読み、身に付けた力を押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 調べて分かったことを話そう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意して話することができる。
- (2) 目的を意識して必要な事柄を選び、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。
- (3) 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、調査の報告をしようとする。

標準的な展開例

04010307_001

【教材名】調べて話そう、生活調査隊 (下 P.112～P.116)

【準備等】アンケート用紙、資料を書く紙、指導者用CD、デジタル教科書

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★生活に関する疑問をグループで調べて、分かったことを発表しよう。</p> <p>○教科書(P.112)を読み、身近な生活の中にある疑問を出し合う。</p> <p>○学習課題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>2～3 調べたいことを決め、調べる。</p> <p>★調べたいことを決め、アンケートを取ろう。</p> <p>○自分やみんなの生活について、感じていることを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠について ・食生活について ・放課後の過ごし方について ・読書について <p>○グループで一つ調べたいことを決める。</p> <p>○アンケート調査をした経験を生かし、調べたいことについてアンケートを作る。</p> <p>○アンケート調査をする。</p> <p>4 アンケート結果から資料を作る。</p> <p>★アンケート結果を整理し、資料を作ろう。</p> <p>○アンケート結果を整理し、分かったことを明確にして、グラフや表にまとめる。</p> <p>5～6 調べて分かったことを発表する準備をする。</p> <p>★発表の準備をしよう。</p> <p>○教科書(P.115)「発表の例」を読んだり、音声CDや指導者用デジタル教科書で聞いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけ ・間の取り方 ・声の強弱 <p>○発表原稿を作る。</p> <p>○自分の担当部分をどのように発表するかを考えて、練習する。</p> <p>7～8 発表し、感じたことを伝え合い、学習を振り返る。</p> <p>★調べたことを発表しよう。</p> <p>○調べたことを発表し、感想を伝え合う。</p>	<p>・話すことに関するこれまでの学習を想起させる。</p> <p>・教科書(P.112)下段「学習の進め方」を確認させる。</p> <p>・疑問に思っていることについて出させる。</p> <p>・教科書上(P.96～97)「アンケート調査のしかた」を確認させる。</p> <p>・教科書(P.113)下段「アンケートの例」を参考にさせる。</p> <p>・回答をおおまかに予想して問いを作るようにさせる。</p> <p>【評】アンケートを作る活動を通して、目的を意識して材料を集める「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】アンケート調査をする活動を通して、見通しをもって調べる「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書(P.114)下段「資料の例」を参考にさせる。</p> <p>・グラフや表など、分かりやすく伝わるものを選ぶようにする。</p> <p>【評】アンケート結果を整理する活動を通して集めた材料から必要なことを選ぶ「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・発表の仕方で工夫されていることについて、気を付けて聞くようにさせる。</p> <p>・「初めー中ー終わり」の構成を意識して原稿を作らせる。</p> <p>・「中」で作った資料を提示し、説明させる。</p> <p>【評】発表原稿を作る活動を通して、話の中心が明確になるように構成を考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・発表の工夫を意識して、練習をさせる。</p> <p>・グループで聞き合い、お互いにアドバイスをし合うようにさせる。</p> <p>【評】発表の練習をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・質問したり感想を言ったりできるように、自</p>

- 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。

分の生活と比べながら聞くことを伝える。

- ・友達の感想から自分の考えが正しく伝わっているかを考える。

【評】発表する活動を通して、言葉の抑揚や間の取り方に注意する「知識・技能」を評価する。

- ・「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。

【 備 考 】

単元名 まちがえやすい漢字

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 4年生までに配当されている漢字を読み, 3年生までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 4年生に配当されている漢字を漸次書くことができる。
 (3) 4年生までに配当された漢字を読むとともに, 3年生までに配当されている漢字を書き, 漢字を正しく使おうとする。

標準的な展開例

04010308_001

【教材名】まちがえやすい漢字 (下 P.117～P.118)

【準備等】国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 同音異義語の言葉を知り, 意味の違いを知る。 ★間違えやすい漢字の正しい意味や読み方を知ろう。 ○「まるい」はどちらの漢字か, 国語辞典で調べる。</p> <p>○教科書 (P.117～118) の平仮名で書くと同じになる言葉の問題に取り組む。</p> <p>○教科書 (P.118) のなじみのない読み方をする言葉の意味を調べる。 ○なじみのない読み方をする言葉を使って文を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・辞典の使い方が分からない児童には個別支援をする。 ・意味の違いが分かりにくい言葉については, 国語辞典を使って意味を調べさせる。 <p>【評】違いが分かりにくい漢字を調べる活動を通して, 漢字を正しく使おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み方を確認する。 <p>【評】習った漢字を文章の中で正しく使う活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 読んで感じたことをまとめ、伝え合おう

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、感想や考えをもつことができる。
- (3) 文章を進んで読んで感じたことをまとめて伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付こうとする。

標準的な展開例

04010309_001

【教材名】初雪のふる日 (下 P.119～P.138)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★読んで感じたことをまとめ、伝え合おう。</p> <p>○教科書(P.119)で、題名やリード文から物語を想像する。</p> <p>○学習課題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>○本文を読んで、初発の感想を書く。</p> <p>2 女の子にどんな出来事が起こったのかを確認しながら、全文を読む。</p> <p>★女の子に起きた出来事について読み取ろう。</p> <p>○どんな出来事が起きたかを読み取る。</p> <p>○物語の結びで、女の子がどうなったかを読み取る。</p> <p>3～4 場面の様子を表す言葉に着目して、女の子の様子や気持ちの変化を考える。</p> <p>★女の子の様子や気持ちの変化を読み取ろう。</p> <p>○女の子の様子や気持ちの変化について考える。</p> <p>・おばあさんの話を思い出したとき</p> <p>・よもぎの葉を見つけたとき</p> <p>・町の人に取り囲まれたとき</p> <p>○場面の様子を表す言葉に着目して読む。</p> <p>5 感じたことを文章にまとめる。</p> <p>★物語を読んで、感じたことを書こう。</p> <p>○全文を読み返し、どんな物語だと感じたか200字程度で書く。</p> <p>6 書いたものをグループで読み合う。</p> <p>★書いたものを読み合って感想を伝え合おう。</p> <p>○友達の文章を読み、感想を伝える。</p> <p>7 学習を振り返る。</p> <p>★学習を振り返ろう。</p> <p>○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。</p> <p>○「この本、読もう」で読書を広げる観点を確かめる。</p>	<p>・「これまでの学習」を参考に、4年生で学習した物語について想起させる。</p> <p>・場面の区切りを確認する。</p> <p>・場面ごとの感想を簡単に書いておく。</p> <p>・場面ごとに発表させ、板書して分かりやすくまとめる。</p> <p>【評】女の子の気持ちの変化を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書(P.136)下段「着目する言葉や表現」を参考にする。</p> <p>【評】様子を表す言葉に着目して読む活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P.136～137)下段「考えをまとめた文章の例」を参考にさせる。</p> <p>・初発の感想との違いや、言葉や表現から感じたことなどを理由に挙げて書かせる。</p> <p>【評】感じたことを書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】感じたことを書く活動を通して、理解したことに基づいて感想をもつ「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・物語の何に着目したか、どんな感想をもったかという観点で読むようにさせる。</p> <p>・自分の感想と比べて考えたことを伝えるようにさせる。</p> <p>【評】文章を読み合う活動を通して、感じ方などに違いがあることに気付く「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 オリエンテーション

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。
 (2) 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。
 (3) 目的や意図に応じて話の内容を捉え、インタビューをしたり、紹介したりしようとする。

基本的な展開例

05010101_001

【教材名】教えて、あなたのこと (P.1～P.13)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 5年生の国語の学習について見通しをもち、インタビューをし合う。</p> <p>★1年間の国語の学習の見通しをもとう。</p> <p>○教科書(P.1)の扉の詩を読む。</p> <p>○教材文を読み、活動の目的と流れを確かめる。</p> <p>○インタビューをし、心に残ったことを一文にまとめ、紹介する。</p> <p>○インタビューをして感じたことを伝え合い、学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短い詩なので、暗唱させ、5年生の国語科最初の成功体験をさせる。 ・「国語の学びを見わたそう」を見て、1年間の国語の学習の見通しをもつ。 <p>【評】これからの学習に見通しをもち、計画を立てようとする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューでは、必要に応じてメモを取ってもよいことを伝える。 <p>【評】インタビューをしたり、聞いた内容を伝えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳しく聞いたり、答えたりできたかを振り返らせる。 <p>【評】学習を振り返る活動を通して、インタビューの仕方を理解する「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 詩を楽しもう

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 詩を音読することができる。
 (2) 詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
 (3) 感想を共有することで自分の考えを広げ、音読しようとする。

標準的な展開例

05010102_001

【教材名】 かんがえるのって おもしろい (P. 14～P. 16)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 詩を音読し、感じたことや考えたことを伝え合う。 ★詩を音読し、感じたことや考えたことを伝え合おう。 ○詩を声に出して読んだり、聞いたりする。 ○詩を読んで考えたことや感じたことを書き、伝え合う。 ○日々のことを記録する方法を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・描かれている情景を想像させる。 【評】詩を音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」「知識・技能」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験と重ねて考えさせる。 【評】感想を伝え合って共有する活動を通して自分の考えを広げる「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P. 16)を読み、記録することで考えが整理されたり、記憶に残せたりすることを押さえる。

【 備 考 】

単元名 登場人物どうしの関わりをとらえ、感想を伝え合おう

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
(2) 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えたり、表現の効果を考えたりすることができる。
(3) 登場人物の相互関係を描写を基に捉え、感想を伝え合おうとする。

標準的な展開例

05010103_001

【教材名】なまえつけてよ

(P. 17～P. 31)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「なまえつけてよ」を読み、学習の見通しをもつ。 ★登場人物同士の関わりについて読み取り、感想を伝え合おう。 ○題名やリード文から物語を想像する。</p> <p>○「なまえつけてよ」を読み、感想を書く。</p> <p>○単元のねらいをつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>2 登場人物の関係や心情の変化に着目して物語を読む。 ○「春花」と「勇太」の会話や行動から心情を想像する。</p> <p>○二人の互いに対する心情の変化と関わりの変化についてまとめる。</p> <p>○物語の最初と最後で、題名から受ける印象の変化について考える。</p> <p>○今後の二人の関係について想像する。</p> <p>3 物語を読んだ感想をまとめ、伝え合う。 ○物語を読んだ感想や自分の考えをまとめ、交流する。</p> <p>○考えが広まったり深まったりしたことをまとめる。</p> <p>4 学習を振り返り、物語の読み広げ方について知る。 ○学習を振り返る。</p> <p>○教科書(P. 30)「この本読もう」を読み、物語の読み広げ方について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書(P. 17)を見せ、自由に話の内容を想像させる。 朗読CDやデジタル教科書の朗読音声を聞かせてもよい。 二人の心情や登場人物同士の関係を中心に書かせる。 「人物の関わり合い」を視点に読むことを理解させる。 二人の気持ちを日にちごとに考えさせることで、登場人物の心情を捉えやすくさせる。 二人の関わり合いの変化から、心情の変化を読み取らせる。 題名には、作者の特別な意味が込められていることを押さえる。 【評】物語を読む活動を通して、心情を捉える「思考・判断・表現」を評価する。 二人の人物像を基に考えさせる。 【評】叙述に着目して読む活動を通して、語句と語句との関係を理解する「知識・技能」を評価する。 教科書(P. 28～29)の感想を伝える例を参考に感想を書かせる。 【評】感想を交流する活動を通して、考えを伝え合おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 交流を通して、自分の考えがどのように変わったか振り返らせる。 教科書(P. 30)「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。 本の選び方や読書記録の付け方を紹介する。 図書館に本を探しに行く活動を取り入れるのもよい。

【 備 考 】

単元名 本は友達1

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げるのに役立つことに気付くことができる。
(3) 学校図書館の仕組みを知って読書に親しみ、本を探し、記録カードに書こうとする。

標準的な展開例

05010104_001

【教材名】図書館を使いこなそう (P. 32～P. 33)

【準備等】記録カード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 本の探し方について知り、テーマやキーワードを決めて本を探し、記録カードに書く。</p> <p>★テーマやキーワードを決めて本を探し、記録カードを書こう。</p> <p>○図書館の利用状況について話し合う。</p> <p>○本の探し方を知る。</p> <p>○テーマやキーワードを決めて図書館で本を探し、記録カードを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・司書や読書サポーター等と、連携できるとよい。 ・本を探すときに、どのように探しているか聞き、日本十進分類法につなげる。 ・教科書(P. 32～33)で図書館の本の整理のされ方を押さえる。 ・同じキーワードでも他の棚を見ると、本選びの幅が広がることを実感させる。 <p>【評】本を探す活動を通して、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】記録カードを書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の成り立ち

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 漢字の由来, 特質などについて理解することができる。
 (3) 漢字の成り立ちについて関心をもち, それらを理解しようとする。

標準的な展開例

05010105_001

【教材名】漢字の成り立ち (P. 34～P. 35)

【準備等】漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 漢字の成り立ちは, 大きく分けて4種類あることを理解する。 ★漢字の成り立ちについて知ろう。 ○教科書(P. 34)上段の例題の絵を見て, 現在の漢字を想像する。 ○課題を確認する。</p> <p>○教科書(P. 34～35)を読み, 漢字の成り立ちは, 大きく分けて4種類あることを理解する。</p> <p>2 漢字辞典を使って, 漢字の成り立ちを確かめる。 ○「形声文字」について調べる。</p> <p>○漢字辞典を使って, いろいろな漢字の成り立ちについて調べる。 ・教科書 (P. 35) ②の漢字 ・自分の興味がある漢字</p> <p>○4種類の漢字の成り立ちについて, まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の基になった絵を提示し, 漢字を想像させることによって, 身近にある物から漢字が生まれたことを実感させる。 漢字が単なる記号ではなく, いろいろな意味を含んでいることに気付かせ, 興味をもって読んだり書いたりできるようにする。 象形文字と指事文字の違いを理解させた後, 漢字全てがこの二つの種類に分けられるか考えさせ, 他の成り立ちに関心を向けさせて, 会意文字と形成文字を紹介する。 教科書 (P. 35) の①の課題を解かせ, 漢字辞典で音を表す部分と意味を表す部分を確認させる。 漢字辞典の使い方が分からない児童には, 引き方を説明し, 何例か一緒に調べるようにする。 <p>【評】漢字辞典を使って漢字の成り立ちを調べる活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「象形文字」「指事文字」「会意文字」「形成文字」の用語を押さえる。 <p>【評】漢字の成り立ちについてまとめる活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 季節の言葉1

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
 (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。
 (3) 言葉の響きやリズムに親しみ、春らしいものや様子を文章に書こうとする。

標準的な展開例

05010106_001

【教材名】春の空 (P. 36～P. 37)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「春」に対する見方や感じ方、表現された季節感を味わう。 ★春らしいものや様子を文章に書き表そう。 ○春のどんなところが好きか話し合う。</p> <p>○「枕草子」について知る。 ○「枕草子」を音読したり暗唱したりする。</p> <p>○春に関する言葉や俳句を味わう。</p> <p>2 春らしいものや様子を文章に書いて、交流する。 ○「枕草子」や教科書に出てくる春を表す言葉を参考に、自分が感じる春らしいものや様子を文章に書く。</p> <p>○書いたものを互いに読み合い、交流する。</p>	<p>・教科書の言葉や写真を手がかりに、春らしいものを思い出させる。</p> <p>・教科書の解説から内容の大体を知り、景色や様子を想像させる。 【評】古文を音読する活動を通して、言葉の響きやリズムに親しむ「知識・技能」を評価する。</p> <p>・二つの言葉や俳句を音読させ、景色や様子を思い浮かばせる。</p> <p>・最初に、自分が感じる春らしいものを書き出させてから、文章に書かせる。 【評】文章を書く活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・互いの意思を尊重できるような交流となるよう、事前に助言する。</p>

【 備 考 】

単元名 話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 話し言葉と書き言葉との違いに気付いたり、情報と情報との関係付けの仕方を理解したりすることができる。
- (2) 内容や目的に応じて、日常生活の中から話題を決めたり、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめたりすることができる。
- (3) 目的や意図に応じて話の内容を捉え、インタビューをしたり、報告し合ったりしようとする。

標準的な展開例

05010107_001

【教材名】きいて、きいて、きいてみよう／インタビューをするとき

(P. 38～P. 43)

【準備等】インタビュー用のメモ用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★「きくこと」について考えよう。</p> <p>○「休みの日の過ごし方」について、グループ内でインタビュー活動をする。</p> <p>○インタビューの様子について報告する。</p> <p>○学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 インタビューの準備をする。</p> <p>○友達に聞きたい話題を決める。</p> <p>○インタビュー用のメモを作る。</p> <p>3 インタビューの仕方を知る。</p> <p>○インタビューの仕方をつかむ。</p> <p>○それぞれの役で気を付けたいことを考える。</p> <p>4～5 インタビューをする。</p> <p>○インタビューをしたり、インタビューをされたり、インタビューの様子を記録したりする。</p> <p>○自分が記録したインタビューの報告をする。</p> <p>○報告を聞いた感想を伝える。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p> <p>○それぞれの「きく」について、違いや気を付けるとよいところを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューをするときの「きく」 ・インタビューをされるときの「きく」 ・やり取りを記録するときの「きく」 ・報告を聞くときの「きく」 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに「きき手」「話し手」「記録者」決めさせる。 ・インタビューをして、うまくいったところや直すとよいところなどを全体で報告させる。 【評】インタビューをする活動を通して、目的や意図に応じた「きく」行為を考えようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・インタビューをする活動を通して、「きくこと」について考えることを知らせる。 ・話し手の人柄や考え方を引き出すような話題を考えさせる。 ・話題について、質問と予想される答えを考えメモを作らせる。 ・教科書(P. 40)を参考に、インタビューの様子をつかませる。 ・二次元コードを読み込み、「グループでインタビューをし合う」の動画を視聴するのもよい。 ・交代して3回のインタビューを行い、すべての役割を経験させる。 ・「話し手」「きき手」「記録者」のそれぞれのポイントを押さえる。 ・交代して3回のインタビューを行い、全ての役割を経験させる。 【評】インタビューをする活動を通して、情報と情報の関係付けの仕方を理解する「知識・技能」を評価する。 ・教科書(P. 41)で報告の仕方を押さえる。 ・二次元コードを読み込み「インタビューの内容を報告する」の動画を視聴するのもよい。 ・内容が正確に捉えられているか、話し手の人柄や考え方が伝わるか、発表の仕方はどうかについて感想を言わせる。 【評】感想を伝える活動を通して、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる「思考・判断・表現」を評価する。 ・違いや気を付けるとよいことを話し合わせ、まとめさせる。 ・教科書(P. 42)「たいせつ」や「いかそう」で身に付けた力を押さえる。 ・教科書(P. 258)でインタビューについてまとめる。

【 備 考 】

単元名 漢字の広場1
配当時間 1 時間

- 単元の目標** (1) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
 (3) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文を書こうとする。

標準的な展開例

05010108_001

【教材名】 4年生で習った漢字1 (P. 44)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 本の場所や図書館の使い方を説明する文を書く。</p> <p>★図書館の人になったつもりで、本の場所や図書館の使い方について説明しよう。</p> <p>○提示された言葉を使い、図書館の人になったつもりで本の場所や図書館の使い方などを説明する文章を書く。</p> <p>○書いた文章を読み返し、構成を整える。</p> <p>○書いた文章を見せ合い、交流する。</p>	<p>・絵の内容や漢字の読み方、意味などを確認する。</p> <p>【評】文章を書く活動を通して、既習の漢字を適切に使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・主語と述語が対応しているかや漢字の使い方は正しいか、内容は適切かなどの視点で文章を整えさせる。</p> <p>【評】文章を読み返す活動を通して、文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・提示された漢字がどこで使われているかに着目させる。</p>

【 備 考 】

単元名 文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解するとともに、思考に関わる語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握するとともに、理解したことに基づいて、自分の考えをまとめたり広げたりすることができる。
- (3) 文章全体の構成を捉えて要約し、筆者の考えに対する自分の考えを発表しようとする。

標準的な展開例

05010109_001

【教材名】見立てる／言葉の意味が分かること／原因と結果

(P. 45～P. 57)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 学習の見通しをもつ。</p> <p>★文章の要旨を捉え、自分の考えを発表しよう。</p> <p>○学習の見通しをもち、学習計画を立てる。</p> <p>○「見立てる」を読み、自分の考えを伝え合う。</p> <p>○「言葉の意味が分かること」を読み、感想を書く。</p> <p>3 文章の構成や内容を確認し、要旨をまとめる。</p> <p>○各段落を簡単にまとめ、「初め」「中」「終わり」に分ける。</p> <p>○文章の構成や内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章構成や事例の挙げ方 原因と結果の関係 事例と筆者の考えの結び付き <p>○要旨を150字以内でまとめる。</p> <p>4 筆者の考えや事例の示し方に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>○筆者の考えや、考えを分かりやすく伝える表現の工夫をまとめる。</p> <p>○自分の考えをまとめる。</p> <p>5 自分の考えを伝え合う。</p> <p>○グループで自分の考えを伝え合う。</p> <p>6～7 原因と結果の関係を捉え、学習の振り返りをする。</p> <p>○教科書(P. 57)を読み、原因と結果の結び付きを捉える。</p> <p>○原因と結果に着目して話す。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書(P. 45)の題名やリード文から、これから学習する文章についてのイメージをもたせる。 事例や段落構成に着目させて、筆者の考えを捉えさせる。 教科書(P. 54)「内容を整理した例」を参考にして、書いてあることや大事な語や文をまとめさせる。 「初め」と「終わり」に着目させ、筆者の考えを捉えさせる。 教科書(P. 56)「要旨のまとめ方」を参考に、要旨をまとめさせる。 【評】要旨をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 第二段落から第四段落がどのような役割をしているのか考えさせる。 第五段落以降の二つの事例の内容と示し方を考えさせ、「原因」と「結果」という関係で整理させる。 【評】考えを伝える表現の工夫をまとめる活動を通して、情報と情報との関係について理解する「知識・技能」を評価する。 教科書(P. 55)「自分の考えをまとめるときには」で、自分の考えをまとめるときの視点を押さえる。 【評】自分の考えについてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 教科書(P. 55)「発表の例」を参考に、筆者の考えに触れながら話をさせる。 【評】考えを伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 教科書(P. 57)下段の例文を参考にして、原因と結果の順番が逆になることもあることに触れる。 身の回りの出来事や、見たり聞いたりしたことを想起させ、内容を考えさせる。 【評】原因と結果に着目して話す活動を通して情報と情報との関係について理解する「知識・技能」を評価する。 教科書(P. 55)「ふりかえろう」で学習を振り返るとともに、教科書(P. 56)「たいせつ」や「いかそう」で身に付けた力を押さえる。 教科書(P. 56)「この本、読もう」を参考にして、他の本に読み広げさせる。

【 備 考 】

単元名 和語・漢語・外来語

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 語句の由来などに関心を持ち、文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けることができる。
 (3) 和語・漢語・外来語の由来などに関心を持ち、それらを理解しようとする。

標準的な展開例

05010110_001

【教材名】和語・漢語・外来語 (P. 58～P. 59)

【準備等】国語辞典，漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書(P. 58)の①と②の文章表現の「感じ方の違い」について話し合う。 ★和語・漢語・外来語について理解を深めよう。 ○教科書(P. 58)の①と②の文を読み、「感じ方の違い」を考える。 ○同じ内容の文でも、読んで受ける感じ方が違うのはなぜか話し合う。 ○身近な生活の中から言葉を取り上げ、和語と漢語に分ける。</p> <p>○和語と漢語の違いをまとめる。</p> <p>2 漢語・和語の意味の違いを考えたり、外来語を探したりする。 ○外来語について理解する。</p> <p>○和語・漢語・外来語の仲間分けをし、言葉から受ける感じについて話し合う。</p> <p>○教科書(P. 59)の設問で、和語・漢語の違いを考えたり、和語や漢語、外来語を探したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・和語と漢語の語感の違いについて関心をもたせる。 ・和語と漢語という言葉とその意味を理解させる。 ・和語と漢語の使い分けの目的や方法に関心をもつことができるように、「自分自身は、どちらが使いやすいか」を考えながら学習を進めるようにする。 ・訓で読む言葉は和語，音で読む言葉は漢語であることを押さえる。 <p>・外来語は，片仮名で表記することに気付かせる。</p> <p>【評】和語，漢語，外来語を仲間分けする活動を通して，文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分ける「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ漢字表記でも読み方によって意味に違いがあることを押さえる。 <p>【評】和語や漢語，外来語を身の回りから探す活動を通して，語句を理解しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 言葉をよりすぐって俳句を作ろう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 比喻や反復などの表現の工夫について気付き、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使うことができる。
 (2) 俳句の構成や書き表し方などに着目して俳句を整え、自分の句のよいところを見付けることができる。
 (3) 構成や書き表し方に着目して、文言を整え、俳句を作ろうとする。

標準的な展開例

05010111_001

【教材名】 日常を十七音で (P. 60～P. 63)

【準備等】 知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日常の気付きや発見を思い起こしながら俳句を読み、俳句を作る学習計画を立てる。 ★言葉をよりすぐって俳句を作ろう。 ○教科書(P. 60)の俳句を読み、感想を伝え合う。</p> <p>○教科書(P. 60)で活動の流れを確認する。</p> <p>○俳句を作る材料を集め、短い文で書き、発表し合う。</p> <p>2 俳句のきまりを確認し、表現を工夫して俳句を作る。 ○俳句を作る材料を集め、短い文で書く。</p> <p>○五・七・五の十七音で俳句を作る。</p> <p>○表現を工夫する。</p> <p>3 作った句を読み合い、表現の工夫について感想を伝え合う。 ○グループで読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。 ・自分の経験と重ねさせる。 ・表現の工夫で感動が生まれることに気付かせたい。 ・生活の中で気付いたことや驚いたことを俳句にして伝えることを知らせる。 ・教科書(P. 61)を参考に、そのときの気持ちや様子を詳しく知多の友(P. 5)に書かせる。 ・音数の数え方の基本や季語を押さえる。 ・定型(字余り、字足らずを避ける)が望ましいとされることを伝える。 ・教科書(P. 61～63)を読み、俳句のきまりや表現の工夫の仕方を押さえる。 ・知多の友(P. 6)を利用し、より感動が伝わるように工夫させる。 【評】表現を工夫する活動を通して、構成や書き表し方などに着目して俳句を整える「思考・判断・表現」を評価する。 【評】俳句を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・知多の友(P. 7)を活用する。 ・表現を工夫したところを中心に、よさを伝え合うようにさせる。 ・表現を工夫し、言葉をよりすぐることによって、いっそう読み手に思いが伝わるという、俳句作りの魅力を感じ取らせる。 【評】俳句を読み合う活動を通して、語感や言葉の使い方に対する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 声に出して楽しもう1

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 昔の人のものの見方や感じ方についての知識を得るとともに、親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
 (3) 昔の人のものの見方や感じ方について知り、古文を音読しようとする。

標準的な展開例

05010112_001

【教材名】古典の世界（一）（竹取物語/平家物語/徒然草/おくのほそ道）
9)

(P. 64～P. 6

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「おくのほそ道」を音読する。 ★古典を読み、昔の人々の心に触れよう。 ○古典について知る。</p> <p>○「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「おくのほそ道」の始まる部分を音読する。</p> <p>2 古文を読み、昔の人のものの見方に触れ、感じたり考えたりしたことをノートに書き、話し合う。 ○四つの古典を読み、感じたり考えたりしたことをノートに書く。 ○表現のおもしろさについて話し合う。</p> <p>○昔の人の気持ちを想像しながら古典を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（P. 64～65）の6枚の絵を提示しながら、1000年以上の昔から伝えられてきたものであることを捉えさせる。 ・二次元コードを読み込み、朗読音声聞かせるとよい。 ・音読して楽しんだり、一つ選んで暗唱したりさせる。 <p>【評】音読や暗唱をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の時代と似ているところや違うところを考えさせる。 ・古典を読んで印象に残った表現について発表させる。 <p>【評】表現のおもしろさを話し合う活動を通して、昔の人のものの見方や感じ方を理解する「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 集めるときに使う

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 情報と情報との関係付けの仕方を理解し、使うことができる。
(2) 目的や意図に応じて引用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
(3) 情報と情報との関係付けの仕方を理解し、引用カードを書こうとする。

標準的な展開例

05010113_001

【教材名】 目的に応じて引用するとき (P.70～P.71)

【準備等】 引用カード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 目的に応じた引用の大切さを知り引用カードを書く。</p> <p>★引用カードを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書(P.70)上段を読んで、目的に応じた引用の重要性について知る。 ○教科書(P.70)下段を読んで、情報を書き留めるときに気を付けることを知る。 ○木原さんの引用カード読み、「水害を防ぐ点からみた森林の働きについて報告する文章を書く場合」の引用カードを書く。 <p>○書いた引用カードの内容を伝え合い、学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何のためにメモをしたのか忘れてしまった経験を思い出させる。 ・同じ資料から引用する場合でも、目的によって引用する部分が違うことを押さえる。 ・引用した文章が目的と合っているか確かめさせる。 <p>【評】引用カードを書く活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P.71)「いかそう」を確認し、これからの生活に生かす視点をもたせる。

【 備 考 】

単元名 調べたことを正確に報告しよう

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 文章の構成や展開, 文章の種類とその特徴について理解することができる。
 (2) 引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
 (3) 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し, 報告する文章を書こうとする。

標準的な展開例

05010114_001

【教材名】 みんなが過ごしやすい町へ

(P. 72～P. 77)

【準備等】 知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 ★調べたことを正確に報告しよう。 ○みんなが過ごしやすい場所になるための工夫について, 知っていることを話し合う。 ○学習の進め方を確認する。 2 身の回りの工夫を見付ける。 ○地域や学校の様子を想起し, 題材を探す。 3～4 題材を決め, 調べ方を選んで調べる。 ○見付けた題材から, 特に調べたいことを選ぶ。 ○適切な調べ方を選んで調べ, カードにまとめる。 5 報告する文章の構成を考える。 ○組み立てメモを作る。 6～8 報告する文章を書く。 ○組み立てメモを基に, 文章を書く。 ○書いた文章を読み直し, 推敲する。 9～10 文章を読み合って感想を伝え合う。 ○書いた文章を読み合う。 ○文章の中で, 分かりやすかったところや, なぜ分かりやすかったのかを伝え合う。 ○学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元は, 「知多の友」に掲載されているので, 十分に活用したい。 ・話し合いで出た地域の工夫について, 下校後に確認させるとよい。 ・報告する文章を書くことを示す。 ・地域と学校のそれぞれの工夫を考え, 知多の友(P. 9)に書き出させる。 ・実際に学校内で探す活動を取り入れるのもよい。 ・決めた題材を知多の友(P. 9)に記入させる。 ・教科書(P. 70～71)「目的に応じて引用するとき」を参考に知多の友(P. 10～11)にまとめさせる。 ・教科書(P. 74)を参考に, 知多の友(P. 12)に題名, 調べて分かったこと, まとめの考えを記入させる。 ・知多の友(P. 13～15)を活用する。 ・最初に挙げた話題と最後のまとめが対応することや, 絵や写真, 図表などを使って見やすくまとめることを意識させる。 ・長い文章を引用するときは, 教科書(P. 75)を参考に書かせる。 ・資料や図表の説明と自分の考えとを区別して書かせる。 【評】文章を書く活動を通して, 自分の考えが伝わるように工夫して書き表す「思考・判断・表現」を評価する。 ・知多の友(P. 16)で観点を確かめさせながら推敲させる。 ・グループやペアで読み合い, 助言し合う時間をとる。 【評】推敲する活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・知多の友(P. 16～17)を活用する。 ・分かりやすかったところや, なぜ分かりやすかったのかなどを中心に読ませ, 感想を伝え合わせる。 【評】文章のよいところを発表する活動を通して, 文章の構成や展開, 文章の種類とその特徴について理解する「知識・技能」を評価する。 ・教科書(P. 77)の「たいせつ」や「いかそう」で身に付けた力を押さえさせる。

【 備 考 】

単元名 同じ読み方の漢字

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。
(3) 同じ読み方の漢字の使い分けに関心を持ち、それらを理解しようとする。

標準的な展開例

05010115_001

【教材名】同じ読み方の漢字 (P. 78～P. 79)

【準備等】国語辞典，漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 同じ読み方でも意味の違う漢字や熟語があることを理解する。 ★同じ読み方の漢字を正しく使おう。 ○教科書(P. 78)上段の六つの言葉を線でつなぐ。 ○どのようにつないだか、その理由とともに発表する。</p> <p>○教科書(P. 78)下段の問題を解く。</p> <p>○同じ訓の漢字を国語辞典を使って調べ、文を作る。</p> <p>2 同じ読み方をする漢字について、辞典で調べる。 ○教科書(P. 79)上段の二文を音読する。</p> <p>○教科書(P. 79)下段の問題から同じ読み方をする部分に線を引き、意味を調べる。 ○一つの文に同訓異字や同音異義語が二つ以上入った文を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全く同じ読み方であることを確認する。 ・漢字には同じ読み方でも意味が全く違うものがあることを押さえる。 ・国語辞典で意味を確かめながら、問題を解かせる。 ・ヒントを与えたり、共通して調べる漢字を示したりしてもよい。 <p>【評】同訓異字の言葉を集める活動を通して、進んで語句を理解しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熟語の中にも同じ音をもつが、意味が違うものがあることを確認する。 ・読み方が分からない場合は、国語辞典や漢字辞典で調べさせる。 ・自分で考えることが難しい場合は、国語辞典を引かせたり、ワープロソフトで変換させたりして、同訓異字と同音異義語を見付けさせる。 <p>【評】同訓異字、同音異義語を使った文を作る活動を通して、文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 季節の言葉2

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
 (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。
 (3) 言葉の響きやリズムに親しみ、夏らしいものや様子を文章に書こうとする。

標準的な展開例

05010116_001

【教材名】夏の夜 (P. 80～P. 81)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「夏」に対する見方や感じ方・表現された季節感を味わう。 ★夏らしいものや様子を、文章に書き表そう。 ○夏のどんなところが好きか話し合う。</p> <p>○「枕草子」について学んだことを思い出す。 ○「枕草子」を音読したり、暗唱したりする。</p> <p>○夏に関わる言葉や俳句を味わう。</p> <p>2 夏らしいものや様子を文章に書いて、交流する。 ○「枕草子」や教科書に出てくる夏を表す言葉を参考に、自分が感じる夏らしいものや様子を文章に書く。</p> <p>○書いたものを互いに読み合い、交流する。</p>	<p>・教科書の言葉や写真を手がかりに、夏らしいものを思い出させる。</p> <p>・教科書の解説から内容の大体を知り、景色や様子を想像させる。 【評】古文を音読する活動を通して、言葉の響きやリズムに親しむ「知識・技能」を評価する。</p> <p>・二つの言葉や俳句を音読させ、景色や様子を思い浮かばせる。</p> <p>・リズムを楽しむだけでなく、唱歌や俳句、短歌などを通して古人の感性にも触れることができるとうい。</p> <p>・最初に、自分が感じる夏らしいものを書き出させてから、文章に書かせる。 【評】文章に書く活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 本は友達2

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる。
 (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめるとともに、意見や感想を共有し考えを広げることができる。
 (3) 本を読み広げ、その本を紹介することで、魅力を伝え合おうとする。

標準的な展開例

05010117_001

【教材名】作家で広がるわたしたちの読書／カレーライス (P. 82～P. 93)

【準備等】紹介カード、知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 学習の見通しをもち、学習計画を立てる。 ★作家に着目して、本を紹介し合おう。 ○普段の本の選び方について、話し合う。 2～4 「カレーライス」を読んで感想を伝え合い、紹介したい本を決めて紹介カードを書く。 ○カレーライスを読み、感想を伝え合う。 ○読みたい作家を決め、本を探す。 ○紹介カードを書く。 5 自分が選んだ作家や作品の魅力を紹介し、気付いたことを伝え合う。 ○自分が選んだ作家や本を紹介し、気付いたことを伝え合う。 ○学習を振り返る。	・今、読んでいる本を用意させて、作者は誰か確認する活動を取り入れてもよい。 ・作品の魅力を考えさせ、紹介カードを書く活動につなげる。 ・公共の図書館も活用させたい。 ・教科書(P. 261～265)「本の世界を広げよう」も参考にさせるとよい。 ・教科書(P. 85)を参考に書かせる。 【評】紹介カードを書く活動を通して、考えをまとめたり、広げたりする「思考・判断・表現」を評価する。 【評】本を紹介し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】本を紹介し、気付いたことを伝え合う活動を通して、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付く「知識・技能」を評価する。 ・教科書(P. 85)「たいせつ」で、作家に着目して読み広げるよさを確認し、今後の読書活動につなげる。 ・知多の友(P. 18～29)「読書感想文の扉」で読書感想文の指導を行ってもよい。

【 備 考 】

単元名 詩を味わおう

配当時間

1 時間

- 単元の目標 (1) 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。
 (2) 詩を読んで感想をまとめるとともに、それを共有して考えを広げることができる。
 (3) 表現の工夫について考え、詩の印象を伝え合おうとする。

標準的な展開例

05010201_001

【教材名】 からたちの花 (P. 94～P. 95)

【準備等】 からたちの花の写真や画像, 「からたちの花」の楽曲が収録されているCD

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 詩を音読する。 ★五音・七音の繰り返しを味わいながら、音読しよう。 ○「からたちの花」を読み、気付いたことや感じたこと、考えたことなどをノートに書く。</p> <p>○書いたことを交流する。</p> <p>○詩を音読し、言葉の意味を考えたり、言葉のリズムを味わったりする。</p> <p>○叙述や言葉から思い浮かんだ場面や分かったことなどを感じながら音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作者「北原白秋」について触れる。 ・「からたちの花」は、どんな花なのか写真等で確かめさせる。 ・表現上の工夫、場面の様子、作者の思いなどについて感想を書かせる。 【評】感想を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】感想を交流する活動を通して、考えを伝え合おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・比喻、反復などを手がかりに、情景を想像させる。 【評】言葉の意味を考えたり、言葉のリズムを味わう活動を通して、比喻や反復などの効果に気付く「知識・技能」を評価する。 ・どのようにすれば自分の描いたイメージを聞き手に伝えることができるかを考えさせ、声の強弱、速さなどを工夫させる。 ・「からたちの花」は、楽曲になっていることを知らせ、曲を聴かせる活動を行うとよい。

【 備 考 】

単元名 対話の練習

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。
 (2) 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。
 (3) 互いの立場を明確にし、討論しようとする。

標準的な展開例

05010202_001

【教材名】どちらを選びますか (P. 96～P. 97)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 2チームに分かれて、話し合う。</p> <p>★二つの立場から考えて話し合おう。</p> <p>○教科書(P. 96～97)を読み、学習の進め方を知る。</p> <p>○犬を薦めるチームと猫を薦めるチームに分かれて、薦める理由を考える。</p> <p>○犬を薦めるチームと猫を薦めるチーム、校長先生役に分かれて、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会は校長先生役 ・最初の意見 ・質疑応答 ・最後の意見 ・判定 <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「最初の意見」→「質疑応答」→「最後の意見」→「判定」という話し合いの流れを確認する。 【評】薦める理由を考える活動を通して、思考に関わる語句の量を増やし、話の中で使うことができる「知識・技能」を評価する。 ・教科書(P. 97)に示されている話し方を参考にさせる。 【評】二つの立場から考える活動を通して、考えを広げたりまとめたりする「思考・判断・表現」を評価する。 【評】話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書(P. 97)「二つの立場から考える」を読み、二つの立場から考えることで、よりよい解決方法が見付かることがあることを確認する。

【 備 考 】

単元名 生活の中で読もう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。
- (2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。
- (3) 必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりし、新聞記事を読もうとする。

標準的な展開例

05010203_001

【教材名】新聞を読もう (P. 98～P. 102)

【準備等】新聞紙 (一般紙)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 新聞の一面の構成を知り、新聞をいろいろな角度から見る。</p> <p>★新聞の特色を知り、よさやおもしろさを見付けて、生活や学習の中に取り入れよう。</p> <p>○教材文を読み、新聞の一面の構成を確認する。</p> <p>○新聞 (一般紙) を持ち寄り、どのような作りになっているか確かめながら読み、感想をノートに書く。</p> <p>○新聞のそれぞれの面に、どのような分野の記事が書かれているか調べる。</p> <p>○持ち寄った新聞紙をいろいろな角度から読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積が一番広い記事 ・身近なニュース ・お気に入りコーナー ・印象に残る写真 ・真っ先に読みたい記事 <p>○記事の中で自分が興味をもった話題について、グループ内でスピーチする。</p> <p>2 二つの記事を比べる。</p> <p>○二つの記事を読み比べて、書かれている内容の違い、受ける印象の違いについて考え、話し合う。</p> <p>○新聞について話し合ったことを基に、自分の考えをノートにまとめる。</p> <p>3 興味をもった記事を見付け、意見や感想をもつ。</p> <p>○一番興味をもった記事を選び、切り抜く。</p> <p>○選んだ記事を読んで、意見や感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P. 99)の下を読み、逆三角形の構成について知らせる。 ・新聞を準備できない場合を考え、用意しておく。 ・多角的に新聞を読むと同時に、新聞のよさに気付かせていく。 【評】新聞を読む活動を通して、効果的な構成に気付く「知識・技能」を評価する。 ・興味をもった記事を見せながら話をさせる。 【評】新聞のよいところを見付けたり発表したりする活動を通して、新聞記事を読もうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・見出しや写真の違いが読者に与える印象について話し合わせる。 【評】二つの記事を読み比べる活動を通して、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考える「思考・判断・表現」を評価する。 ・新聞記事の特徴や構成を知ったことと、比べ読みして気付いたことを整理させる。 ・見出しや写真に着目して読みたい記事を見付けさせる。 ・意見や感想を書き続けると、記事の内容に自分なりの思いや考えがもてるようになることを気付かせる。

【 備 考 】

単元名 敬語

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れることができる。
 (3) 日常よく使われる敬語について関心をもち、使い方を理解し、慣れようとする。

標準的な展開例

05010204_001

【教材名】敬語 (P. 103～P. 104)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 敬語の種類について知る。</p> <p>★丁寧な言葉遣いについて知ろう。</p> <p>○教科書(P. 103)の挿絵を見て、相手や場面による言い方の違いについて考える。</p> <p>○丁寧語、尊敬語、謙譲語について知る。</p> <p>2 日常生活の中で敬語を使う場面を考える。</p> <p>○教科書(P. 104)下段の設問について考える。</p> <p>○日常生活の中で、敬語を使うべき場面、使うべき言葉や表現について話し合う。</p>	<p>・挿絵を例に出しながら、必要に応じて丁寧な言葉遣いをしていることに気付かせる。</p> <p>・3種類の敬語について理解させ、ノートにまとめさせる。</p> <p>・どのような表現にしたらいいかをノートに書かせ、話し合って確かめさせる。</p> <p>【評】設問について考える活動を通して、敬語を理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・どんな相手に対してどんなときに敬語を使っているか、思い出させる。</p> <p>・相手や場面に応じて適切な敬語を使うことに慣れるよう、児童の日常の言語活動につながる指導を心がけたい。</p> <p>【評】相手や場面による表現の違いを考える活動を通して、敬語を理解し使い慣れようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
 (2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりするとともに、意見や感想を共有し、考えを広げることができる。
 (3) 物語の全体像を具体的に想像し、物語に対する思いや考えを伝え合おうとする。

標準的な展開例

05010205_001

【教材名】たずねびと (P. 105～P. 122)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 学習の見通しをもち、学習計画を立てる。 ★物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう。 ○題名やリード文から物語を想像する。 ○範読を聞いて、感想を書く。</p> <p>2～3 「綾」の心情の変化について考える。 ○「綾」の前に現れたものや人物をまとめる。 ○「綾」の心情の変化について考え、気付いたことをまとめる。 ・広島に行くことを決めるまでの気持ち。 ・広島に着いてからの心情の変化。</p> <p>4 最後の場面について考えたことを話し合い、自分の気持ちや考えの変化をまとめる。 ○最後の場面について、考えたことを話し合う。 ・「お兄ちゃんもせかさなかった。」のはなぜか。 ・「きれいな川」や「ただの名前」は「綾」にとってどんなものにかわったのか。 ・「綾」が訪ねた場所や出会った人は、「綾」に何を伝える役割をしていたか。</p> <p>○自分の気持ちや考えの変化をまとめる。</p> <p>5～6 自分の気持ちや考えの変化を伝え合い、学習を振り返る。 ○自分の気持ちや考えの変化を伝え合う。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>・朗読CDやデジタル教科書の朗読音声を活用してもよい。</p> <p>・二次元コードを読み込み、「平和記念公園と原爆ドーム」の動画を視聴させてもよい。</p> <p>・教科書(P.120)下段「言葉に着目する」を参考に、言葉に着目させ、心情の変化を捉えさせる。 【評】言葉に着目して心情の変化をまとめる活動を通して、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識する「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】最後の場面について考える活動を通して表現の効果を考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】考えたことを話し合う活動を通して、意見や感想を共有し、考えを広げる「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書(P.120)下段「感じたことや考えたことをまとめる例」を参考にまとめさせる。</p> <p>・教科書(P.121)下段「感じたことや考えたことを伝え合う」を参考に、気付きや考えを伝え合わせる。 【評】自分の考えについて伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書(P.121)「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、教科書(P.122)「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。 ・教科書(P.122)「この本、読もう」を参考に、他の本に読み広げさせる。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場2

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
 (3) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文を書こうとする。

標準的な展開例

05010206_001

【教材名】 4年生で習った漢字2 (P.123)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 4年生までに習った漢字を使って、文章を書く。</p> <p>★作家になったつもりで、登山家の半生を伝える文章を書こう。</p> <p>○提示された言葉を使い、登山家の半生を伝える文章を書く。</p> <p>○書いた文章を読み返し、構成を整える。</p> <p>○書いた文章を見せ合い、交流する。</p>	<p>・絵の内容や漢字の読み方、意味などを確認する。</p> <p>【評】文章を書く活動を通して、既習の漢字を文や文章で使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・主語と述語が対応しているかや漢字の使い方は正しいか、内容は適切かなどの視点で文章を整えさせる。</p> <p>【評】文章を読み返す活動を通して、文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・提示された漢字がどこで使われているかに着目させる。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の読み方と使い方

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 複数の読み方をする漢字や特別な読み方をする言葉について理解することができる。
 (3) 漢字の読み方や使い方について関心をもち、それらを理解しようとする。

標準的な展開例

05010207_001

【教材名】漢字の読み方と使い方 (P. 124～P. 125)

【準備等】国語辞典、漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 複数の音をもつ漢字の読み方の違いを辞典で確かめ、□に当てはまる漢字を入れ、それぞれ四つの熟語を作って発表する。</p> <p>★複数の音をもつ漢字の読み方や特別な読み方をする言葉について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書(P. 124)上段の四つの文の読み方を考える。 ○教科書(P. 124)下段の□に入る漢字と四つの熟語の読み方を考え、発表する。 <p>○教科書(P. 124)下段の例を参考に、習った漢字で問題を作る。</p> <p>2 特別な読み方をする漢字について理解し、二つ以上の漢字が結び付いた言葉には、特別な読み方をするものがあることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「七夕」の読み方について考える。 ○教科書(P. 125)の上段を読み、特別な読み方をする言葉があることを知る。 ○教科書(P. 125)下段の例文の言葉の読み方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字辞典で調べる時間を十分にとる。 ・分からないときは、四つをそれぞれ熟語にして考えさせるとよい。 <p>【評】設問に取り組む活動を通して、複数の音をもつ漢字を正しく読む「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字辞典や国語辞典を活用させる。 ・四つの熟語の作成が難しい場合は、二つや三つでもよいことにする。 <p>【評】課題に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「七夕」は「七」と「夕」をひとまとめにしないと読めないことに気付かせる。 ・漢字辞典や国語辞典で読み方を調べさせる。 <p>【評】課題に取り組む活動を通して、特別な読み方のある漢字を正しく読む「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 季節の言葉3

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
 (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。
 (3) 言葉の響きやリズムに親しみ、秋らしいものや様子を文章に書こうとする。

標準的な展開例

05010208_001

【教材名】秋の夕暮れ (P. 126～P. 127)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 「秋」に対する見方や感じ方、表現された季節感を味わう。 ★秋らしいものや様子を味わい、文章に書き表そう。 ○秋のどんなところが好きかについて話し合う。</p> <p>○「枕草子」について学んだことを思い出す。 ○「枕草子」を音読したり、暗唱したりする。</p> <p>○秋に関わる言葉や俳句を味わう。</p> <p>2 秋らしいものや様子を文章に書いて交流する。 ○「枕草子」や教科書に出てくる秋を表す言葉を参考に、秋らしいものの様子について文章を書く。</p> <p>○書いたものを互いに読み、交流する。</p>	<p>・教科書の言葉や写真を手がかりに、秋らしいものを思い出させる。</p> <p>・教科書の解説から内容の大体を知り、景色や様子を想像させる。 【評】古文を音読する活動を通して、言葉の響きやリズムに親しむ「知識・技能」を評価する。</p> <p>・二つの言葉や俳句を音読させ、景色や様子を思い浮かばせる。</p> <p>・最初に、自分が感じる秋らしいものを書き出させてから、文章に書かせるとイメージが膨らませやすい。 【評】文章に書く活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 たがいの立場を明確にして、話し合おう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。
 (2) 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。
 (3) 互いの立場や意図を明確にしなが、身の回りの問題を解決するために話し合おうとする。

標準的な展開例

05010209_001

【教材名】 よりよい学校生活のために／意見が対立したときには (P. 128～P. 135)

【準備等】 付箋

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 学習の見通しをもち、学習計画を立てる。 ★たがいの立場を明確にして、話し合おう。 ○学校生活を振り返る。 ○学習の進め方を確認する。 2 学校生活の中から議題を決め、自分の考えをもつ。 ○よりよい学校生活のためにしてみたいことや課題を考える。 ○学級で話し合い、してみたいことや課題を一つ決める。 ○選んだ課題を基に、議題を決める。 ○自分の考えをまとめる。 3 話し合いの仕方を知る。 ○話し合いの進行計画を立てる。 ○話し合いのときに気を付けることを知る。 ・意見の伝え方 ・意見のまとめ方 ・質問の仕方 ・意見が対立したときの考え方 4～5 グループで話し合う。 ○グループで話し合い、内容をまとめる。 6 話し合ったことをクラス全体に伝える。 ○話し合った結果を報告する。 ○話し合いの様子について振り返り、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	・「こうなるといいな」と思うことについて、簡単に意見を出させる。 ・教科書(P. 128)下段で学習の進め方を示し、見通しをもたせる。 ・教科書(P. 129)上段で、してみたいことや課題を考えることが議題を決めることにつながることを確認する。 ・課題と議題の関係について押さえる。 ・教科書(P. 130)を参考に、「現状と問題点」「解決方法」「理由」をまとめさせる。 ・付箋を利用して書かせると、今後の話し合いがしやすい。 ・「考えを広げる話し合い」と「考えをまとめる話し合い」があることを確認する。 ・二次元コードを読み込み、「考えをもち寄って、話し合う」を視聴してもよい。 ・教科書(P. 131～132, P. 134～135)を読み、気を付けるポイントを押さえる。 ・教科書(P. 132)下段や教科書(P. 248)を参考に付箋や図を使って内容をまとめさせる。 【評】話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】話し合い、内容をまとめる活動を通して考えをまとめたり、広げたりする「思考・判断・表現」を評価する。 ・報告だけではなく、学級で話し合う活動につなげてよい。 ・「話し合いの内容に関して」「話し合いや発言の仕方に関して」などの視点で振り返らせる。 【評】話し合いを振り返る活動を通して、思考に関わる語句の量を増やし、話や文の中で使う「知識・技能」を評価する。 ・教科書(P. 133)「ふりかえろう」で単元の学習を振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。

【 備 考 】

単元名 漢字の広場3

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
 (3) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文を書こうとする。

標準的な展開例

05010210_001

【教材名】 4年生で習った漢字3 (P.136)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 各教科の学習や学校生活を記録する。</p> <p>★学習や学校生活について、学級日誌に記録しよう。</p> <p>○提示された言葉を使い、学級日誌に記録するように文章を書く。</p> <p>○書いた文を読み返し、構成を整える。</p> <p>○書いた文章を見せ合い、交流する。</p>	<p>・絵の内容や漢字の読み方、意味などを確認する。</p> <p>【評】文章を書く活動を通して、既習の漢字を適切に使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・主語と述語が対応しているかや漢字の使い方は正しいか、内容は適切かなどの視点で文章を整えさせる。</p> <p>【評】文章を読み返す活動を通して、文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・提示された漢字がどこで使われているかに着目させる。</p>

【 備 考 】

単元名	資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう	配当時間	11 時間
単元の目標	(1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。 (2) 目的に応じて必要な情報を見付けて論の進め方を考えるとともに、引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (3) 文章と図表などを結び付けて読み、読み取った筆者の工夫を生かして、統計資料を用いた意見文を書こうとする。		

標準的な展開例

05010211_001

【教材名】固有種が教えてくれること/統計資料の読み方/グラフや表を用いて書こう

(P. 137)

【準備等】知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ★資料を用いた文章の効果を考えて書こう。 ○教科書(P. 137)の2匹のうさぎを比較する。 ○本文を読み、感想を書く。 ○学習課題を設定し、学習の計画を立てる。 2～3 文章の構成を整理し、内容を捉える。 ○「初め」「中」「終わり」のまとまりを確かめる。 ○筆者の考えを捉える。 ○「中」を二つのまとまりに分け、文章を整理する。 4 資料の効果について考え、要旨をまとめる。 ○教科書(P. 148)「統計資料の読み方」を参考に、資料の読み方を確認する。 ○資料と文章を結び付けて読み、要旨をまとめる。 5 筆者の考えや論の進め方について、自分の考えをまとめる。 ○図表を用いる効果について考える。 ○筆者の考えや論の進め方について、自分の考えをまとめる。 6 資料を用いた文章の書き方について話し合う。 ○図表が使われている文章を読み、その効果をまとめる。 ○図表を用いて書くときに生かしたいことを考える。 7～8 自分たちが暮らす社会についての考えをもち、必要な資料を集める。 ○「わたしたちの社会はくらしやすい方向へ向かっているか」について、自分の考えをもつ。 ○自分の考えに合う資料を集め、そこから読み取れることをまとめる。 9～10 グラフや表を用いて文章を書く。 ○採った資料を基に構成を考え、文章を書く。 ○書いた文章を読み返し、推敲する。	・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。 ・「固有種」とはどういうものか想像させる。 ・意味の難しい言葉は国語辞典で調べさせる。 ・二次元コードを読み込み、画像や資料を見せると、イメージがつきやすくなる。 ・初発の感想から文章中の資料に触れる発言を取り上げ、学習課題へとつなげる。 ・三つのまとまりに分けられる理由を発表させる。 ・「初め」と「終わり」の内容に着目させる。 ・二つに分け、見出しをつけさせることで、内容を捉えさせる。 ・単位や目もり、調べた時期や対象を確かめることを押さえる。 ・「固有種が教えてくれること」はどんなことに注意して、文章の要旨を150字程度でまとめさせる。 ・図表がない説明を想像させ、効果を考えさせる。 ・図表などの効果に触れながら、自分の考えを書かせる。 【評】文章の内容を捉える活動を通して、筆者の論の進め方の工夫を考える「思考・判断・表現」を評価する。 【評】自分の考えについてまとめる活動を通して、情報と情報や語句と語句との関係を理解する「知識・技能」を評価する。 ・本や新聞記事を読ませ、資料から読み取れることや、図表の効果を考えさせる。 ・自分が資料を使って書くときに気を付けることを考えさせ、次時の活動につなげる。 ・知多の友(P. 31)に「くらしやすさ」「くらしにくさ」についてまとめ、その中から自分の意見を書くための課題を考えさせる。 ・本やインターネットを使って資料を集めさせ知多の友(P. 32)にまとめさせる。 ・表やグラフから読み取ったことが妥当かどうかを考えさせる。 ・知多の友(P. 33)に構成を考えさせる。 ・知多の友(P. 34～36)に書かせる。 ・教科書(P. 153)の「たいせつ」のポイントを意識して書かせる。 【評】文章を書く活動を通して、自分の考えが伝わるように工夫して書く「思考・判断・表現」を評価する。 【評】文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・知多の友(P. 37)を活用する。

<p>11 書いた文章を読み合い，学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 書いた文章を読み合う。 ○ 意見や考えを交流する。 ○ 学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知多の友 (P. 37～38) を活用する。 ・ 文章を読み合うときの観点を示し，どのような視点で読めばよいか理解させてから交流させる。 <p>【評】 書いた文章を読み合う活動を通して，情報と情報との関係づけの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 (P. 153) の「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。
--	--

【 備 考 】

単元名 伝えられてきた文化

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 古典について解説した文章を読むことを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。
(3) 昔の人のものの見方や感じ方を知り、古典について解説した文章を読もうとする。

標準的な展開例

05010212_001

【教材名】古典芸能の世界—語りで伝える (P. 154～P. 155)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 落語について知り、友達と話したり調べたりする。</p> <p>★落語について知ろう。</p> <p>○教科書(P. 154)を読み、落語について知る。</p> <p>○落語のしぐさを知り、落語について友達と話したり、調べたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードを読み込むと、動画で落語を視聴できるので活用したい。 ・落語のしぐさを体験させたり教科書(P. 155)に紹介されている落語の読み聞かせをしたりして、興味をもたせる。 ・教科書(P. 274)を参照し、落語の話に触れるのもよい。 <p>【評】落語について話したり、調べたりする活動を通して、昔の人のものの見方や感じ方に触れようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】落語について話したり、調べたりする活動を通して、昔の人のものの見方や感じ方を知る「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **カンジー博士の暗号解読**

配当時間 **2 時間**

単元の目標 (1) 第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。
(3) 漢字の読み方について関心を持ち、同じ音の漢字を適切に使おうとする。

標準的な展開例

05010213_001

【教材名】カンジー博士の暗号解読

(P. 156～P. 157)

【準備等】国語辞典，漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書(P. 156)を読み，暗号解読の方法を知る。 ★アンゴ教授からの漢字暗号文を解読しよう。 ○教科書(P. 156)の設問に取り組む。</p> <p>2 教科書(P. 157)の①～③の設問に取り組む。 ○教科書(P. 157)の三つの暗号文を解く。 ○グループで答えを確かめ合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同音の漢字が解読の鍵であることに気付かせるようにする。 ・読み方は分かっても，漢字が分からない場合は，国語辞典や漢字辞典，教科書の巻末付録などを活用して調べさせる。 <p>【評】暗号を解読する活動を通して，同じ音の漢字を適切に使おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典や漢字辞典を使って，漢字を確認させる。 <p>【評】暗号を解読し，グループで確かめ合う活動を通して，既習の漢字を文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 声に出して楽しもう2

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
(3) 言葉の響きやリズムに親しみ、漢文を音読しようとする。

標準的な展開例

05010214_001

【教材名】古典の世界（二）（論語/春暁）

(P. 158～P. 159)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 漢文を聞いて感想を書き、音読する。</p> <p>★漢文を音読して楽しもう。</p> <p>○「論語」「春暁」の範読を聞き、感想を書く。</p> <p>○「論語」や「春暁」を音読する。</p> <p>○ペアやグループで音読を聞き合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読CD、デジタル教科書の朗読音声、二次元コードの活用なども考えられる。 ・孔子と弟子の問答の場面を想像しながら聞かせる。 ・横に添えられている現代語訳の意味がより理解できるように、自分のさまざまな経験を振り返らせるとよい。 ・漢文特有の言い回しやリズムを味わせる。 <p>【評】音読をする活動を通して、漢文の言葉の響きやリズムに親しむ「知識・技能」を評価する。</p> <p>・興味が高まった児童には、他の論語や漢詩を提示し読ませてよい。</p> <p>【評】音読を聞き合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場4

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
 (3) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文を書こうとする。

標準的な展開例

05010215_001

【教材名】 4年生で習った漢字4 (P.160)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 ますに入る文章を考え、すごろくを作る。 ★ますに入る文章を考えて、すごろくを完成させよう。 ○提示された言葉を使い、それぞれのますに入る文章を書く。</p> <p>○書いた文章を読み返し、構成を整える。</p> <p>○書いた文章を見せ合い、交流する。</p>	<p>・それぞれのますの絵の内容や漢字の読み方などを確認する。 【評】文章を書く活動を通して、既習の漢字を文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。 【評】文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・主語と述語が対応しているかや漢字の使い方は正しいか、内容は適切かなどの視点で文章を整えさせる。 【評】文章を読み返す活動を通して、文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。 ・クラスやグループですごろくを完成させ、繰り返し遊ぶことで漢字に親しませる。</p>

【 備 考 】

単元名 伝記を読んで、自分の生き方について考えよう

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。
 (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめるとともに、意見や感想を共有し自分の考えを広げることができる。
 (3) 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、考えたことを交流しようとする。

標準的な展開例

05010216_001

【教材名】やなせたかし—アンパンマンの勇気 (P. 161～P. 173)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 学習の見通しをもち、学習課題を設定する。 ★伝記を読んで自分の生き方について考えよう。 ○伝記を読んだ経験や感想を発表する。</p> <p>○教科書(P. 161)で、題名やリード文から、文章についてのイメージをもつ。</p> <p>○範読を聞き、感想を書く。</p> <p>○伝記に取り上げられている出来事を確かめる。</p> <p>3 「たかし」や筆者の考えをまとめ、自分の考えをもつ。 ○「たかし」の考えや、筆者が「たかし」をどんな人物だと考えているかについてまとめる。 ○「たかし」の行動や考え方について、自分の考えをまとめる。</p> <p>4 興味をもった人物の伝記を読み、考えたことを書く。 ○教科書(P. 171)「この本、読もう」を参考に、読む本を決める。 ○選んだ本を読み、考えたことを200字程度で書く。</p> <p>5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ○ペアやグループで文章を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝記とは、実在の人物を書いた文章であることを確認する。 ・どのような気持ちでアンパンマンを書いたのか想像させる。 ・二次元コードを読み込み、やなしたかせさんについて紹介するのによい。 ・朗読CDや、デジタル教科書の朗読音声を活用してもよい。 ・教科書(P. 172)下段「伝記の表現」で、伝記の特色を知る。 ・それぞれの出来事で、「たかし」がしたことや考えたこと、人生における意味を考えさせる。 <p>【評】伝記に取り上げられている出来事について確かめる活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たかし」が一番大事にしたこと、他の人と違う点などに着目させる。 ・共感するところや、自分もこうありたいと思うところなどを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・公共の図書館の活用も考えられる。 ・同じ人物の伝記でも、書き手が違うものがあることを確認する。 ・教科書(P. 172)「伝記を読んで考える」を参考に書かせる。 <p>【評】考えたことについて書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書かれた人物の生き方のどのような点に注目しているのかに気を付けて文章を読ませる。 <p>【評】文章を読み合う活動を通して、意見や感想を共有し、自分の考えを広げる「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P. 173)「ふりかえろう」で、学んだことを振り返るとともに、「たいせつ」で身に付けた力を押さえる。

【 備 考 】

単元名 読み手が納得する意見文を書こう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。
- (2) 感じたことや考えたことなどから書くことを選び、事実と感想、意見とを区別して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- (3) 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、意見文を書こうとする。

標準的な展開例

05010217_001

【教材名】 あなたは、どう考える (P. 174～P. 179)

【準備等】 知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題を設定して、学習計画を立てる。</p> <p>★読み手が納得する意見文を書こう。</p> <p>○普段の生活の中で、気付いたことなどを発表する。</p> <p>○学習の進め方を確認する。</p> <p>2 関心のあることから題材を決め、自分の考えをもつ。</p> <p>○題材を決める。</p> <p>○主張を考える。</p> <p>○主張の理由や根拠をまとめる。</p> <p>3 自分の主張を見直し、構成を決める。</p> <p>○自分の主張に対する反論を考える。</p> <p>○グループで考えを伝え合う。</p> <p>○構成を考える。</p> <p>4～5 構成をもとに、意見文を書く。</p> <p>○教科書(P. 175)の「岡本さんの投書」と、教科書(P. 178～179)の「木原さんの意見文」を比べる。</p> <p>○意見文を書く。</p> <p>○書いた文章を読み直し、推敲する。</p> <p>6 意見文を読み合い、学習を振り返る。</p> <p>○意見文を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・気付いたことだけではなく、他人の考えに共感したり、意見をもったりした経験も振り返らせる。</p> <p>・教科書(P. 175)の例を取り上げ、意見文のイメージをもたせる。</p> <p>・教科書(P. 175)の題材の例を参考に、知多の友(P. 41)に考えた題材をいくつか書かせる。</p> <p>・関心のある題材の一つを選び、知多の友(P. 41)に自分の主張を記入させる。</p> <p>・知多の友(P. 42)を活用する。</p> <p>・体験した出来事その他に、図書館の本や、インターネットで情報を調べる活動を取り入れてもよい。</p> <p>・知多の友(P. 43)を活用する。</p> <p>・説得力がある根拠になっているかという視点を示し、感想を伝え合わせる。</p> <p>・教科書(P. 177)を参考に、知多の友(P. 44)に記入させる。</p> <p>・意見文では、事実と考えを区別して書くことを押さえる。</p> <p>・予想される反論とそれに対する考えを書くよさを実感させる。</p> <p>・知多の友(P. 45～47)を活用する。</p> <p>【評】意見文を書く活動を通して、自分の考えが伝わるように工夫して書く「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 48)で観点を確かめさせながら推敲させる。</p> <p>【評】推敲する活動を通して、文章をよりよく書き直す「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 48～49)を活用し、説得力のある書き方だと思ったところを中心に感想を伝え合わせる。</p> <p>【評】書いた意見文を読み合う活動を通して、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 179)の「ふりかえろう」「たいせつ」「いかそう」で、身に付けた力を押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 季節の言葉4

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
 (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。
 (3) 言葉の響きやリズムに親しみ、冬らしいものや様子を文章に書こうとする。

標準的な展開例

05010218_001

【教材名】冬の朝 (P. 180～P. 181)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「冬」に対する見方や感じ方、表現された季節感を味わう。 ★冬らしいものや様子を文章に書き表そう。 ○冬のどんなところが好きか話し合う。</p> <p>○「枕草子」について学んだことを思い出す。 ○「枕草子」を音読したり暗唱したりする。</p> <p>○「冬」に関する言葉や俳句を味わう。</p> <p>2 冬らしいものや様子を文章に書いて交流する。 ○「枕草子」や教科書に出てくる冬を表す言葉を参考に、冬らしいものの様子について文章を書く。</p> <p>○書いたものを互いに読み、交流する。</p>	<p>・教科書の言葉や写真を手がかりに、冬らしいものを思い出させる。</p> <p>・教科書の解説から内容の大体を知り、景色や様子を想像させる。 【評】古文を読む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・二つの言葉や俳句を音読させ、景色や様子を思い浮かべさせる。 【評】冬らしい言葉や、俳句を味わう活動を通して、語感や言葉の使い方を知る「知識・技能」を評価する。</p> <p>・最初に、自分が感じる冬らしいものを書き出させてから、文章に書かせる。 【評】文章を書く活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 詩の楽しみ方を見つけよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 比喻や反復などの表現の工夫に気付くとともに、読書が自分の考えを広げることに役立つと気付くことができる。
(2) 詩の表現の効果を考えることができる。
(3) 詩の表現の効果を考え、詩の楽しみ方を見付けようとする。

標準的な展開例

05010301_001

【教材名】生活の中で詩を楽しもう (P. 182～P. 183)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 詩を読み、お気に入りの詩を選ぶ。 ★詩の楽しみ方を見付けよう。 ○ 6 編の詩を音読して、好きなところや気付いたことを書く。 「蛇」「するめ」「路」「一ばんみじかい抒情詩」「一ぼんの木は」「土」</p> <p>○ 6 編の詩の中からお気に入りの詩を選び、音読する。 ○ 教科書 (P. 183) 下段を読み、次時までに取り組むことについて確認する。</p> <p>2 これまでに読んだことのある詩からお気に入りの詩を選び、楽しむ。 ○ お気に入りの詩の味わい方を考える ・ ノートの最初のページに書き写す。 ・ 画用紙に書いて飾る。 ・ 手紙に添える。 ・ 詩に合った絵をそえる。 ・ 色鉛筆や毛筆で書く。 ○ 作品を作り、紹介し合う。</p>	<p>【評】 詩について気付いたことを書く活動を通して、表現の工夫に気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 詩の好きなところを書く活動を通して、表現の効果を考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 図書館などにある詩集から、お気に入りの詩を集めておくよう伝える。</p> <p>・ 日常生活の中で簡単に行える楽しみ方を考えさせる。</p> <p>【評】 作品を作り、紹介し合う活動を通して、詩の楽しみ方を見付けようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 方言と共通語

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 共通語と方言との違いを理解することができる。
 (3) 共通語と方言との違いに関心を持ち、それらを理解しようとする。

標準的な展開例

05010302_001

【教材名】方言と共通語 (P. 184～P. 185)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 方言や共通語の特徴を知る。 ★方言と共通語の特徴を知ろう。 ○教科書(P. 184)を見て塩気が足りないときに何というか話し合う。 ○教科書(P. 185)上段を読み、方言と共通語があることを知る。 ○①の設問に取り組む。 2 方言や共通語の効果やよさについて考える。 ○②の設問に取り組む。 ○③の設問に取り組む。 ○学習を振り返る。	・方言分布図が載っているので、教科書を開く前に聞くとよい。 ・教科書(P. 106)「たずねびと」のどこに方言が使われているか押さえた後、効果を考えさせる。 ・どちらも大事なものであることを押さえる。 【評】方言と共通語のよさを考える活動を通して、それぞれの意義を感じようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】方言と共通語のよさを考える活動を通して、それぞれの違いについて理解する「知識・技能」を評価する。 ・「いかそう」を読み、これからの生活に生かす視点をもたせたい。

【 備 考 】

単元名 漢字の広場5
配当時間 1時間

- 単元の目標** (1) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
 (3) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文を書こうとする。

標準的な展開例

05010303_001

【教材名】 4年生で習った漢字5 (P.186)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 道案内をする文章を書く。 ★つなぎ言葉を使って、道案内をする文章を書こう。 ○提示された言葉を使い、駅からおばあちゃんの家まで案内する文章を書く。 ○書いた文章を読み返し、構成を整える。 ○書いた文章を見せ合い、交流する。	・絵の内容や漢字の読み方、意味などを確認する。 ・つなぎ言葉を使って書くことを確認する。 【評】文章を書く活動を通して、既習の漢字を適切に使う「知識・技能」を評価する。 【評】文章を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・主語と述語が対応しているかや漢字の使い方は正しいか、内容は適切か、つなぎ言葉の使い方は正しいか、などの視点で文章を整えさせる。 【評】文章を読み返す活動を通して、文や文書を整える「思考・判断・表現」を評価する。 ・提示された漢字がどこで使われているかに着目させる。

【 備 考 】

単元名 事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

(2) 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

(3) 意見や感想を共有して、自分の考えを広げて、メディアとの関わり方について話し合おうとする。

標準的な展開例

05010304_001

【教材名】想像力のスイッチを入れよう

(P. 187～P. 198)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもち、学習課題を設定する。</p> <p>★事例と意見の関係を押さえて読み、考えたことを伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの自分とメディアとの関わりについて考え、発表する。 ○リード文を読み、これから学習する文章についてイメージをもつ。 ○学習課題を設定し、学習の計画を立てる。 <p>2 本文を読んで感想を書き、簡単に内容をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○範読を聞き、共感したことや疑問に思ったことを書く。 <p>○文章全体を三つのまとまりに分ける。</p> <p>3 事例とそれに対する筆者の意見を整理し、その効果について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三つのまとまりごとに、事例と筆者の意見をまとめる。 ○三つの事例の効果を考える。 <p>4 どうして「想像力のスイッチ」と表現したのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「想像力のスイッチ」という言葉を探す。 ○筆者の考える「想像力のスイッチ」はどのようなものか本文の言葉を使ってまとめる。 ○なぜその表現にしたのか考え、表現に対する自分の意見をもつ。 <p>5 メディアとの関わり方について、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書(P. 194)「もっと読もう」を読み、それぞれのメディアの特徴を知る。 ○メディアとの関わり方についての自分の考えを文章に書く。 <p>6 書いた文章をグループで交流し、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書(P. 197)の交流の手順で文章を読み合い、自分の考えと比べる。 ○学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が今まで、テレビやインターネット、新聞等とどう関わってきたか想起させる。 ・「想像力のスイッチ」とはどんなものかや、いつ、どんなときに入るのか考えさせる。 ・単元の最後にメディアとの関わり方について自分の考えを書くことを示す。 ・朗読CDやデジタル教科書の朗読音声の活用も考えられる。 【評】感想を書く活動を通して、筆者の意見を読み取ろうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・分けた理由を考えさせ、内容を簡単にまとめさせる。 ・教科書(P. 196)を参考に、表にまとめて整理させる。 ・事例のない3段落に注目させ、筆者の意見を押さえる。 【評】三つのまとまりに分け、効果を考える活動を通して、文と文との関係を理解する「知識・技能」を評価する。 ・三つのまとまり全てに使われていることに気付かせる。 ・「想像力のスイッチ」という言葉の前後に書かれた筆者の考えを押さえる。 【評】「想像力のスイッチ」という表現について考える活動を通して、自分の考えをまとめる「思考・判断・表現」を評価する。 ・メディアと関わった経験を思い出させた後、教科書(P. 196)の考えをまとめる視点の例を参考に文章を書かせる。 ・自分の考えとの共通点、相違点、感想、取り入れたい考えを伝え合わせる。 【評】書いた文章を読み合う活動を通して、自分の考えを広げる「思考・判断・表現」を評価する。 ・単元の振り返りをさせた後、教科書(P. 198)「この本、読もう」を参考に他の本に読み広げさせる。

【 備 考 】

単元名 複合語

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。
 (3) 複合語の構成や変化について関心をもち、それらを理解しようとする。

標準的な展開例

05010305_001

【教材名】 複合語 (P. 199～P. 201)

【準備等】 国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 複合語の意味や、組み合わせの種類を知る。 ★複合語について知ろう。 ○「飛び上がる」を例に、複合語の意味を知る。</p> <p>○「飛び一」の言葉集めをし、集めた複合語の意味を考えて、短文を作る。</p> <p>○複合語の組み合わせの種類をノートに整理する。 ・和語と和語 ・漢語と漢語 ・外来語と外来語 ・和語と漢語 ・和語と外来語 ・漢語と外来語</p> <p>○設問②に取り組む。</p> <p>2 複合語の特徴を知り、発音や音の高低が変わるもの確かめる。 ○教科書(P. 200～201)を読み、複合語の特徴を知る。 ・長い複合語 ・略語になることがある。 ・発音が変わることがある。 ・音の高さが変わることがある。</p> <p>○③・④の設問に取り組む。 ○国語辞典での複合語の引き方について知る。</p>	<p>・日常生活で使っている複合語を改めて意識させる。 ・短文を作ることで、複合語の意味を知るとともに、使い方に慣れさせる。 【評】短文を作る活動を通して、語彙を豊かにする「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 199)下段と教科書(P. 200)上段を読み、まとめさせる。</p> <p>【評】複合語を探す活動を通して、語句の構成について認識を深めようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「小5」「デジカメ」など、日常生活でよく目にする複合語を出し合うことで、楽しく活動できるようにする。 ・実際に声に出して読ませて、音の変化を確かめさせる。</p> <p>・長い複合語を国語辞典で調べ、そのままでは載っていないことを、「いかそう」を使って押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 言葉について考えよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使い、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。
- (2) 目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように表現を工夫して書き、その文や文章を整えることができる。
- (3) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、手紙を書こうとする。

標準的な展開例

05010306_001

【教材名】 伝わる表現を選ぼう (P. 202～P. 205)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 相手に応じた言葉の選び方について考える。</p> <p>★相手に伝わる表現を選ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内容や言葉は正しいのに、相手に伝わらなかった経験について話し合う。 ○教科書(P. 202)「相手に応じた言葉を選ぼう」を読み、示された例文を一年生向けに書き換える。 <p>2 意図に応じた言葉の選び方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書(P. 204)の例を読み、どのようなすれ違いが起きたのかや、どうすればよかったのかについて話し合う。 <p>3 言葉や表現に気を付けて手紙を書き、読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手と意図を決め、手紙を書く。 <p>○手紙を読み合い、助言し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に理解してもらえなかったり、誤って受け取られた経験を思い出させる。 ・教科書(P. 203)に示された三つの視点で、一年生に向けた文に書き換えさせる。 <p>【評】 示された例文を一年生に向けた文に書き換える活動を通して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場になって考えることが大切であることに気付かせる。 <p>【評】 どのようなすれ違いが起きたのかを考える活動を通して、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P. 205)「言葉や表現に気を付けて、手紙を書こう」を読み、流れを確認する。 <p>【評】 手紙を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「相手に応じたものになっているか」「意図が正しく伝わるか」などの視点で読ませ、助言させる。 <p>【評】 手紙を読み合い、助言し合う活動を通して、文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。
(2) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
(3) 目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、推薦する文章を書こうとする。

標準的な展開例

05010307_001

【教材名】 この本、おすすめします

(P. 206～P. 210)

【準備等】 知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ★相手や目的を明確にして、推薦する文章を書こう。 ○好きな本について話し合う。</p> <p>○学習の進め方について確認する。</p> <p>2 推薦したい本を選び、推薦する文章の構成を考える。 推薦したい本を選び、推薦する文章の構成を考える。 ○推薦する本の内容や推薦する理由をまとめる。</p> <p>○構成を考える。</p> <p>3～4 推薦する文の下書きを書く。 ○構成を基に下書きを書く。</p> <p>○友達と読み合い、助言し合う。</p> <p>5～6 相手が読みやすい文章を考え、清書する。 ○下書きや友達の助言を基に清書する。</p> <p>○書いた文章を読み直す。</p> <p>7 推薦する文章を読み合い、学習を振り返る。 ○書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。 ・友達に本を薦めたり、薦められたりした経験についても触れる。 ・推薦する文章を書くことを示す。 ・知多の友(P. 51～52)を活用する。 ・推薦したい本を挙げさせた後、どんな人どんな本を推薦するかや、本の内容や推薦する理由を考えさせる。 ・知多の友(P. 53)を活用する。 ・一番伝えたい情報は何かを考えさせ、「すいせんする理由」や「よびかけ」の内容を考えさせる。 ・知多の友(P. 54)を活用する。 ・「相手にぴったりの本を伝える」という視点で下書きさせる。 【評】下書きを書く活動を通して、考えが伝わるように推薦する文を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・読み手が読みやすい工夫がされているかという視点で助言させる。 ・知多の友(P. 55)を活用する。掲示する場合は別の紙に清書させる。 ・教科書(P. 209)を参考に、どこに何が書かれているか分かりやすいように工夫させる。 【評】助言を基に清書する活動を通して、自分の考えが伝わる書き方を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。 ・知多の友(P. 56)で観点を確かめさせながら読み直させる。 ・知多の友(P. 56～57)を活用する。 ・相手に合わせた書き方になっているかを中心に、感想を伝え合わせる。 【評】感想を伝え合う活動を通して、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。 ・教科書(P. 210)の「たいせつ」「いかそう」で身に付いた力を押さえる。

【 備 考 】

単元名 事実と感想, 意見とを区別して, 説得力のある提案をしよう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 言葉には, 相手とのつながりをつくる働きがあることに気付き, 語彙を豊かにすることができる。
(2) 事実と感想, 意見とを区別するなど, 話の構成を考え, 資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。
(3) 話の構成を考え, 提案するスピーチをしようとする。

標準的な展開例

05010308_001

【教材名】提案しよう, 言葉とわたしたち (P. 211～P. 215)

【準備等】画用紙, マジックなどの資料作成に必要なもの

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもち, 学習課題を設定する。 ★事実と感想, 意見とを区別して, 説得力のある提案をしよう。 ○言葉の使い方について振り返り, 課題だと思うところを話し合う。 ○学習課題を設定し, 学習計画を立てる。</p> <p>2～3 提案したいことを決めて, 根拠となる情報を集め, スピーチメモと提案する資料を作る。 ○提案したいことを決める。</p> <p>○根拠となる情報を集める。 ・アンケート ・インタビュー ・本や新聞 ・インターネット ○スピーチの内容を考えて, スピーチメモと提案する資料を作る。</p> <p>4～5 話す練習をして, スピーチをする。 ○話す練習をする。</p> <p>○スピーチをする。</p> <p>6 スピーチを聞いて感じたことを伝え合う。 ○スピーチを聞き合って, 感じたことを伝え合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・教科書(P. 213)のように, 資料を用いてスピーチをすることを示す。</p> <p>・課題だと感じることを書き出させ, 解決するための方策を考えさせる。 ・決められない児童には, 教科書(P. 212)の課題の例から選ばせることも考えられる。 ・インタビューの仕方やインターネットの使い方について, 教科書(P. 43, P. 258～260)を参考にさせる。</p> <p>・教科書(P. 213)「スピーチメモの例」を見せて, スピーチの構成を確かめさせる。 ・事実と感想, 意見の違いを明確にさせる。 ・どんな資料を提示すると効果的かを考えさせる。 【評】スピーチの内容や構成を考える活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】スピーチメモや提案する資料を作る活動を通して, 考えが伝わるように表現を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・声の強弱や話す速さ, 間の取り方, 表現の仕方などに気を付けて練習させる。 【評】スピーチの練習をする活動を通して, 言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「話の構成」や「話の内容」などの視点で感じたことを伝え合わせる。 ・教科書(P. 215)「いかそう」を読み, これからの生活に生かす視点をもたせたい。</p>

【 備 考 】

単元名 **日本語の表記**

配当時間 **1時間**

単元の目標 (1) 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分け、仮名および漢字の由来、特質などについて理解することができる。
(3) 日本語の表記における漢字と仮名の適切な使い分けについて考え、理解しようとする。

標準的な展開例

05010309_001

【教材名】日本語の表記 (P. 216～P. 217)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日本語の表記の仕方について考える。</p> <p>★日本語の表記の仕方について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りで使われている文字を探し、気が付いたことを発表する。 ○教科書(P. 216～217)を読み、日本語の表記について理解する。 ○教科書(P. 217)①の設問に取り組む。 ○学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の表記には、漢字、仮名、ローマ字があることに気付かせる。 ・読む人が速く、正確に意味を読み取ることができるように、表記が工夫されていることを確認する。 ・文字によって受ける印象がどう変わるかや、どう使い分けるとよいか話し合わせる。 <p>【評】設問に取り組む活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書(P. 217)「いかそう」を読み、これからの生活に生かす視点をもたせたい。

【 備 考 】

単元名 漢字の広場6

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
(2) 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
(3) 第4学年までに配当されている漢字を使って文を書こうとする。

標準的な展開例

05010310_001

【教材名】 4年生で習った漢字6 (P.218)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 出来事を報道する文章を書く。 ★出来事を報道する文章を書こう。 ○提示された言葉を使い、出来事を報道する文章を書く。</p> <p>○書いた文章を読み返し、構成を整える。</p> <p>○書いた文章を見せ合い、交流する。</p>	<p>・「いつ」「どこで」「だれ（何）が」など、必要な事柄を考えさせる。 【評】提示された言葉を使い、文章を書く活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・主語と述語が対応しているかや、漢字の使い方は正しいか、内容は適切かなどの視点で文章を整えさせる。 【評】文章を読み返す活動を通して、文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。 ・提示された漢字がどこで使われているかに着目させる。</p>

【 備 考 】

単元名 **すぐれた表現に着目して読み、物語のみりよくをまとめよう**

配当時間 **6時間**

単元の目標 (1) 文章を朗読することができる。
 (2) 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりするとともに、意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
 (3) 表現の効果を考え、物語の魅力をまとめようとする。

標準的な展開例

05010311_001

【教材名】大造じいさんとガン (P. 219～P. 240)

【準備等】ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもち、学習課題を設定する。 ★すぐれた表現に着目して、物語の魅力を伝え合おう。 ○これまで読んだ物語について、どんな魅力があったか発表する。 ○教師の範読を聞いて、印象に残ったことについて話し合う。</p> <p>2～3 物語の山場を捉え、情景を描いた表現の効果について考える。 ○「残雪」との関わりによって変化する「大造じいさん」の心情をまとめる。</p> <p>○「大造じいさん」の「残雪」に対する見方が、何がきっかけで、どう変わったか話し合う。</p> <p>○情景を描いた表現の効果について考える。</p> <p>4 印象に残った場面を朗読して聞き合う。 ○朗読したい場面を選び、練習をする。</p> <p>○朗読を聞き合い、感想を伝える。</p> <p>5 最も効果的な表現に着目して、物語の魅力についての考えを書く。 ○最も効果的に用いられていると感じる表現を考える。 ○表現の効果とその理由についてまとめる。</p> <p>6 書いた文章を読み合い、学習を振り返る。 ○書いたものを読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・発表された魅力を観点別に整理する。</p> <p>・朗読CDや、デジタル教科書の朗読音声を活用してもよい。</p> <p>・教科書(P. 238)で、「山場」の意味を押さえる。</p> <p>・「残雪」の様子や行動によって変化する「大造じいさん」の心情の変化に気付かせる。 【評】「大造じいさん」の心情の変化を考える活動を通して、描写を基に具体的に想像する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・情景描写を見付けさせ、その表現がある場合とない場合を比べ、表現の効果について考えさせる。 【評】情景を描いた表現の効果について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・自分の感じたことが伝わるように、朗読の仕方を考えさせる。 ・教科書(P. 238～239)「朗読するとき」を参考に練習させる。 【評】朗読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 239)「物語のみりよくをまとめた例」を参考にまとめさせる。 【評】表現の効果とその理由についてまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・自分の考えと比べながら感想を聞かせる。 【評】書いた文章を伝え合う活動を通して、自分の考えを広げる「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書(P. 240)「たいせつ」で身に付けた力を押さえ、「いかそう」でこれからの読書活動に生かそうとする視点をもたせたい。</p> <p>・教科書(P. 240)「この本、読もう」を参考にし、他の本に読み広げさせたい。</p>

【 備 考 】

単元名 オリエンテーション

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。
 (2) 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。
 (3) つながりを捉えながら話を聞き、見通しをもって話を作ろうとする。

標準的な展開例

06010101_001

【教材名】 つないで、つないで、一つのお話 (P.1～P.13)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 グループで一人一文ずつつないで、一つのまとまった話を作る。</p> <p>★前の人の話を聞き、話がつながるように言葉の使い方を考えて、続きのお話を作ろう。</p> <p>○扉の詩「創造」を読む。</p> <p>○教科書(P.6～10)「六年生の国語の学びを見わたそう」や、教科書(P.11)「ものの考え方、伝え方」を読み1年間の学習の見通しをもつ。</p> <p>○教科書(P.12～13)「つないで、つないで、一つのお話」の教材文を読み、活動の目的と流れを確かめる。</p> <p>○最初と最後の1文を決め、グループで2周する間にお話を作る。</p> <p>○友だちとお話を作ってどう感じたか、活動の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・声に出して読ませ、6年生の国語学習への意欲を高めさせる。 ・ノートに視写させてもよい。 ・既習事項を確かめ年間の国語学習を見通すとともに、情報を整理して伝える言い方を使っていくことを確認する。 ・前の人の話をよく聞いて、楽しいお話を続けることと、あまり考えすぎずに、思い浮かんだことを1文で言うことを押さえる。 <p>【評】教材文を読む活動を通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあるという「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5, 6人のグループを作って輪になり、活動させる。 ・時間があれば、「もっと楽しもう」に取り組む。 ・「もっと楽しもう」は、朝の帯学習の時間に取り組んだり、学習の導入として取り組んだりすることも考えられる。 <p>【評】グループでお話を作る活動を通して、話の内容を捉え、自分の考えをまとめようとする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】グループでお話を作る活動を通して、前後のつながりを考えて話したり聞いたりしようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 詩を楽しもう

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) これまでに身に付けてきた音読の技能を生かして、詩を音読することができる。
 (2) 詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
 (3) 音読の技能を生かし、互いの表現の意図に応じて詩の音読について感想を交流しようとする。

標準的な展開例

06010102_001

【教材名】春の河／小景異情 (P. 14～P. 16)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 「春の河」「小景異情」を情景を思い浮かべながら音読する。 ★音読を聞き合って、感想を交流しよう。 ○情景を思い浮かべながら音読する。 ○表現の効果を考えて音読する。 ○音読を聞き合い、互いに感じたことを伝え合う。 ○学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・文語調の表記や表現の工夫に着目させる。 【評】詩を音読する活動を通して、既習の技能を生かす「知識・技能」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・想像した情景を伝えるためにどう音読すればいいかを考えさせる。 ・言葉の抑揚や強弱、速さ、間の取り方などについて気を付けさせる。 【評】表現の効果を考えて音読する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】音読する活動を通して、感想を交流しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 (P. 16) 「続けてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもたせる。

【 備 考 】

単元名 視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 自分の思いや考えが聞き手に伝わるように文章を音読することができる。
 (2) 登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉え、人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができる。
 (3) 視点の違いに着目して心情などを捉えて読み、感想を書いて伝え合おうとする。

標準的な展開例

06010103_001

【教材名】 帰り道 (P. 17～P. 33)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「帰り道」の全文を読み、学習の見通しをもつ。 ★視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう。 ○単元名とリード文を読み、自分がどんな帰り道を過ごしているか、また、「律」と「周也」の帰り道にどんなことが起こるかを考え交流する。 ○全文を読んで、「視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2～3 「律」と「周也」の人物像や心情がどのように変化したかを考え、交流する。 ○「律」と「周也」の人物像を考える。</p> <p>○考えた人物像について交流する。 ○登場人物の心情が伝わるように音読する。 ○二人の人物像を考え、発表し合う。</p> <p>○「律」と「周也」の心情がどのように変化したかを考えその後の二人の関係を想像する。</p> <p>4 感想を書き、交流する。 ○物語全体を読み深めることで感じたり考えたりしたことについて感想を書く。</p> <p>○書いたものを読み合い、思ったことや感じたことを伝え合う。</p> <p>○教科書 (P. 31) 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る</p>	<p>・教科書 (P. 9～10) で既習事項を確かめるとともに、教科書 (P. 30, P. 309) で「視点」の意味や使い方を押さえる。</p> <p>・同じ出来事に対する登場人物の捉え方や心情について、共通点や相違点をまとめさせる。 【評】描写を基に読む活動を通して、人物像を具体的に想像する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】文章を音読する活動を通して、自分の思いや考えが聞き手に伝わるようにする「知識・技能」を評価する。 ・教科書 (P. 31) 「感想を書く観点の例」を参考に、次時に感想をまとめるための見通しをもたせる。</p> <p>・内容や書かれ方に着目するなど、感想を書く観点について確認する。 【評】描写を基に読む活動を通して、登場人物の心情などを捉える「思考・判断・表現」を評価する。 【評】考えを交流する活動を通して、自分の経験や友達の感想などと比べて伝え合おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書 (P. 32) 「たいせつ」「いかそう」を読んで、身に付けた力を押さえる。 ・視点のちがいに着目することで、人物像についてとらえることができることを確認する。 ・「この本、読もう」で読書へと広げ、読んだ本について読書記録を付ける意識をもたせたい。 ・視点や構成を効果的に用いた物語についてふれることで、読書活動への意欲をもたせる。</p>

【 備 考 】

単元名 本は友達1

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 日常的に読書に親しみ，読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。
 (3) 読書生活に関わる地域の施設に関心をもつとともに，目的に応じてそれらを活用しようとする

標準的な展開例

06010104_001

【教材名】地域の施設を活用しよう (P. 34～P. 35)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書を読み，地域で活用できる施設を探り，調べて分かったことの記録の仕方を知る。</p> <p>★地域の施設を活用しよう。</p> <p>○教科書 (P. 34～35) を読み，地域で活用できる施設を探る。</p> <p>○「記録カード」例を参考に，調べて分かったことの記録の仕方を知る。</p> <p>○学習のまとめをする。</p>	<p>・教科書 (P. 34～35) を読み，自分たちの地域にどんな施設があるか，それぞれどんなときに活用できるかを確認する。</p> <p>・読書サポーターや司書，公共図書館等と連携できるとよい。</p> <p>【評】自分たちの地域にどんな施設があるか確かめる活動を通して，読書が活用できる施設について知る「知識・技能」を評価する。</p> <p>・実際に，学校図書館などで何かを調べて記録カードに書いてみるとよい。</p> <p>【評】記録カードを作成する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・目的に応じて地域の施設等を活用すること，調べて分かったことを記録していくことに意欲をもたせる。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の形と音・意味

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 漢字の由来, 特質などについて理解することができる。
 (3) 漢字の由来, 特質についての理解を深め, 同じ部分をもつ漢字やその意味を調べようとする。

標準的な展開例

06010105_001

【教材名】漢字の形と音・意味 (P. 36～P. 37)

【準備等】ワークシート, 漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 同じ部分をもつ漢字は, 形と音が共通する場合があることを理解する。 ★同じ部分をもつ漢字について調べよう。 ○教科書 (P. 36) 上段の「求」「球」「救」の例文を読み同じ部分をもつ漢字は, 音も共通する場合があることについて知る。 ○教科書 (P. 36) 下段の問題文の□に当てはまる漢字を選び, 書き入れる。 ○他の漢字を使って問題を作成し, お互いに解き合う。</p> <p>2 同じ部分をもつ漢字は, 意味の上でつながりがある場合があることを理解する。 ○教科書 (P. 37) 上段の「ぎょうにんべん」の例から, 同じ部分をもつ漢字は意味もつながりがあることを知る。</p> <p>○「にくづき」をもつ漢字も共通する意味があることを知る。 ○他の部首をもつ漢字について調べ, それぞれの部首の意味を考える。 ・うかんむり ・てへん ・りっしんべん ・りっとう</p>	<p>・漢字の構造について興味をもたせる。</p> <p>・ワークシートなどを事前に用意しておくとうい。</p> <p>・漢字辞典の「音訓索引」などを活用させ, 漢字辞典で確かめる習慣を付けさせたい。 【評】問題を作ったり解いたりする活動を通して, 漢字の由来, 特質などについて理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「ぎょうにんべん」を部首にもつ漢字は, 「行く」や「道」などの意味につながっていることに気付かせる。</p> <p>・必要に応じて漢字辞典などで意味を捉えさせる。</p> <p>・「つきへん」と区別させるため, 「朝」や「期」などについて説明を加えるとよい。</p> <p>・巻末の「六年間に習う漢字」や漢字辞典を活用させる。</p> <p>・ワークシートを準備し, 漢字の部分の意味やそれをもつ漢字についてまとめさせる。 【評】同じ部分の漢字を調べる活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名	季節の言葉1	配当時間	2時間
単元の目標	(1) 語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。 (3) 季節を表す語彙を豊かにし、表現の意図に応じて言葉を吟味しながら、俳句や短歌を作ろうとする。		

標準的な展開例	06010106_001
【教材名】春のいぶき (P. 38～P. 39)	

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 春から夏へと向かっていく暦を表す言葉やその意味を知り、言葉のもつ語感や使い方に対する感覚に関心をもつ。</p> <p>★身の回りで感じる「春」を俳句や短歌で表そう。</p> <ul style="list-style-type: none">○「春のいぶき」という言葉からイメージするものを発表する。○身の回りで感じた「春」を交流する。○教科書で示されている二十四節気、短歌、俳句を声に出して読むことで、春から夏へと向かっていく暦を表す言葉やその意味を知る。 <p>2 自分が感じる春について一つ取り上げ、俳句や短歌の形式に表して書き、グループで読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none">○俳句や短歌の形式や決まりを確かめる。○自分の感じる春が表れるような言葉を選んで俳句や短歌を作る。 <p>○書いた作品をグループで読み合う。</p> <p>○感想を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・五感を働かせて、春とを感じるものを発表させる。・教科書（P. 38～39）の写真を使い、その言葉へのイメージをもたせる。 <p>【評】季節を表す言葉を知ることを通して、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】俳句や短歌を作ることを通して、季節を表す言葉に関心をもつ「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】俳句や短歌を作ることを通して、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none">・語感や言葉の使い方、選び方など、表現の工夫に着目して感想を伝え合うようにさせる。

【 備 考 】

単元名 話の内容をとらえて、自分の考えをまとめよう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解することができる。
 (2) 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
 (3) 互いの考えを比べながら話を聞き、考えを深めたり、その考えをまとめたりしようとする。

標準的な展開例

06010107_001

【教材名】聞いて、考えを深めよう (P. 40～P. 43)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもち、学習計画を立てる。 ★話の内容をとらえて、自分の考えをまとめよう。 ○話の聞き方や、聞いて自分の考えが変わることについて考える。 ○「話の内容をとらえて、自分の考えをまとめよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 話題を確かめ、自分の考えを整理する。 ○教科書 (P. 41) の例を参考に話題を決める。</p> <p>3 話題について、友達から聞きたいことを考える。 ○友達からどんなことを聞きたいかを明らかにする。</p> <p>○立場が違うとどんな考えになるかを予想する。</p> <p>4 グループで考えを聞き合う。 ○意見と理由を意識してグループで聞き合う。</p> <p>○意見と理由の関係が分かりにくかったり、挙げられた事例が適切でなかったりする点などについて質問する。</p> <p>5 出た意見をもとに自分の考えを深め、グループで交流する。 ○他の人の意見から、自分の意見に取り入れられそうなことを書き出す。 ○グループで意見を交流する。</p> <p>6 話を聞くときに大事なことについてまとめ、学習を振り返る。 ○教科書 (P. 43) の「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。</p>	<p>・教科書 (P. 7) 「五年生の学びを確かめよう」などを用いて振り返らせる。</p> <p>・賛成・反対の立場をはっきりさせて、具体的な理由を挙げながら考えさせる。</p> <p>・教科書 (P. 41) 「話を聞くときの観点」を参考に、自分の考えを深めるためにはということを念頭に置かせる。</p> <p>・つながり言葉や文末表現、意見と理由、事例とのつながりに気を付けて聞くようにさせる。 【評】グループで考えを聞き合う活動を通して自他の考えと比べながら話を聞き、考えを深めようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・他の人の意見や理由を自分と比べたり、みんなに共通するところを探すようにさせる。 【評】グループで意見を交流する活動を通して話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 43) の「たいせつ」「いかそう」を読んで、身に付けた力を押さえる。 ・学級会など、これからの話したり聞いたりする活動でも、意見と理由のつながりに気を付けるように意識させる。 【評】話を聞き取る時に大事な表現について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場1

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
 (3) 第5学年までに配当されている漢字を使い、出来事を説明する文を書こうとする。

標準的な展開例

06010108_001

【教材名】 5年生で習った漢字1 (P. 44)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 出来事を記事にして、町の人に伝える文章を書く。 ★習った漢字を使って、出来事を記事にし、町の人に伝える文章を書こう。 ○教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっているいろいろな出来事を想像する。 ○提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく書いて、出来事を記事にし、町の人に伝える文章を書く。</p>	<p>【評】第5学年までに習った漢字を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】書き表し方などに着目して、文や文章を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】漢字のもつ意味を考えながら文章を書くことで、積極的に使おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。
 (2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、それに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
 (3) 主張と事例の関係を捉えて読み、自分の考えをまとめて発表しようとする。

標準的な展開例

06010109_001

【教材名】笑うから楽しい／時計の時間と心の時間／主張と事例

(P. 45～P. 57)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★主張を述べた文章を読み、筆者の意図をとらえ、具体例を挙げながら自分の考えをまとめて発表しよう。 ○単元名とリード文を読み、「筆者の主張や意図を捉え、自分の考えを発表しよう」という学習課題を確認する。 ○学習計画を話し合う。</p> <p>2 「笑うから楽しい」を読み、文章に対する自分の考えをまとめる。 ○「笑うから楽しい」を語句の意味を確かめながら読む。 ○具体的な事実の部分と筆者の意見を整理しながら、構成を捉える。 ・初め－話題 ・中－事実 ・終わり－考察・意見 ○筆者の考えを捉え、事例を挙げることの効果とその有効性について考える。 ○この文章に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>3～5 「時計の時間と心の時間」を読み、筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。 ○「時計の時間と心の時間」を、語句の意味を確かめながら読み、初発の感想を書く。 ○文章構成を捉える。 ・初め－話題 ・中－事実 ・終わり－考察・意見 ○「時計の時間」と「心の時間」の違いを考え、ノートにまとめる。 ○「心の時間」の特性について、自分の体験を振り返ったり、実験の結果を確認したりしながら読む。 ○第7段落で述べられていることについてまとめる。 ・「心の時間」 ・「時計の時間」 ○筆者の説明の工夫を考える。 ・「中」と「終わり」の中心文を各まとまりの初めに述べる ・グラフや図を用いて説明すること ○筆者の主張に対して、自分が感じたことをまとめる。 ・共感したところ</p>	<p>・教科書 (P. 56) の「たいせつ」を読み、筆者の考えに対して、自分の考えをもつためにはどうすればよいのかを理解させる。</p> <p>・題名に着目させ、気付いたことを発表させることで、個性的な題名によって読み手を引き付けていることに気付かせる。 ・それぞれの段落で、一番言いたいことを表している文を考えさせることで、3段階の構成と段落ごとの内容について理解させる。 【評】文章構成を捉える活動を通して、原因と結果などの関係について理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・自分の意見をノートに50字程度でまとめさせる。 ・「～がよいと思いました」「～がよく分かりました」「理由は～」などの話型を提示するとよい。</p> <p>・「笑うから楽しい」で学習したことを基に、ノートに50字程度で初発の感想を書かせる。 ・教科書 (P. 54) 下段「言葉に着目する」を参考に内容を捉え、筆者の主張や文章全体の構成についてまとめさせる。 ・それぞれの段落で、一番言いたいことを表している文を考えさせる。 ・「笑うから楽しい」で学習した構成で成り立っていることに気付かせる。 【評】文章構成を捉える活動を通して、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする「思考・判断・表現」を評価する。 【評】文章構成を捉える活動を通して、要旨を把握する「思考・判断・表現」を評価する。 ・第2段落を読ませ、「時計の時間」と「心の時間」の違いについて、ノートにまとめさせる。 ・第3段落から第6段落を読ませ、教科書にある実験結果を表すグラフや図も参考にしながら読み取らせる。 ・第3段落から第6段落の事例を受けて、二つのことについて述べられていることを確認する。 ・教科書 (P. 54) 下段「話し合いの例」を参考に、筆者の主張と複数の事例との関係に着目して、論の進め方の意図について話し合わせる。 【評】筆者の主張に対する自分の考えをまとめる活動を通して、自分の考えをまとめて発表しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書 (P. 55) 「発表の例」を参考に、筆者の主張に共感・納得したり、疑問に思ったり</p>

・納得できなかったところ

6 考えを発表し合い，学習を振り返る。

○考えを発表し合う。

○学習を振り返る。

7 教科書（P.57）「主張と事例」を読み，主張と事例の関係を理解する。

○「主張と事例」を読む。

○例を参考に，主張と事例の関係をふまえながら自分の考えを話す。

したことや，自分が体験したことを重ねて，ノートに考えを書かせる。

【評】自分の考えをまとめる活動を通して，筆者の主張や自分の体験を振り返る「思考・判断・表現」を評価する。

・他の人の感じ方や考え方を知ることで，自分の考えを広げたり深めたりさせる。

・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに，「たいせつ」「いかそう」を読んで身に付けた力を押さえる。

・「この本，読もう」で関連する本の読書意欲を高める。

・「時計の時間と心の時間」では「事例」を挙げて「主張」することで，主張に説得力をもたせていたことを想起させる。

・ペアやグループで話し合わせる。

・今後，自分の考えを主張するときに生かしていくようにさせる。

【 備 考 】

単元名 話し言葉と書き言葉

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる。
 (3) 話し言葉と書き言葉の違いについての理解を深め、場面や相手に応じて適切な表現をしようとする。

標準的な展開例

06010110_001

【教材名】話し言葉と書き言葉 (P. 58～P. 59)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 話し言葉と書き言葉の特徴について考える。 ★言葉で伝える方法を知り、表現の仕方について考えよう</p> <p>○教科書 (P. 58) の例文を読み、話し言葉と書き言葉の特徴について、経験の中で気付いたことを交流する。 ○話し言葉と書き言葉の違いについて整理する。</p> <p>○相手や場面などによる違いについて話し合い、学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで発表し合った後に、クラス全体で発表させてもよい。 ・音声で表す言葉を「話し言葉」といい、文字で表す言葉を「書き言葉」ということを押さえる。 ・それぞれの特徴をノートに整理することが難しい場合は、ワークシートを用意し、整理させる。 <p>【評】話し言葉と書き言葉の違いについて整理する活動を通して、それらの違いに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 (P. 59) 1 の設問や「いかそう」について考え、グループで話し合う。 <p>【評】相手や場面などによる違いについて話し合う活動を通して、場面や相手に応じて適切な表現をしようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 言葉を選んで、短歌を作ろう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
 (2) 構成や書き表し方などに着目して、表現を工夫して短歌を整えることができる。
 (3) 見たり、聞いたりしたことや経験したこと、想像したことを基に短歌を作ろうとする。

標準的な展開例

06010111_001

【教材名】たのしみは (P. 60～P. 63)

【準備等】知多の友、清書を書く紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 生活の中で楽しい気持ちになるときや、ほっとするときのことを思い出し、短歌を作る学習計画を立てる。 ★「たのしみ」を集めて、短歌を作ろう。 ○教科書(P. 60)や知多の友(P. 4)を読んで、学習の見通しをもつ。 ○短歌の表現の工夫やよさについて話し合う。 ○日常生活の中で、似た場面はないか考える。</p> <p>2 短歌のきまりを確認し、表現を工夫して短歌を作る。 ○「たのしみは」で始まり、「時」で結ぶ短歌を作るための題材を決める。 ・今朝、起きてからのこと ・この一週間のこと ・家の人や友達のこと ・季節のこと ・衣食住のこと ・趣味のこと ○短歌の基本ルールを確認する。 ・五・七・五・七・七の三十一音からなる。 ・小さい「つ」やのぼす音、「ん」も一音と数える ○五感を使った表現を工夫し、短歌を作る。 ○作った短歌の表現を工夫する。</p> <p>3 短歌を清書し、読み合う。 ○作った短歌を短冊に書く。 ○できた作品を読み合い、友達の表現の工夫について発表し合う。 ・どんな情景が目に見えたか。 ・どんなことが伝わってきたか。 ・どんな表現が素敵か。 など</p>	<p>・本単元は「知多の友」に掲載されているので十分に活用したい。</p> <p>・日常の中で見たり、聞いたり、経験したりしたことを基にして、短歌を作ることを確認させる。</p> <p>・教科書(P. 61)の「たのしみは」の短歌を音読し、共通していることや気付いたことを発表させ、日常生活のささやかな感動を歌にしていることに気付かせる。</p> <p>・自分の生活を振り返らせることで、短歌を作るときの題材について考えさせる。</p> <p>・知多の友(P. 5)を使い、短歌にしたいことを書かせる。</p> <p>・生活のさまざまな場面を思い起こして、「たのしみ」を探させるようにする。 【評】題材を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・日常を掘り起こす際の観点については、知多の友(P. 5)を使い、より具体的に書く材料を考えさせるようにする。</p> <p>・知多の友(P. 7)の参考作品についても触れ、題材選びの参考にさせる。</p> <p>・教科書(P. 62)や知多の友(P. 5)で短歌のきまりを確認させる。</p> <p>・知多の友(P. 6)に書かせる。</p> <p>・字余り等については許容し、形式にとらわれず楽しく作らせる。 【評】短歌を作る活動を通して、短歌のきまりを確かめ、言葉を選んで短歌を作る「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】短歌を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・使った言葉を別の言葉に言い換えたり、並べ方を変えたりして、自分の見つけた「たのしみ」がより伝わるように、作った短歌を見直しさせる。 【評】作った短歌を見直す活動を通して、よりよい表現へと工夫する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・用紙を用意しておき、作った短歌を清書させる。</p> <p>・具体的な観点を示しておき、友達の短歌のおもしろいところや、工夫しているところなどを、知多の友(P. 7)に書かせる。</p> <p>・肯定的な気持ちの交流をするように助言する。 【評】作った短歌を読み合う活動を通して、表現の工夫に着目する「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 文の組み立て

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。
 (3) 語句の係り方や語順についての理解を深め、表現の意図に応じて分かりやすく文を組み立てていこうとする。

標準的な展開例

06010112_001

【教材名】文の組み立て (P. 64～P. 65)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 日本語の文の語順について確かめる。</p> <p>★文の組み立て方について考えよう。</p> <p>○教科書で示されたカードを並べ替えて文を作り、友達のものを見比べる。</p> <p>○例文を読み、文章中の主語と述語、修飾と被修飾の関係を捉える。</p> <p>2 日本語の文の語順について、友達と話し合う。</p> <p>○教科書 (P. 65) の設問について考える。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・事前に言葉カードを準備しておく。</p> <p>・児童の実態に応じて教科書の例文以外を準備しておくことも考えられる。</p> <p>・主語と述語の関係が複数ある文は、指示語を補うなどして短い文に分けて書き直せることを確かめる。</p> <p>【評】日本語の文の語順について確かめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・例文に主語と述語に応じたサイドラインを引いたり、矢印でつなげたりする。</p> <p>・ワークシートを準備しておくとうよい。</p> <p>【評】日本語の文の語順について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「いかそう」を読み、文の組み立て方について理解が深められたか確認する。</p> <p>・今後に生かしたい具体的な場面について書かせてもよい。</p>

【 備 考 】

単元名 声に出して楽しもう

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむとともに、古典に触れることで昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。
 (3) 文語調の文章の言葉の響きやリズムに親しみ、音読しようとする。

標準的な展開例

06010113_001

【教材名】天地の文 (P. 66～P. 67)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「天地の文」を音読し、大まかな内容をつかむ。 ★特徴あるリズムを感じながら音読し、昔の人のものの見方や感じ方を知ろう。 ○「天地の文」の範読を聞く。</p> <p>○「天地の文」を音読する。</p> <p>○人の暮らしの基本となる時間や週日などの決め事について、書かれていることを理解する。 ○昔の人のものの見方や考え方を知る。</p> <p>○昔の人の考え方を知り、「天地の文」を音読する。</p> <p>○筆者の考えについて、感想を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が「天地の文」を読み、特徴あるリズムについてつかませる。 ・CDの範読を聞かせてもよい。 ・分かりにくい言葉については、教科書(P. 67)で確認したり解説を加えたりする。 ・古文に慣れさせるために、繰り返し音読させるようにする。 <p>【評】「天地の文」を音読する活動を通して、言葉の響きやリズムを捉える「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章から1か月、1週間、季節、1年について理解させる。 ・「天地の文」の最後の部分から、福沢諭吉がどのように考えているかを考えさせる。 <p>【評】古典について解説した文章を読んだり、作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人の感じ方を知る「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すらすらとリズムよく音読させるように、ウッドブロックやカスタネットなどを使って、リズムを取る方法も考えられる。 <p>【評】音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習時間を利用して音読・暗唱させたり学習の初めに声を出させたりする活動として継続的に行うことも考えられる。

【 備 考 】

単元名 集めるときに使う

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し，使うことができる。
- (2) 目的や意図に応じて，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすることができる。
- (3) 情報と情報との関係付けの仕方について理解を深め，分かりやすく書いて伝えようとする。

標準的な展開例

06010114_001

【教材名】情報と情報をつなげて伝えるとき

(P. 68～P. 69)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 条件に応じて，報告書を書き直す。</p> <p>★情報と情報の分かりやすいつなげ方を考えよう。</p> <p>○情報を整理して伝えることについて理解する。</p> <p>○例文を使って，情報と情報をどうつなげて伝えればよいのかを考え，書き表す。</p> <p>○情報と情報をつなげて伝えるときに大事なことをまとめる。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書（P. 68）を読み，身近な例を取り上げて，情報と情報にはどのような関係があるかまたその関係をどう整理して伝えるかを知らせる。 ・教科書（P. 69）の設問に沿って，集めた情報がどのような関係にあるのか，また，どのようにつなげると文意が伝わるのかを考えさせる。 <p>【評】情報と情報を関係付けて書き表す活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書いたものを交流させ，必要に応じて全体で確認する時間を設けるとよい。 <p>【評】情報と情報をつなげて伝えることについて交流する活動を通して，伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】情報と情報をつなげて伝えることについて交流する活動を通して，分かりやすく書いて伝えようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いかそう」を読み，書くときだけでなく，文章を読むときにも，情報と情報の関係に着目するとよいことを確認する。

【 備 考 】

単元名 具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう

配当時間 10 時間

- 単元の目標 (1) 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。
 (2) 筋道の通った文章になるように文章全体の構成や展開を考え、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
 (3) 筋道の通った文章となるように文章全体の構成を考え、提案する文章を書こうとする。

標準的な展開例

06010115_001

【教材名】 私たちにできること (P. 70～P. 75)

【準備等】 知多の友、清書用の紙、付箋

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう。 ○教科書(P. 71)を参考にし、自分たちが取り組めそうなテーマを探す。 ○グループで話し合って提案するテーマを決める。</p> <p>○学習の進め方を確認する。</p> <p>2 提案する文章を書くための資料を集める。 ○図書館やインターネットで調べたり、インタビューしたりして資料を集める。</p> <p>3～4 提案内容を整理し、文の構成を考える。 ○提案内容について、話し合って整理する。 ・提案する理由 ・提案するテーマについての現状と問題点 ・解決方法や提案の効果 など</p> <p>5 提案する文章の構成を考える。 ○話し合って整理したことを付箋に書き、知多の友(P. 12)の構成表に貼る。</p> <p>6～8 提案する文章を書く。 ○内容のまとまりごとにグループで分担して、下書きをする。 ○下書きをグループで読み合い、検討して清書する。 ・現状や問題点を整理し、提案理由を明確にして書いているか。 ・提案の内容が問題点をふまえた具体的なものになっているか。 ・具体的な解決方法や提案したことが実現すると、どんな効果があるのかを書いているか。 ・分かりにくい言葉や表現はないか。 ・表記(漢字・句読点など)のまちがいや、長すぎて読みにくい文はないか。</p> <p>9～10 書いた文章を他のグループと交流し、学習のまとめをする。 ○他のグループの提案書を読む。 ○提案書を読んで、よいところを伝え合う。 ・分かりやすいところ ・説得力があるところ</p>	<p>・本単元は「知多の友」に掲載されているので十分に活用したい。</p> <p>・知多の友(P. 9)を活用する。 ・学校生活を振り返らせ、取り組めそうなことや、取り組みたいことを考えさせる。 【評】身の回りの問題について考え、解決のために提案する文章を書くということに関心をもち、グループで協力して考えをまとめようとする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 10)を活用する。 ・提案の根拠となる情報や、問題の解決方法などにつながる情報を集めさせる。 ・資料の出典を明らかにさせておく。 ・グループで役割分担して資料を集めさせてもよい。 【評】提案する文章を書くために必要な資料を集める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 11)を活用する。 ・問題点や解決策など具体的な事例を取り上げるようにさせる。 【評】集めた資料から書くことを選び、伝えたいことを明確にする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 12)を活用する。 ・提案のきっかけや内容の骨子を確認しながら組み立てを考えさせる。 ・教科書(P. 68)「情報と情報をつなげて伝えるとき」も参考にさせる。 【評】文章の構成を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 13～15)を活用する。 ・教科書(P. 72)「提案するときに使う言葉」を参考にさせる。 ・内容や書き表し方の工夫について話し合わせる。 ・知多の友(P. 16)を活用する。 【評】筋道の通った、分かりやすい文章になるように書き表し方を工夫して書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】グループで話し合って清書する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友(P. 16～17)を活用する。 【評】提案書を読み、よいところを伝え合う活動を通して、表現の工夫に気付く「知識・技</p>

- ・効果的な表現 など
- 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身に付けた力を押さえる。

能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 季節の言葉2

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
 (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 季節を表す語彙を豊かにし、意図に応じて言葉を吟味しながら手紙を書こうとする。

標準的な展開例

06010116_001

【教材名】夏のさかり (P. 76～P. 77)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身近で感じた「夏」を伝え合う。 ★季節を感じる言葉を用いて手紙を書こう。 ○「夏のさかり」という言葉からイメージするものを発表する。</p> <p>○教科書で示されている二十四節気という言葉や解説、短歌や俳句を音読する。 ○身近で感じた「夏」を伝え合う。</p> <p>2 「夏」を知らせる手紙を書く。 ○自分の地域で感じた「夏」についての便りを書く。</p> <p>○書いた手紙を友達と読み合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 (P. 76～77) の写真を使い、その言葉へのイメージをもたせる。 ・五感を働かせて、身近で感じた「夏」を伝え合わせる。 ・五・七・五の十七音から成ることや季語が入っていることなどを押さえる。 ・付箋紙に書き出したものを模造紙に貼ってまとめてもよい。 ・前時に付箋紙等で自分たちの「夏」マップができていれば参考にさせたい。 【評】「夏」についての便りを書く活動を通して、意図に応じて使う言葉を吟味しようとする「主体的に学習に取り組む態度」「知識・技能」を評価する。 【評】「夏」についての便りを書く活動を通して、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。 ・言葉の選び方や書き表し方など、表現に着目して感想や助言を伝え合わせる。

【 備 考 】

単元名 本は友達2

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる。
 (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめ、その意見や感想を共有することで、自分の考えを広げることができる。
 (3) 読書の役割についての理解を深め、これまでの読書生活を振り返ってテーマに着目した本の交流をしようとする。

標準的な展開例

06010117_001

【教材名】私と本／森へ (P. 78～P. 91)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「学習の進め方」を確認して学習課題を設定し、学習計画を立て、自分と本との関わりを考える。</p> <p>★自分と本との関わりをふまえて、本を紹介し合おう。</p> <p>○教科書 (P. 78) を見て、これまでにどんな本に出会ってきたかを振り返り、学習のめあてをつかむ。</p> <p>○自分と本の関わりについて、友達と伝え合う。</p> <p>○特に心に残っていた本や、その本がもつテーマについて交流する。</p> <p>2～3 これから読んでみたい本のテーマを考え、ブックトークの手順を確認する。</p> <p>○これから読んでみたい本のテーマを考える。</p> <p>○「森へ」を読む。</p> <p>○「森へ」で心に残ったことを交流する。</p> <p>○教科書 (P. 82) を参考にしてブックトークの手順を確認する。</p> <p>4～5 ブックトークをする。</p> <p>○自分で考えたテーマに沿って、紹介したい本を決め、ブックトークをする。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの読書記録を見返したり、授業で活用したことを思い出したりして、今までにどんな本と出会ってきたかを思い出させる。 ・教科書 (P. 79) を参考にさせ、自分と本との関わりについて考えさせる。 ・心に残っている本が、自分にとってどのようなものなのかについても考えさせる。 ・教科書 (P. 81) や教科書 (P. 265) 「本の世界を広げよう」を参考に読む本を決め、並行読書を始めてもよい。 ・教科書の写真を見ながら聞かせる。 ・分からない言葉は、国語辞典で調べさせる。 ・グループごとにホワイトボード等へ書き出し、掲示して交流させてもよい。 【評】感想を交流する活動を通して、自分の考えを広げる「思考・判断・表現」を評価する。 ・印象に残っている本を再読したり、新たに選んだ本を読んだりして、紹介の仕方を考えさせる。 ・グループでブックトークをし、本の魅力を伝え合わせる。 ・交流を通して、多様な見方や考え方に触れられるようにさせたい。 【評】ブックトークをする活動を通して、読書生活を振り返って本の交流をしようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・「たいせつ」を読み、今後の自分と本の関わりや読書することのよさについて考える。 【評】学習を振り返る活動を通して、読書が自分の考えを広げることに関与するという「知識・技能」を評価する。 ・この後の活動として、知多の友を使って読書感想文の指導へとつなげるのもよい。

【 備 考 】

単元名 詩を味わおう

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。
 (2) 詩の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすることができる。
 (3) 楽しみながら詩の表現の工夫とその効果を考え，互いの考えを伝え合おうとする。

標準的な展開例

06010201_001

【教材名】せんねん まんねん (P. 92～P. 93)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 「せんねん まんねん」を繰り返し音読し，詩のリズムや表現について味わう。</p> <p>★「せんねん まんねん」を読み，表現の工夫とその効果について考えよう。</p> <p>○「せんねん まんねん」の詩を音読し，自分の感じたことを書く。</p> <p>○表現の工夫とその効果について考える。</p> <p>○自分の感じたことや考えたこと，表現の工夫の効果が伝わるように音読する。</p> <p>○音読発表をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一連と二連の対比や反復表現や擬人法に着目させる。 ・自分の感じたことが伝わるように工夫して書かせる。 <p>【評】詩の表現に着目する活動を通して，比喻や反復などに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや調子，リズムや間などを工夫しながら，音読させる。 ・表現の工夫が読み手に与える効果を考える。 <p>【評】詩を音読する活動を通して，表現の効果を考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて，音読発表をさせる。 ・友達の音読のよいところや工夫した点について意見を交流させる。 <p>【評】音読発表する活動を通して，表現の工夫と効果について考えを伝え合おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 対話の練習

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。
 (2) 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。
 (3) 自分の考えを広げたりまとめたりしながら、互いの考えを尋ね合おうとする。

標準的な展開例

06010202_001

【教材名】 いちばん大事なものは (P. 94～P. 95)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 生活の中で大切にしていきたいことについて伝え合い考えを深める。</p> <p>★友達と思いや考えを交流して、自分の考えを深めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これからの生活の中で、どんなことを大切にしていきたいか、自分の考えを書く。 ○ 三人一組のグループを作り、考えを聞き合う。 <p>○ 二度メンバーを入れ替えて、同様に互いの考えを聞き合う。</p> <p>○ 初めのグループに戻って、自分たちの考えを交流する。</p> <p>○ 最終的な自分の考えをまとめ、学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 (P. 94) の吹き出しの例を参考にさせる。 ・ 互いの考えがよく分かるように、考えた理由や、これまでの経験などを尋ね合わせる。 <p>【評】 考えを聞き合う活動を通して、思考に関わる語句についての「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考え方の理由や背景を知ることによって、人によって考え方が違うことを理解できるようにさせる。 <p>【評】 考えを聞き合う活動を通して、自分の思いや考えを広げていこうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 印象に残った友達の考えや、広がったり深まったりしたことを伝え合うようにさせる。 <p>【評】 自分たちの考えを交流する活動を通して考えを広げたりまとめたりする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書いたことを読み合い、「いちばん大事なもの」についての互いの考えや、対話の意義について交流させる。 ・ 自分の考えを広げたり、深めたり、新しい視点を見付けられることを、まとめの観点として示す。

【 備 考 】

単元名 生活の中で読もう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 文章の種類とその特徴について理解することができる。
 (2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付け、読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
 (3) 身の回りのさまざまな媒体から必要な情報を見付けることに興味をもち、効果的な読み方について交流しようとする。

標準的な展開例

06010203_001

【教材名】利用案内を読もう (P. 96～P. 99)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 利用案内やウェブサイトを読み、その特徴について交流する。</p> <p>★資料から必要な情報を読み取ろう。</p> <p>○利用案内や説明書、広告などから情報を得るという経験について想起する。</p> <p>○知りたい事柄に応じて、利用案内を読む。</p> <p>○教科書 (P. 97) 2, 3 の設問に必要な情報について話し合う。</p> <p>○知りたい事柄に応じて、ウェブサイトを見る。</p> <p>3 媒体の違いによる特徴や活用の仕方について話し合う。</p> <p>○パンフレット等の紙媒体の情報源とウェブサイトの違いや、それぞれの活用の仕方について話し合う。</p> <p>○教科書 (P. 98～99) の資料を比較し、その違いをまとめる。</p> <p>○各自がまとめたものをもとに、グループや学級全体で話し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・教科書 (P. 98) の資料の内容や構成を確かめながら、教科書 (P. 96) 1 の設問に必要な情報を読み取らせる。</p> <p>・見出しをもとに、知りたいことが書いてあるところを選ぶということを押さえる。</p> <p>【評】利用案内を読み取る活動を通して、必要な情報を見付ける「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 97) 4 の設問に沿って話し合わせる。</p> <p>【評】媒体の違いについて考える活動を通して文章の種類とその特徴についての「知識・技能」を評価する。</p> <p>・知りたいことによっては、複数の情報を組み合わせる必要があることについても押さえる。</p> <p>【評】媒体の違いについて考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・実際に近隣の公共図書館のウェブサイトを見て、確かめさせるとよい。</p> <p>【評】媒体の違いについて話し合う活動を通して、効果的な読み方について交流しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 熟語の成り立ち

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、語句の構成や変化について理解したり、文や文章の中で使ったりすることができる。
(3) 熟語の構成についての理解を深め、熟語を調べたり書いたりしようとする。

標準的な展開例

06010204_001

【教材名】熟語の成り立ち (P. 100～P. 101)

【準備等】国語辞典、漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 これまでの漢字学習を想起し、単元の学習のめあてをつかむ。 ★熟語の成り立ちについて調べよう。 ○二字の漢字からできている熟語の成り立ちについて知る</p> <p>○既習の教材文などから二字熟語を見付け、4種類に分類する。 ○漢字三字の熟語のでき方の特徴を捉える。</p> <p>2 漢字四字以上の熟語の成り立ちについて理解する。 ○日常生活でよく使っている四字の熟語を発表し合う。</p> <p>○四字の熟語の構成について知る。</p> <p>○知っている熟語をつなげて、長い熟語を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記号などを使って、二つの漢字の関係を視覚的につかませる。 ・漢字辞典を使って、意味を調べさせる。 ・ワークシートを準備しておき、整理させる。 ・○+○○や○○+○など、記号化してまとめさせると、熟語の成り立ちを視覚的につかませることができる。 【評】二字・三字の熟語を分類する活動を通して、熟語の構成について理解しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書の例を使ってまとめさせるとともに、身近な熟語を探して分類させながら習熟を図る。 【評】二字・三字の熟語を分類する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・なかなか出ない場合は、教科書の例を参考にさせる。 ・意味が分からないときには、辞書を使って調べることができるように、国語辞典や漢字辞典を用意しておくといよい。 ・発表により出てきた熟語や教科書の例示の熟語を、板書で整理してまとめる。 ・グループやペアで考えさせたり、ゲーム形式を取り入れたりしてもよい。 【評】四字以上の熟語を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 漢字の広場2

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
 (3) 第5学年までに配当されている漢字を使い、出来事を説明する文章を書こうとする。

標準的な展開例

06010205_001

【教材名】 5年生で習った漢字2 (P.102)

【準備等】 ワークシート, 国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 遊園地での人々の行動を表す文章を書く。 ★遊園地での人々の行動を文章に書こう。 ○教科書の絵を見て、遊園地での人々の行動を想像する。</p> <p>○提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく使って、遊園地での人々の様子を伝える文を書く。</p>	<p>【評】既習の漢字を使って文章を作る活動を通して、漢字を文や文章の中で適切に使おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】既習の漢字を使って文章を作る活動を通して、漢字を文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】既習の漢字を使って文章を作る活動を通して、文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。
 (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることで、自分の考えをまとめることができる。
 (3) 表現や構成等に注目して作品世界を捉え、自分の考えを書こうとする。

標準的な展開例

06010206_001

【教材名】やまなし／イーハトーヴの夢 (P. 103～P. 127)

【準備等】宮沢賢治の作品、ワークシート、交流カードや付箋

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>★作品の世界を捉え、自分の考えを書こう。</p> <p>○教科書 (P. 103) の題名や写真から物語を想像する。</p> <p>○「やまなし」の題名と冒頭の一文から情景を想像する。</p> <p>○「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう」という学習課題を設定して、教科書 (P. 124～125) を参考に学習計画を立てる。</p> <p>2～3 「やまなし」の世界を捉える。</p> <p>○「やまなし」を読み、二枚の青い幻灯に描かれた谷川の様子を簡単な絵や図で表す。</p> <p>○感想を交流する。 〈三つのポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場してくるものは何か。 ・作品全体から受けるイメージ。 ・2枚の幻灯 (五月と十二月) の様子の違い。 <p>○資料「イーハトーヴの夢」を読む。</p> <p>○賢治の生き方や考え方について話し合う。</p> <p>4～6 「やまなし」を読み深める。</p> <p>○「五月」の谷川の様子を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「五月」の場面を音読する。 ・谷川の様子が分かる言葉や文を見付け、簡単な絵や図に表す。 ・「かわせみ」の出現で変化していく「かのにの親子」の様子を読み取る。 ・心を引かれる言葉や表現から、その情景を想像する。 <p>○「十二月」の谷川の様子を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「十二月」の場面を音読する。 ・谷川の様子が分かる言葉や文を見付け、簡単な絵や図に表す。 ・「やまなし」の出現で変化していく「かのにの親子」の様子を読み取る。 ・心を引かれる言葉や表現から、その情景を想像する。 <p>○「五月」と「十二月」の違いについて、感じたことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・賢治の作品を数多く用意し、いつでも手に取れるようにしておく。 ・これまでの音読・朗読学習を振り返らせる。 ・宮沢賢治について知っていることを挙げさせる。 ・これから楽しく読み進めていくことができるように、題名や冒頭の一文から受けるイメージについて自由に想像させる。 ・これまでの物語の学習を教科書 (P. 9～10) 「五年生の学びを確かめよう」で振り返らせる。 ・作品を深く読み味わう方法の一つとして、同じ作者の作品を読み広げたり、作者自身の生き方を伝記などで知ったりすることができるということを知らせるとよい。 ・読む前に、三つのポイントを示し、それについて感想を交流することを知らせておく。 ・作品が長文なので、読む時間を十分に取る。 ・教科書にサイドラインを引かせたり、ノートやワークシートにまとめたりすることで、賢治の生き方や考え方に迫らせる。 ・板書するときは、児童から出た意見を、言葉・行動、理想、作品の観点で分類すると分かりやすい。 ・賢治の生き方や考え方の基となった出来事などを、年表にまとめてもよい。 ・「やまなし」に通じるところがないか考えさせる。 ・自分なりに捉えたことを、本文の叙述を根拠にして発表させるようにする。 【評】作者について話し合う活動を通して、その生き方や人物像について想像する「思考・判断・表現」を評価する。 ・かのにの会話や様子、水や光の様子、色、上から来たものに注目させて、五月の谷川の様子を想像させる。 ・明るく動的な雰囲気が表れていることを感じ取らせる。 ・魚の突然の死について、考えさせる。 【評】読み取りの活動を通して、表現の工夫に気付く「知識・技能」を評価する。 ・かのにの子らの成長に気付かせ、言葉と行動に着目させて、情景を読み取らせていく。 ・「五月」同様、かのにの会話や様子、水や光の様子、色、上から来たものに注目させて、十二月の谷川の様子を想像させる。 ・「やまなし」の静かな死について、考えさせる。 ・これまでに、読み味わってきた様子を思い浮かべさせる。 ・上から何かが谷川に入ってくる出来事は同じでも、それによって与えられたものには違い

- 作者がなぜ「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのかを考える。
- 作者が作品に込めた思いや考えについて、自分の考えをまとめる。

7～8 感想を交流する。

- 書いたものをグループで読み、感想を交流する。

- 学習を振り返る。

があることを押さえる。

- ・ 必要に応じて、自分が描いた情景の絵や図を提示させながら、話し合わせてもよい。
- ・ 理由を明確にして、自分の考えをまとめさせる。
- ・ まとめる内容や表現については教科書（P. 124～125）を参考にさせる。

【評】自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 友達の考えと似ているところや、違うけれども納得したところなどを伝え合うようにさせる。

【評】感想を交流する活動を通して、作品の世界を自分なりに捉えようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を確認させる。
- ・ 「この本、読もう」で読書を広げる観点を確かめるとともに、二次元コードを活用して読書への意欲をもたせる。

【 備 考 】

単元名 言葉の変化

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる。
 (3) 時代や世代による言葉の違いについて理解を深め、変化した言葉について調べようとする。

標準的な展開例

06010207_001

【教材名】言葉の変化 (P. 128～P. 129)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 言葉の変化について、2つの視点から考える。</p> <p>★時代や世代による言葉の変化について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時代による言葉の違いがあることを知り、自分の身の回りから例を探して交流する。 ○世代による言葉の違いがあることを知り、例を探して交流する。 <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 (P. 129) 1 の設問に提示された言葉について、違う言い方を調べさせる。 【評】言葉の違いについて考える活動を通して時間の経過や世代による言葉の違いに気付く「知識・技能」を評価する。 ・「いかそう」を読み、誰にでも分かりやすい言葉とはどういうものかを確認させる。 【評】学習を振り返る活動を通して、変化した言葉について調べようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名	季節の言葉3	配当時間	2時間
単元の目標	(1) 語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。 (3) 季節を表す語彙を豊かにし、表現の意図に応じて言葉を吟味しながら俳句や短歌を作ろうとする。		

標準的な展開例	06010208_001
【教材名】秋深し (P. 130～P. 131)	

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 秋から冬へと向かっていく暦を表す言葉やその意味を知り、言葉のもつ語感や使い方に対する感覚に関心をもつ。 ★秋から冬へと向かう季節を表す言葉やその意味を知り、自分が感じる秋について俳句や短歌に表そう。 ○「秋」を感じる言葉を出し合う。 ・二十四節気の「秋」を示す言葉の意味を、解説を読んで確かめる。 ○教科書の短歌や俳句を声に出して読み、おおまかな意味を捉える。 2 自分が感じる秋について、俳句や短歌に表す。 ○俳句や短歌の決まりを確認する。 ○自分の地域で見つけた「秋」が表れるような言葉を選んで俳句や短歌を作る。 ○創作した俳句や短歌を交流し、学習を振り返る。	・五感を働かせて、秋を感じるものを発表させる。 ・教科書（P. 130～131）の写真を使い、その言葉へのイメージをもたせる。 ・五・七・五（・七・七）の十七（三十一）音から成ることを押さえる。 ・前時に挙げたものの中から題材を取り上げ、俳句や短歌に表すようにさせる。 ・画用紙等に清書させ、掲示してもよい。 【評】俳句や短歌を作る活動を通して、季節を表す言葉に関心をもち、使う言葉を吟味しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】俳句や短歌を作る活動を通して、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。 【評】俳句や短歌を作る活動を通して、語感や言葉の使い方の「知識・技能」を評価する。 ・「秋」を感じる表現の仕方に着目して、助言や感想を伝え合わせる。

【 備 考 】

単元名 目的や条件に応じて、計画的に話し合おう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くとともに、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
- (2) 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し、話し合うことで考えを広げたりまとめたりすることができる。
- (3) 言葉を通じて人と関わり、目的や条件に応じて、よりよい解決に向けて見通しをもって話し合おうとする。

標準的な展開例

06010209_001

【教材名】 みんなで楽しく過ごすために／伝えにくいことを伝える

(P. 132～P. 139)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★目的や条件に応じて、計画的に話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでに行ってきた話し合いを想起し、話し合いの仕方について知っていることを出し合う。 ○「目的や条件に応じて、計画的に話し合おう。」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○議題を確かめ、目的や条件をはっきりさせる。 <p>2 話し合いの進行計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○議題を確かめ、話し合いの進行計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・司会や記録係などの役割をグループごとに決める。 ○目的や条件に合わせて、自分の考えを明確にする。 <p>3～5 グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの目的や、それぞれの考えの共通点・相違点、利点・問題点などを明確にする。 ○進行計画に沿って、グループで話し合う。 ○話し合いで決まった仮の結論を実際に試してみて、改善点などについてさらに話し合う。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意見の伝え方について考える。 ○話し合った結果や感想をクラス全体で共有し、学習を振り返る。 ○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 (P. 133) を読み、目的や条件について理解させる。 ・事前に議題箱や日記、作文等から議題になりそうなことを調べておくといよい。また、行事と関連させた議題を取り上げるのもよい。 【評】議題を確かめる活動を通して、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決める「思考・判断・表現」を評価する。 ・話し合いの様子をCDを聞かせることで、役割分担や進行計画についての見通しをもたせる。 ・教科書 (P. 134～135) を読み、主張や理由、根拠が明確になるよう、図や表で整理させる。 ・計画に沿って、考えを広げる話し合いと、考えをまとめる話し合いの仕方を使い分けるようにさせる。 ・ワークシートで視覚的に内容が捉えられるようにしてもよい。 ・話し合いの過程を視覚的に共有できるように教科書 (P. 135) 「記録用紙の例」や、教科書 (P. 254) 「考えを図で表そう」を参考に図や表を使って記録させる。 【評】話し合う活動を通して、情報と情報との関係付けの仕方を理解して使う「知識・技能」を評価する。 【評】話し合う活動を通して、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする「思考・判断・表現」を評価する。 【評】話し合う活動を通して、よりよい解決法を考えようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書 (P. 138～139) 「伝えにくいことを伝える」を読み、それぞれの場面について、表情や口調、表現の仕方などについて考えさせる。 【評】意見の伝え方について考える活動を通して、言葉の働きに気付く「知識・技能」を評価する。 ・目的や条件に応じて話し合うこと、計画的に話し合うことについて、大事なことを振り返らせる。 ・「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。

【 備 考 】

単元名	漢字の広場3	配当時間	1 時間
単元の目標	(1) 第5学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うことができる。 (2) 書き表し方などに着目して，文や文章を整えることができる。 (3) 第5学年までに配当されている漢字を使い，物語を書こうとする。		

標準的な展開例

06010210_001

【教材名】 5年生で習った漢字 3 (P.140)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 作家になったつもりで物語を書く。 ★様子を想像して，冒険の物語を書こう。 ○教科書の絵を見て，魔法使いがどんな冒険をするのかを考え，作家になったつもりで物語を想像する。 ○示された言葉を使い，5年生までに習った漢字を正しく用いて，冒険の物語を完成させ読み合う。	【評】既習の漢字を使った文章を考える活動を通して，文や文章の中で使うことができる「知識・技能」を評価する。 【評】既習の漢字を使った文章を考える活動を通して，文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。 【評】既習の漢字を使った文章を考える活動を通して，漢字を文や文章の中で使おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

【 備 考 】

単元名 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使ったり、比喩や反復などの表現の工夫に気付いたりすることができる。
- (2) 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えたり、引用や図表、グラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができる。
- (3) 構成を工夫してパンフレットを作ろうとする。

標準的な展開例

06010211_001

【教材名】『鳥獣戯画』を読む／調べた情報の用い方／日本文化を発信しよう

(P. 141～P. 157)

【準備等】知多の友、本、新聞、画用紙などの清書用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「『鳥獣戯画』を読む」の範読を聞き、学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>★筆者の見方や表現の工夫を捉え、日本の文化を説明しよう。</p> <p>○教科書 (P. 141) で教材文やリード文から日本文化に対するイメージを広げる。</p> <p>○教科書 (P. 142) の4行目までを聞き、絵を見て気付いたことを話し合う。</p> <p>○「『鳥獣戯画』を読む」の範読を聞き、感想を書く。</p> <p>○学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2～4 「『鳥獣戯画』を読む」を、絵と文章を照らし合わせながら読み、感想や考えをまとめる。</p> <p>○教科書 (P. 150～151) を読み、学習の方法を確認する。</p> <p>○文章と絵を照らし合わせながら、教材文を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵全体の中でどの部分を取り上げているか。 何に着目しているか。 どのようによくと考えているのか。 <p>○「絵」と「絵巻物」について筆者の見方を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者がどのように説明しているか。 どう評価しているか。 <p>○筆者が自分の見方や考え方を伝えるために、どのような表現や構成の工夫をしたかをまとめる。</p> <p>○教科書 (P. 151) 「たいせつ」を読み、筆者の考えと表現の工夫について学んだことを振り返る。</p> <p>5～6 題材を決め、パンフレットづくりの構想を立て、決めた題材について調べる。</p> <p>○文章の読み手を確認して、グループで題材を決める。</p> <p>○どんなパンフレットを作るか構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 読んでもらう相手や目的 パンフレットの大きさ、形、分量など 取り上げる題材や伝えたい思いやよさ <p>○取材方法について知り、決めた題材について調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本単元は「知多の友」に掲載されているので十分に活用したい。 絵を見て、想像したことや発見したこと、感じたことなど自分の捉え方を明確にさせる。 筆者の見方と自分の見方を比較して考えようとする態度をもたせる。 範読を聞かせる前に、筆者がこの絵の何を、どのように感じているのかについて注意して聞くよう、聞く観点を示す。 難語句は、教師が解説を加えながら読んでいく。 筆者の見方を捉え、自分が新しく知ったことや見方が広がったと思うことについて、考えをまとめて発表することを知らせる。 観点ごとに絵と文章を対応させながら読んでいくことを確認させる。 「絵」と「絵巻物」に対する筆者の評価が分かる表現を押さえる。 論の展開、表現の工夫、絵の示し方の点から筆者の表現の工夫について考えさせる。 文の横に線を引かせ、それに対応する絵を同じ色の線で囲ませるなど、視覚的に分かりやすくさせる。 形、大きさ、色、格好の他にも、表現や気持ちに着目させてもよい。 【評】事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 筆者の評価が表れている表現に線を引かせる場合、前出の線と区別させるため、色や線の種類を変えさせたりするとよい。 筆者の評価に対して、自分が絵を見て感じることを比べながら考えさせ、ノートにまとめさせる。 【評】教材文の比喩や反復などの表現の工夫を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 「日本文化」についての題材を考える。 グループで話し合い、題材を決め、決まったことを整理させる。 知多の友 (P. 33) を活用する。 本や新聞、インターネットなどを活用して、

- ・実際に行ってみて、写真を撮る。
- ・詳しい人に話を聞く。
- ・別の人が書いた文章を読んだり、撮ってきた写真や集めた資料を見たりする。

7～8 役割分担や割り付けを決め、下書きを書く。

- 目的に応じてパンフレットの構成を考える。
 - ・表紙、題名、目次、裏表紙など
- 選んだ材料から目的に応じて構成を決め、ページを分担する。
 - ・見出し、リード文、写真や絵、解説
 - ・インタビューの様子 など
- 割り付けを考える。
- 下書きを書く。

- 下書きをグループで読み合い、話し合っ、よいところや書き直すところを意見交換する。

9～10 清書し、パンフレットを完成させる。

- 知多の友に書いた割り付けや下書きを基に、パンフレットを書く。
 - ・見出し文やリード文を書く
 - ・写真を貼る
 - ・解説の文を書く など
- 記事を清書して、パンフレットを完成させる。

11 各グループのパンフレットに対する感想を伝え合い、学習を振り返る。

- 自分の作品の意図を書く。
- 友達とパンフレットを読み合い、学習を振り返る。

情報を集める。

- ・教科書（P.152）を参考に、引用の仕方や出典の示し方、著作権の尊重について確かめる

- ・休日を利用し、実際に見に行ったり、写真を撮ったりしてもよいことを知らせる。
- ・取材したことについては、知多の友（P.34～35）に記録させる。

- ・集めた情報や材料を整理し、パンフレットに使いたいものを選ばせる。
- ・知多の友（P.36）を活用する。
- ・知多の友（P.37）を活用し、グループで話し合い、構成を決め、分担させる。

- ・知多の友（P.38）を活用する。
- ・難しい語句については、国語辞典などを使って調べ、分かりやすい言葉に言い換えさせる

- ・知多の友（P.39）を活用する。
- 【評】調べた内容から引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・知多の友（P.40）を活用する。

- ・何種類かの大きさの画用紙を用意し、構想に合った用紙を選ばせる。

- 【評】見通しをもって必要な情報を集めたり、効果的に伝わるように工夫してパンフレットを作ったりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・意見交換を生かして、パンフレットを作成させる。

- 【評】パンフレットを書く活動を通して、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使う「知識・技能」を評価する。

- ・工夫されていると感じた表現や絵・写真の使い方、今後に生かしたいことなどを伝え合わせるようにする。
- ・知多の友（P.41）を活用する。
- ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。

【 備 考 】

単元名 古典芸能の世界—演じて伝える

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。
(3) 古典芸能について関心をもち、理解を深めて交流しようとする。

標準的な展開例

06010212_001

【教材名】古典芸能の世界—演じて伝える

(P. 158～P. 159)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 古典芸能についての理解を深める。</p> <p>★昔の人が楽しみ、今も続いている演劇について知ろう。</p> <p>○教科書で紹介されている古典芸能についての理解を深める。</p> <p>○さらに知りたくなったことや、見てみたいと思ったものについて交流する。</p>	<p>・児童になかなか馴染みがない場合など、必要に応じて、デジタル教材や二次元コードの資料を利用する。</p> <p>【評】古典芸能について知る活動を通して、昔の人のものの見方や感じ方についての「知識・技能」を評価する。</p> <p>・児童の関心に応じて、家庭学習などで調べさせてもよい。</p> <p>【評】古典芸能について交流する活動を通して古典芸能について理解を深めようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **カンジー博士の漢字学習の秘伝**

配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 第6学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使うことや、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。
(3) 工夫して漢字学習に取り組み、漢字を正しく書こうとする。

標準的な展開例

06010213_001

【教材名】カンジー博士の漢字学習の秘伝

(P. 160～P. 161)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 漢字を学習する秘伝を知り、学習に生かす。</p> <p>★漢字博士を目指そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の学習で、困っていることや、自分なりの工夫などを出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の秘伝について学び、「漢字博士を目指そう」というめあてを立てる。 ○漢字学習の三つの秘伝について、教科書に沿って確認する。 ○「究極の秘伝」を確かめ、教科書（P. 161）の設問に取り組む。 ○漢字学習の秘伝について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に教科書以外の例を考えさせてもよい。 <p>【評】漢字学習の秘伝を知る活動を通して、漢字を身に付けていこうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを準備しておいてもよい。 <p>【評】漢字の問題を解く活動を通して、第6学年までの配当漢字を文章の中で使うことができる「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】漢字の問題を解く活動を通して、送り仮名や仮名遣いを正しく書くことができる「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秘伝について、しばらく教室に掲示しておくことも考えられる。

【 備 考 】

単元名 漢字の広場4

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
 (3) 第5学年までに配当されている漢字を使い、出来事を説明する文章を書こうとする。

標準的な展開例

06010214_001

【教材名】 5年生で習った漢字4 (P.162)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書 (P.162) の絵を見ながら、テレビ局で見学したことについて、家の人に伝える文章を書く。</p> <p>★テレビ局で見学したことについて、家の人に分かりやすく伝える文章を書こう。</p> <p>○教科書の絵と言葉を見て、テレビ局で見学したことについて、家の人に伝えたいことを考える。</p> <p>○提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく使って文章を書く。</p>	<p>【評】 既習の漢字を使った文章を考える活動を通して、文や文章の中で使うことができる「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 既習の漢字を使った文章を考える活動を通して、文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 既習の漢字を使った文章を考える活動を通して、漢字を文や文章の中で使おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名 伝統文化を楽しもう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむとともに、作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。
- (2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
- (3) 狂言や昔の人のものの見方・考え方への理解を深め、「柿山伏」を音読しようとする。

標準的な展開例

06010215_001

【教材名】狂言 柿山伏／「柿山伏」について (P. 163～P. 175)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★狂言を楽しみ、音読しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 (P. 163) で、題名やリード文、写真から狂言についてのイメージを広げる。 「狂言 柿山伏」の朗読CDを聞き、関心をもった点や疑問点などを交流する。 「狂言を楽しみ、音読しよう」という学習課題を設定し学習計画を立てる。 <p>2 「柿山伏」や「『柿山伏』について」を読み、狂言独特の言葉遣いや言い回しについて気付いたり、昔の人のものの見方や感じ方を知ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「狂言 柿山伏」を音読し、独特の表現と話の筋を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 狂言独特の言葉遣いや言い回しについて、現代の言葉遣いと比べて、思ったことや気付いたことを発表する。 「『柿山伏』について」を読み、理解を深めるとともに昔の人のものの見方や感じ方を知る。 狂言のおもしろさについて考える。 <p>3 グループで「柿山伏」の好きな場面を選び、音読の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな場面を選び、グループを決める。 グループで役割を決め、音読の練習をする。 <p>4 音読の発表をし、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読の発表をする。 学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「柿山伏」の動画があれば視聴させたい。 教科書に載っている能舞台の写真を使って、狂言が演じられる場を押さえさせる。 登場人物や話の組み立てをつかませる。 教科書の脚注にある言葉の説明にも触れ、話の内容をつかませる。 【評】「狂言 柿山伏」を音読する活動を通して、言葉の響きやリズムに親しむ「知識・技能」を評価する。 狂言が伝えたいこと、時代背景が違ってても今と変わらないもの、時代背景が違うが故に今とは違う見方や感じ方があることを理解させる。 【評】「『柿山伏』について」を読む活動を通して、昔の人のものの見方や感じ方についての「知識・技能」を評価する。 この後の音読発表の交流に意欲がもてるように、狂言の魅力を十分に理解させたい。 【評】狂言のおもしろさについて考える活動を通して、表現の効果などを考える「思考・判断・表現」を評価する。 4人程度のグループを組ませる。 学級の実態に応じて、グループごとに好きな場面を選ばせてもよい。 せりふに合ったふりを付けさせたり、演じさせたりしてもよい。 どんなところを工夫して音読しているかを考えながら聞かせる。 【評】音読を発表する活動を通して、現代とは異なる昔の人のものの見方・考え方を知らうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 音読発表の感想を交流し、狂言や昔の人のものの見方・感じ方について、感じたことや考えたことをまとめる。

【 備 考 】

単元名 書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
 (2) 目的や意図に応じて書くとともに、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
 (3) 座右の銘に対する認識を深めるとともに、書き表し方を工夫しようとする。

標準的な展開例

06010216_001

【教材名】大切にしたい言葉 (P. 176～P. 180)

【準備等】知多の友、原稿用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ★これまでに会った大切にしたい言葉を考えよう。 ○「座右の銘」について知り、学習の計画を立てる。</p> <p>○これまでに会った忘れられない言葉を知多の友 (P. 45) に書き出す ・だれかに言われた言葉 ・本や新聞などで読んだ言葉 ・テレビやラジオ、映画などで見聞きした言葉 ・好きな歌の歌詞 など</p> <p>2 座右の銘にしたい言葉を決める。 ○選んだ言葉とそれに結び付く経験、大切にしたい理由を知多の友 (P. 46) に書く。</p> <p>3～5 文章構成を考え、内容の順序を考えたり、工夫したりして書く。 ○「初め・中・終わり」にそれぞれ何を書くか、教科書 (P. 177) を参考にして、知多の友 (P. 46) の組み立てメモにまとめる。 ○文章構成の工夫を考える。 ・経験や見聞きした事実 ・自分にとっての意味 など ○読む人に分かりやすくなるように、具体的な表現を取り入れて書く。 ・読み手を引きつける書き出し ・具体的に書くこと ・印象に残った事実とそのときに考えたことや感じたこと ・自分にとって、その出来事の意味 など ○読み合い、推敲する。 ・詳しく書くとよいところや、自分の考えを表すのにふさわしい言葉を吟味する。 ○書き表し方を工夫して清書する。</p> <p>6 読み合って感想を伝え、学習を振り返る。 ○心を動かされた内容や表現について伝え合う。</p> <p>○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。 ・読み手に伝わるように工夫した書き方 ・まねしてみたい表現の工夫</p>	<p>・本単元は「知多の友」に掲載されているので十分に活用したい。 ・「座右の銘」とは何かを知らせ、6年間で出会った大切にしたい言葉を思い出させる。 ・「これまでに会った忘れられない言葉」を題材として、経験と結び付けて文章を書くことを知らせる。 ・知多の友 (P. 45) を活用する。</p> <p>・知多の友 (P. 46) を活用する。 ・座右の銘にしたい言葉、出会ったときのこと大切にしたい理由を思い出させる。 【評】書く題材を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 46) を活用する。 ・出来事の順序や書き出しの工夫についても確認させる。 ・具体的な表現を心がけさせ、読む人がよく分かるようにさせる。</p> <p>・書き始めに苦労している児童には、書き出しのパターンをいくつか提示するとよい。 ・組み立てメモを参考にして、知多の友 (P. 47～50) に下書きさせる。 【評】目的や意図に応じて、伝えたいことが明確になるように工夫して書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・友達と読み合い、書き直した方がいいところを赤字で書かせる。</p> <p>・清書には、原稿用紙を使うとよい。 【評】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・書き出しの工夫や比喻表現を見付けて友達の作品のよさについて気付かせる。 ・知多の友 (P. 51) を活用する。 ・自分の文章を振り返って、まとめさせる。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字の広場5

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
 (3) 第5学年までに配当されている漢字を使い、出来事を説明する文章を書こうとする。

標準的な展開例

06010217_001

【教材名】 5年生で習った漢字5 (P.181)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 商店街の通りやお店の中の様子を文章に書く。 ★会話をに入れて、商店街の通りやお店の中の様子を文章に書こう。 ○教科書(P.181)の絵を見て、商店街の通りやお店の中の様子や会話を想像する。 ○提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく使って文章を書く。</p>	<p>【評】既習の漢字を使った文章を考える活動を通して、文や文章の中で使うことができる「知識・技能」を評価する。 【評】既習の漢字を使った文章を考える活動を通して、文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。 【評】既習の漢字を使った文章を考える活動を通して、漢字を文や文章の中で使おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名	季節の言葉4	配当時間	2時間
単元の目標	(1) 語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。 (3) 季節を表す語彙を豊かにし、意図に応じて言葉を吟味しながら手紙を書こうとする。		

標準的な展開例

06010218_001

【教材名】 冬のおとずれ (P. 182～P. 183)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～2 冬から春へと向かっていく暦を表す言葉やその意味を知り、言葉のもつ語感や使い方に対して関心をもつ。 ★季節の様子を入れて、手紙を書こう。 ○冬のイメージを広げる。 ・二十四節気の意味を確かめ、教科書の中の短歌や俳句を音読する。 ○自分が「冬」を感じる言葉を考える。 ○自分が住む地域の「冬」の様子を手紙に書く。 ○互いの手紙を読み合う。 ○学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none">・五感を働かせて、冬を感じるものを発表させる。・教科書（P. 182～183）の写真を使い、その言葉へのイメージをもたせる。 <p>【評】手紙を書く活動を通して、季節を表す言葉に関心を持ち、使う言葉を吟味しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】手紙を書く活動を通して、伝えたいことを明確にする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】手紙を書く活動を通して、語感や言葉の使い方の「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none">・感想を伝え合わせ、「冬」を感じる言葉について、認識を広げたり深めたりさせる。・実際に渡したり郵送したりさせてもよい。その際は、目的意識の一つとして活動の初めに伝えておく。

【 備 考 】

単元名 詩の楽しみ方を見つけよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 自分が感じたことが伝わるように、詩を朗読することができる。
 (2) 詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
 (3) 自分が感じたことが伝わるように朗読の仕方を考え、気に入った詩を紹介しようとする。

標準的な展開例

06010301_001

【教材名】詩を朗読してしょうかいしよう

(P. 184～P. 185)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 詩を読んで、朗読の仕方を考える。 ★お気に入りの詩を朗読して紹介しよう。 ○詩を読み、感じたことや考えたことを交流する。 ○どのようにすれば感じたことや考えたことが表現できるか、朗読の仕方を考える。</p> <p>○お気に入りの詩を選び、朗読の練習をする。</p> <p>2 お気に入りの詩を朗読し、紹介する。 ○お気に入りの詩について、朗読の練習をする。</p> <p>○お気に入りの詩を朗読し、友達に紹介する。</p> <p>○活動を振り返る。</p>	<p>【評】朗読の仕方を考える活動を通して、表現の効果を考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・詩に表現されたことと、自分の気持ちが重なることについて考えさせる。 ・その詩を選んだ理由や、感じたこと、考えたことも述べさせる。</p> <p>【評】詩を朗読する活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・これからどのように詩を楽しんでいこうと考えているかを書かせる。</p>

【 備 考 】

単元名 仮名の由来

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 仮名の由来，特質などについて理解することができる。
 (3) 仮名の由来や特質に対する理解を深め，適切に文字を読んだり書いたりしようとする。

標準的な展開例

06010302_001

【教材名】 仮名の由来 (P. 186～P. 188)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 平仮名・片仮名の由来について理解する。</p> <p>★日本で使われる文字について理解しよう。</p> <p>○身の回りの仮名について想起する。</p> <p>○仮名の由来について知る。</p> <p>○教科書（P. 188）の一覧を見ながら，万葉仮名から平仮名・片仮名への変化について理解する。</p> <p>○「いかそう」を読み，学習を振り返る。</p>	<p>・教科書（P. 186～187）を読み，どのようにして仮名ができたか，歴史の流れを押さえながら理解させる。</p> <p>【評】仮名の由来について知る活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・万葉仮名のみを提示し，どの平仮名か当てるクイズをするなど，興味をもって活動できるようにする。</p> <p>【評】仮名の由来について知る活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。
 (2) 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、その意見や感想を共有し、考えを広げることができる。
 (3) 複数の文章を読んで自分の考えを広げ、互いの意見を交流しようとする。

標準的な展開例

06010303_001

【教材名】メディアと人間社会／大切な人と深くつながるために／プログラミングで未来を創る (P. 189～P. 200)

(P

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう。 ○教科書 (P. 189) の題名やリード文から、これから読む文章の内容や考えていくことをイメージする。 ○「これまでの学習」を参考にしながら、説明的な文章を読んで自分の考えをもつという学習経験を振り返る。 ○「筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 二つの教材文の要旨を捉える。 ○「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」の要旨を捉える。</p> <p>○二つの教材文を読み、これからの社会を生きていくという観点から感想を交流する。</p> <p>3～4 二つの教材文を比べて読む。 ○二つの教材文を読む。</p> <p>○二つの文章を比べ、筆者がどのようにして自分の考えを伝えようとしているかを考える。</p> <p>○二人の筆者の考えの共通点や相違点を考える。</p> <p>○自分の知識や経験などと比べて、気付いたことや考えたことを書き出す。</p> <p>5～6 自分の意見をまとめ、交流する。 ○「これからの社会でどう生きていくか」ということについて、筆者の考えをふまえて自分の意見をまとめる。</p> <p>○各自の意見をグループで交流する。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・二つの文章をもとに、これからの社会を生きていく上で、自分自身が大切だと思うことを考えていくことを確認する。</p> <p>・それぞれの文章で、筆者が最も伝えたいことは何で、それがどこに書いてあるかを考えさせる。 【評】教材文を読む活動を通して、文章全体の構成を捉え、要旨を把握する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・自分の知識や経験と比べて気付いたことや、自分の考えとの共通点や相違点などについて交流させる。</p> <p>・教科書 (P. 196) を読み、二つの教材文を比べて読む観点を確認させる。</p> <p>・論の展開や構成の工夫、事例の挙げ方、表現の特徴について話し合わせる。 【評】二つの文章を比べて読む活動を通して、文章の構成や展開を理解する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・共通点や相違点を示すサイドラインを色分けして文章に引かせてもよい。 【評】共通点や相違点を考える活動を通して、自分の考えを広げていこうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・自身の経験をふまえて書くことができない児童に対して、書けている児童に発表させたり教師が自身の経験について話したりするなどして、考えをもてるようにしてもよい。</p> <p>・教科書 (P. 199～200) 「プログラミングで未来を創る」や、「この本、読もう」で取り上げられている本を読んで、参考にさせる。</p> <p>・これからの社会を生きていくために大切なことや、自分ができること、すべきことについて考えさせる。 【評】自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・考えが広がったことについて、学級全体でも共有し、感想を伝え合わせる。 【評】文章を読んでまとめた意見や感想を交流する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 漢字を正しく使えるように

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第6学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。
(3) 第6学年に配当されている漢字の学習に取り組み、同じ読み方をする漢字を正しく使おうとする。

標準的な展開例

06010304_001

【教材名】漢字を正しく使えるように

(P. 201～P. 203)

【準備等】国語辞典、漢字辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 適切な漢字を書くための方法に倣い、漢字を適切に選んだり、書き換えたりする。 ★漢字の意味を考えて、適切な漢字を使おう。 ○「同じ読み方をする漢字」を使うときに、迷った経験を話し合う。 ○教科書 (P. 201～202)「訓読みの場合」について、適切な漢字を書くための方法を知り、正しい漢字を選び、ノートに書く。 ・漢語で言い表してみる。 ・別の訓読みで言い表してみる。 ・熟語を考えてみる。 ○教科書 (P. 202)「音読みの場合」について、適切な漢字を書くための方法を知り、正しい漢字を選び、ノートに書く。 ・訓読みを考えてみる。</p> <p>○教科書 (P. 202)の漢字を正しく書き直す。 ・小かげ→木かげ ・独り事→独り言 ・成課→成果 ・感心→関心</p> <p>2 教科書 (P. 203)「覚えておきたい言葉」の意味を理解する。 ○「覚えておきたい言葉」の意味調べをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に意見を出させることで、「同じ読み方をする漢字」に関心をもたせる。 ・教科書に書かれている例を参考にさせながら正しい漢字を選ばせる。 <p>【評】適切な漢字を選ぶ活動を通して、漢字を正しく使おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に書かれている例を参考にさせながら正しい漢字を選ばせる。 ・教科書 (P. 202)の問題に取り組ませる。 ・困っている児童には、「つとめる→とりよくする」などの、ヒントカードを用意するとよい。 ・正しい漢字をノートに書かせる。 ・これまでの学習を基に、どのように考えて直したのかということも発表させるとよい。 <p>【評】漢字を正しく書き直す活動を通して、既習の漢字を文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ家から辞書を持ってくるようにさせるか、図書室などで全員分の辞書を用意しておく。 ・辞書を引いて意味を確認させるだけでなく、漢字を書くこともさせる。 ・学級の実態に応じて、ペアやグループなどで行うなどさせてもよい。

【 備 考 】

単元名 人を引きつける表現

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことや、語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にし、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
- (3) 比喻や反復などの表現の工夫をして、説明する文章を書こうとする。

標準的な展開例

06010305_001

【教材名】人を引きつける表現 (P. 204～P. 207)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 表現の工夫を知る。</p> <p>★気に入った表現について説明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で目にする「人を引きつける表現」を想起する。 言葉について考えることを確認し、「気に入った表現について説明しよう」というめあてを立てる。 教材文を読み、さまざまな表現の工夫があることを捉える。 <p>2気に入った表現について説明する文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書にある物語や詩、文章から、心が引かれる表現を見つけて書き写す。 選んだ表現について、どのような工夫や効果があり、自分がどう感じるのかを書く。 <p>3書いた文章を交流し、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を友達と読み合う。 <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習の教材文や歌の歌詞、CMなどのキャッチコピーなどを思い出させる。 表現の工夫は新たに学ぶことではなく、倒置法や反復、比喻やオノマトペなど、既習の文章の中で出会っていることを確認する。 五七調など、調子のよいリズムについては声に出して確かめさせたい。 表現を変えるとどのように印象が変わるかも試させる。 【評】教材文を読む活動を通して、表現の工夫に気付く「知識・技能」を評価する。 前時までに資料を準備するように予告しておく。 学級の実態に応じて、ペアやグループで考えさせてもよい。 【評】表現について書く活動を通して、語感や言葉の使い方に対する「知識・技能」を評価する。 【評】表現について書く活動を通して、文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。 【評】表現について書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 友達に感想を伝える活動も考えられる。その際には書いた本人の感覚を尊重する。異なる意見を伝える場合には、あくまで自分の考え方であるとして配慮させる。 人を引きつける表現について、これから自分がどのように向き合っていきたいかを書かせる。

【 備 考 】

単元名 形式と表現を工夫して書こう

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。
 (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。
 (3) 学校生活の思い出を作品にし、自分の思いを効果的に伝えようとする。

標準的な展開例

06010306_001

【教材名】思い出を言葉に (P. 208～P. 211)

【準備等】知多の友、清書用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しを立てる。 ★小学校生活を振り返り、心に残っていることを書いて伝えよう。 ○6年間の小学校生活で印象に残った出来事について話し合う。 ・学習 ・行事 ・委員会、クラブ など ○これまでの「書くこと」の学習で身に付けてきたことを振り返る。 ○教科書 (P. 208～211) を読み、学習の進め方を知る。 ○学習計画を立てる。</p> <p>2～3 伝えたいことを明確にする。 ○印象に残っている出来事を詳しく思い出す。 ○思い出した内容の中から何を中心に取り上げるのかを考える。 ○内容と構成を考え、「初め・中・終わり」に何を書くかをまとめる。</p> <p>4～6 形式を決め、表現を工夫して書く。 ○効果的に伝わるような表現の工夫を考える。 ・様子や心情により適した言葉 ・比喩やくり返し ・言葉や文の順序 ・言葉のリズムを整える など ○誤字脱字等がないか確かめ、推敲する。 ・詳しく書くとよいところや、自分の考えを表すのにふさわしい言葉を吟味する。 ○書き表し方を工夫して清書する。</p> <p>7 読み合って感想を交流し、学習を振り返る。 ○どの表現から、どんな思いが伝わってきたのかが分かるように伝え合う。 ○「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。 ・使ってみたい表現</p>	<p>・本単元は「知多の友」に掲載されているので十分に活用したい。</p> <p>・より多くの意見を取り上げることで、さまざまな角度からたくさんの思いをふくらませることができるようにする。 ・知多の友 (P. 53) を活用する。</p> <p>・これまでの学習を振り返らせながら、構成や表現を工夫して、今の思いが伝わるように書くというめあてをもたせる。</p> <p>・テーマを1つ選ばせる。</p> <p>・自分にとっての意味や価値などを考えて、伝えたいことを詳しく思い出させる。</p> <p>・知多の友 (P. 54) を活用する。 ・構成では「初め・中・終わり」を押さえる。</p> <p>・伝えたいことの中心をはっきりさせ、文章の構成を考えさせる。</p> <p>・知多の友 (P. 55～57) を活用する。 ・教科書 (P. 204) 「人を引きつける表現」、教科書 (P. 307～310) 「言葉の宝箱」を参考にさせる。 ・読み手の印象に残るように、特に伝えたいところについては、書き方についても工夫させる。</p> <p>【評】比喩や反復などの表現の工夫をして書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・声に出して読むなどして、確かめさせるとよい。</p> <p>【評】使う言葉を吟味しながら、学校生活の思い出を作品にする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・読みやすい字で丁寧に清書させる。</p> <p>【評】清書する活動を通して、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことが明確になるように工夫して書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・比喩や反復などの表現の工夫に気付かせるようにする。 ・友達の表現の工夫から、自分が使ってみたい表現を考えさせる。 ・感想を伝え合うことで、自分の作品のよさを見付けさせる。 ・教科書 (P. 211) 「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p>

【 備 考 】

単元名 資料を使って、効果的なスピーチをしよう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解することができる。
- (2) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫するとともに、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。
- (3) 資料を活用して自分の考えを表現し、聞き手の知識や反応等に応じてより効果的なスピーチにしようとする。

標準的な展開例

06010307_001

【教材名】今、私は、ぼくは (P. 212～P. 215)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>★資料を使って、効果的なスピーチをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「将来どんな自分でありたいか」について意見を出し合う。 ○教科書 (P. 7) 「五年生の学びを確かめよう」を見るなどして、これまでの「話すこと・聞くこと」の学習を振り返り、「資料を使って、効果的なスピーチをしよう。」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○教科書 (P. 212) を読み、学習の手順を知る。 <p>2 スピーチの内容と構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スピーチの話題を決め、内容を整理する。 ○発表の仕方を確認する。 ○スピーチの内容と構成を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい思いは何か。 ・初め・中・終わりに話すことは何か。 ・話し始めをどうするか。 ○発表に必要な資料について知る。 <p>3～4 構成を基に原稿を作り、資料を準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○CDを聞き、スピーチの様子を捉える。 ○構成を考えて、スピーチメモを作る。 ○教科書 (P. 214) 「矢島さんの提示する資料」を読み、資料を準備する。 <ul style="list-style-type: none"> ・図表 ・写真や絵など ○スピーチの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい速さ ・声の大きさや強弱 ・発音、声の高さや低さ ・声の調子 ・間の取り方 ・姿勢、視線、表情など 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの意見を取り上げることで、さまざまな角度からたくさんの思いをふくらませることができるようにする。 ・これまでのスピーチを振り返らせながら、話の構成や話し方を工夫して、今の思いが伝わるように資料を活用してスピーチするというめあてをもたせる。 ・構成では「初め・中・終わり」を押さえる。 ・みんなで出し合った「将来どんな自分でありたいか」を基に、スピーチの話題を決めさせる。 ・スピーチは、いつ、誰に向けて、どのような場で、一人何分ほどで話すのかを明確にすることにより、見通しをもたせる。 ・教科書 (P. 213) 「矢島さんのスピーチメモ」を参考に、「初め・中・終わり」の大体の内容を考える。 ・伝えたいことの中心をはっきりさせ、スピーチの構成を考えさせる。 ・話し始めの例をいくつか挙げ、組み立てを考える必要感をもたせる。 【評】スピーチの内容と構成を考える活動を通して、話の構成や展開についての「知識・技能」を評価する。 ・教科書 (P. 213) 「矢島さんの提示する資料」を参考に、次時以降に準備していけるように確認する。 ・CDを聞きながら、気付いたことや自分が取り入れたいことなどをメモさせる。 ・話し言葉で表現させる。 ・児童の実態に合わせて、原稿をある程度覚えさせるのか、スピーチメモを基に語らせるのかを決めるとよい。 【評】スピーチメモを作る活動を通して、話の構成を考える「思考・判断・表現」を評価する。 ・聞き手の印象に残るように、聞き手に合わせて情報をしぼり、図表等を積極的に用いて提示資料を作る。 ・特に伝えたいところについては、資料の書き方についても工夫させる。 ・用紙として見せる資料だけでなく、実物や実演、写真の提示、黒板に書き写すなどの工夫について知らせてもよい。 ・教科書 (P. 264) 「デジタル機器を使って、プレゼンテーションをしよう」を参考にしてもよい。 【評】資料を準備する活動を通して、表現を工夫する「思考・判断・表現」を評価する。 ・聞き手の心に届くスピーチにするために、使う言葉や話し方、資料の見せ方など、工夫したいことをスピーチメモに書き込む。 ・教室の四隅を活用したり、衝立を用いて発表ブースを作ったりするなど、学習形態を工夫することで、集中して練習に取り組めるようにする。

- 5～6 スピーチの会を開き，学習を振り返る。
- 話し手・聞き手の心構えについて確認する。
 - ・話し手……話し方を工夫し，聞き手によく分かるように話す。
 - ・聞き手……話し手の意図を考えながら聞く。
 - スピーチの会を開く。
- スピーチの会を振り返り，感想をまとめる。

- ・グループで練習させ，お互いに助言させてもよい。
- ・話し手・聞き手の心構えがひと目で分かるように，黒板に示す。
- ・プログラムに従い，スピーチを進めさせる。
- ・簡単なメッセージカードを用意し，聞き手を感じたことや考えたことを書かせ，話し手に渡すと，自分のスピーチが聞く人の心に届いたという実感をもたせることができる。
- 【評】スピーチ活動を通して，資料を活用して自分の考えを表現しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・マイナスの面よりもプラスの面が見付けられるように，声をかける。
- ・プラスの面が見付けられない児童には，教師がよくできたところを賞賛するようにする。
- ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに，「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。

【 備 考 】

単元名 漢字の広場6

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。
 (2) 書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
 (3) 第5学年までに配当されている漢字を使い、文章を書こうとする。

標準的な展開例

06010308_001

【教材名】 5年生で習った漢字6 (P.216)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 絵を見て、小学校生活の出来事について、どんなことがあったか、そのときどんな気持ちだったかを文章に書く。 ★小学校生活における出来事と、そのときの気持ちを文章に書こう。 ○教科書の絵を見て、いつ、どこで、どんなことがあったのか、学校の場面の様子を想像する。 ○提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、例にならって文章を書く。</p>	<p>【評】既習の漢字を使った文章を考える活動を通して、文や文章の中で使うことができる「知識・技能」を評価する。 【評】既習の漢字を使った文章を考える活動を通して、文や文章を整える「思考・判断・表現」を評価する。 【評】既習の漢字を使った文章を考える活動を通して、漢字を文や文章の中で使おうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、その意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
- (3) 登場人物の関係等に着目して自分の考えを広げ、互いの意見を交流しようとする。

標準的な展開例

06010309_001

【教材名】海の命 (P. 217～P. 232)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題を確認し、学習の計画を立てる。</p> <p>★登場人物の関係を捉え、人物の生き方について話し合おう。</p> <p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○「海の命」という題名から、想像したことを発表する。</p> <p>○全文を通読し、心に残ったところや疑問に思ったところなどを交流する。</p> <p>○「これまでの学習」を参考に、これまでの文学的な文章の学習を振り返り、「登場人物の関係を捉え、人物の生き方について話し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2～4 「海の命」を読み、登場人物の相互関係や心情を読み取る。</p> <p>○物語の設定を確かめ、構成と内容を捉える。</p> <p>○登場人物の生き方や関係を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父 ・与吉じいさ ・母 <p>○物語の山場を読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「瀬の主」と対峙したときの「太一」の心情やその変化を考える。 ・「太一」が「瀬の主」を殺さなかった理由や、「海の命」が表すものについて、考えを交流する。 <p>5～6 登場人物の生き方について、自分の考えを文章にまとめ、互いに交流する。</p> <p>○それぞれの登場人物の生き方について考え、それに対する自分の考えをまとめる。</p> <p>○登場人物の生き方について考えたことを、グループで話し合う。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・教科書(P. 217)で、題名やリード文、挿絵から物語の内容を想像させる。</p> <p>・題名から想像させることで、物語への興味をもたせる。</p> <p>・教科書(P. 232)の「たいせつ」を読ませ、「物語の読みを広げる」視点について確認させる。</p> <p>・「太一」と他の登場人物との関係を、行動や会話、情景に着目してまとめる。</p> <p>・それぞれの人物がどんな人かが分かるところに線を引かせる。</p> <p>・「はばかり」「こときれる」など分からない言葉は、国語辞典で意味を調べさせる。</p> <p>・事前に、家庭学習などで意味調べをさせておくことも考えられる。</p> <p>・ワークシートにまとめさせる。</p> <p>【評】登場人物の生き方や関係を捉える活動を通して、表現の効果を考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・人物の行動や会話、様子などを表す表現を関連づけ、その人物の考え方を想像させる。</p> <p>・一つの事柄に対する複数の人の見方を比べると、その人物らしさがはっきりすることを確認する。</p> <p>【評】作品を読み深める活動を通して、互いの意見を交流しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「海の命」を読んで印象に残った人物の生き方について、文章にまとめさせる。</p> <p>【評】自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】自分の考えをまとめる活動を通して、語感や言葉の使い方に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・まず、書いた文章を読み合わせしてから話し合ってもよい。</p> <p>【評】話し合う活動を通して、自分の考えを広げる「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・他者の考えにふれて考えが広がったことや、初めて読んだときに感じたことなどについて学習後の自分の考えの変容を意識しながら学習感想を書かせる。</p> <p>・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p> <p>・「この本、読もう」で、読書への意欲をもたせる。</p>

【 備 考 】

単元名 卒業するみなさんへ

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 比喻や反復などの表現の工夫に気付き、自分が思ったことや考えたことが伝わるように詩を朗読することができる。

(2) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げたり、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめたりすることができる。

(3) 読んで考えたことを共有し、今までに学んだ言葉の力を振り返って、言葉をよりよく使おうとする。

標準的な展開例

06010310_001

【教材名】中学校へつなげよう／生きる／今、あなたに考えてほしいこと

(P. 233～P. 246)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 6年間で身に付けた国語の力を振り返り、学習の見直しをもつ。</p> <p>★詩と文章を読んで、感じたことを伝え合おう。</p> <p>○学習の見直しをもつ。</p> <p>○「中学校へつなげよう」で、6年間の国語学習を振り返り、身に付けた言葉の力を整理する。</p> <p>○学習課題を知り、学習の見直しをもつ。</p> <p>○二つの教材について知る。</p> <p>2 二つの教材を基に、学習課題を決め、学習を進める。</p> <p>○「生きる」「今、あなたに考えてほしいこと」を読み、それぞれのメッセージとその共通点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「命」についての考え方 ・「生きること」や「生き方」について ・自分にとっての「生きる」とは何か など <p>○自分で取り組みたい学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>○学習計画に沿って、学習を進める。</p> <p>○交流会に向けて準備をする。</p> <p>3～4 学習交流会をする。</p> <p>○交流会のめあて「友達の考えを聞き、自分の考えを深めよう」を確認する。</p> <p>○学習交流会を開き、自分の考えを深める。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>・教科書 (P. 233) で、教材名やリード文から単元で考えていくことをイメージさせる。</p> <p>・教科書 (P. 6) の「六年生の国語の学びを見わたそう」、教科書 (P. 248) の「たいせつ」のまとめを参考にさせる。</p> <p>【評】6年間の国語学習を振り返る活動を通して、言葉をよりよく使っていこうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・二つの教材から一つを選んで学習を進め、最後に学習交流会を開くことを知らせる。</p> <p>・二つの教材について、範読したり作品の概要を知らせたりして、興味・関心をもたせる。</p> <p>・次時までには、自分が学習したい教材を選ばせておく。</p> <p>・「生きる」は、朗読を取り入れるとよい。</p> <p>・共通点を意識させながら、学習を進めさせる</p> <p>・分かりづらい言葉については、国語辞典を使って調べながら、学習を進めさせる。</p> <p>【評】交流会の準備をする活動を通して、表現の工夫に気付く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・学習の成果をまとめさせる。</p> <p>・必要に応じて、提示資料を作らせてもよい。</p> <p>【評】交流会の準備をする活動を通して、自分の考えをまとめる「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書 (P. 234～235) 「中学校へつなげよう」で、「話す・聞く」について確認させ、本時の学習に生かすようにさせる。</p> <p>・共通点について確認させ、自分の考えと比べながら聞かせるようにする。</p> <p>・それぞれの作品を読んで感じたことや、自分がこれからどう生きていきたいかについて考えを交流させる。</p> <p>・発表形態については、クラスの実態に応じて少人数のグループにしたり、クラスを二つに分けたり、クラス全体で行ったりする。</p> <p>【評】学習交流会を通して、自分の思いが伝わるように詩を朗読する「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】学習交流会を通して、自分の考えを広げようとする「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・自分で学習を計画し、実行できたことを確かめさせる。</p> <p>・改めて6年間の国語学習を振り返り、これか</p>

らの生活や学習に向けて取り組んでいきたい
ことを考えさせる。

【 備 考 】

令和2年度 知多地方教育計画案

国語（書写）科

国 語（書 写）科

1 教科の目標

- (1) 日常生活に必要な文字について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や表現力を養う。
- (3) 文字がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、文字の大切さを自覚し、文字を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

文字を書く基礎となる「姿勢」、「筆記具の持ち方」、「点画や一文字の書き方」、「筆順」などの事項から、「文字の集まりの書き方」に関する事項へと系統的に指導し、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要となる。

2 指導要領における内容の取り扱い

(1) 内容の取り扱いについての配慮事項

- ① 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮する。
- ② 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行う。
- ③ 毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単位時間程度を配当するとともに、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導する。
- ④ 第1学年及び第2学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導の工夫をする。

(2) 具体的事項

- ① 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育成する。文字を正しく整えて書くことができるようにすることに加えて、書写の学習で身に付けた資質・能力を様々な場面で積極的に生かす態度を育成することが重要である。例えば、学習したことをノートに書いたり、調べたことを模造紙等にまとめたりすること、手紙を書くことなどがある。また、書き初めに取り組むことなどを通して、書写の能力が生活の中の様々な行事に生きていることを実感することも大切である。
- ② 硬筆を使用する書写の指導は、必要に応じて、取り立てて指導したり、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」と関連付けて指導したりして、確実に実施することが必要である。
- ③ 毛筆を使用する書写の指導においては、硬筆による書写の能力の基礎を養うように指導することが重要である。毛筆を使用する書写の指導が、毛筆書写の能力の育成で完結して

しまうことがないように、硬筆との関連的な指導の工夫をすることが大切である。

- ④ 低学年の〔知識及び技能〕の(3)ウ(イ)における「点画の書き方や文字の形に注意しながら」書くことの指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫する。例えば、水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなどして、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための関連的な指導を行う。「点画」の始筆から、送筆、終筆(とめ、はね、はらい)までの一連の動作を繰り返し練習することは、学習活動や日常生活において、硬筆で適切に運筆する習慣の定着につながる。水書用筆等を使用する指導は、第3学年から始まる毛筆を使用する書写の指導への移行を円滑にすることにもつながる。

(3) 具体的な指導内容

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
指導事項	<p>○姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。</p> <p>○点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。</p> <p>○点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。</p>	<p>○文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。</p> <p>○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。</p> <p>○毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め筆圧などに注意して書くこと。</p>	<p>○用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。</p> <p>○毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p> <p>○目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p>

第１・２学年 国語（書写）科

１ 学年の目標

- (1) 日常生活に必要な文字について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や表現力を養う。
- (3) 文字がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、文字の大切さを自覚し、文字を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

確実な文字の活用の力を獲得させるために、水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなどして、硬筆書写の能力を高めるための指導を工夫したり、姿勢、筆記具の持ち方、正しく丁寧に書く態度、筆順等の指導を綿密に行い、習慣化することが大切である。

２ 内容及び内容の取扱い

(1) 内容

- ① 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書く。

以下の事項について理解し使うこと。

姿勢	背筋を伸ばした状態で体を安定させ、書く位置と目の距離を適度に取り、筆記具を持ったときに筆先が見えるようにする。
筆記具の持ち方	主に鉛筆やフェルトペンを使用し、人差し指と親指と中指の位置、手首の状態や鉛筆の軸の角度などを適切にし、持ち方を正しくして書く。

- ② 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書く。

以下の事項について理解し使うこと。

点画の書き方	点画の始筆と終筆の書き方に注意し、書き方を意識しながら読みやすく、丁寧に書く。
文字の形	文字のおおよその形(概形)を把握して書く。
筆順	「上から下へ」、「左から右へ」、「横から縦へ」といった筆順に従って、字形を形成していく過程を意識して書く。

- ③ 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書く。

以下の事項について理解し使うこと。

点画相互の接し方や交わり方、長短や方向	点画が接したり交わったりする位置や、点画の長さや向きについて点画相互の関係性を理解して書く。
---------------------	--

(2) 内容の取り扱い

- ① 確実な文字活用の力を獲得させるために、姿勢指導と用具の持ち方指導を関連して行うようにするとともに、年間を通して繰り返し指導する。
- ② 筆順の指導に関しては、繰り返し行い、筆順の原則が自然に身に付くように指導する。
- ③ 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向は、漢字に関する事項の指導と関連を図りながら指導することが望ましい。

３ 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	日常生活に必要な文字の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりする。
思考・判断・表現	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつ。
主体的に学習に取り組む態度	文字を通じて積極的に人と関わり、文字がもつよさを感じようとしているとともに、文字をよりよく使おうとする。

第3・4学年 国語（書写）科

1 学年の目標

- (1) 日常生活に必要な文字について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や表現力を養う。
- (3) 文字がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、文字の大切さを自覚し、文字を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 内容及び内容の取り扱い

(1) 内容

- ① 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

以下の事項について理解し使うこと。

文字の組立て方	部首と他の部分の組み立て方、すなわち左と右、上と下、内と外などの関係で一つの文字が組み立てられるという仕組みを理解する。
形を整えて書く	低学年で指導した文字のおおよその形を意識するとともに、一つの文字の構成要素となる部分が等間隔、左右対称、同一方向であることを考えて書く。

- ② 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

以下の事項について理解し使うこと。

漢字や仮名の大きさ	画数の多い文字ほど大きく書き、少ない文字ほど小さく書くと、読みやすい文字列になることを考えて書く。
配列	行の中心や行と行との間、文字と文字との間がそろっているかなど文字列及び複数の文字列に注意して書く。書き出しの位置を決め、行の中心に文字の中心をそろえるように書く。

- ③ 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。

以下の事項について理解し使うこと。

点画の書き方	低学年で硬筆等を使用して基礎的な学習をしたことを受けて、毛筆による学習を通して点画や点画の書き方への理解を一層深めて書く。
筆圧	点画によって筆圧を変化させて書いたり、一定に書いたりするので、点画の書き方と筆圧とを関連付けることを重視する。

(2) 内容の取り扱い

- ① 組立て方が複雑な漢字が多くなるので、一つの文字が組み立てられる仕組みを理解することを重視し、漢字が部首と他の部分とで構成されていることとの関連を図りながら指導する。
- ② 読みやすい文や文章を書くには、語句、文、文章などの文字の集まりという面から整えることが重要であり、毛筆を使用する場合は、小筆の使用にも配慮する。
- ③ 筆圧は、筆記具を握る力と連動することが多いので、低学年の「姿勢や筆記具の持ち方」に関する事項との関連を図りながら指導する。

3 評価の観点の趣旨

観点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	日常生活に必要な文字の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりする。
思考・判断・表現	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げる。
主体的に学習に取り組む態度	文字を通じて積極的に人と関わり、文字がもつよさに気付こうとしているとともに、文字をよりよく使おうとする。

第5・6学年 国語（書写）科

1 学年の目標

- (1) 日常生活に必要な文字について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や表現力を養う。
- (3) 文字がもつよさを認識するとともに，言語感覚を養い，文字の大切さを自覚し，文字を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 内容及び内容の取扱い

(1) 内容

- ① 用紙全体との関係に注意して，文字の大きさや配列などを決めるとともに，書く速さを意識して書く。

以下の事項について理解し使うこと。

文字の大きさ	主に用紙全体との関係から判断される文字の大きさであり，用紙全体からはみ出さずに書いたり，余白をつくり過ぎずに書いたりする。
配列	用紙全体との関係から考えられる文字の位置，字間，行間などの効果的な在り方に重点を置いて書く。
書く速さ	書く場面の状況によって速さが決まってくることを意識して書く。

- ② 毛筆を使用して，穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。

以下の事項について理解し使うこと。

穂先の動き	点画の中での穂先の動きだけでなく，点画から点画へ，さらには，文字から文字へと移動していく過程に重点を置いて書く。
-------	--

- ③ 目的に応じて使用する筆記具を選び，その特徴を生かして書く。

以下の事項について理解し使うこと。

筆記具	目的に応じて，鉛筆，フェルトペン，毛筆，ボールペン，筆ペンなどから選択して書く。
-----	--

(2) 内容の取り扱い

- ① 書く速さの意識化は，中学校における行書への橋渡しという位置付けも意識して指導する。
- ② 書き始めから書き終わりまでを無理なくつないで書き進める書写のリズムを習得させるようにしたり，日常で文字を書く条件に近づけるようにしたりする。
- ③ 手書きの慣習に関わるものとして，それぞれの筆記具の特徴を踏まえ，目的に合ったものを選ぶことができるようにしたい。

3 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	日常生活に必要な文字の知識や技能を身に付けているとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりする。
思考・判断・表現	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げる。
主体的に学習に取り組む態度	文字を通じて積極的に人と関わりながら，文字がもつよさを認識しようとしているとともに，文字をよりよく使おうとする。

第1学年 国語（書写）科 年間計画（標準34時間）

1学期（12時間）

単 元 名	配当時間	備 考
1 はじめの がくしゅう	2	スタートカリキュラム参照
2 ひらがなの がくしゅう ①せんの おわりの かきかた ②かきじゅん ③じを かきはじめる ところ ④せんの とちゅうの かきかた ⑤にて いる ひらがな ⑥ますめの なかの かく ところ ⑦じの かたち ⑧ひらがなの ひょう	1 1 2 2 1 1 1 1	

2学期（14時間）

単 元 名	配当時間	備 考
3 かたかなの がくしゅう ①かたかなの かきかた ②じの かたち ③にて いる じ	1 1 1	
4 かん字の 学しゅう（一） ①学しゅうの すすめかた ②かくの おわりの かきかた ③かくの とちゅうの かきかた ④文字の かたち ⑤かきじゅん ⑥かきぞめ	1 1 2 2 2 3	

3学期（8時間）

単 元 名	配当時間	備 考
5 かん字の 学しゅう（二） ①かくの ながさと ほうこう ②かいて つたえあおう	2 2	
6 学しゅうの まとめ ①学しゅうの まとめ ②しりたい 文字の せかい ③かん字の ひょう	2 1 1	

第2学年 国語（書写）科 年間計画（標準35時間）

1学期（12時間）

単 元 名	配当時間	備 考
町の 文字たんけん 1 はじめの 学しゅう ①文字を 書く しせい ②えんぴつの もち方 ③学しゅうの おすすめ方 ④しょしゃの 体そう	2	
2 かたかなの 学しゅう ・画の 方こう ■レッツ・トライ ①メモの とり方 ②よこ書きの 書き方	3 3	生活科 算数科
3 かん字の 学しゅう ①書きじゅん ②画の 方こう	2 2	

2学期（13時間）

単 元 名	配当時間	備 考
③画の 方こう ④画の長さ、画と 画との 間 ⑤画の つき方と 交わり方 ⑥文字の 中心 ⑦年がじょうと 書きぞめ ・年がじょう ・書きぞめ	2 3 2 3 2 1	

3学期（10時間）

単 元 名	配当時間	備 考
・書きぞめ ⑧文字の形 ⑨書いて つたえ合おう	2 2 4	
4 学しゅうの まとめ	2	

第3学年 国語（書写）科 年間計画（標準30時間）

1学期（11時間）

単 元 名	配当時間	備 考
毛筆の学習が始まるよ 学習の進め方 1 はじめの学習	2	
2 「横画」の筆使い『二』	2	
3 「たて画」の筆使い『土』	2	
4 「はらい」の筆使い『大』 ・こう筆の学習「はらい」 ■レッツ・トライ 暑中みまい ■レッツ・トライ セーフティ教室の作文 ■レッツ・トライ てんらん会作品のカード	3 1 1	国語科 図画工作科

2学期（13時間）

単 元 名	配当時間	備 考
5 「おれ」と「はね」の筆使い『力』 ・こう筆の学習「おれ」と「はね」	3	
6 ひらがなの筆使い『つり』 ・こう筆の学習 筆順と字形 ■レッツ・トライ 俳句 ■レッツ・トライ お店見学のお礼じょう	3 1 1	国語科 社会科
7 「曲がり」と「おれ」の筆使い『ビル』 ・こう筆の学習「曲がり」と「おれ」 ・こう筆の学習 文字の組み立て方 ・書きぞめ『正月』『友だち』のうち一つ	3 2	選択課題

3学期（6時間）

単 元 名	配当時間	備 考
・書きぞめ『正月』『友だち』のうち一つ ・点画のしゅるい	2 1	選択課題
8 学習のまとめ『光』	3	

第4学年 国語（書写）科 年間計画 （標準30時間）

1学期（11時間）

単 元 名	配当時間	備 考
世界の「こんにちは」 四年生で学習すること 学習の進め方 1 はじめの学習	2	
2 「点画」の筆使い『花』 ■レッツ・トライ 学習内ようをまとめる	2 1	
3 筆順と字形『左右』 ・こう筆の学習 筆順と字形	3	
4 ひらがなの筆使い『はす』 ■レッツ・トライ 理科のノート	2 1	理科

2学期（12時間）

単 元 名	配当時間	備 考
■レッツ・トライ けい老の日はがき	1	国語科
5 文字の組み立て方（左右）『林』	2	
6 文字の組み立て方（上下）『笛』	2	
7 文字の組み立て方『土地』『岩山』のうち一つ ・こう筆の学習 文字の組み立て方 ■レッツ・トライ 短歌 ・書きぞめ『元気』『美しい空』のうち一つ	5 1 1	選択課題 国語科 選択課題

3学期（7時間）

単 元 名	配当時間	備 考
・書きぞめ『元気』『美しい空』のうち一つ ■レッツ・トライ ぼうさいかるたを作る	2 1	選択課題
8 学習のまとめ『平和』	4	

第5学年 国語（書写）科 年間計画（標準30時間）

1学期（11時間）

単 元 名	配当時間	備 考
場面に合わせた書き方のくふう 1 はじめの学習 ・学習の進め方 ・点画の種類 ・姿勢と持ち方 ・用具の扱い方	2	
2 文字の組み立て方（中と外）『草原』	2	
3 文字の組み立て方（中と外）と、穂先の動き 『道』 ・硬筆の学習 文字の組み立て方（中と外） ■レッツ・トライ 『竹取物語』を書く	3 1	国語科
4 筆順と字形『成長』 ・硬筆の学習 筆順と字形	3	

2学期（12時間）

単 元 名	配当時間	備 考
■レッツ・トライ 工場見学のメモ	1	社会科
5 文字の大きさ（漢字どうし）『白雲』	2	
6 文字の大きさ（漢字と平仮名）『登る』	2	
7 穂先の動きと、線のつながり『あこがれ』 ■レッツ・トライ 委員会のポスター	3 2	特別活動
8 用紙に対する文字の大きさと配列（小筆）	2	

3学期（7時間）

単 元 名	配当時間	備 考
書きぞめ『初春』『世界の国』のうち一つ	4	選択教材
9 学習のまとめ『考える子』	3	

第6学年 国語（書写）科 年間計画（標準30時間）

1学期（11時間）

単 元 名	配当時間	備 考
文字の旅 1 はじめの学習 ・学習の進め方 ・点画の種類 ・姿勢と持ち方 ・用具の扱い方	2	
2 文字の大きさと配列『歩む』 ■レッツ・トライ 話し合いメモ	3 1	国語科
3 文字の組み立て方（三つの部分）『湖』 ・硬筆の学習 文字の組立方（左右、上下、中と外） ■レッツ・トライ 国語のノート ■レッツ・トライ 校外学習のリーフレット	3 1 1	国語科 社会科

2学期（13時間）

単 元 名	配当時間	備 考
4 文字の大きさと配列，点画のつながり『思いやり』 ■レッツ・トライ 『枕草子』を書く	3 1	国語科
5 文字の大きさと配列，点画のつながり（小筆） ■レッツ・トライ 小筆を生かして書く ・好きな言葉を書く『実現』『夢』『仲間』『友情』のうち一つ	3 2 4	選択教材

3学期（6時間）

単 元 名	配当時間	備 考
書きぞめ『理想』『伝統を守る』のうち一つ	3	選択教材
6 学習のまとめ『旅立ちの時』	3	

第5学年〇組 国語（書写）科学習指導案

令和2年5月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 文字の組み立て方（中と外）

2 単元目標

- (1) 「しんによう」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書く。
- (2) 字形を整えるための筆使いや組み立て方について、自分の考えをもつ。
- (3) 文字の組み立て方に気を付けて書こうとする。

3 学習の計画 （3時間完了）

第1時 中と外の組み立て方に気を付けて、「道」を書く。

第2時（本時） 組み立て方に気を付けながら、字形を整えて「道」をまとめ書きする。

第3時 中と外の組み立て方から成る文字を、硬筆で書く。

4 本時の学習指導

(1) 目 標

- 「しんによう」の筆使いや組み立て方に気を付けながら、字形を整えて書くことができる。
- 筆使いや中と外の組み立て方に気を付けて書こうとする。

(2) 準備・資料

- 児童……毛筆書写の道具、新聞紙（作品入れ）、ペットボトル 500ml（筆洗い用）
- 教師……提示用手本、ワークシート（手本に中と外の部分をそれぞれ色分けしたシートを重ねられるもの）、バケツ、書道半紙

(3) 関 連

4年 書写 文字の組み立て方（上下）（上下の組み立て方の文字の幅や形を理解する）

5年 書写 文字の組み立て方（中と外）（中と外の組み立て方の文字の幅や形を理解する）

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかむ	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 前時の学習を想起し、自身の課題について考える。</p> <p>(2) 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「しんによう」の筆使いや組み立て方に気を付けて、まとめ書きをしよう。</p> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に道具の準備をさせておく。 ○前時のまとめ書きと教科書とを比較して、自分の課題について確認する。 ○数名を指名し、発表させる。 ○中の部分（首）と外の部分（しんによう）との組み立て方や、「しんによう」の筆使いに気を付けて書くことを確認する。
練習する	<p>2 「道」を練習する。</p> <p>(1) 「道」を試し書きして、重点的に練習すべき点を押さえる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○隣席児童とも確認し合うようにする。 ○ワークシートを使って中の部分と外の部分を色分けして示すことにより、点画の変化や組み立て方を視覚的に捉えやすくする。 ○教科書P.13を参考にし、「しんによう」の

練習する	(2) 部分練習をする。 ・「しんにょう」 ・自分の課題箇所		筆使いや中の部分と外の部分の位置関係などを確認させる。 ○机間指導をし、個別に支援する。 ○中の部分が外の部分からはみ出さないように書くこと、「しんにょう」の二画目から三画目は、筆を一度離してから少し重ねて書き始めることなどを押さえる。 ○部分練習で気を付けたことを留意しながら、全体のバランスに気を付けて練習させる。
	(3) 練習のまとめをする。	35	評組み立て方や「しんにょう」の筆使いに気を付けて書こうとしている。(練習・作品) ○練習した作品を再度見直し、注意すべき点を十分に意識させてから書かせる。
	3 「道」をまとめ書きする。	40	評組み立てのバランスや穂先の動きを意識しながら、字形を整えて書いている。(作品)
まとめる	4 本時のまとめをする。 (1) 本時の学習を振り返り、自己評価・隣席児童との相互評価をする。 (2) 次時の課題を確認する。	45	○手本、試し書き、まとめ書きを比べ、上達したところを互いに見つけさせる。 ○教科書P.13「ふり返ろう」に記入させる。 ○道具の片付けを手際よくさせる。 ○次時は、毛筆で学習したことを生かして硬筆を練習することを伝える。

(5) 本時の評価規準

- 中の部分と外の部分との位置関係のバランスや、「しんにょう」の筆使いを意識して、字形を整えて書いている。(作品)
- 中と外の組み立て方や、穂先の動きと筆圧に気を付けながら書こうとしている。(練習・作品)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 毛筆の扱いに慣れている児童と、慣れていない児童との差が大きい。どの児童も教材文字を進んで書くことはできるが、文字の組み立てや幅・点画の変化などに気を付けて書くことはあまりできていない。

(2) 指導の力点

○教材を試し書きした後、手本と比べたり中と外の部分を色分けしたワークシートで組み立て方の変化や特徴を確認させたりすることで、自身の課題を明確化させ、学習意欲を高められるようにする。

6 指導と評価

単元名 ひらがなの がくしゅう

配当時間 10時間

単元の目標 (1) 点画(とめ・はらい・折れ・折り返し・曲がり・結び・はね)の書き方を理解し、書き出しや書き順に気を付けて、字形を整えて正しく書くことができる。
(2) 平仮名の形の違いや文字の概形について考え、気付くことができる。
(3) 点画の筆使いや書き順、字形に気を付けて、平仮名を丁寧に書こうとする。

標準的な展開例

01020102_001

【教材名】 くつ／ことり／にじ／えのぐ・はす／あめ・わた／がっきゅうかい／おじいさんは…／あいうえお… (P.8～P.21)

【準備等】 水書板、水書用紙、水書用筆、点線で四つに区切ったます目入りのシート又は黒板

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「とめ」や「はらい」に気を付けて、『く』『つ』を書く。 ★止めるところと払うところに気を付けて書こう ○『く』『つ』を試し書きし、課題をつかむ。 ○始筆、送筆、終筆の書き方を知る。</p> <p>○練習をする。</p> <p>○『くつ』をまとめ書きする。</p> <p>2 書き順に気を付けて、『こ』『と』『り』を書く。 ★書き順に気を付けて正しく書こう ○『こ』『と』『り』を試し書きし、課題をつかむ。 ○「上から下へ」「左から右へ」という書き順の原則を知る。 ○練習をする。</p> <p>○『ことり』『いけ』をまとめ書きする。</p> <p>3 始筆の位置に気を付けて、『に』『じ』を書く。 ★書き始めるところに気を付けて書こう ○『に』『じ』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○書き出しの位置を確かめる。</p> <p>○練習をする。 ○『にじ』『かさ』『へや』『うた』をまとめ書きする。</p> <p>○教科書P.20～P.21の「ひらがなの ひょう」を見ながら1・2・3それぞれの部屋から書き始める文字を見付ける。</p> <p>4～5 線の途中の「曲がり」「折れ・折り返し」「結び」に気を付けて『えのぐ』『はす』を書く。 ★「曲がり」「折れ・折り返し」「結び」に気を付けて書こう ○『えのぐ』『はす』を試し書きし、課題をつかむ。 ○「曲がり」「折れ・折り返し」の書き方を確かめる。 ○『は』と『す』を比べて「結び」の形の違いや書き方を話し合う。</p> <p>○練習をする。</p> <p>○『えのぐ』『はす』をまとめ書きし、「曲がり」「折れ・折り返し」「結び」のある言葉を書く。</p>	<p>・正しい姿勢と鉛筆の持ち方や動かし方を確認し、書くときの心構えをもたせる。</p> <p>・書き出しの位置を確認してから書かせる。 ・水書板で範書したり、指書きさせたりして、「とめ」と「はらい」の筆使いの違いをつかませる。 ・「びたっ(とめ)」、「すうっ(はらい)」と声を出して練習させる。 ・水書用筆を活用して、「とめ」の動きや、「はらい」の力加減を体感させてもよい。 【評】 作品を通して、平仮名の終筆の書き方に対する「知識・技能」を評価する。 ・上から下へ、左から右への書き順を意識させる。 ・正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識させる。 ・範書の文字に書き順を書き入れて説明する。</p> <p>・正しい書き順で書いているかを個別に確認し支援する。 【評】 練習を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 作品を通して、書き順に関する「知識・技能」を評価する。 ・書き出しの位置で、字形が変わることに気付かせる。 ・試し書きした文字の書き出し位置を赤丸で囲ませ、教科書と比べて課題を考えさせる。 ・ます目を四つに区切って、書き出しの位置を確認させる。 ・段階的に練習できる用紙を用意する。 ・二人組で互いに字を見合い、書き出しの位置が正しくなったところを認め合うようにさせるとよい。 【評】 作品を通して、始筆の位置に関する「知識・技能」を評価する。 【評】 それぞれの部屋から書き始める文字を見付ける活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。 ・特徴をつかんで、丁寧に書かせる。</p> <p>・点画の方向の変わり方を確かめさせる。 ・音声化し、理解を促す。 ・『は』と『す』の「結び」の形の違いに気付かせる。 ・児童の言葉で特徴をまとめてもよい。 【評】 話し合い活動を通して、「結び」の形に関する「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P.12の線を鉛筆などでなぞり、送筆の仕方を確認させる。 ・水書用筆を活用して、送筆の仕方を体感させるとよい。 【評】 練習を通して、「曲がり」「折れ・折り返し」「結び」に関する「知識・技能」を評価する。 ・「曲がり」「折れ・折り返し」「結び」について試書とまとめ書きを比べて自己評価させる。</p>

- 6～7 似ている字の同じところ、違うところに気を付けて『あめ』『わた』を書く。
★似ているところと違うところに気を付けて書こう
○『あ』『め』『ぬ』『の』『わ』『ね』『れ』を試し書きし、課題をつかむ。
○似ているところ、違うところを見つけて発表する。
- 練習をする。
- 教科書P. 14の文字の違いを見付けて発表し合う。
- 『あめ』『ぬ』『わ』『ね』『れ』のまとめ書きをし自己評価をする。
- 8 拗音や促音、句読点、かぎの位置や大きさに気を付けて語句や単文を書く。
★小さく書く字を書くところに気を付けて書こう
○教材文字を読み、小さく書く文字を確認する。
○拗音・促音の書き方を確かめる。
- 拗音・促音の入った言葉を練習し、まとめ書きをする。
- 句読点・かぎの書き方を確かめる。
- 「おおきなかぶ」を丁寧に書く。
- 9 字のおおよその形を理解し、形に気を付けて文字を書く
★字の形に気を付けて書こう
○『せみ』『すいか』『のり』『ふうせん』を試し書きし課題をつかむ。
○文字のおおよその形は3通りに分けられることを確かめ囲んでできた形を身近なものに例える。
- 形に気を付けて練習する。
- 形に気を付けて、まとめ書きし、自己評価をする。
- 10 書き順や字形に気を付けて、平仮名を書く。
★書き順や形に気を付けて、平仮名を書こう
○間違えやすい書き順の文字『け』『な』『む』『や』『よ』『ら』や送筆・終筆の難しい字『え』『そ』『ゆ』を試し書きする。
○教科書P. 20～P. 21を見ながら書き順、送筆、終筆を確かめる。
○書き順、送筆、終筆に気を付けて平仮名を書く。
- 自分の名前や先生、友達の名前を正しく書く。

- 【評】作品や自己評価を通して、平仮名の送筆に対する「知識・技能」を評価する。
- ・本時までに学習した内容について、振り返りながら書くように声をかける。
・曲がりの部分や折れ・折り返しの部分が似ていることを見付けさせる。
【評】発表を通して、平仮名の形に関する「思考・判断・表現」を評価する。
・水書用筆を使用して、終筆を払う感覚を体感させるとよい。
・終筆の形や線の数だけでなく、『は・ほ』の点画の突き出しの有無も確認させたい。
- 【評】作品や自己評価を通して、似ている点画の違いに関する「知識・技能」を評価する。
・内容が多いので、整理しながら確実に学習できるように工夫する。
- ・正しく読めるように注意する。
・どの部屋に書くのか、まず黒板に色を塗るなど工夫して分かりやすく示す。
・拗音や促音が小さくなりすぎないように助言する。
・かぎを書く位置は、拗音や促音とは異なるので、特に注意して書かせる。
【評】作品を通して、拗音や促音、句読点、かぎの大きさや書く位置に対する「知識・技能」を評価する。
- ・手本の文字の周りを囲んで形が分かるようにさせる。
【評】文字の形について表す言葉を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する
- ・それぞれの文字の概形を書き入れた練習用紙を用意して書かせる。
【評】作品や自己評価を通して、文字のおおよその形に関する「知識・技能」を評価する。
- ・教科書を見ないで、書くように促す。
- ・上から下、左から右へという書き順の原則を再確認させる。
・書き順の間違えやすい文字や「とめ」「曲がり」「折り返し」などが難しい文字が書かれた練習用紙で練習させる。
【評】作品を通して、書き順や字形に関する「知識・技能」を評価する。
・自分の名前は書き慣れているので、特に丁寧に書かせる。
【評】名前を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 かたかなの がくしゅう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 平仮名と片仮名の字形や線の違いを理解し、書き順や点画（はね、はらい、とめ、折れ、曲がり）の書き方に気を付けて、正しく書くことができる。
 (2) 平仮名と片仮名の字形や線の違い、片仮名の概形について考え、気付くことができる。
 (3) 片仮名の書き方や字形に気を付けて、丁寧に書こうとする。

標準的な展開例

01020201_001

【教材名】 レモン・カメラ／ロ・ユ・ト／ソ・ツ・ン・シ (P.22～P.25)

【準備等】 水書板、水書用紙、水書用筆、点線で四つに区切ったます目入りのシート又は黒板

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 片仮名の終筆（とめ・はね・はらい）や送筆（折れ・曲がり）に気を付けて、片仮名を書く。 ★書き方に気を付けて片仮名を書こう ○『レモン』『カメラ』を試し書きし、課題をつかむ。 ○片仮名の終筆（止め・はらい）や送筆（折れ・曲がり）の書き方を確かめる。</p> <p>○『レモン』『カメラ』を練習する。</p> <p>○『レモン』『カメラ』をまとめ書きし、自己評価する。</p> <p>○教科書P.47～P.48の「かたかなの ひょう」から「はね」「はらい」「折れ」「曲がり」のある片仮名を探す。</p> <p>2 形の違いを理解して、片仮名を書く。 ★字の形に気を付けて片仮名を書こう ○『ロ』『ユ』『ト』を試し書きし、課題をつかむ。 ○教科書P.23の文字を見て、片仮名のおおよその形について話し合う。</p> <p>○『ロ』『ユ』『ト』を練習する。</p> <p>○『ロ』『ユ』『ト』をまとめ書きし、自己評価する。</p> <p>○『ロ』『ユ』『ト』のつく言葉を書く。</p> <p>3 形が似ている片仮名の点画の方向の違いや、片仮名と平仮名の違いを理解して、片仮名を書く。 ★方向の違いや平仮名との違いに気を付けて書こう ○『ソ』『ツ』『ン』『シ』を試し書きする。 ○教科書P.24の文字を見て、片仮名の画の方向の違いについて話し合い、確かめる。 ○『ソ』『ツ』『ン』『シ』を練習する。</p> <p>○『ソ』『ツ』『ン』『シ』をまとめ書きし、自己評価する。</p> <p>○『カ・キ・セ・モ・ヤ』を平仮名と片仮名で比べて、違いについて話し合う。</p> <p>○片仮名の言葉を探して書く。</p>	<p>・よい姿勢・鉛筆の持ち方の確認をする。</p> <p>・どの程度書けるか確認しておく。</p> <p>・書き方を言葉や動作で表現して理解を促す。</p> <p>「とめ」→びたっ 「はね」→びょん 「はらい」→すうっ 「曲がり」→ぐうっ 「折れ」→びたっ すうっ</p> <p>・水書用筆を使用して、終筆や送筆の感覚を体感できるようにするとよい。 【評】作品や自己評価を通して、片仮名の終筆や送筆に関する「知識・技能」を評価する。 【評】片仮名を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・形を図形や身近なものに例えさせ、イメージ化できるようにする。 【評】身近なものに例える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・形の違いを意識できるように声掛けをする。 【評】作品や自己評価を通して、片仮名のおおよその形に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・長音の書き方や拗音、促音を書く位置について説明し、確認をする。</p> <p>・書き順を空書で確認してから、試書させる。 ・教科書の赤い矢印の方向や、挿絵を活用し、理解を促す。 ・点画の方向を意識できるように声かけをする</p> <p>・水書用筆を使用して、終筆のはらう感覚を体感できるようにするとよい。 【評】作品や自己評価を通して、片仮名の点画の方向の違いに関する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・違いを児童の言葉で表現させる。 ・画数や書き順の違いにも気付かせる。 【評】話し合いを通して、平仮名と片仮名の違いに関する「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>【評】片仮名の言葉を探して書く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名 かん字の 学しゅう(一)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 漢字の基本点画の書き方を理解して、正しく書くことができる。
 (2) 漢字の書き順や基本点画の書き方を考え、理解することができる。
 (3) 正しい筆使いを意識して漢字を書こうとしたり、漢字を探そうとしたりする。

標準的な展開例

01020202_001

【教材名】一・小・人／日・七・子／田・二・目／三・川・十 (P.26～P.33)

【準備等】水書板、水書用紙、水書用筆、拡大文字、分解文字、練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「とめ」「はね」「はらい」に気を付けて、『一』『小』『人』を書く。 ★「とめ」「はね」「はらい」に気を付けて書こう ○『一』『小』『人』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○教科書を指でなぞり、「とめ」「はね」「はらい」の書き方を確かめる。</p> <p>○終筆の書き方に気を付けて『一』『小』『人』を練習する。 ○課題をもう一度確かめ、『上』『月』『木』などを練習する。 ○『一』『小』『人』をまとめ書きし、自己評価する。</p> <p>○教科書P.44の「かん字 のひょう」から、「とめ」「はね」「はらい」のある字を探し、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P.26～P.27の学習の流れを確認する。 漢字の終筆の学習である。 拡大文字や毛筆の分解文字を提示し、「とめ」「はね」「はらい」の筆使いを視覚的に確認する。 「右払い」(すうっ ぴたっ すうっ)のように音声化し、声を出しながら書かせる。 教科書の挿絵を使用して、「とめ」「はね」「はらい」を動きで表現させ、理解を促すとよい。 【評】終筆を音声化したり、動作化したりして書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 水書用筆を使用して、終筆の感覚を体感させるとよい。 終筆を意識するように声掛けをする。 【評】作品や自己評価を通して、終筆の書き方に関する「知識・技能」を評価する。 漢字の「とめ」「はね」「はらい」の部分を丸で囲み、終筆を意識付ける。 1年生で学習する80字の漢字の中で終筆が「とめ」「はらい」だけの文字がある。 「とめ」だけの文字 「一、王、下、玉、五、口、三、山、七、車、十、出、上、正、早、中、田、土、二、日、目」 「はらい」だけの文字 「人、入、八」 【評】漢字を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 漢字の送筆の学習である。
<p>3～4 「折れ」「曲がり」「そり」に気を付けて、『日』『七』『子』を書く。 ★「折れ」「曲がり」「そり」に気を付けて書こう ○『日』『七』『子』を試し書きし、課題をつかむ。 ○「折れ」と「曲がり」の違いを確かめる。</p> <p>○「曲がり」と「そり」の違いを確かめる。</p> <p>○送筆の書き方に気を付けて、『日』『七』『子』を練習する。 ○課題をもう一度確かめ、『口』『九』『字』などを練習する。 ○『日』『七』『子』をまとめ書きし、自己評価する。</p> <p>○教科書P.44の「かん字の ひょう」から、「折れ」「曲がり」「そり」のある字を探し、書き出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正しい『日』と「折れ」の部分を「曲がり」で書いた『日』を提示する。 教科書P.30の挿絵を使用し、動作化させたり音声化させたりして理解を促す。 第1学年で学習する「曲がり」を含む漢字は「花九空見四七先」の7文字、「そり」を含む漢字は「学気子字手」の5文字である。 「そり」では徐々に方向を変え、最後には元の縦のラインの位置に戻ってくることを補足説明する。 正しい書き順も意識させる。 【評】作品を通して、漢字の送筆についての「知識・技能」を評価する。 【評】漢字を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
<p>5～6 文字の概形の違いに気を付けて、『田』『二』『目』を書く。 ★文字の形に気を付けて書こう ○『田』『二』『目』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○文字の形について話し合い、理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P.31の文字の周りを囲ませ、形に違いがあることに気付かせる。 色画用紙を正方形や長方形に切ったものを文字に重ね合わせて、概形を捉えやすくする。

<ul style="list-style-type: none"> ○『田』『二』『目』を練習する。 ○『白』『八』『月』『田うえ』『四まい』をまとめ書きする。 ○互いに試し書きと比べ達成点を見付け、成果を賞賛し合う。 <p>7～8 書き順の原則に気を付けて、『三』『川』『十』を書く。</p> <p>★正しい書き順で書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『三』『川』『十』を試し書きし、課題をつかむ。 ○書き順の原則を話し合い、理解する。 <p>○書き順に気を付け『三』『川』『十』を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題をもう一度確かめ、『六』『八』『土』『なみ音』『竹ぶえ』『ねん土』などを練習する。 ○『三』『川』『十』をまとめ書きし、正しい書き順で書けたかを自己評価する。 ○正しい書き順で書けているか互いに見合い、気付いた点を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「四角」「横長」「縦長」という言葉を意識しながら、概形をとらえて書かせる。 ・「四角」「横長」「縦長」という言葉を意識しながら、概形を捉えて書かせる。 ・文字の概形を書き入れた練習用紙を用意する <p>【評】作品を通して、概形の違いに関する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き順の原則は単なる法則ではなく、字形と密接に結び付くことを押さえる。 ・教科書を見ないで書き、その後で書き順の番号を記入させる。 ・原則（上から下へ・左から右へ・横から縦へ）が当てはまる例をできるだけ多く示し、理解の定着を図る。 <p>【評】書き順の原則を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい書き順で書けているかどうか、個別に確認をする。 ・平仮名や片仮名の書き順も合わせて復習するとよい。 <p>【評】正しい書き順で書いたかを確認する活動を通して、書き順に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】互いに見合って、気付いたことを発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
---	---

【 備 考 】

単元名 かきぞめ

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 書き順やとめ・はね・はらいに気を付けて、正しく書くことができる。
(3) 書き順や字形に気を付けて、丁寧に書こうとする。

標準的な展開例

01020203_001

【教材名】お正月／ことしは、かぞくみんなで、はつ日を… (P. 34～P. 35)

【準備等】フェルトペン，練習用紙，清書用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 字形や文字の大きさに気を付けて、『お正月』を書く。 ★「とめ」「はね」「はらい」や書き順に気を付けて書こう ○書き初めについて話し合う。 ○『お正月』を試し書きし，課題をつかむ。 ○『お正月』を練習する。 ○『お正月』をまとめ書きする。 ○作品を掲示し，鑑賞し合う。</p> <p>2～3 書き順や字形に気を付けて、『ことしは、かぞくみんな…』を書く。 ★「とめ」「はね」「はらい」や書き順，書く位置に気を付けて書こう ○『ことしは、かぞくみんな…』の1行目を試し書きし課題をつかむ。 ○『な』『見』の書き順を確認する。 ○全文を練習し，まとめ書きをする。 ○「お正月にしたいこと」などを考えて書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく丁寧に書くように話す。 ・書き初めについて知っていることを話し合わせ，書き初めの由来についても触れておく。 ・文字が小さくなってしまう児童には，文字の概形を印刷した用紙に書かせたり，下敷きにして書かせたりする。 ・文字が小さくなってしまう児童には，文字の概形を印刷した紙に書かせたり，概形を書いたシートを下敷きにして書かせたりする。 【評】話し合い活動や練習の様子を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ゆっくりと丁寧に書かせる。 【評】作品を通して，書き順や終筆に関する「知識・技能」を評価する。 ・発展学習として，家庭でも新年の自分の誓いを書いてみたいという意欲を高める。 ・姿勢や用具の持ち方などを確認する。 ・書き順や「とめ」「はね」「はらい」，ます目の中の書く位置を確認する。 ・声を出しながら空書し，確認させる。 ・書き出しの位置や句読点の位置に注意し，最後まで丁寧に書かせる。 【評】作品を通して，書き順や字形，書く位置に関する「知識・技能」を評価する。 ・短い文にすることを確認しておく。 ・教室内で掲示をするとよい。 【評】自分で考えた文を書く活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 かん字の 学しゅう(二)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 点画の長短や方向の違い、横書きの文字のそろえ方を理解し、字形を整えて、読みやすく書くことができる。
- (2) 点画の長短や方向の違い、横書きの文字のそろえ方を考えることができる。
- (3) 点画の長短や方向の違いに気を付けて、丁寧に書こうとする。

標準的な展開例

01020301_001

【教材名】土・川・タ／円・白／かいて つたえあおう (P. 36～P. 39)

【準備等】分解文字、補助線の入った練習用紙、メッセージカード(横罫紙)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 画の長さに気を付けて、『土』『川』『夕』を書く。</p> <p>★画の長さに気を付けて書こう</p> <p>○『土』『川』『夕』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○『土』『川』『夕』の長く書く画と短く書く画について話し合い、長さの違いをつかむ。</p> <p>○『土』～『夕やけ』を練習する。</p> <p>○『土』『川』『夕』をまとめ書きする。</p> <p>2 画の方向の違いに気を付けて、『円』『白』を書く。</p> <p>★「折れ」の方向に気を付けて書こう</p> <p>○『円』『白』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○画の方向について話し合い、理解する。</p> <p>○『円』～『中』を練習する。</p> <p>○『円』『白』をまとめ書きする。</p> <p>○文字の大きさについて知る。</p> <p>3～4 伝える相手のことを考え、友達に贈るカードを書く。</p> <p>★友達のよいところやありがとうの気持ちを書いて伝えよう</p> <p>○課題をつかむ。</p> <p>○横書きの書き方を理解する。</p> <p>○横書きの練習をする。</p> <p>○全文をまとめ書きする。</p> <p>○自己・相互評価をする。</p> <p>○イラストなどを加えて仕上げる。</p>	<p>・正しい『土』と三画目を短くした『土』とを示して、画の長さについて話し合わせる。</p> <p>・分解文字を使って、長い画と短い画とを重ね合わせて長さの違いを比べるようにする。</p> <p>【評】話し合いを通して、画の長さの違いについての「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・水書用筆を使用して、「はらい」の感覚をつかませてもよい。</p> <p>・一画一画を丁寧に書かせる。</p> <p>【評】作品を通して、画の長さの違いに関する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・『円』と『白』の拡大文字を示し、画の方向の違いについて考えさせる。</p> <p>・『円』の2画目と『白』の3画目の「折れ」は方向が違うことを確認する。</p> <p>・画の方向により字形が変わることを確認する。</p> <p>・文字の大きさにも気を付けて書かせる。</p> <p>・一画一画を丁寧に書かせる。</p> <p>・時間があれば「はってん」コーナーを取り上げ、漢字と仮名では文字の大きさが違うことに気付かせるようにする。</p> <p>【評】作品を通して、画の方向の違いに関する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・お世話になった6年生や学級の友達へメッセージカードを書く学習であることを伝える。</p> <p>・教科書P. 38のメッセージカードの例をもとに横書きの書き方で大切なことを伝える。</p> <p>・まず目がないときは、文字や句読点は下の線にそろえて書くこと、拗音・促音は下の線にそろえて小さく書くことを押さえる。</p> <p>・補助線の入った練習用紙に書かせる。</p> <p>・カラーのメッセージカード(横罫紙)を用意しておき、児童が選べるようにしておく。</p> <p>・基準に気を付けてまとめ書きをさせる。</p> <p>【評】作品を通して、横書きの「知識・技能」を評価する。</p> <p>・友達が書いた招待状のよさを見つけて、教え合うようにさせる。</p> <p>・渡す相手が喜ぶようなカードに仕上げるよう助言する。</p> <p>【評】作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 学しゅうの まとめ

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 一字一字の字形を整えて、正しく書くことができる。
 (3) 1年間の学習を振り返り、始筆や送筆、終筆に気を付けて、丁寧に書こうとする。

標準的な展開例

01020302_001

【教材名】きょうだいは… (P. 40～P. 44)

【準備等】拡大文字、教科書の拡大図版

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 1年間の学習を振り返って文字を書く。 ★学習したことを思い出して書こう ○『くつ』～『子犬』を書く。</p> <p>○自分の名前を書く。</p> <p>○『きょうだいは…』を試し書きする。 ○試し書きの「とめ」「はね」「はらい」などを確かめる</p> <p>○『きょうだいは…』をまとめ書きし、達成度を確かめる</p> <p>○国語の教科書から書きたい文章を選んで書く。</p> <p>3 漢字の成り立ちを知り、文字に対する興味・関心を高める。 ★どんな漢字になるか考えてみよう ○漢字の成り立ちを知る。</p> <p>○学習した漢字を使い、言葉や文を作って書く。</p> <p>○書いたものを紹介し合い、発表する。</p> <p>4 第1学年で学習した漢字を書く。 ★第1学年で学習した漢字を正しく書こう ○書き順の決まり、送筆や終筆の書き方、文字の概形を確かめる。 ○観点に合わせて文字を選んで書く。</p> <p>○漢字を使って言葉や短文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よい姿勢・持ち方を確認する。 ・平仮名、片仮名、漢字を書くときに注意する点画を確かめる。 ・教科書P. 40の名前記入欄と同じものを用意する。 ・P. 7 で書いたものと比べさせてもよい。 ・教科書P. 40に列挙されている観点に絞って批評できるようにする。 【評】作品を通して、始筆、送筆、終筆に関する「知識・技能」を評価する。 ・文章を二人もしくは数人で交代して書くという方法もある。自分がどのような文字を書いているか客観的に見たり、全体のまとまりを考えたりするのに有効である。 ・教科書P. 43の絵を見て、何の絵か発表させる ・国語の学習でも漢字の成り立ちを2学期に扱っているので、未習の漢字を提示することも児童の興味を引き付けるよい方法である。 【評】言葉や文を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・よいところを認め合うようにさせる。 ・「とめ」「はね」「はらい」「折れ」「曲がり」「そり」など、観点を示して文字を選ばせる。 ・ただ自由に書く時間にならないよう、書き順・終筆・送筆に気を付けて書くように声を掛ける。 【評】作品を通して、字形に関する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 はじめの学しゅう

配当時間 2時間

単元の目標

(3) 常に正しい姿勢や用具の持ち方に気を付けて書こうとする。

標準的な展開例

02020101_001

【教材名】文字を書くしせい／えんぴつのもち方

(P. 1～P. 9)

【準備等】水書用筆，水書用紙，練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 正しい姿勢や用具の持ち方を確認し，いろいろな点画を書く。</p> <p>★正しい姿勢と用具の持ち方を確かめて書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1学年のときの書写学習について話し合い，課題をつかむ。 ○正しい姿勢を確認する。 ○正しい用具の持ち方と使い方を確認する。 ○正しい姿勢と持ち方で，いろいろな点画を書く。 ○これからの書写学習のめあてを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢図の掛け図があれば，常掲するようにする。 ・教科書P. 2の写真で，正しい姿勢をとった後「よいしせいの合いことば」を唱えさせて，一つ一つを確認させる。 ・「えんぴつのもち方の合いことば」を唱えながら，持ち方の練習をさせる。 ・鉛筆を持ったとき，親指と人差し指に力が入りすぎないように注意させる。 ・正しい姿勢や持ち方で書くと「長時間書いても疲れにくい」という点も強調する。 ・教科書P. 8～P. 9の挿絵を使用し，点画の書き方を唱えながら書かせるようにする。 ・二人組になり，互いに書いているときの姿勢や鉛筆の持ち方を確認させる。 ・水書用筆を使用して，点画を書くときの力の入れ方を体感させるとよい。 【評】いろいろな点画を書く活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書を概観した後，教科書P. 1の「学しゅうのめあて」を読み，第2学年の目標を確認させる。

【 備 考 】

単元名 かたかなの学しゅう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 片仮名の点画の書き方や書き順・字形を理解して、正しく書くことができる。
 (2) 片仮名の点画の方向について考えたり、違いに気付いたりすることができる。
 (3) 片仮名の点画の方向や書き順に気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

02020102_001

【教材名】マ・ア・ワ・ク／ソ・ツ・ン・シ／ス・ヌ・コ・ユ／お話の聞きとりメモ（レッツ・トライ）／算数のノート（レッツ・トライ）（P.10～P.13）

【準備等】拡大文字，ます目の入った練習用紙，水書用筆，水書用紙，メモ用紙（横罫紙），十字線を入れたます目の横書き用の用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 画の方向に気を付けて、『マ』『ア』『ワ』『ク』を書く。 ★画の方向に気を付けて書こう ○『マ』『ア』『ワ』『ク』を試し書きし，課題をつかむ ○試し書きと教科書の文字を比べて話し合う。</p> <p>○『マ』『ア』『ワ』『ク』を練習する。</p> <p>○『マ』『ア』『ワ』『ク』を使った片仮名の言葉を書き自己評価をする。 ○画の方向が似ている文字を見付けて書く。</p> <p>2 「はらい」の方向に気を付けて『ソ』『ツ』『ン』『シ』を書く。 ★「はらい」の方向に気を付けて書こう ○『ソ』『ツ』『ン』『シ』を試し書きし，課題をつかむ ○試し書きと教科書の文字を比べて話し合う。</p> <p>○『ソ』『ツ』『ン』『シ』『ラッコ』『シーツ』『ピザ』『マラソン』を練習する。</p> <p>○『ラッコ』『シーツ』『ピザ』『マラソン』をまとめ書きし，自己評価をする。 ○『ソ』『ツ』『ン』『シ』を使う言葉を見付けて書く。</p> <p>3 似ている文字の違いに気を付けて『ス』『ヌ』『コ』『ユ』を書く。 ★似ている文字を比べ，違いに気を付けて書こう ○『ス』『ヌ』『コ』『ユ』を試し書きし，課題をつかむ ○試し書きと教科書の文字を比べて話し合う。</p> <p>○『ス』『ヌ』『コ』『ユ』と横書きで『カヌー』『ココア』を練習する。</p> <p>○『カヌー』『ココア』をまとめ書きし，自己評価をする</p> <p>○『ス』『ヌ』『コ』『ユ』を使う言葉を見付けて書く。</p>	<p>・単元の課題をつかませる。</p> <p>・書き順を空書きで確認してから試し書きをさせる。</p> <p>・拡大文字を提示し、『マ』と『ア』，『ワ』と『ク』を比べて考えさせる。</p> <p>・画の方向だけでなく，「とめ」と「はらい」の違いがあることにも気付かせる。 【評】話し合いを通して，画の方向の違いに関する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・画の方向に気を付けて書くように声掛けをする。</p> <p>・「とめ」と「はらい」も意識させる。 【評】作品や自己評価を通して，画の方向の違いに関する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P.40～P.41の「かたかなの ひょう」から見付けさせるとよい。 【評】文字を探して書く活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「点」の方向にも気を付けさせる。</p> <p>・書き順を確認してから試し書きをさせる。</p> <p>・「点」と「はらい」の方向に着目させ，話し合いの焦点化を図る。</p> <p>・点画の方向によって違う文字になってしまうことに気付かせる。 【評】話し合いを通して，点画の方向の違いに関する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・誤りやすい点画の方向を示して，注意を喚起する。</p> <p>・促音を書く位置に気を付けさせる。 【評】作品や自己評価を通して，点画の方向の違いに関する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・いろいろな言葉を書かせ，日常生活で役立つようにする。 【評】言葉を探して書く活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・書き順を確認してから試し書きをさせる。</p> <p>・画の接し方に着目させ，話し合いの焦点化を図る。</p> <p>・教科書の文字を指でなぞらせたり，水書用筆で書かせたりして，画の接し方の違いを押さえる。 【評】話し合いを通して，画の接し方の違いに関する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・画の接し方の違いに気を付けるように声掛けをする。</p> <p>・長音の横書きでの書き方を全体で確認する。</p> <p>・似ている片仮名の画の接し方に着目して評価させる。 【評】作品と自己評価を通して，似ている片仮名の画の接し方に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】言葉を探して書く活動を通して，「主体</p>

4～5 メモしたことを丁寧に『聞いたことをまとめたカード』に書く。

★お話をよく聞いて、大事なことをメモしてまとめよう
○本時の目標を知る。

○メモするときや、カードにまとめるときに気を付けることを話し合う。

○教科書P. 13の『聞いたことをまとめたカード』を視写する。

○『聞いたことをまとめたカード』をまとめ書きし、自己評価をする。

○自分で工夫して『聞き取りメモ』をとる。

○教科書P. 13の『聞き取りメモ』を視写し、自己評価をする。

6 横書きの書き方に気を付けて書く。

★まず目の中の書くところに気を付けて書こう

○本時の目標を知る。

○教科書P. 12を見て、気付いたことを話し合い、横書きの書き方を確認する。

○教科書P. 12の教材文を視写し、数字の書き方を練習する

○教科書P. 12の教材文と数字をまとめ書きし、自己評価をする。

○拗音や促音が入った言葉を使って、横書きで文を書く。

的に学習に取り組む態度」を評価する。

・メモの取り方や、カードにまとめる書き方の学習であることを確認する。

・教科書P. 13の『聞き取りメモ』と『聞いたことをまとめたカード』を比べさせ、メモは大事な言葉だけを書き、カードにまとめるときには、メモの内容を詳しく書くことに気付かせる。

・カードにまとめるときの文末は「です」「ます」のように丁寧な言葉にすることを確認する。

・写真や絵を入れるとより分かりやすくなることにも気付かせる。

・横書きの罫線がある用紙に書かせる。

・横書きの書き方は、教科書P. 12を参考にさせる。

【評】作品や自己評価を通して、「知識・技能」を評価する。

・メモの取り方を再度、確認する。

・横書きの罫線がある用紙に書かせる。

・二人組になり、一人が教科書P. 13の『聞いたことをまとめたカード』を読み、もう一人が『聞き取りメモ』を取るよう指示する。

【評】聞き取りメモを通して、メモの取り方に関する「思考・判断・表現」を評価する。

【評】作品や自己評価を通して、「知識・技能」を評価する。

・横書きの書き方についての学習であることを確認する。

・文字は、左から右へ書くことを押さえる。

・拗音や促音、句読点は「3の部屋」に書くことを確認する。

・十字線を入れたます目の練習用紙に書かせる

・拗音や促音、句読点の位置に気を付けるように声掛けをする。

【評】作品や自己評価を通して、横書きの書き方に関する「知識・技能」を評価する。

・他教科の学習や、日常生活において、横書きの書き方に気を付けて書こうとする意欲を高めさせる。

【評】文を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 かん字の学しゅう

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 漢字の書き順や画の方向、接し方・交わり方、画と画との間、中心などを正しく理解し、字形を整えて書くことができる。
 (2) 漢字の書き順や字形、画の方向、接し方・交わり方、画と画の間、中心などについて考えたり気付いたりすることができる。
 (3) 漢字の書き順や字形、画の方向、接し方・交わり方、画と画との間、中心などに気を付けて、丁寧に書こうとする。

標準的な展開例

02020103_001

【教材名】 十・上／人・大・月・千／山・青・貝／作文／水・当 (P. 14～P. 25)

【準備等】 拡大文字，毛筆文字，分解文字，中心線入りの透明シート，中心線入りのます目用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 書き順の原則を確認して、書き順どおりに『十・上』『中・月』『口・兄』を書く。 ★書き順のきまりに気を付けて書こう ○『十』『上』を試し書きし、課題をつかむ。 ○書き順の原則を確かめる。</p> <p>○『十・土・かけ声』や『上・点・足音』を書き、似ている部分の書き順を確かめる。</p> <p>○『十』『上』をまとめ書きし、自己評価をする。</p> <p>○『中』『月』を試し書きし、課題をつかむ。 ○書き順の原則を確かめる。</p> <p>○『中・車・年』や『月・国・間』『口・兄』『シ・活』『サ・花』を書き、似ている部分の書き順を確かめる。</p> <p>○『中』『月』『口』『兄』をまとめ書きし、自己評価をする。 ○学習した漢字が入った言葉を書く。</p> <p>3～6 画の方向の違いに気を付けて書く。 ★画の方向に気を付けて書こう。 ○『人』『大』『月』『千』を試し書きし、課題をつかむ ○ノートやプリントなど、ふだんの学習で記述した文字を互いに見合い、よいところを伝え合う。</p> <p>○「左払い」の方向を確かめる。</p> <p>○『会』～『お手玉』を練習・まとめ書きし、自己評価をする。</p> <p>○『自分』『星空』『えい画』『見学』を試し書きし、「折れ」「曲がり」の方向を確かめる。</p> <p>○『自分』『星空』『えい画』『見学』を練習・まとめ書きし、自己評価をする。 ○『手紙』『思う』『雨音』『羽』を試し書きし、「そり」「点や画」の方向を確かめる。</p>	<p>・単元の課題をつかませる。</p> <p>・自分が書いた書き順を試し書きの文字に番号で書かせる。 ・教科書P. 14を指でなぞらせる。 ・「横から縦」「縦から横」それぞれ同じきまりで書ける文字を提示する。 ・書き順どおりに書いた文字とそうでない文字を提示して、書き順通りに書くと漢字の字形が整うことを理解できるようにする。 ・書き順の原則を考えながら書くように声掛けをする。 ・繰り返し練習させ、正しい書き順が理解できるようにする。 【評】 練習を通して、書き順に関する「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 作品や自己評価を通して、書き順に関する「知識・技能」を評価する。 ・『十』『上』の書き順のきまりを振り返らせる。 ・教科書P. 15を指でなぞらせる。 ・書き順どおりに書くと字形が整うことを理解できるようにする。 ・書き順の原則を意識しながら書くようにさせる。 ・繰り返し練習させ、正しい書き順が理解できるようにする。 【評】 練習を通して、書き順に関する「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 作品や自己評価を通して、書き順に関する「知識・技能」を評価する。 【評】 書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・書き順を確かめてから試書させる。 ・書写で使う言葉で伝え合わせる。 ・よいところを学級全体で共有する。 【評】 伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・同じ左払いでも、角度の違いがあることを教科書P. 16～P. 17の挿絵を使って説明をする。</p> <p>・空書させたり、教科書を指でなぞらせたりして理解を促す。 ・水書用筆を使って、「左払い」の方向の違いを体感させるとよい。 【評】 作品や自己評価を通して、「左払い」に対する「知識・技能」を評価する。 ・拡大文字を用意し、それぞれの文字の「折れ」「曲がり」の部分の色分けして示し、画の方向に注目させる。 ・「折れ」には直角に折れるものと、やや鋭角に折れるものがあることに気付かせる。 【評】 作品や自己評価を通して、「折れ」「曲がり」に対する「知識・技能」を評価する。 ・「そり」は、始筆から曲線が進み、終筆は「はね」になっていることに気付かせる。</p>

○『手紙』『思う』『雨音』『羽』を練習・まとめ書きし自己評価をする。

○「そり」「点や画」の方向が似ている漢字を見付け、見付けた漢字を使った言葉を書く。

○教科書P.19下段の『人』『大』『月』『千』の「試し書き」と「まとめ書き」を比べて、変わったことを話し合う。

7～9 画の長さや間隔に注意し、『山』『貝』を書く。

★画の長さや、画と画との間に気を付けて書こう

○『山』『青』『生』『出』『名』を試し書きし、課題をつかむ。

○画の長さの違いについて話し合う。

○画の長さの違いに気を付けて、『山』～『夕方』を練習・まとめ書きし、自己評価をする。

○『貝』『春』『思』『顔』を試し書きし、課題をつかむ

○点画の間隔について話し合う。

・横画どうし

・横画と縦画

・斜めの画どうし

○『貝』～『会場』を練習・まとめ書きし、自己評価をする。

○『名前』『思い出』を試し書きし、画の長さや画と画の間隔を確認する。

○『名前』『思い出』を練習・まとめ書きし、自己評価をする。

○学習した文字を使った言葉や学習したことが生かせる文字を見付けて書く。

10～11 画の付き方や交わり方に注意し、『作』『文』を書く。

★画の付き方や交わり方に気を付けて書こう

○『作』『文』を試し書きし、課題をつかむ。

○画の付き方を確かめる。

○『近』～『公』を練習する。

○画の交わり方を確かめる。

・交わり方…①斜めに交わる場合

②縦横に交わる場合

○『父』『千』『学校』『生活』を練習する。

○『作』『文』をまとめ書きし、自己評価をする。

○いろいろな画の付き方の文字や交わる画のある文字を書く。

12～14 文字の中心に注意し、『水』『当』『半』『市』を書く。

★文字の中心に気を付けて書こう

○『水』『当』『半』『市』を試し書きし、課題をつかむ

○文字の中心を確かめる。

・縦画が中心にある文字

・書き出しが中心の文字

○『半』～『夜空』を練習する。

・「点や画」は全て方向をそろえる字もあれば異なる字もあることに気付かせる。

・空書させたり、教科書を指でなぞらせたりして理解を促す。

・教科書P.19を参照し、書写で使う言葉を使って評価をするように助言する。

【評】作品や自己評価を通して、「そり」「点や画」に対する「知識・技能」を評価する。

・見付けた漢字を板書し、学級全体で共有する

【評】言葉を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・教科書P.19を参照させ、「何画目」の「どこが」「どうなったか」を伝えさせる。

・同じ方向の画について、画の長さに注目させ話し合いの焦点化を図る。

【評】話し合いを通して、画の長さに対する「思考・判断・表現」を評価する。

【評】作品や自己評価を通して、画の長さに対する「知識・技能」を評価する。

・分解文字を操作させて、点画の間隔をそろえると字形が整うことに気付かせる。

・間のとり方がそろっていない文字を示して印象を答えさせる。

・どの点画の間隔をそろえるとよいかを考えさせながら書かせる。

【評】作品や自己評価を通して、点画の間隔に対する「知識・技能」を評価する。

・教科書P.20～P.21を見ながら、学習したことを振り返らせる。

【評】作品や自己評価を通して、画の長さや画と画の間隔の取り方に対する「知識・技能」を評価する。

【評】文字や言葉を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・書き順を確認してから試し書きをさせる。

・画が付くとはどういう状態のことかを理解させる。

・教科書の文字を指でなぞらせたり、分解文字を操作させたりして、理解を促す。

・画と画が付く位置を考えながら書くように声かけをする。

【評】練習を通して、画の付き方に対する「思考・判断・表現」を評価する。

・線の交わっているところは、多くの場合、文字の中心を示す大事な部分であることに気付かせる。

・中心線のないますに書けるように習熟を図る

【評】練習を通して、画の交わり方に対する「思考・判断・表現」を評価する。

【評】作品や自己評価を通して、画の付き方や交わり方に対する「知識・技能」を評価する

・赤で中心線を入れさせて確かめさせる。

・概形の中心が文字の中心となることを押さえる。

・ますの中心線を目安にして書くと書きやすいことに気付かせる。

- 『半』～『夜空』をまとめ書きし，自己評価する。
- 教科書P.25の教材文を試し書きし，課題をつかむ。
- 気を付けることを確認する。
 - ・まずに書くときのきまり
 - ①文頭の1字あけ
 - ②拗音・促音，句読点の位置
 - ・書き順，画の方向，画の長さ，画と画の間，画のつき方と交わり方，文字の中心
- 教材文をまとめ書きし，自己評価をする。
- 国語の教科書から書きたい文を選んで書く。

【評】練習の様子を通して，文字の中心に対する「思考・判断・表現」を評価する。

- 【評】作品や自己評価を通して，文字の中心に対する「知識・技能」を評価する。
- ・『時』『丸』の書き順を確認してから試し書きをさせる。
 - ・これまでに学習した基本的なきまりを確認する。
 - ・用具の持ち方や姿勢も意識させる。

【評】作品や自己評価を通して，これまでの学習に関する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 年がじょうと書きぞめ

配当時間 11 時間

単元の目標 (1) 文字を書く位置や大きさ、字形、中心に気を付けて、正しく書くことができる。
(3) 文字を書く位置や大きさ、字形、中心に気を付けて、丁寧に書こうとする。

標準的な展開例

02020201_001

【教材名】 あけましておめでとうございます／お正月に…／元気な子（書き初め）／図工…／書いてつたえ
合おう (P. 27～P. 33)

【準備等】 八つ切り画用紙 1/2（短冊），フェルトペン，横罫線用紙，縦罫線用紙，画用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 文字を書く位置や大きさに気を付け、年賀状を書く。 ★年賀状の書き方のきまりに気を付けて丁寧に書こう ○新しい年を迎える気持ちについて話し合う。 ○文字を書く位置や大きさを確かめる。 ① 相手の名前は中央に書く。 ② 相手の住所は右に書く。 ③ 自分の名前は左に書く。 ④ 自分の住所は名前の右に書く。 ○練習用紙に表書きを書く。 ○文字を書く位置や大きさについて、教科書の表書きと比べて自己評価する。</p> <p>○表書きと裏面の文字を練習する。</p> <p>○年賀状を丁寧に書き、自己評価する。</p> <p>3 鉛筆を正しく持ち、文字の形や中心に気を付けて、書き初めを書く。 ★文字の形や中心に気を付けて、丁寧に書こう ○『お正月に…』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○段落や句読点の書き方のきまりを確かめる。 ①段落のはじめは一字下げにする。 ②「、」や「。」は、ますの右上に書く。 ○『お正月に…』を練習する。 ○『お正月に…』をまとめ書きし、自己評価する。</p> <p>4～5 フェルトペンを正しく持ち、文字の形や中心に気を付けて書き初めを書く。 ★文字の形や中心に気を付けて、丁寧に書こう ○『元気な子』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○『元気な子』を練習する。</p> <p>○『元気な子』をまとめ書きし、鑑賞し合う。</p> <p>○お正月の言葉を書く。</p> <p>6～7 文字の概形の違いに気を付けて、『図』『工』などを書く。 ★文字の形に気を付けて書こう ○『図』『工』を試し書きし、課題をつかむ。 ○教科書P. 30を見て、試し書きと比べて話し合う。 ○文字の概形を理解する。</p> <p>○いろいろな概形の文字を練習する。 ○同じ部分をもった文字の概形の違いを理解する。</p> <p>○『図工』『上と下』『本を読む』『時間わり』をまとめ書きする。</p> <p>8～11 相手や目的を考えて用具や用紙を選び、招待状や本</p>	<p>・表書きの書き方についても扱う。</p> <p>・年賀状の意義について説明する。</p> <p>・文字の大きさは①相手の名前②相手の住所③自分の名前④自分の住所の順に小さく書かせる。</p> <p>・はがきサイズの練習用紙を用意しておく。 【評】作品や自己評価を通して、文字の大きさや書く位置に関する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・裏面も用紙の中でどのように文字を配置するかよく考えて書かせる。</p> <p>・本時の目標をふまえてまとめ書きをさせる。 【評】作品や自己評価を通して、文字の大きさや書く位置に関する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・文を音読して書き順を確認してから試し書きを行う。</p> <p>【評】作品を通して、文字の形や中心に関する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・フェルトペンの持ち方、動かし方を教師が示範したい。</p> <p>・ペン先を紙に強く押し付けて書く児童が多いので、軽い筆圧で書くよう声を掛ける。</p> <p>・中央の線に補助線を書いた練習用紙を印刷しておく。 【評】作品を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・言葉の例を示し、選ばせてもよい。</p> <p>・学習したことが役立つように声掛けをし、意欲を高める。 【評】言葉を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・書き順を確認してから試し書きをさせる。</p> <p>・教科書P. 30の文字の周りを囲むことによって漢字と平仮名の4種類の概形に気付かせ、概形を考えて書くことの必要性を実感させる。</p> <p>・文字の概形を児童の言葉で表現させてもよい。</p> <p>・始筆の位置にも気を付けさせる。</p> <p>・一字のときと文字の部分になるときの形や点画の変化が理解できるように説明する。 【評】作品を通して、文字の概形に関する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・生活科や国語科と関連させ指導すると効果的</p>

の紹介カードを丁寧に書く。

★招待状や本の紹介カードを丁寧に書こう

○本時の目標を知る。

○どのような形式の招待状にするか決める。

○練習し、自己批評をする。

○招待状をまとめ書きし、自己評価、相互評価をする。

○『本のしょうかいカード』の書き方や書くときに気を付けることについて話し合う。

- ①文頭は1文字空ける。
- ②横書きは、下線にそろえて書く。
- ③文字の中心をそろえて書く。
- ④書き順
- ⑤画の長さ
- ⑥画と画との間
- ⑦画の方向

○『本のしょうかいカード』を書く練習をし、自己評価をする。

○『本のしょうかいカード』を下書きする。

○『本のしょうかいカード』をまとめ書きし、自己評価をする。

○友達の『本のしょうかいカード』を読み、感想を伝える

である。

- ・招待状や本の紹介カードを書く学習であることを知らせる。
- ・何で書くか（用具）、どんな紙に書くか（用紙）、縦に書くか横に書くか（縦書き・横書き）、イラストを入れるかなどの点をよく考えさせる。
- ・内容は、生活科の単元や学校行事などに関連させて考えさせるとよい。
- ・教科書P.32の招待状の例を参考にさせる。

- ・横罫線や縦罫線の用紙、画用紙を用意し、自由に選べるようにしておく。
- ・横書きの場合は、教科書P.12を参考に、句読点や拗音・促音を書く位置を確認する。
- ・姿勢や筆記用具の持ち方に気を付けるように声かけをする。
- ・よさと課題を見付けて、赤鉛筆などで修正できるように例示する。

【評】練習や自己批評を通して、招待状を書くことに対する「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・練習を振り返らせ、受け取る人のことを考えて丁寧に書くように話す。
- ・練習したものまとめ書きを比べ、よくなったことを評価させる。
- ・互いの招待状のよいところを見付けて伝え合わせる。

【評】作品や自己評価、相互評価を通して、招待状を書く「知識・技能」を評価する。

- ・教科書P.33の『本のしょうかいカード』の文を音読させる。
- ・目次などを参照して既習事項を振り返るように助言する。

- ・教科書P.33の教材例を印刷して、なぞり書きさせたり、視写させたりする。

【評】練習や自己評価を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・書くときに気を付けることを板書しておく。

- ・教科書P.33を参考にして、自分のおすすめの本について書くようにする。

【評】作品や自己評価を通して、『本のしょうかいカード』を書く「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 学しゅうのまとめ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 始筆・送筆・終筆や書く位置に気を付けて、正しく書くことができる。
 (2) 1年間の学習内容を振り返り、文字を書くときに気を付けることを考えることができる。
 (3) 1年間の学習を振り返り、始筆・送筆・終筆や書く位置に気を付けて、丁寧に書こうとする。

標準的な展開例

02020301_001

【教材名】時間わりを書いてみよう／じいさまは…

(P. 34～P. 35)

【準備等】曜日と教科のみの枠がある時間割用紙，2cm角のます目で縦10ます×横4行の用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1年間の書写の学習を振り返り，時間割を丁寧に書く。 ★学習したことを生かして，時間割を丁寧に書こう ○教科書を見ないで，時間割を試し書きする。</p> <p>○1年間で学習したことを確かめる。 ①書き順 ②画の方向 ③画の長さ ④画と画との間 ⑤画の付き方 ⑥画の交わり方 ⑦文字の中心 ⑧文字の形 ○試し書きと教科書の文字を比べて課題をつかみ，練習をする。 ○まとめ書きをする。</p> <p>○自己評価と相互評価をする。</p> <p>2 1年間の書写の学習を振り返り，文を丁寧に書く。 ★学習したことを生かして，文を丁寧に書こう ○1年間で学習したことを振り返る。</p> <p>○1年間で学習したことを確かめる。 ①よい姿勢・よい持ち方 ②文字の形 ③ます目の中の書く位置 ④点画の書き方 ○教科書P. 35の教材文を練習し，自己批正をする。</p> <p>○教材文をまとめ書きする。 ○自己評価と相互評価をする。</p>	<p>・曜日と教科のみの枠がある時間割を書く用紙を印刷しておく。 ・教科書P. 34の「ふりかえってみよう」を見て1年間で学習してきた内容を振り返らせる。 【評】振り返りを通して，1年間の学習に対する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・よく書けたところと課題を見付け，赤鉛筆などで修正できるようにする。 ・試し書きとまとめ書きを比べて評価するように指示する。 ・友達が書いた時間割で学習したことを生かして書いているところを見付けて，伝えるように話す。 【評】練習やまとめ書きの様子を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・試し書きとまとめ書きを比べて評価するように指示する。 ・友達が書いた時間割で学習したことを生かして書いているところを見付けて，伝えるように話す。 【評】作品や自己評価，相互評価を通して，1年間の学習を生かして書く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・前時の学習を振り返らせ，学習したことを確認する。 ・教科書P. 35の教材文を見ながら，学習したことを確認する。 ・文頭は1文字分空けることも確認する。 【評】学習内容の確認を通して，1年間の学習に対する「思考・判断・表現」を評価する。 ・自分が書いた文字の，よく書けたところと課題を見付け，赤鉛筆などで修正できるようにする。 ・自作の文章を書かせてもよい。 【評】練習やまとめ書きの様子を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・友達の作品のよさを見付けて，伝えるように指示する。 【評】作品や自己評価，相互評価を通して，「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 はじめの学習

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 用具の扱い方や持ち方について知り、よい姿勢や持ち方を意識して書くとともに、筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して、いろいろな太さの線を書くことができる。
(3) これから始まる毛筆学習について理解し、興味関心を高めようとする。

標準的な展開例

03020101_001

【教材名】毛筆の学習が始まるよ／学習の進め方

(P.1～P.10)

【準備等】毛筆用具、筆の持ち方の姿勢図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1年間の学習内容や学習の進め方について知り、書写学習に対する意欲をもつ。 ★学習の進め方を知ろう ○どんなところに毛筆文字が使われているか考える。</p> <p>○学習の目的を考える。</p> <p>○学習の進め方を知る。</p> <p>○学習したことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから毛筆で書かれている文字を探し日本の文字文化に触れながら、興味をもてるようにする。 ・どうして毛筆を学習するのか、確認する。 ・毛筆書写の学習を、日常の書字活動に生かしていくことを伝える。 ・教科書表紙裏P.1の「学習のめあて」を読み理解する。 ・「ためし書き」「まとめ書き」の用語の説明をする。 <p>【評】身の回りから毛筆文字を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
<p>2 用具の扱い方や筆の持ち方について知り、よい姿勢や持ち方を意識して書く。筆の穂の柔らかさや筆圧を意識していろいろな太さの線を書く。 ★用具のあつかい方をおぼえて、いろいろな線を書いてみよう ○毛筆用具の名前や用具の扱い方を知る。</p> <p>○よい姿勢・筆の持ち方を理解する。</p> <p>○よい姿勢・筆の持ち方で、いろいろな線を書く。</p> <p>○自己評価する。 ○後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆用具の置き方については、実物を扱うことを通して、理解を深めるようにする。 ・いろいろな線を書く際には「穂先の向き」と「筆圧」に気を付けることを、水書板などで示範しながら説明する。 <p>【評】毛筆用具を実際に扱う活動を通して、よい姿勢や筆の持ち方の「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆は一本がけか二本がけで持ち、軸を倒さないで書くよう机間指導する。 ・力の入れ方（筆圧）によっていろいろな太さの線が書ける筆の機能を体感できるようにする。 ・教科書P.9を参考に、筆圧は三段階で示し、音で表すなどの方法で、力の入れ具合がイメージできるようにする。 ・「とん」「すうつ」「ぴた」のリズムで書くよう支援する。 <p>【評】作品を通して、毛筆の特性を理解し、いろいろな太さの線を書き分ける「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穂先の向きがよいものを一枚選ぶよう促す。 ・用紙は紙ばさみを利用して整理させ、筆の墨はよく拭き取るよう指導する。 ・硯は持って歩かないように指導し、墨の後始末に気を付けさせる。

【 備 考 】

単元名 「横画」の筆使い

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 「横画」の筆使い(始筆・送筆・終筆)について理解するとともに、筆圧に注意し、穂先の向きに気を付けて「横画」を書くことができる。
 (2) 「横画」の筆使いに気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 「横画」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

03020102_001

【教材名】『二』（毛筆）（P. 11～P. 13）

【準備等】水書板，電子黒板，練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～2 「横画」の筆使いに気を付けて、『二』を書く。 ★「横画」の筆使い(筆の運び方)に気を付けて書こう ○用具の扱い方や姿勢について確認する。 ○硬筆と毛筆で『二』を試し書きし，課題をつかむ。 ○試し書きと教材文字を比較して，「穂先の向き」と「穂先の通るところ」について気付いたことを話し合う。 ○「始筆」「送筆」「終筆」と「穂先の向き」を理解する ○練習する。 ○まとめ書きをする。 ○試し書きと比べて自己評価する。 ○硬筆でまとめ書きをする。 ○「横画」のある漢字を探して書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆の用具の扱いや筆使いに関心をもたせ，筆で漢字を書くことを支援していく。 ・教科書P. 6～P. 7の姿勢図を使って確認させる。 ・硬筆は教科書P. 13の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・毛筆は教科書を見ないで書くようにする。 ・始筆は，筆を左上からゆっくり置いて，一度止めること，送筆は，穂先の向きを変えずに同じ筆圧で筆を運ぶことを確認させる。 ・終筆は筆を止めてから，押し返すように左上へゆっくり上げることも確認させる。 ・穂先の向きや穂先がどこを通っているかを確かめながら書くことを知らせる。 ・教科書P. 13「たしかめよう」の図を活用させる。 <p>【評】話し合いの様子や作品を通して，始筆・送筆・終筆や「横画」の筆使いに対する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「始筆」「送筆」「終筆」のリズムをつかむために，「とん」「すうっ」「びたっ」と唱えながら，一緒に空書する。 ・常に穂先の角度は同じであることや全体的にやや右上がりに書くと文字が整って見えることを理解させる。 <p>【評】練習や作品を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさや位置についての評価は求めないようにする。 <p>【評】作品や自己評価を通して，「横画」の筆使いと自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 13の「まとめ書き」の欄を活用させる。 ・教科書P. 57～P. 60の「漢字表」から探して書かせる。児童の意欲を喚起するために，既習の漢字でなくてもよいこととする。

【 備 考 】

単元名 「たて画」の筆使い

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 「縦画」の筆使い(始筆・送筆・終筆)について理解するとともに、筆圧に注意し、穂先の向きに気を付けて「縦画」を書くことができる。
 (2) 「縦画」の筆使いに気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 「縦画」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

03020103_001

【教材名】『土』（毛筆）（P. 14～P. 15）

【準備等】水書板，電子黒板，練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～2 「縦画」の筆使いに気を付けて、『土』を書く。 ★「縦画」の筆使いに気を付けて書こう ○用具の扱い方や姿勢について確認する。 ○硬筆と毛筆で『土』を試し書きし，課題をつかむ。 ○試し書きと教材文字を比較して，穂先の向きや通るところはどうなっているかを話し合う。 ○練習する。 ○まとめ書きをする。 ○試し書きと比べて自己評価する。 ○硬筆でまとめ書きをする。 ○「縦画」のある漢字を探して書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 6～P. 7の姿勢図を使って確認させる。 ・硬筆は教科書P. 15の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・毛筆は教科書を見ないで書くようにする。 ・始筆は，筆を左上からゆっくり置いて，一度止めることや，送筆は，穂先の向きを変えずに，同じ筆圧で筆を下へ運ぶことを確認させる。 ・終筆は，筆を止めてから，左上へゆっくり上げることも確認させる。 【評】話し合いの様子や作品を通して，始筆・送筆・終筆や「縦画」の筆使いに対する「知識・技能」を評価する。 ・筆を立て，肘を動かして筆を手前に引くように助言する。 ・「とん」「すうっ」「ぴたっ」の言葉に合わせて書かせる。 ・二画目の縦画は，一画目の横画のだいたい真ん中で交わることを確認させる。 【評】練習や作品を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・「縦画」は，筆の穂先が画の左側を通るように気を付けて書かせる。 ・試し書きと比べ，基準達成を確かめるように伝える。 【評】作品や自己評価を通して，「縦画」の筆使いと自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P. 15の「まとめ書き」の欄を活用させる。 ・P. 57～P. 60の「漢字表」から探して書かせる児童の意欲を喚起するために，「縦画」のある漢字であれば，既習の漢字でなくてもよいこととする。

【 備 考 】

単元名 「はらい」の筆使い

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 左右の「払い」の筆使いの違いを理解するとともに、左右の「払い」の筆圧に気を付けて書くことができる。
 (2) 左右の「払い」に気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 左右の「払い」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

03020104_001

【教材名】『大』（毛筆）／こう筆の学習「はらい」（硬筆）／レッツ・トライ 暑中みまい（硬筆）／レッツ・トライ セーフティ教室の作文（硬筆）（P. 17～P. 23）

【準備等】水書板、電子黒板、練習用紙、はがき

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「払い」の筆使いに気を付けて、『大』を書く。 ★「払い」の筆使いに気を付けて書こう ○用具の扱い方や姿勢について確認する。</p> <p>○硬筆と毛筆で『大』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○左右の「払い」の筆使いの違いと筆圧のかけ方を理解する。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて自己評価する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きする。</p> <p>3 「払い」の方向に気を付けて、『人』『大』『木』を硬筆で書く。 ★「払い」の方向に気を付けて、硬筆で書こう ○硬筆で『人』『大』『木』を試し書きする。 ○毛筆で学習した「払い」の方向や筆圧について確かめる</p> <p>○『人』『大』『木』，続いて『身』『太』『矢』を練習する。</p> <p>○「払い」を含んだ『文集』『漢字』『水泳』をまとめ書きし、自己評価する。</p> <p>○『千』『月』『近』，続いて『動』『調』『返』を書く</p> <p>4 文字の大きさや行の中心に気を付けて、はがきに書く。 ★文字の大きさや中心に気を付けて書こう ○教科書のはがきの文面を試し書きする。</p> <p>○試し書きと教科書P. 21のはがきの文面とを比較して、基準を理解する。</p>	<p>・筆圧の強さを数値（3段階）で理解させる。</p> <p>・教科書P. 6～P. 7の姿勢図を使って確認させる</p> <p>・硬筆は教科書P. 18の「ためし書き」の欄を活用させる。</p> <p>・水書板や電子黒板を利用し、「払い」の筆使いや運筆の速度を具体的に見せ、自分の課題を立てさせる。</p> <p>・「左払い」は、始筆の角度のまま筆を運び、筆圧を弱めながら穂先をそろえてゆっくり払うことを確認する。</p> <p>・「右払い」は、始筆は小さく、徐々に筆圧を強めていき、一度止め、筆圧を弱めながら穂先をまとめて、ゆっくり右横に払うことを確認する。</p> <p>【評】話し合いの様子や作品を通して、「払い」の筆使いに対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「払い」の筆使いができていれば、方向にも注意するよう促し、個別に支援する。</p> <p>【評】練習や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「左払い」と「右払い」の両方に気を付けさせる。</p> <p>・試し書きと比べ、基準の達成を確かめさせる</p> <p>【評】作品や自己評価を通して、左右の「払い」の筆使いと自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P. 18の「まとめ書き」の欄を活用させる。</p> <p>・教科書を見ないで書かせる。</p> <p>・同じ「左払い」でも、『人』は約45度に開いて払い、『大』は緩やかな角度で払うことを確認する。</p> <p>・「右払い」は一度止まってから、方向が変わることを確認する。</p> <p>・「払い」の方向の違いと筆圧に気を付けて書かせる。</p> <p>・他の文字でも同じきまりで書けることに気付くよう机間指導する。</p> <p>【評】作品や自己評価を通して「払い」に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「短い払い」，「長い払い」，「にょうの払い」を書き、払う方向や長さの違いに気を付けながら書けるよう支援する。</p> <p>・巻末の漢字表などから「払い」のある漢字を探して書かせる。</p> <p>・書き始めや、行の中心に着目できるよう促す</p> <p>・「暑中みまい」では、どの文字を大きくするとよいか、相手に気持ちが伝わるように書くにはどうするとよいかを考えられるようにする。</p>

<p>○宛名の書き方を知る。</p> <p>○はがきの書き方を理解して，練習する。</p> <p>○教科書P. 21のはがきの文面をまとめ書きする。</p> <p>○夏休みに書く意欲をもつ。</p> <p>5 文字の大きさや配列に気を付けて，作文を書く。</p> <p>★文字の大きさや配列に気を付けて書こう</p> <p>○縦書きの原稿用紙の書き方で気を付けることについて理解する。</p> <p>○教材文を書く。</p> <p>○他教科の学習でも，文字の大きさや配列に気を付けて書こうという意識をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶文を大きめに書く」「平仮名，片仮名は，漢字より小さめに書く」「行の中心をそろえて書く」ことを確認する。 ・文字の大きさは，①相手の名前，②相手の住所，③自分の名前，④自分の住所の順に大きく書くことを押さえる。 ・はがきの原寸の用紙を用意する。 ・自分の課題に合った練習用紙を選択できるようにする。 <p>例) ・中心をそろえられるよう中心線を引いた用紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き始めの文字を書いてある用紙 <p>・自分の課題がどうだったか，試し書きとまとめ書きを比べて評価するように指示する。</p> <p>【評】作品や自己評価を通して，文字の大きさや行の中心に対する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを生かして，夏休みにはがきを出そうと声掛けをする。 ・ポストに出す前に書き忘れや料金が合っているかを確認することを伝える。 <p>・教科書P. 22の作文を見ながら，国語の時間に学習した原稿用紙の書き方について，確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①書き始めは，1 ます空ける。 ②名前は，姓と名の間を1 ます空ける。 ③平仮名，片仮名は，漢字より小さめに書く。 ④点や丸は，2 の部屋に書く。 ⑤始まりの「かぎ」は4 の部屋，終わりの「かぎ」は1 の部屋に書く。 <p>・書き出しや句読点の位置に気を付けて練習するように声掛けをする。</p> <p>【評】作品を通して，文字の大きさや配列に対する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを活用して書くことができるように，日常の活動の中で基準を振り返られるようにする。
---	--

【 備 考 】

単元名 「おれ」と「はね」の筆使い

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 「折れ」と「はね」の筆使いを理解し、正しく書くことができる。
 (2) 「折れ」と「はね」の筆使いに気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 「折れ」と「はね」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

03020201_001

【教材名】『力』（毛筆）／こう筆の学習「おれ」と「はね」（硬筆）（P. 24～P. 27）

【準備等】水書板，電子黒板，練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「折れ」と「はね」の筆使いに気を付けて、『力』を書く。 ★「折れ」と「はね」の筆使いに気を付けて書こう ○硬筆と毛筆で『力』を試し書きし，課題をつかむ。</p> <p>○「折れ」と「はね」の筆使いで気を付けるところについて話し合う。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて自己評価する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>○「折れ」と「はね」のある漢字を探して書く。</p> <p>3 「折れ」と「はね」の方向に気を付けて，硬筆で書く。 ★「折れ」と「はね」の方向に気を付けて，硬筆で書こう ○『母・間・山・光・守』を試し書きする。</p> <p>○「折れ」と「はね」の方向の違いを確認する。</p> <p>○『母・間・山・守・光』，続いて『号・調・植・池・予』を練習する。</p> <p>○「折れ」と「はね」を含んだ『方角』『植物』『緑色』を書き，自己評価をする。</p> <p>○「折れ」と「はね」のある言葉や文を考えて書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆は教科書P. 25の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・「折れ」は筆を一度止め，筆の軸を回さないで，穂先の向きを変えずに左下へ運ぶことを確認する。 ・「はね」は筆を一度止め，穂先をまとめながら左上にゆっくりはねることを確認する。 【評】話し合いの様子や作品を通して，「折れ」と「はね」の筆使いに対する「知識・技能」を評価する。 ・「折れ」と「はね」の筆使いに集中して書くように促す。 ・「折れ」と「はね」の筆使い，方向のどこに問題があるのかを個別に確認し，支援する。 【評】練習や作品を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・「折れ」と「はね」の筆使いに気を付けて書かせる。 ・穂先はどこを通っていたか，「折れ」と「はね」の筆使いで気を付けたところはどこだったかを確認するように支援し，達成感が得られるようにする。 【評】作品や自己評価を通して，「折れ」と「はね」の方向や，自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P. 25の「まとめ書き」の欄を活用させる。 ・教科書P. 57～60の「漢字表」から「折れ」と「はね」のある文字を探させ，硬筆で書かせる。 ・「折れ」の方向，「はね」の方向を意識させて書かせる。 ・毛筆で学習した「折れ」と「はね」の筆使いを生かして，丁寧に書くように指示する。 ・何画目が「折れ」と「はね」になるかを確かめさせる。 ・「折れ」と「はね」の方向を確かめさせる。 ・画の方向に気を付けて書かせる。 【評】練習の様子を通して，「折れ」と「はね」に対する「思考・判断・表現」を評価する ・言葉で書いたときも，「折れ」と「はね」の方向に気を付けて書くように声掛けをする。 ・自己評価は，教科書P. 27に書き込むよう促す 【評】作品や自己評価を通して，「折れ」と「はね」の方向に対する「知識・技能」を評価する。 ・語句や文の中でも字形を整えて書くことができるように意識化を図り，日常書写でも生かしていくことができるよう関連付ける。

【 備 考 】

単元名 ひらがなの筆使い

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 平仮名の筆使いを理解し、正しく書くことができる。
 (2) 平仮名の筆使いに気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 平仮名の筆使いに気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

03020202_001

【教材名】『つり』（毛筆）／（こう筆の学習）筆順と字形（硬筆）／レッツ・トライ 俳句／レッツ・トライ お店見学のお礼じょう (P. 28～P. 35)

【準備等】水書板、電子黒板、練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 平仮名の筆使いに気を付けて、『つり』を書く。 ★平仮名の筆使いに気を付けて書こう ○硬筆と毛筆で『つり』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○試し書きと教材文字を比較して、気付いたことを話し合う。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。 ○試し書きと比べて自己評価する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>3 筆順に気を付けて、硬筆で書く。 ★筆順に気を付けて、字形を整えて書こう ○硬筆で『二』『川』『十』『小』『内』『申』を書く。</p> <p>○筆順のきまりを確認する。</p> <p>○同じきまりの文字を探して書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆は教科書P. 29の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・漢字と比べて平仮名は、丸みがあり、始筆や終筆が柔らかく入っていることに気付かせる ・『つ』の「曲がり」は、筆の軸を回さないでゆっくり運ぶように書くことを確認する。 ・『り』の1筆目は2筆目につながるように書くことを確認する。 ・『り』の「払い」は、角度に気を付けて、だんだん力を抜いて払うことを確認する。 【評】話し合いの様子や作品を通して、平仮名の筆使いに対する「知識・技能」を評価する ・穂先の通るところを理解できるようにするために、DVDを見せたり、二色筆を用いたり、二色のチョークで書いたりするとよい。 ・部分練習ができる紙を準備し、自分の課題解決ができるような練習用紙を選ぶことができるよう支援する。 【評】練習や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・平仮名の筆使いに気を付けて書かせる。 ・試し書きと比べ、基準の達成を確かめさせる 【評】作品や自己評価を通して、平仮名の筆使いと自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P. 29の「まとめ書き」の欄を活用させる。 【評】作品を通して、平仮名の筆使いに対する「知識・技能」を評価する。 ・これまでに学習した筆順のきまりを思い出して書かせる。 ・どのような筆順で書いているか、児童の様子を見る。 ・二年生までに学習した筆順のきまりについて『二』『川』『十』の文字を提示し、想起できるようにする。 ・「上から下へ」「左から右へ」「横から縦へ」を確認する。 ・他にどのようなきまりがあるかを考えられるように『小』『内』『申』の文字を提示し、試し書きをどのように書いたか確かめる。 ・「中から左右へ」「外側から内側へ」「つらぬく縦画が後」のきまりを確認する。 ・筆順が正しいと、文字の形が整えられ、画数の多い字も形よく、速く書けることを伝える ・教科書P. 57～P. 60の「漢字表」から探してもよい。 ・グループで同じきまりの文字を探し、筆順を意識して確かめながら書くように声掛けをする。 ・どんなきまりの文字を見つけたか交流し合うとよい。 【評】グループ活動を通して、筆順のきまりに

<p>○『二』『川』『十』『小』『内』『申』をまとめ書きし自己評価・相互評価する。</p> <p>4 文字の大きさや行の中心に気を付けて、俳句を書く。 ★文字の大きさや行の中心に気を付けて書こう ○教科書P. 32の俳句を視写する。</p> <p>○どのように書くと読みやすいか、試し書きをもとに話し合い、文字の大きさと行の中心のそろえ方について知る</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをし、自己評価・相互評価する。</p> <p>○ほかの俳句を調べて書く。</p> <p>5 文字の大きさや行の中心に気を付けて、手紙を書く。 ★文字の大きさや行の中心に気を付けて、丁寧に書こう ○手紙を書く時の手順を確認する。</p> <p>○手紙の形式を理解する。</p> <p>○「書き方のひみつ」を確認する。</p> <p>○封筒の書き方を知る。</p> <p>○メモを基に手紙を書き、自己評価する。</p>	<p>対する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が書いている様子を友達に見てもらい、正しい筆順で書いているか、お互いに評価できるようにする。 ・正しい筆順で書くことで、字形を整えて書くことができたか確かめる。 <p>【評】作品を通して、筆順のきまりに対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・国語の俳句の学習と関連付けて指導する。</p> <p>・三つの俳句の中から1つを選んで視写させる</p> <p>・平仮名は漢字よりやや小さめに書くこと、行の中心や行頭の位置をそろえることを確認する。</p> <p>・文字の中心を行の中心にそろえて書けるように、補助線入りの用紙などを用意して、練習できるようにする。</p> <p>【評】練習や作品を通して、文字の大きさや行の中心などの自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・基準の達成を、近くの友達と相互に評価させる。</p> <p>【評】作品や自己評価を通して、文字の大きさや行の中心に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・好きな俳句を事前に調べておくよう指示する</p> <p>・相手意識をもって考えさせるようにする。</p> <p>・教科書P. 33を見て手順を確認する。</p> <p>・書く時に気を付けることは何かを考え、教科書P. 34を見て、大切なことを確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①始めのあいさつ ②本文(つたえたいこと) ③結びのあいさつ ④後付け <p>・平仮名は、漢字より小さめに書くこと、文字の中心を行の中心にそろえて書くこと、書き始めの位置に気を付けること、手紙の形式を理解し、文字と文字との間に気を付けることを確認する。</p> <p>・相手の名前、相手の住所、自分の名前、自分の住所の順に大きく書くことにより、読みやすく、相手を大切に思う気持ちを表す封筒になることを理解させる。</p> <p>・封筒は、鉛筆ではなくサインペンなどの筆記具で書くことも、相手を思うことにつながることに気付かせる。</p> <p>・社会や総合的な学習の時間などで見学に行った後、手紙の形式を基に書かせるとよい。</p> <p>・文字の大きさや行の中心に気を付けて書けたかに着目させる。</p> <p>【評】作品や自己評価を通して、手紙の形式や文字の大きさや行の中心に対する「知識・技能」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】

単元名 「曲がり」と「おれ」の筆使い

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 「曲がり」と「折れ」の筆使いの違いを理解し、正しく書くことができる。
 (2) 「曲がり」と「折れ」の筆使いの違いに気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 「曲がり」と「折れ」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

03020203_001

【教材名】『ビル』（毛筆）／（こう筆の学習）「曲がり」と「おれ」（硬筆）／（こう筆の学習）文字の組み立て方（硬筆）（P.36～P.39）

【準備等】水書板、電子黒板、書画カメラ、練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「曲がり」と「折れ」の筆使いに気を付けて、『ビル』を書く。 ★「曲がり」と「折れ」の筆使いに気を付けて書こう ○硬筆と毛筆で『ビル』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○試し書きと教材文字を比較して、気付いたことを話し合う。</p> <p>○「曲がり」と「折れ」の部分練習をする。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて自己評価する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>○『ピアノ』を硬筆で書く。</p> <p>2 「曲がり」と「折れ」の違いに気を付けて硬筆で書く。 ★「曲がり」と「折れ」の違いに気を付けて、硬筆で書こう ○『モ』『ム』を硬筆で試し書きする。</p> <p>○教科書P.38の硬筆文字の「曲がり」と「折れ」の部分はどこか、理解する。 ・「曲がり」と「折れ」の書き方を確認する。</p> <p>○練習する。</p> <p>○自己評価する。</p> <p>○『勉強』『銀紙』『空港』『医院』を書く。</p> <p>3 文字の組み立て方に気を付けて、硬筆で書く。 ★文字の組み立て方に気を付けて書こう ○『坂』『音』『聞』『原』を書く。</p> <p>○いろいろな組み立て方とその基準を理解する。 自分の課題を見付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆は教科書P.37の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・書画カメラで試し書きを見せ、着目させる。 ・「曲がり」と「折れ」の筆使いの違いについて理解し、自分の課題を見付けるように促す ・「曲がり」では筆の軸を回さないこと、「折れ」では筆を一度止めて筆圧を弱めながら払うことを確認し、水書板で示範したり、DVDを見せたりする。 【評】練習を通して、「曲がり」と「折れ」の筆使いと自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。 ・筆の穂先の向きと通るところに再度気を付けて書かせる。 ・試し書きと比べ、基準の達成を確かめさせる ・「曲がり」と「折れ」の筆使いに気を付けて正しく書けているか、字形は整っているかを確かめさせる。 【評】作品や自己評価を通して、「曲がり」と「折れ」の違いに対する「知識・技能」を評価する。 ・教科書P.37の「まとめ書き」の欄を活用させる。 ・「曲がり」と「折れ」のある語句を字形を整えて書くことによって、まとめをする。 ・毛筆で学習した「曲がり」と「折れ」に気を付けて書かせる。 ・教科書P.38の硬筆文字をいくつか提示し、「曲がり」と「折れ」の部分を探して発表するよう促す。 ・「曲がり」は横画から縦画へゆっくり向きを変えること、「折れ」は一度止めて、次の方向を決めて書くことを確認させる。 ・違いに気を付けて書けているか、確かめながら書かせる。 ・教材文字以外にも、教科書P.57～P.60の「漢字表」から「曲がり」「折れ」のある文字を探して練習させる。 【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・試し書きと比べて評価させる。 【評】作品を通して、「曲がり」と「折れ」の違いに対する「知識・技能」を評価する。 ・「曲がり」と「折れ」のある語句を字形を整えて書くことによって、他の文字への応用を図る。 ・四字がどのような「文字の組み立て方」の漢字かを考えさせる。 ・左右、上下、中と外の組み立て方について、大きさのバランスや形について確認させる。

- 基準に合わせて練習する。
- まとめ書きをし，試し書きと比べて評価する。
- 左右，上下，中と外の組み立て方の漢字を書く。

【評】練習や作品を通して，文字の組み立て方と自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。
 【評】作品や自己評価を通して，いろいろな文字の組み立て方に対する「知識・技能」を評価する。
 ・教科書P.57～P.60の「漢字表」から自分で探して書くことでさらに理解を深めさせる。

【 備 考 】

単元名 書きぞめ

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 書き初めの姿勢や気を付けることを理解し、基本点画の筆使いに気を付けて書くことができる。
 (2) 筆使いや文字の中心に気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 筆使いや文字の中心に気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

03020204_001

【教材名】『正月』または『友だち』（毛筆）

(P. 50～P. 56)

【準備等】書きぞめ用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 筆使いや筆圧に気を付けて、書き初め用紙に『友だち』を書く。 ★筆使いや筆圧に気を付けて書こう ○書き初めの由来を知る。 ○用具の置き方や姿勢を知る。</p> <p>○一字ずつ半紙に試し書きをする。</p> <p>○『友だち』を練習する。</p> <p>○学年、名前の練習をする。</p> <p>3～4 文字の大きさや中心に気を付けて、『友だち』を書く ★文字の大きさや中心に気を付けて書こう ○『友だち』を試し書きする。</p> <p>○試し書きと教材文字と比較して、基準を理解する。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書き初め用紙に書くのは初めての経験なので用紙を折って書かせればよい。 書き初めの由来を説明する。 教科書P. 53～P. 56の写真をしながら、書き初めの姿勢には、「床の上で書く姿勢」と「立って書く姿勢」があることを理解させる。 2分の1の半紙を縦長に置いて書かせると、書き初め用紙の幅とほぼ同じになる。 教科書P. 53～P. 56の上下にある点を線で結ばせることによって、基準となる中心線がどこを通っているか確認させる。 それぞれの文字の筆圧について考えるよう促す。 条幅に書くのは初めての経験なので、文字の大きさのバランスや中心に気を付けさせる。 間隔がうまく取れない場合は、書き初め用紙を三つに折って書かせる。 大きな下敷きがない場合、用紙を一字ずつずらして書くように指示する。 平仮名は漢字より少し小さく書くように指導する。 字形と点画の方向に気を付けて書かせる。 【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 教科書P. 52の写真を見て、小筆の持ち方、筆の運び方を確認する。 位置や大きさに気を付けさせる。 字形と点画の方向に気を付けて試書するよう促す。 漢字と仮名の大きさの違いに気を付けて試し書きするよう促す。 『友』の左払いの方向の違いに気を付けさせる。 平仮名は漢字よりも少し小さめに書くことを確認する。 書き初め用紙では、均等に配置することと天地の余白をとることを指導する。 【評】練習を通して、書き初めの姿勢と字形や点画の方向に対する「知識・技能」を評価する。 文字の大きさや配列に注意して、正しい筆使いで書かせる。 【評】作品や自己評価を通して、文字の大きさや中心、紙への配置に気を付けて書く「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

選択課題であるので、半紙を用いて『正月』を書いてもよい。

単元名 学習のまとめ

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 3年生で学習した筆使いや字形について理解し、書くことができる。
 (2) これまで学習したことを生かして、自分の選んだめあてに気を付けて、考えて書くことができる。
 (3) これまで学習したことを生かして、意欲をもって書こうとする。

標準的な展開例

03020301_001

【教材名】点画のしゅるい（硬筆）／『光』（毛筆）

(P. 40～P. 45)

【準備等】水書板，電子黒板，練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 3年生で学習した基本点画について確かめる。 ★点画の種類を硬筆で書いて確かめよう ○基本点画を試し書きする。</p> <p>○点画の名称の理解を深める。 終筆の形や「…画目」という呼称を知る。</p> <p>○練習する。</p> <p>○基本点画を含む文字を探し，基本点画に親しむ。</p> <p>2～3 これまで学習してきたことを生かして『光』を書く。 ★学習したことを生かして書こう</p> <p>○『光』を試し書きする。 ○教材文字と試し書きを比較して話し合い，自分の課題を見つける。 ○『光』の六画目を練習する。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをし，試し書きと比べて評価する。</p> <p>4 1年間の学習を振り返り，自分の学習の成果を確認する ★文字の大きさや，配列に気を付けて書こう ○教科書P. 45『おにたのぼうし』の一部を視写する。</p> <p>○自分の課題を見つける。</p> <p>○『おにたのぼうし』の5行を書く。</p> <p>○書き上がった文と試し書きを比べて自己評価する。</p> <p>○書き上がった文を読み合う。 自分の好きな文を視写する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 40～P. 41の漢字を試し書きするようにする。 基本点画の名称の確認をする。 点画は「…画目」という言い方で呼ぶことと終筆「止め」「はね」「はらい」の名称について確認する。 既習漢字の中の画の名称を発問し，理解を深める。（「そり」は4年生で学習） それぞれの点画を板書し，P. 40～P. 41の漢字（『一』から『氷』まで）を2回ずつ練習させる。 特に「曲がり」の筆使いでは，筆の軸を回さないように注意させる。 P. 57～P. 60「漢字表」から探させる。 隣同士，点画について問題を出し合って，楽しみながら点画を理解することができるようにする。 <p>【評】問題を出し合う活動を通して，3年生で学習した基本点画に対する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『光』には，今までに学習した点画のどの要素が入っているか発表を促し，「横画」「縦画」「左払い」「はね」「曲がり」「点」があることを確認する。 教科書を見ないで書かせる。 書写用語を確かめ，教科書P. 43に書き込ませる。 「曲がり」から「はね」への筆使いはここで初めて扱うので，示範して確認する。 基本点画の筆使いを確かめながら書けるように，黒板などに掲示しておく。 自分の課題となる部分に重点的に取り組めるような練習用紙を用意して，選択できるようにする。 <p>【評】練習や作品を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童それぞれが自分のめあてについてどの程度達成されているか確認しながら評価する。 <p>【評】作品や自己評価を通して，自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> 縦罫線に書くときに気を付けることを想起して視写するよう促す。 文字の大きさや配列のポイントについて確認する。 中心線が入った縦罫線用紙を使用して，文字の中心をそろえることを確かめながら練習するよう支援する。 行頭をそろえて書けるように，行頭に線を引いておいてもよい。 <p>【評】作品や自己評価を通して，自分の学習に対する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕があれば，児童が好きな国語教材の一部を視写する時間を設けて，学習意欲を高めるようにする。

【 備 考 】

単元名 はじめの学習

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 学習の進め方を理解し、第3学年で学習した筆使いや筆圧、点画の種類を確かめて書くことができる。
(3) 毛筆用具の取り扱い方、よい姿勢やよい持ち方を意識して、いろいろな線を書こうとする。

標準的な展開例

04020101_001

【教材名】世界のこんにちは／四年生で学習すること／学習の進め方 (P.1～P.14)

【準備等】点画名を書いたワークシート，練習用紙（横画，縦画，曲がり，左払い，右払い，折れ，点，そり）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1年間の学習のめあてと世界の文字を知る。 ★学習のめあてと，世界の文字を知ろう</p> <p>○4年生で学習するめあてと1年間の学習内容を知る。</p> <p>○世界にはさまざまな文字があることを知り，日本の文字の特徴や使われ方について，気付いたことを話し合う。</p> <p>○学習したことを生かす場面を考える。</p> <p>2 「点画の種類」を確認し，3年生で学習した筆使いを確かめて書く。 ★力の入れ方や線の太さに気を付けて，「点画の種類」を確かめて書こう</p> <p>○学習の進め方を知り，3年生で学習したことを確かめる</p> <p>○3年生で学習した基本点画を書く。</p> <p>○筆圧と線の太さの関係を確かめる。</p> <p>○点画の種類を確かめる。</p> <p>○自分の課題を見つける。</p> <p>○練習する。</p> <p>○自分の課題の点画をまとめ書きし，評価する。</p> <p>○4年生で新しく学習する点画を知る。</p>	<p>・P.2「学習のめあて」を読んで学習目標を理解し，目次を使って，1年間学習する内容について確認するよう促す。</p> <p>・書写学習への興味・関心を高めながら，1年間の学習が見通せるようにする。</p> <p>・世界のさまざまな文字の字形や筆順などの違いについて，気付いたことを話し合う。</p> <p>・世界にはどのような文字があるか，また，日常生活の中で，文字がどのように使われているか，どのように使えば効果的かなどの意識をもたせるようにする。</p> <p>【評】話し合い活動を通して，世界の文字に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・P.4～P.9を見て，「学習の進め方」「用具の置き方や姿勢」を確認する。</p> <p>・P.10～P.11の空欄に入る言葉を考えて，3年生で学習したことを確認する。</p> <p>・第3学年で学習した点画を，半紙に毛筆で書くよう促す。</p> <p>・「点画の種類」…横画，縦画，左払い，右払い，曲がり，折れ，点</p> <p>・筆の穂の柔らかさを確かめ，「ちゅん」「とっ」「とん」の言葉で力の入れ方を変えて，いろいろな太さの線を書き，筆圧によって太さが変わること気付かせる。</p> <p>・いろいろな点画の名称を教科書で確かめさせる。</p> <p>・どの点画が苦手か把握し，その点画を詳しく解説する。</p> <p>・試し書きを友達にも見てもらい，自己の課題を見つけるように指導する。</p> <p>・全ての点画が入った練習用紙と，課題のある点画のみの練習用紙を用意する。</p> <p>【評】練習や練習用紙を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「点画の種類」の筆使いを理解することができたか試し書きと比べ，自己評価，相互評価し，成果を確かめさせ，意欲を喚起する。</p> <p>【評】練習や作品を通して，筆圧に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・そりの筆使いを範書し，点画の種類を確かめる。</p> <p>・硬筆にも生かしていくよう伝える。</p>

【 備 考 】

単元名 点画の筆使い

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 筆使いと画の方向について理解し、筆使いと画の方向に気を付けて書くことができる。
 (2) 筆使いと画の方向に気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 筆使いと画の方向に気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

04020102_001

【教材名】『花』（毛筆）／レッツ・トライ 学習内ようをまとめる

(P. 15～P. 19)

【準備等】水書板、電子黒板、練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 穂先の向きと通り道に気を付けて、『花』を書く。 ★点画の筆使いに気を付けて書こう ○硬筆と毛筆で『花』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○試し書きと教材文字を比較して、穂先の向きや通り道はどうなっているかを話し合う。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて評価する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きし、花が付く言葉を探して書く。</p> <p>3 横書きの書き方を理解し、文字の大きさや配列に気を付けて書く。 ★内容がよく伝わる発表資料のまとめ方を知ろう ○読み手に内容がよく伝わる資料のまとめ方について話し合う。</p> <p>○まとめ方のポイントを確認する。</p> <p>○練習する。</p> <p>○フェルトペンなどでなぞる。</p> <p>○様々な教科の発表資料に生かそうとする意識をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆は、教科書P. 16の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・毛筆は教科書を見ないで書くようにする。 ・教科書P. 16の「考えよう」を参照に、穂先の向きと通り道がどのようになっているか話し合わせる。 ・特に七画目の「曲がり」と「はね」に注意しながら、穂先の向きを空書で確かめさせる。 ・分解文字で点画の適切な方向を示すようにする。 【評】話し合いの様子や作品を通して、穂先の向きと通り道に対する「知識・技能」を評価する。 ・試し書きと教科書の文字を比べ、自分の課題を見付けよう助言する。 ・自己の課題に合った練習用紙を選択して練習できるようにする。 【評】練習や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・再度穂先の向きと通り道に気を付けて書くことを確かめる。 ・試し書きと比べ、基準達成を確認できるように伝える。 ・友達同士でめあてに気を付けて書けたところを見付けて話し合うように促す。 【評】作品や自己評価を通して、筆使いや通り道と自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P. 16の「まとめ書き」の欄を活用させる。 ・花が付く言葉を想起できるよう助言する。『…の花』としてもよいことにする。 ・模造紙を用いた発表を想定した社会科の発表資料を作る時の具体的な手立てを考えるようにする。 ・P. 18～P. 19の①～⑤を見て、読む相手への意識を明確に持たせる。 ・文字の大きさや配列に気を付けて、発表資料の一部を書く練習をさせる。 ・鉛筆で題名、見出し、本文を書かせて、それぞれの字の大きさや配置を意識させる。 ・書けたものについて、文字の大きさや配置について話し合い、適切でない部分は書き直させる。 ・なぞる時には鉛筆との違い（消せない、太いなど）に気付くよう助言する。なぞった後に鉛筆の下書きは消すように指示する。 【評】作品を通して、文字の大きさや配列に対する「知識・技能」を評価する。 ・大きさや配列などに気を付けて、読み手に内容がよく伝わる発表資料を書くことを喚起する。

【 備 考 】

単元名 筆順と字形

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 筆順と字形の関係を理解し、正しい筆順で書くことができる。
 (2) 筆順に気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 筆順に気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

04020103_001

【教材名】『左右』（毛筆）／こう筆の学習 筆順と字形（硬筆）

(P. 20～P. 23)

【準備等】水書板、電子黒板、練習用紙、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 筆順に従って、点画の長さの違いに気を付けて『左右』を書く。 ★筆順に従って、字形を整えて書こう ○硬筆と毛筆で『左右』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○試し書きと教材文字を比較して、気付いたことを話し合う。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて自己評価する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>○他の文字を探し、理解を深める。</p> <p>3 筆順の原則を理解して、硬筆で字形を整えて書く。 ★筆順に気を付けて、字形を整えて書こう ○硬筆で『兆・機・飛・成』を試し書きし、課題をつかむ</p> <p>○試し書きの筆順を話し合う。 ○正しい筆順、筆順の原則を理解する。</p> <p>○練習する。</p> <p>○『兆・機・飛・成』をまとめ書きし、自己評価する。</p> <p>○筆順通りに書くことのよさについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆は教科書P. 21の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・毛筆は教科書を見ないで書くようにする。 ・教科書P. 21の「考えよう」を参考に、筆順と点画の長さの違いについて気付いたことを話し合わせる。 ・筆順や運筆の速度が分かるように、水書板やDVDで示範する。 ・文字の成り立ちを知ることで、正しい筆順について理解を深められるようにする。 【評】話し合う様子や作品を通して、筆順と字形の関係に対する「知識・技能」を評価する ・試し書きと教材文字を比べて、自分の課題を見付けるよう助言する。 【評】練習や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・再度筆順と字形に気を付けて書くことを確かめる。 ・試し書きと比べ、基準達成を確かめるように伝える。 【評】作品や自己評価を通して、筆順や自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P. 21の「まとめ書き」の欄を活用させる。 【評】練習や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書P. 21の「横画」が先の文字『友』，「左払い」が先の文字『有』を硬筆で書くように促す。 ・教科書を見ないで、いつも書いている筆順通りに書かせる。 ・隣同士で試し書きを書いている過程を見合うように支援する。 ・隣同士で試し書きを比べ、話し合わせる。 ・教科書P. 57～P. 60の漢字表で確かめるように助言する。 ・今まで学習した筆順のきまりが、部分と部分の組み立て方にも当てはまることや、その他にもきまりがあることを説明する。 【評】ワークシートを通して、筆順の原則に対する「知識・技能」を評価する。 ・教科書P. 22～P. 23にある硬筆文字を練習させる。 ・原則に従って、きまりを確かめながら書けるように支援する。 ・筆順による字形の変化が起きていないか、教科書の文字と比べながら隣同士で見合って書くように助言する。 ・試し書きと比べて、正しい筆順で書けたかをもう一度全員で確かめる。 【評】作品や自己評価を通して、筆順と字形に対する「思考・判断・表現」を評価する。 ・なぜ筆順通りに書くことが大切なのかを考えさせる。 ・教科書P. 23で確かめる。

- | | |
|--|-------------------------------------|
| | ①字形を整えやすい。
②書きやすい。
③字形を覚えやすい。 |
|--|-------------------------------------|

【 備 考 】

単元名 ひらがなの筆使い

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 「結び」の筆使いを理解し、形の違いに気を付けて、正しく書くことができる。
 (2) 「結び」の筆使いについて考えて書くことができる。
 (3) 横と縦の「結び」の形の違いに気を付けて書こうとする。

標準的な展開例

04020104_001

【教材名】『はす』(毛筆)／レッツ・トライ 理科のノート／レッツ・トライ けい老の日のほがき
 (P. 24～P. 29)

【準備等】水書板、電子黒板、練習用紙、理科ノート、はがき

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「結び」の筆使いや形に気を付け、『はす』を書く。 ★「結び」の筆使いや形の違いに気を付けて書こう ○硬筆と毛筆で『はす』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○試し書きと教材文字を比較して、気付いたことを話し合う。</p> <p>○「結び」の練習をする。</p> <p>○『はす』の練習をする。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて評価する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>○硬筆で『はすの花』『すなはま』を書く。</p> <p>3 書写の学習を他の教科に生かす。 ★学習内容が分かりやすいノートのまとめ方を知ろう ○友達のノートと教科書の理科ノートを見て、よい点を話し合う。</p> <p>○分かりやすいノートのとり方の工夫をまとめる。</p> <p>○練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆は、教科書P. 25の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・「結び」書き方・形を理解するために、ポイントとなる穂先の動きに注目させる。 ・筆の動きが分かるように水書板や書画カメラで示範する。 【評】話し合いの様子や作品を通して、結びの筆使いと形に対する「知識・技能」を評価する。 ・穂先の動きや形が分かるような練習用紙を用意する。 ・筆使いの難しい部分を示範したり、児童の手を持って書いたりすることで、筆使いを理解させる。 ・字形を整えるためのポイントをワークカードなどで示しておき、字形のよしあしが確認できるようにしておく。 『は』は「横の結び」字形は四角 『す』は「縦の結び」字形はひし形 ・『は』は、縦から左方向に穂先が後からついてくるように運び、穂先のねじれをまともながら、右下方向に止めさせる。 ・『す』は、縦から左方向に穂先が後からついてくるように運び、穂先をまともながら三角に結び、短く払わせる。 ・筆使いの難しい部分を書いて見せたり、児童の手を持って書いたりして、課題解決の支援をする。 【評】練習や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・結びの筆使いや形、穂先の動きや字形に気を付けて書かせる。 ・基準の達成を確かめさせる。 【評】作品や自己評価を通して、「結び」の筆使いの違いや自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P. 25の「まとめ書き」の欄を活用させる。 ・「結び」の筆使いと形に気を付けさせる。 ・『は』『す』以外に「結び」のある文字(『ま・な・む』など)を見付け、どのような形で、どんな筆使いをしたらよいか考えながら硬筆で書くように指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学級内でまとめ方が分かりやすいノートの例を数点コピーしておき、教科書の例と合わせて工夫されている点を話し合うようにする。 ・P. 26～P. 27の「書き方のひみつ」を見ながらポイントをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ①文字の大きさ ②読みやすい濃さ ③まともな余白 ④日付などのきまりごと ⑤テーマやまとめの書き方 ⑥見出しや大事な言葉の書き方、目立つ工夫 ・時間があれば、改行や箇条書きのない文章を分かりやすくまとめる練習をさせる。 【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組

<p>○学習したことを生かす。</p> <p>4 文字の大きさや行の中心に気を付けてはがきを書く。 ★文字の大きさや行の中心に気を付けて書こう</p> <p>○はがきの文面と宛名を試し書きし，教材文字と比較して気付いたことを話し合う。</p> <p>○はがき，宛名の書き方を理解する。</p> <p>○都道府県の漢字の読み方と書き方を確かめる。 ○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○敬老の日のはがきを書く意識を高める。</p>	<p>む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教科の学習でも，分かりやすいノートのとめ方の工夫を生かすように声掛けをする。 ・書き始めの位置や，行の中心に着目できるようにする。 ・読みやすく伝えるためには，どのようなことに気を付けるとよいのか助言する。 ・送る相手への相手意識から，読みやすさに注意を向けさせるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ①文字の大きさ ②配列 ③上下左右の余白 ④宛名の文字の大きさの順 ・板書で特に注意する漢字を確認する。 ・文面の書き方，宛名の書き方を理解して練習できるようにする。 ・都道府県名は苦手な漢字を特に重点的に練習するようにする。 <p>【評】練習を通して，都道府県名の漢字を確かめて書こうとする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くの人と見せ合い，はがきの書き方を確かめるようにする。 <p>【評】練習や作品を通して，文字の大きさや行の中心に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】練習や作品を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】

単元名 文字の組み立て方(左右)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化を理解し、文字の組み立て方に気を付けて書くことができる。
- (2) 文字の組み立て方に気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
- (3) 文字の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

04020201_001

【教材名】『林』（毛筆）（P. 30～P. 31）

【準備等】水書板，電子黒板，練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「へん」と「つくり」の組み立て方に気を付けて、『林』を書く。</p> <p>★「へん」と「つくり」の組み立て方に気を付けて書こう</p> <p>○硬筆と毛筆で『林』を試し書きし，課題をつかむ。</p> <p>○試し書きと教材文字を比較して，気付いたことを話し合う。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて評価する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>○『橋』『羽根』を硬筆で書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆は，教科書P. 31の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・左右の文字の組み立てできていることを伝える。 ・教科書の文字を見ながら，『木』が「きへん」になると，幅と点画の形がどう変わるか考え，話し合うように助言する。 ・幅を狭くするために，形が変化していることを理解できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ①「横画」は右上がり ②一画目と二画目の交わる位置 ③「右払い」が「止め」になる <p>【評】話し合いの様子や作品を通して，文字の組み立て方に対する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「へん」と「つくり」の幅のとり方に気を付けて練習させる。 ・自分の課題に合った練習用紙を選んで練習できるようにする。 <p>【評】練習や作品を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「へん」の幅と形に気を付けて書かせる。 ・試し書きと比べ，基準の達成を確かめさせる <p>【評】作品や自己評価を通して，「へん」と「つくり」の組み立て方や自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 31の「まとめ書き」の欄を活用させる。 <p>【評】練習や作品を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「へん」と「つくり」の幅と形がどうなっているかを考えて書くように助言する。 ・左右の組み立ての文字を探して書かせる。

【 備 考 】

単元名 文字の組み立て方(上下)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 上の部分と下の部分の高さと点画の形の変化を理解し、文字の組み立て方に気を付けて書くことができる。
 (2) 文字の組み立て方に気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 文字の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

04020202_001

【教材名】『笛』（毛筆）（P. 32～P. 33）

【準備等】水書板，電子黒板，練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 上の部分と下の部分との組み立て方に気を付けて『笛』を書く。</p> <p>★上の部分と下の部分との組み立て方に気を付けて書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆と硬筆で『笛』を試し書きし，課題をつかむ。 ○試し書きと教材文字を比較して，気付いたことを話し合う。 ○練習する。 ○まとめ書きをする。 ○試し書きと比べて評価する。 ○硬筆でまとめ書きをする。 ○上下の組み立て方の文字を探し，硬筆で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆はP. 33の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・教材文字を見て，『竹』が「たけかんむり」になったときの変化に着目できるように支援する。 ・『竹』と『由』の高さと点画の変化を確認する。 【評】話し合いの様子や作品を通して，点画の高さと形の変化に対する「知識・技能」を評価する。 ・字形が確かめられる練習用紙を配付し，全体で筆順などを確認しながら練習させるようにする。 ・DVDの筆使いの動画を見せ，「はらい」や「折れ」などの難しい部分の筆使いを確かめるように促す。 ・自分の課題に合った練習用紙を選択させて練習できるようにする。 【評】練習や作品を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・隣同士でよくなったところを伝え合うようにする。 【評】作品や自己評価を通して，上下の組み立て方や自分の課題を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。 ・硬筆はP. 33の「まとめ書き」の欄を活用させる。 ・教科書P. 57～P. 60の「漢字表」を使って，文字の組み立て方が上下に分かれており，かつ幅の取り方が同じくらいの文字を探して書かせる。 ・「かんむり」が中心となるが，それ以外でも幅の取り方が似ているものを探して書いてもよいこととする。 ・硬筆でも高さと点画の変化に気を付けて書くよう助言する。

【 備 考 】

単元名 文字の組み立て方(選たく)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 左右・上下の組み立て方と点画の変化について理解して書くことができる。
 (2) 左右・上下の組み立て方に気を付けて、自分の課題を考えて書くことができる。
 (3) 左右・上下の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

04020203_001

【教材名】『土地』または『岩山』(毛筆)／(こう筆の学習) 文字の組み立て方／レッツ・トライ 短歌／レッツ・トライ ぼうさいかるた (P.34～P.41)

【準備等】水書板、電子黒板、練習用紙、短歌の用紙、かるたの用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 左右・上下の文字の組み立て方を理解して、『土地』か『岩山』を書く。 ★左右・上下の組み立て方に気を付けて書こう ○硬筆と毛筆で『土地』か『岩山』を試し書きし、課題をつかむ。 ○試し書きと教材文字を比較して、気付いたことを話し合う。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをし、自己評価する。 まとめ書きを発表する。</p> <p>○硬筆でまとめ書きをする。</p> <p>○組み立て方に気を付けて硬筆で書く。</p> <p>4 左右・上下の文字の組み立て方と点画の変化を理解して硬筆で書く。 ★左右と上下の組み立て方に気を付けて硬筆で書こう ○硬筆で『説』『湖』『電』を書く。</p> <p>○どのような組み立て方になっているか確認する。</p> <p>○練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに学習した『林』『笛』から自分のめあてを設定し、教材を選択するようにする ・硬筆は、教科書P.36の「ためし書き」の欄を活用させる。 ・それぞれの教材文字は、幅や高さ、形がどう変わるのか、同じ教材を選んだ友達と考えることができるようにする。 ・『土地』は『土』が「つちへん」になると、幅が狭くなり、3画目の「横画」が短い「はらい」になる。 ・『岩山』は『山』『石』が文字の上や下の部分になると、それぞれの部分の高さが低くなる。 【評】話し合いの様子や作品を通して、文字の組み立て方に対する「知識・技能」を評価する。 ・自分のめあてに合った練習用紙で練習できるようにする。 ・教材文字と比べ、同じグループ同士でよかったところや課題を見合うようにする。 【評】練習や作品を通して、めあてに合った教材を選択して書く「思考・判断・表現」を評価する。 ・3回の授業を通しての学習の感想をワークシートに書き、自己評価する。 ・よかったところ、難しかったところを発表するようにする。 【評】自己評価や発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書P.36の「まとめ書き」の欄を活用させる。 ・教科書P.37に例示された漢字を、左右・上下の組み立て方に気を付けて書くように伝える ・教科書P.57～P.60の「漢字表」から、左右・上下の組み立て方の文字を五文字程度探して書くよう指示する。 ・『地』や『岩』のように単体の文字が漢字の部分になっている文字を教科書P.57～P.60の「漢字表」から探して書くよう指示する。 ・左右の組み立て方か、上下の組み立て方かを意識して書くように声かけをする。 ・どのような組み立て方になっているか話し合うように促す。 ・左右の組み立て方 『説』…左の幅が右の幅より狭い。 『湖』…3つの部分からできている。 ・上下の組み立て方 『電』…上下の部分が同じくらいの高さ。 ・『電』の「はね」から「はらい」など、点画の変化に注意させる。 ・試し書きに赤で批正し、自分のめあてをもたせる。 ・めあてにそって補助線を入れたり、書いた後に友達と確かめ合ったりしながら練習するように指示する。

<p>○まとめ書きをする。</p> <p>○『級・物・側・働・念・習』を書く。</p> <p>5 左右・上下の組み立て方の文字を調べて、字形を整えて書く。 ★左右・上下の組み立て方の文字を調べ、字形を整えて書こう</p> <p>○「三年生で学習した漢字」の一覧から、左右・上下の組み立て方の漢字を探して分類する。</p> <p>○練習する。</p> <p>○自己評価、相互評価する。</p> <p>○文を見て、文字の組み立て方を意識する。</p> <p>6 文字の大きさや中心に気を付けて、配列を整えて書く。 ★文字の大きさと配列に気を付けて書こう ○藤原顕輔の短歌を硬筆で書く。</p> <p>○縦書きで配列を整えて書くための基準を理解する。</p> <p>○練習し、基準を確かめる。</p> <p>○まとめ書きをし、試し書きと比べて自己評価する。</p>	<p>・めあてが達成できた児童には、同じ組み立て方の文字をいくつか用意し、どのような組み立て方か考えながら練習するように促す。 【評】練習を通して、組み立て方を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・試し書きと比べ、めあてが達成されたか確かめる。</p> <p>・いくつか用意した文字は、どの文字と同じ組み立て方か確かめる。 【評】作品を通して、文字の組み立て方に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・組み合わせると字形がどのように変化するか考えさせるようにする。 【評】練習や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書P.59～P.60の「三年生で学習した漢字」の一覧をコピーして配付し、以下の基準にあてはまるものを選び、印をつけて分類するように促す。</p> <p>・漢字学習の進度によっては、教科書P.57～P.58の「四年生で学習する漢字」一覧を扱ってもよい。</p> <p>①左右の組み立て方（二つの部分からできている）横・化・泳など</p> <p>②左右の組み立て方（三つの部分からできている）湖など</p> <p>③上下の組み立て方 委・守・想など</p> <p>・分類は、視点を変えると他の組み立て方に分類できる物が多くある。どの分類にするか迷う場合は、どちらでもよいという対応をして児童には厳密な分類を求めないようにする。</p> <p>・3種類に分類したものをいくつか発表させ、それぞれ板書しながら気を付けるポイントを確かめる。</p> <p>・前時の学習を振り返り、単体文字が変化している部分の点画の変化にも気を付けるように促す。</p> <p>・分類した文字を、漢字表を見ながらワークシートに丁寧に書くようにさせる。</p> <p>・友達と見せ合い、相互評価できるようにする</p> <p>【評】練習や評価を通して、左右・上下の組み立て方を考えて書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書の文の一節を提示し、文中で使用されている漢字の組み立てを意識させる。</p> <p>【評】教科書の文を読む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・文字の大きさと配列に気を付けて短歌を書く学習であることを知らせる。</p> <p>・「試書シート」に書くよう指示する。</p> <p>・試し書きをもとに、文字の大小や行の中心に目を向けるよう助言する。</p> <p>・今までの学習から、大きめに書く文字と小さめに書く文字について、気付くように指導する。</p> <p>・行の中心に線を引いて基準をつかみやすくする。</p> <p>①仮名は漢字より小さめに書く。</p> <p>②行の中心と文字の中心をそろえて書く。</p> <p>・中心線や補助線を加えて、自分のめあてに合った練習用紙を作成してもよいことを知らせる。</p> <p>・近くの席の人と相互に見合ってもよいことを伝える。</p> <p>・縦の罫線だけが引かれた「まとめ書きシート」に書き、試し書きと比べて自分で評価して振り返るよう助言する。</p> <p>【評】作品や自己評価を通して、文字の大きさや中心に対する「思考・判断・表現」を評価</p>
---	---

- 他の短歌でも配列を整えて書くと見やすいことを知る。
- 7 書写で学習した内容を生かして，防災かるたの文字を書く。
- ★文字の大きさと配列に気を付けて書こう
 - ワークシートに，防災かるたの文章を考えて記入する。
- 読みやすい文字の大きさや配列を考えて下書きする。
- めあてを把握し，練習する。
- かるたの用紙に書き，自己評価する。

- ・ する。
 - ・ 配列を整えて書いた他の短歌を見せ、関心を高めて終わるようにする。
 - ・ これまで学習してきたことを生かして、防災かるたを書く学習であることを知らせる。
 - ・ 教科書P. 61の「ひらがな表」から児童それぞれに冒頭の文字を分担して考えるよう促す。
 - ・ 読みやすいリズムを考えて作るように指示する。
 - ・ 教科書P. 41を見ながら、配列を考えさせる。
- 読み札を書くポイント
- ①文字が目立つようにする。
 - ②行間をあけ、行の中心をそろえる。
 - ③平仮名は、漢字よりもやや小さめに書く
- 絵札の文字を書くポイント
- ・ 文字が目立つようにする。
 - ・ かるたの用紙と同じ大きさの紙を準備し、鉛筆で下書きをしてからフェルトペンでなぞるようにして練習するとよい。
 - ・ 読みやすさについて、児童同士で相互評価しながら練習するよう促す。
 - ・ 鉛筆で下書きし、フェルトペンでなぞって完成させる。
 - ・ 文字の大きさや配列に気を付けて書けているか確かめる。
- 【評】 作品や自己評価を通して、文字の大きさや配列に対する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 書きぞめ

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 書き初めの姿勢や気を付けることを理解し、筆使いと筆圧に気を付けて書くことができる。
 (2) 自分のめあてに気を付けて、これまでの学習を生かして書くことができる。
 (3) 文字の大きさや中心に気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

04020204_001

【教材名】『元気』または『美しい心』（毛筆）（P. 50～P. 56）

【準備等】水書板，電子黒板，練習用紙，書きぞめ用紙（横幅20 c m程度）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 文字の大きさや中心に気を付けて、『美しい心』を書き初め用紙に書く。 ★文字の大きさや中心に気を付けて、字形を整えて書こう ○書き初めの姿勢を確認する。</p> <p>○書き初め用紙に『美しい心』を試し書きし，課題をつかむ。 ○文字の大きさや字配り，書くときの気持ちについて話し合う。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて，自己評価・相互評価する。</p> <p>○「今年の目標」を毛筆で書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 53～P. 56を見ながら，書き初めの姿勢には「床の上で書くときの姿勢」と「立って書くときの姿勢」があることを説明し，本時は立って書くことを伝える。 机を縦に置き換え，書く準備をさせる。上から下に書き進み，書いた部分は机の前方に送っていくとよいことを確認する。 教科書の文字を見ながら，毛筆で書かせる。 教科書P. 53～P. 56の上下にある点を線で結ばせ，行の中心がどこにあるか確かめさせる。 四文字の間がほぼ等間隔であることを確認する。 『美』の横画と横画の間，漢字と平仮名の大きさの違い，『美』と『心』，『し』と『い』の概形の違いに気を付けて書くことを確認する。 【評】話し合いの様子や作品を通して，文字の大きさや字配りに対する「知識・技能」を評価する。 書き初め用紙を半分に折らせ，中心線を意識して練習させる。 正しい筆使いで書くように助言する。特に『心』の二画目の「そり」を「曲がり」にしないように気を付けさせる。 学年や名前も書き初め文字と同様に，行の中心や文字と文字との間隔に注意して書けばよいことを伝える。 【評】練習や作品を通して，書き初めに関する「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 本時の目標である文字の大きさや字配りに気を付けて，字形を整えて書くことができたか自己評価させる。 相互評価させ，試し書きと比較してよかったところを認め合えるようにする。 練習の成果を認め，達成感をもてるようにする。 【評】作品や自己評価を通して，文字の大きさや中心に対する「知識・技能」を評価する。 年頭の目標を書き初め用紙に毛筆で書かせる教室に掲示して意欲を高めるのもよい。 言葉は短くし，書きやすいよう配慮する。

【 備 考 】

選択課題であるので，半紙を用いて『元気』を書いてもよい。

単元名 学習のまとめ

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) これまで学習した字形の整え方について理解し、字形の整え方に気を付けて書くことができる
 (2) 1年間の学習を振り返り、自分のめあてを選んで書くことができる。
 (3) これまで学習してきたことを生かして、意欲をもって書こうとする。

標準的な展開例

04020301_001

【教材名】『平和』（毛筆）（P. 42～P. 45）

【準備等】水書板、電子黒板、練習用紙、縦罫線

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 これまでに学習したことを生かして、『平和』を書く ★学習したことを生かして書こう ○毛筆で『平和』を試し書きする。 ○試し書きと教材文字を比較して話し合い、自分の課題をつかむ。</p> <p>○筆使いのポイントを確認する。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○試し書きと比べて評価する。</p> <p>○『平和な国』を硬筆で書く。</p> <p>3 1年間の学習を振り返り、文字の形や大きさ、組み立て方などに気を付けて書く。 ★文字の形や大きさ、組み立て方などに気を付けて書こう ○1年間の学習を振り返る。</p> <p>○もう一度学習したい課題を選ぶ。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○硬筆で1年間の学習を確認する。</p> <p>4 1年間の学習を振り返り、文字の大きさや配列に気を付けて書く。 ★文字の大きさや、配列に気を付けて書こう ○1年間の学習を振り返り、基準を確認する。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を見ないで書かせる。 教科書P. 43を見て、「横画」「縦画」「左払い」「点」「点画の接し方」「左右の組み立て方」のどこに自分の課題があるのか確認させ、めあてに書かせる。 それぞれのポイントを学習した教材のページを見て確認したり、筆順を空書して全員で確認したりする。 めあてを達成できるような練習方法を準備する。 【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】練習や作品を通して、これまで学習したことを生かして書く「知識・技能」を評価する。 試し書きと比べ、基準達成を確かめるように伝える。 よくなったところを互いに発表させる。 【評】作品や自己評価を通して、これまでの学習内容やめあてに対する「思考・判断・表現」を評価する。 それぞれのポイントを確かめながら書くよう促す。 教科書の文字を見せて、どのような学習をしたか、想起させる。 これまでに学習したことは、字形を整えるために大切な要素であることを伝える。 課題を見付けやすくするために、今までのまとめ書きを用意しておく。 学習したページを振り返るよう助言する。 各課題に沿った練習用紙を用意したり、自作できるように見本を掲示したりする。 2回目の学習になるため、文字の形、大きさにも気を付けながら書くよう助言する。 【評】自分の課題を通して、学習の成果に対する「思考・判断・表現」を評価する。 友達と相互評価し、学習の成果を確認させる 前回のまとめ書きと比べ、学習の成果を確認できるようにする。 【評】作品を通して、文字の形や大きさ、組み立て方などに対する「知識・技能」を評価する。 教科書P. 45を見ながら、文字の大きさや配列よく書くためのポイントを確認する。 前時に復習した、字形を整えるための学習内容も振り返らせる。 ふだんの国語のノートなどから、自分の課題を見付けるよう指導する。 行の中心が分かる用紙（縦罫線）や、文字の大きさが分かる用紙を用意しておく。 友達と相互評価し、学習の成果を確認させる

○ 日常の学習活動に生かす。

【評】 作品を通して、文字の大きさや配列に対する「知識・技能」を評価する。
・ ふだん使用しているノートから一行分を選び課題に気を付けて書かせる。
【評】 作品や練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 場面に合わせて書き方のくふう

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 場面に合った書き方を理解することができる。
 (2) 場面に応じた書き方の工夫の仕方を考えることができる。

標準的な展開例

05020101_001

【教材名】 場面に合わせて書き方のくふう (P. 1～P. 3)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 場面に合った書き方の工夫の仕方を考える。 ★場面によって、どのような書き方をすればよいかを考えよう ○場面に合わせたよりよい書き方の工夫について、話し合う。</p> <p>○まとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 1～P. 2を参考にして、様々な場면을提示し、それぞれに応じてどのような書き方をすればより相手に伝わりやすいかを考えさせる。 ・隣席やグループの児童と考えを交流させる。 ・なぜそのように書くとよいか、根拠を明確にして発言させたい。 【評】話し合いを通して、場面に合わせた書き方の工夫についての「思考・判断・表現」を評価する。 ・それぞれの場面に応じた書き方のよさについて、確認させる。 【評】まとめの活動を通して、場面に合った書き方の工夫や、そのよさについての「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 はじめの学習

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 点画の種類や字形の整え方を確認し、毛筆で書いて確かめることができる。
(3) 常により姿勢や持ち方を意識して書こうとする。

標準的な展開例

05020102_001

【教材名】学習の進め方／点画の種類／姿勢と持ち方，用具のあつかい方／筆の持ち方／あとかたづけのしかた (P. 4～P. 8)

【準備等】練習用紙（横画，縦画，折れ，曲がり，右はらい，右上はらい，左はらい，そり，点），まとめ書き用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 よい姿勢と持ち方で，点画の種類や組み立て方に気を付けて書く。</p> <p>★よい姿勢・よい持ち方に気を付けて，点画の種類や字形の整え方を確かめて書こう</p> <p>○学習についての見通しをもつ。</p> <p>○用具の置き方・よい姿勢・よい持ち方を確認する。</p> <p>○教科書P. 5の「点画の種類」を見て，文字のどの部分にあたるのかを確認して練習をする。</p> <p>○まとめ書きをし，自己評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 4を参考に，1年間の学習の進め方をつかませる。 ・学習の始めに，自分なりのめあてをもつことや，最後に振り返りをするを特に押さえておきたい。 ・教科書P. 6～P. 7を参考にしながら，なぜこのようにするとよいのかについても考えさせる。 ・教科書の写真を見ながら，実際に準備したり筆を持ったりさせる。 ・隣席児童と見合いながら，確認させるとよい ・姿勢や持ち方に注意して，9種類の点画を練習させる。 ・書いたら教科書と自分の書いたものとを比較し，課題を確認させる。 <p>【評】教材の練習を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ書きと教科書や練習したものとを比較して，自己評価させる。 <p>【評】作品を通して，点画の種類に対する「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 文字の組み立て方(中と外)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 中と外・上下の組み立て方を理解して、字形を整えて書くことができる。
(3) 中と外・上下の組み立て方に気を付けて書こうとする。

標準的な展開例

05020103_001

【教材名】『草原』（毛筆）（P. 9～P. 10）

【準備等】用紙，ワークシート（中の部分を写し取ったもの）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 中と外の組み立て方に気を付けて、『草原』を書く。 ★中と外の部分にある文字の組み立て方を考えよう ○毛筆で『草原』を試し書きする。 ○試し書きと教科書の文字を比較して、自分の課題を確認する。</p> <p>○中と外の組み立て方に気を付けて、毛筆で『原』を中心に『草原』を練習させる。</p> <p>○まとめ書きをして、自己評価する。</p> <p>2 中と外の組み合わせや上下の組み立て方に気を付けて、『草原』をまとめ書きする。 ★上下の組み合わせにも気を付けて、まとめ書きをしよう ○前時の学習を振り返る。</p> <p>○『草原』を試し書きする。 ○上下の組み立ての基準・角の方向・配列を確認する。</p> <p>○『草原』を部分練習する。</p> <p>○『草原』をまとめ書きする。</p> <p>○本時の学習を振り返り、自己評価・相互評価をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見ないで書くようにさせる。 ・筆順を確認する。 ・教科書P. 10の「考えよう」を参考にして、「たれ」と中の部分との関係性を確かめさせる ・中の部分の外形を写し取ったものを用いて動かしてみることで、基準をつかませる。 ・1画目と2画目の接し方や、中の部分を中心よりやや右にずらすことで字形が整うことを押さえる。 【評】教材の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書を基にして、中と外のバランスに着目し、評価させる。 【評】作品を通して、文字の組み立て方に対する「知識・技能」を評価する。 ・前時のまとめ書きから、自分の課題について確認させる。 ・「たれ」の中の部分はどの位置に書くと字形が整うかを確認する。 ・文字の中心についても意識させる。 ・『草』の上の部分・下の部分ともに高さが低くなることを押さえる。 ・『日』の角の方向に着目させる。 ・文字の中心にも気を付ける。 ・用紙を折るなどして、中心を意識できるようにするとよい。 【評】教材の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・中と外だけでなく、上下の組み立て方についても留意させる。 【評】まとめ書きを通して、中と外や上下の組み合わせに気を付けて書く「知識・技能」を評価する。 ・隣席児童と試し書きとまとめ書きを比較しながら、互いのよい点や向上した点を認め合えるようにする。

【 備 考 】

単元名 文字の組み立て方(中と外)と、穂先の動き

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 「によう」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書く。
 (2) 字形を整えるための筆使いや組み立て方について、自分の考えをもつ。
 (3) 文字の組み立て方に気を付けて書こうとする。

標準的な展開例

05020104_001

【教材名】『道』（毛筆）／硬筆の学習 文字の組み立て方（中と外）／レッツ・トライ 『竹取物語』を書く（P.12～P.15）

【準備等】練習用紙、まとめ書き用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 組み立て方や筆使いに気を付けて、『道』を書く。 ★「しんによう」と中の部分の組み立て方を理解して書こう ○毛筆で『道』を試し書きする。 ○試し書きと教科書の文字を比較し、自分の課題を確認する。</p> <p>○「しんによう」の組み立て方や筆使いに気を付けて、毛筆で『道』を練習する。</p> <p>○まとめ書きをして、自己評価する。</p> <p>2 組み立て方や筆使いに気を付けて、字形を整えて『道』を書く。 ★「しんによう」の筆使いや組み立て方に気を付けて、まとめ書きをしよう ○前時の学習を想起し、自分の課題を確認する。</p> <p>○毛筆で『道』を試し書きする。</p> <p>○部分練習をする。</p> <p>○『道』をまとめ書きする。</p> <p>○自己評価・相互評価をする。</p> <p>3 中と外の組み立て方に気を付けて、硬筆で書く。 ★中と外の組み立て方に気を付けて、硬筆で書こう ○教科書P.14の文字を一度ずつ硬筆で書く。</p> <p>○文字の中心や基準を意識して、硬筆で練習させる。</p> <p>○まとめ書きをし、自己評価する。</p> <p>4 文字の大きさと配列に留意して書く。 ★文字の大きさと配列に気を付けて『竹取物語』を書こう ○硬筆で『竹取物語』を試し書きして、配列よく書くための基準を考える。</p> <p>○練習する。</p> <p>○まとめ書きをして、自己評価・相互評価をする。</p>	<p>・教科書を見ないで書くようにさせる。 ・教科書P.13の「考えよう」を参照し、「によう」と中の部分の組み立て方はどう書くと字形が整うのかを、隣席同士で話し合って確認させる。 【評】話し合いを通して、筆使いや組み立て方についての「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・「によう」の部分練習ができる練習用紙を活用して筆順の理解ができるようにする。 【評】教材の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書を基に、学習の振り返りをさせる。</p> <p>・前時のまとめ書きと教科書とを比較して、自分の課題を見いださせる。 ・中の部分と外の部分を色分けして示すことのできるワークシートを活用し、点画の変化や組み立て方をつかみやすくさせる。 ・教科書P.13を参考にし、「しんによう」の筆使いや位置関係などを確認させる。 ・中の部分が外の部分からはみ出さないように書くこと、「しんによう」の2画目から3画目は、筆を一度離してから少し重ねて書き始めることなどを押さえる。 【評】教材の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・練習した作品を再度見直し、注意すべき点を十分に意識させてから書かせる。 【評】作品を通して、組み立ての意識や字形に関する「知識・技能」を評価する。 ・教科書・試し書き・まとめ書きを比較し、上達した点を見付けさせる。</p> <p>・部首と筆順を確認させる。中の部分を先に書く文字と後に書く文字とがあることを押さえる。 ・練習用紙を使用させる。 ・教科書P.14の「組み立て方と字形」を参考に隣席同士で話し合い、文字の中心を捉えさせる。 ・まとめ書き用紙に書かせる。 【評】まとめ書きを通して、中と外の組み立てに関する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・平仮名は、漢字より小さめに書くこと、文字の中心と行の中心をそろえて書くこと、行頭の位置をそろえて書くことなどを押さえる。 【評】発表の様子から、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・中心線の入った練習用紙も用意しておき、各自で用紙を選択できるようにする。 ・中心線のないまとめ用紙に書かせる。</p>

○書いた『竹取物語』を音読する。

- ・隣席同士で、教科書・まとめ書き・試し書きを比較することで、向上した点を見付けさせる。
- 【評】作品を通して、文字の大きさと配列についての「知識・技能」を評価する。
- ・本教材の他にも、配列を整えて書かれたものを例示し、様々な場面で生かしていけるよう声掛けをする。

【 備 考 】

単元名 筆順と字形

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 筆順と点画の接し方との関係を理解し、字形を整えて書くことができる。
(3) 正しい筆順で、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

05020105_001

【教材名】『成長』（毛筆）（P. 16～P. 18）

【準備等】練習用紙，まとめ書き用紙，ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 筆順に気を付けて、『成長』を書く。 ★筆順に気を付けて、字形を整えて書こう ○毛筆で『成長』を試し書きする。</p> <p>○筆順と字形の関わりを話し合う。</p> <p>○筆順に気を付けて、『成長』を練習する。</p> <p>○まとめ書きをして、自己評価・相互評価をする。</p> <p>3 筆順に気を付けながら、字形を整えて硬筆で書く。 ★正しい筆順で、字形を整えて硬筆で書こう ○教科書P. 18にある漢字を試し書きする。</p> <p>○教科書P. 18の『三』『順』『古』『止』『末』『関』『委』『事』の筆順のきまりを確認する。 ○筆順に気を付けて、練習する。</p> <p>○まとめ書きをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見ないで書くようにさせる。 ・全体で筆順を確認する。 ・『成』と『長』それぞれの1画目と2画目の接し方に着目させる。 ・1画目の始筆が外に出ることを確認する。 ・教科書P. 17を参考にして、正しい筆順で書くことが整った字形につながることを押さえる ・概形や「そり」の筆使いについても意識させる。 【評】教材の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・隣席児童と教科書・試し書き・まとめ書きを比較し、向上した点を見いださせる。 【評】作品を通して、正しい点画の接し方や字形に関する「知識・技能」を評価する。 ・教科書を見ないで書かせるため、ワークシートを作成しておく。テスト形式にしてもよい ・記入後、どのような筆順で書いたか、空書させて確認する。 ・それぞれの漢字を空書させた後、ワークシートに練習させる。 ・試し書きと同じ形式のワークシートを用いる ・筆順のきまりを意識させる。 ・教科書P. 18の「特に注意したい筆順」については同じ筆順で書くことを押さえる。 ・日頃から筆順のきまりを意識して書くことで字形も整ってくることを認識させる。 【評】作品を通して、字形を整えて硬筆で書く「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 文字の大きさ(漢字どうし)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 漢字同士の形や大きさの違いを理解し、配列を整えて書くことができる。
 (2) 様々な場面に適した書き方を考えることができる。
 (3) 漢字同士の大きさに気を付けて書こうとしている。

標準的な展開例

05020201_001

【教材名】レッツ・トライ 工場見学のメモ／『白雲』（毛筆）（P. 19～P. 23）

【準備等】メモをとる用紙，練習用紙（かご字のあるもの・ないもの），まとめ用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 様々な場面に適した書き方を話し合う。</p> <p>★目的に合った書く速さを考えよう</p> <p>○書く場面を想起する。</p> <p>○速く書く場面を考える。</p> <p>○メモを取るときに気を付けることを話し合う。</p> <p>○メモを取る練習をする。</p> <p>○自己評価をする。</p> <p>2～3 漢字同士の大きさに気を付けて、『白雲』を書く。</p> <p>★漢字同士の大きさに気を付けて書こう</p> <p>○毛筆で『白雲』を試し書きする。</p> <p>○教科書と試し書きとを比較して、配列の整え方を話し合う。</p> <p>○漢字同士の大きさに気を付けて、練習する。</p> <p>○『白雲』をまとめ書きして、自己評価・相互評価をする</p>	<p>・教科書P. 19の挿し絵も参考にしながら、手紙模造紙に書いて発表するときなど、日常生活で書く場面は多くあることを共通認識させる</p> <p>・ゆっくり書く場面と速く書く場面とに分け、本時では速く書く場合の書き方を学習することを伝える。</p> <p>・教科書はできるだけ見ずに、話し合わせる。</p> <p>【評】話し合いを通して、速く書く場面に適した書き方に対する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P. 20の吹き出しにある文を教師が読みメモを取る練習をさせる。</p> <p>・筆圧を軽くすると速く書けることを実感させたい。</p> <p>・再度、教師が吹き出しの文を読み、大事なことを落とさずに書けたかを確認させる。</p> <p>【評】メモを取る活動を通して、大事なことを落とさずに書く「知識・技能」を評価する。</p> <p>・筆順を確認してから、教科書は見ないで試し書きをさせる。</p> <p>・話し合った後、教科書P. 23「考えよう」を参考に気を付ける点を確認させる。</p> <p>・画数の少ない漢字を小さめに書くとつり合いがとれることを押さえる。</p> <p>・かご字のあるものとなないもの2種類の練習用紙を用意しておき、児童の実態に合わせて活用する。</p> <p>・中心や余白，書き始めの位置にも留意させる</p> <p>【評】教材の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・隣席同士で教科書・試し書き・まとめ書きとを比較させ、互いの向上した点を見付けさせる。</p> <p>【評】まとめ書きを通して、漢字同士の大きさや配列に関する「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 文字の大きさ(漢字と平仮名)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 漢字と平仮名の大きさの違いを理解し、配列を整えて書くことができる。
 (2) 配列を整えて書くために気を付ける点を見いだすことができる。
 (3) 漢字と平仮名の大きさに気を付けて書こうとしている。

標準的な展開例

05020202_001

【教材名】『登る』（毛筆）（P. 24～P. 25）

【準備等】練習用紙（かご字のあるもの・ないもの），まとめ用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 漢字と平仮名の大きさに気を付けて、『登る』を書く。 ★漢字と平仮名の大きさに気を付けて書こう ○『登る』を毛筆で試し書きする。</p> <p>○試し書きと教科書とを比較して、気を付ける点を考える</p> <p>○漢字と平仮名の大きさに気を付けて練習する。</p> <p>○『登る』をまとめ書きして、自己評価・相互評価をする</p> <p>2 漢字と平仮名の大きさとともに、配列も意識して書く。 ★漢字と平仮名の大きさや配列を考えて書こう ○前時のまとめ書きから、自分の課題を見いだす。</p> <p>○配列を整えて書くために気を付けることを話し合う。</p> <p>○配列にも留意して、『登る』を練習する。</p> <p>○『登る』をまとめ書きし、自己評価・相互評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆順を確認してから、教科書は見ずに書かせる。 ・教科書の文字をそれぞれ鉛筆で囲むなどして漢字に対して平仮名は小さく書くことを理解させる。 ・漢字と平仮名を同じ大きさに書いたものと並べて比較すると、より分かりやすい。 ・かご字のあるものとなないもの2種類のワークシートを用意しておき、児童の実態に合わせて活用する。 【評】教材の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・隣席同士で、教科書・試し書き・まとめ書きを比較し、互いの向上した点を見付けさせる ・特に、文字の大きさに着目させる。 ・前時のまとめ書きを見直し、本時に特に力を入れたい点を課題として取り組むことを伝える。 ・前時に学習した文字の大きさの他に、中心や余白、「はつがしら」の筆順などについても着目させる。 ・文鎮の置き方についても自分なりに工夫させるとよい。 【評】話し合いを通して、配列に関する「思考・判断・表現」を評価する。 ・前時に活用したかご字のある練習用紙を活用する。 ・書く前に鉛筆で大枠を取るなど、各自で工夫させるのもよい。 ・隣席同士で教科書・試し書き・まとめ書きを比較して、互いのよくなった点を見付けさせる。 【評】まとめ書きを通して、文字の大きさや配列に関する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 穂先の動きと、線のつながり

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 穂先の動きと線のつながりを理解して、字形を整えて書くことができる。
 (2) 用紙に対する適切な文字や余白の大きさを考え、適切な筆記用具を選択することができる。
 (3) 線のつながりに気を付けて、正しく書こうとする。

標準的な展開例

05020203_001

【教材名】『あこがれ』（毛筆）/レッツ・トライ 委員会のポスター

(P. 27～P. 33)

【準備等】筆、鉛筆、ボールペン、小筆、フェルトペン（太・細）、サインペン、筆ペン、絵の具筆、色鉛筆など筆記用具、ポスター用模造紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 穂先の動きとつながりに気を付けて、『あこがれ』を書く。</p> <p>★穂先の動きと、線と線のつながりに気を付けて書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『あこがれ』を毛筆で試し書きする。 ○試し書きと教科書とを比較して、気付いたことを話し合う。 ○平仮名の特徴について確認する。 ○穂先の動きとつながりに気を付けて、毛筆で『あこがれ』を練習する。 ○『あこがれ』をまとめ書きして、自己評価・相互評価をする。 <p>4～5 場面に適した書き方について知る。</p> <p>★委員会のポスターを、読む人に分かりやすくなるように工夫しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすく、効果的に伝えるための書き方について話し合う。 ○ポスター作りの手順を確認する。 ○筆記用具の特徴を調べる。 ○ポスターの試し書きをする。 ○グループで試し書きを見せ合い、気付いた点を伝え合う ○ポスターのまとめ書きをして、学級で見合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見ないで書くようにする。 ・教科書P. 28の「考えよう」を参考にして、穂先がどこを通っているか、線と線のつながりがどうなっているかを確認させる。 ・平仮名は丸みを帯びて柔かく書くことを想起させる。 ・教科書P. 28を参考にして、中心を確認させる ・穂先がどこを通っているかを意識させ、線と線がつながるように書かせる。 ・かご字のあるものとないもの2種類の練習用紙を用意しておき、児童の実態に合わせて活用する。 【評】教材の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・隣席同士で、教科書・試し書き・まとめ書きを比較し合い、互いのよくなった点を見付けさせる。 【評】まとめ書きを通して、穂先の動きとつながりについての「知識・技能」を評価する。 ・隣席やグループで話し合い、発表させる。 ・話し合い、児童の意見をもとに手順を確認していく。 <ul style="list-style-type: none"> ①伝える相手・目的・内容 ②どのように書くか。 ③レイアウト・文字の大きさ・色 ・グループごとに各筆記用具を用意したり教科書P. 31を参考にしたりして、特徴を確認する ・それぞれの筆記用具の特徴を基に、どのような場面に合うのかを話し合う。 ・話し合ったことを基にして、実際にポスターを書いてみる。 ・よい点を伝えたり、相手により伝わりやすくするためのアドバイスを送ったりさせる。 ・教科書P. 32～P. 33も参考にするとよい。 ・まとめ書き用紙に書く。 ・作品を見合いながら、よいところを認め合えるようにする。 【評】話し合いや作品を通して、分かりやすく伝えるための工夫についての「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 用紙に対する文字の大きさと配列(小筆)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 用紙に対して適切な文字の大きさと配列で書くことができる。
 (2) 文字の大きさや配列を考えて、適切な筆記用具を選択して書くことができる。
 (3) 用紙に対する文字の大きさや配列を意識して書こうとする。

標準的な展開例

05020204_001

【教材名】年賀状 (P. 34～P. 37)

【準備等】小筆，サインペン，練習用紙（中心線の入ったもの，余白部分に仕切り線が入っているもの），年賀状サイズの練習用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 用紙に適した文字の大きさや配列を考えて書く。 ★用紙に対する文字の大きさと配列に気を付けて書こう ○年賀状を書く際の基準を考える。</p> <p>○年賀状の裏面を練習する。</p> <p>○まとめ書きをして，自己評価・相互評価をする。</p> <p>2 より効果的な筆記用具を選択して書く。 ★用紙に対する文字の大きさと配列に気を付けて，効果的な筆記用具を選んで年賀状を書こう ○前時を振り返り，基準を確認する。</p> <p>○実際に出す相手を想定し，年賀状の裏面を書く練習をする。</p> <p>○年賀状のまとめ書きをして，自己評価・相互評価をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 35の例を拡大したものを提示し，どこをどう直したらよいかを話し合わせる。 ・教科書P. 35を参考にして，基準を確認する。 <p>①文字数を考えて，文字の大きさを決める。</p> <p>②目立たせたい字は，大きく書く。</p> <p>③適切な余白をとる。</p> <p>④文字の中心と行の中心をそろえる。</p> <p>⑤適切な筆記用具を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 34を見ながら書かせる。 ・練習用紙は，中心線が入っているものや余白部分が点線で仕切られているものを用意しておく。 ・練習用紙には，文字のおよその大きさを示す○印などを記入してもよいことを助言する。 <p>【評】教材の練習を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助線のない，まとめ書き用紙に書かせる。 ・隣席児童と，互いによくなった点を認め合えるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・適切な大きさや配列で書くための基準について，前時に話し合ったことを確認する。 ・年賀状を出す相手を定め，相手に合った文面を考えさせる。 ・自分に合った練習用紙を選択させる。 ・小筆やサインペンなど，適切な筆記用具を選択させる。 ・適切な文字の大きさや行の中心，余白を確かめながら練習させる。 <p>【評】練習を通して，適切な筆記用具を選択することについての「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣席同士で，文字の大きさや配列等についてよい点を認め合えるようにする。文面についても，感想を交流させたい。 <p>【評】作品を通して，適切な文字の大きさや配列に関する「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 書きぞめ

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 文字の大きさや組み立て方、配列に気を付けて、字形を整えて書くことができる。
(3) 書くときの姿勢に気を付けて、これまでの学習を生かして書こうとする。

標準的な展開例

05020301_001

【教材名】選択課題 『初春』『世界の国』（毛筆）

(P. 44～P. 48)

【準備等】半紙・書き初め用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 行の中心や配列に気を付けて、『初春』か『世界の国』を書く。 ★行の中心や配列に気を付けて、書きぞめを書こう ○用具の置き方や姿勢を知る。</p> <p>○『初春』か『世界の国』のどちらかを選択し、試し書きをする。 ○試し書きと教科書の文字を比較し、気付いたことを話し合う。</p> <p>○半紙や書き初め用紙を縦半分に折り、『初春』か『世界の国』を練習する。</p> <p>○本時のまとめ書きと試し書きを比べ、自己評価・相互評価をさせる。 ○学年、名前の練習をする。</p> <p>3～4 文字の大きさや組み立て方に気を付けて、『初春』か『世界の国』をまとめ書きする。 ★文字の大きさや組み立て方に気を付けて、まとめ書きをしよう ○文字の大きさや組み立て方に気を付けて、毛筆で『初春』か『世界の国』のどちらかを試し書きする。 ○試し書きと教科書の文字を比較する。</p> <p>○練習する。</p> <p>○『初春』か『世界の国』をまとめ書きし、自己評価・相互評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を見ながら、書き初めの姿勢には「床の上で書く姿勢」と「立って書く姿勢」があることを理解させ、本時は立って書くことを伝える。 机を縦に置き換え、書く準備をさせる。上から下に書き進み、書いた部分は前の方に送っていくとよいことを確認する。 教科書の手本を見ながら、毛筆で書かせる。 教科書の上下にある点を線で結ばせ、行の中心を確かめさせる。 それぞれの文字の形に気付かせ、幅が大きい漢字に対し、仮名は小さめであることを押さえる。 字形を整えて書くには、筆圧に注意すると共に強弱のあるリズムカルな運筆で一文字を書き上げることが大切であることを知らせる。 中心線を意識して練習させ、行の中心が取れるようになったら、折らずに書かせる。 『世界の国』の大きさの割り振りがうまくいかない場合は、書き初め用紙を四つに折らせて感覚をつかませる。 大きな下敷きがない場合、用紙を一字ずつずらして書くよう指示する。 行の中心や配列に注意して書くことができたか、自己評価・相互評価をさせる。 位置や大きさに気を付けさせる。 <p>【評】教材の練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで学習してきたことを思い出しながら、字形を整えて丁寧に書かせる。 文字の組み立て方や行の中心に注意して書けたか確かめさせる。 漢字と平仮名では、漢字の方が少し大きく書くことを再確認する。 4文字の間がほぼ等間隔で空いているか確かめさせる。 点画をつくる筆の動きや筆圧、書く速さを考えながら書けたか確認する。 学年や名前も、大きな文字と同様に、行の中心、文字と文字との間隔に注意して書くことを伝える。 隣席同士で教科書・試し書き・まとめ書きを比較し合い、互いに練習の成果を認め、達成感をもたせる。 <p>【評】作品を通して、文字の大きさや組み立て方に関する「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 学習のまとめ

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 漢字と平仮名の形や大きさの違い、行の中心や字間・行間の取り方に気を付けて配列よく書くことができる。
(3) 1年間の学習の成果を振り返って、自分の学習の成果を確かめようとする。

標準的な展開例

05020302_001

【教材名】『考える子』（毛筆）（P. 38～P. 41）

【準備等】毛筆練習用紙、硬筆練習用紙（行の中心や行頭の位置が示されているものなど）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 漢字と仮名の大きさに気を付けて、『考える子』を書く。</p> <p>★学習したことを生かして書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『考える子』を毛筆で試し書きする。 ○試し書きと教科書の文字を比較して、気付いたことを話し合う。 ○めあてを一つ選ぶ。 ○めあてを意識して、毛筆で『考える子』を練習する。 ○毛筆で『考える子』をまとめ書きする。 ○自己評価・相互評価をする。 <p>3 縦罫線の用紙に、文字の大きさや配列に気を付けて書く</p> <p>★文字の大きさや配列に気を付けて、硬筆で書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○配列に気を付けて、硬筆で『雪わたり』を書く。 ○読みやすく書くためには、どうしたらよいかを考える。 ○試し書きで自分の課題を見つけ、練習する。 ○『雪わたり』をまとめ書きし、自己評価・相互評価をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見ないで書くようにさせる。 ・教科書P. 39の図版にある概形を参考に、平仮名は漢字より小さめに書くことを外形から気付かせる。 ・これまで学習したことからめあてを一つ選び、教科書P. 39に書き込ませる。 ・自分の課題に合った練習用紙を活用したり、作成したりして練習できるようにする。（かご書き・骨書き・外形・中心線） 【評】練習や作品を通して、漢字と仮名の大きさに関する「知識・技能」を評価する。 ・全体で基準を確認し、正しく評価できるようにする。 ・隣席同士で、よい点を認め合えるようにする <ul style="list-style-type: none"> ・『雪わたり』を音読みし、難解な漢字、仮名遣い、意味などを確認する。 ・平仮名は漢字より小さめに書くこと、行頭をそろえること、文字の中心と行の中心をそろえて書くことなどを確認する。 ・教科書の行の中心に補助線を入れさせる。 ・自分の課題となったところを部分練習させる ・行の中心や行頭の位置などを示した練習用紙を用意し、自分にあったものを選択させる。 ・隣席同士で、よくなった点を見付け合うようにする。 【評】作品を通して、配列に関する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 文字の旅

配当時間 1時間

単元の目標

(3) 日本の文学の歴史について知り，書写学習に対する興味・関心を高めようとする。

標準的な展開例

06020101_001

【教材名】文字の旅 (P. 1～P. 3)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日本の文学の歴史をたどる。</p> <p>★日本の文学の歴史を知り，1年間の書写学習のめあて，学習の流れを知ろう</p> <p>○日本の文字の由来について知っていることを発表する。</p> <p>○日本の文字の歴史を知る。</p> <p>○6年生の学習のめあてや学習内容を知る。</p> <p>○書写学習に対する意欲を高める。</p>	<p>・文字がさまざまな場面で使われていたり，歴史とともに変化していることを説明する。</p> <p>・教科書の裏表紙の「文字の旅」を参考に，文字の歴史を確認する。</p> <p>①漢字は，中国から伝来した。</p> <p>②漢字から平仮名や片仮名が誕生した。</p> <p>・「学習のめあて」や「目次」を読みながら，1年間の学習を見通せるようにする。</p> <p>・1年間の学習で楽しみな内容やがんばりたい内容をワークシートに書き，発表させる。</p> <p>・各自の思いを全体で尊重し合いたい。</p> <p>【評】ワークシートや発表を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 はじめの学習

配当時間

1 時間

単元の目標 (1) 点画の種類や字形の整え方を確認し、毛筆で書いて確かめることができる。
(3) 常により姿勢や持ち方を意識して書こうとする。

標準的な展開例

06020102_001

【教材名】学習の進め方／点画の種類／姿勢と持ち方，用具のあつかい方／筆の持ち方／後片付けのしかた
(P. 4～P. 8)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 よい姿勢と持ち方で，点画の種類や組み立て方に気を付けて書く。 ★よい姿勢・よい持ち方に気を付けて，点画の種類や字形の整え方を確かめて書こう ○学習についての見通しをもつ。</p> <p>○用具の置き方・よい姿勢・よい持ち方を確認する。</p> <p>○教科書P. 5の「点画の種類」を見て，文字のどの部分にあたるのかを確認して練習する。</p> <p>○まとめ書きをして，自己評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 4を参考に，1年間の進め方をつかませる。 ・学習の始めに自分なりのめあてをもつこと，最後に振り返りをするを押さえておきたい。 ・教科書P. 6～P. 7を参考にしながら，なぜこのように持つとよいのかについても考えさせる ・教科書の写真を見ながら，実際に準備したり筆を持ったりさせる。 ・隣席児童と見合いながら，確認させるとよい ・姿勢や持ち方に注意して，9種類の点画を練習させる。 ・書いたら教科書と自分の書いたものとを比較し，課題を確認させる。 【評】練習を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書や練習したものとを比較して，自己評価させる。 【評】作品を通して，点画の種類に対する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 文字の大きさと配列

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 漢字と平仮名の大きさと配列に気を付けて、字形を整えて書くことができる。
 (2) 目的にふさわしい書き方や書く速さを考えることができる。
 (3) 用紙に対する文字の大きさと配列に気を付けて書こうとする。

標準的な展開例

06020103_001

【教材名】『歩む』（毛筆）／レッツ・トライ 話し合いメモ (P.9～P.11)

【準備等】練習用紙，まとめ書き用紙，標準字体と許容字体を拡大したもの，感想用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 用紙に対する文字の大きさと配列に気を付けて『歩む』を書く。 ★用紙に対する文字の大きさと配列に気を付けて書こう ○毛筆で『歩む』を試し書きする。 ○試し書きと教科書の文字を比較して、気付いたことを話し合う。 ○組み立て方や筆使いについて理解する。</p> <p>○毛筆で『歩む』を練習する。</p> <p>○『歩む』をまとめ書きし、自己評価・相互評価をする。</p> <p>4 目的に合わせて書き方を知る。 ★目的にふさわしい書く速さ・書き方を考えよう ○目的に応じた書く速さについて話し合う。</p> <p>○場面ごとに、どんなことに気を付けて書くとよいかを話し合う。</p> <p>○速く書くときのポイントを確認する。</p> <p>○本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見ないで書くようにさせる。 ・漢字と平仮名の大きさの違いに気付かせる。 ・教科書の文字に中心線や左右の縦線を書かせる。 ・『歩』と『む』を同じ大きさで書いたものも用意しておく、違和感が伝わりやすい。 ・半紙に中心線や補助線を入れて、自己課題に合った練習用紙を作ってもよいことを知らせる。 ・『歩』については、上下の縦画を短くし、中央の横画を長く引くと、まとまりよく書けることを確認する。 ・『歩』の横画の両端を補助線に見立てて、『む』を小さめに書くよう助言する。 【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書の文字・試し書き・まとめ書きを隣席同士で見合い、互いによくなった点を見付けさせる。 ・文字の大きさや配列に着目させる。 【評】作品を通して、文字の大きさや配列に対する「知識・技能」を評価する。 ・日頃の学習活動を想起させ、スピード優先で書く場合やゆっくり丁寧に書く場合があることを押さえる。 ・自分用に速く書く場合と、できるだけ速く書く場合、相手を意識してゆっくり丁寧に書く場合を想起させ、それぞれで気を付けるべき点を挙げさせる。 【評】話し合いを通して、場面に適した書き方に関する「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P.11を参考にしながら、様々に書き方が変化することを理解させる。 ・標準字体と許容字体とを比較できるように、拡大文字を用意しておく。 ・本時の学習を振り返り、分かったことや感想を書かせる。 ・学習したことを日常生活にも生かしていけるよう声掛けをする。 【評】分かったことや感想を書くことを通して「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 文字の組み立て方(三つの部分)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 組み立て方に気を付けて、字形を整えて書くことができる。
 (2) 用紙の大きさに合わせて、読みやすい文字の大きさや余白の取り方を考えて書くことができる。
 (3) 三つの部分の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

06020104_001

【教材名】『湖』（毛筆）/硬筆の学習 文字の組み立て方（左右・上下・中と外）/レッツ・トライ 国語のノート/レッツ・トライ 校外学習のリーフレット (P.12～P.17)

【準備等】書道半紙，ワークシート（硬筆練習用），修学旅行や社会見学時のメモ，リーフレット作成用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 三つの部分の組み立て方に気を付けて、『湖』を書く ★三つの部分の組み立て方に気を付けて書こう ○『湖』を試し書きする。 ○教科書の文字と試し書きとを比較して、気付いたことを話し合う。</p> <p>○三つの部分の組み立て方を理解する。</p> <p>○『湖』を練習する。</p> <p>○『湖』をまとめ書きして、自己評価・相互評価をする。</p> <p>3 左右，上下，中と外の組み立てに気を付けて，硬筆で書く。 ★左右，上下，中と外の組み立て方に気を付けて，硬筆で書こう ○硬筆で『衛』『測』『術』『葉』『案』『属』『関』『医』『団』を試し書きする。 ○左右，上下，中と外の組み立て方から成る文字について気付いたことを話し合う。</p> <p>○教科書P.14の漢字を練習する。 ○まとめ書きをして，自己評価・相互評価をする。</p> <p>4 分かりやすく，内容が理解しやすいノートのまとめ方を理解する。 ★学習内容が理解しやすいノートのまとめ方を知ろう ○内容が理解しやすいノートとはどのようなものか，話し合う。</p> <p>○ノート例を書いて，自己評価・相互評価をする。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は見ないで書かせる。 ・隣席同士で話し合いをさせる。 ・特に，三つの部分の幅はどうなっているかに着目させる。 ・教科書P.12の文字に，中心線を引かせる。 ・三つの部分を直線で囲ませることで，それぞれの大きさに気付かせる。 ・それぞれの部分が細長く変形されて配置されていることを押さえる。 ・一度，三つの部分を同じ大きさと書かせることで，まとまりの悪さに気付かせる。 ・半紙を十文字に折り，『古』の部分を中央に書くように助言する。 ・隣席同士で，互いのよい点を見付け合えるようにする。 <p>【評】作品を通して，三つの部分の組み立てに対する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書は見ないで書かせる。 ・漢字のテストのような形式にしてもよい。 ・教科書P.14にある文字のそれぞれの部分を四角で囲ませるなどして，組み立て方の工夫に気付かせる。 ・一文字にまとめるための組み立て方の工夫について気付いたことを，ワークシートに書き込ませる。 ①三つの部分から成る文字は，中心部分を細く小さめに書く。 ②中の部分の横画を長めに書く。 ③「構え」を引き締め，中の部分を小さめに書く。 ・ワークシートを用意し，書き込ませる。 ・教科書P.14の漢字をまとめ書きさせる。 ・左右・上下・中と外の組み立て方に着目して評価をさせる。 ・隣席同士で，互いのよい点を見付けるようにする。 <p>【評】作品を通して，組み立て方に関する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見ずに話し合った後に，教科書P.15を参考にして理解を深められるようにする。 ①日付を書く。 ②めあてを書いて，線で囲む。 ③大事な項目などは，線で囲む。 ④関連のあるものは，矢印等でつなぐ。 ⑤大事な語句などは，色を変えるなどして目立つようにする。 ・教科書P.15のノート例を，罫線の入ったワークシートで練習させる。 ・書き終わったら，隣席同士で教科書と照らし合わせながらよい点を見付けさせる。 ・よりよいノートの取り方について，分かった

- 5 用紙全体の大きさから文字の大きさや余白の取り方を考えて、読みやすいリーフレットを書く。
★用紙全体の大きさを考えて、読みやすく書こう
○読む人に内容が伝わりやすいリーフレットを書くための工夫について話し合う。

○鉛筆で下書きをする。

○リーフレットのまとめ書きをして、自己評価・相互評価をさせる。

ことをワークシートにまとめさせる。

【評】分かったことのまとめを通して、内容が理解しやすいノートの取り方についての「知識・技能」を評価する。

・教科書P.16～P.17を参考にして、分かりやすく効果的に伝えるために気を付けることを話し合わせる。

①記事の数と文字の大きさ

②余白の取り方

③見出しの大きさと色

④図や写真の配置

・修学旅行や社会見学時のメモを用意しておく

・用紙に対する文字の大きさや余白の取り方に留意させる。

・適切な文字量にするために、内容の整理が必要であることを助言する。

・下書きが終わったら、隣席同士でアドバイスをし合うようにする。

・見出しや小さい文字などは、筆記用具を工夫させる。

・隣席同士で相互評価をさせる。その際、特に用紙に対する文字の大きさや余白の取り方に着目させる。

【評】リーフレットのまとめ書きを通して、文字の大きさや余白の取り方についての「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 文字の大きさと配列・点画のつながり

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 文字の大きさと配列, 点画のつながりを意識して書くことができる。
(3) 文字の大きさと配列に気を付けて, 字形を整えて書こうとする。

標準的な展開例

06020201_001

【教材名】『思いやり』（毛筆）／レッツ・トライ 『枕草子』を書く (P. 19～P. 23)

【準備等】書道半紙, 水書板, 単体の『思いやり』の文字, 硬筆練習用紙 (行の中心線や行頭の補助線があるもの)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 文字の大きさと配列, 点画のつながりに気を付けて, 『思いやり』を書く。 ★文字の大きさと配列, 点画のつながりに気を付けて書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆で『思いやり』を試し書きする。 ○試し書きと教科書の文字を比較して, 気付いたことについて話し合う。 ○教科書P. 20～P. 21を参考にしながら, 字配りのポイントについて確認する。 <p>○『思いやり』を練習する。</p> <p>○『思いやり』をまとめ書きする。</p> <p>2～3 自分の課題を考えて, 字形を整えて書く。 ★自分の課題を見付け, 字形を整えて書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題を設定する。 ○配列を整えて書くための基準を理解する。 ○練習用紙を選択したり自作したりして, 『思いやり』を練習する。 <p>○硬筆と毛筆で『思いやり』をまとめ書きし, 自己評価・相互評価をする。</p> <p>4 文字の大きさと配列に気を付けて, 『枕草子』を書く。 ★文字の大きさと配列に気を付けて書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『枕草子』の始めの部分を書く。 ○縦書きで配列よく書くための基準を確認する。 ○自分に合った練習用紙を選択して, 『枕草子』を練習する。 ○『枕草子』をまとめ書きし, 自己評価・相互評価をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見ないで書くようにさせる。 ・教科書P. 20の『心』の穂先の向きを見て, 点画のつながりに気付かせるようにしたい。 ・教科書の文字を見て, 終筆が次の始筆に向かうことを意識させる。 ・水書板で教師が示範することで, 点画同士のつながりに気付きやすくする。 ・点画のつながりを意識して, 空書をさせる。 ・文字の大きさや点画のつながりに留意させる ・試し書きと比較させ, 進歩した点を互いに認め合えるようにする。 【評】練習や作品を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・前時のまとめ書きと教科書の文字を比較して自分の課題を見いださせる。 ・教科書P. 21を参考にして, 文字の位置や中心を確認させる。 ・それぞれの文字を単体で練習できるワークシートを用意して, 各自の課題となる文字を重点的に練習できるようにする。 ・文字の概形や中心線を入れるなど, 各自で工夫させてもよい。 ・基準に従って, 注意する点を意識して練習しているかを見て回り, 個に応じて助言する。 【評】練習を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・隣席同士で教科書・試し書き・まとめ書きを比較したり基準に照らしたりして, よい点を認め合えるようにする。 【評】作品を通して, 字形を整えて書く「知識・技能」を評価する。 ・白紙に, 教科書P. 22の『春はあけぼの』4行を硬筆で書く。 ・文字の大きさや配列に目を向けさせる。 ・試し書きと教科書の文字とを比較させ, 配列よく書くための基準を考えさせる。 ①行の中心をそろえる。 ②平仮名は漢字よりも小さめに書く。 ③字間に注意する。 ④書き始めは1字分空け, 行頭をそろえる。 ・練習用紙は, 行の中心線があるものや行頭の補助線があるものなどを用意しておき, 自分の課題に合った用紙を選択させる。 ・自分で工夫した練習用紙を作成させてもよい ・隣席同士で教科書と比較し, よい点を認め合えるようにする。 【評】作品を通して, 文字の大きさと配列に対する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 文字の大きさと配列、点画のつながり(小筆)

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 文字の大きさと配列、点画のつながりを理解し、字形を整えて書くことができる。
 (2) 用紙に合わせた配列や小筆の筆使いを考えて書くことができる。
 (3) 自分のめあてを設定し、達成に向けて意欲的に書こうとする。

標準的な展開例

06020202_001

【教材名】『この道や行く人なしに秋の暮』（小筆）／レッツ・トライ 小筆を生かして書く／好きな言葉を書く（P. 26～P. 33）

【準備等】練習用紙、小筆、短冊・色紙・年賀状などさまざまな用紙、まとめ書き用紙、鑑賞カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 文字の大きさと配列、点画のつながりに気を付けて、『この道や行く人なしに秋の暮』を書く。 ★文字の大きさと配列に気を付けて書こう ○毛筆で『この道や～』を試し書きする。</p> <p>○試し書きと教材を比べて話し合う。</p> <p>○文字の大きさや配列を整えて書くために必要なことを確認する。 ○試し書きを見て自分の課題を決める。</p> <p>○『この道や～』を練習する。</p> <p>○まとめ書きをし、自己評価・相互評価をする。</p> <p>4～5 小筆を学習や生活の中で生かす。 ★筆使いと配列に気を付けて、小筆で書こう ○用紙を選択して、『この道や～』を試し書きする。</p> <p>○自分のめあてを設定する。</p> <p>○めあてに合った練習用紙を使って練習する。</p> <p>○好きな用紙に自分で選んだ俳句や文を書く。</p> <p>○自己評価・相互評価をする。</p> <p>6～9 好きな言葉を選び、自分のめあてを達成できるように書く。 ★6年間で学習したことを生かして、好きな言葉を選んで書こう ○『実現』『夢』『仲間』『友情』の中から、自分が書きたい言葉を選ぶ。 ○ワークシートに、言葉を選んだ理由を書く。</p> <p>○試し書きをする。 ○それぞれの文字の基準について話し合う。</p>	<p>・板書等で示し、教科書を見ないで書くようにさせる。</p> <p>・教科書P. 27の「考えよう」を参考にし、配列を整えて書くためのポイントについて、気付いたことを話し合わせる。</p> <p>・教科書P. 27の「ここが大切」で基準を確認する。</p> <p>・試し書きに、文字の大きさ・中心線・行間・余白など、気を付けることを赤で書き込ませる。</p> <p>・自分の課題をつかむことができているか確認し、指導・助言する。</p> <p>・余白部分を線で区切るなどした練習用紙を用意しておき、自分のめあてに合わせて選ばせる。</p> <p>・教科書を参考にして、点画と点画がどうつながっているかを確認させる。 ①次の画や線につながるように、点画と点画のつながりを意識して書く。 ②つながる気持ちが途切れないように、途中で墨を付けないで、できるだけ続けて書く。</p> <p>・隣席同士で、互いのよい点を認め合えるようにする。</p> <p>【評】作品を通して、文字の大きさや配列、点画のつながりに対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P. 28の あ・い・う の大きさに切った用紙を用意し、選択させる。</p> <p>・教科書P. 28の①～③の中からいちばん苦手な項目を選択させる。</p> <p>・補助線の入った練習用紙を用意したり、教科書P. 28のように、児童自身に作成させたりして、よりよい練習に取り組ませる。教科書に補助線を入れるなどするのもよい。</p> <p>・年賀状の裏面や色紙、短冊など、自分が書きたい用紙を用意させておく。</p> <p>・小筆の筆使いや配列など、学習したことを生かして書くようにする。</p> <p>【評】作品を通して、用紙に合わせた配列や小筆の筆使いについての「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・隣席同士で互いの作品を鑑賞し合い、よい点を賞賛し合えるようにする。</p> <p>・日常生活の様々な場面で小筆を生かしていけるよう声掛けをする。</p> <p>・6年間のまとめであり、自分でめあてを決めて学習を進めることを伝える。</p> <p>・「選んだ文字」「選んだ理由」「自分のめあて」が書けるワークシートを用意しておく。</p> <p>・教科書は見ずに試し書きをさせる。</p> <p>・同じ文字を選んだ児童で4人程度のグループを作り、気を付ける点を話し合い、確認する。</p>

- 自分のめあてを書く。
- 各自で工夫して，練習する。

○まとめ書きをして，自己評価をする。

○発表会をする。

- ①『実現』…左右の組み立て方と点画のつながり
 - ②『夢』…三つの部分の組み立て方
 - ③『仲間』…左右，中と外の組み立て方と配列
 - ④『友情』…用紙に対する文字の大きさ
- ・ワークシートに記入する。
 - ・グループで助言し合うようにする。
 - ・これまでに学習してきた練習用紙を参考にして，自分に合った練習用紙を作成するよう助言する。
 - ・随時，グループ内で助言し合う時間を設けるその際，新たな自分のめあてを設定させてもよい。
- 【評】練習を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教科書・試し書き・まとめ書きを比較して，自己評価させる。
- 【評】作品を通して，基準に対する「知識・技能」を評価する。
- ・「選んだ理由」「自分のめあて」を発表させる。
 - ・鑑賞カードを用いて，感想等を交流させる。

【 備 考 】

単元名 書きぞめ

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 文字の大きさや組み立て方、配列に気を付けて、字形を整えて書くことができる。
(3) 自分のめあてを決めて、これまでの学習を生かして意欲的に書こうとする。

標準的な展開例

06020301_001

【教材名】選択課題 『理想』『伝統を守る』（毛筆）

(P. 43～P. 48)

【準備等】半紙、書き初め用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 組み立て方や筆使いに気を付けて、『理想』か『伝統を守る』のどちらかを書く。 ★組み立て方や筆使いに気を付けて書こう ○用具の置き方や姿勢を知る。</p> <p>○『理想』か『伝統を守る』のどちらかを選択し、試し書きをする。 ○試し書きと教科書の文字を比較し、自分のめあてを決める。</p> <p>○半紙や書き初め用紙を縦半分に折り、『理想』か『伝統を守る』のどちらかを練習する。</p> <p>○自己評価・相互評価をする。</p> <p>○学年、名前の練習をする。</p> <p>2～3 文字の大きさや組み立て方、配列に気を付けて『理想』か『伝統を守る』のどちらかを書く。 ★紙面に対する文字の大きさや配列などに気を付けて、字形を整えて書こう ○文字の大きさや組み立て方、配列に気を付け、毛筆で『理想』か『伝統を守る』のどちらかを試し書きする。 ○試し書きと教科書の文字を比較し、基準を確認する。</p> <p>○半紙や書き初め用紙を折らずに練習する。</p> <p>○『理想』か『伝統を守る』のどちらかをまとめ書きし、自己評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 45～P. 48を見ながら、姿勢には「床の上で書く姿勢」と「立って書く姿勢」があることを理解させ、本時は立って書くことを伝える。 机を縦に置き換え、書く準備をさせる。 教科書の手本を見ながら書かせる。 教科書P. 45～P. 48の上下にある点を線で結ばせ、行の中心を確かめさせる。 特に注意したい点をめあてとして設定するよう助言する。 字形を整えて書くには、筆圧に注意すると共に、強弱のあるリズムカルな運筆で1文字を書き上げることが大切であることを知らせる。 中心線を意識して練習させ、行の中心が取れるようになったら、折らずに書かせる。 四つの文字の大きさの割り振りがうまくいかない場合は、書き初め用紙を四つに折らせて感覚をつかませる。 画数の多い字と少ない字が混ざっているときは、画数の少ない字を少し太めに書くことで全体のつり合いがとれることを伝える。 文字の大きさや筆使いに注意して書くことができたか自己評価・相互評価をさせる。 【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 位置や大きさに気を付けさせる。 前時の学習を想起し、自分のめあてを確認させる。 文字の組み立て方や行の中心に注意して書けたか、文字の間がほぼ等間隔で空いているかを確かめさせる。 点画を作る筆の動きや筆圧のかけ方、書く速さを考えながら書けたかを確認させる。 用紙と文字のつり合いを考えながら書くようにさせる。 学年や名前も、行の中心、文字と文字との間隔に注意して書くことを伝える。 練習の成果を認め、達成感をもたせる。 【評】作品を通して、文字の大きさや組み立て方、配列に対する「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 学習のまとめ

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 文字の大きさや配列に気を付けて、字形を整えて書くことができる。
(3) これまでの学習を生かして、自分のめあてを意識して書こうとする。

標準的な展開例

06020302_001

【教材名】『旅立ちの時』（毛筆）／6年間で学習したこと（P. 34～P. 37）

【準備等】練習用紙、まとめ書き用紙、硬筆用練習用紙（中心線のあるものや行頭の位置が示されたもの）

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 今までに学習してきたことを生かして『旅立ちの時』を書く。 ★学習してきたことを生かして書こう ○毛筆で『旅立ちの時』を試し書きする。 ○試し書きと教科書の文字を比べて話し合いながら、自分のめあてを決める。</p> <p>○基準を確認する。</p> <p>○練習用紙を選択したり自作したりして『旅立ちの時』を練習する。</p> <p>○『旅立ちの時』をまとめ書きし、自己評価・相互評価をする。</p> <p>○硬筆で『旅立ちの時』『アジアの仲間』を書く。</p> <p>3 6年間の書写学習を振り返り、配列よく書く。 ★6年間の学習を振り返り、配列を整えて書こう ○6年間の書写学習を振り返る。</p> <p>○教科書P. 37の教材文を音読し、試し書きする。</p> <p>○試し書きと教科書とを比較し、配列よく書くための基準を確認する。</p> <p>○自分のめあてを意識して練習する。</p> <p>○まとめ書きし、自己評価・相互評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を見ないで書くようにさせる。 教科書P. 35を見て、これまでに学習してきた「文字の大きさと配列、点画のつながり」と関連があることに気付かせる。 教科書の文字と自分の試し書きを比べながら本時の自分のめあてを決めるよう助言する。 教科書P. 35を参考にして、基準を確認させる <p>①平仮名は、漢字よりも小さめに書く。 ②平仮名は丸みのある線で書く。 ③『旅』『時』は、左右の組み立てに注意する。 ④字間や行間、余白に注意する。 ⑤文字の中心を行の中心にそろえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてに合わせて、練習用紙を工夫させる。 <p>【評】練習を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣席同士で教科書・試し書き・まとめ書きとを比較させ、進歩した点を大いに賞賛し、成就感をもたせるようにする。 <p>【評】作品を通して、文字の大きさや配列などに気を付けて書く「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書かせる。 硬筆でも、自分のめあてを意識して書くように助言する。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 36の内容について、教科書を参考にしながら振り返らせる。 教科書P. 37を基にして話し合わせてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> 筆者の若田光一氏について、簡単に触れておきたい。 教科書P. 21などを参考にして、振り返りをさせる。 ①用紙の大きさに対する文字の大きさ ②文字同士の大きさ ③字間 ④行の中心と文字の中心 中心線や行頭の位置などが示されている練習用紙を用意し、各自に合ったものを選択させる。 隣席同士で試し書きと比較し、進歩した点を大いに賞賛し、成就感をもたせるようにする <p>【評】作品を通して、これまでの学習や配列に対する「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

令和2年度 知多地方教育計画案

社会科

社 会 科

1 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

小学校社会科の教科の目標は，「①社会的な見方・考え方を働かせ，②課題を追究したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な③公民としての資質・能力の基礎を養う」という柱書部分と，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力に関わる具体的な目標で構成されている。

なお，柱書の「社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して」の部分は，社会科の特質に応じた学び方を示している。また，「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す」の部分は，社会科の指導を通して，その実現を目指す究極的なねらいを示している。

① 社会的な見方・考え方

- ・「社会的な見方・考え方」とは，社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を考察したり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」である。
- ・小学校社会科においては，「社会的事象の見方・考え方」を働かせ，学ぶことを重視する必要がある（小学校社会科の各学年の目標においては，「社会的事象の見方・考え方」と表記）。
- ・小学校社会科における「社会的事象の見方・考え方」とは，「位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して（視点），社会事象を捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）」である。
- ・「社会的な見方・考え方を働かせ」とは，上記の視点や方法を用いて，社会的事象について調べ，考えたり，選択・判断したりする学び方を示している。

② 課題を追究したり解決したりする活動

- ・三つの柱に沿った資質・能力は，習得した知識や技能を活用して，調べたり思考・判断したり表現したりしながら課題を解決する一連の学習において，育成されるものと考えられるため，「課題を追究したり解決したりする活動を通して」と目標の柱書部分に位置付けられている（小学校社会科の各学年の目標においては，「学習の問題を追究・解決する活動」と表記）。
- ・学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るためには，問題解決的な学習過程を充実させる

ことが大切である。

- ・「問題解決的な学習」とは、単元などにおける学習問題を設定し、その解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習などを指す。

③ 公民としての資質・能力の基礎

- ・「公民としての資質・能力の基礎」は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って整理した小学校社会科の目標(1)から(3)までに示す資質・能力の全てが結びついて育まれるものである。
- ・これまでの小学校学習指導要領解説 社会編等において「公民的資質」として説明されてきた態度や能力は、今後も「公民としての資質・能力」に引き継がれるものである。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 改訂の趣旨

- ① 小・中学校においては公民としての資質・能力の基礎を育成すること。
- ② 社会科を通して育成を目指す資質・能力の具体を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で明確化すること。
- ③ 「社会的な見方・考え方」を働かせた学びを通して、三つの柱で整理した資質・能力を育成していくこと。
- ④ 社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を位置付けた学習過程を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するよう授業改善を図ること。
- ⑤ 小・中学校の社会科の内容を枠組みや対象に区分して整理したり、「社会的な見方・考え方」と概念等に関する知識との関係などを整理したりすること。

(2) 改訂の要点

- ① 「社会的な見方・考え方」については、小学校社会科の特質を踏まえ、「社会的事象の見方・考え方」と言い換え、資質・能力全体に関わるものとして位置付ける方向で教科の目標の改善を図る。
- ② 各学年の目標も、三つの柱に沿った資質・能力として整理・明確化する。
- ③ これまでの学習指導要領において、まとめて示していた第3学年及び第4学年の目標と内容については、系統的、段階的に再整理する。また、地図帳の使用を第3学年から目標に示す。
- ④ 内容について、中学校への接続・発展を視野に入れて、ア地理的環境と人々の生活、イ歴史と人々の生活、ウ現代社会の仕組みや働きと人々の生活、の三つに、また、ア、イは空間的な広がりを念頭に、地域、日本、世界と、ウは経済・産業、政治及び国際関係と、それぞれ区分して整理する。
- ⑤ 各学年の内容を「知識及び技能に関わる事項」と「思考力、判断力、表現力等に関わる事項」に分けて明確化する。
- ⑥ 現代的な諸課題を踏まえる観点から、我が国や地方公共団体の政治の仕組みや働き、世界の国々との関わりに関心を高めるとともに、社会に見られる課題を把握して社会の発展を考えられる学習の充実を図る。
- ⑦ 持続可能な社会づくりの観点から、人口減少や地域の活性化、国土や防災安全に関する内容の充実を図るとともに、情報化による生活や産業の変化、産業における技術の向上などに関する内容についても充実するよう改善を図る。

第3学年 社会科

1 学年の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

知識	(1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解する。
技能	(2) 調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付ける。
思考力、判断力、表現力等	社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	(1) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。 (2) 思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

2 内容及び内容の取り扱い

(1) 内容の枠組みと対象

内容	枠組み	対象	関連する対象
(1) 身近な地域や市区町村の様子	地理的環境と人々の生活	地域	政治
(2) 地域に見られる生産や販売の仕事	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	経済・産業	地域（地理） 国際関係
(3) 地域の安全を守る働き	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	政治	
(4) 市の様子の移り変わり	歴史と人々の生活	地域	国際関係

(2) 内容の取り扱い

① 身近な地域や市区町村の様子

ア 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。

イ 観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。

ウ 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。

(ア) 学年の導入で扱うようにすること。

(イ) 授業時間数の配分などを工夫して、「自分たちの市」に重点を置いた効果的な指導を行うように計画すること。

(ウ) 「白地図などにまとめる」際に、地図帳を使って方位や主な地図記号について扱うこと。

② 地域に見られる生産や販売の仕事

- ア 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。
- イ 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解すること。
- ウ 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。
- エ 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。
- オ 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。
 - (ア) 「生産」については、事例として農家、工場などの中から選択して取り上げるようにすること。
 - (イ) 「販売」については、身近な地域にある、小売店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどの中から選択して、商店を取り上げること。
 - (ウ) 「他地域や外国との関わり」を扱う際には、地図帳などを使用して都道府県や国の名称と位置などを調べるようにすること。
 - (エ) 我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うよう配慮すること。

③ 地域の安全を守る働き

- ア 消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。
- イ 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。
- ウ 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。
 - (ア) 「緊急時に対処する体制をとっていること」と「防止に努めていること」については、火災と事故はいずれも取り上げること。
 - (イ) 「緊急時に対処する体制をとっていること」については、火災に重点を置き、「防止に努めていること」については、事故に重点を置くなど、取り上げ方に軽重を付け、効果的に指導を工夫すること。
 - (ウ) 社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うこと。
 - (エ) 地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること。

④ 市の様子の移り変わり

- ア 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。
- イ 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
- ウ 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。
 - (ア) 「年表などにまとめる」際には、時期の区分について、昭和、平成、令和などの元号を取り上げるようにすること。
 - (イ) 「公共施設」については、市が公共施設の整備を進めてきたことを取り上げること。その際、租税の役割に触れること。

- (ウ) 「人口」を取り上げる際には、表や棒グラフを活用するなど、増減の傾向を大まかに捉えるように配慮すること。
- (エ) 市によっては、少子化や高齢化が進んでいることや外国人居住者が増え国際化が進んでいることなどに触れるように配慮すること。
- (オ) 市役所などが作成している資料などを基に、これからの市の発展について考えることができるように配慮すること。

3 問題解決的な学習の充実の視点

社会科では、従来から問題解決的な学習が重視されてきた。今回の学習指導要領でも、学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るために、問題解決的な学習過程を充実させることが求められている。

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力は、習得した知識や技能を活用して、調べたり思考・判断したり表現したりしながら課題を解決する一連の学習において、育成されるものと考えられるため、社会科においては、問題解決的な学習の一層の充実に努めることが有効かつ必要である。

社会科の問題解決的な学習には、一般的に二つの要件が欠かせない。一つは、学習者である児童が自らの問題意識に即して「自発的に問題を捉える」ことである。もう一つは学習者である児童が「自ら考えることによって学習問題を追究・解決していく」ことである。

つまり、これからの社会科では、児童が自ら問題を捉え、その問題を追究・解決していくプロセスを一層充実させること、それを通して知識や技能、思考力や判断力、表現力等を身に付け活用できるようにしていくことが求められている。

(1) 学習問題を共有する指導

問題解決的な学習では、学習問題をみんなのものにしていくこと（共有化）が不可欠である。そのためには、指導の工夫をすることが大切である。

- まず、「おもしろそうだ」という事実に出会わせ、児童の心を学習の対象に惹き付けるようにする。
- 次に、個々の驚きや素朴な疑問などをきっかけとして、児童の直感や経験、すなわち既有の常識的な見方や考え方では解釈・説明のつかない状況を経験させる。
- 最後に、そこで味わった驚きや疑問をみんなのものにしていく（共有化）。

学習問題は、児童の問題意識と表裏一体の関係で成り立つ学習の問題（社会科学学習のねらいを実現するもの）であることが必要条件である。学習問題の設定に当たっては留意し、適切な指導に努めなければならない。

- 「学習問題を追究していくことにより、単元の目標が実現できるか」という視点から、学習問題を十分に吟味する。
- 協働学習者とのかかわりの中で、個々の驚きや疑問がみんなの問いとして方向付けられ、焦点化されるようにする。
- 個々の児童が、学習問題の追究・解決の見通しをもてるように、発達段階に応じて、調べる視点や事柄、方法や手順、表現方法やまとめ方などを決め、具体的な学習計画を立案する。

(2) 学習問題に即して調べ、表す指導

「学習問題に即して、調べ、表す」ことを繰り返し指導することが大切である。児童は調べる学習に没頭すると、「何のために」「何を」調べているかを見失ってしまうことも多いので、それを防ぐための指導が必要である。

- 観察や調査、各種の資料を活用して調べる学習などにおいて、常に学習問題を意識させる。
- 調べたことを表現する場面において、表現していることが学習問題と離れてしまうことがないように、機会をとらえて一斉にあるいは個々に助言したり、学習問題を常掲して意識付けたりする。

また、観察・調査、資料活用の技能を高め、児童が自力で調べる力を育てることも、問題解決的な学習を充実させる上で必要不可欠である。

(3) 学習問題の解決に向けた思考・表現活動

学習問題の解決に向けて考えたり表現したりする活動を工夫することが大切である。具体的には、調べたことを比較（比べる）・関連付け（つなげる）、総合（まとめる）しながら、学習問題の解決に向けて再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合う（説明し合う）ことにより、お互いの考えを深めていく学習の充実を図ることが大切である。

その際、言語活動の充実に努め、他者とのコミュニケーションによって生まれる協働的な学び合いを大切にしていけることが重要である。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識 技能	(1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解している。 (2) 調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめている。
思考・判断・表現	地域における社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを表現したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	地域における社会的事象について、地域社会に対する誇りと愛情をもつ地域社会の将来の担い手として、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

第4学年 社会科

1 学年の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

知識	(1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色，地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動，地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて，人々の生活との関連を踏まえて理解できる。
技能	(2) 調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめる技能を身に付ける。
思考力，判断力，表現力等	社会的事象の特色や相互の関連，意味を考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
学びに向かう力，人間性等	(1) 社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え，学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。 (2) 思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚を養う。

2 内容及び内容の取り扱い

(1) 内容の枠組みと対象

内容	枠組み	対象	関連する対象
(1) 都道府県の様子	地理的環境と人々の生活	地域	日本（地理）
(2) 人々の健康や生活環境を支える事業	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	経済・産業 政治	地域（歴史）
(3) 自然災害から人々を守る活動	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	政治	地域（歴史）
(4) 県内の伝統や文化，先人の働き	歴史と人々の生活	地域	経済・産業
(5) 県内の特色ある地域の様子	地理的環境と人々の生活	地域	国際関係 地域（歴史）

(2) 内容の取り扱い

① 都道府県の様子

ア 県の地理的環境の概要及び47都道府県の名称と位置を理解すること。

イ 地図帳や各種の資料で調べ，白地図などにまとめること。

ウ 県の様子を捉え，地理的環境の特色を考え，表現すること。

(ア) 都道府県の名称に用いる漢字については，第4学年までに指導することとなっているため，漢字の表記に慣れるよう配慮すること。

② 人々の健康や生活環境を支える事業

ア 飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。

イ 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。

ウ 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。

エ 飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。

オ 廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現すること。

(ア) 現在に至るまでに仕組みが計画的に改善され、公衆衛生が向上してきたことに触れること。

(イ) 飲料水、電気、ガスの中から選択して取り上げること。

(ウ) ごみ、下水のいずれかを選択して取り上げること。

③ 自然災害から人々を守る活動

ア 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

イ 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

ウ 災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

(ア) 地震災害、津波災害、風水害などの中から、過去に県内で発生したものを選択して取り上げること。

(イ) 「関係機関」については、県庁や市役所の働きなどを中心に上げ、防災情報の発信、避難体制の確保などの働き、自衛隊など国の機関との関わりを取り上げること。

④ 県内の伝統や文化、先人の働き

ア 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。

イ 地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること。

ウ 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。

エ 県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。

オ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現すること。

(ア) 文化財や年中行事については、県内の中から具体的事例を取り上げること。

(イ) 開発、教育、医療、文化、産業などの地域の発展に尽くした先人の中から選択して取り上げること。

⑤ 県内の特色ある地域の様子

ア 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。

イ 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。

ウ 地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。

- (ア) 伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域、国際交流に取り組んでいる地域及び地域の資源を保護・活用している地域を取り上げること。
- (イ) 地域の資源を保護・活用している地域については、自然環境、伝統的な文化のいずれかを選択して取り上げること。

3 問題解決的な学習の充実の視点

社会科では、従来から問題解決的な学習が重視されてきた。今回の学習指導要領でも、学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るために、問題解決的な学習過程を充実させることが求められている。

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力は、習得した知識や技能を活用して、調べたり思考・判断したり表現したりしながら課題を解決する一連の学習において、育成されるものと考えられるため、社会科においては、問題解決的な学習の一層の充実に努めることが有効かつ必要である。

社会科の問題解決的な学習には、一般的に二つの要件が欠かせない。一つは、学習者である児童が自らの問題意識に即して「自発的に問題を捉える」ことである。もう一つは学習者である児童が「自ら考えることによって学習問題を追究・解決していく」ことである。

つまり、これからの社会科では、児童が自ら問題を捉え、その問題を追究・解決していくプロセスを一層充実させること、それを通して知識や技能、思考力や判断力、表現力等を身に付け活用できるようにしていくことが求められている。

(1) 学習問題を共有する指導

問題解決的な学習では、学習問題をみんなのものにしていくこと（共有化）が不可欠である。そのためには、指導の工夫をすることが大切である。

- まず、「おもしろそうだ」という事実に出会わせ、児童の心を学習の対象に惹き付けるようにする。
- 次に、個々の驚きや素朴な疑問などをきっかけとして、児童の直感や経験、すなわち既存の常識的な見方や考え方では解釈・説明のつかない状況を経験させる。
- 最後に、そこで味わった驚きや疑問をみんなのものにしていく（共有化）。

学習問題は、児童の問題意識と表裏一体の関係で成り立つ学習の問題（社会科学学習のねらいを実現するもの）であることが必要条件である。学習問題の設定に当たっては留意し、適切な指導に努めなければならない。

- 「学習問題を追究していくことにより、単元の目標が実現できるか」という視点から、学習問題を十分に吟味する。
- 協働学習者とのかかわりの中で、個々の驚きや疑問がみんなの問いとして方向付けられ、焦点化されるようにする。
- 個々の児童が、学習問題の追究・解決の見通しをもてるように、発達段階に応じて、調べる視点や事柄、方法や手順、表現方法やまとめ方などを決め、具体的な学習計画を立案する。

(2) 学習問題に即して調べ、表す指導

「学習問題に即して、調べ、表す」ことを繰り返し指導することが大切である。児童は調べる学習に没頭すると、「何のために」「何を」調べているかを見失ってしまうことも多いので、それを防ぐための指導が必要である。

- 観察や調査、各種の資料を活用して調べる学習などにおいて、常に学習問題を意識させる。
- 調べたことを表現する場面において、表現していることが学習問題と離れてしまうことがないように、機会をとらえて一斉にあるいは個々に助言したり、学習問題を常掲して意識付けたりする。

また、観察・調査、資料活用の技能を高め、児童が自力で調べる力を育てることも、問題解決的な学習を充実させる上で必要不可欠である。

(3) 学習問題の解決に向けた思考・表現活動

学習問題の解決に向けて考えたり表現したりする活動を工夫することが大切である。具体的には、調べたことを比較（比べる）・関連付け（つなげる）、総合（まとめる）しながら、学習問題の解決に向けて再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合う（説明し合う）ことにより、お互いの考えを深めていく学習の充実を図ることが大切である。

その際、言語活動の充実に努め、他者とのコミュニケーションによって生まれる協働的な学び合いを大切にしていけることが重要である。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識	(1) 自分たちの都道府県の地理的環境，地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動，地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて，人々の生活との関連を踏まえて理解している。
技能	(2) 調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめている。
思考・判断・表現	地域における社会的事象の特色や相互の関連，意味を考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり，考えたことや選択・判断したことを表現したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	地域における社会的事象について，地域社会に対する誇りと愛情をもつ地域社会の将来の担い手として，主体的に問題解決しようとしたり，よりよい社会を考え，学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

第5学年 社会科

1 学年の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

知識 技能	(1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて，理解する。 (2) 地図帳や地球儀，統計や年表などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
思考力，判断力，表現力等	社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
学びに向かう力，人間性等	(1) 社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え，学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。 (2) 多角的な思考や理解を通して，我が国の国土に対する愛情，我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

2 内容及び内容の取扱い

(1) 内容の枠組みと対象

内容	枠組み	対象	関連する対象
(1) 我が国の国土の様子と国民生活	地理的環境と人々の生活	日本	世界（地理） 経済・産業
(2) 我が国の農業や水産業における食料生産	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	経済・産業	日本（地理） 国際関係 日本（歴史）
(3) 我が国の工業生産	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	経済・産業	日本（地理） 国際関係 日本（歴史）
(4) 我が国の産業と情報との関わり	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	経済・産業	日本（歴史）
(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり	地理的環境と人々の生活 現代社会の仕組みや働きと人々の生活	日本 経済・産業 政治	

(2) 内容の取扱い

① 我が国の国土の様子と国民生活

- ア 世界における我が国の国土の位置，構成，領土の範囲などを大まかに理解すること。
- イ 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに，人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。
- ウ 地図帳や地球儀，各種の資料で調べ，まとめること。
- エ 世界の大陸と主な海洋，主な国の位置，多数の島からなる国土の構成などに着目して，我が国の国土の様子を捉え，その特色を考え，表現すること。
- オ 国土の自然環境の特色と国民生活との関連を考え，表現すること。
 - (ア) 竹島や北方領土，尖閣諸島が我が国の固有の領土であることに触れること。
 - (イ) 方位，緯度や経度などによる位置の表し方について取り扱うこと。
 - (ウ) 「主な国」については，名称についても扱うようにし，近隣の諸国を含めて取り上げる。

- (エ) 「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件や気候条件から見て、特色ある地域を取り上げること。
- ② 我が国の農業や水産業における食料生産
- ア 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。
- イ 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。
- ウ 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
- エ 食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
- オ 食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
- (ア) 稲作のほか、野菜、果物、畜産物、水産物などの生産物の中から一つを取り上げること。
- ③ 我が国の工業生産
- ア 国土には工業の盛んな地域が広がっていることや工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。
- イ 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。
- ウ 貿易や運輸は、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。
- エ 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
- オ 工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
- カ 工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
- キ 貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。
- (ア) 金属工業、機械工業、化学工業、食料品工業などの中から一つを取り上げること。
- ④ 我が国の産業と情報との関わり
- ア 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。
- イ 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。
- ウ 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。
- エ 放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
- オ 産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
- (ア) 「放送、新聞などの産業」については、テレビ、ラジオ、新聞の中から選択して取り上げること。
- (イ) 情報や情報技術を活用して発展している販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること。
- ⑤ 我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり
- ア 自然災害は自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。
- イ 森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など、重要な役割を果たしていることを理解すること。
- ウ 公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害から環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解すること。
- エ 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。
- オ 国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。
- カ 国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現すること。
- キ 公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現すること。

(ア) 自然災害については、地震災害、津波災害、風水害などを取り上げること。

(イ) 公害については、大気の汚染、水質の汚濁などの中から具体的事例を選択して取り上げること。

3 問題解決的な学習の充実の視点

社会科では、従来から問題解決的な学習が重視されてきた。今回の学習指導要領でも、学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るために、問題解決的な学習過程を充実させることが求められている。

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力は、習得した知識や技能を活用して、調べたり思考・判断したり表現したりしながら課題を解決する一連の学習において、育成されるものと考えられるため、社会科においては、問題解決的な学習の一層の充実に努めることが有効かつ必要である。

社会科の問題解決的な学習には、一般的に二つの要件が欠かせない。一つは、学習者である児童が自らの問題意識に即して「自発的に問題を捉える」ことである。もう一つは学習者である児童が「自ら考えることによって学習問題を追究・解決していく」ことである。

つまり、これからの社会科では、児童が自ら問題を捉え、その問題を追究・解決していくプロセスを一層充実させること、それを通して知識や技能、思考力や判断力、表現力等を身に付け活用できるようにしていくことが求められている。

(1) 学習問題を共有する指導

問題解決的な学習では、学習問題をみんなのものにしていくこと（共有化）が不可欠である。そのためには、指導の工夫をすることが大切である。

- まず、「おもしろそうだ」という事実に出会わせ、児童の心を学習の対象に惹き付けるようにする。
- 次に、個々の驚きや素朴な疑問などをきっかけとして、児童の直感や経験、すなわち既有の常識的な見方や考え方では解釈・説明のつかない状況を経験させる。
- 最後に、そこで味わった驚きや疑問をみんなのものにしていく（共有化）。

学習問題は、児童の問題意識と表裏一体の関係で成り立つ学習の問題（社会科学学習のねらいを実現するもの）であることが必要条件である。学習問題の設定に当たっては留意し、適切な指導に努めなければならない。

- 「学習問題を追究していくことにより、単元の目標が実現できるか」という視点から、学習問題を十分に吟味する。
- 協働学習者とのかかわりの中で、個々の驚きや疑問がみんなの問いとして方向付けられ、焦点化されるようにする。
- 個々の児童が、学習問題の追究・解決の見通しをもてるように、発達段階に応じて、調べる視点や事柄、方法や手順、表現方法やまとめ方などを決め、具体的な学習計画を立案する。

(2) 学習問題に即して調べ、表す指導

「学習問題に即して、調べ、表す」ことを繰り返し指導することが大切である。児童は調べる学習に没頭すると、「何のために」「何を」調べているかを見失ってしまうことも多いので、それを防ぐための指導が必要である。

- 観察や調査、各種の資料を活用して調べる学習などにおいて、常に学習問題を意識させる。
- 調べたことを表現する場面において、表現していることが学習問題と離れてしまうことがないように、機会をとらえて一斉にあるいは個々に助言したり、学習問題を常掲して意識付けたりする。

また、観察・調査、資料活用 of 技能を高め、児童が自力で調べる力を育てることも、問題解決的な学習を充実させる上で必要不可欠である。

(3) 学習問題の解決に向けた思考・表現活動

学習問題の解決に向けて考えたり表現したりする活動を工夫することが大切である。具体的には、調べたことを比較（比べる）・関連付け（つなげる）、総合（まとめる）しながら、学習問題の解決に向けて再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合う（説明し合う）ことにより、お互いの考えを深めていく学習の充実を図ることが大切である。

その際、言語活動の充実に努め、他者とのコミュニケーションによって生まれる協働的な学び合いを大切にしていけることが重要である。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識 技能	(1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民の生活との関連を踏まえて理解している。 (2) 地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめている。
思考・判断・表現	我が国の国土や産業の様子に関連する社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	我が国の国土や産業の様子に関する社会的事象について，我が国の国土に対する愛情をもち，産業の発展を願う国家及び社会の将来の担い手として主体的に問題解決しようとしたり，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

第6学年 社会科

1 学年の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

知識	(1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き，国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産，我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解している。
技能	(2) 地図帳や地球儀，統計や年表などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考力，判断力，表現力等	社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
学びに向かう力，人間性等	(1) 社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。 (2) 多角的な思考や理解を通して，我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情，我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

2 内容及び内容の取り扱い

(1) 内容の枠組みと対象

内容	枠組み	対象	関連する対象
(1) 我が国の政治の働き	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	政治	
(2) 我が国の歴史上の主な事象	歴史と人々の生活	日本	世界（歴史）
(3) グローバル化する世界と日本の役割	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	国際関係	政治 世界（地理）

(2) 内容の取り扱い

① 我が国の政治の働き

ア 日本国憲法は国家の理想，天皇の地位，国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや，現在の我が国の民主政治は憲法の基本的な考えに基づいていることを理解すること。

イ 立法，行政，司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解すること。

ウ 国や地方公共団体の政治は，国民主権の考え方の下，国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。

エ 見学・調査したり各種の資料で調べたりして，まとめること。

オ 日本国憲法の基本的な考え方に着目して，我が国の民主政治を捉え，日本国憲法が国民生活に果たす役割や，国会，内閣，裁判所と国民との関わりを考え，表現すること。

カ 政策の内容や計画から実施までの過程，法令や予算との関わりなどに着目して，国や

地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。

(ア) 国会などの議会政治や選挙の意味、国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、裁判員制度や租税の役割などについて扱う。

(イ) 天皇の地位については、憲法に定める天皇の国事に関する行為など児童に理解しやすい事項を取り上げ歴史に関する学習との関連も図りながら、天皇についての理解と敬愛の念を深めるようにすること。

(ウ) 「国民としての権利及び義務」については、参政権、納税の義務などを取り上げること。

(エ) 社会保障、自然災害からの復旧や復興、地域の開発や活性化などの取組の中から選択して取り上げること。

② 我が国の歴史上の主な事象

ア 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

イ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

(ア) 児童の興味・関心を重視し、取り上げる人物や文化遺産の重点の置き方に工夫を加えるなど、精選して具体的に理解できるようにすること。

(イ) 「神話・伝承」については、古事記、日本書紀、風土記などの中から適切なものを取り上げること。

(ウ) 歴史学習全体を通して、我が国は長い歴史をもち伝統や文化を育んできたこと、我が国の歴史は政治の中心地や世の中の様子などによって幾つかの時期に分けられることに気付くようにするとともに、現在の自分たちの生活と過去の出来事との関わりを考えたり、過去の出来事を基に現在及び将来の発展を考えたりするなど、歴史を学ぶ意味を考えるようにすること。

③ グローバル化する世界と日本の役割

ア 我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国々の人々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。

イ 我が国は平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。

ウ 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

エ 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現すること。

オ 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。

(ア) 我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げること。

(イ) 「国際連合の働き」については、ユニセフやユネスコの身近な活動を取り上げること。また、「我が国の国際協力の様子」については、教育、医療、農業などの分野で世界に貢献している事例の中から選択して取り上げること。

3 問題解決的な学習の充実の視点

社会科では、従来から問題解決的な学習が重視されてきた。今回の学習指導要領でも、学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るために、問題解決的な学習過程を充実させることが求められている。

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力は、習得した知識や技能を活用して、調べたり思考・判断したり表現したりしながら課題を解決する一連の学習において、育成されるものと考えられるため、社会科においては、問題解決的な学習の一層の充実に努めることが有効かつ必要である。

社会科の問題解決的な学習には、一般的に二つの要件が欠かせない。一つは、学習者である児童が自らの問題意識に即して「自発的に問題を捉える」ことである。もう一つは学習者である児童が「自ら考えることによって学習問題を追究・解決していく」ことである。

つまり、これからの社会科では、児童が自ら問題を捉え、その問題を追究・解決していくプロセスを一層充実させること、それを通して知識や技能、思考力や判断力、表現力等を身に付け活用できるようにしていくことが求められている。

(1) 学習問題を共有する指導

問題解決的な学習では、学習問題をみんなのものにしていくこと（共有化）が不可欠である。そのためには、指導の工夫をすることが大切である。

- まず、「おもしろそうだ」という事実に出会わせ、児童の心を学習の対象に惹き付けるようにする。
- 次に、個々の驚きや素朴な疑問などをきっかけとして、児童の直感や経験、すなわち既存の常識的な見方や考え方では解釈・説明のつかない状況を経験させる。
- 最後に、そこで味わった驚きや疑問をみんなのものにしていく（共有化）。

学習問題は、児童の問題意識と表裏一体の関係で成り立つ学習の問題（社会科学学習のねらいを実現するもの）であることが必要条件である。学習問題の設定に当たっては留意し、適切な指導に努めなければならない。

- 「学習問題を追究していくことにより、単元の目標が実現できるか」という視点から、学習問題を十分に吟味する。
- 協働学習者とのかかわりの中で、個々の驚きや疑問がみんなの問いとして方向付けられ、焦点化されるようにする。
- 個々の児童が、学習問題の追究・解決の見通しをもてるように、発達段階に応じて、調べる視点や事柄、方法や手順、表現方法やまとめ方などを決め、具体的な学習計画を立案する。

(2) 学習問題に即して調べ、表す指導

「学習問題に即して、調べ、表す」ことを繰り返し指導することが大切である。児童は調べる学習に没頭すると、「何のために」「何を」調べているかを見失ってしまうことも多いので、それを防ぐための指導が必要である。

- 観察や調査、各種の資料を活用して調べる学習などにおいて、常に学習問題を意識させる。
- 調べたことを表現する場面において、表現していることが学習問題と離れてしまうことがないように、機会をとらえて一斉にあるいは個々に助言したり、学習問題を常掲して意識付けたりする。

また、観察・調査、資料活用の技能を高め、児童が自力で調べる力を育てることも、問題

解決的な学習を充実させる上で必要不可欠である。

(3) 学習問題の解決に向けた思考・表現活動

学習問題の解決に向けて考えたり表現したりする活動を工夫することが大切である。具体的には、調べたことを比較（比べる）・関連付け（つなげる）、総合（まとめる）しながら、学習問題の解決に向けて再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合う（説明し合う）ことにより、お互いの考えを深めていく学習の充実を図ることが大切である。

その際、言語活動の充実に努め、他者とのコミュニケーションによって生まれる協働的な学び合いを大切にしていけることが重要である。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識 技能	(1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解している。 (2) 地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめている。
思考・判断・表現	我が国の政治と歴史及び国際理解に関する社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	我が国の政治と歴史及び国際理解に関する社会的事象について、我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情をもち、平和を願い世界の国々の人々と共に生きることを大切にする国家及び社会の将来の担い手として、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

第3学年 社会科 年間計画（標準70時間）

	単 元 名		時間	備 考
一 学 期 26	社会科の学習へようこそ！		1	
	わたしたちの住んでいる市のようす		1 6	
	選択 單元	畑ではたらく人びとの仕事 <hr/> 工場ではたらく人びとの仕事	9	農家，工場などから選択
二 学 期 28	店ではたらく人びとの仕事		1 2	
	安全な暮らしを守る人びとの仕事		1 6	
三 学 期 16	うつりかわる市とくらし		1 6	

第4学年 社会科 年間計画（標準90時間）

	単 元 名	時間	備 考
一 学 期 30	わたしたちの県のように	6	
	（選択単元）ごみのしりと活用	1 1	下水の選択可
	（選択単元）くらしをささえる水	1 1	電気，ガスの選択可
	予備時間	2	※1
二 学 期 35	（選択単元）地震による災害	1 0	津波災害，風水害の選択可
	わたしたちのまちに残る古い建物	6	
	わたしたちのまちに伝わる祭り	6	
	（選択単元）原野に水を引く	1 3	開発，教育，医療，文化，産業などの地域の発展に尽くした先人の中から選択可
三 学 期 25	伝統的な工業がさかんな地いき	7	
	（選択単元）土地の特色を生かした地いき	7	伝統的な文化の選択可
	世界とつながる地いき	6	
	予備時間	5	※1

※1…予備時間については，校区や児童の実態に合わせ，施設見学や調べる活動，まとめる活動などに活用する。

令和2年度 第4学年 社会科 年間計画（標準90時間）

	単 元 名	時間	備 考
一 学 期 30	地図となかよしになろう	7	※2
	わたしたちの県のように	6	
	（選択単元）ごみのしりと活用	1 1	下水の選択可
	（選択単元）くらしをささえる水	1 1	電気，ガスの選択可
二 学 期 35	（選択単元）地震による災害	1 0	津波災害，風水害の選択可 ※3
	わたしたちのまちに残る古い建物	6	※4
	わたしたちのまちに伝わる祭り	6	
	（選択単元）原野に水を引く	1 3	開発，教育，医療，文化，産業などの地域の発展に尽くした先人の中から選択可
三 学 期 25	伝統的な工業がさかんな地いき	7	
	（選択単元）土地の特色を生かした地いき	7	伝統的な文化の選択可
	世界とつながる地いき	6	

※2…令和2年度の4年生は，初めて地図に触れることになるため「地図となかよしになろう」を取り扱う。

※3…令和2年度に配布される補助教材を活用する。

※4…旧3・4年上の教科書「昔から伝わる行事」を活用する。

第5学年 社会科 年間計画（標準100時間）

	単 元 名	時間	備 考
一 学 期 35	世界から見た日本	5	
	日本の地形や気候	5	
	（選択単元）さまざまな土地の暮らし「気候」	5	寒冷多雪の地域の選択可
	（選択単元）さまざまな土地の暮らし「地形」	5	山地の選択可
	食生活を支える食料の産地	4	
	米作りのさかんな地域	7	
	（選択単元）水産業のさかんな地域	6	畜産物・果物・野菜の選択可
二 学 期 40	これからの食料生産	8	
	くらしや産業を支える工業生産	4	
	（選択単元）自動車工業のさかんな地域	10	食料品工業・金属工業・化学工業の選択可
	日本の貿易とこれからの工業生産	8	
	（選択単元）情報をつくり，伝える	8	放送の選択可
	（選択単元）情報を生かして発展する産業	7	運輸・観光・医療・福祉の選択可
三 学 期 25	（選択単元）環境とわたしたちのくらし	6	水質の汚濁などの選択可
	森林とわたしたちのくらし	6	
	自然災害から人々を守る	6	

第6学年 社会科 年間計画（標準105時間）

	単 元 名	時間	備 考
一 学 期 36	憲法と政治のしくみ	10	
	（選択単元）私たちの願いと政治の働き	5	自然災害からの復旧，復興・地域の開発や活性化などの取組の選択可
	日本のあゆみ	1	歴史の学習の導入
	大昔のくらしとくにの統一	8	
	天皇を中心とした政治	8	
	貴族が生み出した新しい文化	4	
二 学 期 41	武士による政治のはじまり	5	
	今に伝わる室町の文化と人々のくらし	5	
	戦国の世の統一	5	
	武士による政治の安定	5	
	江戸の社会と文化・学問	6	
	明治の新しい国づくり	6	
	国力の充実をめざす日本と国際社会	9	
三 学 期 28	アジア・太平洋に広がる戦争	7	
	新しい日本へのあゆみ	8	
	つながりの深い国々のくらし	7	
	国際連合と日本の役割	6	

第4学年O組 社会科学学習指導案

令和2年9月〇日 〇曜日 第〇時
指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 地震による災害

2 単元の目標

- (1) 我が国の国土では様々な自然災害が起こりやすいことや県や市（町）は災害に対する対策や事業を進めていることを理解し、災害の具体的事例を地図や統計資料を活用して調べ、まとめることができる。
- (2) 過去に発生した自然災害や、自然災害発生時における地域の関係機関の協力などに着目し、災害から人々を守る活動を捉え、自分たちにできることを考え、ノートなどに表現することができる。
- (3) 我が国の自然災害に対処してきた人々の働きについて問題意識をもち、意欲的に追究するとともに、地域に住む一員として災害に備えて自分たちにできることを考えようとする。

3 学習の計画 (10時間完了)

- 第1次 第1時～第2時 日本で起きた自然災害について話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 第2次 第3時～第4時 地震による災害が及ぼす暮らしへの影響や災害後の対応について調べる。
- 第5時～第7時 地震による災害への対策について調べる。
- 第3次 第8時 地震による災害への対策について、まとめる。
- 第9時（本時） 地震による災害に備えて、自分たちにできることを考える。
- 第10時 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 自然災害に備えて自分たちにできることを考えることができる。
- (2) 準備・資料
 - 児童……振り返りカード、だいすき大愛知
 - 教師……各種資料（阪神・淡路大震災の写真と助かり方のグラフ）、ワークシート
- (3) 関 連
 - 3年 社会 安全を守る人びとの仕事（消防署や警察署で働く人々や関係諸機関と地域の人々との協力）
 - 5年 社会 自然災害から人々を守る（自然災害からの国土保全）
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
学習問題をつかむ	1 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習問題をつかむ。 (1) 前時までの学習を振り返る。 ・〇〇市では、自然災害に備えてハザードマップを作っているけれど、東日本大震災の被害予想と実際の被害を比べると予想を超えていたので、不安になりました。 (2) 本時の学習問題をつかむ。 自然さい害(大地しん)にそなえて、自分たちには何ができるのだろう。	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りカードを基に、前時までの学習を想起させる。 ○ 前時の振り返りで県や市（町）の対策や取組に不安を感じている児童を意図的指名する。 ○ 今までは、「自分たちは守られている」という意識が強かったことにも気付かせたい。 ○ 公助には限界があることに気付かせ、本時の学習問題へとつなげる。
見通しを立てる	2 学習問題に対する予想を話し合う。 (1) 予想について話し合う。 ・避難訓練を真剣に取り組みます。 ・家で、家具などを固定します。 (2) 阪神・淡路大震災の助かり方の資料から分かることについて発表する。 ・自力で助かった人が多い。 ・地域の人によって多くの人が助け		<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料等を見ていない状態で、自分たちができることについて考えた内容を予想として取り扱う。 ○ 第3時～第4時の活動を想起させる。 ○ 阪神・淡路大震災で、崩れた家に閉じ込められた人を救助しようとする地域の人たちの写真を見せることで、活動をよ

見 通 し を 立 て る	<p>られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救助隊に助けられた人は、少ししかいない。 	13	<p>り現実的にさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「阪神・淡路大震災の助かり方の内訳」（日本火災学会調べ）を提示し、助かった人の9割以上は、公助ではなく自助・共助によるものだというを読み取らせる。 ○資料中の数値の単位（％）について簡単に説明する。
追 究 す る	<p>3 本時の資料や前時までの学習を基に、「自分たちにできること」について話し合う。</p> <p>(1) 「命やくらしを守るために大切なこと」を考える。</p> <p>(2) ペアで意見の交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だいすき大愛知の中にもあるけれど、訓練に参加するということが大事だと思います。どうしてかという、自分の命を守るためのトレーニングになるからです。また、地域の訓練に参加すれば自分の顔を覚えてもらえるからです。 <p>(3) 「命やくらしを守るために大切なこと」を全体で発表する。</p> <p>(4) 「自分たちにできること」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、〇〇のみんなが安全に避難できるように、日頃から近所の人に挨拶をして、たくさんの人と顔見知りになります。 <p>(5) 「自分たちにできること」を全体で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「阪神・淡路大震災」では、近くに住んでいる人と助け合って助かった人もいるから、私も訓練に参加して、地域の人と仲良くなっておきたい。 	40	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書やだいすき大愛知を基に「命やくらしを守るために大切なこと」を考えさせ、根拠とともにワークシートに記入させる。 ○意見に対する根拠を明確にさせるため、教科書などを指し示しながら、意見交流させる。 ○個人で考えたことや、交流で他の児童から学んで参考になった意見を、根拠を示させながら数人に紹介させる。 ○大地震に備えて「自分たちにできること」を意見文として考え、記入させる。 <p>評 根拠となる資料を示しながら、自然災害に備えて自分たちにできることを考えている。（交流、ワークシート、発表）</p>
ま と め る	<p>4 本時のまとめをし、次時の学習の内容をつかむ。</p> <p>(1) 本時のまとめをする。</p> <p>(2) 次時の学習の内容をつかむ。</p>	45	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習問題について振り返らせる。 ○次時では、単元の学習問題「地震による災害から身を守るためにどのような取組があるのだろう」について振り返ることを知らせる。

(5) 本時の評価規準

- 自然災害に備えて自分たちにできることを、根拠を基に考えている。

（交流、ワークシート、発表）

5 備 考

(1) 学級の実態

- 9年前の東日本大震災については、当時の被害の状況などを知っている児童は少ない。また、地震が起きたときの対応について家族で話し合っている児童も学級の1/3程度であり、地震災害に対する切実感をもたせる必要がある。

(2) 指導の力点

- 公助に頼るのではなく、現実味をもって自分たちにできることを考えさせるため、阪神・淡路大震災の資料（写真や助かり方のグラフ）を用意する。
- 他児童から自分にとって必要な情報を得ることができるよう、交流の場面を設定する。

6 指導と評価

単元名 社会科の学習へようこそ！

配当時間 1時間

単元の目標

(3) 社会科学学習に関心を持ち、進んで学習しようとする。

標準的な展開例

03030101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 自分たちの住んでいる地域について話し合い、単元の学習問題をつかむ。</p> <p>○教科書の写真を見て、場面の様子について話し合う。</p> <p>○生活科の学習を振り返り、自分たちの住む地域について話し合い、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち探検で公園に行った ・公園には遊具や池があった ・どうして公園があるのだろう ・お店に行って店の人に話を聞いた ・お店にはたくさんの物が売っていた ・なぜいろいろな店があるのだろう ・どのように調べたらよいのだろう <p>★社会科の学習の進め方について知ろう</p> <p>○これから学習する社会科の学習の進め方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習について <p>○3年生の学習内容を概観し、これからの社会科学学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元について ・準備する物と使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真の中にある情報を社会的事象として抽出する際は、「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どのように」している場面なのか問うとよい。 ・推測による発言は、「なぜ」と問い、理由や根拠を明確にさせたい。 ・生活科のまち探検の学習を振り返りながら、具体的なイメージをもたせ、自分たちの住む地域について考えるようにする。 ・生活科のまち探検で体験した場所ごとに気付いたことを尋ね、「もの」「こと」「ひと」に対してできるだけ多くの疑問をもたせる。 ・社会科の学習も生活科の学習と同じように校外での活動が多いこと、3年生は自分たちの住んでいる地域について学習することを知らせる。 <p>【評】自分たちの住む地域について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書等を活用して、「ぎもんを見つける」「問題をつかむ」「予想を立てる」「調べる」「話し合う」「まとめる」「つたえる」「新しいぎもんをもつ」（発展する）という問題解決的な学習のサイクルを押さえる。 ・社会科は3年生から始まる新しい学習であるので、教科書や副読本を見せて社会科学学習への意欲をもたせる。

【 備 考 】

社会科は小学校3年生から始まる新しい教科であり、この時間は児童に社会科学学習への意欲をもたせるオリエンテーションである。社会科は、「社会生活についての理解」「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情」「公民的資質の基礎」を養うことをねらいにしている教科である。激しく変化している社会状況の中で、これらを児童に身に付けさせていくには、学び方や調べ方の学習、体験的な学習、問題解決的な学習など、児童の主体的な学習を教師が重視することが大切である。また、総合的な学習の時間も3年生から始まるので、社会科学学習で培った学び方が総合的な学習にも活用できるように、社会科の学習展開を大切にします。

単元名 わたしたちの住んでいる市のように

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 身近な地域や自分たちの市（町）の様子を大まかに理解し、観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、絵地図などにまとめることができる。
- (2) 市（町）全体の地形や土地利用の特徴をつかみ、市（町）の様子は、場所によって違いがあることを考え、表現することができる。
- (3) 市（町）の様子を意欲的に追究することを通して、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。

標準的な展開例

03030102_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 市（町）全体の様子について話し合い、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市（町）の航空写真や市（町）全体の地図を見て、気付いたことを発表する。 ○特色のある地域や建物、土地の様子が分かる写真から、気付いたことを発表する。 ○他の市（町）のガイドマップを見る。 ○他の市（町）に紹介したい自分の市（町）の様子について話し合い、単元の学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇市（町）には、いろいろな施設がある。他にはどんな施設があるのだろうか ・畑やくだもの畑では、何を作っているのだろうか <p>★〇〇市（町）を紹介するガイドマップを作ろう</p> <p>2 市（町）の写真や地図を見て、市（町）全体の様子をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市（町）全体の衛星写真や土地利用図を見て、気付いたことを発表する。 ○白地図を基に、市（町）の様子について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の周りには、くだもの畑がある ・工場が海沿いにあるのは、船で物を運ぶからだと思う ・川の近くに田畑があるのは、川の水を利用しているからだと思う ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…校区の様子、田畑が多いところ、工場が多いところ、人がたくさん集まるところ、特色のある地形の様子、交通の様子、古くから残る建物、みんなが利用する公共施設 ・調べる方法…まちを歩いての観察や調査、聞き取り調査、デジタルカメラでの写真撮影 ・表現の仕方…絵地図 <p>3 グループで校区の見学の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○白地図を見て、探検に行く場所や探検コースを話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・北コース ・東コース ・西コース ・南コース ○探検に行く場所や探検コースを決定し、探検の計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・探検の道順、絵地図を整理する場所の確認 ・白地図への記入の仕方や約束づくり ・聞き取り調査の仕方やまとめ方 ・持ち物や役割分担、注意事項の確認 <p>4～5 グループに分かれて校区探検をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○探検時の約束を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【資料】市（町）の航空写真、市（町）全体の地図、特色のある地域の写真、観光地図、他の市町のガイドマップなど ・地形、施設や建物、交通に関することに分けて整理する。 ・生活科で作成した絵地図を活用してもよい。 ・単元を通して、地形、土地利用、交通、公共施設、古くから残る建造物など、いろいろな写真を用意しておきたい。 ・市（町）のことで他の市（町）に知らせたいことなどをカードに書かせ、分類、整理し、学習問題につなげる。 ・【資料】市（町）全体の衛星写真、道路や鉄道、川などをかき入れた白地図 ・八方位について説明し、より詳しい方位を表せることを理解させる。 ・市（町）全体の白地図を用意し、気付いたことを書き込ませる。 ・土地利用と地形の様子の関係に着目させ、地域によって大きな違いがあることに気付かせる。 ・予想させることで、市（町）を見学・調査しようとする気持ちを高める。 【評】市（町）の様子について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・初めての学習計画なので、学習計画書を提示し、各自の考えや調べる内容や方法、手順などを記入できるようにする。 ・デジタルカメラの使い方についても触れておくとよい。 ・【資料】公共施設のパンフレット、詳しい市内地図（副読本） ・コースは、教科書を参考に各校の実態に応じて3～4コースに分けるようにする。 ・教科書P.13の「学習の計画」を参考にしながら、各校の実態に応じて調べる内容を決めるようにする。 ・グループ探検の計画書作りは初めてなので調べたい内容や調べ方、まとめ方、持ち物、気を付けることを書かせるとともにそれぞれの分担を明確にさせ、協力してやり遂げることができるように配慮する。 ・白地図への記入の仕方は、教科書を参考に簡単な絵や文で記入させる。 ・インタビューによる聞き取り調査をするときの方法や態度を指導しておく。 ・補助担任や保護者の協力を得て、交通安全に万全を期すように配慮する。

<p>○土地利用の様子や交通の様子などを観察する。</p> <p>○土地利用の仕方や土地の特色について、地域の人に聞き取り調査をする。</p> <p>○デジタルカメラで特色のある場所を撮影する。</p> <p>6～7 校区探検を通して、分かった校区の様子を絵地図にまとめる。</p> <p>○白地図を利用し、見学メモを基にグループで絵地図を作成する。</p> <p>8 完成した絵地図を見て、より分かりやすい地図にするためにどうしたらよいかを話し合う。</p> <p>○自分のグループの絵地図と他のグループの絵地図を見比べて、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースによってまちの様子が違う ・コースによって作り方が違うので分かりにくい <p>○絵地図をより分かりやすくする方法を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じマークを使う ・細かい所は、絵で表さずに色を決めて塗る <p>○地図記号や広がりを表す方法について理解する。</p> <p>9 市（町）全体の様子を調べ、見学の計画を立てる。</p> <p>○市（町）の調べてみたい場所について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館、市役所などの公共施設 ・駅やその周りの様子 <p>○調べる場所の見学計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べる場所の位置と行き方、及び交通手段の確認 ・調べる場所への見学をお願い ・調べる場所の質問内容 ・持ち物や役割分担、注意事項の確認 <p>10～11 土地利用の様子や公共施設や交通の様子、古くから残る建造物の様子を見学・調査する。</p> <p>○計画した交通手段で目的地まで行き、見学・調査する。</p> <p>○見学して分かったことや気付いたことなどを見学メモにまとめる。</p> <p>12 公共施設や古い建造物などを見学してきた様子について確認する。</p> <p>○見学して、調べてきたことや分かったことを発表する。</p> <p>13～15 校区や市（町）の様子について見学・調査したことを基に、ガイドマップにまとめる。</p>	<p>・探検中、安全面からその都度メモさせるのではなく、白地図への記入や聞き取り調査の内容の整理を行う場所と時間を確保する。</p> <p>【評】白地図への記入や聞き取り調査をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書P.17の「発見カード」をまとめることもできる。</p> <p>・拡大した白地図をグループで協力してまとめるよう助言する。</p> <p>【評】絵地図を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・各グループの絵地図を比較し、違いや疑問を見付けさせることで、絵地図の不便さに気付かせる。</p> <p>・より分かりやすい地図にするための方法を話し合わせる中で、共通の記号の必要性に気付かせる。</p> <p>【評】絵地図を見比べて話し合う活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・地図記号の丸暗記にならないために、教科書や副読本を活用して、地図記号には記号のものになったものがあることを押さえる。</p> <p>・地図帳を活用する。</p> <p>・4年生の学習へとつながるように等高線に触れてもよい。</p> <p>・第2時の予想を基に、市（町）全体への見学へつなげる。</p> <p>・公共施設や古くから残る建物、駅やデパートなど多くの人が利用している施設を取り上げるとよい。</p> <p>・施設の見学依頼を児童に行わせる場合は、事前に教師が見学依頼を行っておき、学習内容などを見学先に説明しておく。</p> <p>・学校からの経路をたどらせ、目的地まで行く方法を調べさせるとともに、交通の様子にも目を向けさせる。</p> <p>・目的地までに市（町）の様子もしっかりと見てくるように指導しておくとうい。</p> <p>・グループごとに複数の施設を見学可能な場合は、補助担任や保護者の協力を得て、交通安全に万全を期すよう配慮する。</p> <p>・撮影する場合は、許可を得てから撮影するように指導する。</p> <p>・必要に応じてお礼の手紙を書かせる。</p> <p>【評】見学・調査した内容を記録する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・公共施設の写真を掲示して、振り返れるようにする。</p> <p>・多くの公共施設が市役所によって運営されていることや、災害時における避難場所は、市役所において指定されていることなどにも触れるとよい。</p> <p>・公共施設は、みんなが気持ちよく利用するために、大切に使用しなければならないことも指導しておく。</p> <p>・教科書や副読本を活用してガイドマップの作成方法を確認させる。</p> <p>・児童の発達段階を考慮し、調べてまとめた情報や写真を貼付けする程度で完成できるガイドマップの用紙を用意しておく。</p>
---	---

- 16 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。
○ 友達の作ったガイドマップを見て、感想を発表する。

- 市（町）全体の特色についてまとめる。
・ 地域の特色
・ 場所による土地の様子の違い
・ 人々の暮らしの様子
・ 公共施設の位置と働き、暮らしとの関係
○ 今後、詳しく調べたい市（町）の様子について話し合う
・ 田畑で働く人のことも調べてみたい
・ 工場ではどんな工業製品をつくっているのだろう
・ 市（町）はどのように移り変わってきたのかな

【評】 ガイドマップを作成する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 作成したガイドマップは、学校のホームページなどに活用して、他の市（町）の人に見てもらえるようにするとよい。
- ・ 地域の特色を押さえることで、地域への愛着を高めさせたい。

【評】 市（町）全体の特色をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 次單元における商店や農産物・工業製品への関心、意欲につなげる。
- ・ 最終單元「うつりかわる市とくらし」へもつなげていく。

【評】 話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

作成した白地図は、次単元の「工場ではたらく人びとの仕事」「畑ではたらく人びとの仕事」「店ではたらく人びとの仕事」でも活用できるようにする。

単元名 (選択単元) 畑ではたらく人びとの仕事

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 地域に見られる仕事について、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解するとともに、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることができる。
- (2) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、生産の仕事の様子と地域の人々の生活を結び付けて考え、調べたことや考えたことを表現することができる。
- (3) 地域に見られる生産の仕事について、学習の問題を主体的に解決しようとするとともに、学習成果を基に生活の在り方や地域社会の発展について考え、地域社会に対する愛情や、地域社会の一員としての自覚をもとうとする。

標準的な展開例

03030103_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 市(町)で生産される農産物について話し合い、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市(町)内で作られている野菜や果物について話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・ふき ・みかん ○農産物が作られている場所を農作物マップで調べる。 ○給食で食べる野菜について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ふきやにんじんが使われている ・市(町)で作られた野菜を使っている ○市(町)の農産物について、疑問に思ったことやもっと知りたいことを話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・どのような所で作られているのだろう ・どのようにして作られているのだろう <p>★わたしのまちの〇〇作りのひみつを紹介しよう</p> <p>2 市(町)で生産される農産物について予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市(町)で生産される農産物の作り方について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・機械で収穫していると思う ・一年中作業があつて大変そう ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…市(町)の農産物が生産される様子、作っている場所や周りの様子、働いている人の工夫や努力使っている道具 ・調べる方法…農家の見学・調査、JAあいち、市役所や町役場の人への聞き取り調査、副読本、インターネット ・表現の仕方…パンフレット <p>3 グループごとに見学の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農家の見学計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・見て調べること、聞いて調べること ・聞き取り調査の仕方やまとめ方 ・持ち物や役割分担、注意事項の確認 ○農家の人へのインタビューの内容を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の作り方 ・農家の人の苦労や工夫 <p>4～5 計画に従い、グループで農家の見学をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農家の仕事を見学・調査する。 ○農家に聞き取り調査を行う。 ○見学して分かったこと、気付いたことを見学メモにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【資料】市(町)の農作物マップ、スーパーマーケットで売られている地元野菜・果物コーナーの写真、白地図 ・大単元の導入として、地元野菜・果物コーナーの写真を提示し、市(町)内で作られている農産物を想起させる。 ・さまざまな地元野菜や果物が売られていることを確認し、学習問題へとつなげる。 ・農作物マップに掲載されている農産物を実際に見せ、様々な農産物が市(町)で作られていることに関心をもたせる。 ・給食の写真を見せ、身近に食べている野菜に注目させる。 ・栄養教諭などから市(町)の農産物を使った献立を紹介してもらい、自分たちにとって身近な野菜であることを実感させる。 ・個人の疑問や知りたいことを全体場で交流することを通して学習問題につなげる。 <p>【評】市(町)の農産物について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料】副読本、農事暦 ・農産物作りの作業過程を予想させる。 ・農事暦の活用は初めてなので、見方や読み取り方を指導する。 ・学習計画書を用意し、調べる内容や方法、手順、自分の考えなどを記入できるようにする ・教科書を活用して、インタビューの仕方やインターネットの使い方を確認させる。 ・疑問や気になることで出た意見を「見て調べること」「聞いて調べること」に分類し、調べる視点を焦点化する。 ・見学して分かったことは、発見カードにまとめることを伝え、見通しをもって見学に臨むように助言する。 ・見学のマナーや注意することを確認しておく ・撮影や質問内容などについて農家の人と事前に連絡を取っておく。 ・安全に活動できるように、補助担任や保護者の協力を得て見学に対応し、交通安全に万全を期すように配慮する。 ・土作りなどの栽培の秘密、地形や気候条件との関わり、施設設備などに見られる工夫、仕事の進め方、生産物の販売の工夫などを話してもらえるように依頼しておく。 ・農家の農作物作りに対する工夫・努力について、感じたことを記述させる。 ・必要に応じて、見学のお礼の手紙を書かせる

<p>6 農産物作りや農家の人の様子についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 農産物の作り方や働いている人の工夫や努力について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物を傷つけないように、手作業で収穫をしている ・ おいしい農産物を食べてほしいと願っている ○ 農産物の他地域とのつながりについて調べる <ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の出荷先，出荷量 <p>7～8 見学・調査したことを基に，パンフレットを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実際のパンフレットを参考にして，パンフレット作りに必要な項目について考える。 ○ 市（町）の農家の願いや工夫についてまとめるパンフレットの名前，見出し，割付，掲載資料などを考える。 ○ パンフレット作りをする。 <p>9 単元のまとめをし，学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作成したパンフレットを互いに見合い，市（町）の農業の様子や特色，農家の人々の願いや工夫についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の願いや工夫 ・ 自然条件とのかかわり ・ 他地域とのつながり ○ まとめた内容を基に，グループや学級で話し合い，もう一度自分の考えをまとめたり学習を通した感想を発表し合ったりする。 	<p>【評】 見学・調査した内容を記録する活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【資料】 市（町）の主な農産物の作られている場所と土地利用図，市（町）の農産物に関するパンフレット ・ 見学メモを基に話し合わせる。 ・ 農産物の作業過程を整理して，農家の人の農産物作りに対する工夫や努力を農家の人の願いと関連付けて考えさせる。 <p>【評】 農家の人々の工夫や努力について話し合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他地域とのつながりを視覚的に捉えることができるように，農産物の出荷先を地図帳などで調べ，白地図に記入させる。 <p>【評】 他地域とのつながりを調べ，まとめる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めてのパンフレット作りなので，パンフレット作りの約束，書く内容などを指導する。 ・ 農産物作りの工夫や努力，願い，苦労，出荷先など学習した内容をパンフレットの中に表現させる。 <p>【評】 農家の願いや工夫についてパンフレットにまとめる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレットを見せ合う方法として，グループで見せ合ったり，掲示して感想を書いた付箋紙を貼り付けたりする方法が考えられる。 ・ 教科書を参考にして，キーワードを使って考えたことや分かったことをまとめさせる。 ・ 農家の人々の願いや工夫，他地域とのつながりなど，学習を通して学んだことを基に，これからの地域社会の発展について考えるようにする。 <p>【評】 話し合いや発表する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】

単元名 (選択単元)工場ではたらく人びとの仕事

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 地域に見られる仕事について、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解するとともに、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることができる。
- (2) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、生産の仕事の様子と地域の人々の生活を結び付けて考え、調べたことや考えたことを表現することができる。
- (3) 地域に見られる生産の仕事について、学習の問題を主体的に解決しようとするとともに、学習成果を基に生活の在り方や地域社会の発展について考え、地域社会に対する愛情や、地域社会の一員としての自覚をもとうとする。

標準的な展開例

03030104_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 市(町)の工場で生産される工業製品について話し合い単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市(町)で生産される工業製品と工場の場所などについて、知っていることを発表する。 ○市(町)にある工場を工場マップで調べる。 ○市(町)で生産される工業製品について、疑問に思ったことやもっと知りたいことを話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・どのようなところで作られているのだろう ・どのようにして作られているのだろう ・どんな原料が使われているのだろう <p>★わたしたちのまちの〇〇作りのひみつを紹介しよう</p> <p>2 市(町)の工場で生産される工業製品について予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市(町)で生産される工業製品の作り方の秘密について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・大きな機械で製品を作っていると思う ・工場ではたくさんの人が働いていると思う ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…市(町)の工業製品が生産される様子、働いている人の工夫や努力、使っている機械 ・調べる方法…工場の見学・調査、副読本、インターネット ・表現の仕方…パンフレット <p>3 グループごとに見学の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工場の見学計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・見て調べることを、聞いて調べることを ・聞き取り調査の仕方やまとめ方 ・持ち物や役割分担、注意事項の確認 ○工場の人へのインタビュー内容を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・働いている人の仕事 ・工業製品の原料 <p>4～5 計画に従い、グループで工場の見学をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工場の近くの様子や外観を見学する。 ○生産される様子を見学する。 ○工業製品の生産や販売に対する願いやそのための工夫・努力について、聞き取り調査をする。 ○見学して分かったこと、気付いたことを見学メモにまとめる。 <p>6 工場で生産される工業製品や働いている人の様子について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【資料】市(町)の工場マップ、市(町)の工場の写真、市(町)の工場で生産される工業製品の实物、白地図 ・大単元の導入として、市(町)内のどこで何が作られているのかを興味・関心を喚起するために自由に想起させる。 ・工場マップに掲載されている工業製品を実際に見せることで、学習への興味・関心を高める。 ・個人の疑問や知りたいことを全体場で交流することを通して学習問題につなげる。 <p>【評】市(町)の工業製品について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料】副読本 ・多数の工場見学に対応できない場合は、一つの工場に絞った見学・調査とする。 ・製造工程を予想させておくことで、見学への意欲を高める。 ・学習計画書を用意し、調べる内容や方法、手順、自分の考えなどを記入できるようにする ・教科書を活用して、インタビューの仕方やインターネットの使い方を確認させる。 ・疑問や気になることで出た意見を「見て調べる」「聞いて調べる」に分類し、調べる視点を焦点化する。 ・見学して分かったことは、発見カードにまとめることを伝え、見通しをもって見学に臨むように助言する。 ・見学のマナーや注意することを確認しておく ・撮影や質問内容などについて工場の人と事前に連絡を取っておく。 ・安全に活動できるように、補助担任や保護者の協力を得て見学に対応し、交通安全に万全を期すように配慮する。 ・機械やコンピュータの導入による人件費の削減、製品の品質の均一化、新しい製品の開発他地域の人や物との関わりなどを説明してもらうように依頼しておく。 ・特に、地域に住んでいる人々の働き場所になっていることにも触れてもらうとよい。 ・工業製品作りに対する工夫・努力について、感じたことを記述させる。 ・必要に応じて、見学のお礼の手紙を書かせる <p>【評】見学、調査した内容を記録する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

てまとめる。

- 工業製品の作り方や工場で働いている人の工夫や努力について話し合う。
 - ・製品が安全かどうか厳しく検査をしている
 - ・いろいろな人たちに喜んでもらえる商品を開発している

- 工業製品の他地域とのつながりについて調べる。
 - ・原料がどこから運ばれてくるのか
 - ・工業製品の出荷先、出荷量

7～8 見学や調査したことを基に、パンフレットを作る。

- 実際のパンフレットを参考にして、パンフレット作りに必要な項目について話し合う。
- 工場の人々の願いや工夫・努力について話し合い、パンフレットの名前、見出し、割付、掲載資料などを考える。
- パンフレット作りをする。

9 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。

- パンフレットを互いに見合い、市（町）の工業生産の様子や特色、工場で働く人々の工夫や努力についてまとめる。
 - ・工場で働いている人の願いや工夫
 - ・自然条件との関わり
 - ・原料の入手
 - ・工業製品作り
 - ・他地域とのつながり
- まとめた内容を基に、グループや学級で話し合い、もう一度自分の考えをまとめたり、学習を通じた感想を発表し合ったりする。

- ・【資料】市（町）の工場で生産されている工業製品や工場の実物資料、工場のパンフレット、白地図
- ・見学メモを基に話し合わせる。
- ・工場製品を作る以外にもいろいろな仕事をする人がいることや安全・衛生面について配慮していることを確認させる。
- ・働く人の工夫だけでなく、工場の施設面にも様々な工夫がなされていることにも触れておきたい。

【評】工場で働いている人の工夫や努力について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・他地域とのつながりを視覚的に捉えることができるように、工業製品の原料を作っている所や工業製品の出荷先を地図帳などで調べて白地図に記入させる。

【評】他地域とのつながりを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・初めてのパンフレット作りなので、パンフレット作りの約束や書く内容などを指導する。
- ・工業製品作りの工夫や努力、原材料の仕入れ先、製品の出荷先など、学習した内容をパンフレットに表現できるようにさせる。

【評】工場の人々の願いや工夫・努力についてパンフレットにまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・パンフレットを見せ合う方法として、グループで見せ合ったり、掲示して感想を書いた付箋紙を貼り付けたりする方法が考えられる。
- ・教科書を参考にして、キーワードを使って考えたことや分かったことをまとめさせる。

- ・生産に携わっている人々の努力や工夫、人々との生活との関わりにも再度触れ、これからの地域社会の発展についても考えられるようにする。

【評】学習の振り返りで、話し合いや発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 店ではたらく人びとの仕事

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解するとともに、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることができる。
- (2) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することができる。
- (3) 地域に見られる販売の仕事の工夫について意欲的に追究するとともに、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高める販売店の特色について考えたり、これまでの学習を振り返り、学習したことを確かめたりする。

標準的な展開例

03030201_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 地域にある商店、スーパーマーケットの利用の仕方について話し合い、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> よく利用する地域にある店について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> コンビニエンスストア スーパーマーケット 白地図に店の場所を書き込み、考えたことや気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> いろいろな種類の店がある 家の人はどこで買い物をしているのだろう 買い物調べをする計画を立てる。 買い物調べの結果を基に、学級全体の買い物地図やシールを使ったグラフを作成して話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> 食料品が一番多い スーパーマーケットで買い物をしている人が多い <p>★スーパーマーケットには、どんなひみつがあるのだろう</p> <p>3 スーパーマーケットの秘密を予想し、学習計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケットのよさについて予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 品物が種類ごとに分けられていて選びやすい 大きい看板があつて、品物がどこにあるか分かりやすい 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…多くの人がその店に行く理由、店がしている工夫、店の中の様子、店で働いている人の仕事 調べる方法…地域の店の見学・調査、家の人や店の人への聞き取り調査 表現の仕方…ポスター <p>4～5 グループごとに見学の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケットの見学計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 見て調べること、聞いて調べること 聞き取り調査の仕方やまとめ方 持ち物や役割分担、注意事項の確認 店の人へのインタビューの内容を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 客が買い物しやすいようにしている工夫 働く人が気を付けていること 店の人へのインタビューの仕方を練習する。 <p>6～8 グループの計画に従って、店を見学・調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 店の様子や働く人の様子などを観察する。 店の人や買い物客にインタビューを行う。 店長に、店側の願いやそのための工夫や努力について聞き取り調査をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【資料】地域にある商店やスーパーマーケットの写真、副読本、白地図 最初に、教師自身が買い物をした経験について話をするすることで、発言しやすくする。 なぜその店をよく利用するのかを考えさせ、学習問題へとつなげる。 店を「スーパーマーケット」「コンビニエンスストア」「専門店」などに分類して白地図に書き込ませる。 買い物調べカードの記入の仕方と調査期間を説明する。 学年通信などを利用し、保護者へ協力を依頼しておくとうい。 前時で使用した白地図に、品物の種類ごとに決めたシールを貼り、結果を視覚的に確かめさせる。 ポスターについてのイメージをもたせる。 【評】スーパーマーケットの利用状況について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 買い物調べの結果やスーパーマーケットの挿絵から気付いたことや予想したことを書かせる。 学習計画書を用意し、調べる内容や方法、手順などを記入させるようにする。 秘密をポスターにまとめる。 見学の観点が明確になるように配慮し、学習計画書に記入させる。 調べ方や気を付けることは、全グループが共通の事項になるので、学級全体で話し合わせる。 見て調べることや聞いて調べることはグループごとに違うので、グループごとに話し合わせる。 見学のマナーや注意することを確認しておく 店の見学、撮影については事前に必ず許可を取る。 インタビュー内容については、必ず店へ事前に知らせる。 教科書を活用して、インタビューの仕方を確認させる。 いくつかの店に行く場合は、グループで分担して分かれて行ったり、家庭学習として保護者と行き、取材したりするなどの工夫をし、店に迷惑をかけないように配慮する。 店長に依頼して、店の人の工夫や思い、願いについて話してもらおうようにするとよい。 商品の品質管理や売り場での並べ方、宣伝の工夫、商品の入荷先について、話してもらえ

○商品の仕入れ先を調べ、白地図にまとめる。

9 スーパーマーケットのよさを話し合う。

○見学・調査をして考えたことを基に、なぜ多くの客がスーパーマーケットに買い物に来るのかを話し合う。

○スーパーマーケットは、暮らしにどのように役立っているのかを考え、話し合う。

- ・産地まで買い物に行かなくてもよい
- ・コンビニエンスストアや専門店もスーパーマーケットと同じ働きをしている

10～11 見学・調査したことや話し合ったことを基に、ポスターを作る。

○キャッチコピーを考える。

- ・「安全！安心！おいしい！スーパーマーケット」
- ・「みんなが買い物しやすいスーパーマーケット」

12 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。

○作成したポスターを基に、スーパーマーケットがたくさんのお客さんに来てもらえるようにするための秘密について話し合う。

- ・種類ごとに品物をまとめておいてあることは、お客さんが買い物をしやすいようにする工夫だと思う
- ・作りたてのものが食べられるように、惣菜を作る時間を考えていることは、お客さんの願いを生かした工夫だと思う
- ・たくさんのお客さんが一度にたくさん来ても大丈夫なように、駐車場を広くしていると思う

るように依頼する。

【評】見学・調査した内容を記録する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・必要に応じて、見学のお礼の手紙を書かせる

・他地域とのつながりを視覚的に捉えることができるように、商品の仕入れ先を地図帳などを使って、都道府県や外国の名称と位置を確かめ、日本や世界の白地図に記入させる。

【評】見学・調査したり、地図などの資料で調べたりしたことを白地図にまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・品質管理、安全性、適正な価格、エコを意識した取組、他地域とのつながりについても考えさせる。

【評】店は、客の願いを踏まえて売り上げを高めるようにどんな工夫をしているか話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・スーパーマーケットが産地と家をつなぐ役割をしていることに気付かせる。

・買い物調べの際に作った地図を提示することで、スーパーマーケット以外の店についても目を向けさせ、いろいろな店の特徴を考えさせてもよい。（ショッピングモール、コンビニエンスストア、専門店など）

・他の店も産地と家をつなぐ役割を果たしていることにも気付かせる。

・見学・調査から分かった大切なポイント、これまで話し合ってきたこと、写真や表店の人の言葉、キャッチコピーなどを入れ、分かりやすく説得力のあるものにさせる。

・品質管理、安全性、適性な価格、エコを意識した取組や他地域とのつながりなど店の工夫についても考え、まとめさせる。

【評】見学・調査したことを基に、話し合ったことや考えたことをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・スーパーマーケットで働く人が、買い物をする人の願いに応える工夫をしていることに目を向けさせ、説明させるようにする。

【 備 考 】

単元名 安全なくらしを守る人びとの仕事

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 地域の人々の安全を守るために消防署や警察署で働く人々や関係諸機関が、地域の人々と協力して災害の防止に努めていることや相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることを理解し、見学したり、統計資料などを活用したりしてまとめることができる。
- (2) 施設・設備の配置、緊急時への備えや対応に着目して、地域の人々の安全を守る消防署、警察署などの関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の思いを考え、表現することができる。
- (3) 火事や交通事故などに備えて、地域の安全は互いに協力したり、共に助け合ったりして守ることで、自分も地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であるという自覚をもとうとする。

標準的な展開例

03030202_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 市（町）内で起こった火災や事故の写真を見たり、通学路で危険な場所について話し合ったりして、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市（町）内や学校の近くで起きた火事や事故について知っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・この間、近所でサイレンが鳴って怖いと思ったよ ・交通事故があったとき、警察の人が仕事をしていたよ ○家の近くや登下校で危険を感じたことをカードにかき、危険な場所について話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・信号がない道があつて、いつ横断したらいいかわからない ・スマートフォンを見ながら自転車に乗っている人がいて、ぶつかりそうになった ・消火栓の上に自動車が止められていて、消火ができなくて困ったという話を聞いたことがある <p>★わたしたちの安全なくらしは、どのように守られているのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・火事や事故、事件が起きたらすぐに出動できるようにいつも準備している ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…安全を守る施設や設備 ・調べる方法…消防署・警察署の見学、副読本、インターネット ・表現の仕方…安全マップ <p>3 火災が発生した緊急時の対処や災害に対する工夫について予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の市（町）の火事を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・火事の原因 ・火事の件数 ○火災や災害に素早く対応するための消防署の活動について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・火を消すためにたくさん練習している ・けが人を助ける方法を考えている ○予想を基にして、消防署を見学する計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・見て調べることで、聞いて調べることで ・聞き取り調査の仕方やまとめ方 ・持ち物や役割分担、注意事項の確認 <p>4～5 消防署の見学を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○消防署の様子を見学する。 ○消防署の施設や働く人々の工夫や努力について、聞き取り調査をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・消防車・救急車の点検、種類、働き ・消防設備の備品、仮眠室 ・隊員の訓練内容（救助訓練、防火訓練） ・隊員の一日の様子 ・防火の呼びかけ（火災予防運動） <p>6 火事が起きた時に消防署に連絡を取る方法と内容について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○火事が起きた時のシミュレーションをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・119番がどこにつながっていくのか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近のニュースで見聞きした火災や事故、事件などを発表させてもよい。 ・身の回りにはどのような危険があるのか、普段の生活から想起させる。 ・地域の安全を守るために、どんな人がどのような仕事や取組をしているのかを調べていく活動へとつなげていく。 ・市町や校区内の防火対策を学んだり、地域の事故や事件を防ぐために必要なことを考えたりしていくことで、最終的には、地域の「安全マップ」を作り活用していくということを押さえる。 <p>【評】カードにかく活動や話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、図書館やインターネットで調べられるようにする。 ・火災などの災害を防ぐためにどのようなことに取り組んでいるのか考えさせる。 ・見学時に特に見聞きたいことや疑問に思うことを質問事項として考えさせておく。 ・見学して分かったことは、教科書P.95「見学カード」のようにまとめることを伝え、見通しをもって見学に臨むように助言する。 ・見学のマナーや注意することを確認しておく ・体力づくりのための運動器具があることなどにも注目させたい。 ・大規模災害（地震）の時にも人命を守るために出動することを話していただけるように事前に確認しておくことよい。 <p>【評】消防署の施設や署内外での見学、調査した内容を記録する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災やけが人を発見した時、消防署に連絡する方法として、119番通報があることを思

- 通信指令室のコンピューターからの連絡経路を知る。
 - 関係諸機関との関わりを知り、その仕事について調べる
 - ・警察署・電力会社・ガス会社
 - ・水道局・病院・消防団
- 7～9 学校の中や地域にある身近な消防設備や、地域の人がどのような備えをしているのかを調べる。
- 校内の消防設備を調べる。

- 調べたことを校内白地図にまとめる。

- 地図を基に話し合い、学校における消防設備についてまとめる。
 - ・学校のいろいろな所に火災報知設備や消火器が置いてある
 - ・火を使う教室にはすぐそばに消火栓がある
- 校区でも、同様に防火設備・消火施設の位置を確認し、校区白地図にまとめ、気付いたことや考えたことを発表し合う。
 - ・人が多く住んでいる所に消防署がある
 - ・消火栓が道路に沿って設置されている

- 地域の安全を守る消防団の人の活動について調べる。

- 10 火災防止について自分にできることを考える。
- 火災防止や防災のために自分で実行できることについて考え、話し合う。
 - ・火の始末をしっかりする
 - ・火遊びをしない
 - ・地域の防災訓練に参加する
 - ・避難する通路や避難場所を確認する
 - ・防災袋を準備しておく

- 11 事故や事件が発生した緊急時の対処について予想し、学習計画を立てる。
- 自分の市（町）の交通事故や事件の発生件数を調べる。
 - ・高齢者の事故が多い
 - ・交通事故がだんだん減ってきている
 - 事件や事故に素早く対応するための警察署の活動について予想し、話し合う。
 - ・消防署と同じように、通報したらすぐに出動できるようにしている
 - ・パトロールをしていて、すぐに現場に向かえるようにしている
 - 予想を基にして、警察署の人の仕事を調べる計画を立てる。
 - ・見て調べること、聞いて調べること
 - ・聞き取り調査の仕方やまとめ方
 - ・持ち物や役割分担、注意事項の確認
- 12 警察署の人の仕事を調べる。
- 110番の連絡の仕組みについて知る。
 - ・110番通報を受けてからの対応
 - ・警察署以外の機関との連携

い出させる。

- ・通報に必要な情報について考えさせ、教科書P.98「119番へ電話したときにたずねられること」で役割演技をして確認する。
- ・消防署単独でなく、通信指令室を通じて、多くの関係諸機関に連絡していることに気付くようにさせる。

- ・校内の消防設備の配置について調べ、学校が火災から安全を守るために整備していることを理解させる。
- ・校内の消防設備調べに当たって、事前に校内に時間や特別教室の解錠などを伝えておく。
- ・校内の白地図を配布し、消火器、消火栓、火災報知設備、非常ベル、防火扉などの記入方法を確認しておく。
- ・グループごとに拡大した校内白地図に書き込ませる。
- ・校内白地図を基に気付いたことを出させ、身近な所にも数多くの消防設備があることを理解させる。

- ・消防署に問い合わせると、地域ごとの消火栓や避難所などが記載されている地図のコピーなどが入手できる。
 - ・消防署や消防団などの数や位置を確認し、災害から地域を守る体制を整えていることをつかませる。
 - ・人が多く住んでいる場所に消防機関が分布していることに気付かせる。
- 【評】校内白地図や校区白地図にまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・消防団で働く人の話を聞く機会を設けるとよい。
 - ・火事が起きたときの仕事だけでなく、地域の安全を守るために普段どのような仕事をしているのかについても触れさせたい。

- ・火事の原因を想起させ、火災防止で自分にできることを考えさせる。
 - ・今後、地震などの災害が起こる可能性が高いことも踏まえ、防災に対して意識を高める必要があることに気付かせる。
- 【評】防災のために自分でできることを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・市町や地域のデータをグラフに示したり、副読本を活用したりする。

- ・事故や事件が起きた時や防ぐためにどのようなことに取り組んでいるのかを考えさせる。

- ・見学に行く場合は、特に見聞きたいことや疑問に思うことを質問事項として考えさせておく。
- ・見学のマナーや注意することを確認しておく

- ・人々の安全を守るために、警察署の働きがあることを捉えさせる。
- ・見学以外に、ゲストティーチャーとして警察官や交番に勤めている警察署の人を招き、話を聞くという方法も考えられる。
- ・既習の消防署との連携についても押さえておく。
- ・119番通報の時と同じところと違うところ

<ul style="list-style-type: none"> ○交通事故や事件を防ぐ取組について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ガードレールやカーブミラー，電灯等の設置 ・交通安全指導（交通安全教室） <p>13 事故や事件防止のための市（町）での取組や地域の人々の取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○警察署の人の他に，地域の安全を守っている人や地域の取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・交通指導員 ・交通安全ボランティアの人たち ・交通少年団の活動 ・こども１１０番の家 ・青色防犯パトロール ・防犯カメラの設置 <p>14～15 火事を起こさない生活の仕方や事故を起こしたり事件に巻き込まれたりしない行動について考え，安全マップを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「安全マップ」にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・消火栓のある場所 ・避難場所 ・交通事故や事件が起こりやすい場所 ・交差点，踏切，交通量の多い道路 ・安全設備（地下道，歩道橋，スクールゾーン，押しボタン信号） ・交番 ・こども１１０番の家 ○危険な場所を予測し，地図に説明を詳しく示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所 <p>16 単元のまとめをし，学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作成した「安全マップ」を基に，安全なくらしを守るために自分たちにできることや協力できることは何かについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールを守って交通事故を防ぎたい ・安全マップを他の学年の人に見てもらって，みんなに気を付けてもらいたい 	<p>を比べて考えさせるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路標識は，交通事故予防のために一人一人に安全を意識させ，法やきまりを守ることの大切さを理解させるものであることを押さえる。 <p>【評】警察署や関係機関の働きを調べる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こども１１０番の家」が校区のどこにあるのかを調べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・第１～２時にかいたカードを貼らせてもよい ・「こども１１０番の家」や災害時の避難場所になっている所についても場所を確認させる ・狭い路地を自転車で通り抜ける際の，大人から見た危険な場所なども入れさせるとよい。 ・登下校の方面が同じ児童でグループを作り，校区地図の分担をしてもよい。 ・既習の地図記号を利用させる。 ・危険箇所の理由ごとにマークを考え，表示のきまりを自分で決めて地図内に示すといった工夫をさせるとよい。 <p>【評】「安全マップ」を作成する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全マップ」を他の学年や地域の人に発表する機会をもたせてもよい。 ・地域の一員としてできることを考えさせ，これからの生活に生かしていけるようにする。 <p>【評】自分たちにできることを話し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
---	--

【 備 考 】

消防署の仕事と警察署の仕事は，いずれも取り上げるが，どちらかに時間をかけて指導すればよい。本単元の展開例は消防署の仕事に重点を置いている。

単元名 うつりかわる市とくらし

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 市の様子の移り変わりについて、市の人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることができる。
- (2) 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することができる。
- (3) 市の様子の移り変わりについて、学習問題などの解決に向けて意欲的に追究するとともに、これからの市の発展について考えようとする。

標準的な展開例

03030301_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 昔と今の市（町）や人々の生活の様子について、写真やグラフなどを見て話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地図帳等で、愛知県や自分の市（町）の位置を確かめる ○ 市（町）の昔と今の写真を比べて、変わった所や変わっていない所を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今より昔の方が、人の数が少ない ・ 今は昔よりも建物が多い ・ 今と昔では、服装はあまり変わらない ★ わたしたちが暮らす市（町）は、どのように変わってきたのだろう ○ 学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 住む人が増えてきたから、建物が多くなってきたのかな ・ 昔の人の様子や暮らしを知りたいな ○ 市（町）の様子の移り変わりについて予想したことを基に、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる内容…各時期の市（町）の様子や人々の暮らし生活の道具 ・ 調べる方法…郷土資料館や博物館への見学、市役所や役場、図書館の本やインターネット ・ 表現の仕方…年表 <p>3～4 JR武豊線や名鉄河和線・常滑線などの鉄道が通った頃の様子と人々の暮らしについて調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道が通った頃の様子を写真や地図等で調べる。 ○ 調べたことを基に、市（町）の様子や当時の人々の暮らしの様子を話し合い、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水道がまだなく、井戸から水をくみ上げていた ・ 洗濯板とらいを使って洗濯をしていたので、時間がかかって大変そうだな <p>5～6 知多半島道路や西知多産業道路などができた頃の様子と人々の暮らしの様子や生活の変化について調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 知多半島道路などができた頃の様子を調べ、自動車専用道路ができたことで、どんなことが他にできたり増えたりしたのかを調べる。 ○ 知多半島道路などができた頃の人々の暮らしの様子を調べ、生活の道具の移り変わりとともに、人々の生活の様子も移り変わってきたことを調べ、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 洗濯機はローラー式から二層式に変わってきて、より便利になってきたね ・ 手作業が多かった時代から、電気製品を使うようになったことで家の仕事にかかる時間が減ってきたね ・ 他にも私たちの知らない道具はあるのかな <p>7～9 郷土資料館や博物館等を見学し、昔の人々の暮らしの移り変わりの様子を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【資料】『知多半島の今昔』（郷土出版社）『知多半島の昭和』（樹林舎）、学校数や人口等の移り変わりが分かるグラフ等 ・ 地図帳を活用しながら、自分の市（町）の位置を確認させる。 ・ 日本から見た位置や愛知県から見た位置などで、市（町）の位置を表現させるようにする ・ およそ何年前の写真かを伝え、「今と昔でどんなところが変わったのだろう」と問いかける。 ・ 写真資料を見る視点として、建物や電車、人々の服装や様子等を提示するとよい。 【評】今と昔の様子を比べて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 市（町）の様子や人々の暮らしについて予想させる。 ・ 人口の移り変わりを示すものや表や棒グラフなどを活用する。 ・ 市（町）の様子や人々の暮らしについて、いろいろなことが変わってきていることから、他にも変わってきていることがあるかなど、変化に興味をもたせるようにする。 ・ 調べる時期を2つの時期に区分しておくとうい。 ・ 元号についても触れるようにする。 ・ 半田や武豊などにおいては、明治から大正において舟が使われていたことを扱ってもよい ・ 最後に年表にまとめていくことを知らせ、見通しをもたせる。 ・ 博物館の人や地域の人から話を聞く機会を設けてもよい。 ・ 人々の暮らしの様子では、当時使っていた生活の道具を取り上げる。 【評】鉄道が通った頃の様子を調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 知多半島道路などが現在も通っているため、自分たちの生活と関連付けて考えさせることで、だんだんと現在の市（町）の様子に近づいていっていることをつかませる。 ・ 市役所や役場が建てられたことについても調べるとよい。

<ul style="list-style-type: none"> ○見学の計画を立てる。 ○郷土資料館や博物館へ見学へ行く。 ○昔の道具や暮らし体験をしたり，学芸員の話の聞いたりして，昔の人々の暮らしについて知る。 <p>10～11 現在の市（町）の様子や人々の暮らしの様子について調べ，まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現在の交通の様子や人々の暮らしの様子について調べ，身の回りに電化製品が増えたことで暮らしが便利になったことをまとめる。 ○少子高齢化など，市（町）が抱えている課題について調べる。 <p>12～13 市（町）の移り変わりについて，これまで調べてきたことを基に，年表にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまで調べてきたことを振り返って，年表にまとめる ○できあがった年表について，気が付いたことや思ったことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・交通や道具がどんどん便利になってきた ・人々の暮らしだけでなく，市の様子も移り変わってきて発展してきている ・人口が減ってきているけど，人口が減ると私たちの暮らしはどう変わるのかな <p>14～15 現在，市（町）が抱えている課題や行っている取組について調べ，まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市（町）が抱えている課題や市役所や役場が取り組んでいることを調べる。 ○調べたことをまとめて，話し合う。 <p>16 学習を振り返り，もっと住みやすい市（町）になるために自分たちにできることを考えて話し合い，単元のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの市（町）がこれからどのような市（町）を目指しているのかをこれまでの学習を振り返り，話し合う ○住みやすい市（町）へ発展していくために大切なことや自分たちにできることを考え，発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学のマナーや注意することを確認しておく ・見学をして分かったことや疑問に思ったことはメモをとるようにさせる。 ・体験活動をする場合は，事前に体験の内容等について打ち合わせをしておき，体験を通して人々の暮らしについて考えさせるようにする。 ・体験活動で今と比較させると，昔は不便で暮らしづらいという思いをもちやすいので，提示の順番や発問には留意する。 ・地図帳を活用して，高速道路や鉄道がどこまで延びているのかを調べるとよい。 ・過去の時代にはなかったことと比較して考えることで，今の自分たちの生活と結び付けて考えさせる。 ・市役所や役場の人に話を聞く機会を設けてもよい。 ・教科書P.146～148の「年表の作り方」を参考にさせる。 【評】年表にまとめる活動を通して，「知識・技能」を評価する。 【評】年表を見て話し合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 ・市役所や役場から資料を取り寄せるとよい。 ・市（町）の取組の一つ一つに税金が使われていることを理解させる。 ・自分たちにできることを実現可能な範囲で考える。 【評】発表する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
--	--

【 備 考 】

単元名 地図となかよしになろう(令和2年度4年生のみ)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 地図記号や縮尺、等高線など、読図の基本や、47都道府県の名称と位置を理解するとともに、地図を読み取ったり、景観写真を読み取ったりすることを通して、等高線の意味について調べることができる。
- (2) 実際の景観と地図との関係や地図上の距離と実際の距離との関係を考え、地図の活用の仕方が必要に応じて適切に判断することができる。
- (3) 自分たちの住んでいる地域の地図、景観写真などの資料を問題解決の材料として効果的に活用する活動を通して、地図を日常的に活用しようとする。

標準的な展開例

04030101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日常生活でどのような地図があるのかを話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地図の種類や使い方について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界地図、日本地図 ・ 県の地図、市の地図 ・ 住んでいる地域の地図（学区地図） ・ 学区内の住宅案内板 ・ 使い方→家を探す、目的地までの道順を調べる、旅行をする ○ 地図の特徴や工夫されていることについて気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな地図記号が使われている ・ 山などに数字の入った線がたくさん見られる ・ 狭い範囲の地図や、広い範囲の全体が分かる地図がある ○ 地図について話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図にはいろいろな種類があるけれど、使い方がよく分からない ・ どうして地図は色分けがしてあるのかな <p>★ 地図の使い方マスターになろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 都道府県の名称と位置、その特徴について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ クワガタの形をした県が日本の北や南にもある ・ 愛知県の近くには海がない県がいくつもある ○ 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる内容…地図記号と八方位の意味と使い方、地図上の距離と実際の距離の関係、等高線の意味、都道府県の名称と位置 ・ 調べる方法…教科書、副読本、地図帳、白地図、地図 <p>2 地図記号や方位、土地利用図について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい地図記号の意味と使い方を知る。 ○ 八方位の意味と使い方を知る。 ○ 土地利用を地図でどのように表しているか調べる。 ○ 写真と土地利用図を比べる。 <p>3～4 等高線の意味を知り、愛知県の特徴を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真と土地利用図を比べ、等高線の意味について知る。 ○ 等高線を色分けしたり記入したりして、土地の高さの違いをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高さの表し方 ・ 断面図 ・ 断彩図 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図の使い方について話し合い、地図の活用に興味・関心をもたせる。 ・ いろいろな種類の地図を提示し、自分の生活の中で使われている場面を想起させる。 ・ 地図が生活の中の場面で使われていることに気付かせる。 ・ 学区内の住宅案内板やカーナビ、天気予報などの提示用資料を用意し、地図の存在に気付くやすいようにする。 ・ 地図帳を見て、記号や等高線などのきまりがあることに気付かせるとともに、見やすさを感じ取らせる。 ・ 地図は、利用目的によって必要な情報が網羅されていたり、尺度や内容が決められていたりすることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳を使って、都道府県の地形や特徴などを正確に把握することができるように、いくつかのヒントから都道府県を当てるゲームをすることを予告する。 <p>【評】 地図の活用方法や地図の工夫について話し合う活動を通して、「主体的に学ぼうとする態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本には47都道府県があり、名前を知っていても位置やそれぞれの都道府県の特徴について知らないことに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 意味や使い方を理解し活用することで、地図を正しく読み取れるようにさせる。 ・ 3年生で学習した地図記号も確認させる。 ・ 児童の実態に合わせて、地図上の地図記号をできるだけ多く確認させる。 ・ 新しい地図記号（自然災害伝承碑）にも触れる。 ・ 八方位すべての定着を図る。 ・ 市町の中で、まちの様子が違う場所があることを確認させる。 ・ 色分けすることで、土地の利用状況が分かりやすくなるとともに、その地域の特徴を捉えやすくなることに気付かせる。 ・ 地図と現地の様子を撮影した写真を見比べて等高線の意味を理解させ、傾斜の緩急を読み取るようにする。 ・ 平面地図で表された等高線は、海面からの高さの同じ所を結んだ線であることを知らせる。 ・ 作業帳を活用して、色分け作業をすることにより等高線によって高さの違いが表現されていることを確認させる。 ・ 地図帳をコピーしたものを用意し、等高線をなぞらせて間隔の狭さを実感させ、傾斜の違い

<p>○愛知県周辺の地図を見て気付いたことを発表する。</p> <p>5 地図上の距離と実際の距離との関係を調べる。</p> <p>○実際の距離を地図でどのようにして表しているか確かめる。</p> <p>○縮尺の違う地図を見比べて、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図で表される範囲が違う ・土地の様子を調べるには縮尺の大きい地図の方が分かりやすい <p>○コンパスや定規を使って距離を測る。</p> <p>6 47都道府県の位置と名称を調べる。</p> <p>○教科書や地図帳を利用して、白地図に都道府県名を書き入れる。</p> <p>7 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <p>○都道府県名クイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番大きい面積の都道府県はどこか ・海がない都道府県はどこか ・名前に「山」がつく都道府県はいくつあるか <p>○地図記号や方位、等高線の意味、47都道府県名と位置を確認する。</p>	<p>いも表現されていることをつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図記号、八方位、土地利用の色分け、標高などを手がかりとして愛知県の地形や特徴を読み取らせる。 ・教科書のヒントを利用して、読み取ったり、考えたりする。 <p>【評】愛知県の地形や特徴を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縮尺の意味を理解させ、目的に応じて地図を効果的に活用できるようにさせる。 ・地図中に小さいものさしがあることに気付かせる。 ・縮尺の意味と縮尺の違いについて知り、目的に応じた縮尺の地図を活用することの大切さに気付かせる。 ・縮尺の大きさは、間違いやすいので算数的に大きさの比較をするように注意させる。 ・縮尺の目盛りを使って地図上で実際に測らせ距離の測り方を学ばせる。 ・直線の距離を調べるにはコンパスを使うと測りやすいことを押さえる。 ・作業帳を活用する。 ・測る場所は、児童の実態に合わせて決めるとよい。 ・都道府県の場所の理解を図る。 ・コンピュータを使って地図の作成ができるサイトもあり、ゲーム感覚で県名と位置が覚えられるものもある。 ・地図のデータはスキャナーを使って読み取らせる方法や地図ソフトや帝国書院のホームページなどが利用できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・特定場所周辺に多く見られる地図記号や、学校からの方位などをヒントに、いくつかの場所を指定して探すクイズをする。 ・答える際には、ヒントからどのように考えて見付けたのか説明をさせる。 <p>【評】ヒントから特定の場所を探し当てた理由を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した拡大白地図は、教室に常に掲示し、後の学習で都道府県名が出てきた際などに確認できるようにさせる。 ・都道府県の名称と位置については、継続的な指導を行い、定着を図る。 <p>【評】地図記号や八方位、等高線の意味、47都道府県名と位置について確認する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
---	--

【 備 考 】

都道府県名の名称に用いる漢字については、第4学年までに指導することとなっているため、漢字の表記に慣れるよう配慮する。

<参考URL>

帝国書院ホームページ www.teikokushoin.co.jp/

単元名 わたしたちの県のように

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 愛知県内における自分たちの市(町)の地理的位置, 愛知県全体の地形や土地利用, 主な都市の位置, 交通網の様子, 主な産業の分布などを基に, 県の様子について理解できるようにするとともに, 地図などを活用して調べ, 白地図などにまとめることができる。
- (2) 自分たちの県の位置, 県全体の地形や土地利用, 主な都市の位置, 交通網の様子, 主な産業の分布などに着目し, 県の様子を捉え, 県の概要や特色を考えたり, 調べたことや考えたことを表現したりすることができる。
- (3) 自分が生活している愛知県の地形や産業などの概要やそこに見られる人々の生活の様子について問題意識をもち, 意欲的に追究するとともに, 愛知県の特色や良さを考えようとする。

標準的な展開例

04030102_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 愛知県の地図から愛知県の地形や位置, 土地利用の様子を基に, 単元の学習問題をつかみ, 学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○愛知県の地図を写し取り, 県の形を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・蟹のような形, クワガタの顔, 走っている犬 ○県内の行ったことがある場所や知っている場所を愛知県の地図を見ながら紹介し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの市の位置からの方向や距離 <p>★愛知県の様子はどうなっているのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○愛知県について知っていることや気付いたことを発表し愛知県の特色を予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・海も山も川もあり, 自然が豊か ・名古屋市が愛知県で一番大きな都市であり, たくさんの人が生活している ○予想を基にして, 学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…地形, 人口分布, 交通の様子, 産業, 主な都市 ・調べる方法…地図, 立体地図, だいすき大愛知, 作業帳, 地図ソフト, その他の資料の活用 ・表現の仕方…白地図, 新聞 <p>3 愛知県の土地利用の特色を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○愛知県の地形について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・高いところ(美濃三河高原), 平らなところ(濃尾平野) ・主な川(木曾三川, 矢作川, 豊川) ・半島や湾(知多半島, 渥美半島, 伊勢湾, 三河湾) ○愛知県の土地利用の様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・市街地 ・田畑の多いところ ・森林の多いところ ・果樹園 ・埋め立て地 ○地形と土地利用の関係について話し合い, 土地利用の特色をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・平地は市街地や田畑に利用されている ・工場はたくさんの水を使うから, 川や海のすぐそばに多い <p>4 県内の人口分布と交通網の関係について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内の人口分布の様子を調べる。 ○交通網の様子を調べ, 白地図に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県の地形や市町の位置, 土地利用の様子が分かる県内地図を用意する。 ・県の形を写し取り, 他の県と比べながら形の名前を考えさせるなどして, 県の形に親しませる。 ・住んでいる市町からの方位や距離を示しながら地図上で他市町を紹介するようにする。クイズ形式にすると楽しい活動になる。 ・愛知県の特色や自分たちの市(町)の特産物などを紹介することを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・県の土地の様子・土地利用図・人口分布図, 産業の様子, 交通網などに着目させるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・【資料】だいすき大愛知 ・市販の積層地図愛知県版も利用しやすい。 <ul style="list-style-type: none"> ・国語科の「新聞を作ろう」と関連させるとよい。 <p>【評】愛知県について知っていることや気付いたことを発表し合う活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業帳「1.わたしたちの市・町」「2.愛知県の地形図」「愛知県」を活用するとよい。 ・地形を取り上げ, 東が高く西が低いこと, 南は海に面していることなど大まかに捉えられればよい。 ・地形的特色と土地利用を関連して調べることで愛知県全体の地形と産業の概要が理解できるようにする。 ・作業帳「3.愛知県の土地利用図」を活用する。 ・地図記号を見ると, その土地の様子や効果的な開拓がなされていることが分かることを押さえる。 ・作業帳「4.愛知県の人口分布図」を活用する。 ・名古屋市が人口200万人以上の大きな都市であることを押さえる。 ・名古屋市にある建物を紹介し, 人口の集まる様子をつかませる。 ・作業帳「5・6愛知県の交通」を活用する。 ・外国や他地域とも交通網でつながっていることに触れる。 ・交通網の集中によって, 人口の増減が起きていることにも触れる。

- 5 愛知県の産業の特色を調べる。
- 愛知県の産業について調べる。
 - ・ 農作物
 - ・ 水産物
 - ・ 工業製品
 - ・ 伝統的工業製品
 - 愛知県の盛んな産業について調べる。
 - ・ 生産が日本一のもの
 - ・ 愛知県にしかないもの
 - 愛知県の特産物について調べ、考えたことを話し合う。
 - ・ 自然を生かしてたくさんの種類の作物を育てている
 - ・ 昔からあるものを大切に作り続けている
- 6 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。
- 調べてきたことをまとめる。
- まとめたものを紹介し合い、愛知県の特色についてまとめる。

【評】白地図にまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 全国的に見て、愛知県の生産量第1位のものや特産物（農水産物・工業製品・伝統工業製品）があることに気付かせる。
- ・ 作業帳「7・8. 愛知県の産業」を活用する

- ・ 地図帳や作業帳を利用して、県内で作られているものを探し合うゲームを行うなどの工夫をすると児童の活動が一層活発になる。
- ・ 愛知県の特色ある産業に興味をもたせ、大単元「わたしたちの住んでいる県」の学習につながるようにする。

【評】愛知県の特色について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ だいき大愛知を参考にさせるとよい。
- ・ 子どもたちの考えたまとめ方について、地図や写真などを入れると分かりやすくなることを押さえる。

【評】愛知県の様子についてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 (選択単元)ごみのしりと活用

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう協力して進められていることや、地域の人々の健康な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、施設を見学・調査したり、ごみ処理の過程などを資料で調べたりして、まとめることができる。
- (2) ごみの処理の仕組みや再利用、ごみの処理に携わる人々の苦労や工夫・協力に着目して、ごみの処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割について、調べたことや考えたことを表現することができる。
- (3) 自分たちの生活や産業に深く関わるごみ処理事業に問題意識をもち、意欲的に追究するとともに、地域社会の一員としてごみ問題に関わろうとする。

標準的な展開例

04030103_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 家庭のごみの分別作業や市全体のごみに関する統計資料から単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>○自分の家や学校でのごみ処理の経験から市（町）全体のごみの量を予想する。</p> <p>○市（町）全体のごみの量を知る。</p> <p>○ごみの処理の仕方について予想し、学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃えるごみは工場でたくさん燃やされている 燃えないごみはどこかにまとめて捨てられている ごみの中にはリサイクルされる物もある <p>★ごみはどのように処理されているのだろう</p> <p>3 ごみの処理の仕方について予想し、学習計画を立てる。</p> <p>○どのようにごみが処理されているのかを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃えるごみは、どこかに集められて燃やされている 燃やされた後はどうなるのかな 燃えないごみは、燃やされずにどこかに捨てているのかな リサイクルされるって聞いたことがあるけど、どのようにリサイクルするのだろう <p>○予想を基にして、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…家庭や学校のごみ減量の工夫、ごみ処理場の減量化の工夫、ごみ処理に関わる人々の願い 調べる方法…家庭や学校のごみ処理の仕方の調査、ごみ処理場の見学・調査、市役所環境課へ聞き取り調査、副読本・作業帳・インターネットやその他の資料の活用 表現の仕方…ノート、新聞 <p>4～5 ごみ処理場の仕組みや働く人たちの努力や工夫を調べる。</p> <p>6～9 ごみ処理場を見学する。</p> <p>○見学の計画を立てる。</p> <p>○ごみ処理場の施設の仕組みや働く人々の工夫や努力について、聞き取り調査をする。</p> <p>○分かったことや気付いたことを見学メモに書く。</p> <p>10～11 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <p>○見学のまとめを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活を振り返り、学校や家庭でどのようなごみが出ているのか話し合わせる。 家庭から出る1週間分のごみ調べをすることを伝え、家庭の協力を得て取り組ませる。 ごみステーションについて、場所を確認させる。 家庭でのごみの分別作業を体験させ、ごみの多様化、分別作業の難しさに気付かせる。 作業帳「1.くらしとごみ」を活用する。 <p>【評】家庭のごみを調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみが処理されるまでの流れを調べ、まとめていくことを確かめる。 1週間の家庭のごみ調べの結果をまとめ、発表させる。 今の自分たちの生活や、環境への配慮などを振り返らせ、ごみを削減できる方法について考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 既有知識を基にした一人一人の予想を発表させ、大まかにまとめながら調べる内容や方法を設定していく。 計画表を提示し、各自の考えや調べる内容や方法、手順などを記入できるようにする。 学び方カード（情報収集の仕方をまとめたもの）などを活用し、電話・手紙・ファックスを使った調査や聞き取り調査など多様な調べ方や学び方ができるようにする。 ごみの行方を知り、ごみの多くがリサイクルされていることを確認させる。 <p>【評】調べたことをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみ処理の苦労、隣接市町の協力、埋め立て地の確保、仕事の苦労や工夫などについて話してもらうように依頼しておく。 ごみ処理の施設の仕組みや働く人々の工夫や努力、環境への配慮などに着目して見学させる。 施設内では、移動中のパッカー車や危険物などに気を付けて行動するように指導しておく <p>【評】ごみ処理の施設や仕事上工夫されている点に着目して見学する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見学した施設や働く人々から聞いた話について、見学メモにメモした内容を発表させる。 ごみ処理場の役割について再確認する。 見学を振り返り、施設の仕組みや働く人々の

- 単元を通して調べて分かったことをまとめる。
 - ・自分の生活を見直す
 - ・リサイクルできる物を使用していく
 - ・環境に対して自分ができることを実践していく
- 将来を考え、ごみを減らすために守るべきことや努力しなければいけないことを発表する。
 - ・ごみを分別し、使える物は最後まで使う
 - ・学んだことを家族や地域に伝えていく

- 努力や苦労を確認する。
- ・最終処分場が将来いっぱいになってしまうことに気付かせる。
 - ・ごみ処理には多額の税金が使われていることを伝える。
 - ・健康的な生活のために自分ができることについて考えさせる。

【評】調べて分かったことをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】まとめたことを基に考えたことを発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

本単元では、ごみ、下水のうち、ごみを選択して、廃棄物を処理する事業において衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを捉えられるようにする。

単元名 (選択単元)くらしをささえる水

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) 飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解するとともに、見学・調査したり、飲料水の確保に関わる対策や事業について調べたりして、まとめることができる。
- (2) 地域に届けられる供給の仕組みや経路、地域の人々の健康な生活との関連に着目して、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、それらの果たす役割を考えたり、絵地図などに表現したりすることができる。
- (3) 飲料水確保に関わる対策や事業に問題意識をもち、意欲的に追究するとともに、水を大切な資源と捉え、自分たちが協力できることなどを考えようとする。

標準的な展開例

04030104_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 日常生活を振り返り、水がどこでどのように使われているのか考え、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活で水を使う場面について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・炊事・洗濯・風呂・トイレ ○ どれぐらいの水の量を使っているのか予想する。 ○ 水道の水にお金がかかる理由を考える。 ○ 市町の人口と給水量の移り変わりのグラフを見て、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・人口が増えるとともに、給水量も増えている ・家の中でもいろいろな場所で水を使っている ・学校では教室の前にも水道があってすぐに使える ○ 学校の中の水の通り道を調べる。 <p>★わたしたちが使う水はどのようにして送られてくるのだろう</p> <p>3 水の通り道について予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水がどのようにして送られるのかについて予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・近くの川の水を使っているのかな ・家と家が水道のパイプでつながっていて送られてくる ○ 予想を基にして、学習計画を立てる。 <p>調べる内容…川の水を貯める貯水池の役割、ダム、浄水場の施設や浄水場で働く人の様子や工夫 調べる方法…教科書、副読本、インターネット、ビデオ教材、図鑑など 表現の仕方…絵地図、新聞、標語</p> <p>4～6 浄水場の見学・調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 浄水場の見学の計画を立てる。 ○ 浄水場で働く人々の工夫や努力などについて聞き取り調査をする。 ○ 浄水場の見学をして、分かったことや気付いたことを見学メモに記録する。 <p>7 浄水場で働く人々の工夫や努力、私たちの市(町)の水道事業のあらましについてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見学を通して学んだことを発表し合う。 ○ 暮らしに必要な水を供給する仕組みや対策について、考えたことを発表する。 <p>8～10 絵地図を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べて考えたことを基に、絵地図を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の生活で使う水の量と使い方を調べさせ蛇口をひねるだけで出てくる水にもお金がかかっていることに気付かせる。 ・ 生活の中の様々な場面で水を使っていることや、蛇口があればいつでも水が出てくることの便利さに気付かせる。 ・ 「水道使用量の明細」を基に、使用量の多さや料金に気付かせる。 ・ 何気なく使っている水はどこかで作られ、意図的に送られているものであることに気付かせる。 ・ 作業帳「4. くらしと水」を活用する。 ・ グラフの読み取り方を確認しながら、人口と給水量との関係に気付かせる。 ・ 給水量の変化の理由を考え、生活の仕方が深く関わっていることを押さえる。 ・ 蛇口の向こうがどのようにつながっているのか、水の通り道を逆からたどらせる。 ・ 給水タンクやポンプ室、止水栓などを見て、水が様々な所につながり、外へとつながっていることを押さえる。 <p>【評】水の送られ方について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山から流れる川の水を利用していることや、水の量を調整し備蓄するためにダムや貯水池があることなどを、地図を見ながら気付かせる。 ・ 作業帳「5. 水の旅」を活用して、知多半島全域の農業用水や工業用水は愛知用水から供給されていることに触れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 浄水場が果たす役割や、働く人々の工夫や努力、思いなどに着目して見学させる。 ・ 施設内で気を付けることを事前に押さえておく。 <p>【評】飲料水が作られる流れや設備を見学する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浄水場で働く人々の工夫や努力により、安全な飲料水の確保を計画的に行っていることに気付かせる。 ・ 飲料水が生活に与える影響を具体的な事例で紹介し、生活に水は欠かせないことに気付かせる。 ・ 見学した際に、働く人たちが行っていた仕事内容について思い出させ、発表させる。 <p>【評】安全な飲料水の確保に関わる仕組みや対策について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の自分たちの生活に生かせるよう、これまでの学習を振り返り、まとめさせる。 ・ ノートや見学資料、提示した資料などで調べ

- 11 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。
- 学習したことを基に、今後の水の使い方について話し合う。
 - ・たくさんの人々の働きのおかげで安心・安全な水が飲むことができる
 - ・水を大切に使い、無駄遣いをしないことが環境を守ることになる
 - 作成した絵地図を校内に掲示し、水を大切にするように呼び掛ける。

たことを参考にまとめさせる。
 【評】絵地図を作成する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・校内で呼び掛けることで、生活に欠かせない水に対しての意識を高めさせる活動とする。
 【評】今後の水の使い方を話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

本単元では、飲料水、電気、ガスの中から飲料水を選択し、安全で安定的な飲料水の供給を進め、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを捉えさせたい。
 また、本単元と関連させて今後の単元「原野に水を引く」では愛知用水や愛知用水の建設に携わった地域の偉人に触れることも可能である。

単元名 (選択単元)地震による災害

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 我が国の国土では様々な自然災害が起こりやすいことや県や市(町)が災害に対する対策や事業を進めていることを理解し、災害の具体的事例を地図や統計資料を活用して調べ、まとめることができる。
- (2) 過去に発生した自然災害や、自然災害発生時における地域の関係機関の協力などに着目し、災害から人々を守る活動を捉え、自分たちにできることを考え、ノートなどに表現することができる。
- (3) 我が国の自然災害に対処してきた人々の働きについて問題意識をもち、意欲的に追究するとともに、地域に住む一員として災害に備えて自分たちにできることを考えようとする。

標準的な展開例

04030201_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 日本で起きた自然災害について話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P.70の写真を見て災害が及ぼす影響について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 地震が来ると町の建物が壊れてしまう 台風が来ると町が水浸しになってしまう 最近も台風で大きな被害が出ていた 日本や愛知県で起きた自然災害について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 日本は自然災害が多いね こういった災害って自分たちも被害に遭うことがあるかもしれないな <p>★地震による災害から身を守るためにどのような取組があるのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震による災害に対する様々な人々の取組を予想し、学習計画を立てる。 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…地震が及ぼす暮らしへの影響、災害後の対応、災害への備え、自分たちにできる取組 調べる方法…副読本、だいき大愛知、インターネット 表現の方法…ノート <p>3～4 地震による災害が及ぼす暮らしへの影響や災害後の対応について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震が起きた後の建物や土地の様子を調べる。 阪神・淡路大震災の暮らしについて調べる。 自然災害発生時における地域の関係機関の取組について調べる。 <p>5～7 地震による災害への対策について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛知県や市(町)が行っている地震による災害への対策について調べる。 防災や減災のために取り組む地域の方の話を聞く。 災害から人々を守るための活動について、調べて分かったことをノートにまとめる。 ノートにまとめたことを発表する。 <p>8～9 地震による災害に備えて、自分たちにできることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【資料】だいき大愛知 自然災害の発生場所を地図帳で確認させる。 自然災害の中で、地震による災害に着目させて学習問題を設定させる。 防災備蓄倉庫の写真を提示し、誰が、何のために、どんな物を備蓄しているかを考えさせる。 【資料】だいき大愛知 【評】地震による災害に対する様々な人々の取組を予想する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 地震によって影響のあった様子が分かる写真を提示する。 教科書P.89の表を活用して、暮らしにどのような影響があったかを考えさせる。 「ライフライン」の意味を押さえる。 教科書P.89「山田さんの話」から、震災時の人々の思いや願いに迫らせる。 教科書P.90～91を活用して、復興に向けて、関係機関が行った取組や連携の様子を捉えさせる。 【評】地震による災害が及ぼした影響や災害後の対応について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【資料】だいき大愛知 緊急地震速報について触れる。 だいき大愛知の写真や学校の周りにある避難場所を示す看板やハザードマップなども使って考えさせるとよい。 市町の防災担当の方に、自分たちが住む町ではどのような取組を行っているかを聞かせることで、防災や減災に対する対策例(防災無線など)をより身近に考えることができる。 どのような思いで防災対策や減災対策に取り組んでいるのかを聞くとよい。 【評】ノートにまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【資料】だいき大愛知 「自助」「共助」「公助」の意味と、「公助

- 10 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。
○自分たちにできることを話し合う。

」には限界があることを押さえ、「自助」と「共助」の観点から自分にできることを考えさせる。

【評】自分たちにできることを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】自分たちにできることを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【評】自分たちにできることを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、地震災害、津波災害、風水害などの中から、過去に県内で発生した身近な事例として地震災害を選択して取り上げる。

単元名 わたしたちのまちに残る古い建物

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 古い建物の保存に関わる人々の心情や、建物を残していくためには課題があることなどを理解し、市や町に残る建物について調べたことをまとめることができる。
- (2) 古い建物の保存に関わる人々の働きに着目し、地域の人々の願いについて考え、カードなどに表現することができる。
- (3) 古い建物の保存に関わる人々の働きについて問題意識をもち、意欲的に追究するとともに、同じ地域に住む一員として誇りと愛情をもとうとする。

標準的な展開例

04030202_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 地域に残る古い建物について話し合い、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に残る古い建物で知っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤レンガ倉庫 ・ 内田佐七邸 ○ 地域に残る古い建物の場所を白地図に表す。 ○ 地域に残る古い建物について分からないことや知りたいことを話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな建物なのかな ・ どのような理由で建てられたのかな <p>★ どうして地域の人々は古い建物を残そうとするのだろうか</p> <p>2 なぜ古い建物を残してきたのか予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古い建物を残す理由を予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 残しておくことで、昔のことを知ることができる ・ 多くの人に見てもらえることができる ○ 予想を基にして、学習計画を立てる。 <p>調べる内容…古い建物の様子、残されてきた理由、残してきた人々の思い</p> <p>調べる方法…聞き取り調査、副読本、パンフレット、視聴覚資料、インターネット</p> <p>表現の方法…カード</p> <p>3～4 計画に従って、地域に残る古い建物について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 副読本やパンフレットなどの読み物資料、視聴覚資料、インターネットなどから情報収集する。 <p>5 調べたことをカードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたことを整理し、カードにまとめる。 <p>6 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の作ったカードを見て、感想を発表する。 ○ 地域の人々の古い建物に対する願いについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 古くから残ってきた建物について多くの人に知ってほしい ・ 昔から残る建物をこれからも受け継いでいきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【資料】『知多半島の今昔』（郷土出版社）『知多半島の昭和』（樹林舎）、副読本 ・ 知多半島には、39件の愛知県の登録有形文化財がある。 ・ 地域の実態に応じて、どの地域までを範囲とするか配慮した白地図を用意するとよい。 ・ 児童がよく知っている文化財を取り扱うとよい。 <p>【評】 地域に残る古い建物について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 聞き取り調査ができる場合は、現地に出向いたり、ゲストティーチャーを招いたりしてもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【資料】副読本、パンフレットなどの読み物資料、視聴覚資料など ・ 調べて分かったことや疑問に思ったことなどはノートにまとめさせておく。 <p>【評】 情報を収集する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古い建物の歴史や、古い建物を残してきた人の思いを中心に作るとよいことを伝える。 ・ 教科書P.112のカード例を参考に作らせてもよい。 <p>【評】 カードにまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアやグループで見せ合ったり、掲示して感想を書いた付箋紙を貼り付けたりする方法が考えられる。 ・ 自分がまとめたものと比べて共通する部分や違う部分に着目しながらカードを見せたい <p>【評】 古い建物の保存に携わる人々の願いなどをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

令和2年度は旧教科書3・4年上「昔からつたわる行事」を用いる。

単元名 わたしたちのまちに伝わる祭り

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 地域に残る祭りや年中行事の内容やいわれ、地域の人々に受け継がれている理由や人々の願いを理解し、調べ学習や聞き取り調査、現地見学などを通して調べたことをまとめることができる
 (2) 地域に残る祭りや年中行事を残してきたり、続けてきたりした人々に着目し、祭りや年中行事に込められた地域の人々の願いについて考え、ノートやカードなどに表現することができる。
 (3) 地域の祭りや年中行事が残されてきた理由について、意欲的に追究するとともに、地域の一員として誇りと愛情をもとうとする。

標準的な展開例

04030203_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 地域で古くから伝わる祭りや行事について話し合い、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の祭りや行事で知っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 潮干まつり ・ だんつく獅子舞 ○ 地域の祭りや行事が行われている場所を白地図に表す。 ○ 地域の祭りや行事について、分からないことや知りたいことを話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくたちがお囃子をしているお祭りはいつから始まったのだろう ・ なぜ地域の祭りや行事が今も残っているのだろう ・ どんな人たちが、どんな思いで祭りを行っているのだろう <p>★ どうして地域の祭りや行事が今も残ってきたのだろう</p> <p>2 なぜ古くから伝わる祭りや行事があるのか予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 古くから続いている理由を予想し、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 祭りがあると、たくさんの人が楽しむことができるから ・ 祭りには何か願いが込められているのではないか ○ 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる内容…祭りや行事の様子、始まりと今も続けられている理由、どんな人が行っているか、どのような思いで行っているか ・ 調べる方法…聞き取り調査、副読本、視聴覚資料、インターネット ・ 表現の方法…ノート、カード <p>3～4 計画に従って、祭りや行事について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 副読本などの読み物資料、視聴覚資料、インターネットなどから情報収集をする。 <p>○ 調べたことを整理し、カードにまとめる。</p> <p>5 どのようにして地域の祭りや年中行事が続いてきたのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの作ったカードを見て、感想を発表する。 <p>○ どのようにして地域の祭りや年中行事に続いてきたのか考え、話し合う。</p> <p>6 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の祭りや年中行事に対する地域の方々の願いについてまとめる。 ○ 地域の一員として自分たちにできることは何かを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【資料】地域で行われている祭りの写真、副読本、『知多半島風土記』（知多社会科同好会発行） ・ 地域にはたくさんの祭りや行事があることを知らせ、地域の誇りであるという認識をもたせたい。 ・ 前単元でまとめた古い建物の場所を記した白地図を使用してもよい。 ・ 地域によって特色があるため、子どもが役割をもって参加している祭りに焦点を当てるとよい。 <p>【評】地域の祭りや行事について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域によって、祭りの保存に携わっている方や地域の民俗資料館の学芸員の方の話聞く機会を設けたり、山車などが保存されている場所の現地見学に行ったりしてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 【資料】副読本、視聴覚資料など ・ 調べて分かったことや疑問に思ったことをノートにまとめさせておく。 <p>【評】情報を収集する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前単元のまとめ方を生かしてカードにまとめさせる。 ・ 祭りや行事の様子やこれまで残ってきた理由祭りや行事に携わる人々の思いを中心にカードにまとめるとよいことを伝える。 <p>【評】カードにまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がまとめたものと比べて共通する部分や違う部分に着目しながらカードを見せたい ・ 話し合う中で、地域の祭りや行事をこれからどうしていくとよいのかという意見に着目させ、地域の人々が受け継いできた思いや願いに対して自分たちができることはないか考えるきっかけにするとよい。 <p>【評】地域の祭りや年中行事のこれからについて考え、話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に話し合った地域の方々の思いや願いを振り返る。 ・ 地域の方々の思いを踏まえて、自分にできる

- ・地域の祭りに参加することから始めたい
- ・お囃子などの活動をこれからも続けていきたい

○自分たちにできることを発表する。

- ことは何かを考えさせる。
 - ・考えたことはノートにまとめさせる。
- 【評】自分たちにできることは何かを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

令和２年度は旧教科書３・４年上「昔からつたわる行事」を用いる。

単元名 (選択単元) 原野に水を引く

配当時間 13時間

単元の目標 (1) 地域の人々の願いや生活の向上と先人の働きや苦心を理解し、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を見学・調査し、調べたことをまとめることができる。
 (2) 地域の発展に尽くした先人の働きに着目し、地域の人々の願いや生活の向上に対する先人の思いや苦心について考え、紙芝居などに表現することができる。
 (3) 地域の発展に尽くした先人の働きについて問題意識をもち、意欲的に追究するとともに、地域に住む一員として地域社会のよりよい発展を考えようとする。

標準的な展開例

04030204_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 木曽三川の治水工事について話し合い、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を基に、木曽三川の様子について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 三つの川の様子 川に囲まれた輪中などの土地利用 現在と宝暦当時の木曽三川を比較し、疑問に思ったことを発表し合い、単元の学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> 現在の木曽三川の川の形状 輪中と中州の点在 <p>★どのような思いで治水工事が行われたのだろうか</p> <p>2 治水工事に尽くした人々の働きや願いを予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 当時の治水工事への取組を予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 自分が住む場所を守ろうとたくさんの人が働いた 洪水がよく起きて命が危険だった 工事をすることで安心して生活ができるようにしたい 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…昔と今の木曽三川の違い、人々の願いや工夫 調べる方法…木曽三川公園、郷土資料館の見学、学芸員・指導員への聞き取り調査、副読本、市(町)誌、年表各種資料の活用 表現の方法…紙芝居 <p>3～6 木曽三川公園を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 治水工事の意味を知る。 工事の方法を見学・調査する。 <ul style="list-style-type: none"> 技術、道具、材料、工事費、人手、日数 工事の仕方について現在の方法と昔の方法とを比較し、昔の治水工事の苦労や工夫について考える。 地域の人々が安心して暮らせるようになるまでの工夫や努力を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 水屋などの洪水対策 輪中切り開き、移転、堤防の整備 <p>7 治水工事の目的や人々の願いを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 治水工事をする目的を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 命を守る、米作り、安心して暮らせる 治水工事の前後の暮らしの変化から、昔の人々の願いについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> これで洪水に不安になる生活をしなくてもいい 苦労して工事したからこれからは村を大切にしていきたい 昔の人々が努力したから今の安心な暮らしがあるんだね <p>8～11 昔の人の治水工事への願いや工夫、意気込みを紙芝居にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料を提示する際、地形の特徴やそこから考えられることを発表させたい。 木曽三川の歴史と河川の形状の変化を理解させ、昔の人が治水工事を必要としていたことを気付かせる。 今と昔の河川の様子の違いから、昔の治水工事の工夫や人々の願いへの疑問をもたせる。 <p>・治水工事を探るとき「誰が」「何のために」「どのように」という3つの視点を示すとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土の発展に尽くした人々の業績を中心に学ぶことで、先人の働きと地域の人々の生活の向上とを関連付けて考えさせる。 見学調査できない場合は、電話での聞き取り調査、手紙やファクシミリを用い、質問ができるようにする。 インターネットを利用した調査もできる。 <p>【評】治水工事に尽くした人々の働きや願いを予想する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宝暦治水は、江戸幕府から薩摩藩が命じられたこと、それを平田靱負が責任者として工事にあたったことを知らせる。 宝暦治水後も洪水が続き、明治政府によりオランダ人のヨハネス・デ・レーケが治水工事に携わったことを知らせる。 治水工事のために、平田靱負が苦心して工事に使う材料とお金を集めたこと、たくさんの命が失われたこと、地域の発展に尽くしたことを確認させる。 <p>・水害が起きても自分の家を守るための工夫をして暮らしていたこと、自分の住んでいる家や地域を手放すことがあったこと、たくさんの人の協力・理解があったことを知らせる。</p> <p>【評】調べたい内容に着目して見学する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の発展に尽くした人々の願いと当時の問題点、その人の業績、当時の活動の様子、その人の苦心や工夫、人々の喜び、その後の生活の向上や影響について調べ考えるようにさせる。 <p>【評】当時の人々の願いについて話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p>

<p>○調べて考えたことを基に，紙芝居にまとめる。</p> <p>12～13 単元のまとめをし，学習の振り返りをする。</p> <p>○紙芝居を発表し合う。</p> <p>○強い信念をもって情熱を傾け，よりよい生活を求めて努力し，治水工事に貢献した先人の努力についてまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの願いを実現するためには多くの苦労があるが，それらを乗り越え実現させた喜びの大きさは計り知れないことに気付かせる ・治水工事に携わった人の思いが伝わるような紙芝居作りに取り組めるように紙芝居を作る観点を確認してから作成させる。 <p>【評】治水工事について調べたことを工夫してまとめる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手が，よく分かったことや気付いたことを簡単に感想として伝えさせる。 <p>【評】紙芝居を発表したり，まとめたりする活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先人の努力によって，現在の生活が成り立っていることに気付かせ，地域への理解を深めるとともに，地域への愛着をもつことができるように指導する。
---	---

【 備 考 】
 本単元は，開発，教育，医療，文化，産業などの地域の発展に尽くした先人の中から，開発を選択して取り上げる。

単元名 伝統的な工業がさかんな地いき

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 伝統的な工業について、愛知県常滑市では地域の人々が協力して、伝統工芸を守り、常滑焼作りを生かした町づくりをしていることを理解できるようにするとともに、常滑焼作りを取り巻く環境や状況について地図や各種資料などで調べ、まとめることができる。
- (2) 常滑市の位置や自然環境、常滑焼の歴史、地域の人々の協力関係などに着目して、常滑焼とそれを取り巻く環境や状況について捉え、焼き物が盛んな理由について考えたり、考えたことをまとめたりすることができる。
- (3) 常滑焼作りが盛んになった理由について問題意識をもち、意欲的に追究するとともに、同じ地域に住む一員として誇りと愛情をもとうとする。

標準的な展開例

04030301_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 愛知県内の特色ある地域の写真を見て、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○愛知県内の特色ある地域の写真を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場所でたくさんの製品が作られている ・私たちの住む市(町)の近くでは常滑焼が作られている ○常滑焼の製品を見て話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・お茶を入れるときにいつも使っている ・色や形がとてもきれい ・どうやって作られているのかな <p>★どうして常滑市では焼き物作りが盛んになったのだろう</p> <p>2 常滑市の特色について予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予想を基に、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…常滑焼の歴史、原料、盛んなわけ、工程 人々の工夫や努力、出荷、問題点や改善点 ・調べる方法…地図、だいすき大愛知、常滑市のホームページ、観光パンフレット、インターネット、観光課、観光協会への聞き取り調査、陶磁器会館の見学、その他の資料 <p>表現の仕方…パンフレット、新聞</p> <p>3～4 各自の計画に従って調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集めた資料を使って調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・常滑焼に携わる人々の願いと工夫 ・伝統ある常滑焼(急須、湯飲みなど)と大量生産で作られる常滑焼(植木土管、タイル、衛生陶器など)の生産・流通の工夫 ・技を受け継ぐ伝統工芸士や人間国宝(山田常山) ・常滑焼の研究施設・関連観光施設 ・伝統工業と地域の自然や歴史との関係 ・現在の常滑焼とまちづくりの工夫 ・常滑焼を日本や世界に広げる工夫や努力 <p>5～7 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○常滑焼や常滑市を紹介するパンフレットを作る。 <p>○でき上がったパンフレットを見合いながら、常滑焼の良さについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常滑市の位置を地図帳で確認させ、自分たちの住んでいる市町からどの方位にあるか、どれくらいの距離があるかを考えさせて位置を把握させる。 ・伝統工業や地場産業、近代的な工場が集まった所などを取り上げる。 <p>【評】愛知県で特色ある地域について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸については、常滑焼の他に、七宝焼瀬戸焼(赤津焼)、有松・鳴海絞、岡崎石工品、豊橋筆、名古屋仏壇、三河仏壇、名古屋桐たんす、名古屋友禅などがある。 <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県のホームページから常滑市へリンクできる。 ・作業帳「11. 焼き物の町ー常滑市ー」を活用する。 ・常滑焼の見学も考えられる。陶磁器会館、陶の森(資料館・研究所)、登窯広場展示工房館、セラモールなどの施設がある。やきもの散歩道付近には多くの工房、工場がある。 ・セラモールでは陶芸体験を行える。 ・調べる内容と見学計画の整合性を確認させる <ul style="list-style-type: none"> ・伝統工業が受け継がれる理由や常滑焼の製品のよさ、伝統工業に携わる人々の工夫や努力などについて、写真や絵を使いまとめさせる <p>【評】常滑焼や常滑市を紹介するパンフレットを作成する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】発表を聞いて伝統工業の良さについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

特色ある地域の学習の際には、自分たちの住んでいる市町と比較しながら、それらの地域の特色を捉えることができるよう配慮する必要がある。そのため、常滑市の学校においては、瀬戸市の瀬戸焼(赤津焼)、名古屋市の有松・鳴海絞、あま市の七宝焼などに置き換えて学習することも考えられる。

<参考URL>

愛知県公式webサイト www.pref.aichi.jp/常滑市ホームページ www.city.tokoname.aichi.jp/常滑市観光協会 www.tokoname-kankou.net/

単元名 (選択単元)土地の特色を生かした地いき

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 日間賀島の人々が、豊かな自然を生かしたり守ったりする暮らしを目指して、協力して観光や特産品作りを行っていることを理解し、地図や各種資料を活用して調べたり、まとめたりすることができる。
- (2) 日間賀島の人々の自然を生かしたり守ったりする取組に着目し、取組の意味や効果を考え、調べたことや考えたことをリーフレットなどに表現することができる。
- (3) 日間賀島の地形や産業などの概要やそこに見られる人々の生活の様子について問題意識をもち意欲的に追究することを通して、愛知県の特色やよさを考えようとする。

標準的な展開例

04030302_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日間賀島の写真を見て話し合い、学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日間賀島の写真を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 島の中にたくさんの家がある ・ 砂浜もあるし、たくさんの船も見える ○ 日間賀島の良さについて話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海に囲まれていてすぐに海で遊べる ・ とれたての魚が食べられる ・ どんな暮らしをしているのかな <p>★ 日間賀島の人たちと自分たちの生活にはどのようなちがひがあるのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日間賀島の観光客数の移り変わりのグラフから、観光客数が増えた理由を予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ たこなどの名物を有名にしたから ・ 新鮮なおいしい魚が食べられるから ・ 名古屋からもすぐに遊びに行ける島だから ○ 予想を基に、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる内容…日間賀島の様子、人々の工夫や努力、町や県の協力、まちづくりや地域活性化への取組、問題点や新たな取組 ・ 調べる方法…だいすき大愛知、地図、南知多町のホームページ、観光パンフレット、インターネット、観光課・観光協会への聞き取り調査 <p>表現の方法…リーフレット、新聞</p> <p>2～3 各自の計画に従って調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べる観点を確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 島で生活する人々の願いや工夫 ・ 地形 ・ 漁業 ・ 観光業 ○ 集めた資料を使って調べる。 <p>4～5 日間賀島のよさをリーフレットにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたことを基に、リーフレットを作る。 <p>6～7 単元のまとめをし、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 出来上がったリーフレットを読み合う。 ○ 日間賀島の人々の暮らしの特色を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然を生かしたまちには、土地の高い地域、低い地域、島や半島、海辺での土地を生かした産業・暮らしなどが挙げられるが、その中から島の暮らしである日間賀島について取り上げる。 ・ 日間賀島の位置を地図帳で確認させる。 ・ 愛知県には日間賀島や篠島があり、島の特色や島に住んでいる人々の様子に着目させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日間賀島の観光客数が平成8年頃より増えたことから、日間賀島の自然や魅力について考えさせる。 ・ データは南知多町のホームページから取得できる。 <p>【評】愛知県内の特色ある地域の人々の暮らしについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業帳「10. 海辺のくらしー南知多町ー」を活用し、南知多町は漁獲量が県内第1位であることに気付かせる。 ・ 【資料】愛知県南知多町ホームページ ・ 地形や気候、観光の様子などから、日間賀島の良さが分かりやすい観点に着目させる。 ・ あらかじめ各種資料を用意しておく。 ・ 調べたことをノートにメモを取らせたり、資料に書き込みをさせたりする。 ・ 自分たちの生活と比較させながら調べ学習を進めるよう伝え、自分たちの生活との違いや日間賀島の暮らしの特色に気付くことができるようにさせたい。 <p>【評】愛知県の特色ある地域について資料を活用して調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 島で生活する人々の願いと工夫、自然を生かした漁業と食品加工業、漁業と宿泊施設経営海や海の資源を守る工夫、自然を生かした観光業（潮干狩り、海水浴場、釣り、サーフィン、天然温泉、観光施設、特産品、お土産など）について、日間賀島のPR情報を発信する写真を使い、文章にまとめさせる。 <p>【評】リーフレットにまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いのリーフレットの似ているところや違いがあるところを見付けながら読み合う活動を行わせたい。 ・ 自分たちの生活と比較しながら、産業や地形などを生かした観光業や新たに取り組まれて

○学んだことを自分たちの生活に照らし合わせて、取り入れられることを考える。

いる，それらに従事する人々の思いなどに気付かせたい。

・日間賀島の暮らしの特色を話し合い，自分たちの生活と比較しながら自分たちが住む地域の特色を考えられるようにする。

【評】特色を話し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

本単元は，自然環境，伝統的な文化のいずれかのうち，自然環境を取り上げる。私たちが生活する知多半島に身近な事例として副読本「だいすき大愛知」に取り上げられている日間賀島に着目し，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを捉えさせたい。

<参考URL>

ふらっと南知多 minamichita-kk.com/

愛知県南知多町ホームページ www.town.minamichita.lg.jp/

単元名 世界とつながる地いき

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 人々の生活や産業と国内の他地域や外国との関わりを理解し、地図帳や統計資料などの活用して調べ、調べたことをまとめることができる。
- (2) 県内の人々の生活や産業と、県内や国内の他地域、外国との関わりなどに着目し、愛知県の特色を広い視野から考え、分かりやすく表現することができる。
- (3) 自分たちの住んでいる県や市町と外国とが、人やものを通してつながっていることに興味をもち、意欲的に追究するとともに、自分たちの住んでいる県や市町の特色や良さを考えようとする

標準的な展開例

04030303_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 愛知県が友好提携している都市の様子や中部国際空港について知り、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む市町が提携している友好都市や訪れたことがある国、知っている国について発表する。 中部国際空港と名古屋港の写真を基に、なぜ世界各地と県がつながり、国際交流が盛んになったのか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 中部国際空港ができて、たくさんの人々が訪れやすくなった 名古屋港にはたくさんの車があって、船で運ばれているよ 中部国際空港の現状について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 日本や世界のたくさんの人が利用している 飛行機が休みなく離着陸している 愛知県国際展示場ができた 愛知県と外国とのつながりについて話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> 人や物のつながり 文化交流 ★愛知県は世界とどのようなつながりがあるのだろうか 愛知県と世界とはどのようにつながっているのか予想し話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 旅行で訪れたり、留学で勉強に来たりする人がたくさんいる 農作物や工業製品を運んだり、運ばれてきたりしている 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…人と人との国際交流、物と人のつながりを支える交通機関 調べる方法…インターネット、作業帳 表現の方法…白地図、新聞、ノート <p>3 愛知県の国際交流について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む市町が提携している友好都市について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 留学生や外国の方のお話 外国の方が日本に留学したり、仕事などで愛知県を訪れたりする理由を調べる。 様々な国際交流が盛んになってきたわけを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 愛知万博からの姉妹都市交流が続いている 空港が近くにできて行き来がしやすくなった <p>4 物や人のつながりを支える交通機関について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中部国際空港や名古屋港からの出入国の様子や物の往来の様子を調べる。 中部国際空港について調べる。 人や物の往来が盛んになっている理由について調べ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県国際課、中部国際空港（愛称セントレア）のホームページから中部国際空港への人や物の出入りや友好都市を知ることができる 中部国際空港は、愛知万博開催に伴い開港された空港であり、成田国際空港、関西国際空港に続き、国際線と国内線が併設された利便性の高い空港である。 国内だけでなく海外からの旅行者の利用増も期待されている空港であることなども知らせる。 各市町のホームページは愛知県のホームページからリンクでき、市町が交流している友好都市が分かる。 日本に来た理由について、外国人教師や国際交流協会の人、国際交流で招いた留学生などに聞き取り調査をさせ、関わりやつながりに気付かせ、県の特色を理解させる。 【評】愛知県と他の地域や国とのつながりについて話し合う活動を通して、「主体的に学習する態度」を評価する。 愛知県の友好都市は、オーストラリアのビクトリア州と中国の江蘇省で、各市町の友好（姉妹）提携数は58の国と地域である。 結び付きのある外国の位置や国旗などを地図帳などで確認する。 ゲストティーチャーとして留学生や外国の方を招く場合は、地域の役所に相談するとよい 愛知万博をきっかけにフレンドシップ事業が各市町で続いていることを押さえる。 外国と人や物の往来が年々盛んになっていることに気付かせ、県の人々の生活が外国と深く関わっていることを捉えさせる。 【評】愛知県と他の地域や国とのつながりを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

<p>5～6 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○愛知県と他の地域や国とのつながりを地図にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ○愛知県のよさや将来の願いなどを考え、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・もっと愛知県のよさを愛知県以外の人にもPRしたい ・伝統を大切にし、未来へ残していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の位置や国旗を地図に分かりやすく表現させ、外国とのつながりに対する理解を深めさせる。 <p>【評】地図を作成する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきた「伝統的な工業」「土地の特色」も含めて、自分たちが住む愛知県の良さや特色、将来の展望、郷土への誇りや愛着についてまとめさせるとよい。 <p>【評】愛知県のよさや将来の願いなどをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
--	--

【 備 考 】

<参考URL>

中部国際空港セントレア www.centrair.jp/index.html

愛知県公式webサイト www.pref.aichi.jp/

単元名 世界から見た日本

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 我が国の国土の様子と国民生活について、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解するとともに、地図帳や地球儀、各種の資料で必要なことを調べ、白地図やパンフレットなどにまとめることができる。
- (2) 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれた多数の島からなる国土の構成などに着目し、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現することができる。
- (3) 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、我が国の国土の様子などについて、学習問題などの解決に向けて意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

05030101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 衛星写真を見て気付いたことを話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宇宙から見た地球の写真を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・世界の陸地には茶色や緑色、白色の所がある ・日本は緑の部分が多い ○地球儀で日本とその周りの様子を概観し、単元の学習問題をつかむ。 ★世界の中の日本の様子や特色を探ろう ○学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・どこからどこまでが日本なのだろう ・日本の周りにはどんな国があるのだろう ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…日本の周りの国々、日本の位置や範囲 ・調べる方法…教科書、地図帳、地球儀、インターネット ・表現の仕方…白地図 <p>2 日本や日本の周りの様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地球儀を見て、日本の周りに何があるかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・周りを海で囲まれている ・西に大きな陸地がある ○世界の大陸や海洋について調べる。 ○日本の位置の表し方を考え、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア大陸の東 ・太平洋の西の端 <p>3 世界の主な国の名称と位置を知り、日本との位置関係を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の国の国旗を見て、知っていることを発表する。 ○地球儀や地図帳を使って、世界の主な国を調べる。 ○日本から見た他の国の位置を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカは日本の東にある ・ブラジルは日本から見て、地球の裏側にある ○世界の国々について、白地図にまとめる。 <p>4 日本の位置や範囲について調べ、領土に関する問題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地図を見て、日本の周りには何があるか発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本海などの海洋 ・韓国やロシアなどの国 ○日本の範囲がどこからどこまでか調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・緯度…およそ北緯20度から46度まで ・経度…およそ東経122度から154度まで ・東端…南鳥島 ・西端…与那国島 ・南端…沖ノ鳥島 ・北端…択捉島 ○日本の位置を海や周りの国との位置関係で考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の東と南は、太平洋に面している ・ユーラシア大陸の東にある島国 ○領土問題について知る。 <p>5 単元の学習を振り返り、日本の国土の様子や特色を地図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを白地図に書き入れて、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・六大陸と三大洋 ・日本の位置と範囲 ・日本の周りの国々 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発表を受け入れつつ、「その部分はどくなっているのだろう」と投げかけ、疑問をもたせる。 ・色の違いや大陸同士の距離、日本の位置に着目させる。 ・地球儀を用意し、手で触れる機会を多くもたせる。 <p>【評】世界の中の、日本の国土の様子や特色について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 6～17で、学習の内容を大まかにとらえさせる。 ・インターネットの利用については偏った情報や誤った情報に気を付けるよう指導する ・パンフレットや壁新聞で表現させてもよい <ul style="list-style-type: none"> ・地球儀の他に地図帳なども活用して、日本の周りの様子を調べさせる。 ・六大陸と三大洋の名称や位置を押さえる。 ・日本の位置を、大陸名や海洋名を使って、世界の広がりの中で表現できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・主な国の国旗について、簡単に補説を加える ・調べた国の国旗についても調べさせる。 ・地球儀の特徴を理解させた上で、世界の主な国々がどの位置にあるかを調べさせる。 <p>【評】白地図にまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 14～15「日本の国土のはんい」の地図から読み取らせる。 ・教科書P. 15で、領土、領海、領空、排他的経済水域に触れ、排他的経済水域では鉱山資源を自分の国だけで利用することができることを紹介する。 ・世界の広がりの中で日本の位置を捉えさせ、説明することができるようにする。 <p>【評】日本の位置や範囲について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 16「北方領土、竹島、尖閣諸島の位置」の地図から、それぞれの位置と領土問題の内容について触れる。 <p>【評】日本の国土の様子や特色を地図にまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

第4時の領土問題については，指導要領解説P.76を参照。

単元名 日本の地形や気候

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 我が国の国土の様子と国民生活について、国土の地形や気候の概要を理解するとともに、地図帳や地球儀、各種の資料で必要なことを調べ、まとめることができる。
- (2) 地形や気候などに着目し、国土の地形や気候などの様子を捉え、国土の自然環境の特色について考え、表現することができる。
- (3) 我が国の地形や気候の様子や特色などについて、学習問題の解決に向けて意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

05030102_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日本の四季の写真を見て、気付いたことを話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 四季による気候の違いが分かる写真を参考にして、気付いたことや知っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 春は桜が咲いている ・ 冬は木の枝だけで、雪に覆われている ○ 日本各地の地形の写真を見て、気付いたことを発表する <ul style="list-style-type: none"> ・ 長野県には、高く険しい山が続いている ・ 千葉県には、砂浜が続く海岸がある <p>★日本の地形と気候には、どのような特色があるのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 山以外の場所はどうなっているのかな ・ 地域によって気候が変わるのは、地形が関わっているからだと思う ○ 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる内容…日本の地形の特色、地域による気候の違いと様子 ・ 調べる方法…教科書、地図帳、インターネット ・ 表現の仕方…ノート <p>2 日本の地形の特色について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地図帳や立体模型図を見て、地形について気が付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平地より山地の部分が多い ・ 平地の部分は海に面している ○ 山地と平地と川の関係について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 広い平野には大きな川が流れている ・ 山地から海までの距離が、外国と比べると近い ○ 日本の主な地形を白地図にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 山地、山脈、高地、平野、川 <p>3 火山や台風、梅雨などを調べることで、日本の地形や気候の特色を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 火山の噴火について知っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 畑がだめになったニュースを見たことがある ・ 新しい島ができた聞いたことがある ○ 日本の火山について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 火山の噴火で、農作物や住宅に被害をあたえることがある ・ 火山を利用している所もある ○ 各種資料から、梅雨や台風について気付いたことや知っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年、6月頃に雨が多い ・ 去年の9月に、台風で学校が休みになった ○ 梅雨や台風について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨は自然災害を引き起こす ・ 暮らしや農業にとって必要な水をもたらす <p>4 地域によって異なる気候について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1月の気温の資料を見て、分かることを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県と北海道では、20度以上違いがある ・ 九州から中部地方の太平洋側の気温がやや高い ○ 日本の気候区分を白地図にまとめる。 ○ 白地図にまとめたことと雨音図を比べ、気付いたことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 松本市と高松市は、1年を通して雨が少ない ・ 那覇市は年間を通して気温が高い <p>5 単元の学習を振り返り、日本の地形や気候の特色についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新潟と東京の月別平均気温と降水量を比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P.18「四季のうつり変わりのようす」の写真を参考にして、発表させる。 ・ 四季による変化が日本の特色であることを押さえる。 ・ 教科書P.19の各種写真を参考にして、発表させる。 ・ 写真同士を見比べさせて、場所によって地形が大きく違うことを押さえる。 <p>【評】日本の地形と気候の特色について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P.18～26で、学習の内容を大まかに捉えさせる。 ・ インターネットの利用については、偏った情報や誤った情報に気を付けるよう指導する。 ・ パンフレットや壁新聞で表現させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の地形の立体模型図や代表的な地形の写真を用意しておく。 ・ 教科書P.21「いろいろな地形」を参考に、用語の確認をする。 ・ 教科書P.20「日本の川と外国の川」と本文の記述から、日本の川の特徴を読み取らせる。 <p>【評】白地図にまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P.22の写真を基に、最近起きた火山の噴火や火山の噴火について知っていることを発表させる。 ・ 火山による被害だけでなく、古くから火山を利用してきたことにも目を向けさせるようにする。 ・ 教科書P.23の各種資料を基に、発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 梅雨や台風による被害だけでなく、これらがもたらすよさにも目を向けさせるようにする <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P.24「1月の気温」を基に、北へ行くほど気温は下がり、太平洋側は日本海側に比べて比較的温暖であることを読み取らせる。 ・ 白地図にまとめたことや教科書P.25「日本各地の月別平均気温と月別平均降水量」、本文の記述を基に、話し合わせる。 <p>【評】まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

- ・新潟は冬の降水量が多い
- ・東京は8月から10月にかけて、降水量が多い
- 季節風と山地、気候の違いの関係を調べる。
 - ・冬は北西季節風が日本海側に雪を降らせる
 - ・夏は南東季節風が太平洋側に雨を降らせる
- 学んだことを基に、日本の地形や気候の特色を話し合いまとめる。
 - ・地形の特色
 - ・気候の特色
 - ・地形と気候の関係

- ・気温では大きな差はないが、月別の降水量では大きな違いがあることを捉えさせる。
- ・教科書P.26「季節風と山地の関係」を本文の内容と照らし合わせて読み取らせるようにする。
- ・話し合ったことを基に、日本の地形と気候の特色をノート等にまとめる。
- 【評】日本の地形と気候の特色をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する

【 備 考 】

単元名	(選択単元)さまざまな土地のくらし「気候」	配当時間	5時間
単元の目標	(1) 人々の生活や産業などが自然環境に適応する形で営まれていることを理解するとともに、地図帳や気候グラフなどの資料を活用して調べ、振り返りシートなどにまとめることができる。 (2) 気候に着目して、温暖な気候に暮らす人々の生活を捉え、温暖な気候条件と人々の生活や産業などとの関連について考え、表現することができる。 (3) 学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、温暖な気候の中で努力や工夫をして暮らしている人々について、自分の生活と関連付けて考えようとする。		

標準的な展開例

05030103_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 寒暖に差がある地域や土地の高低が違う地域を比べ、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の住んでいる地域と、沖縄県や旭川市、海津市、婦恋村との違いについて話し合い、単元の学習問題をつかむ。 <p>★暖かい気候の地域に暮らす人々は、どのような工夫をして生活しているのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・台風から暮らしを守る工夫をしている ・暖かいから農業が盛んなのではないか ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…気候、生活、産業 ・調べる方法…教科書、インターネット ・表現の仕方…振り返りシート <p>2 沖縄県の位置と気候について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○那覇市の気温と降水量を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・4～10月の平均気温は20度を超えている ・5～6月と、8～9月の降水量が多い ○沖縄県の気候が暮らしに与える影響をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・4月から海水浴ができる ・田植えや稲刈りが2回ある <p>3 沖縄県の住まいの工夫について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○沖縄県の伝統的な家の様子について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・石垣で囲まれている ・戸口を広くして風通しをよくしている ○沖縄県の現在の家の様子について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートで作られている ・屋根の上に給水タンクがある ○水不足の対策について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・森林や川が多い所にダムを作る ・地下水をせき止める地下ダムを作る <p>4 沖縄県の農業について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○さとうきびの収穫の写真を見て話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・大型の機械で刈り取っている ・高さが2mもあると台風で倒れてしまうのでは ○さとうきび作りがさかんな理由を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・さとうきびは暖かい土地を好む ・強風や日照りに強い ○きく作りがさかんな理由を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・冬でも費用を少なくして出荷できる ・花が咲く時期を調整できる ○さとうきび作りやきく作りの問題点とその対策について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・人手不足や塩害 ・出荷に時間と費用がかかる <p>5 単元の学習を振り返り、沖縄県の人々の暮らしや産業の様子をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○沖縄県に多くの人が訪れる理由を考え、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通して暖かく、過ごしやすいため ・独自の伝統的な文化に魅力があるから ○単元の学習を振り返り、沖縄県の人々の暮らしの工夫を振り返りシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳でそれぞれの位置を確認させたり、既習知識を基に説明させたりする。 ・本単元は、沖縄県について学習していくことを知らせる。 ・自分が住んでいる地域と比べながら話し合わせてもよい。 <p>【評】暖かい気候の地域に暮らす人々の工夫について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.30～37で、学習の内容を大まかに捉えさせる。 ・グラフの読み取り方を確認する。 ・梅雨や台風で降水量が多くなる時期を、グラフで確認させる。 ・愛知や大阪などと比べて考えさせる。 ・教科書P.31「くらしごよみ」を活用させる。 <p>【評】沖縄県の気候と暮らしとの関わりを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.32の写真と絵から、暑さと台風を防ぐ家のつくりになっていることに気付かせる ・屋根の上のタンクに注目させ、水不足になる理由についても考えさせる。 ・沖縄県の山が少なく、川が短いという地形と関連付けながら話し合うようにする。 ・話し合う前に、教科書P.34「沖縄県のおもな農作物の作付面積」のグラフで、さとうきびの作付面積を確認する。 ・さとうきび作りが気候条件や地形条件と深く結び付いていることに気付かせる。 ・強風や害虫からきくを守る工夫についても触れておく。 ・問題点を解決するために取り組んでいることについても話し合わせる。 ・温暖な気候や独自の文化が沖縄県に魅力につながり、それに伴った観光が大きな産業になっていることに気付かせる。 ・アメリカ軍基地の問題についても触れる。 ・自分が住んでいる地域と比べてまとめさせてもよい。 <p>【評】振り返りシートにまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は選択単元であり、標準的な展開例では「温暖多雨の地域」を取り扱っている。教科書P.38～45の「寒い土地の暮らしー北海道旭川市ー」を活用して「寒冷多雪の地域」を選択してもよい。

単元名	(選択単元)さまざまな土地のくらし「地形」	配当時間	5時間
単元の目標	(1) 人々の生活や産業などが自然環境に適応する形で営まれていることを理解するとともに、地図帳などの資料を活用して調べ、振り返りシートなどにまとめることができる。 (2) 地形に着目して、低い土地に暮らす人々の生活を捉え、低い土地の地形条件と人々の生活や産業などとの関連について考え、表現することができる。 (3) 学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、低い土地の中で努力や工夫をして暮らしている人々について、自分の生活と関連付けて考えようとする。		

標準的な展開例

05030104_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 低い土地の様子と自分の住んでいる地域の様子を比べ、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 木曽三川公園の航空写真や輪中の断面図などの資料を見て話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> 大きな川が3本流れている 0mよりも低い土地がある ★低地に暮らす人々は、どのような工夫をして生活しているのだろう 学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 農業に川の水を利用している 洪水から暮らしを守る工夫をしている 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…地形、生活、産業 調べる方法…教科書、インターネット 表現の仕方…振り返りシート <p>2 低地に暮らす人々の工夫や努力について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水害の発生件数の移り変わりについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 1751年～1800年の発生件数が多い 1901年以降、ほとんど発生していない 水害から暮らしを守る工夫を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 1887年～1912年の間に、治水工事を行った 石垣の上に家を建てたり、水屋という避難場所を建てたりした <p>3 輪中での農業について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ほり田と現在の田を比べて、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 今の田と違って、いろんな形の田がある 水路が田の横を通っている 昔の米作りの苦労について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 洪水に悩まされた 収穫が難しいこともあった 現在の農業について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 農地が整備され、大型の機械が使えるようになった 排水機場ができたことで、米以外の作物も作られるようになった <p>4 現在の津市の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水害に備えた取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 水防倉庫が建てられている 国や県が川の水位を監視している 木曽三川の様子について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 大きな公園ができている 川でボートの試合が行われている <p>5 単元の学習を振り返り、低地に暮らす人々の生活の工夫を振り返りシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種資料から津市の特徴をつかませ、自分たちが暮らす地域との違いについて話し合わせる。 川に囲まれた中で、昔から人が暮らしていたことに触れ、水との戦いがあったことを補足する。 【評】低地に暮らす人々の工夫について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 教科書P.46～53で、学習の内容を大まかに捉えさせる。 教科書P.48「水害の発生回数のうつり変わり」から、数値の変化を読み取らせる。 水害が激減した理由を予想させる。 教科書P.48の本文から、工事の概要をつかませ、水害の減少との関連を考えさせる。 教科書P.49を基に、水屋について触れる。 【評】水害を減らす取組を調べる活動を通して「知識・技能」を評価する。 教科書P.50「60年ほど前まで残っていたほり田」の写真を基に、現在の田との違いを話し合わせる。 教科書P.50の図や本文を基にして、ほり田の仕組みを確認し、当時の農作業について調べさせる。 土地の改良や排水機場の整備について、教科書P.51の各種資料で確認させる。 【評】輪中での農業を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 水害に備えた取組について調べる。 水防倉庫が建てられている。 国や県が川の水位を監視している。 現在では、人々が水や自然を有効に活用しながら、暮らしをより豊かにしていることに気付かせる。 教科書P.55のような形式で、『さまざまな土地のくらし「気候」』と併せて行わせてもよい。 自分の住んでいる地域と比べてまとめさせてもよい。 【評】振り返りシートにまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元は選択単元であり、標準的な展開例では「低地」を取り扱っている。教科書P.56～63の「高い土地のくらしー群馬県嬭恋村ー」を活用して「山地」を選択してもよい。

単元名 食生活を支える食料の産地

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 我が国の食料生産は、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解し、日本の食料の主な産地について調べ、産地マップなどにまとめることができる。
- (2) 生産物の種類や分布などに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、調べたことや考えたことを表現することができる。
- (3) 食料生産の概要や食料生産が国民生活に果たす役割について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

05030105_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ある日の給食の献立から、どのような食材が使われているか話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>○ 献立表を見て、給食に使われている食材を知り、単元の学習問題をつかむ。</p> <p>・ピーマン ・にんじん ・だいこん</p> <p>・アジ ・サバ ・豚肉</p> <p>★わたしたちが普段食べている食材は、どこで作られているのだろうか</p> <p>○ 学習問題について予想し、話し合う。</p> <p>・近くに田んぼがあるから、米はそこで作られている</p> <p>・青森産のマグロという表示を見たことがある</p> <p>○ 予想を基にして、学習計画を立てる。</p> <p>・調べる内容…食料の産地、食料を生産する人</p> <p>・調べる方法…教科書、図書資料、地図帳、インターネット</p> <p>・表現の仕方…産地マップ</p> <p>2～3 日本の食料の主な産地を調べる。</p> <p>○ 主な食料の国内における生産量や飼育頭数を調べる。</p> <p>○ 食料の産地が書かれた店のちらしや値札などを基に、食料品ごとの産地マップを作る。</p> <p>○ 産地マップから分かったことを話し合い、まとめる。</p> <p>・米は全国で作られている</p> <p>・みかんは暖かい地域で作られている</p> <p>・畜産物は北海道や九州が多い</p> <p>4 調べたことを基に、単元をまとめる。</p> <p>○ スーパーマーケットなどの店に食料が並ぶまでについて調べる。</p> <p>・農業や畜産業、水産業で働く人たちによって生産、加工されている</p> <p>・船やトラックなどで運ばれてくる</p> <p>○ 普段食べている食材がどこで作られているかをまとめる</p>	<p>・「米」「魚」「野菜」「肉」「くだもの」で分類する。</p> <p>【評】食材の産地や生産者について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・教科書P.66～73で、学習の内容を大まかに捉えさせる。</p> <p>・各種資料を基に、まとめる活動を重視する。</p> <p>・教科書P.69「おもな食料の国内における生産量と飼育頭数」を基に、調べさせる。</p> <p>・食料の分類ごとに地図を用意し、ちらしの切り抜きやイラストなどを地図上に貼らせて、産地マップを作成させる。</p> <p>【評】産地マップを作成する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・支援が必要な児童には、教科書P.70～71「おもな食料の産地」の地図から気付かせる。</p> <p>・既習の地形などにも注目させ、食料の生産と関わりがあるか考えさせる。</p> <p>・話し合いで分かったことや考えたことをノートやワークシートにまとめさせる。</p> <p>【評】主な食料の産地について分かったことをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P.72の記述から、「農業」「畜産業」「水産業」について押さえ、食料が店に並ぶまでの大まかな流れをつかませる。</p> <p>・食材をいくつか選択させ、ノートやワークシートなどにまとめさせる。</p>

【 備 考 】

- ・本単元は、大単元「わたしたちの食生活を支える食料生産」の導入単元であるため、今後の米や水産物などの学習へとつなげていく内容となるよう配慮する。
- ・本単元で作成する、各食料品の産地マップは、これ以降の単元でも活用できるとよい。

単元名 米作りのさかんな地域

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 日本の米作りは、自然条件と深い関わりがあることや、農家の人々の工夫や努力を理解するとともに、地図帳や各種資料で調べ、新聞などにまとめることができる。
- (2) 米の生産の分布や生産量、作業工程、技術の向上、輸送、人々の協力関係などに着目し、米の生産の概要と農家の人々の工夫や努力を捉え、米の生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。
- (3) 米の生産の概要や農家の人々の工夫や努力などについて、学習問題の解決に向けて意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

05030106_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 食生活と米との関わりについて話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○米について知っていることを発表する。 ○米の産地について調べ、話し合い、単元の学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・北海道や新潟県の生産量が多い ・寒い地域での米作りが盛ん <p>★米はどのように作られ、わたしたちのもとに届くのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・近くにあるような田んぼで、農家の人が作っている ・できた米は農家の人が運んでいると思う ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…米の生産地、自然条件、米の作り方、米作りを支える人々、米の輸送経路 ・調べる方法…教科書、図書資料、インターネット ・表現の仕方…新聞 <p>2 山形県庄内平野の米作りについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○庄内平野の土地利用について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・平野が広がっていて、ほとんど田で利用されている ・長方形の田がきれいなになっている ○鶴岡市と気仙沼市の日照時間と平均気温を比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼市より夏の日照時間が長い ・気仙沼市より気温が高い ○調べたことを基に、庄内平野で米作りが盛んな理由を考え、まとめる <ul style="list-style-type: none"> ・夏に晴れの日が多くなるから ・川があって水が豊富 <p>3 米の作り方について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○米作りに必要な作業を予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・田植え ・稲刈り ○農事ごよみで米作りの1年を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・5月に田植えをする ・9月～11月にかけて稲刈りや出荷をする ○米作りにおける工夫や努力を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・丈夫な苗を育てる ・きめ細かく水の管理をする <p>4 ほ場整備と機械化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業機械の広まりと耕作時間の変化について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・年間耕作時間はどんどん少なくなっている ・農機具にかかる費用や共同の農業施設や機械などにかかる費用の割合が多くなっている ○機械化による米作りの変化について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・機械にかかるお金が負担になる ・他の農家と協力することで、かかる費用を減らしている ○ほ場整備前後の写真を比べて気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場整備後は田の形が整っている ・ほ場整備後は通路の幅が広がっている ○ほ場整備を行った理由について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・機械を使いやすくするため 	<ul style="list-style-type: none"> ・前単元を活用し、米を食べることが多いことに気付かせる。 ・日本では、米を主食としてきたことや米を使った製品が多いことを押さえておく。 ・教科書P.76「米の生産量と作付面積」を基に話し合わせる。 ・米は熱帯原産の植物であるにもかかわらず、日本では寒い地方で多く作られていることに気付かせる。 ・前単元「食生活を支える食料の産地」で作成した「産地マップ」を活用してもよい。 <p>【評】米作りについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.74～88で、学習の内容を大まかにとらえさせる。 ・振り返りシートで表現させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.78～80の土地利用図や写真資料から読み取らせる。 ・地図帳P.45も活用させる。 ・教科書P.81の二つのグラフの読み取り方を確認してから取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・庄内平野の地理的条件や気候条件が米作りに適していることを押さえる。 <p>【評】米作りが盛んな理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.82～83の各種資料を活用し、作業順序を確認させる。 ・教科書P.83「米作りの農事ごよみといねの生長」を基に、調べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.82「米農家の五十嵐さんの話」も参考に、農家の方が米を生産するために一年間努力していることに気付かせる。 <p>【評】米作りの1年や農家の工夫、努力を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.84「山形県の10aあたりの年間耕作時間のうつり変わり」「10aの水田にかかる1年間の費用の内わけ」のグラフから、機械化の広まりと耕作時間の変化の関連を考えさせる。 ・教科書P.84「米農家の五十嵐さんの話」を参考にさせて考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・田や周りの様子に注目させ、形をそろえる理由を予想させる。 ・ほ場整備を行うことで作業効率が上がることを捉えさせる。

<ul style="list-style-type: none"> ・用水路や排水路を整えるため <p>5 米作りを支える人々の仕事について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○庄内平野で作られている米の品種について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・昔は、ササニシキが多かった ・現在は、はえぬきが多く作られている ・2016年には、つや姫という米が新しく加わっている ○「つや姫」ができるまでと特長を調べる。 ○品種改良に携わる人々の工夫や努力について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・冷害に強い米を作り出している ・さまざまな検査をして、品種改良を行っている ○化学肥料とたい肥の違いについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・化学肥料は安くて効き目が早いが、自然や人体への影響が出ることが心配されている ・たい肥は高く効き目もゆっくりだが、水はけや水を保つ力が高まり、利用が増えている <p>6～7 単元の学習を振り返り、日本の米作りについてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○消費者に米が届くまでの経路や工夫について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・各地のJAを通す場合もあれば、農家から直接販売することもある ・米の味が落ちないように、輸送方法や保管方法を工夫している ○米作りの過程や農家の人々の工夫や努力、米の生産とわたしたちの生活の関わりを新聞にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「品種」の意味を押さえておく。 ・教科書P. 86「庄内平野のおもないねの品種別作付面積のわりあいの移り変わり」のグラフから読み取らせる。 ・「品種改良」について補説する。 ・教科書P. 87の写真や「水田農業試験場の渡部さんからのメール」を参考にさせる。 <p>・教科書P. 87「化学肥料とたい肥のちがひ」や本文の記述を基に、調べさせる。</p> <p>・教科書P. 88「庄内米の地方別出荷量」「米がわたしたちにとどくまで」や本文の記述を基に調べさせる。</p> <p>・米の生産がわたしたちの生活を支えていることを考えさせたい。</p> <p>【評】新聞にまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】米の生産とわたしたちの生活との関連を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】

単元名 (選択単元)水産業のさかんな地域

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 日本の水産業は、自然条件と深い関わりがあることや、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解するとともに、地図帳や各種資料で調べ、報告書などにまとめることができる。
- (2) 魚種の分布や主な漁港の水あげ量、作業工程、技術の向上、輸送、人々の協力関係などに着目し、水産業の概要と生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、水産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。
- (3) 水産業の概要や生産に関わる人々の工夫や努力などについて、学習問題の解決に向けて意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

05030107_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 食生活の中で口にしている水産物について話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食生活の中でどのような水産物を食べているかを発表する。 ○水産物について知っていることを話し合い、単元の学習問題をつかむ。 ★水産業で働く人々は、どのような工夫や努力をしているのだろう ○学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本は海で囲まれているから、近くの海で魚を獲っていると思う ・新鮮な魚を運ぶためにどのような工夫をしているのだろう ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…漁場、漁港、漁業の種類 ・調べる方法…教科書、図書資料、インターネット ・表現の仕方…報告書 <p>2 水あげ量が多い漁港や日本近海の漁場について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書P.92「おもな漁港の水あげ量と海流のようす」を見て気が付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・銚子漁港の水揚げ量が多い ・暖流と寒流がぶつかっている ○日本の周りの海が恵まれた漁場になっている理由について話し合う。 <p>○銚子漁港について、調べたいことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・魚をどのようにとっているか ・漁港はどんなことをする場所か </p> <p>3 どのように漁業を行っているのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻き網漁について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・3種類の船で漁を行う ・魚群探知機を使う ・網で囲み底を閉じて引き上げる ○漁をする人々の工夫や努力について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・天候や漁場の情報を入手しながら漁を行う ・費用を減らすための工夫をしている <p>4 銚子漁港の様子と輸送について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○銚子漁港について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・広い範囲にいろいろな施設がある ・卸売市場が三つもある ○教科書P.96「銚子漁港の水あげの内わけ」のグラフから読み取れることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・サバやマイワシの水あげが多い ○漁港の役割についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・魚を選別している ・水産物の加工も行っている ○魚がわたしたちの元へ届くまでを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・品質を保つための温度管理が重要 ・外国へ船で輸出される魚もある <p>5 のりの養殖について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○佐賀県佐賀市の、のりの養殖について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・有明海は流れ込む川の栄養分が豊富 ・干満の差があるので、海水の栄養と太陽の光を代わる代わるに吸い込むことができる ○のりの養殖の方法について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物には多くの種類があり、たくさん消費していることに気付かせる。 <p>【評】水産業について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.90～102で、学習の内容を大まかにとらえさせる。 ・新聞で表現させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・「水あげ量」と「海流」の説明を行ってから資料を読み取らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「プランクトン」と「大陸だな」の説明を行ってから考えさせる。 ・暖流と寒流が流れていることや大陸だなが広がっていることで、魚介類の種類が豊富なことを押さえる。 <p>【評】日本近海の漁場の特徴を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水あげ量が日本一多い銚子漁港に注目させ、水産業のようすを調べるきっかけとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.94「キーワード」で、「遠洋漁業」「沖合漁業」「沿岸漁業」「養殖業」の意味を理解させてから、巻き網漁の方法を調べさせる。 ・魚群探知機の仕組みを補説する。 ・教科書P.95「大西さんからの話」を参考にまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳で千葉県銚子市の位置を確認させる ・教科書P.96の航空写真から読み取らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・水揚げされる魚の写真を用意しておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.97の各種写真を参考にまとめさせる <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.98「魚がわたしたちのもとへとどこまで」や本文の記述を基に調べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や教科書で佐賀県佐賀市の位置を確認する。 ・有明海がのりの養殖に適していることを押さえる。 ・教科書P.101「のりの養しょくのこよみ」や

<ul style="list-style-type: none"> ・刈り取りの時期が2回ある ・のりが傷んでいないか，病気をしていないか観察している <p>○養殖が盛んな地域や養殖されている水産物について調べる。</p> <p>○養殖業のよさと問題点について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に安定した収入を得ることができる ・赤潮や海の汚れの影響を受けてしまう <p>6 単元の学習を振り返り，日本の漁業についてまとめる。</p> <p>○漁業のようすや水産業に関わる人々の工夫や努力，水産業とわたしたちの生活の関わりを報告書にまとめる。</p>	<p>本文の記述を基に調べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.102「養しよく業のさかんな地域」「養しよくのしめるわりあい」を基に調べさせる。 ・よさと問題点を予想させた後，教科書P.102の本文の記述を基に調べさせる。 ・「赤潮」の発生について補足する。 <p>【評】報告書にまとめる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p>
---	---

【 備 考 】

本単元は選択単元であり，標準的な展開例では「水産物」を取り扱っている。教科書P.104～109の「畜産業のさかんな宮崎県」を活用して「畜産物」を選択したり，教科書P.110～111の「くだもの作りのさかんな和歌山県」を活用して「果物」を選択したり，教科書P.112～113の「野菜作りのさかんな高知県」を活用して「野菜」を選択したりしてもよい。

単元名 これからの食料生産

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 日本の食料生産は、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、これからの食料生産について重大な課題があることを理解するとともに、地図帳や各種資料で調べ、提案書などにまとめることができる。
- (2) 輸入など外国との関わり、食糧自給率の変化、生産量や働く人の変化などに着目し、食料生産や食料輸入の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。
- (3) 日本の食料生産や食料輸入などについて、学習問題の解決に向けて意欲的に追究しようとする

標準的な展開例

05030201_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 外国産の食料品について話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 114の写真や広告などで、外国産の食料品を調べる。 食料輸入の現状を概観し、単元の学習問題をつかむ。 <p>★これからの食料生産は、どのように進めていくとよいだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 国内の生産を増やすとよい 輸入した食料品より安く売ればよい 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…食料自給率、食料輸入、日本における工夫、国産食品のよさ 調べる方法…教科書、図書資料、インターネット 表現の仕方…提案書 <p>2 日本の食料輸入について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 食料自給率の移り変わりについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 米の食料自給率が最も高いが、それでも100%を切っている 小麦と大豆の自給率がかなり低い 食料の輸入が増えている理由を調べ、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 農地に使える土地が少ない 日本人の食生活が変わってきた <p>3～4 食料の輸入や日本の食料生産についての問題を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> 食料を輸入に頼ることによる影響について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 食の安全性 人口増加 気候の変化 外交の問題 自然破壊 日本の食料生産をめぐる問題を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 漁場環境の変化による漁獲量の減少 食生活の変化による、米の消費の減少 農業従事者の高齢化による耕作放棄地の増加 <p>5 水産業や農業で行われている工夫について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁師さんたちの自主的な活動を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 漁獲量を制限したり小さな魚は海に戻す ブランド化による高値での取引 国や県の取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 国はサンマやアジなどの漁獲量を決めている 栽培漁業に取り組む都道府県もある <p>6 農業でどのような取組をしているか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 米作りでどのような取組をしているか調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 消費者の声を受け、新しい品種を開発し、ブランド化している 会社が広い農地を借り、人を雇って大規模な農業を行っている 野菜の生産でどのような取組をしているか調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前にスーパーマーケットなどの広告を集めさせておく。 教科書P. 115「おもな食料の輸入先と輸入量のわりあい」を基に、食料輸入の現状をつかませる。 <p>【評】食料生産について話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 114～126で、学習の内容を大まかに捉えさせる。 報告書や新聞で表現させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> 「食料自給率」の意味を押さえてから、教科書P. 116「日本のおもな食料自給率のうつり変わり」を基に調べさせる。 食品の原料となる小麦や大豆も輸入に頼っていることを押さえる。 教科書P. 116～117の各種資料や本文の記述を基に考えさせ、話し合わせる。 <p>【評】食料自給率や食料輸入について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 118～119の各種資料を基に、調べさせる。 インターネットを活用させてもよい。 食料を輸出する国との関係や、外交、自然破壊などの問題も大きく影響を与えることを押さえる。 これらの問題は国内でも起きており、外国産だけの問題ではないことに触れておく。 教科書P. 120～121の各種資料を基に、調べさせる。 環境や食生活の変化、農業や水産業に携わる人の高齢化などの問題が起きていることを押さえる。 <p>【評】食料の輸入や日本の食料生産の問題を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 122「水産資源をとりながら、保つための考え方」や「金野さんの話」などを基に、調べさせる。 教科書P. 123の各種資料や本文の記述を基に調べさせる。 水産物の資源管理のよさについても考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 124の各種資料や本文の記述を基に調べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 125の各種資料や本文の記述を基に調べさせる。

- ・限られた土地を有効活用している
- ・ビニルハウス内の環境に関する情報を計測し、きめ細やかな生産をしている

7 国内の食料のよさを調べる。

- 国内で作られた食料について知っていることを発表する
 - ・外国のものに比べると値段が高い
 - ・日本産は安全だと家の人が言っていた
- 国内の食料のよさを調べる。
 - ・産地直売所では、新鮮で安全・安心な農産物を安い値段で買うことができる
 - ・トレーサビリティによって、安心して買い物ができる
 - ・和食ブームによって、農産物の輸出が増加している
- 国内で作られた食料と輸入した食料、それぞれのよさを考える。
 - ・国内産は新鮮で、誰がどのように作っているかが分かる
 - ・外国産は、安く買うことができる

8 単元の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。

- これからの日本の食料生産の在り方について、自分の考えを提案書にまとめる。

- ・教科書P.126を参考にして、「トレーサビリティ」の意味を押さえておく。
- ・産地直売所やトレーサビリティの実施のよさを押さえておく。

- ・国産品、輸入品のそれぞれによさがあることに気付かせる。

- ・教科書P.127～129を参考にして、多面的・多角的に日本の食料生産について考えさせる。
- 【評】提案書にまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 **くらしや産業を支える工業生産**配当時間 **4時間**

- 単元の目標 (1) 日本では様々な工業生産が行われていることや、工業の盛んな地域が広がっていること、工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地図帳や地球儀などで調べ、白地図などにまとめることができる。
- (2) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。
- (3) 工業生産の概要について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

05030202_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身の回りにある工業製品を出し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 電話の移り変わりを見て、工業製品の進歩について知る ○ 生活の中でどのような工業製品が使われているかをカードに書き、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車 ・電車 ・机 ・鉛筆 ・テレビ ・スマートフォン ・冷蔵庫 ・醤油 ・パン ・缶詰 ○ 日本の工業について調べてみたいことを話し合い、学習問題をつかむ。 ★わたしたちが使う工業製品は、どこで作られているのだろう ○ 学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車は豊田市で多く作られていると思う ・海の近くに工場が多い気がする ○ 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…工業の種類、工業が盛んな地域と特色 ・調べる方法…教科書、図書館、インターネット、地図帳 ・表現の仕方…白地図 <p>2 工業にはどのような種類があるか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工業製品のカードを、似ている物同士で分類する。 <ul style="list-style-type: none"> ・扇風機と洗濯機は電気で動くところが似ている ・チョコとパンは食品だから同じグループ ○ 工業の種類を調べ、「工業製品カード」の分類が何に当たるのかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・鍋やフライパンのグループは金属工業 ・本や木でできた棚のグループは木・紙・印刷工業 <p>3 工業が盛んなところはどこか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工業地帯や工業地域について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・場所 ・工業の種類 ・工業生産額 ○ 太平洋ベルトに工業地帯や工業地域が集まっているのはなぜか考え、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・原料や工業製品を船で運ぶことが多いから ・働く人や工業製品を利用する人がたくさん住んでいるから ・トラックで運ぶために、高速道路が通っているところに集まっている <p>4 調べたことを基に、単元の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工業製品がどこで作られているのかを白地図にまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.133「電話のうつり変わり」を基に工業製品の進歩がわたしたちの暮らしに大きな影響を与えてきたことを知らせる。 ・教科書P.132で「工業」がどのような産業かについて押さえておく。また、食料から作られるしょうゆやパンなども工業製品であることも押さえておく。 ・教科書P.133を参考に「工業製品カード」を作らせ、毎日の生活やこれまでの経験から、身の回りにある工業製品について発表させる <p>【評】工業製品がどこで作られているかについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.132～138で、学習の内容を大まかに捉えさせる。 ・振り返りシートにまとめさせてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時に作った「工業製品カード」を使って、似ているカードでグループを作らせる。 ・どのような分類か名前を付け、分類した理由が分かるようにしておく。 ・教科書P.134「工業の分類」を基に、分類した工業製品の種類で分けさせる。 ・日本の工業の大まかな変遷を、教科書P.134の本文を基に押さえておく。 <p>【評】工業製品を分類する作業を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容を白地図にまとめさせる。 ・「工業地帯」「工業地域」「太平洋ベルト」の意味を押さえておく。 ・工業地帯や工業地域に含まれる都道府県を確かめておく。 ・困っている児童には、教科書P.138の本文の記述を参考にさせる。 <p>【評】太平洋ベルトに工業地帯や工業地域が集まっている理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白地図にまとめるとともに、学習内容を基に工業地帯や工業地域で工業が盛んになった理由もまとめさせる。

【 備 考 】

本単元は、大単元「工業生産とわたしたちのくらし」の導入単元であるため、今後の選択単元（自動車工業、食料品工業、製鉄業、石油工業）や貿易の学習につなげていく内容となるよう配慮する。

単元名 (選択単元)自動車工業のさかんな地域

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 日本の自動車工業は、消費者の多様な需要に応え、環境に配慮しながら優れた製品を生産するために工夫や改善が行われていることや、国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解するとともに、工場を見学したり各種の資料で調べたりして、提案書などにまとめることができる。
- (2) 製造工程、自動車工場と関連工場との相互の協力関係、優れた技術や開発などに着目し、自動車工業に携わる人々の工夫や努力を捉え、自動車工業が国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。
- (3) 日本の自動車工業の製造工程や、新しい自動車の開発などを基に、学習問題の解決に向けて追究しようとする。

標準的な展開例

05030203_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 中京工業地帯の様子を概観し、単元の学習問題をつかみ学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中京工業地帯の工業の様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・輸送用機械の生産が盛ん ・自動車の部品を作る工場が多い ○自動車の使われ方やメリット、デメリットについて話し合い、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・習い事のときに、校区の外まで送ってもらう ・排気ガスによって空気が汚れてしまう ★これから求められる自動車について考えよう ○学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・事故を起こさない車 ・空気を汚さない車 ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…工場の仕組みや様子、働いている人の工夫や努力、運輸の働き、これからの自動車作り ・調べる方法…教科書、図書室、インターネット、工場の見学 ・表現の仕方…提案書 <p>2 自動車工場の写真を見て、自動車生産の大まかな流れを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生産ラインに並ぶ自動車の写真を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ロボットを使っている ・検査は人の目で行われている ○自動車生産の大まかな流れを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・プレス ・溶接 ・塗装 ・組み立て ・出荷 <p>3～5 工場見学をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工場見学の計画を立てる。 ○工場の様子を観察する。 ○見学して分かったことをまとめる。 <p>6 工場働く人々の工夫や努力について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工場働く人々の様子について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・職場で工夫することや改善することがないか話し合っている ・車体を傷つけないためのカバーは、働いている人の提案から生まれた ○働く人の勤務について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・2交代制 ・危険な仕事はロボットが行う <p>7 関連工場と自動車工場の関わりを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シートを作る関連工場について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジャスト・イン・タイムの考え方 ・シートを作るために、多くの関連工場部品を作ってもらっている ○自動車工場と関連工場のつながりについて調べ、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・一つの部品を作るために、多くの関連工場がつながっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 140「中京工業地帯のおもな工業と工業生産額が多い市町」や本文の記述を基に自動車の製造に関わる工場が多数あることに気付かせる。 ・今までの経験から、自分の暮らしと自動車との関わりを想起させる。 ・教科書P. 141のグラフや写真、本文の記述も参考にさせる。 <p>【評】学習問題について話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 140～156で、学習内容を大まかに捉えさせる。 ・新聞や意見書で表現させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 142～143の自動車工場の全景写真で主な工程を確認した後、折り込み資料を見させて、気付いたことを発表させる。 ・流れ作業やロボットを使ったオートメーションなどの大量生産の仕組みに気付かせる。 ・教科書P. 144～147を基に調べさせる。 ・教科書P. 147の写真から工場の工夫に気付かせる。 <p>【評】自動車生産の大まかな流れを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 143を参考に、見学の視点を明確にさせ、目的意識をもたせる。 ・マナーを守って見学できるよう、事前指導をしておく。 <p>【評】工場見学で分かったことをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 148の写真や本文の記述などを基に調べさせる。 ・働きやすい職場作りや無駄なく自動車を生産するための工夫や改善点が話し合われ、よい提案は実行されていることを押さえておく <ul style="list-style-type: none"> ・作業の工夫や安全性の向上により、効率的な自動車生産を行っていることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・納品の期限や品質の管理などに気を付けていることを押さえておく。 ・シート工場も、他の関連工場とつながっていることを押さえておく。 ・自動車工場の効率的な生産は、関連工場によって支えられていることに気付かせる。

<ul style="list-style-type: none"> ・自動車を作る人よりも、部品を作る人の方が多い <p>8 自動車の行方について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○完成した自動車がどこへどのように出荷されているか調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・国内へ出荷するときはキャリアカーで運ぶ ・外国へは船で出荷する ○海外での自動車生産について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・海外に工場を作り、現地の人を雇っている ・現地生産の台数が増えている <p>9 これからの自動車作りについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全で人に優しい自動車作りについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・エアバック ・自動ブレーキ ・衝突実験 ・体が不自由な人のための運転装置 ○環境に優しい自動車作りについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリットカーや電気自動車など ・自動車のリサイクル <p>10 単元の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これから求められる自動車の在り方について、自分の考えを提案書にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 152「自動車が消費者のもとへとどけられるまで」や「自動車工場の人の話」を基に調べさせる。 ・完成した自動車の行方を追うことで、外国との関わりに目を向けさせる。 ・教科書P. 153の各種資料や本文の記述から、海外に工場を作っていることや現地生産のメリットについて押さえておく。 ・白地図を利用して、海外工場の広がり気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットやインターネットなどを活用して調べさせてもよい。 ・安全に快適に運転できる技術を開発していることを押さえておく。 ・教科書P. 156の各種資料や本文の記述から、環境への配慮について気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい技術だけでなく、人や環境のことも配慮できるよう働きかける。 <p>【評】提案書にまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これから求められる自動車の在り方について、自分の考えをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>
---	--

【 備 考 】

本単元は選択単元であり、標準的な展開例では「機械工業」を取り扱っている。教科書P. 158～161の「わたしたちの暮らしを支える食料品工業」を活用して「食料品工業」を選択したり、教科書P. 162～165の「わたしたちの暮らしを支える製鉄業」を活用して「金属工業」を選択したり、教科書P. 166～169の「わたしたちの暮らしを支える石油工業」を活用して「化学工業」を選択したりしてもよい。

単元名 日本の貿易とこれからの工業生産

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 貿易や運輸は原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地図帳や各種資料で調べ、振り返りシートなどにまとめることができる。
- (2) 交通網の広がり、外国との関わり、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目し、貿易や運輸の様子や工業生産に関わる人々の工夫、努力を捉え、貿易や運輸の役割や工業生産に関わる人々の働きを考え、表現することができる。
- (3) 日本の工業生産を盛んにする取組や貿易や運輸の働きなどについて、学習問題の解決に向けて意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

05030204_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 既習事項から工業生産と輸送の関わりについて考え、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「運輸」の意味や役割を知り、産業と運輸の関わりや産業の発展に欠かせないことなどについて話し合い、単元の学習問題をつかむ。 <p>★工業生産を盛んにするために、どのような取組をしているのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 海外と輸出入を行っている 新しい技術を開発している 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…日本の輸出入の特色、貿易をめぐる問題、新しい製品の開発、大工場と中小工場 調べる方法…教科書、地図帳、だいすき大愛知、インターネット 表現の仕方…振り返りシート <p>2～3 日本の輸出入の特色について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業製品を作るために必要なものについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 原料が必要 エネルギーが必要 原料やエネルギー資源の輸入について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 輸入先 輸入額 輸入量と国内生産量 日本の輸入額や輸入品の内訳について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 40年前に比べて、輸入額が約30兆円増えている 機械類の割合が2倍以上に増えている 日本の輸出額や輸出品の内訳について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 輸出額は年々増加している 機械類が一番多い 加工貿易について知る。 日本と盛んに貿易をしている国を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 中国やアメリカ <p>4 貿易をめぐる問題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の貿易額の移り変わりについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 1985年以降は輸出額が輸入額を上回っていることが多い 最近だと、2015年だけは輸入額の方が多くなっている 貿易の問題について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 貿易摩擦 産業の空洞化 自由な貿易の良い点と問題点について調べ、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> それぞれの国の産業や交流が盛んになる 大きな損失を受ける産業や働く人が出てくる <p>5 大工場と中小工場について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大工場と中小工場の違いを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 工場の99.2%が中小工場 中小工場は一人あたりの生産額が少ない 中小工場の特色について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 機械の部品などを作って、大工場に納めている 部品の値段が安いので、一人あたりの生産額が少ない <p>6 中小工場がもっている技術について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中小工場のもつ高い技術について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 絶対に緩まないナット ナットの表面を加工する工場 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を基に、「運輸」の意味について押さえ、工業生産には運輸が大きな役割を果たしていることに気付かせる。 工業生産に欠かせないのは運輸だけなのかと投げかけ、学習問題の設定につなげる。 <p>【評】工業生産を盛んにしているものについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P.170～183で、学習の内容を大まかに捉えさせる。 報告書や新聞で表現させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの工業製品について話し合い、原料とエネルギー資源に絞って調べる。 白地図での作業を取り入れ、原料やエネルギー資源の輸入先などをまとめさせる。 教科書P.173「日本の輸入品の内わけとうつり変わり」を基に、輸入の内訳に変化があった理由について考えさせる。 教科書P.174「日本の輸出品の内わけとうつり変わり」を基に、輸出の内訳に変化があった理由について考えさせる。 「加工貿易」の意味を押さえておく。 教科書P.175「日本との貿易の多い国・地域」を基に、日本と貿易が盛んな国や、貿易額輸出入の割合などを読み取らせる。 <p>【評】日本の輸出入の特色について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P.176「日本の貿易額のうつり変わり」を基に話し合わせる。 輸出額と輸入額の差額を目を向けさせ、貿易による黒字があることを押さえておく。 「貿易摩擦」「産業の空洞化」の意味を押さえておく。 貿易摩擦や産業の空洞化によって起きる問題について考えさせる。 日本だけでなく、相手国の立場に立たせて考えさせる。 世界の国々では、自由に貿易を行う動きが広がっていることに触れる。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書P.178の各種資料を基に調べさせる。 大工場と中小工場は、従業員の数で区別されていることを押さえておく。 <p>【評】中小工場の特色について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 独自の技術をもつ地域の中小工場も紹介できるとよい。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 工場同士のつながりについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・他の中小工場と協力して部品や製品を作っている ・高い技術を生かして、品質の高いものを作っている 7 社会の変化に応じた工業製品の開発について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 高い技術を生かした部品や工業製品の開発について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器やロボットに使われるモーター ・介護ロボットの開発 ○ 社会の変化に合わせた工業製品の開発について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・IoTによる、新しいサービスの誕生 ・環境に優しい製品の開発 8 単元の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 運輸や貿易、産業の発達について分かったことや、自分の考えを振り返りシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の工業は、中小工場がもつ高い技術によって支えられていることに気付かせる。 ・教科書P.182の写真や本文の記述などを基に調べさせる。 ・教科書P.183の記述を基に、「Iot」の意味を押さえておく。 ・社会の変化に合わせて、新しい技術や工業製品が生み出されていることに気付かせる。 ・工業生産には運輸や貿易の働きが必要不可欠であることや、高度な技術力を基に新しい工業製品が開発されていることなどをまとめさせる。 ・これからの工業生産を発展させるために何が必要か考えさせ、まとめさせる。 ・まとめる活動に際し、貿易や運輸の役割を文章でまとめることが考えられる。 【評】振り返りシートにまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
--	---

【 備 考 】

単元名 (選択単元) 情報をつくり、伝える

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 産業と情報との関わりについて、新聞などの産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解するとともに、聞き取り調査や映像、新聞などの資料で調べ、振り返りシートなどにまとめることができる。
- (2) 情報を集めて発信するまでの工夫や努力などに着目して、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。
- (3) 情報をつくり伝える仕事について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、情報の受け手として正しく判断したり、送り手として責任をもったりするなど、情報社会に生きる一員としての在り方を考えようとする。

標準的な展開例

05030205_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 暮らしの中で手に入れている情報に興味をもち、情報を手に入れる方法を調べ、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報をどのような形で手に入れているかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ ・ 新聞 ・ インターネット ・ ラジオ ・ 雑誌 ・ 回覧板 ○ 手に入れている情報の良い点や悪い点を話し合い、単元の学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞…少し遅れるが、情報の出所がはっきりしている ・ インターネット…すぐ手に入るが、真偽がはっきりしない ★ 私たちは情報とどのように関わっていくとよいのだろう ○ 学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような情報があるかを知っておくとよい ・ 正しい情報を手に入れるようにするにはどうしたらよいのだろう ○ 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる内容…情報の内容、新聞ができるまで、メディアとの関わり方 ・ 調べる方法…教科書、インターネット ・ 表現の仕方…振り返りシート <p>2 新聞に載っている情報について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞から得られる情報について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気予報が載っている ・ 社会の出来事が分かる ・ テレビで何がやらかが載っている ○ 新聞の構成や内容について調べ、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1面には重要な記事が書かれている ・ 見出しが付けられていて、内容が分かりやすい <p>3～4 新聞がどのように作られているかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報が記事になるまでを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支局の取材記者が情報を集めている ・ 取材記者は、情報を集めるために、様々な視点で取材している ○ 新聞が届くまでの作業について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 記事の作成 ・ 編集 ・ 紙面作り ・ 最終チェック ・ 印刷 ・ 配達 <p>5 情報の伝え方とその影響について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二つの新聞社の1面記事を比べて、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ プロ野球チームの優勝の扱い方が違う ・ 同じ出来事でも書いてある内容に違いがある ○ マスメディアが暮らしに与える影響を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 誤った情報や捏造による影響 ・ 報道被害を受ける人たちの存在 <p>6 メディアとの関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ マスメディア以外に情報を得る方法を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットから情報を得られる ・ SNSを通じて知ること多い ○ メディアの発達と交流の手段の変化について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットでいつでも、どこでも、誰でも情報を得られるようになった ・ SNSで世界中の人と交流できる <p>7 情報社会の問題について調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 188を参考に、「情報」の意味を押さえておく。 ・ 教科書P. 188～189の挿絵から、身の回りにある情報の多さに気付かせる。 ・ 教科書P. 190を参考に、「メディア」「マスメディア」の意味を押さえておく。 ・ メディアのデメリットや情報の多さに触れる ・ 教科書P. 190「おもなメディアの特ちょう」を参考にしてもよい。 <p>【評】 情報との関わり方について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 188～203で、学習内容を大まかに捉えさせる。 ・ 報告書や提案書などで表現させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞を家庭から持たせるとよいが、購読していない家庭もあるので、教師で準備しておく ・ 文字の大きさ、写真の使い方、記事の配置など、気付いたことを発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 194～195の各種資料や本文の記述などから、各地に支局を置いて、地域の情報をきめ細かく集めていることに気付かせる。 ・ 新聞社が正確な情報を読者に伝えるために取り組んでいることに目を向けさせる。 <p>【評】 新聞がどのように作られているかを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 198の二つの記事を比べさせたり、本物の新聞を用意して比べさせたりする。 ・ 伝え方の違いによって受ける印象の違いを話し合わせる。 ・ 暮らしや人、企業などに大きな影響を及ぼした事実を提示できるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会では、マスメディアだけでなく、インターネットやSNSなど、個人が発信する情報を得る機会が増えていることに気付かせる ・ 教科書P. 201を参考に、「SNS」「ブログ」の意味を押さえておく。 ・ 教科書P. 200～201の各種資料を基に、情報通信機器の発達と利用者の移り変わり、交流の形の変化について調べさせる。

○ インターネットの利用をめぐる問題を調べる。

- ・ 個人情報の流出
- ・ ネットいじめ
- ・ 誤った情報の拡散
- ・ ネット犯罪の増加

○ インターネットを利用する際に、気を付けたいことを考える。

- ・ 正確な情報を送るようにする
- ・ 信用できる情報かどうかを考えて受け取る

8 単元の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。

○ 情報との関わり方について、考えたことを振り返りシートにまとめる。

・ 教科書P. 202「インターネットの利用をめぐるさまざまな問題」「インターネットを使った犯罪件数のうつり変わり」や本文の記述などを基に、調べさせる。

・ 問題点ばかりではなく、インターネットやSNSのよい面についても触れておく。

・ 「情報を送る側」「情報を受け取る側」という二つの立場から気を付けたいことを考えさせる。

・ 教科書P. 203「インターネットを利用するさいの情報のあつかい方の注意点」を参考にさせてもよい。

・ 学習した内容だけでなく、情報社会の一員としてどのように行動していくかも考えさせる

【評】 振り返りシートにまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【評】 情報社会の一員としての行動を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

本単元は選択単元であり，標準的な展開例では「新聞」を取り扱っている。教科書P. 204～207の「放送局のはたらき」を活用してテレビを選択したり，自前の資料を活用してラジオを選択したりしてもよい。

単元名 (選択単元) 情報を生かして発展する産業

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 日本の産業と情報との関わりについて、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解するとともに、各種の資料で調べ、振り返りシートなどにまとめることができる。
- (2) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割について考え、表現することができる。
- (3) 産業と情報との関わりについて、学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、産業と国民の立場から考えようとする。

標準的な展開例

05030301_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 どんなときに天気予報が役立っているか考え、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どのようなときに天気予報を活用するか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会の前日に、当日の天気を確認した ・ その日、着ていく服を決めるために天気予報を見た ○ 様々な気象情報について調べ、単元の学習問題をつかむ <ul style="list-style-type: none"> ・ 最高気温や最低気温、降水確率 ・ かさ指数や洗濯指数 <p>★情報は、暮らしや産業でどのように利用されているのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気予報を見て、布団を干すか決めている ・ 服を売る店は、気温を見ながらどのような商品を並べるか決めていると思う ○ 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる内容…産業による気象情報の生かし方 ・ 調べる方法…教科書、インターネット ・ 表現の仕方…振り返りシート <p>2 気象情報を生かしたサービスについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どのような情報から気象情報を作っているのか予想する <ul style="list-style-type: none"> ・ 観測地点からのデータ ・ 取材する人がいる ○ 気象情報を提供する会社の新しい取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を様々な会社に提供して、悪い影響を減らしている ・ とうふやアイスクリームを作る会社に情報を提供している <p>3～5 産業別に、予測情報の利用の仕方を調べ、情報を生かす上で大切なことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アイスクリームを作る会社の、予測情報の利用について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主に気温の情報を利用している ・ 前年の販売情報などを基にして、生産量を決めている ○ とうふを作る会社の、予測情報の利用について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「寄せどうふ指数」や体感気温指数を利用している ・ 天気や気温などの気象情報を基に、生産量を決めている ○ 二つの産業の、予測情報の利用の仕方についてまとめる ○ とうふを作る会社で、「寄せどうふ指数」の他に天気や気温などの情報が載っている理由について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「こんな情報を基に、判断した」と説明するため ・ 一つの情報だけでは判断できないときがあるから ○ 情報を生かす上で大切なことは何か考える。 <p>6 産業では、販売情報をどのように生かしているか調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ポイントカードによる販売情報のやりとりについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者はポイントを貯めて、次の買い物に生かすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 208の本文の記述を参考に、「気象情報」の意味を押さえておく。 ・ 教科書P. 209を参考に、「指数」の意味を押さえておく。 ・ 教科書P. 209「天気予報の画面」「洗たく指数の画面」や実際のウェブサイトなどを見せることで、様々な気象情報があることに気付かせる。 ・ 教科書P. 209「雨の日に売られているかさ」や本文の記述を基に、気象情報が産業でも利用されていることに気付かせる。 <p>【評】情報が産業でどのように利用されているか話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 208～219で、学習の内容を大まかに捉えさせる。 ・ 提案書で表現させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 210の各種資料から、観測されたデータだけでなく、SNSの短文投稿サイトや商品の売り上げ情報なども気象情報の基になっていることを押さえておく。 ・ 気象が産業に影響を与えることがあり、売れ残りなどの損害を減らすために、気象情報を利用している会社に対し、情報を提供する新しい取組をしている会社があることを押さえておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 212～213の各種資料から、アイスクリームを作る会社がこれまで困っていたことや、どのような予測情報を利用しているかを調べさせる。 ・ 教科書P. 214「とうふ工場の生産から出荷までにこまったこと」や本文の記述から、とうふの生産量を決めることの難しさや気象情報の利用方法などを調べさせる。 <p>【評】産業ごとの予測情報の利用方法を調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて必要な情報は変わることや大量の情報の中から必要なものを選んで判断していることを捉えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 216「中野さんの話」を基に、情報を活用して社会をよりよくしようとしていることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 218を参考に「個人情報」の意味を押さえておく。 ・ 消費者側と産業側のメリットを調べさせる。

<ul style="list-style-type: none"> ・産業側は、個人情報に基づき分析を行っている <p>○情報化が進むことで、どのような影響があるか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を処理・分析できるようになり、新しい商品やサービスが生まれた ・個人情報の流出や不正利用などの問題が起きている <p>7 単元の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。</p> <p>○わたしたちの暮らしや産業における情報の利用のされ方や、自分の考えを振り返りシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントカードや、スマートフォンに届いた「おすすめ商品」の広告など、実物を見せることで児童の関心を高めたり、消費者側、産業側のよさを考えさせたりしたい。 ・情報化の進展による影響を調べさせ、メリットとデメリットの両面があることに気付かせる。 <p>【評】情報化の進展による影響を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.220を参考に、「わたしたちの暮らし」と「産業」という視点からまとめさせる <p>【評】振り返りシートにまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>
---	---

【 備 考 】

本単元は選択単元であり、標準的な展開例では「販売」を取り扱っている。教科書P.222～227の「情報を生かして発展する観光業」を活用して「観光」を選択したり、教科書P.228～233の「医療に生かされる情報ネットワーク」を活用して「医療」を選択したりしてもよい。

単元名 (選択単元)環境とわたしたちの暮らし

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 関係機関や地域の人々の様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、聞き取り調査や各種の資料で調べ、提案書などにまとめることができる。
 (2) 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組を捉え、その取組の働きを考え、表現することができる。
 (3) 日本で発生した公害の状況や防止対策などについて、学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、環境を守り、よりよくするために、自分たちにできることについて考えようとする

標準的な展開例

05030302_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 暮らしの変化と環境との関わりに興味をもち、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。 ○教科書P. 236～237の年表や写真を見て、気付いたことや疑問を話し合う。</p> <p>○国土の環境について調べてみたいことを話し合い、単元の学習問題をつかむ。 ★環境を守るためにできることを考えよう ○学習問題について予想し、話し合う。 ・環境を守るための仕組みを整える ・環境のことを考えた製品を作る ○予想を基にして、学習計画を立てる。 ・調べる内容…公害とその影響、四大公害、公害対策環境先進都市 ・調べる方法…教科書、地図帳、インターネット ・表現の仕方…提案書</p> <p>2 四日市で起きた公害について調べる。 ○教科書P. 238の写真を見て、気が付いたことを発表する</p> <p>○四日市ぜんそくについて調べる。 ・空気の汚れがきっかけ ・発作で死ぬ人もいた</p> <p>3 公害に苦しむ人々の活動について調べる。 ○公害が起きた原因を調べる。 ・工場から出る煙はすぐ近くの家流れている ・煙に含まれる硫黄酸化物 ○公害に苦しむ人々が起こした運動について調べる。</p> <p>4 公害を防ぐための対策について調べる。 ○教科書P. 242の二つのグラフから読み取れることを話し合う。 ○国や県、市と会社がとった対策について調べる。 ・公害を防止する決まりを見直し、硫黄酸化物の量を厳しく規制した ・煙をきれいにする装置の実用化を急いだ ○四大公害について調べる。 ・水俣病 ・新潟水俣病 ・イタイイタイ病 ・四日市ぜんそく</p> <p>5 環境をよりよくする取組について調べる。 ○四日市市の環境に関わる取組について調べる。 ・語り部活動によって、四日市ぜんそくについて伝えていく ・アイセットを設立し、環境を守るための知識や技術を伝える</p> <p>6 単元の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 ○環境を守るために大切なことや、自分たちにできることを考え、提案書にまとめる。</p>	<p>・年表の見方を説明してから、社会の変化を捉えさせる。 ・「公害」の意味を押さえ、暮らしだけでなく健康や命を脅かすものであることを捉えさせる。</p> <p>【評】国土の環境について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書P. 236～245で、学習の内容を大まかに捉えさせる。</p> <p>・現在の写真から「空気がどのようにしてきれいになったのか」という疑問をもたせる。 ・教科書P. 238～239の本文の記述や各種資料を基に、四日市ぜんそくの概要や人々への影響について調べさせる。</p> <p>・教科書P. 240の各種資料を基に調べさせる。</p> <p>【評】公害に苦しむ人々が起こした運動を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>・公害による被害が、長い年月に渡って続いていることを読み取らせる。 ・1975年頃から改善が見られることを確認させる。</p> <p>・公害を防ぐための法律が制定されたことにも触れる。 ・四日市ぜんそく以外にも、公害に対してどのような取組がなされてきたか調べさせるとよい。</p> <p>・教科書P. 244～245の写真や本文の記述を基に活動の概要と目的をまとめさせる。</p> <p>【評】環境を守るために大切なことをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】自分たちにできることを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は選択単元であり、標準的な展開例では「大気の汚染」を取り扱っている。教科書P. 248～251の「大和川とわたしたちの暮らし」を活用して「水質の汚濁」を選択してもよい。

単元名 森林とわたしたちの暮らし

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 森林の育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力が、国土の環境保全など重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地図帳や各種資料で調べ、新聞などにまとめることができる。
- (2) 森林資源の働きや林業などに従事する人々などに着目して、国土の環境を捉え、森林が果たす役割や国土の環境保全について考え、表現することができる。
- (3) 森林資源の働きや林業などに従事する人々などの取組について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、国土の環境保全について、自分たちにできることを考えようとする。

標準的な展開例

05030303_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 森林と暮らしとの関わりについて話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活の中で、森林との関わりについて話し合う。 ○天然林と人工林について調べる。 ○森林の働きについて調べてみたいことを話し合い、単元の学習問題をつかむ。 ★森林の働きとわたしたちの生活との関わりを探ろう ○学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・木で作られた製品がたくさんある ・空気中の二酸化炭素を減らす ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…森林資源の現状、森林保護、森林の役割、自然を守る取組 ・調べる方法…教科書、地図帳、インターネット ・表現の仕方…新聞 <p>2 森林を育てる仕事について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人工林を育てる仕事について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・苗木を植える ・下草を刈る ・枝打ちをする ・間伐をする ・切り出して運ぶ ○林業で働く人たちの苦労や努力について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・林業で働く人が少なくなり、高齢化が進んでいる ・花粉が少ない森林に変えている ・輸入の木材が増えている ○間伐をする理由について考える。 <p>3 森林が果たす役割について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○間伐されなかったり、切り出しを見合わせている人工林が増えている理由を予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・人手が不足している ・輸入の木材が増えている ○間伐と森林の働きについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・間伐がされないと、山崩れが起きやすくなる ・天然林や手入れされた人工林は、様々な生き物を養っている <p>4 森林資源を活用する取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木が使われている場所や物について発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の中で木が使われている ・オリンピックの施設で木材が使われている ○国産木材を利用する意味について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・林業の活性化につながる ・人工林を守ることに繋がる ○国産木材の利用を増やす取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の建設に使われている ・燃料として使う「木質バイオマス」として利用する <p>5 自然を守る取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○狭山丘陵を例に、ナショナルトラスト運動について調べる。 ○世界遺産やラムサール条約で保護されている自然について調べる。 <p>6 単元の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○森林の働きと生活との関わりについて、新聞にまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 252の写真などの資料を参考にして考えさせる。 ・教科書P. 252「日本の土地利用」を基に、総面積に占める森林面積を捉えさせる。 <p>【評】森林の働きについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 252～261で、学習内容を大まかに捉えさせる。 ・提案書や振り返りシートで表現してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 254～255「苗木を育てて、切り出すまで」を基に、作業内容を調べさせるとともに、服装や道具、作業場所の様子などに注目させる。 ・教科書P. 255「林業で働く人のうつり変わり」のグラフで、林業に携わる人が減っていることを押さえておく。 ・教科書P. 255「木材の国内生産量と輸入量のうつり変わり」のグラフから、輸入量が多いことを読み取らせる。 ・「間伐」の意味を押さえておく。 ・知多農林水産事務所林務課の出前授業を活用してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・既習知識を基に、予想させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 257「森林のはたらき」や、P. 256～257の本文の記述などを基に、間伐や森林の働きや意味について調べさせる。 <p>【評】間伐や森林が果たす役割について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の知識や教科書P. 258の写真を基に発表させる。 ・間伐された木材が利用されていることを押さえておく。 ・教科書P. 258「額賀さんの話」や本文の記述などを基に調べさせる。 <p>【評】国産木材の有効活用について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 260を参考に、「ナショナルトラスト運動」の意味を押さえておく。 ・豊かな自然を守るために、日本だけでなく世界中が努力していることに目を向けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちができることについても考えさせる。 <p>【評】新聞にまとめる活動を通して、「思考・</p>

判断・表現」を評価する。
【評】森林を守るために、自分たちができることを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 自然災害から人々を守る

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し、国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解するとともに、地図帳や各種資料で調べ、振り返りシートにまとめることができる。
- (2) 災害の種類や発生の位置、時期、防災対策などに着目し、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件と関連があることや暮らしや産業に密接な関連があることを考え、表現することができる。
- (3) 日本で発生した自然災害の状況や防災対策などについて、学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、自然災害から自分の命を守るための備えについて、考えようとする。

標準的な展開例

05030304_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日本で起きた自然災害について話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本で起きた自然災害について調べ、気付いたことや疑問を出し合う。 ○自然災害について調べてみたいことを話し合い、単元の学習問題をつかむ。 ★自然災害から身を守るために、できることは何だろう ○学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難場所を家族で確認する ・地域の地形や危険な場所を知っておく ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…自然災害が多い理由、暮らしや産業への影響、被害を防ぐ取組 ・調べる方法…教科書、地図帳、インターネット ・表現の仕方…振り返りシート <p>2 日本で自然災害が多い理由について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書P. 268の世界地図を見て気付くことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地震は起きる場所が集まっている ・日本付近には火山が多く、地震も多く起きている ○気候と自然災害との関係を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨や台風によって、洪水や土砂崩れの被害が出ることもある ・大雪や竜巻、激しい雷雨などの被害が増えている <p>3 自然災害による暮らしへの影響について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書P. 270～271の写真を見て、感じることを話し合う ○東日本大震災時の暮らしについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・建物や家などが流されたり、多くの人が亡くなったり行方不明になったりした ・放射性物質が広い範囲に放出され、暮らしに大きな影響を与えた <p>4 自然災害による産業への影響について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書P. 272の写真を見て感じることを話し合う。 ○東日本大震災による水産業への被害について調べる。 ○産業への影響について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・水産業 ・工業 ・農業 <p>5 自然災害の被害を防ぐ取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然災害を防ぐための取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・砂防ダムや防潮堤など、防災や減災のための努力がされている ・自然災害に備えて、避難所を決めたり、水や食料を備蓄したりしている ○自然災害が発生した場合の、国や市町村の動きについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する情報を人々に伝える仕組みを整えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 256「日本でおきたおもな自然災害」やP. 266～267の資料、地図帳などを基に、日本で起きた自然災害について調べさせる。 ・「自然災害」の意味を押さえておく。 ・年表以降に起きた自然災害についても触れておく。 <p>【評】自然災害について話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 264～276で、学習の内容を大まかに捉えさせる。 ・新聞や提案書で表現させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本は、世界の中でも多くの地震が発生していることを視覚的に捉えさせる。 ・教科書P. 268「地震や津波がおこるしくみ」を参考に、下敷きなどを使って、地震発生のメカニズムを捉えさせる。 ・教科書P. 266～267の写真を活用させる。 ・近年の大雨や台風による被害について触れる <ul style="list-style-type: none"> ・単元「日本の地形や気候」で学習したことを想起させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の人々の姿を見せることで、災害時の暮らしの変化に児童の思いを至らせていく。 ・「放射性物質」の意味を押さえておく。 ・教科書P. 271「津波の被害にあった人からのメール」を基に、震災時の人々の思いに迫らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・水産物加工施設の被害の様子から、被害の大きさを実感させる。 ・教科書P. 272「宮城県にあるおもな漁港の水あげ量の変化」を見て、水産業への被害の大きさを感じさせる。 ・教科書P. 272の各種資料や本文の記述などを基に、震災の影響について調べさせる。 ・震災が多くの産業に影響を及ぼしたことに気付かせる。 <p>【評】自然災害による産業への影響を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「減災」の意味を押さえておく。 ・教科書P. 274～275の写真や本文の記述などから、被害を防いだり減らしたりする取組を調べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住む市町のハザードマップを準備できるとよい。 ・教科書P. 275「大阪府の人の話」から、自分

・ハザードマップを作ったり、避難勧告や避難指示を出したりする。

- 6 単元の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。
- 自然災害から命を守るためにできることを調べる。
 - ・公助だけでなく、自助や共助が大切
 - ・避難訓練を実際の避難に生かす
 - 振り返りシートに日本の自然災害についてや自分の考えをまとめる。

で判断することの大切さについて考えさせる

【評】 自然災害の被害を防ぐ取組について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する

・教科書P.276の各種資料や本文の記述などから、命を守る行動について調べる。

・学習内容をまとめるだけでなく、自然災害から自分の命を守るための備えについて考えたことをまとめさせる。

【評】 振り返りシートにまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【評】 自然災害から自分の命を守るための備えについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

- ・自然災害については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などを取り上げる。
- ・5年生理科との関連を図るとよい。

単元名 憲法と政治のしくみ

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 日本国憲法と我が国の政治や国民生活との関わりについて、憲法の基本的な考え方をつかみ、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、各種資料を活用して調べ、まとめることができる。
- (2) 日本国憲法の基本的な考え方と国の政治や国民生活との関わりについて考え、表現することができる。
- (3) 日本国憲法と我が国の政治や国民生活との関わりについて意欲的に追究しようとするとともに日本国憲法に基づいて平和な国際社会の実現を目指し努力を続けていくことが必要であるという自覚をもとうとする。

標準的な展開例

06030101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日本国憲法について知り、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにあるきまりについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・廊下は走らない ・信号を守る ○日本国憲法があることを知り、単元の学習問題をつかむ ★日本国憲法にはどのような役割があり、私たちの暮らしとどのように結び付いているのだろう <p>○政治という言葉について知る。</p> <p>2 学習問題について予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・国民主権とは何だろう ・基本的人権の尊重があるから、障害のある人も一緒に生活できているのかな ・平和主義があるから戦争が起きないのかな ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <p>調べる内容…国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、国会、内閣、裁判所</p> <p>調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用</p> <p>表現の仕方…ノートにまとめる</p> <p>3 国民主権について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国民主権、天皇の地位と国事行為 <p>4～5 基本的人権の尊重について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的人権の尊重、権利や自由と国民の義務 <p>○社会の変化と共に広がる基本的人権</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、プライバシーなど <p>6 平和主義について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平和主義、戦争の放棄、非核三原則 <p>7 国会のはたらきと国民の祝日について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国民の祝日について、知っていることを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日がある ・新しくできた祝日もある ○国会の仕組みと法律ができるまでを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・衆議院、参議院の二院制 ・立候補者と選挙する人 ・法律ができるまで 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なきまりを話し合わせる活動を通して、人々が安全に、よりよく生活できるように様々なきまりがあることを確認する。 ・身近なきまりを話し合わせた後、日本全国へ視野を広げさせ、日本の人々がよりよい生活を送るために日本国憲法があることを知らせる。 ・教科書P. 9のキーワード「日本国憲法」やP. 10の「校長先生の話」などを参考に、日本国憲法の概略をつかませる。 ・日本国憲法の三原則（国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）について触れておく。 ・教科書P. 6のキーワード「政治」や写真などを参考に、政治の意味について押さえる。 ・人権週間なども話題に挙げる。 <p>【評】学習問題について予想し話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民主的で平和な国家の建設を目指した憲法であることを捉えさせる。 ・天皇の地位については、天皇の国事行為の中から児童が理解しやすい事例を取り上げる。 ・基本的人権として自分の権利を主張するのではなく、互いの権利を尊重し合う態度が大切であることに気付かせたい。 ・一人一人に人権があるとともに、義務を果たしていくことが大切であることを確認する。 ・子どもも大人も一人の人間として同じように人権を認められていることや、いじめは人権の侵害にあることなどに触れる。 <p>【評】基本的人権について調べる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和主義は、戦争の悲惨さや反省から、戦争を忘れないこと、二度と起こさないことなどの願いがこもったものであることを捉えさせる。 ・話し合わせた後、教科書P. 21「国民の祝日」から、国民の祝日は法律で定められていることに気付かせる。 ・教科書P. 20～21の表などを参考に調べさせる ・衆議院の優越や、国会議員は国民が選ぶことから世論が大きく国づくりに関わることを捉えさせる。 ・選挙に参加することが国民の政治参加であることを説明する。

<p>8 内閣のはたらきについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内閣について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・総理大臣，国務大臣 ・法律や予算を基に政治を行う <p>○税金と私たちとの関わりについて話し合う。</p> <p>9 裁判所のはたらきと三権分立について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○裁判所のはたらきや国民との関わりを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・裁判員制度 ・三審制 ○三権分立について調べる。 <p>10 単元のまとめをし，学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習問題について自分の考えをノートにまとめる <p>○自分の考えを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 22の本文を参考に，内閣について説明する。 ・教科書P. 22～23の写真や文章から内閣のはたらきを調べさせる。 ・総理大臣や国務大臣は国会議員の中から選ばれていることを押さえる。 ・教科書P. 22～23の③「国の予算」を基に，税金によって国づくりが行われていることに気付かせる。 ・税金がなくなってしまうらどのような世の中になるかを考えさせ，国民には納税の義務があることを捉えさせる。 ・三審制が，国民の裁判を受ける権利に該当していることに気付かせる。 ・教科書P. 25「三権分立のおもなしくみ」を参考に調べさせ，それぞれが仕事を分担し，互いに確認し合う仕組みがあることを理解させる。 ・教科書P. 27の振り返りシートを参考にまとめさせる。 ・日本国憲法が私たちの暮らしにどのように関わっているのか，自分は今後どのように関わっていくとよいのかを考え，まとめさせる。 ・話し合いによって多くの考えに触れさせることで，学習内容を深めさせる。 <p>【評】自分の考えをまとめ，話し合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p>
--	--

【 備 考 】

単元名 (選択単元)わたしたちの願いと政治のはたらき

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 市民の要望を聞き、実現していく市区町村や国の政治は、国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解するとともに、各種資料を活用して調べ、まとめることができる。
- (2) 福祉対策と市区町村や国の政治との関わり、市の政治の仕組み、政策の計画から実施までの過程、法令や予算など、国民生活における政治の働きを考え、表現することができる。
- (3) 福祉対策や日常生活における政治の働き、市区町村の政治の仕組みに関心を持ち、意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

06030102_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 新聞記事やグラフ資料から気付くことを話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新聞記事とグラフ資料から、気付いたことを発表し合う <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育が求められている ・保育園や幼稚園に入ることができない子どもが増えている ・子どもの人口は昔より減っている ・共働きの家庭が増えているから、子どもを見る大人がいないのではないか ○子どもを育てる環境づくりの願いを基に、単元の学習問題をつかむ。 ★子育てをしやすい環境づくりへの願いに対して、市町村はどのような取組をしているのだろう ○学習問題について予想し、話し合う。 ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…市役所（町役場）は住民の願いを受け、どのような取組をしているのか、お金はどこから出ているのか ・調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用、市役所で働く人に聞く ・表現の仕方…ノートにまとめる <p>2 地域の子育て支援について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域にある子育てに関する施設について、知っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童館 ・子育て支援センター ○地域の子育て支援に関する施設の働きや仕組みについて調べる。 <p>3 市役所・町役場や市議会・町議会の働きについて調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住民の願いを実現するための働きについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・市役所（町役場） ・市議会（町議会） ・予算を議会で決定している <p>4 税金の働きについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉のための費用について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・収入（税金や国などからの補助金など） ・支出（福祉、教育、施設建設など） <p>5 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題について自分の考えをまとめ、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の政治を学習した後の身の回りの政治を追究する単元である。教科書P. 28～30の新聞やグラフ資料を活用し、子どもの人口が減っているにもかかわらず、子どもを育てる環境が十分ではない状況に視点を当て、関心をもたせる。 ・子どもを育てるために市町や地域が取り組んでいることを説明し、学習問題へとつなげる <p>【評】資料から気付いたことを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 32～33の写真や本文を参考にさせ、自分の市や町にどのような施設があるか発表させ、どのようなことをしているのか、経験を基に発表させる。 ・教科書の本文や、インターネットを活用してどのような働きをしているのか調べさせる。 ・住民の願いや、子育て支援に対応するための施設であることを確認する。 ・教科書P. 34～35の図や本文を参考に調べさせる。 ・市役所（町役場）が主に政治を直接行うところであるが、より多くの願いの実現のために住民の代表である市議会議員（町議会議員）が予算や施策を議論していることを押さえる ・住民の願いを実現するためには多くの費用がかかることに触れ、次時につなげる。 ・子どもや高齢者の福祉に関して民生児童委員の働きがあることも取り上げる。 <p>【評】住民の願いを実現するための働きについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 36の図やグラフから読み取らせ、税金の役割や大切さについて気付かせる。 ・租税教室などを活用し、税金について理解を深めさせるとよい。 ・税金によって人々の暮らしが成り立っていることを確認するために、もし税金のない世の中だったらと仮定し話し合わせる活動も考えられる。 ・教科書P. 37を参考にまとめさせる。 ・話し合わせることで、互いの考えを深めさせる。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・学習問題の子育てだけではなく、地方自治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを確認する。 <p>【評】自分の考えをまとめ、話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|---|

【 備 考 】

本単元は選択単元であり，標準的な展開例では「社会保障」を取り扱っている。教科書P.38～43の「自然災害からの復旧や復興の取り組み」を活用して「自然災害からの復旧や復興」を選択したり，P.44～47の「経験をむだにしないまちづくり」を活用して「地域の開発や活性化などの取組」を選択したりしてもよい。

単元名 日本のおゆみ

配当時間 1時間

単元の目標

(3) 我が国の歴史のおゆみから、歴史の学習への関心をもち、意欲的に追究していこうとする。

標準的な展開例

06030103_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日本の歴史に関心をもち、歴史学習への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真を見て、気付いたことを発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 古墳が写っている ・ 千利休は織田信長の頃の人だね ・ 気になったことは詳しい人に聞くといいね ○ 年表を使い、人類のおゆみについて話し合い、単元の学習問題をつかむ。 ★ 日本のおゆみについて考えていこう ○ 教科書を概観し、歴史学習ではどのようなことを学ぶのか知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 50～51の写真を見て、気付いたことや知っていることを発表させる。 ・ これからの歴史学習に意欲をもたせるために発言を肯定的に受け止め、楽しい雰囲気の中で多くの意見を出させる。 ・ 教科書P. 52～53の年表を使い、地球や人類の歴史の長さに触れる。 ・ 教科書を使い、「人物を調べるためのポイント」や「年表の読み取り方」を押さえる。 ・ 時代の順や世紀を押さえる。 ・ 教科書の歴史部分や、巻末の年表などを見せこれからの学習に意欲をもたせる。 ・ これからどんなことを学びたいかをノートにまとめさせてもよい。 <p>【評】 これからの歴史学習について学ぶ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 大昔のくらしとくにの統一

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子を手がかりに、むらからくにへと変化したことを理解することができるようにするとともに、当時の様子や人物の働きなどを調べまとめることができる。
- (2) 大昔の人々はどうのような生活をしていたか、世の中の様子はどのように変わったかなど、調べたことを比較したり関連付けたりして、世の中の様子の変化を考え、表現することができる。
- (3) くにとしての我が国の歴史が形づくられるまでの狩猟・採集や農耕の生活など、学習問題の解決に向け、意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

06030104_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 縄文時代と弥生時代の想像図から、当時の人々の暮らしぶりについて話し合い、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2枚の想像図を見て、それぞれ気付いたことを発表する〈縄文時代〉 ・弓で狩りをしているよ ・ぶどうや栗などの木のみを採っているね ・器を作っているよ。料理や物を入れるために使っているね ・石で道具作っているね 〈弥生時代〉 ・米作りをしているよ。米を倉庫に運んでいる人もいるね。 ・みんなと違う服を着た人もいるよ ・柵で囲まれているね。堀を掘っているよ ・弓や槍を持った見張り人がいるよ ○ くらしの様子が大きく変化していることを話し合い、単元の学習問題をつかむ。 ★米作りによって、世の中の様子はどのように変わっていったのだろう <p>2 縄文時代の狩りや漁中心の生活について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遺跡の写真や出土物の資料を見て、気付いたことを話し合う。 ・ 堅穴住居、貝塚、土器、石器、骨角器 ○ 人々の暮らしについて話し合う。 <p>3 米作りが広がったところの人々の暮らしについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 米作りの様子や出土物の資料を見て、気付いたことを話し合う。 ・ 水田跡、石包丁、田げた、くわ ○ 米作りについて調べる。 ・ どこから伝わったのか ・ どのようにして作っていたのか ○ 人々の暮らしの変化について考え、話し合う。 ・ 狩りから米を作る暮らしになり、生活が安定した ・ 指導者が現れ、協力して米作りを行い、生活していた ・ むらとして、まとまりを強めていった <p>4 争いが起こった理由について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 争いの様子の資料から、なぜ争いが起こるようになったのか考える。 ○ むらからくにへと変わっていった様子を確かめる。 ・ 争いに勝ったむらが他のむらを従えて、大きくなっていった ・ むらのかしらは豪族となった ・ むらがまとまって「くに」となり、かしらは「王」となった <p>5 古墳について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大山古墳について調べる。 ・ どのようにしてつくったのか ・ 出土品はどういったものがあるのか ○ 調べたことを話し合う。 ・ 多くの人が、何年もかけて作った ・ 土を盛ったり石を運んだり、埴輪を並べたりしている ・ 鉄製の刀や銅鏡などが出土している <p>6 古墳が作られ始めたころについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前方後円墳の分布図と各地の出土品の資料から、当時の様子について調べる。 ・ 前方後円墳が多くあるのはどこか ○ 大和朝廷による国の統一や渡来人の関わりについて調べる。 	<p>・ 縄文時代と弥生時代の想像図を使い、生活が大きく変化してきたことをつかませる。</p> <p>【評】縄文時代と弥生時代の想像図を使って話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 三内丸山遺跡の復元模型の写真や出土物の資料から、どのような生活をしていたか考えさせる。</p> <p>・ 人々が協力していたことを捉えさせる。</p> <p>・ 米作りが行われていたことに気付かせる。</p> <p>・ 道具の形から、どのように使われていたか考えさせるようにする。</p> <p>・ 米作りの技術は、中国や朝鮮から移り住んできた人々によってもたらされたものであることを押さえる。</p> <p>・ 米作りが人々の生活を大きく変化させたことに気付かせる。</p> <p>・ 米作りに適した土地や水、蓄えた米などをめぐって争いが起こったことを捉えさせる。</p> <p>・ 邪馬台国の卑弥呼の話を基に、力のある王が周りの「くにぐに」に従え、さらに大きくなっていったことをつかませる。</p> <p>【評】資料を基に説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 大山古墳の位置を地図帳で確認させる。</p> <p>・ 2019年、世界文化遺産に登録されたことを伝え、興味をもたせる。</p> <p>・ 校舎や校庭、校区の大きさと比較し、古墳の大きさを捉えさせ、意欲付けを図る。</p> <p>・ 強大な権力をもった人物がいたと考えられることを捉えさせる。</p> <p>【評】ノートにまとめたり発表したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 近畿地方の多く集まっていることを捉えさせる。</p> <p>・ 渡来人によって進んだ文化が伝わったことを押さえる。</p>

- ・統一の経過
- ・渡来人とはどんな人たちか
- ・渡来人と朝廷との関わり
- 神話や『風土記』について知る。

7～8 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。

- 縄文・弥生・古墳時代についてまとめる。
- 学習問題について自分の考えをまとめ、話し合う。

・知多半島に関するものなどに触れ、歴史を身近な物に感じさせる。

- ・想像図や写真を参考にして既習事項を確認させ、時代ごとの特徴をまとめさせる。
- ・自分の考えを発表し合う活動から、他の児童がどのように考えているかを参考にし、次の活動につなげる。

【 備 考 】

単元名 天皇を中心とした政治

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手がかりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解するとともに、当時の人々の生活の様子や身分による違いなどについて調べ、まとめることができる。
- (2) 代表的な人物の業績や大陸との関係、人々の様子に着目して、どのように天皇中心の社会が形成されていったのかを考えたり、調べたことや考えたことを表現したりすることができる。
- (3) 天皇中心の社会が確立されるまでの人々のくらしや人物の働き、海外の国と日本の国との関わりについて考え、意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

06030105_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 法隆寺の写真や、法隆寺建立の想像図を見て話し合い、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 創建されたところの法隆寺の想像図から、気付いたことや思ったことを発表する。 ○ 法隆寺や聖徳太子について知り、単元の学習問題をつかむ。 ★ 聖徳太子や天皇は、どのような国づくりを目指していたのだろう <p>2 飛鳥・奈良時代について見通しをもち、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題について予想し、話し合う。 ○ 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる内容…聖徳太子の政治、聖武天皇の目指した政治、聖徳太子が亡くなった後の政治、大仏作り、大陸との関係 ・ 調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 <p>3 聖徳太子が行ったことについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 聖徳太子について調べ、国づくりの様子を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 冠位十二階 ・ 十七条憲法 ・ 遣隋使 <p>4 新しい国づくりは、どのように進められたか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 聖徳太子の後、国づくりがどのように進んでいったか調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大化の改新、遣唐使、中国の政治制度を手本にしたこと <p>5 聖武天皇の願いと、行基の活動や大仏作りを支えた人々の活躍について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東大寺の大仏について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きさ、誰が作らせたのか、なぜ作ったのか、どのように作るのか ○ 聖武天皇の願いを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教の力で国を幸せにしたい ○ 行基などの大仏作りに貢献した人々の働きについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行基らによって、国家的な大事業として大仏作りが行われた。 <p>6 大仏が作られたころの貴族や農民の暮らしを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当時の人々の暮らしについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 木簡、特産物と税を都へ運んでいた、農民と貴族の食事の比較 <p>7 世界とはどのような交流があったかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 正倉院の宝物や遣唐使がもたらしたもののについて調べる <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸外国からもたらされた宝物 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P.70～71の資料を手がかりに、聖徳太子が目指した世の中に関心をもたせる。 ・ 道具や工法など行の様子、しぐさや服装など人の様子などに着目させる。 【評】想像図を基に話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 法隆寺が世界最古の木造建築であることや、世界遺産に登録されていることなどの説明を加えながら、それを建てた聖徳太子の考えなどに関心をもたせる。 ・ 巻末の年表を概観させ、当時の政策や大仏建立の記述等に着目させ、聖徳太子や天皇がどんな国づくりを目指していたのかについて予想を立てさせる。 ・ 天皇中心の国づくりを目指していたことを捉えさせる。 ・ 古墳時代と比較させることで、聖徳太子が新しい国づくりを行ったことを押さえる。 ・ 土地と人民を国のものとし、農民が国に税を納める制度を整えることが、天皇中心の政治の仕組みであることを理解させる。 【評】新しい国づくりを調べる活動を通して、「知識・技能」を調べる。 ・ 大仏の大きさをつかませるために、校舎の高さや運動場の広さと比べたり、実際に目や鼻の穴、手の平を紙に書いて切り取ったりするなどして、実感させるとよい。 ・ 仏教によって国を治めるために、日本中に国分寺を建てたことを国分寺の分布の資料から確認する。 ・ 聖武天皇の生涯の年表から、寺や大仏作りに励んでいたことを読み取らせる。 【評】聖武天皇の願いを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 行基の活躍や、協力した人々たちによって大仏作りがすすめられたことを理解させる。 ・ 資料から、農民の税負担は大変厳しいものであったことに気付かせる。 ・ 貴族の暮らしは、農民によって支えられていたことに気付かせる。 ・ 地図や地球儀を使って、ローマやペルシャなどの地域や、遣唐使の航路を調べさせる。

- ・海外の進んだ文化や技術，政治の仕組み
- 鑑真や阿倍仲麻呂について調べる。
 - ・鑑真…仏教の発展につくした
 - ・阿倍仲麻呂…唐の朝廷に仕えた
- 8 単元のまとめをし，学習の振り返りをする。
- 飛鳥時代と奈良時代について，まとめる。

○学習問題について，自分の考えをまとめ，話し合う。

- ・大陸とつながっていたことをつかませる。
 - ・人の交流もあったことをつかませ，大陸から多くのことを学ぼうとしていたことをつかませる。
 - ・天皇中心の政治から，仏教に基づく国づくりへと変わっていったが，目指していた世の中は天皇が中心の政治であり，世の中が平和であることを願っているものだということをまとめさせる。
- 【評】自分の考えを書いたり発表したりする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 貴族が生み出した新しい文化

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたことを理解するとともに、当時の貴族の生活や文化に関する情報を適切に読み取り、調べたことをまとめることができる。
 (2) 貴族の服装や建物、日常生活や行事などの様子など、貴族の生活とその頃の文化の特色を関連付けて考え、調べたり考えたりしたことを表現することができる。
 (3) 学習問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、現在まで受け継がれている年中行事や遊び、かな文字といった現在の日本とのつながりについて考えようとする。

標準的な展開例

06030106_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 都が京都に移されたころの貴族の暮らしについて調べ、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 貴族の暮らしについて気付いたことを発表し、単元の学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・生活の様子、貴族の屋敷 ★ 貴族が政治を行っていたころ、どのような文化が生まれたのだろう <p>○ 学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…文化（文字・服装・遊びなど）、藤原道長 ・調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 ・表現の仕方…ノートにまとめる </p> <p>2 藤原道長について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 藤原道長について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・天皇に代わって政治をおこなった ・寝殿造り ・年中行事 <p>3 日本風の貴族文化や貴族の願いを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本風の貴族文化について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・大和絵、けまり、七夕 ○ 紫式部、清少納言について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・『源氏物語』『枕草子』の作者 ○ 貴族の悩みや苦しみについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の地位、仏教の衰退 <p>4 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 貴族の文化についてノートにまとめる。 ○ 学習問題について、自分の考えをまとめ、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十二単、けまりや和歌など服装や遊びについて写真や絵で紹介し、興味をもたせる。 ・P. 71の奈良時代の人々の様子とP. 86～87の平安時代の貴族を比べ、服装が大きく変化していることに気付かせる。 <p>【評】貴族の暮らしについて調べ話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤原道長が詠んだ歌を読み、その意味を理解することを通して、強大な権力に気付かせたい。 ・天皇中心の世の中から、貴族中心の世の中に变化していったことをつかませる。 ・遣唐使を廃止したことにより、中国の文化を基にして、日本風の新しい文化が生まれたことを気付かせる。 <p>【評】日本風の文化が生まれたことを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かな文字が発明されたことで、気持ちや考えを自由に表記することができるようになったことを理解させる。 ・天皇中心の政治から貴族が中心となった世の中だったが、貴族の中にも悩みがあったことを押さえ、仏教の力に頼っていることをつかませる。 ・藤原道長がどのように権力をもったか、新しい日本風の文化とはどのような文化があったかをノートにまとめさせる。 ・今に残る年中行事や遊びについて話し合い、当時できた文化が現在まで残っていることを確認する。 <p>【評】自分の考えをノートに書いたり、話し合ったりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 武士による政治のはじまり

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 貴族にかわって武士が力をもった経緯や、源平の合戦、鎌倉幕府の始まりと組織の仕組み、元との戦いの様子や鎌倉幕府の滅亡について理解し、年表や写真などを基に調べたことをまとめることができる。
- (2) 武士が力をもちはじめたきっかけや、その力が大きくなっていった背景に着目し、その原因や理由を考え、調べたことや考えたことを表現することができる。
- (3) 当時の社会の様子や人々の生活の移り変わり、その原因や理由について、意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

06030201_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 武士の屋敷の想像図を見て話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 貴族と武士の屋敷の想像図を比較し、その違いについて話し合い、学習問題をつかむ。 ★ 武士が力をもつことによって、世の中の様子はどのように変わっていったのだろう <p>○ 学習問題について予想し、話し合う。</p> <p>○ 予想を基にし、鎌倉時代の年表を見て、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる内容…源氏と平氏の争い、鎌倉時代の政治の仕組み ・ 調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 ・ 表現の仕方…ノートにまとめる <p>2 武士による政治のはじまりの経緯を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 源平の戦いについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平清盛と源頼朝 ・ 平治の乱、源義経、壇ノ浦の戦い <p>3 源頼朝の政治について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 鎌倉幕府の政治の仕組みについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉に幕府を開いた理由 ・ ご恩と奉公の関係 ・ 守護、地頭 ・ 北条政子 <p>4 元との戦いの様子とその影響について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 元との戦いや鎌倉幕府の滅亡について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 元寇 ・ 元軍の集団戦法、火薬を使った兵器 ・ 執権北条時宗の対応 <p>5 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題について自分の考えをまとめ、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 86～87貴族の屋敷の想像図と、P. 96～97の想像図を基に、貴族と武士の生活などを比較させ、武士の世の中になってきたことをつかませる。 <p>【評】武士の時代について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関東から始まった戦いが、本州を西へ進み、山口県壇ノ浦で終わる課程を確認させながら源氏と平氏の戦いの様子を確認させるとよい ・ 源義朝は平治の乱の後、野間で最期を迎えたことを説明すると児童の興味・関心を引くことができる。 ・ 鎌倉に幕府を開いたこと、守護や地頭の設置などを通して、武家政権の基礎を築いたことに気付かせる。 <p>【評】鎌倉幕府の政治の仕組みについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 源氏が三代で途絶えた後、執権が幕府をまとめたことを押さえる。 ・ 元との戦いにより、政治の仕組みが崩れていったことを捉えさせる。 <p>【評】元との戦いの様子とその影響を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時代の特徴や出来事を根拠としながらノートにまとめさせる。

【 備 考 】

単元名 今に伝わる室町の文化と人々の暮らし

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手がかりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解するとともに、地図や各種資料で調べ、まとめることができる。
- (2) 代表的な建造物を作った人や絵画を描いた人、今に受け継がれている文化などに着目し、当時の世の中の様子や文化の特色について考え、表現することができる。
- (3) 現代に伝わる文化について、意欲的に追究するとともに、学習したことを振り返りながら、今のくらしや自分との関わりについて考えようとする。

標準的な展開例

06030202_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 洛中洛外図屏風を見て話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○洛中洛外図屏風を基に、祇園祭りやまち・人々の様子について話し合い、学習問題をつかむ。 <p>★室町文化と今のわたしたちの暮らしや文化とは、どのようなつながりがあるのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題について予想し、話し合う。 ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…室町文化の様子、鎌倉時代と室町時代の人々の暮らし ・調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 ・表現の仕方…ノートにまとめる <p>2～3 室町文化について調べ、現在の生活から「室町時代生まれ」のものを探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○室町時代の文化やその特徴を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・金閣や銀閣、その当時の政治 ○今に伝わる「室町時代生まれ」のものを探す。 <ul style="list-style-type: none"> ・能、狂言、茶の湯、生け花など <p>4 雪舟と鎌倉時代・室町時代の人々の暮らしについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○雪舟について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・水墨画、日本各地で絵を描いた ○当時の人々の暮らしについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・肥料、二毛作 ・村独自の政治 ・手工業 <p>5 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習してきたことをまとめる。 ○学習問題について自分の考えをまとめ、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 108～109をの絵図や写真を使い室町時代の文化や人々の暮らしに関心をもたせる <p>【評】絵図を基にして話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畳、書院造、床の間など、現代の生活につながる文化が多く生み出されたことに触れる。 ・室町時代に始まった文化が、現在まで続いていることに触れ、文化を継承していくことの重要さを意識させる。 <p>【評】室町時代の文化を調べたり、現代まで受け継がれているものを探したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 117の年表を使って、雪舟が生涯をかけて絵を描き続けたことや、書院造とともに水墨画が室町時代の文化として位置づき、広まっていったことに触れる。 ・安定した生活を営むために、生産を高める努力や工夫をしたり、団結を強めたりしたことを捉えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 119のまとめ方を参考にしながら取り組ませるとよい。 ・学習したことを生かした発表を行わせ、児童の理解を深めさせる。 <p>【評】自分の考えをノートに書いたり発表したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 戦国の世の統一

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 織田信長や豊臣秀吉が天下統一を目指し新しい政策が進んだこと、関ヶ原の戦いなどを経て徳川家康が幕府を開いたことを理解するとともに、想像図や年表、地図などの資料を効果的に活用し、具体的に調べることができる。
- (2) 信長、秀吉、家康の政策に着目し、天下統一のために果たした役割を考え、調べたことや考えたことを表現することができる。
- (3) 戦国大名の様子や、戦国の世に活躍した人物について関心をもち、意欲的に追究しようとする

標準的な展開例

06030203_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「長篠の戦い」の絵図を見て話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「長篠の戦い」の絵図を見て話し合い、学習問題をつかみ、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の存在 鉄砲使用、馬防柵 <p>★戦国大名は、どのようにして世の中を治めようとしていたのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習問題について予想し、話し合う。 <p>○予想を基にして、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…長篠の戦い、織田信長の天下統一に向けての取組、豊臣秀吉の天下統一を果たした工夫、徳川家康の生い立ちや政策 調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 表現の仕方…ノートにまとめる <p>2 織田信長を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 信長の勢力の広がりについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 信長の生い立ちや政策を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 「うつけ者」とされた青年期 室町幕府を滅ぼす キリスト教伝来とザビエルの布教 <p>3 豊臣秀吉を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 秀吉の生い立ちや政策を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 農民の子 天下統一を果たす 検地、刀狩 外国との関係について知る。 <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮に軍を送る 豊臣の力が衰える <p>4 徳川家康を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家康の生い立ちや政策を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 織田や今川の人質 天下分け目の戦い、江戸幕府を開く <p>5 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習問題について自分の考えをまとめ、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P.124～125の「長篠の戦い」の絵図を見て、陣地のつくり方、武具の違い、騎馬の数から両軍の戦法の違いに気付かせる。 <p>【評】「長篠の戦い」について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P.123の年表を活用して、戦国武将が活躍し、世の中を治めていったことを気付かせ、三人の政策を中心に学習していくことを伝え、次時につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書P.126の図を見て、信長が短い期間に領土を拡大していったことに気付かせる。 信長の進歩的な考え方や独自の政策などに気付かせる。 出来事や政策を年代順に確認させる。 <p>【評】織田信長について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 検地や刀狩は、武士が支配する社会をつくる基となったことなど、政策の意義を明確にさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 朝鮮全土が荒廃したことや、激しい抵抗にあったこと、これにより豊臣氏が衰えていったことを説明する。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書P.130を中心に読み取らせる。 豊臣氏を滅ぼしたことにより、戦いの時代が終わったことに気付かせたい。 <ul style="list-style-type: none"> 三人の違いや、歴史上の功績について捉えさせる。 天下餅の歌やホトトギスの歌なども活用できる。 信長、秀吉、家康は新しい政治の仕組みをつくり、武士による安定した政治を目指したことを押さえる。 <p>【評】自分の考えをノートに書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 武士による政治の安定

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 江戸幕府の大名配置、武家諸法度や参勤交代などの大名支配、身分制度の確立、鎖国、外国との交流など、江戸時代となり武士による政治が安定してきたことを理解するとともに、イラストや地図などの各種資料を活用し、まとめることができる。
- (2) 江戸幕府の政策に着目し、大名の支配や人々の生活に与えた影響を考え、調べたことや考えたことを表現することができる。
- (3) 江戸幕府の政治の安定とその過程での問題点に気付き、大名支配の強化、身分制度の確立、外国との交流などの様子について関心をもち、意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

06030204_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「大名行列のようす」の想像図を見て話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大名行列のようす」の想像図を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 多くの人が列になって歩いている 周りの人は頭を下げている 大名行列について知り、単元の学習問題をつかむ <ul style="list-style-type: none"> 多くの日数や費用がかかった ★江戸幕府はどのような政治を行ったのだろう 学習問題について予想し、話し合う。 予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…江戸幕府の人々の支配の仕方、外国との関わり 調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 表現の仕方…ノートにまとめる <p>2 江戸幕府の大名支配の仕組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おもな大名の配置」から、幕府がどのように大名を支配したのか読み取り、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 親藩、譜代、外様 「武家諸法度」から徳川家光の政治を読み取り、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 参勤交代 <p>3 江戸幕府の百姓や町人の支配体制について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の絵図から気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 武士は刀をさしている 町人や百姓は仕事をしている 身分による暮らしの違いについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 武士…名字、帯刀 百姓…農業 町人…商工業 差別された人々…服装、行事などで制約、社会や文化を支えた <p>4 キリスト教の禁止や鎖国について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 当時の貿易の様子について調べる。 鎖国について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> キリスト教の禁止 天草四郎、島原・天草一揆 <p>5 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国との交流について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> オランダ、朝鮮通信使 琉球王国やアイヌ民族との関わり 学習問題について自分の考えをまとめ、学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P.132～133の「大名行列のようす」の想像図を見せ、人数の多さ、持っている物の違い、見ている人の様子、城下町と宿場町の様子の違いなどに注目させる。 【評】想像図を見て話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 大名行列が江戸に到着するまでに多くの日数と費用を要したことから、なぜこのようなことをさせたのかという疑問を出させ、学習問題へとつなげる。 教科書P.136の「おもな大名の配置」を見せ、大名の種別を確認し、配置の理由を考えさせる。 外様は江戸から遠いところに、御三家や親藩や譜代は江戸周辺や本州の中央部に、重要な場所は幕府の直轄領としたことに気付かせる 参勤交代などの各政策の目的が、幕府の政権安定につながっていることに気付かせる。 教科書P.138の絵図からそれぞれの服装や仕事の特徴を捉えさせる。 それぞれの身分についての特徴や暮らしについて調べさせる。 差別された人々については、職業を基にした差別も行われていたことを補足する。 教科書P.140の「日本とアジア各地との貿易」の資料や、「朱印状」の資料から、アジアの国々と貿易を行っていたことを押さえる。 貿易が盛んになったことでキリスト教が入ってきたことや、キリスト教信者が増えることで幕府の支配体制が崩れることを恐れたことを読み取らせる。 【評】鎖国やキリスト教の禁止について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 大名や医師はオランダ人に西洋の様子を尋ねていたことを押さえる。 教科書P.143の「朝鮮通信使に出した料理」から、幕府がもてなしていることを読み取らせ、外国の様子を知りたがっていたことを捉えさせる。 幕府の支配体制の工夫や、鎖国をしている中でも外国との関わりをもち、他国の情報を得て取り入れていったことなどをまとめさせる

【評】自分の考えをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

島原・天草一揆のあった地方は2018年「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として、首里城は2000年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として、世界遺産に登録されたことにも触れる。

単元名 江戸の社会と文化・学問

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 江戸時代の百姓や町人の様子を手掛かりに、産業が発達したことや、町人文化が栄えていったことを理解するとともに、絵図や各種資料などから調べたことをまとめることができる。
- (2) 当時の百姓や町人の暮らし、町人文化の広がり、新しい学問について、産業の発達や社会の安定と関連付けて考え、調べたことや考えたことを表現することができる。
- (3) 江戸時代の産業の発達により町人が力を付けてきたことや、町人の文化が栄え、新しい学問が起ったことなどを意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

06030205_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 江戸のまちの様子の絵図を見て話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○江戸のまちの様子や町人人口の変化のグラフを見て、気付いたことや思ったことを発表し、学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人でにぎわっている ・武士の行列がある ・外国の服装をした人たちの行列がある ・船でたくさんの物が運ばれてきている ・江戸の町人人口が1721年から急に増えている <p>★江戸時代の暮らしは、どのように変化していったのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題について予想し、話し合う。 ○予想を基にし、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…人々の工夫や努力、町人の暮らし、町人文化、国学と教育、蘭学 ・調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 ・表現の仕方…ノートにまとめる <p>2～3 人々の暮らしについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○百姓の生活の工夫について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・農具の進歩 ・地域の風土を生かした商品作物、特産物 ○力をつけた町人について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・商品売買の工夫、加工商品 ・五街道の整備、江戸・大阪間の航路の確立 <p>4～5 町人文化と新しい学問について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町人の好みに合った文化について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎や人形浄瑠璃（近松門左衛門など） ・浮世絵（歌川広重など） ○国学や教育について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・国学（本居宣長） ・寺子屋で読み・書き・そろばん ・町民・農民の子どもが通う ○蘭学について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・オランダ語人体解剖書の翻訳『解体新書』（杉田玄白 前野良沢） ・日本全国を歩いた測量、正確な日本地図（伊能忠敬） <p>6 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題について自分の考えをまとめ、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 144～146の絵図を手掛かりに、人々の生活の様子について意見を出させることで人々の暮らしに関心をもたせる。 ・教科書P. 147の「江戸の町人の人口の変化」のグラフから、なぜ急に人口が増えたのかという疑問をもたせることで、江戸時代の暮らしがどのように変わったのかという学習問題に対する関心を高めさせる。 <p>【評】絵図やグラフを基にして話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな生活を送るために、収穫量を増やしたり、技術を磨いてよく売れる特産物を作り出したりする工夫を施し、各地からの商品流通が盛んになったことを捉えさせる。 ・街道や航路の整備によって物流の量が増え、町人が多額の富を得るようになったことを捉えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・現代まで続く伝統文化がこの時代に形成されてきたことに触れ、継承していく重要性について触れる。 ・広重に影響を受けたゴッホに代表されるように、町人文化が外国にまで影響を与えたことを確認する。 ・武士は主に藩校、庶民は寺子屋を通して、広く学問が広まったことを捉えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 157の日本地図と現在の日本地図とを比較させ、正確な測量であったことを確認できるようにする。 <p>【評】文化や学問を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 157を参考にまとめさせる。 <p>【評】江戸時代の暮らしの様子についてまとめ話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 明治の新しい国づくり

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) ペリーの来航や新政府が進めた新しい国づくりについて調べることを通して、我が国が開国し江戸幕府が倒れるきっかけとなったことや、欧米の文化を取り入れ近代化が進んだこと、欧米諸国と対等な関係を構築しようとしたことを理解するとともに、絵図や地図などの各種資料を活用し、まとめることができる。
- (2) 幕末から明治維新につながる世の中の様子や新政府が進めた政治・社会の仕組みの変化、近代化の発展をすすめた人々の働きを考え、表現することができる。
- (3) 幕末から明治維新につながる世の中の動きや新政府が進めた新しい国づくりに関心をもち、政治や社会の仕組みの変化などを意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

06030206_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 江戸時代の終わり頃の様子と明治時代の様子の絵を基に話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○江戸の終わり頃の江戸の様子と明治時代の東京の様子を見比べ、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・髪型、服装、建物、電車、街灯 ○明治時代の学校の様子について話し合い、単元の学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・一斉に授業をしている ★ どうして世の中の様子が大きく変わったのだろう ○学習問題について予想し、話し合う。 ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…黒船来航、幕府政治の終わり、明治新政府による政治の仕組み、富国強兵と文明開化 ・調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 表現の仕方…ノート、図、年表 <p>2～3 黒船の来航と幕府の対応、幕府政治の終わりについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○黒船来航と開国について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・開国を迫った理由と幕府の対応 ・開国と不平等条約 ○幕府政治の終わりについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・世の中の動きと幕府や藩の対応、大塩平八郎の乱 ・幕府を倒し天皇中心の政治を目指す（尊王攘夷運動：西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允ら） ・政権を天皇に返す <p>4～5 新しい国づくりの方針・政策を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新政府の改革の内容について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・五か条の御誓文、版籍奉還、廃藩置県、解放令 ○富国強兵策について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・徴兵令、地租改正、殖産興業 ○文明開化について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・福沢諭吉『学問のすすめ』 ・学校制度、鉄道、郵便、電信・電話、西洋文化の広まり <p>6 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時代の変化を振り返り、ノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 160～161の2枚の絵を見比べ、読み取らせる。 <p>【評】絵図を基にして話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の寺子屋の様子と比較し、読み取らせる。 ・まちの様子や学校の様子が変化していることから、学習問題へと導いていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来港が江戸幕府に与えた影響を確認する。 ・幕府への不満の高まりが、倒幕運動に結び付いていったことを確認させる。 ・勝海舟や坂本龍馬などの人物のエピソードを交えて捉えさせる。 <p>【評】開国から幕府の政治が終わるまでの過程を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新政府の中心となった人物の働き、改革による人々の暮らしの変化について確認させる。 ・岩倉使節団について触れ、近代的な軍備を整備し、進んだ技術や文化を取り入れるための施策が施されたことを捉えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航や幕府の政治の衰え、天皇中心の国家をつくろうとする運動などによって、大きく世の中の様子が変わったことをまとめさせる。 ・年表や図にまとめさせてもよい。 <p>【評】年表にまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 国力の充実をめざす日本と国際社会

配当時間 9時間

単元の目標 (1) 大日本帝国憲法の発布や日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを基に、日本の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解するとともに、明治政府に関わる人物の業績や当時の人々の生活の様子、当時の国際関係などについて資料等を活用して調べ、まとめることができる。

(2) 自由民権運動の進展、大日本帝国憲法の発布や帝国議会の開設、不平等条約の改正などの事象に関連付けたり総合したりして、日本の国際的地位の向上を目指す明治政府の意図や世の中の変化の様子を考え、表現することができる。

(3) 日本の国力の充実や国際的地位の向上に関わる人々の思いや願いなどについて、意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

06030207_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 絵図を基に話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 西南戦争や舞踏会の様子の絵図、年表を見て気付いたことを話し合い、学習問題をつかむ。 <p>★明治新政府は、どのような政治を進めていったのだろう</p> <p>○ 学習問題について予想し、話し合う。</p> <p>○ 予想を基にして、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べる内容…自由民権運動、大日本帝国憲法と帝国議会、不平等条約改正、日清・日露戦争、世界で活躍する日本人、産業の発達、社会運動 調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 表現の仕方…ノートにまとめる <p>2～3 新しい政治の仕組みができるまでの過程を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 政府に対して不満をもっていた人々の動きについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 演説会の様子 ・ 西南戦争（西郷隆盛） ・ 板垣退助（自由民権運動、自由党） ・ 大隈重信（立憲改進黨） ○ 大日本帝国憲法の特徴と帝国議会について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伊藤博文 ・ 日本国憲法との違い <p>4～6 条約改正、中国・ロシアとの戦いについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不平等条約改正の動きについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 治外法権を認める、関税自主権がない ・ ノルマントン号事件によつての改正へ向けた声の高まり ・ 活躍した人々（陸奥宗光、小村寿太郎） ○ 中国・ロシアとの戦いについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝鮮をとりまく列強の様子（ビゴーの風刺画） ・ 日清・日露戦争とその影響 ○ 日露戦争後の日本と世界の様子について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国、中国（満州）の様子 ・ 第一次世界大戦への参戦 ○ 世界で活躍した日本人について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北里柴三郎（破傷風の治療、ペスト菌の発見） ・ 野口英世（黄熱病の研究） ・ 津田梅子（岩倉使節団、女性教育をすすめる） <p>7～8 産業の発達と人々の暮らしの変化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 産業の発達について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 八幡製鉄所 	<p>・ P.174～175「西南戦争の様子」「鹿鳴館での舞踏会の様子」の絵図や年表から、武力での訴えが通じなくなったことや、服装が欧米化していること、憲法が発布されていることに気付かせ、明治政府がどのような国をつくらうとしていたか話し合わせる。</p> <p>【評】絵図や年表を基に話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・ 自由民権運動は各地に広がり、政府は厳しく取り締まったが、ますます運動は高まっていたことを押さえる。</p> <p>・ 憲法に基づく議会政治、自由民権運動を受けて民意を反映した成果が現れたことを確認し現在の日本につながる下地ができていることに気付かせる。</p> <p>・ 「憲法と政治のしくみ」の単元を歴史学習の後に行う場合には、教科書の内容に配慮する</p> <p>【評】新しい政治について調べる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 日本の国際的地位を高め、国力を向上させるために政府が行ったことを確認させる。</p> <p>・ ノルマントン号事件の裁判結果に日本国民の不満が高まったことから、条約改正への思いが高まったことに気付かせる。</p> <p>・ 条約を結んでから約50年もの月日をかけて改正に向けて努力をしていた日本の取組に目を向けさせる。</p> <p>・ 教科書P.182を参考に、日本の領土がほぼ決まったことを確認する。</p> <p>・ 日本が朝鮮半島に勢力を伸ばそうとした理由を考えさせる。</p> <p>・ 日本海海戦において活躍した東郷平八郎を取り上げる。</p> <p>・ 近隣諸国に与えた影響については、列強の大陸への進出などの時代背景を踏まえさせ、広い視野から考えさせる。</p> <p>・ 教科書P.187を使い、欧米の学問や技術を習得し近代化を目指す潮流があったことを想起させる。その中で輝かしい功績を残した科学者達が現れたことを説明する。</p> <p>・ 厳しい労働条件で働いていた女性労働者の支</p>

- ・公害（足尾銅山鉍毒事件，田中正造）

○明治・大正時代の人々の様子について調べる。

- ・苦しい生活，多くの差別
- ・社会運動（女性の社会進出，全国水平社の創立）
- ・関東大震災
- ・社会運動の影響（25歳以上の男性への選挙権，社会運動を取り締まる法律）

9 単元のまとめをし，学習の振り返りをする。

- 単元のまとめをし，話し合う。

えもあり，生糸の輸出額が世界一にまでなったことを捉えさせる。

- ・産業の発達により，新たな問題が起こってきたことを捉えさせる。
- ・社会運動の成果として，選挙権が男子のみに認められたが，不十分なものであったことや社会運動を取り締まる法律（治安維持法）が制定されたことを補足する。

- ・条約改正に向け，国力の充実を図っていたことや，世界で活躍する人々が出てきたこと，苦しい立場に立たされていた人がいたことなどを個人でまとめさせた後，学級全体で交流し，考えを深めさせる。

【評】自分の考えをノートにまとめたり，話し合ったりする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

憲法の学習と順序を入れ替えて行ってもよいが，教科書の記述には配慮する。

単元名 アジア・太平洋に広がる戦争

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 日本が戦争に至った背景と、戦争が拡大していく経緯、国民やアジア・太平洋諸国に及ぼした影響を理解するとともに、戦争の被害や悲惨さについて、戦争体験者の記事や写真等の資料を基に調べ、まとめることができる。
- (2) 日本が戦争することになった原因や時代背景、国民やアジア・太平洋諸国への影響について考え、表現することができる。
- (3) 戦争の始まりや戦争の広がり、各地への空襲、戦時下の国民の暮らしなどについて、意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

06030301_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 第一次世界大戦後の日本の様子について調べ、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真や年表を基に当時の様子について話し合い、単元の学習問題をつかむ。 ★どうして日本は戦争することになり、その結果、人々の暮らしはどのように変わったのだろう <p>○学習問題について予想し、話し合う。</p> <p>○予想を基にして、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…戦争の原因と経過、戦時中の国民生活、戦争の終わり方 ・調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 ・表現の仕方…ノートにまとめる、新聞 <p>2～3 戦争に進んでいく日本の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界で孤立する日本と、国内の混乱の様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・満州事変 ・国際連盟脱退 ・軍人が政治家を暗殺する事件（五・一五事件、二・二六事件） ○中国との戦争の長期化とアジアや太平洋に広がる様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・日中戦争、太平洋戦争 <p>4～6 戦争中の人々の暮らしについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○戦争による人々の暮らしの変化について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・アジアの人々（創氏改名、徴兵、日本での労働） ・日本人々（切符制・配給制、鉄の使用制限、言論・出版・集会への規制、小・中学生の労働） ○子どもや女性たちの様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・訓練や工場への動員 ・学校、暮らしの様子 ○日本全土への空襲、沖縄戦の様子、終戦について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・空襲による死者全国で約30万人 ・沖縄戦での県民約9万人の犠牲者 ・沖縄はアメリカ軍に占領された ・8月6日広島、9日長崎に原爆投下（死者約21万人） ・8月15日、日本が連合国に降伏 <p>7 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○戦争の原因や経過、その後の様子をノートなどにまとめる。 ○戦争について話し合い、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 194～196の写真やグラフを見て、第一次世界大戦の頃の好景気から、その後の不景気に至った理由について確認し、その後の第二次世界大戦、日本の行く末について調べていく活動に意欲をもたせる。 【評】資料を基にして話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する <ul style="list-style-type: none"> ・前時で触れた世界的な不景気に触れ、当時の農民達が苦しい生活を改善することを夢見て大陸へ移住していったことを確認させる。 ・国内が失業者であふれていたこと、その解決策を軍勢力に頼っていた様子を説明する。 ・満州への日本軍の侵攻の様子について確認するとともに、国際連盟が派遣したリットン調査団の調査結果により、日本が国際的に孤立していった経緯を補足するとよい。 【評】日本が戦争に進んでいく過程を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・侵略された人々の気持ち、日本国内の混乱の様子について考えさせ、戦争によって様々な立場の人が苦しんでいる様子に気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本が侵略するだけでなく、過酷な労働を強いていたことを確認する。 ・日本人々も平穏な生活は送れず、生活物資が足りず、言論も規制されるなど、異常な状態であったことを確認させる。 ・戦争体験のある方に話を聞くことができると効果的である。 <ul style="list-style-type: none"> ・兵士だけでなく、民間人も多くの被害に遭ったことを押さえる。 ・知多半島内でも空襲があったことに触れ、半田赤レンガ倉庫のように、空襲や戦争の跡が残っている遺構を写真などで紹介すると興味を引くことができる。 ・ひめゆり学徒隊に代表されるように、児童とあまり年齢の変わらない人々も、戦争に参加させられていたことを確認させる。 ・原爆による後遺症に今も苦しんでいる人がいることを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 209を参考に、新聞にまとめさせてもよい。 ・戦争について児童が自分の考えをまとめられるように展開する。 【評】戦争について自分の考えを書いたり発表したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 新しい日本へのあゆみ

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 戦後、日本は日本国憲法を制定し、民主的な国家として出発したことや、国民の努力により国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解するとともに、戦後の人々の暮らしや日本の民主化、日本の独立などについて資料を活用して調べ、まとめることができる。
- (2) 日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などに着目し、日本の政治や人々の生活が変化したことや、日本が国際社会において果たしてきた役割を考え、表現することができる。
- (3) 戦後の日本の復興や国民生活について、意欲的に追究しようとする。

標準的な展開例

06030302_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 空襲で破壊された大阪の様子や人々の様子の写真を基に話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 空襲で破壊された大阪の様子や終戦直後の町や人々の様子を見て、気付いたことを話し合い、単元の学習問題をつかむ。 <p>★人々は、どのような思いや願いをもって、日本を変えていこうとしたのだろう</p> <p>○学習問題について予想し、話し合う。</p> <p>○予想を基に、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べる内容…戦後の改革、新憲法の施行と独立の回復、発展した経済と国民の生活、国際社会の中の日本 調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 表現の仕方…ノートにまとめる <p>2～3 民主的な国になるまでの様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい国づくりと憲法について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 男女平等社会（女性参政権、女性議員誕生） 新しい学校教育（墨ぬり教科書、教育の目的の改革） 憲法（平和主義、基本的人権の尊重） <p>○日本の国際社会への復帰について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 世界の国々の対立（冷たい戦争・東西冷戦、朝鮮戦争） 日本の独立 国際連合への加盟 </p> <p>4～6 国際社会に復帰した後の日本の様子について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の経済発展について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長のよかった点と問題点 人々の暮らしの変化について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 家庭電化製品の普及 住まいの変化、情報社会、平均寿命の伸び 社会保障の充実 国際社会での日本の役割を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 東京オリンピック・パラリンピック、万国博覧会 中国、韓国、北朝鮮、アメリカとの関係 国際社会における日本の役割 <p>7～8 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習してきたことをノートにまとめる。 これまでの歴史学習を振り返り、歴史を学んできた意義について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 210「敗戦直後の大阪市の様子」や教科書P. 212～213「終戦直後のまちや人々の様子」の絵図を見て、当時の人々の思いを想像させる。 戦争が終わり安心する一方、厳しい生活を強いられた人々の状況を押さえる。 <p>【評】写真や絵図を基に話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に出てきた当時の人々の苦しい生活をなんとかしたいという願いを具現化できるように、国の制度がつくられてきていることを確認させる。 教科書P. 215「あたらしい憲法のはなし」にあるように、日本国憲法が民主的で平和を願う憲法であることを理解できるようにする。 東西冷戦の対立が深まる中で、日本とアメリカの関係が強化されていったことに気付かせる。 <p>【評】日本の民主化が進む過程を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済成長が技術革新や工業の発展の基に成り立ったものであること、高度成長期の人々の努力によってもたらされたものであることに気付かせる。 経済発展に伴って公害などの課題も出てきたことを押さえる。 暮らしの変化については、祖父母などに話を聞いてみるとよいことを伝える。 高級品だった品々が、経済発展による国民所得の向上や技術革新によって普及していったことを捉えさせる。 1964年の東京オリンピックを取り上げる。また、パラリンピックも同年の第2回のものを取り上げる。 日本が経済力をつけることで、国際社会の重要なメンバーとして認められていったこと、国際社会の一員として責任も大きくなっていったことを捉えさせる。 近隣諸国との関係を正常化しようと粘り強く交渉してきたが、現在もなお領土などの問題が残されていることを確認させる。 戦後の日本の歩みに対して誇りをもつとともに、今後の日本の役割について考えさせる。 歴史学習で学んできたことを、これからどう生かしていくのか、話し合わせる。 <p>【評】ノートにまとめたり、歴史学習の意義を</p>

話し合う活動を通して「思考・判断・表現」
を評価する。

【 備 考 】

単元名 つながりの深い国々のくらし

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 我が国とつながりの深い国の人々の生活は多様であることや、他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解するとともに、地図帳や地球儀、各種資料で調べ、まとめることができる。
- (2) 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現することができる。
- (3) グローバル化する世界と日本の役割について意欲的に追究しようとするとともに、世界の人々と共に生きようとする気持ちをもとうとする。

標準的な展開例

06030303_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 日本と外国との関わりを身近な生活から見付け出し、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界で活躍する日本人について、資料を基に話し合う。 ○日本と外国とのつながりについて知っていることを発表し、単元の学習問題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・食事、スポーツ、観光、貿易、歴史的なつながりなど ★日本とつながりの深い国々の人々は、どのような生活をしているのだろう ○学習問題について予想し、話し合う。 ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…調べたい国、日本とのつながり、学校や子どもの様子など ・調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用、留学生や知人への聞き取り調査、民俗博物館などの見学 ・表現の仕方…ノートにまとめる ○グループで分担し、調べたい国を決める。 <p>3～5 計画に従って調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○視点に基づいて、担当した国について調べる。 ○調べたことをノートにまとめ、発表し合う。 <p>6 多くの国や人が関わり合っている方法について調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多くの国や人が関わり合っている交流について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ（オリンピック、パラリンピックなど） ・文化（万国博覧会など） ○国旗や国歌の意味を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・日章旗（日の丸） ・君が代 <p>7 単元のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本と諸外国との文化や習慣の違いなどについて話し合い、外国の人々との関わり方をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 230～231の写真を参考に世界で活躍している人の活動や、技術を伝えていることを押さえる。 ・地図帳や地球儀などを使って、教科書P. 231に出てくる国の位置を確認させる。 ・5年生での産業学習や6年生での歴史学習などを振り返らせ、日本と外国とのつながりを想起させる。 ・日本人スポーツ選手の外国での活躍や、食べたことのある外国料理などを発表させ、日本と外国が様々な面でつながっていることに気付かせる。 ・地図帳や地球儀などを使って、日本とつながりのある国の位置を確認させる。 <p>【評】日本と外国とのつながりについて発表し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載している国（アメリカ合衆国、中華人民共和国、ブラジル、大韓民国）の中から、一つの国を選択させる。 ・特定の国に偏らないように配慮しつつ、4～5人程度のグループを作って調べる国を決めさせる。 ・作業帳などを活用し、地形、人口、面積、国土の位置、文化、歴史などについても調べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・地球儀や地図を積極的に活用させる。 ・それぞれの国には特色ある文化や習慣があることを捉えさせる。 ・それらの特徴は、国の歴史や文化・自然などと深い関係があることを補足するとよい。 <p>【評】関心のある国について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本から見た位置、日本の文化との違いや共通点、日本とのつながりなど、日本とその国との関係についてまとめさせる。 ・発表し合うことで、日本は多くの国とつながっていることに目を向けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに日本とつながりのある一つの国を調べ、話し合いを通して、多くの国とつながりがあることを学習してきた。ここでは、多くの国が一堂につながったり関わり合ったりする交流の場面を取り上げていく。 ・2020年の東京オリンピック・パラリンピック2025年の大阪万博などを取り上げ、その意義を捉えさせる。 ・スポーツの大会などで、国旗を掲げたり国歌を歌ったりすることに着目させ、互いの国の健闘を讃えるなど、互いの国を尊重していることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの国の特色ある文化や習慣を尊重したり、よりよい関係をつくっていくよう留意しながらまとめさせる。

【評】日本と諸外国との関わりについて話し合ったりまとめたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 国際連合と日本の役割

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 様々な国際交流や国際協力、国際連合の働きなどを調べ、日本が世界平和のために重要な役割を担っていることを理解するとともに、国際交流や国際協力の現状について、各種資料を活用して調べまとめることができる。
- (2) 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割について考え、表現することができる。
- (3) 国際社会が抱える様々な問題について、意欲的に追究するとともに、これまでの学習を振り返り、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として、世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚をもとうとする。

標準的な展開例

06030304_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 世界の様々な問題について話し合い、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○戦争や紛争、環境問題など、世界が抱えている問題について、写真を基に話し合う。 ○教科書を基に、様々な国際交流、国際協力について概観し、単元の学習問題をつかむ。 ★世界で起きている様々な問題は、誰が、どのように解決しようとしているのだろうか ○学習問題について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本など、先進国が手助けしている ・国連という世界の平和を守る機関を歴史で勉強した ○予想を基にして、学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容…国際連合の働き、環境を守る取組、日本の果たすべき役割 ・調べる方法…教科書、資料集、図書資料、インターネットの活用 ・表現の仕方…ノートにまとめる <p>2～4 国際連合の働きについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際連合の働きと目的について調べる <ul style="list-style-type: none"> ・国連憲章、安全保障理事会、ユニセフ、ユネスコ ○世界平和に向けての取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・地雷製造の制限と除去活動 ・ユニセフによる支援 ○環境保全に向けての取組について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・京都での国際会議 ・持続可能な開発のための2030アジェンダSDGs <p>5 日本の国際協力について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本が国際協力で活躍している様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊 ・国境なき医師団 ・医療支援 ・技術者の育成 <p>6 単元のまとめをし、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界で起きている問題について、どのような解決に向けての取組をしているのかをまとめる。 ○教科書を基に、自分ができていることを考え、話し合う。 ○社会科学習を振り返り、学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 254～255の写真を基にして話し合わせる。 ・写真の人々の表情にも注目させ、どのような困難さを抱えているのか考えさせ、問題の深刻さに気付かせる。 <p>【評】世界が抱えている問題について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 256の国連憲章から、国連最大の目的が世界平和の維持と国際協力であることを捉えさせる。 ・国連のような機関がなかったらどうなるのかを考えさせ、その重要性に気付かせることよい ・実際の国連の活動が分かる資料を用意し、紹介していくことで理解を深めさせるとよい。 ・ユニセフ募金などの活動によって、どのような支援が行われているか、具体的な話ができるとよい。 ・国連が中心となり、全世界が協力し、持続可能な社会や環境づくりに取り組んでいることその必要性に気付かせる。 <p>【評】国際連合の様々な取組を学習する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地の人々が何を必要としているのかを交流して理解した上で、適切な支援を行うことが大切であると補足する。 ・国際協力については、教育・医療・農業などの事例を選択して取り上げる。 ・国連や、日本の交際協力・支援などをまとめさせる。 ・教科書P. 264の「世界を変えるための17の目標」から、自分にできていることを考え、まとめさせる。 <p>【評】国際平和のために、自分にできていることを考え話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの社会科で学んだことを振り返らせるさらに教科書P. 270を参考にして、中学校で

【 備 考 】

令和2年度 知多地方教育計画案

算数科

算 数 科

1 教科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(1) 「数学的な見方・考え方を働かせ」について

- ・「数学的な見方・考え方」は、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること」として整理することができる。
- ・「数学的な見方・考え方」は、数学的に考える資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」の全てに対して働かせるものとしている。
- ・「数学的な見方・考え方」は、算数の学習の中で働かせるだけではなく、大人になって生活していくに当たっても重要な働きをするものとなる。

(2) 「数学的活動を通して」について

- ・「数学的活動」とは、事象を数理的に捉えて、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行することである。
- ・「児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数に関わりのある様々な活動」であるとする従来の意味を、問題発見や問題解決の過程に位置付けてより明確にした。

(3) 「数学的に考える資質・能力を育成すること」について

- ・「数学的に考える資質・能力」とは、算数科の教科目標に示された三つの柱で整理された算数・数学教育で育成を目指す力のことである。
- ・「数学的に考える資質・能力」は、数学的活動によって育成されるもので、算数の学習はもとより、他教科等の学習や日常生活等での問題解決に生きて働くものである。また、育成された資質・能力は「数学的な見方・考え方」の成長にも大きな影響を与えるものである。

(4) 「(1)知識及び技能」について

- ・身に付けるべき基礎的・基本的な内容の習得を重視するとともに、その背景にある概念や性質についての理解を深めながら、概念や性質の理解に裏付けられた確かな知識及び技能を習得する必要がある。
- ・日常生活や社会における事象を数理的に捉え処理して問題を解決することに役立てられるようにすることが大切である。

(5) 「(2)思考力、判断力、表現力等」について

- ・問題を解決したり、物事を判断したり、推論を進めたりしていく過程において、見通しをもち筋道を立てて考えて、いろいろな性質や法則などを発見したり確かめたり、筋道を立てて説明したりする資質・能力の育成を目指すことを重要なねらいとしている。
- ・算数の学習において数量や図形の性質を見だし、数理的な処理をすることは、それらを統合的・発展的に考察して新しい算数を創ることを意味しているともいえる。
- ・数学的な表現を用いることで、事象をより簡潔、明瞭かつ的確に表現することが可能になり、論理的に考えを進めることができるようになったり、新たな事柄に気付いたりすることができるようになる。考えたことを目的に応じて柔軟に表現することで、考えをより豊かにすることができる。

(6) 「(3)学びに向かう力、人間性等」について

- ・数学的活動を積極的に取り入れることによって、楽しい算数の授業を創造することが大切である。学習の中で児童が数学のよさ（数学の価値や算数を学習する意義）に気付いていけるように、指導を創意工夫することが重要である。

- ・数学的に表現・処理したことや自らが判断したことを振り返り、状況によってはそれを批判的に検討するなどして、考察を深めたり多面的に分析したりすることが、よりよい問題解決の実現につながる。
- ・算数の学習で身に付けた資質・能力を生活や学習の様々な場面で活用することによって、児童にとって学習が意味あるものとなり、数学のよさを実感を伴って味わうことができるようになる。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

数学的に考える資質・能力の育成を目指す観点から、実社会との関わりと算数・数学を統合的・発展的に構成していくことを意識して、数学的活動の充実等を図った。また、社会生活など様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力の育成を目指すため、統計的な内容等の改善・充実を図った。

(1) 平成 20 年改訂の学習指導要領の成果と課題

- ・PISA2015 では数学的リテラシーの平均得点は国際的に見ると高い。TIMSS2015 では、算数の平均得点は平成 7 年以降の調査において最も良好な結果になっている。
- ・学習意欲面に課題がある。算数・数学の勉強に対する意識に差があり、小学校から中学校に移行すると、数学の学習に対し肯定的な回答をする生徒の割合が低下する傾向にある。
- ・全国学力・学習状況調査等の結果からは、小学校では、「基準量，比較量，割合の関係を正しく捉えること」や「事柄が成り立つことを図形の性質に関連付けること」が課題として指摘されている。

(2) 算数科の目標の改善

- ・「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱で整理して示した。
- ・「数学的な見方・考え方」は資質・能力の三つの柱の全てに働くものである。
- ・従来の算数的活動を数学的活動とし、目標の中で「数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す」と示した。

(3) 算数科の内容構成の改善

- ・児童が身に付けることが期待される資質・能力を三つの柱に沿って整理し、「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」については指導事項のまとまりごとに内容を示した。また，「学びに向かう力，人間性等」については，指導事項のまとまりごとに内容に示すことはせず，教科の目標及び学年目標において，まとめて示した。
- ・指導事項のそれぞれのまとまりは，「A数と計算」「B図形」「C測定」「C変化と関係」及び「Dデータの活用」の五つの領域とした。下学年は「A数と計算」「B図形」「C測定」及び「Dデータの活用」の四つの領域とし，上学年は「A数と計算」「B図形」「C変化と関係」及び「Dデータの活用」の四つの領域としている。
- ・引き続き，数や式，表，グラフといった数学的な表現を用いて，筋道を立てて考え表現したりすることを重視した。
- ・統計的な内容については，連続データの取扱いを充実させた。
- ・プログラミング教育についても内容の取扱いで触れることとした。
- ・具体的な内容の移行について
 - 3年 メートル法の単位の仕組み（k（キロ），m（ミリ）など接頭語について）
 - 4年 メートル法の単位の仕組み（長さや面積の単位の関係について）
 - 5年 メートル法の単位の仕組み（長さや体積の単位の関係について），速さ
 - 6年 分数×整数，分数÷整数，平均値，中央値，最頻値，階級

3 算数科計画書の留意事項

(1) 問題の示し方

問題番号ではなく，問題の意図が分かるように示してある。ただし，文章で表現しにくいものについては，教科書の巻頭にあるように「みんなで考える問題」「練習問題」と示してある。

(2) 単位について

本文はデータベースで作成されているため，面積や体積の指数を用いる単位をそのまま使用することができない。よって，指数をそのままの数字で示す。

面積： $\text{cm}^2 \Rightarrow \text{cm2}$ ， $\text{m}^2 \Rightarrow \text{m2}$ 体積： $\text{cm}^3 \Rightarrow \text{cm3}$ ， $\text{m}^3 \Rightarrow \text{m3}$

第1学年 算数科

1 学年の目標

- (1) 数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を重ね、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにある量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
- (2) ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力、ものの形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを養う。
- (3) 数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

2 内容 (○知識及び技能 ●思考力、判断力、表現力等)

数 と 計 算	数の構成と表し方	<p>○ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べること。</p> <p>○個数や順番を正しく数えたり表したりすること。</p> <p>○数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。</p> <p>○一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。</p> <p>○2位数の表し方について理解すること。</p> <p>○簡単な場合について、3位数の表し方を知ること。</p> <p>○数を、十を単位としてみること。</p> <p>○具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すこと。</p> <p>●数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かすこと。</p>
	加法、減法	<p>○加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。</p> <p>○加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。</p> <p>○1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。</p> <p>○簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。</p> <p>●数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。</p>

図形	図形についての理解の基礎	<p>○ものの形を認め、形の特徴を知ること。</p> <p>○具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。</p> <p>○前後、左右、上下など方向や位置についての言葉を用いて、ものの位置を表すこと。</p> <p>●ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりすること。</p>
測定	量と測定についての理解の基礎	<p>○長さ、広さ、かさなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすること。</p> <p>○身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。</p> <p>●身の回りのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだすこと。</p>
	時刻の読み方	<p>○日常生活の中で時刻を読むこと。</p> <p>●時刻の読み方を用いて、時刻と日常生活を関連付けること。</p>
データの活用	絵や図を用いた数量の表現	<p>○ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらを読み取ったりすること。</p> <p>●データの個数に着目し、身の回りの事象の特徴を捉えること。</p>
数学的活動		<p>①身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や形を見いだす活動</p> <p>②日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動</p> <p>③算数の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動</p> <p>④問題解決の過程や結果を、具体物や図などを用いて表現する活動</p>
用語・記号		一の位、十の位、＋、－、＝

3 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方及び整数の計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。整数の計算をしたり、身の回りにある量の大きさを比較したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	数量や図形に親しみをもち、それらについて様々な経験をもとうとしている。

第2学年 算数科

1 学年の目標

- (1) 数の概念についての理解を深め、計算の意味と性質、基本的な図形の内容、量の概念、簡単な表とグラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の計算をしたり、図形を構成したり、長さやかさなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
- (2) 数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力、身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり考察したりする力などを養う。
- (3) 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 内容 (○知識及び技能 ●思考力, 判断力, 表現力等)

数 と 計 算	数の表し方と構成	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ大きさの集まりにまとめて数えたり，分類して数えたりすること。 ○４位数までについて，十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。 ○数を十や百を単位としてみるなど，数の相対的な大きさについて理解すること。 ○一つの数をほかの数の積としてみるなど，ほかの数と関係付けてみること。 ○簡単な事柄を分類整理し，それを数を用いて表すこと。 ○$\frac{1}{2}$，$\frac{1}{3}$ など簡単な分数について知ること。 ●数のまとまりに着目し，大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え，日常生活に生かすこと。
	加法，減法	<ul style="list-style-type: none"> ○２位数の加法及びその逆の減法の計算が，１位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し，それらの計算が確実にできること。また，それらの筆算の仕方について理解すること。 ○簡単な場合について，３位数などの加法及び減法の計算の仕方を知ること。 ○加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。 ○加法と減法との相互関係について理解すること。 ●数量の関係に着目し，計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに，その性質を活用して，計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
	乗法	<ul style="list-style-type: none"> ○乗法の意味について理解し，それが用いられる場合について知ること。 ○乗法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすること。 ○乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。 ○乗法九九について知り，１位数と１位数との乗法の計算が確実にできること。 ○簡単な場合について，２位数と１位数との乗法の計算の仕方を知ること。 ●数量の関係に着目し，計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに，その性質を活用して，計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。 ●数量の関係に着目し，計算を日常生活に生かすこと。
図形	三角形や四角形などの図形	<ul style="list-style-type: none"> ○三角形，四角形について知ること。 ○正方形，長方形，直角三角形について知ること。 ○正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて理解し，それらを構成したり分解したりすること。 ●図形を構成する要素に着目し，構成の仕方を考えるとともに，身の回りのものの形を図形として捉えること。

測 定	長さやかさの単位と測定	○長さの単位（ミリメートル（mm），センチメートル（cm），メートル（m））及びかさの単位（ミリリットル（mL），デシリットル（dL），リットル（L））について知り，測定の意味を理解すること。 ○長さ及びかさについて，およその見当を付け，単位を適切に選択して測定すること。 ●身の回りのものの特徴に着目し，目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり，比べたりすること。
	時間の単位	○日，時，分について知り，それらの関係を理解すること。 ●時間の単位に着目し，時刻や時間を日常生活に生かすこと。
デー タ の 活 用	簡単な表やグラフ	○身の回りにある数量を分類整理し，簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすること。 ●データを整理する観点に着目し，身の回りの事象について表やグラフを用いて考察すること。
数学的活動		①身の回りの事象を観察したり，具体物を操作したりして，数量や図形に進んで関わる活動 ②日常の事象から見いだした算数の問題を，具体物，図，数，式などを用いて解決し，結果を確かめる活動 ③算数の学習場面から見いだした算数の問題を，具体物，図，数，式などを用いて解決し，結果を確かめる活動 ④問題解決の過程や結果を，具体物，図，数，式などを用いて表現し伝え合う活動
用語・記号		>，<，×，直線，直角，頂点，辺，面，単位

3 内容の取扱い

- 「数の構成と表し方」については，1万についても取り扱うものとする。
- 「加法，減法」については，必要な場合には，（ ）や□などを用いることができる。また，計算の結果の見積もりについて配慮するものとする。
- 「加法，減法」の“加法及び減法に関して成り立つ性質”については，交換法則や結合法則を取り扱うものとする。
- 「乗法」の“乗法に関して成り立つ簡単な性質”については，主に乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則を取り扱うものとする。
- 「三角形や四角形などの図形」の“正方形，長方形，直角三角形について知ること”に関連して，正方形，長方形が身の回りで多く使われていることが分かるようにするとともに，敷き詰めるなどの操作的な活動を通して，平面の広がりについての基礎となる経験を豊かにするよう配慮するものとする。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，整数の意味と表し方，整数の計算の意味，長さやかさなどの単位と測定の意味，図形の意味及び数量の関係などについて理解している。整数の計算をしたり，長さやかさなどを測定したり，図形を構成したり，数量の関係をなどを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して，数理的な処理に親しみ，考え表現したり工夫したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	数量や図形に親しみをもち，それらについて様々な経験をもとうとするとともに，知識や技能などを進んで用いようとしている。

第3学年 算数科

1 学年の目標

- (1) 数の表し方、整数の計算の意味と性質、小数及び分数の意味と表し方、基本的な図形の内容、量の概念、棒グラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数などの計算をしたり、図形を構成したり、長さや重さなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
- (2) 数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力、身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり適切に判断したりする力などを養う。
- (3) 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 内容 (○知識及び技能 ●思考力、判断力、表現力等)

数 と 計 算	数の表し方	<p>○万の単位について知ること。</p> <p>○10倍，100倍，1000倍，$1/10$の大きさの数及びそれらの表し方について知ること。</p> <p>○数の相対的な大きさについての理解を深めること。</p> <p>●数のまとまりに着目し，大きな数の大きさの比べ方や表し方を考え，日常生活に生かすこと。</p>
	加法，減法	<p>○3位数や4位数の加法及び減法の計算が，2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また，それらの筆算の仕方について理解すること。</p> <p>○加法及び減法の計算が確実にでき，それらを適切に用いること。</p> <p>●数量の関係に着目し，計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに，その性質を活用して，計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。</p>
	乗法	<p>○2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が，乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また，その筆算の仕方について理解すること。</p> <p>○乗法の計算が確実にでき，それを適切に用いること。</p> <p>○乗法に関して成り立つ性質について理解すること。</p> <p>●数量の関係に着目し，計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに，その性質を活用して，計算を工夫したり確かめをしたりすること。</p>

数 と 計 算	除法	<p>○除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。</p> <p>○除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。</p> <p>○除法と乗法や減法との関係について理解すること。</p> <p>○除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。</p> <p>○簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。</p> <p>●数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。</p> <p>●数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。</p>
	小数の意味と表し方	<p>○端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。また、小数の表し方及び1/10の位について知ること。</p> <p>○1/10の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。</p> <p>●数のまとまりに着目し、小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、小数を日常生活に生かすこと。</p>
	分数の意味と表し方	<p>○等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。</p> <p>○分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること。</p> <p>○簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。</p> <p>●数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。</p>
	数量の関係を表す式	<p>○数量の関係を表す式について理解するとともに、数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりすること。</p> <p>●数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。</p>
	そろばん	<p>○そろばんによる数の表し方について知ること。</p> <p>○簡単な加法及び減法の計算の仕方について知り、計算すること。</p> <p>●そろばんの仕組みに着目し、大きな数や小数の計算の仕方を考えること。</p>

図 形	二等辺三角形，正三角形などの図形	<p>○二等辺三角形，正三角形などについて知り，作図などを通してそれらの関係に次第に着目すること。</p> <p>○基本的な図形と関連して角について知ること。</p> <p>○円について，中心，半径，直径を知ること。また，円に関連して，球についても直径などを知ること。</p> <p>●図形を構成する要素に着目し，構成の仕方を考えとともに，図形の性質を見だし，身の回りのものの形を図形として捉えること。</p>
測 定	長さ，重さの単位と測定	<p>○長さの単位（キロメートル（km））及び重さの単位（グラム（g），キログラム（kg））について知り，測定の意味を理解すること。</p> <p>○長さや重さについて，適切な単位で表したり，およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること。</p> <p>●身の回りのものの特徴に着目し，単位を統合的に考察すること。</p>
	時刻と時間	<p>○秒について知ること。</p> <p>○日常生活に必要な時刻や時間を求めること。</p> <p>●時間の単位に着目し，時刻や時間の求め方について考察し，日常生活に生かすこと。</p>
デー タ の 活 用	表と棒グラフ	<p>○日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し，表に表したり読んだりすること。</p> <p>○棒グラフの特徴やその用い方を理解すること。</p> <p>●データを整理する観点に着目し，身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して，見いだしたことを表現すること。</p>
数学的活動		<p>①身の回りの事象を観察したり，具体物を操作したりして，数量や図形に進んで関わる活動</p> <p>②日常の事象から見いだした算数の問題を，具体物，図，数，式などを用いて解決し，結果を確かめる活動</p> <p>③算数の学習場面から見いだした算数の問題を，具体物，図，数，式などを用いて解決し，結果を確かめる活動</p> <p>④問題解決の過程や結果を，具体物，図，数，式などを用いて表現し伝え合う活動</p>
用語・記号		等号，不等号，数直線，÷，小数点，1/10の位，分母，分子

3 内容の取扱い

- (1) 「数の表し方」については，1億についても取り扱うものとする。
- (2) 「加法，減法」及び「乗法」については，簡単な計算は暗算でできるように配慮するものとする。また，計算の結果の見積もりについても触れるものとする。
- (3) 「乗法」については，乗数又は被乗数が0の場合の計算についても取り扱うものとする。
- (4) 「乗法」の“乗法に関して成り立つ性質”については，交換法則，結合法則，分配法則を取り扱うものとする。
- (5) 「小数の意味と表し方」及び「分数の意味と表し方」については，小数の0.1と分数の1/10

などを数直線を用いて関連付けて取り扱うものとする。

- (6) 「二等辺三角形，正三角形などの図形」の基本的な図形については，定規，コンパスなどを用いて，図形をかいたり確かめたりする活動を重視するとともに，三角形や円などを基にして模様をかくなどの具体的な活動を通して，図形のもつ美しさに関心をもたせるよう配慮するものとする。
- (7) 「長さ，重さの単位と測定」については，重さの単位トン（t）について触れるとともに，接頭語（キロ（k）やミリ（m））についても触れるものとする。
- (8) 「表と棒グラフ」の“棒グラフの特徴やその使い方”については，最小目盛りが2，5又は20，50などの棒グラフや，複数の棒グラフを組み合わせたグラフなどにも触れるものとする。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	数の表し方，整数の計算の意味と性質，小数及び分数の意味と表し方，基本的な図形の概念，量の概念，棒グラフなどについて理解し，数量や図形についての感覚を豊かにしている。整数などの計算をしたり，図形を構成したり，長さや重さなどを測定したり，表やグラフなどに表したりすることなどについての技能を身に付けている。
思考・判断・表現	数とその表現や数量の関係に着目し，必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力，平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり，身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力，身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え，量の単位を用いて的確に表現する力，身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え，簡潔に表現したりする力などを身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数量や図形に進んで関わり，数学的に表現・処理したことを振り返り，数学的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

第4学年 算数科

1 学年の目標

- (1) 小数及び分数の意味と表し方，四則の関係，平面図形と立体図形，面積，角の大きさ，折れ線グラフなどについて理解するとともに，整数，小数及び分数の計算をしたり，図形を構成したり，図形の面積や角の大きさを求めたり，表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
- (2) 数とその表現や数量の関係に着目し，目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察する力，図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し，図形の性質や図形の計量について考察する力，伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し，変化や対応の特徴を見いだして，二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力，目的に応じてデータを収集し，データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し，それらを用いて問題解決したり，解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。
- (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り，多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度，数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 内容 (○知識及び技能 ●思考力，判断力，表現力等)

数 と 計 算	整数の表し方	<p>○億，兆の単位について知り，十進位取り記数法についての理解を深めること。</p> <p>●数のまとまりに着目し，大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えるとともに，それらを日常生活に生かすこと。</p>
	概数と四捨五入	<p>○概数が用いられる場合について知ること。</p> <p>○四捨五入について知ること。</p> <p>○目的に応じて四則計算の結果の見積りをする事。</p> <p>●日常の事象における場面に着目し，目的に合った数の処理の仕方を考えるとともに，それを日常生活に生かすこと。</p>
	整数の除法	<p>○除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が，基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また，その筆算の仕方について理解すること。</p> <p>○除法の計算が確実にでき，それを適切に用いること。</p> <p>○除法について，次の関係を理解すること。 $(被除数) = (除数) \times (商) + (余り)$</p> <p>○除法に関して成り立つ性質について理解すること。</p> <p>●数量の関係に着目し，計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに，その性質を活用して，計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。</p>

数 と 計 算	小数の仕組み とその計算	<p>○ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること。</p> <p>○小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。</p> <p>○小数の加法及び減法の計算ができること。</p> <p>○乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。</p> <p>●数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えるとともに、それを日常生活に生かすこと。</p>
	同分母の分数 の加法、減法	<p>○簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知ること。</p> <p>○同分母の分数の加法及び減法の計算ができること。</p> <p>●数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりするとともに、それを日常生活に生かすこと。</p>
	数量の関係を 表す式	<p>○四則の混合した式や（ ）を用いた式について理解し、正しく計算すること。</p> <p>○公式についての考え方を理解し、公式を用いること。</p> <p>○数量を□、△などを用いて表し、その関係を式に表したり、□、△などに数を当てはめて調べたりすること。</p> <p>●問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。</p>
	四則に関して 成り立つ性質	<p>○四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること。</p> <p>●数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えること。</p>
	そろばん	<p>○加法及び減法の計算をすること。</p> <p>●そろばんの仕組みに着目し、大きな数や小数の計算の仕方を考えること。</p>
図 形	平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形	<p>○直線の平行や垂直の関係について理解すること。</p> <p>○平行四辺形、ひし形、台形について知ること。</p> <p>●図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。</p>
	立方体、直方体などの立体図形	<p>○立方体、直方体について知ること。</p> <p>○直方体に関連して、直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること。</p> <p>○見取図、展開図について知ること。</p> <p>●図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに、日常の事象を図形の性質から捉え直すこと。</p>
	ものの位置の表し方	<p>○ものの位置の表し方について理解すること。</p> <p>●平面や空間における位置を決める要素に着目し、その位置を数を用いて表現する方法を考察すること。</p>

図 形	平面図形の面積	<p>○面積の単位（平方センチメートル（cm^2），平方メートル（m^2），平方キロメートル（km^2））について知ること。</p> <p>○正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解すること。</p> <p>●面積の単位や図形を構成する要素に着目し，図形の面積の求め方を考えるとともに，面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。</p>
	角の大きさ	<p>○角の大きさを回転の大きさとして捉えること。</p> <p>○角の大きさの単位（度（$^{\circ}$））について知り，角の大きさを測定すること。</p> <p>●図形の角の大きさに着目し，角の大きさを柔軟に表現したり，図形の考察に生かしたりすること。</p>
変化と関係	伴って変わる二つの数量	<p>○変化の様子を表や式，折れ線グラフを用いて表したり，変化の特徴を読み取ったりすること。</p> <p>●伴って変わる二つの数量を見いだして，それらの関係に着目し，表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。</p>
	簡単な場合についての割合	<p>○簡単な場合について，ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。</p> <p>●日常の事象における数量の関係に着目し，図や式などを用いて，ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察すること。</p>
データの活用	データの分類整理	<p>○データを二つの観点から分類整理する方法を知ること。</p> <p>○折れ線グラフの特徴とその用い方を理解すること。</p> <p>●目的に応じてデータを集めて分類整理し，データの特徴や傾向に着目し，問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し，その結論について考察すること。</p>
数学的活動		<p>①日常の事象から算数の問題を見いだして解決し，結果を確かめたり，日常生活等に生かしたりする活動</p> <p>②算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し，結果を確かめたり，発展的に考察したりする活動</p> <p>③問題解決の過程や結果を，図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動</p>
用語・記号		和，差，積，商，以上，以下，未満，真分数，仮分数，帯分数，平行，垂直，対角線，平面

3 内容の取扱い

- 「整数の表し方」については，大きな数を表す際に，3桁ごとに区切りを用いる場合があることに触れるものとする。
- 「概数と四捨五入」の“結果の見積り”及び「整数の除法」については，簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また，暗算を筆算や見積りに生かすよう配慮するものとする。

- (3) 「整数の除法」については、第1学年から第4学年までに示す整数の計算の能力を定着させ、それを用いる能力を伸ばすことに配慮するものとする。
- (4) 「整数の除法」の“除法に関して成り立つ性質”については、除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても商は変わらないという性質などを取り扱うものとする。
- (5) 「小数の仕組みとその計算」の“乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算”については、整数を整数で割って商が小数になる場合も含めるものとする。
- (6) 「四則に関して成り立つ性質」については、交換法則、結合法則、分配法則を扱うものとする。
- (7) 「平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形」については、平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めるなどの操作的な活動を重視するよう配慮するものとする。
- (8) 「平面図形の面積」の“面積の単位”については、アール (a)、ヘクタール (ha) の単位についても触れるものとする。
- (9) 「データの分類整理」の“データを二つの観点から分類整理する方法”については、資料を調べるときに、落ちや重なりがないようにすることを取り扱うものとする。
- (10) 「データの分類整理」の“折れ線グラフの特徴とその使い方”については、複数系列のグラフや組み合わせたグラフにも触れるものとする。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、面積などの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。整数、小数及び分数などの計算をしたり、図形の面積を求めたり、図形を構成要素の位置関係に着目して構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとしている。

第5学年 算数科

1 学年の目標

- (1) 整数の性質、分数の意味、小数と分数の計算の意味、面積の公式、図形の意味と性質、図形の体積、速さ、割合、帯グラフなどについて理解するとともに、小数や分数の計算をしたり、図形の性質を調べたり、図形の面積や体積を求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
- (2) 数とその表現や計算の意味に着目し、目的に合った表現方法を用いて数の性質や計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題を解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。
- (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 内容 (○知識及び技能 ●思考力、判断力、表現力等)

数 と 計 算	整数の性質	<p>○整数は、観点を決めると偶数と奇数に類別されることを知ること。</p> <p>○約数、倍数について知ること。</p> <p>●乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。</p>
	加法、減法	<p>○2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。</p> <p>○簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を知ること。</p> <p>○加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。</p> <p>○加法と減法との相互関係について理解すること。</p> <p>●数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。</p>
	整数、小数の記数法	<p>○ある数の10倍、100倍、1000倍、$\frac{1}{10}$、$\frac{1}{100}$などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。</p> <p>●数の表し方の仕組みに着目し、数の相対的な大きさを考察し、計算などに有効に生かすこと。</p>
	小数の乗法、除法	<p>○乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。</p> <p>○小数の乗法及び除法の計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。</p> <p>○小数の乗法及び除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p> <p>●乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味を捉え直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。</p>
	分数の意味と表し方	<p>○整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。</p> <p>○整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。</p> <p>○一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。</p> <p>○分数の相等及び大小について知り、大小を比べること。</p> <p>●数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察すること。</p> <p>●分数の表現に着目し、除法の結果の表し方を振り返り、分数の意味をまとめること。</p>

数と計算	分数の加法, 減法	<p>○異分母の分数の加法及び減法の計算ができること。</p> <p>●分数の意味や表現に着目し, 計算の仕方を考えること。</p>
	数量の関係を表す式	<p>○数量の関係を表す式についての理解を深めること。</p> <p>●二つの数量の対応や変わり方に着目し, 簡単な式で表されている関係について考察すること。</p>
図形	平面図形の性質	<p>○図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに, 図形の合同について理解すること。</p> <p>○三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。</p> <p>○円と関連させて正多角形の基本的な性質を知ること。</p> <p>○円周率の意味について理解し, それを用いること。</p> <p>●図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し, 構成の仕方を考察したり, 図形の性質を見いだし, その性質を筋道を立てて考え説明したりすること。</p>
	立体図形の性質	<p>○基本的な角柱や円柱について知ること。</p> <p>●図形を構成する要素に着目し, 図形の性質を見いだすとともに, その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。</p>
	平面図形の面積	<p>○三角形, 平行四辺形, ひし形, 台形の面積の計算による求め方について理解すること。</p> <p>●図形を構成する要素などに着目して, 基本図形の面積の求め方を見いだすとともに, その表現を振り返り, 簡潔かつ的確な表現に高め, 公式として導くこと。</p>
	立体図形の体積	<p>○体積の単位 (立方センチメートル (cm³), 立方メートル (m³)) について知ること。</p> <p>○立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること。</p> <p>●体積の単位や図形を構成する要素に着目し, 図形の体積の求め方を考えるとともに, 体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。</p>
変化と関係	伴って変わる二つの数量の関係	<p>○簡単な場合について, 比例の関係があることを知ること。</p> <p>●伴って変わる二つの数量を見いだして, それらの関係に着目し, 表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。</p>
	異種の二つの量の割合	<p>○速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し, それを求めること。</p> <p>●異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し, 目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し, それらを日常生活に生かすこと。</p>
	割合	<p>○ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。</p> <p>○百分率を用いた表し方を理解し, 割合などを求めること。</p> <p>●日常の事象における数量の関係に着目し, 図や式などを用いて, ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し, それを日常生活に生かすこと。</p>
データの活用	円グラフや帯グラフ	<p>○円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解すること。</p> <p>○データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。</p> <p>●目的に応じてデータを集めて分類整理し, データの特徴や傾向に着目し, 問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し, その結論について多面的に捉え考察すること。</p>
	測定値の平均	<p>○平均の意味について理解すること。</p> <p>●概括的に捉えることに着目し, 測定した結果を平均する方法について考察し, それを学習や日常生活に生かすこと。</p>
数学的活動		<p>①日常の事象から算数の問題を見いだして解決し, 結果を確かめたり, 日常生活等に生かしたりする活動</p> <p>②算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し, 結果を確かめたり, 発展的に考察したりする活動</p> <p>③問題解決の過程や結果を, 図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動</p>

用語・記号	最大公約数, 最小公倍数, 通分, 約分, 底面, 側面, 比例, %
-------	-------------------------------------

3 内容の取扱い

- (1) 「整数の性質」の“約数, 倍数”については, 最大公約数や最小公倍数を形式的に求めることに偏ることなく, 具体的な場面に即して取り扱うものとする。
- (2) 「平面図形の性質」については, 平面を合同な図形で敷き詰めるなどの操作的な活動を重視するよう配慮するものとする。
- (3) 「平面図形の性質」の“円周率の意味”については, 円周率は 3.14 を用いるものとする。
- (4) 「割合」の“百分率を用いた表し方”については, 歩合の表し方について触れるものとする。
- (5) 「円グラフや帯グラフ」については, 複数の帯グラフを比べることに触れるものとする。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	整数の性質, 分数の意味, 小数と分数の計算の意味, 面積の公式, 図形の意味と性質, 図形の体積, 速さ, 割合, 帯グラフなどについて理解している。 小数や分数の計算をしたり, 図形の性質を調べたり, 図形の面積や体積を求めたり, 表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けている。
思考・判断・表現	数とその表現や計算の意味に着目し, 目的に合った表現方法を用いて数の性質や計算の仕方などを考察する力, 図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し, 図形の性質や図形の計量について考察する力, 伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し, 変化や対応の特徴を見いだして, 二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力, 目的に応じてデータを収集し, データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し, それらを用いて問題解決したり, 解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	数学的に表現・処理したことを振り返り, 多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり, 数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

第6学年 算数科

1 学年の目標

- (1) 分数の計算の意味、文字を用いた式、図形の意味、図形の体積、比例、度数分布を表す表などについて理解するとともに、分数の計算をしたり、図形を構成したり、図形の面積や体積を求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
- (2) 数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだすとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察する力、身の回りの事象から設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする力などを養う。
- (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 内容 (○知識及び技能 ●思考力、判断力、表現力等)

数と計算	分数の乗法、除法	<p>○乗数や除数が整数や分数である場合も含めて、分数の乗法及び除法の意味について理解すること。</p> <p>○分数の乗法及び除法の計算ができること。</p> <p>○分数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。</p> <p>●数の意味と表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を多面的に捉え考えること。</p>
	文字を用いた式	<p>○数量を表す言葉や□、△などの代わりに、a、xなどの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすること。</p> <p>●問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。</p>
図形	縮図や拡大図、対称な図形	<p>○縮図や拡大図について理解すること。</p> <p>○対称な図形について理解すること。</p> <p>●図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること。</p>
	概形とおよその面積	<p>○身の回りにある形について、その概形を捉え、およその面積などを求めること。</p> <p>●図形を構成する要素や性質に着目し、筋道を立てて面積などの求め方を考え、それを日常生活に生かすこと。</p>

図形	円の面積	<p>○円の面積の計算による求め方について理解すること。</p> <p>●図形を構成する要素などに着目し、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。</p>
	角柱及び円柱の体積	<p>○基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること。</p> <p>●図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。</p>
変化と関係	比例	<p>○比例の関係の意味や性質を理解すること。</p> <p>○比例の関係をを用いた問題解決の方法について知ること。</p> <p>○反比例の関係について知ること。</p> <p>●伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと。</p>
	比	<p>○比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすること。</p> <p>●日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。</p>
データの活用	データの考察	<p>○代表値の意味や求め方を理解すること。</p> <p>○度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解すること。</p> <p>○目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ること。</p> <p>●目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。</p>
	起こり得る場合	<p>○起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を知ること。</p> <p>●事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べる方法を考察すること。</p>
数学的活動		<p>①日常の事象を数理的に捉え問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする活動</p> <p>②算数の学習場面から算数の問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動</p> <p>③問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動</p>

用語・記号	線対称，点対称，対称の軸，対称の中心，比の値， $:$ ，ドットプロット，平均値，中央値，最頻値，階級
-------	---

3 内容の取扱い

- (1) 「分数の乗法，除法」については，逆数を用いて除法を乗法の計算としてみることや，整数や小数の乗法や除法を分数の場合の計算にまとめることも取り扱うものとする。
- (2) 「分数の乗法，除法」については，第3学年から第6学年までに示す小数や分数の計算の能力を定着させ，それらを用いる能力を伸ばすことに配慮するものとする。
- (3) 「円の面積」の“円の面積の計算による求め方”については，円周率は3.14を用いるものとする。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	<p>分数の計算の意味，文字を用いた式，図形の意味，図形の体積，比例，度数分布を表す表などについて理解している。</p> <p>分数の計算をしたり，図形を構成したり，図形の面積や体積を求めたり，表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けている。</p>
思考・判断・表現	<p>数とその表現や計算の意味に着目し，発展的に考察して問題を見いだすとともに，目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力，図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し，図形の性質や図形の計量について考察する力，伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し，変化や対応の特徴を見いだして，二つの数量の関係を表や式，グラフを用いて考察する力，身の回りの事象から設定した問題について，目的に応じてデータを収集し，データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い，それらを用いて問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察したりする力などを身に付けている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>数学的に表現・処理したことを振り返り，多面的に捉え検討してよりよいものを粘り強く考えたり，数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。</p>

第1学年 算数科 年間計画（標準136時間）

	月	単 元 名	ページ	時間	備 考
一 学 期	4	※スタートカリキュラム参照	1～11	7	
	5	かずと すうじ（10までのかず）	12～17	5	
		なんばんめ	18～21	3	
		いくつと いくつ	22～29	7	
	6	いろいろな かたち	30～35	3	
		ふくしゅう（p. 36・p. 37）	36・37	1	
		ふえたり へったり	38・39	1	
		たしざん(1)	40～47	7	
		ふくしゅう（p. 48・p. 49）	48・49	1	
		ひきざん(1)	50～61	10	
	7	かずしらべ	62・63	1	
		ふくしゅう（p. 64・p. 65）	64・65	1	
		予備時間		1	
二 学 期	9	10より おおきい かず	66～77	8	
		ふくしゅう（p. 78・p. 79）	78・79	1	
		なんじ なんじはん	80・81	1	
		おおきさくらべ(1)	82～87	5	
	10	3つの かずの けいさん	88～92	4	
		ふくしゅう・じゅんぴ（p. 93）	93	1	
		たしざん(2)	94～103	9	
	11	かたちづくり	104～108	5	
		ふくしゅう・じゅんぴ（p. 109）	109	1	
		ひきざん(2)	110～121	11	
	12	0の たしざんと ひきざん	122・123	2	
		ものと ひとの かず	124～126	3	
		ものの いち	127	1	
		ふくしゅう（p. 128・p. 129）	128・129	1	
		予備時間		3	
三 学 期	1	大きい かず	130～143	13	
	2	なんじなんぷん	144～146	2	
		おなじ かずずつ	147	1	
		たすのかな ひくのかな	148・149	1	
		ふくしゅう（p. 150・p. 151）	150・151	1	
		100までの かずの けいさん	152～155	4	
	3	おおい ほう すくない ほう	156・157	2	
		大きさくらべ(2)	158・159	1	
		かえますか？ かえませんか？	160・161	1	
		もう すぐ 2年生	162～167	3	
		予備時間		3	

第2学年 算数科 年間計画（標準175時間）

	月	単 元 名	ページ	時間	備 考
一 学 期	4	わくわく 算数 学しゅう	上6～9	1	
		ひょうと グラフ	10～15	3	
		時こくと 時間	16～23	4	
		たし算と ひき算	24～33	5	
	5	長さ	34～47	9	
		たし算と ひき算の ひっ算(1)	48～61	11	
	6	ふくしゅう（上 p. 62・p. 63）	62・63	1	
		図を つかって 考えよう(1)	64～73	6	
		100を こえる 数	74～87	11	
	7	かさ	88～95	6	
		どんな 計算に なるのかな(1)	96・97	1	
		算数の じゅう けんきゅう	98・99	1	
		ふくしゅう（上 p. 100・p. 101）	100・101	1	
二 学 期	9	たし算と ひき算の ひっ算(2)	102～113	10	
		図を つかって 考えよう(2)	114～117	3	
	10	しきと 計算	118～120	2	
		かけ算(1)	下2～23・69	16	
	11	ふくしゅう（下 p. 24・p. 25）	24・25	1	
		かけ算(2)	26～41・70	13	
		三角形と 四角形	42～57	10	
	12	図を つかって 考えよう(3)	58～61	2	
		どんな 計算に なるのかな(2)	62・63	1	
		買えますか？ 買えませんか？	64・65	1	
		ふくしゅう（下 p. 66～p. 68）	66～68	2	
		予備時間		9	
三 学 期	1	九九の きまり	71～79	8	
		100cmを こえる 長さ	80～87	6	
	2	ふくしゅう（下 p. 88・p. 89）	88・89	1	
		1000を こえる 数	90～97	7	
		はこの 形	98～105	5	
	3	分数	106～111	4	
		何番目	112・113	1	
		よみとる 算数	114・115	1	
		もう すぐ 3年生	116～120	3	
		予備時間		9	

第3学年 算数科 年間計画（標準175時間）

	月	単 元 名	ページ	時間	備 考
一 学 期 60	4	わくわく算数学習	上6～9	1	
		九九の表とかけ算	10～18	5	
		わり算	19～33	10	
	5	図を使って考えよう	34～37	2	
		たし算とひき算の筆算	38～49	9	
		ふく習（上 p.50・p.51）	50・51	1	
		時こくと時間	52～57	4	
	6	一万をこえる数	58～73	12	
		表とグラフ	74～89	9	
	7	たし算とひき算	90・91	4	
		どんな計算になるのかな	92・93	1	
		算数の自由研究	94・95	1	
		ふく習（上 p.96・p.97）	96・97	1	
二 学 期 70	9	長さ	98～103	5	
		あまりのあるわる算	104～115	8	
		重さ	116～129	8	
	10	ふく習（上 p.130～p.132）	130～132	2	
		円と球	下2～13	8	
		何倍でしょう	14～19	4	
	11	計算のじゅんじょ	20・21	1	
		1けたをかけるかけ算の筆算	22～35	12	
		式と計算	36～39	2	
		分数	40～51	10	
	12	間の数	52・53	2	
		算数ラボ	54・55	1	
		ふく習（下 p.56・p.57）	56・57	1	
		予備時間		6	
三 学 期 45	1	三角形	58～69	8	
		小数	70～83	10	
	2	ふく習（下 p.84・p.85）	84・85	1	
		2けたをかけるかけ算の筆算	86～93	6	
		□を使った式	94～99	4	
	3	そろばん	100～103	2	
		買えますか？ 買えませんか？	104・105	1	
		みらいへのつばさ	106～109	2	
		もうすぐ4年生	110～114	3	
		予備時間		8	

第4学年 算数科 年間計画（標準175時間）

	月	単 元 名	ページ	時間	備 考
一 学 期 60	4	わくわく算数学習	上6～9	1	
		角とその大きさ	10～25	8	
		折れ線グラフ	26～37	6	
	5	1けたでわるわり算の筆算	38～51	10	
		ふく習（上 p. 52・p. 53）	52・53	1	
		一億をこえる数	54～65	8	
	6	垂直・平行と四角形	66～85	14	
		小数	86～97	9	
	7	算数ラボ	98・99	1	
		算数の自由研究	100・101	1	
		ふく習（上 p. 102・p. 103）	102・103	1	
二 学 期 70	9	2けたでわるわり算の筆算	104～117	11	
		割合	118～123	4	
	10	式と計算の順じょ	124～135	8	
		そろばん	136～138	1	
		面積	下2～17	10	
		ふく習（下 p. 18・p. 19）	18・19	1	
	11	がい数とその計算	20～31	8	
		図を使って考えよう	32・33	2	
		小数のかけ算やわり算	34～53	16	
	12	見積もりを使って	54・55	1	
		どんな計算になるのかな	56・57	1	
		ふく習（下 p. 58・p. 59）	58・59	1	
		予備時間		6	
三 学 期 45	1	調べ方と整理のしかた	60～69	4	
		表を使って考えよう	70・71	1	
		分数	72～83	7	
	2	ふく習（下 p. 84・p. 85）	84・85	1	
		変わり方	86～93	6	
		直方体と立方体	94～107	11	
	3	だれでしょう	108・109	1	
		みらいへのつばさ	110～113	2	
		もうすぐ5年生	114～118	3	
		予備時間		9	

第5学年 算数科 年間計画（標準175時間）

	月	単 元 名	ページ	時間	備 考
一 学 期 60	4	わくわく算数学習	6～9	1	
		整数と小数	10～15	4	
		体積	16～27	9	
	5	比例	28～31	2	
		復習（p. 32・p. 33）	32・33	1	
		小数のかけ算	34～51	11	
	6	小数のわり算	52～73	14	
		合同な図形	74～91	11	
		人文字	92・93	1	
	7	どんな計算になるのかな	94・95	1	
		算数の自由研究	96・97	1	
		復習（p. 98・p. 99）	98・99	1	
		予備時間		3	
二 学 期 70	9	整数	100～111	10	
		分数(1)	112～123	9	
	10	図を使って考えよう	124・125	2	
		復習（p. 126・p. 127）	126・127	1	
		面積	128～149	13	
	11	平均とその利用	150～157	6	
		単位量あたりの大きさ	158～163	4	
		分数(2)	164～171	5	
		割合	172～183	9	
	12	表を使って考えよう(1)	184・185	2	
		見積もりを使って	186・187	2	
		復習（p. 188・p. 189）	188・189	1	
		予備時間		6	
三 学 期 45	1	円と正多角形	190～199	7	
		割合のグラフ	200～209	6	
	2	復習（p. 210・p. 211）	210・211	1	
		角柱と円柱	212～219	6	
		速さ	220～227	6	
		変わり方	228～233	3	
	3	表を使って考えよう(2)	234・235	2	
		算数ラボ	236・237	1	
		みらいへのつばさ	238～241	2	
		もうすぐ6年生	242～246	3	
		予備時間		8	

第6学年 算数科 年間計画（標準175時間）

	月	単 元 名	ページ	時間	備 考
一 学 期 60	4	わくわく算数学習	6～9	1	
		対称な図形	10～25	9	
		文字と式	26～35	7	
	5	分数×整数，分数÷整数	36～39	2	
		復習（p. 40・p. 41）	40・41	1	
		分数×分数	42～57	13	
	6	分数÷分数	58～71	11	
		資料の調べ方	72～87	9	
	7	どんな計算になるのかな	88・89	1	
		算数の自由研究	90・91	1	
		復習（p. 92・p. 93）	92・93	1	
		予備時間		4	
二 学 期 70	9	円の面積	94～103	5	
		立体の体積	104～111	5	
		比とその利用	112～123	8	
	10	表を使って考えよう(1)	124・125	2	
		復習（p. 126・p. 127）	126・127	1	
		図形の拡大と縮小	128～143	10	
	11	およその形と大きさ	144～147	2	
		比例と反比例	148～177	17	
	12	表を使って考えよう(2)	178・179	2	
		見積もりを使って	180・181	2	
		算数ラボ	182・183	1	
		復習（p. 184・p. 185）	184・185	1	
		予備時間		14	
三 学 期 45	1	場合を順序よく整理して	186～197	9	
	2	図を使って考えよう	198～201	2	
		すごろく	202・203	1	
		みらいへのつばさ	204～207	2	
		6年のまとめ	208～233	15	
	3	予備時間		16	

第2学年〇組 算数科学習指導案

令和2年5月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 たし算とひき算のひっ算(1)

2 単元の目標

- (1) (2位数) ± (2位数) の筆算の仕方を理解し、計算することができる。
- (2) 十進位取り記数法の仕組みを基にして、(2位数) ± (2位数) < 100 の筆算の仕方を考えることができる。
- (3) 筆算のよさに気付き、活用しようとする。また、加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、答えの確かめに生かそうとする。

3 学習の計画 (11 時間完了)

- 第1次 第1時 (2位数) + (2位数) の筆算による計算の仕方を考える。
 第2時 (本時) (2位数) + (2位数) で一の位が繰り上がる筆算をする。
 第3時 いろいろな加法の筆算をする。
 第4時 加法の答えの確かめをする。
 第5時 加法の筆算の練習問題に取り組む。
- 第2次 第6時～第10時 (2位数) - (2位数) の筆算をする。
- 第3次 第11時 単元を振り返り、確認問題に取り組む。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 一の位が繰り上がる加法の仕方を理解し、その計算を筆算ですることができる。
 - 一の位が繰り上がる (2位数) + (2位数) の筆算の仕方を考えることができる。
- (2) 準備・資料
 - 児 童……計算棒
 - 教 師……掲示用計算棒、位取り板
- (3) 関 連
 - 2年 算数 たし算とひき算 (繰り上がりや繰り下がりのある (2位数) ± (1位数))
 - 2年 算数 たし算とひき算のひっ算(2) ((2位数) + (2位数) ≥ 100 とその逆の減法)
 - 3年 算数 たし算とひき算の筆算 (3位数や4位数の加減の筆算)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
課題をつかむ	1 本時の学習課題について考える。 (1) 前時の学習内容を振り返る。 ○ $34+12$ の計算を筆算でする。 (2) 本時の学習課題をつかむ。 ○ $34+28$ の計算を考える。 一のくらいをたすと、10をこえるひっ算のしかたを考えよう。	7	○前時に学習した繰り上がりのない筆算を基にして、一の位同士から順にたしていくことを確認する。 ○本時の学習課題を提示し、繰り上がりのなかった前時との違いを見付けさせる。 ○具体的な場面をいくつか提示し、計算の必要性を実感させる。
追究する	2 繰り上がりのある筆算の仕方を解決する。 (1) 計算棒を操作して、繰り上がりの仕組みをつかむ。 ・一の位と一の位をたすと、十のまとまりが一つ増えたので、十の位に移動させる。		○掲示用の計算棒で繰り上がりの操作を示し、児童にも同じように操作させ、繰り上がったことによって十のまとまりが一つ増えていることをつかむようにさせる。

追 究 す る	(2) 繰り上がりの仕組みを基に、筆算の仕方を考える。	20	○繰り上がりの「1」をどこにかけばよいかを計算棒で操作したことを基に考えさせる。														
	<div>予想される児童のかき方</div> <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3 4</td><td>3 4</td><td>3 4</td></tr><tr><td>+ 2 8</td><td>+ 2 8</td><td>+ 2 8</td></tr><tr><td>6 2</td><td>6 1 2</td><td>5 1 2</td></tr></table>		A	B	C	1			3 4	3 4	3 4	+ 2 8	+ 2 8	+ 2 8	6 2	6 1 2	5 1 2
	A	B	C														
	1																
3 4	3 4	3 4															
+ 2 8	+ 2 8	+ 2 8															
6 2	6 1 2	5 1 2															
(3) お互いに自分の考えた計算の仕方を発表する。	30	評一の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を計算棒の操作を基にしながらやっている。(ノート)															
・繰り上がりの「1」を(どこ)にかきました。その理由は、(理由)だからです。		○理由も付けて説明させる。															
深 め る	(4) 繰り上がりのある筆算の仕方を発表し、まとめる。	40	○AとBの考え方がお互いに発表された場合は、どちらがよいかき方なのかを話し合わせない。														
	・繰り上がった「1」を十の位の一番上にかいておいて、十の位に加えること		○AとBの両方の考え方が発表された場合は、Bの考え方も間違いではないが、今回はAの考え方で統一して行うことを伝える。														
	(5) 筆算の計算の仕方を言葉で唱える。	45	評一の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を説明している。(発表)														
ま と め る	3 繰り上がりのある筆算の仕方を、問題を解いて練習する。	45	○十の位に「1」繰り上げることを強調する。														
	4 本時のまとめをする。		○理解が不十分な児童には、計算の仕方を唱えながら行わせる。														
	○繰り上がりのある筆算の仕方を振り返ってまとめをする。		評一の位が繰り上がる加法を筆算で正しく計算している。(ノート)														
			○繰り上がることによって新たに10のまとまりができることを中心に本時を振り返らせる。														

(5) 本時の評価規準

- 一の位が繰り上がる加法の筆算の仕方を説明し、正しく計算している。(発表、ノート)
- 一の位が繰り上がる(2位数) + (2位数)の筆算の仕方を、計算棒の操作を基にしながら考えてかいている。(ノート)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 計算問題のように決められた手順に従って答えを出すという活動は、好きな児童が多い。しかし、なぜそうなるのかを深く考えずに形式的な操作で答えだけを求める傾向が強い。

(2) 指導の力点

- 本時は、一の位が繰り上がる(2位数) + (2位数)の仕組みを計算棒の操作によってつかませ、それを筆算の形でどのようにかけばよいかを考えさせることで、筆算の仕方を身に付けさせる。計算の意味を考えずに、形式的な操作で答えを出すことが多い児童に対し、操作活動によって計算の意味をつかませ、問題を解決させる。そこから、十進位取り記数法の考え方を使って筆算ができるように指導する。

6 指導と評価

単元名 かずと すうじ(10までのかず)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 10までの数の数観念、読み方、書き方、数系列、大小を理解することができる。
 (2) 物の集まりを捉え、数を数え、数を表す考え方を身に付けることができる。
 (3) 10までの物の個数を、数で表すよさを知り、進んで用いようとする。

標準的な展開例

01040101_001

【準備等】数図ブロック、1から10までの数字をかいたカード、タンバリン

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 6から10までの数を順序よく唱えたり数えたりする。 [p. 12・p. 13] ○広場にある物の絵を見て、その数について話し合う。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★いろいろなもののかずをいみましょう。 ○6から10までの数字の読み方について知る。</p> <p>○教科書の広場にある物を数図ブロックに置き換える。</p> <p>○分かったことを話し合う。</p> <p>3 6から10までの数字を書く。[p. 14] ○本時の学習課題をつかむ。 ★6から10までのかずをかぞえてすうじであらわそう。 ○数字をなぞって書いたり、見て書いたりして、形を覚える。</p> <p>○具体物の数を数字で書き表す。</p> <p>4 果物の数を数えて、6から10までの数字で表す。[p. 15] ○本時の学習課題をつかむ。 ★いちばんおおいものはどれかをかんがえよう。 ○果物の数を数える。</p> <p>○数え方のページを見て、いろいろな数え方を知る。</p> <p>○学校にある身近な物の数を数える。</p> <p>5 10までの数を数図ブロックで並べたり、カードで示したりする。音の回数を数字で表す。[p. 16・p. 17] ○本時の学習課題をつかむ。 ★10までのかずをならべたり、くらべたり、かぞえたりしよう。 ○カードで示された数の数図ブロックを並べる。 ○1から10までの数を言う。 ○数の大きさ比べをする。</p> <p>○タンバリンの音の数をカードで表す。</p>	<p>・入学期の指導からの継続を図り、具体物や半具体物を用いて、数字と対応させる。 ・数図ブロックに置き換える場合については、児童の教科書と同じ絵の拡大図を用いて説明するとよい。 ・本時の学習の興味・関心を喚起する。</p> <p>・個別または一斉に、唱える活動を適宜取り入れる。 ・5を1つのまとまりとして捉えさせることを大切にするため、数図ブロックを2段に置き「5といくつ」という形でブロックを並べさせる。 ・1ずつ増えた物の数に合わせて数図ブロックを増やしていき、6から10までの数え方を確認する。逆に順に1ずつ減っていく物に合わせて数図ブロックを操作する活動も行う。 ・学習を振り返り、分かったことを発表させる</p> <p>【評】5を基にし、1ずつ増やしながら数える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・具体物や半具体物の数と数字を結び付けて考えられるようにする。 ・入学期に5までの数について学習したことを想起させる。 ・7や8、9は筆順を間違えやすいので注意する。8は斜めに傾いてしまわないように形に気を付けさせる。 ・逆さ文字になったり筆順を間違えたりしないよう気を付けさせる。</p> <p>【評】6から10までの数字を書く活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・数を数えた後に、数字で表させる。数え方のページを見て、身近な物の数を数えさせる。</p> <p>・数図ブロックを置いたり、数えた物に印を付けたったりして工夫して数えさせる。 ・物の種類によって、数え方が異なることに気付かせる。 ・入門期であるため、学級の状況に応じて場所を決め、数を見付けさせる。</p> <p>【評】物の数を数え6から10までの数字に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・場面や状況が変わっても数が使えようにさせる。</p> <p>・1人で言わせた後で、ペアでも行わせる。 ・ゲームの要素を取り入れ、楽しく学習できるようにする。</p> <p>【評】10までの数を数図ブロックで並べたりカードで示したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【備 考】

本単元は、10までの数概念を身に付ける学習である。入学期の指導で、5までの数概念を身に付けているので、ここでは10まで拡張して数概念を理解させる。児童は入学前の生活経験から、ある程度の知識をもっている場合が考えられるが、それらの知識は断片的・表層的である場合が多い。そこで、体系立った数の学習として体験を多く取り入れながら丁寧に指導することが大切である。

単元名 なんばんめ

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 数が順序を表す場合に用いられることを理解し、前後、左右、上下などの方向や位置を表す言葉を正しく用いて、物の順番や位置を数で表すことができる。
 (2) 前後、左右、上下などの方向や位置を表す言葉に着目し、数を用いて物の順番や位置を表すことを考えることができる。
 (3) 順番や位置を数で表すことのよさに気づき、進んで順番や位置を数で表そうとする。

標準的な展開例

01040102_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 10までの数について、順序の意味を考える。[p. 18・p. 19]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○きりんの順番を考える。 ○右（左）から何番目か考える。 ○上（下）から何番目か考える。 ○前（後ろ）から何番目か考える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★なんばんめかをかんがえよう。 <p>2 順序数と集合数の違いを理解する。[p. 20]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★「なんばんめ」と「なんにん」のちがいをかんがえよう ○「前から何番目」と「前から何人」の違いを知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 方向や位置を表す言葉を使って順序を表す問題に取り組む。[p. 21]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○右（左）から何番目か考える。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★「どちらから」なんばんめかをかんがえよう。 ○絵合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな場面で順序数を使って表現させる ・動物の並んでいる絵を見て、指定された動物が前（後ろ）から何番目かを考える。 ・つるしてある旗の絵を見て、指定された旗が右（左）から何番目かを考える。 ・木にとまっている動物の絵を見て、指定された動物が上（下）から何番目かを考える。 ・楽器を演奏している動物の絵を見て、指定された動物が前（後ろ）から何番目かを考える <p>【評】位置を表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的活動を取り入れることにより、順序数と集合数の違いを実感的に捉えさせる。 ・車や鳥などの場合について考え、順序数と集合数の違いを捉えられるようにする。 <p>【評】集合数と順序数の違いを表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左から、右からなど方向や位置を表す言葉に着目して、正しく位置を表すことができるようにする。 ・自ら起点を決めて、物の位置を表せるようにする。 ・右から（左から）という方向を表す言葉を確実に使えるように促す。 ・ゲームの要素を取り入れ、楽しく学習できるようにする。 <p>【評】起点を定めて、位置を表す活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、順序数の意味を理解し、それを活用することを学習する。単元を構成するに当たっては、前単元で学習した集合数との違いをつかませることが大切である。実際に順序数が使われる場面を想起させたり、児童自らが役割を決めて動作化したりするなど、活動を通して順序数について理解させる。

単元名 いくつと いくつ

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 6, 7, 8, 9, 10の合成・分解と, 10の補数関係を理解するとともに, 0について理解し, 「1つもない」ことを0と表現できる。
 (2) 1つの数をほかの数と関係付けて見ることができる。
 (3) 数の合成・分解に興味, 関心をもち, 進んで合成・分解をしようとする。

標準的な展開例

01040103_001

【準備等】帽子(赤5つ, 青5つ), いす(6脚), 色鉛筆, 数図ブロック, さいころ, 1から10までの数字を書いたカード, おはじき, おはじきいれのシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 6の合成・分解をする。[p. 22・p. 23]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いすとりゲーム」をする。 6の合成・分解を考える。 単元の学習課題をつかむ。 ★1つのかずがいくつといくつにわけられるでしょう。また, 2つのかずがいっしょになるといくつになるでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 6が2と4など2つの数に分けられるということや, 2つの数を合わせると6になるということをつかませる。 いすを6脚用意し, 5人ずつ赤と青の帽子をかぶり, 10人で「いすとりゲーム」をさせ, 結果を記録させる。 6個のおはじきを両手で握って, いくつといくつになっているか考える活動を取り入れてもよい。 6になる組み合わせを全て出させる。 <p>【評】6の構成を理解し, 合成・分解する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体物や半具体物を分けるとともに, 数字を使って7が5と2, 3と4などに分けられることを考えさせる。
<p>2 7の合成・分解をする。[p. 24]</p> <ul style="list-style-type: none"> 7個のりんごを2つの皿に分けることを考える。 本時の学習課題をつかむ。 ★7はいくつといくつにわけられるでしょう。 7の合成・分解を考える。 「7になあれ」のゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返しゲームをさせて, 数の合成や分解を感覚としてつかませる。さいころの表の数と裏の数の関係も, 7の合成・分解によって成り立っていることに気付かせる。 <p>【評】7の構成を理解し, 合成・分解する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 列車の絵を使ったり, 数図ブロックを使ったりして, 実際に8個を2つに分ける活動の時間を確保する。 数図ブロックを電車に見立てて考えさせる。
<p>3 8の合成・分解をする。[p. 25]</p> <ul style="list-style-type: none"> 8両の列車を2つに切り離すことを考える。 本時の学習課題をつかむ。 ★8はいくつといくつにわけられるでしょう。 8の合成・分解を考える。 「8このおはじき」のゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームの要素を取り入れ, ペアや小グループで楽しく学習できるようにする。 <p>【評】8の構成を理解し, 合成・分解する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめとして, □と□で9という言い方ができるようにする。
<p>4 9の合成・分解をする。[p. 26]</p> <ul style="list-style-type: none"> 9個のトマトを2つの皿に分けることを考える。 本時の学習課題をつかむ。 ★9はいくつといくつにわけられるでしょう。 9の合成・分解を考える。 「9づくり」をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 9の合成・分解は数が大きく, 間違いやすいと考えられるため, 数図ブロックの活動を十分に取り入れて, 数字への置き換えを急がないように注意する。 具体物や半具体物を使い, 実際に活動させてから数字に置き換えさせる。 カードを1枚めくった後, 何が出ると9になるか考えてからめくるようにさせるとよい。 <p>【評】9の構成を理解し, 合成・分解する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p>
<p>5 10の合成・分解をする。[p. 27]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おはじきいれ」をする。 本時の学習課題をつかむ。 ★10はいくつといくつにわけられるでしょう。 10の合成・分解を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 1と9, 2と8など全ての場合について確認させる。 「10はいくつといくつになるか。」を常に考えさせながら取り組ませる。 円に入れようとして, 合成・分解の学習にならない場合があるので, 円に入れる勝負ではないことを確認する。 表にまとめて, 「いくつといくつで10」と唱えられるようにするとよい。

6 10の補数を見つける。[p. 28]

○合わせて10になる数を見付ける。

○本時の学習課題をつかむ。

★あわせて10になるかずをみつけよう。

○「10にしましょう」をする。

○「10づくり」をする。

7 0について考える。[p. 29]

○本時の学習課題をつかむ。

★0というかずについてかんがえよう。

○0の使われる場面を知る。

○おはじき入れゲームをする。

○「練習問題」をする。

【評】10の構成を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・つまづいている児童には、10の合成・分解に戻って考えさせる。
・数図カードを思い浮かべ、10の補数を捉えられるようにする。

・10の補数を考える。

・10の補数がすぐに分かるように、繰り返しゲームをして、習熟を図る。1枚めくった後で何が出ると10になるか考えさせてからめくるようにさせるとよい。

【評】10の合成・分解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・3, 2, 1個と1ずつ減らしていく場面から0をつかませる。

・「ゼロ」ではなく、「れい」と読ませる。

・おはじき入れをさせ、おはじきが1つも円の中に入らなかった状態を「0」で表すことを知らせる。

・0の意味を得点と結び付けて補説する。

【評】具体的な操作を行い、0の意味や使い方を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、数の構成的な意味を知り、数を分解したり合成したりすることを中心に学習する。また、0という数の使い方や、10の補数についても併せて学習する。数を構成的な視点で見たり、0や補数が使えるようになったりすることは数概念を理解する上で重要なことである。そのため、単元を構想する際には、数学的活動を多く取り入れることで、学習内容が無理なく身に付けられるように配慮する。

単元名 いろいろな かたち

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 身の回りにある立体の観察を通して、形の特徴を捉えたり、仲間分けしたりすることができる。
 (2) 身の回りの物を、色や大きさ、材質に関係なく、形として捉えることができる。
 (3) 立体図形の特徴や機能について興味・関心をもち、楽しく作業をしながら基本的な形を捉えようとする。

標準的な展開例

01040104_001

【準備等】 空き箱や空き缶など、セロハンテープ、両面テープ、のり、積み木（角柱、円柱、球）、色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 空き箱や空き缶などを使っていろいろな立体を作る。[p.30・p.31]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家から持ってきた箱や缶を紹介する。 ○箱や缶を使っていろいろな物を作る。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★みちかなもののかたちについてかんがえていこう。 <p>2 立体を形の特徴で仲間分けする。[p.32・p.33]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○角柱、円柱、球の特徴を発表する。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★いろいろなかたちをなかまわけしよう。 ○絵にかかれた具体物を角柱、円柱、球に分ける。 <p>3 積み木の面を写し取り、それを使った絵かき遊びをする [p.34・p.35]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★かたちをうつして、えをかこう。 ○積み木にどんな面があるか発表する。 ○積み木の面を写し取る。 ○写した絵を基にして絵かき遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既製の形にとらわれず、自由な発想で作れるように言葉がけをする。 <p>【評】形作りの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発想を大切にし、そこから出てきた特徴を基にして教科書にかかれた具体物を仲間分けさせる。 ・教科書の絵だけに頼らず、様々な色や大きさ材質の具体物を用意し、実際に手で触ったり様々な角度から見たりする活動を通して、形だけに着目できるようにする。 <p>【評】立体を仲間分けする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面を写し取る操作を通して、立体を構成する面の形に注目させる。 ・「まる」「さんかく」「しかく」のどの形から始めてもよいが、形の特徴を捉えさせる観点から、どの児童にも全ての形に取り組みさせる。 ・形の内部に絵をかく場合と形の外部にもはみ出して絵をかく場合があるが、形の特徴が失われなければよいことを知らせる。 <p>【評】積み木の面を写し、絵かき遊びをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、身の回りにある基本的な立体について、その形の特徴を学習する。そこで、身近な立体を用いて乗り物や動物などいろいろな形を作り、図形概念を形成するための感覚を豊かにするように心がけることが大切である。

単元名 ふくしゅう(p.36・p.37)

配当時間 1 時間

単元の目標

標準的な展開例

01040105_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 36 ・ p. 37]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 ふえたり へったり

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 数量の増減に着目し，増えた，減ったという言葉で話をしたり，数図ブロックを操作したりして，増減の意味を理解することができる。
 (2) 増減の意味を具体的な事象や操作と関連付けて考えることができる。
 (3) 数量が「増えたり」「減ったり」する事象に興味・関心をもち，進んで変化の様子を捉えようとする。

標準的な展開例

01040106_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 バスの乗り降りの挿絵を見て，数量の増減を数図ブロックで操作する。[p. 38・p. 39] ○最初から乗っている人や乗り降りする人を決める。 ○役割に沿ってバスの乗り降り活動をする。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★ふえたりへったりするといくつになるかかんがえよう。 ○乗客の増減を数図ブロックで表す。	・バスの乗り降りでの数学的活動を通して，連続的な数の増減事象を体験し，増えた，減ったということを実感できるようにさせる。 ・10より大きい数にならないように注意する。 ・「○人乗ってきました。○人増えて，□人になりました。」と言葉を口にしながら操作させる。 【評】増減に応じて数図ブロックを操作する活動を通して，「知識・技能」を評価する。

【備 考】

本単元は，加法や減法を学習する前段階として，数量が増えていく場面や減っていく場面を体験的に捉えることを学習する。そこで，「エレベーターごっこ」など児童の身近な活動を通して，増えていく場面や減っていく場面を実際に体験させるようにすることが大切である。

単元名 たしざん(1)

配当時間 7時間

単元の目標 (1) たし算が用いられる場面やたし算の記号と式について知り、合併や増加の場面をたし算の式に表し、 $(1\text{位数}) + (1\text{位数}) = (10\text{以下の数})$ の計算をすることができる。
 (2) 合併や増加の場面を、同じたし算と考えることができる。
 (3) たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算を用いようとする。

標準的な展開例

01040107_001

【準備等】数図ブロック、たし算カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 具体操作を通して、合併の場面を理解する。[p. 40・p. 41]</p> <ul style="list-style-type: none"> かえるの絵を見て話し合う。 合わせて考える問題を解く。 単元の学習課題をつかむ。 ★2つのかずをあわせると、いくつになるかかんがえていこう。 <p>2 合併の場面を加法の式に表し、答えを求める。[p. 42・p. 43]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★「あわせていくつ」をたしざんのしきであらわそう。 たし算の式の表し方を知る。 「練習問題」に取り組む。 <p>3 具体的操作を通して、増加の場面を理解する。[p. 44]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★ふえるといくつになるかかんがえていこう。 増えるといくつになるか話し合う。 数図ブロックで操作する。 <p>4 増加の場面を加法の式に表して、その答えを求める。[p. 45]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★「ふえるといくつ」をたしざんのしきであらわそう。 たし算の式の表し方を知る。 「練習問題」に取り組む。 <p>5 場面絵を見て、加法の問題を立式し、その答えを求める[p. 46]</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面絵を見て話し合う。 本時の学習課題をつかむ。 ★ばめんえのもんだいをたしざんのしきであらわそう。 合併・増加の問題を立式し、答えを求める。 <p>6～7 カードを使って、答えが10までの加法の練習をする。[p. 47]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★たしざんカードでたしざんのれんしゅうをしよう。 たし算カードを作る。 答えが10になるカードを見付ける。 たし算カードを使って加法に習熟する。 巻末の「かあどげえむ」を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物が中央に集まることを、数図ブロックに置き換えて操作させる。 拡大図や教師用数図ブロックなどを用いて、数図ブロックが中央に集まる様子を視覚的に捉えさせる。 数図ブロックを両側から中央に寄せるように動かすことを押さえる。 <p>【評】合併の場面を操作する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数図ブロックによる操作を式に表し、用語「たし算、式、答え」や、記号「+、=」の読み方や書き方を知らせる。 記号の書き方に注意させる。 ノートの取り方について、黒板で説明すると分かりやすい。 <p>【評】立式し、答えを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体物が近付いてくると、数図ブロックに置き換えて操作させる。 数図ブロックを片手のみ動かすことを確認する。 <p>【評】増加の場面を操作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数図ブロックの操作と式を対比させながら考えさせる。 前時の学習を想起させ、自動車を数図ブロックに置き換えて、増える動きをさせる。 <p>【評】立式し、答えを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の文章を何度も読み直し、題意を絵や数図ブロックなどを用いて考えさせる。 題意を絵や数図ブロックなどを用いて考えさせる。 <p>【評】加法の場面の文章題を立式し、答えを求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10までの範囲の加法について、素早く答えられるように習熟を図る。 繰り返し練習が必要なので、家庭の協力を得ながら取り組ませるとよい。 <p>【評】カードを使って加法の計算練習をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、和が10以下になる1位数同士の加法を学習する。加法が用いられる場面を理解するためには、「合わせる」（合併の場面）や「増える」（増加の場面）の意味を場面絵や具体的操作を通して理解できるようにすることが大切である。そして、合併や増加の具体的操作と加法の記号や式を結び付けさせる。また、読み方や書き方を理解し、計算ができるように指導する。

単元名 ふくしゅう(p.48・p.49)

配当時間 1 時間

単元の目標

標準的な展開例

01040108_001

【準備等】色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 48 ・ p. 49]	・ 個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 ひきざん(1)

配当時間 10時間

単元の目標 (1) ひき算の記号や式の読み方、書き方、計算の仕方を理解し、求残、求部分、求差の場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができる。
 (2) 求残、求部分、求差の場面を同じひき算と考えることができる。
 (3) 求残、求部分、求差をひき算の式に表すよさを知り、進んで式に表し、差を求めようとする。

標準的な展開例

01040109_001

【準備等】数図ブロック、ひき算カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 求残の場面を理解する。[p. 50・p. 51]</p> <ul style="list-style-type: none"> かえるの絵を見て話し合う。 残りはいくつか考える。 単元の学習課題をつかむ。 ★のこりやちがいについてかんがえていこう。 <p>2 求残の場面を減法の式に表し、答えを求める。[p. 52・p. 53]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★「のこりはいくつ」をひきざんのしきであらわそう。 ひき算の式の表し方を知る。 「練習問題」に取り組む。 <p>3 求部分の場面を減法の式に表し、答えを求める。[p. 54]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★もういっぽうのかずをもとめよう。 全体と一部分と求める部分の関係を考える。 全体と一部分から他の部分を求める。 「練習問題」に取り組む。 <p>4～5 10までの減法の練習をする。[p. 55]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★ひきざんカードでひきざんのれんしゅうをしよう。 答えが1になるカードを見付ける。 ひき算カードを作る。 ひき算カードを使って減法に習熟する。 巻末の「かあどげえむ」を紹介する。 <p>6 求差の場面を理解する。[p. 56]</p> <ul style="list-style-type: none"> かえるの絵を見て、違いを調べる。 本時の学習課題をつかむ。 ★「ちがいはいくつ」をかんがえよう。 違いはいくつか考える。 <p>7 求差の場面を減法の式に表し、答えを求める。[p. 57]</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題の場面を数図ブロックで表し、操作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物が去っていくことを、数図ブロックに置き換えて操作させる。 数図ブロックが右へ去っていく様子を視覚的に捉えさせる。増加の場合の逆であることを印象付ける。 <p>【評】残りを求める場面を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 半具体物の操作を式に表し、用語「ひき算」や記号「－」の読み方や書き方を指導する。 記号の書き方に注意させる。 帰る、いなくなる、食べる、飛んでいく、使うなどといった状況は、全て「ひく」こととして捉えることができるという点について理解させる。 <p>【評】立式し、答えを求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 求部分の問題は「ひく」という動きがないので、半具体物の操作では、児童が自分で動かして考えるようにさせる。 「おすのコアラがいなくなったとして」「はずれを取り除いたとして」などというように求部分の問題を求残の問題に読み替えながら数図ブロックの活動を十分にさせる。 <p>【評】部分の数を求める場面でも減法の式を適用できると判断する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10までの範囲の減法について、素早く答えられるように習熟を図る。 繰り返し練習が必要なので、加法と同様に家庭の協力を得ながら繰り返し取り組ませるとよい。 <p>【評】カードを使って減法の計算練習をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 差を求めるのは1対1対応が基本なので、問題の場面を数図ブロックに置き換え、それぞれを対応させて求差の場面を考えるようにすると効果的である。 入学期の算数p. 7で、どちらが多いか比較した経験を想起させる。 帽子をかぶっていないかえると帽子をかぶっているかえるを2種類の数図ブロックに置き換えて対応させる。 <p>【評】違いを求める場面を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 求差の場面が、減法の式で表されることを操作活動を通して児童が見付けられるようにする。 求残や求部分のブロック操作と同じことに気

<p>○本時の学習課題をつかむ。 ★「ちがいはいくつ」をひきさんのしきであらわそう。 ○ひき算の式に表し、答えを求める。</p> <p>8 求差の問題で「違い」の意味を理解する。[p. 58]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★「ちがいはいくつ」をひきさんにあらわしてとこう。</p> <p>○問題の場面を数図ブロックで表す。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>9 場面絵を見て、減法の問題を立式し、その答えを求める [p. 59]</p> <p>○場面絵を見て話し合う。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★ひきさんにあらわしてとこう。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>10 場面絵から加法・減法の問題を作ったり、絵本を作ったりする。 [p. 60・p. 61]</p> <p>○場面絵を見て話し合う。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★しきにあうおはなしづくりをしよう。 ○加法の問題のお話作りをする。 ○減法の問題のお話作りをする。 ○加法や減法の絵本作りをする。</p>	<p>付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多い方から少ない方をひくという順序を強調して指導する。 <p>【評】立式し、答えを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数図ブロックで操作してから立式させるようにする。 ・「違い」という言葉の意味を、数図ブロックの操作を通して視覚的に理解させるようにする。 <p>【評】違いを求める場面でも減法の式を適用できると考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の文章を何度も読み直させ、題意を絵や数図ブロックなどを用いて考えさせる。 <p>【評】減法の場面の文章題を立式し、答えを求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題意がつかめない児童には吹き出しの問題文を参考にさせて取り組ませる。 <p>【評】$3 + 4 = 7$，$7 - 3 = 4$になる場面を見付けて、話を作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】

本単元は、10以下の数から1位数の数をひく計算の仕方を学習する。数図ブロックなどの操作活動を適宜取り入れることが大切である。また、初めの数量から取り去った残りを求めたり（求残），全体とその一部分が分かっている他の部分を求めたり（求部分），2つの数量の差を求めたり（求差）など、減法が用いられる様々な場面を学習の中に取り入れながら単元を構想することも大切にしたい。そして、これらの事柄に重点をおいた上で、どの児童も確実に計算ができるように指導する。

単元名 かずしらべ

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 物の個数について，簡単な絵や図に表したり，それらを読み取ったりできる。
 (2) 物の個数に着目し，身の回りの事柄の特徴を捉えることができる。
 (3) 身の回りの事柄に関心をもち，物の個数を簡単な絵や図に表すよさに気付き，進んで数量を整理しようとする。

標準的な展開例

01040110_001

【準備等】色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ばらばらに置かれた物の数を数えたり，絵グラフをかいて数の大小を比較したりする。[p.62・p.63]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ いちばんおいしいものはどれかかんがえよう。 ○ 果物の数を数える。</p> <p>○ 果物の数と同じ数だけ色を塗って，絵グラフに表す。</p>	<p>・ 数を数えた後に，一目で数の大小比較ができる絵グラフのよさに触れ，他教科の学習に活用させる。</p> <p>・ 数図ブロックを置いたり，数えた物に印を付いたりして工夫して数えさせる。</p> <p>・ 絵グラフに表せば，一番多いものがすぐに分かることに気付かせる。</p> <p>【評】ばらばらに置かれた物の数を数え，絵グラフに表す活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は，統計の学習の素地となる絵グラフの単元である。ばらばらに置いてある物を整理し，数えた後の表現の仕方の1つを扱う。棒グラフの学習の際に振り返る学習となる。

絵グラフのよさは，一目で数の多少比較ができることである。見た目のよさに触れ，他教科の学習に活用したり，絵グラフが出ている掲示物などを紹介し，読み取ったりするなど児童にとって身近なものとしたい。

単元名 ふくしゅう(p.64・p.65)

配当時間 1 時間

単元の目標

標準的な展開例

01040111_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 64 ・ p. 65]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 10より おおきい かず

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 20までの数について、構成、系列や大小関係を理解し、読んだり、書いたりすることができるとともに、数構成に基づく加減計算ができる。
(2) 「10といくつ」という数の考え方ができ、数構成に基づく加減計算の仕方を考えることができる。
(3) 「10といくつ」によって20までの数を表すよさを知り、進んで用いようとする。

標準的な展開例

01040201_001

【準備等】数図ブロック、1から20までの数字を書いたカード、数直線

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 20までの数の数え方と読み方を知る。[p. 66・p67]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の絵を見て、動植物の数量について目を向ける。 うさぎの数を数図ブロックに置き換える。 20までの数詞を知る。 数図ブロックを「10といくつ」に分けて、一目で分かるように並べる。 単元の学習課題をつかむ。 ★20までのかずについてかんがえていこう。 20までの数を数える。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの数を予想することで、10より大きい数の導入を図る。 既習の学習（10までの数の数え方）を想起させ、落ちや重なりがないように数えるには、数図ブロックに置き換えたり、数えた物に印を付けたりする工夫をするとよいことに気付かせる。 数詞を唱え終わった結果の数が集合数になることを確認する。 「じゅう」のまとまりと「さん」で「じゅうさん」と読むことを知らせる。 「じゅう」と「いくつ」で「じゅういくつ」であること、「じゅう」と「じゅう」で「にじゅう」であることを確認する。 【評】数図ブロックに置き換えて数える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 数図ブロックの数と数字を関連付けながら学習するようにさせる。 「10と1で、11」「10と2で、12」のように数の構成を考えながら書くことができるようにする。 ノートの1マスに書くようにし、十の位と一の位の数字の間隔が空き過ぎないように注意させる。 【評】20までの数字を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 大小比較では、数図カードを想起させたり、一の位の大きさに着目させたりすることに気付かせる。 まず、10のまとまりを作ることが必要であることに気付かせる。 数図カードなどを利用しながら、具体物の数と抽象化された数字のイメージをつなげる活動を行えたとよい。 2のまとまり、5のまとまりで数えると、速く数えられることに気付かせる。 【評】20までの数字に対応した数だけ数図ブロックを並べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 10といくつかを具体物や数図ブロックの操作と合わせて数を実感させる。 10といくつかを考える中で、数の構成を理解させる。 数図ブロックをイメージさせ、答えさせる。 一の位の数字に着目させる。 生活の中で数えることの必要性や数字で表すことのよさを実感させる。 【評】身の回りから20までの数の物を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 数の順序関係を理解するために、数直線が有効であることをつかませる。
<p>2 20までの数について、数字の読み方、書き方を知る。[p. 68]</p> <ul style="list-style-type: none"> 数図ブロックで20までの数を作る。 本時の学習課題をつかむ。 ★20までのかずのかきかたをおぼえよう。 20までの数字の読み方、書き方を知る。 20までの数を書く。 	
<p>3 数字と数図ブロックの対応、大小比較、数え方の工夫をすることで、20までの数についての理解を深める。[p. 68・p. 69]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★20までのかずをかぞえたり、おおきさをくらべたりしよう。 数字カードの数だけ数図ブロックを並べる。 数の大きさ比べをする。 20までの具体物の数を数える。 	
<p>4 数の構成に基づく問題を解き理解を深め、身の回りから20までの数の物を見付ける。[p. 70・p. 71]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★10といくつかをかんがえよう。 いくつか考える。 10といくつかを考える。 「練習問題」に取り組む。 生活の中にある物から20までの数に関係ある物を探す。 	
<p>5 20までの数の系列について理解し、数直線上の数を読んだり表したりする。[p. 72・p. 73]</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 20までのかずのならびかたをしらべよう。 ○ カードを順番に並べる。 ○ 数の線を見て気が付いたことを言う。 <p>○ 数の順序関係の問題を解く。</p> <p>6 10といくつの加法・減法の問題を解く。[p. 74]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 10といくつのたしざん・ひきざんをしよう。 ○ $10 + 4$ の計算をする。 <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>○ $12 - 2$ の計算をする。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 20までの数の構成に基づく加法・減法の問題を解く。[p. 75]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 20までのかずのたしざん・ひきざんをしよう。 ○ $12 + 4$ の計算をする。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>○ $15 - 3$ の計算をする。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 76・p. 77]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ だいちさん、ひなたさんの考え方を押さえる ・ その数を入れた理由を話し合わせるによって、見付け方を確認する。 <p>【評】 20までの数の系列を理解し、数直線上の数を読む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数図ブロックを示しながら確認させる。 ・ 数えたすやり方から早く発展できるように、1つずつ数えさせないで答えさせるようにする。 ・ 「10といくつ」という構成から考えて、計算できるようにする。 ・ 「10と2」のうち、2から2をひくと10が残ることを確認する。 ・ 一の位を比較し、どれも10が残ることに気付かせる。 <p>【評】 10といくつの加法・減法の問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数図ブロックを示しながら確認させる。 ・ 10と $2 + 4$ という考え方ができるよう促す。 ・ 一の位同士をたせばよいことを確認し、計算練習に取り組ませる。 ・ 「10と5」の5から3をひくことに気付かせる。 ・ 具体物→数図ブロック→数字、式などを工夫して支援し、具体から抽象にしっかり高めていくようにする。 <p>【評】 20までの数の構成に基づいて、減法の問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 20までの数について分かったことや楽しかったことなどを話し合わせる。
--	--

【 備 考 】
 本単元は、20までの数概念を身に付ける学習である。すでに10までの数概念、読み方、書き方、大小関係、加法・減法などを身に付けている。ここでは「10といくつ」という数の構成の考え方を中心にして20まで拡張して数概念を理解させる。身の回りにある20までの数に目を向けさせながら単元を構想することが大切である。

単元名	ふくしゅう(p.78・p.79)	配当時間	1 時間
単元の目標			

標準的な展開例	01040202_001
---------	--------------

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 78 ・ p. 79]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 なんじ なんじはん

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 何時・何時半の時刻の読み方を理解し、時刻を読んだり文字盤で表したりすることができる。
 (2) 時計の長針・短針の指す目盛りに着目して、時刻を考えることができる。
 (3) 日常の生活場面に即して、時計を観察し、長針・短針の目盛りを見て、時刻を読もうとする。

標準的な展開例

01040203_001

【準備等】時計の大型模型、時計の模型（児童用）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 時計を見て、針の仕組みを知り、何時、何時半の時刻を読む。時計の模型で、何時、何時半を表す。[p. 80・p. 81]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1日の生活場面の絵を見て、何をしているところかを話す。 ○ 挿絵の流れに沿って、時計の大型模型を動かしながら、時計の針の位置や動きを確認する。 ○ 本時の学習課題を知る。 ★ とけいをよんでみよう。 ○ 何時の時計を読む。 <p>○ 何時半の時計を読む。</p> <p>○ 時計の模型を操作し、時計の針を合わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の生活の場面と結び付けて時計の模型で示し、時刻と生活の事実とを結び付けさせるようにする。 ・ 時刻や時間を守るためにも、時計の見方を知ることの必要性を強調する。 ・ 長針と短針の動きの違いをよく観察させる。針は右回りに回ることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [あ]と[い]の時計を対比させて、共通点と相違点を見付けさせ、何時と読んだらよいのか予想させる。 ・ 長い針が12を指しているとき、短い針で何時を読むことを確認する。 ・ 「う」と「え」の時計を対比させて、相違点を見付けさせ、何時半と読んだらよいのか予想させる。 ・ 「何時半」のときの短針と長針の位置を確認する。 ・ 「起きる時刻」や「帰宅する時刻」などの問いに対し、ペアで、片方は時刻を言いながら針を合わせ、片方はその時刻を聞きながら針を合わせ、互いに答え合わせをする活動も入れるとよい。 <p>【評】 何時、何時半の時刻を読んだり、時計の模型で時刻を表したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、日常生活の中で時刻を読むことができるようにすることを目標としている。児童にとって日常生活の中で時刻に着目することは、比較的早くから経験していると思われる。これまで、「長い針が〇まできたら…」などのように時刻を示している経験があると思われるが、1年生のうちに、長針、短針のある時計で時刻を読むことができるようにしたい。また、文字盤を使って時刻を読むことだけでなく、日常生活と関連させて取り組ませたい。また、時計の模型を操作しながら時刻を読んだり、表したりすることができるようにし、友達同士で問題を出し合うなど、興味関心を高める活動を取り入れるようにしたい。

単元名 おおきくらべ(1)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 長さ・かさの概念を理解し、具体物の長さ・かさの比較ができる。
 (2) 長さ・かさの比較を通して、測定の基礎となる考え方を身に付けることができる。
 (3) 長さ・かさの比べ方に興味をもち、そのよさを知り、進んで生かそうとする。

標準的な展開例

01040204_001

【準備等】鉛筆、ひも、はがき、ノート2冊、紙テープ、教卓、机、ジュースのびん、受け皿、バケツ、雑巾、洗剤やシャンプーなどの空き容器、コップ、水筒

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 2つの物の長さを比較する。[p. 82・p. 83]</p> <p>○鉛筆やひもの長さ比べをする。</p> <p>○はがきや紙などの縦と横を折り重ねて長さを比べる。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。 ★ながさ・かさをくらべていこう。</p> <p>2 間接比較を身近なことに活用する。[p. 84]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★おおきなもののながさをくらべよう。 ○大きな物の長さを比べる方法を話し合う。</p> <p>○教卓が入り口から出せるかを考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 任意単位を用いて長さを比べる。[p. 85]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★もともになるながさをきめて、ながさをくらべよう。 ○身近にある物を基準にして長さを比べる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 かさを直接比較と間接比較で比べる。[p. 86]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★みずのかさをくらべよう。</p> <p>○一方の水の量を、もう一方の容器に移し換えて、直接比べる。</p> <p>○同じ大きさの入れ物に入る水の量を比べる。</p> <p>5 かさを任意単位を用いて比べる。[p. 87]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★もともになるかさをきめて、かさをくらべよう。 ○水の量を、同じコップのいくつ分にあたるかで比べる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・どちらが長いかを直感的に予想させた後で、操作活動をしてその根拠を確かめさせる。</p> <p>・2本の鉛筆やひもについてどちらが長い予想させ、比べるときには端をそろえて比べればよいことに気付かせる。</p> <p>・間接比較や任意単位による比較の考えが出た場合は、認めながらも、1枚のはがきで合わせて比べられないかを考えさせる。</p> <p>【評】直接比較や間接比較をする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・対象物の長さをテープで測り取って判断するよさに気付かせる。</p> <p>・動かすのは重くて大変なので、動かす前に比べられないかを考えさせる。</p> <p>・紙テープなどの媒介物を利用するとよいことを確認する。</p> <p>【評】身近な物を間接的に比較する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・直接比べることのできない物の長さを比べることで、任意単位の必要性を実感させる。</p> <p>・前時までとの違いについて、全員が理解できるように話し合う。</p> <p>・広げた手のひらや鉛筆など、基準を決めていくつ分かを比べさせる。</p> <p>・方眼上に置かれている物の長さを比べる練習問題を用意するとよい。</p> <p>【評】マス目の数で長短を判断する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・児童が、どちらの容器にたくさん入るか知りたいという場面を設定し、興味と関心をもたせてかさ比べをさせる。</p> <p>・ジュースのびん、洗剤やシャンプーなどの空き容器、コップなどを使って、どの容器に一番水がたくさん入るかを考えさせるとよい。</p> <p>・水の高さで比べればよいことに気付かせる。</p> <p>【評】水のかさを比べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・任意単位によるいくつ分かでかさ比べをする中で、数量化して比べることのよさに気付かせる。</p> <p>・長さ比べの経験を基に、入れ物に入った水の高さで比べる方法より、もっとよい比べ方がないかを考えさせる。</p> <p>【評】コップを単位としてかさを比べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【備 考】

本単元は、長さ・かさの比較を通して、測定の基礎を培うとともに、任意単位を用いてそれらの大きさを比較する学習である。まず直接比較を学習して概念を身に付け、次に任意単位を用いて間接比較するように単元を構想する。測定とは量の大きさを「単位となる量のいくつ分」という数値で表すことである。そのため、単位量のいくつ分だからどちらが大きいと考えさせることが大切である。

単元名 3つの かずの けいさん

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 3つの数をたしたり、ひいたりする計算の意味を知り、1つの式に表して計算することができる。
(2) 3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表して考えることができる。
(3) 3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表すことのよさを知り、進んで用いようとする。

標準的な展開例

01040205_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 3つの数の加法をする。[p. 88・p. 89]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○列車にねずみが乗っている絵の場面について話し合う。 ○場面に合った式を考える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★3つのかずのけいさんをしていこう。 ○3つの数のたし算の仕方についてまとめる。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各場面ごとの様子を話し合わせ、3つの数の計算の学習に興味をもたせる。 ・2つの式に表している児童の考え方も認め、数図ブロックの操作でそれを1つの式にまとめると簡単に表せることを感じられるようにしたい。 ・最初に計算する箇所に線を引かせ、その部分の和をメモさせると分かりやすい。 <p>【評】3つの数量の関係を1つの式に表す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p>
<p>2 3つの数の減法をする。[p. 90]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★3つのかずのひきさんをしよう。 ○3つの数のひき算を式に表す。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数図ブロックの操作に十分時間を取り、減・減の様子を実感させる。 ・2度減少したことと2つの「－」が同じ操作であると分かるように板書を工夫する。 <p>【評】減法も加法と同じように1つの式に表し計算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>3～4 3つの数の減・加、加・減の計算をする。[p91・p. 92]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★へってふえるときやふえてへるとき、いくつになるかをかんがえよう。 ○問題の場面を数図ブロックで操作する。 ○$5 - 2 + 4$の計算に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 ○文章問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの数の減・加、加・減の計算も、左から順に計算すればよいことをつかませる。 ・計算は左から順にすればよいことに気付かせる。 ・「降りた」と「乗った」が混ざっているところに着目させる。 ・「合わせる」と「降りる」が混ざっているところに着目させる。 <p>【評】立式し、計算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【備 考】

本単元は、3つの数の加法や減法を1つの式に表し、計算することを学習する。ここでは、数量の状況を式に表したり、式の意味を理解したりすることを重点に単元を構想する。また、既習の計算を暗算ですることが前提となるので、単元の初めには、必要に応じて加法や減法の復習を組み入れるとよい。

単元名 ふくしゅう・じゅんぴ(p.93)

配当時間 1 時間

単元の目標

標準的な展開例

01040206_001

【準備等】計算カード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題, レディネスチェックに取り組む。[p. 93]	・個別指導を通して, 既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 たしざん(2)

配当時間 9時間

単元の目標 (1) 繰り上がりのある計算の仕方について理解し、(1位数) + (1位数) の繰り上がりのある計算ができる。
 (2) 10の補数に着目して、加数を分解してたす考え方ができる。
 (3) 繰り上がりのある計算に興味をもち、「10の補数」という考えのよさに気づき、進んで計算しようとする。

標準的な展開例

01040207_001

【準備等】数図ブロック、数図ブロック盤、たし算カード、色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (1位数) + (1位数) で繰り上がりのある計算の仕方を知る。[p. 94・p95]</p> <p>○繰り上がりのあるたし算の計算の仕方を、数図ブロックの操作を通して考える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★たしざんでこたえが10より大きくなるけいさんについてかんがえていこう。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 (1位数) + (1位数) で繰り上がりのある計算の仕方を作り上げる。[p. 96・p. 97]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★こたえが10より大きくなるたしざんのしかたをせつめいしよう。 ○7 + 4の計算の仕方を数図ブロックで確認する。 ○7 + 4の計算の仕方を言葉で説明する。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 被加数が6以上の繰り上がりのある加法の計算をする。[p. 98]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★こたえが10より大きくなるたしざんのしかたをかんがえよう。 ○被加数が9の場合について、繰り上がりのあるたし算の仕方を確認する。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 被加数が5以下の繰り上がりのある加法の計算をする。[p. 99]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★たされるかずが5より小さいたしざんのしかたをかんがえよう。 ○被加数が5以下の場合の計算の仕方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>5～6 たし算カードを使って、計算練習をする。[p. 100]</p>	<p>・被加数の10の補数を見付ける→加数を2つの数に分解する→3つの数を加えるという手順を、数図ブロックの操作を通して実感させる</p> <p>・数図ブロックを用いて、加数がどのように分解されるかを視覚的に捉えさせる。 ・被加数に10の補数を加えることで、「10といくつ」になることに気付かせるため、被加数の数図ブロックを数図ブロック盤に並べる。 ・10の補数を意識するよう声かけをする。 【評】10の補数を意識して、加数を分解して10を作ることを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・数図ブロックの操作を通して、その操作を振り返りながら計算方法を言葉でまとめさせていく。 ・加数を被加数の10の補数と残りに分けるとよいことに気付かせる。</p> <p>・計算の仕方を数図ブロックの操作を通して理解させる。 ・計算の仕方を声に出して言わせることで、定着を図る。 ・計算の仕方を小さな声に出しながら計算練習に取り組ませてもよい。 【評】加数を分解して、10の補数を利用した計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・数図ブロックの操作を通して、その操作を振り返りながら計算方法を言葉でまとめることにより、方法の定着を図る。 ・加数を被加数の10の補数と残りに分けるとよいことに気付かせる。</p> <p>・9の補数が1であることから、1の位は加数より1小さい数になることを確認する。 ・被加数が9の場合から順に、8の場合、7の場合、6の場合の計算練習に取り組ませることで、法則性に気付かせる。 【評】繰り上がりのある加法の計算をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・被加数が小さくなるにつれて、その補数が見付けにくくなるので、加数の10の補数を見付けることに重点をおいて指導する。</p> <p>・理解が遅れがちな児童には、加数分解を基本としていつも同じ手順でやればできるという自信をもたせるようにするが、理解の進んだ児童には、被加数分解で計算してもよいことを知らせる。 ・加数が6～9で被加数が5以下の場合、被加数分解をする方が計算しやすいことを知らせる。 【評】加法の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・同じ計算を繰り返す学習なので、ゲームの種類を変えて、楽しく学習できるように雰囲気作りをする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○たし算カードを使って、たし算カードの答えを言う。 ○たし算カードの中から、答えが11になるカードを見付ける。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★たしさんカードでゲームをしよう。 ○教科書巻末の「かあどげえむ」をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・こたえはいくつ ・おおきさくらべ ・かあどとり ・なかまあつめ <p>7～8 たし算カードを使って、計算練習をする。[p. 101]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★たしさんカードでくりあがりのあるたしさんのれんしゅうをしよう。 ○同じ答えのたし算カードを並べて気付いたことを話そう。 ○「あ」から「き」に入る式を考える。 ○たし算カードを縦や横に並べて、計算練習をする。 <p>9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 102・p. 103]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えが11になるカードの共通点を見付けるよう促すのもよい。 ・4つのゲームがあるので、友達と競争したりゲームを取り入れた練習を組み合わせで行ったりすることで、児童の関心が持続するように工夫する。 <p>【評】カードを使って、加法の練習をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解が不十分な児童には、数図ブロックを用いて個別指導をする。 ・誤りの多い「$7+6$」や「$4+7$」などは、多く取り上げて何度も言わせるようにし、つまずきの実態に応じて練習していくようにする。 ・被加数の昇順など、並べ方を示すとよい。縦で比べて気付いたことや、横で比べて気付いたことを話し合わせる。 ・ペアで、入る式を確認し合ってもよい。 <p>【評】加法の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりのある加法について分かったことや楽しかったことなどを話し合わせる。
---	---

【 備 考 】
本単元は、繰り上がりのある1位数同士の加法の計算を学習する。この単元は、計算の原理を理解させることと、計算に習熟させることを重点に構想することが大切である。計算の原理を理解する学習では、数図ブロックなどの操作を通して理解できるようにする。また、計算に習熟する学習では、ゲームの要素を取り入れるなどして楽しく継続できるように工夫する。
展開例は9時間完了を基本としているが、単元末に補充課題や発展課題に取り組ませ、10時間完了としてもよい。

単元名 かたちづくり

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、いろいろな形を作ることができる。
 (2) 図形を構成したり観察したりするときの基本的な見方・考え方を身に付けることができる。
 (3) 色板や棒などを使っていろいろな形を作ることに関心・関心をもち、意欲的に取り組もうとする。

標準的な展開例

01040208_001

【準備等】直角二等辺三角形の色板、計算棒（またはストロー）、定規、ジオボード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 色板を並べていろいろな形を作る。[p. 104]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 直角二等辺三角形の色板を並べて、家やヨットなどの形を作る。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ いろいろたやぼうをならべたり、てんをつないだりして、いろいろなかたちをつくっていきこう。 ○ 色板を使って自由に図形を作る。 <p>2 方眼上の絵で表されている図形を、色板を並べて作る。[p. 105]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 色板を使って教科書と同じ図形を作る。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ なんまいのいろいろたでできているかをしらべよう。 ○ 何枚の色板でできているかを考えながら、図形を作り直す。 <p>3 棒を使っていろいろな図形を作る。[p. 106]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ けいさんぼうをつかっているいろいろなかたちをつくろう。 ○ 教科書と同じ図形を棒で作る。 ○ 棒を使って自由に形を作る。 <p>4 点を線で結んでいろいろな形を作る。[p. 107]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ てんをちよくせんでつないで、いろいろなかたちをつくろう。 ○ 点を直線でつないで形作りをする。 <p>5 色板や棒を移動させて形を変える。[p. 108]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ いろいろたやぼうをうごかして、かたちをかえよう。 ○ 色板で教科書と同じ図形を作り、色板を1枚移動させて新しい図形を作る。 ○ 棒でデジタルの数字を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試行錯誤しながらいろいろな形を作ることができるように時間を取る。 ・ 教科書にかかれた形を真似して並べさせる。 ・ 十分に時間を与えて、楽しみながら操作させる。 ・ 色板の枚数を限定して作らせてもよい。 【評】 いろいろな図形を色板で作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 方眼の1マスが三角形2つ分になっていることを理解させる。 ・ 十分に時間を与えて、楽しみながら操作させる。 ・ 試行錯誤しながら考えることを大切にし、初めから補助線を入れることは避ける。 ・ 色板の向きに注意して作らせる。ペアで確認させてもよい。 【評】 何枚の色板をどのように組み合わせて図形を作るかを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 何本の棒で構成されているかを考えて行うようにする。 ・ 重なったり、離れたり、ずらしたりしてはいけないことを知らせる。 ・ 色板同様、本数を限定してもよい。 【評】 棒を並べて決められた図形を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ ジオボードを用意しておき、それに輪ゴムをかけて図形を作る活動を行ってもよい。 ・ 家をかかせた後に、自分で考えた図をかかせる。 ・ 早くできた児童には、図形に色を塗らせてもよい。 【評】 点をつないでいろいろな図形を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 図形が、ずらす、裏返すなどの活動によって変化することをつかませる。 ・ 変化した部分に注目させる。 ・ 8からどの棒を取ると0, 6, 5, 3になるかを考えさせる。時間があれば、他の数字についても考えさせる。 【評】 色板や棒を移動させて図形を変形させる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、直角二等辺三角形の色板を基に具体的事象や平面図形を面で構成したり、棒や点をつないで平面図形を作ったりする学習である。さらに、ずらす、裏返す、移動させるなどの動的な図形の変化に着目させ、観察、構成する学習を行う。図形への親しみをもちとするとともに、直角二等辺三角形や棒を並べたり、点を直線でつないだりすることで、新たな図形が創造できるように構成する力や観察する力などを培うことが大切である。

なお、展開例は5時間完了を基本としているが、単元末に補充課題や発展課題に取り組ませ、6時間完了としてもよい。

単元名 ふくしゅう・じゅんぴ(p.109)

配当時間 1 時間

単元の目標

標準的な展開例

01040209_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題，レディネスチェックに取り組む。[p. 109]	・個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 ひきざん(2)

配当時間 11 時間

単元の目標 (1) 繰り下がりのある計算の仕方について理解し、(十何)－(1位数)で、繰り下がりのある計算ができる。
 (2) 繰り下がりに着目して、計算の仕方を考えることができる。
 (3) 繰り下がりのある計算に興味をもち、「10といくつ」という数の仕組みを用いるよさに気付き進んで計算しようとする。

標準的な展開

01040210_001

【準備等】数図ブロック、数図ブロック盤、ひき算カード、1～19の数字カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (十何)－(1位数)で繰り下がりのある計算をする。 [p. 110・p. 111] ○柿の問題を式に表す。</p> <p>○13－9の計算の仕方を考える。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。 ★くりさがりのあるひきざんのしかたをかんがえていこう</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童からいろいろな考え方が出るように時間を取る。 ・教科書の挿絵を見て、自分なりの方法で考えさせる。 ・児童の実態に応じ、見本を示しながら数図ブロックの動かし方を助言する。 ・減加法は、10の補数を考えることで既習事項を用いて計算でき、簡単に速いことを、他の方法と比較して話し合わせ、減加法のよさに気付かせる。 <p>【評】10からひいた残りとし、とっておいた数とを合わせる仕方を理解する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
<p>2～3 減数が6以上の繰り下がりのある減法の計算をする。 [p. 112～p. 114]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★ひくかずが6いじょうのひきざんのしかたをかんがえよう。</p> <p>○繰り下がりのある減法の仕方を確認する。</p> <p>○15－6の計算の仕方を声に出して言う。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・減加法の形式化を図るため、繰り返し声に出しながら説明をさせる。 ・計算の仕方を小さな声に出して計算させたり答え合わせで確認したりして、定着を図る。 <p>【評】減法の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>4 減数が5以下の繰り下がりのある減法の計算をする。 [p. 115] ○本時の学習課題をつかむ。 ★ひくかずが5いかのくりさがりのあるひきざんのしかたをかんがえよう。</p> <p>○減数が4の場合の計算の仕方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・減数が小さい場合、減減法の方が計算しやすい場合があることに気付かせる。 ・混乱しがちな児童には、減加法で計算してもよいことを伝える。 <p>【評】減法の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>5～6 ひき算カードを使って、計算練習をする。 [p. 116]</p> <p>○ひき算カードを使って、ひき算カードの答えを言う。</p> <p>○ひき算カードの中から、答えが9になるカードを見付ける。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★ひきざんカードでゲームをしよう。</p> <p>○教科書巻末の「かあどげえむ」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こたえはいくつ ・おおきさくらべ ・かあどとり ・なかまあつめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく学習できるように雰囲気作りに心がける。 ・答えが9になるカードの共通点を見付けるよう促すのもよい。 ・4つのゲームがあるので、友達と競争したりゲームを取り入れた練習を組み合わせで行ったりすることで、児童の関心が持続するように工夫する。 <p>【評】ひき算カードを使って減法の計算練習をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
<p>7～8 ひき算カードを使って、計算練習をする。 [p. 117]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★ひきざんカードでくりさがりのあるひきざんのれんしゅうをしよう。</p> <p>○同じ答えのひき算カードを並べて気付いたことを話し合う。</p> <p>○「あ」から「き」に入る式を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導に重点をおき、理解が不十分な児童には、数図ブロックを用いて考えさせる。 ・たし算カード同様、並べ方を示し、法則性に気付かせるようにする。 ・ペアで、入る式を確認し合ってもよい。

<p>○ ひき算カードを縦や横に並べて、計算練習をする。</p> <p>9 加法や減法の計算に習熟する。[p.118]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たしさんやひきさんをつかってゲームをしよう。 ○ 教科書の「かずあてげえむ」をする。</p> <p>10 加法や減法の問題作りをする。[p.119]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たしさんやひきさんのかみしばいをしよう。 ○ 教科書の「けいさんのかみしばい」をする。 ○ 「けいさんのかみしばい」を作る。</p> <p>11 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p.120・p.121]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを話し合う。</p>	<p>【評】減法の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの学習のまとめとして、ゲームを取り入れて計算の習熟を図る。 ・ 最初は数字を裏返して、その数を当てさせるが、数字だけでなく、＋や－の記号を裏返してもよい。 <p>【評】ゲームを取り入れて計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙芝居の絵を見て、加法と減法の用いられる場面を判断できるようにする。 ・ 絵をかく活動に時間を費やしてしまわないように、お話作りだけに活動を焦点化する。 ・ $8+6$，$12-7$に合うお話作りをする。 ・ はじめ、なか、おわりの3枚の紙芝居をかかせる。絵をかくことが苦手な児童もいるので好きな動物の絵を印刷し、好きな数ずつ貼らせて作ってもよい。 <p>【評】加法と減法の紙芝居作りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り下がりのあるひき算について分かったことや楽しかったことなどを話し合わせる。
--	---

【 備 考 】

本単元では、繰り下がりのある減法の計算を学習する。具体的な操作から徐々に念頭での操作に移行し、さらに計算に習熟するように単元を構想する。繰り上がりのある加法に比べて考え方が難しいので、個別指導に重点をおき、どの児童も確実に計算できるように配慮する。

展開例は11時間完了を基本としているが、単元末に補充課題や発展課題に取り組ませ、12時間完了としてもよい。

単元名 0の たしざんと ひきざん

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 0を含むたし算・ひき算の仕方について理解し、計算することができるとともに、0についての理解を深めることができる。
 (2) 0を含む場合もたし算・ひき算を用いることを考えることができる。
 (3) 0のたし算・ひき算を用いる場面に興味・関心をもち、進んで用いようとする。

標準的な展開例

01040211_001

【準備等】玉入れ用のかご、玉、記録用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 0を含む加法の計算をする。[p.122] ○玉入れ遊びをする。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★0をふくむたしざんのしかたをかんがえよう。 ○0を含む加法の計算の仕方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。	・(1回目の数) + (2回目の数) = (合わせた数)の形を強調しておく。 ・0をたすということと、0にたすということの意味を具体的な場面に即して考えさせる。 【評】0の含まれた加法の計算練習をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・「1回目の数」と「2回目の数」の差が「違い」となることを知らせる。
2 0を含む減法の計算をする。[p.123] ○ペットボトルボウリングをする。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★0をふくむひきざんのしかたをかんがえよう。 ○0を含むひき算の計算の仕方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。	・大きい数から小さい数をひくことを確認する 【評】0の含まれた減法の計算練習をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【備 考】

本単元は、0を含む加減計算を学習する。0の概念についてはすでに学習しているが、0の計算の意味は理解が難しいと思われるので、玉入れなどの具体的な場面を設定して、0の計算の意味を実感できるように単元を構想することが大切である。

単元名 **ものとひとのかず**

配当時間 **3時間**

単元の目標 (1) ある数量を他の数量に置き換えることの意味を理解し、順序数と集合数について理解を深めることができる。
(2) 絵や図を活用して、ある数量を他の数量に置き換えて考えたり、並んでいる数からその順番を考えたりすることができる。
(3) 図を使って考えるよさに気付き、進んで生かそうとする。

標準的な展開例

01040212_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 ある数量を別のものに置き換えて考える問題を解く。[p.124]</p> <p>○「人の数」を「券の数」に置き換える問題を解く。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。 ★ものとひとのかずについてかんがえていこう。 ○「椅子の数」を「人の数」に置き換える問題を解く。</p> <p>2 順序数の問題を解く。[p.125]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★「まえからなんばんめ」と「まえにいるにんずう」についてかんがえよう。 ○「前にいる人数」を基にして「前から何番目」かを考える。 ○「前から何番目」を基にして「前にいる人数」を考える</p> <p>3 順序数と集合数の組み合わせられた問題を解く。[p.126]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★「なんばんめ」と「なんにん」をくみあわせてかんがえよう。 ○「前から何番目」と「後ろにいる人数」を基にして、「全員の人数」を考える。 ○「全員の人数」と「前から何番目」を基にして、「後ろにいる人数」を考える。</p>	<p>・教科書の絵を見て考えさせたり、数図ブロックを操作させたりして、ある数量を別のものに置き換えて考えることができることに気付かせる。</p> <p>・券と人を1対1対応させて線でつなぎ、人の数を券の数に置き換えて考えられるようにする。</p> <p>【評】置き換えて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書の絵を見て考えさせたり、数図ブロックを操作させたりして、「前から何番目」と「前にいる人数」の関係を実感させる。</p> <p>・数図ブロックを並べさせ、該当者だけ違う色にさせると分かりやすい。</p> <p>【評】順序に着目して問題を解く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・図をかいて考えさせたり、数図ブロックを操作させたりして、順序数と集合数の関係を実感させる。</p> <p>・図をかいたり、数図ブロックを並べたりして考えさせる。</p> <p>【評】順序数と集合数の組み合わせられた問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、置き換えの問題と順序数の問題とで構成されている。置き換えの問題は、求める答えがどんな種類の数量であるかを考え、何を何に置き換えるかを明らかにすることが指導の要点となる。順序数の問題は、数図ブロックや図で実際に確かめて考えさせることが大切である。

単元名 **ものの いち**

配当時間 **1 時間**

単元の目標 (1) 上下、左右などの用語を使った物の位置の表し方を理解し、上下、左右などの用語を用いて物の位置を表すことができる。
 (2) 基準となる物を決めて、上下、左右などの用語を用いて、物の位置の表し方を考えることができる。
 (3) 宝探しを通して、物の位置を進んで表そうとする。

標準的な展開例

01040213_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 上下、左右などを使って、物の位置を表す。[p.127] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ ほうこうをあらわすことばをつかって、たからものをさがそう。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ いろいろな言い方で宝探しをする。	・ 方向性を表す言葉を正しく使えるようにさせる。 ・ ペアやグループになり、方向性を表す言葉を正しく使って、宝探しを行わせる。 【評】物の位置を表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、上下、左右などの用語を用いて、物の位置を表すことを学習する。ここでは、児童が楽しめる場面を想起させ、既習の順序数を活用することを重点において単元を構想する。
 本単元については、プログラミング的思考を取り扱うこともできる。

単元名 ふくしゅう(p.128・p.129)

配当時間 1 時間

単元の目標

標準的な展開例

01040214_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 128 ・ p. 129]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 大きい かず

配当時間 13時間

単元の目標 (1) 十進法を理解し、100までの数や100を少し超える数の表し方や意味が分かり、数字で書いたり数直線上に表したりするとともに、数の大小比較ができる。
 (2) 100までの数を「10がいくつと1がいくつ」、100を少し超える数を「100といくつ」という見方で捉えることができる。
 (3) 100までの数を10ずつまとめて数えるよさに気付き、身の回りから進んで100までの数字を見付けようとする。

標準的な展開例

01040301_001

【準備等】数え棒、位取り板、おはじき、数字カード、サイコロ、お金の模型

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 100までの数の数え方を知る。[p. 130・p. 131]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○じゃんけんで数え棒を取るゲームをし、取った数え棒を数える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★大きいかずのあらわしかたやしくみをかんがえよう。 ○100までの数の数え方を知る。 ○あめの数や数え棒の数え方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取った数え棒の数を相手に分かりやすく伝える方法を自由に考えさせる。 ・数え棒を数える際、どちらが多いかすぐに分かるような工夫をさせる。 ・10ずつまとめて数えるように助言する。 <p>【評】100までの数を、10のまとまりを作って数える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「10がいくつと1がいくつ」のように数えさせる。
<p>2 100までの数の書き方を知る。[p. 132]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★100までのかずをすうじでかこう。 ○十の位、一の位の意味を知る。 ○100までの数の書き方を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・位取り板や数え棒を基にして、用語を理解させる。 ・ばらがない場合は、一の位に0を書くことを知らせる。 <p>【評】位取りに従って2桁の数を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2桁が十の位と一の位からできていることを実感させる。
<p>3 十進位取り記数法に基づいて、2桁の構成の理解を深める。[p. 133]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★100までのかずをすうじやかぞえぼうであらわそう。 ○示された数を数字で書く。 ○数字で示された数だけ、数え棒を並べる。 ○数字で示された数が10がいくつと1がいくつで構成されているかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一の位が0になる数も取り扱う。 ・位取りを意識して、10の束を左に、ばらを右に並べさせる。 ・児童の実態に応じて、位取り板を利用する。 <p>【評】数字で表したり、数え棒を並べたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100を10が10個集まったものと、99より1大きいものというように、2通りの見方ができるようにさせる。
<p>4 100までの数の数え方や表し方に習熟し、100という数について理解する。[p. 134]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★100というかずについてかんがえよう。 ○100ある具体物を数える。 ○100を10のまとまりを基にして捉えたり、99の次の数として見たりする。 ○100を書く練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全部で100あることを確認する。 ・10ずつまとめて数え、「10のまとまりが10個」と考えたり、1から順に数えたことを基に「99の次」と表現させたりする。 ・「100」と書き、「ひゃく」と読むことを知らせる。 <p>【評】具体物を数える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100までの数について、逆から数えたり、ある数から順に数えたりして100までの数を習熟させる。
<p>5 100までの数の数表を通して、数構成や数系列を考える [p. 135]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★100までのかずをよんだりかいたりしよう。 ○数字を順に読んだり書いたりする。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横1列や縦1列を読ませて、数の並び方で共通しているところに気付かせる。他の列においてもその規則性が成り立っているか、数表を基に確認する。 <p>【評】数表に関心をもち、きまりを見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

<p>6 100までの数の大小を考える。[p. 136]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 100までのかずの大きさをくらべをしよう。 ○ 数の大小の問題に取り組む。 ○ 数の順序や数系列の理解を深める問題に取り組む。 <p>7～8 100までの数の系列や順序を理解する。[p. 137]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ かずを大きいじゅんや小さいじゅんにならべよう。 ○ 数の大小比較の考えを活用して、数の大きい順に並べる ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 「すごろく」遊びをする。 <p>9 100までの数字の使われ方を調べる。[p. 138]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の写真を見て、100までの数字の使われ方を知る ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ みのまわりから100までのすうじをみつけよう。 ○ 学校の中で、100までの数字が使われている場面を調べる。 <p>10 いろいろなお金の出し方を考える。[p. 139]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ いろいろなおかねのだしかたをかんがえよう。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>11～12 120程度までの数の読み方や書き方を知る。[p. 140・p. 141]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 100をこえるかずをかぞえよう。 ○ 100を超える数の数え方を知る。 ○ 100を超える数を数字で表す。 ○ 品物の値段について考える問題に取り組む。 ○ 数直線上に入る数字を考える。 <p>13 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 142・p. 143]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 ○ 学習の振り返りを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十の位、一の位の順に注目させ、大小が比較できるようにさせる。 ・ 十の位の大きさを比べ、十の位が同じ場合は一の位で比べればよいことを確認する。 <p>【評】 100までの数について、大小を判断する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームを楽しみながら、100までの数の大小や順序、数系列について理解を深めさせる。 ・ 数字カードをよく混ぜて裏返し、1枚ずつ取らせて数の大きい順に並ばせる。 ・ 前時の学習の大小比較の考えを生かして、手際よく判断させる。 ・ 数表を使って、確かめながら練習させるとよい。 ・ 5進む、10戻るなどの意味を十分に理解させる。 <p>【評】 100までの数について、系列を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の写真だけでなく、身の回りの写真を見せ、100までの数字がどのような場面で活用されているか気付かせる。 <p>【評】 身の回りにある100までの数字を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100までの数字が生活の中で使われている場面を探すことで、算数と生活との関わりを実感させる。 ・ お金の模型を位をそろえて置かせ、それぞれの位にあるお金の模型を操作することによって計算の仕方をつかませる。 ・ 硬貨の種類ごとに計算することが分かるようにし、位をそろえて位ごとに計算する考え方につなげる。 ・ ペアやグループで取り組ませ、いろいろな出し方を考えさせる。 <p>【評】 いろいろなお金の出し方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100といくつという観点で数の構成に着目させ、2桁の理解をより確かなものにする。 ・ 百の位として扱うのではなく、100といくつという見方で捉えさせる。 ・ 十の位や一の位が0の場合の表記の仕方に注意させる。 ・ 買える、買えないが判断できない児童には、数表を利用させる。 <p>【評】 100を超える数について、100といくつとみる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きい数について分かったことや楽しかったことなどを話し合わせる。
---	--

【 備 考 】
 本単元は、100までの数の概念を身に付ける学習である。単元の構想に当たっては、十進位取り記数法の基礎として、具体物を10ずつまとめて数えたり、示された数を10のまとまりがいくつとばらがいくつとで構成したりするなど、操作活動を取り入れて指導することが大切である。

単元名 なんじなんぷん

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 時計の文字盤の仕組みについて知り、何時何分の時刻の読み方を理解し、何時何分の時刻を読んだり、文字盤で表したりすることができる。
 (2) 時計の長針・短針の指す目盛りに着目して、時刻を考えることができる。
 (3) 日常の生活場面に即して、進んで何時何分を読もうとする。

標準的な展開例

01040302_001

【準備等】時計の大型模型、時計の模型（児童用）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 何時何分の時刻を読む。[p. 144・p. 145] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ なんじなんぷんのよみかたをしらべよう。 ○ 何時何分の読み方を知る。 ○ 何時30分の読み方を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短針で何時を読み、長針で何分を読むことを伝える。 ・ 9時3分の時計を示し、何と読んだらよいか考えさせる。 ・ 短針で何時を、長針で何分を読めばよいことを確認する。また、小さな目盛りが1分を表していることを伝える。 ・ 9時半と9時30分は、同じ時刻でも別の言い方であることを伝える。 ・ 9時57分について、短針が10時に近いので10時57分と誤解しないように指導する。時間の経過を考え、まだ10時になっていないことを確認する。 <p>【評】時計の時刻を読む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5とびで数えた後、1分ずつ数えて合わせると便利であることに気付かせる。 ・ まず「時」、次に「分」を合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 50分以降は、短針の何時を間違えないように注意させる。 <p>【評】時計を使って時刻を表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
2 何時何分の時刻を表す。[p. 146] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ とけいのはりをあわせよう。 ○ 「練習問題」に取り組む。	

【 備 考 】

時計の読みは、「10 なんじ なんじはん」の単元において、何時、何時半について学習してきている。日常生活の中でも時計は身近な存在であるので、数多く目にしたり、時刻を決めて生活する経験をしたりしてきていると思われる。しかし、何時何分まで正しく時計を読むことに難しさを感じる児童も少なからずいる。時計の読みは日常生活上必要なことであるので、しっかり身に付けられるように指導したい。また、既習の「何時半」という言い方は「何時30分」の別の言い方であることを確認する必要がある。児童に観察させて読み方を発見させる指導法も考えられるが、短針で何時を読み、長針で何分を読むことを確実に指導する。児童の実態に応じ、5とびの数を時計の数字の横に表示して読ませてもよい。生活の中で日常的に時計を読む習慣を付けさせたい。

単元名 おなじ かずずつ

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 数図ブロックの操作を通して、乗法や除法の素地となる「同じかずつ」の意味を理解し、乗法や除法の素地となるブロック操作ができ、それを図や式にかいて確かめることができる。
(2) 等分したりまとめて数えたりして、乗法や除法の素地的な見方で数を考えることができる。
(3) 具体物を等分したりまとめて数えたりし、それを進んで整理し表そうとする。

標準的な展開例

01040303_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 具体物を等分する。[p. 147]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ おなじかずずつわけよう。 ○ クッキー12個を3人で同じかずずつ分ける活動をする。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じかずずつ分ける操作を通して、除法の基礎的な見方ができるようにする。 ・ 数図ブロックを操作しながら分けさせる。 <p>【評】 同じかずずつ分ける操作活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、数図ブロックやおはじきなどの半具体物を実際に操作させて、等分したり、いくつかずつに分けたりする経験をさせ、第3学年で扱う「わり算」の学習につながる「同じかずつ」の意味を理解させることが主なねらいである。同じに分けたりしながら、操作や図で説明したり、分けられた結果を式に整理して表したりする数学的活動を重点に単元を構想する。1つの数を多面的に見ることができるようにし、数についての感覚を豊かにすることが大切である。

単元名 たすのかな ひくのかな

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 加減計算の場面の違いを理解し、場面に即して適切に加減の演算を決定し、計算することができる。
 (2) 加減計算の意味を基に演算決定し、その根拠を言葉や図などを用いて考え、説明することができる。
 (3) 進んで問題に取り組み、何算になるかを判断しようとする。

標準的な展開例

01040304_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 加法か減法かを考えて式を立て、その訳を言う。[p. 148・p. 149] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たしざんかひきざんかをかんがえ、そのしきになるわけをいしましょう。 ○ 問題文を式に表し、計算する。 ○ たし算になる訳を言う。 ○ 問題文を式に表し、計算する。 ○ ひき算になる訳を言う。 ○ 「練習問題」に取り組む。	・ 問題の場面をつかむ時間を確保し、加法か減法かを児童が考えるようにする。 ・ 教科書の吹き出しの言い方を示し、説明の仕方に慣れさせる。 ・ 説明を言うことが難しい児童には、教科書の吹き出しの言い方を参考にさせる。 【評】 加法か減法かを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、問題の文章を読んで演算を決定することと、その訳を説明することを学習する。演算決定の学習では、加法か減法かを考える際に、加法や減法の意味を考えることができるように授業を構成することが大切である。

単元名 ふくしゅう(p.150・p.151)

配当時間 1 時間

単元の目標

標準的な展開例

01040305_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 150 ・ p. 151]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 100までの かずの けいさん

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 数構成に基づくたし算・ひき算の計算の仕方を理解し、100までの数のたし算、ひき算ができる。
 (2) 数構成に基づいて、たし算、ひき算の計算の仕方を考えることができる。
 (3) 数構成に基づいて、たし算、ひき算ができるよさを知り、進んで用いようとする。

標準的な展開例

01040306_001

【準備等】数え棒

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (何十)±(何十)の計算の仕方を考える。[p. 152]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★(なん十)+(なん十), (なん十)−(なん十)のけいさんのしかたをかんがえよう。 ○ (何十)+(何十)の計算の仕方を考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>○ (何十)−(何十)の計算の仕方を考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10までの数の合成、分解を想起させ、10のまとまりを合成したり分解したりすることをつかませる。 ・ 10のまとまりの数を意識させて計算をさせる ・ 数えたしている児童には、10の束を意識することで、既習の1桁の計算が使えるよさを知らせる。 ・ 10のまとまりの数を意識させて計算をさせる <p>【評】計算問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数え棒の操作を通して、計算の仕方をイメージ化する。
<p>2 (何十)+(何)の計算, (何十何)−(何)の計算 (答えが何十)の仕方を考える。[p. 153]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★2けた+1けた, 2けた−1けたのけいさんのしかたをかんがえよう。 ○ 2桁(何十)に1桁をたすたし算の計算の仕方を考える</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 2桁から1桁をひくひき算の計算(答えが何十)の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一の位の数え棒を操作させることによって計算の仕方をつかませる。 ・ 一の位の数え棒を操作させることによって計算の仕方をつかませる。 <p>【評】計算問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数え棒の操作を通して、計算の仕方をイメージ化する。
<p>3 (何十何)+(何)の計算(繰り上がりなし)の仕方を考える。[p. 154]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★2けた+1けたのけいさんのしかたをかんがえよう。 ○ 2桁に1桁をたす, 繰り上がりのないたし算の計算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 25+10の計算を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一の位の数え棒を操作させることによって計算の仕方をつかませる。 ・ 発展的な内容のため、児童の実態に応じて取り組ませる。 <p>【評】計算問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数え棒の操作を通して、計算の仕方をイメージ化する。
<p>4 (何十何)−(何)の計算(繰り上がりなし)の仕方を考える。[p. 155]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★2けた−1けたのけいさんのしかたをかんがえよう。 ○ 2桁から1桁をひく, 繰り下がりのないひき算の計算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 36−10の計算を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一の位の計算棒を操作させることによって計算の仕方をつかませる。 ・ 発展的な内容のため、児童の実態に応じて実施する。 <p>【評】計算問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【備 考】

本単元は、簡単な2桁の数の加法、減法の計算を学習する。2桁の数の構成に基づいて、計算棒の操作活動を取り入れて指導することが大切である。

単元名 おおい ほう すくない ほう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 求大・求小の意味について理解し、問題を解くことができる。
(2) 数図ブロックや絵、式などを用いて、求大・求小の問題を考えることができる。
(3) 日常の生活場面での求大・求小の問題に興味・関心をもち、進んで解こうとする。

標準的な展開例

01040307_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 多い方の数量を求める問題を考える。[p. 156]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の問題場面を図に表す。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★おおいほうのかずをもとめるもんだいのときかたをかえよう。 ○多い方の数量を求める問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>2 少ない方の数量を求める問題を考える。[p. 157]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★すくないほうのかずをもとめるもんだいのときかたをかえよう。 ○問題場面を図に表す。 ○少ない方の数量を求める問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面に絵と図を対応させ、具体的に題意をつかませる。 ・数図ブロックを使って、具体的な操作をさせる。 【評】解き方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・2つの数量のうち、多いものと少ないものはそれぞれ何かを考えさせてから立式させる。 ・数図ブロックを操作させたり、図に表させたりして取り組ませる。 【評】解き方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、問題文を読んでその題意をつかみ、式を立てて答えを求める学習である。単元名にもなっているように、まず、問題が多い方を求めているのか、それとも少ない方を求めているのかを明確にすることが必要である。そのため、数図ブロックや図を使い、問題の場面が実感できるような工夫をしながら単元を構想することが大切である。

単元名 大きさをくらべ(2)

配当時間 1 時間

単元の目標 (1) 広さの比べ方や任意単位を用いた測定の仕方を理解し、広さを直接比べたり任意単位を用いて比べたりすることができる。
(2) 状況に応じて、比較する方法を考えることができる。
(3) 身の回りにある広さに関心を持ち、進んで比べようとする。

標準的な展開例

01040308_001

【準備等】 レジャーシート、場所取りゲームの記録用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 広さ比べをし、「ばしょとりゲーム」をする。[p. 158・p. 159]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ ひろさをくらべよう。 ○ 2 枚のレジャーシートを重ねたり、端をそろえて並べたりして広さを比べる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 「ばしょとりゲーム」をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重ね合わせて比べさせる。任意単位の間接比較へと学習を進める中で広さの概念を養う。 ・ グループまたはクラスの中で、ハンカチやレジャーシートの広さ比べなどを取り入れるのもよい。 ・ ペアで「ばしょとりゲーム」を行わせる。 【評】 重ね合わせたり、マス数を数えたりして比べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元では、直接比較や間接比較により、広さを比較することを学習する。量を測定するとは、量の大きさを数で表すことである。その表し方は、その量のある大きさを基準として、そのいくつ分かという数値で示すことであり、その基準の大きさが単位である。本単元では、量の大小比較を、直接比較から仲介物を使う間接比較へと発展させ、さらに共通の仲介物として任意単位による測定へと進め、単位の必要性へつなげるようにしている。さらに、第 4 学年での面積の普遍単位による測定へ発展していく。

単元名 かえますか？ かえませんか？

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 買えるか買えないかを判断する仕方を理解し，場面に応じて判断することができる。
 (2) 買えるか買えないかの理由を，根拠を挙げて説明することができる。
 (3) 買えるか買えないかを判断しようとする。

標準的な展開例

01040309_001

【準備等】お金の模型

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 買えるか買えないかを判断し，その理由を根拠を挙げて説明する。[p.160・p.161]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の絵の場面について話し合う。 本時の学習課題をつかむ。 ★かえるかかえないかをかんがえ，わけをいみましょう。 教科書の例にならって訳を言う。 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を挙げて説明することが大切であることを理解させる。 買い物の様子を話し合わせ，買えるか買えないかの学習に興味をもたせる。 条件の変化した部分により，買えるか買えないかを判断して，訳を言わせる。 <p>【評】買えるか買えないかを判断し，根拠を説明する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【備 考】

本単元は，買えるか買えないかを簡単な見積もりを使って判断し，根拠を挙げて説明することを学習する。ここでは，例を挙げて説明の仕方を示し，それにならって言葉を当てはめ，説明ができるようにするという活動を重点に単元を構成する。

単元名 もう すぐ 2 年生
単元の目標

配当時間 3 時間

標準的な展開例

01040310_001

【準備等】色紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～3 復習問題に取り組む。 ○ 「もうすぐ 2 年生」に取り組む。[p. 162～p. 167]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、既習事項の定着を図る。 ・ 教師自作の問題も用意しておくとい。

【 備 考 】

単元名 わくわく 算数 学しゅう

配当時間 1 時間

単元の目標 (1) 言葉や計算棒・式を用いて考え、説明する仕方を理解し、説明することができる。
 (2) 言葉や計算棒などを用いて分かりやすく説明する方法を考え、順序立てて説明することができる。
 (3) 既習事項を使って問題を解決し、話し合い活動や発表に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

02040101_001

【準備等】計算棒

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 (2位数) ± (何十) の問題を解き、自分の考えを説明する。[上p. 6～p. 9] ○「みんなで考える問題」を読み、題意をつかむ。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★ $36+20$ の計算のしかたを考えよう。 ○立式の根拠を説明する。 ○2人のいちごの数の違いを求める問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 ○p. 8・p. 9のノートのかき方の例を見ながら、今後の学習の進め方を確認する。	・計算棒を操作しながら、立式させる。 ・計算棒や式を示しながら説明させる。 ・ペア活動をするとうい。 ・ $30-20$ を先に計算するとよいことに気付かせる。 ・必要に応じて個別指導する。 ・日付を書く、間違えは消さずに赤で直す、気付いたことや自分の考えを書くなど、ノートのかき方を確認する。

【 備 考 】

本単元では、いちご狩りに来た2人が採ったいちごの数を求める式を考え、話し合いを通して、友達に伝えたり、友達の考えを理解したりすることを学習する。また、ノートのかき方や説明の仕方、振り返りの仕方など、算数科での学習の進め方を学ぶことで、今後の学習に生かし、思考力・表現力を高められるようにする。

単元名 ひょうと グラフ

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 表やグラフの形について、読み方、かき方を理解し、簡単な事象について、分類・整理し、表や●のグラフで表すことができる。
- (2) 数学的活動を通して、分類・整理するなど数理的な処理の仕方について考えることができる。
- (3) 事象を調べて分類・整理し、表や●のグラフに表そうとする。

標準的な展開例

02040102_001

【準備等】表とグラフの枠

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「すきなあそびしらべ」を基に、表やグラフを作る。[p. 10～p. 13]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★数をわかりやすくあらわすしかたを考えていこう。 <p>○p. 145から好きな遊びを選び、黒板に貼る。</p> <p>○遊びごとの人数を数え、表に表す。</p> <p>○「●」を使ってグラフをかく。</p> <p>○表やグラフを見て、気付いたことを発表する。</p> <p>2～3 「本の数しらべ」を基に、2つの観点で表やグラフを作る。[p. 14・p. 15]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★しらべたいことをきめて、ひょうやグラフにあらわそう ○本の種類についての表やグラフをかく。 ○本の大きさについての表やグラフをかく。 ○表やグラフを見て、気付いたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表に表したり、グラフに表したりすることで分かりやすくなったことを実感させる。 ・生活と算数との関わりを話し、その中で、好きな遊び調べについて考えることを伝えて授業の焦点化を図る。 ・座席順や早い順に黒板に貼りに来させ、なるべくバラバラになるように貼らせ、どうすれば数を分かりやすくできるかを考えさせる。 ・「表」という用語を教える。 ・「グラフ」という用語を教える。 ・好きな遊びの人数や大まかな特徴をつかませ気付いたことを発表させる。 <p>【評】表やグラフをかいたり、そのよさを考えたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたいことを決めて表やグラフをつくり、そこから読み取れることや違いについて考えさせる。 ・数え間違いが無いよう、チェックしながら数えさせる。 ・同じ資料でも調べたいことによって、表やグラフが変わることを押さえる。 <p>【評】分類・整理して表やグラフをかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、「すきなあそびしらべ」について人数調べを行い、表やグラフなど統計的手法を用いてそのよさに気付かせる。

単元名 時こくと 時間

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 時刻と時間の違い、午前と午後の区別や正午の意味、日・時・分の関係を理解し、時計の針の動きを基に、時刻や時間を求めることができる。
- (2) 時刻と時間の関係を基に、時間や、特定の時間だけ前や後ろの時刻の求め方を見いだすことができる。
- (3) 時刻・時間に関心をもち、生活と関連付けながら、時刻・時間について考えようとする。

標準的な展開例

02040103_001

【準備等】時計の模型、時刻を目盛った直線

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元で学習する内容を知り、単元の学習課題をつかむ。[p. 16～p. 18]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★時こくや時間についてもっとしらべていこう。 ○絵を見ながら、それぞれの時刻を調べる。 ○家を出てから、学校に着くまでの時間を調べる。 ○給食の始まりから終わりまでの時間を調べる問題に取り組む。 <p>2 2つの時刻を知り、その間の時間を求める。[p. 19]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★長いはりがどれだけうごくかをしらべよう。 ○「起きてから家を出るまでの時間」「起きてから学校が始まるまでの時間」を考え、1時間＝60分であることを知る。 ○9時25分の「1時間後」「1時間前」「30分前」の問題に取り組む。 <p>3 午前と午後、1日の時間について考える。[p. 20・p. 21]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★午前や午後をつかって時こくをあらわそう。 ○「学校が始まる時刻」と「ねる時刻」について考え、午前と午後、正午について知る。 ○1日が24時間であることを知る。 ○「家を出てから家に帰るまでの時間」を考えたり、いろいろな時刻や時間を調べたりして、発表する。 <p>4 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 22・p. 23]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻と時間の用語を知らせる。 ・時計の模型を示しながら、視覚的に捉えやすくさせる。 ・1目盛りが1分であることを押さえる。 ・時計の模型を使って、長い針がどれだけ動いたかを調べさせる。 【評】時計から時刻や時間を求める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・模型の時計を操作させ、時間の経過をつかませる。 ・長針が1回りする時間をよませ、1時間＝60分であることを気付かせる。 ・頭の中で針を動かして求めるようにさせる。 【評】時刻から時間を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・帯図を使い、時間に対する量感を深める。 ・学校が始まる時刻と寝る時刻の短針と長針の位置が同じであることから、時刻の違いを表す手段が必要であることに気付かせる。 ・図を手掛かりにして、時間の連続性を捉えさせる。 ・模型の時計や時刻を目盛った直線を用いる。 【評】1日の時刻や時間を表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・時刻と時間について分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【備 考】

本単元は、「あやかさんの1日」について調べ、時計と日常生活との関わりを実感させることを主眼に指導する。時刻と時間の違いについては混同されがちであるため、日頃の生活の中でも違いを意識して言葉を用いるように指導することが大切である。

単元名 たし算と ひき算

配当時間 5時間

単元の目標 (1) (2位数) \pm (1位数), (2位数) \pm (何十) の計算について, 暗算の仕方を理解し, その計算を暗算で行うことができる。
 (2) (2位数) \pm (1位数), (2位数) \pm (何十) の計算の仕方を考えることができる。
 (3) 基本的な計算を暗算で処理しようとする。

標準的な展開例

02040104_001

【準備等】計算棒

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (2位数) + (1位数) で繰り上がって何十となる暗算をする。[p. 24・p. 25]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 17 + 2 を計算する。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 17 + 3 のような計算のしかたを考えていこう。 ○ (2位数) + (1位数) で和が何十になる暗算の仕方を考える。 <p>○ 36 + 4 に取り組む。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算棒などの具体物を操作して, 繰り上がりのある計算をつかませる。 ・ 既習の 17 + 2 を基に 17 + 3 を立式させる。 ・ 課題設定は短時間で行うようにする。 ・ 計算棒を操作して考えさせる。 ・ 「17の7に3をたして10だから20」になることを理解させる。 ・ 1位数の加法で10以上のまとまりができたときに, その中の10を十の位に繰り上げることを知らせる。 【評】 (2位数) + (1位数) の計算の仕方を考える活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 被加数の十の位の数に1以外の場合について考えさせる。 ・ 和が何十になる暗算の練習問題や, 30の補数の問題に取り組ませ, 次時の準備をする。 【評】 和が何十になる暗算をする活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・ 計算棒などの具体物を操作したり, 計算の仕方を声に出したりして, 計算の仕方の定着を図る。
<p>2 (2位数) + (1位数) = (2位数) の暗算をする。[p. 26・p. 27]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 17 + 4 の計算のしかたを, 何十をつくって考えよう。 ○ (2位数) + (1位数) の計算の仕方を考え, 説明する。 <p>○ 38 + 3 を声に出して計算する。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の「17の7に3をたして10だから20」になることを想起させ, 4を3と1に分けるとよいことに気付かせる。 ・ 10のまとまりの数に着目すればよいことに気付かせる。 ・ 38を分解しないで, 計算するようにさせる。 【評】 (2位数) + (1位数) の計算の仕方を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 計算するだけではなく, 声に出しながら, 計算の仕方の定着をはかる。 【評】 (2位数) + (1位数) = (2位数) の暗算をする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。
<p>3 (何十) - (1位数) の暗算をする。[p. 28・p. 29]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 19 - 8 を計算する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 20 - 8 のような計算のしかたを考えていこう。 ○ 20 - 8 の計算の仕方を考える。 <p>○ 30 - 6 に取り組む。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の 19 - 8 を基に, 20 - 8 を立式させる。 ・ 計算棒を操作して考えさせる。 ・ 10のまとまりの1つをばらばらにすればよいことを理解させる。 ・ 被減数の十の位の数に2以外の場合について考えさせる。 ・ 「20のうちの10から8をひいて2, 10と2で12」と被減数を分解する仕方から, 「20から8をひいて12」と被減数を分解しない仕方へ高めていく。 【評】 (何十) - (1位数) の暗算をする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。
<p>4 (2位数) - (1位数) の暗算をする。[p. 30・p. 31]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 21 - 8 の計算のしかたを, 何十からひいて考えよう。 ○ 21 - 8 に取り組み, 繰り下がりのある計算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算棒などの具体物を操作したり, 計算の仕方を声に出したりして, 計算の仕方の定着を図る。 ・ 前時の学習を振り返り, 10のまとまりの1つをばらばらにして考えさせる。 ・ 計算棒などの具体物を操作して, 繰り下がる

<p>説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ $42 - 9$ を声に出して計算する。 <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 単元を振り返り，確認問題に取り組む。 [p. 32・p. 33]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<p>ことをつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何十と1位数に分け，(何十)－(1位数)を先に計算することを押さえる。 <p>【評】 (2位数)－(1位数)の計算の仕方を考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し練習することで，計算に習熟させる <p>【評】 (2位数)－(1位数)の暗算をする活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】 問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たし算とひき算について分かったことや面白かったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	---

【 備 考 】

本単元は，今後学習する基本的な計算の基礎として，大切な学習内容である。本学年で出てくる「たし算とひき算のひっ算」の学習や，「かけ算」の九九を構成する際にも必要となるため，本単元で扱う加法は暗算でできるようにしておく必要がある。そのため，初めのうちは，児童が自分に合った方法で計算できるようにすることを中心に指導する。計算棒を用いて，暗算の仕方を視覚的に捉えさせていく。その後，数概念に基づいて計算できるような計画となるように配慮する。

単元名 長さ

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 測定の意味、普遍単位「cm」と「mm」、直線の意味を理解し、ものさしを使って身近な物の長さを測定したり、長さの計算をしたりすることができる。
- (2) 普遍単位の必要性や測定の仕方について考えることができる。
- (3) 長さの測定に興味をもち、進んで身近な物の長さを測定しようとする。

標準的な展開例

02040105_001

【準備等】ものさし、30cmものさしで測ることのできる物、数図ブロック、ひも、紙テープ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身近にある物を使ってものの長さを比べ、測り方に興味をもつ。[p.34・p.35]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挿絵から、2つの長さを任意単位で比べていることを知る。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★ものの長さのはかり方をしらべていこう。 ○任意単位での測定で起こる問題点について話し合い、普遍単位の必要性を知る。 ○長さの単位cmを知り、書き方を練習する。 <p>2 長さの単位cmを知り、いろいろな物の長さを測る。[p.36・p.37]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ものさしを使って、りすの釣った魚の長さを測る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★ものさしをつかって長さをはかろう。 ○ものさしを使って長さを測る仕方について考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 長さの単位mmを知り、いろいろな物の長さを測る。[p.38]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★1cmよりみじかい長さのあらわし方を知ろう。 ○長さの単位mmを知る。 ○mmの書き方を練習する。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 ものさしを使って、直線の長さをmm単位まで測ったり、cmやmmを使って長さを表したりする。[p.39]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★8cm5mmが何mmになるかを考えよう。 ○直線の意味を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>5 ものさしを使って直線を書く。[p.40・p.41]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★ものさしをつかって直線をかいてみよう。 ○7cmの長さを、ものさしで書く。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>6 10cmの量感をつかむ。[p.42]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙テープを10cmと思う長さに切り、実測する。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★10cmの長さをつくってみよう。 ○手や指を使って10cmの長さを作る。 ○身の回りの物の中から10cmに近い物を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・任意単位では不都合が起こることから、普遍単位の必要性を感じられるようにする。 ・1年生で長さ比べをした経験を想起させる。 ・数図ブロックなど（任意単位）を使って調べさせる。 ・話し合いを通して共通単位の必要性に気付かせた後、普遍単位があることを知らせる。 【評】普遍単位の必要性について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・大きさや書き順に気を付けて練習させる。 ・測定を通してcmの読み方や書き方を繰り返し学習させる。 ・P.147の「紙のものさし」を使用させる。 ・1目盛りが1cm、1cmの8つ分で8cmとなることを押さえる。 ・左端をそろえて測る、測る物にまっすぐ合わせるなどの手順を押さえる。 ・正しい長さを知るために、1cm単位では表せない場合があることに気付かせる。 【評】cm単位で長さを測る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・測定を通してmmの読み方や書き方を繰り返し学習させる。 ・紙のものさしと市販のものさしを比べて、1cmと1mmの関係をつかませる。 ・大きさや書き順に気を付けて練習させる。 【評】ものさしを使ってmm単位まで測定する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・単位の換算では形式的に換算をさせるのではなく、1cmを単位として見たときと1mmを単位として見たときの意味を理解させる。 ・長さを何cm何mmと答えさせ、その後mmだけで表させる。 ・「1cm=10mm」を基に、考えさせる。 ・曲線や折れ線を提示し、直線との区別ができるようにする。 【評】長さを複名数で表す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・決められた長さの直線を書く方法を理解させる。 ・2つの点を書いて、それを結んで直線を引くように指導する。 【評】決められた長さの直線を書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・自分の体の部分や身の回りの物と関連付けることで量感をつかませるようにする。 ・グループで誰が一番10cmに近いかわ比べさせてもよい。 ・およその長さを調べることを知らせる。 ・ペアになり、片方の児童が作った長さをもう一人がものさしで測るようにさせるとよい。 ・繰り返し、繰り返し下がり注意させる。 【評】10cmに近い物を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

<p>7 身の回りの物の長さを予想し、測る。[p. 43]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 10cmの長さをもとにいろいろなものの長さをよそうしてしらべよう。 ○ 測るものを探し、その長さを予想する。 ○ 実際に測る。 ○ 身の回りの物の中から20cmに近い物を探す。 <p>8 簡単な長さの加減計算をする。[p. 44・p. 45]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 長さをたしたりひいたりすることが必要な場面を考える ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 長さの計算のしかたを考えよう。 ○ $\bigcirc\text{cm}$ $\bigcirc\text{mm}$ \pm $\bigcirc\text{cm}$の計算の仕方を考える。 ○ 繰り上がりのあるたし算やひき算によって、答えが何cmになる計算に取り組む。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 46・p. 47]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見積もってから測定させることで、量感をつかませるようにする。 ・ 前時に手や指で10cmを作ったことを想起させ予想させる。 ・ p. 147の「べんりなものさし」も使用できる <p>【評】長さを適切に予想し、測って調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算の後で実測して、計算の仕方が正しいことを理解させる。 ・ 同じ単位同士で計算することに気付かせる。 ・ 空位になる場合、0 mmなどと書かないよう注意させる。 <p>【評】長さに関する加減計算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長さについて分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
---	---

【 備 考 】

本単元では、長さの測定について普遍単位「cm」と「mm」を用いることを学習する。単元の導入に当たっては、日常生活でよく使われる普遍単位の必要性を感じさせることが大切である。測定の仕方や与えられた長さのかき方、長さの計算の仕方は、十分な習熟を図ることで確実に身に付けさせたい。また、実生活と関連させるなど、長さの量感を育て学習の意味を実感させたい。

単元名 たし算と ひき算の ひっ算(1)

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) (2位数) \pm (2位数) < 100 の筆算と答えの確かめの仕方を理解し、その筆算と答えの確かめができる。
 (2) (2位数) \pm (2位数) < 100 の筆算の仕方を、十進位取り記数法に基づいて考えることができる。
 (3) 加減の筆算について関心を持ち、身近な問題解決に生かそうとする。

標準的な展開例

02040106_001

【準備等】計算棒

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (2位数) $+$ (2位数) の筆算による計算の仕方を考える。 [p. 48~p. 50] ○ $34+12$の計算を考える。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ ひっ算のしかたを考えていこう。</p> <p>○ たし算の筆算の仕方を話し合う。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 (2位数) $+$ (2位数) で、一の位が繰り上がる筆算をする。 [p. 51] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 一のくいをたすと10をこえるひっ算のしかたを考えよう。 ○ $34+28$の筆算の仕方を考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 (2位数) $+$ (何十), (2位数) $+$ (1位数) など、いろいろな加法の筆算の練習問題に取り組む。 [p. 52] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ いろいろなたし算のひっ算をしよう。 ○ $19+80$と$57+13$の計算をする。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。 ○ $43+5$と$6+27$の計算をする。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 加法の答えの確かめをする。 [p. 53] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たされる数とたす数を入れかえて答えをくらべよう。 ○ $55+28$と$28+55$の計算をし、比べる。</p> <p>○ 加法の答えの確かめ方を知る。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 練習問題に取り組む。 [p. 54] ○ 「れんしゅう」に取り組む。</p> <p>6 (2位数) $-$ (2位数) で繰り下がりのない筆算をする [p. 55] ○ 本時の学習課題をつかむ。</p>	<p>・ 既習の$34+2$や$34+10$の計算を基に、$34+12$の計算を考えさせる。 ・ 計算棒を位ごとに縦に並べると、見やすく計算しやすいことをつかませる。 ・ 計算の仕方で示しているように、 ①位を縦にそろえて書く。 ②一の位から順に計算する。 をしっかりと捉えさせる。 ・ 計算棒を操作し、声に出して言いながら筆算の手順を確かめさせる。 【評】 (2位数) $+$ (2位数) で繰り上がりのない筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 計算棒を操作して、10の束の数え棒を十の位に繰り上げることを理解させてから、筆算の仕方を指導する。 ・ 縦に位をそろえることについて、再度確認する。 ・ 前時の筆算との違いを見付けさせる。 ・ 一の位が$4+8=12$になり、10の束が一つできたことを確認する。 ・ 計算棒を操作して、繰り上がりを実感させる</p> <p>・ 十の位に繰り上げた補助数字を必ず書かせるようにする。 ・ 十の位をたす時、繰り上げた1を忘れないよう意識させる。 【評】 (2位数) $+$ (2位数) の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ どんな計算でも、位をそろえて縦に書くなどの計算の仕方は変わらないことを押さえる。 ・ (2位数) $+$ (何十) や和が何十になる計算など、空位のある場合も、位をそろえて書いているかを確かめてから計算させる。</p> <p>・ 2位数と1位数のたし算でも、位をそろえて書いているかを確かめてから計算させる。 【評】 いろいろなたし算の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 加法では数を入れ替えても答えは同じになることに気付かせる。 ・ 同じ計算を2度しなくても答えが確かめられるよさに気付かせる。 ・ 答えの確かめは、同じ計算をするのではなくたされる数とたす数を入れ替えた計算をするを押さえる。 【評】 答えの確かめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 個別指導を重点的に行う。 【評】 「れんしゅう」に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・ 計算棒などを使って、筆算の図と対比させ、順を追って考えさせる。 ・ 加法の筆算を想起させ、計算の仕方を予想さ</p>

<p>★ひき算のひっ算のしかたを考えよう。 ○36－24の筆算の仕方について話し合う。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 (2位数)－(2位数)で繰り下がりのある筆算をする [p. 56] ○本時の学習課題をつかむ。 ★一のくらいがひけないひっ算のしかたを考えよう。 ○53－26の筆算の仕方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 差が1位数になる減法や(2位数)－(1位数)など、いろいろな減法の筆算の練習問題に取り組む。 [p. 57] ○本時の学習課題をつかむ。 ★いろいろなひき算のひっ算をしよう。 ○26－21, 35－27に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 ○73－5に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>9 減法の答えの確かめをする。 [p. 58] ○本時の学習課題をつかむ。 ★答えのたしかめ方を考えよう。 ○81－39の答えの確かめ方について考え、減法の答えの確かめ方を知る。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>10 練習問題に取り組む。 [p. 59] ○「れんしゅう」に取り組む。</p> <p>11 単元を振り返り、確認問題に取り組む。 [p. 60・p. 61] ○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>せる。 ・計算棒を操作し、声に出しながら筆算の手順を確かめさせる。 ・計算の仕方は、加法と同様であることを押さえる。 ①位を縦にそろえて書く。 ②一の位から順に計算する。 ・必要に応じて、個別指導を行う。 【評】(2位数)－(2位数)で繰り下がりのない筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・計算棒を操作して、十の位の数え棒を一の位におろすことを理解させてから、筆算の仕方を指導する。 ・前時の筆算との違いを見付けさせる。 ・10の束をばらばらにすればよいことを確認する。 ・十の位から繰り下げた後の補助数字を必ず書かせるようにする。 【評】(2位数)－(2位数)の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>・十の位が0になる場合、一番上の位の0は書かないことを知らせる。 ・必要に応じて個別指導を行う。 ・位をそろえて書いているか確かめてから、計算させる。 ・必要に応じて個別指導を行う。 【評】いろいろなひき算の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・81, 39, 42の3つの数について考察し、どんな関係があるか考えさせる。 ・(答え)＋(ひく数)＝(ひかれる数)になることを確認する。 ・ひき算の答えは、たし算で確かめられるよさに気付かせる。 【評】答えの確かめをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・個別指導を重点的に行う。 【評】「れんしゅう」に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・たし算とひき算の筆算について分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。</p>
--	--

【 備 考 】
 本単元は、筆算形式について初めて学び、2位数の加法と減法、加法の交換法則を学習する。筆算の指導に当たっては、縦に位をそろえて書くことと下の位から位ごとに計算し、順次上の位に上って計算していくことの2点を中心に指導し、筆算による計算ができるようにする。このためには、10の束、100の束を作ることイメージできるようにしなければならない。筆算の方法を学習するだけでなく、筆算をするよさが分かるようにすることも大切なことである。
 本単元については、プログラミング的思考を扱うこともできる。

単元名 ふくしゅう(上p.62・p.63)

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

02040107_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 62 ・ p. 63]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 図をつかって考えよう(1)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) テープ図の読み方やかき方を理解し、数量関係をテープ図に表すことができる。
 (2) 加減の数量関係を、テープ図を基に考えることができる。
 (3) 加減の数量関係を、図を使って表そうとする。

標準的な展開例

02040108_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 文章問題の数量関係をテープ図を使って表す。[p. 64・p. 65]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 図の見方やかき方を知ろう。 ○ 「みんなで考える問題」を読み、題意をつかみ、式に表す。 ○ 加法の場面について、テープ図で表す。 ○ 減法の場面について、テープ図で表す。 <p>2 増えた数を求める逆思考の問題を考える。[p. 66・p. 67]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 何人来たか、図をつかって考えよう。 ○ 「みんなで考える問題」を読み、題意をつかみ、テープ図に表す。 ○ 解き方について話し合う。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 減った数を求める逆思考の問題を考える。[p. 68・p. 69]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 図にかいて、わからない数のもとめ方を考えよう。 ○ 「みんなで考える問題」を読み、題意をつかみ、テープ図に表す。 ○ 解き方について話し合う。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 増える前の数を求める逆思考の問題を考える。[p. 70]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 図にかいて、はじめの数のもとめ方を考えよう。 ○ 「みんなで考える問題」を読み、題意をつかみ、テープ図に表す。 ○ 解き方について話し合う。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>5 減る前の数を求める逆思考の問題を考える。[p. 71]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 図にかいて、はじめの数のもとめ方を考えよう。 ○ 「みんなで考える問題」を読み、題意をつかみ、テープ図に表す。 ○ 解き方について話し合う。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>6 問題文を作り、図や式に表す。[p. 72・p. 73]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ もんだい文をつくって、図やしきにかいてみよう。 ○ 残りのトマトの数を求める問題文をかき、テープ図と式をかく。 ○ 問題文から、図や式をかく。 ○ 問題文と図や式を組み合わせる問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順思考のたし算とひき算の問題を扱い、図のかき方を確認する。 ・ 挿絵を用いて、問題場面をイメージさせる。 ・ 数図ブロックの図をテープ図に置き換え、どちらも同じ数量の関係を表していることを確かめさせる。 ・ 加法のテープ図のかき方を知らせ、テープ図と式の間接関係を確認させる。 【評】 テープ図を利用して計算方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 減法のテープ図のかき方を知らせ、テープ図を基にして、式を書かせる。 【評】 テープ図で表しながら考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ $a + \square = b$ の型の問題を扱う。 ・ 教科書拡大図を用いて、問題場面をイメージさせる。 ・ 「はじめの数」「来た数」「ぜんぶの数」がどの部分になるのかを押さえる。 ・ 「来た」という言葉にまどわされないよう、テープ図をもとに立式させる。 【評】 テープ図を利用して問題解決する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ $a - \square = b$ の型の問題を扱う。 ・ 問題文を一文ずつ区切り、場面をイメージさせる。 ・ 「はじめの数」「くばった数」「のこりの数」がどの部分になるのかを押さえる。 ・ 分からない数を□とするとよいことを伝える ・ つまづいている児童には「はじめの長さ」「つかった長さ」「のこりの長さ」がテープ図のどの部分になるのかを考えさせる。 【評】 テープ図を利用して問題解決する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ $\square + a = b$ の型の問題を扱う。 ・ 最初の文に数値が出てこないため、テープ図をかけない児童が出てくると予想される。 ・ 「はじめの人数」「来た数」「ぜんぶの数」がどの部分にあたるのかを考えさせる。 ・ ペアで説明し合うとよい。 【評】 テープ図を利用して問題解決する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ $\square - a = b$ の型の問題を扱う。 ・ 児童にとって、問題文から一番捉えにくいと考えられる。簡単な図からテープ図へと進めていくとよい。 ・ 「いまの数」「帰った数」「はじめの数」がどの部分にあたるのかを考えさせる。 ・ ペアで説明し合うとよい。 【評】 テープ図を利用して問題解決する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 問題文から図や式をかいり、問題文と図や式を組み合わせたりする問題を扱う。 ・ 求める数を□として、テープ図に表すとよいことを伝える。 ・ 問題文と図や式の間接関係を確認させる。 ・ 分からない数(求める数)が□になっている

- 「練習問題」に取り組む。

ことを押さえる。
・必要に応じて個別指導を行う。
【評】問題文と図や式の関係を考えながら問題解決する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、加減の逆思考の問題をテープ図を利用して解決する。逆思考の問題は、児童にとってかなり抵抗があると思われる。また、テープ図は、具体的な物や絵とは異なり、問題の要素をテープに置き換えるが、児童にとっては、この抽象化につまずく場合がある。そこで、第1時に順思考のテープ図化と図のかき方を丁寧に指導する必要がある。また、テープ図を使って問題分、図、式の相互関係についての理解を深めるようにする。

今後、本学年で求差の逆思考の問題、第3学年で乗除の逆思考の問題を扱う。

単元名 100を こえる 数

配当時間 11 時間

単元の目標 (1) 1000までの数の表し方や仕組みを理解し、十進位取り記数法の仕組みを基にして、1000までの数を表したり読んだりできるとともに、1000までの数の大小を比べることができる。
 (2) 1000までの数について、10や100などを単位としてそのいくつか分と見て表現したり、加減計算の仕方を考えたりすることができる。
 (3) 1000までの数について、数え方を工夫しようとしたり、十進位取り記数法のよさに気付いて生かそうとしたりする。

標準的な展開例

02040109_001

【準備等】計算棒、位取り板、お金の模型、p.80・p.81の数直線

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 100を超える数について興味をもち、数え方を工夫する [p.74～p.76] ○挿絵を見て、たくさんある星の数を予測する。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。 ★100をこえる数のあらわし方やしくみをしらべていこう ○たくさんある場合の数え方を工夫して数える。</p> <p>2 空位のない3位数の表し方を知り、数の構成について考える。[p.77] ○本時の学習課題をつかむ。 ★三百六十五という数についてしらべよう。</p> <p>○3位数の仕組みを知り、読んだり書いたりする。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 空位のある3位数の表し方を知り、数の構成について考える。[p.78] ○本時の学習課題をつかむ。 ★10のたばがない数についてしらべよう。 ○十の位が空位になっている数について考える。 208</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 10を単位として、数の相対的な大きさについて考える。 [p.79] ○本時の学習課題をつかむ。 ★10がいくつあるかをもとに、数をしらべよう。</p> <p>○10を単位として、数の大きさをつかむ。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 1000までの数系列について考える。[p.80] ○本時の学習課題をつかむ。 ★千という数についてしらべよう。 ○数の構成を考える。</p> <p>○1000より1小さい数を考える。 ○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめて数える操作により、1000までの数への動機付けを行う。 ・初めから「10のまとまりをつくってみましょう」と指示するのではなく、児童の考え方を大切にする。 ・10や100のまとまりを作ることで数えやすくなることを実感させる。 【評】100を超える数について調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・数字の位置が百の位や十の位を表していることに注目させる。 ・単位とする数が10になると次の位に進むという十進位取り記数法の仕組みとよさを味わわせるようにする。 ・100を○個、10を○個、1を○個あわせた数という言い方をさせる。 ・十分に理解できていない児童には、位取り板を活用させ、位を意識させながら問題を解かせる。 【評】1000までの数について読んだり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・十の位や一の位が空位になっている数の構成を位取り記数法を基に考えさせる。 ・位取り板に計算棒を並べて、10の束が1つもないことを視覚的に捉えさせる。 ・具体的（計算棒）→抽象的（数字）という流れだけでなく、数字を見て計算棒を示す内容も取り扱うようにする。 ・「3けたの数」の意味を知らせる。「けた」という言葉が初めて登場する。1桁の数、2桁の数についても例を挙げて触れておく。 ・空位に気を付けて数字を読ませたり書かせたりする。 【評】1000までの数を読んだり、書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・10がいくつ分という考え方は、児童がつまづきやすい。 ・お金の模型の操作→操作のイメージ化→相対的な見方というように段階を追って指導していく。 ・10円玉、100円玉を用いた数学的活動を通して考えさせる。 ・100円は、10円玉10枚分であることを押さえる。 【評】10や100を単位とした数の捉え方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・挿絵を見せながら、1000という数がどれくらい大きいか実感させる。 ・実際に工夫して数えて、1000を捉えさせる。 ・100を10個集めた数を確認させ、その数字を1000と書き、「千」と読むことを知らせる。 ・挿絵を見せ、星を一つ取り去った数を考えさせる。1000は999の次の数になることに気付かせる。 【評】1000という数を系列的に理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

<p>6 1000までの数系列を数直線で考える。[p. 81]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 数の直線についてしらべよう。 ○ 数の並び方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>7 2つの3位数の大きさを比べ、不等号を使って表す。[p. 82]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 3けたの数の大きさのくらべ方を考えよう。 ○ 大小を考え、比べ方を説明する。 ○ 「>」, 「<」を使った表し方を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 身の回りにある100から1000までの数の大きさ比べをする。 <p>8 練習問題に取り組む。[p. 83]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「れんしゅう」に取り組む。 <p>9 (何十) + (何十), (百何十) - (何十) の計算をする。[p. 84]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 10円玉をつかって、計算のしかたを考えよう。 ○ $80+30$, $130-90$ 10のまとまりを単位として計算し、解き方を説明する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>10 (何百) ± (何百) の計算をする。[p. 85]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 100円玉をつかって、計算のしかたを考えよう。 ○ $200+400$, $800-600$ 100のまとまりを単位として計算し、解き方を説明する ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>11 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 86・p. 87]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 ○ 学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数直線と数の構成を合わせて考えさせる。 ・ 1目盛りが10の数直線の読み方を確認する。 ・ 数の系列を丁寧に指導する。 ・ 数がいくつずつ増えているか（1目盛りがいくつ）に着目させる。 ・ 数直線を使って、それぞれの数の位置を確かめさせる。 <p>【評】 1000までの数を数直線上に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形式的な操作で大小を考えず、量感を伴って考えるようにさせる。 ・ 何の位を見て比べれば判断できるのか、予想させる。 ・ 用語「不等号」は第3学年で扱うため、ここでは触れなくてよい。 ・ 上の位の数字から順に比べていけばよいことを押さえる。 ・ どちらが大きいとき、どちらの不等号を使うかを押さえる。 <p>【評】 数の大小関係を「>」, 「<」を使って表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を重点的に行う。 <p>【評】 1000までの数の構成や系列に関する問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 十円玉の個数が10のまとまりを表していることを初めに確認する。 ・ 十円玉の模型を使って、$80+30$の計算の仕方を考えさせる。 ・ 説明の苦手な児童には、教科書の例文に従って説明させるとよい。 ・ 10を単位にして（0を1つ取って）考えれば暗算で計算し、答えに0を1つ付ければよいことに気付かせる。 $80+30 \rightarrow 8+3=11 \rightarrow 80+30=110$ <p>【評】 10のまとまりを単位とする加法と減法の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 百円玉の個数が100のまとまりを表していることを初めに確認する。 ・ 百円玉の模型を使って、$200+400$の計算の仕方を考えさせる。 ・ 説明が苦手な児童には、教科書の例文に従って説明させる。 ・ 10円玉と同様に、0を2つ取って考えるとよいことを伝える。 <p>【評】 100のまとまりを単位とする加法と減法の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100を超える数について分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	--

【 備 考 】
 本単元は、百の位が導入され、1000までの数を学習する。十進位取り記数法に基づいた表し方、10や100を単位とした数の相対的な見方、数の大小比較、1000という数の意味、10や100を単位とする簡単なたし算、ひき算を学習する。
 本単元の学習は第1学年の「大きいかず」や本学年の「1000をこえる数」の内容が関連しているため、それらを踏まえた指導が必要である。

単元名 かさ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) かさの普遍単位L, dL, mLについて理解し, それらを使って測定することができる。
 (2) かさの普遍単位の必要性について考えることができる。
 (3) 入れ物のかさに関心をもち, 進んで身の回りの物のかさ測定しようとする。

標準的な展開例

02040110_001

【準備等】 1Lます, 1dLます, 1.5Lペットボトル, バケツや水槽などの容器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 かさの測定の仕方を考え, 1Lますを使っていろいろな容器のかさを測定する。[p. 88・p. 89]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バケツに入る水の量の比べ方について話し合う。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★いろいろないれものにはいる水のかさのあらわし方をしらべていこう。 ○「L」の単位を知り, かき方を練習する。 ○バケツに入る水のかさを「L」を使って表す。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>2 かさの単位「dL」を知り, LとdLの関係を理解する。[p. 90]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1.5L入りのペットボトルにはいる水のかさを量る問題に取り組む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★1Lよりも小さいかさのあらわし方を知ろう。 ○「dL」の単位を知り, かき方を練習する。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 かさの単位「mL」を知り, L, dL, mLの関係を理解する。[p. 91]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小さいペットボトルに入る水のかさを調べる問題に取り組む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★1dLよりも小さいかさのたんいを知ろう。 ○「mL」の単位を知り, かき方を練習する。 ○1Lは, 何mLかを考える。 <p>4 「1Lはどれくらい」に取り組む。[p. 92]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★1Lのかさをつくってみよう。 ○目盛りのついていないバケツや袋などに各自が1Lと思う分量の水を入れる。 ○1Lますで水のかさを確かめる。 ○1Lの水をいろいろなものに入れる。 ○身の回りから, 1Lくらい入るものを見付ける。 ○身の回りのもののかさを予想して, 実際にかさを量る。 <p>5 かさの計算をする。[p. 93]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★かさの計算のしかたを考えよう。 ○1L 5dL + 1Lの計算をする。 ○2L 5dL - 5dLの計算をする。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長さの時と同様に, 「同じもので測定すればよい」ことに気付かせる。 ・大きさの違うペットボトルで比べていることに気付かせ, 普遍単位の必要性を意識させる。 ・かき順を確認し, 初めはなぞらせる。 ・1Lのいくつ分かに着目させる。 ・Lを使って表すことに慣れさせる。 【評】かさを「L」を使って表す活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・図や実測により, 1dLますの目盛りが, 1Lを10等分した1つ分であることを理解できるようにさせる。 ・Lの単位だけでは, はしが出て正確に測定できないことを実感させる。 ・Lよりも小さい単位の必要性に気付かせる。 ・「1L=10dL」であることを押さえる。 ・1Lます, 1dLますを使って, 視覚的にも量感をつかませるとよい。 【評】かさを表す活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・長さの単位や数のしくみなどに関連させ, 10等分させながらL, dL, mLの関係を理解させる。 ・340mlのペットボトルに入る水のかさを1dLますだけで測定させる。 ・dLの単位だけでは, はしが出て正確に測定できないことを実感させる。 ・「1dL=100mL」であることを押さえる。 ・「1L=10dL」「1dL=100mL」の関係から「1L=1000mL」を導く。 【評】単位の関係を比べる活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・1Lを量り取る活動を通して, 量感を豊かにする。 ・実際に入れる前に1Lますの大きさを想起させ, どのくらいまで入れればよいか予想させる。 ・入れたかさがどの程度予想とずれているか確認させる。 ・底面の大きさが異なる入れ物に1Lの水を移し替えると, 水面の高低はあっても, かさは1Lのままであることを気付かせる。 ・実際に水を入れて確かめることで量感を育てる。 ・1Lます, 1dLますを使って, およそのかさを実際に量ることで, 量感を育てる。 【評】身の回りのもののかさを量る活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・簡単な加減計算をする。 ・長さの計算のように, 同じ単位の数をたせばよいことに気付かせる。 ・減法でも, 加法と同様に同じ単位同士で計算すればよいことを押さえる。 【評】かさの簡単な加減計算をする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。

6 単元を振り返り，復習問題に取り組む。[p. 94・p. 95]

○「たしかめよう」に取り組む。

○学習の振り返りを書く。

- ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。
- ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・かさについて分かったことや面白かったこと
もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元は，かさの普遍単位 L，dL，mL について学習する。量感をつかみやすいよう，実測を重視し，児童が具体物を手掛かりにして「かさ」を実感できるように配慮する必要がある。その中で，普遍単位の必要性に気付かせる場面を設定する。第 1 学年「おおきさくらべ」の中の水のかさを比べる学習と関連があり，それを踏まえた指導が大切である。

単元名 **どんな 計算に なるのかな(1)**

配当時間 **1 時間**

単元の目標 (1) 加減の場面の違いを理解し，場面に即して適切に演算を決定し，計算することができる。
 (2) 演算を決定した根拠を説明することができる。
 (3) 進んで問題に取り組み，何算になるかを判断しようとする。

標準的な展開例

02040111_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 何算になるかを考えて立式し，計算する。[p.96・p.97]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ どんな計算になるかを考えて，もんだいをとこう。 ○ 加法の問題を読み，立式し，計算する。 ○ 立式の根拠について話し合う。 ○ 減法の問題を読み，立式し，計算する。 ○ 立式の根拠について話し合う。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「～になるわけは，～からです」と理由を言うようにさせる。 ・ 「ぜんぶで」という言葉に着目すればよいことに気付かせる。 ・ テープ図などを利用し，「～になるわけは，～からです」と説明できるよう指導する。 ・ ペア活動をさせるとよい。 ・ 「～のほうが多く」という言葉に着目させ，比べる場合は何算をすればよいかを考えさせる。 ・ テープ図などを利用し，「～になるわけは，～からです」と説明できるよう指導する。 ・ ペア活動をさせるとよい。 ・ 必要に応じて個別指導を行う。 <p>【評】問題文を読み，立式し，その根拠を説明する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は，既習の2位数のたし算やひき算を基に，場面に即して適切に演算を決定することを学習する。問題の場面をよく考えて，演算を決定させるようにさせたい。

単元名 算数の じゆう けんきゅう

配当時間 1 時間

単元の目標 (1) 線路をつないで図形が構成できるきまりを理解し、線路のつながり方に着目して、適切な線路の模様をつくることができる。
(2) 線路のつながり方に着目して、図形が構成できるきまりを考えることができる。
(3) 線路づくりに興味をもち、進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

02040112_001

【準備等】線路のカード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 線路のかかれたカードを組み合わせて、つながった線路をつくる。[p. 98・p. 99]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ せんろづくりのじゆうけんきゅうをしてみよう。 ○ つなぎ方の示された線路をつくる問題に取り組む。 ○ ほかにもいろいろな線路をつくる問題に取り組み、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の発想を生かし、自由に取り組ませる。 ・ 線路の絵のついたカードを見せ、つなぎ方のきまりを確認する。 ・ つなぎかたの例を示し、少ない枚数でできるものから順に取り組ませる。 ・ 床で取り組ませるなど、児童が活動しやすい場の工夫をする。 ・ 発表会を開いてもよい。 <p>【評】 いろいろな線路をつくる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、算数の自由研究のきっかけづくりに主眼を置き、本格的には長期休業中の家庭学習の一環として数量や図形に関する課題の中から、興味のある課題を見付けて児童が自ら探究することをねらいとする。ここで示されている「せんろづくり」では、楽しみながら取り組む中で、図形的な直観力を育てたい。

単元名 ふくしゅう(上p.100・p.101)

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

02040113_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 100・p. 101]	・個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 たし算と ひき算の ひっ算(2)

配当時間 10時間

単元の目標 (1) (2位数) + (2位数) ≥ 100 の加法とその逆の減法の筆算の仕方を理解し、その筆算ができる。
 (2) (2位数) + (2位数) ≥ 100 の加法とその逆の減法、簡単な場合の (3位数) \pm (2位数) の筆算の仕方を、既習の2位数の計算を基にして考えることができる。
 (3) 筆算のよさが分かり、進んで活用しようとする。

標準的な展開例

02040201_001

【準備等】計算棒

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 (2位数) + (2位数) ≥ 100 で、十の位に繰り上がりがある筆算をする。[p. 102・p. 103] ○ $54 + 38$ の筆算をする。 ○ $54 + 72$ の筆算について考える。</p> <p>○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 答えが100をこえるひっ算のしかたを考えていこう。</p> <p>○ 十の位に繰り上がりがあるたし算を、筆算でする。</p> <p>○ $86 + 23$ の筆算に取り組む。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 (2位数) + (2位数) ≥ 100 で、2回繰り上がりがある筆算をする。[p. 104] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 一のくらしも十のくらしも繰り上がりがあるひっ算のしかたを考えよう。 ○ $65 + 78$ の筆算の仕方を考える。</p> <p>○ $38 + 67$, $98 + 5$ の筆算に取り組む。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 3つの数のたし算を筆算でする。[p. 105] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 3つの数のひっ算のしかたを考えよう。</p> <p>○ $36 + 58 + 97$ の計算を筆算で考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 たし算の練習問題に取り組む。[p. 106] ○ 「れんしゅう」に取り組む。</p> <p>5 (3位数) - (2位数) で、百の位に繰り下がりがある筆算をする。[p. 107] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 十のくらしがひけないひっ算のしかたを考えよう。 ○ $135 - 72$ の計算の仕方を筆算で考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 場面把握をさせ、立式させる。 既習の(2位数) + (2位数) < 100 の筆算との違いを考えさせ、十の位が10を超えることに気付かせる。 計算棒などの具体物や半具体物を使って、筆算による計算を位取り記数法との関係で捉えさせる。 100の束が一つできたことを確認する。 いきなり百の位に1を書かせるのではなく、十の位が繰り上がって1を書くことを意識させる。 【評】既習事項に基づいて筆算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 十の位が空位になる場合に注意させる。 必要に応じて個別指導を行う。 【評】十の位に繰り上がりがある筆算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 既習の筆算の仕方を適用すれば、計算できそうであるという解決の見通しをもたせる。 既習事項を使って筆算の仕方を考えさせる。 ペアで説明し合うとよい。 必要であれば計算棒を操作させて考えさせる。 一の位が繰り上がった結果、十の位も繰り上がり、十の位が空位になったことに気付かせる。 必要に応じて個別指導を行う。 【評】2回繰り上がる筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 生活の中で、3つの数をたす場面を想起させ意欲化を図る。 既習の筆算を基に、3つの数の場合、どのように書けばよいかを予想させる。 2つの数の場合と比較し、共通点、相違点などを考えさせる。 筆算で表す場合、「+」を1回しか書かないことを確認する。 必要に応じて個別指導を行う。 【評】3つの数の筆算に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。 個別指導を重点的に行う。 計算の間違いを見付けて説明する活動により加法の筆算の仕方を確認させる。 【評】加法の筆算の練習問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 計算棒などを操作しながら、筆算の式と対比させて考えさせる。 いきなり $13 - 7$ を計算させるのではなく、繰り下がりが1回のときと同様に一の位から順に計算することを押さえる。 【評】百の位から繰り下がる筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

<p>6 (3位数)－(2位数)で、2回繰り下がりがある筆算をする。[p. 108]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★一のくらいも十のくらいもくり下がりがあるひっ算のしかたを考えよう。 ○142－83の筆算の仕方を考える。 <p>○175－79の筆算に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 (百何)－(2位数)で、2回繰り下がる筆算をする。[p. 109]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★十のくらいが0でくり下げることができないひっ算のしかたを考えよう。 ○103－67の筆算の仕方を考える。 <p>○100－94の筆算に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 ひき算の練習問題に取り組む。[p. 110]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「れんしゅう」に取り組む。 <p>9 (3位数)±(2位数)の簡単な筆算をする。[p. 111]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★3けたの数のひっ算のしかたを考えよう。 ○(3位数)＋(2位数)の計算の仕方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・234＋57の筆算に取り組む。 ○(3位数)－(2位数)の計算の仕方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・381－53の筆算に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>10 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 112・p. 113]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の問題と違い、十の位だけでなく一の位もひけないことに気付かせる。 ・既習の筆算と同様に、一の位から計算し、繰り下げた後は補助数字を必ず書かせる。 ・誤答防止のため、百の位を斜線で消させてもよい。 ・2回繰り下がる仕組みを十分理解させてから取り組ませる。 ・個別指導により、必要であれば数え棒を操作して考えさせる。 【評】2回繰り下がる筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・一の位を計算するとき、十の位から繰り下げられないことに気付かせる。 ・十の位から繰り下げられないときに、百の位から繰り下げることをつかませる。 ・計算の仕方が理解できない児童には、10から1をひいた数が何かを考えさせると分かりやすい。 ・答えが、百の位も十の位も空位になることに気付かせる。 ・上の位が空位の場合、0は書かないことを確認する。 ・必要に応じて個別指導を行う。 【評】百の位から繰り下げる筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・個別指導を重点的に行う。 ・計算の間違ひを見付けて説明する活動により減法の筆算の仕方を確認させる。 【評】減法の筆算の問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・既習の筆算の仕方を基に考えさせる。 ・(2位数)＋(2位数)の筆算の仕方を想起させるようにする。 ・位をそろえてかき、一の位から計算すればよいことを確認する。 ・(2位数)－(2位数)の筆算の仕方を想起させるようにする。 ・斜線や補助数字を必ず書かせる。 ・必要に応じて個別指導を行う。 【評】3位数の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・たし算とひき算の筆算について分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	---

【 備 考 】
本単元は、既習の筆算の仕組みを用いて、(2位数)＋(2位数)≥100の加法とその逆の減法の筆算を学習する。形式的に扱うのではなく、具体的操作を通して児童自身に見出させるようにし、筆算の仕方を理解させることが大切である。さらに、簡単な3位数の加法、減法も指導することで、2位数までの計算を確実なものにする。

単元名 図をつかって考えよう(2)

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 増えたり減ったりする事象について、変化する量に着目する仕方を理解し、事象を図などに表し、変化する量に着目して、問題を解決することができる。
 (2) 増えたり減ったりする事象について、変化する量に着目するよさが分かる。
 (3) 増えたり減ったりする事象について、変化する量に着目して考えようとする。

標準的な展開例

02040202_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 順に考えたり、まとめて考えたりして問題を解く。[p. 114・p. 115]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★子どもが何人になったのかを、いろいろに考えよう。 ○「みんなで考える問題」を読み、場面絵を見て題意をつかみ、いろいろに考えて解く。 ○解き方について話し合う。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>2 3要素2段階の問題を解く。[p. 116]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★まとめて考えるしかたをつかって考えよう。 ○「みんなで考える問題」を読み、減減の問題に取り組む。 ○増増の「練習問題」に取り組む。 <p>3 3要素2段階の問題を解く。[p. 117]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★ふえたりへったりした数をまとめて考えよう。 ○「みんなで考える問題」を読み、増減で増になる問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決により、できるだけ一人から複数の考え方を引き出すようにする。 ・増えることと、加法とが結び付かない児童には、数図ブロックを操作して加法を使うことを理解させる。 ・ペア活動をしてよい。 ・問題場面を捉え、2つの考え方で問題を解くようにさせる。 【評】順に考えたり、まとめて考えたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・児童に場面を想起させて、まとめて考えて解くよさをつかませるようにする。 ・図や数図ブロックなどを用いて、題意をつかませる。 ・何枚使ったことになるかを、まとめて考えさせるようにする。 ・入ってきた車の台数に着目させ、まとめて考えさせるようにする。 【評】変化する量に着目し、まとめて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・児童に場面を想起させて、差し引きでいくら増えたことになるかを考えて解くよさをつかませるようにする。 ・図や数図ブロックなどを用いて、題意をつかませる。 ・最終的に増えたのか減ったのかを考えさせる。 ・何匹増えたことになるかを、図に表しながら考えさせる。 ・何枚増えたことになるかを、図に表しながら考えさせる。 【評】まとめて考える仕方と問題で問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【備 考】

本単元は、「しきと計算」の前段階に当たり、変化する量に着目し、3要素の事象を2要素の問題として考える学習である。単元を構想するに当たっては、まとめて考えることで処理しやすくなったことを実感できるように配慮することが大切である。「まとめて考える」思考法は、児童にとって特別な考え方であるので、意図的に強調して指導する必要がある。

単元名 しきと 計算

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 加法の結合法則，及び()や $>$ ， $<$ ， $=$ の意味と使い方を理解し，()を含む式を正しく計算したり， $>$ ， $<$ ， $=$ を使って式に表したりすることができる。
 (2) まとめてたす式を，()を使った式で表すことができる。
 (3) まとめてたす式を，()を使った式に表そうとする。

標準的な展開例

02040203_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 3つの数のたし算について考える。[p. 118・p. 119]</p> <p>○順にたす計算とまとめてたす計算があることを確認する</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★まとめて考えるしかたを1つのしきにかこう。</p> <p>○「みんなで考える問題」に取り組み，まとめてたす式を1つにする方法を考える。</p> <p>○()の使い方を知る。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 $>$，$<$，$=$を使って式に表す。[p. 120]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★$>$，$<$，$=$をつかってしきにかくことを考えよう。</p> <p>○150と$90+70$，$90+60$，$90+50$の大小を比べる。</p> <p>○$>$，$<$，$=$の使い方を確認する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・順にたしても，まとめてたしても答えは同じであることを捉えさせる。 ・順にたす場合とまとめてたす場合の式の違いに気付かせる。 ・1年生で学習した3つの数の加法の計算の順序について想起させる。 ・加法の結合法則についてまとめ，()の意味を確かめる。 ・()の中の計算を先にすることを確認する ・2通りの仕方で計算させる。 【評】()を含む式の計算に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。 ・「$=$」は今まで計算の結果を表す記号として使ってきた。 ・ここでは，等号本来の意味（左辺＝右辺）を扱う。 ・3人の考え方を立式し，計算させる。 ・既習の「$>$，$<$」については，数だけでなく式の大小も表すことができることを伝える。 【評】$>$，$<$，$=$を使って式に表す活動を通して，「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

本単元は，前単元で学習した「増増」の数量に着目し，「じゅんにたす」と「まとめてたす」の思考法に引き続いているため，2つの考え方を思い出させてから式に表すようにする。順にたす方法は，1つの式に表せることに触れ，まとめてたす方法を1つの式に表すためには，()を使うことを知らせる。また，計算の苦手な児童にも個別指導を通して間違いなく計算できるようにする。

単元名 かけ算(1)

配当時間 16時間

単元の目標 (1) かけ算の意味や式の表し方, 倍の意味, 5, 2, 3, 4の段の九九の唱え方を理解し, いくつずつ増えるかに着目して, 5, 2, 3, 4の段の九九を構成し, それらを唱えることができる。
 (2) かけ算が用いられる場面を具体物, 言葉, 式を用いて表すことができる。
 (3) 5, 2, 3, 4の段の九九作りに関心を持ち, 進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

02040204_001

【準備等】教科書拡大図, 数図ブロック, 九九カードを作る用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 具体物を使って, 基準量のいくつ分という意味を理解する。[下p. 2～p. 5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遊園地の挿絵を見て, 乗り物に乗っている人数を調べる ○人数の求め方について考える。 ○「3この4つ分」「6この3つ分」を数図ブロックで表す。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★5この3つ分や2この5つ分のような数のあらわし方や計算のしかたをしらべていこう。 <p>2 かけ算の意味と, かけ算の式の読み方, 書き方について理解する。[p. 6・p. 7]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★同じ数のいくつ分かで数をあらわそう。 ○「みんなで考える問題」に取り組み, 「かけ算」の用語や記号, 式の表し方を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 かけ算の用いられる場面を式で表し, 累加で求める。[p. 8・p. 9]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★かけ算のしきにかいて答えをもとめよう。 ○「みんなで考える問題」を読み, かけ算の式に表し, 答えを求める。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>○身の回りから, かけ算の式で書けるものを探し, 発表する。</p> <p>4 倍を使って問題を解く。[p. 10・p. 11]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○倍の意味を知る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★何倍になるかを考えて, かけ算のしきにかいてもとめよう。 ○「みんなで考える問題」に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>5～7 5の段の九九を構成してその唱え方を知り, 練習する [p. 12～p. 14]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○$5 \times \bigcirc$のかけ算について考える。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★かけ算の答えがいくつずつふえていくかをしらべよう。 ○5の段の九九を構成する。 ○5の段の九九の唱え方を知る。 ○5の段を作り, 覚える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書拡大図を使い, 基準量の「いくつ分」についての理解を図るため, 数図ブロックの操作に重点を置いて学習を進める。 ・数図ブロックを使って, 乗り物に乗っている人数を調べる。 ・1年生で学習した「2とび」や「5とび」などを想起させる。 ・数図ブロックを並べながら, 「何のいくつ分」の表し方に慣れさせる。 【評】基準量のいくつ分という見方で数える活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・同じ数ずつ乗っている乗り物を見付けさせる観覧車は, 同じ数ずつ乗っていないということも意識付ける。 ・同じ数のいくつ分かを意識させる。 ・「4個の3つ分」のことを「4×3」と書き「4かける3」と読むことを知らせる。 ・記号の書き方に注意させる。 ・$4 + 4 + 4$ (累加) で求められることに気付かせる。 ・累加の考え方で, かけ算の答えを求めさせる 【評】乗法の式で表す活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・かけ算の答えは, たし算 (累加) で求めさせる。 ・かけ算で立式させ, 累加で答えを求めさせる 【評】かけ算で立式し, 累加で答えを求める活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・ペア活動をするとうよい。 ・連続量を基に具体物を用いて, 視覚的に捉えることができるようにする。 ・4 cmの2つ分, 4 cmの2倍, 4×2を結びつけて考えさせる。 ・かけ算と倍という言葉に関連付けて考えさせる。 【評】何倍になるかを考え, かけ算で求める活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・具体物を使って乗数が1増すごとに積が5ずつ増えることに気付かせ, 5の段の九九を構成させる。 ・ジェットコースターの挿絵から「5の○つ分」で表される場面をつかませる。 ・答えがいくつずつ増えていくのかに着目させる。 ・このように唱える言い方を九九ということを知らせる。 ・p. 139「九九の円ばん」を作って覚えさせて

- 1 箱に 5 個ずつ入ったコップの 8 箱分の数を求める問題に取り組む。
- 8～9 2 の段の九九を構成してその唱え方を知り，練習する [p. 15・p. 16]
 - $2 \times \bigcirc$ のかけ算について考える。
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 5 のだんと同じように，答えがいくつずつふえていくかをしらべよう。
 - 2 の段の九九を構成する。
 - 2 の段の九九の唱え方を知る。
 - 2 の段の九九を覚える。
 - 「みんなで考える問題」に取り組む。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 10～11 3 の段の九九を構成してその唱え方を知り，練習する。 [p. 17・p. 18]
 - $3 \times \bigcirc$ のかけ算について考える。
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 答えがいくつずつふえていくかをしらべて，3 のだんの九九をつくろう。
 - 3 の段の九九を構成する。
 - 3 の段の九九の唱え方を知る。
 - 3 の段の九九を覚える。
 - 「みんなで考える問題」に取り組む。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 12～13 4 の段の九九を構成してその唱え方を知り，練習する。 [p. 19・p. 20]
 - $4 \times \bigcirc$ のかけ算について考える。
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 4 のだんの九九をつくろう
 - 4 の段の九九を構成する。
 - 4 の段の九九の唱え方を知る。
 - 4 の段の九九を覚える。
 - 「みんなで考える問題」に取り組む。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 14 被乗数と乗数の意味を理解する。 [p. 21]
 - 「みんなで考える問題」を読み，かけ算の問題を考える
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 1 つ分の数は何かを考えてかけ算のしきをつくろう。
 - 連続量の問題に取り組む。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 15 練習問題に取り組む。 [p. 22]
 - 「れんしゅう」に取り組む。
- 16 単元を振り返り，確認問題に取り組む。 [p. 23]
 - 「たしかめよう」に取り組む。

- もよい。
- ・ かけ算の答えは，たし算（累加）ではなく，九九を使って求めさせる。
- ・ ゴーカートの挿絵から「2 の \bigcirc つ分」で表される場面をつかませる。
- ・ 「2 とび」の数え方だけでなく，乗数が 1 増えると，積が被乗数分増えることに気付かせる。
- ・ 九九カード等を使って，習熟させる。
- ・ 立式させ，2 の段の九九を使って答えを求めさせる。
- ・ 何がいくつ分なのかを意識して考えさせる。
- ・ p. 69 の「カードれんしゅう」を参考に，習熟させる。
- 【評】 2 の段の九九を使って問題を解く活動を通して，「知識・技能」を評価する。
- ・ コーヒーカップの挿絵から「3 の \bigcirc つ分」で表される場面をつかませる。
- ・ 九九カード等を使って習熟させる。
- ・ 立式させ，3 の段の九九を使って答えを求めさせる。
- ・ p. 69 の「カードれんしゅう」を参考に，習熟させる。
- 【評】 3 の段の九九を使って問題を解く活動を通して，「知識・技能」を評価する。
- ・ ウォータースライダーの挿絵から「4 の \bigcirc つ分」で表される場面をつかませる。
- ・ 九九カード等を使って習熟させる。
- ・ 立式させ，4 の段の九九を使って答えを求めさせる。
- ・ p. 69 の「カードれんしゅう」を参考に，習熟させる。
- 【評】 4 の段の九九を使って問題を解く活動を通して，「知識・技能」を評価する。
- ・ 基準量が後に示された問題を扱う。
- ・ 「 3×5 」なのか「 5×3 」なのかを考えさせる。
- ・ 「何個のいくつ分」の表し方を考えさせ，それに合わせて立式するよう助言する。
- ・ 5×3 だとどんな意味になるかを考えさせる
- ・ 3×4 と 4×3 の違いについて考えさせる。
- ・ 正しく立式できているかを確認し，必要に応じて個別指導する。
- 【評】 被乗数と乗数の意味を理解し，立式する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 個別指導を重点的に行う。
- 【評】 「れんしゅう」に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・ 問題を通して，九九を正確に唱えることができるように繰り返し練習させる。
- ・ 個別指導を通して，単元の学習内容の定着を

○学習の振り返りを書く。

図る。

- ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・かけ算（5，2，3，4の段）について分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元は、2年生になって一番楽しみにしている児童が多い学習である。かけ算が使われる場面を理解し、児童の操作活動を中心にして、九九（5，2，3，4の段）を覚え、それを使って問題解決をする学習である。かけ算の意味「基準量のいくつ分」をはっきりと意識付けることが大切である。単元を構想するに当たっては、どうしても九九を覚えることに時間を取られ、指導の重点もそこに置かれがちである。しかし、かけ算の意味理解は、今後の算数学習の基礎となることなので、しっかりと指導しなければならない。

単元名 ふくしゅう(下p.24・p.25)

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

02040205_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 24 ・ p. 25]	・ 個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 かけ算(2)

配当時間 13時間

- 単元の目標 (1) 6, 7, 8, 9, 1の段の九九の唱え方を理解し, アレイ図を使って, 6, 7, 8, 9, 1の段の九九を構成し, それらを唱えることができる。
 (2) かけ算の意味を正しく理解し, かけ算と具体的場面を結び付けることができる。
 (3) 6, 7, 8, 9, 1の段の九九作りに関心をもち, 進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

02040206_001

【準備等】アレイ図(●が 9×9 個並んだ図), 九九カードを作る用紙, p.38のチョコレート図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 9×9個並んだ●を使って九九の答えを求め, 6の段の九九を構成する。[p.26・p.27]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○並んだ●から, 九九の答えの見付け方を考える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★70ページの図をつかって, 6, 7, 8, 9, 1のだんの九九をつくってこう。 ○アレイ図を使って, かけ算の図を作る問題に取り組む。 <p>○6の段の九九を構成する。</p> <p>2 6の段の九九の唱え方を知り, 練習問題に取り組む。[p.28]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★6のだんの九九をつかって答えをもとめよう。 ○6の段の九九の唱え方を知る。 ○6の段の九九を覚える。 ○「みんなで考える問題」に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3~4 7の段の九九を構成してその唱え方を知り, 練習問題に取り組む。[p.29・p.30]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★7のだんの九九をつくろう。 ○7の段の九九を構成する。 ○7の段の九九の唱え方を知る。 ○7の段の九九を覚える。 ○「みんなで考える問題」に取り組む。 <p>5~7 8, 9の段の九九を構成してその唱え方を知り, 練習問題に取り組む。[p.31~p.33]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★8のだんと9のだんの九九をつくろう。 ○8の段と9の段の九九を構成する。 ○8の段の九九の唱え方を知り, 覚える。 ○8の7倍を求める問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 ○9の段の九九の唱え方を知り, 覚える。 ○9円の色紙を6枚買ったときの代金を求める問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●の図を示すことにより, 乗法の構成の発展性に気付かせる。 p.70「九九づくり」のアレイ図を用いる。 アレイ図の使い方をおさえ, 次時からの学習に生かせるようにする。 既習の5, 2, 3, 4の段に取り組みせ, 次に6, 7, 8, 9の段の問題に取り組みせる <p>【評】アレイ図を使って九九を構成する活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●の図は横に1つずらすと, 縦に並んでいる数だけ増えることをつかませ, 6×1から順に作らせる。 ●の並び方に注目させ, 児童が自力で九九を構成できるようにする。 繰り返し九九を唱える時間を取り, 確実に覚えられるようにする。 p.69の「カードれんしゅう」を参考に, 習熟させる。 <p>【評】6の段の九九を使って問題を解く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●の図の並び方から, 7の段の九九を構成させる。 p.70「九九づくり」のアレイ図を用いて, 7×1から作らせる。 乗数が1増すごとに7ずつ増すことをつかませる。 7×4や7×7, 7×8は特に唱えづらいので, ゆっくり確実に唱えさせる。 7の段は特に間違えやすいので, 九九カード等で繰り返し練習し, 正確に覚えさせる。 p.69の「カードれんしゅう」を参考に, 習熟させる。 <ul style="list-style-type: none"> ●の図や累加の考え方など, 既習を生かして自分の力で8, 9の段の九九を構成させる。 乗数が1増すごとに積は被乗数ずつ増していることから, アレイ図や累加の考え方などを用いて, 自力で九九を構成できるようにさせる。 6の段や7の段を構成したときのことを想起させ, 自力で構成できるようにさせる。 <p>【評】8の段の九九を構成する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> p.69の「カードれんしゅう」を参考に, 習熟させる。 <p>【評】9の段の九九を構成する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】8の段の九九を使って問題を解く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> p.69の「カードれんしゅう」を参考に, 習熟させる。 <p>【評】9の段の九九を使って問題を解く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p>

<p>8 1の段の九九を構成して唱え方を知り、練習問題に取り組む。[p. 34]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★1の段の九九について知ろう。 ○1の段の九九を構成する。 ○1の段の九九の唱え方を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>9 生活場面から、かけ算の問題作りをする。[p. 35]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挿絵を見て、どんな場面かを話し合う。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★かけ算の몬드いをつくってはっぴょうしよう。 ○問題の作り方を知る。 ○かけ算の問題を作り、発表する。 ○身の回りからかけ算になる問題を作る。 <p>10 練習問題に取り組む。[p. 36]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「れんしゅう」に取り組む。 <p>11 乗法と加法、減法の組み合わせった3要素2段階の問題について考える。[p. 37]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★じゅんに考えていこう。 ○かけ算とたし算の組み合わせられた問題を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>12 乗法を使って問題を解き、図や式を使って自分の考えを説明する。[p. 38・p. 39]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★同じ数のまとまりに目をつけて、かけ算をつかって考えよう。 ○かけ算を使って、チョコレートの数を数える。 ○自分の考えを説明する。 ○他の人の考えと似ているところや違うところを話し合う <p>13 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 40・p. 41]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何個のいくつ分」ということを考えさせて被乗数と乗数をつかませる。 ・1の段の九九は唱えにくいので、ゆっくりとその語調に慣れさせる。 【評】1の段の九九を構成して唱えたり、立式したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・身の回りから乗法が使える場面を見付け、算数と生活を結び付けることができるようにする。 ・基準量のいくつ分ということを念頭において考えさせる。 ・挿絵を示しながら、かけ算の問題の作り方を確認する。 ・問題が思い浮かばない児童には、挿絵の中から乗法で表せるものを探させてもよい。 ・ペアで問題を出し合う活動をしてよい。 【評】挿絵や身の回りから乗法の問題作りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・積がすぐに出てこない児童には、九九カードを使ったり、●が9×9個並んだ図を使ったりして、九九を確実に唱えさせてから計算させる。 ・個別指導を重点的に行う。 【評】「れんしゅう」に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・問題文の中にある数量関係を式に表すことに重点を置いて指導する。 ・立式できない児童には、数量を取り出したり図に表したりして数量関係をつかみやすくさせる。 ・必要に応じて個別指導を行う。 【評】乗法と加法・減法の複合問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・図に書き込み、図や式を示しながら説明させる。 ・ペア活動をするとうい。 ・教科書と同じチョコレートの図を用意し、図に書き込みながら考えさせる。 ・乗法だけでなく、加法・減法も使ってよいことを伝える。 ・いくつかの解法を考えさせ、多様な考え方を養う。 ・ペアや全体で、図や式を示しながら発表させる。 【評】図や式を使い、乗法を使って問題を解いたり、自分の考えを発表したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・かけ算について分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる
---	---

【 備 考 】

本単元は、6, 7, 8, 9, 1の段の九九を構成し、それを使って問題を解決することを学習する。学習に当たっては、既習事項や●が9×9個並んだ図(アレイ図)を基にして、児童が自分で考えながら九九を構成できるようにする。また、九九を唱えるに当たっては、覚えにくかったり、まぎらわしかったりすることがあるので、ゆっくりと確実に覚えさせることが大切である。

<参考URL>

かけさんの部屋 <http://www.osumi.or.jp/sakata/kakezan/kuizu.htm>

単元名 三角形と 四角形

配当時間 10 時間

単元の目標 (1) 三角形、四角形、及び直角、長方形、正方形、直角三角形について理解し、紙を折って直角を作ったり、長方形、正方形、直角三角形を作図したりすることができる。
 (2) 長方形、正方形、直角三角形について、根拠をもってそれらを弁別することができる。
 (3) 三角形や四角形に関心を持ち、それらの性質を進んで調べようとする。

標準的な展開例

02040207_001

【準備等】 定規、ドット用紙、はさみ、三角形や四角形を作る紙、三角定規、方眼紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 三角形や四角形概念をつかみ、三角形や四角形を弁別したり、かいたりする。[p. 42～p. 44]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○点と点を直線でつないで、動物を直線で囲む。 ○できた形を2つの仲間に分ける。 ○三角形や四角形概念をつかむ。 ○点と点を直線でつないで、三角形や四角形を作図する。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★三角形や四角形についてしらべていこう。 <p>2 三角形や四角形と言える訳を説明する。[p. 45]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★三角形や四角形といえるわけをせつめいしよう。 ○挿絵を見て、三角形や四角形を弁別し、その理由を説明する。 ○用語「辺」「ちょう点」について知る。 ○三角形や四角形に、頂点や辺がいくつあるか調べる。 <p>3 三角形を2つに切って、三角形や四角形を作る。身の回りから三角形や四角形を見付ける。[p. 46・p. 47]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★どのように切ればどんな形ができるかをしらべよう。 ○三角形の紙を2つに切って、三角形や四角形を作る。 ○P. 47の写真から三角形や四角形を見付ける。 ○学校や家の中で三角形や四角形を探し、それらの形をした物を発表する。 <p>4 直角について知り、身の回りから直角を見付ける。[p. 48]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★本やノートのかどの形をつくってしらべよう。 ○紙を2回折って、角を作る。 ○できた角を考察し、直角について知る。 ○三角定規の1つの角が直角であることを調べる。 ○身の回りから直角を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の家を作る数学的活動に、十分な時間をかける。 ・p. 141「どうぶつの家づくり」を使い、定規を使って丁寧に直線をひいて、動物を囲ませる。 ・できた形を、直線の数に目をつけて仲間分けをさせる。 ・「三角形」「四角形」の用語と定義を知らせる。「3本」「4本」「直線」「囲まれている」という言葉を操作に対応させて正しくとらえさせる。 【評】三角形や四角形を作図し、弁別する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・1年生の学習では、具体物の面に注目して「さんかく」「しかく」を捉えていたが、2年生では辺に目を向けて図形を考えることに重点をおく。 ・辺と頂点の用語や意味を押さえる。 ・三角形や四角形の定義を確認させる。 ・三角形や四角形と判断した理由を、定義の「3本」「4本」「直線」「囲まれている」という言葉に合っているかどうかを確認して説明させる。 【評】三角形や四角形を弁別し、その根拠を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・三角形には3つの頂点と3つの辺があることと、同様に四角形にはそれぞれ4つあることを押さえる。 ・実際に切って、三角形や四角形を作らせる。児童が見付けたものを取り上げて、具体的なものを抽象的に見ようとする基礎を培う。 ・どのように切れば、どのような形になるのかの見通しを立ててから行うようにさせる。 ・直線をひいて、2つの三角形、または、三角形と四角形に分けてから、丁寧に切らせる。 【評】四角形を2つに切ってできる図形について考察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・三角形や四角形の定義を意識させ、見付けた形が三角形や四角形になる訳を説明させる。 ・三角形や四角形と判断した理由も含めて発表させる。 【評】身近な物から三角形や四角形を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・角の形が違うことに着目させ、直角でない角と対比させるとよい。 ・折り目が重なるように折らせる。 ・角度の概念は第3学年で扱うため、「直角＝90°」であることは、ここでは触れない。 ・折ってできた直角を重ね合わせて調べさせる ・折ってできた直角や、三角定規の直角の部分を、見付けた場所に重ね合わせて確かめさせる。 【評】身の回りから直角を見付ける活動を通し

5 長方形を作り，特徴を調べる。[p. 49]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ できた四角形のかどの形や辺の長さをしらべよう。
- 紙を折って四角形を作り，その角の形や辺の長さを調べる。
- 長方形とその意味を知る。
- 長方形を見付け，その理由を説明する。

6 正方形を作り，特徴を調べる。[p. 50・p. 51]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 長方形からつくった四角形のかどの形や辺の長さをしらべよう。
- 紙を折って，切って，四角形を作り，その角の形や辺の長さを調べる。
- 正方形とその意味を知る。
- 長方形や正方形を見付ける問題に取り組む。また，長方形や正方形になる訳を言う。
- 身の回りから，長方形や正方形の形をした物を見付ける

7 直角三角形を作り，特徴を調べる。[p. 52]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 長方形や正方形の紙を切ってできる三角形についてしらべよう。
- 長方形や正方形を対角線で分けて，できた形を調べる。
- 直角三角形とその意味を知る。
- 直角三角形を見付ける「練習問題」に取り組む。

8 方眼紙を使って，長方形，正方形，直角三角形を作図する。[p. 53]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 方眼紙をつかって，長方形，正方形，直角三角形をかこう。
- 指定された大きさの長方形，正方形，直角三角形の作図の仕方を考え，方眼紙に作図する。
- 辺の長さを決めて，方眼紙にいろいろな長方形，正方形，直角三角形をかく「練習問題」に取り組む。

9 「もうようづくりの色紙」を切って長方形，正方形，直角三角形を2枚組み合わせる図形を構成したり，敷き詰めていろいろな模様を作ったりする。[p. 54・p. 55]

- 「もうようづくりの色紙」を切り取る。
- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 色紙をならべていろいろな模様をつくろう。
- 色紙を並べて，p. 55の模様を作る。

て，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ できた形が長方形かどうか調べる活動を通して，長方形の定義を確認する。
- ・ 直角を作ったように，四隅が直角になるように紙を折って，長方形を作らせる。
- ・ 角の形は三角定規で，辺の長さはそれぞれを折り合わせて調べさせる。
- ・ 辺の長さは重ねて比べるか，ものさしを使ってもよい。
- ・ 角がすべて直角であることを押さえる。
- ・ 向かい合う2つの辺の長さが等しい四角形を長方形という訳ではないことも押さえる。
- ・ 定義（すべての角が直角）を基に，説明できているかを確認する。

【評】長方形を見付け，その根拠を説明する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 前時で用いた長方形を折って切り取り，角の形や辺の長さに着目して，正方形を捉えさせる。
- ・ 長方形の紙を用意し，実際に切らせて正方形を作らせる。

- ・ 長方形と同様に調べさせる。

- ・ 「角がみんな直角」で，「辺の長さがみんな同じ」という2点を押さえる。
- ・ 斜めにかかっている図形は弁別しにくいと思われるので，丁寧に指導する。

【評】長方形や正方形を弁別する活動を通して「知識・技能」を評価する。

【評】身の回りから長方形や正方形を見付ける活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ できた三角形について，折ったり重ねたりして，自由に調べさせ，特徴を見付けさせる。
- ・ 長方形と正方形の紙を用意し，実際に切らせて考察させる。

- ・ 合同な三角形が2枚できたことに気付かせる

- ・ 1つの角が直角であることを押さえる。
- ・ 2種類の三角定規も，直角三角形であることに気付かせる。
- ・ どの角が直角になっているのかを確認させる

【評】直角三角形を弁別する活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・ 方眼紙の直角を利用していることをつかませる。
- ・ 作図しやすくさせるために，方眼紙を用意するとよい。

- ・ 定規を使って，丁寧にしかせる。

- ・ 教科書にない長さの図形を提示したり，自分で決めた長さの図形をかかせたりするとよい

【評】方眼紙を使って作図する活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・ 組み合わせてできた図形について，根拠をはっきりさせて弁別させるようにする。
- ・ 切った色紙を並べたり敷き詰めたりすることで，操作の楽しさを味わわせたり，模様の美しさや平面の広がりについても気付かせたりする。
- ・ p. 143「もうようづくりの色紙」を切り取らせる。
- ・ 紛失等の恐れがあるため，数を数えさせておくとうい。

- ・ すき間のないように並べさせる。

<p>○他にもいろいろな模様を作る。</p> <p>10 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 56・p. 57]</p> <p>○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数が足りない場合は，ペアやグループで協力して作らせてもよい。 ・グループや全体で紹介できるとよい。 <p>【評】模様作りを通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形と四角形について分かったことや面白かったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。
---	---

【 備 考 】

本単元では，線で結ぶ，紙を折る，切る，敷き詰めるなどの操作活動を通して，長方形，正方形，直角三角形の定義を理解させる。また，身近にある物を三角形や四角形という視点で見ることができるようになることも大切である。そのため，操作活動の時間を十分に取って，図形についての概念を形成できるように単元を構想することが大切である。また，基本的図形の名称や構成要素に関する新しい用語(辺・頂点・直角)が多く出てくるので，用語の意味を，活動や体験を通して具体的に捉えさせることが重要である。

単元名 図をつかって考えよう(3)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 加法と減法の相互関係を使った立式の仕方を理解し、求大、求小の逆思考の場面で、適切に演算を決定することができる。
 (2) 問題場面を捉えてテープ図に表し、根拠をもって立式することができる。
 (3) 求大、求小の逆思考の問題に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

02040208_001

【準備等】テープ図

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 一方の数量と差を知って、小さい方を求める逆思考の問題について考える。[p. 58・p. 59]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、題意をつかむ。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★図をつかって、どちらが多いかを考えよう。 <p>○図をかいて、大小関係を説明し、立式する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 一方の数量と差を知って、大きい方を求める逆思考の問題について考える。[p. 60・p. 61]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、題意をつかむ。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★図にかいて、どちらが長いかを考えよう。 <p>○図をかいて解き方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長いテープ図と短いテープ図を2本かかせて考えさせる。 ・まず、どちらが多いのかを考えさせる。 ・「～は・・・より多い(少ない)」という表現は、2量の大小(多少)の関係がつかみにくい児童もいるので、問題の中の数量関係をテープ図に表して考えさせる。 ・ペア活動をするとうい。 ・2本のテープ図を見て、問題に取り組ませる <p>【評】求小の逆思考の問題を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力で図がかけよう時間を十分に取、必要に応じて個別指導する。 ・適当な長さを指示して、左端をそろえてかかせる。全員同じ長さのテープ図をかかせるとうい。 ・かいたテープ図が、条件に合っているか確認させる。 ・大小関係を考えさせてから、テープ図をかかせる。 ・テープ図をかいてから、立式させる。 <p>【評】求大の逆思考の問題を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、大きい方の数量と差から小さい方の数量を求めたり(求小)、小さい方の数量と差から大きい方の数量を求めたり(求大)する学習である。ここでの学習は、問題の場面に逆思考の要素が含まれており、児童にとって考えにくいものである。そこで、問題に含まれる数量の関係を線分図(テープ図)に表すなど、視覚的に数量関係を捉えやすくした上で考えさせることが大切である。

単元名 **どんな 計算に なるのかな(2)**配当時間 **1 時間**

単元の目標 (1) 乗法の用いられる場面を理解し，場面に即して適切に演算を決定し，計算することができる。
 (2) 演算を決定した根拠を説明することができる。
 (3) 問題を読み，何算になるかを判断しようとする。

標準的な展開例

02040209_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 遊びの場面で，適切に演算を決定し，立式の根拠を説明する。[p. 62・p. 63]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ どんな計算になるかを考えて，もんだいをとこう。 ○ 1枚で9枚のかるたが作れる厚紙5枚では，何枚のかるたが作れるかという「みんなで考える問題」を読み，題意を把握する。 ○ 教科書の挿絵を手がかりに，何算になるのかを考え，立式する。 ○ 立式の根拠について話す。 ○ 6枚の3倍を求める「みんなで考える問題」に取り組む ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗法の演算決定の理由を言う場合「同じ数のいくつ分」や「～の何倍」などの言葉と結び付けるようにさせる。 ・ 教科書拡大図を見せ，1枚の厚紙から9枚作れること，厚紙が5枚あることを確認させる ・ 式→イメージ図→言葉を通して表現する力を育成することを意図している。 ・ 「～になるわけは，～からです。」という言い方で説明できるようにさせる。 ・ 「9の5つ分」であることを確認する。 ・ 「たいきさんの3ばい」という言葉に着目するとよいことに気付かせる。 ・ 「6の3倍」であることを確認する。 ・ どちらが多いかに着目させる。 <p>【評】 演算決定をし，根拠を説明する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元では，場面に即して適切に演算を決定し，その根拠を説明する活動を行う。児童は，第2学年上巻で，加法と減法について演算決定の理由を明らかにする学習に取り組んできている。また，第2学年下巻では，乗法の意味や計算の仕方について学習してきた。これらのことを踏まえて指導する。

単元名 買えますか？ 買えませんか？

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 買えるか買えないかを判断する仕方を理解し、場面に応じて、買えるか買えないかを判断することができる。

(2) 買えるか買えないかの理由を、根拠を挙げて説明することができる。

(3) 買えるか買えないかを判断しようとする。

標準的な展開例

02040210_001

【準備等】お金の模型

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 買えるか買えないかを判断し、その理由を根拠を挙げて説明する。[p.64・p.65]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 1つが100円で買えるかどうかをもとに考えよう。 ○ 1つが100円で買える「みんなで考える問題」に取り組む。 ○ 1つが100円で買えない「みんなで考える問題」に取り組む。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物場面を取り上げ、日常生活との関連付けをすることにより意欲化を図る。 ・ 教科書拡大図を見て、状況を把握させる。 ・ 98円を100円と置き換えることに抵抗のある児童もいると思われるので、お金の模型などを使って視覚的に捉えさせるようにする。 ・ ペア活動をするとうい。 ・ 買えるか買えないかの根拠が、説明できるようにさせる。 <p>【評】 買えるか買えないかを判断し、理由を根拠を挙げて説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元では、計算で判断させるのではなく、範囲の見積もりで判断することを学習する。日常生活の中では、正確な計算の数値を求める場面ばかりではないことに気付かせ、概算により判断することのよさを感じさせたい。

本単元の学習は、3年生の「買えますか？買えませんか？」の学習や、4年生の「がい数とその計算」の学習につながるため、それを踏まえた指導が必要である。

単元名	ふくしゅう(下p.66～p.68)	配当時間	2 時間
単元の目標			

標準的な展開例	02040211_001
---------	--------------

【準備等】 色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～2 復習問題に取り組む。[p. 66～p. 68]	・ 個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 九九の きまり

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 乗数が1増えるときの答えの増え方や交換法則など、乗法のきまりについて理解し、それを使って、簡単な2位数の乗法の答えを求めることができる。
 (2) 九九表からいろいろなきまりを見付け、それを説明することができる。
 (3) 九九表の面白さに気付き、進んできまりを見付けようとする。

標準的な展開例

02040301_001

【準備等】九九の表、アレイ図（●を9×9個並べた図）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 九九の表を作って、気付いたことを話し合う。[p. 71]</p> <ul style="list-style-type: none"> 九九の表の仕組みを知り、九九の表を作る。 単元の学習課題をつかむ。 ★九九のひょうをつかって、九九のきまりについてしらべていこう。 九九の表を見て、気付いたことを話し合う。 <p>2 九九の表を見て、乗数が1ずつ増えたときの積の増え方を調べる。[p. 72]</p> <ul style="list-style-type: none"> 3の段を見て、九九の答えの並び方を調べる。 本時の学習課題をつかむ。 ★かける数が1ふえると、答えはいくつずつふえているかをしらべよう。 他の段についても調べる。 <p>○積の増え方についてまとめる。</p> <p>3 九九の表を使って乗数、被乗数、積の関係を調べる。[p. 73]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★答えが同じになるかけ算についてしらべよう。 九九の表を見て、同じ答えになるかけ算を見付ける。 <p>○他のかけ算についても調べる。</p> <p>○乗法の性質をまとめる。</p> <p>4 同じ答えになる乗法を見付ける。[p. 74]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★同じ答えが3つや4つあるかけ算をみつけよう。 九九の表を見て、同じ答えが3つ、4つあるかけ算を見付ける。 <p>○答えが1つしかないかけ算を見付ける。</p> <p>5 aの段±bの段の答えは、(a±b)の段になることを調べる。[p. 75]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★2つのだんをたてにたしたときの答えをしらべよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 九九の表作りによる、乗法のきまりの学習への動機付けをする。 九九を唱えたり、巻末の「九九の円ばん」で確かめさせたりする。 九九の表を見ているいろいろなことを見付けさせる際には、p. 71だけが見えるようにさせるか教師の掲示用の九九の表を見せる。 出されたそれぞれの意見を認めることによって、九九の表を見て気付いたことを見付ける意欲を高めさせる。 【評】九九表を見て、かけ算のきまりを見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 九九の表を見て、積は乗数が1増すと被乗数分増すことを見付けさせる。 答えが3ずつ増えることに気付かせる。 <p>・どの段でも言えるだろうかと見通しをもたせた上で、九九の表を使って自由に調べさせる</p> <p>・「かけ算では、かける数が1増えると、答えはかけられる数だけ増える」ことをまとめさせる。</p> <p>【評】乗数が1ずつ増えた時の積の増え方を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・乗法の交換法則が成り立つことに気付かせる</p> <p>・法則としてまとめるよりも、感覚的につかませる。</p> <p>・九九の表で3×5と5×3の答えが同じになることを確かめさせる。</p> <p>・5×2, 3×9, 6×8, 8×9と同じ答えになる乗法を見付けさせ、気付いたきまりを確認させる。</p> <p>・本時では、乗法の交換法則に関する九九を扱う。</p> <p>・「かけ算では、かけられる数とかける数を入れ換えても答えは同じになる」ことをまとめさせる。</p> <p>・3×5を例に挙げ、●の図で表させ、理解を深めるようにさせる。</p> <p>【評】同じ積になる乗法（交換法則）を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・同じ答えになる乗法を根拠をもって考えさせる。</p> <p>・前時の学習を想起させ、交換法則を使えば同じ答えの九九を見付けられることに気付かせる。</p> <p>・九九の表を使って調べ、見付けた答えに丸を付けさせる。落ちや重なりがないようにさせるとともに、位置関係に着目させる。</p> <p>【評】同じ答えになる乗法を根拠をもって見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・九九の表を縦に見て、1ずつ答えを確認しながらきまりを見付けさせる。</p> <p>・前時までに発見したきまりを発展させ、九九の段と段の関係に着目させる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○ 2の段と3の段をたすと、答えが5の段と同じになることを確かめる。 ○ 1の段と4の段をたすと、答えが5の段になるかを調べる。 ○ 7の段から2の段をひくと、答えはどの段と同じになるかを調べる。 ○ 他の段でもいろいろ調べる。 <p>6 簡単な(1位数)×(2位数)の計算をする。[p. 76]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★九九にないかけ算の答えの求め方を考えよう。 ○ かけ算のきまりを使って、4×12の答えの求め方を考える。 ○ 3×12の答えを求める。 <p>7 簡単な(2位数)×(1位数)の計算をする。[p. 77]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★九九にないかけ算の答えをくふうしてもとめよう。 ○ 12×4の答えの求め方をいろいろ考える。 ○ 12×5の答えを求める。 <p>8 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 78・p. 79]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな発見に対する、意欲・関心を高める。 ・ 他の段でも成り立つかを確認させる。 ・ 何の段になるのかを予想させてから、調べさせる。 ・ たし算で作るだけでなく、ひき算でもできることに気付かせる。 ・ 3の段を2倍すると6の段になることなどを発見する児童がいたら、それも認めるようにする。 【評】 aの段±bの段の答えは(a±b)の段と同じになることを見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 前時までに見付けた「九九のきまり」を活用して答えを見付けさせる。 ・ 乗法の意味を想起させ、「4個の12個分だから4×12」と立式させる。 ・ 4の段の答えが4ずつ増えていくことから、乗数を10, 11, 12と増やしながら答えを見付けさせる。 【評】 乗法のきまりを使って簡単な2位数の乗法に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 乗法の意味や九九のきまりなどを使って、いろいろな求め方を考えさせる。 ・ 交換法則を使えば、九九を利用して求められることに気付かせる。 【評】 累加や交換法則などを使って簡単な2位数の乗法に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 九九のきまりについて分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書く。
--	--

【 備 考 】

本単元は、九九の表を使って九九の理解を深めたり、乗法に対する興味や関心を高めたりする学習である。単元を構成するに当たっては、まず、九九の表を作る活動をする。その後、九九の表から分かることを考えさせ、乗法の性質をまとめるようにする。授業では、児童の発想を大切にしながら展開していくことが大切である。

単元名 100cmを こえる 長さ

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 長さの普遍単位mについて理解し、対象の長さや目的に応じて適切に単位を選択し、長さを測定することができる。
 (2) 長さの普遍単位mの必要性に気付き、既習事項に基づいて、100cmを超える長さの表し方を考えることができる。
 (3) 長さの普遍単位mに関心を持ち、いろいろな長さを測定しようとする。

標準的な展開例

02040302_001

【準備等】30cmものさし、100cmものさし、紙テープ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 両手を広げた長さに関心を持ち、その長さを調べる。[p. 80・p. 81]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○両手を広げた長さに印を付ける。 ○両手を広げた長さを30cmものさしで測る。 ○両手を広げた長さを100cmものさしで測る。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★100cmをこえる長さの、べつのあらわし方についてしらべていこう。 <p>2 mの単位を知り、物の長さをmを使って表す。[p. 82]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★mをつかって長さをあらわそう。 ○mについて知り、書き方の練習をする。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 1mの長さを作ったり、身の回りから見付けたりする。[p. 83]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★1mの長さをつくって、たしかめてみよう。 ○紙テープを1mと思う長さに切る。 ○紙テープの長さを測って確かめる。 ○身の回りから、1mくらいの長さの物を探す。 <p>4 身の回りの物の長さを予想してから測る。[p. 84]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★1mの長さをもとにいろいろなものの長さをよそうしてしらべよう。 ○測る物を決めて、長さを予想し、その理由を話す。 ○1mものさしを使って、身の回りの物の長さを調べる。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>5 簡単な長さの計算ができる。[p. 85]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★長さの計算のしかたを考えよう。 ○1m50cm±40cmの計算をする。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の記録をcm単位で取らせ、100cmを超えることに気付かせて導入を図る。 ・三人一組で活動させるとよい。直線の学習を想起させ、端を合わせることを確認する。 ・30cmものさしでは不便なので、長いものさしが必要なことに気付かせる。 ・100cmものさしのよさに気付かせる。 ・30cmものさしも併用した方が測りやすいことを伝える。 【評】cmよりも長い普遍単位mの必要性に気付く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・具体物を用いて、1mの量感を養うようにする。 ・100cmを超える長さを、どのように測ったかを想起させ、100cmと何cmだったかを確認する。 ・記号の書き順に注意し、練習させる。 ・「1m=100cm」であることを確認する。 ・mとcmを使って表した長さを正確に読んだり書いたりできるようにさせる。特に、「1m4cm」を「14cm」と書かないように注意させる。 【評】普遍単位mを使って長さを表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・活動を通して量感を養う。 ・挿絵を参考にし、二人一組で活動するとよい。 ・両手を広げた長さを測ったことを想起させ、1mの長さを予想させる。 ・ペアやグループで、1mに一番近い物を予想させる。 ・自分の体や教科書などの身近な物を使って表すと、どのくらいになるかを調べさせることで、量感を身に付けさせる。 【評】1mの長さの物を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・予想を立ててから測るようにさせる。 ・前時の紙テープを切った経験から、1mの長さを基にして予想させる。 ・1mものさしと比較したり、自分の身長と比べたりして予想させる。 ・予想と比較させながら、量感を養う。 【評】身の回りの物の長さを測る活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・既習の計算のきまりを確認してから取り組ませる。 ・cmとmmの加減計算では、同じ単位の数を計算したことを想起させる。 ・式にもmやcmを書くことを押さえる。 ・繰り上がりや繰り下がりのない計算を扱う。 【評】簡単な長さの加減計算を通して、「知識・技能」を評価する。

6 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 86・p. 87]

○「たしかめよう」に取り組む。

○学習の振り返りを書く。

- ・問題を通して，mとcmの関係や量感を確実につかませる。
- ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。
- ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。
- 【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。
- ・100cmを超える長さについて分かったことや面白かったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元は，1学期に学習したcmとmmよりも大きい単位としてmを学習する。ここでは，mを用いて長さを表すとともに，1mという長さがどれくらいであるかという量感を身に付けさせることが大切である。単元の導入に当たっては，自分の両手を広げた長さを測る活動を通して，mへの関心を高めると同時に，1mという長さの感覚を養うようにする。

単元名	ふくしゅう(下p.88・p.89)	配当時間	1 時間
単元の目標			

標準的な展開例	02040303_001
---------	--------------

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 88 ・ p. 89]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 1000を こえる 数

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 十進位取り記数法に基づいて、10000までの数の表し方、数系列、大小を理解し、その数を読んだり、表したり、大小を比較したりすることができる。
 (2) 十進位取り記数法に基づいて、1000を超える数の表し方や大小を考えたり説明したりすることができる。
 (3) 十進位取り記数法によさに気付き、進んで10000までの数を読んだり、表したりしようとする

標準的な展開例

02040304_001

【準備等】位取り板、お金の模型、p. 94～95の数直線

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1000を超える数に興味をもち、数え方を工夫する。[p. 90・p. 91]</p> <p>○紙が何枚あるかを考える。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。 ★1000をこえる数のあらわし方やしくみをしらべていこう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1000までの数について調べたときの経験から同じものが10集まると次の位に進むことを想起させる。 100のまとまりや、1000のまとまりがいくつできるかを考えさせる。 <p>【評】1000を超える数を数える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>
<p>2 4位数の表し方を知り、数の構成について考える。[p. 92]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★二千三百五十六という数についてしらべよう。</p> <p>○4位数の仕組みを知り、読んだり書いたりする。</p> <p>○三千七十四を数字で書く。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習の1000までの数を復習しながら学習を進めるようにする。 十進位取り記数法について確認する。 位取り板で、計算棒等を提示しながら視覚的にも捉えやすくする。 「1000を○個、100を○個、10を○個、1を○個合わせた数」という言い方をさせる。 空位に0を書かないと、4位数にならなくなることに気付かせる。 <p>【評】4位数を読んだり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>3 10000までの数の構成や相対的な見方についての理解を深める。[p. 93]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★100がいくつあるかをもとに、数をしらべよう。 ○100を24個集めた数について考える。</p> <p>○3200は100を何個集めた数かを考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 100や1000を単位とする数の相対的な見方で捉えさせる。 形式的に考えさせるのではなく、お金の模型など具体物の操作活動を通して考えさせる。 「100が20個で□、100が4個で□、合わせて□」のように表現し、数の構成、分解について理解を深めさせる。 1000円札を100円玉10個に置き換えて考えさせる。 100を単位とした数の構成と分解について、理解を深めさせる。 <p>【評】4位数を100や1000を単位とした見方で捉える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
<p>4 10000という数を知る。[p. 94]</p> <p>○挿絵の●の数を数える。</p> <p>○「一万」の用語の意味とその書き方を知る。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★一万という数についてしらべよう。</p> <p>○10000より1小さい数と、9000にあといくつで10000になるかを考える。</p> <p>○10000は100を何個集めた数かを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数直線と数の構成を合わせて考えさせる。 ●の数を数えさせることにより、9999より大きい数については学習していないことに気付かせる。 1000を10個集めた数を「一万」と言い、「10000」と書くことを知らせる。 100のまとまりから確認させ、次に1000のまとまりを線で囲ませる。それが10個集まって次の位になることを意識させる。 9999から1増えると10000になることを押さえる。 数直線上でも確認し、数系列を捉えさせる。 <p>○100を単位にして10000という数の大きさを考えさせる。</p> <p>【評】10000までの数系列を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>5 10000までの数系列を考える。[p. 94・p. 95]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★数の直線についてしらべよう。</p> <p>○6500, 3700, 9900が数直線のどこに当たるのかを調べる</p> <p>○1000を超える数を、「ア」1000とび、「イ」100とび、「ウ」10とびで順に数える。</p> <p>○4位数の大小を比べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数直線では、1目盛りがいくつかをまず確認することが大切であることを想起させる。 <p>【評】10000までの数系列を考える活動を通して、「知識・理解」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1目盛りが100であることを確認する。 数直線を使って考えさせるとよい。 <p>○どの位の数に目を付ければよいのかを考えさせる。</p> <p>○>、<の使い方を確認する。</p>

<p>6 練習問題に取り組む。[p. 96]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「れんしゅう」に取り組む。 <p>7 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 97]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を重点的に行う。 <p>【評】練習問題を解く活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1000を超える数について分かったことや面白かったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	--

【 備 考 】
 本単元は，既に「100をこえる数」で学習した十進位取り記数法の仕組みを基にして，10000までの数について学習する。具体的に数えることを通して大きな数のイメージ作りを行うことが大切である。そして，数の表し方，数の大小，数の系列順序を既習事項を基にして身に付けさせるようにさせる。また，10000までの数を，100を単位としたり，1000を単位としたりして，相対的な大きさを捉えることも大切である。

単元名 はこの 形

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 箱の形について、頂点、辺、面などの形や数について理解し、工作用紙やひごなどを適切に選んで、箱を作ることができる。
 (2) 箱の観察や製作を通して、構成要素(頂点、辺、面)の形や数に着目することができる。
 (3) 工作用紙やひごなどを使って、進んで箱作りに取り組もうとする。

標準的な展開例

02040305_001

【準備等】お菓子等の箱、はさみ、セロハンテープ、工作用紙、ものさし、三角定規、ひご、粘土

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 箱の面を紙に写し取り、箱を構成する面の形や数について調べる。[p. 98～p. 100]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★はこの形をしらべて、はこをつくってみよう。 ○ものさしや三角定規を使って、箱の面の形を調べる。 <p>○箱の面を画用紙に写し取って、面の数を調べる。</p> <p>○同じ形の面がいくつずつあるかを調べ、話し合う。</p> <p>○箱の面の形や数についてまとめる。</p> <p>○写し取った面の形を切り取り、箱に貼って確認する。</p> <p>2 箱の形について、辺や頂点の数を調べる。[p. 101]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★辺やちょう点の数をしらべよう。 <p>○箱の形の辺や頂点の数について調べる。</p> <p>○箱の形の辺や頂点の数についてまとめる。</p> <p>3 工作用紙を使って、箱の形を作る。[p. 102]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★工作用紙をつかって、はこの形をつくろう。 ○工作用紙を使って、直方体を作る。 <p>○1辺が5cmの立方体を作り、面の形や数を調べる。</p> <p>4 ひごと粘土玉で箱の形を作り、辺や頂点を調べる。[p. 103]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★ひごとねんど玉がいくついるかを考えて、はこの形をつくろう。 ○ひごの長さや必要な本数、粘土玉の個数について考える <p>○直方体を作り、辺と頂点について調べる。</p> <p>○1辺が6cmの立方体を作り、6cmのひご、粘土玉がそれぞれ何個必要かを考える。</p> <p>5 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 104・p. 105]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家からお菓子や薬などの箱を持ち寄ることで意欲化を図る。 ・用語「面」について知らせる。 ・面の形は長方形や正方形であることに気付かせる。 ・長方形や正方形の定義を確認する。 ・児童の写し取った面を分類することで、同じ形が2つずつ3組ある場合、6つとも同じ場合、2つと4つになる場合の3通りがあることに気付かせる。 【評】箱の形を構成要素に着目して観察する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・長方形、正方形の用語を使い、まとめる。 ・形は異なるが、どの箱も面は6つあることを押さえる。 ・前時で使った箱等を利用し、具体物を操作しながら調べさせる。 ・既習の「三角形と四角形」を想起させ、立体の場合も「辺」や「ちょう点」という用語を使うことを知らせる。 ・前時で使った箱を利用するとよい。 ・同じ長さの辺がいくつずつあるのかも数えさせる。 【評】辺や頂点の数について調べる活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・辺は、長さは異なるが、全部で12、頂点は8つあることを押さえる。 ・同じ形の面がいくつずつ必要かを見通しをもたせてから作らせる。 ・面のつながりや位置関係については、時間をかけて考えさせる。 ・辺をつなげず、すべての面をバラバラに作らせる。 【評】箱を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・箱をしっかりと観察させ、見通しをもってから作る作業を始めるよう助言する。 ・ひごが辺、粘土玉が頂点になることに気付かせる。 ・形がゆがみやすいので気を付けさせる。 ・1つの頂点に三種類の長さのひごが集まっていることに気付かせる。 【評】必要なひごの本数や粘土玉の数を考え、箱の形を作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・立方体の辺、頂点の数を考えさせる。 【評】ひごと粘土玉で箱の形を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

○学習の振り返りを書く。

【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・箱の形について分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる

【 備 考 】

本単元では、箱の観察や製作を通して、面、辺、頂点に着目し、立体の構成要素について学習する。箱作りの活動を通して、自然に箱を構成する要素（面、辺、頂点）に着目したり、面と面とのつながりや位置関係を意識したりするようにさせていく。本単元の内容は、第4学年「直方体と立方体」の学習の基礎となるので、体験を重視し丁寧に指導する。

単元名 分数

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 分数を使うと二等分、四等分などの大きさを表せることを理解し、二等分、四等分の大きさを図で示したり、分数で表したりすることができる。
 (2) 二等分、四等分の大きさの表し方を知り、八等分などの表し方を考えることができる。
 (3) 日常生活で用いられる「半分」や「半分の半分」の大きさに関心を持ち、分数で表そうとする。

標準的な展開例

02040306_001

【準備等】分数教示用模型、正方形・長方形・円の形をした色紙、紙テープ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 紙を折ったり切ったりして、元の形の半分の大きさを作る。[p. 106・p. 107]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ピザやケーキ、お好み焼きなどを半分に分ける様子を見る。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★半分の大きさをつくり、そのあらわし方をしらべていこう。 ○色紙を折ったり、切ったりして、半分の大きさを作る。 <p>2 「二分の一」の表し方を知る。[p. 108]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙テープを半分に折る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★もとの大きさの半分の大きさをつくろう。 ○「二分の一」の用語の意味と、書き方を知る。 ○テープ図から「二分の一」の大きさになっているものを見付けたり、「二分の一」の大きさに色を塗ったりする <p>3 「四分の一」「八分の一」の表し方を知る。[p. 109]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙テープを半分の半分に折る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★もとの大きさの半分の半分の大きさについてしらべよう。 ○「四分の一」の用語の意味と、書き方について知る。 ○1/4のテープをさらに半分に折ると、どんな大きさになるか考える。 <p>4 1/2や1/3の大きさについて調べる。[p. 110・p. 111]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1/3の大きさについて知る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★1/2や1/3の大きさについてしらべよう。 ○12の1/2, 1/3の大きさについて調べる。 ○18の1/2, 1/3の大きさについて調べる。 ○12のときと18のときで、それぞれの1/2, 1/3の大きさが違う理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物の操作をすることで、半分に分けることを捉えやすくさせる。 ・りんごなどの形をした分数教示用の模型を活用してもよい。 ・正方形、長方形、円の紙を半分に分けることを考えさせる。 ・どんな形でも、ぴったり重なる同じ形が、2つできることに気付かせる。 【評】色紙を二等分する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・元の形や大きさが変わっても、元の大きさの半分はいつでも1/2と表されることをつかませる。 ・元の大きさと比べられるよう、2組用意したり、ペアで活動させたりするとよい。 ・分母と分子が逆にならないよう、丁寧に指導する。 ・つまづいている児童には、元の大きさを意識させるようにする。 【評】半分の大きさを表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・「〇つに分けた1つ分」であることを意識させる。 ・前時で使った紙テープを使ってもよい。 ・「分数」という用語についても指導する。 ・1/4のテープをさらに半分に折ると、元の長さをいくつに分けたことになるかを考えさせる。 【評】四等分、八等分の表し方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・元の大きさが変われば、その1/2, 1/3の大きさも変わることを押さえる。 ・〇の1/2, 1/3について考え、〇が変わるとどうなるのかを予想してから調べさせる。 ・●の図をいかたり、ワークシートを用意したりして、視覚的に捉えやすくさせる。 ・12の時より数が増えていることに気付かせる ・元の大きさが違うと、1/2や1/3の大きさも違うことを押さえる。 ・2倍や3倍の大きさも変わってくることも伝える。 【評】1/2や1/3の大きさについて調べ、比べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【備 考】

本単元では、日常生活の中でもよく使われる、1/2, 1/4などの簡単な分数の大きさや表記の仕方について学習する。本単元の学習内容は、第3学年で扱う1/3, 2/5などの分数の学習につながるため、半分に切る、紙テープを折るなどの具体物の操作を通して、分数で表すことの意味や、表し方について確実に理解させたい。

単元名	何番目	配当時間	1 時間
単元の目標	(1) 順序数と集合数との違いについて理解し、適切に図などに表すことができる。 (2) いろいろな順序数の問題を、図にかいて考えることができる。 (3) 具体的な場面で、順序数や集合数を使って、位置や人数などを表そうとする。		

標準的な展開例

02040307_001

【準備等】絵カード（または 数図ブロック）

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 順序数の問題を、図にかいて考える。[p. 112・p. 113] ○「みんなで考える問題」を読み、題意をつかんで答えを予想する。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★図にかいて考えよう。 ○図にかいて考え、説明をする。 ○「練習問題」に取り組む。	・初めは図をかかせず、頭で想像しながら考える時間を設ける。 ・図がかけない児童には、教科書の図を使わせるようにする。 ・必要に応じて個別指導を行う。 【評】図にかいて答えを求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元では、式に表すことよりも、頭の中で数量関係を捉えて答えを予想したり、図にかいて数量関係を明らかにしたり、順序数の重なるの部分に着目させたりすることに重点を置いて指導する。

単元名 よみとる 算数

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 身近な問題について、適切に情報を選択する仕方を理解し、問題を解決することができる。
 (2) 情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。
 (3) 身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。

標準的な展開例

02040308_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日記から必要な情報を選択し、問題を解く。[p.114・p.115]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 日記からいろいろなことをよみとって、もんだいに答えよう。 ○ 日記を読み、牧場に着いてから帰るまでの時間についての問題に取り組む。 ○ 搾った牛乳のかさについての問題に取り組む。 ○ 馬にあげる干し草についての「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な情報に印を付けながら読み取らせる。 ・ 問題を解くのに必要な情報がどこに書かれているかを確認させる。 ・ 搾った牛乳の量を比べ、答えの根拠を数値を使って説明させる。 ・ どのような情報が必要かを考えさせ、一頭の馬が一日あたり何杯分の干し草を食べるかを日記から読み取らせる。 <p>【評】 必要な情報を読み取って、問題を解いたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元では、日記を読んで、その中に書かれている情報を適切に選択し、問題を解決していくことを学習する。かけ算や長さなどの既習事項について、日常生活での活用場面を更に広げられるようにする。

単元名 もう すぐ 3年生
単元の目標

配当時間 3時間

標準的な展開例

02040309_001

【準備等】 定規，方眼紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～3 復習問題に取り組む。[p. 116～p. 120] ○ 「もうすぐ3年生」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。 ・ 教師自作の問題も用意しておくとい。

【 備 考 】

単元名 わくわく算数学習

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 100の単位にすることを理解し、(何百) + (何百) や (千何百) - (何百) の計算をすることができる。
- (2) 絵や図を用いて、100の位を基に計算すれば簡単に和や差を求められることを考えることができる。
- (3) 100を単位にして計算することのよさが分かり、進んで活用しようとする。

標準的な展開例

03040101_001

【準備等】お金の模型(100円玉)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (何百) + (何百) や (千何百) - (何百) の計算を100を単位にして計算する。[上p. 6～p. 9]</p> <p>○花束と花瓶を合わせた値段を求める問題を読み、題意を把握させる。</p> <p>★100円玉を使って、計算のしかたを考えよう。</p> <p>○$700+400$の計算の仕方を考える。</p> <p>○$1200-700$の計算の仕方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・「合わせる」という言葉に注目させ、式を立てた後、その式でよい理由を説明させる。</p> <p>・第2学年での学習を想起させ、100が何個分になるかを考えさせる。</p> <p>【評】計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・計算の仕方を考えられない児童には、1000円を100円玉にくずして考えさせる。</p>

【備 考】

本単元では、3桁のたし算・ひき算の準備として何百のたし算・ひき算について考える。百を単位とした数の相対的な見方については、第2学年でも学習してきており、 $200+400$ は100が $2+4$ 、 $800-400$ は100が $8-4$ で計算できることを学習している。本単元では、たし算のひき算の筆算の準備として、100を単位にして、 $700+400$ や $1200-700$ など、繰り上がりや繰り下がりのある計算を行う。一方的に100円玉を見せて百の位同士のたし算やひき算になることを教えるのではなく、第2学年での数の相対的な見方に基づく計算を想起させ、100を単位にすれば既習の計算で解決できるということを児童自ら見いださせて、単位の考え方のよさを味わわせたい。

単元名 九九の表とかけ算

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 10のかけ算, 0のかけ算の意味を理解し, 計算することができる。
 (2) かけ算のきまりを用いて, 10や0のかけ算の仕組みなどを考えることができる。
 (3) 九九表からきまりを見付け, それを進んで計算に用いようとする。

標準的な展開例

03040102_001

【準備等】九九の表の拡大図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 九九の表に興味をもち, 数の並び方のきまりを見付ける [p. 10・p. 11]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 乗法九九を唱える。 ○ かくれた数を乗法のいろいろなきまりを使って考える。 <p>○ 九九の表を見て気付いたことを発表する。</p> <p>○ 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 九九の表を使って, かけ算についていろいろ調べていこう。</p> <p>○ 九九の表を使って, 数当てゲームをする。</p> <p>2 (1位数)×10, 10×(1位数), 10×10の計算をする。 [p. 12]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「おはじき入れ」で入った個数を表を基に確かめる。 ○ 結果を表に整理する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 10のかけ算の答えのみつけ方を考えよう。 ○ 3×10の答えについて考える。 ○ 10×3の答えについて考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 (1位数)×0, 0×(1位数), 0×0の計算をする。 [p. 13]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 0のかけ算の答えのみつけ方を考えよう。 ○ 5×0の答えについて考える。 ○ 0×2の答えについて考える。 ○ 0×(1位数), (1位数)×0, 0×0についてまとめる ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 九九の式から, かけられる数やかける数を見付ける。 [p. 14・p. 15]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 九九表を見て $6 \times \square = 24$, $\square \times 7 = 21$ の, \square に当てはまる数を考える。 ○ 九九表を見ないで \square に当てはまる数を見付ける方法を考える。 ○ \square に当てはまる数の見付け方を発表する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 昔の九九の表を見て, 昔と今の九九の違いを話し合う。 <p>5 単元を振り返り, 練習問題に取り組む。 [p. 16～p. 18]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 ○ 学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 九九の表を用いて九九の復習をしながら, 被乗数と乗数の関係やきまりなどを確かめる。 ・ 乗数が1ずつ増減するときの積の変化に着目して考えさせたり, 交換法則で考えさせたりする。 【評】乗法のきまりを見付ける活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・ p. 18「九九のまど」を活用させるとよい。 ・ 累加の考えを活用し, 九九の範囲から出たかけ算について扱う。 ・ ことばの式と関連付けるため, 点数とその入った個数を確認させる。 ・ 言葉の式で (点数) × (入った個数) = (得点) となることを確認させる。 ・ 3×9 と比較させ, 右に1つ移ると3増えることから $3 \times 10 = 3 \times 9 + 3$ の考え方を確認させる。 【評】3×10の答えを考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 10円玉などを使って累加の方法で考えさせたり, 交換法則を使って考えさせたりする。 ・ 乗数, 被乗数の一方が0の場合も乗法が用いられることを確認する。 ・ $5 \times 0 = 5 \times 1 - 5$ と考えて0になることを確認させる。 ・ 0の2つ分と考えて0になることを確認させる。 ・ 九九の表を使って, 答えが0になる理由を理解させる。 【評】式に0のあるかけ算を解く活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・ $6 \times \square = 24$, $\square \times 7 = 21$ などの問題を九九の表から調べさせるとよい。 ・ p. 18の九九表を使って, \square に当てはまる数字を確認する。 【評】\square に当てはまる数を見付ける活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 何の段の九九を使って見付けたかを説明の根拠にさせる。 ・ 個別指導を通して, 単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし, 不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・ 九九を使って分かったことやできるようになったこと, もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元では、第2学年で学習した九九の表を利用して乗数の増減に伴う積の変化や、10と0のかけ算を学習する。10のかけ算では乗数を1つずつ増やし、積が被乗数分ずつ増えることから理解させる。0のかけ算では乗数を1つずつ減らし、積が被乗数分ずつ減ることから理解させる。また、乗法の乗数や被乗数を求める学習においても九九の表から乗法の交換法則を利用し求めさせる。

単元名 わり算

配当時間 10時間

単元の目標 (1) 等分除, 包含除の意味や, 除法の適用場面を理解し, 式を立て, 答えが九九にない除法の答えを求めることができる。
 (2) 除法の計算の仕方について, 乗法を基にして考えることができる。
 (3) 同じ数ずつに分ける計算のよさに気づき, 除法を用いて, 日常生活上の問題の処理に役立てようとする。

標準的な展開例

03040103_001

【準備等】数図ブロック, 紙テープ, 問題カード, お金の模型 (1円玉, 10円玉)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 数図ブロックを使って同じ数ずつ分ける操作を通して, 単元の学習課題をつかむ。[p. 19~p. 22]</p> <p>○挿絵の場面について話し合う。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★数図ブロックを使って, 1人分は何こになるかを調べよう。</p> <p>○数図ブロックを使って, 問題解決を行い, 解決の仕方を説明する。</p> <p>○わり算の式の表し方, 読み方を知る。</p> <p>・$12 \div 3 = 4$ ・12わる3は4</p> <p>○20個のクッキーを4人で等しく分ける問題に取り組む。</p> <p>2 等分除の問題に取り組む。[p. 23]</p> <p>○「みんなで考える問題」を読み, 式を立てる。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★数図ブロックを使わないで答えをみつけることを考えよう。</p> <p>○$24 \div 3$の答えの見付け方を考える。</p> <p>○36本の鉛筆を9人に等しく分ける問題に取り組む。</p> <p>○14cmのテープを2本に等しく分ける問題に取り組む。</p> <p>3 包含除の問題に取り組む。[p. 24・p. 25]</p> <p>○12個のあめを3個ずつに分けたときの人数を求める方法について考える。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★数図ブロックを使わないで答えをみつけることを考えよう。</p> <p>○$3 \times \square = 12$の\squareを求めることから, 除法で求めればよいことを知る。</p> <p>○20個のクッキーを1人に4個ずつ分ける問題に取り組む。</p> <p>○14cmのテープを1本2cmずつ切る問題に取り組む。</p> <p>4 除法の計算の仕方を考える。[p. 26]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★$15 \div 3$の計算のしかたをくらべよう。</p> <p>○2つの問題のちがいに注目しながら, 立式をする。</p> <p>○\squareを使ったかけ算の式($\square \times 3 = 6$, $3 \times \square = 6$)に直し, $15 \div 3$の計算の仕方を考える。</p> <p>○2つの問題がどちらもわり算で求められ, 九九を使って求められることをまとめる。</p>	<p>・挿絵を見て, いちごが同じ数ずつに分けられていないことに気付かせ, みんなで仲良く分けるために, 同数ずつ分けることを意識させる。</p> <p>・挿絵の場面を見て, いちごが同じ数ずつに分けられていないことに気付かせる。</p> <p>・数図ブロックを使って, 等しく分けるという意味を説明をする。</p> <p>・\divは, 「$-$」→上の「\cdot」→下の「\cdot」の順に書くことを確認する。</p> <p>・数図ブロックを使わずに答えを求めさせることをねらいとしているが, 児童の思考を助ける段階でブロックを用意し, 視覚的にとらえさせてもよい。</p> <p>・除法の意味や表し方について想起させる。</p> <p>・前時に数図ブロックを使って答えを求めたことを想起させる。</p> <p>・1人分の数の3人分が24個と考えると, $\square \times 3 = 24$という式を導く。$12 \div 3 = 4$は, $3 \times 4 = 12$であることも参考にさせる。</p> <p>・除数の段の九九で答えを見付けることに気付かせる。</p> <p>・テープを実際に切り, 2つに分けて考えさせる。</p> <p>【評】等分除の問題を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・数図ブロックを用意し, 教科書付録の皿に分けて考えさせる。</p> <p>・数図ブロックで配る様子を表した時, 同じブロックの数がなることと, かけ算とを関連付ける。</p> <p>・1人分3個の何人分が12個になるかを考え, $3 \times \square = 12$という式を導く。</p> <p>・1人分4個の何人分が20個になるかを考え, $3 \times \square = 20$という式を導く。</p> <p>・児童の実態に応じ, テープを実際に2cmずつに切って考えさせる。</p> <p>【評】包含除の問題を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・作問活動を通し, 等分除と包含除について再確認させた後, 除法の計算の仕方を考えさせる。</p> <p>・$15 \div 3$の式になる2つの異なる問題を読ませ題意を把握させる。</p> <p>・除数の単位が違いうことに注目させながら, 2つの問題がともに$15 \div 3$になることを確認する。</p> <p>・どちらも, \squareは$15 \div 3$という式で表すことができ, 3の段の九九を使って求めることができることを確認させる。</p> <p>【評】計算の仕方を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・2つの問題の単位や, かけ算にしたときの\squareの位置が異なることについてふれる。</p>

- 「練習問題」に取り組む。
- 5 除法を利用して解く文章問題を作る。[p. 27]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★問題カードをつくりをしよう。
 - に言葉を付け足して問題を完成させる。
 - 身の回りからわり算になる問題を作って、問題カードを作る。
 - できた問題カードを友達同士で発表し合う。
- 6 練習問題に取り組む。[p. 28]
 - 「練習」に取り組む。
- 7 除法と加減法の組み合わせさせた3要素2段階の問題について考える。[p. 29]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★じゅんに考えていこう。
 - 30個のいちごを1皿5個ずつ分け、皿が4枚余ったときの皿の枚数を問題を考える。
 - あさがおの種21粒を1鉢に3粒まき、2鉢をとりにあげた時の鉢の数を求める問題に取り組む。
 - 18人の人が2人ずつ乗り物に乗り、5台余っている時の乗り物の台数を求める問題に取り組む。
- 8 (一の位が0の2位数) ÷ (1位数) と、 $0 \div$ (1位数) の計算の仕方を考える。[p. 30]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★答えが九九にないわり算の答えのもとめ方を考えよう。
 - $40 \div 4$ と $0 \div 4$ の式を書き、答えの求め方を考える。
 - 「練習問題」に取り組む。
 - $60 \div 6$ の式になる等分除と包含除の文章問題に取り組む
- 9 (一の位が0でない2位数) ÷ (1位数) の計算の仕方を考える。[p. 31]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★答えが10をこえるわり算について考えよう。
 - 3個で60円のチョコレートの1個分は何円か求める。
 - 「練習問題」に取り組む。
 - $69 \div 3$ の計算の仕方を考える。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 10 単元を振り返り、練習問題に取り組む。[p. 32・p. 33]
 - 「たしかめよう」に取り組む。
 - 学習の振り返りを書く。

- ・除数の段の九九を唱えて答えを求めさせる。
- ・たくさんの問題を作り、交流することで様々な問題場面に出会わせる。
- ・挿絵の中にある、余った3このお菓子をどのように取り扱うかを考えさせる。
- ・問題の中の2人が何に注目して問題を作っているかを気付かせる。
- ・2種類(等分除・包含除)の問題ができない児童には、問題のどこに注目するとよいか支援を行う。
- 【評】問題カード作りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・できた友達同士でカードを交換して解かせる
- ・個別指導を中心に、定着を図る。
- ・除法の計算問題や文章問題に取り組ませる。
- 【評】除法の問題を式に表したり、答えを求めたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・式は1つにまとめなくてもよいが、式に使われている数の意味を確かめさせることが大切である。
- ・これまでの問題とは違って、問題文の中に3つの数が出てくることに注目させる。
- ・数図ブロックを操作させ、演算の場面は段階ごとに確認させるようにする。
- 【評】順序を考えながら問題を解決する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・児童の実態に応じて、種をまいた鉢の数がいくつになるか考えるように助言する。
- ・ $a \div b + c$, $a \div b - c$ のどちらのパターンか、図をかくて考えさせる。
- ・10円玉の模型を利用して、「わられる数」を分けやすくして答えを導かせる。
- ・色紙がない場合はどのように式を立てたり、計算をしたりすればよいのかを考えさせる。
- ・ $4 \times \square$ の考え方をを使うことで求められることに気付かせる。
- ・10円玉の模型を提示し、児童の取り組みへの支援を行う。
- ・どちらも $60 \div 6$ で表すことができるが、答えの単位が異なることに気付かせる。
- 【評】文章問題の答えの単位を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・10円玉と1円玉の模型を利用して、「わられる数」を分けやすくして答えを導かせる。
- ・九九を使って解くにはどのようにすればよいのかを考えさせる。
- ・10円玉の図を提示し、ガム1個あたり10円玉はいくつになるか確かめる。
- ・分からない児童には10円玉の図を再度利用しわり算の仕方を振り返らせる。
- 【評】(2位数) ÷ (1位数) の問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価をする。
- ・10円玉と1円玉の図を使い、それぞれを3つに分けることで答えが導き出せることを確認する。
- ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。
- ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。
- 【評】問題に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・わり算について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元で初めて除法を学習するので、前単元の九九の表など、乗法との関係を考慮しながら、除法の意味について理解させることが大切である。そして、除法には、等分除と包含除があることを具体物や半具体物を用いた活動などを取り入れて理解できるようにしていく必要がある。

単元名 図を使って考えよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 線分図による数量の関係を図に表す方法を理解し、順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の関係を図に表すことができる。
- (2) 順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の問題の解決方法が説明できる。
- (3) 絵や図、線分図を使って意欲的に問題を解決しようとする。

標準的な展開例

03040104_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 加法の順思考と減法の逆思考を組み合わせた問題($\square - (a + b) = c$)を解く。[p. 34・p. 35]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○はとが5羽と8羽飛んでいき、残りが17羽の時の初めのはとの数を求める問題場面を図に表す。 ○考え方を発表し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・$5 + 8 = 13$, $17 + 13 = 30$ ・$17 + 8 = 25$, $25 + 5 = 30$ ○みかんを5個ずつ2人にあげたら30個になった時の初めのみかんの個数を求める。 <p>2 加法の順思考と加法・減法の逆思考を組み合わせた問題($(a + b) + \square = c$)を解く。[p. 36・p. 37]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○30円のあめと40円のガムと、ラムネを買い、全部で90円だったときのラムネの値段を求める問題に取り組む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★図にかいて、ふえた数のもとめ方を考えよう。 ○図のかき方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ①あめとガムの代金を図中にかきこむ。 ②ラムネの代金を図中にかきこむ。 ③合計金額を図中にかきこむ。 ○考え方を発表し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・$30 + 40 = 70$, $90 - 70 = 20$ ・$90 - 30 = 60$, $60 - 40 = 20$ ○$13 + 8 + \square = 28$になる文章問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵と照らし合わせながら題意を捉えさせ、図や線分図を描いて考えさせる。 ・絵や図・線分図を手がかりにして、数量関係を正確に捉えさせる。 ・教科書の話形を示し、図を基にして説明ができるようにする。 ・線分図をかいて考えさせる。順思考の段階において、乗法で考えた児童がいたら、それも認める。 【評】数量関係を図に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・式の表す意味を自分の言葉で表現させることにより、考えを深めさせる。 ・絵や線分図を手掛かりにして、数量関係を正確にとらえさせる。 ・分かっている数値を絵などから正しく選択させる。 ・文章にしたがって数量関係を線分図に表させる。 ・教科書の話形を示し、作成した線分図を手掛かりに説明ができるようにする。 【評】図を利用し、解き方を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・各自で線分図をかいて考えさせる。

【 備 考 】

四則の逆思考の問題や、3要素2段階で順思考を組み合わせた問題については既に学習している。

本単元では、順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の問題を取り扱う。まず順思考で2つの要素を結び付けて新しい要素を作り出し、その後、2要素の逆思考に帰着させれば、問題を解決できる。具体的な事実に基づいて数量関係をつかみ、それを解きほぐしていくようにさせるとよい。そのため、線分図を手掛かりに数量の関係を正確にとらえさせることが大切である。

単元名 たし算とひき算の筆算

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 十進位取り記数法の理解を深め、(3位数)±(3位数)や簡単な(4位数)±(4位数)を繰り上がりや、繰り下がりに気を付けて、正しく筆算で計算することができる。
- (2) 100を単位とする計算の仕方を考えることができるとともに、既習の2桁の計算の仕方を基に(3位数)±(3位数)の筆算の仕方を考えることができる。
- (3) 筆算のよさが分かり、進んで活用しようとする。

標準的な展開例

03040105_001

【準備等】計算棒の図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (3位数)+(3位数)で、1回繰り上がりのある筆算の仕方を考える。[p.38・p.39]</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。 ★3けたの数の筆算のしかたを考えていこう。</p> <p>○154+237の筆算の仕方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 桁数が増えても既習の筆算の場合と計算の仕方は同じなので、第2学年で学習した(2位数)+(2位数)=(3位数)になる場合の筆算の仕方を想起させ、それを基に計算の仕方を見付けさせる。 文房具を買いに行く場面から、買い物などでは3位数のたし算を多く使うことを気付かせる。 繰り上げた「1」をメモする位置を学年で統一しておいた方がよい。(例：154の「5」の上) 一の位の繰り上がりに注意させる。 <p>【評】(3位数)+(3位数)の1回繰り上がりのある筆算を行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>2 (3位数)+(3位数)で、2回繰り上がりのある筆算の仕方を考える。[p.40]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★十の位にくり上がりがある筆算のしかたを考えよう。</p> <p>○265+178の筆算の仕方を考える。</p> <p>○538+267と508+292の筆算に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第2学年で学習した(2位数)+(2位数)=(3位数)で繰り上がりがある場合の筆算の仕方を想起させ、それを基に計算の仕方を見付けさせる。 問題文から一の位も、十の位も、和が十より大きくなることに気付かせる。 児童の実態に応じて、計算棒を操作しながら確かめさせる。 和の各位で空位になることがあることに気付かせる。 個別指導を重点的に行い、定着を図る。 <p>【評】(3位数)+(3位数)の2回繰り上がりのある筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>3 (3位数)+(3位数)=(4位数)になる場合の筆算の仕方を考える。[p.41]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★百の位にくり上がりがある筆算のしかたを考えよう。</p> <p>○724+635, 634+589の筆算の仕方を考える。</p> <p>○753+264, 856+149の筆算に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習の加法の筆算の仕方を基に、計算の仕方を自分なりに見付けさせる。 「みんなで考える問題」を読ませ、百の位の和が十より大きくなることに気付かせる。 百の位だけ繰り上がりがある場合と、その他の位にも繰り上がりがある場合とを見極めながら考えさせる。 空位に注意させる。 連続して空位が生じることもあるので、注意させる。 <p>【評】(3位数)+(3位数)=(4位数)の筆算を行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>4 (3位数)-(3位数)で、十の位に繰り下がりのある筆算の仕方を考える。[p.42・p.43]</p> <p>○「みんなで考える問題」を読み、式を立てる。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★3けたの数をひくひき算の筆算のしかたを考えよう。</p> <p>○324-182の筆算の仕方を考える。</p> <p>○172-154, 235-184の筆算に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第2学年で学習した(2位数)-(2位数)で繰り下がりがある場合の筆算の仕方を想起させそれを基に計算の仕方を自分なりに見付けさせる。 全体から残りを求める問題であることから、減法であることに気付かせる。 一の位の数がひけないことから、十の位が繰り下がることに気付かせる。 十の位が空位の答えになる場合があることに注意させる。 <p>【評】(3位数)-(3位数)で、十の位に繰り下がりがある筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>5 (3位数)-(3位数)で、2回繰り下がりのある筆算の仕方を考える。[p.44]</p>	<ul style="list-style-type: none"> (3位数)-(2位数)=(2位数)で繰り下がりがある場合の筆算の仕方を想起させ、それを基に計算の仕方を自分なりに見付けさせる。

<p>○本時の学習課題をつかむ。 ★一の位も十の位もくり下がりがある筆算のしかたを考えよう。 ○$321-185$の筆算の仕方を考える。</p> <p>○$321-185$の答えが正しいかどうかを確かめる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>6 (3位数)－(3位数)で、繰り下がりが2桁に及ぶ筆算の仕方を考える。[p. 45]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★ひかれる数の十の位が0で、くり下げられないときの筆算のしかたを考えよう。 ○$302-165$の筆算の仕方を考える。</p> <p>○$300-126$, $1000-368$の筆算に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 加法と減法の筆算の練習問題に取り組む。[p. 46] ○「練習」に取り組む。</p> <p>8 (4位数)±(4位数)の筆算の仕方を考える。[p. 47]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★3けたの数の筆算をもとにして、4けたの数の筆算のしかたを考えよう。 ○$5678+1414$, $8472-7654$の筆算の仕方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>○たし算やひき算の筆算の問題をいろいろつくり、計算する。</p> <p>9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 48・p. 49] ○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで考える問題」を読ませ、一の位同士や十の位同士がひけないことに気付かせる <p>【評】(3位数)－(3位数)の筆算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひかれる数と差をひっくり返してたし算を行い、確かめをする。 ・繰り下がりの様子をメモすると、間違いが少なくなることに気付かせる。 ・(3位数)－(2位数)=(2位数)で被減数の十の位が空位である場合の筆算の仕方を想起させ、それを基に計算の仕方を自分なりに見付けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・十の位から繰り下げることができないことに気付かせ、百の位から繰り下げるにはどうすればよいか思い出させる。 ・ひかれる数の十の位と一の位が空位であることに注意させる。 ・十の位が空位の時は、百の位から繰り下げることに気付かせる。 <p>【評】(3位数)－(3位数)で、繰り下がりが2桁に及ぶ筆算を行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を重点的に行う。 <p>【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の加法の筆算の仕方を基に、計算の仕方を自分で見付けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・(3位数)+(3位数)=(4位数), (3位数)－(3位数)=(2位数)になる場合の筆算の仕方を想起させ、計算の仕方を自分で見付けさせる。 ・繰り上がり、繰り下がり注意到して計算させる。 ・答えまで自分で求めさせる。 ・できた問題は友達と交換して解かせる。 <p>【評】4桁同士の加減法の問題をつくる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たし算とひき算の筆算について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみようなどを書かせる。
---	---

【 備 考 】
本単元では、既習の2位数同士の計算の手順を基にして、3位数同士の加減計算の仕方を考えさせることが大切である。また、筆算形式の指導においては、繰り上がりや繰り下がりの条件や空位の扱いが出てくるので、段階を追って系統的に指導していく必要がある。また、4位数同士の計算の学習では、児童に計算の仕方を考えさせ、それを基にまとめることで、3位数までの計算方法と変わらないことを理解させる方法もある。本単元についてはプログラミング的思考を扱うこともできる。

単元名 ふく習[上p.50・p.51]

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

03040106_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p.50・p.51]	・個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 時こくと時間

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 数直線などを用いて時間の仕組みを理解し、必要な時刻や時間を計算によって求めたり、秒の単位を用いて測定したりすることができる。
 (2) 時間の仕組みを基に、時刻や時間の計算の仕方を考えることができる。
 (3) 時刻や時間の計算のよさや秒に関心を持ち、進んで身の回りの時間の計算をしようとする。

標準的な展開例

03040107_001

【準備等】時計の模型、ストップウォッチ、秒針付き時計

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 時刻と時間について考える。[p. 52・p. 53]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★時こくや時間について調べていこう。 ○町探検の目的地に着いた時刻や目的地にいる時間を求める問題に取り組む。 ○ある時刻の何分後かを求める問題に取り組む。 ○図書館の開いている時間を求める問題に取り組む。 <p>2 着く時刻と、それまでにかかる時間を知って、初めの時刻を求める。[p. 54]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★時こくのもとめ方を考えよう。 ○公園を出発するとよい時刻の求め方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 ○60分を超える時間を何分と表したり、何時間何分と表したりする問題に取り組む。 <p>3 短い時間の表し方について考える。[p. 55]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○十二支を全て言うのにかかる時間を調べる。 ○秒針、時間の単位「秒」「1分=60秒」について知る。 ○ストップウォッチとその使い方を知る。 ○60秒を超える時間を、何秒や何分何秒と表す問題に取り組む。 ○ゲームを通して1秒や1分の感覚をつかむ。 <p>4 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 56・p. 57]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時計の模型を操作させ、時間の経過をつかませる。 ・町探検の計画を立てる問題の挿絵を読ませ、学習課題を把握させる。 「何時何分」が時刻で、「時刻と時刻の間」が時間であることを確認する。 ・「何分」が60分を超える場合の時間の表示の仕方を確認する。 ・解決に困っている児童には、線分図を利用して考えるように助言する。 【評】時間を求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・求めたい時間を正午を基準に分けて考えさせる。 ・出発する時刻と到着する時刻という、時の課題との違いを確認する。 ・解決に困っている児童には、10分刻みの線分図を利用して考えさせる。 【評】時刻を求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・解決に困っている児童には、直前の問題を再び想起させ、解き方を確認させる。 ・1時間=60分であることを確認し、そこから時間や分に変換する方法を伝える。 ・50m走のタイムなど、短い時間を計測した経験を想起させる。 ・十二支を全て言う活動から、短い時間を表す時に「いち・に・さん」というように秒に似たリズムで数えていることに気付かせる。 ・一番速く動く針が「秒針」、小さい目盛り1つ分が「1秒」であることを確認する。 ・ストップウォッチの使い方を説明する。(スタート、ストップ、リセット) ・何時間何分を表す時と同じく、60を基にして分と秒を変換することを指導する。 【評】60秒を超える時間を、何秒や何分何秒と表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・目をつぶって時間を計ったり、リズムを取るゲームを行い、楽しんで時間感覚をつかませる。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を理解する。 ・時刻と時間について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみいたいことなどを書かせる。

【備 考】

本単元では、児童の身近な生活との関連を考慮して、日常生活の中から場面を取り出し、時刻と時間を楽しむ学習できるようにすることが大切である。第3学年では時計の針の動きや数直線を使って時刻や時間が求められるように、時間の経過や連続性を体感させたい。また、ゲームなどを通して1秒間や1分間の感覚をつかませたい。

単元名 一万をこえる数

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 一億までの数の仕組み、読み方、書き方や、大きな数の大小の見分け方を理解し、数の仕組みに着目して、一億までの数を読んだり書いたりすることができる。
- (2) 一万の位までの位取りと同じ仕組みで、一億の位までの仕組みを説明することができるとともに、千万の位までの数の相対的な見方に基づく加減計算の仕組みを考えることができる。
- (3) 一億までの数の仕組みについて関心をもち、生活の中から大きな数を探そうとする。

標準的な展開例

03040108_001

【準備等】位取り板、位取り板を印刷したプリント（児童数分）、お金の模型（5円玉、10円玉）、数直線図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、一万の位までの数について知る。[p. 58～p. 60]</p> <p>○教科書の写真を見て、マラソンの完走者の数を予想する</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★一万をこえる大きな数の表し方やしくみについて調べていこう。</p> <p>○「みんなで考える問題」に取り組む。</p> <p>○一万の位について知る。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・テーマパークの入場者数や、ゲームの売り上げ高など、児童が興味をもてそうな話題から取り上げる方法もある。</p> <p>・1000の束が10束でどんな数になるか想起させる。</p> <p>【評】身近な出来事の中から大きな数を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・位取り板を用いることで、三万四千四百十三が、一万を3個、千を4個、百を4個、十を1個、一を3個合わせた数であることに気付かせる。</p> <p>・数の大きさをイメージしやすいように、図や絵で表現させるとよい。</p> <p>・漢数字を数字に直す際、万、千、百、十、のすぐ右側に、斜線などの区切りマークをつけて考えさせるとよい。</p> <p>・一の位から1ずつ確かめ、丁寧に読ませる</p>
<p>2 千万の位までの数の読み方、書き方を知る。[p. 61]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★大きな数のよみ方を知ろう。</p> <p>○十万の位、百万の位、千万の位について知る。</p> <p>○千万までの数の読み方、書き方を知る。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・表の数を提示し、気付いたことを話し合わせる。</p> <p>・万の位が一、十、百、千の繰り返しになっていることの便利さに気付かせる。</p> <p>・位取り板を使わせながら、読み方、書き方について理解させる。</p> <p>・空位のある場合の読み方、書き方に注意させる。</p> <p>【評】千万の位までの数を読んだり、書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・千万の10倍の大きさが一億であることを知らせる。</p>
<p>3 一億の位までの数の仕組みについて知る。[p. 62]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★大きな数のしくみを調べよう。</p> <p>○教科書の表を使って一億の位について知る。</p> <p>○数字と漢字を使って表す書き方について知る。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・一万までの数の仕組みを基に、数字が書かれた位置で位が決まり、隣の位との間には10倍の関係があることを理解させる。</p> <p>・数字と漢数字を使って表すと読みやすいことに気付かせる。</p> <p>・分からない児童には、表を使って各位を確認させる。</p> <p>【評】大きな数の成り立ちの問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>4 大きな数を位毎に分けて考え、その成り立ちを理解する [p. 63]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★大きな数を位ごとに分けて考えよう。</p> <p>○13198886を位ごとに分けて、表現する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・大きな数を位に分け、それぞれ何個ずつが合わさった数なのかを考えさせる。</p>
<p>5 大きな数の大小の見分け方を考える。[p. 64]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★大きな数の大小のくらべ方を考えよう。</p> <p>○数の大きさを比べる方法を考える。</p> <p>○大小を表すしるしとして不等号があることを伝える。</p>	<p>・それぞれの位の数がいくつずつあり、それが合わさった数であることを理解させる。</p> <p>【評】大きな数の成り立ちを書いたり、話したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・空位の数字が0になることを指導する。</p> <p>・2数の大小比較をさせた後、不等号（＜、＞）を使って表させる。</p> <p>・表の数を提示し、どちらが多いか予想させる</p> <p>・どの位の数を比べたらよいか考えさせる。</p> <p>【評】数の大きさを比べる方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・不等号（＜、＞）を用いて大小関係を表す方</p>

<p>○数の大小を考える問題に取り組む。</p> <p>6 1目盛りの大きさを考えて数直線の数値を読んだり、数値を当てはめたりする。[p. 65]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★1目もりの大きさに気をつけて数直線をよもう。</p> <p>○数直線上の数値の読み方を考えて読む。</p> <p>○数直線の性質について知る。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 相対的な大きさに基づいた加減法について考える。[p. 66]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★大きな数の計算のしかたを考えよう。</p> <p>○$14000+8000$と$14000-8000$の計算の仕方を考える。</p> <p>○大きな数のたし算・ひき算の問題に取り組む。</p> <p>○$35+29=64$、$62-25=37$を使って、大きな数の計算問題に取り組む。</p> <p>8 10倍した数について考える。[p. 67]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★10倍した数について考えよう。</p> <p>○20×10の計算の仕方について考える。</p> <p>○25×10の計算の仕方について考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>9 100倍、1000倍した数について考える。[p. 68・p. 69]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★100倍、1000倍した数について考えよう。</p> <p>○25×100と25×1000の計算の仕方について考える。</p> <p>○100を100倍した数はいくつか考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>○10万という数について具体的に考える。</p> <p>10 10でわった数について考える。[p. 70・p. 71]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★10でわった数について考えよう。</p> <p>○$50\div 10$の計算の仕方について考える。</p> <p>○$250\div 10$の計算の仕方について考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>11 練習問題に取り組む。[p. 72]</p> <p>○「練習」に取り組む。</p> <p>12 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 73]</p> <p>○「たしかめよう」に取り組む。</p>	<p>法について伝える。</p> <p>・理解が不十分な児童には、桁数や上の位に注目して大小を判断すればよいことを助言する</p> <p>・基準の数が10目盛りでいくつ増えているかを基にして、1目盛りの大きさを考えさせる。</p> <p>・10目盛りで10000であることから、1目盛りが1000であることを理解させる。</p> <p>・右に行くほど数値が大きくなることや、1目盛り数値を考えて読むことが大切であることを指導する。</p> <p>・10目盛りで増える値が数直線によって異なることに気付かせる。</p> <p>【評】数直線に当てはまる数を書く問題を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・千以上の2数の加法、減法について考えさせる。</p> <p>・最初に千のまとまりとして考えさせ、千の位の位に注目することに気付かせる。</p> <p>・単位を漢字で表す場合も、数字に注目して解けばよいことに気付かせる。</p> <p>【評】ある数の和や差を基にして計算問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・どんな数でも10倍すると、位が1つ上がり、右端に0を1個つけた数になることに気付かせる。</p> <p>・10円玉の模型を用いて考えさせる。</p> <p>・それぞれの位に分けてから10倍をすると考えやすいことに気付かせる。</p> <p>【評】整数を10倍する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・10倍の10倍、100倍の10倍という関係をとらえさせ、100倍や1000倍について自分の言葉でまとめさせる。</p> <p>・100は10の10倍であるということや、1000は100の10倍であるということに気付かせる。</p> <p>・どんな数でも100倍すると、位が2つ上がり右端に0を2個つけた数になることに気付かせる。</p> <p>【評】整数を100倍する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・具体例を使ってイメージをもたせることで、数の感覚を豊かにする。</p> <p>・一の位が0の数を10でわると、位が1つ下がり、一の位の0をとった数になることに気付かせる。</p> <p>・「九九の表とかけ算」の単元で学習した10のかけ算の逆思考を用いるとよいことに気付かせる。</p> <p>・理解に苦しむ児童がいる場合には、包含除に置き換えて考えさせてもよい。(例：250円では、1個10円の品物が何個買えるでしょう)</p> <p>【評】整数を10でわる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・一億の位までの数の仕組み、読み方、書き方や計算についての問題に取り組ませる。</p> <p>【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・自己評価をし、不十分なところは教科書で振</p>
--	--

○学習の振り返りを書く。

り返らせる。
【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を理解する。
・一万をこえる数について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

第2学年までに十進位取り記数法の仕組みや、千までの位取り、数の読み方や書き方、数の系列、順序、大小など、基礎的なことは学習してきている。

本単元では、数を一億まで拡張しても、千までの数と同様に考えられることを知るだけでなく、数に対する感覚を豊かにする必要がある。そのため、「○は1000をいくつ集めた数か」などの相対的な大きさの学習では模擬紙幣や位取り板を利用し、数のまとまりを視覚的に工夫をするとより効果的である。

単元名 表とグラフ

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 資料を分類・整理して表にまとめる方法や、棒グラフに表す方法を理解し、表や棒グラフに表すことができる。
 (2) 表や棒グラフから、資料の特徴を読み取ることができる。
 (3) 身近な事象について、目的に応じて表や棒グラフにまとめたり、読んだりしようとする。

標準的な展開例

03040109_001

【準備等】アンケート用紙、グラフ用紙、定規

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 好きな遊びのアンケート調査を整理する方法とそのよさに気付き、資料を表にまとめる。[p.74・p.75]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○好きな遊び調べの結果を分かりやすく整理するにはどうすればよいか考える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★表やグラフを使ってわかりやすく整理するしかたを考えていこう。 ○「正」の字をかいて表に整理する。 <p>○正の字で表した表を、数字に直して整理する。</p> <p>○表を見て、読み取ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな人が一番多い遊び ・2番目に好きな人が多い遊び など <p>2 棒グラフの意味と見方や読み方を考える。[p.76・p.77]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★ぼうグラフについて調べよう。 ○棒グラフについて知る。 ・このようなグラフを棒グラフという。 ・縦軸・・・人数 ・横軸・・・種類 ・一目盛りは1人分を表す。 ○棒グラフを読み取り、人数が表と合っているかどうかを確かめたり、多い順に言ったりする。 ○p.77のだいちさんが作った棒グラフを見て、工夫をしている部分を説明する。 <p>○月～金曜日で学級図書から借りられた本の数を読み取る</p> <p>3 1目盛りの大きさが1ではない棒グラフの見方や読み方を考える。[p.78・p.79]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○好きな給食調べをして、まとめたグラフを調べる。 <p>○1目盛りの大きさが1ではないグラフを読み取る。</p> <p>○横型の棒グラフについて知る。</p> <p>○1目盛りの大きさに気をつけて、グラフを読む。</p> <p>4 棒グラフのかき方を理解し、実際にかく。[p.80・p.81]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★ぼうグラフをかこう。 ○棒グラフの書き方を知る。 <p>○好きな遊び調べを棒グラフに表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読みたい本の種類」「道路を通る車の種類調べ」などを調べ、まとめる方法もある。 ・第2学年の最初に「好きな遊び調べ」をしたことを想起させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・正の字の書き方や意味について確認する。表を書く際は、小声で読み上げさせ「正」の字をかくように指示する。読み終えたカードに印をつけさせるようにする。 ・他の題材でアンケートを行い、用紙に書かせて回収する。教師が読み上げ、「正」の字をかかせる。記録しておく、次時以後の発展学習等でその表を役立てることができる。 【評】表に整理する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・正の字では数がすぐに読み取れないことにふれ、数字で表す表の必要性に気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・表よりも数量の多少がよく分かる表し方はないかという動機から、棒グラフを導入する。 ・前時に作った表を提示し、数量の大小がひと目で分かる方法を考えさせる。 ・棒グラフを見せ、棒グラフの見方について理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・縦の目盛りが広かったり、人数の多い順にグラフが並んでいる方が見やすいことを確認する。 【評】グラフの工夫を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・曜日のように順序が決まっているときは、多い順に並べないこともあることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・数が少ないものはまとめて「その他」にすることや、「その他」は数が多くても、最後にかくことを確認する。 ・1目盛りは2, 5, 10の場合があることを確認する。その他の値では、グラフがかきづらいことにも触れる。 ・縦軸と横軸が反対になっていることに気付かせる。 ・2目盛りで10であることから、計算して1目盛りが5であることを求められることを理解させる。 【評】グラフを読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・前時までの学習を基に、どんなことに注意してかけばよいか、見通しをもって作業させる <ul style="list-style-type: none"> ・表をグラフにすることのよさについて簡単に話し合うとよい。 ・「ぼうグラフのかき方」を利用し、手順を確認させてからかかせる。また、定規を必ず用いてかくように指導する。 ・グラフ用紙を教師が用意し、手順を確かめな

5 1目盛りが1でない棒グラフをかくことができる。[p. 82・p. 83]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★1目もりをどれだけにすればよいかを考えて、ぼうグラフをかこう。
- 水筒に入る水のかさを棒グラフに表す。

○家で学習した時間を棒グラフに表す。

○身の回りで棒グラフが使われている場面を見付ける。

6 共通の項目をもつ複数の表を、1つの表にまとめる方法を知る。[p. 84]

- 月毎のけが人を表した、3つの表を見て気付いたことを話し合う。

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★3つの表を1つの表に整理しよう。
- 3つの表を1つの表にまとめる。

○各場所でけがをした人数や、けがをした合計の人数を求める。

7 2つの棒グラフから情報を読み取る。[p. 85]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ぼうグラフのくふうをよみとろう。
- 1組と2組を合わせて、一番人気がある遊びを見付ける

- 2つのグラフを見て、気付いたことを話し合う。
 - ・「あ」のグラフは、それぞれのクラスで人気の遊びが分かりやすい。
 - ・「い」のグラフで表すと、3年生で一番好きな遊びがボール遊びだと分かりやすい。 など

8 棒グラフの1目盛りあたりの大きさに注目して、相手に伝わりやすいグラフを考える。[p. 86・p. 87]

- けがの人数調べのグラフを読み、気付いたことを話し合う。
- さくらさんとかいとさんがかいたグラフを比べて、気付いたことを話し合う。
- 1目盛りの大きさが異なる、2つのグラフを比べる。

○2つのグラフをまとめる方法を考える。

9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 88・p. 89]

- 「たしかめよう」に取り組む。

○学習の振り返りを書く。

がらかく。

【評】棒グラフをかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・1目盛りが1mLだと、目盛りが多くて用紙に入りきらないことを想像させる。

・1目盛りを100mLとすると、教科書のグラフ用紙に書き込めることに気付かせる。

【評】1目盛りの大きさを考えながらグラフをかく活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・縦軸が10目盛り程しかないことから、1目もりを10分とすると、区切りよく表すことができることを確認する。

・学校からのお便りなどにも多く使われていることに気付かせる。

・1つの表にまとめることで、比較しやすくなることを理解させる。

・校庭以外の場所も確かめさせ、もっと表を見やすくする方法を考える必要性を実感させる

・「けがをした場所」が共通しているとまとめやすいことに気付かせる。

・教師が表の枠を用意する。

【評】3つの表を1つの表にまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・完成した表を使い、場所ごとのけがをした人数を求めさせ、表のよさを実感させる。

・2つの棒グラフを比較することで気付いたことを発表させる。

・2つのグラフを提示し、気付いたことを話し合わせる。

・どちらのグラフを読み取ると、すぐに分かるかを話し合わせる。

・それぞれのグラフの特徴についてだけでなく2つのグラフを比較して気付いたことも発表させる。

【評】棒グラフを読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・1目盛りの大きさを5人とすると端の数を読み取りづらいことに気付かせる。

・この場合1目盛りの大きさを2人とすると読み取りやすいことに気付かせる。

・複数のグラフを比較するときは、1目盛りあたりの大きさをそろえた方がよいことを確認する。

【評】2つのグラフを比べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・第6時で学んだ「あ」のグラフのようにまとめると比べやすいことを確認する。

・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。

・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・表とグラフについて分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元では、日常生活場面の中から資料を収集し、そのデータを分類・整理をする場を見いださせ、それを実際に資料として表やグラフで表すことのよさを実感させることが大切である。

また、作成した表やグラフの内容のよみ取りや、課題解決にその表やグラフを活用するなどの工夫が必要である。

単元名 たし算とひき算

配当時間 4時間

単元の目標 (1) (2位数) \pm (2位数) や、 $100 -$ (2位数) の暗算の仕方を理解し、暗算で計算を行うことができる。
 (2) 暗算の仕方を考えたり、説明したりすることができる。
 (3) 暗算のよさが分かり、日常生活の中で進んで暗算を活用しようとする。

標準的な展開例

03040110_001

【準備等】ティッシュの箱（計算ボックス），数字カード，＋カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～2 (2位数) $+$ (2位数) の暗算をする。 [p. 90] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たし算を暗算でしてみよう。 ○ $35 + 2\square$ の答えを予想する。 ○ $73 + 42$ の計算の仕方を話し合う。 ○ 「練習問題」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上の位から計算することの便利さを自然に感じられるようにするために、既習事項の計算から扱う。 ・ 加数の上位だけを示し、答えが55～64の間になることを確認する。 ・ $73 + 40 = 113$，$113 + 2 = 115$ という計算の手順を身に付けさせる。 ・ $73 + 41$ の場合、暗算できない児童には、最初のうち $73 + 40 = 113$ の113をメモさせる。そして、次第に暗算に慣れさせる。 【評】 加法の暗算を行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 減数の上位だけを示し、答えの予想を立ててから計算させる。 ・ 計算ボックスを利用し、児童の関心を高める ・ 減数の上位だけを示し、答えが45～36の間になることを確認する。 【評】 計算の仕方を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ ひく数と合わせて100にして差を求める方が筆算よりも簡単であることに気付かせる。
3～4 (2位数) $-$ (2位数) と $100 -$ (2位数) の暗算をする。 [p. 91] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ ひき算を暗算でしてみよう。 ○ $65 - 2\square$ の答えを予想する。 ○ $100 - 43$ の計算の仕方を話し合う。 ○ 「練習問題」に取り組む。	

【 備 考 】

本単元では、暗算の方法として、大きい位の方から計算する「頭加法」「頭減法」で行う。そのため、筆算とは手順が異なり、戸惑う児童も予想される。そこで、計算ボックスを用意し、初めは加数や減数の十の位の数だけを入れ、答えがおおよそいくつになるか予想させるとよい。その際、答えになりうる範囲も考えさせることで、十の位の数が増える（減る）ことにも気付かせたい。その後に一の位を入れ、全体を計算させるとよい。また、教師が類題を用意するなどして、計算に慣れさせることが必要である。

単元名 **どんな計算になるのかな**配当時間 **1 時間**

単元の目標 (1) 乗除計算の意味を理解し，場面に即して適切に乗除の演算決定をすることができる。
 (2) 乗除計算の意味を基に演算決定し，その根拠を言葉や図などを用いて考え，説明することができる。
 (3) 進んで問題に取り組み，何算になるかを判断しようとする。

標準的な展開例

03040111_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 乗法，除法の適用問題に取り組む。[p.92・p.93]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の挿絵を見て，子どもたちの様子について話し合う。 ○30個のトマトを6人に同じ数ずつ分ける問題を読み，式を立てる。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★どんな計算になるかを考えて，問題をとこう。 ○ウインナーが6本ずつ4列に並んでいる場合の個数を求める問題に取り組む。 ○36個のマシュマロを1人に4個ずつ分ける問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法か除法か判断させてから問題に取り組ませる。 ・キャンプの場面を取り扱うことにより，問題場面に興味・関心をもたせる。 ・既習事項から除法で求めることに気付かせる。 ・自分の言葉で説明できるようにさせる。 ・初めの問題と同じように式の意味を説明させ全員で話し合わせる。 ・何を求めるかを考えさせ，乗法か除法かを判断させる。 <p>【評】必要な情報から式を立て，その式でよい理由を説明する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元では，問題の場面を的確にとらえ，どの演算を適用すればよいか児童自身に考えさせる学習である。既に第2学年でも問題の内容に合わせて演算(加法・減法)を決定する学習を経験している。しかし，この時は立式をし，次いで解くという流れだった。そこで，第3学年では演算を考えさせた後，演算の決定理由を説明させたり，話し合ったりする場を設定することが必要である。

単元名 算数の自由研究
配当時間 1 時間

単元の目標 (1) 迷路を通る時のきまりや、迷路の作り方を理解し、迷路の通り方を考えたり、いろいろな迷路を作ったりすることができる。
 (2) 見通しをもちながら迷路の構成を考えることができる。
 (3) 迷路作りに興味を示し、意欲的に取り組もうとする。

標準的な展開例

03040112_001

【準備等】 5 ミリ方眼用紙, 定規

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 算数の自由研究について考える。[p. 94・p. 95] ○ シンデレラ城の迷路に取り組む。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ めいろづくりの自由研究をしてみよう。 ○ いろいろな迷路を自分で作る。 ○ 作った迷路を友達と交換して解き合う。	・ 本単元では習得ではなく、試行錯誤や思考を通して、算数の楽しさを実感させる。 ・ 迷路の形や進路に注目させ、迷わせる工夫を気付かせる。 ・ 5 ミリ方眼用紙を用意し、罫線を利用して迷路を作らせる。 【評】 迷路を作成する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 子ども同士で形や進路の工夫を評価し合う。

【 備 考 】

本単元は、長期休業を利用した家庭学習の一環として、算数を主体的に学ぶきっかけの場として設定されている。そのため、本時で学習する内容は長期休業に児童自らが探求し続けられるよう、興味・関心のもてる課題として迷路作りが用意されている。そのため、本時における迷路の作成では方眼紙を利用し、あまり大きくなく作りやすい迷路を作らせ、迷路作りの楽しさを味わわせたい。そうすることで児童の興味・関心をさらに高め、長期休業での主体的活動へとつなげたい。

単元名 ふく習[上p.96・p.97]

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

03040113_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 96 ・ p. 97]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 長さ

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 巻尺の仕組みや使い方を理解し、身の回りの長さを測定することができるとともに、kmについて知り、簡単な長さの計算をすることができる。
 (2) 長さの量感を身に付け、それを根拠にいろいろな長さを予想することができる。
 (3) 計器のよさに関心をもち、mやkmの単位で長さを表すなどして、身の回りの長さを測定しようとする。

標準的な展開例

03040201_001

【準備等】巻き尺、ストップウォッチ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 巻き尺を使って身近なものの長さを測定しよう。[p. 98・p. 99]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★長さのはかり方や長い長さについて調べていこう。 ○教室の縦と横を測る。 ○校庭の木の周りの長さを測る。 ○いろいろなところの長さを予想してから測る。 <p>2 図を基に道のりを考える。[p. 100]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校からゆうとさんの家までの道のりを考える。 ○kmについて知る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★kmを使って道のりを表そう。 ○1200mをkmを使って表す。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 資料を基に道のりを加減の計算で求める方法を知る。[p. 101]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★長さの計算のしかたを考えよう。 ○あすかさんの家から学校を通過して、駅までの道のりを考える。 ○2つの道のりの違いを求める方法を考える。 ○加減の「練習問題」に取り組む。 ○教科書の地図を基に問題を作成し、それを解き合う活動をする。 <p>4 100mの道のりを歩き、それを利用しておよその道のりを予想する。[p. 102]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ストップウォッチで時間を計りながら、100mの道のりを歩いてみる。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★100mの道のりを歩いてかかった時間をもとに、いろいろな道のりの長さを予想して調べよう。 ○身近な道のりを予想する。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>5 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 103]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なものの長さについて、目測で見当を付けさせ、適切な計器を使って測定させる。 ・身長計を思い浮かべせたり、巻き尺を見せたりして、1mより長いものへの興味・関心を高めさせる。 ・巻き尺のよさ（長い距離が測定できる・丸い物の周りが測定できる）に気付かせるために最初に1mものさしで測らせるのもよい。 【評】測定する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ペアやグループに分かれて計測させる。 ・測定物は自分たちで考えさせ、測定前に目測で長さの見当を付けさせてから測定させる。 ・既習事項であるmを使って計算させる。 ・1km=1000mであることを理解させ、kmを使うことによって、より小さい数字で道のりを表すことができることを確認する。 ・1000を基にして、1000とその端の数に分け、kmとmを使って道のりを表す方法を伝える。 ・3km50mをmに直す問題では、空位の0に注意して取り組ませる。 【評】kmやmで表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・必要に応じてkmとmの単位換算ができるようにさせる。 ・地図や学校からの道のりを表した資料を提示し、問題内容を把握させる。 ・教科書の表から必要な道のりを求めさせ、加法で求めさせる。 1km500m+600mの全体をmにする方法や、mの部分だけを計算する方法があることを確認する。 ・どれだけ遠いかという問題文から減法を使えばよいことを確認する。 ・単位をmに換算してから計算するとよいことに気付かせる。 ・答えが1000mを超える場合は□km△mで答えるようにさせる。 【評】加減の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・問題ができたなら、隣同士で問題を交換してお互いの問題を解かせる。 ・次の活動につなげるために、普段の歩く速さで歩かせるようにする。 ・距離を計測する道具や人工衛星を使って道のりを調べるGPSなどの機器があることを知らせる。 ・確かめる活動では、インターネットなどを活用するとよい。 ・本時で活用した100mや既習の1m、10cm、1cmを確認しながら問題を進めるとよい。 【評】適切な長さの単位を当てはめる活動を通して、「知識・技能」を理解する。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振

○学習の振り返りを書く。

り返らせる。
【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。
・長さについて分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元では、児童の身近な生活との関連を考慮して、巻き尺を使って身の回りのものの長さを測ったり、図や地図上の道のりを計算で求めたりする学習を行う。その後、100mの道のりを実際に歩く体験を行い、100mを基にして、運動場1周や、家から学校までの道のりを予想する学習などを行い、距離に関する量感をつかませるようにする。

単元名 あまりのあるわり算

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 余りのある除法の計算の仕方を理解し、計算ができるとともに、場面に応じて余りを的確に処理することができる。
 (2) 除法の意味に基づいて、余りのある除法の求め方を考えることができるとともに、除数と余りの大きさの関係を捉えることができる。
 (3) 余りのある除法の問題に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

03040202_001

【準備等】数図ブロック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 余りのある除法の意味と計算方法について理解する。[p. 104～p. 106]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チョコレート12個とあめ13個を1袋に3個ずつ分ける問題を読み、式を立てる。 ○ 余りがある場合とない場合の違いについて考える。 ○ 余りのある除法について知る。 ○ 式の書き方、読み方について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ (例) $13 \div 3 = 4$ あまり 1 ・ (例) 13わる3は4あまり1 ○ 「わり切れる」「わり切れない」という意味を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 <p>★あまりのあるわり算について調べていこう。</p> <p>2 余りと除数の大小関係について考える。[p. 107]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★わる数とあまりの大きさについて調べよう。 ○ $19 \div 4$ の正しい商と余りについて予想する。 ○ わられる数が変化したときの商と余りの数を求める問題に取り組む。 ○ 余りと除数との関係についてまとめる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 余りのある除法（等分除）の計算の仕方を考える。[p. 108]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★同じ数ずつ分けてあまりのあるわり算について考えよう ○ 問題の式を立て、商と余りを求める。 ○ 数図ブロックを使って、商と余りが正しいか確かめる。 ○ 等分除と包含除の「練習問題」に取り組む。 <p>4 余りのある除法の答えの確かめ方を考える。[p. 109]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★わり算の答えのたしかめ方を考えよう。 ○ 答えの確かめ方を考える。 ○ 答えの確かめ方をまとめる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>5 余りのある除法の練習問題を解く。[p. 110]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「練習」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数図ブロックを操作しながら考えさせる。 ・ 九九で計算できるか否かという点に注目させる。 <p>【評】数図ブロックを使って、余りのある除法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ数ずつ分けた残りが余りになることを確認する。余りがある場合でも、除法を用いて計算することに気付かせる。 ・ 2の段の九九を使い、積が15に近い時のかける数はいくつかを考えさせる。 ・ 除数は変えずに、被除数を順番に変えた場合の余りの数に着目させる。 ・ $19 \div 4$ の商と余りの数に注目させ、4人の組が作れるかどうかを考えさせる。 ・ 早く解けた児童に説明をさせる。 ・ 全体の人数が20～24人の場合の答えを求めさせる。それによって、余りが1, 2, 3しかないことから、(余り) < (除数) であることに気付かせる。 <p>【評】余りと除数との関係を見いだす活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 除数の段の九九を唱え、被除数を超える1つ前が商になることに気付かせる。 ・ 数図ブロックを使って問題場面を把握させるとよい。 ・ 1学期の学習を振り返らせ、等分除の場合でも、除法の式で表すことができたことを想起させる。 ・ 分け方の違いに注意して考えさせる。 ・ 包含除の場合には、連続量でも余りが考えられることに注意させる。 <p>【評】分け方の違いを考えながらわり算の問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (余り) < (除数) であることを再確認させる。 ・ 余りのないかけ算の時には、どのような確かめ算をしたかを確認する。 ・ (全体の数), (1袋分の数), (袋の数), (余り)の関係を捉えやすくするために数図ブロックを操作させる。 <p>【評】答えの確かめ方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (除数) × (商) + (余り) = (被除数) であることを気付かせる。 ・ 余りが除数を超えていないか確かめさせる。 ・ 個別指導を中心に、定着を図る。 ・ 余りのある等分除・包含除の連続量についての除法の練習問題に取り組ませる。

<p>6 余りを切り上げて答えを出す場面の問題を解く。[p. 111]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○余りを切り上げる場合の文章問題に取り組む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★あまりをどうすればよいのかを考えて、長いすの数をもとめよう。 ○余りの処理の仕方について考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>7 余りを切り捨てて答えを出す場面の問題を解く。[p. 112・p. 113]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○余りを切り捨てる問題の立式を行う。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★あまりをどうすればよいのかを考えて、立てられる本の数をもとめよう。 ○「練習問題」に取り組む。 ○「あまりの数を使って」に取り組む。 <p>8 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 114・p. 115]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを書く。 	<p>【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現実の場面を想起させ、余りを切り上げて商を1大きくする場合を判断できるようにさせる。 ・式を立てさせ、商と余りまで求めさせる。また、商と余りに単位を付けさせる。児童の実態に応じ、式にも単位を付けて考えさせるとよい。 ・余りの3人はどうするか注目させる。 ・椅子が8脚の場合、残りの3人が椅子に座れなくなることに気付かせる。 <p>【評】余りの処理についての話し合い活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余りを切り上げることを、自分で判断して問題を考えるように助言する。 ・現実の場面を想起させ、余りを切り捨てる場合を、場面に応じて判断できるようにさせる。 ・線分図をかかせ、余った2cmをどのようにすればよいか考えさせる。 ・余りを切り上げる場合と切り捨てる場合の違いを確認する。 <p>【評】余りを切り捨てる問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵や図を基に、答えを推測し、説明させる。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余りのある除法について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
---	---

【 備 考 】
 九九を1回適用してわり切れる場合の除法については、既に学習している。本単元では、その発展として、わり切れない場合についてを取り扱う。まず、包含除で導入して余りの意味やわり切れない場合についての式の表し方について明らかにし、その次に等分除の場合を扱うようにする。また、「余り<除数」の関係や除数の変化に伴う余りの変化の様子についての理解では、数図ブロックを利用する工夫が必要である。
 なお余りの表記は「・・・」ではなく「あまり」で表すよう指導する。

単元名 重さ

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 重さなどの単位とその相互の関係を理解し、重さを適切な計器で測ったり、重さの加減計算をしたりすることができる。
 (2) 重さの量感をつかみ、身近な物の重さを予想することができる。
 (3) 物の重さに関心をもち、身近な物の重さを測定しようとする。

標準的な展開例

03040203_001

【準備等】身近な文具、上皿自動ばかり(200 g, 1 kg, 2 kg)、ばねばかり、1円玉、粘土、砂袋、体重計

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 天秤で重さを比較したり、1円玉を使って重さを測定したりし、重さの単位「g」を知る。[p.116・p.117]</p> <p>○三角定規と鉛筆ではどちらが重いか予想し、天秤を使って重さを比べる。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★重さの表し方を調べていこう。 ○三角定規や鉛筆の重さが1円玉何個分の重さになるか考え、確かめる。</p> <p>○1 gについて知る。 ○他の文房具の重さを1円玉何個分になるか調べる。</p> <p>2 はかりの目盛りの読み方を知る。[p.118・p.119]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★はかりの使い方を調べよう。 ○はかりの上に教科書をのせ、目盛りがどこまで動くか調べる。 ○はかりの目盛りの読み方を知る。</p> <p>○はかりの使い方を確認する。 ○はかりの目盛りを読む問題に取り組む。</p> <p>3 重さの単位「kg」を知り、いろいろな物の重さを測る。[p.120・p.121]</p> <p>○かばんの重さを量り、何gになるか読む。</p> <p>○1 kg=1000 gについて知る。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★kgを使って重さを表そう。 ○○kg○gという表し方について知る。</p> <p>○はかりの目盛りを読む問題に取り組む。</p> <p>○身の回りの物の重さを測定する。</p> <p>4 1 kgの重さの砂や水の袋を作り、1 kgの量感をつかむ。[p.122]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★どれくらいかを考えて、1 kgの重さをつくろう。 ○1 kgだと思っただけ砂や水を袋に入れて重さを量る。 ○1 kgの砂の袋を持って量感をつかむ。 ○身の回りから1 kgくらいのものを見付ける。</p> <p>5 いろいろなはかりがあることを知り、はかりを使い分けて、身近な物の重さを測る。[p.123]</p> <p>○いろいろなはかりの用途を知る。</p>	<p>・目で見ただけでは判断しにくいので、両手に持って比較させる。その後、天秤による直接比較と任意単位(1円玉)による測定を通して、課題をつかませる。 ・p.157の天秤を作らせる。</p> <p>・任意単位による間接比較をさせ、普遍単位の必要性に気付かせていく。 【評】物の重さを量る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・1 g○個分で○gという言い方に慣れさせる</p> <p>・針式の上皿ばかりを用い、扱い方、目盛りの読み方について指導する。 ・はかりを見せて、重さ調べには上皿ばかりを使うことを知らせる。 ・目盛りが「100 g」を10等分したところを指していることに注目させる。 ・1目盛りが5 gであることを10 gが2等分されていることを基に導かせる。 ・教科書にある「はかりの使い方」の注意事項を確認させる。 【評】目盛りを指したり、読んだりする問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・体重測定の実験などから、大きい単位の必要性に気付かせる。 ・かばんの重さを測定すると大きい数になり、かばんよりも重い物を表すと表しづらくなることに気付かせる。 ・1 kgばかりの「1 kg」の目盛りをgで読んだときに1000 gになることを確認し、理解を深めさせる。</p> <p>・ランドセルの重さを再度測定させ、gだけの単位は、○kg○gと換算できることに気付かせる。 ・gを使ってはかりを読んだ後に、○kg○gに換算させる。 【評】はかりの目盛りを読む問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・自分で持ってみて、重さを予想させてから測定するとよい。 ・見た目だけでなく、実際に持って量感をつかませる。</p> <p>・十分に活動する時間を確保する。</p> <p>・砂以外にも身近にある物などを利用して1 kgの量感を体感させる。 【評】1 kgの重さの物を探す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・重さは視覚的に捉えにくいので、計器による測定の際には、実際に手で持たせたり、はかりにのせる前に重さの予測をさせたりすることが、量感を養うのに有効である。 ・重さの違いによって、はかりの用途が異なる</p>

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ はかるものにあうはかりをえらんで、重さをはかろう。
- 小グループで話し合い、身の回りの物の重さを予想をしはかりを選択する。

- はかりを選択し、重さを量り、予想と比べる。

6 重さの簡単な加法、減法の仕方について知る。 [p. 124・p. 125]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 重さの計算のしかたを考えよう。
- $800\text{ g} + 600\text{ g}$ を計算する。
- $1\text{ kg} 100\text{ g} - 200\text{ g}$ を計算する。
- 「練習問題」に取り組む。

- 重さについて正しい知識を得るための問題に取り組む。

7 単位（長さ、かさ、重さ）の関係について知る。 [p. 126・p. 127]

- 車の重さやゾウの体重など、とても重いものを量る単位として、 $1000\text{ kg} = 1\text{ t}$ であることを知る。
- 長さやかさ、重さの単位を当てはめる問題に取り組む。

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ たんいの関係について調べよう。
- m（ミリ）とk（キロ）の意味について知り、その関係性を調べる。

8 単元を振り返り、確認問題に取り組む。 [p. 128・p. 129]

- 「たしかめよう」に取り組む。

- 学習の振り返りを書く。

ことに気付かせる。

- ・ 重さ調べのワークシートを用意しておくことで、表をつくる時間を短縮させ、予想したり調べたりする時間を十分にとれるようにするとよい。

【評】 重さを予想し、はかりを選択する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 問題場面を想起させ、重さでも長さやかさのようにたし算ができることに気付かせる。
- ・ 1000 g が 1 kg に直せることに気付かせる。
- ・ 単位を g に換算してから計算することに気付かせる。

【評】 重さに関する加法・減法の問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する

- ・ 計算をして重さを調べたり、天秤で比べると重い順番が分かったりすることを伝える。
- ・ 普遍単位の規則性について考えさせる。

- ・ 「t」の書き順（縦→横棒の順）に注意させる。

- ・ m（ミリ）やk（キロ）c（センチ）などの補助単位を確認する。

【評】 単位を当てはめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 単位の関係を図で示し、理解を深めさせる。

- ・ 1 mm や 1 mL が 1000 個集まると 1 m や 1 L になることを確かめさせる。
- ・ 1 m や 1 g が 1000 個集まると 1 km や 1 kg になることを確かめさせる。

- ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。
- ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 重さについて分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元の導入あたっては、直接比較（手で持つ・天秤）や間接比較、特に任意単位（例えば1円玉）のいくつ分で比較するなどの段階を経てから、普遍単位の必要性に気付かせるようにするとよい。

また、計量器具を使った測量では、まず 1 kg がどれ程なのかを砂袋を使って体感させ、その感覚を基に、身近な物を量らせたい。そうすることで、身の回りの物を量る時、おおよその重さを見当を付けることができるからである。そして、形状が変化しても重さは変わらないということも確認させるべきである。

単元名 ふく習[上p.130～p.132]

配当時間 2時間

単元の目標

標準的な展開例

03040204_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～2 復習問題に取り組む。[p.130～p.132]	・個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 円と球

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 円や球, およびそれらの中心, 半径, 直径の意味を理解し, コンパスを使って円をかいたり, 長さを比較したりすることができる。
 (2) 「丸い形」という感覚を, 円, 球という数学的な概念に深めることができる。
 (3) 身の回りにある丸いものに関心を持ち, 共通の性質を理解しようとする。

標準的な展開例

03040205_001

【準備等】コンパス, 色鉛筆, コップ等丸い形のかける物, 円形の紙皿など, 球形の物(ボール等), ジュースの缶, たまご(模型でもよい), 球の立体模型, p. 8の模様の拡大図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 丸のかき方を考え, 円について知る。[下p. 2・p. 3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふきこまを作って回す。 ○ふきこまに点をかいて回すと, 点がどんな形に見えるか調べる。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★まるい形について調べていこう。 <p>2 円とその中心, 半径の長さについて知り, 円をかく。[p. 4・p. 5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★まるい形のいろいろなかき方を考えよう。 ○コンパスの使い方を知る。 ○円, 円の中心, 半径について知る。 <p>3 1つの円の半径を比べ, 半径の長さが全て等しいことを知る。[p. 6]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンパスの先を5cmに開いて, 円をかく。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★半径の長さをくらべよう。 ○円の半径の長さを調べ, その性質をまとめる。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 円の中心の見付け方, 円の直径と半径の関係, 円の直径の性質について考える。[p. 7]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★円の中にひけるいちばん長い直線について調べよう。 ○直径についてまとめる。 ○直径と半径の関係を知る。 ○円の形をした, 紙や布などの中心を見付ける問題に取り組む。 <p>5 コンパスを使って模様をかく。[p. 8]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★どこにコンパスのはりをさしてかけばよいかを考えよう。 ○「みんなで考える問題」の模様をかく方法を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こま作りを通して, 回すとできる形としての円に着目させる。 ・p. 137のふきこまを製作し, 自由に遊ばせる時間をもつ。 ・操作活動を通して, どの点も回すと丸い形に見えることに気付かせる。 【評】こまに点をかいて回し, 形を見付ける活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・実際に半径をひいて確かめさせる。 ・画用紙やコップ, コンパスなど様々な道具を用いて丸い形をかく。 ・十分に活動時間できる時間を確保する。 【評】いろいろな道具で丸い形をかく活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・回す方向に少しコンパスを傾け, 針に少し力を入れて回すとよいことを確認する。 ・円をかくときは, ノートの下敷きを外すように指示する。 ・自分のかいた円に半径と中心をかき込ませる。 ・コンパスの使い方を確認する。 ・円にいくつも半径をひき, その長さを秤, きまりを見付けさせる。 ・大縄跳びなどに使う長い紐などを使えば, 大きな円がかけることに気付かせる。時間に余裕がある場合は, 実際に円をかく活動をもよい。 【評】半径が決まっている円をコンパスでかく活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・円の形をした紙を準備させ, 中心がどこになるか考えさせる。 ・円にいくつも直線をひかせ, 長さを測る活動を行う。 【評】直径を見付ける活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・中心を通ると一番長い直線になることを確認する。 ・直径が半径の2倍になることや, 半径が直径の半分になることに気付かせる。 ・紙や布を2回折り, その交点为中心となることを確認する。 ・円のもつ図形的な美しさや, 繰り返しの美しさを感じさせる。 ・教科書の模様を提示し, 気付いたことを話し合わせる。教科書拡大図を提示することで, 模様の美しさをより味わわせる。 ・半径2cmの円をかいた後で, 正方形の四隅にコンパスの針を刺すことに気付かせる。 【評】模様をかく活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・紙の中央や隅にコンパスをおくと模様がかかることに気付かせる。

<p>○いろいろな模様をかく活動を行う。</p> <p>6 コンパスを使って長さの写し取りをする。[p. 9]</p> <p>○ひろとさんの家から一番近いポストを見付ける方法を考える。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★コンパスで、それぞれの長さを直線に写しとってくらべてみよう。</p> <p>○コンパスの用途についてまとめる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 球とその中心，半径，直径について知る。[p. 10・p. 11]</p> <p>○いろいろな丸い形の立体を真上や真横から見て比べ，球の用語を知る。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★球について調べよう。</p> <p>○球の切り口の形を調べる。</p> <p>○球の中心，半径，直径を知る。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>○身の回りから円や球の形をしたものを見付ける。</p> <p>8 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 12・p. 13]</p> <p>○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動時間を十分にとり，円を使った美しい模様を考えさせる。 ・操作活動を通して，長さを写し取る道具としてのコンパスの使い方に気付かせる。 ・定規や糸による測定方法は，正確さに欠けたり計算に時間がかかったりすることに気付かせる。 ・コンパスの針は測定する直線の左側に刺すことをおさえる。 ・円をかく以外にも，長さを写し取れることを確認する。 ・「まわり」という意味が分からない児童には該当箇所（線）を色鉛筆等でなぞらせる。 <p>【評】コンパスを使って長さを写し取る活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールやビー玉など，球の形をしたものを観察させ，どこから見ても円に見えることに気付かせる。 ・ボールや空き缶，卵などいろいろな立体を用意する。 ・「切り口」の意味が分からない児童のために立体模型や幼児用の果物の模型を実際に用意して，切って見せるとよい。 ・模型の切断面と教科書の挿絵を比較させ，用語について押さえる。 <p>【評】球についての基本的な事項を理解する活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールの直径の測り方について話し合わせる。また，円の半径・直径の学習を踏まえ，球の直径を考えさせる。 ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円と球について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。
---	--

【 備 考 】

円と球については，これまでは，丸い形，ボールのような形として捉えてきている。本単元では，日常生活の「丸」を平面図形の円と立体図形の球に分化させる。そして，それをさらに「定点から同じ距離にある点の集まり」としての数学的な捉え方まで学習させる。そのため，まず円や球の性質を理解させることが大切である。数学的活動を通して，円や球の意味や性質を考えさせたい。

単元名 何倍でしょう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) a 倍の b 倍が $(a \times b)$ 倍になることを理解し、変化した量に着目し、何倍になるかを考えて問題を解くことができる。
 (2) 変化した量に着目し、何倍になるかを考えることができる。
 (3) 変化した量に着目した考えを使って、日常の問題を解決しようとする。

標準的な展開例

03040206_001

【準備等】各問題の絵図（自動車、ペットボトル、バケツ、水槽）、テープ図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ある数は基の数の何倍かを求める方法を考える。[p. 14・p. 15]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4 m 走った赤の車の何倍の長さが、8 m 走った青の車の長さになるかを考える。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★何倍かをもとめる計算のしかたを考えよう。 ○ 倍を含んだ関係図のかき方を知る。 ○ 「みんなで考える問題」に取り組む。 <p>2 図を使って乗法の場面を理解し、□を使って立式をして答えを求める方法を理解する。[p. 16・p. 17]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★何倍かを図にかいて、わからない数をもとめよう。 ○ 関係図をかいて、「みんなで考える問題」の立式をする ○ 基の数が□のときの、関係図のかき方を確認する。 ○ 3 cm ずつ切ると 5 こできるケーキのはじめの長さを求める問題に取り組む。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 テープ図や関係図を使って問題場面を理解し、□の a 倍の b 倍を求める方法を理解する。[p. 18]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4 m 走った赤の車の 2 倍の 3 倍の長さは何 m になるかを考える。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★図を使って、何倍の問題を考えよう。 ○ 赤・青・黄の順に長さを考えたり、黄は赤の何倍走ったかを考えたりする。 <p>4 □の a 倍の b 倍の問題を、□の何倍であるかを考えてから求める方法を理解する。[p. 19]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★何倍になるかを考えてからもとめよう。 ○ 関係図をかいて、水そうに水が何 L 入るかを求める。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係図を使わせ、問題場面を具体的にしてから考えさせる。 ・ 4 m の□倍が 8 m になることから $4 \times \square = 8$ と立式できることを確認する。 ・ 関係図をかく方がテープ図をかくよりも、数量の関係が分かりやすいことを確認する。 【評】袋の飴の数の何倍が缶の飴の数かを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 問題場面を想起させ、前時と求める部分が異なることを確認する。 ・ □ L の 8 倍が 48 L であることから、$\square \times 8 = 48$ になることを理解させる。 ・ 白のテープの長さが分かっているので、問題文に 10 cm と当てはめると考えやすいことを伝える。 【評】倍を使った問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ テープ図や関係図を使って考えさせる。 ・ テープ図や関係図を使って自己解決する時間を十分に確保する。 ・ 自分のかいた図を友達に伝える時間をもち、2 種類の解き方を確認する。 【評】図をかいて解決したり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 水そうに入る水の量がペットボトルの水の量の何倍になるかということが必要であることを確認する。 ・ 図を基に、立式の根拠を友達に説明する時間をもつとよい。 ・ 最後の数量が最初の数量の何倍になるかを考えてから答えを求めるように指示する。 【評】何倍になるかを考えて文章問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【備 考】

本単元は、順々に考える $a \times b \times c$ の解き方だけでなく、基の何倍になっているかに着目して考えさせ、 $a \times (b \times c)$ の解き方が身に付くように構成されている。高学年になると b 、 c の数が小数や分数の場合も混じってくるので、割合の基礎となる単元と言える。

そのため、児童の理解を支援する手段として、絵や図を活用させているが、さらに、関係図を利用させることで数理的に表現することに慣れさせたい。

単元名 計算のじゅんじょ

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 乗法に関して成り立つ性質について理解し、乗法の順思考を組み合わせた関係を、1つの式に表すことができる。
(2) 乗法の順思考を組み合わせた関係を、1つの式に表す方法を考えることができる。
(3) 乗法の結合法則を問題解決の場で活用しようとする。

標準的な展開例

03040207_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 乗法の結合法則を理解する。[p. 20・p. 21]</p> <p>○だいちさんとひなたさんの2人の考え方を、それぞれ式に書く。 ○だいちさんの考え方を表した式の計算の仕方を説明する ○本時の学習課題をつかむ。 ★まとめてかける考え方を1つの式にかこう。 ○ひなたさんの考え方を1つの式に書く方法を考える。</p> <p>○乗法の結合法則についてまとめる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2通りの考え方があることを具体的にとらえさせる中で、結合法則が成り立つことを理解させる。 ・2通りの考え方にまとめる。 ・（ ）を付けると先に計算するという意味になることを指導する。 ・どちらの式も3, 2, 4の順に3つの数字が並んでいることに着目させ、計算する順序を変えても答えが同じになることを理解させる ・$4 \times 2 \times 5$のような式は、2×5を先に計算すると10になり、その後の計算が簡単にできることを伝える。 <p>【評】（ ）の付いたかけ算の問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元では、乗法の結合法則 $a \times b \times c = a \times (b \times c)$ が成り立つことを理解し、これを活用できるようにすることが大切である。本単元では具体的な場面に当てはめ、2通りの考え方から答えを求めさせることで結合法則を理解させる。式は児童が気付いた式を自由に発表させた後、教師が2通りの式にまとめていくとよい。また、前単元で学習した、 $a \times (b \times c)$ に気付かせ、関連付けて指導するとよい。

単元名 1けたをかけるかけ算の筆算

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) (2, 3位数) \times (1位数) の筆算の仕方を理解し, (2, 3位数) \times (1位数) の計算を筆算や暗算でできる。
 (2) 十進位取り記数法を基にして, (2, 3位数) \times (1位数) の筆算の仕方を考えることができる。
 (3) (2, 3位数) \times (1位数) の筆算に関心をもち, 計算の仕方を考えようとする。

標準的な展開例

03040208_001

【準備等】計算棒, お金の模型 (10円玉, 100円玉)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (何十) \times (1位数), (何百) \times (1位数) の計算をする。[p. 22・p. 23]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1個10円のチョコレートを買った時の代金を求める ○ 本単元の学習課題をつかむ。 ★ (2けた) \times (1けた) や (3けた) \times (1けた) の計算のしかたを考えていこう。 ○ 1個20円のあめを3個買う問題と1個200円のプリンを3個買う時の代金を求める問題に取り組む。 <p>○ 30×4, 300×4 の計算の仕方を考える問題に取り組む</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 (2位数) \times (1位数) の計算の仕方を考える。[p. 24]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなで考える問題」の式を考え, 答えの見当を付ける。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 計算棒を使って, (2けた) \times (1けた) の計算のしかたを考えよう。 ○ 12×4 の計算の仕方を考える。 ○ 13×4 の計算をしたり, 計算の仕方を説明したりする。 <p>3～4 (2位数) \times (1位数) で, 積が100未満の筆算をする。[p. 25・p. 26]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 12×4 の筆算のしかたを考えよう。 ○ 12×4 の筆算の仕方を確認する。 ○ 20×4 を筆算で解く。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 24×3 の筆算の仕方を考える。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 一の位にくり上がりのある筆算のしかたを考えよう。 ○ (2位数) \times (1位数) で一の位に繰り上がりのある筆算の仕方を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>5～6 (2位数) \times (1位数) で, 積が100以上の筆算をする。[p. 27・p. 28]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 十の位にくり上がりがある筆算のしかたを考えよう。 ○ 32×4 の考え方を基に, 筆算の仕方を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金の模型を利用し, 計算の仕方や考え方を理解させる。 ・ 教科書の問題を読み, 本単元の学習課題を把握させる。 ・ お金の模型を利用し, (何十) \times (1位数), (何百) \times (1位数) の計算の仕方を考えさせる <p>【評】 十や百のまとまりを使って問題を解く活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 30 は 10 が 3 個, 300 は 100 が 3 個と考えて計算させる。また, 理解しづらい児童には, お金の模型を使って説明する。 ・ 計算棒を利用して, 計算をする時は, 一の位と十の位を別々に計算することを理解させる ・ $10 \times 4 = 40$ であることから, 答えが 40 より多いことを確認する。 ・ 12 を 10 と 2 に分け, 2×4 と 10×4 の部分積の和として考えさせる。 ・ 12×4 の場合と同様に計算すればよいことに気付かせる。 <p>【評】 (2位数) \times (1位数) の解き方を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一の位から計算を進める筆算のよさに気付かせる。 ・ 筆算の順序, かき方, 唱え方について, 考え方と合わせて理解させる。 ・ 教科書にある「筆算のしかた」を基にして指導するとよい。 ・ 12×4 と同様に計算させ, 一の位は 0 を書けばよいことに気付かせる。 ・ 計算で求めた値は位をそろえて書くように気を付けさせる。 <p>【評】 (2位数) \times (1位数) の筆算を解く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分配法則を基にして, 4×3 と 20×3 に分ければ九九を使って解けることを確認する。 ・ 繰り上げた「1」をメモする位置を学年で統一しておいた方がよい。 ・ 各位をそろえて書くことに気を付けさせる。 <p>【評】 繰り上がりのある筆算を解く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算棒を用いて, 筆算の仕方を理解させる。 ・ $30 \times 4 = 120$ になることから, 答えが百を超えることを確認する。 ・ 最初のうちは, 答えの百の位にいきなり「1」を書かせず, 前時と同様に「1」をメモさせた方が, (3位数) \times (1位数) の筆算の際に指導がしやすい。 ・ 機械的に計算練習をさせるのではなく, $1 \times$

- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 一の位と十の位にくり上がりがある筆算のしかたを考えよう。
 - 43×6 の筆算の仕方を考える。
 - 19×6 と 27×8 を筆算で解く。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 7 練習問題に取り組む。[p. 29]
- 「練習」に取り組む。
- 8～9 $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ で、一の位に繰り上がりのある筆算をする。[p. 30・p. 31]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ $(3 \text{ けた}) \times (1 \text{ けた})$ の筆算をしよう。
 - 212×3 の筆算を試みる。
 - 「練習問題」に取り組む。
 - $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の筆算をいろいろ作って計算する。
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ くり上がりに気をつけて筆算のしかたを考えよう。
 - 387×4 の筆算の仕方を考える。
 - 406×7 の筆算の仕方を考える。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 10 練習問題に取り組む。[p. 32]
- 「練習」に取り組む。
- 11 簡単な $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の暗算をする。[p. 33]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ かけ算を暗算でしてみよう。
 - 21×4 の暗算の仕方を考える。
 - 23×4 を暗算で求める。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 12 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 34・p. 35]
- 「たしかめよう」に取り組む。
 - 学習の振り返りを書く。

$4 + 30 \times 4$ などのように筆算の成り立ちを考えさせるとよい。

【評】 $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ で、十の位に繰り上がりのある筆算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 3×6 ， 40×6 の順に計算すればよいことを気付かせる。
- ・ かけて繰り上がるだけでなく、たして繰り上がる場合もあることに気付かせる。
- ・ 筆算の計算では位をそろえて書かせる。

【評】 $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ で繰り上がりが2回ある筆算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ つまづいている児童には、個別指導を十分に行う。

- ・ $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の筆算の練習問題に取り組ませる。

【評】 「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 既習事項を基に、自力で考えさせる。

- ・ 計算棒を基にして考えさせ、 2×3 (一の位) 1×3 (十の位)， 2×3 (百の位) の順に計算すればよいことに気付かせる。

- ・ $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の計算の仕方と同様であることに気付かせる。

【評】 $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ で、一の位に繰り上がりのある筆算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 繰り上がることによって、積が4桁になる場合もあることに気付かせる。

- ・ 7×4 (一の位)， 8×4 (十の位)， 3×4 (百の位) の順に計算すればよいことに気付かせる。

繰り上げた「2」や「3」をメモする位置を学年で統一するとよい。

- ・ 十の位に0のある問題では、一の位で繰り上げた4と 0×7 の0を合わせて4になるということを確認する。

【評】 $(3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ で、繰り上がりが3回ある筆算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【評】 「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 暗算の仕方と唱え方をまとめ、簡単な問題は暗算で計算するようにさせる。

- ・ 簡単な問題を暗算で計算することの必要性に気付かせる。

- ・ 見当を付けて考えさせるとよい。

- ・ 23を20と3に分け、 20×4 の積と 3×4 の積を合計すればよいことに気付かせる。

- ・ 十の位のかけ算と一の位のかけ算の答えを声に出させて行う。

【評】 簡単な $(2 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の暗算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。

- ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 1桁をかけるかけ算の筆算について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみいたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元では、(何十・何百)×(1位数)を発展させ、(2, 3位数)×(1位数)の計算を筆算でできるようにする。筆算の導入に当たっては、まず、十進位取り記数法に基づいて、位ごとに分けて計算することのよさに気付かせることが大切である。その上で、この考えを筆算形式と結び付けて、筆算の順序、書き方、唱え方を知らせ、筆算の仕方を理解させるようにするとよい。

単元名 式と計算

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 分配法則の意味や計算の順序を理解し、それに従って計算することができる。
 (2) 分配法則を理解し、計算の正しい順序を考えることができる。
 (3) 分配法則に関心を持ち、進んで活用しようとする。

標準的な展開例

03040209_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 かける数が同数である2つのかけ算の場面を別々に求めたり、組み合わせて求めたりすることができる。[p. 36・p. 37]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1本70円のジュースと1個30円のみかんを、それぞれ6つずつ買った時の代金を考える。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ べつべつに考えたり、1組にして考えたりしてみよう。 ○ 2つの考え方を式に表し、説明する。 <p>○ 積み木の高さの違いを求める問題に取り組む。</p> <p>2 分配法則のきまりを理解し、正しく計算することができる。[p. 38・p. 39]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 60円のえんぴつと20円のキャップを、それぞれ5つずつ買った時の代金を求める。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ () を使って、1つの式にかいて考えよう。 ○ 分配法則についてまとめる。 ○ 鉛筆5本とキャップ5個の代金の違いを考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジュースとみかんの絵を用意して、同じ数がどこにあるかを把握させる。 ・ $70 + 30 = 100$がジュースとみかんを合わせた値段であることを確認する。 【評】 2つの式を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ はるかさんと弟の積み木の数が同じであることに注目させ、1個あたりの違いが分かることが大切であると気付かせる。 ・ 2通りの考え方があることを具体的に捉えさせる過程で、分配法則が成り立つことを理解させる。 ・ 前時と同じように2通りの解き方で求める。 ・ 「何倍でしょう」の単元で() は先に計算する部分に使う記号であったことを確認する。 ・ どちらの考え方で計算しても、答えが同じになることから分配法則が成り立つことを理解させる。 ・ 前時同様、1個あたりで値段が何円違うかに注目させる。 ・ ひき算でもたし算同様、分配法則が成り立つことを確認する。 ・ 分配法則の右辺と左辺を比較しながら式を利用して解かせる。 【評】 分配法則を利用して問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

本単元では、2つの考え方をそれぞれ1つの式に表すことを通して、分配法則を理解させることをねらいとしている。そのため、具体的な問題を取り上げ、分配法則が成り立つことを理解できるようにする必要がある。もし、児童から1つの考え方しか出てこない場合は、図やヒントを利用して、もう1つの考え方に気付かせるとよい。そして、どちらも同一事象について成り立っていることから、分配法則 $(a \times c \pm b \times c = (a \pm b) \times c)$ が成り立つことを実感させたい。

単元名 分数

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 分数を使った端数部分などの表し方を理解し、分数で表したり、簡単な同分母分数の加減計算をしたりすることができる。
- (2) 分数の意味に基づいて分数の大小や加減計算の仕方を考えることができる。
- (3) 端数部分などの表し方を、具体的な操作を通していろいろ考えようとする。

標準的な展開例

03040210_001

【準備等】紙テープ（教師・児童用）、方眼紙、拡大した数直線

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 はしたの部分の大きさに着目し、はしたの表し方を考える。 [p. 40・p. 41]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 mで切りそろえたテープの余りについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 mより長い、2 mより短い。 ・ 1 mとはしたの長さがある。 ○ 端数部分の長さが何mと言えよいかを考え、友達と話し合う。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 1 mをもとにしたときの、あまりの大きさの表し方を考えていこう。 ○ 1 mのテープを2等分、3等分する活動を行い、2分の1や3分の1という言葉を理解する。 ○ 1 mを4、5、6等分したうちの1つ分を分数で言う練習問題を行う。 <p>2 はしたの大きさを分数で表す方法について知る。 [p. 42]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 mを3等分した時の1つ分と2つ分の長さを、分数で表す。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 3等分した1こ分の長さをもとに、2こ分の長さの表し方を考えよう。 ○ 用語「分数」「分母」「分子」を知る。 ○ 3/6mの長さに色をぬる。 ○ 単位分数を用いた練習問題に取り組む。 <p>3 液量を分数で表示する仕方について考える。 [p. 43]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 水のかさを分数で表そう。 ○ びんに入っている水のかさを求める。 ○ 1/10 Lについて理解させる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 数としての分数の意味を知り、単位分数や1との関係について考える。 [p. 44]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1を5等分した数を基準として、大きさを分数で表す問題を読み、本時の学習課題をつかむ。 ★ 分数を使って、数の大きさを表そう。 ○ 1/5や2/5の成り立ちを表現する。 ○ 5/5=1であることを知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>5 分数を数直線上に表す。 [p. 45]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 mをこえるはしたの部分の長さを切り取らせ、はしたの部分の長さが1 mのどれだけにあたるか考えさせる。 ・ 掲示用に教科書p. 40の青・赤・黄、3種類のテープを用意しておく。 ・ 小数やcm、「半分」などの多様な意見を受容する。 【評】 端数の言い方を考え、意見交換する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ この単元では、cmやmmではなくmを単位として考えていくことを確認する。 ・ 実際に1 mのテープを折って長さを調べる活動を行い、長さの感覚をつかませる。 ・ 1/3の3個分は1 mであることを確認する。 ・ 分母は1 mを3等分したという意味であることを確認する。 ・ 3/6を図で表し、視覚的に支援する。 ・ 何分の1という数いくつ分かということを復唱させ、単位分数の概念を定着させる。 【評】 1 mのテープを等分した長さを分数で表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 10等分したうちの1目盛り分が1/10であることに気付かせる。 ・ Lですが何等分されているかということに注目させる。 ・ 分数で表すだけでなく、1/10 Lがいくつ分かという単位分数の概念を定着させる。1/10は後の小数の単元に関わる部分なので、重点的に指導する。 ・ 1/○がいくつ分という考えや、1が何等分されているかという考えが重要であることに気付かせる。 【評】 いろいろな数を分数で表す活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・ 1/5を基準にして、分母が5で分子が5以下の分数について考えさせる。 ・ 2/5は1を5等分した2つ分と1/5を2つ集めた数という2種類の表現が言えたり、書けたりできるようにする。 【評】 分数の成り立ちを表現する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 分母と分子が等しい分数は1と等しいことを気付かせる。 ・ 理解が難しい児童には、数直線を利用して、個別の指導をする。 ・ 数直線を○等分した目盛り1つ分が1/○であ

<p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 数直線を使って、分数の大きさを調べよう。 ○ $1/6$, $3/6$, $6/6$, $8/6$ を数直線上に表す。 ○ 分数を数直線上に表す問題に取り組む。</p> <p>○ 数直線上で表された場所を分数で表す問題に取り組む。</p> <p>6 同分母分数の大小を比べる。 [p. 46]</p> <p>○ $3/8$ と $5/8$ では、どちらが大きいか考える問題に取り組む ★ 分数の大きさをくらべよう。 ○ 1 と $7/8$ の大小を比べる問題に取り組む。 ○ $=$ (等号) の名前や使い方を知る。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>○ $1/3$ と $1/5$ では、どちらが大きいか考える。</p> <p>7 同分母分数の加法の仕方を考える。 [p. 47]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 分数のたし算のしかたを考えよう。 ○ $2/5 + 1/5$ の計算の仕方を考える。</p> <p>○ びんとポットの水を合わせる問題を考え、計算の仕方を説明する。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 同分母分数の減法の仕方を考える。 [p. 48]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 分数のひき算のしかたを考えよう。 ○ $3/5 - 1/5$ の計算の仕方を考える。</p> <p>○ 1 から分数をひく計算に取り組む。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>9 練習問題に取り組む。 [p. 49]</p> <p>○ 「練習」に取り組む。</p> <p>10 本単元の学習内容を確認し、振り返りを行う。 [p. 50・p. 51]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<p>ることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数と違って、いつも数直線が10等分ではないことを確認する。 ・ $6/6 = 1$ であることを再確認させる。 ・ 数直線の0から1までを分母の数だけ等分していることに気付かせる。 ・ まず、数直線の0から1の目盛りの数を数えさせ、分母がいくつになるか気付かせる。 <p>【評】 分数を数直線上に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 等号や不等号を使って、2数の大小関係を表させる。 ・ 同じ数直線上に2数を表し、大小関係を考えさせる。(数直線を提示する) ・ $1 = 8/8$ であることを確認する。 ・ 整数を不等号で表し、2つの不等号の使い分けを確認させる。(例 $1 < 4$, $5 > 2$ など) ・ 1つの数直線上にそれぞれの大きさを表して比べさせる。 <p>【評】 2つの分数の大小関係を比較する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分子が同じ1の場合、分母が大きいほど数としては小さくなることに紙テープなどを操作して気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図に注目させ、$2/5$ Lに$1/5$ Lのジュースを合わせたらかさが増えることに気付かせる。 ・ 全部で$1/5$の何個分になるかを考えればよいことに気付かせる。 ・ ペアやグループなどを作り、図や言葉を用いて説明する場面を設定する。 <p>【評】 分数の計算を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分母と分子の数が同じになったときの答えは1と表すことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ $3/5$ Lの図を提示し、そこから$1/5$ L飲めばどれだけ量が減るかをイメージさせる。 ・ 単位分数として考えれば、分子の計算($3 - 1$)で求めることができることに気付かせる <p>【評】 分数の計算を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1はひく数の分母の分数に変換することを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を中心に、定着を図る。 ・ 分数での表記の仕方、大小関係、加法・減法などの確認問題に取り組ませる。 <p>【評】 「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分数について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
---	--

【 備 考 】

本単元では、分数の概念をしっかりと定着させるため、分数を「長さ」や「かさ」などの連続量のはした部分を表す数として扱っていく。そのため、初期段階では基準(1)を意識させ、「基準(1)を何等分したうちのいくつ分」であるということ意識させる必要がある。

また2数の大小関係において、例えば分子が同じで、分母が違う2つの分数だと分母が大きい方が大きいと思っている児童も少なくない。そこで、紙テープ等の具体物を用意し、操作をさせながら分数の量感を感じさせ大小関係の理解を支援していきたい。

単元名 間の数

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 順序数と集合数の組み合わせられた問題について、その間の数に着目すればよいことを理解し、その関係を図に表すことができる。
 (2) 順序数と集合数の組み合わせられた問題について、図を基にして考えることができる。
 (3) 図に表すことのよさに気づき、問題解決の際に進んで用いようとする。

標準的な展開例

03040211_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 順序数の問題を図にかいて解くことができる。[p. 52]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 図にかいて、間の数を考えよう。 ○ 「みんなで考える問題」を読み、図をかいて、解決の仕方を話し合ったり、説明したりする。 <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 1列に並んだものの数とその間の数の関係を、図を使って考えることができる。[p. 53]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 図にかいて、間の長さを考えよう。 ○ 7本の木が2m間隔で植えられているときの、両端の木の間の長さを考える。 ○ 図を使って考えたり、解き方を説明したりする。 <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の挿し絵を示し、題意をつかみやすくする。 ・ 正しい数量関係をつかむために、○図にかくことのよさを実感させる。 ・ 数の情報のみを読み取り、式を立てると誤答が起きやすいことから、○図をかいて考えるように助言する。 <p>【評】 図にかいて考えたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○図とともに、長さを表す線分図も共にかくよう指導する。 ・ 図がかけない児童に対して、教科書の図を参考にしよう助言する。 <p>【評】 図を使って考えたり、説明したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を解くだけでなく、図を使って友達同士で解き方を説明する時間をもつとよい。

【 備 考 】

本単元では、順序数と集合数の組み合わせられた問題を扱うが、順序数は計算と結び付けて考えにくいいため、図をかいたり、数図ブロックを利用したりするなど、作業をしながら問題解決に取り組ませるとよい。

また、植木算では、 $(\text{木の数}) - 1 = (\text{間の数})$ という関係をつかませるために、教科書の絵や実際に図をかせ、「木」と「間」を対応させるようにすることが大切である。

単元名 算数ラボ

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) オリンピックのマークの特徴について理解し、オリンピックのマークを作ることができる。
 (2) 輪の重なり方や、形の特徴について話し合い、友達と一緒に考えることができる。
 (3) オリンピックのマークに関心を持ち、友達と話し合いながら作ろうとする。

標準的な展開例

03040212_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 オリンピックのマークを観察し、製作する。[p. 54・p. 55]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 形をよくかんさつして、てじゅんを考えてつくろう。 ○ オリンピックのマークを観察し、形の特徴を見付ける。 <p>○ 合同な輪を5つ作る。</p> <p>○ 輪の形をつなげる。</p> <p>○ 振り返りのレポートを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輪が全て合同であることや、重なっている部分が上を通っていたり、下を通っていたりすることに気付かせる。 【評】オリンピックのマークの形の特徴を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 1人で5つの輪を作るのではなく、グループで協力して1つのマークを作る。 ・ 実際に作るためには、観察することが大切であることに気付かせる。

【 備 考 】

本単元では、オリンピックのマークに関心を持ち、実際に作る活動を行う。オリンピックのマークの5つの輪が合同であることや、重なっている部分がどのようになっているかを友達と話し合いながら活動していく。図形について観察することの大切さに気付かせたい。

単元名 ふく習[下p.56・p.57]

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

03040213_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。 [p. 56 ・ p. 57]	・ 個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 三角形

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 二等辺三角形、正三角形の性質や角について理解し、コンパスを使って、二等辺三角形、正三角形をかくことができる。
 (2) 辺の長さによって三角形を分類することができる。
 (3) 二等辺三角形や正三角形に関心を持ち、それらの性質を調べようとする。

標準的な展開例

03040301_001

【準備等】色棒、はさみ、色紙、三角形の色紙、コンパス、三角定規セット、色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 いろいろな三角形を作り、二等辺三角形、正三角形の概念をつかむ。[p. 58～p. 60]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○色棒を使っていろいろな三角形を作る。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★三角形について調べていこう。 ○辺の長さに注目して、三角形を分類する。 <p>○二等辺三角形や正三角形について知る。</p> <p>○コンパスを使って、二等辺三角形や正三角形を見付ける問題に取り組む。</p> <p>2 二等辺三角形や正三角形の作図をする。[p. 61]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★コンパスを使って、二等辺三角形をかこう。 ○二等辺三角形のかき方を考え、作図する。 ○辺の長さが6 cmの正三角形をかく。 <p>○二等辺三角形と正三角形をかく問題に取り組む。</p> <p>3 円を使ってかいた三角形について説明する。[p. 62]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★円の半径に目をつけて、どんな三角形かをせつめいしよう。 ○円の性質に目を向けて、どんな三角形かを説明する。 <p>○円の性質を利用して二等辺三角形をかく。</p> <p>○半径が等しい2つの円を使ってできた三角形がどんな三角形かを説明する。</p> <p>4 色紙を使って、二等辺三角形や正三角形を作る。[p. 63]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ ★色紙をおったり切ったりして、二等辺三角形や正三角形をつくろう。 ○色紙で二等辺三角形や正三角形を作り、作った三角形を折って、確かめる。 <p>○身の回りから二等辺三角形や正三角形の形をした物を見付ける。</p> <p>5 角について知り、二等辺三角形と正三角形の角の大きさを比べる。[p. 64・p. 65]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時に作った、二等辺三角形や正三角形について調べる ○角について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな三角形を自由に作らせ、それを辺の長さに着目して分類させていく。 ・p. 139の「色ぼう」を使って活動させる。 <p>・「二つの辺の長さが等しい三角形」「辺の長さが全て等しい三角形」「辺の長さが全て違う三角形」の三つに分類できることに気付かせる。</p> <p>・6 cm 2本と12 cm 1本の色棒だけでは、三角形ができないことにも気付かせる。</p> <p>【評】三角形を作ったり、分類したりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・コンパスをどのように利用するか分からない児童には個別で指導する。</p> <p>・正しいコンパスの使い方をしているか確認する。</p> <p>・直線イウを引くと頂点が二つ決まるので、あと一つの頂点を見付ける方法を考えさせる。</p> <p>・教科書の図を基に、作図の方法を確認する。</p> <p>・二等辺三角形と同じように考えればかけることを確認する。</p> <p>・正三角形は辺の長さが全て等しいことを想起させ、コンパスで1回測り取るだけでよいことに気付かせる。</p> <p>【評】二等辺三角形と正三角形を作図する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・実際に折り紙を折ったり切ったりして確かめさせる。</p> <p>・円の半径の長さは全て等しいことを想起させる。</p> <p>【評】円の性質を根拠に、三角形の説明をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・自分で説明することが難しい児童には、p. 62のひなたさんの話形を使って説明させるとよい。</p> <p>・切り取った二等辺三角形や正三角形の角を、折って重ねながら一つずつ確かめさせる。</p> <p>・十分に時間をかけて、初めは試行錯誤させて作らせるとよい。</p> <p>・教科書にある折り方を提示し、折り方を確認してもよい。なぜ、この折り方で二等辺三角形や正三角形ができるのかを説明させてもよい。</p> <p>【評】色紙で二等辺三角形や正三角形を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・角について理解し、大きさを比較できるようにさせる。</p> <p>・一つの頂点から出ている二辺が作る形が角であることを図を提示しながら知らせる。また</p>

<p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★二等辺三角形や正三角形の角の大きさをくらべよう。 ○ 二等辺三角形や正三角形の角の大きさ比べをする。</p> <p>○ 二等辺三角形や正三角形の角の性質についてまとめる。</p> <p>6 三角定規の角の大きさを比べる。[p. 66] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★三角じょうぎの角を紙に写しとって、その大きさをくらべよう。 ○ 三角定規の角を写し取って、等しい角や一番大きい角などを見付ける。</p> <p>○ 黒板で使う三角定規と、児童の三角定規の角の大きさを比べる。 ○ 同じ三角定規を2枚使って、いろいろな三角形を作る。</p> <p>7 三角形の敷き詰めをする。[p. 67]</p> <p>○ 三角形を敷き詰めた模様を見て、気付いたことを話し合う。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★もようの中にあるいろいろな形を見つけよう。</p> <p>○ 模様の中に見付けた図形を、友達に紹介する。</p> <p>8 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 68・p. 69] ○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<p>三角形には角が三つあり、それが名前の基になっていることにも気付かせる。</p> <p>・ 三角形を折って、角同士を合わせ大きさを比べる。重なる場合は角の大きさが等しいということを押さえる。 【評】二等辺三角形や正三角形の角の大きさを比べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 辺の長さや角の大きさが等しいときに使う印について指導する。</p> <p>・ 三角定規全体を写すのではなく、角の部分だけを写し取れば簡単に比べられることを確認する。 ・ 角の大きさと三角形の辺の長さとは関係がないことを押さえる。 ・ 直角の部分の合わせないと三角形が作れないことを押さえ、直角三角形が2枚あると必ず二等辺三角形になることを確認する。 【評】同じ三角定規2枚でいろいろな三角形を作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 正三角形や二等辺三角形を敷き詰めた模様を考えさせる。教科書の拡大図を用いると模様の美しさがよく分かり、効果的である。 ・ p. 137の「三角形の色紙」を使って活動させる。 ・ 敷き詰められた模様の美しさに気付かせ、興味・関心を引き出すようにする。 【評】正三角形や二等辺三角形を敷き詰める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 三角形だけでなく、四角形や六角形についても気付くことができるよう発問を工夫する。</p> <p>・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 二等辺三角形や正三角形について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。</p>
---	---

【 備 考 】

本単元では最初に正三角形、二等辺三角形についての概念を理解させるため、まず各三角形の辺の長さに注目させることが必要である。そのため導入時に、自分で三角形を作らせることで辺に注目させ、三種類（正三角形、二等辺三角形、等しい辺がない三角形）に分類されることに気付かせたい。また、コンパスと定規を使った作図だけでなく、円の半径を利用して作図したり、折り紙で作ったりする活動を通して、正三角形と二等辺三角形の概念を定着させる必要がある。角の大きさについては辺の長さが角の大きさに関係しないことを押さえる必要がある。また、大きさの比較については見比べたり、直接重ねたりして比べさせる程度でよい。

単元名 小数

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 小数の大小・系列, 加減計算の仕方を理解し, $1/10$ の位までの小数の加減計算ができる。
 (2) 小数の大小・系列, 加減計算を小数の意味に基づいて考えることができる。
 (3) 小数のよさに気づき, 進んでこれを用いようとする。

標準的な展開例

03040302_001

【準備等】 1 L ます, ポット

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ポットに入っている水の量の端数の部分の表し方を考える。[p. 70・p. 71]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポットに入っている水のかさを調べ, あまりの量に着目する。 ○余りの大きさを分数で表す。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★あまりの大きさの, 分数とはべつの表し方を調べよう。 ○0.1 Lの読み方, 小数・小数点・$1/10$の位・整数について知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>2 端数の長さやかさを小数で表す。[p. 72・p. 73]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★あまりの大きさを, 小数を使って表そう。 ○テープの長さを小数で表す。 ○1.2 LをLとdLで表す問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 ○身の回りで使われている小数を探す。 <p>3 小数の大きさを, 0.1を基にして考える。[p. 74・p. 75]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★小数について, いろいろな見方をしてみよう。 ○2.3は1を何個と0.1を何個合わせた数なのかを考える。 ○0.1を何個集めると2.3になるかを考える。 ○0.7や1.5を数直線上に表す問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 小数と分数の大きさを比べ方を考える。[p. 76]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★小数と分数の大きさの比べ方を考えよう。 ○0.2と$4/10$では, $4/10$の方が大きいことを説明する。 ○小数と分数の大きさの関係性を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>5 小数の加法の計算の仕方を考える。[p. 77]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★小数のたし算のしかたを考えよう。 ○$0.6+0.2$の計算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や図を活用して, 視覚的に量が捉えやすいように配慮する。 ・ポットにあらかじめ2.3 Lの水を入れて準備をしておく。教師実験で1 L ますの中に0.3 Lの水を入れる場合には, 色水を入れると, 後方の児童にとっても見やすくなる。 ・p. 118の「じゅんぴ」の問題を活用するとよい。 ・$3/10$ Lを分数以外で表す方法を考えさせる。 ・0.1 Lも$1/10$ Lも, 1 Lを10等分した1 つ分であることを確認させる。 ・2 Lと0.3 Lで2.3 Lになることや0.1, 0.3, 2.3のような数が小数であることを知らせる。 ・「0.1 Lが2 つ分?」などのように問いかけ, 児童に予想させるとよい。 【評】 かさを小数で表す活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・1 mmは1 cmを何等分しているものかを考えさせ, $1\text{ mm}=0.1\text{ cm}$の関係を確かめる。また, 小数を用いて, 複名数表記が単名数表記で簡潔に表現できることのよさに気付かせる。 ・5 cmと4 mmに分けて考えさせ, 5 cmと0.4 cmで5.4 cmになることに気付かせる。 ・0.1 L=1 dLを基に0.2 Lが2 dLであることを図を利用しながら理解させる。 ・0.1 L=1 dL, $0.1\text{ cm}=1\text{ mm}$を基準に, 単位換算の問題に取り組ませる。 【評】 単位換算の問題に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・数直線を利用して視覚的に支援をする。 ・分数の単元を振り返らせ, 単位分数のいくつ分という考え方を確認する。 ・数直線を提示し, 1 目盛りが0.1であることを押さえる。 ・まず1は0.1の10個分であることを押さえ, 次に2.3は0.1の何個分かを考えさせる。 ・数直線は右にいくほど, 数が大きくなることに気付かせる。 【評】 小数の大きさに関する問題を解く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・小数と分数の大きさを数直線を利用して比べさせる。 ・数直線を利用して説明させてもよい。 ・数直線を提示し, 視覚的に支援をする。 ・2 数を小数か分数のどちらか一方にそろえるか, または, 同一数直線上に表すことで比較できることに気付かせる。 【評】 小数と分数の大小関係を比較する活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・0.1を単位にその個数を考えると, 既習の整数の加法計算と同様に扱えることに気付かせる。 ・図などを提示し, 題意を把握させてから式を立てさせる。 ・線分図を基に, 0.1が8 個あることに気付かせる。0.6 Lの水と0.2 Lの水を入れて0.8 L

<p>○ $0.6+0.5$, $1.8+0.7$ の計算をする。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>6 小数の減法の筆算の仕方を考える。[p. 78]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 小数のひき算のしかたを考えよう。 ○ $0.8-0.2$ の計算の仕方を考える。</p> <p>○ $1.2-0.3$, $2.1-0.4$ の計算をする。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 小数の筆算の仕方を考える。[p. 79]</p> <p>○ $5.7+3.2$ の計算の仕方を考える。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 小数の計算を筆算でしてみよう。 ○ 小数の筆算の仕方を確認する。</p> <p>○ 道のりの違いを筆算で求める。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 問題や答えに空位がある加法・減法の筆算の仕方を考える。[p. 80]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ いろいろな小数の筆算のしかたを考えよう。 ○ $7+5.5$, $1.2+2.8$, $5-2.7$, $3.6-2.8$ を筆算で計算する。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>○ □ に数を当てはめて、小数のたし算やひき算を作る。</p> <p>9 練習問題に取り組む。[p. 81]</p> <p>○ 「練習」に取り組む。</p> <p>10 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 82・p. 83]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<p>になる場面を視覚的に提示すると分かりやすい。</p> <p>【評】 小数の仕組みを使って計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 よりも大きい計算になっても0.1がいくつかを考えればよいことに気付かせる。 ・ 計算するだけでなく、0.1いくつ分であるかを説明させながら解くとよい。 ・ 0.1を単位にその個数を考えると、既習の整数の減法計算と同様に扱えることに気付かせる。 ・ ひき算でもたし算と同様に0.1いくつ分で考えればよいことに気付かせる。 ・ 線分図を基に、ジュースは0.1が8個あること、飲んだ量は0.1が2個であることに気付かせる。 ・ ひかれる数が1 よりも大きい計算になっても0.1がいくつかを考えればよいことに気付かせる。 ・ ひかれる数が1 の場合は、0.1が10個分として考えることを確認する。 <p>【評】 小数の減法を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を基に、位ごとに分けたり、0.1がいくつ分であるかを考えたりすればよいことを確認する。 ・ 「筆算のしかた」を基に、位をそろえることや、小数点を打つことなどについて押さえる ・ たし算の時と同様に筆算すればよいことに気付かせる。 ・ 位をそろえることや、小数点の付け忘れに注意させる。 <p>【評】 小数の加法や減法を筆算で解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 和が4.0の時に0に斜線を書くことや、$5=5.0$と考えること、答えが1未満の時は1の位の0を付け忘れないように注意させる。 ・ 筆算の仕方を再度確認し、つまずきがないよう配慮する。 <p>【評】 小数の加法や減法を筆算で解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を中心に、定着を図る。 ・ 単位、小数の仕組みや加減計算、筆算についての練習問題に取り組ませる。 <p>【評】 「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	---

【 備 考 】
 小数の捉え方として、基準(1)を10等分したうちのいくつ分として捉えさせる。児童はこの考え方を分数の学習でも経験している。そのため、小数と分数の大小の比較では、その時のことを想起させながら、同一数直線上に表すなどして分数と小数を比較させて考えさせるとよい。

単元名 ふく習[下p.56・p.57]

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

03040303_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。 [p. 56 ・ p. 57]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 2けたをかけるかけ算の筆算

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) (2, 3位数) × (2位数) の筆算の意味を理解し、筆算で計算できる。
 (2) 2位数をかける筆算が、既知の計算(1位数をかける乗法と何十をかける乗法)に基づいていることや、分配法則によっていることに気付くことができる。
 (3) いろいろな(2, 3位数) × (2位数)の問題を作り、筆算で計算しようとする。

標準的な展開例

03040304_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (2位数) × (何十) の筆算の仕方について考える。[p. 86・p. 87]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 23円のみかんを3個買った場合の代金を求める式を立て計算をする。 ○ みかんを30個買った場合の代金を求める式を立てる。 ○ 23×30 の計算の仕方を考える。 ○ 58×30 の計算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 (2位数) × (2位数) の筆算の仕方について考える。[p. 88]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなで考える問題」を読み、式を立てる。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 23×34 の筆算のしかたを考えよう。 ○ 23×34 の計算の仕方を考える。 ○ 23×34 の筆算の仕方を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 (2位数) × (2位数) の筆算の仕方を説明する。[p. 89]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 58×34 を筆算で解き、計算の仕方を説明する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ (2けた) × (2けた) の筆算のしかたをせつめいしよう。 ○ 20×48, 56×30 を筆算で解く。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 練習問題に取り組む。[p. 90]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「練習」に取り組む。 <p>5 (3位数) × (2位数) の筆算の仕方について考える。[p. 91]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ (3けた) × (2けた) の筆算をしよう。 ○ 248×32 の計算の仕方を考え、筆算の仕方を知る。 ○ 200×34, 206×47 の筆算に取り組む。 ○ (3位数) × (2位数) の筆算を作って計算する。 <p>6 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 92・p. 93]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 ○ 学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な場面での数理事象を取り上げる。 ・ 既習事項なので、筆算で計算させる。 ・ 具体物や関係図を式と対応させることにより(23×3)の10倍であることに気付かせる。 【評】計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 関係図を用いて考えさせる。58円の具体物(鉛筆等)を30本買った場合を取り上げ、理解をより深めさせる方法もある。 ・ 1桁をかける計算をした後に0を付けると、速く計算できることに気付かせる。 ・ 既習事項と関連させ、筆算の仕方を考えさせる。 ・ 乗数の一の位が0でないことに気付かせる。 ・ 34倍するには、30倍と4倍とを別々に計算して、たせばよいことに気付かせる。 ・ 69の「9」を、92の「9」の下に書いて位をそろえることを確認する。 ・ 繰り上がりの数字をメモする位置を学年で統一しておいた方がよい。 【評】乗法の筆算を行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ (2位数) × (2位数) の積が4桁になることがあることに気付かせる。 ・ 分配法則を使って、58×4 と 58×30 のたし算になっていることを説明させる。 【評】乗法の筆算の仕方を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ かける数に空位の0がある場合は、かけられる数がいくつでも0になることから、筆算では0を書いた後、段を変えずに次の位の計算をすることを確認する。 ・ 文章題では、横書きの式と筆算の両方を書かせ、筆算の過程が残るように指示をする。 【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 個別指導を中心に定着を図る。 ・ 前時までの学習との違いに着目させるとともに、それを利用できないかと問いかける。 ・ 被乗数に注目させる。 ・ (2位数) × (2位数) の筆算を基に考えさせる。 ・ 0を含む数の計算では、計算の位取りに注意させる。 ・ 友達同士で作った問題を解き合ってもよい。 【評】乗法の計算問題を作って解く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ かけ算の筆算について分かったことやできる

ようになったこと，もっとやってみたいこと
などを書かせる。

【 備 考 】

2 位数や 3 位数に 1 位数をかける筆算については，既に学習しているので，本単元ではその発展として乗数の範囲を 1 位数から 2 位数に広げた場合の筆算を学習する。2 位数をかける計算の仕方は，何十をかける計算と，1 位数をかける計算と分配法則に基づいて考えることができる。そのため，乗数が 2 位数の筆算では式の横に被乗数 \times 1 位数と被乗数 \times 何十が示されて，児童の理解の支援をしており，この関係をしっかり確認する必要がある。

また，乗数が 2 位数以上の時は部分積が 2 段以上になるので，位取りには十分注意させなければいけない。

単元名 □を使った式

配当時間

4時間

- 単元の目標 (1) □を使った式に表したり□に当てはまる数を求めたりすることができる。
 (2) □を使って、問題文を図や式に表すことができる。
 (3) 言葉の式や□を使った式に関心を持ち、進んで活用しようとする。

標準的な展開例

03040305_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 分からない数を□として、式に表す。[p. 94・p. 95]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、問題場面を把握する。 ○ふくろのあめの数が10個、11個、12個のとき、全体のあめの数を考え、表にまとめる。 ○分からない数を□で表すことがあることを知り、あめの数を求める式を作る。 □ + 4 ○20個入りのチョコレートのうち、何個か食べたときのチョコレートの数を式に書く。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★□を使った式について調べていこう。 <p>2 加法・減法の場面で、□を使って立式し、あてはまる数を求める。[p. 96]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、1袋のあめの数を□として式を作る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★□にあてはまる数のみつけ方をせつめいしよう。 ○□にあてはまる数について、考えたことを説明する。 ○20個入りのチョコレートのうち、残りが13個になったとき、食べたチョコレートの数を見付ける。 <p>3 乗法・除法の場面で、□を使って立式し、あてはまる数を求める。[p. 97]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、1袋のクッキーの数を□として式を作る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★□にあてはまる数を見つめよう。 ○□にあてはまる数について、考えたことを説明する。 ○32個のキャラメルを同数で8人に分けたときの1人分の個数を求める。 <p>4 算数の問題を作り、その問題文に合う図や式を考える。[p. 98・p. 99]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○90円のうち40円を使うと残りは何円になるかという場面を言葉の式や、図に表す。 ○使ったお金や、初めのお金を求める問題文を読む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★□を使って、問題文を図や式にかこう。 ○図や式を使って、考え方を説明する。 ○色紙を何枚もらったか求める問題を□を使って図や式に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あめの個数を求める問題を読ませ、本単元の学習課題を理解させる。 ・関係を表や図に表し、児童が理解しやすくなるよう配慮する。 【評】あめの数を□を使った式に表す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を理解する。 ・食べたチョコレートの数が分からないので、□で表すことを確認する。 ・立式を考える段階で、未知数を□で表すことで数量関係が式に表されることに気付かせる ・□にいろいろな数を当てはめさせたり、図にかいて考えさせたりする。 ・ペアやグループで説明し合うとよい。 【評】□に当てはまる数を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・言葉の式や線分図を使って説明させるとよい ・未知数を□で表すことで、数量関係が式に表せ、九九やわり算を利用して解くことができることに気付かせる。 ・□にいろいろな数を当てはめさせたり、図にかいて考えさせたりする。 ・ペアやグループで説明し合うとよい。 【評】□にあてはまる数を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・言葉の式や線分図を使って説明させるとよい ・言葉の式を基にして、図や式を立てさせる。 ・それぞれの問題場面について□を使って児童に考えさせる。 ・ペアやグループで説明し合うとよい。 【評】□を設定した根拠を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元では未知数(量)を□を使って等式に表し、その□の中に入る数を求めることがねらいである。式を立てる段階として、最初は□の中に入る数を予想し数量を求めることで、当てはまる数を考えさせる。次に言葉を使い、決まった数量は置き換え、未知数のところは□に置き換えるといった段階を追って進めていく。そして、児童が立式に慣れてきたら、直接等式を立ててもよい。

また、□を使った式から答えを求める場合も、最初は児童に□に入る数を予想させ、検算しながら正解を求め、次に計算して求める方法を考えさせるとよい。

単元名 そろばん

配当時間 2時間

単元の目標 (1) そろばんによる数の表し方や加法及び減法の計算の仕方を理解し、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができる。
 (2) そろばんの構造を捉え、簡単な加法及び減法の計算の仕方を考えることができる。
 (3) そろばんを用いた加法及び減法の計算に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

03040306_001

【準備等】 提示用そろばん（教師用）、そろばん（児童用）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 そろばんの構造、使い方、五珠の合成・分解の起こらない場合の計算の仕方を知り、簡単な加法・減法の計算をする。[p.100・p.101]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各部の名称、数の読み方を知る。 ○単元の学習課題をつかむ。 <p>★そろばんを使った数の表し方や計算のしかたを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○そろばんの数を読む問題に取り組む。 ○基本的な数の入れ方、払い方を練習する。 <p>○$63+25$、$48-36$をそろばんを使って計算する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>○大きな数や小数の計算の仕方を知る。</p> <p>2 五珠の合成・分解の起こる場合の加法・減法の計算をする。[p.102・p.103]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 <p>★そろばんを使って、いろいろな計算をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○$14+31$や$34+12$の計算の仕方を学び、「練習問題」に取り組む。 ○$85-61$や$96-72$の計算の仕方を学び、「練習問題」に取り組む。 ○$9+3$や$7+6$の計算の仕方を学び、「練習問題」に取り組む。 ○$11-3$や$13-7$の計算の仕方を学び、「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二指法（人差し指と親指）で運指させ、珠を動かす順序を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童に定位点の位置を意識させる。 ・以下の4点を押さえる。「一珠は、親指で入れて、人差し指で払う。」「五珠は、入れるときも払うときも、人差し指で払う。」「6～9の数を入れるときは、親指と人差し指で同時にはさむように入れる。」「6～9の数を払うときは、一珠を人差し指で払ってから五珠も人差し指で払う。」 ・十の位から順に入れたり、払ったりすることを確認する。 ・そろばんに慣れていない児童が多いと予想できるので、活動時間を十分にとるようにする <p>【評】（2位数）±（2位数）の計算をそろばんを使って解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定位点のある桁を1の位として考えると、操作する場所は変わるが計算の仕方は変わらないことを確認する。 ・五珠を入れてから払う数について5の合成・分解を想起させながら見付けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・十の位から順に計算することを再確認させる <ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりがあるときは、まず計算した位に数を置いて、その次に一つ上の位に1を加えることに気付かせる。 ・繰り下がりがあるときは、まず1つ上の位から1を払い、その次に計算した位に数を置くことに気付かせる。 <p>【評】繰り上がり、繰り下がりのある計算を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する</p>

【 備 考 】

本単元ではそろばんに置かれた数を正しく読み取ること、盤面に間違いなく数を置くこと、姿勢、運珠などの基本を正確にすることが大切である。

珠算での加法・減法の難易度は数の大小より運珠法の難易によって決められているので、その段階を考慮して指導していく必要がある。また、小学校での珠算指導の目安としては、正しく使用できる程度であり、速さを追求する必要はない。

単元名 買えますか？ 買えませんか？

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 物の値段をおよそ何百円と見て、これを活用し判断する方法を理解し、買えるか買えないかを判断することができる。

(2) 物の値段をおよそ何百円と見て、買えるか買えないかを判断し、その理由を説明することができる。

(3) 買えるか買えないかの判断をする問題場面に関心をもち、進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

03040307_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 100円を基にして、いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断する。[p.104・p.105]</p> <p>○ のり、ノートが区切りのよい代金で買えるか買えないかを考える。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 1つが100円玉何まいで買えるかをもとに考えよう。</p> <p>○ クレヨンとはさみが区切りのよい代金で買えるか買えないか判断し、800円で2つを買えるかどうかを考える。</p> <p>○ 1000円で買えるか買えないかを判断する「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・ 理由を根拠を挙げて説明させる。</p> <p>・ のりは100円で買え、ノートも200円で買えることを確認し、のりとノートが300円で買えるか買えないかを理由とともに発表させる。</p> <p>・ クレヨン500円、はさみ300円で買えるかどうかを判断する。両方その額で買えないことを確認する。</p> <p>【評】 買えるか買えないかを区切りのよい数を使って説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 100円□個分よりも大きい小さいかを基にして考えさせる。</p>

【 備 考 】

第2学年では100円玉数枚で、100円前後の品をいくつ買えるかを簡単な見積もりで判断する学習を行った。また、第4学年になると概数について学習する。そのため、第3学年ではその間の段階として、簡単な概数の概念に触れさせる。そして、身近な事例を取り上げることで、概数の必要性を感じさせたい。

単元名 **みらいへのつばさ**配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 1日の生活の計画を立てる大切さを理解し、1日の計画を立てることができる。
 (2) 寝る時間や起きる時間など、生活に必要な時間を基にして、時間の上手な使い方を考えることができる。
 (3) 算数で学んだことを生かして、1日の生活の計画を立てようとする。

標準的な展開例

03040308_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 資料から必要な情報を選択し、時刻と時間についての問題を解決する。[p.106・p.107]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○たくやさんのメモを見て、たくやさんの昨日の生活やこれからの計画について想起する。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★たくやさんのメモから1日の生活の計画をよみとろう。 ○たくやさんが起きた時刻や、寝た時間を計算で求める。 <p>○メモを基に、たくやさんの1日の生活の計画を書く。</p> <p>2 時間の学習を活用して1日の計画を立て、規則正しい生活の大切さについて考える。[p.108・p109]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★みんなで話しあって、1日の計画をたてよう。 ○1日の生活について話し合う。 ○生活で気を付けるべきことを調べたり、自分の生活目標を決めたりする。 ○1日の生活の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章や図、表から問題を解くために必要な情報を選択できるようにする。 ・問題を解くためには資料のどの部分が必要かを考えさせ、選択した場所に下線を引かせる ・時間や時刻の語句の意味を確認する。 ・次時に自分の生活の計画を立てるので、そのことを児童に意識させるとよい。 【評】資料を基に、1日の生活の計画を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・生活で気を付けることを考えながら、1日の生活の計画をグラフや図などを用いて表せるようにする。 ・本時の課題を確認し、見通しをもたせる。 ・生活をする上で大切なことは何かを話し合い計画に生かすようにする。 ・睡眠時間や起床時刻を基に、就寝すべき時刻を考える活動をするときよい。 ・どのような計画を立てたかを発表する時間をもつとよい。 【評】1日の生活の計画を立てる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

【 備 考 】

本単元では時間の学習を基に、普段の生活でどんなことに気を付ければよいかを考え、1日の計画を立てることを考える活動をする。寝る時刻を起きる時刻を基に決め、自分の自由な時間をどのように組み立てればよいのかを考えることができるようにする。

単元名 もうすぐ4年生
単元の目標

配当時間 3時間

標準的な展開例

03040309_001

【準備等】コンパス，定規

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～3 復習問題に取り組む。[p. 110～p. 114] ○「もうすぐ4年生」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を中心に，既習事項の定着を図る。 ・教師自作の問題も用意しておくとい。

【 備 考 】

単元名 わくわく算数学習

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 1桁で割って、商が何十・何百になる計算の仕方を理解し、簡単なわり算の計算をすることができる。
 (2) 言葉や図などを適切に用いた計算の仕方を考え、筋道を立てて説明することができる。
 (3) 既習事項を使って、解き方を考え、話し合う活動を通して、進んで問題を解決しようとする。

標準的な展開例

04040101_001

【準備等】黒板掲示用の100円玉、黒板掲示用の10円玉、児童操作用の100円玉の模型、児童操作用の10円玉の模型

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1桁で割って、商が何十・何百になる計算の仕方について考える。[上p. 6～p. 9]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★100円玉や10円玉を使って、計算のしかたを考えよう。 ○$120 \div 3$の計算の仕方を考える。</p> <p>○$600 \div 3$の計算の仕方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>○p. 8・p. 9のノート書き方の例を見ながら、今後の学習の進め方を確認する。</p> <p>○学習を振り返り、分かったことやできるようになったことなどを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の模型を用いて、10や100を単位にして考えると、既習の九九の範囲の除法に帰着できることに気付かせる。 ・買い物場面から、1個分を求める計算はわり算になることを確認する。 ・お金の模型を使い、10円玉の個数で考えさせる。10円玉が$(12 \div 3)$個で40円になることを確かめさせる。 ・$600 \div 3$の計算は、100円玉の個数で考えさせ$120 \div 3$の計算と同様に考えればよいことに気付かせる。 ・つまづいている児童には、個別指導を十分にを行い、原因を明確にさせる。 <p>【評】答えが何十・何百になる計算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日付、問題、めあて、自分の考え、友達の考え、まとめ、振り返りなどのかき方を確認する。 ・p. 9を参考に、計算の仕方や既習内容の活用方法などを、自分なりの言葉でまとめさせる

【 備 考 】

本単元では、学習課題を知り、自分で考え、話し合いなどの学習を通して、解決していく算数の学習方法を確認することができる。また、ノートのまとめ方や学習のふり返りを記入方法など、1年間を通して気を付けることや継続していく取り組みを確認したい。

4年生になって初めての算数の時間である。「答えが何十・何百になる計算」では、具体物を活用したり、話し合ったりする活動を取り入れることで楽しい雰囲気を味わい、これからの算数学習に希望をもたせるようにしたい。また、1年間の算数の学習を見通し、意欲的に取り組むことができるようにしたい。

単元名 角とその大きさ

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 角の大きさを回転の大きさとして理解し、角度の単位を知り、分度器を使って角度を測定したり、目的の大きさの角をかいたりすることができる。
- (2) ある角度を2つの角の和や差とみるなどして、測定の仕方やかき方を考えることができる。
- (3) 身の回りにあるものの角度に関心をもち、進んで測定しようとする。

標準的な展開例

04040102_001

【準備等】折り紙（3枚）、割り箸（2本）、のり、セロハンテープ、三角定規、分度器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 扇を利用して、角を回転してできる形として捉える。[p. 10～p. 13]</p> <ul style="list-style-type: none"> 色紙3枚と割り箸（ストロー）を使って、まるく開く扇を作る。 いろいろな大きさの角が作れることを知る。 扇を使って、いろいろな大きさの角を作る。 単元の学習課題をつかむ。 ★角の大きさについて、くわしく調べていこう。 <p>2 角の単位を知り、分度器を使って角の大きさを測る。[p. 14・p. 15]</p> <ul style="list-style-type: none"> [あ]と[い]の2つの角の大きさを比べる。 直接比較で比べる場合の問題点について話し合い、普遍単位の必要性を知る。 分度器について知る。 本時の学習課題をつかむ。 ★分度器を使って、角の大きさをはかろう。 分度器を使って、角の大きさを測る。 「練習問題」に取り組む。 <p>3 辺の長さが短い角や向きが反対になっている角の大きさを測る。[p. 16・p. 17]</p> <ul style="list-style-type: none"> [あ]と[い]の角の特徴を考える。 本時の学習課題をつかむ。 ★くふうして角の大きさをはかろう。 辺の長さが短いときや向きが反対のときの測り方を考える。 「練習問題」に取り組む。 正三角形や二等辺三角形の角の大きさを測る。 「練習問題」に取り組む。 <p>4 三角定規の角の大きさを知り、1組の三角定規を組み合わせてできる角の大きさを考える。[p. 18・p. 19]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1組の三角定規の角の組み合わせ方の特徴をつかむ。 本時の学習課題をつかむ。 ★角の大きさを計算で求めよう。 それぞれの角の大きさを式で求め、分度器で測る。 	<ul style="list-style-type: none"> 割り箸を動かすと角の大きさが変わり、いろいろな角の大きさができることから、回転の量としての動的な角の概念をおさえる。 教科書の写真や実物を見せて、作り方の手順を理解させる。 教師が実際に扇を開いて見せ、児童にも同じ大きさの角を作らせるようにするとよい。 p. 12・p. 13の①～⑨の角を作り、半回転や1回転した角があることに気付かせる。 【評】扇でいろいろな大きさの角を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 角の大きさの決まり方を知らせ、角の大きさについて詳しく調べていくことをつかませる。 分度器の中心の合わせ方や目盛りの読み方など、使い方の手順をおさえる。 p. 169の薄い紙を重ねて、2つの角の大きさを比べさせる。 話し合いを通して、2つの角を重ねて調べることにより、角の大きさを数値化することの便利さを考えさせ、分度器の必要性に気付かせる。 教師用分度器等を用いて分度器を提示し、分度器に目盛りがあることに気付かせる。 1度の大きさを知らせ、角の大きさの単位が度（°）であることと、直角が90°であることをおさえる。 角の大きさを測る手順をおさえる。辺アイに合わせた0°から10°、20°、30°、…と読むことを確認する。 角の大きさの予想を立てて測定させ、量感をつかませる。 【評】角の大きさを測る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 辺の長さを伸ばしたり、分度器の読み方を工夫したりする方法を考えさせる。 辺の長さが短いことや向きが反対になっていることをつかませる。 分度器を合わせただけでは正しく測ることができない角であることを知らせる。 辺の長さが短いときには、辺の長さを伸ばして測ったり、向きが反対のときには、左から10°、20°、…と読むことに気付かせる。 【評】工夫した角の測り方について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 直角より大きい小さいか、見当をつけてから、角の大きさを測るようにさせる。 正三角形や二等辺三角形の角の大きさを測りそれぞれの角の大きさの特徴を考えさせる。 各三角定規の角の大きさを測り、それぞれの角の大きさの特徴を考えさせる。 角の大きさが加減可能な量であることをつかませる。 1組の三角定規の角がそれぞれくっついていたり重なっていることを確認する。 角の大きさは加減可能な量かどうかを考えていくことを知らせる。 三角定規のそれぞれの角の大きさを確認し、式で求めさせる。その後、分度器で正確に測らせて、値が一致することを確認させる。角

<p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 半回転や一回転の角の大きさについて理解し、180° 以上の角を工夫して測ったり、その求め方を説明したりする [p. 20・p. 21]</p> <p>○[あ]の角の特徴をつかみ、角の大きさを見当付ける。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★180° をこえる角の大きさのはかり方を考えよう。</p> <p>○180° より大きな角を工夫して測る。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>6 与えられた大きさの角のかき方について考え、分度器を使っていろいろな大きさの角をかく。[p. 22]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★分度器を使って角をかこう。 ○30° の大きさの角をかく。 ○200° の大きさの角をかく。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 角の大きさに着目して三角形をかく。[p. 23]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★角のかき方を使って、三角形をかこう。 ○正しい手順で、正確に三角形をかく。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 24・p. 25]</p> <p>○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>の大きさも、長さやかさのときと同じように加減できることをまとめさせる。</p> <p>【評】いろいろな大きさの角を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半回転が180° や一回転が360° であることを用いたり、補助線を引いたりして考えさせる ・180° よりも大きい角であることをつかませる。 ・分度器の目盛りは180° までしかないため、工夫した角の測り方を考えていくことに気付かせる。 ・半回転が180° であることや一回転が360° であることを知り、その間にある角の大きさの測り方を考えさせる。つまり、210° を「180° より30° 大きい角」や「360° より150° 小さい角」と考えさせる。 <p>【評】180° より大きな角の測り方について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助線を引かせたり、見当を付けさせたりするなどして、正しく角度を測らせる。 <p>【評】180° より大きな角を測る活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分度器の中心の合わせ方や目盛りのうち方等かき方の手順をおさえる。 ・角のかき方の手順を確認しながらかく。 ・180° より大きな角の測り方を思い出し、180° に20° 加える方法と1回転から160° を引く方法でかくことに気付かせる。 <p>【評】180° より大きい角のかき方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60° と300° の比較から共通点と違いを把握させ、正しい量感を養わせる。 ・正しい手順で、分度器を使って正確な角度の三角形をかかせるようにする。 ・三角形の辺の長さや角の大きさを確認する。 ・まず、線分アイをかかせる。次に、線分アイの両端にそれぞれの角をかかせ、三角形を完成させる。 ・1辺の両端の角が60° になっている二等辺三角形の頂角は60° になっていることを確認させ、正三角形の性質を知らせる。 <p>【評】三角形をかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角とその大きさについて分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	--

【 備 考 】

第2学年では直角の形について、また第3学年では二等辺三角形や正三角形の学習において、角の大きさが同じであることを指導してきている。第4学年では、角の大きさを回転の大きさとして捉え、角の大きさの単位「度（ $^{\circ}$ ）」を用いて角の大きさを測定するとともに、角の大きさの観点から、これまでに学習してきた図形の理解を一層深めることを主なねらいとしている。

第4学年の角の学習においては、図形を考察する要素の中でも、特に角の大きさに着目すると、図形間の関係が捉えやすくなるよさを理解し、積極的に図形の考察に活用する資質・能力を育成することが大切である。

単元名 折れ線グラフ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 折れ線グラフの特徴を理解し、折れ線グラフを読んだり、かいたりすることができる。
 (2) 変化の様子がよく分かるグラフに作り替えるための方法を考えたり、変化の特徴を傾きから考えたりすることができる。
 (3) 折れ線グラフに表すよさを生かして、進んで折れ線グラフに表したり、身の回りにある折れ線グラフを活用したりしようとする。

標準的な展開例

04040103_001

【準備等】 グラフ用紙、定規、他教科の教科書や副読本（社会、理科）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 折れ線グラフとそのよさについて知る。[p. 26・p. 27]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 温度計の図を見て、気温の変わり方について話し合う。 ○ 気温の変化を表にかく。 ○ 変化の様子がひと目で分かる表現方法について考える。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 変わり方がよくわかるグラフについて調べていこう。 ○ 用語「折れ線グラフ」を知り、折れ線グラフの特徴やよさを考える。 ○ 折れ線グラフの縦や横の目盛りが何を表しているか考える。 ○ 時刻（横軸）に伴った気温（縦軸）の変化の様子を話し合う。 ○ 気温（縦軸）に対応する時刻（横軸）を読み取る。 <p>2 折れ線グラフのよみ方と変化の様子について考える。[p. 28・p. 29]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 折れ線グラフについて確認する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ グラフから変わり方のようにすを調べよう。 ○ 気温の変化を調べる。 ○ 折れ線グラフの線の傾き具合を調べる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 折れ線グラフのかき方をつかむ。[p. 30・p. 31]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 目もりのつけ方に気をつけて、折れ線グラフをかこう。 ○ 折れ線グラフの横軸に必要な目盛りの数を考える。 ○ 折れ線グラフの縦軸に必要な目盛りの付け方を考える。 ○ 1日の気温の変化を折れ線グラフにかく。 <p>4 分かりやすい折れ線グラフのかき方を考える。[p. 32・p. 33]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 変わり方がよくわかる折れ線グラフをかこう。 ○ 変わり方がよく分かるグラフのかき方を考える。 ○ 1目盛りが大きい折れ線グラフをかき、導入時にかいた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折れ線グラフの線の傾きと変化の様子との関係に着目させる。 ・ 4月15日の午前9時から午後4時までの7時間にわたる気温の記録で、時間の経過とともに気温が変わっていることに着目させる。 ・ 第3学年「表とグラフ」での経験を想起させ表よりもグラフの方が、全体の様子が分かりやすいことをおさえる。 ・ 棒グラフと比較して、「点と線で簡単にかける」や「変化の様子がよく分かる」など、折れ線グラフのよさについて簡単に触れる。 ・ 棒グラフ（温度計）の先端を線で結んだものと同じであることを確認する。 ・ 示された時刻の気温を読み取り、「□時～□時は、気温が上がっている。」などの話し方ができるように助言する。 【評】 折れ線グラフを読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 気温が21度の時刻を読み取るなどの活動を通して、折れ線グラフに慣れさせる。 ・ 気温や地面の温度が、時間の変化に伴って刻々と変化していることに着目させる。 ・ 縦軸や横軸の1目盛りが表している数量を単位とともに答えさせる。 ・ 気温の上昇したり、下降したりしている時間帯を調べ、線の傾き具合に着目させる。 ・ 気温の上昇値に対する線の傾き具合の違いに気付かせ、変わり方についてまとめさせる。 【評】 折れ線グラフの線の傾き具合を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 折れ線グラフの線の傾き具合に注意させ、下がり方についても同様に考えさせる。 ・ 棒グラフの経験を基に考えさせる。 ・ 午前9時から午後3時までの7目盛り必要であることを確認する。 ・ 全ての気温に点を打つためには、一番高くなる気温を知る必要があることに気付かせる。 ・ p. 31の「折れ線グラフのかき方」の手順に沿って、正しい折れ線グラフをかかせる。また点と点をしっかり結ばせる。線を引くときは必ず定規を用いるように指示する。 【評】 折れ線グラフをかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 変化の様子が分かりやすいかどうかに着目させる。 ・ かいた折れ線グラフを見て気付いたことを話し合わせ、傾き具合の変化が小さいことに注目させ、学習課題をつかませる。 ・ 変わり方を分かりやすくするためには、傾き具合を大きくすることや縦軸の目盛りを工夫することに気付かせる。また、省略記号を知らせる。

折れ線グラフと比較する。

- 「練習問題」に取り組む。

5 2つの事柄を、1つのグラフに表す方法を考える。[p. 34・p. 35]

- 表を見て、気付いたことを発表する。

- 本時の学習課題をつかむ。

★2つのことがらを、1つのグラフに表そう。

- 東京の気温の折れ線グラフがかかれたものに、シドニーの気温の折れ線グラフをかく。

- 2つの折れ線グラフを見て、気が付いたことを話し合う

- 折れ線グラフと棒グラフを見て、降水量や気温を読む。

- 折れ線グラフと棒グラフを見て、気が付いたことを話し合う。

6 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 36・p. 37]

- 「たしかめよう」に取り組む。

- 学習の振り返りを書く。

- ・折れ線グラフの傾きが大きくなり、変わり方がよく分かるようになったことに気付かせる横軸は変化していないことを確認する。

【評】2つの折れ線グラフを比較する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・表の最小値と最大値を読み取らせ、1目盛りの取り方を考えさせる。

- ・他教科の教科書や副読本（社会、理科）を利用するとよい。

【評】身近なものから折れ線グラフを見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・2つの事柄をグラフに表し、2つの関係を考えさせる。

- ・片方の気温に着目した考えや比較して分かることなどを発言させる。表を見ただけでは、分かりにくいことにも触れさせたい。

- ・東京とシドニーの気温を1つのグラフにかくことを伝え、本時の学習課題をつかませる。

- ・東京とシドニーで、折れ線グラフの色を変えることで、比較しやすくさせる。

- ・東京の気温の変わり方を基準に、シドニーの気温の変わり方を考えさせる。また、2つの折れ線グラフを1つのグラフに表すことのよさを考えさせる。

【評】2つの折れ線グラフから関係性を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・気温を表した折れ線グラフと降水量を表した棒グラフを見て、その関係性を考えさせる。

- ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。

- ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・折れ線グラフについて分かったことやできるようになったこと、もっとやってみようことなどを書かせる。

【 備 考 】

第1学年から第3学年では、ものともとのを対応付けたり、一つの数をほかの数の和や差としてみたり、一つの数をほかの数の積としてみたり、乗数が1ずつ増えるときの積の増え方の様子に着目したりすることを学習してきた。また、対象を絵や図に置き換えたり、身の回りの事象について、表やグラフで表したり読んだりすることを指導している。

第4学年では、具体的な場面において、表や式、折れ線グラフを用いて変化の様子を表したり、変化の特徴を読み取ったりすることができるようにするとともに、伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する力を伸ばすことをねらいとしている。また、考察に用いた表現や結果を振り返って、得られた結果を分かりやすい表現に工夫するなど、よりよく問題解決する態度を養うことも大切である。

単元名 1けたでわるわり算の筆算

配当時間 10時間

単元の目標 (1) (被除数) = (除数) × (商) + (余り) の関係を理解し, (2, 3 位数) ÷ (1 位数) の筆算や (2 位数) ÷ (1 位数) の暗算, 答えの確かめができる。
 (2) (2, 3 位数) ÷ (1 位数) の計算の仕方を考え, 説明することができる。
 (3) わり算の筆算や暗算のよさに気付き, 進んで具体的な問題の解決に活用しようとする。

標準的な展開例

04040104_001

【準備等】色紙や計算棒, お金の模型

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (2 位数) ÷ (1 位数) で, 商が 2 位数になる計算の仕方を考える。[p. 38・p. 39]</p> <ul style="list-style-type: none"> 色紙72枚を 3 人に同じ数ずつ分けたときの式を考える。 72 ÷ 3 の計算方法を考え, 話し合う。 <p>○わり算の答えを商ということを知る。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★1けたの数でわるわり算の筆算のしかたについて考えていこう。</p> <p>2 (2 位数) ÷ (1 位数) で, 商が 2 位数になる筆算の仕方を考える。[p. 40・p. 41]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★72 ÷ 3 のようなわり算の筆算のしかたを考えよう。 72 ÷ 3 の筆算の方法を考える。 <p>○計算の仕方を声に出しながら, 72 ÷ 3 の筆算に取り組む</p> <p>○筆算の考え方を確認する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 (2 位数) ÷ (1 位数) で, 余りのある場合の筆算をする。[p. 42]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★あまりのあるわり算の筆算のしかたを考えよう。 93 ÷ 4 の筆算をし, 答えを求める。 <p>○余りのある除法の計算について, 答えの確かめをする。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 (2 位数) ÷ (1 位数) で, 桁ごとに割り切れたり, 商の一の位に 0 を立てたりする筆算の仕方を考える。[p. 43]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★ひいて 0 になるわり算の筆算のしかたを考えよう。 68 ÷ 2 の計算の仕方を考える。 83 ÷ 4 の計算の仕方を考える。 <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 練習問題に取り組む。 [p. 44]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「練習」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 色紙や計算棒の操作を通して, 具体的に計算の仕方を考えさせる。 色紙や計算棒などの具体物を使い, まず10の束を分け, その後, 残った10の束をくずして再び分けることに気付かせる。 【評】色紙や計算棒を等分する具体的操作を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 かけ算の筆算を想起させ, わり算も筆算ができることを知らせる。 前時の学習を想起させ, 筆算の形式と具体物の計算と結び付けさせる。 72 ÷ 3 の筆算は, 「72」→「」→「——」→「3」の順で書くことを知らせる。筆算は, 大きい位の十の位から計算することを確認する。 声に出しながら, 「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の手順を身に付けさせる。 十の位に立てた 2 や一の位に立てた 4 が, それぞれ $20 \times 3 = 60$ や $4 \times 3 = 12$ を表していることを確認する。 声に出して唱えさせて, 正しい書き方や計算の手順を確認させる。 【評】除法の筆算に取り組む活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 (被除数) = (除数) × (商) + (余り) の関係を知り, 余りは除数より小さいことに注意させる。 筆算の計算の手順を確認しながら計算をさせる。商と余りの位置を確認し, 問題文に合う答えを書かせる。 第3学年「あまりのあるわり算」で学習した答えの確かめの仕方も想起させ, 「除数×商+余り=被除数」を活用し, 答えを確かめさせる。 答えの確かめも行わせる。 【評】除法の筆算に取り組む活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 筆算の計算の手順を使って, 0 の処理が適切にできるようにする。 十の位の数を引いて 0 になった場合は, 0 を書かないように注意させる。 一の位の 3 は 4 で割れないことから, 一の位の商は 0 を立てることに気付かせる。 早く解けた児童には, 答えの確かめを行わせてもよい。 【評】除法の筆算に取り組む活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 つまづいている児童には, 個別指導を十分に行い, 原因を明確にさせる。 【評】(2 位数) ÷ (1 位数) の筆算に取り組む活動を通して, 「知識・技能」を評価する

<p>6 (3位数) ÷ (1位数) で、商が3桁になる筆算をする [p. 45] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ (3けた) ÷ (1けた) の筆算をしよう。 ○ $834 \div 3$ の筆算の仕方を考え、話し合う。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 (3位数) ÷ (1位数) で、商が2桁になる筆算をする [p. 46・p. 47] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たてる数に気をつけて、わり算の筆算のしかたを考えよう。 ○ $642 \div 6$ の筆算の仕方を考え、話し合う。</p> <p>○ $252 \div 6$ の筆算の仕方を考える。</p> <p>○ $242 \div 3$ の筆算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>○ 商に0が立つときの簡単な仕方を知る。</p> <p>8 練習問題に取り組む。 [p. 48] ○ 「練習」に取り組む。</p> <p>9 簡単な(2位数) ÷ (1位数) の暗算をする。 [p. 49] ○ 問題文を読み、式を考える。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ (2けた) ÷ (1けた) の計算を暗算でしてみよう。 ○ $75 \div 3$ の暗算をする。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>10 単元を振り返り、確認問題に取り組む。 [p. 50・p. 51] ○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 位数が増えても、既習の知識を用いて計算できることに気付かせる。 ・ 既習の筆算と比較させ、異なる点や共通点を話し合わせる。 ・ 被除数が3位数の場合も、「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の手順で筆算できることを確認する。 【評】 (3位数) ÷ (1位数) の筆算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 問題を出し合った筆算の答えの確かめは、「除数×商+余り=被除数」になることを活用させる。答えが違う場合は、次時以降に考えることを伝える。 ・ 商に0が立つときの筆算の方法を身に付けさせる。 ・ 前時の除法の筆算と比較させ、異なる点(十の位に0が立つ)を話し合わせる。 ・ 商がどの位から立つか考えさせる。商の百の位の部分は「0」になるが、書かないことを確認する。 【評】 $252 \div 6$ の筆算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 商の一の位に0を立てることに気付かせる。 【評】 (3位数) ÷ (1位数) の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 商に0が立つ場合、途中の計算を省き、簡単にすることができる方法を知らせる。ただし商には0を忘れずに書くことを確認する。 ・ つまづいている児童には、個別指導を十分に行い、原因を明確にさせる。 【評】 (3位数) ÷ (1位数) の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ お金の模型を用意し、何円くらいになるか予測させてから計算させる。 ・ お金を払う場面であることを把握させ、暗算で計算することの必要性に気付かせる。 ・ 暗算する方法を考えていくことを伝え、学習課題につなげる。 ・ お金の模型を操作させながら、$75 \div 3$ の方法を考えさせる。 ・ 簡単なわり算は、暗算でできるようにすることを伝える。 【評】 簡単な除法の暗算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 1桁でわるわり算の筆算について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
---	---

【 備 考 】
第3学年では、除法について、数量の関係に着目し、除法の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすることなどを学習してきた。
第4学年では、整数の除法の筆算での計算の仕方について指導し、多数桁の除法が基本的な計算を基にしてできることを理解させるとともに、桁数の多い計算の仕方を発展的に考えるなど整数の計算の能力を定着させ、それを生活や学習に用いる態度を育むようにする。
本単元については、プログラミング的思考を扱うこともできる。

単元名	ふく習(上p.52・p.53)	配当時間	1 時間
単元の目標			

標準的な展開例	04040105_001
---------	--------------

【準備等】 分度器

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 52 ・ p. 53]	・ 個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 一億をこえる数

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 大きな数の構成と仕組みや、 \times (3桁) の筆算の仕組みと手順を理解し、大きな数の読みや書きができるとともに、 \times (3桁) の筆算ができる。
 (2) 万までの十進位取り記数法の原理を生かして、億や兆までの数の仕組みや、 \times (2桁) の筆算の考えを基に、 \times (3桁) の筆算の仕方を考えることができる。
 (3) 億や兆をこえる大きな数の表し方や仕組みに関心をもち、それらの数の読み方、書き方を知らうとする。

標準的な展開例

04040106_001

【準備等】位取り表、ちらし

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 大きな数について調べる。[p. 54・p. 55]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の人口の読み方について考える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★一億をこえる数のよみ方やかき方について調べていこう ○日本の人口を読む。 ○一億の位を知り、中国やインドの人口を書き、読む。 ○「練習問題」に取り組み、世界の国々の人口に関心をもつ。 <p>2 十億をこえる数の読み方、書き方について考える。[p. 56]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★十億をこえる数のよみ方を調べよう。 ○百億の位、千億の位、一兆の位を知る。 ○岡山県と日本の予算を読む。 ○大きな数を漢数字で書く。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 合わせた数、集めた数、数直線上の数について考える。[p. 57]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★一億をこえる数について、いろいろな見方をしてみよう ○3億2000万がどんな数か考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 10倍したり、10でわったりした数と位の関係について考える。[p. 58・p. 59]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★10倍したり10でわったりしていくと、位がどのように変わるかを調べよう。 ○1億を10倍、100倍したり、10、100でわったりする数を考える。 ○250万や5億を10倍、100倍した数や10や100でわった数について考える。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・位取り表を利用し、十進位取り記数法の仕組みを確認させる。 ・位取り表を用意し、日本の人口を正しく読めるようにさせる。 ・一億の位の1つ上の位を、十億の位ということを確認する。 【評】世界の国々の人口を読む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・前時の学習を基に、自分の力で仕組みを構成できるように支援する。 ・一、十、百、千をそのまま繰り返し用いて、4桁ごとに、万、億、兆という新しい単位を取り入れていることに気付かせる。 ・4桁ずつ書かせたり、一の位から順に書かせるなどして、位取り板に、それぞれの数を正しく書かせる。 ・大きな数を正しく読み取らせるために、単位ごとに色分けしたり、右から順に4桁ごとに区切らせたりなどの工夫をさせる。 【評】大きな数を読んだり、書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・数の構成と結び付けて合わせた数や集めた数を求めたり、集めた数を考えて数直線上の数を求めたりすることができるようにする。 ・「3億は1億をいくつ合わせた数か？」と出題することにより、合わせた数や集めた数を求めるきっかけとさせる。 ・1000万を10個集めると1億になることを想起させ、3億2000万は1000万を32個集めた数であることを考えさせる。 【評】合わせた数、集めた数、数直線の問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・位取り表を利用し、基準となる数を10倍したり、10でわったりした数から、位の関係を読み取らせる。 ・10倍するごとに、位が1つずつ上がることに気付き、10でわっていくごとに変化する位を考えさせる。 ・一億は一万の10000倍であることや一兆を10000でわった数でもあることを位取り表で確認させる。 ・各位の変化についてまとめ、どんな数でも、各位の数字は、10倍するごとに位が1つずつ上がり、10でわるごとに位が1つずつ下がることを確認する。 【評】数を10倍、100倍したり、10、100でわったりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- 5 0から9までの数を使い、大きな数のつくり方を考える
[p. 60]
- 数を13個ならべて、13けたの数を考える。
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 大きな数のつくり方を調べよう。
 - 考えた数を見て、気付いたことを話し合う。
 - 0から9までの10個の数字を全て使い、13桁の数を考える。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 6 数の末尾に0や億、兆のつく大きな数の計算の仕方を考える。[p. 61]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ くふうして大きな数の計算をしよう。
 - 「 $35+28=63$ 」を使い、「35億+28億」を計算する。
 - 「 $63-35=28$ 」を使い、「63兆-35兆」を計算する。
 - 「 $12\times 4=48$ 」を使って、「 1200×400 」の計算方法を考える。
 - 「 $12\times 4=48$ 」を使って、「12万 \times 4万」を計算する。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 7 (3桁) \times (3桁)の筆算の仕方を考える。[p. 62]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 2けたの数をかける筆算をもとにして、大きな数の筆算をしよう。
 - 375×135 の筆算の仕方を考える。
 - 314×807 , 4200×340 を筆算する。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 8 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 63~p. 65]
- 「たしかめよう」に取り組む。
 - 学習の振り返りを書く。
 - 「やってみよう」に取り組む。

- ・ どのような大きな数でも、用いる数字は0から9の10個であることを理解させる。
- ・ 13桁目の位は一兆の位になることを確認し、自由に13桁の数を考えさせる。一兆の位の数字が0にならないように伝える。
- ・ 数の大小や使われた数について確認し、数は0から9までの10個の数字で書き表されることをまとめさせる。
- ・ 一兆の位を確認し、一番大きな数を考えさせる。数字を10個使い切っていれば、同じ数字を繰り返し使用してもよいことを伝える。
- 【評】 一番大きな数を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 和や差、積を利用して、大きな数の計算や位取りの仕方を理解させる。
- ・ 同じ位同士の筆算になることを確認し、答えを求めさせる。また、たし算の答えを和ということを知らせる。
- ・ たし算と同様に、答えを求めさせる。また、ひき算の答えを差ということを知らせる。
- ・ 1200は12の100倍、400は4の100倍であることに気付かせ、48を $100\times 100=1$ 万倍して計算することを視覚的に確認する。
- ・ 1万 \times 1万=1億になることを、位取り表などを活用して確認する。また、かけ算の答えを積ということを知らせる。
- 【評】 工夫して大きな数の計算をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 既習事項の(2桁) \times (2桁)の筆算と関連させ、大きな数の筆算の仕方を考えさせる。
- ・ 2桁までの筆算を見て、「1875は375の5倍」「11250は375の30倍」になっていることを確認する。
- ・ 375を100倍したときの積「37500」の5を書く位置が、百の位から始まるので、375を30倍したときの積「11250」の2の下になることを確認する。
- ・ 807の0の部分は省略してもよいことを知らせる。 4200×340 は 42×34 の筆算を活用できることに気付かせる。
- 【評】 大きな数の筆算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。
- ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。
- 【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 1億をこえる数について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
- ・ 大きな数にさらに興味をもたせる。

【 備 考 】

第3学年までに、万の単位について、数のまとまりに着目し、大きな数の比べ方や表し方を考え、日常生活に生かすことを学習してきた。

第4学年では、億や兆といった新しい単位について指導し、4桁ごとに新たな単位を取り入れていることを知り、整数についての表し方や読み方について、一応のまとめをするとともに、十進位取り記数法についての理解を深めるようにする。

単元名 垂直・平行と四角形

配当時間 14時間

単元の目標 (1) 垂直や平行の意味や台形・平行四辺形・ひし形の特徴と性質を理解し、垂直や平行の関係にある直線をかいたり、台形・平行四辺形・ひし形をかいたりすることができる。
 (2) 三角定規の特徴を生かし、垂直や平行の関係にある直線のかき方、台形・平行四辺形・ひし形の特徴や相互の関係を考えることができる。
 (3) 身の回りから垂直や平行の関係にある直線を進んで探したり、台形・平行四辺形・ひし形の形を調べたりしようとする。

標準的な展開例

04040107_001

【準備等】三角定規、分度器、コンパス、色紙、方眼紙、はさみ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 二直線の交わりと垂直について知る。[p. 66～p. 68]</p> <p>○ p. 66の写真を見て、道路の交わり方に注目する。</p> <p>○ p. 67の図を見て、道路の交わり方を調べる。</p> <p>○ 単元の学習課題をつかむ。 ★直線の交わり方について調べていこう。 ○ 垂直の意味を知る。</p> <p>○ 交わっていない二直線について考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 二直線の特徴から平行の意味を知り、身の回りにある垂直な直線や平行な直線を探す。[p. 69]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★のばしても交わりそうにない2本の直線について調べよう。 ○ 交わっていない二直線について考える。</p> <p>○ 平行の意味を知る。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 平行な二直線の特徴を調べ、垂直や平行な直線の性質について理解する。[p. 70・p. 71]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★平行な2本の直線についてどんなことがいえるかを調べよう。 ○ 三角定規の直角を使い、平行な二直線について調べる。</p> <p>○ コンパスを使い、平行な二直線について調べる。</p> <p>○ 平行な二直線についてまとめる。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二直線が交わる場合において、特殊な場合として90度で交わる場合があることに気付かせる。 ・道路が十字や斜めなどの交わり方をしていることに気付かせる。また、道路によって、さまざまな図形に分けられていることにも触れておいてもよい。 ・p. 169の薄い紙にかかれた交わり方を使い、それぞれの交わり方を見付けさせる。 ・二直線が交わってできる角が直角であるものを三角定規で調べ、直角になる二直線は垂直であることを知らせる。また、形としての直角とは異なることに注意させる。 ・直線には両端が存在しないこと（直線と線分の違い）を確認する。直線[あ]を伸ばして、直線[い]との交わり方が垂直であることを調べさせる。 【評】直線の交わり方について調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・平行な直線の特徴として、どこまで伸ばしても交わらないことや1本の直線に二直線が垂直に交わっていることが挙げられる。後者が平行の意味（定義）として知らせ、前者が平行の性質であることを間違えずに知らせる。 ・二直線の交わり方を予想させる。 ・直線と線分の違いを確認し、直線[あ]と直線[い]は離れているように見えても、それぞれ伸ばすと交わることを確認させる。 ・直線[い]と直線[う]は、いくら伸ばしても決して交わらないことを確認させる。 ・1本の直線に垂直な二直線をかかせ、平行であることを確認させる。また、平行な直線はどこまでも伸ばしても交わらないことも確認させる。 ・p. 69の写真を参考に、身の回りにある垂直や平行になっている二直線を探させる。 【評】身の回りから垂直な直線や平行な直線を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・三角定規やコンパスを使い、特徴を調べさせる。 ・直線[アカ]は、直線[あ]と直線[か]に垂直になっていることを確認し、直線[イキ]と直線[ウク]も同様に調べさせる。 ・直線[アカ]の長さをコンパスで測り、直線[イキ]と直線[ウク]の長さを調べさせる。そのときの長さを平行な二直線の幅と言い、等しいことを確認させる。 ・平行な二直線の幅は、どこを測っても等しくなることをまとめさせる。 ・p. 71の「平行に見えるかな？」を見て、平行であるか調べさせてもよい。

- 4 三角定規を使って、垂直な直線や平行な直線をかく。[p. 72・p. 73]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 垂直な直線や平行な直線のかき方を知ろう。
 - 垂直な直線のかき方を知る。
 - 平行な直線のかき方を知る。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 5 垂直な直線や平行な直線のかき方を使い、長方形をかく [p. 74]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 垂直な直線や平行な直線のかき方を使って、長方形のかき方を考えよう。
 - 三角定規を2枚使って、長方形のかき方を考える。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 6 方眼紙上の垂直な直線や平行な直線の見付け方やかき方を考える。[p. 75]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 方眼紙を使って、垂直な直線や平行な直線をみつけよう。
 - 方眼紙上にかかれた直線から、垂直な直線や平行な直線を見付ける。
 - 方眼紙上に垂直な直線や平行な直線をかく問題に取り組む。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 7 四角形の辺の平行に目を付け、台形と平行四辺形を知る [p. 76・p. 77]
- 点をつないで、四角形を作る。
 - 平行になっている辺に色をぬり、本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 辺の平行に目をつけて、四角形を調べよう。
 - 平行な辺の組数に目を付けて、仲間分けをする。
 - 台形と平行四辺形を知る。
 - 「練習問題」に取り組む。
 - 身の回りにある台形や平行四辺形の形をしたものを見付ける。
- 8 平行四辺形の性質について調べる。[p. 78]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 辺の長さや角の大きさを調べて、平行四辺形のとくちようをみつけよう。
 - 平行四辺形の長さを調べる。
 - 平行四辺形の角の大きさを調べる。

【評】 平行な二直線を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 三角定規を使い、正しい手順でかかせる。

- ・ 三角定規を①と②に分け、手順に沿って、垂直な直線を正しくかかせる。
- ・ 手順に沿って、三角定規①と②で平行な直線を正しくかかせる。また、垂直な直線のかき方との違いをまとめさせる。

【評】 垂直な直線や平行な直線をかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 前時の垂直な直線や平行な直線を活用して、長方形をかかせる。

- ・ 長さ6 cmの辺BCをかき、その両端に垂直な直線をかかせる。
- ・ 平行な直線を使うかき方と垂直な直線を使うかき方の2通りのかき方を考えさせる。またかき終えたら、辺の長さや角の大きさを調べさせる。

【評】 長方形のかき方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 方眼紙を使い、簡単に垂直な直線や平行な直線を見付けたり、かかせたりする。

- ・ 垂直な直線や平行な直線のかき方を思い出させ、見付けた二直線の関係を三角定規で確認させる。また、方眼紙の1マスの大きさや角の大きさなどを確認し、方眼紙の特徴をつかませる。

- ・ 直線の傾きの大きさを2や1/2にするなど、発展的な課題を提示してもよい。

【評】 垂直や平行な直線をかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 台形、平行四辺形、ひし形、長方形、正方形の包摂関係まで考えさせると混乱を招くので図形の名称を判断する力を養わせる。
- ・ 四角形を自由に考えさせる。分類しやすいように、P. 171のカードを使い、[あ]～[お]の四角形を作らせる。

- ・ 導入時に作った四角形も取り入れ、平行な辺の組が「1組」「2組」「ない」四角形に分けさせる。
- ・ 図形の名称は、向かい合った辺の組の数によって変わること気付かせる。
- ・ 長方形や正方形、ひし形も平行四辺形の性質を備えているが、包摂関係までは問わなくてよい。

【評】 台形や平行四辺形に仲間分けする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ p. 77の写真を参考にさせる。

【評】 身の回りから台形や平行四辺形を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 平行四辺形の辺の長さや角の大きさについて等しいものを見付けさせる。

- ・ 辺の長さが等しいものは、向かい合っていることに気付かせる。
- ・ 角の大きさが等しいものも、向かい合っていることに気付かせる。

- 平行四辺形の性質をまとめる。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 9 平行四辺形の作図の仕方について考える。[p. 79]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 平行四辺形のとくちようを使って、平行四辺形をかこう
 - 平行四辺形のかき方を考える。
 - 平行四辺形をかく。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 10 ひし形を知り、その性質やかき方について考える。[p. 80]
- 四角形の4つの辺の長さを調べ、ひし形を知る。
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ ひし形には、どんなとくちようがあるかを調べよう。
 - ひし形の辺や角の特徴を調べ、性質をまとめる。
 - 「練習問題」に取り組む。
 - 身の回りから、ひし形の形をしたものを見付ける。
- 11 対角線の意味を知り、いろいろな四角形の対角線の交わり方について調べる。[p. 81]
- 平行四辺形とひし形の向かい合う頂点を直線で結び、対角線を知る。
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 四角形の対角線の交わり方を調べよう。
 - 平行四辺形の対角線の性質を調べ、まとめる。
 - ひし形の対角線の性質を調べ、まとめる。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 12 四角形を対角線で分け、構成されている三角形について考える。[p. 82]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ ひし形を対角線で切るとどんな形ができるか考えよう。
 - ひし形を1本の対角線で切ってできる図形について考えまとめる。
 - ひし形を2本の対角線で切ってできる図形について考えまとめる。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 13 平行四辺形や台形、ひし形で平面を敷き詰めた図形からその図形や平行線の性質を考える。[p. 83]
- 平行四辺形で平面を敷き詰める。
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ しきつめもようの中にあるいろいろな平行四辺形をみつめて、そのわけを説明しよう。
 - 敷き詰め模様から平行四辺形を見付け、理由を説明する

- ることに気付かせる。
- ・ 辺の長さや角の大きさが等しいことを表す印のかき方について知らせる。
- ・ 分度器や定規などで直接測らせずに、平行四辺形の性質を使って考えさせる。
- 【評】 辺の長さや角の大きさを求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 平行四辺形の定義や性質を基にして、作図の仕方を自分なりに考えさせる。
- ・ 三角形のかき方を想起させ、頂点A、頂点B、頂点Cの決め方を考える。
- ・ 平行線をかいて頂点Dを決める方法とコンパスで測って頂点Dを決める方法を確認する。
- 【評】 平行四辺形をかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ ひし形の辺の長さ、向かい合う辺や角の特徴などを調べさせる。
- ・ コンパスを使い、4つの辺の長さが等しいことを調べ、ひし形についてまとめる。
- ・ 平行四辺形の性質との共通点と違いに気付かせ、ひし形の性質をまとめさせる。
- 【評】 ひし形ができる理由を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 服の模様や写真などを提示し、ひし形を見付け出す活動を支援する。
- 【評】 身の回りからひし形の形を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ 二直線の交わり方を想起させ、対角線に関わる四角形の性質を調べさせる。
- ・ 平行四辺形とひし形の性質を確認し、これまでとは違う視点で性質を探ることを伝える。
- ・ 交わった点から頂点までの長さについて、コンパスを使って測定させる。2本の対角線がそれぞれの中点で交わることに気付かせる。
- ・ 平行四辺形の対角線の交わり方と比較させた上で、2本の対角線は、それぞれの中点で垂直に交わることに気付かせる。
- 【評】 四角形の対角線の交わり方を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する
- ・ 四角形の性質を使い、対角線で分けられた図形について考えさせる。また、合同な2枚の三角形を組み合わせる活動を取り入れ、図形についての見方や感覚を豊かにさせる。
- ・ 辺の長さに注目させ、二等辺三角形ができることを確認させる。
- ・ 対角線の交わり方に注目させ、直角三角形ができることを確認させる。
- ・ 作った図形の特徴を、これまで学習した図形の性質を使い、説明させる。
- 【評】 図形を対角線で切ったり組み合わせたりしてできる図形について考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 平行四辺形や台形、ひし形を敷き詰めた図形の模様やデザインを工夫することにより、図形の美しさにも触れさせる。
- ・ p. 171の平行四辺形を切り取り、p. 83の模様を作らせる。
- ・ 三角定規を使って調べたり、平行四辺形の性質などを使ったりして、平行四辺形になる説明をする。

- ひし形や台形などの四角形を敷き詰め、その模様のよさに触れる。
- 14 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 84・p. 85]
- 「たしかめよう」に取り組む。
-
- 学習の振り返りを書く。

【評】 平行四辺形になる理由を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 同じ大きさのひし形や台形などを用意できれば、実際に組み立てる。
- ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。
- ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 垂直・平行と四角形について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

第2学年では、正方形、長方形について、図形を構成する要素に着目し、正方形、長方形を観察したり構成したりする活動を行っており、二つの直線の平行や垂直についての理解の基礎となる学習をしている。

これを受けて、第4学年では、図形を構成する要素である辺の平行や垂直の関係に着目し、平行四辺形、ひし形、台形の性質を見だし、これらの図形の構成の仕方について考える。そして、見いだした性質を基に、既習の正方形、長方形を捉え直すことをねらいにしている。

さらに、これらの図形の性質が見いだされると、それらの性質間の関係を考察することが次の問題となる。平行四辺形になるための条件など、「AならばBである」ことを証明することは、中学校第2学年において指導される。

単元名 小数

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 1/1000の位までの小数の仕組みや表し方, 加減の計算方法を理解し, 量を小数で表すことや小数を相対的な見方で表すこと, 小数の加減ができる。
- (2) 整数及び1/10の位までの小数の仕組みや表し方, 加減の計算方法を基にして, 1/100の位や1/1000の位の小数の仕組みや表し方, 加減の計算方法を考えることができる。
- (3) 小数のよさに気付き, 進んで小数の仕組みや表し方, 加減の計算方法について学ぼうとする。

標準的な展開例

04040108_001

【準備等】ポット, やかん, リットルます, メスシリンダー, 位取り表

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 やかんとポットに入っている水の量の端数の部分の表し方を考え, 単元の学習課題をつかむ。[p.86・p.87]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○やかんに入っている水のかさを調べ, 1/10の位の表し方について復習する。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★0.1Lより小さいかさの表し方について調べていこう。 ○ポットの水のかさを, Lを単位にした表し方を考える。 ○0.01Lの意味や書き方, 読み方を知る。 ○ポットの水のかさの書き方と読み方を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>2 小数点以下2桁以上の小数の読み方, 書き方を考える。[p.88]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★1kmより短い長さを, kmを単位にして表そう。 ○女神大橋の長さ1289mの289mを, kmの単位を使って表す方法を考える。 ○0.001の書き方と読み方を知り, 1289mをkmの単位を使って表す。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 1, 0.1, 0.01, 0.001の相互関係を考える。[p.89]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★1と0.1, 0.01, 0.001の関係を調べよう。 ○数直線を用いて, 1と0.1, 0.01, 0.001の相互関係を考える。 ○1と0.1, 0.01, 0.001の相互関係をまとめる。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 小数の各位の名称を知り, ある位の単位に着目して, その幾つ分とみる見方を考える。[p.90・p.91]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★小数について, いろいろな見方をしてみよう。 ○9.368は, 1, 0.1, 0.01, 0.001をそれぞれ何個合わせた数かを考える。 ○1/10の位, 1/100の位, 1/1000の位, 小数第1位, 小数第2位, 小数第3位の意味を知る。 ○9.368は, 0.001を何個集めた数かを考える。 ○0.001を1998個集めた数かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物や絵などを活用して, 視覚的に量が捉えやすいように配慮する。 ・0.1Lで量っても余りがあることに気付かせる。 ・0.1Lよりも小さいかさは, 0.1Lを10等分して考えることを伝える。 ・1Lの1/10が0.1L, 0.1Lの1/10が0.01Lであることを知らせ, 0.01Lは1Lの1/100であることを確認させる。 ・1Lの1個分で1L, 0.1Lの3個分で0.3L, 0.01Lの6個分で0.06L, 合わせて1.36Lになることをおさえる。 ・リットルますやメスシリンダーなどを用いた活動を行い, 児童の量感を育てるとよい。 【評】0.1に満たない端数部分の表し方について考える活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・0.1は1を10等分してできた数であることを確認し, 0.01は0.1を10等分することに気付かせる。 ・100mは, 1kmの1/10で0.1kmと表すことを使い, 10mと1mを小数で表させる。 ・1289mは, 1kmと0.289kmで, 1.289kmとなることを確認し, 正しい読み方を知らせる。 ・重さの単位gをkgで表す場合も, 同様に考えさせる。 【評】単位換算の問題に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・小数を数直線に表すことにより, 量として捉えていた小数を, 数としての小数として捉えさせる。 ・数直線を用いて, 視覚的に捉えさせる。また0.1と0.01, 0.01と0.001の相互関係も考えさせる。 ・1を基準に1/10, 1/100, 1/1000となる関係と0.001を基準に10倍, 100倍, 1000倍となる関係に気付かせる。 ・1を基準にしてまとめた関係図を参考に, 10を基準にした関係図を作成させてもよい。 【評】1, 0.1, 0.01, 0.001の相互関係を考える活動を通して, 「知識・技能」を評価する ・小数も整数と同じように, 十進位取り記数法に基づいていることに気付かせる。 ・「1億をこえる数」で学習したことを想起させ, それぞれの位に意識をもたせる。 ・位取り表で表し, 視覚的に確認できるようにする。また, 隣の位との間には, 10倍, 1/10の関係があることを知らせる。 ・0.008は, 0.001が8個であることを確認し, 0.068や0.368について考えさせる。 ・0.001が10個で0.01になることを確認したり

- 「練習問題」に取り組む。
- 5 小数を10倍、100倍したり、10や100でわったりした数の位の変わり方を考える。[p. 92]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★小数を10倍、100倍したり、10や100でわったりした数を調べよう。
 - 0.34は0.01を何個集めた数かを確認する。
 - 0.34を10倍、100倍した数について考える。
 - 0.34を1/10、1/100した数について考え、位の変化をまとめる。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 6 小数の大小について考える。[p. 93]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★小数の大きさのくらべ方を考えよう。
 - 小数の大きさの比べ方を考える。
 - 不等号で表し、小数の大小の比べ方をまとめる。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 7 1/100の位までの小数の加法と減法について考える。[p. 94]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★小数の計算のしかたを考えよう。
 - $5.74 + 3.21$ の計算の仕方を考える。
 - $5.74 + 3.21$ を筆算で計算する。
 - $5.74 - 3.21$ を筆算で計算する。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 8 いろいろな小数の筆算の仕方について考える。[p. 95]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★いろいろな場合の小数の筆算のしかたを考えよう。
 - $7 + 3.51$ の筆算の仕方を考える。
 - いろいろな場合の小数の筆算に取り組む。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 96・p. 97]
- 「たしかめよう」に取り組む。
 - 学習の振り返りを書く。

- 前の問題を参考にさせたりして考えさせる。
- ・p. 91の「小数の表し方」を紹介する。
- 【評】小数を0.1や0.01を基準にして考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・位取り表を使い、位の変化を捉えやすくする
- ・0.01の10倍は0.1であることを確認し、34であることを捉えさせる。
- ・整数を10倍、100倍した場合と同じ仕組みになっていることに着目させる。
- ・小数も整数と同じように、各位の数字は、10倍することにより位が1つずつ上がり、10でわることにより位が1つずつ下がることを確認する。
- 【評】数の仕組みを考える問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する
- ・整数と同様に大きい位から比べて、不等号を使って表すことができるようにする。
- ・整数同士や0.7と1.5の比べ方を想起させ、1.515と1.57の比べ方を考えさせる。
- ・1.515と1.57を数直線で確認し、大きい位から比べると分かることに気付かせる。
- 【評】位取り記数法に基づいて、小数の大小比較を行う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・整数の筆算と結び付けて、小数点の位置をそろえることに留意させながら、小数の加法と減法の計算ができるようにする。
- ・0.01の個数で計算方法と位ごとに分けた計算方法など、既習内容を使い、答えを導かせる
- ・整数の加法の筆算と同様に位をそろえ、下の位から計算すればよいことを確認する。
- ・問題文に合う式を立てさせ、答えを導かせる
- 【評】小数の加法と減法の筆算で計算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・小数点を基に、位をそろえて書かせ、空位に留意させながら、筆算ができるようにする。
- ・7を7.00と考え、前時の筆算と同様に小数点を基に、位をそろえ、下の位から計算すればよいことを確認する。
- ・9.00は0に斜線を書いて9とすることや繰り下りの計算方法を確認する。また、一の位を計算し、0の場合は0を書くことを伝える
- ・位をそろえてから筆算することを意識させる
- ・身近にある物の長さや重さなどを調べ、それらの数を小数へ単位変換させた数同士の加法や減法をさせる。
- 【評】小数の加法や減法の問題を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。
- ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。
- 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・小数について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

第3学年では、1/10 の位までの小数について、小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを

考えるとともに、小数を日常生活に生かすことを学習してきた。

第4学年では、小数が整数と同じ仕組みで表されていることの理解を深めるとともに、ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知らせる。また計算については、加法及び減法を指導するとともに、乗法及び除法について、乗数や除数が整数である場合について指導することにより、小数の四則計算の可能性が広がったことを感得させつつ、小数の理解を深めていくことを主なねらいとしている。

単元名 算数ラボ

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) ルーローの三角形の作り方を理解し、作ったルーローの三角形の幅を平行線で調べることができる。
 (2) ルーローの三角形の形に着目し、正三角形とコンパスでかけることを予想し、手順を考えることができる。
 (3) ルーローの三角形の形に興味をもち、その作り方の手順を考えてみようとする。

標準的な展開例

04040109_001

【準備等】工作用紙，コンパス，定規，はさみ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ルーローの三角形を知り，その作り方を考え，実際に作る。[p. 98・p. 99]</p> <p>○ルーローの三角形について知り，本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★形をよくかんさつして，手順を考えてつくろう。</p> <p>○ルーローの三角形の形について調べる。</p> <p>○ルーローの三角形の作り方を確認し，手順に沿って作る</p> <p>○作ったルーローの三角形の幅を調べる。</p> <p>○振り返りのレポートを書く。</p>	<p>・ルーローの三角形のような不思議な形に興味をもたせ，協働で作り方の手順を考えさせる</p> <p>・正三角形に似ていること，曲線であること，コンパスを使用することなどに気付かせる。</p> <p>・正三角形のかき方や曲線のかき方を確認し，協働してルーローの三角形を作らせる。</p> <p>【評】ルーローの三角形を作る活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ルーローの三角形の幅と等しい平行な二直線をかき，ルーローの三角形を並べたり，移動させたりする。</p> <p>・ルーローの三角形が活用されている物を紹介する。そして，ルーローの三角形のような不思議な形に興味をもたせ，そのよさをまとめさせる。</p>

【 備 考 】

単元名 算数の自由研究

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 2つの同じ大きさの輪を使ってできる不思議な輪のつくり方とでき上がる形について理解し、輪をつないで切った形を調べることができる。
 (2) つないだ輪を切ると、どんな形ができるかを予想することができる。
 (3) 不思議な輪に興味をもち、輪のつなぎ方を変えてやってみようとするとともに、自由研究に関心をもとうとする。

標準的な展開例

04040110_001

【準備等】紙テープ、はさみ、セロハンテープ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 紙テープで輪を作り、輪のつなぎ方をいろいろ変え、輪の中央を切り開いてできる形を調べる。[p.100・p.101]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ大きさの輪を2つつなぎ合わせ、中央で切り開くとどんな形ができるかを予想する。 ○ 輪の中央をはさみで切り開いた形を調べる。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ ふしぎな輪の自由研究をしてみよう。 ○ 輪の数を3つにした場合を調べる。 ○ 大きさの違う輪をつないだ場合を調べる。 ○ 同じ輪を斜めにつないだ場合を調べる。 ○ 作った不思議な輪を発表し、本時の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が教科書の①→②→③まで演示してみせ④のように輪の中央を切り開いた形を予想させる。 ・ 予想との違いや予想通りだった考えを確認する。 ・ 同様に輪の数を4つにした形を予想させ、調べさせてもよい。 ・ 同じ大きさの輪を使うと正方形ができることを基に、大きさの違う輪をつないだ場合を予想させ、実際に作らせる。 ・ 直交するようにつなぐと正方形ができることを基に、斜めにつないだ場合を予想させる。 【評】 でき上がる形を予想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 輪の数を順に増やした場合、大きさを徐々に変えた場合など、系統的にまとめさせるとよい。

【 備 考 】

「ふしぎな輪」の指導のねらいは、図形への関心や意欲を伸ばすことにある。数学的活動を通してできる形に驚き、「不思議だ」「おもしろい」といった感想をもつことが大切である。また、輪を2つつないで正方形ができた体験を基に、「輪を3つにするとどうなるか」「2つの輪の大きさを変えるとどんな形ができるか」「2つの輪を斜めにつなぐとどんな形ができるか」などを予想させることにより、洞察力の基礎も育成したい。

単元名 ふく習(上p.102・p.103)

配当時間 1 時間

単元の目標

標準的な展開例

04040111_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。 [p. 102 ・ p. 103]	・ 個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 2けたでわるわり算の筆算

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) 除数が2位数の計算の仕方や除法に関して成り立つ性質を理解し、何十でわる計算や除数が2位数の除法の筆算ができる。
 (2) 除数が1位数の除法を基に、除数が2位数の除法の筆算の仕方について考えることができる。
 (3) 除数が2位数の除法の筆算の仕方を進んで考えようとする。

標準的な展開例

04040201_001

【準備等】お金の模型、色紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 何十でわる除法で、商の見当を付ける。[p. 104・p. 105]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 買い物をする場面を基に、80円で8円のあめや20円のあめを買う式を考える。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ わる数が2けたのわり算について、計算のしかたを調べていこう。 ○ $80 \div 20$の計算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ $120 \div 20$の計算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 (2, 3位数) \div (2位数) で余りがある除法の仕方について考える。[p. 106・p. 107]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の課題をつかむ。 ★ $80 \div 30$のような、あまりのあるわり算のしかたを考えよう。 ○ $80 \div 30$の計算の仕方を考える。 ○ 商と余りを求め、計算の確かめをする。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ $170 \div 30$の計算の仕方を考える。 ○ 商と余りを求める。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 (2位数) \div (2位数) で、商の見当を付け、筆算の仕方を理解する。[p. 108・p. 109]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ $96 \div 32$の計算の仕方について考える。 ○ $96 \div 32$が3になることを確かめる。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ $96 \div 32$のようなわり算の筆算のしかたを考えよう。 ○ $96 \div 32$の筆算の仕方を考える。 ○ $96 \div 24$の筆算をする。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 (3位数) \div (2位数) で、商の見当を付け、筆算の仕方について考え、計算をする。[p. 110]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題文に合う式を立てる。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ (3けた) \div (2けた) の筆算のしかたを考えよう。 ○ $175 \div 35$の筆算をする。 ○ $175 \div 32$の筆算をする。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物を使い、商の見当を付けさせる。 ・ 言葉の式に基づいて式を導かせる。 ・ 商の見当を付けた後、10円玉のお金の模型を使って、計算の仕方を考えさせる。20円ずつ囲む活動を通して、$8 \div 2$で求められることに気付かせる。 ・ 10円玉の個数で考えると、$12 \div 2$で計算できることに気付かせる。 【評】 模型を使って計算の仕方を考えることを通して、「知識・技能」を評価する。 ・ (除数) \times (商) + (余り) = (被除数) を使い、計算の確かめをさせる。 ・ 10円玉の個数で考えると、$8 \div 3$で計算できることに気付かせる。 ・ 10円玉の模型を使って、余りがどうなるかも考えさせる。余りが2と考える児童もいるので、10円玉を分ける操作を基に、余りは20(円)であることに気付かせる。 ・ 10円玉の個数で考えると、$17 \div 3$で計算できることに気付かせる。 ・ 10円玉の個数を基に、余りを考えさせる。 ・ (除数) \times (商) + (余り) = (被除数) や10円玉の模型などを利用して、余りの間違いに気付かせる。 【評】 計算の間違いを説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 商の見当を付け、筆算の仕方を身に付けさせる。 ・ 96を90、32を30と見て、$90 \div 30$の計算から商の見当を付けさせる。 ・ (除数) \times (商) + (余り) = (被除数) で答えを確かめさせる。 ・ $90 \div 30 = 9 \div 3$なので、$9 \div 3$で商の見当を付けるとよいことに気付かせる。 ・ 「立てる」→「かける」→「ひく」の手順を声に出させながら、身に付けさせる。 【評】 除法の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 被除数が3位数の場合も、商の見当を付けさせ、筆算をさせる。 ・ 1人分の枚数の見当を付けさせるとよい。 ・ 175を170、35を30とみて、$17 \div 3$で商の見当を付けるとよいことに気付かせる。商は1の位に立つことを確認する。 ・ 余りのある筆算を考えさせる。 ・ 商を立てる位置に注意させる。 【評】 除法の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

<p>5 見当を付けた商を修正する筆算の仕方を考える。[p. 111]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ $252 \div 36$ を計算する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★見当をつけた商をなおす筆算のしかたを考えよう。 ○ $252 \div 36$ の筆算の仕方を再考する。 ○ $168 \div 28$ の筆算の仕方を考える。 ○ $324 \div 36$ の筆算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>6 商が 2 桁になる除法の筆算の仕方を考える。[p. 112]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ $552 \div 24$ を計算する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★商が 2 けたになるわり算の筆算のしかたを考えよう。 ○ $552 \div 24$ の筆算の仕方を再考する。 ○ $730 \div 24$ の筆算をする。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>7 (4 位数) \div (2, 3 位数) の筆算の仕方について考える。[p. 113]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★大きな数のわり算の筆算をしよう。 ○ $9646 \div 26$, $1485 \div 26$ の筆算の仕方を考える。 ○ $7536 \div 314$ の計算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>8 練習問題に取り組む。[p. 114]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「練習」に取り組む。 <p>9 除法に関して成り立つ性質について考え、それを活用して計算する。[p. 115]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★わり算の式がちがっても商が同じになるわけを考えよう ○ $6 \div 2$, $60 \div 20$, $600 \div 200$ を計算する。 ○ 商が同じになる理由を考える。 ○ $30 \div 10$ の商も 3 になる理由を考える。 ○ 除法の性質をまとめる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>10 除法に関して成り立つ性質を利用して、計算を工夫する [p. 116]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★わり算のせいしつを使って、大きな数のわり算をしよう ○ $6500 \div 250$ の計算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮の商を修正し、真の商への修正の仕方を考えさせる。 ・見当を付けた商が 8 の場合、$36 \times 8 = 288$ となり、252 をこえてしまう点に気付かせる。 ・商を立て直して計算すればよいことに気付かせる。 ・見当を付けた商を 2 回以上の修正を行うことがある点に気付かせる。 ・除数 36 の 10 倍が 360 になり、被除数 324 をこえてしまうことに気付かせ、$32 \div 3$ の商は 10 であるが、9 を立てることを確認する。 【評】見当を付けた商を修正する除法の筆算に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・商を立てる位置が、十の位になることを注意させる。 ・$55 \div 24$ を $50 \div 20$, $5 \div 2$ として、商の見当を付けさせる。 ・「立てる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の手順を繰り返して、筆算することを確認する。 ・10 は 24 でわれないため、商の一の位は 0 をかくことを確認する。また、商の一の位に 0 をかき、余りになることも確認する。 ・計算に慣れるまで、「立てる」→「かける」→「ひく」→「おろす」と声に出させる。 【評】除法の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・被除数や除数が大きくなっても、これまでと同じ計算の仕方では、計算できることに気付かせる。 ・被除数を上位から順に見て、商の立つ位を考えさせる。 ・除数が 3 位数になっても、2 位数と同様に考えられることを確認する。 ・商の立つ位に注意して、筆算で計算させる。 【評】練習問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・つまづいている児童には、個別指導を十分に行い、原因を明確にさせる。 【評】除法の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・具体物を使い、除法に関して成り立つ性質をつかませる。 ・お金の模型を使い、商は全て 3 になることを確認する。 ・除数を 10 倍、100 倍した場合、被除数を 10 倍、100 倍にすれば、商が同じになることに気付かせる。 ・除数を 2 倍、5 倍にすると、被除数も 2 倍、5 倍になっていることに気付かせる。 ・除数と被除数に、同じ数をかけても、同じ数でわっても、商は同じになることをまとめさせる。 【評】除法に関して成り立つ性質を用いて計算する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・除法に関して成り立つ性質を用いて、被除数と除数を簡単な数にして計算する方法を考えさせる。 ・除数、被除数ともに 0 の付く大きな数であることに気付かせる。 ・除法に関して成り立つ性質を使い、簡単な数にして計算する仕方を考えさせる。 【評】除法に関して成り立つ性質を利用して計
---	---

- 「練習問題」に取り組む。
- 11 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 117]
- 「たしかめよう」に取り組む。
-
- 学習の振り返りを書く。

算する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。
 - ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。
- 【評】問題に取り組む活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・2桁でわるわり算の筆算について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみようことなどを書かせる。

【 備 考 】

除数が1位数の筆算や簡単なわり算の暗算については，「1桁でわるわり算の筆算」で学習している。本単元では，その発展として，除数が2位数の暗算や筆算を取り扱う。除数が2位数の筆算の仕方についても，「1桁でわるわり算の筆算」で扱った，「立てて，かけて，ひいて，おろす」という除法の筆算の手順を活用すればよいことに気付かせる。商が立つ位置を判断できれば，あとは同じ計算の繰り返しになるという筆算のよさも体得させることが大切である。しかし，2位数でわる場合，商の見当を付けたり，見当を付けた商の修正をしたりすることが必要になり，計算方法の理解と習熟が困難になる。この点にも十分に留意して指導したい。また，除法に関して成り立つ性質として，除数，被除数に同じ数をかけても，同じ数でわっても，商は変わらないことを知り，計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりするときに活用させることも重要である。

単元名 割合

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解し、図や式などを用いて、2つの数量の関係同士を比べることができる。
- (2) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係との比べ方を考察することができる。
- (3) 図や式から数量の関係の特徴を読み取って問題を解決していくことを通して、日常生活の中から、割合の関係にある事柄を見付け出そうとしている。

標準的な展開例

04040202_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 2つの数量の関係を比べるために、割合の考えを利用することを学ぶ。[p. 118・p. 119]</p> <p>○イルカとクジラでは、どちらの体長が伸びたといえるのか考える。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★ある量をもとにして、その何倍になっているかを考えていこう。</p> <p>○今のイルカとクジラの体長について、基の体長の何倍になっているのかを考える。</p> <p>○割合を知る。</p> <p>2 数量の割合の割合を図に表して、分からない量を求める[p. 120・p. 121]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★割合を図に表して、分からない量を求めよう。</p> <p>○Sサイズのフライドポテトの重さを基準にして、Lサイズのフライドポテトの重さを求める。</p> <p>○Mサイズのフライドポテトの重さを求める。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 3つの数量の割合の割合を図に表して考える。[p. 122]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★割合をつなげた図に表して考えよう。</p> <p>○百貨店の高さを求めてから、学校の高さを求める。</p> <p>○テレビ塔と学校の高さの割合を考えてから、学校の高さを求める。</p> <p>○3つの建物の高さの関係図をまとめる。</p> <p>4 3つの数量の割合の割合を図に表して、何倍になるかを考える。[p. 123]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★何倍になるかを考えてから求めよう。</p> <p>○3人の体重の割合を図に表し、妹の体重を求める。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・個々の数量の差ではなく、数量の間の乗法的な関係でみて、2つの数量の関係を比べさせる。</p> <p>・どちらとも3m伸びていることに注目させる</p> <p>【評】イルカとクジラの体長の伸び方を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・数量の関係をまとめた表や図から、何倍になっているのかを式で求めさせる。</p> <p>・数量の関係を(基の体長)×(何倍にあたるか)=(今の体長)として表し、(何倍にあたるか)の部分が割合であることを知らせる。</p> <p>・基準量を1とみたときに、比較量を図や式を用いて、数量の関係を明瞭で的確に表させる</p> <p>・数量の関係を表した式や言葉の式を使い、Sサイズ(50g)を1としたとき、Lサイズ(300g)は6で表される図をまとめさせる。</p> <p>・数量の割合を図で表し、式での求め方の違いを考えさせる。</p> <p>【評】数量の割合の割合を図に表して分からない量を求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・順に求めていく方法とまとめて考える方法の2通りで考えさせる。</p> <p>・3つの建物の高さの割合を図に表し、順に建物の高さを求めさせる。</p> <p>・テレビ塔の高さが学校の高さの何倍になるのかを、図を用いて考えさせる。</p> <p>【評】学校の高さを求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・割合は、基準量を1とみたときに、比較量が2倍、3倍、4倍などで捉えられ、式や図などを用いて、分からない量が求められることに気付かせる。</p> <p>・図を手がかりにして、最大の数量と最小の数量の割合を考えさせる。</p> <p>・はるとさんの体重を求めてから、妹の体重を求めることもできるが、お父さんの体重は妹の体重の何倍になるのかを考えさせる。</p> <p>・それぞれの数量の割合を図に表し、何倍になるのかという視点で練習問題に取り組ませる</p> <p>【評】何倍になるのかを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

第2学年、第3学年では、乗法、除法の意味について理解する際に、整数を用いた倍の意味についても取り扱い、「基にする量の何倍」という割合の見方の基礎を学習してきた。分数の意味においても「基の大きさの1/2」などを学習している。

第4学年では、割合が2、3、4などの整数で表される簡単な場合について、ある2つの数量の関係と別の

2つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知り、図や式などを用いて、2つの数量の関係同士の比べ方を考察する力を伸ばすことをねらいとしている。また、2つの数量の関係に着目することで、数量の大きさに対する感覚をより豊かにすることも大切である。第5学年の異種の2つの量の割合として捉えられる数量、割合、百分率などの考察に生かされるものである。

単元名 式と計算の順じょ

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 四則の混合した式や () を用いた式について理解し、正しく計算することができる。
 (2) 式の意味を考え、具体的に即して式の意味を説明したり、計算のきまりを用いて効率的な計算方法を考えたりすることができる。
 (3) 式の扱いに関心をもち、() を使って1つの式に表したり、具体的に即して式を読み取ったりしようとする。

標準的な展開例

04040203_001

【準備等】磁石玉（黒12個，白15個）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 数量関係を言葉の式で表す方法や () を使って1つの式に表す仕方について知る。[p. 124・p. 125]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○120円のジュース1本と、90円のパン3個を買ったときの代金を求める式を考え、代金を求める。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★いくつかの計算を1つの式にかくことや、その計算の順じょについて調べていこう。 ○言葉の式を基にして、式を考え、計算する。 ○問題文に合う式を、() を使って1つの式に表す。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>2 () を使って1つの式にする方法を考える。[p. 126]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★ひとまとまりとみるものに () を使って、1つの式にかこう。 ○おつりを求める計算を、() を使って1つの式に表す。 ○代金を求める計算を、() を使って1つの式に表す。 ○乗除先行について知らせる。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 四則混合式の計算の順序をまとめ、正しく計算できるようにする。[p. 127]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★計算の順じょを考えて、そのしかたを説明しよう。 ○式の順序を考えて計算する問題に取り組む。 ○四則混合式の計算の順序をまとめる。 ○計算の順序の違いを見付けて説明する。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 計算のきまりを知る。[p. 128・p. 129]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カードを買った代金を1つの式に表す。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★式や図を見て、どのように考えたのかを説明しよう。 ○式や図を見て、カードの代金の求め方を説明する。 ○式や図を見て、代金の違いの求め方を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の式を基にして、具体的な場面と式を関連付けて考えさせる。 ・児童に考えさせた後に、ひなたさんとだいちさんの計算方法を提示して、代金の違いを確認する。 ・言葉の式を基にして、() を使って1つの式に表すことを考えさせる。また、() の中をひとまとまりとみて、先に計算することを知らせる。 ・問題文に合った言葉の式や図に表し、() を使った1つの式を考えさせる。 【評】() を使った式に表すことを通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・加減と乗除の混合した式では、乗除を先に計算することを知らせ、() を省略できることを確認させる。 ・先に計算する部分に () を使うことを確認し、言葉の式を基にして式を考えさせる。 ・半ダースは1ダース(12本)の半分であることを知らせる。 ・乗除の部分に () が付いている場合は、() を省くことを確認する。 ・乗除先行を確認し、計算の順序を考えさせる 【評】四則混合式の計算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・() の使い方や、乗除先行など計算の順序に関するきまりを、さまざまな式の計算を通して理解させる。 ・計算した順序が分かるように、線を引かせたり、番号を書かせたりする。 ・左から順に計算すること、括弧先行、乗除先行をまとめさせる。 ・間違い探しが困難な児童には、左から順に計算してみるように助言する。 ・() の中に加減乗除が混じっている場合、() の中のどの部分を最初に計算するかを考えさせる。 【評】四則混合式の計算を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・式や図から、計算のきまりを知り、そのきまりに数を当てはめて、成り立つことを確認させる。 ・だいちさんとひなたさんの式は、児童が考え出せなかった場合に提示する。 ・60円と40円のカードを1組として考えた式とそれぞれの代金をたし合わせた式は、どちらも同じ答えになることを確認する。 ・2つの式が等しくなる表し方を知らせる。 【評】代金の違いを求める式を説明する活動を

<p>○ () を使った式のきまりを知る。</p> <p>○ 加法や乗法のきまりを知る。</p> <p>5 計算のきまりを使い、工夫して計算する。[p. 130・p. 131]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★計算の順じよを考えて、くふうして計算しよう。 ○ $82+43+57$ を工夫して計算する。 ○ 25×36 を工夫して計算する。 ○ 102×35 を工夫して計算する。 ○ 99×53 を工夫して計算する。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>6 数量を求めた式の考え方を説明する。[p. 132]</p> <p>○ 黒石と白石を合わせた数を 1 つの式に表す。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★どのように考えてつくった式か、図を使って説明しよう ○ 式を、図を使って説明する。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 乗法と除法、加法と減法の相互関係について理解を深める。[p. 133]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★□にあてはまる数は、どんな計算で求められるかを考えよう。 ○ 1 束の花の数を□本として、式を考える。</p> <p>○ $\square \times 4 = 24$, $\square \div 4 = 6$ の場合の、□の求め方を考える</p> <p>○ 子どもの数を□人として、式を考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 134・p. 135]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<p>通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分配法則について、□, ○, △に整数を当てはめて、左辺と右辺が等しくなることを確かめさせる。 ・交換法則や結合法則について、□, ○, △に整数を当てはめて、左辺と右辺が等しくなることを確かめさせる。 ・複雑な計算の答えを、交換法則や結合法則、分配法則を使うことで工夫して求められることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ $43+57=100$ になることに気付かせる。 ・ $25 \times 4 = 100$ であることから考えさせる。 ・ $100+2=102$ であることから考えさせる。 ・ $100-1=99$ であることから考えさせる。 ・ 100 などのまとまりをつくり、計算法則を考えさせながら求めさせる。 <p>【評】計算の工夫を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を使い、考えた式を説明させる。 ・2 つの式で表した児童には、1 つの式に表す方法を想起させる。 <p>【評】黒石と白石を合わせた数を 1 つの式にする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だいちさんやひなたさん、かいとさんが考えた式は、児童が考え出せなかった場合に提示する。 <p>【評】おかしな数を求めた式の考え方を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・□を使った式を用い、相互関係を一般的に捉えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて、□を 1, 2, 3 などの整数値に置き換えて考えさせ、□への抵抗を軽減させる。 ・乗法と除法が逆の関係にあることに気付かせる。 ・加法と減法が逆の関係にあることに気付かせる。 ・計算方法と□に当てはまる数の両方を答えさせる。 <p>【評】□に当てはまる数を求める活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式と計算の順序について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみようかなどを書かせる。
---	--

【 備 考 】

第3学年までに、加法や乗法の計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることの学習を通して、具体的な場面において、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことについて学習してきた。

第4学年では、これまでに指導してきた数と計算の範囲において、四則に関して成り立つ性質を見だし、それらを一般的に成り立つ計算として式にまとめ、必要に応じて活用できるようにすることがねらいである。

第5学年以降、計算法則は、小数、分数へと適用する範囲が拡張されていく。

単元名 そろばん

配当時間 1時間

単元の目標 (1) そろばんによる小数や大きな数の表し方，加法及び減法の計算の仕方を理解し，小数や大きな数の簡単な加法及び減法の計算ができる。
 (2) 整数の加減を基に，小数の加減の計算の仕方を考えることができる。
 (3) そろばんについて関心を持ち，進んで加減の計算に取り組もうとする。

標準的な展開例

04040204_001

【準備等】そろばん

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 そろばんを使って，小数や大きな数を表したり，加減計算をしたりする。[p. 136～p. 138]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ そろばんを使った数の表し方や計算のしかたを知ろう。 ○ 小数を入れて，はらう問題に取り組む。 ○ 小数のたし算とひき算に取り組む。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年で学習したそろばんの加減計算の仕方を想起させる。 ・ 定位点が小数点の役目をしていることに気付かせる。 ・ 小数のたし算やひき算も，整数と同じように左の桁から右の桁へ順に計算すればよいことに気付かせる。 ・ 位が大きくなっても，同じようにすればよいことを確認する。 ・ 位が大きくなっても，億や兆がそろっている場合は，その位を定位点までに入れば，簡単に計算できることを知らせておく。 ・ そろばんで積み算をするのは初めてなので，積み算のかき方のルールをしっかりと確認する。 ・ やり方を教え，それぞれの児童の実態に応じて取り組ませる。 【評】そろばんを使った問題に取り組む活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 「そろばんとおつり」を紹介する。 ・ 「数のたんじょうとそろばん」を紹介する。

【備 考】

第3学年では，そろばんについて，その仕組みに着目し，大きな数や小数の計算の仕方を考えることを学習してきた。

第4学年では，第3学年の理解の上に，そろばんの計算の仕組みについての理解を深めるようにする。整数については，億や兆の単位までの数を表すこと，小数については1/100の位までの数を表すことができるようにする。

単元名 面積

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 面積の単位や長方形や正方形の求積公式を理解し、いろいろな長方形や正方形の面積を適切な単位を選んで求めることができる。
- (2) 面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形のア積の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察することができる。
- (3) 長方形や正方形の面積を表すことに興味をもち、長方形や正方形の求積公式を利用して、身の回りにあるものの面積を求めようとする。

標準的な展開例

04040205_001

【準備等】トレーシングペーパー、はさみ、方眼紙、1 mものさし、新聞紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 広さの表し方や求め方を考える。[下p. 2・p. 3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 周りの長さが等しい花壇の広さを比べる方法について考える。 ○ [い]と[う]の花壇を、トレーシングペーパーに写し取って重ねて比べる。 ○ 方眼を引いて考え、広さを方眼の数で比べる。 <p>○ 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★面積の表し方や求め方について調べていこう。</p> <p>2 面積の意味と面積の単位?を知り、方眼紙上の図形のア積を求める。[p. 4・p. 5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 1 辺が 1 cm の正方形が何こ分あるかで面積をくらべよう ○ 面積を比べる問題を考える。 <p>○ 面積の意味と単位?を知る。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 長方形、正方形の面積の公式を導き、面積を求める。[p. 6・p. 7]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 面積を計算で求めるしかたを考えよう。 ○ 縦 5 cm、横 7 cm の長方形の面積の求め方を考える。 <p>○ 長方形の面積を式で求める。</p> <p>○ 1 辺が 4 cm の正方形の面積を求める。</p> <p>○ 長方形、正方形の面積の公式を導く。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 複合図形のア積の求め方を工夫して考え、その考え方を説明する。[p. 8・p. 9]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 面積の公式が使えるようにくふうして、面積を求めよう ○ L 字型の図形のア積を考え、説明する。 <p>○ L 字型の図形のア積を求める。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 面積の単位 m^2 について知る。[p. 10]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ トレーシングペーパーに写し取って比べさせる。 <p>・ どちらの花壇が広いかを予想させてから、比べ方を考えるようにする。</p> <p>・ 重ね合わせの操作をしなくても、数の大小によって比較ができるという数量化のよさに気付かせる。</p> <p>【評】広さを数量化して比べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・ 広さのことを面積ということ伝える。</p> <p>・ 普遍単位?を使うことにより、大きさを簡単に比べられるよさに気付かせる。</p> <p>・ [あ]と[い]の正方形の数を数えさせて、広さを比べさせる。</p> <p>・ 1 辺が 1 cm の正方形がいくつ分あるかで表されるのが面積であること、単位をかく際、「2」を後でかくことを知らせる。</p> <p>・ 1?の正方形がいくつ分あるか調べさせる。</p> <p>・ 面積が 4?の図形について、いろいろな形を作図させる。</p> <p>【評】面積が 4?になる形をいろいろかく活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 1?の正方形の個数の数え方を考えさせ、縦横に並んだ数から、かけ算で求められることに気付かせる。</p> <p>・ 1?の正方形がいくつ分か数える考え方を導かせる。</p> <p>・ 縦に 5 個並んだ 1?の正方形が 7 列分あることに気付かせる。</p> <p>・ かけ算で求められることを確認する。</p> <p>・ 長方形の面積の求め方と同様に、正方形の面積を求めることができることに気付かせる。</p> <p>・ 長方形、正方形の面積の求め方を言葉で表させ、公式を導かせる。</p> <p>【評】面積を求める公式を導く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 実際に長さを測って、面積を求めさせる問題では、どこの長さを測ればよいかを考えさせる。</p> <p>・ 面積の公式が使える形にする工夫を考えさせその後、面積を求めさせるようにする。</p> <p>・ 補助線を引いて長方形に分けたり、つぎたしたりして考えさせる。</p> <p>・ 必要な長さを測って面積を求めさせる。</p> <p>・ 面積の公式が使えるようにするための工夫を考えさせてから、問題に取り組ませる。</p> <p>【評】工夫して面積を求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ ?を使うと単位が小さいため、数値が大きくなり不便になることから、m^2の必要性を感じ取らせる。</p>

○教室の床の面積を求める。

○本時の学習課題をつかむ。

★長さの単位がmのときの面積の表し方を考えよう。

○1辺が1mの正方形の面積を 1 m^2 とかくことを知らせる。

○教室の床の面積を 1 m^2 を基準にして求める。

○「練習問題」に取り組む。

6 ?と m^2 の関係について考える。[p. 11]

○本時の学習課題をつかむ。

★たてと横の長さの単位がちがうときの面積の求め方を考えよう。

○掲示板の面積を?で求める。

○掲示板の面積を m^2 で求める。

○ 1 m^2 は、何?かを求める。

○「練習問題」に取り組む。

7 1 m^2 を作ったり、与えられた面積に近い広さを身の回りから探したりすることを通して、面積の量感を養う。[p. 12]

○本時の学習課題をつかむ。

★ 1 m^2 の大きさやいろいろなものの大きさを調べよう。

○ 1 m^2 の新聞紙に何人乗れるかを調べる。

○いろいろなものの大きさを調べる。

○身の回りにあるもののおよその面積を考える。

8 面積の単位?を知る。[p. 13]

○本時の学習課題をつかむ。

★長さの単位がkmのときの面積の表し方を考えよう。

○土地の面積を考える。

○面積の単位?について知る。

○ 1 ? は何 m^2 であるかを考える。

○「練習問題」に取り組む。

9 面積の単位aとhaを知り、面積の単位の関係について考える。[p. 14・p. 15]

○水田とみかん畑の面積を求める。

○面積の単位a, haについて知る。

○面積をa, haを単位にして表す。

○本時の学習課題をつかむ。

★面積の単位の関係について調べよう。

○面積の単位関係をまとめる。

・ 700×900 で630000?の考えを認めながら、大きな単位で表すための m^2 の必要性を感じ取らせる。

・1辺が1mの正方形を黒板にかき、 1 m^2 の量感を捉えさせる。

・ 1 m^2 のいくつかを考えて、面積を求めることができることを確認する。

・長方形や正方形の面積を、公式を使って m^2 の単位で求めさせる。

【評】面積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・長さの単位が異なる長方形の場合は、単位をそろえて面積を求めることに気付かせる。

・ $4\text{ m} = 400\text{ cm}$ を確認し、単位をcmにそろえて面積を求めさせる。

・ $200\text{ cm} = 2\text{ m}$ を確認し、単位をmにそろえて面積を求めさせる。

・ $1\text{ m} = 100\text{ cm}$ を確認し、 1 m^2 は、 1 ? が10000個分であることに気付かせる。

・単位をcmやmにそろえさせてから計算させる

【評】長さの単位をそろえて面積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・新聞紙で 1 m^2 を作る活動を通して、 $1\text{ m}^2 = 10000\text{ ?}$ であることを体感させる。

・グループで作らせるとよい。

・面積の量感を養うために、人数を予想させてから、実際に調べさせるようにする。

・新聞紙で作った 1 m^2 を使い、 1 m^2 くらいのものを探させたり、教室の床の面積を求めさせたりする。

【評】いろいろなものの大きさを調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・プールの縦は25m, 机の天板の横は約65cmなど、縦と横のおよその長さを考えさせる。

・地域の地図の上に、1辺が1kmの正方形をかかせ、それについて考察させると、 1 ? の面積を実感しやすくなる。

・ m^2 で表すと数値が大きくなることに着目させて、新しい単位の必要性を感じ取らせる。

・1辺が1kmの正方形を単位にすればよいことに気付かせて、 1 ? を知らせる。

・ $1\text{ km} = 1000\text{ m}$ を確認し、 $1000 \times 1000 = 1000000$ で求められることに気付かせる。

【評】?と m^2 の関係を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・広い土地の大きさは?を使うとよいことに気付かせる。

・aやhaは、田畑や山林など土地の面積を表すことに使われ、日常生活に関わることが多い点にも触れる。

・既習内容の単位で、それぞれの面積を求めさせる。

・ $600\text{ m}^2 = 6\text{ a}$, $60000\text{ m}^2 = 6\text{ ha}$ になることを確認する。

・面積が $\text{m}^2 \rightarrow \text{a} \rightarrow \text{ha} \rightarrow ?$ の順に100倍ずつ大きくなっていることに気付かせる。また、正方形の1辺の長さは10倍ずつ大きくなっていることにも注目させる。

【評】面積の単位関係をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

<p>○ 単位の量感を写真で確認する。</p> <p>10 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 16・p. 17]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表で確認した単位の関係を視覚的に捉えさせる。 ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	--

【 備 考 】
 第4学年の面積の学習は，正方形や長方形といった図形の面積について，単位と測定の意味を理解し，面積の単位や図形を構成する要素に着目して面積の求め方について考え，それらを用いることができるようにすることを主なねらいとしている。また，これまでは，計器を用いて測定してきたが，面積は辺の長さなどを用いて計算によって求めることに注意する。

単元名	ふく習(下p.18・p.19)	配当時間	1 時間
単元の目標			

標準的な展開例	04040206_001
---------	--------------

【準備等】 定規，分度器

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 18・p. 19]	・個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 がい数とその計算

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 概数の意味や四捨五入の仕方を理解し、大きな数量を四捨五入によって概数処理して計算したり、棒グラフに表したりすることができる。
- (2) 数直線などを用いて、概数や概数の表す範囲を考慮することができる。
- (3) 概数に関心を持ち、身の回りで概数を見付けようとする。

標準的な展開例

04040207_001

【準備等】電卓

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 概数の意味、四捨五入、「ある位までの概数」の表し方を知る。[p. 20～p. 22]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サッカーの試合の入場者数について、テレビ放送と新聞で違いがあることを知り、テレビ放送が入場者数を43000人にした理由について考える。 ○ 概数について知る。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ がい数の表し方やがい数の計算について調べていこう。 ○ 島根県と栃木県の面積を概数で表す。 ○ 四捨五入について知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 四捨五入による概数の表し方について考える。[p. 23]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ どの位の数を四捨五入したかを考えよう。 ○ 四捨五入をした位から、共通点と違いを考える。 ○ 「ある位まで概数」や「上から1桁や2桁の概数」という表し方を知る。 ○ 上から1桁の概数で表す方法を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 概数からもとの数の範囲を考え、以上、以下、未満の違いについて知る。[p. 24]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ がい数の表すはんいを考えよう。 ○ 四捨五入で、百の位までの概数にしたとき、500になる整数の最小値と最大値を考える。 ○ 約500の範囲を数直線に表し、最大、最小の数について考える。 ○ 「以上」「以下」「未満」の用語について知る。 ○ 約500羽を以上・以下、以上・未満を使って表す。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 数量を概数にして、棒グラフ上に表す。[p. 25]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ がい数を使って、ぼうグラフに表そう。 ○ 縦軸の1目盛りの大きさを考える。 ○ 各県のりんごの収穫量を概数にする。 ○ 概数を棒グラフに表す。 ○ 身の回りにある概数を見付ける。 <p>5 大きな数について、概算する。[p. 26・p. 27]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数の大きさや数と数の関係が捉えやすくなることや見通しが立てやすく、大きな誤りを防ぐことなどの概数のよさを味わわせた上で、概数の意味を捉えさせる。 ・ 数直線で示して考えさせる。 ・ 大まかな数が分かればよいとき概数を使うことを知らせる。 ・ 千に足りない端数に目を付けさせ、数直線に表させる。それぞれの数は、6000に近いのか7000に近いのかを考えさせる。 ・ 「ある位までの概数」で表す場合、「ある位」より1つ下の位を切り捨てたり、切り上げたりする四捨五入を知らせる。 【評】 千の位までの概数に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 概数の表し方には、「ある位まで」と「上から□桁」の2通りがあることをつかませる。 ・ 2098804人を約2000000人、377589人を約400000人とする2つの表し方の共通点や違いを考えさせる。 ・ 上から2つ目の位の数字を四捨五入することに気付かせる。 ・ 概数にして表すよさにも気付かせる。 【評】 上から2桁の概数に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 色を使い分けて数直線に表すことで、範囲を分かりやすくする。 ・ 350～450、450～550、550～650に分けて考えさせ、四捨五入の意味を確認させる。 ・ 以下と未満の違いについて知らせる。 ・ 数直線を使い、450と550の処理について考えさせる。 ・ 四捨五入して13000になる範囲を数直線で捉えさせてから、整数の範囲を考えさせる。 【評】 概数の表す範囲を求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 大きな数は、数量を概数にしてから棒グラフに表しても、ほとんど誤差が生じないことに気付かせる。 ・ 各県の収穫量を読み、縦軸の1目盛りの大きさを考えさせる。 ・ 万の位の概数にするために、千の位を四捨五入することに気付かせる。 ・ 棒同士がくっつかないようにさせる。 【評】 身の回りで使われている概数を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ がい数の計算のしかたを考えよう。
- 2 日間の入場者数の合計を、概数で表す問題に取り組む
- 入場者数の違いを、概数で表す問題に取り組む。
- 概算について知る。

6 積を概数で求める方法について考える。[p. 28]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ がい数のかけ算のしかたを考えよう。
- ゲームソフトの 1 か月間の売り上げを見積もる方法を考える。
- 複雑な乗法の積の見積もり方をまとめる。
- 別のゲームソフトの売り上げを求める。

7 商を概数で求める方法について考える。[p. 29]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ がい数のわり算のしかたを考えよう。
- 1 人分のバス代を見積もる方法について考える。
- 複雑な除法の商の見積もり方をまとめる。
- 「練習問題」に取り組む。

8 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 30・p. 31]

- 「たしかめよう」に取り組む。
- 学習の振り返りを書く。

- ・ 大きな数は、数量を概数にしてから計算してもほとんど誤差が生じないことに気付かせる

- ・ 計算をしてから概数にする方法と、概数にしてから計算する方法があることを知らせる。
- ・ 概数にしてから計算をする方法で求めるよさに気付かせる。
- ・ ある数までの概数で和や差を求めたいときはそれぞれの数を求めようと思う位までの概数にしてから計算することを確認する。
- 【評】概算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 複雑なかけ算の積を見積もるには、乗数も被乗数も上から 1 桁の概数にしてから計算することを知らせる。

- ・ 前時の加法と減法の概算について想起させる
- ・ 電卓で答えを出して、概算との違いを確認する。
- ・ 上から 1 桁の概数にしてから計算させる。
- 【評】複雑な乗法の積を見積もる活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・ 複雑なわり算の商を見積もるには、被除数を上から 2 桁、除数を上から 1 桁の概数にして計算し、商は上から 1 桁だけ求めることを知らせる。

- ・ 前時の乗法の概算について想起させる。
- ・ 電卓で答えを出して、概算との違いを確認する。
- ・ 被除数を上から 2 桁、除数を上から 1 桁の概数にして計算し、商は上から 1 桁だけ求めることを確認する。
- 【評】複雑な除法の概算をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。
- ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。
- 【評】問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 概数とその計算について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

第 3 学年までに、計算の結果を見積もったり、測定値を読み取ったりする際におよその見当を付けることを学習してきている。

第 4 学年では、概数の意味を理解し、数を手際よく捉えたり処理したりすることができるようにするとともに、場面の意味に着目して数の捉え方を考え、目的に応じて概数を用いることができるようにする。また、概数を用いると数の大きさが捉えやすくなることや、物事の判断や処理が容易になること、見通しを立てやすくなることなどのよさに気づき、目的に応じて自ら概数で事象を把握しようとする態度を養うようにする。

単元名 図を使って考えよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 3要素2段階逆思考の問題について、順に戻して考える方法を理解し、数量の関係を適切な関係図に表し、順に戻して考える方法で問題を解決することができる。
 (2) 3要素2段階逆思考の問題について、要素間の関係を的確に捉え、順に戻して考えることができる。
 (3) 数量の関係を図に表すよさに気づき、図を使って問題を解決しようとする。

標準的な展開例

04040208_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 乗法と加減を組み合わせた3要素2段階逆思考の問題を順に戻して考える。[p. 32]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ノート1冊の値段の求め方を考える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★図にかいて、問題を整理して考えよう。 ○関係図を手がかりにして考え、ノート1冊の値段を求める。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>2 除法と加減を組み合わせた3要素2段階逆思考の問題を順に戻して考える。[p. 33]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○買ってきたいちごの数の求め方を考える。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★図にかいて、順にもどして考えよう。 ○関係図を手がかりにして考え、買ってきたいちごの数を求める。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の順序で乗法の部分を先に計算したことを想起させ、逆思考の場合は除法の部分を後で計算させることに気付かせる。 ・数量の関係をつかませるため、重要な箇所に線を引かせる。 ・加法の逆が減法、乗法の逆が除法であることを想起させ、減法、除法の順に戻して考えていけばよいことに気付かせる。 ・関係図をつくり、加法、除法の順に戻して考えていけばよいことに気付かせる。 【評】順に戻して考える問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・四則計算の順序で除法の部分を先に計算したことを想起させ、逆思考の場合は乗法の部分を後で計算させることに気付かせる。 ・数量の関係をつかませるため、重要な箇所に線を引かせる。 ・加法の逆が減法、除法の逆が乗法であることを想起させ、減法、乗法の順に戻して考えていけばよいことに気付かせる。 ・関係図をつくり、加法、乗法の順に戻して考えていけばよいことに気付かせる。 【評】順に戻して考える問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元で扱うのは、与えられた3要素に2回演算を施すことによって答えが得られる3要素2段階の問題であり、さらに逆思考を2段階組み合わせた問題である。この問題を解決するのに必要な考え方として、「順に戻して」解決する思考法を身に付けさせることが大切である。目的の前段階となる要素や条件に着目させながら、数量関係を図に表し、解決の際に生かしていけるようにすることが重要である。問題場面を関係図に整理する過程を丁寧に扱う。

単元名 小数のかけ算やわり算

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 小数のかけ算やわり算の意味や計算の仕方を理解し、その計算ができる。
 (2) 0.1や0.01の個数に着目して、整数と同様に計算できることを理解し、その計算の仕方を説明できる。
 (3) 既習の計算や小数の意味を振り返って、小数のかけ算やわり算の計算の仕方を考えようとする

標準的な展開例

04040209_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 純小数に整数をかける計算の仕方について考える。[p. 34・p. 35]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1両が2mの列車4両分の長さの求め方を考える。 ○ 1両が0.2mの列車4両分の長さを求める式を考える。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 小数に整数をかける計算のしかたを考えていこう。 ○ 0.2×4 の計算の仕方を考える。 ○ 0.02×4 の計算の仕方を説明する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 小数に整数をかける計算の仕方について考える。[p. 36]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題文に合う式を考える。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 整数の計算をもとにして、2.3×6 の計算のしかたを考えよう。 ○ 2.3×6 の計算の仕方を考える。 ○ 0.23×6 の計算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 (小数) \times (1位数) の筆算の仕方を考える。[p. 37]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 整数のかけ算の筆算のしかたをもとにして、小数のかけ算の筆算のしかたを考えよう。 ○ 2.3×6 の筆算の方法を考える。 ○ 3.5×8 を筆算する。 ○ 0.28×3 を筆算する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 (小数) \times (2位数) の筆算の仕方について考える。[p. 38]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 小数に2けたの整数をかける筆算のしかたを考えよう。 ○ 1.2×43 の計算の仕方を考える。 ○ 2.4×35 の筆算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>5 練習問題に取り組む。[p. 39]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「練習」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量の関係図や整数の計算方法などを利用して、0.1の何個分になるかを考えさせるようにする。 ・ 列車全体の長さの求め方を、言葉の式にも表させる。 ・ 言葉の式を使い、数字を当てはめさせる。 ・ 被乗数が小数であることに注目させる。 ・ だいちさんの考えは、0.1が何個分かを考えていることに気付かせる。 ・ ひなたさんの考えは、小数を10倍して整数に直し、積を10でわっていることに気付かせる。 ・ 0.2×4 の計算の仕方を活用させる。 【評】 (純小数) \times (1位数) の計算方法を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 数量の関係を線分図に表したり、小数を10倍して整数に戻してから積を求め、その積から考えさせたりするなどして、求める積が小数になることをつかませる。 ・ 前時の計算の仕方と同様に考えさせる。 ・ 0.23を何倍すると整数になるのかを考えさせる。 【評】 小数に整数をかける問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 整数の乗法の筆算の仕方を活用させる。 ・ 整数の乗法の筆算と同じように書かせ、筆算で求めさせる。前時で求めた数を想起させ、積に小数点を打たせる。 ・ $3.5 \times 8 = 28.0$ の0に斜線を書き、28とさせる。 ・ 小数点の前に数がないときには、0を書き、0.84とさせる。 【評】 (小数) \times (1位数) の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 前時の計算の仕方を活用し、乗数が2位数の筆算の仕方を考えさせる。 ・ 乗数が2位数であることに気付かせる。 ・ 12×43 の計算をするつもりで筆算をさせ、最後に小数点を付けることを確認する。ただし1段目の「36」の3と6の間に小数点を付けないように指導する。 ・ 積の84.0は、小数点は消さずに、0だけに斜線を書かせる。 ・ 2.8×70 の場合、筆算の1段目を「0」と書くように指導する。「00」と書かせない。 【評】 (小数) \times (2位数) の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ つまづいている児童には、個別指導を十分に行い、原因を明確にさせる。 ・ 0.3×12 を筆算するとき、1段目は「6」だけ、2段目は「3」だけを書くように指導

- 6 (小数)÷(1位数)で、商が純小数になる計算の仕方について考える。[p.40・p.41]
- 6mのリボンを3人で分けたときの1人分の長さの求め方を考える。
 - 0.6mのリボンを3人で分けたときの1人分の長さを求める式を考える。
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 整数の計算をもとにして、 $0.6 \div 3$ の計算のしかたを考えよう。
 - $0.6 \div 3$ の計算方法を考える。
- $1.5 \div 3$ を計算する。
- $0.12 \div 4$ の計算の仕方を考える。
- 「練習問題」に取り組む。
- 7 (整数)÷(整数)で、商が小数になる計算の仕方について考える。[p.42]
- 2mのひもを4等分したときの1人分の長さを求める式を考える。
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ $2 \div 4$ の計算のしかたを考えよう。
 - $2 \div 4$ の計算の仕方を考える。
- $0.2 \div 5$ の計算の仕方を考える。
- 「練習問題」に取り組む。
- 8 (小数)÷(1位数)の筆算の仕方を考える。[p.43]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 整数の筆算のしかたをもとにして、小数のわり算の筆算のしかたを考えよう。
 - $7.2 \div 3$ の筆算の仕方を考える。
- $37.5 \div 5$ を筆算する。
- 「練習問題」に取り組む。
- 9 (小数)÷(1位数)の商が1より小さくなる筆算の仕方を考える。[p.44]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 商が1より小さくなるわり算の筆算のしかたを考えよう。
 - $4.92 \div 6$ を筆算する。
- $0.329 \div 7$ を筆算する。
- 「練習問題」に取り組む。
- 10 (小数)÷(2位数)の筆算の仕方について考える。[p.45]
- 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 小数を2けたの整数でわるわり算の筆算のしかたを考えよう。
 - $98.7 \div 21$ を筆算する。
- $31.5 \div 45$ を筆算する。
- $2.45 \div 35$ を筆算する。
- 「練習問題」に取り組む。

- する。
- 【評】 小数の乗法の問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 線分図などを使い、等分除の意味を十分に理解させる。
 - ・ 1人分の長さの求め方を、言葉の式にも表させる。
 - ・ 言葉の式を使い、数字を当てはめさせる。
- ・ 被除数が小数であることに注目させる。
- ・ だいちさんの考えは、0.1の何個分かを考えていることに気付かせる。また、0.6を10倍して整数に直し、商を10でわる仕方にも気付かせる。
 - ・ $0.6 \div 3$ での考え方を活用させる。
 - ・ $0.6 \div 3$ や $1.5 \div 3$ の計算の仕方を活用させる
- 【評】 計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 数量の関係を線分図に表したり、被除数を10倍して商を求め、その商から考えさせたりするなどして、求める商が小数になることをつかまさせる。
 - ・ $4 \div 2$ にならないように、問題文をきちんと読み取らせる。
 - ・ 除数よりも被除数の方が小さいことを確認する。
 - ・ だいちさんの考えは、2は0.1のいくつ分かを考え、 $2 \div 4$ は、0.1が($20 \div 4$)個分であることに気付かせる。
 - ・ ひなたさんの考えは、2を10倍して被除数を除数より大きな数に直し、商を10でわると $2 \div 4$ の答えが求められることに気付かせる。
 - ・ $2 \div 4$ の計算の仕方を活用させる。
- 【評】 $0.2 \div 5$ の計算の仕方考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 10でわると小数点が1つ左へ移動することに気付かせる。
 - ・ 整数の除法の筆算の仕方を活用させる。
- ・ 整数と同様に計算させる。商の2と4の間に小数点を付けさせる。
 - ・ 商の小数点の位置が、被除数の小数点と同じ位置であることに気付かせる。
- 【評】 小数のわり算の筆算をする活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・ 商が1より小さくなる場合の書き方を知らせる。
- ・ 商は1より小さくなることを見積もらせ、 $492 \div 6$ と同様に筆算させる。
 - ・ 商が立たない1の位や $1/10$ の位には、0を書かせる。また、小数点を打つ位置に気を付けさせる。
- 【評】 商が1より小さくなる筆算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 前時の計算の仕方を活用し、除数が2位数以上の筆算の仕方を考えさせる。
- ・ $987 \div 21$ の計算をするつもりで筆算をさせ、最後に商に小数点を付け忘れないようにすることを確認する。
 - ・ 1の位に商が立たないときは、0.と書くことを確認する。
 - ・ 商が立たない位に0を書いて筆算を進めることを確認する。

11 余りのあるわり算の仕方について考える。[p. 46]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ あまりの大きさについて考えよう。
- 図を使い、余りの大きさを考える。
- 商が4，余りが1.6になることを確かめる。
- $24.8 \div 4$ の余りの大きさを考える。

- 「練習問題」に取り組む。

12 わり進む筆算の仕方について考える。[p. 47]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ わり進む筆算のしかたを考えよう。
- $15.6 \div 8$ の筆算の仕方考える。
- $9.4 \div 8$ の筆算をする。
- 「練習問題」に取り組む。

13 商を概数で表す仕方について考える。[p. 48]

- $2 \div 3$ を計算する。
- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 商をがい数で表してみよう。
- $2 \div 3$ の商を，1/10の位までの概数で表す。
- $2 \div 3$ の商を，上から2桁の概数で表す。
- 「練習問題」に取り組む。

14 練習問題に取り組む。[p. 49]

- 「練習」に取り組む。

15 小数倍の意味を理解する。[p. 50・p. 51]

- 白のリボンの何倍が赤のリボンの長さになるのかを考える。
- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 倍を表す数が小数になるときの意味を考えよう。
- 白のリボンの何倍が青のリボンの長さになるのかを考える。
- 水の何倍がお茶の量になるのかを考える。
- 水の何倍がジュースの量になるのかを考える。

16 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 52・p. 53]

- 「たしかめよう」に取り組む。
- 学習の振り返りを書く。

【評】(小数) \div (2位数)の筆算をする活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・ 数量の関係を図に表したり，答えの確かめをしたりして，余りは除数より小さくなっていることに気付かせる。
- ・ $13.6 \div 4$ を筆算し，商の整数値は4になることを確認し，余りの大きさを考えさせる。
- ・ 余りを16と考える児童には，除数の3より大きくなっていることに気付かせる。
- ・ 計算の確かめの式に数を当てはめ，商と余りの関係をつかませる。
- ・ 筆算し，商の整数値は6になることを確認し余りの大きさを考えさせる。

【評】余りの大きさを考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 被除数に0を付け足していけば，計算を続けることができることに気付かせる。

- ・ 15.6を15.60と考えることで，わり進めることができることに気付かせる。
- ・ わり切れるまで，被除数に0を付け足していくことを確認する。
- ・ $50 \div 4$ のような計算では，50.0と考えることを確認する。

【評】わり切れるまでわり進む筆算をする活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・ わり進んでわり切れないときには，四捨五入をして商を概数で表してもよいことを知らせる。
- ・ 6が続いてわり切れないことに気付かせる。

- ・ 1/100の位の数字を四捨五入することを確認する。
- ・ 上から3桁目の数字を四捨五入することを確認する。

【評】商を四捨五入して概数で表す活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・ つまづいている児童には，個別指導を十分に行い，原因を明確にさせる。

【評】小数のわり算の問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・ 数量の関係を図にして表し，割合の考えを活用させる。
- ・ 割合の単元を想起させる。

- ・ 白のリボンの長さを1にしたとき，青の長さの割合を考えさせる。
- ・ 水500mLを1にしたとき，お茶600mLの割合を考えさせる。
- ・ 水500mLを1にしたとき，ジュース1200mLの割合を考えさせる。

【評】何倍かを考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。
- ・ 自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・ 小数のかけ算やわり算について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみようなどを書かせる。

【 備 考 】

第3学年では，1/10の位までの小数について，数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに，小数を日常生活に生かすことを指導してきた。

第4学年では，小数が整数と同じ仕組みで表されていることの理解を深めるとともに，ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知らせる。また計算については，加法及び減法を指導するとともに，乗法及び除法について，乗数や除数が整数である場合について指導することにより，小数の四則計算の可能性が広がったことを感得させつつ，小数の理解を深めていくことを主なねらいとしている。

単元名 見積もりを使って

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 100や1000などのまとまりをつくる見積もりの仕方を理解し、100や1000などのまとまりをつかって、合計を見積もることができる。
(2) およその数が分かればよい場面において、見積もりの有用性を考えることができる。
(3) 100や1000などのまとまりをつかって、合計を見積もろうとする。

標準的な展開例

04040210_001

【準備等】電卓

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 100や1000などのまとまりをつかって、合計を見積もる [p. 54・p. 55]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集めた缶の個数がおよそ何個になるかを考える。 ○集めた缶の実際の個数と見積もった数を比べる。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★まとまりをつかって考えよう。 ○コース1周はおよそ何kmになるかを考える。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見積もりの有用性を理解し、細かい計算をせず、まとまりをつかって合計を見積もる方法について考えさせる。 ・およそ100のまとまりをつかって考えればよいことに気付かせる。 ・実際の個数を電卓で計算し、見積もりの有用性を確認させる。 ・およそ1000のまとまりをつかって考えさせる実際の距離を電卓で計算し、見積もりとの差を確認する。 <p>【評】見積もりを計算する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【備 考】

和・差・積を電卓で求めてそれを概数に直すことについては、本学年の単元「およその数」で既に学習している。本単元では、その内容をさらに深め、目的に応じた和・差・積・商の概算の仕方を学習する。電卓を効果的に用い、概算のよさが感じられるように指導する必要がある。

単元名 **どんな計算になるのかな**

配当時間 **1時間**

単元の目標 (1) 四則演算の用いられる問題を理解し、問題に即して適切に演算を決定し、計算することができる。
(2) 演算を決定した根拠を説明することができる。
(3) 問題を読み、どのような計算になるのかを判断しようとする。

標準的な展開例

04040211_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 明石海峡大橋に関する問題から、適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。[p. 56・p. 57]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ どんな計算になるかを考えて、問題をとこう。 ○ 桁下の高さを求める式を書き、答えを求める。 ○ $300 \div 5$ の式になる理由を考える。 ○ 明石海峡大橋に使われているワイヤーの数の求め方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題の内容に則して、立式の根拠を説明させる。 ・ 明石海峡大橋に関する数量や事柄を確認する ・ 主塔の高さは、桁下の高さのおよそ5倍になることから、演算決定させる。 ・ 関係図から、乗法の逆は除法であることを活用させる。 ・ 1束127本のケーブルが290束あることを確認し、演算決定させる。 ・ 明石海峡大橋の長さを求めることを確認し、演算決定させる。 【評】 計算方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元では、問題に即して適切に演算を決定し、立式の根拠を説明できるようにすることがねらいである。問題文中の言葉に着目したり、関係図に表したりして、演算を決定する根拠を説明させるように留意する。

単元名 ふく習(下p.58・p.59)

配当時間 1 時間

単元の目標

標準的な展開例

04040212_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 58 ・ p. 59]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 調べ方と整理のしかた

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 資料の分類整理の仕方や表のまとめ方を理解し、2つの観点から事象を整理し、表にまとめることができる。
- (2) 資料を観点別に整理する方法を考え、表を活用して問題解決を図ることができる。
- (3) 身の回りの事象について問題を見いだし、資料を分類整理して、表を用いて表そうとする。

標準的な展開例

04040301_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 資料を2つの観点で調べる。[p. 60～p. 63]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「1週間のけが調べ」の記録を見て、調べられる内容について話し合う。 単元の学習課題をつかむ。 ★2つのことがらについて調べる場合の整理のしかたを考えていこう。 「1週間のけが調べ」を1つの観点で分類整理した表を見て、分かったことを考える。 2つの観点で分類整理した表を見て、そのよさに気付く 表を見て、問題に答える。 <p>2 2つの観点から分類整理した表を作り、考察する。[p. 64・p. 65]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★2つのことがらを表にかいて調べよう。 けがの種類と体の部分に目を付けて、記録を表にまとめる。 どのようなけがを体のどの部分にした人が多いかを読み取る。 「練習問題」に取り組む。 <p>3 分類整理した表から問題点を読み取り、その改善策を考える。[p. 66・p. 67]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★3つの表からよみとれることを調べて、安全な学校生活をおくることについて話しあおう。 3つの表から読み取れることを確認し、よりよい学校生活を送るための方法を話し合う。 「練習問題」に取り組む。 <p>4 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 68・p. 69]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「たしかめよう」に取り組む。 学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を分類整理することで、事象の傾向や特徴が分かりやすくなることをつかませる。 表がたくさんあると分かりにくく、調べにくいことをつかませる。 2つの観点で分類整理した表は分かりやすくその便利さに気付かせる。 表の横と縦を見ることで、けがをした場所と種類を簡単に見付けられることに気付かせる <p>【評】資料を2つの観点で分類整理した表から読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分類整理する際に、落ちや重なりのないように注意させ、合計の数で確かめさせる。 前時の表を想起させ、1つの表にまとめる必要性をもたせる。右下の合計が2倍にならないようにさせる。 <p>【評】表にまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他にも表から気付いたことを読み取らせる。 身の回りから、必要な2つの事柄を調べ、2つの観点から分類整理した表を作らせる。 1か月のけが調べの記録を、2つの観点で分類整理した表を確認する。 読み取ったことに対し、その改善策を考えさせる。 <p>【評】3つの表から読み取れることを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたり、表にかいたりする際に、コンピュータを使ってもよい。 <p>【評】身の回りから調べたいことを決めて、2つの事柄を表にかく活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べ方と整理の仕方について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

第3学年までは、文字情報として得られる「質的データ」や数値情報として得られる「量的データ」について簡単な表に分類整理することや、棒グラフなどを用いて大小を比べることを学んできている。

第4学年では、目的に応じてデータを集めて分類整理し、特徴や傾向に着目して、適切なグラフを選択して表すことで判断したり、結論について考察したりすることができるようになることをねらいとしている。また、その過程でデータを2つの観点から分類整理した二次元の表に表して分析したり、時間変化に沿って得られた「時系列データ」について折れ線グラフに表して、時間的変化を分析したりできるようになることをねらいとしている。

この内容は、第5学年での円グラフや帯グラフの学習の素地となるものである。また、折れ線グラフに表し

たり，読み取ったりすることは関数的な関係を捉えることにも通じるため，「変わり方」の学習にも関連している。

単元名 表を使って考えよう

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 2つの観点からの情報を二次元の表で整理することを理解し、表に整理することができる。
(2) 情報を二次元の表などに整理して、考えることができる。
(3) 二次元の表などに整理して考えようとする。

標準的な展開例

04040302_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 問題に示された条件を、表を用いて2つの観点から分類整理して解決する。[p. 70・p. 71]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 2つのことがらを表に整理して調べよう。 ○ 昼食で食べたい果物調べの表を作る。 ○ おにぎり、お茶を選んだ人調べの表を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 示された条件を二次元の表に分類整理した表を作らせる。 ・ 町名と果物名に分類整理した表を作らせ、合計の数が合うかどうかを確認させる。 <p>【評】 示された条件の表を作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

文章題において、情報を二次元の表に分類整理して解法を考えることを通して、2つの観点の組み合わせを考えて問題を解くことができるようにする。また、用いた表や考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。

単元名 分数

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 1より大きい分数の表し方, 同分母分数の加減計算の仕方を理解し, 1より大きい分数を仮分数や帯分数で表したり, 同分母分数の加減計算をしたりすることができる。
- (2) 分数を整数や小数と同様に数として捉え, 大小比較や加減計算の仕方を考えることができる。
- (3) 1より大きい分数に関心を持ち, その表し方や仕組みを調べようとする。

標準的な展開例

04040303_001

【準備等】紙テープ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1をこえる大きさの分数と, その表し方について考える [p. 72・p. 73]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○両手を広げた長さを調べる。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★いろいろな分数について調べていこう。 ○分数を3つの仲間に分ける。 ○真分数と仮分数を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>2 帯分数の意味と表し方について知る。 [p. 74・p. 75]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○帯分数を知る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★仮分数を帯分数になおすしかたを考えよう。 ○11/4を帯分数に直す仕方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 帯分数を仮分数に直す仕方を考える。 [p. 76・p. 77]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数直線を使い, 帯分数を仮分数に直す。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★帯分数を仮分数になおすしかたを考えよう。 ○数直線を使わずに, 帯分数を仮分数に直す。 ○仮分数と帯分数の大小比較をする。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 同分母分数で仮分数が混じった場合の加減の計算方法を考える。 [p. 78]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★分数の計算のしかたを考えよう。 ○$4/5+3/5$の計算の仕方を考える。 ○$6/5-2/5$の計算の仕方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>5 同分母分数で帯分数が混じった場合の加減の計算方法を考える。 [p. 79]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★帯分数のはいった計算のしかたを考えよう。 ○1と$2/5+4/5$の計算の仕方を考える。 ○1と$2/5-4/5$の計算の仕方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>6 等しい分数について考える。 [p. 80・p. 81]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ピザ1枚を2つに切った$1/2$と4つに切った$2/4$の大きさを比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分数を, 1より小さい分数, 1に等しい分数, 1より大きい分数に分けることを通して, 基準の1の大切さに気付かせる。 ・それぞれの長さを, $1/2\text{m}$, $1/3\text{m}$, $1/4\text{m}$の紙テープのいくつ分かを調べさせる。 ・1よりも大きい分数があることを伝える。 ・数直線を使い, 1より小さい分数, 1に等しい分数, 1より大きい分数に分けさせる。 【評】示された分数を真分数と仮分数に分ける活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・帯分数は, 整数と真分数の和として捉えさせる。 ・$7/5$は1と$2/5$, $13/6$は2と$1/6$のように, 整数と真分数の和になっていることに気付かせる。 ・$11\div 4$の商と余りを考えることで, 仮分数を帯分数に直せることに気付かせる。 【評】仮分数を帯分数に直す活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・帯分数を仮分数に直す際には, 分子が1の分数がいくつあるのかを考えさせる。 ・帯分数を整数と真分数を合わせた数として, 分子が1の分数がそれぞれいくつかを考えさせる。 ・仮分数を帯分数にしたり, 帯分数を仮分数にしたりして, どちらか片一方の表し方にそろえさせる。 【評】帯分数を仮分数に直す活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・分母はそのままにして, 分子だけを計算すればよいことに気付かせる。 ・$1/5$の何個分かを考えて, 計算するとよいことに気付かせる。 ・たし算と同様に考えればよいことに気付かせる。 【評】仮分数の入った加法及び減法の計算をする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・帯分数を仮分数に直す方法や1と真分数に分けて計算する方法などを見付けさせる。 ・帯分数を仮分数に直して計算する方法と1と真分数に分けて計算する方法で考えさせる。 ・たし算と同様に考えればよいことに気付かせる。 【評】帯分数が入った加法及び減法の計算をする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・具体物を活用し, 分数の大きさを視覚的に捉えさせる。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 大きさの等しい分数を見つけよう。 ○ $1/2$に等しい分数を見付ける。 ○ $1/3$や$2/3$に等しい分数を見付ける。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>7 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 82・p. 83]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 81の「分数の数直線」を使い，等しい分数を見付けさせる。 ・ 他にも等しい分数を見付けさせる。 【評】「分数の数直線」を見て，気付いたことを表す活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 分数について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	---

【 備 考 】

第3学年では，1より小さい分数について，数のまとまりに着目し，分数でも数を比べたり計算したりできるかどうかを考えることを学習してきた。

第4学年では，分数の意味や表し方についての理解を深めるとともに，同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し，それらの計算ができるようにすることをねらいとしている。また，分数を構成する単位（単位分数）に着目し，大きさの等しい分数を探したり，計算の仕方を考えたりするとともに，それを日常生活に生かそうとする態度や能力を高めることをねらいとしている。

単元名 ふく習(下p.84・p.85)

配当時間 1 時間

単元の目標

標準的な展開例

04040304_001

【準備等】 定規

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 84 ・ p. 85]	・ 個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 変わり方

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 2つの数量の変化の様子を調べたり、関係を表したりするために、表、折れ線グラフ、○、△を使った式を用いることを理解し、表や折れ線グラフにかいて調べたり、それらの関係を○、△を使って式に表したりすることができる。
- (2) 表や折れ線グラフなどに表す活動を通して、2つの数量の関係を見付けることができる。
- (3) 伴って変わる2つの数量を、表、グラフ、式に表して調べようとする。

標準的な展開例

04040305_001

【準備等】ストローや計算棒、定規、水槽、秤、グラフ用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 伴って変わる2つの数量に着目し、変わり方について調べる。[p.86・p.87]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○18本のストローを使い、いろいろな長方形を作る。 ○縦の本数と横の本数の組を調べる。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★2つの量の関係を、表にかいて調べていこう。 ○縦の本数と横の本数の関係を表に整理する。 ○表を見て、気が付いたことを話し合う。 <p>2 2つの数量の関係を、表を基にして式に表す。[p.88]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★表からみつけたきまりを使って、たての本数と横の本数の関係を式に表そう。 ○前時の表を基に、縦の本数と横の本数の関係を式に表す方法を考える。 ○言葉の式を基に、記号化した○と△を使った式に表す。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 正方形を階段の形に並べ、段の数と周りの長さの関係を調べる。[p.89]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★だんの数とまわりの長さの関係を、表にかいて調べよう。 ○段の数と周りの長さを表にかき、変化の様子を考える。 ○段の数と周りの長さの関係を式に表す。 ○10段のときの周りの長さを求めて、その求め方を説明する。 <p>4 一列に並べたテーブルとその周りに座れる人数の関係を表にかいて、変化の様子を調べる。[p.90]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★テーブルの数とすわれる人の数の関係を、表にかいて調べよう。 ○テーブルの数と座れる人の数の変わり方を、表にかいて調べる。 ○変わり方のきまりを使った問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>5 水のかさと全体の重さの関係を表や折れ線グラフにかいて、変化の様子を調べる。[p.91]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★2つの量の関係を、折れ線グラフにかいて調べよう。 ○水のかさと全体の重さの関係を折れ線グラフに表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる2つの数量の表のかき方を身に付けさせる。 ・ストローの代わりに、同じ長さの計算棒でもよい。 ・縦と横の本数を合わせると9本になることに気付かせる。 ・表のかき方を参考に、伴って変わる2つの数量の表のかき方を確認する。 ・表を横に見て、縦の本数が1本ずつ増えるとそれに伴って横の本数は1本ずつ減ることに気付かせる。 【評】縦の本数と横の本数の変化の様子を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・変わり方を調べるためには、表が便利であることに気付かせる。 ・前時の内容を想起させる。 ・表を縦に見て、言葉の式で表させる。 ・同じ記号を2つ使うのではなく、○と△で区別することを知らせる。 【評】○や△を使って2つの数量の関係を式に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・1段から順に調べさせ、周りの長さの変わり方を見付けさせる。 ・周りの長さに線を引くなどして、周りの長さを認識させる。 ・表を横に見て、周りの長さの値が規則的に変化していることに気付かせる。 ・$4 \times 1 = 4$、$4 \times 2 = 8$、…のように式を羅列し、変数と定数に着目できるように、印を付けるなどの工夫をする。 ・表や式などを活用させる。 【評】周りの長さの求め方を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・表にかいて変わり方のきまりを見付け、きまりを使って問題を解決させる。 ・□はテーブル、●は座る人を表していることを知らせ、問題場面を理解させる。 ・テーブルの数を1ずつ増やしていくと、それに伴って人の数は2ずつ増えることに気付かせる。 ・変わり方のきまりを表から読み取らせたり、式に表させたりして、問題を解かせる。 【評】変わり方のきまりを使った問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・表をかかせ、きまりを見付けさせる。 ・折れ線グラフで表すよさを体感させるために実際に水槽と秤を用意して実験させるとよい。 ・表の数値のままでは調べた結果が捉えにくいことから、折れ線グラフに表すとよいことを知らせる。

<ul style="list-style-type: none"> ○水を3.5L入れたときの全体の重さを考える。 ○水を7L入れたときの全体の重さを予想させる。 ○水が入っていないときの水槽の重さを考える。 <p>6 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p.92・p.93]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフから考えさせる。 ・グラフからもきまりを見付けられることに気付かせる。 ・グラフの線を延長してかかせるなどして，水槽の重さを考えさせる。 <p>【評】水槽の重さや全体の重さを考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変わり方について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。
---	---

【 備 考 】

第1学年から第3学年では，物と物とを対応付けたり，一つの数を他の数の和や差としてみたり，一つの数を他の数の積としてみたり，乗数が1ずつ増えるときの積の増え方の様子に着目したりすることを学習してきた。また，対象を絵や図に置き換えたり，身の回りの事象について，表やグラフで表したり読んだりすることを学習している。

第4学年では，具体的な場面において，表や式，折れ線グラフを用いて変化の様子を表したり，変化の特徴を読み取ったりすることができるようにするとともに，伴って変わる二つの数量を見いだして，それらの関係に着目し，表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する力を伸ばすことをねらいとしている。また，考察に用いた表現や結果を振り返って，得られた結果を分かりやすい表現に工夫するなど，よりよく問題解決する態度を養うことも大切である。

単元名 直方体と立方体

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) 直方体や立方体の見取図や展開図のかき方, 面や辺の関係, 平面や空間の位置の表し方を理解し, 直方体や立方体の見取図や展開図をかくとともに, 縦, 横, 高さを用いて, 平面や空間の位置を表すことができる。
- (2) 面や辺の平行・垂直関係の観点から直方体や立方体の特徴を捉え, 説明することができる。
- (3) 直方体や立方体に関心をもち, その特徴を捉えようとする。

標準的な展開例

04040306_001

【準備等】 立体模型, 竹ひご等で作った直方体, 方眼紙, 工作用紙, 定規, はさみ, セロテープ, 三角定規
下敷き

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 直方体と立方体の意味を知り, 面, 辺, 頂点の数を調べる。[p. 94～p. 96]</p> <p>○ 工作用紙でいろいろな箱の形を作る。</p> <p>○ 単元の学習課題をつかむ。 ★箱の形について, いろいろ調べていこう。</p> <p>○ 6枚の面を組み合わせることができる箱の形を考える。</p> <p>○ 直方体と立方体, 平面の用語や意味を知る。</p> <p>○ 直方体や立方体について, 面, 辺, 頂点の数について調べる。</p> <p>2 見取図の見方とかき方について考える。[p. 97]</p> <p>○ 見取図の意味を知る。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★見取図のかき方を知ろう。</p> <p>○ 直方体の見取図のかき方を知る。</p> <p>○ 立方体の見取図をかく。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 直方体の展開図のかき方について考える。[p. 98]</p> <p>○ 展開図の用語や意味を知る。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★面と面のつながりを考えて, てん開図をかこう。</p> <p>○ 直方体の展開図をかく。</p> <p>○ 展開図を切り取って, 箱を組み立てる。</p> <p>○ 重なる辺や頂点を考える。</p> <p>4 立方体の展開図をいろいろかく。[p. 99]</p> <p>○ 立方体を切り開いて, 展開図を考える。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★立方体のてん開図をいろいろかいてみよう。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>○ 立方体の展開図は11種類あることを知る。</p> <p>5 面と面の位置関係について考える。[p. 100]</p> <p>○ 面と面の平行や垂直の意味を知る。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★直方体の面と面の垂直や平行について調べよう。</p>	<p>・これまで「箱の形」「サイコロの形」と表していた立体について, 今後は, それぞれ「直方体」「立方体」と表すことを伝える。</p> <p>・[あ][い][う][え]の面を作らせ, 6枚の面を組み合わせた箱を作らせる。</p> <p>・立体模型で確認させるとよい。</p> <p>・直方体は縦, 横, 高さの3つの辺の長さで決まり, 立方体は1つの辺の長さで決まることを確認する。</p> <p>・第2学年の学習で, ひごや粘土玉を使って直方体や立方体を作ったことを想起させる。</p> <p>【評】直方体や立方体の面の形や面, 辺, 頂点の数を調べる活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・正面から見えない辺をかくことが難しい場合竹ひご等で作った直方体を用意しておくとい。</p> <p>・立体の全体の形が分かるような図が見取図であることを確認する。</p> <p>・縦の辺を斜めに平行になるようにかくことや見えない辺は点線でかくことを確認する。</p> <p>【評】見取図をかく活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <p>・立体の向きが変わっても, 立体の名称や性質までは変わらないことに気付かせる。</p> <p>・箱を切り開く活動をさせるとよい。</p> <p>・面と面のつながりを考えさせ, 折り曲げるところは点線でかくことを確認する。</p> <p>・展開図を組み立てる活動を通して, 展開図が正しいことを確認させる。</p> <p>・展開図の辺ABと辺IHに色を付けるなどして実際に組み立てたときに重なることを確認させるとよい。</p> <p>【評】展開図から辺や頂点の対応を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・立方体の展開図は6つの正方形がつながったものであることを確認する。</p> <p>【評】展開図から辺や頂点の対応を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・裏返せば同じになる展開図は, 1種類として数えることを知らせる。</p> <p>・面と面の平行や垂直については, 直方体の中から見付けさせるだけでなく, 下敷きなどを操作する活動によって感覚的につかませる。</p> <p>・三角定規を使い, 垂直を確認させる。</p>

<p>○ 平行な 2 つの面を見付ける。</p> <p>○ [あ]の面と垂直な面を見付ける。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>6 辺と辺の位置関係について考える。[p. 101]</p> <p>○ 辺と辺の平行や垂直の意味を知る。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★直方体の辺と辺の垂直や平行について調べよう。</p> <p>○ 辺ABと平行な辺を見付ける。</p> <p>○ 辺ABと垂直な辺を見付ける。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 面と辺の位置関係について考える。[p. 102]</p> <p>○ 面と辺の平行や垂直の意味を知る。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★直方体の面と辺の垂直や平行について調べよう。</p> <p>○ [あ]の面と平行な辺を見付ける。</p> <p>○ [あ]の面に垂直な辺を見付ける。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 練習問題に取り組む。[p. 103]</p> <p>○ 「練習」に取り組む。</p> <p>9 平面上の位置の表し方について考える。[p. 104・p. 105]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★平面にあるものの位置の表し方を考えよう。</p> <p>○ テレビ塔や噴水の位置を表す。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>10 空間上の位置の表し方について考える。[p. 106]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★空間にあるものの位置の表し方を考えよう。</p> <p>○ テレビ塔の展望台の位置を表す。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>11 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 107]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<p>・ 2 枚の下敷きを面に当てさせ、平行の関係を 作らせる。</p> <p>・ 2 枚の下敷きを面に当てさせ、垂直の関係を 作らせる。</p> <p>【評】身の回りから平行や垂直になっている面 と面を見付ける活動を通して、「主体的に学 習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 辺と辺の平行や垂直については、直方体の中 から見付けさせるだけでなく、鉛筆などを操 作する活動によって感覚的につかませる。</p> <p>・ 三角定規を使い、垂直を確認させる。</p> <p>・ 辺ABと辺HGのような位置関係にある場合に、 平行であることを見落としやすいので、注意 させる。</p> <p>・ 辺ABと辺HD、辺ABと辺GCのような位置関係に ある場合、交わっていないので、垂直では ないことを知らせる。また、2本の鉛筆を 辺に当てさせ、垂直の関係を作らせる。</p> <p>【評】身の回りから平行や垂直になっている 辺と辺を見付ける活動を通して、「主体的に学 習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 面と辺の平行や垂直については、直方体の中 から見付けさせるだけでなく、鉛筆や下敷き などを操作する活動によって感覚的につかま せる。</p> <p>・ 三角定規を動かし、垂直の関係を確認させる</p> <p>・ 2 つの面が平行であるとき、一方の面の上 にある辺は他方の面に平行であることに気付 かせる。</p> <p>・ 箱と鉛筆と下敷きを使わせ、垂直の関係を 作らせる。</p> <p>【評】身の回りから平行や垂直になっている 面と面を見付ける活動を通して、「主体的に学 習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ つまずいている児童には、個別指導を十分 に行い、原因を明確にさせる。</p> <p>【評】直方体や立方体の展開図や見取図につ いての問題に取り組む活動を通して、「思考・ 判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 平面の上にあるものの位置を表すには、横 と縦の 2 つの要素が必要になることを理解さ せる。</p> <p>・ 基準から進む方向と道のりを使って表させ る。</p> <p>・ 地図（平面）上の位置は、駅を基にすると （東○m、北△m）のように、2 つの数の組 で表すことをまとめさせる。</p> <p>【評】平面上の点の位置を横と縦の 2 つの 要素を使って表す活動を通して、「知識・技能」 を評価する。</p> <p>・ 空間の中にあるものの位置を表すには、横、 縦、高さの 3 つの要素が必要になることを理 解させる。</p> <p>・ 青山駅を基にして、テレビ塔の位置（平面） の表し方を確認する。</p> <p>・ 空間にある物の位置は、横、縦に高さを付 けた 3 つの数の組で表すことをまとめさせ る。</p> <p>【評】空間の位置を表す活動を通して、「知識 ・技能」を評価する。</p> <p>・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着 を図る。</p> <p>・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で 振り返らせる。</p> <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・ 技能」を評価する。</p> <p>・ 直方体と立方体について分かったことや できるようになったこと、もっとやってみ たいことなどを書かせる。</p>
---	---

【 備 考 】

第2学年では、箱の形について、それを構成する要素（頂点、辺、面）に着目し、六つの正方形や長方形を貼り合わせたり、12本のひごを組み合わせてすることで、箱が構成できることを学習してきている。これを受けて第4学年では、立方体、直方体について、それらを構成する要素（頂点、辺、面）に着目し、辺と辺、辺と面、面と面の平行及び垂直の関係について考察する。そして、立体図形を平面上にいかに表示するか、また逆に、平面上に表示された図からいかに立体図形を構成できるかを考察するとともに、日常の事象を図形の性質から捉え直すことをねらいとしている。立体図形を平面図形に表したり、逆に平面図形から立体図形を構成したりする活動を通して、立方体や直方体についての理解を深め、空間についての感覚を豊かにする。

単元名 だれでしょう

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 二次元表を使って情報を整理する方法を理解し、効率よく処理することができる。
 (2) 二次元表を使って問題を解決し、考え方を筋道を立てて説明することができる。
 (3) 論理の問題に関心をもち、筋道を立てて考えようとする。

標準的な展開例

04040307_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 論理的な推論により正しい結論を導く。[p. 108・p. 109]</p> <p>○条件を1つずつ確認し、表にまとめる。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★問題を表に整理して考えよう。</p> <p>○それぞれの特徴を見て、条件に合う人を見付ける問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の条件を、表を用いて整理することで、筋道を立てて考え順序よく推論できることに気付かせる。 ・否定された条件は、表に×を付けるとよいことを確認する。 ・4つの条件のうち3つが否定されると他の1つに決定されること、逆に1つが決定されると他の3つが否定されることを確認する。このことを表の上で繰り返すことにより、確信をもって決定されることを確認する。 ・条件に合う場合は○を付け、1つが決定されることから否定される場合には×を付けることを確認する。 <p>【評】表を使って条件を整理し、論理的に考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

日常生活の中で、情報を的確に処理し筋道を立てて論理的に考えを進めたり、判断したりしなければならない場面によく出会う。そのような場面で必要とされる情報を処理する力、物事を論理を追って正しく判断する力を身に付けることは、重要なねらいの一つである。

本単元では形式的な手法を強調するのではなく、論理をもった思考であればどのように表現してもよいとする。そして、問題の解決を進めていく過程で、正しい推論のあり方や表現の仕方を身に付けさせ、正しい結論を導いたり判断を下したりする態度を伸ばしていくようにしたい。

単元名 みらいへのつばさ

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 算数を活用したごみを減らす計画の立て方を理解し、実行可能な計画を立てることができる。
 (2) リサイクルの資料を基に、1日に減らせるごみの量を考えることができる。
 (3) ごみを減らすことに関心を持ち、算数を活用してごみを減らす計画を立てようとする。

標準的な展開例

04040308_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ごみの量について読み取る。[p.110・p.111]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ ももかさんのメモから、ごみの量についてよみとろう。 ○ 平成26年度に、福岡県で1人が1年間に出したごみの量を求める。 ○ ももかさんの主張は正しいかどうかを説明する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 ごみの量を減らす実行可能な計画を立てる。[p.112・p.113]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ みんなで話しあって、ごみをへらす計画をたてよう。 ○ ごみを減らすための考えを話し合う。 ○ ごみを減らすための3つの「R」を知る。 ○ ごみを減らす工夫を調べる。 ○ ごみを減らす計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡県のごみの量についてを考えた後に、自分の町のごみの量を考えるとよい。 ・ ごみ問題への関心をより高めるため、住んでいる町のごみの量を紹介してもよい。 ・ 理由を言葉や式を使って説明させる。 【評】ごみの量を減らす計画について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ ごみを減らす工夫を学級で話し合った後に、計画を考えさせる。 ・ 1年間で出されたごみの量と1人が1日に出したごみの量について確認させる。 ・ 自分の家の状況を基に、どうすればごみの量が減るかを考えさせる。 ・ Reduce(リデュース), Reuse(リユース), Recycle(リサイクル)を伝える。 ・ 例を参考に、実際にできるような無理のない工夫を考えさせる。 ・ 自分の家庭であれば、どれくらいのごみが減らせるかを計画させる。 【評】ごみの量を減らす計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

身の回りには、いろいろな数量があふれている。本単元では、ごみの量を話題として扱い、児童なりのごみを減らす工夫を、ごみの重さに着目して考えさせたい。また、家族単位で考えさせることによって、1人分でどれくらい減らせるかを考えさせることをねらいとする。事前指導として各家庭でのごみの状況のアンケートをしておく、実際のこととしてより考えさせやすい。また、実践可能なごみの量を減らす計画を立てさせることによって、家庭でも実践できるように促していきたい。

単元名 もうすぐ5年生
単元の目標

配当時間 3時間

標準的な展開例

04040309_001

【準備等】 分度器，定規，三角定規，コンパス

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～3 復習問題に取り組む。[p. 114～p. 118] ○ 「もうすぐ5年生」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。 ・ 教師自作の問題も用意しておくとい。

【 備 考 】

単元名 わくわく算数学習

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 言葉や図，式を用いた説明する仕方を理解し，図や式を用いて考えることができる。
 (2) 図と式と言葉を関連付けて分かりやすく説明する方法を考え，筋道立てて説明することができる。
 (3) 既習事項を使って解き方を考え，解き方を話し合う活動を通して，問題をよりよく解決しようとする。

標準的な展開例

05040101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 1/1000の位までの小数の加法・減法について考える。[p. 6～p. 9]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 小数点から下のけた数がちがうときの，小数のたし算やひき算のしかたを考えよう。 ○ $0.038 + 0.19$の筆算の仕方を考える。</p> <p>○ $0.5 - 0.038$の筆算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・ 整数の筆算と結びつけて，小数点の位置をそろえることに注意しながら，小数の加法・減法の筆算ができるようにする。</p> <p>・ 整数の加法の筆算と同様に位をそろえ，下の位から計算すればよいことを確認する。 空位がある場合の位のそろえ方に注意させる</p> <p>【評】 小数の加法・減法の筆算に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

今後の単元における話し合い活動の方法を理解させ，思考力，表現力を高めさせるようにするための授業展開を考えたい。積極的に自分の意見を発表できる雰囲気をつくり，児童が相互に理解を深め合えるように授業の形をつくっていくようにする。

単元名 整数と小数

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 小数も整数と同じ十進位取り記数法を基にしていることを理解し、整数や小数を10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ にした数を求めることができる。
 (2) 十進数の仕組みや表し方を基にして、これを適切に利用して問題解決をすることができる。
 (3) 整数と小数の仕組みに関心を持ち、進んで調べようとする。

標準的な展開例

05040102_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 整数や小数の仕組みについて考え、単元の学習課題をつかむ。[p. 10・p. 11]</p> <p>○ 56.72はどのような仕組みになっているか考える。</p> <p>○ 十進位取り記数法について知る。</p> <p>○ 56.72を10倍、$1/10$するとどうなるか考える。</p> <p>○ 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 整数や小数のしくみについて調べていこう。</p> <p>2 小数を10倍、100倍、1000倍したときのきまりを考える [p. 12]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 10倍、100倍、1000倍したときの小数点の移り方を調べよう。</p> <p>○ 42.195を10倍、100倍、1000倍した数を考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 小数を$1/10$、$1/100$、$1/1000$にしたときのきまりを考える。[p. 13]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ $1/10$、$1/100$、$1/1000$にしたときの小数点の移り方を調べよう。</p> <p>○ 108.9を$1/10$、$1/100$、$1/1000$にした数を考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 14・p. 15]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<p>・ 小数も整数と同じように、十進位取り記数法に基づいていることに気付かせる。</p> <p>・ 10、1、0.1、0.01をそれぞれ何個合わせた数か、話し合いを通して考えさせる。</p> <p>・ 数字のかかれた位置で位が決まることと、となりの位との間の関係を知らせる。</p> <p>【評】 小数の仕組みを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 小数を10倍、100倍、1000倍した数を求める活動を通して、小数点の位置の移動の仕方について理解させる。</p> <p>・ 小数点の位置が右に移っていくことに気付かせる。</p> <p>【評】 10倍、100倍、1000倍していくことを小数点の動きでとらえる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 形式的な処理は簡単であるが、小数点や桁数が移動する理由を説明させることによって、小数の仕組みの理解を深めることが大切である。</p> <p>・ 小数点が左に移っていくことに気付かせる。</p> <p>【評】 $1/10$、$1/100$、$1/1000$にしていくことを小数点の動きでとらえる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。</p> <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 小数について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。</p>

【 備 考 】

第4学年では、 $1/1000$ の位までの小数と、小数のたし算、ひき算について学習している。それを受けて、本単元では、十進位取り記数法としての小数の仕組みについて学習する。この後、第5学年のうちに、小数のかけ算、わり算も学習するので、それらも意識した単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

展開例では、整数の十進位取り記数法について復習した後で、 $1/10$ の位をつくったときのことを思い出させ、 $1/1000$ の位までの小数をつくり出す。また、小数を10倍、100倍したときや、 $1/10$ 、 $1/100$ にしたときの小数点の移動を考えさせることにより、小数の仕組みを理解させるとともに、小数のかけ算、わり算への導入も行う。形式的に小数点を移動させるだけの指導にならないよう、小数の仕組みを確認しながら、丁寧に扱うことが大切である。

< 参考URL >

タダでマナべるさかぽん先生.tv <http://sakaponsensei.tv/text-m/5-1-1.pdf>

単元名 体積

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 体積の意味や直方体、立方体の体積の求め方を理解し、体積を求めることができる。
 (2) 直方体や立方体の体積公式を考え出したり、これを活用して簡単な複合図形の体積の求め方を工夫したりすることができる。
 (3) 単位となる大きさのいくつ分として物の大きさを数値化することのよさが分かり、進んでこれを活用しようとする。

標準的な展開例

05040103_001

【準備等】 1 cm³の立方体、1 Lます、1 mものさし、棒、カラーテープ、メジャー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、体積の概念とその表し方を知る。[p. 16・p. 17]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2つの直方体の大きさ比べをする。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★直方体や立方体のかさの表し方や求め方について調べていこう。 ○ 1辺が1 cmの立方体がいくつ分あるか調べる。 ○ 体積と単位1 cm³を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 直方体と立方体の体積の求め方と体積の公式を考える。[p. 18・p. 19]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★直方体や立方体の体積を求める公式をつくろう。 ○ 直方体と立方体には1 cm³の立方体がいくつ分あるのか計算で求める方法を話し合う。 ○ 体積を求める公式を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 複合図形の体積の求め方を考える。[p. 20]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★直方体の体積の公式が使えるように、くふうして求めよう。 ○ L字型の体積を求める方法を考える。 ○ 他の解き方でL字型の体積を求める方法を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 大きな体積の単位を知り、m³とcm³の関係を考える。[p. 21]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★長さの単位がmのときの体積の表し方を考えよう。 ○ 単位m³を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 1 m³は何cm³かを考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>5 容積について知る。[p. 22]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★いれものの容積の求め方を考えよう。 ○ 水そうに入る水の体積を求め、容積という言葉を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの直方体の大きさ比べを基に、単元の学習課題をつかませる。 ・ 体積も面積と同じように数値化できることに気付かせる。 ・ 1 cm³の立方体などの具体物を用いて考えさせる。 【評】直方体と立方体の体積を比べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ かさのことを体積といい、単位の1つとしてcm³を教える。 【評】1 cm³の立方体の積み木を使った数学的活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 1 cm³がいくつ分あるかを基に、直方体と立方体の体積の公式を導かせる。 ・ 直方体や立方体の体積を求める方法を考えることを知らせる。 ・ 縦、横にいくつ立方体が並び、それが何段あるのかで数を考えさせる。 ・ たて、横、高さを用いて立方体の数を数えたことから、体積を求める公式(直方体の体積＝たて×横×高さ、立方体の体積＝1辺×1辺×1辺)を導かせる。 【評】求積公式を用いて、直方体や立方体の体積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ L字型の立体の体積を工夫して求める方法を考えさせる。 ・ 面積のときに分解や継ぎ足しをして考えたことを基に考えさせる。 ・ 先にL字型の面積を求めて、それに高さをかける方法もあることを知らせる。 【評】複合図形の体積の求め方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 1 mが100 cmであることを基に、1 m³は何cm³になるのかを考えさせる。 ・ 1辺が1 mの立方体のいくつ分か考えさせる。 【評】計算で体積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 1 mが100 cmであることを基に、1 m³は1辺が100 cmの立方体と考え、体積を求めさせる。 【評】1 m³と1 cm³との関係について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 直方体の体積の公式を使って容積を求めさせる。 ・ どれだけの体積の水が入るかを考えるときに容積という言葉を使うことを知らせる。

<p>○うちのりという言葉を知る。</p> <p>○1 Lは何cm³かを求める。</p> <p>6 1 m³の量感をつかみ、教室の容積を調べる。[p. 23]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★いろいろなものの体積や容積を調べよう。</p> <p>○1 mのカラーテープと棒を使って、1 m³の大きさをつくる。</p> <p>○メジャーを使って、教室の容積を調べる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 長さと体積の単位間の関係をまとめる。[p. 24]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★長さの単位をもとにして、体積の単位の間関係を調べよう</p> <p>○体積の大きさ比べから、単位間の関係を調べる。</p> <p>○体積の単位間の関係を、長さとの関係を基にまとめる。</p> <p>○身の回りで、体積の単位がどのように使われているか調べる。</p> <p>8 練習問題に取り組む。[p. 25]</p> <p>○「練習」に取り組む。</p> <p>9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 26・p. 27]</p> <p>○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>・内側の長さが、うちのりということを知らせる。</p> <p>【評】1 Lますの容積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・1 mのカラーテープと棒を使って1 m³の形をつくり、メジャーを使って教室の容積を調べさせる。</p> <p>・あらかじめ1 mの長さに棒やカラーテープを切っておく。</p> <p>・教室の容積を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】いろいろな体積の量感を感得する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・Lを基本単位とする体積の関係は、長さとの関係でとらえにくいので、1 Lますを用意して、実感を伴ってとらえさせるとよい。</p> <p>・体積は、長さを基にすれば、違いが分かるようになることを確認する。</p> <p>【評】体積の単位間の倍の関係を、長さとの関係付けながら考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。</p> <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・体積について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。</p>
--	--

【 備 考 】

児童は、かさの意味について、第2学年でLやdL、mLの単位を使って学習している。それを受けて、本単元では、既習の直方体と立方体を通して、体積の意味と単位を学習する。第6学年で学習する立体（角柱、円柱など）の体積につながる学習であるので、算数的活動を多く取り入れて量感を育てるなど、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

展開例は、算数的活動を多く取り入れ、量感を育てることに重点を置いている。また、直方体や立方体の体積を求める練習問題を多く行い、第6学年の学習で生きる公式の定着を図っている。

<参考URL>

タダでマナべるさかぽん先生.tv <http://sakaponensei.tv/text-m/5-2-1.pdf>

単元名 比例

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 比例の意味を知り，簡単な場合についての比例の関係を理解することができる。
 (2) 簡単な場合について，比例しているかどうかを判断することができる。
 (3) 伴って変わる2つの数量の関係に関心を持ち，進んで表や図を使って考えたり，説明したりしようとする。

標準的な展開例

05040104_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 伴って変わる2つの量について調べ，単元の学習課題をつかむ。[p. 28～p. 30]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★ともなって変わる2つの数量の関係について調べていこう。 ○レンガの数と全体の高さの表を，横に見る方法で比例の特徴を考え，説明する。 ○比例の定義をまとめる。 <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 比例関係をもとに，他方の値を考える。[p. 31]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★リボンの長さで代金の関係を調べよう。 ○リボンの長さで代金の関係の表から，2つの量が比例しているかどうか判断する。 <p>○比例関係をもとにして，リボンの代金を求める問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表の数値を横に見ると，どのように変わっていくかを発表させる。 ・児童の発表を踏まえて，比例する2つの量では，一方の値が2倍，3倍…になると，他方の値も2倍，3倍…になることをまとめさせる。 <p>【評】 比例の特徴を表の値から見付けて説明をする活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習した比例の性質を確認してから，課題に取り組ませるとよい。 ・表を横に見る変化の見方で調べて判断させる <p>【評】 表を横に見て，2つの数量が比例しているかどうかを判断する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元では，変わる様子を表に表して考察し，比例の意味について学習する。また，本単元が中学校における関数学習の基礎となることも念頭に置いて，単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名 復習(p.32・p.33)

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

05040105_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 32 ・ p. 33]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 小数のかけ算

配当時間 11 時間

単元の目標 (1) 小数をかけることの意味や計算の仕方、小数倍について理解し、小数の乗法の計算ができる。
 (2) 小数をかける計算の仕方を、整数の場合を基にして考えることができる。
 (3) 小数をかける計算に関心を持ち、計算の仕方を考えようとする。

標準的な展開例

05040106_001

【準備等】紙テープ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、小数をかけることの意味を理解する。[p. 34・p. 35]</p> <p>○それぞれのリボンの値段を求める式を考える。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★小数をかける計算の意味や計算のしかたについて考えていこう。</p> <p>○言葉の式を基に、小数をかける計算を立式する。</p> <p>2 (整数) × (小数) の立式と計算の仕方を考える。[p. 36・p. 37]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★小数をかける計算のしかたを考えよう。</p> <p>○80×2.3の計算の仕方を考える。</p> <p>○計算の仕方を確認する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 乗数と積の大小関係について考える。[p. 38・p. 39]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★かけ算の積の大きさについて調べよう。</p> <p>○3にいろいろな数をかけて被乗数と積の大小関係について考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 (小数) × (小数) の立式と計算の仕方を考える。[p. 40]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★小数×小数の計算のしかたを考えよう。</p> <p>○1.8×0.3の計算の仕方を考える。</p> <p>○1.8×0.04の計算の仕方を考え、説明する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 (小数) × (小数) の筆算の仕方を考える。[p. 41]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★小数のかけ算の筆算のしかたを考えよう。</p> <p>○4.2×3.4の筆算の仕方を考える。</p> <p>○0.48×3.2, 2.4×0.56を計算する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>6 小数点の位置と答えの確かめ方を考える。[p. 42]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ふくざつな小数のかけ算の筆算のしかたを考えよう。</p>	<p>・紙テープなどで作ったリボンを見せ、乗数が小数の場合のかけ算もあることをつかませる</p> <p>・種類の違うリボンを見せて、1 mあたりの値段と買う長さを知らせる。</p> <p>・整数のかけ算の意味を確認させる。</p> <p>【評】 小数をかける計算の仕方を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・整数のかけ算の考え方を基に、2.3は0.1の23倍か23の1/10であることから計算の仕方を考えさせる。</p> <p>・つまづいている児童には、2.3は23の1/10の大きさであることから考えさせる。</p> <p>【評】 小数をかけることの意味を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・2.3は23の1/10であると考え、整数倍した後に小数点を移動するだけでよいことに気付かせる。</p> <p>・乗数が1より小さい場合と1より大きい場合に分け、積と被乗数の関係について考えさせる。</p> <p>・数直線図のかき方は、巻末の算数資料集を参考にさせる。</p> <p>【評】 乗数が1より大きい場合と小さい場合の積と被乗数との大小関係を判断する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・乗数と積の関係を考えれば、計算しなくても積の大きさが分かることを確認する。</p> <p>・かいとさんの考えは、整数倍した後に小数点の移動だけで済むことから、簡潔であることを強調する。</p> <p>【評】 (小数) × (小数) の計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ペア活動をさせてもよい。</p> <p>・(整数) × (整数) の筆算の仕方を復習してから考えさせるとよい。</p> <p>・42×34を基に考えさせる。</p> <p>【評】 小数をかける計算の筆算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・積の小数点の打ち方を考えさせる。</p> <p>【評】 (小数) × (小数) の筆算の仕方を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

<p>○ 小数点を打つために、0を取ったり付け足したりする場合の筆算の方法を考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>○ 乗数が3桁の小数の筆算をする。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>○ 答えの確かめ方を話し合う。</p> <p>7 練習問題に取り組む。[p. 43]</p> <p>○ 「練習」に取り組む。</p> <p>8 辺の長さが小数値の面積や体積の求め方を考える。[p. 44・p. 45]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 辺の長さが小数のときにも、面積や体積の公式が使えるかを調べよう。</p> <p>○ 辺の長さが小数であっても、面積や体積の公式を使って求められることを確認する。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>9 計算法則が小数でも成り立つことを理解する。[p. 46・p. 47]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 小数のときにも、計算のきまりが成り立つかを調べよう。</p> <p>○ 整数で成り立っていた計算法則（交換，結合，分配法則）が小数でも成り立つか調べる。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>10 小数倍の意味とその計算の仕方を考える。 [p. 48・p. 49]</p> <p>○ 白のリボンの1.6倍の長さを考える。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ ある量を1としたときの、大きさの表し方について考えよう。</p> <p>○ 赤のリボン，青のリボンの長さは，それぞれ白のリボンの何倍かを考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>11 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 50・p. 51]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<p>・ 数字の见えていない上や下にも位は存在していることを意識させ、積についての小数点の移動のきまりから、0を取ったり付け足したりすることを確認させる。</p> <p>【評】 小数点の位置を見て、答えを確かめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ $4.2 \times 3.4 = 142.8$ が間違いであることを簡単に見付ける方法を考えさせる。</p> <p>【評】 小数点の付け方について説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 辺の長さの単位をcmとしたときの面積や体積を求めて、確かめるようにする。</p> <p>【評】 公式を使って面積や体積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 整数で成り立っていた交換，結合，分配法則や除法の性質が小数でも成り立つことを理解させるため、実際の数字で右辺と左辺を計算させ、答えが等しくなることを確認させる。</p> <p>・ 最初から□や○を使った式を提示するのではなく、同じ数字を同じ記号で囲む活動を通して一般化していくと、児童は理解しやすい。</p> <p>【評】 整数のときに成り立った計算のきまりが小数の場合でも成り立つか調べることを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 分配法則や交換法則を使って、工夫して計算させる。</p> <p>【評】 小数の計算のきまりを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 計算式だけでなく、数直線や関係図を活用するとよい。</p> <p>【評】 小数倍の意味を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。</p> <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 小数の乗法について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみようかなどを書かせる。</p>
--	--

【 備 考 】
 小数×整数の意味や計算の仕方については、第4学年で学習を終えている。本単元では、（小数）×（小数）の場面にまで乗法の意味を拡張し、乗法の世界を広げる。
 展開例は、最初に小数の乗法の計算方法を考える場を設け、いろいろな長さのリボンの代金を求める場面から導入をする。その後、計算方法を考え、筆算の仕方や小数倍の意味を考えていく。最後には、乗法の演算の判断をしながら、身に付けた処理能力を生かす展開である。

単元名 小数のわり算

配当時間 14 時間

- 単元の目標 (1) 小数でわることの意味や計算の仕方を理解し、小数の除法の計算ができる。
 (2) 小数でわる計算の仕方を、整数のときと同じように考えることができる。
 (3) 小数でわる計算に関心を持ち、計算の仕方を考えようとする。

標準的な展開例

05040107_001

【準備等】 ひも

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、小数でわることの意味を理解する。[p. 52・p. 53]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長さの異なるひもの、1 mあたりの値段を求める方法を考える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★小数でわる計算の意味や計算のしかたについて考えていこう。 ○言葉の式に当てはめて立式する。 (もとのねだん) ÷ (長さ) = (1 m分のねだん) ○図を使って説明する。 <p>2 (整数) ÷ (小数) の立式と計算の仕方を考える。[p. 54・p. 55]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★小数でわる計算のしかたを考えよう。 ○$96 \div 2.4$の計算の仕方を考える。 <p>3 除数と商の大小関係を考える。[p. 56・p. 57]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「練習問題」に取り組む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★わり算の商の大きさについて調べよう。 ○わる数をいろいろな数に変えて、わられる数と商の大小関係について考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 (小数) ÷ (小数) の計算の仕方を考える。[p. 58]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★小数÷小数の計算のしかたを考えよう。 ○$1.05 \div 0.7$の計算の仕方を考える。 <p>○$2.4 \div 0.08$の計算の仕方を考え、説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「練習問題」に取り組む。 <p>5 (小数) ÷ (小数) の筆算の仕方を考える。[p. 59]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★小数のわり算の筆算のしかたを考えよう。 ○$4.65 \div 1.5$の筆算の仕方を考える。 <p>○$2.16 \div 0.24$と$4.5 \div 0.75$の筆算の仕方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色の異なるひもを3種類用意して、具体的に考えさせるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・整数でわる考え方から言葉の式を見付けさせ小数でわることへとつなげていく。 ・数直線を利用して、代金、長さという2量の関係を視覚的にとらえさせる。 【評】整数でわる場合から類推して、小数でわる計算の仕方を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・乗法と同様に、整数の場合から小数でわる意味の拡張を図る。線分図等をかく活動を通して、既習の除法との違いを十分に理解させることが必要である。 【評】小数でわることの意味と計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・$96 \div 2.4$と対比させながら考えさせる。 ・除数が1より小さい場合と1より大きい場合に分け、商と被除数の関係について考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・除数と商の関係を使えば、計算しなくても分かることを確認する。 【評】除数と1との大小により、商と被除数との大小を判断する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・わり算の性質を用いて、除数、被除数ともに10倍して整数に直して考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・被除数が小数になっても、前時と同様にわり算の式に表せることに気付かせる。 【評】(小数) ÷ (小数) の計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・除数が小数第2位まである数についてのわり算を考え、説明させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・(小数) ÷ (小数) の筆算の仕方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・わり算の性質を基に筆算の方法を考えさせる 【評】小数でわる計算の筆算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・$2.16 \div 0.24$の筆算は、除数を整数にするために、除数と被除数の小数点を右へ2つずつ移動することに気付かせる。 ・被除数の小数点を移すときに、0を付け足して計算する場合があることを知らせる。

<p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>6 (小数) ÷ (小数) でわり進む筆算の方法を考える。[p. 60]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★ふくざつな小数のわり算の筆算のしかたを考えよう。 ○$2.55 \div 7.5$と$8 \div 2.5$をわり切れるまで計算する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>○$7.85 \div 3.14$をわり切れるまで計算する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 商を概数で処理する場合の筆算の仕方を考える。[p. 61]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★商を概数で表そう。 ○$5.2 \div 0.6$の商の表し方を考える。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 小数のわり算の余りの求め方を考える。[p. 62]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★余りの大きさについて考えよう。 ○$24.5 \div 5.6$の余りの求め方を考える。</p> <p>○「余りの小数点の位置は、わられる数のもとの小数点と同じところ」を確認する。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>9 練習問題に取り組む。[p. 63]</p> <p>○「練習」に取り組む。</p> <p>10 小数倍の意味とその計算の仕方を考える。[p. 64・p. 65]</p> <p>○白のリボンの0.75倍の長さを考える。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★ある量を1としたときの、大きさの表し方について考えよう。 ○赤のリボン、黄のリボンの長さは、それぞれ白のリボンの何倍かを考える。 ○「練習問題」に取り組む。</p> <p>11 もとにする量の求め方を考える。[p. 66・p. 67]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★何倍かにあたる大きさから、1にあたる大きさを求めよう。 ○もとにする量を求める問題を解く。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>12 割合の積を求めて、もとにする量の何倍にあたるかを考える。[p. 68・p. 69]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★全体の何倍になっているかを考えよう。 ○割合の積から、比べる量がもとにする量の何倍にあたるかを考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>13 小数の場合の加減、乗除の相互関係を理解する。[p. 70・p. 71]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★□を使った式で表して、□を求める計算について考えよう。</p>	<p>【評】 小数の除法の筆算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・既習の方法を組み合わせ、0を付け足しながらわり進む方法を考えさせる。</p> <p>・桁を間違えないように、方眼紙などに計算させるとよい。</p> <p>【評】 わり進んでいく筆算をする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・除数を整数にするために、除数と被除数の小数点を右へ2つずつ移動することに気付かせる。</p> <p>・どのような手順で計算したのかを振り返る活動を通して、除数と商の関係に着目させる。</p> <p>【評】 小数点の位置を見て、答えを確かめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・四捨五入する位を間違えないようにさせる。</p> <p>【評】 商を概数で求める計算を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・筆算で計算する場合、余りの大きさに混乱する児童がいるので、元の場面に戻って問題に合うかを確認させるとよい。</p> <p>・「余りの数はわる数より小さい」という除数と余りの関係に気付かせ、余りの小数点のつけ方を理解させる。</p> <p>【評】 余りの求め方について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・「(わる数) × (商) + (余り) = (わられる数)」に当てはめて、答えを確かめさせる</p> <p>【評】 「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・計算式だけでなく、数直線や関係図を活用するとよい。</p> <p>【評】 小数倍の意味を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・関係図や線分図をもとにして、もとにする量の求め方を考えさせる。</p> <p>【評】 もとにする量を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・3年で学習した「何倍でしょう」の内容を想起させる。</p> <p>・関係図に表して考えさせる。</p> <p>・何倍の何倍になるかを考える方法では解決できない児童には、順に考える方法で解決させてもよいが、割合の積を使って求める方法を理解させるようにする。</p> <p>【評】 割合の積を使った問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・□を使った式を用い、相互関係を一般的にとらえさせる。</p>
--	--

<p>う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み，□を使った式に表す。 ○□がどんな計算で求められるか考える。 <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>14 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 72・p. 73]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・□に入る数を試行錯誤しながら当てはめて求めるのではなく，関係図を見て□の数の求め方を考えさせる。 ・加法と減法，乗法と除法が逆の関係にあることに気付かせる。 ・計算方法と□に当てはまる数の両方を答えさせる。 <p>【評】加法と減法，乗法と除法のそれぞれの相互関係を理解する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小数の除法について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	--

【 備 考 】

小数÷整数の意味や計算の仕方については，第4学年で学習を終えている。本単元では，÷小数の場面にまで除法の意味を拡張し，除法の世界を広げる。しかし，小数の除法は，小数の乗法以上に立式の意味を理解することが難しい。そこで，児童が納得しやすい具体的事象を取り入れて，単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

展開例は，最初にひも1mの値段を求める等分除で，小数の除法の計算方法を考えさせることにより，÷小数の意味が分かるようにする。最後には，除数によって商の大きさの判断をしながら，身に付けた処理能力を生かす展開である。

単元名 合同な図形

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) 合同の意味や、合同な図形の性質、作図の仕方、三角形や四角形の内角の和について理解し、合同な図形をかくことができる。
- (2) 合同の観点から既習の基本図形の性質を考えたり、合同な図形の作図や多角形の内角の和の求め方を通して、形や大きさの決まり方を考えたりすることができる。
- (3) 身の回りの図形の見方に関心をもち、合同な図形の性質調べや作図などを通して、進んで活用しようとする。

標準的な展開例

05040108_001

【準備等】 定規、はさみ、薄い紙、コンパス、分度器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 合同な図形の意味を知り、単元の学習課題をつかむ。[p. 74・p. 75]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 形も大きさも同じ三角形を見付ける。 ○ 形も大きさも同じ四角形を見付ける。 ○ 「合同」という言葉とその意味を知る。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 合同な三角形や四角形について、その性質やかき方を調べていこう。 <p>2 合同な図形の性質について考える。[p. 76・p. 77]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 合同な図形で、対応する頂点、辺、角を調べよう。 ○ [さ]と[し]の三角形について、対応する頂点、辺、角を見付ける。 ○ 合同な四角形について調べる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 四角形を対角線で分けた形について考える。[p. 78]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 四角形を対角線で分けた形を調べよう。 ○ 平行四辺形や台形の場合も考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 合同な図形のかき方について考える。[p. 79]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 合同な三角形をかくときの頂点のきめ方を考えよう。 ○ 3つの頂点を薄い紙に写しとってかく。 ○ 辺の長さや角の大きさを測ってかく方法を考える。 <p>5 合同な三角形のかき方を知る。[p. 80・p. 81]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ コンパスや分度器を使って、合同な三角形をかいてみよう。 ○ 3つの辺の長さが分かっている三角形と合同な三角形をかく。 ○ 2つの辺の長さとその間の角の大きさが分かっている三角形と合同な三角形をかく。 ○ 1つの辺の長さとその両端の角の大きさが分かっている三角形と合同な三角形をかく。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形も大きさも同じ三角形や四角形を見付ける中で、合同の意味をつかませる。 ・ 巻末の付録にある図形を重ねて考えさせるとよい。 【評】 船の帆やくじらの形や大きさを比べることを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ ずらしたり、回したり、裏返したりする操作によって、位置が異なっても、形や大きさが重なれば合同であることを伝える。 ・ p. 297の「さ」の三角形を切り取って考えさせるとよい。 ・ 合同な図形では、対応する辺の長さは等しく対応する角の大きさも等しいことに気付かせる。 【評】 対応する頂点、辺、角の意味を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 対応する頂点、辺、角について考えさせる。 【評】 合同な図形を頂点、辺、角を用いて処理する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ p. 297の図形に対角線をかいて、切り取り、考えさせるとよい。 ・ 平行四辺形や台形を対角線で分けた2つの三角形が合同か考えさせる。 【評】 長方形、平行四辺形、台形を対角線で分けた2つの三角形を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 4つに分けられた三角形の他に、三角形ABCのように中の線を抜いた三角形の場合も考えさせる。 ・ どこを測ればよいか話し合わせるとよい。 【評】 三角形を決定する要素について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 中学校の図形単元で証明をさせる際の基礎となる学習なので、かき方についてしっかりおさえる。 【評】 合同な三角形の作図に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 「その間の角」でないと、三角形が2通りかけられることにも気付かせる。 ・ 三角形が1つに決まる条件についてまとめさせる。 【評】 3つの方法で三角形の作図に取り組む活

6 合同な四角形のかき方を考える。[p. 82]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 三角形のときをもとにして、合同な四角形のかき方を考えよう。
- 合同な四角形のかき方を考える。

- 「練習問題」に取り組む。

7 三角形の内角の和について考える。[p. 83・p. 84]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 三角形の3つの角の大きさのきまりをみつけよう。
- 並べた形を見て、気付いたことを発表する。
- 3つの角を切り取って集めて調べる。
- 分度器を用いて角度を測って調べる。
- 任意の三角形で内角の和が 180° になることを確かめる

8 三角形の内角の和を使って角度を求める方法を考える。
[p. 85]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 三角形の3つの角の大きさの和を使って、角の大きさを求めよう。
- 三角形の2つの角が分かっているときの、もう1つの角の大きさの求め方を考える。
- 正三角形の1つの角の大きさを考える。
- 「練習問題」に取り組む。

9 四角形の内角の和を考える。[p. 86・p. 87]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 三角形のときをもとにして、四角形の4つの角の大きさの和を調べよう。
- それぞれの角を測ったり、切り取って1つの点に集めたりして調べる。
- 四角形を三角形に分けて調べる。
- 「練習問題」に取り組む。

10 五角形などの内角の和を考える。[p. 88・p. 89]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 三角形に分けて、五角形などの角の大きさの和を求めよう。
- 五角形を三角形に分けて調べる。
- 六角形や七角形の角の大きさの和を求める問題に取り組む。

11 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 90・p. 91]

- 「たしかめよう」に取り組む。
- 学習の振り返りを書く。

動を通して、「知識・技能」を評価する。
・ 合同な三角形のかき方を基に、三角形に分けてかき加えていけばよいことに気付かせる。

- ・ 多様な方法で考えさせ、話し合いの中でよりよいかき方を見付けさせる。
- 【評】 合同な四角形のかき方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】 合同な四角形の作図に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 三角形の3つの角を色分けして並べさせる。巻末の付録にある図形を切り取って考えさせるとよい。
- ・ 三角形の3つの角が集まっている点に着目させる。

【評】 三角形の内角の和が 180° であることとその根拠を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 三角形の3つの角の大きさの和が 180° であることから考えさせる。
- ・ 正三角形の3つの角はどれも同じ大きさであることから、計算で求めさせる。

【評】 三角形の内角の和が 180° になることを根拠に図形の角度を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 三角形の3つの角の大きさの和が 180° であることを思い出させて考えさせる。

- ・ だいちさんやひなたさんの説明を例に、4つの角の大きさの和の求め方を説明させる。
- 【評】 四角形の内角の和を三角形に分けて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 三角形の3つの角の大きさの和が 180° であることを思い出させて考えさせる。

- ・ だいちさんやひなたさんの説明を例に、5つの角の大きさの和の求め方を説明させる。
- 【評】 五角形などの内角の和を三角形に分けて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。
- ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。
・ 合同な図形について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

正方形や二等辺三角形を真ん中で2つに切ると、形も大きさも同じ図形ができることについては、第4学年までに経験している。本単元では、合同な図形の意味について学習する。さらに、合同な図形を見付けたり、かいたり、作ったりする活動を通して、合同な図形の性質を見付けたり、確かめたりできるようにすることが大切である。また、三角形の内角の和が 180° であることを用いて、三角形の内角や多角形の内角について調べる学習をする。

単元名	人文字	配当時間	1 時間
単元の目標	(1) 人数と間の数の関係について、単純な形で考えたことが複雑な形でも使えることを理解し、複雑な形を単純な形に直すことができる。 (2) 人数と間の数の関係について、簡単な場合から複雑な場合を考えることができる。 (3) 人数と間の数の関係について関心をもち、簡単な場合から複雑な場合を考えようとする。		

標準的な展開例	05040109_001
---------	--------------

【準備等】 掲示用マグネット

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 人文字をつくる時の人数を考える。[p. 92・p. 93] ○ Lの文字をつくる時の人数を求める。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★間の数と子どもの数に目をつけて考えよう。 ○ HやOの文字をつくる時の人数を求める。 ○ 「練習問題」に取り組む。	・ 3年で学習した「間の数」の内容について想起させる。 ・ アからイの8 mに限定して、人数と間の数の関係をとらえさせる。 ・ Lの文字を1本の直線に変形すると考えやすいことに気付かせる。 ・ HやOの文字を1本の直線に変形して考えさせる。 【評】人文字全体の長さとの間の数の関係に目をつけて問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】
本単元では、人文字の問題を用いて「簡単な場合を基に関係をとらえて問題解決を図る」思考法を学習する。この思考法は、複雑な問題場面を簡単な場面で調べて数量関係を考える分析・総合的な方法である。簡単な場合で考えることのよさが感じられるように、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。
展開例では、まず (人文字をつくる人数) = (間の数) + 1 になる問題について考える中で、人数と間の関係を言葉の式に表したり、文字を1つの直線に変形したりして問題を解決する方法について学習する。その次に、その方法を用いて (人文字をつくる人数) = (間の数) になる問題について考える展開になっている。

単元名 **どんな計算になるのかな**

配当時間 **1時間**

単元の目標 (1) 小数の乗除の用いられる場面を理解し、計算することができる。
 (2) 小数の乗除計算の意味を基に演算決定し、その根拠を言葉や図などを用いて考え、説明することができる。
 (3) 進んで問題に取り組み、何算になるかを判断しようとする。

標準的な展開例

05040110_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 問題文から適切な演算を選び、立式の根拠を説明する。 [p. 94・p. 95] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ どんな計算になるかを考えて、問題をとこう。 ○ 「みんなで考える問題」を読み、場面に合った演算を決定し、その理由を説明する。	・ 式だけではなく、言葉の式や図を用いて説明すると分かりやすいことを伝える。 【評】問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、既習事項を使って、問題を解決する単元である。既習事項の中から問題場面にあった演算を決定し、正確に計算をする力をつけさせたい。

単元名 算数の自由研究

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 算数の自由研究の仕方を理解し，自分で考えながら算数の研究をすることができる。
 (2) 敷き詰め模様の研究の動機や工夫して考えたことに着目することができる。
 (3) 敷き詰め模様に関心をもち，自分でも算数の自由研究をしようとする。

標準的な展開例

05040111_001

【準備等】敷き詰める多角形

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 自分で考えながら算数の自由研究をする。[p. 96・p. 97] ○たいちさんの自由研究を見る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★テーマをみつけて，算数の自由研究をしてみよう。 ○テーマを見つける。 ○研究の計画を立てる。 ○研究をする。 ○研究したことを発表する。	・内容だけでなく，まとめ方にも着目させる。 【評】敷き詰め模様をきっかけに，算数の自由研究に取り組もうとする活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・調べたことや発見したことなどをノートに書かせる。 【評】算数の自由研究をする活動を通して，「知識・技能」を評価する。 ・図や絵を使うと分かりやすくなることを伝える。 質問や感想を言わせるとよい。

【 備 考 】

本単元は，算数への興味・関心のある課題を見付け，夏季休業を利用して時間をかけてじっくりと算数の自由研究に取り組む動機付けをする単元である。算数に自信がない児童が，自信を回復できるようなおもしろく，時間を気にせずに取り組むことのできる題材を取り上げるようにしたい。

単元名 復習(p.98・p.99)

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

05040112_001

【準備等】 1組の三角定規

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p.98・p.99]	・個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 整数

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 偶数、奇数、倍数、約数、素数などの意味を理解し、整数を偶数と奇数に類別したり、倍数・約数などを求めたりすることができる。
- (2) 整数を偶数・奇数という観点から類別したり、倍数・約数という観点から考察したりすることができる。
- (3) 偶数、奇数、倍数、約数などを知り、それらについて調べようとする。

標準的な展開例

05040201_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、偶数と奇数の意味を知る。[p.100・p.101]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 11, 12のカードを引いた人は、どちらの組に入るか考える。 ○ 1, 3, 5, …と2, 4, 6, …という数の集まりを見て、特徴を考える。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 整数の性質について調べていこう。 ○ 数直線上の整数のうち、2でわり切れるものを見付ける ○ 奇数と偶数の意味を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 整数の性質に興味をもち、倍数の意味を知る。[p.102]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 倍数について調べよう。 ○ 組体操をしている人数について考える。 ○ 倍数の意味を知る。 ○ 2の倍数、3の倍数、4の倍数、5の倍数を数直線上に表す。 <p>3 公倍数、最小公倍数の意味を知り、その求め方を考える [p.103]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 2つの数の倍数になっている数について調べよう。 ○ 3人1組から4人1組への組み替えについて考え、公倍数、最小公倍数の意味を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 より合理的な公倍数の求め方を考える。[p.104]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 公倍数のみつけ方を考えよう。 ○ 6と8の公倍数の求め方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 4と6と9の公倍数の求め方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>5 公倍数を使って、問題を解決する。[p.105]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ どのようにならべたときに正方形ができるかを調べよう ○ 縦6 cm, 横8 cmの長方形を並べてできる最も小さい正方形の1辺の長さを考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>6 約数について知り、その求め方を考える。[p.106]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 12本の花を余りが出ないように分けられる花びんの数を考える。 ○ 約数の意味を知る。 	<p>・ 数直線を用いた活動により、偶数や奇数を視覚的に捉えさせ、整数の概念の拡張を図る。</p> <p>【評】赤組や白組がどんな集まりといえるかを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 0や1を2でわる計算を確認する。</p> <p>・ 数直線上では、偶数と奇数が交互に並んでいることを視覚的に捉えさせる。</p> <p>・ 偶数か奇数かの判断は、一の位を見ればよいことに気付かせる。</p> <p>【評】偶数、奇数の意味を理解する問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 実際に組体操をした経験や仲間分けをした経験を思い出させるとよい。</p> <p>・ 九九を使って考えていけばよいことに気付かせる。</p> <p>【評】数直線に倍数を表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ ベン図に表された倍数を見て、公倍数、最小公倍数を視覚的に捉えさせる。</p> <p>・ 倍数や公倍数の概念を正しく理解させるためには、九九の範囲以上の倍数や公倍数を求めさせ、無限に存在することを確認するとよい。</p> <p>【評】公倍数や最小公倍数を見付ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 大きい方の数の倍数の中から見付けた方が合理的であることに気付かせる。</p> <p>・ 3つの数の公倍数も2つの場合と同じように求められることに気付かせる。</p> <p>【評】公倍数や最小公倍数を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 解決の見通しがもてない児童には、実際に長方形を並べる活動を通して、見通しがもてるように支援する。</p> <p>【評】公倍数の考えを使って、問題を解決する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 12本の花を分ける活動を通して、約数の意味</p>

<p> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 約数について調べよう。 ○ 約数に○をつける。 </p> <p> ○ 「練習問題」に取り組む。 </p> <p> 7 公約数，最大公約数の意味を知り，その求め方を考える [p. 107] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 2つの数の約数になっている数について調べよう。 ○ 12本の赤い花と18本の白い花を余りが出ないように分けられる花びんの個数について考える。 ○ 公約数，最大公約数の意味を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 </p> <p> 8 より合理的な公約数の求め方を考える。 [p. 108] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 公約数のみつけ方を考えよう。 ○ 24と36の公約数や4と15の公約数の求め方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 </p> <p> 9 公約数を使って，問題を解決する。 [p. 109] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 正方形の大きさがどんなときに余りがでないかを調べよう。 ○ 縦18cm，横12cmの長方形を余りが出ないように同じ大きさの正方形に分けると，最も大きな正方形の1辺の長さが何cmになるかを考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 </p> <p> 10 単元を振り返り，確認問題に取り組む。 [p. 110・p. 111] ○ 「たしかめよう」に取り組む。 </p> <p> ○ 学習の振り返りを書く。 </p>	<p>を視覚的に捉えさせる。</p> <p> ・ 1はすべての整数の約数であることに気付かせる。 【評】 約数や素数を見付ける活動を通して，「知識・技能」を評価する。 </p> <p> ・ 花びんの個数が12と18の約数になるときに余りが出ないことに気付かせる。 【評】 公約数や最大公約数を見付ける活動を通して，「知識・技能」を評価する。 </p> <p> ・ 小さい方の数の約数の中から見付けた方が合理的であることに気付かせる。 ・ 最大公約数が1や，もとの一方の数になることがあることに気付かせる。 【評】 公約数や最大公約数を求める活動を通して，「知識・技能」を評価する。 </p> <p> ・ 解決の見通しがもてない児童には，実際に正方形に分ける活動を通して，見通しがもてるように支援する。 【評】 公約数を使って問題を解く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】 問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。 ・ 整数について分かったことや気付いたこと，できるようになったことなどを書かせる。 </p>
---	---

【 備 考 】

整数については第4学年までに，億・兆の単位まで範囲を広げて十進位取り記数法の立場から数の仕組みをまとめ，四則計算の仕方についても学習を終えている。

指導する上では，整数を観点を決めて類別し，類別したものをそれぞれ1つの集合として捉えさせることが重要である。さらには，観点を決めて類別したり，共通な要素を見付けたりする中で，数に対する興味をもたせ，整数の性質にも目を向けさせたい。

ここでは，身近なドッジボールのチーム分けを例に偶数，奇数に分けることの有用性に気付かせる。その後，整数を数直線上にとり，偶数と奇数が交互に並ぶことを視覚的に捉えさせ，さらに2でわり切れるかどうかに着目させてまとめている。

また，本学年で今後学習する約分，通分及び異分母分数の加減計算では，最大公約数や最小公倍数が簡単に求められることが大きな鍵となるので，それらも視野に入れて単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

本単元については，プログラミング的思考を扱うこともできる。

単元名 分数(1)

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 約分・通分の仕方、及び分数の加減計算の仕方を理解し、約分や通分、分数の大小比較、加減計算をすることができる。
- (2) 単位分数の何個分と捉えて、異分母分数や帯分数が混じった加法・減法の仕方を考えることができる。
- (3) 異分母分数の大小比較や加減計算などに関心を持ち、進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

05040202_001

【準備等】数直線の図、リットルます

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、等しい分数について考える。[p.112～p.114]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 異分母分数の大小や計算に興味をもつ。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 分数の大きさや、分数のたし算やひき算のしかたについて考えていこう。 ○ $1/2$に等しい$2/4$, $3/6$, $6/12$の作り方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 約分の意味とその仕方を考える。[p.115]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 約分のしかたを考えよう。 ○ $15/20$と等しい分数の作り方を考える。 ○ 約分の意味について知る。 ○ 約分の仕方をまとめる。 ○ $18/24$を約分する方法を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 通分の意味とその仕方を考える。[p.116]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 等しい分数を使って、分母のちがう分数の大きさをくらべよう。 ○ $3/5$と$2/3$の大きさの比べ方について考える。 ○ 通分の意味について知る。 ○ 通分の仕方をまとめる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 通分の仕方について理解を深める。[p.117]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 通分のしかたを考え、説明しよう。 ○ $5/6$と$3/4$の通分の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ $1/4$と$2/3$と$1/2$の通分の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>5 異分母分数の加法・減法の仕方を考える。[p.118]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 分母のちがう分数のたし算とひき算のしかたを考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分数カードを使った大小比較をすることで、学習の動機付けをする。 ・ 異分母分数の大きさ比べでつまづいている児童には、数直線に表して比べる方法を助言する。 【評】 異分母分数の大小を比べる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する 【評】 等しい分数を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 前時の学習を振り返りながら、除数が分母と分子の公約数であることに気付かせる。 ・ 自分なりに考えさせ、話し合いの中で分母も分子も最大公約数であればよいことに気付かせる。 ・ 約分するときは、分母をできるだけ小さくさせる。 【評】 約分の意味を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 分母が同じ数になれば、大きさ比べが容易にできたことを想起させる。 ・ 通分するには分母の最小公倍数を見付けることが必要であるが、この問題では、分母の公倍数を見付けることを気付かせ、分母同士をかけ合わせる方法を認めてもよい。 【評】 通分の意味を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 2つの分母が互いに素ではない場合に、分母の最小公倍数を求める必要があることに気付かせる。 ・ Aの分母がBの分母の倍数になっている場合は、Bの分母をAの分母に合わせればよいことに気付かせる。 ・ 3つの分数の通分についても、分母の最小公倍数を考えればよいことに気付かせる。 【評】 最小公倍数を使って通分する問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 量分数については、リットルますなどを用いて、実際にその量を見せることで、量感をつかませるとよい。

<p>○ $1/2 + 1/3$, $1/2 - 1/3$ の計算方法を考える。</p> <p>○ 異分母分数の計算の仕方をまとめる。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>6 いろいろな異分母分数の計算の仕方を考える。[p. 119]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ いろいろな分数のたし算やひき算をしよう。</p> <p>○ 約分ができる分数のたし算やひき算の仕方を考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>○ 3つの分数の計算の仕方を考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 帯分数を含む異分母分数の加法や減法の仕方を考える。 [p. 120]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 帯分数のたし算やひき算のしかたを考えよう。</p> <p>○ 3 と $1/2 + 1$ と $5/6$ や 3 と $1/2 - 1$ と $5/6$ の計算の仕方を考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 練習問題に取り組む。[p. 121]</p> <p>○ 「練習」に取り組む。</p> <p>9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 122・p. 123]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 単元の振り返りを書く。</p>	<p>・ 分母が同じ分数なら既習事項が使えるので、通分すればよいことに気付かせる。</p> <p>【評】 異分母分数の計算の方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 異分母分数の組合せとしては、① 2つの分母が互いに素である場合、② 一方の分母が他方の分母の倍数になっている場合、③ 2つの分母が互いに素ではない場合が挙げられるが、この時間には全ての場合と約分が組み合わさった問題を行う。</p> <p>・ 答えを求めたら、約分できるかどうかを確認することを知らせる。</p> <p>【評】 いろいろな分数の計算問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 多様な方法で考えさせ、話し合いの中でよりよい計算方法を見付けさせる。</p> <p>【評】 帯分数が混じった計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。</p> <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 異分母分数の加法・減法について、分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。</p>
--	--

【 備 考 】

児童は、第4学年までに、分数の第一義（単位分数のいくつ分）と分数の種類（真分数、仮分数、帯分数）、同分母分数の加減、等しい分数について学習している。それらを受けて、本単元では約分、通分や異分母分数の加減について学習する。この後、分数の乗除についても学習することになるので、それらも考慮に入れた単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名 図を使って考えよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 相殺や置換の考え方を理解し、その考え方をを使って問題を解くことができる。
 (2) 複雑な数量関係の解決方法を、相殺や置換を基に考えることができる。
 (3) 相殺や置換の考え方をを使って解く思考方法のよさが分かり、進んで活用しようとする。

標準的な展開例

05040203_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 相殺の考えを用いる問題に取り組む。[p.124]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 図をかいて、2つの買い方をくらべよう。 ○ 同じものに目を付け、差し引いて等式を見付ける。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 置換の考えを用いた問題に取り組む。[p.125]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 同じものに目をつけて考えよう。 ○ 子どもを大人に置き換えて等式を見付ける。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図や線分図などを用いて数量の関係を明確に把握し、等式を発見させる。 ・ 2つの量を比較し、何と何が等しいかに着目させる。残りの大きさから問題を解く手掛かりを見付けさせる。 【評】相殺の考えを用いた問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 線分図を手掛かりにして、視覚的に捉えさせる。 ・ 2つの量を比較し、一方が他方の何倍に相当するか明確にし、全体の量が一方の量の何倍に当たるかをつかませる。 【評】置換の考えを用いた問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元は、相殺の考えを用いて解く問題と置換の考えを用いて解く問題の2つに大別される。これらは、物事を考える際に様々な関係や条件をなるべく単純化して考える問題であるので、しっかり身に付けさせ、生活に生かす態度を育てていけるように単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名	復習(p.126・p.127)	配当時間	1 時間
単元の目標			

標準的な展開例	05040204_001
---------	--------------

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 126 ・ p. 127]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 面積

配当時間 13時間

- 単元の目標 (1) 三角形や平行四辺形などの面積の求め方や公式を理解し、面積を求める公式を用いて、面積を求めることができる。
 (2) 既習の面積の公式を基に、三角形や平行四辺形などの面積を工夫して求めたり、公式を作ったりすることができる。
 (3) 既習の面積の公式を基に、三角形や平行四辺形などの面積を求める公式を進んで作りだそうとする。

標準的な展開例

05040205_001

【準備等】 定規、三角定規、ジオボード、実寸コピー図（児童用）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、直角三角形の面積の求め方を考える。[p.128～p.130]</p> <p>○長方形と正方形の面積を求める。 ○直角三角形の面積の求め方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。 ★三角形や四角形の面積の求め方を考えていこう。</p> <p>2 高さが図形の内にあるときの、三角形の面積の求め方を考える。[p.131]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★長方形や直角三角形の面積の求め方をもとにして、三角形の面積の求め方を考えよう。 ○高さが三角形の内にあると考えたときの、三角形の面積を求める。</p> <p>3 三角形の面積を求める公式を考える。[p.132・p.133]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★三角形の面積の公式をつくろう。 ○底辺と高さの意味を知り、三角形の面積を求める公式を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 平行四辺形の面積の求め方を考える。[p.134・p.135]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★長方形や三角形の面積の公式を使って、平行四辺形の面積の求め方を考えよう。 ○平行四辺形の面積の求め方を考える。</p> <p>○考えた求め方を話し合う。</p> <p>○話し合いの振り返りを書く。</p> <p>5 平行四辺形の面積を求める公式を考える。[p.136・p.137]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★平行四辺形の面積の公式をつくろう。 ○底辺と高さの意味を知り、平行四辺形の面積を求める公式を考える。</p>	<p>・単に面積公式を覚えさせるだけでなく、既習の正方形や長方形の面積公式を基にして公式を作りださせるとともに、その過程で論理的な考え方を育てるようにすることが大切である。</p> <p>・既習事項である長方形の面積と関連付けて考えさせる。 【評】直角三角形の面積の求め方を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】直角三角形の面積を求める活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・正方形や長方形、直角三角形以外の三角形や四角形について考えていくことを伝える。</p> <p>・2つの直角三角形にすれば、前時の内容を使っていることに気付かせる。</p> <p>・方眼紙にかかれた三角形を切ったり、くっつけたりする活動により、三角形の面積の求め方を考えさせる。 ・どう求めても、長方形の半分になることを押さえる。 【評】三角形の面積の求め方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・前時の考え方を基に、三角形のどこの長さが分かれば面積が求められるかを考えさせ、公式を導く。 ・底辺をどこにするかで高さが決まることを知らせる。 【評】三角形の面積の公式を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】三角形の面積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・直角三角形を移動させる方法をはじめ、数多くの解決方法が考えられるので、多様な解決方法を認めることで、算数の面白さを味わわせる。 ・自分の考えと他の考えの相違点を考えながら話し合わせるとよい。 【評】平行四辺形の面積の求め方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・平行四辺形のどこの長さが分かれば面積が求められるかを考えさせ、公式を導く。 ・底辺をどこにするかで高さが決まることを知</p>

- 「練習問題」に取り組む。
- 6 高さが図形の外にある三角形や平行四辺形の面積の求め方を考える。[p. 138・p. 139]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★三角形や平行四角形の高さについて調べよう。
 - 高さが図形の外にある三角形の面積を求める。
 - 高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求める。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 7 台形の面積の求め方を考える。[p. 140・p. 141]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★これまでに学習した面積の公式を使って、台形の面積の求め方を考えよう。
 - 台形の面積の求め方を考える。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 8 ひし形の面積の求め方を考える。[p. 142]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★これまでに学習した面積の公式を使って、ひし形の面積の求め方を考えよう。
 - ひし形の面積の求め方を考える。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 9 練習問題に取り組む。[p. 143]
 - 「練習」に取り組む。
- 10 四角形の面積の求め方を考える。[p. 144・p. 145]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★三角形の面積の公式を使って、多角形の面積の求め方を考えよう。
 - 四角形の面積を求める。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 11 平行な直線を使って、面積の求め方を考える。[p. 146]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★平行な2本の直線にはさまれていることを使って考えよう。
 - 平行な2本の直線にはさまれた平行四辺形の面積を求める。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 12 高さや底辺と面積の関係を考える。[p. 147]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★面積と高さの関係を表に書いて調べよう。
 - 底辺を6cmとし、高さや面積の関係を調べる。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 13 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 148・p. 149]

- らせる。
- 【評】平行四辺形の面積を求める活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・高さが図形の内にある平行四辺形に変形できないかを考えさせる。
 - 【評】高さが図形の外にある三角形や平行四辺形の面積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。
 - ・前時までに学習したことを基に面積の求め方を考えさせる。
 - ・ひなたさんの考えから、式と図を関係付けて台形の上底、下底、高さが分かればよいことに気付かせ、面積を求める公式にまとめる。
 - 【評】台形の面積の求め方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
 - 【評】台形の面積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。
 - ・三角形や長方形の面積の公式を使って考えるよう助言する。
 - ・だいちさんの考えから、式と図を関係付けてひし形の2つの対角線の長さが分かればよいことに気付かせ、面積を求める公式にまとめる。
 - 【評】ひし形の面積の求め方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
 - 【評】ひし形の面積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。
 - 【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。
 - ・対角線で分割する方法や長方形で囲む方法など、多様に考えさせる。
 - 【評】四角形の面積を求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
 - ・平行な2本の直線にはさまれている場合は、高さが等しくなることを押さえる。
 - 【評】底辺の長さが等しく、高さも等しい平行四辺形や三角形の面積を求める活動を通して「知識・技能」を評価する。
 - ・高さを1cm, 2cm, …と変化させた三角形をかく活動を通して、高さの変化と面積の変化を視覚的に捉えさせ、量感を育てる。
 - ・ジオボードを用意するとよい。
 - ・三角形の面積は高さに比例することを確認する。
 - 【評】高さや底辺と面積の関係を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
 - ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。

○「たしかめよう」に取り組む。

○学習の振り返りを書く。

・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】三角形や四角形の面積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・三角形や四角形の面積について、分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元では、三角形、平行四辺形の面積の求め方を考えることを通して、面積の概念の理解を深める。そして、公式を自ら作りだしたり、面積を求めるのに必要な条件を見付けだしたりする力を育てるために、面積を求める公式を導くまでの過程を大切にすると単元構成や授業展開を考える必要がある。

展開例は、面積を求める公式を導くまでの過程を大切にしている。また、基本的な図形の面積の求め方を学習した後に、公式を使って関数的な見方をしたり、台形やひし形の面積の求め方などを扱ったりして、面積についての理解を深める展開である。

単元名 平均とその利用

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 平均の意味や求め方を理解し、平均を求めたり、平均から全体を求めたり、それを用いて、長さなどを概測したりすることができる。
- (2) 平均の考えを用いて、身近な事柄について考えることができる。
- (3) 平均を用いることのよさに気づき、進んで平均の考えを用いようとする。

標準的な展開例

05040206_001

【準備等】ブロック、電卓、巻尺

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、平均の求め方を考える。[p. 150・p. 151]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グレープフルーツ 1 個から採れるジュースの量を調べる方法を考える。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 大きさのちがう数量がいくつかあるとき、それらをならした大きさを調べていこう。 ○ 3 個のグレープフルーツから採ったジュースを基に、1 個から採れるジュースの量を考える。 ○ 3 つの量をならす方法を考え、平均の意味を知る。 <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2～3 平均を求める問題を解く。[p. 152・p. 153]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 0 があるときの平均について考えよう。 ○ 月曜日から金曜日までの本の貸し出し数が 8 冊、6 冊、5 冊、0 冊、9 冊だったときの、1 日の平均冊数を求める。 <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ いくつかの 1 個平均を求めて、全体の量を調べよう。 ○ 箱に 30 個あるトマトから 4 個取り出したら、160g、158g、158g、164g だったときの、トマト 30 個の重さを求める。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>○ 身の回りから、平均が使われているところを見付ける。</p> <p>4 部分の平均から、全体の平均を求める方法を考える。[p. 154]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ グループごとの平均から、全体の平均を求める方法について考えよう。 ○ 集めたキャップの数が 1 人平均 15 個だった A グループと 10 個だった B グループを取り上げ、両グループを合わせた平均を求める問題に取り組む。 <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 歩幅を測定し、歩幅を使って概測した距離を求める。[p. 155]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 平均を使って、歩はばを求める方法を考えよう。 ○ 10 歩の距離の平均を求めて、歩幅を求める。 ○ 自分の歩幅を計測し、いろいろなところの距離を概測する。 <p>6 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 156・p. 157]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 <p>○ 単元の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジュースを作った経験について話し合わせて関心をもたせる。 ・ 「ならず」という言葉が捉えられない児童には、ブロックなどを使い、ならずのイメージをもたせるとよい。 ・ 200mL より多く、250mL より少ないことを予想した上で考えさせる。 ・ グラフをかかせ、それを基に考えさせたり、説明させたりするとよい。 <p>【評】 平均を求める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貸し出しが 0 冊の日も 1 日と数えて除数に含めることや、本の冊数のような分離量の場合でも平均ならば小数を使ってもよいことを知らせる。 <p>【評】 0 を含む場合の平均の求め方を知ることを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 1 個平均から全体の量を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $(15+10) \div 2$ と計算する児童が多いことが予想されるので、正しい方法との違いを明確にするとともに、A グループと B グループの人数が同じ場合は正解になることを補足するとよい。 <p>【評】 部分の平均から全体の平均を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上から 2 桁の概数で求めさせる。 ・ 電卓を用意するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ だいちさんの例を参考にして歩幅の求め方を確認させる。 <p>【評】 平均を使って歩幅や距離を測定する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平均とその利用について、分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたい

○「やってみよう」に取り組む。

ことなどを書かせる。

【 備 考 】

児童は、平均を求める際の基本的な考え方を、第3学年の等分除と関連して学習している。したがって、平均の意味とその計算方法は、児童にとって比較的容易であると考えられる。

最も難しいのは、部分の平均が与えられたときに全体の平均を求める問題である。それぞれの平均をたして2でわっただけでは、必ずしも全体の平均にならないことを、正解と比較して見せることで確実に理解させたい。

単元名 単位量あたりの大きさ

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 単位量あたりの考えを使った比べ方や表し方を理解し、異種の2つの量の大小を比べることができる。
 (2) 異種の2つの量の割合で表される量について、単位量あたりで考えることができる。
 (3) 単位量あたりの考えのよさが分かり、これを用いて関連する2つの量の大小を比べようとする

標準的な展開例

05040207_001

【準備等】電卓

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、混み具合の比べ方を考える。[p. 158～p. 160]</p> <p>○ 4つの部屋の人数と畳の数を知り、混み具合について考える。</p> <p>○ 単元の学習課題をつかむ。 ★こみぐあいのくらべ方など、もののくらべ方について考えていこう。</p> <p>○ 混み具合を比べる。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 単位量あたりの考えで、2つの観点から量の大きさを比べる。[p. 161]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★写真1まいあたりのねだんをくらべよう。</p> <p>○ 写真の枚数とかかる料金を、1枚あたりで比べる。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 単位量あたりの大きさを使って、問題を解決する。[p. 162]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★単位量あたりの大きさを使って、くらべよう。</p> <p>○ 人口密度の問題に取り組む、人口密度の意味を知る。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>○ 身の回りから、単位量あたりの大きさが使われているものを見付ける。</p> <p>4 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 163]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 単元の振り返りを書く。</p>	<p>・ 単位量あたりの考え方を生活の中で用いている児童もいるが、漠然と用いている場合が多い。ここでは、異種の2つの量を比べることによって、単位量あたりの考え方を意識させる。</p> <p>・ 人数か畳の数のどちらかがそろっていれば、簡単に比べられることを確認する。 【評】混み具合を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 考えたことを話し合わせる。 【評】混み具合を比べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 公倍数あたりの考え方をを用い、100枚あたりで比べる児童がいた場合には、公倍数あたりのよさを考えさせてもよい。</p> <p>・ $750 \div 25$の立式ができない場合は、「3枚プリントして24円かかる店があります。」1枚では、何円がかかりますか。」と簡単な場合で考えさせる。</p> <p>・ 単位量あたりの大きさの意味を知らせ、それで比べるよさに気付かせる。 【評】2観点で量の大きさを比べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 電卓を用意するとよい。</p> <p>・ 広い地域の混み具合を比べる時には人口密度が使われることを知らせる。 【評】単位量あたりの考えを使って日常の事象を比べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】身の回りから、単位量あたりが使われているものを探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 単位量あたりの大きさについて、分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。</p>

【備 考】

本単元では、単位量あたりの意味とその計算方法について学習する。単位量あたりという言葉自体も難しいが、単位量あたりのよさに気付かせることが大切である。様々な問題の解決を通して単位量あたりの考え方ができるよう、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名 分数(2)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 商としての分数の意味、分数倍、分数と小数・整数との関係について理解し、分数に整数をかけたり、割ったりする計算ができる。
 (2) 分数に整数をかけたり、割ったりする計算の仕方を、筋道立てて考えることができる。
 (3) 分数で表すよさが分かり、進んで分数の性質を調べたり、分数を使った問題を解いたりしようとする。

標準的な展開例

05040208_001

【準備等】リットルます、テープ図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、商を分数で表すことを考える [p.164・p.165]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★わり算の商の表し方を考えよう。 ○$2 \div 3$の商を分数で表す方法を考える。 <p>○わり算の商の表し方をまとめる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 分数倍を使った問題を解く。[p.166・p.167]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★何倍かを表す数が分数になるときについて考えよう。 ○「みんなで考える問題」の題意を、テープ図を基に把握する。 <p>○分数倍についてまとめる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 分数と小数の関係を考える。[p.168]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★分数をわり算の商とみて、小数で表そう。 ○$3/4$や$3/5$を小数で表す方法を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>○$2/3$を小数で表す。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 小数や整数を分数で表す仕方を考える。[p.169]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★小数や整数を分数で表そう。 ○0.7, 0.13, 0.009を分数で表す方法を考える。 <p>○5, 12を分数で表す方法を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p.170・p.171]</p> <p>○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○単元の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数で表せないことに気付かせ、分数で表示させる。 ・リットルますに水を分ける活動を通して、商を分数で表すことの理解を促すとともに、量感を育てる。 <p>【評】商を分数で表すことを理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープ図を見ながら、[赤, 青, 黄]の長さは[白]の長さの何倍かを考えさせる。 ・小数で表せないことに気付かせ、分数で表示させる。 ・[黄]は[白]の$2/3$倍であるとき、[黄]は[白]の$2/3$というように、倍を省略することがあることを知らせる。 <p>【評】分数で倍の意味を理解する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有限小数で表せない分数があることを確認しその処理方法を知らせる。 <p>【評】分数を小数で表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.1は$1/10$, 0.01は$1/100$, 0.001は$1/1000$であることから考えさせる。 ・$5 = 5 \div 1$であることから考えさせる。 <p>【評】小数や整数を分数で表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数の乗法・除法について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元では、分数の計算の範囲を乗法や除法にまで拡張し、単位の考えに着目させ、分数×整数や分数÷整数の計算の仕方について学習する。また、分数と小数・整数の相互の関係を理解させることで、分数の概念の理解を深めさせたい。単位の考えに着目させるためには、単位分数を意識させる必要がある。そこで、面積図を使った数学的活動を行い、「単位分数の何個分」になるかを視覚を通して意識できるようにする。この後、第6学年で、×分数、÷分数についても学習することになるので、それらも考慮に入れた単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名 割合

配当時間 9時間

単元の目標 (1) 割合の意味と表し方を理解し、百分率などを用いて数量の関係を正しく捉えて計算処理することができる。
 (2) 身近な問題を解決するために、割合の和や差、積を使って考えることができる。
 (3) 割合で考えることのよさを知り、これを用いて数量の関係を判断しようとする。

標準的な展開例

05040209_001

【準備等】電卓、定規

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 割合の意味を知り、単元の学習課題をつかむ。[p. 172・p. 173]</p> <p>○演奏する楽器の定員と希望者数の表を見て、希望者数の多さについて話し合う。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。 ★いろいろな数量のくらべ方や表し方について考えていこう。 ○オルガンとけんぱんハーモニカの希望者は、それぞれの定員の何倍になっているか求める。</p> <p>○割合の意味を知る。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 全体と部分、部分と部分の割合を求める。[p. 174]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★割合を求めよう。 ○全体と部分の割合を求める。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 もとにする量と割合から、比べる量の求め方を考える。[p. 175]</p> <p>○「みんなで考える問題」を読み、本時の学習課題をつかむ。 ★くらべる量の求め方を考えよう。 ○比べる量の求め方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 比べる量と割合から、もとにする量の求め方を考える。[p. 176・p. 177]</p> <p>○「みんなで考える問題」を読み、本時の学習課題をつかむ。 ★もとにする量の求め方を考えよう。 ○もとにする量の求め方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 百分率の意味を知り、百分率と小数倍との関係について考える。[p. 178]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★百分率の意味について考えよう。 ○割合を求める問題を解き、百分率の意味を知る。</p> <p>○百分率と小数倍との関係を捉える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・割合は、ある量をもとにして、比べる量がその何倍に当たるかを表した数であるので、もとにする量と比べる量を区別して捉えさせることが大切である。</p> <p>・希望者数に着目させて、それぞれの楽器を比較させる。また、2つの量に着目させて、人気がある楽器はどれかについて話し合わせるとよい。</p> <p>【評】話し合い活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・何倍になっているかは、希望者÷定員で求められることを確認し、式に当てはめて求めさせる。</p> <p>・関係図を使って、小数倍の意味（定員と希望者数の関係）を理解させる。</p> <p>・割合は、もとにする量を1としたときの比べる量の大きさを表したものであることを理解させる。</p> <p>【評】割合の意味を理解し、割合を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・関係図や線分図などを用い、数値の関係を正しく把握させる。</p> <p>・何が何の何倍かを明確にして、何を1として考えているのかを常に明確にしておく。</p> <p>【評】割合を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・関係図や線分図を基にして、比べる量の求め方を考えさせる。</p> <p>【評】比べる量を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・関係図や線分図を基にして、もとにする量の求め方を考えさせる。</p> <p>・□人の1.6倍が24人という考え方から、前時の比べる量の求め方を基に考えさせる。</p> <p>【評】もとにする量を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・買い物を想起させ、興味付けを図る。</p> <p>・百分率の用語と、1%の意味について知らせる。</p> <p>・数直線を使って考えさせるとよい。</p> <p>・百分率は100%を超えるときもあることを確認する。</p> <p>・百分率を求めるとき、割合を小数で表してから百分率に直せばよいことを解決の見通しの段階で気付かせておく。</p> <p>【評】百分率と小数倍との関係を理解する活動</p>

<p>6 百分率を使った問題で、比べる量やもとにする量の求め方を考える。[p. 179]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 割合が百分率で表された問題について考えよう。 ○ もとにする量を求める問題を解く。 ○ 比べる量を求める問題を解く。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>7～8 割合の和や差を求めて、もとにする量の何倍にあたるかを考える。[p. 180・p. 181]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ ね引きされたあとの代金を求めよう。 ○ 割合の差から、比べる量がもとにする量の何倍にあたるかを考える。 ○ 答えを求め、線分図を使って確かめる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 代金がもとのねだんの何倍かを考えて、もとのねだんを求めよう。 ○ 「みんなで考える問題」に取り組む。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 182・p. 183]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 ○ 単元の振り返りを書く。 	<p>を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 百分率を小数倍に直してから求めることに気付かせる。 <p>【評】 比べる量やもとにする量を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 線分図を用いて、2つの量の和や差の関係を調べさせ、関係図に表して考えさせるとよい ・ 値段の10%引きは、値段の90%であることに気付かせる。 <p>【評】 割合の和や差を使った問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代金は、もとの値段の何%かを考えるとよいことに気付かせる。 <p>【評】 割合の和や差を使った問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 割合について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
---	---

【 備 考 】

児童は「小数×小数」で小数倍とその求め方を学習し、比べる量を求める簡単な問題を経験している。本単元はこれを受けて、割合や百分率の意味とその活用、割合のグラフなどを学習する。割合は、児童にとって理解が難しい内容であるので、関心・意欲を高める場面を設定したり、数値を容易にしたりするなど、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名 表を使って考えよう(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 表を用いて2つの数量の関係の調べ方を理解し、2つの数量の変わり方や対応に着目できる。
 (2) 表や図から2つの数量の間のきまりを見付けることができるとともに、「数の少ない場合から順に調べる」思考法のよさが分かり、これを活用することができる。
 (3) 伴って変わる2つの数量を見付け、それらの関係を表を使って進んで調べようとする。

標準的な展開例

05040210_001

【準備等】長方形の紙、(正三角形の色板)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 変わりのきまりを見付ける。[p.184]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長方形の紙を2つ折りに順々に折っていき、折り目で分けられた長方形の数を調べる。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★表にかいてきまりをみつけよう。 ○表に整理して、きまりを見付けて、長方形の数を求める <p>○表を使って見付けたきまりを説明する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 数の少ない場合から規則を見付け、問題を解決する。[p.185]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★少ない場合から順に調べてきまりをみつけよう。 ○階段の図を実際にかいて調べる。 <p>○表に整理して、変わりのきまりを見付ける。</p> <p>○表から見付けたきまりを説明する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりを見付けた児童には、そのきまりが成り立つ理由についても追究させる。 ・4, 5回までしか折れない長方形の紙を用意し、少ない場合をもとに多い場合を考えなくてはならない状況を作る。 ・長方形の数の増え方が、2, 4, 8, …と前の2倍ずつになっていることに気付かせる。 【評】きまりを見付けて問題を解決する方法を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・児童の説明を基に、表を横に見て、きまりを見付けたことが分かるように板書する。 ・少ない場合から順に、折った回数と折り目の数の関係を、表に整理して考えさせる。 ・ひごを並べたり、表をかいたりする活動によって、問題解決の糸口を与える。 ・縦に並んだ色板から数え、次に横に並んだ色板を数えさせたり、数えた色板に印を付けたりさせる。 ・きまりが見付からない児童には、「段の数が1つずつ増えると色板の数は何枚ずつ増えるか」と助言し、増え方のきまりを見付けさせる。 ・表を対応の見方で見ることができない児童には、「色板の数は段の数の何倍になっているか」と助言し、対応の見方を見付けさせる。 ・「表を横に見る」、「表を縦に見る」というそれぞれの見方を表を指さしながら説明させる。 【評】数の少ない場合から順に調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【備 考】

第4学年では、変化の様子を表にかいて、数量の関係を調べる学習をした。その学習の発展として、本単元では、変化の様子を帰納的に考えて問題を解決することにより、「少ない場合から調べ、きまりを見付ける」思考法を育てる。実際に行うと大変なことが計算で求められることのよさを感じられるように、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

ここでは、長方形の紙を折るという活動から、実際に折って調べることができない場面に直面させて、調べ方を工夫させる。その後も、操作活動を行うことで、問題意識をもたせたり、数量関係に気付かせたりしている。

単元名 見積もりを使って

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 差し引いて残った部分を比べたり，切り上げや切り捨てを使ったりする見積もりの仕方を理解し，代金を見積もることができる。
 (2) 目的に応じて，差し引いて残った部分を比べたり，切り上げや切り捨てを使ったりして，見積もって判断することができる。
 (3) 差し引いて残った部分を比べたり，切り上げや切り捨てを使ったりして判断する見積もりの仕方に関心をもち，この見積もりを生活に用いようとする。

標準的な展開例

05040211_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 仮平均との差を考え，相殺して見積もりを考える。[p. 186]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ さしひいて見積もって考えよう。 ○ だいちさんの考え方を説明する。 ○ 「みんなで考える問題」に取り組む。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 切り上げや切り捨てを使って見積もりを考える。[p. 187]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 切り上げや切り捨てを使った見積もりについて考えよう ○ さくらさんの考え方を説明する。 ○ かいとさんの考え方を説明する。 ○ 「みんなで考える問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バットとボールの代金が1000円といくら違うのかを求めて，その差を考えていることに着目させる。 【評】 見積もりの求め方を考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 棒グラフに表して，視覚的に気付かせるようにしてもよい。 ・ さくらさんのノートを参考にして，かいとさんの考えを言葉で表現するようにさせる。 【評】 見積もって判断する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元は，身の回りの事象を題材にして見積もりの必要性に気付き，差し引いて残った部分を比べたり，切り上げや切り捨てを使ったりして判断する見積もりができるようにする。自分で見積もり，そのわけを言えるようにするための学習展開を考える必要がある。

単元名	復習(p.188・p.189)	配当時間	1 時間
単元の目標			

標準的な展開例	05040212_001
---------	--------------

【準備等】コンパス，定規

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 188 ・ p. 189]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 円と正多角形

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 正多角形の意味と性質を理解し、円を使って正多角形をかいたり、模様づくりをしたりすることができるとともに、円周率の意味とその求め方を理解し、円の直径から円周を求めたり、円周から直径を求めたりすることができる。
- (2) 正多角形の作図の仕方を、正多角形の性質を活用して考えることができるとともに、直径と円周の関係を、見通しをもって帰納的に考えることができる。
- (3) 円や正多角形に関心をもち、その性質を調べようとする。

標準的な展開例

05040301_001

【準備等】折り紙、三角定規、コンパス、分度器、巻き尺

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 折り紙で六角形を作る作業を通して、単元の学習目標をつかむ。[p. 190・p. 191]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○折り紙に円をかいて、六角形を作る。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★正多角形について調べていこう。 ○できた図形について、辺の長さや角の大きさを調べる。 ○正六角形を知る。 ○多角形、正多角形を知る。 <p>2 円の中心角を等分割して、正多角形をかく。[p. 192]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★円を使って、正六角形をかく方法を考えよう。 ○円を使って正六角形をかく方法を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 ○身の回りにある正多角形の形をした物を探す。 <p>3 円周を半径の長さで区切って、正六角形をかく。[p. 193]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★正六角形がかけられるわけを考えて、説明しよう。 ○正六角形をコンパスを使ってかく方法を知り、理由を説明する。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 円周と直径の関係を調べる。[p. 194～p. 196]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挿絵を見て、気付いたことを話し合う。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★円周と直径の関係について調べよう。 ○円周は直径の何倍かを考える。 ○4, 5, 6, 7, 8 cmの円周を測り、円周が直径の何倍になっているかを調べる。 ○円周率という用語とその意味、円周率を求める公式を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・切った紙を広げて、六角形ができたことを確認させる。 ・紙の折り方や切り方から考えさせ、コンパスや分度器で確認させる。 【評】図形の辺の長さや角の大きさを調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・反例を示し、辺も角もすべて等しくなければいけないことを意識させる。 ・正六角形以外の正多角形についても、辺や角の大きさがすべて等しくなっていることをコンパスや分度器を使って確かめさせる。 ・円の中心の周りを6等分していることに気付かせる。 ・正五角形や正八角形では、円の中心の周りの角が何度になればよいかを考えさせる。 【評】正多角形をかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・正六角形の1辺が円の半径になっていることに気付かせ、このことを活用させる。 【評】正六角形をコンパスを使ってかける理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】正多角形の模様作りを通して、「知識・技能」を評価する。 ・直径が大きくなれば円周も大きくなることに気付かせる。 ・円周は直径のおよそ3倍であることを見当付けるために、図を使って分かりやすく説明させる。 ・正六角形の1辺の長さが半径と等しいことから、円周>直径×3となることを理解させる。 【評】円の直径と円周の関係を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・p. 299「円周測定マシン」を使って、円周を測り、円周が直径の3.14倍になっていることを計算する。 【評】円周を測って直径との関係を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・どんな大きさの円でも円周は直径の約3.14倍になることに児童が気付いた段階で知らせる。

<p>○円周を求める公式を知る。</p> <p>5 円周や直径の求め方を考える。[p. 197]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★円周や直径を求めよう。 ○直径 6 m の円周を計算で求める方法を考える。 ○円周が 50 m の円の直径を計算で求める方法を考える。 ○1 円玉の円周を求める問題に取り組む。 ○「練習問題」に取り組む。 ○身の回りにある円の形をした物の円周を測り、その直径を概数で求める。 <p>6 円周は直径に比例することを調べる。[p. 198]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★表にかいて変わり方を調べよう。 ○円の直径と円周の関係を調べる。 ○円の直径と円周の変わり方のきまりを、表を使って説明する。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>7 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 199]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを書く。 	<p>【評】円周率の意味を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $(\text{円周}) \div (\text{直径}) = (\text{円周率})$ を基に、$(\text{円周}) = (\text{直径}) \times (\text{円周率})$ という公式を導く。 ・円周率は、3.14 を使うことを知らせる。 ・前時に学習した公式を思い出させる。 ・公式の逆思考で考え、$(\text{直径}) = (\text{円周}) \div (\text{円周率})$ で求められることに気付かせる。 <p>【評】円周や直径を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概数で考えるときは円周率を 3 とすることもあることを知らせる。 ・表にかいて、直径と円周の関係を捉えさせる ・円の直径が 2 倍、3 倍、…になると、円周も 2 倍、3 倍、…になることから、円周は直径に比例することを理解させる。 <p>【評】円の直径と円周の関係を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円と正多角形について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	--

【 備 考 】

本単元では、具体的な操作を通して、目や手で確かめながら正六角形や正八角形を構成していく過程をたどらせていく。また、円を利用することで、円の中心から頂点を繋いだ時にできる一つ一つの三角形が二等辺三角形であることや、辺の長さや角の大きさの関係をつかませていく。円の直径と円周の関係、円周率の意味を、操作的活動を通して考えさせる単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名 割合のグラフ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 統計的な問題解決の方法を理解するとともに、帯グラフや円グラフを用いて資料を整理することができる。
- (2) 帯グラフや円グラフをもとに適切に判断したり、集めた資料を整理するのに適切なグラフを選択したりするとともに、得られた結論について多面的に考えることができる。
- (3) 帯グラフや円グラフのよさや統計的な問題解決の方法を知り、身の回りの事柄などを調べるときにそれを生かそうとする。

標準的な展開例

05040302_001

【準備等】電卓、定規

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、帯グラフと円グラフのよさを考える。[p. 200・p. 201]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★割合を表すグラフについて調べていこう。 ○帯グラフや円グラフの読み方を知る。 <p>○割合を表すグラフのよさを考える。</p> <p>2 表を使って、帯グラフと円グラフをかく。[p. 202・p. 203]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、本時の学習課題をつかむ。 ★割合を求めて、帯グラフや円グラフに表そう。 ○帯グラフと円グラフのかき方を考える。 <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 工夫されたグラフから家庭で消費されるエネルギーについて読み取る。[p. 204・p. 205]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★いろいろなグラフからわかることを考えよう。 ○電力消費量の割合などを、グラフから読み取る。 <p>○身の回りにある帯グラフや円グラフを探す。</p> <p>4～5 帯グラフや円グラフなどに整理し、自分の考えをまとめる。[p. 206・p. 207]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★調べたいことをきめて、調べ方や整理のしかたを考えよう。 ○調べてみたい問題を決める。 <p>○調べていくときの計画を立てる。</p> <p>○資料を集めて、分かりやすく整理する。</p> <p>○調べたことから、気付いたことを話し合う。</p> <p>○分かったことをまとめる。</p> <p>6 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 208・p. 209]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科と関連付けて指導するとよい。 <p>・長方形や円の半径で区切って割合を表していることに着目させ、それぞれの割合がどのように表されているかを考えさせる。</p> <p>【評】グラフの読み方を知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体と部分、部分と部分の割合がよく分かることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体が100%にならない時は、一番大きい部分か「その他」の割合を変えて100%にすることを知らせる。 <p>【評】グラフをかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あ」、「い」、「う」の資料がどんなことを表しているかを確認する。 <p>【評】工夫されたグラフから、情報を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことや、これまでに学習したことなどから、調べてみたい問題を見付けさせるようにする。 <p>【評】言葉や式を使い、根拠を示しながら説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割合のグラフについて分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【備 考】

複数の帯グラフを比べることに触れるものとする。

単元名 復習(p.210・p.211)

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

05040303_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 210・p. 211]	・個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 角柱と円柱

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 角柱や円柱の意味や特徴を理解し、角柱や円柱の面・辺・頂点の数などの特徴を調べることができるとともに、三角柱や円柱の見取図や展開図を理解し、見取図や展開図をかくことができる
 (2) 角柱や円柱の面・辺・頂点に着目するとともに、展開図のかき方や展開図の面の特徴を分析的に考えることができる。
 (3) 角柱や円柱を観察したり、分類したりして、その特徴を捉えるとともに、三角柱や円柱の見取図や展開図に関心を持ち、進んでこれらをかこうとする。

標準的な展開例

05040304_001

【準備等】立体模型、工作用紙、定規、コンパス、はさみ、セロハンテープ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、いろいろな立体を仲間分けし角柱と円柱について知る。[p. 212・p. 213]</p> <p>○ 5個の立体を2つの仲間に分け、角柱と円柱の意味を知る。</p> <p>○ 単元の学習課題をつかむ。 ★角柱と円柱について調べていこう。</p> <p>2 角柱、円柱の特徴について考える。[p. 214・p. 215]</p> <p>○ 底面、側面の意味を知る。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★角柱と円柱の底面や側面について調べよう。 ○ 角柱と円柱の底面や側面を調べる。 ○ 曲面の意味を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 角柱、円柱の見取図について考える。[p. 216]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★角柱や円柱の見取図をかこう。 ○ 三角柱、円柱の見取図をかく。</p> <p>○ 身の回りから角柱や円柱の形をした物を見付けて、その見取図をかく。</p> <p>4 角柱の展開図について考える。[p. 217]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★三角柱のてん開図をかくて、組み立てよう。 ○ 三角柱の展開図をかく。</p> <p>○ 展開図を切り取って三角柱を組み立てる。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 円柱の展開図について考える。[p. 218]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★円柱のてん開図をかくて、組み立てよう。 ○ 円柱の展開図をかく。</p> <p>○ 展開図を切り取って円柱を組み立てる。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>6 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 219]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p>	<p>・多くの児童は、直感的に立体を仲間分けすることができるが、立体の位置が変わると別の立体と考えてしまう児童もいる。立体を手にとって様々な方向から見られるように、数多くの立体を用意するとよい。</p> <p>・分類をしたわけを説明させる。 【評】立体の分類を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・底面は下になった部分が底面だと考える児童がいるので、底面は2つあり、平行で形も大きさも同じであることをしっかりとつかませたい。</p> <p>【評】角柱や円柱の特徴を理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・見えない部分の辺は、点線でかくようにさせる。 【評】角柱や円柱の見取図をかく活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】身の回りにある角柱や円柱の見取図をかく活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・側面に当たるところからかき、底面をかきたすとよいことを伝える。</p> <p>・側面を広げると長方形になり、この長方形の横の長さは、底面の周りの長さに等しく、縦の長さは角柱の高さと同じであることに気付かせる。</p> <p>・セロハンテープを使って貼り合わせるので、のりしろは必要ないことを知らせる。 【評】展開図をかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・側面が曲面なので、開いた形が想像しにくいいため、切り開いた側面が長方形になることを実際に見せるとよい。</p> <p>・側面の横の長さは、底面の円周の長さに等しく、縦の長さは円柱の高さと等しくなることに気付かせる。</p> <p>・接点は切り離さないでおく作業がやりやすいことを知らせる。 【評】展開図をかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・自己評価をし、不十分なところは教科書で振</p>

○学習の振り返りを書く。

り返らせる。
【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。
・角柱と円柱について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

児童は、第4学年「直方体と立方体」において、構成要素（辺、頂点、面）やそれらの位置関係、見取図や展開図のかき方について学習している。その経験を基に、本単元においても、角柱と円柱において、構成要素の形と数、それらの位置関係、見取図や展開図のかき方について学習する。

単元名 速さ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 速さの意味や表し方, 求め方を理解し, 速さを求めることができる。
 (2) 道のりと時間の関係から, 速さの求め方を導くことができる。
 (3) 単位量あたりの考え方をを用いて, 速さ・道のり・時間の関係を調べようとする。

標準的な展開例

05040305_001

【準備等】電卓

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 3種の動物の走る速さについて調べ, 単元の学習課題をつかむ。[p. 220・p. 221]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3種の動物のタイムを見て, 気付いたことを発表し合う ○ どの動物が一番速いのかを話し合う。 ○ 50m走と5分間走の記録を見て, 速さの比べ方について考える。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 単位量あたりの大きさを使って, 速さについて調べていく。 ○ 1秒間に走った道のりを比べる。 ○ 1m走るのに, 何秒かかったかを比べる。 ○ 15秒間に162m走るゾウの秒速を求める。 <p>2 速さの意味と求め方を知る。[p. 222]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなで考える問題」を読み, 本時の学習課題をつかむ。 ★ 1時間あたりに進んだ道のりで, 速さをくらべよう。 ○ 1時間あたりに進んだ道のりを計算し, 速さを比べる。 ○ 速さの表し方を知り, 速さを求める公式をまとめ, 時速・分速・秒速の用語を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 道のりの求め方を考える。[p. 223]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなで考える問題」を読み, 本時の学習課題をつかむ。 ★ 速さと時間から, 道のりを求めよう。 ○ 図をもとにして, 道のりの求め方を考える。 ○ 道のりの求め方を公式にまとめる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 時間の求め方を考える。[p. 224]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなで考える問題」を読み, 本時の学習課題をつかむ。 ★ 速さと道のりから, 時間を求めよう。 ○ 図をもとにして, 時間の求め方を考える。 ○ 時間の求め方を公式にまとめる。 ○ 秒速150mのリニアモーターカーが, 3km進むのにかかる時間を求める。 <p>5 時速・分速・秒速の関係を知る。[p. 225]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなで考える問題」を読み, 本時の学習課題をつかむ。 ★ 速さの表し方がちがうときのくらべ方を考えよう。 ○ 速さの単位をそろえて比べる。 ○ バス・電車・飛行機の, 時速, 分速, 秒速を表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 速さは, 単位量あたりの考え方と同じように考えられる。この場面では, 単位量を1秒間の場合と1mの場合で考えさせる。 ・ 1秒間あたりに進む道のり, 1mあたりにかかる時間というように5年生で学習した単位量あたりの考え方と同じように考えればよいことを, 話し合いを通して気付かせる。 ・ この場合は, 平均の速さになるが, 触れずに進めていく。 ・ 1mあたりにかかる時間が短いほど速いといえることを理解させる。 【評】 どの動物が速いかを, 速さから考える活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 線分図などを活用し, 単位時間あたりに進む道のりで比べればよいことに気付かせる。 ・ 単位時間あたりの走る道のりが長いほど速いと言えることを確認させる。 ・ 速さを求める式を言葉の式で表させ, 時速という用語を知らせる。時速の公式には, 分速や秒速も同様に適応できることを知らせる。 【評】 速さの意味を知り, 計算で求める活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・ 線分図が自分でかける児童には, 自力解決をさせる。 ・ 理解が難しい児童には, 線分図を使い, 1時間では230m, 2時間では460mなどスモールステップで求めさせる。 【評】 速さと時間の関係から道のりを求める活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・ 時速25kmは1時間に25km進む速さであることを確認する。 ・ 速さを求める公式を基にまとめさせる。 ・ 単位をそろえて計算することに注意させる。 【評】 道のりと速さから時間を求める活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・ 時速をまず分速に表し, それから秒速に表すという手順を踏んでもよい。 ・ 秒速・分速・時速のどれか一つが与えられれば, 残りの2つは求められることに着目させて問題に取り組ませる。

<p>○身の回りから，時速，分速，秒速が使われている場面を探す。</p> <p>6 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 226・p. 227]</p> <p>○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>【評】時速・分速・秒速の関係を理解し，それぞれの変換を行う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・自己評価し，不十分なところは教科書で振り返らせる。</p> <p>【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・速さについて分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことをなどを書かせる。</p>
--	---

【 備 考 】

速さは，道のりを一定にして時間の長短で比べる方法と，時間を一定にして道のりの長短で比べる方法がある。前者は，速さと時間が反比例するので比べる値の小さい方（時間の短い方）が速いということになり，比較がやや困難である。そこで，1秒間に進む道のりで速さを比べさせ，次に1m走るのにかった時間で速さを比べさせるとよい。

基本的には，1秒あたりの道のり，1mあたりの時間というように，2学期に学習した単位量あたりの考え方と同じように考えればよいことを理解させたい。

単元名 変わり方

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 伴って変わる2つの数量の関係の調べ方、比例の意味を理解し、○や△を使った式に表したり変わり方を表にかいて調べたりすることができる。
- (2) ○や△を使った式で表し、表にかいて○が変わると△がどのように変わるかを調べ、比例するかどうかを判断し、説明することができる。
- (3) 伴って変わる2つの数量の関係を見付け、○や△を使った式に表し、表にかいて変化の特徴を調べようとする。

標準的な展開例

05040306_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、2つの数量について、表にかいて変わり方を調べる。[p. 228・p. 229]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★いろいろな、ともなって変わる2つの数量の関係について式や表を使って調べていこう。 ○○と△を使って、関係を式に表す方法を考える。 ○2つの数量を表にかいて、変わり方を調べる。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>2 比例の関係にある2つの数量の変わり方を調べる。[p. 230・p. 231]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★ともなって変わる2つの数量の関係を、○と△を使って式や表に表して調べよう。 ○○と△を使って、関係を式に表す。 ○○と△の変わり方を表にかいて考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 比例の関係にない2つの数量の変わり方を調べる。[p. 232・p. 233]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★ともなって変わる2つの数量の関係を、○や△を使って式や表に表して調べよう。 ○○と△を使って、関係を式に表す。 ○○と△の変わり方を表にかいて考える。 ○「練習問題」に取り組む。 	<p>・○が1ずつ増えると△はどのように変わるのかを表にかいて考えさせる。 【評】表にかいて変わり方を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・言葉の式に当てはめて考えさせるとよい。 ・比例することを確認する。 ・比例する2つの量では、一方の値が$\frac{1}{2}$、$\frac{1}{3}$…になると他方の値も$\frac{1}{2}$、$\frac{1}{3}$…になることを確認する。 【評】○と△の関係を、式に表したり表にかいたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・言葉の式に当てはめて考えさせるとよい。 ・比例しないことを確認する。 【評】表にかいて、比例するかどうかを判断して説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

児童は、第4学年「変わり方」において、伴って変わる2つの数量についての学習をしている。本単元は、2つの数量を○や△を用いて考えることによって、代数の使い方に慣れ、第6学年「文字と式」につなげていけるように学習計画を立てる必要がある。

単元名 表を使って考えよう(2)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 伴って変わる2つの数量の関係に着目し、数量の和や差の変化を表に整理することができる。
 (2) 数量の和や差の変化を整理した表を使って考え、きまりを見付けて問題を解くことができる。
 (3) 表を使って考えるよさに気づき、進んで表からきまりを見付けて問題を解こうとする。

標準的な展開例

05040307_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 2つの量の和に着目して問題を解決する。[p. 234]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表にかいて、変わり方のきまりをみつけよう。 ○ 時間とあやのさんの進んだ道のり、お姉さんの進んだ道のり、2人合わせた道のりを表にし、変わり方を調べる ○ 変わり方のきまりを使って、答えを求める。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 2つの量の差に着目して問題を解決する。[p. 235]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表にかいて、変わり方のきまりをみつけよう。 ○ お兄さんが追いかけた時間とはるとさんの進んだ道のり、お兄さんの進んだ道のり、2人間の距離を表にし、問題を解決する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表だけで理解できない児童には、変化の様子を絵や図に表させ、問題の関係や表の意味が理解できるように工夫する。 <p>【評】 変わり方のきまりを見付けて問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2人の道のりの差が徐々に縮まっていくことに気付かせる。 ・ きまりを見付けることにより、表を途中まで作るだけで、答えが求められるよさを感じさせる。 <p>【評】 変化のきまりを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

児童は、数の少ない場合において伴って変わる数量の変化していく様子を表に表し、そこから規則性を見付け出して数の多い場合を類推することを学習している。本単元では、表を詳しくかかずに変わり方のきまりを見付け、求めることを学習する。数量の変化を表に表すことによって、きまりを見付けて問題を解く思考力が養えるように、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名 算数ラボ

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) プログラムの作り方を理解し、命令を実行させることができる。
 (2) プログラムの作り方を考えることができる。
 (3) プログラムを作ることに興味をもち、進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

05040308_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 プログラムの作り方を考える。[p. 236・p. 237] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 図形をかくプログラムをつくろう。 ○ 命令に従って動かし、命令の出し方について考える。 ○ 正方形の辺に沿って動かすプログラムを作る。 ○ 正三角形の辺に沿って動かすプログラムを作る。 ○ 正五角形や正六角形の辺に沿って動かすプログラムを作る。	・ p. 301「えんぴつくん」を動かして、「図形シート」の図形を作るための命令を考えさせる。 ・ 正三角形の1つの角の大きさは、 60° であるため、左に 120° 回ることを確認する。 【評】プログラムを作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元については、プログラミング的思考を取り扱うこともできる。

単元名 **みらいへのつばさ**配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 計画の立て方を理解し、表やグラフから読み取ることができる。
 (2) 表やグラフを活用して、計画を立てることができる。
 (3) 計画を立て、互いに説明する活動を通して、課題の解決を図ろうとする。

標準的な展開例

05040309_001

【準備等】食料自給率を高めるワークシート、電卓

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 国内消費仕向量，国内生産量，食料自給率の変わり方の資料を基に，日本の食料自給率を読み取る。[p. 238・p. 239]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ みらいさんのメモから，日本の食料自給率についてよみとろう。 ○ 国内消費仕向量，国内生産量，食料自給率の変わり方の資料を見て，気付いたことを発表する。 ○ 「みんなで考える問題」に取り組む。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 食料自給率を高める計画を立てる。[p. 240・p. 241]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 自分たちでもできそうな食料自給率を高める計画をたてよう。 ○ 食料自給率を高める計画を立てて，説明し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフ，表等，様々な表現で資料が示されていることに気付かせる。 ・ どの資料を見ると分かるかを確認させる。 ・ 国内消費仕向量と国内生産量の違いについて確認させる。 <p>【評】資料を読み取る活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】グラフや表を活用して，計画を立てる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が立てた計画が実現可能か，友達に計画を見せながら説明させる。 <p>【評】計画を立て，互いに説明する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立てた計画を実際の生活で試してみることを促す。

【 備 考 】

積極的に自分の意見を発表できる雰囲気をつくり，児童が相互に理解を深め合えるように授業の形をつくっていくようにする。

単元名 もうすぐ6年生
単元の目標

配当時間 3時間

標準的な展開例

05040310_001

【準備等】 分度器，定規，コンパス

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～3 復習問題に取り組む。[p. 242～p. 246] ○ 「もうすぐ6年生」に取り組む。	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。 ・ 教師自作の問題も用意しておくとい。

【 備 考 】

単元名	わくわく算数学習	配当時間	1 時間
単元の目標	(1) 算数学習を進める手順や、言葉や図、式などを用いて考え、説明する仕方を知るとともに、話し合いのよさなどを理解し、それらに必要な事柄を取り上げることができる。 (2) 図、式、言葉などを関連付けて考えたり、分かりやすく道筋立てて説明したりすることができる。 (3) 学習の進め方に関心を持ち、話し合い活動や発表に進んで取り組むとともに、学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り、これからの学習に生かそうとする。		

標準的な展開例	06040101_001
---------	--------------

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 割引きされたときの代金やもとの値段の求め方を考え、みんなで話し合い、まとめる。[p. 6～p. 9]</p> <ul style="list-style-type: none">○問題を読み、題意をつかむ。○クッキーの代金とプリンのもとの値段の求め方を自分なりに考える。○本時の学習課題をつかむ。★割引きされたときの代金やもとのねだんを求めよう。○割引きされたときの代金やもとの値段の求め方についてグループで話し合う。 <p>○話し合ったことをもとに、振り返る。</p> <p>○p. 8・p. 9のノートのかき方の例を見ながら、今後の学習の進め方を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・自力解決の場面では、自分の考えを、図や式言葉など幅広い方法で求めるように指導する・自分の考えを相手に伝えられるようにするために、図を指し示したり、式から根拠を明らかにしたりして説明をするように指導する。相手に伝えられたかどうかを確かめるために復唱をする活動を取り入れていく。 【評】自分の考えを相手に伝えることができたかどうか、伝え合い活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。・自分の考えと相手の考えを比較したり、相手の考えから自分の考えを再構築するために、振り返る活動を取り入れる。 【評】みんなで話し合いの仕方を知り、話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。・「日付」「問題」「めあて」「自分の考え」「友達の考え」「まとめ」「振り返り」などのかき方を確認する。

【 備 考 】

自分が出した考えは、必ずしもよりよい考えにはなっているとは限らず、話し合いを行い振り返ることが大切である。考えを説明する場合は、自分の考えを相手に分かりやすく、根拠を明確にして、筋道を立てて説明し、自他ともに共通理解をするように心がける。話し合いでは、質問や付けたしなどを積極的に行い、双方向でやり取りする中で、考えをよりよい考えに練り上げ、一歩進んだ考えにしていく。そのためには、話し合いのルールや意図を児童に知らせることが必要である。計算の工夫を説明し、話し合う中で、話し合いの大切さを知り、話し合ったことを振り返り、そのよさに気付くことができるようにさせる。

単元名 対称な図形

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 対称の軸や対称の中心，対応する点や直線の意味を理解することができるとともに，操作活動を通して，線対称・点対称な形を理解し，作図することができる。
- (2) 対称性に着目して，正多角形を考察し，対称の軸の数，対称の中心を明らかにすることができる。
- (3) 日常生活の中には，美しい形，整った形があることに関心をもち，図形の対称性に着目しながら意欲的に調べようとする。

標準的な展開例

06040102_001

【準備等】 薄い紙，方眼紙，コンパス，定規，三角定規，分度器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身近な形の対称性について調べ，単元の学習課題をつかむ。[p. 10～p. 13]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ [あ] ～ [え]の写真や図形を仲間分けする。 ○ どんな観点で仲間分けをしたのかを伝え合う。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 2つの折ってぴったり重なる形や，まわしてぴったり重なる形について調べていこう。 <p>2 線対称な図形の意味を知る。[p. 14・p. 15]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 対称の軸で折ったときに重なる点，線，角について調べよう。 ○ Mの形を切り取り，2つに折ってぴったり重なる形であることを確かめる。 ○ 線対称，対称の軸という言葉とその意味を知る。 ○ 重なる点，線，角を確認し，「対応する」という表現を知る。 ○ 線対称な図形の対応する点，線，角を見付ける。 ○ 第1時の[あ]～[え]で線対称な図形を見付け，対称の軸を書き込む。 ○ 身のまわりから，線対称な図形を見付ける。 <p>3 線対称な図形の性質を調べる。[p. 16]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 線対称な図形の性質を調べよう。 ○ 対応する2つの点を結ぶ直線と，対称の軸の関係を調べる。 ○ 他の対応する点についても調べ，線対称な図形の性質についてまとめる。 ○ ハート型について，対応する点を見付ける。 <p>4 線対称な図形の作図をする。[p. 17]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 線対称な図形のかき方を考えよう。 ○ 直線ABが対称の軸になるように線対称な図形をかく。(四角形) ○ 直線ABが対称の軸になるように線対称な図形をかく。(飛行機型) ○ いろいろな線対称の図形をかく。 <p>5 点対称な図形の意味を知る。[p. 18・p. 19]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 対称の中心で180°まわしたときに重なる点，線，角について調べよう。 ○ 「N」型の図形を切り取り，180°回してぴったり重なることを確かめる。 ○ 点対称，対称の中心という言葉を知る。 ○ 重なる点，線，角について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薄い紙に写し取り，2つに折る作業や回す等の操作をしてぴったり重なることを確かめさせる。 ・ 自分の考えを相手に分かりやすく伝えられるようにするために，操作活動等を交えて伝え合う。 <p>【評】 身近な形の対称性に着目して弁別する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 切り取った図形を操作させながら説明をすることで，用語の理解を深める。 ・ 別の図を取り扱い，対応する点や対応する辺について理解を深めさせる。 ・ 薄い紙に写し取って折ることで，ぴったりと重なることに気付かせる。 ・ 都道府県のマークや地図記号，道路標識等から見付けさせてもよい。 <p>【評】 身のまわりにある線対称を見付ける活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンパスや定規，三角定規を使って調べる。 ・ 対応する点Eと点Gや点Dと点Hを結んで調べさせる。 <p>【評】 対称な図形の性質を調べる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応する2点を結ぶ線分が，対称の軸に垂直であることを意識して作図させる。 ・ 長さを測り取る場合は，コンパスを使用させる。 ・ 方眼紙を利用して作図させる。方眼の目盛りを確認させることで，線対称になっているかどうかを確かめさせる。 <p>【評】 線対称の性質に基づき，線対称な図形をかく作業を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に操作をして調べさせる。 ・ 重なる点，線，角を，対応する点，対応する

<p>○「S」の図形について，対応する点や線，角を見付ける</p> <p>○第1時の[あ]～[え]の中で，点対称な図形を見付ける。</p> <p>○身の回りから，点対称な図形を見付ける。</p> <p>6 点対称な図形の性質を調べる。[p. 20]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★点対称な図形の性質を調べよう。</p> <p>○図形「N」型について，性質を調べる。</p> <p>○点対称な図形の性質についてまとめる。</p> <p>○点対称な図形の対称の中心を見付ける。</p> <p>7 点対称な図形の作図をする。[p. 21]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★点対称な図形のかき方を考えよう。</p> <p>○点Oが対称の中心になるように，点対称な図形を作図する。</p> <p>○教科書中の方眼紙に，点Oが対称の中心になるように，点対称な図形を作図する。</p> <p>○いろいろな点対称の図形をかく。</p> <p>8 三角形や四角形，正多角形などの基本図形を，対称性に着目して考察する。[p. 22・p. 23]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★いろいろな多角形について，線対称や点対称かどうかを調べよう。</p> <p>○三角形や四角形について，線対称かどうかを判断して対称の軸を書き込み，表にまとめる。</p> <p>○点対称かどうかを判断し，点対称の場合には対称の中心を書き込み，表にまとめる。</p> <p>○表にまとめた結果を発表する。</p> <p>○正多角形について，線対称かどうかを判断して対称の軸を書き込み，表にまとめる。</p> <p>○点対称かどうかを判断し，点対称の場合には対称の中心を書き込み，表にまとめる。</p> <p>○表にまとめた結果を発表する。</p> <p>9 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 24・p. 25]</p> <p>○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>線，対応する角と表現することを知らせ，作成した「N」の形の中に用語をかける。</p> <p>・別の図の課題を与えることで，対応する点や辺についての理解を深めさせる。</p> <p>・対称の中心に注目しながら，改めて対称な形を探させる。</p> <p>・都道府県のマークや地図記号，道路標識等から見付けさせてもよい。</p> <p>【評】点対称の意味を理解する活動を通して，「知識・理解」を評価する。</p> <p>・点対称の図形の性質の理解を深めるために，点対称な図形「N」型を例に扱う。</p> <p>・ア，イの問題を読み，それぞれの答えについて予想させる。さらに，調べ方についても考えさせる。</p> <p>・対称の中心から等距離に対応する点があることを，コンパスや定規で確かめさせる。</p> <p>【評】点対称な図形の性質を調べる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・既習事項を活用し，作図方法の自力解決する時間をしっかりとる。</p> <p>・対応する点を方眼紙の目盛りで確かめながら決め，対称の中心を通る線を引きいて確かめさせる。</p> <p>・対称の中心を決め，直線図形を自由にかかせながら作図させる。</p> <p>【評】点対称の性質に基づき，点対称な図形をかく作業を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書に書き込みながら調べさせる。</p> <p>・点対称かどうかを判断するために，教科書を180°回して見比べさせる。</p> <p>・ペアや全体場で伝える場を設定する。説明をするときには，対称の軸などを指し示したり，書き込んだりしながら相手に分かるように伝え合う。</p> <p>【評】対称の軸や対称の中心を明らかにしたり対称の軸を数えて表にまとめたりする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書に書き込みながら調べさせる。</p> <p>・点対称かどうかを判断するために，教科書を180°回して見比べさせる。</p> <p>・三角形や四角形のときと同様に伝え合わせる。</p> <p>【評】対称の軸や対称の中心を明らかにしたり対称の軸を数えて表にまとめたりする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。</p> <p>【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・対称な図形について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。</p>
--	--

【 備 考 】

図形を対称性の観点からとらえ，見通しをもって線対称や点対称の作図ができるようにさせたい。また，平面図形についての理解を深め，直観的な見方や考え方を養うとともに論理的な考察の基礎を育てたい。そのために，図形の対称性や図形を決定する要素に着目して自分で作図の手順を考えられるようにする。平面図形についての理解を深めるとともに，論理的に考察し表現する能力を培うために「図形の移動」を学習する。指導に当たっては，図形の移動を通して，移動前と移動後の2つの図形の関係（直線の位置関係，対応する辺や角

の相等関係など)に着目することで、図形の見方や表現の仕方をより豊かにしたい。

単元名 文字と式

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) ○や△などの代わりに x などの文字を用いることを理解し、文字を使って数量やその関係を式に表したり、文字に数を当てはめて x などの値を求めたりすることができる。
- (2) 文字を使って表された式の意味を考察し、具体的に即しているものに読み取ることができる。
- (3) 文字を使うよさが分かり、数量やその関係を進んで文字を使った式で表そうとする。

標準的な展開例

06040103_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 文字を使うことの意味を考え、単元の学習課題をつかむ [p. 26～p. 28]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鉛筆 6 本の代金を○を使った式に表すことを考える。 ○1本の値段を○円、6本の代金を△円としたときの式を考える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★xやyなどの文字を使って、数量やその関係を式に表すことについて、考えていこう。 ○○をx、△をyとし、文字で表した式を立てる。 ○$x=50, 60, 70$をあてはめたときのyの値を求める。 ○$y=600$をあてはめたときのxの値を求める。 ○1本60円の鉛筆を買う本数をx本として、その代金を表す式をかくなどの問いに答える。 <p>2 数量の関係を、x、yを使って式に表し、数をあてはめて調べる。 [p. 29]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★xやyを使って、数量の関係を式に表して調べよう。 ○代金をy円として、xとyの関係を式に表す。 ○xに5, 6, 7, 8の数をあてはめたときの代金を求める。 ○1000円で80円の鉛筆がいくつ購入できるかを求める。 ○$y=ax+b$の式の類題に取り組む。 <p>3 x、yを使った式で、xの値に対するyの値を求める。 [p. 30]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★xとyの関係を式に表して調べよう。 ○帆の面積をy?として、xとyの関係を式に表す。 ○xに13.5, 14, 14.5の数をあてはめたときの面積を求める。 ○xの値に対応するyの値を求める。 <p>4 練習問題に取り組む。 [p. 31]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「練習」に取り組む。 <p>5 文字を使った式をみて、具体的な事象を考える。 [p. 32]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★文字を使って表された式の意味を考えよう。 ○$x \times 16$, $x + 600$, $x \times 20 + 180$の意味を考え、言葉で意味を伝える。 ○$x \times 5 + 60$の式で表されるものを選ぶ。 ○身のまわりから$x \times 4$になるものを見付けさせる。 <p>6 文字を使った式の意味をいろいろ考察する。 [p. 33]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★図を見て、文字を使って表された式の意味を考えよう。 ○$(a \times 8) \div 2$, $a \times (8 \div 2)$, $(a \div 2) \times 8$を表す図を選び、選択した根拠を図を使いながら説明する。 ○[あ]・[い]を見て、式が表す意味を考え説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆を6本買うことは変わらないので、値段が50, 60, 70と変わっていくことに着目させる。 ・(1本の値段) \times (買う本数) = (代金) のように、言葉の式に当てはめて立式させる。 ・変数の文字は主にxとyを使うことや、xとyの書き方について触れてから課題に取り組ませる。 ・早くできた児童には、xに他の値を入れたときのyの値を求めさせる。 <p>【評】文房具を買う場面で文字を使う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・xの値、yの値という用語を知らせる。 ・言葉の式と文字の式を上下で並べて示す。 <p>【評】数量の関係について、x、yを使って式に表したり、数を当てはめたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・xの値とyの値の変化を表にまとめさせる。 ・式も省略せずに書かせる。 ・求めることが難しい様子の児童には、底辺の長さ5.5, 6, 6.5cmの場合について、表にまとめて考えるように助言する。 <p>【評】表を利用して問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章題でつまずきのある児童に対して、個別に表などをかかせるよう指導し、理解を助ける。 <p>【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書中の絵などを図示しながら、自分の言葉で相手に伝え合う機会をつくる。発展的に数値を変えたり、$x - 20$ではどんな意味になるかを考えたりさせる。 <p>【評】式を見て具体的な場面を想起し、伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形や長方形、平行四辺形の面積の公式についても確認をしてから取り組ませるとよい

- 7 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 34・p. 35]
- 「たしかめよう」に取り組む。

- 学習の振り返りを書く。

【評】式をいろいろな視点で考察し，どう考えたかを説明する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。
- ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・文字と式について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

数量を○，△などを用いて表し，その関係を式に表したり，○，△などに数を当てはめて調べたりすることについては，第5学年までに学習している。本単元では，その経験の上で，数量を表す言葉や○，△などの代わりに a ， x などの文字を用いて式に表させ，文字の使用に慣れさせる。文字が本格的に使用されるのは中学校からであるが，簡潔に表すことができるなど， a ， x などの文字を用いて式に表すことのよさを味わうことのできる素地を養っておくことが大切である。指導にあたっては，○，△などについての理解の上に，○，△などの代わりに， a ， x などの文字を用いるようにする。その際，数を当てはめ，調べる活動などを通して，整数値だけではなく，小数や分数の値も整数と同じように当てはめることができることに目を向け，数の範囲を拡張して考えることができるように配慮する必要がある。

単元名 分数×整数, 分数÷整数

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 分数に整数をかけたり, 整数でわったりする計算ができる。
 (2) 分数の意味を基に, 分数に整数をかけたり, 整数でわったりする計算の仕方を考えることができる。
 (3) 分数に整数をかけたり, 整数でわったりする計算に進んで取り組もうとしている。

標準的な展開例

06040104_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 分数×整数の意味と計算の仕方を考える。[p. 36・p. 37]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 dLで0.8㎡ぬれるペンキで, 4 dLでは何㎡ぬれるか考える。 ○ 1 dLで$\frac{3}{5}$㎡ぬれるペンキで, 4 dLでは何㎡ぬれるか求める式をつくる。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★分数に整数をかける計算について調べていこう。 ○ $\frac{3}{5} \times 4$の計算の仕方を考える。 <p>○ 計算の仕方をまとめる。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 分数÷整数の意味と計算の仕方を考える。[p. 38・p. 39]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★分数を整数でわる計算のしかたを考えよう。 ○ 2 dLで$\frac{4}{5}$㎡ぬれるペンキで, 1 dLでは何㎡ぬれるか考える。 ○ 2 dLで$\frac{4}{5}$㎡ぬれるペンキで, 1 dLでは何㎡ぬれるか求める式をつくる。 ○ $\frac{4}{5} \div 2$の計算の仕方を考える。 <p>○ $\frac{4}{5} \div 3$の計算の仕方を, 面積図を見て考える。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ $(1 \text{ dLでぬれる面積}) \times (\text{ペンキの量}) = (\text{ぬれる面積})$ になることを確認する。 ・ $\frac{1}{5}$が (3×4) 個分になることを面積図を使って視覚的にとらえさせる。 ・ 計算の仕方を面積図を使って説明させる。 ・ 途中で約分ができる場合は, 約分してから計算した方が簡単であることに気付かせる。 【評】分数×整数の計算をする活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・ $(\text{ぬれる面積}) \div (\text{ペンキの量}) = (1 \text{ dLでぬれる量})$ になることを確認する。 ・ $\frac{1}{5}$が $(4 \div 2)$ 個分になることを面積図を使って視覚的にとらえさせる。 ・ 面積図を縦に線を引いて2等分する発想は難しいので, 自力解決が困難な児童には2等分の図を与えて考えさせる。その際, どの部分が答えになるか色を塗らせるとよい。 ・ 計算の仕方を面積図を使って説明させる。 ・ $\frac{4}{5}$を, 分子が3でわれる分数にして計算することを面積図を使って視覚的にとらえさせる。 ・ 面積図を縦に線を引いて3等分する発想は難しいので, 自力解決が困難な児童には3等分の図を与えて考えさせる。その際, どの部分が答えになるか色を塗らせるとよい。 ・ 分数の除法の仕方をまとめてから取り組ませる。 【評】分数÷整数の計算をする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

本単元では, 分数の計算の範囲を乗法や除法にまで拡張し, 単位の考えに着目させ, 分数×整数や分数÷整数の計算の仕方について学習する。また, 分数と小数・整数の相互の関係を理解させることで, 分数の概念の理解を深めさせたい。単位の考えに着目させるためには, 単位分数を意識させる必要がある。そこで, 面積図を使った算数的活動を行い, 「単位分数の何個分」になるかを視覚を通して意識できるようにする。この後, \times 分数, \div 分数についても学習することになるので, それらも考慮に入れた単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名 復習(p.40・p.41)

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

06040105_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 40 ・ p. 41]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 分数×分数

配当時間 13時間

- 単元の目標 (1) 逆数の意味や分数の計算においても交換法則や結合法則、分配法則が成り立つことを理解するとともに、分数をかける計算の意味を十分に理解し、計算することができる。
 (2) 分数に分数をかける計算の意味や仕方を、筋道立てて考えることができる。
 (3) 分数に分数をかける計算に進んで取り組むとともに、分数のかけ算を活用して、いろいろな問題を解決しようとする。

標準的な展開例

06040106_001

【準備等】時計の模型

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習内容をつかみ、線分図を用いて、分数×分数の計算の意味を考える。[p. 42・p. 43]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 dLで$4/5\text{m}^2$ぬれるペンキで、2 dL, 3 dLでは、どれだけぬれることができるかを考える。 ○ 思考をしたことをもとに、$4/5 \times 2$や、$4/5 \times 3$の正答を求める。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 分数をかける計算の意味や計算のしかたについて考えていこう。 ○ 1 dLで$4/5\text{m}^2$ぬれるペンキで、$1/3$ dLでぬれる面積を求める式を考える。 ○ $1/3$をかける場合について、線分図に表す。 <p>2 $1/3$ dLでは何m^2ぬれるのか考える。[p. 44]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ ★ $4/5 \times 1/3$の計算のしかたを考えよう。 ○ $4/5 \times 1/3$の計算の仕方を、面積図を使って考える。 ○ 1m^2の$4/5$、1m^2の$4/5$の$1/3$にあたる部分を面積図から考える。 ○ 視覚的に1m^2を15等分した内の4つ分がぬられていることを確かめる。 ○ 面積図を見て、$4/5 \times 1/3$の計算の仕方をまとめる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 分数×分数の計算の仕方を考える。[p. 45]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 分数をかける計算のしかたを考えよう。 ○ 1 dLで$4/5\text{m}^2$ぬれるペンキ$2/3$ dLでは何m^2ぬれるかを考える。 ○ $4/5 \times 2/3$の計算の仕方を考える。 ○ 分数×分数の計算の仕方をまとめる。 ○ 分数×分数の問題に取り組む。 <p>4 分数をかける計算で、整数や帯分数を含む計算の仕方を考える。[p. 46]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 整数を分数になおして計算しよう。 ○ 整数×分数、分数×整数の問題に取り組む。 ○ 帯分数を含んだ分数の問題に取り組む。 ○ 帯分数を仮分数で直して問題に取り組む。 <p>5 分数をかける計算で、小数のある場合と3つの数の場合の解き方を知る。[p. 47]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 整数、小数、分数が混じったかけ算を計算しよう。 ○ $0.7 \times 1/3$、$5/6 \times 1.4$の問題に取り組む。 ○ 3つの数の計算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 線分図を使って視覚的に考えたり、既習事項を準備問題より想起させたりすることで、思考を促す。 ・ 線分図で表したり、言葉の式で表したりしながら立式ができるように、思考を促す。 ・ 1, 2, 3をかける場合と比較しながらまとめる。 【評】 分数×分数の計算の仕方を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 面積図の該当する部分に、色をぬって分かりやすくさせる。 ・ 面積図を用いて視覚的に捉えさせることで、理解を深められるようにする。 【評】 分数×分数の計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ ひなたさんとかいとさんの考え方にも触れ、各々がどのように考えているかを説明させる ・ 分数×分数では分母同士、分子同士をそれぞれかければよいことを確認する。 【評】 分数×分数の問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 整数は、分母が1の分数に直してから計算させる。また、3は$3/1$と表せることを確認する。 ・ 帯分数を含んだ場合の計算の仕方を考える機会を設け、自分の考えを相手と伝え合う。 ・ 帯分数は仮分数で表すことにより、分数のかけ算の一般形になることに気付かせる。 【評】 整数や帯分数を仮分数に直して計算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 答えについて考えさせ、小数を分数に直したり、約分したりできることに気付かせる。 ・ 計算してから約分したものと途中約分したものを比較させ、途中約分をしてもよいことを

- 「練習問題」に取り組む。
- 6 かける数と積の大きさの関係は、かける数が分数のときにも成り立つことを確かめる。[p. 48]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★かける数が分数のときの、かける数と積の大きさの関係を調べよう。
 - 80にいろいろな分数をかける式を見て、80より大きくなる場合と小さくなる場合について考える。
 - かける数と積の大きさの関係についてまとめる。
 - かけ算の式を、積の大きい順に並べる問題に取り組む。
- 7 練習問題に取り組む。[p. 49]
 - 「練習」に取り組む。
- 8 分数を使った面積の求め方を知る。[p. 50]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★辺の長さが分数のときにも、面積や体積の公式が使えるかを調べよう。
 - 縦と横の長さが分数で表されている長方形の面積を、公式に当てはめて考える。
 - 縦、横、高さの長さが分数で表されている直方体の体積を、公式に当てはめて考える。
 - 面積が $2/5\text{m}^2$ になることを確かめる。
 - 体積が $3/20\text{m}^3$ になることを確かめる。
 - 長さが分数である図形の面積や体積を求める。
- 9 分数を使った時間の表し方を知る。[p. 51]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★分数で表された時間について調べよう。
 - 時計の文字板の図を基に、 $3/4$ 時間の意味を考える。
 - 20分は何時間になるか分数で表す。
 - 走った道のりは何kmになるかを求める。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 10 割合を表す分数を理解し、分数倍を使った問題を解く。[p. 52・p. 53]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★分数を使って、割合を表そう。
 - 赤、青、黄、白の4本のリボンのうち、長さが白の $2/3$ 倍になっているリボンはどれかを考える。
 - 白のリボンの $2/3$ 倍の長さを求める。
 - 割合を表す分数を理解する。
 - 赤のリボンと黄のリボンの長さは、白のリボンの何倍になるかについての問題に取り組む。
 - 割合の表し方についてまとめる。
 - 「練習問題」に取り組む。
- 11 逆数の意味、分数・整数・小数の逆数の求め方を知る。[p. 54]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★積が1になる2つの数をみつけよう。

知らせる。
 ・計算の結果を発表させ、計算の仕方について話し合ってもよい。

【評】途中で約分して計算をする活動を通して「知識・技能」を評価する。

・まずは、計算して確かめることで分類させる

・既習事項を想起させ、被乗数が整数や小数のときと同じになることに気付かせる。

【評】計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・文章題でつまずきのある児童に対して、個別指導にて線分図などをかかせながら理解を助ける。

【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 1m^2 の正方形に、縦 $1/2$ 、横 $4/5\text{m}$ の長方形をかかせる。縦を2等分、横を5等分した図の中の区切られた1つ分が $1/10\text{m}^2$ であることを確かめさせる。

・辺の長さを、縦0.4、横0.75、高さ0.5の小数で表せる。体積を小数で表したものを分数で表せることを確かめさせる。

【評】長さが分数の場合の面積や体積を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・1時間は60分であることから考えさせる。時計を実際に操作しながら視覚的に捉えさせることで、理解を深めさせる。

・文字板から $1/3$ 時間と見当を付けさせ、計算により求めるようにさせる。

【評】単位を考えて時間を表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・だいちさんの考え方に触れ、黄のリボンが当てはまらないわけを説明させる。

・テープ図を見ながら、視覚的に捉えさせることで、理解を深められるようにする。必要に応じて、前学年で既習した割合の計算方法を復習させたり、個別指導したりする。

・青のリボンは白のリボンの $2/3$ 倍であるとき青のリボンは白のリボンの $2/3$ というように倍を省略することがあることを知らせる。

・テープ図を見ながら赤と黄のリボンの長さは白のリボンの長さの何倍かを考えさせる。分数÷整数の計算方法を必要に応じて復習させたり、個別指導したりする。

・テープ図を用いてまとめる。

【評】割合を表す分数について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。

<p>○積が1になる2つの分数について考える。</p> <p>○逆数の意味をまとめる。</p> <p>○整数や小数の逆数について考える。</p> <p>○逆数を求める問題に取り組む。</p> <p>12 分数の乘法についての計算のきまりを確かめる。[p. 55]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★分数のときにも、計算のきまりが成り立つことを確かめよう。</p> <p>○計算のきまりを紹介する。</p> <p>○aに1/2, bに1/3, cに1/4を当てはめて、式の左と右が等しくなることを確かめる。</p> <p>○a, b, cに自分で決めた分数を当てはめて、式の左と右が等しくなることを確かめる。</p> <p>○計算のきまりをまとめる。</p> <p>○計算のきまりを使った問題に取り組む。</p> <p>○長方形の色がついている部分の面積を求める問題を解く</p> <p>13 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 56・p. 57]</p> <p>○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>・2つの分数を選び、それらをかけて積が1になる組を見付けさせる。</p> <p>・2つの数の積が1となるとき、一方の数を他方の数の逆数ということを知らせる。分数の場合には、分母と分子を入れ換えた数になることに気付かせる。</p> <p>・整数は分母が1の分数、小数は分母が10, 100, …のような分数になることから考えさせる。</p> <p>【評】逆数について知り、分数・整数・小数の逆数を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・乗法の交換法則, 結合法則, 分配法則を紹介する。</p> <p>・左の式と右の式をそれぞれ計算し、左の式と右の式が等しいことを確かめさせる。</p> <p>・a, b, cに自分で決めた分数を当てはめることにより、どんな分数を当てはめても計算のきまりが成り立つことに気付かせる。</p> <p>・計算のきまりが、分数のときにも成り立つことを知らせる。</p> <p>【評】計算のきまりを使って計算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】計算のきまりを使った計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。</p> <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・分数×分数について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。</p>
--	---

【 備 考 】

本単元では、分数×整数（第5学年）の学習を受けて、分数をかける計算について、①乗数が分数である場合の乗法の意味 ②乗数が分数である場合の計算の仕方 ③分数の乗法の計算ができること ④整数と同じ関係や法則が成り立つことを、学習する。

まず、整数が分数になっても同じ計算方法であることを理解させ、立式させる。式を立てたあとは、計算の仕方を分数の具体的な量が見える面積図を用いて考えさせて、かける1/3は分母に3をかけることになるということの理由を説明できるようにさせたい。計算の仕方が形式化されれば、単純な処理で計算することができるが、なぜそうなるのかの理由を説明することが大切である。

単元名 分数÷分数

配当時間 11 時間

単元の目標 (1) 分数でわる計算の意味を十分に理解し、計算することができる。
 (2) 分数でわる計算の意味や仕方を、道筋立てて考えることができる。
 (3) 分数でわる計算に進んで取り組むとともに、分数のわり算を活用して、いろいろな問題を解決しようとする。

標準的な展開例

06040107_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 分数÷分数の立式とその求め方を考え、単元の学習課題をつかむ。[p. 58・p. 59]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2 dLで$3/5\text{m}^3$ぬれるペンキで、1 dLあたり何m^3ぬれるか考える。 ○ $1/3\text{dL}$で$3/5\text{m}^3$ぬれるペンキで、1 dLあたり何m^3ぬれるか考える問題に取り組む。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 分数でわる計算の意味や計算のしかたについて考えていこう。 ○ わる数が分数のときの式についてまとめる。 <p>2 図を使って、分数÷分数の計算の仕方を説明する。[p. 60]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ $3/5 \div 1/3$の計算のしかたを考えよう。 ○ $3/5 \div 1/3$の計算の仕方を、図を活用して考え、説明する。 ○ わり算の性質を使って考え説明する。 ○ $3/5 \div 1/4$の計算のしかたを説明する「練習問題」に取り組む。 <p>3 分数÷分数の計算の仕方を考える。[p. 61]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 分数でわる計算のしかたについて考えよう。 ○ $2/3\text{dL}$で$3/5\text{m}^3$ぬれるペンキで、1 dLあたり何m^3ぬれるか考える問題に取り組む。 ○ 分数のわり算の仕方をまとめる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>4 分数でわる計算で、帯分数や整数を含む場合を考える。[p. 62]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 帯分数を仮分数になおして計算しよう。 ○ 2と$1/3 \div 4/5$、$2/3 \div 1$と$3/5$の計算をする。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ $4 \div 2/3$、$3/5 \div 7$の計算をする。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>5 分数をわる計算で、小数のある場合と3つの数の場合の解き方を知る。[p. 63]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 整数、小数、分数が混じったわり算を計算しよう。 ○ $0.8 \div 2/3$、$3/5 \div 1.2$の問題に取り組む。 ○ 3つの数の計算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 線分図を使って考えさせる。 ・ 意味を確認するために、言葉の式でまとめさせる。 ・ 言葉の式に当てはめ、式を立てさせる。 ・ 線分図を用いてまとめさせる。 【評】 分数でわる計算の式について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 前時で扱った線分図の考えを利用して、図をかいて考えさせる。 ・ 説明をする場面では、図を指し示しながら相手に分かるように伝えるよう指導をするとうい。 ・ 「わられる数とわる数に同じ数をかけても答えは同じ」というきまりを使っていることを確認させる。 【評】 分数のわり算の計算の仕方を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 算数資料集を参考にして、数直線図を作成して考える。 ・ 前時と同様にして、わり算の性質を使って考えさせる。 【評】 分数÷分数の計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 帯分数の乗法のとおり同じように、帯分数を仮分数に直して計算すればよいことに気付かせる。 【評】 帯分数を仮分数に直して計算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 既習事項を振り返ることで、整数を分母が1の分数に直すことに気付かせる。 【評】 整数÷分数、分数÷整数の計算をする活動を通して、「知識・技能」を表現する。 ・ 答えについて考えさせ、小数を分数に直したり、わる数の逆数をかけたりできることに気付かせる。 ・ 整数や小数を分数に直し、かけ算だけの式にしてから計算すればよいことを知らせる。 ・ 計算の結果を発表させ、計算の仕方について

<p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>6 わる数と商の大きさの関係は、わる数が分数のときにも成り立つことを確かめる。[p. 64]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★わる数が分数のときの、わる数と商の大きさの関係を調べよう。</p> <p>○いろいろな分数でわる式を見て、60より大きくなる場合や小さくなる場合について考える。</p> <p>○わる数と商の大きさの関係をまとめる。</p> <p>○わり算の式を、商の大きい順に並べる問題に取り組む。</p> <p>7 練習問題に取り組む。[p. 65]</p> <p>○「練習」に取り組む。</p> <p>8 分数の除法を使った問題を解く。[p. 66]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★分数のわり算を使って考えよう。</p> <p>○「みんなで考える問題①」に取り組む。</p> <p>○数量の関係を図に表し、立式する。</p> <p>○「みんなで考える問題②」に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>9 割合を表す分数を理解し、分数倍を使った問題を解く。[p. 67]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★割合を求めよう。</p> <p>○赤のリボンと青のリボンの長さは、白のリボンの何倍になるかについての問題に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>10 分数の除法を使った割合の問題を解く。[p. 68・p. 69]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★割合を使って、全体の量を求めよう。</p> <p>○「みんなで考える問題」に取り組む。</p> <p>○数量の関係を図に表し、立式する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>11 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 70・p. 71]</p> <p>○「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>話し合ってもよい。</p> <p>【評】わる数の逆数をかけて計算する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・計算をして確かめさせる。</p> <p>・乗法の場合の結果を想起させ、乗法の場合と比べ、大小が逆になっていることに気付かせる。</p> <p>・実際に計算させず、除数を見て判断させる。</p> <p>【評】除数と1との大小により、商とわられる数との大小を判断する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・文章題でつまずきのある児童に対して、個別指導にて線分図などをかかせながら理解を助ける。</p> <p>【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・数直線図や関係図にかき、考えた図を発表する活動を行ってもよい。</p> <p>【評】数直線図や関係図をかき、説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・数直線図から、$\square \times 4/5 = 20$であることを導かせる。</p> <p>【評】分数の除法を使って計算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・テープ図を見ながら赤と青のリボンの長さは白のリボンの長さの何倍かを考えさせる。(分数) \div (整数) の計算方法を必要に応じて復習させたり、個別指導したりする。</p> <p>【評】割合を表す分数について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・線分図や関係図にかき、考えた図を発表する活動を行ってもよい。</p> <p>【評】線分図や関係図をかき、説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・関係図から、$\square \times 2/3 = 600$であることを導かせる。</p> <p>【評】分数の除法を使って計算する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。</p> <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・分数\div分数について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。</p>
---	---

【 備 考 】

前単元「分数 \times 分数」と同じように整数でわる場面から類推して考えさせ、言葉の式に当てはめることで整数が分数になっても同じ除法で求められることを理解させ立式させる。そして、数直線図で1にあたる量を求めることになることを理解させる。立式をしたら、計算の仕方を面積図も用いて考えさせる。面積図をかくことまではいかなくとも、 $\div 1/3$ が $\times 3$ になる理由を説明できるような活動を取り入れる。

単元名 資料の調べ方

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 統計的な問題解決の方法を理解し、ドットプロット、度数分布表やヒストグラムを使って資料を整理したり、資料から代表値を求めたりすることができる。
- (2) 代表値や表・グラフを基に適切に判断したり、集めた資料を整理するのに適切な表現方法を選択したり、得られた結論について多面的に考えたりすることができる。
- (3) 代表値や表・グラフのよさや統計的な問題解決の方法を知り、身の回りの事柄などを調べるときにそれを生かそうとする。

標準的な展開例

06040108_001

【準備等】電卓

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習内容をつかみ、平均や一番速くまで投げた記録などを調べる。[p. 72～p. 74]</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を見て、調べたいことを話し合う。 単元の学習課題をつかむ。 ★資料の整理のしかたやくらべ方について考えていこう。 各学級のソフトボール投げの記録の平均を求め、分かったことを確認する。 平均値についてまとめる。 各学級のソフトボール投げの一番長い記録と一番短い記録を求め、分かったことを確認する。 最大値、最小値、範囲についてまとめる。 調べたことを振り返り、気付いたことを話し合う。 <p>2 資料の散らばりの様子をドットプロットに表す。[p. 75]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ ★ちらばりのようすをドットプロットに表そう。 数直線に表された1組の記録から、ドットプロットについてまとめる。 2組と3組の記録の散らばりの特徴を考える。 <p>3 ドットプロットを見て、資料の散らばりの様子を調べる [p. 76・p. 77]</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時にまとめたドットプロットについて、各学級の平均値を求め、左右の散らばりについて話し合う。 本時の学習課題をつかむ ★記録の特徴を表す値について調べよう。 中央値についてまとめる。 中央値の求め方を確認する。 最頻値についてまとめる。 最頻値の求め方を確認する。 代表値についてまとめる。 各学級のドットプロットや代表値を比べ、どの学級の記録がよいと言えるかを話し合う。 <p>4 資料を度数分布表に整理し、特徴の比較をする。[p. 78・p. 79]</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★ちらばりのようすを表に整理して調べよう。 距離を5mごとに区切り、度数分布表をつくる。 度数分布表、度数、階級についてまとめる。 2組、3組の記録を表に整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均を求めることにより、資料の特徴をつかんだり、複数のデータからの比較をしたりすることができることを確認する。電卓を使ってもよい。 一番長い記録と一番短い記録を求めることにより、資料の特徴をつかんだり、複数のデータからの比較をしたりすることができることを確認する。 資料の調べ方について分かったことや気付いたこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。 【評】資料について話し合ったり、調べたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 数直線については、第3学年で既習事項だが記入の方法を確認させるとよい。 1組の記録同様、数直線に表せばよいことを確認する。 【評】散らばりの様子をドットプロットに表す活動を通して、「知識・理解」を評価する。 各学級の平均値について、ドットプロットの数直線に印を付けることを確認する。 偶数と奇数の中央値の求め方が異なることを確認する。 ドットプロットの値が一番多いところの目盛を読めばよいことを確認する。 複数の調べ方を比較することで、より確かな結果に導くことができることに気付かせる。 【評】資料を比較しながら話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 度数分布表のかき方を理解させる。また、～以上、～以下、～未満、～よりの用語の意味と違いを確認する。 数が多くなる場合もあるので、「正」という字をかきながら数えさせる。数えた結果を確かめる意味でも、合計人数を記入させる。 【評】資料を度数分布表に整理する活動を通し

- 度数分布表から、各学級の記録の値を調べる。
- 5 資料をヒストグラムに表す。[p. 80・p. 81]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ ちらばりのようすを表すグラフをつくろう。
 - ヒストグラムの作成の仕方を知る。
- 2組、3組の散らばりの様子をヒストグラムに表す。
- 各学級のヒストグラムを比較し、特徴を話し合う。
- 6 工夫されたグラフから、人口の散らばりの様子を読みとる。[p. 82・p. 83]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ いろいろなグラフからわかることを考えよう。
 - 資料がどのようなことを表しているかを確認する。
 - 資料から分かることを話し合う。
 - A・B・Cの事柄について、資料をもとに考える。
- 「練習問題」に取り組む。
- 身のまわりから、ヒストグラムが使われているところを見付ける。
- 7・8 自分たちで調べたいことについて資料を集め、表やグラフに整理する。[p. 84・p. 85]
 - 本時の学習課題をつかむ。
 - ★ 調べたいことをきめて、調べ方や整理のしかたを考えよう。
 - 調べてみたい問題を決める。
 - 調べてみたい問題についての計画を立てる。
 - 資料を集め、整理する。
 - 調べたことから、気付いたことを話し合う。
 - 調べて分かったことをまとめる。
- 9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 86・p. 87]
 - 「たしかめよう」に取り組む。
- 学習の振り返りを書く。

て、「知識・技能」を評価する。

- ・ 棒グラフとの違いとして、ヒストグラムには幅が意味のあるものであることを確認する。
- ・ ヒストグラムのことを、柱状グラフということもあることを確認する。
- 【評】 資料をヒストグラムに整理する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 資料の平均と散らばりの違いについても考えさせる。
- 【評】 ヒストグラムをつくり、集団の特徴を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 前時までに学んだことを活用することにより資料の特徴をつかんだり、複数のデータから比較をしたりすることができることを確認する。
- 【評】 工夫されたグラフから、人口の特徴を読みとる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 身のまわりのことや、これまでに学習したことなど、事前に紹介しておくことよい。
- ・ どのような資料が必要か、どのような資料を集めるかなどを考えさせる。
- ・ これまでに学習した表やグラフなどから、適切なものを選んで整理させる。
- ・ 整理した資料から、どのようなことが分かるかを話し合わせる。
- 【評】 これまでに学習した表やグラフを使って調べ、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。
- ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。
- 【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 資料の調べ方について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

本単元は、資料の整理と工夫されたグラフで構成されている。資料の整理では、度数分布表を作成し、それを柱状グラフに表していく。ここでは、児童に身近である「ソフトボール投げ」を教材に用いている。工夫されたグラフでは、いろいろなことが比較しやすいグラフを紹介する。ここでは、社会的事象として「男女別、年齢別人口の割合」を教材に用いる。

単元名 **どんな計算になるのかな**

配当時間 **1 時間**

単元の目標 (1) 乗除計算の意味の理解を深め、場面に即して適切に乗除の演算決定をすることができる。
 (2) 乗除計算の意味を基に演算決定し、その根拠を言葉や図などを用いて考え、説明することができる。
 (3) 進んで問題に取り組み、題意に適する演算を判断しようとする。

標準的な展開例

06040109_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 文章問題の情報から適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。[p. 88・p. 89] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ どんな計算になるかを考えて、問題をとこう。 ○ 日本の国土の面積についての文章問題を読んで、どんな計算になるのか考え、その理由を説明する。 ○ 高知県の森林面積についての問題に取り組む。 ○ どのように考えて立式したのか、発表する。 ○ 「練習問題」に取り組む。	・ 分数の乗法や除法の演算決定を振り返り、言葉の式や図を利用して考えさせる。 【評】 場面に即して立式を行う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 割合に関する問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

どんな計算になるのかを十分に考えさせるために、演算を決定した理由が言えるようにする。そうすることで、分数の乗法と除法の学習のねらいをより確実に達成できる。また、理由を考えて説明させることは、表現する能力を育てる上でも有効である。どんな計算になるのかについて理由を述べさせる際には、式から図、図から言葉というような説明する流れを意識させてから取り組む。

単元名 算数の自由研究

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 算数の自由研究の仕方を理解し、自分で考えながら算数の自由研究をすることができる。
 (2) いろいろな模様の研究の動機や工夫して考えたことに着目することができる。
 (3) いろいろな模様に関心を持ち、自分でも算数の自由研究をしようとする。

標準的な展開例

06040110_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 自分で考えながら算数の自由研究をする。[p.90・p.91] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ テーマをみつけて、算数の自由研究をしてみよう。 ○ テーマを見つける。 ○ 研究の計画を立てる。 ○ 研究をする。 ○ 研究したことをまとめる。 ○ 発表する。	【評】敷き詰め模様をきっかけに、算数の自由研究に取り組もうとする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・調べたことや発見したことなどをノートにかかせる。 【評】算数の自由研究をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・図や絵を使うと分かりやすくなることを伝える。 ・質問や感想を言わせるとよい。

【 備 考 】

夏休みの家庭学習の一環として算数の主体的な学びを進めるきっかけ作りのために「算数の自由研究」を設定する。おもしろく、時間を気にしないで取り組むことのできる題材を取り上げ、算数の自由研究の動機付けを図る。発達段階に応じて、算数・数学的なおもしろさが広がっていくような数量や図形の自由研究の題材を提供することが望ましい。

単元名 復習(p.92・p.93)
単元の目標

配当時間 1時間

標準的な展開例

06040111_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 92 ・ p. 93]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 円の面積

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 円の面積の求め方とその公式を理解し、公式を使って円の面積を求めたり、円弧を含む複合図形の面積を求めたりすることができる。
- (2) 円の面積の求め方やその公式、また、円弧を含む複合図形の面積の求め方を考えることができる。
- (3) 見積もりや様々な操作活動を通して、円の面積を既習の図形の面積と関連付けて考えようとする。

標準的な展開例

06040201_001

【準備等】方眼紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、既習の図形との対比により、円の面積を見当付けさせる。[p. 94・p. 95]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★円の面積の求め方について調べていこう。 ○既習の図形の中から面積が求められるものを見付ける。 ○円の内外に正方形をかくて、円の面積の見当を付ける。 <p>2 方眼を使った円の面積の概測を行う。[p. 96・p. 97]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★円のおよその面積を求めよう。 ○だいちさん、さくらさん、かいとさんの求め方について考える。 ○だいちさん、さくらさん、かいとさんの求め方を理解しペアやグループで説明し合う。 ○半径10cmの円の1/4のおよその面積を求め、半径10cmの円のおよその面積を求める。 <p>3 円の面積の求め方と公式を知る。[p. 98・p. 99]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★円の面積を求める公式をつくろう。 ○扇形の等分数を増やしていくと、長方形になることから円の面積を求める。 ○円の面積の公式をまとめる。 ○半径4cm、直径10cm、半径6cmの円の面積を求める。 <p>4 公式を使って、複雑な形の面積を求める。[p. 100・p. 101]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★くふうして面積を求めよう。 ○ひなたさん、だいちさん、さくらさん、かいとさんの求め方について考える。 ○ひなたさん、だいちさん、さくらさん、かいとさんの求め方を理解し、ペアやグループで説明し合う。 ○色が塗られた部分の面積を、ひなたさん、だいちさん、さくらさん、かいとさんの求め方を基に求める。 ○「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円の面積は、半径を一辺とする正方形の面積の2倍より大きく、4倍より小さいことに気付かせる。 【評】円の面積の見積もりをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・3人の求め方を理解することが難しい児童には、1?の単位正方形がいくつあるのかを測りとることを伝える。 ・ペアやグループで、図を活用しながら説明させる。また、相手の説明を復唱させることで伝え合う活動を充実させる。 ・半径10cmの円の面積は、半径を一辺とする正方形の約3.1倍になっていることを確認させる。 【評】円の面積について調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・三角形は長方形に、平行四辺形は三角形や長方形に帰着させて面積の公式を導き出した。円の場合も既知の図形に変形して面積を求めるという考え方に着目させる。 ・児童にとって、円の求積公式を導き出すことは容易ではないので、半径10cmの具体的な円を用いて、公式を丁寧に導いていくようにする。 ・直径10cmの問題で誤答をしていたり、つまづいていたりする児童には、半径に直して計算するよう個別指導をする。 【評】円の面積の公式を使って面積を求める問題を通して、「知識・技能」を評価する。 ・4人の求め方を理解することが難しい児童には、「い」の面が円の4分の1になっていることを、個別指導にて助言することで、考えを深めさせる。 ・ペアやグループで、図を活用しながら説明させる。また、相手の説明を復唱させることで伝え合う活動を充実させる。 【評】相手の考えを分かりやすく相手に伝えたり、復唱したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・求め方に悩んでいる児童に対しては、画用紙を用意して切り取ったり、組み合わせたりすることで、考えられるようにする。

- 5 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 102・p. 103]
○「たしかめよう」に取り組む。

○学習の振り返りを書く。

【評】様々な形の面積を，分割したり組み合わせたりしながら工夫して求める活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。
- ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・円の面積について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

円の面積を求める場合，既習の図形と関連付けて考えることが大切である。児童はこれまでの学習で，三角形は長方形，平行四辺形は三角形や長方形を基にするなど，それまでに学習した図形の面積に帰着させることで公式を構成してきている。これを想起し，ここでも曲線図形である円を，既習の直線図形に帰着しようと考え，ことに気付かせることが指導のポイントである。

また，本単元については，プログラミング的思考を扱うこともできる。

単元名 立体の体積

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 柱体の体積の求め方とその公式を理解し、公式を使って柱体の体積を求めたり、複合図形の体積を求めたりすることができる。
- (2) 直方体の体積の求め方を基に、角柱や円柱の体積の求め方やその公式、また、複合図形の体積の求め方を考えることができる。
- (3) 直方体の体積の学習を生かし、柱体の体積の学習に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

06040202_001

【準備等】立体模型

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、直方体や三角柱の体積の求め方を考える。[p. 104～p. 106]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな立体を比べ、これまで学習したことを使って体積が求められるものとそうでないものとに分ける。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★角柱や円柱の体積の求め方を調べていこう。 ○底面積の意味を知り、それを使った四角柱の体積の求め方を考える。 ○三角柱の体積の求め方を考える。 ○体積の求め方をまとめる。 <p>2 角柱の体積の求め方を考え、公式にまとめる。[p. 107]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★いろいろな角柱の体積の求め方を考えよう。 ○直方体の体積の求め方を基に、角柱の体積について考える。 ○角柱の体積の公式を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 円柱の体積の求め方を考え、公式にまとめる。[p. 108]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★円柱の体積を求める公式を考えよう。 ○角柱の体積の求め方を基に、円柱の体積について考える。 ○円柱の体積の公式を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 複雑な立体について、工夫して体積を求める。[p. 109]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★体積が底面積×高さで求められるかを調べよう。 ○角柱や円柱の体積の求め方を基にL型の体積について考える。 ○角柱や円柱の体積の求め方を基にドーナツ型の体積について考える。 ○複雑な立体の体積の求め方をまとめる。 <p>5 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 110・p. 111]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・底面積を使って、体積を求める方法を考えさせる。高さ1の角柱の体積の値が、その底面積の値に等しくなることから公式につなげる ・直方体と同様に底面積×高さになることを確認する。 【評】直方体や三角柱の体積の求め方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・どんな角柱も三角柱に分けて考えられることを確認する。 ・横たわっている柱体においては、底面の位置を把握させてから求めさせる。 【評】角柱の体積を底面積×高さと考えて求める活動を通して、「知識・技能」を評価する ・角柱の底面の辺の数を増やしていくと、円柱に近づくことを確認する。 ・円柱も角柱と同じ公式が使えることを確認する。 【評】円柱の体積を底面積×高さで求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・立方体と直方体に分けたり、体積の公式を活用したりして考えられることを確認する。 ・複雑な底面の形をした柱体の体積を求める方法を説明する機会を設け、説明させる。相手に自分の解き方を分かりやすく説明できるようにするために、色分け等の工夫をさせるとよい。 【評】複雑な立体の体積を考えて求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・角柱や円柱と同様に底面積×高さになることを確認する。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・立体の体積について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみようかなどを書かせる。

【 備 考 】

第5学年で、直方体や立方体の体積の学習をした。そこでは、直方体は「縦×横×高さ」、立方体は「一辺×一辺×一辺」という公式を導いたが、それは底面が長方形や正方形に限った場合のことである。第6学年では、他の角柱や円柱などの体積も扱うことから、柱体の体積の公式を一般化し、底面積×高さとして指導をする。一般的な角柱については、対角線を引いていくつかの三角形に分割をすることで底面積を導き、体積を求めることができることを理解させたい。

単元名 比とその利用

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 比の意味と表し方を理解し、比を用いて表したり、等しい比を見付けて比を簡単にしたりすることができる。
 (2) 比を用いて考え、問題を解決することができる。
 (3) 比のよさが分かり、進んで利用しようとする。

標準的な展開例

06040203_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかみ、比について知る。[p. 112・p. 113]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マヨネーズとトマトケチャップの量を見て、2つの量の大きさの割合を表すことに興味をもつ。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★2つの量の大きさの割合を、2つの数を使って表すしかたについて調べていこう。 ○マヨネーズ30mLとトマトケチャップ25mLを混ぜる場面から、比の意味と表し方を知る。 ○赤と青のテープの長さを、比で表す。 ○身の回りから、比が使われているところを探す問題に取り組む。 <p>2 比が等しいことの意味と比の性質について知る。[p. 114・p. 115]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★比が等しいかどうかを調べよう。 ○40:50, 120:150の比の値を比べる。 ○等しい比の表し方を知る。 ○「比の値」という言葉を知る。 ○$a:b$の比の値は、$a \div b$として求められることをまとめる。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>3 比を簡単にする。[p. 116・p. 117]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★等しい2つの比の関係について調べよう。 ○40:50と120:150との関係を調べ、等しい比の関係を調べる。 ○等しい2つの比の関係についてまとめる。 ○40:50を、それと等しい比でできるだけ小さな整数の比に直す。 ○できるだけ小さな整数の比に直すことを、比を簡単にするという事を知る。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>4 小数や分数を使った比について考える。[p. 118]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★小数や分数の比について調べよう。 ○小数や分数を使った比の表し方を知る。 ○小数や分数の比を整数の比に直したり、通分や比の値を利用したりするなど、最も簡単な比に直す方法を考える。 ○「練習問題」に取り組む。 <p>5 練習問題に取り組む。[p. 119]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「練習」に取り組む。 <p>6 比の一方の値を求める。[p. 120]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・比を「25:30」と反対に書かないように注意させる。 ・青と赤のテープの長さの比も考えさせる。 【評】身の回りから、比が使われているところを探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・それぞれの比の値を求めさせ、比の値が等しくなっていることに気付かせる。 ・2つの比が等しいとき、等号を使って$40:50=120:150$のように表すことを知らせる。 ・$40 \div 50 = 4/5$, $120 \div 150 = 4/5$として求めた値(割合)が「比の値」であることを知らせる。 ・$a:b = a/b$と等号で結んではいけないことを知らせる。また、a, bを用いて、文字の使用に慣れさせる。 【評】比の値を知り、比の値を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・4:5の比を効率的に求めるには、両方の数の最大公約数である10でわればよいことに気付かせる。 ・比を簡単にすると、大きさの割合が分かりやすくなることに気付かせ、比を簡単にすることのよさを確認させる。 【評】比を簡単にする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・既習事項から、1.5や1.2は10倍をすると整数になること等を想起させることで、整数比に直す方法を考えさせる。また、分数では、$3/4$と$5/8$を通分して$6/8$と$5/8$とし、両方を8倍することで、整数比になることをつかませる。 【評】整数比に直し、最も簡単にする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・最も簡単な整数比になっているかどうかを注意するよう助言する。 【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

<p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 比をもとにして，一方の量からもう一方の量を求めよう</p> <p>○ 「みんなで考える問題」に取り組む。</p> <p>○ さくらさん，だいちさん，かいとさんがそれぞれどのように考えたのかを説明する。</p> <p>○ 砂糖を100 gにしたときの小麦粉の量を求める。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 全体を決まった比に分ける。[p. 121]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 全体をきまった比に分けるしかたを考えよう。</p> <p>○ 長さの比が3 : 2であることから，それぞれ何mになるのかを求める。</p> <p>○ 720円を4 : 5に分けると，それぞれいくらずつになるのかを求める。</p> <p>8 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 122・p. 123]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p>	<p>・ 分かっていることと求めるものを明確にさせる。砂糖と小麦粉の重さの比2 : 5と，小麦粉の重さ150 gが分かっている，求めるものは砂糖の重さであることを読み取らせる。</p> <p>・ 線分図を使って，比の1つ分を求めた方法と等しい比を使って求める方法，比の値を使って求める方法の3通りの考えがあることを気付かせる。</p> <p>・ さくらさん，だいちさん，かいとさんの考え方を参考にして求める。自分の考えを相手に説明させるとよい。</p> <p>【評】 比を用いて問題を解決する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 線分図や関係図などのかかせることで，視覚的に捉えさせる。</p> <p>【評】 比を使って，全体を決まった比に分ける活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。</p> <p>・ 自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。</p> <p>【評】 問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 比とその利用について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。</p>
--	---

【 備 考 】

本単元では，簡単な場合について，比の意味や表し方について学習する。さらに等しい比や比を使った問題の解決についても学習する。本単元の学習は，第5学年の「割合」や本学年の「分数の乗除」の学習が深く関連している。児童の学習状況を的確につかみ，適切に対応できるよう，単元構成や授業展開を工夫する必要がある。展開例では，酢とサラダ油を混ぜ合わせる量によって比の意味や表し方を学習させ，マヨネーズとトマトケチャップの比を10mLのスプーン何杯分で表すことによって等しい比の意味を理解させている。

単元名 表を使って考えよう(1)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 表を使ってすべての場合を順序よく整理し、調べることができる。
 (2) 表を基にして、条件に合う場合を見付けたり、条件に合う場合のきまりを考えたりすることができる。
 (3) 表を使うことのよさに気づき、進んですべての場合を順序よく表に整理しようとする。

標準的な展開例

06040204_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 順序よく場合を調べ、条件に合った答えを求める。[p. 124]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の課題をつかむ。 ★ 表にかいて、問題を整理して考えよう。 ○ 「みんなで考える問題」を読み、ために何個か買ったことにして、大福の合計を出す。 ○ 表にかいて調べる。 ○ 題意に合う場合の数を表から読み取り、答えを出す。 ○ 70cmのひごを6cmと8cmに切る問題に取り組む。 <p>2 ある条件のもとで、すべての場合を順序よく調べ、問題を解決する。[p. 125]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表にかいて順序よく調べて、ちょうどよい場合をみつけよう。 ○ 「みんなで考える問題」を読み、題意をつかむ。 ○ 縦を仮に10枚並べたとき、面積はいくつになるかを考える。 ○ 縦の枚数を順に増やした場合の面積の変化の様子を、表にかいて調べる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 ○ 題意に適合する場合を表から求め、分かったことを話し合う。 ○ 縦を仮に1枚並べたとき、面積はいくつになるかを考える。 ○ 縦の枚数を順に増やした場合の面積の変化の様子を、表に書いて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一方の箱の数を決めると、残り的大福の数が決まることから、3個入りの箱を順々に増やして考えていけばよいことに気付かせる。 ・ 順序よく表に書いて調べれば、ちょうどよい場合を手際よく見付けられることに気付かせる。 <p>【評】数量を表に表して順序よく調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長方形の周りの長さの半分が11mであることを確かめさせる。 ・ 一人一人、図などをかいて確かめながら表を完成させる。 ・ Uの形の場合、縦の長さが2本作れることを確かめさせる。 ・ これまでの例にならい、表をつくることで、面積ができるだけ大きくなる場合を見付けさせる。 <p>【評】順序よく表に書いて調べ、適合する場合を見付けて問題解決する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

数量関係を整理し、条件に合う場合を調べて問題を解く思考法「順序よく調べ、ちょうどよい場合を見付ける」の学習を行う。ここでは、複数の場合があり、問題を順序よく落ちなく考えていき、条件に適する答えを選び出す。これまで学習してきた変化する数量の様子を表に書いてきまりを見い出す学習とは異なり、すべての場合を表に書いて、条件に合う解答を見付けていく。

標準的な展開例

06040205_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 126 ・ p. 127]	・ 個別指導を通して，既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 図形の拡大と縮小

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 図形の拡大や縮小の意味を理解し、頂点、辺、角の対応を見付けて拡大図や縮図を作図することができる。
- (2) 拡大や縮小の観点から既習の基本図形の性質を考えたり、拡大図や縮図の作図を通して、形や大きさの決まり方を考えたりすることができる。
- (3) 身の回りや既習の図形の見方に関心を持ち、進んで拡大図や縮図の性質調べや作図などに取り組もうとする。

標準的な展開例

06040206_001

【準備等】 定規、コンパス、分度器、方眼紙、薄い紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 図形間の関係について調べ、単元の学習課題をつかむ。[p. 128・p. 129]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ [あ]の形と[い]、[う]、[え]の形を見比べ、気付いたことを話し合う。 ○ 薄い紙を使って、[あ]～[え]の形をかく。 ○ [あ]の形をどのように変えれば、[い]の形になるか考える。 ○ [う]と[え]は、[あ]をどのように変えたかを考える。 ○ [あ]と[え]は、大きさは違うが、形が同じであることを知る。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ 拡大した図形や縮小した図形について、その性質やかき方を調べていこう。 <p>2 拡大図、縮図の意味とその性質を知る。[p. 130・p. 131]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 形が同じ図形の、対応する直線の長さや角の大きさについて調べよう。 ○ 対応する直線や角を調べる。 ○ 対応する直線の長さと角の大きさの関係を調べる。 ○ 形が同じ図形の性質をまとめる。 ○ 2つの三角形ABCとDEFの形が同じかどうかを調べる。 ○ 拡大図、縮図の意味を知る。 ○ 2つの四角形ABCDとEFGHの形が同じかどうかを調べる。 <p>3 方眼紙を使った拡大図・縮図のかき方を知る。[p. 132・p. 133]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 方眼紙を使って、図形の拡大図や縮図をかこう。 ○ 方眼にかかれた三角形の2倍の拡大図のかき方を自由に考える。 ○ 縦横2倍の方眼紙を作れば、2倍の拡大図がかけられることを知る。 ○ 同じ目の方眼紙に、2倍の拡大図にかく方法を考える。 ○ 縦も横も2分の1の方眼紙と同じ方眼紙を使って、2分の1の縮図のかき方を考える。 ○ 同じ目の方眼紙に、2分の1の縮図にかく方法を考える。 ○ 台形について、2倍の拡大図、2分の1の縮図をかく。 <p>4 方眼紙を使わない拡大図・縮図のかき方を考える。[p. 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ [あ]～[え]の4つの方眼上にかかれた建物の図を見比べて、それぞれの違いや同じところなどを話し合わせる。[あ]と[え]が同じ形になっていることに気付かせ、拡大することや縮小することや、拡大図、縮図の学習の動機付けとする。 ・ 紙に写し取った[あ]を[い]に重ねて比べさせる。建物の重なる1点を固定させて行くと、比べやすいことをあらかじめ伝えておく。 ・ 「拡大する」「縮小する」の用語を知らせる <p>【評】 建物の図を比較する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直線の長さについては、比で表すとどうなるかを考えさせる。 ・ 相似な図形の性質であるが、「相似」という用語にはここでは触れない。 ・ 何をどのように調べればよいかを考えさせる ・ ずらしたり、回したり、裏返したりする操作によって位置が異なっても、相似な図形の性質に当てはまっていれば、拡大図、縮図に含まれることを確認する。 ・ 三角形の場合と同様に調べればよいことを伝える。 <p>【評】 2つの四角形の形が同じかどうかを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 角度を測る、辺の長さを測るなどの考え方が出た場合は、次時で取り上げることになるので、教師が児童の考えを記録しておくとい ・ 方眼の目の数が同じであることを利用してかかせる。また、目の数を正確に数えさせ、かかせる。 ・ 目の幅が2分の1の方眼紙では、目の数が同じになり、目の幅が同じ方眼紙では、目の数が2分の1になることを確認する。 <p>【評】 拡大・縮小の性質を使って、方眼紙に拡大図や縮図をかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 方眼のマス目や大きさに着目してかくように助言する。 ・ 合同な三角形のかき方について想起させ、そ

34]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 合同な三角形のかき方をもとに、拡大図のかき方を考えよう。
- 辺の長さや角の大きさをどう決めたらよいかを考える。
- 3 倍の拡大図のかき方をまとめる。

- 三角形について、3 分の 1 の縮図をかく。

5 四角形の拡大図・縮図のかき方を考える。[p. 135]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 合同な四角形のかき方をもとに、拡大図のかき方を考えよう。
- 四角形の 2 倍の拡大図のかき方を考え、話し合う。

- 四角形の拡大図や縮図のかき方をまとめる。

- 四角形について、2 分の 1 の縮図をかく。

6 1 つの点を中心にして図形の拡大図・縮図をかく方法を考える。[p. 136・p. 137]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 1 つの頂点を同じにしたときの拡大図や縮図のかき方を考えよう。
- もとの三角形と 2 倍に拡大した三角形を見て、どのようにかいたのかを考え、説明する。

- 2 分の 1 の縮図のかき方を説明する問題に取り組む。

- 四角形 ABCD を、点 B を中心に 2 倍、1.5 倍する拡大図をかく。

- 「練習問題」に取り組む。

7 身近に使われている拡大や縮小を見付ける。[p. 138]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 拡大図と縮図の関係になっている図形をみつけよう。
- いろいろな図形から、拡大図と縮小の関係になっている図形について考え、話し合う。
- 身の回りから、拡大図と縮図を見付け、紹介し合う。

8 練習問題に取り組む。[p. 139]

- 「練習」に取り組む。

9 縮図を利用して 2 点間の距離を求める方法を考える。[p. 140・p. 141]

- 本時の学習課題をつかむ。
- ★ 縮図を利用して、実際の直線きよりを求めよう。
- 教科書の 1/10000 の縮尺された地図の上で距離を測り、実際の距離を求める。

- 距離を求める問題に取り組む。

10 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 142・p. 143]

- 「たしかめよう」に取り組む。

れを基にして、拡大図と縮図のかき方を考えさせる。

- ・ 対応する辺の長さは、元の図形の 3 倍になるが、対応する角の大きさは同じであることを確認する。
- ・ マス目がないので、角度や長さを測ってから取り組むことを確認させる。

【評】方眼紙を使わない拡大図や縮図のかき方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 定規、コンパス、分度器などを使って多様な方法で考えさせ、話し合いの中で、よりよい方法を見付けさせる。
- ・ 四角形をすぐに 2 倍してかくことは難しいので、三角形に分割すれば簡単になることを理解させる。

【評】四角形の縮図をかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 1 つの点を中心にして、辺の長さをコンパスで測り取って条件に合うような拡大図・縮図をかけばよいことを確認する。
- ・ 1 つの点を中心にして、1/2 に縮図する仕方をまとめる。
- ・ 2 倍の拡大図は、コンパスを活用すると便利であるが、1.5 倍の拡大図はものさしで長さを測って対応する点を決めるとよいことを知らせる。
- ・ 3 つの拡大図が同じ形になることを最後に全体で確認させる。

【評】1 点を中心とした拡大図や縮図のかき方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 定規、コンパス、分度器などを使って多様な方法で考えさせ、話し合いの中で、よりよい方法を見付けさせる。
- ・ 身の回りの拡大図と縮図を、グループや全体に紹介する。

【評】拡大図・縮図について調べて紹介し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 個別指導を中心にする。正三角形の拡大図に関する説明問題でつまづいている児童には、作図をして図を見ながら説明するよう助言する。

【評】「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 縮図を利用して、直接測定できない 2 点間の距離を求めさせる。
- ・ 縮図の上の長さを実際の長さとの関係に着目させる。
- ・ 2 点間の距離の意味を確認させる。

【評】縮図を見て実際の距離を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を

○学習の振り返りを書く。

図る。

- ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・図形の拡大と縮小について分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

児童は、これまでに合同について学習し、その観点から図形を考察してきている。本単元では、拡大図や縮図の指導を通して、相似の理解の基礎となる経験を豊かにし、それらを目的に応じて適切にかくことができるようにすることをねらいとしている。縮図の利用では、具体的な問題の解決を通して、縮図の利用ができるようにするとともに、その利用も分かるようにしたい。なお、ここでは拡大図の利用の仕方については特に取り上げられていないが、拡大図がどんなところで利用されているか、あるいは利用してきたかなどについて話題にし、拡大図の利用にも気付かせたい。

単元名 およその形と大きさ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 身の回りの物の概形を捉えて、そのおよその面積や体積を手際よく求める方法を理解し、概測することができる。
- (2) 身の回りの物の概形を考えたり、そのおよその面積や体積の求め方を考えたりすることができる。
- (3) 目的に合わせて身の回りの物の概形を捉えようとしたり、概測のよさを知って活用しようとしたりする。

標準的な展開例

06040207_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 概形を捉え、およその面積を求める。[p. 144・p. 145]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 身のまわりのもののおよその面積や体積の求め方を考えよう。 ○ 大山古墳のおよその面積を求める。 ○ 身の回りの物について、およその形を考えて、その面積を求める。 <p>2 概形を捉え、およその体積を求める。[p. 146・p. 147]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ およその形を考えて、体積を求めよう。 ○ プールを見て、およその形を捉え、体積を求める。 ○ 浴槽のおよその容積を求める。 ○ コップのおよその容積を求める。 ○ 身の回りにおけるいろいろな入れ物のおよその体積を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ およそ長方形になっていることに気付かせる ・ 手のひらや東京ドームなどについて、実測したり、方眼紙に写しとったりして、およその面積を求めさせる。 <p>【評】身の回りの物のおよその面積を求める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直方体とみて、そのおよその縦、横、高さを決めて、体積を求めさせる。 ・ 直方体とみて、縦を約2m、横を約1.5mと捉えさせ、手際よく計算する。また、なぜ、縦2m、横1.5mとしたかを、図に記された情報を基にして説明させる。 <p>【評】およその体積を求める活動を通して、「知識・理解」及び「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 円柱とみて、体積を求めさせる。 <p>【評】身の回りの入れ物のおよその体積を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元では、身近にある図形について、その概形を捉え、およその面積や体積を求めることを学習する。面積を求める場合には、三角形や四角形などの測定しやすい形と見たり、体積を求める場合には、立方体や直方体と見たりするなど、形を概形として捉えることが重要となる。また、できるだけ面積や体積の公式がそのまま適用できるようなシンプルな形にすることが必要である。ここでは、具体的な身の回りの物のおよその面積や体積を測定することによって、これまでの面積や体積の学習を生活に生かそうとする態度を育てることが大切である。

単元名 比例と反比例

配当時間 17 時間

- 単元の目標 (1) 比例や反比例の意味や性質を理解し、比例や反比例の関係を、式や表、グラフに表すことができる。
- (2) 数量の変わり方や関係に着目して比例や反比例する事象について考えたり、比例関係を利用して問題を解決したりすることができる。
- (3) 身の回りの伴って変わる2つの数量が比例や反比例の関係にあるかを進んで調べようとしたり比例の関係を利用して身の回りの問題を解決しようとしたりする。

標準的な展開例

06040208_001

【準備等】 定規、方眼紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 伴って変わる2つの量について調べ、単元の学習課題をつかむ。[p. 148・p. 149]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ [あ]～[え]の絵を見て、伴って変わる2つの量を見付ける。 ○ 表を見て、気が付いたことについて話し合う。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ ともなって変わる2つの数量の関係についてくわしく調べていこう。 <p>2 比例の意味とその性質を知る。[p. 150・p. 151]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表を横に見て、2つの量が比例することを確かめよう。 ○ 時間と水の深さの表を、横に見る方法で比例の特徴を考える。 ○ 比例の定義をまとめる。 ○ 時間と水の深さの表を、縦に見る方法で比例の特徴を考える。 ○ 比例する2つの量の対応する値の関係をまとめる。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>3 比例する事象を判断する。[p. 152]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表を横や縦に見て、比例するかどうかを調べよう。 ○ 針金の長さや重さの関係の表から、2つの量が比例しているかどうか判断する。 ○ 「みんなで考える問題」に取り組む。 ○ 身の回りから、比例する2つの量を見付ける。 <p>4 比例する事象を式に表して考察する。[p. 153]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 比例する2つの数量の関係を、xとyを使って式に表そう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の場合で、[あ]を例にして、2つの伴って変わる数量を、絵を基に見付けられるようにしてから、[い]～[え]を個人追究させるとよい。 ・ 考察させる中で、表を横に見る変化の見方と表を縦に見る対応の見方ができるように助言する。 ・ 気付いたことを、表を使って発表させる。その際に、表を指し示しながら述べられるとよい。 <p>【評】 伴って変わる2つの数量を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表の数値を横に見ると、どのように変わっていくかを発表させる。 ・ 児童の発表を踏まえて、比例する2つの量では、一方の値が2倍、3倍、…になると、他方の値も2倍、3倍、…になることをまとめさせる。 ・ 発言から、水の深さの値を時間でわると、常に2になっていることを確認させる。また、決まった数2は、時間の値が1のときの深さの値になっていることに気付かせる。 ・ 表の数値を横に見て、横の長さが2倍、3倍になる場合について調べ、調べたことから、xが2倍、3倍になると、yも2倍、3倍になることをまとめさせる。 <p>【評】 比例の特徴を表の値から見付けて説明をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時で学習した比例の性質を確認してから、課題に取り組ませるとよい。 ・ 表を縦に見る対応の見方と表を横に見る変化の見方の両方を調べて判断させる。 <p>【評】 表を縦や横から見て、2つの数量が比例しているかどうかを判断する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各々で見付けた身の回りの比例する2つの量を、ペアやグループ及び全体に紹介し合う場を設ける。 <p>【評】 身の回りから比例関係の事象を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すぐにグラフに取りかかれない児童には、表を書かせたり、方眼紙上にいくつかの点を取らせたりすることが必要であるが、最終的には原点とグラフ上のできるだけ遠い2点を結ぶことで比例のグラフがかけられることを理解させる。

<p>○ 比例の関係にある 2 つの数量を言葉の式で表す。</p> <p>○ 言葉の式を基に、文字 (x, y) を使った式で表す。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>5 比例する事象をグラフに表して、その特徴を見付ける。 [p. 154～p. 156]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 比例する 2 つの数量の関係を、グラフに表そう。</p> <p>○ $y = 2 \times x$ の表を完成させる。</p> <p>○ グラフのかき方を知り、時間 x (0 分, 1 分, 2 分, … 分) と水の深さ y の組みを表す点をグラフにかき込む。</p> <p>○ 時間 (0.5 分, 1.5 分, 2.5 分, … 分) の場合の y の値を求め、x が小数の値を含めた表を完成させる。</p> <p>○ 時間 (0.5 分, 1.5 分, 2.5 分, … 分) と水の深さを表す点をグラフにかき込み、特徴を考える。</p> <p>6 比例する事象を式に表し、その式からグラフを作る。[p. 157]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 比例の関係を表す式をもとに、グラフのかき方を考えよう。</p> <p>○ 鉄の棒の長さ と 重さの関係を、x, y を用いた式に表す</p> <p>○ $0.5 \times \text{長さ} = \text{重さ}$ を基に、長さ と 重さの関係を表すグラフをかく。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>7 比例のグラフの読み取り方を知る。[p. 158・p. 159]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ 比例のグラフからいろいろなことをよみとろう。</p> <p>○ 1 分間に走る道のりと、6 km の道のりを走るのにかかる時間を求める。</p> <p>○ 6 分間に走る道のりの求め方を考え、説明する。</p> <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>8 表、式、グラフを使って比例かどうかを判断する。[p. 160・p. 161]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★ ともなって変わる 2 つの量の関係を、表、式、グラフを使って調べよう。</p> <p>○ 「みんなで考える問題」に取り組む。</p> <p>○ 立体の高さと体積の関係を、表、式、グラフを作成して調べ、説明をする。</p> <p>○ $y = 2 \times x$ の式で、きまった数が 2 になる訳を、表やグラフを使って説明する問題に取り組む。</p> <p>9 練習問題を解く。[p. 162・p. 163]</p> <p>○ 「練習」に取り組む。</p> <p>10 比例の関係から厚さや重さを元にした枚数や本数の求め方を考える。[p. 164・p. 165]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ</p> <p>★ 比例関係を使って考えよう。</p> <p>○ 厚さを基にして枚数を求める問題に取り組む。</p>	<p>・ 表を縦や横に見た前時の内容を振り返って、立式させる。</p> <p>・ 表にまとめることが難しい児童に対しては、高さが 1, 2, 3 の場合の図をかき、面積を求めさせる。</p> <p>【評】 2 つの数量の関係を式に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ $x = 0$ の場合の値も記入させ、$x = 0$ のときに $y = 0$ になることを確認させる。</p> <p>・ $x = 0$ のときに $y = 0$ になることから、比例のグラフは必ず原点を通ることを確認させる点と点を結んで直線にするのではなく、点が集まって直線になっていることを補足するとよい。</p> <p>【評】 比例のグラフが原点を通る直線になることを見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 比例する関係を表すグラフは、原点を通る直線になることから、かき方を考えさせる。</p> <p>・ つまづきのある児童には、一辺が 1 cm, 2 cm, 3 cm の場合に周りの長さが何 cm になるかを考えさせる。</p> <p>【評】 グラフをかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ グラフが直線で縦軸と横軸の交わる点を通っているので、比例していることに気付かせる</p> <p>・ グラフからの読み取りが難しい場合は、速さの公式に当てはめて、数値が確かにそうになっていることを確認させる。</p> <p>・ 6 分の場合は、グラフ上に表されていないことから、どのようにして求めたかを説明し合う場を設定する。</p> <p>【評】 グラフを読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 立体の高さと体積が伴って変わること気付かせる。</p> <p>・ 立体の高さが、1 cm, 2 cm, 3 cm の場合の体積を求めてから、表・式・グラフにかかせる</p> <p>・ 作成した表・式・グラフを基にして、根拠を明らかにして 2 つの量の関係を判断し、説明させる。</p> <p>【評】 比例していることを説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 「練習」に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
---	---

<p>○全体の厚さ約60cmを1枚の厚さ4mmでわると、枚数が求められるわけを説明する。</p> <p>○重さが本数に比例することから、全部の本数の求め方を考える問題に取り組む。</p> <p>○全体の数の求め方に共通する考えを説明する問題に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>11 2本の比例のグラフから読み取る。[p. 166・p. 167]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★2本の直線のグラフから、いろいろなことをよみとろう</p> <p>○みらいさんと弟では、どちらが速いかを考え、説明する</p> <p>○6分後に2人が離れている距離と、みらいさんが通過してから何分後に弟が通過するかを求める。</p> <p>○みらいさんが弟より何分早くゴールするかを考え、説明する。</p> <p>12 反比例の意味を知り、その性質を見付ける。[p. 168～p. 170]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★表を横や縦に見て、変わり方のきまりをみつけよう。</p> <p>○縦の長さが2倍、3倍…になると、横の長さはどのように変わるかを調べる。</p> <p>○反比例の意味を知る。</p> <p>○縦と横の長さの対応する値の関係を調べる。</p> <p>○反比例する2つの量の対応する値の関係をまとめる。</p> <p>○「みんなで考える問題」に取り組む。</p> <p>13 反比例する事象を判断する。[p. 171]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★表を横や縦に見て、反比例するかどうかを調べよう。</p> <p>○表を使って、時速と時間が反比例しているかを調べる。</p> <p>○表を縦に見た場合で考える。</p> <p>○表を横に見た場合で考える。</p> <p>○「みんなで考える問題」に取り組む。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>14 反比例する事象を式に表して考察する。[p. 172]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★反比例する2つの数量の関係を、xとyを使って式に表そう。</p> <p>○面積12?の長方形で、反比例する縦と横の長さの関係を式に表す。</p> <p>○反比例の関係を表す式をまとめる。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>15 反比例する事象をグラフに表して、その特徴を見付ける [p. 173・p. 174]</p>	<p>・ベニヤ板の枚数と全体の厚さの関係を表に表させるなどして、ベニヤ板の枚数は何と比例しているのか考えさせる。</p> <p>・くぎは全て同じ種類なので、くぎの本数が2倍、3倍、…になると、その重さも2倍、3倍、…になることに着目させる。</p> <p>・重さや厚さは、枚数に比例していることに気付かせ、比例の考えを使ってまとめる。</p> <p>【評】比例の考えを使っておよその枚数を求める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・2本のグラフが直線で縦軸と横軸の交わる点を通っているので、比例していることに気付かせる。</p> <p>・グラフからの読み取りが難しい場合は、速さの公式に当てはめて、数値が確かにそうになっていることを確認させる。</p> <p>・11分後以降は、グラフ上に表されていないことから、どのようにして求めたかを説明し合う場を設定する。</p> <p>【評】2本のグラフを読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・反比例する事象を判断する場合、表を縦に見て判断する方が分かりやすい場合と、横に見て判断する方が分かりやすい場合がある。どちらかの方法で判断できるようにさせる。</p> <p>・2つの量の関係を横に見て、気付いたことを発表させる。</p> <p>・比例の定義との違いを確認させる。</p> <p>・縦と横の長さの値の積が、一定になっていることに気付かせる。</p> <p>・xの値$\times y$の値=決まった数になることに気付かせる。</p> <p>・xの値が2倍、3倍…になると、yの値は1/2倍、1/3倍、…になることを確認する。</p> <p>【評】反比例について知り、その性質を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・時速\times時間の値が一定になっていることに気付かせる。</p> <p>・時速が2倍、3倍、…になると、時間は1/2倍、1/3倍、…になっていることに気付かせる。</p> <p>【評】反比例するかどうかを判断し、説明する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・反比例の意味を「伴って変わる2つの量があり、一方が増えると他方が減る」と、表面的に捉える児童がいる。減り方にはきまりがあることを見付けさせる。</p> <p>・縦の長さをx cm、横の長さをy cmとして、xとyが反比例する関係を式に表させる。</p> <p>・決まった数が分かれば、関係を表す式が書けることを確認する。</p> <p>・速さに関わる言葉の式「時速\times時間=道のり」を想起させ、式で表させる。</p> <p>【評】xとyの関係を式に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 反比例する 2 つの数量の関係を，グラフに表そう。 ○ $y = 12 \div x$ について，表を完成させ，グラフをかく。 ○ 方眼紙に表した点は，どのように並んでいるかを考える ○ 点をさらに細かくとったグラフをかく。 <p>16 練習問題を解く。[p. 175]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「練習」に取り組む。 <p>17 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 176・p. 177]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめよう」に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ y の値は，1/10の位までの概数で求めさせる ・ 比例のグラフと比較を行い，直線にならないことを確認する。 ・ x と y の値については，特に取り上げる必要はないが，必要に応じて x 軸，y 軸に限りなく近づくことに触れてもよい。 <p>【評】反比例のグラフがなめらかな曲線になることを見付ける活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伴って変わる 2 つの量が反比例であるかどうかの判断に迷っている児童には，反比例のきまりを教科書で振り返らせる。 <p>【評】「練習」に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例と反比例について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみたいことなどを書かせる。
--	---

【 備 考 】

児童は，第 5 学年で，変わる様子を表や式に表して考察することを学習している。それを受けて，本単元では，比例や反比例の意味とグラフについて学習するが，これは学習してきた関数的見方をまとめることと，関数的見方と考え方を一層伸ばすことを意図している。また，本単元が中学校における関数学習の基礎となることも念頭に置いて，単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名 表を使って考えよう(2)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 表を使って変化する2つの数量の和や差を調べることができる。
 (2) 表を使って変化する2つの数量の和や差の規則性を考え、問題を解決することができる。
 (3) 表を使うことのよさに気づき、進んで表を使って変わり方を調べようとしたり、変わり方のきまりを見いだそうとしたりする。

標準的な展開例

06040209_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 2つの数量を順に変化させ、その和の変化に注目して問題を解決する。[p.178]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表にかいて、問題を整理して考えよう。 ○ 「みんなで考える問題」に取り組む。 ○ 120円のノートの冊数を0, 1, 2, …, 100円のノートの冊数は50, 49, 48, …と変化させ、そのときの売上金の変わり方に注目して問題を解決する。 <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 2つの量を適当な数値から順に変化させ、その差の変化に着目して問題を解決する。[p.179]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表にかいて、変わり方のきまりをみつけよう。 ○ 「みんなで考える問題」に取り組む。 ○ りんごとみかんを半分(20個)ずつ買ったとして、それから1個ずつ変えていった時の代金の差の変わり方に注目して問題を解決する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表だけでは理解できない児童には、変化の様子を絵や図に表させ、問題の関係や表の意味が理解できるように工夫する。 ・ きまりを見付けることにより、表を途中まで作るだけで、答えが求められるよさを感じさせる。 <p>【評】2つの量について、変化の様子を的確に捉え、きまりを見付ける活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結果の見通しをもつことによって、表を作る労力が省けることに気付かせ、どの数値から始めればよいかについて考えさせる。 <p>【評】2つの量について、変化の様子を的確に捉え、問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元では、ある条件を設定して条件との違いを調べる思考法や、見当を付けて確かめる思考法について学習する。ここで扱う問題は、いわゆる鶴亀算と呼ばれるものであるが、解き方のみを強調するのではなく、「表を使って考えよう(1)」と同じように、数量の変化を表に表すことによって、きまりを見付けて問題を解く思考力が養えるように、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

単元名 見積もりを使って

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 目的に応じた見積もりの使い方を理解し、目的に応じた見積もりをすることができる。
 (2) 目的に応じた見積もりの使い方の工夫をすることができる。
 (3) 見積もりのよさを生かして、問題を解決しようとする。

標準的な展開例

06040210_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 切り上げや切り捨てによる乗法や除法の見積もりをする [p. 180]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★切り上げや切り捨てを使って考えよう。 <p>○ 「みんなで考える問題①」の、だいちさんの考えを説明する。</p> <p>○ 「みんなで考える問題①」の、ひなたさんの考えを説明する。</p> <p>○ 「みんなで考える問題②」に取り組む。</p> <p>2 見積もりの工夫をする。 [p. 181]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★計算しやすい見積もり方のくふうについて考えよう ○ 「みんなで考える問題①」に取り組み、さくらさんとかいとうさんがどのように考えたのかを説明する。 <p>○ 「みんなで考える問題②」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて見積もることについて知り、実際の場面で適用できるようにさせる。多めに見積もるためには、乗法では、被乗数と乗数の両方を切り上げること、除法では、被除数を切り上げ、除数を切り捨てるが必要になる。 ・ 被除数（総面積から収穫できるお米）を切り捨て、除数（茶碗1杯分のお米）を切り上げているため、少なめに見積もって考えることを理解させる。 ・ 被除数（総面積から収穫できるお米）を切り上げ、除数（茶碗1杯分のお米）を切り捨てているため、多めに見積もって考えることを理解させる。 ・ 乗法においても、切り上げや切り捨てを活用させる。 <p>【評】目的に応じた見積もりの仕方を学ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乗法を行うごとに、上から1桁の概数にして計算して求めていることに気付かせる。 ・ 計算しやすい特別な数にして計算していることに気付かせ、ひなたさんの考えと異なる点を説明させる。 <p>【評】目的に応じて計算の工夫ができるように切り上げや切り捨てを使って見積もり判断する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

第4学年「概数とその計算」では、概数を求める場合、被乗数や乗数などを四捨五入して1桁の概数にし、計算することを学習している。しかし、目的によっては、四捨五入ではなく、切り上げや切り捨てを使って概数を求めることが効果的な場合がある。本単元では、そのような目的に応じた見積もりについて学習する。多めに見積もるためには、乗法では、被乗数と乗数の両方を切り上げること、除法では、被除数を切り上げ、除数を切り捨てるが必要となる。目的に応じて多めに見積もることについて知り、実際の場面で適用できるようにさせたい。

単元名 算数ラボ

配当時間 1 時間

- 単元の目標 (1) プログラムの作り方を理解し、数の表を活用したプログラムを作ることができる。
 (2) 命令の組み合わせ方に着目し、いろいろな条件に合う数の表を活用したプログラムを考えることができる。
 (3) 命令の組み合わせに興味をもち、プログラムの作り方の手順を考えようとする。

標準的な展開例

06040211_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 プログラムの仕組みについて知り、条件に合う整数を見付けるプログラムをつくる。[p. 182・p. 183]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プログラムの仕組みについて知り、本時の学習課題をつかむ。 ★条件にあう整数をみつけるプログラムをつくろう。 ○命令を組み合わせ、条件に合う整数を見付けるプログラムについて、命令の仕組みについて知る。 <p>○プログラムから、どのような整数が見付けられるかを考える。</p> <p>○数の表を1のところから順に、3の倍数を見付けるプログラムを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末にある数の表を活用し、[あ]～[え]の命令について、どのように実行されるのかを確認する。 【評】命令の仕組みを知り、条件に合う整数を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・複数の命令が組み合わせられたとき、どのように実行されるのかを確認する。 ・繰り返すときは、進めるところがなくなったら終わることを知らせる。 【評】3の倍数を見付けるプログラムを作る活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元については、プログラミング的思考を扱うこともできる。

単元名 復習(p.184・p.185)

配当時間 1時間

単元の目標

標準的な展開例

06040212_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 復習問題に取り組む。[p. 184・p. 185]	・個別指導を通して、既習事項の定着を図る。

【 備 考 】

単元名 場合を順序よく整理して

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 落ちや重なりのないように調べるためには、観点を決めたり、図や表を工夫したりして調べればよいことを理解し、組み合わせや並べ方を順序よく整理することができる。
- (2) 組み合わせや並べ方を順序よく整理し、落ちや重なりのないように調べる方法を考えるとともに、すべての場合のうち、条件に合うものを考え、判断することができる。
- (3) 落ちや重なりのないように調べることの重要性に気付き、観点を決めたり、図や表を工夫したりして順序よく整理しようとする。

標準的な展開例

06040301_001

【準備等】 レッド、ブルー、イエロー、グリーンのチームが書かれたカード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 いろいろな場合を順序よく整理する方法に興味をもち、単元の学習課題をつかむ。[p.186・p.187]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4チームの試合の組み合わせについて考える。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 <p>★試合の組み合わせなど、いろいろな場合を順序よく整理する方法について調べていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 順序よく整理する方法について、図や表にかいて調べる <p>○ 5種類から2種類を選ぶ組み合わせの問題に取り組む。</p> <p>2 1つを残して組をつくる組み合わせと、その場合の数について調べる。[p.188]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の課題をつかむ。 <p>★表にかいて、組み合わせを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4種類のアイスクリームの組み合わせについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 表にかいて考える。 ○ 調べた結果を発表し、どのアイスクリームを残すか考える。 <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 3つ、あるいは4つの並べ方が何通りあるかを、順序よく調べる。[p.189]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 <p>★順序よく整理して、並べ方を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3人のリレーの走る順番について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 3枚のカードを並べて3桁の整数が何通りできるかを求める。 ○ 4人の座り方について、何通りあるかを求める。 <p>4 4つのものから、2つあるいは3つを選んで並べた時の組み合わせについて、順序よく調べる。[p.190]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 <p>★いくつかの中から順に選んだときの並べ方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4種類のジュースから2本を取り出し、並べることにについて考える。 ○ 表し方をいろいろ考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのチームとも戦うことを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ レッド、ブルー、イエロー、グリーンの4枚のカードを提示し、どんな試合の組み合わせがあるか発表させるとよい。 ・ 組み合わせを図や表にかいて考えると落ちや重なりがないように調べられることに気付かせる。また、(イエロー、グリーン)と(グリーン、イエロー)は同じ組み合わせであることに注意させる。 ・ レッドを[レ]と表すなど頭文字をとって記号化すると効率的に調べられることを知らせる <p>【評】 全部の場合を図や表にかいて調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買わないものを整理していく方法があることにも気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ まず、バニラのアイスクリームを入れない場合、次にストロベリーアイスクリームを入れない場合、…と考えて全ての組み合わせを見付けさせる。 ・ 問題につまずいている児童には、5つから4つ選択することは、1つを残せばよいことまた、6つから4つ選択することは、2つ残せばよいことを伝える。 <p>【評】 入れない事象を考えて、組み合わせを数える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹形図にかいて調べると落ちや重なりがなく調べられることに気付かせる。このとき、「樹形図」という言葉についても、まとめておくことよい。 ・ 百の位の数から考えていけばよいことを確認し、樹形図を利用して順序よく数えさせる。 ・ 樹形図を利用して順序よく数えさせる。1回使ったものは除外をして残りで考えられているかを、机間指導の視点とするとよい。 <p>【評】 図や表を使って、選び方の数を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まなみさんと妹が1本ずつ選ぶことを確認する。

- 4 つから 2 つ、あるいは 3 つとる並べ方と、その場合の数を考える。

- 「練習問題」に取り組む。

5 練習問題に取り組む。[p. 191]

- 「練習」に取り組む。

6 すべてを調べて、いろいろな目的に当てはまる場合について考える。[p. 192・p. 193]

- 「みんなで考える問題」を読み、題意をつかむ。

- 本時の学習課題をつかむ。

- ★ 全部の行き方を調べて、いろいろな目的にあう場合をみつけよう。

- 全部の行き方を調べる。
- 一番短い時間で行く道順を考える。
- 費用が一番安く行く道順を考える。
- 時間と料金に制限がある場合について考える。

7 すべてを調べて、目的に当てはまる場合について考える [p. 194]

- 「みんなで考える問題」を読み、題意をつかむ。

- 本時の学習課題をつかむ。

- ★ 全部の行き方を調べて、目的にあう場合をみつけよう。

- 「みんなで考える問題」に取り組む。

- 「練習問題」に取り組む。

8 いろいろな場合について、仲間に分けて考える。[p. 195]

- 本時の学習課題をつかむ。

- ★ 3 つのなかまにそれぞれ何人の人がはいるかを考えよう

- みかん、バナナ、両方に手を挙げた人を図に表して考える。

- 「練習問題」に取り組む。

9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 196・p. 197]

- 「たしかめよう」に取り組む。

- 学習の振り返りを書く。

- ・ 樹形図を利用して順序よく数えさせる。1 回使ったものは除外をして考えられているかを机間指導の視点とするとよい。

- ・ まずは先頭の位を決め、次の位を順に決めればよいことに気付かせる。机間指導にて、0 は先頭の位にならないことを助言をする。

- 【評】 並べ方を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- 【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 船は必ず使わなければいけないことに気付かせる。

- ・ 絵や数値など様々な情報がかかれていて分かりにくいので、この中から必要な情報を取り出し、整理された図をかかせることよい。

- 【評】 場合を調べ、条件に当てはまる場合を見付け出す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 3 つの施設を回る道順が何通りあるのかを調べて、一番短い道のりの道順を調べればよいことに気付かせる。

- ・ 道順が何通りあるのかを調べて、一番短い道のりの道順を調べさせる。

- 【評】 場合を調べ、条件に当てはまる場合を見付け出す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ ベン図を利用し、みかんだけの人数、バナナだけの人数を求めさせる。

- ・ 図を簡易的に書いた「ベン図」について紹介する。

- 【評】 図に表して問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。

- ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。

- 【評】 問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 場合を順序よく整理してについて分かったことやできるようになったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【 備 考 】

児童は、これまでに身近な事柄について、落ちや重なりがないように表やグラフに整理して調べる方法について学習している。本単元では、身近な事柄について、起こりうる場合を想定させながら、落ちや重なりがないように調べさせる。その際に、表、樹形図、ベン図などを用いて考えさせることが大切である。

単元名 図を使って考えよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 線分図を使って、全体を1としたときの割合の意味を理解することができる。
 (2) 全体を1としたとき、線分図を使ってそれぞれの部分が割合でどのように表されているかを考えることができる。
 (3) 全体を1として考えるよさが分かり、それをうまいようにする。

標準的な展開例

06040302_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 全体を1として、部分の割合の和を考えて問題を解決する。[p. 198・p. 199]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 図にかいて、問題を整理して考えよう。 ○ 全体を1として、部分と部分の割合の和を考えて問題を解決する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 全体を1として、部分の割合を考えて問題を解決する。[p. 200・p. 201]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 全体を1として、割合を使って考えよう。 ○ 全体を1として、部分の割合を考えて問題を解決する。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 線分図などをかく活動を通して、割合の和を求めるとよいことに気付かせる。 ・ 必要に応じて、単位をそろえるように助言するとよい。 <p>【評】全体を1と考え、割合の和を考えて問題を解決する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 線分図などをかかせる活動により、視覚的に捉えさせる。 <p>【評】全体を1と考え、部分の割合を考えて問題を解決する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

児童は、第3学年と第4学年で整数を用いた割合、第5学年で小数を用いた割合を学習している。本学年で分数を用いた割合を学習する。本単元では、全体を1として部分の割合を考えたり、部分と部分の和や積を考えたりして問題を解決することを学習する。多くの児童にとって理解するのが難しい単元であるが、その困難さを和らげる単元構成や授業展開を工夫する必要がある。

問題は、できる限り全体の量を具体的に示さないようにしてある。これは、全体の量を示してしまうと、全体の量を1とする考えが児童からでにくかったり、児童が混乱したりする可能性が高いからである。線分図や関係図、面積図などを取り入れ、児童が常に全体を1と意識でき、考えやすいように工夫するとよい。

単元名 **すごろく**

配当時間 **1 時間**

単元の目標 (1) 情報を基に、条件に合った場合を順序よく整理することを理解し、落ちや重なりがないように調べることができる。
 (2) 情報を基に仮説を立て、それが正しいと言えるかを考えて、問題を解決することができる。
 (3) 情報を整理し、順序立てて考えていこうとする。

標準的な展開例

06040303_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 条件に当てはまる組み合わせについて考え、順序よく調べる。 [p. 202・p. 203]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題①」を読み、題意をつかむ。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★もし、こうだったらと考えて、条件にあてはまる場合を見つけよう。 ○考えられる4人の順位について、すべてかきだす。 ○「みんなで考える問題②」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ななみさんとはるきさんの予想から、3位があいこさんであることに気付かせる。 ・ななみさんとはるきさんの予想から、4位がどちらも合っていないことを確認する。 ・樹形図や表を活用してかかせるとよい。 ・たいきさん、ななみさん、はるきさんの3人の言葉から、3人のこまが、A、B、Cのどれになるかを調べればよいことに気付かせる <p>【評】 場合を調べ、条件にあてはまる場合を見付け出す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

児童は、これまでに場合を順序よく整理する方法として、表や樹形図、ベン図などを用いて調べる方法について学習している。本単元では、身近な事柄について、条件にあてはまる場合を想定させ、落ちや重なりがないように調べさせる。その際に、条件を確認し、表や樹形図、ベン図などを用いて考えさせることが大切である。

単元名 **みらいへのつばさ**

配当時間 **2時間**

- 単元の目標 (1) 日本が取り組んでいる国際協力の活動を理解し、表やグラフなどの資料を読み取ることができる。
 (2) 日本が取り組んでいる国際協力の活動から、自分たちでもできる活動について調べたり、話し合ったりしながら、計画を考えることができる。
 (3) 国際協力の活動について、自分たちにとって身近な関心事と捉え、課題に取り組もうとする。

標準的な展開例

06040304_001

【準備等】電卓

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ODA（政府開発援助）における国際協力の活動資料を基に、ODAの金額を読み取る。[p. 204・p. 205]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ つばささんのメモから、ODAの金額についてよみとろう ○ アメリカのODAの金額は、日本のODAの金額の何倍かを考える。 ○ つばささんのメモにある[A]～[C]の資料のうち、どの資料を使うとよいのかを考える。 ○ アメリカのODAの金額は、日本のODAの金額の何倍かを、1/10の位までの概数で求める。 ○ 「みんなで考える問題」に取り組む。 <p>○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 ODA（政府開発援助）における国際協力の活動資料を基に、自分たちにもできそうな国際協力の活動の計画を立てる。[p. 206・p. 207]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 自分たちでもできそうな国際協力の活動の計画をたてよう。 ○ 国際協力の活動について調べ、話し合う。 <p>○ 話し合ったことを基に、国際協力に関する計画を立てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ つばささんのメモを活用して考えることを確認する。 ・ [A]～[C]の資料を比較し、どの資料が一番有効なのかを考えさせる。 ・ 「正しい」「正しくない」を説明するにあたり、根拠を明確にすることを確認する。 【評】 資料を読み取り、言葉や式などを使って説明する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 国際協力の活動について、インターネットや本、パンフレットなどを活用し、調べた情報を共有させる。 【評】 国際協力の活動について調べ、話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 共有した情報を基にして、国際協力の活動に関する計画を立てられるようにする。 【評】 資料を活用し、国際協力に関する計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元では、国際協力の活動についての話題を取り上げている。各国が手を取り合い、助け合いながらよりよい世界を創るためには、未来を担う児童にとって、身近な関心事と捉えることが大切である。単元を通して、既習事項を活用し、国際協力の活動について調べたり、話し合ったりしながら、自分たちにできそうな国際協力について考える。児童にとっても関心が高く、進んで活動しようとすることができる単元である。

単元名 6年のまとめ
単元の目標

配当時間 15 時間

標準的な展開例

06040305_001

【準備等】電卓，コンパス，分度器，定規

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～15 復習問題に取り組む。[p. 208～p. 233] o まとめの問題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して，既習事項の定着を図る。 ・教師自作の問題も用意しておくとい。

【 備 考 】

15時間完了となっているが，児童の学習状況によって構想するとよい。

令和2年度 知多地方教育計画案

理科

理 科

1 教科の目標

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

○「自然に親しみ」について

理科の学習は、児童が自然に親しむことから始まる。「自然に親しむ」とは、児童が関心や意欲をもって対象と関わることにより、自ら問題を見いだし、それを追究していく活動を行うとともに、見いだした問題を追究し、解決していく中で、新たな問題を見いだし、繰り返し自然の事物・現象に関わっていくことを含意している。

○「理科の見方・考え方を働かせ」について

「見方」は、以下のように各領域における特徴的な視点として整理することができる。

- ・「エネルギー」を柱とする領域では、主として量的・関係的な視点で捉える
- ・「粒子」を柱とする領域では、主として質的・実体的な視点で捉える
- ・「生命」を柱とする領域では、主として共通性・多様性の視点で捉える
- ・「地球」を柱とする領域では、主として時間的・空間的な視点で捉える

「考え方」については、児童が問題解決の過程の中で用いる、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えることなどを「考え方」として整理することができる。

○「見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して」について

観察は、実際の時間、空間の中で具体的な自然の事物・現象の存在や変化を捉えることであり、実験は人為的に整えられた条件の下で自然の事物・現象の存在や変化を捉えることである。「見通しをもつ」とは、自然に親しむことから見いだした問題に対して、予想や仮説をもち、それらを基にして解決の方法を発想することである。

○「自然の事物・現象についての問題を科学的に解決する」について

「問題を科学的に解決する」ということは、自然の事物・現象についての問題を、実証性、再現性、客観性などの条件を検討する手続きを重視しながら解決していくことである。このような手続きを重視するためには、主体的で対話的な学びが欠かせない。

○「(1)自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。」ことについて…知識及び技能

児童があらかじめもっているイメージや素朴な概念を、生活経験や観察、実験の結果から導きだした結論と関係付け、より妥当性の高いものに更新していくことで、深く理解することにつなげていく。観察、実験などに関する技能については、器具などを目的に応じて扱うとともに、観察、実験の過程や結果を適切に記録することが求められる。「など」には、ものづくりや、栽培、飼育の活動が含まれる。

○「(2)観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。」ことについて

…思考力、判断力、表現力等

第3学年では、差異点や共通点を基に、問題を見いだすといった問題解決の力の育成を目指す。そのために、複数の自然の事物・現象を比較することが大切である。

第4学年では、既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想するといった問題解決の力の育成を目指す。そのために、自然の事物・現象同士を関連付けたり、既習内容や生活経験と関係付けたりすることが大切である。

第5学年では、予想や仮説を基に、解決の方法を発想するといった問題解決の力の育成を目指す。そのために、影響を与えると考える要因を予想し、どの要因が影響を与えるかを調べる際に、条件を制御する考え方をを用いることが大切である。

第6学年では、主により妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力の育成を目指す。そのために自然の事物・現象を多面的に考え、自分が既にもっている考えを検討し、より科学的なものに変容させることが大切である。

○「(3)自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。」ことについて

…学びに向かう力、人間性等

児童は、植物の栽培や昆虫の飼育という体験活動を通して、生物を愛護しようとする

る態度が育まれ、植物の結実の過程や動物の発生や成長について観察したり、調べたりする中で、生命を尊重しようとする態度が育まれてくる。主体的に問題解決しようとする姿には、自然の事物・現象に意欲的に関わろうとする態度、粘り強く問題解決しようとする態度、他者と関わりながら問題解決しようとする態度、日常生活に当てはめてみようとする態度などに表れる。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 改訂の趣旨（中央教育審議会答申 答申要旨より）

① 平成 20 年改訂の学習指導要領における課題

PISA2015, TIMSS2015 共に、科学的リテラシーに関して、良好な成果が見られる。一方、TIMSS2015 から、理科を学ぶことに対する関心や有用性等に対する認識が諸外国と比べ低い状況にあることや「観察・実験結果などを整理・分析した上で、解釈・考察し説明すること」などの資質・能力に課題が見られる。

② 理科の具体的な改善事項

ア 教育課程の示し方の改善

課題の把握（発見）、課題の探究（追究）、課題の解決という探究の過程において、資質・能力が育成されるよう指導の改善を図ることが必要である。

イ 指導内容の示し方の改善

どのような学習過程において、どのような「見方・考え方」を働かせることにより、どのような資質・能力を身に付けることを目指すのかを示していくことが必要である。「学びに向かう力・人間性等」は、内容ごとに大きく異なるものではないため、各学年や各分野の内容において共通的に扱うことが適当である。

ウ 教育内容の見直し

児童自身が観察、実験を中心とした探究の過程を通じて課題を解決したり、新たな課題を発見したりする経験を可能な限り増やしていくことが重要であり、このことが理科の面白さや、理科の有用性の認識につながっていくと考えられる。さらに、問題解決の過程において、プログラミング的思考の育成との関連が明確になるように適切に位置付けられるようにすることが必要である。

エ 学習・指導の改善充実

「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点から学習過程を更に質的に改善していくことが必要である。

(2) 改訂の要点

① 目標の在り方

各学年の目標において、「A 物質・エネルギー」「B 生命・地球」の内容区分ごとに、育成を目指す資質・能力を示すこととした。

② 内容の改善・充実

これまでも重視してきた、問題解決の力を具体的に示した。また、目的を設定し、計測して制御するといった考え方に基づいた観察、実験やものづくりの活動の充実を図ったり、自然災害との関連を図りながら学習内容の理解を深めたりすることにより、理科の面白さを感じ、理科を学ぶことの意義や有用性を認識することができるようにした。今回の改訂で追加、移行を行った主な内容は以下のとおりである。

ア 追加した内容

- ・音の伝わり方と大小〔第 3 学年〕
- ・雨水の行方と地面の様子〔第 4 学年〕 ・人と環境〔第 6 学年〕

イ 移行した内容

- ・光電池の働き〔第 6 学年（第 4 学年から移行）〕
- ・水中の小さな生物〔第 6 学年（5 年から移行）〕
- ・電気による発熱〔第 6 学年（中学校へ移行）〕

③ 学習指導の改善・充実

学びの過程について、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にし、指導の改善を図っていくことが重要になる。そこで、小学校理科で育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って整理し、より具体的なものとして示した。

第 3 学 年 理 科

1 学 年 の 目 標

(1) A 物質・エネルギー	物の性質，風とゴムの力の働き，光と音の性質、磁石の性質及び電気の回路についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるとともに，課題を追究する中で，差異点や共通点を基に，問題を見いだして問題解決の力や主体的に問題を解決しようとする態度を養う。
(2) B 生命・地球	身の回りの生物，太陽と地面の様子についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるとともに，課題を追究する中で，差異点や共通点を基に，問題を見いだして問題解決の力や生物を愛護する及び主体的に問題を解決しようとする態度を養う。

2 内 容

	対 象	知 識 及 び 技 能
A	物と重さ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物は，形が変わっても重さは変わらない。 ○ 体積が同じでも重さは違うことがある。
	風とゴムの力の働き	<ul style="list-style-type: none"> ○ 風とゴムの力は物を動かすことができ，力の大きさを変えると物が動く様子も変わる。
	光と音の性質	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日光は直進し，集めたり反射させたりできる。 ○ 物に日光を当てると，物の明るさや暖かさが変わる。 ○ 物から音が出たり伝わったりすると，物は震える。また，音の大きさが変わるとき物の震え方が変わる。
	磁石の性質	<ul style="list-style-type: none"> ○ 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物がある。また，磁石に近付けると磁石になる物がある。 ○ 磁石の異極は引き合い，同極は退け合う。
	電気の通り道	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方がある。 ○ 電気を通す物と通さない物がある。
B	身の回りの生物	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物は，色，形，大きさなど姿に違いがある。また，周辺の環境と関わって生きていること。 ○ 昆虫の育ち方には一定の順序がある。また，成虫の体は頭，胸及び腹からできている。 ○ 植物の育ち方には一定の順序がある。また，その体は根，茎及び葉からできている。
	太陽と地面の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日陰は太陽の光を遮るとでき，日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わる。 ○ 地面は太陽によって暖められ，日なたと日陰では地面の暖かさと湿り気に違いがある。

対 象	思考力，判断力，表現力等
A・B 共通	自然の事物・現象について追究する中で，差異点や共通点を基に問題を見いだして表現すること。

3 内容の取り扱い

(1) ものづくりについて

3種類以上のものづくりを行うものとする。

- ① 風やゴムの力の働き… 風やゴムの力で動く自動車や風車など
- ② 光の性質… 平面鏡を使って物を明るくしたり暖かくしたりする装置など
- ③ 音の性質… 離れた場所や同時に複数の場所に音声を伝える糸電話など
- ④ 磁石の性質… 極の働きや性質を使って動く自動車や船など
- ⑤ 電気の性質… 回路を切ったりつないだりできるスイッチ，電気を通す物であるかどうかを調べるテスターなど

(2) 「磁石の性質」について

磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があることについては，磁石が物を引き付ける力は磁石と物の距離に変わることにも触れる。

(3) 「身の回りの生物」について

- ① 植物や昆虫の育ち方については，飼育，栽培を通して行うこととする。
- ② 植物の育ち方については，夏生一年生の双子葉植物を扱うこととする。

(4) 「太陽と地面の様子」について

- ① 太陽の位置の変化については，太陽が東から南，西へと変化することを取り扱うものとする。
- ② 太陽の動きを調べるときの方位は東，西，南，北を扱うものとする。

(5) 生活科の学習との関連

体験的な活動を多く取り入れるとともに，問題解決の過程の中で，「理科の見方・考え方」を働かせ，問題を追究していくという理科の学習の仕方を身に付けることができるように配慮する。

- ① 風とゴムの力の働き… 風を受けたときやゴムを働かせたときの手ごたえなどの体感を基にした活動を重視する。(生活科「(6)自然や物を使った遊び」)
- ② 光と音の性質… 諸感覚を働かせながら明るさや暖かさ，音の大小，物の震え方などを捉えるようにする。(生活科「(6)自然や物を使った遊び」)
- ③ 身の回りの生物… 児童の野外での発見や気づきを学習に生かすような自然の観察を取り入れるようにする。(生活科「(7)動植物の飼育・栽培」)

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	自然の事物・現象について理解しているとともに，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や結果を記録している。
思考・判断・表現	自然の事物・現象について観察，実験などを行い，差異点や共通点について問題を見いだして表現するなど問題を解決している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり，問題を解決しようとしているとともに，学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

第 4 学 年 理 科

1 学 年 の 目 標

(1) A 物質・エネルギー	<p>空気、水及び金属の性質，電流の働きについての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするとともに，問題を追究する中で，主に既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想するといった問題解決の力や主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>
(2) B 生命・地球	<p>人の体のつくりと運動，動物の活動や植物の成長と環境との関わり，雨水の行方と地面の様子，気象現象，月や星についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするとともに，主に既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想するといった問題解決の力や生物を愛護する態度，主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>

2 内 容

	対 象	知 識 及 び 技 能
A	空気と水の性質	<ul style="list-style-type: none"> ○ 閉じ込めた空気を圧すと，体積は小さくなるが，押し返す力は大くなる。 ○ 閉じ込めた空気は押し縮められるが，水は押し縮められない。
	金属，水，空気と温度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 金属，水及び空気は，温めたり冷やしたりすると，それらの体積が変わるが，その程度には違いがある。 ○ 金属は熱せられた部分から順に温まるが，水や空気は熱せられた部分が移動して全体が温まる。 ○ 水は，温度によって水蒸気や氷に変わる。また，水が氷になると体積が増える。
	電流の働き	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乾電池の数やつなぎ方を変えると，電流の大きさや向きが変わり，豆電球の明るさやモーターの回り方が変わる。
B	人の体のつくりと運動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人の体には骨と筋肉がある。 ○ 人が体を動かすことができるのは，骨，筋肉の働きによる。
	季節と生物	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動物の活動及び植物の成長は，暖かい季節，寒い季節などによって違いがある。
	雨水の行方と地面の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水は，高い場所から低い場所へと流れて集まる。 ○ 水のしみ込み方は，土の粒の大きさによって違いがある。 ○ 天気によって 1 日の気温の変化の仕方に違いがある。
	天気の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水は，水面や地面などから蒸発し，水蒸気になって空気中に含まれていく。また，空気中の水蒸気は，結露して再び水になって表れることがある。
	月と星	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月は日によって形が変わって見え，1 日のうちでも時刻によって位置が変わる。 ○ 空には，明るさや色の違う星がある。 ○ 星の集まりは，1 日のうちでも時刻によって，並び方は変わらないが，位置が変わる。
	対 象	思考力，判断力，表現力等
	A・B 共通	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の内容や生活経験を基に，根拠のある予想や仮説を発想し，表現すること。

3 内容の取扱い

(1) 「空気と水の性質」について

空気と水の性質の違いを力を加えた時の手ごたえなどの体感を基にしながら調べるようにする。

(2) 「金属、水、空気と温度」について

自然界での水の状態変化の学習との関連を図るようにする。

(3) 「電流の働き」について

直列つなぎと並列つなぎを扱うものとする。

(4) ものづくりについて

2種類以上のものづくりを行うものとする。

① 空気や水の性質…空気でっぼう、水でっぼうなど

② 物の温まり方…ソーラーバルーン、温度計など

③ 電流の働き…乾電池などを用いた自動車や回転ブランコ、クレーンなど

(5) 「人の体のつくりと運動」について

関節の働きを扱うものとする。

(6) 「季節と生物」について

① 1年を通じて、動物の活動や植物の成長をそれぞれ2種類以上観察するものとする。

・動物…身近で危険のない動物

・植物…身近で季節による成長の変化が明確な植物

② 植物の成長について、同地点で同一の対象を定期的に観察するようにする。

③ 野外での学習に際しては、毒をもつ生物に注意するとともに事故に遭わないようにするなど、安全に配慮するように指導する。

(7) 「天気の様子」について

気温の適切な測り方について、温度計などを用いて場所を決めて定点で観測する方法が身に付くようにする。

(8) 「月と星」について

① 移動教室や宿泊を伴う学習の機会を生かして、実際に月や星を観察する機会を多くもつようにし、夜空に輝く無数の星に対する豊かな心情と天体に対する興味・関心をもつようにする。

② 方位磁針を用いて方位の確認をしたり、観察の時間間隔を一定にしたりして、決めた場所で月や星の位置の変化を観察する方法が身に付くようにする。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	自然の事物・現象について理解しているとともに、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。
思考・判断・表現	自然の事物・現象について観察、実験などを行い、主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

第 5 学 年 理 科

1 学 年 の 目 標

(1) A 物質・エネルギー	<p>物の溶け方，振り子の運動，電流がつくる磁力についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるとともに，問題を追究する中で，主に予想や仮説を基に，解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>
(2) B 生命・地球	<p>生命の連続性，流れる水の働き，気象現象の規則性についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるとともに，課題を追究する中で，主に予想や仮説を基に，解決の方法を発想する力や生命を尊重する態度，主体的に問題解決しようとする態度を養う。</p>

2 内 容

	対 象	知 識 及 び 技 能
A	物の溶け方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物が水に溶けても，水と物とを合わせた重さは変わらない。 ○ 溶ける量には限度があり，水の温度や量，溶ける物によって違う。また，溶けているものを取り出す。
	振り子の運動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 往復する時間は，おもりの重さなどによっては変わらないが，振り子の長さによって変わる。 ○ 電流が流れているコイルは，鉄心を磁化する働きがあり，電流の向きが変わると，電磁石の極も変わる。
	電流がつくる磁力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電磁石の強さは電流の大きさや導線の巻数によって変わる。
B	植物の発芽，成長，結実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植物は，種子の中の養分を基にして発芽する。 ○ 植物の発芽には，水，空気及び温度が関係している。 ○ 植物の成長には，日光や肥料などが関係している。 ○ 花には雄しべや雌しべなどがあり，花粉が雌しべの先に付くと雌しべの元が実になり，実の中に種子ができる。
	動物の誕生	<ul style="list-style-type: none"> ○ 魚には雌雄があり，生まれた卵は日を経つにつれて中の様子が変化してかえる。 ○ 人は，母体内で成長して生まれる。
	流れる水の働きと土地の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 流れる水には，土地を侵食したり，石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがある。 ○ 川の上流と下流により川原の石の大きさや形に違いがある。 ○ 雨の降り方によって，流れる水の速さや量は変わり，増水により土地の様子が大きく変化する場合がある。
	天気の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 天気の変化は，雲の量や動きと関係がある。 ○ 天気の変化は，映像などの気象情報を用いて予想できる。
	対 象	思考力，判断力，表現力等
	A・B 共通	自然の事物・現象について追究する中で，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。

3 内容の取扱い

(1) 「物の溶け方」について

- ① 水溶液の中では、溶けている物が均一に広がることにも触れる。
- ② 物が溶けるということを、図や絵などを用いて表現したり、「水溶液」という言葉を使用して説明したりする活動の充実を図る。

(2) 「振り子の運動」について

振り子の長さや振れ幅を一定にしておもりの重さを変えるなど、変える条件と変えない条件を制御しながら実験を行う。

(3) 「電流がつくる磁力」について

電磁石の強さについて、導線の巻数を一定にして電流の大きさを変えるなど、変える条件と変えない条件を制御しながら実験を行う。

(4) ものづくりについて

2種類以上のものづくりを行う。

- ① 振り子の運動…簡易メトロノームなど
- ② 電流の働き…モーター，クレーンなど

(5) 「植物の発芽，成長，結実」について

- ① 「種子の中の養分」については，でんぷんを扱うこと。
- ② 雄しべ，雌しべ，がく及び花びらを扱うこと。また，受粉については，風や昆虫などが関係していることにも触れる。

(6) 「動物の誕生」について

- ① 人の受精に至る過程は取り扱わないものとする。
- ② 魚の卵の中の変化や水中の小さな生物を観察する際に，顕微鏡などの観察器具を適切に操作できるように指導する。

(7) 「流れる水の働きと土地の変化」について

自然災害（長雨や集中豪雨がもたらす災害）についても触れ，日常生活と関連させる。

(8) 「天気の変化」について

台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係及びそれに伴う自然災害についても触れる。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	自然の事物・現象について理解しているとともに，器具や機器などを選択して，正しく扱いながら調べ，それらの過程や結果を適切に記録している。
思考・判断・表現	自然の事物・現象について観察，実験などを行い，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するなどして問題解決している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり，問題を解決しようとしているとともに，学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

第 6 学年 理科

1 学年の目標

(1) A 物質・エネルギー

燃焼，水溶液，てこ及び電気の性質や働きについて理解を図り，観察，実験，などに関する基本的な技能を身に付けるとともに，問題を追究する中で，仕組みや性質，規則性及び働きについて，より妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

(2) B 生命・地球

生物の体のつくりと働き，生物と環境，土地のつくりの変化，月と太陽についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるとともに，課題を追究する中で，働きや関わり，変化及び関係について，より妥当な考えをつくりだす力や生命を尊重する態度，主体的に問題解決しようとする態度を養う。

2 内容

	対象	知識及び技能
A	燃焼の仕組み	○植物体が燃えるときには，空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができる。
	水溶液の性質	○水溶液には，酸性，アルカリ性及び中性のものがああり，気体を溶けているものや金属を変化させるものがある。
	てこの規則性	○力を加える位置や力の大きさを変えと，てこを傾ける働きが変わり，つり合うときにはそれらの間に規則性がある。 ○身の回りには，てこの規則性を利用した道具がある。
	電気の利用	○電気は，つくりだしたり蓄えたりすることができ，光，音，熱，運動などに変換することができる。 ○身の回りには，電気の性質や働きを利用した道具がある。
B	人の体のつくりと働き	○体内に酸素が取り入れられ，体外に二酸化炭素などが出されている。 ○食べ物は，口，胃，腸などを通る間に消化，吸収され，吸収されなかったものは排出される。 ○血液は，心臓の働きで体内を巡り，養分，酸素及び二酸化炭素などを運んでいる。 ○体内には，生命活動を維持するための様々な臓器がある。
	植物の養分と水の通り道	○植物の葉に日光が当たるとでんぷんができる。 ○根，茎及び葉には，水の通り道があり，根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出される。
	生物と環境	○生物は，水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きている。また，生物の間には，食う食われるという関係がある。 ○人は，環境と関わり，工夫して生活している。
	土地のつくりと変化	○土地は，礫，砂，泥，火山灰などからできており，層をつくって広がっているものがある。また，層には化石が含まれているものがある。 ○地層は流れる水の働きや火山の噴火によってできる。 ○土地は火山の噴火や地震の働きによって変化する。
	月と太陽	○月の輝いている側に月がある。また，月の形の見え方は，太陽と月との位置関係によって変わる。

対象	思考力，判断力，表現力等
A・B 共通	自然の事象・現象について追及する中で，より妥当な考えをつくりだし，表現すること。

3 内容の取扱い

- (1) 「燃焼のしくみ」について
物が燃える際に，酸素の一部が使われ二酸化炭素ができることを石灰水や気体検知管，気体センサーなどを用いて調べ，その結果を，図や絵，文を用いて表現できるようにする。
- (2) 「水溶液の性質」について
水溶液の性質や金属の質量変化について，調べた結果を表に整理し，そこから考えたことを図や絵，文を用いて表現できるようにする。
- (3) 「てこの規則性」について
支点からの距離とおもりの重さとの関係を整理することを通して，てこの規則性を捉えるようにする。
- (4) 「電気の利用」について
 - ① 電気をつくり出す道具として，手回し発電機や光電池などを扱う。
 - ② 身の回りにはエネルギーを効率よく利用している道具があることに気づき，目的に合わせてセンサーを使い，モーターの動きや発光ダイオードの点灯を制御するなどといったプログラミングを体験できるようにする。
- (5) ものづくりについて
2種類以上のものづくりを行う。
 - ① てこの規則性……測定を目的としたてんびんばかりなど
 - ② 電気の利用……蓄電池に蓄えて効率的に利用することを目的とした照明など
- (6) 「人の体のつくりと働き」について
 - ① 心臓の拍動と脈拍とが関係することにも触れる。
 - ② 主な臓器として，肺，胃，小腸，大腸，肝臓，腎臓，心臓を扱う。
- (7) 「植物の養分と水の通り道」について
児童の理解の充実を図るために，観察・実験とともに，映像や模型，その他の資料を活用する。
- (8) 「生物と環境」について
 - ① 水が循環していることにも触れる。
 - ② 水中の小さな生物を観察し，それらが魚などの食べ物になっていることに触れる。
 - ③ 自分が自然とよりよく関わっていくためにはどうすればよいか，持続可能な社会の構築という観点で扱う。
- (9) 「土地のつくりと変化」について
 - ① 流れる水の働きでできた岩石として，礫岩，砂岩，泥岩を扱う。
 - ② 自然災害（火山の噴火，地震）についても触れる。
- (10) 「月と太陽」について
地球から見た太陽と月との位置関係で扱う。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	自然の事物・現象について理解しているとともに，器具や機器などを選択して，正しく扱いながら調べ，それらの過程や結果を適切に記録している。
思考・判断・表現	自然の事物・現象について観察，実験などを行い，より妥当な考えをつくりだし，表現するなどして問題解決している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり，問題を解決しようとしているとともに，学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

第3学年 理科 年間計画（標準90時間）

	月	時期	単 元 名	時間	備 考
一 学 期	4 (7)	上旬	しぜんを見よう・生き物を調べよう	6	
		中旬			
		下旬			
	5 (9)	上旬	植物を育てよう	8	
		中旬			
		下旬			
	6 (11)	上旬	チョウを育てよう	9	次年度の3年生に向けてキャベツの苗を2月頃に植えるとよい。
		中旬			
		下旬			
34	7 (7)	上旬	風やゴムの力	9	
		中旬			
二 学 期	9 (8)	上旬	こん虫の世界	6	
		中旬			
		下旬			
	10 (9)	上旬	太陽と地面	7	
		中旬			
		下旬			
	11 (9)	上旬	光	7	
		中旬			
		下旬			
33	12 (7)	上旬	ものの重さ	7	
		中旬			
三 学 期	1 (9)	上旬	電気の通り道	10	
		中旬			
		下旬			
	2 (10)	上旬	じしゃく	10	
		中旬			
		下旬			
23	3 (4)	上旬	作って遊ぼう	3	
		中旬			
		下旬			

第4学年 理科 年間計画（標準105時間）

	月	時期	単 元 名	時間	備 考
一 学 期	4 (8)	上旬	星ざ	1	
		中旬	季節と生き物	7	
		下旬			
	5 (12)	上旬	天気による気温の変化	5	
		中旬	体のつくりと運動	5	
		下旬			
	6 (12)	上旬	電流のはたらき	11	
		中旬			
		下旬	夏と生き物	6	
	7 (7)	上旬			
中旬		予備時間	2		
二 学 期	9 (9)	上旬	雨水と地面	5	
		中旬			
		下旬	月の位置と変化	4	
	10 (12)	上旬	とじこめた空気や水	7	
		中旬			
		下旬	秋と生き物	5	第5学年の学習に向け、アブラナの種子をまいておくとよい。
	11 (12)	上旬	ものの温度と体積	8	
		中旬			
		下旬			
	12 (6)	上旬	もののあたたまり方	10	
中旬					
三 学 期	1 (8)	上旬	冬の星	2	
		中旬	冬と生き物	4	
		下旬			
	2 (12)	上旬	水のすがたの変化	10	
		中旬			
		下旬	水のゆくえ	6	
	3 (7)	上旬			
		中旬	生き物の1年	3	
			予備時間	2	

第5学年 理科 年間計画（標準105時間）

	月	時期	単 元 名	時間	備 考
一 学 期	4 (9)	上旬	雨がとどける春	1	ヘチマ、アサガオ、ツルレイシなどの種子をまいておくとよい。
		中旬	天気の変化	7	
		下旬			
	5 (9)	上旬	植物の発芽や成長	16	
		中旬			
		下旬			
	6 (12)	上旬	メダカのたんじょう	6	
		中旬			
		下旬	花のつくり	4	
39	7 (9)	上旬	台風に備えて	3	
		中旬	予備時間	2	
二 学 期	9 (9)	上旬	花から実へ	4	
		中旬	ふりこ	10	
		下旬			
	10 (12)	上旬	流れる水と土地	10	
		中旬			
		下旬			
	11 (12)	上旬	川と災害	2	
		中旬	電流が生み出す力	13	
		下旬			
39	12 (6)	上旬			
		中旬			
三 学 期	1 (9)	上旬	人のたんじょう	8	
		中旬			
		下旬	受けつがれる生命	1	
	2 (12)	上旬	もののとけ方	16	
		中旬			
		下旬			
	3 (6)	上旬			
		中旬			
		下旬	予備時間	2	第6学年の学習に向け、ジャガイモなどを植えておくとよい。
27					

第6学年 理科 年間計画（標準105時間）

	月	時期	単 元 名	時間	備 考	
一 学 期	4 (9)	上旬	生命のふるさと・地球	1	春休み中に、ジャガイモの苗を植えておくとよい。 4月中旬にホウセンカ・インゲンマメの種子をまいておくとよい。	
		中旬	ものの燃え方と空気	9		
		下旬				
	5 (9)	上旬	人や他の動物の体	13		
		中旬				
		下旬				
	6 (12)	上旬	植物の体	14		
		中旬				
		下旬				
	7 (9)	上旬	予備時間	2		
		中旬				
二 学 期	9 (9)	上旬	生き物と食べ物・空気・水	7		
		中旬				
		下旬				
	10 (12)	上旬	てこ	11		
		中旬				
		下旬				
	11 (12)	上旬	土地のつくり	10		
		中旬				
		下旬				
12 (6)	上旬	地震や火山と災害	2			
	中旬					
	下旬					
三 学 期	1 (9)	上旬	水溶液	13		
		中旬				
		下旬				
	2 (12)	上旬	電気の利用	10		
		中旬				
		下旬				
	3 (6)	上旬	人の生活と自然環境	1		
		中旬				
		下旬				
	27			予備時間	3	

第4学年O組 理科学習指導案

令和2年12月〇日 〇曜日 第〇時 (第〇理科室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 もののあたため方

2 単元の見目標

- (1) 物の温まり方を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 金属、水及び空気の性質について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 金属、水及び空気の性質について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

3 学習の計画 (10 時間完了)

- | | | |
|-----|---------|--|
| 第1次 | 第1時 | 物の温まり方について、単元の学習課題をつかみ、学習の計画を立てる。 |
| 第2次 | 第2時～第3時 | 金属がどのような順に温まるのかを予想し、実験方法を考えて調べる。 |
| | 第4時～第5時 | 水がどのような順に温まるのかを予想し、実験方法を考えて調べる。 |
| | 第6時～第7時 | 温められた水が上の方へ動くかどうか予想し、実験方法を考えて調べる。 |
| | 第8時 | 空気がどのような順に温まるのかを予想し、調べるための計画を立てる。 |
| | 第9時(本時) | 空気がどのような順に温まるのかについて実験をし、結果を整理し分かったことをまとめる。 |
| 第3次 | 第10時 | 金属、水、空気の温まり方について、図や表にしてまとめる。 |

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 空気が温まっていくときの様子を、分かりやすく記録することができる。
 - 空気がどのような順に温まるのかについて、実験結果を整理し説明することができる。
- (2) 準備・資料
 - 教師……水槽、白熱電球、ソケット付導線、白熱球を固定するもの、段ボール紙、温度計2本、掲示カード、記録用紙
- (3) 関 連
 - 4年 理科 ものの温度と体積(空気、水、金属の温度と体積変化の関係を調べる)
 - 4年 理科 水のすがたの変化(水の変化を温度と関係付けながら調べる)
 - 中1 理科 もののすがた(身の回りの固体や液体、気体の性質、物質の状態変化について調べる)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
課題をつかみ、見通しを立てる	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 (1) 空気がどのような順に温まるのかについて、前時の予想を振り返る。 ・水と同じように上から温まる。 ・金属と同じように熱源の近くから順に温まる。 (2) 予想を確かめる方法を振り返る。 ○ 水槽内の温度を測る。 ・上の方 ・下の方 ・白熱球の近く (3) 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 水そうの中の空気の一部をあたためて、空気のあたたま順を調べよう。 </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の後半で、教室内の温度を調べるため、暖房器具をつけ、事前に教室内の空気を暖めておく。 ○ 金属や水と比較しながら、空気の温まり方についての予想ができるように、図と文でまとめた掲示カードを黒板に貼る。 ○ 空気の温まり方について、前時の予想を発表させ、共通理解を図る。 ○ 組み立て方を視覚的に捉えられるように、実験装置を提示する。 ○ 温度計の高さや白熱球を置く位置など、予想を確かめる方法の意図に沿うように、各班で調整してよいことを伝える。
検証・考察をする	2 実験の準備をする。 (1) 実験で気配りすることを確認する。 ・温度計の目盛りの読み方 ・白熱電球の取り扱い (2) 実験の準備をする。 ○ 記録用紙の確認をする。 ・測定箇所		<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数の班活動とするために実験装置は可能な限り多く用意する。 ○ 真横から目盛りを読むことを確認する。 ○ 白熱電球は熱くなるので、直接触らないように十分留意させる。 ○ 空間を立体的に示した図に、気温の高低

検 証 ・ 考 察 を す る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温度記入の仕方 ○ 実験装置を準備する。 	10	<p>が分かりやすいように、温度を色分けして表現させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気温を測るので、温度計の液だめを水槽につけてしまわないように注意させる。
	<p>3 水槽の中の空気の一部を白熱球で温めて、空気の温まる順を調べる。</p> <p>(1) 温める前の温度を測り、記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上の方 ・ 下の方 ・ 白熱電球の近く <p>(2) 10 分後の温度を測り、記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上の方 ・ 下の方 ・ 白熱電球の近く 	25	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班の児童の測った温度を聞いて記録するだけでなく、自分でも温度を確認させ、主体的な実験となるように意識させる。 ○ 待っている間の温度変化もしっかりと観察させ、温まり方を実感させる。 <p>評 温度変化を測定場所ごとに正しく記録している。 (記録用紙)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他の班の結果と比較するため、結果を記録した記録用紙を黒板に掲示させる。 ○ 結果を全体共有するため、分かりやすく記録した数班を指名発表させる。 ○ 予想と照らし合わせながら、結果を確認させる。 ○ 温度変化から、空気がどのように移動したかを捉えやすくするために、空気の移動を矢印で記録用紙に記入させる。 ○ 水のとときと比較させ、その特徴がよく似ていることに着目させる。 <p>評 温められた空気は上の方へ移動して、上から順に温まることを書いている。 (理科ノート)</p>
	<p>4 水槽の中の温度変化から、実験結果を整理し、本時の学習課題の解決を図る。</p> <p>(1) 記録した結果を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上の方の温度が高い。 ・ 下の温度は上よりも低い。 ・ 白熱電球の近くの温度は高い。 <p>(2) 空気の温まり方について結果から分かったことを話し合い予想と比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水と同じように、温められた空気は上の方に移動し、上の方から順に温まる。 	35	
	<p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習を見通す。</p> <p>(1) 教室内の温度を調べ、空気は水と同じように温まることを確認する。</p> <p>(2) エアコンで暖房をするとき、吹出口を下にする理由について知る。</p> <p>(3) 次時では、金属、水、空気の温まり方をまとめることを知る。</p>	45	<ul style="list-style-type: none"> ○ 室内を図で示し、水槽内と同様に空気が動くことを視覚的に捉えさせる。 ○ 日常生活との関連付けとして、暖房時の空気循環の効果について取り上げる。 ○ 空気と金属や水との違いに触れ、次時へつなげる。

(5) 本時の評価規準

- 温度を測定場所ごとに正確に記録し、温まり方の特徴が分かるように記録している。 (記録用紙)
- 空気は、水と同じように熱を加えられた部分が上方に移動して、全体が温まっていくことを実験結果を根拠にして、自分の言葉で説明している。 (理科ノート)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級の児童は、身近なところで起きている現象を理科的事象として観察した経験が少ない。そのため、必要な事柄を見付けたり、整理して記録したりすることを苦手としている児童も多い。前時までの学習で金属と水の温まり方に関してはほとんどの児童が理解している。

(2) 指導の力点

- 実験結果を色分けして表現させることで、目に見えない空気存在を視覚的に捉えられるように工夫して、児童の理解を深める。また、振り返りは学習内容を生活経験と関連付けて考えられるように、教室の空気の温まり方を確認したり、エアコンで効果的に部屋を温める方法を上げたりする。

6 指導と評価

単元名 しぜんを見よう・生き物を調べよう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 生き物の姿の違いを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 身近な生き物について、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 身近な生き物について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050101_001

【準備等】タブレットパソコンやデジタルカメラ、ものさし、虫眼鏡

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身近な自然に接する活動を通して、問題を見だし、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★理科の学び方を知ろう。</p> <p>○春になり、校庭や野原で変わったところを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サクラが咲いていた。 ・ナナホシテントウを見付けた。 <p>○生き物について五感を使って観察することを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューリップの花の中を近付いて見ると、黄色い部分や星の形をしたものがある。 ・ナナホシテントウを下から見ると、体の色が黒い。 <p>○虫眼鏡の使い方を知る。</p> <p>○野外で観察するときの服装や注意することについて知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼうし・虫眼鏡・長袖の服 ・長ズボン・観察カード <p>2～3 春の校庭や野原に出て、身の回りで見られる植物を詳しく観察する。</p> <p>○最近見かける生き物を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラナやタンポポが咲いていた。 ・モンシロチョウやテントウムシを見た。 <p>★タンポポなどのしょくぶつのすがたをくわしく見よう。</p> <p>○タンポポを見付けて、詳しく姿を見る視点を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の姿の形、色や大きさを観察する。 ・花や葉の形、色や大きさを観察する。 <p>○写真の撮り方を知る。</p> <p>○タンポポを観察して気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉の形がギザギザしていた。 ・花は黄色だった。 ・大きさは、高さが15cmくらいだった。 <p>4～5 身の回りの生き物を観察し、形、色や大きさなどの姿が違うことを捉える。</p> <p>○タンポポ以外に見られる生き物について話し合う。</p> <p>★身のまわりの生き物は、それぞれどのようなすがたをしているのかな。</p> <p>○身の回りの生き物の姿について、どのように調べていけばよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンポポを見たときのように、形や色、大きさを調べるという。 <p>○身の回りの生き物の姿を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物…シロツメクサ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウなど ・虫などの動物…アリ、ダンゴムシ、モンシロチョウなど <p>○観察の結果を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シロツメクサは花の色が白く、葉の形は丸い葉が3つ集まる形だった。 <p>○写真を植物や動物とに分けて、「形、色、大きさ」の視点ごとに並び替え、共通点や差異点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホトケノザとヒメオドリコソウは花の色が似ているが葉の形は違う。 <p>○分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの生き物は、種類によって、それぞれ形や色大きさなどの姿に違いがある。 <p>○アリとダンゴムシの姿の違いを見付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の行き帰りや花壇の様子を想起させたり写真を見せたりしながら話し合わせる。 ・「じっくり見る」、「耳をすます」、「においをかいだり触ったりする」などを確認する。 ・観察する物が手で持てるか、手で持てないかで使い方が違うことを押さえる。 ・（安全）虫眼鏡で太陽を見ないように確認する。 ・（安全）刺したり、触るとかぶれたりする生き物があるので、触らせないように注意させる。 <p>【評】生き物を観察するために必要なことを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物への興味や関心を高めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の五感を使って観察させるとよい。 ・味覚で調べることは危険があること、触るとかぶれるなどの危険があることを伝える。 ・細かいスケッチが難しいと感じる場合は写真を活用するとよい。 ・形、色、大きさなど分かりやすい視点を取り上げて話し合わせる。 <p>【評】タンポポを観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物と虫などの動物に分けて調べられるように分類する。 ・これまでに観察した視点（五感を使って）を想起させる。 ・（安全）危険な場所や触ると刺したりかぶれたりする生き物に注意させる。 ・虫眼鏡やものさしを活用させるとよい。 ・写真を活用して整理するとよい。 ・名前が分からない生き物は、図鑑の使い方を知らせて調べさせる。 ・虫などは形が似ているもの同士を近くに並び替えるとよい。

- ・体の形や色が違う。
 - ・足の数が違う。
- 6 単元のまとめをする。
- ★たんげんのふり返りをしよう。
 - 「たしかめ」に取り組む。

【評】身の回りの生き物を観察して違いなどをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

- ・第6学年「生物と環境」

単元名 植物を育てよう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 植物の育ち方や体のつくりを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 身近な植物の様子について、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 身近な植物の様子について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050102_001

【準備等】植物の種子（ハウセンカ、ヒマワリなど数種類）、虫眼鏡、水を入れる容器、ビニルポット、移植ごて、じょうろ、植木鉢、立て札、肥料、ものさし、植物図鑑、写真など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 植物を種から育てることについて、問題を見いだし、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★どんな植物をそだてたことがあるのかふりかえり、そだてかたを話し合おう。</p> <p>○花壇や野原で咲いている植物や育てたことがある植物を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の花壇にチューリップや校庭にタンポポが咲いていた。 ・夏になるとヒマワリが咲く。 ・アサガオを育てたことがある。 <p>2 植物の種について観察を行う。</p> <p>★ハウセンカやヒマワリは、たねからどのようにそだつのかな。</p> <p>○育てる植物の種を観察し、記録する。</p> <p>○種を詳しく見て、疑問に思ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウセンカもヒマワリもアサガオのように芽を出すと思う。 ・小さな種からどう育って花が咲くのか調べたい。 <p>○種まきの準備をする。</p> <p>3 発芽した子葉の様子を絵や文で特徴を捉える。</p> <p>★子葉を出したハウセンカは、どのようなすがたをしているのかな。</p> <p>○種をまいた植物の世話を通して気付いたことを話し合う</p> <p>○子葉を出したハウセンカを観察し、記録する。</p> <p>○ハウセンカを観察して気付いたことを整理して、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子葉を出したハウセンカは、丸い形の子葉が2枚開いたすがたをしている。草丈が1 cmくらいある。 <p>4 植物の成長を観察し、植物は子葉が出た後に葉が出るという一定の順序があることを捉える。</p> <p>★葉を出したハウセンカは、どのようなすがたをしているのかな。</p> <p>○育てている植物の世話を通して気付いたことを話し合う</p> <p>○子葉を出した後のハウセンカを観察して記録する。</p> <p>○観察した結果をもとに、植物の育ちについてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉を出したハウセンカは、2まいの子葉のほかにぎざぎざした形で黄緑色の葉が4まいある。 ・草丈が5 cmくらいに伸びた。 <p>5～6 ハウセンカの土の中を観察し、根・茎・葉という体のつくりをしていることを捉える。</p> <p>★植物の体は、どのようなぶぶんからできているのかな。</p> <p>○ハウセンカの体のつくりを予想する。</p>	<p>・季節ごとに咲く植物など共通性のある視点で問題を見いだせるようにする。</p> <p>・植物の写真などを提示し、栽培の意欲を高めさせる。</p> <p>【評】植物を育てた話し合いの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・「観察カードのかき方」を説明し、形や色、大きさなどを記録させる。</p> <p>・ハウセンカは自分で、ヒマワリはみんなで育てることを確認する。</p> <p>・発芽しなかったり、途中で枯れてしまったりした児童のために、多めにビニルポットに種をまいておく。</p> <p>・教師が水やりの仕方を見せたり、種をまいた日などが分かるように記録したりする。</p> <p>【評】種を観察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・観察意欲を高めるために、毎日の世話で気付いたことを発表させる。</p> <p>・「形・色・大きさ」などの視点で観察することを想起させる。</p> <p>・植物の高さは草丈といい、地面から一番新しい葉の付け根までの高さを測ることを知らせる。</p> <p>・ヒマワリも種から子葉を出すことを押さえる</p> <p>【評】ハウセンカを観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・植物の変化に気付かせ、観察意欲をもたせる</p> <p>・全体の形や色、草丈、葉の数などの視点で観察させる。</p> <p>・前の観察カードと比べることで違いに着目させる。</p> <p>【評】ハウセンカの成長を観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・土の中の様子について予想し、体全体のつく</p>

- ホウセンカの体のつくりを調べる。
 - ・土の中でたくさん根を伸ばしている。
- 観察が終わったら、花壇などに植え替える。
- 他の植物の体のつくりを考える。

- 7 いろいろな植物の体のつくり観察し、植物は、根・茎・葉などの共通した体のつくりをしていることを捉える。
- ★いろいろな植物の体のつくりを調べてみよう。
- 校庭や野原で見られる植物の体のつくりについて調べる
 - 観察の結果をもとに、植物の体のつくりの共通点をまとめる。
 - ・植物の体は、どれも、根・茎・葉からできている。
 - オオバコの葉，茎，根はどの部分なのか考える。
- 8 単元のまとめをする。
- ★たんげんのふり返りをしよう。
- 「たしかめ」に取り組む。

- ・りに着目した問題を見いだせるようにする。
- ・土を水で洗い流す際に、根を傷めないように気を付けさせる。
- ・ヒマワリも同時に調べる。
- ・生物を大切に育てたいという観点を大切にさせる。
- ・ホウセンカだけでなく植物全体の共通性を押さえる。

【評】ホウセンカの体のつくりを観察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する

【評】ホウセンカの体のつくりを観察する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・教科書P.35の「チャレンジ」は取り扱う。
- ・ホウセンカで調べた根・茎・葉があるか，つき方が同じかどうかに着目させる。
- ・それぞれの植物に根・茎・葉があるか整理させる。

【評】いろいろな植物の体のつくりを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「季節と生き物」

単元名 チョウを育てよう

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 昆虫の育ち方を理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 身近な昆虫の様子について、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 身近な昆虫の様子について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050103_001

【準備等】虫眼鏡、ものさし、昆虫図鑑

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 モンシロチョウの育ちについて、問題を見いだし、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○モンシロチョウの卵や幼虫の写真を見て、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・モンシロチョウが、葉にとまっておしりを擦り付けているみたい。 ★モンシロチョウのたまごや幼虫を見て、たまごからどのように育つか話し合おう。 ○モンシロチョウの育ちについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャベツの葉に卵があり、卵から幼虫が出てくる。 ・幼虫が大きくなってモンシロチョウになるのかな。 ○卵や幼虫の観察記録の方法を知る。 ○モンシロチョウの育て方を知り、世話の仕方を確認する。 ○モンシロチョウの卵の様子を観察し、記録する。 <p>3 モンシロチョウの卵や幼虫を観察し、成長の変化を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○モンシロチョウの世話を通して、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・卵の色が濃くなってきた。 ・卵から幼虫がかえった。 ★モンシロチョウのよう虫は、どのようなすがたや生活をしているのかな。 ○モンシロチョウの幼虫を調べる。 ○調べた結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は皮を脱いで大きくなっていた。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・モンシロチョウの幼虫は、緑色で細長い形をしていてよく動き回る。また、皮を脱いで大きくなると、キャベツの葉をたくさん食べたり、ふんをたくさんしたりする <p>4 モンシロチョウの幼虫を観察し、幼虫からさなぎへの成長の変化を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○モンシロチョウの世話を通して、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・だんだん食べ物を食べなくなってきた。 ・幼虫と形が変わってきた。・さなぎになった。 ★モンシロチョウのさなぎは、どのようなすがたや生活をしているのかな。 ○モンシロチョウのさなぎを調べる。 ○調べた結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・さなぎは幼虫のように動き回らない。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・モンシロチョウのさなぎは、幼虫と違う形をしていて動き回らず、何も食べない。 <p>5 モンシロチョウの成長を観察し、さなぎから成虫への変化を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○モンシロチョウの世話を通して、気付いたことを話し合 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 38～P. 39を観察させる。 ・実際に卵や幼虫を観察させるとよい。 ・「たまご」や「よう虫」という語句を押さえる。 ・モンシロチョウの卵や幼虫の姿が大きく変わったり、大きく成長していく様子を記録したりすることを知らせる。 ・観察意欲を高めさせるように定期的に観察、記録させる。 ・幼虫を直接触らないようにさせる。 ・生き物の生命を尊重させ、世話をしていくことの大切さを意識させる。 【評】モンシロチョウの育ちについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・これまでの観察記録を基に、気付いたことを話し合わせる。 ・形、色、大きさについて調べさせるとよい。 ・卵からふ化する様子を映像資料で提示するとよい。 ・幼虫の大きさは伸びたときか縮んだときのどちらか一方に決めておく。 ・「さなぎ」という語句を押さえておく。 【評】モンシロチョウの幼虫を観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・これまでの観察記録を基に、気付いたことを話し合わせる。 ・形、色、大きさについて調べさせるとよい。 ・観察の際、さなぎが葉から落ち、羽化しないように、容器を動かさないようにさせる。 ・さなぎになる様子を映像資料で提示するとよい。 ・「せい虫」という語句を押さえる。 【評】モンシロチョウのさなぎを観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・これまでの観察記録を基に、気付いたことを

- う。
- ・さなぎは、色が変わってきた。
- ・皮を破ってモンシロチョウが出てきた。
- ★モンシロチョウのせい虫は、どのようなすがたや生活をしているのかな。
- モンシロチョウの成虫を調べる。
- 調べた結果を整理する。
- ・成虫にはストローのような口がある。
- 分かったことをまとめる。
- ・モンシロチョウの成虫は、幼虫やさなぎとは違う形をしていて、長い脚や触角があり、羽で飛び回ることができる。
- 6 モンシロチョウの成長に順序があることを捉える。
- ★モンシロチョウは、たまごからどのように育つのかな。
- モンシロチョウの成虫の体のつくりを基に、昆虫について知る。
- これまでの観察を基に、モンシロチョウの育ちについて整理する。
- ・卵から幼虫がかえった。
- ・幼虫は皮を脱ぐたびに体を大きくした。
- ・さなぎは何も食べなかった。
- ・成虫は長い脚や触角があった。
- 分かったことをまとめる。
- ・モンシロチョウは、卵→幼虫→さなぎ→成虫の順に育つ。
- 7～8 チョウとトンボの育ち方を比較して、昆虫にはさなぎになるものやならないものがあることを捉える。
- トンボの幼虫を見る。
- トンボの育ち方について話し合う。
- ・トンボもチョウと同じように育つのかな。
- ★トンボのほかにも、チョウとちがって、さなぎにはならないこん虫がいるのかな。
- いろいろな昆虫の育ち方を予想し、自分の予想を確かめる調べ方を考える。
- ・バッタはさなぎにはならないで成虫になると思う。
- ・昆虫の育ち方を図鑑を使って調べるとよい。
- いろいろな昆虫の育ち方を調べる。
- 調べた結果を整理する。
- ・バッタは卵→幼虫→成虫の順に育ったよ。
- 分かったことをまとめる。
- ・トンボの他にも、チョウと違って、さなぎにはならない昆虫がいる。
- 9 単元のまとめをする。
- ★たんげんのふり返りをしよう。
- 「たしかめ」に取り組む。

話し合わせる。

- ・強制羽化法などにより、羽化する様子を観察させるとよい。

- ・形、色、大きさについて調べさせるとよい。
- ・目、口、脚の本数、節の数などについても調べさせる。

【評】モンシロチョウの成虫を観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・「頭」、「むね」、「はら」、「こん虫」という語句を押さえる。

【評】モンシロチョウの成長をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・プール開き前のプールにいるヤゴなどを実際に飼育させて調べてもよい。

- ・さなぎになるのか、ならないのかという違いをもたせて予想させるとよい。

- ・教科書P. 50や昆虫の図鑑などを活用して調べさせるとよい。

- ・教科書P. 51の「セミの育ち方を活用」し、卵から成虫になるまでの期間は違うが、育つ順序は卵→幼虫→成虫の順であることを捉えられるようにする。

【評】昆虫の成長を比較する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「季節と生き物」

単元名 風やゴムの力

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 風やゴムの力と物が動く様子との関係を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 風やゴムの力のはたらきについて、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 風やゴムの力のはたらきについて、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050104_001

【準備等】 プラスチック段ボール、タイヤ4個、車軸2本、牛乳パック、厚紙、クリップ、はさみ、うちわ送風器、ビニルテープ、巻尺、輪ゴム、セロハンテープ、板、発射台

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 風の力で物を動かす活動を通して、問題を見だし、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★風の力で動くものを話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活やこれまでの学習で、風の力で動く物に興味や関心をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> こいのぼりは風が吹くと空を泳いでいるようだった。 自分たちも風の力で何かを動かしてみたい。 ほかけ車を作る。 <p>2 ほかけ車を走らせて、調べたいことを見付ける。</p> <p>★ほかけ車を走らせて気付いたことを話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ほかけ車を走らせる。 気付いたことについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> うちわで強くおおぐと遠くまで進んだ。 風の強さによって、ほかけ車の動く距離が変わるのか調べたい。 <p>3～4 決まった位置や方向に風を送り、風の強さによってほかけ車の動く距離を調べる。</p> <p>★風の強さによって、ほかけ車が動くきよりは、どのようにかわるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 風の強さを変えたときのほかけ車が動く距離を予想し、確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> うちわであおいたときに強い風を当てると、ほかけ車が遠くまで動くと思う。 弱い風と強い風を当てて、ほかけ車の動く距離を調べる 実験の結果を学級全体で一つの図に整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 予想通り、強い風を当てるとほかけ車は遠くまで動いた。 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 弱い風を当てるとほかけ車が動く距離は短くなり、強い風を当てると、ほかけ車が動く距離は長くなる。 風の力は、物を動かすことができ、風の力によって、物の動き方は変わる。 <p>5 ゴムの力で物を動かす活動を通して、問題を見だし、単元の学習課題をつかみ、学習の計画を立てる。</p> <p>★ゴムの力で動くものを話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴムの伸び縮みを体感して気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 引っ張った分だけゴムは元に戻ろうとする。 日常生活やこれまでの学習で、ゴムの力で動くものに興味や関心をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> わりばし鉄砲を作ったことがある。 自分たちもゴムで何か作ってみたい。 ゴム車を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 風車や凧あげなどの風で動く物を挙げてもよい。 生活科で活動した内容や遊びを想起させる。 教師が製作しておいたほかけ車を提示して、製作意欲を高めさせる。 <p>【評】 風の力で動くものを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 風を発生させる物のうちわを用意する。 あおぎ方による風の強さの変化を体感させ、ほかけ車の進む距離と関連付けて考えさせる <p>【評】 ほかけ車を走らせる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの気付きや話し合いなどを基に、根拠を明確にして予想するように促す。 教科書P. 57～P. 58のノートを例にして、予想や調べ方の書き方、結果の記録の仕方を示しておく。 風を送るには送風器を使うと良いことを押さえる。 (安全) 送風器の中に指を入れないように注意する。 送風器を置く位置とほかけ車をスタートさせる位置を決めてから実験させる。 予想と結果や、友達の結果と比べることによって共通点など捉え、結論を整理させる。 <p>【評】 ほかけ車が動いた距離を測定する活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (安全) 強く引きすぎるとゴムが切れて危ないので注意する。 生活科で活動した内容や遊びを想起させる。 ゴム車を使った活動は、「ものづくり」として扱う。

- 6 ゴム車を走らせて調べたいことを見付ける。
★ゴム車を走らせて気付いたことを話し合おう。
○ゴム車を走らせる。

- ゴム車を走らせて気付いたことを話し合う。
・ゴムを伸ばすほど車は遠くまで動いた。
・ゴムの伸ばし方によって、ゴム車が動く距離を調べてみたい。

7～8 ゴムを伸ばす長さを変えたときのゴム車が動く距離を調べる。

- ★ゴムをのばす長さによって、ゴム車が動くきよりは、どのようにかわるのかな。
○ゴムの伸ばす長さを変えたときのゴム車が動く距離を予想し、確かめる調べ方を考える。
・ゴムを長く伸ばすと、ゴム車が遠くまで動くと思う。

- ゴムを伸ばす長さを5cmと10cmにして、ゴム車の動く距離を調べる。

- 実験結果を学級全体で一つの図にして整理する。
・予想通り、ゴムを長く伸ばすとゴム車は遠くまで動いた。
○分かったことをまとめる。
・ゴムを短く伸ばすと、ゴム車が動く距離は短くなり、ゴムを長く伸ばすと、ゴム車が動く距離は長くなる。
・ゴムの力は、物を動かすことができ、ゴムの力の大きさによって、物の動き方は変わる。

9 ゴム車を使ったゲームを行い、単元のまとめをする。

- ★ゴム車を使ってゲームをしよう。

- ゴム車を決まったところにとめる、「ピットリパーキングゲーム」を行う。
・ゴムを伸ばす長さを5cm～10cmの間にすると止められた。
○「たしかめ」に取り組む。

- ・教師が製作しておいたゴム車を提示して、製作意欲を高めさせる。

【評】ゴムの力について話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ・（安全）顔を近づけたり、ゴムを伸ばしすぎたり、人がいる方には向けないことに注意する。
・ゴム車は伸びたゴムが元に戻ろうとする力で走ることを押さえる。
・ゴム車が動く距離とゴムを伸ばす長さを関連付けて考えさせる。

【評】ゴム車が動く距離を調べる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ・前時までの気付きや話し合いなどを基に、根拠を明確にして予想するように促す。

- ・教科書のP. 61～P. 62のノート为例にして、予想や調べ方の書き方、結果の記録の仕方を示しておく。

- ・（安全）顔を近づけないこと、ゴムが切れるほど強く引きすぎないこと、人がいる方には向けないことを注意する。
・ゴム車をスタートさせる位置を同じにするために、ゴムを伸ばした状態でゴム車の先端がスタート位置にくるように、発射台を前後させて調整する。
・予想と結果や、友達の結果と比べることによって共通点など捉え、結論を整理させる。

【評】ゴムの長さによってゴム車が動く距離を調べる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教科書P. 63の「チャレンジ」は取り扱う。また、プログラミング的思考で扱うことができる。
・ゴムの伸びとゴム車が動く距離について体験的に確認させる。

【評】ゴム車を使ったゲームの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

【 備 考 】

・「風やゴムの力の働き」「光の性質」「音の性質」「磁石の性質」「電気の性質」の中で3種類以上のものづくりを行うものとする。ただし、本単元では教科書P. 59～のゴム車を使った活動を「ものづくり」として取り扱っている。

・教科書P. 63の「ねらったところにゴム車を止めてみよう」は、プログラミング的思考で取り扱うことができる。

< 関連 >

- ・第5学年「ふりこ」

単元名 葉を出したあと

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 植物の育ち方を理解するとともに、器具などを扱って観察を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
 (3) 身近な植物の様子について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050105_001

【準備等】 虫眼鏡、ものさし、タブレットパソコンやデジタルカメラ

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 育てている植物をこれまで観察したときと比較して植物の成長のきまりを捉える。 ○ハウセンカの育ちについて話し合う。 ・草丈がのびて大きくなった。 ★ハウセンカは前とくらべてどのように育っているのかな ○大きく育ってきたハウセンカを調べる。 ○結果を整理する。 ・草丈がのびて、葉の数も増えた。 ○分かったことをまとめる。 ・ハウセンカは前と比べて、草丈が伸びて葉の数が増えている。 ・ヒマワリもハウセンカと同じように成長している。 2 花が咲いた様子を観察して植物の成長のきまりを捉える ○ハウセンカの育ちについて話し合う。 ・前にはなかった花が咲いている。 ★ハウセンカは前とくらべてどのように育っているのかな ○花を咲かせたハウセンカを調べる。 ○結果を整理する。 ・赤くて、花びらがひらひらしていた。 ○分かったことをまとめる。 ・ハウセンカは、前と比べてさらに草丈が伸びて、花が咲いている。 ・ヒマワリもハウセンカと同じように成長している。	・花が咲く前の草丈等の成長している時期に観察させる。 ・毎日の世話で気付いた変化を話し合わせて、関心をもたせる。 ・前回の観察と比べて、全体の形、色、草丈、葉の数などを視点として観察させる。 ・ヒマワリの育ちについても観察させる。 【評】植物の成長を調べる活動を通して、「知識・技能」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・花が咲いた時期を捉えて観察させる。 ・毎日の世話で気付いた変化を話し合わせて、関心をもたせる。 ・前回の観察と比べて、全体の形、色、草丈、葉の数などを視点として観察させる。 ・ヒマワリの育ちについても観察させる。 【評】植物の成長を調べる活動を通して、「知識・技能」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

・第4学年「季節と生き物」

単元名 **こん虫の世界**配当時間 **6時間**

- 単元の目標 (1) 昆虫の体のつくりや周辺の環境との関わりを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 身近な昆虫の様子について、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 身近な昆虫の様子について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050201_001

【準備等】タブレットパソコンやデジタルカメラ、虫眼鏡、透明な容器、昆虫図鑑

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身近にいる昆虫探しを通して、問題を見いだし、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ バッタやトンボの写真を基に、気付いたことを話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・ トンボは目が大きい。 ・ バッタやトンボにもチョウと同じように目や口がある ★ バッタやトンボを探して、体のつくりを見よう。 ○ 野原や校庭でバッタやトンボを捕まえる。 ○ バッタやトンボの体のつくりを見て、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ バッタやトンボもチョウと同じように羽や脚がある。 <p>2～3 バッタやトンボなどの成虫の体のつくりの観察を通して、頭、胸、腹の三つの部分からできていて、胸に6本の脚があることを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チョウの体のつくりを振り返る。 <p>★ バッタやトンボなどのこん虫は、チョウと同じような体のつくりになっているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ バッタやトンボなどの体のつくりを予想し、予想を確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ バッタやトンボもチョウと同じような体のつくりだと思う。 ・ バッタやトンボの体が、頭、胸、腹の三つからできているか調べたい。 ○ バッタやトンボなどの昆虫の体のつくりを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 頭に目や口、触角があるか。 ・ 胸に6本の脚があるか、羽があるか。 ・ 腹にいくつかの節があるか。 ○ 調べた結果を整理する <ul style="list-style-type: none"> ・ バッタやトンボも、チョウと同じように体が、頭、胸、腹の三つの部分からできている。 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ バッタやトンボなどの昆虫は、チョウと同じような体のつくりになっている。 ・ 昆虫の体は、頭、胸、腹の三つの部分からできていて頭に目や口があり、胸に6本の脚があり、腹にいくつかの節がある。 ○ ダンゴムシやクモなどは、昆虫の体のつくりとは違うことを確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ダンゴムシやクモは、昆虫の仲間ではない。 <p>4～5 昆虫がいる場所や食べ物について調べ、周辺の環境との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ モンシロチョウのいる場所や食べ物について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼虫は、キャベツ畑でキャベツを食べていた。 ・ 成虫は、花壇で花の蜜をすっていた。 ★ こん虫などは、どのような場所にて、何を食べているのかな。 ○ 昆虫がいる場所と食べ物について予想し、自分の予想を確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ バッタは、野原にいたから草を食べていると思う。 ・ 昆虫などがいる場所や食べ物を図鑑で調べるとよい。 ○ 昆虫などがいる場所や食べ物を調べる。 ○ 調べた結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ チョウは、野原にいて野原に咲いている花の蜜を吸う ・ トンボやカマキリは、野原にいて野原にいる昆虫を食べている。 ○ 分かったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (安全) 野外に出るときは、事前に安全確認をしておく。 ・ チョウと比べて体のつくりを見るとよい。 <p>【評】 バッタやトンボを探して、体のつくりを見る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チョウの成虫は、頭、胸、腹の三つの部分からできていて、脚が6本あることを振り返る ・ チョウの体のつくりと比較させながら考えさせるとよい。 ・ 「体の分かれ方」、「脚の数」、「脚や羽がついているところ」に着目させる。 <p>【評】 バッタやトンボなどの体のつくりを調べる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼虫や成虫のいる場所と食べ物の違いを比較させながら考えさせる。 ・ バッタやトンボがどこにいたのかを想起させ食べ物を考えさせるとよい。 ・ 教科書P. 86～P. 88の写真や図鑑を活用して調べさせるとよい。 ・ 昆虫の生活するところは、食べ物と関係があることを捉えさせる。 ・ 昆虫などの生き物は、植物の葉、花の蜜、落

・昆虫などは、野原や林、池などにいて植物を食べたり他の昆虫を食べたりしている。

ち葉などを食べて、その周りをすみかにしており、植物と関わり合って生きていることを押さえる。

【評】昆虫がいる場所や食べ物を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

6 単元のまとめをする。

★たんげんのふり返りをしよう。

○「たしかめ」に取り組む。

【 備 考 】

<関連>

・第4学年「季節と生物」「人の体のつくりと運動」

単元名 花をさかせたあと

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 植物の育ち方を理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 身近な植物の様子について、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 身近な植物の様子について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050202_001

【準備等】虫眼鏡、ものさし、タブレットパソコンやデジタルカメラ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 育てている植物を観察して花が咲いた後に実ができる様子を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホウセンカの育ちについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・花が散って緑色のふくらみがある。 <p>★ホウセンカは前とくらべてどのように育っているのかな</p> <p>○実をつけたホウセンカを調べる。</p> <p>○結果を整理する。 花が咲いた後に実ができていた。</p> <p>○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホウセンカは、前と比べて草丈はあまり伸びなくなり花がなくなって実ができています。 ・ヒマワリもホウセンカと同じように実ができ、種ができています。 </p> <p>2 植物の育ちには一定の順序があることを捉える。</p> <p>★植物は、たねからどのように育つのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○育てている植物の世話を通して気付いたことを話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・花がいっぱい咲いた。 ・たくさん種がとれた。 ○ホウセンカやヒマワリの育ちについてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・種から子葉が出た。 ・草丈が伸びて花が咲いた。 ・咲いた後に実ができ、種を残した。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホウセンカやヒマワリなどの植物は、種から子葉を出た後葉が出る。そして、草丈が伸びて葉が茂り花が咲く。 ・花が咲いた後に実ができて種を残して枯れていく。 ○マリーゴールドやナスは子葉を出した後、どのように育つか考える。 ○「たしかめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の世話で気付いた変化を話し合わせて、関心をもたせる。 ・花があった部分に着目して観察するように促す。 ・前回の観察と比べて、全体の形、色、草丈、葉の数、実の形や色などを視点として観察させる。 ・ヒマワリの育ちについても観察させる。 ・一つの花からたくさんの種を残して枯れていくことを押さえる。 <p>【評】植物の成長を調べる活動を通して、「知識・技能」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの観察記録を振り返りながら結果をまとめさせる。 ・1粒の種からたくさんの種ができたことや植物が枯れていくことを押さえる。 ・これまでの記録を基に結果をまとめさせる。 <p>【評】植物の育ちをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「季節と生き物」

単元名 太陽と地面

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 影と太陽の位置関係や地面の温められ方を理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 太陽と地面の様子との関係について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050203_001

【準備等】 下敷き（透明ではないもの）、木の棒、チョーク、遮光板、方位を書いたビニルシート、模造紙（東西南北の方位を書いておく）、方位磁針、ペットボトル（砂を入れておく）、紙テープ、おもり、ものさし、マジック、温度計（デジタル温度計、放射温度計）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 影を作る活動や太陽の見え方を比較する活動を通して、問題を見だし、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海水浴場などの写真から、日常で日陰をつくっている経験について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 日差しが強いときは、手で影をつくる。 ★下敷きをつかってじめんにかげをつくり、かげができる場所を話し合おう。 下敷きを使って、地面に影をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 太陽と目印の間に下敷きをかざすと、うまく影ができる。 太陽の光を遮って影ができる。 校舎や木の影は、校舎や木が太陽の光を遮っているの影の中から太陽が見えないことを確かめる。 物で太陽の光が遮られると、影はどの向きにできるか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 下敷きは、太陽の反対側に影ができた。 校舎の影も太陽の反対側にできるか調べるといいよ。 <p>2 物で太陽の光が遮られると、影は太陽の反対側にできることを捉える。</p> <p>★もので太陽の光がさえぎられると、かげは太陽の反対がわにできるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の予想を確認し、確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 校舎や鉄棒、木の影を調べたい。 校舎の影が太陽の反対側にできるのか調べたい。 影の向きと太陽の向きを調べる。 観察の結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 校舎の影も鉄棒の影も長さは違うけど、向きは同じ。 予想通り、物で太陽の光が遮られると、影は太陽の反対側にできていた。 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 物で太陽の光が遮られると、影は、太陽の反対側にできる。 教科書P.106の写真を見て、太陽がどの向きに見えるか考える。 <p>3～4 時間が経つと影の位置が変わることに興味をもち、影の向きが変わることに問題を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎や鉄棒の写真を比べてみて違うところを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 時間が違うと影の位置も違うのではないかな。 太陽の向きが関係しているのかな。 ★時間がたつと、かげの向きがかわるのは、太陽の向きがかわるからかな。 影の向きが変わる理由について予想し、予想を確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 異なる時間の影の向きと太陽の向きを調べて、関係を確かめるといい。 方位磁針の使い方を知る。 午前、正午、午後に影の向きと太陽の向きを調べる。 観察の結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 影はいつも太陽の反対側にできていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日なたと日陰の様子を比較させることで、明るさや温かさの違いに気付かせ、学習意欲を高めさせる。 太陽と下敷きと影の位置関係に着目させる。 影を作りたい場所に目印をつけてから行わせる。 （安全）遮光板の使い方を押さえ、安全な観察方法で常に確認できるように注意する。 <p>【評】 下敷きの影づくりの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察する時刻に日なたと日陰になる場所を事前に調べておく。 第3時～第4時で、時間と影の向きについて学習するため、第2時で鉄棒の影の向きに印をつけておくとうい。 （安全）太陽を見るときは、必ず遮光板を使う。 結果を太陽の向きと影の向きという視点で整理して共有させる。 <p>【評】 影の向きと太陽の向きを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間と影の向きについて比較して差異点を見つけ問題を見ださせる。 方位磁針は鉄などが近くにあるところを避けて使用させる。 観察開始から終了までずっと日なたの場所を選ぶようにさせる。 （安全）太陽を見るときは必ず遮光板を使う <p>【評】 影の向きとその時の太陽の向きを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べた結果を整理して、共有させる。

<ul style="list-style-type: none"> ・影の向きが変わるのは、太陽の向きが変わるからだ。 ○分かったことをまとめる。 ・時間が経つと、影の向きが変わるのは、太陽の向きが変わるからです。 ・太陽は、東から南を通り西へ沈む。影は、西の方から東の方へと向きが変わる。 <p>5 日なたと日陰の地面の温かさなど比較する活動を通して太陽と地面の関係について問題を見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日なたの地面と日陰の地面を触って比べる。 ・日なたと地面が温かいのは、太陽の光が当たっているから。 ・太陽に光で地面が温められているから。 ★日なたの地面が日かげの地面よりもあたたかいのは、太陽の光によって地面があたためられるからかな。 ○日なたの地面が日陰の地面よりも温かい理由を予想し、予想を確かめる調べ方を考える。 ・太陽の光が地面を温めていたら、朝よりも昼の方が温かいはず。 <p>○温度計の使い方を知る。</p> <p>6 地面は太陽によって温められ、日なたと日陰での地面の温かさなどの違いを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★朝と昼に、日なたと日かげで地面の温度を調べよう。 ○前時の予想を振り返り、温度計を使って朝と昼に日なたと日陰の地面の温度を調べる。 ○結果を整理する。 ・日なたは、18℃から23℃に上がって、日陰は15℃から17℃に上がった。 ・朝も昼も日なたの方が地面の温度が高い。 ・日なたの地面の温度の方が大きく上がっている。 ○分かったことをまとめる。 ・日なたの地面が日陰の地面よりも温かいのは、太陽の光によって地面が温められているからである。 <p>7 単元のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★たんげんのふり返りをしよう。 ○「たしかめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽の位置の変化を押さえる。 <p>【評】影の向きとその時の太陽の向きを調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・日なたと日陰の地面の様子の違いから問題を見いださせる。</p> <p>・体感を数値化して表す必要性を感じさせ、温度計の使い方を押さえる。</p> <p>【評】日なたの地面と日陰の地面の温かさを調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（安全）温度計はガラスでできていて壊れやすいので、使っていないときはケースにしまわせる。 ・（安全）地面の温度を測るとき、温度計で地面を掘らないようにさせる。 <p>・観察の手順と注意事項を確認させる。</p> <p>・日光の当たり方による局所的な温度の違いについて考えさせる。</p> <p>【評】日なたと日陰の地面の温かさを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
--	--

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「天気による気温の変化」，「雨水と地面」，「月の位置と変化」，「水のゆくえ」

単元名 光

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 光の直進や反射，光を当てた物の明るさや暖かさなどを理解するとともに，器具などを正しく扱って実験を行い，その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 光の性質について，差異点や共通点を基に問題を見だし，表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 光の性質について，進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとするとともに，学んだことを生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050204_001

【準備等】鏡，的，三角コーン，黒い紙，段ボール紙，両面テープ，放射温度計や棒温度計，虫眼鏡

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 光の当たり方を調べる活動を通して，問題を見だし，単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 光がはね返った経験を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 下敷きに当たった光が天井を明るくした。 ○ 鏡を使うと，日光をはね返すことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鏡を使って，日陰に光を当ててみたい。 ★ 光のまと当てをしよう。 ○ 光の的当ての仕方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日陰に高い的と低い的を作る。 ・ 的の前に障害物を置く。 ○ 的当てをして気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 低い的は障害物がじゃまだった。 ・ 鏡ではね返した光はどう進むのだろう。 <p>2～3 光の進み方を調べ，光がまっすぐに進むことを捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の光の的当てから，調べたいことを振り返る。 ★ かがみではね返した光は，どのように進んでまともに当たるのかな。 ○ 光の進み方について予想し，自分の予想を確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鏡ではね返した光はまっすぐ進むと思う。 ・ ボールのように弾んで山なりに進むと思う。 ・ 光の道が見えるように調べるとよい。 ○ 日光を鏡ではね返して，光の進み方を調べる。 ○ 調べた結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鏡からのまで光がまっすぐ進んでいた。 ・ 地面にはわせると，光は弾まずにまっすぐな光の筋が見えた。 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鏡ではね返した光は，まっすぐ進んで的に当たる。 ○ 教科書P.124の写真を見て，光の見え方について考える <ul style="list-style-type: none"> ・ 木漏れ日 ・ ブラインドから差し込む光 <p>4～5 光を重ねて当てたところの暖かさについて，温度計を使って調べ，鏡の数を増やして光を重ねるほど暖かくなることを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 鏡ではね返した光を重ねて当ててみる。 ○ 光を重ねてみて気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鏡2枚で光を当てると1枚よりも明るくなった。 ・ 明るくなったところは暖かくなっていると思う。 ★ かがみではね返した光を重ねて当てると，暖かくなるのかな。 ○ 光を重ねて当てたとき，明るくなったところの暖かさについて予想し，自分の予想を確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 光を重ねるともっと暖かくなると思う。 ・ 鏡の枚数を変えて，温度を測るとよい。 ○ 鏡ではね返した光を重ねて当てて，明るくなったところの暖かさを調べる。 ○ 調べた結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 光を重ねると，1枚よりも暖かくなった。 ・ 光をたくさん重ねていくと，温度がだんだん高くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鏡で日光をはね返す様子を，教師が演示し，光の的当てへの意欲付けをする。 ・ 日光は反射させることができることを押さえる。 ・ 的の前に障害物を用意し，同じように日光を当てても低い的には当たらないことから，光の進み方に疑問をもたせる。 ・ (安全) 目を痛めないように，鏡ではね返した光を人の顔に当てないようにさせる。 <p>【評】 光の的当てをする活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜその予想になったのかという理由を考えさせるとよい。 ・ 鏡と的の間に黒い紙を入れたり，光を地面にはわせたりして光がまっすぐ進んでいることを調べさせるとよい。 <p>【評】 光の進み方を調べる活動を通して，「知識・技能」，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 光が当たったところと当たっていないところの様子を比べたり，日なたと日陰で学習したことを想起させる。 ・ 明るさや暖かさに着目して考えさせるようにする。 ・ 鏡ではね返した光を重ねて当てると，より明るくなることを押さえる。 ・ 枚数による温度の違いを数値化して調べるとよいことに気付かせる。 ・ 光が当てていない日陰のところも調べるために，鏡0枚も調べる必要があることを気付かせる。 ・ 記録した結果を表にしてまとめると温度の変化の傾向を読み取りやすくなる。

- 分かったことをまとめる。
 - ・鏡ではね返した光を重ねて当てると、光を重ねるほどより暖かくなる。
- 6 虫眼鏡で日光を集めて当てたところを小さくするほど、より明るく暖かくなることを捉える。
 - 虫眼鏡は日光が集められることを知る。
 - ★虫めがねで日光を集めて当てると、明るさやあたたかさは、どうかわるのかな。
 - 虫眼鏡で日光を集めて当てたときの明るさや暖かさを予想し、自分の予想を確かめる調べ方を考える。
 - ・虫眼鏡で日光を集めて当てると明るくなって暖かくなと思う。
 - 虫眼鏡で日光を集めて当てて、明るさや暖かさを調べる
- 調べた結果を整理する。
 - ・光を集めたときのように、明るくなった。
 - ・紙が焦げるほど熱くなった。
- 分かったことをまとめる。
 - ・虫眼鏡で日光を集めて当てると、光を当てたところを小さくするほど、より明るくなる。また、虫眼鏡で光を当てたところを一番小さくしたときには、紙が焦げるぐらい熱くなる。
- 7 単元のまとめをする。
 - ★たんげんのふり返りをしよう。
 - 「たしかめ」に取り組む。

【評】光を重ねて暖かさを調べる活動を通して「知識・技能」，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・晴れていても、太陽が雲で遮られていると日光を集めることはできないため、日光が出ている日を選んで実験をする。
- ・虫眼鏡で日光を集めることができる様子を教師が演示し、興味をもたせる。

・鏡で光を重ねて当てたときの様子のことを関係付けて予想させる。

- ・（安全）目を痛めるので、虫眼鏡で太陽を見ないようにさせる。
- ・（安全）虫眼鏡で集めた光を人の体や衣服、生物に当てないようにさせる。
- ・（安全）煙が出てきたら、光を当てのをやめる。

【評】虫眼鏡で日光を集めて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

- ・「風やゴムの力の働き」「光の性質」「音の性質」「磁石の性質」「電気の性質」の中で三種類以上のものづくりを行うものとする。

<関連>

- ・中学校第1学年「光と音」

単元名 音

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 音が出たり伝わったりするときの物の震えを理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 音の性質について、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 音の性質について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050205_001

【準備等】お菓子などの缶、木の棒、パット、ビーズや小さく切った紙、紙コップ、糸、つまようじ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 音が出ている物に触る活動を通して、問題を見だし、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音が出る時と出していない時の様子について振り返り、音を出したときの経験について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 大太鼓の皮を手で触れると、音を止められた。 音を止めるとき、楽器を触ると手がびりびり感じた。 ★音が出ているものに手でさわってみよう。 音が出ている物に触る。 <ul style="list-style-type: none"> 強く叩いて大きな音を出すと、手に感じる震えが大きかった。 音の大きさによって、震えがどう変わるのか調べたい <p>2 音の大きさと物の震え方の関係について予想し、確かめる方法を考えて結論を導く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時で行った実験を振り返る。 ★音の大きさによって、音が出ているもののふるえ方は、どのようかわるのかな。 木の棒で缶を叩いて音を出した経験から、音の大小と物の震え方の関係について予想し、確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 大きい音を出したとき感じる震えが大きかったから、震えが大きいと思う。 小さい音と大きい音を出して震えを比べるといい。 缶の底が上になるようにパッドの上に置き、ビーズを載せて小さい音や大きい音を出して音が出ている物の震え方を調べる。 結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 大きい音を出すとビーズが大きく動いた。 大きい音を出すと、物の震えも大きくなる。 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 小さい音を出したときは、音が出ている物の震えが小さく、大きい音を出したときは、音が出ている物の震えが大きくなる。 震えていないように見える物でも、音が出ている物は震えているか確かめる。 <p>3 糸電話で話をする活動を通して、問題を見だし、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 糸電話を知る。 ★糸電話を作って話をしよう。 糸電話を作る。 糸電話をして気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 声を出すと話す方の紙コップの底が震えていた。 話す方の紙コップの震えが、聞く方の紙コップに伝わるのかな。 <p>4 糸電話で音が伝わる仕組みについて予想し、確かめる方法を考えて結論を導く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の実験を振り返る。 ★糸電話では、音がつたわるとき、話すほうの紙コップのふるえが聞く方の紙コップにつたわるのかな。 音が伝わる時、震えが伝わるのか予想し、確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 音が出ている物は震えていたから、音が伝わる時は震えが伝わると思う。 ビーズを使って紙コップの震え方を調べるとよい。 糸電話の聞く方の紙コップの底が上になるようにして、 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器を叩いて音を出す共通の体験をもたせたい。 身の回りにある物を用意し、子どもに提示する。 物を叩く強さを変えて、違いを感じさせる。 <p>【評】音が出ている物に触る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物の震えが見えるように缶の上にビーズや小さく切った紙を載せて調べるとよい。 <p>【評】音が出ている物の震え方を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーカーなどから音が出るとき、それが震えていることを取り上げることを通して、日常生活と関連付ける。 糸電話を使った活動は「ものづくり」として取り扱う。 児童が糸電話を作って話してみる共通の体験を取り入れる。 <p>【評】糸電話を作ったり話したりする活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> 糸が震えを伝え、音が伝わるのではないかと問題を見いださせる。 音が伝わる時には震えが伝わるのではないかという考えをもたせる。 第2時の実験を基に、調べ方を考えさせる。

底にビーズを載せて調べる。

- 結果を整理する。
 - ・ 小さい声よりも大きい声の方がビーズが大きくはねた
- 分かったことをまとめる。
 - ・ 糸電話では、音が伝わる時、話す方の紙コップの震えが聞く方の紙コップに伝わる。
 - ・ 音が物を伝わる時、物が震えていて、大きい音が伝わる時は、音を伝える物の震えが大きくなる。
- 「たしかめ」に取り組む。

- ・ 糸電話で声を出したときの聞く側での震えの様子、声の大きさと震えの大きさの関係を整理する。
- 【評】音が伝わる時の紙コップの震え方を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

・ 「風やゴムの力の働き」「光の性質」「音の性質」「磁石の性質」「電気の性質」の中で三種類以上のものづくりを行うものとする。ただし、本単元では教科書P.137～の糸電話を使った活動を「ものづくり」として取り扱っている。

<関連>

- ・ 第5学年「ふりこ」
- ・ 中学校第1学年「光と音」

単元名 ものの重さ

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 形を変えた物や同じ物の重さを理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 物の重さについて、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050206_001

【準備等】粘土、粘土板、新聞紙、キッチンスケール、ラップフィルムや紙、アルミニウム箔、同じ体積で重さが違う物（鉄、アルミニウム、ゴム、木、プラスチック）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 物の形と重さの関係について、問題を見だし、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 粘土の形を変えて、元の粘土と比べて気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 形が変わった。 色は変わっていない。 重さは変わっているのかな。 ★元の形のねんどと形をかえたねんどを手にとって重さをくらべよう。 元の形の粘土と形を変えた粘土を手にとって重さを比べる。 <ul style="list-style-type: none"> 平らな形の粘土を持つと、元の形の粘土よりも軽く感じた。 形を変えると、重さが変わるのか。 <p>2～3 形を変えたときの重さを調べ、形は変わっても重さは変わらないことを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時で話し合ったことを振り返る。 ★形をかえると、ものの重さはかわるのかな。 物の形を変えたときの重さについて予想し、確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 平らな形は軽くなる。なぜかという、薄くなるから いくつかに分けると軽くなる。なぜかという、一つ一つが小さいから。 キッチンスケール（自動上皿てんびん）の使い方を知る 形を変える前と、形を変えた後の粘土の重さをはかって比べる。 粘土と同じようにして、新聞紙で調べる。 実験の結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 形を変えても同じ重さ（○g）だった。 いくつかに分けても同じ重さ（○g）だった。 新聞紙でも同じだった。 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 形を変えても、物の重さはかわらない。 ペットボトルをつぶすと重さはどうなるか調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 重さは変わらない。 <p>4 体積が同じで種類（材質）が違う物の重さについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> てんびんの使い方を知る。 大きさが同じで中が分からない物の重さをてんびんで比べる。 ★3つのものをてんびんにのせたときの様子を見て、重さについて話し合おう。 <ul style="list-style-type: none"> 1つ目と2つ目は同じ重さだった。 2つ目と3つ目は違う重さだった。 中の物が違うのかな。体積が同じでも、種類が違っても物の重さは違うのだろうか。 アルミニウムはくをはずして中の物を確認し、手にとって重さを比べる。 <ul style="list-style-type: none"> 体積が同じでも、物によって重さが違うのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土は複数に分けずに一つの塊にして、粘土の形のみを変えさせる。 粘土は形を変えることができること、最初は全て同じ重さにそろえた粘土であることを伝え、どの形が重く感じるかを比べさせる。 【評】形の違った粘土を持ったときの重さを比べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 前時の気付きや話し合い、手で持ったときの感覚などを基に予想するように促す。 教科書P.146の「算数とのつながり」で算数科の重さの単位の学習との関連を図る。 重さの単位は「グラム(g)」や「キログラム(kg)」で表すことを押さえる。 キッチンスケールで、ゼロ表示ボタンの意味を知らせ、使い方を押さえる。 キッチンスケールを用いて重さを数値化して比較できるようにする。 （安全）キッチンスケールの使い方として、決められた重さよりも重い物は載せない。 どの形に変えても重さは変わらないこと、形を変える前後での重さは変わらないという共通点を押さえる。 【評】物の形を変えて重さを調べる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。 てんびんで「釣り合っている」状態を演示しててんびんの使い方を押さえる。 大きさが同じ三つの物を用意し、そのうちの二つは種類が同じ物を準備しておく。 同じ体積の物を同じ大きさのアルミニウムはくで覆い、材質が見られないようにしておく 比較させて、質的な視点で問題を見いだせるようにする。 物の大きさを「体積」と押さえる。 【評】手にとって重さを比べる活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。

<p>5～6 体積が同じ物の重さを調べ、体積は同じでも種類が違 うと重さが違うことを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の実験を振り返る。 <p>★体積が同じでも、しゅるいがちがうと、ものの重さはち がうのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体積が同じで違う物の重さについて予想し、確かめる調 べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ体積でも種類が違えば、重さは違うと思う。 ・ キッチンスケールを使って調べるとよい。 ○ 同じ体積で種類が違う物の重さを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄、アルミニウム、ゴム、木、プラスチックなど ○ 実験の結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄は○ g で、木は○ g だった。 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体積が同じでも、物の種類が違っていると、物の重さは違う。 ○ 同じ体積にした塩と砂糖の重さの違いを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 塩は大さじ 1 で 20 g，砂糖は大さじ 1 で 9 g で違った <p>7 単元のまとめをする。</p> <p>★たんげんのふり返しをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 粘土の重さを調べた実験を想起させて、調べ方を考えさせるよい。 ・ 同じ体積で種類が違う物の重さをはかって比べさせる。 <p>【評】種類が違う物の重さを調べる活動を通して、「知識・技能」，「思考・判断・表現」を評価する。</p>
--	--

【 備 考 】

・教科書P.146の「算数とのつながり」で算数科の重さの単位の学習との関連付けて適切に処理できるようにする。

<関連>

- ・第5学年「物の溶け方」

単元名 電気の通り道

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 電気を通すつなぎ方や電気を通す物を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行いその結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 電気の回路について、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 電気の回路について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050301_001

【準備等】 乾電池（単3），豆電球，導線付きソケット，乾電池ホルダー，記録カード，クリップ，セロハンテープ，電気を通すかどうかを調べる物（鉄のスプーン，プラスチックのスプーン，1円玉，10円玉，わりばし，輪ゴム，ビニルテープ，はさみ，ガラスのおはじき，アルミニウム箔，工作用紙など）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 乾電池と豆電球をつないで明かりがつく活動を通して、問題を見いだし、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りで使われている電球の明かりや明かりをつけた経験などを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・乾電池を使って懐中電灯をつけたことがある。 ★かん電池，豆電球，どう線をどのようにつなぐと，明かりがつくのかな。 ○豆電球や，導線付きソケット，乾電池を使って明かりがつくときとつかないときを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・明かりがつくときは2本の導線を両方とも乾電池につないだとき。 ・どのようにつなぐと明かりがつくのか調べてみたい。 <p>2～3 乾電池の極を意識しながら豆電球と乾電池のつなぎ方を基に，明かりがつくかつかないかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時で行った実験を振り返る。 ★豆電球とかん電池をつないで，どのようなつなぎ方のときに明かりがつくか調べよう。 ○豆電球に明かりがつくつなぎ方を予想し，自分の考えをカードに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・導線を乾電池の両端につないだら明かりがつく。 ・導線を2本とも乾電池の同じ端につけても明かりがつくと思う。 ○豆電球と乾電池をつないで明かりがつくつなぎ方を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・赤の導線を＋極，黒の導線を－極 ・赤の導線を＋極，黒の導線を＋極など <p>4～5 乾電池の＋極と－極を導線で一つの輪のようにつなぐと明かりがつくことを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★豆電球とかん電池をつないで，明かりがつくときのつなぎかたをまとめよう。 ○前時の実験結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・乾電池の＋極と－極に導線を一本ずつつなげたら明かりがついた。 ○結果をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・導線の色を反対につないでも，乾電池の向きを反対にしても明かりがついた。 ・乾電池の＋極と－極にそれぞれ導線をつながないと明かりがつかない。 ○明かりがつかなかったつなぎ方をもう一度確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・乾電池の端に導線をつなぐと明かりがついた。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・乾電池の＋極，豆電球，乾電池の－極を導線で一つの輪のようにつなぐと，豆電球の明かりがつく。 ・明かりがつくのは，回路に電気が通るから。 <p>6 電気を通す物と通さない物があることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これから使用していく豆電球に関心がもてるように，日常生活で見られる明かりや電球を思い出させる。 ・「豆電球」，「ソケット」，「どう線」を押さえる。 ・回路になっている物となっていない物を用意する。 ・どのようにつなぐと明かりがつくのか興味をもたせ，つなぎ方を考えさせる。 <p>【評】 明かりがつくか調べる活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾電池の両端を極といい，＋極や－極をという言葉を使わせる。 ・乾電池には，極があることを知らせ，違いについても記録させるようにする。 ・（安全）豆電球などを使わないで，乾電池の二つの極を直接導線につながせないようにさせる。 ・明かりがついたつなぎ方とつかないつなぎ方を次時でまとめられるように整理させておく <p>【評】 豆電球と乾電池をつないで明かりがつくつなぎ方を調べる活動を通して，「知識・技能」，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明かりがついたときのつなぎ方を整理し，その後つかなかったときのつなぎ方を整理するなど分かりやすく整理する。 ・それぞれが調べた結果を見比べることによって，共通点や差異点を捉えられるようにする ・「回路」について押さえる。 ・教科書P.159の「回路が切れているとき」を確認し，つなぎ方が悪くないのにつかない場合は，もう一度点検させる。 ・乾電池の＋極と－極を変えても同じように明かりがつくことを捉えさせる。 <p>【評】 乾電池と豆電球をつないで豆電球に明かりがつくかについて考える活動を通して，「知識・技能」，「思考・判断・表現」を評価する。</p>

<p>★回路のとちゅうにどう線ではないものをつなごう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○回路の途中に新しい導線をつないでも電気が通ることを知る。 ○回路の途中にクリップや竹のものさしをつなぐと明かりがつく物とつかない物があることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・明かりがついたからクリップは電気を通すことが分かる。 ・どのようなものが電気を通すのか調べてみたい。 <p>7～8 電気を通す物と通さない物があることを捉え、金属は電気を通すことを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の実験を振り返る。 ★どのようなものが電気を通すのかな。 ○回路の途中につないでみたい物を考え、電気を通すか予想し、確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・クリップみたいにぴかぴかしているスプーンは電気を通すと思う。 ・ぴかぴかしていないプラスチックのスプーンは電気を通さないかな。 ・回路の途中にいろいろな物をつないで調べたい。 ○回路の途中にいろいろな物をつなぎ、どのような物が電気を通すのかを調べる。 ○結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・アルミニウムはくは電気を通した。 ・はさみは場所によって電気が通ったり通らなかったりした。 ○実験結果ではっきりしない物を再実験する。 ○実験の結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぴかぴかしている物だけ電気を通した。 ・鉄やアルミニウムでできた物が電気を通す。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄、アルミニウム、銅などの金属でできている物は電気を通す。 ・物には、電気を通す物と通さない物がある。 <p>9 電気は直接金属に触れることで電気の通り道ができることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スチール缶で電気を通したり通さなかったりすることを見せ、理由を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄なのに電気を通さないのはおかしい。どうしたらよいのだろう。 ★かんに電気を通すにはどのようにするとよいのかな。 ○スチール缶に電気を通す方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・電気を通さない物で覆われている。 ・スチール缶を削って調べてみる。 ○缶の表面を削って電気を通すか調べる。 ○結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・表面に削ってある物をはがしたら電気を通した。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・缶に電気を通すには、缶の表面に塗ってある、電気を通さないものを削るとよい。 <p>10 単元の振り返りをする。</p> <p>★たんげんのふり返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回路に別の物を挟む視点をもたせる。 ・導線ではない物をつないでも明かりがつくことに気付かせ、関心をもたせる。 ・電気を通さない物もあることに気付かせる。 <p>【評】電気を通す物について考える活動を通して、「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある物から決めさせる。 ・教科書P.162にあるように、予想を表にしておくことで、結果と比較しやすくなることを気付かせる。 ・電気を通す物を調べる活動を促す。 ・製品ではなく材質という見方をさせる。 ・エナメル線や導線の被膜などがあるため、電気を通す規則性を見付けて考えさせる。 ・素材の違いにも着目させる。 ・電気を通す物と、通さない物に分けて結果を整理させる。 ・「金属」を押さえる。 <p>【評】電気を通す物を調べる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの金属は電気を通すという実験結果から問題を見いださせる。 ・スチール缶の表面が金属かどうか着目して考えさせる。 ・（安全）紙やすりで削る際に、自分の手を削らないように注意させる。 <p>【評】缶に電気を通すことを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ものづくり」を行う場合は、教科書P.168「スイッチを作ってみよう」に取り組ませることが考えられる。
---	--

【 備 考 】

- ・「風やゴムの力の働き」「光の性質」「音の性質」「磁石の性質」「電気の性質」の中で三種類以上のものづくりを行うものとする。

< 関連 >

- ・第4学年「電流の働き」

単元名 **じしゃく**配当時間 **10 時間**

- 単元の目標 (1) 磁石に引き付けられる物や鉄の磁化、磁石の極の特性を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 磁石の性質について、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 磁石の性質について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを生活に生かそうとする。

標準的な展開例

03050302_001

【準備等】磁石（棒，U字型，フェライト，アルニコ，ネオジウム），目玉クリップ，たこ糸，画用紙，竹ひご，鉄の針金，セロハンテープ，鉄釘，竹のものさし，磁石につくかどうかを調べる物（鉄のスプーン，プラスチックのスプーン，はさみ，木のわりばし，輪ゴム，1円玉，10円玉，ビニルテープ，ガラスのおはじき，工作用紙，アルミニウムはく），セロハンテープ，方位磁針

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身の回りの物が磁石に引き付けられるかを調べる実験を通して，問題を見だし，学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りで磁石が使われている物を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に紙を貼るときに磁石を使った。 ・筆箱に磁石がついていた。 ・いろいろな物を磁石につけたいな。 ★じしゃくで魚つりゲームをしよう。 ○魚つりゲームをして気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄の骨の魚は釣れたが，竹ひごの魚は釣れなかった。 ・どのような物が磁石につくか調べてみたい。 <p>2 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の実験を振り返る。 ★どのようなものが磁石につくのかな。 ○磁石に引き付けられる物を予想し，予想を確かめる調べ方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・磁石に引き付けられる物を○，引き付けられない物を×で表に記録しよう。 ・鉄でできた物は磁石につくと思う。 ・金属でできた物は磁石につくと思う。 ・磁石に近づけて調べるとよい。 <p>3 予想を確かめる実験を行い，結果を整理し，規則性を見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の予想を振り返る。 ★じしゃくをものに近づけて，何がじしゃくにつくか調べよう。 ○磁石をいろいろな物に近づけて，どのような物が磁石に引き付けられるのかを調べる。 ○実験の結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・アルミニウムや銅には磁石がつかなかった。 ・鉄だけが磁石につく。 ・プラスチックや木は磁石につかなかった。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・物には磁石につく物とつかない物がある。 ・金属の中でも鉄でできている物は，磁石につく。 ○スチール缶の分け方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・磁石を使って，引き付けられる缶がスチール缶として分けられている。 <p>4～5 磁石と鉄との間が離れていても，鉄を引き付ける力が働くことを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○磁石をはさみに近づけたときのことを思い出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・はさみは鉄で覆われている部分に磁石がついた。 ・電気と違って，磁石の力は離れていても働くのかな。 ★はなれていても，じしゃくは鉄を引き付けることができるのかな。 ○離れていても磁石の力が働くのか予想し，確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・離れていても磁石の力は働く。なぜなら，鉄に覆われた部分も磁石についたからです。 ・磁石が物につかないように近づけて調べるとよい。 ○磁石と鉄の間をあけて，磁石が鉄を引き付けるか調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから調べていく磁石について関心がもてるように，身の回りで使われている磁石や磁石を使った経験を思い出させる。 ・（安全）教科書P.175を参照し，カードや切符など磁石を近づけてはいけない物があることを伝える。 <p>【評】魚つりゲームなどの活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気の通りの道の学習を基に，材質に目を向けさせる。 ・調べる物は「電気の通り道」で電気を通すかどうかを調べたときと同じ物を中心に取り上げる。 ・予想を表にしておくことで，結果と比較しやすくなることを気付かせる。 <p>【評】磁石に引き付けられる物を考える活動を通して，「思考・判断・表現」，「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質の違うスプーンや場所によって材質が違うはさみなどを取り上げて規則性を導き出す ・磁石に引き付けられる物と引き付けられない物を表を使って分類し，結果を整理させる。 <p>【評】磁石につく物を調べる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磁石が離れていても鉄を引き付ける働きが働くのか考えさせる。 ・予想と実験方法が子どもたちから考えられるようにさせる。 ・予想に対しての理由も「なぜなら，○○のときは，～だったからです。」のように考えさせる。

- 実験の結果を整理する。
 - ・ 間をあけても鉄を引き付けた。
 - ・ 磁石を遠ざけると引き付ける力が弱くなった。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・ 離れていても磁石は鉄を引き付ける。
 - ・ 磁石が鉄を引き付ける力は、鉄に近付けるほど強くなる。
 - 6 磁石につけた鉄に関する予想を確かめ、磁石につけると鉄は磁石になることを捉える。
 - 磁石にクリップをつけると、その下にさらにクリップがつながった様子を見て想起させる。
 - ・ 磁石についた鉄のクリップが磁石になったのかな。
 - ★ じしゃくにつけると、鉄はじしゃくになるのかな。
 - 磁石に引き付けられたクリップが磁石の働きをもつようになったのか予想し、予想を確かめる調べ方を考える。
 - ・ 磁石になる。なぜなら、磁石についた鉄のクリップに他のクリップがついたから。
 - 磁石についたクリップが磁石になったか調べる。
 - 結果を整理する。
 - ・ 鉄や他の砂鉄がついた。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・ 磁石につけると鉄は磁石になる。
 - 7～9 磁石同士を近付けたときの様子を比較しながら、同じ極同士は退け合い、違う極同士は引き合うことを捉える。
 - 棒磁石を鉄のクリップに近づけてクリップの引き付け方を調べる。
 - ・ 棒磁石のN極もS極も鉄がよくついた。
 - ・ 2つの磁石は極同士が強く引き合うか調べたい。
 - ★ 2つのじしゃくのきょくどうしを近づけるとどうなるのかな。
 - 2つの磁石同士を近付けたときの様子を予想し、予想を確かめる調べ方を考える。
 - ・ 磁石の極に鉄がついたから、極同士を近づけるとさらに引き合う。
 - ・ N極とS極と名前がついているから極によって引き付け方が違う。
 - 磁石の同じ極同士、違う極同士で比較しながら調べる。
 - 実験の結果を整理する。
 - ・ 同じ極同士は離れていった。
 - ・ 違う極同士は引き合った。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・ 2つの磁石の極同士を近づけると、違う極同士は引き付け合い、同じ極同士では退け合う。
 - 棒磁石を水に浮かべ、自由に動くようにするとどうなるか調べる。
 - ・ N極が北、S極が南を指す。
 - 調べた結果を整理する。
 - ・ 磁石はいつも決まった向きを向いて止まった。
 - 方位磁針の針は鉄でできていて、北と南を指す道具として使用することを知る。
- 10 単元の振り返りをする。
 - ★ たんげんのふり返りをしよう。
 - 「たしかめ」に取り組む。

【評】 磁石が鉄を引き付けるか調べる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。

・ クリップ同士がつながっていることに疑問をもたせる。

・ 実験の手順と注意事項を確認する。

【評】 鉄が磁石になるか調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ どちらの極も鉄を引き付けることから、問題を見いださせたい。

・ 「極」、「N極」、「S極」を押さえる。

・ 磁石同士が近づくことを「引き合う」、離れていくことを「退け合う」ことを押さえる。

・ どのような組み合わせで調べたらよいのか確認させる。

・ 全ての組み合わせについて結果を整理させ、確かめさせる。

【評】 磁石の極同士を近づけて確かめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。

・ 教科書P.187の「チャレンジ」は取り扱う。

・ 磁石同士の影響や鉄の影響がないように、近くに磁石や鉄でできた物がないようにして行う。

・ 教科書P.187のように、方位を書いた紙を下に置いて、方位を意識させ実験させる。

【評】 棒磁石を水に浮かべて調べる活動を活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

・ 「風やゴムの力の働き」「光の性質」「音の性質」「磁石の性質」「電気の性質」の中で三種類以上のものづくりを行うものとする。

< 関連 >

・ 第4学年「電流の働き」

単元名 作って遊ぼう

配当時間 3時間

単元の目標

(3) 電気や磁石の性質について、学んだことをおもちゃ作りに生かそうとする。

標準的な展開例

03050303_001

【準備等】磁石、豆電球、単3形の乾電池、導線付きソケット、導線、ものづくりの材料

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 今まで学習してきた電気や磁石の性質について振り返り単元の学習課題をつかみ、どのようなおもちゃを作るか計画を立てる。</p> <p>★電気やじしゃくのせいしつを使ったおもちゃ作りの計画を立てよう。</p> <p>○これまで学習してきた電気や磁石の性質を振り返る。</p> <p>〈電気〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回路ができると電気が通って明かりがつく。 ・鉄、アルミニウムなど金属でできている物は電気を通す。 <p>〈磁石〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄でできている物は磁石につく。 ・離れていても磁石は鉄を引き付ける。 ・磁石につけると鉄は磁石になる。 ・磁石の違う極同士は引き付け合い、同じ極同士は退け合う。 ・磁石のN極は北を指し、S極は南を指す。 <p>○電気や磁石のどのような性質を利用しておもちゃ作りをするか計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磁石の極同士は退け合う性質を使って物を動かすおもちゃを作りたい。 ・電気と磁石の両方の性質を使っておもちゃを作りたい <p>2 電気や磁石の力を利用したおもちゃを作る。</p> <p>★考えたおもちゃを作ろう。</p> <p>○完成図を基に材料や道具を準備しておもちゃを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気と磁石の両方の性質を使った「回路ゲーム」を作るために、つなぐ物を身の回りの物からそろえていこう <p>3 作ったおもちゃを発表して遊ぶ。</p> <p>★作ったおもちゃで遊ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達同士で作ったおもちゃで遊ぶ。 ○どのようにしたらよりよいおもちゃになるか話し合う。 ・もっと強い磁石を使うと速く動きそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元のおもちゃ作りは、「ものづくり」として取り扱う。 ・電気の性質や磁石の性質について想起させる ・教科書P.192の「計画書のれい」を参考に考えをまとめさせる。 【評】電気や磁石のおもちゃ作りの計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】おもちゃを作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・どのような性質を利用したのか考えさせる。 【評】作ったおもちゃで遊ぶ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【備 考】

・「風やゴムの力の働き」「光の性質」「音の性質」「磁石の性質」「電気の性質」の中で3種類以上のものづくりを行うものとする。ただし、本単元は、おもちゃ作りを「ものづくり」として取り扱っている。

<関連>

・第4学年「電気の働き」

単元名 星ざ

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 星のまとまりを星座ということを理解することができる。
 (3) 星座について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 星のまとまりを「星ざ」と呼ぶことを知る。</p> <p>★星について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○星を見た経験について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・町中ではあまり見ることができない。 ・町の明かりがあまりない、暗い場所では、星がたくさん見られる。 ○星座について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・星のまとまりを「星ざ」と呼ぶ。 ・星座は、星を線で結んだときにできる形を、動物や道具などに見立てて名前が付けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.76からの「夏の星」の単元で「星ざ」を既習として扱うため、4年生の最初の単元として、オリエンテーションを兼ねて行う ・星空の写真や映像を用意するとよい。 <p>【評】星座について知る活動を通して、「知識・技能」，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 季節と生き物

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 春の生き物の成長や活動を理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 春の生き物の成長や活動について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 春の生き物の成長や活動について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050102_001

【準備等】 虫眼鏡、ものさし、タブレットパソコンやデジタルカメラ、温度計、下敷き、種子、ビニルポット、土、移植ごて、捕虫網、虫かご、模造紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 春に見られる生き物に関心を持ち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りの植物や動物の様子について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・サクラに花が咲いたよ。 ・他の生き物には、どんな変化が見られるのかな。 ★春になって見られる生き物をかんさつしよう。 ○観察記録のとり方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・観察するもの、自分の名前、日時、天気、気温を書く ・観察したものを絵で表す。 ・スケッチは、大きく、形を1本の線で描く。 ・観察したものについて、言葉での説明や思ったことを書く。 ○気温の測り方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地面から1.2～1.5mの高さ ・温度計に直に日光が当たらない場所 ・風通しのよい場所 ○春になって見られる生き物を観察する。 <ul style="list-style-type: none"> ＜サクラ＞ <ul style="list-style-type: none"> ・木全体の様子 ・花の形や色、大きさ ・えだの形や色 ＜他の植物や動物＞ <ul style="list-style-type: none"> ・形や色、大きさ ・鳴き声など <p>3 1年を通して調べていく生き物を決め、植物の成長や動物の活動について、継続的に調べていく観察の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時に観察した植物や動物をもう一度観察し、どのような変化があったか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・サクラは、花を咲かせた後、葉を出しているよ。 ・他の植物は花を咲かせているよ。 ・いろいろな昆虫も見られるね。 ・春になったことと関係があるのかな。 ★季節によって、植物や動物の様子は、どのように変わるのだろうか。 ○植物の成長や動物の活動が、季節とどのように関係しているか予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・植物は、夏になると、大きく成長すると思う。なぜなら、3年生のとき、暑い季節にハウセンカが大きく育ったから。 ・動物は、夏になると、活発に活動すると思う。なぜなら、3年生のとき、暑い季節にいろいろな昆虫を観察したから。 ○1年間調べていく動物や植物、観察する場所を決めて、継続的な観察を計画する。 <ul style="list-style-type: none"> ・(植物) サクラ、ヘチマなど ・(動物) ツバメ、バッタなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・春になって、冬の頃とどのように変わっているか考えさせる。 ・教科書P.10～11を参考にさせる。 ・教科書P.13の「観察記録のとり方」を参考にさせる。 ・観察カード（もしくは、理科ノート「観察と実験」）を使用することを確認させる。 ・第3学年で植物を育てたときのことを想起させるとよい。 ・絵で表す際は、「えんぴつで形をかく」、「色をぬる」、「大きさをはかって記録する」ことを押さえる。 ・観察カードを使用する場合は、透明な袋に入れ、壁に掲示して学級全体で共有できるようにするとよい。 ・生き物を記録する際、他の季節との比較をするため、タブレットパソコンのカメラやデジタルカメラで同じ場所の撮影をしておく。 ・教科書P.12の「気温のはかり方」を参考にさせる。 ・「温度計の使い方」は、第3学年「太陽と地面」で学習している。 ・サクラは1年を通して観察するため、必ず観察記録をとるようにする。 ・植物の成長について、同地点での同一の対象を、定期的に観察するようにする。 ・気温も測らせる。 ・（安全）温度計の扱いに留意させる。 【評】生き物を観察する様子から、「知識・技能」を評価する。 ・最初に観察してから2週間経ったサクラを観察させ、どのような変化があるか考えさせる。 ・他の植物や昆虫も観察させる。 ・問題に対する答え（結論）を予想するときには、これまでに学んできたことや、身の回りで見られることを基にして、どうしてそのように考えたのか（理由）をはっきりさせることを意識させる。 ・自分の予想とそう考えた理由を伝えるときの話を、教科書P.16を参考に押さえる。 ・身近で季節による成長の変化が明確な植物と身近で危険のない動物を、それぞれ2種類以上観察するようにする。 ・観察する生き物については、子どもの考えを尊重しながら、教師側で季節によって変化が見られる生き物についてまとめていく必要がある。 ・観察場所は、子どもが安全に観察できる場所

4 ヘチマの種子をまき、ヘチマの成長を定期的に観察する観点について確認する。

- 前時を振り返る。
 - ・これからヘチマを育てていくんだっけ。

★ヘチマの成長について調べよう。

- ビニルポットにヘチマの種子をまく。

- 定期的に観察する観点について話し合う。

- ・2週間に一度観察記録をとる。
- ・草丈はどうか。
- ・葉の数や形、色、大きさはどうか。
- ・つぼみや花、実はあるか。

5 ヘチマの植え替えをする。

- 葉の数が3～4枚になったヘチマの観察をする。

- ・そろそろ植え替えだね。

★ヘチマの植えかえをしよう。

- ヘチマの植え替えの仕方を知る。
 - ・苗はポットから取り出して植える。

- ヘチマを植え替える。

6 観察の計画を基に、調べる昆虫や鳥について、活動の様子を記録する。

- 計画を振り返る。
 - ・ツバメやバッタを観察するんだっけ。

★こん虫や鳥などの活動について調べよう。

- 観察の計画に従い、校庭や学校の周りなどに出かけ、昆虫や鳥の活動の様子を記録する。
 - ・活動の場所
 - ・巣作り

- 観察した結果を基に、春の昆虫や鳥の活動で分かったことや疑問に思ったことを発表し合う。

- ・小さいバッタの幼虫が見られた。
- ・ツバメが巣を作り、卵を産んでいた。

7 これまでの観察記録を基に、春の生き物の様子について総合的にまとめる。

★春の生き物の記録を整理しよう。

- 春に調べてきた観察記録を整理する。

- 次の季節への見通しをもつ。

- ・サクラの小さい葉が大きくなって、全体が葉でいっぱいになると思うよ。
- ・ツバメのひなが見られるようになると思うよ。

と範囲を指定する。

- ・第3学年でホウセンカを育てたことを想起させ、春にヘチマの種をまくように促す。

【評】調べる動物や植物の計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・種のまき方は、教科書P.19を参考にさせる。

- ・ヘチマの代わりにツルレイシで調べていくことも可能である。
- ・天気や気温も記録させ、成長の変化と気温の関係を調べていくことを確認する。
- ・タブレットパソコンのカメラやデジタルカメラで撮影しておく。

【評】ヘチマの観察の仕方について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ヘチマの植え替えの仕方は、教科書P.20を参考にさせる。

- ・育ってきたら支柱を立て、茎を支えることを押さえる。

【評】ヘチマを植え替える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・観察する動物について確認するため、第3時を振り返らせる。

- ・（安全）ミツバチやチャドクガの幼虫などの危険な虫には触れたり近付いたりしないよう十分注意させる。

- ・タブレットパソコンのカメラやデジタルカメラで撮影しておく。

【評】昆虫や鳥の観察を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・たくさんの生き物が活動していることに気付かせる。

- ・教科書P.23を参考にさせ、植物の成長や動物の活動を、サクラ、ヘチマ、昆虫、鳥などに分けて整理し、季節ごとにまとめていく。

- ・タブレットパソコンのカメラやデジタルカメラで撮影してきた写真を整理させる。

- ・記録の整理は、個人、グループ、全体でまとめるなど、児童の実態に応じて工夫する。

【評】春の植物と昆虫や鳥の様子をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

- ・1年を通じて動物の活動や植物の成長をそれぞれ2種類以上観察するものとする。

< 関連 >

- ・第3学年「生き物を調べよう」「植物を育てよう」「チョウを育てよう」「こん虫の世界」
- ・第5学年「植物の発芽や成長」「メダカのたんじょう」「花から実へ」

単元名 天気による気温の変化

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 天気による気温の変化の違いを理解するとともに、器具などを正しく扱って観測を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 天気の様子について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 天気の様子について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050103_001

【準備等】記録用紙、温度計と下敷き（または百葉箱の中に入っている自記温度計）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 天気による1日の気温の変化の違いに関心を持ち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じ場所において、異なる時間での写真を見て、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・気温が上がっていつているね。 ・晴れの日の気温は、この後どのように変わっていくのかな。 <p>★朝から午後にかけて、晴れの日の気温は、どのように変化するのであろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習の内容や生活経験を基に、晴れの日の気温の変化について話し合い、予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・昼間はずっと気温が上がっていくと思う。なぜなら、晴れた日は日光が当たるから。 ○予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・1時間ごとに同じ場所で気温を調べるといいね。 ・結果は表にまとめよう。 <p>2 晴れの日の気温の変化を調べる。</p> <p>★晴れの日の気温は、どのように変化するのであろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、晴れの日の気温の変化の様子を調べ、記録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・午前9時から午後3時までの間、場所を決めて、1時間ごとの気温を測定する。そのときの天気も記録する。 ・記録は表にまとめる。 ○観察の結果を整理し、晴れの日の気温の変化の特徴をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・晴れの日の気温は、朝から昼にかけて上がり、午後になってしばらく経つと下がる。 ○「学びを広げよう」に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・晴れの日は、やっぱり気温が上がって下がるよ。 ・晴れの日の気温は、午後1時、2時頃が一番高いんだね。 <p>3 曇りの日の気温の変化を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1時と同じ場所の曇りの日の写真を見て、晴れの日と比べてどのような違いがあるか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・曇りの日は、晴れの日と比べると、気温が低いように感じるね。 ★晴れの日とくもりの日では、気温の変化にどのようなちがいがあるのだろうか。 ○天気による気温の変化の違いについて話し合い、予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・曇りの日は、晴れの日より気温の変化が小さいと思う。なぜなら、日陰は日なたと比べて地面の温度があまり上がらなかったから。 ○曇りの日の気温の変化の様子を調べ、記録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・午前9時から午後3時までの間、場所を決めて、1時間ごとの気温を測定する。そのときの天気も記録する。 ・記録は表にまとめる。 <p>4 晴れの日と曇りの日の気温の変化をグラフで表し、天気による違いをまとめる。</p> <p>★晴れの日とくもりの日をくらべて、気温の変化にどのようなちがいがあるのかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○折れ線グラフのかき方と見方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・右上がりのグラフは気温が上がり、右下がりのグラフは気温が下がっていることを表している。 ・傾きが大きい方が、気温の変化が大きい。 ○晴れの日と曇りの日の気温の変化を、折れ線グラフに表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.24～25を見比べさせる。 ・第3学年で学習した、時刻と太陽の位置の関係、時刻と影の様子を確認する。 ・晴れた日は、日なたの地面の温度が朝から昼にかけて上昇することを確認する。 ・日なたでは、太陽の光が地面を暖めていることを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・気温の上がり方の違いには、何の関係しているのかを考えさせる。 <p>【評】晴れの日の時刻と気温の様子との関係について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百葉箱の中に設置した温度計などを利用することも考えられる。（教科書P.26） <ul style="list-style-type: none"> ・気温の測り方を教科書P.12とP.27で確認させる。 ・1単位時間を数回に分け、柔軟な授業時間のとり方をしたり、休み時間を使ったりして観測させる。 <p>【評】晴れの日の気温の変化について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晴れの日の気温の変化を一般化する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.29とP.24を見比べさせる。 ・晴れの日の気温は、朝から昼にかけて上がり午後になってしばらく経つと下がることを確認する。 <p>【評】天気による気温の変化の違いについて予想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晴れの日と同様に、観測させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.33の「算数とのつながり」で、算数科のグラフの学習との関連を図る。 ・教科書P.33「折れ線グラフのかき方・見方」を参考にさせる。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 晴れの日と曇りの日の気温の変化を比べ、考えたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 晴れの日のグラフは山型。 ・ 晴れの日は午後 2 時頃が最も気温が高い。 ・ 曇りの日の方が気温の変化が小さい。 ・ 晴れの日と曇りの日を比べると、気温が大きく変化するの、晴れの日の方である。 ・ 気温が上がらなくなったところでは、雲が出て太陽の光をさえぎっていた。 ○ 晴れの日と曇りや雨の日の気温の変化の特徴についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 日の気温の変化は、天気によって違いがある。 ・ 晴れの日の方が曇りの日より気温の変化が大きい。 ・ 雨の日は、晴れや曇りの日より気温が低い。 <p>5 単元のまとめをする。</p> <p>★ 単元のふり返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他の日にも当てはまるかどうか確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気温の変化を続けて調べると、晴れの方が曇りや雨の日よりも気温の変化が大きくなる傾向が見られる。 ○ 「たしかめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自記温度計があれば、その記録を提示してまとめることも考えられる。 ・ きれいなグラフにならなかった場合は、天気の変化も考えさせる。 <p>【評】 晴れの日と曇りの日の気温の変化を比べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天気による気温の変化は、太陽の光が差すことと関係していることも確認させる。 <p>【評】 天気と 1 日の気温の変化の特徴をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自記温度計の記録を使用する。教科書 P. 36 を参考にしてもよい。 ・ 天気と気温の変化について一般化する。
---	---

【 備 考 】

< 関連 >

- ・ 第 3 学年「太陽と地面」
- ・ 第 5 学年「天気の変化」

単元名 体のつくりと運動

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 体を動かす仕組みを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 人や他の動物について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 人や他の動物について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050104_001

【準備等】骨の模型、重い物（ダンベルなど）、机

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 体のつくりに興味をもち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック選手が体をどのように動かしているのか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・シャトルを打つときには、一度腕を曲げてから伸ばしている。 ★体のどこが曲がるのだろうか。 ○自分の体で、腕や脚の曲がるところがどこかを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・腕や脚の曲がるところを、記録カード（理科ノート「観察と実験」）の図に●で記入する。 ・腕や脚には曲がる場所と曲がらないところがある。 <p>2 腕や脚の曲がる場所と曲がらない場所のつくりを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★うでやあしの曲がる場所と曲がらない場所では、ほねはどのようなつくりになっているのだろうか。 ○腕や脚の曲がる場所と曲がらない場所の骨のつくりについて予想し、自分の予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲がる場所は骨のつなぎ目だと思う。なぜなら、つなぎ目がないと曲がらないから。 ○腕や脚の曲がる場所と曲がらない場所のつくりを、骨の模型で調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・予想したことを、模型を使って確認する。 ・記録カード（理科ノート「観察と実験」）の図に、骨のあるところをかき加える。 ○実験の結果を整理し、分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・骨の大きさや形はさまざまで、骨と骨のつなぎ目はたくさんある。 ・曲がる場所は、骨と骨のつなぎ目になっていて、曲がらない場所は、腕や脚の中に固い骨がある。 <p>3 腕や脚を動かすときの筋肉の働きを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どのように体を動かしているのかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・骨だけだと動かないよ。 ・筋肉が必要だと思う。 ★わたしたちは、きん肉をどのように動かして、うでやあしを曲げたり伸ばしたりするのだろうか。 ○腕や脚を曲げたり伸ばしたりするときの筋肉の動きについて予想し、自分の予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉が縮んで腕を曲げていると思う。なぜなら、筋肉が縮むと腕が引っ張られるから。 ○腕や脚を動かすときの筋肉の様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・腕を曲げると腕の内側の筋肉が縮み、伸ばすと緩む。 ・脚を曲げると足の後ろ側の筋肉が縮み、伸ばすと緩む。 ○実験の結果を整理し、分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・腕や脚を曲げると、曲げようとする側の筋肉が縮む。 ・私たちは、筋肉を縮めたり緩めたりして、腕や脚を曲げたり伸ばしたりする。 <p>4 人以外の動物の体のつくりを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★人の体とほかの動物のこっかく・きん肉をくらべてみよう。 ○教科書や他の資料で調べる。 <p>○調べたことを知らせ合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・人以外の動物も、筋肉を縮めたり緩めたりして、体を </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.38の写真を基に、体をどのように動かしているかに注目させ、運動するための体のつくりに興味をもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ほね」という言葉を知らせる。 ・（安全）他の人を怪我させてしまう場合があるので、他の人の体ではなく必ず自分の体で調べる。 <p>【評】腕や脚の曲がる場所を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕や脚の曲がる方向をよく確認した上で、模型を触らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・骨と骨のつなぎ目で、曲がる場所を「関節」ということを知らせる。 <p>【評】腕や脚の曲がる場所と曲がらない場所のつくりを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことができるのは骨と筋肉が関係していることに着目させる。 ・「きん肉」という用語の意味を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が実際に自分の腕や脚に触れながら曲げたり伸ばしたりして、そのときの筋肉の変化を調べるようにする。 ・筋肉の模型を使って確認させてもよい。 <p>【評】腕や脚を動かすときの筋肉の様子についてまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校にある、関節の模型、骨格模型、筋肉模型などや、図鑑などの図書資料、インターネット、DVDなどの映像資料、また、可能であれば飼育動物なども調べ学習の対象とする <p>【評】人以外の動物の体のつくりを調べたり、調べたことを知らせ合ったりする活動を通し</p>

<p>動かしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人以外の動物も、関節のところで体を曲げたり伸ばしたりしている。 <p>5 単元のまとめをする。</p> <p>★単元のふり返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめ」に取り組む。 	<p>て、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
--	--------------------------------

【 備 考 】

<関連>

- ・第6学年「人や他の動物の体」

単元名 電流のはたらき

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) 乾電池の数やつなぎ方と電流の働きとの関係を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験やものづくりを行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 電流の働きについて、主に既習の内容を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 電流の働きについて、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050105_001

【準備等】 単3形の乾電池、乾電池ホルダー、モーター、プロペラ、プラスチック段ボール、タイヤ、車軸、モーターの空き箱、両面テープ、検流計、導線、クリップ、ものづくりの材料

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 プロペラカーを作って走らせて、電流の働きに関心を持ち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 電気で動くものを日常生活の中から探し、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 扇風機 ・ 換気扇 ・ 車のおもちゃ など ★ かん電池で動くプロペラカーを作って、走らせてみよう ○ プロペラカーを作る。 <p>○ プロペラカーを走らせ、疑問に思ったことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前に進む車と、後ろに進む車があるよ。 ・ 乾電池の向きが違うみたいだね。 ・ 乾電池の向きが違くと、電気の流れが反対になって後ろに進むのかな。 </p> <p>2～3 乾電池の向きと、回路に流れる電流の向きの関係について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロペラカーを走らせたときの様子を振り返る。 ★ かん電池の向きを変えると、回路に流れる電流の向きが変わるのだろうか。 ○ 乾電池の向きと、回路に流れる電流の向きとの関係について予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 乾電池の向きを変えると、電流の向きが反対になると思う。なぜなら、モーターが反対向きに回ったから。 ○ 検流計について知り、予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 検流計を使うと、回路に流れる電流の向きや大きさが分かる。 ・ 検流計を使って、乾電池の向きを変えたときの電流の向きを調べたい。 ○ 乾電池の向きを変えて、回路に流れる電流の向きを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 回路の途中に検流計をつなぐ。 ・ 乾電池の＋極と－極の向きを反対にして調べる。 ○ 実験の結果を整理し、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 乾電池の向きを反対にすると、検流計の振れる向きが反対になった。 ・ 乾電池の向きを変えると、回路に流れる電流の向きが変わる。 ・ 電流は、乾電池の＋極から出て、モーターを通り、乾電池の－極に入る向きに流れている。 <p>4～5 乾電池2個を使って、プロペラカーを速く走らせることのできるつなぎ方を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロペラカーをもっと速く走らせる方法を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 乾電池を2個にするといいと思うよ。 ・ つなぎ方はどうするといいのかな。 ★ かん電池を2こにふやして、プロペラカーを速く走らせてみよう。 ○ 乾電池を2個使うつなぎ方を考え、プロペラカーを走らせ、速さを比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本の車とあまり変わらない速さで走っているよ。 ・ 基本の車よりも速く走っているよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P.50を見せてもよい。 ・ 電気で動くものは、中にモーターが入っていることを押さえる。 ・ 第3学年で学習した「回路」について想起させ、導線に乾電池をつないで回路を作らせる ・ (安全) 回っているプロペラに手を近付けないように注意させる。 ・ 乾電池の向きを変えると、モーターが反対に回ること気付かせておくとうい。 ・ 「電流」について押さえる。 <p>【評】 プロペラカーを走らせ、疑問に思ったことを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P.53を使って、検流計の使い方を確認させる。 ・ (安全) 検流計を乾電池だけにつなぐと破損するので、十分注意させる。 ・ プロペラカーのタイヤと車軸を取り外して調べるようにさせる。 ・ アンペアという単位には触れず、針の振れ具合を目盛りの数字で記録させる。 ・ 検流計の針の動く向きが、回路に流れる電流の向きであることを踏まえて考えさせる。 <p>【評】 乾電池の向きと、回路に流れる電流の向きの関係について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1時でプロペラカーを走らせたときのことを想起させ、速く走らせてみたいという意欲につなげる。 ・ 乾電池を1個つないだ車を基本の車とし、比べさせる。 ・ 車の重さが大きく違ってしまわないように、基本の車にも乾電池を2個載せることを押さえる。 ・ 乾電池2個のつなぎ方を考えさせ、カード（理科ノート「観察と実験」）の図に記録させる。 ・ (安全) 教科書P.55を参考に、危険なつなぎ方にならないように留意する。

- 実験の結果を整理し、分かったことをまとめる。
 - ・乾電池1個のときより速く走るつなぎ方は、乾電池の+極ともう1個の乾電池の一極をつないでいる。(結果1)
 - ・乾電池1個のときとあまり速さが変わらないつなぎ方は、+極同士、一極同士をまとめてつないでいる。(結果2)
 - ・走らないつなぎ方もある。
 - ・2個の乾電池のつなぎ方によって、モーターの回る速さが違ってくる。
 - ・結果1のつなぎ方を直列つなぎという。
 - ・結果2のつなぎ方を並列つなぎという。

6～7 乾電池のつなぎ方と、モーターの回る速さとの関係を調べる。

- 乾電池2個でも、つなぎ方によってモーターカーの走る速さが変わる要因について話し合う。
 - ・直列つなぎと並列つなぎでは、回路に流れる電流の大きさが違うのかもしれないね。
- ★かん電池2この直列つなぎとへい列つなぎでは、回路に流れる電流の大きさは、どのようにちがうのだろうか。
- 乾電池2個のつなぎ方と、回路に流れる電流の大きさとの関係について予想し、予想を確かめる方法を話し合う
 - ・直列つなぎでは、電流が大きくなると思う。なぜならモーターが速く回ったから。
 - ・並列つなぎでは、電流の大きさが変わらないと思う。なぜなら、モーターの回る速さが変わらなかったから。
 - ・電流の大きさは、検流計で調べることができるね。
- 乾電池2個の直列つなぎと並列つなぎで、モーターに流れる電流の大きさを調べる。
 - ・乾電池1個のときの電流の大きさを調べる。
 - ・直列つなぎ、並列つなぎの電流の大きさをそれぞれ調べる。
- 実験の結果を整理し、まとめる。
 - ・乾電池のつなぎ方によって、流れる電流の大きさは違っていた。
 - ・乾電池2個の直列つなぎでは、乾電池1個のときよりも、回路に大きい電流が流れる。
 - ・乾電池2個の並列つなぎでは、乾電池1個のと、回路に流れる電流の大きさがあまり変わらない。

8 乾電池の性質を利用したものづくりの計画を立てる。

- ★これまでに学習したかん電池や光電池のせいしつを利用した、道具やおもちゃを作る計画を立てよう。
- ものづくりの計画を立てる。
 - ・エレベーター
 - ・扇風機 など

9～10 乾電池の性質を利用して、ものづくりをする。

- ★これまで学習したかん電池や光電池のせいしつを利用して、道具やおもちゃを作ろう。
- ものづくりを行う。
 - ・エレベーター
 - ・扇風機 など

11 単元のまとめをする。

- ★単元のふり返りをしよう。
- 「たしかめ」に取り組む。

- ・(安全) 一つの回路で違う種類の電池が混在しないように留意する。

【評】乾電池2個のつなぎ方を考えながらプロペラカーを走らせる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・速くなるつなぎ方と、速さがあまり変わらないつなぎ方に分けて、結果を整理させる。
- ・走る速さが似ている車のつなぎ方に共通していることを考えさせる。
- ・「直列つなぎ」「へい列つなぎ」について押さえる。

【評】実験結果を整理し、つなぎ方の共通点について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・モーターカーの走る速さが変わる要因として電流の大きさに着目させる。

- ・教科書P.53を参考に、検流計の使い方について振り返らせる。

- ・(安全) 検流計を乾電池だけにつなぐと破損するので、十分注意させる。
- ・乾電池1個のときの電流の大きさを基準として比べさせる。

【評】乾電池のつなぎ方と回路に流れる電流の大きさとの関係を整理し、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・第8～10時の活動は「ものづくり」として取り扱う。

- ・回路図をかく場合は、教科書P.61の「電気用図記号」を使わせてもよい。
- ・考えた道具やおもちゃは計画書(理科ノート「観察と実験」)にかかせる。
- ・利用する性質についても、しっかりと考えさせる。

【評】ものづくりの計画を立てる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ・前時に作成した計画書を基にものづくりを行わせる。

【評】ものづくりを行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【備 考】

・「電流のはたらき」「とじこめた空気と水」「もののあたたまり方」の中から、2種類以上のものづくりを行うものとする。

・ただし、本単元では、教科書P.62～63の「かん電池を使ったものづくり」の活動を「ものづくり」として取り扱っている。

<関連>

- ・第3学年「電気の通り道」「じしゃく」

・第5学年「電流が生み出す力」

単元名 夏と生き物

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 夏の生き物の成長や活動と季節との関係を理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 夏の生き物の成長や活動と季節との関係について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 夏の生き物の成長や活動について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050106_001

【準備等】 虫眼鏡、ものさし、タブレットパソコンやデジタルカメラ、温度計、下敷き、メジャー、捕虫網
虫かご、模造紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 夏に見られる生き物に関心を持ち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏になって、植物や動物の様子がどのように変わってきたか考える。 <ul style="list-style-type: none"> アキアカネが幼虫から成虫になったよ。 アブラゼミが見られるね。 ツユクサの花が咲いているよ。 夏のサクラはどうなっているのかな。 ★夏のサクラをかんさつしよう。 春のサクラの様子を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 春に花を咲かせた。 花を咲かせた後、葉を出した。 新しい枝が出てきた。 春と同じ場所でサクラを観察する。 <ul style="list-style-type: none"> 木全体の様子 ・ 枝の形や色、伸び 葉の形や色、大きさ 観察した結果を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 春よりも全体的に緑色の枝が長くなっている。 葉の緑色が濃くなった。 葉が大きくなった。 さくらんぼができていた。 春よりも暑くなったから、温かさが関係しているのかな。 ヘチマはどう変わっているのかな。 <p>2～3 春から育てているヘチマについて、成長や変化の様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★夏になって、ヘチマは、春のころからどのように変わっているのだろうか。 夏になって、ヘチマがどのように変化しているかを予想し、予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 春から茎がかなり伸びていると思うよ。 今のヘチマの様子を春からの記録と比べて、どう変化しているかを調べればいいね。 ヘチマの成長について調べ、記録する。 <ul style="list-style-type: none"> 全体の様子 茎の長さ 葉の数や形、大きさ つぼみや花はあるか 観察記録と気温の記録を基に考える。 <ul style="list-style-type: none"> 春よりも、葉の数が増えて、葉の大きさも大きくなっている。 2種類のつぼみが付いている。 サクラが枝を伸ばしたように、ヘチマも茎を伸ばしている。 ヘチマの成長は、気温が上がったことと関係がありそうだ。 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 夏になって、気温が上がると、ヘチマは、春の頃よりも茎が伸び、葉の数が増えている。 身の回りの植物がどのような様子をしているか調べる。 <ul style="list-style-type: none"> アジサイやハスの花が咲いている。 <p>4～5 昆虫や鳥などについて、春からの成長や活動の変化を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 春の昆虫や鳥の様子を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> バッタの幼虫を見かけた。 ツバメが巣を作っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 66～67の植物や動物を参考にして考えさせてもよい。 「季節と生き物」の学習で観察した記録を見ながら、春のサクラを想起させる。 春と変わった点を中心に記録させる。 タブレットパソコンのカメラなどで全体の様子を撮影しておく。 観察した結果を発表し合うことをきっかけにし、サクラの様子が変わってきた要因について考えさせる。 ヘチマについても思い起こさせることで、次時につなげる。 【評】サクラの観察を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 「季節と生き物」の学習で観察した記録を見ながら、春のヘチマを想起させる。 記録の取り方と、ヘチマを観察するときの視点を確認させる。 タブレットパソコンのカメラやデジタルカメラで全体の様子を撮影しておく。 気温も測らせる。 気温の測り方は、教科書P. 12を参照させる。 ヘチマの草丈と気温をグラフ化し、ヘチマの成長の変化を気温の変化と照らし合わせて考えさせる。 教科書P. 70のヘチマの様子と気温変化のグラフも見比べながら、考えを確かなものにさせるとよい。 【評】ヘチマを観察し、観察結果から考え、まとめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。 教科書P. 71の「学びを広げよう」を参考にさせてもよい。 「季節と生き物」の学習で観察した記録を見ながら、春の昆虫や鳥を想起させる。 春の昆虫や鳥の様子をたくさん発表させることで、実際に外かけて観察しようとする意欲

<p>★夏になって、こん虫や鳥などは、春のころからどのように変わっているのだろうか。</p> <p>○昆虫や鳥などの活動について予想し、予想を確かめる方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッタの幼虫が大きくなっていると思う。なぜなら、春に小さな幼虫がいたから。 ・ツバメは、生まれた子を育てていると思う。なぜなら春に巣の中で卵を産んだから。 ・バッタやツバメを見付けて、春と比べてみるといいね <p>○観察の計画に従い、春に調べた昆虫や鳥などについて活動の様子を調べ、記録する。</p> <p>○観察した結果を基に、夏の昆虫や鳥などの活動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッタは、春より大きくなっていた。 ・子ツバメが木の枝にとまっていた。 ・ツバメの巣は空になっていた。 ・カブトムシが木の汁を吸っていた。 ・ナナホシテントウがさなぎから成虫になっていた。 ・気温は春より上がって、活動が活発になった。 <p>○分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏になって気温が上がると、トンボやセミなど、春の頃よりもたくさんの種類の昆虫などが見られ、活発に活動している。 ・ツバメは、子が巣立ち、春の頃と比べて、見られる数が増えている。 <p>6 夏の生き物の様子についてまとめる。</p> <p>★夏の記録を整理しよう。</p> <p>○夏に調べてきた観察記録を整理する。</p> <p>○次の季節への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから先、秋にかけて、気温が下がっていくから、サクラは成長が鈍くなると思うよ。 ・気温が下がっても、ツバメは見られるのかな。 	<p>をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（安全）スズメバチやミツバチ、チャドクガの幼虫、イラガの幼虫のように危険な虫には近付かないように十分指導する。 ・（安全）川や池などに近付きすぎないように注意させる。 ・何がどのような活動をしているか記録させる <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットパソコンのカメラやデジタルカメラで撮影しておく。 ・昆虫や鳥がよく見られるようになったことへの要因についても考えさせるとよい。 ・教科書P.74の写真や、この季節に見られる生き物の映像資料を参考に考えさせてもよい。 <p>【評】夏の生き物の様子を観察し、記録する活動を通して、「知識・技能」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「季節と生き物」と同様にして記録を整理させ、季節ごとにまとめていく。 <p>【評】夏の植物と昆虫や鳥の様子をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
---	---

【 備 考 】

- ・1年を通じて動物の活動や植物の成長をそれぞれ2種類以上観察するものとする。

<関連>

- ・第3学年「生き物を調べよう」「植物を育てよう」「チョウを育てよう」「こん虫の世界」
- ・第5学年「植物の発芽や成長」「メダカのたんじょう」「花から実へ」

単元名 夏の星

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 星の明るさや色の違いを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
 (3) 夏の星について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050107_001

【準備等】方位磁針，星座早見，懐中電灯

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 夏の星空の写真を見て、星の明るさや色の違いに関心を持ち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 星空の写真を見て、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 星によって明るさが違うよ。 ・ よく見ると、色の違う星があるよ。 <p>★ 星の明るさや色は、星によってちがうのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 星の明るさや色の違いについて予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 星の明るさは、星によって違うと思う。なぜなら、デネブやベガは、他の星と比べて明るかったから。 ・ 星の色は、星によって違うと思う。なぜなら、アンタレスは、他の星より赤っぽかったから。 ○ 星空の観察について計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏の大三角を見付けたいな。 ・ アンタレスを探してみるよ。 ・ 空のどこにどんな星があるか分かんといいいね。 ○ 星座早見を作る。 <p>○ 星座早見の使い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月日と時刻の合わせ方 ・ 観察する方位の調べ方 ・ 星座早見の持ち方 <p>○ 星の明るさや色を調べる。</p> <p>2 夏の星の観察結果をまとめる。</p> <p>★ 観察結果をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察の結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏の星は明るかったけど、他の星は暗かった。 ・ デネブ、ベガ、アルタイルは白っぽい色をしていた。 ・ アンタレスは赤っぽい色をしていた。 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 星の明るさや色は、星によって違う。 ・ 星は明るい順に、1等星、2等星、3等星、…と呼ばれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明るく輝く星をいくつか結んで何かの形に表した星の集まりを星座といい、星座から見付けたい星を探すとよいことを思い出させる。 ・ 夏の代表的な星として、はくちょう座のデネブ、こと座のベガ、わし座のアルタイル、さそり座のアンタレスがある。 ・ デネブ、ベガ、アルタイルを探させる。 ・ 「夏の大三角」という用語を押さえる。 ・ 夏の星とアンタレスを比較させる。 <p>・ 見付けたい星が空のどこにあるか知りたいという気持ちを引き出し、星座早見を作る活動につなげる。</p> <p>・ 巻末の「星ざ早見を作ろう」を利用させる。</p> <p>・ 切る箇所や貼る箇所を間違えないように注意させる。</p> <p>・ 教科書P.78の「星ざ早見の使い方」で確認させる。</p> <p>【評】 星の明るさや色の違いについて予想したり、観察の計画を立てたりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で実施できないため、家庭で取り組ませる。 ・ 星座早見やP.235のシートを活用させる。 ・ (安全) 保護者に、観察の目的や安全についてのお知らせを配布し、協力を依頼する。 ・ 記録用紙(理科ノート「観察と実験」)に記録することを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「〇等星」という呼び方を押さえる。 ・ 教科書P.80～81を参照させ、星についてさらに興味を高められるようにする。 ・ プラネタリウムが見られる施設(半田市科学館や名古屋市科学館)を紹介したり、校外学習でプラネタリウムを見学したりするとよい。 ・ 「冬の星」で使用するため、星座早見を保管させる。 <p>【評】 観察の結果を整理し、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

<関連>

- ・ 第3学年「太陽と地面」
- ・ 第4学年「冬の星」
- ・ 第6学年「月の見え方と太陽」

単元名 雨水と地面

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 雨水の流れ方や染み込み方が違う要因を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 雨水の行方と地面の様子について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 雨水の行方と地面の様子について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050201_001

【準備等】運動場の土、砂場の砂、砂利、500mLのペットボトル、カッター、ガーゼ、輪ゴム、セロハンテープ、100mLのビーカー、移植ごて、ストップウォッチ、とい、ビー玉

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 土や砂の水の染み込み方の違いに関心を持ち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 雨が降ってやんだ後の運動場と校庭にある砂場の写真から考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水たまりができているところとできていないところがあるね。 ・ 運動場には水たまりがあるのに、砂場には水たまりがないのはなぜだろう。 ・ 運動場の土と砂場の砂では、水の染み込み方が違うのかな。 ★ 運動場の土とすな場のすなで、水のしみこみ方をくらべてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 予想をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動場の砂の方が、水たまりがあるから、水が染み込みにくいと思う。 ○ 運動場の土と砂場の砂に水を注いだり、触ったりして、違いを比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動場の土と砂場の砂は同じ量にする。 ・ 水の量は同じにする。 ○ 運動場の土と砂場の砂の違いを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 砂場の砂の方が粒が大きくて、水を注ぐと速く染み込んだよ。 ・ 土の粒の大きさによって、水の染み込む速さが違ってくるのかな。 <p>2～3 水の染み込む速さを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 土のつぶの大きさによって、水のしみこむ速さは、どのように変わるのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 土の粒の大きさと、水の染み込む速さとの関係について予想し、確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 粒が大きい方が水が速く染み込むと思う。なぜなら、砂場の砂は水が速く染み込んだから。 ・ 土、砂だけでなく、もっと粒の大きい砂利も調べるといいんじゃないかな。 ○ 土の粒の大きさを変えて、水の染み込む速さを調べよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 見た様子や手触りの違いを調べる。 ・ 水を注ぎ、時間でどれぐらいの水が溜まるかを調べる。 ・ 30秒、1分、3分で、溜まった水の量に印を付ける。 ○ 実験結果を整理し、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 粒が大きい方が、水が速く染み込んだ。 ・ 土の粒の大きさによって、水が地面に染み込む速さが違ってくる。 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 土の粒が大きいと、水は速く染み込み、土の粒が小さいと、水はゆっくり染み込む。 ・ 地面への水の染み込み方は、土の粒の大きさに関係している。 ○ 植木鉢の底に石を敷く理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 植木鉢の底に石を敷くのは、いらない水が底に溜まらないように水はけをよくするため。 <p>4 雨水の流れと、地面の高さとの関係を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 雨が降った後の校庭の様子を見て話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校庭は平らではないのかな。 ・ 雨水は、高い場所から低い場所へ流れているのかな。 ★ 雨水は、地面の高い場所から低い場所へ流れているのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 地面の高さと雨水の流れについて予想し、確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水は、高い場所から低い場所へ流れていると思う。なぜなら、平らだったら水は流れないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の写真でもよいが、できれば、自分の学校の校庭と砂場の写真を提示するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 粒の大きさは、虫眼鏡で観察するとよい。 ・ (安全) カッターやペットボトルの切り口で手を切らないように注意する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 土の粒の大きさに着目して、違いを考えさせる。 <p>【評】 運動場の土と砂場の砂の違いを調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動場の土、砂場の砂、砂利を使用する。 ・ 土や砂、砂利は同じ量にさせる。 ・ 同じ量の水を注ぐときに、計量カップを利用してもよい。 ・ 表にして整理させるとよい。 <p>【評】 土の粒の大きさと水の染み込む速さとの関係を調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 身の回りの現象について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雨が降った次の日に学習するように、計画するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ といとビー玉を準備しておく。 ・ 雨水の流れたあとのある場所にといを置き、その上にビー玉を置けば、高い場所から低い場所に転がることを確認する。

- ・雨水が流れた場所の地面の高さの違いを調べてみたい
- 雨水の流れたあとが見られるところで、地面の高さを調べる。
- 実験結果を整理し、まとめる。
 - ・ビー玉が、雨水の流れた方向に動いた。
 - ・平らに見える校庭にも、高い場所と低い場所がある。
- 分かったことをまとめる。
 - ・雨水は、地面の高い場所から低い場所へ流れている。
- 5 単元のまとめをする。
- ★単元のふり返りをしよう。
- 学校やその周りで、雨水が集まる溝や穴は、どのような場所にあるかを探す。
 - ・校庭の低い場所に側溝があるよ。
- 川の水の流れる方向について調べる。
 - ・川の水も土地の高い場所から低い場所に流れる。
- 「たしかめ」に取り組む。

【評】実験結果を整理し、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・教科書の資料や映像資料などを使いながら、これまで見いだしてきた雨水の流れの見方を川の流れに当てはめて考えていけるようにする。

【評】雨水の行方について調べる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

【 備 考 】

< 関連 >

- ・第5学年「流れる水のはたらき」

単元名 月の位置の変化

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 月の位置の変化を理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 月の特徴について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 月の特徴について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050202_001

【準備等】方位磁針、記録用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 これまでに見たことのある月について話し合い、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>○ これまでに見たことのある月について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな形の月がある。 ・ 昼、東の空に見えることがある。 <p>★ 月を見てみよう。</p> <p>○ 午後に見られる月（上弦の月）を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しばらくすると月の位置が変わる。 ・ 月の位置はどのように変わるのだろうか。 <p>2 半月の位置の変化を調べる。</p> <p>★ 午後、東の空に見える半月は、どのように位置が変わるのだろうか。</p> <p>○ これまでの学習経験から方位に着目して予想し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 半月は、東から南の方に位置が変わると思う。なぜなら、太陽と同じように動くから。 <p>○ 月の位置を調べる方法を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月の方位の調べ方 ・ 月の高さの調べ方 ・ 立つ位置について ・ 記録用紙の記入の仕方 <p>○ 月の見える場所に出て、午後東の空に見える半月の位置の変化を調べる。</p> <p>3 観察の結果から、半月は時刻によって位置が変わることを理解する。</p> <p>★ かんさつ結果をまとめよう。</p> <p>○ 観察の結果を整理する。</p> <p>○ 分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 午後、東の空に見える半月は、太陽と同じように、高くなりながら南の方に位置が変わる。 <p>○ 気付いたことから次の学習課題を見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 半月だけでは、月の位置の変化が全部同じとはいえない。 ・ 満月のときはどうだろうか。 <p>○ 夕方、東の空に見える満月は、どのように位置が変わるのかについて予想し、計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 満月も東から南の方に位置が変わると思う。なぜなら半月がそうだったから。 ・ 半月のときと同じように、観察する場所を決めて、何回か満月の位置を調べるとよさそう。 <p>○ 満月の安全な観察の仕方について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜の観察は必ず大人と一緒にやる。 ・ 川や池、海、崖、車通りの多いところなど、危険な場所には行かない。 <p>4 月の位置の変化についてまとめる。</p> <p>○ 満月の観察結果を整理し、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三日月、半月（上弦の月、下弦の月）、満月などの図や写真を用意しておき、いろいろな形の月があることに気付かせる。 ・ 午後に見られる月（上弦の月）で学習を行う ・ 上弦の月から観察することにより、満月、新月（星の観察）を、期間を空けずに観察することができる。 ・ しばらくの間、同一の場所で観察し、月の位置が変化していくことに気付かせる。 ・ デジタルカメラやタブレットPCを用いて月の位置の写真を撮っておく場合、目印になる建物などとともに撮るとよい。 <p>【評】月を観察する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生で学習した太陽の動きを想起させ、その動きを参考に考えさせる。 ・ 教科書P.100, 101を参考に、月の方位や高さの調べ方を確認させる。 ・ 角度については、算数科での学習を想起させる。 ・ 記録用紙には、方位と高さ、目印となる建物などをかくことを確認させる。 ・ デジタルカメラやタブレットPCで観察の様子を記録し、結果の整理時に役立てる。 ・ 30分おきに3回程度記録させる。 <p>【評】月の位置を観察し、その位置を記録する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月の位置を図示する際は、位置の変化を分かりやすくするため、矢印をかくとよい。 ・ 半月の位置の変化を図にしておくと、まとめの際に生かすことができる。 ・ 半月のこの後の動きは、学校では観察できないため、家で行わせる。 ・ 半月1事例だけでは、月の位置の変化は確実には分からないことに気付かせたい。 ・ 午後の半月を観察した約7日後に満月の観察を行うとよい。 <p>【評】満月の位置の変化を予想し、観察の計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ （安全）保護者に、観察の目的や安全についてのお知らせを配布し、協力を依頼する。 ・ 満月の位置の変化を図にしておくと、まとめ

<ul style="list-style-type: none"> ・満月も太陽や半月と同じように、高くなりながら南の方に位置が変わる。 <p>★月は、どのように位置が変わるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの観察結果を整理し、分かったことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・月は、半月や満月など、日によって見える形は違うがどの月も、太陽と同じように、東の方から昇り、南を通って、西の方へ沈む。 ○月の呼び名について調べる。 ○「たしかめ」に取り組む。 	<p>の際に生かすことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽、半月、満月のそれぞれの位置の変化が見てすぐに分かる資料を提示するとよい。 <p>【評】月の位置の変化と太陽の位置の変化を比較する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を参考にしてまとめたり、P Cを利用して調べたりするとよい。
---	---

【 備 考 】

<関連>

- ・第3学年「太陽と地面」
- ・第6学年「月の見え方と太陽」

単元名 とじこめた空気や水

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 空気や水に力を加えたときの性質を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 空気や水の性質について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 空気や水の性質について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050203_001

【準備等】 空気でっぽう、空気を閉じ込めた筒、水を閉じ込めた筒、押し棒、ゴムの板、バット、ぞうきん
空気を閉じ込めた注射器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 空気でっぽうに空気や水を閉じ込めて玉を飛ばす活動を通して、空気や水の性質に関心をもち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 空のペットボトルや水の入ったペットボトルを見て、中に何が入っているのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> 水の入ったペットボトルには水が閉じ込められているよね。 空のペットボトルには空気が閉じ込められているよ。 ★空気でっぽうに空気や水を閉じこめて、玉を飛ばしてみよう。 空気でっぽうに空気や水を閉じ込めて、玉を飛ばして遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 的を決めて、前玉を飛ばす。 筒に後玉を詰めて、押し棒で筒の中に押し込む。 空気の場合は、筒のもう一方に前玉を詰めて、押し棒で圧して前玉を飛ばす。 水の場合は、筒の中に水を入れてから、もう一方に前玉を詰めて、押し棒で圧して前玉を飛ばす。 玉を飛ばしたときに気付いたことや調べてみたいこと、疑問に思ったことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 空気を閉じ込めて棒を圧すと、玉がよく飛ぶ。 水を閉じ込めて棒を圧すと、玉があまり飛ばない。 空気と水では、力を加えたときに何か違いがあるのかな。 <p>2～3 閉じ込めた空気や水に力を加えて、空気と水の違いを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 空気でっぽうで玉を飛ばしたときの様子を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 空気を閉じ込めるとよく飛んだけど、水はあまり飛ばなかった。 ★とじこめた空気や水に力を加えると、空気と水では、どのような違いがあるのだろうか。 空気や水を閉じ込めて力を加えたときに、どのような違いがあるのかを予想し、予想を確かめる方法を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 空気は縮むけど、水は縮まないと思う。なぜなら、空気の方だけ縮んだ感じがしたから。 前玉が飛ばないように工夫すれば、力を加えたときに縮むかどうか調べることができるね。 閉じ込めた空気や水に力を加えて、空気と水の違いを調べる。(実験1) <ul style="list-style-type: none"> 空気は押し縮められたか 水は押し縮められたか 実験の結果を整理し、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 空気は押し棒を圧することができたけど、水は圧せなかった。 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 閉じ込めた空気や水に力を加えると、空気は押し縮められるが、水は押し縮められない。 <p>4～5 閉じ込めた空気を圧して行って、体積と手ごたえを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験1で、閉じ込めた空気や水に力を加えたときに、気付いたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 空のペットボトルを水槽に沈めて、蓋を外すと中から泡が出てくる様子を見せ、空気を可視化する。 空気を閉じ込めた場合と水を閉じ込めた場合で、前玉の飛び方を比較させるようにする。 十分に活動を行い、閉じ込めた空気や水の様子を体感させることで、学習への興味をもたせる。 (安全) 人や壊れやすいものに向けて飛ばさない。 (安全) 水が出るので、校庭で行う。 児童の気付きや疑問を大切に、今後の学習へつなげていく。 【評】 玉を飛ばしたり、玉を飛ばしたときのことについて話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 第1時で空気や水を筒の中に閉じ込めたときの様子を想起させ、考えさせる。 注射器を使って調べる方法もある。 (安全) 筒を真っ直ぐ立てて、しっかりと手で支える。 (安全) 注射器の先は折れやすいので、注射器を真っ直ぐ立てて、下の方を手で支える。 (安全) 怪我防止のために、力の込めすぎには注意させる。 空気と水の場合を比較して話し合わせる。 「体積」の変化について着目させ、空気は力を加えると体積が小さくなるが、水は変わらないことについても押さえる。 【評】 閉じ込めた空気や水に力を加えて、空気と水の違いを調べる実験を通して、「知識・技能」を評価する。

<p>・空気を圧していくと、押し返す手ごたえをだんだん感じるようになったよ。</p> <p>・空気は、圧し縮めていくと、だんだん強く押し返すようになるのかな。</p> <p>★とじこめた空気をおしていくと、体積や手ごたえは、どのように変わるのだろうか。</p> <p>○閉じ込めた空気を圧していったときの、体積や手ごたえについて予想し、予想を確かめる方法を話し合う。</p> <p>・力を加えていくと、どんどん手ごたえが大きくなると思う。なぜなら、だんだん力が必要になった感じがしたから。</p> <p>・もっと強く押せば、もっと体積が小さくなって、やがて圧し縮められなくなると思う。なぜなら、実験1で最後まで押しなかったから。</p> <p>・圧し縮められたときの体積と、そのときの手ごたえを調べたい。</p> <p>○閉じ込めた空気を圧していった、体積と手ごたえを調べる。</p> <p>・押し返す手ごたえ</p> <p>・圧している手を離れたとき</p> <p>・空気の体積と手ごたえとの関係</p> <p>○実験の結果を整理する。</p> <p>・圧し縮めると、押し返す手ごたえを感じる。</p> <p>・さらに圧し縮めていくと、押し返す手ごたえが大きくなった。</p> <p>・手を放すと、ピストンが元の位置に戻り、元の体積に戻った。</p> <p>○分かったことをまとめる。</p> <p>・閉じ込めた空気を圧していくと、体積は小さくなり、押し返す力（手ごたえ）は大きくなる。</p> <p>6 空気でっぼうの玉が飛ぶ仕組みを考える。</p> <p>★空気でっぼうの玉が飛ぶしくみを考えよう。</p> <p>○空気でっぼうの前玉が飛ぶ仕組みを考え、話し合う。</p> <p>・空気は、圧し縮められて体積が小さくなるほど、元に戻るようとする力が大きくなる。</p> <p>・空気でっぼうは、圧し縮められた空気が元に戻ろうとする力を利用して、前玉を飛ばすおもちゃ。</p> <p>○身の回りの道具が、圧し縮められた空気が元に戻る力をどのように利用しているか説明する。</p> <p>・自転車の空気入れ</p> <p>・エアポット など</p> <p>7 単元のまとめをする。</p> <p>★単元のふり返りをしよう。</p> <p>○「たしかめ」に取り組む。</p>	<p>・これまでの学習や空気でっぼうが飛ぶ仕組みを考えながら、予想させる。</p> <p>【評】閉じ込めた空気を圧していったときの、体積や手ごたえについて考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・空気でっぼうを使って調べる方法もある。</p> <p>・筒の目盛りなどを利用して調べると分かりやすい。</p> <p>・（安全）まっすぐ立てて、下の方をしっかりと手で支える。</p> <p>・（安全）注射器の先は折れやすいので、下の方を手で支え、力を加え過ぎないように注意させる。</p> <p>・注射器の目盛りを使い、力の加え方を段階的に変えて記録させると、手ごたえの違いが分かりやすい。</p> <p>・空気の体積と手ごたえや押し返す力を関係付けてまとめる。</p> <p>【評】閉じ込めた空気を圧していった、体積と手ごたえを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・目には見えない空気存在を感じとらせ、空気を雲のような絵や、色の濃さ、矢印などのイメージ図など、自由な発想で表現させる。</p> <p>・「学びを広げよう」に取り組ませる。</p> <p>【評】空気でっぼうの前玉が飛ぶ仕組みや、身の回りの道具が、圧し縮められた空気が元に戻る力をどのように利用しているか考える活動を通して、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「ものづくり」を行う場合は、教科書P.122「ペットボトルロケットを飛ばしてみよう」に取り組ませることが考えられる。</p>
---	---

【 備 考 】

- ・「電流のはたらき」「とじこめた空気と水」「もののあたたまり方」の中から、2種類以上のものづくりを行うものとする。

< 関連 >

- ・第6学年「ものの燃え方と空気」

単元名 秋と生き物

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 秋の生き物の成長や活動と季節との関係を理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 秋の生き物の成長や活動と季節との関係について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 秋の生き物の成長や活動と季節との関係について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050204_001

【準備等】 虫眼鏡、ものさし、タブレットパソコンやデジタルカメラ、温度計、下敷き、メジャー、捕虫網、虫かご、模造紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 春から夏にかけて調べてきた生き物に関心をもち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○秋になって、植物や動物の様子がどのように変わってきたか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・アキアカネが卵を産んでいるよ。 ・イヌタデが見られるね。 ・サクラの葉が赤くなっているよ。 ★秋のサクラをかんさつしよう。 ○夏のサクラの様子を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・葉を茂らせていた。 ・葉の緑色が濃くなった。 ・さくらんぼを付けていた。 ○夏と同じ場所で、サクラを観察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・木全体の様子 ・枝の形や色、伸び ・葉の形や色、大きさ ○観察した結果を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・葉の色が黄色っぽくなっている。 ・枝の先に小さな芽が出ている。 ・葉の大きさは夏の頃と変わらない。 ・夏よりも涼しくなったから、気温の変化が関係しているのかな。 ・ヘチマは、夏からどう変わっているのかな。 <p>2 春から育てているヘチマについて、成長や変化の様子を調べる。</p> <p>★秋になって、ヘチマは、夏のころからどのように変わっているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○秋になって、ヘチマがどのように変化しているかを予想し、予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・夏より涼しくなったから、夏の頃ほど成長していないと思うよ。 ・今のヘチマの様子を夏からの記録と比べて、どう変化しているかを調べればいいね。 ○ヘチマの成長について調べ、記録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体の様子 ・茎の長さ ・葉の数や形、大きさ ・実はあるか ○観察記録と気温の記録を基に考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・実がとて大きくくなっている。 ・サクラの枝が伸びなくなったように、ヘチマも茎は伸びなくなった。 ・ヘチマの茎が伸びなくなったり、実が大きくなったりしたことは、気温が下がったことと関係がありそうだ。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・秋になって、気温が下がると、ヘチマは、夏の頃よりも茎が伸びなくなるが、実が大きくなる。 ○身の回りの植物がどのような様子をしているか調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・リンゴやブドウが実を付けている。 <p>3 昆虫や鳥などについて、夏からの成長や活動の変化を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏の昆虫や鳥の様子を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・トンボやセミなど、昆虫が活発に活動していた。 ・ツバメが巣立っていた。最近見かけない気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 124～125の植物や動物を参考にして考えさせてもよい。 ・「夏と生き物」の学習で観察した記録を見ながら、夏のサクラを想起させる。 ・夏と変わった点を中心に記録させる。 ・タブレットパソコンのカメラなどで全体の様子を撮影しておく。 ・観察した結果を発表し合うことをきっかけにし、サクラの様子が変わってきた要因について考えさせる。 ・ヘチマについても思い起こさせることで、次時につなげる。 【評】サクラの観察を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・「夏と生き物」の学習で観察した記録を見ながら、夏のヘチマを想起させる。 ・記録の取り方と、ヘチマを観察するときの視点を確認させる。 ・タブレットパソコンのカメラやデジタルカメラで全体の様子を撮影しておく。 ・気温も測らせる。 ・気温の測り方は、教科書P. 12を参照させる。 ・これまでに観察してきたヘチマの実の大きさや気温の変化をグラフ化し、ヘチマの成長の変化を気温の変化と照らし合わせて考えさせる。 ・教科書P. 128のヘチマの様子と気温変化のグラフも見比べながら、考えを確かなものにさせるとよい。 【評】ヘチマを観察し、まとめる活動を通して「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P. 129の「学びを広げよう」を参考にさせてもよい。 ・5年生の「花のつくり」の学習に向けて、アブラナの種類をまいておくともよい。 ・「夏と生き物」の学習で観察した記録を見ながら、夏の昆虫や鳥を想起させる。 ・夏の昆虫や鳥の様子をたくさん発表させることで、実際に外に出て観察しようとする意欲

- ★秋になって、こん虫や鳥などは、夏のころからどのように変わっているのだろうか。
- 昆虫や鳥などの活動について予想し、予想を確かめる方法を考える。
 - ・他の昆虫が活動していると思う。なぜなら、セミを見かけなくなって、他の鳴き声をよく聞くから。
 - ・ツバメは、どこかへ行ってしまったと思う。なぜなら最近見かけないから。
 - 観察の計画に従い、夏に調べた昆虫や鳥などについて活動の様子を調べ、記録する。
-
- 観察した結果を基に、秋の昆虫や鳥などの活動について考える。
 - ・バッタは、近付くと羽を広げて飛んだ。
 - ・夏に調べたときにはいなかったカモがいた。
 - ・ツバメの姿は見られなかった。
 - ・エンマコオロギが羽をこすり合わせて鳴いていた。
 - ・ナナホシテントウが草の上で止まっていた。
 - ・シジュウカラが木の実を食べていた。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・秋になって気温が下がると、夏の頃とは違う昆虫が目立つようになり、卵を産む活動などが見られる。
 - ・ツバメは見られなくなり、カモなどが見られるようになる。
- 4 秋の生き物の様子についてまとめる。
- ★秋の記録を整理しよう。
- 秋に調べてきた観察記録を整理する。
-
- 次の季節への見通しをもつ。
 - ・これから先、冬にかけて、気温がさらに下がっていくから、サクラは枯れてしまうと思うよ。
- 5 秋に調べた植物や動物について、さらに気温の下がる頃には様子がどう変わるのかを話し合う。
- 秋に植物や動物を調べたときは、どのような変化が見られたのかを話し合う。
 - ・全体は伸びなくなった。 ・葉が色付いた。
 - ・ヘチマは実が大きくなった。
 - ・ツバメ、セミ、クワガタなどが見られなかった。
 - ・卵を産んで死んでしまう昆虫がいた。
 - ・今までとは違う鳥や虫が見られた。
 - ★秋が深まると、植物や動物の様子はどのように変わるのだろうか。
 - 秋の頃と比べて、サクラやヘチマの様子がどのように変わってきたのかを考える。
 - ・サクラは、葉がたくさん落ちる。
 - ・ヘチマは、実が熟し、実の中に種を残して全体が枯れる。
 - 秋の頃と比べて、昆虫や鳥の様子の変化を考える。
 - ・ヒキガエルは、落ち葉の上でじっとしている。
 - ・コオロギは、卵を産んでいる。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・植物は、葉を落したり、実が熟し、種を残したりするものがある。
 - ・昆虫は、活動が鈍くなったり、卵を残して死んでしまったりする。
 - ・鳥の中には、暖かい南の国に渡っていくものがある。

をもたせる。

- ・春から夏にかけて調べた昆虫や鳥が見付からないときは、別の動物を観察してもよいことを指導しておく。
 - ・（安全）スズメバチやミツバチ、ムカデのように危険な虫には近付かないように十分指導する。
 - ・（安全）川や池などに近付きすぎないように注意させる。
 - ・何がどのような活動をしているか記録させる
 - ・タブレットパソコンのカメラやデジタルカメラで撮影しておく。
 - ・見られる昆虫や鳥の種類が変わってきたことに着目させる。
 - ・昆虫や鳥の様子が変わってきた要因についても話し合う。
 - ・気温が下がることで、見られる生き物が変化したことを確認する。
 - ・教科書P.132の写真や、この季節に見られる生き物の映像資料を参考に考えさせてもよい
- 【評】 秋の生き物の様子を観察し、記録する活動を通して、「知識・技能」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
-
- ・「夏と生き物」と同様にして記録を整理させ季節ごとにまとめさせる。
- 【評】 秋の植物と昆虫や鳥の様子をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
-
- ・11月下旬頃のサクラなどが葉を落とし始めた時期に実施し、植物や動物が冬の準備を始めたことに気付かせる。
 - ・観察記録を見ながら、秋の頃のサクラやヘチマを想起させる。
 - ・実際に野外に観察に行くとよい。
 - ・教科書P.135の写真や、この季節に見られる生き物の映像資料を参考に考えさせてもよい
- 【評】 植物や動物の様子の変化を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・秋が深まるにつれ、生き物によって冬越しの準備をすることにふれる。

【 備 考 】

- ・1年を通じて動物の活動や植物の成長をそれぞれ2種類以上観察するものとする。

< 関連 >

- ・第3学年「生き物を調べよう」「植物を育てよう」「チョウを育てよう」「こん虫の世界」

- ・第5学年「植物の発芽や成長」「メダカのたんじょう」「花から実へ」

単元名 ものの温度と体積

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 物の温度による体積変化を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 空気、水及び金属の性質について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 空気、水及び金属の性質について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050205_001

【準備等】 500mLのやわらかいペットボトル、カップ麺の容器もしくはプラスチックの手付きカップ（1L）や500mLのビーカー、バット、湯（60℃くらい）、氷水、温度計、ぞうきん、300mLの丸底フラスコ、ガラス管つきゴム栓、ビニル管、ゼリー、スポイト、アルミニウムの棒（太さ4mm、長さ30cmくらい）、ものさし、水槽、木の板など、スタンド、フレキシブルスタンド、実験用ガスコンロ（またはアルコールランプ）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 理科室の使い方や実験器具の使い方について考える。</p> <p>★理科室の使い方や実験器具の使い方について考えよう。</p> <p>○理科室の使い方を知る。</p> <p>○実験用ガスコンロの使い方を知る。</p> <p>2 ものを温めたり冷やしたりして、ものの温度と体積についての単元の学習課題をつかむ。</p> <p>○へこんだピンポン玉が、湯につけたときにふくらむ様子の写真を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元の形に戻ったのは、どうしてだろうか。 ・お湯につけたときに、中の空気がふくらんだのかな。 <p>★ものをあたためたり冷やしたりするとどのようなになるか調べてみよう。</p> <p>○ふたをして空気をとじこめたペットボトルを、湯につけて氷水につけたりしたときの、変化を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温めると容器が膨らんだ。 ・冷やすと容器がへこんだ。 ・ものの体積は、温度が関係しているのかな。 <p>3 空気の体積変化について調べる。</p> <p>★空気は、あたためたり冷やしたすると、体積がどのように変わるのだろうか。</p> <p>○空気は、温めたり冷やしたりすると体積がどのように変わるか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温めると空気の体積は大きくなり、冷やすと小さくなる。なぜなら、さっきの実験で、湯につけるとペットボトルはふくらみ、氷水につけるとへこんだから。 <p>○自分の予想を確かめる方法を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気鉄砲のように、どちらか一方を動くものにすると体積の変化が分かるね。 <p>○実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸底フラスコとビニル管を、ゼリーを詰めたガラス管つきゴム栓でつなぎ、空気を閉じ込め、それを湯につけて氷水につけたりして、ゼリーの動きを観察する。 ・湯につけることと、氷水で冷やすことを繰り返し実験する。 <p>○実験結果を整理し、分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お湯につけるとゼリーが押し出され、氷水につけると元に戻った。 ・繰り返してやっても同じ結果だった。 ・空気は、あたためると体積が大きくなり、冷やすと体積が小さくなる。 <p>○へこんだピンポン玉を湯につけると元の形に戻る理由を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンポン玉の中の空気がお湯で温められて体積が大きくなったため、ピンポン玉がふくらんだ。 <p>4～5 水の体積変化について調べる。</p> <p>○空気を閉じ込めたペットボトルと水を閉じ込めたペットボトルの様子を比べ、空気と水の違いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気を閉じ込めたペットボトルはやわらかいが、水を閉じ込めたペットボトルは固い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.136～137を用いて、理科室の使い方や実験の約束を確認させる。 ・教科書P.138を用いて、実験用ガスコンロの使い方を確認する。 ・（安全）火を使う実験は初めてであるので、扱いには十分に注意させる。 <p>【評】理科室の使い方について知ったり、実験用ガスコンロを使ってみたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に演示実験で見せてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・（安全）熱い湯に手などをつけて、火傷をしないように注意させる。 <p>【評】空気を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず事前に同じ条件で実験しておき、適切な湯の温度等を確認しておく。 ・（安全）熱い湯に手などをつけて、火傷しないように注意させる。 ・（安全）ガラス器具だけがをしないようにするため、取り扱いに注意させる。 <p>【評】体積変化について調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

- ・水の体積は簡単には変わらないのではないか。
- ★空気は、空気と同じように、あたためたり冷やしたりすると、体積が変わるのだろうか。
- 水は、温めたり冷やしたりすると体積がどのように変わるか予想する。
 - ・水は、温度によって体積が変わると思う。なぜなら、空気も温度によって体積が変わったから。
 - ・水は、温度によって体積が変化しないと思う。なぜなら、水は、空気と違って、圧し縮められないから。
- 実験方法を話し合う。
 - ・空気のとときと同じように実験すればいい。
 - ・水は目に見えるから、ゼリーは必要ないのではないか
- 実験を行う。
 - ・空気のとときと同じように、水を温めたり冷やしたりして、水の体積が変わるかどうか調べる。
- 実験結果を整理し、分かったことをまとめる。
 - ・温めると水の先が上に動き、冷やすと下に動いた。
 - ・水の動きの変化は小さかった。
 - ・水は、空気と同じように、温めたり冷やしたりすると体積が変化したが、その変化は、空気よりも小さい。
- 6～7 金属の体積変化について調べる。
 - 金属の棒を湯に入れて温め、体積が変わるかどうか調べる。
 - ・金属の棒は、湯で温めても長さが変わらない。
 - ・もっと温度を高くするとどうだろうか。
 - ★金ぞくは、空気や水と同じように、あたためたり冷やしたりすると、体積が変化するのだろうか。
 - 金属の温度と体積の変化について予想する。
 - ・金属も、もっと熱くすると、体積が変わると思う。なぜなら、空気や水も体積が変わったから。
 - 自分の予想を確かめる方法を話し合う。
 - ・金属をもっと熱くするためには、火で熱するのはどうだろうか。
 - ・水のように少ししか変化しないかもしれないから、小さな変化も分かるようにしたい。
 - 金属棒を熱し、体積が変わるかどうか実験する。
 - ・約2分間熱したときと、その後3分間放置し冷やしたときの棒の長さを調べる。
 - 実験の結果を整理し、分かったことをまとめる。
 - ・かなり熱したら、金属がほんの少し伸びた。
 - ・水は、空気と同じように、温めると体積が大きくなり冷やすと体積が小さくなるが、その変化は、空気や水と比べて非常に小さい。
 - 金属の棒を湯であたためても、体積が変わらないように見えたわけを考える。
 - ・金属は、空気や水に比べて、体積の変化がとても小さい。だから、湯につけたくらいの温度変化では、目に見えるほどの変化はせず、長さが変わらないように見えた
- 8 単元のまとめをする。
 - ★単元のふり返りをしよう。
 - これまで学習したことを基に、空気、水、金属の温度と体積の変化について話し合う。
 - ・空気、水、金属は温めると体積が大きくなり、冷やすと体積が小さくなる。
 - ・温度による体積の変化の仕方は、空気、水、金属の順に大きい。
 - 教科書の資料を参考にして、生活の中で見られる、温度による体積変化について話し合う。
 - ・浮き輪やビーチボールが熱で破裂するわけ、温度計の仕組み、鉄道のレールにはつなぎ目が必要なわけを考える。
 - 「たしかめ」に取り組む。

- ・空気と水の違いに注目させる。
- ・「とじこめた空気や水」の単元の学習内容を根拠にする児童の考えも大切にします。

【評】水の温度と体積の変化との関係について予想や仮説を発想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・（安全）熱い湯で火傷をしないように、十分注意させる。
- ・最初の水面の位置がガラス管の先になるように、スポイトで水を入れておく。
- ・ゴム栓を動かすと、水面の高さが変わってしまうので、注意する。

【評】水の体積変化について調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・演示実験でもよい。
- ・水槽など大きな容器を使うとよい。
- ・棒の長さをあらかじめ測っておき、湯につけた後の長さと比べる。

- ・空気・水と金属棒の違いに注目させる。

【評】金属の温度と体積の変化との関係について予想や仮説を発想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・（安全）ガスコンロの使い方を指導しておく
- ・（安全）火傷には充分注意させる。
- ・空気と水の体積変化と比べてまとめさせる。

- ・教科書P.152「学びを広げよう」に取り組ませる。

【評】金属の体積変化について調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】空気、水、金属の温度と体積の変化との関係について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】空気、水、金属の温度と体積の変化を日常生活の中から見いだす活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

- ・中学校第1学年「もののすがた」

単元名 もののあたたまり方

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 物の温まり方を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 金属、水及び空気の性質について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 金属、水及び空気の性質について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050206_001

【準備等】金属の棒、金属の板、示温インク（塗るタイプ）、実験用ガスコンロ（またはアルコールランプ）、スタンド、ぞうきん、試験管、試験管立て、300mLのビーカー、示温インク（溶かすタイプ）、保護眼鏡、フレキシブルスタンド、水槽、白熱電球、ソケット付導線、白熱電球を固定するもの、段ボール紙、温度計、記録用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 物の温まり方について、単元の学習課題をつかみ、学習の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ キャンプで金属の板や棒を使って料理を作っている様子から、金属の温まり方について問題を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 焼き鳥に使っている金属の棒は、熱していない部分も温かくなっている。 ★ 金ぞくは、どのように温まるのだろうか。 ○ 金属の温まり方について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金属は、一部を熱すると、熱したところから順に温まっていくのかな。 <p>2～3 金属がどのような順に温まるのかを予想し、実験方法を考えて調べる。</p> ★ 金ぞくは、熱したところから順にあたたまるのだろうか ○ 金属が熱したところから順に温まるのか図に表して予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱したところから順に温まると思う。なぜなら、熱はとなりへとなりへと伝わっていくと思うから。 ○ 金属の棒や板の一部を加熱器具で熱して、金属の温まる順を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金属の板では、熱したところから円のように示温インクの色が変わった。 ・ 金属の棒では、熱したところに近いところから、示温インクの色が変わった。 ○ 示温インクの色の変化から、実験の結果を整理し、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金属は、熱すると、熱せられたところから順に、周りに広がるように温まる。 <p>4～5 水がどのような順に温まるのかを予想し、実験方法を考えて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りで、水を熱している例を探して、水の温まり方について問題を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水も、金属と同じような温まり方をするのかな。 ★ 水は、金属と同じように、熱したところから順にあたたまるのだろうか。 ○ 試験管に入れた水の一部を熱したときの温まり方を予想し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱したところの近くから温まると思う。なぜなら、金属と同じよう温まると思ったから。 ○ 斜めに傾けた試験管に水を入れ、加熱器具で熱して、水がどのように温まるのかを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 試験管の真ん中を熱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンプなどで金属の板や棒を使って食べ物を焼いている写真などを用意するとよい。 ・ 給食で使用しているアルミ製の大きなお玉を金属の棒に見立てて考えさせるなど、身近な生活経験を想起させる。 <p>【評】金属の温まり方について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図に矢印などをかき込ませ、金属が温められる順を考えさせる。 ・ 示温インクを提示し、取り扱いについて説明する。 <p>【評】金属の温まり方について、予想や仮説を発想する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ （安全）長時間熱しない。また、冷めるまでは、金属を触らないように注意させる。 ・ 小さい炎にすることで、一部を熱するようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想と同様に、金属の棒や板の図を用意し、その図上で結果を整理させてもよい。 ・ 金属は温めたところから全ての方向に同じように温まっていくことを確認させる。 <p>【評】金属は熱した部分から順に温まること調べ、記録する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際にお湯を沸かす様子を演示すると、児童の興味・関心が高まる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金属の温まり方の実験や風呂や湯を沸かしたときなどの生活経験を根拠に考えさせるとよい。 <p>【評】水の温まり方について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉だけでなく、図に矢印や実際の色を使って記録させてもよい。 ・ 試験管の真ん中を加熱することで、上下の変化を観察できるようにする。 ・ 小さい炎で加熱すると、温まる様子を観察しやすい。 ・ （安全）試験管は、加熱後大変熱くなっているので、長時間加熱せず、冷えるまで触らないように注意させる。 ・ （安全）試験管の口をのぞき込んだり、人がいる方へ向けたりしないように注意させる。

<p>○ 示温インクの色の変化から、実験の結果を整理し、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 真ん中を熱すると、上の方が先に温まった。 ・ 水は、金属と違って、上の方から温まる。 <p>6～7 温められた水が上の方へ動くかどうか予想し、実験方法を考えて調べる。</p> <p>★ あたためられた水は、上の方に動くのだろうか。</p> <p>○ 温められた水が上の方に動いているかを予想し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 温められた水は、上の方に動くと思う。なぜなら、熱した部分の水の色が変わって上がるように見えたから。 ・ 大きなビーカーに水を入れて、熱してみたら調べられるのではないか。 <p>○ ビーカーに入れた水を下から加熱器具で熱して、温められた水が上の方へ動くかどうか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱したところがピンク色に色が変わって、上の方へ動く。 ・ 時間が経つと、上からピンク色になってくる。 <p>○ 示温インクの色の変化から、実験の結果を整理し、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱した部分の水の色が変わって、上の方に動いた。 <p>○ なべややかんに水を入れて熱するとき、中の水の温まり方を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目には見えないけど、熱して温められた水が上の方に動いて温められている。 <p>8～9 空気がどのような順に温まるのかを予想し、実験方法を考えて調べる。</p> <p>○ 身のまわりで、空気を温めている例を探して、空気の温まり方について、問題を見いだす。</p> <p>★ 空気は、どのような順にあたまるのだろうか。</p> <p>○ 水槽の中の空気の一部を熱したときの温まり方を予想し話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空気は、水と同じように、上の方から温まると思う。なぜなら、空気は水と似ていて動くから。 ・ 予想通りなら、温まった空気が上の方に動くから、上の温度が高くなるだろう。 <p>○ 水槽の中の空気の一部を白熱電球で温めて、空気の温まる順を調べる。</p> <p>○ 水槽の中の温度変化から、実験結果を整理し、本時の学習課題の解決を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上の方が温度が高い。 ・ 下の温度は上よりも低い。 ・ 白熱電球の近くの温度は高い。 ・ 水と同じように、温められた空気は上の方に移動し、上の方から順に温まる。 <p>○ エアコンで暖房をするときに、吹き出し口を下に向ける理由について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エアコンの吹き出し口を下に向けるのは、あたためた空気は上の方に動いてしまうから、下に向けることで足元や部屋全体をあたためられるから。 <p>10 金属、水、空気の温まり方について、図や表にしてまとめる。</p> <p>★ 金ぞく、水、空気のあたため方をまとめよう。</p> <p>○ 金属、水、空気のあたため方を図などに示し、共通していることや違っていることを話し合う。</p>	<p>・ 水は金属と違って、上から順に温まることを確認させるとともに、それはどうしてなのか疑問をもたせ、次時の学習につなげる。</p> <p>【評】 水の温まり方について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 水の温まり方について、予想や仮説を発想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 実験2で作った、示温インクを水に溶かしたものを使ってもよい。</p> <p>・ 言葉だけでなく、図にかき込ませるのもよい。</p> <p>・ 火力が強いと変化がわずかな時間で終わってしまうので注意する。</p> <p>・ (安全) ビーカーは、加熱後大変熱くなっているの、長時間加熱せず、冷えるまで触らないように注意させる。</p> <p>・ 水の温まり方は、温められた水が上の方に動いて、上から順に温まり、やがて全体が温まることを押さえる。</p> <p>・ 水の温まり方は、金属とは異なることを確認する。</p> <p>【評】 水は熱した部分が移動して上から順に温まることを調べ、記録する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 実際にストーブなどで空気を温める様子を演示すると、児童の興味・関心が高まる。</p> <p>・ 金属や水の温まり方や生活経験を想起させ、根拠のある予想や仮説を考えさせる。</p> <p>【評】 空気の温まり方について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ (安全) 白熱電球は熱くなるので、冷えるまで触らないように注意させる。</p> <p>・ 班の児童の測った温度を聞いて記録するだけでなく、自分でも温度を確認させ、主体的な実験となるように意識させる。</p> <p>・ 結果を全体共有するため、分かりやすく記録した数班を指名発表させる。</p> <p>・ 温度変化から、空気がどのように移動したかを捉えやすくするために、空気の移動を矢印で記入させる。</p> <p>・ 水のとときと比較させ、その特徴がよく似ていることに着目させる。</p> <p>【評】 空気は熱した部分が移動して上から順に温まることを調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 日常生活との関連付けとして、暖房時の空気循環の効果について取り上げる。</p> <p>・ 「ものづくり」を行う場合は、教科書P.172「ソーラーバルーンを作ってみよう」に取り組ませることが考えられる。</p>
---	--

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">○学んだことを使って考える。○「たしかめ」に取り組む。 | |
|--|--|

【 備 考 】
・「電流のはたらき」「とじこめた空気と水」「もののあたたまり方」の中から，2種類以上のものづくりを行うものとする。

<関連>

- ・中学校第1学年「もののすがた」

単元名 冬の星

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 星の集まりの並び方や位置の変化を理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 星の特徴について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 星の特徴について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050301_001

【準備等】方位磁針、星座早見、懐中電灯

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 冬の星座を星座早見から見付け、時間による位置の変化に関心をもち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○冬の星空の写真を見て、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・冬の大きな三角があるよ。 ・オリオン座には明るい星が多いね。 ○星座早見を使って、オリオン座がどこに見えるかを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・夕方、東の空に見えそうだね。 ・時間が経つと、どう位置が変わるのかな。 ★オリオン座は、どのように位置が変化するのだろうか。 ○オリオン座の位置の変化について予想し、確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・オリオン座は、南の方へ位置が変わると思う。なぜなら、オリオン座は、夕方、満月と同じように、東の空にあるから。 ・星座の位置と形を記録するといいいね。 ・2回観察すれば、位置の変化が分かるよ。 ○オリオン座の観察方法を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・星座早見で東の空のオリオン座を探し、記録する。 ・星の色も記録する。 ・午後6時と午後8時の2回、観察を行う。 <p>2 冬の星の観察結果をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★オリオン座の動きについてまとめよう。 ○観察の結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・オリオン座は、満月と同じように、南の方へ位置が変わったよ。 ・星の並び方は変わらなかったよ。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・夜、東の空に見えるオリオン座は、星の並び方は変わらずに、高くなりながら南の方に位置が変わる。 ○午後8時より後のオリオン座の位置の変化について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・オリオン座は、東の方から昇って、高くなりながら南の方に位置が変わった後、南を通り、低くなりながら西の方に位置が変わる。 ・北の空高くには、カシオペヤ座が見える。 ・カシオペヤ座は、星の並び方は変わらずに、北から西の方に位置が変わる。 ○単元のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「たしかめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.175の星座や星を、P.174の写真から見付ける活動を通して、冬の星や星座を確認させ、興味をもたせるとよい。 ・冬の代表的な星として、オリオン座のベテルギウスとリゲル、こいぬ座のプロキオン、おおいぬ座のシリウスがある。 ・「冬の大きな三角」という用語を押さえる。 ・星座早見の使い方について、再確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・夏の夜空を観察したことを想起させる。 ・「月の位置の変化」で学習したことを想起させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・記録用紙（理科ノート「観察と実験」）に記録させる。その際、目印となる建物や方位も記録させる。 ・（安全）保護者に、観察の目的や安全についてのお知らせを配布し、協力を依頼する。 ・（安全）防寒対策についても留意させる。 <p>【評】オリオン座の位置の変化について考え、調べる計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.179の図を参照させる。 ・カシオペヤ座のように、北にある星は、北極星を中心に反時計回りに回っているので、オリオン座とは動きが異なることを押さえておく。 ・時間が経ってもほとんど位置を変えない、「北極星」という星があることにも触れるとよい。 <p>【評】オリオン座の位置の変化について考える活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

<関連>

- ・第3学年「太陽と地面」
- ・第4学年「夏の星」
- ・第6学年「月の見え方と太陽」

単元名 冬と生き物

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 冬の生き物の成長や活動と季節との関係を理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 冬の生き物の成長や活動と季節との関係について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 冬の生き物の成長や活動と季節との関係について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050302_001

【準備等】 虫眼鏡、ものさし、タブレットパソコンやデジタルカメラ、温度計、下敷き、メジャー、捕虫網
虫かご、模造紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 春から秋にかけて調べてきた生き物に関心を持ち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○冬になって、植物や動物の様子がどのように変わってきたか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・イラガの繭が見られるよ。 ・サクラの冬芽が見られるね。 ★冬のサクラをかんさつしよう。 ○秋のサクラの様子を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・葉を色付いた。 ・秋が深まると、葉を落とし始めた。 ・枝の先には小さな芽ができていた。 ○秋と同じ場所で、サクラを観察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・木全体の様子 ・ 枝の形や色、伸び ・葉の形や色、大きさ ○観察した結果を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・葉がすっかり落ちてしまっている。 ・枝には芽がある。秋の頃よりも大きくなっている。 ・秋よりも寒くなったから、気温の変化が関係しているのかな。 ・ヘチマは、秋からどう変わっているのかな。 <p>2 春から育てているヘチマについて、成長や変化の様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★冬になって、ヘチマは、秋のころからどのように変わっているのだろうか。 ○冬になって、ヘチマがどのように変化しているかを予想し、予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・秋が深まると、実が熟したから、もう枯れていると思うよ。 ・今のヘチマの様子を秋からの記録と比べて、どう変化しているかを調べればいいね。 ○ヘチマの成長について調べ、記録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体の様子 ・実の形や色、大きさ ・葉の形や色、大きさ ・根の様子 ○観察記録と気温の記録を基に考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘチマは枯れてしまっている。 ・実がパリパリになっている。 ・根はくさってしまっているようだ。 ・ヘチマが枯れてしまうことは、冬になって、気温がさらに下がったことと関係がありそうだ。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・冬になって、気温がさらに下がると、ヘチマは、秋の頃に付けた実の中に種を残して、枯れてしまう。 <p>3 昆虫や鳥などについて、秋からの成長や活動の変化を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○秋に調べた昆虫や鳥は、どのような活動をしているのかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・動物はあまり見られなくなった。 ・冬が過ぎるのを待っているのかもしれない。 ★冬になって、こん虫や鳥などは、秋のころからどのように変わっているのだろうか。 ○昆虫や鳥などの活動について予想し、予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫はあまり見かけないけど、鳥は水辺にいると思う ○観察の計画に従い、秋に調べた昆虫や鳥などについて活 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 182～183の植物や動物を参考にして考えさせてもよい。 ・「秋と生き物」の学習で観察した記録を見ながら、秋のサクラを想起させる。 ・秋と変わった点を中心に記録させる。 ・タブレットパソコンのカメラなどで全体の様子を撮影しておく。 ・観察した結果を発表し合うことをきっかけにし、サクラの様子が変わってきた要因について考えさせる。 ・ヘチマについても思い起こさせることで、次時につなげる。 【評】サクラの観察を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・「秋と生き物」の学習で観察した記録を見ながら、秋のヘチマを想起させる。 ・記録の取り方と、ヘチマを観察するときの視点を確認させる。 ・タブレットパソコンのカメラやデジタルカメラで全体の様子を撮影しておく。 ・気温も測らせる。 ・気温の測り方は、教科書P. 12を参照させる。 ・ヘチマは実の先が丸く開いて種子を落とすことから、自然の仕組みの素晴らしさにも気付かせたい。 【評】ヘチマを観察し、まとめる活動を通して「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。 ・「秋と生き物」の学習で観察した記録を見ながら、秋の昆虫や鳥を想起させる。 ・この季節は、野外で見られる動物の数が少な

動の様子を調べ、記録する。

- 観察した結果を基に、冬の昆虫や鳥などの活動について考える。
 - ・ 秋に調べたときと同じようなカモを見付けた。
 - ・ 葉の陰にナナホシテントウがいた。
 - ・ オオカマキリの卵があった。
 - ・ カブトムシの幼虫が土の中にいた。
 - ・ アゲハチョウのさなぎが見られた。

- 分かったことをまとめる。
 - ・ 冬になって気温がさらに下がると、昆虫などは、葉の陰や土の中で冬を越したり、卵やさなぎの姿で冬を越したりしている。
 - ・ 鳥は、カモなどが見られる。

4 冬の生き物の様子についてまとめる。

- ★ 冬の記録を整理しよう。
- 秋に調べてきた観察記録を整理する。

- 次の季節への見通しをもつ。
 - ・ これから先、春にかけて、気温が上がっていくから、サクラは、また花を咲かせると思うよ。

くなるが、枯れ葉の下や木の枝などを探し、冬越しの工夫を発見させる。

- ・ 昆虫や鳥は様々に工夫しながら冬を越すことを確認させる。
- ・ 昆虫や鳥の様子が変わってきた要因についても話し合う。
- ・ 気温の変化と生き物の活動の様子を関連付けながら考えさせる。
- ・ 教科書P. 188の写真や、この季節の生き物の様子が見られる映像資料を参考にさせてもよい。

【評】 冬の生き物の様子を観察し、記録する活動を通して、「知識・技能」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 「秋と生き物」と同様にして記録を整理させ季節ごとにまとめさせる。

【評】 冬の植物と昆虫や鳥の様子をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

- ・ 1年を通じて動物の活動や植物の成長をそれぞれ2種類以上観察するものとする。

< 関連 >

- ・ 第3学年「生き物を調べよう」「植物を育てよう」「チョウを育てよう」「こん虫の世界」
- ・ 第5学年「植物の発芽や成長」「メダカのたんじょう」「花から実へ」

単元名 水のすがたの変化

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 水の温度による状態変化を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 水の性質について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 水の性質について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050303_001

【準備等】試験管（直径1.8cm、長さ18cm）、温度計、ビーカー（500mL、300mL）、砕いた氷（200gぐらい）、食塩（100gぐらい）、ビニルテープ、ストロー、黒い板（幅1.5cm、長さ20cm）、ぞうきん、沸騰石、糸、スタンド、実験用ガスコンロ（またはアルコールランプ）、加熱用金網、保護眼鏡、ポリエチレンの袋、たこ糸、セロハンテープ、ろうと

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 水のすがたの変化に関心をもち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然界の中で水が凍る現象を探す。 <ul style="list-style-type: none"> ・屋根につららができているよ。 ・海の水が凍ってできた流氷が見られるんだね。 ・湖の水が凍って氷ができることがあるよ。 ○水から氷への変化を探し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍庫で水を冷やして氷を作ったことがあるよ。 ・水が凍るのは、何℃になったときかな。 ・水は、冷やすと、どのように氷になっていくのかな。 ★水を冷やし続けると、水は、どのように氷に変わるのだろうか。 ○水を冷やし続けたときの水の温度とすがたの変化について予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・水は、0℃ぐらいで氷に変わると思う。なぜなら、水たまりが凍っていた日は、とても寒かったから。 ・水は、周りから氷になっていくと思う。なぜなら、周りから冷えていくはずだから。 ○予想を確かめる方法について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・温度計を水に付けて、冷やしていけばいいと思うよ。 ・寒剤を使うと、水の温度を下げられるんだね。 <p>2～3 水を冷やす実験をし、水の温度とすがたの変化との関係を調べる。</p> <p>★水を冷やし続けると、水は、どのように変化するか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の予想を振り返り、水を冷やし続けたときの、水の温度とすがたの変化との関係を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・氷に食塩を混ぜた寒剤を使用する。 ・1分ごとに水の温度と様子を調べる。 ○結果について整理し、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフに表す。 ・0℃になったとき、水が凍り始めた。 ・水が全部凍るまで、0℃のままだった。 ・全部凍ると温度が下がった。 ・氷になると、体積が増えていた。 ・水は、周りから少しずつ氷にすがたが変わっていった ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・水を冷やし続けると、水は、0℃で凍り始めて、周りから少しずつ氷にすがたが変わる。 ・水は、凍り始めてから、全部凍るまでの間、温度が0℃のまま変わらない。 ・水は、氷にすがたが変わると、体積が大きくなる。 ・液体の水を冷やしていくと、0℃で氷（固体の水）に変わる。 ・氷（固体の水）を温めていくと、0℃で液体の水に変 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 190～191を参考にさせる。 ・日常生活での経験を想起させ、温度と水のすがたの関係に関心をもたせる。 <p>【評】水から氷への変化について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氷に食塩を混ぜると、氷だけのときよりも温度が低くなり、それを「寒ざい」ということを押さえる。 ・（安全）寒剤はとても冷たくなるため、直接触ってはいけないことを伝える。 ・0℃よりも低い温度の読み方を確認させる。 ・寒剤は、氷の重さの3分の1の食塩を入れてよく混ぜて作る。 ・氷を細かく砕いておくと、速く冷やすことができる。 ・（安全）温度計や試験管を割らないように、温度計の先にストローを付けさせる。 ・（安全）寒剤はとても冷たくなるので、氷水やビーカーをじかに触らないようにさせる。 ・水を冷やし、0℃より低い温度になっても液体のままのときは、振動を与えるとよい。（過冷却） ・折れ線グラフについては、教科書P. 33を参照させる。 ・グラフの中に、水の様子を書き込ませるとよい。 ・「液体」「固体」という用語の意味を確認する。 【評】水の温度とすがたの変化について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

わる。

- 身の回りの現象について考える。
 - ・冬は気温がとても低いので、滝の水が凍ってしまった

4 水を温めた経験を振り返り、水を温めたときの変化について問題を見いだす。

- 水を温めたときの変化を探し、話し合う。
 - ・お風呂の水を温めて入るよ。
 - ・湯を沸かすと、湯気が出てくるよ。
 - ・水の入った鍋を火にかけると、水の中から泡が出てくるよ。
 - ・湯気や泡が出るのは、何℃くらいになったときかな。
 - ・水は、温めると、すがたが変わるのかな。

★水をあたため続けると、水は、どのように変化するのだろうか。

- 水を温め続けたときの水の温度とすがたの変化について予想する。
 - ・水を温め続けると、何かにすがたが変わると思う。なぜなら、水を冷やし続けたとき、水は氷にすがたが変わったから。
 - ・湯気や泡が出るのは、100℃くらいだと思います。なぜなら、風呂では、湯気は出ているけど、泡は出ていないから。

- 予想を確かめる方法について話し合う。
 - ・水を温めるなら、ガスコンロを使うといいね。

5～6 水を温める実験をし、水の温度とすがたの変化との関係を調べる。

★水をあたため続けて、水の温度とすがたの変化を調べよう。

- 前時の予想を振り返り、水を温め続けたときの、温度と水のすがたの変化との関係を調べる。
 - ・ビーカーに入れた水を熱する。
 - ・1分ごとに水の温度と様子を調べる。
 - ・温度に変化が見られなくなったところで、熱するのをやめる。

- 結果について整理し、まとめる。

- ・だんだん水の温度が上がっていった。
- ・100℃近くまでしか上がらなかった。
- ・35℃くらいで、底に小さな泡ができた。
- ・45℃くらいで底の泡が大きくなった。
- ・60℃くらいで、壁が曇って湯気が出てきた。
- ・80℃くらいで、水の中にも小さな泡が出てきた。
- ・95℃くらいで沸き立った。
- ・温度が上がりきった頃、水の中から泡がたくさん出るようになった。
- ・熱するのをやめたとき、水面の位置が下がっていた。

- 分かったことをまとめる。
 - ・水を温め続けると、水は、湯気が出るようになり、温度が100℃近くで沸き立って、中から盛んに泡が出るようになる。

- ・水は、沸き立っている間、温度が変わらない。
- ・沸騰した後、水の量が減る。

7 水の沸騰に関心を持ち、泡の正体について予想する。

- 沸騰した後に、水の量が減っている理由について話し合う。
 - ・湯気が付いた温度計は水で濡れていた。水は湯気になって出ていったのかな。
 - ・沸騰しているときは、泡が出ていた。水は泡になって出ていったのかもしれないね。

★水がふっとしているときに出るあわは、すがたが変わった水なのだろうか。

- 水が沸騰しているときに出る泡が水かどうか予想する。
 - ・泡は空気だと思う。なぜなら、泡は空気のように見えるから。
 - ・湯気が水だから、泡も水だと思うよ。

- ・季節によって、見られる水のすがたが変わる理由を考えさせる。

【評】身の回りの現象を説明する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ・水は冷やすと氷にすがたが変わったことと対比して考えさせる。

【評】水を温めたときの、水の温度とすがたの変化について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ガスコンロの使い方については、教科書P.138で確認させる。

- ・水面の位置にビニルテープで印を付けさせ、実験後に位置を確認させる。
- ・（安全）温度計の先をビーカーの底や壁に付けないようにさせる。
- ・（安全）湯が急に噴き出すと危ないので、保護眼鏡をかけさせる。また、上からビーカーをのぞき込ませない。
- ・（安全）湯が噴き出すのを防ぐため、沸騰石を使わせる。
- ・（安全）実験に使った器具は熱くなっているので、冷えるまで触らせない。
- ・アルコールランプを使用する場合は、2分ごとに記録を取らせる。
- ・調べた結果をグラフに表し、まとめさせる。

【評】実験をし、結果をまとめる活動を通して「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・湯気や泡については、次時で詳しく扱う。
- ・「ふっとう」という用語の意味を確認する。

- ・沸騰した後、水の量が減っていたことを取り上げ、次時につなげる。

- ・水を温めたときに、湯気や泡が出ていたことに着目させる。
- ・湯気の正体については、教科書P.202「湯気にスプーンを近づけたときの様子」の写真を参照させたり、演示実験を行ったりするとよい。

- 調べる方法について話し合う。
 - ・沸騰しているときに出てくる泡を袋に集めて、袋に水が溜まるか溜まらないかを調べるといいと思うよ。
- 8～9 水を沸騰させて、水から出てきたものを調べる。
 - ★水がふつとうしているときに出るあわが、水かどうかを調べよう。
 - 前時の予想を振り返り、水を沸騰させて、水から出てきたものを調べる。
 - ・ビーカーに、水と沸騰石、ひっくり返したろうとを入れる。
 - ・ストローの端にポリエチレンの袋をかぶせる。
 - ・ストローのもう片方の端とろうとを、セロハンテープでしっかり留める。
 - ・ビーカーを加熱し、水が沸騰しているときに出る泡を袋に集める。
 - 結果について整理し、まとめる。
 - ・泡を袋に集めると水が溜まった。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・水が沸騰しているときに出る泡は、すがたが変わった水である。
 - ・水蒸気…気体の水（目に見えなくなったすがた）
 - ・湯気…水蒸気が空気中で冷やされた液体の水（目に見えるようになったもの）
 - 身の回りの現象について考える。
 - ・沸騰した後に水の量が減ったのは、水が湯気や泡にすがたを変えてビーカーの外に出ていったから。
- 10 単元のまとめをする。
 - ★単元のふり返りをしよう。
 - 「たしかめ」に取り組む。

【評】泡の正体について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ・ポリエチレンの袋の中に空気を入れないようにさせる。
- ・（安全）湯が急に噴き出さすと危ないので、保護眼鏡をかける。また、ビーカーをのぞき込ませない。
- ・（安全）加熱後も実験器具は熱くなっているので、冷えるまでは触らせない。
- ・火を消してからしばらくは袋を取り外さず冷えて袋に水が溜まるのを待たせる。

- ・「水じょう気」「気体」という用語の意味を押さえる。
- ・水蒸気と湯気の違いを押さえる。
- ・水が蒸発していく様子を、教科書P. 205のようなイメージ図を使い、水蒸気は目に見えない気体の水で、湯気は液体の水の小さな粒が集まっているものであることを確認させる。
- ・沸騰した後に水の量が減る理由を説明させる

【評】水が沸騰しているときに出る泡について調べる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

【 備 考 】

<関連>

- ・中学校第1学年「もののすがた」

単元名 水のゆくえ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 水の蒸発や結露を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 自然界の水の様子について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 自然界の水の様子について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050304_001

【準備等】 容器2つ（プリンカップなど）、水、ビニルテープ、ラップフィルム、輪ゴム、大きさと形が同じ蓋付きの缶、氷

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 水がなくなったり減ったりする現象から、水の行方についての単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どうして水がなくなったり減ったりするのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間が経つと水たまりがなくなっているよ。 ・ 水は空気中に出ていったのかな。 <p>★ ようきの中の水の量がへるのは、水が空気中に出ていくからなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 容器の中の水量が時間が経つと減る仕組みについて話し合い、予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水が蒸発して水蒸気になったんじゃないかな。 ・ 沸騰しなくても、水は水蒸気にすがたが変わるのかな。 ・ 水が空気中に出ていく様子が確認できるといいな。 ○ 自分の予想を確かめるための方法を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水を入れた容器をそのままにして、水の量が減ることを調べるといいよ。 ・ 水を入れた容器に覆いをしたものも用意して、覆いのないものと比べてみるとどうかな。 ○ 密閉容器と解放容器を準備し、水の量の減り方を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 容器に入れる水の量は同じにし、比較できるようにする。 <p>3 実験の結果を整理し、まとめる。</p> <p>★ 水のへり方を記録し、実験のまとめをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の予想を振り返り、実験の結果をノートに整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 覆いをしない方は、水が減っていたよ。 ・ 覆いをした容器には、たくさん水滴が付いていたよ。 ○ 容器の中の水量が減少する要因を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 覆いをしない方は、水の量が減ったから、水が空気中に出ていった。 ・ 覆いをした方は、水が空気中に出ていけないから、水の量が減らなかった。 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 容器の中の水の量が減るのは、液体の水が水蒸気になって空気中に出ていくからである。 ・ 水は、沸騰していなくても、水蒸気になって空気中に出ていく。 ・ 水蒸気は、空気中のあらゆるところにある。 ○ 学んだことを使って考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水不足のとき、田んぼが干上がっているのは、地面の水が蒸発したから。 ・ 洗濯物を干しておくのと乾くのは、洗濯物の水が蒸発したから。 <p>4～5 冷たいものに水滴が付くわけを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どうして、冷たい容器に水滴が付くのかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 空気中には水蒸気があるから、目に見えない水蒸気が冷やされて水滴になるのかな。 <p>★ 冷たいようきに水てきがつくのは、空気中の水じょう気が冷やされるからなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 容器の外側に水滴が付くわけを予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 空気中の水蒸気が液体の水になって水滴が付くと思うなぜなら、水蒸気は冷やされると液体の水に姿が変わるから。 ○ 自分の予想を確かめるための方法を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 氷水を入れて容器を冷やして、容器に水滴が付くかどうかを調べるといいよ。 ・ 汲み置きの水を入れた容器も用意して、氷水を入れた容器と比べるのはどうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 208～209の写真を参考にしてもよい ・ 第3学年で学習した、日なたと日かげの地面の手触りの違いについて確認する。 ・ 水が沸騰すると、水蒸気にすがたが変わって空気中に出ていくことを思い出させる。 ・ 気体になるという考えが出たところで、水は沸騰させなくても気体になるのか疑問を投げかける。 ・ 「水が空気中へ出ていく」という予想を確かめる方法を考えさせる。 <p>【評】 水量の変化を調べる実験方法について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 容器に印を付けておき、水量の変化が確実に分かるようにさせる。 ・ 容器に水を入れてから2～3日後に行う。 ・ 表にして整理させるとよい。 <p>【評】 実験の結果を記録したり、まとめたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水は、水面や地面から蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていることを押さえる。 ・ 「じょうはつ」という用語の意味を、確認する。 ・ 学習して分かったことを使って、身の回りの現象を説明させる。 <p>【評】 身の回りの現象について説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冷たい牛乳やジュースが入った容器は、時間が経つと外側に水滴が付くことがあることを確認する。 ・ 目には見えない空気中の水蒸気存在に着目させる。 ・ 「水のすがたの変化」の単元の学習内容が根拠となるように、児童の考えを引き出す。 ・ 既習の内容を基に、空気中の水蒸気が冷やされると、液体の水になるかを確かめるには、どのようにすればよいかを確認する。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 氷水を入れた缶と、水を入れた缶で、水滴の付き方を調べる。 ○ 実験の結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 氷水を入れた缶は水滴が付き、水を入れた缶は水滴が付かなかった。 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 冷たい容器に水滴が付くのは、空気中の水蒸気が冷やされて液体の水になるからである。 ・ 水蒸気は、空気中のあらゆるところにあるため、結露は空気中のあらゆるところで起こる。 <p>6 単元のまとめをする。</p> <p>★単元のふり返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りの水が結露する現象を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 冷蔵庫から冷えたペットボトルを出すと、外側に水滴が付く。 ・ 寒い日に、部屋で暖房器具を使うと、窓ガラスの内側が曇る。 ・ 空から降ってくる雨や雪は、水蒸気が空気中で冷やされてすがたが変わったもの。 ○ 「たしかめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氷水を入れた缶と、水を入れた缶を2～3分部屋の中に置いて、水滴の付き方を調べるようにさせる。 <p>【評】水滴の付き方を調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表を使って整理させるとよい。 <p>【評】実験結果から分かったこと考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「けつろ」という用語の意味を確認する。 ・ P.219にあるような、氷水を入れた缶をいろいろな場所に置く実験を行ってもよい。 <p>【評】身の回りの現象について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
---	---

【 備 考 】

<関連>

- ・ 第3学年「太陽と地面」
- ・ 第5学年「天気の変化」

単元名 生き物の1年

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 1年間の生き物の成長や活動と季節との関係を理解するとともに、これまでに調べてきた植物の成長や動物の活動について整理し、得られた結果を分かりやすく記録することができる。
- (2) 1年間の生き物の成長や活動について、主に既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 1年間の生き物の成長や活動について、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

04050305_001

【準備等】1年間の観察記録

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 これまで調べてきた生き物の様子について、1年を振り返りながらまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1年を通して調べてきた生き物について振り返り、発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・春はサクラがきれいに咲いていた。 ・ヘチマは、春から夏にかけて、茎を伸ばして大きくなった。 ・ヘチマは、秋から冬にかけて、茎は伸びず、葉や実が枯れていった。 ・ツバメが子育てしているところを観察した。 ・秋にカモがやってきた。 ・冬は生き物が少なかった。 ★季節によって、植物や動物の様子は、どのように変わってきただろうか。 ○ 今まで調べてきた生き物の成長や活動をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ＜植物＞ <ul style="list-style-type: none"> ・気温が上がる頃には、枝や茎を伸ばして、葉を茂らせる。 ・気温が下がる頃には、葉を落としたり、種を残して枯れたりする。 ＜動物＞ <ul style="list-style-type: none"> ・暑い季節には、見られる数や種類が多くなる。 ・寒い季節には、冬越しをして姿があまり見られなくなる。 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・植物は、気温が上がる春から夏にかけて、枝や茎を伸ばし、葉を茂らせる。 ・植物は、気温が下がる秋から冬にかけて、葉を落としたり枯れたりする。 ・動物は、暑い季節には見られる数や種類が多く、寒い季節にはあまり見られない。 ・季節は、春夏秋冬を繰り返していて、季節ごとに、植物や動物の様子が変わる。 <p>3 単元のまとめをする。</p> <p>★単元のふり返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしかめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化と気温を関係付けて、まとめることができるようにさせる。 ・1年間通して行った観察活動を想起させ、充実感を味わわせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.226～227を参考に、生き物の種類ごとに、季節別に記録を並べるとよい。 ・魚類や両生類は季節による水温の変化によって活動の様子などに違いがあることに触れる <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の生命がつながっていることも確認させる。 <p>【評】生き物の変化を話し合い、まとめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【備 考】

- ・1年を通じて動物の活動や植物の成長をそれぞれ2種類以上観察するものとする。

<関連>

- ・第3学年「生き物を調べよう」「植物を育てよう」「チョウを育てよう」「こん虫の世界」
- ・第5学年「植物の発芽や成長」「メダカのたんじょう」「花から実へ」

単元名 雨がとどける春

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 花が雌しべ，雄しべ，花びら，がくなどからできていることを理解することができる。
(3) アブラナの花について，進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに，学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050101_001

【準備等】アブラナの花，虫眼鏡，ビニルテープ，カッターナイフ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 春の校庭に咲いている植物について調べる。 ★アブラナの花を観察しよう。</p> <p>○アブラナの花のつくりを調べる。 ・アブラナの花はどれも同じつくりをしている。 ・雌しべ，雄しべ，花びら，がくが，一つの花の中にある。 ・雄しべの先にある黄色い粉は，花粉。</p> <p>○アブラナの花が咲いた後，どうなっていくのかを確認する。 ・花が咲いた後には，実ができる。 ・実の中には種子があり，この種子が芽を出して，次の春に花を咲かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 66からの「花のつくり」の単元で，アブラナの花のつくりと比べる場面があるので，5年生の最初の単元として，オリエンテーションを兼ねて行う。 ・校庭に出て，これからの学習への意欲を高めていくようにする。 ・アブラナの種子蒔きを，事前にしておくとうい。 ・教科書P. 2の写真を見て，「めしべ」「おしべ」「花びら」「がく」「花粉」という用語の意味を確認し，理科ノート「観察と実験」に各部の名称を記入させる。 ・時間に余裕がある場合は，アブラナの花以外の植物についても紹介したり，調べさせたりするとよい。 ・教科書P. 2の写真を見せて確認させる。 <p>【評】アブラナの花のつくりを調べ，まとめる活動を通して，「知識・技能」，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「季節と生き物」
- ・中学校第1学年「生物の観察と分類」

単元名 天気の変化

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 雲の量や動きと天気の変化の規則性を理解するとともに、器具などを正しく扱って観測を行ったり、目的に応じて情報を収集したりして、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 雲の量や動きと天気の変化の規則性について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 雲や天気の変化について、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050102_001

【準備等】記録用紙、方位磁針、インターネットに接続しているコンピュータ（または新聞など）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 空にどのような雲があるのかを見て、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○空の写真を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じ日でも、時刻によって、見られる雲が違う。 ○空にどのような雲があるのかを見る。 <ul style="list-style-type: none"> ・細くて白い雲が動いてきて、雲の量が増えた。 ・雲の量が増えると、天気は曇りに変わる。 ・天気の変化には、雲の量や雲が動いてくることが関係しているのか、調べたい。 <p>★天気の変化には、雲の量や動きが関係しているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・空が雲で覆われると曇りだから、天気の変化には、雲の量が関係していると思う。 ・雲が動いてなくなると晴れるから、天気の変化には、雲の動きが関係していると思う。 ○自分の予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・時間による変化を調べるため、同じ場所で、午前と午後に観測する。 ・観測場所を決め、空には、目標とするものがないので目印となる建物などをかく。 ・空全体を10としたときの雲の量を記録する。 ・方位を確認し、どの方向に雲が動いているのかを記録する。 ・雲の形や色が分かるようにスケッチする。 <p>2～3 空の様子を観測する。</p> <p>★午前と午後に、空の様子を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、空の様子を観測する。 <ul style="list-style-type: none"> ・午前10時頃 ・午後2時頃 ○観測した結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・雲が西の方から動いてきた。 ・雲の量が増えたら曇った。 ・白から灰色の雲に変わった。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・天気の変化は、雲の量や動きに関係していて、雲の量が増えたり減ったりすると、天気が変わる。 ○天気の決め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・晴れ：雲の量0～8（0～1のときは、快晴という） ・くもり：雲の量9～10 ・雨が降っているときは「雨」とする。 ○何日間か空の様子を調べ、どのような雲が見られるようになると雨が降ることが多いかについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・雨に関する雲として、乱層雲や積乱雲がある。 <p>4 広い範囲の天気の変化のきまりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じ時刻に撮影した三日間の天気の移り変わりの写真を見比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・神戸では、三日間で、曇り→雨→晴れと天気に移り変わっていった。他の場所では、どうかな。 ・17日は、両方とも雨。次の日は、神戸は晴れたけれど敦賀は曇り。敦賀の方が遅れて天気が変わるのかな。 ・日本全体で見ると、天気の変化に何かきまりがあるの 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラなどを使って、天気の様子を撮影し、話合いに活用させてもよい。 ・教科書P. 10～11の写真などを参考にさせる。 ・雲の形や色を観察させたり、しばらくの間、眺めさせ、変化が見られるかどうかを調べさせたりする。 ・雲の様子に着目させて考えさせる。 ・第4学年「月の位置の変化」で観察した経験を想起させ、考えさせる。 【評】雲の量や動きと天気の関係について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・午前と午後に1回ずつ同じ方角の空の様子を調べさせる。 ・空の様子をカメラで撮影しておくともよい。 ・午後は、午前と比べて、雲の量や形、色がどのように変化したのかに着目させる。 ・余裕があれば1日のうちに複数観察したり、晴れの日やくもりの日などのいろいろな天気の日々の空の様子を調べたりするとよい。 ・実際に空を観察させるとよい。 ・目で見た空全体の広さを10としたときの雲の量によって、天気を決めていることを知らせる。 ・雲は、形の違いから、大まかに10種類に分けられていることや、乱層雲や積乱雲などのいろいろな雲の種類について、教科書P. 14、P. 222～223を参考に確認させる。 【評】空の様子を観測したり、分かったことをまとめたりする活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。 ・移動性高気圧が通過する時期に学習すると効果的である。 ・教科書P. 16の神戸市の写真と、P. 17の敦賀市の写真を使う。 ・神戸は西側、敦賀は東側にあるという位置関係を明確にしておく。

か、調べたい。

★日本付近の天気の変化には、何かきまりがあるのだろうか。

○予想する。

・西の方にある神戸が晴れても、東の方にある敦賀はまだ曇っていたから、日本付近では、天気は、西から東へ変わらと思う。

○自分の予想を確かめる方法を考える。

・数日間、日本付近の雲画像や降水量（アメダスの情報）、日本各地の天気について、インターネットを使って集め、比べる。

5 広い範囲の天気の変化のきまりについて調べる。

★数日間の気象情報を集めて、雲の動きと天気の変化との関係を調べよう。

○前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、雲の動きと天気の変化との関係について調べる。

・雲画像では、雲が厚い所ほど色が白くなっている。

・雲画像とアメダスを見比べると、雲がかかっている地域にどのくらいの強さの雨が降っているかが分かる。

6～7 広い範囲の天気の変化のきまりについて、分かったことをまとめる。

★雲の動きと天気の変化との関係について考えよう。

○前時で調べた結果を振り返り、整理する。

・雲は、大まかに見て、西から東へ動いている。

・どの時刻でも、雲のある場所で雨が降っている。

○分かったことをまとめる。

・日本付近では、雲がおおよそ西の方から東の方へ移動していて、日本付近の天気の変化には、おおまかに西から東へ変わるというきまりがある。

○自分が住んでいる場所のこれからの天気予報をする。

・昨日、日本の西側にあった雲が、今日は、私たちの住んでいる場所まで動いてきているため、私たちの住んでいる場所の天気は、晴れでしょう。

○単元のまとめをする。

・「確かめ」に取り組む。

・雲の様子だけでは、曇りなのか雨なのか判断できないことを確認する。

【評】天気の移り変わりを比べたり、予想したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・雲画像やアメダスの情報の読み取り方については、教科書P.224を参考にさせる。

・気象衛星から写した雲の動きが分かる動画なども参考にさせるとよい。

・教科書P.19の「tenki.jp (QRコード)」を参考に、調べを進めてもよい。

【評】広い範囲の天気の変化のきまりについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・調べた結果と教科書P.20～P.21を見比べながら、分かったことをまとめさせるとよい。

・これまでに学んだことを使って考えさせる。

・数日間の雲画像を提示するとよい。

【評】広い範囲の天気の変化のきまりについて調べたことを整理し、まとめる活動を通して「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

・第3学年「太陽と地面」

・第4学年「天気による気温の変化」「水のゆくえ」

・中学校第2学年「気象観測」「天気の変化」「日本の気象」「自然のめぐみと気象災害」

単元名 植物の発芽や成長

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 植物の発芽や成長の条件などを理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 植物の発芽や成長の条件などについて、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 植物が発芽し成長する過程について、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050103_001

【準備等】 インゲンマメの種子（第2次では一晩水につけた物を使用する，トウモロコシやイネの種子でもよい），容器，脱脂綿，ラベル，ビーカー，ネット，割り箸，輪ゴム，エアポンプ，温度計，ラップフィルム，冷蔵庫，箱，発芽した後のインゲンマメのしぼんだ子葉，カッターナイフ，まな板，ペトリ皿，ヨウ素液，同じくらいに育ったインゲンマメ（二つ），液体肥料，ラベル，大きめの箱，角材など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 発芽したダイコンの様子やこれまでに種子を育ててきた経験について話し合い，単元の学習課題をつかむ。</p> <p>○ 発芽前後のダイコンやインゲンマメの様子について，気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 種子は，土に蒔かなくても発芽しているから，発芽に土は必要ない。 ・ 発芽には，何が必要なのかな。 <p>★ どのような条件がそろって発芽するのかを考えよう。</p> <p>○ どのような条件がそろって発芽するのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植物を育てるときには水やりをするけれど，発芽させるためにも水が必要なのか，調べたい。 <p>2～3 種子の発芽に水が必要かどうかについて考え，調べる</p> <p>★ インゲンマメの種子が発芽するためには，水が必要なのだろうか。</p> <p>○ 予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植物を育てるときや種子を蒔いた後は，水やりをするから，発芽には水が必要だと思う。 <p>○ 自分の予想を確かめる方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水を与える種子と水を与えない種子で発芽するかどうかを比べる。 <p>○ 実験を行い，数日間，発芽の様子を観察する。</p> <p>4 種子の発芽に水が必要かどうかについて，分かったことをまとめる。</p> <p>★ 実験結果から，水と発芽の関係について考えよう。</p> <p>○ 実験結果を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水を与えた種子は発芽した。 ・ 水を与えなかった種子は発芽しなかった。 <p>○ 分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インゲンマメの種子が発芽するためには，水が必要である。 <p>5～6 水以外に発芽に必要な条件があるのかについて考え，調べる。</p> <p>★ インゲンマメの種子が発芽するためには，水のほかに何が必要なのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 26を参考にさせる。 ・ 「発芽」についての用語を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童から土，又は太陽という意見が出された場合には，土や太陽の何が必要なのかまで考えさせる。 <p>【評】 発芽の様子や発芽に必要な条件について話し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めに水が必要かどうかということに限定して調べていくことで，条件制御の仕方について捉えさせていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「変える条件」と「同じにする条件」を明確にして実験を行わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発芽して結果が出るまでに，しばらく期間を要するため，適切な時期を選んで実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水を多く与えた種子は発芽しないため，注意する。しかし，後の実験で空気が必要かどうかを考えさせていくときの手掛かりとして活用することもできる。 <p>【評】 実験により，発芽に水が必要かどうかについて調べる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級全体で結果を共有することで，確かな実験結果を得られるようにする。 ・ 水を与えたのに発芽しない種子があれば，その理由を考えさせ，次時の問題へつなげさせる。 ・ 教科書P. 29の「算数とのつながり」で，算数科の割合と百分率の学習と関連付けて適切に処理できるようにする。 ・ 肥料を与えなくても発芽したことから，植物の種子が発芽するためには，肥料は必要ではないことを確認させる。 ・ 第12時～第15時で植物の成長について学習するため，肥料を含まない土にインゲンマメの種子を蒔いておく。 <p>【評】 実験結果を整理し，まとめる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p>

<p>○予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を与えずに種子が水中にあると発芽しなかったから、発芽には空気が必要だと思う。 ・暖かい春になると発芽する植物が多いから、発芽に適した温度が必要だと思う。 <p>○自分の予想を確かめる方法を考える。</p> <p>＜空気について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットに入れて水に沈めた種子を一方はエアポンプで空気を送り、一方はラップフィルムをしてそのままにしておく。 <p>＜適した温度について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常温の場所で光を遮るための箱をかぶせた種子と冷蔵庫の中に入れた種子を比べる。 <p>○実験を行い、発芽の様子を観察する。</p> <p>7～8 水以外の発芽に必要な条件について、分かったことをまとめる。</p> <p>★実験結果から、空気と発芽、適した温度と発芽の関係について考えよう。</p> <p>○実験結果を整理する。</p> <p>＜空気について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気を送りこんだ種子は発芽した。 ・空気を送りこまなかった種子は発芽しなかった。 <p>＜適した温度について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の中で、箱をかぶせた種子は発芽した。 ・冷蔵庫の中の種子は発芽しなかった。 <p>○分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インゲンマメの種子が発芽するためには、水の他に、空気、適した温度が必要である。 <p>9 発芽し、成長してきたインゲンマメの種子や子葉の変化について考える。</p> <p>○インゲンマメの種子が発芽して成長していくときに、変化しているところを見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈が大きくなる。 ・子葉が萎んでいく。子葉の中のものがなくなったからかな。 <p>★インゲンマメの種子が発芽したあと、子葉がしぼんでしまうのは、どうしてだろうか。</p> <p>○予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種子（子葉）の養分が使われてなくなったから。 ・子葉が落ちるのは、子葉がいなくなったから。 <p>○自分の予想を確かめる方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発芽する前の種子と、発芽した後の萎んだ子葉で、中の養分を調べるといい。 ・ヨウ素液で、でんぷんという養分が含まれているかどうかを調べる。 <p>10～11 発芽する前の種子と発芽した後の萎んだ子葉で中の養分を調べる。</p> <p>★発芽する前の種子と、発芽したあとのしぼんだ子葉で、中の養分を調べよう。</p> <p>○ヨウ素液の反応を予想し、実験結果の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発芽する前の種子は、養分であるでんぷんがあり、ヨウ素液をかけると青紫色になる。 ・萎んだ子葉は、でんぷんがないため、ヨウ素液をかけても変化はない。 <p>○実験を行う。</p> <p>○実験結果を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種子はヨウ素液の色が青紫色に変わったけれど、子葉は色が変わらなかった。 ・種子の中ででんぷんが使われてなくなったといえそう 	<p>・まず、「空気」と「適した温度」が必要かについて考える。「日光」が必要だという考えが出された場合は、「適した温度」が必要かを確かめる実験の方法を考える際に、同時に結果が得られることに気付かせる。</p> <p>・「変える条件」と「同じにする条件」を明確にして実験を行わせる。</p> <p>・エアポンプから送る空気が種子に当たり続けるように注意させる。</p> <p>・水が汚れて観察しにくくなるので、1～2日おきに、定期的に水の入れ替えを行わせる。</p> <p>・冷蔵庫の中は乾燥しやすいので、十分に水分を含ませておく。</p> <p>【評】実験により、発芽に空気や適した温度が必要かどうかについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・学級全体で結果を共有することで、確かな実験結果を得られるようにする。</p> <p>・常温で光を遮る箱の中でもインゲンマメの種子が発芽したことから、発芽に日光は必要ではないことを確認させる。</p> <p>【評】実験結果を整理し、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・肥料を含まない土でも発芽して成長していくことに目を向けて、考えさせる。</p> <p>・栄養などは「養分」という言葉で押さえる。</p> <p>・第2～3時で水だけでも発芽したことを想起させ、種子の中にある養分の存在に気付かせる。</p> <p>・ヨウ素液の存在を伝え、ご飯を使った演示実験を行った上で、自分の予想を確かめる方法を考えさせる。</p> <p>・ヨウ素液の使い方は教科書P.41を参考にさせる。</p> <p>・しおれた子葉に養分があるかないかを調べるとよいことに気付かせる。</p> <p>・一晩、インゲンマメの種子を水に浸しておくと、切りやすく、ヨウ素液がしみ込みやすくなる。</p> <p>【評】種子や子葉の変化について予想したり、その理由を考えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・（安全）種子を切るときにカッターナイフで指を切らないように注意させる。</p> <p>・学級全体で結果を共有することで、確かな実験結果を得られるようにする。</p>
---	--

- 分かったことをまとめる。
 - ・インゲンマメの子葉が萎んでしまうのは、種子の中のでんぷんが発芽に使われたからだと考えられる。

12～13 インゲンマメがよりよく成長するためには、発芽の条件の他に何が必要であるかについて調べる。

- 植物がよく成長するために必要なものについて話し合う
 - ・日光 ・肥料 など
- ★植物がよく成長するためには、発芽の条件のほかに、何が必要なのだろうか。
- 予想する。
 - ・日なたの植物の方がよく育っていたから、日光が必要だと思う。
 - ・肥料を与えた方が栄養がたくさんあるので、大きく成長するから、肥料が必要だと思う。
- 自分の予想を確かめる方法を考える。
 - ＜日光について調べる＞
 - ・日光を当てる植物と当てない植物を比べる。
 - ・両方とも水と肥料を与える。
 - ＜肥料について調べる＞
 - ・肥料を与える植物と与えない植物を比べる。
 - ・両方とも日光を当てる。
- 実験を行い、成長の違いを観察する。
 - ・茎の長さや太さ
 - ・葉の色や数、大きさ など

14～15 植物がよく成長するために必要なものについて、分かったことをまとめる。

- ★実験結果から、植物がよく成長するために必要なものについて考えよう。
- 実験結果を整理する。
 - ・日光を当てた植物の方がよく成長した。
 - ・肥料を与えた植物の方がよく成長した。
- 分かったことをまとめる。
 - ・植物がよく成長するためには、発芽の条件のほかに、日光、肥料が必要である。

16 単元のまとめをする。

- ★単元の振り返りをしよう。
 - ・「確かめ」に取り組む。

【評】実験により、養分の有無について調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ヘチマやアサガオ、ツルレイシの栽培を始め「花から実へ」の単元に向けて準備をしておく。
- ・大きくなったインゲンマメの成長に目を向けさせ、よく成長するために必要な条件について問題意識をもたせる。
- ・植物が成長するためには、発芽と同じように水や空気、適した温度が必要なことを押さえた上で考えさせる。

- ・それぞれの項目ごとに、「必要」か「必要ではない」かを考えさせ、立場を明確にさせる

- ・条件をそろえるために、同じくらいの育ったインゲンマメを使う。
- ・液体肥料は、薄めて使う。濃いと、植物を痛めてしまう。

- ・「変える条件」と「同じにする条件」を明確にして実験を行わせる。
- ・何日かおきに、デジタルカメラで成長の様子を記録しておくとうい。

【評】実験により、植物がよく成長するために必要なものについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・「日光」については約1週間後、「肥料」については約2週間後に結果を整理するとよい

【評】実験結果を整理し、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・実験で使用したインゲンマメは畑などに植え替え、継続して栽培をさせることで、生命尊重の心を育てる。

【 備 考 】

＜関連＞

- ・第4学年「季節と生き物」
- ・第6学年「植物の体」

単元名 **メダカのたんじょう**配当時間 **6時間**

- 単元の目標 (1) 受精したメダカの卵の育ちを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 受精したメダカの卵の育ちについて、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) メダカの誕生について、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050104_001

【準備等】水槽、小石や砂、水草、メダカの雌と雄、メダカの餌、受精したメダカの卵、双眼実体顕微鏡（または、解剖顕微鏡）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 メダカについての興味・関心を高め、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> メダカについて知っていることなどを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 小さくてかわいい魚で、学校の近くの池で見た。 野生のメダカは、絶滅危惧種である。 メダカは春になり暖かくなると卵を産む。 ★メダカのめすとおすを飼って、たまごを産ませよう。 メダカの飼い方を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 日光が直接当たらない明るい場所に水槽を置く。 水は汲み置きしたものを入れる。 餌は1日に1回程度与える。 水草は、オオカナダモなどが考えられる。 産卵された卵を飼育する容器を水槽とは別に準備する 卵から子メダカへ成長するためには、雄と雌の両方を飼う必要があることを確認する。 雄と雌の体の違いを確認し、メダカを観察する。 <ul style="list-style-type: none"> 背びれやしりびれの付き方、形 雌の腹が膨らんでいる など <p>3 メダカの卵の育ち方を予想し、観察の仕方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 受精した卵の成長に対する疑問を整理し、どのように成長するのか予想する。 ★受精したメダカのたまごは、どのように育つのだろうか 予想する。 <ul style="list-style-type: none"> 卵の中の小さなメダカがだんだん大きくなると思う。 卵の中に小さなメダカはいないように見えるから、卵の中がだんだんと変化して育っていくと思う。 モンシロチョウの卵は1週間くらいで幼虫がかえったけれど、メダカの方がもっと時間がかかりそうだ。 観察の方法や記録の取り方について話し合い、どのように調べていくかを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 〈観察の方法〉 <ul style="list-style-type: none"> 卵を容器に移して観察する。 卵は小さいので、双眼実体顕微鏡や解剖顕微鏡を使って観察する。 〈記録のとり方〉 <ul style="list-style-type: none"> 観察カードに記録する。 変わった部分を中心に、2～3日に1回程度記録をする。 スケッチは、大きく、形を1本の線で描く。 <p>4 顕微鏡の使い方を知り、メダカの卵の成長について観察し、記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★受精したメダカのたまごがどのように育つのかを調べよう。 双眼実体顕微鏡や解剖顕微鏡の使い方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡は、日光が直接当たる所では使わない。目を痛めてしまうことがある。 対物レンズを下げたときに容器のふたを割ってしまうおそれがあるため、容器のふたは観察する前に取り外しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> メダカの飼育経験などを想起させたり、メダカの写真を提示したりして考えさせる。 カダヤシなど、メダカと見分けにくい別の魚の存在も知らせる。 メダカが子孫を残していることにも気付かせる。 （安全）ペットボトルで水槽を作る場合、カッターやペットボトルの切り口などで手を切らないようにさせる。 生き物を扱うことから、メダカの卵の扱い方を話し合わせ、命を大切にしていこうとする気持ちを高めさせる。 雄と雌がいないと卵を産まないことから、雄と雌の見分け方に興味をもたせる。 資料で確認させた後、実際にメダカを観察して確かめさせる。 【評】メダカの飼育の仕方や雌雄の違いを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する 卵が受精すると育ち始めることを確認させ、雄と雌と一緒に飼う必要性を理解させる。 「精子」「受精」という用語の意味を確認する。 メダカは早朝に産卵することが多いので、毎朝観察できるように配慮する。 卵をつけた雌を見つけたら、卵を採取しておくように伝えておく。 卵を画用紙の上で転がして汚れを取り、採取日を記録したチャック付きビニール袋に入れると観察しやすい。 【評】受精卵の成長について予想や仮説を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 双眼実体顕微鏡と解剖顕微鏡を扱うのは初めてであるため、拡大図や教科書P.57～58などを基に全体で丁寧に使い方を指導する。 教科書P.58の「算数とのつながり」で、算数科の倍数の学習と関連付けて適切に処理できるようにする。 デジタルカメラやテレビに接続することができる双眼実体顕微鏡で大きく映し出して観察してもよい。 【評】双眼実体顕微鏡や解剖顕微鏡を使ってメダカの受精卵を観察する活動を通して、「知

- 採集したメダカの受精卵が育つ様子を継続して観察し、記録する。
 - ＜産卵後約3日目＞体の形ができてくる。
 - ＜産卵後約5日目＞目や心臓ができてくる。
 - ＜産卵後約7日目＞心臓の動きや血液の流れが見える。
 - ＜産卵後約11日目＞卵の中でさかんに動く。

5 メダカの卵の成長について、観察の結果から分かったことをまとめる。

★メダカの受精卵の成長について、考えよう。

- 結果を整理し、分かったことをまとめる。
 - ・受精したメダカの卵は、11日間くらいかけて、中の様子が変化してだんだんとメダカらしくなり、その卵からメダカの子がかえる。
- 子メダカの腹の膨らみの役割について考える。
 - ・卵からかえって2～3日経つと、腹の膨らみが小さくなって餌を食べ始めた。
 - ・腹の膨らみには、成長に必要な養分が入っている。

- 単元のまとめをする。
 - ・「確かめ」に取り組む。

6 いろいろな魚について、卵を産む場所や卵の育ちを調べる。

- いろいろな魚の住処や産卵場所について知っていることを発表する。
 - ・近所の池に住んでいる鯉は池で生まれ、生活している。
 - ・マグロは広い海をずっと泳いでいる。
 - ・サケは川で生まれて海へ行き、また生まれた川に戻ってくる。
- 情報を集めて交流し、分かったことをまとめる。
 - ・サンマは、海で生活し、卵を海中の流れ藻などの浮遊物に産む。
 - ・マンボウは約2億8000万個、フナは9万個、アイナメは6千個の卵を産む。
- 情報を得て考えたことを交流する。
 - ・生活している場所の近くに卵を産む魚が多い。
 - ・海中にそのまま産卵する魚の方が卵の数が多い。
 - ・安全な所に卵を産む魚や親が守る魚の方が、卵の数が少ない。

識・技能」を評価する。

- ・日常的に観察できるように観察コーナーを設置したり、個人で卵を飼育できる工夫をさせたりする。
 - ・卵からかえったメダカについては、腹の膨らみに注目して観察することを押さえる。
- 【評】継続して観察する活動を通して、「知識・技能」，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・時間を追った変化を確認させる。
- ・観察記録を示しながら交流させ、結果から分かったことをまとめさせる。

- ・腹の膨らみに蓄えられた養分によって育つことを確認するため、卵からかえったメダカも2～3日間は観察させる。
- ・インゲンマメの発芽で子葉が養分として使われていたことを想起させる。
- ・これからのメダカの世話について確認し、メダカを自然に戻したいと考える子どもの思いは大切にしながら、放流の影響を説明し、放流しないように指導する。

【評】メダカの受精卵の成長について、観察結果を整理し、分かったことをまとめる活動を通して、「知識・技能」，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・書籍やインターネットなどで情報を集めさせるとよい。

- ・「共通性と多様性」という生命の見方からも自らの子孫を残していくという共通の目的のために、多様な手段をとって生命をつないでいることに気付かせる。

【評】いろいろな魚の卵を産む場所や卵の育ちを調べたりまとめたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

＜関連＞

- ・第4学年「季節と生き物」
- ・中学校第3学年「生物の成長とふえ方」

単元名 花のつくり

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 花のつくりを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 花のつくりについて、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) アサガオやヘチマの花のつくりについて、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050105_001

【準備等】アサガオの花、ヘチマの花（雌花と雄花）、虫眼鏡

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 アサガオやヘチマの花の様子を観察する活動を通して花のつくりに関心を持ち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アサガオとヘチマの花を観察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオは、どれも同じような形をしている。 ・ヘチマは、形の違う花がある。雌花と雄花の2種類がある。 ・アサガオやヘチマの花は、どのような花のつくりになっているのか、調べたい。 ★花は、どのようなつくりをしているのだろうか。 ○予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオは、花がどれも同じような形をしているからアブラナと似た花のつくりをしていると思う。 ・ヘチマは、雌花と雄花があるから、アブラナとは花のつくりが違うと思う。 ○自分の予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・アブラナの花を基準にしてアサガオの花やヘチマの花のつくりを確かめる。 ・虫眼鏡を使って大きくして観察する。 ○アサガオの花やヘチマの花のつくりを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・雌しべ、雄しべ、花びら、がく、花粉の様子 ・花の中心部の様子 ・ヘチマの雄花と雌花の同じところと違うところ ○調べた結果を整理し、分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの花は、雌しべ、雄しべ、花びら、がくからできている。また、雄しべの先には花粉がたくさんある。 ・ヘチマの雌花は、雌しべ、花びら、がくからできている。また、雌しべの元は、小さい実のような形をしている。 ・ヘチマの雄花は、雄しべ、花びら、がくからできている。また、雄しべの先には花粉がたくさんある。 ○いろいろな植物の花のつくりを、アサガオやヘチマの花のつくりと比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオと同じ：ナス、ピーマンなど ・ヘチマと同じ：カボチャなど <p>3～4 顕微鏡で花粉を観察する。</p> <p>★けんび鏡を使って、花粉を観察してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○顕微鏡の使い方を知る。 ○花粉を観察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・倍率を100倍にすると、アサガオの花粉がよく観察できる。 ・アサガオの花粉は、丸くて周りに毛のようなものが見える。円状の模様がある。 ○観察した結果を整理し、分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・花粉は、顕微鏡を使わないと形の違いが確認できないほど、小さい。 ・花粉は花によって形や色が違う。 ○単元のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「確かめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの花や、ヘチマの花（雄花と雌花）が見られるようになったら、学習を始めるようにする。 ・ヘチマの花は、雌花と雄花の2種類があることを押さえる。 ・アブラナの花のつくりを想起させ、アサガオやヘチマの花のつくりを比べ、共通点や相違点を見付けさせる。 ・虫眼鏡を使って観察をさせる。 ・（安全）目を痛めるので、絶対に虫眼鏡で太陽を見ないようにさせる。 ・両性花（1つの花に雄しべと雌しべがあるもの）と単性花（雌花と雄花があるもの）との違いだけでなく、雄しべや雌しべの先に見られる共通点にも着目させ、花粉の役割への問題意識につなげる。 ・ヘチマの代わりに、ツルレイシで調べてもよい。 ・アブラナの花のつくりと比べながら整理させる。 ・花は、雌しべ、雄しべ、花びら、がくからできていて、雌しべと雄しべが1つの花にあるものと、雌しべと雄しべが別々の花にあるものがあることを押さえる。 ・雄しべで花粉をつくり、雌しべでは花粉をつくらないことを押さえる。 ・必要に応じて、さまざまな植物の写真を提示して考えさせるとよい。 【評】花のつくりを調べる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書P.73の「チャレンジ」は取り扱う。 ・顕微鏡の使い方については、教科書P.72を参考にさせる。 ・（安全）顕微鏡は、日光が直接当たるところでは使わない。目を痛めてしまうことがある。 ・アサガオなどの花粉を観察させ、スケッチさせる。 ・アサガオの他、いろいろな植物の花粉を観察したり、拡大写真を見せたりするとよい。 【評】花粉を観察する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「季節と生き物」
- ・中学校第1学年「生物の観察と分類」

単元名 台風に備えて

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 台風の進路や台風が近づいたときの天気を理解するとともに、目的に応じて情報を収集し、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 台風の進路や台風が近づいたときの天気について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 台風が近づいてきたときの進み方や天気について、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050106_001

【準備等】インターネットに接続しているコンピュータ（または新聞やテレビ番組を録画したものなど）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 台風の写真や映像を見て、その後の天気や進路、自然災害について関心を持ち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 台風の雲写真を見て、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 雲の広がり大きい。 ・ 「天気の変化」で学習したときの雲画像よりも迫力がある。雲が厚そう。 ・ 大きな雲だから、雨や風も強くなるのではないか。 ○ 台風について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏から秋にかけて日本に近づく。 ・ 渦を巻いて進む。 ・ 大雨や強風を伴う。 ・ 非常に発達した積乱雲の集まり。 ○ 台風に備えて、どのような情報が必要かを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台風は、日本列島付近をどう動くのか。 ・ 台風が近づくと、天気は、どう変わるのか。 ★ 台風は、どのように動くのだろうか。また、台風が近づくと、天気はどのように変わるのだろうか。 ○ 予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台風も、春の頃に調べた雲と同じように、西から東へ動いてくると思う。 ・ 台風は、とても大きい雲の塊だから、台風が近づくと強い雨が降ると思う。 ○ 自分の予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットや新聞、テレビなどを使って情報を集める。 ＜台風の動き＞ <ul style="list-style-type: none"> ・ 数日間、日本付近の雲画像を集めて調べる。 ＜台風と天気との関係＞ <ul style="list-style-type: none"> ・ 雨の強さは、降水量の情報を見る。 ・ 台風の位置と降水量の情報を並べて、台風と天気の関係を確認する。 <p>2 台風の動きや、台風と天気の関係について調べる。</p> <p>★ 気象情報を集めて、台風の動きや、台風が近づいた地いきの天気を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、台風に関する情報を調べ、集める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 雲画像 ・ 降水量 ・ 日本各地の天気 ・ 空の様子画像 ○ 調べた結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 春の頃の雲の動きとは違って、台風は、南の方から北の方へ動いていった。 ・ 雲画像と降水量のデータを重ねると、台風の動きにつれて、雨の降る地域が変わっていった。 ・ 台風が近づいた所では、大雨が降ったり、強風が吹いたりして、天気が大荒れになる。 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台風は、日本付近では、北や東の方へ動くことが多い また、台風が近づくと、大雨が降ったり、強風が吹いたりする。 ・ 台風は、日本のはるか南の海上で発生し、台風が通過した後、天気が晴れになることがよくある。 <p>3 台風による災害について考える。</p> <p>★ 台風が近づくと、生活にどのような影響が出るのか、考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 台風が近づいたときの、生活への影響や被害について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨が降って洪水が起きたり、土砂崩れや山崩れが起きたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台風接近前後に実施するのが望ましいが、録画によるテレビ放送やインターネットの台風情報などを準備しておくといよい。 ・ 教科書P. 74, P. 82～83の写真、生活経験を基にして、考えさせるとよい。 ・ 「台風」についての用語を押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 早めに対策をしたり避難したりできるように新聞やテレビなどで情報が伝えられていることにも触れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「天気の変化」の単元で学習したことや生活経験と結び付けて考えさせる。 ・ 「台風の動き」と「台風と天気との関係」に分けて考えさせる。 <p>【評】 台風について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気象庁のHPや日本気象協会などでは、過去の台風進路や、その日の降水量などを見ることがのできるの、参考にさせるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べた結果と教科書P. 78～79の結果を見比べながら整理するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台風による被害については、次時で詳しく扱う。 ・ 普段の校庭などの上空の雲の動きに規則性はないことを押さえる。 <p>【評】 インターネットや新聞などで情報を集め分かったことをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

- ・風が強くなるので、海岸の波が高くなったり、外の看板が飛んだりするので、とても危険。
- ・農業に被害が出る。
- 自分にできることについて話し合う。
 - ・台風情報をよく見て、台風が近づくかどうか注意する
 - ・台風が近づいたら、外に出ないようにする。
 - ・避難場所を確認しておく。

- ・自分の生活と関わらせながら、考えさせる。
- 【評】台風と災害について、自分の生活と関わらせながら考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

- ・第3学年「太陽と地面」
- ・第4学年「天気による気温の変化」「水のゆくえ」
- ・中学校第2学年「気象観測」「天気の変化」「日本の気象」「自然のめぐみと気象災害」

単元名 花から実へ

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 実のでき方を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 実のでき方について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 雌しべの元が実になることについて、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050201_001

【準備等】雄しべを取り除いたアサガオのつぼみ、袋、ひも、ピンセット、名札

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 ヘチマの実がなる様子を観察して、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○植物を育てた経験や既習内容を振り返り、実や種子について気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオやミニトマト、ホウセンカ、ヘチマの花の後には、実ができ、中には種子があった。 ・実は、どうやってできるのかな。 ○アサガオやヘチマの花から、実になった根元と、実にならなかった根元を比較する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘチマの雄花は、咲き終わると、実にならずに落ちてしまう。 ・アサガオもヘチマも、雌しべの元が実になる。 ・雌しべの中にも、雌しべの元が実になったものと、なかったものがある。 ○雌しべの元が実になったり、ならなかったりする理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・花粉が何か大切な役割をしていて、雌しべの元が実になるには、花粉が必要なのかもしれない。 <p>★めしべのもと実になるためには、めしべの先に花粉がつくことが必要なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの花が咲くと、雌しべに花粉が付いているから、実になるには、雌しべの先に花粉が付くことが必要だと思う。 ○自分の予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・雌しべに花粉を付ける花と付けない花で、実ができるかどうかを調べればよい。 ・花粉が必要だという予想が正しければ、花粉を付けた方は実になって、付かなかった方は実にならないはずだ <p>3 実のでき方について調べる。</p> <p>★めしべの先に花粉をつけるめばなとつけないめばなで、実のでき方を比べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、実のでき方について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・一方の雌花だけに花粉を付ける。 ・条件をそろえるために、両方の雌花が萎むまで袋を付けておく。 <p>4 実のでき方について、分かったことをまとめる。</p> <p>★めしべの先に花粉とつける花とつけない花の実のでき方について、考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時を振り返り、調べた結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・雌しべに花粉を付けた方だけが実になった。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・雌しべの元が実になるためには、雌しべの先に花粉が付くことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「花のつくり」の単元で学習した、アサガオは1つの花に雄しべと雌しべがある植物、ヘチマは雄花と雌花がある植物であることを想起させた上で、考えさせる。 ・花に花粉を付けた昆虫がくこと、花が咲いた後の雌しべには花粉が付いていることが多いこと（教科書P.92の写真を参考にする）などから考えさせる。 ・雌しべでは花粉をつくらず、雄しべで花粉をつくるため、雄しべから雌しべへ花粉を付けることを押さえる。 ・結果の見通しをもたせる。 ・アサガオは、花が咲くと雌しべに花粉が付いてしまうため、実験前には、咲きそうなつぼみを二つ選んで、カッターで縦に割れ目を入れ、花が咲く前にピンセットで雄しべを全て取り除いておく。 （安全）カッターで花を切るときに、指を切らないように注意させる。 <p>【評】実のでき方について話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受粉はできるだけ朝早い時間（午前9時ごろまで）に行うようにする。 ・雌しべの元に着目して観察させる。 ・花が萎んだら、両方とも袋を取り外して、実のでき方を調べさせる。 ・荷札に受粉の有無と日付を記入して取り付けるとよい。 ・アサガオの代わりに、ヘチマやツルレイシで調べてもよい。 <p>【評】観察して、記録する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「受粉」という用語を押さえる。 ・次の世代へ生命をつなげていくことも確認させる。

- ・花は受粉すると雌しべの元が実になって、実の中に種子ができる。
- いろいろな植物について、どのように受粉するのかを調べる。
 - ・多くの植物では、昆虫や鳥などによって、花粉が運ばれてきて受粉する。
 - ・風や水などによって花粉が運ばれる植物もある。
- 単元のまとめをする。
 - ・「確かめ」に取り組む。

・教科書P. 98～100を参考にさせるとよい。

【評】実のでき方について、調べた結果を整理し、分かったことをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「季節と生き物」
- ・中学校第1学年「生物の観察と分類」

単元名 ふりこ

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 振り子の1往復する時間が変わる要因を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
 (2) 振り子の1往復する時間が変わる要因について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
 (3) 振り子の1往復する時間について、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050202_001

【準備等】糸、おもり、セロハンテープ、音楽（CDラジカセなどを使って流す。）、振り子実験装置、ストップウォッチ、ものさし

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 振り子を揺らす遊びを通して、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り子の動きを観察して気付いたことを発表し、「ふりこ」を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ブランコの動きに似ている。 ・振り子の揺れは、一定の時間で繰り返しているみたい ・振り子を作ってみたい。 ★音楽のリズムに合わせてゆれるふりこを作って、ゆらそう。 ○音楽のリズムに合わせて揺れる振り子を作って揺らし、気付いたことや疑問などを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの振り子は、音楽のリズムよりも遅く揺れている ・振り子によって、1往復する時間に違いがある。 ・振り子の何によって、1往復する時間が違ってくるのか、調べたい。 ○振り子の1往復する時間の意味を知り、1往復する時間を測る。 <ul style="list-style-type: none"> ・振り子のおもりが一方の端からもう一方の端まで揺れた後、元の位置まで戻ってくる時間を、振り子の1往復する時間という。 ・ぼくの振り子は、1往復するのに1.42秒かかった。 ・1往復する時間が人によって違うのは、なぜだろう。 ○振り子に関する言葉を知る。 <p>3～4 振り子の1往復する時間が変わる条件について考える</p> <p>★ふりこの1往復する時間は、何によって変わるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・振り子の長さ ・おもりの重さ ・振り子の振れ幅 など ○自分の予想を確かめる方法を考え、実験装置を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・振り子の長さによる違いを調べるときは、他の条件は同じにしよう。 ・おもりの重さや振れ幅を調べるときも、同じだね。 ○1往復する時間を測る練習をする。 <p>5 実験を行い、振り子の長さとは振り子の1往復する時間の関係について調べる。</p> <p>★ふりこの長さが30cmと60cmのときで、ふりこの1往復する時間を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、実験を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・振り子の長さ：30cmと60cm ・おもりの数：1個 ・振り子の振れ幅：10° ○実験結果を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふりこ」の意味を押さえる。 ・振り子は、いつも一定の時間で揺れることを押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな長さの糸やいろいろな重さのおもりを使って、自由に振り子を作らせる。 ・（安全）振り子が手から離れないように静かに揺らさせる。また、おもりが人にぶつからないように気を付けさせる。 <p>【評】振り子の動きを調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1往復」の意味を押さえる。 ・1往復の時間をより正確に計測する方法として、10往復した時間の平均を出せばよいことを押さえる。 ・ストップウォッチを使って練習する時間がとれるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・「振り子の長さ」「振り子の振れ幅」「おもりの中心」「支点」の意味を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.106を参考にさせながら、条件を変えて調べられる装置を児童に製作させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「変える条件」と「同じにする条件」を明確にして考えさせる。 ・「平均」の求め方については、算数科の学習と関連して行うとよい。 <p>【評】振り子の実験装置を作ったり、振り子が1往復する時間を測ったりする活動を通して「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「振り子の長さ」以外の条件を揃えて、実験を行わせる。 ・「振れ幅は正面から見る」「おもりに勢いをつけて離さない」という注意点を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ストップウォッチで計る係、おもりを離す係、振れ幅を見る係、記録係などの役割を分担させるとよい。 ・実験は複数回行わせ、より正確な記録を出させる。 ・結果をグラフに表して視覚的に比べさせ、実験結果をより分かりやすく把握させる。

- ・振り子の長さが60cmのときの方が、30cmのときに比べて、振り子の1往復する時間が長くなった。
- 分かったことをまとめる。
 - ・振り子の1往復する時間は、振り子の長さによって変わる。
- 6 実験を行い、振り子の重さと振り子の1往復する時間の関係について調べる。
 - ★おもりの重さがおもり1個と2個のときで、ふりこの1往復する時間を調べよう。
 - 第4時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、実験を行う。
 - ・おもりの数：1個と2個
 - ・振り子の長さ：30cm
 - ・振れ幅：10°
 - 実験結果を整理する。
 - ・おもりが1個のときと2個のときで、振り子の1往復する時間はほとんど変わらない。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・振り子の1往復する時間は、おもりの重さによつては変わらない。
- 7 実験を行い、振り子の振れ幅と振り子の1往復する時間の関係について調べる。
 - ★ふりこのふれはばが10°と20°のときで、ふりこの1往復する時間を調べよう。
 - 第4時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、実験を行う。
 - ・振れ幅：10°と20°
 - ・振り子の長さ：30cm
 - ・おもりの数：1個
 - 実験結果を整理する。
 - ・振り子の振れ幅が10°のときと20°のときで、振り子の1往復する時間はほとんど変わらない。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・振り子の1往復する時間は、振り子の振れ幅によつては変わらない。
- 8～9 学んだことを使って、身の回りの振り子を利用したものを探したり、振り子を作ったりする。
 - 振り子の性質について確認する。
 - ・振り子の1往復する時間は、振り子の長さによって変わり、振り子の長さが長いときの方が、短いときよりも1往復する時間が長くなる。
 - ・振り子の1往復する時間は、おもりの重さや振り子の振れ幅によつては変わらない。
 - 振り子を利用したものを探し、その性質について考える
 - ・振り子時計（振り子が一定時間で往復する性質を利用）
 - ・メトロノーム（振り子の1往復する時間が、振り子の長さによって変わる性質を利用） など
 - ★1秒振り子を作ってみよう。
 - ・1往復する時間が1秒になる振り子を作る。
 - ・1秒より長くなったから、振り子の長さを短くした方がいいね。
- 10 単元のまとめをする。
 - ★単元を振り返ろう。
 - ・「確かめ」に取り組む。

【評】条件を制御して実験を行う活動を通して「知識・技能」，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・「おもりの重さ」以外の条件を揃えて、実験を行わせる。
- ・おもりの重さを変えるとき、おもりを垂直方向につなげていくと、おもりの中心（重心）が変わってしまうため、横に並べて付けるように注意する。
- ・結果をグラフに表して視覚的に比べさせ、実験結果をより分かりやすく把握させる。

【評】条件を制御して実験を行う活動を通して「知識・技能」，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・「振り子の振れ幅」以外の条件を揃えて、実験を行わせる。

- ・結果をグラフに表して視覚的に比べさせ、実験結果をより分かりやすく把握させる。

【評】条件を制御して実験を行う活動を通して「知識・技能」，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・第5時～第7時を振り返り、考えさせる。

- ・性質については、「振り子が一定時間で往復する性質」を利用しているもの、「振り子の1往復する時間が、振り子の長さによって変わる性質」を利用しているものの観点から判断させる。
- ・教科書P.114の「チャレンジ」は、「ものづくり」として取り扱う。また、プログラミング的思考で扱うことができる。
- ・1往復する時間が、「振り子の長さ」によって変わることに着目させて作らせる。

【評】身の回りの振り子を利用したものを探したり、1秒振り子を作ったりする活動を通して、「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

- ・「ふりこ」「電流が生み出す力」の中で二種類以上のものづくりを行うものとする。ただし、本単元では、教科書P.114の活動を「ものづくり」として取り扱っている。
- ・教科書P.114の「1秒ふりこを作ってみよう」は、プログラミング的思考で取り扱うことができる。
- ＜関連＞
 - ・第3学年「風やゴムの力」
 - ・第6学年「てこ」

単元名 流れる水と土地

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 川の上流と下流の違いや流れる水の働きを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察や実験を行ったり、目的に応じて情報を収集したりして、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 川の上流と下流の違いや流れる水の働きについて、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 土地を流れる川について、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050203_001

【準備等】 インターネットに接続しているコンピュータ、図書資料など、プリンターのトレイ、土（珪砂など）、台、水槽、プリンカップ、きり、水の入ったペットボトル、雑巾

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 川の上流と下流の様子を比べ、単元の学習課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 川の上流と下流の様子について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上流と下流では川幅や見られる石の大きさに違いがありそう。 ・ 上流と下流でどのような違いがあるのか、調べてみたい。 ★ 川の上流と下流ではどのようなちがひがあるのだろうか ○ 予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上流は下流より川幅が狭く、見られる石の大きさは小さいと思う。 ○ 自分の予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット ・ 図書資料 ・ 実際に近くの川に観察に行く など <p>2～3 川の上流や下流の様子を調べる。</p> <p>★ 川の上流や下流の様子を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、川の上流や下流の様子について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 調べた結果を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 流される途中にぶつかって石が削られるから、下流の石は丸くて小さい。 ・ どの川でも上流と下流の様子は似ている。 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 川の上流と下流では、川幅や石の大きさに違いがある。 ・ 川の上流では川幅が狭く、川の下流では川幅が広い。 ・ 川の上流では角ばった大きい石がよく見られ、川の下流では丸い小さい石がよく見られる。 <p>4 雨水が流れる地面の様子と、川の様子を見比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 雨水が流れる地面の様子と、川の様子について、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 削られて崖のようになっていたり、土が積もっていたりする。 ・ 流れる水には、土地の様子を変えるような働きがあるのか、調べてみたい。 ★ 流れる水には、どのようなはたらきがあるのだろうか。 ○ 予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 崖のような場所があるから、地面を削る働きがあると思う。 ・ 川原のような場所があるから、土を積もらせる働きがあると思う。 ・ 上流で削った土を水が運んで、下流に積もらせると思う。 ○ 自分の予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さい土地を作って高い所から低い所へ水を流す。 ・ 予想が正しければ、土が削られて、崖のようなどころができるはず。 <p>5～6 流れる水の働きについて、調べる。</p> <p>★ プランターのトレイに入れた土をに水を流して、流れる水のはたらきを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、流れる水の働きを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な川の写真を提示したり、これまでの生活経験を思い出させたりしながら比べさせる <ul style="list-style-type: none"> ・ 上流は流れが速く、下流は流れが遅いというのは科学的には誤りなので、注意する。 <p>【評】 川の上流と下流の様子の違いに興味をもち、違いを予想する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ （安全）近くで観察できる川があれば実際に川に観察に行ってもよいが、天候や水量、地形などに十分配慮し、危険なところには近付かないようにさせる。 ・ 近くに川がなければ、教科書P.123～125の資料やインターネット、地域で発行されているパンフレットなどを活用させる。 ・ 上流と下流で石の大きさや形が違う理由についても考えさせる。 ・ 日本各地の他の川の様子も同じであるか確認させる。 <p>【評】 川の上流と下流の様子について調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校庭の様子を観察する。 ・ 削られている場所、積もっている場所に着目させる。 <p>【評】 流れる水の働きを予想したり、実験方法を考えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上流と下流の土の変化に着目させる。

- ・土の削られ方
 - ・土の積み方 など
 - 実験結果を整理する。
 - ・土が削られて崖のようになったから、地面を削る働きがある。
 - ・土が積もって川原のようになったから、土を積もらせる働きがある。
 - ・水の流れが上の方の土を下の方へ運んでいたから、土を運ぶ働きがある。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・流れる水には、地面を削ったり、土を運んだり、運んだ土を積もらせたりする働きがある。
 - 実際の川では、流れる水の働きによって、どのような土地の様子が見られるかを調べる。
- 7 川の普段の様子と増水したときの様子を見比べる。
- 今までの生活経験を思い出して、川が増水したときの様子について話し合う。
 - ・水量が増えると水が濁り、流れが速くなる。
 - ・水量が増えると、流れる水の働きは、どう変わるのか実験で調べられるのかな。
 - ★水量が増えると、流れる水のはたらきは、どのように変わるのだろうか。
 - 予想する。
 - ・土を運搬する働きが大きくなると思う。
 - ・さらに、地面を侵食したり、土を堆積したりする働きも大きくなると思う。
 - 自分の予想を確かめる方法を考える。
 - ・プリンカップの穴を二つにして、流れる水の量を増やす。
 - ・水の量の少ないのと多いのを2台並べて実験する。
 - ・水の量以外の条件は同じにする。
 - ・予想が正しければ、水量を増やすと、土が大きく削られるはず。
- 8～9 水量を増やし、流れる水の働きについて調べる。
- ★土に流す水の量を変えて、流れる水のはたらきのちがいを調べよう。
 - 前時の予想や自分の予想を確かめる方法を振り返り、水の量を変えて、流れる水の働きを調べる。
 - ・土の削られ方の変化
 - ・土の積もる量の変化 など
 - 実験結果を整理する。
 - ・水量を増やすと大きく削られたから、侵食する働きが大きくなる。
 - ・水量を増やすと土が下流にたくさん積もったから、堆積する働きが大きくなった。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・水量が増えると、流れる水の働きは大きくなり、より大きく侵食されたり、より多く堆積したりする。
 - ・大雨などで川の水量が増えて、流れる水の働きが大きくなると、土地の様子が大きく変化することがある。
- 10 自分たちの住む地域で、大雨などで川を流れる水の働きが大きくなったことがあるのかについて調べる。
- ・大雨で水量が増え、土砂崩れが多数発生し、石や土などが大量に運搬された。濁った水は、川を下って、海へと流れ込んだ。

・水を流す土の山はできるだけ流路が長く、傾斜を緩やかにするとよい。

・上流では大きく土が削られ、下流には土が積もることを押さえる。

・「しん食」「運ばん」「たい積」という用語の意味を確認する。

・インターネットや図書資料、川の博物館や資料館などを活用する。

【評】実験により、流れる水の働きについて調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

・洪水のときの写真を見せたり、「台風に備えて」の単元で学習した洪水による被害について想起させたりして考えさせるとよい。

【評】水の量の変化と流れる水の働きの関係について予想したり、実験方法を考えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・「変える条件」と「同じにする条件」を明確にして実験を行わせる。

・タブレットやパソコンのカメラやビデオカメラで動画撮影するとよい。

・増水により、侵食、運搬、堆積のどれもが大きくなることを捉えさせる。

【評】実験により、水の量の変化と流れる水の働きの関係について調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」，「思考・判断・表現」を評価する。

・図書資料やインターネット、地域の人から聞くなどして調べさせる。

【評】調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・次単元「川と災害」で、単元のまとめ（「確かめ」）をするとよい。

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「雨水と地面」
- ・第6学年「土地のつくり」

単元名 川と災害

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 川の増水などが人々の生活に与える影響や災害から身を守る対策を理解することができる。
 (2) 川の増水などが人々の生活に与える影響や災害から身を守る対策について、調べた結果を基に自分の考えを表現することができる。
 (3) 川による災害について、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050204_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 川による災害とその対策について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 川の水量が増えたときの、流れる水の働きを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水の流れが速くなる。 ・ 地面を侵食したり、石や土を運搬したりする働きが大きくなる。 ・ 私たちの生活への影響について調べたい。 ★ 川による災害とその対策について調べよう。 ○ 川の水量が増すことでどんな災害が起こるのかについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路や橋が壊される。 ・ 水が濁って、川幅が広がる。 ・ 家の浸水。 ・ 畑の作物が水で流され、収穫不可能になる。 ○ 川による災害を防ぐ取り組みについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ダム ・ 砂防堰堤 ・ 堤防 ・ ブロック ・ 遊水池 ・ 流路工（工事） ・ 道路下にあるトンネル ・ ハザードマップや避難場所などの情報 など ○ 自分にできそうなことや、生活する中で気を付けたいことなどについて、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 川のことをよく理解し、生活することが大切。 ・ 避難場所を確認しておきたい。 ○ 単元のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「確かめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「流れる水と土地」の単元と関連付けて、単元の学習課題をつかませる。 ・ 教科書P. 140～141の写真や生活経験、教師が準備した写真やニュースの映像などを基に考えさせる。 ・ 土地の様子が大きく変化し、私たちの生活に大きな影響を与えることを確認する。 ・ 川の災害を防ぐ取り組みと、それらの効果について調べさせる。 ・ 教科書P. 142～146やインターネットの資料、地域の防災マップなどを活用させるとよい。 ・ 災害を防ぐためには、川の働きをよく知ることが大切だということにも気付かせる。 ・ 調べたことを発表させ、学級全体で共有するとよい。 ・ 自分の生活と関係付けながら考えさせる。 ・ 「流れる水と土地」の単元から本時までの振り返りをまとめて行う。 <p>【評】 川による災害や対策について調べたり、自分の考えをまとめたりする活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

<関連>

- ・ 第4学年「雨水と地面」
- ・ 第6学年「土地のつくり」

単元名 電流が生み出す力

配当時間 13時間

- 単元の目標 (1) 電磁石の性質や働きを理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 電磁石の性質や働きについて、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 電磁石の鉄を引き付ける力について、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050205_001

【準備等】 ストロー、はさみ、M5のボルト（長さ50mm）、ナット、太さ0.32mmのエナメル線（長さ5m）、段ボール紙など、紙やすり、セロハンテープ、単3形の乾電池、乾電池ホルダー、割り箸、両面テープ、厚紙、アルミニウム箔、導線、鉄のクリップ、コピー用紙、方位磁針、魚釣りゲームで作った釣り竿（100回巻きの電磁石）、電流計、クリップ付き導線、エナメル線、ペットボトルの蓋、ものづくりの材料

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 電磁石で物を持ち上げる遊びを通して、単元の学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 魚釣りゲームを見る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 釣り竿の仕掛けの部分に、鉄のクリップが付いていて魚が釣れている。 ・ 釣り竿を作って、魚釣りゲームをしてみたい。 ★ 魚つりの道具を作って、ゲームをしよう。 ○ 魚釣りゲームの準備を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 100回巻きの電磁石を作る。（魚釣りゲームに使う釣り竿を作る） ・ 釣る魚を作る。（鉄のクリップを付けた魚、アルミニウム箔を付けた魚） ○ 魚釣りゲームを行い、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな魚は釣れない。 ・ 鉄のクリップを付けた魚は釣れるけれど、アルミニウム箔を付けた魚は釣れない。 ・ スイッチを入れたときだけ、魚が仕掛けに引き付けられる。 ・ 鉄が引き付けられるということは、仕掛けが磁石と同じ働きをしているのかな。 ・ 仕掛けが磁石と同じ働きをするなら、N極をS極があるのかな。 ○ 方位磁針を使って電磁石の極を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚釣りゲームで使った仕掛けの両端が磁石のN極やS極になっている。 ・ 仕掛けによって、ボルトの頭がN極だったり、S極だったりする。よく見ると乾電池の向きが違う。 ・ 磁石と同じような性質があることが分かった。電磁石というんだね。 ・ 電磁石の電流の向きを変えると、仕掛けのN極とS極が入れ替わるのか、調べたい。 <p>3 電流の向きと電磁石の極との関係について考える。</p> <p>★ 回路に流す電流の向きを変えると、電磁石は、極が入れかわるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時を振り返り、予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電流の向きを変えると、モーターの回る向きが変わったから、電磁石も極が入れ替わると思う。 ○ 自分の予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 乾電池の＋極が右側のときと左側のときを比べて、電磁石の極が入れ替わるかどうかを調べるといい。 ・ 電磁石の極の向きは、方位磁針を使って調べる。 ・ 流す電流の向きを変えるときは、乾電池の向きを変える。 <p>4 電流の向きと電磁石の極との関係について調べる。</p> <p>★ 電流の向きを変えて、電磁石の極が入れかわるかどうか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、実験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が演示で行うとよい。 ・ （安全）ストローの端で手を切らないようにさせる。 ・ エナメル線を巻く向きを途中で変えないように助言する。 ・ 100回巻きのコイルでは釣れない大きさ（重さ）の魚も作っておき、電磁石を強くしたいという思いを高めさせ、第5時の学習へつなげる。 ・ （安全）電流を長い時間流させないようにする。エナメル線が熱くなって危険であることを知らせる。 ・ 大きな魚は、重さが重いから釣れないということを確認させておく。 ・ 電流を流しても電磁石の働きが出ないもの多くは、接触不良であるため、エナメル線の剥がし方が不完全でないかや、正確な回路ができていないかを確認させるとよい。 ・ 第3学年「じしゃく」の単元で学習した磁石の性質を想起させて考えさせる。 ・ 「電磁石」という用語の意味を押さえる。 <p>【評】 電磁石を作って魚釣りゲームをしたり、気付いたことを話し合ったりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第4学年「電流のはたらき」の単元で学習した内容を想起させて考えさせる。 <p>【評】 電流の向きと電磁石の極との関係について予想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ （安全）電流を長い時間流させないようにする。エナメル線が熱くなって危険であることを知らせる。 ・ ボルトの頭とナットの位置を明確にしてから実験を行わせる。 ・ 二本の釣り竿を使って、教科書P.153の図の

- 実験結果を整理する。
 - ・ 乾電池の＋極を左側にすると、電磁石のボルトの頭がN極になった。
 - ・ 乾電池の＋極を右側に変えると、電磁石のボルトの頭がS極になった。
- 分かったことをまとめる。
 - ・ 回路に流す電流の向きを変えると、電磁石は極が入れ替わる。
- ＜電磁石の性質＞
 - ・ コイルに電流を流したときだけ、鉄心が鉄を引き付ける。
 - ・ 磁石と同じように、N極とS極がある。
 - ・ 回路に流れる電流の向きを変えると、極が入れ替わる
- 5 電磁石の働きを強くする方法について考える。
 - 魚釣りゲームで、大きな（重い）魚が釣れなかったことを思い出す。
 - ・ 大きな魚（重い魚）は釣れなかった。
 - 釣れなかった魚を釣る方法について考える。
 - ・ 仕掛けの電磁石の働きを大きくすればいい。
 - ・ 電磁石の働きを大きくするにはどうしたらいいのか、調べたい。
 - ★電磁石のはたらきを大きくするには、どのようにすればよいのだろうか。
 - 予想する。
 - ・ 回路に大きい電流を流すと、モーターが速く回ったから、電磁石の働きも大きくなると思う。
 - ・ コイルの巻き数を増やすと、電磁石の働きが大きくなると思う。
 - 自分の予想を確かめる方法を考える。
 - ・ 乾電池 1 個のときと 2 個の直列つなぎのときで、引き付けるクリップの数を比べるといい。（実験 2－A）
 - ・ 100 回巻き of 電磁石と 200 回巻き of 電磁石で、引き付けるクリップの数を比べるといい。（実験 2－B）
 - 電流計の使い方を知る。

○ 電源装置の使い方を知る。

6～7 電磁石の力を強くする方法について調べる。（実験 2－A）

- ★かん電池 1 個と 2 個の直列つなぎで、電磁石が引き付けるクリップの数を調べよう。
- 前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、実験を行う。
 - ・ 乾電池：1 個、2 個の直列つなぎ
 - ・ コイルの巻き数：100 回巻き
 - ・ 導線の長さ：同じ長さ
- 実験結果をグラフに表して整理する。
 - ・ 乾電池 1 個のとき、電流は 0.8 A で 3～7 個。
 - ・ 乾電池 2 個のとき、電流は 1.5 A で 11～16 個。
- ・ 乾電池 2 個の直列つなぎの方が、乾電池 1 個よりもクリップを多く引き付けた。
 - ・ 5 回とも同じような結果になったから、電流の大きさを大きくすればよいという予想は確かめられた。
- 分かったことをまとめる。

ように回路を作って調べてもよい。
（安全）二本の釣り竿を使って調べる場合、二つのスイッチを同時に入れさせないようにする。乾電池が熱くなって危険であることを知らせる。

- ・ 永久磁石と比べながら、電磁石の性質についても押さえる。
- 【評】実験により、電流の向きと電磁石の極との関係について調べ、分かったことをまとめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 再度、大きな魚が釣れない様子を見せるとよい。

- ・ 第 4 学年「電流のはたらき」の単元で学習した内容を想起させて考えさせる。
- ・ 電磁石で変えられる条件を考えさせることで「電流の大きさ」と「コイルの巻き数」に着目させる。
- ・ 変える条件と同じにする条件を明確にして考えさせる。
- 【評】電磁石を強くする方法について予想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 電流計を使うと電流の強さを定量的に調べられることを助言する。
- ・ 電流計の使い方については、教科書 P. 158 を参考にさせる。
- ・ （安全）電流計が壊れるので、電流計に乾電池だけをつながないようにさせる。
- ・ 電源装置の使い方については、教科書 P. 159 を参考にさせる。
- ・ （安全）電源装置が壊れるので、電源装置の＋端子と－端子を導線でつながないようにさせる。
- ・ 乾電池の代わりに電源装置を使って実験を行ってもよい。

- ・ （安全）長い時間電流を流さないようにさせる。
- ・ 条件をそろえるため、コイルの巻き数と導線の長さは同じにさせる。
- ・ 「ふりこ」の単元での測定方法を想起させ、1 回の実験では、測定値にばらつきが出る可能性があるため、5 回測定することを助言する。
- ・ 極端に違う結果が出た場合は、回路を確認し再度、実験を行わせる。
- ・ 結果をグラフに表して視覚的に比べさせ、実験結果をより分かりやすく把握させる。

【評】実験を行い、電磁石の働きと電流の大きさの関係について調べる活動を通して、「知

- ・電磁石の働きを大きくするには、回路に流す電流の大きさを大きくすればよい。
- 8～9 電磁石の力を強くする方法について調べる。（実験2-B）
- ★100回まきと200回まきの電磁石で引き付けるクリップの数を調べよう。
- 前時の予想を振り返り、実験を行って調べる。
 - ・コイルの巻き数：100回巻き，200回巻き
 - ・乾電池：1個
 - ・導線の長さ：同じ長さ
 - 実験結果をグラフに表して整理する。
 - ・100回巻きのとき，3～7個。
 - ・200回巻きのとき，11～16個。
 - ・200回巻きの電磁石の方が，100回巻きの電磁石よりもクリップを多く引き付けた。
 - ・5回とも同じような結果になったから，コイルの巻き数を増やせばよいという予想は確かめられた。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・電磁石の働きを大きくするには，コイルの巻き数を増やせばよい。
- 10 調べた結果の平均を求めて，結果を比べる。
- 第6時～第9時で分かったこと（結論）を振り返る。
 - ・電磁石の働きを大きくするには，回路に流す電流の大きさを大きくしたり，コイルの巻き数を増やしたりすればよい。
 - ★調べた結果の平均を求めて，結果を比べてみよう。
 - 平均を求める。
 - 〈電流の大きさを大きくする実験（実験2-A）〉
 - ・乾電池1個：平均は5個
 - ・乾電池2個の直列つなぎ：平均は14個
 - 〈コイルの巻き数を増やす実験（実験2-B）〉
 - ・100回巻きのコイル：平均5個
 - ・200回巻きのコイル：平均13個
 - 本時で求めた平均値と，実験結果を比べて，気付いたことを話し合う。
 - ・第7時の結論と同じで，電流の大きさを大きくすれば電磁石の働きが大きくなる。
 - ・第9時の結論と同じで，コイルの巻き数を増やせば，電磁石の働きが大きくなる。
- 11～12 電磁石を利用したものづくりを行う。
- これまでの学習を振り返る。
 - ・電磁石の性質
 - ・電磁石の便利な点（磁石にしたいときだけ磁石にできる，強さを変えることができる，極の向きを変えることができる）
 - ★電じしゃくの性質を利用した道具を作ろう。
 - 身の回りの電磁石を使ったものについて話し合う。
 - ・ベル
 - ・消火栓
 - ・モーター（黒板消しクリーナー） など
 - ものづくりの計画を立てる。
 - ・電池チェッカー
 - ・コイルモーター
 - ・ブザー など
 - 計画に従って製作し，作ったものを動かす。
- 13 単元のまとめをする。
- ★単元の振り返りをしよう。
- ・「確かめ」に取り組む。

識・技能」を評価する。

- ・（安全）長い時間電流を流さないようにさせる。
- ・条件をそろえるため，乾電池の数と導線の長さは同じにさせる。
- ・導線の長さによって流れる電流の強さが変化してしまうので，エナメル線の長さという条件も同じにするため，100回巻きの電磁石を使った実験を行った後，その余りを使って200回巻きの電磁石を作らせるようにする。
- ・結果をグラフに表して視覚的に比べさせ，実験結果をより分かりやすく把握させる。

【評】実験を行い，電磁石の働きとコイルの巻き数の関係について調べる活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・実験結果の整理には，グラフに表す方法の他に，平均を求めるという方法があることを知らせる。
- ・教科書P.164の「算数とのつながり」で，算数教科の平均の求め方の学習と関連付けて適切に処理できるようにする。

- ・本時で求めた平均値と，前時までの結論を比べ，妥当性を検証させる。
 - ・さらに学びを広げるために，大きな（重い）魚を釣り上げるために自分の釣り竿を改良させ，魚釣りゲームを行わせてもよい。
- 【評】学んだことを使って平均を求める活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・第11時～第12時の活動は「ものづくり」として取り扱う。
 - ・永久磁石と電磁石を比べ，電磁石の便利な点についても考えさせる。

- ・教科書P.166～167を参考にさせるとよい。

- ・計画書は，教科書P.167を参考にさせ，道具の名前，利用する性質，準備物，完成図，使い方を書かせる。

- ・教科書P.165～169を参考にさせてもよい。
- ・作ったものが上手く動かない場合は，回路を確認させたり，他の児童の作品と比べたりし動かない原因を追究させる。

【評】ものづくりの活動を通して，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

・「ふりこ」「電流が生み出す力」の中で二種類以上のものづくりを行うものとする。ただし、本単元では、教科書P.165～P.169の活動を「ものづくり」として取り扱っている。

<関連>

- ・第3学年「電気の通り道」「じしゃく」
- ・第4学年「電流のはたらき」
- ・第6学年「電気の利用」

単元名 人のたんじょう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 人の受精卵の成長を理解するとともに、目的に応じて情報を収集して、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 人の受精卵の成長について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 人の誕生について、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050301_001

【準備等】人の誕生に関する本やビデオ（DVDなど）、人体模型など、模造紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 人の誕生や生まれた後の成長について考え、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 母親のお腹の中の赤ちゃんの様子について、感じたことや気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人は、お母さんのお腹の中で育って生まれてくる。 ・ 自分もこうして生まれてきたのかな。 ○ 「卵（卵子）」「精子」「受精」「受精卵」という用語の意味を知る。 ○ 人の受精卵と子が生まれる頃とを比べ、不思議に思ったことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の受精卵はとても小さいけれど、赤ちゃんが生まれる頃のお母さんのお腹は大きくなっているのはなぜだろう。 ・ 人の受精卵は、お母さんのお腹の中でどう変わっていくのだろう。 ★ 人の受精卵は、母親の体の中で、どのように育って生まれてくるのだろうか。 ○ 予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人もメダカと同じように、受精卵が少しずつ変化して人の子になると思う。 ・ 赤ちゃんはお母さんの体の中で育つから、お母さんから養分をもらっていると思う。 ○ 自分の予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書や図鑑などの本 ・ インターネット ・ ビデオ、DVD ・ 母親、養護教諭、看護師、医者などに話を聞く など <p>2～4 人の受精卵が育つ様子について、調べる。</p> <p>★ 人の受精卵が母親の体内で育つ様子を調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、人の受精卵が育つ様子について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに、調べて集めた情報を交換し、内容を整理する <ul style="list-style-type: none"> ・ 「受精卵の変化」について ・ 「成長に必要なもの」について <p>5～6 発表準備をする。</p> <p>★ 発表準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表内容や方法を決定し、発表資料を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 模造紙にポスター形式でまとめる。 ・ 実物投影機やビデオ、パソコンなどの情報機器を使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤ちゃんに関する写真（教科書P.172～173など）や動画などを見せて赤ちゃんへの親しみを感じさせることで、母体内の胎児についての関心を高めさせる。 ・ 子どもの家庭の話を取り上げるときには、家庭事情を十分考慮する。 ・ メダカの受精卵は、中でだんだんとメダカらしい姿に変化してメダカの子がかえることを思い出させ、比較しながら考えさせる。 ・ 「受精卵の変化」と「成長に必要なもの」に関する疑問を出させる。 ・ 学級全体を通して、「受精卵の変化」と「成長に必要なもの」の両方が調べられるように配慮する。 ・ 学級文庫に関連図書を準備しておくといよい。 ・ 家の人や養護教諭、学校医などに質問する場合は、事前に連絡し、打ち合わせをしておく <p>【評】人の誕生について話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 胎児の母体内での成長に着目して、それらと時間の経過とを関連付けて、胎児の成長の様子について調べさせる。 ・ 児童が調べたい内容を、大きく「受精卵の変化」と「成長に必要なもの」に分類して調べさせる。 ・ 教材として提供を受けたへその緒やエコー写真など、児童がお腹にいた頃の資料なども参考にさせるとよい。 ・ 自分が生まれたときの家の人の気持ちにも触れさせることで、命の大切さや誕生の喜びを味わえるようにする。 ・ 班の中で、それぞれの内容ごとに自分が調べた内容を発表し、それらについて質問や付け足しをし、情報を共有していく。 <p>【評】人の受精卵が育つ様子について調べる活動を通して、「知識・技能」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ方は、教科書P.177を参考にさせ、疑問、分かったこと、感想などに分け、絵や写真、図表などを使って分かりやすくまとめさせる。

てまとめる。

7 調べてまとめたことを発表し合う。

★発表を聞き合い，人の誕生について分かったことをまとめよう。

- 発表を聞き合う。
 - ・受精卵の変化
 - ・成長に必要なもの

- 発表を聞いて知ったことを整理し，分かったことをまとめる。

- ・人の受精卵は，母親の体内で，約38週かけて，だんだんと人のすがたに育ち，子として生まれてくる。
- ・体内では，母親の胎盤からへその緒を通して，養分などを取り入れ，不要な物を送り出している。
- ・生まれた人の子は，やがて大きく成長して，次の世代へと生命をつなげていく。

8 単元のまとめをする。

★単元の振り返りをしよう。

- ・「確かめ」に取り組む。

【評】調べて分かったことをまとめ，発表準備をする活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・発表をするときは，自分の話したことが聞き手によく伝わっているか，確かめさせながら発表させる。
- ・発表を聞くときは，話の中心や気付いたこと，思ったことなどをメモしながら聞かせる。また，疑問や補足についても挙げさせ，考えを広げさせる。
- ・自分の予想と比べさせながら整理させる。
- ・メダカと違い，人は子宮の中の受精卵がだんだんと人の姿に変化していくことを捉えさせる。
- ・分かったことは，教科書P.178～179「受精卵の変化」，P.180「成長に必要なものの取り入れ方」も参考に，まとめさせる。
- ・「子宮」「たいばん」「へそのお」「羊水」「羊まぐ」という用語の意味を確認する。

【評】人の受精卵の成長について，分かったことをまとめる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「季節と生き物」
- ・中学校第3学年「生物の成長とふえ方」

単元名 受けつがれる生命

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 生命の連続性について理解することができる。
 (3) メダカやアサガオ、人の受け継がれる生命について、進んで関わりながら学ぼうとする。

標準的な展開例

05050302_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 受け継がれる命について、これまで学んできたことを基に、学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習で扱った、植物や動物（生き物）について振り返り、問題を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> ・メダカ ・アサガオ、ヘチマ ・人 ・生き物に共通することがあるのかな。 ★生き物に共通することについて、考えよう。 ○これまでの学習を振り返り、調べたことや分かったことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・メダカは卵の中で、だんだんメダカらしくなり、卵からメダカの子がかえる。 ・アサガオは種子が発芽し、その後、花を咲かせて実ができる。 ・人の受精卵は、母親の子宮の中でだんだん人の姿になり、母親から子が生まれる。 ○分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・人やメダカなどの動物は、生まれた子が育って、次の世代へと生命をつなげていく。 ・アサガオなどの植物は、実の中にできた種子が発芽して成長し、次の世代へと生命をつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物と植物を分けて考えるのではなく、全て生き物であるという視点を与えて、学習課題を見いださせる。 ・「メダカのたんじょう」「花のつくり」「花から実へ」「人のたんじょう」の単元で学習したことを振り返り、考えさせる。 ・教科書P.186～187の資料を参考に話し合いをさせてもよい。 ・生き物は子孫を残して、生命を受け継いでいるという共通点に気付かせる。 ・生き物はかけがえのない命をもっていることその命を大切にしていかなければならないことに着目させる。 <p>【評】分かったことをまとめる活動を通して、「知識・技能」，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「季節と生き物」
- ・中学校第3学年「生物の成長とふえ方」

単元名 もののとけ方

配当時間 16時間

- 単元の目標 (1) 物が水に溶けるときの重さや限度を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 物が水に溶けるときの重さや限度について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 物が水に溶けることについて、進んで関わりながら問題を解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

05050303_001

【準備等】食塩、ミョウバン、200mLのビーカー、小さじ、ガラス棒、雑巾、蓋付き容器、葉包紙、電子天秤（または上皿天秤）、メスシリンダー（100mL用）、スポイト、すり切り棒、温度計、湯（約60度）、カップ麺などの容器、バット、ろうと、ろうと台、ろ紙、水、ラップフィルム、輪ゴム

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 食塩を水に溶かし、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★食塩を水に溶かし、観察しよう。</p> <p>○食塩やコーヒーシュガーが水に溶ける様子を観察し、水溶液について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粒が小さくなって溶け、消えてなくなった。 ・糸みたいなのが見える。 ・物が水に溶けて、透明になった液を水溶液という。 <p>○食塩を水に溶かして様子を観察し、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かき混ぜると早く溶けた。 ・全て溶けて、見えなくなった。 ・水の中に入れた食塩は、どうなったのかな。 <p>○水の中に入れて溶けた食塩は、どうなってしまったのかについて、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩水はしょっぱいから、食塩は、水の中にあると思う ・溶かしても水の中にあるなら、食塩を水に溶かしても水と食塩を合わせた重さは変わらないのか、調べたい。 <p>2～3 食塩を水に溶かす前後の重さについて調べる。</p> <p>★食塩を水にとかすとき、全体の重さは、とかす前後で変わるのだろうか。</p> <p>○予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見えなくなったから、少しは無くなって軽くなると思う。 ・食塩はあるはずだから、全体の重さは変わらないと思う。 ・水の中のものと結び付いて、重くなると思う。 <p>○自分の予想を確かめる計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食塩を溶かす前と溶かした後で、全体の重さを比べればいい。 <p>○電子天秤と上皿天秤の使い方を知る。</p> <p>○実験を行い、食塩を水に溶かす前後の重さを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食塩を溶かす前の全体の重さ ・食塩を溶かした後の全体の重さ <p>○実験結果を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとの結果を表にまとめる。 <p>○分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食塩を水に溶かすとき、全体の重さは、溶かす前後で変わらない。 ・水に溶かした食塩は、目に見えなくなっても、食塩水の中に全部あると考えられる。 <p>4～5 食塩が水に溶ける限度について調べる。</p> <p>○前時の実験結果を振り返り、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食塩がたくさん溶けた班と、少ししか溶けていない班がある。 ・食塩は少ししか溶かさなかったけれど、もっと溶けるのか、調べたい。 <p>★食塩が水にとける量には、限度があるのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シュリーレン現象などを観察させると、溶けた物が広がっていく様子を観察しやすい。 ・粒が小さくなり、見えなくなったことに着目させる。 ・「水よう液」という用語を押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・（安全）ガラス棒の先にゴム管を付けて、かき混ぜる際にビーカーを割らないようにさせる。 ・食塩は、入れすぎないように注意する。目安は、小さじ1杯。 ・児童から出された気付きや疑問を大切に、問題意識をもたせる。 ・（安全）塩水は授業で飲んで確かめるのではなく、生活経験から考えさせる。 <p>【評】食塩が溶ける様子を観察する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活経験などを基に、自分の予想に対する理由も考えさせる。 ・食塩を水に溶かす前後の重さは、水の重さ（前）と食塩水（後）を比べるのではなく、水と食塩を合わせた重さ（前）と食塩水（後）を比べることを押さえて、予想させるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・電子天秤の使い方は、教科書P.191を参考にさせる。 ・上皿天秤の使い方は、教科書P.218～219を参考にさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・他の班の結果にも目を向けさせ、全体の傾向として結果を捉えさせる。 ・一定量の水に物が溶ける量には限度があることを捉えさせる。 ・教科書P.193の「資料」のイメージ図などを参考に、食塩水の中で、食塩が均一に広がっているため、食塩水はどこでも同じ濃さになっていることを押さえる。 <p>【評】実験により、食塩を水に溶かす前後の重さについて調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

- 予想する。
 - ・限度はあると思う。
 - ・限度はないと思う。
 - 自分の予想を確かめる方法を考える。
 - ・食塩を溶かす水の量を決める必要がある。水の量を正確に測れるものを使って調べたい。
 - ・溶かす食塩の量を決める必要がある。小さじで決まった量の食塩を計り取って調べたい。
 - メスシリンダーの使い方をを知る。
 - 実験を行う。
 - 実験結果を整理する。
 - ・小さじ4杯目で、食塩は溶け残った。
 - ・小さじ3杯目まで食塩は溶けた。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・食塩が水に溶ける量には、限度がある。
 - 結論から疑問に思うことを考える。
 - ・溶け残った食塩は、もう溶かすことができないのか。
 - ・食塩を水にもっとたくさん溶かす方法が何かあると思う。
- 6 食塩をたくさん水に溶かす方法について考える。
- ★食塩を水にたくさん溶かすには、どうすればよいのだろうか。
- 予想する。
 - ・水の量を増やせばいいと思う。
 - ・水の温度を上げればいいと思う。
 - 自分の予想を確かめる方法を考える。
 - ・量の違う水を用意して、溶ける限度を調べる。
 - このとき、水の温度は同じにする。
 - ・温度の違う水を用意して、溶ける量を調べる。
 - このとき、水の量は同じにする。
- 7～8 前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、食塩をたくさん水に溶かす方法について調べる。
- ★水の量を増やしたときや、水の温度を上げたときの、食塩が水に溶ける量を調べよう。
- 水の量を増やして、食塩が溶ける量を調べる。（実験3-A）
 - 水の温度を上げて、食塩が溶ける量を調べる。（実験3-B）
 - 実験結果を整理する。
 - ・水の量…50mL→100mLのとき、小さじ3杯→6杯
 - ・水の温度…13℃→52℃のとき、小さじ3杯→3杯
 - 分かったことをまとめる。
 - ・食塩を水にたくさん溶かすには、水の量を増やせばよい。水の温度を上げて、食塩が水にとける量はほとんど変わらない。
 - 実験3-Aで水の量を2倍に増やすと、水に溶ける食塩の量が2倍になったことから、水の量を3倍にすると、水に溶ける食塩の量はどうかを考える。
 - ・「水に溶ける食塩の量」は、「水の量」に比例するから、食塩の量は3倍になる。
 - ・「水に溶ける食塩の量」は、「水の温度」には比例しない。
- 9 ミョウバンをたくさん水に溶かす方法について考える。
- ミョウバンについて知る。
 - ・白い粒。
 - ・生活経験などを基に、自分の予想に対する理由も考えさせる。
 - ・水の量を正確に計ることができる器具にメスシリンダーがあることを紹介する。
 - ・メスシリンダーの使い方は、教科書P.195を参考にさせる。
 - ・食塩は小さじですり切り1杯ずつ入れ、全て溶けたら次の1杯を入れて、混ぜるようにさせる。
 - ・食塩の溶け残りが出た時点で記録をさせる。例えば、3杯目で溶け残りが出た場合は、2杯分まで溶けたこととする。
 - ・最後、限度がきたときの液の温度も記録させる。
 - ・一定量の水に物が溶ける量には限度があることを捉えさせる。
 - ・疑問を出させ、次時の問題へつなげる。
 - ・食塩の溶け残りのあるビーカーは、次時の導入で提示するとよい。ため、ラップなどをかぶせて保管しておく。
 - 【評】実験により、食塩が水に溶ける量に限度について調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。
 - ・前時から保管しておいた水溶液を使う。
 - ・必要に応じてイメージ図を活用することで、水の中に溶けたものの粒子イメージをもたせるとよい。
 - ・「変える条件」と「同じにする条件」を明確にして考えさせる。
 - 【評】食塩をたくさん水に溶かす方法について予想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
 - ・（安全）温度計でかき混ぜないようにさせる
 - ・水の量だけを変え、水の温度は同じにすることを確認させる。
 - ・液の温度も記録させる。
 - ・（安全）湯で火傷をしないように気を付けさせる。
 - ・水の温度だけを変え、水の量は同じにすることを確認させる。
 - ・液の温度も記録させる。
 - ・自分の予想と結果が異なるものとなった場合は、実験→計画→予想の順で見直すことを伝える。
 - ・教科書P.201の「算数とのつながり」で、算数科の比例の学習と関連付けて適切に処理できるようにする。
 - 【評】実験により、水の量や水の温度と、食塩が水に溶ける量の関係を調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。

<p>・ナスの漬け物を作るとき、色をよくするために使う。</p> <p>○ミョウバンを水に溶けるだけ溶かし、気付いたことを発表する。</p> <p>・食塩に比べて、ミョウバンは溶けにくい。</p> <p>・ミョウバンを水にもっとたくさん溶かす方法はないのかな。</p> <p>★ミョウバンを水にたくさんかすには、どうすればよいのだろうか。</p> <p>○予想する。</p> <p>・水の量を増やせばいいと思う。</p> <p>・水の温度を上げればいいと思う。</p> <p>○自分の予想を確かめる方法を考える。</p> <p>・量の違う水を用意して、食塩の溶ける量を調べる。</p> <p>→このとき、水の温度は同じにする。</p> <p>・温度の違う水を用意して、食塩の溶ける量を調べる。</p> <p>→このとき、水の量は同じにする。</p> <p>10～11 前時の予想や予想を確かめる方法を振り返り、ミョウバンをたくさん水に溶かす方法について調べる。</p> <p>★水の量を増やしたときや、水の温度を上げたときの、ミョウバンが水にとける量を調べよう。</p> <p>○水の量を増やして、ミョウバンが溶ける量を調べる。（実験4－A）</p> <p>○水の温度を上げて、ミョウバンが溶ける量を調べる。（実験4－B）</p> <p>○実験結果を整理する。</p> <p>・水の量…50mL→100mLのとき、小さじ1杯→2杯</p> <p>・水の温度…13℃→49℃のとき、小さじ1杯→3杯</p> <p>○分かったことをまとめる。</p> <p>・ミョウバンを水にたくさん溶かすには、水の量を増やしたり、水の温度を上げたりすればよい。</p> <p>・物が水に溶ける量は、水の量や温度によって変わり、その変わり方は、溶かす物によって違う。</p> <p>12～14 水に溶けたミョウバンを取り出す方法を考えて、実験を行う。</p> <p>○温度が下がったミョウバンの水溶液（前時で使ったもの）を観察し、気付いたことを発表する。</p> <p>・溶け残りが増えている。</p> <p>・どうしたら、水溶液に溶けているミョウバンが出てくるのかな。</p> <p>★水よう液にとけているミョウバンは、どうすると出てくるのだろうか。</p> <p>○予想する。</p> <p>・水の温度を上げるとたくさん溶けたから、逆に温度を下げればいいと思う。</p> <p>・水の量を増やすとたくさん溶けたから、逆に水の量を減らせばいいと思う。</p> <p>○自分の予想を確かめる方法を考える。</p> <p>・ミョウバンの水溶液を冷やさないと冷やしたときで比べると、冷やした方だけミョウバンが出てくるはずだ。</p> <p>・ミョウバンの水溶液二つのうち、一方だけに覆いをして比べると、水を蒸発させた方だけミョウバンの粒が出てくるはずだ。</p> <p>○ろ過の仕方を知り、溶け残った粒や出てきた粒と、上澄み液を分ける。</p> <p>○実験を行う。</p> <p>・水溶液を冷やしてミョウバンを取り出す。（実験5－A）</p> <p>・水を蒸発させてミョウバンを取り出す。（実験5－B）</p> <p>○実験5－Aの結果を整理する。</p> <p>・冷やした方だけが、粒が出た。</p> <p>15 水に溶けたミョウバンを取り出す方法について確認する</p>	<p>・食塩の溶け方と比べながら行わせる。</p> <p>・液の温度も記録させる。</p> <p>・ミョウバンが水に溶ける量には、限度がありものが水にとける限度は、食塩とミョウバンで違っていることにも気付かせる。</p> <p>・食塩の実験を想起させ、考えさせる。</p> <p>・「変える条件」と「同じにする条件」を明確にして、実験を行わせる。</p> <p>【評】ミョウバンをたくさん水に溶かす方法について、予想したり実験方法などを考えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・最後、限度がきたときの液の温度も記録させる。</p> <p>・（安全）湯で火傷をしないように気を付けさせる。</p> <p>・水の温度を上げて調べた後のビーカーは、次時の導入で提示するため、ラップなどをかぶせて保管しておく。</p> <p>【評】実験により、水の量や水の温と、ミョウバンが水に溶ける量の関係を調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・水溶液の上澄み液には、まだミョウバンが溶けているかどうかを考えさせ、問題意識をもたせていく。</p> <p>・これまで学習してきた水の量や温度と溶ける量との関係を想起させる。</p> <p>・水溶液の上澄みの部分を使えば調べられることに気付かせ、ろ過という方法を紹介する。</p> <p>・ろ過の仕方は、教科書P.209を参考にして指導する。</p> <p>・実験5－Bの結果は、数日経たないと出ないため、次時を数日後に設定し、結果の整理をさせる。</p> <p>【評】ミョウバンを取り出す実験を行う活動を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
--	--

- 実験５－Ｂの結果を整理する。
 - ・覆いをしなかった方は、水が減って、粒がたくさん出た。
 - ★実験結果から、ミョウバンを取り出す方法についてまとめよう。
 - 実験５－Ａ，５－Ｂの結果を振り返り，実験結果を整理する。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・水溶液に溶けているミョウバンは，水溶液の温度を下げたり，水溶液から水の量を減らしたりすれば出てくる
 - ・ものが水に溶ける量が水の量や温度によって変わるという性質を利用すると，水溶液に溶けているものを取り出すことができる。
 - 水溶液に溶けている食塩を取り出すには，どうしたらよいのか考える。
 - ・食塩は，水の量を増やすとたくさん溶けるけれど，水の温度を上げて溶ける量が変わらないことから，水の量を減らせば食塩が出てくる。
- 16 単元のまとめをする。
- ★単元の振り返りをしよう。
 - ・「確かめ」に取り組む。

- ・他の班の結果にも目を向けさせ，全体の傾向として結果を捉えさせる。

【評】結果を整理し，分かったことをまとめる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

- ・第３学年「ものの重さ」
- ・第６学年「水溶液」

単元名 生命のふるさと・地球

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 空気の成分について理解することができる。

標準的な展開例

06050101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 空気の成分について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際宇宙ステーションから見る，地球について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・暗黒の宇宙に浮かぶ青く輝く星だね。 ・様々な生命が住んでいるよ。 ○若田光一さんの話を読む。 ★地球上の空気の成分について知ろう。 ○国際宇宙ステーションで補給されたものについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物や水が必要だね。 ・空気も必要だよ。 ・空気はどんなものでできているのかな。 ○空気の成分は，窒素，酸素，二酸化炭素でできていることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・空気中の体積の割合は，窒素が約78%，酸素が約21% 二酸化炭素が約0.04%である。 	<p>・教科書の表紙裏を参考にとよい。</p> <p>【評】空気中の成分について知る活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 ものの燃え方と空気

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 物が燃えるときの空気の質的变化を理解するとともに、目的に応じて選択した器具などを正しく扱いながら実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 燃焼の仕組みについて、より妥当な考え方をつくり出し、その考えを表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 燃焼の仕組みについて、進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050102_001

【準備等】 500mLの集気瓶、500mLの底のない集気瓶、粘土、木の板、アルミニウム箔、小さいろうそく、ガスマッチ、ストップウォッチ、ぞうきん、燃えさし入れ、燃焼さじ、水の入った水槽、保護眼鏡、ボンベ（窒素、酸素、二酸化炭素）、気体検知管（酸素用 6～24%用、二酸化炭素用 0.03～1%用、0.5～8%用）、デジタル気体検知管

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 燃焼の仕組みについて、興味関心を高め、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の中でもものを燃やすときに工夫した経験について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> まきを交互に組んで火を燃やした。 うちわであおいで火を大きくした。 密閉されたところでも、火は燃え続けるのだろうか。 ★底のあるびんと底のないびんの中であらうそくを燃やして燃え方を比較しよう。 ろうそくを燃やして燃え方を実験する。 <ul style="list-style-type: none"> 上の空いているほうは燃え続けたよ。 上が閉じているほうは火が消えてしまった。 ろうそくの燃え方の違いには、何の関係しているのか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 燃え方の違いには空気が関係していると思う。 底のあるびんは空気がなくなったと思う 底のあるびんを水槽に入れ、びんに空気が存在していることを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> びんの空気はなくなっていない。 びんの中の空気が変化したのかな。 <p>2～3 ろうそくの火が消えたびんに、再び火のついたろうそくを入れる活動を通して、ものが燃えると空気が変化することを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時を振り返る。 ★底のあるびんの中でもものを燃やすと、火が消えてしまうのはどうしてだろう。 底のあるびんの中であらうそくを燃やした時の空気の变化について予想する。 <ul style="list-style-type: none"> 空気がなくなったわけでないから、中の空気の性質が変わったと思う。 空気の性質が変わったか実験する方法を考え、結果の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 火が消えた後、もう一度火のついたろうそくをびんに入れてみよう。 空気の性質が変わったら、ろうそくの火はすぐ消えてしまうはずだよ。 ろうそくの火が消えた後のびんの中で、再びろうそくを燃やして、空気の性質をまとめる。 実験の結果を整理し、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 2回目は1回目と違って、すぐ消えてしまった。 予想通り、空気の性質が変わったと思う。 ものを燃やす働きがなくなると思う。 そこのあるびんの中でもものを燃やすと火が消えてしまうのは、中の空気の性質が変わって、空気にもものを燃やす働きがなくなるから。 <p>4～5 空気の成分（窒素、酸素、二酸化炭素）に着目し、ものを燃やす働きについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 空気中の成分について、振り返る。 ★ちっ素、酸素、二酸化炭素のうち、どの気体にもものを燃やすはたらきがあるのだろうか。 結果を予想し、実験方法を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ちっ素が一番多いから、ものを燃やす働きがあると思 	<ul style="list-style-type: none"> ものを燃やしたときの体験から、ものが燃えるときに酸素が必要であるという意見を引き出す。 二つのびんで、空気が閉じ込められているかどうかの違いがあることを捉えさせてから、比較する。 （安全）びんの底は高温になるので、燃やした後は触らせないようにする。 空気がなくなったという意見から、次の空気があるかの実験につなげていく。 【評】びんの中でもものを燃やす活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する 空気がなくなったか確かめる方法として、水槽の中に水を入れ、びんを沈める方法を用いる。 前時より、底のあるびんでもものを燃やした後も空気があるのに、火が消えてしまうことから疑問をもたせる。 （安全）ろうそくやガスマッチ・マッチの扱いには十分注意させる。 （安全）ものを燃やす際は近くに燃えやすいものがないか確認してから、実験を行う。 火が消えるまでの時間を、表でまとめさせる 【評】びんの中でもものを燃やす活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 空気は、いろいろな気体が混じった混合物であることを押さえ、空気中の成分に着目させる 窒素、酸素、二酸化炭素のうち、どの気体にもものを燃やす働きがあるかについて予想させ

- う。
- ・酸素も約21%あるから、酸素にものを燃やす働きがあると思う。
- ・窒素や酸素を集めたびんの中であろうそくを燃やして、燃え方を比べてみよう。
- ・空気と他の気体を比べるとよく分かるよ。

○気体を集気瓶に集める。

○窒素、酸素、二酸化炭素の中で物を燃やし、空気中での燃え方と比べる。

- 実験の結果を確認し、分かったことをまとめる。
- ・酸素は激しく燃え、二酸化炭素と窒素はすぐ消えてしまったよ。
- ・酸素には、物を燃やす働きがあるが、窒素、二酸化炭素には、物を燃やす働きはない。

6 酸素にものを燃やす働きがあることに着目して、ものを燃やす前後の空気の成分について話し合い、次時の学習計画を立てる。

- ろうそくを燃やす前後で、空気の成分について話し合う
- ・ものを燃やすには酸素が必要だから、酸素がなくなってしまうのかな。

★ものを燃やす前と燃やした後では、空気中の成分はどのように変わるのだろうか。

- 実験結果を予想し、実験の方法を話し合う。
- ・ろうそくを燃やす前と後で、酸素の量を測って比べよう。
- ・気体の量を調べるのに、便利な道具はないかな。
- ・ものを燃やすのに酸素が使われ、酸素が減る。
- ・二酸化炭素の量が増えるのかな。
- ・窒素の量は変わらないのかな。

7～8 気体検知管を用いて、ろうそくの火が燃える前後の空気の組成の変化を調べる。

- 前時の予想を振り返る。

★ろうそくを燃やす前後で、びんにふくまれる酸素や二酸化炭素の量を調べよう

○気体検知管の使い方を知る。

○気体検知管を使って、酸素、二酸化炭素の量を調べる。

- 実験の結果を整理し、まとめる。
- ・ろうそくを燃やす前と後で酸素の量は減り、二酸化炭素の量は増えた。
- ・ものを燃やした後の空気は、前と比べて、酸素の一部が使われて減り、二酸化炭素が増える。
- ・酸素の増えた割合と、二酸化炭素の減った割合は同じだから、窒素の量は変わらない。

9 単元のまとめをする。

★単元の振り返りをしよう。

る。

- ・気体の集め方については手順を確認して進める。
 - ・中の空気を全て出すために容器を水で満たしてから、気体を集める。
 - ・（安全）ボンベから出した気体をじかに吸い込ませないようにさせる。
 - ・（安全）びんが割れないよう、底に少量の水を入れておく。
 - ・空気中での燃え方との違いが分かるように集気瓶を二つ用意して実験を行う。
- 【評】窒素、酸素、二酸化炭素を集めたびんの中で、ろうそくの燃え方を比べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・窒素、二酸化炭素には、火を消す働きがあると考える児童もいるが、ここではものを燃やす働きがないことを押さえる。
 - ・酸素を集めたびんの中でも、しばらくすると火が消えてしまうことを押さえておく。

・酸素にものを燃やす働きがあることに着目して、話し合わせる。

- ・空気の成分をイメージ図に表して予想させるようにする。
- ・目に見えない気体について調べたいという子どもの思いを基に、教師側が気体検知管を提示する。

【評】実験の仕方を話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・（安全）安全眼鏡を着用し、気体検知管で水を吸わないように注意させる。
- ・（安全）検知管は、気体を通す向きがあることを確認させる。
- ・（安全）酸素用検知管は熱くなるので、やけどに注意させる。
- ・（安全）けがをしないように、検知管の先には必ずゴムキャップを付けさせる。
- ・二酸化炭素の気体検知管は0.5～8%用を用いるが、空気中の二酸化炭素濃度を測定するときは、0.03～1%用を用いるとよい。
- ・検知管は、変色幅の数値を記録させる。物を燃やすと、空気中の酸素の一部が使われて減り、二酸化炭素ができることをまとめさせる

【評】ろうそくを燃やす前後で酸素や二酸化炭素の量を確かめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・空気の成分を図で表せるようにする。
- ・グラフも参考にし、窒素も含めた空気の組成の変化を調べる。

【評】ものを燃やす前後の空気成分について実験を行い、考察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ものがよく燃えるのはどんなときか、ものが燃えるときの空気の質的变化などについてまとめさせる。
- ・ものが燃えるにはどんなことが必要なのかやものが燃えるときの空気の成分の変化について

○「確かめ」に取り組む。

てまとめさせる。

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「とじこめた空気や水」
- ・中学校第1学年「もののすがた」

単元名 人や他の動物の体

配当時間 13時間

- 単元の目標 (1) 呼吸、消化・排出、循環などを理解するとともに、目的に応じて選択した器具などを正しく扱いながら実験を行ったり、目的に応じて情報を収集したりして、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 人や他の動物の体のつくりと働きについて、より妥当な考え方をつくり出し、その考えを表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 人や他の動物の体のつくりと働きについて、進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050103_001

【準備等】 人の体に関する本やDVD、呼吸の実験（ポリエチレンの袋、輪ゴム、気体検知管かデジタル気体検知器）、消化の実験（試験管、試験管立て、ヨウ素液、ストロー、ラベル、300mLのビーカー、ご飯、乳鉢、乳棒、湯、温度計）、聴診器、人体模型、コンピュータ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 人間が生きていくために必要なものは、どのように体に取り入れられるかを話し合う中で、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人や動物が息をしている写真、人や動物が食べ物を食べている写真を比較する。 <ul style="list-style-type: none"> ・人や動物は生きていくために必要な空気や食べ物、水を体の中に取り入れている。 ・取り入れた空気や食べ物、水は、体の中でどうなるのかな。 ○人や動物が生きていくために必要なものについて、調べてみたいことをまとめる。 ★人や他の動物は、生きていくために必要な空気や食べ物水を体の中でどのように使い、どのような仕組みで生命を保っているのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・体の中に取り入れた空気について調べたい。 ・体の中に取り入れた食べ物について調べたい。 ・食べ物と一緒に水も取り入れるから水についても調べたい。 ○人や動物は、空気を取り入れ、体の中でどのように使われているか話し合い、問題づくりをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・吸う前の空気と吐き出した空気を比べよう。 ・人は息をすることによって、体の中で空気中の何を取り入れ、何を出しているのだろうか。 <p>2～3 吸い込む空気と吐き出した息の違いを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時を振り返る。 ★人は息をすることによって、体の中で、空気中の何を取り入れ、何を出しているのだろうか。 ○息をして取り入れたり出したりしているものについて予想させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・息をすることによって、空気中の酸素を取り入れ、二酸化炭素を出していると思う。 ○実験計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ものの燃え方と同じように気体検知管で調べよう。 ・二酸化炭素なら石灰水でも調べられるよ。 ○吸い込む空気と吐き出した息を比べて、酸素や二酸化炭素の量に違いがあるか実験する。 ○実験の結果を整理し、分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・吐き出した息の方が酸素の量が減ったことから、体の中に酸素を取り入れているといえる。 ・吐き出した息の方が二酸化炭素の量が多かったことから、二酸化炭素を出しているといえる。 ・人は息をすることによって空気中の酸素の一部を取り入れて、二酸化炭素を含む息を出している。 ○次の疑問を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・空気は吸い込んだ後、体の中のどこに行くのかな。 ・体の中のどこで、酸素や二酸化炭素のやりとりをしているのかな。 <p>4 体の中の空気の通り道や、酸素や二酸化炭素のやりとりを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○呼吸の仕組みについて関心をもち、調べたいことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・体の中の空気の通り道について 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間や他の動物の写真を見て発表し合うことで、人間が生きていくために必要なこと、特に食べることで、呼吸することに注目させていく。 ・人が息をしている、食べ物を食べる理由を考えることで、「空気」や「食べ物」、「水」が生きていくために必要であることに気付かせる。 ・「空気」や「食べ物」、「水」に焦点化する ・単元を通した大きな問いとして、問題解決する毎に立ち返り、最後に大きな問いの結論に達するようにする。 <p>【評】 人や動物の体について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気の組成を示すグラフを提示し、空気の組成を想起させる。 ・気体検知管をビニル袋に入れるときに、外の空気が混じらないように気をつける。 ・実験結果を比較しやすい表やグラフで記録できるようにする。 ・デジタル気体検知器を用いてもよい。 【評】 実験結果を整理しまとめ、さらなる疑問を見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・体の中に酸素を取り入れ、二酸化炭素を出すことを「呼吸」ということを押さえる。 【評】 吸い込む空気と吐き出した息を比べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・息をすることで酸素を取り入れ、二酸化炭素を出していることは分かったが、体の中の空気の通り道や酸素や二酸化炭素がやりとりされる仕組みについては、まだ分かっていないことを整理する。

- ・酸素と二酸化炭素がやりとりされる仕組みについて
- ★体の中の空気の通り道や、酸素や二酸化炭素のやりとりを調べよう。
 - 呼吸の仕組みについて調べる。
 - ・人が鼻や口から吸いこんだ空気は、気管を通過して、胸の中にある肺に送られる。
 - ・肺では、空気中の酸素の一部が血液中に取り入れられて、かわりに血液中から二酸化炭素が出される。
- 5 取り入れた水と食べ物は、どのように変化して養分となるか追究する計画を立てる
 - 人は、体の中で養分や水をどのように取り入れているのか考える。
 - ・噛んで小さくして取り入れているのだろう。
 - ・どうやって食べ物を小さくして吸収しているのだろう
 - ・ご飯を食べるとだ液が出るね。
 - ★食べ物は、だ液のはたらきによって、別のものに変化するのだろうか。
 - 実験結果を予想し、実験の計画を立てる。
 - ・だ液を混ぜたものと混ぜないものを用意して、比べるとよい。
 - ・ご飯にはでんぷんが多く含まれていることから、ヨウ素液を使って調べたい。
- 6～7 食べ物が口の中でどのように変化するか調べる。
 - 前時の予想を振り返る。
 - ★だ液を混ぜたものと混ぜないものとで、ヨウ素液を入れたときの色の変わり方を調べよう。
 - 実験を行う。
 - ・だ液を混ぜたものと混ぜないものとで、ヨウ素液の変化に違いがあれば、口の中で変化したことになるね。
 - 実験結果を整理し、まとめる。
 - ・だ液を混ぜたものだけヨウ素液の色が変わらないことから、だ液によってご飯のでんぷんが変化した。
 - ・食べ物に含まれるでんぷんは、だ液の働きによってでんぷんではなく、別のものになる。
- 8～9 食べ物はどこを通過してどのような変化をするのか調べる。
 - 消化・吸収がそのような仕組みで行われているのかに関心をもち、調べたいことを話し合う。
 - ・食べ物は飲みこんだ後、体の中のどこに行くのだろう
 - ・食べ物は口で消化された後、さらに消化されるのだろうか。
 - ・食べ物の通り道について調べよう。
 - ・食べ物が養分になる仕組みについて調べよう。
 - ★口を通ったあとの、食べ物の通り道や、食べ物の変化を調べよう。
 - 食べ物の通り道や、食べ物の変化について調べる。
 - ・人が口から取り入れられた食べ物は、食道を通過して胃に送られる。
 - ・胃では、胃液によって食べ物がさらに消化され、小腸に送られる。
 - ・小腸では、いくつかの消化液によってさらに消化され吸収されやすい養分になる。
 - ・食べ物が、口、胃、小腸と通る間にできた養分は、水とともに、主に小腸で吸収される。
 - ・消化されずに残ったものは、大腸で水分を吸収させたあと、肛門から便として出される。
- 10～11 心臓と血液について調べる。
 - 心臓について知る。
 - 心臓の動く音と、手首を指先で押さえたときに感じる脈拍とを比べる。
 - ・心臓と脈拍は同じリズムで動いている。
 - ・血液はどのように流れているのだろう。
 - ★血液は体の中をどのように流れて、養分や酸素、二酸化炭素を運んでいるのだろう。

- ・書籍やインターネットなどで調べ、図を使ってまとめたり、発表したりする。
- ・「肺」という用語の意味を確認する。
- ・吐き出した息には、二酸化炭素の他に水蒸気が含まれていることも押さえる。
- 【評】呼吸について資料を用いて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・大きな問題に立ち返り、空気については解決したことから、食べ物と水について解決していくことを確認する。
- ・最初の消化器官である「口」、消化液である「だ液」に着目させる。

- 【評】食べ物から必要なものを取り入れていることに興味・関心をもち、消化・呼吸について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・湯せんは、口の中の温度に保つ必要があることを確認し、35℃に温度を保つようにする。
- ・実験結果を比較しやすい表や図で表すことができるよう助言する。
- ・食べ物を細かく噛み砕いたり、体に吸収されやすい養分に変えたりすることを「消化」といい、それにかかわっている液体のことを「消化液」ということを押さえる。
- ・体の中の食べ物の通り道や養分がやり取りされる仕組みについてはまだ分かっていないことを確認する。
- 【評】だ液による食べ物の変化を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・図書資料やインターネットを使って調べさせる。
- ・口から肛門までつながっている食べ物の通り道を「消化管」ということを押さえる。
- ・体の中で、ある決まった働きをするものを「臓器」といい、さらに、その中の臓器の一つに「肝臓」があることも押さえる。
- 【評】さまざまな資料を活用して、消化・吸収の仕組みについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・血液中に取り入れた酸素や養分は、「心臓」の働きによって、体のすみずみまで運ばれることを知る。
- ・手首で脈拍を感じることが難しい場合には、首の頸動脈でも感じるができる。

- ・教科書P.36の資料などを活用して、他の動物のことも触れる。
- 【評】血液の流れる仕組みについて調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」

- 体の中の血液の通り道や、血液中に取り入れた酸素や養分の行方を調べる。
 - ・ 酸素や養分を取り入れた血液は、心臓の働きによって全身に張りめぐらされた血管を流れて体内に行き渡る。
 - ・ 血液は、体の各部分に酸素や養分を渡して、かわりに二酸化炭素などを取り入れる。
 - ・ 血液は、酸素や養分を渡したあと、別の血管を流れて心臓に戻り、肺に送られて、二酸化炭素を出し、再び酸素を取り入れる。
- 12 臓器同士は関連しあいながら生命を維持していることをまとめる。
 - 生きていくために必要な呼吸、消化・吸収、循環の3つの仕組みについて考える。
 - ★ 呼吸や消化・吸収、血液の流れる仕組みは、どのように関わり生命を保っているのだろうか。
 - 教科書P. 50～P. 53「人の体の中の様子」の図を使って、学習した臓器の位置と関わりについて話し合う。
 - ・ 生きていくために必要な空気中の酸素は、肺で血液中に取り入れられて、心臓の働きによって、体の各部分に運ばれる。
 - ・ 生きていくために必要な養分は、小腸で血液中に取り入れられて、一部が肝臓に蓄えられたり、心臓の働きによって体の各部分に運ばれたりする。
 - ・ 不要な二酸化炭素は、血液中に取り入れられて、肺に運ばれ、肺で血液中から出される。
 - ・ 体に不要なものは、肛門から便として出されたり、腎臓で血液中から取り除かれて尿として出されたりする。
- 13 単元のまとめを行う。
 - 「学びを広げよう」に取り組む。
 - ★ 単元の振り返りをしよう。
 - 「確かめ」に取り組む。

を評価する。

- ・ 図書資料やインターネットなどで調べ、図を使ってまとめさせたり、発表させたりする。

- ・ 「腎臓」の働きについてもここで押さえる。

【評】さまざまな資料を活用し、血液が流れる仕組みについて調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 大きな問題に立ち返り、呼吸、消化・吸収、血液の流れる仕組みは分かったので、3つの仕組みの関わりを解決していくようにする。

- ・ それぞれの臓器が体の一部を構成していること、それらが巧みに関わってシステムとして働き、生命を維持していることを捉えられるようにする。
- ・ 酸素、養分に視点をおき、グループに分かれて説明し合うなどの場を確保する。
- ・ 呼吸と消化・吸収、血液の流れの仕組みを関連付けて考えさせる。

【評】呼吸・消化・血液循環を関連付けて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 他の動物の体についても押さえる。

【 備 考 】

< 関連 >

- ・ 第4学年「体のつくりと運動」
- ・ 中学校第2学年「植物の体のつくりと働き」

単元名 植物の体

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 植物の体内における水の行方や養分のつくり方などを理解するとともに、目的に応じて選択した器具などを正しく扱いながら実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 植物の体のつくりと働きについて、より妥当な考え方をつくり出し、その考えを表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 植物の体のつくりと働きについて、進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050104_001

【準備等】 実験する植物（ヒメジョオン、ホウセンカ、ツククサ、インゲンマメ、ジャガイモ）、移植ごて、水槽、500ml三角フラスコ、カッターナイフ、切り花用染色液（インク、食紅）、ビニル袋、モール、顕微鏡、スライドガラス、カバーガラス、ピンセット、ピーカー、アルミニウム箔、木づち、ろ紙、ヨウ素液、熱湯、シャーレ、段ボール紙、ストロー、モール、気体検知管（酸素用6～24%用、二酸化炭素用0.5～8%用）または、デジタル気体検知管

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 植物の体のつくりと水の通り道について話し合う中で、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○しおれた植物に水を与えると、茎や葉が元通りになるのはどうしてなのか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・根から水を取り入れて、元気になった。 ・根から取り入れられた水が、茎や葉まで運ばれているのかな。 ・水は植物の体の中のどこを流れているのかな。 ★植物が根から取り入れた水は、体の中のどこを流れて、くきや葉に運ばれるのだろうか。 ○植物が水を運ぶ体のつくりを予想する。 <ul style="list-style-type: none"> ・スポンジのように、水がしみ込んでいっていると思う。 ・ストローのように、真ん中に水を通す管があると思う ○予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・染色液に浸したあと、根、茎、葉を切って、断面を観察するとよい。 ・茎を輪切りにすると、真ん中が染まるはずだ。 <p>2～3 根から取り入れた水の移動について、染色液を使って調べ、植物が水を運ぶ体のつくりを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の予想や予想を確かめる方法を振り返る。 ★染色液を使って、植物が水を運ぶ体のつくりを調べよう <ul style="list-style-type: none"> ○色の付いた水にホウセンカの根を浸し、植物の体の中に水が行きわたる様子を調べる。 ○根、茎、葉を輪切りにしたり、縦切りにしたりした結果を図や文でノートに記録する。 ○実験の結果を整理し、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・茎の全体ではなく、茎の表面近くが何か所か染まったから、表面近くにあるいくつかの管を通して、水が運ばれているといえる。 ・植物が根から取り入れた水は、根、茎、葉にある細い管を通して、茎や葉に運ばれている。 <p>4 植物に袋をかぶせる実験を通して、葉まで運ばれたあとの水は水蒸気となって、葉から外に出ていくことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○茎や葉に運ばれたあとの水の行方を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・根から取り入れられた水は、茎を通して葉まで運ばれたあとどうなるのだろうか。 ★葉に運ばれた水は、その後どうなるのだろうか。 ○実験結果を予想し、実験方法を計画する。 <ul style="list-style-type: none"> ・水は見えない水蒸気となって、葉から出ていくと思う ・葉を残した枝と、葉を取り除いた枝に袋をかぶせて比べよう。 ・葉を残したほうの袋には、水滴が付くはずだね。 ○葉を残した枝と葉を取り除いた枝に袋をかぶせて、葉から水蒸気が出ているのか調べる。 ○実験の結果を整理し、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春先にホウセンカの種を蒔き、育てておく。 ・前日までにしおれたホウセンカに水やりをしたものを観察させておく。 ・植物の体のつくりに着目させて考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・根から葉まで水が運ばれていく様子を、経験したことや学習してきたことを基に、図に矢印等で表し、理由とともに説明させる。 <p>【評】植物には水を運ぶ体のつくりがあると考えられる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物が水を運ぶ体のつくりを見やすくするには、切り花用の染色液を使うことを知らせる <ul style="list-style-type: none"> ・気温の高い晴れの日を選んで実験するとよい ・着色は時間がかからず、植物へのダメージも少ない、切り花用染色液を使用するとよい。 ・（安全）カッターナイフで茎や葉を切るときは、手を切らないよう注意させる。 <p>【評】植物が水を運ぶ体のつくりを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の実験の結果を理解させてから、その後の水の行方について考えるようにする。 ・水をやらないとしおれてしまうこと、葉の先端が行き止まりになっていることや、水は水蒸気に姿を変えることなどを基にして、水は葉から水蒸気として出ていることを推論させる。 ・今までの比較対象実験を想起させ、条件を制御した計画が立てられるようにする。 ・気温の高い晴れた日を選んで実験を行うとよい。 ・葉が付いている方の袋は、数分で内側が曇りその後水滴が出ることを観察させる。 ・葉まで行き渡った水分は、葉から出ているこ

- ・葉を残したほうはたくさんの水滴がついた。
- ・茎や葉に運ばれた水は、水蒸気となって、主に葉から出ていくと考えられる。

5 葉の表皮の観察を通して、水が水蒸気となって出る穴の存在を捉え、植物の体のつくりをまとめる。

- 葉からどのようにして水が出ているのか予想する。

- ・穴が開いているのではないか。

★ツユクサの葉の裏面の薄い皮をはがして、顕微鏡で観察しよう。

- ・スケッチをする。
- ・口のような穴が開いている。
- ・ここから水が出ているのかな。

- 植物が根から水を取り入れて、葉から外に出す体のつくりを総合的にまとめる。

6～7 日なたで育てた植物の葉にはでんぷんがあることから日光とでんぷんの関係に問題を見だし、実験の計画をする。

- 成長するために必要なでんぷんがインゲンマメの葉にあるのか確かめる。

- ・葉の形に色が変わったから、葉にはでんぷんがあるんだね。

- ・でんぷんはどんなときにつくり出されているのだろう

★葉のでんぷんは、どのようなときにつくられるのだろうか。

- 実験の結果を予想し、予想を確かめる方法を考える

- ・日光が当たるとよく育つから、でんぷんは日光が当たっているときにつくられると思う。

- ・日光の当たっている葉と当たっていない葉で比べよう

- ・日光が当たってしまうとでんぷんができてしまうといけなから、調べる前の日に葉におおいをしておこう。

8～9 日光の当たっている葉と当たっていない葉で比較実験を行い、葉のでんぷんは日光が当たっているときにつくられていることを捉える。

- 朝、前日からおおいをした葉にはでんぷんがないことを確かめる。

- ・ヨウ素液をかけても色が変わらなかったから、でんぷんはないといえる。

- ・残り2枚の葉にもでんぷんはないといえる。

- ・残り2枚のうち、一方には日光を当て、もう一方は日光を当てないで、午後に調べよう。

★日光に当てたものと当てないもので、でんぷんがあるかどうかを調べよう。

- 前時までの予想や予想を確かめる方法を振り返り、違いを調べる。

- ・前日から日光を当てていない葉は、でんぷんがない。

- ・2枚のうち一方だけ朝から日光を当てて実験する。

- 実験の結果を整理し、分かったことをまとめる。

- ・日光を当てた方だけヨウ素液の色が変わった。

- ・葉に日光を当てるとでんぷんができていといえる。

- ・葉に日光が当たると葉ではでんぷんが作り出される。

10 植物が出し入れしている気体について予想する。

- 水草を育てるときに光を当てて二酸化炭素を送り込むことや、光が当たっている水草に泡がたくさんついている様子から気づいたことを話し合う。

- ・二酸化炭素を送り込むということは、二酸化炭素を取り入れているのかな。

- ・葉から出ている気体は、二酸化炭素か酸素なのか。

とをまとめさせる。

- ・教師の押さえとして、茎からも水分が出ていることを知っておく。

【評】植物が取り入れた水の行方について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教科書P. 69の「チャレンジ」は取り扱う。

- ・気孔の観察には、ツユクサが適しているが、ヒメジョオンやハウセンカでも観察可能である。

- ・ツユクサの葉をひねるようにしてちぎり、ちぎった端についてきた表皮を採取すると簡単である。

- ・気孔の観察には、顕微鏡を用いる。

【評】葉にある気孔の観察を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・これまでの学習を振り返り、調べて分かったことを中心に話し合わせる。

- ・植物の体から水蒸気が出ていく現象を「蒸散」ということを押さえる。

- ・文章と図でまとめさせる。

- ・事前に日当たりのよい場所で育てた、大きく葉のしげらせたインゲンマメを観察する。

- ・（安全）湯を使うときは、やけどをしないように注意する。また、葉をろ紙にはさみ、木づちでたたくとき、指などをたたかないよう気を付ける。

- ・用意した3枚のインゲンマメの葉に、前日から日光が当たらないようにしておく意味を理解させる。

【評】葉のでんぷんがどのようにしてつくられるのか話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・朝調べた葉には、日光が当たっていないためでんぷんができていないことを確かめる。

- ・実験に使っていないほかの葉と区別できるように、日光を当てる条件の葉には、切り込みを入れておくようにする。

- ・湯煎したエタノールを用いて調べてもよい。

- ・（安全）エタノールを扱う場合は、直火で扱わないこと。

- ・植物が自ら養分を作り出しているのを捉えさせるとともに、インゲンマメ以外の植物も葉にでんぷんを作っているのだろうかというつぶやきも大切にしたい。

【評】葉のでんぷんは、日光が当たっているときにつくられると考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

<p>★光が当たっている植物は、何の気体を取り入れ、何の気体を出しているのだろうか。</p> <p>○光が当たっている植物が出し入れしている気体について予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光が当たっている植物は、人の呼吸とは逆で、二酸化炭素を取り入れ、酸素を出していると思う。 ・人の呼吸と一緒に、二酸化炭素を出すと思う。 <p>○実験方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物に袋をかぶせ、気体検知管で調べよう。 <p>11～12 植物を袋にかぶせて、袋の中の酸素や二酸化炭素の量を調べる。</p> <p>○前時の予想を確認する。</p> <p>★植物に袋をかぶせて、袋の中の酸素や二酸化炭素の量の変化を調べよう。</p> <p>○植物に袋をかぶせて、袋の中の酸素や二酸化炭素の量を調べる。</p> <p>○実験の結果を整理し、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光が当たった後、二酸化炭素が減った。 ・光が当たった後、酸素が増えた。 ・酸素が増えた分、二酸化炭素が減った。 ・光が当たっているとき、植物は二酸化炭素を取り入れ酸素を出している。 <p>13 これまでの実験をまとめ、図式化することで植物の体の仕組みをまとめる。</p> <p>★植物が生きていくための体の仕組みについてまとめよう</p> <p>14 単元のまとめをする。</p> <p>★単元の振り返りをしよう。</p> <p>○「確かめ」に取り組む。</p>	<p>【評】植物が出し入れしている気体について予想する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気体検知管の代わりに、デジタル気体検知器を使ってもよい。また、酸素の量についてはデジタル酸素センサーを用いてもよい。 ・結果の見通しを具体的に図と文で記述させる <p>・気温の高い晴れた日に実験を行うとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素用の気体検知管は、0.5～8%用を用いる。 ・一時間ほど置いてから、数値を比べる。 ・袋の密閉の仕方、息の吹き込み方、気体検知管の使い方を確認し、気体検知管を使う際の注意事項についても確認する。 <p>【評】酸素や二酸化炭素の量の変化を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物は光が当たると二酸化炭素を取り入れ、酸素を出していることを押さえる。 ・昼は光合成しかしていないように見えるが、植物も動物と同じように常に呼吸をしていることを押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・水、日光、でんぷん、酸素、二酸化炭素、水蒸気の用語を用いてまとめるようにさせる。 <p>【評】植物の体の仕組みをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】

〈関連〉

- ・第5学年「植物の発芽や成長」
- ・中学校第2学年「植物の体のつくりとはたらき」

単元名 生き物と食べ物・空気・水

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 生き物と食べ物・空気・水との関わりを理解するとともに、目的に応じて選択した器具などを正しく扱いながら観察を行ったり、情報を収集したりして、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 生き物と環境について、より妥当な考えをつくり出し、その考えを表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 生き物と環境について、進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050201_001

【準備等】水・空気・生き物など環境に関する資料（図書、資料集、新聞記事、映像資料）、給食の献立表目の細かい網、コップ、スポイト、学校で飼っているメダカ、顕微鏡、スライドガラス、カバーガラス、ピンセット、インターネットに接続しているコンピューター

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 生き物と食べ物、空気、水との関わりについて話し合い単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生き物にとって、食べ物、空気、水がとても大切なのはなぜか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・人や他の動物は食べ物を消化して養分にして、小腸で呼吸しているから大切だと思う。 ・人は呼吸して、酸素を吸って二酸化炭素を出していたし、植物は光合成をしていたから、空気は必要だと思う ・人の体の80%は水分だから、水は大切だと思う。 ・生き物と、食べ物、空気、水は、どのような関わりがあるのだろうか。 ★ 生き物と食べ物、生き物と空気、生き物と水との関係について、それぞれ話し合ってみよう。 ○ 生き物が、食べ物、空気、水を通してどのように関わっているかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・人は、肉や魚、野菜などを食べて生きている。 ・人が食べている動物は、何を食べているのか。 ・人は、空気中の酸素を取り入れて生きている。 ・植物は、二酸化炭素を取り入れて生きている。 ・空気を通して、生き物同士はどう関わっているのか。 ・人は、水を飲んだり生活で使ったりして生きている。 ・水を通して、生き物同士はどう関わっているのだろうか。 ○ 出された課題を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物のもとをたどると、何に行き着くだろうか。 ・生き物同士は、空気や水を通して、周囲の環境とどのように関わっているのだろうか。 <p>2 生き物同士の食べることを通した関わりについて調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返る。 ★ 食べ物どうしは、食べることを通して、どのような関わりがあるのだろうか。 ○ 生き物同士の食べることを通した関わりについて予想し予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物のもとをたどると、食べたり食べられたりする関係があると思う。 ・私たちが食べている給食の献立や生き物図鑑を使って調べよう。 ○ 食べ物のもとをたどって、生き物同士のつながりを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・人の食べ物 ・他の動物の食べ物 ○ 調べた結果を整理し、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたち人の食べ物は、生き物と食べ物でつながっていて、他の動物や植物から作られていて、もとをたどると、すべて植物に行きつく。 ・生き物同士は、食べたり食べられたりする関係（食う食われるの関係）でつながっていて、食べ物のもとをたどると、すべて植物に行きつく。 <p>3～4 池や小川に住むメダカが食べているものを観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水槽で飼っているメダカと、池や小川に住むメダカを比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・水槽で飼っているメダカは餌をあげているけど、池や小川にいるメダカは何を食べているのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 86～P. 87を参考にさせる。 ・これまでに学習した「ものの燃え方と空気」「人や他の動物の体」「植物の体」の単元を振り返りながら、考えさせる。 <p>・今まで学習したことが、環境とどのように関わっているかを考えさせ単元の学習問題に迫らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで出てきた課題を「生き物と食べ物」「生き物と空気・水」に整理して、それぞれを調べていくようにさせる。 <p>【評】生き物と食べ物、空気、水との関わりについての話し合い活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べる生き物が、他の生き物を食べている場合は、食べられる生き物が養分をどのように得ているかも調べさせる。 ・食べたり食べられたりする関係を矢印で表すとよい。 ・調べた結果と教科書P. 90～P. 91の結果を見比べながら、整理するとよい。 ・「食物連鎖」という用語の意味を押さえる。 <p>【評】生き物と食べ物について調べた結果をまとめる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌に着目させて考えさせる。

- ★池や小川にすむメダカは、何を食べているのだろう。
- 池や小川に住むメダカの食べ物を予想し、予想を確かめる方法を考える。
 - ・メダカも自分より小さい生き物を食べていると思う。
 - ・池や小川にいる小さな生き物を探して、メダカが食べるか調べるといいね。
 - メダカの食べ物を調べる。
 - ・水の中の水草や落ち葉をすくい取る。
 - ・小さく動くものをメダカに与え、食べるか確かめる。
 - ・小さいものを顕微鏡で調べ、スケッチする。
 - 調べた結果を整理しまとめる。
 - ・池の中には小さい生き物が住んでいて、それをメダカが食べていた。（食う食われるの関係）
 - ・小さい生き物を顕微鏡で見ると、腕のようなものを動かして、何かを食べているようだったよ。
 - ・池や小川などに住むメダカは、水の中にいる小さな生き物を食べている。
- 5～6 生き物と、空気や水との関わりを調べる。
- 第1時を振り返る。
 - ★生き物は、空気や水を通して、周囲の環境とどのように関わっているのだろうか。
 - 生き物と空気や水の関わりについて予想し、確かめる方法を考える。
 - 〈空気〉
 - ・呼吸では酸素を取り入れる。
 - ・生活で物を燃やすと酸素が使われる。
 - ・日光が当たった植物は、酸素を出していた。
 - 〈水〉
 - ・人は川の水を処理して飲み水にしている。
 - ・水は地面から蒸発するから、水の行方をたどってみたい。
 - 人や他の動物、植物について、酸素や二酸化炭素のやりとりを関連付けたり、水の行方をたどりながら水の関わりを調べたりする。
 - 〈空気〉
 - ・動物は酸素を吸って二酸化炭素を吐いて生きている。
 - ・植物は光合成で二酸化炭素を吸って酸素を吐いている
 - 〈水〉
 - ・動物は水がないと生きていけない。
 - ・植物も水がないと枯れてしまう。
 - ・蒸発した水が雲になって雨や雪を降らす。
 - ・海は、川の水が流れ込んでいる。
 - 結果を整理しまとめる。
 - 〈空気〉
 - ・人や他の動物は、空気中の酸素を取り入れて二酸化炭素を出す。日光に当たった植物は、その逆のやりとりをする。
 - 〈水〉
 - ・水は、川、海、水蒸気、雲、雨などに姿を変えながら地球上をめぐっていて、人や他の動物、植物は、様々な場所で水を取り入れている。
- 7 単元のまとめをする。
- ★単元の振り返りをしよう。
- 「確かめ」に取り組む。

- ・（安全）危険な場所に近づかない。
- ・顕微鏡の使い方については、教科書P.226を確認する。

【評】メダカの食べ物を調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・水が川、雨、雲、空気中の水蒸気、海などのように、さまざまに姿を変えていることを捉えさせる。
- ・自然界の水の循環を図に表すとよい。

- ・調べた結果と教科書P.98～P.99の結果を見比べながら整理するとよい。
- ・教科書P.100の結論の図を参考に分かったことをまとめるとよい。
- ・水が姿を変えながら、地球上をめぐることが「水の循環」ということを押さえる。

【評】生き物と空気や水の関わりを調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する

【 備 考 】

＜関連＞

- ・第6学年「人や他の動物の体」「植物の体」
- ・中学校第1学年「生物の観察と分類」

単元名 てこ

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) てこがつりあう規則性やてこを利用した道具を理解するとともに、目的に応じて選択した器具などを正しく扱いながら実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) てこの規則性について、より妥当な考えをつくり出し、その考えを表現するなどして問題解決することができる。
- (3) てこの規則性について、進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050202_001

【準備等】 棒、棒を支えるもの（椅子、角材、L字金具など）、ビニルテープ、砂袋（8 kg）、ロープ、実験用てこ、おもり、はさみ、工作用紙、釘抜き、木の板、金づち

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 てこを使って重い物を持ち上げる活動から、てこについて興味をもち、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重い物を持ち上げる道具として、てこがあることを知る ★ てこを使って、重いものを持ち上げよう。 ○ てこを使って、棒が水平になるように砂袋を持ち上げ、手ごたえを確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支点から力点までの距離を変え、手ごたえを調べる。 ・ 支点から作用点までの距離を変えて、手ごたえを調べる。 ・ 支点から遠い方を押すと軽く感じた。 ・ 砂袋が支点に近いほど軽く感じた。 ○ 気付いたことや疑問を話し合い、整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 力点を支点から遠ざけたり、作用点を支점에近付けたりとすると手ごたえは軽くなる。 ・ てこを使うと、小さい力で重い物を持ち上げられる。 ・ 力点や作用点の位置を変えると手ごたえはどうなるのだろう。 <p>3～4 てこを使って、てこの働きのきまりを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 ★ てこを使うとき、力点や作用点の位置と手ごたえの間には、どのような関係があるのだろうか。 ○ 力点や作用点の位置と、物を持ち上げるのに必要な力の大きさの関係を予想する。 <ul style="list-style-type: none"> 〈力点〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支点から遠ざけると、手ごたえが小さくなる。 〈作用点〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支点到近づけると、手ごたえが小さくなる。 ○ 予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 〈力点〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支点と作用点の位置は固定して調べよう。 〈作用点〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支点と力点の位置は固定して調べよう。 ○ 力点や作用点の位置を変えて、実験を行う。 <p>○ 実験の結果を整理し、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 〈力点〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支点から遠ざけるほど、物を持ち上げるのに必要な力は小さくなる。 〈作用点〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支点到近づけるほど、物を持ち上げるのに必要な力は小さくなる。 <p>5 手ごたえをおもりの重さで表すよさに気づき、実験用てこを使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実験用てこを使い、手ごたえの感じ方には個人差があることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 重かったよ。 ・ 同じ位置を押したけれど、軽く感じたよ。 ・ 同じ重さの物があれば比べられるね。 ★ 実験用てこを使って、おもりをつり下げてみよう。 ○ 自由におもりをつり下げて、実験用てこについて疑問をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 右と左で同じ位置に同じおもりを置くと水平になるよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ つり下げ方によって、水平になったり、傾いたりする様子から、学習課題をつかませる。 ・ 「てこ」という言葉を押さえる。 ・ 「支点」「力点」「作用点」の用語の意味を確認する。 ・ 始めに、てこを使わない時の手ごたえを調べさせ、その手ごたえと比べさせる。 ・ (安全) 棒が落ちると危険なので、棒を上下させるとき支点がずれないように注意する。 ・ (安全) 急に手を放すと、棒が跳ね上がって危険なので、ゆっくりと上下させる。 <p>【評】 てこを使った実験を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 力点の位置を変えて物を持ち上げた経験を根拠として、予想を立てさせる。 ・ 力点の位置と手ごたえの関係を比べながら、作用点の位置と手ごたえについても予想を立てさせる。 ・ 「変える条件」と「同じにする条件」を明確にして考えさせる。 ・ 棒が水平になったときを持ち上がったとし、その時の手ごたえを調べる。 ・ (安全) 棒を上下させるとき、支点がずれないように注意させる。 ・ (安全) 急に手を離すと、棒が跳ね上がって危険なので、ゆっくりと上下させる。 ・ 事前にすべての班の結果が表せる一覧表を用意してもよい。 ・ 班ごとの結果を比べさせ、結果の妥当性について話し合わせる。 <p>【評】 てこの力点、作用点の位置を変える実験を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何人かの子どもにてこを体験させ、手ごたえの感じ方の違いを確認する。 ・ 手ごたえでは比べられないことに気付かせ、おもりという共通の重さを使う必要性をもたせる。 ・ 実験用てこを事前に準備し、実験用てこの使い方を知る。 <p>【評】 てこにおもりをつり下げる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

- ・左はおもり 2 個，右はおもり 1 個でも棒は水平になったよ。
- ・てこの力点と作用点には，どんなきまりがあるのだろうか。

6～7 実験用てこを用いて，てこの働きの規則性を調べる。

- 前時の学習を振り返る。
- ★てこを使ってものを持ち上げるときには，どのようなきまりがあるか実験しよう。
- てこを使って物を持ち上げるときのきまりについて予想し，予想を確かめる実験方法を考える。
 - ・力点から支点までの距離を短くすると，物を持ち上げるには重いおもりが必要になるよ。
 - ・おもりをつり下げる力点の位置を決めて，どれくらいの重さのときに持ち上がるか調べよう。
- てこの働きの規則性を調べるための実験を行う。
 - 〈手順 1〉
 - ・作用点はおもりの重さを 20 g，距離を 3 に固定し，力点は距離を 3 に固定し，おもりの重さを増やしていく。
 - 〈手順 2〉
 - ・作用点はおもりの重さを 20 g，距離を 3 に固定し，力点の距離を 2→1 と近付け，手順 1 と同様に実験を行う

8 てこが平行になるときのきまりを数式で表現し，てこの規則性を捉える。

- 前時の学習を振り返る。
- ★てこにはどのようなきまりがあるのだろうか。
- 棒が水平になったときの実験結果を整理する。

〈作用点〉		〈力点〉	
おもりの重さ	距離	おもりの重さ	距離
20	3	20	3
20	3	30	2
20	3	60	1
- 実験の結果を基に分かったことをまとめる。
 - ・てこを使って物を持ち上げ，棒が水平になるときは（おもりの重さ）×（支点からの距離）がてこの左右で等しくなるというきまりがある。
 - ・てこをかたむける働きの大きさは（おもりの重さ）と（支点からの距離）の積で表すことができる。

- てこのきまりを活用し，作用点の位置とおもりの重さが決まっているときの，棒が水平になるための，力点側の位置とおもりの重さを考える。

9～10 身の回りの道具に利用されているてこの働きを調べる。

- 今までの学習を振り返り，てこの働きが使われている道具について考える。
 - ・はさみは，支点があるからてこを利用している。
 - ・釘抜きは小さな力で釘を抜くことができるから，てこの働きを使っていると思う。
- ★身のまわりの道具には，てこのはたらきがどのように利用されているのだろうか。
- はさみや釘抜きはてこの働きをどのように利用しているかを予想し，調べる方法を考える。
 - ・はさみは切るところを支点に近付けると，手ごたえが小さくなる。切る場所を変えて，手ごたえを調べよう。
 - ・釘抜きの支点から遠いところを持つと，釘を抜きやすくなる。力点の位置を変えて釘を抜いてみよう。
- はさみや釘抜きに利用されているてこの働きについて知る。
- はさみの支点の近いところと遠いところの手ごたえの違いについて調べる。
 - ・作用点が支点に近いと，簡単に切れて，手ごたえも小さくなる。
- 木の板に刺さった釘を釘抜きで抜き，力点の位置を変えて手ごたえの違いを調べる。

- ・てこの左右で「おもりの重さ」と「支点からの距離」がともに等しいとき，棒が水平になってつり合うことを前提として，規則性を調べさせる。

- ・てこを使って物を持ち上げた活動を振り返らせ，そのときの力点の位置や手ごたえを根拠にして，予想を立てさせる。

- ・棒の傾きを線で記録させる。
- ・〈手順 1〉での「変える条件」は，力点のおもりの重さ，〈手順 2〉での「変える条件」は，手順 1 を基準にしたときの，力点の支点からの距離であることを押さえて，実験を行わせる。

【評】てこの働きの規則性を調べる活動を通して，「知識・技能」を評価する。

- ・おもりの重さと，支点からの距離の数字に着目させる。

- ・調べた結果を見比べて，棒が水平につりあうときにどのようなきまりがあるかを考えさせる。
- ・自分の調べた結果だけでなく，他の児童が調べた結果とも比較できるようにする。
- ・児童が自ら規則性を見いだせるよう，「おもりの重さ＋支点からの距離」，「おもりの重さ－支点からの距離」や「おもりの重さ×支点からの距離」などを計算させてもよい。

【評】棒が水平になるときのきまりについて考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教科書 P.113 の「学びを広げよう」の問題を考えさせる。
- ・教科書 P.113 の「算数とのつながり」で，算数科の反比例の学習との関連を図る。

- ・あらかじめ身の回りの道具である，はさみや釘抜きを必要分用意しておく。
- ・他の道具については，発展的な時間などにできる範囲で扱う。

- ・天秤や釘抜きのどこが支点，力点，作用点になっているかを確認させる。

- ・はさみや釘抜きの支点，力点，作用点の位置を確認する。
- ・力点の支点からの距離を変えて何回か実験し手ごたえを確かめる。

- ・力点の支点からの距離を変えて何回か実験し手ごたえを確かめる。

<ul style="list-style-type: none"> ・支点から遠いところを持つと手ごたえは小さくなる。 ○はさみや釘抜きについて調べた結果を記録し，分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・はさみには，作用点を支点に近付けると，力点の手ごたえが小さくなるという，てこの働きが利用されている ・釘抜きは，力点を支点から遠ざけると，力点の手ごたえが小さくなるというてこの働きを利用している。 ○身の回りにあるてこを利用した道具を探し，てこの働きを説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペンチ ・栓抜き ・パンばさみ <p>11 単元のまとめをする。</p> <p>★単元の振り返りをしよう。</p> <p>○「確かめ」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支点から作用点までの距離が短いことにも着目させる。 ・いくつかあるてこの働きが，どのように利用されているか整理しながら，話し合わせるようにする。 ・力を加える位置や大きさに着目しながら，道具とてこの働きの関係について考察する。 <p>【評】道具の使い方とてこの働きとを関連付ける活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンチなどきまりが分かりやすいものについて理解させた後で，生活の中から探すようにさせる。 ・教科書P. 117の図と写真を参考に説明させるとよい。 ・プルタブ，空き缶つぶし機，ピンセットなど児童から提案された道具についても，できる範囲で取り上げるとよい。 ・「ものづくり」を行う場合は，教科書P. 117の「さおばかりを作ってみよう」に取り組ませることが考えられる。
---	---

- 【 備 考 】
- ・「てこ」「電気の利用」の中で，2種類以上のものづくりを行うものとする。
- < 関連 >
- ・第5学年「ふりこ」
 - ・中学校第1学年「力のはたらき」

単元名 土地のつくり

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 土地のつくりや成因、土地の変化を理解するとともに、目的に応じて選択した器具などを正しく扱いながら観察・実験を行ったり、情報を収集したりして、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 土地のつくりと変化について、より妥当な考えをつくり出し、その考えを表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 土地のつくりと変化について、進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050203_001

【準備等】地層・火山に関する資料（資料集、映像資料など）、身近な地域で見られる露頭の写真、地層の観察に必要なもの（シャベル、ルーペ、軍手、帽子、袋）、ボーリング資料、砂、泥、移植ごて、ビニルシート、とい、水槽、じょうろ、いす

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 土地の様子について話し合い、単元の学習課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身近にある露頭の写真や教科書の写真を見て、気付いたことや疑問を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの層が広く積み重なってしま模様に見える。 <ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの層は、何でできているかな。 ・どのようにしてできたのかな。 ○ どうして土地にしま模様が見られるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・しま模様は色が違ったり、太さが違ったりしているよ違うものでできているのかな。 ・一つ一つの層は何でできているのだろう。 ・実際に行ってみてみたい。 <p>2～3 地層のつくりについて観察したり、調べたりする。</p> <p>★地層は、1つ1つの層が、どのようなものでできているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一つ一つの層が何でできているか予想し、どのような方法で土地のつくりを調べるか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・色の違う土が積み重なってできていると思う。 ・層によって粒の大きさが違うのかな。 ・遠くから眺めて、全体の様子をスケッチしてから近づいて、一つ一つの地層を調べよう。 ○ 地層のつくりを調べ、観察した様子を記録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体の様子 ・各層の構成物（粒の大きさや色） ・地層の広がり <p>○ 全体の様子、構成物、地層の広がりについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・層によって土の粒の大きさが違っていったよ。 ・れき、砂、泥の層があった。 ・化石があった。 ・層は奥まであった。 </p> <p>○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・地層は、一つ一つの層が、れき、砂、泥でできていて色が違うこともある。 ・地層には、火山灰でできたものもある。 ・地層に残された動物や植物の死がいや、それらの生活のあとを化石という。 </p> <p>4～5 地層のでき方を考え、実験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地層がどのようにしてできるのかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・川は下流に石や砂を堆積させるから、地層は川の働きによってできたと思う。 ・川の下流の小石と、地層の石の形が似ていたね。 ・貝の化石があったから、海で積もってできたと思う。 <p>★地層は、流れる水のはたらきによってできるのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実験の結果を予想し、予想を確かめるための方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・流れる水の働きでできているはずだから、川から海の様子を小さくしてみるといいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域で見られる、露頭の写真をあらかじめ準備しておく。 ・「地層」という用語の意味を確認する。 ・しま模様に見える理由を推測させることにより、実際に観察したいという意欲を高めさせる。 <p>【評】土地にみられるしま模様について話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査ができない場合は、ボーリング資料や映像資料などを利用させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・（安全）崩れそうな場所には近づかないようにさせる。 ・教科書P.125の観察の仕方を確認する。 ・近くに地層が見られない場合は、ボーリング試料や本、インターネット等を使って調べる <ul style="list-style-type: none"> ・れき、砂、泥は粒の大きさに違いがあることを捉えさせる。 ・観察した露頭の写真を撮らせておくとい。 <ul style="list-style-type: none"> ・構成物の色、手触りなど各層の特徴を捉えてスケッチするように助言する。 ・化石が見付かる場所では、採取をさせ、地層の成因をさぐる材料にさせる。 ・地層の広がりを捉えさせるために、離れた二つの地点で地層を観察させるとよい。 <p>【評】地層のつくりを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「化石」という用語の意味を確認する。 ・「化石」についても確認させる。 <p>【評】分かったことをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生の学習「流れる水のはたらき」を想起させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・といや水槽を使う代わりに、ペットボトルを使って、砂と泥の混じった土が水の中で積もる様子を調べることもできる。

- ・雨どいに、れき、砂、泥の混ざった土を水で流して調べる。
- ・水槽を海に見立てて、土の積もり具合を調べる。
- 計画に従って実験する。
 - ・土がどのような層になって積もるかを調べる。
- 実験の結果を整理し、分かったことをまとめる。
 - ・れきや砂、泥が層に分かれて積もった。
 - ・地層は、流れる水の働きによって、土が運搬され、れき、砂、泥に分かれて堆積したと考えられる。
 - ・海や湖の底に堆積したれきや砂、泥などの層は、長い年月をかけて固まった岩石を堆積岩という。
- 6 地層はなぜ現在の崖に見られるのかを考える。
 - ★ いろいろな地層のでき方について考えよう。
 - 海でできた地層はなぜ、陸上で見られるのかを話し合う
 - ・エベレストの地層に、アンモナイトの化石が見られる
 - ・海でできたものが盛り上がり、今見えるのかな。
 - 化石のでき方を知る。
 - ・地層の中の化石は、地層ができるときに、生き物や死がいなどが埋もれて、長い年月をかけてできる。
 - 火山の噴火によって、地層ができることを知る。
 - ・地層は、火山の噴火によって、火山灰が降り積もってできることもある。

- 7～8 火山の活動によって、土地がどのように変化するか調べ、まとめる。
- 火山活動の様子についての写真を見て、調べたいことを考える。
 - ★ 火山の活動によって、土地は、どのように変化するのだろうか。
 - 火山による土地の変化を予想し、予想を確かめる方法を考える。
 - ・火山から出てきたもので、土地の様子アヘン化した例はないか、図鑑やインターネットで調べよう。
 - ・近くの博物館に行って調べよう。
 - 火山による土地の変化を調べる。
 - ・桜島では、流れ出た溶岩で島と陸が地続きになった。
 - ・西之島では、新しい島がもとあった島と合体した。
 - ・昭和新山では、土地が盛り上がり新しい山ができた
 - 調べてわかったことをまとめる。
 - ・火山が活動して、溶岩が地面に流れ出て固まる。
 - ・火山灰などが吹き出て地面に降り積もる。
 - ・火山活動後の土地の様子が変化する。

- 9～10 地震によって、土地がどのように変化するか調べ、まとめる。
- 地震のようすについての写真を見て、調べたいことを考える。
 - ・地面にひび割れが起きているね。
 - ・地震の活動で、土地はどんなふうに変化するのだろうか。
 - ★ 地震によって、土地はどのように変化するのだろうか。
 - 地震による土地の変化を予想し、予想を確かめる方法を考える。
 - ・地震で地割れやずれの例があるか、図鑑やインターネットで調べよう。
 - ・近くの博物館に行ってみよう。
 - 地震による土地の変化を調べる。
 - ・山が崩れる。
 - ・土地がずれる。
 - ・土地が高くなる。
 - ・地割れができる。
 - 調べて分かったことをまとめる。
 - ・地震が起こって、地面が崩れたり、がけが崩れたりすると、その土地の様子は、大きく変化することがある。
 - ・断層が見られる土地では、過去に土地に大きい力が加わって、土地がずれ動き、地震が起こっている。

- ・1回堆積させた後、時間をおいて何度か堆積の実験を行う。
- 【評】土が堆積する実験を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・絵や文章でまとめさせる。
- ・地層は長い時間をかけて固まり、それが岩石となることを押さえる。
- ・「たい積岩」「れき岩」「砂岩」「でい岩」を押さえる。

- ・地層は火山の噴火によって、火山灰などが積み重なってできることがあることも伝える。
- ・大昔の地層が見られることから、地層の時間的、空間的な広がりを捉えられるようにさせたい。
- ・「マグマ」という言葉を押さえる。
- ・地層は火山の噴火によって、火山灰などが積み重なってできることがあることも伝える。
- 【評】地層が見られる理由を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・写真だけでなく、動画があれば積極的に活用する。

- ・本、インターネット等で調べさせるとよい。
- ・教科書P. 140～141を紹介するとよい。
- ・火山活動が災害を引き起こし、生活に大きな影響を及ぼすことも捉えさせる。
- 【評】火山の噴火と土地の変化を調べる活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・写真だけでなく、動画も積極的に活用する。

- ・本やインターネット等で調べさせるとよい。
- ・教科書P. 144～146も紹介するとよい。

- ・地震が災害を引き起こし、生活に大きな影響を及ぼすことも捉えさせる。
- ・「断層」という用語の意味を確認する。
- 【評】地震と土地の変化を調べる活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

< 関連 >

- ・第5学年「流れる水と土地」

- ・中学校第1学年「火山と地震」「地層の重なりと過去の様子」

単元名 地震や火山と災害

配当時間 2時間

単元の目標

- (2) 地震や火山活動による災害について、より妥当な考えをつくり出し、その考えを表現することができる。
- (3) 地震や火山活動による災害について、進んで調べようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050204_001

【準備等】インターネットに接続しているコンピュータ，映像資料

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 地震や火山の活動による災害とその対策について調べる</p> <p>○大規模な地震や、活発な火山活動により、私たちの生活に与える影響について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物や道路などが壊れる。 ・津波は、広い範囲に押し寄せる。 ・溶岩や火山灰などで、町が壊れる。 <p>★地震や火山の活動による災害とその対策にはどのようなものがあるのだろうか。</p> <p>○様々な情報を活用し、地震や火山の活動による災害とその対策について調べ、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象庁 全国6000か所の地震計 ・50の火山を24時間監視 ・防災の日 ・火山ハザードマップ など <p>○調べて分かったことを発表し、身の回りの災害の対策について話し合う。</p> <p>2 単元のまとめをする。</p> <p>★単元の振り返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「確かめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に起こった火山活動や地震は、将来にも起こる可能性があることを捉えさせ、対策を考えさせる。 ・教科書P.148～P.154を参考にさせてもよい。 ・学校や地域で取り組んでいることも参考にさせるとよい。 ・本やインターネットで調べさせるとよい。 <p>【評】資料を使って調べる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

<関連>

- ・第5学年「流れる水と土地」
- ・中学校第1学年「火山と地震」「地層の重なりと過去の様子」

単元名 月の見え方と太陽

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 月の形の見え方の規則性を理解するとともに、目的に応じて選択した器具などを正しく扱いながら観察・実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 月の形の見え方について、より妥当な考えをつくり出し、その考えを表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 月の形の見え方について、進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050205_001

【準備等】記録用紙、方位磁針、太陽の位置を調べるために使う棒、方眼紙、メジャー、ボール、ライト、机、いす、ビニルテープ、画用紙、マジック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 月の見え方の変化について、知っていることや考えたことを話し合い、単元の学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 156～P. 157の2種類の月の写真を見て、似ているところを考える。 <ul style="list-style-type: none"> 光っている向きは違うけれど、形は似ているね。 月の光っている側に太陽がある。 <p>★月の光っている側には、いつも太陽があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 月の光っている側にいつも太陽があるかを予想し、予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 月が光っている側に、太陽があると思う。 見える形の違ういくつかの月を観察して、調べよう。 月と太陽の位置、月の見える形を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 太陽を中心として、月の位置とその見える形を調べて記録する。 太陽が月を照らす部分を調べる。 2～3日後の同じ時刻に、同じ場所で月と太陽を調べる。 観察した結果をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 2日後は形が変わったけど、月の光っている側にいつも太陽があった。 月の光って見える側にいつも太陽がある。 <p>3～5 月の見える形は、月と太陽の位置関係によって決まることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ時刻に太陽の見える位置は同じなのに、月は見える形や位置が変わることに疑問をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 月の形が変わることと、見える位置が変わることに関係があるのだろうか。 ★月の見え方は、月や太陽の位置とどのような関係があるのだろうか。 月の見え方は月や太陽の位置とどのような関係があるかを予想し、調べる方法を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 月と太陽の角度が大きくなると月が大きく見えたから月と太陽の角度に関係があると思う。 ボールとライトを月と太陽に見立てて、観察と同じ配置にして調べよう。 ボールとライトの角度を変えて調べよう。 ボールとライトの位置を変えて、ボールがどのように見えるか実験する。 <ul style="list-style-type: none"> 観察する人は円の中心に立ち、ボールとライトの位置を変えていく。 ボールが光って見える形を調べる。 実験の結果を整理し、分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ボールとライトの角度を大きくすると、ボールが少し丸く見えた。 月の見え方は、観察する人から見た月と太陽の位置関係によって決まり、月と太陽の角度が大きいほど、月の形は丸く見える。 月の見え方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 月の見え方はおよそ1か月をかけて、新月→上弦の月→満月→下弦の月→新月に変わる。 <p>6 単元のまとめをする。</p> <p>★単元の振り返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「確かめ」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1時を予想～1回目の観察、第2時を2回目の観察～分かったこととして学習させる。 月の位置や見え方と太陽の位置関係を考えさせる。 月が球形をしているという視点を押さえた上で、月の光っている部分について、月と太陽の位置関係について比べさせる。 クレーターなど月の表面の様子にも目を向け月に対する興味関心を高めるようにする。 太陽や月の調べ方については、教科書P. 158～P. 159を参考にする。 観察時刻や見える方向などを事前に指導して適切な記録ができるようにさせる。 理科ノート「観察と実験」の記録用紙を使ってもよい。 授業時間で観察させるため、月齢カレンダーで1回目の観察を、三日月～上弦の月が見える日に設定するとよい。 (安全)目を痛めるので、太陽をじかに見ないようにさせる。 【評】観察しまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 第3時を予想、第4時を実験、第5時をまとめとして学習させる。 前時までの観察の結果を振り返り、月と太陽の位置関係が変わっていることに気付かせる。 プロジェクターを太陽に見立て、観察した方角の延長線上に置くことを確認する。 観察する人を円の中心にしたときの、ボール(月)とライト(太陽)の角度を前時と合わせることを確認する。 (安全)目を痛めるので、ライトの光をじかに見えてはいけない。 【評】太陽と月の位置を変えて実験する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 地球や月の自転・公転については、小学校では扱わない。 教科書P. 165を参考にする。 【評】結果を考察し、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

<関連>

- ・第4学年「月の位置と変化」
- ・中学校第3学年「地球の運動」

単元名 水溶液

配当時間 13時間

- 単元の目標 (1) 水溶液の性質や働きの違いを理解するとともに、目的に応じて選択した器具などを正しく扱いながら実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 水溶液の性質や働きについて、より妥当な考え方をつくり出し、その考えを表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 水溶液の性質や働きについて、進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050301_001

【準備等】 5種類の水溶液（希塩酸〔1規定，3規定〕，炭酸水，食塩水，石灰水，アンモニア水〔3規定〕），試験管，試験管立て，ラベル，ガラス棒，紙（白色，黒色），リトマス紙，画用紙，ピンセット，ピーカー，スライドガラス，ドライヤー，試験管ばさみ，ぞうきん，二酸化炭素ボンベ，ガラス管付きゴム栓，ガラス管，ゴム管，ゴム栓，水槽，6号のアルミカップ（スチールウール），こまごめピペット（5mL），実験用ガスコンロなどの加熱用器具，蒸発皿，アルミニウムが溶けた液，アルミニウムが溶けた液から出てきたもの，安全眼鏡，薬さじ，薬包紙，

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 水溶液の違いについて話し合い，単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちの身の回りには，様々な水溶液があることを知る <ul style="list-style-type: none"> ・炭酸飲料やトイレ用洗剤，虫刺されの薬，海水など ○ 5種類の水溶液を見比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・水溶液にはどんな性質の違いがあるのかな。 ・泡が出ているから炭酸水ではないか。 ・どれもが透明だ。 ・石灰水は，二酸化炭素に触れさせれば見分けられそうだ。 ★ 5種類の水よう液には，どのような性質のちがいがあろうだろうか。 ○ 5種類の水溶液を見分ける方法について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・見た様子 ・におい ・水を蒸発させたときの様子 ・二酸化炭素に触れさせる <p>2 水溶液の安全な取り扱い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 水溶液の安全な取りあつかい方を知ろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・実験を行う際は，安全眼鏡を着ける。 ・水溶液を間違えないようにラベルを貼る。 ・必ず換気を行う。 ○ 試験管の持ち方とにおいの嗅ぎ方，こまごめピペットの持ち方を確認する。 <p>3～4 いろいろな方法で水溶液の違いを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1時を振り返り，本時の学習課題をつかむ。 ★ 5種類の水溶液について，見た様子やにおい，水を蒸発させたとき，二酸化炭素をふれたときのちがいを調べよう。 ○ 計画に従って実験する。 <ul style="list-style-type: none"> ・見た様子 ・におい ・水を蒸発させたときの様子 ・二酸化炭素に触れさせる ○ 実験の結果をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・泡が出る …炭酸水 ・においがある …塩酸，アンモニア水 ・白い固体が出る…食塩水，石灰水 ・二酸化炭素に触れたとき白くなる…石灰水 ○ 分かったことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・5種類の水溶液には，見た様子やにおい，水を蒸発さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で，いろいろな水溶液があることに気付かせる。 ・水に溶けているものに着目して，水溶液の違いを多面的に調べていくようにさせる。 ・水溶液は，それぞれ違う性質があることを知らせ，水溶液について調べようとする意欲を高めさせる。 ・ここでの希塩酸は1規定（塩酸1：水11），アンモニアは3規定（アンモニア水1：水4）のものを使う。 <ul style="list-style-type: none"> ・5年生で学習した食塩水から食塩を取り出す方法を想起させる。 ・（安全）五感を働かせて調べを進めるが，水溶液を手で触れたり，口の中に入れたりしないように注意させる。 <p>【評】 5種類の水溶液を見分ける方法を話し合う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.172～P.173を参考にするとよい。 ・（安全）水溶液をじかに触ったり，なめたりさせない。 ・（安全）水溶液を，むやみに混ぜ合わせない。 ・（安全）水溶液から水を蒸発させるとき，のぞき込ませない。 ・（安全）塩酸や石灰水，アンモニア水は，目に入ると目を痛めたり，手などにつくとやけどしたりするので，特に注意させる。 <p>【評】 水溶液の扱いを知る活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.175を参考にするとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・水溶液を間違えないように，試験管には，水溶液の名前を書いたラベルを貼るようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・（安全）鼻を近づけて直接においをかがせない。 ・（安全）使い終わった水溶液は，決められた容器に集め，適切に処理をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・理科ノート「観察と実験」などの表を使い，まとめさせるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・石灰水には消石灰という固体が溶けていることを知らせる。

せたときの様子など、いろいろな性質の違いがある。

5～6 リトマス紙の使い方を知り、5種類の水溶液をリトマス紙で調べる。

- 2種類のリトマス紙の色の变化で水溶液を仲間分けできることを知る。
 - ・リトマス紙には、赤と青があるよ。
 - ・水溶液をつけたときのリトマス紙の色の变化で、水溶液の違いを調べられるね。

★ 5種類の水溶液は、リトマス紙につけて、色の变化を調べよう。

- ・5種類の水溶液をリトマス紙につけて、色の变化を調べる。

- 実験の結果をまとめる。
 - ・塩酸と炭酸水は、青色リトマス紙を赤く変えた。
 - ・石灰水とアンモニア水は、赤色リトマス紙を青く変えた。
 - ・食塩水は、リトマス紙の色の变化がない。
- 結果から5種類の水溶液の仲間分けを考える。
 - ・塩酸と炭酸水
 - ・石灰水とアンモニア水
 - ・食塩水

- 分かったことをまとめる。
 - ・塩酸と炭酸水は、青色のリトマス紙を赤色に変えるので、酸性の水溶液。
 - ・石灰水とアンモニア水は、赤色のリトマス紙を青に変えるので、アルカリ性の水溶液。
 - ・食塩水は、どちらのリトマス紙の色も変えないので、中性の水溶液。

7～8 水を蒸発させても何も残らない水溶液には、何が溶けているのかを調べる。

- 水を蒸発させても何も出てこなかった水溶液には、何が溶けているのかを考える。
 - ・塩酸やアンモニア水はにおいがしたから、何かにおいのするものが溶けているのかな。
 - ・炭酸水から泡が出ていたから、何かの気体が溶けているのかな。

★ 水溶液には、気体が溶けているものがあるのだろうか。

- 気体が溶けている水溶液があるか予想し、予想を確かめる方法を考える。
 - ・炭酸水から出ている泡は気体だと思う。
 - ・入浴剤から出ている泡は二酸化炭素だと聞いたことがあるから、炭酸水から出ている泡も二酸化炭素だと思う。
 - ・二酸化炭素だったら、石灰水で調べるとよい。
- 炭酸水から出ている気体が、二酸化炭素かどうかを調べる。
 - ・石灰水の色の变化

- 実験の結果をまとめる。
 - ・集めた気体は、石灰水を白く濁らせる。
 - ・気体は、二酸化炭素である。
 - ・水を蒸発させても何も出てこなかった水溶液には、気体が溶けている。

9 塩酸をアルミニウムに注いで様子を調べる。

- 酸性の湯に金属を入れてはいけない理由を考える。
 - ・溶けてしまう。
 - ・違うものに変化する。
 - ・別の危険なものが出てくるのかな。

★ 塩酸をアルミニウムに注いで様子を調べてみよう。

- ・気体が発生した。
- ・金属が溶けて、見えなくなった。

【評】 水溶液の実験を行い、分かったことをまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教科書P.177を参考にさせ、リトマス紙の使い方を指導する。

- ・（安全）リトマス紙は手で直接触れずにピンセットで取り扱わせる。
- ・（安全）ガラス棒は、調べる水溶液ごとによく洗い、乾いた布でふいてから使用させる。

【評】 リトマス紙の色の变化を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・調べた結果を表にまとめたものを見ながら、5種類の水溶液を仲間分けさせる。

・水溶液は、リトマス紙の色の变化で、酸性、中性、アルカリ性の3つに仲間分けができることを確認する。

・蒸発させたら何も残らなかったから、何も解けていないわけではなく、性質に違いがあるから、何が溶けているということに疑問をもたせ、気体が溶けていることに気付かせたい

・炭酸水から小さな泡が出ていることに着目させ、泡の正体を調べようとする意欲を高めさせる。

・今までの生活経験や既習事項を生かして考えさせる。

- ・（安全）石灰水を試験管に入れすぎないようにさせる。
- ・石灰水は二酸化炭素を溶かしすぎると、透明になってしまうため、濁った時点で終了させる。
- ・炭酸水から出てきた気体が二酸化炭素であることを確認する。
- ・炭酸水には二酸化炭素が溶けているのと同様に、塩酸には塩化水素が、アンモニア水にはアンモニアという気体が溶けていることを知らせる。

【評】 炭酸水の気体は何であるかを調べる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ここで使用する希塩酸は結果がすぐに出るように3規定程度（塩酸1：水3）の濃さにする。
- ・（安全）こまごめピペットを扱うときは、水溶液がゴム球の中に入らないようにさせる。

・（安全）可燃性のある水素が発生するので、近くに火の気がないようにさせる。

・（安全）熱くなるので、試験管の下部分を

- 10 塩酸に溶けた金属がどうなるのかを調べる。
- 前時を振り返り、本時の学習課題をつかむ。
 - ★塩酸にとけた金属は、どうなったのだろうか。
 - 溶けたアルミニウムの行方を予想し、計画を立てる。
 - ・アルミニウムは、気体になって出ていったと思うから水を蒸発させても何も出てこないと思う。
 - ・液から水を蒸発させると食塩や石灰水のように、元のアルミニウムが出てくると思う。
 - 塩酸に溶けたアルミニウムが取り出せるかを調べる。
 - ・液から水を蒸発させる。
 - 実験の結果をまとめる。
 - ・白い固体が出てきた。
 - 実験結果から溶けたアルミニウムがどうなったのかを話し合う。
 - ・見た様子がアルミニウムとかなり違うが、元のアルミニウムだと思う。
 - ・アルミニウムとは別の物になったのではないか。
 - ・泡になって出ていったと思ったが、液の中にあった。
 - ・元の物と比べる。

11～12 前時で取り出した物が元の金属かどうかを調べる。

 - 前時で出てきたものが元のアルミニウムと同じかどうかを調べる方法を話し合う。
 - ・アルミニウムは塩酸に泡を出して溶けたから、白い固体にも塩酸を入れてみよう。
 - ・アルミニウムは水に溶けないから、白い固体に水を入れてみよう。
 - ★取り出した物が元の金属かどうか調べよう。
 - 計画に従って調べる。
 - ・見た様子
 - ・塩酸への溶け方
 - ・水への溶け方
 - 結果をまとめる。
 - ・見た様子 …つやつやはない。
 - ・塩酸への溶け方…泡を出さずに溶ける。
 - ・水への溶け方 …水に溶ける。
 - 結果から考える。
 - ・元のアルミニウムと異なる物質になっている。
 - 分かったことをまとめる。
 - ・水溶液は、金属を溶かすものがある。
 - ・塩酸に溶けたアルミニウムは、元のアルミニウムとは性質の違う別のものに変化する。

13 単元のまとめをする。

 - ★単元の振り返りをしよう。
 - 学びを広げように取り組む。
 - 「確かめ」に取り組む。

触らないようにさせる。

- ・金属が溶けているときに、気体が発生していることにも着目させる。
- ・金属が溶けた水溶液は次時で使用するため、保管しておく。

【評】塩酸をアルミニウムに注ぐ実験を通して「知識・技能」を評価する。

- ・食塩水から食塩を取り出すことができたように、溶けたアルミニウムを再び取り出せるかどうかに着目させる。

- ・（安全）熱した蒸発皿は冷めるまで触らないようにさせる。
- ・（安全）液や出てきた物が飛び散ることがあるので、加熱中の蒸発皿には顔を近づけさせない。

- ・調べる前の自分の考えと比べながら、実験の結果について話し合わせる。

【評】アルミニウムの行方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・これまでの経験や学習を基に自分なりの考えを発表させる。

- ・色の違いや、光沢の有無についても観察させる。
- ・（安全）火の気のないところで実験を行わせる。
- ・（安全）熱くなるので、試験管の下部分を触らないようにさせる。

- ・溶けたものは、元のものと異なる物質になっていることを確認する。

【評】取り出したものが元の金属か調べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する

【 備 考 】

<関連>

- ・第5学年「もののとけ方」
- ・中学校第1学年「水溶液」

単元名 電気の利用

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 発電や蓄電、電気の変換や利用を理解するとともに、目的に応じて選択した器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録することができる。
- (2) 電気の性質や働きについて、より妥当な考えをつくり出し、その考えを表現するなどして問題解決することができる。
- (3) 電気の性質や働きについて、進んで関わり、粘り強く他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050302_001

【準備等】 クリップ付き導線、手回し発電機、乾電池・スイッチセット、発光ダイオード（低出力の場合、黄色を使用。高出力の場合、白色を使用）、コンデンサー（低出力の場合、2.3Vを使用。高出力の場合、5.5Vを使用。）、クリップ付きコンデンサー、豆電球、モーター、電子オルゴール、電流計、手回しラジオ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 発電所で電気を作る方法について話し合い、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 195を見て、発電所で電気を作る方法を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 発電機に風車や水車をつけるんだね。発電機を回して電気を作るのかな。 光電池に光を当てて電気を作るのかな。 ★発電機を回したり、光電池に光を当てたりすると、電気を作ることができるのだろうか。 手回し発電機、光電池を知る。 実験結果を予想し、予想を確かめる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 手回し発電機のハンドルを回すと、電気が作られると思う。 光電池も光を当てると発電すると思う。 <p>2 手回し発電機や光電池を使って、電気を作ることができるか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★手回し発電機や光電池を使うと、電気をつくることができるのだろうか。 前時の実験結果の予想と予想を確かめる方法を振り返る <ul style="list-style-type: none"> 手回し発電機や光電池に豆電球などをつないで調べよう。 豆電球が光れば、電気が作られているのだね。 発光ダイオードについて知る。 電気を作ることができるかを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 手回し発電機に豆電球や発光ダイオードをつなぐ。 光電池に豆電球や発光ダイオードをつなぐ。 極を入れ替えたり、ハンドルを逆に回したりしてみる ハンドルを回す速さや光電池に当てる光の強さを変えてみる。 実験の結果を整理し、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 手回し発電機を回したり、光電池に光を当てたりすると、豆電球や発光ダイオードを光らせることができる。 手回し発電機のハンドルの回す向きを変えると、発光ダイオードは光らない。発光ダイオードを反対にしても光らない。 手回し発電機を回したり、光電池に光を当てたりすると、電気を作ることができる。 手回し発電機を回す速さや、光電池の光の強さによってできる電気の量が違う。 手回し発電機のハンドルを回す向きを逆にすると、回路に流れる電流の向きが逆になる。 モーターの軸を回転させて、電気を作る。 <p>3～4 コンデンサーに電気を蓄えることができることを知りその電気が何に変換できるか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの機器で、電気を蓄えている物について考える <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンやタブレットパソコンは、電気を蓄えて使っているね。 蓄えた電気ではどのようなことができるのかな。 ★ためた電気は、どのようなものに変えて使えるのだろうか。 コンデンサーについて知る。 コンデンサーを使って、蓄えた電気を何に変えて使えるか予想し、予想を確かめる方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 194の写真から、夜間にもたくさんの電気が使われていることを押さえ、電気の利用について関心をもたせる。 手回し発電機、光電池の使い方を確認させる <p>【評】 電気を作る方法を話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> 発光ダイオードと、その＋極、－極について押さえる。 （安全）手回し発電機のハンドルを速く回し過ぎると、強い電流が流れて、コンデンサーが壊れるので注意させる。 理科ノート「観察と実験」の表に結果をまとめさせる。 光の強さを変えるには、ライトの距離を変えるとよい。 発光ダイオードの明るさから、発電した電気の量を捉えさせる。 <p>【評】 電気を作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 199の「学びを広げよう」に取り組む。 3年生で使った豆電球、4年生で使ったモーターを想起させる。

- ・電気を作って光らせることができるから、蓄えた電気を光に変えることができると思う。
- ・コンデンサーに蓄えた電気を、何に使えるか実験してみよう。
- 電気を蓄えたコンデンサーにいろいろな物をつないで、電気をどのようなものに変えて使えるかを調べる。
 - ・コンデンサーに電気を蓄える。
 - ・豆電球、発光ダイオード、電子オルゴール、モーターにつなぐ。
- 実験の結果を整理する。
 - ・豆電球や発光ダイオードが光る。
 - ・電子オルゴールが鳴る。
 - ・モーターが回転する。
- 分かったことをまとめる。
 - ・コンデンサーに蓄めた電気は、光、回転する動き、音に変えて使える。
 - ・電気はコンデンサーなどに蓄えることができ、熱や磁石の力などに変えても使うことができる。
 - ・発光ダイオードは長く光るが豆電球はすぐに消える。
- 5～6 電気を蓄めたコンデンサーにつなぐものによって、使える時間と回路に流れる電流との関係を調べる。
 - 前時までの実験で気になったことを話し合う。
 - ・豆電球はすぐに消えたけれど、発光ダイオードはしばらく光っていたのはどうしてだろう。
 - ★電気をためたコンデンサーにつなぐものによって、使える時間にちがいがあるのは、どうしてだろうか。
 - 使える時間に違いがあるのはどうしてかを予想し、予想を確かめる方法を考える。
 - ・発光ダイオードの方が、電気の量が少なくても光るから、使える時間が長いと思う。
 - ・電流計で回路を流れる電流の大きさを量るといいよ。
 - 電流計を使って、つなぐ物による電流の大きさと光り方についての実験をする。
 - ・手回し発電機をコンデンサーにつないで、電気を蓄める。
 - ・電流の強さと点灯するかどうかを確認する。
 - 実験の結果を整理し、分かったことをまとめる。
 - ・発光ダイオードの方が電流の大きさが小さくて、長い間光っていたよ。
 - ・使える時間が違うのは、物によって使う電気の量が違うからだね。
- 〈豆電球〉
始め 380? 光っている 1分後 80? 消えている
- 〈発光ダイオード〉
始め 380? 光っている 1分後 20? 光っている
- ・電気を蓄えたコンデンサーにつなぐ物によって使える時間が違うのは、物によって使う電気の量が違うからである。
- 7 身の回りで、電気を利用している物を調べる。
 - 電気が利用されている例を、身の回りで探す。
 - ・ドライヤーは、電気を熱に変えて使っているよ。
 - ・人感センサーは、電気を光に変えて使っているよ。
 - ・いろいろなところで電気を利用しているね。
 - ・それぞれ電気の性質や働きをどのように利用しているのかな。
 - ★私たちは、電気の性質やはたらきをどのように利用しているのだろうか。
 - 電気をどのように利用しているかを予想し、予想を確かめる方法を考える。
 - ・電気を作ったり蓄めたりしていると思う。
 - ・電気を光や音、熱などに変えて利用していると思う。
 - ・電気を利用している身の回りの物について、電気を作ったり蓄えたり、何に変えたりしているか調べるといいね。
 - 身の回りで利用している電気の性質や働きについて調べる。
 - ・電気を作ったり、蓄えたりしているもの
 - ・光、音、熱、回転する動きに変えているもの
 - ・目的に合わせて、コントロールしながら、電気を利用しているもの
 - 結果を整理し、分かったことをまとめる。

- ・コンデンサーと手回し発電機の取り付けの向きを確認させる。
- ・（安全）電気を蓄える際、手ごたえが軽くなったら、コンデンサーを取り外す。
- 【評】コンデンサーに蓄めた電気を使う実験を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・電気エネルギーは、光、音、熱、運動などのエネルギーに変換できることを捉えさせる。
- ・次時の課題につなぐため、電気がつく時間の差に気付かせたい。
- ・本来は電力が正しい表現であるが、測定可能な量として、「電流の大きさ」という言葉を使うようにする。
- ・電気を蓄める前のコンデンサーは、電気がないことを確認させる。
- ・ハンドルの回す速さと回数を統一させる。
 - ・手回し発電機を使う代わりに、電源装置を用いてもよい。（教科書P.227）
- ・私たちの身の回りにある発光ダイオードの照明についても考えさせる。消費電力が少なく発熱が少ないことにも気付けるとよい。
- 【評】結果を整理し、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教科書P.207を参考にするとよい。
- ・身の回りに電気を作ったり蓄えたりしている電化製品が多くあることを捉えさせる。
- ・調べた結果と、教科書P.210の結果を見比べながら、整理するとよい。
- ・電気のコントロールにはセンサーが使われて

- ・電気を光や音に変えたり、電気を蓄えたり、コントロールしながら電気を使っているんだね。
- ・電気の性質や働きを上手く組み合わせて利用しているんだね。
- ・私たちは、電気を作ったり蓄えたりして利用したり、電気を光や音、熱などに変えて利用したり、電気を目的に合わせてコントロールしながら利用したりしている。
- 電気の利用をコントロールしている様々なセンサーについて調べる。

- ・光センサー
- ・赤外線センサー
- ・温度センサー
- ・ジャイロセンサー

8～9 プログラムを制作して、コンピューターに命令を出してみる。

- 電化製品に組み込まれているプログラムを話し合う。
 - ・炊飯器はボタンを押すと炊いて、保温するよ。
 - ・洗濯機はボタンを押すと水が入り、洗濯物を洗い、脱水してくれるよ。
 - ・自動車の中には、自動でブレーキがかかるものがあるよ。
- 炊飯器のプログラムを確認する。
 - ・中火くらいの温度で加熱する。
 - ・弱火に変えて炊く。
 - ・水分がなくなったらさらに弱火にする。
 - ・最後に保温する。

- プログラム、プログラミングという語句を押さえる。
 - ・自動で行われるように、命令を出すように設計されている。このような命令のまとまりを「プログラム」と言う。
 - ・プログラムを作ることを「プログラミング」と言う。

★プログラミングをしてみよう。

- 歩行者用のミニ信号機を作るための、フローチャートを作る。
 - ・赤点灯→しばらく待つ→赤消灯→青点灯→しばらく待つ→青消灯→青点灯少し待つ→青消灯（繰り返す）→初めに戻る
- 実際にプログラムを作成する。
 - ・信号機を組み立てる。
 - ・scratchでプログラミングする。
 - ・信号機とscratchをつなげ、信号機の動作を確認する
 - ・改善を行う。

10 単元のまとめをする。

- ★単元の振り返りをしよう。
 - 「確かめ」に取り組む。

いることも押さえる。

【評】身の回りにある電化製品を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・教科書P.211を参考にするとよい。
- ・電気を蓄える物に、コンデンサーの他、充電池、バッテリーも使われていることも押さえる。（教科書P.214）

- ・教科書P.212～213の「チャレンジ」はプログラミングの思考で、必ず扱うこと。また、「ものづくり」としても取り扱う。
- ・学校の実情に応じて、プログラミングに取り組む。

- ・家庭科の調理実習を思い起こさせ、米の炊き方を分かりやすい言葉でまとめていく。
- ・その際フローチャートを用いながらまとめることよい。
- ・時間があれば、他の電化製品についてプログラムを確認してもよい。
- ・教科書P.212を参考にするとよい。

- ・教科書では、scratchベースの、アーテック社のスタディーノやヤガミのプログラミング実験セットを用いている。Scratchを信号機と連動させるためには、プログラミングソフトウェアが必要である。
- ・プログラムのスタートをそろえるため、赤の点灯から始める。
- ・点灯、消灯という言葉の統一しておく。

- ・どうすれば本物の信号機に近づけるか考えさせる。
- ・待つという命令を効果的に利用する。
- ・実態に応じて、押しボタン式にしたり、人感センサーを利用したりと、応用も考えられる

【評】プログラミングを作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

「てこ」「電気の利用」の中で2種類以上のものづくりを行うものとする。ただし、本単元では、教科書P.212～213の「プログラムを作成して、コンピューターに命令を出してみよう」の活動を「ものづくり」として取り扱っている。

・教科書P.212～213の「プログラムを作成して、コンピューターに命令を出してみよう」は、プログラミング的思考で取り扱う。

<関連>

- ・第5学年「電流が生み出す力」
- ・中学校第2学年「電流」「電流と磁界」

単元名 人の生活と自然環境

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) 人の生活と自然環境との関わりについて、より妥当な考えをつくり出し、その考えを表現することができる。
- (3) 人の生活と自然環境との関わりについて、進んで調べようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

標準的な展開例

06050303_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 人の生活と自然環境との関わりについて知り、自分たちができることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地球にはどのような自然があり、どのような生き物が住んでいるかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・知床も白神山地も小笠原も世界自然遺産だよ。 ・たくさんの自然があるね。 ・豊かな自然の中に、たくさんの動物がいるよ。 ★人の生活と自然環境がどのように関わっているか知り、自分たちにできることを考えよう。 ○人と環境との関わりについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・森を切り開いたり、海を埋め立てたりしているよ。 ・たくさんのごみを出して、水や空気を汚している。 ○人が自然保護のため、取り組んでいる活動を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの地域でごみを拾う活動を行っているよ。 ・ガソリンを出さない電気自動車など、環境にやさしいものが作られているよ。 ○自分たちができる環境保全について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・物を必要なだけ買って、ごみを減らす。 ・こまめにスイッチを切ったり、なるべく乗り物を使わずに行動する。 ・私たち一人一人が「かけがいのない地球」（国連人間環境会議のキャッチフレーズ）の住人であることを自覚して、自分にできることから生活を工夫する取組を始めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この単元の指導に当たっては、持続可能な社会の構築という視点で扱うようにする。 ・教科書P. 216～P. 217の写真を参考にさせる。 ・教科書P. 218を参考にさせる。 ・人が利用できる自然には限りがある。 ・まわりとの調和を考えず開発を続けると、動物、植物が住めなくなり、人にとって暮らしにくい環境になることを押させる。 ・教科書P. 219～P. 221の写真を参考にさせる。 ・本、インターネットを使って調べさせる。 ・小さな活動でも多くの人が取り組むことによって、地球環境を守ることができることを押さえたい。 ・生活を工夫する取組みを始めることが大切であることを理解させる。 【評】自然を守る活動について調べ、話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

〈関連〉

- ・第3学年「生き物を調べよう」「こん虫の世界」
- ・第4学年「季節と生き物」
- ・中学校第1学年「生物の観察と分類」

令和2年度 知多地方教育計画案

生活科

生 活 科

1 教科の目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

(知識及び技能の基礎)

(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等の基礎)

(3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

(学びに向かう力、人間性等)

教科の目標は大きく分けて二つの要素で構成されている。上段の「趣旨」と下段の「育成を目指す資質・能力」である。上段の「趣旨」には、生活科の前提となる特質、生活科固有の見方・考え方、生活科における究極的な児童の姿が示されている。下段に示された育成を目指す資質・能力は、(1)「知識及び技能の基礎」、(2)「思考力、判断力、表現力等の基礎」、(3)「学びに向かう力、人間性等」の三つから成る。

趣旨には「見方・考え方を生かし」とあり、他教科の「見方・考え方を働かせ」という表現と異なる。これは、生活科が幼児教育とのつながりを意識していることの表れであると捉える。また、(1)と(2)に示した資質・能力の末尾に「の基礎」とあるのは、幼児期の学びの特性を踏まえ、育成を目指す三つの資質・能力を截然と分けることができないことによる。

生活科の目指すところは、教科目標の特定部分ではなく、全体において示されている。自立し生活を豊かにしていくための資質・能力は、一つ一つの単元や授業などにおいて、総合的に育成されていくものである。以下に、生活科の教育目標の構成についてまとめたものを図示する。

生活科の教科目標の構成

【趣旨】

具体的な活動や体験を通して、

- 見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして直接働きかける学習活動
- 言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法によって表現する学習活動
- 言葉などによる振り返りや伝え合いの場を適切に設定(言語能力)

身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、

- 身近な生活に関わる見方は、身近な生活を捉える視点であり、身近な生活における人々、社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかという視点
- 身近な生活に関わる考え方は、自分の生活において思いや願いを実現していくという学習過程にあり、自分自身や自分の生活について考えていくこと

自立し生活を豊かにしていく

- 学習上の自立
 - ・興味・関心があり、価値があると感じられる学習活動を自ら進んで行うことができる。
 - ・自分の思いや考えなどを適切な方法で表現できる。
- 生活上の自立
 - ・生活上必要な習慣や技能を身に付ける。
 - ・身近な人々、社会及び自然と適切に関わることができる。
 - ・自らよりよい生活を創り出していく。
- 精神的な自立
 - ・自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつことにより、現在及び将来における自分自身の在り方を求めていくことができる。

【育成を目指す資質・能力】

- (1)「知識及び技能の基礎」
 - ・生活の中で豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになったりするか。
- (2)「思考力、判断力、表現力等の基礎」
 - ・生活の中で、気付いたこと、できるようになったことを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか。
- (3)「学びに向かう力、人間性等」
 - ・どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 改訂の趣旨

生活科は、児童の生活圏を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動や体験を重視し、具体的な活動や体験の中で様々な気づきを得て、自立への基礎を養うことをねらいにしてきた。平成20年改訂の学習指導要領では、活動や体験を一層重視するとともに、気づきの質を高めること、幼児期の教育との連携を図ることなどについて充実を図った。その成果として、言葉と体験を重視した改訂の趣旨がおおむね反映された。しかし、以下の点においてはさらなる充実を図ることが期待されている。

- ・活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動を重視すること。具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。
- ・幼児期の教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する低学年教育として滑らかに連続、発展させること。幼児期に育成された資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、そこでの生活科の役割を考える必要がある。
- ・幼児期の教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムについて、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取組とすること。スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、学校全体で取り組むスタートカリキュラムとする必要がある。
- ・社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする中学年の各教科等への接続を明確にすること。単に中学年の学習内容の前倒しにならないよう留意しつつ、育成を目指す資質・能力や「見方・考え方」のつながりを検討することが必要である。

(2) 改訂の要点

①改訂の基本的な考え方

- ・生活科においては、言葉と体験を重視した前回の改訂の上に、幼児期の教育とのつながりや小学校低学年における各教科等における学習との関係性、中学年以降の学習とのつながりも踏まえ、具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力（特に「思考力、判断力、表現力等」）が具体的にできるよう見直すこととした。

②目標の改善

- ・具体的な活動や体験を通じて、「身近な生活に関する見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを明確化した。

③内容構成の改善

- ・学習内容を「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」、「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」、「自分自身の生活や成長に関する内容」の三つに整理した。

④学習内容、学習指導の改善・充実

- ・具体的な活動や体験を通じて、どのような「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指すのが具体的にできるよう、各内容項目を見直した。
- ・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気づきを確かなものとしたり、新たな気づきを得たりするようにするため、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行ったりする活動を重視することとした。
- ・動物の飼育や植物の栽培などの活動は2学年間にわたって取り扱い、引き続き重視することとした。
- ・各教科等との関連を積極的に図り、低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育に円滑に移行することを明示した。特に、幼児期における遊びを通した総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行うことを明示した。

なお、今回の改訂では、低学年の各教科等（国語科、算数科、音楽科、図画工作科、体育科、特別活動）にも幼児期との接続及び入学当初における生活科を中心としたスタートカリキュラムについての規定を明記している。

第1・2学年 生活科

1 学年の目標

- (1) 学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気づき、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。
- (3) 自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活するようにする。

学年の目標に示された資質・能力は、指導計画の作成や学習指導の展開において重要な指針となるものであり、ここに示された目標は、第2学年修了までに実現することを目指している。

2 内容

生活科は、具体的な活動や体験を通して学ぶとともに、自分と対象との関わりを重視するという生活科の特質を基に9項目の内容（5ページ参照）で構成されている。

(1) 内容構成の具体的な視点

具体的な視点とは、各内容を構成する際に必要となる視点を意味する。以下に示す11の具体的な視点（前回の改訂と同様にア～サから成る）は、各学校で生活科の単元を構想する場合には、内容の位置付けとともにどのように単元構成に取り入れているかということにも配慮しなければならない。

基本的な視点	具 体 的 な 視 点	
自分と人や社会との関わり	ア 健康で安全な生活	健康や安全に気を付けて、友達と遊んだり、学校に通ったり、規則正しく生活したりすることができるようにする。
	イ 身近な人々との接し方	家族や友達や先生をはじめ、地域の様々な人々と適切に接することができるようにする。
	ウ 地域への愛着	地域の人々や場所に親しみや愛着をもつことができるようにする。
	エ 公共の意識とマナー	みんなで使うものや場所、施設を大切に正しく利用できるようにする。
	オ 生産と消費	身近にある物を利用して作ったり、繰り返し大切に使ったりすることができるようにする。
	カ 情報と交流	様々な手段を適切に使って直接的間接的に情報を伝え合いながら、身近な人々と関わったり交流したりすることができるようにする。
自分と自然との関わり	キ 身近な自然との触れ合い	身近な自然を観察したり、生き物を飼ったり育てたりするなどして、自然との触れ合いを深め、生命を大切にすることができるようにする。
	ク 時間と季節	一日の生活時間や季節の移り変わりを生かして、生活を工夫したり楽しくしたりすることができるようにする。
	ケ 遊びの工夫	遊びに使う物を作ったり遊び方を工夫したりしながら、楽しく過ごすことができるようにする。

自分自身	コ 成長への喜び	自分でできるようになったことや生活での自分の役割が増えたことなどを喜び，自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつことができるようにする。
	サ 基本的な生活習慣や生活技能	日常生活に必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。

(2) 内容を構成する具体的な学習対象

生活科における具体的な活動や体験は，単なる手段や方法ではなく，そのものが学習内容であり，目標でもある。つまり，生活科で育みたい児童の姿を，どのような対象と関わりながら，どのような活動を行うことによって育てていくかが重要であり，そのこと自体が内容となって構成されている。低学年の児童に関わってほしい学習対象は，以下のとおりである。

- | | | | | | |
|--------------------|---------|-------|------------|--------|-----|
| ①学校の施設 | ②学校で働く人 | ③友達 | ④通学路 | ⑤家族 | ⑥家庭 |
| ⑦地域で生活したり働いたりしている人 | ⑧公共物 | ⑨公共施設 | ⑩地域の行事・出来事 | | |
| ⑪身近な自然 | ⑫身近にある物 | ⑬動物 | ⑭植物 | ⑮自分のこと | |

内容を構成する際は，(1)「内容構成の具体的な視点」と(2)「内容を構成する具体的な学習対象」とを組み合わせ，そこに生まれる学習活動を核として資質・能力の三つの柱の育成を目指す。

(3) 内容の構成要素

生活科の9項目の内容は，以下の四つの要素により構成されている。

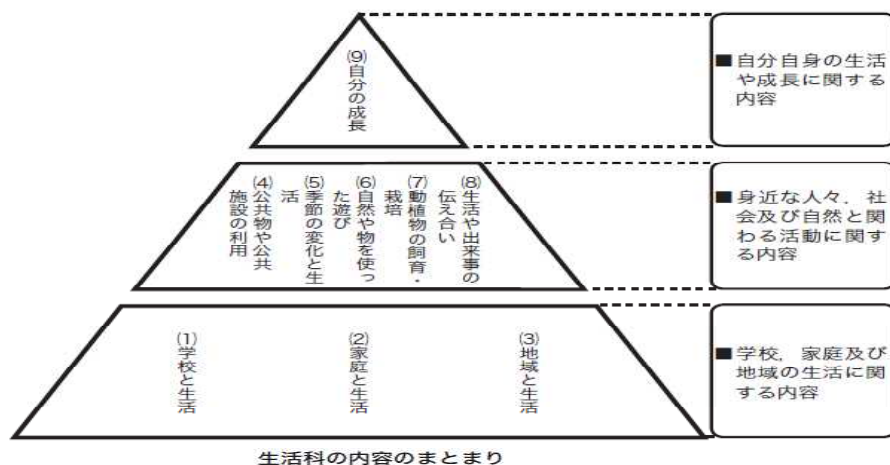
- ① 児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等
- ② 思考力，判断力，表現力等の基礎
- ③ 知識及び技能の基礎
- ④ 学びに向かう力，人間性等

例えば，この四つの要素の組み込まれ方を内容(6)「自然や物を使った遊び」において見てみると，次のようになる。

- (6) 身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ，その面白さや自然の不思議さに気付くとともに，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。
- ①学習対象・学習活動等
- ②思考力・判断力・表現力等の基礎
- ③知識及び技能の基礎
- ④学びに向かう力，人間性等

(4) 内容の階層性

9項目の各内容の関係を下図のような階層の形で表す。まず，児童にとって最も身近な生活圏を第1階層とし，自らの生活を豊かにしていくための内容を第2階層，更には，自分自身の生活や成長に関する内容を第3階層とする。ただし，それぞれのまとまりに上下関係があるわけではなく，内容の大きなまとまり同士が分断されているものでもない。また，学習の順序性を規定しているものでないことに留意する。



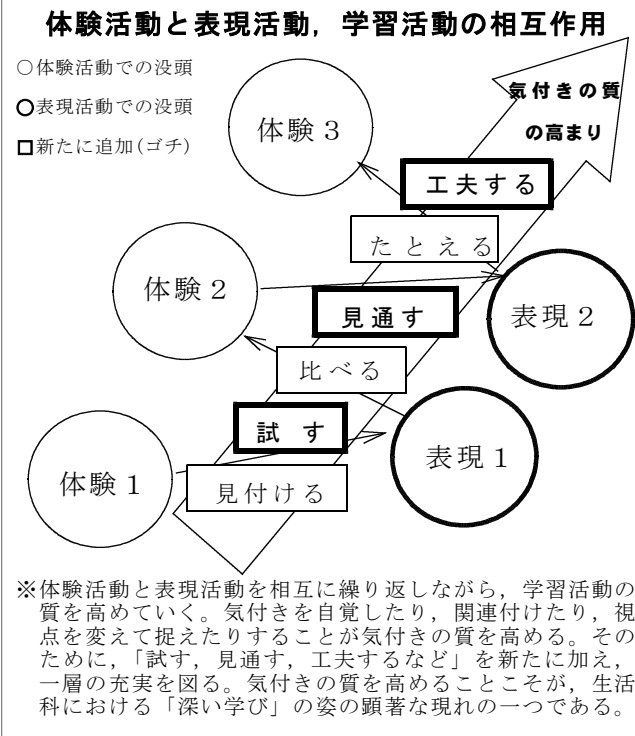
(5) 内容の全体構成

生活科の階層と 9 項目の内容、構成要素を一覧にしたものが、以下の全体構成表である。

階層	内 容	構 成 要 素			
		学習対象・学習活動等	思考力、判断力、表現力等の基礎	知識及び技能の基礎	学びに向かう力、人間性等
学校、家庭及び地域の生活に関する内容	(1) 学校と生活	・学校生活に関わる活動を行う	・学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考える	・学校での生活は様々な人々や施設と関わっていることが分かる	・楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする
	(2) 家庭と生活	・家庭生活に関わる活動を行う	・家庭における家族のことや自分でできることなどについて考える	・家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる	・自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする
	(3) 地域と生活	・地域に関わる活動を行う	・地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える	・自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる	・それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする
身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	(4) 公共物や公共施設の利用	・公共物や公共施設を利用する活動を行う	・それらのよさを感じたり働きを捉えたりする	・身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる	・それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする
	(5) 季節の変化と生活	・身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を行う	・それらの違いや特徴を見付ける	・自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付く	・それらを取り入れ自分の生活を楽しもうとする
	(6) 自然や物を使った遊び	・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を行う	・遊びや遊びに使う物を工夫しつくる	・その面白さや自然の不思議さに気付く	・みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする
	(7) 動植物の飼育・栽培	・動物を飼ったり植物を育てたりする活動を行う	・それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかける	・それらは生命をもっていることや成長していることに気付く	・生き物への親しみをもち、大切にしようとする
	(8) 生活や出来事の伝え合い	・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う	・相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりする	・身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる	・進んで触れ合い交流しようとする
自分自身の生活や成長に関する内容	(9) 自分の成長	・自分自身の生活や成長を振り返る活動を行う	・自分のことや支えてくれた人々について考える	・自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる	・これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする

3 内容の取扱い

- (1) 人、社会、自然を一体的に扱う学習活動の工夫
 - ・地域の人々、社会及び自然と直接関わり、それらを一体的に扱うよう学習活動を工夫する。
 - ・児童の側に立ち、児童の思いや願いに沿った必然性のある学習活動を展開する。
- (2) 体験活動と表現活動
 - ・身近な人々、社会及び自然に対して、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの身体を通して直接働きかける体験の楽しさを味わう。
 - ・活動や体験を通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法により表現し、考えることができるようにする。
 - ・表現し、考えることを通して、気付きを確かなものとしたり、気付いたことを関連付けたりして、新たな気付きを生み出し、気付きの質を高める深い学びを実現する。
- (3) 多様な学習活動
 - ・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにするため、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行う。
 - ・自らの気付きを振り返ったり、互いの気付きを交流したりするような活動を必要に応じて適切に行う。
- (4) ICTの活用
 - ・学習活動を行うに当たって、コンピュータなどの情報機器について、その特質を踏まえ、児童の発達段階や特性及び生活科の特質などに応じて適切に活用する。
 - ・教科横断的な視点に立った資質・能力の一つである情報活用能力を育成するため、ICTを適切に活用した学習活動の充実を図る。ただし、ICTを活用することが主たる活動ではないことに留意する。
- (5) 多様な人々との触れ合い
 - ・具体的な活動や体験を行うに当たっては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにする。
- (6) 生活上必要な習慣や技能の習得
 - ・遊んだり学習したり、人と触れ合ったり、豊かに生活したりするために必要な習慣や技能の指導については、それだけを取り出して指導するのではなく、人、社会、自然及び自分自身に関わる学習活動の展開に即して、それぞれの具体的な場面で必要に応じて適切に指導する。



4 評価の観点の趣旨

- ・結果よりも活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視して評価する。
- ・学習過程における児童の「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を評価し、目標の達成に向けた指導と評価の一体化を図る。
- ・評価に当たっては、「量的な面」だけでなく、「質的な面」から捉える。
- ・1単位時間、単元全体を通しての児童の変容や成長の様子を捉える評価も重要であり、さらに授業時間外の児童の姿にも目を向け、評価の対象に加えることが望まれる。

観 点	観点の趣旨
知識・技能	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。
思考・判断・表現	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。

第1学年 生活科 年間計画（年間102時間）

	月	単元名	時数	小単元名	ページ
一 学 期	4	がっこう だいすき (5)	5	あいさつ できるよ	①-②
				きちんと おけるよ	③
				ちゃんと できるよ	④
				こまったな どうしよう	⑤
				なかよくなりたいね	⑥-⑦
				やって みたいな	⑧-⑨
				あんぜんのぺえじ	122-124
	5	あそびに いこうよ (2)	2	みつけたはるで あそぼう	38-47
		がっこう たんけん (10)	4	がっこうたんけん に いこう	2-7
			1	みつけたことを おはなし しよう	8-9
			1	もっとくわしく しりたいな	10-11
			2	みんなの はっけんを ききあおう	12-13
			2	★たねを えらぼう	16-19
			2	★たねを まこう	20-21
			2	★めが でた	22-25
			1	★せわを しよう (1)	26-27
			2	がっこう だいすき	14-15
			2	あめと あそぼう	48-49
		あそびに いこうよ (2)	2	★せわを しよう (2)	26-27
			2	★はなが さいた	28-31
	7	あつくなったよ (6)	5	みずや つちで あそぼう	50-53
			1	もうすぐ なつやすみ	54-55
二 学 期	9	いきもの だいすき (6)	3	★あたらしい たね (1)	32-33
			2	なかよく なろう	82-85
			2	もっと なかよく なろう	86-89
			2	もるもっと だいすき	90-91
	10	あきを たのしもう (4)	2	★おもいだして みよう	34-35
			2	★わたしの あさがお	36-37
			4	あきを たのしもう	58-63
	11	見つけた あきで あそぼう (9)	6	見つけた あきで あそぼう	64-67
			3	あそびの ひろば	68-69
			3	いえのしごとを しらべよう	96-99
			6	いえのしごとに ちょうせんしよう	100-103
	12	ありがとうが いっぱい (14)	5	どんなことが できたかな	104-105
三 学 期	1	ふゆを たのしもう (4)	4	かぜと あそぼう	70-79
	2	あそび名人に なろう (4)	4	あそび名人に なろう	80-81
			4	1年生を ふりかえろう	106-109
	3	もうすぐ 2年生 (12)	7	ようこそ 小学校へ	110-111
			1	2年生に むかって	112-113
		わたしの あさがお 18時間	18	★は栽培継続単元 「わたしの あさがお」	16-37

() 内の数字は時間数を示す。

スタートカリキュラム中の時間配分については、各校で調整されたい。

令和２年度 第２学年 生活科 年間計画（年間１０５時間）

	月	単元名	時数	小単元名	ページ	
一 学 期	4	春だ 今日 から 2年生 (6)	3	春を さがそう	2-3	
			3	1年生を むかえよう	4-5	
		5	どきどき わくわく まちたんけん (9)	1	まちの ことを 話そう	22-23
				3	★野さいを そだてよう	10-11
	2			まちたんけんの 計画を 立てよう	24-25	
	3			★野さいの せわを つづけよう	12-13	
	3			まちたんけん に 行こう	26-27	
	3			見つけた ことを 教え合おう	28-29	
	6	生きもの なかよし 大作せん (12)	3	生きものを さがしに 行こう	34-35	
			4	生きものを とりに 行こう	36-37	
	7		1	★野さいを しゅうかくしよう	14-15	
			2	生きものを そだてよう	38-39	
		2	★野さいの ことを まとめよう	16-17		
		3	生きものの ことを つたえよう	40-41		
二 学 期	9	うごく うごく わたしの おもちゃ (12)	3	うごく おもちゃを つくろう	48-49	
			3	もっと くふうしよう	50-51	
			6	あそび方を くふうしよう	52-53	
	10	みんなで つかう まちの しせつ (6)	3	図書かんに 行こう	58-59	
			3	図書かんの ことを 聞いて みよう	60-61	
	11	もっと なかよし まちたんけん (12)	3	まちたんけんの 計画を 立てよう	70-71	
			3	もう いちど たんけん に 行こう	72-73	
			3	まちの 人と なかよく なろう	74-75	
			3	なかよく なった 人の ことを しょうかいしよう	76	
	12	つたわる 広がる わたしの 生活 (12)	2	つたえたいな まちの すてきな できごと	78-79	
			4	つたえる じゅんぴを しよう	80-81	
			3	もっと くわしく しらべよう	82-83	
			3	まちの すてきを つたえよう	84	
	三 学 期	1	あしたへ ジャンプ (27)	3	大きく なった 自分の ことを ふりかえろう	92-93
3				大きく なった 自分の ことを しらべよう	94-95	
2		9		大きく なった 自分の ことを まとめよう	96-97	
		9		ありがとう はっぴょう会を ひらこう	98-99	
27		3		3	すてきな 3年生に なろう	100-101
		大きく なあれ わたしの 野さい 9時間	9	★は栽培継続単元 「大きく なあれ わたしの 野さい」	10-17	

() 内の数字は時間数を示す。

第2学年 生活科 年間計画（年間105時間）

	月	単元名	時数	小単元名	ページ	
一 学 期	4	まちたんけん (9)	1	わたしたちの まちについて 話そう	2-5	
			2	たんけん計画を 立てよう	6-7	
			1	★野さいづくりの じゅんびを しよう(1)	36-37	
			7	★野さいづくりの じゅんびを しよう(2)	38-45	
			2	★なえを うえよう	46-47	
	5		3	まちの すてきを さがそう	8-9	
			3	まちの すてきを まとめよう	10-15	
			2	★野さいを そだてよう(1)	48-49	
	6	生きものと 友だち (9)	3	生きものを さがそう	56-59	
			1	生きものを かおう	60-63	
			4	★野さいを そだてよう(2)	48-49	
			1	生きものの ふしぎを 見つけよう(1)	64-65	
			1	生きものの ふしぎを 見つけよう(2)	66-67	
			7	3	ふりかえろう	68-69
				4	★野さいを しゅうかくしよう	50-51
二 学 期	9	あの人に 会いたいな (18)	3	★ふりかえろう	52-53	
			7	まちの人の 話を 聞こう	16-19	
			2	★そだてて みよう	54-55	
	10		3	しらべたことを つたえよう(1)	20-21	
			2	しらべたことを つたえよう(2)	22-23	
			6	ふりかえろう	24-25 26-27	
	11	作って あそぼう うごく おもちゃ (18)	2	★そだてて みよう	54-55	
			2	うごかし方を 見つけよう	70-73	
			3	うごく おもちゃを 作ろう	74-79	
			3	作った おもちゃを くふうしよう	80-81	
			1	作った おもちゃで あそぼう	82-83	
			5	あそび方を くふうしよう	84-85	
			3	★そだてて みよう	54-55	
			12		4	おもちゃ大会を しよう
	三 学 期	わたし たんけん (21)			1	2年生で がんばったことを ふりかえろう
3					いまの わたしについて 聞いてみよう	92-93
2					いままでの わたしについて しらべよう	94-95
5					わかったことを まとめよう	96-97
4					はっぴょうしよう	98-99
6			これからの わたしについて 考えよう	100-103		
		わたしたちの 野さいばたけ 30時間	30	★は栽培継続単元 「わたしたちの 野さいばたけ」	36-55	

() 内の数字は時間数を示す。

令和3年度より、この年間計画を使用する。

第1学年〇組 生活科学学習指導案

令和2年5月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 わたしのあさがお

2 単元目標

- (1) 栽培活動を通して、植物も自分たちと同じように生命をもって成長していることや、成長や変化の特徴に気付くことができる。
- (2) 育てている植物のことをよく知り、よりよく育つための世話を工夫したり、植物の変化の様子や成長の喜びを自分なりの方法で表現したりすることができる。
- (3) きれいな花を咲かせたいと願いながら、植物に親しみをもって大切に育てようとする。

3 学習の計画 (18時間完了)

- 第1次 第1時～第4時 アサガオの種を選び、自分の植木鉢に種をまく。
 第5時 発芽の様子を観察し、観察の仕方を知る。
 第6時 (本時) 発芽の様子を詳しく観察し、発芽の様子や願いを記録カードにかく。
 第7時～第8時 これからのアサガオの世話の仕方について考え、試す。
 第9時～第10時 開花の喜びを絵や文で表現し、伝え合う。
 第2次 第11時～第18時 集めた種や枯れたつる、根の観察をし、これまでの栽培活動を振り返る。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 詳しく観察することで、発芽の成長や変化の様子に気付くことができる。
 - 発芽の様子を観察し、見付けたことや考えたことを自分なりに表現することができる。
- (2) 準備・資料
 - 児童……記録カード
 - 教師……掲示資料 (アサガオを観察するポイントが書かれているもの)、虫眼鏡のフレーム、紙コップ、記録カード
- (3) 関 連

2年 生活 わたしたちの野さいばたけ (自分の育てたい野菜を決めて、自分たちの力で育てる)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	活 動 上 の 留 意 事 項
つ か む	1 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 (1) 前時で発見したアサガオの芽の様子を思い出す。 ・ 4つも芽が出ていました。 ・ 緑色の芽でした。 (2) 本時のめあてをつかむ。 自分のアサガオのひみつを見付けよう。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数人の児童に芽の様子を発表させた後、アサガオにはまだまだ秘密があること、観察名人になれるような道具や魔法の言葉があることを伝える。 ○ 児童のつぶやきを拾い、もっともっとアサガオのことを知りたいという意欲を高めさせ、めあての提示につなげる。 ○ 前時で既習している諸感覚を使うことを、資料を掲示しながら確認する。
ひ た る	2 自分のアサガオのことを詳しく観察するための方法を知る。 ○ 虫眼鏡と紙コップの用途を知る。 <みるみるメガネ>…虫眼鏡 ・ アサガオの芽を比べたり、たとえたりすることを助けるための道具 <もしもしフォン>…紙コップ ・ アサガオの心の声を聴くため(想像するため)の道具	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ アサガオの秘密を見付けるための道具として簡単に紹介し、観察への意欲を高める。 ○ 虫眼鏡のフレームは、厚紙などの丈夫な素材で作し、「～とちがって」、「～みたいな」のような、児童が比べたり、たとえたりしやすくなるようなキーワードを書いておく。 ○ 諸感覚を使うことに加え、「～とちがって」、「～みたいな」を使ったりアサガオの気持ちを想像したりすることは、アサガオのことをもっと知るための大切な方法であると伝え、観察への意欲を高めさせる。 ○ 観察中に、児童が自由に手に取って使えるような数や入れ物を用意するなど、環境を整えておく。

第2学年〇組 生活科学学習指導案

令和2年12月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 作って あそぼう うごく おもちゃ

2 単元の見標

- (1) 身近なものを利用しておもちゃを作り、その動きの面白さや不思議さ、遊びに使うものをつくったり、みんなで遊んだりする面白さについて気付くことができる。
- (2) 試行錯誤を繰り返しながら、身近にあるものを利用しておもちゃを作ったり、遊び方を工夫したりすることができる。
- (3) より滑らかな動きや上手な動きへの思いや願いをもち、おもちゃを改良したり、友達とのつながりを大切にしながら、よりよい遊びや遊び方を創り出したりしようとする。

3 学習の計画 (18時間完了)

- | | | |
|-----|-----------|---------------------------------------|
| 第1次 | 第1時～第2時 | 身近にある物の特徴を見付け、楽しく遊ぶ。 |
| 第2次 | 第3時～第5時 | 試行錯誤しながら、集めた材料で動くおもちゃを作る。 |
| | 第6時～第9時 | 作ったおもちゃの機能が高まるように改良して遊ぶ。 |
| 第3次 | 第10時～第12時 | おもちゃ大会の準備をする。 |
| | 第13時 (本時) | 前半グループのリハーサルをし、遊びをもっと楽しくするための工夫を話し合う。 |
| | 第14時 | 前半の話合いを生かし、後半グループのリハーサルをする。 |
| | 第15時～第18時 | 1年生を「おもちゃ大会」に招待して遊び、単元のまとめをする。 |

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - おもちゃの遊び方やルールを工夫し、よりよいものにしようと考えることができる。
- (2) 準備・資料
 - 児童……赤白帽子 (白：1年生役、赤：2年生役)、自分のコーナーの準備物 (看板、おもちゃ、ストップウォッチ等)
 - 教師……記録カード、振り返りカード、ICT機器 (デジタルカメラ、TV)
- (3) 関 連
 - 1年 生活 あきをたのしもう (作ったおもちゃを基に遊び方を工夫し、みんなで楽しく遊ぶ)
 - 2年 国語 おもちゃの作り方をせつめいしよう (自分が紹介するおもちゃでも使えるような説明の工夫を紹介し合う)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つ か む	1 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 (1) 前時までの活動を振り返る。 ・ルールや看板を作りました。 ・自分たちで練習をしました。1年生も喜んでくれると思います。 (2) 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">1年生が楽しめるおもちゃ大会をつくろう。</div>	3	<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ、前半のおもちゃのコーナーの準備をさせておく。場の設定としては、おもちゃのコーナーの他、全体で話し合う場、振り返りを書くための机を設ける。話し合う場はコの字型の隊形で授業を進め、ビニルテープで、床に児童の出席番号を書いて貼っておく。 ○前時までの活動を称賛し、1年生が本当に喜んでくれる遊びやルールであるか問いかけ、本時の学習課題へとつなげる。 ○1年生に楽しんでもらうために、1年生役と、2年生役に分かれてリハーサルすることを伝える。
ひ た る	2 役に分かれて、リハーサルをする。 (1) リハーサルの視点を確認する。 ○楽しく遊べたか ○ルールが分かりやすいか ○説明が分かりやすいか (2) リハーサルに当たっての注意点を聴く。 ○1年生になったつもりでコーナーに参加したり、接したりする。 ○2年生役は、1年生に説明するつもりで接する。		<ul style="list-style-type: none"> ○1年生が楽しく遊べるため、話し合いの視点「遊び方」「ルール」「説明」を押さえる。 ○六つのコーナーのうち、前半の半数が2年生となり (赤帽子)、残りが1年生役 (白帽子) になる。 ○2年生役の児童が準備をしている間に、1年生役に初めに行くコーナーを指示しておく。二つ目以降は自由に行ってよい

ひ た る	<ul style="list-style-type: none"> ○なるべく三つ全てのコーナーを回 る。 (3) 前半三つのコーナーのリハーサルを する。 	20	ことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの助けとなるよう、リハーサルの 様子をデジタルカメラで撮影しておく。
深 め る	3 コーナーのよかったところや改善点を 話し合う。 (1) リハーサルをして気付いたことをワ ークシートに書く。 (2) 工夫したいことを話し合う。 ・「ころりん」は、すぐに終わってし まうから、回数を2回に増やしては どうですか。 ・「ストローアーチェリー」は、1年 生だと力が弱いから、スタート位置 をもう少し近くにしたい方がよいと思 います。 ・〇〇さんが順番に説明してくれたか ら、1年生も嬉しくなると思います。 ぼくも1年生に教えるときは、分か りやすいように、優しく説明してあ げようと思います。	38	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生役の児童には、三つのコーナーの 内、一つ選ばせる。2年生役の児童には、 自分のコーナーについて書かせる。 ○遊び方やルール、説明の仕方の視点で話 をさせるようにする。 ○2年生役の児童も、リハーサルを通して 気付いたことを話させる。 ○児童の意見を、コーナーのよい点、悪い 点、改善点と分かるように板書し、次時 の活動に生かせるようにする。 ○言葉ではうまく伝わらないときは、実際 にやってみせてよいことを伝える。 ○リハーサル時に撮影しておいた写真をT Vへ映し、説明しやすくしたり、共通理 解を図ったりする。 <p>評 リハーサルを通して、遊び方やルール、 説明の仕方について、工夫したことを伝 え合っている。（記録カード、話し合い）</p>
ま と め る	4 本時の学習を振り返り、次時の学習の 見通しをもつ。 (1) 本時の学習内容を振り返る。 (2) 振り返りカードを書く。 (3) 振り返りカードに書いたことを伝え 合う。 ・「ストローアーチェリー」では、立 つ場所をもっと前にした方がよいと 教えてくれました。立つ場所をいく つか作り、1年生に選んでもらおう と思います。楽しんでくれるといい な。 (4) 次時の学習内容を知る。	45	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカードには、よかったことや次 回の改善策を書かせ、次時の活動意欲を 喚起する。 ○1年生役の児童も、本時の活動で気付い た点について書くように伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ○次回は、後半グループのリハーサルを行 うことを伝える。

(5) 本時の評価規準

- 相手意識をもち、遊び方やルール、説明の仕方についての改善点を考え、おもちゃ大会をよりよいものにしようと伝え合っている。（記録カード、話し合い）

5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級は、おもちゃ作りに意欲的で、自分のおもちゃをもっとよくさせようと、様々な予想を考え、試してきた。また、「あの人に あいたいな」の学習では、自分の町のすてきな人についてグループで話し合い、新聞にまとめることができた。しかし、学級全体では、町や人のよさに気付き、積極的に交流する児童は少なかった。

(2) 指導の力点

- リハーサル後、次時以降の活動の手立てとなるようにワークシートを活用し、感じたことを記入させる。ワークシートには、よい点、困った点、改善点を示せるよう項目ごとに記述できるようにした。リハーサルをして気付いたことをシートに表現し、伝え合うことで、気付きを自覚し、気付きの質を高めさせたい。
- リハーサルは2時間行い、半分ずつに分けて取り組ませる。1年生という相手意識をもたせ十分に遊びを体験させることで、そのよさや、課題が出てくると考えられる。話し合いを通して、他のグループのおもちゃの面白さや遊びの工夫に気付かせたり、学級全体の遊びをよりよいものにしようと考えを深めさせたりしたい。

6 指導と評価

単元名 みつけたはるであそぼう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) いろいろな人々が公園を利用していることや、自然を利用したり遊ぶ物を作ったりすることの楽しさに気付くことができる。
 (2) 遊び方を工夫したり、自分が楽しんだ遊びや感じ取った自然の様子を考えたり、表現したりすることができる。
 (3) 四季の移り変わりに関心を持ち、自然や人々と関わりながら季節に応じた遊びを楽しもうとする。

標準的な展開例

01060101_001

【準備等】記録カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～2 校庭を散歩し、春の自然で遊んだりみんなと遊んだりする。 ★みんなと春の自然で遊ぼう ○春の遊びを楽しむヒントを知る。 ・春の匂いってどんな匂いか知りたいな。 ・草や花を使ってみんなで遊ぶのが楽しそう。 ○校庭に出て、春見付けや春遊びをする。 ・タンポポで腕時計を作ろう。 ・カラスノエンドウで笛を作って吹いてみよう。 ・だるまさんがころんだや、けいどろで遊ぼう。 ○見付けた春を記録カードにかく。 ・草や花で遊んだよ。 ・いい匂いの花を見付けたよ。	<ul style="list-style-type: none"> ・春の遠足で公園に行く場合も考えられる。 ・教科書P.38～39, P.40～41を見ながら、春の自然を想起させ、実際に見てみたい気持ちを高め、めあてを提示する。 ・教科書P.42～43, P.46～47「ものしりのうと」を見て、個々で遊びの計画を立てる。 ・視覚や嗅覚などの諸感覚を使って春を感じられるように声掛けをする。 ・教室に帰るときには手洗い・うがいをさせる以降も同様に指導する。 ・図画工作科「かきたいものなあに」と関連させて、絵や工作などで表現させる。 <p>【評】記録カード等の作品を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価し、春見付けや遊びを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【備 考】

- ・スタートカリキュラムを参照する。

単元名 がっこうたんけん

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 学校にはみんなで遊んだり学習したりするための施設やきまりがあることや、学校生活はたくさんの人々に支えられていることに気付くことができる。
 (2) 学校探検で発見したことや感じたことを絵や文など自分なりの方法で表現することができる。
 (3) 学校探検で学校の教室や施設を調べたりする活動を通して、学校に愛着をもち、安全に気を付けて楽しく学校生活を送ろうとする。

標準的な展開例

01060102_001

【準備等】記録カード（発見カード）、校内マップ、模造紙（中心に小さく校舎が描かれているもの）、白紙の模造紙（職員の顔写真を貼る用のもの）、校内や職員の写真

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学校はどんなところであるか、気付いたことや見付けたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校について知っていることを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校には校長先生がいます。 ・教室がたくさんあります。 ・階段や運動場が保育園よりも広いです。 ★学校探検隊になろう ○探検したい場所を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・お兄さんやお姉さんが勉強しているところが見たいです。 ・保育園にはなかった部屋が見てみたいです。 ・外には何があるのか見てみたいです。 ○探検をする際の約束事を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・廊下で会った人にあいさつをするのは、あいさつをする気持ちがいからです。 ・幼稚園のときも、あいさつをしましょうと先生が教えてくれました。 ・廊下を静かに歩くのは、勉強している人のじゃまになってはいけなからです。 <p>2 学校はどんなところであるか、気付いたことや見付けたことを発表し合う。</p> <p>★学校を探検しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校舎内を探検する。 <ul style="list-style-type: none"> ・知っている文字を見付けたよ。 ・跳び箱が8段まであったよ。 ・消火器は火を消す道具だね。 ・AEDの場所は覚えておこう。 ○校舎内を探検して見付けたことを発見カードにかき、伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・校長室に行きました。校長先生が仕事をしていました。 ・体育館がありました。みんなが運動をしていました。 ・音楽室に行くと、6年生が校歌を歌ってくれました。 ・保健室に行くと、養護の先生がいました。どんなときに保健室に来るのか教えてもらいました。 ・用務員さんに会いました。どんなことをする人なのか今度聞いてみたいです。 ○カードを校内マップに貼る。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じ音楽室でも気付いたことが違うね。 ・〇〇さんの図書室のカードを見て、もう一度図書室に行ってみたくなったよ。 ・学校にはたくさんの教室があるんだね。 ・校内マップを発見カードでいっぱいになりたいな。 <p>3 校庭を探検する。</p> <p>★校庭を探検しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○約束事を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・門の外には出ない。 ・帰ってきたら手洗いうがいをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の観点をもたせ、誰がいるのか、何があるのか、どんなところであるのかという幼児教育施設との共通点や相違点を考えさせる。 ・児童の発表から、学校にはまだまだ秘密が隠されていることを伝え、実際に見てみたいものやもっと知りたいことがないかを問いかけ学校探検に出かける活動につなげていく。 ・上級生の活動を見せる場面や職員に話を聞く場面など、事前に活動の趣旨を伝え、全校的な協力体制をとるようにする。 ・探検する場所は、児童の意見に合わせてつつ、教科書P.4～5を参考にして、音楽室や理科室など上級生の活躍が見られる場所や、学校の特色が表れている場所を選ぶようにする。 ・教科書P.5の「やくそく」を参考にしながらなぜそのような行動をするのかを児童に考えさせ、約束事を意識して探検するように促す <p>【評】あいさつの仕方や廊下の歩き方を確認する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が引率をし、学級全体で探検をする。 ・探検の観点は、児童自身が興味のあるものだけでなく、出会った人や幼児教育施設との相違点や共通点にも目を向けることを促す。また、国語科や書写、算数科などの教科書にも文字見付けや数見付けなどの学習が出てくるため、関連させるとよい。 ・消火器やAEDなど安全や救護の道具があることにも目を向けさせる。 ・児童のつぶやきがあった場所などの写真を撮り、後で振り返られるようにしておく。 ・気付いたことや発見したことを、発見カードにかかせる。発見カードは、絵で表したり、絵と文字で表したりするなど、一人一人に合わせた方法を探る。 ・友達の発表に対する感想をつぶやいた児童や自分の感想を交えて発表した児童を取り上げ友達の良いところを見付けたことを称賛する。 ・マップを近くで見せ、思ったことを自由につぶやいてもよい雰囲気作りをする。 ・学校には様々な施設があり、多くの人がいてくれることに気付かせるとともに、学校は安全で楽しいところだと実感させる。 <p>【評】気付いたことを伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内マップを使って前時までの活動を想起させ、学校探検にまた行ってみたいという気持ちを高めさせる。 ・担任が引率をし、学級全体で探検をする。 ・児童が安全面や衛生面について意識を高めら

- 校庭を探検する。
 - ・みんなが大きな声で体操しているね。
 - ・鉄棒が高いな。
 - ・池におたまじゃくしがいるね。
- 4 校庭を探検する。
- ★見付けたことをお話しよう
 - 校舎内を探検して見付けたことを発見カードにかき、伝え合う。
 - ・飼育小屋にかわいいうさぎがいました。触ってみたいですね。
 - ・花壇にきれいなお花がありました。2年生が1年生の入学式のために育ててくれたと聞きました。1年生も花を育てるのかな。
 - カードを模造紙に貼る。
 - ・学校のことが前より分かるようになったね。
 - ・ここにはてんとう虫がいっぱいたったよ。また見に行きたいな。
 - ・うさぎのことをカードにかいた人がたくさんいるね。うさぎと仲良くなりたいな。
- 5 校内マップや写真を見て、もっと知りたいことを伝え合い、次の探検の計画を立てる。
 - 校内にある物や教室の写真を見て、何をする場所だったか、どんな様子だったかを思い出す。
 - ・この写真は図書室です。本が読める部屋で、たくさん本がありました。
 - ・この写真の人は校長先生です。校長室にいました。
 - ・この写真は音楽室です。太鼓の他にどんな楽器があるのか知りたいです。
 - ★学校探検の準備をしよう
 - 学校のことを詳しく知る方法を考える。
 - ・もう一度探検する。
 - ・会いに行って、直接お話を聞く。
 - 児童の興味のある場所や人を挙げ、コースやグループ決めるをする。
 - ・1グループ4～5人にする。
 - ・複数箇所を探検してもよいが、必ず1回はインタビューができるようなコースにする。
 - 聞きたいことを考え、インタビューの練習をする。
 - ・「失礼します。こんにちは。用務員さんは何のお仕事をするのですか。（インタビューが終わったら）ありがとうございました」
 - ・相手に聞こえる声で、目を見て話す。
- 6 グループに分かれて学校探検をする。
- ★自分たちで学校探検をしよう
 - グループに分かれて学校探検をする。
 - ・職員室、音楽室、理科室コース
 - ・用務員さん、保健室、掲示物コース
 - ・図書室、特別支援学級、校長室コースなど
 - 分かったことや気付いたことを発見カードにかく。
 - ・校長先生の似顔絵の近くに「こうちょうせんせい」と書きたいな。
 - ・図書室には、本の並び方も分かるように絵と文で説明したいな。
- 7 発見カードの内容を伝え合う。
- ★見付けたことをまとめよう
 - 発表の練習をする。
 - ・用務員さんにお話を聞きました。用務員さんのお仕事は、校内の掃除や草花のお世話をしていることが分かり

れるように声掛けをする。

- ・教科書P.6～7を見て、探検で見付けたいものを参考にさせてもよい。
- ・児童のつぶやきがあった場所を中心に写真を撮り、後で振り返られるようにしておく。

【評】探検の様子から「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・気付いたことや発見したことを発見カードにかかせる。発見カードは絵で表したり文字で表したりするなど、自分に合った方法で取り組むように促す。
 - ・発表の前に、前回友達の見解に対してつぶやきがあった児童や見たことに加えて感想を言っていた児童の例を取り上げ、よい発表や聞き方について気付かせる。
 - ・模造紙の中心に校舎を描き、遊具や飼育小屋などの位置関係が分かるようにする。
 - ・模造紙を近くで見せ、思ったことを自由につぶやいてもよい雰囲気作りをする。
 - ・校庭にもたくさん発見があったことを確認し学校は安全で楽しい場所であることをより実感させるような声掛けをする。
- 【評】気付いたことを伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・まずは写真を見せ、何の写真であるかクイズ形式にして児童の意欲を高める。
 - ・思い出させる活動を通して、学校探検でわくわくした気持ちやもっと知りたくなった気持ちを想起させる。なかなか意見が出ないときは教師が「どんな道具があったか」「どんなことをする人か」などの問いかけをし、知りたい気持ちをもたせる。
 - ・2回目の探検は、児童のみで探検に行くことを伝える。
 - ・児童からのもっと知りたいという思いや願いを取り上げ、学校にはまだまだ秘密があることを伝え、2回目の学校探検につなげる。
 - ・児童同士での話し合いが難しい段階であるため、生活班もしくは児童の興味に合わせて教師が意図的にグループを組み、後からコースを考える。また、児童の意見を基に教師が探検コースを幾つか用意し、児童に選ばせてもよい。
 - ・教科書P.11「ものしりのうと」を見て、インタビューの仕方や挨拶の必要性について考えさせる。また、必要に応じて国語科の「なんていおうかな」を参考にしたり関連させたりする。
 - ・インタビューの練習を十分にして、自信をもって臨めるようにする。
- 【評】場に応じた態度や言葉遣いの練習を通して「知識・技能」を評価する。

- ・教科書P.5「やくそく」を確認しておく。
 - ・困ったときにどうしたらよいか、対策や約束事を事前に決めておく。
 - ・探検が終わったら、児童から自分たちだけで探検に行けた感想を十分に聞くようにする。
 - ・気付いたことや発見したことを発見カードにかかせる。発見カードは、絵に加えて、単語や文でも表現できるとよい。
- 【評】インタビュー活動や発見を通して「知識・技能」を評価する。

- ・発表はグループ単位で行う。
- ・一人一箇所を担当させ、2～4文話せるようにする。見聞きしたことに加えて、自分の感想や考えたことを話すように促す。手立てとして「〇〇を見ました（お話を聞きました）」

ました。学校で会ったら、自分から挨拶したいです。
・校長室を見ました。校長室には、大きなソファや賞状がありました。校長先生に〇〇小学校のいいところを教えてくださいました。学校のことがもっと好きになりました。

8 発見カードの内容を伝え合う。

★グループの「はっけん」をお話しよう

○発表会をする。

○発見カードを、校舎内の物については校内マップに貼り学校で働く人については白紙の模造紙にそれぞれ貼る。
・〇〇さんの発表していた先生に、わたしも会ってみない。
・学校にはたくさんの先生がいて、お仕事が決まっているんだね。

9～10 完成したマップを見ながら学校探検を振り返る。

★ぼく・わたしの一番の「はっけん」を報告しよう

○マップや発見カードを見て、学校について分かったことを発表する。
・保育園とは違って、学校には勉強するための部屋や道具がたくさんありました。
・学校は幼稚園とは全然違うと思っていたけど、遊具や楽器など、似ているところもありました。

○自分にとっての一番の発見を伝え合う。
・校庭の花壇に咲いている花です。きれいに咲いている花を大事にしたいです。
・図書室です。本が好きだからわくわくします。今度本を読みに行きたいです。
・校長先生と握手をして仲良くなったことを宝物にしたいです。もっとたくさんの先生と仲良くなりたいです。

○探検隊になってよかったことやできるようになったことを伝え合う。
・インタビューをしたら、最初は知らなかった先生と友達になることができました。
・職員室に入るときに挨拶をしました。ドキドキしたけど、言えるようになってよかったです。
・学校探検をして、学校のことがよく分かり、学校のことが大好きになりました。

〇〇は～するところ（人）です。…と思いました」など、児童の実態に合わせて話形を提示してもよい。

・グループごとで、話す順や内容を相談する時間や練習の時間を設ける。
・探検で見聞きしたことに加えて、自分の考えがもてる児童や友達の発表を聞いて感想がもてる児童が増えるような声掛けをする。
・学校には、自分たちのために働いている人がたくさんいることに気付かせる。
・白紙の模造紙には「せんせいずかん」など、学級や学校独自の名前を付けてもよい。
【評】発表を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・全てのマップを貼り出し、学習の成果が分かるようにする。

・探検を振り返り、幼児教育施設との共通点や相違点、学校の施設や人々にはそれぞれ役割があることに気付かせる。また相違点として学校は学習をする場であることを確認する。
・一番を決めることで、児童は学校生活を自分事として考えられるようになり、学校をより身近に感じることを期待できる。
・まずは探検に行ったグループで自由な雰囲気伝え合わせた後、全体で交流させるとよい

・発表するときには、一人一人発言する機会を設ける。そうすることで、友達の発表を聞いて、自分の思いを広げたり深めたりするだけでなく、自分が発表したときの友達の反応を見て嬉しくなったり安心したりする気持ちがもてることをねらう。
・学校探検を通して自分の成長に気付かせる。

【評】伝え合いを通して「思考・判断・表現」を評価する。

・学校探検を通して発見したことや考えたことを家族や違う学級の友達に伝えたいような声掛けをするとよい。

【評】単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

・スタートカリキュラムを参照する。

単元名 わたしのあさがお(1)

配当時間 11時間

- 単元の目標 (1) 栽培活動を通して、植物も自分たちと同じように生命をもって成長していることや、成長の変化の特徴に気付くことができる。
- (2) 育てている花のことを知り、よりよく育つための世話を工夫したり、植物の変化の様子や成長の喜びを自分なりの方法で表現したりすることができる。
- (3) きれいな花を咲かせたいと願いながら、植物に親しみをもって大切に育てようとしている。

標準的な展開例

01060103_001

【準備等】アサガオの種、栽培用の土、スコップ、植木鉢、じょうろ、肥料、名札、支柱、図鑑、記録カード、ICT機器等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 アサガオの種を選び、種を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに植物を育てた経験を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園でアサガオを育てました。 ・ 家でお花を育てています。わたしが水やりの係です。 ○ 教科書P. 16～17を見て、これからの学習活動を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アサガオを育てているね。ぼくもやってみたいね。 ・ アサガオってこんなに大きくなるんだね。 ・ 植木鉢に絵を描いているね。すてきだね。 <p>★種を選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まきたい種を5粒選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きい種は大きいアサガオになるのかな。 ・ こんな小さな種からアサガオの花が咲くんだね。 ・ 少しずつ形が違っているよ。 <p>○ 種の記録カードのかき方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ このときの気持ちを顔にして描いています。 ・ 日にちと名前は忘れずに書きます。 ・ 自分の指と種の大きさを比べています。 ・ 「たねをもちあげている」「たねのぼうし」がおもしろい言い方だと思いました。 ・ アサガオがしゃべっています。アサガオとお友達になってみたいです。 </p> <p>○ 観察したことを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どこから芽が出るのかな。 ・ すいかを切ったときの形に見えたよ。 ・ たくさん花を咲かせてね。 ・ 他の花の種と比べてみよう。 ・ 硬くて黒くて小さいね。 </p> <p>3～4 自分の種を準備し、種をまく。</p> <p>★アサガオの種をまこう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書を見て、種をまくときに必要な道具や種のまき方を友達と相談しながら考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 植木鉢の下の方と上の方、どちらにまくと早く芽が出るのかな。 ・ 植木鉢は日がよく当たるところに置いた方がいいのかな。 <p>○ 種まきの仕方を確認し、種をまく。</p> <p>○ これからの世話の仕方について伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日水やりをしよう。 ・ 草が生えてきたら抜いた方がいいね。 ・ 肥料をあげたほうがいいかな。いつあげたらいいかな </p> <p>5 発芽の様子を観察し、観察の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 芽が出て嬉しい気持ちを分かち合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 芽が出て嬉しかった。 ・ わたしの芽はなかなか出なくて心配だったけど、ちゃんと出てきてくれたよかった。 ・ 小さくてかわいいなと思った。 <p>★芽の様子を観察しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発芽の様子を観察し、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 芽は小さかったです。 ・ わたしのアサガオは種の帽子を被っています。 ・ 毎日水をあげたから芽が出ました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な経験を発表し合い、植物を育てることの楽しさや喜びを思い出させ、これからの学習の意欲付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 16のイラストを見て、育てたい花をどうしたいのか考えさせてもよい。 ・ 種から栽培を始めることを伝え、種の段階から愛着がもてるような学習にする。 ・ 教科書P. 19やP. 24～25の記録カードを見て、どんなことをかけばよいかを児童に考えさせる。また、表現の仕方や比べ方にも注目させる。 ・ 吹き出しを付けていることにも注目させる。アサガオの気持ちを想像させることで、吹き出しがないときよりもアサガオへの親近感や愛着が湧き、楽しく観察できることに気付かせるとよい。 ・ 記録カードのかき方は、国語科の教科書と関連させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P. 19の写真を見せ、他の植物の種の大きさや形、色などを比較させたい。 ・ 児童の発達段階に応じて、絵のみで表現させてもよい。 <p>【評】種の観察を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体操服に着替えるなど、外で作業をするときは衛生面にも配慮する。以後も同様に指導する。 ・ 児童に話し合わせた後、教科書P. 21「ものしりのうと」から、種のまき方を学習する。 ・ 土に指を指すときは「ツンツン」、種に土を被せるときは「ふわふわ」など、児童にとって想像しやすい言葉を選んで指導する。 ・ 教室に帰るときには、手洗い・うがいをさせる。以後も同様に指導する。 ・ 児童の生活経験から、水やりなどの世話が必要であることを引き出し、世話の仕方を考えさせる。 <p>【評】種まきの様子や伝え合いを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの児童が発芽した時期に授業時間を設定する。 ・ 児童によって発芽時期が異なるので、世話することへの意欲が低下しないように配慮し発芽への期待をもたせるようにする。教科書P. 22～23の優しい言葉を掛けている児童の絵に注目させる。 ・ 最初に気付いたこと、感じたことは十分に共有する時間取るようにする。伝え合うことで、アサガオへの愛着をより深めたり、自分の思いが認められたという満足感を得られた

・芽がいっぱい出て窮屈そう。

- アサガオを詳しく観察するための方法を知る。
 - ・まずはじっくり、次にいろいろな方向から見るとだね
 - ・耳や鼻や手を使って確かめることもできるね。
 - ・比べたり、何かに例えたりしてもおもしろいね。
 - ・教科書P.23の写真を見ると、他のお花の芽と比べることができるね。

6 発芽の様子を詳しく観察し、記録カードにかく。

★自分のアサガオの秘密を見付けよう

- アサガオを観察するときの観点を確認する。

- 楽しく観察するための方法を知る。
 - ・みるみるメガネ（虫眼鏡：より細かい部分まで観察するための道具）
 - ・もしもしフォン（紙コップ：糸電話のように使い、アサガオの心の声を想像するための道具）
- アサガオの観察をする。
 - ・じっくり見たら、アサガオには毛が生えていたよ。
 - ・みるみるメガネを使ったら、毛がしっかりと見えたよ
 - ・どんな匂いがするのかな。
 - ・この葉っぱ、ちょうちょに似ているね。
 - ・もしもしフォンを使ったら、「毎日お水をありがとう」って言っていたよ。
- 観察したことを記録カードにかく。
 - ・芽の間に新しい葉っぱができていたよ。
 - ・触ったら、芽はつるつるしていたよ。
 - ・アサガオさんが、「毎日見てくれてありがとう」って言っていたよ。
 - ・芽が出て嬉しいよ。大きくなってね。
- 気付いたことを発表する。
 - ・〇〇さんと一緒に、ぼくも芽の形がちょうちょに見えたよ。
 - ・他の花の芽と比べたら、アサガオの芽はしわしわだったことに気付いたよ。
 - ・どんなふうになるのか楽しみだな。

7～8 アサガオの世話について考える。

★アサガオがすくすく育つために、これからどんなお世話をするか考えよう

- どんな世話をしたらよいか考える。
 - ・今まで通り毎日水をあげるとよいです。
 - ・草が生えたら抜いた方がよいと思います。

- 肥料や間引きについて知る。
 - ・間引いた芽は、記録カードに貼りたいな。
 - ・間引いた芽は、新しい植木鉢に植えたいな。
 - ・家に持って帰って育ててみたいな。
 - ・押し花みたいにできるかな。
- 追肥や液肥をあげたり、間引きをしたりする。
 - ・肥料は栄養ドリンクみたいだね。
 - ・間引きをしたから、広がって嬉しそう。

- 感想を伝え合う。
 - ・肥料をあげたから、いつもよりも喜んでいると思います。
 - ・間引きをしてしまって、少し悲しいけど、残ったアサガオにその分がんばってほしいです。
 - ・新しい葉っぱが大きくなると、芽はどうなるのかな。

9 必要に応じて世話をしたり、成長の様子を記録カードにかいたりする。（常時活動を含む）

★アサガオが元氣よく育つために、どんな世話ができるか考えよう

- 困っていることを伝え合う。
 - ・つるが地面に付いてしまいました。
 - ・わたしのつるが、お友達のつると絡まりそうです。

りすることをねらい、次の詳しく観察する活動への意欲付けを図る。

- ・教科書P.115「まなびかたずかん」を参考にして、観察の仕方を確認する。

【評】観察の仕方を知る活動から「知識・技能」を評価する。

- ・全員が発芽した時期に、授業時間を設定する

- ・前時で既習している諸感覚を使うことを確認する。
- ・児童がアサガオに対して思いや願いがもてるような指導の工夫をする。声掛けだけでなく思考が深まったり観察がさらに楽しくなったりするような道具を用意するのもよい。

- ・気付いたことは周りの友達に自由に伝え合える雰囲気作りをする。
- ・たとえたり比べたり、自分の思いを表現したりしている児童がいたら称賛し、全体で共有できるようにする。

- ・この時期の児童の実態に合わせ、記録カードは絵と文の両方でかかせる。
- ・記録カードには、吹き出しやハートの枠などを用意し、児童が自然と思いや願いを書き出せるような工夫をするといよい。

- ・友達の発表を聞いて、自分の意見と比べたり付け足したりできるような雰囲気を作り、一人の意見が広がっていくようにするとよい。
- 【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・植えた種のおおよそが発芽した時期に行う。

- ・前時の児童の思いや願いを想起させ、本時の活動につなげるようにする。
- ・教室に園芸の本や植物の図鑑を置いておくなど、児童が自分で世話の仕方を調べられるようにしておく。
- ・児童の自由な発想を受け入れるとともに、今までやっていた世話と新しい世話とを分けて考えさせ、追肥や間引きに興味をもたせる。

- ・肥料を使うときの注意点を伝える。
 - ・間引いた後の芽をどうしたいか考えさせる。命を大切にしようとする意見があれば称賛し学級全体に広げていく。
 - ・間引いた芽のことを悲しんでいる児童がいたら、児童の気持ちを十分に受け止め、植物にも命があることを伝える機会にしたい。
 - ・間引いた芽をどうするかは、児童の思いや願いにできるだけ寄り添えるようにしたい。
 - ・これからも嬉しかったことだけでなく、困ったことも学級で共有し、みんなで解決策を考えていこうとする雰囲気作りをしたい。
- 【評】世話の仕方や気持ちを伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・必要に応じて、つるなどの名称を確認しておく。
- ・最初から支柱を教師が提示するのではなく、

- 困っていることの解決策を伝え合う。
 - ・園では棒を立てていたよ。
 - ・支柱を立てよう。
- アサガオの変化や成長の様子、世話したことを記録カードにかく。
 - ・支柱を立てたら、つるが巻き付いてきました。
 - ・支柱からはみ出しているつるを、優しく支柱に巻き付けたら「ありがとう」と言ってくれました。
- アサガオの様子や気付いたことなどを伝え合う。
 - ・つるは、こんなふうに支柱に巻き付いていました。（動作化で表現）
 - ・アサガオのつるは、何かに巻き付いて伸びようとしていることが分かりました。
 - ・アサガオのつるは、支柱があると上に伸びていけることも分かりました。
- 10～11 開花の喜びを記録カードにかき、伝え合う。
 - 花が咲いて嬉しい気持ちを分かち合う。
 - ・一生懸命育てたので、花が咲いて嬉しかったです。
 - ・毎日水やりをしたから、お花が咲いたと思います。
 - ・これからも、もっともっと大切にしたいと思います。
 - ★きれいに咲いた花を観察しよう
- つぼみや花の様子を観察し、記録カードにかく。
 - ・3つも花が咲いて嬉しいです。ソフトクリームみたいなつぼみを見付けました。
 - ・花びらを触ったらしっとりしていました。花に近づくといい匂いがします。
 - ・アサガオの高さがぼくの首くらいまでになったよ。
- つぼみや花の様子を伝え合う。
 - ・〇〇さんは、つぼみをソフトクリームみたいと言っていただけ、ぼくはロケットに似ていると思います。
 - ・アサガオも、わたしたちみたいに成長するんだね。
 - ・しぼんだアサガオがありました。しぼんだ後はどうなってしまうのかな。
- しぼんだ花で色水作りをする。
 - ・花の色によって、色水の色も変わるんだね。
 - ・しぼんだお花も大切にできてよかったよ。
- 夏休みの世話について話し合う。
 - ・持ち帰って毎日水やりをしたいです。
 - ・夏休みも色水作りをしてみたいです。
 - ・夏休みも咲いたお花の数を数えたいです。
 - ・うちの人も、アサガオの声を聞いてほしいな。

- 児童から困っているという声を引き出し、解決策を考えさせ、児童に自分で植物を育てていると実感させる。
- ・図鑑やこれまでの経験などを基にして、ひらめいたことから解決策を導き出したい。教科書P. 26～27を見せ、支柱のヒントとして使うことも考えられる。
- ・変化に気付きやすくするため、前回の記録カードを見返してから観察させる。
- ・諸感覚を使ったり、観察の思考や楽しさが深まるような道具を使ったりするよう声掛けをする。
- ・自分の気持ちも書くように指導し、アサガオへの親しみを自覚できるようにする。
- ・必要に応じて追肥や草抜きなどの世話をする
- ・親しみと期待の目でアサガオを見つめ、心を寄せながら世話をしている様子が伝わる表現を称賛し、全体へ広げる。
- 【評】観察や記録カード、伝え合いを通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。
- ・必要に応じて、つぼみなどの名称を確認しておく。
- ・咲いた花の数や色が記録しておけるようなカードを用意しておき、児童が常時活動として取り組めるようにしておく。
- ・咲いた花の数を数えたり、匂いや手触りを確かめたりするなど、開花した花と関わりを深めさせ、開花の喜びを実感させる。
- ・自分の気持ちも書くように指導し、アサガオへの親しみを自覚できるようにする。
- ・教科書P. 29を参考にして、他の植物の花と比べさせ、形や大きさ、色などの違いに気付かせるようにする。
- ・親しみと期待の目でアサガオを見つめ、心を寄せながら観察や世話をしている様子が伝わる表現を称賛し、全体へ広げる。
- ・他の植物の花との比較を通して、アサガオの特徴を確認する。その際、教科書P. 30～31を参考にし、花が咲く様子だけでなくこれまでの記録カードを見せ、芽からの成長の様子を振り返ってもよい。
- ・アサガオもみんなと同じように命があり、成長していくことに気付かせる。
- 【評】観察や伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。
- ・しぼんでしまった花も大切にしたいという意見を児童から引き出し、色水作りにつなげる
- ・夏期休暇中にも、継続的に栽培活動が行えるように家庭にも協力を依頼し、夏休みに鉢を持ち帰らせ、休み明けに植木鉢を持ってくるよう伝える。
- ・夏期休暇中にできた種は、かびないように日陰で十分に乾燥させて紙袋に入れて保管するとよいことも伝える。
- 【評】栽培活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 あめとあそぼう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) いろいろな人々が公園を利用していることや、自然を利用したり遊ぶ物を作ったりすることの楽しさに気付くことができる。
(2) 遊び方を工夫したり、自分が楽しんだ遊びや感じ取った自然の様子を考えたり、表現したりすることができる。
(3) 四季の移り変わりに関心を持ち、自然や人々と関わりながら季節に応じた遊びを楽しもうとする。

標準的な展開例

01060104_001

【準備等】記録カード、長靴、雨傘、レインコート、バケツ、瓶、缶 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 雨の日の景色や植物を観察したり、雨の日の遊びを楽しんだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 雨の日は、晴れの日と比べてどこが違うか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 空が暗いです。雲が黒いからです。 ・ 濡れるので外では遊べません。 ・ 雨が降るとザーザーやポツポツと音がします。 ★ 雨のすてきを見付けよう <p>○ 外に出て、雨の景色や様子、遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お花がしぼんでいるよ。 ・ 空き缶に入った雨はカンカンって鳴っているよ。 ・ 水溜まりが鏡みたいになっているね。 ・ 水溜まりに入ってみよう。 <p>○ すてきに思ったことを1つ選んで記録カードにかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉っぱやクモの巣に付いた雨がきれいでした。 ・ すてきな音を見付けました。雨がバケツや空き缶に入っているいろいろな音がしました。雨の音楽会みたいです。 <p>○ かいたことを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨が降っている日に授業を設定する。 ・ 長靴、雨傘、レインコートが必要であることを事前に家庭に連絡しておく。 ・ 雨の音を感じられるようなバケツや瓶、缶などを用意しておく。 ・ 雨の日の景色や植物、生き物、自然の変化に関心をもたせ、めあての提示につなげる。 ・ 雨はどんな形や音、匂いをしているか問いかけ、雨の日ならではの自然があることを見付けることを伝え、活動の見通しをもたせる。 ・ 傘を差して外に出る。 ・ 諸感覚を使って雨の日の自然の様子や、雨の日の楽しい遊びを見付けるよう見守る。 <p>・ 景色や音色、植物や生き物の様子、遊びなどのさまざまな観点から気付いたことをかくように伝える。</p> <p>【評】 自然との触れ合いで気付いたこと、記録カードを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価し、雨のよさや遊びを見つかる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 あつくなつたよ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) いろいろな人々が公園を利用していることや、自然を利用したり遊ぶ物を作ったりすることの楽しさに気付くことができる。
- (2) 遊び方を工夫したり、自分が楽しんだ遊びや感じ取った自然の様子を考えたり、表現したりすることができる。
- (3) 四季の移り変わりに関心を持ち、自然や人々と関わりながら季節に応じた遊びを楽しもうとする。

標準的な展開例

01060105_001

【準備等】記録カード、汚れてもよい服装、タオル、水遊びのための道具（マヨネーズや食器洗剤などの空容器、じょうろ）、土遊びのための道具（スコップ、じょうろ、バケツ、プリンカップ）、シャボン玉の材料・道具（団扇、ハンガー、ストロー、洗濯洗剤）等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 体全体で水や土を使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏になって、自然や人々の生活の様子などで変わってきている点について話し合い、学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 暑くなってきました。 学校の畑のヒマワリが咲いていました。 セミが鳴いています。クワガタもいます。 <p>★水を使って遊ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> 外でどんな遊びがしたいか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 泥遊びがしたいです。 水鉄砲で的当てがしたいです。 遊びができる服装に着替えて、水や土で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> マヨネーズの容器をぎゅっと押したら、水が遠くまで飛んだよ。 水はたっぷり入れた方が遠くまで飛ぶんだね。 誰が遠くまで飛ばせるか勝負しよう。 〇〇さんに教えてもらって、泥団子を作ったよ。 運動場に水で絵を描いてみたらすぐに消えちゃった。暑くて乾いてしまうのかな。 <p>4～5 道具を工夫したり、吹き方を工夫したりしながら、シャボン玉遊びを楽しむ。</p> <p>★いろいろな形のシャボン玉を作って遊ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> シャボン玉遊びのめあてを考える。 <ul style="list-style-type: none"> 大きいシャボン玉を作りたいな。 四角いハンガーを使ったら、四角いシャボン玉ができるのか試してみたいです。 安全面の約束をする。 おもしろいシャボン玉を作って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> どっちが多くシャボン玉を作れるか勝負しよう。 高く飛ばすにはどんなコツがあるのかな。 大きなシャボン玉はどうやって作るのかな。 <p>6 楽しかった夏の遊びを振り返り、夏休みにやってみたいことを話し合う。</p> <p>★楽しかった遊びを紹介しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 水遊びや土遊び、シャボン玉遊びなど、楽しかった遊びを選んで記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> 団扇を使ったら、一度にたくさんのシャボン玉作れました。 〇〇くんが、水鉄砲はぎゅっと押したら遠くまで水が飛ぶことを教えてくれました。遠くに飛ばせて気持ちよかったです。 かいたことを伝え合う。 夏休みにやってみたいことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> セミを捕まえたいな。 泳げるようになりたいな。 夏休みに注意しなければならないことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 川や海で遊ぶときは、おうちの人から離れないようにしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に家庭に呼びかけ、マヨネーズやケチャップなどの空容器や団扇、ハンガー等を集め学習環境を整えておく。 地域の実態に応じて、近くで水遊びができる安全な川や海があれば出かけてもよい。 春と夏を比べて気付いたことを問いかける。教科書P. 50～51を見て、日差しや空模様、植物や生き物などの気付きを促す。 この時期にできそうな遊びを問いかけて、めあての提示につなげる。 教科書P. 52～53を見ながら、水遊び、川遊び、土遊び、シャボン玉等ができることを想像させ、2つの活動の計画を立てる。 水着など、汚れてもよい服装で活動する。 マヨネーズやケチャップの空容器を持たせ、水を入れて遊ばせる。どうやったら遠くまで水を飛ばすことができるかは、教師が教えるのではなく児童同士で見付けられるようにする <p>【評】水や土遊びを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャボン玉を作る道具は児童にとって身近である団扇やハンガー、ストローなど大きさの異なる輪や丸くない輪など、多様な物を用意し、様々な工夫ができるようにする。 道具を見せ、どんなシャボン玉ができそうか問いかける。 誤飲防止のために、ストローには小さな穴を開けておくといよい。 大きなシャボン玉を作る方法など、遊びを工夫する中で生まれた気付きを取り上げ、全体に広めることによって、夏の遊びを楽しもうとする姿が期待できる。 <p>【評】シャボン玉遊びを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 気付きを共有させることで、水を使って楽しく遊べることや、遊びを工夫する面白さや、水の性質の不思議さ、夏の自然に楽しく関わることができた自分や友達のよさに気付かせる。 教科書P. 54～55を見て、遊びたいことを想像したり気を付けることを確認したりする。 <p>【評】記録カードや伝え合いを通して「思考・判断・表現」を評価し、単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 いきものだいすき

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 生き物の世話をすることの楽しさや喜びに気付くとともに、生き物が自分たちと同じように生命をもっていることに気付くことができる。
 (2) 生き物と触れ合いながら、生き物が喜んでくれるような世話の方法を考えたり、生き物について気付いたり感じたりしたことを表現することができる。
 (3) 生き物に親しみをもち、意欲的に生き物に触れたり世話をしたりして大切にしようとする。

標準的な展開例

01060201_001

【準備等】記録カード、感想カード（付箋などの2色の紙）、飼育ケース、えさ、生き物の図鑑 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 動物にじかに触れたり、えさをやったりしながら動物と関わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに動物と触れ合ったり育てたりした経験を伝え合い、学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園でモルモットを飼っていました。 ・ 家で犬を飼っています。ぼくが家に帰るとしっぽを振って迎えに来てくれるのでかわいいです。 <p>★動物と触れ合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 動物にじかに触れたり、餌をやったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どうやって抱っこしたらいいのかな。 ・ おなかを触ったよ。温かいね。 ○ 気付いたことを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャベツをあげたらおいしそうに食べていました。 ・ 毛がふわふわです。なでると気持ちよさそうです。 ○ 気付いたことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ もっと触りたいな。 ・ これからもっと仲良くなりたいです。 <p>3～4 動物に触れて温かい感触を体感したり、世話をしたりする。（常時活動を含む）</p> <p>★動物と仲良くなろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲良くなる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 動物の喜びそうなことを調べたらよいと思います。 ・ 毎日観察やお世話をするとよいと思います。どんなお世話ができるかな。 ・ 名前で呼んだり、なでたりすると仲良くなれると思います。 ○ さまざまな調べ方を知り、動物との関わり方や世話の仕方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本で調べる。（教科書や図鑑） ・ 上級生や家の人に聞く。 ・ 動物園の飼育員や獣医に聞く。 ○ 動物に直に触れたり、動物の世話をしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 心臓の音がドクドク聞こえるよ。 ・ 右手はおなか、左手は背中を持って抱っこするんだね。 ・ 嫌がったら静かに下ろしてあげよう。 ・ 逃げちゃうよ。どうしたんだろう。 ○ 気付いたことを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ わたしはふわふわの毛が好きです。 ・ 糞は小さくて、みんな同じ大きさでした。 ・ 小さな手をしていて、爪もありました。 ・ 抱っこしようと思ったら逃げてしまいました。抱っこしたかったけど、うさぎの気持ちを考えてやめました。 <p>5～6 飼育活動を振り返り、心に残ったことを発表する。</p> <p>★思い出発表会をしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物園に行ったり、移動動物園を招いたりするなど世話をせずに動物と出会うのみの学習にしてもよい。その際、温かい動物に触れるような学習を計画する。学習内容については学校の実態に合わせて変更する。 ・ 教科書P.82～83を見せ、これまで動物と触れ合った経験や世話をしてきた経験を発表させる。 ・ 動物と仲良くなれた経験を児童から引き出しめあてを提示し、単元の見通しをもたせる。 ・ 生き物に触る前と触った後には手を洗うことを指導する。以降も同様に指導する。 ・ 動物を抱き、体温を感じることで動物にも生命があり、尊いものであることをより実感させる。 ・ 教科書P.87を参考にしてもよい。動物の様子や気付いたことが絵や文でかけるとよい。 ・ 本時の感想や気付いたことを伝え合わせ、動物への関心を高め、動物と友達になってみたいという意見を引き出したり、どうしたら仲良くなれるかを問いかけたりして次時の活動につなげる。 <p>【評】触れ合いや記録カードを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動物をゲージなどに入れたり休み時間に飼育小屋に行ったりするなど、いつでも観察したり触れ合ったりできる環境を整えておく。 ・ 前時の学習を想起させ、動物と仲良くなりたい気持ちを確認し、本時のめあてにつなげる。 ・ 正しい世話の方法を知る必要性を感じさせ、調べ学習につなげる。 ・ 教科書P.86～87「もっとなかよくなるひみつ」、P.88～89「ちゃれんじずかん」を見て正しい接し方や世話の仕方を学ぶ。 ・ 地域と連携し、飼育員や獣医などを外部講師として招けるとよい。 ・ 前時よりも長い時間を取り、一人一人が触れ合えるような十分な時間をとる。 ・ 聴診器があれば心臓の音を聞かせ、自分と同じように生きていることを実感させる。 ・ えさをあげたり飼育小屋の掃除をしたりする。 ・ 動物との関わりが上手くいかないときは、相手の立場に立って考え、相手を理解する大切な機会として捉えるよう児童に伝える。 ・ 観察して気付いたことだけでなく、動物の好きなところや世話をした感想、動物に対する思いや願いも書くよう指導する。 <p>【評】動物の世話や記録カードを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○記録カードを読み返し、動物と触れ合ったことを振り返り、感想カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ずっと友達でいたいと思いました。 ・〇〇さんが持っていた葉っぱをおいしそうに食べていました。 ・〇〇さんが膝の上に乗せてなでると、とても落ち着いて見えます。 ○さまざまな発表の方法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・誰に何を伝えるのかを決める。 ・話す順序を決める。 ・発表の練習をする。 ・大きな声ではっきりと話す。 ○グループごとで発表の仕方を考えて、練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・お世話クイズを出そうかな。 ・仲良くなれて嬉しかったことを発表しよう。 ・うさぎの跳び方や寝方を劇にしてみよう。 ・チーム名を考えたり、看板を作ったりしてもいいね。 ○学級でミニ発表会を開く。 ○感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の気付きだけでなく、動物と関わる友達を見た気付きも書くよう促し、友達同士の交流や気付いてもらった喜びを味わわせることをねらう。 ・感想カードは「自分の気付き」と「友達を見た気付き」とで色を分ける。 ・4～5人のグループで発表させる。 ・教科書P.90～91, P.121「まなびかたずかん」を見て、ペープサートや紙芝居、ダンスや歌などさまざまな表現活動があることを知り実態に合わせて取り入れる。 ・紙コップなどの身近な物を使って工作させてもよい。 ・動物に触れ合った喜びが伝えられる内容や動物について気付いたり感じたりしたことを発表させる。 <p>【評】表現活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
---	---

- 【 備 考 】
- ・「温かい動物と触れ合い、命に対する感性を醸成する」ことを主眼に置き、第一学年の時期に扱いたい単元である。しかし、学校の状況によっては、この活動が難しいため「動物でも虫でもどちらでもよい」ことにしている。
 - ・「温かい動物の扱い」の例
 - ①動物園や学校飼育小屋で動物と関わる時間を設ける活動。
 - ②学校飼育小屋から一時的に教室に持ち込み、一定期間飼育する活動。
 - ③外部団体からの協力を得ながら動物や獣医と関わる時間を設ける活動。
 - ＜外部団体＞愛知県獣医師会、日本獣医師会、学校飼育動物関連事業、NPO法人あすくねっと、地域の獣医など
 - ・「温かい動物」の代わりに虫のみでこの単元を扱う場合、「むしだいすき」の学習の時間を増やすか、別の単元に充ててもよい。
 - ・児童のアレルギーについては事前に保護者に尋ねるなどして十分な対応を考えておく必要がある。

単元名 むしだいすき

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 生き物の世話をする事の楽しさや喜びに気付くとともに、生き物が自分たちと同じように生命をもっていることに気付くことができる。
 (2) 生き物と触れ合いながら、生き物が喜んでくれるような世話の方法を考えたり、生き物について気付いたり感じたりしたことを表現することができる。
 (3) 生き物に親しみをもち、意欲的に生き物に触れたり世話をしたりして大切にしようとする。

標準的な展開例

01060202_001

【準備等】記録カード、虫を飼育するための容器、虫かご 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 秋の校庭などで、虫を探したり観察したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○秋の虫を見つけた経験や好きな秋の虫について伝え合い学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・コオロギが鳴いているのを聞きました。 ・赤トンボを見ました。 ・スズムシの鳴き声がきれいだから好きです。 ・ダンゴムシを飼ってみたいです。どんなところに住んでいるのか知りたいです。 ★虫を探しに行こう <p>○校庭で虫を探すときの約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校庭で虫を探したり、観察したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・手だと捕まえにくいから、何か道具があったらいいな ・トンボは帽子では捕まらなかったよ。 ・コオロギを枯葉の下で見つけたよ。すぐに逃げるからゆっくり枯葉をめくるといいよ。 ・バッタは草むらの中にいるよ。驚かせないようにそっと近づくといいよ。 ○仲良くなりたい虫を捕まえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・いっぱい捕まえたけど、ちゃんとお世話できるかな。 ・ちょっとこわいな。仲良くなれるかな。 ・バッタを捕まえたよ。草も一緒に入れよう。 <p>3 捕まえた虫を友達と見せ合い、捕まえた場所や捕まえ方を伝え合い、虫を観察して記録カードにかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ぼく・わたしの虫を友達に紹介しよう ○捕まえた虫を見せ合い、虫の種類や見つけた場所、見つけたときの虫の様子を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのコオロギは、枯葉の下にいました。そっと枯葉をめくったら、枯葉の下にまた隠れようと思いました。 ・草むらの中を歩いていたら、このバッタが急に飛び出してきました。バッタと草の色は似ているので、どこに行ったら、なかなか分かりませんでした。 ○虫を観察して、観察カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・虫の名前 ・見つけた日にち ・見つけた場所や、見つけたときの虫の様子 ・虫の色や形、動き ・気付いたことや思ったこと ・これからしてみたいこと <p>4～5 より適切な虫の飼い方を調べて、すみかを整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★虫が喜んでくれるすみかを作って、もっと仲良くなろう ○虫が喜ぶすみかについて伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・バッタは草むらにいたから、すみかには草がいっぱいあった方が喜んでくれると思います。 ・餌がいっぱいあったら喜んでくれると思います。 ○虫の飼い方を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に保護者に向けて、虫を入れるための透明なパックや飼育ケースの準備を依頼しておくことよい。 ・教科書P. 92～93を見せ、好きな虫や見つけたことのある虫を発表させる。 ・普段の生活から夏と秋を比較させ、季節の違いに気付かせ、そこから見付けられる虫も異なることに気付かせる。必要に応じて教科書P. 56～57とP. 92～93を使って比較させる。 ・めあてを提示する際に、「むしだいすき」の単元名に注目させ、捕まえた虫をどうするか虫のことをどうやって知っていくかを考えさせる。 ・校内で近づいてはいけない場所、決められた範囲から出ないことなど、事前に指導する。 ・初めから虫を捕まえるための道具を持たせるのではなく、必要性に気付いた児童がいたら使うことを認める。 ・虫を見つけたことのある場所や見付かりそうな場所、虫の捕まえ方を共有させて、児童一人一人が仲良くなりたい虫を捕まえられるようにする。 ・児童に飼育ケースを用意させる。 ・何種類も捕まえた児童には、一人で世話をするため、飼いたい虫を一匹に決めるよう声掛けをする。 ・児童のつぶやきがあれば、その場で思い付いたすみかづくりを認める。 ・教室に戻ったら手洗いうがいなど衛生面の指導を徹底する。以降も同様に指導する。 【評】虫を捕まえる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・虫を近くで見せながら紹介できるように、4～5人程度のグループで伝え合わせる。 ・虫の様子を動作化させるなどして、捕まえたときの虫の様子を表現させるとよい。 ・自分が捕まえた虫とは異なる虫についても知ること、虫によって生息環境が異なることに意識を向けさせる。 ・教科書P. 95を参考にさせ、観察の仕方を知らせる。虫の形や色だけでなく、見つけた場所や見つけたときの虫の様子や動きなども絵で表すよう促す。 ・観察して気付いたことだけでなく、これから虫をどうしていきたいかなど、虫に対する思いや願いも書くよう指導する。 【評】伝え合いや記録カードを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・虫が死んでしまわないように、前時の活動から時間と日を置かずに実施する。 ・虫を見つけた場所や見つけたときの様子を想起させることで、元いた場所に近い状態の方が虫は喜ぶのではないかというすみかづくりの視点をもたせる。 ・虫のすみかや食べ物について、教科書P. 94～

- ・本で調べる。(図鑑)
 - ・上級生や家の人に聞く。
- すみかを整える。

- 虫の世話をし、気付いたことを記録カードに絵や文でかく。
- ・ぼくの「ぴょん」は、捕まえたところの葉っぱをよく食べます。どんどん大きくなってほしいです。(バッタ)
 - ・わたしの「コロ」は、ナスが大好きです。喜んで食べてくれるから嬉しいです。(コオロギ)
 - ・最初はこわかったけど、毎日見ていると何だかかわいく思えてきました。
- 気付いたことを伝え合う。

6 虫をこれからどうするのか考え、元いた場所に虫を返す

- 虫をこれからどうするか話し合う。
- ・ずっと飼っていたけれど、家族と離ればなれはかわいそうだと思います。
 - ・やっぱり狭い虫かごより、広い草むらの方が楽しいと思います。
- ★虫とさようならをしよう
- 虫にお別れの言葉を言う。
- ・ぼくが毎朝取ってきた草を、いっぱい食べてくれて嬉しかったです。(バッタ)
 - ・ぼくより体が小さいけれど、一生懸命生きていたね。ぼくもがんばるね。

- 虫を元いた場所に返す。

95を参考にさせてもよい。

- ・どんなすみかなら喜んでくれるかを虫の立場になって考えさせ、「遊園地作り」「おもちゃの家づくり」にならないように留意する。
- ・飼育の過程で生じる新しい生命の誕生や死、成長など、生命の尊さを身をもって感じる出来事に直面した場合、虫との関わりを振り返り、命を守ってきた自分の存在について考える機会とする。
- ・観察して気付いたことだけでなく、虫に対する思いや願いも書かせ、虫への親しみを自覚させる。

【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・虫の立場になって元いた場所へ戻すかどうか考えさせ、児童が納得して虫を返せるようにする。

- ・虫にお別れの言葉を言うことで、自分と虫との関わりを振り返らせ、虫が命をもって生きていることや、虫の世話を続けてきたことで虫への親しみが生まれ、責任感が育っていることに気付かせる。
- ・「温かい動物」を扱わなかった場合、児童の実態に合わせて手紙を書いたり、ミニ発表会を行ったりすることも考えられる。
- ・校庭の虫の生息場所を大切にするように声掛けをして、学校への愛着を深めさせる。

【評】伝え合いやお別れの言葉を掛ける活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 わたしのあさがお(2)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 栽培活動を通して、植物も自分たちと同じように生命をもって成長していることや、成長や変化の特徴に気付くことができる。
- (2) 育てている花のことを知り、よりよく育つための世話を工夫したり、植物の様子や成長の喜びを自分なりの方法で表現したりすることができる。
- (3) きれいな花を咲かせたいと願いながら、植物に親しみをもって大切に育てようとする。

標準的な展開例

01060203_001

【準備等】アサガオの植木鉢，記録カード 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 集めた種を観察し，記録カードにかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏休みにした世話や観察を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・花がたくさん咲きました。多いときは1日10個も咲きました。 ・夏休みの最後の方には，咲く花が少なくなって，種が採れるようになりました。 ・花がしぼんだ後は種ができました。 ・しぼんだ花で色水を作って絵を描きました。 ★新しい種を観察しよう ○集めた種やアサガオの様子を観察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・種が小さな部屋に入っているね。 ・丸い中に部屋が分かれているね。この丸いのは，種の家かな。 ・丸いパイナップルみたいな部屋があったよ。 ○観察したことを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・種の部屋にはいろいろな形がありました。 ・ぼくの種は100個よりも多そうです。 ・アサガオが「種をたくさん作ったから，枯れても淋しがないだね」と言っていました。 ○種の様子や気付いたことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・植えたときの種よりも，自分のアサガオからできた種の方が立派に見えます。 ・種の部屋のトゲトゲの部分が下に降りてきたときが，種が採りやすいということが分かりました。 ・1つのアサガオの種からたくさんの種が採れるんだね <p>2 枯れたつるや根を観察し，記録カードにかく。</p> <p>★枯れたアサガオを観察しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アサガオのつるや根を観察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか抜けないと思ったら，土の中でこんなにも根を張っていたんだね。 ・ぼくのつるとお友達のつる，どちらが長いかな。 ・つるは，前よりも細くなったけど硬いね。 ○観察したことを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・夏のアサガオのつると違って，茶色になっていました ・ぼくのつるは，校庭の花壇の端から端までありました ・アサガオが「ぼくのつると根，すごいでしょ」と言っていました。 ○つるや根の様子や気付いたことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・立派な根が，大きく伸びたアサガオが倒れないように助けてくれていたんだね。 ・根は，見えないところでがんばってくれていたんだなと思いました。 ・つるがとても丈夫で，折れたりちぎれたりしませんでした。つるで何か遊べないかな。 <p>3 種やつる，根の使い方を考え，植木鉢の片付けをする。</p> <p>★種やつる，根の使い道を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○種やつる，根をどうしたらよいかを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期休暇に持ち帰らせたアサガオは学校裁量で持って来させる。 ・休み時間を使って世話を続けたり種を集めたりさせる。 ・夏期休暇に取り組んだことを十分に称賛する ・夏の花であるため，だんだんとアサガオの元気がなくなったり咲く花が少なくなったりする様子に気付かせたい。 ・児童の種が採れた発言から，自分の花の種を観察することにつなげられるとよい。 ・植えたときの種と比較させるため，記録カードを見せてもよい。 ・記録カードをかく前に，持ち帰った種を観察させる時間を設けてもよい。 ・種の数数えることを通して，数の感覚を養うようにする。また，算数科との合科的な学習を行い，数え方も工夫させたい。 ・教科書P.33の他の植物の種と比較させてもよい。 ・自分の気持ちも書くように指導し，結実の喜びや元気がなくなってきたことへの悲しさを自覚できるようにする。 ・葉や茎は枯れても種は残ることや，1つの種からたくさんの種ができることから，生命が受け継がれていくことに気付かせるようにする。 【評】観察の様子や記録カード，伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 ・第3時と連続で行えるよう，つるや根の観察を植木鉢の片付けと一緒にするなど活動内容を組み換えてもよい。 ・ただ枯れた様子を観察するのではなく，種を作り，生命を残すためにエネルギーを注いでくれたアサガオの観察であることを理解させる ・茎やつる，根を自由に触るよう促す。 ・これまでのアサガオの様子と比較させるために，過去の記録カードを見返してもよい。 ・自分の気持ちも書くように指導し，アサガオへの尊敬の気持ちや感謝の気持ちに気付かせたい。 ・根の働きを想像させたり，根が立派である理由を考えさせたりする。枯れてしまった悲しみのみでなく，アサガオの特徴を素晴らしさとして捉えさせたい。 ・捨ててしまうのではなく，枯れた後も何かに利用できるような意見があれば取り上げて称賛し，全体に広げる。 【評】観察の様子や記録カード，伝え合いを通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・児童のアサガオへの愛着を考慮し，それぞれ

- ・種は、年長さんにプレゼントしたいな。
- ・つるで、クリスマスリースを作りたいな。
- ・根っこは、ほうきにして遊べないかな。

- 種やつるの保存方法について考え、話し合う。
 - ・種と一緒に、つるもかびが生えないようにしたほうがいいのか。くるくる巻いて、乾かしておこう。
 - ・根っこは、土をよく取っておこう。
- 植木鉢の片付けをする。

4～5 これまでの活動を振り返って感じたことを絵や文で表現する。

- これまでの記録カードを見比べ、感想を伝え合う。
 - ・アサガオがどんなふうに大きくなっていったかがよく分かります。
 - ・初めの記録カードは絵だけだけど、文が書けるようになりました。詳しく観察もできるようになりました。

★これまでのことを振り返ろう

- 感じたことを絵や文で表現する。
 - ・アサガオと一緒にぼくも成長していることが分かりました。
 - ・一番心に残っていることは、芽が出たときです。わたしのアサガオはクラスで一番遅かったので、芽が出たときはとても嬉しかったです。
- これからの活動について考え、話し合う。
 - ・アサガオを育てたことをお家の人に聞いてほしいです
 - ・仲良くなった先生や、年長さんたちにも知らせたいです。

6～7 これまでの栽培活動を振り返り、絵本作りをする。

★自分だけの絵本を作ろう

- 記録カードを綴じ、表紙を作る。
 - ・どんな題名にしようかな。
 - ・秘密がいっぱいあったから、「すごいあさがお」にしようかな。
- 作った絵本を読み合う。
 - ・たくさん書けるようになったね。
 - ・観察が上手になったんだね。

- アサガオを育てた感想を全体場で伝え合う。
 - ・育てていくうちに、アサガオのことがどんどん好きになりました。
 - ・もっと花を育ててみたくなりました。

の使い道を考えさせる。

- ・種はプレゼントの他に、紙粘土工作でマグネットやおもちゃを作る際の飾りとして、ずっと取っておける作品に残すこともできる。
- ・リースは、これから行う「あきをたのしもう」の学習で拾った、秋の実を飾りとして使ってもよい。
- ・つるをリースにする場合、円状に巻いて保管しておくもよい。また、リング支柱や丸い輪が付いていた支柱を使った場合、それらに巻き付けてもよい。

【評】種やつる、根の使い道を考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・記録カードや写真、ICT機器などで振り返ることができるように準備しておく。
- ・教科書P.34～35のように、記録カードや写真を時系列に並べ、植物の成長の様子を振り返らせるもよい。
- ・児童の素直な感想をいくつか取り上げ、本時のめあてにつなげる。
- ・アサガオに対してどんなことができるようになったか、どんな気持ちで世話をしたかなどアサガオの成長の様子だけでなく、植物と自分との関わり方を振り返り、生命に対する新たな気づきや自分自身の成長についての気づきが生まれるとよい。
- ・がんばってきたことや成長したことを誰かに伝えることを促す。学習発表会や授業参観を発表の場にしてもよい。
- ・地域や学校の実態に応じ、近くの園の年長児や学校の職員を招待する活動につなげてよい。

【評】絵や文で振り返る活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教科書P.36～37を参考に、表紙を考えさせる

- ・4～5人のグループで行わせるとよい。
- ・自由に感想を伝えてもよい雰囲気作りをする

【評】振り返る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・アサガオへの愛着や、今後も植物を育てていきたいという思いや願いを引き出し、学習を終える。

【評】単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 あきをたのしもう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) いろいろな人々が公園を利用していることや、自然を利用したり遊ぶ物を作ったりすることの楽しさに気付くことができる。
- (2) 遊び方を工夫したり、自分が楽しんだ遊びや感じ取った自然の様子を考えたり、表現したりすることができる。
- (3) 四季の移り変わりに関心を持ち、自然や人々と関わりながら季節に応じた遊びを楽しもうとする。

標準的な展開例

01060204_001

【準備等】記録カード、収集用の袋、葉を並べるための紙、デジタルカメラ 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 校庭で秋見付けをし、自然や人々の様子などで変わってきている点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○秋について知っていることやイメージしたことを話したり、秋の自然で楽しめる遊びを考えたりすることを通して学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・涼しくなってきました。 ・木の葉っぱが緑から赤や黄色に変わります。 ・落ち葉のシャワーで遊んでみたい。 <p>★秋見付けをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校庭で秋見付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリを見付けたよ。 ・地面には茶色い葉っぱがいっぱい落ちているね。 ○見付けた秋を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドングリを見付けました。3種類見付けることができました。 ・教科書を見たら、ぼくが集めた葉っぱは柿の葉っぱということが分かりました。赤や橙、茶色がありました。 <p>2～3 校庭で木の葉や木の実を使って楽しく遊ぶ。</p> <p>★秋とたっぷり遊ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校庭に出て、秋と楽しく遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・秋の実を拾おう。 ・落ち葉はどんな音がするのかな。 ・用務員さんが校庭の掃除をしてくれているね。挨拶をしよう。 <p>4 秋の自然で遊んだことを振り返る。</p> <p>★見付けた秋を紹介しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○拾った物を見せ合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・大きな葉っぱに穴を空けてお面にしたよ。 ・もみじをたくさん並べたよ。少しずつ色や形が違っていいよ。 ○遊んだことや拾った物を振り返り、気付いたことなどを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・クヌギの木のドングリは、帽子の形がおもしろいです。 ・落ち葉の中でたくさん遊んだよ。ドングリをたくさん集めたよ。こまを作ってみたい。 ・落ち葉の布団に寝転がりました。いろいろな色や形の落ち葉がありました。ガサガサやパリパリという音がしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、事前にドングリや落ち葉を集めておくとうい。 ・校外に出て公園に行くことも考えられる。その際は、春に行った公園に出向き、季節の違いを見付けさせる。 ・教科書P. 58～59を見て、秋の自然で遊んでいる子どもの写真に注目させ、季節の変化やどんな遊びができるか想像させる。 ・しゃがんだり、寝転がったりするなど、目線の高さを変えて観察している児童を称賛し、全体に広げる。 ・教科書P. 62～63を見て、校庭で見付けたものの名前を確認させたり大きさを比べさせたりしてもよい。 <p>【評】校庭での秋見付けを通して「思考・判断・表現」を評価し、単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拾った秋の実を入れる袋を児童に用意させる ・校外に出て歩く際には、交通安全に気を付けて歩くことを確認する。 ・事前に教科書P. 60～61を見て、もっと秋の自然で遊んでみたいという児童の意欲を高める ・落ち葉を踏みしめたり、投げ合ったりしてその感触を楽しむなどの遊びに十分に浸らせ、遊び自体の面白さに気付かせる。 <p>【評】秋の自然で遊ぶ活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室掲示用で、葉の違いや色の変化について整理できるよう葉を並べるための紙を用意しておく。紙に植物の名前や様子などを書き込んでおくとうい。 ・拾った秋の自然物を机に並べさせ、自由に見せ合えるようにしておく。 ・秋の自然や落ち葉や木の実のもつ特徴や、諸感覚を用いて秋の自然と触れ合ったことなどを書かせる。 <p>【評】記録カードを通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 見つけたあきであそぼう

配当時間 9時間

単元の目標 (1) いろいろな人々が公園を利用していることや、自然を利用したり遊ぶ物を作ったりすることの楽しさに気付くことができる。
 (2) 遊び方を工夫したり、自分が楽しんだ遊びや感じ取った自然の様子を考えたり、表現したりすることができる。
 (3) 四季の移り変わりに関心を持ち、自然や人々と関わりながら季節に応じた遊びを楽しもうとする。

標準的な展開例

01060205_001

【準備等】記録カード、これまでに収集した秋の自然物、きり、爪楊枝、ドングリ穴開け機、ボンド、グルーガン、毛糸、段ボール、竹串、プラスチックカップ 等

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 どんな遊びができるか考えたり、遊んだりして学習の見通しをもつ。 ★みんなでドングリごまを作ろう ○ドングリごまを作る。 　・道具の使い方や注意点を知る。 　・手順を確認し、製作する。</p> <p>○こま回しを通して、よく回る工夫を考え、伝え合う。 　・ドングリの大きさは関係あるのかな。丸いドングリと細長いドングリで比べよう。 　・爪楊枝が長い方と短い方、どちらがよく回るか比べてみよう。</p> <p>2～4 秋の自然物や身の回りの物を使っておもちゃを作って遊ぶ。 ★秋の宝物でおもちゃを作ろう ○どんな遊びができるか考える。 　・いろいろな種類のドングリがあるね。 　・オナモミで的当てができないかな。</p> <p>○材料を見て、作りたいおもちゃを決める。</p> <p>○おもちゃづくりの注意点や約束を確認する。 ○秋の自然物や身の回りの物でおもちゃを作る。</p> <p>○作ったおもちゃで試し遊びをしたり改良したりする。 　・けん玉の糸をもう少し長くするのはどうかな。 　・的当ては、得点表を作ったらどうかな。</p> <p>5～6 友達と関わり合いながら、自分が作ったおもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりしながら遊ぶ。 ★もっと楽しく遊べる方法を見付けよう ○グループごとに、自分が作ったおもちゃの遊び方を考える。</p> <p>○ルールを伝え合いながら遊ぶ。</p> <p>○必要に応じておもちゃを改良したり、ルールを再考したりする。 　・的当ては、遠くから投げたら10点、近くから投げたら1点にしたらどうかな。</p>	<p>・教科書P. 64～65を見て、秋の自然物を使って楽しくおもちゃづくりをしていることを想像させ、めあてを提示する。 ・4～5人のグループを作り、活動させる。</p> <p>・本時はみんなで同じ物を作り、分からないときや上手くいかないときは児童同士でアドバイスし合うことを学ばせ、今後のおもちゃ作りに生かせるようにする。 ・教科書P. 66～67「ものしりのうと」で作り方を確認し、「どうぐのつかいかた」で使い方を知らせる。 ・上手くいかないときには児童同士で相談し合ったり、何度も試して考えたりすることを促す。 【評】おもちゃづくりを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・児童が集めた自然物だけでなく、様々な秋の自然物や身の回りの物を用意しておき、自由に使えるよう種類別に分けて置いておくことよい。 ・自然物の性質や特徴をつぶやいている児童を取り上げ、全体に広げる。 ・教科書P. 66～67を参考にしてもよい。 ・児童からアイデアを引き出し、同じおもちゃや似ているおもちゃを選んだ児童でグループを作る。1グループ4～5人にする。</p> <p>・同じグループの児童に自由に相談したり試しに遊んだりしてもよいことにする。 ・大きなおもちゃは共同で作ってもよいことにする。 【評】おもちゃ作りを通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・前時と同様に、グループ隊形になって活動を進める。 ・グループ内で、それぞれのおもちゃで遊び方を比べさせる。 ・互いのおもちゃの共通点や相違点に着目して自分のおもちゃを改良する視点がもてるようにする。 ・同じグループの友達と遊びながら、おもちゃを改良したり遊び方を変えたりするような声掛けをし、工夫を促す。 ・おもちゃの装飾を改良するのではなく、ルールなどの遊び方を決めさせる。 ・数を競って記録を残したり、ルールを決めて遊んだりすると、遊びが広がったり発展したりして楽しさが増すことに気付かせる。</p>

7～9 作ったおもちゃを使って全員で遊び、これまでの活動を振り返って気付いたことを伝え合う。

★みんなで遊ぼう

○作ったおもちゃを紹介する。

○作ったおもちゃで楽しく遊ぶ。

○これまでの活動を振り返り、気付いたことを記録カードにかく。

・ドングリごまを作りました。棒を短くしたら、長く回るこまができました。土俵を作ったらもっと楽しく遊ぶことができました。

・マツボックリのけん玉は、なかなか入らないので紐の長さを変えて何度も作り直しました。

○友達のおもちゃで遊んだ感想を伝え合う。

・〇〇さんのけん玉の形がおもしろかったです。

・〇〇さんの「どんぐりころころ」は、一度にたくさんのドングリを転がせるところがいいなと思いました。

【評】 みんながもっと楽しく遊べるように、おもちゃを改良したり遊び方を工夫したりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・地域の実態に応じて、年長児を招待する活動にしてもよい。

・遊ぶ人を前後半に分け、交代でグループを回り、遊べるようにする。

・遊んでいる最中にも、遊びがより楽しくなるようにルールを変更してもよいことを伝える

・単元全体の活動を振り返らせる。

・おもちゃや遊び方を工夫して上手くいった経験とその時の気持ちを表現させる。

【評】 気付いたことを伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・遊んだ感想を付箋に書いて渡すなど、おもちゃを作った友達に感想を伝える手立てを考えるとよい。

【評】 おもちゃ作り全体を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 ありがとう いっぱい(1)

配当時間 9時間

単元の目標 (1) 家庭における自分の役割、自分の成長は家族の支えによることなどに気付くことができる。
 (2) 自分が家族のためにできることを考え、行動するとともに、できたことを工夫して友達に伝えることができる。
 (3) 家庭での生活を振り返ったり、家の仕事に挑戦したりして、家庭での生活に関心を持ち、自分の役割を積極的に果たそうとする。

標準的な展開例

01060206_001

【準備等】記録カード（家の仕事調べカード、チャレンジカード、発見カード）等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 家族について話し合い、単元の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 家族の写真です。 みんなが笑顔になっています。 ペットの犬も家族になっています。ぼくの家と同じです。 単元名を見て、家族に「ありがとう」と伝える場面を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の家族に「ありがとう」と言うのだと思います。 家族はいつも仕事や家のことをしてくれるから「ありがとう」だと思います。 わたしのことを育ててくれて「ありがとう」だと思います。 ★にこにこ大作戦を考えよう 家族がにこにこするような活動を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 「いつもありがとう」と言ってお手伝いをしたいです お母さんはいつも夕方になると忙しそうなので、自分でもできるお手伝いを見付けたいです。 家の仕事にはどんなものがあるか発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 家族のごはんを作る仕事です。 洗濯物を干したり畳んだりする仕事です。 <p>2～3 調べてきたことを基に、家族のために自分ができる仕事を考え、「にこにこ大作戦」の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことを基に、家族が家庭でしていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> お風呂掃除はお父さんの仕事です。 ぼくが学校に行っている間に、お母さんはお買い物に行ったり掃除したりしています。 おばあちゃんが洗濯物を畳んでいます。おばあちゃんは畳み方名人です。 お母さんが料理をしています。わたしはその間に机を拭いたり食器を並べたりしています。 ★にこにこ大作戦の計画を立てよう 自分にできそうな仕事を考える。 <ul style="list-style-type: none"> お父さんと一緒に、お風呂掃除がしてみたいです。 夕方はやる事が多くていつもお母さんが忙しそうなので、洗濯物畳みをしようと思います。 玄関掃除をおばあちゃんがやっているの、ぼくは靴揃えがしたいです。靴が揃っていると気持ちがいいからです。 計画を立て、「チャレンジカード」にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> やってみたい仕事 行う日や時間帯 お手伝いを教えてもらう相手 まとめたことを発表する。 <p>4 家庭で取り組んだことを紹介し、振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 96～97を見て、写真に写っているのが家族であることを押さえ、どの写真も笑顔であることに気付かせる。 誰に向けての「ありがとう」であるか問いかけ、どのような場面で伝えるのか考えさせる。また「ありがとう」を伝える機会がたくさんあることに気付かせ、「いっぱい」という単元名に結び付ける。 自分の家族が教科書の写真のように、にこにこするにはどうしたらよいか問いかけ、学習のめあてを提示する。 「ありがとう」と伝える場面を発表したことに加え、教科書P. 96のお手伝いをしているイラストに注目させることで、家族のためにできることを考える単元であることを予想させる。 家族がしていることは、児童が気付いていないものや児童が学校に行っている間のものもあるため、家で調べ、「家の仕事調べカード」に書き込むよう指示を出す。その際、誰がどの仕事を行っているかが分かるような記録カードにする。 <p>【評】学習の見通しをもつことを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体場で発表させる。 さまざまな家庭生活のスタイルがあることを考慮し、児童が互いの生活を認め合えるようにする。 板書をするときは、「料理」「掃除」「世話」「その他」などの項目に分け、振り返りがしやすいようにしておく。 家族が自分たちのためにしてくれていることがたくさんあることに気付かせることで、家族の温かさや家族一人一人のよさに気付かせたい。そして、自分も家族の一員として何かやりたいという児童の意欲を高める。 お手伝いをしている児童を例に挙げ、本時は自分や家族の役割を考える学習にすることを伝え、めあてを提示する。 事前に家庭に協力を呼びかけ、一人一人が自分の思いを生かして計画を実施できるようにする。 学習の終わりに、できるようになったことを発表することを伝え、継続して取り組みそうなお手伝いを考えるよう促す。 お手伝いを選んだ理由も尋ね、家族のために喜んでもらうために活動することを確認し、児童の意欲を高める。 本時の記録カードは家に持ち帰らせ、次の生活科の授業までにお手伝いをしてもらうように伝える。 <p>【評】自分にできることを考え、計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

(1 回目の実践)

★お手伝いを紹介しよう

- 取り組んだことを伝え合う。
 - ・洗濯物畳みをやりました。きれいに畳めるコツを教えてくださいました。
 - ・お父さんと一緒にお風呂掃除をしました。すごく時間がかかったけど、とてもきれいになりました。気持ちよくお風呂に入れました。
- 取り組んだことや、取り組んでよかったこと、分かったこと、家族に言われたことなどを「チャレンジカード」に書く。
 - ・お母さんが「ありがとう。またやってね」と言いました。次もがんばります。
 - ・お風呂掃除は、上の壁から洗っていくそうです。洗い方が分かって嬉しかったです。

5 家庭で取り組んだことを紹介し、振り返りを行う。

(2 回目の実践)

★前回よりレベルアップしたことを紹介しよう

- 取り組んだことを伝え合う。
 - ・自分の体操服や給食エプロンを畳むようにしました。タオルや靴下と違って難しかったです。
 - ・お風呂掃除は、前は大変だと思っていたけど、だんだん楽しくなってきました。

- 取り組んだことや取り組んでよかったことなどを「チャレンジカード」に書く。
 - ・エプロンはなかなか上手に畳めませんでした。袖の部分は、しわにならないように丁寧に畳みます。もっと上手になりたいです。

6 家庭で取り組んだことを紹介し、振り返りを行う。

(3 回目の実践)

★さらにレベルアップした自分を紹介しよう

- 取り組んだことを伝え合う。
 - ・大きな洗濯物や袖のある洗濯物は、畳むのが難しいです。でも毎日やっていたら上手にできるようになりました。今は一人でやっています。
 - ・お風呂掃除がだんだん早くできるようになってきました。やり方を覚えたからだと思います。
- 取り組んだことや取り組んでよかったことなどを「チャレンジカード」に絵や文でかく。
 - ・袖のある洗濯物は、縦に3等分して畳みます。お父さんが「きれいだね。おばあちゃんが畳んだみたい」と言いました。嬉しかったです。
 - ・いつも洗っているお父さんに、洗ったお風呂に入ってもらいました。「〇〇が洗ったお風呂は気持ちがいいね」と喜んでくれました。

7~8 これまでの取組を振り返り、さらに続けていきたいことや挑戦したいことを考え、記録カードに絵や文でかく。

★これまでのお手伝いを振り返り、これから挑戦したいことを考えよう

- 家庭での取組で、続けてよかったことや気付いたことを伝え合う。
 - ・最初はタオルしか畳めなかったけど、今ではシャツも畳めるようになりました。

- さらに続けていきたいことや、これから挑戦したいことを考える。
 - 「自分のこと」
 - ・朝はお姉さんに起こしてもらっているけど自分で起きられるようになります。
 - 「家族のこと」
 - ・〇〇さんみたいに、靴洗いをしようと思いました。
 - 「学校でもできること」

- ・4~5人程度のグループで行う。
- ・靴揃えや洗濯物畳みなどは実践を交えて紹介させ、伝え方を工夫するよう促す。以後も同様に指導する。
- ・宿題以外の場で、自主的に何度も取り組めていた児童がいたら称賛する。
- ・記録カードは、「よかったこと」「分かったこと」「家族に言ってもらった言葉」の視点で書くように指導する。以後も同様に指導する。教科書P.101やP.120を参考にしてもよい。

- ・記録カードに表情マークを描く欄を設け、そのときの気持ちが振り返られるようにする。
【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・前回と同様の4~5人グループで行う。
- ・前回の記録カードを参考にしたり家族に聞いてもらった言葉を想起させたりしながら、前回と比べてできるようになったことや新たに気付いたことなどを発表させる。
- ・自分の成長に気付いたり、友達の発表を聞いて自分とは違う取組のよさを認めたりできるような言葉を掛け、次のお手伝いの意欲を高める。
- ・前時の3つの視点に加え、前回と比べたり新しく挑戦したりしたことも書かせる。

- 【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・前回と同様4~5人グループで行う。
- ・3回目の実践をまとめとして扱い、過去の記録カードと比較して自分自身を振り返られるようにする。

- ・過去の記録カードを読み返し、書かれている内容や表情マークを比較し、自分の中での成長に気付かせる。
- ・友達の取組のよさや共感したこと、感動したことなどを伝え合わせ、児童の自信を育むようにする。
- ・記録カードのかき方は、教科書P.103を参考にしてもよい。

- 【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・本時での計画を基に、一週間程度取り組ませる。
- ・朝の会や帰りの会の時間を活用して、継続して取り組んでいる様子を発表させるなど、意欲が継続するよう指導する。
- ・成長したことや、家族に言われて嬉しかった言葉を想起させて発表させる。
- ・家族がみんなのために家事をして支えてくれていることに気付かせる。
- ・一人一人の取組や気付きを称賛し、今後も自分でできることは続けたい、できることを増やしたいという児童の意欲を引き出せるようにする。
- ・生活習慣や生活リズムを見直すきっかけとしよりよい生活を築こうとする気持ちを高める
- ・「家の仕事」については、これまでの取組を

・体操服や給食エプロンも家で教わった畳み方にしようと思います。

○計画を立て、「チャレンジカード」にまとめる。

9 続けていることを伝え合い、続けてよかったことや分かったこと、家族に言われたことなど気付いたことを伝え合う。

★続けて取り組んでいることを紹介し合おう

○続けていることを伝え合う。

○自分のこと、家族のこと、学校でもできることの3つの中から一つ選び、「発見カード」に絵や文でかく。

・上靴を洗う仕事を新しく始めました。洗面器にお湯を溜めてブラシを使って洗います。自分が使っている上靴が自分で洗えるようになって嬉しいです。

○グループ内で友達の取組のよさを伝え合う。

・〇〇さんは、服を畳むのが上手になったと思います。

・〇〇さんは、お風呂掃除のこつが分かって、どんどん早くできるようになっていてすごいです。ぼくにもこつを教えてほしいです。

続けてもよい。また、友達の取組を参考にしてもよい。

・家庭の仕事の中には、学校でも取り組めるものがあることに気付かせ、取組を学校にも広げられるとよい。

【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

・前回と同様4～5人のグループで行う。

・冬休み前の学習であれば、冬休みの「にこにこ大作戦」の計画を立てる時間にしてもよい

・記録カードを書くときの視点に加え、家の仕事を続けたことで変わってきた自分に気付かせる。

・今後も続けていけるような声掛けをし、朝の会や帰りの会などで活動を確認したり報告したりする場を設ける。

・3学期も「ありがとう いっぱい」の学習を行うことを伝え、継続して自分のことや家のお手伝いに取り組めるようにする。

【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

・児童の家族構成はさまざまであるため、事前に家族の実態を把握し、どの児童も意欲をもって取り組めるように配慮し、単元を構成する必要がある。

・家庭で行う活動が多くなるので、学年通信等を通して趣旨を伝え、家庭の協力を得られるようにしておく。その際に、第6時までに調べ学習やお手伝いの宿題が4回あることを伝えたり、記録カードをあらかじめ冊子にして配付したりするなど、家庭にも学習の見通しがもてるようにしておくとうい。

・本単元は、第9時を終えたところで冬休みを迎えることになっている。規則正しい生活やお手伝いの計画を立てて、冬休みの宿題として取り組ませてもよい。

単元名 ありがとうが いっぱい(2)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 家庭における自分の役割, 自分の成長は家族の支えによることなどに気付くことができる。
 (2) 自分が家族のためにできることを考え, 行動するとともに, できたことを工夫して友達に伝えることができる。
 (3) 家庭での生活を振り返ったり, 家の仕事に挑戦したりして, 家庭での生活に関心をもち, 自分の役割を積極的に果たそうとする。

標準的な展開例

01060301_001

【準備等】これまでの記録カード, 便箋 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 継続して取り組んでいることやできるようになったことを振り返る。 ★にこにこ大作戦を振り返ろう ○取り組んでいることを振り返り, 発表する。 ・家の仕事がたくさんできるようになりました。 ・洗濯物畳みは, 宿題の後にやることになっています。わたしの仕事として続けています。</p> <p>○記録カードを振り返り, 紹介したい取組の一つを選んで発表の練習をする。</p> <p>3 できるようになったことを発表する。 ★にこにこ大作戦の報告会をしよう ○発表する。</p> <p>○感想を伝え合う。 ・〇〇さんが, 洗濯物の畳み方を教えてくれたのがよかったです。ばくも〇〇さんみたいにきれいに畳みたいです。</p> <p>4～5 自分や家族の役割を考え, お世話になっている家族に感謝の手紙を書く。 ○自分や家族の役割について考える。 <自分> ・今の食器並べとお風呂掃除を続けたいです。 ・新しいことにも挑戦したいです。 <家族> ・ぼくたちのために家の仕事をしてくれています。 ・わたしたちが元気でいられるように, ごはんを作ったり熱が出たら看病したりしてくれます。 ・いつも応援してくれます。だからぼくは勉強やお手伝いががんばれます。</p> <p>★お世話になっている家族にお礼をしよう ○お礼の手紙を書く。 ・お母さんへ 家の仕事に挑戦したら, とても大変だということが分かりました。いつもありがとう。これからは, 自分のことも家の仕事もがんばります。</p>	<p>・冬休みに宿題を出していない場合は, 家庭での取組を発表させたり, 学校の取組も観察して具体的な活動場面を取り上げ全体に広げたりする。</p> <p>・これまでの取組を記録カード等から振り返り学習の初めと比べてできるようになったことなどを, 学級全体場で発表することを伝える。</p> <p>・前時までのグループでの紹介を想起させ, 靴揃えや洗濯物畳みなど, 発表の方法を工夫することを伝える。実演が難しいお手伝いに関しても, こつを伝えたり動作化して説明したりするなどの工夫をさせたい。</p> <p>【評】伝え合いや発表の練習を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P.119「まなびかたずかん」を見て, 聞く人の態度を確認する。</p> <p>・児童のお手伝いの様子を見て, 自分の家での活動の場が広がるとよい。</p> <p>【評】発表を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・食事や睡眠等, 日々の家庭生活の中での配慮してもらっていること, 治療や看病をしたときの安堵, 成長の節目に当たる家族の行事などについて振り返ったり交流したりすることで, 家族がしてくれたことに気付き, 家族の願いを実施できるようにする。</p> <p>・「ありがとう」が届けられる手紙を書くように指導する。</p> <p>【評】手紙を書く活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・手紙の渡し方を確認したり, 今後も自分のことや家族のことで, できることを続けたり挑戦したりする気持ちを高めて学習を終了する</p> <p>【評】単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【備 考】

1年に行う単元であるが, 学校行事やその準備等で行えない場合, 3月にこの単元を扱うことも考えられる。

単元名 ふゆをたのしもう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) いろいろな人々が公園を利用していることや、自然を利用したり遊ぶ物を作ったりすることの楽しさに気付くことができる。
 (2) 遊び方を工夫したり、自分が楽しんだ遊びや感じ取った自然の様子を考えたり、表現したりすることができる。
 (3) 四季の移り変わりに関心を持ち、自然や人々と関わりながら季節に応じた遊びを楽しもうとする。

標準的な展開例

01060302_001

【準備等】記録カード、風の材料（竹ひご、ビニル袋、風糸、テープ、油性ペン）、氷遊びの材料（洗面器等の浅い容器、毛糸や植物などの飾り）等

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 校庭で、冬見付けをしながら遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○冬になって気付いたことや、冬に楽しめる遊びを考え、単元の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・花や緑の葉っぱ、虫を見かけなくなりました。 ・息が白くなります。 ・風がビュービュー吹いています。 ・学校に行くときに、車や葉っぱに霜が降りているのを見ます。 <p>★校庭で冬の遊びをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校庭に出て、冬の遊びや冬見付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・影遊びをしよう。 ・葉っぱが枯れて茶色になったね。 ・体を動かすと温かくなってくるね。 ○見付けた冬を紹介したり、風や氷や雪を使った冬の遊びを考えたりして、伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・風車や凧を作って遊びたいな。 ・雪や氷で遊びたいな。 ・氷遊びをしてみたいな。落ち葉や毛糸を飾りにしたいな。 <p>2～3 風を利用したおもちゃを作って遊ぶ。</p> <p>★自分だけの凧を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作り方を知り、凧作りをする。 ○外に出て遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ○感想を伝えたり、凧を改良したり修理したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんと糸が絡まりました。揚げる場所や走る方向に気を付けたいです。 ・凧の足を長くしてみようかな。 <p>4 冬の遊びを振り返り、気付いたことを伝え合い、記録カードにかく。</p> <p>★見付けた冬を紹介しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遊んだことや見付けたものを振り返り、気付いたことなどを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・風が吹くと寒いけど、凧がよく揚がりました。体もぽかぽか温かくなってきました。 ・影遊びで橋を作りました。みんなで手を繋いで長い橋ができました。 ・氷遊びが楽しかったです。毛糸と草を入れたらとてもきれいでした。冬のすてきを見付けました。 ○気付いたことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪が降った場合は、風と遊ぶ時間を短縮したり、小単元の内容を一部変えたりして「ゆきであそぼう」の学習を取り入れてもよい。 ・自然や生活の変化などの冬の特徴に気付かせたり、教科書P.70～71を見て冬の景色を想像させたりする。 ・冬になって見られなくなったり、少なくなったりしてるものにも注目させる。 ・学校ではどのような冬の様子が見付けられるか問いかけ、めあてを提示する。 ・冬を楽しく過ごすためにはどうしたらよいか考えさせ、以降の学習につなげる。 ・季節の変化を体で感じ取り、自然と関わって遊んでいる児童を称賛し、全体へ広げる。 ・事前に教科書P.79を見せ、影遊びなどの太陽を使った遊びの楽しさを体験させる。 ・風が冷たくなっていることや、霜やつらら、水溜まりが凍っている意見を取り上げ、どのような遊びができるか考えさせる。 <p>【評】冬見付けをしながら遊ぶ活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作り方は、教科書P.78を参考にしてもよい。 ・遊んでいる最中でも、遊び方の工夫などを自由に教え合えるようにする。 ・風の存在に目を向けさせるような声掛けをする。 <p>【評】凧を作り、工夫しながら遊ぶことを通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氷遊びは、生活科の授業時間以外でも行えるよう声掛けや道具の準備をし、自由に遊べる環境を作る。影遊びも同様に促す。 ・冬の自然と関わる楽しさを共有させ、冬の自然と関わったことで自分たちの生活がより楽しくなったことを実感させる。 <p>【評】記録カードや伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価し、単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 あそび名人になろう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) いろいろな人々が公園を利用していることや、自然を利用したり遊ぶ物を作ったりすることの楽しさに気付くことができる。
 (2) 遊び方を工夫したり、自分が楽しんだ遊びや感じ取った自然の様子を考えたり、表現したりすることができる。
 (3) 四季の移り変わりに関心を持ち、自然や人々と関わりながら季節に応じた遊びを楽しもうとする。

標準的な展開例

01060303_001

【準備等】けん玉、こま、あやとり紐、竹とんぼ 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 昔遊びについて知り、遊び方を調べて練習する。 ○ 昔遊びについて知っていることを発表し、学習の見通しをもつ。 ★昔からの遊びに挑戦しよう</p> <p>○ 地域のお年寄りから昔遊びを知る。 ・こま回しを初めてやるよ。 ・おじいさん、けん玉がとても上手だね。ぼくにも教えてください。 ・あやとり名人に教えてもらったよ。はしがが一人で作れるようになったよ。</p> <p>3 昔遊びを練習したり遊び方を工夫したりする。 ★あそび名人を目指そう ○ 遊びの練習をする。 ・どっちが長くこまを回せるか勝負しよう。 ・けん玉は膝を曲げると上手にできるよ。 ・2人あやとりも楽しいね。3人でもやってみよう。</p> <p>4 練習した昔遊びを披露する。 ★あそび名人になって遊びの楽しさを伝えよう ○ 遊びごとに遊びや技を披露する。</p> <p>○ 感想を伝え合う。 ・〇〇さんのこま回しが上手でした。今度こつを教えてください。 ・二人あやとりが楽しそうでした。形に名前を付けるところがおもしろかったです。 ・昔遊びが上手になって嬉しいです。教えてくれたおじいさん、おばあさんに「ありがとう」と言いたいです。</p>	<p>・地域のお年寄りに、昔遊びのゲストティーチャーとして招待する計画を立てておく。可能であれば、第4時の発表の時間にも招待する</p> <p>・ゲストティーチャーに昔の遊びを披露してもらい、児童が自分もできるようになりたいという気持ちを高め、めあてを提示する。 ・遊びごとにブースを設け、ゲストティーチャーをそれぞれ配属し、児童が自由に行き来できるような環境作りをする。 ・遊び方やこつなどは児童から積極的に質問するように声掛けをする。 【評】昔の遊びの仕組に気付いたり遊び方を学んだりする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・休み時間も自由に遊べる環境を整えておく。</p> <p>・いろいろな昔遊びの中から極めたい遊びを一つ選んで技を習得し、次時に発表することを伝える。 ・より楽しく遊ぶための工夫やルールを児童に考えさせる。 【評】練習の仕方やより楽しくなるように遊び方を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ゲストティーチャーを再び招き、上達した様子を見せられるとよい。 ・本時を迎えるまでに、休み時間等を利用して自主的に練習することを促す。 ・児童が考えた遊び方やこつなども紹介させる</p> <p>・自分自身の変化や友達のすごいところ、ゲストティーチャーへの言葉など、さまざまな観点から考えさせる。 ・成長した喜びや教えてくれた人に感謝の気持ちを表現している児童を取り上げ称賛する。 【評】単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

- ・昔の遊びを知っている地域の方々との連携が可能な場合、本単元を設定する。地域の方を2回招く機会を設け、1回目は昔の遊びを教えてもらう学習を行い、2回目は児童が上達した昔の遊びを披露する発表会を行う学習計画になっている。そのため、事前に地域や家庭に呼びかけておく必要がある。
- ・地域の方を招かず、1～4時間完了として計画してもよい。4時間完了として設定しない場合は、残りの時間を「ふゆをたのしもう」の冬の遊びや、「ようこそ小学校へ」の交流会の準備に充てることも考えられる。

単元名 **もうすぐ 2年生**配当時間 **12時間**

- 単元の目標 (1) 規則正しい生活の大切さや自分の成長などに気付いたり、入学当時の自分のことを思い出し、多くの人の支えがあったことに気付いたりすることができる。
- (2) 1年間を振り返り、自分のしていることや、できるようになったことを絵などに表現したり、新しい1年生を迎えるためには何が必要か、何をしたらよいかを相手の立場になって考えたりすることができる。
- (3) これまでの学習や生活を振り返り、自分の成長を実感するとともに、新しい1年生のことを考え迎えるための準備をしようとする。

標準的な展開例

01060304_001

【準備等】記録カード、これまでの活動を撮影した写真やビデオ、アサガオの種、プレゼントの材料（折り紙、リボン）、ICT機器等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1年間の出来事を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見て、単元の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 凧作りをしているね。ぼくたちもやったね。 1年生になってどんなことができるようになったかな ★1年生を振り返ろう 1年間で楽しかったことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 秋のおもちゃ作りが楽しかったです。 運動会で、クラスのみんなで玉入れをしたのが楽しかったです。 1年間でできるようになったことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> 縄跳びをたくさん練習しました。 きれいな字が書けるように毎日丁寧に練習しました。 自分の成長を支えてくれた人について考える。 <ul style="list-style-type: none"> 先生です。勉強を教えてくれたり話を聞いてくれたりしました。 友達です。縄跳びを一緒に練習してくれました。 お母さんです。生活科の劇の練習を見てくれました。大きな声でせりふが言えるようになったのは、お母さんが応援してくれたからです。 <p>2～3 自分ができるようになったことや役割が増えたことを記録カードなどにまとめる。</p> <p>★できるようになったことをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎朝していること、毎晩していることを振り返り、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <毎朝> <ul style="list-style-type: none"> 1年生になってから、自分で起きられるようになりました。 <毎晩> <ul style="list-style-type: none"> 明日の用具は前の日の夜に揃えます。自分で連絡帳を見てできるようになりました。 できるようになったことを1つ選び、記録カードなどに絵と文で表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ぼくは、1年生になって前回りと後ろ回りができるようになりました。初めは斜めに回っていたけど、お父さんが手を着く場所を見てくれたので、できるようになりました。お父さんに「ありがとう」と言いたいです <p>4 まとめたことを伝え合う。</p> <p>★「ありがとう」を伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 記録カードにまとめたことを発表する。 気付いたことや感想を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> わたしも〇〇さんみたいに、縄跳びのこつを教えたり応援したりしてあげたいなと思いました。 家に帰ったら、お父さんに「ありがとう」を言いたいなと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P.106～107を見て、1年間でできるようになったことを振り返ったり2年生になることへの期待を感じたりできるような導入にする。 教科書P.108～109を参考にしてもよい。 これまでの活動を撮影した写真やビデオ、児童の作品や記録カードなどを手がかりに、入学してからの出来事を想起させる。 入学式の頃と比べ、できるようになったことを発表させ、自分ができるようになったことが増えたことに気付かせる。 スタカリ中に作った、書写「えんぴつをもってかいてみよう」の作品（自分の名前）を見せることによって、自分の成長を実感させることも考えられる。 一人でできるようになったのか、誰かが手伝ってくれたり応援してくれたりしてできるようになったのかを問いかけ、お世話や支えがあって成長したことに気付かせる。 支えてくれた人に感謝の気持ちを伝えたいという児童の意見を引き出す。 <p>【評】伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 記録カードだけでなく、1年間の写真を1人4枚ほど用意して、ポートフォリオにまとめてもよい。 学校でできるようになったことの他にも、家庭でできるようになったことや、生活の自立にも目を向けさせ、今後も望ましい生活習慣を身に付けていこうとする気持ちを高める。 教科書P.108～109を参考にしてもよい。 記録カードにまとめる際に、お世話になった人にお礼を伝えられるような形式にする。できるようになったことや、最初の自分との比較、支えてくれた人など書かせたいことを予め提示したり、話形を提示して書かせたりする。 次時に記録カードに書かれたことを発表することを伝える。 <p>【評】記録カードなどにまとめる活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を使い、記録カードやポートフォリオなどの作品を見せながら発表させる。 教科書P.119「まなびかたずかん」を見て、どんな態度で聴いたらよいかを確認する。 嬉しかった気持ちを共有させたり、新しい目標を確認させたりできるとよい。 <p>【評】発表や伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

<p>5 新1年生に教えたこと、一緒にしたいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学した頃を想起する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教室が分からなくて大変だったよ。 ・教室がお祝いの飾りでいっぱいだよ。 ・2年生がいろいろ教えてくれたよ。 ★新しい1年生がどうしたら喜んでくれるか考えよう ○新しい1年生が喜ぶ方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊んであげたいな。 ・学校のことを教えてあげるのはどうかな。 ○「新1年生と遊ぶ会」について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生になってできるようになったことを発表しよう ・手挙げ横断のやり方を教えてあげよう。 ・保育園や幼稚園と似ているところや違うところを紹介しよう。 <p>6～8 「新1年生と遊ぶ会」の計画を立て、準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★「新1年生と遊ぶ会」の準備をしよう ○計画について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・校舎や教室を案内してあげよう。 ・学校のことをグループに分かれて発表しよう。 ○自分の役割を練習する。 ○会の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちが育てている花を飾ろう。 ・飾り付けやアサガオの種でプレゼントを作ろう。 ・教室をきれいに掃除して迎えよう。 ・生活科で作った校内マップを貼るのもいいね。 <p>9 会場の設営やリハーサルをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★リハーサルをしよう ○「新1年生と遊ぶ会」のリハーサルを行う。 ○よかった点や改善点を伝え合う。 ○グループに分かれて練習する。 <p>10～11 「新1年生と遊ぶ会」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★新しい1年生に、〇〇小学校のことを教えよう ○会の流れと役割を確認する。 ○「新1年生と遊ぶ会」を行う。 ○プレゼントを渡す。 <p>12 「新1年生と遊ぶ会」を通して、感じたことや気付いたこと、2年生への抱負を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★「新1年生と遊ぶ会」を振り返ろう ○感じたことや気付いたことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「また遊ぼう」って言われて嬉しかったです。 ・年長さんのお世話をしたら、自分がお兄さんになった気持ちになりました。 ○会を通してできるようになったことを振り返り、2年生への抱負を記録カードにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・町探検に早く行きたいです。 ・野菜を育てるのが楽しみです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.110～111を参考に学習を進めてもよい。 ・入学した頃の気持ちを想起させ、新1年生も同じ気持ちであることを想像する。 ・「どきどき」を「あんしん」に変えるためにはどうすればよいかなど、新1年生の気持ちに寄り添って声掛けをする。 ・入学説明会など、新1年生が来校する機会を捉えながら、どんな会にしたいか話し合う。 ・どうしてそれを教えたいのか、どうしたら新しい1年生が学校を好きになってくれるかを考えさせ、計画を立てる。 【評】発言や話し合いを通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・学年合同で行うことも考えられる。 ・役割を分担し、一人一人が自分の役割を意識しながら、意欲的に準備できるようにする。 ・準備を進めていく中で、友達の意見を認め、友達と協力し合うことのよさに気付かせる。 ・教室は児童同士の対話に参加しつつ、困ったことが出てきた場合はできるだけ自分たちで解決できるように指導し、自分たちでやり遂げた満足感を味わえるようにする。 【評】練習や準備を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・学級を2つに分けて、半分が新1年生役になり、リハーサルを行うとよい。 ・新1年生に合わせてゆっくり話していたり、優しく教えてあげたりする児童を称賛し、全体へ広げる。 ・改善点を中心に、再度練習する。その際、児童の意欲が高まるような声掛けをする。 【評】リハーサルや練習を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・活動を見回り、一緒に活動できない新1年生がいたら個別に支援する。 【評】新1年生との活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・児童ががんばっている姿や新1年生が笑顔になっている写真があれば、振り返りに使い、達成感を味わわせるとよい。 ・一人一人のがんばりを認め、称賛する声掛けをして、自分自身の成長に気付かせる。 ・教科書P.113を活用したり「まなびかたずかん」にできるようになったことをチェックしたりする活動にしてもよい。 【評】成長した自分に気付いたり、2年生の抱負を考えたりする活動を通して「知識・技能」を評価する。 【評】単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
--	---

【 備 考 】

- ・「ようこそ小学校へ」は、入学説明会の際に行うことが予想される。行事の日程によっては、第1～4時「1年生をふりかえろう」と第5～12時「ようこそ小学校へ」を入れ替えて行うことも考えられる。
- ・新1年生を招待できない場合、「ようこそ小学校へ」の学習内容を、新1年生を迎えるために教室を掃除したり飾りを作ったりする時間に充ててもよい。
- ・「わたしのあさがお」で集めた種をプレゼントに使ったり、学習の終わりに植えた球根で新1年生を迎える環境を作ったりすることもできる。

単元名 まちたんけん

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 自分の町を探検し、調べる活動の中で、町の特徴やよさ、そこに暮らしたり働いたりする人々の様子などに気付くことができる。
- (2) 友達と一緒に町探検へ行き、発見したことや体験したことなどを絵や文にまとめて、周りの人々に伝えることができる。
- (3) 自分たちが住む町を、友達と協力して調べたり、探検したりする活動を通して、自分たちの町に対して親しみや愛着をもとうとする。

標準的な展開例

02060101_001

【準備等】 引率ボランティアや探検場所への依頼、拡大校区地図（導入や今後の活動で使う）、道案内が書かれた校区地図（探検に行く際、児童や付き添いの保護者へ配付するもの）、付箋（黄色など、2回目と色を変える）、記録カード（まちたんけん計画カード、すてきは見カード）探検バッグ、デジタルカメラ等のICT機器

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 自分の生活している地域の中で、お気に入りの場所や興味のある場所、不思議に思っている場所などを話し合い、単元の見通しをもつ。</p> <p>★町の「すてき」を伝え合おう</p> <p>○自分たちが住んでいる町について、知っていることを付箋に書き、紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいにおいのするパン屋さんがあります。 ・道路に魚の絵がついた丸いものがあります。 <p>○友達の紹介した「すてき」を聞いて、見たいことや知りたいことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたてのパンがどんなにおいがするのか行ってみたくなくなりました。 <p>2～3 探検に行きたい場所を伝え合い、グループに分かれて探検の計画を立てる。</p> <p>★町のすてきを見付けるために、探検計画を立てよう</p> <p>○探検に行きたい場所を伝え合い、グループに分かれる。</p> <p>○探検に行く計画を立て、計画カードを書く。</p> <p>《探検グループ名》 青コース探検隊 《日時》 ○月○日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第4時では、校区内へ探検に行く活動が組み込まれている。児童の安全確保のため、便り等を通して保護者などの協力を依頼しておく ・児童の探検が予想される場所や施設については、安全面を考慮したり、訪問できるか問い合わせておく。探検が可能かどうかを事前に調べておく。また、前年度の2年生が探検に行った場所も調べておくとうい。 ・児童に出会わせたい人や繰り返し関わらせたい場所などは、あらかじめ写真などを用意し児童の興味を喚起する。 ・教科書P.28～29「まちのきせつ（春）」を導入時の動機付けにしてもよい。 ・学校を中心とした校区地図を用意する。その上から児童が知っているまちの「すてき」を書いた付箋を貼らせる。 ・地図についてまだ知識がないため、児童の家の場所に名前を書いたシールを貼ったり、通学団名を示したりしてもよい。位置関係を捉えさせ、3年生からの社会科の学習へ接続するようにしたい。 ・教科書P.4～5の写真を参考にして、自分たちの町の「すてき」を考えさせる。 ・いいにおい、不思議な形、気になる音など、様々な視点で考えられるようにしたい。 ・「すてき」という言葉が難しい場合は、「おすすめ」「じまん」など児童にとって身近な言葉にし、自分が住む町について知っている情報を引き出すようにする。 ・地域の場所、もの、人に注目させ、自分のお気に入りの場所や知っていることなど、「自分と地域」や「自分と人」との関わりを紹介させるようにさせる。 ・探検前に学級で話し合った「すてき」が貼られた校区地図を見せ、次時からの探検によって町の「すてき」を見付けたいという意欲をもたせるようにする。また、学級のみんなで手分けして町の「すてき」を見付けようと提案し、単元の終末で行う町の「すてき」発表へとつなげたい。 ・最初の探検であるため、児童一人一人のめあてや目的意識が明確でなかったり、漠然としていたりしてもよい。「行きたい」という思いを認め、探検の計画を立てさせる。 ・児童の探検したい場所や知りたい物を考慮して、4～6人程度のグループを編成する。 ・探検場所には、事前に活動の趣旨や到着予定時刻などを知らせ、協力を依頼しておく。 ・保護者の協力を得る際には、学習のねらいと役割分担をきちんと伝えておく。 ・探検先が多くなると、時間が足りなくなった

出発する時刻 ○時
 帰ってくる時刻 ○時
 《探検に行く場所と順番》
 学校→公園→パン屋→児童館→学校
 《役割》
 班長、副班長、写真係、時計係、地図係
 《持て行く物》
 安全帽子、筆記用具、探検バッグ、探検メモ用紙、
 時計、カメラ、防犯ブザー、水筒
 《調べること・聞きたいこと》
 ・公園・・・どんな遊具があるか知りたい。
 ・パン屋・・・どんなにおいかな知りたい。
 ・児童館・・・児童館に来ている人と話したい。
 《約束》
 ・帰る時刻を守る。
 ・交通ルールを守る。
 ・町の人に挨拶をする。

- 挨拶やインタビューの練習をする。
 - ・「こんにちは。○○小学校の○○です。お話してもよろしいですか。生活科の学習で、町探検をしています。（質問）ありがとうございました。」

4～6 探検に出かけ、地域の場所やもの、人と関わりながら町の「すてき」を見付ける。

- ★町の「すてき」探検に行こう
- 町探検のめあてを確認する。
 - ・町の「すてき」（場所、物、人）を見付ける。
 - ・諸感覚（匂い、音など）を使って探す。
 - ・目的地以外でも、町の「すてき」を探す。
 - ・不思議に思ったり、もっと聞きたいことは、町の人にインタビューする。

- 探検の約束を確認する。
 - ・探検のルールやマナー
 - ・緊急時の対応
 - ・帰着時刻等
- 町探検に出かけ、町の「すてき」を探したり、インタビューしたりする。

7～8 探検で見付けた「すてき」をグループごとで振り返り町の「すてき」発表の準備をする。

- ★町の「すてき」をまとめよう
- 見付けた「すてき」をグループで振り返る。
 - ・パン屋さんは、たくさん種類があったね。
 - ・朝からたくさんあったけど、お店の人は何時から作っているんだろう。
- 見付けた「すてき」を発見カードに書く。
 - ・店の外でもいいにおいがしました。優しそうなお姉さんが、おすすめのパンを3つ教えてくださいました。

- 町の「すてき」発表の練習をする。
- 9 町探検をして、気付いたことや感じたことを発表する。
 - ★○○町の「すてき」を発表しよう
 - 見付けた町の「すてき」を紹介し合う。

り、関わりが薄くなったりしてしまう。探検の時間や移動距離などを考え、ある程度絞らせる。

- ・危険な箇所や、注意の必要な場所を地図で確認し、探検の順番や通る道を決める際の参考にさせる。
- ・方面別の校区地図を計画カードの裏に印刷しておき、歩くコースを記入させるようにする
- ・「におい」「色」「音」など諸感覚を使って見るだけでなく、次時へと学習が広がるように、「場所」「物」「人」の3つの視点を与え、探検するよう意識させる。
- ・店や公共施設を探検するときは、客や利用者の迷惑にならないことを繰り返し指導しておく。
- ・探検コースの途中にあるトイレや子ども110番の場所を確認しておく。
- ・緊急時に学校と連絡を取る方法を、繰り返し指導しておく。
- ・「安全に探検する」「人に迷惑をかけない」という目的を明示し、ルールやマナーを話し合わせる。

【評】探検計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
 インタビューする際は、P.107「インタビューをする」を参考にして指導する。
 ・不思議に思ったことや、もっと知りたくなったことは、地域の人に質問するように伝える

- ・教科書P.8～9「たくさん見付けたいね」を参考にし、諸感覚を使って自分たちの地域の「すてき」を探す視点も与える。
- ・探検で見付けたことや気付いたことを、その場で発見カードにメモしたり、デジタルカメラなどのICT機器を使って撮影したりさせる。
- ・町の人や店の写真を撮る際には、必ず許可をもらうように指導する。
- ・国語科の指導と関連させ、メモの取り方を練習させておく。

- ・振り返る手助けとして、デジタルカメラで撮影した写真を印刷したり、タブレットなどのICT機器を使ってグループ毎に共有させたりするとよい。
- ・新たに見付けた町の「すてき」があれば、付箋に書いて校区地図に付け足していく。
- ・発見カードには、探検した場所の様子や発見したもの、出会った人のこと、聞いたことなどを書くよう指導する。

【評】町探検をして気付いたことをまとめる活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・発表する方法については、国語科と関連させたり、P.115「はっぴょうする」を参考にしたりするとよいが、次単元「あの人に会いたい」の学習で、町の素敵を発表する活動があるため、ここでは作品を作るなどの大が

- 気付いたことや感想を話し合い，単元のまとめをする。
 - ・〇〇町には，まだ知らないすてきがたくさんあることが分かりました。
 - ・わたしも，消防士さんがどんな訓練をしているか気になりました。今度お話を聞いてみたいです。

- りな発表とはせず，写真をテレビに映すなどした発表に留めてもよい。
- ・P.11「何のしるしかな」を基に，様々な手助けとなる標識について紹介し，標識の意味だけでなく，何のためにあるかも考えさせたい
- ・必要に応じて，P.12～15「ものしりノート」を活用する。
- ・町のすてきが分かることで，地域に対する親しみや愛着をもたせたい。
- ・次单元「あの人に会いたいな」につながるよう，まだ知らないことがある，もっと話を聞きたいと思わせるような終末としたい。
- 【評】見付けた町の「すてき」を発表する活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

- ・校外へ探検に行く際，引率ボランティアを募ることや，店や施設への依頼などの準備が必要であるため，「わたしたちの野さいばたけ」と単元を入れ替えたり，同時期に行ったりとするなど，学校ごとでカリキュラムを編成することは可能である。
- ・2年生では町探検を2回実施する。1回目の今回は，主として場所やものとの関わりを重視し，秋の2回目の探検では，人との関わりを重視する。

単元名 わたしたちの 野さいばたけ

配当時間 30 時間

- 単元の目標 (1) 野菜を育てる活動を通して、野菜も自分たちと同じように生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。
- (2) 野菜を育てるための準備や世話を工夫したり、野菜の成長の様子や自分の取組を絵や文などで表現したりすることができる。
- (3) 野菜の成長を楽しみにしながら、大切に野菜の世話をしようとする。

標準的な展開例

02060102_001

【準備等】野菜の苗（夏野菜を育てる場合）、野菜の種（冬野菜を育てる場合）、野菜の育て方についての講師依頼、栽培用土、肥料、移植ごて、じょうろ、1年生時に使った植木鉢、支柱、図鑑、ビニル紐、記録カード（野菜調べ、野菜日記）、画用紙、デジタルカメラ等のICT機器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 春から栽培するのに適している野菜について話し合い、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知っている野菜について発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・オクラ ・ナス ・ピーマン ・キュウリ ・ミニトマト ・ニガウリ 等 <p>★野菜作りの計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が育てたい野菜を決めるため、苗屋に行く計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 《持ち物》 安全帽子、筆記用具、探検バッグ、メモ用紙、カメラ、水筒 《調べること・聞きたいこと》 <ul style="list-style-type: none"> ・育てやすい野菜 ・おすすめの野菜 ・野菜の選び方 ・世話の仕方 <p>2～4 苗屋に行き、育てたい野菜を決める。</p> <p>★育てたい野菜を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○店員に聞いたり、売っている野菜を見たりして、育てたい野菜を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・これは何の苗ですか。 ・育てやすい野菜は何ですか。 ○苗屋から聞いたおすすめの野菜から、自分が育てたい野菜を選ぶ。 ○記録カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、スイカがいいなと思っていたけれど、自分の鉢で育てるのは難しいと教えてくれました。だから、お母さんが好きなミニトマトを育てることにします。これから育てるのが楽しみです。 <p>5～6 自分が育てる野菜について栽培方法を調べ、育てるための計画を立てる。</p> <p>★野菜の育て方を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べる方法や内容について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 《調べる方法》 <ul style="list-style-type: none"> ・図鑑 ・インターネット ・地域の農家の方（野菜名人）に聞く 《調べる内容》 <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の特徴 ・世話の仕方 ○自分が育てる野菜について調べ、分かったことを記録カードにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・トマトは水やりをしっかりとしないと病気にかかりやすくなることが分かりました。毎日しっかりと水をあげようと思います。 ○育てる野菜ごとにグループを作り、調べて分かったことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農家の人など、栽培に詳しい人（野菜名人）に指導を受けられるように依頼しておく。 ・購入する苗屋へ、訪問することや話を聞くことは可能か確認しておく。 ・事前に保護者へ連絡を取り、アレルギーの有無を確認する。活動に当たっても、十分に配慮する。 ・児童は夏に採れる野菜や、どの野菜が育てやすいかどうかの知識は少ない。まず、知っている野菜について発表させ、それらについて詳しく知る方法を考えさせたい。 ・育てる野菜の苗を複数にすることで、自分の苗以外のものや友達の苗に自然と目が向くようにする。 ・記録カードは、教科書P.40～47「ものしりノート」を参考にして書かせる。 ・児童の発達段階を考慮した図鑑や園芸書を用意しておき、児童が自分の力で調べられる環境を整えておく。 ・調べるのが難しい児童には、教科書P.42～43「ものしりノート（野菜のそだて方）」を参考にして考えるよう支援する。 ・地域の方に野菜の育て方について相談可能か問い合わせる。 ・記録カード（野菜調べ）に記入させる。 <p>【評】自分が育てる野菜について調べる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>

- 野菜を育てる場所や道具などの準備をする。
 - ・移植ごて ・じょうろ
 - ・1年時に使った植木鉢
 - ・土づくり
 - 7～8 土作りをする。
 - ★野菜がよく育つように土作りをしよう
 - 《準備するもの》
 - ・軍手 ・ショベル ・移植ごて
 - ・牛ふん、肥料や腐葉土
 - ・バケツ等、児童にとって運びやすいもの
 - ・マルチ（必要な場合）
 - 土作りの方法を知る。
 - ・畑を耕す ・肥料等を混ぜる
 - ・畝を作る
 - （・マルチをかける）
 - 役割を決める。
 - ・畑を耕す人 ・腐葉土を運ぶ人
 - ・畝を作る（全員）
 - 土作りをする。
 - 土作りをして感じたことを記録カードに書く。
 - ・ミミズがたくさん出てきてびっくりしたけれど、いい土の証拠だということが分かりました。野菜も喜ぶと思います。
 - 9～10 自分が育てる野菜の苗を植え、気付いたことを記録カードに書く。
 - ★野菜の苗を植えよう
 - 地域の農家の方（野菜名人）から、苗の植え方を教わる
 - 用意した鉢、学年の畑に苗を植える。
 - 苗植えの様子や気付いたことなどを交流する。
 - ・わたしのミニトマトと友達のナスでは、葉っぱの形が違って、不思議でした。
 - ・ナスは茎が紫色をしていました。
 - ・わたしのミニトマトは、もう花が咲いています。
 - 気付いたことを記録カードに書く。
 - ・わたしのミニトマトは、他の野菜と比べると、葉っぱが小さかったです。けれど、もうトマトのにおいがしました。どんなふうに育つか楽しみです。これから丁寧に育てるからね。
 - 11 野菜の様子を観察して、世話の仕方を考える。
 - ★野菜が喜ぶ世話の仕方について考えよう
 - 同じ野菜を育てているグループごとに分かれ、今の野菜の様子を観察する。
 - 困っていることを中心に、全体場で話し合う。
 - ・わたしのミニトマトの草丈が伸びてきました。少し倒れてきています。
 - 調べたことや今までの経験をもとにアドバイスをし合ったり、本やインターネット等で調べたりして、よりよい世話の仕方について考える。
- ・一度学年園に行き、今の状態で野菜を育てることができるか問う。野菜を育てるためには土づくりも大切であることに気付かせ、次時への活動へと移行したい。
 - ・教科書P.44～45「ものしりノート（土づくり）」や、P.118を参考にして指導する。
 - ・体操服に着替えさせる。
 - ・畑を耕すと野菜がよく育つことを理解させたい。
 - ・ショベルを扱う際は、一度に扱う数を少なくしたり、畑を耕す人数を減らしたりするなど危険防止に努める。
 - ・土を素手でよくもみほぐしたり、土の中に残っている根などを取り除いて状態をよくしたり、腐葉土や堆肥を加えて、酸性土壌を改良したりするとよい。
 - ・活動後のうがい、手洗いを徹底する。以後も同様に指導する。
 - 【評】土作りや記録カードへの表現を通して「知識・技能」を評価する。
 - ・自分の苗は必ず自分で植えさせ、愛着をもって継続的に野菜の世話を続けさせる。
 - ・ビニールポットごと植えることのないように指導する。全員のポットを集めて、数を確認するとよい。
 - ・発展の活動を意識し、苗植えの時から、活動の様子や野菜の姿などを教師がデジタルカメラ等で撮影しておくようにする。
 - ・植えると見えなくなるため、植える前に根の様子に意識を向けさせる。
 - ・病気などで枯れてしまったり、鳥に食べられてなくなったりする場合がある。教師が予備の苗を育てておくようにする。
 - ・理科との接続を意識しつつ、葉や茎の色や形、大きさ、手触り、におい、音、心で感じたことなど、諸感覚を使って観察する視点を与える。観察の視点はカードで示し、今後も同様な視点で観察することを伝える。
 - ・野菜の成長への思いや願い、他の野菜と比べて気付いたことを書くように声掛けをする。
 - ・記録カードの用紙は、児童がいつでも記入することができるよう、定位置に常備しておく
 - 【評】記録カードへの表現を通して「思考・判断・表現」を評価する。
 - ・日常の観察に加え、授業の中でタイミングを見て全員で観察する機会をつくる。
 - ・児童一人一人の野菜の様子を把握し、肥料、支柱などの準備をしておく。教師から指示するのではなく、児童からの求めに応じて、必要な物を与えるようにする。
 - ・同じ野菜を育てている児童同士で観察させ、自分の物と比べさせる。
 - ・児童の活動中の様子や発言を丁寧に聞き、思いや願い、疑問に寄り添った声掛けをしたり問い返したりする。
 - ・野菜の成長の様子と合わせて、世話をしていることも伝え合わせるとよい。
 - ・1年生で花を栽培したときのことを想起させ必要な世話を考えさせるとともに、水やりや草取りなど、毎日必要な世話をする意欲も高めさせる。

- 調べたことを発表し、野菜の世話をします。
 - ・支柱を立てる
 - ・土寄せする
 - ・雑草を抜く
 - ・間引きする
 - ・追肥をする 等

12～16 必要に応じた世話をしたり、観察したことや世話したことを記録カードに書いたりする。
★大きく育った野菜のことを、みんなに伝えよう

- 野菜の世話をし、成長の記録をカードに書く。
 - ・この前支柱を立てたところに、ニガウリのつるが巻き付いてくれました。
 - ・わたしのミニトマトに花が咲きました。花が咲いたところから、実ができました。友達の〇〇さんはナスを育てているけど、ナスも同じでした。
- 観察をし、気付いたことを話し合う。
 - ・わたしのミニトマトは草丈がぐんと伸び、葉が横に広がってきました。
 - ・ぼくのオクラの葉がなくなっています。鳥に食べられたかもしれません。
 - ・わたしのキュウリの葉に、白い点々のようなものができてきました。病気か心配です。
 - ・明日台風が来るようだから、大丈夫か心配です。
- 野菜がもっと元気に育つには、どうするとよいか考える
- 本やインターネット等で調べる。
 - ・脇芽を摘む
 - ・鳥よけをする
 - ・重曹を混ぜた水を作る
 - ・鉢を教室や昇降口に避難させる

- 調べたことを発表し、野菜の世話をします。

- 野菜の成長の変化、世話の仕方について気付いたことを記録カードに書く。
 - ・〇〇さんが教えてくれた、重曹スプレーを使ったら、キュウリの葉っぱの白い物が薄くなってきました。元気になってくれて安心しました。これからもお世話を頑張ります。

17～18 野菜を収穫して気付いたことを記録カードに書いたり、伝え合ったりする。
★ぼく、わたしの野菜を収穫しよう

- 野菜を収穫する。
- 野菜を収穫して気付いたことを記録カードに書き、伝え合う。
 - ・ぼくのキュウリは、触るとチクチクします。野菜名人にも食べてもらいたいです。
 - ・わたしのミニトマトは、最初は緑色をしていました。上の方から赤い実ができることが分かりました。もっと世話をして、たくさん収穫したいです。

- ・教科書P.118「そだてる（野さいの世話）」を参考にして、考えさせてもよい。
- ・支柱と植物を結ぶ紐は緩めにしておき、植物の成長を妨げないようにさせる。
- 【評】世話の仕方を調べたり、実践したりすることを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・「見付ける、比べる、たとえる」などについては、自然に表現できるよう繰り返し指導したい。
- ・記録カードを教室に掲示したり、朝の会のスピーチで野菜の様子について発表したりして個々の気付きを全体で共有できるように計画するとよい。日常生活の中で気付いたそれぞれの野菜の特徴を伝え合い、交流する情報交換の場を大切にしたい。
- ・算数科と関連させ、長さや高さ、葉の枚数を比べると成長がよく分かる。
- ・前回の様子と比べたり、諸感覚を使ったりして表現させたい。
- ・教科書P.51の各野菜の花を見せ、特徴を考えさせてもよい。
- ・教科書P.117「つかう（デジタルカメラ、タブレットでうつす）」のように、苗、花が咲いて実になるまでの成長過程を撮影させるとよい。撮影した野菜の様子を見せながら、成長の気付きや、困ったこと等を友達に紹介できるようにさせたい。
- ・気付いたことの他に、困ったことについても取り上げ、世話の仕方について全員で考えさせるとよい。

- ・調べても解決できないときは、地域の野菜名人や上級生に聞いてみるよう声掛けをする。

- ・日常の世話のポイントを、成長に合わせて野菜名人に問い合わせられるようにしておく
- ・脇芽とは、葉や茎の付け根から出る芽のことで、脇芽を摘むことで大きくておいしい実がなる。
- ・暑くなってきたら、休みの前日に直射日光の当たらない場所に移すなど、枯らさないための対策を児童と一緒に考えたい。
- ・脇芽を摘むことに抵抗感がある児童がいたら無理に摘ませる必要はない。
- ・キュウリにうどんこ病の症状が出た場合は、重曹スプレー等を使用するとよい。

- 【評】野菜を観察し、変化を表現したり、よりよい世話の仕方を調べたり、実践したりすることを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・収穫量の少ない児童のために、予備の野菜を育てておきたい。
- ・収穫できるものと、そうでないものと見分け方を調べさせておき、自分の判断でどんどん収穫できるように指導する。
- ・実の付き方や、成長について発言した児童の発言から、他の野菜や、1年時に育てたアサガオと比べて考えさせたい。

- ・野菜によって収穫の時期が異なることや、衛生・安全面への配慮から、家庭で児童とともに調理し、試食してもらうよう保護者に協力を依頼する。
- ・家庭で野菜を食べたら、家の人の感想を聞いてくるよう指導する。保護者と事前に連絡をとり、野菜のおいしさに加え、長い間世話を

19～20 夏野菜の畑の後片付けをする。

★お世話になった畑をきれいにしよう

○畑の後片付け方法を知る。

《手順》

・支柱を抜く ・草を抜く

・土をならす

《用意する物》

・軍手 ・ショベル

○友達と協力して、夏野菜の畑などの後片付けをする。

○畑を片付け、気付いたことを伝え合う。

・キュウリの根っこを抜くのが大変でした。それぐらい大きくなったんだなと思いました。

・畑さんにありがとうございます。

21～22 記録カードを活用して、これまでの栽培活動を振り返る。

★ぼく、わたしの野菜について、まとめよう

○新聞にまとめたいことを伝え合う

・ミニトマトの成長の様子をまとめたいです。

・お世話を頑張ったことについてまとめたいです。

○自分が書きたいテーマをもとに、新聞を作る。

23 これまでの栽培活動を通して、気付いたこと分かったことを伝える。

★ぼく、わたしの野菜のことをみんなに紹介しよう

○3～4人のグループを作り、伝え合う。

○話し合いで気付いたことや、単位を通して学んだことを発表する。

・虫が付いて大変だったけれど、最後まで一生懸命育てました。ミニトマトもたくさんできて嬉しかったです。

24～25 夏野菜の経験を生かして、冬野菜の中から育てたい野菜を決め、野菜の種まきをする。

★冬野菜を育てよう

○冬野菜について話し合う

・カブ ・ニンジン ・ダイコン

・レタス ・コマツナ

○育てたい野菜を決めて、育て方を調べる。

○土作りの手順を確認する。

《準備するもの》

・軍手 ・ショベル ・移植ごて

・牛ふん、肥料や腐葉土

してきた児童の頑張りを認め、称賛してもらうように依頼しておく。

・夏季休暇中も世話や収穫が続くことがある。野菜や鉢を持ち帰ることや、夏季休暇中の世話については、事前に各家庭へ依頼をしておく。また、野菜の鉢は重たいため、懇談会の時間等を使って保護者に持って帰ってもらうよう計画するとよい。

【評】収穫した野菜の様子や喜びを表現することを通して「思考・判断・表現」を評価する

・根が強い野菜もあるため、軍手を用意させるとよい。

・ショベルを扱う際は、一度に扱う数を少なくしたり、畑を耕す人数を減らしたりするなど危険防止に努める。

【評】畑を片付ける作業を通して「知識・技能」を評価する。

・教科書P.115「はっぴょうする」を参考にして、発表方法のモデルを示す。（ポスター、新聞、紙芝居、マップ等）

・今までの記録カードをまとめ、本にする活動も考えられる。

・育てて発見したこと、楽しかったことや嬉しかったこと、野菜の命を育てる苦労などを振り返らせて、まとめたいことを考えさせたい

・苗植えや日々の世話、収穫のときのことを書いた記録カードや写真などを手掛かりとしてそのときの思いや感想を表現できるようにする。

・グループ構成は、種類の異なる野菜を育てた児童同士にしたい。育て方や成長の仕方を紹介し合うことで、野菜の育ち方には共通点があることに気付かせたい。

・世話ができるようになった自分の成長に気付いている児童の意見を称賛し、全体に広げる

・野菜名人にお礼の手紙を書いて、感謝の気持ちを届ける活動を取り入れてもよい。

【評】学習を振り返り、野菜の成長を伝え合う活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・児童の発達段階を考慮した図鑑や園芸書を用意しておき、児童が自分の力で調べられる環境を整えておく。

・今から育てられる野菜は何か、本やインターネット等で調べさせる。

・1学期と同様に、野菜名人にボランティアの依頼をしてもよい。

・記録カード（野菜調べ）に記入させる。

・調べるのが難しい児童には、教科書P.42～43「ものしりノート（野さいのそだて方）」を参考にして考えるよう支援する。

・地域の方に野菜の育て方について相談ができるようにしておく。

・教科書P.44～45「ものしりノート（土づくり）」、P.118を参考にして指導する。

・アブラナ科野菜のダイコンには、モンシロチョウや蛾の幼虫が寄生して葉を食害するため

<ul style="list-style-type: none"> ・もみがら ・バケツ等, 児童にとって運びやすいもの <p>《手順》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑を耕す ・肥料等を混ぜる ・畝を作る <p>○土作りをする。</p> <p>○種のまき方を知る。</p> <p>○野菜の種をまく。</p> <p>26 野菜の様子を観察して, 成長に合わせた世話をする。</p> <p>★野菜を観察しよう</p> <p>○野菜を観察し, 気付いたことを記録カードに書き, 書いたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジン葉は, ダイコンと比べると細いです。 ・ニンジン葉は, もう大人のニンジンと同じ形をしています。 <p>○間引きなど, 必要な世話をする。</p> <p>27 成長の様子を観察して, 必要な世話について話し合う。</p> <p>★大きくなった野菜を観察しよう</p> <p>○野菜を観察し, 気付いたことを記録カードに書く。</p> <p>○困っていることを中心に, 気付いたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育てているハクサイに, 黒い虫がたくさん付いています。 <p>○調べたことや今までの経験を基にアドバイスをし合ったり, 本やインターネット等で調べたりして, よりよい世話の仕方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリやミニトマトも, 病気になったり, 虫が付いたりしたときに葉をかけたから, 葉っぱに葉をかけたらしいと思います。 ・ハクサイは, 葉っぱを食べるから, あまり葉はかけたくないです。虫をとったらしいと思います。 <p>○必要に応じた世話をする。</p> <p>28～29 野菜を収穫して, 気付いたことを記録カードに書いたり, 伝え合ったりする。</p> <p>★ぼく, わたしの野菜を収穫しよう</p> <p>○野菜を収穫する。</p> <p>○野菜を収穫して気付いたことを記録カードに書き, 伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイコンは土に隠れていて分からなかったけれど, こんなにも大きく育っていてびっくりしました。 ・冬野菜は土の中で育つものが多いのかな。 <p>○収穫した野菜をどうするか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きく育ったダイコンを絵にかきたい。 ・持って帰って家の人に見せたい。 ・野菜パーティーを開きたい。 <p>30 野菜の畑の後片付けをする。</p> <p>★お世話になった畑をきれいにしよう</p> <p>○畑の後片付け方法を知る</p> <p>《手順》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支柱を抜く ・草を抜く ・土をならす <p>《用意する物》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍手 ・ショベル <p>○友達と協力して, 畑の後片付けをする。</p>	<p>セリ科のニンジンなどを近くに植えるとよい</p> <p>・ショベルを扱う際は, 一度に扱う数を少なくしたり, 畑を耕す人数を減らしたりするなど危険防止に努める。</p> <p>・生活科の時間だけでなく, 休み時間などにも常時観察や世話ができるようにし, 野菜の変化や成長についての気付きを促す。</p> <p>・本葉が咲いた頃に観察するとよい。</p> <p>・「見付ける, 比べる, たとえる」などについては, 自然に表現できるよう繰り返し指導したい。</p> <p>・教科書P.117「つかう(デジタルカメラ, タブレットでうつす)」のように, 野菜の成長過程を撮影させるとよい。</p> <p>・1年時に育てたアサガオと同様, もっと大きく育つには間引きする必要があることを伝える。</p> <p>・本葉が2枚の頃に1回目の間引きをし, 本葉5, 6枚の頃には2回目の間引きをし, 1本立ちにする。</p> <p>・撮影した野菜の様子を見せながら, 成長の気付きや, 困ったこと等を友達に紹介できるようにさせたい。</p> <p>・気付いたことの他に, 困ったことについても取り上げ, 世話の仕方について全員で考えさせるとよい。</p> <p>・根の肩が出ていたら土寄せする。</p> <p>【評】世話の仕方を考えたり工夫したりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・ダイコンの葉が立ち上がってくる。立ち上がった葉の先端が垂れてきたら収穫するとよい</p> <p>・いくつか収穫せず残し, 冬野菜も花が咲くことを紹介するのもよい。</p> <p>・夏野菜を思い出し, 野菜の特徴や成長の様子育て方の違いなど, いろいろな視点で比べさせてもよい。</p> <p>【評】野菜の成長や気付いたことを伝え合う活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・発展的な活動は各学校の実態に合わせて考えてもよい。</p> <p>・ショベルを扱う際は, 一度に扱う数を少なくしたり, 畑を耕す人数を減らしたりするなど危険防止に努める。</p>
---	--

【 備 考 】

・1年生時における栽培経験を基に、諸感覚を使って試行錯誤しながら野菜を育てたり、友達のと比べたりして、観察や世話の仕方を自分なりに工夫する力を付けさせたい。また、活動を通して、野菜と共に自分も成長していることや、最後まで野菜の世話ができた自分のよさにも気付かせたい。

・1年生で育てたアサガオは種から育てたが、夏野菜については種から育てることは難しいため、苗から育てるようにする。野菜との出会わせ方については、学級または学年で苗屋に行き、苗屋に聞いて自分が育てたい野菜を決めさせる。なお、冬野菜は種から育てるようにしたい。

単元名 生きものと 友だち

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 友達と一緒に生き物の世話をしながら、その成長の喜びを味わい、生き物も自分たちと同じように成長していることに気付くことができる。
- (2) 生き物のすみやすい環境を考えて世話をしたり、分からないことを人に相談したりしながら、自分たちで工夫して活動することができる。
- (3) いろいろな生き物の世話をしたり育てたりする活動を通して、生き物が自分たちと同じように生命をもっていることに気付き、大切に扱おうとする。

標準的な展開例

02060103_001

【準備等】飼育ケース、網、餌、虫眼鏡、生き物の図鑑、校区地図、記録カード（生きものはっ見カード）
I C T機器

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 生き物を見付けたり、捕まえたりした経験を話し合い、生き物を探しに行く場所を決め、単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生き物を見付けたり、捕まえたりした経験を話し合い、生き物を探しに行く場所を決め、単元の見通しをもつ。 ○どこにどんな生き物がいたか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・町たんけんで、チョウを見付けました。 ・石やブロックの下に、ダンゴムシがいました。 <p>★生き物を探す作戦を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○探しに行く計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 《探しに行く場所》 <ul style="list-style-type: none"> ・校庭 …ダンゴムシ ・畑 …モンシロチョウ ・観察池…ヤゴ ・田んぼ…オタマジャクシ ・公園 …アゲハ、クワガタムシ 《捕まえる方法》 <ul style="list-style-type: none"> ・網 《用意する物》 <ul style="list-style-type: none"> ・虫を入れる袋や入れ物、飼育ケース、虫とり網、長靴 <p>2～3 生き物のとり方を工夫して、生き物を捕まえる。</p> <p>★生き物を探しに行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生き物探しのルールや約束を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・探検前、後は手洗い、うがいをする。 ・交通ルールを守る。 ・危険な場所に入らない。 ・ムカデ、スズメバチ、セアカゴケグモ、ヒアリ、チャドクガなど、危険な虫に触らない。 ・生き物のすみかを荒らさない。 ○生き物を探しに行く。 <p>○生き物のすみかと餌を整える。</p> <p>○生き物を捕まえて、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ダンゴムシ…〇〇さんが言っていたとおり、石の下にいました。触ると丸くなるから、捕まえやすかったです。 ・バッタは土のところではなくて、草むらにいました。草を食べるのだと思います。 </p> <p>○生き物を捕まえたことを振り返り、気付いたことを記録カードに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんに教えてもらったミカンの木で、アゲハの幼虫を見付けました。この葉っぱが好きなのかな。名前も </p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元前から、意識的に生き物のことを話題にしたり、生き物の本を読み聞かせしたりして、児童の興味や関心を高めておく。 ・飼育経験、アレルギーの有無、生き物への苦手意識など、児童一人一人の実態を把握しておく。 ・町探検で使用した校区地図を「生き物マップ」として再利用し、探すときの見通しをもたせる。また、再利用することで町探検とは違う視点から地域の特徴に気付かせたい。 ・地域の人や保護者など、生き物に詳しい人への協力を依頼してもよい。 ・グループで話し合いながら計画を立てさせるとよい。 ・学校の実態に合わせ、校庭で活動可能な場合はそのように計画を立ててもよい。 <p>【評】生き物を捕まえる計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいなどの衛生面や、安全、ルールやマナーについての指導を徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> ・採集が苦手な児童については、得意な児童に手伝ってもらったり、助言をもらったりして生き物に触れ合えるようにする。 ・デジタルカメラなどのI C T機器を用い、生き物の様子を写しておくとうい。 ・簡単なすみかや餌を用意させ、飼い続けることへの意欲をもたせる。 ・児童が飼いたい生き物の飼育ができるように支援するが、教室での飼育が難しいと思われる生き物を選んだ場合は、飼育するか再度考える時間を与える。 ・今後のすみか作りや世話の方法を考える手立てとして、どこで見付けたか、どのようにして捕まえたか、何を食べていたかなど、視点を与えて発表させるとよい。 ・「見付ける、比べる、たとえる」などについては、自然に表現できるよう繰り返し指導したい。 ・生き物が生息している場所を比べて発言する児童を称賛し、生き物にも種類によってすみかが違うことに気付かせたい。 ・児童が日常的に関われる場所で飼ったり、名前を付けさせたりなどして、親しみや愛着をもって世話を続けられるようにする。 <p>【評】生き物を捕まえる活動を通して「知識・</p>

- 付けました。大切に世話をしたいです。
- 4 生き物を飼い続けるために必要な世話の仕方を考える。
- ★生き物が喜ぶすみかを作ろう

- 世話の仕方やすみかを考え、話し合う。

《餌》

- ・いろいろな種類の物を置いて、試してみる。

《すみか》

- ・石や葉など、隠れる場所をつくる。

《世話の仕方》

- ・あまり触ってはいけない。
- ・霧吹きで時々水をかける。

- 考えた方法で、すみかを作り直したり、餌を与えたりして工夫する。

- 分かったことを記録カードを書く。

- ・捕まえたところの土を触って見たら、じめじめしていました。住んでいるところと同じように、土を湿らせてあげようと思います。

- 5～6 生き物の世話をし、気付いたことや感じたことを伝え合う。

- ★生き物の不思議を見付けよう

- 生き物の変化や成長の様子について気付いたことを記録カードに書く。

ダンゴムシ

《体》

- ・足は14本
- ・体長13ミリメートル

《動き》

- ・触ると丸くなる。

《すみか》

- ・落ち葉の下に隠れている。

《世話をし変った、分かったこと》

- ・指に乗せても落ちないで歩き続ける。
- ・餌は落ち葉を食べる。
- ・脱皮する。

- 気付いたことを話し合う。

- ・わたしのダンゴムシは、脱皮をするときは、半分ずつ皮を脱ぎます。〇〇さんのオタマジャクシは、大きくなるとだんだん色が変わっていました。

- 7～9 これまでの活動を振り返り、今後飼い続けるか考える

- 自分たちが大切に育ててきた生き物について、誰にどんなことを、どんな方法で伝えたいか考える。

- ★大発見をみんなに伝えよう

- 今までの記録カードを基に、発表の準備を行う。

- 「生き物大発見」の発表会をする。

技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・自分なりに試行錯誤しながら生き物の世話をすることができるように、生き物の図鑑や本を掲示したり、ICT機器を利用したりするなど、学習環境を整える。
 - ・簡単なすみかを作り飼育する活動を通して、疑問に思ったり困ったりしている児童がいる場合、その児童の思いを全体へ問いかけ、飼育方法を考えさせたい。
 - ・生き物が死んでしまった場合には、その死にきちんと向き合わせ、どんな生き物にも命があることを理解させる。また、死んでしまった原因を考えさせ、飼育方法を見直すきっかけとする。
 - ・自分の作ったすみかが生き物にとってどんな住み心地なのか、生き物の立場に立って考えさせるようにする。
 - ・P.62～63「ものしりノート」や図鑑、本で調べたことを活用し、それぞれの生き物に合ったすみかや世話について考えさせる。
 - ・同じ生き物を世話している児童同士でグループを作り、すみかや餌を比べたり、教え合ったりできるようにする。
 - ・本来の生育環境に近づけたり、生き物に合った世話をしたりする必要があることに気付かせたい。
 - ・生き物を捕まえたところへ再度行くなどして生き物がすみやすい環境について調べ、環境を大切にする心を育てたい。
- 【評】生き物に適した餌やすみかを考える活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・生活科の時間だけでなく、休み時間などにも常時観察や世話ができるようにし、生き物の変化や成長についての気付きを促す。
- ・自主的に生き物の観察ができるように、児童の手の届く場所に虫眼鏡や観察カードを置いておく。
- ・記録カードには、左記のように生き物の特徴を示したり、諸感覚ごとに分けたりと視点を示すとよい。
- ・虫眼鏡を使い、生き物の様子をより詳しく見付けさせる。
- ・観察する際は、五感カードを提示し、諸感覚を使って観察させるようにする。また、P.108～P.109「見る」を参考にさせる。
- ・今までの活動や気付きを振り返ることができるよう、写真や記録カードを掲示しておく

- ・見付けた変化や成長の様子を、友達と表現し合い、振り返ることで、身の回りの様々な生き物に対して進んで関わろうとする気持ちを高めさせたい。

【評】生き物の世話をしながら、その様子を観察する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・発表する方法については、国語科と関連させたり、P.115「はっぴょうする」を参考にしたりする。

- ・発表の際は、書画カメラ等のICT機器を使って実物を大きく見せたり、今までの記録を写真に収めたものをTVに映したりするなど児童の思いが聞き手に伝わるようにする。
- ・生き物のことを考えて、継続的に飼育するこ

・わたしのまるちゃんは、昼にあまり動きません。調べてみると、ダンゴムシは夜行性ということが分かりました。だから、落ち葉をかぶせて隠れるようにしました。まるちゃんはお腹にたくさんの卵みたいなものがありました。しばらくすると、白くて小さな赤ちゃんがたくさん生まれました。

・〇〇さんが飼い方を教えてくれたから、いろいろな発見ができました。

○これからも飼いつけるか話し合う。

・トンボになったら、ヤゴを見つけた池に戻してあげようと思います。

・ずっと一緒にいたいから、これからも飼いつけようと思います。

とができるようになった自分や友達のように気付けさせる。

・育て続けて観察を続けるか、元のすみかに返してやるなど、今後の飼育活動については児童の思いを第一に考えるようにする。

【評】世話をしてきた生き物についてまとめ、表現する活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

・児童一人一人が責任をもって継続的に世話をし、繰り返し関わる過程で生命あるものを大切にする心を育む。今回の改訂では、「働きかける」という文言が新たに加わった。生き物本来の生育環境に目を向け、よりよい成長を願って世話の仕方を考えたり、振り返ったりすることである。生き物と関わる継続的な学習活動を設定することで、生命をもって生きていることや、世話等を頑張った自分への成長にも気付かせたい。

・飼育に当たっては、管理や繁殖、施設や環境などについて配慮する必要がある。休日や長期休業中の世話なども組織的に行い、児童や教職員、保護者などによる連携した取組が期待される。また、地域の自然環境や生態系の破壊につながらないように、外来生物等の取扱いには十分配慮しなければならない。活動前後には、必ず手洗い、うがいなどをする習慣を付け、感染症などの病気の予防に努めることも大切である。児童のアレルギーなどについても、事前に保護者に尋ねるなどして十分な対応を考えておく必要がある。

・町探検の学習を1学期にまとめて行う場合は、本単元を秋に行ってもよい。その際、取り扱う生き物は季節に合わせる必要がある。

単元名 **【旧】春だ 今日から 2年生**

配当時間 **6時間**

単元の目標 (1) 身近な自然の観察や地域の行事に関わるにより楽しさを味わい、それらの違いや特徴を見付けることができる。
(2) 自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることについて考え、自分たちの生活を工夫することができる。
(3) 四季の変化や身近な自然の様子や特徴を生活の中に取り入れ、自分の生活を楽しくしようとする。

標準的な展開例

02060104_001

【準備等】記録カード、1年生との交流会に必要な物等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1, 2 身近な生活や自然の中から、冬から春になって変わったことを探す。</p> <p>★身近な生活や自然から冬にはなかったものを探そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2年生に進級し、1年生のときと比べて変わったことや2年生になった気持ちを発表する。(身近な生活の変化) <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室や靴箱の場所が変わって、わくわくします。 ・ クラスが変わって新しい友達ができました。 ・ 新しい教科書を使って、新しい勉強が始まりました。 ○ 校庭で春を探し、友達と伝え合う。(身近な自然の変化) <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生に喜んでもらいたくて育てていたチューリップのつぼみが開いてきました。早く1年生に伝えたいです。 ・ 池でゼリーみたいな卵を見つけました。何の卵か知りたいので、育ててみたいです。 <p>3 冬から春になって変わったことや感じたことを記録カードにかいて、伝え合う。</p> <p>★冬から春になって変わったことや感じたことを伝え合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な生活や自然の中から見つけた春を、記録カードにかく。 ○ 見つけた春を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくたちが使っていた教室や靴箱を、今は新しい1年生が使っています。ぼくは、2年生になって、お兄さんになりました。 ・ サクラソウの茎がまた少し伸びて、新しい花が咲きました。次々咲いて、今は5階。まるで、サクラソウ・スカイツリーみたいです。虫になってすんでみたいです。 ○ 友達の発表を聞いて、感想を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校にも自然にも、いろいろなところに春が来たことが分かりました。 ・ 春が来て、ぼくたちも大きくなったんだなと思いました。 <p>4 「1年生をむかえる会」の計画を立てる。</p> <p>★「1年生をむかえる会」を準備しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生にしてあげたいことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校に来るのが楽しくなるように、学校のことをもっと教えてあげたいです。 ・ 困っているときに助けてあげられるように、なかよくになりたいです。 ・ 勉強が楽しくなるように、できるようになったことを見せてあげたいです。 ○ 「1年生をむかえる会」の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムをつくる。 ・ 司会の練習をする。 ・ 教室の飾り付けをする。 等 <p>5, 6 「1年生をむかえる会」をし、記録カードにかいて伝え合い、自分の成長を振り返る。</p> <p>★「1年生をむかえる会」をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生を迎えに行き、自己紹介をする。 ○ 計画に沿って1年生と活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な生活の変化と、身近な自然の変化の2つの視点をもたせる。 ・ 進級したことが意識できるように、1年間の様子が分かるコーナーを設けたり、春の自然に目が向くように季節の花を飾ったりして、活動への興味や関心を高めるような環境づくりを心がける。 ・ 学校のルールなど変わらないものにも触れ、上級生になり、1年生の手本となつて、学校生活を意欲的に過ごせるように励ます。 ・ 諸感覚を使って働きかけたり、冬の頃と比較したりするなど、春を探す視点を示し、気づきを深めさせる。 ・ 活動の途中で情報交換する場を設けて、活動を広げるようにする。 ・ 草花や風を使って遊んでいる児童がいたら称賛し、春の楽しみとして全体に紹介する。 ・ うがい、手洗いなど、衛生面の指導を徹底する。 <p>【評】身近な生活や自然から春を探す活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見つけたことだけではなく、感じたこともかくようにさせる。 ・ 伝え合うことで、自分が見付けられなかった四季の変化にも目を向けさせる。 ・ 児童の発言を「生活の春」、「自然の春」などに整理して板書することで、春になり生活や自然の様子が変わったことを確認するとともに、進級の喜びや自分自身の成長の喜びを味わわせる。 <p>【評】記録カードへの表現や伝え合う活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級活動や学校行事等との関連を図り、1年生と2年生の担任で計画を立てるとよい。 ・ 自分たちが1年生のときにしてもらって嬉しかったことを想起させ、上級生として1年生のためにできることを考えさせる。 ・ 1年生の担任とお互いの学習のねらいを確認し、1年生と2年生の双方の児童にとって楽しく価値のある交流活動となるようにする。 ・ 案内する順番や紹介することを考えさせ、役割を分担して準備させる。 <p>【評】計画や準備をする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困ったときの約束を決めるとともに、担任のいる場所を確認しておくことで、児童自らが対処できるようにする。 ・ 事前にペアや少人数のグループを決めておき交流できるようにする。 ・ 上級生として、1年生の手本になって活動で

○ 1 年生を教室に送る。

○ 1 年生に喜んでもらったことや、してよかったことを記録カードにかいて伝え合う。

- ・「ゲームが楽しかったです」と言ってもらえました。分かりやすいルールにして良かったです。
- ・アサガオの種をあげたら喜んでくれました。今度、育て方を教えてあげたいです。いろいろできることが増えてきました。
- ・音楽室を案内してあげたら、「音楽の勉強が楽しになりました」と言ってくれました。もっと学校のことを教えてあげたいです。

きるように支援する。また、がんばっている姿を称賛し、自信をもって活動できるように励ます。

- ・授業中の校内の移動の仕方に気を付けるよう指導する。

【評】 1 年生との交流を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・1 年生にしてあげたことと、そのときの 1 年生の様子を発表させることで、上級生として頼りにされていることを自覚させ、自信をもたせる。

- ・上級生になって役割が増えたことに気付かせ進級の喜びが実感できるようにさせる。

- ・もっと 1 年生とやりたいことをかいている児童がいれば取り上げ、休み時間などにも、1 年生と一緒に遊ぶように声がけをし、自信と意欲をもって生活できるように支援する。

【評】 記録カードへの表現や伝え合う活動を通して「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 【旧】大きく なあれ わたしの 野さい

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 野菜を育てる活動を通して、野菜も自分たちと同じように生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。
 (2) 野菜を育てるための準備や世話を工夫したり、野菜の成長の様子や自分の取組を絵や文などで表現したりすることができる。
 (3) 野菜の成長を楽しみにしながら、大切に野菜の世話をしようとする。

標準的な展開例

02060105_001

【準備等】実物の野菜、図鑑、園芸書、野菜の種、苗、肥料、植木鉢、プランター、くわ、移植ごて、じょうろ、支柱、ひも、観察カード、画用紙等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 自分が育てる野菜を決め、育て方を調べる。</p> <p>○知っている野菜を発表する。 ・ミニトマト ・キュウリ ・オクラ ・トウモロコシ ・エダマメ ・ナス 等</p> <p>★自分が育てる野菜を決め、育てるための計画を立てよう ○野菜を育てる計画を立て、めあてをもつ。</p> <p>○自分で育ててみたい野菜について発表する。 ・お父さんが大好きなエダマメを育てて、食べてもらいたいです。お父さんが「塩茹でするとおいしいよ」と言っていました。 ・「ミニトマトは次々実るから楽しいよ」と、通学団のお兄さんが教えてくれました。たくさん収穫できるミニトマトを育てます。</p> <p>○苗の植え方や野菜の育て方を、図鑑や園芸書などで調べる。</p> <p>2, 3 土づくりをして、自分が育てる野菜の苗を植え、気付いたことを記録カードにかく。 ★野菜の苗を植えよう ○野菜名人に教わりながら、みんなで協力して土づくりや畝づくりをする。</p> <p>○野菜の苗の植え方を確認する。</p> <p>○野菜の苗を植える。</p> <p>○苗植えの様子や気付いたことなどを記録カードにかく。 ・トマトの実がないのに、トマトと同じようなにおいがしました。毎日世話をするから、早く実がなっほしいです。 ・わたしのミニトマトと〇〇さんのキュウリでは、葉の形も大きさも違いました。どんな花が咲くのか楽しみです。</p> <p>4 今の野菜の様子を観察して、今後の世話の仕方を計画する。 ○今の野菜の様子を観察し、感じたことを伝え合う。</p>	<p>・児童の発達段階を考慮した図鑑や園芸書を用意しておき、児童が自分の力で調べられる環境を整えておく。</p> <p>・教科書P.9の写真を見ながら、知っている野菜をクイズ感覚で楽しく挙げさせる。</p> <p>・昨年の2年生が育てていた野菜を想起させたり、実物の野菜を見せたりして、児童の興味や関心を高める。</p> <p>・収穫後のことを考えた上で栽培活動を行わせ意欲が持続できるようにさせる。</p> <p>・地域の気候や土壌、学校の畑の広さ、日当たり、水はけ、低学年児童の技能などを考慮して、栽培に適した野菜をリストアップしておく。</p> <p>・教科書P.20「やってみよう」を活用し、夏野菜と冬野菜について知らせ、これから育てる野菜は夏野菜であることを押さえる。</p> <p>・教科書P.11, 13, 15の右端の野菜の成長を表した写真を並べて見させたり、わらべうた「お寺の和尚さん」を歌ったりして、栽培活動への興味や関心をもたせる。今後、この写真については、野菜の成長の過程を確認するのに使っていくとよい。</p> <p>・教科書P.18「なえのうえ方」の活用を図る。</p> <p>・種から栽培することも考えられる。</p> <p>・苗の植え方や世話の仕方を、家の人や上級生にも聞いておくように声がけをする。</p> <p>【評】育てる野菜を決めたり、育て方を調べたりする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・地域の農家の方など、野菜の栽培に詳しい人（野菜名人）の指導が随時受けられるようにしておくことよい。</p> <p>・可能な範囲で児童にも土づくりに参加させるとよい。</p> <p>・土を素手でよくもみほぐしたり、土の中に残っている根などを取り除いて状態をよくしたり、腐葉土や堆肥を加えて、酸性土壌を改良したりするとよい。</p> <p>・教科書P.18の「なえのうえ方」を使って確認する。P.19の「いろいろなそだて方」を活用し、麻袋、米袋、牛乳パック、ペットボトルで育てる方法もあることを知らせる。</p> <p>・自分の苗は、必ず自分で植えさせ、愛着をもって、継続的に野菜の世話を続けることができるようにさせる。</p> <p>【評】土づくりや苗を植える活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・理科への接続を意識して、葉や茎の色や形、大きさ、手触り、においなど、諸感覚を使って観察する視点を与える。</p> <p>・国語「かんさつ名人になろう」と関連付けて指導するとよい。また、適宜記録カードに観察したことをかくよう指示する。</p> <p>・野菜の成長への思いや願い、他の野菜と比べて気付いたことをかくように声がけをする。</p> <p>【評】記録カードへの表現を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・支柱が必要になってきた頃に、本時の活動を行う。</p>

- ・背が高くなってきて、ミニトマトが倒れそうです。
- ・ぼくの手ひらよりも大きな葉っぱがたくさんあります。でも、虫に食われている葉っぱもあるので心配です。

★野菜をもっと元気にする世話の仕方を考えよう

- 世話の仕方を考えて伝え合う。
 - ・アサガオを育てたときのように、支柱を立てたらいいいと思います。
 - ・どうやったら虫が付かなくなるか、上級生や野菜名人さんに聞いてみたいです。
 - ・肥料は足りているかどうか知りたいです。
- 支柱を立てたり、脇芽を摘んだりする。

5, 6 必要に応じた世話をしたり、観察したことや世話をしたことを記録カードにかいたりする。(常時活動を含む)

★もっと大きく元気に育つように野菜の世話をしよう

- 野菜の成長に応じて、必要な世話をする。
 - ・水やり
 - ・間引き
 - ・土寄せ
 - ・草取り
 - ・追肥
 - ・脇芽摘み 等
- 野菜の変化や成長、世話の仕方について気付いたことを記録カードにかく。
 - ・キュウリのつるが伸びてきたので支柱を立てました。アサガオのようにつるが支柱につかまって、やっぱりゆらゆらになりました。
 - ・黄色い花が咲きました。ここにミニトマトができるのかな。おいしいミニトマトができるように、これからも毎日水をあげたいです。
 - ・キュウリの葉っぱは、ミニトマトの葉っぱよりも大きいです。キュウリもミニトマトも、葉っぱや茎に毛が生えています。
- 野菜の変化や成長、世話の仕方について気付いたことを伝え合う。

7 収穫の時期を知り、適宜野菜を収穫して、気付いたことを記録カードにかいたり、伝え合ったりする。(常時活動を含む)

★ぼく、わたしの野菜を収穫しよう

- 野菜を収穫する。
 - 野菜を収穫したり、食べたりしたことを記録カードにかいて、成就感や充実感を伝え合う。
 - ・ミニトマトが8個とれました。甘くてとてもおいしかったです。おじいちゃんにあげたら喜んでくれたのもっと世話をがんばって、たくさん収穫したいです。
 - ・キュウリがとれました。触るとちくちくしています。お母さんが、「がんばって育てたね」と褒めてくれたので、嬉しかったです。
- 8, 9 記録カードを活用して、これまでの栽培活動を絵本にまとめ、紹介し合う。

★ぼく、わたしの野菜のことをまとめて紹介しよう

- 絵本にまとめたいことを伝え合う。
 - ・ミニトマトの成長の様子をまとめたいです。
 - ・キュウリの世話でがんばったことをまとめたいです。

- ・毎日の世話は、始業前や休み時間など、常時活動の中で行わせ、野菜の成長に合わせて適宜生活科の時間で野菜の世話をする時間をとるようにする。
- ・野菜の成長の様子と合わせて、世話をしている困っていることも伝え合わせる。

- ・1年生で花を栽培したときのことを想起させ必要な世話を考えさせるとともに、水やりや草取りなど、毎日必要な世話をする意欲も高めさせる。
- ・教科書P.19の「せわ」を活用して、野菜の世話の仕方を確認する。
- ・脇芽とは、葉や茎の付け根から出る芽のことで、脇芽を摘むことで、大きくておいしい実になることを伝える。
- ・支柱と植物を結ぶひもは緩めにしておき、植物の成長を妨げないようにさせる。
- 【評】世話の仕方を考える活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。
- ・記録カードを教室に掲示したり、朝の会のスピーチで野菜の様子について発表したりして個々の気付きを全体で共有できるように計画するとよい。

- ・教科書P.19を参考に、水やりや草取り、土寄せ、追肥などの世話を継続して行わせる。
- ・教師はこまめに野菜の様子を観察し、児童それぞれの野菜に必要なアドバイスをする。
- ・野菜の成長に合わせて、日常の世話のポイントを野菜名人に問い合わせられるようにしておく。
- 【評】世話をする活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教科書P.11, 13, 15の右端の野菜の成長を表した写真を使って、自分の野菜がどの成長段階かを捉えさせたり、野菜による葉の形や色、実の付き方を比べさせたりして、3年生からの理科の学習につながるようにする。
- ・野菜の変化や成長への気付きや、自分の力で工夫して栽培しようとする意欲など、自分と野菜のかかわりが見えるように意識して記録カードがかけられるように声がけをする。

- 【評】記録カードへの表現や伝え合う活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。
- ・野菜によって収穫の時期が異なることや、衛生面、安全面への配慮から、収穫した野菜は家庭で児童とともに調理し、食べてもらうように保護者に協力を依頼しておく。
- ・収穫時期は、一人ずつ異なるので、熟していない野菜と熟した野菜とを見分けながら、休み時間などを使って、各自で収穫させる。
- ・収穫前に野菜を観察させ、実の付き方に気付かせる。
- ・野菜を食べた感想や家の人からの言葉を、記録カードに表現させ、成就感や充実感をもたせる。
- 【評】記録カードの表現や伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・絵本の他にも教科書P.114, 115の「べんりてちょう」のように、新聞やポスター、ペーパークラフトなどで表現させる方法も考えられる。
- ・児童の実態に合わせた方法を取り入れたい。
- ・教科書P.11, 13, 15の右端の野菜の成長を表した写真を使って、自分の野菜の成長を時系列で表現する方法に気付かせる。
- ・育てて発見したこと、楽しかったことや嬉し

○ これまでかきとめてきた記録カードから数枚選び、絵本をつくる。

○ 絵本を見せながら、これまでの栽培活動の中で、一番伝えたいことを紹介し合う。

- ・ 肥料をやったり、脇芽をとったりして、世話をするのが大変でした。でも、ミニトマトがたくさんとれて嬉しかったです。
- ・ キュウリは、水をやらないとすぐに元気がなくなってしまいます。だから、毎日忘れないように水やりをしました。とても大きなキュウリができました。お母さんに「おいしい」と言ってもらえて嬉しかったです。
- ・ トマトづくり名人のおじさんに何度も聞いて育て方を教えてもらいました。おじさんのつくったトマトのように、甘くて果物のようなトマトができました。おじさんのような野菜づくり名人に私もなりたいです。

かったこと、野菜の命を育てる苦労などを振り返らせて、まとめたいことを考えさせる。

- ・ 絵本の最後のページに、栽培活動全体を振り返って、収穫までの野菜への思いや、工夫して世話をする楽しさや喜び、命を育てる大変さなどをかき、紹介し合う際に使えるようにさせる。
- ・ 1年生や野菜名人などに自分の野菜のことを伝える活動も考えられる。
- ・ 種類の異なる野菜を育てた児童同士でグループをつくり、その育て方や成長の仕方を紹介し合う場を設けることで、野菜の育ち方には共通点があることに気付かせる。
- ・ 世話ができるようになった自分の成長に気付いている児童を取り上げ、称賛し、全体に広げるとよい。
- ・ 野菜名人にお礼の手紙をかいて、感謝の気持ちを届けるとよい。

【評】絵本の内容や紹介し合う活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 【旧】どきどき わくわく まちたんけん

配当時間 9時間

単元の目標 (1) 自分の町を探検し、調べる活動の中で、町の特徴やよさ、そこに暮らしたり働いたりする人々の様子などに気付くことができる。
 (2) 友達と一緒に町探検へ行き、発見したことや体験したことなどを絵や文にまとめて、まわりの人々に伝えることができる。
 (3) 自分たちが住む町を、友達と協力して調べたり、探検したりする活動を通して、自分たちの町に対して親しみや愛着をもとうとする。

標準的な展開例

02060106_001

【準備等】 まちの絵地図、色シール、カード、記録カード、付箋、探検バッグ、デジタルカメラ等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 まちの「すてき」を伝え合う。 ★まちの「すてき」を伝え合おう</p> <p>○まちの様子を思い出し、まちの「すてき」を伝え合う。 ・おもしろい形のおまんじゅうを売っている和菓子屋さんがあります。 ・毎朝おまわりさんが声をかけてくれます。 ・昔から立っている大きな木があります。 ・いいにおいのするパン屋さんがあります。</p> <p>○友達の紹介した「すてき」を聞いて、見たいことや知りたいことを伝え合う。 ・おもしろい形のおまんじゅうって、どんな形のおまんじゅうなのか知りたいです。 ・どのくらい大きな木なのか見てみたいです。何年前から立っているのか知りたいです。</p> <p>2, 3 探検に行きたい場所を伝え合い、グループに分かれて探検の計画を立てる。 ★まちの「すてき」探検の計画を立てよう</p> <p>○探検に行きたい場所を伝え合い、グループに分かれる。</p> <p>○探検の計画を立て、めあてをもつ。 ・探検に行く日、行く時間 ・係（役割） ・行く場所と順番 ・持っていく物 ・通る道 ・見つけたい「すてき」（場所、もの、人）等</p> <p>○安全な探検の仕方を伝え合い、グループで探検の約束を決める。 ・時間を守る。 ・安全に気を付ける。 ・人に迷惑をかけない。等</p> <p>○計画を記録カードにかく。</p> <p>○挨拶やインタビューの練習をする。 ・こんにちは。〇〇小学校の〇〇です。 ・お話をしてもよろしいですか。 ・生活科の学習でまち探検をしています。 ・お話を聞かせてください。 ・ありがとうございました。 ・さようなら。</p> <p>4～6 探検に出かけ、地域の場所やもの、人とかかわりながら、まちの「すてき」を見つける。 ★まちの「すてき」探検に行こう</p>	<p>・学校を中心としたまちの絵地図を用意し、その中の児童の家の場所に、名前を書いたシールを貼っておく。</p> <p>・場の設定として、商店街の店の写真で商店街マップをつくるなど、地域の様子をいつでも見られるようにしておくとうい。</p> <p>・教科書P. 21のイラストやP. 22, 23の写真を参考に、自分たちの地域の「すてき」を考えさせる。</p> <p>・地域の場所、もの、人に注目させ、自分のお気に入りの場所や知っていることなど、自分と地域や自分と人とかかわりを紹介し合うようにさせる。</p> <p>・児童の発言をまちの絵地図に付け加え位置関係を捉えさせ、3年生からの社会科の学習へ接続するようにする。</p> <p>・友達の「すてき」を「見たい」「知りたい」という思いを、次時からの探検の活動へつなげる。</p> <p>・児童の探検が予想される場所については、安全面を考慮したり、探検場所に問い合わせたりして、探検が可能かどうかを事前に調べておく。</p> <p>・児童の探検したい場所、知りたいもの、会いたい人などを考慮して、4～6人程度のグループを編制する。</p> <p>・探検の際には、児童の安全確保のため、保護者などの協力を得るようにしておく。協力依頼の連絡は、余裕をもって行う。</p> <p>・危険な箇所や、注意の必要な場所を絵地図で確認し、探検の順番や通る道を決める際の参考にさせる。</p> <p>・緊急時の対応（学校への連絡方法など）について、確認する。</p> <p>・教科書P. 32「ちがいをさがそう」を活用し、探検のルールやマナーについて確認するとよい。</p> <p>・教科書P. 25「やくそく」や教科書P109「べんりてちょう」を参考に、「安全に探検する」「人に迷惑をかけない」という目的を確認しグループの約束を決めさせるとよい。</p> <p>【評】探検の計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・方面別の絵地図を記録カードの裏に印刷しておき、歩くコースを記入させるようにする。</p> <p>・教科書P. 27「たんけん名人になろう」を活用し、グループごとに挨拶やインタビューの練習をさせる。</p> <p>・探検で、不思議に思ったりもっと知りたいと思ったりしたことは、地域の人に質問するように伝える。</p> <p>・探検場所には、事前に活動の趣旨や到着予定時刻などを知らせ、協力を依頼しておく。</p> <p>・2年生ではまち探検を2回実施する。1回目の今回は、主として場所やものとかかわりを重視し、秋の2回目の探検では、人とかかわりを重視するように支援する。</p>

- まち探検の視点を確認する。
 - ・まちの「すてき」（不思議なもの、おもしろいことなど）を見つけること
 - ・諸感覚（におい、音など）を使ってまちの「すてき」を探すこと
 - ・目的地以外でも、まちの「すてき」を探すこと
- 探検の約束を確認する。
 - ・探検のルールやマナー
 - ・緊急時の対応
 - ・帰校時刻 等
- まち探検に行き、まちの「すてき」を探したり、インタビューしたりする。
 - ・おもしろい形のおまんじゅうは、ダイコンの形をしたおまんじゅうのことだったのですね。
 - ・お茶屋さんの前は、お茶のいい香りがします。家のお茶の味とは違って、とってもおいしいです。

- 7 探検で見つけた「すてき」をグループごとに振り返り、心に残ったことを記録カードにかく。
- ★探検で見つけたまちの「すてき」をかこう
- まちで見つけた「すてき」をグループで振り返る。
 - 心に残ったことを記録カードにかく。
 - ・自転車屋さんが、パンクしたタイヤを修理していました。私の自転車も、壊れたらこのお店で直してもらいたいです。
 - ・たこ焼きに、大きなたこが入っていました。たこ焼き屋さんにインタビューしたら、「〇〇小の子は、ここで食べた後、きれいに片付けて帰るから助かるよ」と言っていました。
- 8 まちの「すてき」を紹介し合う準備をする。
- ★まちの「すてき」を紹介し合う準備をしよう

- グループで、伝えたい「すてき」をカードにかき、絵地図に貼る。
 - ・ダイコンまんじゅう
 - ・お茶屋さんのおいしいお茶
 - ・自転車屋さんの修理する道具
 - ・たこ焼き屋さんの道具
 - ・交番の山内さん 等
 - まちの「すてき」を紹介する練習をする。
 - ・畑でいろいろな野菜を育てているおばあちゃんとお話して、なかよくなりました。野菜を育てているおばあちゃんみたいに、わたしも毎日水やりをしようと思いました。
- 9 まちの「すてき」を紹介し合い、気付いたことや感想を伝え合う。
- ★まちの「すてき」を伝え合おう
- 絵地図を見せながら、まちの「すてき」を紹介し合う。
 - ・おもしろい形のまんじゅうは、だいこんの形でした。このまちの有名な野菜をお菓子にしたそうです。
 - ・毎朝挨拶をしているおまわりさんは、山内さんと言います。ぼくの名前を覚えてもらえて嬉しいです。今度は、どんな仕事をしているか聞きたいです。
 - 他のグループの発表を聞いて、気付いたことや感想を伝え合う。

- ・保護者の協力を得る際には、学習のねらいと役割分担をきちんと伝えておく。
- ・挨拶の仕方や、振る舞いなどに不適切な行動があったときには、その場できちんと指導してもらうように依頼しておく。
- ・場所、もの、人の3つの視点からまちの「すてき」を探すことを伝える。

- ・教科書P.30「まちでさがそう」を参考に、音やにおいなどの諸感覚を使ってまちの「すてき」を探す視点も与える。

- ・探検で見つけたことや気付いたことを、その場で記録カードにメモしたり、デジタルカメラで撮影したりさせる。
- ・付添いの教師や保護者に、「何を見つけましたか」「すごいですね」などと声をかけてもらうように依頼し、探検の意欲を高めたり、まちの「すてき」を再発見したりできるようにする。

【評】まち探検の活動の様子や伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・記録カードのメモを基に振り返らせる。
 - ・探検した場所の様子や発見したもの、出会った人のこと、聞いたことなどをかくように指導する。
 - ・地域の人と自分とのかかわりや、地域の人が自分たちの生活を支えてくれていることに気付いた児童を称賛し、全体に広げる。
- 【評】記録カードへの表現を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教科書P.29「はっぴょう名人になるう」のように、「写真を見せる」「劇にする」「クイズにする」などの方法で発表することも考えられるが、「つたわる広がるわたしたちの生活」の学習で、まちのすてきを発表する活動があるため、ここでは、作品をつくるなどの大がかりな発表とはせず、絵地図をつくり、それを見せながら紹介するといった計画とする。
 - ・一枚のカードにつき1つずつ、絵と文でまちの「すてき」をかかせる。何枚かかせてもよい。
 - ・教科書P.78の絵地図のように、今回の探検で見つけた「すてき」をピンク色のカードにかき、夏休み中の探検は青色のカード、秋に行う「もっと なかよし まちたんけん」では黄色のカードを使用するなど、回を重ねるたびに色を変えて貼り足していくことで、地域とのかかわりが深まったことを視覚的に捉えさせるようにする。
 - ・児童がかいたカードは、教師がその位置を助言、支援しながらまちの絵地図に貼らせる。
 - ・カードにかいた「すてき」を補足説明する形で紹介することを伝える。

- ・探検で見つけたものや、まちの人に聞いたこと、場所、もの、人と自分とのかかわりについてまちの絵地図で確認することで、地域にはさまざまな場所やものがあり、多様な人々が生活していることを視覚的に捉えさせる。

- ・自分の調べた場所について、他の場所を探検した児童から気付いたことや感想を聞く時間

- ・まちの「すてき」をたくさん見つけました。まだ、まちには知らないところがたくさんあるので、また行ってみたいです。
- ・〇〇さんは、おまわりさんとなかよくなれてうらやましいです。わたしも、今度、おまわりさんとお話したいです。

を設け、これからも探検を続けたいという意欲を高める。

【評】気付いたことや感想を紹介し合う活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 【旧】生きもの なかよし 大作せん

配当時間 12時間

単元の目標 (1) 友達と一緒に生き物の世話をしながら、その成長の喜びを味わい、生き物も自分たちと同じように成長していることに気付くことができる。
 (2) 生き物のすみやすい環境を考えて世話をしたり、分からないことを人に相談したりしながら、自分たちで工夫して活動することができる。
 (3) いろいろな生き物の世話をしたり育てたりする活動を通して、生き物が自分たちと同じように生命をもっていることに気付き、大切に扱おうとする。

標準的な展開例

02060107_001

【準備等】 生き物の本、図鑑、まち探検で使った絵地図、付箋、網、虫かご、バケツ、飼育箱、水槽、エアポンプ、虫めがね、なりきりマイク、記録カード等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 生き物を見付けたり、捕まえたりした経験を伝え合い、生き物を探しに行く場所を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> どこにどんな生き物がいたか、伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> 校庭…ショウリョウバッタ、ナナホシテントウ、ダンゴムシ、カタツムリ 公園の池…ザリガニ、ヤゴ、オタマジャクシ 畑…モンシロチョウ、アゲハチョウの幼虫 等 ★生き物を探しに行く場所を決めよう ○探す生き物の種類や、探しに行く場所を考える。 ○生き物を探しに行く計画を立て、自分のめあてをもつ。 <p>2, 3 生き物を探しに行き、気付いたことを記録カードにかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★生き物を探しに行こう ○生き物探しのルールやマナーを確認する。 ○生き物を探しに行く。 ○気付いたことを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> 公園の池でザリガニを見付けました。石の間に隠れていました。○○公園の○○さんに捕まえ方を聞いたので、今度は餌と網を持って、捕まえに行きたいです。 <p>4 生き物を探したことを振り返って、生き物を捕まえる計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★生きものを捕まえる計画を立てよう ○捕まえてみたい生き物ごとにグループに分かれて、計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 捕まえる生き物…ザリガニ 捕まえる場所…池の中 捕まえる方法…網で捕まえる 持ち物…網、餌、虫かご、長靴、帽子 約束…立ち入り禁止の所は入らない ○生き物を捕まえに行くときの約束を、学級全体で確認する。 <p>5, 6 友達と協力して生き物を捕まえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★生き物を捕まえよう ○安全に気を付けて生き物を捕まえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元前から、意識的に生き物のことを話題にしたり、生き物の本を読み聞かせしたりして児童の興味や関心を高めておく。 ・教科書P. 34, 35のイラストや写真を見ながら自分たちの地域に置き換えて生き物のいる場所を考えさせるとよい。 ・まち探検の絵地図を掲示して、場所を確認させる。生き物の名前を付箋に書いて、絵地図に貼り付けるようにしてもよい。 ・校庭や近所の公園、雑木林など、地域の実態に合わせて場所を決めるようにする。 ・探す生き物の種類と場所は、どちらを先に決めさせてもよい。目的をもって生き物探しをさせる。 ・生き物を捕まえる活動への意欲を高め、課題がもてるよう、意図的に生き物を捕まえるための道具の準備はさせず、生き物探しに出かけさせる。 ・地域の人や保護者など、生き物に詳しい人（生き物名人）への協力を依頼してもよい。 【評】 生き物探しの計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・事前に生き物がいる場所を把握しておき、自分で生き物を見つけられない児童にアドバイスする。 ・教科書P. 35「やくそく」を活用し、水辺での安全な行動の仕方や、危険な生き物の避け方などを指導する。 ・生き物のすみかを荒らさないように伝えておく。 ・生き物のすんでいる場所や、生き物の動きに目を向けられるような声がけをする。 ・生き物を捕まえるためには準備が不十分であることに気付かせ、課題をもたせるようにする。 ・生き物を見付けた場所や生き物の様子、思ったことを記録カードにかかせる。 ・児童の生き物を捕まえたいという思いに触れ安全に捕まえるために必要な準備を考えさせる。 ・生き物を見つけた場所や、見つけたときの生き物の様子を想起させ、捕まえる方法や連れて帰る方法を考えさせる。 ・生き物が苦手な児童は、ペアやグループで行動できるように配慮する。 ・必要に応じて生き物の捕まえ方を生き物名人に質問できるように協力を依頼しておく。 ・汚れてもよい服装や着替えなどの準備を、通信等で家庭に依頼しておくようにする。 ・場所に応じた安全の指導を徹底する。 ・産まれたばかりの生き物や弱っている生き物は持ち帰らず、数も必要な分だけにとどめるように指導する。 【評】 生き物を捕まえる計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・児童の安全確保のため、ガイドボランティアの人や保護者の協力が得られるとよい。 ・生き物を捕まえたときに、「どこにいたの」

- 生き物のすみかと餌を整える。

7 生き物を捕まえたことを振り返って、気付いたことを記録カードにかいて伝え合う。

- 本や図鑑で、捕まえた生き物の種類を確認する。

★生き物を捕まえたことを伝え合おう

- 捕まえたときのことや、気付いたことを伝え合う。
 - ・池でザリガニを捕まえました。急に後ろに逃げて、捕まえるのが大変でした。
 - ・大きな石をどかして、ダンゴムシを捕まえました。枯れ葉の布団をかぶって寝ているみたいでした。

- 生き物を捕まえたことを振り返って、気付いたことを記録カードにかく。

8 生き物を飼い続けるために必要な世話の仕方を考え、記録カードにかいて伝え合う。

★生き物に合った世話の仕方を工夫しよう

- 生き物になりきって、今の気持ちを伝え合う。
 - ・ころころ転がって、目が回ってしまいます。(ダンゴムシ)
 - ・おなかですいて、力が出ません。何か食べたいです。(ザリガニ)
 - ・たくさん遊んで疲れてしまいました。ゆっくり休める家がほしいです。(カタツムリ)
- すんでいた場所を確認したり、詳しい人に聞いたりして世話の仕方の工夫を記録カードにかく。

- 世話の仕方について分かったことを伝え合う。

- ・ヤゴが羽化するためには、水槽に水を入れて、30センチくらいの枝を立てるといいことが、生き物名人さんに聞いて分かりました。
- ・ダンゴムシがすんでいたところの土を触ったら、じめじめしていました。すんでいたところと同じように、土を湿らせてあげようと思います。

9 すみかをつくり、生き物に応じた世話をして、気付いたことを記録カードにかいたり伝え合ったりする。(常時活動を含む)

★生き物の世話をしよう

- すみかをつくったり、餌を与えたりする。

「何をしていたの」など、生き物との距離感を縮められるような声がけをする。

- ・すみかづくりの活動の参考資料として、捕まえる活動の様子をデジタルカメラで撮影しておくといよい。
 - ・捕まえた生き物は放置せず、すぐに簡単なすみかや餌を用意させる。
- 【評】生き物を捕まえる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教室に用意した生き物の本や図鑑を活用し、捕まえた生き物の種類を確認してから、記録カードをかかせるようにする。ダンゴムシとワラジムシ、アゲハとキアゲハの幼虫等、似ている生き物がいるので、よく確認させる。
- ・生き物の色や形、様子などの特徴から、名前を付けて見分けられるようにし、飼育する生き物に愛着をもたせるとよい。

- ・捕まえたときの生き物の様子を、言葉だけでなく、動作化して伝え合わせるとよい。
 - ・「〇〇みたい」と例えて表現している児童がいたら称賛し、全体に広げる。
 - ・他の生き物と比較させ、それぞれの生き物に合ったすみかがあることを捉えさせる。
 - ・何を捕まえたのか、どこにいたのか、どんな様子だったのかを記録カードにかかせる。
- 【評】記録カードへの表現や伝え合う活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。
- ・世話の仕方には、すみかづくりと餌やりの二つの視点があることを押さえる。

- ・教師が飼育ケースになりきりマイクを向けながら児童に生き物の気持ちをインタビューし発表させる。
 - ・教師が「どこから来ましたか」「今のすみかはどうですか」「お食事はおいしいですか」など、世話の仕方にかかわるインタビューをして、児童に生き物になりきって答させる。
 - ・実際に土を触ったり目線を落としたりするなど、生き物が生息していた場所の特徴を諸感覚を使って捉えさせ、生き物の好む環境に思いを巡らせながら世話の仕方を工夫させる。
 - ・捕まえたときの写真や、教科書P.42,43「生きもの図かん」も参考にさせる。
 - ・すみかづくりや餌やりについて分かったことを絵や文で記録カードにかかせる。
 - ・教科書P.111の「べんりてちょう」を活用する。
 - ・生き物名人に質問することを通して、電話やファックスの活用の仕方を指導し、通信ツールを使うためのスキルを養いたい。
 - ・休み時間などを使って、上級生に尋ねる活動を意図的に入れるようにするとよい。
 - ・違う種類の生き物の世話の仕方を知ることによってそれぞれの生き物にあった世話の仕方があることに気付かせる。
 - ・生息していた環境に近い条件で飼うことが適切であることに気づき、それを表現している児童を取り上げ、全体に広げる。
- 【評】記録カードへの表現や伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・同じ生き物を飼育する児童同士で数人のグループをつくり、世話をさせる。
 - ・生活科の時間だけでなく、休み時間などにも観察と世話をさせ、生き物の変化や成長についての気づきを促すようにする。
 - ・「暑くないですか」「お食事はおいしいですか」などと教師が児童にインタビューをすることで、世話の仕方を見直す視点を与える。
 - ・本や図鑑から得られる情報を確かめてみるよう声がけをする。

<p>○生き物の世話をしたことや、観察して気付いたことを記録カードにかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザリ太ににぼしをあげたら、喜んで食べていました。食パンよりも、にぼしの方が好きみたいです。（ザリガニ） ・コロちゃんは手に乗せるとコロと丸くなります。でも、少しすると歩きます。足の数を数えたら、14本でした。（ダンゴムシ） <p>○生き物の変化や成長の様子、世話の仕方について気付いたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンゴムシの足は、14本もあるんですね。ぼくのヤゴの足は6本です。 ・ダンゴムシは枯葉やキャベツを食べますが、ザリガニはソーセージやにぼしを食べることが分かりました。食べる物が全然違うので、驚きました。 <p>10, 11 「生きもののひろば」を開く計画を立てて、準備をする。</p> <p>★「生きもののひろば」の準備をしよう</p> <p>○招待する人を決める。</p> <p>○これまでの飼育のことを振り返り、伝えたいこととその方法をグループで決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニの成長を劇にして発表したいです。 ・ヤゴの世話ががんばったことを新聞にまとめて発表したいです。 <p>○作品をつくったり、発表の練習をしたりして「生きもののひろば」の準備をする。</p> <p>12 「生きもののひろば」を開き、活動の振り返りをする。</p> <p>★「生きもののひろば」を開こう</p> <p>○計画に従って「生きもののひろば」を開く。</p> <p>○生き物を飼育する活動や「生きもののひろば」を開いたことを振り返り、感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めは、ザリガニが触れませんでした。が、〇〇さんに持ち方を教えてもらって触れるようになりました。今は一人で水も替えられます。 ・ヤゴはトンボになることが分かりました。すむところも餌も全然違うので不思議だなと思います。 <p>○飼ってきた生き物をこれからどうしたいか、伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピョン吉にとって、広い田んぼの方が気持ちがいいと思うので、元いた田んぼに返したいです。（カエル） ・ザリ太は脱皮したばかりなので、これからも家で飼いつづけたいです。（ザリガニ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に生き物の観察ができるように、児童の手の届く場所に記録カードを置いておく。 ・気付きを共有できるように、教室の掲示板上に記録カードを掲示しておくとうい。 ・生き物が死んでしまった場合には、その死にきちんと向き合わせ、どんな生き物にも命があることを理解させる。また、死んでしまった原因を考えさせ、飼育方法を見直すきっかけとする。 ・自分の飼っている生き物と、友達の飼っている生き物の変化や成長の様子、世話の仕方を比べて伝え合わせることで、生き物の特徴に気付かせる。 <p>【評】すみかをつくったり世話をしたりする活動や、記録カードへの表現を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生や上級生、家の人、地域の人など、児童の思いや学校の実態に合わせて招待する人を決める。 ・今までかきとめてきた記録カードを手がかりに考えさせる。 ・教科書P. 40, 41やP114, 115の「べんりてちょう」を参考に、多様な表現方法を紹介する。他にも、劇、紙芝居、工作、クイズ、歌などの方法も考えられる。 ・招待状や案内ポスターをつくとよい。 ・飼育ケースの周りに作品を置いて、生き物ごとにブースをつくる。 <p>【評】「生きもののひろば」の計画と準備を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明役や案内役などの係は、一定時間ごとに交代しながら発表させるようにする。 ・招待した人から質問を受けたり、アンケートに答えてもらったりするなど、双方向のやり取りができるようにするとよい。 ・今までの飼育活動の中で生き物の変化や成長について分かったことや、自分ができるようになったことも伝え合わせる。 ・生き物のことを考えて、継続的に飼育することができるようになった自分や友達のよさに気付かせる。 <p>【評】活動の振り返りを通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これからどんなところにすみたいと思いますか」などと問いかけ、世話をしてきた生き物の立場になって考えるよう声がけをする。 ・アメリカザリガニなど、外来生物を飼育している際には、安易に元いた場所に帰さないように配慮し、指導する。
--	---

【 備 考 】

単元名 あの人に 会いたいな

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 自分の町で働いている人達について調べる活動の中で、そこに暮らしたり働いたりする人々の工夫や、町のよさ、季節による自然の変化などに気付くことができる。
- (2) 町で働いている人達にインタビューに行き、発見したことや体験したことなどをまとめ、インタビューした人達やまわりの人々に伝えることができる。
- (3) 自分たちが住む町で働いている人達について、友達と協力して調べたり探検したりする活動を通して、そこで暮らす人々と関わり、自分たちの町に対して親しみや愛着をもとうとする。

標準的な展開例

02060201_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1回目の町探検で興味や関心をもったことを振り返り、学習の見通しをもつ。</p> <p>○ 1回目の探検後、地域の場所やもの、人と関わったことについて伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署で訓練している〇〇さんを見かけました。 ・パン屋さんでは新しい商品が出ていました。 <p>★町で頑張っている人の「すてき」を見付けよう</p> <p>○ もう一度会いたい、詳しく知りたい人、聞きたいことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パン屋の店員さん ・児童館の館長さん ・消防署の〇〇さん ・農家の〇〇さん ・交通指導員の〇〇さん ・消防士さんはどんな訓練をしているのだろう。 <p>2～3 グループに分かれて探検の計画を立てる。</p> <p>★町の人の「すてき」を見付けるために、探検計画を立てよう</p> <p>○ もう一度会いたい、詳しく知りたい人を決め、探検グループに分かれる。</p> <p>○ 探検に行く計画を立て、計画カードを書く。</p> <p>《探検グループ名》 パン屋の〇〇さん 《日時》 〇月〇日 出発する時刻 〇時 帰ってくる時刻〇時 《役割》 班長、副班長、写真係、時計係、地図係 《持って行く物》 安全帽子、筆記用具、探検バッグ、探検メモ用紙、時計カメラ、防犯ブザー、水筒 《調べること・聞きたいこと》 ・いいにおいがするひみつ ・パンの作り方 ・たくさんの種類があるわけ ・作っているところを見せてもらいたい 《約束》 ・お店の人とお客さんの邪魔をしない。 ・交通ルールを守る。</p> <p>○ 挨拶やインタビューの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こんにちは。〇〇小学校の〇〇です。1学期の町探 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全確保のため、保護者やボランティアの人などへ引率の依頼をしておく。 ・事前に訪問先として想定される場所と打合せをしておく。探検の日時や人数が決まったら改めて正式に依頼する。児童のめあても事前に相談し、実現できるかどうかを把握しておく。 ・1回目の探検と同様、教科書P.30～31「まちのきせつ」を導入時に見せ、季節の変化とともに町や自然、そこで働いている人や遊びに来ている人など、様々な変化に気付かせる。 ・1回目の町探検後の町や人の様子を事前にデジタルカメラ等で写真を撮って掲示しておく。町の様子についての興味関心を継続させておく。 ・1回目の町探検で使用した拡大校区地図を使い、前回の町探検を想起させるとともに、町探検の後や夏休み中などに地域の場所、もの人と関わった経験を伝え合わせる。 ・教科書P.4～5の写真を参考にして、自分たちの地域の「すてき」を考えさせる。 ・1回目の町探検で、もっと知りたいことを膨らませ、「人との関わり」の学習を意識させる。 ・いつもいるわけではない人との関わりを計画している場合は、事前に対象の人と連絡をとり、訪問時にいてくださるよう依頼する。 ・グループは前単元と同じメンバーで構成するのが好ましい。 ・1回目の町探検では、「何となく行ってみたい」という思いも大切にしたが、ここでは、その児童なりに「〇〇で〇〇したい」というめあてをもたせたい。 ・地域で生活したり働いたりしている人の思いや願いに触れるような質問の内容を考えさせる。 ・質問を考えることが難しい児童には、教科書P.18～19「お話を聞かせてください」を参考に考えるよう支援する。 ・訪問先には、事前に活動の趣旨や児童の考えた質問、到着予定時刻などを知らせ、協力を依頼しておく。 ・保護者の協力を得る際には、学習のねらいと役割分担をきちんと伝えておく。 ・探検コースの途中にあるトイレや子ども110番の場所を確認しておく。 ・緊急時に学校と連絡を取る方法を、繰り返し指導しておく。 ・「安全に探検する」「人に迷惑をかけない」という目的を明示し、ルールやマナーを話し合わせる。 ・インタビューする際は、P.107「インタビューをする」を参考にして指導をする。

検では、ありがとうございました。お話してもよろしいですか。（質問）ありがとうございました。」

4～5 探検に出かけ、地域の人と関わりながら、町の人の「すてき」を見付ける。

★町の人の「すてき」を見付けに行こう

○町探検のめあてを確認する。

・町の人「すてき」を見付ける。

・不思議、もっと聞きたいと思ったことは、町の人にインタビューする。

○探検の約束を確認する。

・探検のルールやマナー

・緊急時の対応

・帰着時刻等

○町探検に出かけ、町の人の「すてき」を探したり、インタビューしたりする。

6 町探検で、聞いたことや気付いたことを伝え合い、インタビューカードにまとめる。

★町の人の「すてき」を振り返ろう

○見付けた町の人の「すてき」をグループで振り返る。

・どうやって新しいパンをつくっているのか聞くと、お客さんのリクエストや、今流行っている物を試しながら作っていると教えてくれました。

○見付けた町の人の「すてき」をインタビューカードに書く。

・〇〇さんは朝早くからパンを作っています。作るころはとても暑いです。朝早くから頑張っているわけはないなと思いました。いろいろな種類を作っているわけは、たくさんの人に食べてほしいからだそうです。今度はパンをどのように作っているか見てみたいです。

7～10 2回の探検を通して、発見したことや思ったことなどを工夫して表現する。

★町の人の「すてき」をまとめよう

○インタビューカードを基に、まとめる方法を考える。

《発表方法》

新聞

《テーマ》

パン屋さんのひみつ

《書くこと》

Aさん…パン屋の〇〇さんにインタビュー

Bさん…おすすめのパンについて

Cさん…〇〇さんの一日

Dさん…気を付けていること

○まとめたことを、誰に伝えるか考える。

・家の人

・お世話になった人

・地域の人

○役割を決めて、グループで協力して作ったり、発表の準備をしたりする。

【評】探検計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・インタビューで聞いたことを基に、更に質問をしてよいことを指導しておく。
- ・探検で見付けたことや気付いたことを、その場で発見カードにメモしたり、デジタルカメラ等で撮影したりさせる。
- ・地域の人や店の写真を撮る際には、必ず許可をもらうように指導する。
- ・国語科の指導と関連させ、メモの取り方を練習させておく。

- ・1学期に使った校区地図を再利用し、町の人の「すてき」を付箋に書き、付け足していくのもよい。
- ・振り返る手助けとして、デジタルカメラで撮影したものを印刷したり、タブレットなどのICT機器を使ってグループ毎に共有させたりするとよい。
- ・同じグループの友達と、聞いてきたことを共有することで、気付きをより深めたり、新たな問いが生まれたりすることを期待する。
- ・繰り返し訪問したりインタビューすることによって必要性を感じられるような言葉掛けをする。
- ・インタビューカードには、聞いたことだけでなく、そこから分かったこと、感じたこと、新たに疑問に思ったことを書くよう指導する

【評】町探検でインタビューしたことをまとめる活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・今までは個人で学んだことをまとめ、発表してきた。この単元で初めてグループでまとめる活動となる。「作ってあそぼう うごくおもちゃ」のグループ活動につながるような支援をしたい。
- ・教科書P.20～23「しらべたことをつたえよう」を参考にして、発表方法のモデルを示す。（ポスター、新聞、紙芝居、マップ等）
- ・左記は、すてきな人についてグループでテーマを決め、画用紙等にまとめていく。

- ・発表をよりよいものにするため、もっと知りたいこと、疑問に思ったことを、もう一度町探検に行ったり、手紙や電話などの方法で地域の人に質問したりすることも考えられる。
- ・新聞を作る際、もう一度聞きに行きたいという思いをもつ児童も想定される。再度何うか電話やFAXなどを使って質問する等、探検場所へあらかじめ依頼をしておくとうい。
- ・探検場所への挨拶や打合せを行ったり、保護者への協力依頼をしたりするなど児童が対象や人と繰り返し関わることができるように配慮する。
- ・児童が探検先で「手伝う」「教わる」「参加する」などの体験活動が想定できる場合は、教師から活動を依頼しておくようにする。
- ・電話のかけ方やマナー、挨拶の仕方などは、

<p>○グループで町の人「すてき」発表の練習をする。</p> <p>11～12 ○○町の「すてき」な人について、家族や地域の人に発表する。</p> <p>★○○町の「すてき」な人について発表しよう</p> <p>○グループごとに、作った新聞等を見せながら発表する。</p> <p>○感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パン屋の○○さんについて、みんなに発表できて嬉しいです。 ・他のグループの発表を聞いて、わたしたちの町にはたくさん「すてき」があることが分かりました。 <p>13 町の「すてき」な人に、感謝の手紙を書く。</p> <p>★町のすてきな人に、ありがとうを伝えよう</p> <p>○感謝の手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さん、お元気ですか。○○さんに何回も会いに行き、いろいろなことを教えてもらいました。ぼくたちの住んでいることは、こんなにすてきなパン屋さんがいることが分かって、嬉しくなりました。また、お店に行きます。ありがとうございました。 ○グループで手紙をまとめ、手紙を出す。 <p>14 町探検をして、気付いたことや感じたことを発表する。</p> <p>★町の「すてき」を振り返ろう</p> <p>○これまでの町探検を振り返り、気付いたことや感じたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町探検では、素敵なパン屋さんを見付けました。○○さんは、毎朝私が起きる頃には、その日のパンを焼いているそうです。「パンを食べた人がおいしいと言ってくれることが嬉しい」と言っていました。○○さんの話を聞いて、わたしたちのために頑張っていることがわかりました。○○町のことがもっと好きになりました。 <p>○気付いたことや感じたことを作文に書く。</p> <p>15 みんなで使う町の施設について伝え合い、公共施設に出かける計画を立てる。（15～18時は単元途中に組み込むことも可能）</p> <p>○身近な公共施設を利用した経験を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日やイベントのある日は、児童館で遊んでいます ・図書館で本を借りたことがあります。 <p>★図書館の「すてき」を見付けるために、探検計画を立てよう</p> <p>○探検計画を立てる。</p> <p>《日時》 ○月○日 《持っていく物》 安全帽子、筆記用具、探検バッグ、探検メモ用紙、カメラ、水筒 《調べること・聞きたいこと》 ・学校と本の借り方は同じか ・どんな本が人気か 《約束》</p>	<p>繰り返し練習しておく。また、手紙やFAXは、送る前に必ず教師が確認する。</p> <p>・国語科との関連を図り、相手に伝わりやすい話し方を指導する。</p> <p>【評】見付けた町の人の「すてき」を表現する活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・授業参観や学習発表会を利用して、家族や地域の人へ発表する場を設ける。</p> <p>・地域の人からの感想もお願いし、児童に達成感をもたせたい。</p> <p>【評】見付けた町の人の「すてき」を発表する活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・手紙などを使って児童からお礼を伝える活動も設ける。また、教師からも訪問先にお礼状を送ることを忘れないようにする。</p> <p>・直接渡すことができない場合は、郵送するかFAXを使って送るようにする。</p> <p>・「まちたんけん」で使用した校区地図を活用して、自分たちがたくさんの人と関わったことを振り返り、地域で生活したり働いたりしている人が多くいること、まちにはたくさんの「すてき」があることを実感させる。</p> <p>・1学期の町探検と比べて、地域の人との関わりが深まっていることを称賛する。</p> <p>・地域の人や自分たちの生活を支えていることや、楽しくしていることに気付かせたい。</p> <p>・学習が終わっても関わりをもとうと意欲を高めるようにしたい。</p> <p>・今までの記録カードをまとめ、単元の終末とする。</p> <p>【評】学習を振り返り、作文を書く活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・図書館にこだわらず、近隣の駅や児童館など児童にとって身近な公共施設を利用してもよい。</p> <p>・本単元で扱う「公共物」「公共施設」という言葉を、「みんなで使うもの」「みんなで利用する場所」という表現で児童に伝えよう。</p> <p>・公共施設としては、公園、児童館、集会所、公民館、図書館、博物館、美術館、駅、バスターミナル、防災倉庫、避難所などが考えられる。</p> <p>・他教科等や他単元と関連させ、「学校の図書館と比べる」「自分たちが調べたり読んだりしたい本を探しに行く」など、図書館に行き利用する必要性が生まれるようにする。</p> <p>・司書、ボランティア、カート、カウンターなど、児童が普段使わない言葉を事前に指導しておく。</p> <p>・学校図書館を利用するときのルールやマナーを想起させるとともに、地域の図書館には一般の人が多く来ていることを伝え、みんなが気持ちよく使うために気を付けることを考えさせる。</p> <p>・教科書P.27「やくそく」を活用し、ルールやマナーを確認する。</p>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・静かにする。 ・走らない。 ・本を乱暴に扱わない。 ・読んだ本は、元の場所に戻す。 <p>16～17 図書館へ行き、図書館の利用方法を知ったり、インタビューしたりする。</p> <p>★図書館の「すてき」を見付けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館司書の方から、本の借り方や図書館のルールやマナーを教わる。 ○ルールやマナーを守って、本を読んだり、借りたりする ○施設や働く人の工夫を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・車いすのスロープ ・入り口は音が鳴るようにしている ・検索用のパソコン ・読み聞かせをしてくれる人がいる。 ・本をきれいに並べている人がいる。 <p>18 図書館を利用したり調べたりして、見付けたことや気付いたことを伝え合う。</p> <p>★図書館の「すてき」を伝え合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館で見付けた「すてき」を記録カードに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の入り口に、返却ポストがありました。閉まっている時でも返せるようになっています。 ○図書館で見付けた「すてき」を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・司書の〇〇さんは、本をきれいに並べたり、丁寧に扱っていました。私もこれからはみんなで使うものを大事にしたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に活動の趣旨を伝え、見学や利用、インタビューの依頼をしておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・本を借りる中で、どんな人が利用しているのか、本を探したり借りたりしやすくするために、どんな工夫があるかなど、図書館の「すてき」をたくさん探すように声掛けする。 <p>【評】図書館を利用する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラで撮影した写真を印刷したりタブレットなどのICT機器を使ったりして気付きを共有させてもよい。 ・身の回りにはみんなで使う物があることや、それを支えてくれている人がいることを自分との関わりで実感的に捉えさせ、正しく利用できるようにしたい。 <p>【評】図書館で見付けた「すてき」を表現し、伝え合う活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
---	---

【 備 考 】

・1学期に行った町探検1回目は、主として場所やものとの関わりを重視し、今回の探検では、人との関わりを重視している。学習指導要領解説の内容(3)「地域の場所やそこで生活したり働いている人々」とは、自分の家や学校の周りの田や畑、商店やそこで働く人、友達の家やその家族、公園や公民館などの公共施設やそこを利用したり働いたりしている人、幼児教育施設や幼児や先生、近隣の人、子供会の人、目印にしている場所や物、遊べる川や林、自分や家の人がよく通る道などである。

・教科書P.26～27「図書館に行こう」は、町の公共施設の1つとして取り上げたものである。図書館は他の施設と比べ、子どもがより日常的に関わり、約束事も多い。必ずしも全員が一斉に行く扱いとはしていないため、指導や地域の実態に応じて取り扱うとよい。本カリキュラムでは、図書館に行く活動を4時間で計画している。

単元名 作って あそぼう うごく おもちゃ

配当時間 18時間

- 単元の目標 (1) 身近なものを利用しておもちゃを作り，その動きの面白さや不思議さ，遊びに使うものを作ったり，みんなで遊んだりする面白さについて気付くことができる。
- (2) 試行錯誤を繰り返しながら，身近にあるものを利用しておもちゃを作ったり，遊び方を工夫したりすることができる。
- (3) より滑らかな動きや上手な動きへの思いや願いをもち，おもちゃを改良したり，友達とのつながりを大切にしながら，よりよい遊びや遊び方を創り出したりしようとする。

標準的な展開例

02060202_001

【準備等】 多種類の身近な材料，おもちゃ作りに関する図書，見本のおもちゃ，おもちゃの制作に必要な用具，記録カード（おもちゃせつ計図，おもちゃパワーアップ，あそび方くふうカード，おもちゃ大会カード），ICT機器，おもちゃ大会に必要な用具等

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 身近にある物の特徴を見付け，楽しく遊び，単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 集まった材料を見ながら，どんなものがあるか，どんな遊びができそうか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ かさぶくろ ・ ガムテープのしん ・ 牛乳パック ・ トイレットペーパーのしん ・ 輪ゴム ・ ペットボトルキャップ ・ 紙コップ ★ いろいろなものを動かして遊ぼう <p>○ 集めた物の特徴を生かして遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 輪ゴムの上に紙コップを置いたら，ウサギみたいに跳んだよ。 </p> <p>○ 感想や気付いたことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ トイレットペーパーの芯は，うちわであおぐと前に転がりました。 ・ うちわを縦にあおいだ方が，真っ直ぐ進みました。 </p> <p>○ どんな動くおもちゃが作れるか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴムの力を使って，ロケットを作りたいな。 </p> <p>3～5 試行錯誤しながら，集めた材料で動くおもちゃを作る</p> <p>★ 動くおもちゃを作って遊ぼう</p> <p>○ おもちゃづくりの注意や約束を確認する。</p> <p>○ 設計図を書く。 「見通す」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 輪ゴムを3本にすれば，きっと遠くまで走るよ。 ・ 輪ゴムを太いものにしてみようかな。 </p> <p>○ 設計図を基に，思考錯誤しながら自分のおもちゃを作って遊ぶ。</p> <p>コトコト車設計図</p> <p>《材料》</p> <p>輪ゴム，単1電池，クリップ，色画用紙，カップ麺の容器</p> <p>《道具》</p> <p>はさみ，セロハンテープ，ボンド，きり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みに入る前に通信等で家庭へ学習内容を伝え，身の回りの材料（廃材）を収集できるようにする。 ・ 身近にある物とは，日常生活にある様々な物の中で，児童が遊びを工夫したり，遊びに使うものを作ったりするために使おうと選り出す事物のことである。例えば，紙，ひも，ポリ袋，空き缶，空き箱，空き容器，ストロー，割りばし，ペットボトル，牛乳パック，紙コップ，トレイ，輪ゴム，磁石などである。 ・ トレーに複数の素材を種類ごとに用意して各テーブルに置いたり，素材置き場を別で用意したりするなどして環境を整える。 ・ 安全面を考慮した学習環境を工夫する必要がある。 ・ P.72「人にむかってなげたりしない」などの約束を示してから遊ばせる。 ・ どのように遊ぶとよいか，困っている児童には，友達と一緒に活動させたり，近くで見せたりするなど，個別に支援をする。 ・ 3年生，4年生理科への関連を意識し，「風」「磁石」「重り」「ゴム」の力で動くおもちゃへと近づけるようにする。 ・ 1つの材料から，様々な遊びができることに気付かせたい。 <p>【評】 身近にあるものから発想した遊びをする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の伝え合いを基に，見本のおもちゃや，教科書P.76～79を参考にしながら，作るおもちゃを決めさせる。 ・ 見本のおもちゃは，ゴムや空気，おもり，磁石など，多様な動力源で動くものを用意しておく。 ・ 2年生のおもちゃ作りは「動く」おもちゃとしての機能的な工夫を促す。 ・ 教科書P.74「やくそく」を活用し，道具の使い方を掲示したり，決まった場所で刃物を使わせたりして，安全面での場を配慮する。 ・ おもちゃを作成する際は，教科書P.110～111「生活科学び方図かん（考える）」も参考にさせる。 ・ テープ1つにとっても，セロハンテープや布ガムテープ，養生テープなど，付ける素材や強度等によって適したものが違うため，児童自身が試しながら選択させるように材料や道具は複数用意するとよい。 ・ 困ったことや作り方を相談できるようにするため，同じおもちゃを作っている児童同士で活動させる。 ・ 作ったおもちゃをその場で試すことができる

6～8 作ったおもちゃの機能が高まるように改良して遊ぶ。

★自分のおもちゃをもっとパワーアップさせよう

- 作ったおもちゃを紹介する。
- おもちゃをよりよくするためにはどうしたらよいか、話し合う。
 - ・かさぶくろロケットの先に画用紙で重りを付けたら、速く真っ直ぐ飛びました。
 - ・びっくりかえるは、牛乳パックを切る向きを厚い方に変えると、高く跳びました。
- おもちゃをパワーアップさせて遊ぶ。
 - ・パワーアップコーナー…おもちゃを改良する場
 - ・チャレンジコーナー…試して遊ぶ場
 - ・アドバイスコーナー…工夫を友達に教える場
 - ・びゅんびゅんカーのタイヤを真っ直ぐ付けるといいよ
 - ・ぱたぱたカーの風を受けるものを、もっと広くしようかな。いろいろ試してみよう。

- 改良の結果をワークシートに書き、伝え合う。
 - ・〇〇さんのぱたぱたカーの工夫を聞いて、風を受けるところを大きく、深くしたら速く走るようになりました
- 友達のおもちゃのいいところを見つけて、もっと速く動く車を作りたいです。

9 改良したそれぞれのおもちゃで楽しく遊ぶ。

★パワーアップさせた自慢のおもちゃで遊ぼう

- 自分のおもちゃを紹介する。
 - ・わたしはびっくりかえるを作りました。名前は「かえるのびょんちゃん」です。びょんちゃんのすごいところは、30cmくらい高く跳ぶことです。牛乳パックの厚いところを切って作りました。
- 自分や友達がつくったおもちゃで遊び、感想を伝え合う。
 - ・〇〇さんのゴムロケットは、ロケットを飛ばす新聞紙が強くなっていたから、遠くまで飛んで面白かったです

- 作ったおもちゃを使って、楽しく遊ぶ方法を考える。

- 振り返りカードを書く。
 - ・自分が作っていないおもちゃも楽しかったです。わたしのびょんちゃんも、ゴムを強くするともっと跳ぶかもしれないことが分かりました。休み時間に作り直してみます。1年生を招待するのが楽しみです。

ように、「チャレンジコーナー」等の場を設定する。

- ・用具の使い方や、後片付けの指導をきちんと行う。
- 【評】必要な道具を使ったり、設計図を考えたりしながらおもちゃを作る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・おもちゃ作りの中で、楽しかったことや困ったことを発表させる中で、おもちゃをよりよくさせたいという気持ちを高めさせる。

- ・どちらが長いか、鉛筆いくつ分か等、算数で学習したことを生かすようにする。
- ・おもちゃの機能を高めるために、繰り返し試したり、比べたりして、試行錯誤しながら取り組むための、十分な活動を確保したい。
- ・おもちゃを転がす坂を用意したり、おもちゃの跳んだ高さが分かるような目印を設定したりするなど、場の設定を支援する。
- ・前時の「チャレンジコーナー」同様、「パワーアップコーナー」など、場所を分けることで児童が安全に活動できるようにする。試して遊ばせる場は、広い場であることが望ましい。
- ・よりよいおもちゃを作るコツを発見した児童がいた場合、「アドバイスコーナー」を設ける等もする。
- ・思いどおりに改良できない児童には、友達のおもちゃを見たり、友達の工夫を参考にしたりするように促す。
- ・児童一人一人が意欲と自信をもって活動することができるようになるため、どんな工夫をしようとしているのか、思いや疑問の把握に努め、個に応じた支援を行っていく。
- 【評】どうしたら自分のおもちゃの機能を高められるかを考えておもちゃを改良する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教科書P.82「やくそく」を活用し、安全面に気を付けさせる。
- ・遊びが盛り上がってくると、自分のおもちゃに名前を付けたり、同じおもちゃ同士でグループ名を付けたりすることも考えられる。

- ・みんなと一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができるようにするため、友達のおもちゃで遊んだり、友達に分かりやすく遊び方を説明したりしながら、気付きを交流し合うようにする

- ・自分や友達のおもちゃのよいところに気付いている児童を称賛し、その気付きを全体に広げる。
- ・友達との関わり合いを通して、約束やルールが大切なことや、それを守って遊ぶと楽しいことなどにも気付かせるようにする。

- 【評】おもちゃで遊ぶ活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・児童が次の活動への意欲を高めたり、準備したりできるように、次時に何をしたいか問いかける。その際、昨年度、2年生におもちゃ大会に招待してもらったことを思い出させ、1年生を招待したいという気持ちをもたせる

10～14 おもちゃ大会の計画、準備をする。

★1年生が楽しく遊べるように、「おもちゃ大会」の準備をしよう

○みんなで楽しく遊ぶためのルールや遊び方、準備することについて話し合う。

「ストローアーチェリー」

・矢を選んでもらえるように、もっとたくさん作ろう。

・一人3回にしよう。

・的に得点を書こう。

○遊びのコーナーごとで、おもちゃ大会の準備をしたり、練習したりする。

○おもちゃ大会に必要なおもちゃや、看板、ルール、招待状を作る。

○遊ぶ側と運営する側を交代しながら、おもちゃ大会のリハーサルをする。

○リハーサルをして、気付いたことや困ったことを話し合う。

・「ストローアーチェリー」は、1年生だと力が弱いから、スタートをもう少し近くにするか、回数を増やした方がいいと思います。

○よりよいおもちゃ、遊び方になるようグループで話し合い、おもちゃや遊び方を工夫する。

○振り返りカードを書く。

・今日リハーサルをして、遊びに来た1年生全員が楽しいと思う遊びにしようと思いました。アーチェリーを投げる場所を、もう少し前にしようと思います。また、何回も来てほしいから、投げる場所をレベルに分けて、1年生に選んでもらえるようにします。

15～17 1年生を「おもちゃ大会」に招待して遊ぶ。

★1年生が楽しく遊べるような「おもちゃ大会」を開こう

○1年生に遊び方やルールを教えながら、楽しく遊ぶ。

○みんなで協力して後片付けをする。

18 単元を振り返り、楽しかったことや頑張ったこと、できるようになったことをまとめる。

★楽しかったことや頑張ったことを振り返ろう

○楽しかったことや頑張ったことをワークシートに書く。

○書いたことを伝え合う。

・リハーサルでは、射的のまがすぐに倒れてしまうことが分かりました。違う折り方にしたら、ちゃんと立ちました。1年生が的を倒すのが難しそうにしていたから〇〇さんが的を動かして簡単にしていました。的が倒れやすくなって、最初はあんまり人が来なかったけれど、だんだん来るようになりました。1年生が楽しんでくれてよかったです。

・わくわくするようなおもちゃ大会の名前を考えさせてもよい。

・おもちゃの遊び方やルールの定義を分かりやすく書かせる。

・相手（1年生）を意識した活動にするため、自分たちが改良したおもちゃで遊ぶ側（1年生役）と、遊び方を説明する側（2年生役）に学級を半分ずつ分け、リハーサルを行うとよい。

・対象を「1年生」とし、遊び方やルールの改善についても考えさせる。

・リハーサルの様子をデジタルカメラなどのICT機器で撮影しておき、テレビやスクリーンに投影して思い出させてもよい。

【評】おもちゃ大会に向けての準備、伝え合い活動や振り返りカードを書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・1年生が楽しく遊べるために、必要に応じてルールを変えたり、作り直したりするよう工夫させる

・「しゅりコーナー」を設け、壊れてもすぐに直せるようにする。

【評】おもちゃ大会を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・楽しかったこと、頑張ったことや、できるようになったことの視点を与え、自分自身の成長にも気付かせるようにする。

・1年生に遊び方やルールを教えたり、一緒に遊んだりする中で、1年生と一緒に遊ぶ楽しさや、喜んでもらう嬉しさを共感する。

・児童の気付きや感動を見取り、それを意識化されることで、表現を引き出すようにする。

・遊びを作り上げていく過程での自分の成長や友達のよさを見つけた児童を取り上げ、全体の場で認めるようにする。

【評】伝え合い活動や振り返りカードを通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

・試行錯誤を繰り返しながら、遊び自体を工夫したり、遊びに使う物を工夫して作ったりして考えを巡らせたい。例えば、動くおもちゃを作る遊びでは、「速く走る車を作りたい」と願い、友達の家と比べて「土台を軽くすればよい」と予想したり予測したりして考えるようになる。さらに、土台を空き箱から段ボールに変えて試したり、タイヤの付け方を工夫したり試行錯誤して何度も遊ぶであろう。ここで大切にしたいのが、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの学習活動である。遊びの面白さとともに、自然の不思議さにも気付くことができるような単元を構成したり、学習環境を整えることも大切である。

・内容(6)の3行目「みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする」について、今回の改訂では「みんな」が「みんなと」になった。自分と友達などとのつながりを一層大切に考えたい。友達との関わり合いを通して、約束やルールが大切なことや、友達のよさや自分との違いを考えたり、相手の意見を尊重したりする態度も身に付く。そうした豊かな生活の実現に向かう遊びを創り出していく姿が期待されている。

単元名 【旧】うごく うごく わたしの おもちゃ

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 身近なものを利用しておもちゃを作り、その動きの面白さや不思議さ、遊びに使ったり、みんなで遊んだりする面白さについて気付くことができる。
- (2) 試行錯誤を繰り返しながら、身近にあるものを利用しておもちゃを作ったり、遊び方を工夫したりすることができる。
- (3) より滑らかな動きや上手な動きへの思いや願いをもち、おもちゃを改良したり、友達とのつながりを大切にしながら、よりよい遊びや遊び方を創り出したりしようとする。

標準的な展開例

02060203_001

【準備等】多種類の身近な材料、おもちゃづくりに関する本、見本のおもちゃ、おもちゃの製作に必要な用具、記録カード等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 見本のおもちゃで遊び、つくりたいおもちゃを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見本のおもちゃで遊び、感想を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・カメが動いているみたいでおもしろい。 (とことこカメ) ・たくさん魚が釣れました。どうしてくつつくのか不思議です。 (魚つり) ・ぼくも、先生の車みたいにかっこいい車をつくってみたいです。 (ヨットカー) ★つくりたいおもちゃを決めよう ○つくりたいおもちゃを決める。 ○おもちゃをつくる計画を立て、自分のめあてをもつ。 ○準備する道具や材料を記録カードにかく。 <p>2～4 試行錯誤しながら、自分のおもちゃをつくって遊ぶ。</p> <p>★動くおもちゃをつくって遊ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おもちゃづくりの注意や約束を確認する。 ○試行錯誤しながら自分のおもちゃをつくって遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換しながら「遊ぶ・つくる」を繰り返す。 ・おもちゃの動力を見つける。 ・友達のおもちゃとの共通点、差違点を見つける。 ・法則を見つける。 ○後片付けをする。 <p>5, 6 おもちゃの機能が高まるように改良して、記録カードにかいて伝え合う。</p> <p>★おもちゃをパワーアップ (改良) させよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おもちゃをパワーアップ (改良) させたいところを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・もっと高く跳ばしたいです。 (パッチンガエル) ・スポーツカーみたいにもっと速く走らせたいです。 (ヨットカー) ○友達のおもちゃと自分のおもちゃを比べたり、工夫を教え合ったりしてパワーアップ (改良) する。 <ul style="list-style-type: none"> ・比べて、同じところと違うところを見付ける。 ・試すことで、きまりに気付く。 ○おもちゃをパワーアップ (改良) させて遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・競い合って遊ぶ。 ・友達と力を合わせて改良する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの体験や自由研究の発表などに関連付けて、動くおもちゃづくりへの興味や関心をもたせておくことよい。 ・家庭に協力を依頼し、日頃から製作のために身の回りの材料 (廃材) を収集、整理、保管し、学習環境を整えておくようにさせる。 ・見本のおもちゃは、理科への接続を視野に入れ、ゴムや空気、おもり、磁石など、多様な原動力で動くおもちゃを用意しておく。 ・児童をグループに分け、さまざまなおもちゃを順番に経験させ、遊んだ感想などをグループで伝え合わせる。 ・見本のおもちゃや教科書P. 48, 49やP. 54～56「おもちゃ図かん」を参考にしながら、つくるおもちゃを決めさせる。 ・おもちゃづくりに必要な道具や材料を準備しておくように伝える。 【評】つくりたいおもちゃを決めたり、道具や材料を準備したりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・教科書P. 54～56の「おもちゃ図かん」や見本のおもちゃなどを参考にしながらつくらせる。 ・教科書P. 49「やくそく」を活用し、道具の使い方の指導を徹底する。 ・繰り返し遊び、試行錯誤することで、共通点や差違点に気付かせる。その中で、法則を見つけさせ、科学的な見方・考え方の基礎を養う。 ・「高く跳びますね」「速く走りますね」などの具体的な言葉で称賛することで、おもちゃの動きに関心を向けさせる。 ・磁石やゴム、空気特性に気付かせる。磁石は、退け合う動きにも着目させたい。 ・教科書P. 116～119「べんりてちょう」を活用し、後片付けの仕方の指導を徹底する。 【評】おもちゃをつくって遊ぶ活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・装飾の改良よりも、動くおもちゃとしての機能的な改良をすることをつかませる。 ・教科書P. 50, 51の友達同士での会話例を参考に、学び合いのよさを確認させるとよい。 ・同じおもちゃをつくっている友達だけでなく原動力の同じおもちゃをつくっている友達とも、比べたり教え合ったりさせると改良のヒントとなる。 ・「改良コーナー」「試すコーナー」と場所を分けることで、児童が安全に活動できるようにする。 ・輪ゴムの数を増やしたり、おもりの重さを調節したりするなど工夫して改良している児童

- 改良したことを記録カードにかいて、伝え合う。
 - ・〇〇さんのびよんウサギの工夫を聞いて、ゴムの数を増やしたら、今までで一番高く跳びました。（パッチンガエル）
 - ・風を受けるところを大きくしたら、速く走るようになりました。今度は、もっとまっすぐ走るようにしたいです。（ヨットカー）
- 7 遊び方を工夫して、みんなで楽しく遊ぶ計画を立てる。
 - ★遊び方を工夫して、「わくわくおもちゃランド」の計画を立てよう
 - みんなで楽しく遊ぶための遊び方を相談して、決める。
 - ・どこまで進んだかで点数をつけて遊んだらおもしろいと思います。（とことこカメ）
 - ・時間を決めて何匹釣れるか競争したら、楽しいと思います。（魚つり）
 - みんなで楽しく遊ぶために必要なものや、準備するものを確認する。
- 8, 9 「わくわくおもちゃランド」の準備をする。
 - ★「わくわくおもちゃランド」の準備をしよう
 - 遊びに必要なものをつくる。
 - 遊び方をかいたパンフレットやポスターをつくる。
 - ・高く跳ぶほど、点数が高いです。
 - ・100点のところでぴったり止めてください。
- 10, 11 「わくわくおもちゃランド」を開き、みんなで遊んだ感想を伝え合う。
 - ★「わくわくおもちゃランド」で楽しく遊ぼう
 - 遊ぶ係と運営係を交代しながら遊ぶ。
 - みんなで遊んだ感想を伝え合う。
 - みんなで協力して後片付けをする。
- 12 今までの活動を振り返り、楽しかったことやがんばったことを記録カードにかいて伝え合う。
 - ★楽しかったことやがんばったことを伝え合おう
 - がんばったことや楽しかったことを記録カードにかいて伝え合う。
 - ・「とことこカメ」で競争しました。何度やっても勝てないので、輪ゴムの結び目や長さなどを、友達ののを見て、つくり方を聞いたりして、何度も直しました。そうしたら、友達が、「前より長く走ったね」と言ってくれました。がんばってよかったです。
 - ・「とことこカメ」で100点のところでぴったり止める遊びをしました。途中で、〇〇さんが坂道にしてみようと言ったので改良しました。そうしたら、もっと楽しくなりました。みんなも楽しいと言ってくれて嬉しかったです。

- には、その気付きを科学的にも価値付け、自覚化させる声がけを行うとともに、友達に紹介させるようにする。
- ・改良前と改良後のおもちゃの動きの違いに目を向けさせ、機能を高めるために工夫したことや、「もっと～したい」といった願いをかかせる。
- ・条件を変えるとおもちゃの動きが変わるなど自然現象の中のきまりやその不思議さ、科学的なおもしろさに気付けるように支援する。
- 【評】おもちゃを改良する活動や、記録カードへの表現を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。
- ・同じようなおもちゃをつくった児童でグループをつくるなどして、みんなで楽しく遊ぶための遊び方（約束やルール）を考えさせる。
- ・教科書P. 52, 53を参考に、数を競って記録を残したり、ルールを決めて遊んだりすると、遊びが広がったり発展したりすることに気付かせたい。
- ・前時の計画に沿って、グループごとに、みんなで遊ぶために必要なものをつくらせる。おもちゃを動かして遊ぶ楽しさを味わえるように、チケットづくりや景品づくりなどに夢中になりすぎないようにさせる。
- ・教科書P. 52のパンフレットを参考に、遊び方（約束やルール）を分かりやすくかかせる。
- 【評】準備する活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・1年生を招待して一緒に遊ぶ活動も考えられる。
- ・必要に応じてルールを変えたり、つくり直したりするように助言し、もっと楽しく遊べるように工夫させる。
- ・遊んでいるうちにおもちゃが壊れたりすることがあるので、簡単な修理ができるコーナーも設けるとよい。
- ・遊んだ友達からの感想を基に、みんなが喜んでくれたという成就感をもたせる。
- 【評】遊んだり感想を伝え合ったりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・おもちゃを改良したり、遊び方（約束やルール）を工夫したりしたことで、遊びに来た友達が楽しんでいたことを称賛し、工夫することの価値に気付かせる。
- ・おもちゃづくりやおもちゃで遊ぶ活動の中で自分の成長や友達のよさを見つけた児童を取り上げ、全体の場で認めるようにする。
- 【評】記録カードへの表現や伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 【旧】みんなで つかう まちの しせつ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 身の回りにはみんなで使うものや施設があること、それらを支えている人々がいることなどが分かり、自分との関わりに気付くことができる。
 (2) 公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、自分との関わりで考えたり振り返ったりして、それらを表現することができる。
 (3) 公共物や公共施設、それらを支えている人々に関心を持ち、公共物や公共施設を大切にし、正しく利用しようとする。

標準的な展開例

02060204_001

【準備等】探検バッグ、デジタルカメラ、電子黒板、記録カード等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 みんなで使う身近なまちの施設について伝え合い、公共施設に出かける計画を立てる。</p> <p>○ 身近な公共施設を利用した経験を伝え合う。 ・ 夏休みに児童館に遊びに行きました。 ・ 図書館で本を借りたことがあります。 ・ 電車に乗って、おばあちゃんの家に行きました。</p> <p>★ 図書館に行く計画を立てよう</p> <p>○ 図書館に行く計画を立て、自分のめあてをもつ。 ・ 図書館へ行く方法 ・ 図書館ですること、見つけること ・ インタビューしたいこと</p> <p>○ 図書館を利用するときのルールやマナーを伝え合う。 ・ 挨拶をします。 ・ 静かにします。 ・ 走りません。 ・ 読んだ本は、元の場所に戻します。 ・ 本のページを折ったり破ったりしないように、大切に読みます。 ・ お礼をします。</p> <p>2, 3 図書館を利用して、気付いたことを記録カードにかいて、伝え合う。 ★ 図書館を利用しよう</p> <p>○ 図書館司書の人から、本の借り方や図書館のルールやマナーを教わる。</p> <p>○ ルールやマナーを守って、本を読んだり借りたりする。</p> <p>○ 図書館司書の人から、本に対する思いや、管理のことについての話を聞く。</p> <p>○ 図書館を利用したことを振り返り、気付いたことやもっと知りたいことを記録カードにかいて、伝え合う。 ・ 本を読んでいる人や、調べものをしている人がいました。だから、大きな声を出してはいけなかったことが分かりました。 ・ どこにどんな本があるのかがかいてあって分かりやすかったです。機械でも読みたい本が探せて便利だと思いました。 ・ 「おはなしのへや」は、何をする部屋なのか知りたいです。</p> <p>4, 5 もう一度図書館に行き、図書館のことを調べたり、インタビューしたりする。</p>	<p>・ 本単元で扱う「公共物」「公共施設」という言葉を、「みんなで使う物」「みんなで利用する場所」という表現で児童に伝えるとよい</p> <p>・ 教科書P. 57, P62, 63を参考に、自分たちの地域の公共物や公共施設を想起させる。</p> <p>・ 各教科等や他単元と関連させ、「学校の図書館と比べる」「自分たちが調べたり読んだりしたい本を探しに行く」など、図書館に行き利用する必要性を感じられるようにする。</p> <p>・ 図書館にこだわらず、駅や郵便局、公民館、博物館など、児童が繰り返し利用することのできる身近な公共施設を利用してもよい。</p> <p>・ 学校の図書館を利用するときのルールやマナーを想起させるとともに、地域の図書館には一般の人が多く来ていることを伝え、みんなが気持ちよく使うために気を付けることを考えさせる。</p> <p>・ 教科書P. 59「やくそく」を活用し、ルールやマナーを確認する。</p> <p>【評】ルールやマナーを伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 事前に活動の趣旨を伝え、見学や利用、インタビューの依頼をしておく。</p> <p>・ 図書館の職員だけでなく、利用者やボランティア活動をしている人などにもかかわることができるよう、時間帯や活動時期を考慮するとよい。</p> <p>・ 本を借りるときに、分からないことがあったら、図書館司書の人に聞くこととよいことを知らせる。</p> <p>・ 事前に図書館の利用者カードを作成しておく</p> <p>・ 本を借りる中で、どんな人が利用しているのか、本を探したり借りたりしやすくするためにどんな工夫があるかなど、図書館の「すてき」をたくさん探すように声をかける。</p> <p>【評】図書館を利用する活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 学校帰着後は、うがい、手洗いなど、衛生面の指導を徹底する。</p> <p>・ どんな人が利用しているのか、利用しやすくするためにどんな工夫があるのかという視点をもって、記録カードをかかせる。</p> <p>・ 幼児や高齢者、障害のある人など、多様な人々が図書館を利用していることや、みんなが気持ちよく使うためのルールやマナー、工夫があることに気付いている児童を取り上げるようにする。</p> <p>【評】記録カードへの表現や伝え合う活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 公共施設でのルールやマナーを学ぶ場と捉え学活の時間と併せて授業時間を確保するようにしてもよい。</p> <p>・ 前時に借りた本を返す機会を設け、再度図書</p>

★図書館の「すてき」を見つけよう

○活動のめあてをつかむ。

○約束を確認する。

○グループに分かれ、みんなが気持ちよく使うための、施設や働く人の工夫を調べる。

〈すてきな物〉

・入口のスロープ

・ブックポスト

・本の場所を探す機械

・小さな子が本を読む「おはなしのへや」

〈すてきな人〉

・本の整頓をしてくれている人

・本の修理をしてくれている人

・読みたい本を探してくれる人

・季節に合わせておすすめの本のコーナーを変えてくれている人

6 図書館を利用したり調べたりして見つけたことや気付いたことを、記録カードにかいて、伝え合う。

★図書館の「すてき」を伝え合おう

○見つけた「すてきな物」「すてきな人」や気付いたことを記録カードにかいて、伝え合う。

・入口にスロープがありました。車椅子やベビーカーの人も、使いやすくなっていました。

・司書の〇〇さんが、大きなカートでたくさんの本を運んでいました。〇〇さんたちのおかげで、いつも本がきれいに並んでいることが分かりました。

・図書館でカードをつくり、本を借りました。司書の方の説明が分かりやすかったです。本や新聞がたくさんありました。読みたい本がたくさんあったので、今度は家族と一緒に行ってみたいです。

館を訪れることへの意欲化を図る。

- ・みんなが気持ちよく使うための図書館の工夫を、「すてきな物」「すてきな人」の2つの視点から探すことを伝える。
- ・「すてきな物」が施設にある理由を考える場を設定し、活動の中で、気付きを深めさせるとうい。

- ・前時の活動で分からなかったことや疑問に思ったこと、さらに知りたいことなどを、職員やボランティア活動している人、利用者などにインタビューさせる。
- ・振り返りの際に利用できるように、児童の見つけた「すてき」をデジタルカメラで撮影しておくとうい。
- ・うがい、手洗いなど、衛生面の指導を徹底する。

【評】図書館について調べる活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・デジタルカメラで撮影した写真を提示し、気付きを共有する。
- ・児童の発表に対して「どうしてすてきなのかな」などと声かけをすることで、気付きの質を高められるように支援する。
- ・図書館に限らず、「公共物や公共施設が大勢の人々のために役立っていること」「それを支えている人がいること」などに気付かせるとともに、自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付かせる。
- ・校外学習での公共施設の利用の仕方について考えるきっかけとする。

【評】記録カードへの表現や伝え合う活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 【旧】もっと なかよし まちたんけん

配当時間 12時間

単元の目標 (1) 自分の町で働いている人達について調べる活動の中で、そこに暮らしたり働いたりする人々の工夫や、町のよさや、季節による自然の変化などに気付くことができる。
 (2) 町で働いている人達にインタビューに行き、発見したことや体験したことなどをまとめ、インタビューした人達やまわりの人々に伝えることができる。
 (3) 自分たちが住む町で働いている人達について、友達と協力して調べたり探検したりする活動を通して、そこで暮らす人々と関わり、自分たちの町に対して親しみや愛着をもとうとする。

標準的な展開例

02060205_001

【準備等】春に使用した絵地図、春のまち探検の写真、記録カード、模造紙、探検バッグ、デジタルカメラ、電子黒板等

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 春のまち探検や夏休みの生活などを振り返り、地域の場所やもの、人とかかわった経験を伝え合う。</p> <p>★地域の場所やもの、人とかかわったことを伝え合おう</p> <p>○地域の場所やもの、人とかかわったことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春のまち探検で和菓子屋さんに行きました。夏休みにお母さんと行ったときには、水まんじゅうを売っていました。 ・公民館の前を通ったら、太鼓の音が聞こえました。 <p>○友達の話聞いて、気になることを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春に探検に行ったきは、水まんじゅうは売っていませんでした。今は、どんなおまんじゅうを売っているのか知りたいです。 ・ぼくも太鼓の音を聞いてみたいです。誰が太鼓を叩いているのか気になります。 <p>2 まち探検で行きたい場所、見たいもの、会いたい人、聞きたいことなどを記録カードにかいたり、探検のグループを決めたりする。</p> <p>★まち探検の場所を決めよう</p> <p>○行きたい場所や会いたい人、聞きたいことなどを伝え合いながら、記録カードにかく。</p> <p>○まち探検のグループをつくる。</p> <p>3 グループごとに探検の計画を立て、挨拶やインタビューの練習をする。</p> <p>★まち探検の準備をしよう</p> <p>○探検の計画を立てて、めあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探検に行く日時 ・係（役割） ・行く場所、見たいもの、会いたい人 ・探検のめあて（聞きたいこと） ・わたしたちの約束 ・通る道 等 <p>○計画を記録カードにかく。</p> <p>○グループごとに、挨拶やインタビューの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんにちは。〇〇小学校の〇〇です。 ・生活科の学習でまち探検をしています。 ・今、お話をしてもいいですか。 ・〇〇の写真を撮ってもいいですか。 ・ありがとうございました。 ・さようなら。 <p>4, 5 まち探検に行き、地域の人とかかわったり、インタビューをしたりする。</p> <p>★もう一度まちの「すてき」探検に行こう</p> <p>○探検のめあてや約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探検のめあて（聞きたいこと） ・探検のルールやマナー 	<p>・前回のまち探検では、主として場所やものとかかわりを重視した探検を行った。今回は人を通して対象物に迫ったり、対象物について調べることを通して人とかかわりを深めたりするなど、地域の人とかかわりを重視した学習を展開するようにする。</p> <p>・春のまち探検の写真や絵地図を手がかりにして、春のまち探検の後、夏休み中などに地域の場所、もの、人とかかわった経験を伝え合わせる。</p> <p>・教科書P. 70, 71の絵地図のように、児童が新たにかかわった場所、もの、人を青色のカードにかいて、春のまち探検で使った絵地図に貼る。（春のまち探検では、ピンク色のカードを使用）</p> <p>・行きたい場所、会いたい人、聞きたいことなどについて伝え合わせ、2回目の探検への意欲を高める。</p> <p>・最初は明確な思いや願いが無い児童も、友達や教師との会話を通して、自分なりの明確なめあてをもって探検に行けるように支援していく。</p> <p>・行きたい場所や会いたい人ごとに、3～4人程度のグループを編制する。</p> <p>・児童の安全を確保するため、保護者やボランティアの人などの協力を得られるようにしておく。</p> <p>・春のまち探検の経験を生かして、探検の計画を立てるよう助言する。</p> <p>・各グループの道順を把握し、危険箇所や安全な行動について確認する。</p> <p>・探検のめあてに、聞きたいことをかかせることで、人とかかわりを支援する。</p> <p>・方面別の絵地図を記録カードの裏に印刷しておき、歩くコースを記入させるようにする。</p> <p>【評】探検の計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教科書P. 106～109「べんりてちょう」を参考に、練習させるとよい。</p> <p>・相手の都合を聞いて、地域の人の迷惑にならないようにインタビューをするように、指導する。</p> <p>・探検場所に、事前に知りたいことや見せてほしいことを伝え、協力を依頼しておくとうい。</p> <p>・前時の記録カード内の、探検のめあてを確認させる。</p> <p>・インタビューで聞いたことを基に、更に質問</p>

- ・緊急時の対応
- ・帰校時刻 等

○ 計画に従って探検に行き、地域の人とかかわったりインタビューをしたりする。

6 まち探検で聞いたことや気付いたことを伝え合い、記録カードにかく。

★聞いたことや気付いたことを伝え合おう

- 聞いたことや気付いたことを伝え合う。
 - ・ダイコンまんじゅうは、おいもを使ってつくるそうです。まちの名物のだいこんは使っていないそうです。
 - ・〇〇さんたちは、毎週公民館で太鼓の練習をしているそうです。とても大きな太鼓でした。
- 記録カードをかく。

7 もう一度まち探検に行く計画を立て、準備する。

★まちの人となかよくなる計画を立てよう

- 地域の人と一緒にしてみたいことや、もっと聞いてみたいことを伝え合い、探検のめあてを決める。
 - ・おまんじゅうをつくっているところが見たいです。どうして、いろいろな種類の和菓子をつくっているのかを聞きたいです。
 - ・太鼓を叩いてみたいです。どうして毎週太鼓の練習をしているのかを聞きたいです。

8～9 まち探検に行き、一緒にできることをしたりインタビューをしたりして、かかわりを深める。

★まちの人となかよくなろう

- 地域の人とかかわる。
 - ・店の仕事を手伝う。
 - ・店の仕事を体験する。
 - ・作物の収穫を手伝う。
 - ・秋祭りの練習に参加する。 等

- 地域の人の仕事や、地域に寄せる思いを聞く。
 - ・自分のつくった和菓子を食べてもらい、たくさんの人に笑顔になってもらいたいです。
 - ・地元の祭りをこれからも伝えていきたいです。

10 まち探検でなかよくなった人のことをグループで振り返り、他のグループに伝える準備をする。

★なかよくなった人のことを伝える準備をしよう

- 探検を振り返り、伝えることを決める。

- 発表の原稿をかくて、練習をする。

11 まち探検でなかよくなった人のことを発表する。

★なかよくなった人のことを紹介しよう

- 写真や絵地図を見せながら発表する。
 - ・〇〇さんが材料に触ると、手品のようにすてきな和菓子が出来上がります。たくさんの人に喜んでもらえるように、色や形にもこだわって和菓子をつくっているそうです。
 - ・みんなで太鼓を叩いて楽しかったです。大きな太鼓を叩くのは、とても力があるので大変でした。〇〇さんは、「毎年たくさんの人が祭りに来てくれるのが嬉しい」と言っていました。

をしてもよいことを指導しておく。

- ・聞いたことを忘れないよう、簡単なメモができる用紙を持って探検に行かせる。
- ・グループごとに引率者を同行させたりチェックポイントを設けたりするなどして、児童の安全確保を図る。

【評】地域の人とかかわったり、インタビューしたりする活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・新しく見つけたことやかかわった人のことを黄色のカードにかいて、春のまち探検や夏休みに各自で行った探検で使った絵地図に貼り足し、情報の交流や場所の確認ができるようにしておく。

- ・児童が無意識に抱いている疑問やつぶやきを取り上げたり、教師が新たな問いをしたりすることで、新たな探検のめあてがもてるように支援する。

- ・聞いたことと気付いたことに合わせて、さらに知りたいこともかくようにさせる。

【評】記録カードへの表現を通して「知識・技能」を評価する。

- ・探検場所への挨拶をし、打ち合わせ、保護者への協力依頼を実施し、児童が対象や人と繰り返しかかわることができるように配慮する。
- ・児童が探検に行った場所で、「手伝う」「教わる」「参加する」などの体験活動が想定できる場合は、教師から活動を依頼しておくようにする。

- ・地域で生活したり働いたりしている人の思いや願いに触れるような質問の内容を考えさせる。

【評】探検の計画を立てる活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・探検先に、事前に安全面や衛生面で配慮しなくてはいけないことについて確認し、指導しておく。

- ・体験的な活動を通して、日常での仕事内容や活動内容の想像がつきにくい人の働きに着目させたり、まちの人の思いに気付かせたりする。

- ・付き添いの教師や保護者が、地域の人を「すごいね」と称賛することで、児童がその人のすごさに気付けるようにするとよい。

- ・事前に地域の人と連絡を取り、普段どのような思いや願いをもって生活や仕事をしているのかを、児童に分かりやすく話していただくように依頼しておくとうい。

【評】一緒にできることをしたり、インタビューしたりする活動から「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・次単元の活動への接続を意識し、作品をつくるなどの大がかりな発表とはせず、短時間で準備できる方法で紹介させる。

- ・地域の人のすごいところや、一緒に活動したりすることの楽しさを伝えさせる。

- ・児童が相互に伝えてよかった、聞いてよかったと実感できるような伝え合い交流の場とする。

- ・ここでは、児童の地域への愛着を深めている様子や発表を価値付ける。

- ・電子黒板を活用して、児童の発表に合わせてこれまでの探検で撮った写真を見せるようにするとよい。

- ・まちの絵地図を活用して、自分たちがたくさんの人とかかわったことを振り返り、地域で生活したり働いたりしている人がたくさんいることを実感させる。

- ・「まちの人は喜んでくれるのが嬉しいのですね」など、児童が発表した言葉を繰り返す

単元名 【旧】つたわる 広がる わたしの 生活

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かり、相手や目的に応じた伝え方があることに気付くことができる。
- (2) 伝える相手や目的、伝える出来事の内容に応じた、適切な表現方法を選んで作品に表し、伝え方を工夫しながら交流することができる。
- (3) 地域で関わった人のことやその関わりを通して分かったことなどを、進んで触れあい交流しようとする。

標準的な展開例

02060206_001

【準備等】 絵地図、これまでの記録カード、模造紙、マジック、付箋、ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、探検バッグ、デジタルカメラ、電子黒板等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 地域でかかわった人のことを振り返り、自分の心に残ったすてきな人やすてきな出来事を伝え合う。</p> <p>★まちのすてきな人とかかわったことを振り返ろう</p> <p>○これまでにかかわった地域の人のことを、伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんは和菓子名人です。 ・野菜名人の〇〇さんに教えてもらって、おいしいトマトができました。 <p>2, 3 探検したグループで、「まちのすてき発表会」をする計画を立てる。</p> <p>★「何を」「誰に」「どうやって」伝えるかを決めよう</p> <p>○まちの「すてき」を伝え合いながら、伝えたいこと（何を）と、伝える相手（誰に）を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和菓子の秘密を（何を）、お店に来た人に（誰に）伝える。 ・図書館の楽しさを（何を）、まちの人に（誰に）伝える。 <p>○これまでに経験した伝え方と、それぞれの伝え方のよいところを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターは遠くからでも目立つし、ぱっと見て分かります。 ・新聞にはたくさんのことがかけます。 ・紙芝居は、1年生にも分かりやすいと思います。 <p>○自分たちの伝えることと、伝える相手に合う伝え方（どうやって）を、グループで相談して決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の使い方を新聞にかいて、図書館に貼ってもらえば、もっと便利に図書館を使ってもらえると思います。だから、新聞にして伝えたいです。 ・おすすめ和菓子を教えるポスターをお店に貼ってもらったら、もっとお客さんが来てくれると思います。だから、ポスターにして伝えたいです。 <p>4 「まちのすてき発表会」をするための準備をする。</p> <p>★発表に必要な作品をつくろう</p> <p>○表し方を工夫しながら作品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅で本を返せたり、パソコンで本の予約ができたりすることを新聞にして発表したらいいと思います。 ・〇〇家さんのおすすめのダイコンまんじゅうの絵をかくといいと思います。ここは緑色でした。 <p>5 作成途中の作品を友達と見せ合い、工夫した点や、互いの作品のよさを伝え合う。</p> <p>★作品を見せ合い、アドバイスをし合おう</p> <p>○作品を見せ合い、感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字の周りを囲って、目立つように工夫していていいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まち探検などで児童がかいた記録カードや、つくった作品、使ってきた絵地図を手がかりに想起させる。 ・活動を撮影した写真のうち、地域の人とかかわっているものを大きくプリントして提示するとよい。 ・まち探検で児童がかかわった人や、これまでに学校に招待したことの有人をリストアップしておく。 ・同じ地域の人とかかわった児童同士でグループをつくるようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.112, 113「べんりてちょう」を参考に、ホワイトボードや付箋を使うなどして、自分の考えを視覚化し、整理したり分類したりすることができるようにする。 ・地域の人とかかわりの中で、気付いたまちの「よさ」や、友達だけではなく他学年や地域の人など、広く伝えたいと思うことを選ばせる。 ・教科書P.79に「何を」「誰に」伝えたいのか自分の考えをかかせる。 ・教科書P.80を参考に、「何を」「誰に」伝えるかを整理して板書する。 <p>【評】 伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.81とP.114, 115「べんりてちょう」を活用し、児童から出なかった表現方法を紹介する。 ・それぞれのまとめ方の利点や欠点を考えさせることで、伝えたいことと伝える相手に適した方法を選べるようにする。 ・決めた伝え方を教科書P.80「どうやって」にかかせる。 <p>【評】 伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に、作品全体の設計図をかかせる。 ・新聞やパンフレットを作成する際には、作品をいくつかの部分に分けて分担させたり、ポスターは絵をかく係や、キャッチコピーを考える係などに分けたりするなど、全員が何かの役割を担えるように配慮する。 ・作品をつくる中で、もっと知りたいという思いをもった児童を全体に紹介して称賛し、調べ直しの活動を促す。 <p>【評】 発表に必要な作品をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方や作品の工夫につながるよう、感心したところやアドバイス、もっと知りたいことなどの視点を決めて、聞き手に感想を述

- ・図書館の使い方で分からないことがあったときに司書さんに聞けるように、司書さんの写真があるといいと思います。
 - ・今のおすすめの和菓子も教えてほしいです。
- 6, 7 作品を完成させるために、もっと知りたいことをまちの人に聞いて調べる。
- ★もっと知りたいことをまちの人に聞いて調べよう
 - もっと知りたいことを伝え合う。
 - ・春と秋ではおすすめのお菓子がちがうことが分かりました。今の季節のおすすめのお菓子も知りたいです。
 - ・本の予約の仕方を、もう少し詳しく知りたいです。
 - 調べる手段を知る。
 - ・手紙
 - ・電話
 - ・ファックス 等
 - グループで調べる手段を決めて、準備をする。
 - 手紙や電話などで必要な情報を集める。
- 8 地域の人に聞いたことを基に、作品を完成させる。
- ★作品を完成させよう
 - 集めた情報を整理し、作品を完成させる。
- 9, 10 招待する準備をしたり、「まちのすてき発表会」のリハーサルをしたりする。
- ★「まちのすてき発表会」の準備をしよう
 - 招待状をかく。
 - 発表会のリハーサルをする。
- 11, 12 「まちのすてき発表会」を開き、まちの「すてき」を伝える。
- ★「まちのすてき発表会」をしよう
 - グループごとに、まちの「すてき」を発表する。
 - 招待した人から感想を聞く。
 - 発表会に来ていただいた人に、お礼の手紙をかく。
 - ・図書館の便利な使い方を発表したら、「新しい使い方が分かったので、久しぶりに行ってみたいです」と、言ってもらえたのが嬉しかったです。一生懸命調べて発表して良かったです。今日は来ていただき、ありがとうございました。
 - お礼の手紙を発表し合い、学習を振り返る。

べさせるようにする。
【評】伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・地域の人に質問する前に、必ず教師から、協力依頼と活動の趣旨説明を十分にしておくようにする。
- ・前時の友達からのアドバイスや、作品をつくる中で疑問に思ったことなどを振り返って、もっと知りたいことについて伝え合わせる。

- ・手紙や電話、ファックス以外にも、取材やインターネットで調べる方法も考えられる。
- ・教科書P.110, 111「べんりてちょう」を活用し、手紙やファックスなどの使い方、基本マナーについて指導をする。
- ・手紙やファックスは、出す前に必ず教師が内容などを確認する。
- ・情報収集を通して、地域の人々とかかわる楽しさが実感できるようにする。

【評】調べる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・新たに作品をつくり直すのではなく、上から紙を貼るなどして、部分修正させる。

- ・伝える相手に合わせた言葉遣いに留意してかくようにさせる。
- ・原稿を読み上げるのではなく、聞いている人の顔を見ながら話をするように、声がけをする。

- ・招待した人から、意見や感想がもらえるように、簡単な記入用紙を用意しておくとうい。
- ・発表が終わった後に、感想や気付いたことを伝え合う場を設定し、交流することの楽しさに気付かせる。

【評】発表を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・お礼の言葉とともに、自分の見つけたまちの「すてき」が、招待した人に伝わった嬉しさや、まちの「すてき」を共有することができた喜びなどのかかせるようにする。

【評】お礼の手紙への表現を通して「知識・技能」を評価する。
・発表会に来ていただくことができなかった地域の人には、後日、作品とお礼の手紙を届けるようにするとよい。

【 備 考 】

単元名 わたし たんけん

配当時間 21 時間

単元の目標 (1) 大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた多くの人々がいることに気付くことができる。
 (2) 工夫して自分の成長を振り返るとともに、分かったことや成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを、作品などで表現して伝えることができる。
 (3) 2年生になってからの1年間や、1年生や幼保の頃の自分について振り返り、印象に残ったことや心に残っていることを発表し合い、自分の成長を自覚するとともに、これからも意欲と希望をもって生活しようとする。

標準的な展開例

02060301_001

【準備等】保護者、幼児教育施設の保育者への依頼、これまでの記録カードや作品などの学習成果物、学校生活の写真、記録カード（がんばったカード、すてきカード、インタビューカード）、はがき（または便箋）、作文用紙、画用紙、I C T機器等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 2年生になって、できるようになったことや頑張ったこと、成長したことを学級全体で振り返る。 ★大きくなった自分のことを振り返ろう ○2年生の出来事を思い出して発表する。 ・野菜のお世話を頑張りました。 ・運動会の徒競走で1位になりました。</p> <p>○発表したことを通して、単元の見通しをもつ。</p> <p>2～3 記録カードや作品などを見直して、自分ができるようになったことなどを見付ける。 ★ばく、わたしのキラリを見付けよう ○2年生で書いた日記や記録カードを手がかりに、記録カード（がんばったカード）を書く。 ・水やりの手伝いを毎日続けています。 ・九九を何度も練習して、すぐに唱えることができるようになりました。 ○自分ができるようになったことを伝え合う。</p> <p>○感想を伝え合う。 ・最初は難しくてできなかった一輪車も、友達と何回も練習したらできるようになりました。〇〇さんにありがとうと言いたいです。</p> <p>4 友達が頑張ったことや、よいところを見付け、表現する ★友達のキラリを見付けよう ○友達の素敵などところをカードに書く。</p> <p>○カードを渡し合う。 ・朝、学校に来たらすぐ野菜の様子を見に行っていたねいつも大事にしていますすごね。 ・1年生の面倒をよく見ていて優しいね。 ・町探検のまとめのとき、みんなに巻物作りを教えてくれたね。いつも親切だね。これからはよろしくね。</p>	<p>・これまでの記録カードや作品、学校行事や学習、生活場面の写真を、時系列に沿って掲示するなど、振り返りのための具体的な手がかりを工夫する。</p> <p>・国語科や算数科などの教科や学級活動でも1年間の学習の振り返りをして、できるようになったことやもっと頑張りたいことなどを話し合う時間をもちたい。</p> <p>・教科書P.88～89のような、カード等を1枚にまとめ、発表する活動を行うことを伝える。</p> <p>・保護者には活動のねらいや計画について事前に知らせ、協力を要請する。</p> <p>・できるようになったこと、がんばったことを「キラリ」とし、今後の活動を通して、自分の成長をより多く見付けたいという意欲になることを期待する。</p> <p>・家での役割や地域との関わりなど、学校外での出来事にも目を向けさせる。</p> <p>・P.91「がんばったカード」だけでなく、「できるようになった」「大きくなった」など名前を変えて複数用意してもよい。</p> <p>・以前の自分と比べて成長したこと、できるようになったこと、役割が増えたこと、友達や地域の人などとの関わりが増えたことなど、いろいろな視点から「大きくなった自分」を捉えさせたい。</p> <p>【評】1年間の成長を振り返る活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・一つ一つのエピソードについて丁寧に振り返り、どうしてできるようになったのか、自分はどんなことを頑張ったのか、誰が支えてくれたのかなどに気付かせたい。</p> <p>・教科書P.92～93のカードを紹介して、友達に支えてもらったことに対する感謝の気持ちや友達をすごいと思う気持ちを書くように声掛けをする。</p> <p>・カードをもらう枚数に差が出ないように、4人グループを構成するなどして配慮する。</p> <p>・友達の優しさや、他者への思いやりなど、内面的な成長に気付いている児童を取り上げ、全体へ広げる。</p> <p>・カードを交換する際は、渡すだけではなく、カードに書いた出来事について話をさせる。もらった児童にも、感想などを話すようにさせ、互いの成長を実感できるようにする。</p> <p>【評】友達との関わりを振り返り、友達の素敵などところを伝える活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>

- 活動を振り返り、感想を伝え合う。
 - ・わたしのキラリを教えてください嬉しかったです。これからみんなに親切にしようと思います。
- 5～6 お世話になった人や家の人などに、自分の成長についてインタビューする計画を立てる。
 - ★今までのわたしについて調べよう
- 家族や幼児教育施設の先生、学校の先生にインタビューするための計画を立てる。
 - ・わたしは、1年生のときの担任の先生に聞いてみようかな。
 - ・ぼくは、近所の〇〇さんに手紙を書いてみよう。
- インタビューする人を決め、インタビューカードを作る《インタビューカード》
 - 【聞きたい人】おじいさん
 - 【聞きたいこと】
 - ・小さい頃はどんな子だったか。
 - ・どんなことを頑張っていたか。
- インタビューの練習をする。
 - ・こんにちは。〇〇小学校の〇〇です。インタビューをしてもよいですか。（インタビューをする）ありがとうございました。
- お世話になった人や家の人などに、自分の成長についてインタビューする。（授業時間外）
- お世話になった人に、自分の小さい頃についてインタビューする。（授業時間外）
- インタビューして分かったことを、記録カードにまとめる。
- 7～8 インタビューして分かったことを発表し、カードにまとめる。
 - ★小さい頃の自分のことを、紹介しよう
- インタビューして、分かったことを伝え合う。
 - ・わたしは、保育園の先生に聞きました。小さい頃のわたしは、大人しいけどがんばり屋さんだったようです。「はきはきとお話できるようになりましたね」と褒めてくれました。
- インタビューカードをまとめる。
- 9～11 調べたことや分かったことを基に、自分の成長をまとめる。
 - ★ぼく、わたしのキラリをまとめよう
- がんばったカード、友達からもらったキラリカード、インタビューカードを1枚の画用紙にまとめる。
- ペアや4人などの小グループで交流する。
 - ・ぼくは小さい頃、おじいさんとの思い出が多いな。自然の遊びを教えてもらったよ。生き物の学習で、生き物

- ・友達に自分の成長を聞いたり、自分で振り返ったりしたが、もっと成長を感じるためにはどうするとよいか問いかけ、インタビューをする活動へ移行する。
- ・どの時点から自分の成長を振り返り実感するかは、児童によって異なる。大切なのは自分の成長を実感できることであり、一律に過去から順にたどることではない。
- ・児童の家庭環境や成育歴などに十分配慮の上家庭と連携を取りながら活動を進める。一律に「家庭で調べる」などと決めて活動を行うことのないよう、十分注意する。
- ・家の人、幼児教育施設の先生にインタビューをする際には、事前に概要や趣旨を連絡し、協力を依頼しておく。
- ・インタビューが困難な事情のある児童に配慮し、一人一人に応じた支援をする。
- ・インタビューが難しい場合は、手紙や電話、FAXを使うなどして調査方法を考える。
- ・教科書P.107「インタビューをする」を参考にしてインタビューカードを作ったり、インタビューする練習をしたりする。また、手紙や電話についても同様に行うとよい。
- 【評】インタビューを計画する活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。
- ・学校の実態に応じて園児との交流活動を行い自分の小さかった頃に関心をもたせるようにするとよい。
- ・役割やできることが増えたことだけでなく、優しさや思いやり、我慢する心など、児童の内面的な成長を称賛してもらうように依頼しておく。
- ・自分の成長を調べる活動では、児童の姿だけではなく、そのときの家の人などの思いや願いも気付くようにしたい。
- 【評】インタビューする活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・今の自分と比べてどのようであったかという視点で発表させるとよい。
- ・発表の際は、書画カメラ等のICT機器を使ってカードを大きく見せるなど、児童の思いが聞き手に伝わるようにする。
- ・友達がインタビューした内容を知ることで、自分の内容を見直し、必要に応じて再度インタビューを行ったり、調べたことをカードに付け足したりすることも考えられる。
- 【評】インタビューしたことを伝え合う活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・自分の成長をまとめた模造紙のタイトルは、自分の成長を表す表現にしたい。
- ・教科書P.97の参考例では、自分の成長を「自分」「友達」「支えてくれている大人」と、児童を中心に同心円状に1枚にまとめられている。成長を支えてくれた多くの人々がいることに気付き、感謝の気持ちをもたせるようにしたい。
- ・完成してからの伝え合いだけでなく、まとめる段階で小グループ規模の交流を繰り返し行わせる。友達に伝えたり、意見を聞いたりす

に合うすみかを考えたけど、おじいさんのおかげだったのかもしれない。

- ・わたしもお姉ちゃんが手伝ってくれたことを書こうかな。
- ・保育園の先生が、はきはきとお話できるようになりましたねと褒めてくれたけど、どうしてもはっきりと話せるようになったのだろう。

○発表の準備をする。

12～13 自分の成長をまとめたものを、友達や自分の成長を支えてくれた人に紹介し、感謝の気持ちを伝える。

★学習して分かった、ぼく、わたしのキラリを発表しよう

○自分の成長について調べたことや分かったことを発表する。

○友達の発表を聞いて、質問したり感想を伝え合ったりする。

○活動を振り返る。

- ・2年生になって、進んで手伝いをしたり、大好きなサッカーも、1年生のときよりもできるようになりました。ぼくはたくさんの人に支えられて大きくなったことが分かりました。これからもがんばります。みんなにありがとうと言いたいです。

14～15 インタビューや作品作りでお世話になった人へ、感謝の手紙を出す。

★お世話になった人に、ありがとうの気持ちを伝えよう

○お世話になった人へ手紙を書く。

○手紙を渡したり、出したりする。

○感想を伝え合う。

16～19 3年生になったらしてみたいこと、頑張りたいことなどについて話し合い、作文などにまとめる。

★これからのぼく、わたしについて考えよう

○3年生になって、やってみたいことを書く。

- ・今続けている手伝いをこれからも頑張りたいです。また、新しい手伝いもやってみようと思います。

○3年生になる期待や抱負について話し合う。

○未来の夢や希望を作文や手紙などにまとめる。

20～21 未来の夢や希望についてまとめたことを発表し、単元のまとめをする。

★これからのぼく、わたしについて発表しよう

○未来の夢や希望についての作文を発表する。

○感想を伝え合い、単元のまとめをする。

の中で、自分への気付きの質が高まることを期待したい。

- ・自分たちの成長を支えてくれた人の存在に気付いている児童のつぶやきを取り上げ、全体へ広げるようにしたい。

【評】自分の成長をまとめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・発表方法については、国語科と関連させたりP.115「はっぴょうする」を参考にしたりする。

・作品を使った発表だけでなく、実演したりするなど多様な発表方法を認める。

・児童が発表したいと思ったものには、それぞれの思いやエピソードがある。なぜそれを好きになったのか、どうやってできるようになったのか、どうして心に残ったのかを教師が対話を通して引き出し、発表させるようにしたい。

・たくさんの人が自分の成長を支えてくれていることの喜びや、これからの成長への思いを表現している児童を取り上げて全体に広げ、自信と意欲をもって生活できるように支援する。

【評】自分の成長を伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・手紙を書く際は、P.113「手紙を書く」を参考にして指導をする。

【評】お世話になった人へ手紙を書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・3年生の学習や生活に期待がもてるよう、3年生の教科書（新教科となる理科や社会科など）やリコーダー、習字セットを用意しておくとうい。

・3年生から始まる新しいことだけでなく、今までやってきたことを継続して、さらに高い目標に向かって頑張ってもよいことを伝える

・友達や周りの人に支えられたという思いをもう一度想起させ、これからも様々な人と関わりながら成長していこうという意欲をもたせる。

・作文を書く際は、国語科と関連させたり、P.112「作文を書く」を参考にしたりして指導をする。

【評】これからの自分への作文を書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・担任からも児童一人一人に対し、成長を認め勇気づける作文やメッセージカード等を手渡しし、これからの生活に意欲をもたせたい。

【評】これからの自分への作文を発表する活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

・活動によっては児童の誕生や生育に関わる事柄を扱ったり、家族へのインタビューを行ったりするような場合も考えられるため、プライバシーの保護に留意するとともに、それぞれの家庭の事情、特に生育歴や家族構成などに十分配慮することが必要である。

単元名 【旧】あしたへ ジャンプ

配当時間 27 時間

- 単元の目標 (1) 大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた多くの人々がいることに気付くことができる。
- (2) 工夫して自分の成長を振り返るとともに、分かったことや成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを作品などで、表現して伝えることができる。
- (3) 2年生になってからの1年間や、1年生や幼保の頃の自分について振り返り、印象に残ったこととや心に残っていることを発表し合い、自分の成長を自覚するとともに、これからも意欲と希望をもって生活しようとする。

標準的な展開例

02060302_001

【準備等】これまでの学習での作品類、これまでの記録カード、これまでの学校生活の写真、記録カード、画用紙等

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 入学してからこれまでにあったことを、クラス全体で振り返る。</p> <p>★2年間を振り返ろう</p> <p>○2年間の出来事を思い出して発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を育てました。おいしい野菜が獲れました。 ・みんなで力を合わせて運動会をがんばりました。 <p>2 学習面、生活面、精神面（自分のよさ、可能性）について振り返り、自分ができるようになったことをたくさん見つけ、カードにかく。</p> <p>★自分ができるようになったことを見つけよう</p> <p>○自分ができるようになったことをカードにかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわとびで二重とびができるようになりました。 ・かけ算九九を全部言えるようになりました。 ・毎日忘れずに野菜の世話をすることができるようになりました。 ・くつ洗いのお手伝いを続けています。 ・毎日、しっかり掃除ができるようになりました。 <p>3 自分ができるようになったことを、友達と伝え合う。</p> <p>★自分ができるようになったことを紹介しよう</p> <p>○自分ができるようになったことを伝え合う。</p> <p>○感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくもかけ算九九を全部言えるようになりました。毎日みんなで練習しました。 ・二重跳びができてすごいですね。交差跳びもクラスで一番たくさん跳べていて、すごかったです。 ・わたしは皿洗いのお手伝いを続けています。 <p>4 友達とのかかわりを振り返り、友達のすてきなところを見つけ、カードにかいて渡し合う。</p> <p>★友達のすてきなところを伝えよう</p> <p>○友達に「ありがとうカード」や「すごいねカード」をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも生き物係の仕事を忘れずにやっていますすごいです。わたしも係の仕事をがんばります。 ・ミニトマトの脇芽が分からなかったときに、教えてくれてありがとう。ミニトマトがたくさんできました。 ・背の高い竹馬に乗れてすごいですね。わたしも乗れるようになりたいので、教えてください。 ・休み時間に遊びに誘ってくれてありがとう。また一緒に遊びましょう。 <p>○友達にカードを渡す。</p> <p>5 お世話になった人や家の人などに、自分の成長について</p>	<p>・児童が共通で体験している、入学してから2年間のことを振り返らせる。</p> <p>・これまでの記録カードや作品、学校行事や学習、生活場面の写真などを、時系列に沿って掲示するなど、振り返りのための具体的な手がかりを工夫するとよい。</p> <p>・学習面は学習の自立、生活面は生活上の自立、精神面は精神的な自立といった生活科がねらう3つの自立に関する内容である。</p> <p>・カードにかく方法以外にも、できるようになったことをイメージマップに表し、見つけた自分の成長を、次々にかき加えていく方法も考えられる。</p> <p>・1枚のカードにつき一つずつ、できるようになったことをかかせる。</p> <p>・教科書P.90, P.92～93の挿絵と写真や、児童が自己成就感や達成感をもったときの記録カードなどを手がかりに考えさせる。</p> <p>・入学してから新たに挑戦したことや、今でも取り組んでいることも考えさせる。</p> <p>【評】カードへの表現を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・前時にかいたカードを見せながら、伝え合うようにさせる。</p> <p>・友達のできるようになったことと自分のできるようになったことの、似ているところと違うところに気付かせるとともに、互いの良さを認め合うように指導する。</p> <p>・友達のできるようになったことを聞き、「他にも○○ができていました」と伝えている児童を取り上げ、次時につなげる。</p> <p>【評】伝え合う活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・朝の会や帰りの会、各教科等の機会を使い、日常的に友達のよいところを伝え合う経験を積みさせておくことよい。</p> <p>・教科書P.94のカードを紹介して、友達に支えてもらったことに対する感謝の気持ちや、友達をすごいと思う気持ちをかくように声がけをする。</p> <p>・ペアを組んで互いのカードをかかせたり、グループ内で全員にかかせたりするなど、全員がカードをもらえるように配慮する。</p> <p>・友達の優しさや、他者への思いやりなど、内面的な成長に気付いている児童を取り上げ、全体に広げる。</p> <p>・渡す際に、カードにかいた出来事について話をさせる。もらった児童にも、感想などを話すようにさせ、互いの成長を喜び合えるようにする。</p> <p>【評】カードへの表現や伝え合う活動から「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・インタビューが困難な事情のある児童に配慮</p>

インタビューする。

★昔の自分のことをインタビューして調べよう

○昔の自分のことを知っている人に、自分のことをインタビューする。

6 小かった頃の自分と今の自分を比較して、自分の成長について考えて、発表する。

★小かった頃と今の自分を比べよう

○小さい頃と今の自分を比較して、できるようになったことや役割が増えたことを発表する。

- ・6年生に掃除を手伝ってもらっていました。やり方を教えてもらって、今は自分たちでできるようになりました。
- ・逆上がりができるようになりました。休みの日は、お父さんと一緒に練習をしました。
- ・弟の面倒をみてあげています。前より弟に優しくなったと、褒められました。
- ・保育園のときは人参が嫌いで残していましたが、少しずつ食べられるようになりました。

7 自分の成長について、どんな出来事を、どのような方法でまとめるかを考える。

★大きくなった自分のことを作品にまとめる計画を立てよう

○まとめる方法を出し合う。

- ・新聞
- ・絵本
- ・ランキング
- ・巻物
- ・すごろく 等

○自分の成長を表す出来事と、まとめる方法を決めて発表する。

- ・2年間でできるようになったことを、すごろくにしてまとめたいです。
- ・できるようになったことをランキングにしたいです。1位は、竹馬に乗れるようになったことをかきたいです。
- ・キュウリが食べられるようになったことがすごく嬉しかったので、キュウリを育てて好きになったことを新聞にしたいです。

8～13 表し方を工夫しながら、自分の成長を表す出来事を作品にまとめる。

★大きくなった自分のことを作品にまとめよう

○自分の成長を表す出来事を、作品にまとめる。

14, 15 作品を見せ合いながら、大きくなった自分のことを伝え合う。

★自分の成長を伝え合おう

○作品を見せ合い、質問をしたり、感想を伝え合ったりする。

- ・竹馬の乗り方は、誰が教えてくれたのですか。
- ・いろいろな人にお世話になって大きくなってきたのですね。

し、一人一人に応じた支援をする。

- ・家の人、幼稚園や保育所等の先生にインタビューを行う際には、事前に概要や趣旨を連絡し、協力を依頼しておく。
- ・学校の実態に応じて園児との交流活動を行い自分の小さかった頃に関心をもたせるようにするとよい。

- ・役割やできることが増えたことだけでなく、優しさや思いやり、我慢する心など、児童の内面的な成長を称賛してもらうように依頼しておく。
- ・自分ができるようになったことをかいたカードや、インタビューしたことを振り返って考えさせる。

- ・児童の発表を受けて、教師が「誰に教えてもらいましたか」と問いかけることで、支えてくれた人の存在に気付かせる。
- ・友達に思いやりの心がもてるようになった、我慢することができるようになったなど、内面的な成長にも目を向けることができるように声がけをする。
- ・幼いころに使っていたものなどを持ち寄らせると伝え合いが活発になるが、児童の家庭環境に十分配慮し、全員が必ず何かをもってこなければならないような展開は避けるように留意する。

【評】発表する活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・自分ができるようになったことや、役割が増えたことの中から、自分の成長を表す出来事を選んで、作品にまとめさせる。

- ・教科書P.96,97を見せたり、これまでに作品にまとめた経験を想起させたりして、作品のイメージをもたせる。

- ・まとめる方法（新聞・絵本など）や分量は、児童の思い、資料の内容・量などに応じて、多様であってよい。
- ・あらかじめ製作活動に使える時間を伝えておき、時間の中で完成できるように指導する。

【評】作品にまとめる計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・家庭から、昔の写真や品物などをもってきたいという児童の思いは認めるが、児童の一人一人の家庭環境に十分配慮し、必ず全員が何かをもってこなければならないような展開は避けるように留意する。

- ・作品をつくりながら交流し、友達の反応などを参考にして、さらに工夫できるような、ゆとりをもった時間設定を心がける。
- ・製作途中で行き詰ってしまう児童が出てきた場合は、中間発表の時間をとり、工夫した点を伝え合い、友達のよいところを自分の作品にも取り入れるように促すとよい。

【評】作品にまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・作品が見えるように、少人数のグループで発表させる。

- ・自分たちの成長を支えてくれた人の存在に気付いている児童のつぶやきを取り上げて、全体に広げ、次時以降の「ありがとう発表会」を開く活動へつなげるようにする。

【評】伝え合う活動を通して「知識・技能」を評価する。

- 16 「ありがとう発表会」を開く計画を立てる。
 ★「ありがとう発表会」を開く計画を立てよう
 ○お世話になった人を伝え合い、招待する人を決める。
- 自分が発表したいことを伝え合う。
 ・野菜名人の〇〇さんに教えてもらっておいしい野菜がつくれたことを発表したいです。
 ・運動会でみんなで踊って成功したことを発表したいです。
 ・鉄棒で逆上がりができるようになったことを発表したいです。
- 発表の方法を伝え合う。
 ・つくった新聞を見せながら、野菜の収穫までのことを伝えたいです。
 ・運動会で踊った踊りをみんなで踊りたいです。
 ・逆上がりを見せたいです。
- 17～20 発表の方法を工夫して、準備や練習をしたり、招待状を出したりする。
 ★「ありがとう発表会」を開く準備をしよう
 ○招待状をかく。
- 作業や発表の役割分担をして、準備や練習をする。
- 発表会のリハーサルをする。
- 21～23 「ありがとう発表会」を開いて、感謝の気持ちを伝える。
 ★「ありがとう発表会」を開こう
 ○計画に沿って「ありがとう発表会」を開き、自分たちの成長した姿を見せる。
 ○招待した人から、感想を聞いたり、メッセージをもらったりする。
- 24 「ありがとう発表会」をしたことを振り返り、嬉しかったことや気付いたことを記録カードにかいて、伝え合う。
 ★「ありがとう発表会」を振り返ろう
 ○「ありがとう発表会」をしたことを振り返り、嬉しかったことや気付いたことを記録カードにかく。
 ・〇〇さんに教えてもらった野菜のことを発表したら、「これから困ったときには何でも聞きに来ていいですよ」と言ってもらえました。嬉しかったです。
 ・わたしのできるようになることが増えると、お母さんは嬉しいと言っていました。もっとできることを増やしたいです。
- 25 見たり聞いたりして3年生の生活や学習について知る。
 ○3年生の学校生活について知っていることを伝え合う。
 ・生活科の勉強がなくなって、理科と社会の勉強が始まります。
 ・音楽でリコーダーの吹き方を習うそうです。
 ★3年生の教室に行って確かめよう
 ○3年生の授業を見たり、インタビューしたりする。
- 26 3年生になったらしてみたいこと、がんばりたいことなどを、記録カードにかいて伝え合う。
 ★3年生でしてみたいことを伝え合おう
 ○3年生になったらしてみたいこと、がんばりたいことなどを、記録カードにかく。
 ・お姉さんみたいにリコーダーを上手に吹けるようにな

- ・家族、幼稚園や保育所等の先生、地域の人など、招待する人を考える過程で、改めて自分たちの成長を支えてくれた人々の存在に気付かせる。
 - ・学級全体でお世話になった野菜名人や交通指導員など、全員で感謝の気持ちを伝えられる人への思いも意識させる。
 - ・自分たちの成長した姿を見てもらうことが、感謝の気持ちを伝えることになることに気付かせる。
- ・作品を使った発表の他にも、実演する方法も認める。
- ・児童の思いに沿って、個人で発表する、グループで発表する、学級全体で発表するなど、様々な発表形態を取り入れる。
- ・招待する人には、教師が事前に連絡をしておく。
- ・教科書P. 98の招待状の例を参考に、発表会のお知らせとともに、お世話になった人への感謝の気持ちをかくようにさせる。
- ・プログラムを作成したり、招待した人に見てもらえるように、大きくなった自分のことをまとめた作品を教室に掲示したりする。
- ・教科書P. 115の「べんりてちょう」を活用して、発表するときと聞くときのマナーを確認する。
- 【評】準備や練習を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・計画に沿って発表会を開き、自分たちの成長した姿を見せる。
 - ・児童を支えることの楽しさや喜び、これからも児童を支えていきたいという思いなどを話してもらうように依頼しておくといよい。
- ・自分たちの成長した姿を見て、招待した人が喜んでくれたことを想起させる。
- ・たくさんの人が自分の成長を支えてくれていることの喜びや、これからの成長への思いを表現している児童を取り上げて全体に広げ、自信と意欲をもって生活できるように支援する。
- 【評】記録カードへの表現を通して「知識・技能」を評価する。
- ・前時のこれからもできることを増やしたいという児童の思いを本時につなげる。
 - ・周辺の季節の移り変わりや卒業式の準備など暮らしの中に見られる変化と合わせて、進級の喜びを感じとらせる。
 - ・教科書P. 100の写真も参考にして、3年生の生活や学習のイメージをもたせる。
 - ・3年生の担任と連絡を取り合い、休み時間なども活用して実施してもよい。
 - ・3年生で使う教科書やリコーダー、習字セットなどを見せてもらうように依頼しておくといよい。
- ・3年生から始まる新しいことだけではなく、今までやってきたことを継続して、さらに高い目標に向かってがんばってもよいことを伝

<p>りたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字が丁寧にかけるようになったので、習字でも上手にかけるようになりたいです。 ・朝のごみ出しのお手伝いを続けたいです。そして、もう一つ新しいお手伝いにチャレンジしたいです。 ・毎日休まずに学校に来たいです。 <p>○記録カードにかいたことを、伝え合う。</p> <p>27 近い未来の自分に宛てて、手紙をかく。</p> <p>○3年生以降の自分の成長について考える。</p> <p>★未来の自分に手紙をかこう</p> <p>○がんばりたいことを友達と伝え合い、近い未来の自分に宛てて、手紙をかく。</p>	<p>える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの思いを認め合わせ、3年生に進級するという前向きな雰囲気をつくる。 ・教科書P.102の詩を音読するなどして、3年生の自分だけでなく、その後も成長できる自分に気付かせ、成長への期待を高める。 ・教科書P.101を活用し、手紙をかかせるとうい。 ・児童の思いに応じて、好きな年齢の自分に宛てた手紙をかかせる。 ・上級生や保護者、お世話になった人など、大きくなったらこんな人になりたいという思いをかかせてもよい。 <p>【評】手紙をかく活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】

令和2年度 知多地方教育計画案

音楽科

音 楽 科

1 教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

今回の改定では、**生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力**を育成することを目指す。その上で、育成を目指す資質・能力として、(1)に「知識及び技能」の習得、(2)に「思考力、判断力、表現力等」の育成、(3)に「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する目標を示す構成としている。また、このような資質・能力を育成するためには、**音楽的な見方・考え方**つまり、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」を働かせることが必要であることを示している。なお、**表現及び鑑賞の活動を通して**とは、児童が音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するためには、多様な音楽活動を幅広く体験することが大切であることを示したものである。学習指導要領では、このうち歌唱、器楽、音楽づくりを「表現」領域としてまとめ、「表現」と「鑑賞」の2領域で構成している。これらの活動はそれぞれが個々に行われるだけではなく、相互に関わり合っていることもある。また、〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を示しており、「A表現」及び「B鑑賞」の指導を併せて指導するものである。

A 表現			B 鑑賞
歌唱	器楽	音楽 づくり	
共通事項			

内容の構成

(1)の「知識及び技能」の習得に関する目標における「知識」とは、児童が音楽を形づくっている要素などの働きについて理解し、表現や鑑賞などに生かすことのできるような知識である。今回の改定では、理解させる知識として、**曲想と音楽の構造などとの関わり**と示している。**曲想**とは、その音楽に固有の雰囲気や表情、味わいのことであり、**音楽の構造**とは、音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合いである。**曲想と音楽の構造などとの関わり合いについて理解する**とは、表現や鑑賞の活動を通して、対象となる音楽に固有の雰囲気や表情を感じ取りながら、「音楽から喚起される自己のイメージや感情」と「音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合い」などとの関係を捉え、理解することである。なお、音楽の構造などの「など」には、歌唱分野における「歌詞の内容」も含まれている。

(2)の、**音楽表現を工夫する**とは、歌唱や器楽の学習においては、曲の特徴にふさわしい音楽表現を試しながら考えたり、音楽づくりの学習においては、実際に音を出しながら音楽の全体のまとまりなどを考えたりして、どのように表現するかについて思いや意図をもつことである。**味わって聴く**とは、音楽によって喚起された自己のイメージや感情を、曲想と音楽の構造との関わりなどと関連させて捉えなおし、自分にとっての音楽のよさや面白さなどを見いだし、曲全体を聴き深めていることである。

(3)の、**音楽活動の楽しさを体験する**とは、主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することである。**音楽を愛好する心情を育む**とは、児童が心から音楽を愛好することができるようにするとともに、生活の中に音楽を生かそうとする態度を、音楽科の学習を通して育むということである。**音楽に対する感性**とは、音楽的な刺激に対する反応、すなわち音楽的感受性（リズム感、旋律感、和音感、強弱感、速度感、音色感など）であり、表現及び鑑賞の活動の根底に関わるものである。**音楽に親しむ態度**とは、我が国や諸外国の様々な音楽活動に関心をもち、積極的に関わっていこ

うとする態度であり、学校内外の様々な音楽や音楽活動に主体的に関わっていく態度も含むものである。**豊かな情操を培う**とは、一人一人の豊かな心を育てるという重要な意味をもっている。情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心といい、情緒などに比べて更に複雑な感情を指すものとされている。音楽によって培われる情操は、直接的には美的情操が中心となるが、美しさを受容し求める心は、美だけに限らず、より善なるものや崇高なるものに対する心にも通じるものである。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 改定の基本的な考え方

- ・音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図る。
- ・音や音楽と自分との関りを築いていけるよう、生活や社会の中の音楽や音楽の働きについての意識を深める学習の充実を図る。
- ・我が国や郷土の音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習の充実を図る。

(2) 目標の改善

① 教科の目標の改善

音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」と規定し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」について示した。その育成に当たっては、児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、学習に取り組めるようにする必要があることを示した。

② 学年の目標の改善

教科の目標の構造と合わせ、「(1)知識及び技能」「(2) 思考力、判断力、表現力等」「(3)学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

(3) 内容構成の改善

「A表現」「B鑑賞」に示していた各事項を、「A表現」では「知識」「技能」「思考力、判断力、表現力等」に、「B鑑賞」では、「知識」「思考力、判断力、表現力等」に再整理して示した。

(4) 学習内容、学習指導の改善・充実

① 「知識」及び「技能」に関する指導内容の明確化

「知識」に関する指導内容については、「曲想と音楽の構造との関わり」などを理解することに関する具体的な内容を、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の領域や分野ごとに事項として示した。「A表現」の「技能」に関する指導内容については、思いや意図に合った表現などをするために必要な具体的な内容を、歌唱、器楽、音楽づくりの分野ごとに事項として示した。

② 「共通事項」の指導内容の改善

従前の趣旨を踏まえつつ、アの事項を「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力、イの事項を「知識」に関する資質・能力として示した。

③ 言語活動の充実

「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるようにすること」を、「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっての配慮事項として示した。

④ 「我が国の郷土の音楽」に関する学習の充実

これまで第5学年及び第6学年において取り上げる旋律楽器として例示していた和楽器を、第3学年及び第4学年の例示にも新たに加えることとした。我が国や郷土の音楽の指導に当たっての配慮事項として、「音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること」を新たに示した。

第 1 ・ 2 学年 音楽科

1 学年の目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

2 内容及び内容の取扱い

A 表 現	歌 唱	<p>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。</p> <p>イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。</p> <p>ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能</p> <p>(イ) 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能</p> <p>(ウ) 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</p> <p>〔歌唱教材〕…共通教材（4曲全て）を含めて斉唱及び輪唱で歌う曲</p> <p>〔共通教材〕…第1学年 「うみ」（文部省唱歌） 「かたつむり」（文部省唱歌） 「日のまる」（文部省唱歌） 「ひらいたひらいた」（わらべうた） 第2学年 「かくれんぼ」（文部省唱歌）「春がきた」（文部省唱歌） 「虫の声」（文部省唱歌） 「夕やけこやけ」中村雨紅：作詞 草川信：作曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱教材の選択に当たっては、曲の内容や音域が、低学年の児童に適したものであり、児童の実態に応じ、無理なく楽しく表現できるものであること。 ・相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。 ・国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導すること。
	器 楽	<p>ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 楽器の音色と演奏の仕方との関わり</p> <p>ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能</p> <p>(イ) 音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能</p> <p>(ウ) 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能</p> <p>〔器楽教材〕…歌唱で学習した教材や親しみのある器楽曲の旋律に、打楽器などによる簡単なリズム伴奏や平易な低声部を加えた曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽教材の選択に当たっては、主旋律に加えるリズム伴奏が、児童の実態に応じた平易なものであり、曲の雰囲気を感じ取りやすいものを主に取り上げるようにすること。 ・取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。 ・第1学年及び第2学年で取り上げる旋律楽器は、オルガン、鍵盤ハーモニカなどの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。

A 表 現	<p>ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、(ア)及び(イ)をできるようにすること。</p> <p>(ア) 音遊びを通して、音楽づくりの発想を得ること。</p> <p>(イ) どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くこと。</p> <p>(ア) 声や身の回りの様々な音の特徴</p> <p>(イ) 音やフレーズのつなげ方の特徴</p> <p>ウ 発想を生かした表現や、思いに合った表現にするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能</p> <p>(イ) 音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能</p>
B 鑑 賞	<p>ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>イ 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。</p> <p>〔鑑賞教材〕…ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など体を動かすことの快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい音楽など、いろいろな種類の曲</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい曲</p> <p>ウ 楽器の音色や人の声の特徴を捉えやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による曲</p> <p>・鑑賞教材の選択に当たっては、児童が音楽を身近に感じることができる親しみやすい曲を選択し、音楽への興味関心を深めるようにする。</p>
共 通 事 項	<p>「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。</p> <p>・児童の発達段階や指導のねらいに応じて、次の(ア)及び(イ)から適切に選択したり関連付けたりして指導する。</p> <p>(ア) 音楽を特徴付けている要素 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど</p> <p>(イ) 音楽の仕組み 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など</p> <p>・「音符、休符、記号や用語」については、児童の学習状況を考慮して、音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。</p>

3 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・音楽表現を楽しむために必要な技能を身に付けたり、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。
思考・判断・表現	<p>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだし、音楽を味わって聴いたりしている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

第3・4学年 音楽科

1 学年の目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

2 内容及び内容の取扱い

A 表 現	歌 唱	<p>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能</p> <p>(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能</p> <p>(ウ) 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</p> <p>〔歌唱教材〕…共通教材（4曲全て）を含めて斉唱や平易な合唱で歌う曲</p> <p>〔共通教材〕…第3学年 「うさぎ」（日本古謡） 「茶つみ」（文部省唱歌） 「春の小川」（文部省唱歌）「ふじ山」（文部省唱歌）</p> <p>第4学年 「さくらさくら」（日本古謡） 「とんぴ」葛原しげる：作詞 梁田貞：作曲 「まきばの朝」（文部省唱歌） 「もみじ」（文部省唱歌）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱教材の選択に当たっては、曲の内容や音域が、中学年の児童に適したものであり、児童の実態に応じ、無理なく楽しく表現できるものであること。 ・相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。 ・国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導すること。
	器 楽	<p>ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能</p> <p>(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能</p> <p>(ウ) 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能</p> <p>〔器楽教材〕…歌唱で学習した教材を含め、器楽のためにつくられた重奏や合奏などの曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽教材の選択に当たっては、音楽の構造や楽器の組合せなどが児童の実態に即したものであり、和音の響きを聴き取りやすく、楽しく表現できる曲であること。 ・取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。 ・第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、リコーダーや鍵盤楽器、和楽器などの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。

A 表 現	<p>ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。</p> <p>(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。</p> <p>(イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くこと。</p> <p>(ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴</p> <p>(イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴</p> <p>ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 設定した条件に基づき、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能</p> <p>(イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能</p>
B 鑑 賞	<p>ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。</p> <p>〔鑑賞教材〕…ア 和楽器を含めた我が国の音楽、郷土の音楽、諸外国に伝わる民謡など生活との関わりを捉えやすい音楽、劇の音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く楽しさを得やすい曲</p> <p>ウ 楽器や人の声による演奏表現の違いを聴き取りやすい、独奏、重奏、独唱、重唱を含めたいろいろな演奏形態による曲</p> <p>・鑑賞教材の選択に当たっては、音楽の聴き方や感じ方を広げられるように、児童にとって親しみやすく音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取ることのできる曲を選択する。</p>
共 通 事 項	<p>「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。</p> <p>・児童の発達段階や指導のねらいに応じて、次の(ア)及び(イ)から適切に選択したり関連付けたりして指導する。</p> <p>(ア) 音楽を特徴付けている要素 音色、リズム、速度、旋律、強弱音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど</p> <p>(イ) 音楽の仕組み 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など</p> <p>・「音符、休符、記号や用語」については、児童の学習状況を考慮して、音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。</p>

3 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	<p>・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。</p> <p>・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。</p>
思考・判断・表現	<p>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いたりしている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

第5・6学年 音楽科

1 学年の目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

2 内容及び内容の取扱い

A 表 現	歌 唱	<p>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能</p> <p>(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付け、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能</p> <p>(ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</p> <p>〔歌唱教材〕…共通教材（4曲中3曲）を含めて斉唱及び合唱で歌う曲</p> <p>〔共通教材〕…第5学年 「こいのぼり」（文部省唱歌） 「子もり歌」（日本古謡） 「スキーの歌」（文部省唱歌） 「冬げしき」（文部省唱歌） 第6学年 「越天楽今様（歌詞は第2節まで）」（日本古謡） 「おぼろ月夜」（文部省唱歌） 「ふるさと」（文部省唱歌） 「われは海の子（歌詞は第3節まで）」（文部省唱歌）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱教材の選択に当たっては、曲の内容や音域が、高学年の児童に適したものであり、児童の実態に応じ、無理なく楽しく表現できるものであること。 ・相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。 ・国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導すること。
	器 楽	<p>ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり</p> <p>ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能</p> <p>(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能</p> <p>(ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能</p> <p>〔器楽教材〕…歌唱で扱った教材に必ずしもとらわれることなく、楽器の特徴や演奏効果を考慮して器楽のためにつくられた重奏や合奏などの曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽教材の選択に当たっては、児童がいろいろな種類の音楽への興味・関心をもち、表現の豊かさを味わうことのできる曲を選択し、音楽の聴き方や感じ方を深めるようにする。 ・取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。 ・第5学年及び第6学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、電子楽器、和楽器、諸外国に伝わる楽器などの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。

A 表 現	<p>ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。</p> <p>(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。</p> <p>(イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解すること。</p> <p>(ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴</p> <p>(イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴</p> <p>ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 設定した条件に基づき、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能</p> <p>(イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能</p>
B 鑑 賞	<p>ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。</p> <p>〔鑑賞教材〕…ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽など文化との関わりを捉えやすい音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く喜びを深めやすい曲</p> <p>ウ 楽器の音や人の声が重なり合う響きを味わうことができる、合奏、合唱を含めたいろいろな演奏形態による曲</p> <p>・鑑賞教材の選択に当たっては、児童がいろいろな種類の音楽への興味・関心をもち、表現の豊かさを味わうことのできる曲を選択し、音楽の聴き方や感じ方を深めるようにする。</p>
共 通 事 項	<p>「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。</p> <p>・児童の発達段階や指導のねらいに応じて、次の(ア)及び(イ)から適切に選択したり関連付けたりして指導する。</p> <p>(ア) 音楽を特徴付けている要素 音色、リズム、速度、旋律、強弱音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど</p> <p>(イ) 音楽の仕組み 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など</p> <p>・「音符、休符、記号や用語」については、児童の学習状況を考慮して、音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう扱うこと。</p>

3 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	<p>・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。</p> <p>・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。</p>
思考・判断・表現	<p>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いたりしている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

第1学年 音楽科 年間計画（標準68時間）

	題 材 名	時間	教材名（共通教材）	備 考
一 学 期 25	導入	7	歌 かたつむり（共） 歌 ひらいたひらいた（共）ほか 鑑 ゴーアンドストップ ほか	スタートカリ キュラム参照
	リズムと なかよし	6	歌 ぶん ぶん ぶん 歌 しろくまの ジェンカ 鑑 ジェンカ づ たんと うんで リズムを つくろう 歌 わくわく キッチン	
	おとの スケッチ（1）	2	づ ことばの リズムで あそぼう	
	どれみと なかよし	4	鑑 どれみの うた 歌 どれみの キャンディー	
	にっぽんのうた みんなのうた（1）	2	歌 うみ（共） 歌 たなばたさま	
	おんがくランド（1）	2	歌 大きなかぶ 歌 校歌 歌 きみがよ	
	こんにちは けんぱんハーモニカ	2	づ ためしてみよう ほか 器 どこ どこ ど 器 まほうの ど 器 あのね	技能の向上 を図るた め、随時取 り入れる。
二 学 期 26	もりあがりを かんじて	2	歌 ひのまる（共）	
	いい おと みつけて	7	づ いろいろな おとを みつけよう づ おとを ききあって ほか 鑑 こうしんきよく	
	おとのスケッチ（2）	3	づ ねこの なきごえで あそぼう 鑑 2ひきの ねこの ゆかいな うた	
	めざせ がっきめいじん	4	器 すずめがちゅん	技能の向上 を図るため、 随時取り入 れる。
	おんがくランド（2）	5	歌 どんなゆめ 歌 音楽のおくりもの 歌 さんぽ 歌 器 おとの マーチ	
	にっぽんのうた みんなのうた（2）	2	歌 たきび 歌 おしょうがつ	
	きょくの ながれ	3	鑑 おどる こねこ	
三 学 期 17	うたで まねっこ	4	歌 もりの くまさん 歌 フルーツ ケーキ	
	みんなであわせて	3	歌 おもちやの チャチャチャ 鑑 おもちやの へいたい	
	おとのスケッチ（3）	4	づ ほしの おんがくを つくろう 歌 器 きらきらぼし	
	おんがくランド（3）	5	歌 Twinkle, Twinkle, Little Star 歌 こぶたぬきつねこ 歌 アイアイ	
	にっぽんのうた みんなのうた（3）	1	歌 うれしい ひなまつり	

(歌) 歌唱 (鑑) 鑑賞 (器) 器楽 (づ) 音楽づくり

第2学年 音楽科 年間計画（標準70時間）

	題 材 名	時 間	教材名（共通教材）	備 考
	スキルアップ	随時	歌朝のリズム づ手びょうしりレーで あそぼう	※
一 学 期 24	強さや はやさを かんじて	6	鑑天国と地ごく ほか 歌小さな はたけ 歌山びこ ごっこ 歌かくれんぼ（共）	
	リズムや ドレミと なかよし	8	鑑どうぶつの 歌 歌こいぬの ビンゴ づどうぶつラップで あそぼう 歌ぴよんぴよこ ロックンロール づことばの リズムで あそぼう 歌器かえるの がっしょう	
	音のスケッチ（1）	3	づ音の かさなりや リズムを えらんで 合わせよう	
	めざせ 楽き名人（1）	2	器かつこう 器ドレミの トンネル	※
	音楽ランド（1）	5	歌BINGO 歌あの 青い 空のように 歌ラララ 歌おう 歌夏だ！ 歌やおやの おみせ 歌ねこだって サッカー	
二 学 期 29	きよくに 合った 歌い方	4	歌ジェットコースター 歌虫のこえ（共） 鑑ながうた「むしの 声」	
	音のスケッチ（2）	2	づどんな 音が きこえるかな	
	にっぽんのうた みんなのうた（1）	2	歌つき 歌とんぼのめがね	
	いい 音 見つけて	4	鑑ゆかいな 時計 歌器森の たんけんたい	
	にっぽんのうた みんなのうた（2）	2	歌夕やけ こやけ（共）	
	めざせ 楽き名人（2）	2	歌器こぎつね	※
	おまつりの 音楽	3	歌むらまつり 鑑日本のたいこ	
	音のスケッチ（3）	3	づおまつりの 音楽を つくろう	
	クリスマスソングを 歌おう	2	歌ジングルベル 鑑クリスマス ソング メドレー	
三 学 期 17	音楽ランド（2）	5	歌みんなで 九九 歌器アンダルコのうた 歌おまつり ワッショイ 歌音楽のおくりもの	1～3 曲を 選択
	きよくの ながれ	2	鑑そりすべり	
	くりかえしと かさなり	3	歌器汽車は 走る 鑑しゅっぱつ	
	にっぽんのうた みんなのうた（3）	1	歌雪	
	みんなで 合わせて	4	歌ウンパッパ 鑑ティニックリング 歌器チャチャ マンボ 鑑マンボ ナンバー ファイブ	
	音のスケッチ（4）	4	づみんなの 音楽時計を つくろう 鑑ウィーンの 音楽時計 歌器おしゃべり 音楽時計	
	にっぽんのうた みんなのうた（4）	1	歌春が きた（共）	
	音楽ランド（3）	2	歌器さんぼ	

（歌） 歌唱 （鑑） 鑑賞 （器） 器楽 （づ） 音楽づくり）

備考欄※印の題材については、技能の向上を図るため、随時取り入れる。

第3学年 音楽科 年間計画（標準60時間）

	題 材 名	時間	教材名（共通教材）	備 考
一 学 期 20	スキルアップ	随時	歌 小さな世界 器 アラムサムサム づ <リズムなかま>で楽しもう！	※
	にっぽんのうた みんなのうた（1）	2	歌 春の小川（共）	
	楽ふとドレミ	4	器歌 キラキラおひさま 器歌 ドレミの歌	
	にっぽんのうた みんなのうた（2）	2	歌 茶つみ（共）	
	こんにちは リコーダー	2	鑑 リコーダーは歌う 器歌 シンシシでおはなシ 器 にじ色の風船 器歌 ゆかいなまきば づ シラソでリレー	※
	歌声ひびかせて	2	歌 この山光る 鑑 ホルディリディア	
	音のスケッチ（1）	3	づ いろいろな声で表現して遊ぼう	
	音楽ランド（1）	5	歌 It's a Small World 歌 世界中の子どもたちが 器 森のささやき 歌 マンガニ、雨とおどろう 器 えんやら ももの木	
二 学 期 24	にっぽんのうた みんなのうた（3）	1	歌 うさぎ（共）	
	めざせ楽き名人（1）	2	器 かえり道 器 レッツゴーソーレー	※
	せんりつの流れとへん化	3	鑑 ユモレスク 鑑 白鳥	
	遊び歌めぐり	4	鑑 日本や世界の子どもの歌 歌 十五夜さんのもちつき 器 陽気なかじや	
	にっぽんのうた みんなのうた（4）	2	歌 ふじ山（共）	
	曲に合った歌い方	4	器 森の子もり歌 器 雪のおどり	
	音のスケッチ（2）	3	器 まほうのチャチャチャ	
	物語の音楽を楽しもう	2	鑑 ピーターとおおかみ	
	音楽ランド（2）	3	器 森のささやき 器 ミッキーマウスマーチ	
三 学 期 16	アンサンブルの楽しさ	3	器 鑑 せいじゃの行進	
	ききどころを見つけて	3	鑑 組曲「アルルの女」から	
	めざせ楽き名人（2）	2	器 あくびのうた 器 冬さん、さようなら	※
	みんなで合わせて	3	器 パフ	
	音のスケッチ（3）	3	づ 音のひびきや組み合わせを楽しもう	
	音楽ランド（3）	2	歌 ありがとうの花	

(歌) 歌唱 (鑑) 鑑賞 (器) 器楽 (づ) 音楽づくり

備考欄※印の題材については、技能の向上を図るため、随時取り入れる。

第4学年 音楽科 年間計画（標準60時間）

	題 材 名	時間	教材名（共通教材）	備 考
一 学 期 20	スキルアップ	随時	歌 早口 づ 早口言葉でラップを楽しもう！	技能の向上 を図るた め、随時取 り入れる。
	にっぽんのうた みんなのうた（1）	3	歌 TODAY 歌 さくらさくら（共） 鑑 さくら変そう曲	オリエンテーション
	歌声ひびかせて	4	歌 プパポ 鑑 「サウンド オブ ミュージック」から	
	ひょうしとせんりつ	6	歌器 エーデルワイス 鑑 トルコ行進曲 歌器 メリーさんの羊 歌 ラバーズ コンチェルト 鑑 メヌエット	
	音のスケッチ（1）	2	づ 音の動き方を生かしてせんりつをつくろう	
	にっぽんのうた みんなのうた（2）	1	歌 まきばの朝（共）	
	音楽ランド（1）	4	歌 半月 歌 飛べよつばめ 歌 まきばのこうし 歌 札幌の空	
二 学 期 24	めざせ楽器名人	2	器 ハローサミング 器 「もののけ姫」から	技能の向上 を図るた め、随時取 り入れる。
	曲に合った歌い方	4	歌 ゆかいに歩けば 歌 とんび（共）	
	かけ合いと重なり	3	鑑 アラ ホーンパイプ	
	にっぽんのうた みんなのうた（3）	2	歌 もみじ（共）	
	音楽今昔	5	歌器 ソーラン節 鑑 日本のお祭りをたずねて 鑑 秩父屋台ばやし・葛西ばやし づ おはやしづくりにチャレンジ 鑑 サムルノリ 鑑 サンバの音楽 歌器 朝の歌 歌器 おどれサンバ	
	音のスケッチ（2）	2	づ 音階をもとにして音楽をつくろう	
	音楽ランド（2）	6	歌 沖永良部の子もり歌 歌 I Love the Mountains 器 カルーヨ	
三 学 期 16	アンサンブルの楽しさ	3	器 ラ クンバルシータ	
	ききどころを見つけて	3	鑑 ノルウェー舞曲 第2番	
	わたしたちの表現	2	器歌 こきょうの春 歌 グッデー グッバイ	
	音のスケッチ（3）	3	づ 役わりをもとに音楽をつくろう	
	いろいろな歌声を楽しもう	2	鑑 歌げき「魔笛」から	
	音楽ランド（3）	3	器 魔法のすず	

(歌) 歌唱 (鑑) 鑑賞 (器) 器楽 (づ) 音楽づくり)

第5学年 音楽科 年間計画（標準50時間）

	題 材 名	時間	教材名（共通教材）	備 考
	スキルアップ	随時	<div>歌</div> 花のおくりもの <div>歌</div> 夢色シンフォニー <div>器</div> クラブフレンズ	技能の向上を図るため、随時取り入れる。
一 学 期 19	にっぽんのうた みんなのうた（1）	2	<div>歌</div> こいのぼり（共）	オリエンテーション
	和音や低音のはたらき	4	<div>歌器</div> 茶色の小びん <div>歌器</div> こきょうの人々	
	声のひびき合い	6	<div>鑑</div> いろいろな合唱 <div>歌</div> 花 <div>歌</div> ハロー・シャイニングブルー	
	めざせ 楽器名人	3	<div>器</div> 星笛	技能の向上を図るため、随時取り入れる。
	音のスケッチ（1）	2	<div>づ</div> 和音に合わせてせんりつをつくろう	
	音楽ランド（1）	2	<div>歌</div> こげよマイケル	キャンプの歌に変えてもよい
二 学 期 17	オーケストラのみりよく	2	<div>鑑</div> 組曲「カレリア」から「行進曲風に」	
	にっぽんのうた みんなのうた（2）	1	<div>歌</div> 赤とんぼ <div>鑑</div> 山田耕筰 中田善直のうた	
	音楽の旅	6	<div>歌</div> 子もり歌（共） <div>鑑</div> 会津磐梯山 <div>鑑</div> 音戸の舟歌 <div>歌器</div> こきりこ節 <div>歌</div> 谷茶前 <div>鑑</div> 世界の声の音楽 <div>鑑</div> 世界の楽器のひびき	
	豊かな表現を求めて	4	<div>歌器</div> 風とケーナのロマンス <div>歌</div> 冬げしき（共）	
	音のスケッチ（2）	2	<div>づ</div> いろいろな声で音楽をつくろう <div>歌</div> ゆき	
	音楽ランド（2）	2	<div>器</div> ゴジラ	
	にっぽんのうた みんなのうた（3）	2	<div>歌</div> スキーの歌（共）	
三 学 期 14	ききどころを見つけて	3	<div>鑑</div> つるぎのまい	
	わたしたちの表現	3	A： <div>器</div> ルパン三世のテーマ B： <div>歌</div> 君をのせて	AかBを選択
	音のスケッチ（3）	2	<div>鑑</div> クラッピングミュージック <div>づ</div> レッツゴーのリズムをずらして遊ぼう	
	変そう曲を楽しもう	2	<div>鑑</div> ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章 <div>鑑</div> ます（歌曲）	
	音楽ランド（3）	2	<div>歌</div> グッバイまた明日ね <div>歌</div> 卒業式で歌う歌	

歌

 歌唱

鑑

 鑑賞

器

 器楽

づ

 音楽づくり

第6学年 音楽科 年間計画（標準50時間）

	題 材 名	時間	教材名（共通教材）	備 考
	スキルアップ	随時	<div>歌</div> バナハ <div>づ</div> 言葉をもとにリズムで遊ぼう！	技能の向上を図るため、随時取り入れる。
一 学 期 16	にっぽんのうた みんなのうた（1）	2	<div>歌</div> つばさをください <div>歌</div> おぼろ月夜（共）	オリエンテーション
	短調のひびき	3	<div>歌器</div> マルセリーノの歌 <div>鑑</div> ハンガリー舞曲 第5番	
	演奏のみりよく	4	<div>鑑</div> 交響曲第5番「運命」第1楽章から <div>歌</div> ぼくらの日々	
	めざせ 楽器名人	1	<div>器</div> The Sound of Music	技能の向上を図るため、随時取り入れる。
	音のスケッチ（1）	2	<div>づ</div> 動機をもとに音楽をつくろう	
	音楽ランド（1）	3	<div>歌</div> 花は咲く	いずれか 選択
			<div>歌</div> 野に咲く花のように	
			<div>器</div> 世界の約束	
			<div>器</div> 八木節	
	にっぽんのうた みんなのうた（2）	1	<div>歌</div> われは海の子（共）	
二 学 期 20	ひびき合いを生かして	4	<div>歌</div> ロックマイソウル <div>器鑑</div> カノン	
	ききどころを見つけて	3	<div>鑑</div> バイオリンとピアノのためのソナタ第4楽章	
	豊かな表現を求めて	6	<div>歌</div> 明日を信じて <div>器</div> L-O-V-E	
	音のスケッチ（2）	3	<div>づ</div> じゅんかんコードをもとにアドリブで遊ぼう	
	私たちの国の音楽	4	<div>歌器</div> 越天楽今様（共） <div>鑑</div> 春の海	
三 学 期 14	音楽に思いをこめて	3	<div>歌</div> ふるさと（共） A： <div>歌器</div> Take Me Home, Country Roads B： <div>歌</div> さようなら	AかBを 選択
	音のスケッチ（3）	3	<div>づ</div> 役割を決めて音階をもとにした音楽をつくろう <div>鑑</div> 前奏曲 第1集から「帆」	
	ジャズとクラシック音楽の出合い	2	I： <div>鑑</div> ラブソディー インブルー	IかIIを 選択
	にっぽんのうた みんなのうた（3）	2	II： <div>歌</div> 荒城の月 <div>歌</div> 箱根八里	
	音楽ランド（2）	6	<div>歌</div> 卒業式で歌う歌	学校行事

歌

 歌唱

鑑

 鑑賞

器

 器楽

づ

 音楽づくり

第4学年〇組 音楽科学習指導案

令和2年10月〇日 〇曜日 第〇時 (音楽室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 題材 につぼんのうた みんなのうた(3)

2 題材の目標

- (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や旋律同士の関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想、声部の役割を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

3 学習の計画 (2時間完了)

- 第1時 歌詞の内容から情景を想像して、主旋律(上のパート)を曲想に合った声で歌う。
 第2時(本時) 副次的な旋律(下パート)を歌い、各パートの役割を生かした歌い方を工夫し、二部合唱する。

4 本時の学習指導

- (1) 目標
 - 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うことができる。
 - 旋律同士の関わりを捉え、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (2) 準備・資料
 - 教師……拡大譜、学習カード
- (3) 関連
 - 3年 音楽 につぼんのうた みんなのうた (情景を思い浮かべ、気持ちを込めて表現する)
 - 4年 音楽 につぼんのうた みんなのうた (1) (2) (情景を思い浮かべ、曲想を生かして表現する)
 - 5年 音楽 につぼんのうた みんなのうた (歌詞の内容を理解し、旋律の特徴を生かして表現する)

(4) 学習過程

段階	学習活動	時間	指導上の留意事項
つかむ	1 既習曲「プパポ」を歌う。	3	○ 本時の学習につながる、掛け合いのある既習曲を歌いながら、楽しい雰囲気づくりをする。
	2 「もみじ」の上パートを歌い、本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 旋律同士の関わりを感じ取って、二部合唱しよう。 </div>	7	○ 旋律線を意識させ、ブレスやフレーズに気を付けながら、曲想に合った柔らかい声で歌わせる。 ○ 既習曲「プパポ」の掛け合いを想起させ、主旋律と副次的な旋律との関わりを捉えて二部合唱していくことを伝える。
追求める	3 旋律同士の関わりを捉える。 (1) 下パートを聴唱法で歌う。 (2) 旋律同士の関わりについて、気付いたことを出し合う。 ・最初は追いかけてっこしているみたい。 ・追いかけてっこしているけれど、途中で追いついたみたいになる。 ・3段目は、リズムが全く同じだけれど、音の高さは違う。		○ 上パートとリズムの異なる「かずあるなかに」「やまのふもとの」の部分は、繰り返し歌ってリズムをしっかりとつかませる。 ○ 拡大譜に、児童から出た意見を書き込んでいく。言葉だけでなく、旋律線などを書き込むなどして、旋律の動きや関わりについての理解を促すようにする。 ○ 1, 2段目は掛け合いになっていることや、3段目は音の高さは異なるが、リズムは同じであることに気付かせる。

追 求 す る ま と め る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4段目の始まりは、全然違うリズムになっている。 ・ 4段目はどちらも「ド」の音から始まるけれど、高さが違う。 <p>(3) 一人一人が、曲想にふさわしい表現の工夫を考える。</p> <p>(4) 考えた工夫を伝え合い、全体で表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下パートが追いかけるところは、上パートと同じぐらいの強さで歌うといい。 ・ 3段目は、どちらも柔らかい声で歌って、きれいに重なるようにしたい。 ・ 最後の同じ音は、気持ちを合わせて丁寧に歌って終わりたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 4段目は、1オクターブ違う同じ音から始まり異なるリズムで進むが、最後は同じリズムで重なり、同じ音で終わることに気付かせる。 ○ 旋律の関わりから、パートの役割を生かした表現の工夫を考え、学習カードに書くようにさせる。 ○ 出された意見は歌って試し、曲想にふさわしいかどうかを考えさせ、決まった表現の工夫を拡大譜に書き込むようにする。 ○ それぞれのパートの役割を生かした表現の工夫になっているかどうかを確認しながら表現の工夫をさせる。 <p>評 旋律同士の関わりを捉え、曲想にふさわしい歌い方を工夫している。 (学習カード、話し合い)</p>
	<p>4 歌詞の表す様子を思い浮かべ、旋律の関わりや声の響き合いを感じ取りながら合唱する。</p> <p>(1) 二つの合唱グループに分け、お互いに聴き合う。</p> <p>(2) よかったところや、改善点を伝え合う。</p> <p>(3) 全体で合唱する。</p>	30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱を客観的に聴くことができるようにするために、二つのグループに分けて聴き合う。 ○ 出された意見を全体合唱に生かせるように拡大譜に書き込む。 ○ 伴奏の変化についても触れ、歌だけではなく伴奏も一緒になって美しい響きをつくり上げていることを押さえてから合唱する。 <p>評 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌っている。 (合唱)</p>
	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>(1) 学習カードに、振り返りを記入する。</p> <p>(2) 次時の予告を聞く。</p>	40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学びの振り返りをさせ、次時の活動への見通しをもたせる。
		45	

(5) 本時の評価規準

- 互いの歌声や伴奏を聴いて、曲想にふさわしい工夫を生かした音色や強さで歌っている。
(合唱)
- 旋律同士の関わりを捉え、パートの役割を考えながら曲想にふさわしい歌い方を工夫している。
(学習カード、話し合い)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 歌うことが好きな児童が多く見られるが、周りの友達と声を合わせて歌うという意識をもって歌うことのできる児童はまだ少ない。これまでに部分合唱は経験してきているが、本格的な合唱に挑戦するのは初めてである。

(2) 指導の力点

- 旋律の関わりの特徴を捉えながら、それを生かした表現の工夫を、歌って試しながら考えていくことにより、旋律の重なる面白さや美しさを感じ取らせるようにする。まとめの段階では、学級を二つのグループに分け、互いに聴き合って客観的に声の響き合いを感じ取らせる。その後、全体合唱で響き合う面白さや美しさを体感させながら、声を合わせて合唱する楽しさを味わわせる。

6 指導と評価

単元名 リズムと なかよし

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) リズムパターンやその反復について、それらが生み出すよさや面白さに曲想と関わらせて気付くとともに、互いの声や音、伴奏を聴き、拍に合わせて歌ったりリズム打ちしたりする技能を身に付けることができる。
- (2) リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、どのようにリズムをつくるかについて思いをもつことができる。
- (3) 4分音符や4分休符、8分音符から成るリズムやその表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070101_001

【教材名】 ぶん ぶん ぶん(歌唱) しろくまの ジェンカ(歌唱) ジェンカ(鑑賞) たんとうんで
リズムをつくろう(音楽づくり) わくわくキッチン(歌唱) (P.16～P.23)

【準備等】 範唱CD, 鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 リズムを感じながら、歌ったり聴いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 拍にのって「ぶんぶんぶん」を歌う。 ★ 「たん」と「うん」の リズムで あそぼう <p>○ 「たん」「うん」の手拍子や手合わせを取り入れながら拍にのって歌う。</p> <p>○ 範唱に合わせて「しろくまのジェンカ」を歌う。</p> <p>○ ジェンカのリズムパターンを手で打ちながら「しろくまのジェンカ」を歌う。</p> <p>○ ジェンカのリズムパターンを意識して、鑑賞曲「ジェンカ」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「しろくまのジェンカ」と同じリズム。 ・ リズムが繰り返している。 <p>○ 鑑賞曲「ジェンカ」にあわせて、ジェンカのリズムパターンを打ったり、体の動きで表したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手で打つ。 ・ 前後に飛び跳ねるステップをする。 ・ 何人かでつながってステップをする。 <p>○ 「しろくまのジェンカ」を、ジェンカのリズムパターンを打ったり、ステップをしたりしながら歌う。</p> <p>4～5 「たん」と「うん」でリズムをつくり、発表会をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師のまねをして「たん」と「うん」のリズム打ちをする。 ★ 「たん」と「うん」で リズムを つくろう ・ 「たん」と「うん」だけでいろいろなリズムができる <p>○ 友達の打ったリズムでまねっこリズム遊びをする。</p> <p>○ 「たん」と「うん」を組み合わせたリズムをつくる。</p> <p>○ つくったリズムを4人ぐらいのグループでつなげ、中間発表をする。</p> <p>○ 中間発表をふりかえり、リズムを整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の挿絵の「蜂」＝「たん」, 「花」＝「うん」を使い、視覚的に捉えさせる。 ・ 「たん たん たん うん」のリズムと, 「たん たん たん たん」のリズムをしっかりと感じ取らせる。 <p>【共通事項】 リズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲全体はA－B－Aの三部形式だが、Bの部分は最初に手拍子をしてから手合わせをするので分かりやすい。 ・ Bの部分や「うん」の休符は、速度が速くならないように、拍を意識させる。 <p>【共通事項】 拍</p> <p>【評】 拍に合わせて歌ったり、リズム打ちをしたりする活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タッカのリズムやスタカートを意識させ、リズムが重くならないようにする。 ・ 教師が打つ拍に合わせて児童にジェンカのリズムパターンを繰り返し打たせる。 ・ 拍にのってジェンカのリズムを繰り返し打たせることで、リズムにのって表現する楽しさを感じ取らせる。 <p>【共通事項】 反復</p> <p>【評】 ジェンカのリズムを手で打ったり、聴き取ったりする活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拍にのってリズムパターンを繰り返すことで反復の楽しさを感じ取らせる。 ・ ステップで表すときは、最後の4分休符が速くならないように拍を意識させる。 ・ 友達と一緒に活動する楽しさを感じられるようにする。 <p>【評】 リズム打ちやステップを取り入れながら歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拍にのって一定の速度で打たせる。 ・ 聴き取ったリズムを模倣（まねっこ、呼びかけとこたえ）させる。 ・ リズムの模倣の楽しさを感じられるようにする。 ・ 全体で個のリズムを取り上げてまねっこすることで、自分のリズムが友達に伝わる満足感につなげる。 ・ 自分の打つリズムを聴きながら、何度も試行錯誤するようにする。 ・ まねっこリズムの経験を基にして作らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「たん」と「うん」の記号の約束を共通にし視覚的にリズムが分かるようにする。 <p>【評】 リズムづくりの活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の発表を聴いて、よいものがあたら生

- ・リズムを変更する。
- ・つなぎ方を変える。
- ・体のいろいろなところで打つ。

○グループごとに発表する。

- 6 リズムを意識しながら「わくわくキッチン」を歌う。
- 料理の様子を思い浮かべながら「わくわくキッチン」を歌う。
 - ★「たん」と「たた」のリズムで あそぼう
 - 「たん」と「たた」のリズムを意識しながら、拍にのって歌う。
 - ・繰り返す部分をリズム打ちする。
 - ・繰り返す部分を少しずつ速くして歌う。

かしてもよいことを伝える。

- ・リズムをリレーしたときに、面白くなるようなアイデアがあれば生かすように声掛けする。

【共通事項】呼びかけとこたえ

【評】拍に合わせてリズム打ちをする活動を通して「技能」を評価する。

- ・歌詞から連想される料理の様子などを動作で表してもよい。

- ・「たた」の8分音符のリズムは速度が速くなると勘違いしやすいので、拍の流れの中で1拍を分割して「たた」になっていることを、活動を通して理解させる。

- ・歌やリズムが雑にならないように、楽しみながらもしっかり拍にのって歌わせる。

【共通事項】速度

【評】リズムや速度を感じながら歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 おとの スケッチ(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉とリズムの関わりや、楽器の音の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりすることができる。
- (2) 言葉のリズムや楽器の音を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音遊びを通して音楽づくりの発想を得ることができる。
- (3) 言葉とリズムの関わりや面白さに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070102_001

【教材名】ことばの リズムで あそぼう (P. 24～P. 25)

【準備等】タンブリン、すず、カスタネットなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 つくったリズムをつなげ、楽器で演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにあるいろいろな音を見付けて、リズム打ちをする。 ★ことばの リズムで あそぼう <ul style="list-style-type: none"> ・「わくわくキッチン」の□のところの言葉を変えてリズム打ちをする。 ・身の回りにある音や様子を表す言葉を見付けて、言葉のリズム遊びをする。 ・見付けた音や言葉を手でリズム打ちする。 ・できたリズムを全員でリレーする。 ○タンブリン、すず、カスタネットの奏法を知る。 <p>○つくったリズムを楽器で演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくったリズムを演奏する楽器を選ぶ。 <p>○グループでリズムをつなげて演奏する。</p> <p>○つなげたリズムを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員でリレーすることが難しい場合は、4人ずつで区切るとよい。 【評】言葉とリズムの面白さに興味をもってリズムを打つ活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教師がお手本を示した後、実際に楽器の音を試させるとよい。 ・P. 74～P. 75の「だがつき いろいろ」や、「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 ・楽器の音を繰り返し試させ、自分の出したい音を選ばせる。 【共通事項】リズム 音色 【評】言葉とリズムの関わりや、楽器の音の特徴について、それらが生み出す面白さに関わらせて音楽をつくる活動を通して「知識」を評価する。 ・どのような演奏順がよいか、繰り返し試させよりよい順番を考えさせる。 【評】言葉のリズムや楽器の音を聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・友達の発表を聴いて、よかったことや面白かったことを児童に発表させ、全体で共有する 【評】発想を生かした表現をするために必要な設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりする活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 どれみと なかよし

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音階などの音楽の構造との関わりに気付くとともに、階名で模唱したり暗唱したり、音高に合わせて体を動かしたりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律やその変化、音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 階名と音高との関わりを感じて表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070103_001

【教材名】どれみの うた（鑑賞 歌唱） どれみのキャンディー（歌唱）（P. 28～P. 31）

【準備等】範唱CD，教科書P. 28～P. 29の拡大図，「どれみのたいそう」の掲示物

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「どれみの うた」を聴いたり「どれみのたいそう」をしながら歌ったりする。</p> <p>○「どれみの うた」の範唱を聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>★どれみに あわせて からだを うごかそう</p> <p>○「どれみの うた」を歌う。</p> <p>○「どれみのたいそう」をする。</p> <p>○速さを変えたり、音ごとに分担したりしながら「どれみのたいそう」をする。</p> <p>○繰り返し「どれみのたいそう」をしながら、階名で歌う</p> <p>○鑑賞曲「どれみのうた」を体を動かしながら聴く。</p> <p>・歌いながら聴く。</p> <p>・「どれみのたいそう」をしながら聴く。</p> <p>○範唱に合わせて、「どれみのキャンディー」を歌う。</p> <p>3～4 体を動かしながら「どれみのキャンディー」を歌う。</p> <p>○「どれみのキャンディー」を「どれみのたいそう」をしながら歌う。</p> <p>★うたに あわせて からだを うごかそう</p> <p>・歌と動きを分担して表現する。</p> <p>・音階の部分で歌いながら動く。</p> <p>・友達の表現を見合う。</p> <p>○自分たちの「どれみのたいそう」をつくる。</p>	<p>・音の高低を意識できるようにするため、教科書P. 28～P. 29の拡大図を用意するとよい。</p> <p>・音階を基にした曲であることを知らせる。</p> <p>・歌詞を見ながら、CDや伴奏に合わせて歌わせる。</p> <p>・それぞれの手の位置を確かめながら、身体表現をさせる。</p> <p>「どれみのたいそう」</p> <p>例1 ド…気をつけの姿勢 レ…両手を少し開く ミ…両手を腰に ファ…両手を胸に ソ…両手を肩に ラ…両手を頬に シ…両手を頭に ド…両手を上に</p> <p>例2 両手をひざに 気をつけ 両手を腰に 手を胸の前でクロス 両手を肩に 両手を頭に 頭の上で手を打つ 両手を上に</p> <p>・ドレミが音の高さを表すことを意識できるように、手の高さと言音の高さの関係に気付かせる。</p> <p>・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。</p> <p>・始めはゆっくり練習して、だんだん速くしていく。また、グループごとや列ごとなどで、「ド」「レ」「ミ」…を分担する。</p> <p>【共通事項】音階</p> <p>【評】音階に合わせてどれみのたいそうをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・曲に合わせて大きな動きができるように教師が見本となって「どれみのたいそう」をするようにする。</p> <p>・自分たちで「どれみのたいそう」を工夫してもよい。</p> <p>・歌詞に音階が現れ、その音から各フレーズが始まる楽しさに気付かせる。</p> <p>【評】体を動かしながら「どれみのうた」を聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>・歌詞の「どれみふあそらしど」の部分と一緒に歌う。</p> <p>・曲の気分に合わせて、「どれみのたいそう」をしたり、自由に体を動かしながら歌わせる</p> <p>・曲に合わせて大きな動きができるように教師が児童と一緒に体を動かす。</p> <p>・「どれみのたいそう」を参考にして、自分たちのやりやすい動きを考えさせる。</p> <p>・全体で見合いながら、簡単で覚えやすい方法を見付け、クラスの「どれみのたいそう」にする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○「どれみのキャンディー」を，体を動かしながら歌う。 ○「どれみのキャンディー」に合った歌い方や動きを工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ほーらー」の歌い方や身振りを工夫する。 ・声の出し方に気を付ける。 ・曲の最後の部分を「どれみのたいそう」をしながら歌う。 	<p>【評】「どれみのキャンディー」を階名で歌ったり，音の高さに合わせて体を動かしたりする活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や旋律の感じに合わせて，自由に表現させ，音の高さの変化に気付かせる。 ・リレー演奏などで，一人一人の音程や声の出し方などを確認する。 <p>【共通事項】旋律</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2分音符の下降音型があることで，前半部分と旋律の感じが異なることに気付かせる。 ・弾んで歌うところとなめらかに歌うところを意識して歌わせる。 ・声の出し方や体の動きを変えて歌わせる。 <p>【共通事項】変化</p> <p>【評】「どれみのキャンディー」の旋律の変化や音階を感じ取って歌う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や拍など音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 拍やその流れ、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 情景や気持ちを歌で表すことに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070104_001

【教材名】 たなばたさま（歌唱）（P. 76） うみ（歌唱 共通教材）

（P. 26～P. 27）

【準備等】 範唱CD、短冊などを飾った笹、海の映像、海の写真

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「たなばたさま」と「うみ」（共）を、情景を思い浮かべながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たなばたさま」を身体表現しながら歌う。 ★きもちを こめて のびのびと うたおう <ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて体を動かしながら歌う。 ○「うみ」を、曲の情景を思い浮かべながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲の情景を感じ取る。 ・曲に合わせてリズム打ちし、旋律のリズムを捉える。 ○海の近くに立つと聞こえてくる「海の声」を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・波の音 ・船の汽笛 など ○曲の情景について思いついたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・潮の香り ・砂のぬくもり ・夕日 ・船 ・波打ち際の貝殻 ・外国 など ○ゆったりとした3拍子の流れを感じながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・体を左右に揺らしたり、波に乗るように体を動かしながら歌う。 ・声の感じや発音、歌い方を工夫する。 ○「うみ」を2つのグループで交互に歌ったり、全員で声を合わせて歌ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりにくい言葉を説明しながら歌詞を読み歌詞が描いている情景をつかませる。 ・曲のゆったりしたテンポに合わせて、体を揺らしながら歌わせる。 ・実際に短冊などを飾った笹を見ながら歌わせると、より雰囲気をつかませやすい。 ・旋律のもつリズム、3拍子の流れ、フレーズを意識させる。 <p>【共通事項】 旋律 拍</p> <p>【評】 曲想と旋律や拍など音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりを感じながら歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の写真を参考にさせる。できれば、海の写真や映像資料・効果音のCDなどを準備するとよい。 <p>【評】 曲が表す情景や気持ちを歌で表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波をイメージしながら、1小節単位で体を大きく左右に揺らすことにより、3拍子の感じを捉えさせる。 <p>【評】 自分の歌声や発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半のグループと後半のグループで声の出し方をそろえるよう意識させる。 ・全体の声の感じや発音が同じになるよう意識させる。 <p>【評】 拍やその流れ、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 おんがくランド(1)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに，互いの歌声や伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
 (2) 旋律の流れや音階を聴き取り，その働きが生み出すよさを感じ取りながら，聴き取ったことと
 感じ取ったこととの関わりについて考え，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもつことができる。
 (3) 歌詞の表す情景を想像することや，旋律の特徴を捉えることに興味をもち，音楽活動を楽しみながら，主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070105_001

【教材名】大きなかぶ（歌唱）（P. 62～P. 63） 校歌（歌唱） きみがよ（歌唱）（P. 7

0～P. 71）

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 振り付けを工夫して「大きなかぶ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「大きなかぶ」を聴唱法で歌う。 ★リズムにのって，楽しく歌おう ○役割分担をして歌う。 <p>○グループに分かれ，身振りや掛け声を工夫して歌う。</p> <p>○グループごとに発表する。</p> <p>2 「国歌」「校歌」を自然な発声で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国歌の範唱を聴く。 <p>○国歌を歌う。</p> <p>○校歌の範唱を聴く。</p> <p>○校歌を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴く時，リズムを感じ取らせるために曲に合わせて体を動かすようにしてもよい。 ・おじいさん，おばあさん，孫，犬，猫，ネズミの役割分担をして，①から⑥にかけて歌う人数を増やしていく。 【共通事項】反復 ・6人グループに分ける。 グループ内で役割分担をしたり，曲に合った身振りや掛け声を工夫するよう伝える。 【評】歌詞の表す情景を想像し，旋律の特徴を捉えながら歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・難しい言葉が多いので，言葉や内容を簡単に説明する。 ・曲の中の低い山，高い山となっている盛り上がり，フレーズごとに意識させるとよい。 また，「さざれいし」は，「小さな石」という意味の1つの言葉なので，息継ぎをしないようにさせる。 【共通事項】フレーズ 【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。 【評】互いの歌声や伴奏を聴いて，声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。 ・校歌の歌詞も，古い言葉が使われていることが多いので，簡単に内容を説明する。校歌には，「こんな子どもに育ってほしい」などの気持ちが込められている。愛校心をもって，大切に歌わせていく。 ・音やリズムの取りにくいところがあれば，取り出してゆっくり練習させる。 【評】旋律の流れや音階を聴き取り，その働きが生み出すよさを感じ取りながら，曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 こんにちは けんぱんハーモニカ

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 楽器の音色と演奏の仕方との関わり気付くとともに、楽器の扱い方やドレミファソの鍵盤の位置、息の遣い方など基礎的な演奏技能や、リズム譜などを見て演奏する技能を身に付けることができる。

(2) 旋律、伴奏の速度やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲に合った表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつことができる。

(3) 鍵盤ハーモニカによる表現に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070106_001

【教材名】 どこどこど (歌唱 器楽) まほうのど (器楽) あのね (歌唱 器楽) どんぐりぐりぐり (歌唱 器楽) (P. 32～P. 39)

【準備等】 範唱CD、鍵盤ハーモニカ

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 鍵盤ハーモニカで自由に音を出して遊んだり「どこどこど」や「まほうのど」を楽しく演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○楽器の扱い方を知り、学習課題をつかむ。 ★「ど」のおとで あそぼう ○音出しをする。 <p>○「ためしてみよう」をする。</p> <p>○ドの位置を知る。</p> <p>○舌で息を区切って「トゥー トゥー」と音を出す。</p> <p>○「どこどこど」を演奏する。</p> <p>○「まほうのど」を演奏する。</p> <p>○楽器のしまい方を知る。</p> <p>2 「あのね」を楽しく演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習をして、学習課題をつかむ。 ★どれみのおとで あそぼう ○「ドレミ」の位置を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師の合図に合わせて上行・下行を吹く。 <p>○「あのね」を演奏する。</p> <p>3～4 「どんぐりぐりぐり」を指の形に気を付けながら演奏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口をつける楽器なので、衛生面での注意を促す。 ・音を出す前に「タンブリンを3回鳴らしたら歌口を口から離す」などの約束しておく。始めは、運指は気にせず、鍵盤のいろいろなところを押して鳴らさせる。 ・すずめや猫、ぶた、ぞうなどの鳴き声をまねして吹かせる。 <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】楽器の音色と演奏の仕方とを関わらせて演奏する活動を通して、「知識」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒鍵を目印にするとドの位置がわかることを説明する。また、教科書の鍵盤の写真が原寸大になっているので、実物と合うように置かせると、位置が確認しやすい。 ・タンギングについて、言葉で教えるのは難しいので、感覚的につかませるようにする。 ・歌詞唱をして曲の流れをつかませてから演奏させる。 ・鍵盤ハーモニカパートは、教師がドの音だけでリズムを吹き、続いて児童にまねをさせる <p>【共通事項】呼びかけとこたえ</p> <p>【評】「ど」の鍵盤の位置、息の遣い方などに気を付けて演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンギングを使って、同じ音は指を押さえたままで音を区切るように演奏させる。 ・フレーズのまとまりを意識させる。 <p>【共通事項】フレーズ</p> <p>【評】旋律、伴奏の速度やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つば抜きを押して、楽器の中のつばを抜いてからしまう習慣を身に付けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに、演奏方法や楽器の扱い方などを復習しておく。 ・教科書の鍵盤の写真が原寸大であるので、実物に合わせて置き、ドレミの位置を確認する。また、指の動きとタンギングのタイミングがぴったり合うように指導する。 ・歌詞唱をして、曲の流れをつかませてから演奏させる。 ・階名（ドレミ）で歌ってから、鍵盤で演奏する。4段目の2小節ずつの掛け合いは、子どもの表現したい言葉を音に置き換えるのは難しいので、教師が置き換えてやるとよい。 <p>【評】鍵盤ハーモニカで演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

する。

○前時までの復習をして，学習課題をつかむ。

★「どれみふあそ」の おとで あそぼう

○ファとソの鍵盤の場所を確認し，教科書P.38の○の中に音を入れて，旋律をつくる。

・指の位置を確認する。

・リズムの確認をする。

・○の中に音を書く。

○つくった旋律を発表したり，リレーしてつないで演奏したりする。

○「どんぐりぐりぐり」を演奏する。

・歌詞唱をする。

・階名唱をする。

・指番号で歌う。

・楽器で演奏する。

・鍵盤が順番に並んでいること，右にいくほど高くなっていくこと（左にいくほど低くなっていくこと）をつかませる。

・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。

・「たん たん たん うん」のリズムを確認しておく。

・指の形を確認しながら，つくった旋律を音に表して，演奏を交流させる。

・はじめに，階名（ドレミ・・・）唱や歌詞唱をしてから，鍵盤の練習をする。4小節ごとに，先生→児童，児童→先生・・・と，まねっこのように練習するとよい。

【評】基礎的な演奏技能に気を付けながらリズム譜などを見て演奏する活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 もりあがり を かんじて

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに，階名で模唱したり暗唱したりする技能や，互いの歌声や伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れや音階を聴き取り，その働きが生み出すよさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 歌詞の表す情景を想像することや，旋律の特徴を捉えることに興味をもち，音楽活動を楽しみながら，主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070201_001

【教材名】ひのまる（歌唱 共通教材）

(P. 40～P. 41)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 曲の盛り上がりを感じ取って「ひのまる」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴いて「ひのまる」の感じをつかむ。 ★ もりあがり を かんじて うたおう ○ 歌詞の表す情景を想像したり，旋律のまとまりに気を付けて歌詞唱する。 ○ 「ひのまる」を，体を動かしながら階名唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「どれみのたいそう」をしながら階名唱する。 ・ 手の動きで旋律の流れを表しながら階名唱する。 ○ 「ひのまる」を，旋律のまとまりを感じ取って歌う。 ○ 盛り上がりを感じ取りながら「ひのまる」を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の高いところが盛り上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音の高低を意識しながら聴かせる。 <p>【評】歌詞の表す情景を想像したり，旋律の特徴を捉えたりして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 跳躍音程に気を付けて，音の高低を正確に捉えさせる。 ・ 鍵盤ハーモニカの演奏へ発展させることも可能だが，その場合は指の移動に留意する。 <p>【共通事項】音階</p> <p>【評】階名唱で互いの歌声や伴奏に合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれのまとまりが，4分音符7つを打ったリズムであることに気付かせる。 ・ 同じリズムの旋律が，少しずつ高くなったりまた下がって落ち着いたたりすることに気付かせる。 <p>【共通事項】旋律</p> <p>【評】旋律の流れや音階を聴き取り，それらの働きが生み出すよさを感じ取って表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3フレーズの「ああ美しい」が盛り上がりの頂点になっていることに気付かせる。 <p>【評】曲想と音楽の構造，歌詞の表す情景や気持ちとを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 いい おと みつけて

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) さまざまな音の特徴、楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、設定した条件に基づいて即興的に音を選んだりつなげたりする技能や、音楽の仕組みを用いて簡単な音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) 楽器の音や呼びかけ合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもったり、曲の楽しさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 自分や友達の出す音や、その違いに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070202_001

【教材名】 いろいろなおとをみつけよう（音楽づくり） がっきのおとでよびかけっこしよう（音楽づくり） こうしんきょく（鑑賞） （P. 42～P. 45）

【準備等】 タンブリン、太太鼓、シンバル、トライアングル、カスタネット、鈴、鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 いろいろな楽器で音探しをし、お気に入りの音を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ トライアングルで自由に音を出したり、音探しをしたりして楽しむ。 ★ いろいろな おとを みつけよう ○ グループ内で1番のお気に入りの音を探して発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで1つのお気に入りの音を決める。 ・ 全員がその音を出せるように繰り返し試す。 ・ グループごとに発表をし、感じたことを交流する。 ○ トライアングルでいい音を出すための奏法を知る。 ○ いろいろな楽器で音探しをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ タンブリン→打ち方や振り方を考える。 ・ 太太鼓→打つ強さや音の長さを変える。 ・ シンバル→打つものや打つ強さ、音の長さを変える。 ○ 気に入った音の一つを選んで、言葉や絵で表現する。 ○ お気に入りの楽器や音で「いい音リレー」をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ お気に入りの楽器を選ぶ。 ・ リレー形式で一人一音お気に入りの音を鳴らす。 ○ 条件を設定して「いい音リレー」をする。 <p>【条件例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強さを変えて。 ・ 打ち方や振り方を変えて。 ・ 面白い打ち方で。 など <p>4～7 リズムの呼びかけっこをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 手拍子や足踏みで、リズムの呼びかけっこをする。 ★ がっきの おとで よびかけっこしよう <ol style="list-style-type: none"> ① まねっこ→同じリズムで。 ② 呼びかけっこ→別のリズムや強さで ○ 楽器の音で呼びかけたりこたえたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2人が同じ楽器を使う。 ・ 2人が違う楽器を使う。 ○ グループごとに楽器の音で呼びかけっこする。 <ol style="list-style-type: none"> ① トライアングル役を決める。 ② トライアングル以外の子どもの打つ楽器を決める。 ③ トライアングルが響いている間に他の楽器を順番に打っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「トライアングルはどんな音が出せるかな」と問いかける。 ・ 友達の表現を聴いて感じたことを発表させる ・ 4～6名程度のグループで活動させる。 ・ お気に入りの音の基準は、自分が聴いていて「いい音」ということを伝えておく。 ・ お気に入りの音を決める際には混乱が起きることも考えられるので、こまめに声掛けをしたり支援したりする。 【評】 グループでいい音を探したり、発表したりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ いい音探しで児童が表現したことや言語化したことを生かしながら、奏法の指導をする。 ・ いい音が出る持ち方や打ち方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 打つ場所によって響きが違うことに気付かせる。 ・ ここではタンブリン、太太鼓、シンバルを取り上げ、数台ずつ用意しておく。 ・ ばちやマレットなどを数種類用意しておく。 <p>【共通事項】 音色</p> <p>【評】 いろいろな楽器で音探しをする活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お気に入りの楽器が重ならないように、各自いくつかお気に入りの楽器を考えさせる。 ・ ここでは拍節に関係なく表現させる。 ・ 何を工夫して表現すればいいのかが分かるように、具体的に条件を提示する。 <p>【共通事項】 強弱</p> <p>【評】 条件に基づいて即興的に音を選んだりつなげたりする活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が真似しやすいリズムから始め、打つ位置や強さを変えて、音色や強弱を変化させながらリズムを打つようにする。 <p>【共通事項】 強弱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まねっこをしたり、強さを変えたりしてこたえさせる。 ・ 演奏後には、どんな気持ちで表現したのかを問いかける。 ・ 全員が経験できるよう、打楽器を数種類用意したり、場の工夫をしたりする。 <p>【評】 楽器の音で呼びかけっこをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で同じ楽器ばかりにならないように、各自第3希望の楽器まで考えさせておく ・ グループごとに演奏させ、耳を澄まして聴くことが大切であることを伝える。 <p>【評】 自分の出す音と友達の出す音の違いに興</p>

- 4分音符や8分音符のリズムを使って、自分のリズムをつくる。
 - ・「たん」や「たた」を手で打って考える。
- つくったリズムを楽器で演奏する。
- つくったリズムを使って、友達と呼びかけたりこたえたりしてつなげる。
- 「こうしんきょく」を呼びかけとこたえに着目して聴く
 - ・ 1回目…座って聴く。
 - ・ 2回目…呼びかけあっていると思ったところは立って聴く。
- 8人ぐらいのグループに分かれて、簡単な動きを通して呼びかけとこたえを感じ取りながら聴く。

味をもって聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 教科書P.45の例を参考に、リズムの書き方を伝えておく。
- ・ 友達と同じリズムになってもよいことを伝える。

【共通事項】リズム

- ・ リズムだけでなく、楽器の音色にも注目するよう伝える。
- ・ 拍にのって演奏できるよう、教師が拍打ちなどをして支援する。

【共通事項】音色

- ・ 二人ずつペアになって呼びかけっこさせる。
- ・ 打つ場所や、強さなどを変えて呼びかけっこするとよいことを伝える。
- ・ 呼びかけ合いの回数を決めておく。
- ・ 演奏後には、どんな気持ちで表現したのか問いかける。

【評】音楽の仕組みを用いて簡単な音楽をつくる活動を通して「技能」を評価する。

- ・ これまで楽器で行ってきた呼びかけっこの学習を振り返り、曲中に同じようなところがあることを伝えておく。

【共通事項】呼びかけとこたえ

- ・ グループ内を呼びかけチームとこたえチームに分け、曲の中での呼びかけとこたえの部分を聴いて感じたことを簡単な動きで表すよう伝える。
- ・ 簡単な動きとして、立ったり座ったり、前や後ろに歩いたり、回ったりすることを提示する。

【評】楽器の音や呼びかけ合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って表現する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 おとの スケッチ(2)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 声の出し方や音高、強弱などによる表現の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて即興的に声を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けることができる。
- (2) 声の出し方や音高、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、声による音遊びを通して音楽づくりの発想を得ることができる。
- (3) 声による多様な表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070203_001

【教材名】ねこの なきごえで あそぼう（音楽づくり） 2ひきの ねこの ゆかいな うた（鑑賞）
(P. 46～P. 47)

【準備等】鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～3 「2ひきの ねこの ゆかいな うた」を聴き、ねこの声を出して楽しむ。</p> <p>○「2ひきの ねこの ゆかいな うた」を聴き、曲の雰囲気を感じ取る。</p> <p>★ねこの なきごえで あそぼう</p> <p>○ねこの鳴き声で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のまねをする。 ・友達のまねをする。 ・声の特徴を知る。 ・人と違う声を出す。 <p>○ねこ語でお話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を見て、ねこの状況や気持ちを想像して発表する。 ・表現の方法を全体で考える。 ・二人組で状況や気持ちを選んでお話する。 ・友達の表現を聴き合う。 ・四人組になり、状況や気持ちを考えてお話をする。 ・友達の表現を聴き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の声でねこの鳴き声を表現する面白さや呼びかけとこたえによる演奏の楽しさを感じ取らせる。 ・「ねこの声?」「人の声?」「何人?」などの質問を通して、声や音楽の仕組みに興味をもたせる。 <p>【評】声による多様な表現に興味をもって聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が音高や長さ、音色を変えて表現し、それをまねさせる。 ・代表の子対全体や、二人組などで即興的に声を選んだりつなげたりさせる。 ・ねこの鳴き声を繰り返していく中で、音楽の要素を手掛かりに変化を付けると面白い表現になることに気付かせる。 <p>【共通事項】音色 強弱 呼びかけとこたえ</p> <p>【評】声の出し方や音高、強弱などによる表現の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて表現する活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】発想を生かした表現をするために必要な設定した条件に基づいて即興的に声を選んだりつなげたりして表現する活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの状況や気持ちを例に、表現の方法を全体で考えさせる。 ・表現の変容を捉え、全体で共有させる。 ・表現のよかったところを全体で共有させる。 <p>【評】声の出し方や音高、強弱などを聴き取りそれらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、表現する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 めざせ がっきめいじん

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と歌詞の内容との関わりや、ふさわしいアーティキュレーションに気付くとともに、範奏を聴いたり、階名で模唱したり、リズム譜などを見て演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、歌詞や曲想に合った表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつことができる。
- (3) 楽器を演奏したり、音を聴き合ったりすることを楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070204_001

【教材名】すずめがちゅん（歌唱 器楽）

(P. 51)

【準備等】範唱CD、鍵盤ハーモニカ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～4 「すずめがちゅん」を、音の長さを工夫して演奏する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「すずめがちゅん」を、楽曲の気分を感じ取って歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ★おとの ながさを くふうして ふこう ・範唱を聴き、曲の気分を感じ取る。 ・列ごとにリレー唱する。 ・鳴き声のイメージに合った歌い方を工夫する。 ・鳴き声とそれ以外の部分で分担唱する。 ・階名唱をする。 ○「すずめがちゅん」を、鍵盤ハーモニカで演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・運指唱する。 ・運指唱に合わせて指を動かす。 ・鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○「すずめがちゅん」を、鳴き声に合った音の長さを工夫して演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞に合った音の長さを教科書で確認する。 ・鳴き声の部分だけを繰り返し吹き、試行錯誤しながら長さの工夫をする。 ・鳴き声の部分演奏する人と、鳴き声以外の部分を歌う人に分かれて演奏する。 ○「すずめがちゅん」を、ほかの動物で鳴き声を考え、合わせて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この曲が動物の名前と鳴き声でできていることに気付かせる。 ・すずめとこぶたの鳴き声に合った声の出し方や、スタッカートやテヌートなどのアーティキュレーションの工夫をさせる。 (例) ちゅんちゅん→弾むように ぶうぶうぶう→長めに 【共通事項】リズム 【評】曲想と歌詞の内容との関わりや、ふさわしいアーティキュレーションを工夫しながら歌う活動を通して「知識」を理解する。 ・指の形に気を付けさせ、音の上行・下行に合わせて順番に指を動かせるよう繰り返し演奏させる。 ・タンギングの確認をする。 【共通事項】音階 【評】階名で模唱したり、リズム譜を見て演奏したりする活動を通して「技能」を評価する ・主旋律がおおむね演奏できるようになってから、音の長さを工夫させる 【評】旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・児童に好きな動物を挙げさせ、鳴き声や鳴き声に合った音の長さを全体で共有してから演奏させる。 【評】楽器で演奏したり、音を聴き合ったりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 おんがくランド(2)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律の流れなど音楽の構造との関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌ったり、演奏したりすることができる。
- (2) 旋律やリズム、強弱、楽器の音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、歌ったり演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (3) 音楽が表している情景を想像することや、リズムに合わせて体を動かすことに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070205_001

【教材名】 どんなゆめ (歌唱) (P. 60～P. 61) おんがくのおくりもの (歌唱) (P. 67) さ
 んぼ (歌唱) (P. 68～P. 69) おとのマーチ (歌唱 器楽) (P. 61)

【準備等】 範唱CD, カスタネット, タンブリン, 大太鼓, 小太鼓, 鈴 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 様子を想像しながら「どんなゆめ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴いて「どんなゆめ」を歌う。 ★ どうぶつの ゆめを かんがえて うたおう ○ 話し掛ける役と動物役に分かれて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師 対 児童 ・ 列ごと など <p>2 リズムにのって「音楽のおくりもの」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱に合わせて「音楽のおくりもの」を歌う。 ★ リズムに のって うたおう ○ 繰り返しに気を付けて、聴唱法で歌う。 ○ リズムに合わせて手拍子を付けて歌う。 <p>3 足踏みや身体表現をしながら「さんぼ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴いて「さんぼ」を歌う。 ★ あしぶみや からだをうごかしながら うたおう ○ 歌詞に合った動きを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一本橋 ・ でこぼこ砂利道 ・ きつね ・ たぬき ・ とかげ ・ へび など ○ 身体表現をしながら「さんぼ」を楽しく歌う。 <p>4～5 音にふさわしい楽器の音を探しながら「おとのマーチ」を歌ったり、演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴いて「おとのマーチ」を歌う。 ★ きよくにあった おとを みつけよう ○ 歌詞に出てくる音を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな音 ・ かわいい音 ・ ふしぎな音 ○ グループで「おとのマーチ」の合唱奏をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「大きな音グループ」 ・ 「かわいい音グループ」 ・ 「ふしぎな音グループ」 ○ 言葉に合った音の出し方や歌い方をグループで工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞に出てくる動物の夢について話し合わせる。 ・ 話し掛ける役はどんな気持ちで話し掛けるとよいか考えさせるとよい。 ・ 動物役は身体表現を付けさせてもよい。 <p>【共通事項】 旋律</p> <p>【評】 曲想と旋律の流れなど音楽の構造とを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スイングするリズムを感じ取って聴かせる。 <p>【共通事項】 リズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱に合わせて教科書を指でなぞらせ、繰り返すところを確認させる。 ・ 「イ」から曲の雰囲気が変わることに気付かせる。 ・ 範唱に合わせて明るい声で歌わせる。 ・ 体を揺らしたり、リズムをとったりしながら楽しい雰囲気でも歌わせる。 ・ 手拍子は範唱に合わせて繰り返し打たせるとよい。 <p>【評】 互いの歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 足踏みをしたり、身体表現しながら楽しく歌わせる。 ・ 歌詞を取り上げ、どんな動きをするとよいか話し合わせる。 ・ グループごとに振り付けを工夫させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ P. 69の手話を参考にさせてもよい。 <p>【評】 音楽が表す情景を想像しながら、リズムに合わせて体を動かす活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かしながら楽しく歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ音の感じを選んだ者同士で、4～5人のグループを作らせる。 ・ グループで楽器を選び、歌いながら繰り返し試させる。 ・ 音に集中できるような場を工夫する。 ・ 楽器の種類だけでなく、打ち方や歌い方も工夫させる。 <p>【共通事項】 音色 強弱</p> <p>【評】 旋律やリズム、強弱、楽器の音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ</p>

○グループごとに「おとのマーチ」を発表する。

を感じ取りながら，曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を工夫する。

- ・友達の演奏を聴き合うことによって，音への関心を更に高めさせる。
- ・友達の演奏のよいところを発表させるとよい

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(2)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や拍など音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに，自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 拍やその流れ，旋律を聴き取り，それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 情景や気持ちを歌で表すことに興味をもち，音楽活動を楽しみながら，主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070206_001

【教材名】たきび（歌唱） おしょうがつ（歌唱）

(P. 76～P. 77)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 冬の情景を想像しながら「たきび」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴き，学習課題をつかむ。 ★ ふゆの ようすを おもいうかべて うたおう ○ 聴唱法で歌う。 ○ 「あたろうか」「あたろうよ」の部分を交互唱にして歌う。 <p>2 お正月の様子を想像しながら「おしょうがつ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 聴唱法で歌う。 ○ 願いや期待を込めて「おしょうがつ」を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「かきね」「さざんか」などの分かりにくい言葉の意味を説明する。 ・ 「あたろうか」「あたろうよ」は会話になっていることを確認し，席の隣同士，列ごとなどで交互唱させる。 <p>【共通事項】呼びかけとこたえ</p> <p>【評】拍やその流れ，旋律を聴き取り，それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】自分の歌声や発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お正月にはどんな遊びがあるか，話し合ってから歌わせるとよい。今では，あまり行われなくなってきている遊びもあるので，昔の日本のお正月の様子を家の人に（できればおじいさんやおばあさんに）事前に聞かせておくとよい。 ・ 「おいばね」など分かりにくい言葉を説明する。 <p>【評】曲想と旋律や拍など音楽の構造との関わり，曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりを感じながら歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】曲が表す情景や気持ちを歌で表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 きよくの ながれ

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 曲想と、旋律の反復と変化、鳴き声の合いの手など、音楽の構造との関わりに気付くことができる。
 (2) 楽器の音色や旋律の反復・変化等を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさなどを見いだし曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) 聞こえてくる音、旋律の変化、拍やその流れに合わせて体を動かすことや、音楽が表している情景を想像することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070207_001

【教材名】おどる こねこ (鑑賞) (P. 48～P. 50)

【準備等】鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「おどるこねこ」の旋律の変化や曲の流れに合わせて体を動かしながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「おどるこねこ」の最初の部分を聴く。 ★おんがくに あわせて こねこに なって おどろう ○「なべなべ」の動きをしながら「おどるこねこ」の最初の部分を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・二人で手をつなぎ、腕を揺らす。 ・バイオリンの「ニャオ」の部分でくると回り、次の「ニャオ」で元に戻る。 ○「おどるこねこ」を全曲通して聴き、聴こえてきた音や気付きを発表する。 ○「なべなべ」の動きをしながら「おどるこねこ」を全曲通して聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の感じが変わったらその場に座る。 ・曲の感じが戻ったら、再び立ち上がって「なべなべ」の動きをする。 ○「おどるこねこ」の曲の進み方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・A (猫の鳴き声あり) — B (猫の鳴き声なし) — A (猫の鳴き声あり) — コーダ (犬の鳴き声) の進み方を知る。 ・進み方の板書を見ながら、もう一度「おどるこねこ」を静かに全曲聴き、流れを確かめる。 <p>3 「おどるこねこ」の部分ごとの旋律の感じを確かめ、様子を思い浮かべながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「おどるこねこ」の様子を思い浮かべながら部分ごとに聴く。 ★きよくのようにすを おもいうかべながら きこう ○「おどるこねこ」を全曲通して、自由に動きながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・個々で動く。 ・グループで動く。 ○「おどるこねこ」を全曲通して静かに聴き、意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲名を知らせずに聴かせる。 ・何の動物が出てきたか意見を出させる。 ・猫の声が出てきたら手を挙げさせる。 ・3拍子にのった動きや、鳴き声に反応した動きを取り上げる。 <p>【評】曲に合わせて体を動かしたり、気付いたことを発表する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に、途中で「ニャオ」が聞こえなくなったら、座って聴くことを伝える。 <p>【共通事項】変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猫の鳴き声はずっと聞こえていたかを児童に問いかけ、途中で聞こえなくなったところがあったこと、途中からまた聞こえる部分があったことを確認する。 ・犬の鳴き声も取り上げ、曲の進み方を押さえる。 <p>【共通事項】反復</p> <p>【評】曲想や旋律の変化から、曲の進み方を確認する活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した曲の進み方を確認する。 ・部分ごとに旋律の感じを確かめさせ、音楽が表している様子を思い浮かべながら聴くように伝える。 ・A—B—Aごとに思い浮かべた様子を自由に出させ、理由も聞いていくようにする。 ・Aの部分では「ニャオ」が直前の旋律にこたえるように聞こえてくることも事前に伝えておくとうい。 <p>【共通事項】旋律 呼びかけとこたえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の「なべなべ」の動きを取り入れてもよいが、児童が考えた新しいアイデアも積極的に取り上げ、理由を含めて紹介させる。 ・拍に合っていない動きがある場合は、3拍子にのった動きを促し、曲に浸れるようにする <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを利用するとよい。 ・曲のよいところ、面白いところについて意見交換させる。 <p>【評】楽器の音色や旋律の反復・変化等の働きが生み出すよさや美しさを感じ取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 うたで まねっこ

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想の呼びかけとこたえなど音楽の構造との関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌ったり、拍に合わせてリズム表現したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 歌声を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 交互唱の面白さや友達との表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組むもうとする。

標準的な展開例

01070301_001

【教材名】 もりのくまさん（歌唱） フルーツケーキ（歌唱） (P. 52～P. 55)

【準備等】 範唱CD，カスタネット，鈴

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 歌い方をまねしながら「もりのくまさん」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手拍子で先生のリズムのまねっこをする。 ★うたの まねっこで あそぼう ○「もりのくまさん」を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて曲の感じをつかむ。 ・歌詞を音読し、様子を理解する。 ・様子を思い浮かべて歌う。 ○いろいろな強さを試しながら交互唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・先に歌うグループの強さをまねして歌う。 ・先に歌うグループの強さと反対の強さで歌う。 ・先に一人が歌い、全員でまねして歌う。 ○「もりのくまさん」の1番～5番それぞれの歌い方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容にあった強弱や歌い方。 ・歌う人数の工夫。 ○「もりのくまさん」の学習で楽しかったことを振り返る <p>3～4 言葉をまねしながら「フルーツケーキ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「フルーツケーキ」を歌う。 ★ことばの まねっこで あそぼう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて曲の感じをつかむ。 ・範唱に合わせて、3拍子の流れを感じながら歌う。 ○体を動かしながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・前半はゆるやか。 ・後半は拍をはっきりと感じて。 ○後半を二つに分かれて交互唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌う強さをまねて歌う。 ・歌う強さを変えて歌う。 ○「フルーツケーキ」を、打楽器を加えて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・二つのグループに分かれ、まずは手拍子で1小節ごとに交互にリズム打ちをする。3回繰り返し、最後の2小節は一緒に打つ。 ・楽器で同様にリズム打ちをする。 ・交互唱に合わせて打楽器を交互に打って合わせる。 ○「たん たん たん」の3拍子に好きなフルーツの名前を当てはめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打つ位置や強さを変えて、音色や強弱を変化させながらリズムを打つようにする。 ・歌の様子を理解させるために、ペープサートなどを利用してもよい。 ・クラスを二つ分け、先か後かを決めて歌わせたり、順番を入れ替えて歌わせたりする。 ・交互唱の楽しさを理解させるため、いろいろな歌い方を経験させる。 ・先に歌うグループの強さを決めておく。 ・歌い方の工夫が見られた児童には理由を聞きアイディアとして共有させる。 【共通事項】呼びかけとこたえ 【評】曲想と音楽の構造との関わりに気付きながら交互唱をする活動を通して「知識」を評価する。 ・フレーズごとの歌詞の内容から、どのように歌うか意見を出し合わせる。 ・出た意見を板書し、みんなで歌って試しながらまとめていく。 【共通事項】フレーズ 【評】友達と試しながら歌い方を工夫していく活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・歌の様子を理解させるために、ケーキの写真や絵の掲示物をあらかじめ用意するとよい。 ・前半部分と後半部分のフレーズの感じを確認し、前半は大きな3拍子の流れを感じさせるよう、教師が腕を動かしながら歌わせる。 ・後半は軽快に拍打ちをしながら歌わせる。 【共通事項】フレーズ 拍 ・「もりのくまさん」を思い出して歌のまねっこをするよう声を掛ける。 ・先に歌うグループの強さを決めておく。 【共通事項】呼びかけとこたえ 【評】歌声を聴き取り、曲想を感じ取って表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・最初に手拍子でリズムや拍を確認し、交互に演奏させる。 ・手拍子と膝打ちなど、音色を変えてもよい。 ・あらかじめ鈴とカスタネットを用意しておき交替で演奏できるようにする。 【共通事項】リズム 【評】互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌ったり演奏したりする活動を通して「技能」を評価する。 ・フルーツの絵をあらかじめ用意して選ばせたり、一人一人考えさせたりする。 ・児童が考えた名前が拍にはまりにくい場合は

- フルーツの名前をまねっこしながらつなげて遊ぶ。
 - ・ 一人→みんな でまねっこしてつなげる。
- 「フルーツケーキ」の学習で楽しかったことを振り返る

拍を手で打ちながら当てはめ方を支援する。

- ・ <音のスケッチ>（ことばのリズムであそぼう）を想起させる。
- ・ 拍にのってつなげるようにする。

【 備 考 】

単元名 みんなで あわせて

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想とリズムなど音楽の構造との関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌う技能や、拍に合わせてリズムを重ねて遊ぶ技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律やリズム、拍、楽器の音色や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くことができる。
- (3) 聞こえてくる音やリズムに合わせて体を動かすことや、音楽が表している情景を想像することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070302_001

【教材名】おもちゃのチャチャチャ（歌唱） おもちゃのへいたい（鑑賞）

(P. 56～P. 57)

【準備等】範唱CD、鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 歌詞が表す情景を想像しながら「おもちゃのチャチャチャ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「おもちゃのチャチャチャ」を、曲の気分を感じ取って歌う。 ★みんなで うたや リズムを たのしもう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、曲の感じをつかむ。 ・全員で歌詞唱する。 ・「チャチャチャ」の部分は、手拍子でリズムを打ちながら歌う。 ○「おもちゃのチャチャチャ」の歌詞の表す様子を考えて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・2段目と3段目の歌詞を音読する。 ・歌詞の全体の時間軸を捉える。 ・2段目、3段目の歌詞に合った体の動きを考え、身振りをしながら歌う。 ・1, 4, 5段目はリズム打ちをする。 ・身振りやリズム打ちをしながら、曲全体を歌う。 ○手拍子を打ちながら、伴奏に合わせて「おもちゃのチャチャチャ」を歌う。 ○リズムを重ねて遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・手拍子のリズム①② (P. 57)を確認する。 ・①と②のパートに分かれ、重ねて打ってみる。 ・拍にのって打つ。 ・<おわるとき>のリズム (P. 57)を手拍子で確認する。 ・①②のリズムを重ねて打ち、最後に<おわるとき>のリズムと一緒に打って終わる。 ○①②のリズムを声や手拍子で合わせる。 ○発表し、それぞれの工夫を共有する。 <p>3 曲の表す様子を感じ取りながら「おもちゃのへいたい」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「おもちゃのへいたい」を、曲の気分を感じ取って聴く <ul style="list-style-type: none"> ★おとのかさなりや リズムを かんじとって きこう ○「おもちゃのへいたい」を、体を動かしながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・拍に合わせて行進をする。 ・トランペットの音が聴こえたら吹くまねをするなど、楽器を演奏するまねをする。 ・旋律の感じや音の重なり、リズム、強弱などに合わせて、身振りをしながら行進する。 ○旋律の再現やコーダの部分に着目し、コーダの部分が表しているお話を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が親しみやすい曲なので、状況に応じて早めに歌詞唱を始めるとよい。 ・「チャチャチャ」の部分の手拍子は、自然に出てくることが多い。その表現を紹介することで、全員が取り組めるようにする。 ・歌詞を音読し、夜から朝までの時間の流れがあることに気付かせる。 ・歌詞に合った動きをしている児童がいたら、取り上げて紹介し、共有する。 ・1, 4, 5段目はリズム打ちをすることで同じ旋律が戻ってくることに気付かせる。 ・身振りはグループで考えさせてもよい。 【評】リズム打ちをしながら曲想の変化を感じ取って歌う活動を通して「知識」を評価する ・手拍子のリズムを確かめながら、楽しく歌えるようにする。 ・2種類のリズムを確認し、何度か繰り返し打たせる。 ・パートごとにまとまって打たせる。 ・<おわるとき>のリズムは「おもちゃのチャチャチャ」の最後のリズムと同じことを伝える。 ・教師の合図で<おわるとき>のリズムに入るようにする。 【共通事項】リズム 拍 ・二人組になり、いろいろな強さや速さで合わせさせる。 ・繰り返す回数を決めて取り組むように伝える ・今までの学習を振り返り、強さの工夫をさせたり、速さを変えさせたりするとよい。 ・面白いと感じた表現を紹介させる。 【評】拍に合わせてリズムを重ねる活動を通して「技能」を評価する。 ・先に曲名を知らせ「おもちゃのへいたい」が何をしているかや、どんな様子なのかを想像しながら聴くよう伝える。 ・出だしのトランペットのファンファーレに着目し、音色を確認してから聴くと音を捉えやすい。また、太鼓の音も捉えやすい。 ・拍を意識して行進させる。 【共通事項】音の重なり 【評】曲に合わせて身振りをしながら行進する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・再現部では、トランペットのファンファーレとともに、最初の旋律が再び現れたことに気付かせる。 ・コーダは演奏によって違うこともあるが、鑑賞CDの演奏は、おもちゃが箱に戻るようになくなって終わっている。

- 考えたお話を発表し合う。
- 「おもちゃのへいたい」のよいところ，面白いところを見付けて聴く。

・再度聴かせ，よさや面白さを感じ取らせる。
【評】 旋律やリズム，拍，楽器の音色や音の重なりを聴き取り，それらが生み出すよさを話し合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 おとの スケッチ(3)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 旋律の特徴について、それが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、設定された条件に基づいて即興的に音を選んだり、できた旋律を友達とつなげたり重ねたりして簡単な音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもつことができる
- (3) 短い旋律をつくったり、それをつなげたり重ねたりすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070303_001

【教材名】きらきらぼし（歌唱 器楽） ほしのおんがくをつくろう（音楽づくり）
～P. 59)

(P. 58)

【準備等】範唱CD、鍵盤ハーモニカ、鉄琴

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～4 「きらきらぼし」を歌や鍵盤ハーモニカで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「きらきらぼし」を聴唱法で歌い、学習課題をつかむ。 ★ほしのおんがくをつくろう 歌詞唱や階名唱で歌う。 鍵盤ハーモニカで演奏する。 <p>○鉄琴で演奏する。</p> <p>○鍵盤ハーモニカと鉄琴で合わせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ほしのおんがく」をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・つくり方のルールを確認する。 ・スタートの音を選ぶ。 ・星を結んで星座をつくる。 ・最後にウンを入れる。 (例) ソファソファミレド など 「ほしのおんがく」を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・拍に合わせて演奏する。 <p>○発表を聴いて、自分の旋律を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでリレーする。 <ul style="list-style-type: none"> ・拍にのってリレーする。 ・リレーの順番を変える。 ・最後は3人で重ねて演奏して終わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定着するまで繰り返し歌わせる。 ・楽譜の各段の3，4小節目を鍵盤ハーモニカで演奏させる。 ・階名で歌うグループと鍵盤ハーモニカで演奏するグループと役割を分け、交替しながら繰り返し演奏させる。 ・楽譜の各段の1，2小節目を鉄琴で演奏させる。 ・階名で歌うグループと鍵盤ハーモニカで演奏するグループと役割を分け、交替しながら繰り返し演奏させる。 ・2小節ずつ交代しながら、鉄琴と鍵盤ハーモニカで演奏させる。 ・教科書P. 59の「どれみのほし」を結んで星座をつくると、4分音符（タン）7つと4分休符（ウン）1つの旋律をつくることのできるこれは「きらきらぼし」のはじめ「ドドソソラソ（ウン）」などの旋律と同じリズムになる。つくった音楽は、鍵盤ハーモニカで確かめさせる。自分で確かめられない児童には教師が弾いて聴かせるとよい。 ・戻ったり音をとばしたりしないよう、確認する。 <p>【評】短い旋律をつくったり、それをつなげたり重ねたりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早くできた児童の作品を紹介し、戸惑っている児童の参考にさせる。 ・工夫したところやこだわりを発表させる。 <p>【共通事項】拍</p> <p>【評】旋律の特徴について、それが生み出す面白さなどに関わらせて演奏する活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表のよかったところを参考に、自分のつくった旋律の手直しをさせる。 <p>【共通事項】旋律</p> <p>【評】設定された条件に基づいて、音を選んだり、できた旋律をつなげたり重ねたりして音楽をつくる活動を通して「技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人程度のグループで活動させる。 ・グループ全員のリレーが終わったら、最後は同時に重ねて演奏するように伝える。 ・星の様子を表す音になっているか、グループで音の出し方なども工夫させる。 <p>【共通事項】音の重なり</p> <p>【評】旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 おんがくランド(3)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 曲想と呼びかけとこたえなど音楽の構造との関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌ったり、拍に合わせて演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 歌声を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 友達との表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070304_001

【教材名】Twinkle, Twinkle, Little Star (歌唱) (P. 60) こぶたぬき
つねこ (歌唱) アイアイ (歌唱) (P. 66)

【準備等】範唱CD、鍵盤ハーモニカ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 旋律を意識して「Twinkle, Twinkle, Little Star」を歌ったり、演奏したりする。</p> <p>○ 範唱を聴いて、「Twinkle, Twinkle, Little Star」の英語歌詞をつかむ。</p> <p>★はくの ながれにのって ひょうげんしょう</p> <p>○ 体を動かしながら歌う。</p> <p>○ 鍵盤ハーモニカを加え、合唱奏する。</p> <p>4～5 まねっこを楽しみながら「こぶたぬきつねこ」「アイアイ」を歌う。</p> <p>○ 範唱を聴いて、「こぶたぬきつねこ」「アイアイ」の曲の雰囲気をつかむ。</p> <p>★たのしく まねっこ しょう</p> <p>○ 「こぶたぬきつねこ」「アイアイ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を音読し、表している様子を理解する。 ・様子を思い浮かべて歌う。 <p>○ いろいろな強さ試しながら交互唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先に歌うグループの強さをまねして歌う。 ・先に歌うグループと反対の強さで歌う。 <p>○ グループで歌い方を工夫する。</p> <p>○ グループごとに発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「おとのスケッチ(3)」で取り組んだ題材である。まずは、日本語の歌詞で歌うのもよい。 ・拍に合わせてながら、曲に合った動きをさせる <p>【共通事項】拍</p> <p>【評】友達と歌ったり、演奏したりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なパターンで歌や演奏をさせてもよい。 <p>(例) ・日本語歌詞→英語歌詞 ・英語歌詞→鍵盤ハーモニカ ・英語歌詞+鍵盤ハーモニカ など</p> <p>【評】互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌ったり、拍に合わせて演奏したりする活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌の様子を理解させるために、ペープサートなどを利用し、教師が動かしながら音読したり歌ったりする。 ・交互唱の楽しさを味わえるよう、いろいろな歌い方を試させる。 ・一人で歌うことに挑戦できる児童がいたら、その子の歌い方をまねさせる。 <p>【共通事項】強弱 呼びかけとこたえ</p> <p>【評】曲想と呼びかけとこたえなど音楽の構造とを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5人のグループに分け、交互唱の歌い方を工夫させる。 <p>【評】歌声を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(3)

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) フレーズのまとまりや旋律の流れを聴き取り，それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 情景や気持ちを歌で表すことに興味をもち，音楽活動を楽しみながら，主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

01070305_001

【教材名】うれしいひなまつり（歌唱）（P.77）

【準備等】範唱CD，ひな人形や桃の花などの写真

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 様子を想像しながら「うれしいひなまつり」を歌う。</p> <p>○既習曲を歌い，楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>○範唱を聴き，学習課題をつかむ。</p> <p>★ひなまつりの ようすを おもいうかべて うたおう</p> <p>○聴唱法で歌う。</p> <p>○気持ちを想像しながら歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が知っている楽しい感じの曲や，春の季節の歌などを歌い，楽しい雰囲気をつくる。 ・歌詞は4番までであるので紹介するとよい。 ・題名の「うれしいひなまつり」は4番の歌詞に出てくる。 ・「ぼんぼり」「ごにんばやし」など，ひな人形の飾りなどを説明する。ひな人形の飾りや桃の花などの写真があるとよい。 ・フレーズを意識して歌わせる。 <p>【共通事項】フレーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひな人形を飾ったり，桃の節句のお祝いをする楽しい気持ちを想像させる。 <p>【評】フレーズのまとまりや旋律の流れを聴き取り，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら，曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】情景や気持ちを歌で表す活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 スキルアップ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴きながら、声を合わせて歌ったり、拍に合わせてリズム打ちしたりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 互いの音や表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070101_001

【教材名】朝のリズム（歌唱） 手びょうしりレーで あそぼう（音楽づくり） (P.2～P.5)

【準備等】範唱CD，トライアングル，カスタネット，鈴，タンブリン

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 リズム打ちをしながら「朝のリズム」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「朝のリズム」を聴いて、曲の気分を感じ取る。 ★歌に 合わせて リズムで あそぼう <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしたり、リズムを打ったりしながら歌う。 ○歌詞を唱える。 <ul style="list-style-type: none"> ・弾むように歌う。 ・手拍子を打って歌う。 ・後半部分の声の出し方を考え、明るい声で歌う。 ○歌詞の情景や気持ちを思い浮かべながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を読み、どのような場面の歌なのかを想像する。 ・言葉に気を付け、情景や気持ちを思い浮かべながら歌う。 ・リズムを感じ取り、朝の情景や気持ちに合った声で手拍子を入れながら歌う。 ○リズムにのって、ボディサウンドを入れながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「足踏み」「膝打ち」「手拍子」の確認をする。 ・ボディサウンドを入れながらリズムにのって歌う。 ・ボディサウンドを入れる場所を変えたり、増やしたりして歌う。 <p>2 楽しんで手拍子リレーをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全員で一斉に手拍子をする。 ★手びょうしりレーで あそぼう <ul style="list-style-type: none"> ・一斉に1回手拍子 ・教師の拍に合わせて手拍子 ・8回手拍子 ・なるべく大きな手拍子 ・なるべく小さな手拍子 など ○全員で輪になって手拍子リレーをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ打つ ・速さを変える ・間を開ける ・打つ回数を変える など ○全員で輪になって小物打楽器でリレーをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・音の長さを変える ・前の人の音が鳴り終わったら打つ など 	<ul style="list-style-type: none"> ・範唱に合わせて体を動かしたり、リズムを打たせたりするとよい。 【評】互いの音や表現に興味をもって歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・旋律の付点のリズムに気を付けて歌わせる。 ・はじめは全員手拍子で取り組ませる。 【評】旋律やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・P.2～P.3の挿絵を参考にしてもよい。 【評】曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。 ・実際に「足踏み」「膝打ち」「手拍子」でリズムを打たせ、それぞれの動きと音を確かめさせる。 【共通事項】拍 リズム 【評】互いの歌声や伴奏を聴きながら、声を合わせて歌ったり、拍に合わせてリズム打ちしたりする活動を通して「技能」を評価する。 【共通事項】強弱 【評】曲想とリズムなど音楽の構造とを関わらせながら表現する活動を通して「知識」を評価する。 【共通事項】拍 速度 【評】拍に合わせてリズム打ちする活動を通して「技能」を評価する。 【評】リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽づくりをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・活動条件として、手拍子リレーの際の条件も活用するとよい。 ・トライアングル，カスタネット，鈴，タンブリンを人数分用意しておき，児童に好きな楽器を選ばせる。 【評】互いの音や表現に興味をもって表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 強さや はやさを かんじて

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と強弱や速度、呼びかけとこたえなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 強弱や速度、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、歌詞や曲想に合った表現を工夫し、どのように歌うかに思いをもったり、曲の楽しさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 強弱や速度の変化や違いに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070102_001

【教材名】「天国と地ごく」から（鑑賞） かめ（鑑賞） 山のま王のきゅうでんにて（鑑賞） 小さなはたけ（歌唱） 山びこごっこ（歌唱） かくれんぼ（歌唱 共通教材）（P.6～P.13）

【準備等】範唱CD、鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 体を動かしたり、面白いと感じたところを意見交流したりして「『天国と地ごく』から」「かめ」「山のま王のきゅうでんにて」を聴く。</p> <p>○「『天国と地ごく』から」を聴く。</p> <p>★強さや はやさを かんじて 体を うごかそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座って静かに聴き、気付いたことを交流する。 ・拍に合わせて手拍子や足踏みをする。 ・強弱を感じ取り、身振りで表す。 <p>○「かめ」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に体を動かしながら聴く。 ・「天国と地ごく」と比べて、曲想や速さなどで気付いたことを伝え合う。 ・拍や旋律に合わせて体を動かしながら聴く。 <p>○「山のま王のきゅうでんにて」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座って静かに聴き、気付いたことを交流する。 ・速度に気を付け、拍に合わせて歩く。 ・強弱の変化にも気を付けながら、拍に合わせて歩く。 ・最後のポーズを考える。 <p>○「山のま王のきゅうでんにて」を、表している情景を思い浮かべて聴く。</p> <p>○「山のま王のきゅうでんにて」のよいところ、面白いところを見つけて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいところ、面白いところ、好きなところについて、伝え合う。 ・座って静かに曲を味わって聴く。 <p>3 身振りを付けながら「小さなはたけ」を歌う。</p> <p>○「小さなはたけ」の身振りを考える。</p> <p>★お花の ようすを 声や みぶりで あらわそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、旋律をつかむとともに、歌詞の変化に気付く。 ・1番の歌詞に合った身振りを考え、友達と交流する。 ・2・3番の身振りを考え、友達と交流する。 <p>○「小さなはたけ」を、強弱や歌い方（声の音色）を考えて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞に合った強弱や歌い方を考える。 ・表情や身振りを変えながら歌う。 <p>○数人ずつ前に出て、歌と動きを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫のよいところや面白いところを伝え合う。 <p>4～6 呼びかけを楽しみながら「山びこごっこ」と「かくれんぼ」を歌う。</p> <p>○交互唱の既習曲を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな感じがしたか、理由も合わせて出させる。 ・体の動きが苦手な児童には、拍に合わせた手拍子に導く。強弱を意識した手拍子の動きもよい。 <p>【共通事項】強弱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな様子を表している音楽かを考えさせ、その後に曲名を知らせる。 ・「天国と地ごく」と同じ旋律だが、感じが違うことに気付かせ、なぜ感じが違うかという意見を引き出すようにする。 ・曲名を知らせ、2回目の鑑賞をさせる。 <p>【共通事項】速度</p> <p>【評】強弱や速度の変化による曲想の変化を感じ取る活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耳を澄ませ、P（ピアノ）のときから拍に合わせて歩くように声を掛ける。 ・速く強くなってきたときに、声をあげてうるさくならないよう、最後まで集中して聴けるよう留意する。 ・速さを意識させながら歩かせるが、強さについても児童から気付きが出るようにする。 <p>【共通事項】変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな様子を表している音楽かを考えさせ、その後に曲名を知らせる。 ・ワークシートを活用してもよい。 ・主題の反復に気付いている児童を取り上げ、繰り返しの面白さを共有させる。 <p>【共通事項】反復</p> <p>【評】強弱や速度を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3番とも同じ旋律であることに気付かせる。 ・「小さな」「ポッ」という歌詞に着目して、身振りを考えるようにさせる。 ・同じ旋律でも、強弱や歌い方を変えるとイメージが変わることに気付くようにし、歌詞に合った歌い方で歌えるように進めていく。 ・いろいろな表情や身振りを各自が試し、イメージに合った歌い方や身振りができるように声を掛ける。 <p>【共通事項】強弱 音色</p> <p>【評】強弱などの音楽の構造から曲想を感じ取り、表現する活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌うことの楽しさを味わえるよう、児童のお

<ul style="list-style-type: none"> ・1年生で歌った呼びかけっこの歌を歌う。 「もりのくまさん」「アイアイ」 「こぶたぬきつねこ」など ★よびかけっこのうたであそぼう ○山びこの意味を知り、山びこごっこで遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉で「ヤッホー」「お〜い」など ・旋律を付けて「ヤッホー」「ヨホホホー」など ○「山びこごっこ」を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ○リズムのまねっこをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○「山びこごっこ」を、声の感じや強弱を工夫して歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・斉唱する。 ・クラスで2つに分かれて歌う。 ○「山びこごっこ」の歌い方をグループで工夫し、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ○呼びかけっこで遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師の呼びかけに、一人一人拍にのって返事をする。 ・二人組で呼びかけっこをする。 ○「かくれんぼ」を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・付点のリズムに気付き、弾んで歌う。 ・「もういいかい」「まあだだよ」に分かれて呼びかけ合って歌う。 ○呼びかけ合う部分の歌い方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・実際にかくれんぼしながら。 ・「もういいかい」の部分はだんだん強く ・「まあだだよ」の部分はだんだん弱く ・「もういいよ」は、弱くゆっくりと など 	<p>気に入りの歌をどんどん歌わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山びこについて簡単に説明し、言葉で試したり、旋律を付けて試したりする。 ・呼びかけと山びこ、どちらの楽しさも体験できるように、教師→児童、児童→教師、児童→児童のように組み合わせを変えて歌わせる。 <p>【共通事項】呼びかけとこたえ</p> <p>【評】声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4拍程度の打ちやすいリズムを教師が打ち、児童にまねっこさせる。 ・「同じ強さで打つ」や「違う強さで打つ」など、条件に合わせてまねさせる。 ・呼びかけ役と山びこ役を決め、互いの声をよく聴き合いながら歌い方の工夫ができるようにする。 <p>【共通事項】音色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱や速度に関する工夫ができるよう声を掛ける。 ・体を動かしながら歌うのもよい。 ・発表を見合った後は、工夫のよかったところや面白かったところを伝え合わせる。 <p>【評】歌詞や曲想に合った表現を工夫して歌う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2音ぐらいのわらべうたの旋律で歌いながら呼びかけても楽しい。 ・教師が拍を打ち、拍にのって呼びかけっこをするように伝える。 ・歌に合わせて体を動かし、付点の弾むリズムを感じ取らせる。 ・実際のかくれんぼを想像し、離れて歌っていることをイメージさせる。 ・「もういいかい」は順番に一人ずつ歌わせ、「まあだだよ」「もういいよ」は声の強さを工夫し、残りの児童に歌わせる。 ・呼びかけあう部分では、速度や強弱を意識して歌うよう伝える。 <p>【共通事項】強弱</p> <p>【評】強弱や速度の変化や違いに興味をもち、表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
---	---

【 備 考 】

単元名 リズムや ドレミと なかよし

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 曲想とリズムや音階など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景との関わりに気付くとともに、互いの声や音を聴き、拍に合わせて歌ったりリズム遊びをしたりする技能や、階名で模唱したり、リズム譜などを見て演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) リズム、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、言葉とリズムの関わりや曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかや演奏するかについて思いをもったり、リズム遊びを通して音楽づくりの発想を得たりすることができる。
- (3) リズム表現や鍵盤楽器の演奏に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070103_001

【教材名】 どうぶつの歌（鑑賞） こいぬのビンゴ（歌唱） どうぶつラップであそぼう（音楽づくり）
 ぴょんぴょこロックンロール（歌唱） ことばのリズムであそぼう（音楽づくり） かえるの
 がっしょう（歌唱 器楽） (P. 14～P. 23)

【準備等】 範唱CD、鑑賞CD、鍵盤ハーモニカ、鍵盤楽器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「どうぶつの歌」の鑑賞「こいぬのビンゴ」の歌唱「どうぶつラップであそぼう」の活動を通して、拍やリズムを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「どうぶつの歌」を鑑賞する。 ★はくに のって リズムで あそぼう <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆかいなまきば」「こいぬのビンゴ」「どうぶつえんへ行こう」を聴く。 ・繰り返し現れる歌詞の部分で手を打ちながら聴く。 ○「こいぬのビンゴ」を歌ったり、リズム遊びをしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱に合わせて歌う。 ・拍にのり、「B-I-N-G-O」のリズムに合わせて手拍子をしながら歌う。 ・2番→3番→・・・と手拍子を増やしていくリズム遊びに挑戦する。 ○二人組で「こいぬのビンゴ」のリズム遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人が「B-I-N-G-O」のリズムを相手の頭の近くでたたき、もう一人は「B-I-N-G-O」のリズムでしゃがんだり立ったりする。 ・リズムを打つところを変えて歌う。 ○「ゆかいなまきば」「どうぶつえんへ行こう」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲中に登場するいろいろな動物を想像する。 ・このほかに知っている動物の鳴き声を発表する。 ○「どうぶつラップであそぼう」の活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師の拍打ちに合わせて言葉のリズムで遊ぶ。 ・いろいろな動物に変えてつなげていく。 ○「どうぶつラップであそぼう」の遊び方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体の速さを変える。 ・動物以外の言葉で遊ぶ。 <p>例：楽器の名前 乗り物の名前 食べ物の名前 など</p> <p>4～6 「ぴょんぴょこロックンロール」を歌い、音の長さを確認したり「ことばのリズムであそぼう」でリズム遊びをしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ぴょんぴょこロックンロール」を、体を動かしながら歌う。 ★はくに のって 歌ったり、リズムあそびをしたりしよう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて曲の感じをつかむ。 ・歌詞唱する。 ・拍にのり、体を使った表現をしながら歌う。 ・体を使った表現と音の長さを結び付けて、音の長さを体感する。 ○「全音符」「2分音符」「4分音符」「8分音符」について理解して歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れにのって、手拍子をしながら楽しく聴いたり歌ったりする。 ・旋律の音取りを十分に行う。 ・「B-I-N-G-O」の部分だけ取り出し繰り返しリズム打ちをすることで、全員が打てるように支援をする。 【評】リズム表現を楽しみながら「こいぬのビンゴ」を歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・遊び方のルールを確認し、安全面の配慮をする。 ・途中で休符を入れるなどして、リズム打ちを工夫する。 ・休符を入れることで、音楽に変化が生じることを共有しておく。 【共通事項】リズム <ul style="list-style-type: none"> ・動物の名前と特徴、オノマトペに注目して聴くように声を掛ける。 【評】各曲の曲想と、言葉のリズムなど音楽の構造との関わりを感じ取りながら鑑賞する活動を通して「知識」を評価する。 ・一人一人が表現しやすいように、また、友達の表現を聴き取れるように、円の隊形になる。 ・教科書に示されている「いぬ」や「にわとり」で、活動の進め方を確認する。 ・拍は一定の速度で打つ。 【共通事項】拍 <ul style="list-style-type: none"> ・速度を変えたり、鳴き声の部分の言葉を変えたりして工夫するよう伝える。 【共通事項】速度 <ul style="list-style-type: none"> 【評】リズムが生み出すよさや面白さを感じ取り、リズム遊びをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・音程やリズムが不十分なときは、部分的に取り出して確認する。 ・かえるやねこになった気分、体を動かして歌わせる。 ・「一番長くジャンプしていたところは？」「一番短くジャンプしていたところは？」などと問いかけ、体を使った表現と、音の長さとの関係を整理する。 ・音符や休符をカードで示したり、教科書の楽譜や＜音の長さくらべ＞を活用したりして、

- ・4分休符についても理解する。

- 「ぴょんぴょこロックンロール」を工夫して歌う。
 - ・好きな動物で替え歌をつくる。
 - ・速度を変えて歌う。
- 「ことばのリズムであそぼう」の活動を声のまねっこで
 する。
 - ・教師が作った鳴き声のリズムをまねっこする。
 - ・教科書のリズムパターンを確認し、一人一つ、リズム
 パターンを選ぶ。
 - ・教師の打つ拍にのって、一人のリズムをみんなでまね
 しながら順番に回していく。
 - ・教科書のパターンに捉われず、いろいろな鳴き声で自
 由なリズムをつくり、まねっこする。
- 「ことばのリズムであそぼう」の活動を体を使って出る
 音のまねっこです。
 - ・一人一つ、手拍子でリズムをつくる。
 - ・拍にのり、一人のリズムをみんなでまねしながら順番
 につなげていく。
 - ・つくったリズムを、組み合わせを考えて、足や手で打
 つ。
 - ・拍にのり、一人のリズムをみんなでまねしながら順番
 につなげていく。
- 「ことばのリズムであそぼう」の活動をリレーで行う。

- 7～8 鍵盤ハーモニカで音階の練習をしたり「かえるのがっしょう」を演奏したりする。
- 鍵盤ハーモニカで音階を演奏する。
 - ★ドレミで 歌ったり えんそうしたりしよう
 - ・楽器を用意し、鍵盤の位置や指番号、階名を確認する。
 - ・「ド」の位置を確認する。
 - ・「ドレミファソ」を「1 2 3 4 5」と運指唱する。
 - ・「ドレミファソ」の音階を演奏する。
 - ・タンギングを確認する。
 - ・指を移動し「レミファソラ」や「ミファソラシ」と、
 音を高くしていく。
 - ・5の指を「ソ」の位置に置き「ソファミレド」と下降
 する。
 - 「かえるのがっしょう」を歌う。
 - ・斉唱の範唱を聴き、曲の感じをつかむ。
 - ・イメージをふくらませながら歌詞唱する。
 - ・階名唱する。
 - 「かえるのがっしょう」を楽器で演奏する。
 - ・鍵盤の位置や、指の移動を確認する。
 - ・階名唱や運指唱をする。
 - ・各段のフレーズを感じながら、少しずつ演奏する。
 - ・タンギングと指の動きをそろえる。
 - 「かえるのがっしょう」を輪唱する。
 - ・歌で輪唱する。
 - ・歌と楽器で輪唱奏する。
 - ・楽器で輪奏する。

- 理解を深めるようにする。
- ・歌やリズムが雑にならないように、楽しみな
 がらも拍にのってしっかり歌わせる。
 - 【新出】全音符 2分音符 4分音符 8
 分音符 4分休符
 - 【評】曲想とリズムなどの構造との関わりや、
 曲想と歌詞の表す情景との関わりに気付きな
 がら歌う活動を通して「知識」を評価する。
- ・<どうぶつラップ>を思い出してつくる

- ・円の隊形で行う。
- ・教師は手拍子で拍を打ちながら、いろいろな
 リズムを「ぴょん」や「ぴょこ」の言葉で示
 す。
 - 【共通事項】速度 拍
- ・教師は手拍子などで拍打ちをする。
 - 【共通事項】リズム

- 【評】互いの音を聴き、拍に合わせてリズムの
 まねっこをする活動を通して「技能」を評価
 する。

- ・声のまねっこで使ったリズムをそのまま使っ
 てもよい。
- ・困っている児童には、教科書P.18の<リズム
 のれい>を参考にしよう声掛けを。
- ・教師の打つ拍にのり、まねっこさせる。
- ・同じリズムを足と手で打たせる。自由に組み
 合わせ方を考えるのもよい。
- 【新出】8分休符

- ・一人一つつくったリズムをリレー形式で順番
 に打ちながらつなげさせる。
- 【評】リズムや音色が生み出すよさや面白さを
 感じ取りながらリズム遊びをする活動を通し
 て「思考・判断・表現」を評価する。

- ・1年生の学びの復習や確認をする。
- ・拍にのって演奏するようにする。
- ・教師の合図をスタートする音で歌うとよい。
 (例：「ドから上がろう」のときは、ドの音
 で歌う。「レから上がろう」のときは、レの
 音で歌う。など)
- ・合図も拍にのせる。
- 【共通事項】音階
- 【評】鍵盤楽器の演奏に興味をもち、楽しみな
 がら取り組む活動を通して「主体的に学習に
 取り組む態度」を評価する。
- ・<どれみふたいう>をしながら階名唱して
 も楽しい。

- ・「ド」→「ミ」の1指の移動を確認する。
- ・3段目は同音連打なので、鍵盤ハーモニカの
 場合は、鍵盤を押さえたままタンギングさせ
 る。

- ・二つのパートで輪唱を楽しませる。可能であ
 れば、パートを増やし、音の重なりをさらに
 楽しませる。
- ・フレーズごとに歌い始めをずらし、音の重な
 りを楽しませる。
- 【共通事項】フレーズ 音の重なり 音楽
 の縦と横との関係

- 【評】「かえるのがっしょう」を階名唱したり
 演奏したりする活動を通して「技能」を評価
 する。

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(1)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 音の重なりや、フレーズのつなげ方の特徴に、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) 和音やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもつことができる。
- (3) 鍵盤楽器で音を合わせることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070104_001

【教材名】音の かさなりや リズムを えらんで 合わせよう (音楽づくり)

(P. 24～P. 25)

【準備等】鍵盤ハーモニカ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 音の重なりやリズムを選び、鍵盤ハーモニカで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ドのビル」「レのビル」「ミのビル」「ファのビル」に出てくる音や音域を鍵盤ハーモニカで確かめる。 ★音の かさなりや リズムを えらんで 合わせよう ○一つのビルを提示されている四つのリズムで演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドのビル ・レのビル ・ミのビル ・ファのビル ○パートを選び、提示されたリズムで演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・パート① (ドレミファ) ※全て高音 ・パート② (ソラシド) ・パート③ (ミファソラ) ・パート④ (ドレミファ) ○グループで演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・パートを決める。 ・リズムの順番を考える。 ・音を重ねて演奏する。 ○発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは全体で取り組ませる。 ・それぞれの和音と、それぞれのリズムを繰り返し演奏させる。 【評】音を合わせることに興味をもち、鍵盤ハーモニカで演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・演奏するリズムパターンを教師が示し、全員のリズムをそろえて取り組ませる。 ・はじめはドのビルだけで演奏させ、次にドのビル→レのビル、ドのビル→レのビル→ミのビル、最後にドのビル→レのビル→ミのビル→ファのビルと徐々に使う音を増やしていくとよい。 【共通事項】音の重なり 音階 【評】音の重なりや、フレーズのつなげ方の特徴に、それらが生み出す面白さなどに関わらせて演奏する活動を通して「知識」を評価する。 ・4人グループが望ましい。 【共通事項】リズム 【評】音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる活動を通して「技能」を評価する。 【評】和音やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音を音楽にする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・友達の演奏のよかったところや面白かったところを発表させ、全体で共有する。

【 備 考 】

単元名 めざせ 楽き名人(1)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気付くとともに、「指くぐり」「指またぎ」の双方や、
 範奏や伴奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能を身に付けることができる。
 (2) 旋律、拍やその流れ、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りなが
 ら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し
 どのように演奏するかについて思いをもつことができる。
 (3) 鍵盤楽器の演奏に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組
 むとする。

標準的な展開例

02070105_001

【教材名】 かつこう (器楽) ドレミのトンネル (器楽) (P. 26～P. 27)

【準備等】 範奏CD、鍵盤ハーモニカ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「かつこう」を歌詞や階名で歌い、鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 範奏を聴き、学習課題をつかむ。 ★ ドレミで 歌ってから えんそう しよう</p> <p>○ 「かつこう」を歌詞唱・階名唱で歌う。</p> <p>○ 「かつこう」を鍵盤ハーモニカで演奏する。</p> <p>○ 離れた音の予備運動をする。</p> <p>○ 「かつこう」を合奏する。 ・ 段ごとに演奏してつなげる。 ・ 全員で一緒に演奏する。</p> <p>2 「ドレミのトンネル」を歌詞や階名で歌い、鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 範奏CDを聴く。 ★ 「ゆびくぐり」や「ゆびまたぎ」で えんそう しよう ○ 階名唱する。</p> <p>○ 鍵盤ハーモニカで、上行型（1～3小節目）を繰り返し吹く。</p>	<p>・ 「カッコー」（1・2小節）と「ほうら」（9・10小節）のリズムの違いに気付かせる。</p> <p>・ 1・2小節は3拍目の休符に留意し、鳴き声をイメージして「コー」の音が長くならないようにする。</p> <p>・ 鍵盤楽器の演奏のためには、階名唱が重要なので、定着するまで繰り返し階名唱をさせる</p> <p>・ 4小節ごとに区切り、段階的に繰り返し階名唱する。</p> <p>・ 5・6小節と7・8小節は同じなので、2小節のまとまりを感じて歌わせる。</p> <p>・ 歌詞唱しているときから、休符を意識して歌わせるとよい。</p> <p>【共通事項】 拍</p> <p>・ 階名唱しながら鍵盤を押さえたり、音程をつけた「トゥ」で歌いながら鍵盤を押さえたりする。</p> <p>・ 次に息を入れて鍵盤の音を鳴らして演奏させる。</p> <p>・ ソ→ミ（5→3）、ファ→レ（4→2）のように、音が少し離れているところを取り出して繰り返し吹かせる。</p> <p>・ いろいろな高さのソ→ミ、ファ→レを見つけて吹かせるとよい。</p> <p>【共通事項】 音階</p> <p>【評】 鍵盤楽器を演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 1段目（1～4小節）、3段目（9～12小節）は「ソミ」の違いを意識させる。</p> <p>・ 2段目（5～8小節）は2小節ずつ同じ動きであることを意識させる。</p> <p>【評】 旋律、拍やその流れ、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り、曲想を生かした表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 範奏CDを聴きながら歌詞唱をする。</p> <p>・ 鍵盤楽器で演奏するために、階名唱はとても重要であるので、何度も繰り返し歌わせる。</p> <p>・ 階名（ドレミファソラシド）を思い出し、リズムに注意して階名で歌わせる。次に歌詞で歌わせる。</p> <p>・ ドレミ（1 2 3）とファソラシド（1 2 3 4 5）の2つのポジションに指を置くことを確認する。</p> <p>・ ミ→ファ（3→1）の「指くぐり」のみを繰り返し確認させる。</p> <p>・ 下のドから順番に演奏させる。最初は、リズム通りでなくてもよい。</p> <p>・ 階名唱しながら鍵盤を押さえたり、音程をつ</p>

○鍵盤ハーモニカで、下行型（５～７小節目）を繰り返し吹く。

○全員で合奏する。

けた「トゥ」で歌いながら鍵盤を押さえたりさせてから、鍵盤ハーモニカの音を出して繰り返し吹かせるとよい。

・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。

・ファ→ミ（１～３）の「指またぎ」のみを取り出し、繰り返し吹かせる。

・上のドから順番に演奏させる。最初はリズム通りでなくてもよい。

【評】「指くぐり」「指またぎ」を使ったり、リズム譜などを見たりして演奏する活動を通して「技能」を評価する。

・初めはゆっくりと、慣れてきたらだんだん速く演奏させる。

・１段目だけ、２段目だけなど分けて演奏させ合奏する部分をだんだん増やしていく。

・「指くぐり」「指またぎ」が苦手な児童には教科書P.27の写真を参考にして、取り出して繰り返し確認させる。

・指の動きに注意し、旋律を滑らかに演奏することを意識させる。

【共通事項】速度

【評】楽器の音色と演奏の仕方とを関わらせて演奏する活動を通して「知識」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(1)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
 (2) 旋律や伴奏を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想に合った歌い方を工夫し、どのように歌うかについて思いをもったり、演奏の楽しさを見いだして聴いたりすることができる。
 (3) 曲想や歌詞を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070106_001

【教材名】B I N G O (歌唱) あの青い空のように (歌唱) ラララ歌おう (歌唱) 夏だ! (歌唱)
 やおやのおみせ (歌唱) ねこだってサッカー (歌唱) の6曲から1～3曲を選択 (P. 61～P. 66)
 【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～5 選択した曲をリズムにのって歌う。 ○ 範唱を聴き、聴唱法で歌う。 ★ 楽しく 歌おう ○ 「B I N G O」を英語で歌う。 ○ 「あの青い空のように」を山びこごっこをしながら歌う ○ 「ラララ歌おう」を工夫して歌う。 ○ 「夏だ!」を追いかけっこしながら歌う。 ○ 「やおやのおみせ」をまねっこゲームをしながら歌う。 ○ 「ねこだってサッカー」を手拍子やかけ声を工夫して歌う。 ○ グループで繰り返し歌い、発表する。 ・ お互いの歌声を聴き合い、気付いたことを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴くとき、自由に体を動かし、リズムを感じ取らせるようにする。 【評】曲想や歌詞を生かした表現に興味をもち聴唱法で歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 「こいぬのビンゴ」として既習曲となっている。英語の歌詞に親しませる他、「こいぬのビンゴ」同様、「B-I-N-G-O」の部分に手拍子を加え、楽しみながら活動させる <p>【共通事項】リズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前半は山びこごっこをしながら歌う。「ぼくたち」で1つになった感じをつかませて、一体感を感じさせる。また、後半は、特に高いドやレの音を、のびのびと歌わせていく。 <p>【共通事項】呼びかけとこたえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「たいようが」の部分動物や物や人の名前に替えて歌ったり「ララララ」の歌い方を工夫したりする。いろいろな歌詞や歌い方で友達と声を合わせて歌わせる。 <p>【共通事項】音色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師→児童、男子→女子、など旋律の追いかけっこ（交互唱）をする。付点のリズム（タッカのリズム）を感じながら、弾んだ感じで歌わせる。 <p>【共通事項】呼びかけとこたえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「かぼちゃ」のところに野菜の名前を1つずつ増やしていきながら歌わせる。 <p>【共通事項】リズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高音はのどに力を入れずに、柔らかい声で歌うよう助言する。 <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】曲想と旋律など音楽の構造と関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】旋律や伴奏を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととを関わらせて歌う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名 きよくに 合った 歌い方

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や伴奏を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想に合った歌い方を工夫し、どのように歌うかについて思いをもったり、演奏の楽しさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 曲想や歌詞を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070201_001

【教材名】ジェットコースター（歌唱） 虫のこえ（歌唱 共通教材） ながうた「むしの声」（鑑賞）

(P. 28～P. 31)

【準備等】範唱CD、鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「ジェットコースター」の曲想を捉え、工夫して歌う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ジェットコースター」を、曲の気分を感じ取って歌う <ul style="list-style-type: none"> ★歌と みぶりの ジェットコースターで あそぼう ・範唱を聴いて、曲の感じをつかむ。 ・「わくわく」や「ゴーゴー」などの言葉を意識しながら、歌詞を覚えて歌う。 ・ジェットコースターの走る様子を想像しながら歌う。 ○歌詞から擬音等を取り出して、身振りで表現しながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「わくわく」「どきどき」…乗っている人の気持ち ・「びゅんびゅん」「ぐんぐん」…ジェットコースターの様子や音など ・「スリー ツー ワン ゼロ」のかけ声のところの、気持ちを考える。 ○「ジェットコースター」を、体を動かしながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜中の矢印の部分の表現を、ジェットコースターの様子と声の高さとを関連させて考える。 ○「ジェットコースター」にふさわしい歌声を工夫して歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律や伴奏の感じについて、気付いたことを出し合う ・歌詞が表している気持ちや様子について、気付いたことを出し合う。 ・どんな声で歌いたい交流する。 ・声を合わせて歌詞唱する。 <p>3～4 「虫のこえ」の曲想を捉え、工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「虫のこえ」を、曲の気分を感じ取って歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ★ようすを 歌で あらわそう ・範唱を聴いて、曲の感じをつかむ。 ・様子を思い浮かべながら、歌詞を覚えて歌う。 ・何の虫が出てくるか、歌詞から見つける。 ○「虫のこえ」の前半部分を工夫して歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの虫の音を、一つ一つ声に出して読んでみる ・旋律のリズムと同じリズムで読みながら、読み方を工夫する。 ・読み方の工夫を生かして歌う。 ○「虫のこえ」の後半部分を工夫して歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ああ おもしろい」の気持ちを考えて歌う。 ○虫のグループと全体とに分かれて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・出てくる虫ごとにグループをつくり、その虫の鳴き声の部分を担当して歌う。 ・虫の音以外のところは全員で歌う。 ・表現のよいところ、面白いところを交流する。 ○長唄「むしの声」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲名を予想しながら聴く。 ・虫の音を表している部分を探しながら聴き、見つけたらその部分で挙手をする。 ・旋律や声の出し方など気付いたところを交流し、日本の音楽の表現を知る。 ○「虫のこえ」を全員で歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・思いを込めて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るいきりずみく曲調から、自然に体を動かす児童もいるかもしれない。曲にひたり、曲調をつかませるとよい。 ・人の気持ちを表す言葉とジェットコースターの様子を表す言葉の二つに分け、板書し、身振りを考えさせる。 ・児童なりの身振りでよい。 ・考えた身振りの理由を児童に尋ね、全体で共有させる。 【評】曲想や歌詞に合わせて身振りを考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・休符の部分の矢印は、ジェットコースターの動きととらえ、声の変化や身振りで表すようにする。 ・数人でつながってジェットコースターの動きを表現してもよい。 ・どのようなことも意識させたい。 【共通事項】音色 【評】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。 ・虫の音に気付き、それを聴いている人間の部分と、虫の音の部分との二つに分かれていることに気付かせる。 ・教科書の写真を見せ、イメージをつかませる ・「まなびリンク」の音声を活用してもよい。 ・前半が繰り返して構成されていることに気付かせる。 ・単なるカタカナ表記として読ませるのではなく、鳴き声を意識させて読ませる。 【評】歌声や発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。 ・児童が希望する虫でグループ分けをしたほうが、意欲的に表現をすることが多い。その際グループごとの人数を平均化することにこだわらなくてもよい。 ・1回目は曲名を伝えずに鑑賞をさせる。 ・2回目で曲名を使われている楽器を伝え、虫の音を探させながら聴かせる。 【共通事項】音色 【評】旋律のもつよさや面白さを感じ取り、曲想に合った歌い方で歌う活動を通して「思考

・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(2)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 身の回りの様々な音の特徴に，それらの生み出す面白さなどに関わらせて気付くことができる
 (2) 音の高さや長さなどを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え，それぞれの特徴をとらえて聴くことができる。
 (3) 身の回りの音を探したり聴いたりすることに興味をもち，音楽活動を楽しみながら，主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070202_001

【教材名】どんな音がきこえるかな（器楽 音楽づくり）

(P. 32～P. 33)

【準備等】効果音CD，画用紙，色鉛筆 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 学校内や学校のまわりで音が聞こえそうな場所を考え聞こえてくる音を発表する。 ○教科書の絵を見ながら聞こえてくる音を発表する。 ★どんな 音が きこえるかな</p> <p>○学校内や学校のまわりで聞こえそうな場所を考える。</p> <p>○実際にその場所に行き，音探しをする。</p> <p>○見つけた音を言葉や絵で表現する。</p> <p>○発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の挿絵から聞こえてくる音を発表させる。 ・挿絵にない場面の音についても自由に発表させる。 ・「まなびリンク」の音声を活用してもよい。 ・4～5人のグループで話し合い，発表させる <p>【評】身の回りの音を探したり聴いたりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに実際にその場所に行き，見つけた音をスケッチさせる。 ・教科書P. 33にメモさせる。教科書の例を参考に，音の繰り返しや長さ，強弱に着目し，できるだけ詳しく書かせるとよい。 ・児童だけで活動させる場合は，安全に十分注意させる。 ・デジカメの動画機能などを使い，録音しておくと，教室に帰ってから振り返ることができる。 <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】身の回りの様々な音の特徴と，それらの生み出す面白さなどに関わらせて音探しをする活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた音を，画用紙などに表させる。発展学習として紙芝居のようにストーリーをもたせてもよい。 <p>【評】音の高さや長さなどを聴き取り，それらの生み出すよさや面白さを感じ取りながら，聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考えながら音を言葉や絵で表現する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに見つけた音を発表させる。 ・友達の見つけた音のよさについて話し合わせる。

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070203_001

【教材名】つき（歌唱） とんぼのめがね（歌唱） (P. 76)

【準備等】範唱CD，秋の月夜やとんぼの写真など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 様子を想像しながら「つき」「とんぼのめがね」を歌う。</p> <p>○範唱を聴き、聴唱法で歌う。</p> <p>★あきのようすを そうぞうしながら 歌おう</p> <p>○情景を想像しながら「つき」を歌う。</p> <p>○情景を想像しながら「とんぼのめがね」を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「十五夜」「月見」など、秋の月について知っていることを発表させるなどして、日本人が昔から秋の名月を愛でる心や習慣があったことを確認しておく。 ・「ぼん」などの言葉を説明して、1番「出た月」、2番「かくれた月」、3番「また出た月」という時間経過やそれに伴う気持ちの変化を想像させる。 <p>【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の表す情景や気持ちとを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】自分の歌声及び発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の動きが上がる1～3番のそれぞれの終わりのフレーズ（歌詞の「とんだから」「見てたから」の部分）は、歌詞の通り「広く」「大きく」意識させて、伸び伸びとした発声で歌わせる。 ・とんぼを追いかけたり、つかまえたりした経験を話し、とんぼの飛んでいる情景を想像させる。 <p>【共通事項】旋律 フレーズ</p> <p>【評】旋律の流れを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととを関わらせてながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】歌詞や曲想を生かした表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 いい音 見つけて

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音色など音楽の構造との関わり気付くとともに、音色に気を付けて楽器を演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 楽器の音色、リズムや旋律の反復と変化を聴き取り、その面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲全体を味わって聴いたり、歌詞に合った楽器の音色を工夫し、どのように表すかについて思いをもったりすることができる。
- (3) 楽器の音色やリズムに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070204_001

【教材名】 ゆかいな時計（鑑賞） 森のたんけんたい（歌唱 器楽） (P. 34～P. 37)

【準備等】 範唱CD、鑑賞CD、ウッドブロック、トライアングル、鈴、カスタネット、クラベス、小太鼓など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「ゆかいな時計」を聴き、曲の気分を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ゆかいな時計」の初めの部分を聴く。 ★どんな音やリズムがきこえてくるかな <ul style="list-style-type: none"> ・ウッドブロックの名前と音を確認する。 ・ウッドブロックの音に気を付け、リズムに合わせて手を動かしながら聴く。 ○「ゆかいな時計」全体を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせて手を動かしながら聴く。 ○「ゆかいな時計」を、体を動かしながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・トライアングルの名前と音を確認する。 ・中間部で、トライアングルが聴こえたら手を振る。 ・ウッドブロック担当とトライアングル担当の二つのチームに分かれ向かい合って座り、それぞれの音に合わせて手を動かしながら聴く。 ・一人一人自由に体を動かし、音楽が表している情景を想像する。 ・コーダに気付く、意見を出し合う。 ○「ゆかいな時計」のよいところ、面白いところを見付けて聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・よいところや面白いところ、好きなところについて、意見を出し合う。 ・座って静かに曲を味わって聴く。 <p>3～4 「森のたんけんたい」の歌詞のイメージに合った楽器を選んで演奏したり、歌ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「森のたんけんたい」を、曲の気分を感じ取って歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ★楽きをえらんで歌と合わせよう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、曲の感じをつかむ。 ・歌詞を読み、登場する動物などを把握する。 ・3段目の擬音の部分を、歌い方を工夫して歌う。 ○「（楽き）のリズム」をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・手拍子で打つ。 ・手拍子を打ちながら歌う。 ○1番の歌詞に合う楽器を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・「きつつきさん」「コンコンコン」のイメージに合う楽器を探す。 ・歌詞に合う楽器を試しながら探し、感じたことを友達と共有する。 ○「森のたんけんたい」の、1～3番の歌詞に合う楽器を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループをつくり、1～3番のうち1つ選び、歌詞に合う音探しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がウッドブロックを左右交互に拍にのって打ち、楽器の名前と音を確認する。 ・初めは曲名を知らせずに聴かせ、どんな様子を表しているか想像させる。 ・ウッドブロックのリズムが時々不規則になるところを取り上げ、シンコペーションに気付かせる。 <p>【共通事項】リズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲名を知らせてから全体を通して聴かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ウッドブロックが聴こえない部分は動きを止めさせることで、再びウッドブロックが現れたこと、同じ旋律が現れたことに気付かせる <p>【評】曲想と音色など音楽の構造との関わりをとらえて聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がトライアングルをトレモロで打ち、楽器の名前と音を確認する。 ・向かい合ってそれぞれが動くことで、曲全体の形式感をつかませる。 <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】楽器の音色、リズムや旋律の反復と変化を聴き取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3種類の生き物と、それぞれの擬音を把握できるように板書する。 ・擬音の歌い方の工夫は「ジェットコースター」「虫のこえ」と系統性をもたせる。 ・歌い方の工夫から楽器選びの活動につなげる <ul style="list-style-type: none"> ・休符を感じながら、打つリズムをしっかりととらえさせる。 ・4段目は歌パートのまねっこになっていることに気付かせる。 ・1年の、擬音を楽器で表す学習と系統性をもたせる。 ・ウッドブロック、トライアングル、鈴、カスタネット、クラベス、小太鼓などの打楽器を用意する。 <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】楽器の音色やリズムを聴き取り、歌詞に合った楽器の音色を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1番の演奏で楽器の音の出し方が特徴的だった児童を取り上げ、全体で共有させる。 ・楽器は素材ごとにまとめて置いておき、児童が選べるようにする。

- ・歌いながら演奏して，試行錯誤しながら探す。
- ・最後の部分のリズムを工夫する。

- 発表して聴き合う。
 - ・歌に合わせて打ち，感想を共有する。
- 歌詞から動物を選んで，楽器で呼びかけっこする。
 - ・3段目のリズムや，最後の小節で作ったリズムを使って呼びかけっこする。
 - ・強弱に変化をもたせる。

【共通事項】リズム

- 【評】歌詞に合った楽器の音色や，リズムを工夫する活動を通して「主体的に取り組む態度」を評価する。
- ・音色や打ち方が歌詞に合っているかに注目して聴くように伝える。
- 【評】音色に気を付けて楽器を演奏する活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(2)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
 (2) 旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。
 (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070205_001

【教材名】夕やけこやけ（歌唱 共通教材）

(P. 38～P. 39)

【準備等】夕やけの写真や映像、範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「夕やけこやけ」を、情景を想像しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴き、曲の気分を感じ取る。 ★ ようすを 思うかべながら 歌おう ○ 音符に合わせたリズム打ちをして、旋律のリズムを確認する。 <p>○ 聴唱法で歌う。</p> <p>○ なめらかに歌う。</p> <p>○ フレーズのまとまりを生かして歌う。</p> <p>○ 歌詞の表す様子を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞を音読する。 ・ 歌詞から想像したことを伝え合う。 ・ 夕焼けを見たときの思い出や気持ちを伝え合う。 ・ 2 番の歌詞が表す時間や視線の変化を確認する。 <p>○ 曲の山をかんじ、気持ちを込めて歌う。</p> <p>○ 情景を想像しながら歌う。</p> <p>○ 友達の歌声を聴いた感想を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に 9 小節目のタッカのリズムを意識させる <p>【評】 旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫する活動を通して「思考・表現・判断」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 小節ずつ歌わせるとよい。 ・ 家庭で歌うことを課題にすると、夕やけや月を実際に見て歌うことができる。 ・ フレーズとは、旋律の自然な区切りをいう。一般的には、2，4，8 小節から成っているこの曲の 1 フレーズは、4 小節でできている ・ 夕焼けの写真や映像を活用してもよい。 ・ 「まなびリンク」の音声を活用してもよい。 <p>【評】 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の表す情景や気持ちと関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 フレーズ目をゆったりとのびのある声で歌わせる。 <p>【共通事項】 フレーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柔らかい発声に心がけさせる。 <p>【共通事項】 音色</p> <p>【評】 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】 歌詞や曲想を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名 めざせ 楽き名人(2)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想とフレーズなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、手の移動などの奏法や、階名で模唱したり範奏を聴いて演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律やフレーズ、反復を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつことができる。
- (3) 曲想にふさわしい演奏に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070206_001

【教材名】 こぎつね (歌唱 器楽) (P. 40～P. 41)

【準備等】 範唱CD, 範奏CD, 鍵盤ハーモニカ, 木琴, 鉄琴 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 曲の感じを生かして「こぎつね」を歌ったり、鍵盤ハーモニカで演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴いて「こぎつね」の曲の雰囲気をつかむ。 ★ きよくの かんじを 生かして えんそうしよう ○ 「こぎつね」を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞唱で歌う。 ・ 3・4小節目の繰り返す部分の強弱を工夫して歌う。 ・ 1～3番の歌詞の表す情景や気持ちを想像して歌う。 ・ 歌詞に合うように、声の感じや強弱を変えて歌う。 ○ 「こぎつね」を段ごとに演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 階名唱をする。 ・ 運指唱をする。 ・ 鍵盤の位置を確認する。 ・ 3の指や5の指の移動を確認する。 ・ 段ごとに演奏する。 ○ 曲の感じを生かして鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 「もっとあそぼう」に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4小節の音型を確認する。 ・ 重ねて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返される旋律のフレーズの強弱を変えて歌う。 (例) 強く→弱く 弱く→強く ・ 1～3番の歌詞に着目させ、それぞれが表す様子を確認する。 1番…山の中～気の葉っぱや木の実がたくさんある中で、おしやれをして遊んでいる。 2番…冬の山～遊ぶものがなくて退屈している。 3番…窮屈な穴の中で考え事をしている。 【共通事項】 旋律 フレーズ 反復 【評】 曲想とフレーズなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。 ・ 階名唱→運指唱→演奏を段ごとに行うとよい ・ 3の指と5の指の移動については、教科書P. 40で確認する。 【評】 手の移動などの奏法や、階名で模唱したり範奏を聴いて演奏したりする活動を通して「技能」を評価する。 ・ 歌詞唱での工夫を基に、楽器でも強弱などを工夫して演奏するよう伝える。 【評】 旋律やフレーズ、反復を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を工夫する。 ・ 学級の実態に応じて、歌で取り組ませたり、木琴や鉄琴で取り組ませたりするとよい。 ・ 休符に気を付けて演奏するよう伝える。 【評】 曲想にふさわしい表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 おまつりの 音楽

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 太鼓の音やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え、演奏の楽しさを見いだして聴くことができる。
- (3) 太鼓の音に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070207_001

【教材名】村まつり（歌唱） 日本のたいこ（鑑賞） (P. 42～P. 44)

【準備等】範唱CD、鑑賞CD（DVD）、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 曲のリズムを感じ取って「村まつり」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「村まつり」の曲の気分を感じ取る。 ★おまつりの 気分で 生き生きと 歌おう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・「村まつり」の意味を確認する。 ・歌詞唱する。 ・歌詞を音読し、時系列、様子や気持ちを確認する。 <p>例 1番＝朝から聞こえている 2番＝夜のにぎやかなお祭りの様子 3番＝豊年満作を祝う人々の喜ばしい気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「村まつり」の歌い方を工夫する。 ・3段目の歌い方を工夫する。 <p>例「ドンドン」…太鼓を表しているので力強く 「ヒャララ」…笛を表しているので歌うように</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「村まつり」をお祭りの気分で生き生きと歌う。 <p>2～3 日本のいろいろな太鼓の音楽の特徴を感じ取って聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「さんさおどりの太鼓」を聴き、気付いたことや感じたことを話し合う。 ★いろいろな たいこの 音を 楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・日本にあるいろいろな太鼓を知る。 ・地域で見たことがある太鼓を紹介する。 ・「さんさおどりのたいこ」の演奏の特徴を知り、注目して聴く。 ・気付いたことやよいなと思ったことを交流する。 ○「つがるじょっばりだいこ」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・演奏の特徴を知り、注目して聴く。 ・気付いたことやよいなと思ったことを交流する。 ○「ごじんじょだいこ」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・演奏の特徴を知り、注目して聴く。 ・気付いたことやよいなと思ったことを交流する。 ○「はちじょうだいこ」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・演奏の特徴を知り、注目して聴く。 ・気付いたことやよいなと思ったことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしながら歌わせるとよい。 ・地元にお祭りがある場合は、何をお祝いしているのか考えさせる。 ・3段目は太鼓と笛のオノマトペである。弾むリズムを生かして表現させる。 <p>【共通事項】リズム</p> <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】歌詞の表す情景や気持ちと曲想との関わりに気付きながら歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】互いの歌声や伴奏を聴いて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な和楽器として、和太鼓を紹介し、大きさや種類、打ち方も様々であることを伝える。 ・掛け声にも注目して聴かせる。 ・教科書の写真を見せ、一人一つの太鼓を下げ、両側から打つこと、全員が同じリズムを打ちながら踊り歩くことを伝える。 ・速さや強さに注目して聴かせる。 ・大きな太鼓を何人もの人が一緒に打つことを伝える。 ・ばちの長さにも注目させる。 <p>【評】太鼓の音や演奏の方法に興味をもって聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け声にも注目して聴かせる。 ・何人かが一つの太鼓を代わる代わる打ったり一緒に打ったりすることを伝える。 ・前回聴いた二つの太鼓と違い、別のリズムを打つ人がいることに気付かせる。 ・二人が一つの太鼓を両側から打つことを伝える。 ・二人が別のリズムで打っていることに気付かせる。 <p>【評】太鼓の音やリズムが生み出すよさを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(3)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 太鼓のリズムやつなげ方の特徴に、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに音楽の仕組みを用いて簡単な音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) リズムを聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、簡単なリズムをつくることで音楽づくりの発想を得たりどのように音を音楽にしていくなかについて思いをもったりすることができる。
- (3) 太鼓のリズムをもとに音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070208_001

【教材名】おまつりの音楽をつくろう（器楽 音楽づくり）（P.45）

【準備等】和太鼓、太鼓の代わりになる練習台（電話帳、割った竹、古タイヤなど） ばち（スティック）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 日本の祭りや太鼓の音楽の特徴を生かして、祭りの太鼓のリズムを考える。</p> <p>○まねっこリズムをする。</p> <p>★おまつりの 音楽を つくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の口唱歌をまねする。 ・口唱歌に手拍子を加える。 ・和太鼓でまねっこする。 <p>○太鼓のリズムをつくる。</p> <p>○つくったリズムを発表し合う。</p> <p>○太鼓の音楽を盛り上げる掛け声を考える。</p> <p>○グループでリズムをつなげ、音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つなぐ順番を考える。 ・つなぎ目やはじめと終わりに掛け声を入れる。 <p>○つくった太鼓のリズムと掛け声を呼びかけ合うように演奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前題材の「日本のたいこ」の演奏を1曲程度聴かせて、学習したことを想起させる。 ・扱うリズムをリズムカードで示す。 ・ばちのもち方を確認する。 <p>・教科書P.45の4種類のリズムパターンから2組（4小節分）を選んで太鼓のリズムをつくらせる。教科書を見るだけでは、リズムがつかめない児童もいると思われるので、1つつ「ドン ドコ」などと唱えながらリズム打ちをさせるとよい。</p> <p>【共通事項】リズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会形式でなく、つくったリズムをどんどんつなげて演奏していく形でよい。 <p>【評】自分や友達がつくったリズムを聴き取り聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくなか思いをもってリズムづくりをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ソーレー」「セヤッ」「ワッショイ」などから、4小節分選んで掛け声のパターンをつくる。 ・余裕がある児童には、リズムカード以外のリズムをつくらせるとよい。 <p>【評】太鼓のリズムをもとに音楽をつくる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祭りの雰囲気を思い出させ、体全体でリズムを感じて演奏させる。 ・他の人が演奏しているときも、体を動かしたり、掛け声をかけたりして拍を感じさせる。 <p>・クラス全体でつなげてよい。</p> <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】太鼓のリズムやつなげ方の特徴に、それらが生み出す面白さなどに関わらせて音楽づくりに生かす活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】音楽の仕組みを用いて簡単な音楽をつくる活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 クリスマスソングを 歌おう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、互いの声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 歌詞や旋律の特徴を聴き取り、それらの生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもったり、曲の楽しさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 歌詞が表す情景や、歌詞と旋律との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070209_001

【教材名】 ジングルベル（歌唱） クリスマスソングメドレー（鑑賞） (P. 58～P. 59)

【準備等】 範唱CD, 鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 情景を想像しながら「ジングルベル」を歌ったり「クリスマスソングメドレー」を聴いたりする。</p> <p>○ 範唱を聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>★クリスマスソングを 歌おう</p> <p>○ 「ジングルベル」の歌詞を読んで、情景を想像する。</p> <p>○ 情景を想像しながら、「ジングルベル」を歌う。</p> <p>○ 知っている曲を探しながら「クリスマスソングメドレー」を聴く。</p> <p>○ それぞれの曲を確認しながら「クリスマスソングメドレー」を聴き、雰囲気の変化を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「赤鼻のトナカイ」や「あわてんぼうのサンタクロース」など、児童の知っているクリスマスソングを歌って、楽しい雰囲気をつくり「ジングルベル」を聴かせる。 ・ 歌詞の言葉や教科書の挿し絵で、歌われている内容を確認して、情景を想像させる。 ・ そりが進むように、明るく軽快な感じで歌わせる。 <p>【評】 互いの声や伴奏を聴いて声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】 歌詞や旋律の特徴を聴き取り、それらの生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな曲があるか探しながら聴かせる。 <p>【評】 歌詞が表す情景を想像し、歌詞と旋律とを関わらせながら聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ できれば、メドレーになっていない状態で、それぞれの曲を聴かせ、旋律や雰囲気の変化を味わわせていく。 <p>【共通事項】 旋律</p> <p>【評】 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の表す情景や気持ちとを関わらせて聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】 歌詞や旋律の特徴を聴き取り、それらの生み出すよさや面白さを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(2)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や伴奏を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想に合った歌い方を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 曲想や歌詞を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070210_001

【教材名】 みんなで九九（歌唱）（P. 60～P. 61） アンダルコの歌（歌唱 器楽）（P. 64～P. 65） おまつりワッショイ（歌唱）（P. 64～P. 65） 音楽のおくりもの（歌唱 器楽）（P. 67）

【準備等】 範唱CD、鍵盤ハーモニカ、鉄琴、木琴、タンブリン、鈴、カスタネット など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～5 拍やリズムにのって歌ったり楽器を演奏したりする。</p> <p>○ 様子を思い浮かべながら「アンダルコの歌」を歌ったり楽器で演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴唱法で歌う。 ・ 階名唱をする。 ・ 連指唱をする。 ・ 鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・ 鉄琴パート、木琴パートを階名唱する。 ・ 鉄琴パート、木琴パートを演奏する。 ・ 歌と鍵盤ハーモニカ、鉄琴、木琴で合唱奏する。 <p>○ リズムにのって「おまつりワッショイ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴唱法で歌う。 ・ リズムにのって体をゆらしながら歌う。 ・ 「ソーレー」や「ドンドコ」の言葉のリズムを変えて歌う。 ・ 「ワッショイ」のポーズを考える。 <p>○ リズムにのって「音楽のおくりもの」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返しに気を付けて範唱を聴き、聴唱法で歌う。 ・ リズムにのって体を揺らしながら歌う。 <p>○ 手拍子や打楽器でリズム伴奏を付けながら「音楽のおくりもの」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リズム伴奏を手拍子で打つ。 ・ リズム伴奏を打楽器で打つ。 ・ 手拍子や打楽器でリズム伴奏をつけながら歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の景色を思い浮かべながら優しい気持ちで歌わせる。 ・ 「クルクルリン」や「ラルル」は回ったり、体を揺らしたりしながら歌詞に合った表現を工夫させるとよい。 ・ 4小節のフレーズで区切り、繰り返し歌わせる。 ・ フレーズの似ているところと違うところを意識させる。 ・ 同じ音が続くので、音符の長さや休符に気を付けさせる。 ・ さまざまなパターンで合唱奏させ、歌ったり演奏したりする楽しさを味わわせる。 <p>（例）・ 歌＋鍵盤ハーモニカ＋鉄琴＋木琴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ （全員で）歌→鍵盤ハーモニカ＋鉄琴＋木琴 ・ 鍵盤ハーモニカ＋鉄琴＋木琴→（全員で）歌 <p>【評】 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の表す情景や気持ちとを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱に合わせて明るい声で歌わせる。 ・ 「おまつりの音楽」を想起させ、太鼓をたたく身振りを入れさせてもよい。 <p>【共通事項】 リズム</p> <p>【評】 旋律や伴奏を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想に合った表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スウィングするリズムを感じ取って聴かせる <p>範唱を指でなぞりながら聴かせ、繰り返すところを確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「イ」から曲の雰囲気が変わることをに気付かせる。 ・ 範唱に合わせて明るい声で歌わせる。 ・ 「風になる」「花になる」「喜びがある」「幸せがある」など、似ている歌詞に気を付けて歌わせる。 <p>【共通事項】 リズム 音色</p> <p>【評】 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱に合わせて手拍子を繰り返し打たせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ タンブリン、鈴、カスタネットなどの小物打楽器を人数分用意し、児童に選ばせるとよい。 ・ 「イ」の部分の歌とリズム伴奏で合わせる。 ・ 「エ」の後の間奏の部分にリズム伴奏を入れてもよい。 <p>【評】 曲想や歌詞を生かした表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

- 範唱CDを聴いて「みんなで九九」を歌う。
- ★ はくや リズムを かんじて ひょうげんしょう
 - ・ 聴唱法で歌う。
 - ・ 段ごとに担当を決めて歌う。

- ・ さまざまなパターンで取り組ませることで、繰り返し歌わせ、曲に親しませる。
(例) ・ 列ごとに担当する段を決める。
 - ・ 好きな段を担当する。
 - ・ グループで取り組む。 など

【 備 考 】

単元名 きよくの ながれ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音色など音楽の構造との関わりに気付くことができる。
 (2) 楽器の音や旋律の反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) 楽器の音や旋律の反復・変化を聴き取ったり、音楽が表している情景を想像したりすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070301_001

【教材名】 そりすべり (鑑賞) (P. 46～P. 47)

【準備等】 鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「そりすべり」を、旋律や楽器の音に気を付けて聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「そりすべり」を、聞こえてくる音に気を付けて聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ★いろいろな 音や せんりつの うつりかわりを 楽しもう ・教科書の挿画などから、どんな音が聞こえてきそうか想像し、意見交流をする。 ・鈴の音や馬の歩く音に注意して聴き、それ以外にも聞こえてきた音があればメモをする。 ・聞こえてきた音の確認をする。 ○「そりすべり」を疑似演奏しながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・「鈴」「ひづめ」「パチン」「馬の鳴き声」の4チームに分かれ、音を鳴らすまねをしながら聴く。 ・曲の気分を感じ取って静かに聴く。 ○「そりすべり」を、旋律に注目し、体を動かしながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律が終わったと思うところで手を挙げる。 ・形式を確認しながら聴く。 <p>【形式】 前奏→ア→イ→ア→ウ→前奏→ア→イ→ア→コーダ ・グループで輪になり、曲に合わせて体を動かしながら聴く。 ア…輪になって回る。 イ…二人組になって回る。 ・「ウ」や「コーダ」の動きを考える。 ・発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「そりすべり」のよいところ、面白いところを見付けて聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・よいところや面白いところ、好きなところについて、意見を出し合う。 ・座って静かに曲を味わって聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴の音と馬のひづめの音は事前に確認しておく。 ・「パチン（馬への合図）」は鞭を模していることを伝える。 ・楽器のまねでも様子のまねでもどちらでもよい。 <p>【共通事項】 音色 【評】 曲想と、音色など音楽の構造との関わりをとらえて聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回注目した音ではなく、旋律に注目することを伝える。 ・児童の挙手に合わせて、形式を板書する。 <ul style="list-style-type: none"> ・8人ぐらいのグループがよい。 ・前奏は心の準備や隊形の整えに使うため、動きは考えさせない。 <p>【共通事項】 旋律 反復 変化 【評】 楽器の音や旋律の反復、変化を聴き取って身体表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを活用してもよい。 <p>【評】 楽器の音や旋律の反復・変化を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名 くりかえしと かさなり

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と反復や速度などの音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景との関わりに気付くとともに、互いの声や楽器の音を聴き、声や音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 楽器の音や、旋律や音型の反復と重なり、速度の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもったり、曲の楽しさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 反復や重なり、速度の変化を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070302_001

【教材名】 汽車は 走る (歌唱 器楽) しゅっぱつ (鑑賞) (P. 48～P. 49)

【準備等】 範唱CD, 鑑賞CD, 木琴, 鍵盤楽器, 太鼓など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「汽車は走る」を、歌や楽器で演奏したり「しゅっぱつ」を、様子を感じ取りながら聴いたりする。</p> <p>○「汽車は走る」の主旋律「ア」を歌詞唱する。</p> <p>★汽車の 走る ようすを 音楽で あらわそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、曲の感じをつかむ。 ・汽車が走る様子について、どんなところを走っていくのか想像し、意見交流する。 ・速度や歌い方を変えながら繰り返し歌う。 ・歩きながら歌ったり、汽車の動きを取り入れたりしながら歌う。 <p>○副次的旋律「イ」を加えて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱に合わせて、「イ」のパートを木琴で打つ。 ・「イ」のパートを歌う。 ・「イ」のパートを繰り返し歌い、慣れてきたら奇数回は「ガッタンゴットン」偶数回は「シュッシュッポッパ」で歌う。 ・「ア」と「イ」を合わせて歌う。 <p>○「汽車は走る」を、楽器で演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートの鍵盤の位置を確認し、楽器で演奏する。 「イ」…木琴 「ウ」…鍵盤楽器 「エ」…太鼓 など ・「ウ」と「エ」を拍にのせて合わせる。 ・「イ」を加える。 ・速度を工夫して演奏する。 ・「ア」を歌唱で加える。 <p>○「しゅっぱつ」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汽車に乗っている様子を想像し、体を動かしながら聴く。 ・聞こえてきた音や、想像した様子などについて、交流する。 ・速度の変化に気を付けて聴く。 <p>○汽車の様子を表しながら「汽車は走る」を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しゅっぱつ」の鑑賞での気付きを確認する。 ・駅から駅までをどのように進むのか意見を出し合い、進み方を決める。 (例) 駅を出発(少しずつ速く)→平らなところを走る(速さを変えない)→山を登る(遅く)→山を下る(速く)→町が近づいてくる(速さを変えない)→次の駅(少しずつ遅く) ・楽器を決めて演奏する。 ・楽器を交替しながら、聴く人と歌ったり演奏したりする人に分かれ、感想を伝え合う。 <p>○工夫したことや楽しかったことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山を登っていくときや下っていくときがそれぞれどのような感じになるかを問いかけ、歌う速さの工夫に結び付ける。 ・汽車の車輪の動きなどを取り入れると、様子をつかみやすい。 ・児童なりの自由な動きでよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使い、木琴の鍵盤を確認する。 ・「イ」のパートも、汽車の様子を考えて速度を変えながら繰り返し歌わせる。 <p>【共通事項】反復</p> <p>【評】曲想と、反復や速度などの音楽の構造との関わりを考えながら歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員がそれぞれの楽器を一度は体験できるよう、交替しながら演奏する。 ・太鼓は机を代用してもよい。 ・伴奏の部分だけを拍にのって速くしたり遅くしたりして繰り返し、そろえて演奏することの楽しさを感じられるようにする。 ・楽器だけで繰り返し演奏し、流れができてきたら主旋律をのせる。 <p>【共通事項】音の重なり</p> <p>【評】互いの声や楽器の音を聴き、声や音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅から出発していろいろなところを走り、駅に停車するまでを想像させる。 <p>【評】楽器の音や、旋律や速度の変化に気を付けて聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汽車の走る様子に合わせて、速度が変わったことを思い出させる。 ・汽車が走る様子について、児童の意見を板書し、速度や強弱、繰り返す回数などを全体で共有する。 <p>【共通事項】速度</p> <p>【評】反復や音の重なり、速度の変化を楽しみながら演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】速度の変化や旋律の繰り返しなどを工夫して、汽車の様子を表す演奏をする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(3)

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) リズムを聴き取り，その働きが生み出すよさを感じ取りながら，聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲想を感じ取って表現を工夫し，どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち，音楽活動を楽しみながら，主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070303_001

【教材名】雪（歌唱）（P. 77）

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「雪」を情景を想像しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴き，学習課題をつかむ。 ★ 雪のけしきを そうぞうしながら 歌おう ○ 聴唱法で歌う。 <p>○ 歌詞の様子を確認する。</p> <p>○ 曲の様子を思い浮かべて歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雪が降ったときの様子を話し合わせる。 ・ 力を抜いた，明るい声で歌わせる。付点のリズム（タッカ）と8分音符が2つ並んだリズムをしっかりと区別し，違いを表現に生かして歌わせていく。 ・ 歌詞を読み，「こんこ」など，分かりにくい言葉を説明する。 ・ 雪が降ったり積もったりした景色を見たときの，わくわくした気持ちを思い出させる。 ・ 雪景色を見たときのわくわくした気持ちを弾んだリズムにのせて，歌わせる。 ・ 歌に登場する動物になり，身振りを工夫しながら歌わせてもよい。 <p>【共通事項】リズム</p> <p>【評】リズムや伴奏を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】曲想や歌詞を生かした表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **みんなで 合わせて**配当時間 **4時間**

- 単元の目標** (1) 曲想と拍や旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、互いの歌声や音、伴奏を聴いて、声や音を合わせて歌ったり演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 拍やその流れ、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲想に合った表現を工夫し、どのように演奏したいかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 友達と歌声や音を合わせることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070304_001

【教材名】 ウンパッパ（歌唱） ティニックリング（鑑賞） チャチャマンボ（歌唱 器楽） マンボナンバーファイブ（鑑賞） （P. 50～P. 53）

【準備等】 範唱CD、鑑賞CD、鍵盤楽器、木琴、マラカス など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 体を動かしながら「ウンパッパ」を歌ったり「ティニックリング」を聴いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ウンパッパ」を、拍やその流れにのって歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ★みぶりを つけて みんなで 歌おう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、曲の感じをつかむ。 ・繰り返し歌う。 ・3拍子の流れを感じ、のびのびと体を動かしながら歌う。 ・「ア」と「イ」で、リズムに合った動きを工夫する。 ○「ティニックリング」を、拍やその流れに注目して聴く <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かしながら聴く。 ・「ウンパッパ」と似ているところを伝え合う。 ○「ティニックリング」の音楽に合わせて、膝打ちや手拍子などで3拍子のリズムを打つ。 ○「ウンパッパ」を「ア」と「イ」の旋律を重ねて歌詞唱する。 <p>3～4 リズムを感じ取って「マンボナンバーファイブ」を聴いたり「チャチャマンボ」を演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「マンボナンバーファイブ」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ★音をえらんで 合そうする 楽しさを あじわおう <ul style="list-style-type: none"> ・リズムにのって手拍子したり、体を動かしたりしながら聴く。 ・掛け声を入れて雰囲気を楽しむ。 ○「チャチャマンボ」を歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲の感じをとらえる。 ・マンボの独特のリズム（8分休符）に気を付けて歌う。 ・「いたずらっこ」「おこりんぼ」「なかよし」のイメージを歌で表す。 ・「ウ」の手拍子を入れて歌う。 ○「チャチャマンボ」の合奏をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ア」の階名唱と運指唱をする。 ・「ア」を楽器で演奏する。 ・「イ」は鍵盤とリズムを確認し、木琴で演奏する。 ・「ウ」は手拍子以外の楽器や、声で合わせる。 ○「チャチャマンボ」を、歌詞に合った歌い方や音で表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな歌い方が合うか意見を出し合う。 ・最後の小節の掛け声を考える。 ・1番、2番、3番で、それぞれ使う楽器を考える。 ・歌と楽器で合わせて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ア」と「イ」の感じの違いに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> 「ア」…流れるような3拍子 「イ」…拍を感じ取りやすい3拍子 ・リズムに合った動きをしている児童を取り上げ、全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> 【共通事項】 拍 ・調性の違う2種類の旋律で構成されているので、旋律の変化にも気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> 【共通事項】 旋律 【評】 曲想と音楽の構造とを関わらせて聴く活動を通して「知識」を評価する。 ・膝打ちや手拍子だけでなく、机を打ったり、足踏みを入れたりしてもよい。 ・二つのグループに分け、最初に歌い始めたグループが「イ」に入るとき、もう一つのグループが「ア」から歌い始める輪唱のような形が重ねやすい。 ・歌うグループと聴くグループに分け、互いの重なり方を聴き合わせてもよい。 【評】 友達と異なる旋律を重ねて歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・自由に体を動かして表現するよう伝える。 ・掛け声をまねしたり、楽器を演奏するまねをしたりさせる。 ・リズムや音色に合った動きをしている児童を取り上げ、全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> 【共通事項】 音色 ・リズムにのって歌うことを大切にしよう伝える。 【評】 拍やその流れ、リズムの生み出すよさや面白さを感じ取りながら聴いたり歌ったりする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・楽器を交替しながら活動させる。 ・楽器を演奏するチームと聴くチームに分け、互いの演奏を聴き合わせる。 【評】 互いの歌声や伴奏を聴き、リズムや音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。 ・1番、2番、3番で使う楽器を交替させ、全員で演奏させる。 ・「ウ」は声、手拍子、楽器など、幅広く選択できるので、演奏の工夫がしやすい。 <ul style="list-style-type: none"> 【共通事項】 音の重なり

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(4)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 音型の反復や重なりについて、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、音楽の仕組みを用いて簡単な音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) 拍やリズムの反復、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていくなかに思いをもったり、自分たちのつくった音楽と共通するところや、曲の楽しさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 音型を組み合わせる音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070305_001

【教材名】「ウィーンの音楽時計」(鑑賞) 「おしゃべり音楽時計」(歌唱 音楽づくり) (P. 56～P. 57)

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、木琴、鉄琴、鈴、トライアングルなどの打楽器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「ウィーンの音楽時計」を鑑賞したり「おしゃべり音楽時計」を歌や楽器で演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ウィーンの音楽時計」を聴き、何を表している曲かを当てる。 ★時計の音楽の おもしろさを あじわおう。 ○楽器の音や聴こえた音型を発表し合う。 ○発表した音色や音型を意識しながら、もう一度聴く。 ○旋律が重なり合う面白さを感じ取りながら「おしゃべり音楽時計」を歌ったり楽器で演奏したりする。 <ul style="list-style-type: none"> 主旋律を歌詞唱する。 鉄琴パートを楽器や歌で繰り返し演奏する。 主旋律と鉄琴パートを合わせて演奏する。 <p>3～4 自分たちの音楽時計をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽づくりに必要なリズムの確認をする。 ★みんなの 音楽時計をつくろう <ul style="list-style-type: none"> ア～エのリズムパターンを繰り返し打つ。 ○グループで音楽時計をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> パート決めをする。 それぞれの音型の組み合わせ方や重ね方を工夫する。 ○中間発表をし、グループの音楽時計を仕上げる。 <ul style="list-style-type: none"> 各グループの発表を聴き合い、気付いたことや面白かったことなどを伝え合う。 中間発表を振り返り、各グループで仕上げる。 ○発表する。 ○もう一度「ウィーンの音楽時計」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> 気付いたことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 最近では、秒針の無い時計も多い。秒針のある時計を準備しておき、針の動く音や動きの面白さをつかませるとよい。 初めは、教科書を見せずに鑑賞させるとよい。 トライアングルなど、児童が知っている楽器の音を発表させる。また、「チクタク」「キンコンカンコン」など聴こえた感じを言葉で発表させる。 刻んでいるリズムに合わせて身体表現をさせてもよい。楽器の実物を見えるようにしておくとうきやすい。 「汽車は走る」の「ア」「イ」のパートと同じ構造であることを確認する。 【共通事項】音楽の縦と横との関係 【評】時計を表す音型の反復や重なりについてそれらが生み出す面白さなどに関わらせながら歌や演奏で表現する活動を通して「知識」を評価する。 鍵盤の位置を確認する。 トライアングルや鈴などの楽器の奏法を確認する。 全員分の楽器が準備できない場合は、指などを使って練習させる。 拍を意識してリズムを打たせる。 教科書P. 57の「えんそうのれい」を参考に、始め方や終わり方を工夫させる。 強弱や繰り返す回数などを決めさせる。 【共通事項】反復 強弱 【評】音型の反復や重なりなど、音楽の仕組みを用いて簡単な音楽づくりをする活動を通して「技能」を評価する。 他のグループの演奏を聴いて、面白かったところやよかったところを自分たちのグループの演奏に取り入れさせるとよい。 【評】音型を組み合わせる音楽づくりをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 自分たちがつくった音楽時計との共通点を見付けながら聴かせる。 【評】拍やリズムの反復、強弱を聴き取り、自分たちのつくった音楽と共通するところや、曲の楽しさを見いだして聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(4)

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、自分の歌声や発音に気を付けて歌う技能や、階名で模唱したり暗唱したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070306_001

【教材名】春がきた（歌唱 共通教材）

(P. 54～P. 55)

【準備等】範唱CD，春の風景の絵や写真，映像，鍵盤ハーモニカ

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 「春がきた」（共）を、楽曲の気分にあふさわしい声で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 春の様子を思い浮かべ、「春がきた」の範唱を聴く。 ★ 春を むかえる 気もちになって 歌おう ○ 歌詞を読み、情景をつかむ。 <p>○ 聴唱法で主旋律を歌う。</p> <p>○ 声の出し方や曲の山に気を付けて歌う。</p> <p>○ 最後の小節を部分二部合唱にして歌う。</p> <p>○ 鍵盤ハーモニカで演奏する。</p> <p>○ 歌と鍵盤ハーモニカで演奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春の情景や春が感じられる言葉を発表させることにより、曲に対する関心をもたせる。 ・ 対話しているような歌詞を生かし、2人で分担して朗読させ、その感じを歌に生かすように助言する。 <p>【評】曲想と歌詞とを関わらせて朗読する活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞唱に加え、階名唱を取り入れると、音程がつかみやすい。また、鍵盤ハーモニカの演奏に取りかかりやすい。 <p>【評】自分の歌声及び発音に気を付けて歌ったり、階名で歌ったりする活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「のにも～」の曲の盛り上がるころは、力を抜いて、柔らかい発声でたっぷり歌わせていく。「タン タタ タン タン」のリズムが何度も繰り返し出てきて、その音程がだんだん高くなることで、春に対する嬉しい気持ちの高まりを表していることに気付かせていく <p>【共通事項】旋律 リズム</p> <p>【評】旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にあふさわしい表現を工夫して歌う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手パートの声をよく聴くように助言する。 ・ 始めのソの音は3番（中指）から始めると弾きやすい。 ・ 列などでパートを分担し、交代して演奏させてもよい。 <p>【評】曲想を生かした表現に興味をもち、歌ったり楽器で演奏したりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(3)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付くとともに、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や伴奏を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想に合った歌い方を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いをもつことができる。
- (3) 曲想や歌詞を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

02070307_001

【教材名】さんぽ（歌唱 器楽） (P. 68～P. 69)

【準備等】範唱CD、鍵盤ハーモニカ

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 足踏みや身体表現をしながら「さんぽ」を歌ったり、演奏したりする。</p> <p>○ 範唱を聴いて曲の感じをつかむ。</p> <p>★ リズムにのって 楽しく 歌ったり えんそうしたりしよう</p> <p>○ 体を動かしながら「さんぽ」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴唱法で歌う。 ・ 歌詞に合った動きを考える。 <p>(例) 「一本橋」「でこぼこ砂利道」「きつね」「たぬき」「とかげ」「へび」 など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手話や足踏みをしながら歌う。 <p>○ 「さんぽ」を鍵盤ハーモニカで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鍵盤ハーモニカパートの階名唱や運指唱をする。 ・ 鍵盤ハーモニカで演奏する。 <p>○ 「さんぽ」を合唱奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動きを付けやすい歌詞を取り上げ、歌詞に合った動きを全体で共有しながら歌う。 ・ グループごとに動きを考えさせてもよい。 ・ P. 69の手話を紹介し、歌詞と照らし合わせながら確認する。 <p>【評】自分の歌声及び発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の表す情景や気持ちとを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伴奏や歌詞に合わせた音の出し方を工夫させる。 <p>【評】旋律や伴奏を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに歌、演奏、手話、身体表現などの担当を決めて活動してもよい。 <p>【共通事項】拍</p> <p>【評】曲想や歌詞を生かし表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 スキルアップ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌ったり呼吸や発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れやその変化、歌声を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことを感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞の持つメッセージを歌にのせたりリズム遊びしたりすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070101_001

【教材名】小さな世界（歌唱） ア ラム サム サム（歌唱） <リズムなかま>で楽しもう！（音楽づくり） (P.2～P.5)

【準備等】範唱CD、メトロノーム

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「小さな世界」を歌うことを通して、歌い方の技術を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○曲の気分を感じ取って歌詞唱する。 ★リズムを うちながら 楽しく 歌おう ○前半と後半の曲想の違いを生かして歌う。 ○前半と後半を重ねて二部合唱する。 <p>2 「ア ラム サム サム」を輪唱することを通して、歌声の重なりやリズム打ちの楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○拍を感じながら歌詞唱する。 ★<リズムなかま>で楽しもう！ ○リズムを打ちながら歌詞唱する。 ○口形、表情を意識して言葉が伝わるように歌詞唱する。 ○音程や声の出し方を意識させたり、友達と声を合わせる楽しさを感じ取ったりするために、ゆっくり・速く・だんだん速く・だんだんゆっくりなど、速度を変えて歌詞唱する。 ○互いに聴き合い、輪唱を楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・リズム打ちを入れる。 ・速度を変える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の学習への期待を膨らませ、主体的に取り組むことができるよう、まずは明るく楽しく歌うことが大切である。 ・世界の子どもの挨拶を見ながら、歌詞のもつメッセージを理解させる。 ・前半の跳躍と、後半のゆるやかなフレーズの発声に気を付けさせる。 ・児童の実態から、旋律を重ねて歌うことが難しいければ、まずは斉唱の扱いのみで十分である。 ・秋には「遊び歌めぐり」の題材の導入として歌うこともできる。 ・範唱を聴き、曲に慣れさせる。 ・拍にのって体を動かしながら歌わせる。 ・足踏みや手拍子を入れて歌詞唱させる。 ・口がしっかり動いているか、互いに見合ったり鏡を見て確認したりするとよい。 ・速度を変えるときは、メトロノームを使ったり、教師の指揮によって変化をさせたりして速度変化を楽しませる。 ・響きを聴き合いながら拍にのって輪唱させる ・リズム打ちは、教科書p5<リズムなかま>で楽しもう！のリズムパターンを打ったり、リズムアンサンブルに合わせて歌ったりしても楽しめる。 ・授業の導入で使うレパートリーとし、歌い慣れてきたら二人でカノンをする。

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(1)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
(2) 旋律の流れやそのまとまりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
(3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070102_001

【教材名】春の小川（歌唱 共通教材）

(P.6～P.7)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 曲の気分を感じ取り、歌詞の内容にふさわしい表現を工夫して歌う。 ○ 範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ★ ようすや旋律に合った声や歌い方を見つけよう</p> <p>○ 歌詞の表わしている情景や、曲想に合った歌声について考えて歌う。</p> <p>2 歌声や発音に気を付け、旋律の反復や変化を捉えながら表現を工夫して歌詞唱する。 ○ 旋律のまとまりから、ブレスの位置に気を付けて歌う。</p> <p>○ 旋律の流れや曲想について確認し、ふさわしい歌い方で歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の挿画などを基に、言葉の内容を理解させる。 「花々や鳥たちにささやきかけているような小川の様子」を思い浮かべることで、歌詞の内容を理解させる。 旋律のまとまりを意識しながら歌詞唱させる <p>【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の内容との関わりを意識して歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞を音読させ、「さらさら」からイメージする情景について話し合わせる。 <p>【評】歌詞や曲想を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> 各フレーズの初めの2音にスラーがかかっている。4分音符が途切れないように注意して歌い始めると、3小節目の盛り上がりを生かしやすい。 <p>【評】呼吸や発音の仕方に気を付けてながら歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 似ている旋律や違う旋律を探し、曲の進み方を確認させる。 <p>【評】旋律の流れやそのまとまりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 楽ふとドレミ

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音階など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や音の重なり、音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) ハ長調の視唱視奏や輪唱輪奏による旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070103_001

【教材名】キラキラおひさま (歌唱 器楽) ドレミの歌 (歌唱 器楽) (P. 8～P. 11)

【準備等】範唱CD, オルガン, 鍵盤ハーモニカ, 音符カード, 鉄琴など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「キラキラおひさま」を歌ったり演奏したりし、音符や五線について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「きらきらおひさま」を歌詞唱する。 ★ドレミで歌ったりえんそうしたりしよう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・歌詞唱する。 ○＜楽ふのお話＞のページで、音符や記号、五線などについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・音符の名前と長さを知る。 ・音の長さを矢印で図に書き込む。 ・五線と音の高さについて知る。 ○「キラキラおひさま」を階名唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・五線の高さと階名について理解する。 ・楽譜を見て階名唱する。 ○「キラキラおひさま」を楽器で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、楽譜を見ながら階名唱する。 ・運指唱をする。 ・「指くぐり」や「指またぎ」を確認する。 ・伴奏に合わせて、ゆっくり練習する。 ○「キラキラおひさま」を輪奏・輪唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・演奏に慣れてきたら、グループに分かれて演奏する。 ・階名唱グループと楽器グループに分けて、歌を楽器が追いかける形も試してみる。 <p>3～4 「ドレミの歌」を、音の高さに気を付けながら合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ドレミの歌」を歌詞唱する。 ★ドレミで楽しく歌おう <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を見ながら範唱を聴き、曲を思い出す。 ・アの部分を歌詞唱する ・教科書の網掛けの音の階名と、音の高さの関係を感じながら歌う。 ・アの部分をリズムや音程に気を付けて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・黒板の五線譜を見ながら歌う。 ・イウとエの部分の主旋律を、ゆっくりと階名を確かめながら歌う。 ・イウとエの部分の主旋律の階名を覚え、楽譜を見ながら歌う。 ・イウとエの部分を、ドレミのたいそうをしながら歌う ・全曲通して歌詞唱する。 ○「ドレミの歌」を二部合唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、全曲歌詞唱をする。 ・イウとエの部分の主旋律の階名を確認しながら歌う。 ・ウの部分の下声部の階名を確認する。 ・二つのグループに分かれ、ウの上声部と下声部を重ねて歌う。 ・音の重なりを聴き取り、強弱やバランスに気を付けて歌う。 ○「ドレミの歌」を、楽器も加えて二部合唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・アの網掛けの音を楽器で打って合わせる。 ・＜ドレミのたいそう＞など階名ごとに動作を付けて歌う。 ・明るくのびやかな声で歌い合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この段階で輪唱してもよい。 ・黒板に五線や音符を提示し、名称や表している長さを視覚的にわかりやすく示す。 ・既習のものと新出のものを確認する。 ・楽譜とドレミの関係を理解できるようにする ・P 9の図を基に視覚的にも理解させる。 ・五線と階名については、五線上に白抜きの音符のカードをいろいろな場所に動かして音符を読むなど、興味をもって取り組ませる。 【新出】付点2分音符 付点4分音符 ト音記号と五線 小節 縦線 終止線 【共通事項】音階 調 【評】曲想と、音階など音楽の構造や歌詞の内容を関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。 ・楽譜とドレミの関係を復習する。 ・「指くぐり」「指またぎ」は、2年生「ドレミのトンネル」の学習を思い出させる。 ・拍にのって合わせるように注意させる。 ・鍵盤ハーモニカで輪奏するのもよい。 【評】ハ長調の視唱視奏や輪唱輪奏を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・この曲は1年生でも歌っている。4年生で学習する「サウンド オブ ミュージック」の挿入歌であることにも軽く触れる。 ・五線にハ長調の音階を書いたものを掲示し、視覚的にも楽譜と階名の関係を捉えるようにさせる。 ・1年生「どれみのたいそう」を参照すること 【共通事項】音階 調 【評】範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う活動を通して「技能」を評価する。 ・楽譜とドレミの関係を復習する。 ・「指くぐり」「指またぎ」は、2年生「ドレミのトンネル」を参照する。 ・拍に合わせるように注意させる。 ・声の大きさを競い合わないようにして、互いの声を聴き合って歌うようにする。 ・鉄琴やトーンチャイムなどで、網掛けの音を打つ。 【評】旋律や音の重なり、音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(2)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 旋律のもつリズムの反復や、休符の効果、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律のもつリズムの反復を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主低的・協働的に学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070104_001

【教材名】茶つみ（歌唱 共通教材）

(P. 12～P. 15)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～2 「茶つみ」（共）を歌い、手合わせをして楽しむ。 ○曲の気分を感じ取る。 ★手合わせをして楽しくうたおう ・教科書の写真を見ながら範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ○歌詞を理解して歌詞唱する。 ・歌詞を音読し、言葉を確認する。 ・歌詞の表わす情景や気持ちを理解して歌詞唱する。 ○旋律の特徴に気付き、拍にのって歌詞唱する。 ・段ごとの旋律を比べ、気付いたことを交流する。 ・格段の最初の休符や、最後の休符を意識しながら、拍にのって歌う。 ○友達と手合わせしながら歌う。 ・手合わせのやり方を確認する。 ・拍にのり、速度を一定に保って手合わせして歌う。	・茶摘みについて知っていることがあれば交流させ、写真や挿画、教科書P15のコラムの内容について確認する。 ・写真や絵、資料を見ながら、難語句の意味を解説し、茶摘みの様子を想像させる。 【評】歌詞や曲想を生かして表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・曲にふさわしい速さをつかんで歌わせる。茶を摘んでかごに入れる動作を模倣させるとよい。 【共通事項】拍 【評】旋律のもつリズムの反復や、休符の効果、曲想と歌詞の内容を関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。 【評】旋律のもつリズムの反復を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・2人組で手を打ちながら楽しく歌わせる。 【評】互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 こんにちは リコーダー

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) リコーダーの音色と演奏の仕方の関わりに気付くとともに、音色や響きに気を付け、互いの音や伴奏を聴いて音を合わせて演奏する技術や、設定した条件に基づいて即興的に音を選んだりつなげたりする技能を身に付けることができる。
- (2) リコーダーの音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するのかについて思いや意図をもったり、即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得たり、リコーダーの演奏のよさを見い出して聴いたりすることができる
- (3) リコーダーによる表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070105_001

【教材名】リコーダーは歌う（鑑賞） シンシでおはなシ（歌唱 器楽） にじ色の風船（器楽） ゆかいなまきば（歌唱 器楽） シラソでリレー（音楽づくり） (P.16～P.23)

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、リコーダー（ソプラニーノ・ソプラノ・アルト・テノール・バス）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「リコーダーは歌う」を聴いてリコーダーに関心をもつとともに、基本的な奏法を知る。</p> <p>○リコーダーにはいろいろな種類があることを知り、様々な音色で演奏できることを知る。</p> <p>★どんな 音 が するかな</p> <p>○リコーダーの扱い方や奏法を知る。穴の塞ぎ方、息の出し方、タンギングについて理解する。</p> <p>○「シ」の音であいさつをし合って、息の出し方やタンギングに慣れる。</p> <p>○「シンシでおはなシ」にあいさつのリズムを組み込んで演奏する。</p> <p>2 シ、ラ、ソの指遣いを習得し、演奏したり即興的に表現したりする。</p> <p>○シ、ラの音や「にじ色の風船」を教師が模奏するのを聴き、指遣いを確認する。</p> <p>★シラソの音で 遊ぼう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの美しい演奏を聴かせ、リコーダーとの出会いを大切にし、学習の意欲付けをする。 ・4種類のリコーダー（ソプラニーノ・アルト・テナー・バス）はできれば実物を用意し、音を聴かせるとよい。 ・演奏方法による雰囲気の違いを感じ取らせる ・演奏に使われているリコーダーの種類の組み合わせとその響きの違いを聴き比べさせるとよい。 【共通事項】音色 旋律 【評】リコーダーの音色、各曲の旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・P16の写真を基に、ウィンドウ（まど）、吹き口、頭部管、中部管、足部管、裏穴について確認し、大切に扱うことを約束させる。 ・導入時に頭部管だけでいろいろな音を出して楽しむと「音をつくる」意識が芽生える。 ・「トゥー」のタンギングは強い音になってしまいがちなので、「ルー」のタンギングを使うとよい。 ・「まなびリンク」の動画を活用するとよい。 【新出】タンギング ・タンギングで区切りながら「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「またあした」などのリズムを付けて演奏させる。 ・教師と児童、友達と交互に演奏するなど、いろいろなパターンであいさつをして「シ」の音に慣れさせる。 【新出】リコーダー「シ」の運指 【評】リコーダーで音を出したり音で関わり合ったりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・交互に歌ったり一緒に歌ったりして、曲の感じをつかませる。 ・様々なパターンで2グループに分けて行う。慣れてきたら「おはよう」「かくれんぼ」の部分を変えてあいさつや遊びに変えて行う。 【評】リコーダーの音色と演奏の仕方とを関わらせて演奏する活動を通して「知識」を評価する。 ・「ラ」の音をロングトーンで十分に練習してから「シ」の音を加えて練習する。 ・P21にあるように、「シ→ラ」「ラ→シ」から始め、徐々に「シ→ラ→シ」「シ→ラ→ラ」「シシララシ」というように音を増やしていき、「にじ色の風船」に出てくるフレーズ

○「にじ色の風船」を伴奏に合わせて演奏する。

○「ゆかいなまきば」を歌い、シ、ラ、ソの部分のみ取り出してリコーダーで演奏する。

○＜シラソでリレー＞シラソの3音を、いろいろな音の順番で四分音符のリズムで吹いてつなげる。

につなげていくとよい。

【新出】リコーダー「ラ」の運指

- ・タンギングの確認をさせる。
- ・階名で歌いながら、リコーダーの運指を確かめさせる。
- ・毎時間のリコーダーを行う時に導入曲として扱ってもよい。

【評】リコーダーの音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら演奏する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・「イーアイ イーアイ オー」の部分を、全員がリコーダー演奏するパターン以外に、歌う人とリコーダー演奏にする人に分けたり、聴く人と演奏する人に分けたりしながら、互いの演奏を聴き合うとよい。

【新出】リコーダー「ソ」の運指

- ・4分音符をしっかりと感じて演奏させる。教師役を、代表の児童に交代してやってみる

- ・キーボードなどのリズムパターンやメトロノームを使って、拍の流れを意識させる。
- ・授業の始まりや終わりにリコーダーを吹く時間を継続的に設定し、定着していくようにする。

【共通事項】拍

【評】音色や響きに気を付け、互いの音や伴奏を聴き、音を合わせて演奏したり、設定した条件に基づいて即興的に音を選んだりつなげたりする活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 歌声ひびかせて

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、呼吸及び発音の仕方に気を付け、自然で無理のない歌い方で歌う技能、ハ長調の楽譜を見て歌う技能を身に付けることができる、
- (2) 旋律のもつリズムや流れ、歌声を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 旋律の特徴を生かした歌唱表現の工夫に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070106_001

【教材名】この山光る（歌唱） ホルディリディア（鑑賞） (P. 24～P. 25)

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「この山光る」を歌声に気を付けて歌う。</p> <p>★きれいなひびきで生き生きと歌おう</p> <p>○「この山光る」を歌詞唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・歌詞の内容を理解し、歌詞唱する。 ・階名唱して、旋律の流れや音の躍動に気付く。 <p>○ふさわしい歌声を探して歌詞唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いところから歌うような声で「ヤッホー」と言うてみる。 ・上記の声を基に、「ホラヒ ホラホ」の部分の高い声を意識して歌い、互いに聴き合う。 ・「ホルディリディア」を高音を歌う声に注目して聴く ・「この山光る」を歌声に気を付けて歌詞唱する。 <p>○「この山光る」の旋律の特徴について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時を思い出し、高い声で「ヤッホー」と言うてみて声を確認する。 ・前時を思い出し、歌声に気を付けて歌詞唱する。 ・旋律のリズムを手で打ちながら歌ってみて、アの部分は8分音符が多くリズムが細かいことや、イウで曲想が変わることに気付く。 ・山のマークのついた箇所同士を比較し、イウはリズムが拡大していることに気付く。 ・アイウそれぞれ、どんな歌い方をすればよいか出し合い、試してみる。 <p>○旋律の特徴を生かして歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アを全員で、イウをグループで交代しながら歌い、歌声を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ファレ→シ」「ソミ→ド」の跳躍に気付かせ、跳躍したシやドの歌声を意識させる。 <p>【共通事項】音色 旋律 変化</p> <p>【評】曲想と旋律など音楽の構造や歌詞の内容とを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のどに力をかけないで、高く響くきれいな声を探す。 ・ブレスを意識させる。 ・ヨーデルの演奏は、低・中音は地声で歌うことが多い。ここでは高音の歌声に注目させる <p>【評】旋律の特徴を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い声で「ヤッホー」という活動を、発声練習も含めて行う。 ・教科書P. 25＜学び合う音楽＞を基に、主体的に学ばせる。 <p>【評】旋律のもつリズムや流れ、歌声を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は二部合唱になる部分のみ取り出し、ゆっくり丁寧に合わせてから、全曲通して歌わせる。 ・歌うグループと聴くグループに分かれて聴き合うとよい。 ・ブレスや旋律の流れに気を付けて歌うようにさせる。 <p>【評】呼吸及び発音の仕方に気を付けて歌ったり、ハ長調の楽譜を見て歌ったりする活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(1)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 様々な声の出し方やつなげ方の特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付くとともに、設定した条件に基づいて即興的に声の出し方を選択したり、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けたりすることができる。
- (2) 声の音色や高さ、強弱、長さなどを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関りについて考え、即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得たり、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりすることができる。
- (3) さまざまな声の出し方を試し、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070107_001

【教材名】いろいろな声で表げんして遊ぼう

(P. 26～P. 27)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 いろいろな声や音を組み合わせ、音楽の仕組みを生かした「ヤッホー」の音楽をつくる。</p> <p>★いろいろな声で表げんして遊ぼう</p> <p>○いろいろな声の「ヤッホー」を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 26の「ヤッホー」を参考に、いろいろな声で表現する。 いろいろな「ヤッホー」を使って、まねっこをしたりよびかけっこしたりして遊ぶ。 各自がつくった「ヤッホー」を使って、グループで表現する。 <p>○音楽の仕組みを生かして、まとまりを意識した音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに仕組みをどのように組み合わせるか、何度も試しながら考える。 <p>○つくった音楽を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どのようなイメージで「ヤッホー」を表現したか、声に出して確かめながら教科書に記録させる。 いろいろな声で「ヤッホー」を言うときは、児童の発想を大切にする。まずは、例を参考にペアまたはグループで一つずつ試してみてもよい。 例にある仕組み（よびかけっこ、まねっこ、リレー、重ねる）を教師と児童で実際にやってみたり、代表児童による模範演奏を示したりする。 なぜそのように表現したか、音色、強弱、言葉の抑揚などを価値付けし、児童が表現することを楽しめるようにする。 <p>【共通事項】音色 強弱 呼びかけとこたえ</p> <p>【評】様々な声の出し方を試す活動を通して「主体的に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】様々な声の出し方やつなげ方の特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどと関わらせながら声を出す活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕組みに関しては、これまでの学習で触れているものもあるが、一つずつ丁寧に確認する <p>【評】声の音色や高さ、強弱、長さなどを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、音楽をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 拍の流れにのって表現できるように、教師が打楽器で拍を打ったり、自分たちで手拍子をさせたりするとよい。 <p>【評】設定した条件に基づいて即興的に声の出し方を選択したり、音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(1)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で歌ったり、音色に気を付けて歌ったりすることができる。
- (2) 旋律のもつリズムや流れを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070108_001

【教材名】 It's a Small World (歌唱) 世界中の子どもたちが (歌唱) マン
ガニ、雨とおどろう (歌唱) えんやら ももの木 (歌唱 器楽) (P. 62～P. 65)

【準備等】 範唱CD 範奏CD

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～5 「It's a Small World」「世界中の子どもたちが」「マンガニ、雨とおどろう」「えんやら ももの木」を、曲想を感じ取って歌ったり、「森のささやき」を演奏したりする。</p> <p>○「It's a Small Woald」の範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>★のびのびと楽しんで歌おう</p> <p>○主旋律を歌ったり、演奏したりする。</p> <p>・聴唱法で歌う。</p> <p>○表現を工夫する。</p> <p>・歌詞や旋律の流れを捉え、どんな気持ちで表現するとよいか話し合う。</p> <p>・工夫して表現する。</p>	<p>・明るい曲想を感じ取らせる。</p> <p>・愛唱歌として毎時間授業の始めに歌わせるとよい。</p> <p>・＜歌に合わせてカップリズムで遊ぼう＞を取り入れるとよい。</p> <p>・学校の実態に合わせて、曲を選択して取り扱う。</p> <p>・「マンガニ、雨とおどろう」については、副次的な旋律や手拍子、楽器などを重ねる。</p> <p>・明るい声で、伸びやかに歌うようにさせる。</p> <p>【評】呼吸及び発音の仕方に気を付けて歌ったり、音色に気を付けて演奏したりする活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】旋律のもつリズムや流れを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】歌詞や曲想を生かして表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **にっぽんのうた みんなのうた(3)**

配当時間 **1時間**

単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
(2) 旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関りについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
(3) 季節との関わりや曲想に合った表現に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070201_001

【教材名】うさぎ（歌唱 共通教材）

(P. 28～P. 29)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 曲の気分を感じ取り、歌詞の内容を理解して歌詞唱する</p> <p>○範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ★秋を感じ、様子をそうぞうしながら歌おう</p> <p>○挿画を見て、歌詞を音読する。</p> <p>○「お月見の話」を読み、十五夜やお月見の行事について知っていることを交流する。</p> <p>○呼びかけ合いに気付き、前半と後半を交互に歌う。</p> <p>○やさしく話しかけるような歌い方で歌う。</p> <p>○情景を想像しながら歌い、単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な曲の感じを、体感させる。「かごめ かごめ」や「花いちもんめ」「おちやらか」など、よく知られているわらべ歌を聴かせたり歌わせたりすると、感じをつかみやすい。 【評】曲想と旋律など音楽の構造や曲想と歌詞の内容とを関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する。 ・教科書の絵を見て、想像させながら紹介するとよい。 ・日本の秋の様子を思い浮かべさせる。 【評】季節との関わりや曲想に合った表現について話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・うさぎの気持ちになって人間に答えるような歌い方をさせる。 ・ペアで歌わせるのもよい。 【共通事項】呼びかけとこたえ 【評】旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・情景を思い浮かべ、話し掛けるような歌い方で歌う。 ・自然で無理のない発声を意識させる。 ・フレーズを意識して歌わせる。 ・旋法の違う旋律でも歌ってみて、気付いたことを話し合う活動も取り入れるとよい。（指導書伴奏編参照） 【共通事項】フレーズ 旋律 【評】呼吸や発音の仕方に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 めざせ楽き名人(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) リコーダーの音色と演奏の仕方との関わりに気付くとともに、互いの音や伴奏を聴きながら演奏する技能や、条件に基づいて即興的に音を選んだりつなげたりする技能を身に付けることができる。
- (2) 音色や旋律、伴奏の速度やリズム、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得たりすることができる。
- (3) リコーダーによる表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070202_001

【教材名】かえり道（器楽） レッツゴーソーレー（器楽） (P. 30～P. 31)

【準備等】範奏CD、リコーダー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「かえり道」をリコーダーで演奏したり、＜ラドレでリレー＞で音をつなぐ活動をしたりする。</p> <p>○ 範奏を聴いて旋律を覚えたり、階名唱したりする。</p> <p>★ せんりつの感じを生かしてリコーダーで歌おう</p> <p>○ ラード、ラード→レの練習をする。</p> <p>・ レのときの楽器の支え方を定着させる。</p> <p>○ まっすぐな息でゆったりと演奏する。</p> <p>○ ラドレの3音を、いろいろな音の順番で4分音符のリズムで吹いてつなげる。</p> <p>・ 旋律づくりの方法を知る。</p> <p>・ 各自旋律をつくり、練習する。</p> <p>・ つくった旋律を発表し、感じたことを話し合う。</p> <p>2 「レッツゴーソーレー」をリコーダーで二重奏する。</p> <p>○ 主旋律を演奏する。</p> <p>・ 範奏を聴いて主旋律を覚えたり、階名唱したりする。</p> <p>・ シ→レ、ソラシドレ、レドシラソの運指をゆっくり練習する。</p> <p>○ 速さの違う伴奏に合わせて演奏する。</p> <p>○ 二重奏する。</p> <p>・ パートの関わり合いを聴きながら演奏する。</p>	<p>・ 学習していない音が出てくる曲であることに気付かせる。</p> <p>【共通事項】旋律 リズム</p> <p>・ 高いドとレは右手の支えが大切であるので、一人一人確認する。</p> <p>・ 曲の中での音の動きを部分的に取り上げながら練習するとよい。例えば「ラード→ラ」や「ラード→レ」など。</p> <p>【新出】リコーダー「高いド 高いレ」の運指</p> <p>・ 「かえり道」は、「ル」のタンギングで吹かせるとよい。</p> <p>・ 隣の児童とペアになって1段ずつ交互に演奏し、指づかいを見合うなどして、確認させる</p> <p>【評】リコーダーの音色と演奏の仕方との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する</p> <p>・ P. 23＜シラソでリレー＞を復習するとよい。</p> <p>【評】リコーダーによる表現活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 軽快な曲想と、音の重なり的美しさを感じ取らせる。</p> <p>・ 音が雑にならないように、息やタンギングに注意させる。</p> <p>・ ゆっくりとした伴奏に合わせて、主旋律を演奏する。</p> <p>・ 範奏CDを活用するとよい。</p> <p>【評】音色や旋律、伴奏の速度やリズム、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい演奏の仕方を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ パートを交代しながら行う。</p> <p>・ 演奏するグループと聴くグループに分かれて聴き合わせるとよい。</p> <p>【共通事項】音の重なり</p> <p>【評】互いの音や伴奏を聴きながら演奏したり条件に基づいて即興的に音を選んだりつなげたりする活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **せんりつの流れとへん化**配当時間 **3時間**

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりに気付くことができる。
 (2) 楽器の音色、旋律の反復と変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) 楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070203_001

【教材名】ユモレスク（鑑賞） 白鳥（鑑賞） (P. 32～P. 35)

【準備等】鑑賞CD，ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「ユモレスク」を全曲通して聴き、曲の特徴を見付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ユモレスク」を聴き、学習課題をつかむ。 ★せんりつのへん化をきき取りながらバイオリンのえんそうを楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・主な旋律を演奏しているバイオリンの音色、旋律の変化や再現など、気付いたことを話し合う。 ・教科書のバイオリンの写真や資料を見て、今まで自分たちが親しんできた楽器との演奏の仕方の違いや、音色について気付いた点を出し合う。 ○「ユモレスク」の旋律の変化や再現に気を付けて、体を動かしながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の図譜をなぞりながら聴く。 ・バイオリンの旋律や音の高低に合わせて手を動かしながら聴く。 ○スキップしたり、二人組で手をつないで腕を動かしたりして、体を動かしながら聴く。 ○グループで旋律の動きを考え、発表する。 <p>2 「ユモレスク」の曲全体を味わって聴いたり、「白鳥」を聴いて曲の特徴を見付けたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ユモレスク」の曲全体を味わって聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲全体を静かに聴く。 ・曲のよいところについて意見を出し合う。 ○「白鳥」を全曲通して聴き、曲の特徴を見付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・チェロとピアノで演奏されることを知る。 ・バイオリンとチェロの音色を比べたり、写真を見て大きさを確認したりして、気付いたことを出し合う。 ○「白鳥」の旋律に気を付けて、体を動かしながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の図譜を指でなぞりながら聴く。 ・チェロの旋律や音の高低に合わせて手を大きく動かしながら聴く。 ・ピアノの音型を聴き取りながら聴く。 <p>3 「白鳥」の曲全体を味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「白鳥」を全曲通して体を動かしながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時に行った活動を思い起こしながら、チェロの旋律の流れを腕の動きで表しながら聴く。 ・ピアノの動きも腕の動きで表し、チェロとピアノに分かれてお互いを見合いながら聴く。 ○「白鳥」の曲全体を味わって聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲全体を静かに聴く。 ・曲が表している様子や、曲のよいところについて意見を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 75を参考に、楽曲についてとバイオリンの特徴を説明する。 ・曲の特徴に関する発言については、曲を再度聴きながら確認していくようにする。 ・P. 33の旋律の図について説明し、音楽を聴きながら旋律線をなぞらせ、旋律に親しめるようにする。なぞれない児童には、ペアの子のなぞり方や、電子黒板等で掲示した図形楽譜をなぞる指の動きを模倣させながら確認させるようにする。 ・「まなびリンク」の動画を活用するとよい。 【共通事項】旋律 音色 反復 変化 ・ボールなどがあれば、手に持って動かすと、旋律の流れが表しやすくなる。 【評】楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化を感じ取りながら聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ワークシートを利用してもよい。 ・曲の特徴に関する発言については、曲を再度聴きながら確認していくようにする。 【評】楽器の音色、旋律の反復と変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する ・ピアノの伴奏にチェロのメロディーをのせた曲であることを知らせる。 ・チェロの音色はバイオリンに比べて低く、深い感じであることを感じ取らせる。 ・「ユモレスク」同様、音楽を聴きながら旋律線をなぞることで、旋律に親しめるようにする。 ・ボールなどがあれば、手に持って動かすと、旋律の流れが表しやすくなる。 ・曲想と旋律の音高に合った動きをするように伝える。 ・腕だけでなく、グループに分かれて体全体を動かしながら聴くとよい。 【評】曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する。 ・ワークシートを利用してもよい。 【評】楽器の音色、旋律の反復と変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する

【 備 考 】

単元名 遊び歌めぐり

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わり気付くとともに、拍に合わせて歌ったり遊んだりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律やリズム、拍やその流れ、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかや遊ぶかについて思いや意図をもったり、曲のよさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 日本や諸外国の歌や遊びに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070204_001

【教材名】日本や世界の子どもの歌（鑑賞）十五夜さんのもちつき（歌唱）陽気なかじや（歌唱 器楽）
(P. 36～P. 39)

【準備等】鑑賞CD、範唱CD、リコーダー、世界地図

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「日本や世界の子どもの歌」から「十五夜さんのもちつき」と「キパパーキ・パパパ」を聴き、違いを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「十五夜さんのもちつき」と「キパパーキ・パパパ」を聴き、それぞれの違いを感じ取る。 ★世界の友だちの歌を楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の写真を参考に、どこの国の歌かを想像して聴く。 ・共通点、相違点について、気付いたことを出し合う。 ○「十五夜さんのもちつき」で手合わせをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・1段ずつ歌詞を覚え、歌詞に合わせて動きを付ける。 ・ペアになって手遊びをする。 ・テンポを速めたり、ペアを替えたりして手合わせをする。 <p>2 様々な手遊び歌で遊んだり、「日本や世界の子どもの歌」を聴いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○十五夜さんのもちつきを復習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・知っている手合わせ歌を思い出し、紹介して歌ったり遊んだりする。 ○「あつい豆がゆ」「半月」「陽気なかじや」を聴き、それぞれの違いを感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・写真を参考に、どの国の歌かを想像して聴く。 ・どの曲がどの国の音楽か伝え合う。 ○「陽気なかじや」を歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲名と国名を知る。 ・範唱CDとともに歌詞唱する。 <p>3 「陽気なかじや」を歌いながら手合わせをしたり、リコーダーの旋律を演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○範唱を聴きながら、手合わせをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・1番を歌えるようにし、手合わせを加える。 ・2番を覚え、手合わせをする。 ・相手や速度を替えたりして、歌いながら手合わせをする。 ○リコーダーの旋律を演奏し、歌と合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・範奏を聴き、旋律を把握する。 ・前半8小節を繰り返し演奏する。 ・後半8小節を繰り返し演奏する。 ・全体16小節を通して演奏する。 ・リコーダーと歌のグループに分かれて演奏する。 <p>4 「陽気なかじや」を歌とリコーダーで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時を思い出し、リコーダーと歌のグループに分かれて合わせる。 ○基本の手合わせをしながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・<もつとあそぼう>で例示された手合わせで遊ぶ。 ・新しい手遊びをつくって、遊びながら歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外に世界地図などの資料を用意する ・言葉が違っていても、楽しい雰囲気が伝わってくる点では同じであることに気付かせる。 ・手拍子が入っていることや遊びながら歌っていること、言葉が違っていることなどを意識させ、どちらも手遊び歌であることを確認する。 【共通事項】拍の流れ 旋律 リズム ・同じ歌でも、いろいろな歌詞や遊び方があることを伝える。 ・最初はペアにならず、歌詞の言葉と動きに着目させ、全員でかえし手を覚える。 ・全体を覚えてからペアになって手遊びをさせるようにする。 【評】曲想と旋律など音楽の構造とを関わらせながら表現する活動を通して「知識」を評価する。 ・例として、「おちゃらか」「げんこつやまのたぬきさん」「おべんとうばこのうた」などがある。 ・どの曲も、本来は遊びながら歌う曲であることを説明する。 ・日本の近く（アジア）にある国、遠くにある国（ヨーロッパ）などを補足するとよい。 【評】日本や諸外国の歌や遊びを表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・弱起（アウフタクト）の曲なので、ぼ【く】わた【し】から膝打ちの1拍目が始まることを意識させる。 【評】拍に合わせて歌ったり遊んだりする活動を通して「技能」を評価する。 ・前半は1～3小節、4～5小節、6～8小節と分けて、段階的に導入する。 ・後半は14～15小節が前半とは異なることに気付かせる。 ・慣れてきたら、拍を感じ取り3拍子にのって演奏するようにさせる。 ・ペアやグループで速度を変化させながら、自由に手合わせさせる。 【共通事項】拍の流れ 速度

- 「日本や世界の子ども歌」を聴き、それぞれの曲の共通点や違いを感じ取る。
 - ・各曲の国名や曲名を思い出しながら聴く。
 - ・同じところ、似ているところ、違っているところなどについて、伝え合う。

- ・インターネットの動画などを紹介してもよい

【評】旋律やリズム、拍やその流れ、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(4)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くことができるとともに、呼吸及び発音の仕方、姿勢に気を付け、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律のもつリズムや流れを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070205_001

【教材名】 ふじ山 (歌唱 共通教材) (P. 40～P. 43)

【準備等】 範唱CD, 拡大譜, 拡大した歌詞

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「ふじ山」(共)を情景を想像しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の気分を感じ取る。 ★ 高い山によびかけるような気持ちで歌おう <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の写真を見ながら範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ○ 歌詞を理解して歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞を音読し、教科書の写真などを利用して、言葉を確かめる。 ・ 歌詞の表わす情景や気持ちについて意見を出し合い、理解して歌詞唱する。 ○ 旋律の特徴に気付いて歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 段ごとに旋律のリズムを手で打ち、気付いたことを交流する。 ・ 各段の旋律の、音の高さに合わせて手を動かし、旋律の流れを確かめる。 ・ 一番強く歌いたいところはどこか、意見を出し合いながら、歌い方を試す。 ○ 声の出し方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体の力を抜いたり、喉の奥を開くことを意識したりする。 ・ 高い山に向かって呼びかけるような、遠くに届くような歌声を探して歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富士山について知っていることや、見たり登ったりした経験を発表させる。 ・ 「高い山によびかけるような」とはどんな声なのかを範唱から感じ取らせる。 ・ 歌詞の内容から、富士山の雄大さをイメージさせ、歌い方の工夫に結びつける。P. 43の声の出し方も参考にさせる。 ・ 音程や付点の付いている音符のリズムに注意させる。 <p>【評】 歌詞や曲想を生かした表現活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的なイメージをもたせることで児童の声は変わる。例えば、「ふじはにつぼん～」の「ふ」を、目標を決めてそこまで声を飛ばすようにイメージして伸ばすよう、助言する。 ・ 拡大譜に、工夫したことを書き込み意識させる。 <p>【評】 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の内容の関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拡大した歌詞を見ながら、遠くの山に呼びかけるような気持ちで歌うとよい。 <p>【評】 旋律のもつリズムや流れを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら曲想にふさわしい歌い方を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 呼吸及び発音の仕方、姿勢に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 曲に合った歌い方

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想とフレーズなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能や、互いの声や音を聴きながら楽器で副次的旋律を演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) フレーズの反復や変化、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫しどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070206_001

【教材名】森の子もり歌（歌唱 器楽） 雪のおどり（歌唱 器楽） （P.44～P.47）

【準備等】範唱CD，リコーダー，トライアングル，すず，鉄琴，木琴，鍵盤ハーモニカ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「森の子もり歌」を情景を思い浮かべて歌う。</p> <p>★曲に合った歌い方を見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「森の子もり歌」の気分を感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・範唱を聴きながら旋律に慣れ、歌詞唱する。 ○旋律の特徴を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴について意見を出し合い、軽やかな部分となめらかな部分について、手を動かすなどして表現する ○挿画を参考に、歌詞の表わす情景を思い浮かべて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・森の様子、お母さん鳥や子どもの鳥の様子について、思い浮かべたことを出し合う。 ・話し合ったことを基に「ピラロルラ」の部分を工夫する。 ・「よふけの森にきこえる」の部分を、「ピラロルラ」と対照させて歌い方を考える。 ・「ひなたちを～」のところの歌い方も考え、曲全体を歌う。 <p>2 「森の子もり歌」を合唱奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「森の子もり歌」を、フレーズに合った歌い方で歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返り、それぞれのフレーズの歌い方や出だしを工夫して歌う。 ・リズムや音程に注意して歌う。 ○リコーダーの副旋律を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの旋律を階名唱する。 ・最初の休符に気を付けてフレーズを感じながら吹く。 ○「森の子もり歌」を合唱奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌とリコーダーのグループに分かれて合わせる。 ・曲に合ったリコーダーの強さや音色を考えて演奏する <p>3 「雪のおどり」の輪唱をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「雪のおどり」の曲の気分を感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・同じ音型の繰り返しを感じながら歌う。 ・「こんこん」「ずんずん」「ふれふれ」などの言葉の響きや反復の面白さを感じながら歌う。 ○輪唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・二つのグループに分かれ、2小節遅れで輪唱する。 ・互いの声が聞こえるように、歌声に気を付ける。 ・グループを交換して歌う。 ○伴奏を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽器を持たず、各リズムを言葉や動きで確認する。 ・楽器で演奏する。 ・楽器を交替しながら、演奏してみる。 ・歌と合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容を基に、曲全体の流れをつかめるようにする。 ・旋律の流れに合う、やさしく無理のない声で歌うようにしていく。 ・「ピラロルラ」と「よふけの森にきこえる」の部分を手を動かしながら歌わせる。 ・「ひなたちを～」のところも、旋律の流れを捉えるようにさせる。 <p>【共通事項】反復 変化</p> <p>【評】曲想とフレーズなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習したフレーズの特徴や旋律の流れについて確認して歌うようにする。 ・休符やリズムに気を付けて演奏させる。 ・数名のグループごとに発表してもよい。 <p>【共通事項】フレーズ 音色</p> <p>【評】互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う活動や、互いの声や音を聴きながら楽器で副次的な旋律を演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レラ」「ファレ」「ラソファミレ」などの繰り返し（反復）に気付かせる。 ・木琴のオスティナート（一定の音型を反復する）で伴奏して歌い、次の学習内容である音楽づくりにつなぐ。 ・言葉や動きを使うとリズムを定着させやすい <p>トライアングル…「ずーん ずーん」両手の人差し指を合わせる 鈴…「しんしんしんしん」手拍子 木琴「つーもれ つーもれ」両手で膝を打つ 鉄琴…階名で歌いながら、手で机を打つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄琴は使う音に打つ順番のシールを貼るとよい。 <p>【共通事項】音色 音楽の縦と横との関係 音の重なり</p> <p>【評】フレーズの反復や変化、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ</p>

- 4 「雪のおどり」を伴奏に合わせて輪唱する。
- 「雪のおどり」を輪唱する。
 - ・前時を思い出し、斉唱してから輪唱する。
 - ・楽器を担当するグループを決め、その中で担当する楽器を分担する。残りのグループは輪唱する。
 - レミファソラレの音をもとに旋律を演奏する。
 - ・リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、演奏する楽器を選ぶ。
 - ・4分音符のリズムで、伴奏に合わせて即興的に4小節の旋律をつくって演奏する。
 - ・リレーしながら発表する。

取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・グループを交替し、全員が楽器を演奏できるようにする。
- ・楽器の加わり方を工夫して前奏をつくってもよい。
- ・繰り返す伴奏に合わせ、一人ずつ旋律を即興的にリレーする。
- ・旋律も拍にのって演奏させる。

【評】曲想を生かした表現活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(2)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) ラテンのリズムの特徴やその反復・重なりについて、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、音楽の仕組みを用いてリズム・アンサンブルをつくる技能を身に付けることができる。
- (2) ラテンのリズムや反復や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) ラテンのリズムの特徴を捉えたり、音楽の仕組みを用いてまとまりのある音楽をつくったりする活動に興味をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

標準的な展開例

03070207_001

【教材名】まほうのチャチャチャ（歌唱 器楽 鑑賞）

(P. 48～P. 49)

【準備等】範唱CD，鑑賞CD，カウベル，ギロ，クラベス

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 5つのリズム・パターンに親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まほうのチャチャチャ」を鑑賞したり歌ったりする。 ★チャチャチャのリズムで遊ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・ラテンのリズムや打楽器の響き，曲想の楽しさを感じ取って聴く。 ・範唱を聴いて曲を大まかに捉え，曲の進行を確認し，リズムにのって歌う。 ○5つのリズム・パターンを手拍子で打ったり，声で唱えたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・一つずつ丁寧に確認したり，①～⑤を順に打ったり，ランダムに打ったり，①から順に重ねたりする。 <p>2 リズム・パターンを，「まほうのチャチャチャ」に合わせて打つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○①～⑤の中で自分が打ちたいリズムを一つ選ぶ。 ○選んだリズム・パターンを打ち，同じリズム同士で集まる。 <p>3 リズムを重ねたり，音楽の仕組みを用いたりして音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々なつなげ方や重ね方を試しながら音楽をつくる。 ○反復や音の変化などの音楽の仕組みを用いて音楽をつくる。 ○声や楽器での表現や打つ場所を変えるなどして，表現の幅を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽快なリズムにのった，楽しい曲想を感じ取らせる。 ・歌い出しの音程が大きく下がる部分は，ゆっくり歌って確認する。 ・繰り返されるリズムがあることや，多くの楽器が使われていることを前もって伝え，注意して聴くようにさせる。 ・リズムを感じ，体を動かしたり，かけ声を入れたりしながら聴くとよい。 ・5つのリズムが正確に打てるように，手拍子だけでなく声でも唱えるように繰り返し挑戦させる。 ・「学びリンク」の動画を活用するとよい。 ・速度や拍に合わせて表現させることを意識させる。 <p>【評】ラテンのリズムの特徴やその反復・重なりについて，それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせながらリズム打ちをする活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5人程度のグループをつくり，パートに分かれて音楽づくりを行わせる。 ・歌と楽器のバランスに気を付けさせる。 ・掛け声を工夫させる。 ・可能な限り，他のグループと音が混ざらないように，練習場所を工夫する。 ・音楽の仕組みは児童の実態に応じて，教師から提示したり，児童が選択したりできるようにする。 ・音量，音のバランス，拍にのっているかなどに気を付けて聴き合うようにさせる。 <p>【共通事項】リズム 反復 へん化 音の重なり</p> <p>【評】ラテンのリズムや反復や音の重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音楽づくりをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】音楽の仕組みを用いてリズム・アンサンブルをつくる活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】ラテンのリズムの特徴を捉えたり，音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 物語の音楽を楽しもう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音色や旋律など音楽の構造との関わりに気付くことができる。
 (2) 楽器の音色、旋律の特徴、強弱や速度の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや楽しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) 各キャラクターの表現や、物語の音楽を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070208_001

【教材名】ピーターとおおかみ（鑑賞）

(P. 60～P. 61)

【準備等】鑑賞CD、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「ピーターとおおかみ」を聴き、物語の音楽を楽しむ</p> <p>○教科書の挿画で登場人物と楽器を確認しながら全体を聴き、気付いたことを交流する。 ★物語の音楽を楽しもう</p> <p>○各キャラクターと結び付けながら、各楽器についても一度確認する。 ・勇敢な少年ピーターの主題（弦楽合奏） ・ピーターの親友の小鳥（フルート） ・狼に飲まれてしまうアヒル（オーボエ） ・小鳥をねらう猫（クラリネット） ・ピーターのおじいさん（ファゴット） ・森の大きな灰色の狼（3本のホルン） ・狩人たちの鉄砲の音（ティンパニ）</p> <p>○物語のあらすじをふまえ、場面の様子を想像しながら聴く。物語を表すために、どのような工夫があったか気付いたことを交流する。</p> <p>○登場する人物や動物を表す音楽の特徴や楽器の音色に気を付けて聴いたり、場面の移り変わりによる曲想の変化に気付いたりして聴く。</p>	<p>・作曲者がプロコフィエフであることと、オーケストラによる音楽で表現されるおとぎ話であることを押さえる。</p> <p>・映像や絵本などを活用し、より一層親しんで鑑賞させるとよい。</p> <p>【評】各キャラクターの表現や、物語の音楽を聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・鑑賞CDの説明を聴きながら、順に確認していく。</p> <p>・教科書の楽器の写真を見せながら確認する。実物があれば、見せたり、音色を聴かせたりするとよい。</p> <p>・P 75にも管楽器の紹介を参考にしてもよい。</p> <p>・「まなびリンク」の画像を活用してもよい。</p> <p>・既習の「ユモレスク」「白鳥」で弦楽器や、「アルルの女」でフルートを想起させるとよい。</p> <p>・登場する人物や動物の性格を表している主題や楽器の音色に注意して聴くよう声掛けをする。</p> <p>【共通事項】音色 旋律</p> <p>・気付きをワークシートなどでまとめてもよいが、あまり分析的な鑑賞に陥らず、曲全体を味わい、音楽物語を楽しみながら、一人一人が聴く楽しさに浸れるようにする。</p> <p>【評】曲想と音色や旋律など音楽の構造との関わりを捉えながら聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>・強弱や速度の変化が、登場する人物や動物の行動や気持ちの変化、その場の状況を表していることに気付かせる。</p> <p>【共通事項】変化</p> <p>【評】楽器の音色、旋律の特徴、強弱や速度の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(2)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 互いの楽器の音を聴き、音を合わせて演奏することができる。
- (2) 旋律やその関わり合い、リズム、楽器の音色や全体の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる
- (3) 曲想や各パートの役割を捉えた表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070209_001

【教材名】 ミッキーマウスマーチ (器楽) (P. 66～P. 67)

【準備等】 範奏CD, リコーダー, 鍵盤ハーモニカ, 木琴, 鉄琴, ウッドブロック, カウベル, 大太鼓, 小太鼓

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「ミッキーマウスマーチ」を聴き、演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範奏を聴き、学習課題をつかむ。 ★ パートの役わりを生かして楽しくえんそうしよう ○ 主旋律となる部分を、階名唱する。 ○ 楽器を分担する。 <p>○ パートごとに練習をする。</p> <p>○ 合奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ リピート記号などを確認しながら、曲の流れをつかませる。 ・ パート分けは、主旋律を多めにする。 ・ 練習場所を2～3か所に分けることが望ましい。パートリーダーを決めて練習するとよい。 <p>【評】 互いの楽器の音を聴き、音を合わせて演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】 旋律やその関わり合い、リズム、楽器の音色や全体の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに聴き合って歌ったり演奏したりして、楽しい雰囲気をつくる。 <p>【評】 曲想や各パートの役割を捉えて表現する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 アンサンブルの楽しさ

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりに気付くとともに、互いの楽器の音を聴き、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律やその関わり合い、リズム、楽器の音色や全体の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、演奏のよさや面白さを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 曲想や各声部の役割を捉えた表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070301_001

【教材名】せいじゃの行進（歌唱 器楽 鑑賞）（P.50～P.51）

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、シンセサイザー、鉄琴、打楽器など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「せいじゃの行進」を、パートの役割に気付き、旋律や音の重なりを生かして演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「せいじゃの行進」の主旋律を歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> 範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。 ★パートの役割を生かしてえんそうしよう <ul style="list-style-type: none"> 休符に気を付け、歌詞唱する。 リズム打ちしながら主旋律を歌詞唱する。 鑑賞CD「せいじゃの行進」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> 体を動かしながら、曲の気分を感じ取って聴く。 範唱CDの「せいじゃの行進」との感じの違いを捉える。 演奏で使われた楽器について説明を聞く。 楽曲に合わせてリズム打ちをする。 「せいじゃの行進」の主旋律を楽器で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> 主旋律をドレミで歌詞唱する。 リコーダーで演奏する。 「せいじゃの行進」の旋律と副旋律のパートを楽器で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> 前時を振り返り、主旋律を歌詞唱した後、リコーダーで演奏する。 2の副旋律のパートを階名唱し、リズムに注意しながら楽器で演奏する。 1と2に分かれて全員で合わせる。 担当するパートを決めて練習する。 <ul style="list-style-type: none"> 各パートの担当を決め、パートごとに集まって練習する。 低音パートを階名唱し、鍵盤を確かめ、拍にのって楽器で練習する。 合奏をする。 <ul style="list-style-type: none"> 全体で合わせてみる。 「せいじゃの行進」のパートの関わり合いや役割に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> 楽譜を改めて見て、2が1を追いかけるところや、重なるところを見付ける。 教科書の記入欄を利用し、パートの役割について考える。 1と2のパートの人が数人ずつ出て、低音やリズム伴奏も加わって合奏する。 演奏する人を交替して聴き合い、気付いたことを伝える。 全員で合唱奏をする。 <ul style="list-style-type: none"> 主旋律を歌う人を決める。 歌の人はリズム打ちをしながら歌い、合奏と重ねて全員で合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2拍子のリズムにのった、弾んだ感じの曲であることをつかませる。 フレーズの冒頭の8分休符や、フレーズの後の4分休符、後半のタイの音に気を付け、拍にのって歌うようにさせる。 足踏みだけ、手拍子だけでもよい。 同じメロディーの曲でも、演奏する楽器やリズム、速さで曲想が違うことを理解させる。 演奏の中で使われた楽器がある場合は、教師が実演したり、児童に持たせたりして親しませる。 曲に合わせて、リズム伴奏を打ったり、体を動かしたりしてもよい。 打楽器を入れると楽曲の感じが変わること気付かせる。 【評】旋律やその関わり合い、リズム、楽器の音色や全体の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 フレーズの冒頭の8分休符や、フレーズの後の4分休符、後半のタイの音に気を付け、拍にのって演奏するようにさせる。 主旋律・副旋律とも、拍にのって演奏するようにさせる。 速さを合わせて演奏する。最初はゆっくり合わせ、音の重なりを確認させる。 【共通事項】よびかけとこたえ 音の重なり 【評】互いの楽器の音を聴き、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。 〈楽きのれい〉を参考に楽器を考えさせる。 低音パートは希望者が交替で練習する。速くならないよう、拍にのって演奏することを確認する。 打楽器と低音だけで合わせて練習するのもよい。音が強くなり過ぎないように注意する。 1と2は5名くらいずつ演奏するとよいが、学級の実態に合わせるようにする。 【評】曲想や各声部の役割を捉えて演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 ききどころを見つけて

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりに気付くことができる。
 (2) 楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) 楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070302_001

【教材名】組曲「アルルの女」から（鑑賞）

(P. 54～P. 55)

【準備等】鑑賞CD、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「メヌエット」「ファランドール」の曲の感じをつかみ、主な旋律に気を付けて、楽曲の変化を味わいながら聴く。</p> <p>○「メヌエット」の中心となる楽器について知り、最初の部分を聴く。</p> <p>★楽きの音色や曲の流れをとらえてきこう</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の写真を見て、フルートやハーブの音色を味わいながら聴く。 旋律をつかむ。 <p>○全曲を通して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初の旋律を口ずさみながら聴き、旋律が変化したところ、更に変化したところで挙手する。 強弱や楽器の変化にも気を付けて、最初の部分、真ん中の部分、終わりの部分をそれぞれ聴いていく。 <p>○「メヌエット」の曲全体を味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲のよいところについて意見を出し合う。 <p>○「ファランドール」の二つの旋律を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初から、旋律2の初出が終わるところまで聴く。 旋律1の初出の部分を、体を動かしながら聴き、旋律を捉える。 旋律2の初出の部分を、体を動かしながら聴き、旋律を捉える。 二つの旋律について、特徴をメモする。 <p>○「ファランドール」を全曲通して体を動かしながら聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> 「旋律1」（三人の王の行進）と「旋律2」（ファランドール舞曲）が交互に現れていることに気付く。 「旋律1」「旋律2」のグループに分かれ、それぞれに合った体の動きを考える。 グループが向きあい、旋律に合わせて動きながら聴く 自分たちの旋律でないところは、相手のグループの動きを見ながら座って聴く。 気付いたことを出し合う。 <p>○「ファランドール」の曲全体を味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲全体を静かに聴く。 この曲のよいところ・面白いところについて意見を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 冒頭部分はフルートとハーブが中心であることを確認する。実物があれば提示する。P 75を参考に、フルートは木管楽器であることも伝える。 旋律を覚えさせるようにする。 「旋律が変わったと思ったところで手を挙げよう」と言うしておく。Bの部分では挙げた手をいったん下ろさせ、A' でまた挙がるようにする。 「始め」は冒頭の部分で、フルートとハーブが活躍する。「中」は、全ての合奏が加わる部分である。「終わり」は再びはじめの旋律が出てくる部分である。 「始め」「中」「終わり」に分けて、気付きを出させ、板書してまとめていく。 【評】楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化を捉えて聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 同じメロディーでもリズムが変化して出てくる部分を聴かせ、理解させる。 「中」の部分では、既習のバイオリンやチェロなどの弦楽器が加わることを知らせる。 最後は、だんだん楽器が減っていくことを知らせる。 【共通事項】音色 旋律 反復 変化 【評】曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりを捉えて聴く活動を通して「知識」を評価する。 2つの旋律を繰り返し聴かせ、旋律の感じをしっかりと捉えさせる。 教科書のポートフォリオを利用する。 「1」「2」などの札を子どもたちに持たせ旋律が現れたときに上げさせると、視覚的にも捉えやすくなる。 体の動きは、曲想を生かしていれば大まかなものでよい。 向き合って動くことで、旋律が交互に現れることや最後に重なることに気付くようにする 楽器が増えたり、響きが強くなったりしていくことにも気付けるとよい。 「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 ワークシートなどを活用してもよい。 【評】楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲全体を聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する

【 備 考 】

単元名 めざせ楽き名人(2)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) リコーダーの音色と演奏の仕方との関わりに気付くとともに、音色や響きに気を付けて演奏する技能や、互いの音を聴き、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) リコーダーの音色、旋律の流れ、掛け合いや重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) リコーダーの響きや各声部の役割に合った表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070303_001

【教材名】あくびのうた（歌唱 器楽） 冬さん、さようなら（器楽）

(P. 52～P. 53)

【準備等】範唱CD、範奏CD、リコーダー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「あくびのうた」を歌ったりリコーダーで演奏したりする。</p> <p>○ 範唱CDを聴いて、学習課題をつかむ。</p> <p>★ ひびきを大切にしよう</p> <p>○ 歌詞唱し、曲の感じをつかむ。</p> <p>○ 新しい指使いに慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ファ」「ミ」「レ」の運指を知る。 ・ 「ファ」「ミ」「レ」の練習をする。 <p>○ 「あくびのうた」に合わせてリコーダーを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーの部分を演奏する。 ・ 歌に合わせて演奏する。 <p>2 「冬さん、さようなら」をリコーダーで二重奏する。</p> <p>○ 範奏を聴いて旋律を覚え、主旋律（上声部）を階名唱する。</p> <p>○ 上声部・下声部の練習をする。</p> <p>○ 掛け合いや重なりを感じ取り、聴き合いながら二重奏をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 途中でリコーダーの音が出てくことに気付かせ、その音はまだ学習していないことを伝える。 ・ リコーダーの部分は階名唱する。最初があくびの真似をしてゆったりとした感じをつかませてもよい。 ・ 低い音は、口の中を広くして「ロー」や「トオー」と発音する感じでゆったりとした息で優しく吹くようにさせる。 ・ 「ファ」「ミ」「レ」を使った短いフレーズを繰り返し練習する。例えば「ファーミ」「ミレレ」など。 <p>【新出】リコーダー「ファ」「ミ」「レ」の運指</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣同士で歌とリコーダーに分け、音色や指づかいを確かめ合ってもよい。 <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】リコーダーの音色と演奏の仕方との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拍子を意識させ、3拍子にのって歌うことができるようにする。 ・ 2段目はブレスに注意する。 ・ 低い音はゆったりとした息で吹く。 <p>【共通事項】音の重なり</p> <p>【新出】ナチュラル</p> <p>【評】リコーダーの音色、旋律の流れ、掛け合いや重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】音色や響きに気を付けて演奏したり、互いの音を聴き、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】リコーダーの響きや各声部の役割に合った表現活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 みんなで合わせて

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴いて、声や音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律やリズム、楽器の音の響きや重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 音を合わせて演奏することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、1年間の学習を生かして主体的・協働的に学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070304_001

【教材名】パフ（歌唱 器楽）（P. 56～P. 57）

【準備等】範奏CD，リコーダー，木琴，シンセサイザー，オルガンなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「パフ」を、主旋律を歌ったり、リズム打ちや階名唱をしたりして、曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主旋律（1）を歌詞唱する。 ★パートをえらんで、みんなでえんそうをくふうしよう ・範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・情景や気持ちを思い浮かべながら、1～5番まで歌詞唱する。 ・歌詞の物語全体を理解する。 ・＜もっとあそぼう＞を使ってリズム伴奏を加えて歌う ○主旋律をリコーダーで演奏する。 ・主旋律を階名唱する。 ・主旋律をリコーダーで演奏する。 ○旋律2を演奏する。 ・旋律を「ル」で歌って覚える。 ・旋律を階名唱する。 ・リコーダーなど楽器で演奏する。 ○旋律と副旋律のパートを楽器で演奏する。 ・1と2のグループに分かれて合わせる。 <p>2 「パフ」をそれぞれのパートに合う楽器を選び、アンサンブルを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1と2のパートを楽器で演奏するとともに、低音パートの音を確認する。 ・前時を振り返り、主旋律を歌詞唱した後、1と2のグループに分かれて合わせる。 ・低音パートを全員で階名唱・運指唱する。 ○グループに分かれ、担当するパートを決めて練習する。 ・パートの役割について話し合う。 ・各パートの担当を決める。 ・声や楽器など、演奏する方法も考える。 ・リズムをタンブリンなどで加えてもよい。 <p>○グループごとに中間発表をする。</p> <p>3 グループやクラスで合唱奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループで練習する。 ・前時の中間発表を振り返り、表現を工夫しながらまとめていく。 <p>○グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの演奏を聴き合う。 <p>○グループごとにリレー演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏するグループの順番を決める。 ・1コーラスずつ演奏して続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の挿画も参考にしながら、興味をもたせる。 ・歌詞唱しながら繰り返し歌い、主旋律を覚えられるようにする。 ・旋律の反復と変化を意識させる。 ・足踏み＋手拍子により、体全体でリズムの流れを感じながら歌うようにする。 ・拍にのって演奏するようにする。 ・2段目と4段目の2小節目のシンコーションのリズムに注意させる。 ・最初の小節の休符と、2小節目の休符に注意する。 ・2段ごとの大きなまとまりで感じるようにする。 <p>【共通事項】旋律 リズム</p> <p>【評】曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりを捉えて表現する活動を通して「知識」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低音を演奏する楽器をグループの数用意する <ul style="list-style-type: none"> ・6人程度のグループで練習させる。 ・鍵盤楽器やリコーダーの得意な児童が、どのグループにもいるように分けるとよい。 ・練習場所を設定し、範奏の音源を聴けるようにしておくといよい。 ・パートの役割については、「せいじゃの行進」の学習を思い出させる。ただし「パフ」の1と2は「呼びかけとこたえ」の関係ではないことに留意する。 ・低音パートは速くならないよう、拍にのって演奏することを確認する。 <p>【評】互いの歌声や伴奏を聴いて、声や音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの音を聴き合い、バランスを考えながら演奏できるようになるとよい。 ・歌詞の内容に合わせ、コーラスによって楽器を変えたり、ソロの場面をつくるなどの工夫も考えられる。 <p>【共通事項】音の重なり</p> <p>【評】旋律やリズム、楽器の音の響きや重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで一緒に合唱奏してまとめてもよい。 <p>【評】1年間の学習を生かしながら音を合わせて演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

・演奏している以外の子どもたちは歌詞唱する。

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(3)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) いろいろな打楽器の音の響きやそれらの組み合わせの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けることができる。
- (2) 打楽器の音色や強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ることができる。
- (3) 打楽器の音の響きや組み合わせを楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070305_001

【教材名】音のひびきや組み合わせを楽しもう

(P. 58～P. 59)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～3 音楽の構成や仕組みを考えながら、まとまりのある音楽をつくる。</p> <p>★音のひびきや組み合わせを楽しもう</p> <p>○打楽器を材質ごとに仲間分けする。</p> <p>○自分が選んだ打楽器でどんな音が出るのかを確かめる。</p> <p>・教師が示す条件を基にして即興的に表現したり、その場で試したり、友達と交流したりする。</p> <p>○カードを選んで音で表現する。</p> <p>・自分が選んだ楽器の材質や響きを手掛かりにして、提示されたカードから1枚選んで表現する。</p> <p>○同じ材質で集まったグループで音をつないで演奏する。</p> <p>また、一人だけ別の材質のグループと奏者を入れ替え、違いを感じ取る。</p> <p>○音楽の構造や重ねるなどの音楽の仕組みを考えながら、まとまりのある音楽をつくる。</p>	<p>・教師が材質ごとに分けておくのではなく、児童の気付きを引き出すために、児童が仲間分けしていくようにする。</p> <p>・一人ずつ別々の打楽器を選ぶこともあるので打ち方を変えたり、ばちを変えたりして様々な音の出し方を試したら、そこでの気付きを全体で共有しておく。そうすることで、グループでつなげるときにも活用することができる知識となる。</p> <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】いろいろな打楽器の音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて表現する活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>・この教材は、音楽づくりの示す「音を音楽へと構成する活動」ではなく、「即興的に表現する活動」として位置付けている。そのため「カードを選ぶ／組み合わせる」や「4人でつなげる」なども活動の条件として適切に設定するようにする。</p> <p>・この音楽づくりは「拍を意識しない」方が望ましい。そのため、カードを選んで表現するときも、無理に拍に合わせて表現しなくてもいいことを伝えておく。</p> <p>【共通事項】強弱</p> <p>【評】打楽器の音色や強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、即興的に表現する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】発想を生かした表現をするために必要な設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】打楽器の音の響きや組み合わせを楽しみながら音楽づくりをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(3)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 呼吸及び発音に気を付けて、自然で無理のない声で、互いに聴き合いながら歌うことができる
 (2) 旋律のもつリズムや流れ、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと、感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を理解し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
 (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070306_001

【教材名】 ありがとうの花（歌唱） (P.68)

【準備等】 範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～2 「ありがとうの花」を、曲想を感じ取って歌う。 ○「ありがとうの花」の範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。 ★感しやの思いをこめて歌おう ○主旋律を歌う。 ・聴唱法で歌う。 ○二部に分かれるところを練習する。（後半部分） ○歌唱表現を深める。 ・歌詞を読み取り、どんな気持ちで歌うとよいか話し合う。 ○曲想を感じ取って二部合唱する。	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の最後の歌であることを意識し、感謝の思いを込めて歌えるようにさせたい曲である。 ・前半部分のリズムが崩れやすいので、教師が拍を打ちながら繰り返し歌わせる。 ・パートを交代しながら、繰り返し合唱する。 ・最初は下パートを少ない人数から始め、お互いのパートの音を聴くことができるようになってから、下パートを増やすとよい。 ・下パートのイメージを膨らませるために、教師がリコーダーなどの旋律楽器を使って、児童の歌に合わせて演奏するとよい。 ・「ありがとう」を何（誰）に対して伝えるのかを考えることによって、この曲のメッセージ性を大切にして、歌い込ませる。 ・ありがとうの対象者を、実際にお客さんとして招いて演奏するとよい。 <p>【評】呼吸及び発音に気を付けながら歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】旋律のもつリズムや流れ、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】歌詞や曲想を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名 スキルアップ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりに気付くとともに、呼吸及び発音に気を付けて、自然で無理のない声で歌う技術を身に付けることができる。
- (2) リズムや音の重なりを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、まとまりを意識した音楽をつくることについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 言葉の面白さを生かしたボイスアンサンブルに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070101_001

【教材名】早口（歌唱） 早口言葉でラップを楽しもう！（音楽づくり）

(P. 6～P. 7)

【準備等】範唱CD，メトロノーム，打楽器，キーボード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 はっきりと発音しながら、楽しく発声練習をしたり、速度を変えたり輪唱したりして「早口」を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 拍を感じながら歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴き、曲に慣れる。 ○ 音程や声の出し方を意識したり、声を合わせる楽しさを感じ取ったりしながら歌詞唱する。 ○ 速度を変えて、歌詞唱をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆっくり ・ 速く ・ だんだん速く など ○ 互いのパートを聴き合いながら、輪唱を楽しむ。 <p>2 言葉のリズムの面白さを感じ取りながら、拍の流れののって「早口ラップ」のボイスアンサンブルを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ はっきりした発音で、拍にのって早口言葉を唱える。 ○ 休符の入れ方を工夫し、拍にのって早口言葉を唱える。 ○ 一人とみんなに分かれて、呼び掛け合いで表現したり、二つの早口を同時に唱えて言葉の重なりを楽しんだりする。 ○ 伴奏となる足踏みや手拍子のリズムやオスティナートとなる反復の言葉など、音楽の仕組みを生かし、まとまりを意識した音楽をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口形、表情を意識し、言葉が伝わるようにさせる。 ・ 口がしっかり動いているか、互いに見合ったり、鏡を見て自分で確認をしたりするとよい。 ・ [n] の発音の部分だけ歌ったり、4分音符だけ歌ったりするなどのゲーム的な活動で歌うことで、鼻腔に響かせたり、正しい音程で歌ったりすることを意識させる。 ・ メトロノームに合わせてたり、指揮によって速度を変化させたりするなど、速度変化の面白さを感じ取らせる。 ・ 授業の導入で歌う常時活動のレパートリーとし、歌い慣れてきたら二人組でカノンをする活動を取り入れてもよい。 <p>【共通事項】音の重なり</p> <p>【評】曲想と旋律など音楽の構造について捉える活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】呼吸及び発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はっきりした発音を意識させ、いろいろな早口言葉を楽しませる。 ・ 早口言葉を、ゆっくりから始めてだんだん速く唱えたり、連続して繰り返し唱えたりして楽しく意欲をもって活動できるようにする。 ・ 休符の入れ方を工夫し、一つの早口言葉からいろいろな唱え方を試し、言葉のリズムを工夫させる。 ・ はっきりと拍の流れをつかませるために、打楽器やキーボードのリズムボックスなどを使ってもよい。 ・ 曲の進め方やリズムの組み合わせを考え、決定させる。 ・ 音楽を構成する際、以下のように役割を分担するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 足踏み・手拍子（伴奏） ○ 早口言葉（主役） ○ 繰り返しの言葉（飾り＝オスティナート） ・ 繰り返し回数や全体の小節数など、つくる音楽の全体像を提示し、見通しをもたせるとよい。 <p>【評】リズムや音の重なりを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら音楽をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】言葉の面白さを生かして音楽をつくる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」</p>

を評価する。

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(1)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、呼吸及び発音に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の反復や変化、元となる音階、楽器の音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、箏の音楽のよさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070102_001

【教材名】 TODAY (歌唱) (P.4～P.5) さくら さくら (歌唱 共通教材) さくら変そう曲 (鑑賞) (P.8～P.11)

【準備等】 範唱CD、桜の映像や写真など、琴、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 明るく伸びやかな声で「TODAY」を歌う。</p> <p>○ 範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>★ 明るく伸びやかに歌おう</p> <p>○ 歌詞唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴唱法で歌う。 ・ リズムにのって、明るく声を響かせながら歌う。 ・ フレーズのまとまりを意識して歌う。 <p>2 情景を想像しながら「さくら さくら」(共)を歌う。</p> <p>○ 範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>★ 春の情景を想像しながら歌おう</p> <p>○ 歌詞唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の写真などを基に、情景を思い浮かべる。 ・ フレーズを意識しながら歌詞唱する。 <p>○ 階名唱をし、旋律の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構成音とその音階の響きを聴き、特徴を感じ取る。 <p>○ 情景を思い浮かべ、曲想に合った声で歌詞唱する。</p> <p>3 「さくら変奏曲」を聴いて箏の音色を味わう。</p> <p>○ 「さくら さくら」を歌い、学習課題をつかむ。</p> <p>★ 箏の音色を味わおう</p> <p>○ 「さくら変奏曲」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律と箏の音色に着目して聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望と勇気があふれる、明るい曲想をつかませる。 ・ 学年最初の曲なので、楽しい雰囲気づくりを心掛ける。 ・ 新学期の新しいスタートの気持ちを込めて、生き生きと歌わせる。 ・ 記号ごとに旋律や曲想、歌詞との関わりについて話題にしていけるとよい。 <p>【共通事項】 旋律</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「さあ今」「笑顔へと変わるよ」の部分は音が跳躍するため、響きや呼吸を意識した発声ができるようにする。 ・ 余裕があれば、二部合唱を行ってもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ この時間だけでなく、授業の導入などに継続して歌っていくとよい。 <p>【評】 歌詞や曲想を生かして表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本文化特有の雅やかな雰囲気を感じ取らせる。 ・ P11の「『さくら さくら』について」を読み、江戸時代から伝わる日本の代表的な曲であることを押さえる。 ・ 映像や写真、絵などを使って具体的なイメージづくりをさせるとよい。 ・ 新学期や入学式、花見など、桜から連想されることを話し合いイメージを膨らませる。校庭の桜を見に行つて印象付けてもよい。 ・ ミファラシドミが使われていることに気付かせ、日本特有の雰囲気が表現されていることを感じ取らせる。 <p>【共通事項】 音階</p> <p>【評】 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の内容との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「さくら」の言葉に気持ちを込めるように歌わせる。 ・ 落ち着いた速さで丁寧に歌わせる。 ・ 音程に気を付けながら、音の移り変わりをなめらかに歌うようにさせる。 ・ フレーズのまとまりを意識して歌わせる。 <p>【評】 呼吸及び発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校に箏があれば、見せたり、音を聴かせたりするとよい。 ・ 「さくら さくら」の魅力を生かした変奏曲である。 ・ 楽曲の変化を感じ取らせる。速さの変化の他にも、旋律がゆったりと流れている部分と弾んだ感じの部分があることや、奏法によって様々な音色が表現されていることなどにも気付かせていく。

【共通事項】音色 反復 変化
【評】旋律の反復や変化，元となる音階，楽器の音色を聴き取り，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 歌声ひびかせて

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や副次的旋律、伴奏を聴いて声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 歌声や旋律どうしの関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律や歌声のよさや楽しさを見い出してミュージカルの音楽を聴くことができる。
- (3) いろいろな歌声を聴くことに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070103_001

【教材名】 プパポ (歌唱) 「サウンド オブ ミュージック」から (鑑賞) (P.12～P.15)

【準備等】 範唱CD, 鑑賞CD, (映画「サウンド オブ ミュージック」の映像), 録音機器, ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「プパポ」を、各パートの旋律の動きを捉え、聴き合いながら、響きのある伸びやかな声で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主旋律を歌詞唱する。 ★きき合いながら楽しく歌おう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱に合わせて、歌詞唱をする。 ・歌詞を読み、内容を理解する。 ・リズムや音程に気を付けて歌う。 ・タイの意味を理解し、リズムを知る。 ・フレーズのまとまりを捉えて、主旋律を歌唱する。 ・丁寧に発音したり、声を遠くへ届ける意識で歌ったりして、響きのある声で歌う。 ○副次的旋律を歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律と副次的旋律の動きについて、楽譜を見て確認する。 ○パートで音程を確認しながら、歌声や強弱を意識して歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・音程が不安定なところは、部分的に取り出して練習する。 ・パートの関わり合い方を確認し、旋律が交互に動くところ、重なるところを意識して、どのように歌いたいか考える。 ・パートを交替して歌ってみる。 ○二部合唱をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・互いに聴き合って歌う。 ・伴奏に合わせて、楽しく歌い合わせる。 <p>3～4 「サウンド オブ ミュージック」を、いろいろな声の響きや特徴を味わいながら聴き、ミュージカルを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカルについて知る。 ・「サウンド オブ ミュージック」の物語について知る。 ○学習課題をつかみ、「サウンド オブ ミュージック」を聴く。または映像を鑑賞しながら、楽しんで聴く。 ★いろいろな歌の表げんを楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・聴きながら、物語のイメージを膨らませる。 ・楽曲を聴いて、どんなイメージが浮かんだか出し合う ○「ドレミの歌」を聴き、楽しく歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・大人の女性の声と児童の声の響きの違いを感じながら聴く。 ・身体を動かしたり、指揮の動きをしながら歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不思議で可愛い「プパポ」の曲名に着目させて聴かせるとよい。 ・楽しい歌詞の内容や、歌詞が掛け合いになっていることに気付かせ、表現への意欲を高める。 <p>【新出】付点8分音符 16分音符 シャープ ナチュラル タイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にファ#の音程に気を付けながら、丁寧に指導する。 ・音程を確認しながら歌い、不安定なところは部分的に取り出して繰り返し練習させる。 ・楽譜をもとに、各パートの旋律の動きや役割について理解させる。(楽譜にネコやサカナや青色がついているところ) ・聴き合って、響きのバランスを取らせる。 <p>【共通事項】音色 フレーズ 問いと答え 音の重なり</p> <p>【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の内容との関わりを捉えながら歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かいリズムに合わせた発音の仕方や、フレーズを意識した響きのある歌い方を工夫し、伴奏に合わせて楽しく歌う。 ・客観的に聴くために、クラスを2つに分けて半分ずつ聴き合う活動を取り入れてもよい。 <p>【評】互いの歌声や副次的旋律、伴奏を聴いて声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカルは、歌や踊りを中心とした劇であることを伝える。 ・教科書の写真を参考にしてストーリーを説明する。 ・「エーデルワイス」は次の題材に生かせるため、聴かせておくもよい。 ・可能であれば、映像を鑑賞させながら、美しい自然の映像と心温まるストーリーに触れさせたい。 ・自然の雄大さ、家庭教師マリアの透き通った声の美しさを感じ取らせる。 ・映画の冒頭に演奏されるスケールの大きさを感ぜさせる楽曲である。 ・「ドレミの歌」は3年生で学習済みである。 <ul style="list-style-type: none"> ・マリアと子どもたちが一緒に楽しく歌っている様子を感じ取らせる。 ・マリアの声の響きの美しさや、子どもたちの明るい声の響きに耳を傾けさせる。 <p>【共通事項】音色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二拍子の曲である。

- 「ひとりぼっちのひつじかい」を聴く。
 - ・跳躍する旋律とヨーデルの独特な歌声を味わう。
 - ・斉唱や交互唱などで歌われる曲の面白さを感じ取って聴き、感じたことを交流する。

- 「わたしのお気に入り」を聴く。
 - ・軽やかなリズムを感じて、場面を想像しながら聴く。
 - ・音楽に合わせて口ずさみ、体を動かしてみる。

- 「エーデルワイス」を聴く。
 - ・3拍子を感じて、一緒に口ずさみながら聴く。
 - ・旋律の流れや男声の響きの雰囲気を感じ取り、感じたことを交流する。

- ・児童に子どもたちの役になりきらせ、「ド」「レ」「ミ」の掛け声をさせたり、マリアに続いて歌わせたりしてもよい。

【評】歌声や旋律どうしの関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・マリアと子どもたちが、人形を操りながら歌う場面の楽曲である。
- ・ヨーデルとは「レイオー」の部分の歌い方で胸声と裏声（ファルセット）が激しく交代する歌い方である。この歌い方によって、軽快さと楽しさをかもし出している。
- ・手拍子をすることで、軽快さが感じ取れる。

【共通事項】旋律

- ・雷雨の激しい夜に、おびえる子どもたちを励ますため、マリアが「怖い時や悲しい時は、お気に入りの物をいくつも思い浮かべて元気になろう」と軽やかな音楽にのせて歌う心温まる楽曲である。
- ・左右に体を揺らしながら、軽快な3拍子を感じ取らせる。
- ・お気に入りの物を児童のお気に入りの物に置き換えて歌ってもよい。

【評】いろいろな歌声を聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【備考】

単元名 ひょうしとせんりつ

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と拍やその流れなど音楽の構造との関わりに気付くとともに、互いの歌声や音、伴奏を聴いて声を合わせて歌ったり、楽器を演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 拍やその流れ、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、曲のよさを見い出して聴いたりすることができる。
- (3) いろいろな拍子の音楽に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070104_001

【教材名】エーデルワイス（歌唱 器楽） トルコ行進曲（鑑賞） ラバーズコンチェルト（歌唱） メヌエット（鑑賞） (P. 16～P. 21)

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、リコーダー、鍵盤楽器、鉄琴、木琴、（映画「サウンド オブ ミュージック」の映像）、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「エーデルワイス」を、3拍子の拍の流れにのって、歌ったり演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「エーデルワイス」の主旋律を拍子を感じながら歌詞唱する。 ★はくの流れやせんりつの感じを生かしてえんそうしよう <ul style="list-style-type: none"> ・既習の「サウンド オブ ミュージック」の鑑賞を思い出して範唱を聴く。 ・3拍子の拍の流れを感じて、リズム打ちをする。 ・リズム打ちをしたり、旋律のまとまりを感じたりしながら歌う。 ○旋律のまとまりを捉えて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を見て、似ている旋律と、違う旋律を見付ける。 ・それぞれの旋律の特徴と、続く感じから落ち着く感じかについて交流する。 ・旋律に合った歌い方について考える。 ・歌詞に合った歌い方について考える。 ○主旋律を楽器で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱する。 ・リコーダーの場合、タンギングやブレス、運指を思い出し、1段ずつゆっくり取り組む。 ○主旋律を歌詞唱したり、楽器で演奏したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・リズム打ちをしながら歌詞唱する。 ・旋律のまとまりに気を付けて歌詞唱する。 ・リコーダーで演奏する。 ○リコーダーで下の旋律を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・副次的旋律を階名唱する。 ・リコーダーで練習する。 ・副次的旋律を歌詞唱する。 ○二重奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・聴き合いながら、3拍子にのって合わせる。 ・歌と楽器で合わせる。 ・時間があれば、副次的旋律も合わせる。 <p>3～4 「トルコ行進曲」を、2拍子の拍の流れを感じて聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「トルコ行進曲」を、拍を感じながら聴く。 ★2びょうしを感じてしきをしてみよう <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしながら全曲聴き、気付いたことを交流する ・打楽器のリズムに注目して聴く。 ・行進曲について知る。 ○2拍子の指揮の動きをしながら聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・2拍子の指揮の動きについて知る。 ・指揮の動きをしながら聴く。 ・強弱について注意しながら、指揮の動きをして聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なめらかな3拍子の流れを感じ取らせる。 ・3拍子のリズム打ちは、ひざ打ち→手拍子→手拍子（トン タン タン）をさせるとよい ・1拍目に少しアクセントを付けるような感じで打つようにさせる。 ・4小節ずつが旋律のまとまりになっていることに気付かせ、息継ぎをそろえることでまとまりを感じ取らせる。 【共通事項】拍 旋律 ・楽譜を基に、各パートの旋律の動きや役割について理解させるとともに、それを生かした歌い方の工夫について考えさせていく。 ・教師が1段ずつ範奏して見せながら進める。 【評】拍やその流れ、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・歌詞唱のときのように、歌うように演奏することを意識させる。 ・ブレスの場所に気を付け、フレーズを感じて吹くようにさせる。 ・フレーズごとに教師が範奏しながら吹かせる とよい。 ・低い音のタンギングは「トゥ」ではなく「トオ」に近くするときれいに音が出る。 ・教師が1フレーズずつ範奏しながら進める。 ・聴き合って、響きのバランスを取るような方向へ進める。 【評】互いの歌声や音、伴奏を聴いて声を合わせて歌ったり、演奏をしたりすることを通して「技能」を評価する。 ・拍の流れにのりながら、吹奏楽の勇壮さや快活さを味わわせる。 ・打楽器のリズムに注意して聴かせると、2拍子の感じがつかみやすい。「タン ウン タン ウン タンタンタン」のリズム打ちをするとよい。 ・拍に合った動きをしている子、打楽器のリズムに合った動きをしている子、強弱に合った動きをしている子を取り上げ、理由を聞いていく。 【共通事項】拍 強弱 【新出】4分の2拍子 ・4分の2拍子を説明し、P18の図を見せながらリズムカルに指揮をさせる。 ・強いところでは振りを大きく、弱いところでは振りを小さくするようにする。手だけでなく、体全体で表現させるとよい。

- <もっとあそぼう>「メリーさんの羊」を歌う。
 - ・ 2拍子を感じながら歌う。
 - ・ リズム打ちしながら歌う。
 - ・ 指揮の動きをしながら歌う。
 - 「メリーさんの羊」を鍵盤楽器で演奏する。
 - ・ 階名唱や、運指唱をする。
 - ・ 鍵盤楽器で練習する。
 - 指揮を見て歌ったり演奏したりする。
 - ・ 指揮の役を決め、指揮に合わせてみんなで歌ったり演奏したりする。
 - ・ 指揮者が身振りを大きくする→みんなが強く歌う→身振りを小さくする→弱く歌う などのように、見ながら表現を変化させる。
 - ・ 面白いと思ったことを交流する。
- 5～6 「ラバーズ コンチェルト」の4拍子と、「メヌエット」の3拍子の拍の流れの違いを聴き取ったり表現したりする。
- 「ラバーズ コンチェルト」を歌詞唱する。
- ★ ひょうしのちがいを感じ取り はくの流れにのって歌おう
- ・ 範唱を聴いて曲の感じをつかむ。
 - ・ 歌詞唱する。
 - ・ 楽譜を見て、似た旋律、違う旋律を見付けたり、続く感じ、落ち着く感じかについて考えたりして歌う。
- 4拍子の指揮をする。
 - ・ 4拍子の指揮の動きについて知る。
 - ・ 指揮の動きを確かめながら歌う。
 - ・ 指揮の役を交代し、それに合わせて歌う。
 - 「メヌエット」を聴く。
 - ・ 何拍子の音楽なのか考えながら聴く。
 - ・ 3拍子の指揮の動きについて知る。
 - ・ 指揮をしながら聴く。
 - ・ 旋律について気付いたことを交流する。
 - 「メヌエット」と「ラバーズ コンチェルト」を比べる
 - ・ 「メヌエット」を3拍子の指揮の動きをしながら聴く
 - ・ 「ラバーズ コンチェルト」を、3拍子の指揮の動きをしながら歌ったり、4拍子の指揮の動きをして歌ったりする。
 - 「トルコ行進曲」を強弱や速度に合わせて指揮の動きをしながら聴く。
 - ・ 2拍子の指揮の動きを確認してから聴く。

【評】 拍やその流れ、旋律を聴き取り、それらの動きが生み出すよさを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 2拍子の拍の流れを感じながら歌う。
- ・ 1拍目に少しアクセントをつけるイメージで歌わせる。

- ・ 実態に応じて歌だけにしてもよい。

- ・ 指揮者には、みんなが速度や強弱がわかるように指揮することを伝え、歌ったり演奏したりさせる。

【共通事項】 速度

【評】 曲想と拍やその流れなど音楽の構造との関わりを捉えながら表現する活動を通して「知識」を評価する。

- ・ 1～8小節目と、9～16小節目がよく似ていることに気付かせる。
- ・ 息継ぎ（ブレス）の場所に注意し、ブレスの前の音が短くならないように、気を付けさせる。

【共通事項】 拍 旋律

- ・ 4分の4拍子の説明をし、教科書P20の図を見ながら指揮をさせる。独自の指揮を考えさせてもよい。
- ・ 児童に順に指揮をさせてもよい。

【新出】 4分の4拍子

- ・ 3分の4拍子の説明をし、曲に合わせてなめらかに指揮をしていくようにさせる。
- ・ 「ラバーズ コンチェルト」と旋律が似ていることに気付かせる。

【資料】 「ラバーズ コンチェルト」は、デニー・ランデルがバッハの「メヌエット」を1965年にポピュラー曲として編曲したものである。したがって、旋律の流れがよく似ている。

【新出】 4分の3拍子

- ・ 鑑賞CDや範唱CDに合わせて指揮をさせる
- ・ また、曲の雰囲気合う指揮の動きを考えさせてもよい。
- ・ 旋律と拍子の関係について気付かせる。

- ・ 範唱CDに合わせて指揮をさせる。曲の雰囲気に合う指揮の動きを考えさせてもよい。例えば、「トルコ行進曲」は歯切れよく振る、「メヌエット」は優しくなめらかに振る、など。

【評】 いろいろな拍子の音楽を聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 音の動き方やその組み合わせの特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けることができる。
- (2) 音の動き方やその組み合わせを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ることができる。
- (3) 音の動き方やその組み合わせの特徴を捉えたり、旋律を即興的に表現したりする活動に興味をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070105_001

【教材名】音の動き方を生かしてせんりつをつくろう（音楽づくり）

(P. 22～P. 23)

【準備等】リコーダー、ワークシート、メトロノーム

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 音やフレーズをつなげて音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5 音の中から即興的に音を選択して、指定されたリズムでリコーダーを吹く。 <p>★音の動き方を生かしてせんりつをつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輪になって一人ずつ即興的に表現する。 <p>○ さまざまな音型を試しながら、自分が表現したい旋律を4拍分つくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に音で試したり、友達を思いを伝え合ったりする ・ ワークシートにまとめる。 <p>○ 4人組になり、それぞれの音型をつなげて4小節の旋律をつくる。</p> <p>○ つくった音楽を互いに聴き合ったり、表現を振り返ったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな音型を見付けられるように働きかける。 ・ 旋律を表現するときは、音型に気を付けるようにするために、リズムは統一しておく。 ・ さまざまな音型を実際に試させることが大切である。 <p>【共通事項】せんりつ フレーズ</p> <p>【評】設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現することを通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まとまりのある旋律をつくるため、持ち寄った旋律をグループ内で修正していくような学びにする。 ・ メトロノームをかけながら、拍の流れののって演奏させる。 ・ 早く完成したグループに「もっとあそぼう」のような発展的な活動を紹介する。 <p>【評】音の動き方やその組み合わせの特徴を捉えたり、旋律を即興的に表現したりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】音の動き方やその組み合わせの特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】音の動き方やその組み合わせを聴き取り聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(2)

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 互いの歌声や伴奏を聴き、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
(3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070106_001

【教材名】まきばの朝（歌唱 共通教材）（P. 24～P. 25）

【準備等】範唱CD（牧場の様子を写した写真やビデオ，初夏の田園風景の写真やビデオ）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「まきばの朝」（共）を情景を思い浮かべながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴き，曲の感じをつかむ。 ★ まきばの様子を思いうかべながら歌おう ○ 教科書の写真などを基に，情景を思い浮かべる。 ○ 歌詞の言葉について，注釈を参考にして内容を理解する ○ フレーズを意識し，音程に注意して歌詞唱する。 ○ 情景を思い浮かべ，曲想に合った声で歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの情景の違いを生かして，様子や気分にあった表現をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真やビデオを見せて，情景を具体的に想像させる。できるだけ数多くの資料を準備し，自由にイメージさせることが大切である。 ・ 難語句の説明をする。 ・ 詩を読んだり範唱を聴いたりして，情景を思い浮かべ，景色や時の移り変わる様子，聞こえてくる音などを感じ取らせる。 ・ 1番から3番までの情景の違いを捉えさせる手掛かりとして，「きりの海」「黒い底から」「きりに包まれ」「日のかげに」「あかい光に染められた」など，歌詞にある景色を表す色を比べさせる。 ・ なめらかに，遠くのものに歌いかけるようにさせるとよい。 ・ 息継ぎの前の音が短くならないように気を付けさせる。 <p>【共通事項】フレーズ</p> <p>【評】互いの歌声や伴奏を聴き，声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フレーズを意識させ，夜明け前から日の出までの牧場の様子を思い浮かべさせる。 <p>【評】歌詞や曲想を生かして表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(1)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴き、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070107_001

【教材名】半月（歌唱） 飛べよつばめ（歌唱） まきばのこうし（歌唱） 札幌の空（歌唱） (P. 63～P. 68)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～4 選曲した曲を自然な歌声で歌う。</p> <p>○ 選択した曲の範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>★ のびのびと楽しく歌おう</p> <p>○ 主旋律を歌う。</p> <p>○ 副次的な旋律を歌う。</p> <p>○ 合唱の練習をする。</p> <p>○ 歌詞の内容を生かした歌い方を工夫する。</p> <p>○ 発音や響きに気を付けて歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「半月」は韓国の遊び歌であることを伝え、ゆったりと揺れる曲想であることを感じ取らせる。「まきばのこうし」はのどかな曲想を感じ取らせる。「札幌の空」は、札幌の空の美しさを想像しながら聴かせる。 ・ フレーズごとに区切りながら、自然な発声を心掛けて歌うようにさせる。 ・ 合唱は学級の実態に合わせて行う。斉唱でもよい。 ・ 他のパートの声を聴きながら歌うように助言する。 <p>【共通事項】旋律</p> <p>【評】歌詞や曲想を生かして表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 細かいリズムや音程にこだわらず、のびのびと表現させる。 ・ 「半月」は、手遊びを取り入れてもよい。（「みかんの花さく丘」の手遊びのように） ・ 「まきばのこうし」は、主旋律の高い音を歌う時、目を大きく開けさせて歌わせるとよい <ul style="list-style-type: none"> ・ 「札幌の空」は、限りなく高い空をイメージさせ、澄んだ明るい声でのびのびと歌わせていく。 <p>【評】旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の内容とを関わらせながら歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】互いの歌声や伴奏を聴き、声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 めざせ楽器名人

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) リコーダーの音色と演奏の仕方との関わりに気付くとともに、音色や響きに気を付けて、互いの音や副次的な旋律、伴奏を聴き、音を合わせて演奏する技能及びサミングの技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や旋律同士の関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 高音の響きやリコーダーによる表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070201_001

【教材名】ハローサミング（器楽）

「もののけ姫」から（器楽）

(P. 26～P. 27)

【準備等】範奏CD，リコーダー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「ハローサミング」をリコーダーで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サミングを身に付ける。 ★ サミングにちょう戦しよう <p>○ 範唱奏を聴いて曲の感じをつかむ。</p> <p>○ 階名唱して、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低いミ→高いミの親指の動きに慣れてから、高いレ→高いミも練習する。 <p>○ 伴奏のリズムにのって楽しく練習する。</p> <p>2 「『もののけ姫』から」をリコーダーで二部合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範奏を聴いて曲の感じをつかむ。 ○ 「『もののけ姫』から」の上のパートを、聴唱法で階名唱する。 ○ 下のパートを階名唱する。 ○ 上のパートと下のパートをに分け、二部合奏する。 ○ 掛け合いや重なりを感じ取り、聴き合いながら二重奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低いミをたっぷりとした息で「ロー」と吹いてから、そのまま左手親指だけすべらせたり立てたりして、指孔（トーンホール）の上の方に1ミリくらいの隙間を作り、「ティー」の発音で吹いて高いミを出す。 ・ 繰り返し定着させる。 ・ 「学びリンク」の動画を活用してもよい。 【新出】リコーダー「高いミ」の運指 【評】リコーダーの音色と演奏の仕方との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する ・ フレーズの流れを意識させる。 ・ 高いミに上がるときに、発音や息のスピードにも気を付け、美しくよく響くところを探し柔らかく丁寧に演奏させる。 【共通事項】音色 【評】高音の響きに気を付けて演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 途中、掛け合いになっていることに気付かせる。 ・ ブレスで区切って聴唱法で歌わせる。付点のリズムや、タイのついた音のリズムに気を付けさせる。 【発展】全休符 ・ 1拍目の休符に注意させる。 ・ ブレスで区切って、フレーズの流れを意識させる。 ・ 高いミの音の出し方に注意させ、拍にのってゆったりと吹く。 ・ 最初は、上下パートが分かれる3段目から合わせてみる。その後、最初から通して合奏させる。 【共通事項】旋律 【評】旋律や旋律同士の関わりを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】音色や響きに気を付けて、互いの音や副次的な旋律、伴奏を聴き、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 曲に合った歌い方

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、呼吸や発音に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れやフレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 曲想を生かした歌唱表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070202_001

【教材名】 ゆかいに歩けば（歌唱） とんび（歌唱）

(P. 28～P. 31)

【準備等】 範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 「ゆかいに歩けば」に合った歌い方を工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主旋律を歌詞唱する。 ★ ひびきを大切に歌い方をくふうしよう <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・ 歌詞を読み、内容を理解する。 ・ 聴唱法で歌い、メロディーに慣れる。 ○ 曲に合う歌い方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩きながら歌い、どんな歩き方が合うか、意見を出し合う。 ・ 旋律の感じがかわるところを探す。 ・ スタッカート（スタカ）の歌い方を工夫する。 ・ 「バルデリー」からの部分を工夫する。 ・ 呼吸や発音に気を付けて歌う。 ○ 下声部を歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ イの部分の下声部の動きについて、楽譜を見て確認する。 ・ 音を確認しながら歌う。 ・ 下声部の役割について考える。 ○ 二部合唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに聴き合って歌う。 ・ スタッカートの箇所（箇所）の発音や発声の仕方、長い音符を響かせて歌うなど、歌い方をさらに考える。 ・ 伴奏に合わせて、楽しく歌い合わせる。 <p>3～4 「とんび」に合った歌い方を工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 階名（かいめい）唱して音を確認する。 ・ 音の高さに合わせて手を動かしながら歌詞唱し、旋律の流れと歌詞との関わりについて、気付いたことを交流する。 ○ クレシェンド、デクレシェンドの意味を知り、その効果を考えて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ピンヨロー」の部分の歌い方を考えて歌う。 ・ 気付いたことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発声練習に適した教材である。前半の部分を「ピ」「ポ」「マ」などの言葉で歌うとよい。その際、P29の写真のように肩を楽にし、お腹に手を当てながら歌い、お腹を使って歌うことを意識させる。 ・ スタッカートの付いている音は弾んだ感じで歌うようにさせる。 【新出】 スタッカート ・ 同じリズムで少しずつ音が高くなっている旋律に合わせて、気持ちが盛り上がっていく部分である。徐々に強くしていき、伸びている音を響かせて歌うようにさせる。また、付点8分音符や16分音符のリズムにのせて、弾んだ感じも出していくようにさせる。 【共通事項】 旋律 音色 ・ スタッカートの発音と、腹式呼吸の意識をリンクさせて伝えるようにする。 【評】 旋律の流れやフレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 音程が不安定なところは部分的に取り出して練習する。 ・ 聴き合って、響きのバランスをとらせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想に合った楽しい歌い方を大切にする。 ・ 弾んで歌うスタッカートの部分や、なめらかに歌う部分を意識させながら歌わせる。 ・ 重なっている音を一つずつ歌って響きを確認しながら練習させる。 ・ 声の響きやバランスを考えながら歌わせる。声が競争してぶつからないように気を付けさせる。 【評】 呼吸や発音に気を付けながら歌う活動を通して「技能」を評価する。 ・ 教科書の挿絵を見たり、とんびが飛ぶ様子や鳴き声を想像したりして様子を思い浮かばせる。 ・ 「学びリンク」の音声を活用してもよい。 ・ 空を飛んでいるとんびに呼びかけている歌詞であることに気付かせる。 ・ 手を音高に合わせて動かしながら階名唱して音の高さの動きを確認したり、旋律の流れと歌詞の内容の結びつきを捉えさせたりする。 ・ クレシェンド、デクレシェンドと旋律の流れや歌詞の表現がリンクしていることに気付かせる。 【共通事項】 旋律 フレーズ 呼びかけと答え 強弱 【新出】 クレシェンド デクレシェンド 【評】 曲想と旋律など音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の内容との関わりを捉えて歌う活動を通して「知識」を評価する。

- ふさわしい歌い方で歌詞唱する。
 - ・ 3段目の鳴き声の部分の旋律について、気付いたことを出し合う。
 - ・ イメージされるとんびの様子について出し合う。
 - ・ 4つぐらいのグループに分かれ、3段目の鳴き声の部分の歌い方や強さについて考える。
- 歌い方をまとめる。
 - ・ 3段目については、児童のアイデアを取り入れて全員で歌って試していく。
 - ・ 「ゆかいに歩けば」と「とんび」を歌い比べ、気付いたことを交流する。

・ 楽譜を視覚的に共有し、出し合った意見を書き込みながら進められるよう、大きな楽譜を準備する。

・ 曲想の違いから、歌い方が変わることに気付かせる。

【評】 曲想を生かした歌唱表現を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 かけ合いと重なり

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と呼びかけとこたえなど、音楽の構造との関わりに気付くことができる。
 (2) 楽器の音や掛け合いと重なり、旋律の反復と変化を聴き取り、それらの働きのよさや美しさを
 感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見い出
 し、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) 楽器による呼びかけ合いや音の重なり、楽器の響きを楽しみながら、主体的・協働的に学習活
 動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070203_001

【教材名】アラ ホーンパイプ (鑑賞)

(P. 32～P. 33)

【準備等】鑑賞CD, ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「アラ ホーンパイプ」を聴いて、トランペットとホルンのかけ合いや重なりに気付いて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <主なせんりつを中心とする部分>を聴き、特徴に気付く。 ★ かけ合いや重なりのおもしろさを味わおう <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲冒頭から、旋律を口ずさむなどしながら聴き、気付いたことを出し合う。 ○ トランペットとホルンについて知り、音色や響きの違いを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器について理解する。 ・ 響きに気を付けて聴く。 ・ 印象に残ったことをメモしておく。 <p>2 「アラ ホーンパイプ」の全体の曲想とその変化を感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <せんりつの感じが大きく変わる部分>を聴き、特徴に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時を振り返り、<主なせんりつを中心とする部分>の呼びかけ合いについて確認する。 ○ 呼びかけ合いを意識しながら、冒頭から<せんりつの感じが大きく変わる部分>までを聴く。 ○ <せんりつの感じが大きく変わる部分>を抽出して聴き、気付いたことを交流する。 ○ 全曲通して聴き、形式に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 冒頭から全曲を通して聴き、気付いたことを交流する ・ トランペットとホルンの呼びかけ合いによって「主なせんりつを中心とする部分」が再現されることに気付く ・ 印象に残ったことをメモしておく。 <p>3 全曲通して聴き、よさや面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「水上の音楽」についてや、作曲された背景、作曲者ヘンデルについて大まかに知る。 ○ 前時までの各自のメモを手元に置きながら学びを振り返り、曲全体を何度か聴きながら、感じ取ったことや想像したことを紹介文にまとめる。 ○ 紹介文を発表し合い、友達と意見を交流するなどして、曲のよさに気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ この曲の面白いところや、お気に入りのところなどを友達に伝える。 ○ 曲全体の特徴や演奏のよさを味わう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲全体を通して聴き、特徴や演奏のよさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初は全曲を聴かず、A－B－AのAの部分だけ取り出して聴いていく。 ・ 実物があれば見せたり音を聴かせたりするとよい。 ・ トランペットのグループと、ホルンのグループに分かれ、向かい合ってそれぞれ聴こえてきたら吹く真似をしながら聴き、呼びかけ合ったり一緒に演奏したりしていることに気付かせる。 ・ 弦楽合奏の部分は、教師が引き真似をするなどしてつなぐ。 【共通事項】音色 旋律 呼びかけと答え 音の重なり 【評】楽器による呼びかけ合いや音の重なり、楽器の響きを聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 楽器の吹き真似などをして、トランペットとホルンの音を確認しながら聴いてもよい。 ・ 呼びかけ合いに注目して聴くと、形式に気付きやすい。 ・ 曲の感じが変わり、呼びかけ合いが無くなることに気付かせる。 ・ 曲の特徴に関する発言については、曲を再度聴きながら確認していくようにする。 ・ 聴く前に<せんりつの感じが大きく変わる部分>の後に、どんな旋律や楽器が出てくるか気を付けて聴くように伝える。 ・ <まなびリンク>の動画を活用してもよい。 【共通事項】反復 変化 【評】曲想と呼びかけとこたえなど音楽の構造との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。 ・ 前時までの一人一人の気付きの積み重ねを生かした学びとする。 ・ まとめるときの言葉がうまく出てこないときは、メモに立ち返ったり、友達の意見を参考にしたりしながら紹介文を書いていくようにする。 ・ 友達の紹介文の発表内容から、曲のよさなどについて再発見したことがあったら、学習カードなどにまとめるようにする。 【評】楽器の音や掛け合いと重なり、旋律の反復と変化を聴き取り、それらの働きのよさや美しさを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(3)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や旋律同士の関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想、声部の役割を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070204_001

【教材名】もみじ（歌唱 共通教材）

(P. 34～P. 37)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「もみじ」（共）を情景を想像しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴き、学習課題をつかむ。 ★ せんりつの重なりを感じ取りながら歌おう ○ 教科書の写真などをもとに、情景を思い浮かべる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 番、2 番の歌詞の言葉について、注釈を参考にして内容を理解する。 「夕日に照る山」…オレンジ色 「かえで」…赤 「もみじ」…赤 「松」…緑 「つた」…黄 ○ 上のパートの旋律のもつリズムや流れを意識して歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各段の旋律が、「続く感じ」か「落ち着く感じ」か感じ取る。 ○ 情景を思い浮かべ、曲想に合った声で上のパートを歌詞唱する。 ○ 下のパートを歌い、旋律同士の関わりから、曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 下パートの旋律を、聴唱法で歌う。 ・ 楽譜を見ながら、旋律の関わりについて気付いたことを出し合う。 ・ 曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 ○ グループや全体で旋律の重なりや響き合いを感じ取りながら、情景を思い浮かべて二部合唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二部合唱の曲で、大きく2つの部分に分かれていることに気付かせる。 ・ 詩を読んだり範唱を聴いたりして、情景を思い浮かべ、様子などを捉えさせるようにする ・ 色彩感あふれる秋の山や川の様子をつかませる。歌詞に歌われている色を具体的にあげさせるとよい。また、校庭などで拾わせてもよい。 ・ 旋律の動きに合わせて、自然に強弱をつけさせる。 【共通事項】旋律 ・ 「タンタタタンタン」のリズムが多用されていることに気付かせる。 【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の内容との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。 【評】歌詞や曲想を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・ 全休符について理解し、1小節あとから上パートを追いかけることに気付かせる。 【発展】全休符 ・ 3段目は上パートと同じリズムで動いていることに気付かせる。 ・ 4段目の最初は追いかけても同じリズムでもないことに気付かせる。 【評】旋律や旋律同士の関わりを聴き取り、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 互いのパートの音をよく聴き合うように助言する。 【共通事項】音の重なり ・ 下パートのリズムや音程が不安定な場合は、教師と一緒に歌ったり、鍵盤楽器でメロディーを弾いたりするとよい。 ・ つられないように必要以上に力んで声を出してしまう傾向があるため、どちらの声部も同質で柔らかい響きで歌うようにさせる。 【評】互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音楽今昔

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりに気付くとともに、呼吸や発音に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能や、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や歌い方、楽器の音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかや演奏するか、まとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったり、音楽のよさを見出し、味わって聴いたりすることができる。
- (3) 我が国や諸外国に伝わる様々な音楽の特徴や、人々の暮らしとの関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070205_001

【教材名】ソーラン節（歌唱等）秩父屋台ばやし（鑑賞）葛西ばやし（鑑賞）おはやしづくり（器楽 音楽づくり）サムルノリ（鑑賞）サンバの音楽（鑑賞）朝の歌（器楽）おどれサンバ（歌唱 器楽）（P. 38～P. 47）

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、映像資料、リコーダー、締太鼓、長胴太鼓、各種打楽器（ラテンパーカッションを含む）、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「ソーラン節」を掛け声などを工夫しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ソーラン節」を歌う。 ★伝えられてきた歌を楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、旋律を捉える。 ・漁の作業歌であることを簡単に理解する。 ・掛け声を入れて歌う。 ○歌い方について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞教材の「ソーラン節」の音源を聴き、歌い方について意見を交換する。 ・手拍子や掛け声を入れながら歌う。 ○リコーダーの前奏を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱して、演奏する。 ・日本の笛のように吹いてみる。 ○音頭一同形式で歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「歌い手役」と「みんな」とに分かれ、手拍子や掛け声を入れて歌う。 ・「歌い手役」を交代しながら歌う。 ・友達の表現のよいところを交流する。 <p>2～3 日本のお祭りの音楽や民謡に親しみ、その特徴を感じ取りながら演奏を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「秩父屋台ばやし」を聴き、お囃子のリズムや楽器の音色に親しむ。 ★おはやしのリズムを楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・お囃子に使われているリズムを感じ取りながら聴く。（＜おはやしづくりにチャレンジ＞のリズムを参考に聴いてもよい。） ・使われている楽器について、写真や資料などを見て理解し、演奏する真似をしながら聴く。 ○＜おはやしづくりにチャレンジ＞に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の締太鼓、大太鼓のリズムをそれぞれ口唱歌で唱え、机などを打って練習する。 ・それぞれの太鼓の名前や打ち方を理解する。 ・大太鼓のリズムを自由に組み合わせ各自練習する。 ・締太鼓のリズムに、工夫した大太鼓のリズムを重ねて楽しむ。 ○おはやしの旋律を即興的につくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ミソラシレミから隣り合った音で3音程度選び、リコーダーで即興的に吹いてみる。 ・4小節または8小節の長さになるように、各自旋律を工夫して練習する。 ○グループでお囃子をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで簡単なおはやし（8～16小節）をつくり練習する。 ・つくったお囃子を発表し、気付いた点を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・網から魚をタモで救う際の歌だったことを伝える。 ・いろいろな旋律がある曲であるため、鑑賞音源は必ずしも教科書楽譜の旋律で歌っていないが、歌手の発声やこぶしなどに注目して聴かせる。 ・ダンギングしないで吹いてもよい。 ・【共通事項】旋律 音色 呼びかけとこたえ 【評】旋律や歌い方を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・「日本のお祭りをたずねて」の見開きを利用し、地域に伝わる音楽に言及して学習に入る ・導入として、＜日本のお祭りをたずねて＞の中から選んで聴くか、自分たちの地域のお祭りの音楽やお囃子を聴き、特徴を感じ取る活動もよい。 ・演奏をしている様子の分かる資料や映像、使われている楽器を提示する。 ・P75の「日本のお祭りの楽器」にある和楽器も紹介する。 ・太鼓のリズムを口唱歌で唱えて捉えさせる。 ・それぞれの太鼓について簡単に説明し、音色や響きの違いを意識させる。 ・全員が大太鼓を体験できるようにする。 ・締太鼓や大太鼓が学校にない場合は、中太鼓や小太鼓で代用するとよい。また、ダンボール箱や古い樽、厚い雑誌や竹を割ったものを利用して楽器を作ってもよい。 【評】曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて捉えてリズム打ちする活動を通して「知識」を評価する。 ・「ふえ」を参考にさせる。 ・ラカミから始まり、レミソラシレ（最後のレは高いレ）を使ってラカミで終わらせる。 ・リズムを工夫させてもよい。 ・締太鼓・大太鼓は交代で練習できるよう配慮する。 ・できた旋律を発表し合って、つなぎ方を工夫させる。 【共通事項】リズム 反復 音の重なり

- 「葛西ばやし」を聴く。
 - ・教科書にある締太鼓の口唱歌を唱えてみる。
 - ・締太鼓のリズムを中心に聴いていく。
 - ・感じたことを交流する。
 - ＜日本のお祭りをたずねて＞を聴き、いろいろな「日本のお祭りの音楽」の特徴やよさを感じ取る。
 - ・自分たちの地域にあるお祭りの音楽や、知っているお祭りなどについて話し合う。
 - ・教科書の写真や日本地図を参考にしながら、様々なお祭りの音楽を楽しむ。
 - ・何回か聴いて、それぞれの音楽の違いや類似点などに気付く。
 - ・リズムや楽器の音色、旋律や掛け声など、それぞれの音楽のよさや特徴を感じ取りながら聴く。
 - ・人々の生活との関わりを調べてみる。
- 4～5 世界のいろいろな音楽に親しみ、サンバのリズムを楽しんで表現する。
- 「朝の歌」を歌う。
 - ★世界に伝わるいろいろなリズムや歌を楽しもう
 - ・範唱を聴き、旋律を覚える。
 - ・はっきりとした発音で伸び伸びと歌詞唱する。
 - ・リズム伴奏を加えて歌詞唱する。
 - ・輪唱する。
 - 「朝の歌」をリコーダーで演奏する。
 - ・階名で旋律を歌う。
 - ・リコーダーで演奏する。
 - ・リズム伴奏を加えて演奏する。
 - 歌い方を工夫して歌う。
 - ・遠くに呼び掛けるような声で歌う。
 - ・輪唱で歌う。
 - 「サムルノリ」を聴き、リズムや楽器の音色の特徴を感じ取る。
 - ・チャングの口唱歌を唱える。
 - ・チャングについて、写真や資料などを見て理解し、演奏する真似をしながら聴く。
 - ・気付いたことを交流する。
 - 「サンバの音楽」を聴き、リズムや楽器の音色の特徴を感じ取る。
 - ・リオのカーニバルの様子を聴き、カーニバルについて知る。
 - ・「ブラジル」を聴き、サンバのリズムに親しむ。
 - ・体を動かしながら聴く。
 - ・気付いたことを交流する。
 - 「おどれサンバ」を歌う。
 - ・範唱を聴き、旋律を捉える。
 - ・繰り返し記号と進み方について理解する。
 - ・リズムにのって歌詞唱する。
 - ・アの部分を階名唱したり運指唱したりする。
 - ・アの部分を重ねる。
 - ＜もっとあそぼう＞を参考にして「おどれサンバ」にリズム言葉（口唱歌）で伴奏を付けて歌う。
 - ・各リズムを確認する。
 - ・グループをつくり、ボイスアンサンブルをする。
 - ・「おどれサンバ」とリズム言葉を合わせる。
 - サンバのリズムを楽器で演奏する。
 - ・楽器の名前や演奏の仕方を理解する。
 - ・シェーカーやアゴゴ、フロアトムは交替で演奏する。
 - ・グループをつくり、楽器だけで重ねてみる。
 - 「おどれサンバ」を楽器のリズムで伴奏して歌い合わせる。
 - ・リズム伴奏の部分を、グループごとに演奏する。
 - ・歌とリズム伴奏が一体となって、楽しく演奏する。

【評】音楽の仕組みを用いて音楽をつくる活動を通して「技能」を評価する。

- ・楽器の演奏が分かる資料などがあれば用意する。
- ・口唱歌を口ずさみながら、手拍子や机を打つなどしてリズムを捉えさせる。
- ・教科書以外にお祭りの映像など演奏している様子の分かる資料を準備する。
- ・特徴が分かりやすい音楽を選んで聴かせるようにする。自分たちの地域にお祭りの音楽があれば、比較させてもよい。
- ・どんなときに行われるお祭りなのか、暮らしとの関わりについて触れる（収穫のときなど）。
- ・宗教等の扱いには留意する。

- ・自然の中で歌われていたであろうことを伝え、遠くに呼び掛けるような声で歌うようにする

【共通事項】リズム 音色 反復 旋律 音の重なり

- ・下の「ド」で、右手の小指が指孔に届かない子は無理をさせない。

- ・演奏している様子の分かる資料や、使われている楽器を提示する。映像があればなおよい

- ・教科書P47のリズムを唱えながら聴かせる。

【評】諸外国に伝わる様々な音楽の特徴や、人々の暮らしとの関わりを捉えて聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・繰り返し記号（リピート）について説明する既習の「ソーラン節」にも出てくるので、振り返るとよい。
- ・繰り返すリズムや旋律にのって、弾む感じで歌うようにする。

【新出】くり返し記号（リピート）

【共通事項】リズム 拍 反復 音の重なり

- ・リズムの言葉（口唱歌）を唱えることで、リズムをつかませる。

- ・まずはシェーカーなど、何か一つ楽器を選んで歌と重ねさせる。
- ・楽器の名前や演奏の仕方を簡単に説明する。

- ・楽器がなければ、似た音色の楽器や、身近にある音の出るもので代用してもよい。
- ・全員が伴奏を担当できるようにグループで練習し、演奏は交代制で歌と合わせられるよう配慮する。

【評】旋律や歌い方、楽器の音色、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(2)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 様々な音階の特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに設定した条件に基づいて即興的に音を選択して表現したり、音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や旋律の基となる音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや、音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得たり、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりすることができる。
- (3) 日本に伝わる音楽の音階を基にした旋律づくりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070206_001

【教材名】音階をもとにして音楽をつくろう（音楽づくり）（P. 48～P. 49）

【準備等】リコーダー、鍵盤ハーモニカ、木琴、鉄琴、オルガンなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 音階から音楽をつくって演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの曲を歌い、音楽の雰囲気や特徴について話し合う。 ★音階をもとにして音楽をつくろう ○それぞれの曲で使われている音階について知り、音階の響きを聴き比べる。 <p>○一人一つ音階を選び、2小節の旋律を作る。</p> <p>○基にした音階ごとに集まり、拍にのってリレーする。</p> <p>○基にした音階が同じ友達同士5人程度のグループをつくり、旋律をまとめていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伴奏担当を決める。 ・リズムや強弱、速さ、始め方や終わり方などを工夫する。 <p>○発表して感想を出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの曲の音階を参考に、既習曲と照らし合わせながら確認する。 【共通事項】音階「せんりつ」 【評】さまざまな音階の特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて捉える活動を通して「知識」を評価する。 ・音階を選ぶとき、基の曲の情景やイメージに引っ張られないようにする。情景を表す音楽づくりではない。 ・音階の音であれば、どの音から始めてもよいこと、隣の音に進むとつくりやすいことを知らせる。 ・常時活動として8拍のリズム模倣を即興的にするなど、拍の流れにのって演奏する音楽遊びに慣れていると、それが音楽づくりに生かされる。3年生「シラソでリレー」「ラドレでリレー」、4年生「音の動き方を生かしてせんりつをつくろう」の学習と系統性をもたせるとよい。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカでつくった旋律を確かめ、一人ずつつくった旋律をリレーのようにつなぐようにさせる。 ・教師が伴奏を重ねるとよい。 【評】設定した条件に基づいて即興的に音を選択して表現したり、音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする活動を通して「技能」を評価する。 ・終わるときは、青い網がけの音で終わる約束を伝える。 ・始め方（一斉に・一人ずつ・伴奏から）や終わり方（一斉に・一人ずつ・伴奏が残る・コーダを付ける）についてアイデアを出し合えるようにする。 【評】日本に伝わる音楽の音階を基にした旋律づくりを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】旋律や旋律の基となる音階を聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(2)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や伴奏を聴き、声を合わせて歌ったり、楽器を演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070207_001

【教材名】 沖永良部の子もり歌（歌唱） I Love the Mountains（歌唱） カルーヨ
（器楽） （P.62～P.65）

【準備等】 範唱CD、範奏CD、リコーダー、ボンゴ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～6 選択した曲を楽しみながら歌ったり演奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。 ★ 楽しみながら歌ったり演奏したりしよう ○ 聴唱法で主旋律を歌う。 <p>○ 曲に合った歌い方や演奏方法を工夫する。</p> <p>○ 曲の特徴を味わいながら、楽しんで歌ったり演奏したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ フレーズごとに区切って歌い、フレーズを意識させる。 ・ 「カルーヨ」は階名唱をしてからリコーダーで吹かせる。 ・ 「沖永良部の子もり歌」では、P48の音階に触れる。 ・ 「カルーヨ」は、リズム楽器の練習をし、リコーダーと合わせる。 ・ 二重唱や輪唱、輪奏など、曲に応じて歌い方や演奏の仕方を広げていく。 <p>【共通事項】 旋律</p> <p>【評】 旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の内容とを関わらせながら歌ったり演奏したりする活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】 互いの歌声や伴奏を聴き、声を合わせて歌ったり、楽器を演奏したりする活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】 歌詞や曲想を生かして表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 アンサンブルの楽しさ

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりに気付くとともに、音色に気を付け、互いの音を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) フレーズの呼びかけ合いや音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 曲想や各声部の役割に合った表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070301_001

【教材名】ラ クンパルシータ(器楽) (P. 50～P. 51)

【準備等】範奏CD、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、木琴、オルガンなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「ラ クンパルシータ」を、楽曲に合った工夫をして合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 曲想や特徴を捉える。 ★ パートの役割を生かして生き生きとえんそうしよう <ul style="list-style-type: none"> ・ 範奏を聴き、曲の感じをつかむ。 ○ 鍵盤ハーモニカの1のパートを演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 休符に気を付けながら、範奏に合わせて階名唱したり運指唱したりする。 ・ シャープとナチュラルの意味を理解する。 ・ 鍵盤で「#ソ」の位置を確認し、ゆっくり練習する。 ・ 範奏に合わせて演奏する。 ○ 鍵盤ハーモニカの2パートを演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 休符に気を付けながら、範奏に合わせて階名唱したり運指唱したりする。 ・ 鍵盤でレ#の位置を確認し、ゆっくり練習する。 ・ 慣れたら、範奏に合わせて演奏する。 ○ 鍵盤ハーモニカの1・2パートを合わせて演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスを2パートに分け、担当を決めて演奏する。 ・ リズム伴奏を加えて演奏する。 ○ 鍵盤ハーモニカとリコーダーパートを合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーパート1を階名唱して、練習する。 ・ リコーダーパート2を階名唱して、練習する。 ・ クラスを2パートに分け、演奏する。 ・ クラスを4パートに分け、鍵盤ハーモニカ1・2、リコーダー1・2で演奏する。 ・ リコーダーの役割について考え、強弱記号をもとに強弱やバランスを工夫する。 ○ 担当するパートを決めて練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ パートごとに集まって練習する。 ・ 木琴や低音パートは階名唱し、鍵盤を確かめ、拍ののって楽器で練習する。 ・ パートごとの役割について、気付いたことを交流する ○ パートの関わり合いや役割を生かして演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 速さや強弱、音のバランスなどに気を付けて合奏する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タンゴという踊りの曲である。 ・ 重厚保感のある情熱的な曲想を感じ取らせる ・ 黒板や書画カメラで鍵盤を掲示する。 ・ 教師がゆっくりと拍打ちをして、合わせて歌ったり演奏したりさせてもよい。 ・ スタッカートについて復習する。 ・ リピート記号は既習の「お祭りや民ようめぐり」の「おどれサンバ」で学習している繰り返し記号である。 ・ 楽譜の見方を理解するために、曲に合わせてそれぞれのパートの旋律を指でなぞるとよい ・ 鍵盤ハーモニカのパートが2つあり、メロディーが掛け合いになっていることに気付かせる。 ・ 小説の始めの8分休符を意識させる。 ・ パートリーダーを決めると、練習が進めやすい。 ・ 練習できる部屋が複数確保できるとよい。 ・ 1と2のパートが掛け合いをしていることに気付かせる。 ・ 主旋律が通るように演奏させる。 【評】音色に気を付け、互いの音を聴いて、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。 ・ 最初の合奏は、速さやリズムをそろえて演奏することを中心に行う。 ・ 同じようなリズムや旋律があるパートを取り出して合わせる練習により、それぞれの役割がはっきりしてくる。 ・ 互いに音を聴きながら、速さをそろえて合奏させる。 【新出】リコーダー「ソ#」の運指 ・ リズムを打楽器で打つパートをつくってもよい。 ・ 教師がゆっくりと拍打ちをして、合わせて歌ったり演奏したりして支援する。 ・ 木琴のパートは、階名唱の際から強弱に気を付けるようにさせる。 【共通事項】フレーズ 強弱 【評】曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。 ・ 同じパートで息を合わせるとともに、他のパートの音もよく聴きながら演奏させる。 ・ 木琴は前半は主旋律であり、後半イからが和音になる。和音部分のクレシェンドの効果を感じ取らせる。 【共通事項】音楽の縦と横との関係 【評】曲想や各声部の役割に合った表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- 全員やグループで合奏する。
 - ・ 全員で合わせる。
 - ・ 鍵盤ハーモニカとリコーダーは1パート2～3人ずつ前に出て、ほかの楽器は交代しながら合わせて演奏し、聴き合う。
 - ・ 各楽器のバランスに気を付けて演奏する。

- ・ 演奏する人を交替させ、聴き合ったり気付いたことを出し合ったりさせる。
- 【評】フレーズの呼びかけ合いや音の重なりを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 わたしたちの表げん

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造と関わり、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や音、伴奏を聴き、声や音を合わせて歌ったり演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 歌声や楽器の音色、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかや演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 声や音を合わせて歌ったり演奏したりすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、1年間の学習を生かして、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070302_001

【教材名】 こきょうの春（歌唱 器楽） グッデーグッバイ（歌唱） （P. 54～P. 55）

【準備等】 範唱CD，リコーダー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「こきょうの春」を、音の重なりを楽しみながら、工夫して表現する。</p> <p>○主旋律を歌詞唱する。</p> <p>★気持ちを合わせて美しいひびきでえんそうしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ・歌詞唱して旋律を覚える。 <p>○上声部をリコーダーで演奏し、ふさわしい響きについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階名唱する。 ・高い音の響きに気を付け、1段ずつ練習する。 <p>○下声部をリコーダーで練習し、役割やふさわしい響きについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下声部を階名唱する。 ・上声部と下声部の旋律のリズムを確認して演奏し、同じリズムで動いていることを知る。 <p>○二部合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つのグループに分かれ、クラス全体で合わせる。 ・上パートと下パートの担当を交代する。 ・曲の山について確認する。 ・8人ぐらいのグループをつくり、グループ内で担当を決めて、合奏する。 ・発表して聴き合い、意見を交流する。 <p>○学校の中で流れている音楽について意見を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなところでどんな音楽が流れていたか、出し合う ・どんな音楽でどんな気持ちになったか、覚えていることを交流する。 ・1年間の音楽の学習について振り返る。 <p>1～3 「ラ クンパルシータ」を、楽曲に合った工夫をして合奏する。</p> <p>○曲想や特徴を捉える。</p> <p>★パートの役割を生かして生き生きとえんそうしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範奏を聴き、曲の感じをつかむ。 <p>○鍵盤ハーモニカの1のパートを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休符に気を付けながら、範奏に合わせて階名唱したり運指唱したりする。 ・シャープとナチュラルの意味を理解する。 ・鍵盤で「#ソ」の位置を確認し、ゆっくり練習する。 ・範奏に合わせて演奏する。 <p>○鍵盤ハーモニカの2パートを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休符に気を付けながら、範奏に合わせて階名唱したり運指唱したりする。 ・鍵盤でレ#の位置を確認し、ゆっくり練習する。 ・慣れたら、範奏に合わせて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心地よい春の雰囲気イメージさせる。 ・旋律が、なめらかに起伏していることを伝える。 ・発声に気を付けて歌わせる。高い音は無理せず、歌えるところを歌うように配慮する。 <p>【評】 曲想と旋律など音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の内容との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低いドの指づかいを確認する。 ・なめらかに演奏するために、やわらかいタンギングができるようにさせる。 ・旋律が続く感じか、落ち着く感じかを確認する。 ・旋律のまとまりについて考えさせ、ブレスを意識して演奏させる。 <p>【共通事項】 旋律 フレーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が両方のパートを確認するようにする。 ・1パート4人ずつを目安にまとめる。 ・時間があれば二重奏を行ってもよい。 ・聴き合って、1パート1人ずつで響きのバランスをとらせる。 <p>【評】 互いの歌声や音、伴奏を聴き、声や音を合わせて歌ったり演奏したりする活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の時間、給食、昼休み、放課後などを想起させる。 ・タンゴという踊りの曲である。 ・重厚保感のある情熱的な曲想を感じ取らせる ・黒板や書画カメラで鍵盤を掲示する。 ・教師がゆっくりと拍打ちをして、合わせて歌ったり演奏したりさせてもよい。 ・スタッカートについて復習する。 ・リピート記号は既習の「お祭りや民ようめぐり」の「おどれサンバ」で学習している繰り返し記号である。 ・楽譜の見方を理解するために、曲に合わせてそれぞれのパートの旋律を指でなぞるとよい ・鍵盤ハーモニカのパートが2つあり、メロディーが掛け合いになっていることに気付かせる。

- 鍵盤ハーモニカの1・2パートを合わせて演奏する。
 - ・ クラスを2パートに分け、担当を決めて演奏する。
 - ・ リズム伴奏を加えて演奏する。

- 鍵盤ハーモニカとリコーダーパートを合わせる。
 - ・ リコーダーパート1を階名唱して、練習する。
 - ・ リコーダーパート2を階名唱して、練習する。
 - ・ クラスを2パートに分け、演奏する。
 - ・ クラスを4パートに分け、鍵盤ハーモニカ1・2、リコーダー1・2で演奏する。
 - ・ リコーダーの役割について考え、強弱記号をもとに強弱やバランスを工夫する。
- 担当するパートを決めて練習する。
 - ・ パートごとに集まって練習する。
 - ・ 木琴や低音パートは階名唱し、鍵盤を確かめ、拍ののって楽器で練習する。
 - ・ パートごとの役割について、気付いたことを交流する

- パートの関わり合いや役割を生かして演奏する。
 - ・ 速さや強弱、音のバランスなどに気を付けて合奏する

- 全員やグループで合奏する。
 - ・ 全員で合わせる。
 - ・ 鍵盤ハーモニカとリコーダーは1パート2～3人ずつ前に出て、ほかの楽器は交代しながら合わせて演奏し、聴き合う。
 - ・ 各楽器のバランスに気を付けて演奏する。

- 2 「グッデー グッバイ」を、互いに声を聴き合い、声の重なりを楽しみながら合唱する。
 - 主旋律を歌詞唱する。
 - ・ 範唱を聴き、曲の感じをつかむ。
 - ・ 歌詞唱して歌詞と旋律を覚える。
 - ・ 全音符とタイを確認する。
 - 主旋律の歌い方を工夫する。
 - ・ 旋律のリズムの特徴について考える。
 - ・ 2拍目と4拍目に手拍子を入れながら歌ってみて、全体にリズムカルな雰囲気を出しながら、3段目の休符によるシンコペーションを確認する。
 - ・ 歌詞の内容と曲の山について考え、意見を出し合いながら歌い方を工夫する。
 - 副次的旋律を練習し、役割やふさわしい歌い方について考える。
 - ・ 3段目の副次的旋律を歌詞唱する。
 - 二部合唱する。
 - ・ 二つのグループに分かれてパートを分け、全体で合わせる。
 - ・ パートを交代する。
 - ・ 曲の山について確認する。
 - ・ 8人ぐらいのグループをつくり、合唱する。
 - ・ 誰に向かって思いを伝えたいか考える。
 - ・ 発表して聴き合い、意見を交換する。

- ・ 小説の始めの8分休符を意識させる。
- ・ パートリーダーを決めると、練習が進めやすい。
- ・ 練習できる部屋が複数確保できるとよい。

- ・ 1と2のパートが掛け合いをしていることに気付かせる。
- ・ 主旋律が通るように演奏させる。
- 【評】 音色に気を付け、互いの音を聴いて、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。
- ・ 最初の合奏は、速さやリズムをそろえて演奏することを中心に行う。
- ・ 同じようなリズムや旋律があるパートを取り出して合わせる練習により、それぞれの役割がはっきりしてくる。
- ・ 互いに音を聴きながら、速さをそろえて合奏させる。
- 【新出】 リコーダー「ソ#」の運指
- ・ リズムを打楽器で打つパートをつくってもよい。
- ・ 教師がゆっくりと拍打ちをして、合わせて歌ったり演奏したりして支援する。
- ・ 木琴のパートは、階名唱の際から強弱に気を付けるようにさせる。
- 【共通事項】 フレーズ 強弱
- 【評】 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりを捉える活動を通して「知識」を評価する。
- ・ 同じパートで息を合わせるとともに、他のパートの音もよく聴きながら演奏させる。
- ・ 木琴は前半は主旋律であり、後半イからが和音になる。和音部分のクレシェンドの効果を感じ取らせる。
- 【共通事項】 音楽の縦と横との関係
- 【評】 曲想や各声部の役割に合った表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ 演奏する人を交替させ、聴き合ったり気付いたことを出し合ったりさせる。
- 【評】 フレーズの呼びかけ合いや音の重なりを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 3段目に高い音がある。無理せず歌える音域を歌うようにさせる。

- ・ スウィングのリズムを確認する。
- ・ アウトビートの手拍子を入れると、2拍目の8分休符を意識しやすい。
- ・ 気付いた要素は、教科書のメモ欄に書き留めさせてもよい。

- ・ 上声部と下声部の旋律のリズムを確認して演奏させ、下声部が同じリズムで動いて支えていることを知らせる。
- ・ 拍ののって歌うようにさせる。
- ・ 全員が両方の声部を確認するようにする。
- ・ 1声部4人ずつを目安にまとめる。
- ・ 聴き合って、響きのバランスをとる。
- 【評】 歌声や楽器の音色、音の重なりを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】 声や音を合わせて歌ったり演奏したりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 ききどころを見つけて

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりに気付くことができる。
 (2) 楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化、強弱や速度の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったこと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見い出し、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) 楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070303_001

【教材名】ノルウェー舞曲第2番（鑑賞）（P. 52～P. 53）

【準備等】鑑賞CD，ワークシート，キーボード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「ノルウェー舞曲」の曲の流れの変化を感じ取り、全体を味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オーケストラの演奏による「ノルウェー舞曲第2番」を全体を通して聴く。 ★曲の流れを感じ取り、全体を味わってきこう <ul style="list-style-type: none"> ・演奏している主な旋律の楽器など、気付いたことを発表し合う。 ○曲想とその変化を体の動きで表し、楽曲の特徴を見付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の速度や強弱に合わせて歩いたり、止まったりするなどして曲想の変化に気付く。 <p>○楽曲全体の構成を確かめる。</p> <p>○「始め」「中」「終わり」の特徴の変化に気を付けて聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・P52を参考にしてオーガエの特徴をつかみ、音色を味わいながら曲に親しむ。 ・オーケストラの写真を参考に、合奏の形態を捉える。 </p> <p>○「始め」「中」「終わり」の特徴の変化について感じ取ったことを確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・P53の表にまとめて話し合う。 ・音楽が形づくっている要素の変化によって、曲の雰囲気などがどのように変わっているのかを話し合う。 </p> <p>○オーケストラについて知り、曲を味わって聴く。</p> <p>○「ノルウェー舞曲第2番」の全曲を通して聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の速度や強弱の変化を指揮で表す。 ・指揮で表した感想などの意見を交流する。 </p> <p>○曲全体の特徴や演奏のよさを味わう。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲全体を通して聴き、特徴や演奏のよさを味わう。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主な旋律を演奏している楽器や、速度、強弱など、気付いたことを出し合い、出された意見を体の動きで確かめていくことを知らせておくようにする。 ・学級全体で円になり、音楽が止まったところでポーズを決めたり、グループごとに曲想とその変化にあった体の動きを工夫したりするなどして、活動の形態を工夫するとよい。 ・「始め」と「終わり」の部分の旋律が同じことに気付かせる。 <p>【共通事項】速度 強弱 旋律</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見がわかりにくい場合は、実際の音楽を聴き、確認させる。 ・「始め」「中」「終わり」のそれぞれの部分がすぐに聴くことができるように前もって準備をしておくとうい。 ・楽曲全体が「始め」「中」「終わり」の構成になっていることをおさえる。 <p>【評】楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化を聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴きながら、「始め」「中」「終わり」の部分が来たら挙手をするなどして、構成を確かめる。 <p>【共通事項】音色 反復 変化 調</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律アとイは、教科書の旋律を鍵盤楽器で演奏して聴くなどして、確かめるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の写真などを参考にして、オーケストラについて知り、音色を味わいながら楽曲に親しませる。 ・3年生で学習したバイオリンやチェロなどの楽器も振り返りながら、理解を深めるようにする。 ・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 <p>【評】曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりを捉えて聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P18の4分の2の指揮を参考にしながら、指揮の動きをしながら音楽を聴き、指揮の動きで曲想の変化を表しながら気付いていけるようにする。 ・同じ2拍子でも、トルコ行進曲より拍がゆるやかであることに気付かせる。指揮の打点を鋭くせず、柔らかく振る動きが合うことも気付かせる。 <p>板書に立ち返ったり、友達の意見を参考にしながらまとめさせるようにする。</p> <p>【評】楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化、強弱や速度の変化を聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活</p>

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(3)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 音の動き方やフレーズのつなげ方, 全体の構成や各声部の役割について, それらの生み出すよさや面白さに関わらせて気付くとともに, 設定された条件に基づいて, 即興的に音を選択したり音楽の仕組みを基に音楽をつくったりする技能を身に付けることができる。
- (2) フレーズの呼び掛け合いや合いの手, 支えとなる音を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら, 聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え, 即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得たり, どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりして表現を工夫することができる。
- (3) 役割を生かした音楽づくりに興味をもち, 音楽活動を楽しみながら, 主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070304_001

【教材名】役わりをもとに音楽をつくろう (P. 56～P. 57)

【準備等】リコーダー, 鍵盤ハーモニカ, 木琴, 鉄琴, すずなど

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～3 音を選び, 楽器でまねっこやよびかけっこのお話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 二人組をつくり, 使える音を確認し, 4拍ずつのフレーズで即興的によびかけっこする。 ★役わりをもとに音楽をつくろう ○ よびかけっこの種類を出し合って確認し, 即興的によびかけっこを発表する。 ○ 4人グループになり, 意見を出し合う。 ○ 【つくり方1】で発表し, 意見を出し合う。 ○ 【つくりかた2】でグループごとに試行錯誤する。 ○ グループ発表をし, 意見を出し合う。 	<p>【評】設定された条件に基づいて, 即興的に音を選択したり音の仕組みを基に音楽をつくったりする活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>【評】役割を生かした音楽づくりを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ささえ役」は, 持続低音の繰り返しが音楽全体を支える役割をもっているため, 音が少なく単調な動きであっても, 音楽の支えのような役割であることを意識させて音を重ねるよう伝える。 【評】音の動きやフレーズのつなげ方, 全体の構成や各声部の役割について, それらの生み出すよさや面白さに関わらせながら音楽をつくる活動を通して「知識」を評価する。 ・ 「ささえ役」のリズムの変更により, 部分が進行していくことについても確認する。 ・ 「かざり役」は, 特に「お話し役」の二人の音を聴いて入れていくようにする。楽器は鈴だけでなく, トライアングル, ギロ, クラベスなどいろいろな楽器を試させる。 【評】フレーズの呼び掛け合いや合いの手, 支えとなる音を聴き取り, 聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え, 即興的に表現する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 いろいろな歌声を楽しもう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と、歌声や旋律など音楽の構造との関わりに気付くことができる。
 (2) 歌声や旋律、伴奏を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、演奏のよさを見い出して聴くことができる。
 (3) 歌劇の音楽に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070305_001

【教材名】歌劇「魔笛」から（鑑賞）（P. 58～P. 59）

【準備等】鑑賞CD，ワークシート，リコーダー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 歌劇「魔笛」からを聴き、いろいろな歌声やその表現を楽しんで聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○楽曲について知る。 ★いろいろな歌声を楽しもう <ul style="list-style-type: none"> ・作曲者モーツァルトについて知る。 ・あらすじを理解する。 ○それぞれの歌声を、場面と音楽の特徴を確認しながら聴いていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードなどに気付きをメモしていき、意見を交流しながら進める。 ・独唱と重唱、合唱などの形態の違いや、同じ形態でも歌い方でも違いがあることに気付く。 <p>○歌とオーケストラによって演奏される、歌劇の魅力を感じ取る。</p> <p>○学習カードのメモを基に、曲ごとに意見を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モーツァルトは、ハイドンやベートーベンと並んで古典派の作曲家である。 ・「魔笛」は、モーツァルトが亡くなった年の作品である。 ・声の種類分けについては5年生の学習であるので触れる必要はないが、歌声の特徴をそれぞれの曲について考えるようにさせる。 ・「パ・パ・パ・・・」では、パパゲーナが歌っている時と、パパゲーノが歌っている時とで役割を分けて立つなどと動きをつけて鑑賞させてもよい。 ・パを何回言っているのか数えさせてみるのもよい。 <p>【共通事項】音色 旋律</p> <p>【参考】コロラトゥーラソプラノとは、最も高い音域を歌うソプラノのことで、声は軽やかで超絶技巧を得意とする人が多い。ちなみに夜の女王の「地獄の復讐が・・・」では、中央のドより2オクターブ以上高いファまで歌っているの、ピアノで音を確認しながら聴かせるとよい。</p> <p>【資料】それぞれの登場人物と声の種類について ザラストロ（バス） 夜の女王（ソプラノ）（コロラトゥーラソプラノ） 王子タミーノ（タミーノ） 夜の女王の娘パミーナ（ソプラノ） パパゲーノ（バス） パパゲーナ（ソプラノ） 子どもたちの三重唱（ソプラノ）</p> <p>【評】曲想と歌声や旋律など音楽の構造とを関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>・オーケストラの効果について気付かせる。また、鈴の音や笛の音などにも注目させる。</p> <p>【評】歌劇の音楽を聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】歌声や旋律、伴奏を聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととを関わらせながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(3)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など、音楽の構造との関わりに気付くとともに、音色に気を付け、互いの音を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 音の重なりを聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったこととと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏したりするかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 曲想や各声部の役割に合った表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

04070306_001

【教材名】魔法のすず（器楽）（P. 66～P. 67）

【準備等】範奏CD，リコーダー，グロッケン，木琴，オルガンなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「魔法のすず」を合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範奏を聴き，学習課題をつかむ。 ★ パートの役割を生かして，楽しんで合奏しよう。 ○ 楽譜の読み方を理解する。 ○ ①の上のパートをリコーダーで演奏する。 ○ パートに分かれ，練習する。 ○ 合奏する。 ○ 演奏の仕方を工夫する。 ○ 楽しみながら，美しい響きで合奏をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モーツァルト作曲の歌劇「魔笛」の第1幕に歌われている曲であること伝える。その音源があれば聴かせるとよい。 ・ 範奏CDに合わせて①のパートを指でなぞりながら，曲の進み方を確認させる。 ・ 4つのパートがあることと，①と②のパートはさらに2つに分かれていることを理解させる。 ・ 主旋律となるパートである。全員に演奏させることで，曲の全体像をつかませる。 ・ P.67の〈楽器の例〉を参考にパートを分ける①パートはリコーダーの他に鍵盤ハーモニカを加えてもよい。②は1オクターブ高くしてグロッケンでも演奏できる。③④のパートはピアノやオルガンでもよい。 ・ 全曲を通ず練習ばかりでなく，リズムのそろわないところや表現の不自然なところを取り出して練習させる。 ・ 範奏CDを聴かせ，表現方法の工夫を見付けさせ，演奏に生かせるようにする。 ・ 音の出し方やフレーズの流れなどを意識して練習させる。 【共通事項】音の重なり 【評】音の重なりを聴き取り，その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 録音したり，交代で聴き合ったりしてもよい 【評】曲想や各声部の役割に合った表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】曲想と声部の役割など，音楽の構造とを関わらせながら演奏する活動を通して「知識」を評価する。 【評】音色に気を付け，互いの音を聴いて，音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 スキルアップ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容、曲想と強弱など、音楽の構造との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌ったり、拍に合わせ全体の響きを聴いて演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 歌声や旋律の重なりや流れの変化、手拍子の強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲の特徴を生かした表現や全員で表現を揃えることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070101_001

【教材名】 夢色シンフォニー（歌唱） 花のおくりもの（歌唱） クラップ フレンズ（音楽づくり）
（P. 4～P. 7）

【準備等】 範唱CD、メトロノーム、拡大楽譜

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「夢色シンフォニー」「花のおくりもの」を歌うことを通して、歌い方の技能を身に付ける。</p> <p>★気持ちをそろえて楽しく歌おう</p> <p>○「夢色シンフォニー」の範唱を聴き、主旋律（上声部）を聴唱法で歌う。</p> <p>○気付いたことを話し合いながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞に込められた思い ・歌詞と旋律の関わり など <p>○自分たちの歌を客観的に聴いて、よりよくなるよう表現の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループに分かれて聴き合う。 ・自分たちの歌を録音して聴く。 <p>○副次的旋律（下声部）を聴唱法で歌い、全体の響きを聴きながら二部合唱する。</p> <p>○「花のおくりもの」の範唱を聴き、聴唱法で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレーズのまとまりや呼吸の仕方を工夫して歌う。 <p>○全体の響きや伴奏を聴きながら輪唱する。</p> <p>○速さや声の出し方をそろえて輪唱を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速度記号を理解する。 <p>2 「クラップ フレンズ」を演奏することを通して、リズム感や強弱表現の楽しさを味わう。</p> <p>★強さを変えてハンドクラップを楽しもう</p> <p>○「クラップ フレンズ」のリズムや強弱記号、速度記号を覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音符の長さを知る。 ・強弱記号、速度記号を確認する。 ・教師の後に続いて演奏する。 <p>○「クラップ フレンズ」を工夫して演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速さを工夫する。 ・強さを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習進度や学校、児童の実態に応じた曲を選んでもよい。 ・歌声のトレーニングとして、随時取り入れるとよい。 ・【共通事項】旋律 フレーズ 【発展】全体符 【評】曲想と、旋律など音楽の構造や、歌詞の内容とを関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。 ・拡大した楽譜を用意し、出た意見を書き込む 【評】歌声、旋律の流れや変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・各声部の歌声やピアノパートなどをよく聴いて歌わせる。 ・曲の後半は音が跳躍し、高いレやミが連続する部分があり、無理な発声や弱声になることが考えられるため、響きや呼吸を意識した発声をさせる。 【共通事項】音の重なり ・2小節続けて歌うための息の使い方を確認しフレーズのまとまりを表現できるようにさせる。 【評】各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴きながら歌う活動を通して「技能」を評価する ・3つのパートに分ける際、各パートの音量やバランス、声の質が均一になるようにパート分けを配慮する。 ・慣れてきたら6～9名のグループで三部輪唱する。 ・声の出し方とともに拍（縦の線）や速度を揃えて歌うことが、ハーモニーを生み出すために大切である。曲にふさわしい速度を見付け発音のタイミングを合わせ、縦を揃えるよさを児童に感じ取らせる。 【新出】速度記号 【評】全員で歌唱表現を揃えて輪唱する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・4分音符、8分音符、付点4分音符の長さを確認させる。 ・P. 7の右隅にある強弱記号をしっかりと押さえる。 【新出】f mf mp p アクセント ・メトロノームを使い、速さを変えて、速度記号の数字と実際に感じる速さを比べさせる。

・強弱記号を示しながら，強弱を工夫させる。

【共通事項】速度 強弱

【評】手拍子の強弱を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや美しさ，面白さを感じ取り拍に合わせ全体の響きを聴いてリズム打ちをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(1)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けることができる。

(2) 旋律のもつリズム、旋律の流れやまとまりを聴き取り、それらの生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。

(3) 歌詞や曲の特徴を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070102_001

【教材名】 こいのぼり (歌唱 共通教材)

(P. 8～P. 11)

【準備等】 範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「こいのぼり」を、様子を思い浮かべながら歌う。</p> <p>★歌詞の情景を思い浮かべながら歌おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習曲を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・年間の学習内容をつかむ。 ○「こいのぼり」の範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の言葉について、注釈を参考にして内容を理解する。 ・P 8～P 9の歌詞や写真を見て朗読し、情景を想像する。 <p>学習課題をつかむ。</p> <p>★様子を思い浮かべて歌おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「こいのぼり」を聴唱法で歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・タッカのリズムを生かして歌うとともに、タタのリズムの場所も確認する。 <p>○各段の旋律を比べ、盛り上がる場所を探す。 <ul style="list-style-type: none"> ・格段の強弱記号なども確認し、歌い方について話し合う。 <ol style="list-style-type: none"> 1, 2 段目…タッカやタタを使ったリズムカルな旋律を目立たせ、こいのぼりが元気に青空を泳ぐ様子を表現 3 段目…曲の最後を盛り上げるために、落ち着いた旋律になっているから丁寧に歌う。 </p> <p>○話し合ったことを基に、呼吸や発音の仕方に気を付けながら歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のリクエストに合わせて既習曲を歌い、明るく活気のある雰囲気づくりをする。 ・授業での約束や音楽室の使い方などを知る。 ・難解な語句を説明し、理解させる。 ・聴唱法とは、音楽の基礎的な表現能力（リズム感・音程感・歌い方など）を、範唱を聴いて歌うことによって身に付ける方法である。 ・付点8分音符と16分音符、8分音符のリズムの違いを感じ取らせる。 ・P. 7の新出記号を確認する。【mf, mp, f, <】 ・前半（生き生きと躍動的）と後半（緩やかでおおらか）の曲想の違いを感じ取らせる。 <p>【評】歌詞や曲の特徴を生かした表現を意識して歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・【共通事項】リズム 旋律 強弱</p> <p>【評】曲想と音楽の構造や曲想と歌詞の内容との関わらせて歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】呼吸や発音の仕方に気を付けながら歌う活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 和音や低音のはたらき

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音の重なりなど音楽の構造との関わりについて理解するとともに、ハ長調の楽譜を見て歌ったり演奏したりすることができる。
- (2) 低音や和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 和音や低音の働きに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070103_001

【教材名】茶色の小びん（歌唱 器楽） こきょうの人々（歌唱 器楽）

(P.12～P.17)

【準備等】範唱CD、範奏CD、鍵盤楽器、リコーダー

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 「茶色の小びん」を、主旋律と低音の響きや和音を感じ取りながら演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱、範奏を聴き、学習課題をつかむ。 ★ 低音のはたらきを感じ取って演そうしよう <ul style="list-style-type: none"> ・ 演奏の順序について理解する。 ○ 聴唱法で主旋律を歌う。 ○ 低音パートを楽器で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘ音記号について理解する。 ・ 鍵盤楽器（キーボード、鍵盤ハーモニカなど）で低音パートを演奏する。 ○ 低音の動きを感じ取りながら「茶色の小びん」を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主旋律だけ、主旋律と低音の組み合わせで聴き比べをして、響きの違いを感じ取る。 ○ 「茶色の小びん」の和音について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 和音を繰り返し演奏し、響きを覚える。 ・ 和音に合わせて旋律を演奏する。 ・ 旋律の音と楽譜を見比べる。 ○ ハ長調の音階、和音について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音階と主音について知る。 ・ 和音について知る。 ・ 主な和音の響きを聴き比べる。 ・ IV度の響きにあったポーズを考えて、理由とともに発表する。 ・ 時間があれば、I度やV度のポーズも考える。 ○ 「茶色の小びん」を演奏する。 <p>3～4 「こきょうの人々」を、旋律と和音、旋律と低音、旋律と和音と低音、それぞれの組み合わせで気付いたことを話し合い、演奏の仕方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題をつかむ。 ★ 和音や低音のはたらきを感じ取って演そうしよう <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱奏を聴き、曲の感じをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱、範奏CDを聴きながら体を動かしたり指を鳴らしたりすることで、スウィングのリズムを感じ取らせる。 ・ 繰り返しについて確認させる。いろいろなパターンを示して練習させるとよい。演奏活動には欠かせない記号なのでしっかり押さえさせる。 【新出】繰り返し記号、1 番かっこ、2 番かっこ ・ 4 拍子の拍の流れを意識させる。 ・ 児童の実態に合わせて、主旋律をリコーダーや鍵盤楽器で演奏させてもよい。 ・ ト音記号とヘ音記号の関係、ヘ音記号の楽譜の読み方を説明する。 ・ 低音部分のみでも旋律として成り立っていることに気付かせ、流れにのって演奏できるようにさせる。 【新出】ヘ音記号 ・ 主旋律は歌やリコーダーで演奏をさせる。 【共通事項】音の重なり ・ 低音（ベース）は高音部にある主旋律や和音を支える役割がある。 【評】ハ長調の楽譜を見て歌ったり演奏したりする活動を通して「技能」を評価する。 ・ 循環コード（二つ以上の和音の組み合わせが繰り返されるコード進行）なので、繰り返し演奏することで和音の響きを耳で覚えさせ、そこに旋律を合わせるようにさせる。 ・ 和音の音が旋律に多用されていることに気付かせる。 【共通事項】和音の響き ・ 教科書の図や板書を活用し、音階とその上に音を規則的に重ねる和音との関係が分かるようにする。 ・ 主な和音に教師があらかじめポーズを定め、教師の演奏する和音の響きにに合わせてポーズを取らせてもよい。音の長さに変化を付けると、児童の聴く集中力が高まる。 ・ 「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 ・ V度は属和音といい、I度に戻りたがる性質の響きであると感じ取らせたい。 【共通事項】音階 調 ・ 旋律と低音だけの演奏だが、和音の響きを意識させる。 ・ IV度のポーズに正解はないが、I度より開放的な気分を感じ取らせる。 【評】和音や低音の働きを感じ取りながら、演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 付点の部分がずれないように声掛けする。 ・ a-a' -b-a' の旋律のまとまりに気付かせておく。

・階名唱する。

- 和音と低音を練習する。
 - ・階名唱・運指唱をする。
 - ・キーボードなどを交代で演奏する。
 - ・Ⅰ度、Ⅳ度、Ⅴ度、Ⅴ度Ⅶの和音を確認する。

- 旋律・和音・低音を組み合わせて演奏し、響きを比べる
 - ・旋律と和音
 - ・旋律と低音
 - ・旋律と和音と低音
 - ・気付いたことを伝え合う。

- 「こきょうの人々」をグループで演奏する。
 - ・4～5人のグループに分かれ、その中で各パートの担当を決め、練習する。
 - ・和音のところのリズムを変えて工夫する。

- グループごとに発表する。
 - ・聴き合い、気付いたことを発表し合う。

- 「こきょうの人々」を低音と和音に合わせて歌う。
 - ・和音と低音の役割について確認する。
 - ・全員で歌う。

・段ごとに似た旋律や違う旋律を確認させる。

【共通事項】調

- ・「茶色の小びん」でとったポーズを取るなど和音の響きを確認をする。
- ・和音や低音の進み方が似ている段と、違う段があることを確認し、旋律と比べさせる。

【共通事項】和音の響き 音の重なり

【評】曲想と音の重なりなど音楽の構造とを関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する。

- ・主旋律が主役になるように意識させる。
- ・各パートの声量のバランスに気を付けるように促す。
- ・簡単なリズムパターン例を示す。

【評】低音や和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・和音は楽譜通りのシンプルなものにして、音の重なる響きを聴き合うようにする。

【 備 考 】

単元名 声のひびき合い

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声の重なる響きなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 声の重なる響きや、旋律の特徴、旋律どうしの関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、それぞれの形態の合唱の響きや演奏のよさを見いだして聴いたり、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったりすることができる。
- (3) いろいろな形態の合唱を聴くことや、自分たちの表現の工夫に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070104_001

【教材名】いろいろな合唱（鑑賞） ハロー シャイニング ブルー（歌唱）

(P. 18～P. 23)

【準備等】鑑賞CD、鑑賞用ワークシート、範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 声の種類を知り、様々な形態による合唱の響きの特徴を感じ取って聴く。</p> <p>★合唱のひびきを聴き比べよう</p> <p>○学習課題をつかみ、声の種類や合唱形態を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノ、アルト、テノール、バスなど声の種類やその特徴を知る。 ・女声、男声、混声、児童など合唱の形態について理解する。 <p>○男声合唱、女声合唱の響きを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「花」から女声合唱による軽やかな響きを味わう。 ・「箱根八里」から男声合唱の力強い響きを味わう。 <p>○混声合唱と児童合唱を聴き比べて、それぞれの音色を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「唱歌の四季」から数曲を鑑賞する。 ・それぞれの豊かな響きを味わい、気付いたことなどを発表し合う。 <p>3～6 歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫して、「ハロー シャイニング ブルー」を合唱する。</p> <p>★表現をくふうして、きき合いながら歌い合わせよう</p> <p>○範唱を聴き、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて曲想を感じ取り、上声部を歌う。 <p>○歌詞の内容を理解して、響きのある声で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作詞者からのメッセージや詩の内容を理解する。 ・響きのある、曲想を生かした表現を工夫しながら、各パートを繰り返し歌う。 <p>○声の響きや音楽の表現の工夫をして合唱をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱やバランス、曲の盛り上がるころなどを考える ・パートごとの動きや伴奏との重なり方を捉えて合唱する。 ・言葉を大切にしながら、気持ちをこめて合唱をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声の種類別や合唱形態別のワークシートを準備するとよい。 ・リコーダーなど子どもたちにとって身近な楽器を例に挙げて声の種類を説明する。 【新出】ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、テノール、バリトン、バス、児童合唱、女声合唱、男声合唱、混声合唱 【共通事項】音色 音の重なり ・クイズ形式にして合唱の種類を考えさせるとよい。 ・歌詞の意味を説明し、様子が思い浮かべられるようにする。 【資料】滝廉太郎は1879（明治12）年東京生まれ。ドイツに留学したが病に倒れ、23歳の若さで亡くなった。日本最初の本格的な作曲家である。「荒城の月」「お正月」「はとぼっぼ」などの作品がある。 【評】音楽活動を楽しみながらいろいろな形態の合唱を聴き比べる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じ曲を聴き比べることで、声の種類や構成によって感じが変わることに気付くようにさせる。 【評】声の重なる響きを聴き取り、それぞれの形態の合唱の響きや演奏のよさについて話し合う活動を通し「思考・判断・表現」を評価する。 ・この楽曲を聴いて思ったことやイメージしたことを発表させてから歌わせる。 ・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 【評】歌詞の表す情景や気持ちを想像して、どのように表現するか考えて歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・空や海に呼びかけるような発声を心掛けて歌わせる。 ・パートにあった歌声を意識させる。 【共通事項】音色 【評】範唱を聴いて曲の特徴を捉え、全員でイメージを共有して歌う活動を通して「技能」を評価する。 ・表現の工夫について話し合う時間を取るとともに、実際に歌いながら試させていく。 ・曲想に応じた盛り上がり方を工夫させ、上声部と下声部の強さのバランスに注意させる。 【共通事項】音楽の縦と横の関係 強弱

【評】曲の仕組みや特徴について意見を出し合ったり思いや意図をもったりして歌う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 めざせ 楽器名人

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想とフレーズなど音楽の構造との関わり、リコーダーの音色と演奏の仕方との関わりについて理解するとともに、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) リコーダーの音色やフレーズ、旋律どうしの関わりを聴き取り、そのよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) リコーダー・アンサンブルに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070105_001

【教材名】星笛（器楽）（P. 24～P. 25）

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「星笛」の楽曲の感じをつかみ、拍の流れにのって演奏する。</p> <p>★「星笛」の曲想をとらえて、フレーズを感じながら演奏しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範奏を聴いて、楽曲全体の雰囲気と、8分の6拍子の流れを感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 8分の6拍子の指揮の練習をする。 ・ 範奏に合わせて大きく二つ振りで指揮をしたり、身体表現をしたりする。 ○ 拍の流れにのり、フレーズのまとまりを感じながら、リコーダーで演奏する。 <p>2～3 掛け合いや重なりを感じながら、二つの旋律を合わせて演奏する。</p> <p>★かけ合いや重なりを生かして演奏しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 掛け合いや重なりを感じながら、二つの旋律を合わせてリコーダーで演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律のなめらかな感じを生かして演奏する。 ・ 伴奏に合わせて演奏する。 ○ ペアやグループで楽曲の特徴や曲想を生かした表現の工夫をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ フレーズを変えて演奏し、自分たちのイメージに合う表現の工夫をする。 ○ 演奏を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれのグループの演奏を聴いて、よいところを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指揮の例を大きく板書し、児童が見ながら指揮を振ることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 【新出】8分の6拍子 スラー ・ 手で指揮を振るだけでなく、体も一緒に揺らしながら指揮を振らせるとよい。 ・ タンギングや息継ぎに気を付けて演奏させる ・ 「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 【共通事項】拍の流れ フレーズ 【評】拍の流れやフレーズ、音色に注意しながら演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 分担奏をさせて、フレーズや問いと答えの感じをつかませるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> 【共通事項】呼びかけとこたえ 音楽の縦と横の関係 ・ フレーズを変えた演奏（旋律の区切り方を変えた演奏）を教師が演奏して聴かせるとよい 【評】曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するか話し合って演奏する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】曲想と音楽の構造、音色と演奏の仕方とを関わらせて演奏する活動を通して「知識」を評価する。 【評】各声部の音や全体の響きを聴いて音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 旋律と和音の関わり、旋律のまとまりについて、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) I IV Vの和音に合わせて旋律をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070106_001

【教材名】和音に合わせてせんりつをつくろう

(P. 26～P. 27)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 I IV V I の和音の響きやその移り変わりを生かして、全体のまとまりを意識した音楽をつくる。</p> <p>★和音に合わせてせんりつをつくろう</p> <p>○ I IV V I の和音の響きや和音の移り変わり、旋律をつくる時のルールを確かめる。</p> <p>○ どのような旋律にしたいのか考えながら、4小節程度の旋律をつくる。</p> <p>○ 全体のまとまりを意識して、8小節程度の旋律をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ P. 26のルールを確認させる。 ・ 旋律づくりを行う前に、I IV V I の和音の響きやその移り変わりを丁寧に聴く場面を設けるとよい。 【共通事項】和音の響き ・ 旋律づくりが難しい児童には、音楽づくりで使う音の数を「ソラシド」の4音に絞らせてもよい。 【共通事項】旋律 【評】I IV Vの和音に合わせて旋律をつくる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】旋律と和音の関わり、旋律のまとまりについて、それらの生み出すよさや面白さに関わらせて音楽をつくる活動を通して「知識」を評価する。 ・ 反復(a, a')や変化(a, b)などの音楽の仕組みを用いて考えさせる。 ・ 「茶色の小びん」の旋律の構成を参考にさせてもよい。 【共通事項】反復 変化 【評】旋律や和音の響きを考え、全体のまとまりを意識した音楽づくりの活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】音楽の仕組みを用いて音楽をつくる活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声の重なる響きなど音楽との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて自然で無理のない声で歌うことができる。
- (2) 声の重なる響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 声の響き合いに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070107_001

【教材名】 こげよマイケル (歌唱) (P. 65)

【準備等】 範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「こげよマイケル」を、声を聴き合って合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴き、曲の雰囲気をつかむ。 ★ 声を聴き合って楽しく合唱しよう <p>○ 曲の特徴を捉える。</p> <p>○ 歌詞を朗読し、意味を理解する。</p> <p>○ 上声部と下声部に分かれ、それぞれの旋律を歌唱する。</p> <p>○ 響きを確認めながら合唱する。</p> <p>○ 強弱や速度などの表現の仕方を工夫する。</p> <p>○ 声の響き合いを味わいながら合唱し、教材のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「こげよマイケル」はスピリチュアル（靈歌）である。スウィングするリズム（二つの連続した音符のうち、初めの音符を長めにとり二つ目を短くするリズムの揺らぎ）や賛美歌のような三部合唱の響きを感じ取らせる。 ・ 「ハレルヤ」の部分が三部合唱になっていることを確認する。 ・ 「こげよマイケル」について、スピリチュアルについてふれて、ハレルヤの意味を教えてもよいが、宗教教育にならないように注意する。 <p>【資料】スピリチュアル（靈歌）とは黒人靈歌、白人靈歌の総称。奴隷として連れてこられたアフリカ系アメリカ人にキリスト教が広まり、賛美歌とアフリカ独特の音楽的感性が融合した音楽である。他には「聖者の行進」や「アメイジング・グレイス」がある。ハレルヤとはヘブル語（ヘブライ語）で「主をほめ賛えよ」の意味。神を賛美し、喜びを表す語。キリスト教会の聖歌・賛美歌に用いられる。</p> <p>【評】曲想と声の重なる響きなど音楽の構造との関わりについて理解して歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの声につられないように、歌う場所を分けさせるとよい。 ・ それぞれのパートを覚えたら、音を伸ばして響きを確認めて歌う活動を行うとよい。 <p>【共通事項】旋律 音の重なり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの旋律をピアノで弾いて音を確認めたり、分かれた音を伸ばして響きを確認めて歌わせてもよい。 ・ 徐々に他方のパートを歌う人数を増やしていくなど、子どもたちの実態に合わせた方法で合唱をさせていく。 <p>【評】声を響き合わせて合唱する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人と全員といった掛け合いや、手拍子を入れて歌う活動を取り入れるとよい。 <p>【評】声の重なる響きを聴き取り、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて合唱する活動を通して「技能」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名 オーケストラのみりよく

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 曲想と楽器群の響きなど音楽の構造との関わりについて理解することができる。
 (2) 楽器の音色や楽器群ごとの響き、旋律の反復と変化を聴き取り、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) オーケストラの音楽を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070201_001

【教材名】組曲「カレリア」から「行進曲風に」（鑑賞）

(P. 28～P. 31)

【準備等】鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「組曲『カレリア』から『行進曲風に』」から特徴や曲想を感じ取って、鑑賞する。</p> <p>★オーケストラのひびきを楽しもう</p> <p>○オーケストラの編成について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラの楽器の名前や楽器群について確認する ・個々の楽器や同じ楽器群の楽器について、特徴を聴き分ける。 <p>○組曲「カレリア」から「行進曲風に」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取り、オーケストラの響きを楽しんで聴く ・作曲家シベリウスについてや、組曲「カレリア」について大まかに知る。 ・どんなところがよかったか交流する。 <p>○旋律の反復と変化に気付いて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アの旋律を覚えて聴き、聞こえたら手を挙げる。 ・イの旋律を覚えて聴き、聞こえたら手を挙げる。 ・アの旋律の担当と、イの旋律の担当にクラスを分けて向かい合い、聞こえたら立ち上がるようにする。 ・気付いたことをメモしておく。 <p>○楽器群の音色を捉えて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラの楽器の名前や配置を確認する。 ・個々の楽器、あるいは同じ楽器群の楽器の音色や響きの特徴に気を付けて聴いていく。 ・「最初のアを演奏する楽器」「最初のイを演奏する楽器」…と、確認しながら聴いていく。 ・教科書の透明シートを利用し、楽器群を確認しながら聴いていく。 ・気付いたことをメモし、発表し合う。 <p>○曲の構造や旋律を演奏する主な楽器の変化を捉え、曲全体を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の変化と演奏する主な楽器が変わっていく場面の面白さを感じ取って聴く。 ・曲全体のよさや面白さについてまとめ、伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに聴いたことのある楽器などを紹介しながら進める。 ・教科書の写真とともに、各楽器の演奏映像や楽器の実物を見せると分かりやすい。 ・弦楽器…こする、はじく/管楽器…吹く/打楽器…打つ などの発音原理や、主な楽器の素材についても、写真を見ながら確認する。 ・カレリア地方の写真などが用意できれば活用する。 <p>【評】オーケストラの音楽を楽しみながら聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード等を用意する。 <p>【共通事項】旋律 反復 変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの旋律が交互に現れることに気付くようにする。 ・聞こえてきた楽器の弾きまねや吹きまねをしながら立ち上がってもよい。 ・「まなびリンク」の動画や図を活用してもよい。 <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】曲想と、楽器群の響きなど音楽の構造との関わりに着目しながら鑑賞する活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまで聴き取った内容を学習カード等で振り返り、自分の気づきをまとめる。友だちの意見や気づきを含めてまとめてよいことを伝える。 <p>【共通事項】音の重なり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「行進曲風に」の楽器の音色や楽器群ごとの響き、旋律の反復と変化を聴き取らせ、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取らせる。 <p>【評】聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(2)

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、呼吸及び発音に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れを聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞の抑揚や曲の特徴を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070202_001

【教材名】 赤とんぼ（歌唱） 山田耕筰，中田喜直のうた（鑑賞）（P78～） （P. 32～P. 33）

【準備等】 鑑賞CD，ワークシート，範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 歌詞の内容を理解し、情景を思い浮かべながら歌ったり鑑賞したりする。</p> <p>○学習課題をつかみ、「赤とんぼ」の情景を思い浮かべながら歌う。</p> <p>★旋律を生かして言葉を大切に歌おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、楽曲全体の感じを捉える。 ・歌詞を朗読して内容をつかみ、歌詞のイメージや言葉の抑揚を感じ取る。 ・歌詞のイメージと結び付いている旋律の流れに関心をもって、情景を思い浮かべながら歌う。 <p>○強弱記号に気を付け、曲想を生かして歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱記号を理解して歌う。 <p>○言葉を大切に表情豊かに歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞と旋律の流れの結び付きを意識しながら、歌い方を工夫する。 <p>○山田耕筰の歌曲「待ちぼうけ」「ペチカ」、中田喜直の歌曲「星とたんぼ」「ちいさい秋みつけた」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤とんぼ」を含め5曲を通して聴き、それぞれの楽曲の特徴を感じ取る。 ・気付いたことや感じたことを発表する。 ・山田耕筰について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞が表しているイメージや内容を十分味わうために、繰り返し朗読させる。また、情景を具体的に絵で表してもよい。 【資料】三木露風は、5歳の時、幼稚園から帰宅すると、戸が板で打ち付けてあり、母親が弟を連れて出て行った後だった。その後家の裏山に通じる紅葉谷と呼ばれる道で母が帰ってくるのを待ちながら遊び続けたが、母が帰ってくることはなかった。 【評】歌詞の抑揚や曲の特徴を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・実際に歌い、聴き比べながら、強弱記号を付けて歌う場合と付けずに歌う場合とでは、曲想に違いが出ることに気付かせるようにする。 【評】旋律の流れを聴き取り、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・歌詞と旋律の結び付きや強弱記号など今まで学習してきたことを生かすように助言する。 ・1～3番は昔を懐かしんでいる様子、4番は今現在の目の前の光景であることに気付かせる。 【共通事項】旋律 強弱 【評】呼吸及び発音、自然で無理のない発音に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。 ・山田耕筰と中田喜直について、P78を参考に簡単に紹介し、日本歌曲のすばらしさや面白さを感じ取らせてもよい。 【資料】山田耕筰は、カルピスの名付け親である。 ・1曲ずつ、言葉のリズムや抑揚、旋律の動きや流れに気を付けて聴かせ、気付いたことを記入させる。 【共通事項】旋律 強弱 ・山田耕筰の生い立ちや主な作品について知らせる。「この道」やたくさんの校歌を作曲したことを伝えてもよい。 【評】曲想と、旋律など音楽の構造、歌詞の内容との関わりを理解して聴く活動を通して「知識」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音楽の旅

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて理解するとともに、呼吸および発音に気を付けて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) いろいろな国の音楽の様々な旋律や声、楽器の音色、音の重なり、拍の有無を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、演奏のよさを見出して聴いたりすることができる。
- (3) 我が国や諸外国に伝わる音楽や表現、それらと人々の暮らしとの関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070203_001

【教材名】 子もり歌（歌唱 共通教材） 会津磐梯山（鑑賞） 音戸の舟歌（鑑賞） 日本の民よう（鑑賞）
 ）こきりこ節（歌唱） 谷茶前（音楽づくり 歌唱） 世界の声の音楽（鑑賞） 世界の楽器
 のひびき（鑑賞） （P.34～P.41）

【準備等】 範唱CD、鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 子もり歌（共）を鑑賞したり、日本の音階による特徴的な曲想を感じ取ったりする。</p> <p>★わたしたちの国に伝わる歌や声の表現を楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の子守歌の節回しや、特徴的な曲想を感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・二種類の「子もり歌」の範唱を聴き、曲想や節回しの特徴を感じ取る。 ・♭の記号の意味を理解する。 ・「子もり歌」を♭を付けた節と付けない節で歌い比べ旋律の感じの違いについて交流する。 ○節回しや旋律の特長を生かし、表情豊かに歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容について話し合う。 ・どんな速さや感じで歌うとよいか意見を出し合う。 ・二つの旋律の違いに気を付けながら、それぞれ気持ちを込めて歌う。 ○民謡を歌う声の出し方や節回し、拍に注目して、「会津磐梯山」と「音戸の舟歌」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いて、声の出し方、節回し、リズムなど、気付いたことを話し合う。 ・それぞれの曲を手拍子を打って拍を捉えながら聴き、拍を感じる歌と拍にとらわれない歌があることに気付く ○身近にある商売の声などを、声の出し方や節回しに注意して聴いたり、歌ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・商売の声や、相撲の呼び出しなどを、声の出し方や節回しの面白さを感じ取りながら聴く。 ・まねをして歌ったり、教科書の図譜を参考に節回しを横線で表したりして、拍にとらわれない歌い方に気付く <p>3～4 日本各地の民謡を鑑賞し、旋律の特徴を感じ取って曲想に合った表現の仕方を工夫する。</p> <p>★せんりつの感じを生かして民謡を歌おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○民謡を聴いて、声の歌い方の特徴、使われている楽器の音色、リズムの特徴などが生み出すよさや面白さを感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「こきりこ節」「谷茶前」など、いくつかの民謡を聴き、歌い方や伴奏の楽器などの特徴を感じ取る。 ・気付いたこと、感じたことを学習カードにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・♭の有無による二種類の旋律の違いを感じ取れるよう、何回か聴き比べたり、歌い比べたりする。楽譜を読み込むより、二種類の歌い方の旋律を覚えてしまっただけで歌う方がよい。 ・日頃聴いたり歌ったりしている旋律はどちらか、意見を出し合わせる。正解はないので、統一する必要はない。生活の中で歌われていることが分かればよい。 <p>【共通事項】 旋律</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんを寝かしつけるためにはどんな歌い方がよいか考えさせる。 <p>【共通事項】 音色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの歌い方や節回し、音の動きの特徴半音を含む五音音階の独特の響きなどを味わわせる。 <p>【評】 曲想と音楽の構造との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P.36, 37「日本の民ようをたずねて」の見開きを利用し、地域に伝わる民謡に言及して学習に入る。（導入として、「日本の民ようをたずねて」の中から選んで聴いたり、自分たちの地域に伝わる民謡を取り上げ、聴き比べたりしてもよい。） ・日本各地の民謡について、拍を感じる歌と拍にとらわれない歌、という観点から、いくつか聴き比べてもよい。 <p>【共通事項】 拍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏している様子の分かる資料や、使われている楽器を提示するとよい。映像があればなおよい。 ・「石焼き芋屋」「相撲の呼び出し」以外にも身近に特徴のある呼びかけなどを見つけて発表させたり、実際に声に出して表現させたりするとよい。 <p>【評】 日本の音楽の旋律や声、拍の有無などを聴き取り、聴き取ったことを楽しみながら表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の民ようをたずねて」の見開きから選曲したり、地域に伝わる民謡を取り上げたりしてもよい。 ・演奏している様子や使われている楽器が分かる写真を提示する。映像や実物があればなお理解しやすい。 ・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 ・民謡はいろいろな旋律があるため、鑑賞音源では必ずしも教科書楽譜の旋律で歌っていないが、歌手の発声やこぶしなどに注意して聴

- 「こきりこ節」を、旋律の感じを生かして、曲想に合った表現の仕方を工夫しながら歌う。
 - ・「こきりこ節」を再度鑑賞し、歌い方や旋律の特徴を感じ取る。
 - ・歌詞の意味を知り、声の出し方や旋律の動きに気を付けて歌う。
 - ・音頭一同形式で歌う。
- 「こきりこ節」を楽器の伴奏を加えて歌う。
 - ・伴奏の各リズムを全員で手拍子などで打ちながら歌って確認する。
 - ・各パートの担当を決め、楽器を選ぶ。
 - ・伴奏のリズムを楽器で練習する。
 - ・楽器を交代しながら歌い合わせる。
 - ・歌は音頭一同形式で歌い、伴奏と合わせる。

5～6 世界の音楽の鑑賞や視聴を通して、それぞれのよさやおもしろさを味わう。

- ★世界のいろいろな声の表現や楽器のひびきを楽しもう
- 世界のいろいろな国の音楽を鑑賞し、それぞれの音楽や表現のよさや面白さを味わう。
 - ・楽器の音色や音の重なり方などの特徴、楽器の素材や発音原理（吹く・打つなど）の類似点や違いなどに気を付けて「世界の楽器のひびき」を鑑賞する。
 - ・声や歌い方、音の重なり方などの特徴、類似点や違いなどに気を付けて、「世界の声の音楽」を鑑賞する。
- 声「ヨーデル」
「ホーミー」
「ケチャ」
「ゴスペル」
 - ・それぞれの特徴や、よさや面白さについて、学習カードに記入し、話し合う。
- 世界のいろいろな音楽の中から一つ選んで、よさや面白さについて発表する。
 - ・楽器の音色や音の重なり方などの特徴、楽器の素材や発音原理（吹く・打つなど）の類似点や違いなどに気を付けて鑑賞する。
- 楽器「バグパイプ」（管楽器）
「フォルクローレ」（管、弦、打楽器）
「グリオの語りとコラの演奏」（弦楽器と声）
「メヘテルハーネ」（管、弦、打楽器、コーラスが加わることもある）
 - ・それぞれの特徴や、よさや面白さについて、学習カードに記入し、話し合う。
 - ・声や楽器の中から一つ選んで、よさや面白さについて発表したり、紹介文を書いたりする。

かせる。

- ・「歌い手」は2～3人程度でも1人でもよいが、1人ずつ歌えればなおよい。

【共通事項】旋律 音色

【評】呼吸や発音、音色や響きに気を付けて「こきりこ節」を歌ったり演奏したりする活動を通して「技能」を評価する。

- ・木でできた楽器（ウッドブロックなど）、金属でできた楽器（カウベルなど）や皮を張った楽器（太鼓など）、細かい音の出る木の楽器（ギロなど）の中から、「こきりこ節」の演奏で用いられている和楽器の音を参考にして選びたい。曲の雰囲気大切に表現を工夫させる。

【評】「こきりこ節」から聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように演奏したり歌ったりするか工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する

- ・教科書の地図を参照し、それぞれの国や地域の場所を確認しながら聴く。

【共通事項】音色 音の重なり

- ・音楽はいくつか選択して鑑賞してもよい。また、別の国の音楽を増やして鑑賞したり、第1次で鑑賞した日本の民謡の歌声と比較してもよい。
- ・映像が入手できるものは活用し、歌っている様子や使っている楽器が分かるようにする。
- 【評】諸外国の伝統的な音楽を聴き、その特徴やよさや面白さについて話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教科書の地図を参照し、それぞれの国や地域の場所を確認しながら聴く。
- ・音楽はいくつか選択して鑑賞してもよい。また、別の国の楽器を増やして鑑賞したり、第2次で鑑賞した日本の民謡の楽器と比較したりするのもよい。
- ・映像が入手できるものは活用し、楽器を演奏している様子が分かるようにする。
- ・発表時に必要な資料を準備したり、提示したりできるようにする。また、選んだ声や音楽について、どのような機会に演奏されるのか背景を調べたりすることも考えられる。
- ・「まなびリンク」の画像を活用してもよい。

【評】いろいろな国の音楽のさまざまな旋律や声、楽器の音色、音の重なりから聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、話し合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 豊かな表現を求めて

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と、拍とその流れなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 拍やその流れ、フレーズ、旋律のもつリズムを聴き取り、それらのよさなどを感じ取りながら聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫しどのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 曲の特徴を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070204_001

【教材名】風とケーナのロマンス（歌唱 器楽） 冬げしき（歌唱 共通教材）

(P. 42～P. 45)

【準備等】範唱CD、リコーダー、鍵盤楽器、録音機器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 フレーズや旋律の流れを生かして「風とケーナのロマンス」を演奏する。</p> <p>○範唱を聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>★拍の流れにのって歌うように演奏しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱CDを聴き、曲の雰囲気と8分の6拍子の流れを感じ取る。 <p>○8分の6拍子について振り返り、指揮をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱CDに合わせて、大きく二つ振りで指揮をする。 <p>○拍の流れにのり、フレーズを感じ取りながら歌ったり、合奏したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れを感じ取りながら1と2のパートを歌う。 ・それぞれのパートの重なり方やかけ合いを意識して二部合唱をする。 ・拍の流れにのり、1と2のパートをリコーダーで演奏をする。 ・鍵盤楽器で低音パートを演奏する。 ・各パートを合わせて合奏する。 <p>○グループで楽曲の特徴や曲想を生かした表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律のなめらかな感じを生かして演奏をする。 ・音色や音量のバランス、曲が盛り上がるころなどをグループで工夫する。 <p>○発表会を通して、互いの表現のよさを学び合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ演奏の発表会をする。 ・友達の演奏のよいところや工夫していることを見つけ発表をする。 <p>3～4 「冬げしき」の情景を思い浮かべながら、表情豊かに表現する。</p> <p>○範唱を聴いて、学習課題をつかむ。</p> <p>★拍の流れにのって表情豊かに歌おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱CDを聴いて、感じたことを話し合う。 <p>○情景を想像しながら歌詞を朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難解な語句の意味を知る。 ・情景を思い浮かべて朗読をする。 ・詩の流れや言葉の抑揚を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この楽曲は世界の音楽で学習した「フォルクローレ」である。 【資料】フォルクローレという言葉は本来民間に伝わるもの全般をさすが、アンデス山脈一帯の音楽の呼び名としてもつかわれる。 ・フォルクローレであることを知らせ、ケーナの紹介をする。実物があれば見せるとよい。 ・もの悲しげな旋律や3段目の旋律の動きが変わったことを感じ取らせる。 ・P. 25を参考に、8分の6拍子について振り返る。 ・8分の6拍子（大きな二つの揺れ）の流れる感じがこの曲の特徴である。 【共通事項】拍 ・4小節で1つのフレーズとなるように、たっぷり息を吸う、4小節を一息で歌う感じなどを気を付けさせる。 ・リコーダーの運指（\flatシ、ナチュラルのシ、\sharpソ、ナチュラルのソ）の確認をする。 ・リコーダーで演奏する場合も歌ったときの息の使い方を意識させる。 【共通事項】フレーズ 【評】拍の流れにのってフレーズを感じ取りながら演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・グループ活動で行う。実態に合わせて全体で活動をしてよい。その場合は工夫前の演奏を録音しておくときよい。 ・パートの重なりやかけ合いなど、音楽の縦と横の関係に着目させる。 【共通事項】音楽の縦と横の関係 【発展】「もっとあそぼう」を参考にリズム伴奏をつくって加えたり、強弱の工夫をさせてもよい。 【評】曲の特徴にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する ・よいところはもう一度聴き直して確認し、それを取り入れて最後に演奏させるとよい。 ・全体での演奏を行った場合は録音を活用し、工夫を取り入れる前と工夫を取り入れた後の演奏を聴き比べ、自分たちの思いや意図に合った表現になっているか確認させる。 【評】各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。 ・ゆったりとした3拍子の感じや3段目の旋律だけリズムが違うことなどを感じ取らせる。 ・「さざり」「小春日」などの難解な語句を解説し、理解させる。 ・1番は朝の港、3番は昼の畑、3番は夕方の里と時や場所が移り変わっていることに気付

- 情景を思い浮かべながら主旋律を歌う。
 - ・ 範唱CDを聴いて歌う。
 - ・ 旋律の動きを意識して歌う。
 - ・ 情景を思い浮かべながら歌う。
 - ・ 格段の旋律のリズムを確かめながら歌う。

- 拍の流れにのって二部合唱をする。
 - ・ 音程に気を付けて副旋律を歌う。
 - ・ 3拍子の流れにのり、二部合唱をする。

- 歌詞の情景を思い浮かべながら、表情豊かに合唱する。
 - ・ 言葉を大切にしながら歌う。
 - ・ 速さや強弱を工夫する。

- ・ 正しい音程と響きのある声を意識させる。
- ・ 旋律線（音符と音符を線でつなぎ、旋律の動きを視覚的に捉えやすくしたもの）の起伏を感じ取り、自然な強弱を生かして歌わせるとよい。この曲の全てのフレーズの後半はデクレシェンドによって静かに納められるように仕掛けられている。
- ・ 3段目のみリズムが異なることに気付かせる

【共通事項】旋律 リズム

- ・ 各段の旋律の終わり方が続く感じが落ち着く感じが感じ取らせながら歌わせる。
- ・ 音が分かれる部分を長く伸ばして歌い、響きを確かめさせるとよい。
- ・ ゆったりとした3拍子の流れを感じ取りながら歌わせる。

【共通事項】拍

- ・ 朗読した時の言葉の抑揚などを思い出して、言葉を大切に歌う。息の長い豊かな起伏となっているフレーズを意識させる。
- ・ 「朝のしも」「岸の家」の歌い出しは、それぞれの1小節前の1拍目よりも強く歌い出してデクレシェンドにすると、歌詞や旋律の動きからも自然な表現になる。
- ・ 旋律線の動きを意識させる。

【評】曲想と音楽の構造，曲想と歌詞の内容との関わりを捉えて表現する活動を通して「知識」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(2)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 多様な声の表情や強弱について、それらの生み出すよさや面白さと関わらせて理解するとともに、設定した条件に基づいて、即興的に声を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けることができる。
- (2) 多様な声の表現を聴き取り、その面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的な表現を通して音楽づくりの様々な発想を得たり、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりすることができる。
- (3) 詩をもとに声で音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070205_001

【教材名】 ゆき（音楽づくり） いろいろな声で音楽をつくろう (P. 46～P. 47)

【準備等】 範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「ゆき」の情景を思い浮かべながら、音読と歌で表現する。</p> <p>★いろいろな声で音楽をつくろう</p> <p>○線に合わせて、様々な声を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に線を描く。 ・線を指でなぞりながら声を出す。 <p>○「ゆき」を朗読し、作品のイメージをもつ。</p> <p>○ペアで「しん」という言葉を使って、いろいろな声の表情で音楽づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・即興で呼びかけ合う。 ・他のペアと発表を聴き合い、どのような工夫をしているか考える。 <p>○「しん」という言葉を使って音楽づくりをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な声の高さ、長さの声が出ることに気付かせる。 ・人差し指でなぞらせながら「ア」などの声を出させる。 ・声の高低を自由に表現してもよいことを伝える。 ・強弱の工夫も試させる。 <p>【共通事項】 音色 強弱 音の重なり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P. 47を参考に、いろいろな声の出し方で読ませる。 ・どのような音楽づくりをしていけばいいのか分からない児童もいると考えられる。そのため、児童の実態に合わせてP63の「ゆき」やCDの創作例などを適宜聴かせてもよい。 <p>【評】 詩を元に音楽をつくる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】 多様な声の表情や強弱について、それらの生み出すよさや面白さを関わらせて音楽をつくる活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループで音楽づくりをする。 ・自分の声や友達の声をよく聴き、認め合うことが大切であることを伝える。 ・記譜するためのワークシートを用意し、線で表させたり、文字で書かせたりする。 <p>【評】 多様な声の表現を聴き取り、即興的な表現を通して発想を得ながら全体のまとまりを意識して音楽をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 設定した条件に基づいて即興的に声を選択したり組み合わせたりして表現する活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(2)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 声部の関わり合いや全体の響きを聴き取り、それらの生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 音を合わせて演奏することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、1年間の学習を生かして主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070206_001

【教材名】ゴジラ (器楽) (P. 66～P. 67)

【準備等】 範奏CD, リコーダー, 鍵盤ハーモニカ, シンセサイザー, 木琴, スタンドシンバル, 大だいこなど, 録音機器

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 「ゴジラ」の範奏を聴き、場面やゴジラの様子を想像しながら合奏をする。</p> <p>○ 範奏を聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>★ 様子を想像しながら、心を合わせて合奏しよう</p> <p>○ 曲の全体像と構造、楽譜の読み方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれどんな場面か、イメージを統一させる。 ア…何か悪いものが登場する様子 イ…海の中からゴジラが出て来る ウ…キ…ゴジラが近づいて来て、危険が迫る様子 ク…反撃に遭ったゴジラ ケ…だんだんと遠ざかって行くゴジラ <p>○ 演奏をする楽器やパートを決める。</p> <p>○ リズムや旋律の感じを生かし、強弱やアクセントを工夫して練習する。</p> <p>○ 課題を明確にして部分練習やパート練習に取り組み、丁寧に仕上げる。</p> <p>○ 全体のバランスに気を付け、表現を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面と演奏が合っているか確認する。 <p>○ 音の響き合いを味わいながら合奏し、題材のまとめをする。</p>	<p>・同名の映画の主題曲である。</p> <p>・ゴジラについて簡単に説明をし、イメージしやすくさせる。</p> <p>・演奏順序を確認する。</p> <p>・それぞれどんな場面なのか想像させながら聴かせる。</p> <p>・それぞれの場面やゴジラの様子を統一させ、表現に生かせるようにする。</p> <p>・トレモロの演奏方法を確認する。</p> <p>・アの部分は臨時記号が多いので、＃やb、ナチュラルの確認をする。</p> <p>・児童の希望を尊重する。楽器の音のバランスに注意して決めさせる。</p> <p>・複数の場所に分かれて練習させるとよい。</p> <p>・友達と教え合うことが合奏の楽しさにつながる。</p> <p>【評】 曲想と音楽の構造とを関わらせながら演奏する活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>・個人練習、パート練習、全体練習を組み合わせながら活動させる。</p> <p>・同じ音型の繰り返しが多いので、木琴や低音パート、打楽器は、主旋律のグループと組み合わせさせて練習させるか、主旋律を録音したものを活用させるとよい。</p> <p>【評】 音を合わせて演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・聴き役をつくり、それぞれの場面と自分たちの演奏が合っているか確認させる。そして聴く活動と演奏を繰り返しながら、表現を深めていく。</p> <p>・録音機器を活用してもよい。</p> <p>【共通事項】 音の重なり</p> <p>【評】 声部の関わり合いや全体の響きを聴き取り、それらの生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・他のクラスや他学年の児童、保護者の前で演奏し、感想を発表してもらおうと児童の励みになる。</p> <p>・自分たちの演奏を録音して聴かせてもよい。</p> <p>【評】 各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(3)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律のもつリズムの反復・変化、強弱、音の重なりを聴き取り、そのよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫しどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組むものとする。

標準的な展開例

05070301_001

【教材名】スキーの歌（歌唱 共通教材）

(P. 48～P. 49)

【準備等】範唱CD，録音機器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 情景を想像しながら「スキーの歌」（共）を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴いて、学習課題をつかむ。 ★ 情景を思い浮かべて表情豊かに歌おう <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いて曲想をつかむ。 ○ 詩の内容を話し合う。 ○ 二部合唱をする <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴唱法で主旋律を歌う。 ・ 上声部を歌う。 ・ 響きに気を付けて二部合唱をする。 ○ 歌詞の表す情景を想像しながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの旋律の動きからそれに合った歌い方を工夫する。 <ol style="list-style-type: none"> 1， 2， 4 段目…リズムカルに躍動する感じ 3 段目…なめらかに滑る感じ 5 段目…力強い感じ ○ 情景を想像しながら生き生きと歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P. 48の写真を見ながら、スキーの歌のイメージをふくらませる。 ・ 範唱を聴かせ、弾んだ感じ、なめらかな感じ力強い感じと変化していくことに気付かせる ・ 難解な語句について説明をする。 ・ スキーを滑るスピード感や躍動感，わくわくする気持ちを感じ取らせる。 ・ 5 段目の主旋律は，矢印の付いている下声部となる。 ・ 二部に分かれる主旋律の最初の音に気を付けさせる。 ・ 表現を工夫する前の歌を録音し，表現の工夫を行う時に比較させてもよい。 【共通事項】旋律 変化 【評】歌詞や曲想を生かした表現に興味をもって合唱に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】曲想と，旋律など音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解して歌う活動を通して「知識」を評価する。 ・ それぞれのイメージにあった歌い方ができているか，聴いて確かめながら工夫させる。録音を活用してもよいし，聴き役をつくってもよい。 ・ 力強く歌う部分にアクセントがついていることを確認する。強弱記号同様，アクセントの記号は表現と関連して確認させる。 【共通事項】リズム 強弱 【評】歌詞の内容や旋律やリズムの変化を捉えて自分たちの思いや意図に合った表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 録音を活用した場合は，最後に自分たちの歌の聴き比べを行い感想を発表させてもよい。 【評】各声部の歌声や全体の響き，伴奏を聴いて歌唱する活動を通して「技能」を評価する

【 備 考 】

単元名 ききどころを見つけて

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりについて理解することができる。
 (2) 楽器の音色、旋律や音型の反復と変化、合いの手、速度を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだし、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) さまざまな曲の特徴を見つけることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070302_001

【教材名】 つるぎのまい(鑑賞) (P. 50～P. 51)

【準備等】 鑑賞CD, ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「つるぎのまい」を、曲の特徴を感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「つるぎのまい」を聴いて、学習課題をつかむ。 ★曲のおもしろいところを見つけてきこう <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴き、楽曲の特徴を見付ける。 ○楽器に着目して聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ティンパニの音色に着目して聴き、反復されているリズムや音形を聴き取る。 ・木琴の音色に着目して聴き、旋律の速度の変化や、旋律の反復について聴き取る。 ・合いの手に着目し、合いの手が生み出すよさや面白さを感じ取る。 ○楽曲全体の曲想をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・全曲を通して聴き、曲想をその変化を聴き取り、気付いたことを話し合う。 ○「つるぎのまい」の曲想と音楽を形づくっている要素の関わり合いを体の動きで表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで表現方法を考える。 ・考えた表現を発表する。 ・感想を発表し合う。 ○「つるぎのまい」を通して聴き、曲想や特徴について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「つるぎのまい」の紹介文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主な旋律や伴奏を演奏している木琴やサクソフォーン、トロンボーン、ティンパニなどの音色、リズム、速度、旋律の反復や変化、合いの手（呼びかけとこたえ）などについて、気付いたことを発表させる。 ・ティンパニについては、叩く動作をしながら聴くようにさせる。 ・木琴については、動作を何もしないように聴くようにさせる。 ・合いの手については、聞こえたところで手を挙げさせるとよい。 【共通事項】反復 変化 旋律 呼びかけとこたえ 速度 ・メモをしながら聴き取らせ、話合いにつなげる。 ・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 <p>【評】さまざまな曲の特徴を見つける活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「合いの手」「旋律の反復や変化」など、曲の一部分を考えさせるとよい。 ・ハンカチやスカーフなど、小物を使って考えさせてもよい。 <p>【評】曲想と音楽の構造との関わりを理解し、体の動きで表現する活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本題材で学んだ音楽の要素については、必ず書かせるようにする。 ・紹介文を新聞などにまとめてもよい。 ・作曲家ハチャトゥリヤンについて調べさせ、書かせてもよい。 <p>【評】楽曲の特徴を聴き取り、そのよさや面白さを言葉で表す活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 わたしたちの表現（選択教材）A

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
 (2) 声部の関わり合いや全体の響きを聴き取り、それらの生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
 (3) 音を合わせて演奏することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、1年間の学習を生かして主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070303_001

【教材名】ルパン三世のテーマ（器楽）

(P. 52～P. 53)

【準備等】範奏CD、リコーダー、鍵盤楽器、低音楽器、録音機器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 声部の関わり合いや全体の響きを感じ取って「ルパン三世のテーマ」を合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範奏を聴き、学習課題をつかむ。 ★ 気持ちを合わせて、きき合いながら演奏しよう <ul style="list-style-type: none"> ・ 範奏を聴き、曲想をつかんだり、演奏の順番を確認したりする。 ○ 演奏する楽器やパートを決める。 ○ 曲の全体像と構造、楽譜の読み方を知る。 ○ パートの役割を考えて、練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ パートを分担する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーパート…フレーズとその反復・変化を感じ取りながら、スタッカートに気を付けて演奏する。 (主に主旋律担当) ・ 鍵盤パート…スラーのついた音型や、休符に挟まれたフレーズに気を付けて演奏する。 (ウは主旋律) ・ 低音パート…リズムの反復や変化を感じ取りながら演奏する。 (主旋律や和声を支えるベース) ○ リズムや旋律（歯切れよく、なめらかになど）を生かし強弱を工夫して練習する。 ○ 全体のバランスに気を付け、表現を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 速度 ・ 強弱 ・ 反復と変化 ・ 旋律（歯切れよく、なめらかになど） ・ 縦と横の関係（問いと答え、ユニゾンをそろえるなど） ○ 自分のパートの役割をとらえ、心を合わせて「ルパン三世のテーマ」を合奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の響きを味わいながら合奏をし、題材のまとめとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択単元のAである。 ・ 人気アニメ「ルパン三世」の主題歌である。スピード感のある雰囲気を感じ取らせる。 ・ 【ダル・セーニョ、セーニョ、コーダ】を説明し、曲の進行を確認させる ・ 児童の希望を尊重する。楽器の音のバランスに注意して決める。 ・ 曲を完成させるまでの全体の流れをここで説明しておく、活動に見通しがもててよい。 ・ ウから主旋律が鍵盤ハーモニカに移り、ユニゾン（斉奏）を経て、またアから主旋律がリコーダーになることを確認する。 ・ 16分音符や全音符、タイについて確認をする <p>【評】 曲想と音楽の構造との関わりや各楽器の役割を捉える活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の場所にパートごと分かれて練習するとよい。そのときに主旋律のリコーダーパートを録音したものを活用したものをを使うと、どう合わせるのか分かってよい。 ・ パートリーダーを決めて、友達と教え合い、音楽をつくりあげる体験をさせる。それが合奏の楽しさの一つとなる。 ・ リコーダーや鍵盤ハーモニカは、タンギングの息の強さに気を付けさせる。 ・ どのパートも休符を意識させる。 ・ 低音パートはアの部分のリズムに慣れさせるようにする。 <p>【評】 音を合わせて演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パートリーダーを聴き役にするなど、自分たちの思いや意図に合った表現になっているのか確認させながら行わせる。 ・ 個人練習やパート練習、全体練習を組み合わせながら活動させる。 ・ P. 74を参考に曲の構成を知り、自分たちの思いや意図に合った表現を工夫させていく。 <p>【評】 曲の特徴にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 録音して自分たちの合奏を振り返らせてもよい。 ・ 他のクラスや他学年の児童、保護者の前で演奏をする活動もよい。演奏を聴いた感想を発表してもらおうと、児童の励みとなる。 <p>【評】 各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 わたしたちの表現（選択教材）B

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりを理解するとともに、各声部の歌声、全体の響き、伴奏を聴いて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 声部の関わり合いや全体の響きを聴き取り、それらの生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 声を合わせて歌うことに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、1年間の学習を生かして、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070304_001

【教材名】君をのせて（歌唱）（P. 54～P. 55）

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 気持ちを込めて表情豊かに「君をのせて」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「君をのせて」の主旋律を歌う。 ★言葉を大切にしながら、気持ちをこめて歌おう <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて曲の感じをつかむ。 ・主旋律（下声部を含む）を歌詞唱しながら歌詞と旋律を覚える。 ・歌詞の語句を確認し、イメージしたことや思ったことを交流する。 ○主旋律の歌い方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律について、気付いたことを交流する。 弱起で始まるフレーズの多用 エ（曲の山）からの曲想の変化、その手前のクレッシェンドの効果 オで最初の旋律の再現（反復） 全体の強弱記号 静かに余韻を残しながら歌い終わる など ・どのように歌いたいかをメモしておく。 ○下声部を捉え、二部合唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・下声部の音を確認して歌う。 ・上声部と下声部に分かれて二部合唱し、声部の関わり合いや全体の響きを確認する。 ○声部ごとに繰り返し歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の声に合う声部を決め、音を確認しながら歌う。 ・各部分での自分たちの声部を確認し、声の強さや音色を工夫する。 ・声部ごとに数名ずつ歌って旋律を確認する。 ・再度合唱し、どのように歌いたいか話し合う。 ○「君をのせて」の合唱を仕上げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・和音の響きや音の重なり方の変化などを確認し、思いや意図を伝えるためにどのように歌うとよいか話し合う ・合唱を録音して聴き、さらに工夫する。 ・この歌で伝えたいことを確認して歌い合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択教材のBである。 ・アニメ「天空の城ラピュタ」の主題歌である ・矢印で示している部分が主旋律となることを確認する。 ・アとイはユニゾン（斉唱）、ウから二部合唱となる。オの前半は低音パートが主旋律に、後半でまた高音パートが主旋律となる。 ・全員でイメージしたことや思ったことを共有できるように、拡大した楽譜を用意して書き込む。 ・弱起（1拍目以外から旋律が始まること）の部分に気を付け、出だしが遅れないようにさせる。 ・フレーズの歌い方について考えるように促す <p>【共通事項】フレーズ</p> <p>【評】曲想と音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりを理解して歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しいリズムや音程に気を付けさせる。3連符や休符から入る部分の歌い方に気を付けさせる。 ・上声部と下声部がずれて歌うところやリズムがそろうところ、オブリガートで伸ばすところなどを意識させる。 <p>【評】声を合わせて歌うことに興味をもって二部合唱する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録音したり、歌うグループと聴くグループに分けて活動したりして、自分たちの演奏が思いや意図に合っているか確認させる。 ・「さあ」という言葉の子音や転調（短調から長調に変わるところ）を意識させたり、「ウ」で歌うところの響きや音量に気を付けさせる。 ・オの部分の一部を重唱や少人数で歌わせてもよい。 ・話し合ったことを拡大した楽譜に書き加えさせる。 <p>【共通事項】調</p> <p>【評】各声部の歌声、全体の響き、伴奏を聴いて、自然で無理のない歌い方で歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大した楽譜にこれまで書き込んだことを基に、全体の構成を分析させる。 <p>【評】声部の関わり合いや全隊の響きを聴き取り、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(3)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 反復するリズムのずれによる音楽の縦と横との関係について、それらの生み出すよさや面白さに関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) リズムのずれによる音のかみ合わさを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったことの間について考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) リズムのずれによる音のかみ合わさに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070305_001

【教材名】クラッピングミュージック (鑑賞) ずれの音楽を楽しもう (音づくり)

(P. 56～P

. 57)

【準備等】鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 クラッピングミュージックを聴き、この音楽の仕組みについて知る。</p> <p>★ずれの音楽を楽しもう</p> <p>○「クラッピングミュージック」の冒頭40秒ほどを聴く。</p> <p>○もう一度冒頭40秒ほどを聴く。</p> <p>○何の音だったか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍手の音 (クラッピング) であったことを知る。 <p>○冒頭40秒ほどを以下の点に注意しながら聴く。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①何人の人で拍手をしているか ②どんなリズム・パターンで演奏しているか ③どのような仕組みでリズムが変化しているか <p>2 「レッツゴー」のリズムをずらして遊んだり、自分たちでずれの音楽をつくったりする。</p> <p>○「レッツゴー」のリズムを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で基本のリズムを演奏する。 ・2人、または2グループに分かれてリズムをずらして演奏する。 <p>○拍をずらして演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8拍のうち4拍ずらす→2拍ずらす→1拍ずらす… <p>○4～8人のグループでレッツゴーのリズムを使った「ずれの音楽」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「始め→中→終わり」で音楽づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞活動から始める。どのような手順で聴かせるかで学習の効果が変わるため、よく注意を払う。 ・何の指示も発問もせずに聴かせ、児童の反応をみる。 ・ここで初めて何の音が鳴っているのか聴き取することを指示する。 ・以下、児童の素朴な疑問・発言を大切にしながら聴き進める。 ・一度に出す指示は1つずつにする。 ・②では、音楽の初めに、二人の演奏者が同じリズム・パターンを演奏していることを補足する。 <p>【共通事項】リズム 音楽の縦と横との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・③を児童が聴き取ることは難しいので、40秒聴いた後教師から答えを示すとよい。 ・6回同じリズム・パターンを繰り返したら、二人の演奏者のうち1人が半拍ずらして演奏する。それを6回繰り返したら、もう半拍ずらす。それを繰り返して最後にはまた2人同じタイミングでリズム・パターンを演奏する ・③を確かめるために、全曲通して鑑賞させてもよい。 <p>【評】反復するリズムのずれによる音楽の縦と横との関係について、聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・即興演奏に当たる。児童の意見を聞きながら3拍や5拍など、他の拍も試してみるとよい <p>【評】リズムのずれによる音のかみ合わさを表現する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始めと終わりはレッツゴーのリズムをみんな一緒に演奏し、中の部分で「ずれ」の仕組みを入れるようにするなど、児童が自由に考えを出し合い、そのグループにとって納得のいく音楽をつくるように声を掛ける。 <p>【評】リズムのずれによる音のかみ合わさを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら音楽をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて音楽をつくる活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 変そう曲を楽しもう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて理解することができる。
 (2) 主題の変化や伴奏の動き、楽器同士の関わり合いを聴き取り、それらの生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) 変奏曲に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070306_001

【教材名】ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章（鑑賞） ます（鑑賞）（P. 58～P. 59）

【準備等】鑑賞CD，ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章を聴き、主題の変化や伴奏の動き、楽器同士の関わり合いを捉え、変奏曲を楽しむ。</p> <p>○学習課題をつかむ。</p> <p>★変そう曲を楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題を聴き、変奏曲について理解をする。 <p>○シューベルトについて知る。</p> <p>○主題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題を聴いたり、ピアノに合わせて口ずさんだりして旋律を覚える。 <p>○ピアノ五重奏曲の楽器編成を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオリン…全長約60cm 高音部を受けもつ ・ビオラ…大きさはバイオリンよりやや大きく、厚みがある 中音部を受けもつ ・チェロ…大きさはバイオリンの2倍、楽器を支えるエンドピンを立てて座って演奏をする 音域が広い ・コントラバス…全長約2m 最低音域を受けもつ ・ピアノ…弦をハンマーで叩くことで発音する鍵盤楽器 88鍵あり広い音域をもつ <p>○ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章を聴き、変奏曲について理解する。</p> <p>2 主題や伴奏がどのように変化しているのかを探りながら曲想を感じ取る。</p> <p>○各変奏の特徴を感じ取りながら、聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題の部分を歌う。 ・主題を変奏している楽器の音色や音の重なりを気をつけながら、第1変奏から第3変奏を聴く。 ・旋律やリズム、調性、強弱の変化を感じ取りながら、第4変奏、第5変奏、コーダを聴く。 ・各変奏の特徴など、感じ取ったことをワークシートに記入する。 <p>○主題の旋律の移り変わりや様々な楽器の重なり合う響きを味わいながら、第4楽章を通して聴く。</p> <p>主題 バイオリン 第1変奏 ピアノ 第2変奏 ビオラ 第3変奏 チェロ・コントラバス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の組み合わせや曲想の変化を記入できるワークシートを用意する。 ・変奏曲とは主題が変奏（旋律のリズム、拍子、旋律、調子、和声などを変えたり、様々な装飾を付けるなどして変化すること）される曲である。音源があれば「きらきら星変奏曲（モーツァルト作曲）」や「正露丸（胃腸薬）の主題による変奏曲（マルセル・ケンツビッチ作曲）」を聴かせるとイメージをつかみやすい。 ・写真や伝記、インターネットを活用してもよい。 【資料】シューベルトは「歌曲の王」と言われる。他の作品に「子守歌」「魔王」「アヴェマリア」などがある。 ・ピアノやリコーダーで演奏したものを聴かせ印象付ける。 ・P. 58の写真を活用して、楽器編成の説明をする。弦楽器4種類とピアノの編成であることを確認する。また、楽器の形や大きさ、奏法についても説明する。 【資料】一般に、ピアノ五重奏は弦楽四重奏（バイオリン2，ビオラ，チェロ）にピアノが加わる演奏形態となる。しかし、この楽曲では、バイオリンを一つにし、その代わりにコントラバスを加えている。そのため、低音の響きが一層充実している。 ・主題がどのように変わっていくのか、主題を演奏している楽器は何かを考えさせながら聴かせる。 【共通事項】旋律 音色 ・どんな様子で「ます」が泳いでいるのか想像をさせながら聴かせてもよい。 【資料】ピアノ五重奏曲は第5楽章からなる。第4楽章がシューベルト作曲の歌曲「鱒」の旋律による変奏曲であるために、「鱒」（ます・独：Die Forelle）という副題が付いた。 【評】曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて聴く活動を通して「知識」を評価する。 ・リズム、強弱の変化、速度、音色、調性など聴くためのポイントを示す。 ・歌曲「ます」の歌詞は、ますを釣り上げようとする釣り人との様子を書いたものである。釣り竿で水をかき混ぜて濁らせ、ついにますを釣り上げる様子が、変奏曲の曲想の変化によく表れている。 ・第1変奏に現れるピアノの主題はトリルや装飾音が加えてあり、華やかな印象となっている。 ・第2変奏では主題に遅れて応答するピアノや新しい旋律の動き（バイオリン），第3変奏の32分音符のピアノの華やかな旋律、第4変

第4変奏 主題の旋律は現れない
第5変奏 チェロ
コーダ バイオリン・チェロ

○楽曲全体のよさや特徴をワークシートにまとめ、発表し合う。

奏の主題を追いかける旋律などに注目させてもよい。

- ・第4変奏では転調の部分に注意を促す。短調によって生じる緊張感や長調に戻ることによって生じる緩和の効果を味わわせる。

【共通事項】変化

【評】変奏曲を聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・歌曲「ます」を聴かせ、ピアノ五重奏曲のコーダで、同じピアノ伴奏形が用いられていることや、楽器と歌声との響きの違いを味わわせてもよい。

【評】主題の変化や伴奏の動き、楽器同士の関わり合いを聴き取り、それらの生み出すよさや美しさを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(3)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声の重なる響きなど音楽との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて自然で無理のない声で歌うことができる。
- (2) 声の重なる響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 声の響き合いに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070307_001

【教材名】グッバイまた明日ね（歌唱） 卒業式で歌う歌（歌唱） (P.68)

【準備等】範唱CD，録音機器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 選曲した楽曲の範唱を聴き，心を込めて合唱する。</p> <p>○範唱を聴き，学習課題をつかむ。</p> <p>★心を込めて合唱しよう</p> <p>○上声部と下声部に分かれそれぞれの旋律を歌う。</p> <p>○強弱記号などを確認し，表現を工夫して合唱する。</p> <p>○演奏を録音し，自分たちの合唱の改善点をつかむ。</p> <p>○声の響き合いの美しさを味わいながら，心を込めて合唱し，題材のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動に意欲をもって取り組ませるため学年のまとめとして歌うことや卒業式に6年生に向けて歌うなど，目的や聴かせる相手などを伝えとよい。 ・お互いの声につられないように，場所を分けて練習するとよい。 ・効率よく旋律を歌わせるために，各声部の歌が入った音源を利用してもよい。また，パートリーダーをつくり，自主的な活動に取り組ませる。 ・「グッバイまた明日ね」を選択した場合は，ア，イ，ウの各旋律を歌わせる。 【評】曲想と声の重なる響きなど音楽の構造との関わりについて理解して歌う活動を通して「知識」を評価する。 ・声の響き合いを味わうために，分かれた二つの音を伸ばして歌ったり，聴くグループと歌うグループに分かれて活動したりさせる。 【評】声を響き合わせて合唱する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・強弱の変化がついているか，音やリズムがそろっているかなど聴くための視点を示す。 ・改善点として出てきた所は，自分たちの目指す合唱になっているかどうかを聴きながら，繰り返し歌わせる。 【共通事項】音の重なり 【評】声の重なる響きを聴き取り，曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・抑揚なども意識しながら，言葉を大切にしながら歌わせる。 ・最後の合唱を録音して聴かせ，感想を発表させる。よい点を認め合い，今後の合唱への意欲化をはかる。また，聴かせる相手がいた場合には，感想をもらおうとよい。 【評】各声部の歌声や伴奏，全体の響きを聴いて合唱する活動を通して「技能」を評価する

【 備 考 】

単元名 スキルアップ

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、言葉のリズム、音の重なり、強弱や速度について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせ理解するとともに、呼吸や発音の仕方に気を付けて、声を合わせて歌ったり、思いに合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の重なりや言葉のリズムの重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や言葉の特徴にふさわしい表現を工夫したり、どのように演奏したり全体のまとまりを意識した音楽をつくったりするかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 輪唱やリズムアンサンブルづくりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070101_001

【教材名】バナハ（歌唱） 音楽をもとにリズムで遊ぼう！（音楽づくり）（P.6～P.7）

【準備等】リコーダー、木琴、ウッドブロック、カスタネット、トライアングルなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「バナハ」を歌うことを通して、歌い方の技術を身に付ける。</p> <p>★歌声とリズムのトレーニングをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「バナハ」の範唱を聴き、大まかに曲の感じを捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴や構成について気付いた点を話し合う。 ○斉唱で旋律を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「バナハ」を「ラ」「ル」「ナ」「パ」などで歌ったり、歌詞で歌ったりする。 ○カノン（輪唱）で歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・初めは2声で、慣れてきたら3声で輪唱する。 ○工夫して輪唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な工夫を加えて輪唱する。 ・リズムを加える ・少人数で歌う ・違うパートの人同士が隣り合うようにする <p>2 言葉を使ったリズム アンサンブルをつくる活動を通して、音楽の仕組みの生かし方や、それらの面白さを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーマから言葉を探し、リズム表現をする。 <p>○選んだ言葉のリズムを繰り返して重ねる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技能向上を図るため、随時活動に取り入れる ・輪唱（カノン）は、重なり合うパート相互の響きをよく聴くことが重要である。少ない声部（2声）で歌うことも、お互いの声をよく聴くために有効である。 【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。 ・フレーズのまとまりを意識し、リズムの反復や変化に気を付けて歌わせる。 ・歌詞を「ラ」「ル」「ナ」「パ」にすることで、音の調和・協和（ハモリ）をよりはっきり聴くことができる。また、のどを開く母音（a, o），唇を使う子音（m, n, p）など、組み合わせによって課題に応じた発声の練習に展開することができる。 ・「ラ」「ル」「ナ」「パ」で歌うときは舌や唇をよく動かすようにして発声させる。 ・歌詞で歌わせるときは、日本語と異なる響きの面白さを生かして歌わせる。 【評】呼吸や発音の仕方に気を付けて声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。 ・ある程度安定した声で歌えるようになったらより声の響きを注意して聴くようにさせるために、伴奏なし（アカペラ）で歌わせてもよい。 【共通事項】音の重なり 【評】輪唱する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・リズムを加えるときは、教科書の楽譜を例に手拍子に足拍子を加えたり、それを打楽器にしたり、新たなリズムを加えたりして発展させることができる。 ・ハ長調で歌えるようになったら、更に移調して（キーを上下させて）歌わせ、声域を広げさせるとよい。 【評】旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・楽譜に書かれたものに留まらず、子どもの発想によって様々な表現を工夫していくことで多様な学習へと展開することができる。 ・子どもの生活にある身近なテーマ（食べ物・行事・季節など）を選ぶことによって、様々な言葉のリズムを探すことが容易になる。 ・複数のリズムが考えられる言葉は、あらかじめ確認して合わせるようにする。（例：じゅうどう＝??または♪♪♪♪） ・反復の回数は2回以上でもよいし、回数をあ

・始めや終わり，休符や反復回数など，全体のまとまりを考えて工夫する。

- 作ったリズム・アンサンブルを工夫して演奏する。
 - ・速度や強弱を変化させて，曲想を工夫する。

- 言葉のリズムを，体の音で表現する。
 - ・体の部分や鳴らす方法により音色や強弱は変わるので曲に応じてそれぞれ音を探す。

- 言葉のイメージやリズムの特徴に応じた，楽器・奏法を選んで演奏する。

- 動きを加えたり，木琴やリコーダーの5音階で表現したりして，演奏を発展させる。

らかじめ決めずに指揮者の合図で即興的に変化させてもよい。

【共通事項】リズム 音の重なり 反復

【評】言葉のリズム，音の重なり，強弱・速度とそれらのよさや面白さを関わらせながら音楽をつくる活動を通して「知識」を評価する

【評】思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて音楽をつくる活動を通して「技能」を評価する。

- ・テーマや言葉のリズムとイメージから，重ね方，音色や音の高さ，アーティキュレーションを変化させてもよい。

【資料】アーティキュレーション…音の形を整え，音と音のつながりに様々な強弱や表情をつけること

【共通事項】変化 速度 強弱

【評】リズムの重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら音楽をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・体の音は，様々な体の部分を鳴らしたり，鳴らし方を変えたりして試し，言葉のイメージやリズムに合ったものを探させる。
- ・打つだけでなく，こすったりはじいたりすれば，手だけでも何十種類もの音を出すことができることを伝える。

【共通事項】音色

【評】リズム・アンサンブルの音色や強弱を様々な試す活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や旋律のもつリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や旋律の特徴を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070102_001

【教材名】 つばさをください(歌唱) P.4～P.5 おぼろ月夜(歌唱 共通教材) (P.8

～P.11)

【準備等】 範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 「つばさをください」「おぼろ月夜」(共)を歌い、春の気分を味わう。</p> <p>★歌詞の情景を想像し、表情豊かに歌おう</p> <p>○既習曲を歌う。</p> <p>○音楽室の使用法や授業での約束などを確認する。</p> <p>○「つばさをください」の範唱CDを聴き、曲の雰囲気をつかむ。</p> <p>○聴唱法で主旋律を歌い、発音の仕方について確認する。</p> <p>○「おぼろ月夜」の範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>○聴唱法で歌う。</p> <p>○どんな情景かを話し合う。</p> <p>○旋律の動きやフレーズを確認し、それらを生かした表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律のリズムを比べ、感じの違いを話し合う。 ・旋律の終わりの感じについて話し合う。 ・それぞれ感じたことを生かして、表現の工夫をする。 <p>○情景を想像しながら表情豊かに歌い、題材のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動のできる、明るく活気のある雰囲気づくりを大切にします。 ・オリエンテーションとして実施する。好きな音楽の発表や自己紹介を取り入れてもよい。 ・この1年間の取組が卒業式での合唱につながることを伝える。 ・表紙裏の「ひびきに心をのせて」を読んでもよい。 ・なめらかな感じとはずむ感じの曲想の変化や歌声の響きに注意して聴かせる。 ・この曲は今後、授業の始めに発声練習代わりに歌わせてもよい。特に後半部分は、高音の発声練習として有効である。 【評】歌詞や旋律の特徴を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・P.8, 9の写真をしながら聴かせる。 ・ゆったりとした曲の雰囲気や強弱の付け方などを聴き取らせる。 ・七五調で続く言葉のリズムや響きを感じさせる。 ・自然な旋律の流れを意識させる。 ・各フレーズのリズムを比べ、気付いたこと(似たようなリズムで統一されていること)を話し合う活動を入れてもよい。 【共通事項】旋律 フレーズ ・映像やポスター、絵などを使って具体的にイメージづくりをさせるとよい。 【評】曲想と、旋律など音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。 ・旋律のもつ自然な強弱と関連させて理解させる。 ・旋律の終わりが、続く感じが落ち着く感じかを感じ取らせる活動を行い、フレーズを意識しながら歌うと表現しやすい。 ・どのくらいの声量が適当かを考えさせ、実際に歌いながら決めさせていく。 【評】旋律や旋律のもつリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・春の穏やかな夕暮れの様子を思い浮かべながら歌わせる。 【評】曲想と、旋律など音楽の構造や歌詞の内容とを関わらせて歌う活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 短調のひびき

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と調など音楽の構造との関わりについて理解するとともに、ハ長調やイ短調の楽譜を見て歌ったり演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 長調と短調の響きや速度の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫しどのように演奏するかについて思いや意図をもったり、曲全体を味わって聴いたりすることができる。
- (3) 長調と短調の響きの違いに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070103_001

【教材名】 マルセリーノの歌 (歌唱 器楽) ハンガリー舞曲第5番 (鑑賞) (P.12～P.13)

【準備等】 範唱CD, 鑑賞CD, 鑑賞プリント, リコーダー, 鉄琴, 低音楽器 (オルガンなど)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「マルセリーノの歌」を音の重なりに気を付けて演奏する。</p> <p>★せん律やひびきの変化をとらえて演奏しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主旋律を聴唱法で歌い、学習課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、演奏の順序を理解する。 ・聴唱法で歌詞唱をする。 ○曲全体の旋律の感じについて、気付いたことを話し合う ○ハ長調とイ短調について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽器で音階を演奏したり聴き比べたりして、感じの違いをつかむ。 ○主旋律をリコーダーで演奏をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・1を練習する。 ・2を練習する。 ・リコーダーで合奏をする。 ○パートに分かれて合奏の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・パートを決める。 <ul style="list-style-type: none"> リコーダー…主旋律 鉄琴…和音パート (和声 響きの色の变化や音に広がりを与える) 低音…低音パート (旋律や和声を支える) ・旋律の流れや和音の構成を感じ取りながら練習する。 ・個人でそれぞれの楽器を練習する。 ・合奏の練習をする。 ○響きの変化を感じ取りながら合奏をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・パートの役割や音量のバランスに気を付けたり、強弱の変化を工夫したりする。 ・ハ長調とイ短調の曲想の違いを感じ取りながら演奏をする。 <p>3 「ハンガリー舞曲第5番」を曲想の変化に気付きながら鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽に合わせて指揮をしながら聴く。 ○気付いたことを鑑賞プリントに記入し、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・主部と中間部の違い ・主部の特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半部分がハ長調に変化することに気付き、その変化を意識させる。 ・D. C. (ダ・カーボ)やFine(フィーネ)について確認をする。 ・アの「もの悲しい感じ」とイの「日が差すように明るくなった感じ」の違いに気付かせる ・P.13の音階の図を参考にする。ハ長調とはハ(ド)の音を主音とした長調の音階。イ短調はイ(ラ)の音を主音とした短調である。共に楽譜には調号(ト音記号やヘ音記号の横につく#やb)がつかない。短調は主音から数えて2番目と3番目、5番目と6番目、7番目と主音がそれぞれ半音の関係になり、もの悲しいような独特な雰囲気曲調となる。(長調は3番目と4番目と7番目と主音のみ半音の関係) 【新出】イ短調とハ長調の音階 【共通事項】音階や調 【評】曲想と調など音楽の構造について話し合う活動を通して「知識」を評価する。 ・リコーダー「#ソ」の運指や鍵盤楽器「#ソ」の場所を確認する。 【新出】リコーダー「高いファ」の運指 ・リコーダー「高いファ」の運指を確認する。 ・息継ぎのタイミングをそろえ、全体的に滑らかに演奏するように助言する。 ・鉄琴のパートの演奏が難しい場合は、リコーダーパートだけでもよい。 ・パートの役割については5年生の学習を想起させる。 【資料】和声とは和音と和音のつながりのことである。 【評】ハ長調やイ短調の楽譜を見て演奏する活動を通して「技能」を評価する。 ・音量のバランスやパートの役割を考えて演奏するようにする。 ・イの部分の変化を意識して表現させる。 【共通事項】音の重なり 和音のひびき 【評】長調と短調の響きの違いを聴き取りながら演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・聴くポイントを明確にし、曲想の変化に気を付けて聴かせる。 ・旋律の繰り返しや変化に気付かせる。 【共通事項】反復 変化 速度 ・聴くポイントを、旋律・響き・速度にしぼり曲想の変化を感じ取らせるようにする。 【評】長調と短調の響きや速度の変化を聴き取

・中間部の特徴

り，それらの働きの生み出すよさを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 演奏のみりよく

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と強弱など音楽の構造との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴きながら歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すやさしさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 演奏者の思いを感じ取ることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070104_001

【教材名】交響曲第5番「運命」第1楽章から（鑑賞） ぼくらの日々（歌唱） (P.14～P.17)

【準備等】鑑賞CD、範唱CD、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「交響曲第5番『運命』第1楽章から」を表現の多彩さに着目して聴く。</p> <p>★思いを生かした表現のみりよくを感じ取るう</p> <p>○「交響曲第5番『運命』第1楽章から」を鑑賞する。</p> <p>○オーケストラとその音楽について復習・確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式や演奏の仕方を理解し、オーケストラの楽器の名前や配置を確認する。 ・オーケストラのスコアを見ながら、どんな楽器が使われているのか確認する。 <p>○スコアを見て「タタタターン」の音型を探しながら冒頭部分を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初はいくつかの楽器と一緒に演奏し、その後は少しずつ追い掛けながら演奏されることに気付く。 ・強弱や速度の変化に気付く。 <p>○ベートーベンについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生い立ちや他の作品について知る。 <p>○交響曲第5番「運命」第1楽章の冒頭を、数種類鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「タタタターン」の音型や速度、強弱に注意して聴いていく。 ・演奏ごとに気付いたことをメモし、発表する。 <p>○交響曲第5番「運命」第1楽章全体を演奏表現に気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この指揮者の演奏の特徴について、気付いたことをメモしながら聴く。 ・気付いた特徴や、よいと思ったところについて意見を伝え合う。 <p>3～4 「ぼくらの日々」の曲想を生かして、表情豊かに歌う</p> <p>★思いや意図を大切にしながら、みんなで表現をくふうしよう</p> <p>○範唱を聴いて、楽曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取り、主旋律を歌う。 ・演奏順序を確認し、歌詞唱する。 ・歌詞を朗読して、言葉の抑揚を確かめる。 ・言葉のイメージや、いいなと思ったところを出し合う <p>○曲の特徴を捉え、イメージを共有して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲について出た意見を確かめながら歌う。 ・楽譜を見て、記号と強弱の変化、速度、歌詞と旋律の関係、伴奏の効果、盛り上がりなど、気付いたことを話 	<p>・指揮者による表現の違いや感想などを書き込めるワークシートを用意する。</p> <p>・曲の冒頭を意識して聴かせるようにする。この「運命」という通称は、ベートーベンの弟子の「冒頭の四つの音は何を示すのか」という質問に対し「運命はこのように扉をたたく」とベートーベンが答えたことに由来するという説もある。</p> <p>・教科書の写真や挿絵を活用し、楽器の形や表現の方法などが分かるようにさせる。映像資料があるとよい。</p> <p>・スコアは楽器の種類（木管楽器、金管楽器など）ごとにまとまっていること、教科書では種類ごとに色分けしてあることを伝えるとよい。</p> <p>・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。</p> <p>【評】曲想と強弱など音楽の構造とを関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する</p> <p>・写真や伝記、インターネットを活用してもよい。</p> <p>・難聴に悩んでいたことや、「喜びの歌」「エリーゼのために」「トルコ行進曲」など児童がよく知っている曲を紹介してもよい。</p> <p>・2、3人の指揮者の「運命」の冒頭部分を聴かせる。次に順番を変えて演奏を聴かせ、どの指揮者によるものか当てさせる。速さやフェルマータの長さなど聴くポイントを指示しておく。</p> <p>・速度や強弱などを手掛かりに、想像したことや感じたことをワークシートに記入させる。</p> <p>・指揮をしながら演奏を聴かせると、表現の違いを感覚的に捉えやすくなる。</p> <p>【共通事項】速度 強弱</p> <p>・他に聴いた演奏との比較も踏まえて聴くようにさせる。</p> <p>【評】演奏者の思いを感じ取りながら聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・フレーズ感を大切にして、楽曲の構成を確認しながら歌うと音がとりやすい。</p> <p>・言葉を大切にするために、子音を意識して歌うようにさせる。</p> <p>・旋律の動きや強弱の変化と、盛り上がりとの関係に気付くようにする。</p> <p>【共通事項】旋律 強弱</p>

し合う。

- ・作者の思いを考える。

○下声部やオブリガートを捉え、二部合唱をする。

- ・各声部を練習する。
- ・二部合唱をする。

○各声部に分かれて練習する。

- ・自分の声に合ったパートを選び、跳躍など音程の取りにくいところを丁寧に練習する。
- ・言葉を大切にしながら歌う。

○自分たちの表現を目指して合唱する。

- ・伴奏を聴きながら歌う。
- ・アイウエごとに、パートがどのように関わり合っているか確認して歌う。
- ・和音の響きや音の重なり方の変化など、曲の仕組みや特徴を捉えて歌う。
- ・演奏を録音して聴くなどして、よりよい合唱にするために話し合う。
- ・よく聴き合って、さらにまとまりのあるアンサンブルにするために、出た意見を合唱に反映する。

- ・二部に分かれる音を取り出して、一音一音伸ばして歌い、響きを確かめさせる。
- ・「ルル～」では、口の中を広くし、声の出し方に気を付けて歌うと、響きのある声につながるができる。

【資料】オブリガート…主旋律を彩る対旋律、助奏のこと

【評】各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴きながら歌う活動を通して「技能」を評価する

- ・変声期なども踏まえ、声の出しやすい声部を選ぶようにする。
- ・パート練習でも伴奏を聴きながら、ハーモニーの中で音を取るようにする。
- ・バランスのよい調和した響きを目指すようにさせる。

【共通事項】音楽の縦と横との関係

【評】旋律や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 めがせ楽器名人

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、リコーダーの音色と演奏の仕方との関わりについて理解するとともに、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) リコーダーの音色や旋律同士の関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) リコーダー・アンサンブルに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070105_001

【教材名】The Sound of Music (器楽) (P.18)

【準備等】範奏CD, リコーダー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 音色や旋律の関わり合いを意識して二部合奏に取り組む</p> <p>★たがいのパートをきき合って演奏しよう</p> <p>○範奏を聴き、大まかに曲想を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範奏を聴く。 ・ダル・セーニョ、コーダの働きと、曲の演奏順について確認する。 <p>○上声部を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シトや臨時記号の音の運指を確認してから吹く。 ・フレーズを感じながら丁寧に演奏する。 ・どのような音色で吹くとよいか考え、タンギングや息の流れ、ブレスなどに留意して演奏する。 <p>○下声部を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時記号の運指を確認する。 ・フレーズを感じながら丁寧に演奏する。 ・どのような音色で吹くとよいか考え、タンギングや息の流れ、ブレスなどに留意して演奏する。 <p>○二部合奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスを2つに分けて演奏する。 ・演奏する声部を交代して演奏する。 ・楽曲の特徴（動機の繰り返し、声部の重なり方など）について気付いたことを交流しながら演奏する。 <p>○表現を工夫しながら演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より豊かな演奏にするための工夫を話し合う。 ・フレーズの出だしをそろえる ・声部の音量のバランスを整える ・フレーズの区切り方 ・息の使い方 ・音色 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の進み方が複雑であるため、ダル・セーニョやコーダなどを丁寧に確認させる。 ・曲想に合った柔らかいタンギングや息の使い方を心掛けるようにさせる。 【共通事項】音色 フレーズ 音の重なり ・カノンのような重なりでの追いかけっこ、和声的な重なりでのハーモニーなど、声部の重なり方の違いを意識し、互いに聴き合って演奏できるようにする。 【評】各声部の音や全体の響きを聴いて演奏する活動を通して「技能」を評価する。 【評】リコーダー・アンサンブルする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】リコーダーの音色や旋律同士の関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】曲想と、声部の役割など音楽の構造やリコーダーの音色と演奏の仕方との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(1)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 動機の変化のさせ方やフレーズのつなげ方について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、リズムや音の高さを変化させて短いフレーズをつくったり、音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりする技能を身に付けることができる。
- (2) 音の動き方やフレーズのつなげ方を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 動機を基にした旋律づくりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070106_001

【教材名】動機をもとに音楽をつくろう（音楽づくり）

(P. 19)

【準備等】リコーダー、鍵盤ハーモニカ、鉄琴など

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 動機を変化させながら音楽を構成する。</p> <p>★動機をもとに音楽をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知っている曲から動機を見付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が知っている動機を発表し合う。 ・挙げられた動機を全員で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ねこふんじやつた ・チャイム など ○見付けた動機を変化させて演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある「The Sound of Music」や「運命」を参考に、変化のさせ方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・音を伸ばす。 ・音を短くする。 ・リズムを変える。 ・同じ音の動きで音の高さを変える。 ・動機の一部分を取り出したり繰り返したりする。 ・音の動きを逆さにする。 など ・確認した変化を使ってリレー奏する。 <p>○グループ又はペアで動機を変化させて音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくりたい曲のイメージなどを相談する。 ・どのように動機を変化させるかを考え、旋律やイメージに合った楽器を選ぶ。 ・グループ又はペアで表現の工夫、リレー奏の仕方を工夫する。 <p>○つくった音楽を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ又はペアでつくった音楽を発表し、よかったことや工夫するとよいことを伝え合う。 ・他のグループの工夫を参考にして、もう一度工夫し直したり発表し合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲を特徴付けている短い音型を「動機」という。 ・音の動きがはっきりしていて分かりやすいもの、児童になじみのあるもの、演奏しやすいものがよい。 ・児童の実態に応じて、リレー奏の際に変化させた動機を数種類に絞り、選択させてもよい ・動機を変化させていくときは、単純なものから扱い、複雑なものや高い演奏技能を伴うものでなくとも豊かな表現ができることを確認し、児童が無理なく取り組めるよう配慮する <p>【共通事項】変化 フレーズ 反復</p> <p>【評】動機の変化のさせ方やフレーズのつなげ方について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて演奏する活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】リズムや音の高さを変化させて短いフレーズをつくる活動をとって「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初と最後は基になる動機を演奏するとまとまりやすいことを伝える。 <p>【評】音の動き方やフレーズのつなげ方を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、音楽づくりをする活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】動機を基にした旋律づくりをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(1) (選択教材)花は咲く

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 曲想と旋律の流れなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて自然で無理のない声で歌うことができる
 (2) 旋律の流れや音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫しどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
 (3) 歌詞や曲の特徴を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070107_001

【教材名】花は咲く (歌唱) (P. 60～P. 61)

【準備等】範唱CD, 拡大楽譜

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 気持ちを込めて「花は咲く」を歌う。</p> <p>○学習課題をつかむ。 ★言葉を大切にしながら気持ちをこめて歌おう</p> <p>○範唱CDを聴き、アイウを歌詞唱する。</p> <p>○エの上声部とオを歌詞唱し、全体を通して歌う。 ・ア～オを歌う。 ・カ～クを歌う。 ・全体を通して歌う。</p> <p>○エの下声部を歌詞唱し、二部合唱する。</p> <p>○歌詞の内容を捉え、よりよい表現にするための工夫について話し合う。 ・歌詞を朗読して抑揚を確かめる。 ・どのように歌うと歌詞の内容がより伝わるかについて話し合う。</p> <p>○気持ちを込めて合唱する。 ・話し合ったことを基に表現を工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の楽曲も学習する場合は、1～2時間で終えるように内容を選択するとよい。 ・本楽曲は東日本大震災の被災地および被災者の物心両面の復興を応援するために制作されたチャリティーソングである。 ・歌う際、音の上がり下がりが激しいため、地声と裏声の切り替えが難しい曲である。そのため、頭声発声を意識させるとよい。 ・ダル・セーニョやコーダなどを確認し、歌う順序を確認してから全体を通して歌わせる。 ・オでも頭声発声を意識させる。 【発展】全体符 ・【評】曲想と旋律の流れなど音楽の構造や曲想と歌詞の内容とを関わらせながら歌う活動を通して「知識」を評価する。 ・弱起の曲であるため、フレーズのまとまりや言葉を大切にしながら歌わせる。 【共通事項】フレーズ 音の重なり ・出された意見は拡大した楽譜に書き込むなどするとよい。 ・【評】旋律の流れや音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・学習発表会等で演奏をしたり、他学年や他学級に聴いてもらったりして、感想や意見をもらうことで満足感をもたせるとよい。 ・【評】歌詞や曲の特徴を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・【評】各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて歌う活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(1) (選択教材)野にさく花のように

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて自然で無理のない声で歌うことができる。
 (2) 旋律や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
 (3) 歌詞や曲の特徴を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070108_001

【教材名】野にさく花のように (歌唱) (P. 68)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～3 「野にさく花のように」を気持ちを込めて歌う。 ○ 範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。 ★ 言葉を大切にしながら気持ちをこめて歌おう ・ 曲の感じをつかむ。 ○ 上声部を歌う。 ・ 演奏の順番を確認する。 ・ 聴唱法で上声部を歌う。 ○ 下声部を歌う。 ・ 聴唱法で下声部を歌う。 ○ 響きに気を付けて二部合唱をする。 ○ 歌詞の内容を理解して、気持ちを込めて二部合唱をする ・ 歌詞を朗読し、内容をつかむ。 ・ 言葉を大切にしながら気持ちを込めて歌う。	・ 他の楽曲も学習する場合は、1～2時間で終えるように内容を選択するとよい。 ・ テレビドラマの主題歌として親しまれた曲である。 ・ さわやかな曲調や途中から二部合唱になることを押さえる。 ・ セーニョ記号、D. S. (ダル・セーニョ)、コーダの説明をして演奏の順番を確認する。 ・ フレーズごとに聴唱法で歌い、旋律の反復・変化に気付かせる。 【共通事項】旋律 【評】曲想と旋律など音楽の構造や、曲想と歌詞の内容とを関わらせながら歌う活動を通して「知識」を評価する。 ・ 最後の小節(「しるのです」の所)は主旋律になっていることを確認する。 ・ 同じ音が続くので、音程に気を付けさせる。 ・ 二部に分かれる音を伸ばして歌い、響きを確かめさせる。特にアからイに入る「そんな」の所の音程に気を付けさせる。 ・ 同じ音が連続する場合は、音が下がらないように意識させる。 【共通事項】音の重なり 【評】歌詞や曲の特徴を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 「風に吹かれて」「雨に打たれて」の情景を想像させ、「さわやか」「なごやか」との対比を考えさせる。 ・ 大切にしたい言葉や作詞者が伝えたいことを考えさせて、強弱表現に結び付けていく。 ・ 「はな」「ひかれて」「ふと」などのハ行の言葉を明瞭に、「けなげな」「なごやか」などガ行の言葉は鼻濁音で歌わせ、美しく発音させる。鼻濁音を意識させるには「N」を前に付けさせるとよい。ガの場合は「NGA」と発音させる。 【評】旋律や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて歌う活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(1) (選択教材)世界の約束

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、リコーダーの音色と演奏の仕方との関わりについて理解するとともに、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) リコーダーの音色や旋律同士の関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) リコーダー・アンサンブルに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070109_001

【教材名】世界の約束 (器楽) (P. 62～P. 63)

【準備等】範奏CD, リコーダー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 音色に気を付けて「世界の約束」を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範奏CDを聴いて、学習課題をつかむ。 ★ 音色に気を付けて演奏しよう ○ 上パートを練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ファ＃の指使いを確認する。 ○ 下パートを練習し、二部合奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアになって上下パートの担当を決め、練習する。 ・ 合奏を録音する。 ○ フレーズのまとまりを意識して、工夫して演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 録音した合奏を聴き、気付いたことについて話し合う ○ 音色に気を付けて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブレスの位置やフレーズ感に気を付けて演奏させる。 ・ 高音を吹くときにも、低いときと同じように丁寧に優しく息を吹き込むよう伝える。 ・ 「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 <p>【評】 曲想と声部の役割など音楽の構造や、リコーダーの音色と演奏の仕方とを関わらせながら演奏する活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウの1拍前から下パートが主旋律になることを意識させる。 <p>【評】 リコーダー・アンサンブルを演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原曲の歌の音源があれば、それを参考にフレーズのまとまりを考えさせてもよい。 <p>【共通事項】 音色 旋律 音の重なり</p> <p>【評】 リコーダーの音色や旋律同士の関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 各声部の音や全体の響きを聴いて演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(1) (選択教材)八木節

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりを理解するとともに、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 声部同士の関わり合いや全体の響きを聴き取り、それらの生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 音を合わせて演奏することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070110_001

【教材名】八木節 (器楽) (P. 64～P. 67)

【準備等】 範奏CD, リコーダー, 鍵盤ハーモニカ, グロッケン, 木琴, あたりがね (カウベル), 和太鼓 (樽太鼓・締め太鼓なければ小太鼓), 大太鼓, シンセサイザーなど, 録音機器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 曲の特徴を生かして「八木節」を演奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範奏CDを聴き、学習課題をつかむ。 ★ 学習してきたことを生かして演奏しよう <p>○ 楽譜の見方を確認する。</p> <p>○ パートを決めて練習をする。</p> <p>○ 拍の流れを意識して、合奏の練習をする。</p> <p>○ 表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 速さ ・ 強弱 ・ フレーズ <p>○ 自分たちのイメージに合った合奏をして、題材のまとめとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範奏CDを聴きながらテンポのよい曲の感じや変化する曲想をつかませる。 ・ 民謡「八木節」を器楽曲にアレンジした曲であることを伝える。 【資料】八木節は群馬、栃木、埼玉3県にまたがる民謡。日光例幣使道の宿場街として栄えた八木宿（栃木県足利市福居町）が発祥の地の一つとされるが、起源については諸説がある。樽を叩きながら歌う盆踊歌である。 ・ 他学級や他学年に聴いてもらう予定ならば、そのことを前もって伝えておくことより意欲的に活動できる。また、活動の見通しをもたせるとよい。 ・ 楽譜1と楽譜2の説明やリコーダー1と2、鍵盤楽器1と2の旋律について確認をする。 ・ 演奏の順番を確認する。 ・ 学級の児童数等の実態に合わせて各パートの人数を決める。また、旋律では主旋律（リコーダー1と鍵盤1）のみ扱ってもよい。 ・ 16分音符を含んだリズムが多く使われているが、感覚的に捉えさせる。 ・ 楽譜2の太鼓パートは指揮的な役割も担うので、正確に打たせる。 ・ 低音、あたりがね、太鼓パートには主旋律を録音したものを活用させたり、演奏できるようになった主旋律パートの児童と一緒に練習させたりするとよい。 ・ 音楽の縦と横の関係を意識して、リズムがそろうようにさせる。 ・ 主旋律がリコーダーパートと鍵盤楽器パートに移り変わることを意識して演奏させる。 ・ 音がそろわない部分を取り出して練習するとよい。 【共通事項】リズム 拍 音の重なり 【評】曲想と声部の役割など音楽の構造とを関わらせながら演奏する活動を通して「知識」を評価する。 【評】音を合わせて演奏する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 自分たちのイメージに合った演奏するために表現の工夫をさせる。 ・ 聴き役をつくり、自分たちのイメージに合った演奏になっているか確認しながら練習させる。 【評】声部同士の関わり合いや全体の響きを聴き取り、それらの生み出すよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 学習発表会等で演奏をしたり、他学年や他学級に聴いてもらったりして、感想や意見をもらうことで満足感をもたせるとよい。 ・ 聴いてもらう相手がいない場合は、自分たちの演奏を録音し、思いや意図に合った演奏に

なっているか振り返らせるとよい。
【評】各声部の音や全体の響きを聴いて、音を
合わせて演奏する活動を通して「技能」を評
価する。

【 備 考 】

単元名 につぼんのうた みんなのうた(2)

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れやまとまりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲の特徴を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070111_001

【教材名】われは海の子（歌唱 共通教材）

(P. 20～P. 23)

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 情景を想像しながら「われは海の子」（共）を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱CDを聴き、学習課題をつかむ。 ★ 情景を想像し、この曲に合った歌い方を工夫しよう ○ フレーズごとに聴唱法で歌う。 ○ 歌詞を朗読し、情景を想像する。 <p>○ 強弱を工夫して歌う。</p> <p>○ 旋律の動きを意識しながら歌う。</p> <p>○ 情景を想像しながら伸び伸びと歌う。</p> <p>○ 感想を発表し、題材のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ P. 20, 21を見ながら、範唱を聴かせる。 ・ 難しい言葉が多いが、解説を加えながら少しずつイメージをふくらませる。P. 23の「海を思う心」も参考とする。 ・ 旋律の動き（旋律線）に応じた強弱が付けられていることを認識させる。 <p>【共通事項】強弱</p> <p>【資料】旋律線とは、音符と音符を線で結んだもので、音の高低や全体の流れ、フレーズなどを視覚的に分かりやすくすることができる。</p> <p>【評】旋律の流れやまとまりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 波を描くように、徐々に高まっていく旋律の特徴を意識させることで、気持ちの高ぶりを体感させる。 ・ 息継ぎについてもフレーズの動きを生かす要素として解説する。各段ごとをひとまとまりとして、息継ぎをしないで歌わせるとよい。 <p>【共通事項】旋律 フレーズ</p> <p>【評】歌詞や曲の特徴を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】曲想と、旋律など音楽の構造や歌詞の内容とを関わらせて歌う活動を通して「知識」「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠くの水平線に向かって歌うような気持ちで堂々と歌わせる。

【 備 考 】

単元名 ひびき合いを生かして

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の重なりなど音楽の構造との関わりについて理解するとともに、各声部や全体の響きを聴きながら演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 音の重なる響きや旋律の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070201_001

【教材名】ロック マイ ソウル（歌唱） カノン（鑑賞 器楽） （P. 24～P. 27）

【準備等】範唱CD、鑑賞CD、リコーダー、鉄琴、木琴、シンセサイザーなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「ロック マイ ソウル」の声の重なりや響きの組み合わせの楽しさを感じ取って表現する。</p> <p>★せん律を組み合わせて声のひびき合いを楽しもう</p> <p>○「ロック マイ ソウル」の範唱を聴き、曲想をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア イ ウの旋律の歌詞唱や階名唱をする。 ・パートの分担を決めて練習する。 ・歌の演奏形態について理解する。 <p>○「ロック マイ ソウル」の三つのパートを合わせて声の響き合いを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートの音量のバランスを考えながら歌う。 ・強弱や速さをいろいろ変化させ、自分たちの気持ちに合った歌い方を話し合って工夫する。 ・演奏する側と鑑賞する側に分かれ、お互いの演奏を聴き合う。 <p>○歌のいろいろな形態について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独唱、斉唱、重唱、合唱について理解する。 <p>○グループごとに表現をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに工夫した演奏を発表し、聴き合う。 <p>○「カノン」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを発表する。 ・同じ旋律の繰り返しや追い掛け合い ・いくつかのパートが重なってもにぎらない ・「かえるの合唱」との共通点 など <p>○「カノン」のアの部分のリコーダーで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範奏を聴き、ア部分を階名唱して、楽器で練習する ・子どもが1、教師が2で追い掛けて演奏して聴かせる ・クラスを三つに分け、1と2のグループでアを演奏する。 ・1 2 3のグループでアを演奏する。 <p>3～4 旋律の繰り返しや重なりから生まれる響き合いを生かして「カノン」を演奏する。</p> <p>★せん律の動きや重なりをきき合って演奏しよう</p> <p>○「カノン」のイの部分の練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イの1パートを練習する。 ・イの2パートを練習する。 ・二つのパートを合わせて演奏する。 <p>○「カノン」の終わり方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の演奏の仕方を見ながら、各グループに分かれイ→オ、ウ→オ、エ→オで終わる練習をする。 <p>○「カノン」を最初から通して繰り返し演奏する。</p> <p>○「カノン」をグループに分かれて合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中でどんな演奏にするのか話し合い、拍の流れやバランスに気を付け、楽器の音色や強弱を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピリチュアルについて簡単に触れる。 ・音楽と言葉を合わせ、リズムにのって歌えるようにさせる。 ・グループごとにいろいろな演奏パターンを工夫させる。 <p>【共通事項】音楽の縦と横の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【共通事項】強弱 音楽の縦と横の関係 <p>【評】旋律の重なりを意識しながら歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に「ロックマイソウル」で4つの演奏形態を試してみてもよい。 ・アフタービートでリズムを感じるようにすると、強弱や言葉の抑揚が付けやすい。手拍子を入れさせてもよい。 ・アフタービートについて、行進曲などと比較し、脅迫・弱拍の関係に触れると理解しやすい。 ・「カノン」の意味について知らせる。 <p>【評】曲想と声部の重なりなど音楽の構造とを関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の見方、演奏の仕方を説明する。 ・リコーダー以外の楽器でもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師が範奏して聴かせる。 ・拍に合わせて二部合奏したり、パートを交代して合わせたりしながら、繰り返し演奏させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・【共通事項】音楽の縦と横の関係 反復 変化 <p>【評】各声部や全体の響きを聴きながら演奏する活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で、上下パートと伴奏を分担させる。 ・伴奏はシンセサイザーや、木琴や鉄琴、ピアノやオルガンを使う。 ・伴奏できる児童が少ない場合は、一人の児童がいくつかのグループの伴奏をしたり、教師が担当したりする。 <p>【共通事項】音の重なり 拍</p> <p>【評】音の重なる響きや旋律の重なりを聴き取</p>

○グループごとに「カノン」の演奏を発表する。

り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・自分たちがどんなところを工夫したのかを伝えてから演奏する。
- ・友達の演奏のよいところや工夫したところを見付けるなど、目的をもたせてから取り組ませる。

【 備 考 】

単元名 ききどころを見つけて

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて理解することができる。
 (2) 楽器の音色や楽器同士の関わり、旋律の反復や変化を聴き取り、そのよさや美しさ、面白さを
 感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見い出
 し、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) バイオリンとピアノによるアンサンブルに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協
 働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070202_001

【教材名】「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」(鑑賞)

(P. 28～P. 29)

【準備等】鑑賞CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 楽器同士の関わりに気を付け、曲の構成や特徴を捉えその面白さを感じ取って聴く。</p> <p>★二つの楽器のかかわりやひびき合いを楽しもう</p> <p>○前半部を聴き、楽曲の特徴を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な旋律を演奏しているバイオリンやピアノの音色、旋律の反復や変化など、気付いたことを話し合う。 <p>○曲の前半部を聴き、ピアノとバイオリンと二つの楽器の関わり合いについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア(1回目)の部分の聴き、ピアノとバイオリンが同じ旋律を演奏し、しかもバイオリンがピアノを時間差をもって追いかけていることを聴き取る。 ・最初からイ(2回目)までを聴き、イはアと別の旋律であること、主旋律はピアノが演奏していることを聴き取る。 ・最初からア(2回目)までを聴き、気付いたことを伝え合う。 ・最初からイ(2回目)までを聴き、気付いたことを伝え合う。 ・次の音楽がどのようなか想像してから、最初からア(3回目)までを聴き、気付いたことを伝え合う。 <p>○曲の前半部全体にわたる曲想とその変化などの特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何もせずに全曲を通して聴いて、曲想とその変化を聴き取り、楽曲の構造について気付いたことなどをメモし話し合う。 <p>○「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」の音楽を形づくっている要素の関わり合いを体の動きで表現し、曲の面白さや特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～8人グループで、旋律の反復や変化、カノンの仕組みなどの楽曲の構造を表現する。 ・体の動きをそれぞれのグループごとに発表する。 ・互いのグループの表現について、よいところや感想などを出し合う。 <p>○互いのグループの表現についてよいところや感想などを話し合う。</p> <p>○「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」を、曲想やその変化などの特徴や、音楽を形づくっている要素などとの関わり合いに気を付けて全曲通して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらかの楽器に決めて弾き真似をしながら、曲全体を聴く。 ・何度も現れるアの旋律に留意しながら、旋律の動きに合わせて手などを動かしながら聴く。 ・曲想とその変化などの特徴や、音楽を形づくっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半部とは、おおよそ最初から2分40秒まで ・旋律の流れに合わせ、なめらかなイメージを手で表現させながら聴かせる。 ・バイオリンやピアノの特徴や音色について説明し、実物があれば子供一人一人に触らせてみるなど、興味をもたせるようにするとよい <p>【共通事項】音色 旋律 反復 変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かえるの合唱」やパッヘルベルの「カノン」を想起させ、同じ旋律を時間差をもって演奏することを「カノン」ということを押さえる。 ・二つの旋律の動きを手の動きで表現させるとカノンであることが分かりやすい。 ・イを聴くときは、動作も何もせず鑑賞する。 ・アの1回目で行った手の動きをここでも行ってよい。ピアノ役とバイオリン役に分かれて手を動かすようにすると、カノンであることや、どちらが先行しているかがよく分かる。楽器の弾きまねをさせることも考えられる。 ・ここまでアとイの旋律が反復されているので次も反復があるのではないかという予想を立てさせ、それから聴くと期待感も高まる。 ・カノンの仕組みについては、音楽の縦と横の関係、または音の重なりに関する仕組みと捉えてよい。 <p>【共通事項】音楽の縦と横の関係</p> <p>【評】曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で、ピアノ役とバイオリン役に分かれて動きを考えさせる。 ・アの旋律では、動きもカノンになるように模倣し、イは互いの楽器の関わり合いを考えて体の動きを考えるようにする。 ・体を動かす活動の際、スカーフやテニスボール大のボールなどを持たせると、より一層表現の幅が広がる。 <p>【共通事項】呼びかけとこたえ</p> <p>【評】バイオリンとピアノによるアンサンブルについて話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす活動の際、スカーフやテニスボール大のボールなどを持たせると、より一層表現の幅が広がる。 ・「新しい旋律も出てくるかな？全体はどんな曲だろう？」と投げ掛け、期待をもたせる。 ・盛り上がりや強弱の変化にも注目させる。

要素の関わり合いから，曲の面白さや特徴を理解し，気付いたことを伝え合う。

・「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」を紹介する文を書く。

・学んだ内容（楽器やその音色，旋律の反復や変化，カノンなど）を文に取り入れることを示唆する。

【評】バイオリンとピアノの音色や二つの楽器同士の関わり，旋律の反復や変化を聴き取りそのよさや美しさ，面白さを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 豊かな表現を求めて

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、各声部や全体の響き、伴奏を聴き、声や音を合わせて歌ったり演奏したりする技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れや声部同士の関わり、全体の響きを聴き取り、それらの働きの生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかや演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 曲の特徴を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070203_001

【教材名】明日を信じて（歌唱） L-O-V-E（器楽）（P.30～P.33）

【準備等】範唱CD、範奏CD、リコーダー、拡大譜、鍵盤ハーモニカ、木琴、ビブラフォーン、低音楽器（シンセサイザーなど）、小だいこ、シンバル、タンブリンなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 音楽の仕組みを生かして曲想を捉え、「明日を信じて」に合った表現を工夫して歌う。</p> <p>★せん律の動きや強弱を生かしながら表情豊かに歌い合わせよう</p> <p>○「明日を信じて」を聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>○範唱CDを聴き、主旋律を聴唱法で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア、イ、ウの部分ごとに分けて、確実に歌えるようにする。 <p>○歌詞の内容を捉えて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を朗読して抑揚を確かめる。 ・内容から、どんな気持ちで歌ったらよいのかについて話し合う。 ア…自分がいるところ、気分 イ…自分が見ているもの、想像 ウ…風景を見て、自分が思ったこと など <p>○旋律の流れを捉え、歌詞との関わりを生かして歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイウごとに旋律の特徴について考える。 ・歌詞との関わりについて考える。 ・歌詞と旋律の流れを生かして歌う。 <p>○下声部を捉え、二部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各声部の旋律を確認する。 ・アイウごとに下声部の音を確認して下声部だけ歌う。 ・二部合唱する。 <p>○パートの関わり方を捉えて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイウごとに、パートがどのように関わり合っているか考え、気付いたことを発表する。 ア…同じ旋律を一緒に歌う イ…掛け合いながら盛り上がる ウ…ハーモニーで力強く歌う など <p>○アイウの部分ごとに、どのように歌っていくか考えて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア…mf。音の動きが少ない。語り掛けるように歌う イ…mpから始まる。掛け合いながらウに向けて少しずつ盛り上がる。 ウ…f。ハーモニーを重ねながら、力強く盛り上げる <p>○「明日を信じて」を合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように歌ったらよいか、アイウごとにまとめる。 <p>4～6 スウィングのリズムを体で感じ、演奏する楽器を選択して「L-O-V-E」を演奏する。</p> <p>★楽器を選んでアンサンブルを楽しもう</p> <p>○範奏を聴き、曲想を捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・語るように歌うところ、掛け合うところ、曲が盛り上がる場所の三つに曲想が分かれるところをつかませる。 <p>【共通事項】旋律</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダル・セーニョ、コーダなどの記号とともに演奏の順序を確認する。 ・フレーズ感を大切にして、楽曲の構成を確認しながら歌うと音を取りやすい。 ・小節の頭に休符が入ることが多いので、1拍目を手拍子でたたいたり、伴奏を聴かせたりさせて、リズムの取り方に気を付けさせる。 ・イの後半の1番と2番でリズムが変わるところを気を付けさせる。 ・16分音符に気付かせ、雑にならないように注意する。 ・強弱記号も参考にして、朗読させるとよい。 ・作者の伝えたいことと曲の盛り上がりを意識して、強弱を付けて歌わせる。 <p>【共通事項】強弱</p> <p>【発展】全休符</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を大切にするため、子音を意識して歌うようにする。 <p>【評】曲想と声部の役割など音楽の構造や、曲想と歌詞の内容とを関わらせながら歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休符、タイ、付点などに気を付けて、リズムがあいまいにならないようにさせる。 ・音が重なるところと同じ音を歌うところの音量のバランスに気を付けるようにさせる。 <p>【共通事項】音楽の縦と横の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大した楽譜を掲示し、加筆してもよい。 <p>【評】旋律の流れや声部同士の関わり、全体の響きを聴き取り、それらの働きの生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いてから、題名の意味やスウィングのリズムについて確認する。

- ・体を揺らすなどしながら聴き、スウィングのリズムや曲の感じをつかむ。
- ・繰り返しや曲の進み方について確認する。
- ・アフタービート（打楽器のパートの小太鼓のリズム）で手拍子したり、体を揺らしたりしながら聴く。

- イウエの部分の①パートを吹く。
 - ・階名唱をし、ソ＃やファ＃の運指を確認する。
- リコーダーや鍵盤ハーモニカなどでイウエの部分の②パートを演奏する。
 - ・2声とも階名唱・運指唱をする。
 - ・鍵盤ハーモニカの場合は鍵盤の位置を確認する。
 - ・二つのグループに分かれ、上声部と下声部を分担して演奏する。
- 三つのグループに分かれ、イウエ部分を①と②で合わせて演奏する。
- 「L-O-V-E」の主旋律を演奏し、他のパートの確認をする。
 - ・①②パートのイウエを演奏する。
 - ・③、低音、打楽器パートを、教師の範奏で確認する。
 - ・ビブラフォンや木琴などの音を聴いて、音色を確認する。
- グループで合奏の練習をする。
 - ・6～8人程度のグループに分かれ、パートの担当や楽器を決める。
 - ・グループごとに練習する。
- グループごとに中間発表をする。
 - ・気付いた点や更に工夫したい点を伝え合う。
 - ・出された意見を基に、再度練習する。

- 発表会をする。

- ・①のパートの主旋律を追いながら、曲の進み方を確認させる。主旋律をハミングしながら聴かせてもよい。
- ・スウィングのリズムを感じながら範奏を聴くようにさせる。
- ・伸ばす音の音色に気を付けながら、リコーダーを吹かせる。

【共通事項】音色 呼びかけとこたえ 反復 音楽の縦と横の関係

- ・休符やリズムに気を付けながら旋律を覚えさせる。
- ・伸ばす音の音色に気を付けさせる。

【共通事項】リズム

- ・聴き合いながら演奏する。
- ・ピアノ伴奏に合わせて演奏し、リズムにのれるようにさせる。

【評】曲の特徴を生かした表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ピアノに合わせ、全員で演奏する。
- ・木琴やシンセサイザー、小太鼓、シンバルなど楽器を用意しておく。
- ・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。

- ・小太鼓やシンバルがグループの数用意できない場合は、手でリズムを打ちながら練習し、交代で使用する。
- ・教師は③、低音、打楽器パートの練習をしている児童の所を巡回し、指導する。
- ・③パートのシンコペーションのリズムが崩れないように注意させる。
- ・強弱など、音のバランスに注意させる。

【評】曲の特徴を生かして演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・練習が不足していたり、拍やリズムにのることができなかつたりするなど、個々の課題を教師も確認し、再度グループ練習に戻ったときに支援する。

【評】各声部や全体の響きを聴き、音を合わせて演奏する活動を通して「技能」を評価する

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(2)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 旋律と和音との関わりについて、それらの生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解するとともに、設定した条件に基づいて、即興的に旋律を変化させて表現する技能を身に付けることができる。
- (2) 和音の響きや旋律との関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、即興的な表現を通して音楽づくりの様々な発想を得ることができる。
- (3) 反復するコード進行に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070204_001

【教材名】じゅんかんコードをもとにアドリブで遊ぼう（音楽づくり）

(P. 34～P. 35)

【準備等】リコーダー、鍵盤楽器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 循環コードから自分たちの音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題をつかむ。 ★じゅんかんコードをもとにアドリブで遊ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・循環コードについて理解をする。 ○同じコード進行の繰り返しの基にしている曲が他にもあることを知る。 ○循環コードの例を鍵盤楽器で演奏をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・例を参考に和音（C-A-D-G）を一つずつ確認する ・「循環コードの例」にP. 35の旋律を合わせて演奏する ○アドリブで旋律を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ、旋律をアドリブで変化させる練習をする。 ○教師の和音と低音の伴奏に合わせて、一人ずつアドリブでリレーしていく。 ○グループに分かれて自分たちの音楽をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・担当を決めて演奏する。 ・低音 ・和音 ・旋律 ○中間発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の担当は、旋律のリズムを変えながら交代でアドリブ演奏する。 ・慣れてきたら、全員→一人（アドリブ）→全員→…の順で演奏する。 ・終わり方を工夫する。 ○グループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「カノン」を参考にして循環コードについて理解させる。 ・二つ以上の音が重なって響くことを「和音」（英：コード）ということ、二つ以上の和音が移行していき、その組み合わせが繰り返すコード進行を「循環コード」という。 ・循環コードは「カノン」だけでなく、5年「茶色の小びん」（C-F-G-C）でも見られる。 ・「つばさをください」後半部分や「音楽のおくりもの」の最初の部分などを「カノン」の低音と和音に合わせて歌わせ、つかませる。 <p>【評】旋律と和音の関わりについて、それらの生み出すよさや面白さなどと関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【共通事項】和音の響き</p> <p>【共通事項】旋律</p> <p>【評】設定した条件に基づいて、即興的に旋律を変化させて表現する活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和音や低音のリズムを工夫させてもよい。 <p>【評】和音の響きや旋律との関わりを聴き取りそれらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、音楽をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】反復するコード進行を使って演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 私たちの国の音楽

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて理解するとともに、呼吸及び発音に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の特徴や反復と変化、声や楽器の音色、楽器同士の関わり合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかや演奏するかについて思いや意図をもったり、曲のよさを見出し、曲全体を味わって聴いたりすることができる。
- (3) 我が国に伝わる音楽や楽器に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070205_001

【教材名】越天楽今様（歌唱 共通教材） 春の海（鑑賞）（P. 36～P. 39）

【準備等】鑑賞CD、範唱CD、リコーダー、鍵盤楽器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 歌詞の表す情景を思い浮かべながら、雅楽の旋律の特徴を感じ取って表現する。</p> <p>★雅楽のせん律を味わって歌おう</p> <p>○「越天楽今様」の歌詞の意味を理解し、情景を思い浮かべながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて楽曲の感じをつかむ。 ・難しい語句を理解し、朗読する。 ・平安時代の情景を思い浮かべる。 ・教科書の解説を読み、雅楽や今様について理解する。 ・七五調のリズムに注意して歌詞を音読し、リズムを意識しながら歌う。 <p>○雅楽や今様について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽「越天楽」を楽器の音色を味わって聴く。 ・雅楽や今様について、教科書の解説を読んで理解する。 ・「越天楽」と「越天楽今様」が同じ旋律であることをつかむとともに、楽器の音色の特徴を感じ取って聴く。 <p>○笛の旋律の特徴を捉えて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱に合わせて声の出し方を確認しながら歌う。 ・リコーダーで旋律を練習する。 ・リコーダーの旋律を合わせて歌う。 ・リコーダーと歌を重ねて歌う。 <p>○グループごとに「越天楽今様」の表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の情景や曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 ・グループ内で歌、リコーダー、伴奏の担当に分かれて表現を工夫する。 <p>例・声の出し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笛の旋律の演奏の仕方 ・笙のように鍵盤ハーモニカで演奏する方法 ・指導書のオプションパートを基に、鍵盤楽器や木琴を加える方法 <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表し、聴き合って気付いたことやよかったことなどを伝え合い、更によりよい演奏にする。 <p>○グループごとに発表する。</p> <p>3～4 箏や尺八の音色や奏法の特徴を感じ取りながら、楽曲の構造に気を付けて聴く。</p> <p>★日本の楽器の音色を味わって聴こう</p> <p>○「春の海」を、雰囲気を感じ取り、楽器の音色に気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲名を知らずに聴く。 ・どんな雰囲気がしたかや、聞こえてきた楽器について意見を交換した後、曲名と演奏している楽器が何かについて、教科書で確認する。 ・曲名から情景を思い浮かべて聴く。 <p>○作曲家宮城道雄についてや、箏・尺八の楽器について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏や尺八の音色に親しむ。 ・楽器に注目して個々の楽器の演奏を聴き、音色や奏法関わり合いについて気付いたことを発表する。 <p>○旋律の変化と再現に注目して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初から＜漁師の歌声や、ろをこぐ音＞の部分の終わ 	<ul style="list-style-type: none"> ・大意を理解させ、情景が思い浮かぶように教師が朗読する。 ・平安時代の絵巻などを用意できるとよい。 ・「われは海の子」も七五調のリズムである。 <p>【共通事項】旋律 音の重なり</p> <p>【評】呼吸や発音の仕方に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽「越天楽」は中学校で扱う教材であることを知らせ、音源や映像があれば活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「まなびリンク」の図を活用してもよい。 ・雅楽特有の拍の揺れや音の重なりなどに注目させる。 ・楽器はリコーダーのほか、キーボードでもよい。その場合、音色を工夫する。 ・タンギングをしないなど、日本の笛の奏法を取り入れて吹くようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・5～6人のグループがまとまりやすい。 ・各グループを教師が巡回し、演奏方法などを確認し、指導する。 ・オプションパートだけでなくピアノを加えてもよい。 <p>【評】旋律の特徴や反復と変化、声や楽器の音色、楽器同士の関わり合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲名や楽器を知らせずに聴かせ、雰囲気や演奏している楽器について、自由に意見交換させる。 ・箏については4年生で「さくら変奏曲」を聴いたことと想起させるとよい。実際に箏の演奏体験をしていれば、それを思い起こさせてもよい。 ・この曲が、春の瀬戸内海の情景を表していることについて知らせる。 ・映像資料を準備したり、実際に楽器を用意したりするとよい。 ・箏や尺八の音源も用意するとよい。 ・バイオリンとピアノのためのソナタと比較させ、気付いたことを交流してもよい。 <p>【共通事項】音色</p> <p>【評】我が国に伝わる音楽や楽器について話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では旋律や曲の感じが変わったところで挙手させ、三部形式A-B-Aの変化に気付か

りまで聴く。
・どこがどのように変化したか、気付いたことを発表する。(旋律の感じ、速度、強さ、楽器の掛け合い 他)
・今まで学んできた曲に多く見られた形式であることを確認し、宮城道雄が日本の楽器のために西洋の音楽の方法を取り入れて工夫したことを知る。

- 全体を通して鑑賞する。
 - ・自由に聴き、曲のよいところや面白いところについて聴き取ったことを基に、「春の海」の紹介文を書く。

せる。
・感じたことや気付いたことなどをメモしながら鑑賞させるとよい。
・A-B-Aの曲は「マルセリーノの歌」「ハンガリー舞曲第5番」などがある。
【共通事項】旋律 反復 変化 速度
【評】曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりについて話し合う活動を通して「知識」を評価する。
【評】旋律の特徴や反復と変化、楽器の音色や楽器同士の関わり合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら聴く活動を通して「思考・判断・表現」について評価する。

【 備 考 】

単元名 音楽に思いをこめて（選択教材）A

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりを理解するとともに、各声部や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
 (2) 旋律の流れや声部の関わり合い、全体の響きを聴き取り、それらのよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかや演奏するかについて思いや意図をもつことができる。
 (3) 声や音を合わせて歌ったり演奏したりすることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、1年間の学習を生かして、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070301_001

【教材名】ふるさと（歌唱 共通教材）（P. 42～P. 43） Take Me Home, Count
 ry Roads（器楽）（P. 42～P. 44）

【準備等】範奏CD、範唱CD、リコーダー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 言葉を大切にしながら「ふるさと」を歌う。 ★曲にこめられた思いを感じ取り、みんなの歌声で表そう ○言葉を大切にしながら「ふるさと」を歌う。 ○主旋律を聴唱法で歌う。</p> <p>○曲に込められた思いを感じ取る。 ・歌詞の内容を理解する。 ・歌詞の表している情景や気持ち、作者の思いについて話し合う。</p> <p>○作者の思いや情景を想像しながら歌う。 ・曲の盛り上がり（気持ちが一番盛り上がる場所） ・強弱 ・フレーズ ・言葉の響き ・表情や視線の角度</p> <p>○副次的な旋律を聴唱法で歌う。 ○音の重なり合いや強弱・フレーズに気を付けて、表情豊かに二部合唱する。</p> <p>2～3 気持ちを込めて「Take Me Home, Country Roads」を演奏する。 ★盛り上がりを生かし、心をこめて演奏しよう ○「Take Me Home, Country Roads」を英語で歌う。 ・英語の範唱を、英語で口ずさみながら聴く。 ・歌詞が、故郷を思う曲であることを知る。 ・楽譜を見ながら英語で歌う。 ○「Take Me Home, Country Roads」の主旋律を演奏する。 ・範奏を聴き、曲の感じをつかむ。 ・主旋律をドレミ（階名）で歌って音を確認してからリコーダーで吹く。 ・主旋律が下声部に移動しているところを確認する。 ・フレーズを感じながら丁寧に演奏する。 ・どのような音色で吹くとよいか考え、タンギングや息の流れ、ブレス、音域にあったシラブルに留意して演奏する。</p> <p>○上声部・下声部を演奏する。 ・上声部・下声部をそれぞれ階名唱し、主旋律でない部分の音を確認してから吹く。 ・クラスを二つに分けて合わせてみる。</p>	<p>・ゆったりとした曲の雰囲気をつかませる。 ・2小節、4小節、8小節の順に少しずつフレーズを増やして音をとらせる。 ・1番は、少年時代の記憶が具体的な風景として描写されている。2番は、しばらく会っていない人々への思いが、現在の自分の心象風景として描かれている。3番では1番で歌われた風景に思いを馳せながら、いつの日か故郷に錦を飾る決意を表明している。 ・言葉の対比（うさぎと小ぶな、山と川など）にも気付かせていく。 ・曲の盛り上がりは4段目となる。 ・息継ぎは2小節ごとになっているが、詩の流れから1段、または2段続きの大きなフレーズとなる。気持ちの上で続けるように歌わせる。 ・濁音は鼻濁音となるように響きに気を付けさせる。 ・「山」は高い視線、「川」は低い視線、3行目は正面を向いて明るい顔で…など歌詞の内容から視線の角度を工夫してもよい。</p> <p>・旋律線の動きを確認させ強弱を工夫させる。</p> <p>【共通事項】旋律 音の重なり 【評】曲想と声部の役割など音楽の構造や、曲想と歌詞の内容とを関わらせながら歌う活動を通して「知識」を評価する。 【評】各声部や全体の響き、伴奏を聴いて声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <p>・「ふるさと」との共通点を感じ取る。</p> <p>・全員で共有できる、大きな楽譜を用意する。</p> <p>・緩やかな2拍子と、穏やかなアウトビートを感じさせたい。 ・2拍目から各フレーズが始まっていることをおさえる。 ・大きな楽譜で、主旋律の位置を確認できるようにする。 ・タンギングや息の強さに気を配るように声を掛ける。 ・低音から高音まで、美しく響くシラブルを探していく。</p> <p>【共通事項】旋律 音色 ・上声部が下声部を同じリズムで追いかけた後重な動いていることに気付かせる。 【共通事項】呼びかけとこたえ 【評】音を合わせて演奏する活動を通して、「</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・上声部・下声部のそれぞれ主旋律でない部分の役割について確認し合う。 ○「Take Me Home, Country Roads」を二部合奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループに分かれ，掛け合いや重なり，盛り上がりを生かし，自分たちのイメージに合う表現を工夫する。 ・発表して聴き合い，感想を伝え合う。 	<p>主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色や音のバランスを大切にするように伝える。 <p>【評】旋律の流れや声部の関わり合い，全体の響きを聴き取り，それらのよさを感じ取りながら，曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>
--	--

【 備 考 】

単元名 音楽に思いをこめて（選択教材）B

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりを理解するとともに、各声部や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律の流れや声部の関わり合い、全体の響きを聴き取り、それらのよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 声を合わせて歌うことに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、1年間の学習を生かして、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070302_001

【教材名】ふるさと（歌唱 共通教材）（P. 42～P. 43） さようなら（歌唱）（P. 45）

【準備等】範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 言葉を大切にしながら「ふるさと」を歌う。</p> <p>★曲にこめられた思いを感じ取り、みんなの歌声で表そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○範唱CDを聴いて、学習課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、曲全体の雰囲気をつかむ。 ○主旋律を聴唱法で歌う。 ○曲に込められた思いを感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容を理解する。 ・歌詞の表している情景や気持ち、作者の思いについて話し合う。 ○作者の思いや情景を想像しながら歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の盛り上がり（気持ちが一番盛り上がる場所） ・強弱 ・フレーズ ・言葉の響き ・表情や視線の角度 ○副次的な旋律を聴唱法で歌う。 ○音の重なり合いや強弱・フレーズに気を付けて、表情豊かに二部合唱する。 <p>2～3 楽曲の盛り上がりを感じ取って「さようなら」を歌う</p> <p>★盛り上がりを生かし、心をこめて歌おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「さようなら」の主旋律を歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、楽曲の感じをつかむ。 ・主旋律を歌詞唱で歌う。 ・歌詞を音読し、イメージしたことや思ったことを発表し合う。 ○主旋律の歌い方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律について、気付いたことを伝え合う。 ・弱起で始まるフレーズの多用 ・3段目からの曲想の変化、盛り上がり ・4段目の曲想 ・全体の強弱記号 ・最後のフレーズの1拍目の休符 ・静かに余韻を残しながら歌い終わる など ・どのように歌いたいか、各自メモする。 ○下声部を捉え、二部合唱する。 <ul style="list-style-type: none"> ・下声部の音を確認する。 ・1拍目の休符や、上声部を追いかけて歌うところ、同じリズムで動くところを確認する。 ・クラスを二部に分け、二部合唱し、声部の関わり合いや全体の響きを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとした曲の雰囲気を感受し取りさせる。 ・2小節、4小節、8小節の順に少しずつフレーズを増やして音をとらせる。 ・1番は、少年時代の記憶が具体的な風景として描写されている。2番は、しばらく会っていない人々への思いが、現在の自分の心象風景として描かれている。3番では1番で歌われた風景に思いを馳せながら、いつの日か故郷に錦を飾る決意を表明している。 ・言葉の対比（うさぎと小ぶな、山と川など）にも気付かせていく。 ・曲の盛り上がりは4段目となる。 ・息継ぎは2小節ごとになっているが、詩の流れから1段、または2段続きの大きなフレーズとなる。気持ちの上で続けるように歌わせる。 ・濁音は鼻濁音となるように響きに気を付けさせる。 ・「山」は高い視線、「川」は低い視線、3行目は正面を向いて明るい顔で…など歌詞の内容から視線の角度を工夫してもよい。 ・旋律線の動きを確認し、強弱表現の工夫をする。 <p>【共通事項】旋律 音の重なり</p> <p>【評】曲想と声部の役割など音楽の構造や、曲想と歌詞の内容とを関わらせながら歌う活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>【評】各声部や全体の響き、伴奏を聴いて声を合わせて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で共有できるよう大きな楽譜を用意し、児童の気付いたことを書き込んでいく。 ・弱起に気を付けて聴いたり歌ったりするように促す。 ・フレーズの歌い方について考えていくように促す。 <p>【共通事項】フレーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は全員が下声部も体験できるように、クラスを二つに分けて交代で歌うが、その後は自分の声域も考えながら声部を選択させる。 ・変声期の場合は無理をさせない。 <p>【共通事項】音の重なり</p> <p>【評】声を合わせて歌う活動を通して「主体的</p>

- 自分たちのイメージに合う表現を工夫して歌い合わせる
 - ・それぞれの歌詞に合わせてどのように歌っていくか、意見を交換する。
 - ・声部の役割を生かし、聴き合いながら歌い合わせる。

に学習に取り組む態度」を評価する。
・響きのバランスを大切に歌わせる。
【評】旋律の流れや声部の関わり合い、全体の響きを聴き取り、それらのよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音のスケッチ(3)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 基とする二つの音階の響きの特徴、各声部の役割を、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能や、音楽の仕組みを基に音楽をつくる技能を身に付けることができる。
- (2) 二つの音階の響きや各声部の役割を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、即興的な表現を通して音楽づくりの様々な発想を得たり、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったり、曲のよさを見いだして聴いたりすることができる。
- (3) 役割を生かした音楽づくりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070303_001

【教材名】 役割を決めて音階をもとにした音楽をつくろう (音楽づくり) 前奏曲第1集から「帆」(鑑賞)
(P. 46～P. 47)

【準備等】 鍵盤楽器、マリンバ、シロフォン、グロッケン、ビブラフォン

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 ドローンとオスティナートを重ねて自分たちの音楽をつくる。</p> <p>★役割を決めて音階をもとにした音楽をつくろう</p> <p>○ア・イそれぞれで使われている音階について知り、音階の響きを聴き比べる。</p> <p>○4人で一つの楽器を使い、①～④の役割を分担する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割とそれぞれの音型、使用音と鍵盤の位置を確認する。 <p>○アの部分で、音を重ねて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①から演奏を始め、②③④の順に音を重ねる。 ・③と④は短い旋律で交互に呼び掛け合う。 <p>○イの部分で、同様に演奏する。</p> <p>○①の演奏するアとイの音の違いを他のパートの人も聴いて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア→イ→ア→イ…と続けてみる。 <p>○重ね方、強弱、速さなどを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始め方や終わり方なども工夫する。 <p>○中間発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループの工夫を確認して、よりよい演奏になるように試行錯誤する。 <p>○グループごとに発表して聴き合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンとは、同じ音を伸ばしたり、繰り返したりして、音楽全体を支える役割をもつように設定された音のこと。 ・オスティナートとは、何度も同じ音型を繰り返して音楽を進める役割のこと。 ・「帆」を鑑賞してもよい。 <p>【共通事項】音階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2グループに分け、練習させる。 ・児童の実態に合わせ、グループ分けをするとよい。 ・使用する楽器は、マリンバ、シロフォン、グロッケン、ビブラフォンなどが考えられるが、一つの楽器を4人で囲めない場合は「①②をバス木琴、③④はアルト木琴」「①はトーンチャイム、他はグロッケン」のように、複数の楽器を使うことも考えられる。 ・P. 46の図にあるような隊形で練習させる。 ・事前に教師が短い旋律の例をつくっておき、聴かせてから練習させるとよい。 <p>【共通事項】音楽の縦と横の関係</p> <p>【評】基にする二つの音階の響きの特徴、各声部の役割について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせながら演奏する活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アの部分と同じように練習させる。 ・①がアからイに音を変えたら、他も変わっていくことを理解させる。 <p>【評】設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現したり、音楽の仕組みを基に音楽をつくったりする活動を通して「技能」を表現する。</p> <p>【評】役割を生かした音楽づくりをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】二つの音階の響きや各声部の役割を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、音楽をつくる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後に「帆」を鑑賞してもよい。

【 備 考 】

単元名 (選択単元) I ジャズとクラシックの出会い

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と、旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて理解することができる。
 (2) 旋律やリズム、特徴的な楽器の奏法や、ピアノとオーケストラの掛け合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさや楽しさを見いだして聴くことができる。
 (3) ジャズとクラシックが融合した音楽に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070304_001

【教材名】ラプソディー イン ブルー (鑑賞) (P. 48～P. 49)

【準備等】鑑賞CD (あればDVDやBD), ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 ジャズとクラシック音楽が融合した音楽の面白さを感じ取って聴く。</p> <p>○「ラプソディー イン ブルー」を聴き、印象に残った部分やそれを特徴付けている要素、感想などを発表し合う</p> <p>○学習課題をつかむ。 ★ジャズとクラシック音楽が出合って生まれた音楽を楽しもう ・ジャズについて知る。</p> <p>○作曲家や「ラプソディー イン ブルー」について知り曲想を感じ取る。 ・ガーシュインや楽曲について知る。 ・ジャズとクラシック音楽が融合した音楽が醸し出す雰囲気を感じ取って聴く。</p> <p>○ジャズ独特のリズムや楽器の奏法の面白さ、ピアノとオーケストラの掛け合いの音楽の面白さを味わいながら、曲全体を聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器やその奏法の特徴をつかませるために、DVDやBDなどの視覚資料を使ってもよい ・教科書を見せないで聴かせるとよい。 ・大まかに分けて三つの部分からなることに気付かせる。 ・冒頭のクラリネットのソロやピアノの独奏、耳になじんだ旋律などを取り上げるとよい。 <p>【評】ジャズとクラシックが融合した音楽について話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャズについて簡単に説明をする。ジャズとはアフリカ系アメリカ人の音楽形式と西洋音楽が融合してできた音楽。リズムや音階などに特徴がある。音源が手に入れば、少し聴かせて特徴をつかませるとよい。 ・ガーシュインについて教科書P 49を参考に説明する。 <p>【資料】ジョージ・ガーシュイン(1898～1937) 20世紀前半のアメリカを代表する作曲家。ポピュラー音楽・クラシック音楽の両面で活躍した。貧しいロシア移民として生まれる。兄は後に作詞家として彼のパートナーとなったアイラ。二人で「アイ ガット リズム」などのミュージカルの音楽を多く手掛けた。また本楽曲作曲後に、独学でオーケストレーションを学び「パリのアメリカ人」などの管弦楽作品も残した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本楽曲はジャズの第一人者であったホワイマンの提案を受け、ジャズとクラシック音楽の融合という「シンフォニックジャズ」として作曲された。約2週間で一気に書き上げたとされる。タイトルには「憂鬱な気分のラプソディー」といった意味がある。ラプソディーとは「民族音楽風で特に形式がなく、自由奔放なファンタジー風の楽曲」という意味があるので、このタイトルから、ガーシュインはジャズをアメリカにおけるある種の「民族音楽」と捉えていたことが伺える。 <p>【評】曲想と、旋律やリズムなど音楽の構造とを関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揺らぐリズムや自由気ままに転がるような旋律・叩き付けられるような旋律、クラリネットやピアノのグリッサンドや金管楽器のミュートといった楽器の奏法や音色、ピアノの旋律をオーケストラが受け継いだり、掛け合ったりする部分に着目させる。 ・次々に出てくる新しい旋律がどのように変化するか着目させてもよい。 <p>【共通事項】リズム 音色</p> <p>【評】旋律やリズム、特徴的な楽器の奏法やピアノとオーケストラの掛け合いを聴き取り、曲や演奏のよさや楽しさを見出して聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 (選択単元)Ⅱ にっぽんのうた みんなのうた(3)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付き、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や旋律のもつリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や旋律の特徴を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070305_001

【教材名】 荒城の月（歌唱） 箱根八里（歌唱） (P.78)

【準備等】 範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 滝廉太郎の歌曲に親しみ、表情豊かに歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題をつかむ。 ★滝廉太郎の歌に親しみ、気持ちを込めて歌おう <ul style="list-style-type: none"> ・滝廉太郎について知る。 ○歌詞の情景を思い浮かべながら「荒城の月」を聴いたり歌ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱CDを聴き、曲の感じをつかむ。 ・主旋律を聴唱法で歌う。 ・歌詞の内容を理解し、情景を思い浮かべる。 ・情景を思い浮かべながら、強弱表現などを工夫して歌う。 ○歌詞の情景を思い浮かべながら「箱根八里」を聴いたり歌ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・範唱CDを聴き、曲の感じをつかむ。 ・主旋律を聴唱法で歌う。 ・歌詞の内容を理解し、情景を思い浮かべる。 ・情景を思い浮かべながら、強弱表現などを工夫して歌う。 ○それぞれの曲想にふさわしい歌い方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・「荒城の月」と「箱根八里」それぞれの曲想の違いを捉え、どのように歌うとよいか意見を交換する。 ○曲想の違いを味わいながら、それに合った歌い方で2曲を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「作曲家について」を参考に滝廉太郎について紹介をする。 【資料】滝廉太郎（1879～1903）…日本の音楽家、作曲家。明治時代の西洋音楽の黎明期における代表的な一人。東京生まれだが、父が転勤族であったため幼い頃から各地を回る。明治時代の前半に多くの翻訳唱歌ができたが、西洋音楽に日本語訳詞を無理にはめこんだぎこちない歌が多く、日本人作曲家によるオリジナルの歌を望む声が高まっていた。滝は最も早く、その要望に応えた作曲家と言える。彼の代表作である「荒城の月」「箱根八里」は文部省編纂の「中学唱歌」に掲載された。 ・重々しい雅やかな曲想を感じ取らせる。 ・低い音が多いので、響きに注意をして地声にならないように気を付けさせる。 ・歌詞を朗読させ七五調の歌詞を味わわせてもよい。月明かりに照らし出された城跡を見つめながら、ここで生活をしていた人々のことを想像しているという内容の歌詞である。 ・「は」などの子音や鼻濁音に気を付け、言葉を大切に歌わせる。哀切を帯びた旋律と歌詞を味わわせていく。 【共通事項】旋律 【評】歌詞や旋律の特徴を生かした表現をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】曲想と旋律など音楽の構造との関わりや曲想と歌詞の内容との関わりについて歌う活動を通して「知識」を評価する。 ・力強く軽快な曲想を感じ取らせる。 ・付点音符や3連符、シンコペーションのリズムに気を付けて歌わせる。 ・難解な語句の説明をし、歌詞の内容をつかませる。1番は勇壮な武士が太刀を腰につけて険しい箱根の山を越えた昔を語っている。 ・リズムの変化に気を付けて力強く軽快に歌わせる。 【共通事項】リズム 【評】旋律や旋律のもつリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・それぞれの表している情景を思い浮かべさせながら、曲想の違う2曲を歌わせ、題材のまとめとする。 【評】呼吸及び発音の仕方に気を付けて歌う活動を通して「技能」を評価する。

【 備 考 】

単元名 音楽ランド(2)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴き、声を合わせて歌うことができる。
- (2) 旋律の流れや声部同士の関わり、全体の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 曲の特徴を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070306_001

【教材名】卒業式で歌う歌（歌唱）

(P. 52～P. 69)

【準備等】範唱CD、録音機器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～6 卒業の歌を、6年間の思いを込めて歌う。</p> <p>○ 範唱を聴き、学習課題をつかむ。</p> <p>★ 卒業の気持ちを歌声にのせて伝えよう</p> <p>○ 主旋律、低音パートを聴唱法で歌う。</p> <p>○ 歌詞を読み、意味を話し合う。</p> <p>○ 響きを意識しながら合唱練習する。</p> <p>○ 録音して改善点を話し合う。</p> <p>○ 気持ちを伝えようとする意志をもち、曲の雰囲気を生かして合唱する。</p> <p>○ 感想を話し合い、題材のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲の選択については、児童の意見も取り入れるとよい。 ・ 卒業カレンダーなどを利用して、卒業式までの見通しをもって活動させるとよい。 ・ 昨年度の卒業式の歌の映像を見せて、雰囲気づくりを行ってもよい。 ・ 拍子を意識させることで曲の流れを感じ取らせる。 ・ 特に伝えたい言葉を絞らせるとよい。 ・ フレーズを意識させ、言葉をはっきり歌わせる。 <p>【評】 曲想と声部の役割など音楽の構造や、曲想と歌詞の内容との関わりについて、話し合う活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞との関わりを意識させる。また、自分以外のパートの声をよく聴いて歌うように助言する。 <p>【評】 声の特徴を生かして歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「歌詞がはっきり聴こえているか」「強弱はよいか」などの具体的なポイントを挙げて聴かせ、部分練習をさせる。部分練習では聴き役をつくり、その表現ができているか実際に確認しながら行うとよい。 <p>【共通事項】 音の重なり</p> <p>【評】 旋律の流れや声部同士の関わり、全体の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの学習を生かして、合唱させる。 <p>【評】 各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて歌う活動を通して「技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

令和2年度 知多地方教育計画案

図画工作科

図 画 工 作 科

1 教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を想像しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

教科の目標は、児童自身に本来備わっている資質・能力を一層伸ばし、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す観点に立っている。

「表現及び鑑賞の活動」は、図画工作科の学習活動のことであり、児童が活動を通して学ぶ教科であることを示している。表現と鑑賞は、それぞれに独立して働くものではなく、互いに働きかけたり働きかけられたりしながら一体的に補い合って高まっていく活動としている。

物事を捉える視点や考え方については、図画工作科の特質に応じて「造形的な見方・考え方」とされ、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」であると考えられている。活動や作品をつくり出すことは、自分にとっての意味や価値をつくり出すことであると同時に、自分自身をもつくりだしていることにつながるという、図画工作科において大切にすることも示している。

○教科の目標(1)

前半では「知識」、後半では「技能」について示している。「知識」とは、形や色などの名前を覚えるような知識のみを示すのではなく、児童一人一人が、自分の感覚や行為を通して理解したものや、造形的な視点を活用できる「知識」として習得されたり、新たな学習の過程を経験することで更新されたりしていくものである。「技能」は、一定の手順や段階を追って身に付くだけでなく、変化する状況や課題に応じて主体的に活用する中で身に付き、児童一人一人の自分なりの「技能」は、豊かな思いに基づいた「思考力、判断力、表現力等」とともに初めて発揮されるものであるとされている。

○教科の目標(2)

「A表現」と「B鑑賞」を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」を示している。「A表現」では、形や色などを基に想像を膨らませる、造形的な活動や表したいことを思いつく等の発想や、どのように活動したり表したりするか考えるなどの構想をすること。「B鑑賞」では、作品をつくったり見たりするときに、よさや美しさなどを感じ取り、自分の見方や感じ方を深め、自分なりに対象や事象を味わうことができるようにすることとしている。

○教科の目標(3)

ここでは、図画工作科で目指す姿を示している。図画工作科の学習は、自らの感性や想像力を働かせながら、資質・能力を発揮して表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうものである。その過程では、おのずとよさや美しさを目指すことになる。これは、生活や社会に主体的に関わる態度を育成するとともに、伝統を継承し、文化や芸術を創造しようとする豊かな心を育成することにつながるとしている。よりよく生きようとする児童の情意の調和的な発達をねらい、図画工作科の学習が位置づけられている。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 改訂の趣旨

中央教育審議会答申における成果と課題を受け、改訂の具体的な方向性が示され、図画工作科はそ

れに基づき、改訂が行われた。

(成 果)

- ・創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること。
- ・生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと。

(課 題)

- ・感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成すること。
- ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化について実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること。

(具体的な方向性)

- ・感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるように、内容の改善を図る。
- ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。

(改訂の基本的な考え方)

- ・表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視し、目標及び内容を改善・充実する。
- ・造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成できるように、目標及び内容を改善・充実する。

(2) 改訂の要点

① 目標の改善

ア 教科の目標

- ・生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成の一層重視。
- ・育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理。
- ・特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「造形的な見方・考え方」を働かせることを示す
- ・育成を目指す資質・能力の三つの柱それぞれに「創造」を位置付け、図画工作科の学習が造形的な創造活動を目指していることを示す。

イ 学年の目標

- ・育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理。

② 内容の改善

ア 表現領域の改善

- ・「A表現」の内容を「思考力、判断力、表現力等」の観点から整理して示し、「造形遊びをする活動」と「絵や立体、工作に表す活動」の指導事項の違いを明確に示し、それぞれの活動を通して、「思考力、判断力、表現力等」や「技能」を身に付けることができるようにする。

イ 鑑賞領域の改善

- ・「B鑑賞」を「思考力、判断力、表現力等」の観点から整理して示す。
- ・第5学年及び第6学年の鑑賞の対象に「生活の中の造形」を位置付け、生活を楽しく豊かにする形や色などについて学習を深めることができるようにする。

ウ 〔共通事項〕の改善

- ・〔共通事項〕(1)「ア 自分の感覚や行為を基に、形や色などの造形的な特徴を理解すること。」などを「知識」として位置付ける。
- ・〔共通事項〕(1)「イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。」などを、「思考力、判断力、表現力等」として位置付ける。

エ 「知識」についての配慮事項の明示

- ・内容の取扱いに、〔共通事項〕(1)アの指導に当たっての配慮事項を示す。

第1・2学年 図画工作科

1 学年の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。

2 内容

A 表現	(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けることや、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。
	(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すこと。
B 鑑賞	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 身の回りの作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
共通事項	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。 イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

3 内容の取扱いと指導上の配慮事項

- (1) 児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などにも幅をもたせるようにする。指導に当たっては、目指す資質・能力を明らかにし、児童の表現を幅広く捉えるとともに、児童が自分の思いで活動を進めることができるようにすること。
- (2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、児童が〔共通事項〕のアとイとの関わりに気付くようにする。自分の感覚や行為によって、自分なりのイメージが生み出されることを造形遊びをする活動や絵や立体、工作に表す活動、鑑賞する活動を通して児童が気付くように指導すること。
- (3) 第1学年及び第2学年においては、いろいろな形や色、触った感じなどを捉えられるようにする。それらを捉えられるようにするために、児童が自らいろいろな形や色を見つけたり選ん

- だり、触った感じを確かめたりすることができるような活動の時間を十分に確保すること。
- (4) 「A表現」の指導に当たっては、活動の全過程を通して児童が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見いだし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにすること。
 - (5) 学習の過程において、一人一人の児童がよさや個性などを生かして活動できるようにし、友人と互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにすることが重要である。そのために友人の作品や活動、言動に関心をもつことができるような交流の場面を設定すること。
 - (6) 第1学年及び第2学年においては、土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いること。簡単な小刀類は、厚紙などを切るための扱いやすいカッターナイフや、木の枝などを少しずつ削ったりできるような児童の手に合った安全な小刀などのことである。
 - (7) 児童の発達や実態を考慮した上で、児童一人一人が自分の関心のある表し方で表現を楽しみ工夫できる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにする。
 - (8) 「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。
 - (9) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理する言語活動を充実すること。
第1学年及び第2学年の表現においては、自分の思い付いたことや、表したいと思っていることを話したり聞いたりすること。鑑賞においては、活動を通して感じ取ったり考えたりした、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどを話したり聞いたりすることを楽しませるようにすること。
 - (10) コンピュータ、カメラなどの情報機器の利用については、表現や鑑賞の活動で使う一つの用具として扱うとともに、必要性を十分に検討して利用すること。
 - (11) 創造することの価値に気付き、自分たちの作品や美術作品などに表れている創造性を大切にする態度を養うようにする。そうした態度を養うことが、中学校美術科における美術文化の継承、発展、創造を支えていることについて理解する素地となるよう配慮すること。

4 安全指導

造形活動で使用する材料や用具、活動場所については、安全な扱い方について指導する、事前に点検するなどして、事故防止に留意すること。様々な学習場面で児童が材料や用具を扱う機会をつくり、十分に慣れ親しむことができるようにすることが重要である。

5 学校としての鑑賞の環境づくり

校内の適切な場所に作品を展示するなどし、平素の学校生活においてそれを鑑賞できるよう配慮する。また、学校や地域の実態に応じて、校外に児童の作品を展示する機会を設けるなどする。

6 評価の観点の趣旨

観 点	観点の趣旨
知識・技能	自分の感覚や活動を通して、形や色などに気付き、材料を用いたり、用具を使ったりする中で感じたことを生かしながら、表現方法を工夫したり、造形活動を充実させたりしている。
思考・判断・表現	自分が表現したいことや表現方法などを考え、材料の形や色などを基に活動や表し方を思い付いたり、身近な作品などの面白さや楽しさを味わったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	作品などをつくったり、見たりすることがつくりだす喜びにつながることを楽しみながら、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとしている。

第3・4学年 図画工作科

1 学年の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して分かるとともに、手や体全体を十分に働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、豊かに発想や構想したり、身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに1に、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

2 内容

A 表現	(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。
	(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かした、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくること。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
B 鑑賞	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
〔共通事項〕	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。 ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。 イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

3 内容の取扱いと指導上の配慮事項

- (1) 児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などにも幅をもたせるようにする。指導に当たっては、目指す資質・能力を明らかにし、児童の表現を幅広く捉えるとともに、児童が自分の思いで活動を進めることができるようにすること。
- (2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、児童が〔共通事項〕のアとイとの関わりに気付くようにする。自分の感覚や行為によって、自分なりのイメージが生み出されることを造形遊びをする活動や絵や立体、工作に表す活動、鑑賞する活動を通して児童が気付くように指導すること。
- (3) 第3学年及び第4学年においては、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを捉えられるようにすること。それらを捉えられるようにするために、児童が活動を通して色の変化などを味わうようにすることや、捉えたことを友人と確かめたり、言葉で伝え合ったりする時間を十分に確保すること。必要に応じて前学年で捉えた事項を取り上げて確認し、学習しながら次第に

新たなとらえ方ができるようにすること。

- (4) 「A表現」の指導に当たっては、活動の全過程を通して児童が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見いだし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにすること。
- (5) 学習の過程においては、一人一人の児童がよさや個性などを生かして活動できるようにし、友人と互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。そのために友人の作品や活動、言動に関心をもつことができるような交流の場面を設定すること。
- (6) 第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを児童が材料や用具の特徴を捉えながら、表したいことに合わせて扱うことができるようにすること。
- (7) 児童の発達や実態を考慮した上で、児童一人一人が自分の関心のある表し方で表現を楽しみ工夫できる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。
- (8) 「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。
- (9) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動を充実すること。
第3学年及び第4学年の鑑賞においては、自分の作品や美術作品などについて、どのように感じたり思ったりしたのかの根拠や理由を明確に話したり、適切な人数で話し合ったり、気持ちを振り返って書いたりする機会を設けること。
- (10) コンピュータ、カメラなどの情報機器の利用については、表現や鑑賞の活動で使う一つの用具として扱うとともに、必要性を十分に検討して利用すること。
- (11) 一人一人の児童が創造することを大切にしたい指導を積み重ねることで、その価値に気付かせるようにする。中学校美術科での素地を育成するため、様々な情報などを主体的に取り入れながらも、自ら考え工夫するような創造活動の意味や価値が実感できるようにするとともに、自分たちの作品や美術作品に表れている創造性を大切にする態度を養うようにすること。

4 安全指導

造形活動で使用する材料や用具、活動場所については、安全な扱い方について指導する、事前に点検するなどして、事故防止に留意すること。様々な学習場面で児童が材料や用具を扱う機会をつくり、十分に慣れ親しむことができるようにすることが重要である。

5 学校としての鑑賞の環境づくり

校内の適切な場所に作品を展示するなどし、平素の学校生活においてそれを鑑賞できるよう配慮する。また、学校や地域の実態に応じて、校外に児童の作品を展示する機会を設けるなどする。

6 評価の観点の趣旨

観 点	観点の趣旨
知識・技能	自分の感覚や活動を通して、形や色などの感じが分かり、全身を十分に働かせて材料や用具を適切に扱いながら、表現方法を工夫したり、自ら造形活動を充実させたりしている。
思考・判断・表現	自分が表現したいことや表現方法などを考え、形や色、イメージなどを基に豊かに活動や表し方を思い付いたり、身近な作品などのよさや面白さを味わったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	自分の資質・能力を発揮し、友人と関わり合いながら自分の思いを形や色に表したり自分の考えを大切に鑑賞したりし、楽しく豊かな生活を創造しようとしている。

第5・6学年 図画工作科

1 学年の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想したり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく生活を創造しようとする態度を養う。

2 内容

A 表 現	<p>(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合ったりしながら、どのように活動するかについて考えること。</p> <p>イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、後世の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。</p>
	<p>(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。</p> <p>イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。</p>
B 鑑 賞	<p>(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。</p>
〔共通事項〕	<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。</p> <p>イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。</p>

3 内容の取扱いと指導上の配慮事項

- (1) 児童が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などにも幅をもたせるようにする。指導に当たっては、目指す資質・能力を明らかにし、児童の表現を幅広く捉えるとともに、児童が自分の思いで活動を進めることができるようにすること。
- (2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、児童が〔共通事項〕のアとイとの関わりに気付くようにする。自分の感覚や行為によって、自分なりのイメージが生み出されることを造形遊びをする活動や絵や立体、工作に表す活動、鑑賞する活動を通して児童が気付くように指導すること。
- (3) 第5学年及び第6学年においては、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉えられるようにする。児童がそれらを捉えられるように、造形活動の過程などで児童が対象と直接関わることがで

きるようにすること。

- (4) 「A表現」の指導に当たっては、活動の全過程を通して児童が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見いだし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにすること。
- (5) 学習の過程においては、一人一人の児童がよさや個性などを生かして活動できるようにし、友人と互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。そのために友人の作品や活動、言動に関心をもつことができるような交流の場面を設定すること。
- (6) 第5学年及び第6学年においては、針金、糸のこぎりなどを児童の表現方法の広がりに対応した材料や用具として用いること。
- (7) 児童の発達や実態を考慮した上で、児童一人一人が自分の関心のある表し方で表現を楽しみ工夫できる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。
- (8) 「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。
- (9) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、感じたことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする、言葉で整理するなどの言語活動を充実すること。
第5学年及び第6学年の鑑賞においては、他者との交流を重視した活動を取り入れ、児童の資質・能力の育成を重視した指導計画の工夫をすること。
- (10) コンピュータ、カメラなどの情報機器の利用については、表現や鑑賞の活動で使う一つの用具として扱うとともに、必要性を十分に検討して利用すること。
- (11) 一人一人の児童が創造することを大切にした指導を積み重ねることで、その価値に気付かせるようにする。中学校美術科での素地を育成するため、様々な情報などを主体的に取り入れながらも、自ら考え工夫するような創造活動の意味や価値が実感できるようにするとともに、自分たちの作品や美術作品に表れている創造性を大切にすることが重要である。

4 安全指導

造形活動で使用する材料や用具、活動場所については、安全な扱い方について指導する、事前に点検するなどして、事故防止に留意すること。様々な学習場面で児童が材料や用具を扱う機会をつくり、十分に慣れ親しむことができるようにすることが重要である。

5 学校としての鑑賞の環境づくり

校内の適切な場所に作品を展示するなどし、平素の学校生活においてそれを鑑賞できるよう配慮する。また、学校や地域の実態に応じて、校外に児童の作品を展示する機会を設けるなどする。

6 評価の観点の趣旨

観 点	観点の趣旨
知識・技能	自分の感覚や活動を通して、形や色などの造形的な特徴を理解し、効果や可能性を確かめながら材料や用具を生かして使うことで、表現方法を工夫したり、造形活動を充実させたりしている。
思考・判断・表現	自分が表現したいことや表現方法などを考え、感性や想像力を働かせながら活動や表し方を思い付いたり、親しみのある作品などのよさや美しさを味わったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	自分らしい活動を求め、つくりだす喜びを感じながら、形や色などを視点に楽しく豊かな生活を創造しようとしている。

第1学年 図画工作科 年間計画（標準68時間）

	題 材 名	学習分野	時間	備 考
一 学 期 20	※スタートカリキュラム参照		4	
	かきたい もの なあに	絵	3	オリエンテーションを含む
	ちょきちょき かざり	工作	3	道徳 C－（14）
	すなや つちと なかよし	造形遊び	2	道徳 D－（18）
	やぶいた かたちから うまれたよ はこで つくったよ	絵 立体	4 4	算数 図形における算数的活動で利用 した箱を利用できる
二 学 期 27	でこぼこ はっけん！	鑑賞	3	
	ならべて ならべて	造形遊び	3	
	ひもひも ねんど	立体	3	
	のって みたいな いきたいな	絵	4	国語 経験したことや想像したことか ら表現したいことを見付けること は、B「書くこと」にもつながる
	おって たてたら おはなしから うまれたよ によき によき とびだせ	工作 絵 工作	3 6 5	国語との関連が深い 生活 おもちゃづくり 中学年の理科の空気の学習
三 学 期 21	かみざら コロコロ	工作	5	
	ぺったん コロコロ	造形遊び	2	
	いっしょに おさんぽ	立体	2	道徳 B－（9）
	みてみて あのね	絵	5	生活 動物とのふれあいなど関連 道徳 C－（16）
	ひらひら ゆれて ごちそう パーティを はじめよう！	工作 立体	4 3	
参 考 単 元	かざって なに いれよう	工作	3	道徳 A－（3） 生活との関連が深い

第2学年 図画工作科 年間計画（標準70時間）

	題 材 名	学習分野	時間	備 考
一 学 期 23	ふしぎな たまご	絵	5	オリエンテーションを含む 国語 想像して考えたことを順序立てて説明する 生活 生活科の活動や学校行事，学校生活の中なら表したいことを見つける 道徳 C－（16）
	しんぶんしと なかよし	造形遊び	3	
	くしゃくしゃ ギュッ	立体	3	
	わっから へんしん	工作	4	
	たのしかったよ ドキドキしたよ	絵	5	
	にぎにぎ ねん土	立体	3	
二 学 期 28	ともだち 見つけた！	鑑賞	4	生活 おもちゃづくりや秋祭りとの関連 他学年の児童や園児，地域のひとと遊ぶなどの活動が考えられる 道徳 B－（9） 国語との関連が深い
	はさみの あーと	絵	2	
	ざいりょうから ひらめき	絵	5	
	ひかりの プレゼント	造形遊び	2	
	わくわく おはなしゲーム	工作	5	
	ことばの かたち	絵	6	
	ともだち ハウス	立体	4	
三 学 期 19	まどから こんにちは	工作	5	生活 カッターナイフの使い方 プログラミング的思考 道徳 A－（4） B－（9） 生活 身近な人々，社会及び自然と関わる活動に関する内容と関連する
	たのしく うつして	絵	6	
	おもいでを かたちに	立体	4	
	パタパタ ストロー	工作	4	
参 考 単 元	だんボールに 入ってみると！？	造形遊び	3	

【旧】第2学年 図画工作科 年間計画（標準70時間）

	題 材 名	学習分野	時間	備 考
一 学 期 23	ひみつの たまご しんぶんしと なかよし くしゃくしゃ ギュッ わっかで へんしん たのしかったよ ドキドキしたよ にぎにぎ ねん土	絵 造形遊び 立体 工作 絵 立体	5 3 3 4 5 3	オリエンテーションを含む
二 学 期 28	すてきなもの いっぱい はさみの あーと ざいりょうから ひらめき ひかりの プレゼント わくわく すごろく 見て 見て おはなし ともだち ハウス	鑑賞 絵 絵 造形遊び 工作 絵 立体	4 2 5 2 5 6 4	生活 うごく うごく わたしのおもちゃ
三 学 期 19	まどを ひらいて ーまどから こんにちはー たのしく うつして ーかたがみを つくってー おもいでを かたちに ストローで こんにちは	工作 絵 立体 工作	5 6 4 4	生活 うごく うごく わたしのおもちゃ
参 考 単 元	だんだん だんボール	造形遊び	3	

第3学年 図画工作科 年間計画（標準60時間）

	題 材 名	学習分野	時間	備 考
一 学 期 21	しぜんの色		1	オリエンテーション
	絵の具+水+ふで=いいかんじ！	絵	5	道徳 A-（4）
	ねん土マイタウン	立体	3	道徳 C-（16）
	くぎうちトントン	工作	4	
	クミクミックス	造形遊び	5	
	み近なしぜんの形・色	鑑賞	3	道徳 D-（19）
二 学 期 24	切ってかき出しくっつけて	立体	4	
	あの日あの時の気持ち	絵	6	道徳 C-（16）
	ゴムゴムパワー	工作	6	理科 ゴムの働き
	ことばから形・色	絵	6	国語 読んだ物語などを基にすること
	ひもひもワールド	造形遊び	2	もできる
三 学 期 15	クリスタルアニマル	立体	4	
	空きようきのへんしん	工作	5	プログラミング的思考
	いろいろうつして	絵	6	
参 考 単 元	「小さな自分」のお気に入り	造形遊び	3	

第4学年 図画工作科 年間計画（標準60時間）

	題 材 名	学習分野	時間	備 考
一 学 期 21	しぜんの形		1	オリエンテーション 道徳 C－（17）
	絵の具でゆめもよう	絵	4	
	立ち上がれ！ねん土	立体	2	
	コロコロガーレ	工作	6	
	つながんぐん	造形遊び	2	
	わすれられない気持ち	絵	6	
二 学 期 24	元気のおまもり	立体	5	道徳 A－（4） 体育 バランスをとる運動と乃関連が深い 道徳 D－（20） 国語 教科書で紹介されている物語を取り上げることできる 道徳 B－（7） 算数 B「図形」平行・垂直，立体の見取り図との関連がある。
	ポーズのひみつ	鑑賞	1	
	言葉から形・色	絵	6	
	カードでつたえる気持ち	工作	6	
	ギコギコトントンクリエイター	工作	6	
三 学 期 15	ほってすって見つけて	絵	5	プログラミング的思考
	ここをつつんだら	造形遊び	5	
	おもしろだんボールボックス	工作	5	
参 考 単 元	ゴー！ゴー！ドリームカー	工作	6	理科 ゴムの学習

【旧】第4学年 図画工作科 年間計画（標準60時間）

	単 元 名	学習分野	時間	備 考
一 学 期	見つけたよ ためしたよ 絵の具でゆめもよう 立ち上がれ！ねん土 コロコロガーレ つながんぐん わすれられないあの時	絵 立体 工作 造形遊び 絵	1 4 2 6 2 6	オリエンテーション
21				
二 学 期	トロトロ、カチコチ・ワールド からだでかんしょう 大すきな物語 幸せを運ぶカード ギコギコクリエイター	立体 鑑賞 絵 工作 工作	5 1 6 6 6	
24				
三 学 期	ほってすって見つけて つつんだアート おもしろアイデアボックス	絵 造形遊び 工作	5 5 5	
15				
参 考 単 元	ゴー！ゴー！ドリームカー	工作	6	

第5学年 図画工作科 年間計画（標準50時間）

	題 材 名	学習分野	時間	備 考
一 学 期	教科書美術館「身近なものを見つめて」		1	オリエンテーション 道徳 C－（17）
	心に残ったあの時あの場所	絵	6	
	立ち上がれ！ワイヤーアート	立体	6	外国語活動 ショー・アンド・テルの 中で作品について伝えることが考えら れる。
	17 あんなところが こんなところに 見えてきた	造形遊び	4	
二 学 期	カードを使って	鑑賞	2	道徳 B－（11）
	言葉から思いを広げて	絵	6	国語 C「読むこと」
	糸のコススイ	工作	6	
	ほり進めて 刷り重ねて	絵	6	プログラミング的思考
20				
三 学 期	使って楽しい焼き物	立体	3	道徳 C－（17） 社会 地域の伝統文化、日本の文化財
	形が動く 絵が動く	工作	5	国語 「文章全体の構成や展開を考え る」活動との関連
	伝え合いたい思い	工作	5	道徳 B－（11）C－（16）
	13			
参 考 単 元	消してかく	絵	4	
	光と場所のハーモニー	造形遊び	4	プログラミング的思考

第6学年 図画工作科 年間計画（標準50時間）

	題 材 名	学習分野	時間	備 考
一 学 期 17	想像する力 わたしの大切な風景 くるくるクランク 固まった形から	絵 工作 立体	1 6 6 4	オリエンテーション 外国語活動 ショー・アンド・テルの 中で作品について伝えることが考 えられる。
二 学 期 20	わたしの感じる和 言葉から想像を広げて 1 まいの板から 自然を感じるすてきな場所で ー風の通り道ー	鑑賞 絵 工作 造形遊び	2 6 8 4	道徳 Cー（17） 国語 文章を読んで自分なりの考えを まとめたり，思いを広げたりする ことはC「読むこと」にもつなが る。 道徳 Bー（10） Dー（20）
三 学 期 13	版で広がるわたしの思い 未来のわたし	絵 立体	6 7	プログラミング的思考 道徳 Aー（4）Aー（5） Cー（14） 自分の将来を肯定的に捉えて表現して いくことを通して，E S Dとの関連を 図ることができる。
参 考 単 元	平和につなげるかたち 墨と水から広がる世界	鑑賞 絵	1 3	道徳 Bー（11） 道徳 Cー（17）

【旧】第6学年 図画工作科 年間計画（標準50時間）

	題 材 名	学習分野	時間	備 考
一 学 期 17	見つめて 広げて わたしの大切な風景 くるくるクランク いっしゅんの形から	絵 工作 立体	1 6 6 4	オリエンテーション
二 学 期 20	味わってみよう和の形 物語から広がる世界 1 まいの板から 動きをとらえて 形を見つけて ー風をとらえてー	鑑賞 絵 工作 造形遊び	2 6 8 4	
三 学 期 13	版から広がる世界 12年後のわたし	絵 立体	6 7	
参 考 単 元	図画工作の広がり ー表現にこめた思いー 墨で表す	鑑賞 絵	1 3	教科書 P30・31

第4学年〇組 図画工作科学習指導案

令和2年5月〇日 〇曜日 第〇時 (図工室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 題 材 コロコロガーレ(工作)

2 題材の目標

- (1) ビー玉が転がる仕組みを使った楽しい転がり方や仕組みに合った素材や形、色を見付け、工夫して表すことができる。
- (2) 楽しい転がり方や、いろいろな仕組みを思い付き、楽しくなるコースを考えるとともに、友達と作品を交換して遊び、よさや工夫した点などを感じとることができる。
- (3) ビー玉を転がして遊ぶ仕組みに興味をもち、楽しんでコースを作ろうとする。

3 学習の計画 (5時間完了)

第1次 第1時(本時) ビー玉で遊びながら作品の構想を練り、アイデアスケッチをする。

第2次 第2時～第4時 計画に従って作品をつくる。

第3次 第5時 自分や友達の作品で遊び、よさを認め合う鑑賞会を行う。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - ビー玉の動きの面白さに気付く、楽しくなるコースの全体の形や色、仕組みを構想することができる。
 - ビー玉が転がる様子を楽しみ、アイデアスケッチにその仕組みを取り入れようとしている。
- (2) 準備・資料
 - 児童……色鉛筆
 - 教師……ビー玉、参考作品、ワークシート
- (3) 関 連
 - 1年 図工 おってたてたら(紙を折ったり切ったりしてつくる)
 - 4年 図工 ゴー! ゴー! ドリームカー(ゴムの力で動く楽しいおもちゃをつくる)
 - 6年 図工 くるくるクランク(動く仕組みを使って楽しい作品をつくる)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかむ	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 参考作品で遊び、ビー玉の動きやコースの特徴に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースの飾り ・ビー玉がぶつかった時の動き ・コースの仕組み <p>(2) 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ビー玉を使って楽しく遊べるものをつくろう。 </div>	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参考作品を事前に提示し、遊び方を演じたり、実際に自由に遊ばせたりして作品づくりの参考にさせておく。 ○ 参考作品は、転がり方が面白いもの、コースづくりで色や形を工夫したものなどねらいがはっきりと分かるものを準備する。 ○ 遊びを通してビー玉の転がる様子をつかみ、作品づくりに生かすようにさせる。
発想する	<p>2 遊びから気が付いたことを基に構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 考えたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・トンネルや穴をつくってみたいな。 ・階段をつくってビー玉が落ちる仕組みが面白いね。 ・海の中を青色にしたいな。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 落ちたり、障害物によって動きを変えたりする等、ビー玉の動きに注目させる。 ○ イメージに合う形や色についても考えさせる。 ○ 思い付いた工夫も発表させる。 <p>評形や色、仕組みについての多くの気付きの中から、自分の作品のイメージを膨ら</p>

構 想 す る ま と め る	3 構想を基に、作品づくりの計画を立てる。 (1) アイデアスケッチをする。 ○色や形、転がり方を考えてかく。 ・海は青色にしよう ・三角形の橋を渡らせよう ・くるくる回りながら転がる	14	ませている。(発表) ○ワークシートを利用し、絵や言葉で具体的にかかせる。 ○色の工夫ができるように、色鉛筆で簡単にぬらせる。 ○アイデアの浮かばない児童には、参考作品を見せながら言葉掛けをする。 評多くの仕組みを取り入れたアイデアスケッチを熱心にかいている。
		32	(アイデアスケッチ) ○今後の見通しが立てやすいように、どんな材料を使うのかをスケッチにかき込ませる。 ○スケッチを見ながら、どんな材料が必要か、接着が可能かなど、個別に指導する。 評ビー玉の動きを生かした仕組みや楽しくなるコースの形や色、材料を考えている。(アイデアスケッチ)
	4 次時の確認をする。	42	○画用紙や接着剤など、教師が準備するものを伝える。
		45	○材料の収集方法を確認し、次時の活動ができるようにさせる。

(5) 本時の評価規準

- 楽しくなるコースの形や色、転がる仕組みの工夫や材料を考えている。

(発表・アイデアスケッチ)

- ビー玉遊びを通して、気付いた仕組みを多く取り入れ、意欲的にアイデアスケッチをかいている。(アイデアスケッチ)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 身近にある材料を使って工作したり、自由に発想してつくったりすることには関心が高い。休み時間には、色紙を使って楽しむ様子もよく見かける。しかし、作品をつくる段階では、十分に発想したり構想を練ったりすることができず、工夫した作品づくりにつながっていない。

(2) 指導の力点

- ビー玉を転がして遊ぶ工作の仕組みを理解するために、事前に参考作品で遊ぶ時間を確保する。ビー玉が転がったりぶつかったりする様子から、つくりたい作品の発想が広がるように、どのように転がると楽しいか、コースそのものの仕組みや表現の工夫を考えさせる。

6 指導と評価

※段階を示す用語

「つくる」指導案・・・「広げる」(考える学習活動の過程)

「追求する」「深める」(作り込む学習活動の過程)

「鑑賞」指導案・・・①「つかむ」②「気付く」③「深める」④「まとめる」

単元名 かきたい もの なあに(絵)

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 色々な形や色を見付け、クレヨンやパスなどを使いながら工夫して絵に表すことができる。
 (2) 自分の表したいものを表すために、好きな色や面白い形を考えるとともに、表した好きなことについて話したり聞いたりしながら、自分たちの作品を見ることを楽しむことができる。
 (3) 自分の好きな形や色を使って、思い浮かべたものを絵に表す楽しさを味わおうとする。

標準的な展開例

01080101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書1・2上 P. 2, 3を見て、今までにどんな活動があったか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 保育園で、砂遊びをしたよ。 クレヨンを使って絵をかいたね。 雪で遊んだこともあったよ。 <p>2～3 好きなものをたくさん絵にかいて楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなものや好きなことを思い浮かべ、どのようにかくか考える。 <ul style="list-style-type: none"> 私は果物をたくさんかこう。 ぼくは大きなカブトムシをかこう。 <p>★好きなものを絵にかいてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> クレヨン、パスの扱い方について知る。 <ul style="list-style-type: none"> 好きなものを絵にかいていく。 <ul style="list-style-type: none"> かきたいもの 好きな色 かき方の工夫 思いのままに塗ったり試したりして表しながら、工夫してかく。 <ul style="list-style-type: none"> 友達の作品を見ていたら、もっとかき足したくなったよ。 オレンジの皮つぶつぶをかくよ。 かいたものを友達と見せ合って楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ぼくは車が好きだからかきました。赤色にしてカッコよくしました。 〇〇さんのかいたオムライス、おいしそう。 君はセミが好きなんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書1・2上 P. 2, 3 幼児期にかくことを楽しんだ経験などを話し合うようにする。 自由に発言できるような雰囲気づくりを心がける。 年間の活動の見通しをもたせる。 教科書1・2上 P. 10, 11 一人一人、自分が好きなものを自由にかくことを提案する。 好きなものや好きな色などを尋ねたり、友人との会話を促したりして、表したいことが見付けられるようにする。 教科書に掲載の児童作品は、形や色、表し方などの多様な表現があるので、それぞれの興味に共感しながら、自分の好きなものを思い思いに発表させるなど意欲をもたせるように参照させてもよい。 【評】自分の好きなものや好きなことを絵に表す活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 教科書P. 61を参考にして、使い方や片付け方を指導する。 使いやすいように、クレヨン、パスを机の上に置く位置を決めておく。 円形や三角形や長方形などいろいろな形の画用紙を用意して、かかせる方法もある。 児童がかいている好きなものについて、共感的な言葉で語りかけて支援をしていく。 【評】作品を通して、自分の表したいものを表すために面白い形を考えたり好きな色を選んだりする「思考・判断・表現」を評価する。 表したいことに合わせて形や色、線や面の塗り方などを工夫している様子を捉えて賞賛し共感的に見守る。 友人の表したいろいろな形や色などに気付きお互いの発想を認め合える雰囲気づくりを心掛ける。 かいたものを順次黒板に貼り、自然な鑑賞を促す。 【評】作品を通して、表したいことを基に工夫して表す「知識・技能」を評価する。 作品を見せ合いながら、自分の好きなものを紹介する 自分や友人の作品を見て、面白いところや工夫しているところを見付け、交流する場を設定する。 【評】自分たちの作品を見合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 ちよきちよき かざり(工作)

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 折ったり重ねたりした色紙を切ってできる形を捉え、飾りを工夫してつくることができる。
 (2) 色紙を切ったり広げたりしながら、自分の思いに合った形や使いたい色を思い付くとともに、飾られた教室などから自分や友達の飾りの楽しさを感じることができる。
 (3) はさみで紙を切ったり、折ったり重ねたりして、教室や身近な場所の飾りづくりを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080102_001

【準備等】画用紙、色画用紙、両面色画用紙、色紙、模造紙、紙テープ、セロハンテープ、はさみ、クレヨン、パス、サインペン、のり など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 楽しい教室の飾りについて話し合い、つくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの教室で飾りがほしいところを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・出入口 ・窓の上方 ★紙の切り方を工夫して、楽しい飾りをつくろう ○はさみの安全な扱い方を知る。 <p>○紙の折り方や切り方を工夫することで、できる形があることを知り、試しながらつくってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色の違う紙を重ねて切る。 ・折り方を工夫する。 ・形や部分を変えて切る。 <p>○いろいろな方法で紙を切る。</p> <p>○できあがった飾りを持ち寄り、教室が楽しくなるように飾る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飾りを紙テープにのりやセロハンテープで貼ったものを掲示する。 ・飾りをそのまま掲示板やボードに掲示する。 ・模造紙など大きな紙に飾りをのりで貼って掲示する。 <p>3 飾りをつるし、見て楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飾られた場所を鑑賞し、感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2上 P.12, 13 ・教室に、児童の飾りをつるす場所を決めて空けておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.64を参考にして、はさみの使い方を指導する。 ・実際に材料とはさみを持って、正しくはさみで切る動作を見せる。 <p>【評】作品を通して、紙の折り方や切り方を工夫してできる飾りの形を捉え、表し方を考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な模様をつくる目標をもたせながら、意欲を高めるのもよい。 ・違う色どうしをつなげてみてもよい。 ・できた形と、いらない切れ端が混ざらないように、箱に分けて入れるなど、環境整備をする。 <p>【評】作品を通して、紙をいろいろな長さ、形に切る「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い所や窓際などには、安全面に十分配慮する。 <p>【評】教室を飾る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つるした飾りの切り方、見え方、飾り方についての感想を発表させる。 <p>【評】自分たちの作品を見合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連について

Cー(14)「先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。」との関連が深い。飾ることで自分たちの生活を楽しくすることができる、という経験を道徳の学習につなげていきたい。

単元名 すなや つちと なかよし ーすなや つちでー(造形遊び)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) いろいろな形や触った感じなどに気付き、工夫して表すことができる。
(2) 砂や土に進んで働きかけ、つくりたい形を思い付くとともに、自分が感じたことを友達に話したり、友達の話を聞いたりして活動の楽しさを感じることができる。
(3) 砂や土の感触を味わい、体全体を使って、造形的な活動を楽しんで取り組もうとする。

標準的な展開例

01080103_001

【準備等】バケツ、空容器、シャベル、ペットボトル、水、スコップ、汚れてもよい服装、タオル、帽子、水分補給のための水筒 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 砂や土に触って、様々な造形活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の造形活動の様子を見て、どんな活動ができるかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> 地面を掘る活動 土を積んで形をつくる活動 川や池をつくり、水を流す活動 <p>★砂や土に触って、いろいろな活動を楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全に活動するためのきまりを知る。 <p>○土や砂の感触を十分に味わいながら、グループや個人で思い付いたことを試す。 <ul style="list-style-type: none"> 山にトンネルを掘ってみたい。 プリンカップを使ってみよう。 ギュッと握ってつくったお団子を並べてみよう。 </p> <p>○できた形をもとにさらにやってみたいことを思い付き、造形活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> 葉っぱや枝で飾り付けをしよう。 水を流してみよう。 </p> <p>○できた形を見て、活動中の思いや工夫したことを発表したり、友人の発表を聞いたりして、活動を振り返る。</p> <p>○後片付けを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 1・2上 P.14, 15 場所を限定しないで活動する場合、事前に他学年の了解を得ておく。 場所の特徴とそれに合った材料や用具を選んでいることに気付かせる。 動きやすく、汚れてもよい服装に着替える。 活動の前に健康観察をする。 予想される活動に必要な道具や材料を準備しておく。 最初に、活動場所の範囲や道具の使い方など安全な活動ができるように指導する。 用具を使わない時の置き場所を示すようにする。 帽子をかぶらせたり、水分補給の時間を確保したりして熱中症の対策をする。 思い付いたことや気付いたことをどんどん試させる。 材料や用具を選ばせ、思い付いたことを生かしながら、表し方を工夫させる。 【評】学習活動を通して、用具を適切に用いたり、材料を付け加えたりして工夫して表す「知識・技能」を評価する。 友達と力を合わせて活動したり、他のグループとつなげたりしてもよいことを知らせる。 今までの活動を発表し、もっとやってみたいことを話し合うようにする。 水を流す活動をする場合には、ペットボトルやバケツなどを使わせる。 【評】学習活動を通して、砂や土でつくった形をもとに自分のイメージをもち、さらにつくりたい形を思い付く「思考・判断・表現」を評価する。 お互いの造形活動のよさを味わわせる。 活動場所全体の変化に気付くことができるように、少し離れた所から見るように促す。 【評】自分が感じたことを友人に話したり友人の話を聞いたりする活動を通して、できた形の面白さを感じ取る「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 使った道具はもとの場所に返し、使った材料はまだ使えるものと処分するものに分け、指示された場所に置くようにさせる。 健康観察をして、体調の変化に配慮する。

【備 考】

特別な教科道徳との関連

Dー (18) 「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。」と関連が深い。砂や土といった自然の材料に体全体で関わることを通して、目を向けることができるようにしたい。

単元名 やぶいた かたちから うまれたよ(絵)

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 破いてできる紙のいろいろな形を見付け、置き方やかき方を工夫して絵に表すことができる。
(2) 破いた紙の形から表したいことを思い付くとともに、自分や友達の絵を見ながら、表し方の工夫を見付けることができる。
(3) 破いた紙の見方や置き方、組み合わせ方を工夫するなどして、絵に表す面白さを味わおうとする。

標準的な展開例

01080104_001

【準備等】画用紙、色画用紙、色紙、共同絵の具、パス、クレヨン、サインペン、はさみ、のり、新聞紙、包装紙、クラフト紙 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 紙を破ったり切ったりして形をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○使ってみたい紙を選び、手でいろいろな形に破る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆっくり破る。 ・ 指先でつまみながら複雑に破く。 ・ いろいろな向きに破く。 ・ 長く破く。 <p>★紙の形から、思い付いたことを絵に表そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○破いた紙の置き方をいろいろ試しながら形や見え方の違いを見付け、発想を広げて見立てをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな恐竜みたい。 ・ ウサギの顔に見えるよ。 <p>2～4 見立てで選んだ形から、思い付いたことを絵にかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表したい絵になるように、選んだ紙をのりで台紙に貼り付ける。 ○表したいことのイメージを広げながら思い付いたことを加え表す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 汽車の線路 ・ 虹や雲 ・ 木やお花 ・ ハートや星 ・ 昆布やわかめ ・ 自分や友達 ○作品を見ながら、見付けた形から思い付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙を組み合わせた形がいいね。 ・ キリンの縞模様にするために紙を重ねて貼っていて、面白いね。 ・ 新聞紙を山にしているいいね。 ・ 大きくつくっていて、かっこいいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書1・2上 P.16, 17 ・ 教科書を参考に、紙をそつと破いたりいろいろな形に破いたりする活動を勧める。 ・ 目をつむって紙をちぎったり、二つに折って重ねて切ったりして、偶然にできる形をつくる。 ・ 「破いたらどんな感じがするかな」「どんな音がするかな」などと声掛けをすることで、体の感覚を働かせながら破るように促す。 ・ つくった形を1カ所に集め共同で使ってもよい。 ・ 最初は教師が形を選び、何に見えるか児童に発表させ、見立ての方法を説明する。 ・ いろいろな形の紙で試しながら組み合わせを変えることで、新しい形や絵ができることに気付かせる。 <p>【評】作品を通して、破いてできる紙から表したいことを思い付く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書P.65を参考にして、のりの基本的な使い方について指導する。 ・ 紙を貼った時点で、みんなで見せ合い、交流する場を設けてもよい。 ・ 絵の具やパス、クレヨンを使って、思い付いたことをかき加えたり、紙を貼り足したりして、どこで何をしているかが分かるようにかかせる。 ・ 思いが広がってきたら、新たな形をかき加えさせる。 ・ 友達の作品から面白い形や表したいことについて伝え合い、自分のイメージを広める時間を設ける。 <p>【評】見立てで選んだ形から思い付いたことを絵に表す活動を通して、思い付いたことを膨らませて形や色を工夫して表す「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ できた作品に題名を付け、見せ合う。 ・ 友達の発想のよさに気付かせる。 ・ 児童の気付きを受け止めながら、紙の形の面白さや形の組み合わせ方の面白さ、色づかいの工夫などに着目できるよう声掛けをする。 <p>【評】自分や友達の作品を見合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 はこで つくったよ(立体)

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 表したい形になるように、箱の組み合わせ方や接着の方法を工夫して立体に表すことができる
(2) 箱を並べたりつなげたりして、繰り返し試しながら表したい形を考えるとともに、できたものの面白さに気付くことができる。
(3) 箱を組み合わせることで立体に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080105_001

【準備等】色画用紙の切れ端、いろいろな大きさの形の箱（小さなものを多く集める）、身辺材（空き容器、トレイ、紙コップなどで、箱につけたいもの）、粘着テープ、セロハンテープ、両面テープ、化学接着剤、木工用接着剤、のり、はさみ、画用紙、クレヨン、パス、サインペン、画用紙、ダンボール、洗濯ばさみ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て、箱を使ってつくりたいものを考える。</p> <p>○参考作品を見て、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱をつなげてできている車 ・空き容器やトイレットペーパーの芯を使っているよ。 ・箱を縦にして、ペンギンの体になっているよ。 ・同じ大きさの箱を使うと動物の足にいいね。 ・たくさん重ねたら色がきれいだね。 <p>○箱と箱、箱と身近な材料を組み合わせることで、何に見えるか発表する。</p> <p>★箱の組み合わせ方を工夫して、楽しい仲間をつくろう</p> <p>○箱と箱の接着方法や立たせ方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘着テープを丸めて貼ればよさそうだな。 ・両面テープを使うときれいに貼れそうだね。 ・同じ大きさの箱を使って足をつくれればしっかり立ちそうだよ。 <p>○箱を見たり触ったりしながらつくりたいものを考える。</p> <p>2～4 箱を使って、思い付いたものをつくる。</p> <p>○箱と箱、箱と身近な材料を組み合わせ、試行錯誤してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つないでもっと長くしてみよう。 ・高く大きくして、強そうにしてみよう。 ・色のテープで縞模様をつくろう。 <p>○つくった作品で友達と一緒に遊び、作品の色や形、工夫などの面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな箱で馬をつくった子がいるな。一緒にならべると親子みたい。 ・同じ馬でもつくり方が違うよ。 ・みんないろいろなものをつくっていて、楽しいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 1・2 上 P.44, 45 ・事前に紙製の箱をたくさん集めておくように指示しておく。また、箱と組み合わせるとよさそうな空き容器やトレイなども集めるようにさせる。 ・箱をどのように使って活動しているかをつかませる。 ・ペットボトルなど箱以外の材料も使ってよいことを知らせる。 <p>・箱の組み合わせ方の違いで印象の違う作品ができることに気付かせる。</p> <p>・つくりたいものや箱の形に合わせて、接着の仕方を変えることで丈夫できれいに作ることができることを助言し、工夫してつくことを提案する。</p> <p>・教科書P.65を参考に、両面テープの使い方について指導する。</p> <p>・立体に表すことを意識できるように、「どの箱をどのように使ったら立つかな」と問いかけたり、向きを変えて「ここから見るとどうかな」と様々な向きから見ることを示したりする。</p> <p>【評】作品を通して、箱を組み合わせ、つくりたいものを思い付く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・初めから決めたものをつくらせるのではなく箱を使ったいろいろな活動をして試行錯誤させながら、つくりたい思いを引き出すようにする。</p> <p>・自由に活動できるように、できるだけ広いスペースを確保する。</p> <p>・厚紙を土台にしてつくってもよい。</p> <p>・友達とつくりたいという希望があれば、グループ活動をさせる。</p> <p>・一人でつくったものを、後で友達の作品と合体させてもよい。</p> <p>・顔の表情をペンでかいたり、体の模様などを身近な材料を使って表したりしてもよいことを知らせる。</p> <p>【評】作品を通して、つくりたい形や様子になるよう、箱と箱、箱と身近にある材料を、工夫して組み合わせたり、接着したりしてつくる「知識・技能」を評価する。</p> <p>・材料の特徴を生かして、どんな作品をつくることできたか注目させる。</p> <p>・作品に名前を付けたり、性格などの設定を考えたりしながら、自己紹介させるとよい。</p> <p>【評】自分や友達の作品を見合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

他教科との関連

算数科の図形における算数的活動で利用した箱を利用できる。

単元名 でこぼこ はっけん！（鑑賞）

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 身の回りにある様々な「でこぼこ」の形や写し取った形に気付くことができる。
 (2) 身の回りにある「でこぼこ」を写し取ってできる形の面白さに気付くとともに、見付けた形から自分の見方や感じ方を広げることができる。
 (3) 身の回りにある「でこぼこ」を写し取ってできる形から、新しい形を見付けることを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080201_001

【準備等】紙粘土、粘土板など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「でこぼこ」な形を粘土で写し取ることを通して、身の回りにある形の面白さに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、自分たちの身の回りにはいろいろな「でこぼこ」があることに気付く、興味をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> かべにでこぼこがあるよ。 ロッカーの下にでこぼこがあるよ。 ★身の回りにある、面白い「でこぼこ」を紙粘土で写し取ろう。 グループごとに「でこぼこ」を探しに行き、いろいろな形の「でこぼこ」をたくさん集める。 <ul style="list-style-type: none"> その形どこで取ったの。 触った感じも面白そう。 ペンからこんな「でこぼこ」がとれたよ。 <p>2～3 形の面白さを伝え、「でこぼこ美術館」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が写し取った粘土を見て感じたことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> これは、外の網を写したんだよ。ダイヤの形がいっぱい面白いでしょ。 この形メロンパンみたい。 友達が写し取った粘土を集めて「でこぼこ美術館」をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> この形とこの形似ているね。 仲間の形を集めよう。 こんなにいろいろな形の「でこぼこ」が身近にあったんだ。 果物屋さんみたいだね。 身の回りの「でこぼこ」を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 1・2 上 P. 42, 43 教科書を見て面白いと思った形や、面白い形をした「でこぼこ」を見付けた経験などを話し合う。 教室にある「でこぼこ」を観察させる。 4人程度のグループになり、学校内にあるいろいろな「でこぼこ」を見つけて、それらを紙粘土で形を写し取って集めさせる。 教科書P. 43の「きをつけよう」を参考に、高所や危険な場所を避け、安全に留意して活動の範囲を決定する。 面白さに気付いたことによって発せられるつぶやきに対して、共感的に対応する。 写したところに付着した粘土は取るようにさせる。 【評】「でこぼこ」を探し粘土で写し取る活動を通して、身の回りにある様々な形に見付ける「知識・技能」を評価する。 見付けた「でこぼこ」の形の面白さから思い付いたことや、気付いたことなどを聞き出す 【評】「でこぼこ」を探し粘土で写し取る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 自分が感じたことを伝えやすくするために、伝え合いは少人数（2～3人）で行う。 【評】感じたことを伝え合う活動を通して、自分なりの見方や感じ方を広げている「思考・判断・表現」を評価する。 「でこぼこ美術館」をつくるグループは、粘土の数や集めて見合うスペースを配慮し、4～6人の人数で行う。 形の違いや面白さに気付くことができるよう児童が発した言葉を大切にしながら、交流できるように促す。 形による並べ方の工夫をしたり、いくつかの形に名前を付けたりする活動も考えられる。 児童が気付いた「でこぼこ」を紹介しながら身の回りには様々な「でこぼこ」があることをまとめる。 最後に、自分たちが写した「でこぼこ」（ものや場所）を見直し、粘土が残ってないか確認しながら片付けをするように伝える。

【 備 考 】

単元名 **ならべて ならべて(造形遊び)**配当時間 **3時間**

単元の目標 (1) 身の回りにある材料の形や色を見付け、工夫して並べることができる。
 (2) 身の回りにある材料を、並べながら面白い形を考えるとともに、できた形の面白さを感じとることができる。
 (3) 身の回りにあるもので並べてみたいものを見付け、それらを並べていくことを楽しもうとする

標準的な展開例

01080202_001

【準備等】 身近材（木の枝、石、木切れ、紙コップ、落ち葉、ペットボトルキャップ、割り箸、ストローなど）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 並べる造形活動について知り、身近にある材料を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の参考作品を見て、感想を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・長い道みたい。 ・いろいろなものを並べておもしろそう。 ★いろいろな材料を工夫して並べよう ○どんな材料を並べたいか発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・木切れ ・落ち葉 ・石 ○材料を集めたり、準備したりする。 <p>2～3 身近にある材料を、並べる造形活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○材料を並べる場所を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・教室 ・校庭 ・中庭 ○材料をどんどん並べながら思い付いたり、考えたりしたものをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペンを色の順番に並べていくと、きれいだよ。 ・カップ同士を割り箸でつないで、橋みたいになろう。 ・落ち葉を丸くならべるとひまわりみたいだね。 ○造形活動で工夫したところや友達の前で造形活動のよさを発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの線路はどこまで続いていっているんだろうについていってみよう。 ・この並べ方すごいね。どうやってやったの。 ○後片付けを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・活動場所を元通りにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 1・2 上 P. 48, 49 ・好きな材料を並べたり積んだりしていることに気付かせる。 ・児童の気付きやつぶやきに寄り添い、気付いた材料や用具と一緒に確認し、できそうなことを問いかける。 ・人工材ばかりでなく、自然材も集めさせる。 ・自分の持っている学習用具や持ち物、学校にある物から始める方法もある。 ・次時まで、活動ができるように十分集めさせておく。 ・児童の活動に広がりをもたせるために場所を確認しておく。 【評】学習活動を通して、材料の特徴から、並べ方やつなぎ方を思い付く「思考・判断・表現」を評価する。 ・体全体で材料と関わり、並べ方を工夫させる ・ルールを決めて安全に配慮する。 ・思い付いたことを実現するために並べ替えさせてもよい。 ・グループの活動になっていく場合があってもよい。 ・活動の過程でいろいろな並べ方をしている子どもたちの活動を取り上げて紹介したり、別の並べ方を提案したりする。 【評】学習活動を通して、材料の特徴を生かして、工夫して並べる「知識・技能」を評価する。 【評】学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・作品がある場所に全員で移動し、発表を聞かせる。 ・どのように並べたのか、つくった児童にも鑑賞した児童にも思いを聞く。 ・半分の児童は自分の活動場所に待機し、見に来た友人に説明する、途中で立場を入れ替える方法で活動を行ってもよい。 ・授業の最後に、普段の生活や身の回りの自然の中の形や色、その並び方や組合せの面白さに気付いていけるような声掛けをする。 【評】工夫したことを伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・活動の後は、材料や用具を元の場所に片付けるよう指示する。

【 備 考 】

単元名 ひもひも ねんど(立体)

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 粘土をひも状にしてできる形を見付け、表し方を工夫して立体に表すことができる。
(2) 粘土の感触や、手の動きを生かして、つくりたいものを思い付くとともに、その面白さを感じ取りながら、自他の表現のよさを友達と見付けることができる。
(3) 手や体全体を使って粘土にかかわり、形を変えてつくることを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080203_001

【準備等】油粘土（1kgくらい）、粘土板、へら、汚れてもよい服装

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 粘土をひも状にし、面白い模様や形をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○粘土に触れて、形を変えるなどして感触を確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・お団子がたくさんできたよ。 ・三角の山ができたよ。 ・だんだん柔らかくなってきたよ。 ・伸ばすとおもちみたいだよ。 ・一番長くしてみよう。 ・上から落としてみたら、爆弾みたい。 ・粘土を固めてサイコロをつくるよ。 ★粘土のひもで、いろいろな形をつくろう ○様々な長さや太さのひもをつくり、それを基にして面白い模様や形をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・太いひもをトンネルにしたよ。 ・うずまきの模様ができたよ。 ○友達とつなげたり、アイデアを出し合ったりして活動を広げる。 ○粘土でどんなことができたか、どんなものに見えるか友達と語り合う。 ○後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2上 P.18, 19 ・粘土をちぎったり、丸めたりして、手や体全体で粘土に関わる「粘土体操」をする。 ・体重をかけるなど体全体の感覚を働かせて活動に取り組めるよう、立って活動することを促す。 【評】指や手を使って粘土に関わり、形を変える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・児童の工夫や試行錯誤の姿を認めながら、多様な形や模様をつくる活動を展開する。 【評】作品を通して、粘土の性質を生かして、様々な形や模様を思い付く「思考・判断・表現」を評価する。 ・粘土を長くしたり、友達とつなげたりして思い付いたことを形にしてみる活動を促していく。 ・個人の粘土を使う場合は、粘土板を活用したり、印を付けたりして、複数の児童の粘土が混ざらないように留意する。 【評】作品を通して、粘土の表し方を工夫して立体に表す「知識・技能」を評価する。 ・全体で見せ合い、それぞれの面白いところや工夫したところなどを発表させるとともに、友達と活動できたことのよさを振り返らせる 【評】自分や友達の作品を見合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ゴミなどが混ざらないように気を付けて、粘土を回収する。

【 備 考 】

単元名 のって みたいな いきたいな(絵)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 自分が表したい形や色を見付け、工夫して絵に表すことができる。
 (2) 乗ってみたいものや、行ってみたい場所を考えるとともに、自分や友達のかいた絵を見せ合い
 よさを感じたり、楽しさを味わうことができる。
 (3) 乗ってみたいものや、行ってみたい場所を絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080204_001

【準備等】画用紙、色画用紙、クレヨン、パス、共同絵の具、サインペン など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 乗ってみたいものを想像し、絵にかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見て、乗ってみたいものや行きたい場所を自由に考えることに興味をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ゲンゴロウに乗って川に潜っているよ。 消防ヘリに乗って火を消しに行っているね。 <p>★乗ってみたいものに乗って、どんなところに行きたいか絵にかく</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗ってみたいものをかく。 <ul style="list-style-type: none"> 自分も乗せてみよう。 友達と一緒に乗りたいな。 大きくかいてみよう。 かいた乗ってみたいものを切り取って動かしたり、友達と関わったりする。 <ul style="list-style-type: none"> 〇〇さんの乗ってみたいものと一緒に遊ぶよ。 空も飛べるよ。 鉛筆と一緒に遊ぶよ。 <p>3～4 乗ってみたいものから想像を広げ、行ってみたい場所を絵に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 切り取った絵をもう一枚の画用紙に貼り、行ってみたい場所を想像する。 <ul style="list-style-type: none"> 宇宙に行ってみよう。 お花畑を散歩しよう。 お菓子の国に行ってみよう。 迷路を探検してみよう。 <p>○伝えたいことがよく分かるように、工夫してかく。</p> <p>○題名を考え、友達と作品を見合う。 <ul style="list-style-type: none"> 僕もこの乗り物に乗って、ここに行ってみたいな。 かわいい乗りものだね。 私の作品とつなげられそうだよ。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書1・2上 P.46, 47 様々な描画材の使い方や他の紙を使う表し方の工夫にも気付かせる。 自由に考えていいことを知らせ、楽しくイメージを広げさせる。 思い付いたことを発表させ、黒板に板書し、みんなで共有できるようにしてもよい。 <p>【評】作品を通して、乗ってみたいものを考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師がはさみで切っている様子を見せるなどして、安全指導を徹底する。 切り取ったら友人との交流を促す。 遊びや関わりの中で、乗ってみたい物に乗っている自分になりきって楽しむことが予想される。この活動を次時の「行ってみたい場所」などの発想につなげたい。 <p>【評】行ってみたい場所を思い浮かべ、絵に表す活動を通して「主体的に学習に取り組む姿勢」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗ってみたいものから、行ってみたい場所にイメージを広げ、かき加えていくことを提案する。 かいた乗ってみたいものを貼る前に、絵を動かしながらどこに貼るかを考えるように声かけをする。貼る位置によって発想がさらに広がるが考えられる。 児童の考えに共感し、対話をしながら、具体的な形や色などのイメージを広げられるようにする。 自分のイメージに合った表現ができるように共同絵の具や色紙などを用意しておくとい <p>【評】作品を通して、自分のイメージに合うように表し方を工夫する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 題名や、作品から、発想の面白さや工夫に気付かせる。 題名カードを書くときは2～3行の「絵のお話」を記入するのもよい。 <p>【評】作品を友達と見せ合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

他教科との関連

経験したことや想像したことから表現したいことを見付けることは、国語科の「〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと(1)ア」にもつながる。

単元名 おって たてたら(工作)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 紙を折ったり切ったりして立たせ、いろいろな形を見付けながら、工夫して工作に表すことができる。
 (2) 紙を折ったり切ったりして立てた形から考え、表したいことを思い付くとともに、造形的な面白さに気付いたり、楽しさを感じたりすることができる。
 (3) 紙を折って立てた形から思い付いたものをつくることを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080205_001

【準備等】画用紙、模造紙、色画用紙、両面色画用紙、サインペン、クレヨン、パス、のり、はさみ、セロハンテープ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 紙のいろいろな立て方を試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、紙のいろいろな立て方を知る <ul style="list-style-type: none"> ・恐竜 ・鳥の親子 ・電車とトンネル ・ロケット ★紙を折って立てた形から思い付いたものをつくろう ○いろいろな折り方、切り方、立たせ方を試しながらつくりたいものを見付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・この折り方でも立つよ。 ・これは、シーソーみたいだね。 ・ここを切ったら、立つかな。 <p>2～3 紙の立て方や切り方を試しながら、表したいものをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○折ったり、切ったりして立てた紙が、もっと楽しくなるように、飾り方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・色を塗って、ロケットに見えるようにしよう。 ・ここを切って、面白くしよう。 ・余った紙を貼って、ネクタイにしたよ。 ○展示場所への置き方や並べ方を考えたり、友達の作品からさらに発想を広げてつくったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ここに木があるといいね。 ・ここは「私たちの街」にしよう。 ・山だから動物がいっぱいだね。 ○作品が並んだ形の面白さについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2上 P.22, 23 ・紙は折ると立つことを示し、はさみで切って形を変え、「いたらないな」「あったらいいな」と思うものをつくることをつかませる。 ・教科書P.23「かみのたたせかた」のいくつかの立たせ方、つくってみたい形に合った立たせ方を試してみるよう伝える。 ・はさみの扱いには十分注意するように伝える ・偶然できた形から発想を広げていくことを楽しませる。 ・児童の思いを大切にしながら、形が立ち上がるような折り方や切り方を助言する。 【評】紙の折り方や切り方を試す学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】学習活動を通して、紙の折り方や切り方を試しながら、表したいことを思い付く「思考・判断・表現」を評価する。 ・パスやペン、切り取った紙などの使い方を工夫し、考えたり思い付いたりしたものをつくるよう助言する。 ・作った作品を置いたり並べたりできる広いスペースを確保する。 ・できたものを置きながら、新しくつくりたいものを思い付くことができるようにする。 ・折り方の都合により、立てられない作品には接着テープを使うものよいので、準備しておく。 ・「私たちの街」「山と海」などのテーマを設定し、展示場所を設けることで、発想が広がるようにする。 【評】作品を通して、紙の立て方や切り方を理解し、試しながら表したい形をつくる「知識・技能」を評価する。 ・展示場所を見ながら、友達の作品のよいところを伝え合うように促す。 ・紙でつくった小さな人形に棒をつけたもの（ペープサート）を使って、作品の中で歩き回ったり、遊んだりして鑑賞してもよい。 【評】自分や友達の作品を見合う活動を通して面白い形や表現を感じ取る「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 おはなしから うまれたよ(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 思いに合う形や色を見付け、かきたい場面の様子が分かるように工夫して絵に表すことができる。
 (2) 物語を聞いたり読んだりして、自分のかきたいことを思い浮かべるとともに、自分や友達がかいた絵を見て話し合い、楽しさを感じることができる。
 (3) 物語を聞いたり読んだりして、好きな場面をかくことを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080206_001

【準備等】画用紙、色画用紙、共同絵の具、物語の本、クレヨン、パス など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 物語を聞いて、好きな場面を選ぶ。 ○教科書の参考作品を見て、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の内容 ・登場人物の表情や動き ・かかれているものの大きさ <p>★お話の大好きな場面で感じたことをかこう ○物語を聞き、好きな場面を選ぶ。</p> <p>2～5 好きな場面を、主人公の気持ちになって、表情や動き色などを工夫してかく。 ○絵に表したい場面を決める。 ・主人公がしていることや気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの様子 <p>○かきたい場面を見付けて楽しく表す。 ・〇〇さんのかき方、面白いね。私もやってみよう。 ・広く塗りたいから、クレヨンを寝かせてかこう。 ・画用紙を破って、石を表してみよう。 ・ここを褒められたから、もっと絵を広げていこう。</p> <p>6 作品を見て、感想を発表する。 ○作品カードを書く。 ・作品の題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面の好きな理由 <p>○自分の作品の工夫したことを発表したり、友達の作品を見た感想を発表したりする。 ・かぶをぬこうとしているおじいさんたちの周りに、山や家や風船をかいたよ。 ・穴の中で、おじいさんとねずみが、楽しく演奏している様子をかいたよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2上 P.34, 35 ・それぞれの題を参考にして、考えさせる。 ・お話の中心となる物や登場人物などが大きくかかれていることに気付かせる。 <p>・じっくりと内容を味わえるようにする。 ・お話のどこが好きだったかをみんなで話し合わせる。 ・大きなかぶの大きさを想像させるため運動会の玉入れを用意して考えさせたり、くじらぐもにとびの様子をロールプレイしたりして、児童の思いを大きく膨らませる。 【評】聞いたり読んだりして想像力を働かせ、好きな場面を考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ワークシートに好きな場面についての考えをメモさせる。</p> <p>・表したいものに合った画用紙の色や大きさ、描画材料などを自由に選べるようにする。 ・場面の中心となる物や人が大きくなるようにかかせる。 ・中心になる物を別の画用紙にかいてから後で貼らせてもよい。 ・小さな紙を準備し、教科書P.61の「クレヨンパスでかいてみよう（いろいろなあらわしかた）」を試せるようにする。 ・児童に「どの場面をかこうとしているの」「この後、何をかこうとしているの」など声掛けを行い、イメージを広げられるようにする</p> <p>・頑張っていることやできたところを褒めるようにし、主体的に取り組めるようにする。 【評】作品を通して、想像力を働かせ好きな場面を見付けたり考えたりする「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品を通して、思いに合う形や色を見付け、工夫してかく「知識・技能」を評価する</p> <p>・作品カードは、鑑賞の参考にするため、具体的に記入させるようにする。</p> <p>・かいた絵を見せながら、どんなところが面白い、素敵かなどを考え、グループや全体で話し合うように提案する。 ・登場人物たちのつくりだす動きの面白さ、夢の世界の楽しさなどを紹介したり、見付けたりする。 【評】作品のよさを話し合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

他教科との関連

物語を選ぶ際、国語科で学習した物語や、教科書に掲載されている昔話などを取り上げてよい。

単元名 によきによき とびだせ(工作)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) ポリ袋が膨らむ形に合うものを見付け、材料や表し方を工夫することができる。
 (2) 箱から飛び出すもの動きを試しながら、表したいものを考えることができるとともに、作品を動かして見せ合いながら、よさや面白さに気付くことができる。
 (3) 息を吹き込むと膨らむポリ袋の特性を生かした仕組みを使ったおもちゃを、楽しんでつくりだそうとする。

標準的な展開例

01080207_001

【準備等】参考作品、目打ち、色画用紙、色紙、はさみ、油性ペン、クレヨン、パス、木工用接着剤、セロハンテープ、両面テープ、牛乳パック、紙コップ、ポリ袋、曲がるストロー、毛糸、空き箱、サインペン、のり など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 息を吹き込むと、膨らんで飛び出す仕組みをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て感想を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 強く膨らめるとロケットがと飛んでいくみたいになるんだね。 チョウがたくさん飛んでいくよ。 恐竜の口から火が出てくるよ。 キリンの首が長く伸びるよ。 実際に膨らんで飛び出す仕組みを見て、理解する。 <p>★飛び出す楽しい箱をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ポリ袋にストローをつけて、飛び出す仕組みをつくり、動きを試してみる。 ポリ袋が膨らむときの形や動きを見て、何が飛び出したら面白いかな考える。 ポリ袋に絵をかいたり、飾りを付けたりする。 <p>3～5 箱と膨らんで飛び出す仕組みとを合わせて、楽しい箱をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 箱にストローを通す穴を空ける。 ふたにする部分を切る。 箱にふたを付ける。 箱と膨らむ仕組みとを合わせ、絵をかいたり飾りをつけたりして完成する。 息を吹き込んで遊んで楽しむ。 後片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> 材料はまだ使えるものと処分するものに分けて所定の場所に置き、使った用具をしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書1・2上 P.56, 57 ふたが閉じているときと、ふたが開いて膨らんで飛び出したときの意外性に気付かせる。 箱から飛び出す「動き」や「形」の面白さや楽しさを児童が感じることができるよう参考作品を用意して、膨らませて見せる。 教科書の参考作品や仕組みの説明をもとに指導する。 空気が漏れないように、しっかりと接着させる。 いろいろなポリ袋に息を吹き込み、どんな形に膨らむか確かめさせる。 【評】仕組みを使って試し、何が飛び出したら面白いかを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 油性ペンで絵をかいたり、色紙を切って貼ったりして工夫させる。 【評】箱から飛び出すものを思い付き、形や色などを考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 穴は鉛筆の先などで空けさせるが、空かない場合は、教師の指導の下で目打ちを使わせる 牛乳パックは、切るのに力があるため、はさみの安全指導をする。 ふたは、簡単に開いたり閉じたりするようにセロハンテープで付けさせる。 つくったり試したりしながら、自分のイメージに合ったものになるように、言葉がけをする。 膨らむのにじゃまにならないように飾りを工夫させる。 【評】作品を通して、膨らんで飛び出す仕組みと箱との関係も楽しめるように、つくり方を工夫する「知識・技能」を評価する。 友達の作品のよさに気付かせる。 遊びの中で、楽しかったことや驚いたことなどを探そうに言葉掛けをし、鑑賞の視点を意識するように図る。 【評】友達の作品を見合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

他教科との関連

生活科でのおもちゃづくりに関連している。中学年の理科での空気の学習へとつなげることができる。

単元名 かみざら コロコロ(工作)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 紙皿を使い、転がる形を見付け、表し方を工夫することができる。
 (2) 転がる動きを試し、つくりたいおもちゃを考えるとともに、自分や友人の作品のよさや面白さについて気付くことができる。
 (3) 転がしたり飾ったりしながら、つくることを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080301_001

【準備等】 スロープになる大きな板、色画用紙、身辺材（紙コップ、紙皿など転がりそうなもの）、色紙、油性ペン、木工用接着剤、はさみ、セロハンテープ、クレヨン、パス、サインペン、はさみ、のり、化学接着剤 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 転がして遊ぶ楽しいおもちゃを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 使っている材料 付いている飾り ★転がして遊ぶ楽しいおもちゃをつくろう 集めてきた材料を室内のスロープで転がし、遊びながら動きの特徴を知る。 <ul style="list-style-type: none"> まっすぐ転がったよ。 転がると色が変わるよ。 飾りがひらひら動くよ。 材料の組み合わせを試して接着し、転がる様子を見ながら、本体のつくり方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> セロハンテープで紙コップをつける。 接着剤で紙皿と紙コップをつける。 <p>3～5 転がして遊ぶ楽しいおもちゃをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本体に絵や模様をかいいたり、飾りを工夫してつけたりして完成させる。 <ul style="list-style-type: none"> 転がすとゆらゆら揺れる飾りっていいね。 カラフルなうずまき模様にするよ。 ゆっくり進ませるために、たくさん飾りをつけよう。 カッコよくしたいから、紙をとがらせてみよう。 自分や友達の作品で遊びながら、自分の作品のよさや友達の表現の工夫や楽しさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 1・2 上 P. 50, 51 転がして遊ぶおもちゃには、いろいろな材料を組み合わせていることに気付かせる。 紙皿や紙コップなどの組み合わせ方や飾りのつけ方にはいろいろあることを理解させる。 教室の中央に台を置き、大きなスロープを準備しておく。 実際に持ってきた材料や参考作品を転がしてみせ、どんな転がり方をするか観察させる。 よく転がるようにするにはどうしたらよいか考えさせる。 転がることによって、色や模様、飾り付けが止まっているときとは異なって見えることに気付かせる。 材料を組み合わせたり、手を加えたりして試しながら、自分のつくりたい形にしていくように指導する。 教科書P. 50を参考にし、接着の基本的な方法を示範によって理解させ、いろいろな材料の組み合わせを試して接着させる。 試行することを通して、真っ直ぐに転がすには紙コップと紙皿の適切な接着場所を探り、左右のバランスをとることが必要なことを確認させる。 【評】 つくり方を考える活動を通して、身の回りにある材料の形の特徴や転がり方から、楽しいおもちゃを思い付く「思考・判断・表現」を評価する。 飾りは、転がるときにじゃまにならないようなところに接着するよう助言する。 転がることを意識している飾りや工夫があれば紹介し、作品が転がるということへの意識を高めさせる。 【評】 作品を通して、絵や模様をかいいたり、飾りを付けたりするなど、転がることを考えた楽しいおもちゃを作る「知識・技能」を評価する。 【評】 これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 友達の作品で遊ばせて、転がり方や飾りの工夫のよいところを見付けさせる。 【評】 自分や友達の作品で遊ぶ活動を通して、作品の面白さや楽しさを感じ取る「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 ペったん コロコロ(造形遊び)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 写し方を工夫し、いろいろな形を見付けることができる。
 (2) 写した形や色の面白さに気付く、思い付いたことを試し、写した形や色の面白さに気付くとともに、自分や友人の写した形からよさや面白さを感じることができる。
 (3) 体全体を使って、いろいろな材料の形を写す活動を楽しもうとする。

標準的な展開例

01080302_001

【準備等】 ロール紙や大きな画用紙、模造紙、ロール紙、ビニルシート、共同絵の具、トレイ、バケツ、表面が凸凹している材料（例：ローラー・ビー玉・おもちゃのタイヤ・スポンジ・木の葉・小枝・木切れ など）汚れてもよい服装、雑巾、緩衝材、片面ダンボール、テープの芯、ペットボトルキャップ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 いろいろなものに、絵の具をつけて写して楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○持ってきた材料を見せ合い、絵の具をつけて写したらどのような形が残るか予想して発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形ができるね。 ・同じ材料なのに押すところが違うと別の形になるんだね。 ★いろいろなものに絵の具をつけて写してみよう ○材料に絵の具を付けて、紙に写す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ローラーでコロコロ ・ローラーでひもを巻いてみる ・手でペッタン ○さらに、思い付いたことを試し、いろいろな形を見付け新しい形をつくりだすことを楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・重ねてペッタンしてみよう。 ・四角がつながると線路みたいだな。 ・形を組み合わせて、トンボにしたよ。 ○写したものの形や色のよさや面白さについて、感想や考えを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・この部分は森みたい。 ・形が重なると面白いね。 ・いろいろな材料で写したら、楽しい形や色がでてきたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2上 P.24, 25 ・児童の発表を受けて、実際に紙に写してみても意欲を高めさせる。 ・床の上にビニルシートを敷く。 ・ビニルシートの上にロール紙や大きな画用紙を数枚準備し、好きな紙の上で活動をさせる ・教科書P.63「かたちをうつそう」を見ながら基本的な写し方を指導する。 ・トレイに絵の具を何色か準備しておき、そこに材料を付けて、写すように指示する。 ・材料が汚れたら、バケツの水で洗わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じ材料でも向きを変えたり、転がしてみたり、力加減を変えたりすることで写る形の感じが変わること気付くように助言する。 【評】材料を集めたり、持ってきた材料に色を付けて写したりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・重ねて写したい場合は、前に写したところが乾いてから行うように指導する。 ・形を写しながら、思い付いたことを試し、写した形の面白さを見付けるよう促す。 ・写した形をよく見たり、時には離れて見たりすることで、イメージが広がることを知らせる。 【評】自分の思いに合った形や使いたい色を思い付き、試す活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】紙に写す活動を通して、いろいろな形や色を見付け、材料の付け方や方法を工夫する「知識・技能」を評価する。 ・偶然にできた形や色から何に見えるかを考えて楽しませる。 ・写し方の工夫や新しくつくり出された形についても児童が気付けるよう助言をする。 ・気に入った部分に当てる額縁のようなものを持つてみることも有効である。 【評】自分や友人の表現のよさや面白さを感じ取り、気付いたことを伝え合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

図画工作科におけるプログラミング的思考の育成
 自分が意図する活動を実現するための①分解（表したい作品を、構成する要素に分解する）②置換（要素を形や色に置き換える）③組合せ（形や色の組合せや順番を考える）④検証（組合せを検証して意図に近づける）といったことを論理的に考えていく力を育成する。その他の題材においても、上記の事柄を意識しながら学習活動を工夫し、プログラミング的思考の育成に努めたい。
 参考・・・日本文教出版株式会社<http://www.nichibun-g.co.jp/>

単元名 いっしょに おさんぽ(立体)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 手などの感覚を働かせながら、思いに合う形を見付け、工夫して立体に表すことができる。
 (2) 一緒に散歩に行きたい仲間を思い浮かべて表したいことを考えるとともに、つくったものの面白さやよさを友達と見付けることができる。
 (3) 粘土で自分と一緒に出かけたい仲間を楽しく立体に表そうとする。

標準的な展開例

01080303_001

【準備等】粘土（1 kgくらい）、粘土板、粘土べら、新聞紙、汚れてもよい服装 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1, 2 粘土で「自分」と、一緒に出掛けたい人や動物をつくる。</p> <p>○教科書の参考作品を見ながら、誰とどこに出掛けたいか発想を膨らませて、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵を持ったペンギンとお散歩に行くよ。 ・カバとお散歩するよ。 ・大きなゾウにみんなで乗ってお散歩に出かけるよ。 <p>★一緒に散歩したい動物をつくろう</p> <p>○「自分」や一緒に出掛けたい人や動物を、表し方を工夫しながらつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんごづくり ・つまみ出し ・ねじる ・細かいところをつける ・へらを使って ・竹串を使って <p>○「おさんぽ」の情景を思い浮かべながら、手足の動きや表情をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよく手をつないででかけたいな。 <p>○つくりながら思い付いたことを付け足すなどしてさらにイメージを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行進しているみたいに並べてみよう。 ・クラスのお友達も一緒につくってみよう。 ・周りのお花や草もつくろうかな。 ・「自分」の服もつくってみよう。 <p>○「おさんぽ」の様子が分かるように、作品の置き方や並べ方を工夫する。</p> <p>○それぞれの作品を見ながら友達と交流したり、自分や友達の作品のよさや面白さを見つたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゾウさんの顔も笑顔でみんなが楽しそうだな。 ・カバの口がとて大きくて、面白いね。 	<p>・教科書 1・2 上 P. 54, 55</p> <p>・児童のアイデアやひらめきを肯定的に受け止めて共感し、積極的に意見交換できるように促すとともに、活動への意欲を高める。</p> <p>・形を自由に変えられる粘土の性質をとらえさせるため、粘土に慣れさせる。</p> <p>・つまみ出す、付ける、重ねる、模様を刻むなど、粘土の扱い方を指導する。</p> <p>・細かいところをつくるための粘土をあらかじめ分けてとっておかせる。</p> <p>・基になる形を安定させるため、胴体の重さを支える手足を太くすることなどを助言する。</p> <p>・つくりながら思い付いたことを付け足すなどイメージを広げさせる。</p> <p>【評】手の感覚などを働かせ、粘土の形や表し方を工夫しながら制作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・どんなふうに「おさんぽ」しているのか児童と話しながら、つくりたいものを表すことができるようにする。</p> <p>・個々の児童の悩みやつまづきに対して、一緒に考えて、児童自ら解決できるように、児童と交流しながら活動を進める。</p> <p>・友達の工夫や自他のよさをに気付く、新しい発想や表現の工夫などができるように、グループ活動を取り入れるなど、学習形態を工夫する。</p> <p>【評】自分と一緒に出掛けたい人や動物のポーズや並べ方、表し方を工夫しながら制作する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】一緒に「おさんぽ」する様子を楽しく作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・「おさんぽ」に出掛ける場所ごとにグループ分けするなどして、できあがった作品の飾り付けにグループ活動を取り入れてもよい。</p> <p>・友達とともに話しながら「おさんぽ」を楽しみ、個々の作品や並べ方の工夫や面白さに気付くことができるようにする。</p> <p>【評】友達と話しながら、作品の形や並べ方などの工夫や面白さを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【備 考】

特別な教科道徳との関連

B- (9) 「友達と仲よくし、助け合うこと。」との関係が深い。一緒に散歩する相手や楽しく散歩する様子を考えることを通して、道徳の指導へとつなげていくことができる。

単元名 **みてみて あのね(絵)**配当時間 **5時間**

単元の目標 (1) 思いに合う形や色を見付け、工夫して絵に表すことができる。
 (2) 経験したことや感じたことから、絵に表したいことを考えるとともに、友達の絵を見ながら、表し方の工夫を見付けることができる。
 (3) 楽しかったことや好きなことなど、人に話したいことを、楽しく絵に表そうとする。

標準的な展開例

01080304_001

【準備等】画用紙、色画用紙、共同絵の具、クレヨン、パス、サインペン など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 楽しかったことや驚いたことを思い出して、絵に表すことを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 水鉄砲で遊んでいるね。 楽しそうだね。顔に水がかかって気持ちよかったからかいたのかな。 くじ引き、全部外れているよ。 ぼくたちも玉入れしたよね。 お風呂気持ちよさそうだね。 最近の出来事から、見たり楽しかったりしたことを思い出し、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 楽しかったこと…遠足、遊園地、買い物 ドキドキしたこと…プール、運動会 かわいいな…カタツムリ、ハムスター、ウサギ <p>★生活の中で思い出に残ったことを絵に表そう</p> <ul style="list-style-type: none"> 表したい場面を決める。 人や物を画面のどこにかくか、どれくらいの大きさでかくか、およその位置を決めて、下絵をかく。 <ul style="list-style-type: none"> 中心になる人や物 周りの様子 <p>2～5 自分がしたことや見たことなど、人に話したいことを絵で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな描画材料を使って、お話ししたいことを、そのときの様子や気持ちも伝わるように工夫して絵に表す。 <ul style="list-style-type: none"> 運動会で玉入れをしたよ。 水鉄砲か水がものすごい勢いで出てきたよ。絵の具でかくと水がビューっと出ている感じになるんじゃないかな。 お風呂から湯気がでてきたよ。 ウサギに触ったよ。ふわふわしていて気持ちよかったよ。 作品カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> 作品の題 (テーマ) 表したかった気持ち 友達の作品を見て、感じたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 1・2年上 P.20, 21 登場人物の表情や動きの違いに気付かせる。 隣同士で聞き合うことで、絵に表して話したいことを見付けられるようにする。 漠然としたテーマではなく、具体的ではっきりした場面になるように助言する。 いろいろな大きさの画用紙や色画用紙を用意して、選択させる。 表したいことの中心となるものが、画面の中心にくるよう指導する。 <p>【評】思い出に残っていることを話し合う活動を通して、日常生活の中からかき表したい場面を思い付く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> そのときの気持ちが表せるような、好きな描画材料を使って、様子を工夫してかかせる。 自然な鑑賞が生まれるように、4人1組で向かい合わせにするなど、座席を工夫する。 普段の生活の中でみんなに話したい出来事について、そのときの様子や気持ち、驚いたことや発見したことなど、具体的な視点を添えて思いを巡らせるよう勧め、思い出しながらかくように促す。 付箋などを利用し、授業と授業の間も鑑賞が進むようにしてもよい。 <p>【評】作品を通して、伝えたい気持ちが表せるように、形や色を工夫してかく「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品カードは、鑑賞をするときの参考にさせる。 題名に着目させて鑑賞することで、見方や感じ方が広がるようにする。 作品を見て、友達の表したかったことや気持ちを考えさせる。 <p>【評】自分たちや友達の作品を見る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【備 考】

特別な教科道徳との関連について
 Cー(16)「他国の人々や文化に親しむこと。」との関連が深い。紙面にある「外国の友だちの絵」を活用したい。

他教科との関連
 生活科における学校探検や動植物のとの触れ合いなどを関連させ、児童がかきたいものを見付けさせてもよい。

単元名 ひらひら ゆれて(工作)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 風に揺れる様子から形を見付け、模様や飾りの付け方を工夫して工作に表すことができる。
 (2) 試しながら、揺れると楽しい飾りを考えるとともに、作品の楽しさを感じ取り、模様や飾りの面白さを見付けることができる。
 (3) 風に揺れる飾りをつくることを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080305_001

【準備等】ハンガー、ポリ袋、P.E.テープ、紙テープ、セロファン、色画用紙、折り紙、カラーペン（使用する材料に定着するもの）、セロハンテープ、毛糸、ロール紙、共用絵の具 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品や、風にひらひら揺れる例示作品を見て、つくりたいものを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 風にひらひら揺れる例示作品を見て、想像を膨らませる <ul style="list-style-type: none"> ・ たこの足みたいだな。 ・ ひらひらの長さや太さを変えても面白いね。 ★ 風にひらひらゆれる飾りをつくろう <ul style="list-style-type: none"> ○ ハンガーなどを用いた、風に揺れると素敵な飾りのつくり方を知る。 <p>2～3 風で揺れると楽しい飾りをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ハンガーを使って、基本となる形をつくり、揺れ方を試す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ハンガーに下げるものの形を変えてみようかな。 ・ いろいろな色があるときれいだろうな。 ○ 思い付いた、風に揺れると素敵な飾りを形や色を工夫してつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ハンガーの下飾りをもっと長くしてみよう。 ・ 星が揺れると楽しいな。 ・ ハンガーの形が傘に見えてきたよ。 ・ たこの足に吸盤を付けよう。 <p>4 作品を飾り、よいところを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の作品の楽しさや面白さを感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長いテープが風に揺れて、クラゲが本当に生きているみたいで面白いね。 ・ テープにも模様があって素敵だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 1・2 上 P. 32, 33 ・ シンプルな仕組みを例示し、どのような感じがするか、どんなイメージをもつか問いかける。 ・ ハンガーにポリ袋を仮留めし、風に揺れる感じを確かめる時間を設ける。 ・ 飾りへのイメージをもつことができない児童には、友達の活動を見てイメージをもつことができるように支援する。 【評】 作品を通して、いろいろな飾りや模様を思い付く「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 材料によっても揺れ方が違うことに気付かせ違う材料も試してみることを促す。 ・ 机上だけでなく、紐などに吊り下げるなどして試してみることを促す。 【評】 作品を通して、試しながら飾り方や模様の付け方を工夫をする「知識・技能」を評価する。 ・ 友達の作品の楽しいところやきれいなところに気付いたら、どのような思いをもって、どんな表し方の工夫をしているのかを聞いてみるよう伝える。 ・ 風の強さや光の差し方など、条件の異なる場所での見え方の違いに気付かせてもよい。 【評】 友達の作品の楽しさや面白さを感じ取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 これまでの学習活動や作品を通して「主体的に学習する態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 ごちそう パーティを はじめよう！(立体)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 丸めたり、つまみ出したり、手や指を使って表し方を工夫して、思いに合う形を見付けることができる。
- (2) つくりたい食べ物の形を思い浮かべたり、つくり方を考えるとともに、友達と話しながら、形のよさや面白さを感じることができる。
- (3) 粘土で「ごちそう」をつくり、みんなで見ることを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080306_001

【準備等】油粘土、粘土版、粘土べら、デジタルカメラ、紙皿、割り箸、使い捨てのスプーンやフォークなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 粘土に興味をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 粘土でどんなことができるか考え、粘土でいろいろな形をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> コロコロ転がしたら丸くなったよ。 つまんで引っ張ったらすごく伸びるね。 粘土はいろいろな形に変えられるね。 つくり出した形がどんな形に見えるのか想像する。 <ul style="list-style-type: none"> これは、団子に見えるね。 ねじり棒だ。 <p>2～3 ごちそうを粘土でつくって、ごちそうパーティーをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな食べ物や食べてみたい食べ物など、友達と交流をしながら、つくりたい「ごちそう」のイメージを膨らませる。 ★「ごちそう」をつくって、みんなでパーティーをしよう 思い付いた「ごちそう」の大きさや形を考えて試しながら工夫して形に表す。 <ul style="list-style-type: none"> おすし ぎょうざ ピザ 「ごちそう」の盛り付け方や並べ方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> このごちそうは、カップに入れて出そう。 パフェはコップに入れてつくろう。 「ごちそう」パーティーを開き、自分や友達のつくった「ごちそう」を選んだり取り分けたりしながら、形の面白さや楽しさを感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> とてもおいしそうに並んでいるね。 友達のつくるケーキは私と違うつくり方をしているな 本当のいちごみたいにつぶつぶがついているよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書1・2上 P26, 27 粘土の扱いに楽しみながら慣れるよう、「粘土体操」で粘土を丸めたり、伸ばしたり、ねじったり、つまみ出したり、手と指を使っていろいろな形に変える。 児童個々の方法を取り上げながら、同じ形をつくる方法がさまざまであることに気付かせる。 粘土の形を変える方法を板書や掲示物で示し児童がその後の活動で、参考にすることができるようにする。 「丸める」「伸ばす」などの操作ごとに何に見えるのか見立てをさせる。 教科書P. 26, 27を参考にして活動のイメージをもてるようにする。 児童から出た「ごちそう」を板書する。 友達と話をしたり、友達がつくった「ごちそう」を見たりするなど友達との関わりを大切にす。 パーティーで「ごちそう」を切り分けたり、丸めたりして作品として残らないことがあるので、活動の様子や作品をその都度デジタルカメラで撮影しておく。 紙皿や紙コップ、プラスチックコップ、おかず入れのカップ、お弁当のピックなどを用意し、盛り付けや準備が楽しくできるようにする。 児童とともに、盛り付けや会場づくりに関わり、個々の活動や児童同士の交流を支援する <p>【評】 作品を通して、手や指を使って、形を見付け「ごちそう」の表し方を工夫する「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 作品を通して、想像した「ごちそう」から形を考え、どのように表すか考えている「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホテルのビュッフェ会場のように、机にクロスをかけるなど雰囲気づくりをする。 友人とともに話しながらパーティーを楽しみ個々のつくった「ごちそう」の形や並べ方などの工夫や面白さに気付くことができるようにする。 切り分けるナイフや、大きなスプーンなど小物にも配慮して意欲的に取り組ませる。 <p>【評】 友達の作品を見る活動を通して、作品の面白さや工夫を感じ取る「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 これまでの学習活動や作品を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 (参考単元)かざって なに いれよう(工作)

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 工夫して工作に表しながら、飾りになる形や色を見付けることができる。
(2) 箱や袋にどんな飾りを付けると楽しいか考えるとともに、飾った箱や袋を友達と見せ合い、飾りの面白いところ、工夫したところを感じ取ることができる。
(3) 自分なりの思いをもって箱や袋を飾ることを楽しもうとする。

標準的な展開例

01080307_001

【準備等】 空き箱、紙袋、身辺材（モール、ボタンなど）、色紙、色画用紙、木工用接着剤、化学接着剤、はさみ、のり など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 箱や袋を思い付いた方法で、飾りを付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○何を入れたいか考えながら、楽しい入れ物を思い浮かべる。 <ul style="list-style-type: none"> ・木の実をたくさん入れられるように、部屋をたくさんつくりたいな。 ・大切なものが大事に守られているように、綿を敷こう <p>★飾りをつけて、素敵な箱や袋にしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○思いに合うように飾りをつくり、箱や袋の様子を変えていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・箱にリボンをつけて、かわいい箱にしよう。 ・箱の中も飾ってみたよ。 ・ビーズやモールを使ったよ。 ・運べるように紐をつけたよ。 ・猫の顔にしたよ。 <p>○できた箱や袋を友達と見せ合い、面白さや楽しさを見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな色のお花をつけたんだね。 ・ペットボトルの蓋の工夫がいいね。 ・分ける場所があって、使いやすいそうだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 1・2 上 P.40, 41 ・箱や袋は事前に保護者に集めておいてもらうように、連絡しておく。 ・飾られた箱や袋で楽しくなったことを思い出させ、飾ることに興味を持たせる。 ・箱や袋の中に何を入れたいか、どう使いたいかをイメージできるように問いかけ、どんな飾りがよいか思い浮かべてみるように提案する。 ・箱や袋にいろいろな飾りを付けたり、組み合わせたりしながら、楽しくなる飾りを考えさせる。 ・グループで机を合わせ、友達の作品を見ながら制作することで、お互いの作品を参考にさせる。 <p>【評】 作品を通して、飾りの色や形、飾り方を工夫する「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 作品を通して、飾る材料を選んだり、組み合わせたりしながら、思いにあった飾りを考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品について、気に入っているところや工夫したところ、できた箱にどんなものを入れたいか、誰にあげたいか発表させてもよい。 <p>【評】 作品を友達と見せ合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

特別な教科道德との関連

A－(3)「節度、節制」との関連が考えられる。道德で学んだことから、入れ物をつくる活動につなげることも考えられる。

他教科との関連

生活科と関連が深い題材。自然の中で集めたものをいれるなど、箱の中に入れるものも考えると、飾る発想も広がる。家族や身近な人への感謝の気持ちを箱に込めてプレゼントすることもできる。

単元名 ふしぎな たまご(絵)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 表したい形や色に合わせてかき方や身近な材料の使い方を工夫して絵に表すことができる。
 (2) 不思議な卵から生まれてくるものを考えるとともに、自分や友達のかいた絵を見て、想像したことを話し合い、お互いの作品の楽しさや面白さを味わうことができる。
 (3) 不思議な卵から生まれる世界を絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080101_001

【準備等】画用紙、色画用紙、共同絵の具、ワークシート、作品カード、クレヨン、パス、サインペン、はさみ、のり など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 図工の最初のオリエンテーションとして行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「たのしいかたちやいろのせかい」を見て、好きな形や色、触った感じや作品などについて話し合う。 教科書を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 新聞紙で服をつくっている。 段ボールで遊んでいる。 とろとろとした絵の具で絵をかいている。 <p>2 不思議な卵から生まれるお話を想像して絵に表すことに関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 海の生き物が出てくる卵 虫が集まっている木が出てくる卵 ★不思議な卵から出てくるものを、楽しく想像して絵にかこう どのような卵があったら面白いかな想像する。 <ul style="list-style-type: none"> 星の形 雲の形 不思議な形 金色の卵 不思議な卵から何が生まれたり出てきたりしたら楽しいかを想像する。 <ul style="list-style-type: none"> 好きなもの なりたいもの 行きたい場所 <p>3～5 お話を想像しながら、卵の模様や生まれたものをかく</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな描画材料と使い方を知り、何を使ってかくか考える。 卵の形や色を考えて切り、模様を付けて画用紙に貼る。 卵から生まれたものや場面をかく。 作品カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> 卵の形の色の工夫 卵から生まれたものや場面の工夫 作品を見せ合って、工夫したことや面白さを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書1・2下P. 2～4を見て、形や色だけでなく、材料や触った感じにも思いを広げられるように促す。 話し合いながら、児童一人一人が面白さや楽しさを感じ取ることができるようにしたい。 教科書P. 5～7「ずがこうさくをはじめよう」を見て自由に発言できるような雰囲気づくりを心掛ける。 年間を通した活動の見通しをもたせる。 実際の題材に取り組む前に本ページを活用しながら、児童とともに、図画工作の目標について話し合う時間をもつようにしたい。 教科書1・2下 P. 16, 17 児童の発言を受け止めながら、いろいろな発想が出てくるようにさせる。 どんな形や色の卵があったらいいか想像を広げられるように、アートカードやいろいろな柄の絵を参考にさせてもよい。 ワークシートに絵や文章でかかせ、考えをまとめさせる。 卵をかいて、切って貼り付け、中から出てきたものを想像してかくことを知らせる。 【評】 不思議な卵から生まれてくるものやお話を想像して考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 パス、絵の具、サインペンの特徴を説明し、パスと絵の具、サインペンと絵の具というように併用させるとよい。 最初に画用紙を卵形などの形に切らせ、好きな模様をかかせてから、割れ目の切り込みを入れて、もう1枚の画用紙に貼り付けさせる 割れた卵を置く位置を考えて、生まれたものや場面をかかせる。 【評】 作品を通して、描画材料の使い方を工夫して、自分の表現したいものに合うように絵に表す「知識・技能」を評価する。 作品カードを書き、鑑賞の参考にさせる。 何が生まれてきたり出てきたりしたかを話し合う。 【評】 工夫したことや面白さを感じ取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

他教科との関連

国語科においては、順序立てて説明することが求められる。絵を表すことでイメージの広がりをそのまま表すことができる。そのことを踏まえて指導にあたるようにしたい。

単元名 しんぶんしと なかよし(造形遊び)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 新聞紙に触れながら、形を見付け、並べ方やつなぎ方、破り方や丸め方などを工夫してつくることができる。
- (2) 新聞紙の特徴を生かしながら造形的な活動を思い付くことができるとともに、変化する形の面白さを味わうことができる。
- (3) 新聞紙に体全体で関わることを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080102_001

【準備等】新聞紙、粘着テープ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 新聞紙を広げ、体全体で紙の感触を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書を見ながら試してみたいことへの思いを膨らませる。 ○新聞紙の大きさや特徴を体全体で感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・紙をつないで裸足で歩いてみる。 ・広げた紙の下にもぐってみる。 ・くしゃくしゃにしてみる。 ・上からひらひらと落としてみる。 <p>★新聞紙や大きな紙を使って、体全体で楽しもう</p> <p>2～3 新聞紙をつなぎ、体全体で活動を楽しみ、思い付いたものをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙の大きさや特徴を体全体で感じ取り、新聞紙を並べたり、広げたり、破ったりして思い付いたものをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・紙を丸める。 ・紙を絞ってみる。 ・つないで長くする。 ・全身を飾ってみる。 ○友達の作品を見て、互いの活動の面白さを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・こんなに長い剣ができるんだね。 ・剣と盾ができていて面白いね。 ・重ねて切ったら、同じ形の穴が開いたよ。 ・バックをつくっていてかわいいな。私もつくってみよう。 ・ただつないでいるだけじゃなくて、飾りも付けているよ。僕ももっと工夫してみよう。 ○思い付いた活動をどんどん試す。 <ul style="list-style-type: none"> ・服の後ろのテープを僕が貼ってあげるよ。 ・友達の新聞をつなげたらもっと長くなるよ。 ○自分や友達の作品を見て、感想を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・細く丸めたら、しっかりとした剣ができたよ。 ・テントをつくっていてすごいなあ。ちゃんと中に入れるんだね。 ・細く破ってつくったタコの足に、丸めてつくった吸盤を付けていて面白いなあ。 ・新聞紙でいろいろなものがつくれるんだね。 <p>○後片付けを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2下 P.18, 19 ・教科書を見ながら、学習意欲を高めるとともに活動への見通しをもたせる。 ・古新聞などの大きな紙を床に広げるよう指示し、体全体で紙の感触を味わわせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・広げた紙から思い付いたことや気付いたことを試させる。 ・仲間と共に広げた新聞紙を粘着テープなどでつないだりしてもよいことを知らせる。 <p>【評】新聞紙に体全体で関わりながら、楽しみながら形をつくりだす活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間鑑賞をして友達と作品を見せ合い、工夫を取り入れられる場を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながら、思い付いたことに合わせ、さらに新聞紙の形を変えていく。 <p>【評】学習活動を通して、いろいろな形を見付け、新聞紙の並べ方、つなぎ方、破り方などを工夫して表す「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】学習活動を通して、新聞紙の特徴を生かしながら思い付いたことを試す「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙が変化した形や、飾りの楽しさや面白さを話し、材料のもつ感じやイメージなどに気付かせる。 ・新聞紙の感触や音などについての気付きも丁寧に聞き取り、全身を使って鑑賞する様子を見取るようにする。 <p>【評】自分や友達の作品を見る活動を通して、形の楽しさや面白さを味わう「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使った用具は元の場所に戻し、紙はまだ使えるものと処分するものに分けて、決められた場所に片付ける。

【 備 考 】

単元名 くしゃくしゃ ギゅっ(立体)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 紙をくしゃくしゃにしてできる形や感触を見付け、工夫して立体に表すことができる。
 (2) 紙に働きかけることで生まれる形から、つくりたいものを考えるとともに、できた作品を友達と紹介し合い、そのよさを感じ取ることができる。
 (3) くしゃくしゃにした紙の感じや変化や、その紙を基にお気に入りのものをつくることを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080103_001

【準備等】クラフト全紙、クラフトロール紙、新聞紙、お花紙、カラーペン、ひも、モール、ビニルテープ、色付き輪ゴム、毛糸、リボン、身近材（目などにするボタンなど）、色紙、セロハンテープ、化学接着剤、はさみ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 大きな紙をくしゃくしゃにし、感触を確かめながら、その特性を十分に味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙をくしゃくしゃにして、ぎゅっと抱きしめたり、ねじったりしながら、手触りや巻き心地などを味わう。 ○材料の特徴から、変形する方法を見付けて発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・丸める方法 ・中に何か詰めて膨らませる方法 ・しばる方法 ・丸める方法 ・ねじる方法 ★くしゃくしゃにした紙を丸めたりふくらませたりしてお気に入りのものをつくろう ○くしゃくしゃにした紙を、丸める、ねじる、絞る、結ぶなどの操作をしながら、つくりたい立体のイメージをもつ。 <p>2～3 紙をくしゃくしゃにした形の感じから、自分なりに楽しいことを思い付きながら工夫して表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○十分に紙と関わりながら、自分が思い付いたつくりたいものになるように、材料やつくり方を工夫してつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ分けて縛って、新幹線にしよう。 ・逆から見るとカメに見えてきたよ。 ・体には色を塗ってみようかな。 ・これとこれを組み合わせよう。 <p>○つくりたいものになるように、顔などをかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どんなものをつくったのか紹介し合い、できた形のよさや面白さについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・私は、カメをつくりました。工夫したところは甲羅にいろいろな色や形の折り紙を貼ったところです。中に新聞紙を入れたので、ぎゅっとするととても柔らかくて気持ちがいいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 1・2下 P.20, 21 ・材料の感触を思う存分味わわせる。 ・体全体の感覚を使って、いろいろと試してみることが促す。 ・児童の発言から、いろいろな形を変える工夫があることに気付かせる。 ・変形する方法を実際に試してみるように促す ・ひもでしばるところを変えると形が変わることを例示する。 ・袋の中から何かを詰めてつくこともできる教科書P.20「ふくろのつくりかた」の例や、紙ひもや両面テープなどの材料・用具を提示し、活動のイメージをもたせる。 ・試してできた形を、いろいろな方向から見ることでイメージを広げさせる。 【評】紙の変形方法を試す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・初めから、つくりたいものをイメージさせるのではなく、くしゃくしゃにしながら感じたことやできた形から、つくりたい形がイメージできるようにする。 ・何度も試したり、やり直したりしていいことを伝え、試した中から発想させるようにする ・しばる部分の分量の違いで、顔や体などの大きさが決まり、全体の感じが変わること気付かせる。 ・つくりながら、自然に友達の活動も見て、イメージが広がるように促す。 ・つくりたい様子に合わせて、ペンや他の材料を使って絵をかき足したり、飾りを工夫したりして、思いを広げさせる。 【評】作品を通して、表したいことに合わせて工夫して立体に表す「知識・技能」を評価する。 【評】作品を通して、自分の思いに合った表し方を考える「思考・判断・表現」を評価する ・発想や形の面白さ、工夫など話し合う視点をもたせる。 ・自分の作品を紹介する中で、友達の工夫を自分の作品に取り入れたところを発表させるのもよい。 【評】自分や友達の作品のよさを感じ取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

単元名 わっかから へんしん(工作)

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 変身に合う形を見付け、材料の使い方を工夫して工作に表すことができる。
 (2) 鏡などで確かめながら、どのように飾りを付けて変身するかを考えるとともに、作品を身に着けて見せ合い、友達と話し合いながらよさや工夫に気付くことができる。
 (3) 画用紙や身近な材料を使って、変身する飾りづくりを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080104_001

【準備等】装飾材料（モール、毛糸、リボン、色紙など）、色画用紙、輪ゴム、サインペン、カラーポリ袋、ビニルひも、セロハンテープ、ホチキス、化学接着剤、のり、はさみ、大型の鏡、デジタルカメラ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 帯状の色画用紙をわっかにすることで、身に着けることができる変身グッズを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書や参考作品を見て、どんな飾りをつくって変身したいか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・お面 ・王冠 ・スカート ・料理人の帽子 ★楽しい飾りをつくって変身しよう ○自分がつくってみたい飾りをつくることができる材料や方法を考える。 <p>2～4 身に着けると楽しい飾りをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分がイメージしたものに変身するために、見通しを立てて、つくり始める。 <ul style="list-style-type: none"> ・わっかに穴を開けて眼鏡をつくる。 ・太いわっかにして帽子をつくる。 ・わっかにビニル紐を付けてスカートにする。 ○友達と協力して、帯状の画用紙から頭や体の大きさに合うわっかをつくる。 ○楽しい変身グッズになるように、工夫してわっかに飾りを付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・小さいわっかをつなげて面白いな。 ・ゾウの鼻のように飛び出してもいいな。 ・手首や足首にも飾ろう。 ○つくった飾りを身に着けて変身した姿を見せ合い、面白さやよさを話す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ネコに変身したよ。髭も付けたよ。 ・テープをいっぱいつけて、素敵な帽子にしたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2下 P.14, 15 ・参考作品や教師がつくったいろいろな大きさのわっかを身に着けて見せることで意欲をもたせる。 ・変身グッズをつくるための材料を次時まで集めさせる。 ・わっかをそのまま使っても、わっかに絵をかいいたり飾りを付けたりしてもよいことを伝える。 <p>【評】作品を通して、何に変身したら楽しいかを想像しながら飾りの色や形を考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.63を参考にしてホチキスの安全な使い方を指導する。 ・途中で考え付いた発想を認め、共感しながら材料や方法の相談にのる。 ・大型の鏡で全身を映させたりデジタルカメラで制作途中の様子を撮影して見せたりして、身に着けやすいかや素敵な感じになっているか、確かめながら取り組ませる。 <p>【評】作品を通して、変身に合う形を見付け、材料の使い方や接着の仕方を工夫して工作に表す「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくったものを身に着けて見せ合う場を設定するとともに、楽しさや面白さ、工夫した点などを発表する時間を確保する。 ・ショーのようにして互いの変身を見せ合うのもよい。 ・つくったものを身に着けた姿を撮影し、記録に残す。 <p>【評】つくった飾りを見せ合う活動を通して、面白さやよさを感じ取る「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 たのしかったよ ドキドキしたよ(絵)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 心に残ったことを自分なりに表すために、形や色を工夫してかくことができる。
 (2) 生活の中で心に残った出来事やそのときの感じを基に、表したいことを考えるとともに、友達と絵を見せ合いながら、表したかったことや表し方の工夫を話し合うことができる。
 (3) 生活の中で楽しかったことやドキドキしたことなどを思い出し、そのときの感じを楽しく絵に表そうとする。

標準的な展開例

02080105_001

【準備等】画用紙、色画用紙、共同絵の具、作品カード、クレヨン、パス、サインペン、割り箸 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 生活の中から、楽しいと感じたときのことを思い浮かべどんな絵をかくか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、気付いたことや感想を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 桜の花が鼻について楽しそう。 大きい飛行機が近くで見られていいな。 楽しかったことをいっぱいかいて貼ってあるよ。 ★生活の中から楽しかったことやドキドキしたことを思い出して絵に表そう 生活の中から、楽しかったことやドキドキしたときの様子を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 鉄棒をした。 うさぎをだっこしたら温かった。 遠足に行ったときのお弁当がおいしかった。 妹となわとびをして遊んで楽しかった。 かくことを決める。 <ul style="list-style-type: none"> かきたいもの 人の表情や動作 周りの風景や物 <p>2～4 楽しかったことやドキドキしたことを伝えるように、形や色、大きさを考えながら絵に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 線でかく。 <ul style="list-style-type: none"> 桜をかきたいから、ピンクの画用紙にかこう。 大きな飛行機にびっくりしたから、飛行機を大きくかきたいな。 彩色する。 <p>○絵に表しながらイメージを広げて、加えたいことや思い付いたことを表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛行機のそばに、荷物を運ぶ車もかこう。 昼だと分かるように、短い線をいっぱいかくよ。 <p>5 表した絵を友達と見せ合い、感想を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> 作品の題 一番表したかったこと 友達と作品を見せ合い、楽しかったこと、ドキドキしたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 桜の花びらが飛んできて、鼻についたときは、とっても面白かったよ。 これは、夏の海水浴のとき、これは秋に散歩をしたときの思い出だよ。 一番かきたかったのは、大きなエンジンだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書上1・2下 P.26, 27 教科書の参考作品を見せて、かいた児童の気持ちを想像させる。 形や色、表し方の工夫にも注目させる。 大きな行事だけでなく、日常の何気ない場面でもよいことを助言する。 楽しかったことやドキドキしたことを発表できる場を設けることで、かきたいことが思い付かない児童もかきたいことが思い付くようにする。 その時の気持ちを思い出し、情景を思い浮かべさせる。 絵と一緒に見て、表したいことに共感しながら、形や色、大きさや位置などをどのようにするか考えるように促す。 【評】生活の中で、心に残ったできごとを思い出す活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 クレヨンやパスなどを使い、楽しい感じになるように形や色を考えながら絵に表す。 画用紙や色画用紙を準備し、自分の表したいものに合った色を選べるようにする。 絵の具は、前もって教師が皿に水で溶き、その色専用の筆を用意しておく。 児童にパレットに代わる皿で各色をとらせ、皿の中で混色して使うようにさせる。 絵の中心にかくものがかけたら、そのときの場面や気持ちを表すために、周りをどうしたらよいのかを考えたり、材料を工夫したりして、表していけるように促す。 【評】作品を通して、心に残ったこと出来事やそのときのことを感じを基に表したいことを考える「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品を通して、心に残ったことを自分なりに表すために、形や色を工夫する「知識・技能」を評価する。 そのときの気持ちを表すような題を考えさせたり、絵で表せなかった気持ちを書かせたりする。 友達と絵を見合いながら、自分が絵で一番表したかったことを話すように促す。 作品カードを手掛かりに、気持ちを表そうとしているところや表現の工夫に気付かせる。 【評】友達と絵を見せ合う活動を通して、表したかったことや表し方の工夫に気付く「思考・判断・表現」を評価する。

【備 考】

特別な教科道徳との関連

Cー(16)「他国の人々や文化に親しむこと」との関連が深い。紙面にある「外国の友だちの絵」を活用したい。

他教科との関連

生活科の活動や学校行事、学校生活の中からも表したいことを見付けられるようにするとよい。

単元名 にぎにぎねん土(立体)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 握り方を変えたり、つまみ出し方やのばし方を工夫したりして立体に表すことができる。
 (2) 握ってできた形から自分の表したいものを思い付いたり、つくりながら新しい形を考えたりすることができるとともに、感じたことを話したり、友達の話の聞いたりしながら、作品の楽しさや面白さに気付くことができる。
 (3) 粘土を握った形から思い付いて立体に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080106_001

【準備等】粘土（1kg位）、粘土板、雑巾、霧吹き など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 握ってできた形を生かしてつくりたいものをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書や指導者の演示を見たり、考えを交流したりして活動のイメージをもつ。 粘土を握ることで、どんな形ができるか試す。 <ul style="list-style-type: none"> つまみ出す。 のばす。 穴を開ける。 つかむように握る。 指で押す。 ★粘土を握ってできた形から、面白いものをつくろう 粘土を握ってできた形をいろいろな方向から見ることで表したい形を考える。 <ul style="list-style-type: none"> こっちから見ると貝殻に見えてきたぞ。 もう少し薄くのばしてみよう。 穴を開けてみよう。 粘土を握ってできた形を生かして、組み合わせたり、工夫したりして表す。 自分や友達のつくったものを見て、形のよさや面白さ、表し方の工夫について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> これは、ハリネズミかな。背中のトゲが面白いよ。 つまんで頭をつくったよ。 友達のうずまき、僕も真似してみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書1・2下 P.12, 13 作品の題や場面の様子から、気付いたことを発表させる。 教師が握ってできた形を、いろいろな方向から見て、様々な見立てのイメージをもたせ、板書して全体で共有する。 粘土をこねて軟らかくして、感触に慣れさせる。 粘土を3種類程度（大・中・小）の大きさごとに分けさせる。 児童が試しながら、自分の思いに合った大きさの粘土を選べるようにする。 握り方を変えたり、指先を使ってみたり、自分の手の使い方をいろいろ変えて試したり、周りの友達の方法を真似したりして、偶然を楽しみながら活動するよう促す。 握ってできた形を大切にするように声掛けをする。 何度も試したりやり直したりしてもよいことを伝え、体全体の感覚を十分使っていることと試しながら発想することを促す。 戸惑っている児童には、一緒に粘土を握ったり、形を見ながら話したりして思い付けようようにする。 【評】作品を通して、握ってできた形から自分の表したいものを思い付いたり、作りながら新しい形を考えたりする「思考・判断・表現」を評価する。 【評】粘土を握った形から思い付いて立体に表す活動を通して、表したいことを工夫する「知識・技能」を評価する。 どんな形に見えるかを角度を変えさせながら見せて考えさせることで、形の面白さに気付けるようにする。 友達がつくったもののよさに注目させる。 【評】自分や友達の作品のよさを感じ取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 【旧】ひみつの たまご(絵)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 表したいことに合わせてかき方や身近な材料の使い方を工夫することができる。
 (2) 秘密の卵から生まれてくるものやお話を想像し、考えることができる。
 自分や友達のかいた
 絵を見て、想像したことを話し合い、お互いの作品の楽しさや面白さを味わうことができる。
 (3) 秘密の卵から想像したことを絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080107_001

【準備等】画用紙、色画用紙、共同絵の具、ワークシート、作品カード、クレヨン、パス、サインペン、はさみ、のり

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書1・2下P. 2, 3, 4を見て、どんな活動があるか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 新聞紙で服をつくっている。 粘土で動物をつくっている。 光ってきれいなかがりがある。 <p>2 秘密の卵から生まれるお話を想像して絵に表すことに関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 海の生き物が出てくる卵 虫が集まっている木が出てくる卵 ★秘密の卵から出てくるものを、楽しく想像して絵にかこう 秘密の卵から何が生まれたり出てきたりしたら楽しいかを想像する。 <ul style="list-style-type: none"> 好きなもの なりたいもの いきたいばしょ <p>3～5 お話を想像しながら、卵の模様や生まれたものをかく</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな描画材料と使い方を知り、何を使ってかくか考える。 卵の形や色を考えて切り、模様を付けて画用紙に貼る。 卵から生まれたものや場面をかく。 作品カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> 生まれたものの説明 作品を見せ合って、工夫したことや面白さを感じ取る。(言語活動) 	<ul style="list-style-type: none"> 自由に発言できるような雰囲気づくりをこころがける。 年間を通した活動の見通しをもたせる。 教科書1・2下 P.8, 9 児童の発言を受け止めながら、いろいろな発想が出てくるようにさせる。 ワークシートに絵や文章で書かせ、考えをまとめさせる。 割れた卵をかいて切って貼り付け、中から出てきたものを想像してかくことを知らせる。 【評】作品を通して、秘密の卵から生まれてくるものやお話を想像して考える「発想や構想の能力」を評価する。 パス、絵の具、サインペンの特徴を説明し、パスと絵の具、サインペンと絵の具というように併用させるとよい。 最初に画用紙を卵形に切らせ、好きな模様をかかせてから、割れ目の切り込みを入れて、もう1枚の画用紙に貼り付けさせる。 割れた卵を置く位置を考えて、生まれたものや場面をかかせる。 【評】作品を通して、描画材料の使い方を工夫して、自分の表現したいものに合ったかき表し方でかく「創造的な技能」を評価する。 作品カードを書き、鑑賞の参考にさせる。 何が生まれてきたり出てきたりしたかを話し合う。

【 備 考 】

単元名 【旧】しんぶんしと なかよし(造形遊び)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 新聞紙の並べ方やつなぎ方、破り方や丸め方などを工夫することができる。
 (2) 新聞紙の特徴を生かしながら造形的な活動を思い付くことができる。
 新聞紙に関わることで
 形や感触が変化することを感じ取るとともに、変化する形の面白さを味わうことができる。
 (3) 新聞紙に体全体に関わることを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080108_001

【準備等】新聞紙、粘着テープ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 新聞紙を広げ、体全体で紙の感触を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書を見ながら試してみたいことへの思いを膨らませる。 ○新聞紙の大きさや特徴を体全体で感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・紙をつないで裸足で歩いてみる。 ・広げた紙の下にもぐってみる。 <p>★新聞紙や大きな紙を使って、体全体で楽しもう</p> <p>2, 3 新聞紙をつなぎ、体全体で活動を楽しみ、思い付いたものをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙の大きさや特徴を体全体で感じ取り、新聞紙を並べたり、広げたり、破ったりして思い付いたものをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・紙を丸める。 ・紙を絞ってみる。 ・紙をくしゃくしゃにする。 ・つないで長くする。 <p>○自分や友達の商品を見て、感想を発表する。(言語活動)</p> <p>○後片付けを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 1. 2下 P.16, 17 ・教科書を見ながら、学習意欲を高めるとともに活動への見通しをもたせる。 ・古新聞などの大きな紙を床に広げるよう指示し、体全体で紙の感触を味わわせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・広げた紙から思い付いたことや気付いたことを試させる。 ・仲間と共に広げた新聞紙を粘着テープなどでつないだりしてもよいことを知らせる。 <p>【評】新聞紙に体全体でかかわりながら、形をつくりだす活動を通して、「関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>【評】造形活動を通して、新聞紙の並べ方、つなぎ方、破り方などを工夫する「創造的な技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙が変化した形や、飾りの楽しさや面白さを話し、材料のもつ感じやイメージなどに気付かせる。 ・使った用具は元の場所に戻し、紙はまだ使えるものと処分するものに分けて、決められた場所に片付ける。

【 備 考 】

単元名 【旧】くしゃくしゃ ぎゅっ(立体)

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 膨らませ方を考え、紙を中に入れる具合や、袋のしぼる位置やしぼり方を工夫することができる。
(2) 紙に働きかけることで生まれる形から、自分の好きな「友達」を見つけることができる。
で
きた作品を友達と紹介し合ったり、交換して抱き合ったりして、楽しさを感じ取ることができる
(3) くしゃくしゃにした紙の感じや変化や、その紙を基に「友達」をつくることを楽しもうとする

標準的な展開例

02080109_001

【準備等】紙袋、ポリ袋、新聞紙、広告紙、カラーペン、ひも、モール、ビニルテープ、色付き輪ゴム、毛糸、リボン、身近材（目などにするボタンなど）、色紙、セロハンテープ、化学接着剤、はさみ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 袋を使って、つくりたいものを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体全体で材料の感触を楽しみ、その特徴から、変形する方法を見つけて発表させる。（言語活動） <ul style="list-style-type: none"> ・しわしわにする方法 ・中に何か詰めて膨らませる方法 ・しぼる方法 ・丸める方法 ・ねじる方法 <p>★袋を膨らませて形を変えて、楽しい「友達」をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○つくりたいものを考える。 <p>2, 3 袋の中につめるつくり方を楽しみ、自分なりに楽しいことを思い付きながら工夫して表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○袋の中にいらなくなった紙などを入れて詰め込み、ちょうどいい量にする。 <p>○袋のいろいろなところを縛ったりねじったりして、「友達」のイメージを膨らませる。</p> <p>○つくりたい「友達」になるように、顔などをかく。</p> <p>○どんな「友達」をつくったのか、紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 1. 2下 P.20, 21 ・材料の感触を思う存分味わわせる。 ・児童の発言から、いろいろな形を変える工夫があることに気付かせる。 ・袋を使ってつくることや袋の中身、しぼるための材料、しぼり方などについてイメージをもたせる。 <p>・さらに材料に触れながら、つくりたいものを考えさせる。</p> <p>【評】作品を通して、自分なりの好きな「友達」の形を見つける「発想や構想の能力」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詰める紙は、教室の複数の場所に設けて、待ち時間を短くする。 ・膨らませた感じのよさを味わうことからつくるものへのイメージを広げさせる。 ・ふんわりした、ほどよい量を袋につめるようにする。 ・しぼる部分の分量の違いで、顔や体などの大きさが決まり、全体の感じが変わること気付かせる。 ・つくりたい様子に合わせて、ペンや他の材料を使って絵をかき足したり、飾りを工夫したりして、思いを広げさせる。 <p>【評】作品を通して、イメージした形になるように、袋をしぼる位置やしぼり方を工夫する「創造的な技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたものを抱っこしたり触ったりして、その感触を楽しませる。 ・作品に名前を付け、愛着をもたせる。 ・工夫したところを見付けさせる。

【 備 考 】

単元名 【旧】わっかで へんしん(工作)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 表したい飾りになるように材料の使い方を工夫することができる。
 (2) 何に変身したら楽しいかを想像しながら飾りの形や色を考えることができる。
 作品を身に付けて見せ合い、友達と話し合いながらよさや工夫に気付くことができる。
 (3) 画用紙や身近な材料を使って変身する飾りづくりを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080110_001

【準備等】 装飾材料（モール、毛糸、リボン、色紙など）、色画用紙、輪ゴム、サインペン、カラーポリ袋、ビニルひも、セロハンテープ、ホチキス、化学接着剤、のり、はさみ、大型の鏡、デジタルカメラ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 帯状の色画用紙をわっかにすることで、身に付けることができる変身グッズを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書や参考作品を見て、どんな飾りをつくって変身したいか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・おめん ・スカート ・料理人の帽子 ★楽しい飾りをつくって変身しよう ○自分がつくってみたい飾りをつくることのできる材料や方法を考える。 <p>2～4 身に付けると楽しい飾りをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分がイメージしたものに変身するために、見通しを立てて、つくり始める。 <ul style="list-style-type: none"> ・わっかに穴を開けて眼鏡をつくる。 ・太いわっかにして帽子をつくる。 ・わっかにビニルひもを付けてスカートにする。 ○友達と協力して、帯状の画用紙から頭や体の大きさに合うわっかをつくる。 ○楽しい変身グッズになるように、工夫してわっかに飾りを付ける。 <p>○つくった飾りを身に付けて変身した姿を見せ合い、面白さやよさを話す。（言語活動）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 1・2下 P.22, 23 ・教師がつくったいろいろな大きさのわっかを身に付けて見せることで意欲をもたせる。 ・変身グッズをつくるための材料を次時まで集めさせる。 ・わっかをそのまま使っても、わっかに絵をかいいたり飾りをつけたりしてもよいことを伝える。 <p>【評】 作品を通して、何に変身したら楽しいかを想像しながら飾りの色や形を考える「発想や構想の能力」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P. 54を参考にしてホチキスの安全な使い方を指導する。 ・途中で考えついた発想を認め、共感しながら材料や方法の相談にのる。 ・大型の鏡で全身を映させたりデジタルカメラで制作途中の様子を撮影して見せたりして、身に付けやすいか素敵な感じになっているか確かめさせながら取り組ませる。 <p>【評】 作品を通して、表したい飾りになるように材料の使い方や接着の仕方を工夫する「創造的な技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくったものを身に付けて見せ合う場を設定するとともに、楽しさや面白さ、工夫した点などを発表する時間を確保する。 ・つくったものを身に付けた姿を撮影し、記録に残す。

【 備 考 】

単元名 【旧】たのしかったよ ドキドキしたよ(絵)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 心に残ったことを自分なりに表すために、形や色を工夫することができる。
 (2) 生活の中で心に残った出来事やそのときの感じを基に、表したいことを考えることができる。

友達と絵を見せ合いながら、表したかったことや表し方の工夫を話し合うことができる。
 (3) 生活の中で楽しかったことやドキドキしたことなどを思い出し、そのときの感じを楽しく絵に表そうとする。

標準的な展開例

02080111_001

【準備等】画用紙、色画用紙、共同絵の具、作品カード、クレヨン、パス、サインペン、割り箸

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 生活の中から、楽しいと感じたときのことを思い浮かべどんな絵をかくか考える。</p> <p>○教科書の参考作品を見て、気付いたことや感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川にたくさんいるアメンボをとっている。 ・雨にぬれても頑張って踊っている。 ・赤いもみがきれい。 <p>★生活の中から楽しかったことやドキドキしたことを思い出して絵に表そう</p> <p>○生活の中から、楽しいと感じたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒をした。 ・うさぎをだっこしたら温かった。 ・遠足に行ったときのお弁当がおいしかった。 ・妹となわとびをして遊んで楽しかった。 <p>○かくことを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かきたいもの ・人の表情や動作 ・周りの風景や物 <p>2～4 楽しいと感じたときのことを絵に表す。</p> <p>○線でかく。</p> <p>○彩色する。</p> <p>5 表した絵を友達と見せ合い、感想を発表し合う。</p> <p>○作品カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の題 ・かきたかった気持ち <p>○表した絵を友達と見せ合い、よいところを話し合う。(言語活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書上1・2下 P.18, 19 ・教科書の参考作品を見せて、かいた児童の気持ちを想像させる。 ・形や色、表し方の工夫にも注目させる。 ・大きな行事だけでなく、日常の何気ない場面でもよいことを助言する。 ・その時の気持ちを思い出し、情景を思い浮かべさせる。 ・クレヨンやパスなどを使い、楽しい感じになるように形や色を考えながら絵に表す。 ・絵の具は、前もって教師が皿に水で溶き、その色専用の筆を用意しておく。 ・児童にパレットに代わる皿で各色をとらせ、皿の中で混色して使うようにさせる。 <p>【評】作品を通して、心に残ったことを自分なりに表すために、形や色を工夫する「創造的な技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのときの気持ちを表すような題を考えさせたり、絵で表せなかった気持ちを書かせたりする。 ・作品カードを手がかりに、気持ちを表そうとしているところや表現の工夫に気付かせる。 <p>【評】話し合いの活動を通して、「鑑賞の能力」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **【旧】にぎにぎねん土(立体)**

配当時間 **3時間**

- 単元の目標 (1) 握り方を変えたり、つまみ出し方やのばし方を工夫したりすることができる。
 (2) 握ってできた形から自分の表したいものを思い付いたり、つくりながら新しい形を考えることができる。
 感じたことを話したり、友達の話の聞いたりしながら、作品の楽しさや面白さに気付くことができる。
 (3) 粘土を握った形から思い付いて立体に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080112_001

【準備等】粘土（1kg位）、粘土板、雑巾、霧吹き

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 握ってできた形を生かしてつくりたいものをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、感想を話し合う。 粘土を握ることで、どんな形ができるか試す。 <ul style="list-style-type: none"> つまみ出す。 のばす。 穴を開ける。 <p>★粘土を握ってできた形から、面白いものをつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 粘土を握ってできた形をいろいろな方向から見ることで表したい形を考える。 <p>粘土を握ってできた形を生かして、組み合わせたり、工夫したりして表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分や友達のつくったものを見て話し合う。（言語活動） 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書1・2下 P.12, 13 作品の題や場面の様子から、気付いたことを発表させる。 粘土をこねて軟らかくして、感触に慣れさせる。 握り方を変えたり、指先を使ってみたり、自分の手で使い方をいろいろ変えて試してみながら、確かめたり、周りの友達の方法を真似てみたり、偶然を楽しみながら活動させる。 握ってできた形を大切にするように声かけをする。 粘土を3種類程度（大・中・小）の大きさごとに分けさせる。 戸惑っている児童には、一緒に粘土を握ったり、形を見ながら話したりして思い付けるようにする。 【評】粘土を握った形から思い付いて立体に表す活動を通して、「関心・意欲・態度」を評価する。 握ってできた形が納得いかずに困っている児童には、もう一度粘土を戻してから、活動を始めることを提案してもよい。 【評】作品を通して、握ってできた形から自分の表したいものを思い付いたり、作りながら新しい形を考えたりする「発想や構想の能力」を評価する。 どんな形に見えるかを角度を変えさせながら見せて考えさせることで、形の面白さに気付けるようにする。 友達がつくったもののよさに注目させる

【 備 考 】

単元名 **ともだち 見つけた！(鑑賞)**配当時間 **4 時間**

単元の目標 (1) 見たりかいたりして、顔に見える形に気付くことができる。
 (2) 顔に見える形の面白さを味わい、いろいろな形や色などを捉えながら、見方や感じ方を広げることができる。
 (3) 顔に見える形を見付けることを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080201_001

【準備等】 カラー工作用紙、テープの等の芯、紐やリボン、色紙、カラーペン、ホチキス、接着剤、セロハンテープ、画用紙 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 見方を変えることで顔に見える形があることに気づき「友達」を見付けることに興味をもつ。 ○教科書を参考にし、活動の内容に見通しをもつ。</p> <p>★身の回りをよく見て、隠れている「友達」を見付けよう ○「友達」を見付けるための手作りカメラをつくる。 ・カラー工作用紙を半分に折る。 ・ホチキスで両サイドを留めて、紙が入る袋状にする。 ・シャッターボタンを付けたり、レンズをつくったりして飾り付ける。 ・肩に掛けられるよう紐を付ける。</p> <p>3～4 見付けた「友達」を基に、材料や用具を工夫して絵に表す。 ○カメラにフィルム（友達発見カード）を入れて準備をする。</p> <p>○学校に隠れている「友達」を見付けに行く。 ・消火栓にいるよ。 ・水道にもいるね。 ・扇風機も「友達」に見えるよ。 ・運動場にも「友達」がいっぱいだよ。</p> <p>○見付けた「友達」にカメラを向けて、どの位置から撮るかを考える。 ・逆さから見たら「友達」が現れたよ。 ・少し下がって撮ろう。</p> <p>○用意した描画材でかき、名前を付ける。</p> <p>○見付けた「友達」の楽しさや面白さを伝え合う。 ・なかなか見付からないところにいたよ。 ・この色がかわいいんだよ。 ・目もいろいろな形があるんだね。 ・私は〇〇に似ていると思ったけど、友達は△に似ていて。面白いね。</p>	<p>・教科書 1・2 下 P54, 55</p> <p>・教科書P.54「こんなえ本があるよ」から「ふゆめがっしょうだん」を読み聞かせしてもよい。</p> <p>・カメラに入れる画用紙（友達発見カード）を用意し、フィルムとしてカメラをに入れることを提案しておく。</p> <p>・校内の安全面や他クラスへの配慮を指導する 入れる教室や場所を示し、実態に応じて、触ることができないものなどを指導する。 【評】学習活動を通して、顔に見える形を見付けることを楽しむ「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・カメラで写真を撮るように、どの位置から撮ると、「友達」の特徴が写るか探ることを提案する。</p> <p>・カメラに入れておいた友達発見カードに、見付けた「友達」の顔を絵に表すよう提案する</p> <p>・特徴を生かした形や色を考えて表すように促す。</p> <p>・児童がどのような面白さを見付けているのか尋ねながら、教師も自分のカメラを持ち、児童の視線で見て、感じたよさを伝えるようにする。</p> <p>・最後に特徴や名前を書くことを提案する。 【評】作品を通して、見付けた「友達」をどのように表すか考え、工夫して表す「知識・技能」を評価する。</p> <p>・見付けた所は同じなのに、それぞれ違う顔の表現になった児童や、見方を変えて見た児童を取り上げて、感じ方の違いの面白さに気付かせる。 【評】学習活動を通して、友達の見付けた「友達」の面白さを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げる「思考・判断・表現」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名	はさみの あーと(絵)	配当時間	2時間
単元の目標	(1) 表したいことを表すために、はさみの使い方や切った形の置き方を工夫して、できる形を見付けることができる。 (2) はさみで紙を切りながら生まれた形を基に、表したいことを考えるとともに、自分や友達の作品から、形のよさや面白さを感じることができる。 (3) はさみを使って思いのままに切り、表すことを楽しもうとする。		

標準的な展開例	02080202_001
---------	--------------

【準備等】 白い画用紙、黒い画用紙、はさみ、のり など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～2 はさみで自由に切った形を並べて、自分が表したいことを見付けて工夫して表す。 ○気持ちのおもむくままに、自由にはさみでどんどん切ることを楽しむ。 ・ギザギザ ・クネクネ ・シャープ ・スイスイ ・ジグザグ ・グルグル ★はさみの切り方やできた形の並べ方をいろいろ試して、工夫してあらわそう ○切ってできた形を黒い紙の上に置いたり、並べたりして面白い形を見付ける。 ・いろいろな大きさがあるね。 ・長い紙を切って、離しておいたら、隙間の形が面白いよ。 ・これは、ふわふわだな。泡みたい。 ○切った形を基に、自分の表したいことを見付けて表す。 ・並び方を変えると、見え方も変わるんだね。 ・小さな形を集めて、大きな線をつくろう。 ○作品を見て題名を考える。 ○題名当てゲームを行い、自分たちの表した形のよさや面白さを感じ取る。 ・私は「ドミノ」だと思います。細長い紙をたくさん並べていて面白いです。 ・正解は「踊っている昆布」です。細長い色々な形を並べたら、踊っているみたいになりました。	・教科書 1 ・ 2 下 P. 36, 37 ・はさみの使い方や置く場所などの安全指導を行う。 ・教師が自由に紙を切る様子を見せてもよい。 ・切った紙は空き箱などに入れて、机上进行を整頓しながら活動させる。 ・下がきをした線をなぞるではなく、思いのままに切る行為を楽しむことを大切にすること。 ・手や体の動くままに切ることを楽しませ、はさみだからできるシャープな線の面白い形を見付けられるよう声掛けをする。 ・はさみは机の上で切る、使わないときは閉じて机の上に置くなどの安全指導を行う。 ・切ってできた形を黒い紙の上に置いたり、並べたりして自分が面白いと感じる形を見付ける時間を十分に確保する。 ・切った紙を黒い画用紙の上に並べたり、向きを変えたり動かしたりしながら表したいことを見付けさせる。 ・形の見立てよりも、自分がいいと感じる形を大切にさせる。 【評】 作品を通して、切ってできる形や並べてできる形の面白さに気づき工夫して絵に表す「知識・技能」を評価する。 【評】 作品を通して、表したいことを見付ける「思考・判断・表現」を評価する。 ・友達の作品を見て、題名を当てる活動を通して、よさや面白さを味わわせる。 ・一人一人の感じ方の違いを認める雰囲気をつくる。 【評】 題名を当てる活動を通して、作品のよさや面白さを味わう「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 ざいりょうから ひらめき(絵)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 材料の形や色を見付け、組み合わせたり加工したりして表し方を工夫することができる。
 (2) 材料から、表したいことを考えるとともに、友達と作品を見せ合い、材料の使い方や表し方の面白さを感じ取ることができる。
 (3) 集めた材料を使って、絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080203_001

【準備等】 身近材（ビーズ、ストロー、ボタン、包装紙、綿、布、リボン、毛糸、ひも、色紙など）色画用紙、共同絵の具、作品カード、クレヨン、パス、サインペン、はさみ、のり、木工用接着剤、化学接着剤 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 材料から受ける印象を話し合い、表したいことを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○材料を見たり、触ったり、並べたり重ねたりなど、様々なことを試しながら、形や色、質感を感じ取る。 ○材料の特徴から思い付いたことを発表させ、自分や友達との感じ方の違いを知り、想像を広げる。 ○教科書の参考作品は、材料が何に生かされているか発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・毛糸でふわふわしたヤシの木 ・綿でうさぎ ・青い包装紙の魚 ★材料を組み合わせる楽しい絵をつくろう ○材料の形や色、質感などから想像を広げ、絵に表すことを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・網の形は何かに使えるかな。 ・空色のフリルが波に見えたよ。 ・タオルのふわふわな感じが、動物の毛にぴったりだな <p>2～5 材料を組み合わせ、思い描いた絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○使いたい材料を選ぶ。 <p>○思い描いた形になるように、切ったり、ちぎったり、組み合わせたりしながら表す。</p> <p>○画用紙に貼りながら、表したい内容をかき加える。</p> <p>○作品カードを書き、友達と作品を見せ合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・作品の題 ・表したかったこと </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2下 P.46, 47 ・事前に身近にある自然の材料を集めさせておく。 ・材料との出会いを楽しませるために、関わる時間を十分に確保する。 ・児童の発言から、材料の特徴をどのように生かしているか気付かせる。 ・材料を組み合わせ、思い付いたことを絵に表すことを知らせる。 ・持ってきた材料を組み合わせながら、何に使えるか考える。 ・材料で足りないものを、次時まで集めさせる。 ・材料に触ったり並べたりしながら、使いたい材料を選ばせる。 ・画用紙の上で、切ったりちぎったりした紙や材料を並べ、つくりたい形になるように組み合わせを工夫させる。 【評】 作品を通して、材料の形や色を生かし、組み合わせながら表し方を工夫する「知識・技能」を評価する。 ・材料に合わせた接着方法を助言する。 ・クレヨン・パスや絵の具などでかき加えさせる。 【評】 作品を通して、材料を見たり触ったりしながら、表したいことを考える「思考・判断・表現」を評価する。 ・作品カードを書かせ、鑑賞の参考にさせる。 ・お互いの作品を見て、工夫したことやよさを話し合わせる。 ・どのような材料を使っているか、触れてみることで、目と手で感触をとらえ、感じたことを話すように促す。 【評】 自分や友達の作品を見てよさを感じ取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 ひかりの プレゼント(造形遊び)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 光の映し方を様々に試しながら、映る形や色を見付けることができる。
 (2) 光を通しながら、いろいろな見え方や見え方の変化を試すともに、映し出される形や色の変化に気づき、面白さを感じることができる。
 (3) 材料に光を通して形や色をつくりだすことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080204_001

【準備等】卵パック、透明空き容器、シーディーケース、セロハンテープ、色セロハン、サインペン、はさみ、のり、模造紙 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 光を通す材料に光を通して、見えてくる形や色を見付けて楽しむ。</p> <p>○教科書の光を映す活動を見て、気付いたことを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映している場所 ・材料 <p>★いろいろなものに光を通して遊ぼう</p> <p>○いろいろな材料に光を透かして見せながら、見えてくる形や色を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床にセロハンの色が映ったよ。 ・水を入れるとゆらゆら揺れてきれいだね。 ・卵のパックを映すと山に見えるよ。 ・色を塗るともっときれいになるよ。 <p>○光を通す材料を組み合わせ、色の変化に気づき、さらに活動を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青と赤を重ねると紫になったよ。 ・動かすと形が変わるよ。 ・白い机や段ボールの上だときれいな色が映ったよ。 ・ペットボトルを横にしたら、形が伸びるように映ったよ。 ・友達の作品と組み合わせたら大きな形ができたよ。 <p>○できた形や色などを友達と見合い、面白さや楽しさを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルとプリンのカップを組み合わせ、トンボにしたよ。 ・水も透明だけど、影がすこし映ったよ。それもいいなと思ったよ。 ・友達の作品と組み合わせたら違う形になったことが面白かったよ。 ・〇〇さんのグループに、閉じたり開いたりすると映った形が変わることを教えてくれたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 1・2下 P.10, 11 ・事前に光を通す材料を集めておき、興味や関心を高める。 ・映った光の形や、色が美しい様子を気付かせる。 ・実際に光を通す材料に自由に光を通して試させる。 ・目を傷めるので、直接太陽は見ないように指導する。 ・見えてきた形や色の特徴を捉えている様子に着目して、共感的に声掛けをする。 ・試す活動が終わった段階で、形や色について児童の気づきを整理することで、次にどんな工夫ができるか、児童の見通しをもちやくする。 【評】光の映し方を試す活動を通して、形や色を見付ける「知識・技能」を評価する。 ・材料を組み合わせたり、見る方向を変えさせたりする。 ・光の当て方によって、映し出されるものの大きさや形が変わることに気付かせる。 ・きれいに映し出される場所の特徴にも気付かせる。 ・友達と関わらせて、対話の中で発想を広げていく。 【評】光を通して遊ぶ活動を通して、いろいろな見え方や見え方の変化を感じ取る「思考・判断・表現」を評価する。 ・材料の工夫や選んだ場所の特徴なども交流の視点とする。 ・大勢で一緒に活動し、様々な気づきを生み出しているグループを取り上げ、みんなで活動するよさも価値付けるようにする。 ・残った色セロハンを窓に貼り付けて造形遊びをしてもよい。霧吹きなどで簡単に貼り付けることができる。 【評】友達の作品を見合う活動を通して、映し出される色や形のよさや面白さを感じる「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 わくわく おはなし ゲーム(工作)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) お話に合う形や色を見付け、飾り方を工夫して工作に表すことができる。
 (2) お話を思い浮かべ、どのようにつくるか考えるとともに、見る、触る、遊んでみるなどしながら、ゲームの仕組みの面白さや飾りの楽しさに気付くことができる。
 (3) みんなで遊べるゲームづくりを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080205_001

【準備等】 身辺材、画用紙、色画用紙、色紙、段ボール、絵の具、クレヨン、パス、サインペン、はさみ、のり、カッターナイフ、カッターマット など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 楽しいすごろくになるお話や出来事を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、気付いたこと発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 桃太郎のお話がすごろくになっているよ。 たためるようになってるよ。 卵パックを使っているよ。 トンネルや橋があるよ。 ルーレットがあるよ。 ★みんなで遊ぶ、楽しいお話ゲームをつくろう どんなお話や出来事のあるゲームにするか考えたり話し合ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> かえるくんとがまくんのお話をもっと面白くしてみようかな。 どこかへ冒険に出かける話にしようかな。 国語でやったお話作りをもとにしよう。 綿を使いたいから、空の上のお話にしようかな。 落ち葉やどんぐりを使って、森のお話もいいなあ。 用具の使い方を確認する。 <p>2～4 材料や方法を考えながらお話や出来事の場面を表し、それらの並べ方やつなぎ方を工夫してすごろくをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> お話に合うように、表し方を工夫してつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 迷路みたいにするのも面白いね。 マスは色紙で目立たせよう。 いくつ進むかは、ルーレットやさいころとかカードやじゃんけんとかでもできそうだね。 初めに緑の紙を貼って、森らしくしよう。 ゲームがもっと楽しくなるように、仕掛けを工夫したりコースの周りや箱の外側を飾ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> 四角よりも魚の形にしようかな。 この間をワープするトンネルをつけよう。 紙コップをスタートに飾ってかっこよくしよう。 持ち運べるように紐を付けよう。 <p>5 作品を使って友達と遊び、すごろくの場面やコースの面白さについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> マスが魚の形になっていて面白かったよ。 紙粘土でマスをつくっていたのが面白かったよ。私も真似したいと思ったよ。 ワープできるトンネルをくぐることでできて楽しかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 1・2下 P.42, 43 身近にあるゲームや教科書P.42, 43の作品を参考にさせる。 すごろくの仕組みを説明する。 お話は既存のものでも、自分たちの話でも材料から想像を広げた話でもよいことを伝える 接着の仕方などの技術や安全指導を行う。 ゲームの箱は元の形に戻せるようにつくることを伝える。また、箱の種類や開き方によって、形が変わることを知らせ、自分たちのイメージに合う箱の種類や開き方を考えるように伝える。 お話や出来事を表す楽しい場面の並べ方や、つなぐコースを試しながら取り組ませる。 材料を工夫してつくっている児童を見付け、紹介する。 【評】 作品を通して、用具を安全に的確に使いお話に合う形や色を見付け、工夫して工作に表す「知識・技能」を評価する。 お話の世界が、よく分かるような仕掛けを工夫することを提案する。 友達のゲームを試しに行ってみてアドバイスをし合う時間を設けてもよい。 マスの形や色や大きさを工夫するように促す 箱の外にも飾りを付けたり、持ち運び用の取っ手を付けたりしたいという活動も認める。 【評】 作品を通して、ゲームをより楽しくするために飾りや仕掛けを思い付き工夫する「思考・判断・表現」を評価する。 遊びながら考えたことや見付けたことを中心に話し合わせる。 【評】 自分や友達の作品のよさを感じ取り、話し合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 これまでの学習活動や作品を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連について

B－(9)「友達と仲よくし、助け合うこと。」やC－(15)「我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。」との関連が深い。すごろくなどの伝統的な遊びを知ることで、文化や生活に親しみ、愛着をもつことができるような学習につなげたい。

他教科との関連

生活科のおもちゃづくりや秋祭りなどとも関連を図ることができる。他学年の児童や園児、地域の人とも遊ぶこともでき、活動を広げることができる。

単元名 ことばの かたち(絵)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 言葉に合う形や色を見付け、工夫して絵に表すことができる。
 (2) 想像力を働かせ、好きな場面を見付けたり、表し方を考えたりすることができるとともに、友達がかいた絵を見て、場面について話し合い、楽しさを感じることができる。
 (3) 物語を聞いたり読んだりして、好きな場面をかくことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080206_001

【準備等】画用紙、色画用紙、共同絵の具、ワークシート、作品カード、クレヨン、パス、サインペン など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 物語やお話を聞いた感想を話し合い、かく場面を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の参考作品を見て、感じたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・小判がたくさんあるね。 ・がまくんとかえるくんと一緒に宇宙旅行に行っているよ。 ・かさこ地蔵さんが、お礼を持ってきたよ。 ★自分の好きなところを選んで、お話を絵に表そう ○物語を聞く。 ○物語のどこが好きかをみんなで発表し合う。 <p>○かく場面を決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・その場面の様子 ・登場人物や情景 </p> <p>3～5 自分の感想を基に、思いを膨らませて絵に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の場所など簡単に画面構成を考える。 ○表したい場面を想像し、思いに合わせて工夫して絵に表す。 <ul style="list-style-type: none"> ・歩いている感じにするにはどうしたらいいかな。 ・どんな色や形が似合うかな。 ・うれしそうにしたいな。 <p>6 自分や友達の作品を見て、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・作品の題 ・かきたかったこと ○自分や友達がかいた絵を見て、素敵なおとこや思ったことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・子狐が大きくかけていいね。 ・雪の日にたくさんのお礼をうれしそうに持ってきた感じがいいね。 ・小判がたくさんかいてあっていいね。 ・同じ本でも、一人一人様子が違うね。どれも素敵だね 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 1・2下 P. 40, 41 ・物語やお話の感想を基にして、思いを膨らませて絵に表していることを説明する。 ・自分の表したい方法で、思いを表す工夫をしていることに気付かせる。 ・物語を読み聞かせる。 ・読みを深めるため、感想を話し合わせる。 ・物語の挿絵から離れて、自分の感想を基にして自分なりのかき方で表すようにさせる。 ・ワークシートに、かく場面についてまとめさせる。 【評】表したい場面を想像する活動を通して、思いに合わせた形や色のイメージをもち、表し方を考える「思考・判断・表現」を評価する。 ・最もかきたいことを絵の中心に大きくかくように助言する。 ・自分の感想を基に、思いを膨らませながら、絵に表していくようにさせる。 ・絵の具は皿やパレットの上で混ぜて、思いに合った色をつくらせる。 ・使う色を変えるときは、濁らないように筆をよく洗わせる。 【評】作品を通して、想像した場面に合う形や色を見付け、工夫して絵に表す「知識・技能」を評価する。 ・作品カードを書いて、鑑賞の参考にさせる。 ・絵をじっくり見て、よさを感じ取ることができるように助言する。 ・登場人物の動きや表情、周りの様子などを手がかりに話し合うように提案する。 【評】友達の作品を見合う活動を通して、自分や友達の作品を見ながらよさや面白さを感じ取る「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

他教科との関連

国語科との関連が深い題材である。物語や言葉を絵に表すことによって、より具体的に場面を想像し、言葉を紡ぎ出したり、登場人物の気持ちに寄り添ったりできる。

単元名 ともだち ハウス(立体)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) つくりたい家に合わせた形を見付け、材料の組み合わせ方を工夫して、工作に表すことができる。
- (2) 空き箱などの材料を基に、「友達」に合った、家の形や色を思い付くとともに、友達と見せ合いながら、できた作品の楽しさや面白さを見付けることができる。
- (3) 「友達」の生活の様子を想像し、家をつくることを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080207_001

【準備等】 カッターナイフ、カッターマット、セロハンテープ、木工用接着剤、化学接着剤、クレヨン・パス、サインペン、はさみ、のり、身辺材（小石、ペットボトルキャップ、貝殻、どんぐりなど）など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 想像した「友達」からイメージを膨らませ、「友達」の家をつくる活動に興味をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品を見て気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> エレベーター付きの家だね。 家の中には草のベッドがあるよ。 4階建てのお家があるよ。 丸い形はチーズの空き容器だよ。 小さな身辺材で「友達」をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 僕はドンぐりにしよう。 私は三角の形の石にするよ。 どこに目をかこうかな。 これが私の「友達」だよ。よろしくね。 <p>★小さな「友達」が楽しく過ごせる家をつくろう</p> <p>2～4 「友達」が楽しく過ごすことができる家を材料を工夫してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 想像してつくった小さな「友達」と対話しながら、どのような家がよいか考える。 <ul style="list-style-type: none"> 丸くて緑色の時計を付けよう。 星の形のお花畑が庭にあったら喜ぶだろうな。 丸いお風呂があるといいな。 お家から星が見えるといいな。 ベランダをつくろう。 箱を組み合わせて、「友達」の家をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 私の友達は赤が好きだから、赤いカーペットを敷こう 箱を立てて使ってみよう。 トイレットペーパーの芯を足にして、箱を上に乗せるとただ置くよりいいな。 家の形だけでなく、遊び場など「友達」が欲しいと思うものを想像を広げてつくったり楽しい家になるように工夫したりする。 <ul style="list-style-type: none"> 周りに緑を増やそうかな。 「友達」が遊べるトランポリンをつくろう。 この丸い入れ物は電気になよう。 出来上がった「友達」の家を持ち寄り、友達や自分の作品の面白さやよさについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 屋上に上がると友達の家も見えてうれしいな。 プラネタリウムのある家をつくったんだね。いいね。 2階から1階に滑り台で降りられるなんて楽しいね。 丸い容器を重ねていて、未来のお家みたいだね。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 1・2下 P.50, 51 身辺材については、事前に保護者にも知らせておき、前もって集めることができるよう準備する。 自分の思いを大切にしながら活動が進められるように助言をしたり、材料を提案したりする。 どんな色や形を使うと小さな「友達」喜ぶのかを考えさせる。 教科書P.62「木こうようせつちゃくざいのつかいかた」を確認する。 接着方法に困らないよう、場面に分けた接着方法を提示しておく。 つくりたい形に合った材料を使うよう助言する。 【評】 作品を通して、「友達」に合った家の形や色を思い付く「思考・判断・表現」を評価する。 活動途中で友達の表現を交流し合えるような場を設けてもよい。 空き箱など家の外側の材料の組み合わせだけでなく、家の中の様子にも意識を向けさせる 【評】 作品を通して、つくりたい家に合わせた形を見付け、工夫して材料の組み合わせたり接着したりして工作に表す「知識・技能」を評価する。 友達の作品のよさや楽しさを味わわせる。 「友達」を使って家で遊びながら、鑑賞できるようにする。 自分も小さな「友達」の目線で家の中を回ってみることを提案する。 【評】 友達の作品を見合う活動を通して、自分や友達の作品の面白さやよさを感じ取る「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 **【旧】すてきな もの いっぱい(鑑賞)**配当時間 **4時間**

単元の目標 (1) 自分の思いに合わせて、集めた材料の飾り方や箱の仕切りなどを工夫することができる。
 (2) 感覚を働かせて、集めた材料の形や色を基に、見せ方を考えることができる。
 自分や友達の
 選んだ材料の形や色の面白さを感じることができる。
 (3) 材料を見たり触ったりしながら、材料の感じや面白さを味わおうとする。

標準的な展開例

02080208_001

【準備等】 身近にあるお気に入りの物（小石、松ぼっくり、レース、布、クリップ、木の実、枝、葉、貝殻、ボタン、ビー玉、毛糸、セロハン、ビーズ、リボン、おもちゃなど）、菓子などの空き箱、缶ケース、綿、ペットボトルキャップ、身近にある材料（お気に入りの物を飾るためのもの）、色画用紙、厚紙、クレヨン、パス、サインペン、のり、セロハンテープ、はさみ、デジタルカメラ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 集めたお気に入りの物を机の上に並べ、友達と一緒に見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どんなお気に入りの物を持ってきたか発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自然物（石、木の実、貝がら） ・人工物（ボタン、ビー玉、ビーズ） ○教科書の参考作品を見て、お気に入りの物のどんな飾り方があるか発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な入れ物 ・下に敷いてあるもの ★お気に入りの物の飾り方のよさや楽しさを見つけよう ○お気に入りの物が引き立つような飾り方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じ素材で集める。 ・目立つ色を一つに入れる。 <p>2, 3 集めたお気に入りの物を、空き箱や空き缶の中に並べたり飾ったりして、素敵に見える飾り方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お気に入りの物を工夫して飾る。 <ul style="list-style-type: none"> ・箱に入れる。 ・リボンを使う。 <p>4 お気に入りの物の箱に名前を付け、自分の作品や友達の作品のよさを話し合う。（言語活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お気に入りの物を紹介し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの物の特徴と飾り方の工夫 ○友達のお気に入りの物の飾り方について、気が付いたことを発表する。 	<p>・教科書 1・2下 P. 32, 33</p> <p>・家庭や校庭など、お気に入りの物になりそうなものを事前に集めておくように指示する。</p> <p>・お気に入りの物のどんなところが好きかを発表させる。</p> <p>・転がりやすいものや小さいものにはペットボトルキャップを活用していることに気付かせる。</p> <p>・お気に入りの物の形や色から、それらがより引き立つ飾り方を考えさせる。</p> <p>・材料を工夫して使い、並べたり組み合わせたりして飾らせる。</p> <p>・お気に入りの物が、より素敵に見えるように飾り方を工夫させる。</p> <p>【評】 作品を通して、自分の思いに合わせて、集めた材料の飾り方や箱の仕切り方などを工夫する「創造的な技能」を評価する。</p> <p>・お気に入りの物の形や色を生かして工夫した点を発表させる。</p> <p>・友達がつくったもののよさや楽しさを味わわせる。</p> <p>・デジタルカメラでつくったものを撮影し、展示するとよい。</p> <p>【評】 話し合いの活動を通して、形や色、感じなどから、自分や友達の作品のよさや面白さを感じる「鑑賞の能力」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 【旧】はさみの あーと(絵)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 表したいことを表すために、はさみの使い方や切った形の並べ方を工夫することができる。
 (2) はさみで紙を切りながら生まれた形を基に、表したいことを見付けることができる。
 自分や
 友達の作品から、形のよさや面白さを感じることができる。
 (3) はさみを使って思いのままに表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080209_001

【準備等】 白い画用紙、黒い画用紙、はさみ、のり

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 はさみで自由に切った形を並べて、自分が表したいことを見付けて工夫して表す。</p> <p>○気持ちのおもむくままに、自由にはさみでどんどん切ることを楽しむ。</p> <p>○切った形を黒い画用紙の上に並べて、試しながら自分が表したいことを見つけ、思いに合う表し方を工夫する。</p> <p>○作品を見せ合いながら、自分たちの表した形のよさや面白さを感じて、話し合う。(言語活動)</p>	<p>・教科書 1・2下 P.34, 35</p> <p>・はさみの使い方や置く場所などの安全指導を行う。</p> <p>・教師が自由に紙を切る様子を見せてもよい。</p> <p>・切った紙は空き箱などに入れて、机上进行を整理しながら活動させる。</p> <p>【評】 はさみで自由に切る活動を通して、はさみの使い方を工夫する「創造的な技能」を評価する。</p> <p>・切った紙を黒い画用紙の上に並べたり、向きを変えたり動かしたりしながら表したいことを見つけさせる。</p> <p>・形の見立てよりも、自分がいいと感じる形を大切にさせる。</p> <p>【評】 作品を通して、表したいことを見付ける「発想や構想の能力」を評価する。</p> <p>・友達の作品を見て、よさを味わわせる。</p>

【 備 考 】

単元名 【旧】ざいりょうから ひらめき(絵)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 材料の感じを生かし、組み合わせたり加工したりして表し方を工夫することができる。
(2) 材料の感じから、表したいことを考えることができる。
友達と作品を見せ合い、材料の使い方や表し方の面白さを感じ取るすることができる。
(3) 集めた材料を使って絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080210_001

【準備等】 身近材（ビーズ、ストロー、ボタン、包装紙、綿、布、リボン、毛糸、ひも、色紙など）色画用紙、共同絵の具、作品カード、クレヨン、パス、サインペン、はさみ、のり、木工用接着剤、化学接着剤

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 材料から受ける印象を話し合い、表したいことを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品は、材料が何に生かされているか発表する。（言語活動） <ul style="list-style-type: none"> 毛糸でふわふわしたヤシの木 綿でうさぎ 青い包装紙の魚 ★材料を組み合わせさせて楽しい絵をかこう 持ってきた材料を組み合わせながら、何に使えるか考える。 <p>2～5 材料を組み合わせ、思い描いた絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 使いたい材料を選ぶ。 思い描いた形になるように、切ったり、ちぎったり、組み合わせたりしながら表す。 画用紙に貼りながら、表したい内容をかき加える。 作品カードを書き、友達と作品を見せ合う。 <ul style="list-style-type: none"> 作品の題 表したかったこと 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 1・2下 P.14, 15 事前に身近にある自然の材料を集めさせておく。 児童の発言から、材料の特徴をどのように生かしているか気付かせる。 材料を組み合わせ、思い付いた絵をかくことを知らせる。 材料で足りないものを、次時まで集めさせる。 <p>【評】 話し合いを通して、材料の感じから、表したいことを想像する「発想や構想の能力」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料を触ったり並べたりしながら、使いたい材料を選ばせる。 画用紙の上で、切ったりちぎったりした紙や材料を並べ、つくりたい形になるように組み合わせを工夫させる。 <p>【評】 作品を通して、材料を組み合わせたりつなげたりしながら、表し方を工夫する「創造的な技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料に合わせた接着方法を助言する。 クレヨン・パスや絵の具などでかき加えさせる。 作品カードを書かせ、鑑賞の参考にさせる。 お互いの作品を見て、工夫したことやよさを話し合わせる。 どのような材料を使っているか、触れてみることで、目と手で感触をとらえ、感じたことを話すように促す。

【 備 考 】

単元名	【旧】ひかりの プレゼント(造形遊び)	配当時間	2 時間
単元の目標	(1) 試した中から思い付いた形や色を表すために材料の使い方を工夫することができる。 (2) 映し出される形や色を変えるために、光の当て方をいろいろと試し、考えることができる。 光の当て方を試しながら、映し出される形や色の変化に気付き、面白さを感じることができる。 (3) 材料に光を通して形や色をつくりだすことを楽しもうとする。		

標準的な展開例	02080211_001
---------	--------------

【準備等】 卵パック，透明空き容器，CD ケース，セロハンテープ，色セロハン，サインペン，はさみ，のり，模造紙

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1～2 光を通す材料に光を通して、見えてくる形や色を見付けて楽しむ。 ○教科書の光を映す活動を見て、気付いたことを発表する ・映している場所 ・材料 ★いろいろなものに光を通して遊ぼう ○いろいろな材料に光を透かして見せながら、見えてくる形や色を見付ける。 ○光を通す材料を組み合わせ、色の変化に気付き、さらに活動を広げる。 ○友達と映る形や色などを見せ合い、面白さや楽しさを話し合う。（言語活動）	・教科書 1・2 下 P. 10, 11 ・事前に光を通す材料を集めておき、興味や関心を高める。 ・映った光の形や、色が美しい様子を気付かせる。 ・実際に光を通す材料に自由に光を通して試させる。 ・目を傷めるので、直接太陽は見ないように指導する。 ・見えてきた形や色の特徴を捉えている様子に着目して、共感的に声かけをする。 ・材料を組み合わせたり、見る方向を変えさせたりする。 ・友達と関わらせて、対話の中で発想を広げていく。 【評】光を通して遊ぶ活動を通して、映し出される色や形を変えるために、光の当て方を考える「発想や構想の能力」を評価する。 ・残った色セロハン窓に貼り付けて造形遊びをしてもよい。霧吹きなどで簡単に貼り付けることができる。 【評】話し合いの活動を通して、映し出される色や形のよさや面白さを感じる「鑑賞の能力」を評価する。

【 備 考 】

単元名	【旧】わくわく すごろく(工作)	配当時間	5時間
単元の目標	(1) 手を働かせながら材料や用具を使い，お話や出来事の表し方や飾り方など，すごろくのつくり方を工夫することができる。 (2) お話や出来事を表す形や色，ゴールまでのつながりなどを考えたり，つくったりしながら思い付くことができる。 見る，触る，遊んでみるなどしながら，お話や出来事の表し方の面白さやゲームの楽しさに気付くことができる。 (3) お話や出来事，形がつながる遊ぶと楽しいすごろくをつくることに取り組もうとする。		

標準的な展開例

02080212_001

【準備等】 身近材，画用紙，色画用紙，色紙，段ボール，絵の具，クレヨン，パス，サインペン，はさみ，のり，カッターナイフ，カッターマット

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 楽しいすごろくになるお話や出来事を考える。 o 教科書の参考作品を見て，気付いたこと発表する。 ・ 楽しいお話になっている。 ・ たためるようになっている。 ★楽しいすごろくをつくろう 2～4 材料や方法を考えながらお話や出来事の場面を表し，それらの並べ方やつなぎ方を工夫してすごろくをつくる。 o すごろくのコースをつくったり，コースの周りを飾ったりする。 o すごろくに合った，自分が使いたいコマをつくる。 5 作品を使って友達と遊び，すごろくの場面やコースの面白さについて話し合う。（言語活動）	・ 教科書 1・2 下 P. 38 ・ 身近にあるゲームや教科書 P. 38 の作品を参考にさせる。 ・ すごろくの仕組みを説明する。 ・ お話や出来事を表す楽しい場面の並べ方や，つなぐコースを試しながら取り組ませる。 ・ 考えたことを材料や方法を工夫して表す姿を捉え，見つけた工夫に共感する。 【評】 作品を通して，お話や出来事を表す形や色，ゴールまでのつながりなどを考える「発想や構想の能力」を評価する。 【評】 作品を通して，お話や出来事の表し方や飾り方など，すごろくのつくり方を工夫する「創造的な技能」を評価する。 ・ 遊びながら考えたことや見付けたことを中心に話し合わせる。

【 備 考 】

単元名 【旧】見て 見て おはなし(絵)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) かきたい場面の様子が分かるように工夫して表すことができる。
 (2) 想像力を働かせ、好きな場面を見つけたり、考えたりすることができる。
 自分や友達がかいた絵を見て、場面について話し合い、楽しさを感じることができる。
 (3) 物語を聞いたり読んだりして、好きな場面をかくことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080213_001

【準備等】画用紙、色画用紙、共同絵の具、ワークシート、作品カード、クレヨン、パス、サインペン

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1, 2 物語やお話を聞いた感想を話し合い、かく場面を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、感じたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・スタンプを使っている。 ・お地蔵さまの手が違う。 <p>★自分の好きなところを選んで、お話を絵に表そう</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語を聞く。 物語のどこが好きかをみんなで発表し合う。（言語活動） かく場面を決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・その場面の様子 ・登場人物や情景 <p>3～5 自分の感想を基に、思いを膨らませて絵に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物や情景の目安となる位置を決める。 感想を基に描画材を工夫して絵に表す。 <ul style="list-style-type: none"> ・クレヨン、パス ・サインペン ・絵の具 <p>6 自分や友達の作品を見て、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・作品の題 ・かきたかったこと 自分や友達がかいた絵を見て、好きな場面について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 1・2下 P.30, 31 物語やお話の感想を基にして、思いを膨らませて絵に表していることを説明する。 自分の表したい方法で、思いを表す工夫をしていることに気付かせる。 物語を読み聞かせる。 読みを深めるため、感想を話し合わせる。 物語の挿絵から離れて、自分の感想を基にして自分なりのかき方で表すようにさせる。 ワークシートに、かく場面についてまとめさせる。 最もかきたいことを絵の中心に大きくかくように助言する。 自分の感想を基に、思いを膨らませながら、絵に表していくようにさせる。 絵の具は皿やパレットの上で混ぜて、思いに合った色をつくらせる。 使う色を変えるときは、濁らないように筆をよく洗わせる。 【評】作品を通して、かきたい場面の様子がわかるように、かき方や色を工夫する「創造的な技能」を評価する。 作品カードを書いて、鑑賞の参考にさせる。 絵をじっくり見て、よさを感じ取ることができるように助言する。 【評】自分や友達の作品を見て、好きな場面について話し合う活動を通して「鑑賞の能力」を評価する。

【 備 考 】

単元名 【旧】ともだち ハウス(立体)

配当時間

4時間

- 単元の目標 (1) つくりたい家に合わせて材料の組み合わせ方を工夫することができる。
 (2) 空き箱などの材料を基に、「友達」に合った、家の形や色を思い付くことができる。
 友達と
 見せ合いながら、できた作品の楽しさや面白さを見つけることができる。
 (3) 「友達」の生活の様子を想像し、家をつくることを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080214_001

【準備等】 カッターナイフ、カッターマット、セロハンテープ、木工用接着剤、化学接着剤、クレヨン・パス、サインペン、はさみ、のり、身辺材（小石、ペットボトルキャップ、貝殻、どんぐりなど）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 想像した「友達」からイメージを膨らませ、「友達」の家をつくる活動に興味をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の作品を見て気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・エレベーター付きの家だね。 ・家の中には草のベットがあるよ。 ○小さな身辺材で「友達」をつくる。 ★小さな「友達」が楽しく過ごせる家をつくろう <p>2～4 「友達」が楽しく過ごすことができる家を材料を工夫してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○想像してつくった小さな「友達」と対話しながら、どのような家がよいか考える。 ○箱を組み合わせて、「友達」の家をつくる。 ○家の形だけでなく、遊び場など「友達」が欲しいと思うものを想像を広げてつくったり楽しい家になるように工夫したりする。 ○出来上がった「友達」の家を持ち寄り、友達や自分の作品の面白さやよさについて話し合う。（言語活動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2下 P.44, 45 ・身辺材については、事前に保護者にも知らせておき、前もって集めることができるよう準備する。 ・自分の思いを大切にしながら活動が進められるように助言をしたり、材料を提案したりする。 ・接着することに困っている児童がいれば、積極的に支援する。 【評】作品を通して、「友達」に合った家の形や色を思い付く「発想や構想の能力」を評価する。 ・活動途中に友達の表現を交流し合えるような場を設けてもよい。 【評】作品を通して、つくりたい家に合わせて材料の組み合わせ方を工夫する「創造的な技能」を評価する。 ・友達の作品のよさや楽しさを味わわせる。 ・「友達」を使って家で遊びながら、鑑賞できるようにする。

【 備 考 】

単元名 まどから こんにちは(工作)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) カッターナイフで切り込みを入れてできた窓の形や開き方の仕組みに気付き、工夫して工作に表すことができる。
- (2) 楽しくなるような窓の形を思い付いたり、窓から見えるものを考えるとともに、友達と作品を見せ合い、窓の形や家の様子の面白さを感じることができる。
- (3) 窓が開く仕組みを使って工作に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080301_001

【準備等】色画用紙、画用紙、カッターナイフ、カッターマット、サインペン、クレヨン、パス、色鉛筆、はさみ、のり など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 カッターナイフの安全な使い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カッターナイフを使い、安全な使い方に気を付けながら練習用の紙を切る。 <ul style="list-style-type: none"> ・刃の出し方、しまい方 ・持ち方 ・手の置き方 ・切り方 ★カッターナイフを使って窓のある楽しい家をつくろう ○窓の形や、窓の中に何が見えると楽しいかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・窓の形…四角、三角、丸 ・窓の中…家族、動物、友達、魚、虫 <p>2～5 家や窓の形、窓の開き方や窓の中に見えるものを工夫してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙を折り、切って家や窓の形をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体の形や色 ・窓の開き方 ○建物の内側をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・窓の中の様子 ○家をいくつかつなげたり、家の周りの様子や中の様子などをつくったりする。 ○作品カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・建物の形 ・窓の開き方 ・窓の中の工夫 ○友達の作品の工夫したところや感じたことなどを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・窓がたくさん集まったら、マンションみたいだ。 ・いろんな人の笑顔が窓から見られて楽しいね。 ・この開き方面白いね。 ・色々な形の窓があるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2下 P.24, 25 ・教科書のカッターナイフの使い方(P.60)を参考に、実際に使わせながら指導する。 ・カッターナイフで切るときには、切る紙を回して方向を変え、常に手前に縦方向に切るように指導する。 ・教科書の作品を参考にし、どんなものをつくりたいか考えさせる。 ・児童の様々な考えを取り上げ、つくるときの参考にさせる。 ・絵をかいいたり、窓を切り抜いたりするときは紙を開いて平面にしてから行わせる。 ・窓を開けるときには、折るところを先の細いものなどでなぞらせてから折ると折りやすい ・建物の内側を外側に重ねて、鉛筆で窓の形をなぞらせる。 ・中に見えるものは、窓の大きさや形に合うようにかかせる。 【評】作品を通して、カッターナイフを適切に使いながら、切り込みの入れ方、窓の形、窓の開き方などを工夫して立体に表す「知識・技能」を評価する。 ・町のようにしたり、台紙にのせて人や木や動物、車などの周りの様子をつくったり、家の中の様子をつくるなど、一つの家から発展させる。 【評】作品を通して、窓から見える絵や色、窓の形や色や飾りなどの表し方を思い付く「思考・判断・表現」を評価する。 ・作品カードを書き、鑑賞の参考にさせる。 ・窓の形や切り方、開き方、窓の中に見えるものなどを中心に友達の作品のよいところに気付かせる。 【評】話し合いの活動を通して、窓の形や開き方、窓の中に見えるものなどの面白さやよさを感じ取る「思考・判断・表現」を評価する 【評】作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

他教科との関連
生活科などでもカッターナイフを活用する。図画工作科の活動の中で、安全で適切な扱い方を身に付けさせたい。

単元名 たのしく うつして(絵)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 写してできる形に気付き、工夫して絵に表すことができる。
 (2) 形を作りながら、どのように表すか考えるとともに、自分や友達の作品のよさや面白さに気付くことができる。
 (3) 形を写して、絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080302_001

【準備等】画用紙、新聞紙、版画用具、共同絵の具、カッターナイフ、カッターマット、のり、はさみ、クレヨン、パス、サインペン など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 教科書の参考作品を見て、紙版の表し方を知り、版をつくる。 ○教科書の参考作品を見て、感想を発表する。 ・馬がたくさんいてにぎやかだね。 ・同じ形がたくさんあるよ。</p> <p>★自分のつくりたい形を考えて版をつくり、楽しく写して表そう ○版で表したいものを考える。</p> <p>○版の型紙をつくる。</p> <p>3～4 切り抜いた形や周りの形を使って、写す場所や色を考えて表す。 ○みんなで協力して刷りの環境を整える。</p> <p>○明るい色でローラー遊びをする。</p> <p>○型紙を置く位置を考えたり、何色を使ってローラーで刷るか考えたりして工夫して刷る。 ・型紙を置く。 ・ローラーで刷る。 ・型紙をはずす。</p> <p>5～6 必要に応じて他の材料を使って貼り足したり、かき加えたりして表し、鑑賞する。 ○写した形を大切に、顔や模様、周りの様子を貼り足したりかき加えたりして表す。 ・チケット売場をかくよ。 ・乗っている人もかこう。 ・リボンをつけたり帽子を被せたりしよう。</p> <p>○友達と作品を見せ合い、感想を発表する。 ・ハートを重ねてクローバーにしている面白だね。 ・観覧車の中の人ややっていることを変えていて素敵だね。 ・型紙を使って木がいっぱい生えていいね。</p>	<p>・教科書 1・2 下 P. 52, 53</p> <p>・型紙を使うと同じ形がたくさん写せることに気付かせる。 ・教科書P. 65「かたちをうつそう」を参考に型紙を使って写す方法を指導する。 ・教師が簡単な型紙を児童の前で刷って見せてもよい。</p> <p>・形を明確にさせるためには、あまり複雑な形にしないほうがよいことを伝える。 ・細かい部分は後からかき加えたり、貼り足したりできることを知らせる。 ・教科書P. 60を参考にしてカッターナイフの安全な使い方について指導する。 ・切り抜いた紙や切り抜いた周りの紙の両方を使えることを知らせる。 【評】作品を通して、ステンシル版で何をどのように表すかを考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・刷りの活動がしやすいような用具の置き方を工夫し、活動場所を整えさせる。 ・ローラー遊びのみに使用する画用紙を用意しておく。 ・ローラー遊びをすることで、ローラーの使い方に慣れる。 ・型紙を何度使ってもよいことを知らせる。刷る前に、もう一度教師が刷り方の演示をするなどして、児童がインクの加減などを分かるようにする。 【評】並べたり重ねたりして刷る活動を通して版の置き方や色などを考えている「思考・判断・表現」を評価する。 【評】並べたり重ねたりして刷る活動を通して形や色の面白さに気付き、工夫して絵に表す「知識・技能」を評価する。</p> <p>・何人かの児童の作品をみんなで見ながら、どんな場面なのかを話し合うなどし、それぞれの思いを膨らませる。 ・刷った部分が乾いていることを確認する。 ・活動の途中でも、それぞれの作品を見て話しながら、楽しく活動できる雰囲気をつくるようにする。 【評】作品を通して、表したいイメージを膨らませ、かき加えるものを思い付く「思考・判断・表現」を評価する。 ・友達の作品を見て、よさを味わわせる。 【評】自分や友達の作品を見合う活動を通してよさや面白さを感じ取る「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

紙版画では、写してできる形から、何をどのように表すのかを考え、事前に完成のイメージをもたせる必要

がある。表したいことに対して、どのような形をつくるとよいのかを考え、材料をどの順番で貼り合わせるとよいのか、どの色を刷るのか、画用紙のどこに配置するのかを考えさせながら表現させる。

自分が意図する活動を実現するための①分解（表したい作品を、構成する要素に分解する）②置換（要素を形や色に置き換える）③組合せ（形や色の組合せや順番を考える）④検証（組合せを検証して意図に近づける）といったことを論理的に考えていく力を育成する。その他の題材においても、上記の事柄を意識しながら学習活動を工夫し、プログラミング的思考の育成に努めたい。

参考・・・日本文教出版株式会社<http://www.nichibun-g.co.jp/>

単元名 おもいでを かたち(立体)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 粘土の特徴や思いに合う形を見付け、工夫して立体に表すことができる。
 (2) 楽しかったことや面白かったときの様子を基に、表したいことを考えるとともに、作品を色々な角度から見て、よさや面白さを感じ取ることができる。
 (3) 心に残っていることを楽しく立体に表そうとする。

標準的な展開例

02080303_001

【準備等】粘土（1 kgくらい）、粘土板、粘土べら、雑巾、竹ぐし

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 楽しかったことや面白かったことを思い出し、粘土で表したいことを考える。</p> <p>○教科書の参考作品を見て、どんな様子を表しているか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんをみんなで抱っこしているところ ・家族で海に行っているところ ・いい夢を見ているところ <p>○友達と話し合いながら、楽しかったことや面白かったことを思い出して話し合い、表したいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会 ・校外学習 ・休み時間のこと <p>★楽しかったことや面白かったことを粘土で表そう</p> <p>2～4 表したいことを粘土を使って形にする。</p> <p>○粘土を丸めたり、こねたりして粘土に親しむ。</p> <p>○粘土をひねり出して、大まかな形をつくる。</p> <p>○手足の様子を工夫したり、細かい部分をつくったりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔は笑顔にしよう。 <p>○どこで何をしているのかが分かるように、身体の動きや周りにあるものなども考えてつくり、仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手をつないでいる様子にしよう。 ・こたつにみかんを置こう。 ・貝殻や蟹もつくろう。 ・浮き輪を持っていたな。 <p>○友達といろいろな向きから作品を見て、お互いの作品のよさや面白さについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課にみんなでタイヤとびじゃんけんをやっているところだよ。 ・たくさんの友達をつくっていてすごいね。 ・赤ちゃんを抱っこしているうれしそうところがよく分かるよ。 	<p>・教科書1・2下 P.38, 39</p> <p>・うれしいときや面白いと感じた時は一人ではなく、いろんな人と関わっていることに気付かせる。</p> <p>・大きな行事だけでなく、日常にもうれしいことや楽しいことがあることに気付かせる。</p> <p>・アイデアが思い浮かばない児童には、日記を参考にさせるとよい。</p> <p>【評】話し合いの活動を通して、楽しかったことや面白かったことを基に表したいことを考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・粘土の性質をとらえさせるために、ちぎって丸める、のばす、積むなどして、粘土に慣れるようにする。</p> <p>・ひねり出しの粘土の技法を指導する。</p> <p>・手や胴体などは部分ごとにつくってつなげるのではなく、基本的にひねり出しの方法でつくるように促す。</p> <p>・頭の大きさを基準にして体の形のバランスに気を付けさせる。</p> <p>・薄く細くならないように伝える。</p> <p>・粘土べらや竹串は後半に出すようにし、まずは、身体の動きや全体の動きをつくるように促す。</p> <p>・いろいろな方向から見るようにさせる。</p> <p>・自分が表したいものになるように、手足の様子や動き、顔の表情を想像させる。</p> <p>【評】作品を通して、表したい場面を思い浮かべ、表し方を考える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】作品を通して、粘土の特徴や思いに合う形に気付きながら、工夫して立体に表す「知識・技能」を評価する。</p> <p>・形にした思い出を紹介し合う。</p> <p>・友達の作品のよさを味わわせる。</p> <p>【評】お互いの作品のよさや面白さを話し合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】作品やこれまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【備 考】

特別な教科道徳との関連

A－(4)「自分の特徴に気付くこと。」B－(9)「友達と仲よくし、助け合うこと」などと関連が深い。表現しながら考えたことや、感じたことを道徳の学習につなげていきたい。

単元名 パタパタ ストロー(工作)

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 思い付いた形になるように、材料や用具の使い方を工夫して工作に表すことができる。
 (2) ストローを動かしながら、動く仕組みについて理解し、つくりたいものを考えるとともに、友達の作品の面白さに気付くことができる。
 (3) ストローを組み合わせた仕組みを使った動くおもちゃづくりを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080304_001

【準備等】厚紙、ストロー（太いものと細いもの2本）、色画用紙、画用紙、色紙、サインペン、クレヨン、パス、セロハンテープ、木工用接着剤、のり、はさみ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ストローを組み合わせて動く仕組みを理解し、基本の仕組みをつくって動かしてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、感想を發表する。 <ul style="list-style-type: none"> ストローを使ってパタパタ動くものがあるよ。 耳が上下に動いている。 電車の扉が開いたり閉まったりするのかな。 ★動く仕組みを使って、楽しく遊べるものをつくろう ストローで動く仕組みを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ストローを2本組み合わせている。 細いストローが太いストローの中に入っている。 太いストローに切り込みを入れてストローを出しているんだ。 ストローを使って動く仕組みをつくり、動かしてみる。 <p>○動く仕組みから連想される動きや、おもちゃを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕組みを組み合わせるともっと面白いな。 パタパタする鳥の羽みたい。 海で泳いでいるみたい。 魚の追いかけてっこ面白いな。 <p>2～4 ストローを使った動くおもちゃをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕組みの動きを確かめながら、それを生かすことができる楽しいおもちゃを考える。 <p>○つくったもので楽しく遊び、作品のよいところを發表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手が動くところがすごいね。 魚の追いかけてっこ楽しそうだね。 ストローに細いビニルを付けているところが面白い。動かすとひらひらして素敵だね。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書1・2下 P.48, 49 どのように動くのか、参考作品で面白さを実感させるとよい。 簡単な飾りの付いた見本を数種動かし、興味を持たせ、つくり方を考えるよう促す。 教科書P.48の「つくりかた」を参考にする。 基本となる仕組みを一緒につくり、基本の作り方を理解させる。 はさみの細かい作業で手を切らないように注意を喚起する。 ストローが動かないようにテープでしっかりと固定させる。 仕組みを組み合わせると、表現が広がることを知らせる。 仕組みを組み合わせたものや向きを変えたものを例示し、どんなものの動きに見えるかを話し合わせる。 生活のなかに、ストローの動きに似たものを探して参考にさせるとよい。 身近な材料などを使って工夫したり飾ったりすることを提案する。 【評】作品を通して、おもちゃの動きを基に、動く楽しいものを考える「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品を通して、思い付いた形になるように、材料や用具の使い方を工夫して工作に表す「知識・技能」を評価する。 友達と作品を動かしながら面白いところや、工夫しているところやよさなどを話し合わせる。 【評】自分や友達の作品を見合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

他教科との関連

身近にあるものでおもちゃを工夫してつくったり、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとしたりする行為は、生活科の「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」と関連する。

単元名 (参考単元)だんボールに 入ってみると(造形遊び)

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 段ボール箱の特徴や形に気付き、切ったりつないだりして表し方を工夫することができる。
 (2) 大きな段ボール箱の特徴を基に、並べたりつないだりした形から自分がしたいことを思い付くとともに、段ボール箱で形づくる楽しさや活動の面白さを感じることができる。
 (3) 段ボール箱に入って思い付いたことを試しながら、体全体で活動することを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080305_001

【準備等】ダンボール箱、ダンボールカッター、粘着テープ、デジタルカメラ、クレヨン、パス など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 段ボール箱に入ってみて思い付いたことから、様々な造形活動をする。</p> <p>○ 段ボール箱に入っていみて、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体全部入っちゃうよ。蓋もできるよ。 ・ 横にしたらトンネルみたいだ。 ・ かくれんぼにいいね。 <p>★ 段ボールに入って、思い付いたことをやってみよう</p> <p>○ 段ボールに入ったり被ったりしながら思い付いたことを試したり、つくり方を工夫したりして造形活動を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被っても見えるようにしてみよう。 ・ いっぱい穴を開けたらプラネタリウムみたい。 ・ 穴を空けると窓みたいだよ。 ・ 顔みたいになったよ。 ・ いろいろな入り方を試してみよう。 <p>○ 友達と関わり合ったり、話し合ったりして活動を広げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トンネルに一緒に入ってみよう。 ・ すてきな家になったので中也飾ってみよう。 ・ 友達とつなげてみよう。 ・ 箱を重ねたら高くなったよ。 <p>○ 自分たちが工夫してつくったものを互いに見合ったり中に入ったりしながら、面白いところを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上からも右からも入れるように工夫したよ。 ・ 家の中にテレビやソファを置いたよ。 ・ みんなでつなげて、秘密基地になったよ。 <p>○ 片付けをして、活動場所を元のようにきれいにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 1・2下 P.44, 45 ・ 事前に机のない空き教室や特別教室、学校によっては、オープンスペースなど広い空間で活動ができるように、他学年の了解を得ておく。 ・ 事前に段ボール箱を集めて保管できるような校内の体制を整える。 ・ 教科書P.44, 45の活動の様子を参考にさせる ・ 教科書P.61の段ボールカッターの使い方を参考にし、安全指導をする。 ・ 段ボールを立たせたり、つないだりしながら発想したことを試して形づくるよう促す。 ・ 段ボールカッターや粘着テープの置き場所を指示しておく。 ・ 使わなくなったダンボールや丸めた粘着テープ等の捨てるものの場所を決めて、散らからないよう配慮する。 【評】学習活動を通して、用具を適切に使い、やってみたいことを試しながら工夫して表す「知識・技能」を評価する。 ・ 装飾的な活動をしたい児童のために、クレヨンやパスを用意しておくことよい。 ・ 活動の変化やこだわりに気付き、共感的な声かけをする。 ・ 途中で、友達の作品を鑑賞する時間を設け、発想を広げさせる。 ・ 中間鑑賞で、付箋を使い、よい所やもうちょっとこうしたらどうかと、アドバイスをもらう時間を設けてもよい。 ・ 活動中の姿をデジタルカメラなどで記録しておく。 【評】学習活動を通して、段ボール箱を切ったりつないだりしながら、楽しい活動を思い付く「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 特に工夫したことや見てほしいことを児童に聞き、そこを中心にデジタルカメラで撮影をする。 【評】自分や友達の活動のよさを感じ取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ ゴミを分別できるよう準備しておき、指導する。 ・ 用具の数や片付け方を確認する。 【評】これまでの学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名	【旧】まどを ひらいて ーまどから こんにちはー(工作)	配当時間	5時間
単元の目標	(1) 思い付いた窓の形をつくるために、用具や材料の使い方を工夫することができる。 (2) 楽しくなるような窓の形を思い付いたり、窓から見えるものを考えることができる。 友人と 作品を見せ合い、窓の形や家の様子の面白さを感じることができる。 (3) カッターナイフを使って窓のある家をつくることに取り組もうとする。		

標準的な展開例

02080306_001

【準備等】色画用紙、画用紙、カッターナイフ、カッターマット、サインペン、クレヨン、パス、色鉛筆、はさみ、のり、作品カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 カッターナイフの安全な使い方を知る。 ○カッターナイフを使い、安全な使い方に気を付けながら練習用の紙を切る。 ・刃の出し方、しまい方 ・持ち方 ・手の置き方 ・切り方 ★カッターナイフを使って窓のある楽しい家をつくろう ○窓の形や、窓の中に何が見えると楽しいかを考える。 ・窓の形…四角、三角、丸 ・窓の中…家族、動物、友達、魚、虫 2～5 家や窓の形、窓の開き方や窓の中に見えるものを工夫してつくる。 ○紙を折り、切って家や窓の形をつくる。(活用) ・全体の形や色 ・窓の開き方 ○建物の内側をつくる。 ・窓の中の様子 ○家をいくつかつなげたり、家の周りの様子や中の様子などをつくったりする。 ○作品カードを書く。 ・建物の形 ・窓の開き方 ・窓の中の工夫 ○友達の作品の工夫したところなどを話し合う。(言語活動)	・教科書1・2下 P.26, 27 ・教科書のカッターナイフの使い方(P.17, P.40～41)を参考に、実際に使わせながら指導する。 ・カッターナイフで切るときには、切る紙を回して方向を変え、常に手前に縦方向に切るように指導する。 ・教科書の作品やつくり方の図を参考にし、どんなものをつくりたいか考えさせる。 ・児童の様々な考えを取り上げ、つくる参考にさせる。 ・窓の形や開き方などのアイデアをかかせたり黒板にかいて発表させたりする。 ・絵をかいたり、窓を切り抜いたりするときは紙を開いて平面にしてから行わせる。 ・窓を開けるときには、折るところを先の細いものなどでなぞらせてから折ると折りやすい ・建物の内側を外側に重ねて、鉛筆で窓の形をなぞらせる。 ・中に見えるものは、窓の大きさや形に合うようにかかせる。 【評】作品を通して、カッターナイフを正しく扱い、窓の形や開き方、家の形や装飾などを工夫してつくる「創造的な技能」を評価する ・町のようにしたり、台紙にのせて人や木や動物、車などの周りの様子をつくったり、家の中の様子をつくるなど、一つの家から発展させる。 ・作品カードを書き、鑑賞の参考にさせる。 ・窓の形や開き方、窓の中に見えるものなどを中心に友達の作品のよいところに気付かせる 【評】話し合いの活動を通して、窓の形や開き方、窓の中に見えるものなどの面白さやよさを感じる「鑑賞の能力」を評価する。

【 備 考 】

単元名 【旧】たのしく うつして ーかたがみを つくってー(絵)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) ステンシル版の表し方を用いて、型紙の置き方やローラーの使い方を工夫することができる。
 (2) ステンシル版の表し方を知り、何をどのように表すか考えることができる。
 できた作品を見
 せ合い、自分や友達の作品のよさや面白さに気付くことができる。
 (3) 型紙とローラーを使って表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080307_001

【準備等】画用紙、新聞紙、版画用具、共同絵の具、カッターナイフ、カッターマット、のり、はさみ、クレヨン、パス、サインペン

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 教科書の参考作品を見て、ステンシル版の表し方を知り、版をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、感想を發表する。 <ul style="list-style-type: none"> きりんがたくさんいてにぎやかだね。 雪だるまのパーティーは楽しそうだね。 <p>★ステンシル版をつくり、楽しく写して表そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ステンシル版で表したいものを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ステンシル版の型紙をつくる。 <p>3～4 ステンシル版を使って刷る。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなで協力して刷りの環境を整える。 明るい色でローラー遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> 型紙を置く位置を考えたり、何色を使ってローラーで刷るか考えたりして工夫して刷る。 <ul style="list-style-type: none"> 型紙を置く。 ローラーで刷る。 型紙をはずす。 <p>5～6 必要に応じて他の材料を使って貼り足したり、かき加えたりして表し、鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 写した形を大切に、貼り足したりかき加えたりして表す。 友達と作品を見せ合い、感想を發表する。(言語活動) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書1・2下 P.46, 47 型紙を使うと同じ形がたくさん写せることに気付かせる。 教科書P. 56「うっしかた」を参考にしてステンシル版の作り方を指導する。 教師が簡単な型紙を児童の前で刷って見せてもよい。 形を明確にさせるためには、あまり複雑な形にしないほうがよいことを伝える。 細かい部分は後からかき加えたり、貼り足したりできることを知らせる。 教科書P. 52を参考にしてカッターナイフの安全な使い方について指導する。 切り抜いた紙や切り抜いた周りの紙の両方を使えることを知らせる。 【評】作品を通して、ステンシル版で何をどのように表すかを考える「発想や構想の能力」を評価する。 【評】作品を通して、型紙の置き方やローラーの使い方を工夫する「創造的な技能」を評価する。 刷りの活動がしやすいような用具の置き方を工夫し、活動場所を整えさせる。 ローラー遊びのみに使用する画用紙を用意しておく。 ローラー遊びをすることで、ローラーの使い方に慣れる。 型紙を何度使ってもよいことを知らせる。 刷った部分が乾いていることを確認する。 友達の作品を見て、よさを味わわせる。

【 備 考 】

単元名 【旧】おもいでを かたち(立体)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) うれしかったことや楽しかったことの様子が表れるように、形のつくり方を工夫することができる。
- (2) うれしかったことや楽しかった時の様子を基に、表したいことを考えることができる。
- 作品
を色々な角度から見て、お互いの工夫したところや表したかったことを感じ取ることができる。
- (3) 生活の中でうれしかったことや楽しかったことなどを思い出し、その時の様子を楽しく立体に表そうとする。

標準的な展開例

02080308_001

【準備等】粘土（1 kgくらい）、粘土板、粘土べら、雑巾、竹ぐし

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 うれしかったことや楽しかったことを思い出し、表したいことを考える。</p> <p>○教科書の参考作品を見て、どんな様子を表しているか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくそろばんをしているところ ・家族でダンスをしているところ ・ベンチに座ってポーズをとっているところ <p>○友達と話し合いながら、うれしかったことや楽しかったことを思い出して話し合い、表したいことを考える。（言語活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会 ・校外学習 ・休み時間のこと <p>★うれしかったことや楽しかったことを粘土で表そう</p> <p>2～4 表したいことを粘土を使って形にする。</p> <p>○粘土を丸めたり、こねたりして粘土に親しむ。</p> <p>○粘土をひねり出して、大まかな形をつくる。</p> <p>○手足の様子を工夫したり、細かい部分をつくったりして仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手をつないでいる様子にしよう。 ・顔は笑顔にしよう。 <p>○友達といろいろな向きから作品を見て、お互いの表したかったことや工夫したことについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2下 P.28, 29 ・うれしいときや楽しい時は一人ではなく、いろんな人と関わっていることに気付かせる。 ・大きな行事だけでなく、日常にもうれしいことや楽しいことがあることに気付かせる。 ・アイデアが思い浮かばない児童には、日記を参考にさせるとよい。 <p>【評】話し合いの活動を通して、うれしかったことや楽しかったことを基に表したいことを考える「発想や構想の能力」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土の性質をとらえさせるために、粘土に慣れさせる。 ・つまみ出し、付け足しなどの粘土の技法を指導する。 ・手足を大きくひねり出し、頭の大きさを基準にして体の形のバランスに気を付けさせる。 ・いろいろな方向から見るようにさせる。 ・自分が表したいものになるように、手足の様子や動き、顔の表情を想像させる。 <p>【評】作品を通して、表したい様子になるように、形のつくり方を工夫する「創造的な技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品のよさを味わわせる。

【 備 考 】

単元名 【旧】ストローで こんにちは(工作)

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 思い付いた形になるように材料や用具の使い方を工夫することができる。
(2) ストローを動かしながら、動く仕組みについて理解し、動く楽しいものを考えることができる

ストローの動きの楽しさや、友達の作品の面白さに気付くことができる。

(3) ストローを組み合わせた仕組みを使って、動くおもちゃをつくることに取り組もうとする。

標準的な展開例

02080309_001

【準備等】厚紙、ストロー（太いものと細いもの2本）、毛糸、モール、紙コップ、色画用紙、画用紙、色紙、サインペン、クレヨン、パス、セロハンテープ、木工用接着剤、のり、はさみ、きり

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書の参考作品を見て、ストローを使った動く仕組みを理解する。 ○教科書の参考作品を見て、感想を発表する。</p> <p>★動く仕組みを使って、楽しく遊べるものをつくろう ○ストローで動く仕組みを理解する。 ○ストローを使って動く仕組みをつくり、動かしてみる。</p> <p>○動く仕組みから連想される動きや、おもちゃを考える。</p> <p>2～4 ストローを使った動くおもちゃをつくる。（活用） ○仕組みの動きを確かめながら、それを生かすことができる楽しいおもちゃを考える。</p> <p>○つくったもので楽しく遊び、作品のよいところを発表する。（言語活動）</p>	<p>・教科書1・2下 P.42, 43</p> <p>・どのように動くのか、参考作品の面白さを想像させる。</p> <p>・ストローのみの仕組みとストローと紙コップの仕組みを一つ選択してつくらせてもよいし教師側で選択して提案してもよい。</p> <p>・教科書P.42の「つくりかた」を参考にする。</p> <p>・実際に仕組みをつくって見せると理解しやすい。</p> <p>・生活のなかに、ストローの動きに似たものを探して参考にさせるとよい。</p> <p>【評】動くおもちゃをつくる活動を通して、「関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>・身近な材料などを使って工夫したり飾ったりすることを提案する。</p> <p>【評】作品を通して、おもちゃの動きを基に、動く楽しいものを考える「発想や構想の能力」を評価する。</p> <p>・友達と作品を動かしながら面白いところや、工夫しているところやよさなどを話し合わせる。</p>

【 備 考 】

単元名 【旧】(参考単元)だんだん だんボール(造形遊び)

配当時間 3時間

単元の目標 (1) ダンボールをテープで接着してつないだり、用具を用いて切ったり穴をあけたりして、つくり方を工夫することができる。

(2) 開いたダンボール箱の形や、並べたりつないだりした形から自分がしたいことを思い付いたり考えたりすることができる。

友達に話したり、友達に聞いたりして、大きなダンボールで形づくる楽しさや活動の面白さを感じることができる。

(3) 体全体を使って、大きなダンボールの特徴を感じながら、広い空間で活動することを楽しもうとする。

標準的な展開例

02080310_001

【準備等】ダンボール箱、ダンボールカッター、粘着テープ、デジタルカメラ、クレヨン、パス

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 開いたダンボールで様々な造形活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ダンボールで、どんなことができるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・立てることができる。 ・つなげることができる。 ・囲むことができる。 <p>★開いたダンボールで、できることをやってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○思い付いたことを試したり、つくり方を工夫したりして造形活動を楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・トンネルができそうだよ。 ○友達と関わり合ったり、話し合ったりして活動を広げる(言語活動) <ul style="list-style-type: none"> ・トンネルと一緒に入ってみよう。 ・友達とつなげてみよう。 ○自分が気に入ったところや、工夫したところをデジタルカメラで撮影をする。 ○片付けをして、活動場所を元のようにきれいにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1・2下 P.36, 37 ・事前に机のない空き教室や特別教室、学校によっては、オープンスペースなど広い空間で活動ができるように、他学年の了解を得ておく。 ・事前に段ボール箱を集めて保管できるような校内の体制を整える。 ・教科書P. 36, 37の活動の様子を参考にさせる ・教科書P. 53のダンボールカッターの使い方を参考にして、安全指導をする。 ・ダンボールを立たせたり、つないだりしながら発想したことを試して形づくるよう促す。 ・ダンボールカッターや粘着テープの置き場所を指示しておく。 ・使わなくなったダンボールや丸めた粘着テープ等の捨てるものの場所を決めて、散らからないよう配慮する。 【評】造形活動を通して、用具や材料を適切に使い、つくり方を工夫する「創造的な技能」を評価する。 ・装飾的な活動をしたい児童のために、クレヨンやパスを用意しておくとうい。 【評】造形活動を通して、ダンボールの形などから、自分がしたいことを思い付いたり考えたりする「発想や構想の能力」を評価する。 ・工夫したところに着目させて撮影させる。 ・ゴミを分別できるよう準備しておき、指導する。 ・用具の数や片づけ方を確認する。

【 備 考 】

単元名 しぜんの色

配当時間 1時間

単元の目標

(3) 3年生の学習内容やめあてを知り、意欲的に活動しようとする。

標準的な展開例

03080101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書の写真を見て、図画工作科の授業への意欲をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の「しぜんの色」の文を読み、図画工作科の授業で大切なことを話し合う。 ★図画工作科の授業で、やってみたいことを伝え合おう ○教科書の写真を見て、感じたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・何気なく見ている土でも、並べるときれい。 ・身近な生き物も、じっくり見ると細かい模様がある。 ・自然の中には様々な色がある。 ○「つかってみようざいりょうと用ぐ」を見ながら、これからの造形活動に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4上 P. 2～4 ・「しぜんの色」の文章を読ませ、第3学年の図画工作科の授業で大切なことをとらえさせる。 ・様々な表現方法があることを伝え、今後の表現活動に対する意欲化を図る。 ・1年間の活動内容を知らせながら、必要となる材料についても触れておく。 ・教科書3・4上 P. 58～65 ・実物を示して説明すると、分かりやすい。 <p>【評】1年間の学習内容を知り、意欲的に活動しようとする様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 絵の具＋水＋ふで＝いいかんじ！（絵）

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 絵の具を混ぜたり重ねたりして、いろいろ試しながら、色や形の感じを見付け、工夫して表すことができる。
 (2) 絵の具を混ぜたり、重ねたり試したりしながら表したいことを考えるとともに、自分や友達の作品を見て、できた色や形のよさや面白さなどを感じ取ることができる。
 (3) 自分の色や形を味わいながら、水彩絵の具で表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

03080102_001

【準備等】画用紙（いろいろな大きさに切っておいたもの）、水彩用具一式、参考作品など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て、感じたことを話し合い、水彩絵の具による様々な表現を試す。 ○参考作品を見て、感想を話し合う。 ★いろいろな色や形を見付けて絵をかいてみよう</p> <p>○水彩絵の具の基本的な使い方を知る。</p> <p>○自分の色をつくりながら、思いのままにかくことを楽しむ。 ・水を少なくしてかすれさせる ・筆先で点々をうつ ・すうっと線をひく ・太い筆でぐいっと面にする ○できた表現のイメージを発表する。</p> <p>2～4 色づくりを楽しみながら、思いのままにかくことや感覚を通して自分の色や形を見付け、作品をつくる。 ○いろいろな色や形で、思いのままにかく。</p> <p>○かいた色や形を見直し、想像を広げて作品をつくる。</p> <p>5 完成した作品について、発表し合う。 ○自分たちの作品を見合い、色や形のよさや面白さを感じ取る。 ・透き通るような色がきれいだな。 ・線や点がたくさん重なって、楽しい気分になる。</p>	<p>・教科書3・4上 P.8, 9</p> <p>・他にも絵の具の表現を生かした抽象的な作品がある場合は提示し、表現は多様であることを知らせる。 ・線での表現、にじみを生かした表現、重なりを生かした表現を見付けさせ、様々な表現のよさを感じ取らせる。 ・水彩絵の具の基本的な扱い方を指導する。（教科書P.58, 59参照） ・用具を使って、絵の具の出し方、パレットでの混色、筆洗、タオルなどの扱いを一通り示す。 ・絵の具はパレットに全色を出させる。 ・水の加減や筆の動かし方をいろいろ試しながら、試し表す時間を十分に確保し、自分の色や形で表す楽しさを味わえるようにする。 【評】絵の具のできる色や形の感じを見付け、自分なりに工夫して表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・水彩絵の具には様々な表情があることや色や形のもつ魅力などに気付かせる。</p> <p>・つくっている途中で、他の児童の作品も見せて、表現の多様性を確認する。 ・用具の扱いに困っている児童には、水の加減やタオル、パレットの使い方など実際に筆をもつ児童の手に添えて一緒に行う。 ・できた色や形に共感的に寄り添った声かけを行う。 ・片付けにおいて使用できる水道が少ない場合は、絵の具の付いたパレットを水を含んだ筆でこすり、パレットの上で洗い出し、ティッシュ等で拭き取らせるとよい。 【評】様々な色や形の表情から、表したいことを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・題名を付け、感じたことを発表させる。 ・一人一人の表現の思いが温められるような雰囲気をつくる。 【評】自分や友達の工夫したところ、素敵だなと感じるところを味わう活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **ねん土マイタウン(立体)**配当時間 **3時間**

- 単元の目標 (1) 自分のイメージに合う形や色を見付け、粘土の加工や接合の方法などを工夫して立体に表すことができる。
- (2) 自分の住んでみたい街を思い浮かべ、お互いの街のよさを感じながら、粘土で立体に表すことができるとともに、友達と話をしながら街を考えたり、友達の街を参考にしたりして、表現のよさをとらえることができる。
- (3) 住んでみたい街を想像し、粘土で表現する活動を楽しもうとする。

標準的な展開

03080103_001

【準備等】粘土板、油粘土、粘土べら、雑巾、切り糸など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て、自分が行ってみたい街、住んでみたい街について想像し、発表する。</p> <p>★イメージを広げて住みたいマイタウンを作ろう</p> <p>○教科書の作品を参考にし、住んでみたい街のイメージを話し合う。</p> <p>2 粘土を丸めたり伸ばしたりして、面白い形づくりをし、街にあったら楽しい建物などを想像して街をつくる。</p> <p>○粘土を丸めたり、伸ばしたりして、いろいろな形をつくり、その形からどんな街をつくりたいか、想像を広げ、街づくりに興味をもつ。</p> <p>○粘土の形をいろいろに変形させながら、面白い形の建物や乗り物などの形や並べ方を工夫して街をつくる。</p> <p>○友達と道をつないだり、街を合体させたりして、大きな街をつくる。</p> <p>3 できた街を友達と一緒に見合ったり、街をドライブ（散歩）したりして、街の面白さや自他の表現のよさを味わう</p> <p>○自分たちのマイタウンを探検する。</p> <p>○自分たちのマイタウンを展示し、自由に鑑賞し合う。</p>	<p>・教科書 3・4 上 P. 46, 47</p> <p>【評】 あったらしいと思う街づくりを、楽しみながら話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・見付けた面白い形から建物や乗り物など想像を広げ、自分なりの街づくりに興味をもたせる。</p> <p>・いろいろな形を組み合わせでできる形の面白さに気付かせるように助言し、自由な形づくりの中から、街への想像を膨らませるきっかけとしたい。</p> <p>・形を組み合わせる際、しっかりと接合することを指導する。接合するときにつまようじや竹串などで補強する方法も指導する。</p> <p>【評】 自分の想像した街のイメージに合わせ、粘土の形を様々に変えたり組み合わせ方を工夫したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・自分のつくった街の外側を想像させる言葉をかけ、自分でつくり足したり友達の街とつなげたりして表現が広がるようにする。</p> <p>【評】 自分が住んでみたい街を想像し、友達とお互いの街のよさを感じながらつくる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ミニチュアの自分や乗り物を粘土でつくらせそれを使ってつくった街をドライブ（散歩）させることにより、自分や友達のつくった街に実際に入り込んだ感覚で表現の面白さを味わい、それぞれのよさを感じ取ることができるようにする。</p> <p>・つくった自分たちの街を図工室や廊下などに展示し、遊びの中で自由に鑑賞したり探検したりするなど、多様な視点で作品のよさを味わうようにさせる。</p> <p>【評】 自分たちのマイタウンを鑑賞し、作品のよさや面白さを味わう活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

特別な教科道德との関連について

C - (16) 「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。」との関連が深いため、友達と相談しながら、つなげ方やつくり方を工夫して自分たちの楽しい街をつくる活動につなげたい。

単元名 くぎうちトントン(工作)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 釘を打ってできる形を見付け、表したいことに合わせて、表し方を工夫することができる。
 (2) 打った釘の形や触り心地から、自分のつくりたい物をイメージし、どのように表すか考えるとともに、自分や友達作品を見て、できた色や形のよさや面白さなどを感じ取ることができる。
 (3) 釘を打つ感触を味わいながら、形を見付けることを楽しもうとする。

標準的な展開

03080104_001

【準備等】参考作品、金づち、釘、木切れ、板材、釘抜き、ペンチなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 金づちの扱い方、釘の打ち方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品を見て気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 木と釘でできている 釘で顔をつくっている ★木に釘を打って、楽しいものをつくろう 金づちの扱い方、釘の打ち方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 打ち始めは平らな面で柄の頭に近い方を持って軽く打つ 釘がしっかりささったら、柄の下の方を持って打つ 使っていない木を台にしたり、机の角を使ったりして安定させる 打ち終わりは反対側の丸みのある面で打ち込む 釘の打ち方をいろいろ試す。 <ul style="list-style-type: none"> まっすぐ釘を打つ たくさん打つ 釘の高さを変えて打つ 太さの違う釘を打つ 斜めに打つ <p>2～4 つくりたいものに合わせて、釘の打ち方、釘の並べ方、木切れのつなぎ方を工夫してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 釘を打ってできた形から想像を広げ、表現したいものをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 木の下に釘を打ったら、動物みたい たくさん釘をうったら、髪の毛みたい 木とつなげたら、動くようになった <p>5 友達の作品を鑑賞しながら、印象に残ったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の作品を鑑賞し、釘の打ち方の面白さや工夫に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書3・4上 P.32, 33 教科書P.32～33の作品を見て、どんな表現方法で表しているかを話し合わせる。 参考作品を使い、具体的に説明する。 教科書3・4上 P.60～61を見て、道具の正しい扱いを身に付けさせる。 児童が安心して活動できるような、場の設定も心がける。 【評】いろいろな打ち方を試しながら、道具を適切に扱う活動を通して、「知識・理解」を評価する。 釘の打ち方や板のつなぎ方を工夫することによって、つくりたいものの表情や動きが変わることを知り、試しながら活動に取り組ませる。 安全には十分に留意して活動させる。 【評】釘を打ってできた形から、自分が表したいものを想像し、どのように表すか工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 お互いの作品のよいところを発表させる。 釘の打ち方、並べ方、つなぎ方などに注目させる。 【評】自分や友達の作品のよさや面白さを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 クミクミックス(造形遊び)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 段ボールを切ったり組み合わせたりして、いろいろな形の感じを見付け、つくり方を工夫することができる。
- (2) 段ボールを切って、それらを組み合わせでできる形を思い付くとともに、友達と協力して作ったり、友達の作品を参考にしたりして、友達と関わりながら作品をつくることができる。
- (3) 段ボールを組み合わせでつくる楽しさを感じ、進んで段ボールを組み合わせでいく活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03080105_001

【準備等】段ボールカッター、段ボール、カッターマット、牛乳パック、はさみ、カッターナイフなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 参考作品を見て、学習活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 段ボールや牛乳パックを使って、様々な形に切って組み合わせることに興味をもつ。 <p>★紙に切り込みを入れて、いろいろな組み合わせ方を工夫して楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ つくる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 組み合わせの方法 ・ 高く積み上げる方法 <p>2～5 思い付いた方法を基に、作品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 段ボールや牛乳パックに切り込みを入れて組み合わせ、いろいろな形をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 部品づくり ・ 組み立て <p>6 できた作品を教室に並べて、鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の作品のよさをみんなで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分との共通点、相違点 ・ 切り方、組み方の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書3・4上 P.40, 41 ・ 教科書を参考にしながら、作品について気付いたことを話し合わせる。 ・ 事前に家庭に連絡し、牛乳パック、段ボールを集めさせておく。 ・ 構想の段階で、児童の発想を理解し、表現方法を助言する。 ・ 体験させることで、段ボールや牛乳パックの特徴をつかませる。 ・ 切り込みの入れ方によって、組み合わせたときの形が変わることを知らせる。 <p>【評】段ボールや牛乳パックの組み方を試しながら作品を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周りに人がいないことを確認してから段ボールカッターを使うようにさせる。 <p>【評】段ボールや牛乳パックの特徴を生かしながら組み合わせを工夫して作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な切り方や、組み合わせ方があることに気付かせる。 <p>【評】友達の作品を見て、自分との違いや面白さを見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】友達と協力して、全身で活動を楽しんでいる様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **身近なものの形・色(鑑賞)**

配当時間 **1 時間**

単元の目標 (1) 身近な自然の形や色の感じを理解し、並べたり組み合わせたりすることができる。
(2) 身近な自然の素材から表したいことを考えることができるとともに、形や色のよさや面白さを
感じ取ることができる。
(3) つくりだす喜びを味わい、自分の見方を広げることを楽しもうとする。

標準的な展開

03080106_001

【準備等】身近な人工材（透明なプラスチック容器やペットボトルなど），自然材（木の枝，葉っぱ），は
さみ，セロハンテープ，粘着テープ，共同絵の具，など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 集めた素材の特徴を捉えて、配置の仕方や見せ方を考える。</p> <p>○ 身近にあるお気に入りの素材を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉 ・ 石 <p>○ 見付けた素材を並べる。</p> <p>○ 自分の作品や友達作品を見て、感じたことを伝え合う</p>	<p>・ 教科書 3・4 上 P. 22, 23</p> <p>・ 教科書 P. 22～23 を参考にする。</p> <p>【評】素材を集めて、形や色の感じを見付けようとする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 見付けた葉や石の色や形の違いにも気付かせたい。</p> <p>・ 素材の特徴を活かした並び方を考えさせる。</p> <p>【評】素材に対して自分なりのイメージをもって、表したいことを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連について

D - (19) 「自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。」との関連が深い
ため、自然の材料や身の回りの場所の感じに触れることで、自然のすばらしさを感じ取る活動につなげたい。

単元名 切ってかき出しくっつけて(立体)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 切り糸やかきべらを使い、様々な形の表し方を工夫して立体に表すことができる。
 (2) 切り口の形や組み合わせてできた形を基に、つくりたい物を考えるとともに、友達と作品を見せ合いながら、どのように用具を使用したかを捉え、よさや面白さを感じ取ることができる。
 (3) 粘土を切ったり、かきべらで削ったり、くっつけたりして、粘土の形を変えながらつくることを楽しもうとする。

標準的な展開例

03080201_001

【準備等】土粘土（一人に2～3kg）、粘土板、切り糸、かきべら、雑巾、霧吹き

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 粘土に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 粘土と切り糸、かきべらをつかって、いろいろな行為を試してみる。 <ul style="list-style-type: none"> 切り取る 削る 形をつくる つなげる <p>★ねん土で、いろいろな形をつくろう</p> <p>粘土のよさについて、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何度でも付け足せること いろいろな形にできること <p>2 切り糸の動かし方によってできる粘土の切り口や、かきべらの削り跡を味わいながら、自分の気に入った形にしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 試している段階で、面白いと思った形をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 切り口から発想した形 具体物（動物・植物・品物） <p>できた形を見合って楽しむ。</p> <p>3 切ったり削ったりした形を組み合わせ、その形を生かして作品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 切ったり、削ったりした形を組み合わせ、発想を広げる。 <p>いろいろな方向から見て、作品を完成させる。</p> <p>4 出来上がった作品について発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示の仕方を工夫し、みんなで鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書3・4上 P.16, 17 かきべらと切り糸を1人につき1セット用意する。 粘土が乾かないように、布巾と霧吹きを用意し、水分を調整する。 粘土を切ったり、削ったりしながら、粘土の質感を肌で確かめさせる。 実際に、教師がいろいろな形をつくると理解しやすい。 <p>【評】用具を使って、いろいろな形に粘土が変わることを楽しむ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験を通して、感じたことを自由に発言させる。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書 P.64を参考に、かきべら、切り糸の使い方を指導する。 <ul style="list-style-type: none"> 具体物をつくることにはこだわらず、切ったり削ったりした形からの発想を大切にする。 <ul style="list-style-type: none"> 接着する場合は、どべ（粘土を水でとかしたものを）を付けて、接着させる。 <p>【評】用具を使ってできる形から、面白いと思った形を考え工夫して作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品を友達同士で鑑賞し、これからどう変化させていくか、考えさせる。 作品を保管する場合は、霧吹きで水分を与えてポリ袋に入れ、乾燥しないようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 用具の使い方をいろいろ試して、できた形を活かすようにさせる。 <p>【評】切り方や、かき出し方を試し、できた形を見て、つくりたい物を考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 立体であるために、多方向から作品がどう見えるかを意識させたい。 <ul style="list-style-type: none"> 廊下などに机を並べて、その上に展示して楽しませる。 <p>【評】友達の作品を見て、その面白さや工夫を見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 あの日あの時の気持ち(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) うれしかったことやその時の気持ちが表れるように、形や色を見付け、かき方を工夫することができる。
- (2) うれしかったことやその時の気持ちを思い浮かべ、どのように表すとよいか考えるとともに、友達と作品を見ながら、表したかったことや表現のよさ、面白さを感じ取ることができる。
- (3) うれしかったことやその時の気持ちを絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

03080202_001

【準備等】画用紙、色画用紙、水彩用具一式、コンテ、クレヨン、パス、サインペン、色鉛筆など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 今までの生活の中で、うれしかったり、感動的だった場面を思い出し、絵の構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の生活を振り返り、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・花のいい香りがした ・誕生日にケーキを食べた <p>★うれしかった気持ちが伝わるように絵をかこう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○絵の構想を練り、スケッチに表す。 <ul style="list-style-type: none"> ・いつ ・どこで ・だれと ・どうした ・その時の気持ち ○スケッチを基に、画面の構成を考えて、下絵をかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・一番かきたいものの位置 ・人間の動きの様子 ・周りのものの様子 <p>2～5 表現を工夫しながら、彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現の工夫を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・混色 ・にじみ ○中心になるものの調子を整えながら、彩色する。 <ul style="list-style-type: none"> ・中心になるものの表情や色の工夫 ○全体の調子を整えながら、作品を完成する。 <p>6 友達の絵を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分がかいた作品に対する思いやそのときの気持ちを作品カードに記入する。 ○友達の作品のよさをみんなで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4上 P.24, 25 ・うれしかったり、感動したりした場面がどんな場面で、そのときの様子や気持ちはどうだったかをより具体的に思い出させ、メモを取らせるとよい。 ・スケッチの段階で、児童の絵に表したいことをとらえ、彩色などの表現方法への助言をしていく。 ・小さな説明的な絵にならないように、大きくのびのびとかかせるようにする。 <p>【評】気持ちが伝わるよう、どんな場面をかくか考え、そのときの様子が伝わるように構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下絵はスケッチを基に画面構成を考えて、かかせる。 ・自分が一番表現したいものを中心にし、そのときの表情やしぐさを大切に捉えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具の基本的な扱い方を指導する。（教科書P.58, 59参照） ・絵の具だけでなく、表したいものによって、色鉛筆やコンテ、クレヨン、パスやサインペンなどの用具を選ばせてもよい。 ・かいている途中で、自分の意図しているものが表現されているか、確認させる。 <p>【評】自分が感じた気持ちに合うように、絵の具や材料を工夫して表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の下部に作品カードを貼らせる。 <p>【評】友達と絵を見せ合いながら、表したかったことや工夫を感じ取り、絵を味わう活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連について

C - (17) 「他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。」との関連が深いため、教科書P. 25 「外国の友だちの絵」を取り上げ紹介するとよい。

単元名 ゴムゴムパワー(工作)
配当時間 6時間

- 単元の目標** (1) ゴムの動きに合う形や色を見付け、身近な材料を組み合わせて、つくり方を工夫して表現することができる。
- (2) ゴムの動きから、トコトコと動いたり、下から上にスルスル上がったたりするものを思い付き、空き箱や空き容器などを組み合わせて、どのようにつくるか考えるとともに、自分の意図や目的を話したり、友達の話の聞いたりしながら、作品の面白さやよさを見付けることができる。
- (3) ゴムで動く仕組みを基に、工作して表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

03080203_001

【準備等】 参考作品，材料（空き箱，空き容器，輪ゴム（折径6 cm ～ 14cm 程度），たこ糸，ゼムクリップ，色画用紙，化学接着剤，カラービニールテープ，包装紙，はさみ，カッターナイフ，カッターマット，のり，セロハンテープ，カラーフエルトペン，アイデアスケッチの用紙など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ゴムを使った単純なつくりのおもちゃで遊び，学習課題をつかむ。</p> <p>○ 仕組みを使って遊ぶ。</p> <p>★ ゴムの動きを生かした面白いおもちゃをつくろう</p> <p>○ 参考作品を使って遊び，楽しさを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動かし方 ・ 材料 <p>○ 持ち寄った材料の形や色などを確かめて，つくりたいものをイメージする。</p> <p>○ 動きを生かした色や形を考えて，スケッチをする。</p> <p>○ おもちゃに名前を付ける。</p> <p>2～5 仕組みを生かしておもちゃをつくる。</p> <p>○ つくりたいものに合わせて材料を選ぶ。</p> <p>○ 材料を組み合わせて，試しながらつくりたい形になるように工夫する。</p> <p>6 できたおもちゃを交換し合って遊ぶ。</p> <p>○ つくったおもちゃで友達と楽しく遊ぶ。</p> <p>○ おもちゃのよさや面白さをみんなで話し合い，発表する</p>	<p>・ 教科書 3・4 上 P. 44, 45</p> <p>・ 事前に動きのもととなる，単純なおもちゃを用意して，児童に自由に遊ばせる。</p> <p>・ 遊びを通して，ゴムの動きや動く仕組みをつかませる。</p> <p>【評】 ゴムで動く仕組みを基に，主体的に楽しもうとする活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 参考作品を提示し，その遊び方を実演して，興味をもたせるようにする。</p> <p>・ 集めた材料の形や色・質感・大きさなどを確かめさせてつくりたいものを思い付かせる。</p> <p>【評】 材料の特徴や配色を工夫し，どのようにつくるのか考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 色鉛筆で簡単に彩色させる。</p> <p>・ おもちゃに名前を付けることで，イメージをさらに具体化させる。</p> <p>・ おもちゃの動きや作品のイメージに合わせて材料を選ばせ，つくりながらさらにイメージを膨らませる。</p> <p>【評】 ゴムの動きに合う形や色を見付け，工夫してつくる活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 友達と遊ぶ中で，工夫やよさを感じ取らせる</p> <p>【評】 友達と関わりながら，動き方を比べたりどのような工夫があるのか，楽しんで見つけようとする様子を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ お互いの作品のよいところを認め合えるように鑑賞をする。</p> <p>【評】 自分の作品や友達の作品が動く様子を見ながら，そのよさや面白さを見付ける活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

他教科等との関連
理科 A (2) 「風とゴムの力の働き」との関連が深い。理科で学んだゴムの力を知識として活用し，発想を広げることができる。

単元名 ことばから形・色(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 詩や物語の好きな場面を選んで、想像した場面に合う塗り方や構図を見付け、表すことができる。
 (2) 詩や物語で想像したことから、表し方を考えるとともに、自分の作品の工夫したところや、友達作品のよさや美しさを感じ取ることができる。
 (3) 詩や物語の好きな場面の様子を想像し、絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

03080204_001

【準備等】画用紙、色画用紙、水彩用具一式、パス、サインペン、クレヨン、色鉛筆、色紙、和紙など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 今までに読んだ詩や物語の中で、ドキドキ、ワクワクした場面を思い出し、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どんな詩や物語かを思い出す。 ○出てくる人やものがどの場面で、どんな気持ちだったのかを思い出す。 ★詩や物語の中に入った気持ちになって絵をかこう。 ○スケッチをし、構想を練る。 <p>2 スケッチを基に、下絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○画面構成を考えて、下絵をかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・一番かきたいものの位置 ・周りのものの様子 ・伝えたい気持ちの表現方法 <p>3～5 自分の気持ちが表れやすいように、表現を工夫しながら、作品を完成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具…混色・にじみ・筆使い ・貼り絵 ・色鉛筆 ○中心になるものの調子を整えながらかく。 ・中心になるものの表情や色の工夫 ○全体の調子を整えながら、作品を完成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体のバランス <p>6 友達の絵を鑑賞しながら、印象に残ったことを話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品に対する思いやそのときの気持ちを作品カードに記入する。 ○友達の作品のよさを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4上 P.42, 43 ・自分がなぜ感動したのか、どんな気持ちになったのか、具体的に思い出し、メモを取らせる。 ・登場人物の気持ちが伝わるような構想を練らせるため、表情や動きに注目させる。 ・スケッチの段階で、教師は児童の思いをよく理解し、構図や表現方法などの支援をしていく。 【評】詩や物語から、思い浮かべた場面を広げて、表そうとする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・スケッチを基に、背景なども考えさせる。 ・人物の服装や背景などは、具体的な資料を用意しておくといよい。 ・自分が一番表現したい主人公を中心にして、そのときの状況を適切にとらえさせる。 ・表現をより効果的にするために強調表現や構図の工夫を助言する。 【評】自分が想像した場面を表現するためにどのようにしたらよいのか、考えながら下絵をかく活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・どこにどんな色を塗っていくのかをはっきりとイメージさせる。 ・主人公を大きく表現し、表情やしぐさなどでそのときの気持ちが伝わるように工夫させる ・かいている途中で、自分の意図しているものが表現されているか、確認させる。 【評】印象に残った場面に合わせて画用紙や描画材料を選び、塗り方や画面構成を工夫してかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・伝えたかったそのときの気持ちや思いを作品カードという形で、友達に伝えさせる。 【評】自分が作品をかいたときの気持ちや思いを伝えたり、友達の作品のよさや思いを感じ取ったりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

他教科等との関連

国語科で読んだ詩や物語を基に活動することもできる。文章を読んで自分なりの考えをまとめたり、思いを広げたりすることは、国語科の「〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)」にもつながる。

単元名 ひもひもワールド(造形遊び)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) ひものつなぎ方や結び方，空間での張り方を試し，ひもがつくる形や色の感じを見付けることができる。
- (2) ひもをつなぐ場所からイメージを広げたり，ひもをつないでできた形を確かめたりしながら，つなぎ方を考えるとともに，友達に教えたり話したりしながら，ひもの色の組み合わせや結び方が形づくる造形の面白さに気付き，感じ取ることができる。
- (3) 教室や校庭などの広い空間で体全体を使ってひもをつなぐことを楽しもうとする。

標準的な展開

03080205_001

【準備等】毛糸，梱包用のひも，はさみ，デジタルカメラなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教室で実際にひもや毛糸に触れ，その特徴を捉え，つくりたいものの構想を練る。</p> <p>★ひもをつないで，場所の様子をかえよう</p> <p>○ひもに触れたり，つなげたりして，その特徴をつかむ。</p> <p>○活動場所を選び，ひもの特徴を生かして構想を練る。</p> <p>2 構想をもとに作品をつくる。</p> <p>○ひもの色やつなぎ方を工夫して，広い場所に働きかけて空間の変化を楽しむ。</p> <p>○自分たちが工夫して形づくったものをお互いに見合い，楽しんだ活動を振り返る。</p>	<p>・教科書 3・4 上 P.52, 53</p> <p>・活動が伴うので，広い場所を確保しておく。</p> <p>・教室などの屋内で活動する場合は，ひもを結ぶ起点となるものが周囲の壁に必要となる。ない場合は，ヒートンを児童の胸辺りの高さになるように留めておく。</p> <p>【評】身近な場所にひもをつないでいく活動を楽しもうとする態度を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ひもで目をこすったり，引っかかって転んだりしないよう，注意を促す。</p> <p>【評】場所やひもの特徴を生かして，どのようにつないでいくかを考える活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・はさみで切るときには，周りの安全に十分配慮させる。</p> <p>・視点の高さや見る方向などを変えることで，見え方が異なることに気付かせ，見え方の違いを楽しんだり，そこから発想して活動を展開したりするよう促す。</p> <p>【評】ひもの色やつなぎ方など表現方法を工夫する活動を通して，「知識・技能」を評価する。</p> <p>・一番気に入ったところや工夫したところを見付け，発表させる。</p> <p>【評】友達とつくった作品を見合い，ひもの色の組み合わせや結び方が形づくる造形の面白さを話し合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 クリスタルアニマル(立体)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 思いに合う形や色を見付け、材料の組み合わせ方や切り方を工夫して表すことができる。
 (2) 光を通す材料を組み合わせながら、自分だけのオリジナルアニマルを考えるとともに、友達と作品を見合ってよさや面白さを見付け、感じ取ることができる。
 (3) 光を通す材料を組み合わせることで立体に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

03080301_001

【準備等】 光を通す透明な材料（ペットボトル・たまごパック・ゼリー容器・アイスのスプーンなど），セロハンテープ，LEDライト，色セロハン，両面テープ，透明粘着テープ，ビニルチューブ，プラスチック段ボール，はさみ，ペットボトルばさみ，きり，化学接着剤など

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 光を通す素材の組み合わせ方について興味や関心をもち作品作りの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集めた材料を見て，その特徴に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・透き通っている ・いろいろな形，色がある ★透明な材料を組み合わせることで，光が透き通る動物をつくる <p>○光を当てた材料を見て，見え方の違いや，美しさに気付く。</p> <p>○つくる計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに完成図をかく ・ワークシートに必要な材料，工夫することなどをメモする </p> <p>2～3 ペットボトルやその他の透明素材の組み合わせ方など工夫して表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ペットボトルの切り開き方を工夫して，セロハンテープなどで接合し，自分なりの形を表す。 ○その他の透明素材や身近材料を使って飾ったり，色水や油性マーカーなどを使ったりして着色する。 <p>4 光を当てて並べたオリジナルアニマルの世界を鑑賞する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達の作品と並べ方を工夫して並べ，光を当ててみる。 ○友達の作品のよさをみんなで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 3・4 上 P. 26, 27 ・事前に保護者に連絡して，材料を集めたり，児童の意欲を高めたりしておく。 ・教科書を参考にし，光を通す素材の組み合わせ方や光を当てた際の美しさや面白さになどを発表させる。 ・教科書P. 62, 63を参考にし，ペットボトルばさみなどの安全な扱い方を指導する。 ・教師がいくつかの材料に光を当てて見せ，美しさに気付かせる。 ・選んだペットボトルなどの材料を観察し，つくる見通しをもたせる。 ・ワークシートを利用してつくる計画を立てる ・計画の段階で，必要になるものを明確にして実際につくる時まで準備しておく。 ・世界に一匹だけのオリジナルアニマルをつくることを伝える。 【評】材料の特徴やよさを生かして作品の構想を練る活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 ・光が通った感じを想像しながら，自分なりの思いに応じた材料を選ぶように支援する。 【評】自分のイメージした感じに合う切り方や材料の組み合わせ方，接合の方法を工夫して使う活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・異素材を組み合わせるときの接着の仕方について，支援をする。 ・光を通した感じや，並べ方などの変化を感じ取れるような鑑賞の場を設定する。 【評】友達と作品を見合い，面白いと感じたところや工夫したところを伝え合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 ・自分だけのオリジナルアニマルについて発表させる。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 空きようきのへんしん(工作)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 容器の形、粘土の色などから、組み合わせを見付け、工夫して工作に表すことができる。
 (2) 小物入れを使う場面や、置く場所に合わせて、つくりたいものと考えるとき、できた作品を見せ合い、よさや面白さを感じ取ることができる。
 (3) 日常生活で使いたくなる小物入れを、楽しんでつくろうとする。

標準的な展開

03080302_001

【準備等】紙皿、空き容器、空き箱、紙粘土、粘土板、粘着テープ、粘土べら、水彩絵の具、ニス、セロハンテープ、ビーズ、おはじき、モールなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 つくりたいものを思い浮かべ、空き容器などを組み合わせ、粘着テープで接合する。 ○参考作品を見て、その面白さに気付く。 ★使いやすく素敵な小物入れをつくろう</p> <p>○用途を考えて、どんな小物入れをつくるか考える。</p>	<p>・教科書3・4上 P.38, 39</p> <p>・事前に空き箱、空き容器、空きトレイなどを集めておく。 ・教科書の参考作品を見て、どんな材料でつくっているかに気付かせる。 ・教科書P.39の「つくrikat」を参考に作り方を確認する。 ・芯になる空き容器を、粘着テープでしっかりと固定する。 ・実際に使う場所や用途を考えながら、美しく使いやすい作品になるよう発想を広げさせる</p> <p>【評】どこで、どのように使うのか、計画を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】実際に使うことを考えながら、使ってみよう小物入れを楽しくつくる活動を通して、「主体的に学習に取り組む能力」を評価する</p>
<p>2～3 つくりたいものに合わせて色粘土を付ける。 ○使いたい色の色粘土をつくる。</p> <p>○空き容器を包むように色粘土を付ける。 ・色の感じ ・色の組み合わせ</p>	<p>・指に絵の具を付けて、紙粘土に混ぜ、使いたい色の色粘土をつくる。 ・色粘土は乾かないようポリ袋に入れる。 ・丈夫さ、使いやすさも考えて、粘土を付けさせる。 【評】容器を組み合わせた形や、粘土を使い飾りの形や色を工夫する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>4 色粘土やその他の材料も使い、飾りなどを付ける。 ○つくった作品に飾りなどを付ける。 ・色粘土で飾る ・ビーズ、モール等の違う材料を飾る</p> <p>5 自分や友達の仕事のよいところや、実際に使った感想などを伝え合う。 ○作品を使う場面や工夫したところなどを作品カードに記入する。 ○友達の作品のよさをみんなで話し合う。</p>	<p>・様々な色や素材の組み合わせを試し、発想を広げさせる。</p> <p>・作品やカードを見やすいところに展示したり実際に作品を使ったりして楽しむ。 ・作品のよいところを伝え合うようにする。 【評】できた作品を見せ合いながら、工夫した点や面白いと感じたところを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 いろいろうつして(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 写した形や色の版の組み合わせや、材料による形や色の表し方の違いを理解し、自分が表したいことに合わせて、表し方を工夫することができる。
- (2) 材料や版をいろいろ組み合わせながら、自分が表したいものを考えるとともに、友達と作品を見せ合い、形の組み合わせや、版のよさなどをとらえることができる。
- (3) 紙版をつくったり、版を組み合わせで何枚も刷ったりして表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

03080303_001

【準備等】版画用具一式、画用紙、版画用紙、はさみ、のり、クレヨン、パス、水彩用具一式、版の材料(段ボール、梱包材、毛糸、緩衝材など)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 参考作品を見て、学習活動を知り、版をつくる。</p> <p>○教科書の参考作品をみて、学習活動をつかむ。 ★紙版画を使って、絵をかいてみよう</p> <p>○表してみたい内容や方法を決め、紙版をつくる。</p> <p>○ローラーを使った刷り方を知る。 ・ローラーの使い方 ・インクののせ方</p> <p>3～5 できた版を組み合わせたり、表したい形や色をかき加えたりして作品を完成させる。 ○版の置き方やインクの付け方を試しながら刷る。 ・同じ版でいくつも刷る。 ・向きを変えて刷る。 ・位置を変えて刷る。 ・インクの色を変えて刷る。</p> <p>○絵の具やクレヨン、パスなどを利用してかき加える。</p> <p>6 友達の作品を鑑賞し、よいところを話し合う。</p> <p>○友達の作品のよさを話し合う。</p>	<p>・教科書3・4上 P.54, 55</p> <p>・教科書の図版や参考作品を活用して、これからの活動の流れをつかませる。</p> <p>・凹凸のあるものにはどんなものがあるかを知らせ、事前に材料を集めておく。(段ボール、梱包材、毛糸、緩衝材など)</p> <p>【評】材料を組み合わせながら、表したいことを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・教師が児童を集めて刷り方を示す。</p> <p>・ローラーは回転させると均一にインクがのることを指導する。</p> <p>・版の置き方や画面の構成を考えて、表し方を工夫させる。</p> <p>・同じ版を複数回使うことで、様々な構成ができることを示し、版の置き方にも工夫をさせる。</p> <p>・エプロンを着用するなど、インクで汚れてもいいような配慮をさせる。</p> <p>【評】版の置き方を工夫しながら、自分の表したいことを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】版画の用具に慣れ、材料の特徴に気付き表し方を工夫する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】自分のイメージに合うように、表すことを楽しむ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・友達同士で作品を見合い、お互いのよさを感じ取らせる。</p> <p>・お互いの作品を交換し、作品集を作ってもよい。</p> <p>【評】自分の作品に込めた気持ちや思いを伝えたり、友達の作品のよさや思いを感じ取ったりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

図画工作科におけるプログラミング的思考の育成

紙版画では、どのような表し方をするのか、事前に完成のイメージをもたせる必要がある。表したいことに対して、材料の特徴を生かしながら、どんな材料を、どの順番で使うか、どの色を刷るのかを考えさせ、材料と版を組み合わせながら表現させる。自分が意図する活動を実現するための①分解(表したい作品を、構成する要素に分解する)②置換(要素を形や色に置き換える)③組合せ(形や色の組合せや順番を考える)④検証(組合せを検証して意図に近づける)といったことを論理的に考えていく力を育成する。その他の題材においても、上記の事柄を意識しながら学習活動を工夫し、プログラミング的思考の育成に努めたい。

参考・・・日本文教出版株式会社<http://www.nichibun-g.co.jp/>

単元名 「小さな自分」のお気に入り(造形遊び)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 見慣れた場所から、自分が楽しくなるような場所を見付け、材料を考え、つくり方を工夫することができる。
- (2) 見付けた場所がどのようにすればより楽しい場所にするのか考えるとともに、自分や友達の作品を見て、できた色や形のよさや面白さなどを感じ取ることができる。
- (3) 見慣れた場所が自分のお気に入りの場所になるように、活動を楽しもうとする。

標準的な展開例

03080304_001

【準備等】 デジタルカメラ、プリンター、ラミネーター、ラミネートフィルム、材料（画用紙、のり、はさみ、画紙、ひも、クリップ、セロハンテープ、ワークシート、サインペン、草、葉など）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 お気に入りの場所を見付け、その場所のよさや特徴に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の参考作品を見て、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・木の根が、扉みたいだね ・スポンジで、トランポリンができるね ・木の部屋ができていね <p>★「小さな自分」のお気に入りの場所を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教室や廊下、運動場に出掛け、お気に入りの場所を探す <ul style="list-style-type: none"> ・教室 ・流し ・運動場 <p>2 場所のよさを生かしたポーズで写真を撮り、「小さな自分」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○場所のよさや特徴を生かしたポーズを考え、写真撮影する。 <ul style="list-style-type: none"> ○写真をラミネートで加工したり、画用紙に貼ったりして丈夫にし、「小さな自分」をつくる。 <p>3 お気に入りの場所に、「小さな自分」を置いて、まわりを飾る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見付けた場所に「小さな自分」を設置し、必要な材料を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ○楽しい場所にするために、材料を工夫しながら飾る。 <ul style="list-style-type: none"> ○「小さな私」を移動させ、友人の場所へ遊びに行ったり遊びに来た友人と場所のよさや面白さを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 3・4 上 P. 30, 31 ・教師が「小さな自分」を試作しておく、導入時の教具となる。 ・いつも見ているものでも、見方を変えらるといつもとは違った印象を受けることに気付かせる。 ・活動場所となる教室の書棚や窓の開閉など、安全面に留意する。 ・お気に入りの場所が見つかったら、ワークシートにどのような場所をつくるかかかせる。 <p>【評】「小さな自分」を配置すると、楽しくなる場を探し、どうつくりかえるか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の写真を撮るときは、スタジオのように布やパネルで無地の背景をつくると、ポーズをつくりやすくなり、気分も盛り上がる。（背景が無地であると切り抜いたり、周りに絵などをかいたりしやすい） ・ひも、クリップ、葉、スポンジなど設置に適した材料や用具を用意しておき、児童が選ぶことができるようにしたい。必要であれば、事前に、自分で小さな「わたし」やお気に入りの場所の加工に使いたい材料を集めさせておく。 <p>【評】「小さな自分」に合う、場所に必要な材料を考え、つくり方を工夫する活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい「わたし」の目で見ると、いつもの場所もちがって見えることに気付かせたい。 <p>【評】お気に入りの場所をつくることを楽しもうとする姿を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの場所に訪問することで、友達との関わりを広げたい。 <p>【評】お気に入りの場所を紹介し合って、よさや面白さを見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 しぜんの形

配当時間 1時間

単元の目標

(3) 4年生の学習内容やめあてを知り、意欲的に活動しようとする。

標準的な展開例

04080101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書を見て、図画工作科の授業への意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の「しぜんの形」の文を読み、図画工作の授業で大切なことを話し合う。 <p>★図画工作科の授業で、やってみたいことを伝え合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の写真を見て、感じたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 石の形が面白い。 この絵は見たことがあるよ。 きれいな景色だな。 <p>○「使ってみようざいりょうと用具」を見ながら、これからの造形活動に興味をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書3・4下 P. 2～4 「しぜんの形」の文章を読ませ、第4学年の図画工作科の授業で大切なことを捉えさせる 自然界には美しいものがあることや、表現方法がたくさんあることを伝え、身近なものから芸術作品が出来上がることを伝え、今後の表現活動に対する意欲化を図る。 1年間の活動内容を知らせながら、必要となる材料についても触れておく。 目次、教科書の中を見せて、今後の意欲につなげたい。 教科書3・4下 P. 58～65を見せながら活動の見通しをもたせる。 実物を示して説明すると、分かりやすい。 <p>【評】活動を通して、1年間の学習内容を知り意欲的に活動しようとする様子から、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 絵の具でゆめもよう(絵)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 試してできた形や色の感じを見付け、模様の組み合わせ方を工夫することができる。
 (2) いろいろな表し方で、できた紙を使って表したいことを考えるとともに、自分や友達と工夫したところを見せ合い、表現のよさや面白さを感じ取ることができる。
 (3) 絵の具と用具を使って、いろいろな表し方を試し、表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

04080102_001

【準備等】画用紙（いろいろな大きさに切っておいたもの、模様の紙を貼り付けるためのA3程度のもの）
 ボール紙、段ボール、スパッタリングセット（網・ブラシ）、ストロー、スポンジ、ビー玉、水彩用具一式、はさみ、のりなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 身近な材料や用具の使い方を工夫して、いろいろな方法で紙に模様を付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 段ボールで転がしてスタンプにしている。 ストローで拭いて模様をつくっている。 恐竜の型紙をつくっている。 ビー玉で模様をつくっている。 ★絵の具を使って、いろいろな模様の紙を作ろう さまざまな技法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 段ボールなどでスタンプをする。 型紙を置いてスパッタリングをする。 身近な材料で絵の具をつける。 ビー玉で模様をつくる。 ストローで吹く。 いろいろな表し方で紙に模様を付ける。 （考えられる工夫） <ul style="list-style-type: none"> 絵の具の色を変える。 ストローを吹く向きを変える。 型紙の種類を増やす。 <p>3 できた紙を友達と見合い、工夫やよさについて話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と工夫を見合い、よさや面白さを見付ける。 つくった紙を見ながら、どんな作品ができるかを考える <p>4 つくった紙で、コラージュ（貼り絵）をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表したいものをコラージュで表す。 友達作品のよさをみんなで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> いろいろな模様の恐竜がいる。 ドラゴンの命にいろいろな色や形がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書3・4下 P. 8 どんな模様の紙があるか、教科書を参考にしながら、気付いたことを話し合わせる。 紙に模様をつける方法を実際に示す。 用具の使い方は、教師が一つずつ説明をする 材料別にコーナーを設けて、一人一人の児童が公平に選び試せるよう、たつぷりと種類別にトレイなどに分けて魅力的に配置する。 ローラー、ぼかし網、歯ブラシなどは班ごとにトレイに入れて置き、交代で使う。 用具の使い方を工夫して、いろいろな表し方を試してみるように助言する。 紙の材質、使う色、使う材料によって、様々な模様ができることに気付かせる。 【評】模様づくりの材料や技法を試し、工夫して表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 友達の表現のよさや面白さを見付けて発表させ、参考になる表現を取り入れるとよいことを伝える。 表現の思いを温められるような雰囲気をつくる。 【評】自分や友達がつくった模様を見せ合い、よさや面白さを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 紙を実際に並べながら考えるようにさせる。 実際にコラージュを行う中で、計画と変わっていくことも認めていく。 【評】つくった紙を使って、どんなものを表現できるか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 よさを認め合うような鑑賞を行う。 【評】作品のよさを認め合ったり、作品への思いを感じ取ったりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 立ち上がり！ねん土(立体)
配当時間 2時間

- 単元の目標** (1) 用具を使いながら、粘土がバランスよく立ち上がる形を見付け、工夫して立体に表すことができる。
- (2) どのようにすれば粘土が面白い形になるのか考えるとともに、自分や友達作品のよさや面白さを見付け、自分の見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 板状にした粘土を立ち上げ、いろいろな方法で形を変え、立体に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

04080103_001

【準備等】 土粘土（2kg程度）、粘土板、粘土べら、かきべら、切り糸、のし棒、新聞紙、霧吹きなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 粘土に働きかけて形が変わることを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○粘土を練っていろいろな形をつくる。 ★板状のねん土で、いろいろな形をつくろう <p>○のし棒で板状の粘土をつくる。</p> <p>のし棒の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真ん中から端へ向けて同じ力で押し伸ばす ・一度のばすごとにひっくり返して、粘土板への密着を防ぐ <p>○切り糸やかきべらを使って形を見付ける。</p> <p>○自分の思い付いた方法で粘土を立ち上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塊の粘土から ・棒状、ひも状の粘土から ・板状の粘土から <p>2 立ち上がった粘土から面白い形を考えて、つくりたいものをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○粘土を削ったり、付け加えたりしながら思い付いたものをつくる。 ○すごいなと感じた工夫を見付けて伝え合う。 ○後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4下 P.14, 15 ・汚れてもよい服装で行うようにする。 ・友達のつくる様子を見られるように小グループで向かい合うように机を配置することで、学び合える環境を準備する。 ・粘土をこねたり、丸めたり、団子をつくったりして、粘土の質感を肌で確かめさせる。 <p>途中で他の児童の作品を鑑賞させ、自分の作品づくりに生かすようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージに合うように形を変えたり、用具を使って穴を開けたりさせる。 ・できた作品をいろいろな角度から見ながら、さらに付け足したり形を変えさせたりしてもよい。 <p>【評】自分や友達作品のよさや面白さを見付け、作品に活かそうとする活動から、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくっている途中で立たせ方の違う作品を紹介し、表現の多様性に気付けるようにする。 <p>【評】切り糸、かきべら、粘土べらなど、用具によるいろいろな効果を試しながら表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】つくりながらできた形から、立ち上がりせ方や全体のバランスを工夫する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土の立ち上げ方、用具の使い方の工夫に着目し、力強さや面白さを見付けさせる。 <p>【評】自分や友達作品のよさや面白さを見付けたり感じ取ったりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道が詰まらないように、粘土のたくさんついている用具は一度バケツの中でねん土を落としてから、水道で洗う。 <p>【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 コロコロガーレ(工作)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) ビー玉が転がる仕組みを使った楽しい転がり方や仕組みに合った素材や形、色を見付け、工夫して表すことができる。
- (2) 楽しい転がり方や、いろいろな仕組みを思い付き、楽しくなるコースを考えるとともに、友達と作品を交換して遊び、よさや工夫した点などを感じとることができる。
- (3) ビー玉を転がして遊ぶ仕組みに興味をもち、楽しんでコースをつくろうとする。

標準的な展開例

04080104_001

【準備等】段ボール、ボール紙、厚紙、ビー玉、木工用接着剤、水彩用具一式、色紙、参考作品、色鉛筆、サインペン、はさみ、のり、カッターナイフなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ビー玉で遊びながら作品の構想を練り、アイデアスケッチをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ビー玉で遊び、学習課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ビー玉の転がる様子 ・ ビー玉がぶつかった時の動き ・ 作品の仕組み ・ 色や形 ★ ビー玉を使って楽しく遊ぶものをつくろう ○ ゲームが楽しく面白くなるようにいろいろな形を考えてアイデアスケッチをかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ お花のコース ・ いろいろな道の迷路 ・ 森の中のコース ○ アイデアスケッチを基に、つくる計画を立てる。 <p>2～5 計画に従って作品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ボール紙に切り抜く形をかき、それを基に形を切り抜いていく。 ○ 切り抜いたボール紙を彩色したり、組み立てたりする。 ○ 転がる様子を確認して、作品を完成する。 <p>6 自分や友達で遊び、よさを認め合う鑑賞会を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の作品の工夫を発表する。 ○ みんなの作品で遊び、よさを認め合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ もう一つのコースも用意してあるので、2度楽しめる ・ ビー玉の落ち方もたくさんあるのが分かる。 	<p>・ 教科書 3・4下 P.12, 13</p> <p>・ 参考作品を提示し、遊び方を演じたり、実際に自由に遊ばせたりして作品づくりの参考にさせる。</p> <p>・ 参考作品は、転がり方が面白いもの、色を工夫したものなど、ねらいがはっきりと分かるものを準備する。</p> <p>・ 楽しい仕組みや色、形に注目させる。</p> <p>・ アイデアスケッチを色鉛筆で簡単に着色させるとよい。</p> <p>・ 具体物や、三角形や四角形といった幾何学的な形でもよい。</p> <p>・ 実際に作品をつくる段階で、どんな材料を使うのかをスケッチに書き込ませると、今後の見通しが立てやすい。</p> <p>・ スケッチを見ながら、どんな材料が適当か、接着が可能かなど、個別に指導する。</p> <p>【評】 ビー玉の転がり方や構造を工夫して構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 具体物や、三角形や四角形といった幾何学的な形でもよい。</p> <p>・ アイデアスケッチで確認しながら、彩色をさせる。</p> <p>・ カッターナイフを安全に使えるように指導する。</p> <p>【評】 楽しい仕組みにするために、用具を正しく使い、形を工夫して、想像したコースをつくる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 自分や友達がつくったコースで楽しく遊び、よさや面白さに気付きながら活動する姿を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>【評】 作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 つなぐんぐん(造形遊び)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 材料の特徴を生かしながら、つないでできる形の感じを見付け、つなぎ方や組み合わせ方を工夫して表すことができる。
(2) 枝や棒などをつないだり、組み合わせたりして、新しい形を思いつくとともに、どんどんつないでできる形のよさや面白さを感じ取ることができる。
(3) 枝や棒などの材料を、どんどんつないでいく活動を楽しもうとする。

標準的な展開例

04080105_001

【準備等】木の枝、木の枝を縛るロープ、新聞紙、セロハンテープ、のり、割り箸、モール、輪ゴムなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 グループに分かれ、場所を生かしながら材料をどんどんつないでどんなことができそうか考える。 ○教科書の写真を参考にして、どこで、どんなことができそうかを話し合う。 ★細い材料をつないで、面白い形をつくろう</p> <p>○素材をつなぎ合わせて試しながら、大きな形を作っていく。</p> <p>2 つなぎ方や組み合わせ方を試しながら、どんどんつないでつくり、つくりかえていく。 ○他のグループの作品を鑑賞する。</p> <p>○できた形を組み合わせたり、並べたりしながら、作品を完成させる。 ・作品の中から見ても面白そうだね。 ・こんなに大きく高くできるんだね。</p>	<p>・教科書 3・4下 P. 24, 25</p> <p>・事前に、木の枝・新聞紙・割り箸などの素材を使うのかグループごとで決め、材料を集めておく。各学校の実態に応じてクラスで同じ素材を扱ってもよい。 ・グループで協力し、話し合いながら計画を立てるようにさせる。 【評】友達と協力して、主体的に計画する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・活動の過程で教科書を見て、場所を意識した表現の具体例を示したり、児童の試しているつなぎかたや面白い組み合わせ方の工夫などを紹介したりして、活動がなかなか広がらない児童がイメージをもちやすいようにする。 【評】素材に合うつなぎ方を見付け、工夫してつなぎ合わせていく活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・交代では他のグループの活動を見て回り、それぞれの形や活動のよさや面白さにふれさせる。 【評】友達の作品を参考にして、よいところや面白いところを取り入れながら制作する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・平面的にならないように、様々な方向から見ながら活動するように声かけをする。 【評】様々なつなぎ方や組み合わせ方を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 わすれられない気持ち(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 表したい場面や気持ちに合う形や色を見付け、用具や材料の使い方や表現方法を工夫することができる。
- (2) 心に残っている場面を思い出し、気持ちに合った形や色・表し方を考えるとともに、友達と絵を見せ合いながら、表したい様子やその時の気持ち、表し方の工夫について話し合い、感じ取ることができる。
- (3) 生活の中で心に残った場面やその時の気持ちを、絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

04080106_001

【準備等】画用紙、色画用紙、パス、水彩用具一式、クレヨン、色鉛筆、サインペン、デジタルカメラなど

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 今までの生活の中で、心に深く残っていることを思い起こして、そのときの気持ちを発表し、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活を振り返り、心に深く残っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・どこで…学校や家 ・だれと…友達、上級生、下級生 ・どんなことを…ドッジボール、遠足 ・どんな気持ち…楽しい、うれしい ★心に残っていることを絵で表そう <ul style="list-style-type: none"> ○スケッチを数枚かいて、構想を練る。 <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なスケッチ <p>2～5 スケッチを基に、表現する計画を立て、工夫しながら絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スケッチの中から一つに決めて、友達に人物の動きのポーズをとってもらい、表現の参考にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・人の動き ・表情 ○スケッチを基に、下絵を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・人物 ・周りの様子 ○工夫しながら色を塗る。 <ul style="list-style-type: none"> ・水の量 ・筆づかい ・混色 ・重色 ○全体の色の調子を整えながら、作品を完成する。 <p>6 印象に残ったことを話し合い、友達の作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いをみんなの前で発表する。 ○友達の作品のよさをみんなで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・暑い中、剣道の練習をがんばっていることが伝わる。 ・静かにじっと水墨画を眺めていて、いろいろ考えているよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4下 P.26, 27 ・普段の生活の様子を話し、具体的にイメージができるようにする。 ・具体的な様子が分からない児童は、文章や写真で表現することで、イメージを明確にさせてもよい。 ・自分が大きくかけているものや周りの様子がよく分かるものを選ばせる。 ・スケッチの段階で、教師は児童の思いをよく理解し、表現の工夫の支援をする。 【評】表したい様子を思い出し、どのように表現すればよいのか工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・友達にモデルをやってもらうことにより、人の動きをとらえさせる。 ・デジタルカメラでポーズを撮影して、絵の資料としてもよい。 ・自分が一番表現したいものを中心にして、そのときの表情や動きを捉えさせる。 ・表現の方法については、水彩絵の具だけにこだわらずに、クレヨンや色鉛筆を使うなど、いろいろなかき方を認めていく。 【評】表したい様子に合わせて、形や色を工夫する活動を通して、「知識・技能」を評価する ・テーマ別に並べるなど展示を工夫する。 【評】自分や友達の作品の表したい様子や気持ちを感じながら、表し方の工夫を見付け、絵を味わう活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連について

C - (17) 「他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。」との関連が深いため、教科書P. 27「外国の友だちの絵」を取り上げ紹介するとよい。

単元名 (旧)見つけたよ ためしたよ(オリエンテーション)

配当時間 1時間

単元の目標

(3) 4年生の学習内容やめあてを知り、意欲的に活動しようとする。

標準的な展開例

04080107_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書の写真を見て、図画工作の授業への意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の「見つけたよためしたよ」の文を読み、図画工作の授業で大切なことを話し合う。 ★図画工作の授業で、やってみたいことを伝え合おう ○教科書の写真を見て、感じたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな表現方法や材料がある。 ・みんな真剣で楽しそう。 ・自分もつくってみたい。 ○「使ってみようざいりょうと用具」を見ながら、これらの造形活動に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4下 P. 6, 7 ・「見つめて広げて」の文章を読ませ、第4学年の図画工作の授業で大切なことをとらえさせる。 ・写真の活動の様子が、4年生で取り組む単元であることを伝え、今後の表現活動に対する意欲化を図る。 ・1年間の活動内容を知らせながら、必要となる材料についても触れておく。 ・教科書3・4下 P. 52～57 ・実物を示して説明すると、分かりやすい。 <p>【評】活動を通して、1年間の学習内容を知り意欲的に活動しようとする「関心・意欲・態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 (旧)絵の具でゆめもよう(絵)

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 色を重ねたり、絵の具を混ぜたりするなど、いろいろ試しながら、表し方や、模様の組み合わせ方を工夫することができる。
 (2) いろいろな表し方でできる形や色、組み合わせや、できた紙を使って表すことなどを考えることができる。
 自分や友達と工夫したところを見せ合い、よさや面白さを感じ取ることができる
 (3) 絵の具でいろいろな表し方を試し、表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

04080108_001

【準備等】画用紙 (いろいろな大きさに切っておいたもの、模様の紙を貼り付けるためのA3程度のもの)
 ボール紙、段ボール、マーブリングセット、ローラー、トレイ、ぼかし網、歯ブラシ、ストロー
 ビー玉、水彩用具一式、はさみ、のり

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 身近な材料や用具の使い方を工夫して、いろいろな方法で紙に模様を付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品をみて、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> いろいろな模様の紙がある 模様をつける道具がたくさんある ★絵の具を使って、いろいろな模様の紙を作ろう さまざまな技法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 段ボールなどでスタンプをする 型紙を置いてスパッタリングをする 身近な材料で絵の具をつける マーブリング <p>○いろいろな方法で紙に模様を付ける。</p> <p>3 できた紙を友達と見合い、工夫やよさについて話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と工夫を見合い、よさや面白さを見付ける。 <p>○集めた紙を見ながら、どんな作品ができるかを考える。</p> <p>4 集めた紙で、コラージュ (貼り絵) をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画に従い、表したいものをコラージュで表す。 ○友達の作品のよさをみんなで話し合う。(言語活動) 	<p>・教科書3・4下 P. 8</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな模様の紙があるか、教科書を参考にしながら、気付いたことを話し合わせる。 事前にスタンプや描画材に使いたいものを集めておくようにする。 紙に模様をつける方法を実際に示す。 画用紙コーナーを設けて種類別に積み、児童が好きなものを選べるようにしておく。 身近な材料コーナーを設けて、一人一人の児童が公平に選び試せるよう、たつぷりと種類別にトレイなどに分けて魅力的に配置する。 ローラー、ぼかし網、歯ブラシなどは班ごとにトレイに入れて置き、交代で使う。 マーブリングコーナーは流しにバットを置き順番に試せるようにする。 身近な材料や用具の使い方を工夫して、いろいろな方法を試してみるように助言する。 紙の材質、使う色、使う材料によって、さまざまな模様ができることに気付かせる。 <p>【評】模様づくりの材料や技法を試す活動を通して、「発想や構想の能力」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の表現のよさや面白さを見付けて発表させる。 表現の思いを温めるような雰囲気をつくる。 紙を実際に並べながら考えるようにさせる。 実際にコラージュを行う中で、計画と変わってくることも認めていく。 よさを認め合うような鑑賞を行う。 <p>【評】作品のよさを認め合ったり、作品への思いを感じ取ったりする活動を通して、「鑑賞の能力」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 (旧)立ち上げ！ねん土(立体)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 板状にした粘土を立ち上げ、いろいろな方法で形を変え立体に表すことを楽しもうとする。
 (2) 板や棒状の粘土をバランスよく立てる方法を試し、生まれた形からつくりたいものを思い付くことができる。
 自分や友達の作品のよさや面白さを見付けることができる。
 (3) 粘土の立たせ方や切り糸やかきべらなど用具の使い方を工夫することができる。

標準的な展開例

04080109_001

【準備等】土粘土（2kg程度）、粘土板、粘土べら、かきべら、切り糸、のし棒、新聞紙、霧吹き、汚れてもよい服

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 粘土に働きかけて形が変わることを楽しむ。</p> <p>○粘土を練っていろいろな形を作る。</p> <p>★板状のねん土で、いろいろな形をつくろう</p> <p>○のし棒で板状の粘土をつくる。</p> <p>のし棒の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真ん中から端へ向けて同じ力で押し伸ばす。 ・一度のばすごとにひっくり返して、粘土板への密着を防ぐ。 <p>○切り糸やかきべらを使って形を見付ける。</p> <p>○自分の思いついた方法で粘土を立ち上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塊の粘土から ・棒状、ひも状の粘土から ・板状の粘土から <p>2 立ち上がった粘土から面白い形を考えて、つくりたいものをつくる。</p> <p>○粘土を削ったり、付け加えたりしながら思いついたものをつくる。</p> <p>○すごいなと感じた工夫を見付けて伝え合う。（言語活動）</p> <p>○後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4下 P.12・13 ・汚れてもよい服装で行うようにする。 ・友達をつくる様子を見られるように小グループで向かい合うように机を配置することで、学び合える環境を準備する。 ・粘土をこねたり、丸めたり、団子をつくったりして、粘土の質感を肌で確かめさせる。 ・途中で他の児童の作品を鑑賞させ、自分の作品づくりに生かすようにさせる。 ・自分のイメージに合うように形を変えたり、用具を使って穴を開けたりさせる。 ・できた作品をいろいろな角度から見ながら、さらに付け足したり形を変えさせたりしてもよい。 ・つくっている途中で立たせ方の違う作品を紹介し、表現の多様性に気付けるようにする。 <p>【評】切り糸、かきべら、粘土べらなど、用具によるいろいろな効果を試しながら表す活動を通して、「創造的な技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土の立ち上げ方、用具の使い方の工夫に着目し、力強さや面白さを見付けさせる。 ・水道が詰まらないように、粘土のたくさんついている用具は一度バケツの中でねん土を落としてから、水道で洗う。

【 備 考 】

単元名 (旧)コロコロガーレ(工作)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) ビー玉が転がる仕組みを使った楽しい転がり方や仕組みに合った材料を考え、扱い方を工夫することができる。
(2) 楽しい転がり方や、いろいろな仕組みを思い付き、全体の形や飾りを考えることができる。

作品を交換して遊び、作品のよさや工夫した点などを感じたり、お互いに確かめ合ったりすることができる。

(3) ビー玉を転がして遊ぶ仕組みに興味をもち、楽しい仕組みをつくることに取り組もうとする。

標準的な展開例

04080110_001

【準備等】 段ボール、ボール紙、厚紙、ビー玉、木工用接着剤、水彩用具一式、色紙、参考作品、色鉛筆、サインペン、はさみ、のり、カッターナイフ、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ビー玉で遊びながら作品の構想を練り、アイデアスケッチをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ビー玉で遊び、学習課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ビー玉の転がる様子 ・ ビー玉がぶつかった時の動き ・ 作品の仕組み ・ 色や形 <p>★ ビー玉を使って楽しく遊べるものをつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゲームが楽しく面白くなるような色々な形を考えて、アイデアスケッチをかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ おかしのおしろ ・ いろいろな道のめいろ ○ アイデアスケッチを基に、つくる計画を立てる。 <p>2～5 計画に従って作品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ボール紙に切り抜く形をかき、それを基に形を切り抜いていく。 ○ 切り抜いたボール紙を彩色したり、組み立てたりする。 ○ 転がる様子を確認して、作品を完成する。 <p>6 自分や友達の作品で遊び、よさを認め合う鑑賞会を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の作品の工夫を発表する。(言語活動) ○ みんなの作品で遊び、よさを認め合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 3・4 下 P.14, 15 ・ 参考作品を提示し、遊び方を演じたり、実際に自由に遊ばせたりして作品づくりの参考にさせる。 ・ 参考作品は、転がり方が面白いもの、色を工夫したものなど、ねらいがはっきりと分かるものを準備する。 ・ 楽しい仕組みや色、形に注目させる。 ・ アイデアスケッチを色鉛筆で簡単に着色させるとよい。 ・ 具体物や、三角形や四角形といった幾何学的な形でもよい。 <p>【評】 ビー玉の転がり方や構造を工夫して構想を練る活動を通して、「発想や構想の能力」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に作品をつくる段階で、どんな材料を使うのかをスケッチに書き込ませると、今後の見通しが立てやすい。 ・ スケッチを見ながら、どんな材料が適当か、接着が可能かなど、個別に指導する。 ・ 具体物や、三角形や四角形といった幾何学的な形でもよい。 ・ アイデアスケッチで確認しながら、彩色をさせる。 ・ カッターナイフを安全に使えるように指導する。 <p>【評】 楽しい仕組みにするために、カッターナイフやはさみを安全に使用して、計画通りに組み立てる活動を通して、「創造的な技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

<参考URL>

接着剤 4年¥図画工作¥Doc¥図画工作科用語集.jtd

単元名	(旧)つなぐんぐん(造形遊び)	配当時間	2時間
単元の目標	(1) 手などの感覚を十分に働かせ、材料の特徴を生かしながら、つなぎ方や組み合わせ方を工夫することができる。 (2) 場所を考えながら、新聞紙の棒をつないだり、組み合わせたりしてできる面白い形を思い付くことができる。 (3) 新聞紙の棒をつないでできる形のよさや面白さ、友達の表現の面白さを感じ取るることができる。 (4) 新聞紙の棒をつないだり、組み合わせたりする活動に興味をもって取り組もうとする。		

標準的な展開例

04080111_001

【準備等】新聞紙、セロハンテープ、のり

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 グループに分かれて、場所を生かして、材料をどんどんつないでどんなことができそうか考える。</p> <p>○教科書の写真を参考にして、どこで、どんなことができそうかを話し合う。(言語活動)</p> <p>★新聞紙の棒をつないで、面白い形をつくろう</p> <p>○実際に新聞紙をつなぎ合わせて試しながら、大きな形を作っていく。</p> <p>2 つなぎ方や組み合わせ方を試しながら、どんどんつないでつくり、つくりかえていく。</p> <p>○他のグループの作品を鑑賞する。</p> <p>○できた形を組み合わせたり、並べたりしながら、作品を完成させる。</p>	<p>・教科書 3・4下 P. 26, 27</p> <p>・各校の実情に合わせて、新聞紙以外にも、木の枝、割り箸等を使用する展開にしてもよい</p> <p>・グループで協力し、話し合いながら計画を立てるようにさせる。</p> <p>【評】新聞紙の棒をつないだり組み合わせたりする活動に関心をもち、形や空間から感じられるイメージを友達と協力しながら楽しむ活動を通して、「造形への関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>・活動の過程で教科書を見て、場所を意識した表現の具体例を示したり、児童の試しているつなぎかたや面白い組み合わせ方の工夫などを紹介したりして、活動がなかなか広がらない児童がイメージをもちやすいようにする。</p> <p>・交代でほかのグループの活動を見て回り、形や活動のイメージをとらえる。</p> <p>・平面的にならないように、さまざまな方向から見ながら活動するように声かけをする。</p> <p>【評】新聞紙の棒をつなぐ活動を通して、形の面白さに気付いたり、場所の特徴を意識しながら、様々なつなぎ方や組み合わせ方を工夫したりする活動を通して、「創造的な技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 (旧)わすれられないあの時(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) その時の気持ちが伝わるように、材料や用具の使い方を工夫することができる。
 (2) 心に残ったことの様子を思い出しながら絵に表したい場面を考えることができる。
 友達と絵
 を見せ合いながら、表したかった場面やその時の気持ち、表し方の工夫について話し合い、感じ
 取ることができる。
 (3) 生活の中で心に残った場面やその時の気持ちを楽しみながら絵に表そうとする。

標準的な展開例

04080112_001

【準備等】画用紙、色画用紙、パス、水彩用具一式、クレヨン、色鉛筆、サインペン、デジタルカメラ

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 今までの生活の中で、心に深く残っていることを思い起こして、そのときの気持ちを発表し、構想を練る。</p> <p>○生活を振り返り、心に深く残っていることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこで…学校や家 ・だれと…友達、上級生、下級生 ・どんなことを…ドッジボール、遠足 ・どんな気持ち…楽しい、うれしい <p>★心に残っていることを絵で表そう</p> <p>○スケッチを数枚かいて、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なスケッチ <p>2～5 スケッチを基に、表現する計画を立て、工夫しながら絵をかく。</p> <p>○スケッチの中から一つに決めて、友達に人物の動きのポーズをとってもらい、表現の参考にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の動き ・表情 <p>○スケッチを基に、下絵を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物 ・周りの様子 <p>○工夫しながら色をぬる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の量 ・筆づかい ・混色 ・重色 <p>○全体の色の調子を整えながら、作品を完成する。</p> <p>6 印象に残ったことを話し合い、友達の作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いをみんなの前で発表する。(言語活動) ○友達の作品のよさをみんなで話し合う。(言語活動) 	<p>・教科書3・4下 P.24, 25</p> <p>・普段の生活の様子を話し、具体的にイメージができるようにする。</p> <p>・具体的な様子が分からない児童は、文章で表現することで、イメージを明確にさせてもよい。</p> <p>【評】心に残っている生活場面を思い起こす活動を通して、「造形への関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>・自分が大きくかけているものや周りの様子がよく分かるものを選ばせる。</p> <p>・スケッチの段階で、教師は児童の思いをよく理解し、表現の工夫の支援をする。</p> <p>・友達にモデルをやってもらうことにより、人の動きをとらえさせる。</p> <p>・デジタルカメラでポーズを撮影して、絵の資料としてもよい。</p> <p>・自分が一番表現したいものを中心にして、そのときの表情や動きをとらえさせる。</p> <p>・表現の方法については、水彩絵の具だけにこだわらずに、クレヨンや色鉛筆を使うなど、いろいろなかき方を認めていく。</p> <p>【評】表現方法を工夫し、用途に合わせて描画材料を組み合わせる活動を通して、「創造的な技能」を評価する。</p> <p>・テーマ別に並べるなど展示を工夫する。</p>

【 備 考 】

単元名 元気のおまもり(立体)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 元気が出る形に合った、形や色を見付け工夫して表すことができる。
 (2) 形や色の感じ、それらの組み合わせを考え、自分がイメージした「元気のおまもり」を考えるとともに、自分や友達作品のよさや面白さ、工夫などを感じ取り自分の見方や考え方を広げることができる。
 (3) 自分や周りの人が元気になれるような形をつくり出す活動に、主体的に取り組もうとする。

標準的な展開例

04080201_001

【準備等】紙粘土、粘土板、へら、水彩絵の具など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 自分やみんなの元気が出るような形や色を考える。 ○ 元気な時と元気がない時について話し合う。 ・ 花を見ると元気が出る。 ・ 友達と遊んでいると元気になる。 ○ 作品を見て、気付いたことを話し合う。 ・ キノコから元気をもらっている。 ・ 心のねじで、自分の気持ちを表している。 ・ 海の花は見ていると、心が落ち着く。 ★ 元気がでる形をつくろう 2 話し合ったことから、元気が出るような形や色を考える ○ 形の構想を練り、アイデアスケッチに表す。 3～4 紙粘土で形をつくる。色を塗ったり、様々な材料を組み合わせて、自分の想像した世界を立体に表す。 ○ 表現を工夫しながら、紙粘土で表現し、彩色する。 5 作品を友達と見合い、話し合う。 ○ 自分がイメージした「元気のおまもり」を発表し、共有する。	・ 教科書 3・4 下 P.30, 31 ・ 教科書の作品を参考に話し合う。 【評】 元気が出る形はどのようなものか主体的に話し合う活動から、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ アイデアスケッチの段階で、児童の表したい「元気のおまもり」の形を考えさせ、彩色などの表現方法も考えさせる。 【評】 「元気のおまもり」の形を自分なりに考え、工夫して絵に表す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 自分が表現したい形に近づけるには、どのように形や色を工夫するとよいのか考えさせる ・ 紙粘土の基本的な扱い方、水彩絵の具の使い方を確認する。 【評】 表したい形になるように、形や色を工夫する活動から、「知識・技能」を評価する。 ・ 元気が出る形は人によって違うことを確認する。 【評】 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、工夫などに気付き、自分の見方や考え方を広げていく活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連について

A-(4)「自分の成長に気付き、長所を伸ばすこと。」と関連が深い。自分がどういうときに元気が出るのか、といったことを見つめながら表現したことを、道徳の学習につなげたい。

単元名 ポーズのひみつ(鑑賞)

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 美術作品にかかっている形や色に注目して、形や色の感じを理解することができる。
(2) 美術作品のポーズに注目して、造形的なよさや面白さを感じ取り、表したいことや表し方などを自分なりに考えることができる。
(3) 美術作品のポーズに注目して、主体的に学習に取り組もうとする。

標準的な展開例

04080202_001

【準備等】美術作品の図版、ラミネート、便せんなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 作品のよさや面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書を見て、活動への興味と見通しをもつ。 ★美術作品のよさや面白さを味わおう ○作品を鑑賞し、登場人物はどのような気持ちなのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物に手紙を書く。 ・作品をラミネートして気持ちを書き込む。 ・気付いたことを付箋に貼る。 ・同じポーズをする。 ○考えたことを発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの先生と生徒なのかな。 ・顔が怒っているように見える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 3・4 下 P. 52, 53 ・美術作品を鑑賞して、作品から受ける感じを考えさせる。 ・児童の実態に合わせて、鑑賞の方法を選ぶとよい。 ・美術作品の中の登場人物のポーズや服装などのディテールに特徴のある美術作品、感情が読み取りやすい美術作品を選ぶとよい。 【評】登場人物の気持ちをポーズやディテールから自分なりに考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】美術作品にかかっている形や色が持つ感じを理解し、作品を鑑賞する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・同じ作品でも人によって様々な捉え方があることに気付かせたい。 【評】話し合ったり、ポーズを真似したりしながら作品のよさや面白さを味わう活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】友達の発表を意欲的に聞いたり、主体的に話し合う様子から「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連

D- (20) 「美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。」との関連が深いため、美術作品を見て感じたことや考えたことを話し合う中で、美しいものに触れる機会にもつなげたい。

単元名 言葉から形・色(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 詩や物語の好きな場面の様子を想像し、表したいことに合う形や色などを見付け、工夫して表現することができる。
- (2) 心に残った場面の様子や自分の気持ちに合わせて、どのように絵に表現するか考えるとともに作品を友達と見せ合って話し合い、共通点や相違点、表現の工夫などをとらえることができる。
- (3) 物語の好きな場面の様子を想像し、工夫しながら絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

04080203_001

【準備等】画用紙、色画用紙、色鉛筆、クレヨン、パス、水彩用具一式など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 今までに読んだ本の中で、感動した場面を思い出し、作品の構想を練る。</p> <p>○話の内容を思い出す。</p> <p>○主人公がどんな場面のとき、どんな気持ちだったのかを発表する。</p> <p>★主人公になって、想像したことを絵にかいてみよう</p> <p>○スケッチをし、構想を練る。</p> <p>2 スケッチを基に、画面の組み立てを工夫して、下絵をかく。</p> <p>○画面構成を考えて下絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番かきたいものの様子 ・周りのものの様子 <p>3～5 主人公の気持ちを表すことができる表現を工夫しながら、彩色する。</p> <p>○彩色を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・混色 ・重色 ・筆づかい <p>○中心になるものの調子を整えながら、彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表情の工夫 ・色の工夫 <p>○全体の調子を整えながら、作品を完成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の形や色のバランス <p>6 印象に残ったことを話し合い、友達の作品を鑑賞する。</p> <p>○作品を紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まどに浮かぶ影に驚いてあわてている様子がよく分かるように、部屋の中をめちゃくちゃに散らかしているようにした。 ・夕日がしずむ光景が好きなので、絵に取り入れた。自分が飛行機をつくったらこんな風景の中を飛んでみたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4下 P. 44, 45 ・ふだんの生活の中から本を読む習慣を身に付けさせておく。 ・教師が感動し、心に残っている本の話をする ・効果的で、意欲化につながる。 ・自分がなぜ感動したのか、どんな気持ちになったのか、具体的に思い出させる。 ・主人公となった自分の気持ちが伝わるような構想を練る。 ・どこにどんな色を塗っていくのかをスケッチに色を塗らせるなどして、イメージさせる。 ・児童のかく場面を理解し、構図や表現の工夫など、今後の支援に役立てる。 ・下絵はスケッチを基に画面構成を考えてかかせる。 <p>【評】想像したことを表現するには、どのような構図にしたらいのか考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは水彩で行っているが、はり絵やクレヨン、色鉛筆などを活用してもよい。 <p>【評】思いを表現するために描画材料や筆づかい、色の特徴を見付けてかく活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体と部分の調子を感じ取らせながら、隣同士の色つながりについても考えさせる。 ・途中で、自分の意図しているものが表現されているか、確認させる。 ・伝えたかったそのときの気持ちや思いを本の紹介という形で、友達に伝えさせる。 <p>【評】友達の作品に込められた思いを感じ取り紹介し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

他教科等との関連

国語科で読んだ詩や物語を基に活動することもできる。文章を読んで自分なりの考えをまとめたり、思いを広げたりすることは国語科の「〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)」にもつながる。

単元名 カードでつたえる気持ち(工作)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 飛び出す仕組みを使って、伝えたい気持ちに合った仕組みや色を見付け、工夫してカードをつることができる。
- (2) 飛び出す仕組みを動かしながら、気持ちをどのように表すのか考えるとともに、友達の作品のよさを取り入れたり、お互いの作品のよさを感じ取ったりすることができる。
- (3) 飛び出す仕組みを使ったカードづくりに楽しんで取り組もうとする。

標準的な展開例

04080204_001

【準備等】画用紙、色画用紙、サインペン、クレヨン、水彩用具一式、色鉛筆、はさみ、カッター、カッターマット、のり、身辺材料(布、糸、綿、モール)など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 参考作品を見ながら、カードの面白さや仕組みの不思議さを感じて、これからつくる作品の構想を練る。</p> <p>○参考作品を見て、その面白さに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配色 ・コラージュ ・開いたときの飛び出す仕組み <p>★飛び出す仕組みを使って、素敵なカードをつくろう</p> <p>○どんなカードをつくるか考え、作品の構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バースデーカード ・クリスマスカード ・招待状 <p>2 開くと飛び出す仕組みを理解し、カードの図柄を考える</p> <p>○カードの工夫を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り込みを入れる。 ・他の紙を折って入れる。 ・違う素材を使う。 <p>○カードの仕組みや図柄を考える。</p> <p>○つくる計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備するもの ・カードの利用方法 <p>3～5 計画に従って、表現方法を工夫しながら、つくる。</p> <p>○楽しい仕組みを取り入れて、作品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕組み ・彩 色 ・飾 り <p>○全体の調子を整えながら、作品を完成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飾り ・仕組み <p>6 友達の作品を鑑賞し、よいところを伝え合う。</p> <p>○友達と作品を交換しながら、カードを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恐竜の骨が飛び出すようになっていて面白い。 ・このカードをもらったら、きっとお母さんは嬉しいね 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4下 P.42, 43 ・教科書の作品や教師の参考作品を使ってどんなメッセージを伝えようとしたのかを説明しながら、カードの面白さを理解させる。 ・面白いところはどこかを発表させ、意欲化を図る。 ・色や文字の部分にまで、視点を広げさせる。 ・誰にどんなカードを送りたいか考えさせる。 ・もらったときの気持ちについて想像し、どんな作品にすればよいかを改めて考えさせる。 ・簡単な仕組みをつくる過程を全員の前で見せることができればより効果的である。 ・示したもの以外にも、いろいろな工夫ができることを知らせる。 ・目的に合った仕組みを選ばせるようにする。 ・簡単なメモでよいが、準備するものまで考えさせる。 ・余っている画用紙などで仕組みをつくり、試してみるとよい。 ・各自の計画を確認しておく。 ・仕組みだけは事前に組み立てて、動くかどうか確認させる。 【評】開くと飛び出す仕組みを理解し、伝えたい気持ちに合った形や色を見付け、工夫してつくる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】気持ちを表すために、どのような仕組みがよいか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ペア学級などに届けるようにしてもよい。 【評】自分や友達の作品のよさや面白さ、表し方の工夫などについて、感じ取り自分の見方を広げる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連について
 B－(6)「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」との関連が深いため、道徳の学習の後に、本題材に取り組むことも考えられる。

他教科等との関連
 算数科B「図形」の平行や垂直、立体の見取り図などの学習との関連が考えられる。

単元名 ギコギコ トントン クリエイター(工作)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 用具を安全に使い、木の形や色の感じの造形的なよさを生かして、工夫してつくることができる。
 (2) 木や板を切って組み合わせてできる形から、生活で使える物をイメージし、つくりたいものをつくるとともに、自分と友達の作品を見て、表し方のよさや面白さなど表現の工夫をとらえることができる。
 (3) 木を切ったり、組み合わせたりすることで、生活に使えるものをつくることを楽しもうとする

標準的な展開

04080205_001

【準備等】木切れ、板材、のこぎり、金づち、釘、クランプ、万力、木工用接着剤、水彩用具一式など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 のこぎりの安全な使い方を学び、正しく使って木を切る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の作品を見て、学習課題をつかむ。 ★木切れや板をのこぎりで切って、組み合わせたりくぎでつないだりして、生活で使える物をつくろう ○のこぎりの安全な使い方を知る。 ○グループになって、順番に木を切る。 <p>2～5 切った木を組み合わせて、つくりたいものを考え、つくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○つくりたいものを考え、アイデアスケッチをかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝言メモ ・カレンダー ・写真立て ○必要な、材料をのこぎりで切る。(前時までに切った木で足りない分や追加する分を切るようにする。) ○材料を着色する。 ○金づちと釘を使って材料を組み合わせ、作品を完成させる。 <p>6 作品を鑑賞し、よいところを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品カードに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・工夫したところ ・見てほしいところ ○友達の作品を鑑賞し、よいところを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・細かく切った木をつなげてラクダに見たてている所が面白い。 ・細かい形を組み合わせて、1つの形らしく見えるようにしている所がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4下 P.18, 19 ・事前に材料を十分に集めておく。 ・教科書P.60, 61の「のこぎりで木を切ろう」を見ながら安全な使い方を指導する。 ・児童一人一人が、木を切ることができる時間を十分にとる。 【評】のこぎりの安全な使い方を知り、学んだ知識を基に木を切る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】切った木を組み合わせたたり、つないだりして、自分の生活を楽しく豊かにするもの思い付き、どのようにするか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・のこぎりで木を切るときは、木をしっかり押さえる。押さえにくい場合はクランプや万力を使用する。 ・材料を彩色する場合は、この段階で水彩絵の具を使って着色する。 ・絵の具の発色がよくなるように、水を少なめにするとよい。 ・金づちの使い方については前学年で学習しているが、安全面について再度指導するとよい。 ・道具の片付け方を指導する。 【評】形や色の感じを見付け、工夫してつくる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・友達と作品を見せ合い、いろいろな表し方、木のつなぎ方による感じの違いなどを話し合わせる。 【評】自分や友達の作品のよさや面白さを見付け、話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 (旧)トトロ、カチコチ・ワールド(立体)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 材料を切ってつないだり組み合わせたりいろいろ試しながら、表し方を工夫することができる
(2) 自分の表したい世界を思い付き、液体粘土や他の材料を生かして、形や色、組み合わせなどを考えることができる。
自分の気持ちを話したり、友達の話の聞いたりしながら、作品の共通点や相違点、表現をとらえることができる。
(3) 自分の想像した世界を液体粘土で表す活動を楽しもうとする。

標準的な展開例

04080206_001

【準備等】液体粘土、凹凸をつくりだすための材料（例 空き缶、空瓶、木切れ、空容器など）、バット（容器）、タオル（布）、段ボールカッター、水彩絵の具、雑巾、バケツ、木工用接着剤、化学接着剤、綿、ビーズ、段ボールなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の作品を見て、活動イメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品を見て、気づいたことや、感じたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ケーキの色や形が本物みたいに見える。 布がおもしろい形に固まっている。 布が柔らかそうに見えたり、堅そうに見えたりする。 ★自分の想像した世界を液体粘土で表そう 液体粘土の特徴や扱い方を知る。 <p>2 材料の組み合わせ方や布のしわの様子などを試しながら自分の想像した世界に合う形や感じにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き缶などの容器にかぶせる。 材料を組み合わせながら固める。 <p>3～4 固まった形に、色をぬったり、様々な材料を組み合わせたりして、自分の想像した世界を立体に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 固まった布を絵の具で着色する。 様々な材料を組み合わせながら飾る。 <p>5 作品を友達と見合い、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の作品のよさを話し合う。（言語活動） 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 3・4 下 P. 28, 29 教科書の挿し絵を基に、布に液体粘土を浸す手順点や注意点など、活動のイメージをもてるようにする。 液体粘土は広い容器に入れて布に浸すとよい <p>【評】液体粘土の感触や質感を楽しむ活動を通して、「造形への関心・意欲・態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 布を水に浸して軽く絞ってから液体粘土に浸すようにさせる。 作品を移動させることができるよう、個人用の段ボール等を用意し、活動するようにする <p>【評】自分の表したい世界を思い付き、液体粘土や他の材料の特徴を生かして思いに合う形や色、組み合わせなどを考える活動を通して「発想や構想の能力」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの想像した世界とそれに合う形や色、材料の組み合わせ方、面白さや、感じの違いなどについて気付かせるようにする。

【 備 考 】

単元名 (旧)からだでかんしょう(鑑賞)

配当時間

1時間

- 単元の目標 (1) 作品や作品から受けた感じを表すために、体の使い方を工夫することができる。
 (2) 作品の特徴を見付け、表したい形を考えることができる。
 作品を真似るために作品の特徴をとらえたり、体で味わって気付いたことや面白さを友達に伝えたり、感じ取ったりすることができる。
 (3) 体を使って作品のよさを感じる楽しさを味わおうとする。

標準的な展開例

04080207_001

【準備等】美術作品の図版、デジタルカメラ、投影機器

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 体を使って作品のよさや面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見て、活動への興味と見通しをもつ。 ★体を使って作品のよさや面白さを味わおう 作品を鑑賞し、作中の人物のポーズ、あるいは作品の感じから受ける印象を体で表してみる。 どのように体で表すかグループで話し合い、よりよくしたり、協力したりして表す。 体で表してみて気付いた作者の意図や、友達との表し方の違いについて話し合う。(言語活動) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書3・4下 P.48, 49 教科書の写真から美術作品をまねしたり、作品から受ける感じを体で表したりする際に注目しているところについて考えさせる。 鑑賞する美術作品の図版は、体を使って鑑賞しながら、随時児童が見ることができるように掲示、または投影する。 美術作品の中の登場人物のポーズや服装などのディテールに特徴のある美術作品、作品から受ける印象が強い美術作品を選ぶとよい。 児童が十分に体を動かすことができるようなスペースであるか、危険なものがないか安全面に留意する。 作品の感じに合った場所を選んで、デジタルカメラで写真を撮らせる。 体で表すことを通して、作者の意図を想像させたり、自分と友達との表し方の共通点や違いに気付かせたりする。 同じ作品でも感じのとらえ方が異なっていることに留意させる。 <p>【評】体を使っているいろいろな試みながら味わったり、気付いたことや面白さを友達に伝え、友達の気付いたことを受けとめたりする活動を通して、「鑑賞の能力」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 (旧)大すきな物語(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 心に残った場面の様子や自分の気持ちに合わせて、描画材を選んだり絵の具の使い方を工夫したりすることができる。
- (2) 物語の好きな場面の様子を想像し、表したいことをどのように表すか、形や色などを考えることができる。
- 作品を友達と見せ合って話し合い、よさや面白さなど表現の工夫をとらえることができる。
- (3) 物語の好きな場面の様子を想像し、工夫しながら絵に表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

04080208_001

【準備等】画用紙，色画用紙，色鉛筆，クレヨン，パス，水彩用具一式

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 今までに読んだ本の中で、感動した場面を思い出し、作品の構想を練る。</p> <p>○教科書に掲載されている参考作品例を見て、感想を話し合う。(言語活動)</p> <p>○自分の選んだお話の中から、かきたい場面を選ぶ。 ★主人公になって、かいてみよう</p> <p>○スケッチをし、構想を練る。</p> <p>2 スケッチを基に、画面の組み立てを工夫して、下絵をかく。</p> <p>○画面構成を考えて下絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番かきたいものの様子 ・周りのものの様子 <p>3～5 主人公の気持ちを表すことができる表現を工夫しながら、彩色する。</p> <p>○彩色を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・混色 ・重色 ・筆づかい <p>○中心になるものの調子を整えながら、彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表情の工夫 ・色の工夫 <p>○全体の調子を整えながら、作品を完成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の形や色のバランス <p>6 印象に残ったことを話し合い、友達の作品を鑑賞する。(言語活動)</p> <p>○作品を紹介し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4下 P. 32, 33 ・普段の生活の中から本を読む習慣を身に付けさせておく。 ・物語の絵をかくことを予告しておき、自分のかきたい物語を選んでおくようにする。 ・表されている場面だけではなく、どんな表し方の工夫をしているのかも作品から読み取るように提案する。 ・選んだお話について、自分がなぜ感動したのか、どんな気持ちになったのか、具体的に思い出させる。 ・気に入った場面をいくつか選び、アイデアスケッチをするなどして、かきたい場面を決める。 ・主人公となった自分の気持ちが伝わるような構想を練る。 ・どこにどんな色をぬっていくのかを、スケッチに色をぬらせるなどしてイメージさせる。 ・児童のかく場面を理解し、構図や表現の工夫など、今後の支援に役立てる。 ・下絵はスケッチを基に画面構成を考えてかかせる。 <p>・水彩絵の具だけでなく、貼り絵やクレヨン、色鉛筆などを活用してもよい。</p> <p>【評】思いを表現するために描画材料や筆づかい、色の特徴を生かす活動を通して、「発想や構想の能力」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体と部分の調子を感じ取らせながら、隣同士の色のつながりについても考えさせる。 ・途中で、自分の意図しているものが表現されているか、確認させる。 ・伝えたかったそのときの気持ちや思いを、本の紹介という形で、友達に伝えさせる。 <p>【評】友達の作品に込められた思いを感じ取る活動を通して、「鑑賞の能力」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名	(旧)幸せを運ぶカード(工作)	配当時間	6時間
単元の目標	(1) 相手にメッセージを伝えるために、仕組みや配色などを工夫しながら表現することができる。 (2) 仕組みを有効に生かすために、配色や画面構成などの面白い構想を練ることができる。 友達 の作品のよさを取り入れたり、お互いの作品のよさを感じ取ったりすることができる。 (3) 飛び出す仕組みを使って、手作りのカードをつくろうとする。		

標準的な展開例

04080209_001

【準備等】画用紙、色画用紙、色紙、サインペン、クレヨン、パス、水彩用具一式、色鉛筆、はさみ、カッターナイフ、カッターマット、のり、木工用接着剤、材料（布、糸、綿、モールなど）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 参考作品を見ながら、カードの面白さや仕組みの不思議さを感じて、これからつくる作品の構想を練る。 ○参考作品を見て、その面白さに気付く。 ・配色 ・コラージュ ・開いたときの飛び出す仕組み ★飛び出す仕組みを使って、素敵なカードをつくろう ○どんなカードをつくるかを考え、作品の構想を練る。 ・バースデーカード ・クリスマスカード ・招待状 2 飛び出す仕組みを理解し、カードの図柄を考える。 ○カードの工夫を知る。 ・切り込みを入れること ・他の紙を折って入れること ・違う素材を使うこと ○カードの仕組みや図柄を考える。 ○つくる計画を立てる。 ・準備するもの ・カードの利用方法 3～5 計画に従って、表現方法を工夫しながら、つくる。 ○楽しい仕組みを取り入れて、作品をつくる。 ・仕組み ・彩 色 ・飾 り ○全体の調子を整えながら、作品を完成する。 6 友達の作品を鑑賞し、よいところを伝え合う。 ○友達と作品を交換しながら、カードを楽しむ。（言語活動）	・教科書3・4下 P.40, 41 ・教科書の作品や教師の参考作品を使ってどんなメッセージを伝えようとしたのかを説明しながら、カードの面白さを理解させる。 ・面白いところはどこかを発表させ、意欲化を図る。 ・色や字の工夫にまで、視点を広げさせる。 ・誰にどんなカードを送りたいかを考えさせる ・カードを受け取る側の気持ちについて想像させ、どんな作品にすればよいかを改めて考えさせる。 ・教科書P.40, 41の「つくり方」を参考にし、動いたり、飛び出したりするカードの仕組みを理解させる。 ・簡単な仕組みをつくる過程を全員の前で見ることができればより効果的である。 ・示したもの以外にも、いろいろな工夫ができることを知らせる。 ・目的に合った仕組みを選ばせるようにする。 ・簡単なメモでよいが、必要な材料まで考えさせる。 ・画用紙などで仕組みをつくり、試してみるとよい。 ・各自の計画を確認しておく。 【評】用途に合わせて、配色や画面構成、飛び出す仕組みを考える活動を通して、「発想や構想の能力」を評価する。 ・仕組みだけは事前に組み立てて、動くかどうか確認させる。 【評】飛び出す仕組みを理解し、計画に従って作る活動を通して、「創造的な技能」を評価する。 ・交流のある他学年の学級などに届けるようにしてもよい。

【 備 考 】

単元名 (旧)ギコギコクリエイター(工作)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 材料の形を生かしながら、つなぎ方を工夫することができる。
 (2) 木や板を切って組み合わせてできる形から、自分の表したいものを発想することができる。

自分と友達の作品を見て、表し方のよさや面白さなど表現の工夫をとらえることができる。
 (3) のこぎりで木を切ることに興味をもち、思い付いたものをつくることに取り組もうとする。

標準的な展開

04080210_001

【準備等】木切れ、板材、のこぎり、金づち、釘、クランプ、万力、木工用接着剤、水彩用具一式、作品カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書を参考にして学習課題をつかみ、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品を見て、学習課題をつかむ。 ★木切れや板をのこぎりで切って、組み合わせたりくぎでつないだりして、楽しいものをつくろう 集めた木を並べたり組み合わせたりして、つくりたいものを考える。 アイデアスケッチをし、作品をつくる計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> カレンダー えんぴつ立て 額縁 <p>2～5 計画に従って作品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> のこぎりの使い方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> のこぎりの種類 切るときの姿勢 万力やクランプの使い方 アイデアスケッチを参考に、材料をのこぎりで切る。 材料を着色する。 金づちと釘を使って材料を組み合わせ、作品を完成させる。 <p>6 作品を鑑賞し、よいところを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品のねらいを作品カードに記入する。 友達の作品を鑑賞し、よいところを話し合う。(言語活動) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 3・4下 P. 34, 35 事前に材料を十分に集めておく。 実際に材料に触れて考えることで、発想を広げさせる。 材料を基にして、具体的な計画を立てるようにする。 教科書P. 54, 55, 56を参考にして、のこぎりや万力、クランプの使い方を知る。 のこぎりを使用するのは初めての経験であるため、道具の使い方を丁寧に指導する。 安全に十分に配慮する。 のこぎりで木を切るときは、木をしっかり押さえる。押さえにくい場合はクランプや万力を使用する。 【評】のこぎり、クランプなどの道具を安全に使用し、思い通りに材料を切ったりつなぎ方を工夫したりして表す活動を通して、「創造的な技能」を評価する。 材料を彩色する場合は、この段階で水彩絵の具を使って着色する。 絵の具の発色がよくなるように、水を少なめにするといよい。 金づちの使い方については前学年で学習しているが、安全面について再度指導するといよい。 道具の片付け方を指導する。 友達と作品を見せ合い、いろいろな表し方、木のつなぎ方による感じの違いなどを話し合わせる。

【 備 考 】

単元名 ほってすって見つけて(絵)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 彫ったり、刷ったりした形や色の感じを見付け、彫刻刀の特性を生かして版をつくるなど、表し方を工夫することができる。
 (2) 彫って刷ってできた形の感じから、自分が表したいものを考えるとともに、できた作品を見せ合い、友達と話し合いながら、表現のよさや面白さを感じ取ることができる。
 (3) 彫刻刀で彫って見付けた線や形から、木版画で表すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

04080301_001

【準備等】 版画用紙、版木、木切れ、彫刻刀、版画用具一式、水彩用具一式、サインペン、クレヨン、パス新聞紙など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 彫刻刀の使い方を学習し、いろいろな彫り方を試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 彫刻刀の種類、正しい彫り方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 彫刻刀の種類 ・ 刀の持ち方、支え方 ○ 版画の手順を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 〈版画の基本的な流れ〉 ① 下絵…黒い部分と白い部分の構成を考えて下絵をかく 細かい部分は単純化する。黒白の割合は6対4ぐらいがよい。 ② 彫り…残すところと彫るところを決める。まず周りを丸刀などで彫り、絵の中心になる部分は線彫りをしていく。 ③ 試し刷り…ローラーにインクを付けて、何枚か刷る。 ④ 修正彫り…刷ったものを見て、彫りの修正を行う。 ⑤ 本刷り…インクの量を調節して、何枚か刷る。 <p>2～4 版で何を表したいのか決め、版木を彫り、刷りを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 参考作品を見て、心に感じたことや想像したことを思い浮かべ、どんな場面にするかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ がんばったこと ・ うれしかったこと ・ 好きなもの ・ 夢の世界 ・ 発見したこと ★ ちょうこく刀でできる線や形から感じたことや想像したことを版画で表そう ○ 画面構成を考えて、下絵をかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一番かきたいもの ・ 周りのものの様子 ○ カーボン紙を使って、下絵を版木に写す。 ○ 彫りを進める。 ○ 試し刷りをして、修正彫りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 刷りの手順 ・ 修正彫り ○ 本刷りを行う。 <p>5 作品を鑑賞し、よいところを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作品を交換して、お互いの作品のよさをみんなで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ おじいちゃんへの優しい気持ちが丸刀で彫ると伝わるね。 ・ 平刀で彫ると木の表面そっくりになってる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書3・4下 P.54, 55 ・ 丸刀と三角刀の使い方を中心に知らせる。 ・ 刀の進む方向に絶対に手や指を出さないよう指導する。軍手などをつけるとけがの防止になる。 ・ 版木の裏などで、練習をさせる。 【評】 彫刻刀を安全に正しく使う活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・ 事前や活動中に教科書P.58, 59「使ってみよう 材料と用具」で木版画の仕組みを理解させる。 ・ 1枚の版を、画面の中に繰り返し刷って作品に仕上げたり、版画を刷る前や後に絵の具やパスなどで彩色したりできることなどを確認し、自由な発想で木版画に向かうように意欲付けをする。 <p>・ 彫刻刀は切れ味のよいものを準備させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スケッチをし、版画にする絵の構想を練る。 ・ 彫刻刀の練習を思い出させ、どのような彫り方で進めていくかも考えさせる。 ・ カーボン紙の使い方は、教師が実演する。 ・ 彫るところと残すところを分かりやすくするために、版木に薄墨や水彩絵の具などをぬって区別するとよい。 【評】 彫る方向、彫る部分と彫り残す部分など見通しをもって効果的に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 刷り上がりの状況を確認させる。 ・ 紙を傷めないようにするために、新聞紙を紙の上に置いてから、バレンでこするようにするとよい。 ・ 版がずれないように注意させる。 【評】 自分が表したいものになるよう彫り方や刷り方を工夫し、どのように表したらよいか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ インクの量を調節し、何枚か刷る。 【評】 友達とお互いの作品のよさや面白さを伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

図画工作科におけるプログラミング的思考の育成

木版画では、彫って刷ってできた形の感じから、何をどのように表すのかを考え、事前に完成のイメージをもたせる必要がある。試しながら見つけた線や形から、どのような表し方をするのか、木版で表すことを楽しみ、彫りと刷りを重ねながら表現させる。自分が意図する活動を実現するための①分解（表したい作品を、構成する要素に分解する）②置換（要素を形や色に置き換える）③組合せ（形や色の組合せや順番を考える）④検証（組合せを検証して意図に近づける）といったことを論理的に考えていく力を育成する。その他の題材においても、上記の事柄を意識しながら学習活動を工夫し、プログラミング的思考の育成に努めたい。参考・・・日本文教出版株式会社<http://www.nichibun-g.co.jp/>

単元名 ここをつつんだら(造形遊び)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 包み方を工夫して、普段の場所が変化していく形や色の感じを見付けることができる。
 (2) 自分のイメージをもって、包んでできる造形的な場所を思い付くことができるとともに、友達
 の作品のよさや面白さから自分の見方や感じ方を広げることができる。
 (3) 主体的に身近な場所を包みながら、場所を変化させる活動を楽しもうとする。

標準的な展開例

04080302_001

【準備等】ポリシート、はさみ、粘着テープ、養生テープ、セロハンテープなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 参考作品を見て、学習活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書を参考に学習課題をつかむ。 ★つつみながら好きな場所を变身させよう ○どんな作品にするかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・つくる場所 ・使う材料 ○発想を基に、つくる計画を立てる。 <p>2～4 計画に沿って、つくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○材料をそろえて、つくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ポリシートで覆う。 ・ポリシートで巻く。 <p>5 包んだ場所やものを見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達作品を、お互いに訪問し合って楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・シートの中から見ると、光が入ってきれいだね。 ・教室が全く違う部屋に見えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書3・4下 P.20～21 ・どんなものをつくるか、教科書を参考にしながら、気付いたことを話し合わせる。 ・構想の段階で、教師は児童の発想を理解し、表現方法などを助言をする。 ・思い付いたものをメモさせておく。 ・安全に配慮して、作品をつくる場所を考えさせる。 ・グループで話し合って、いろいろなアイデアを出させる。 <p>【評】設置場所や材料の特性を生かし、自分が表現したいものを想像し、計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い場所での作業がある場合、安全に十分注意させる。 ・屋外で作業する場合、風で材料が飛ばされてしまうことのないよう、しっかり固定させる <p>【評】ポリシートの透明な感じや包む場所の形や色を生かして、包み方を工夫する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その場所の普段の様子と、变身させた作品の違いを感じ取らせる。 ・使った場所は元通りにできるよう、片付けまで確実に行わせる。 <p>【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】友達作品のよさや面白さを見付け、話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 おもしろだんボールボックス(工作)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 段ボールの特徴を理解し、自分がつくりたい入れ物の感じに合う形や色を見付け、工夫してつ
くることができる。
(2) 段ボールの特徴を生かした自分だけの入れ物を考えるとともに、自分の箱の工夫を伝えながら
友達の工夫にも気付き、そのよさや面白さを感じとることができる。
(3) 段ボールの形を基に、自分だけの入れ物をつくることを楽しもうとする。

標準的な展開

04080303_001

【準備等】段ボール、包装紙、レース・モール・ひもなどの身近材、色画用紙、段ボールカッター、カッ
ターナイフ、カッターマット、木工用接着剤、粘着テープ、水彩用具一式など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 段ボールでつくる、便利に楽しく使える箱はどんなものかを考える。 ★段ボールの特徴を生かして、自分のものを入れる箱をつくろう ○段ボールの特徴を確認する。</p> <p>○アイデアボックスのデザインを考える。 ・あくびをする動物の入れ物 ・昼と夜の世界の入れ物 ・恐竜の入れ物 ・猫の入れ物</p> <p>2～4 段ボールを生かした入れ物をつくる。 ○段ボールカッターの使い方について確認する。</p> <p>○段ボールを使った箱を作る。</p> <p>○飾りを考えてつくる。</p> <p>5 入れ物の鑑賞会をする。 ○完成した入れ物の機能や工夫した点などについて紹介し合う。 ・ふたや引き出しがあって、とても便利そうだね。 ・昼と夜の飾りが2つに分かれる所とピッタリだね。</p>	<p>・教科書3・4下 P.28, 29</p> <p>・教科書P.28の図を見せながら使い方に合わせた切り方を考えさせる。 ・実際に段ボールを示しながら、折り方、切り方について確認する。 ・箱の基本的なつくり方の具体的な見本を見せられるようにしておく。 ・アイデアスケッチをして、具体的な形を考えさせる。 ・必要な材料についてもここで考え、計画を立てさせる。 【評】段ボールの特徴を生かしながら、自分がつくりたい入れ物を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・段ボールカッターを使用するので、周囲の空間にゆとりをもたせて、安全に活動できるようにさせる。 ・算数科の展開図との関連を図ることもできる</p> <p>【評】段ボールの特徴を生かして、用具や材料を適切に使用し、工夫してつくる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・色や形の工夫だけでなく、実際に使う場合を考えて、使いやすく、楽しい飾りになるようにさせる。 【評】自分が想像した入れ物に合う形や色を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・できた自分だけの入れ物にもものを入れるなど実際に使う場面を想定して紹介する。 ・作品の工夫を伝え合い、よさや面白さを伝え合う。 【評】自分や友達の作品のよさや面白さを伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

他教科等との関連

算数科B(2)「立方体、直方体などの立体図形」との関連が深い。体験的に特徴を知ることにつながる。

単元名 (参考単元)ゴー！ゴー！ドリームカー(立体)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 自分がつくりたい車体の形や色を見付け、工夫してつくることができる。
 (2) ゴムや風の力で動くことを確かめながら、自分がつくりたい車の形や色を考えるとともに、作品を動かして遊び、工夫した点などを友達と話し合い、そのよさや面白さを感じ取ることができる。
 (3) ゴムや風の力で動く仕組みや、車をつくることを楽しもうとする。

基本的な展開例

04080304_001

【準備等】 空き箱、ペットボトルのキャップ、色画用紙、厚紙、段ボール、輪ゴム、ストロー、たこ糸、竹ひご、化学接着剤、カッターナイフ、カッターマット、目打ち、はさみ、のりなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の作品を見て、動く仕組みを理解し、楽しい車づくりの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻いたゴムが元に戻る力を利用して回転する仕組みを知り、活動の見通しをもつ。 ★ ゴムの力で動く仕組みを使って、あったらいいなと思う楽しい車をつくろう ○ つくってみたい車を想像し、簡単な図に描いてみる。 <p>2～3 計画を基に仕組みをつくり、仕組みがスムーズに動くか試してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なめらかに動くよう工夫しながら仕組みをつくる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 教科書を参考にして車輪をつくり、一方だけの車輪に車軸を付ける。 ② 牛乳パックなど車の車体になるものに、目打ちなどを使って穴を開け、車軸を通す。 ③ もう一方の車輪を付ける。 ④ 輪ゴムにたこ糸を付けた物を片方は車軸に、片方は車体に取り付ける。 <p>4～5 自分が考えたアイデアを基にして、車を装飾する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ できあがった仕組みから自分でつくりたい形や色、テーマなどの車になるよう飾る。 ○ つくりながら何度も試走させ、走る様子を楽しみながらつくる。 <p>6 できた車で楽しく遊び、感想を友達と話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 出来上がった車をみんなで走らせ、作品の交流会をする <ul style="list-style-type: none"> ・ とても速く走るのが楽しい。 ・ 飾りのつくり方が面白い。 ・ 長く走る車がいい。 	<p>・ 教科書 3・4下 P. 50, 51</p> <p>・ 車輪のつくりやゴムの取り付け方などの仕組みは、あらかじめ教師がつくったものを教室内に展示し、児童が見られるようにしておく期間を設けておくと言明がしやすい。</p> <p>・ 教師もあらかじめ試作すると児童がつまづきやすいポイントを把握しやすい。</p> <p>・ 必要な材料・用具などについても考える。</p> <p>【評】 自分が乗ってみたい車を想像し、どのような材料や工夫が必要か考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 活動場所から近いところに試走コーナーを設置し、何度も試走できるように配慮する。</p> <p>【評】 車体が動く仕組みを理解し、工夫しながらつくる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 色画用紙や厚紙などの材料を生かしながら車体をつくったり、飾ったりする。</p> <p>・ 完成した作品をみんなで鑑賞し、面白さやよさについて形や色、動きなど造形要素を交えながら交流する場を設定する。</p> <p>・ 仕組みを生かした面白さに児童が気付けるよう助言をする。</p> <p>【評】 自分や友達の子のよさや面白さを見付け完成した作品を走らせ交流する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 作品やこれまでの学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

他教科等との関連

理科のゴムの学習で学んだことを生かして活動できる題材である。ゴムや風ではなく、プログラムで動きを制御することも考えられる。

単元名 (旧)ほってすって見つけて(絵)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 彫る部分を考え、彫刻刀の特性を生かして版をつくるなど、表し方を工夫することができる。
 (2) 日頃の生活で印象に残ったことなどを思い出したり、想像したりしたことを基に、版に表したいことを考えることができる。
 友達と制作過程での気づきを話し、できた作品を見せ合い、話し合いながら、表現のよさや工夫を感じ取るすることができる。
 (3) 彫刻刀を使う活動を楽しみながら、木版に表すことに取り組もうとする。

標準的な展開例

04080305_001

【準備等】 版画用紙、版木、木切れ、彫刻刀、版画用具一式、水彩用具一式、サインペン、クレヨン、パス新聞紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 普段の生活の中で、心に感じたことや想像したことを考え、絵の構想を練る。</p> <p>○ 参考作品をみて、心に感じたことや想像したことを思い浮かべ、どんな場面にするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がんばったこと ・ うれしかったこと ・ 楽しかったこと ・ 夢の世界 ・ 発見したこと <p>★ 感じたことや想像したことを版画で表そう</p> <p>○ スケッチをし、版画にする絵の構想を練る。</p> <p>○ 版画の手順を理解する。 〈版画の基本的な流れ〉</p> <p>① 下絵…黒い部分と白い部分の構成を考えて下絵をかく 細かい部分は単純化する。黒白の割合は6対4ぐらいがよい。</p> <p>② 彫り…残すところと彫るところを決める。まず周りを丸刀などで彫り、絵の中心になる部分は線彫りをしていく。</p> <p>③ 試し刷り…ローラーにインクを付けて、何枚か刷る。</p> <p>④ 修正彫り…刷ったものを見て、彫りの修正を行う。</p> <p>⑤ 本刷り…インクの量を調節して、何枚か刷る。</p> <p>○ 画面構成を考えて、下絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一番かきたいもの ・ 周りのものの様子 <p>○ カーボン紙を使って、版木に写す。</p> <p>2～4 下絵にそって、版木を彫り、刷りを行う。</p> <p>○ 彫刻刀の種類、正しい彫り方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 彫刻刀の種類 ・ 刀の持ち方、支え方 <p>○ 彫りの見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 残すところと彫るところ <p>○ 彫りを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 彫る順序 周り（丸刀）→中心（三角刀で線彫り） <p>○ 試し刷りをして、修正彫りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 刷りの手順 ・ 修正彫り <p>○ 本刷りを行う</p> <p>5 作品を鑑賞し、よいところを話し合う。</p> <p>○ 作品を交換して、お互いの作品のよさをみんなで話し合う。（言語活動）</p>	<p>・ 教科書3・4下 P.46, 47</p> <p>・ 教科書の図版や参考作品を活用して、作品の意図やその表現について発表させる。</p> <p>・ 自分が体験したときに、どのように感じたのかを具体的に思い浮かべさせる。</p> <p>・ 思い浮かべたことを版で表せるように、細かいところはできるだけ省略させ、簡単にかかせる。</p> <p>【評】 版画のよさを感じ取り、心に感じたことを版画で表す活動を通して、「造形への関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>・ 事前や活動中に教科書P.52, 53「使ってみよう 材料と用具」を見るようにし、木版画の仕組みを理解する。</p> <p>・ 1枚の版を、画面の中に繰り返し刷って作品に仕上げたり、版画を刷る前や後に絵の具やパスなどで彩色したりできることなどを確認し、自由な発想で木版画に向かうように意欲付けをする。</p> <p>・ 基の絵と刷り上がりの絵を同じ向きにしたい場合は、下絵の裏表を逆にして版木に写すとよい。</p> <p>・ カーボン紙の使い方は、教師が実演する。</p> <p>・ 表面に色の着いた版木を使用するか、水で薄めた墨汁を版木に塗っておくと彫り跡が分かりやすく、作業がしやすい。</p> <p>・ 彫刻刀は切れ味のよいものを準備させる。</p> <p>・ 丸刀と三角刀の使い方を中心に知らせる。</p> <p>・ 刀の進む方向に絶対に手や指を出さないよう指導する。軍手などをつけるのとけがの防止になる。</p> <p>・ 版木の裏などで、練習をさせる。</p> <p>・ 彫るところと残すところを分かりやすくするために、版木に薄墨や水彩絵の具などをぬって区別するとよい。</p> <p>・ 刷りの手順については、教師が師範をして見せる。</p> <p>・ 丸刀・三角刀を中心に彫り始め、慣れてきたら平刀も使うように伝える。</p> <p>【評】 彫る方向、彫る部分と彫り残す部分など見通しをもって効果的に表す活動を通して、「創造的な技能」を評価する。</p> <p>・ 刷り上がりの状況を確認させる。</p> <p>・ 紙を傷めないようにするために、新聞紙を紙の上に置いてから、バレンでこするにするとよい。</p> <p>・ 版がずれないように注意させる。</p> <p>・ インクの量を調節し、何枚か刷る。</p> <p>【評】 友達とお互いの作品のよさや面白さを伝え合う活動を通して、「鑑賞の能力」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 (旧)つつんだアート(造形遊び)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 場所やものの形に合わせて透明なシートや新聞紙を使った包み方を工夫することができる。
(2) 透明なシートや新聞紙で包むと楽しい場所やものを考えることができる。
お互いに包んだ場所やものを見合い、よさや面白さを感じ取ることができる。
(3) 普段使っている場所やものを見て、透明なシートや新聞紙でどこをどのように包むか考えようとする。

標準的な展開例

04080306_001

【準備等】新聞紙、ビニルシート、段ボール、はさみ、粘着テープ、セロハンテープ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 参考作品を見て、学習活動を知る。 ○教科書を参考に学習課題をつかむ。 ★好きな場所をいろいろな材料を使って変身させよう</p> <p>○どんな作品にするかを話し合う。(言語活動) ・つくる場所 ・使う材料</p> <p>○発想を基に、つくる計画を立てる。</p> <p>2～4 計画に沿って、つくる。 ○材料をそろえて、つくる。 ・新聞紙で包む ・ポリシートで覆う</p> <p>5 包んだ場所やものを見合う。 ○友達の作品を、お互いに訪問し合って楽しむ。</p>	<p>・教科書3・4下 P.20, 21 ・どんなものをつくるか、教科書を参考にしながら、気付いたことを話し合わせる。 【評】場所やものを透明なシートで包んで、場所やものの様子を変えることを楽しむ活動を通して、「造形への関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>・構想の段階で、教師は児童の発想を理解し、表現方法などを助言をする。 ・思い付いたものをメモさせておく。 ・安全に配慮して、作品をつくる場所を考えさせる。 ・グループで話し合って、いろいろなアイデアを出させる。 【評】設置場所や材料の特性を生かし、計画を立てる活動を通して、「発想や構想の能力」を評価する。</p> <p>・高い場所での作業がある場合、安全に十分注意させる。 ・屋外で作業する場合、風で材料が飛ばされてしまうことのないよう、しっかり固定させる</p> <p>【評】シートの透明な感じや新聞紙の軽さ、包む場所やものの形を生かして、包み方を工夫する活動を通して、「創造的な技能」を評価する。</p> <p>・その場所の普段の様子と、変身させた作品の違いを感じ取らせる。 ・使った場所は元通りにできるよう、片付けまで確実に行わせる。</p>

【 備 考 】

単元名 (旧)おもしろアイデアボックス(工作)

配当時間

5時間

単元の目標 (1) 段ボールの特徴を生かして、用具や材料の使い方を工夫することができる。
 (2) 段ボールの特徴を生かした便利で使いやすい、工夫のある箱を考えることができる。
 自分の
 箱の工夫を伝えながら、相手の工夫も聞き、そのよさを感じとることができる。
 (3) 段ボールを使って、便利で楽しく使える箱をつくることに取り組もうとする。

標準的な展開

04080307_001

【準備等】 段ボール、包装紙、レース・モール・ひもなどの身近材、色画用紙、片面段ボール、段ボールカッター、カッターナイフ、カッターマット、きり、木工用接着剤、粘着テープ、水彩用具一式はさみ、のり、定規

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 段ボールでつくる、便利に楽しく使える箱はどんなものかを考える。 ★段ボールの特徴を生かして、自分のものを入れる箱をつくろう ○段ボールの特徴を確認する。</p> <p>○アイデアボックスのデザインを考える。 ・カエルの口の形 ・インコの形 ・ハートの形 ・写真をかざる ・大きさを変えて重ねる</p> <p>2～4 段ボールを生かしたアイデアボックスを作る。 ○段ボールカッターの使い方について確認する。</p> <p>○段ボールを使った箱を作る。 ・段ボール箱を生かして作る ・段ボール紙から箱を組み立てる ○アイデアボックスの飾りを考えてつくる。</p> <p>5 アイデアボックスの鑑賞会をする。 ○アイデアボックスの機能や工夫した点などについて紹介し合う。(言語活動)</p>	<p>・教科書3・4下 P.18, 19</p> <p>・教科書P.18の図を見せながら確認する。 ・実際に段ボールを示しながら、折り方、切り方について確認する。 ・箱の基本的なつくり方の具体的な見本を見せられるようにしておく。 ・アイデアスケッチをして、具体的な形を考えさせる。 ・必要な材料についてもここで考え、計画を立てる。 【評】段ボールの特徴を生かしながら、便利で使いやすい箱の形や色を工夫する活動を通して、「発想や構想の能力」を評価する。</p> <p>・段ボールカッターを使用するので、周囲の空間にゆとりをもたせて、安全に活動できるようにさせる。 ・算数科の展開図との関連を図ることもできる</p> <p>・色や形の工夫だけでなく、実際に使う場合を考えて、使いやすく、楽しい飾りになるようにさせる。 【評】段ボールの特徴を生かして、用具、材料を適切に使用してつくる活動を通して、「創造的な技能」を評価する。</p> <p>・できたアイデアボックスにもものを入れるなど実際に使う場面を想定して紹介する。 ・アイデアボックスの工夫を伝え合い、よさや面白さを伝え合う。</p>

【 備 考 】

単元名 (旧)(参考単元)ゴー！ゴー！ドリームカー(立体)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 車が動くように仕組みをつくり、より速く走るよう、車体への取り付け方や車輪の大きさなどを工夫し、飾るための材料を生かしながら工夫することができる。

(2) 自分がつくりたい楽しい車を思い付き、自分の思いに合った形や色を考えることができる。

作品を動かして遊び、工夫した点などを友達と話し合い、そのよさや面白さを感じ取ることができる。

(3) ゴム動力で動く仕組みに関心をもち、楽しい車をつくることに取り組もうとする。

基本的な展開例

04080308_001

【準備等】 空き箱、ペットボトルのキャップ、色画用紙、厚紙、段ボール、輪ゴム、ストロー、たこ糸、竹ひご、化学接着剤、カッターナイフ、カッターマット、目打ち、はさみ、のりなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の作品を見て、動く仕組みを理解し、楽しい車づくりの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻いたゴムが元に戻る力を利用して回転する仕組みを知り、活動の見通しをもつ。 ★ ゴムの力で動く仕組みを使って、あったらいいなと思う楽しい車をつくろう <p>○ つくってみたい車を想像し、簡単な図に描いてみる。</p> <p>2～3 計画を基に仕組みをつくり、仕組みがスムーズに動くか試してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なめらかに動くよう工夫しながら仕組みをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ① 教科書の「いろいろな車りんの作り方」などを参考に車輪をつくり、一方だけの車輪に車軸をつける。 ② 牛乳パックなど車の車体になるものに、目打ちなどを使って穴を開け、車軸を通す。 ③ もう一方の車輪をつける。 ④ 輪ゴムにたこ糸をつけた物を片方は車軸に、片方は車体に取り付ける。 <p>4～5 自分が考えたアイデアを基にして、車を装飾する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ できあがった仕組みから自分でつくりたい形や色、テーマなどの車になるよう飾る。 ○ つくりながら何度も試走し、走る様子を楽しみながらつくる。 <p>6 できた車で楽しく遊び、感想を友達と話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 出来上がった車をみんなで走らせ、作品の交流会をする(言語活動) <ul style="list-style-type: none"> ・ とても速く走るのが楽しい。 ・ 飾りのつくり方がおもしろい。 ・ 長く走る車がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 3・4 下 P. 44, 45 ・ 車輪のつくりやゴムの取り付け方などの仕組みは、あらかじめ指導者がつくったものを教室に展示し、児童が見られるようにしておく期間を設けておく説明がしやすい。 ・ 指導者もあらかじめ試作すると児童がつまづきやすいポイントを把握しやすい。 ・ 必要な材料・用具などについても考える。 <p>【評】 材料を選んだり組み合わせたりして、乗ってみたい車に合った形や色を考える活動を通して、「発想や構想の能力」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動場所から近いところに試走コーナーを設置し、何度も試走できるように配慮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 色画用紙や厚紙などの材料を生かしながら車体をつくったり、飾ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 完成した作品をみんなで鑑賞し、面白さやよさについて形や色、動きなど造形要素を交えながら交流する場を設定する。 ・ 仕組みを生かした面白さに児童が気付けるよう助言をする。 <p>【評】 自分の思いに合った動きや様子になるように、試しながら仕組みをつくり変えていく活動を通して、「創造的な技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 身近なものを見つめて(オリエンテーション)

配当時間 1時間

単元の目標

(3) 主体的に作品を見ながら、作者の思いを感じ取る活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書の写真を見て、図画工作の授業への意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の「身近なものを見つめて」の作品を見て、作者がどのような思いで作品を表したのかを話し合う。 教科書の写真を見て、感じたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> いろいろな表現方法や材料がある。 自分もつくってみたい。 <p>★図画工作の授業で、やってみたいことを伝え合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> 「使ってみよう材料と用具」を見ながら、これからの造形活動に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書5・6上 P. 2, 3, 4 写真を見せ、作者の思いを想像させる。 写真の作品のように、主体的に試したり、工夫したりして表現や鑑賞の活動に取り組み、自分の資質・能力を育てることを伝え、今後の表現活動に対する意欲化を図る。 1年間の活動内容を知らせながら、必要となる材料についても触れておく。 発表することで取り組みへの意欲化を図る。 教科書5・6上 P. 58～65 実物を示して説明すると、分かりやすい。 <p>【評】 作者が自分の思いを様々な表現方法や材料で作品に表していることを感じる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連について

「C- (17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。」と関連が深い。

単元名 心に残ったあの時あの場所(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 普段の生活や身の周りを見つめ、表したいことに合う形や色の特徴をとらえ、工夫して絵に表すことができる。
- (2) 心に残ったことや様子を想像し、どのように表すかを考えるとともに、友達や自分の作品からよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 心に残ったことや様子を想像し、主体的に絵に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080102_001

【準備等】画用紙、色画用紙、水彩用具一式、コンテ、墨汁、割りばしペン、クレヨン、パス

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 今までの生活の中で、心に残った情景を思い出す。</p> <p>○自分の生活を振り返り、心に残った場面を発表する。</p> <p>★心に残った場面や様子を絵に表そう</p> <p>○スケッチをする。</p> <p>2 スケッチを基に、画面構成を工夫しながら下絵をかく。</p> <p>○画面構成を考えて下絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番かきたいものの位置 ・周りのものの様子 ・人の動き <p>3～5 自分の思いが表れるように、表現を工夫しながら彩色する。</p> <p>○効果的な表現になるように工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・混色 ・重色 ・筆の使い方 ・描画材の組み合わせ方 <p>○全体の色を調子を整えながら彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心になるものの色 ・周りのものの色 <p>○全体のバランスを整えながら、作品を完成する。</p> <p>6 友達の作品を見て、その思いを話し合い、よさを感じ取る。</p> <p>○絵に描かれた人物の表情から、宿泊研修の楽しかった思いが伝わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水に映る夕日を、色を少しずつ変えて表現しているところがきれいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書5・6上 P.22,23 ・「いい感じ」「素敵だな」と思った場面や、そのときの様子などを発表させると効果的である。 ・写真などの資料を事前に準備する。 ・心に残ったことをスケッチだけでなく、文章にして説明させてもよい。 ・下絵は、一番気に入ったスケッチを基に、自分の思いが伝わるような画面構成を考えさせる。 ・一番表現したいものが画面の中で主張できるように、周りのものとの関わりを考えさせる。 ・机間指導をしながら、個々に合った助言をしていく。 【評】主題をどう表すかについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・彩色の仕方については、すでに学習しているが、繰り返し指導することで定着を図る。 ・中心になるものと周りのものとの色の関係や雰囲気を感じ取らせながら、表現を工夫させる。 ・活動の途中で、自分の意図しているものが表現されているか、確認させる。 【評】想像した場面や様子に適した表現を見つけ、絵に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・友達の作品に対する思いやそのよさを感じ取らせる。 ・鑑賞カードを用意し、友達の作品のよさを記入し、話し合わせる。 【評】お互いの作品のよさや作者の思いを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 立ち上げ！ワイヤーアート(立体)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 針金の形を変えながら、立体に表したときの動き、バランスなどを理解し、工夫して表すことができる。
- (2) 針金の形を変えながら、表したいことを見付け、どのように表すかを考えるとともに、友達の作品を鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 主体的に針金に触れ、立体に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080103_001

【準備等】アルミ針金、ペンチ、ラジオペンチ、金づち、ステープラ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 アルミ針金を曲げたり巻き付けたりして、いろいろな立たせ方を試す。</p> <p>○いろいろな巻き方を試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かく巻く ・大きく巻く ・立つための足の数 <p>★針金で美しい形をつくろう</p> <p>3 試し巻きしたものを見せ合い、お互いの作品のよさを取り入れ、美しく見える形の構想を練る。</p> <p>○お互いのよさを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不規則に巻く ・規則的に巻く ・しっかり立つ工夫 <p>4～5 立ち上げたい形を想像しながら、針金の巻き方や線の面白さを工夫してつくる。</p> <p>○つくりながら思い付いたアイデアを生かして形を整える</p> <p>6 自分の作った形に名前をつけて、お互いの作品を鑑賞する。</p> <p>○アルミ針金の特徴が生かされた表現や形の美しさや面白さについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くるくるした形が花びらのように見えます。 ・たくさんの輪が付いているのにバランスよく立っています。 	<p>・教科書 5・6 上 P.30, 31</p> <p>・教科書の参考例を見せ、いろいろな曲げ方や締め方、立たせ方があることを知らせる。</p> <p>・ペンチの使い方についてはP.62を参照させる。</p> <p>・工夫してある巻き方に注目させ、自分の作品に生かせるようにする。</p> <p>【評】アルミ針金の特徴を生かし、表したい形を構想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・うまく立ち上がらせることができず倒れてしまう場合は、児童の思いに寄り添いながら骨組みの形を再考したり、土台を使ったりするよう助言をする。</p> <p>・針金の先で怪我をしないように注意する。</p> <p>【評】アルミ針金の特徴を生かした形や立たせ方など、できあがった作品を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】アルミ針金の形や動きの面白さを生かしながら制作する様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・タイトルや針金の曲げ方を参考に、作品のよさや工夫したところを見付けさせ鑑賞カードに記入させる。</p> <p>【評】友達の作品のよさや面白さを見つける活動を通して、「思考、判断、表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

他教科等との関連

外国語活動と同じく、ショー・アンド・テルの中で作品について伝えることが考えられる。

単元名 あんなところがかんところに見えてきた(造形遊び)

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 場所にある形や色などの動きや奥行き、バランスなどをとらえ、工夫して表すことができる。
(2) 場所にあるものや空間などの特徴から、つくりたい様子を考えるとともに、友達の作品を鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めることができる。
(3) 場所にあるものの形や色などを生かして、楽しく見えるものをつくる活動に主体的に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080104_001

【準備等】 段ボール、画用紙、色画用紙、色セロハン、段ボールカッター、セロハンテープ、カッターナイフ、カッターマット、木工用接着剤、化学接着剤、デジタルカメラ、水彩用具一式、はさみ、のり、ステープラ、材料

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 参考例を見て、課題をつかむ。</p> <p>○教科書の参考例を見る。</p> <p>★場所にある形や色などを生かして、楽しい空間をつくる</p> <p>○つくる場所を決める。</p> <p>○見つけた場所をどのような材料で、楽しい空間にするか話し合い、構想を練る。</p> <p>2～3 場所や環境を生かして、材料や方法を試しながらつくる。</p> <p>○場所の変化の面白さを感じながら、表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな材料や方法を試しながら考える。 ・材料の使い方や組み合わせ方を工夫する。 <p>4 鑑賞会をする。</p> <p>○変身させてできた空間を見て回り、場所の形や色の生かし方、構成の面白さなどについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段の傾斜からボルダリングをイメージした発想に驚きました。 ・光の当たっている様子や飾りから、海に日が差している様子が想像できます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書5・6上 P.10,11 ・教科書の参考例を見せて、イメージをもたせる。 ・このような造形遊びの単元は各学年の教科書でも多く紹介されている。活動の見通しをもたせるためにも、多くの参考作品を見せるとよい。 ・場所やそこにあるものの形、色などに注目するように声掛けをする。 ・グループごとに場所を探させる時は、安全に留意し危険な場所には近付かないように伝える。 ・つくりたい場所やつくるもののイメージに近い児童同士でグループをつくる方法もある。 <p>【評】場所の特徴を生かした楽しく見えるものの構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】場所にあるものを生かして制作する活動の様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思った空間ができているか、時々確かめ合いながら活動を進めさせる。 ・本題材は造形遊びなので、つくってから場所を探すのではなく、見付けた場所から発想するという流れを大切にするとよい。 <p>【評】場所にあるものの形や色のよさをとらえ工夫しながら制作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが楽しむだけでなく、他の学年の児童にも楽しんでもらえるようにするとよい。 ・できた空間の面白さや、つくった人たちの意図した楽しさを中心に伝え合わせる。 ・活動の前後でその場所の写真を撮っておき、形や色などの生かし方を話し合わせるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・使った場所を元通りにし、材料は分別して片付けさせる。 <p>【評】自分たちの作り出したものの造形的なよさや美しさを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 カードを使って(鑑賞)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) アート・カードの作品から動き、バランス、色や形のもつ特徴を見つけることができる。
(2) アート・カードの作品を見比べたり、話し合ったりして、造形的なよさや美しさを感じ、自分の見方を深めることができる。
(3) 主体的にアート・カードに描かれた形や色を見たり、話し合ったりして見方や感じ方を深める活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080201_001

【準備等】アート・カード（4～5人のグループに1セット）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 アート・カードに出会い、感じたこと思ったことを話し合う。</p> <p>★アート・カードを見て、自分の考えをまとめよう</p> <p>○アート・カードの作品を見て楽しむ。</p> <p>○アート・カードの作品を見て、思ったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たこと・・・形、色、表情 ・感じたこと・・・不思議、動き出しそう。 ・考えたこと・・・どうして○○なのだろう。○○は△△みたいだ。 <p>2 カードを並べてオリジナルのストーリーをつくるゲームを行う。</p> <p>○気に入った作品を3～4枚選び、それを並べてオリジナルのストーリーをつくる。</p> <p>○自分が選んだカードと考えたストーリーについて紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書5・6上 P.16, 17 ・教科書を見ながら、アート・カードとはどのようなものか説明し、美術館などにいろいろな美術作品があることを知らせるとよい。 ・作品全体をとらえたり、部分を細かくとらえたりさせる。 ・同じ作品を鑑賞しても、その人によって感じ方や見方が異なることに気付かせる。 <p>【評】作品の中の動きや形、色の特徴を見つける活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品に関して、感じたこと、見たこと、考えたことなどを言葉で表すことで、より主体的に鑑賞活動ができるようにする。 ・教科書の参考作品だけでなく、作品集や絵はがき、カレンダーなどの図版を参考にしてもよい。 ・時間があれば、文章で表すだけでなく、立体作品をつくったり模写したりして表現させてもよい。 <p>【評】アート・カードに描かれた作品の色や形を見つけたり、話し合ったりする活動の様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーだけでなくそのカードを選んだ理由やカードから感じたことも紹介させる。 ・友達の感じ方や見方で、自分では気付かなかった新しい感じ方や見方に気付かせたい。 <p>【評】作品から感じたことや想像したことを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

特別の教科道徳との関連について

「B- (11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとき、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」と関連が深い。同じカードを見ても感じ方は人それぞれである。交流を通して自分と違う考えがあることを知り、理解を深め合うことができる。

単元名 言葉から思いを広げて(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 詩や物語から感じたことを形や色でとらえ、その情景を工夫して絵に表すことができる。
 (2) 詩や物語から想像したことに合う形や色などの構成を考えるとともに、友達や自分の作品から自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) 主体的に、詩や物語から情景を想像し、絵に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080202_001

【準備等】画用紙、色画用紙、水彩用具一式、サインペン、クレヨン、パス

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 今までに読んだ詩や物語の中で、感動した言葉や場面を思い出し、構想を練る。</p> <p>○教科書の参考作品を見て、詩や物語の主題や場面の情景と色彩について考える。</p> <p>★心に残った場面を絵にかこう</p> <p>○印象に残っている詩や物語を思い出し、どんな場面か、そのときどんな気持ちだったのかを発表する。</p> <p>○簡単なスケッチをし、構想を練る。</p> <p>2 スケッチを基に、下絵をかく。</p> <p>○画面構成を考えて下絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番かきたいもの ・周りのもの <p>○表現を工夫する。</p> <p>3～5 場面がよく分かるように技法を工夫しながら、彩色する。</p> <p>○中心になるものを彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の表情や様子 ・中心になる色 ・画面の広がりや深まり <p>○場面の様子が分かるように、周りのものを彩色する。</p> <p>○全体の調子を整えながら、作品を完成する。</p> <p>6 友達の絵を鑑賞する。</p> <p>○思いや気持ちを作品カードに記入する。</p> <p>○友達の作品のよさをみんなで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パステルを削って付けた色から、光の感じがよく伝わります。 ・青色に黒色を混ぜることで、静かな夜のような感じがします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書5・6上 P.46, 47 ・事前に予告し、この単元に向け詩や物語を選ばせておいてもよい。 ・教科書の作品を基に、中心になる色や描画材料、表現などについて理解を深めるようにする。 ・国語の単元と関連させて取り組ませてもよい ・日頃から、読書に親しませておく。 ・スケッチの段階で、教師は児童の思いを理解し、構図や表現の選択などを助言する。 ・下絵はスケッチを基に画面構成を考えてかかせる。 ・自分が一番表現したいものを中心にして、周りの様子をとらえさせる。 ・表現をより効果的にするために、省略や強調などをして構図を工夫することを伝える。 <p>【評】主題をどう表すかについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心になる色を決めたり、対比する色を意識させたりしながら、画面の広がりや深まりを表す工夫ができるように支援する。 ・場面の様子を考えさせながら、丁寧に彩色させる。 ・途中で、表したいものが表現されているか確認させる。 <p>【評】詩や物語に触れ、想像した場面に適した表現を見つけ、絵に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品に対する思いやそのよさを感じ取らせる。 <p>【評】自分や友達の作品を鑑賞し、表現の意図や特徴、表し方などを感じ取る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【備 考】

他教科等との関連

国語科で読んだ詩や物語を基に活動することもできる。文章を読んで自分なりの考えをまとめたり、思いを広げたりすることは国語科の「〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)」にもつながる。

単元名 糸のこすいすい(工作)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 電動糸のこぎりを使い、切ったり組み合わせたりした形の特徴をとらえ、工夫して立体作品を表すことができる。
- (2) 電動糸のこぎりを使い、自由に切った形から表したいことを考え、組み合わせなどを構想するとともに、友達や自分の作品を見て自分の見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 電動糸のこぎりを使って、板をいろいろな形に切り、組み合わせる活動に主体的に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080203_001

【準備等】 板材（厚さ 1 cm 程度），電動糸のこぎり，糸のこぎり刃，きり，サンドペーパー，水彩用具一式
油性ペン

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て学習課題をつかみ，作品の構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一枚の板をいろいろな形に切り，組み合わせ，立体的な作品をつくることを知る。 ○ 電動糸のこぎりの使い方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 両手で板を押さえる。 ・ 刃の進む方向に指を置かない。 ・ 刃の付け替えの間や使い終わったら必ずプラグを抜いておく。 ○ 切った板材に切り込みを入れ，組み合わせ方を知る。 <p>2～3 電動糸のこぎりを使って板を切る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 電動糸のこぎりを使って，面白い形など自由な形に板を切る。 <p>4～5 切った板を組み合わせ，立体作品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 組み合わせを工夫して，立体的な作品をつくらう。 ○ 切り分けた板に切り込みを入れて，組み合わせる。 ○ 部品を組み合わせ，作品を完成させる。 <p>6 作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作品のよさや面白さを，みんなで話し合い，発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 切り込みと切り込みを組み合わせ，バランスよく立たせることができます。 ・ 色をたくさん使ってカラフルな鳥の羽になっています 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 5・6 上 P. 20, 21 ・ 教科書の参考作品を見せて，イメージをつかませる。 ・ 事前に教科書の参考作品を基にして，いろいろなアイデアを考えさせておいてもよい。 ・ 電動糸のこぎりの安全な使い方を示範する。 ・ 教科書 P. 60, 61 も参考にさせる。 ・ 教師が実際に板を切り，切り込みを入れ，組合せ方を教える。 ・ 幾何学的な形をしたものなど，自由な発想を促す。 ・ 糸のこぎりの刃がすぐに折れる場合は，力の入れすぎであることに気付かせる。 ・ 刃物などは安全に気をつけて使用したり片付けさせたりする。 【評】 電動糸のこぎりを使って，いろいろな形に板を切ることを楽しむ活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】 電動糸のこぎり正しく安全に使う活動を通して，「知識・技能」を評価する。 ・ 切り分けた板にコの字の切り込みを入れて，組み合わせ方を考えさせる。 ・ 組み合わせることによって作品を自立させ，立体的な作品にしていくように促す。 ・ 切り抜いた板に彩色させてもよい。 【評】 切った板に切り込みを入れて組み合わせ自立させる活動を通して，「知識・技能」を評価する。 【評】 切った板から表したいことを考え，組み合わせを構想する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 鑑賞のプリントを用意し，タイトルと工夫したところを書かせる。 ・ 友達の作品のよさを感じ取らせる。 【評】 自分や友達の作品を鑑賞し，表現の意図や特徴，表し方を感じ取る活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 これまでの学習活動や作品を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 ほり進めて 刷り重ねて(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 彫ったり刷ったりしながら、彫り進み木版の表現の特徴を理解し、彫り方を工夫して表すことができる。
 (2) 版で表したいことや、表し方の特徴などについて考え、どのように作品に表すのかを考えるとともに、友達や自分の作品から自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) 版を彫ったり刷ったりしながら形や色の重なりを確かめて、主体的に版に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080204_001

【準備等】 版木、 刷り紙（一版多色木版の場合は主に黒色の色画用紙）、 版画用具一式、 彫刻刀、 水彩用具一式

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1, 2 教科書の参考作品を見て課題をつかみ、作品の構想を練る。 ○表現方法を理解する。</p> <p>★心に残ったことを一版多色木版や彫り進み木版で表そう ○感じたことや心に残ったことを発表する。 ・うれしかったこと ・楽しい思い出 ○スケッチをする。</p> <p>○画面構成を考えて下絵をかく。 ・一番かきたいものの位置 ・周りのものの様子 ・配色計画</p> <p>○カーボン紙を使って、版木に写す。</p> <p>3～5 下絵に沿って、版を彫り、刷る。 ○彫刻刀の種類と正しい彫り方を確認する。</p> <p>○安全に気を付けながら彫りを進める。 ・彫るところと残すところ ・彫る順番</p> <p>○本刷りをする。 ・一版多色木版の場合は、絵の具で塗り分けて刷る。 ・彫り進み木版の場合は、彫りと刷りを繰り返しながら色を重ねていく。</p> <p>6 友達の作品を鑑賞し、よさを話し合う。 ○作品に表したいと思った気持ちを作品カードに記入し、発表する。 ○友達の作品のよさをみんなで話し合う。 ・赤や青を重ねて印刷することで、ツバメの体の色が表現されています。 ・彫刻刀で彫る向きをそろえているので電車の真っ直ぐな形がよく表れています。</p>	<p>・教科書 5・6 上 P. 50, 51</p> <p>・教科書の作品を見せ、一版多色木版や彫り進み木版の表現について説明する。 ・教科書の参考作品から、一版多色木版と彫り進み木版の表現の特徴をとらえさせる。 ・教科書 5・6 上P. 59を参考に、彫り進み版画について理解させる。</p> <p>・心に残ったことなどをできるだけ多く発表させ、そこから版画に表したいものを選ばせる</p> <p>・スケッチに色鉛筆で色を塗らせて、大まかな感じをとらえさせる。 ・自分の表したい作品が、一版多色木版と彫り進み木版のどちらがイメージに合うか考えながらアイディアスケッチに取り組ませる。 ・事前に写真などの資料を準備させる。 ・下絵はスケッチを基に画面構成を考えさせるが、細くなりすぎないように注意する。 ・一番表現したいものが目立つように、周りの物との関わりをとらえさせる。 【評】 木版画の特徴から、表したいものの構成を考えたり、表す順番を考えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・カーボン紙を使って写すときに、下絵を裏表逆にすると、完成した絵が下絵と同じになることを知らせる。</p> <p>・彫刻刀の使い方については、第4学年で学習しているが、繰り返し指導し定着を図る。 ・安全のため、刀の進む方向に絶対に手や指を置かないことを確認する。 ・彫るところと残すところを確認させる。 【評】 彫刻刀の彫りの効果を理解し、使い分けながら、制作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】 彫刻刀の彫りの特徴やよさを感じ取りながら、表現を楽しむ様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ばれんの使い方を示範する。 ・一版多色木版の場合は、絵の具で色を着ける</p> <p>・一版多色木版の場合は、白を少し混ぜると発色が良い。 ・水が多くならないように注意する。 ・彫り進み木版の場合は、子どもたちが平行して活動できるように、インクやローラーなどを配置する。</p> <p>・作品カードを活用して、自分の作品への気持ちを伝えさせる。 【評】 友達と作品を見せ合い、表し方の特徴やよさを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 これまでの学習活動や作品を通して、「</p>

【 備 考 】

図画工作科におけるプログラミング的思考の育成

木版画では、どのような表し方をするのか、事前に完成のイメージをもたせる必要がある。イメージに対して、どのような表し方をするのか、どの順番で彫り、どの順番でどの色を刷るのかを考えさせ、彫りと刷りを重ねながら表現させる。

自分が意図する活動を実現するための①分解（表したい作品を、構成する要素に分解する）、②置換（要素を形や色に置き換える）、③組合せ（形や色の組合せや順番を考える）、④検証（組合せを検証して意図に近づける）といったことを論理的に考えていく力を育成する。その他の題材においても、上記の事柄を意識しながら学習活動を工夫し、プログラミング的思考の育成に努めたい。

参考・・・日本文教出版株式会社<http://www.nichibun-g.co.jp/>

単元名 使って楽しい焼き物(立体)

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) ひもづくりや板づくり、手びねりなどの粘土の特徴を生かしたつくり方を理解し、目的に応じて工夫しながら作品に表すことができる。
- (2) 実際の使い方や使う場所を想像し、焼き物の形や飾りを考えるとともに、友達や自分の作品から、自分の見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 焼成に適した粘土を用いて、主体的に立体に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080301_001

【準備等】粘土（1 kg程度）、どべ、粘土板、手回しろくろ、たたら板、のし棒、切り糸、切り針金、かきべら、新聞紙、へら、ぞうきん

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～2 焼き物について知り、自分のつくりたい形をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な場所で焼き物を見たり、使ったりした経験について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・茶わん、花びん、鉛筆立て、鉢、小物入れ ★使って楽しい焼き物をつくろう ○成形の方法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ひもづくり ・板づくり ・手びねり ○アイディアスケッチをする。 ○粘土で成形する。 <p>3 焼成したものを鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の作品について発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・つくったときの気持ち ・焼成後の作品のイメージ ・工夫したところ ○友達の作品のよさについて気が付いたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書5・6上 P.24, 25 ・実際の焼き物をいくつか準備し、見せるとよい。 ・3つの成型方法について示範する。 ・焼成したときに割れにくくするためよく練って粘土の空気を抜くようにする。 ・教科書P.64, 65を参考に計画的に取り組ませる。 ・使い方や置く場所を具体的に考えさせる。 ・時間がない場合は事前にアイディアスケッチを考えさせておいてもよい。 【評】実際の使い方や使う場所を想像しながらアイディアスケッチをかく活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・焼成したときに割れにくくする条件（①よく練って粘土の空気を抜く。②厚さは均一にする。③どべで接着する。）について指導する 【評】3つの成型方法を基に、自分のつくりたい形に近づけていく活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】粘土や3つの成型方法のよさや特徴を感じながら、表現を楽しむ活動の様子を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・焼成を業者に依頼すると鑑賞会までに時間が空くため、つくり終えた時の気持ちをメモしておくとうい。 ・焼き上がり後の様子にも注目させると焼き物のよさや美しさなどへの理解が深まる。 ・使いやすさや装飾の工夫について考えさせるとよい。 【評】自分や友達の作品を鑑賞し、表現の意図や特徴、表し方を感じとる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

特別の教科道徳との関連について

「C- (17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと」との関連が深い。焼き物をつくることを通して、日本の伝統文化に触れることから、道徳科の学習につなげたい。

他教科等との関連

地域の伝統文化を知ることや、日本の文化財について知ることは、社会科のつながりの中で捉えることができる。

単元名	形が動く 絵が動く(工作)	配当時間	5時間
単元の目標	(1) アニメーションによる動きの変化の特徴を理解し、面白い動きを取り入れたり、形の変化を工夫したりしてアニメーションに表すことができる。 (2) アニメーションの動きや変化を確かめながら、表したいことを考えるとともに、友達や自分の作品から自分の見方や感じ方を深めることができる。 (3) アニメーションの仕組みを使って、主体的に楽しい動きや変化をつくる活動に取り組もうとする。		

標準的な展開例

05080302 001

【準備等】 デジタルカメラ、パソコン、電子黒板、プロジェクター

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○参考作品を見て、連続写真でアニメーションをつくることを知る。 ★楽しいパラパラアニメーションをつくろう ○アニメーションができる仕組みを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵の変化 ・物の移動 ・物の変化 ○楽しいアニメーションの構想を練る。 <ul style="list-style-type: none"> ・動きの工夫 ・形の変化 ○アイデアスケッチをかく。 <p>2～4 アイデアスケッチを基に、アニメーションをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○デジタルカメラで写真を撮る。 <p>○撮影した写真を並べ、作品を完成させる。</p> <p>5 友達の作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達の作品のよさをみんなで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ものを少しずつ動かしたり、細かい動きを入れたりして、本当に動いているように感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書5・6上 P.18, 19 ・デジタル教材を使い、実際の連続写真によるアニメーションを見せ、興味をもたせる。 ・参考となる作品の写真をゆっくり見せ、アニメーションができる仕組みを理解させる。 ・動きや形の変化の面白さを生かしたアニメーションになるように、構想を練らせる。 <p>【評】動きや形の変化を生かしながら、作品の構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が動くとき楽しいのか、試しながら考えさせる。 ・カメラを固定し、撮影させる。 ・個人で制作する場合でも、グループで活動し協力して制作させたり、友達の工夫を自分の制作に生かしたりさせる。 ・撮影した写真をパソコンに取り込み、コマ送りしながら、アニメーションを確認させ、作品を完成させるようにする。 <p>【評】アニメーションのよさや面白さを感じ、制作を楽しむ活動の様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】連続写真のアニメーションの特徴を理解し、制作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板やプロジェクターなどを使い、大きな画面で鑑賞し合うようにさせる。 ・鑑賞のプリントを用意し、友達の作品のよさを記入し、話し合わせる。 <p>【評】友達の作品を鑑賞し、作品のよさや面白さ、工夫を感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

【他教科等との関連】
国語科の「文章全体の構成や展開を考える」活動と関連させ、アニメーションの物語を考えることもできる。

単元名 伝え合いたい思い(工作)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 思いが伝わる形や色を見付け、材料や用具を活用して工夫して作品を表すことができる。
 (2) 自分の好きな場所についての思いや伝えたいことを、どのように表すか考えるとともに、友達や自分の作品から、自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) 思いを伝えるプレートをつくる活動に、主体的に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080303_001

【準備等】 板材、段ボール、針金、ひも、くぎ、金づち、きり、クランプ、のこぎり、電動糸のこぎり、木工用接着剤、水溶性ニス、はけ、水彩用具一式、サンドペーパー、ヒートン、彫刻刀、カッターナイフ、カッターマット、サインペン

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 参考作品を見て、学校の案内板をつくることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> 放送室や音楽室など、特別教室の案内板 ★学校の案内板をつくろう つくる手順を知る。 つくりたい案内板について、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 部屋や場所の特徴 部屋や場所の特徴が伝わるように、案内板の構想を練る 案内板のスケッチをする。 <p>2～4 スケッチに基づいて、つくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 板に下絵をかく。 下絵に合わせて板の周りを切る。 サンドペーパーをかける。 彩色する。 ニスをぬって完成する。 <p>5 友達の作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現の工夫を作品カードに記入し、発表する。 友達の作品のよさをみんなで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 本からいろいろなお話が飛び出すような作品で、大きな図書館が表現されていました。 楽しく歌ったり演奏したりする音が聞こえる音楽室が音符などで表されていました。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 5・6 上 P.52, 53 参考作品を見て、案内板には、何をする場所か分かる工夫がしてあることに気付かせる。 スケッチから彩色までの手順を説明して、活動の見通しをもたせる。 学校の中にある部屋や場所を挙げさせ、場所の特徴について、できるだけ多くの意見を出させる。 部屋や場所の特徴や使う人の願いを考え、案内板や文字の形や色を考えさせる。 簡単なスケッチを数枚かかせ、場所の特徴が明確で形のよいものを一つ選ばせる。 【評】場所に適した案内板の形や色の構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 無駄のない板の使い方を考えて、形を板いっぱいに写させる。 電動糸のこぎりについては既習しているが、再度使い方の確認をする。(P.20, 21「糸のこすいすい」展開例 参照) 児童の実態に合わせ、彫刻刀を使って線彫りや浮き彫りをさせてもよい。 サンドペーパーで磨き過ぎて、山がつぶれないように注意させる。 作品全体の雰囲気を考えて彩色させる。 野外に設置する場合は、耐水性絵の具を使用する。 水の量を少なめにし、発色よく塗らせる。 【評】楽しく分かりやすい案内板になるような形や色で表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ニスを厚く塗りすぎないことを伝える。 【評】材料や用具を活用し、制作を楽しむ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 実際に特別教室などの案内表示にし、他学年の児童も鑑賞できるようにしてもよい。 他学年の児童をまねき、看板を見せながら学校案内をさせてもよい。 つくるときに工夫したことなどを記入させ、発表させる。 表した意図や表し方の特徴などについて話し合わせる。 【評】友達の作品を鑑賞し、工夫やよさを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

特別の教科道徳との関連について

「B- (11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」「C- (16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくる」とともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実努めること」などと関連が深い。活動を通して、感じたことや考えたことから道徳の学習につなげることや、道徳の学習で感じたことなどを表現につなげることも考えられる。

単元名 (参考単元)消してかく(絵)

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 消したりぬったりしてできる形や色の特徴を理解し、工夫して作品を表すことができる。
 (2) 消したりぬったりしてできる形や色から、表したいことを想像するとともに、友達や自分の作品から自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) コンテや消しゴムを使い、主体的に思いついたことを絵に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080304_001

【準備等】画用紙、木炭紙、コンテ、木炭、パステル、消しゴム、新聞、台紙、汚れてもよい服装、雑巾

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 参考作品を見て、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○参考作品を見て、消しゴムで消しながら絵をかくことを知る。 ★消しゴムで消しながら現れる形から発想を広げてかこう ○手順を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・紙をコンテで塗る。 ・塗ったり消したりして表したいことを見付ける。 ・消した形を生かして表す。 <p>2～3 コンテと消しゴムを使って絵に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンテで画面を塗りつぶす。 <ul style="list-style-type: none"> ○消しゴムで消したりコンテで塗ったりして、表したいことを見付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・植物の芽のような形にしよう。 ・鳥もかきたいな。 <ul style="list-style-type: none"> ○消した形を生かしながら、表し方を工夫して表す。 <p>4 友達の作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの活動や作品から、表し方の違い、よさや美しさを感じ取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼんやりした線とはっきりした線から、〇〇に見えてきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書5・6上 P.40, 41 ・教科書の作品だけでなく、その場で実際にやってみせるなどして意欲化を図る。 ・紙は大きめの木炭紙や画用紙を使うとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・消すだけでなく、できた形から思い付いて、色を重ねてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・コンテを短く割り、横に倒してぬると広い面が塗れる。 ・塗るだけでなく、手指ですりこんで粉を画用紙に定着していくようにする。 ・自分にとっていいと感じる形が生まれるまで何度も塗ったり消したりさせる。 ・力加減、消しゴムやコンテの持ち方を変えることによって、表現の幅が広がることをとらえさせる。 ・できた形から思い付いて、色を重ねてもよいことを伝える。 ・消し方や別の色を考えながら、表したいことに合う表し方を工夫させる。 ・力強く消したり、何度か繰り返し消したりすることで形がはっきりしてくることも助言する。 <p>【評】コンテや消しゴムなどの特徴を生かしながら表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】コンテや消しゴムの特徴から、表したいことを想像する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】コンテや消しゴムを使い、表現する活動を楽しむ様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品について感じたことだけでなく、消して表すのはどんな感じがしたのかも発表させるとよい。 <p>【評】友達の作品を鑑賞し、工夫やよさを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 (参考単元) 光と場所のハーモニー(造形遊び)

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 光が作り出す形や色, 場所の特徴をとらえ, 工夫して作品を表すことができる。
 (2) 光の効果を試しながら, つくりたい空間や, どのように表現するかについて考えるとともに, 友達や自分の作品から, 自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) 光や場所の特徴を生かして, 主体的に美しい空間をつくる活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05080305_001

【準備等】LED ライト, 液晶プロジェクター, 鏡, ビー玉, 色セロハン, トレーシングペーパー, ミラーシート, はさみ, のり

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 参考例を見て, 課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考例を見る。 <ul style="list-style-type: none"> 光を形のすき間に当てて映す。 セロハンやトレーシングペーパーに光を通す。 ミラーシートに光を当てて反射させる。 ★光を通して生まれる形や色などを生かして, 場所の雰囲気を変えよう いろいろな材料に光を通しながら, イメージを膨らませる。 光を通して生まれる形や色で, 空間の雰囲気をどう変えていくか話し合い, 構想を練る。 <p>2～3 場所や環境を生かし, 材料や方法を試しながらつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 場所の変化の面白さを感じながら, 表現を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> いろいろな材料や方法を試しながら考える。 材料の使い方や組み合わせ方を工夫する。 <p>4 鑑賞会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 変化した空間を味わい, 感じたことについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 5・6 上 P. 44, 45 教科書の参考例を見せ, 光を通して生まれる形や色などを生かして, いつもとは違う空間に変える造形活動をグループで行うことを知らせる。 このような造形遊びの単元は各学年の教科書でも多く紹介されている。活動の見通しをもたせるためにも, 多くの参考作品を見せるとよい。 事前に活動内容を伝え, 光を通す材料を準備させておく。 光は通すだけでなく, 反射させたり重ねたりすることができることも伝える。 材料を動かすことによって, 光の表情が変わることもとらえさせる。 【評】光を通して生まれる形や色を生かし, 空間づくりの構想を練る活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 思った空間ができてきているか時々確かめ合いながら活動を進めさせる。 【評】光や場所の特徴を生かしながら表現する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 【評】美しい空間をつくり出そうとする活動の様子を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 自分たちだけが楽しむだけでなく, 他の学年の児童にも楽しんでもらえるようにするとよい。 光を通して生まれる形や色の生かし方や, つくった人たちの意図した雰囲気を中心に伝え合わせる。 【評】友達の作品を鑑賞し, 工夫やよさを感じ取る活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

図画工作科におけるプログラミング的思考の育成

本題材ではViscuit (ビスケット) やScratch (スクラッチ) というビジュアルプログラミング言語をツールとして活用し, 動く絵を場所に投影し, 投影した様子を基にプログラミングをつくりかえるといった活動を行うことも考えられる。

単元名 想像する力(オリエンテーション)

配当時間 1時間

単元の目標

(3) 美術作品や写真を見ながら、主体的に感じたことや思ったことを話し合う活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06080101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の写真を見て、図画工作の授業への意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の「想像する力」の作品や写真を見て、感じたことや思ったことを話し合う。 ○教科書の「見つめて広げて」の文を読み、図画工作の授業で大切なことを話し合う。 ○教科書の写真を見て、感じたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな表現方法や材料がある。 ・みんな真剣で楽しそう。 ・自分もつくってみたい。 <p>★図画工作の授業で、やってみたいことを伝え合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「使ってみよう材料と用具」を見ながら、これからの造形活動に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 5・6 下 P. 2～7 ・「想像する力」の作品や写真から、見えるものや気がつくことを発表させる。 ・作品や写真から、その中にある物語や意味を想像させる。 ・「見つめて広げて」の文章を読ませ、6年生の図画工作の授業で大切なことをとらえさせる。 ・写真の活動の様子が、6年生で取り組む単元であることを伝え、今後の表現活動に対する意欲化を図る。 ・1年間の活動内容を知らせながら、必要となる材料についても触れておく。 ・発表することで取組への意欲化を図る。 ・教科書 5・6 下 P. 56～63を見て伝え合わせる。 ・実物を示して説明すると、分かりやすい。 <p>【評】作品や写真から想像を広げたり、1年間の学習の見通しをもったりする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

【 備 考 】

単元名 わたしの大切な風景(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 大切な風景への思いに合う形や色を見付け、工夫して絵に表すことができる。
 (2) 大切な風景を見たり、思い浮かべたりしながら、どのように線や色を組み合わせるかを考え、えるとともに、友達や自分の作品から、よさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) 大切な風景を、思いが表れるように工夫しながら、主体的に絵に表す活動に取り組もうとする

標準的な展開例

06080102_001

【準備等】水彩画紙、黄ボール紙、デジタルカメラ、水彩用具一式、写真（好きな場所）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 自分が気に入っている場所を探し、絵の構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が気に入っている校内の場所とその理由を発表する <p>★クランクの特徴を生かし、自分の好きな場所を絵に表そう</p> <ul style="list-style-type: none"> 気に入っている場所の中から、スケッチをする場所を決める。 <ul style="list-style-type: none"> 遊んだ場所 思い出の場所 実際にかいてみたい場所に行き、スケッチをする。 <ul style="list-style-type: none"> いろいろな角度から見た様子（ねそべる、しゃがむ、見下ろす、見上げる） 一番かきたいものの様子 周りの様子 <p>3～5 色を工夫しながら、彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心になるものを彩色する。 <ul style="list-style-type: none"> 中心になるものの色の工夫 場所の雰囲気が伝わるように彩色をする。 <ul style="list-style-type: none"> 混色 重色 筆使い 全体の調子を整えながら、作品を完成する。 <ul style="list-style-type: none"> 全体のバランス <p>6 友達の作品を見て、そのよさを話し合い、思いを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 選んだ場所の紹介文を鑑賞の用紙に書き、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ここは友達と過ごした大切な思い出のある場所です。 ここから私たちの住む町がよく見えます。 友達の作品を鑑賞し、よさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 5・6 下 P.24, 25 発表を聞くことで、場所にはいろいろな人の思い入れがあることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> 児童がどんな場所に行くのかを確認し、安全についての配慮をする。 安全上の理由から、かく範囲を絞ることも考える。 建物を斜めからかくことを意識させると、奥行きのある絵の構図になる。 スケッチの段階で、児童の思いをよく理解し表現方法などを助言する。 見えるもの全てをかくのではなく、省略してもよいことを知らせる。 八つ切りの半分や葉書サイズの用紙を使わせたり、黄ボール紙を使わせたりしてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> 児童が選んだ場所をデジタルカメラで記録しておき、次時の構図の助言に使用するとよい <p>【評】気に入った場所のよさが伝わるように、画面構成を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心になるものと周りのものの色の関係を感じ取らせながら、表現を工夫させる。 季節、時刻、天気を考えさせて、彩色させる <ul style="list-style-type: none"> 場所ごとにデジタルカメラで撮影しておくこと天候を気にせず教室に帰ってからでも彩色できる。 表現活動の途中で、自分の意図しているものがきちんと表現されているか確認をさせる。 <p>【評】混色や重色の仕方を理解し、筆使いを考え彩色する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】絵の具を使い、思いが表れるように彩色に取り組む活動の様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵に込められた思いやかきたかったことを発表させる。 <p>【評】友達の作品を鑑賞し、工夫やよさを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 くくるクランク(工作)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) クランクの動きの特徴を理解し、動きを利用しながら工夫して工作に表すことができる。
 (2) クランクの動きを試しながら、つくりたいものを想像するとともに、友達や自分の作品のよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) クランクの動きを試しながら、主体的に工作に表す活動に取り組もうとする。

基本的な展開

06080103_001

【準備等】参考作品、工作用紙、色画用紙、両面色画用紙、段ボール、竹ひご、材料（空き箱、ペットボトルのキャップなど）、針金、ストロー、ペンチ、目打ち、カッターナイフ、カッターマット、はさみ、化学接着剤、のり

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ クランクの動きを見る。 ○ クランクの仕組みを使った参考作品を自由に動かす。 <p>★楽しく動くおもちゃをつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仕組みについて知る。 ○ アイデアスケッチをかいいて、作品の構想を練る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心になるもの ・ 周りのものの形 <p>2～5 アイデアスケッチに基づいてつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ クランクの仕組みをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ペンチの使い方 ・ 針金の曲げ方 ○ 中心になるものや周りのものをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心になるもの ・ 周りのもの ○ クランクを動かして、動きを確かめる。 <p>6 友達と作品を交換して楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作品を交換して、みんなで楽しく遊ぶ。 ○ 作品のよさや面白さをみんなで話し合い、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2つのクランクが交互に動くので違った動きに見えて面白いです。 ・ 動物がジャンプする様子がよく表れています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 5・6 年下 P.16,17 ・ 教師は参考作品を提示して、そのクランクを動かして見せ、興味をもたせる。 ・ クランクの仕組みを使った参考作品を、児童に動かさせることで、仕組みや動きをつかませる。 ・ クランクの参考作品を動かしながら、仕組みを説明する。 ・ 動きからイメージをもたせ、中心になるものと周りのものとの関わりを考えながら構想を練るように促す。 <p>【評】クランクの動きを試しながら作品の構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペンチで針金を固定し、親指で針金を押さえて直角に曲げるように助言する。 ・ 針金を曲げる方向と動きをつかませる。 ・ 動かしながら、いろいろな方向から見てつくっていくように伝える。 ・ できた作品を動かして、スムーズな動きになっているか確かめさせる。 <p>【評】クランクの動きを利用しながら工夫して作品を制作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】クランクの動きを試したり、材料を使って表現したいものをつくる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と作品を交換して遊びながら、作品のよさを感じ取らせる。 <p>【評】友達の作品のよさや動きの面白さを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 固まった形から(立体)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 固めた布をいろいろな向きから見て、その形の特徴をとらえ、工夫して作品に表すことができる。
- (2) どのように固めたら面白いのか考え、できた形から想像を広げるとともに、友達や自分の作品のよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 液体粘土で布を固めた形から想像を広げ、主体的に立体に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06080104_001

【準備等】液体粘土、アルミ針金、ひも、ポリシート、液体粘土用容器、ペンチ、布、芯材となるもの（ペットボトル、瓶、缶、ハンガー、洗濯ばさみ等）新聞紙、装飾材、色画用紙、角材、板、釘、金づち、木工用接着剤、化学接着剤、粘着テープ、水彩用具一式、雑巾、はさみ、汚れてもよい服装

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 芯になるものに布をかぶせイメージを広げ、液体粘土で形を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考作品を見て、形や色から、作者のイメージを感じ取る。 <p>★液体粘土で不思議な形をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> 芯になるものに布をかぶせたり、布をつるしたりしてイメージを広げる。 <ul style="list-style-type: none"> 豚に見える。 飛んでいる鳥みたい。 液体粘土を浸した布で形をつくり乾かす。 <p>3 着色し飾り付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 着色する。 <ul style="list-style-type: none"> にじみ、ぼかし、たらしなど様々な技法を取り入れ変化を出す。 飾りを付ける。 <p>○展示の仕方を考える。</p> <p>4 鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いの作品に名前を付け合い、その理由について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 友達は〇〇と言っていたけど、私には△△に見えました。 ねじって細くなっているのだから〇〇に見えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 5・6下 P.28, 29 教科書の参考作品や実物の参考作品を見せながら、学習課題をつかませる。 教科書を参考に、液体粘土で固まった布の感じや芯材への布のかぶせ方、つるし方によって形が変化することを知る。 いろいろな高さや方向・角度から見てイメージを広げさせる。 布の形だけでなく、しわやその形の面白さに気付かせる。 布にしわをつけたり、かぶせ方による凹凸の違いをつくったりして、変化をもたせる。 枝や針金などを通して面白い。 固まると芯を外しても立つことを知らせる。 固まった布の形をさまざまな方向から見て見立て、つくりたいものを見つけさせる。 台紙にも色をつけてイメージが伝わりやすくさせる。 表現したいテーマが伝わりやすい着色方法を考えさせる。 葉っぱや花、枝などを装飾材として使用し、飾り付けをさせる。 【評】固まった布の形の特徴を生かし、つくりたいものを構想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】固めてできた布の形を生かして工夫して作品を制作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】液体粘土で固めた布の形から作品をつくり上げる活動の様子から、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 立てて置きたい場合は土台をつけるとよい。 鑑賞のプリントを用意し、美しかったり面白かったりした形について記入し、発表させる 【評】友達の作品のよさや面白さを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

他教科等との関連

外国語活動と同じく、ショー・アンド・テルの中で作品について伝えることが考えられる。

単元名 【旧】見つめて 広げて(オリエンテーション)

配当時間 1時間

単元の目標

(3) 6年生の学習内容やめあてを知り、意欲的に活動しようとする。

標準的な展開例

06080105_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 教科書の写真を見て、図画工作の授業への意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書の「見つめて広げて」の文を読み、図画工作の授業で大切なことを話し合う。 ○教科書の写真を見て、感じたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな表現方法や材料がある。 ・みんな真剣で楽しそう。 ・自分もつくってみたい。 ★図画工作の授業で、やってみたいことを伝え合おう ○「使ってみよう材料と用具」を見ながら、これからの造形活動に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書5・6下 P.6, 7 ・「見つめて広げて」の文章を読ませ、第6学年の図画工作の授業で大切なことをとらえさせる。 ・写真の活動の様子が、6年生で取り組む単元であることを伝え、今後の表現活動に対する意欲化を図る。 ・1年間の活動内容を知らせながら、必要となる材料についても触れておく。 ・発表することで取り組みへの意欲化を図る。 ・教科書5・6下 P.52～57 ・実物を示して説明すると、分かりやすい。 【評】活動を通して、1年間の学習内容を知り意欲的に活動しようとする「関心・意欲・態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 【旧】わたしの大切な風景(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 毎日の生活を見つめながら、大切に思う風景やその様子を考えることができる。
 (2) 大切な風景の様子や思いなどが表れるように、表し方を工夫することができる。自分や友達の絵を見て、大切にしたい思いや作品のよさを感じ取ることができる。
 (3) 毎日の生活の中から、大切に思う風景を見付け、絵に表すことに取り組もうとする。

標準的な展開例

06080106_001

【準備等】水彩画紙、黄ボール紙、鑑賞カード、デジタルカメラ、水彩用具一式、写真（好きな場所）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1, 2 自分が気に入っている場所を探し、絵の構想を練る。 ○自分が気に入っている校内の場所とその理由を発表する</p> <p>★自分の好きな場所を絵に表そう ○気に入っている場所の中から、スケッチをする場所を決める。 ・遊んだ場所 ・思い出の場所</p> <p>○実際にかいてみたい場所に行って、スケッチをする。 ・いろいろな角度から見た様子（ねそべる、しゃがむ、見下ろす、見上げる） ・一番かきたいものの様子 ・周りの様子</p> <p>3～5 色を工夫しながら、彩色する。 ○中心になるものを彩色する。 ・中心になるものの色の工夫 ○場所の雰囲気が伝わるように彩色をする。 ・混色 ・重色 ・筆使い</p> <p>○全体の調子を整えながら、作品を完成する。（活用） ・全体のバランス</p> <p>6 友達の作品を見て、そのよさを話し合い、思いを感じ取る。 ○選んだ場所の紹介文を鑑賞カードに書き、発表する。（言語活動） ○友達の作品を鑑賞し、よさを感じ取る。</p>	<p>・教科書 5・6 下 P. 14, 15 ・発表を聞くことで、場所にはいろいろな人の思い入れがあることに気付かせる。</p> <p>・児童がどんな場所に行くのかを確認し、安全についての配慮をする。 ・安全上の理由から、かく範囲を絞ることも考える。 ・建物を斜めからかくことを意識させると、奥行きのある絵の構図になる。 ・スケッチの段階で、児童の思いをよく理解し表現方法などを助言する。 ・見えるものすべてをかくのではなく、省略してもよいことを知らせる。 ・八つ切りの半分や葉書サイズの手紙を使わせたり、黄ボール紙を使わせたりしてもよい。</p> <p>・児童が選んだ場所をデジタルカメラで記録しておき、次時の構図の助言に使用するとよい</p> <p>【評】 作品を通して、気に入った場所のよさが伝わるように、画面構成を工夫する「発想や構想の能力」を評価する。</p> <p>・中心になるものと周りのものの色の関係を感じ取らせながら、表現を工夫させる。 ・季節、時刻、天気を考えさせて、彩色させる</p> <p>・場所ごとにデジタルカメラで撮影しておくとな候を気にせず教室に帰ってからも彩色できる。 ・表現活動の途中で、自分の意図しているものがきちんと表現されているか確認をさせる。 【評】 作品を通して、混色や重色の仕方を理解し、筆使いを考え彩色する「表現の技能」を評価する。</p> <p>・絵に込められた思いやかきたかったことを発表させる。</p>

【 備 考 】

この単元では、児童が今まで生活してきた風景を改めて見直し、自分が大切に思う風景や思い出の場所を絵に表す活動をする。特に自分が大切に思う場所を選んで、どのように画面の中に入れるかを構想する力、自分が感じた風景の色を混色や重色により工夫してつくる技能を伸ばしていくことが大切である。言語活動の場面では、絵に紹介文を添付したり、実際に説明したりすることにより、選んだ場所に対する思いを改めて感じ取らせるとよい。

<参考URL>

アイデアスケッチ 6年¥図画工作¥Doc¥図画工作科用語集.jtd

単元名	【旧】くるくるクランク(工作)	配当時間	6時間
単元の目標	(1) クランクの仕組みを基に、その動きを生かしながらつくりたいものをつくることができる。 (2) 思いや考えに合った動きになるように、仕組みや飾り方を工夫することができる。できた作品を動かしながら、クランクの仕組みの生かし方や動きの面白さなどを感じ取ることができる。 (3) クランクの仕組みを基に、動くおもちゃをつくることを楽しもうとする。		

基本的な展開

06080107_001

【準備等】 参考作品，工作用紙，色画用紙，両面色画用紙，段ボール，竹ひご，材料（空き箱，ペットボトルのキャップなど），針金，ストロー，ペンチ，目打ち，カッターナイフ，カッターマット，はさみ，化学接着剤，のり

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<div>1 教科書の参考作品を見て，学習課題をつかむ。 ○クランクの動きを見る。 ○クランクの仕組みを使った参考作品を自由に動かす。 ★楽しく動くおもちゃをつくろう ○仕組みについて知る。 ○アイデアスケッチをかいいて，作品の構想を練る。 ・中心になるもの ・周りのものの形</div> <div>2～5 アイデアスケッチに基づいてつくる。 ○クランクの仕組みをつくる。 ・ペンチの使い方 ・針金の曲げ方 ○中心になるものや周りのものをつくる。 ・中心になるもの ・周りのもの ○クランクを動かして，動きを確かめる。</div> <div>6 友達と作品を交換して楽しむ。 ○作品を交換して，みんなで楽しく遊ぶ。 ○作品のよさや面白さをみんなで話し合い，発表する。 (言語活動)</div>	<div>・教科書 5・6 年下 P.16,17 ・教師は参考作品を提示して，そのクランクを動かして見せ，興味をもたせる。 ・クランクの仕組みを使った参考作品を，児童に動かさせることで，仕組みや動きをつかませる。</div> <div>・クランクの参考作品を動かしながら，仕組みを説明する。 ・教科書P.53のカムの仕組みも説明し，作品に取り入れさせてもよい。 ・動きからイメージをもたせ，中心になるものと周りのものとかかわりを考えながら構想を練るように促す。 【評】 アイデアスケッチを通して，クランクの仕組みを理解し，動きをイメージして作品の構想を練る「発想や構想の能力」を評価する</div> <div>・ペンチで針金を固定し，親指で針金を押さえて直角に曲げるように助言する。 ・針金を曲げる方向と動きをつかませる。 ・動かしながら，いろいろな方向から見てつづいていくように伝える。</div> <div>・できた作品を動かして，スムーズな動きになっているか確かめさせる。</div> <div>・友達と作品を交換して遊びながら，作品のよさを感じ取らせる。 【評】 活動を通して，友達の作品のよさや動きの面白さを感じ取る「鑑賞の能力」を評価する</div>

【 備 考 】
この単元では，クランクの動く仕組みを知り，この動きを生かした楽しいおもちゃをつくる活動をする。クランクがうまく動くように，動く仕組みをきちんとつくり，つくりたいものの動きに合うように構想を練ることが大切である。言語活動では，友達と出来た作品を交換して遊ぶ時間を取り，それぞれの作品の発想のよさや動きの面白さを感じ取らせたい。
<参考URL>
接着剤 6年¥図画工作¥Doc¥図画工作科用語集.jtd

単元名	【旧】いっしゅんの形から(立体)	配当時間	4時間
単元の目標	(1) 見る人にも伝わるように、作品を固定する角度や色、置く場所を考え工夫して作品に表すことができる。 (2) 固まった形を、いろいろな高さや方向・角度から見て、つくりたいものを見付けることができる。友人の作品から、見立ての面白さや見せ方の工夫を感じ取とることができる。 (3) 液体粘土で固めた布の形の高さや膨らみの変化により、布のつくりだす形の変化を楽しもうとする。		

標準的な展開例	06080108_001
【準備等】液体粘土、アルミ針金、ひも、ポリシート、液体粘土用容器、ペンチ、布、芯材となるもの（ペットボトル、瓶、缶、ハンガー、洗濯ばさみ等）新聞紙、装飾材、色画用紙、角材、板、釘、金づち、木工用接着剤、化学接着剤、粘着テープ、ワークシート、水彩用具一式、雑巾、はさみ、汚れてもよい服装	

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1, 2 芯になるものに布をかぶせイメージを広げ、液体粘土で形を作る。 ○教科書の参考作品を見る。 ★液体粘土で不思議な形をつくろう ○芯になるものに布をかぶせたり、布をつるしたりしてイメージを広げる。 ・豚に見える。 ・飛んでいる鳥みたい。 ○液体粘土を浸した布で形をつくり乾かす。 3 着色し飾り付けをする。 ○着色する。 ・にじみ、ぼかし、たらしなど様々な技法を取り入れ変化を出す。 ○飾りを付ける。 ○展示の仕方を考える。 4 鑑賞する。 ○お互いの作品に名前を付け合い、その理由について話し合う。（言語活動）	・教科書 5・6 下 P. 32, 33を参考に、液体粘土で固まった布の感じや芯材への布のかぶせ方、つるし方によって形が変化することを知る。 ・教科書の参考作品や実物の参考作品を見せながら、学習課題をつかませる。 ・いろいろな高さや方向・角度から見てイメージを広げさせる。 ・布の形だけでなく、しわやすその形の面白さに気付かせる。 ・布にしわをつけたり、かぶせ方による凹凸の違いをつくったりして、変化をもたせる。 ・枝や針金などを通して面白い。 ・固まると芯を外しても立つことを知らせる。 【評】活動を通して、布の形の変化を楽しむ様子から「関心・意欲・態度」を評価する。 ・固まった布の形をさまざまな方向から見て見立て、つくりたいものを見つけさせる。 ・台紙にも色をつけてイメージが伝わりやすくさせる。 ・表現したいテーマが伝わりやすい着色方法を考えさせる。 ・葉っぱや花、枝などを装飾材として使用し、飾り付けをさせる。 【評】作品を通して、固まった布の形の特徴を生かし、つくりたいものを構想する「発想や構想の能力」を評価する。 ・立てて置きたい場合は土台をつけるとよい。 ・美しかったり面白かったりした形についてワークシートに記入し、発表させる。

【 備 考 】
この単元では、液体粘土で固めた布の形を見立て、想像を広げて立体に表す活動をする。芯材の組み合わせ方や布のつるし方を工夫することで、いろいろな形を表現させたい。対象の形をいろいろな方向から見ることで見え方が変化することに気付かせ、そこからイメージを広げることが大切である。言語活動としては、鑑賞の活動の中で、お互いの作品に名前を付け合ったり、その理由について意見を交換し合ったりできるとよい。

単元名 わたしの感じる和(鑑賞)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 生活の中にある日本の美術の形や色などの特徴を捉えることができる。
 (2) 日本の美術作品や、生活の中の造形などから、そのよさや美しさを味わい、自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) 古くから生活の中で親しまれてきた日本の美術のよさや美しさを味わう活動に主体的に取り組もうとする。

標準的な展開例

06080201_001

【準備等】日本美術の複製（映像や掲示物），巻物，扇，屏風などの模型，和紙，画用紙，色鉛筆，墨，筆和柄のもの，和柄の図版，液晶プロジェクター，水彩用具一式，サインペン，色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書に紹介されている和の形のよさや美しさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにある和柄のものについて紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・雑貨 ・服 ・食器 ★日本の美術を知り，よさや美しさを味わおう ○教科書の参考作品について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・扇…使う場所に応じた模様 ・屏風…部屋の仕切りや飾りとして使う。折ってできる奥行きを生かして絵が描かれる。 ・焼き物…焼く温度やつくり方，せゆうの方法など様々な表現が日本各地に根付いている。 ・和食…材料などで季節感を出す。食器や盛り付けも工夫されている。 ・切子細工…ガラスをカットして，いろいろな模様をつける。 ・着物…季節に合わせた模様や文様。 <p>2 日本の美術のよさを今に伝える和柄を模写する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○和柄を写したり，色をぬったりする。 <p>○自分の作品を紹介したり，友達の作品を見て感想を話したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紅白梅図屏風を見て，力強い感じを表そうと思いました。 ・扇の柄が夏らしくて，仰ぐと涼しそうに感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 5・6 下 P. 38, 39 ・美術館や本で見たもの，時代劇などで見たものから発表させてもよい。 ・実際に，今でも使ったりよく見たりするものがあることに気付かせる。 ・どのようにして見たり使ったりするのか考えさせる。 ・現代の生活に通じる部分に気付かせる。 ・模写などによって受け継がれる伝統について知らせる。 ・当時の人々の生活を踏まえ，そのよさや面白さを感じさせるようにする。 ・現在ではあまり使われていない根付や印籠なども紹介し，興味を深めさせる。 ・教科書 5・6 下の P. 4 の「風神雷神図屏風」を活用してもよい。 【評】自分たちの暮らしの中にある「和」のよさや表現の特徴を感じ取る活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 【評】日本の美術のよさや美しさを味わう様子を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・図版などから，気に入った和柄を選ばせる。 ・うちわや扇などに「和」を感じる模様を表現させてみてよい。 ・コンピュータを使い，色を着けさせてもよい 【評】自分たちの暮らしの中にある「和」の特徴を捉え，それを生かして表現する活動を通して，「知識・技能」を評価する。 ・作品を見せ合い，面白いところや，うまく表現できているところなど，お互いの感想を伝え合わせる。

【 備 考 】

特別の教科道徳との関連について

「C- (17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，国や郷土を愛する心をもつこと」と関連が深い。日本に伝わる伝統的な造形に触れることで，文化を大切にし，郷土や国を愛する心をもつことができる。

単元名 言葉から想像を広げて(絵)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 詩や短歌、物語から感じたことを形や色でとらえ、表し方を工夫して絵に表現することができる。
- (2) 詩や短歌、物語から想像を広げ、形や色などの構成を考えるとともに、友達や自分の作品から自分の見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 詩や短歌、物語から想像を広げ、主体的に絵に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06080202_001

【準備等】画用紙、色画用紙、水彩用具一式、サインペン、コンテ、パス、クレヨン

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 今までに読んだ詩や短歌、物語で、自分の心が動かされた場面を思い出し、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品の表現のよさや面白さ、工夫した点などについて話し合う。 <p>★心に残った言葉から想像を広げて絵に表そう</p> <ul style="list-style-type: none"> 印象に残っている詩や短歌、物語を思い出し、どんな場面か、そのときどんな気持ちだったのかを発表する。 簡単なスケッチをし、構想を練る。 <p>2 スケッチを基に、下絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面構成を考えて下絵をかく。 <ul style="list-style-type: none"> 表したいことの明確化 描画材料の選択 表し方の工夫 表現を工夫する。 <p>3～5 想像している情景が伝わるように技法を工夫しながら彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心になるものの調子を整えながら、彩色する。 <ul style="list-style-type: none"> 中心になる色 対比する色 パスなど水彩絵の具以外の材料を組み合わせる。 全体の調子を整えながら、作品を完成させる。 <ul style="list-style-type: none"> 全体の色の調和 全体の色のバランス <p>6 友達の絵を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 思いを作品カードに記入する。 友達の作品のよさをみんなで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 「○○」という言葉から具体的な形を使わず、色で表しているところが印象に残りました。 絵の具だけでなく、色鉛筆でぼんやりさせたところが優しい感じがします。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 5・6下 P.42, 43 教科書の作品を基に主調色や描画材料、表現などについて理解を深めるようにする。 日頃から、読書に親しませておく。 発表を板書して、どういう場面かを具体的にイメージさせる。 スケッチの段階で、教師は児童の思いを理解し、構図や表現の選択などを助言する。 下絵はスケッチを基に画面構成を考えてかかせる。 自分が一番表現したいものを中心にして、周りの様子をとらえさせる。 表現をより効果的にするために、省略や強調などをして構図を工夫することを伝える。 【評】言葉から想像を広げ、形に表す活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 参考作品を提示しながら、技法面での工夫を紹介する。 中心になる色を決め、対比する色を意識させながら、画面の広がりや深まりを表す工夫ができるように支援する。 絵の具の上からパスでかくなどの工夫を助言する。描画材料を組み合わせることで作品に深みが出ることに気付かせる。 途中で、自分の意図しているものが表現されているか、確認させる。 【評】言葉から想像を広げた情景を色や形で表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】言葉から想像を広げ、絵に表す活動の様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 友達の作品に対する思いやそのよさを感じ取らせる。 作品から受けた印象を友達同士で発表し合うと、お互いの感じ方の違いを知ることができる。 【評】友達の作品のよさや美しさを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

他教科等との関連

国語科で読んだ詩や物語を基に活動することもできる。文章を読んで自分なりの考えをまとめたり、思いを広げたりすることは国語科の「〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)」にもつながる。

単元名 1まいの板から(工作)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 使う目的や場所, 使い方に合う形や色を見つけ, 板の切り方や接合を工夫して表すことができる。
- (2) 使うものを想像し, 1枚の板の切り方や組み立て方を考えるとともに, 友達や自分の作品からよさを感じ取り, 自分の見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 1枚の板から生活を豊かにするものをつくり出す活動に主体的に取り組もうとする。

標準的な展開例

06080203_001

【準備等】 板材, 工作用紙, 電動糸のこぎり, のこぎり, 化学接着剤, 木工用接着剤, 金づち, 釘, 紙やすり, ちょうつがい, 共同絵の具, 水性ニス, 刷毛, 乾燥用ドライヤー, 定規, 水彩用具一式

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題をつかみ, 構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品を見て, 板からどんなものをつくってみたいか発表する。 <p>★ 1まいの板を使って, 生活を豊かにするものをつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> つくる手順を知る。 つくりたいもののスケッチをして, 構想を練る。 スケッチを基に下絵をかく。 <p>2 木に木取り図をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 木取りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 下絵に合わせての線引き 木取り <p>3～4 木材を切断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> のこぎりの使い方について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 切るときの姿勢 縦びき, 横びき 切る角度 安全指導 電動糸のこぎりの使い方について知る。 木取り図に沿って木材を切断する。 <p>5～7 接合, 組み立てをし, 着色した後ニスで仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫しながら組み立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 接合 磨き 着色 ニス 作品を完成させる。 <p>8 友達の作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫したことや作品の使い方を作品カードに記入する。 友達の作品のよさをみんなで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 同じ形に板を切って並べることで, 側面の丸みを表現できています。 余った板でふたを作ったところが, 無駄が無くていいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 5・6下 P.32, 33 教科書の作品を参考に, 何に使うものをつくりたいか発表させ, つくりたいもののイメージをふくらませる。 教科書の作品の解説をしたり, 材料の板材などを見せたり触ったりさせて, 形や構造, 機能, つくり方をイメージさせる。 構想から完成までつくる手順を説明し, 活動の見通しをもたせる。 使いやすさとデザイン性に注目させる。 板の厚みを考えて, 下絵をかかせる。 【評】 1枚の板の切り方や組み立て方を考える活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 無駄のない木取りをさせる。教科書 P.32や P.58～59を参考にさせる。 段ボール紙で組み立て方などを試してみてもよい。 のこぎりの使い方は第4学年で学習しているが, 示範して確認させる。 のこぎりの真上に顔がくる姿勢で切る。 木目の向きによって横びきと縦びきを使い分ける。 切り始めは低い角度でゆっくり引く。 切り落とすときは刃を立ててゆっくり引き, 板の重みで割れないように手で軽く支える。 刃を付け替えている間や使い終わったら必ずコンセントを抜く。 【評】 のこぎりや電動糸のこぎりを正しく使い正確に切る活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 釘を打つ部分に, きりで穴を少し開けておくと釘がまっすぐに打てる。 ちょうつがいの使い方について P.58, 59を参考にさせる。 塗装の仕方について P.61を参考にさせる。 乾燥にドライヤーを使用すると作業効率が上がる。 【評】 1枚の板を切ったり彩色したりする活動の様子を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】 木取りや木の切り方, 接合の仕方などを工夫する活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 友達の作品のよさや工夫したところを見付けさせる。 【評】 友達の作品のよさや工夫を感じ取る活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 これまでの学習活動や作品を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名	自然を感じるすてきな場所で ー風の通り道ー (造形遊び)	配当時間	3 時間
単元の目標	(1) 風が通る場所や空間、材料の色や動きの特徴をとらえ、工夫して表すことができる。 (2) 風が通る場所や空間、風に揺れる材料の特徴から、造形的な活動を構成するとともに、自分たちのつくりだしたものの造形的なよさや美しさから、自分の見方や感じ方を深めることができる。 (3) 風が通る場所や空間、材料の特徴を生かし、主体的に風を美しく見せる活動に取り組もうとする。		

標準的な展開例

06080204_001

【準備等】木材、竹ぐし、段ボール、色セロハン、透明シート、段ボールカッター、ビニールひも、ロープ、ネット、粘着テープ、セロハントープ、デジタルカメラ、サインペン、のり、はさみ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 参考例を見て、課題をつかむ。 ○教科書の参考例を見る。 ★材料や場所の特徴を生かして、風が美しく見えるようにしよう ○風が吹いている場所を探す。 ○場所の特徴や、風の吹く様子を捉えて、どのように可視化するか話し合う。 2 場所や環境を生かし、材料をいろいろ組み合わせでつくる。 ○身近な材料を使ったり、組み合わせたりしながら、風を可視化するものを工夫してつくる。 ・遊具やフェンスをビニールひもで飾る。 ・ビニールシートをひもでしばって浮かせる。 ・ビニールひもを棒やロープに結ぶ。 3 鑑賞会をする。 ○活動場所の特徴や材料の特徴を生かして表されたもののよさや、風が動く姿の美しさについて話し合う。	・教科書 5・6 下 P. 22, 23 ・教科書の参考例を見せ、身近な場所を見つめ直し、いつもとは違う空間に変える造形活動をグループで行うことを知らせる。 ・このような造形遊びの単元は各学年の教科書でも多く紹介されている。活動の見通しをもたせるためにも、多くの参考作品を見せるとよい。 ・学校の環境や施設を調べて、安全性を考慮しながら活動に適した場所を見つけておく。 ・体で感じた風の様子を擬態化・擬音化するように働きかけ、表現に向けて場所によって異なる風の流れや表したい風の様子をグループで共有させる。 ・いくつかの材料を試しながら話し合いが進められるようにするとよい。 ・ロープや飾りがとれないような付け方を考えさせる。 ・飾りなどがしっかり付けられているか再度結び目を確認させる。 ・色の構成、光の効果などを確かめながらつくる。 【評】風による材料の動きやバランス、色の鮮やかさなどに着目し、工夫して表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】風が通る場所や材料の特徴から、造形的な活動を想像する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・自分たちだけで楽しむのではなく、他の学年の児童にも楽しんでもらえるようにするとよい。 ・風の流れを体で感じながら、それぞれのグループの工夫している点を伝え合わせる。 【評】つくりだした空間のよさや美しさを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・活動場所の特徴を、それぞれのグループがどのように捉えて、材料の形や色をどのように工夫し動きを表したのかが分かるよう、活動の様子や全体の様子をデジタルカメラで記録し、掲示するとよい。 ・使った場所を元通りにし、材料は分別して片付けさせる。 【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

特別な教科道徳との関連について
 「B- (10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」「D- (20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること」などとの関連が深い。協力してつくりだした経験や、自然に触れながら感じたことなどについて話し合うなどして、道徳科の学習につなげたい。

単元名 【旧】味わってみよう和の形(鑑賞)

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 自分たちの暮らしの中にある「和の形」の特徴をとらえ、それを生かした表現を工夫することができる。
- (2) 自分たちの暮らしの中にある「和の形」のよさや表現の特徴を感じ取り、日本の美術への親しみを深めることができる。
- (3) 自分たちの暮らしの中にある「和の形」について考え、味わおうとしている。

標準的な展開例

06080205_001

【準備等】日本美術の複製（映像や掲示物），巻物，扇，屏風などの模型，和紙，画用紙，色鉛筆，墨，筆和柄のもの，和柄の図版，液晶プロジェクター，水彩用具一式，サインペン，色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書に紹介されている和の形のよさや美しさについて話し合う。</p> <p>○身の回りにある和柄のものについて紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑貨 ・服 ・食器 <p>★日本の美術を知り，よさを味わおう</p> <p>○教科書の参考作品について話し合う。（言語活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・扇…使う場所に応じた模様 ・掛け軸…季節や来客に合わせて掛け替えられる「四季山水図（冬）」 ・巻物…巻き取りながら右から左に読んでいく「鳥獣人物戯画卷」 ・文様…自然の形や色を単純化したものを繰り返してできた模様（着物，手ぬぐい） ・根付…小物につける小さな飾り <p>2 日本の美術のよさを今に伝える和柄を模写する。</p> <p>○和柄を写したり，色をぬったりする。</p> <p>○自分の作品を紹介したり，友達の作品を見て感想を話し合ったりする。</p>	<p>・教科書 5・6下 P. 40, 41</p> <p>・美術館や本で見たもの，時代劇などで見たものから発表させてもよい。</p> <p>・実際に，今でも使ったりよく見たりするものがあることに気付かせる。</p> <p>・どのようにして見たり使ったりするのか考えさせる。</p> <p>・現代の生活に通じる部分に気付かせる。</p> <p>・模写などによって受け継がれる伝統について知らせる。</p> <p>・当時の人々の生活を踏まえ，そのよさや面白さを感じさせるようにする。</p> <p>・現在ではあまり使われていない根付や印籠なども紹介し，興味を深めさせる。</p> <p>【評】活動を通して，自分たちの暮らしの中にある「和の形」のよさや表現の特徴を感じ取る「鑑賞の能力」を評価する。</p> <p>・図版などから，気に入った和柄を選ばせる。</p> <p>・コンピュータを使い，色を着けさせてもよい</p> <p>【評】作品を通して，自分たちの暮らしの中にある「和の形」の特徴をとらえ，それを生かした表現する「表現の技能」を評価する。</p> <p>・作品を見せ合い，面白いところや，うまく表現できているところなど，お互いの感想を伝え合わせる。</p>

【 備 考 】

この単元では，生活を豊かにするために受け継がれてきた日本の美術を知り，そのよさを味わう活動を行う。日本の美術と聞いて思い浮かべることを発表し，それがどのように使われたり楽しまれたりしていたかを考える。生活の中に息づく日本の美術のよさを知り，日本の美術への親しみと関心を深めることが大切である。言語活動では，昔の日本に思いをはせ，感じとった日本美術のよさや表現の特徴をのびのびと発表させた

単元名 【旧】物語から広がる世界(絵)

配当時間

6時間

- 単元の目標 (1) 表したい情景のイメージに合った表現方法を工夫することができる。
 (2) 心が動いた物語の情景を想像し、表し方や構成を考えることができる。
 友達と作品を見せ合
 い、形や色の造形的な特徴から、作品の表し方のよさを感じ取ることができる。
 (3) 心が動いた情景を想像し、絵に表すことに取り組もうとする。

標準的な展開例

06080206_001

【準備等】画用紙、色画用紙、作品カード、水彩用具一式、サインペン、コンテ、パス、クレヨン

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 今までに読んだ物語の中で、自分の心が動かされた場面を思い出し、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品の表現のよさや面白さ、工夫した点などについて話し合う。(言語活動) <p>★心に残った物語の場面を絵にかこう</p> <ul style="list-style-type: none"> 印象に残っている物語を思い出し、どんな場面か、そのときどんな気持ちだったのかを発表する。 簡単なスケッチをし、構想を練る。 <p>2 スケッチを基に、下絵をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面構成を考えて下絵をかく。 <ul style="list-style-type: none"> 表したいことの明確化 描画材料の選択 表し方の工夫 表現を工夫する。 <p>3～5 場面がよく分かるように技法を工夫しながら、彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心になるものの調子を整えながら、彩色する。 <ul style="list-style-type: none"> 中心になる色 対比する色 パスなど水彩絵の具以外の材料を組み合わせる。 全体の調子を整えながら、作品を完成させる。(活用) <ul style="list-style-type: none"> 全体の色の調和 <p>6 友達の絵を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 思いを作品カードに記入する。 友達の作品のよさをみんなで話し合う。(言語活動) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 5・6下 P.26, 27 教科書の作品を基に主調色や描画材料、表現などについて理解を深めるようにする。 日頃から、読書に親しませておく。 発表を板書して、どういう場面かイメージさせる。 スケッチの段階で、教師は児童の思いを理解し、構図や表現の選択などを助言する。 下絵はスケッチを基に画面構成を考えてかかせる。 自分が一番表現したいものを中心にして、周りの様子をとりえさせる。 表現をより効果的にするために、省略や強調などをして構図を工夫することを伝える。 【評】活動を通して、感動した場面のよさを絵で表現しようとする「関心・意欲・態度」を評価する。 参考作品を提示しながら、技法面での工夫を紹介する。 中心になる色を決め、対比する色を意識させながら、画面の広がりや深まりを表す工夫ができるように支援する。 絵の具の上からパスでかくなどの工夫を助言する。描画材料を組み合わせることで作品に深みが出ることに気付かせる。 途中で、自分の意図しているものが表現されているか、確認させる。 【評】作品を通して、感動した場面の様子が伝わるような画面構成を考える「発想や構想の能力」を評価する。 友達の作品に対する思いやそのよさを感じ取らせる。 作品から受けた印象を友達同士で発表し合うと、お互いの感じ方の違いを知ることができる。

【 備 考 】

この単元では、今まで読んだ物語の中から、感動した場面を選んで、絵に表す活動をする。ここでは、自分の感動に基づいて自由に発想を広げ、その情景が分かりやすく伝わるような画面の構想を練ることが大切である。また、表現でも水彩絵の具にこだわらず、パスなど自分の思いに合う描画材料を組み合わせることも大切である。言語活動では、鑑賞の活動において、児童が絵に込めた思いを話し合わせる。

単元名 【旧】1まいの板から(工作)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 生活の中で使えるように、目的や用途などからつくりたいものを思い付き、つくりことができる。
- (2) つくりたいものに合うように、木取りや木の切り方、接合の仕方など、つくり方を工夫することができる。自分や友達の作品のよいところについて話し合い、よさや美しさを感じ取ることができる。
- (3) 生活の中で使うものを、板材を使って計画的につくりことに取り組もうとする。

標準的な展開例

06080207_001

【準備等】 板材、工作用紙、電動糸のこぎり、のこぎり、化学接着剤、木工用接着剤、金づち、釘、紙やすり、ちょうつがい、共同絵の具、作品カード、水性ニス、刷毛、乾燥用ドライヤー、定規、水彩用具一式

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題をつかみ、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の作品を見て、板からどんなものをつくってみたいか発表する。 <p>★ 1 まいの板を使って、生活を豊かにするものをつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> つくる手順を知る。 つくりたいもののスケッチをして、構想を練る。 スケッチを基に下絵をかく。 <p>2 木に木取り図をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 木取りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 下絵に合わせたの線引き 木取り <p>3, 4 木材を切断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> のこぎりの使い方について知る。 <ul style="list-style-type: none"> 切るときの姿勢 たてびき、横びき 切る角度 安全指導 電動糸のこぎりの使い方について知る。 木取り図にそって木材を切断する。 <p>5~7 接合、組み立てをし、着色した後ニスで仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫しながら組み立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 接合 磨き 着色 ニス 作品を完成させる。(活用) <p>8 友達の作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫したことや作品の使い方を作品カードに記入する。 友達の作品のよさをみんなで話し合う。(言語活動) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 5・6下 P.38, 39 教科書の作品を参考に、何に使うものをつくりたいか発表させ、つくりたいもののイメージをふくらませる。 教科書の作品の解説をしたり、材料の板材などを見せたり触ったりさせて、形や構造、機能、つくり方をイメージさせる。 構想から完成までつくる手順を説明し、活動の見通しをもたせる。 使いやすさとデザイン性に注目させる。 板の厚みを考えて、下絵をかかせる。 【評】 スケッチを通して、板材の特徴を生かして、生活の中で使うものを構想する「発想や構想の能力」を評価する。 むだのない木取りをさせる。教科書 P.39 を参考にさせる。 段ボール紙で組み立て方などを試してみてもよい。 のこぎりの使い方は第4学年で学習しているが、示範して確認させる。 のこぎりの真上に顔がくる姿勢で切る。 木目の向きによって横びきとたてびきを使い分ける。 切り始めは低い角度でゆっくり引く。 切り落とすときは刃を立ててゆっくり引き、板の重みで割れないように手で軽く支える。 刃を付け替えている間や使い終わったら必ずコンセントを抜く。 【評】 活動を通して、のこぎりや電動糸のこぎりを正しく使い、正確に切る「表現の技能」を評価する。 釘を打つ部分に、きりで穴を少し空けておくと釘がまっすぐに打てる。 ちょうつがいの使い方について P.56 を参考にさせる。 塗装の仕方について P.55 を参考にさせる。 乾燥にドライヤーを使用すると作業効率上がる。 【評】 作品を通して、木取りや木の切り方、接合の仕方などの「表現の技能」を評価する。 友達の作品のよさや工夫したところを見付けさせる。

【 備 考 】

この単元では、板材の木取りや接合の仕方を工夫して、生活の中で長く使えるものをつくる活動をする。生活に役立つ工夫としては、使用目的に合わせた大きさやつくり、機能性などに着目させるとよい。言語活動では、自分や友達の作品のよいところについて話し合ったり、実際に使った感想などを発表したりして、よさや美しさを感じ取らせることが大切である。

単元名	【旧】動きをとらえて 形を見つけて 一風をとらえてー(造形遊び)	配当時間	4時間
単元の目標	(1) 風が流れる姿がよく表れるように、いろいろな材料を試して、使い方を工夫することができる (2) 活動場所の風が吹く様子を基に、風が見えるための形や色、場所の構成を考えることができる 場所や材料の特徴を生かした、風が流れる姿のよさや美しさを感じ取ることができる。 (3) 風が吹いている場所の特徴を生かして、風が吹く様子を可視化することに取り組もうとしている。		

標準的な展開例

06080208_001

【準備等】木材、竹ぐし、段ボール、色セロハン、透明シート、段ボールカッター、ビニールひも、ロープ、ネット、粘着テープ、セロハンテープ、デジタルカメラ、サインペン、のり、はさみ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 参考例を見て、課題をつかむ。 ○教科書の参考例を見る。 ★材料や場所の特徴を生かして、風の姿が美しく見えるようにしよう ○風が吹いている場所を探す。 ○場所の特徴や、風の吹く様子を捉えて、どのように可視化するか話し合う。(言語活動) 2, 3 場所や環境を生かし、材料をいろいろ組み合わせでつくる。 ○身近な材料を使ったり、組み合わせたりしながら、風を可視化するものを工夫してつくる。 ・遊具やフェンスをビニールひもで飾る。 ・ビニールシートをひもでしばって浮かせる。 ・ビニールひもを棒やロープに結ぶ。 4 鑑賞会をする。 ○活動場所の特徴や材料の特徴を生かして表されたもののよさや、風が動く姿の美しさについて話し合う。	・教科書5・6下 P.10 ・教科書の参考例を見せ、身近な場所を見つめ直し、いつもとは違う空間に変える造形活動をグループで行うことを知らせる。 ・このような造形遊びの単元は各学年の教科書でも多く紹介されている。活動の見通しをもたせるためにも、多くの参考作品を見せるとよい。 ・学校の環境や施設を調べて、安全性を考慮しながら活動に適した場所を見つけておく。 ・体で感じた風の様子を擬態化・擬音化するように働きかけ、表現に向けて場所によって異なる風の流れや表したい風の様子をグループで共有させる。 ・いくつかの材料を試しながら話し合いが進められるようにするとよい。 ・ロープや飾りがとれないような付け方を考えさせる。 ・飾りなどがしっかり付けられているか再度結び目を確認させる。 ・色の構成、光の効果などを確かめながらつくる。 【評】活動を通して、風が吹く様子を可視化する活動に取り組もうとする「関心・意欲・態度」を評価する。 ・自分たちだけで楽しむのではなく、他の学年の児童にも楽しんでもらえるようにするとよい。 ・風の流れを体で感じながら、それぞれのグループの工夫している点を伝え合わせる。 ・活動場所の特徴を、それぞれのグループがどのように捉えて、材料の形や色をどのように工夫し動きを表したのかが分かるよう、活動の様子や全体の様子をデジタルカメラで記録し、掲示するとよい。 ・使った場所を元通りにし、材料は分別して片付けさせる。

【 備 考 】

この単元では、風と場所の特徴を基に、場所の様子と考え合わせて、材料などを工夫して風を美しく表す活動をする。見えないもの、とらえどころのないものでも関わり方や働きかけ方を工夫すれば手応えを得られることに、面白さを感じ取らせたい。そのためには、場所の特徴や、風の吹く様子をとらえて、風を可視化する方法をみんなで考えることが大切である。鑑賞では、活動場所や材料の特徴を生かして表されたもののよさや、風が動く姿の美しさについて話し合うことも大切である。また、自分たちだけで楽しむのではなく、他の学年の児童にも楽しんでもらえるようにするとよい。

単元名 版で広がるわたしの思い(絵)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 版を彫ったり刷ったりしながら、版表現の特徴を理解し、表し方を工夫して版に表すことができる。
 (2) 版の特徴を生かして、どのように作品に表すかを考えるとともに、友達や自分の作品から、自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) 彫ったり刷ったりする版表現を楽しみ、主体的に版に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06080301_001

【準備等】 版木、刷り紙（一版多色木版の場合は主に黒の色画用紙）、版画用具一式、彫刻刀、水彩用具一式、トレーシングペーパー、カーボン紙、新聞紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て課題をつかみ、作品の構想を練る。 ○表現方法を理解する。</p> <p>★自分の思いに合った版画をつくろう</p> <p>○スケッチをし、刷り方の構想を練る。</p> <p>2 スケッチを基に、下絵をかき、版木に写す。 ○下絵をかく。</p> <p>○カーボン紙を使って、版木に写す。</p> <p>3～5 下絵に沿って、版を彫り、刷る。 ○彫刻刀の種類と正しい彫り方を確認する。 　・刀の種類 　・刀の持ち方、支え方 ○安全に留意しながら彫りを進める。 　・彫るところと残すところ。 　・彫る順番 ○本刷りをする。 　・彫り進み木版の場合は、彫りと刷りを繰り返しながらか色を重ねていく。</p> <p>6 印象に残ったことを話し合い、友達作品を鑑賞する。 ○作品に対する思いや工夫したことを作品カードに記入し発表する。 ○友達作品のよさをみんなで話し合う。 　・同じ版なのに色や向きを変えると印象が違って見えました。 　・模様のついた紙に印刷することで、自分の思いに近づけているところがいいと思います。</p>	<p>・教科書 5・6下 P.50, 51</p> <p>・教科書の参考作品を見せ、彫り進み木版の表現や刷ったものに色を足す表現について説明する。 ・これまでに学習した紙版画、木版画、一版多色版画などを振り返って、学習の見通しをもつ。 ・スケッチに色鉛筆で色を塗らせて、大まかな感じをとらえさせる。 ・刷り方については、版の色を変えたり、刷り重ねたりするなど、版画特有の何枚も刷れるよさに注目させるとよい。</p> <p>・下絵はスケッチを基に画面構成を考えさせるが、細くなりすぎないように注意する。 ・一番表現したいものが目立つように、周りの物との関わりをとらえさせる。 【評】スケッチをしながら、どのように版に表すかを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・カーボン紙を使って写すときに、下絵を裏表逆にすると、完成した絵が下絵と同じ向きになることを知らせる。 ・木版画と紙版画を併用して表現する場合はここで、紙版画の準備もする。 ・彫刻刀は切れ味のよいものを準備させる。 ・それぞれの彫刻刀の特徴や使い方を再確認させ、安全にも留意させる。</p> <p>・ばれんの使い方を師範する。 ・彫り進み木版の場合は、児童が平行して活動できるように、インクやローラーなどを配置する。 ・刷り上がった作品に彩色する計画の児童は、十分に乾燥させた後で行わせる。 【評】彫りや刷りの効果を確認しながら、表わし方を工夫する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】版の特徴やよさを感じ取りながら表現を楽しむ活動の様子を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・作品カードを活用して、自分の作品への思いを伝えさせる。 【評】表現や意図、工夫やよさをとらえる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

図画工作科におけるプログラミング的思考の育成
 木版画では、どのような表し方をするのか、事前に完成のイメージをもたせる必要がある。イメージに対して、どのような表し方をするのか、どの順番で彫り、どの順番でどの色を刷るのかを考えさせ、彫りと刷りを重ねながら表現させる。

自分が意図する活動を実現するための①分解（表したい作品を，構成する要素に分解する），②置換（要素を形や色に置き換える），③組合せ（形や色の組合せや順番を考える），④検証（組合せを検証して意図に近づける）といったことを論理的に考えていく力を育成する。その他の題材においても，上記の事柄を意識しながら学習活動を工夫し，プログラミング的思考の育成に努めたい。

参考・・・日本文教出版株式会社<http://www.nichibun-g.co.jp/>

単元名 未来のわたし(立体)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 未来の自分の様子に合うポーズや材料を見付け、工夫して立体に表すことができる。
 (2) 未来の自分の姿を想像し、どのように表現するかを考えるとともに、自分や友達の作品から、自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) 未来の自分の姿を思い浮かべ、主体的に立体に表す活動に取り組んでいる。

標準的な展開例

06080302_001

【準備等】紙粘土、板材、木片、白ボール紙、段ボール紙、針金、ペンチ、金づち、へら、木工用接着剤、化学接着剤、のりはさみ、水彩用具一式、材料（空き箱など）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題をつかみ、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考例を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 職業に合った服装や動きを工夫している。 小物も細かくつくっている。 <p>★未来のわたしを立体で表そう</p> <ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチをする。 <p>2～6 スケッチを基に、作品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 針金で体の芯をつくり、台面に固定する。 粘土を付ける。 全体を彩色する。 布で服をつくったり、背景をつくったりする。 <p>7 未来のわたしクイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの中で「未来のわたしクイズ」を出し合い、自分の夢を語る。 <ul style="list-style-type: none"> （作品を見せながら）わたしは何をやっているでしょう。 盲導犬の訓練士 クラス全体で作品を見せ合い、相手の表現のよさや面白さを鑑賞カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 5・6下 P.48, 49 教科書の参考例を見せ、布で服をつくったり段ボールなどで背景をつくらせることで将来の夢のイメージを分かりやすく伝えていることに気付かせる。 仕事内容をより分かりやすくさせるため、図書館などでその仕事の服装や道具、場面などを調べさせる。 色鉛筆を使い簡単に彩色し、背景なども含めてかかせる。 服装、持ち物、周りの様子などを思い浮かべつくりたい様子がよく表れるように材料集めを呼びかけておく。 <p>【評】未来の自分の様子を表す形や色、材料の使い方を考え、アイデアスケッチにまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ひじ、ひざ、肩、腰など関節を意識してポーズを作らせる。 針金の先は安全のため丸めさせる。 針金を中心にくるように粘土をつける。 針金にひもを巻くと粘土がつきやすいことを伝え、針金と粘土の接着を工夫させる。 水の量を少なめにし、絵の具を多めに準備することで発色よく彩色できる。 粘土だけで服を表現する場合は、服のしわなどに注目させるとよい。 アイデアスケッチや資料（写真）などをここでもう一度見直すことで、必要な細部の表現に気付かせる。 <p>【評】イメージしている自分の姿に近づくように、ポーズや材料を工夫しながら制作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな職業に就きたいかだけでなく、どんな活躍がしたいかを語ることで作品に対する思いが相手に伝わるようにさせる。 <p>【評】自分や友達の作品を鑑賞し、表現のよさや面白さを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

特別の教科道徳との関連について

「A- (5) より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけず努力して物事をやり抜くこと」「A- (4) 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと」「C- (14) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること」などと関連が深い。社会の一員として活躍する未来の自分を想像して立体に表すことで、そのような態度が育っていく。

他教科等との関連

自分の将来を肯定的に捉えて表現していくことを通して、E S Dと関連を図ることができる。

単元名 (参考単元) 平和をつなげるかたち(鑑賞)

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 美術作品の色や形から、表現の特徴を捉えることができる。
(2) 表現の仕方や特徴から、美術作品に込められた作者の思いを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めることができる。
(3) 美術作品に込められた作者の思いを想像したり考えたりする活動に主体的に取り組もうとする

標準的な展開例

06080303_001

【準備等】OHP、液晶プロジェクター、あいパック（愛知県美術館製作）、作品図版、関連書籍、美術作品のついたカレンダー・絵はがきなど

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 作品に込めた想いを想像しながら鑑賞し、作者のメッセージを読み取る。</p> <p>★作品に込められた、作者のメッセージを読み取ろう</p> <p>○教科書の参考作品を見て、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たこと…大きさ、色、形、表情 ・感じたこと…おそろしい、こわい、悲しそう ・考えたこと…色や形、表情で悲しみや怒りを表している。 ・作者の伝えたいことは何だろう。 <p>○自分の知っている作品について調べ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトル ・作者 ・年代 ・作品や表現の特徴 	<p>・教科書 5・6 年下 P.54, 55</p> <p>・作品の大きさを実感するために、教室の壁や校内の建物などと大きさを比べさせる。</p> <p>・液晶プロジェクターなどで作品を実物に近い大きさに投影し、作品のスケールをつかませてもよい。</p> <p>・作品が作られた経緯について、形や色などと関連づけながら、作者のメッセージを考えさせる。</p> <p>【評】美術作品の中の形や色から表現の特徴を探す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・作品の大きさや製作方法、形や色などが表現の意図と結び付いていることを感じ取らせる</p> <p>・思ったことや、考えたことを自由に発表させる。</p> <p>・あらかじめ、好きな作品を選ばせておくとうい。</p> <p>・自分なりに調べたことや、思ったことを発表させたりして、いろいろな作品と出合わせるようにさせる。</p> <p>・美術作品を模写させ、作品に込められた想いについて気付いたことを発表させてもよい。</p> <p>【評】作品に込められた作者のメッセージを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】美術作品を鑑賞する学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p>

【 備 考 】

特別の教科道徳との関連について
「B- (11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」と関連が深い。同じ絵を見ても感じ方は人それぞれである。交流を通して自分と違う考えがあることを知り、理解を深め合うことができる。

単元名 (参考単元) 墨と水から広がる世界(絵)

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 墨と水からできる形や色の特徴を理解し、工夫して絵に表すことができる。
 (2) 筆や刷毛などの道具で試してできた形や色から、表したいことを考えるとともに、自分や友達
 の作品から、自分の見方や感じ方を深めることができる。
 (3) 墨と水で和紙に形や色を試しながら、主体的に絵に表す活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06080304_001

【準備等】和紙（数種類の大きさ）、新聞紙、墨汁を入れる皿、刷毛、スポイト、墨汁、筆、文鎮、筆洗、
 割りばし、雑巾、彫刻刀、消しゴム

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 教科書の参考作品を見て、学習課題をつかみ、墨と水で和紙に表現する。 ○参考作品を見て、課題をつかむ。</p> <p>★墨と水から生まれるさまざまな形や色を見付けよう</p> <p>○筆や刷毛の動かし方、水の含ませ方を示範し、試しがきする。 ・すばやく動かす、ゆっくり動かす ・濃淡の変化 ・リズムの変化</p> <p>○墨を垂らしたり、にじませたりして生まれた形や色から表現したいテーマをもち、絵に表す。</p> <p>3 友達の作品を鑑賞する。</p> <p>○作品への思いを作品カードに記入する。 ○友達の作品のよさを話し合う。 ・にじんだ形が花びらのように見えます。 ・濃い墨で、筆を素早く動かしているので、勢いがある て力強い線になっています。 ・光を通して見てみたいです。</p>	<p>・教科書 5・6 下 P.10, 11</p> <p>・筆や刷毛の動かし方、濃淡の変化、いろいろな道具でかいていることに気付かせる。 ・にじみやかすれ、墨の濃淡意外にも、墨を垂らしたり、筆を素早く動かしたりして、表現の幅を広げるよう促す。 ・水に墨を足して濃さを調整させる。 ・大胆な表現をさせるためにも、墨で汚れてもよい服装に着替えさせておく。 ・筆先の表現で終わせられないように、体全体でかかせる。 ・筆以外にもスポイトや割り箸を使わせても面白い。 ・画材としてさまざまな道具を用意しておく。</p> <p>・教科書 5・6 下 P.56～57を参考にさせるとよい。 ・班で活動させるなどして、表現の工夫の仕方を見たり聞いたりできるようにするとよい。 【評】筆や道具を活用しながら表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・試した墨のよさや楽しさを組み合わせるとよい。 ・かきたいものに合わせ、紙の大きさを選ばせてもよい。 ・完成した作品には、消しゴムに彫刻刀で名前を彫り落款にしてして押印させる活動も考えられる。 【評】墨の効果を生かして自分の表したいことを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・いろいろな表現方法があることに注目させる</p> <p>・お互いの作品に題名を付け合い、どうしてそう感じたのか話し合わせるとよい。 【評】自分や友達の作品を鑑賞し、表現のよさや面白さを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

特別の教科道徳との関連について

「C- (17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと」と関連が深い。墨を使った表現は日本の伝統的な表現方法であり、実際に経験することで伝統と文化をより一層大切にしようとする気持ちが育まれる。

単元名 **【旧】版から広がる世界(絵)**配当時間 **6 時間**

単元の目標 (1) 彫りや刷りの効果を確認めながら、表し方を工夫することができる。
 (2) 今までに学習した版づくりの経験を基に、自分の思いを表す画面の構成を考えることができる
 作品を見せ合い、表したかったことなどを話し合っ表現や意図の特徴をとらえることができる
 (3) 版による表現方法の特徴を理解し、表し方に関心をもち、自分の思いを表すことに取り組もうとする。

標準的な展開例

06080305_001

【準備等】 版木、刷り紙（一版多色木版の場合は主に黒の色画用紙）、版画用具一式、彫刻刀、水彩用具一式、作品カード、トレーシングペーパー、カーボン紙、新聞紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科書の参考作品を見て課題をつかみ、作品の構想を練る。 ○表現方法を理解する。</p> <p>★自分の思いに合った版画をつくろう</p> <p>○スケッチをし、刷り方の構想を練る。</p> <p>2 スケッチを基に、下絵をかき、版木に写す。 ○下絵をかく。</p> <p>○カーボン紙を使って、版木に写す。</p> <p>3～5 下絵にそって、版を彫り、刷る。</p> <p>○彫刻刀の種類と正しい彫り方を確認する。 ・刀の種類 ・刀の持ち方、支え方 ○安全に留意しながら彫りを進める。 ・彫るところと残すところ。 ・彫る順番 ○本刷りをする。 ・彫り進み木版の場合は、彫りと刷りを繰り返しながら色を重ねていく。</p> <p>6 印象に残ったことを話し合い、友達の作品を鑑賞する。 (言語活動) ○作品に対する思いや工夫したことを作品カードに記入し発表する。</p> <p>○友達の作品のよさをみんなで話し合う。</p>	<p>・教科書 5・6 下 P.42, 43</p> <p>・教科書の参考作品を見せ、彫り進み木版の表現や刷ったものに色を足す表現について説明する。</p> <p>・これまでに学習した紙版画、木版画、一版多色版画などを振り返って、学習の見通しをもつ。</p> <p>・スケッチに色鉛筆で色を塗らせて、大まかな感じをとらえさせる。</p> <p>・刷り方については、版の色を変えたり、刷り重ねたりするなど、版画特有の何枚も刷れるよさに注目させるとよい。</p> <p>【評】活動を通して、版による表現や色の着け方に興味をもち、心に残った場面をスケッチしている様子から「関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>・下絵はスケッチを基に画面構成を考えさせるが、細くなりすぎないように注意する。</p> <p>・一番表現したいものが目立つように、周りの物との関わりをとらえさせる。</p> <p>・カーボン紙を使って写すときに、下絵を裏表逆にすると、完成した絵が下絵と同じ向きになることを知らせる。</p> <p>・木版画と紙版画を併用して表現する場合はここで、紙版画の準備もする。</p> <p>・彫刻刀は切れ味のよいものを準備させる。</p> <p>・それぞれの彫刻刀の特徴や使い方を再確認させ、安全にも留意させる。</p> <p>・ばれんの使い方を師範する。</p> <p>・彫り進み木版の場合は、児童が平行して活動できるように、インクやローラーなどを配置する。</p> <p>・刷り上がった作品に彩色する計画の児童は、十分に乾燥させた後で行わせる。</p> <p>【評】作品を通して、彫りや刷りの効果を確認めながら、表わし方を工夫する「表現の技能」を評価する。</p> <p>・作品カードを活用して、自分の作品への思いを伝えさせる。</p> <p>【評】活動を通して、表現や意図の特徴をとらえる「鑑賞の能力」を評価する。</p>

【 備 考 】

この単元では、自分の思いに合った版づくりや刷り方を選んで、試しながら版に表す活動をする。版づくりでは彫りの効果を考えて、彫刻刀を使い分けたり、彫り分けたりすることが大切である。刷りでは彫り進み木版で表したり、刷った後に色を付けたりするなど自分の思いに合った表現になるように試しながら進めることが大切である。言語活動では、友達の作品に対する思いや版作りの工夫、刷り方の工夫に注目させるとよい。

単元名 【旧】12年後のわたし(立体)

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 表したい職業の様子が伝わるように、体の姿勢に合った芯材の形や材料の組合せ方など、表し方を工夫することができる。
- (2) なりたい職業や夢について思いをめぐらせ、その様子を表すために形や色、材料などの扱い方を思い付くことができる。
- 友達と交流し、将来の夢とともに作品の表現のよさや面白さをとらえることができる。
- (3) 将来の自分について想像することを楽しみ、立体に表すことに取り組もうとする。

標準的な展開例

06080306_001

【準備等】紙粘土、板材、木片、白ボール紙、段ボール紙、針金、ペンチ、金づち、へら、鑑賞カード、木工用接着剤、化学接着剤、のりはさみ、水彩用具一式、材料（空き箱など）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習課題をつかみ、構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の参考例を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 職業に合った服装や動きを工夫している。 小物も細かくつくっている。 <p>★12年後のわたしを立体で表そう</p> <ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチをする。 <p>2～6 スケッチを基に、作品をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 針金で体の芯をつくり、台面に固定する。 粘土をつける。 全体を彩色する。 布で服をつくったり、背景をつくったりする。（活用） <p>7 12年後のわたしクイズをする。（</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの中で「12年後のわたしクイズ」を出し合い自分の夢を語る。（言語活動） <ul style="list-style-type: none"> （作品を見せながら）わたしは何をやっているでしょう。 盲導犬の訓練士 クラス全体で作品を見せ合い、相手の表現のよさや面白さを鑑賞カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書5・6下 P.46, 47 教科書の参考例を見せ、布で服をつくったり段ボールなどで背景をつくらせることで将来の夢のイメージを分かりやすく伝えていることに気付かせる。 仕事内容をより分かりやすくさせるため、図書館などでその仕事の服装や道具、場面などを調べさせる。 色鉛筆を使い簡単に彩色し、背景なども含めてかかせる。 服装、持ち物、まわりの様子などを思い浮かべ、つくりたい様子がよく表れるように材料集めを呼びかけておく。 【評】アイデアスケッチを通して、なりたい職業の様子を表す形や色、材料の使い方を考える「発想や構想の能力」を評価する。 ひじ、ひざ、肩、腰など関節を意識してポーズを作らせる。 針金が中心にくるように粘土をつける。 水の量を少なめにし、絵の具を多めに準備することで発色よく彩色できる。 粘土だけで服を表現する場合は、服のしわなどに注目させるとよい。 アイデアスケッチや資料（写真）などをここでもう一度見直すことで、必要な細部の表現に気付かせる。 どんな職業に就きたいかだけでなく、どんな活躍がしたいかを語ることで作品に対する思いが相手に伝わることについて伝えさせる。 【評】活動を通して、表現のよさや面白さをとらえる「鑑賞の能力」を評価する。

【備 考】

この単元では、将来の自分を想像し、その内容が分かるように場面を工夫して立体に表す活動をする。自分の夢に対する思いが伝わるように、人物の服装を布などで表現したり、背景に段ボールや木片などを使ったりして、材料の工夫をすることが大切である。言語活動では、作品を通じて自分の将来の夢を語り、作品に対する思いを感じ取らせたい。

単元名 【旧】(参考単元)図画工作の広がり ―表現にこめた思い―(鑑賞)

配当時間

1 時間

単元の目標

- (2) 美術作品に込められた作者の表現の意図や特徴をとらえることができる。
 (3) 美術作品について調べながら、作品に込められたメッセージを知ろうとする。

標準的な展開例

06080307_001

【準備等】 OHP, 液晶プロジェクター, 愛パック (愛知県美術館製作), 作品図版, 関連書籍, 美術作品のついたカレンダー・絵はがきなど

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 作品に込めた想いを想像しながら鑑賞し、作者のメッセージを読み取る。</p> <p>★作品に込められた、作者のメッセージを読み取ろう</p> <p>○教科書の参考作品を見て、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たこと…大きさ、色、形、表情 ・感じたこと…おそろしい、こわい、悲しそう ・考えたこと…色や形、表情で悲しみや怒りを表している。 ・作者の伝えたいことは何だろう。 <p>○自分の知っている作品について調べ、発表する。(言語活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトル ・作者 ・年代 ・作品や表現の特徴 	<p>・教科書 5・6 年下 P.30, 31</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の大きさを実感するために、教室の壁や校内の建物などと大きさを比べさせる。 ・液晶プロジェクターなどで作品を実物に近い大きさに投影し、作品のスケールをつかませてもよい。 ・作品が作られた経緯について、形や色などと関連づけながら、作者のメッセージを考えさせる。 ・作品の大きさや製作方法、形や色などが表現の意図と結び付いていることを感じ取らせる ・思ったことや、考えたことを自由に発表させる。 ・あらかじめ、好きな作品を選ばせておくとうよい。 ・自分なりに調べたことや、思ったことを発表させたりして、いろいろな作品と出会わせるようにさせる。 ・美術作品を模写させ、作品に込められた想いについて気付いたことを発表させてもよい。 <p>【評】活動を通して、作品に込められた作者のメッセージを感じ取る「鑑賞の能力」を評価する。</p>

【 備 考 】

この単元では、作者が作品に込めた想いを想像したり、調べたりして鑑賞する活動を行う。作品の形や色など作者の表現が、作品の意図と強く結びついていることを知る。また、その作品の大きさや場所を調べたり、建物などと比べたりする。どのような想いを込めた作品なのか、作者の気持ちを想像しながら、そのメッセージに気付かせたい。言語活動では、自分の調べた作品の形や色などから感じ取った、作者の意図を発表させるとよい。

単元名 【旧】(参考単元)墨で表す(絵)

配当時間 3時間

単元の目標 (1) いろいろな用具や方法を使って、自分の思いに合う表し方を工夫することができる。
 (2) 墨の効果を生かして自分の表したいことを見付けることができる。
 友達作品の墨の色の違いや筆あとのよさや美しさを感じ取ることができる。
 (3) 墨でいろいろ試すことを楽しもうとする。

標準的な展開例

06080308_001

【準備等】和紙（数種類の大きさ）、新聞紙、墨汁を入れる皿、刷毛、スポイト、墨汁、筆、文鎮、筆洗、割りばし、雑巾、彫刻刀、消しゴム、作品カード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1, 2 教科書の参考作品を見て、学習課題をつかみ、墨と和紙で表現する。 ○参考作品を見て、課題をつかむ。</p> <p>★墨から生まれるさまざまな形や色を見付けよう ○筆や刷毛の動かし方、水の含ませ方を示範し、試しがきする。 ・すばやく動かす、ゆっくり動かす ・濃淡の変化 ・リズムの変化</p> <p>○墨から感じた形や色から表現したいテーマをもち、絵に表す。（活用）</p> <p>3 友達作品を鑑賞する。 ○作品への思いを作品カードに記入する。 ○友達作品のよさを話し合う。（言語活動）</p>	<p>・教科書 5・6下 P.22, 23</p> <p>・筆や刷毛の動かし方、濃淡の変化、いろいろな用具でかいていることに気付かせる。</p> <p>・大胆な表現をさせるためにも、墨で汚れてもよい服装に着替えさせておく。</p> <p>・筆先の表現で終わせられないように、体全体でかかせる。</p> <p>・筆以外にもスポイトや割り箸を使わせても面白い。</p> <p>【評】活動を通して、筆や用具を活用しながら表す「表現の技能」を評価する。</p> <p>・試した墨のよさや楽しさを組み合わせるとよい。</p> <p>・かきたいものに合わせ、紙の大きさを選ばせてもよい。</p> <p>・完成した作品には、消しゴムに彫刻刀で名前を彫り落款にして押印させる。</p> <p>【評】作品を通して、墨の効果を生かして自分の表したいことを見付ける「発想や構想の能力」を評価する。</p> <p>・いろいろな表現方法があることに注目させる</p> <p>・お互いの作品に題名を付け合い、どうしてそのように感じたのか話し合わせるとよい。</p>

【 備 考 】

この単元では、さまざまな方法を試しながら、墨と和紙で絵に表す活動をする。墨と水でできる形や色を試したり、特徴を生かしたりしながら、心地よい調和やリズム感のある絵に表す。言語活動では、自分や友達の作品の墨の美しさや表し方のよさ、面白さに着目し、話し合わせるとよい。

令和2年度 知多地方教育計画案

体育科

体 育 科

1 体育科でねらうもの

学習指導要領の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

この目標は、(1)～(3)の目標が相互に密接な関連をもちつつ、体育科の究極的な目標である、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指すことを示している。

ここでいう資質・能力とは、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を指している。

(1)の「知識及び技能」は、個別の事実的な知識のみを指すものではなく、それらが相互に関連付けられ、更に社会の中で生きて働く知識となるものを含むとされている。体育においては、この趣旨を踏まえ、運動の楽しさや喜びを味わったり、身近な生活で健康の保持増進をしたりするための基礎的・基本的な「知識及び技能」を踏まえて設定されている。

(2)の「思考力、判断力、表現力等」は、情報を捉えて多角的に精査したり、課題を見いだし他者と協働しながら解決したり、自分の考えを形成し伝え合ったり、思いや考えを基に創造したりするために必要な資質・能力である。そのため、新たな情報と既存の知識を活用しながら課題を解決したり、自己の考えを形成したり、新たな価値を創造したりするために必要な情報を選択し、思考していくことが必要になる。また、伝える相手や状況に応じた表現力を培うことが求められる。

(3)の「学びに向かう力、人間性等」は、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの（学びに向かう力）と、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど（人間性等）から構成されている。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 改訂の趣旨

運動やスポーツとの多様な関わり方ができるようにする観点から、運動やスポーツについての興味や関心を高め、技能の指導に偏ることなく、「する、みる、支える」に「知る」を加え、資質・能力の三つの柱をバランスよく育むことができる学習過程を工夫し、充実を図ることが大切であるとしている。

(2) 改訂の要点

① 内容及び内容の取扱いの改善

ア 「体育の見方・考え方」を働かせて、三つの資質・能力を育成する。

体育や保健の見方・考え方とは、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」である。

- イ 小学校から高等学校まで12年間を見通して、学習したことを実生活や実社会に生かし、運動の習慣化につなげ、豊かなスポーツライフを継続することができるようにする。
- 小1～小4：「各種の運動の基礎を培う時期」
- 小5～中2：「多くの領域の学習を経験する時期」
- 中3～高3：「卒業後も運動やスポーツに多様に関わることができるようにする時期」
- ウ 体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、共生の視点を踏まえて指導内容を示している。
- エ 低学年については、新たに領域名を「体づくりの運動遊び」とし、内容を「体ほぐしの運動遊び」及び「多様な動きをつくる運動遊び」で構成している。
- オ 「走・跳の運動（遊び）」及び「陸上運動」については、児童の実態に応じて投の運動（遊び）を加えて指導することができることを新たに「内容の取扱い」に示した。
- カ 中学年の「ゴール型ゲーム」については、味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム及び陣地を取り合うゲームを取り扱うものとすることを、新たに「内容の取扱い」に示した。また、高学年のボール運動において、これまで示された内容に替えてハンドボール、ラグビー、フットボールなど型に応じたその他のボール運動を指導することもできることを、新たに「内容の取扱い」に示した。
- キ オリンピック・パラリンピックに関する指導については、各運動領域の内容との関連を図り、ルールやマナーを遵守することやフェアなプレイを大切にすることなど、運動を通してスポーツの意義や価値等に触れることができるようにすることを、新たに「指導計画の作成と内容の取扱い」に示した。

学年	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
授業時間	1 0 2	1 0 5	1 0 5	1 0 5	9 0	9 0
領域	体づくりの運動遊び		体づくり運動			
	器械・器具を使つての運動遊び		器械運動			
	走・跳の運動遊び		走・跳の運動		陸上運動	
	水遊び		水泳運動			
	ゲーム				ボール運動	
	表現リズム遊び		表現運動			
			保健			

3 特別の教科道徳との関連

体育科と道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う必要がある。

自己の課題の解決に向けて運動をしたり、集団で楽しくゲームを行ったりすることを通して、最後まで粘り強く取り組む、気持ちのよい挨拶をする、仲間と協力する、勝敗を受け入れる、フェアなプレイを大切にすること、仲間の考えや取組を理解するなどの態度を養う。

4 体育科における言語活動

筋道を立てて練習や作戦について話し合うことや、身近な健康の保持増進について話し合うことなど、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動を積極的に行うことに留意することは大切である。

運動領域の指導に当たっては、資質・能力の三つの柱についての指導を効果的に行うために、必要に応じてグループでの話し合い等を促すなど、体を動かす機会を適切に確保した上で言語活動の充実を図ることに留意することを示している。言語活動の量を求めて運動量が減ってしまうようなことにならないよう、その質的向上を目指していきたい。

第 1 ・ 2 学年 体育科

1 学年の目標

- (1) 各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。
- (2) 各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動をする態度を養う。

2 指導の要点

- (1) は、「知識及び技能」に関する目標であり、各種の運動遊びの楽しさに触れることを通して、その行い方を知るとともに、それらの基本的な動きを身に付けること及び体力を養うことを意図している。
- (2) は、「思考力、判断力、表現力等」に関する目標であり、各種の運動遊びを安全に楽しむための活動の仕方やルールなどを児童の力に応じて工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養うことを意図している。
- (3) は、「学びに向かう力、人間性等」に関する目標であり、運動やスポーツの価値のうち、公正、協力、責任、参画、健康・安全等に関する態度及び意欲的に運動遊びをする態度を養うことを意図している。特に、運動遊びをする際の良い人間関係が運動遊びの楽しさに大きな影響を与えることや、友達と共に進んで意思決定に関わることが、運動やスポーツの意義や価値等を知ることにつながることを踏まえたものである。また、児童の発達の段階に応じて、ルールやマナーを遵守することの大切さをはじめ、スポーツの意義や価値等に触れることができるよう指導等の改善を図ることで、オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実に資するようにすることを意図している。

3 内容の取り扱い

運動の取り上げ方の弾力化により、「体づくりの運動遊び」以外のすべての指導内容について、2 学年のいずれかの学年で取り上げて指導する（指導内容の重点化などにより、まとめて指導する）こともできる。各学校の創意工夫を生かした指導計画が期待される。

領域	内 容		学年		備 考
			1 年	2 年	
体 づくりの運動遊び	体ほぐしの運動遊び		●	●	・ 体づくりの運動遊びについては、2 学年にわたって指導するものとする。 ・ 運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向や体力の低下傾向を受け、低学年から体づくりの運動遊びが取り上げられたことを踏まえて指導する。
	つ 多 く 様 々な運動動き遊び	体のバランスをとる運動遊び	●	●	
		体を移動する運動遊び			
		用具を操作する運動遊び			
		力試しの運動遊び			
器械・器具を用いた運動遊び	固定施設を使った運動遊び		★		・ 児童がそれぞれの器械・器具を使った多様な動き方や遊び方をイメージできるように図で掲示したり、集団で取り組める遊びを工夫したり、児童が創意工夫した動きを評価することが必要である。
	マットを使った運動遊び		★		
	鉄棒を使った運動遊び		★		

つ 器 て 械 の ・ 運 器 動 具 遊 を び 使	跳び箱を使った運動遊び 器械・器具を使つての運動遊び	★	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動と関連の深い動きを意図的に取り組ませ、基礎となる感覚を身に付けさせることが大切である。 ・単元を通して、準備運動の中で馬跳びやタイヤ跳びに取り組ませ、両手で支持してまたぎ越すことをさせていくことが大切である。
走 ・ 跳 の 運 動 遊 び	走の運動遊び	★	<ul style="list-style-type: none"> ・走・跳の運動遊びでは、走ったり跳んだりする動き自体の面白さ・心地よさを引き出す指導を基本にしながら、どのような力をもった児童においても競走（争）に勝つことができたり、意図的に運動に取り組むことができたりするように、楽しい活動の仕方や場の工夫をすることが大切である。 ・児童の実態に応じて投の運動遊びを加えて指導することができる。
	跳の運動遊び	★	
水 遊 び	水の中を移動する運動遊び	★	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の能力にふさわしい課題に挑み活動を通して水の特性について知り、水に慣れ親しむ。
	もぐる・浮く運動遊び	★	
ゲ ー ム	ボールゲーム	★	<ul style="list-style-type: none"> ・公正に行動する態度、特に勝敗の結果をめぐって正しい態度や行動がとれるようにすることが大切である。
	鬼遊び	★	
表 現 リ ズ ム 遊 び	表現遊び	★	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊びについては、簡単なフォークダンスを含めて指導することができる。 ・いろいろなものになりきりやすく、律動的な活動を好む低学年の児童の特性を生かした学習指導の進め方を工夫することが大切である。
	リズム遊び	★	
歌や運動を伴う伝承遊び及び 自然の中での運動遊び		○	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の実態に応じて加えて指導することができる。

●印は、必ずその学年で指導することを意味する。

★印は、いずれかの学年に分けて指導することができることを意味する。

○印は、地域や学校の実態に応じて加えて指導できることを意味する。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	各種の運動遊びの行い方について知っていると同時に、基本的な動きを身に付けている。
思考・判断・表現	各種の運動遊びの行い方を工夫していると同時に、考えたことを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	各種の運動遊びの楽しさに触れることができるよう、各種の運動遊びに進んで取り組もうとしている。

第 3 ・ 4 学年 体育科

1 学年の目標

- (1) 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方及び健康で安全な生活や体の発育・発達について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養う。また、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

2 指導の要点

- (1) は、「知識及び技能」に関する目標であり、各種の運動の楽しさや喜びに触れることを通して、その行い方や健康な生活及び体の発育・発達について理解するとともに、それらの基本的な動きや技能を身に付けること及び体力を養うことを意図している。
- (2) は、「思考力、判断力、表現力等」に関する目標であり、自己の運動や健康に関する課題を見付け、その解決方法を工夫するとともに、それについて考えたことを他者に伝える力を養うことを意図している。
- (3) は、「学びに向かう力、人間性等」に関する目標であり、運動やスポーツの価値である、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する態度及び意欲的に運動をする態度を養うことを意図している。特に、運動をする際の良好な人間関係が運動の楽しさや喜びに大きな影響を与えることや、友達と共に進んで意思決定に関わることが、運動やスポーツの意義や価値等を知ることにつながることを踏まえたものである。また、児童の発達の段階に応じて、ルールやマナーを遵守することの大切さをはじめ、スポーツの意義や価値等に触れることができるよう指導等の改善を図ることにより、オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実に資するようにすることを意図している。

3 内容の取り扱い

3・4年のいずれかの学年で指導できる内容は下の表で★印で示してある。これらの内容が、地域や学校の実態に応じて効果的に取り上げられ、特色ある授業づくりに結びつくことが期待される。

領域	内 容	学年		備 考
	体ほぐしの運動		● ●	
体 つ く り 運 動	多 様 な 動 き を つ く る 運 動	体のバランスをとる運動		・「体づくり運動」は、2学年にわたって指導する。 ・集団行動についての指導は、「体づくり運動」をはじめ、各学年の各領域（保健を除く）において行う。
		体を移動する運動		
		用具を操作する運動	● ●	
		力試しの運動		
		基本的な動きを組み合わせる運動		

器械運動	マット運動	★	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童が運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、技に関連した易しい運動を取り入れたり、易しい場や条件の下で段階的に取り組めるようにしたりする。 基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したりできるよう配慮する。
	鉄棒運動	★	
	跳び箱運動	★	
走・跳の運動	かけっこ・リレー	★	<ul style="list-style-type: none"> 走ったり跳んだりする動き自体の面白さ、心地よさを引き出す指導を基本にしながら、どのような力をもった児童においても競走(争)に勝つことができたり、意欲的に運動に取り組むことができたりするように、活動の仕方や場の工夫をすることが大切である。 児童の実態に応じて投の運動を加えて指導することができる。
	小型ハードル走	★	
	幅跳び	★	
	高跳び	★	
水泳運動	浮いて進む運動	★	<ul style="list-style-type: none"> 水に慣れ親しむことや浮いたり泳いだりすることの楽しさや心地よさを味わうことができるようにすることが大切である。
	もぐる・浮く運動	★	
ゲーム	ゴール型ゲーム 〈例示〉 「味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム」 ハンドボール, ポートボール, ラインサッカー, ミニサッカーなどを基にした易しいゲーム。 「陣地を取り合うゲーム」 タグラグビー, フラッグフットボールなどを基にした易しいゲーム	★	<ul style="list-style-type: none"> ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作やボールを持たない時の動きによって、易しいゲームをすることとする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【易しいゲーム】とは、簡単なボール操作で行える、比較的少人数で行える、身体接触を避けるなど、児童が取り組みやすいように工夫したゲームをいう。 </div>
	ネット型ゲーム 〈例示〉 ソフトバレーボールやプレルボール, バドミントン, テニスを基にした易しいゲーム。	★	
	ベースボール型ゲーム 攻撃側がボール打ったり, 蹴ったりして行うゲーム。手や用具などを使って打ったり, 制止したボールを打ったりして行うゲーム。	★	
表現運動	表現	★	<ul style="list-style-type: none"> 地域や学校の実態に応じて「フォークダンス」を加えて指導することができる。
	リズムダンス	★	
	フォークダンス	○	

自然とかかわりの深い雪遊び，スキー，スケート，水辺活動など		○		・地域や学校の実態に応じて積極的に行うことに留意する。
保健	健康な生活	●		・学校でも，健康診断や学校給食など様々な活動が行われていることについても触れる。
	体の発育・発達		●	・自分と他の人では発育・発達などに違いがあることに気付き，それらを肯定的に受け止めることが大切であることについても触れる。

●印は，必ずその学年で指導することを意味する。

★印は，いずれかの学年に分けて指導することができることを意味する。

○印は，地域や学校の実態に応じて加えて指導できることを意味する。

☆印は，地域や学校の実態に応じて取り扱わなくてもよいことを意味する。

4 評価の観点の趣旨

〔運動領域〕

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	各種の運動についての行い方について知っているとともに，基本的な動きや技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自己の運動の課題を見付け，その解決のための活動を工夫しているとともに，考えたことを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	各種の運動の楽しさや喜びに触れることができるよう，各種の運動に進んで取り組もうとしている。

〔保健領域〕

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	健康で安全な生活や体の発育・発達について理解している。
思考・判断・表現	身近な生活における健康の課題を見付け，その解決のための方法を工夫しているとともに，考えたことを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	健康の大切さに気付き，自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。

第 5 ・ 6 学年 体育科

1 学年の目標

- (1) 各種の運動の楽しさや喜びを味わい，その行い方及び心の健康やけがの防止，病気の予防について理解するとともに，各種の運動の特性に応じた基本的な技能及び健康で安全な生活を営むための技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己やグループの運動の課題や身近な健康に関わる課題を見付け，その解決のための方法や活動を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動をしたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や用具の安全に留意したりし，自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また，健康・安全の大切さに気付き，自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う。

2 指導の要点

- (1) は，「知識及び技能」に関する目標であり，各種の運動の楽しさや喜びを味わうことを通して，その行い方や心の健康，けがの防止及び病気の予防について理解するとともに，各種の運動の特性に応じた基本的な技能及び健康で安全な生活を営むための技能を身に付けること及び体力を養うことを意図している。
- (2) は，「思考力，判断力，表現力等」に関する目標であり，自己やグループの運動の課題や健康に関する自己の課題を見付け，その解決方法を工夫するとともに，それについて自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養うことを意図している。
- (3) は，「学びに向かう力，人間性等」に関する目標であり，運動やスポーツの価値である，公正，協力，責任，参画，共生，健康・安全等に関する態度及び意欲的に運動をする態度を養うことを意図している。特に，運動をする際の良い人間関係が運動の楽しさや喜びに大きな影響を与えることや，仲間と共に積極的に意思決定に関わることが，運動やスポーツの意義や価値を知ることにつながることを踏まえたものである。また，児童の発達の段階に応じて，ルールやマナーを遵守することの大切さをはじめ，スポーツの意義や価値等に触れることができるよう指導等の改善を図ることで，オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実に資するようすることを意図している。

3 内容の取り扱い

体づくり運動以外は，原則的に 5 ・ 6 年のいずれかの学年で指導できるようにするとともに，地域や学校の実態に応じて多様な運動も指導することができる。

領域	内 容		学年		備 考
			5 年	6 年	
体 づくり 運動	体ほぐしの運動		●	●	・「体づくり運動」は、2 学年にわたって指導し、「体の動きを高める運動」は、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めることに重点を置いて指導するものとする。 ・「体ほぐしの運動」は各学年の各領域においてもその趣旨を生かした指導ができる。
	体の動きを高める運動	体の柔らかさを高めるための運動	●	●	
		巧みな動きを高めるための運動	●	●	
		力強い動きを高めるための運動	★		
		動きを持続する能力を高めるための運動	★		

器械運動	マット運動	★	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な技に取り組み、それぞれについて自己の能力に適した技が安定してできるようにするとともに、その発展技をできるようにする。 ・ 運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、技に関連した易しい運動を取り入れたり、易しい場や条件の下で段階的に取り組めるようにしたりする。
	鉄棒運動	★	
	跳び箱運動	★	
陸上運動	短距離走・リレー	★	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合理的な運動の行い方を大切にしながら競走（争）や記録の達成を目指す学習活動が中心となるが、競走（争）では勝敗が伴うことから、できるだけ多くの児童に勝つ機会が与えられるように指導を工夫する。 ・ 記録を達成する学習活動では、自己の能力に適した課題をもち、適切な運動の行い方を知って記録を高めることができるようにする。
	ハードル走	★	
	走り幅跳び	★	
	走り高跳び	★	
水泳運動	クロール	★	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の実態に応じて背泳ぎを加えて指導することができる。 ・ 泳ぎにつなげる水中からのスタートを指導する。 ・ 着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方については、安全確保につながる運動との関連を図り、各学校の実態に応じて積極的に取り組むこと。
	平泳ぎ	★	
	安全確保につながる運動	○	
ボール運動	ゴール型	★	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴール型では、バスケットボール及びサッカーを、ネット型では、ソフトバレーボールを、ベースボール型では、ソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてハンドボール、ラグビー、フットサル、バドミントン、テニスなど型に応じたその他のボール運動を指導することもできるものとする。なお、学校の実態に応じてベースボール型は取り扱わないことができる。
	ネット型	★	
	ベースボール型	☆	
表現運動	表現	★	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校や地域の実態に応じて「リズムダンス」を加えることができる。
	フォークダンス	★	
自然とかかわりの深い雪遊び、スキー、スケート、水辺活動など		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や学校の実態に応じて積極的に行うことに留意する。
保健	心の健康	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「心の健康」の「不安や悩みへの対処」と「体ほぐしの運動」とは、相互の関連を図って指導するものとする。 ・ 「病気の予防」の「喫煙、飲酒、薬物乱用」については、有機溶剤の心身への影響を中心に取り扱い、覚せい剤等についても触れるものとする。 ・ 食事、運動、休養及び睡眠については、食育の観点も踏まえつつ健康的な生活習慣の形成に結び付くよう配慮する。
	けがの防止	●	
	病気の予防	●	

- 印は、必ずその学年で指導することを意味する。
 ★印は、いずれかの学年に分けて指導することができることを意味する。
 ○印は、地域や学校の実態に応じて加えて指導できることを意味する。
 ☆印は、地域や学校の実態に応じて取り扱わなくてもよいことを意味する。

4 評価の観点の趣旨

〔運動領域〕

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	各種の運動の行い方について理解しているとともに、各種の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自己やグループの運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、各種の運動に積極的に取り組もうとしている。

〔保健領域〕

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	心の健康やけがの防止、病気の予防について理解しているとともに、健康で安全な生活を営むための技能を身に付けている。
思考・判断・表現	身近な健康に関する課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復についての学習に進んで取り組もうとしている。

第 1 学年 体育科 年間計画（標準 1 0 2 時間）

	領 域（内 容）	時間	備考
一 学 期 33	※スタートカリキュラム参照	5	
	体づくりの運動遊び（体ほぐしの運動遊び）、ゲーム（鬼遊び）バナナ鬼	3	
	体づくりの運動遊び（多様な動きをつくる運動遊び） 器械・器具を使つての運動遊び（固定施設・鉄棒）	1 0	
	ゲーム（ボールゲーム）的当てゲーム	5	
	水遊び（水の中を移動する運動遊び、もぐる・浮く運動遊び）	1 0	
二 学 期 42	走・跳の運動遊び（走の運動遊び）かけっこ・リレー遊び	6	
	表現リズム遊び 1	6	
	器械・器具を使つての運動遊び（マットを使った運動遊び）	6	
	走・跳の運動遊び（跳の運動遊び）幅跳び遊び	4	
	器械・器具を使つての運動遊び（跳び箱を使った運動遊び）	5	
	ゲーム（ボールゲーム）ボール投げゲーム	9	
	体づくりの運動遊び（多様な動きをつくる運動遊び）、ゲーム（鬼遊び）宝取り鬼	6	
三 学 期 27	体づくりの運動遊び（多様な動きをつくる運動遊び）	8	
	体づくりの運動遊び（体ほぐしの運動遊び）、ゲーム（鬼遊び）しっぽ取り鬼	3	
	ゲーム（ボールゲーム）ボール蹴りゲーム	1 0	
	表現リズム遊び 2	5	
	1 年生のまとめ	1	

【注】授業時数は小学校の低学年ということを踏まえると、一部の領域の指導に偏らない配慮が必要となる。上に示した配列及び時間数はあくまでも一例であるので、児童の実態や地域の特性、教師や施設・用具など学校の諸条件に合わせて、単元を配列し直し、指導に当たることとする。

例）水遊び（水の中を移動する運動遊び、もぐる・浮く運動遊び）の時間数を 10 時間から 8 時間に変更する。

第2学年 体育科 年間計画（標準105時間）

	領 域（内 容）	時間	備考
一 学 期	オリエンテーション	1	
	体づくりの運動遊び（体ほぐしの運動遊び）、ゲーム（鬼遊び）バナナ鬼	3	
	体づくりの運動遊び（多様な動きをつくる運動遊び） 器械・器具を使つての運動遊び（固定施設・鉄棒）	10	
	走・跳の運動遊び（走の運動遊び）かけっこ・リレー遊び	6	
	ゲーム（ボールゲーム）シュートゲーム	6	
	水遊び（水の中を移動する運動遊び、もぐる・浮く運動遊び）	10	
二 学 期	走・跳の運動遊び（走の運動遊び）障害物リレー遊び	6	
	表現リズム遊び1	6	
	器械・器具を使つての運動遊び（マットを使った運動遊び）	6	
	走・跳の運動遊び（跳の運動遊び）ゴム跳び遊び	4	
	器械・器具を使つての運動遊び（跳び箱を使った運動遊び）	5	
	ゲーム（ボールゲーム）ボール投げゲーム	9	
三 学 期	体づくりの運動遊び（多様な動きをつくる運動遊び）	8	
	体づくりの運動遊び（体ほぐし運動遊び）、ゲーム（鬼遊び）しっぽ取り鬼	3	
	ゲーム（ボールゲーム）ボール蹴りゲーム	10	
	表現リズム遊び2	5	
	2年生のまとめ	1	

【注】授業時数は小学校の低学年ということを踏まえると、一部の領域の指導に偏らない配慮が必要となる。上に示した配列及び時間数はあくまでも一例であるので、児童の実態や地域の特性、教師や施設・用具など学校の諸条件に合わせて、単元を配列し直し、指導に当たることとする。

例）水遊び（水の中を移動する運動遊び、もぐる・浮く運動遊び）の時間数を10時間から8時間に変更する。

第3学年 体育科 年間計画（標準105時間）

	領 域（内 容）	時間	備考
一 学 期 36	オリエンテーション	1	
	体づくり運動（体ほぐしの運動）	4	
	走・跳の運動（かけっこ・リレー）	5	
	器械運動（鉄棒運動）	6	
	ボールゲーム（ベースボール型ゲーム）	6	
	体づくり運動（多様な動きをつくる運動）	4	
	水泳運動（浮いて進む運動，もぐる・浮く運動）	10	
二 学 期 42	走・跳の運動（小型ハードル走）	5	
	表現運動（表現）	6	
	器械運動（マット運動）	6	
	保健（「毎日の生活とけんこう」）	4	
	走・跳の運動（幅跳び）	6	
	ゲーム（ゴール型ゲーム）ポートボールかタグラグビー	9	選択
	体づくり運動（多様な動きをつくる運動）なわとび	6	
三 学 期 27	ゲーム（ネット型ゲーム）プレルボールかハンドテニス	6	選択
	体づくり運動（多様な動きをつくる運動）かけ足	5	
	器械運動（跳び箱運動）	6	
	ゲーム（ゴール型ゲーム）サッカーかタグラグビー	9	選択
	3年生のまとめ	1	

【注】上に示した配列及び時間数はあくまでも一例であるので，児童の実態や地域の特性，教師や施設用具など学校の諸条件に合わせて，単元を配列し直し，指導に当たることとする。

例）水泳運動（浮いて進む運動，もぐる・浮く運動）の時間数を10時間から8時間に変更する。

第4学年 体育科 年間計画（標準105時間）

	領 域（内 容）	時間	備考
一 学 期 36	オリエンテーション	1	
	体づくり運動（体ほぐしの運動）	4	
	走・跳の運動（かけっこ・リレー）	6	
	表現運動（リズムダンス）	4	
	ゲーム（ネット型ゲーム）プレルボールかハンドテニス	6	選択
	体づくり運動（多様な動きをつくる運動）	5	
	水泳運動（浮いて進む運動，もぐる・浮く運動）	10	
二 学 期 42	器械運動（鉄棒運動）	6	
	走・跳の運動（小型ハードル走）	5	
	器械運動（跳び箱運動）	6	
	保健（「育ちゆく体とわたし」）※	4	
	走・跳の運動（高跳び）	6	
	ゲーム（ゴール型ゲーム）ポートボールかタグラグビー	9	選択
	体づくり運動（多様な動きをつくる運動）なわとび	6	
三 学 期 27	ゲーム（ベースボール型ゲーム）	6	
	体づくり運動（多様な動きをつくる運動）かけ足	5	
	器械運動（マット運動）	6	
	ゲーム（ゴール型ゲーム）サッカーかタグラグビー	9	選択
	4年生のまとめ	1	

【注】上に示した配列及び時間数はあくまでも一例であるので，児童の実態や地域の特性，教師や施設用具など学校の諸条件に合わせて，単元を配列し直し，指導に当たることとする。

例）水泳運動（浮いて進む運動，もぐる・浮く運動）の時間数を10時間から8時間に変更する。

※ 令和2年度の保健については，旧教科書を使用することとする。

第5学年 体育科 年間計画（標準90時間）

	領 域（内 容）	時間	備考
一 学 期 30	オリエンテーション	1	
	体づくり運動（体ほぐしの運動）	4	
	陸上運動（短距離走・リレー）	6	
	表現運動（フォークダンス・リズムダンス）	6	
	保健（「心の健康」）	3	
	水泳運動（クロール，平泳ぎ，安全確保につながる運動）	10	
二 学 期 37	陸上運動（走り幅跳び）	6	
	器械運動（マット運動）	6	
	器械運動（鉄棒運動）	6	
	保健（「けがの防止」）	5	
	ボール運動（ネット型）ソフトバレーボールかミニテニス	8	選択
	体づくり運動（体の動きを高める運動） 1	6	
三 学 期 23	体づくり運動（体の動きを高める運動） 2	6	
	ボール運動（ゴール型）バスケットボール	8	
	ボール運動（ゴール型）サッカーかタグラグビー	8	選択
	5年生のまとめ	1	

【注】上に示した配列及び時間数はあくまでも一例であるので，児童の実態や地域の特性，教師や施設用具など学校の諸条件に合わせて，単元を配列し直し，指導に当たることとする。

例）水泳運動（クロール，平泳ぎ，安全確保につながる運動）の時間数を10時間から8時間に変更する。

第6学年 体育科 年間計画（標準90時間）

	領 域（内 容）	時間	備考
一 学 期	オリエンテーション	1	
	体づくり運動（体ほぐしの運動）	4	
	陸上運動（ハードル走）	6	
	器械運動（マット運動）	5	
	器械運動（跳び箱運動）	5	
	水泳（クロール，平泳ぎ，安全確保につながる運動）	10	
二 学 期	表現運動（表現）	7	
	陸上運動（走り高跳び）	6	
	保健（「病気の予防」）※	8	
	ボール運動（ネット型）ソフトバレーボールかミニテニス	9	選択
	体づくり運動（体の動きを高める運動）1	6	
三 学 期	体づくり運動（体の動きを高める運動）2	6	
	ボール運動（ゴール型）バスケットボール	8	
	ボール運動（ゴール型）サッカーかタグラグビー	8	選択
	ボール運動（ベースボール型）ティーボール・ソフトボール	（8）	ゴール型に置き換えてもよい
	6年生のまとめ	1	

【注】上に示した配列及び時間数はあくまでも一例であるので，児童の実態や地域の特性，教師や施設用具など学校の諸条件に合わせて，単元を配列し直し，指導に当たることとする。

例）水泳運動（クロール，平泳ぎ，安全確保につながる運動）の時間数を10時間から8時間に変更する。

※ 令和2年度の保健については，旧教科書を使用することとする。

第2学年〇組 体育科学習指導案

令和2年10月〇日 〇曜日 第〇時 (〇〇〇)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 体づくりの運動遊び(多様な動きをつくる運動遊び), ゲーム(鬼遊び) 宝運び鬼

2 単元の見聞

- (1) 一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなど簡単な規則で鬼遊びをしたり、工夫した区域や用具で鬼遊びをしたりすることができる。
- (2) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

3 学習の計画 (6時間完了)

- | | | |
|-----|---------|-------------------------------|
| 第1次 | 第1時 | いろいろな体づくり運動と鬼遊びを行い、学習の見通しをもつ。 |
| | 第2時 | 試しのゲームを行い、ルールを考える。 |
| 第2次 | 第3時(本時) | 攻め方の作戦を考え、ゲームをする。 |
| | 第4時 | 守り方の作戦を考え、ゲームをする。 |
| | 第5時 | 攻守の作戦を考え、ゲームをする。 |
| | 第6時 | 学習したことを生かして、まとめのゲームをする。 |

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 相手につかまらないように攻めることができる。
 - 相手につかまらない方法を見付けることができる。
- (2) 準備・資料

教師……ボール(8)・タグ(人数分×2)・ミニコーン(16)・タイマー・得点板(2)

学習カード・作戦ボード・ビブス(4色×8)
- (3) 関 連

1年 体育 体づくりの運動遊び(多様な動きをつくる運動遊び), ゲーム(鬼遊び) 宝取り鬼

3年 体育 ゲーム(ゴール型ゲーム)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかむ	1 本時の学習内容を確認する。 (1) 4列縦隊に集合し、整列する。 (2) 鬼遊びを取り入れた準備運動をする。 ○ライン鬼コーナー ○手つなぎ鬼コーナー ○ジャンケンしっぽ取り1コーナー ○ジャンケンしっぽ取り2コーナー (3) 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">タグを取られずにゴールに行くには、どんな動きをしたらいいだろう。</div>	10	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察、服装点検をする。 ○主運動と関わりのあるコーナーを4つ設定し、1コーナーを2分で取り組ませる。 ○声を掛け合って取り組んでいるグループを称賛し、全体の雰囲気盛り上げる。 ○ジャンケンしっぽ取りは、勝ったら取りに行く(1)と、勝ったら相手をかわして逃げる(2)の2種類をつくり、判断力を養うことを目的とする。
追究する	2 作戦を考える。 (1) 課題に対する個人の考えを書く。 ・ジグザグに動く ・相手をだます ・空いているところを通る		<ul style="list-style-type: none"> ○個人の考えを大切にするために、友達と相談しないで、簡単な図と言葉で説明させる。 ○自分の考えをもっていることを称賛する。 ○かけない児童には、前時の活動を思い出してそのイメージを書かせるように声を掛ける。

追 究 す る	(2) 試しのゲームをする。		<ul style="list-style-type: none"> ○個人の考えをゲームで試すよう声を掛ける。 ○チーム内で攻守に分かれて行わせる。 <p>評自分で考えた動きを基に、相手につかまらないようにジグザグに走ったり、空いているスペースに抜けたりしている。(ゲーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○試しのゲームを基に、考えを修正するように促す。また、考えが変わらないことも認める。 <p>評鬼につかまらないように急に曲がったり、身かわしたり、少人数で協力する動きを簡単な図や言葉で表現している。(学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○修正案を試して、様々な動きをしている児童を称賛する。 ○作戦を考えたチームは、役割なども決めるとよいことを声掛けする。 ○走る速さや走り抜ける向き、仲間と協力する動きを進んで取り入れているチームを称賛する。 ○攻守1回ずつ行った後、うまくいかない場合は、再度作戦を確認させる。 <p>評チームで考えた作戦を基に、仲間とクロスして走ったり、おとりをつかって抜けたりしている。(ゲーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○うまくいった作戦、うまくいかなかった作戦どちらも発表させる。 ○次回の課題を自分たちで考えることで、次回への学習意欲を高める。
	(3) 考えたことを修正する。 <ul style="list-style-type: none"> ・急に向きを変える ・仲間でバラバラに動く ・仲間とクロスする ・おとりを使う 		
	(4) 修正したことを確認する試しのゲームをする。	30	
	(5) チームで試したい作戦を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・足の速い人が、おとりになる作戦 ・固まったところから一気にバラバラになる作戦 ・バラバラに走り抜ける作戦 	40	
ま と め る	3 ゲームを行う。		
	(1) チームで確認をする。 (2) ゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・前後半2分ずつ ・試合に出ない人は得点を付ける 	45	
ま と め る	5 本時のまとめをする。		
	(1) 本時の振り返りをする。 (2) 次時の活動内容を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・守り方を考えたい ・もっと点をとる作戦を考えたい 	45	

(5) 本時の評価規準

- 相手につかまらないように、自分で走り抜けたり、仲間と連携して相手をおかわしたりしている。(ゲーム)
- 自分で走り抜けたり、仲間と連携して相手をおかわしたりする方法を見付けている。(学習カード)

5 備 考

(1) 学級の実態

運動に積極的に取り組み、休み時間には友達と鬼ごっこをすることが好きな児童が多い。しかし、鬼ごっこの様子をみると、なんとなく鬼から逃げており、相手の動きに合わせて逃げたり、友達と協力して逃げたりしている児童はほとんどいない。

(2) 指導の力点

- 論理的思考を育むために、【個人の考えをもつ→試す→考えを修正する→修正案を試す→チームで確認する】という学習過程を意図的に構成する。
- 学習内容を「攻めの動き」に絞ることで明確化し、【自分で走り抜ける（ジグザグ・フェイント・スペースへ）】、【仲間と連携して相手をおかわす（バラバラ・クロス・おとり）】などの様々な動きを見付ける学習を目的としている。

6 指導と評価

第4学年O組 体育科学習指導案

令和2年6月〇日 〇曜日 第〇時 (〇〇〇)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 ゲーム (ネット型ゲーム) 攻守一体ハンドミニテニス

2 単元の目標

- (1) ネット型ゲームの行い方やボールの打ち方について知り、基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動するなどのボールを持たない時の動きによって、用具を使って相手コートに返球するなど、ラリーの続く易しいゲームをすることができる。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

3 学習の計画 (6時間完了)

- | | | |
|-----|----------|--------------------------|
| 第1次 | 第1時 | ネット型の特性を理解し、学習の見通しをもつ。 |
| | 第2時 | ラケットの操作を学び、ボールをとらえる。 |
| 第2次 | 第3時 | 打ちやすい場所や球を考え、味方とラリーを続ける。 |
| | 第4時 (本時) | 打ちやすい場所や球を考え、味方とラリーを続ける。 |
| 第3次 | 第5時 | 打ちやすい場所や球を考え、相手とラリーを続ける。 |
| | 第6時 | 学習したことを生かして、大会を行う。 |

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 相手コートから飛んできたボールをとらえ、ラリーを続けることができる。
 - 自分や味方が打ちやすい場所や打球を見付けたり、考えたことを図や言葉で表現したりすることができる。
- (2) 準備・資料
 - 児童……ハンドミニテニス用ラケット (手のひら大サイズ段ボール自作)
 - 教師……ミニテニスボール (40)、得点板 (6)、ビブス (6色×7)、タイマー
ホワイトボード、学習カード
- (3) 関 連

3年 体育 ネット型ゲーム「プレルボール」 (ラリーの続く易しいゲームをする。)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つ か む	1 本時の学習内容の確認をする。 (1) 4列横隊に集合し、整列する。 (2) ボールを使った準備運動をする。 ・ ネットをはさんでペアラリー (3) 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> どこにどんな球がくると打ち返しやすいか見付けよう。 </div> (4) 課題に対する個人の考えを書く。	10	○ 健康観察、服装点検をする。 ○ 準備運動では、主運動につながる運動やボールを使った動きで取り組ませる。 ○ 触球数をたくさん確保できるように、2人一組で数多く経験させ繰り返す。 ○ 習得させたい「ボールをとらえる動き」を児童自ら導き出せるように発問を投げかけ、思考させる。 ○ 個人の考えをもった上で動きを引き出させる。

追 究 す る ま と め る	2 タスクゲームを行う。 (1) 1本打ちストロークゲームを行い、 個人の考えを試すゲームを行う。 (2) 個人の考えを修正する。 ○タスクゲームを通して、自分の考 えを見直し、修正した考えを書く。 (3) 1本打ちストロークで修正した動き を試すゲームを行う。 (4) 考えたことを全体で共有する。 ○修正案をチームで確認する。 ○修正した動きを発表する。		○ 良い悪いではなく、自分の考えをもつことが できていることを称賛する。 ○ 考えをもてなかったり、動けなかったりする 児童には、頭の中に浮かんだイメージを表現 できるように個別に声掛けを行う。 ○ 修正した考えを基に、積極的にボールをとら えに行けるように児童同士で相互に声掛けが できるように促す。 ○ 全体での意見発表は、動きを基に導き出せた ことを称賛し、幅広く受け止める。 評 ボールのとらえやすい場所やそのためのボー ルの軌道を見付け、学習カードに図や言葉で 記入したり、考えたことを伝えたりしている。 (学習カード・話し合い・チーム練習)
	3 メインゲームを行う。 (1) チームで確認をする。 ・ 出場選手や交代 ・ チームの役割の確認 (2) メインゲームをする。 ・ 2対2で交代制 ・ 4回ラリーが続いてからゲームス タート ・ 前後半2分のゲーム	35 40	○ 導き出した動きを基にラリーをつなぐことを 意識して、易しいゲームに取り組ませる。そ のための4回スタートルールを採用する。 ○ 交代選手は、コート外からの声掛けを大切に させ、導き出した動きのキーワードとなる言 葉を投げ掛けさせる。 評 ボールの打ちやすい場所に動き、ラケットで ボールをとらえ、相手コートにボールを返し、 ラリーを続けている。(メインゲーム)
	4 本時の学習のまとめをする。 (1) 学習カードに振り返りを記入する。 (2) 次時の学習の予定を知る。	45	○ 本時の振り返りをさせ、次時の活動への見通 しをもたせる。

(5) 本時の評価規準

- 相手コートから飛んできたボールをラケットでとらえ相手コートに返球しラリーを続けている。
(メインゲーム)
- 自分や味方がボールを操作しやすい場所やボールの落下点を見付けたり、考えたりしたことを図
や言葉で表現している。(学習カード・話し合い・チーム練習)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 集団で行う様々な運動を意欲的に楽しく取り組める児童である。しかし、その一つ一つの動きは
「こつ」や「勘」によって、何となく運動がなされている現状にある。そこで学習内容を明確に
することで、主体的に取り組む、分かってできる運動の喜びを味わうことができると考えた。

(2) 指導の力点

- ラケット操作の基本を言語化したり、オノマトペ化したりすることで児童に親しみやすくし、
指導の際にも生かせるようにしている。
- 学習内容を「ボールをとらえる」と明確化し、考えたことをゲームで試し、そこから修正して、
また試すという活動の流れにしている。思考を軸に構成することで、学習課題を追求しやすく
し、より深めることができるように学習過程を構成している。

6 指導と評価

第6学年O組 体育科学習指導案

令和3年1月〇日 〇曜日 第〇時 (運動場)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 ボール運動 (ゴール型) タグラグビー

2 単元の見通し

- (1) ゴール型の運動の行い方を知り、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、決められたルールの中で、相手の陣地へボールを運ぶなどの簡易化されたゲームをすることができる。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

3 学習の計画 (8時間完了)

- 第1次 第1時 タグラグビーの特性を知り、学習の見通しをもつ。
- 第2次 第2時～第4時 タグラグビーの基礎的な動き (ラン、パス、フォロー、タグ取り) をタスクゲームで身に付け、簡単なゲームをする。
- 第5時 (本時) トライにつながるフォローの動きを考え、ゲームをする。
- 第6時 チームの特徴に応じた作戦を立て、ゲームをする。
- 第3次 第7時～第8時 タグラグビー大会をする。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 味方から出されるパスを受け、フォローとしてトライにつながる動きをすることができる。
 - 相手陣地へトライするための動きを考え、その動きを図や言葉で仲間に伝えることができる。
- (2) 準備・資料
 - 児童……学習カード、探検バッグ
 - 教師……タグラグビーボール (8) , タグ (4色×10) , ゲームベスト (4色×10)
- (3) 関 連
 - 1年 体育 鬼遊び (空いている場所を見つけて、速く走ったり、身をかかわしたりする。)
 - 3年 体育 ボールゲーム (味方へのボールのパス、ゴールへボールを移動する。)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つ か む	1 本時の学習内容の確認をする。 (1) 4列横隊に集合し、整列する。 (2) ボールを使った準備運動をする。 ○ 各コートに分かれ、チームでタグラグビーにつながる運動をする。 (3) 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> トライにつながるフォローの動きを見付けよう。 </div> (4) 課題に対する個人の考えを書く。 ・ コートの真ん中ではなく、隅の方を攻める。 ・ 遠くにいて、反対のサイドを攻める。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康観察、服装調べ (爪の点検も含む) をする。 ○ 主運動につながる簡単な準備運動を全体で行う。その後、チームに分かれて、ラン&パスを行わせる。チーム内の役割を果たさせるため、キャプテンを中心に行わせる。 ○ 身に付けさせたいフォローの動きについて児童自らがその動きを考えられるように発問を投げ掛ける。 ○ 個人の考えを大切にさせるため、チームの味方とは相談をさせず、自分なりの考えを学習カードに言葉と図で記述をさせる。

追 究 す る ま と め る	2 簡単なゲームを行う。 (1) パスフォローゲームを行い、個人の考えを試すゲームを行う。 (2) 個人の考えを修正する。 ○ パスフォローゲームを通して、自分の考えを見直し、修正した考えを書く。 ・ スピードをつけて走り込む。 (3) 修正した考えを確認するパスフォローゲームを行う。 (4) 考えたことを全体で共有する。 ○ 修正案をチームで確認する。 ○ 修正した動きを発表する。		○ タグを取られた後、スムーズにパスをつなげられるためにはどこにフォローに行けばよいのか繰り返し試させる。 ○ 個人の考えをもてなかったり、動けなかったりする児童には、頭の中に浮かんだイメージを表現できるように個別に声掛けを行う。 ○ 個人の考えは、必ず修正しなければならないものではなく、同じ考えでもよいことを補足しておく。 ○ トライにつながる動きになるように児童同士で声掛けができていた姿を称賛する。 ○ 全体での意見発表は、その内容のみならず繰り返し試しながら活動していたことを称賛するようにし、学級全体で共有する。
	3 メインゲームを行う。 (1) チームで確認をする。 ・ 出場選手や交代 ・ チームの役割の確認 (2) メインゲームをする。 ・ 前後半3分のゲーム	30	評 トライをするためのフォローとしての動きを見付け、その動きを学習カードに図や言葉で書いたり、考えたことを仲間に伝えたりしている。(学習カード・話し合い・チーム練習) ○ 繰り返し試した動きを基に、トライにつなげられる動きになるようにゲームに取り組ませる。ここでは、タグを取られた後のフォローの動きについて称賛して回る。 ○ 後半ゲームのプレーヤーには、コート外からの声掛けを大切にさせ、繰り返し試した動きのキーワードとなる言葉を投げ掛けさせる。
	4 本時の学習のまとめをする。 (1) 学習カードに振り返りを記入する。 (2) 次時の学習の予定を知る。	40 45	評 ボールを受けやすい場所に動いてパスを受け、トライにつなげられるコートのサイドや、相手のいない場所へ動いている。(メインゲーム) ○ 本時の振り返りをさせ、次時の活動への見通しをもたせる。

(5) 本時の評価規準

○ 味方からのパスを取りやすい場所で受け、トライにつなげられる場所へ走り込んでいる。

(メインゲーム)

○ トライにつなげるための動きを見付け、その動きを図や言葉で仲間に伝えている。

(学習カード・話し合い・チーム練習)

5 備 考

(1) 学級の実態

○ 体育のゲームになると、体育を得意とする児童が活躍をし、苦手な児童が遠慮をしてしまう傾向がある。そこで、学習内容を明確にすることで、主体的に取り組み、分かってできる運動の喜びを味わうことができると考えた。

(2) 指導の力点

○ 学習内容を「トライにつながるフォローの動き」とし、個人で考えたことをゲームで試し、そこから修正して、また試すという活動の流れにしている。思考させることを軸に構成することで、学習課題を追求しやすくし、より深めることができるように学習過程を構成している。

6 指導と評価

第6学年〇組 保健体育科学習指導案

令和2年10月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 保健（病気の予防）

2 単元の見どころ

- (1) 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、理解することができる。
- (2) 病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができる。
- (3) 健康や安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとする。

3 学習の計画（8時間完了）

- 第1次 第1時 病気はどのようなことが関わって起こるのか理解し、今後の学習について課題をもつ。
- 第2次 第2時～第4時 病原体や生活の仕方で起こる病気の予防を知り、自分の生活や行動について考える。
- 第3次 第5時（本時） たばこは健康にどのような害を与えるかを知る。
第6時 飲酒は健康にどのような害を与えるかを知る。
第7時 薬物乱用は健康にどのような害を与えるかを知る。
- 第4次 第8時 地域で行われている保健活動について調べ、まとめたことを発表する。

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 喫煙の行為は、健康を損なう原因となることを知り、喫煙を勧められたときの効果的な断り方を身に付けることができる。
- (2) 準備・資料
 - 児童……前時まで使用したワークシート
 - 教師……ワークシート、肺や脳の写真、成長比較の写真、P.54のたばこ資料、グラフ
- (3) 関 連

中1年 保健 健康な生活と疾病
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかむ	1 本時の学習問題をつかむ。 (1) 「たばこ」をテーマに発表する。 ・煙が出る ・害がある ・大人が吸うもの (2) 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">たばこのけむりの正体を知ろう。</div>	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表者の発言を傾聴する。 ○ 発表した内容が理解しにくければ、黒板に絵などを描いてもよいことを伝える。
追究する	2 たばこについて調べる。 (1) 個人で調べ学習をする。	18	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書やタブレット端末を利用して調べ学習を進め、ワークシートに内容を記入させる。 ○ その際に重要だと思うところやキーワードを選んで記入するよう助言する。 ○ 煙以外のことについても調べてよいことを伝える。

追 究 す る	(2) 全体で共有する。 ・主流煙，副流煙がある ・ニコチンは依存性がある ・タールは発がん性がある ・一酸化炭素は酸素不足になる ・受動喫煙の方が害が大きい ・法律で未成年者は喫煙できない ・喫煙のきっかけは，友人から誘われることがもっとも多い	25	○ 児童から主流煙・副流煙，たばこの成分，受動喫煙，未成年者への影響，法律について発表がなければ，内容を押さえる。 ○ 発表の内容に合わせて成長比較の写真，肺の写真や脳の写真，喫煙する年齢によって身体への害を及ぼすことがわかるグラフなどを提示し，補足が必要なら説明をする。 ○ 喫煙のきっかけについての発表を基にロールプレイングにつなげる。
深 め る	3 友達から喫煙を誘われたときの断り方を考える。 (1) ワークシートに断り方を記入する。 (2) ロールプレイングを行う。 (3) 全体で共有する。	30 40	評喫煙に誘われる際に，健康への害や法律を基に断ることを書いている。 (ワークシート) ○ ペアでロールプレイングをさせる。 ○ 児童の様子を観察し，健康や法律を理由にきっぱり断っている児童を称賛する。 評健康への害や法律を基に自分の気持ちを伝え，断っている。(ロールプレイング) ○ 称賛したペアに発表させる。 ○ 代表児童の様子やペア活動を通して，断り方でよかったことや断ることができなかった理由を発表させることで考えを深めさせる。
ま と め る	4 本時を振り返る。 (1) 本時を振り返り，感想を書く。 (2) 次時の予告を聞く。	45	○ 次時は飲酒について，学習することを知らせる。

(5) 本時の評価規準

- 喫煙の行為は，健康を損なう原因となることを理解し，喫煙を勧められたときに自分の言葉で断り方を身に付けている。
(ワークシート・ロールプレイング)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 保健の授業では，日常生活を基にたくさんの意見を発表している児童が多い。しかし，その内容については，児童の思い込みや大まかな内容で知っているというのが現状である。そこで自ら進んで調べ学習に取り組み，学んだ内容を活用して喫煙を勧められた時の解決方法を学ばせたい。

(2) 指導の力点

○ 実際に起こるかもしれない喫煙のきっかけをロールプレイングを通して，それぞれの立場を演じ，相手の考えや感情に気付き，自分自身の認知の変容を図りたい。

6 指導と評価

単元名	体づくり運動遊び(体ほぐしの運動遊び), ゲーム(鬼遊び)バナナ鬼	配当時間	3時間
単元の目標	(1) 手軽な運動遊びを行い, 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことを通して, 自己の心と体の変化に気付いたり, みんなで関わり合ったりすることができる。 (2) 体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに, 考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み, 規則を守り, 誰とでも仲よく運動をしたり, 勝敗を受け入れたり場や用具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

01100101_001

【準備等】赤白帽子, はちまきなど

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 体ほぐしの運動遊び, 鬼遊びのねらいと内容を理解し, 学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と一緒に楽しく運動しよう。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行う。 ・リズムに乗って, 心が弾むような動作で運動を行う。 ・リラックスしながらペアでストレッチングを行う。 ・動作や人数などの条件を変えて, 歩いたり走ったりする運動を行う。 ・伝承遊びや集団による運動遊びを行う。 ○バナナ鬼のマナーや安全な運動の仕方について知る。 <p>○バナナ鬼をする。</p> <p>2～3 体ほぐしの運動遊びや鬼遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動遊びをする。 <p>○バナナ鬼をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省し, まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール, マナーなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動を楽しく行わせられるようによい動きをした児童を賞賛するなどの声掛けをする。 ・一定の区域内で, 「追いかける」「逃げる」を中心とした鬼遊びを楽しむことを知らせる ・＜バナナ鬼のルール例＞ 鬼は逃げる人を追いかけてタッチする。逃げる人は鬼にタッチされたらその場で両腕を頭上に上げてバナナのポーズをとり, 立ち止まる。他の人にバナナの皮をむくように腕を1本ずつ降ろし, 2本の腕が降ろせたら, また鬼遊びに参加できる。 ・バナナ鬼以外の鬼遊びをしてもよい。 ・いろいろな種類の運動を行う。 <p>【評】体ほぐしの運動をする活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールは適宜変更してもよい。

【 備 考 】

体ほぐしの運動遊びは, 手軽な運動や律動的な運動を行い, 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって, 自分の体の状態に気付き, 体の調子を整えたり, 仲間と豊かに交流したりすることができることをねらいとして行われる運動である。

鬼遊びは, 低学年の児童にとって抵抗なく学習に取り組める遊びであり, 好む児童が多い遊びでもある。さらに, 遊びを通して「走る」「方向を変える」「身をかかわす」などの動きを知らず知らずのうちに身に付けられる運動である。本単元では, 児童一人一人が友達と協力しながら鬼遊びに熱中できるようなルールを工夫させる。その中で, 楽しく遊ぶことと, 遊ぶための工夫の仕方を学ぶことができるようにさせる。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

～体ほぐし～

- ・表情を表す絵や感情を表すカードを示し, 自己の心や体の変化のイメージができるようにする。
- ・友達とハイタッチや拍手で喜びを共有するなど, 共に運動遊びをする楽しい雰囲気を実感することができるようにする。
- ・短い時間で鬼を交代したり, 逃げる場所を制限したり, 逃げる場所を狭くしたりする。

～鬼遊び～

- ・安全地帯を設けたり, 鬼の人数を一人から徐々に増やしたり, 鬼でない児童の人数を増やしたりする。

単元名	体つくりの運動遊び(多様な動きをつくる運動遊び), 器械・器具を使つての	配当時間	10 時間
単元の目標	(1) 鉄棒を使った運動遊びでは, 支持しての揺れや上がり下り, ぶら下がりや易しい回転をすることができる。 (2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに, 考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み, 順番やきまりを守り, 誰とでも仲よく運動をしたり, 場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

01100102_001

【準備等】学習カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 多様な動きをつくる運動遊び, 固定施設や鉄棒を使った運動遊びの学習のねらいと内容を理解し, 学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と一緒に楽しく運動しよう。 ○体のバランスをとる運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・片足を軸にして, 右回り・左回りに回る。 ・足の裏を合わせて座り, 両手で足を持ち, 背中を床に接触しながら回り, 起きる。 ・友達と肩を組んだり背中を合わせたりして, 立ったり座ったりする。 ・しゃがんだ姿勢で相手のバランスを崩したり, 相手にバランスを崩されないようにしたりする。 ○体を移動する運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・大きな円を右回り・左回りに這ったり, 歩いたり, 走ったりする。 ・両足や片足で跳び, 空中で向きを変えて足から着地する。 ・両足または片足で, リズムや方向を変えてはねる。 ○力試しの運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・すもう遊びで相手を押し出したり, 引き合い遊びで引き動かしたりする。 ・友達をいろいろな方向に引きずったり, おんぶをしたりする。 ・腕立て伏せの姿勢から自分の体を支え, 手や足を支点として回る。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成する。 ○電車ごっこの約束を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・運転手は自分の好きな固定施設にお客を連れて行く。 ・運転手はお客がついてきているか確かめてから動く。 ・1か所回るごとに運転手は交替する。 ・お客は運転手のやった動きや遊びをまねする。まねできないときはそれに近い動きをする。 ○電車ごっこをしながら固定施設を回り, 運転手の動きをまねしたり新しい遊びをつくり出したりして楽しむ。 <p>3～6 多様な動きをつくる運動遊びや電車ごっこをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体のバランスをとる運動遊びをする。 ○体を移動する運動遊びを行う。 ○力試しの運動遊びを行う。 ○電車ごっこをしながら固定施設を回り, 運転手の動きをまねしたり新しい遊びをつくり出したりして楽しむ。 ○発表をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの面白い遊びを発表する。 ・発表された遊びを行う。 <p>7～10 多様な動きをつくる運動遊びや自分のつくったお話鉄棒をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体のバランスをとる運動遊びをする。 ○体を移動する運動遊びをする。 ○力試しの運動遊びをする。 ○先生のつくったお話鉄棒をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル1 <p>ぶたの木登りよっこらしよ, 片手を離して, またつけて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体のバランスをとる運動遊び, 体を移動する運動遊び, 力試しの運動遊びの3つの運動の中から, いくつか遊びを選択して行わせる。 ・きまりを守って, 友達と仲よく運動させる。 ・危険物がないか, 友達とぶつからない十分な間隔があるかなどの場の安全に気を付けさせる。 ・友達のよい動きを見付けさせる。 ・固定施設や鉄棒を使った遊びの例を学習カードに示しておくことよい。 ・3～4人の少人数グループにする。 ・学級の実態に応じて約束を決める。 ・前の児童の両肩や腰に手を置いて連結して動いたり, 連結しないで少し間をおいて連なったりしてもよい。 ・運転手になる順番を確認させ, 順番を守って行わせる。 ・初めは教師が先頭車両となり, 各固定施設を回りながら安全な使用方法を確認する。 ・運転手は, 今までに友達がやっていない遊びを考え出すよう助言する。 ・第1時～第2時と同様にいくつかの遊びを選択して行わせる。 ・発表された遊びの中から, やってみたい遊びを選んで行わせる。 【評】発表を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・慣れてきたら, いろいろな遊びに挑戦させる ・お話鉄棒について説明し, 新しい技を練習して加え, 自分のお話鉄棒をつくり上げることを知らせる。

足を離して下りました、ハイポーズ

・モデル2

こうもりさん、両手を離してぶらぶら、逆立ちして下りました、ハイポーズ

○発表をする。

○反省し、まとめをする。

・お話鉄棒のできばえ、グループでの協力について。

・逆さや脱力などの感覚づくりができる技を教師が紹介し、その技を中心にして遊ばせる。

・始めと終わりの合図をきちんとするだけで鉄棒の表現性が広がる。片手を上げて「始めます」「終わります（ハイ、ポーズ。）」の動作を大切にする。

【評】お話鉄棒をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・グループごとに発表させる。

【 備 考 】

多様な動きをつくる運動遊びは、体のバランスをとったり、移動したり、力試しをしたりする動きを意図的にはぐくむ運動遊びを取り入れることで、体の基本的な動きを総合的に身に付けることをねらいとして行う運動である。

低学年の児童は、自然に体が動き、自分で動きを作ったりまねをしたりすることが好きである。固定施設を使った運動遊びでは、逆さになる感覚・スイングして振る感覚・腕で体重を支える感覚・跳び下りて着地する感覚などを楽しみながら身に付けさせることができる。

本単元では、前半に体づくり運動遊びを、後半に器械・器具を使つての運動遊びを行う。

器械・器具を使った運動遊びでは、第1時～第6時に固定施設を使った電車ごっこで、鉄棒運動に必要な運動感覚をたっぷり体験させ、第7時から鉄棒遊びを中心に学習する。鉄棒遊びでは、鉄棒を軸として、揺れたり、回転したりするという独自の面白さがある。教師がモデルとして示した「お話鉄棒」を基にして、多くの動きを体験させたい。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

～多様な動きをつくる運動～

・回るなどの動きでバランスをとるには、目印を置いて回ったり、軸になる足の位置に輪を置いたりするなど、回りやすくする場を設定する。

・跳ぶ、はねるなどの動きは、跳ぶ方向が分かるよう矢印を置いたり、はねた際に手でタッチできるよう目印をぶら下げたりするなど、場や用具を準備する。

・回す、転がすなどの用具を操作するには、ボールやフープなど用具の大きさ、柔らかさ、重さを変えて操作しやすくする。

・用具を投げる、捕るなどの動きは、新聞紙を丸めた球や新聞紙で作った棒、スポンジのボールなど、恐怖心を感じにくい用具を用いたり、紙鉄砲を用いた遊びを取り入れたりする。

・すもう遊びや力比べは、力を入れたり緩めたりする行い方について助言したり、力を加減するタイミングをつかめるように声をかけたりする。

・体を支える動きは、肘を曲げずに手の平で地面や床を押したり、目線を地面や床と平行にしたりすることができるよう助言する。

～鉄棒運動～

・ジャングルジムを登るには、低い場所に音の鳴る教具を付けることで登ることへの興味を喚起したり、低い場所を横に移動させたりして、高さに慣れるようにする。

・雲梯で体を揺らして移動するには、体を支えて移動できるように補助をしたり、少し斜めを向いた姿勢で片手ずつ動かして移動できるように助言したりして、懸垂の姿勢と体の揺れを使って移動できる動きが身に付くようにする。

・登り棒を登るには、棒にハチマキなどを巻いて節をつくり、足が滑らないようにする。

・肋木でぶら下がって移動するには、足を上げてポーズをとったり、足を振ってみたりするなど、ぶら下がってできる運動遊びをしたりする。

単元名 ゲーム(ボールゲーム)的当てゲーム

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 簡単なボール操作と攻めや守りやの動きによって、易しいゲームをすることができる。
 (2) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り、誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

01100103_001

【準備等】ドッジボール，ミニソフトバレーボール，ビーチボール，段ボール箱，カラーコーン，ハードル
 対戦表 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 的当てゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と仲よく的当てゲームを楽しもう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○1人でボールを使って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・上に投げて捕る。 ・ボールをつく(ドリブル)。 ・転がしたボールを追いかけて捕る。 ・回転してボールを捕る。 ・ボールをつきながらジャンプする。 ・的当て(箱，カラーコーン)をする。 ・的通し(ハードル)をする。など <p>2 ボールを使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人でボールを使って遊ぶ。 ○2人以上でボールを使って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組で対人パス(下からのパス，上からのパス，弾んだパス) ・守りをつけて的当てなど ○反省し，まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと ・できたことなど <p>3～5 簡単なルールで友達と仲よく的当てゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チームを作る。 ○チームでボールを使って遊ぶ。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール，マナー，対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。(活用) ○反省し，練習をする。 ○第2ゲームをする。(活用) ○反省し，まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール，マナー，課題，作戦など ○第5時は，単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーを守って，友達と仲よく的当てゲームをすることを知らせる。 ・ドッジボールの他にビーチボールやミニソフトバレーボールなど，いろいろなボールを用意する。 ・始めは教師が遊び方を紹介する。 ・教師が示した遊び方を変えたり，友達の遊び方をまねたりして工夫させる。 ・面白い遊び方をしている児童を紹介したり，その遊びを全員で行ったりして楽しく活動させる。 ・いろいろな投げ方をさせる。 <p>【評】楽しくボール遊びを行う活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1チーム4～6人，男女混合で編成する。 ・第1時～第2時に行った遊びをチームで選んで行わせる。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる ・慣れてきたら的を守る人をつける。 <ルールの例> ・ボールはドッジボール。 ・ボールはグループで1～2個使う。 ・的は点数を付けたカラーコーン，ダンボールの箱など。 ・円の中に的を置き，たくさん点数をとった方が勝ち。 ・課題や作戦を考えられないチームには，話し合いに教師が加わって助言する。 <p>【評】チームの話し合いを通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの結果から，チームの課題に沿った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】ゲームを通して，「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの話し合いや自己評価などをさせる

【備 考】

的当てゲームは，ボールを転がしたり，投げたりして的に当てるゲームである。1年生の児童は，投力がしっかり身に付いていない。また，ボールを怖がる児童もいる。そこで，的当てゲームを行うことにより，ボールを力いっぱい投げる経験をさせたり，ボールにたくさん触れさせたりして，ボールに対する恐怖心をなくす。展開例では，ボールを使って遊ぶことで基本的な技能を身に付ける。そして，その技能を使って簡単なルールで行う的当てゲームにつなげる。

<運動遊びが苦手な児童への配慮>

- ・柔らかいボールや，空気を少し抜いた速さの出にくいボールを用いる。
- ・柔らかいボールを用い，1対1でゴールを守る練習をしさせる。

単元名 水遊び

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 水の中を移動する運動遊びでは、水につかって歩いたり走ったりすることができる。また、もぐる・浮く運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりすることができる。
- (2) 水の中を移動したり、もぐったり浮いたりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

01100104_001

【準備等】 ビート板, フラフープ, 基石, 切ったホースなど

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1～3 水遊びのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★水遊びを楽しもう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○水慣れをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・電車ごっこ、水かけっこ、鬼遊びなど <p>4～6 水に慣れ親しむ水遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まねっこ遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・えさをとるあひるさん、水浴びするぞうさん、あわをふくかにさんなど ○じゃんけん遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・負けたら水に顔をつける、水中じゃんけんなど ○電車ごっこをする。 <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、できるようになったことなど <p>7～10 水に浮いたりもぐったりする水遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タクシーごっこをする。 <p>○宝探しごっこをする。</p> <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第10時には単元のまとめも行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けて水遊びを楽しむことを知らせる。 ・プールのきまりをしっかり指導する。 <p>・まねっこ遊びを通して、「歩く・走る」「顔をつける」「息を吐く」などの動きを身に付けさせる。</p> <p>・じゃんけん遊びを通して、「顔をつける」「目を開ける」などの動きを身に付けさせる。</p> <p>・5～6人グループで行い、先頭が運転手、最後尾が車掌となり、車掌に指示を出させる。</p> <p>・ビート板を置いて障害物にしたり、フラフープを置いて水中トンネルにしたりする。</p> <p>・電車ごっこを通して、「歩く・走る」「水に顔をつける」「目を開ける」「息を吐く」などの動きを身に付けさせる。</p> <p>【評】きまりを守って楽しく水遊びをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・2人1組で行い、タクシー役の児童は、自分の手のひらにもう1人（お客さん）の手を乗せ、決められた場所まで運ぶようにする。</p> <p>・お客さん役の児童は、体の力を抜き、浮いた状態を体験させ、慣れたら手を離させる。</p> <p>・顔を水につけられない場合は、あお向けにした状態で下から手で体を支えて運ばせる。</p> <p>・タクシーごっこを通して、「浮く」「水に顔をつける」などの動きを身に付けさせる。</p> <p>・基石など沈むものを置き、もぐって探させる。</p> <p>・宝探しごっこを通して、「水に顔をつける」「目を開ける」「息を吐く」「浮く」などの動きを身に付けさせる。</p> <p>【評】水遊びを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・感想の発表や自己評価などをさせる。</p> <p>【評】感想の発表や自己評価を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

※学校の実態に応じて時間数を柔軟に変更してもよいこととする。

水遊びは、児童にとってとても楽しみにしている運動の一つであるが、水に恐怖心を抱いている児童もいる。展開例では、児童が自然に水中で「歩く・走る」「水に顔をつける」「目を開ける」「息を吐く」「浮く」動きを体験できるような楽しい水遊びを設定した。そして、この技能を使って行う水中ゲーム大会につなげる。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

- ・より浅い場所で歩いたり、しゃがんだ姿勢でゆっくりと移動したりするなど、段階的な遊び方を工夫する。
- また、友達の後ろに続いて移動したり、手で水を力強くかいたりすることを助言する。
- ・少しずつ顔に水がかかるようにシャワーを浴びたり、顎→口→鼻→目へと徐々に水につける部分を増やしたりする。
- ・もぐる遊びでは、輪の深さや数を変えたり、二人組で手のトンネルをつくったりしてくぐらせる。
- ・浮く遊びでは、息を大きく吸って止めたり、顎を引いて頭を水の中につけたり、無駄な力を抜いて体を真っ直ぐにしたりすることを助言する。
- ・バブリングでは、手の平にすくった水を吹き飛ばしたり、水面に浮いたものを吐いた息で移動させたりするなど、顔をつけずに息をまとめて強く吐くことのできる遊びをする。

単元名	走・跳の運動遊び(走の運動遊び)かけっこ・リレー遊び	配当時間	6時間
単元の目標	(1) 走の運動遊びでは、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりすることができる。 (2) 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりしようとする。		

いろいろなかけっこ遊びをさせてから、リレー遊びを行う展開例

01100201_001

【準備等】 カラーコーン、旗、バトン（輪投げ用の輪、赤白玉などでもよい）、対戦表など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 かけっこやリレー遊びのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★かけっこやリレー遊びをして楽しもう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。 <p>○かけっこを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな動作で走る。 ・普通に走る、スキップで走る、大股で走る、小股で走る、後ろ向きに走るなど ・スタートを工夫して走る。 ・長座姿勢から、仰向けの姿勢から、伏臥姿勢から、腕立て伏せの姿勢から、スタンディングスタートからなど ・友達と組になって走る。 ・手をつないで走る、追い抜き走りをするなど <p>2～3 いろいろな場で、かけっこを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな場で、かけっこをする。 ・タッチ折り返し遊び。 ・固定施設にタッチして戻る。 ・決められた物にタッチして戻り、早く並ぶ競争をする ・ねことねずみ。 ・じゃんけん追いかけて。 ○反省し、まとめをする。 ・楽しかったこと、がんばったことなど <p>4～6 易しいルールでリレー遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かけっこをする。 ○リレー遊びの方法を知る。 ・バトンパスの仕方 ・対面でタッチ、追いかけてタッチ、バトンを使ってなど ・コース ・直線のコース、ワープコース、ジグザグのコース、うずまきコースなど ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○総当たり戦形式でリレーをする。 ○反省し、まとめをする。 ・課題、作戦、問題点など ○第6時は単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半はいろいろなかけっこ遊び、後半はリレー遊びをすることを知らせ、意欲を高める。 ・リレーをするときに走力が同じになるように4～6名程度でチームを編成する。 ・走の運動は様々な運動の基本となるので、まっすぐ力いっぱい走るだけでなく、様々な走形態を体験させる。 ・どちらの足で第1歩を踏み出すか理解できない児童が多いと思われる。第1歩を出しやすい、または力強くキックしやすい足があることに気付かせる。 ・始めは個人対個人で、順に2人組、3人組と人数を増やして競走する。 ・リレーのチームで整列したり、朝礼時に整列する列をチームとしたりして行う。 ・教師の方からコースやルールを示し、走ることが楽しくなるようないろいろなリレーを体験させる。 ・第1時～第3時で行ったかけっこで体ほぐしをする。 ・手タッチでもよい。バトンを使う場合はリングバトン（輪投げ用の輪）や赤白玉、新聞紙を棒にしたものなどを利用する。 ・直線の折り返しリレーをもとに、いろいろな走り方を取り入れて変化させる。 <p>【評】 チームの課題や作戦を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 リレー遊びを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】 楽しくかけっこやリレー遊びを行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームで作戦や協力の仕方などについて話し合わせる。

【備 考】

低学年の児童は、体育の授業で運動場に出ると、走り回ったり、友達と追いかけてをしたりして楽しんでいる。低学年の時期に「かけっこ」を好きにさせることが、これからの体育の授業を主体的に取り組ませる大切なポイントになると考えられる。また、走の運動は様々な運動の基本となる運動でもある。まっすぐ力いっぱい走るだけでなく、様々な姿勢からのスタートや走の形態を楽しみながら体験させることも大切である。

いろいろなかけっこ遊びをさせてから、リレー遊びを行う展開例は、前半は競走への興味・関心を高めていき、後半はチーム対抗の競走へと発展させる。

リレー遊びを中心に行う展開例は、各時間の始めに走の運動に関した体ほぐしの運動としてかけっこを楽しむ、その後リレー遊びを中心に活動する例である。いろいろなかけっこ遊びをさせてから、リレー遊びを行う展開例よりも進んだ段階で、チーム同士の話し合いによって、ルールやコースを工夫させて行う。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

- ・一定のリズム、速いリズムなど、いろいろなリズムで走ったり、レーン上に目印を置いて、分かりやすいレーンを設定したりする。

- ・リレー遊びでは、手で相手の背中にタッチしたり、迎えタッチにしたりするなど、タッチの仕方を変えたり、受渡しがいやすくなるように形状の異なるバトン（リング状のバトン等）を用いたりする。

単元名 表現リズム遊び1

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 跳ぶ、回る、ねじる、這う、素早く走るなどの全身の動きで、そのものになりきって即興的に踊ることができる。また、軽快なリズムの音楽に乗って弾んで踊ったり、友達と調子を合わせたりにして即興的に踊ることができる。
- (2) 身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとする

標準的な展開例

01100202_001

【準備等】学習カード、カセットCDプレーヤー、いろいろな動物が登場してきそうな曲、移動黒板など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 表現リズム遊びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★音楽に合わせて思いっきり踊ったり、好きな動物に変身して踊ったりしよう。 ○リズム遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・スキップや駆け足などで移動しながら、8拍目にタイミングを合わせて近くの人とタッチをする。(両手でハイタッチ→肩と肩→お尻とお尻) ・教師の動きをまねて踊る。 ・リーダーの動きをまねて踊る。 ・2人組やグループになってリーダーを交代して踊る。 ○自分の好きな動物を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ネコ・イヌ・ハムスター・ウサギ・ゴリラ・クジラ・ゾウ・ライオンなど ○表現遊びをする。 <p>3～6 軽快なリズムの曲に乗って踊ったり、動物に変身して踊ったりして楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでいっしょに踊る。 ・教師の動きをまねて踊る。 ・2人組になって踊る。 ・変化をつけて踊る。 ○表現遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマから思い浮かぶ動物を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 第3時のテーマ「ジャングルの動物たち」 第4時のテーマ「水の中の動物たち」 第5時のテーマ「空想の動物たち」 第6時のテーマ「動物のカーニバル」など ・2～3種類の動物をみんなで踊る。 ・2～3人組になり、お話を作って踊る。 ○発表をする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと ・友達のよい動きなど ○第6時は単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り付けを決めずに曲に合わせて自由に踊ったり、動物に変身して踊ったりすることを知らせ、意欲を高める。 ・児童にとって親しみのあるアニメの主題歌やヒット中の歌などから、軽快でのりのよい曲を1～2曲選ぶ。最後の曲は、表現遊びで使用する動物のイメージが湧きやすい曲をメドレーで流す。 ・友達同士で体を触れ合っかかわらせ、心と体をほぐす。 ・動物園へ行った経験などを思い出させ、好きな動物をできるだけたくさん発表させる。 ・発表された動物の名前を移動黒板に板書し、イメージを広げやすくする。 ・いろいろな動物が登場してきそうな曲に合わせて、板書された動物以外にも思いつく動物を次々に踊るよう助言する。 ・どうやって音楽に乗ったらよいか分からない児童には、教師や友達のまねをして動くよう助言する。 ・2人でまねをし合って踊らせる。 ・動きの速さを変えたり、急にストップしたり列になっていろいろな場所に動いたりして、変化をつけるよう助言する。 【評】リズムに乗って友達と仲よく踊る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・使用する曲からイメージされる動物をテーマにする。 ・発表された動物の名前を移動黒板に板書し、イメージを広げやすくする。 ・第6時は、第3時～第5時のテーマから踊りたい動物を選び、同じ動物を選んだ児童同士でグループを作って、お話作りをさせる。 【評】動物の動きを工夫した表現遊びを通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・練習してきたことを発表する。 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。 ・動物になりきって踊る、動きを工夫して踊るなど動きのよさについて、気付いたことを発表させる。

【備 考】

低学年の児童は、だれかに教えられなくても音楽が聞こえると、自然に踊り出す。これは子ども本来のもつ力でもある。しかし、いつからか心や体が固くなり、踊る楽しさを味わえなくなってしまう児童もいる。本展開例では、そんな児童の内に眠る本来の力を呼び覚まし、リズムに乗って気持ちよく踊ったり、変身対象になりきる楽しさを体験させたりする。そして、リズム遊びでは、自分の好きな動きで踊ったり、友達と体を触れ合わせて踊ったりしながら、全身で弾んで踊る楽しさを体験させる。表現遊びでは、動物の中から題材を選んで友達と簡単なお話を作って踊り、変身したいものになりきって踊る楽しさを体験させる。

また、1時間の前半でリズム遊びを、後半で表現遊びを位置付け、毎時間繰り返し学習するよう構成した。

<運動遊びが苦手な児童への配慮の例>

・ねじったり回ったり、跳んだり転がったりして全身の動きで特徴を捉えている友達の動きを見合い、真似することをよいこととする。

単元名	器械・器具を使つての運動遊び(マットを使った運動遊び)	配当時間	6時間
単元の目標	(1) いろいろな方向への転がり，手で支えての体の保持や回転をすることができる。 (2) マットを用いた簡単な遊び方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み，順番やきまりを守り，誰とでも仲よく運動をしたり，場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。		

お話マットの展開例

01100203_001

【準備等】マット，平均台，術の例を示した絵，学習カード，CDプレーヤーなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 お話マットの学習のねらいと内容を理解し，学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★お話に合わせて動きを工夫し，お話マットを楽しもう。 <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <p>○グループを編成し，役割を分担する。</p> <p>○2人1組でストレッチをする。</p> <p>○いろいろな動物歩きをする。</p> <p>○マットでできるいろいろな運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆりかご，前転がり，後ろ転がりなど <p>3～5 「動物歩き」をもとにしたお話マットをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2人1組でストレッチをする。 ○太鼓の音や音楽に合わせて歩いたり，走ったり，スキップをしたりしながら，動物歩きや易しい運動を行う。 ・うさぎさん，かえるの足打ち，ブリッジ，シャクトリムシ，壁逆立ちなど ○お話マットの練習をする。 第3時：モデル① 「くまさんが，ノッシノッシノッシ，石につまずき，ころんだよ。でも大丈夫，ハイポーズ。」 第4時：モデル② 「うさぎが，ピョンピョン，はねました。トンクルリンパッ，ハイポーズ。」 第5時：モデル③ 「くまさんが，やってきて，ころんだよ。川をとびこえハイポーズ。」 ○お話マットの動物歩きやポーズの部分をグループで話し合っ，お話マットをつくる。 ○グループで考えたお話マットの練習をする。 <p>6 お話マットの発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発表をする。 ○反省し，まとめをする。 ・できばえ，グループの協力など ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「くまさんが石につまずきころんだよ。でも大丈夫！ハイポーズ（3秒間静止）」などのお話に合わせて，動物歩きの技と前転がりなどの単技を組み合わせてマット遊びをすることを知らせ，意欲を高める。 ・動物歩きや単技を例示しておく。 ・4～6名程度で1グループを編成する。 ・オルゴール演奏のゆったりした曲などをBGMにするとよい。 ・「強かったら言ってね」「できるだけ力を抜いてね」などの言葉かけをさせながら，互いの体の状態に気付き合うように行わせる。 ・よい動きをしている児童を褒め，その動きを紹介する。 ・マット遊びの感覚づくりと体ほぐしの運動を兼ねて行う。 ・グループごとに行い，お互いに補助させたりアドバイスさせたりする。 ・始めと終わりの合図をきちんとするだけでマット運動の表現性が広がる。 ・マットの上に乗る，片手を上げて「始めます」，両手を上げて「終わります」の動作を大事にする。 【評】お話マットの練習を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・動きが思い付かない場合には学習カードから技を選ばせる。 【評】お話マットをつくって練習する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 【評】お話マットの発表を通して，「知識・技能」を評価する。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

マット遊びの面白さは，単なる技の習得にあるのではなく，回転したり，ジャンプしたり，バランス技を使つて静止したりというマット上の空間と体を使つてどう表現するかにある。また，低学年では，技自体を学習するというよりも，回転する運動感覚や逆さになる運動感覚に慣れることが重要である。

お話マットの展開例では，動物歩きの技と前転がりなどの単技を組み合わせたお話マットを行う。このお話の中では，技が一連の流れの中に位置し，スピードの変化や技の大小などを楽しむことができる。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

・体を丸めて揺れるゆりかごに取り組んだり，傾斜のある場で勢いよく転がるように取り組んだりして，転がるための体の動かし方が身に付くように練習の仕方や場を設定する。

・手や足を移動する場所や目線の先にマークを置くなどして，支持で移動できる体の動かし方が身に付くように教具や場を設定する。

単元名 走・跳の運動遊び(跳の運動遊び)幅跳び遊び

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 助走を付けて片足で踏み切り、前方や上方に跳んだり、片足や両足で連続して跳んだりすることができる。
- (2) 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

01100204_001

【準備等】輪、踏切板、ゴムひもなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 幅跳び遊びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 <p>★いろいろな跳び方をしたり、遠くに跳んだりして遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループ編成をする。 ○いろいろな跳び方をして楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・手たたき跳び ・足うち跳び ・向きかえ跳び ・ポーズ跳び ・輪跳び ・ケンパー跳び ・川跳びなど <p>3～4 幅跳び競争をして楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな跳び方をして遊ぶ。 ○砂場を使って、いろいろな跳び方を試す。 <ul style="list-style-type: none"> ・立ち幅跳び ・3段跳び ・立ち幅跳びの連続跳び ・走り幅跳びなど ○幅跳び競争をするためのルールを話し合う。 ○幅跳び競争をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の個人戦 ・グループ対抗戦 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループの協力、問題点など ○第4時は単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな跳び方をして遊んだり、どこまで遠くへ跳べるか競争したりすることを知らせる。 ・力の差が大きくならないように、クラスを偶数グループ（1グループ4～6人程度）に分ける。 ・膝を曲げたり、腕を前に振ったりして跳ぶとうまく跳べることに気付かせる。 ・輪跳び、ケンパー跳びなどはグループ対抗リレーにしても楽しめる。 ・輪の大きさや跳ぶ距離を変えて、変化をつけるとよい。 <p>【評】 いろいろな跳び方で楽しむ活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時～第2時で行った跳び方など取り入れ体ほぐしの運動を行う。 ・踏み切り板を踏み切り位置に置いてよい。 ・跳躍距離に合わせて得点化した（1～5点程度）数値を砂場横に示し、ゴムひもで砂場を仕切っておくと、跳ぶときの目標になる。 <p>【評】 いろいろな跳び方を行う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>＜ルールの例＞ 立ち幅跳びで跳ぶ 1人3回跳べる 得点の多い方が勝ちなど</p> <p>【評】 幅跳び遊びの競争を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくできたか、協力してできたかなど自己評価をさせる。

【 備 考 】

幅跳び遊びは、昔からどこでもあった子どもの遊びである。その場で地面に線を引いたり、印を付けたりするだけで遊びが始められる。体を動かしたり、跳んだりはねたりすることの大好きな低学年児童にとっては、親しみのある運動である。両足や片足でその場で跳んだり、助走をつけていろいろな跳び方をしたりしながら、踏み切って遠くに跳ぶために必要な運動の仕方を身に付けさせることが大切である。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

・3～5歩など、短い助走による幅跳びをしたり、「トン・トン・ト・ト・トン」など、一定のリズムの助走からの幅跳びを行ったりする場を設定するなどの配慮をする。

単元名	器械・器具を使つての運動遊び(跳び箱を使った運動遊び)	配当時間	5時間
単元の目標	(1) 跳び乗りや跳び下り、手をついてのまたぎ乗りやまたぎ下りをすることができる。 (2) 跳び箱を使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

01100205_001

【準備等】跳び箱、マット、踏み切り板、学習カード、動物を描いた画用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 ジャングル探検の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★グループでジャングル探検に出かけ、新しいジャングル遊びに挑戦しよう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 <p>○動物走りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンガルー（両足跳び） ・チーター（手足走り） ・アザラシ（アザラシ歩き） ・うさぎ（両手両足跳び）など <p>○ジャングルを回って試しの運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とびざるの岩（跳び乗り・跳び下り） ・ピラニアの沼（踏み越し跳び） ・ゾウの背中（支持でまたぎ乗り、またぎ下り） ・谷越え（平均台遊び） ・滝へジャンプ（助木から）など <p>3～5 ジャングル探検をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○動物走りリレー遊びをする。 ○ジャングル探検を楽しむ。 ・それぞれの場で教師や友達の動きをまねする。 ・グループで回りながら、場を利用してできる遊びを行う。 ○新しいジャングル遊びに挑戦する。 ・支持で跳び乗り→跳び下り→両足着地 ・踏み越し跳び→1／2ひねり→両足着地 ・横跳び越し ・開脚跳び越しなど ○発表をする。 ・新しいジャングル遊びを発表する。 ・発表されたジャングル遊びをする。 ○反省し、まとめる。 ・できばえ、課題、グループの協力など ○第5時は単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館をジャングルに見立て、猛獣や川や岩を跳び越えて探検することを知らせ、意欲を高める。 ・3～4人の少人数グループを編成し、器具の出し入れの分担をしておく。 ・前のめりの姿勢から跳び越す感覚を養えるような動物歩きをさせる。 ・児童のアイデアを取り入れながら、両足踏み切りや両手支えなどの動きを行わせる。 ・事前にピラニアやゾウなどを描いた画用紙を器具や箱にはって準備しておく。ジャングルの雰囲気が出る。 ・器具の近くにどんな運動に挑戦するか、図示しておく。と分かりやすい。 ・第1時～第2時に行った動物走りをグループ対抗で競走させる。 ・スタート地点やルートはグループで決めさせてもよい。 ・児童がよく知っている3分程度の曲を流し、曲が流れている間にジャングルを探検させる。 <p>【評】グループで仲よくジャングル探検をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の中から出てきたジャングル遊びや教師が紹介したジャングル遊びの中から、やってみたい遊びを行わせる。 <p>【評】新しいジャングル遊びに挑戦する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表された技の中からやってみたい技を選んで行わせる。 <p>【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できばえを話し合い、学習カードに自己評価させる。

【備 考】

跳び箱遊びでは、まず跳び乗ったり跳び下りたり、跳び越えたりすることの面白さを味わわせる。跳び箱上で楽しくいろいろな動きをする中で、助走→踏み切り→着手→着地といった一連の動きを身に付けさせながら、動きのリズムやタイミングを体で感じ取ることが、低学年では大切である。また、単元を通して準備運動の中で馬跳びやタイヤ跳びに取り組み、両手で支持してまたぎ越すことをさせていくことも大切であり、その一連の動きを中学年の技の追求へ発展させる。

<運動が苦手な児童への配慮の例>

- ・高さを低くしたり、跳び箱の手前に台を置いて跳び乗りやすくしたりして、手で支えたり、跳んだりする動きが身に付くように場を設定する。
- ・馬跳びやタイヤ跳びが苦手な児童には、床でうさぎ跳びやかえるの足打ち、かえるの逆立ちなどを行い、手で支えたり、跳んだりする動きが身に付くようにする。

単元名	ゲーム(ボールゲーム)ボール投げゲーム	配当時間	9時間
単元の目標	(1) 簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームをすることができる。 (2) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り、誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり場や用具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

01100206_001

【準備等】ドッジボール、対戦表 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 ドッジボールのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と仲よくドッジボールを楽しもう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを作る。 ○ボールを使って遊ぶ。 ・円になってパス、円の中に逃げる人を入れてパスなど ○転がしドッジボールのゲームの進め方を知る。 ○試しのゲームをする。 2 的当てゲームを知る。 ○ボールを使って遊ぶ。 ・転がす、捕る、避けるなど ○ゲームの進め方の確認をする。 ・ルール、マナー、対戦相手 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 ・課題、作戦、ルール、マナーなど 3～4 的当てゲームをする。 ○ボールを使って遊ぶ。 ・投げる、捕る、避けるなど ○的当てゲームの進め方について知る。 ○ゲームをする。 5 転がしドッジボールを知る。 ○ボールを使って遊ぶ。 ○ゲームの進め方の確認をする。 ・ルール、マナー、対戦相手 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 ・課題、作戦、ルール、マナーなど 6～9 転がしドッジボールをする。 ○転がしドッジボール大会を行う。 総当たり戦、トーナメント戦など ○単元のまとめをする。	・単元の前半は、転がしドッジボール、後半は中当てドッジボールをすることを知らせる。 ・男女混合4～6人で編成する。 ・チームごとに行わせる。 ・＜ルールの例＞ 外野2人、内野2～4人、転がして当てる 内野はボールを捕らないで逃げる 当てた数を得点とするなど ・チーム内で行わせる。 ・チームごとに行わせる。 ・ルールは、複雑にならないよう配慮する。 ・ゲームの結果から、各チームに助言する。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 ・チームごとに行わせる。 ・ゲームの結果から、各チームに助言する。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 【評】楽しく転がしドッジボールをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・グループでの話し合いや自己評価などをさせる。 ・試合方法は、学級の実態に応じて決める。他の学級と対戦して行うことも考えられる。 【評】ゲーム中の動きを通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】転がしドッジボールを通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

ドッジボールは、内野と外野に分かれ、ボールを転がしたり、投げて当てたり、捕らえたり、避けたりするゲームである。1年生の児童は、投力がまだしっかり身に付いていないため、ボールをぎゅっとにぎる(つかむ)感覚を身に付けさせたい。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・柔らかいボールを用いたり、空気を少し抜いたボールを用いたりする。
- ・柔らかいボールを用い、1対1でゴールを守る練習をしたりする。

単元名	体つくりの運動遊び(多様な動きをつくる運動遊び), ゲーム(鬼遊び)宝取り 配当時間 6時間
単元の目標	(1) 一定の区域で, 逃げる, 追いかける, 陣地を取り合うなどの簡単な規則の鬼遊びができたり, 工夫した区域や用具で鬼遊びをしたりすることができる。 (2) 体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに, 考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み, きまりを守り, 誰とでも仲よく運動をしたり, 場の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

01100207_001

【準備等】宝箱, 紅白の玉 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 体ほぐしの運動遊び, 鬼遊びのねらいと内容を理解し, 学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と一緒に楽しく運動をしよう。 ★友達と一緒に鬼遊びを楽しもう。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行う。 ・リズムに乗って, 心が弾むような動作で運動を行う。 ○宝取り鬼のマナーや安全な運動の仕方について知る。 ○宝取り鬼をする。 <p>2～6 体ほぐしの運動遊びや鬼遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○宝取り鬼の進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール, マナー, 対戦相手 ○チームの課題や作戦を立てる。 ○宝取り鬼をする。 ○反省し, まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題, 作戦など ○第6時は, 単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・＜宝取り鬼のルール例＞ 1 チーム5人程度で編成し, チーム対抗で行う。鬼は2～3名でタッチしたら観戦している同じチームの鬼と交替する。宝取りのチームは, 陣地から出発して宝島から宝を1個取って陣地に戻る。陣地を出ている時に, 鬼にタッチされたら陣地に戻ってから出発する。時間(4分)がきたら鬼と宝取りを交替し, 宝の多い方が勝ちとする。 ・宝取り鬼以外の鬼遊びをしてもよい。 ・いろいろな種類の運動を行う。 <p>【評】体ほぐしの運動遊びをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題や作戦を考えられないチームには, 話し合いに教師が加わって助言する。 <p>【評】作戦を立てる活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・＜工夫したルールの例＞ タッチでなく, たすきを取らせる。コート of 広さや宝の数を考える。 <p>【評】鬼遊びをする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったことなどを発表させ, 宝取り鬼のルールの再確認や工夫をさせ, 次時の宝取り鬼に生かす。 ・よい動きをした児童を紹介する。 ・チームでの話し合いや自己評価などをさせる

【備 考】

多様な動きをつくる運動遊びは, 体のバランスをとったり移動したりする動きや, 力試しをしたりする動きを意図的にはぐくむ運動遊びを通して, 体の基本的な動きを総合的に身に付けることをねらいとして行う運動である。また, 手軽な運動や律動的な運動を行い, 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって, 自分の体の状態に気付き, 体の調子を整えたり, 仲間と豊かに交流したりすることができることをねらいとして行われる運動である。

鬼遊びは, 低学年の児童にとって抵抗なく学習に取り組める遊びであり, 好む児童が多い遊びでもある。さらに, 遊びを通して「走る」「方向を変える」「身をかかわす」などの動きを知らず知らずのうちに身に付けられる運動である。本単元では, 陣取りを中心とする鬼遊びを行い, チームで作戦を立てて鬼遊びに取り組むことで, 個人で楽しむ鬼遊びから, 友達と多くのかかわりあいながら集団で楽しむ鬼遊びへと発展させる。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・表情を表す絵や感情を表すカードを示し, 自己の心や体の変化のイメージができるようにする。
- ・友達とハイタッチや拍手で喜びを共有するなど, 共に運動遊びをする楽しい雰囲気を実感することができるようにする。
- ・宝取り鬼では, 宝を置く場所や宝の数を増やしたり, 鬼の人数を一人から徐々に増やしたり, 宝を取りやすいように陣地の形を変えたりする。

単元名 体つくりの運動遊び(多様な動きをつくる運動遊び)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 体のバランスをとったり、体を移動したり、用具を操作したり、力試しをしたりすることができる。
- (2) 体を動かすと気持ちがいよいに気付き、友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動をしたりするなど、楽しく運動できる行い方を選ぶことができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

01100301_001

【準備等】短なわ、長なわ、輪、竹馬、カセットCDプレーヤー、軽快な曲、学習カードなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 かけ足やなわ・輪・竹馬のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★かけ足やなわ・輪・竹馬を使った運動をしよう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○2分間の集団走をする。 ○2分間のグループ走をする。 <p>○輪を使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰で回す、片手で回す、投げて捕る、転がすなど <p>2 かけ足をしたり、輪を使って遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動遊びをする。 ・リズムダンス、鬼遊びなど ○かけ足をする。 ・2分間の集団走、2分間のグループ走 ○輪を使って遊ぶ ・腰で回す、片手で回す、投げて捕る、転がすなど ・転がし競争、くぐり抜け競争など ○反省し、まとめをする。 ・楽しかったこと、がんばったことなど <p>3～5 かけ足をしたり、なわを使って遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○かけ足をする。 ・3分間の集団走、2分間のペア走 ○短なわを使って遊ぶ。 ・前跳び、けんけん跳び、グーパー跳びなど <p>○長なわを使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大波・小波、くぐり抜け、一人で跳ぶ、集団で跳ぶ <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、できたことなど <p>6～8 かけ足をしたり、竹馬を使って遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○かけ足をする。 ・3分間の個人走 ○竹馬を使って遊ぶ。 ・補助者付きで立つ、台や手すりを使って立つ ・1歩進む、歩数を増やして進む ○竹馬に乗って遊ぶ。 ・自由に遊ぶ、台の高さを変えるなど ○反省し、まとめをする。 ・楽しかったこと、できたことなど ○第8時は、単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の前半はかけ足、後半はなわ・輪・竹馬を行うことを知らせる。 ・ゆっくりしたペースで走らせる。 ・グループを決め、リーダーの後ろを走るようにさせる。 ・鉄棒の間や木の間などいろいろな場所を走るようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動として、ダンスをしたり、鬼遊びをしたりする。 ・第1時と同じグループで行う。 ・リーダーを交替する。 ・いろいろな遊び方を工夫して楽しませる。 ・2～4人グループで競争して楽しませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペアを決め、リーダーの後ろを走らせる。 ・リーダーを順に変えて行わせる。 ・自分に合った跳び方で回数に挑戦したり、新しい跳び方を覚えたりして楽しませる。 ・学習カードを使い、跳び方のコツや練習の仕方を示したり、目標をもたせたりする。 【評】工夫してなわとびをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・グループで協力して行わせる。 【評】協力してかけ足やなわとびを行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のペースでトラックを走らせる。 ・体をやや前方に倒し、出しやすい方の足から出させる。 ・竹馬に乗って鬼遊びをしたり、竹馬競争を行ったりしてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想の発表や自己評価などをさせる。

【備 考】

低学年の児童は、続けて長く走った経験が少ないので、始めは無理をさせずに、徐々に時間や距離を伸ばしていく。なわ、輪、竹馬などの用具を操作する運動遊びについては、低学年の児童にとってやや難しい面もあるが、興味をもって取り組める運動でもあるので、いろいろな技に挑戦させるようにする。また、低学年の児童の体力、興味の持続を考慮して、1時間にかけ足と用具を操作する運動の2種目を行うようにした。

<運動遊びが苦手な児童への配慮の例>

- ・継続できる速さを助言したり、音楽に合わせるようにしたり、友達とかけ声を合わせながら走ったりする。
- ・なわを跳んだり、くぐったりするには、跳び越す位置や動き方を示したり、かけ声によってタイミングを合わせたりする。

単元名	体づくりの運動遊び(体ほぐしの運動遊び), ゲーム(鬼遊び)しっぽ取り鬼	配当時間	3時間
単元の目標	(1) 一定の区域で逃げる, 追いかける, 陣地を取り合うなどの簡単な規則で鬼遊びをしたり, 工夫した区域や用具で鬼遊びをしたりすることができる。 (2) 簡単な規則を工夫したり, 攻め方を選んだりするとともに, 考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み, 規則を守り, 誰とでも仲よく運動をしたり, 勝敗を受け入れたり場や用具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

01100302_001

【準備等】赤白帽子, はちまき, 紙テープなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 体ほぐしの運動遊び, 鬼遊びのねらいと内容を理解し, 学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と一緒に楽しく運動しよう ★鬼遊びを楽しもう ○体ほぐしの運動遊びをする。 ・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行う。 ・リズムに乗って, 心が弾むような動作で運動を行う。 ・リラックスしながらペアでストレッチングを行う。 ・動作や人数などの条件を変えて, 歩いたり走ったりする運動を行う。 ・伝承遊びや集団による運動遊びを行う。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○しっぽとりをする。	・一定の区域内で, 「追いかける」「逃げる」を中心とした鬼遊びを楽しむことを知らせる ・＜しっぽとりのルール例＞ 腰にしっぽ(赤白帽子, はちまきなど)を付け, 取り合う。 しっぽとり以外の鬼遊びを行ってもよい。
2 体ほぐしの運動遊びを楽しんだり, 鬼遊びを楽しんだりする。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○手つなぎ鬼をする。 ○反省し, まとめをする。 ・ルール, マナーなど	・いろいろな種類の運動を行う。 【評】体ほぐしの運動遊びをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・ルールは適宜変更してもよい。
3 体ほぐしの運動遊びや鬼遊びを楽しむ。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○しっぽ取り鬼のルールを話し合う。 ○しっぽ取り鬼をする。 ○単元のまとめをする。	・いろいろな種類の運動を行う。 【評】ルールを話し合う活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 【評】鬼遊びをする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・感想の発表や自己評価などをさせる。

【備 考】

体ほぐしの運動遊びは, 手軽な運動や律動的な運動を行い, 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって, 自己の心と体の変化に気付いたり, みんなで関わり合いをすることをねらいとして行われる運動である。

鬼遊びは, 低学年の児童にとって抵抗なく学習に取り組める遊びであり, 好む児童が多い遊びでもある。さらに, 遊びを通して「走る」「方向を変える」「身をかわす」などの動きを知らず知らずのうちに身に付けられる運動である。本単元では, 児童一人一人が友達と協力しながら鬼遊びに熱中できるようなルールを工夫させる。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

・表情を表す絵や感情を表すカードを示し, 自己の心や体の変化のイメージができるようにするなどの配慮をする。

・友達とハイタッチや拍手で喜びを共有するなど, 共に運動遊びをする楽しい雰囲気を実感することができるようにする。

・短い時間で鬼を交代したり, 逃げる場所を制限したり, 逃げる場所を狭くしたりする。

・安全地帯を設けたり, 鬼の人数を一人から徐々に増やしたり, 鬼でない児童の人数を増やしたりする。

単元名 ゲーム(ボールゲーム)ボール蹴りゲーム

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 簡単なボール操作と簡単な攻めや守りの動きなどのボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 楽しくゲームをするために、簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り、誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

01100303_001

【準備等】 サッカーボール、ビーチボール、ソフトサッカーボール、ダンボール箱、カラーコーン、ハードル、対戦表など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ボール蹴りゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と仲よくボール蹴りゲームをしよう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○足を使ってボールで遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・足裏でボールタッチ、ドリブル、2人組で対人パスなど <p>2～5 足を使ってボール遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人で足を使ったボール遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・足裏でボールタッチ、ドリブル、リフティング、的当て(箱、カラーコーン)、的通し(ハードル)など ○2人以上で足を使ったボール遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組で対人パス ・ボールの取り合い ・守りをつけて的当てなど ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、できたことなど <p>6～9 簡単なルールで友達と仲よくシュートゲームを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チームをつくる。 ○足を使ったボール遊びをする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、作戦など <p>10 シュートゲーム大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーグ戦やトーナメント戦でシュートゲーム大会をする ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足でボールを操作し、ルールやマナーを守って、友達と仲よくゲームをすることを知らせる。 ・できるだけ人数分ボールを用意する。 ・蹴ったボールが顔に当たることがないように適当な間隔をとって行わせる。 ・サッカーボールの他にビーチボールやソフトサッカーボールなどいろいろなボールを用意する。 ・足のいろいろな部位を使って蹴らせる。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・第2時～第5時に行った遊びをチームで行わせる。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる <p><ルールの例> ボールが相手のゴールラインを越えたら1点</p> <p>ボールは足で止める ボールを止めた人がシュートする 1ゲーム4～6分など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題や作戦を考えられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、課題にそった動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 【評】シュートゲームを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】作戦を工夫してゲームをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・試合方法は、学級の実態に応じて決める。 【評】シュートゲーム大会を通して、「知識・技能」を評価する。 ・チームでの話し合いや自己評価などをさせる

【備 考】

ボールを蹴る運動を日常的に経験している児童は少ないため、ボールを蹴る運動に慣れさせることが大切である。また、集団対集団でルールを決めて行う活動の経験も少ないので、一人遊びを十分にさせて個々の欲求を満足させ、徐々に仲間と活動する時間を増やしていく。活動の中で、上手な蹴り方を教え合ったり作戦を工夫させたりする。

<運動遊びに意欲的でない児童への配慮の例>

- ・柔らかいボールを用意したり、大きなボールやゆっくりとした速さになるボールを用意したりする。
- ・行い方や課題を絵図で説明したり、活動内容を掲示したりする。
- ・勝敗を受け入れることが大切であることを話したり、安全地帯など場の設定を工夫したりする。

- ・対戦相手を変えたり，チーム編成を工夫したりする。

単元名 表現リズム遊び2

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 跳ぶ、回る、ねじる、這う、素早く走るなどの全身の動きで、そのものになりきって即興的に踊ることができる。また、軽快なリズムの音楽に乗って弾んで踊ったり、友達と調子を合わせたりにして即興的に踊ることができる。
- (2) 身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとする

標準的な展開例

01100304_001

【準備等】軽快な曲、CDプレーヤーなど

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 表現リズム遊びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 <p>★いろいろなものに変身して遊ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・スキップや駆け足などで移動しながら8拍目にタイミングを合わせて近くの人とタッチをする。(両手でハイタッチ→肩と肩→お尻とお尻) ・教師の動きをまねて踊る。 ・リーダーの動きをまねて踊る。 ・2人組やグループになってリーダーを交代して踊る。 ○仲間作りゲーム「がさがそがさがそ、なにがいた？」で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・T:「がさがそがさがそ、なにがいた？」 ・C:「がさがそがさがそ、なにがいた？」 ・T:「がさがそがさがそ、まだ見えない。」 ・C:「がさがそがさがそ、まだ見えない。」 ・T:「何かな、何かな……」 ・C:あちこちさがすように動く ・T:「見つけた！」 ・C:ピタッと止まる ・T:「イ、カ」 ・C:2人組を作ってすわる ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、友達のよい動きなど <p>2 「だるまさんがころんだ」で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びをする。 ○「だるまさんがころんだ」で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが「だるまさんがころん」と言う間に5歩以上は移動する。 ・「だ」でいろいろなポーズをとってストップする。 ・リーダーは面白いポーズをしてストップしている児童の名前を呼ぶ。 ・何回か繰り返したら、リーダーを交代する。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、友達のよい動きなど <p>3 「トントントン、何の音？」で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びをする。 ○「トントントン、何の音？」で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・あぶくたった にえたった にえたかどうだかたべてみよう……もうにえた ・とだなにしまって かぎかけて がちゃがちゃ おふろにはいって じゃぶじゃぶ ごしごし おふとんかけてもうねましょう ・T:「トントントン」 ・C:「何の音？」 ・T:「ヒューヒュー 風の音」 ・C:風になって動く ・T:「トントントン」 ・C:「何の音？」 ・T:「ドロドロドロ 化けの音」 ・C:教師につかまらないよう逃げる ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、友達のよい動きなど <p>4 鏡になって遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びをする。 ○鏡になって遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組になり、動きを出す人(リーダー)と鏡になってまねをする人に分かれて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り付けを決めずに曲に合わせて自由に踊ったり、いろいろなものに変身して踊ったりすることを知らせ、意欲を高める。 ・児童にとって親しみのあるアニメの主題歌やヒット中の歌などから軽快でのりのよい曲を1～2曲選ぶ。 ・友達同士、体を触れ合っかかわらせ、心と体をほぐす。 <ul style="list-style-type: none"> ・「がさがそがさがそ、なにがいた？」以外にも「猛獣狩りに行こうよ」ゲームなど模倣できるものが入っている仲間作りゲームに変えてもよい。 ・手拍子を入れたり、動作を入れたりして盛り上げる。 ・指示された言葉の数でグループを作って座らせる。次々と組む児童を替えて、いろいろな児童とかかわるようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・慣れてきたら止まるときのポーズを動物、おもちゃなど指定する。 ・始めは教師がリーダー役を行い、慣れてきたら児童に任せる。 ・止まるポーズを友達と工夫させたり、リーダーのかけ声のリズムに合わせて動作を工夫させたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌の部分にも動作を入れて盛り上げる。 ・「トントントン」「何の音？」の部分はいろいろな擬声語、擬態語を入れて繰り返す。一つの動きは10～15秒くらいで、どんどん切り替えていく。 ・「お化けの音」という言葉から鬼遊びになる教師につかまらずに体育館の壁に着いたらセーフなどのように、あらかじめルールを決めておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・歯を磨いているところやおふろで体を洗っているところなど、日常生活の場面の中から示して始めるとやりやすい。大げさに表現する

<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを交代したり，2人組を替えたりしながら行う。 ○反省し，まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと，友達のよい動きなど <p>5 新聞紙を使って遊んだり，新聞紙に変身したりして遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びをする。 ○新聞紙を使って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙を持って走る。 ・体に付けて走る。 ・投げ上げた新聞紙を体の一部（背中，腹など）で受け止める。など ○単元のまとめをする。 	<p>よう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活から空想の世界へと，どんどん広げさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞を持って走ったり，飛ばしたりするなどいろいろな使い方を見付けさせる。 <p>【評】友達と仲よく踊る活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想の発表や，自己評価などをさせる。
--	--

【 備 考 】

リズム遊びでは，自分の好きな動きで踊ったり，友達と体を触れ合わせて踊ったりしながら，全身で弾んで踊る楽しさを体験させる。表現遊びでは伝承遊びや仲間作りゲームなど，毎時間異なった遊びを取り入れ，いろいろなものに変身して遊ぶよう構成した。

また，1時間の前半ではリズム遊びを，後半では表現遊びを位置付け，毎時間繰り返し学習するよう構成した。本単元の例以外にも，短時間で行える表現遊びは数多くあるので，題材を変えるなど工夫して指導することができる。1時間ごとに扱う題材が変わるので，1時間を一つの小単位として行い，各学期の時間調整に充てることもできる。

<運動遊びが苦手な児童への配慮の例>

- ・友達や教師の動きの真似をしながら，リズムに合わせてスキップで弾んだり，かけ声や手拍子を入れたりして踊る。
- ・教師を含めた数人で手をつなぎ，簡単な動きで弾んだり，回ったり，移動したりして一緒に踊る。

単元名	体づくりの運動遊び(体ほぐしの運動遊び), ゲーム(鬼遊び)バナナ鬼	配当時間	3時間
単元の目標	(1) 手軽な運動遊びを行い, 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことを通して, 自己の心と体の変化に気付いたり, みんなで関わり合ったりすることができる。 (2) 体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに, 考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み, きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり, 場の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

02100101_001

【準備等】赤白帽子, はちまきなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 体ほぐしの運動遊び, 鬼遊びのねらいと内容を確認し, 学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と一緒に楽しく運動しよう。 ★ルールを工夫して, 鬼遊びを楽しもう。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 ・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行う。 ・リズムに乗って, 心が弾むような動作で運動を行う。 ・リラックスしながらペアでストレッチングを行う。 ・動作や人数などの条件を変えて, 歩いたり走ったりする運動を行う。 ・伝承遊びや集団による運動遊びを行う。 ○バナナ鬼のマナーや安全な運動の仕方について確認する ○バナナ鬼をする。	・いろいろな運動を楽しく行わせる。 ・一定の区域内で, 「追いかける」「逃げる」を中心とした鬼遊びを楽しむことを知らせる ・＜バナナ鬼のルール例＞ 鬼は逃げる人を追いかけてタッチする。逃げる人は鬼にタッチされたらその場で両腕を頭上に上げてバナナのポーズをとり, 立ち止まる。他の人にバナナの皮をむくように腕を1本ずつ降ろし, 2本の腕が降ろせたら, また鬼遊びに参加できる。 ・バナナ鬼以外の鬼遊びをしてもよい。
2 体ほぐしの運動遊びや, 鬼遊びを楽しむ。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○こおり鬼をする。 ○反省し, まとめをする。 ・ルール, マナーなど	・いろいろな種類の運動を行う。 【評】体ほぐしの運動遊びをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・ルールは適宜変更してもよい。
3 体ほぐしの運動遊びを楽しんだり, ルールを工夫して鬼遊びを楽しんだりする。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○こおり鬼のルールを話し合う。 ○こおり鬼をする。 ○単元のまとめをする。	・いろいろな種類の運動を行う。 ・＜工夫したルールの例＞ 鬼の数を増やす, 鬼を2人組にする, コートの形を変える, 助け方の方法を変えるなど 【評】ルールを話し合う活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・感想の発表や自己評価などをさせる。

【備 考】

体ほぐしの運動遊びは, 手軽な運動や律動的な運動を行い, 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって, 自分の体の状態に気付く, 体の調子を整えたり, 仲間と豊かに交流したりすることができることをねらいとして行われる運動である。

鬼遊びは, 低学年の児童にとって抵抗なく学習に取り組める遊びであり, 好む児童が多い遊びでもある。さらに, 遊びを通して「走る」「方向を変える」「身をかかわす」などの動きを知らず知らずのうちに身に付けられる運動である。本単元では, 児童一人一人が友達と協力しながら鬼遊びに熱中できるようなルールを工夫させる。その中で, 楽しく遊ぶことと, 遊ぶための工夫の仕方を学ぶことができるようにさせる。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

～体ほぐし～

・表情を表す絵や感情を表すカードを示し, 自己の心や体の変化のイメージができるようにする。
 ・友達とハイタッチや拍手で喜びを共有するなど, 共に運動遊びをする楽しい雰囲気を実感することができるようにする。

・短い時間で鬼を交代したり, 逃げる場所を制限したり, 逃げる場所を狭くしたりする。

～鬼遊び～

・安全地帯を設けたり, 鬼の人数を一人から徐々に増やしたり, 鬼でない児童の人数を増やしたりする。

単元名	体づくりの運動遊び(多様な動きをつくる運動), 器械・器具を使つての運動	配当時間	10 時間
単元の目標	(1) 体のバランスをとったり, 体を移動したり, 用具を操作したり, 力試しをしたりすることができる。また, 鉄棒を使った運動遊びでは, 支持しての揺れや上がり下り, ぶら下がりや易しい回転をすることができる。 (2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに, 考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み, 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり, 場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

02100102_001

【準備等】学習カード

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 多様な動きをつくる運動遊び, 固定施設や鉄棒を使った運動遊びの学習のねらいと内容を確認し, 学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と一緒に楽しく運動しよう。 ★おもしろい遊びを考え出したり, お話を作ったりして, 遊具遊びをしよう。 ○体のバランスをとる運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・足の裏を合わせて座り, 両手で足を持ち, 背中を床に接触しながら回り, 起きる。 ・友達と肩を組んだり背中を合わせたりして, 立ったり座ったりするなど。 ○体を移動する運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・両足や片足で跳び, 空中で向きを変えて足から着地する。 ・両足または片足で, リズムや方向を変えてはねる。など ○力試しの運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・腕立て伏せの姿勢から自分の体を支え, 手や足を支点として回る。など ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成する。 ○電車ごっこの約束を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・運転手は自分の好きな固定施設にお客を連れて行く。 ・運転手はお客がついてきているか確かめてから動く。 ・1 か所回ることにより運転手は交替する。 ・お客は運転手のやった動きや遊びをまねする。まねできないときはそれに近い動きをする。 ○電車ごっこをしながら固定施設を回り, 運転手の動きをまねしたり新しい遊びをつくり出したりして楽しむ。 <p>2～3 多様な動きをつくる運動遊びや電車ごっこをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体のバランスをとる運動遊びをする。 ○体を移動する運動遊びを行う。 ○力試しの運動遊びを行う。 ○電車ごっこをしながら固定施設を回り, 運転手の動きをまねしたり新しい遊びをつくり出したりして楽しむ。 ○発表をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの面白い遊びを発表する。 ・発表された遊びを行う。 <p>4～6 多様な動きをつくる運動遊びや先生のお話鉄棒をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体のバランスをとる運動遊びをする。 ○体を移動する運動遊びをする。 ○力試しの運動遊びをする。 ○先生のお話鉄棒をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル 1 ぶたの木登りよっこらしよ, 片手を離して, またつけて足を離して下りました, ハイポーズ。 ・モデル 2 	<ul style="list-style-type: none"> ・体のバランスをとる運動遊び, 体を移動する運動遊び, 力試しの運動遊びの 3 つの運動の中から, バランスよく行う。 ・きまりを守って, 友達と仲よく運動させる。 ・1 年時に行った活動を振り返りながら, 少しずつ大きく, 複雑な動きにつながっていくようにする。 ・危険物がないか, 友達とぶつからない十分な間隔があるかなどの場の安全に気を付けさせる。 ・友達のよい動きを見付けさせる。 ・固定施設や鉄棒を使った遊びの例を学習カードに示しておくといよい。 ・3～4 人の少人数グループにする。 ・学級の実態に応じて約束を決める。 ・前の児童の両肩や腰に手を置いて連結して動いたり, 連結しないで少し間をおいて連なったりしてもよい。 ・運転手になる順番を確認させ, 順番を守って行わせる。 ・初めは教師が先頭車両となり, 各固定施設を回りながら安全な使い方を確認する。運転手は, 今までに友達がやっていない遊びを考え出すよう助言する。 ・第 1 時と同様にいくつかの遊びを選択して行わせる。 ・発表された遊びの中から, やってみたい遊びを選んで行わせる。 【評】面白い遊びの発表を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・慣れてきたら, いろいろな遊びに挑戦させる ・お話鉄棒について説明し, 新しい技を練習して加え, 自分のお話鉄棒をつくり上げることを知らせる。 ・逆さや脱力などの感覚づくりができる技を教師が紹介し, その技を中心にして遊ばせる。

こうもりさん、両手を離してぶらぶら、逆立ちして下りました、ハイポーズ。

- 発表をする。
 - 反省し、まとめをする。
 - ・お話鉄棒のできばえ、グループでの協力
- 7～10 自分たちでつくったお話鉄棒をする。
- グループで話し合ってお話を作る。
 - お話鉄棒の練習をする。
 - 発表をする。
 - 反省し、まとめをする。
 - ・お話鉄棒のできばえ、がんばったことなど
 - 第10時は単元のまとめもする。

・始めと終わりの合図をきちんとするだけで鉄棒の表現性が広がる。片手を上げて「始めます」「終わります（ハイ、ポーズ）」の動作を大切にする。

【評】お話鉄棒をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・グループごとに発表させる。

・児童がつくった技を自由につなげてお話にして、鉄棒遊びを楽しむことを知らせる。

・最初はモデルのお話をもとに部分的に変えてつくらせていくとよい。

【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。

・グループでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

多様な動きをつくる運動遊びは、体のバランスをとったり移動したりする動きや、力試しをしたりする動きを意図的にはぐくむ運動遊びを通して、体の基本的な動きを総合的に身に付けることをねらいとして行う運動である。

低学年の児童は、自然に体が動き、自分で動きを作ったりまねをしたりすることが好きである。固定施設を使った運動遊びでは、逆さになる感覚・スイングして振る感覚・腕で体重を支える感覚・跳び下りて着地する感覚などを楽しみながら身に付けさせることができる。

本単元では、第1時～第6時の前半に体づくり運動を、後半に器械・器具を使つての運動遊びを行う。第7時～第10時は、器械・器具を使つての運動遊びのみを行う。

鉄棒遊びでは、鉄棒を軸として、揺れたり、回転したりするという独自の面白さがある。また、技を考えたり、技をつなげたりして、連続技をつくるという創造する面白さもある。教師がモデルとして示した「お話鉄棒」をもとにして、少しずつ鉄棒の「連続技」づくりに挑戦させる。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

～多様な動きをつくる運動～

- ・目印を置いて回ったり、軸になる足の位置に輪を置いたりするなど、回りやすくする場を設定する。
- ・跳ぶ方向が分かるよう矢印を置いたり、はねた際に手でタッチできるよう目印をぶら下げたりするなど、場や用具を準備する。
- ・ボールやフープなど用具の大きさ、柔らかさ、重さを変えて操作しやすくする。
- ・新聞紙を丸めた球や新聞紙で作った棒、スポンジのボールなど、恐怖心を感じにくい用具を用いたり、紙鉄砲を用いた遊びを取り入れたりする。
- ・力を入れたり緩めたりする行い方について助言したり、力を加減するタイミングをつかめるように声をかけたりする。
- ・体を支える動きは、肘を曲げずに手の平で地面や床を押したり、目線を地面や床と平行にしたりすることができるよう助言する。

～鉄棒運動～

- ・ジャングルジムを登るには、低い場所に音の鳴る教具を付けることで登ることへの興味を喚起したり、低い場所を横に移動したりして、高さに慣れるようにする。
- ・雲梯で体を揺らして移動するには、体を支えて移動できるように補助をしたり、少し斜めを向いた姿勢で片手ずつ動かして移動できるように助言したりして、懸垂の姿勢と体の揺れを使って移動できる動きが身に付くようにする。
- ・登り棒を登るには、棒にハチマキなどを巻いて節をつくり、足が滑らないようにする。

単元名	走・跳の運動遊び(走の運動遊び)かけっこ・リレー遊び	配当時間	6時間
単元の目標	(1) 距離や方向などを決めて走ったり、手でのタッチやバトンの受渡しをする折り返しリレー遊びをしたり、段ボールや輪などの低い障害物を用いてのリレー遊びをしたりすることができる。 (2) 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりしようとする。		

リレー遊びを中心に行う展開例

02100103_001

【準備等】 カラーコーン、旗、バトン（輪投げ用の輪、赤白玉などでもよい）、対戦表など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 かけっこやリレー遊びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★作戦を立ててリレーを楽しもう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。 <p>○かけっこを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな動作で走る。 普通走る、スキップで走る、大股で走る、小股で走る、後ろ向きに走るなど ・スタートを工夫して走る。 長座姿勢から、仰向けの姿勢から、伏臥姿勢から、腕立て伏せの姿勢から、スタンディングスタートからなど ・友達と組になって走る。 手をつないで走る、追い抜き走りをするなど <p>○リレー遊びをする。</p> <p>2～3 簡単なルールでリレー遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かけっこを楽しむ。 ○コースを知り、課題や作戦について話し合う。 <p>○練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リレー遊びをする。 ○反省し、まとめをする。 ・課題、作戦、問題点など <p>4～6 工夫したルールでリレー遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かけっこを楽しむ。 ○対戦する相手とコースやルールについて話し合う。 <p>○走る順番や作戦について話し合う。</p> <p>○練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1回目の競走をする。 <p>○反省し、練習をする。</p> <p>○練習や作戦を生かして、同じ相手と2回目の競走をする（活用）</p> <p>○反省し、まとめをする。 ・めあて、作戦、問題点など</p> <p>○第6時は単元のまとめもする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バトンパスや競走の仕方を工夫して学習することを知らせる。 ・力が均等な偶数チーム（1チーム4～6人程度）に分ける。 ・いろいろな姿勢からのスタートダッシュや追いかけて行う。 （いろいろなかけっこ遊びをさせてからリレー遊びを行う） ・教師が示したコースやルールでリレー遊びを行い、自分のチームの特徴をつかませる。 （いろいろなかけっこ遊びをさせてからリレー遊びを行う展開例第4時～第6時参照） ・体ほぐしの運動遊びとして行う。 ・第1時～第3時は、それぞれ異なったコースでのリレーを体験させる。 ・同じチームと2度競走することを伝える。 ・第1時～第3時で行ったリレー遊びの中から選ばせたり、それをもとに変えたりさせる。 ・勝つための作戦を立てさせ、それに合った練習をするように助言する。 <p>【評】 リレー遊びを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競走をして気付いたことや他のチームの工夫について話し合わせ、次のリレーに生かすよう助言する。 <p>【評】 作戦を立てて工夫してリレー遊びを行う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 仲よく協力してリレー遊びを行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームで作戦や協力の仕方などについて話し合わせる。

【備 考】

走の運動は様々な運動の基本となる運動でもある。まっすぐ力いっぱい走るだけでなく、様々な姿勢からのスタートや走の形態を楽しみながら体験させることも大切である。

いろいろなかけっこ遊びをさせてから、リレー遊びを行う展開例は、前半はいろいろなかけっこで競走への興味・関心を高めていき、後半はリレー遊びでチーム対抗の競走へと発展させる。

リレー遊びを中心に行う展開例は、各時間の始めに走運動に関した体ほぐしの運動遊びとしてかけっこを楽しみ、その後リレー遊びを中心に活動する例である。いろいろなかけっこ遊びをさせてから、リレー遊びを行う展開例よりも進んだ段階で、チーム同士の話し合いによって、ルールやコースを工夫させて行う。

<運動遊びが苦手な児童への配慮の例>

・一定のリズム、速いリズムなど、いろいろなリズムで走ったり、レーン上に目印を置いて、分かりやすい

レーンを設定したりする。

単元名 ゲーム(ボールゲーム)シュートゲーム

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 簡単なボール操作と簡単な攻めや守りの動きなどのボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

02100104_001

【準備等】 ドッジボール、段ボール箱、カラーコーン、ハードル、ミニゴール、対戦表など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 シュートゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★ルールを工夫してシュートゲームを楽しもう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○1人でボールを使って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・上に投げて捕る、ボールをつく(ドリブル)、的当て(箱、カラーコーン)、的通し(ハードル)、転がしたボールを追いかけて捕るなど ○2人以上でボールを使って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組で対人パス、ボールの取り合い、守りをつけて的当てなど <p>2～3 簡単なルールでシュートゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チームを作る。 ○1人でボールを使って遊ぶ。 ○2人以上でボールを使って遊ぶ。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦など <p>4～5 ルールを工夫してシュートゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボールを使って遊ぶ。 ○ルールについて話し合う。 <p>○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 </p> <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <p>○第1ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、課題、作戦など <p>6 シュートゲーム大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーグ戦やトーナメント戦でシュートゲーム大会をする <p>○単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを工夫して、友達と仲よくシュートゲームをすることを知らせる。 ・人数分ボールを用意する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・第1時に行った遊びを工夫して行わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなチームと対戦することを知らせる <p>＜ルールの例＞</p> <p>ゴールはミニゴールを使用する ボールはドッジボール、1ゲーム4～6分 シュートが入ったら1点、キーパーなしなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題や作戦を考えられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの結果から、各チームに助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ・＜工夫したルールの例＞ ゴールはサッカーゴール、相手チームはゴール前で守る、危険なことをしたら相手ボール 全員にパスをしてからシュートをするなど ・いろいろなチームと対戦することを知らせる <p>【評】友達と仲よくゲームをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの結果から、各チームに助言する。 <p>【評】工夫したルールでゲームをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合方法は、学級の実態に応じて決める。 <p>【評】シュートゲーム大会を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの話し合いや自己評価などをさせる

【備 考】

シュートゲームとは、手でボールを投げたり捕ったりして、相手ゴールにシュートし得点を競い合うボールゲームである。ボールを転がしたり投げたりする的当てゲームの発展としてのゲームであり、中学年のゴール型ゲームにつながっていく。本単元では、児童にルールを工夫させ、学び方の内容を深めていき、友達とのかかわりを大切にしながら運動の楽しさを味わえるようにする。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮＞

- ・柔らかいボールを用いたり、空気を少し抜いた速さののでにくいボールを用いたりする。
- ・柔らかいボールを用い、1対1でゴールを守る練習をする。

単元名 水遊び

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) まねっこ遊びやリレー遊びなどで、いろいろな姿勢で歩いたり、自由に方向や速さを変えて走ったりすることができる。また、石拾いや伏し浮きなどで、息を止めたり吐いたりしながら、いろいろな姿勢でもぐったり浮いたりすることができる。
- (2) 水の中を移動したり、もぐったり浮いたりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

02100105_001

【準備等】 ビート板、フラフープ、ロープ、基石、切ったホースなど

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 水遊びのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★水に浮いたりもぐったりしながら、水遊びを楽しもう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○水慣れをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・まねっこ遊び、じゃんけん遊び、水かけっこ、鬼遊び電車ごっこなど <p>2 水に慣れ親しむ水遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まねっこ遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・えさをとるあひるさん、水浴びするぞうさん、あわをふくかにさんなど ○じゃんけん遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・負けたら水に顔をつける、勝ったらもぐる、水中じゃんけんなど ○電車ごっこをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○水かけっこ遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組で、グループで、全員で ○鬼遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・こおり鬼、子とり鬼、手つなぎ鬼など ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、できるようになったことなど <p>3～5 水に慣れ親しむ水遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水にもぐって遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ロープくぐり、トンネルくぐり、宝探しごっこなど ○水に浮いて遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・くらげ浮き、だるま浮き、つかまり伏し浮き、伏し浮き、けのび、ばた足など ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、できるようになったことなど <p>6～8 水にもぐったり浮いたりする水遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タクシーごっこをする。 <ul style="list-style-type: none"> ○宝探しごっこをする。 <p>9～10 水中ゲーム大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水中ゲーム大会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ビート板リレー、宝探しなど ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けて水遊びを楽しむことを確認する。 ・プールのきまりをしっかりと確認し指導する。 ・1年生で学習したことを、想起させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の様子から児童の実態を把握し、以下に示す遊びから選択して行う。 ・まねっこ遊びを通して、「歩く・走る」「顔をつける」「息を吐く」などの動きを身に付けさせる。 ・じゃんけん遊びを通して、「顔をつける」「目を開ける」などの動きを身に付けさせる。 ・5～6人グループで行わせる。 ・先頭が運転手、最後尾が車掌となり車掌に指示を出させる。 ・ビート板を置いて、障害物にしたり、フラフープを置いて水中トンネルにしたりする。 ・電車ごっこを通して、「歩く・走る」「水に顔をつける」「目を開ける」「息を吐く」などの動きを身に付けさせる。 ・顔に水がかかっても抵抗なく遊べるようにさせる。 ・鬼遊びを通して、「歩く・走る」などの動きを身に付けさせる。 【評】きまりを守って楽しく水遊びをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・宝探しごっこでは、基石など水に沈むものを置き、もぐって探させる。 ・浮いた後、どうやって元の状態に戻ればよいかわかる不安になる児童がいるので、事前に立ち方の指導をする。（あわてずに、水を手でかきながら最初にかかとをつけて立つ。） ・2人1組で行い、タクシー役の児童は手のひらにもう1人（お客さん）の手を乗せ、決めた場所まで運ぶようにする。お客さん役の児童は、体の力を抜き、浮いた状態を体験させ、慣れたら手を離させる。顔をあお向けにした状態で下から手で体を支えて運ばせる。 ・基石など沈むものを置き、もぐって探させる ・宝探しごっこを通して、「水に顔をつける」「目を開ける」「息を吐く」「浮く」などの動きを身に付けさせる。 ・できるようになったことを生かしながらかえた遊びやゲームで楽しませる。 【評】水中ゲーム大会を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

※学校の実態に応じて時間数を柔軟に変更してもよいこととする。

水遊びは、2年生の児童にとって、とても楽しみにしている運動の一つであるが、中には水に恐怖心を抱いている児童もいる。展開例では、単元の前半で1年生で行った水に親しむ運動を行い、水に慣れさせる。そして、後半で水にもぐったり浮いたりする運動を行い、中学年の浮く・泳ぐ運動へと発展させる。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

- ・より浅い場所で歩いたり、しゃがんだ姿勢でゆっくりと移動したりするなど、段階的な遊び方を工夫する。
- ・また、友達の後ろに続いて移動したり、手で水を力強くかいたりすることを助言する。
- ・少しずつ顔に水がかかるようにシャワーを浴びたり、顎→口→鼻→目へと徐々に水につける部分を増やしたりする。
- ・もぐる遊びでは、輪の深さや数を変えたり、二人組でつくった手のトンネルをくぐったりする。
- ・浮く遊びでは、息を大きく吸って止めたり、顎を引いて頭を水の中につけたり、無駄な力を抜いて体を真っ直ぐにしたりすることを助言する。
- ・バブリングでは、手の平にすくった水を吹き飛ばしたり、水面に浮いたものを吐いた息で移動させたりするなど、顔をつけずに息をまとめて強く吐くことのできる遊びをする。
- ・ボビングでは、友達と手をつないで一緒にボビングをするなどの場を設定したり、「プクプクプク（弱く吐く）、ブハ！（水面を出たら大きく強くまとめて吐く）、スー（すぐに吸う）」などの呼吸のリズムのイメージができる言葉を助言したりする。

単元名	走・跳の運動遊び(走の運動遊び)障害物リレー遊び	配当時間	6時間
単元の目標	(1) 距離や方向などを決めて走ったり、手でのタッチやバトンの受渡しをする折り返しリレー遊びをしたり、段ボールや輪などの低い障害物を用いてのリレー遊びをしたりすることができる。 (2) 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

02100201_001

【準備等】 コースに置く障害物（棒、輪、段ボールの箱、ミニハードルなど）、対戦表、バトン（低学年用のバトンや輪投げ用の輪などを利用する）、カラーコーンなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 障害物リレー遊びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方についての見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★跳び越す物を選んで競走して楽しもう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。 <p>○いろいろな場でかけっこを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな動作で走る。 普通に走る、スキップで走る、大股で走る、小股で走る 後ろ向きに走るなど ・友達と組になって走る。 手をつないで走る、追い抜き走りをするなど ・鬼遊びをする。 ・障害物を越えて走る。 棒、輪、段ボールの箱、 段ボールの箱を斜め半分に切ったもの、ミニハードルなど <p>3～4 チーム内で競走して楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな場でかけっこを楽しむ。 ○障害物を置いたコースで試走する。 ○1人対1人で競走して楽しむ。 ○チーム内で2チームに分かれ、障害物リレー遊びをして楽しむ。 ○反省し、まとめをする。 ・がんばったこと、問題点など <p>5～6 チーム対抗障害物リレー遊びをして楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな場でかけっこを楽しむ。 ○コースについて話し合う。 ○チームで課題や作戦を立て、障害物リレーの練習をする ○チーム対抗障害物リレーをする。 ○反省し、まとめをする。 ・課題、作戦、問題点など ○第6時は単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・棒や輪、段ボールの箱などを速く跳び越えてリレーすることを知らせ、意欲を高める。 ・力が均等な偶数チーム（1チーム5～6人程度）に分ける。 ・単に運動場に線を引き、距離を決めて走るのではなく、教師とともに走り方を変えながら運動場を走ったり、指示された走り方で運動場にある固定施設にタッチしてもどってきたりするなど楽しく行わせる。 ・余裕があれば、図工の時間等を利用して、跳び越したい物を作ったり、段ボールの箱に絵を描いたりして障害物を事前に準備しておく、さらに意欲が高められる。 ・第1時～第2時で行ったかけっこなどを取り入れ、体ほぐしの運動遊びを行う。 ・同じ障害物のコースを隣り合わせて2コース作る。 ・チーム内で対戦相手を変えながら、いろいろなコースに挑戦させる。 ・チーム内の組分けも変えながらいろいろなコースに挑戦させる。 【評】 障害物リレー遊びを通して、「知識・技能」を評価する。 ・第4時までに行ってきた障害物の中から障害物の種類と数を選ばせる。 ・活動中に困ったことが起きたら、自分達で話し合って、解決していくよう助言する。 【評】 作戦を工夫して障害物リレーを行う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する 【評】 きまりを守り仲よくチーム対抗障害物リレーを行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・チームで作戦や協力の仕方などについて話し合わせる。

【 備 考 】

障害物リレー遊びで要求される走りながらの片足踏み切りからの片足着地は、いろいろな運動の基礎となる動きであり、他の運動を楽しむためにも重要な動きである。しかし、低学年の児童は走りながら障害物を越えるとき、障害物の前に来ると立ち止まったり、スピードを緩めたりしがちである。そこで、本単元では、棒や輪、段ボールの箱などの障害物を用いて、リレーを行いながら楽しく跳び越す活動を取り入れた。1対1の競走から始まり、2～3人組、チームでの競争へと発展させる。そして、競走の場を選んだり、走る順番を工夫させたりする活動につなげる。

<運動遊びが苦手な児童への配慮の例>

- ・一定のリズム、速いリズムなど、いろいろなリズムで走ったり、レーン上に目印を置いて、分かりやすいレーンを設定したりする。
- ・障害物を置く間隔や高さを変える。

単元名 表現リズム遊び1

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 身近な題材の特徴を捉えて、跳ぶ、回る、ねじる、這う、素早く走るなどの全身の動きで、そのものになりきって即興的に踊ることができる。また、軽快なリズムの音楽に乗って弾んで踊ったり、友達と調子を合わせたりして即興的に踊ることができる。
- (2) 身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとする

標準的な展開例

02100202_001

【準備等】軽快な曲、遊園地に関連した曲：「エレクトリカルパレード」「ミッキーマウスレビュー」など
CDプレーヤー、移動黒板、イメージバスケット用模造紙、乗り物の絵、プレゼントカード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 表現リズム遊びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★音楽に合わせて思いっきり踊ったり、好きな遊園地の乗り物に変身して踊ったりしよう。 ○リズム遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・スキップや駆け足などで移動しながら、8拍目にタイミングを合わせて近くの人とタッチをする。（両手でハイタッチ→肩と肩→お尻とお尻） ・教師の動きをまねて踊る。 ・リーダーの動きをまねて踊る。 ・2人組やグループになってリーダーを交替して踊る。 ○自分の好きな遊園地の乗り物を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジェットコースター・ゴーカー・飛行機・船 ・コーヒークップ・メリーゴーランド・お化け屋敷など ○表現遊びをする。 <p>3～6 軽快なリズムの曲に乗って踊ったり、遊園地の乗り物に変身して踊ったりして、楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでいっしょに踊る。 ・教師の動きをまねて踊る。 ・2人組になって踊る。 ・変化をつけて踊る。 ○発表をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・一番気に入った乗り物に変身する。 ・場所別に分かれ、それぞれが順番に踊る。 ・最後は全員がそれぞれの乗り物になりきって踊る。 ○友達のよいところをプレゼントカードに書き、カードを交換し合う。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、友達のよい動きなど ○第6時は単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り付けを決めずに曲に合わせて自由に踊ったり、遊園地の乗り物に変身して踊ったりすることを知らせ、意欲を高める。 ・児童にとって親しみのあるアニメの主題歌やヒット中の歌などから軽快でのりのよい曲を1～2曲選ぶ。表現遊びで使用する遊園地のイメージが湧きやすい曲をメドレーで流すのもよい。 ・友達同士体を触れ合っかかわらせ、心と体をほぐす。 ・遊園地へ行った経験などを思い出させ、好きな乗り物をできるだけたくさん発表させる。 ・発表された物を模造紙に記入しクラスのイメージバスケットとして毎時間使用する。 ・遊園地のイメージが湧きやすい曲に合わせて思い付く乗り物を教師と一緒に次々とまねして踊るよう助言する。 ・どうやって音楽に乗ったらよいか分からない児童には、教師や友達のまねをして動くよう助言する。 ・2人でまねをし合っ踊らせる。 ・動きの速さを変えたり、急にストップしたり列になっているいろいろな場所に動いたりして変化をつけるよう助言する。 【評】リズムに乗って友達と仲よく踊る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・イメージバスケットに出てきた乗り物の絵を図工の時間などを利用して事前に準備する。 ・体育館のあちこちに乗り物の絵を掲示して乗り物の種類別の場所を作る。 ・＜場所の例＞ 上下する乗り物、スピードの速い乗り物など ・場所はどんどん移動してよい。 ・毎時間の最後にリズム遊びと表現遊びのまとめとして発表の場を設ける。 ・出番を待っているときは友達のよい動きを見つめるよう助言する。 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。 ・友達とプレゼントカードを交換し合うことで次時への意欲付けを図る。 【評】乗り物になりきって工夫を加えて踊る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・感想を話し合ったり、自己評価などをさせたりする。

【 備 考 】

リズム遊びでは、自分の好きな動きで踊ったり、友達と体を触れ合わせて踊ったりしながら、全身で弾んで踊る楽しさを体験させる。表現遊びでは好きな題材を選び、変身したいものになりきって踊る楽しさを体験させる。1時間の前半ではリズム遊びを、後半では表現遊びを位置付け、毎時間繰り返し行えるよう構成した。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

- ・ねじる、回る、跳ぶ、転がるなど全身の動きで特徴を捉えている友達の動きを真似してよいこととする。
- ・単元の導入でその題材に関連する絵本や図鑑などを提示し、題材についての興味や関心を高める。

単元名	器械・器具を使つての運動遊び(マットを使った運動遊び)	配当時間	6時間
単元の目標	(1) マットに背中や腹などをつけて、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすることができる。 (2) マットを用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。		

忍者ごっこを行う展開例

02100203_001

【準備等】 マット、CDプレーヤー、ストレッチ用の静かな曲、学習カードなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～2 忍者ごっこのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 ★忍者になって自分の忍法を作ろう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○太鼓の音や音楽に合わせて忍者のように歩いたり走ったり、術を使っているいろいろな動物や物に化けてまねをしたりする。 ・かえるの足うち、シャクトリムシ、壁逆立ち、ブリッジなど ○忍者修行の場を回って、修行する。	・体育館を忍者修行の場にして、修行しながら新しい術を身に付けることを知らせ、意欲を高める。 ・3～4人の少人数でグループを作る。 ・「忍者のように音を立てないで走るよ」「術を使ってカエルに変身」など声かけをしながら、忍者修行の雰囲気高める。 ・修行の場に術の例を示しておくイメージが湧きやすい。 ・忍者ごっこの体ほぐしの運動遊びとして行う
3～5 忍者ごっこをして楽しむ。 ○太鼓の音や音楽に合わせて忍者のように歩いたり走ったり、術を使っているいろいろな動物や物に化けてまねをしたりする。 ○できる術を繰り返したり、組み合わせたりして楽しむ。 ・転がる術 マットで横転がり、前転がりなど ・渡る術 平均台の上で横歩き、後ろ歩きなど ○修行をする場に応じて新しい術を工夫したり、できそうな術に挑戦したりして楽しむ。 ・転がる術 坂道、山道、一本道などで前転がり、横転がり、後ろ転がりなど ・渡る術 うつぶせ、ぶら下がりなど	・BGMが流れている間は活動させ、BGMが終了したときに集合する位置を事前に指示しておく。 ・マットには斜度をつけずに、平らな状態で行わせる。 ・平均台の下にはマットを敷く。 【評】グループで仲よく修行する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する
6 忍者ごっこの術の発表会をする。 ○術の発表をする。 ・新しく作り出した術を発表する。 ・発表された術をまねする。 ○反省し、まとめをする。 ・できばえ、グループでの協力など ○単元のまとめをする。	・話し合っただけで難度が少し高い修行の場作りをする。 ・場の条件を回が進むごとに变えて、難度を高くし、挑戦意欲を高めさせる。 ・平均台をし字に組み合わせたり、2本並行に並べたりして、新しい渡り方を工夫させる。 【評】新しい術を工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・発表された術の中から、まねしたい術を選んで行わせる。 【評】術の発表を通して、「知識・技能」を評価する。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

マットを使った運動遊びの面白さは、単なる技の習得にあるのではなく、回転したり、ジャンプしたり、バランス技を使って静止したりというマット上の空間を体を使ってどう表現するかにある。また、低学年では、技自体を学習するというよりも、回転する運動感覚や逆さになる運動感覚に慣れることが重要である。

お話マットの展開例では、動物歩きの技と前転がりなどの単技を組み合わせたお話マットを行う。このお話の中では、技が一連の流れの中に位置し、スピードの変化や技の大小などを楽しむことができる。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞
 ・体を丸めて揺れるゆりかごに取り組みだり、傾斜のある場で勢いよく転がるように取り組みだりして、転がるための体の動かし方が身に付くように練習の仕方や場を設定する。
 ・手や足を移動する場所や目線の先にマークを置くなどして、支持で移動できる体の動かし方が身に付くように教具や場を設定する。

単元名 走・跳の運動遊び(跳の運動遊び)ゴム跳び遊び

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 助走を付けて片足で踏み切り、前方や上方に跳んだり、片足や両足で連続して跳んだりすることができる。
- (2) 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

02100204_001

【準備等】 ゴムひも、支柱（40 cmから5 cmごとにテープで印を付けておく）、跳び箱（または舞台などの高い台を利用する）、セーフティマット、マット、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 ゴム跳び遊びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 <p>★いろいろな跳び方をしたり、高く跳んだりして遊ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成する。 <p>○いろいろな跳び方をして楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手たたき跳び ・足うち跳び ・向きかえ跳び ・ポーズ跳び ・ケンケン跳び ・動物鬼遊び ・動物走りリレー ・跳び箱または舞台などの高い台から跳び、いろいろなポーズをとって着地するなど <p>3～4 跳ぶ回数や高さを競争して楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな跳び方をして楽しむ。 <p>○跳ぶ回数や高さを競争して楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴムひも8の字跳び ・ゴム跳びなど <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの協力、作戦など <p>○第4時は単元のまとめもする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな跳び方をしたり、跳ぶ回数や高さを競争したりすることを知らせ、学習意欲を高める。 ・1グループ6～8人程度の偶数グループに分ける。 ・動物鬼遊びや動物走りリレーの中には、カンガルー（両足跳び）やフラミンゴ（片足跳び）などの動きを入れる。 ・高い台の上からの跳び下りには、セーフティマットを用い、必ず足から着地できる跳び方をするよう指導する。また、手を振り上げて跳んだり、膝を曲げて着地したりするとよいことに気付かせる。 <p>【評】 いろいろな跳び方で楽しむ活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時～第2時で行った跳び方など取り入れ体ほぐしの運動を行う。 ・グループ対抗で行う。 ・ゴムひも8の字跳びを1分間行い、跳んだ回数の合計を競う。 ・ゴムひも8の字跳びをする前に、どうすればスムーズに流れるか考えさせて、練習させる ・学級の実態に合わせて、跳んだ高さを得点化し、グループの合計点数で競争する。 ・40 cmぐらいからスタートし、5 cmずつ高さを上げる。 <p>【評】 回数や高さに挑戦する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 競争して楽しむ活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

低学年の児童にとって高跳びは、生活の中で経験することが少ない運動である。脚力が未発達の小学年の児童にとっては、40 cm前後の高さを跳ぶのが精一杯で、走り高跳びの楽しみの一つ「空中にふわっと浮いた感じ」を味わうことは難しい。また、高跳びはほんの数秒という短い運動なので、場や用具の工夫をしなければ運動量が確保しにくい。

そこで本単元では、片足や両足跳びの感覚を育てる遊びを多く取り入れ、楽しみながら運動の仕方を身に付けさせる。また、跳び箱や舞台の上から跳び上がって着地することによって滞空時間を生み出し、走り高跳びの空中感覚を体験させる。そして、8の字跳びのように何度も繰り返すことによって運動量を増やしながら、片足踏み切りに近い動きを身に付けさせる。また、ゴム跳びで、高跳び本来のもつ高さへの挑戦という楽しみも体験させる。

<運動遊びが苦手な児童への配慮の例>

- ・ケンパー跳び遊びでは、「グー」と「パー」が分かりやすい目印をレーン上に設定し、足を置く順番やリズムが分かるようにする。
- ・ゴム跳び遊びでは、高さを変えたり、跳ぶ時のリズムを決めたりする。

単元名	器械・器具を使つての運動遊び(跳び箱を使った運動遊び)	配当時間	5 時間
単元の目標	(1) 跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ折りをすることができる。 (2) 跳び箱を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

02100205_001

【準備等】跳び箱、マット、平均台、踏み切り板、学習カード、動物を描いた画用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 ジャングル探検の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★グループでジャングル探検に出かけ、新しいジャングル遊びに挑戦しよう ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 <p>○動物走りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンガルー（両足跳び） ・チーター（手足走り） ・アザラシ（アザラシ歩き） ・うさぎ（両手両足跳び）など <p>○ジャングルを回って試しの運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とびざるの岩（跳び乗り・跳び下り） ・ピラニアの沼（踏み越し跳び） ・ゾウの背中（支持でまたぎ乗り、またぎ下り） ・谷越え（平均台遊び） ・滝へジャンプ（肋木から）など <p>3～5 ジャングル探検をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○動物走りリレー遊びをする。 ○ジャングル探検を楽しむ。 ・それぞれの場で教師や友達の動きをまねする。 ・グループで回りながら、場を利用してできる遊びを行う。 <p>○新しいジャングル遊びに挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支持で跳び乗り→跳び下り→両足着地 ・踏み越し跳び→1 / 2 ひねり→両足着地 ・横跳び越し ・開脚跳び越しなど <p>○発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいジャングル遊びを発表する。 ・発表されたジャングル遊びをする。 <p>○反省し、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、課題、グループの協力など <p>○第5時は単元のまとめもする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館をジャングルに見立て、猛獣や川や岩を跳び越えて探検することを知らせ、意欲を高める。 ・3～4人の少人数グループを編成し、器具の出し入れの分担をしておく。 ・前のめりの姿勢から跳び越す感覚を養えるような動物歩きをさせる。 ・児童のアイデアを取り入れながら、両足踏み切りや両手支えなどの動きを行わせる。 ・事前にピラニアやゾウなどを描いた画用紙を器具や箱に貼って準備しておくでジャングルの雰囲気が出る。 ・器具の近くにどんな運動に挑戦するか、図示しておくで分かりやすい。 <p>・第1～2時に行った動物走りをグループ対抗で競走させる。</p> <p>・スタート地点やルートはグループで決めさせてもよい。</p> <p>・児童がよく知っている3分程度の曲を流し、曲が流れている間にジャングルを探検させる</p> <p>【評】グループで仲よくジャングル探検をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・活動の中から出てきたジャングル遊びや教師が紹介したジャングル遊びの中から、やってみたい遊びを行わせる。</p> <p>【評】新しいジャングル遊びに挑戦する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・発表された技の中からやってみたい技を選んで行わせる。</p> <p>【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・できばえを話し合い、学習カードに自己評価させる。</p>

【備 考】

跳び箱を使った運動遊びでは、まず跳び乗ったり跳び下りたり、跳び越えたりすることの面白さを味わわせる。跳び箱上で楽しくいろいろな動きをする中で、助走→踏み切り→着手→着地といった一連の動きを身に付けさせながら、動きのリズムやタイミングを体で感じ取ることが、低学年では大切である。また、単元を通して準備運動の中で馬跳びやタイヤ跳びに取り組み、両手で支持してまたぎ越すことをさせていくことも大切であり、その一連の動きを中学年の技の追求へ発展させる。

<運動が苦手な児童への配慮の例>

- ・高さを低くしたり、跳び箱の手前に台を置いて跳び乗りやすくしたりして、手で支えたり、跳んだりする動きが身に付くように場を設定する。
- ・馬跳びやタイヤ跳びが苦手な児童には、床でうさぎ跳びやかえるの足打ち、かえるの逆立ちなどを行い、手で支えたり、跳んだりする動きが身に付くようにする。

単元名 ゲーム(ボールゲーム)ボール投げゲーム

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 簡単なボール操作と簡単な攻めや守りの動きなどのボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

02100206_001

【準備等】 ドッジボール、対戦表 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ドッジボールのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★ルールを工夫してドッジボールを楽しもう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを作る。 ○ボールを使って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・円になってパス、円の中に逃げたり捕ったりする人を入れてパスなど ○試しのゲームをする。 <p>2～4 簡単なルールでドッジボールを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボールを使って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチボール、2対1の当てっこなど ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナーなど <p>5～7 ルールを工夫してドッジボールを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボールを使って遊ぶ。 ○ルールについて話し合う。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナーなど <p>8～9 ドッジボール大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーグ戦やトーナメント戦でドッジボール大会をする。 ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面ドッジボールを行うことを知らせる。 ・男女混合6～8人で編成する。 ・チームごとに行わせる。 ・ボールを投げるときは、投げる手と反対の足を踏み出すことを意識させる。 ・＜ルールの例＞ 外野2人、内野4～6人、1ゲーム5分。 内野は当たったらアウトになり外野に出る。 外野が相手の内野を当てたら内野に入る。 内野の人数の多い方を勝ちとするなど。 ・捕ったらすぐに投げることを意識させる。 ・ルールは、複雑にならないよう配慮する。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる ・課題を立てることが難しいチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、各チームに助言する。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 ・＜工夫したルールの例＞ 1ゲーム10分、外野は横投げしてもよいパスをしてもよい、ボールを2つ使うなど ・同じチームと2ゲーム行うことを知らせる。 ・課題を立てることが難しいチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 【評】 チームの話し合いを通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ゲームの結果から、各チームに助言する。 ・第1ゲームと同じチームと対戦する。 【評】 楽しくドッジボールをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・試合方法は、学級の実態に応じて決める。他の学級と対戦して行うことも考えられる。 【評】 ドッジボール大会を通して、「知識・技能」を評価する。

【備 考】

1年生の転がしドッジボール・中当てドッジボールを発展させて、対面ドッジボールを行う。対面ドッジボールは、素早い攻守の切り替えやパス回しが大切である。そのため、展開例では、それらを意識した遊びを取り入れる。また、内野と外野の協力が必要になってくるので、話し合いを十分にさせる。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

- ・柔らかいボールを用いたり、空気を少し抜いたボールを用いたりする。

- ・ 柔らかいボールを用い， 1 対 1 でゴールを守る練習をする。

単元名	体づくりの運動遊び(多様な動きをつくる運動遊び), ゲーム(鬼遊び)宝運び 配当時間	6時間
単元の目標	(1) 一定の区域で逃げる, 追いかける, 陣地を取り合うなどの簡単な規則で鬼遊びをしたり, 工夫した区域や用具で鬼遊びをしたりすることができる。 (2) 簡単な規則を工夫したり, 攻め方を選んだりするとともに, 考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み, 規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり, 勝敗を受け入れたり, 場や用具の安全に気を付けたりしようとする。	

標準的な展開例

02100207_001

【準備等】宝箱, 紅白の玉 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 体ほぐしの運動遊び, 鬼遊びのねらいと内容を理解し, 学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と一緒に楽しく運動しよう ★簡単な作戦を立てて, 鬼遊びを楽しもう。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・リラックスしながらペアでストレッチングを行う。 ・動作や人数などの条件を変えて, 歩いたり走ったりする運動を行う。 ・伝承遊びや集団による運動遊びを行う。など ○宝運び鬼のマナーや安全な運動の仕方について確認する ○宝運び鬼をする。 <p>2～6 体ほぐしの運動遊びを楽しんだり, 簡単な作戦を立てて, 鬼遊びを楽しんだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○宝取り鬼の進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール, マナー, 対戦相手 ○チームの課題や作戦を立てる。 ○宝取り鬼をする。 ○反省し, まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題, 作戦など ○第6時は, 単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦を立てて宝運び鬼を行うことを知らせる ・＜宝運び鬼のルール例＞ 1 チーム5人程度で編成し, チーム対抗で行う。鬼は2～3名でタッチしたら観戦している同じチームの鬼と交替する。宝取りのチームは, 陣地から出発して宝島から宝を1個取って陣地に戻る。陣地を出ている時に, 鬼にタッチされたら陣地に戻ってから出発する。時間(4分)がきたら鬼と宝取りを交替し, 宝の多い方が勝ちとする。 ・宝取り鬼以外の鬼遊びをしてもよい。 ・いろいろな種類の運動を行う。 【評】体ほぐしの運動遊びをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・課題や作戦を立てられないチームには, 話し合いに教師が加わって助言する。 【評】作戦を立てる活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・＜工夫したルールの例＞ タッチでなく, たすきを取らせる。コート of 広さや宝の数を考える。 【評】鬼遊びをする活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・困ったことなどを発表させ, 宝取り鬼のルールの再確認や工夫をさせ, 次時の宝取り鬼に生かす。 ・よい動きをした児童を紹介する。 ・チームでの話し合いや自己評価などをさせる

【備 考】

多様な動きをつくる運動遊びは, 体のバランスをとったり移動したり, 力試しをしたりする動きを意図的にはぐくみ, 体の基本的な動きを総合的に身に付けることをねらいとして行う運動である。また, 手軽な運動や律動的な運動を行い, 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって, 自分の体の状態に気付き, 体の調子を整えたり, 仲間と豊かに交流したりすることをねらいとして行われる運動である。

鬼遊びは, 低学年の児童にとって抵抗なく学習に取り組める遊びであり, 好む児童が多い遊びでもある。さらに, 遊びを通して「走る」「方向を変える」「身をかかわす」などの動きを知らず知らずのうちに身に付けられる運動である。本単元では, 陣取りを中心とする鬼遊びを行い, チームで作戦を立てて鬼遊びに取り組むことで, 個人で楽しむ鬼遊びから, 友達と多く関わり合いながら集団で楽しむ鬼遊びへと発展させる。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・友達とハイタッチや拍手で喜びを共有するなど, 共に運動遊びをする楽しい雰囲気を実感することができるようにする。
- ・宝運び鬼では, チーム内での役割が分かるようにしたり, 攻めと守りが入り交じる場を制限したり, 守りの人数を減らしたり, 宝を運ぶ側の人数を増やしたりする。

単元名 体つくりの運動遊び(多様な動きをつくる運動遊び)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 体のバランスをとったり、体を移動したり、用具を操作したり、力試しをしたりすることができる。
- (2) 体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

02100301_001

【準備等】短なわ、長なわ、輪、竹馬、CDプレーヤー、軽快な曲、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 かけ足やなわ・輪・竹馬のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★かけ足やなわ・輪・竹馬を使った運動をしよう ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○2分間の集団走をする。 ○2分間のグループ走をする。 <p>○輪を使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰で回す、片手で回す、投げて捕る、転がすなど <p>2 かけ足をしたり、輪を使って遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動遊びをする。 ・リズムダンス、鬼遊びなど ○かけ足をする。 ・2分間の集団走、2分間のグループ走 ○輪を使って遊ぶ ・腰で回す、片手で回す、投げて捕る、転がすなど ・転がし競争、くぐり抜け競争など ○反省し、まとめをする。 ・楽しかったこと、がんばったことなど <p>3～5 かけ足をしたり、なわを使って遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○かけ足をする。 ・3分間の集団走、2分間のペア走 ○短なわを使って遊ぶ。 ・前跳び、けんけん跳び、グーパー跳びなど <p>○長なわを使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大波・小波、くぐり抜け、一人で跳ぶ、集団で跳ぶ <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、できたことなど <p>6～8 かけ足をしたり、竹馬を使って遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○かけ足をする。 ・3分間の個人走 <p>○竹馬を使って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助者付きで立つ、台や手すりを使って立つ ・1歩進む、歩数を増やして進む <p>○竹馬に乗って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に乘って遊ぶ、台の高さを変えるなど <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、できたことなど <p>○第8時は、単元のまとめもする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の前半はかけ足、後半はなわ・輪・竹馬を行うことを知らせる。 ・ゆっくりしたペースで走らせる。 ・グループを決め、リーダーの後ろを走るようにさせる。 ・鉄棒の間や木の間などいろいろな場所を走るようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動として、ダンスをしたり、鬼遊びをしたりする。 ・第1時と同じグループで行う。 ・リーダーを交替する。 ・いろいろな遊び方を工夫して楽しませる。 ・2～4人グループで競争して楽しませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペアを決め、リーダーの後ろを走らせる。 ・リーダーを順に変えて行わせる。 ・自分に合った跳び方で回数に挑戦したり、新しい跳び方を覚えたりして楽しませる。 ・学習カードを使い、跳び方のコツや練習の仕方を示したり、目標をもたせたりする。 <p>【評】工夫してなわとびをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して行わせる。 <p>【評】協力してかけ足やなわとびを行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のペースでトラックを走らせる。 <p>【評】3分間の個人走を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体をやや前方に倒し、出しやすい方の足から出させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想の発表や自己評価などをさせる。

【備 考】

低学年の児童は、続けて長く走った経験が少ないので、はじめは無理をさせずに、徐々に時間や距離を伸ばしていく。なわ、輪、竹馬などの用具を操作する運動遊びについては、低学年の児童にとってやや難しい面もあるが、興味をもって取り組める運動でもあるので、いろいろな技に挑戦させるようにする。なお、低学年の児童の体力、興味の持続を考慮して、1時間にかけ足と用具を操作する運動の2種目を行うようにした。

<運動遊びが苦手な児童への配慮の例>

- ・速さを助言したり、音楽に合わせるようにさせたり、友達とかけ声を合わせながら走らせたりする。
- ・なわを跳び越す位置や動き方を示したり、かけ声によってタイミングを合わせさせたりする。

単元名	体づくりの運動遊び(体ほぐしの運動遊び), ゲーム(鬼遊び)しっぽ取り鬼	配当時間	3時間
単元の目標	(1) 一定の区域で逃げる, 追いかける, 陣地を取り合うなどの簡単な規則で鬼遊びをしたり, 工夫した区域や用具で鬼遊びをしたりすることができる。 (2) 簡単な規則を工夫したり, 攻め方を選んだりするとともに, 考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動遊びに進んで取り組み, 規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり, 勝敗を受け入れたり, 場や用具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

02100302_001

【準備等】赤白帽子, はちまき, 紙テープなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 体ほぐしの運動遊び, 鬼遊びのねらいと内容を確認し, 学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と一緒に楽しく運動しよう。 ★ルールを工夫して, 鬼遊びを楽しもう。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 ・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行う。 ・リズムに乗って, 心が弾むような動作で運動を行う。 ・リラックスしながらペアでストレッチングを行う。 ・動作や人数などの条件を変えて, 歩いたり走ったりする運動を行う。 ・伝承遊びや集団による運動遊びを行う。 ○マナーや安全な運動の仕方について確認する。 ○しっぽ取り鬼をする。	・一定の区域内で, 「追いかける」「逃げる」を中心とした鬼遊びを楽しむことを知らせる ・＜しっぽ取り鬼のルール例＞ 腰にしっぽ(赤白帽子, はちまきなど)を付け, 取り合う。 ・しっぽ取り鬼以外の鬼遊びを行ってもよい。
2 体ほぐしの運動遊びを楽しんだり, 鬼遊びを楽しんだりする。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○しっぽ取り鬼をする。 ○反省し, まとめをする。 ・ルール, マナーなど	・いろいろな種類の運動を行う。 【評】体ほぐしの運動遊びをする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・ルールは適宜変更してもよい。
3 体ほぐしの運動遊びを楽しんだり, ルールを工夫して, 鬼遊びを楽しんだりする。 ○体ほぐしの運動遊びをする。 ○しっぽ取り鬼のルールを話し合う。 ○しっぽ取り鬼をする。 ○単元のまとめをする。	・いろいろな種類の運動を行う。 ・＜工夫したルールの例＞ しっぽを長くする, しっぽを付ける場所を変える, コートの形を変えるなど。 【評】ルールを話し合う活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・感想の発表や自己評価などをさせる。

【備 考】

体ほぐしの運動遊びは, 手軽な運動や律動的な運動を行い, 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって, 自己の心と体の変化に気付いたり, みんなで関わり合いをすることをねらいとして行われる運動である。

鬼遊びは, 低学年の児童にとって抵抗なく学習に取り組める遊びであり, 好む児童が多い遊びでもある。さらに, 遊びを通して「走る」「方向を変える」「身をかわす」などの動きを知らず知らずのうちに身に付けられる運動である。本単元では, 児童一人一人が友達と協力しながら鬼遊びに熱中できるようなルールを工夫させる。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・表情を表す絵や感情を表すカードを示し, 自己の心や体の変化のイメージができるようにするなどの配慮をする。
- ・友達とハイタッチや拍手で喜びを共有するなど, 共に運動遊びをする楽しい雰囲気を実感することができるようにする。
- ・短い時間で鬼を交代したり, 逃げる場所を制限したり, 逃げる場所を狭くしたりする。
- ・安全地帯を設けたり, 鬼の人数を一人から徐々に増やしたり, 鬼でない児童の人数を増やしたりする。

単元名 ゲーム(ボールゲーム)ボール蹴りゲーム

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 簡単なボール操作と簡単な攻めや守りの動きなどのボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

02100303_001

【準備等】 サッカーボール、段ボール箱、カラーコーン、ハードル、対戦表 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ボール蹴りゲームのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★作戦を工夫してボール蹴りゲームをしよう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○足を使ってボールで遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・足裏でボールタッチ、ドリブル、2人組で対人パス、ボールの取り合いなど <p>2～4 足を使ってボール遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人で足を使ったボール遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・足裏でボールタッチ、ドリブル、リフティング、的当て(箱、カラーコーン)、的通し(ハードル)など ○2人以上で足を使ったボール遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組で対人パス ・ボールの取り合い ・守りをつけて的当てなど ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、できたことなど <p>5～8 簡単なルールで作戦を工夫してキックベースを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チームをつくる。 ○足を使ったボール遊びをする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 <p>○第2ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナーなど <p>9～10 キックベース大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーグ戦やトーナメント戦でボール蹴りゲーム大会をする。 ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足でボールを操作し、作戦を工夫してゲームをすることを知らせる。 ・できるだけ人数分ボールを用意する。 ・蹴ったボールが顔に当たることがないように適当な間隔をとって行わせる。 ・足でのボール操作に慣れさせるため、時間をかけて行う。 ・足のいろいろな部位を使って蹴らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・2～4時に行った遊びをチームで選んだり、工夫したりして行わせる。 ・＜ルールの例＞ カラーコーンの間を通ったら1点。 攻める人はシュートラインから出てはいけない。 シュートラインの中の守る人は手を使ってもよい。 慣れてきたらガードマン(守る人)を入れる ・1ゲーム4～6分など。 ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームのめあてにそった動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 【評】 ボール蹴りゲームを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】 作戦を工夫してゲームをする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・試合方法は、学級の実態に応じて決める。 【評】 ボール蹴りゲーム大会を通して、「知識・技能」を評価する。 ・チームでの話し合いや自己評価などをさせる

【 備 考 】

2年生では、足を使ってのボール操作に習熟している児童は少ない。そのため、足でのボール操作に慣れさせることが大切である。本単元では、ボールを使って遊ぶ時間を多くとり、足でのボール操作に十分慣れさせる。その後、対陣ボール蹴りゲームを行い、中学年のゴール型ゲームへつながるようにする。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

- ・柔らかいボールを用いたり、空気を少し抜いたボールを用いたりする。
- ・柔らかいボールを用い、1対1でゴールを守る練習をする。

単元名 表現リズム遊び2

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 身近な題材の特徴を捉え、そのものになりきって全身で即興的に踊ることができる。また、軽快なリズムの音楽に乗って弾んで踊ったり、友達と調子を合わせたりして即興的に踊ることができる。
- (2) 身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりしようとする

標準的な展開例

02100304_001

【準備等】軽快な曲、CDプレーヤー など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 表現リズム遊びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 <p>★いろいろなものに変身して遊ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・スキップや駆け足などで移動しながら8拍目にタイミングを合わせて近くの人とタッチをする。(両手でハイタッチ→肩と肩→お尻とお尻) ・教師の動きをまねて踊る。 ・リーダーの動きをまねて踊る。 ・2人組やグループになってリーダーを交代して踊る。 ○仲間作りゲーム「がさがさがさごそ、なにがいた？」で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・T:「がさがさがさごそ、なにがいた？」 ・C:「がさがさがさごそ、なにがいた？」 ・T:「がさがさがさごそ、まだ見えない」 ・C:「がさがさがさごそ、まだ見えない」 ・T:「何かな、何かな……」 ・C:「あちこちさがすように動く」 ・T:「見つけた！」 ・C:ピタッと止まる ・T:「イ、カ」 ・C:2人組を作ってすわる ○仲間作りゲーム「がさがさがさごそ、なにがいた？」の動きを工夫して遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・見つけたものになって動く。 ・お話を作って動く。 ・学級を半分に分け、見せ合う。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、友達のよい動きなど <p>2 「だるまさんがころんだ」で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びをする。 ○「だるまさんがころんだ」で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが「だるまさんがころん」と言う間に5歩以上は移動する。 ・「だ」でいろいろなポーズをとってストップする。 ・リーダーはおもしろいポーズをしてストップしている児童の名前を呼ぶ。 ・何回か繰り返したら、リーダーを交代する。 ○「だるまさんがころんだ」の動きを工夫して遊ぶ。(活用) <ul style="list-style-type: none"> ・ストップするときに近くの2～3人組で、1人ではできないようなポーズで止まる。 ・かけ声の速さを変える。 <ul style="list-style-type: none"> 「だ、る、ま、さ、ん、が、こ、ろ、ん、だ だ～る～ま～さ～ん～が～こ、ろ、ん、だ だるまさんがこ～ろ～ん～だ」など ・「ころんだ」の部分を別の言葉に変え、その言葉から思いついた動きをする。 <ul style="list-style-type: none"> 「だるまさんがねころんだ だるまさんがおすもうさんになった」など ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、友達のよい動きなど <p>3 「トントントン、何の音？」で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びをする。 ○「トントントン、何の音？」で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・あぶくたった にえたった にえたかどうだかたべてみよう……もうにえた ・とだなにしまって かぎかけて がちゃがちゃ 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り付けを決めずに曲に合わせて自由に踊ったり、いろいろなものに変身して踊ったりすることを知らせ、意欲を高める。 ・児童にとって親しみのあるアニメの主題歌やヒット中の歌などから軽快でのりのよい曲を1～2曲選ぶ。 ・友達同士体を触れ合っかかわらせ、心と体をほぐす。 <ul style="list-style-type: none"> ・「がさがさがさごそ、なにがいた？」以外にも「猛獣狩りに行こうよ」ゲームなど模倣できるものが入っている仲間作りゲームに変えてもよい。 ・手拍子を入れたり、動作を入れたりして盛り上げる。 ・指示された言葉の数でグループを作って座らせる。次々と組む児童を変えて、いろいろな児童とかかわるようにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の数でグループを作ったら、指示されたものになって動く。 ・見ている側は、友達のよい動きを見つけるよう助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ・慣れてきたら止まるときのポーズを動物、おもちゃなど指定する。 ・始めは教師がリーダー役を行い、慣れてきたら児童に任せる。 ・止まるポーズを友達と工夫させたり、リーダーのかけ声のリズムに合わせて動作を工夫させたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌の部分にも動作を入れて盛り上げる。 ・「トントントン」「何の音？」の部分はいろいろな擬声語、擬態語を入れて繰り返す。一つの動きは10～15秒くらいで、どんどん切り

おふろにはいって じゃぶじゃぶ ごしごし
おふとんかけてもうねましょう

T:「トントントン」

C:「何の音？」

T:「ヒューヒュー 風の音」

C:風になって動く

T:「トントントン」

C:「何の音？」

T:「ドロドロドロ 化粧の音」

C:教師につかまらないよう逃げる

- 「トントントン、何の音？」の動きを工夫して遊ぶ。
 - ・グループになって、リーダーが指示した動きを友達と
かかわり合いながら動く。
 - ・近くのグループと見せ合う。

- 反省し、まとめをする。
 - ・楽しかったこと、友達のよい動きなど

4 鏡になって遊ぶ。

- リズム遊びをする。
- 鏡になって遊ぶ。
 - ・2人組になり、動きを出す人（リーダー）と鏡になっ
てまねをする人に分かれて行う。
 - ・リーダーを交代したり、2人組を替えたりしながら行
う。

- 鏡の動きを工夫して遊ぶ。
 - ・グループ（4～5人）でリーダーの動きをまねする。
 - ・気に入った動きをつないで、お話を作る。
 - ・近くのグループと見せ合う。

- 反省し、まとめをする。
 - ・楽しかったこと、友達のよい動きなど。

5 新聞紙を使って遊んだり、新聞紙に変身したりして遊ぶ

- リズム遊びをする。
- 新聞紙を使って遊ぶ。
 - ・新聞紙を持って走る。
 - ・体に付けて走る。
 - ・投げ上げた新聞紙を体の一部（背中、腹など）で受け
止める。など
- 新聞紙に変身して遊ぶ。
 - ・教師の操る新聞紙に変身して動く。
 - ・2人組でリーダーの操る新聞紙に変身して動く。
 - ・グループになって新聞紙の動きを簡単なお話にして動
く。
 - ・学級を半分に分け、見せ合う。

- 単元のまとめをする。

替えていく。

- ・「お化粧の音」という言葉から鬼遊びになる
教師につかまらずに体育館の壁に着いたらセ
ーフなどのように、あらかじめルールを決め
ておく。

- ・音の部分を「シュルシュルシュル ドドーン
花火が上がる音」のように組み合わせると動
きが多様になる。
- ・相手グループのよかったところを知らせるよ
う助言する。

- ・歯を磨いているところやお風呂で体を洗っ
ているところなど、日常生活の場面の中から示
して始めるとやりやすい。大げさに表現する
よう助言する。
- ・日常生活から空想の世界へと、どんどん広げ
させる。
- ・急に止まったり、ゆっくり動いたりしてリズ
ムに変化をつけるよう助言する。
- ・最後の動きを工夫させると小作品になる。

＜最後の動きの例＞

両者が入れ替わる、鏡が割れる、鏡が違う動
きをする、振り返ったら鏡の中が消えている
など。

- ・相手グループのよかったところを知らせるよ
う助言する。

【評】工夫して変身する活動を通して、「思考
・判断・表現」を評価する。

- ・新聞を持って走ったり、とばしたりするなど
いろいろな使い方を見付けさせる。

【評】友達と仲よく踊る活動を通して、「主体
的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・緩急、強弱のある言葉をかけながら、広い空
間を使って行わせる。
- ・気に入った動きを3～4つ選んでつなぎ、小
作品を作らせる。小作品にするときには具体物
としての新聞紙は使わずに体を使って表現さ
せる。
- ・面白い動きをしていたグループを発表させる

【評】リズム遊びや変身して遊ぶ活動を通して
「知識・技能」を評価する。
・感想の発表や、自己評価などをさせる。

【 備 考 】

リズム遊びでは、自分の好きな動きで踊ったり、友達と体を触れ合わせて踊ったりしながら、全身で弾んで
踊る楽しさを体験させる。表現遊びでは伝承遊びや仲間作りゲームなど、毎時間異なった遊びを取り入れ、い
ろいろなものに変身して遊ぶよう構成した。

また、1時間の前半ではリズム遊びを、後半では表現遊びを位置付け、毎時間繰り返して学習するよう構成し
た。本単元の例以外にも、短時間で行える表現遊びは数多くあるので、題材を変えるなど工夫して指導するこ
とができる。1時間ごとに扱う題材が変わるので、1時間を一つの小単位として行い、各学期の時間調整に充
てることもできる。

＜運動遊びが苦手な児童への配慮の例＞

・友達や教師の動きの真似をしながら、リズムに合わせてスキップで弾んだり、かけ声や手拍子を入れたりし
て踊る。

・教師を含めた数人で手をつなぎ、簡単な動きで弾んだり、回ったり、移動したりして一緒に踊る。

・児童にとって身近で関心があり、自然に体を弾ませたくなるような選曲をする。

単元名 体づくり運動(体ほぐしの運動)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 体ほぐしの運動では、その行い方を知るとともに手軽な運動を行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わったりすることができる。
- (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100101_001

【準備等】 ボール、輪、長なわ、短なわ、BGM（軽快な曲、静かな曲）、CDプレイヤー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 体ほぐしの運動のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動の目的 <p>★仲間と楽しく運動をしながら、自分の心と体の変化に気付き、体を動かす楽しさや心地よさを味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 <p>○体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・大根抜き、体でじゃんけん、人間知恵の輪、人間いすなど触れ合いの多いもの </p> <p>○感想を話し合う。</p> <p>2～4 体ほぐしの運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クラスみんなで活動的な運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・リズムに乗った律動的な運動、手をつないでダンスなど ○ゆったりと静的な運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組、3人組でストレッチング ・力を抜いてリラクゼーション ○気持ちを合わせて活動的な運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・大根抜き、人間知恵の輪など ・ボール、輪、なわなどの用具を使った運動 <p>○感想を話し合う。</p> <p>○単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気がつくれるようにする。 <p>・運動の得意、不得意に関係なく、誰でも楽しめる運動であることを伝え、安心して取り組めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ対抗やチーム対抗などにしてゲーム要素を盛り込むとよいが、勝ち負けにこだわり過ぎないように注意する。 ・グループやチームはいろいろと入れ替えながら行う。 ・楽しかった気持ちを共有する。 <p>・軽快な感じのBGMをかける。</p> <p>【評】仲間と活動的な運動に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かな感じのBGMをかける。 ・仲間の動きを感じながら、無理をしないように助言する。 ・グループで協力して行う運動を取り上げる。 <p>・声を掛け合いながら行うよう助言する。</p> <p>【評】運動を行う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

体ほぐしの運動では、その行い方を知るとともに、手軽な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことを通して、自己や友達の心と体の変化に気付いたり、みんなで豊かに関わり合ったりすることができることをねらいとして行われる運動である。心と体の変化に気付くとは、体を動かすと心も弾み、体の動きが軽快になることや、体の力を抜くと気持ちがよいこと、汗をかいた後は気分もすっきりするなど、運動により心や体に変化することに気付くことである。みんなで関わり合うとは、運動を通して自他の心と体に違いがあることを知り、誰とでも仲よく協力したり助け合ったりして様々な運動をすると楽しさが増すことや、友達と共に体を動かすと心のつながりを感じ、体を動かすことへの不安が解消されることなどを体験することである。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・伸び伸びとした動作で運動をすることが苦手な児童には、低学年の体ほぐしの運動遊びで行った運動を繰り返し、なじみの深い簡単な運動を行ってみるなどの配慮をする。
- ・心や体の変化に気付くことが苦手な児童には、気持ちや体の変化を表す言葉を示したり、問いかけたりし、自己の心や体の変化に合った言葉のイメージができるようにするなどの配慮をする。
- ・友達と関わり合いながら運動をすることが苦手な児童には、ペアやグループの組み方を考慮し、安心して活動に取り組めるようにするなどの配慮をする。

単元名 走・跳の運動(かけっこ・リレー)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) かけっこ・リレーでは、その行い方を知るとともに調子よく走ったりバトンの受け渡しをしたることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全を気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100102_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 かけっこ・リレーの学習のねらいと内容を理解し学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★作戦を立ててリレーを楽しもう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。 ○かけっこをする。 <ul style="list-style-type: none"> いろいろな動作で走る。 <ul style="list-style-type: none"> ・普通に走る、スキップで走る、大股（小股）で走る、ギャロップで走る、後ろ向きに走るなど。 ・長座姿勢から、仰向けの姿勢から、伏臥姿勢から、腕立て伏せの姿勢から、スタンディングスタートからなど いろいろな場でかけっこをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・手つなぎかけっこ、くるくるかけっこ、じゃんけん陣取り、おいかけ競争など。 ○試しのリレーをする。 ○話し合いをし、課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人の課題、チームの課題。 <p>3～5 いろいろなチームとリレーを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○準備運動、補助運動をする。 ○コースやルール、対戦相手などの確認をする。 ○課題や作戦について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・バトンパスの仕方、走り方。 ・走る順番など。 ○1回目のリレーをする。 ○リレーの結果をもとに、作戦を立て練習する。 ○2回目のリレーをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・バトンパスの仕方。 ・作戦の立て方。 ・次時の課題の把握など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競争を楽しむために、バトンパスや競走の仕方を工夫して学習することを知らせる。 ・学習カードの使い方を例示しながら理解させる。 ・走力ができるだけ均等なチーム（1チーム5～6人程度）に分ける。 ・いろいろな姿勢からのスタートダッシュや追いかけて行う。 ・トラックを回るだけでなく、遊具の間をジグザグに抜けるなど、変化をつけて楽しく行う ・チーム内またはチーム対応で行わせる。 ・第2時からは、例示したようなかけっこを補助運動として授業の始めに行う。 ・コースやルールについては、学級の実態に合わせて教師の方から示す。 <ul style="list-style-type: none"> 〈コースの例〉 <ul style="list-style-type: none"> 折り返しリレー、トラックでのリレー、ワープコースを入れたリレーなど。 〈ルールの例〉 <ul style="list-style-type: none"> 手でタッチする、バトンを使う、追い抜くときは外から抜く、バトンパスはゾーンの中で行う。 ・リレーの反省をし、チームの課題などを決めて学習カードに記入させる。 ・総当たり戦でリレーを行うことを知らせる。 ・第1時で行ったリレーをもとに、コースやルールを話し合っ変更してもよい。 ・リレー、話し合い、リレーの流れで行わせる。 【評】練習やリレーへの取り組みを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】課題をもち、作戦を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・1回目とは別のチームで行わせる。 【評】リレーへの取り組みを通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

かけっこは様々な運動の基本となる運動である。まっすぐ力一杯走るだけでなく、様々な姿勢からのスタートや走の形態を楽しみながら体験させることが大切である。リレーは、他のチームと競い合っ楽しむ運動であり、チーム間の競争意識が高まり、勝敗に対する児童の欲求を満たしてくれる身近な運動である。しかし、走力の差によって勝敗がはっきりと分かれてしまうこともある。学級の実態に合わせて、コースやルールを工夫し、作戦の立て方によっては勝敗が逆転するように活動を組み立てていくことが大切である。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・かけっこで、スタートが苦手な児童には、立った姿勢からだけでなくいろいろな姿勢から素早く走ったり、スタート位置を変えて競走したりするなどの配慮をする。
- ・周回リレーで、タイミングよくバトンを受渡すことが苦手な児童には、追いかけ走やコーナー走で受渡しをするなどの配慮をする。

単元名 器械運動(鉄棒運動)

配当時間 6時間

単元の目標 (1) 鉄棒運動では、運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、支持系の基本的な技を身に付けることができる。
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や機械・器具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100103_001

【準備等】鉄棒用補助具、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方を知る。 ○グループを編成する。 ○鉄棒を使って遊ぶ。 ○鉄棒をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル1「つばめさん→片足かけて→後ろ下り→両足かけてコウモリ→ブランコ遊び」 <p>2～5 技の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鉄棒を使ってできる遊びを行う。 ○鉄棒を使って、できそうな技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル2「片足かけたつばめ→ぶらぶらふって上がる」 ・モデル3「片足かけたつばめ→一気にたおれてもどる」 ○モデル3「片足かけたつばめ→一気にたおれてもどる」 ○モデル4「片足かけたつばめ→一気にまわって上がる」 ○できる技で鉄棒を楽しむ。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、グループでの協力など <p>6 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○できる技で鉄棒遊びをする。 ○演技種目の練習をする。 ○発表をする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ・グループでの協力など ○単元のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い、自己評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒遊びをすることを知らせ、意欲を高める ・鉄棒を使った遊びの例を学習カードに例示しておくといよい。 ・鉄棒を待つときの約束や、鉄棒を握るときの正しい手の形（順手、逆手）を教える。 ・猿手（親指と他の四指が同じ向きになる手の形）にならないように指導する。 ・2人1組で1グループを作る。 ・易しい遊びやゲームなどを取り入れ、腕支持感覚や逆さ感覚、回転感覚を体験させる。 ・コウモリ振りから着地することがむずかしい場合は、手を地面にしっかりついてから両足着地させる。 ・学習カードに示したいろいろな遊びをさせる ・モデル2は膝かけ振り上がりの学習である。「手首の返し」「体を振る」「あごの使い方」に慣れさせる。 ・上がれない場合は、低い鉄棒で片膝をかけて足で地面をけって上がったたり、補助してもらって手首を返して上がったりする感覚を体験させる。 ・補助具（膝用サポーターなど）を使って練習させる。 【評】練習に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・モデル3は片膝かけ回り（後方）の予備技として後ろに倒れる部分の学習である。 ・モデル4は片膝かけ回り（後方）の学習である。 ・モデル4ができるになると片膝かけ回り（後方）を連続したり、回転の途中で両膝を鉄棒にかけたりと、いろいろな発展技ができる。 ・2人1組のグループでお互いに補助したりアドバイスしたりして行わせる。 【評】2人で互いに教え合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。 ・感想の発表や、学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

鉄棒運動は、鉄棒を軸として、ゆれたり、回転したりするという独自のおもしろさがある。また、自分だけの連続技をつくるという創造する面白さもある。3年生では、自分のできる技を組み合わせ、鉄棒を軸にして体を回転させ、着地するという、より鉄棒運動らしい面白さを味わわせる。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・前回り下りが苦手な児童には、ふとん干しなどの鉄棒に腹を掛けて揺れる運動遊びに取り組んだり、補助を受けて回転しやすくしたりして、勢いのつけ方や体を丸めて鉄棒から離さない動きが身に付くようにするなど

の配慮をする。

単元名 ゲーム(ベースボール型ゲーム)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) ベースボール型ゲームでは、その行い方を知るとともに、蹴る、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点を取ったり防いだりする動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100104_001

【準備等】 ハンドベースボール、テニスラケット、プラスチックバット、カラーコーン など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ベースボール型ゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームに合った作戦を選び、ルールを工夫してゲームを楽しもう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○チームを編成し、役割を分担する。 ○試しのゲームをする。 <p>2～3 簡単なルールでゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベースボール型ゲームに関連した体ほぐしの運動をする <p>○ゲームの進め方の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール・マナー・対戦相手 <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 <p>○第2ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題・作戦・ルール・マナーなど <p>4～6 ルールや作戦を工夫してゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手を確認する。 ○対戦相手と、ルールについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻守を交替し、ボールを投げる、打つ（蹴る）、捕るというゲームの特性を理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・1チーム5～6人、男女混合で編成する。 ・技能差をできるだけ感じないような、ルールや場の工夫をしてゲームを行う。 <p>＜ルールや場の例＞</p> <p>スポンジボールを使う ボールを打ったらカラーコーンを回ってきて1点 全員攻撃してチェンジ ピッチャーは味方が打ちやすいボールを投げる ティーバッティングで固定したボールを打つ</p> <p>ボールを打つ物（手のひら、ラケットやプラスチックバットなど）を変化させる ボールを蹴ることにする（キックベースなど）</p> <p>ゴロでも捕ったらアウトにする 1塁までの距離を調節する 打った球をある場所（かごなど）に戻すのと走塁との競争にする ボールをとりやすいものにするなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・＜運動の例＞ 投げ上げたボールを自分でキャッチ 投げてその場で一回転してキャッチ 大きめのボールでキャッチボール ボールを真上に投げ上げ、別の子がキャッチなど ・いろいろなチームと対戦することを知らせる ・児童の実態とゲームのルールや場があっているかを観察し、確認する。 ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題にそった動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】ゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じチームと2ゲーム行うことを知らせる。 ・これまでの学習をもとに、相手チームとの話合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。 <p>＜工夫したルールや場の例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3アウトチェンジ。 ・2アウトチェンジ。 ・ノーバウンドで捕球したら一気に2アウト。

<ul style="list-style-type: none"> ○ チームの課題や作戦を話し合う。 ○ 第1 ゲームをする。 ○ 反省し、練習をする。 ○ 第2 ゲームをする。 ○ 反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題・作戦・練習・ルールなど ○ 第6 時は、単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディフェンスエリア内で捕球したらアウト。 ・ 走塁は2 塁まで。 ・ バッターの能力によってピッチャーの位置を変える。 ・ 走っているときにはボールを当ててもアウトにしないなど ・ 課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ ゲームの結果から、チームの課題に沿った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 【評】 チームに合っためあてをもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する ・ 第1 ゲームと同じチームと対戦する。 【評】 ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 練習の成果を確認させる。 ・ チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。
--	---

【 備 考 】

3, 4 年生のベースボール型ゲームでは、蹴る、打つ、捕る、投げるなどの動きによって、易しいゲームをすることを目標としている。易しいゲームとは、簡単なボール操作で行える、比較的少人数で行える、身体接触を避けるなど、児童が取り組みやすいように工夫したゲームをいう。技能を身に付けることに時間がかかるため、投げ方、打ち方、捕り方などを体ほぐし運動を通して身に付けさせたり、みんなが楽しめる易しいルールや場でゲームを行ったりする。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・ ボールをフェアグラウンド内に蹴ったり打ったりすることが苦手な児童には、大きなボールや軽いボールを用いたり、手や大きなバット、軽いバット、ラケットなどを用いて打ったり、静止したボールを蹴ったり打ったりすることができるようにするなどの配慮をする。
- ・ 投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げるのが苦手な児童には、的当てゲームを取り入れたり、紙鉄砲やタオルを用いて遊ぶ場を設定したりして、投げる動きが自然に身に付くような練習をするなどの配慮をする。

単元名 体づくり運動(多様な動きをつくる運動)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 多様な動きをつくる運動では、その行い方を知るとともに体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせることができる。
- (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100105_001

【準備等】竹馬、一輪車、一輪車練習台、ビデオ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 竹馬や一輪車のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 マナーや安全な運動の仕方について知る。 学習のねらいや進め方を知る。 <p>★竹馬や一輪車にバランスよく乗ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体のバランスをとる運動をする。 ○竹馬や一輪車に乗る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 <p>2～4 体のバランスをとる運動を行い、竹馬や一輪車に乗る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を決める。 ○竹馬に乗る。 <ul style="list-style-type: none"> ・竹馬の練習段階 補助者が前について立つ→1人で台や手すりを利用して立つ→竹馬に乗って進む→方向を変える ・竹馬競争 ・竹馬鬼遊び ○一輪車に乗る。 <ul style="list-style-type: none"> ・アイドリング(鉄棒や遊具を両手で持って→片手で鉄棒や遊具を持って→補助の子の手を持って→何も持たずに) ・一輪車の練習段階補助つき乗車(鉄棒等)→降車→補助つき乗車から半回転ずつ前進(ペダルを地面に平行の状態から平行の状態へ)→1回転ずつ前進→連続で前進→補助なしで前進 ・補助なし乗車 ・後進 ・一輪車競争 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、できばえ ○発表、大会をする。 ○第4時は、単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹馬や一輪車に乗ることができるようにしたり、乗って楽しんだりすることを知らせる。 ・不安定な場を歩いたり(丸木橋や平均台など)狭い場(ライン上など)を歩いたり走ったりさせる。 ・練習の仕方を理解させる。 ・児童の実態に応じてグループ編成をする。 <p>＜グループ編成の例＞ 2人組、技能が異なる3人組、課題が同じ3人組</p> <p>【評】体のバランスをとる運動をしたり、用具を操作する運動をする中で、練習の仕方を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一輪車は乗れるようになるまでに時間がかかるので、段階を追って練習させる。 ・アイドリングとは、一輪車でペダルを地面に平行な状態から20度～45度ほど踏み込み元の方向へもどすことを繰り返し、その場で留まることである。 <p>【評】協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】できる技で楽しんだり、できそうな技に挑戦したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて発表会や大会を行ってもよい。 ・グループでの話合いや自己評価などをさせる

【備 考】

竹馬や一輪車は、バランス感覚を必要とする運動である。特に一輪車は乗れるようになるまでに時間がかかるので、段階を踏んであせらずじっくりと練習させ、一輪車に乗る感覚を体験させる。また、一輪車や竹馬に乗るだけでなく、様々な運動を経験させることで、体のバランスをとる動きを身に付けさせたい。さらにこの学習をきっかけにして、休み時間や家庭でもバランスをとる動きで遊んでいけるよう意欲を高めていく。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・用具に乗るなどの動きが苦手な児童には、二人組や三人組で体を支えて補助をし合ったり、器具等につかまりながら進んだりするなどの配慮をする。

単元名 水泳運動(浮いて進む運動, もぐる・浮く運動)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 各運動の行い方を知るとともに、浮いて進む運動では、け伸びや初歩的な泳ぎをすることができ、もぐる・浮く運動では、息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をすることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、水の中での動きを身に付けるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100106_001

【準備等】学習カード、ビート板、ボール、ヘルパー、ペットボトル、バケツ、ジョウロ、切ったホース（おもり）、ピンポン玉 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 水泳運動のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★水にもぐったり浮いたり、泳いだりして楽しもう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 <p>○水遊びに関連した体ほぐしの運動をする。</p> <p>2～4 今できる浮き方や進み方・泳ぎ方で、ゲームや遊びをして楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水慣れ遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジョウロのシャワー ・バブリング ・ボビング ・宝探しゲーム ・水中じゃんけん ・バケツ水入れ競争など ○グループでいろいろな遊びやゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ピンポン玉リレー ・輪くぐり ・水中まりつき ・いかだ流し ・ラッコ浮き ・水中トンネルくぐり ・ビート板リレー ・水中ドッジボールなど ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと・できたこと・心得など <p>5～8 できそうな浮き方や進み方・泳ぎ方に挑戦して楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バディを編成する。 ○今できる浮き方や進み方・泳ぎ方で楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・伏し浮き ・け伸び ・ばた足 ・かえる足 ・補助具を使って浮く ・リレー遊びなど ○できそうな浮き方や進み方、泳ぎ方に挑戦して楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ばた足 ・かえる足 ・面かぶりクロール ・呼吸をしてくのクロールなど ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題 ・できたこと <p>9, 10 記録会、水中ゲーム大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○泳力を測る。 ○水中ゲーム大会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ビート板リレー ・基石拾い ・ボール送り ・水中ドッジボールなど ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水に潜ったり浮いたり、泳いだりすることを知らせる。 ・カードの記入は教室で行わせる。 ・プールのきまりや、浮く・泳ぐ運動の心得をしっかり押さえる。バディ（2人組）を決め安全確認をすることを教える。 <p>【評】協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童でバディを組ませ、確認させる。 ・挑戦してみたいことも行わせてもよい。 ・個別に指導にあたる。 <p>【評】自分に合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、学級の実態に応じて行う。 ・できるようになったことや自分たちの考えた遊びやゲームで楽しむ。 <p>【評】記録会、水中ゲーム大会を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

※学校の実態に応じて時間数を柔軟に変更してもよい。

浮く・泳ぐ運動では、仲間との競争やいろいろな課題に取り組むことで、水に慣れ親しむことや浮いたり泳いだりすることの楽しさや心地よさを味わうことができるようにすることが大切である。そのため本単元では、単元を通して水に親しむ時間を設ける。また、個々の能力に差が現れてくる時期なので、グループ学習ができるようにし、4年生からの水泳領域の学習での基礎・基本を身に付けさせる。水難事故防止のため、着衣泳についても、夏休み前に実施する。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・け伸びで、体を一直線に伸ばすことが苦手な児童には、補助具や友達の手につかまり、大きく息を吸って伏し浮きの姿勢になるまで待つように助言したり、体を伸ばした状態になったところを友達に引っ張ってもらったりするなどの配慮をする。
- ・け伸びで、プールの底や壁を力強く蹴ることが苦手な児童には、水の中に体を十分に沈め、膝を曲げて体を小さく縮めてから底や壁を蹴るように助言したり、け伸びで進む距離を友達と競争したり自己の記録を伸ばしたりする場を設定したりするなどの配慮をする。
- ・初歩的な泳ぎで、手や足の動きと呼吸のタイミングを合わせることが苦手な児童には、陸上で動きのイメージができる言葉「伸びて、イーチ・ニィー・サーン（手で水をかいたり、足を動かしたりして）、プハ！（息をまとめて吐く）、伸びて」とともにタイミングを確認する場を設定したり、友達にゆっくりと引っ張ってもらいながら息継ぎのタイミングを声かけしてもらったりするなどの配慮をする。
- ・プールの底にタッチをする際、浮力の影響でもぐることが苦手な児童には、息を吐きながらもぐることや手や足を大きく使うことを助言したり、水深が浅い場を設定したりするなどの配慮をする。
- ・いろいろなもぐり方をする際、もぐり方を変えることが苦手な児童には、友達ともぐり方の真似をし合う場を設定したり、陸上でできる動きを水の中でできないかを助言したりするなどの配慮をする。
- ・だるま浮きで、体を小さく縮めることが苦手な児童には、両膝を抱え込まずに持つ程度にした簡単な方法に挑戦することや、膝を抱えると一度は沈むがゆっくりと浮いてくることを助言するなどの配慮をする。
- ・背浮きで、腰が沈まないようにして浮くことが苦手な児童には、補助具が体から離れないようにしっかり抱えて浮くように助言したり、友達に背中や腰を支えてもらう場を設定したりするなどの配慮をする。
- ・変身浮きで、浮き方を変えることが苦手な児童には、一つの浮き方で浮いている時間を延ばしたり、「つばみがだんだん開いて、またしぼんでいく」などお話づくりで変身していくイメージをもって挑戦したりする場を設定するなどの配慮をする。
- ・連続したボビングが苦手な児童には、低学年で扱った呼吸のリズムを再度確認したり、友達と手をつないでボビングをしたりする場を設定するなどの配慮をする。

単元名 走・跳の運動(小型ハードル走)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 小型ハードル走では、その行い方を知るとともに小型ハードルを調子よく走り越えることができる。
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100201_001

【準備等】ハードル（棒、輪、段ボールの箱、小型ハードルなど）、ストップウォッチ、対戦表、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ハードル走の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方についての見通しをもつ。 ○学習の課題や進め方を知る。 ★ハードルを調子よく跳び越し、スピードを落とさずに走り通すことに挑戦しよう。</p> <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。</p> <p>○ハードル走に関連した体ほぐしの運動をする。</p> <p>○試しの小型ハードル走をし、課題をつかむ。</p> <p>2～3 1対1の競走をして楽しむ。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。</p> <p>○チーム内で1対1の競走をする。 ・同じ位置から走る。 ・ハンディを付けて走る。</p> <p>○反省し、まとめをする。 ・小型ハードルの越し方 ・やってみたい競走など</p> <p>4～5 いろいろなチームと競走して楽しむ。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。 ○コースやルール、対戦相手などの確認をする。</p> <p>○課題や作戦について話し合う。 ・走り方、ハードルの越し方、走る順など</p> <p>○練習をする。</p> <p>○1回目の競走をする。 ○反省し、練習をする。</p> <p>○練習や作戦を生かして、2回目の競走をする。</p> <p>○反省し、まとめをする。 ・課題、作戦など</p>	<p>・棒や輪、段ボールの箱、小型ハードルなどを調子よく跳び越えて競走することを知らせる</p> <p>・調子よく走るためにはどんな走り方をしたらよいか考えさせ、それをもとに課題をつかませる</p> <p>・学習カードの使い方を例示しながら理解させる。</p> <p>・力が均等な偶数チーム（1チーム5～6人程度）に分ける。</p> <p>・＜いろいろなハードルを使ったコースの例＞</p> <p>・棒、輪、段ボールの箱、ミニハードル、段ボールの箱を斜め半分に切ったものなど</p> <p>・＜ルールの例＞</p> <p>・手でハードルを倒してはいけない</p> <p>・ハードルとハードルの間は自分の走り方に合わせて変えてもよいなど</p> <p>・リズムカルにハードルを越えて走ることでできた児童を紹介する（3歩のリズムでなくてもよい）</p> <p>・チーム内で相手をいろいろ変え、1対1の競走をすることを知らせる。</p> <p>・第1時で行ったいろいろなハードルを使ったコースを選んで行わせる。</p> <p>・スタート係やゴール係などを交代して行わせる。</p> <p>・1回目は同じ位置から走るが、2回目は1回目の結果を基にハンディを付けて競走させる</p> <p>【評】チームで協力し、跳び越し方を工夫して競走する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・総当たり戦でハードル走を行うことを知らせる。</p> <p>・＜ルールの例＞</p> <p>ハンディを付ける、付けない</p> <p>1対1で競走し、勝った人数で勝敗を決める</p> <p>タイムを計ってその合計で勝敗を決めるなど</p> <p>・勝つために、どんなことを解決すればよいかを考えて作戦を立てさせ、それに合った練習ができるように助言する。</p> <p>・競走を見て気付いたことや他のチームの工夫について話し合わせ、次の競走に生かすよう助言する。</p> <p>・お互いの動きを見合い、改善点を見付けられるよう助言する。</p> <p>・別のチームと対戦させる。</p> <p>【評】ハードル走を行う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】いろいろなチームと競走する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価</p>

○第5時は単元のまとめもする。

する。
・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

小型ハードル走は、仲間と競い合う楽しさや、調子よく走ったり、跳んだりする心地よさを味わうことができる運動である。走ったり、跳んだりすること自体の面白さ・心地よさを引き出す指導を基本にしながら、どのような力をもった児童においても競走に勝つことができたり、意欲的に運動に取り組むことができたりするように、楽しい活動の場の工夫をすることが大切である。

そこで、本単元では、段ボールの箱や棒・台・輪などをハードルとして用いて、楽しく障害を越す活動を取り入れた。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・一定のリズムで小型ハードルを走り越えることが苦手な児童には、インターバルの異なる複数のレーンを設定し選べるようにしたり、いろいろな材質の小型ハードル（ゴムを張った小型ハードルや段ボールを用いたハードル等）を使用したりするなどの配慮をする。

単元名 表現運動(表現)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 表現では、その行い方を知るとともに身近な生活などの題材からその主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで踊ることができる。
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、友達の動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100202_001

【準備等】軽快な曲、CDプレーヤー、イメージカード用画用紙（八つ切り画用紙を半分にした大きさ）
 太ペン、太鼓、学習カードなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 表現運動の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方について知る。 ★忍者に変身して楽しく踊ろう。 ○リズムにのって体ほぐしの運動をする。 ○忍者の動きをイメージカードに記入する。 「ぬき足・さし足・しのび足」 「しゅりけんを投げる」 「かべにへばりつく」 ○イメージカードを使った即興表現の方法を知る。 ○イメージカードを裏返して、床に広げる。 ○床に広げられたイメージカードをめくりながら、思いつくまま踊る。 <p>2～3 いろいろな忍者のイメージを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズムにのって体ほぐしの運動をする。 ○床に広げられたイメージカードをめくりながら、思いつくまま踊る。 <ul style="list-style-type: none"> ・1人で ・2～3人で ○2～3人グループをつくり、気に入ったカードの動きを考えて踊る。 ○ペアグループで見せ合い、アドバイスをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと ・友達のよい動き <p>4～5 表したい忍者のイメージで動きを工夫し、小作品にして踊って楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○忍者に変身し太鼓に合わせて動く。 <ul style="list-style-type: none"> ・走って→止まる→見る→見る→見る ・走って→跳んで→止まる ・走って→跳んで→回る ○グループを作る。 ○表したい忍者のイメージやグループのめあてを話し合う ○動きを工夫し、小作品にして踊る。 <ul style="list-style-type: none"> ・忍者学校の日 ・忍法〇〇の術 ・赤影対青影の対決 ○グループでお互いに見せ合い、アドバイスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忍者の絵を見せ、忍者はどうしてこんな格好をしているのか問いかけるなどしてイメージを湧かせる。 ・初回なので時間を十分にとって心と体をほぐすようにする。アップテンポな音楽に合わせて行う。 ・八つ切り画用紙を半分にしたものと太ペンを配布し児童とともにカードを作る。絵が入るとさらにイメージがよく湧く。 ・床に広げられたカードをめくり、そのカードからイメージされるものを思い付くまま踊ることを知らせる。 ・体育館の床全体にカードを裏返して広げさせる。 ・忍者のイメージが湧きやすい音楽を流す。 ・カードからカードへ移動する際は、前のカードの動きを繰り返しながら次のカードへ移動させる。 ・カードはめくって見たら、元通り裏返しておくようにさせる。 ・軽快な曲に合わせて自由に踊ったり、毎時間違うペアと自由にかかわって踊ったりすることで踊りの世界に入り込みやすくする。 ・忍者のイメージが湧きやすい音楽を流す。 ・動きを誇張し、体いっぱい使って顔までなりきって踊るよう助言する。 ・始めと終わりのポーズを決め、その間に中心となる動きを繰り返して入れ、ひと流れの動きを作ることを知らせる。 ・2時と3時はグループのメンバーを変えて行う。 ・2グループでペアグループを作り、互いに見せ合って、相手グループのよい動きや改善するよい点などについてアドバイスさせる。 ・イメージ豊かな動きをしていたり、動きの掛け合いができていたりするグループを紹介する。 ・動きの言葉掛けをする。 ・友達のよい動きを見たり、まねしたりさせる ・いろいろな方向に向かったり、高さを変えたりするよう助言する。 ・2～4人グループ。 ・学習カードに記入させる。 ・「はじめ」「なか」「おわり」の3場面にしてお話を作らせる。 ・場面が急変するお話にしたり、スローモーションやコマ送りなどリズムを変えたりすると動きに変化が出る。 【評】動きを工夫し、小作品にして踊る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】協力して練習したりよさを認め合ったり

<ul style="list-style-type: none"> ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・反省と次時のめあての把握 6 発表をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○発表する順番を決める。 ○グループごとに作品の練習をする。 ○発表をする。 ○単元のまとめをする。 	<p>する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい作品の観点を知らせ、その観点を意識して練習させる。 <ul style="list-style-type: none"> ＜よい作品の観点＞ 正面がはっきりしている 場所を広く使っている 楽しく精一杯踊っている 目、首、背中、手、足、指などを意識して動かしている 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。 ・感想の発表や、学習カードによる自己評価などをさせる。
--	--

【 備 考 】

表現運動は、自己の心身を解放し、リズムやイメージの世界に浸り、なりきって踊る楽しさを味わうとともに、互いの違いやよさを生かし合い、仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

中学年の児童は、多様なものへの探求心がおう盛でエネルギーに活動する時期でもある。そのため表現に関しては現実的な題材よりも、空想の世界で未知の想像が広がる題材の方が関心も高く魅力的である。

そこで、本単元では忍者を題材として取り上げた。変幻自在に動き回る忍者は、変身したいという欲求を十分満たし、多様なとらえ方ができる内容をもっているため、自由にイメージを広げながら踊って楽しむことができる。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・題材の特徴を捉えることが苦手な児童には、題材の多様な場面を絵や文字で描いたカードをめくりながら動くなどの配慮をする。
- ・動きの誇張や変化の付け方が苦手な児童には、動きに差を付けて誇張したり、急変する動きで変化を付けたりして踊っている友達の動きを見合い、真似をするようにするなどの配慮をする。
- ・ひと流れの動きにすることが苦手な児童には、気に入った様子を中心に、動きが急変する場面の例を複数挙げて動いてみるなどの配慮をする。

単元名 器械運動(マット運動)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) マット運動では、その行い方を知るとともに回転系や巧技系の基本的な技をすることができる
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や機械・器具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100203_001

【準備等】 マット、学習カード、カラーコーン、セーフティーマット、踏切板、跳び箱など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 マット運動の内容とねらいを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★いろいろな前転、後転をしよう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成する。 ○マット運動に関連した体ほぐしの運動をする。 <p>○マットでできるいろいろな運動を行い、課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆりかご、前転、後転、ブリッジ、首倒立、カエル倒立など <p>2～3 いろいろな場で、前転や後転をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○いろいろな場での前転や後転をする。 <p>＜場の例＞</p> <p>坂道マット（踏切板などを入れて） 高マット（マットを重ねて） 細いマット 物（赤白帽子やボールなど）を手前に置いて跳び越す ふわふわマット（セフティーマット） 重ね段マット（ずらして重ねて段のあるマット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省し、まとめをする。 ・できばえ、グループでの協力 <p>4～5 新しい技や繰り返し技、組み合わせ技をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○新しい技を練習する。 ・開脚前転、開脚後転、腕立て横跳び越しなど <p>○グループで一緒に技を繰り返したり、組み合わせたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめをする。 ・できばえ、協力 <p>6 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○自分たちの考えたグループでの技を練習する。 <p>○発表をする。</p> <p>○単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ5～6人程度がよい。 ・＜体ほぐし運動の例＞ くまさん歩き（手をついて腰を高く上げて歩く）、うさぎとびおにごっこ（しゃがんでジャンプをしながらおにごっこ）、カエルの足打ち（手を前に着き、両足を空中で合わせる）、ワニさん歩きリレー（足を伸ばし両手を着き、体を前に進ませる。）、ゆりかご、ブリッジ、首倒立など ・学習カードにできた技をチェックさせる。 <p>・いろいろな場での前転や後転を経験し、回転感覚を身に付けるようにする。 【評】いろいろな場で前転や後転をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ステップに合わせた練習の場を準備する。 ・安全に気を付けて練習しているか観察し、必要に応じて助言する。 ・相談しながら技を繰り返したり、組み合わせたりすることで、楽しく習熟を図る。 【評】練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・グループで数人が一緒に演技をしてもよいことを伝える。 ・個々の技能に合わせて、発表する技を選ばせるようする。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。 【評】発表会を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【備 考】

マット運動は技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。すべての児童が運動の楽しさや、喜びに触れることができるよう、技に関連した易しい運動遊びを取り入れたり、場や条件を段階的に設け繰り返し練習していけるよう工夫したい。そこで、遊びながら身体感覚を身に付け、それを基に技の習熟ができるよう授業時間の前半に、逆さ感覚や回転感覚、腕支持感覚が身に付くような身体感覚づくりを取り入れた。遊びの中で必要な身体感覚を習得し、それを基に授業の後半で基本的なマット運動の技術の習熟を図れるようにした。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・前転が苦手な児童には、ゆりかごなどの体を揺らす運動遊びや、かえるの逆立ちなどの体を支える運動遊びに取り組んだり、傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりするなどの配慮をする。

単元名 保健「毎日の生活とけんこう」

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 健康な生活について理解することができる。
 (2) 健康な生活について課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現することができる。
 (3) 健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

03100204_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 保健学習についてのオリエンテーションを行い、健康な生活について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健学習のあらましを知り、見通しをもつ。 ★健康な生活の仕方について考えよう。 健康な状態について学習する。 健康な状態が生活の仕方や生活環境によって成り立っていることを知る。 <p>2 1日の生活の仕方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日を健康に過ごすためにどのような生活を送ればいいのかを考える。 毎日の生活を振り返る。 自分の生活を振り返って気が付いたことを発表する。 健康な生活のためには「生活リズム」が重要であることを知る。 今日からどのようなことに気を付けて生活するか考える 学習のまとめをする。 <p>3 体の清潔について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手を洗う意味を考える。 手やTシャツについての資料や写真を見ながら汚れについて考える。 毎日の生活の中では、体をせいかつにするために、どのようなことをしているのか考える。 清潔に過ごす方法を考える。 学習のまとめをする。 <p>4 健康によい生活環境について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康で気持ちのよい生活環境について考える。 部屋の換気について考える。 部屋の明るさについて考える。 今日からどのようなことに気を付けて生活するか考える 学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めての保健学習に当たり、健康や安全について考え、理解していくことを知らせる。教科書もくじ1を見て学習の見通しをもたせる。 教科書P 6, 7の絵を見て、絵の中から生活場面で健康に関係する事柄を想像させ、意欲を高める。 教科書P 8の「活用して深めよう」に考えを書き込ませる。 教科書P 10, 11の「やってみよう」に自分の毎日の生活を振り返り、書き込ませる。 教科書P 11の「話し合ってみよう」に考えたことを書き込ませる。一人一人の気付きを大切に話し合わせる。 【評】気が付いたことを発表する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する 毎日を健康に過ごすためには、規則正しい生活を行うことが大切であることに気付かせる 食事、運動、休養、睡眠がかかわっていることを知らせる。 教科書P 14の「やってみよう」に丸を付けどんな時に手を洗っているのかを考えさせる 教科書P 19の「手やハンカチのせいかつ」を参考にさせる。 気が付いたことを発表させる。 【評】資料や写真を見ながら汚れについて考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 教科書P 15「話し合ってみよう」に記入させてから話し合いをする。 規則正しい生活や体を清潔にすることが、健康に過ごすために必要なことを知らせる。 部屋の明るさの調整や、換気などを中心に学習することを知らせる。 教科書P 16「話し合ってみよう」に記入させてから話し合いをする。 1時間に一度は10分ぐらい窓やドアを開けて、部屋の空気の入れ換えそすることが大切なことを知らせる。 教科書P 17を見て、どのように整えればよいのかを話し合いをさせる。 明る過ぎても暗過ぎても目に負担がかかることを知らせる。 教科書P 15学校での保健活動についてでもふれ、健康な生活を守るために様々な人が活動していることを伝える。 【評】学習まとめをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

健康を保持増進するには、健康によい生活を毎日送ることが大切である。健康の大切さを認識させるとともに、健康の保持増進には1日の生活の仕方が深くかかわっていることや、体を清潔に保ち生活環境を整えることが必要であることを理解させる。また、日ごろ児童が気が付かないでいる健康を保持増進するための保健活

動（健康診断・相談活動・環境点検など）にも目を向けさせる。

単元名 走・跳の運動(幅跳び)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 幅跳びでは、その行い方を知るとともに短い助走から踏み切って跳ぶことができる。
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫することとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。短い助走から調子よく踏み切って跳ぶことができる。

標準的な展開例

03100205_001

【準備等】 巻き尺、跳び箱、踏み切り板、ロイター板、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 幅跳びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★体の動きを工夫して遠くに跳び、友達と競ったり自分の記録に挑戦したりしよう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○幅跳びに関連した体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2～3人組で手をつないで走る。 ・鬼遊び ・川跳び鬼遊びなど。 ○立ち幅跳びの記録を計測し、自分の目標記録を決め、めあてをつかむ。 ○グループを編成する。 <p>2～3 いろいろな跳び方をしたり、助走して踏み切った後いろいろなポーズをとって跳んだりして楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・片足連続跳び(ケンケン) ・ケンパー跳び ・三段跳び ・川跳び ・踏切板を使って高く跳ぶなど。 ○踏み切った後とさまざまなポーズを取って跳ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・手をたたく ・片方(両方)の腕を伸ばして高く上げる ・片方の膝を上げる ・両方の膝を抱え込む ・両腕を広げたまま、体を反る ・くの字に体を曲げる ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・態度・次時のめあての把握 <p>4～5 助走や体の動きを工夫して、できるだけ遠くに跳ぶことに挑戦したり、友達と競争したりして幅跳びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○助走距離を変えて跳ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・3歩、5歩、7歩、9歩助走からの踏み切り ・5m、10m、15m助走からの踏み切りなど ○いろいろな踏み切りの場で跳ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ミニハードルを跳び越えて ・跳び箱ジャンプ ・踏切板ジャンプ ○跳躍距離の競争をするためにルールを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・場の使い方・勝敗の決め方 ○跳躍距離の競争をする <ul style="list-style-type: none"> ＜競争の例＞ <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の個人戦(第4時) ・グループ対抗戦(第5時)など 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠くへ跳ぶことに挑戦し、友達と競争をしたり自分の記録に挑戦することを知らせる。 ・目標記録と実際に跳んだ記録の比較、めあて反省などが記入できる学習カードを準備しておく。 ・鬼遊びをするスペースに川を作り、川跳びをしながら鬼遊びをさせる。 ・2回測定し、よい方の記録を取る。 ＜目標記録の例＞ 立ち幅跳びの記録×(1.7～2倍) ・クラスを偶数グループ(1グループ5～6人程度。立ち幅跳びの記録の総和が同じになるように)に分ける。 ・跳躍距離を伸ばすことよりも、自分の体を自由に動かして、ジャンプする楽しさを味わわせる。 ・体のバランスのために片足跳びは左右両方行うとよい。 ・三段跳びは左左右や右右左のリズムで踏み切って砂場に跳ぶようにさせる。 ・短い助走から、跳び箱や踏み切り板を用いて跳ばせる。踏切板を用いると、より高いジャンプがしやすくなり、走り幅跳びの空中動作に類似したポーズをとりやすくする。 ・簡単なものから複雑な動きへと変える。 ・友達との競争を取り入れ、楽しみながら学習が進められるようにする。 ・どの距離からの助走が一番遠くへ跳ぶことができたか各自で確認させる。 ・調子よく跳んだり、体を巧みに操作しながら跳んだりしている友達のよい動きに目を向けさせる。 【評】助走や体の動きを工夫して遠くに跳ぶことに挑戦する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ＜ルールの例＞ 勝敗：グループの記録の合計、1対1の対抗戦(何勝何敗) 場：踏み切り板を使う、踏み切り板を使わない 助走距離：自由、固定など 【評】跳躍距離の競争をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- 反省し、まとめをする。
 - ・ 態度・次時のめあての把握 など
- 6 競技会をする。
 - 体ほぐしの運動をする。
 - 競技会の進め方やルールを確かめる。
 - 助走・踏み切り練習をする。
 - 競技会をする。
 - 単元のまとめをする。

- ・ 学習のまとめとして競技会を行う。
- ・ 踏み切りゾーン（30～40cm幅）を作って行う。
- ・ <ルールの例>
 - 踏み切りゾーンに足がかかっていたら成功試技とする
 - 試技は3回
 - 各自の適した助走距離から走る
- 【評】 競技会を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 目標記録と比較し、学習の成果を確かめさせる。

【 備 考 】

幅跳びは、仲間と競い合う楽しさや、調子よく走ったり跳んだりする心地よさを味わうことができる運動である。走ったり跳んだりすること自体の面白さ・心地よさを引き出す指導を基本にしながら、どのような力をもった児童においても競争に勝つことができたり、意欲的に運動に取り組むことができたりするように、楽しい活動の場の工夫をすることが大切である。まず、いろいろな跳び方や空中姿勢のとり方について体験させる。そして、助走・踏み切り・空中姿勢などの動きを身に付けるための場で練習を進めながら、友達との競争を楽しむという学習活動を設定した。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・ 踏み切り足が定まらず、強く前方へ跳ぶことが苦手な児童には、3～5歩など、短い助走による幅跳びをしたり、「トン・トン・ト・ト・トン」など、一定のリズムの助走からの幅跳びを行ったりする場を設定するなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ゴール型ゲーム)ポートボール

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100206_001

【準備等】 バスケットボール、ミニバスケット用ゴール、ポートボールの台、学習カード、対戦表など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ゴール型ゲーム(ポートボール)のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★ルールを工夫してゲームをしよう。 <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <p>○チームを編成する。</p> <p>○試しのゲームをし、課題をつかむ。</p> <p>2～4 簡単なルールで、ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型ゲーム(ポートボール)に関連した体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 <p>○チームの課題を話し合う。</p> <p>○第1ゲームをする。</p> <p>○反省し、練習をする。</p> <p>○第2ゲームをする。</p> <p>○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、ルール、マナー </p> <p>5～7 ルールを工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○対戦相手と、ルールについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ＜工夫したルールの例＞ ダブルドリブルOK 得点エリアの設定 ＜工夫した場の例＞ ドーナツゴール、エンドゴール、二重ゴール ○チームの課題を話し合う。 <p>○第1ゲームをする。</p> <p>○反省し、練習をする。</p> <p>○第2ゲームをする。</p> <p>○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、練習、ルール </p> <p>8, 9 ポートボール大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポートボール大会をする。 <p>○単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手を使ったゴール型ゲームとして、ハンドボールなども考えられる。 ・攻守が入り交じって行うゲームの特性を理解させる。 <p>通常のポートボールのルールや場にとらわれず、児童の実態に合わせて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1チーム4～7人、男女混合で編成する。 ・1試合各7分で1～2試合行う。 <p>・毎時間必ず行うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数のチームと対戦することを知らせる。 ・オープンコートの基本とするが、ボールに集まってしまう場合などはグリッドコートを使用してゲームを進めても良い。 ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの結果や反省の様子から、チームの課題に沿った動きができていないチームやままりのあるチームを紹介し称賛する。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】 チームで協力してゲームをする活動をとって、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じチームと2ゲーム行うことを知らせる。 ・相手チームとの話し合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 <p>【評】 チームに合っためあてをもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 ・練習の成果を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・試合方法は、学級の実態に応じて決める。 <p>【評】 ポートボール大会を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

本単元では、ゲームを中心として簡単なボール扱いや攻め方、守り方を身に付けみんながシュートを楽しめるようにする。ポートボールのルールに合わせて学習をするのではなく、実態に合ったルールでゲームを構築し、学習する楽しさ、喜びを味わわせる。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・パスを出したり、シュートをしたりすることが苦手な児童には、ボールを保持する条件を易しくするとともに、ボールを保持した際に周囲の状況が確認できるように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ゴール型ゲーム)タグラグビー

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
 (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100207_001

【準備等】 タグラグビーボール、学習カード、カラーコーン、タグセット（タグと腰ベルト）、ゲームベストなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ゴール型ゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームに合った作戦を選び、ルールを工夫してゲームを楽しもう。 ○マナーや安全の運動の仕方について知る。 ○学習カードの使い方を知る。 ○チームを編成し、役割を分担する。 ○タグラグビーに関連した体ほぐしの運動をする。 ○試しのゲームをする。 <p>2～4 簡単なルールで、タグラグビーを基にした簡易化したゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型ゲームに関連した体ほぐしの運動をする。 ねことねずみ、タグ取り鬼、ボール運びリレーなど ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○第1ゲームをする。 ○全体で振り返り、ルールを整える。 ○第2ゲームをする。 ○反省しまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー <p>5～8 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○対戦相手とマナーやルールについて話し合う。 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習、ルール <p>9 タグラグビー大会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーグ戦やトーナメント戦で、タグラグビー大会を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・陣地を取り合うゴール型のゲームであること特性を理解させる。攻守の交替は、ボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数取ることができれば交替。この単元では、タグの取り方や取られたら止まることをしっかり押さえておきたい。 ・ボールを持っているプレーヤーのタグを取る時には「タグ！」を大きな声を出すことはマナーである。 ・1チーム4～7人、男女混合で編成する。 ・チームは4～8チームをつくる。コートは4チームで1コートあるとよい。 ・ラン、パス、フォローについて簡単なゲームを行う。 ・色々なチームと対戦することを知らせる。 ＜ルールやコートの例＞ 守備側のプレーヤーを少なくする。コートの幅を狭くするなど。 ・ゲームの内容を受けて、学級全体でルールを整えていく。 ・第1ゲームとは違うチームで対戦をさせる。 ・第1ゲームとは違うチームで対戦をさせる。 【評】チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じチームと2ゲーム行うこと知らせる。 ・相手チームとの話合いでマナーやルールの確認をする。必要に応じてルールを変更していく。 ＜ルールの工夫の例＞ 攻守交替になるボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数を変更するなど。少なくすれば攻守交替が早くなるが、トライが決めにくくなる ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・練習の成果を確認させる。 ・チームに合った作戦を立てさせる。 チームでの話合いや学習カードによる自己評

○単元のまとめをする。

価などをさせる。
【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、コート内で攻守入り交じって、ボールを手や足でシュートしたり、空いている場所に素早く動いたりする易しいゲーム及び陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むなどの易しいゲームをすることである。

タグラグビーは、「陣地を取り合うゲーム」であるため、得点を決めるためには、シュートではなくボールを持ってトライゾーンに走りこむことで得点となる。そのためボール操作であるシュートやドリブルの必要がない。ボールが扱いにくいようであったらボールをクッションやぬいぐるみなど扱いやすいものに変えることも必要である。守り側は、ボールを持っているプレーヤーのタグを取ることでそのプレーヤーの動きを止めることができるので、タグを取ろうとすると身体接触をすることがある。そのため、しっかりと爪を切らせておくことが必要である。また、ボールを持っているプレーヤー側にも守りのプレーヤーを避けるようにして進まなければならないことを安全管理のために子どもたちにしっかり確認しておく必要がある。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・パスを出したり、シュートをしたりすることが苦手な児童には、ボールを保持する条件を易しくするとともに、ボールを保持した際に周囲の状況が確認できるように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。
- ・ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することが苦手な児童には、守る者の位置を見るように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。

単元名 体づくり運動(多様な動きをつくる運動)なわとび

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 多様な動きをつくる運動では、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせることができる。
- (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場の用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100208_001

【準備等】短なわ、長なわ、学習カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 なわとび運動のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★今までの跳び方で楽しんだり、新しい跳び方に挑戦しよう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成する。 <p>○なわとびゲームをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なわを巧みに操作して、跳んだり、続けて長く跳んだりするなわ跳び運動の特性を理解させる。 ・1グループ5～10人、男女混合で編成する ・跳べない子もできるだけ一緒に参加できるゲームを行う。 <なわとびゲームの例> 1分間なわとび、なわとびリレー(前の人がひっかかったら次の人が跳ぶ)、なわとびおにごっこ、フラフープなわとび、くるくるジャンプ(一人が回転しながらなわとびを低くまわしてそれをジャンプする)
<p>2～4 なわとび運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なわとび運動に関連した体ほぐしの運動をする。 ○短なわとびを工夫して楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・前跳び、後ろ跳び、片足跳び、交差跳び ○長なわとびを工夫して楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・8の字跳び、全員跳び ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、できるようになった跳び方 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間必ず行うようにする。 ・個人で楽しむだけでなく、数人で一緒に跳んだり、タイミングを合わせて跳んだりするなどグループで工夫をして行わせる。 【評】短なわとび運動に取り組む活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・大なわの回し方のポイントなども指導する。 【評】なわとびを工夫して楽しむ活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
<p>5～6 なわとび大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○グループ対抗のなわとび大会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・短なわとび、長なわとび ・グループ対抗戦、個人戦 ○反省し、まとめをする。 ○第6時は、単元のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、できるようになった跳び方 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで練習をしてきた跳び方などを参考に、大会の種目を設定する。 ・グループでの話合いや、学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

体づくり運動の中の、多様な動きをつくる運動は、体のバランスをとったり移動をしたりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを意図的に育む運動である。これらを通して、体の基本的な動きを総合的に身に付けるとともに、それらを組み合わせた動きを身に付けることをねらいとして行う運動である。本単元では用具として短なわや長なわを使った運動を通して、様々な動きを体験させたいと考えた。そこで、なわとびゲームでチームの記録を伸ばすことに意欲的に取り組ませることにより、新しい跳び方を身に付けたり、今できる跳び方の習熟度を高めたりすることができるようにした。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・用具を跳ぶ動きが苦手な児童には、踵を上げて跳ぶことや手首の使い方がつかめるよう、用具を持たずにその場で跳んだり、弾みやすい場所で行ったりするなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ネット型ゲーム)プレルボール

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) ネット型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをすることができる。
 (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100301_001

【準備等】ソフトバレーボール、ライトバレーボール、ドッジボール、カラーコーン、バトミントン用支柱ネット、ゴムひも、得点板など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ネット型ゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★ルールを工夫してゲームをしよう。 ＜ルールの例＞ 自陣にバウンドさせてから味方にパスをしたり相手コートに返したりする。 片手や両手を握ってボールを打ちつける。 時間制（5～8分）で得点を競う。 必ず3回で相手コートに返す。 バトミントンコートのラインを使用する。 ネットの高さは50cm。 <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <p>○チームを編成する。</p> <p>2～4 簡単なルールでゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プレルボールに関連した体ほぐしの運動をする。 ○ドリルをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・1人で投げ上げキャッチ、強くたたきつけてキャッチ 2人組でのバウンドパス、チームでのバウンド円陣パス げんこつでバウンドさせる、両手で、片手で ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <p>5～6 プレルボール大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○ゲームをする。（活用） ○第6時は、単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットをはさんでラリーを続けたり、ボールをつないだりして行うゲームの特性を理解させる。 通常のソフトバレーボールのルールや場にとらわれず、児童の実態に合ったルールや場で行う。 ＜ルールや場の例＞ ボールを軽量のビニールボールにする。 両手や平手で打ってもよいことにする。 2回目のボールはキャッチしてもよいことにする。 ネットの高さを低くする。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・ボールを打ったり、ボールに合わせて自分が動いたりする運動を行う。 ・バウンドさせたり、パスをしたりして基礎技能習得のためのドリルをする。 【評】チームで協力して練習を行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・児童の実態とゲームのルールや場が合っているかを観察し、確認する。 ・課題が立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題にそった動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 【評】チームに合った練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 ・チームに合った作戦を立てさせる。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

ネット型のゲームはネットで区切られたコートの中で攻防を組み立て、一定の得点に早く達することを競い合うことを課題としたゲームである。プレルボールは自陣の床にこぶしまたは前腕を用いてボールを打ちつけ、味方にパスをしたり、自陣のコートにボールを打ちつけて低いネットを越し、相手のコートにボールを返したりするゲームである。本単元では、プレルボールを基として簡易なゲームを行うこととする。ネット型ゲームの導入として行うため、平手打ちや両手打ちを許容し、チームの人数、ネットの高さ、コートの大きさなどを工夫することで子どもたちに楽しさを味わわせていく。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・いろいろな高さのボールを片手、両手もしくは用具を使ってはいじったり、打ちつけたりすることが苦手な児童には、飛んできたボールをキャッチして打つことを認めるなどの配慮をする。
- ・ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることが苦手な児童には、プレイできるバウンド数を多くしたり、飛んできたボールをキャッチしてラリーを継続したりするなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ネット型ゲーム)ハンドテニス

配当時間 6時間

単元の目標 (1) ネット型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをすることができる。
 (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100302_001

【準備等】ミニテニスボール（少し大きめの柔らかい素材のボールなど）、段ボール等での自作ラケットなど、学習カード、学習資料など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ネット型ゲームのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。 ★ルールを工夫してゲームをしよう。</p> <p>○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <p>○チームを編成する。</p> <p>2～4 簡単なルールでゲームを楽しむ。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 ・2人組でネットをはさんでのボール交換、近い距離からだんだん遠く離れて行うなど。</p> <p>○ゲームの進め方の確認をする。 ・ルール、マナー、対戦相手</p> <p>○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。</p> <p>○第2ゲームをする。</p> <p>○反省し、まとめをする。 ・課題、作戦、ルール、マナーなど</p> <p>5～6 ハンドテニス大会をする。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。 ○ハンドテニス大会をする。</p> <p>○第6時は、単元のまとめをする。</p>	<p>・ネットを挟んで、ラリーを続けたり、ボールをつないだりして行うゲームの特性を理解させる。</p> <p>・用具は、段ボール等を手のひら大サイズに加工したものを使用する。また、ボールを手のひらで打つハンドテニスとして用具を使用せずに手をラケットかわりにして行ってもよいとする。</p> <p>・〈ルールや場の例〉 コートはバドミントンコートのサイズを目安とする。 1チーム1～3試合行う。（ダブルス） 1試合6分（2分×3ゲーム）程度行う。ダブルスの交代制で行う。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。</p> <p>・ストロークなど、しっかりボールをとらえられるようにルールを簡易化したゲームを行う</p> <p>【評】チームで協力して練習を行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・〈ルールの例〉 サープはどこから打ってもよい、ネットの高さを調整する（コーンバーで作成する）など</p> <p>・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。</p> <p>【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>・チームに合った作戦を立てさせる。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。</p>

【 備 考 】

ネット型ゲームでは、用具などを使ったゲームの例示として、バドミントンやテニスを基にした簡易化されたゲームが示されている。ハンドテニスは、ネットを挟んで攻撃と防御が一体となるゲームである。その中でラリーゲームを中心に、自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。用具は、段ボール等を手のひら大サイズに加工・補強したものを使用するか、手のひらで直接打つゲームとする。またボールは、テニスボールより少し大きめの柔らかい素材のボールを使用する。ネットに関しては、コーンバーで設置したり、体育館で行う場合はバドミントンの支柱とネットで高さを調整したりして使用する。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることが苦手な児童には、プレイできるバウンド数を多くしたり、飛んできたボールをキャッチしてラリーを継続したりするなどの配慮をする。

単元名	体づくり運動(多様な動きをつくる運動)体を移動する運動・かけ足	配当時間	5時間
単元の目標	(1) 多様な動きをつくる運動では、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせることができる。 (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動に進んで取り組み、決まりを守り進んで誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

03100303_001

【準備等】学習カード、カラーコーン、ストップウォッチ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 かけ足のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 ★自分にあったペースで3分間走をしよう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○2分間の集団走をする。 ○計測するペアを決める。 ○試しの3分間走をする。 ○自分のペース（1分ごとの走行距離）や目標距離（3分間の走行距離）を決め、学習カードに記入する。 2～4 自分に合ったペースをつかみ、かけ足をする。 ○体ほぐしの運動をする。 ・鬼遊び、ジグザグ走、おんぶして歩く、背中ずもうなど ○フォームや呼吸法を確認する。 ・足をあまり高く上げない ・肩に力を入れずに腕を振る ・鼻から吸って口から吐く ・4歩1呼吸 ○2分間の集団走をする。 ○ペアでめあてを確認する。 ・1分ごとの走行距離、目標距離など ○3分間走をする。 ○反省し、次のペースや目標距離を決める。 5 かけ足記録会をする。 ○体ほぐしの運動をする。 ○3分間の集団走をする。 ○3分間走の記録会を行う。 ○単元のまとめをする。	・無理のない一定の速さでかけ足をすることを知らせる。 学年、学級の実態に応じて4分間走を行ってもよい。 ・トラックに10mごとにカラーコーンを立てペアの児童に1分ごとの走行距離を記録させる。 ・試走の結果から考えさせる。 ・準備運動として、鬼遊びを続けて長く行ったり、力試しの運動などをさせたりする。 ・ペアで見合いながら気を付けさせる。 声を掛け合い励まし合うよう助言する。 【評】 ペアで協力し合って練習する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】 自分にあったペースで走る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ペアでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。 ・ペアで走り方を確認させる。 ・自分の目標記録を決めてそれを目指して行わせる。 ・走るペースが合っているか、ペアが声を掛け自分のペースで走ることができるようにさせる。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

体づくり運動の中の、多様な動きをつくる運動では、体のバランスをとったり移動をしたりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを意図的に育む運動を通して、体の基本的な動きを総合的に身に付けるとともに、それらを組み合わせた動きを身に付けることをねらいとして行う運動である。本単元では体を移動する運動として一定の速さでのかけ足を中心に構成した。また、力試しの運動として人を押したり引いたりする力比べや、人を運んだり支えたりする運動も行う。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・一定の速さで続けて走ることが苦手な児童には、リズムよくしっかりと息を吐きながら、続けることができる速さで行うことを個別に助言するなどの配慮をする。

単元名 器械運動(跳び箱運動)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 跳び箱運動では、その行い方を知るとともに切り返し系や回転系の基本的な技をすることができ
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100304_001

【準備等】跳び箱、マット、踏み切り板、ビデオ、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 跳び箱運動の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★跳び箱を跳び越したり、台上前転をしたりして楽しもう ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○体ほぐしの運動をする。 ○試しの運動をし、めあてをつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・またぎ越し ・踏み越し ・支持で跳び上がり、跳び下り ・支持でまたぎ乗り ・支持でまたぎ下り ・支持でまたぎ越し、横とび越し ・支持でかかえこみ跳び越し <p>2～3 今できる跳び越し方で楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○本時のめあてや練習方法を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・開脚跳び ・大きな開脚跳び ○自分の力に合った場で練習する。 ○反省し、学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、態度、次時のめあて <p>4～5 台上前転に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○本時のめあてや練習方法を確認する。 ○自分の力に合った場で練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・台上での回転の感覚づくり、マットを積み重ねた上、巻いたマット、マットをかけた跳び箱 ・着地の感覚づくり <p>舞台の上のマットから舞台下のセーフティマットの上のマットへと下りての着地 低い跳び箱を2つ連結したものから前転してマットへの着地</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、態度、次時のめあて <p>6 発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする ○演技種目の練習をする。 ○発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオや示範、学習カードなどで技を紹介し学習意欲を高める。 ・技のポイントや練習方法などを例示しておく ・器具が速やかに準備できるよう分担しておく ・腕による体の支持や腕を支点にした体重移動等の感覚を体験させる。 <体ほぐしの運動の例> カエル足打ち、うさぎとび（できるだけ手を前に着き体を伸ばして行う）、うまとび、跳び下り、前転など ・5～6歩助走で3～4段を跳び越させる。 ・支持でのまたぎ越しでは、両足で踏み切り、膝を柔らかく曲げて安全に着地しているか観察し助言する。 ・学習カードを基に、できる技を確認させ、自分に合っためあてをつかませる。 ・テンポよく毎時間継続的に行わせる。 ・開脚跳びができる児童には、段の数を増やした跳び箱や、向きを横から縦にした跳び箱に挑戦させる。 ・児童の能力に合わせた場を工夫し、挑戦する意欲が継続していくよう配慮する。 <場の例> マットを丸めたものを跳ぶ。 堅めのスポンジ跳び箱を跳ぶ。 跳び箱にマットをかぶせたものに跳び乗るなど 【評】安全に気を付けて進んで練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・台上前転をすることを伝える。 ・手の位置や踏み切るときの跳ぶ方向、助走のスピードなどすべてが切り返し系の技（開脚跳びなど）と違うということを、知らせる。 ・児童の恐怖心を取り除くような場を設定し、台上で回転する感覚をつかませる。 ・自分の力に合った場で練習しているか、安全に気を付けているかなど観察し、必要に応じて助言する。 【評】自分の力にあった場で練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・単元のまとめとして発表させる。 ・発表する跳び箱にマットをかけたり、跳び箱の横にマットをしいたり、補助者を付けたり

○単元のまとめをする。

した易しい場を用意し、完全なできばえでなくてもできたことを認め、発表させる。

【評】発表会を通して、「知識・技能」を評価する。
・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

跳び箱運動は技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。すべての児童が運動の楽しさや、喜びに触れることができるよう、技に関連した易しい運動遊びを取り入れたり、場や条件を段階的に設け繰り返し練習したりできるよう工夫したい。そこで、遊びながら身体感覚を身に付け、それをもとに技の習熟ができるよう授業時間の前半に、手で体を支える動き、思い切り踏み込む動き、柔らかく着地をする動きなどが身に付くような身体感覚づくりを取り入れた。遊びの中で必要な身体感覚を習得し、それをもとに授業の後半で基本的な跳び箱運動の技術の習熟を図れるようにした。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・開脚跳びが苦手な児童には、マットを数枚重ねた上に跳び箱1段を置いて、手を着きやすくしたり、跳び越しやすくしたりして、踏切り?着手?着地までの動きが身に付くようにするなどの配慮をする。
- ・台上前転が苦手な児童には、マットを数枚重ねた場で前転したり、マット上にテープなどで跳び箱と同じ幅にラインを引いて、速さのある前転をしたり、真っ直ぐ回転する前転をしたりして、腰を上げて回転する動きが身に付くようにするなどの配慮をする。
- ・首はね跳びが苦手な児童には、マットを数枚重ねた場や低く設置した跳び箱、ステージなどを利用して体を反らせてブリッジをしたり、場でつくった段差と補助を利用して首はね起きを行ったりしながら、体を反らしてはねたり、手で押したりする動きが身に付くようにするなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ゴール型ゲーム)サッカー

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
 (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100305_001

【準備等】 サッカーボール、学習カード、カラーコーン、ハードル、対戦表 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ゴール型ゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームに合った作戦を選び、ルールを工夫してゲームを楽しもう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。 ○試しのゲームをする。 <p>2～4 簡単なルールで、ゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型ゲームに関連した体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナー <p>5～8 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○対戦相手と、ルールについて話し合う。 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習、ルール 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻守が入り交じり、主に足を使って行うゲームの特性を理解させる。 通常サッカーのルールや場にとらわれず、児童の実態に合ったルールや場で行う。 ＜ゲームの例＞ ラインサッカー、ミニサッカーなど ・1チーム4～7人、男女混合で編成する。 ・＜試しのゲームの例＞ 2ボールサッカー、4ゴールサッカー、ラッキーゾーンサッカー、ノーラインサッカーなど ・毎時間必ず行うようにする。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる ・児童の実態とゲームのルールや場があっているかを観察し、確認する。 ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームのめあてに沿った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 【評】 いろいろなチームとゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・練習の成果を確認させる。 ・同じチームと2ゲーム行うことを知らせる。 ・ねらい1の学習をもとに、相手チームとの話し合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。 ＜工夫したルールの例＞ だれでもフリーゾーンは入れるようにする。 ボールを柔らかいスポンジボールにする。 サイドラインの外に手でボールを扱える人を作る。 ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に沿った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 【評】 チームにあっためあてをもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 ・練習の成果を確認させる。

- 9 サッカー大会をする。
- リーグ戦やトーナメント戦で、サッカー大会をする。
 - 単元のまとめをする。

- ・試合方法は、学級の実態に応じて決める。
- 【評】サッカー大会を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

ゴール型ゲームはコート内で攻守が入り交じり、手や足などを使って攻防を組み立て、一定の時間内に得点を競い合うことを課題としたゲームである。本単元では、ゲームを中心として簡単なボール扱いや攻め方、守り方を身に付けみんながシュートすることを楽しめるようにする。サッカーの正式なルールに合わせて学習をするのではなく、実態に合ったルールでゲームを構築し、学習する楽しさ、喜びを味わわせる。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・パスを出したり、シュートをしたりすることが苦手な児童には、ボールを保持する条件を易しくするとともに、ボールを保持した際に周囲の状況が確認できるように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。
- ・ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することが苦手な児童には、守る者の位置を見るように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ゴール型ゲーム)タグラグビー

配当時間 9時間

単元の目標 (1) ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
 (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100306_001

【準備等】 タグラグビーボール、学習カード、カラーコーン、タグセット（タグと腰ベルト）、ゲームベストなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ゴール型ゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームに合った作戦を選び、ルールを工夫してゲームを楽しもう。 ○マナーや安全の運動の仕方について知る。 ○学習カードの使い方を知る。 ○チームを編成し、役割を分担する。 ○タグラグビーに関連した体ほぐしの運動をする。 ○試しのゲームをする。 <p>2～4 簡単なルールで、タグラグビーを基にした簡易化したゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型ゲームに関連した体ほぐしの運動をする。 ねことねずみ、タグ取り鬼、ボール運びリレーなど ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○第1ゲームをする。 ○全体で振り返り、ルールを整える。 ○第2ゲームをする。 ○反省しまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー <p>5～8 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○対戦相手とマナーやルールについて話し合う。 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習、ルール <p>9 タグラグビー大会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーグ戦やトーナメント戦で、タグラグビー大会を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・陣地を取り合うゴール型のゲームであること特性を理解させる。攻守の交替は、ボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数取ることができれば交替。この単元では、タグの取り方や取られたら止まることをしっかり押さえておきたい。 ・ボールを持っているプレーヤーのタグを取る時には「タグ！」を大きな声を出すことはマナーである。 ・1チーム4～7人、男女混合で編成する。 ・チームは4～8チームをつくる。コートは4チームで1コートあるとよい。 ・ラン、パス、フォローについて簡単なゲームを行う。 ・色々なチームと対戦することを知らせる。 ＜ルールやコートの例＞ 守備側のプレーヤーを少なくする。コートの幅を狭くするなど。 ・ゲームの内容を受けて、学級全体でルールを整えていく。 ・第1ゲームとは違うチームで対戦をさせる。 ・第1ゲームとは違うチームで対戦をさせる。 【評】チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じチームと2ゲーム行うこと知らせる。 ・相手チームとの話合いでマナーやルールの確認をする。必要に応じてルールを変更していく。 ＜ルールの工夫の例＞ 攻守交替になるボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数を変更するなど。少なくすれば攻守交替が早くなるが、トライが決めにくくなる ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・練習の成果を確認させる。 ・チームに合った作戦を立てさせる。 チームでの話合いや学習カードによる自己評

○単元のまとめをする。

価などをさせる。
【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、コート内で攻守入り交じって、ボールを手や足でシュートしたり、空いている場所に素早く動いたりする易しいゲーム及び陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むなどの易しいゲームをすることである。

タグラグビーは、「陣地を取り合うゲーム」であるため、得点を決めるためには、シュートではなくボールを持ってトライゾーンに走りこむことで得点となる。そのためボール操作であるシュートやドリブルの必要がない。ボールが扱いにくいようであればボールをクッションやぬいぐるみなど扱いやすいものに変えることも必要である。守り側は、ボールを持っているプレイヤーのタグを取ることでそのプレイヤーの動きを止めることができるので、タグを取ろうとすると身体接触をすることがある。そのため、しっかりと爪を切らせておくことが必要である。また、ボールを持っているプレイヤー側にも守りのプレイヤーを避けるようにして進まなければならないことを安全管理のために子どもたちにしっかり確認しておく必要がある。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・パスを出したり、シュートをしたりすることが苦手な児童には、ボールを保持する条件を易しくするとともに、ボールを保持した際に周囲の状況が確認できるように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。
- ・ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することが苦手な児童には、守る者の位置を見るように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。

単元名	体づくり運動(体ほぐしの運動)	配当時間	4時間
単元の目標	(1) 体ほぐしの運動では、その行い方を知るとともに手軽な運動を行い、心と体の変化に気付いたり、みんなで関わり合ったりすることができる。 (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

04100101_001

【準備等】 ボール、輪、長なわ、短なわ、BGM（軽快な曲、静かな曲）、CDプレイヤー

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 体ほぐしの運動のねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 ・体ほぐしの運動の目的 ★仲間と楽しく運動をしながら、自分の体の状態に気付き体を動かす楽しさや心地よさを味わおう。 ○マナーや安全な運動の仕方について確認する。 ○体ほぐしの運動をする。 ・大根抜き、体でじゃんけん、人間知恵の輪、人間いすなど触れ合いの多いものを行う。 ○感想を話し合う。 2 体ほぐしの運動を行う。 ○クラスみんなで活動的な運動をする。 ・リズムに乗った律動的な運動、手をつないでダンスなど ○ゆったりと静的な運動をする。 ・2人組、3人組でストレッチング ・力を抜いてリラクゼーション ○気持ちを合わせて活動的な運動をする。 ・大根抜き、人間知恵の輪など ・ボール、輪、なわなどの用具を使った運動 ○感想を話し合う。 3～4 体ほぐしの運動を選んで行う。 ○今まで行ってきた体ほぐしの運動をグループで選んで行う。 ・自分や仲間の体や心の状態に合わせて ・行い方を工夫したい運動など ○協力し合いながら、選んだ運動を行う。 ○単元のまとめをする。 ・楽しかった運動、仲間とのかかわり、気付き	・楽しい雰囲気がつくれるようにする。 ・運動の得意、不得意に関係なく、誰でも楽しめる運動であることを伝え、安心して取り組めるようにする。 ・グループ対抗やチーム対抗などにしてゲーム要素を盛り込むとよいが、勝ち負けにこだわらないよう注意する。 ・グループやチームはいろいろと入れ替えながら行う。 ・楽しかった気持ちを共有する。 ・軽快な感じのBGMをかける。 ・静かな感じのBGMをかける。 ・仲間の動きを感じながら、無理をしないように助言する。 ・グループで協力して行う運動を取り上げる。 ・声を掛け合いながら行うよう助言する。 【評】仲間と活動的な運動に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・今まで行った運動の中から選んだり、ルールややり方を変えたりして行うことで、みんなで協力し、もっと楽しくできるようにすることを伝える。 ・楽しくできていたり、優しく声を掛け合っていたりするグループやペアを紹介する。 【評】選んだ運動を行う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・感想の発表やグループでの振り返りを行う。 ・楽しい気持ちを高め、共有できるように声かけをする。

【備 考】

体ほぐしの運動は、手軽な運動や律動的な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、自分の体の状態に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流したりすることができることをねらいとして行われる運動である。中学年では、楽しく体を動かしたり力を抜いたりすることで、心も弾んだり気持ちがよいと体感したりすることをねらいとする。また、仲間と関わり合いながら行える運動を通して、誰とでも協力したり、助け合ったりして様々な運動をすることで楽しさが増す体験をさせる。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・伸び伸びとした動作で運動することが苦手な児童には、低学年の体ほぐしの運動遊びで行った運動を繰り返し、なじみの深い簡単な運動を行ってみるなどの配慮をする。
 ・心や体の変化に気付くことが苦手な児童には、気持ちや体の変化を表す言葉を示したり、問いかけたりし、自己の心や体の変化に合った言葉のイメージができるようにするなどの配慮をする。
 ・友達と関わり合いながら運動することが苦手な児童には、ペアやグループの組み方を考慮し、安心して活動に取り組めるようにするなどの配慮をする。

単元名 走・跳の運動(かけっこ・リレー)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) かけっこ・リレーでは、その行い方を知るとともに調子よく走ったりバトンの受け渡しをすることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100102_001

【準備等】 バトン、カラーコーン、赤白の旗、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 かけっこ・リレーの学習のねらいと内容を理解し学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★作戦を立ててリレーを楽しもう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。 ○かけっこをする。 <ul style="list-style-type: none"> いろいろな動作で走る。 <ul style="list-style-type: none"> ・普通に走るスキップで走る、大股（小股）で走る、ギャロップで走る、後ろ向きに走るなど。 いろいろな姿勢からのスタートダッシュをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・長座姿勢から、仰向けの姿勢から、伏臥姿勢から、腕立て伏せの姿勢から、スタンディングスタートからなど いろいろな場でかけっこをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・手つなぎかけっこ、くるくるかけっこ、ジャンケン陣取り、おいかけ競争など。 ○試しのリレーをする。 ○話し合いをし、課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・個人のめあて、チームのめあて。 <p>2～3 いろいろなチームとリレーを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○準備運動、補助運動をする。 ○コースやルール、対戦相手などの確認をする。 ○課題や作戦について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・バトンパスの仕方、走り方。 ・走る順番など。 ○1回目のリレーをする。 ○リレーの結果を基に、作戦を立て練習する。 ○2回目のリレーをする。 ○反省し、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・バトンパスの仕方 ・作戦の立て方 ・次時の課題の把握 など <p>4～6 対戦するチームを選び、ルールや作戦を工夫して、リレーを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○準備運動、補助運動をする。 ○対戦する相手を決め、ルールやコースについて話し合う。 ○課題や作戦について話し合う。 ○めあてを確認し、めあてに合った練習をする。 ○1回目のリレーをする。 ○反省し、練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競走を楽しむために、バトンパスや競走の仕方を工夫して学習することを知らせる。 ・学習カードの使い方を例示しながら理解させる。 ・走力ができるだけ均等なチーム（1チーム5～6人程度）に分ける。 ・いろいろな姿勢からのスタートダッシュや追いかけっこを行う。 ・トラックを回るだけでなく、遊具の間をジグザグに抜けるなど、変化をつけて楽しく行う ・チーム内またはチーム対抗で行わせる。 第2時からは、例示したようなかけっこを補助運動として授業の始めに行う。 ・コースやルールについては、学級の実態に合わせて教師の方から示す。 ＜コースの例＞ 折り返しリレー、トラックでのリレー、ワープコースを入れたリレーなど。 ＜ルールの例＞ 手でタッチする、バトンを使う、追い抜くときは外から抜く、バトンパスはゾーンの中で行う。 ・リレーの反省をし、チームの課題などを決めて学習カードに記入させる。 ・総当たり戦でリレーを行うことを知らせる。 ・第1時で行ったリレーをもとに、コースやルールを話し合っ変更してもよい。 ・リレー、話し合い、リレーの流れで行わせる。 ・1回目とは別のチームと行わせる。 ・同じチームと2度競走することを伝えておく ・リーダー同士で対戦相手を決める。 ・第2～3時で行ったルールの例をもとに、考えさせる。 ・勝つためにどんなことを解決すればよいかを考えて作戦を立てさせ、それに合った練習をするように助言する。 ・競走をして気付いたことや他のチームの工夫について話し合わせ、次のリレーに生かすよう助言する。 <p>【評】課題をもち、工夫してリレーを行う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p>

- 2 回目のリレーをする。
- 反省し，学習のまとめをする。
 - ・バトンパスの仕方
 - ・作戦の立て方
 - ・次時の課題の把握 など
- 第 6 時は単元のまとめもする。

- ・練習や作戦を生かして，同じ相手と 2 回目のリレーを行わせる。
【評】 練習やリレーへの取り組みを通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する
- ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。
【評】 リレーへの取り組みを通して，「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

かけっこは様々な運動の基本となる運動である。まっすぐ力一杯走るだけでなく，様々な姿勢からのスタートや走の形態を楽しみながら体験させることが大切である。リレーは，他のチームと競い合って楽しむ運動であり，チーム間の競争意識が高まり，勝敗に対する児童の欲求を満たしてくれる身近な運動である。しかし，走力の差によって勝敗がはっきりと分かれてしまうこともある。学級の実態に合わせて，コースやルールを工夫し，作戦の立て方によっては勝敗が逆転するように活動を組み立てていくことが大切である。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・かけっこで，スタートが苦手な児童には，立った姿勢からだけでなくいろいろな姿勢から素早く走ったり，スタート位置を変えて競走したりするなどの配慮をする。
- ・周回リレーで，タイミングよくバトンを受渡すことが苦手な児童には，追いかけ走やコーナー走で受渡しをするなどの配慮をする。

単元名 表現運動(リズムダンス)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) リズムダンスでは、その行い方を知るとともに、軽快なロックやサンバなどのリズムの特徴を捉え、リズムに乗って弾んで踊ったり、友達と関わりあったりして即興的に踊ることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、友達の動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100103_001

【準備等】 軽快な曲：アニメの曲やヒット曲の中から児童の好む踊りやすい曲を選ぶ，CDプレーヤー，感想カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 リズムダンスの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★いろいろなリズムの音楽に合わせて思いっきり踊ろう。 ○リズムに乗って踊って楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで車座になって、教師のまねをしてリズムに乗る。（手拍子→隣の友達の手や膝などにタッチ） ・スキップや駆け足などで移動しながら、8拍目にタイミングを合わせて近くの人とタッチをする。（両手ハイタッチ→肩→肩→お尻とお尻） ・教師の動きをまねて踊る。 ・リーダーの動きをまねて踊る。 ・2人組やグループになってリーダーを交代して踊る。 <p>2～4 リズムダンスをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2人1組で体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・背中全体をパタパタたたいたり、指で押したりする。 ・寝ている状態で両足（両手）をゆっくり引っ張る。 ・肩関節や股関節をゆっくり伸ばす。 ○いろいろな曲のリズムに乗って、踊って楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・手拍子や足拍子を打つ。 ・後打ちのアクセントをとる。（1を聞いて2で手拍子やひざ曲げ） ・1人で踊る。 ・そばにいる友達と2人組を作って踊る。 ・一緒に踊ったことのない友達と踊る。 ○1つの曲を繰り返しながら「のり」を楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気に入り、自分なりの動きで踊る。 ・友達と踊りを工夫しながら踊る。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想カードに感想を書く。 ・よい動きをしていた友達を発表する。 ○第4時は単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り付けを決めずに自由に踊ることを知らせる。 ・児童にとって親しみのあるアニメの主題歌やヒット中の歌などから軽快でのりのよい曲を選ぶ。（キャラクターや歌詞のイメージが強すぎると動きが固定されるので、選曲に注意する） ・友達同士体を触れ合わせ、心と体をほぐす。 ・癒し系のゆったりした曲をBGMにするとよい。 ・「強かったら言ってね」「できるだけ力を抜いてね」などの言葉掛けをさせながら、互いの体の状態に気付き合うように、行わせる。 ・ロック、サンバ、ヒップホップ、沖縄風のリズムなど曲調の違う曲を3～4曲メドレーで流し、それぞれのリズムの特徴をつかんで自由に踊らせる。 ・どうやって音楽にのったらよいかわからない児童へは、教師や友達のまねをして動くよう助言する。 【評】 いろいろな曲のリズムに乗って踊る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する ・踊った曲の中からみんなで1曲選び、のりを楽しむようにする。 ・毎時間、曲調の違う曲を1曲選んで行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲のリズムを感じて踊れるよう同じ曲を何度も繰り返す。 ・空間を思い切りかき回す感じで動かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・おへそを中心に動かすようにさせると弾むような感じが出る。 ・近くの友達と手をつないで回転したり、お尻をぶついたりするなど、お互いの関わり合いを工夫するよう助言する。 【評】 1つの曲を繰り返しながら踊る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】 誰とでも仲よく踊る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・感想の発表や、自己評価などをさせる。

【 備 考 】

リズムダンスは、軽快なロックやサンバなどのリズムに乗って仲間とかかわって踊るのが楽しい運動である。自由に動きを工夫して全身でリズムに乗って踊る体験を大切に行う。本単元では曲に踊りを振り付けるといふ発展までは考えず、曲のリズムにのって感じたまま即興で踊るといふ児童自身の動きや思いを大切にしている。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・題材の特徴を捉えることが苦手な児童には、題材の多様な場面を絵や文字で描いたカードをめくりながら動くなどの配慮をする。
- ・動きの誇張や変化の付け方が苦手な児童には、動きに差を付けて誇張したり、急変する動きで変化を付けたりして踊っている友達の動きを見合い、真似をするようにするなどの配慮をする。
- ・ひと流れの動きにすることが苦手な児童には、気に入った様子を中心に、動きが急変する場面の例を複数挙

げて動いてみるなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ネット型ゲーム)プレルボール

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) ネット型ゲームでは、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボール操作できる位置に体を移動するなどのボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができ
る。
(2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
(3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100104_001

【準備等】ソフトバレーボール、ライトバレーボール、ドッジボール、カラーコーン、バドミントン用支柱、ネット、ゴムひも、得点板など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ネット型ゲームのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームをしよう。 ＜ルールの例＞ 自陣にバウンドさせてから味方にパスをしたり相手コートに返したりする。 片手や両手を握ってボールを打ちつける。 時間制（5～8分）で得点を競う。 必ず3回で相手コートに返す。 バドミントンコートのラインを使用する。 ネットの高さは50cm。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。 <p>2～4 簡単なルールでゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プレルボールに関連した体ほぐしの運動をする。 ○ドリルをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・1人で投げ上げキャッチ、強くたたきつけてキャッチ 2人組でのバウンドパス、チームでのバウンド円陣パス げんこつでバウンドさせる、両手で、片手で ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <p>5～6 プレルボール大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○ゲームをする。 ○第6時は、単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットをはさんでラリーを続けたり、ボールをつないだりして行うゲームの特性を理解させる。 通常のソフトバレーボールのルールや場にとらわれず、児童の実態に合ったルールや場で行う。 ＜ルールや場の例＞ ボールを軽量のビニールボールにする。 両手や平手で打ってもよいことにする。 2回目のボールはキャッチしてもよいことにする。 ネットの高さを低くする。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・ボールを打ったり、ボールに合わせて自分が動いたりする運動を行う。 ・バウンドさせたり、パスをしたりして基礎技能習得のためのドリルをする。 【評】チームで協力して練習を行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・児童の実態とゲームのルールや場があっているかを観察し、確認する。 ・課題が立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題にそった動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 【評】チームに合った練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 ・チームに合った作戦を立てさせる。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

プレルボールは、自陣の床にこぶしまたは前腕を用いてボールを打ちつけ、味方にパスをしたり、自陣のコートにボールを打ちつけて低いネットを越し、相手のコートにボールを返したりするゲームである。本単元では、プレルボールを基として簡易なゲームを行うこととし、平手打ちや両手打ちを許容し、チームの人数、ネットの高さ、コートの大きさなどを工夫することで子どもたちに楽しさを味わわせていく。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・いろいろな高さのボールを片手、両手もしくは用具を使ってはじいたり、打ちつけたりすることが苦手な児童には、飛んできたボールをキャッチして打つことを認めるなどの配慮をする。

・ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることが苦手な児童には、プレイできるバウンド数を多くしたり、飛んできたボールをキャッチしてラリーを継続したりするなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ネット型ゲーム)ハンドテニス

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) ネット型ゲームでは、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボール操作できる位置に体を移動するなどのボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができ
 (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100105_001

【準備等】ミニテニスボール（少し大きめの柔らかい素材のボールなど）、段ボール等での自作ラケットなど、学習カード、学習資料など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ネット型ゲームのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。 ★ルールを工夫してゲームをしよう。</p> <p>○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <p>○チームを編成する。</p> <p>2～4 簡単なルールでゲームを楽しむ。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 ・2人組でネットをはさんでのボール交換、近い距離からだんだん遠く離れて行うなど。</p> <p>○ゲームの進め方の確認をする。 ・ルール、マナー、対戦相手</p> <p>○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。</p> <p>○第2ゲームをする。</p> <p>○反省し、まとめをする。 ・課題、作戦、ルール、マナーなど</p> <p>5～6 ハンドテニス大会をする。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。 ○ハンドテニス大会をする。</p> <p>○第6時は、単元のまとめをする。</p>	<p>・ネットを挟んで、ラリーを続けたり、ボールをつないだりして行うゲームの特性を理解させる。</p> <p>・用具は、段ボール等を手のひら大サイズに加工したものを使用する。また、ボールを手のひらで打つハンドテニスとして用具を使用せずに手をラケットかわりにして行ってもよいとする。</p> <p>・〈ルールや場の例〉 コートはバドミントンコートのサイズを目安とする。 1チーム1～3試合行う。（ダブルス） 1試合6分（2分×3ゲーム）程度行う。ダブルスの交代制で行う。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。</p> <p>・ストロークなど、しっかりボールをとらえられるようにルールを簡易化したゲームを行う</p> <p>【評】チームで協力して練習を行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・〈ルールの例〉 サーブはどこから打ってもよい、ネットの高さを調整する（コーンバーで作成する）など</p> <p>・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。</p> <p>【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・チームに合った作戦を立てさせる。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。</p>

【備 考】

ネット型ゲームでは、用具などを使ったゲームの例示として、バドミントンやテニスを基にした簡易化されたゲームが示されている。ハンドテニスは、ネットを挟んで攻撃と防御が一体となるゲームである。その中でラリーゲームを中心に、自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。用具は、段ボール等を手のひら大サイズに加工・補強したものを使用するか、手のひらで直接打つゲームとする。またボールは、テニスボールより少し大きめの柔らかい素材のボールを使用する。ネットに関しては、コーンバーで設置したり、体育館で行う場合はバドミントンの支柱とネットで高さを調整したりして使用する。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることが苦手な児童には、プレイできるバウンド数を多くしたり、飛んできたボールをキャッチしてラリーを継続したりするなどの配慮をする。

単元名 体づくり運動(多様な動きをつくる運動)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 多様な動きをつくる運動では、その行い方を知るとともに体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせることができる。
- (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100106_001

【準備等】竹馬、一輪車、一輪車練習台、ビデオ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 竹馬や一輪車のねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 マナーや安全な運動の仕方について知る。 学習のねらいや進め方を知る。 <p>★竹馬や一輪車にバランスよく乗りながら、いろいろな動きを楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体のバランスをとる運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○竹馬や一輪車に乗る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 <p>2～5 体のバランスをとる運動を行い、竹馬や一輪車に乗りながら移動したり、基本的な動きを組み合わせたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を決める。 <ul style="list-style-type: none"> ○一輪車に乗る。 <ul style="list-style-type: none"> ・アイドリング（鉄棒や遊具を両手で持って→片手で鉄棒や遊具を持って→補助の子の手を持って→何も持たずに） ・一輪車の練習段階補助つき乗車（鉄棒等）→降車→補助つき乗車から半回転ずつ前進（ペダルを地面に平行の状態から平行の状態へ）→1回転ずつ前進→連続で前進→補助なしで前進 ・補助なし乗車 ・後進 ・一輪車競争 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、できばえ ○発表、大会をする。 ○第5時は、単元のまとめもする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹馬や一輪車に乗ることができるようにしたり、乗って楽しんだりすることを知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・不安定な場を歩いたり（丸木橋や平均台など）狭い場（ライン上など）を歩いたり走ったりさせる。 ・練習の仕方を理解させる。 ・児童の実態に応じてグループ編成をする。 <p>＜グループ編成の例＞ 2人組、技能が異なる3人組、課題が同じ3人組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物をもったり、かついだりして、バランスを取りながら競争させる。 ・一輪車は乗れるようになるまでに時間がかかるので、段階を追って練習させる。 ・アイドリングとは、一輪車でペダルを地面に平行な状態から20度～45度ほど踏み込み元の方向へもどすことを繰り返す、その場で留まることである。 <p>【評】協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】できる技で楽しんだり、できそうな技に挑戦したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて発表会や大会を行ってもよい。 ・グループでの話合いや自己評価などをさせる

【備 考】

竹馬や一輪車は、バランス感覚を必要とする運動である。特に一輪車は乗れるようになるまでに時間がかかるので、段階を踏んであせらずじっくりと練習させ、一輪車に乗る感覚を体験させる。また、一輪車や竹馬に乗るだけでなく、様々な運動を経験させることで、体のバランスをとる動きを身に付けさせたい。さらにこの学習をきっかけにして、休み時間や家庭でもバランスをとる動きで遊んでいけるよう意欲を高めていく。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・用具に乗るなどの動きが苦手な児童には、二人組や三人組で体を支えて補助をし合ったり、器具等につかまりながら進んだりするなどの配慮をする。

単元名 水泳運動(浮いて進む運動, もぐる・浮く運動)

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 各運動の行い方を知るとともに、浮いて進む運動では、け伸びや初歩的な泳ぎをすることができ、もぐる・浮く運動では、息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をすることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、水の中での動きを身に付けるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100107_001

【準備等】学習カード、ビート板、ボール、ヘルパー、ペットボトル、バケツ、ジョウロ、切ったホース(おもり)、ピンポン玉 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 水泳運動のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★水にもぐったり浮いたり、泳いだりして楽しもう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 <p>○水遊びに関連した体ほぐしの運動をする。</p> <p>2～4 今できる浮き方や進み方・泳ぎ方で、ゲームや遊びをして楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水慣れ遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジョウロのシャワー ・バブリング ・ボビング ・宝探しゲーム ・水中じゃんけん ・バケツ水入れ競争など ○グループでいろいろな遊びやゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ピンポン玉リレー ・輪くぐり ・水中まりつき ・いかだ流し ・ラッコ浮き ・水中トンネルくぐり ・ビート板リレー ・水中ドッジボールなど ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと・できたこと・心得など <p>5～8 できそうな浮き方や進み方・泳ぎ方に挑戦して楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バディを編成する。 ○今できる浮き方や進み方・泳ぎ方で楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・伏し浮き ・け伸び ・ばた足 ・かえる足 ・補助具を使って浮く ・リレー遊びなど ○できそうな浮き方や進み方、泳ぎ方に挑戦して楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ばた足 ・かえる足 ・面かぶりクロール ・呼吸をしてくのクロールなど ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題 ・できたこと <p>9, 10 記録会、水中ゲーム大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○泳力を測る。 ○水中ゲーム大会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ビート板リレー ・基石拾い ・ボール送り ・水中ドッジボールなど ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水に潜ったり浮いたり、泳いだりすることを知らせる。 ・カードの記入は教室で行わせる。 ・プールのきまりや、浮く・泳ぐ運動の心得をしっかり押さえる。バディ(2人組)を決め安全確認をすることを教える。 <p>【評】協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童でバディを組ませ、確認させる。 ・挑戦してみたいことも行わせてもよい。個別に指導にあたる。 <p>【評】自分に合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、学級の実態に応じて行う。 ・できるようになったことや自分たちの考えた遊びやゲームで楽しむ。 <p>【評】記録会、水中ゲーム大会を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

※学校の実態に応じて時間数を柔軟に変更してもよい。

浮く・泳ぐ運動では、仲間との競争やいろいろな課題に取り組むことで、水に慣れ親しむことや浮いたり泳いだりすることの楽しさや心地よさを味わうことができるようにすることが大切である。そのため本単元では、単元を通して水に親しむ時間を設ける。また、個々の能力に差が現れてくる時期なので、グループ学習ができるようにし、5年生からの水泳領域の学習での基礎・基本を身に付けさせる。水難事故防止のため、着衣泳についても、夏休み前に実施する。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・け伸びで、体を一直線に伸ばすことが苦手な児童には、補助具や友達の手につかまり、大きく息を吸って伏し浮きの姿勢になるまで待つように助言したり、体を伸ばした状態になったところを友達に引っ張ってもらったりするなどの配慮をする。
- ・け伸びで、プールの底や壁を力強く蹴ることが苦手な児童には、水の中に体を十分に沈め、膝を曲げて体を小さく縮めてから底や壁を蹴るように助言したり、け伸びで進む距離を友達と競争したり自己の記録を伸ばしたりする場を設定したりするなどの配慮をする。
- ・初歩的な泳ぎで、手や足の動きと呼吸のタイミングを合わせることが苦手な児童には、陸上で動きのイメージができる言葉「伸びて、イーチ・ニィー・サーン（手で水をかいたり、足を動かしたりして）、プハ！（息をまとめて吐く）、伸びて」とともにタイミングを確認する場を設定したり、友達にゆっくりと引っ張ってもらいながら息継ぎのタイミングを声かけしてもらったりするなどの配慮をする。
- ・プールの底にタッチをする際、浮力の影響でもぐることが苦手な児童には、息を吐きながらもぐることや手や足を大きく使うことを助言したり、水深が浅い場を設定したりするなどの配慮をする。
- ・いろいろなもぐり方をする際、もぐり方を変えることが苦手な児童には、友達ともぐり方の真似をし合う場を設定したり、陸上でできる動きを水の中でできないかを助言したりするなどの配慮をする。
- ・だるま浮きで、体を小さく縮めることが苦手な児童には、両膝を抱え込まずに持つ程度にした簡単な方法に挑戦することや、膝を抱えると一度は沈むがゆっくりと浮いてくることを助言するなどの配慮をする。
- ・背浮きで、腰が沈まないようにして浮くことが苦手な児童には、補助具が体から離れないようにしっかり抱えて浮くように助言したり、友達に背中や腰を支えてもらう場を設定したりするなどの配慮をする。
- ・変身浮きで、浮き方を変えることが苦手な児童には、一つの浮き方で浮いている時間を延ばしたり、「つばみがだんだん開いて、またしぼんでいく」などお話づくりで変身していくイメージをもって挑戦したりする場を設定するなどの配慮をする。
- ・連続したボビングが苦手な児童には、低学年で扱った呼吸のリズムを再度確認したり、友達と手をつないでボビングをしたりする場を設定するなどの配慮をする。

単元名 器械運動(鉄棒運動)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 鉄棒運動では、その行い方を知るとともに支持系の基本的な技ができる。
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100201_001

【準備等】鉄棒用補助具、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方を知る。 ○グループを編成する。 ○鉄棒を使って遊ぶ。 ○鉄棒をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル1 つばめさん、片足かけて、後ろ下り、両足かけてコウモリだ、プランコ遊びだぶらんぶらん、お空にうかんで立ちました <p>2～5 技の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鉄棒を使ってできる遊びを行う。 ○鉄棒を使って、できそうな技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル2 片足かけたつばめさん、ぶらぶらふって、あがったよ ○モデル3 片足かけたつばめさん、一気にたおれて、もどったよ ○モデル4 片足かけたつばめさん、一気にまわって、よっこらしょ ○できる技で鉄棒を楽しむ。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、グループでの協力など <p>6 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○できる技で鉄棒遊びをする。 ○演技種目の練習をする。 ○発表をする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ・グループでの協力など ○単元のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い、自己評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒遊びをすることを知らせ、意欲を高める ・鉄棒を使った遊びの例を学習カードに例示しておくといよい。 ・鉄棒を待つときの約束や、鉄棒を握るときの正しい手の形（順手、逆手）を教える。また、猿手（親指と他の四指が同じ向きになる手の形）にならないように指導する。 ・2人1組で1グループを作る。 ・易しい遊びやゲームなどを取り入れ、腕支持感覚や逆さ感覚、回転感覚を体験させる。 ・コウモリ振りから着地することがむずかしい場合は、手を地面にしっかりついてから両足着地させる。 ・学習カードに示したいろいろな遊びをさせる。 ・モデル2は膝かけ振り上がりの学習である。「手首の返し」「体を振る」「あごの使い方」に慣れさせる。 ・上がれない場合は、低い鉄棒で片膝をかけて足で地面をけて上がったり、補助してもらって手首を返して上がったりする感覚を体験させる。 ・補助具（膝用サポーターなど）を使って練習させる。 【評】練習に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・モデル3は片膝かけ回り（後方）の予備技として後ろに倒れる部分の学習である。 ・モデル4は片膝かけ回り（後方）の学習である。 ・モデル4ができるになると片膝かけ回り（後方）の連続、片膝かけ回り（前方）、前方支持回転、後方支持回転などのいろいろな発展技ができる。 ・2人1組のグループでお互いに補助したりアドバイスしたりして行わせる。 【評】2人で互いに教え合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。 ・感想の発表や、学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

鉄棒運動は、鉄棒を軸として、ゆれたり、回転したりするという独自のおもしろさがある。また、技を考えたり、技をつなげたりして、自分だけの連続技をつくるという創造する面白さもある。4年生では、できる技を組み合わせ、鉄棒を軸にして体を回転させ、着地するという、面白さを味わわせる。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・前回り下りが苦手な児童には、ふとん干しなどの鉄棒に腹を掛けて揺れる運動遊びに取り組んだり、補助を受けて回転しやすくしたりして、勢いのつけ方や体を丸めて鉄棒から離さない動きが身に付くようにするなど

の配慮をする。

単元名 走・跳の運動(小型ハードル走)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 小型ハードル走では、その行い方を知るとともに小型ハードルを調子よく走り越えることができる。
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100202_001

【準備等】ハードル（棒、輪、段ボールの箱、小型ハードルなど）、ストップウォッチ、対戦表、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ハードル走の学習のねらいと内容を確認し、学習の進め方についての見通しをもつ。 ○学習の課題や進め方を知る。 ★一定の間隔に置かれたハードルを調子よく跳び越そう。</p> <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。</p> <p>○ハードル走に関連した体ほぐしの運動をする。</p> <p>○試しの小型ハードル走をし、めあてをつかむ。</p> <p>2～3 1対1の競走をして楽しむ。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。</p> <p>○チーム内で1対1の競走をする。 ・同じ位置から走る。 ・ハンディを付けて走る。</p> <p>○反省し、まとめをする。 ・小型ハードルの越し方 ・やってみたい競走など</p> <p>4～5 いろいろなチームと競走して楽しむ。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。 ○コースやルール、対戦相手などの確認をする。</p> <p>○課題や作戦について話し合う。 ・走り方・ハードルの越し方・走る順など</p> <p>○練習をする。</p> <p>○1回目の競走をする。 ○反省し、練習をする。</p> <p>○練習や作戦を生かして、2回目の競走をする。</p> <p>○反省し、まとめをする。 ・課題・作戦など ○第5時は単元のまとめもする。</p>	<p>・棒や輪、段ボールの箱、小型ハードルなどを速く跳び越えて競走することを知らせる。</p> <p>・速く走るためにはどんな走り方をしたらよいか考えさせ、それを基にめあてをつかませる。 ・学習カードの使い方を例示しながら理解させる。</p> <p>・力が均等な偶数チーム（1チーム5～6人程度）に分ける。 ・＜いろいろなハードルを使ったコースの例＞ 棒、輪、段ボールの箱、ミニハードル、段ボールの箱を斜め半分に切ったものなど ・＜ルールの例＞ 手でハードルを倒してはいけない ハードルとハードルの間は自分の走り方に合わせて一定の間隔で変えてもよいなど ・リズムカルにハードルを越えて走ることできた児童を紹介する（3歩のリズムでなくてもよい） ・チーム内で相手をいろいろ変え、1対1の競走をすることを知らせる。 ・第1時で行ったいろいろなハードルを使ったコースを選んで行わせる。 ・スタート係やゴール係などを交代して行わせる。 ・1回目は同じ位置から走るが、2回目は1回目の結果を基にハンディを付けて競走させる</p> <p>【評】チームで協力し、跳び越し方を工夫して競走する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・総当たり戦でハードル走を行うことを知らせる。</p> <p>・＜ルールの例＞ ハンディを付ける、付けない 1対1で競走し、勝った人数で勝敗を決める タイムを計ってその合計で勝敗を決めるなど</p> <p>・勝つために、どんなことを解決すればよいかを考えて作戦を立てさせ、それに合った練習ができるように助言する。 ・競走を見て気付いたことや他のチームの工夫について話し合わせ、次の競走に生かすよう助言する。</p> <p>・お互いの動きを見合い、改善点を見付けられるよう助言する。 ・別のチームと対戦させる。 【評】いろいろなチームと競走する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】ハードル走を行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価など</p>

【 備 考 】

小型ハードル走は、仲間と競い合う楽しさや、調子よく走ったり、跳んだりする心地よさを味わうことができる運動である。走ったり、跳んだりすること自体の面白さ・心地よさを引き出す指導を基本にしながら、どのような力をもった児童においても競走に勝つことができたり、意欲的に運動に取り組むことができたりするように、楽しい活動の場の工夫をすることが大切である。

そこで、本単元では、段ボールの箱や棒・台・輪などをハードルとして用いて、楽しく障害を越す活動を取り入れた。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・一定のリズムで小型ハードルを走り越えることが苦手な児童には、インターバルの異なる複数のレーンを設定し選べるようにしたり、いろいろな材質の小型ハードル（ゴムを張った小型ハードルや段ボールを用いたハードル等）を使用したりするなどの配慮をする。

単元名 器械運動(跳び箱運動)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 跳び箱運動では、その行い方を知るとともに切り返し系や回転系の基本的な技をすることができ
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100203_001

【準備等】跳び箱、マット、踏み切り板、ビデオ、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 跳び箱運動の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★大きな動きで跳び箱を跳び越したり、台上前転をしたりして楽しもう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○体ほぐしの運動をする。 ○試しの運動をし、課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・またぎ越し ・踏み越し ・支持で跳び上がり、跳び下り ・支持でまたぎ乗り ・支持でまたぎ下り ・支持でまたぎ越し、横とび越し ・支持でかかえこみ跳び越し <p>2～3 今できる跳び越し方で楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○本時の課題や練習方法を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・開脚跳び ・大きな開脚跳び ・かかえ込み跳びなど。 ○自分の力に合った場で練習する。 ○反省し、学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、態度、次時のめあて <p>4～5 台上前転に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○本時の課題や練習方法を確認する。 ○自分の力に合った場で練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・台上での回転の感覚づくり、マットを積み重ねた上、巻いたマット、マットをかけた跳び箱 ・着地の感覚づくり ・舞台の上のマットから舞台下のセーフティマットの上のマットへと下りての着地 ・低い跳び箱を2つ連結したものから前転してマットへの着地 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、態度、次時のめあて <p>6 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする ○演技種目の練習をする。 ○発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオや示範、学習カードなどで技を紹介し学習意欲を高める。 ・技のポイントや練習方法などを例示しておく ・器具が速やかに準備できるよう分担しておく ・腕による体の支持や腕を支点にした体重移動等の感覚を体験させる。 <体ほぐしの運動の例> カエル足打ち、うさぎとび（できるだけ手を前に着き体を伸ばして行う）、うま跳び、跳び下り、前転など ・5～6歩助走で3～4段を跳び越させる。支持でのまたぎ越しでは、両足で踏み切り、膝を柔らかく曲げて安全に着地しているか観察し助言する。 ・学習カードをもとに、できる技を確認させ、自分に合った課題をつかませる。 ・テンポよく毎時間継続的に行わせる。 ・開脚跳びやかかえ込み跳びができる児童には段の数を増やした跳び箱や、向きを横から縦にした跳び箱に挑戦させる。 ・児童の能力に合わせた場を工夫し、挑戦する意欲が継続していくよう配慮する。 <場の例> マットを丸めたものを跳ぶ。 堅めのスポンジ跳び箱を跳ぶ。 跳び箱にマットをかぶせたものに跳び乗るなど 【評】安全に気を付けて進んで練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・台上前転をすることを伝える。 手の位置や踏み切るときの跳ぶ方向、助走のスピードなどすべてが切り返し系の技（開脚跳びなど）と違うということを、知らせる。 ・児童の恐怖心を取り除くような場を設定し、台上で回転する感覚をつかませる。 自分の力に合った場で練習しているか、安全に気を付けているかなど観察し、必要に応じて助言する。 【評】自分の力にあった場で練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・単元のまとめとして発表させる。 ・発表する跳び箱にマットをかけたり、跳び箱

○単元のまとめをする。

の横にマットをしいたり、補助者を付けたりした易しい場を用意し、完全なできばえでなくてもできたことを認め、発表させる。
【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。
・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

跳び箱運動は技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。すべての児童が運動の楽しさや、喜びに触れることができるよう、技に関連した易しい運動遊びを取り入れたり、場や条件を段階的に設け繰り返し練習したりできるよう工夫したい。そこで、遊びながら身体感覚を身に付け、それをもとに技の習熟ができるよう授業時間の前半に、手で体を支える動き、思い切り踏み込む動き、柔らかく着地をする動きなどが身に付くような身体感覚づくりを取り入れた。遊びの中で必要な身体感覚を習得し、それをもとに授業の後半で基本的な跳び箱運動の技術の習熟を図れるようにした。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・開脚跳びが苦手な児童には、マットを数枚重ねた上に跳び箱1段を置いて、手を着きやすくしたり、跳び越しやすくしたりして、踏切り?着手?着地までの動きが身に付くようにするなどの配慮をする。
- ・台上前転が苦手な児童には、マットを数枚重ねた場で前転したり、マット上にテープなどで跳び箱と同じ幅にラインを引いて、速さのある前転をしたり、真っ直ぐ回転する前転をしたりして、腰を上げて回転する動きが身に付くようにするなどの配慮をする。
- ・首はね跳びが苦手な児童には、マットを数枚重ねた場や低く設置した跳び箱、ステージなどを利用して体を反らせてブリッジをしたり、場につくった段差と補助を利用して首はね起きを行ったりしながら、体を反らしてはねたり、手で押したりする動きが身に付くようにするなどの配慮をする。

単元名 保健「育ちゆく体とわたし」

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 体の発育・発達について理解することができる。
 (2) 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現することができる。
 (3) 健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

04100204_001

【準備等】健康診断表、健康手帳など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 大きくなってきたわたしについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の身長伸びを見て気付いたことを話し合い、単元の学習課題をつかむ。 ★心や体の成長について調べよう 1年生のときからの身長伸びを知る。 これからの発育・発達について考える。 <ul style="list-style-type: none"> 男女差、個人差、成長の著しい時期 学習のまとめをする。 <p>2 大人の体になるじゅんぴ①について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 男女の体つきの変化について話し合う。 体つきの変化の意味について学習をする。 <ul style="list-style-type: none"> 男性の変化、女性の変化、両性とも起こる変化 学習のまとめをする。 <p>3 大人の体になるじゅんぴ②について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体の中で起きる変化について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 精通、射精 初経、月経 教科書P28の男子と女子の作文を読み、感じたことを話し合う。 心の中で起きる変化について理解する。 学習のまとめをする。 <p>4 よりよく育つための生活について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活を振り返る。 運動をした後の体や気持ちの変化について話し合う。 休養・睡眠と体の関係について理解する。 朝ごはんを食べるときに気を付けようと思うことをまとめる。 単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> P22, 23を見て気づいたことを話し合わせる 健康診断表などの記録を使い、教科書P24「やってみよう」をさせる。 教科書P25のグラフと絵を基に気付いたことをグループで話し合わせる。話し合ったことを発表させ、一般的な傾向をつかませる。 人の体の発育の仕方には個人差があることを理解させる。 男女混合のグループになり、ブレインストーミングを行う。 <ブレインストーミングの手法> 批判やコメントはしない。 自由にアイデアを出す。 できるだけ多くの考えを出す。 【評】男女の体つきの変化を見付け、意見を出す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 教科書P26の絵を見て、大人に近づくと起こる体つきの変化についてまとめる。 体つきは年齢と共に変化するが男女差、個人差があることを理解させる。 「月経」「射精」の仕組みについて説明を加え、新しい命をつくる体の仕組みが働きだしたことを知らせる。 作文の中の出来事は、大人の体に近づいていくことによるもので、男子も女子も体の変化があり、病気ではないことを知らせる。 体つきの変化、体の中での変化と同じように心の中でも変化が起きてくることを確認する 【評】心の中で起きる変化について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する 変化は次の世代の子どもを作るための変化であること、変化が現れる時期は個人差があるが誰にでも起きる現象であることを押さえる 教科書P32「やってみよう」に丸を付けたりシールを貼ったりしながら自分の食生活を振り返る。 運動は心臓、肺、筋肉、骨などをつくること今が大切な時期であることを知らせる。 寝る時間と成長ホルモンの関係についても押さえ、生活リズムの大切さも確認する。 P36「運動」「成長とすいみん」についても触れる。 【評】学習のまとめをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【備 考】

近年、栄養状態の向上により、発育期が早く訪れる傾向にある。本単元では、これから発育期を迎える児童に、自分の体と心にかかる変化を正しく理解させる。また、この変化はだれにでも起こるものであり、自分の体の変化や発育の違いなどについて肯定的に受け止められるよう指導することが大切である。

単元名 走・跳の運動(高跳び)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 高跳びでは、その行い方を知るとともに短い助走から踏み切って跳ぶことができる。
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100205_001

【準備等】ゴムひも、鈴、輪、踏切板、高跳び用支柱、バー、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 高跳びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★体の動きを工夫して高く跳び、友達と競ったり自分の記録に挑戦したりしよう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方を知る。 ○目標記録を算出し、課題をつかむ。 <p>○グループを編成し、役割分担をする。</p> <p>○走り高跳びに関連した体ほぐしの運動をする。</p> <p>○ゴム跳び遊びをする。</p> <p>「2本のゴムひもを2人で持って」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両足跳び：助走なしで跳ぶ ・片足跳び：1・2・3のリズムで跳ぶ ・手つなぎ跳び：手をつないで2～3歩の助走をつけて2人組で跳ぶ <p>「3本のゴムひもを3～4人で持って」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の状態にゴムひもを張り、高さや跳び方を変えながら、三角形の中に入ったり出たりする ・ジグザグの状態にゴムひもを張り、跳び方を変え蛇行しながら跳ぶ <p>2～3 今もっている力で、いろいろな跳び方を楽しむ。(ねらい1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○いろいろな跳び方で跳ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・輪踏み高跳び(3歩助走) ・アクセント高跳び(5歩助走) など <p>○いろいろな高さに挑戦する。</p> <p>○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・態度、次時の課題の把握 </p> <p>4～5 競争の仕方を工夫して高跳び競争を楽しむ。(ねらい2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○高跳び競争をするためにルールを話し合う。 <p>○高跳び競争をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の個人戦やグループ対抗戦を行う </p> <p>○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・態度、次時の課題の把握 </p> <p>6 競技会をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高く跳ぶことに挑戦し、友達と競争したり、自分の記録に挑戦したりすることを知らせる ・＜目標記録の例＞ 身長×1/2+20cm 児童の実態に応じ、プラスする数値を変える ・1グループ6～8人程度。 器具が速やかに準備できるように分担しておく。 ・1グループに3本のゴムひもを用意する。 ゴムひもの張り方や跳び方をグループで工夫させる。 ゴムを持つ人と跳ぶ人を交代させて行わせる ・支柱にゴムひもを張り(ゴムひもに鈴をつけておく)、簡単に跳べる高さを設定する。 ・助走で蛇行する場合は、助走路に線を引いておく。 60cmくらいから5～10cm単位で高さを5種類くらい設定する。 【評】いろいろな跳び方で跳ぶ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・ゴムひもまたはバーをかけ、低いところから跳び始めて徐々に高さを上げ、どこまで跳べるか挑戦させる。 ・友達との競争を取り入れ、楽しみながら学習が進められるようにする。 ・ルールについては教師が参考例を示し、そのルールを基に話し合わせる。 ＜ルールの例＞ 勝敗：グループの記録の合計、1対1の対抗戦(何勝何敗)、目標記録に対する点数 場：踏切板の使用、助走の歩数(3歩、5歩、7歩) 【評】ルールを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・調子よく跳んだり、体を巧みに操作しながら跳んだりしている友達のよい動きに目を向けさせる。 ・学習のまとめとして競技会を行う。

- 体ほぐしの運動をする
- 競技会の進め方やルールを確かめる。

○競技会をする。

○単元のまとめをする。

- ・学級の実態に合わせてルールを決める。
 <ルールの例>
 試技は3回、バー（ゴムひも）を使う3歩助走（5歩助走）
 グループの得点合計で順位を決めるなど
 【評】競技会を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・目標記録と比較し、学習の成果を確かめさせる。

【 備 考 】

高跳びは、仲間と競い合う楽しさや、調子よく走ったり跳んだりする心地よさを味わうことができる運動である。走ったり跳んだりすること自体の面白さ・心地よさを引き出す指導を基本にしながら、どのような力をもった児童においても競争に勝つことができたり、意欲的に運動に取り組むことができたりするように、楽しい活動の場を工夫することが大切である。本単元では日常でもやっていそうな跳び方（ゴム跳び遊びなど）から始めて、徐々に走り高跳びの助走に近くなるようにさせ、助走のリズムや高く跳べたという感覚（浮き上がるような感覚）を身に付けさせる。それと同時に、自分の跳べそうな高さへの挑戦や友達との競争の中で、走り高跳びの面白さを体験させる学習活動を設定した。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・踏切り足が定まらず、強く上方へ跳ぶことが苦手な児童には、3歩など、短い助走による高跳びをしたり、「トン・トン・ト・ト・トン」など、一定のリズムの助走からの高跳びを行ったりする場を設定するなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ゴール型ゲーム)ポートボール

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100206_001

【準備等】 バスケットボール、ミニバスケット用ゴール、ポートボールの台、学習カード、対戦表など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ゴール型ゲーム(ポートボール)のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームにあった作戦を選び、ルールを工夫してゲームをしよう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。 ○試しのゲームをし、めあてをつかむ。 <p>2～4 簡単なルールで、ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型ゲーム(ポートボール)に関連した体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナー <p>5～7 チームに合った作戦を選び、ルールを工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○対戦相手と、ルールについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <工夫したルールの例> ゴールマンが触ったら 1点 キャッチで2点 <工夫した場の例> ドーナツゴール、エンドゴール、二重ゴール ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・めあて、作戦、練習、ルール <p>8, 9 ポートボール大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゴールゲーム大会をする。 ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手を使ったゴール型ゲームとして、ハンドボールなども考えられる。 ・攻守が入り交じって行うゲームの特性を理解させる。 <p>通常のポートボールのルールや場にとらわれず、児童の実態に合わせて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1チーム4～7人、男女混合で編成する。 ・1試合各7分で1～2試合行う。 ・毎時間必ず行うようにする。 ・複数のチームと対戦することを知らせる。 ・オープンコートの基本とするが、ボールに集まってしまう場合などはグリッドコートを使用してゲームを進めても良い。 ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果や反省の様子から、チームの課題にそった動きができていないチームやままりのあるチームを紹介し称賛する。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】 チームで協力してゲームをする活動をとって、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じチームと2ゲーム行うことを知らせる。 ・ねらい1の学習を基に、相手チームとの話し合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。 ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 <p>【評】 チームにあった課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 ・練習の成果を確認させる。 ・試合方法は、学級の実態に応じて決める。 <p>【評】 ゴールゲーム大会を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

本単元では、ゲームを中心として簡単なボール扱いや攻め方、守り方を身に付けみんながシュートを楽しめるようにする。ポートボールのルールに合わせて学習をするのではなく、実態に合ったルールでゲームを構築し、学習する楽しさ、喜びを味わわせる。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・パスを出したり、シュートをしたりすることが苦手な児童には、ボールを保持する条件を易しくするとともに、ボールを保持した際に周囲の状況が確認できるように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。
- ・ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することが苦手な児童には、守る者の位置を見るように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ゴール型ゲーム)タグラグビー

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100207_001

【準備等】 タグラグビーボール、学習カード、カラーコーン、タグセット（タグと腰ベルト）、ゲームベストなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ゴール型ゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームに合った作戦を選び、ルールを工夫してゲームを楽しもう。 ○マナーや安全の運動の仕方について知る。 ○学習カードの使い方を知る。 ○チームを編成し、役割を分担する。 ○タグラグビーに関連した体ほぐしの運動をする。 ○試しのゲームをする。 <p>2～4 簡単なルールで、タグラグビーを基にした簡易化したゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型ゲームに関連した体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ねことねずみ、タグ取り鬼、ボール運びリレーなど ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○第1ゲームをする。 ○全体で振り返り、ルールを整える。 ○第2ゲームをする。 ○反省しまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー <p>5～8 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習、ルール <p>9 タグラグビー大会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーグ戦やトーナメント戦で、タグラグビー大会を行う ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陣地を取り合うゴール型のゲームであること特性を理解させる。攻守の交替は、ボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数取ることができれば交替。この単元では、タグの取り方や取られたら止まることをしっかり押さえておきたい。 ・ボールを持っているプレーヤーのタグを取る時には「タグ！」を大きな声を出すことはマナーである。 ・1チーム4～7人、男女混合で編成する。 ・チームは4～8チームをつくる。コートは4チームで1コートあるとよい。 ・ラン、パス、フォローについて簡単なゲームを行う。 ・色々なチームと対戦することを知らせる。 ＜ルールやコートの例＞ 守備側のプレーヤーを少なくする。コートの幅を狭くするなど。 ・ゲームの内容を受けて、学級全体でルールを整えていく。 ・第1ゲームとは違うチームで対戦をさせる。 【評】 チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じチームと2ゲーム行うこと知らせる。 ・相手チームとの話合いでマナーやルールの確認をする。必要に応じてルールを変更していく。 ＜ルールの工夫の例＞ 攻守交替になるボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数を変更するなど。少なくすれば攻守交替が早くなるが、トライが決めにくくなる。 ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 【評】 ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 【評】 チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・練習の成果を確認させる。 ・チームに合った作戦を立てさせる。 ・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。 【評】 ゲームを通して、「知識・技能」を評価

【 備 考 】

ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、コート内で攻守入り交じって、ボールを手や足でシュートしたり、空いている場所に素早く動いたりする易しいゲーム及び陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むなどの易しいゲームをすることである。タグラグビーは、「陣地を取り合うゲーム」であるため、得点を決めるためには、シュートではなくボールを持ってトライゾーンに走りこむことで得点となる。そのためボール操作であるシュートやドリブルの必要がない。ボールが扱いにくいようであればボールをクッションやぬいぐるみなど扱いやすいものに変えることも必要である。守り側は、ボールを持っているプレーヤーのタグを取ることでそのプレーヤーの動きを止めることができるので、タグを取ろうとすると身体接触をすることがある。そのため、しっかりと爪を切らせておく必要がある。また、ボールを持っているプレーヤー側にも守りのプレーヤーを避けるようにして進まなければならないことを安全管理のために子どもたちにしっかり確認しておく必要がある。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・パスを出したり、シュートをしたりすることが苦手な児童には、ボールを保持する条件を易しくするとともに、ボールを保持した際に周囲の状況が確認できるように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。
- ・ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することが苦手な児童には、守る者の位置を見るように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。

単元名 体づくり運動(多様な動きをつくる運動)なわとび

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 多様な動きをつくる運動では、その行い方を知るとともに体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせることができる。
- (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100208_001

【準備等】短なわ、長なわ、学習カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 なわとび運動のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★いままでの跳び方で楽しんだり、新しい跳び方に挑戦しよう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成する。 <p>○なわとびゲームをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なわを巧みに操作して、跳んだり、続けて長く跳んだりするなわ跳び運動の特性を理解させる。 ・1グループ5～10人、男女混合で編成する ・跳べない子もできるだけ一緒に参加できるゲームを行う。 <なわとびゲームの例> 1分間なわとび、なわとびリレー(前の人がひっかかったら次の人が跳ぶ)、なわとびおにごっこ、フラフープなわとび、くるくるジャンプ(一人が回転しながらなわとびを低くまわしてそれをジャンプする)
<p>2～4 なわとび運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なわとび運動に関連した体ほぐしの運動をする。 ○短なわとびを工夫して楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・前跳び、後ろ跳び、片足跳び、交差跳び ○長なわとびを工夫して楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・8の字跳び、全員跳び ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、できるようになった跳び方 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間必ず行うようにする。 ・個人で楽しむだけでなく、数人で一緒に跳んだり、タイミングを合わせて跳んだりするなどグループで工夫をして行わせる。 【評】短なわとび運動に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・大なわの回し方のポイントなども指導する。 【評】なわとびを工夫して楽しむ活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
<p>5～6 なわとび大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○グループ対抗のなわとび大会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・短なわとび、長なわとび ・グループ対抗戦、個人戦 ○反省し、まとめをする。 ○第6時は、単元のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、できるようになった跳び方 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで練習をしてきた跳び方などを参考に、大会の種目を設定する。 ・グループでの話合いや、学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

体づくり運動の中の、多様な動きをつくる運動は、体のバランスをとったり移動をしたりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを意図的に育む運動である。これらを通して、体の基本的な動きを総合的に身に付けるとともに、それらを組み合わせた動きを身に付けることをねらいとして行う運動である。本単元では用具として短なわや長なわを使った運動を通して、様々な動きを体験させたいと考えた。そこで、なわとびゲームでチームの記録を伸ばすことに意欲的に取り組ませることにより、新しい跳び方を身に付けたり、今できる跳び方の習熟度を高めたりすることができるようにした。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・用具を跳ぶ動きが苦手な児童には、踵を上げて跳ぶことや手首の使い方がつかめるよう、用具を持たずにその場で跳んだり、弾みやすい場所で行ったりするなどの配慮をする。

単元名 【旧】保健「育ちゆく体とわたし」

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 体の発育・発達について理解することができる。
 (2) 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現することができる。
 (3) 健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

04100209_001

【準備等】健康診断表、健康手帳など

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 体の成長について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の身長伸びを見て気付いたことを話し合い、単元の学習課題をつかむ。 ★心や体の成長について調べよう。 ○これからの発育・発達について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・男女差、個人差、成長の著しい時期 ○学習のまとめをする。 <p>2 思春期の体つきの変化について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○男女の体つきの変化について話し合う。 ○体つきの変化について確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・男性の変化、女性の変化、両性とも起こる変化 ○学習のまとめをする。 <p>3 思春期の体の中の変化について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書P 22の男子と女子の作文を読み、感じたことを話し合う。 ○体の中で起きる変化について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・精通、射精 ・初経、月経 ○心の中で起きる変化について理解する。 ○学習のまとめをする。 <p>4 よりよく成長するための生活について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○よりよく成長していくための方法を考える。 ○運動をした後の体や気持ちの変化について話し合う。 ○休養・睡眠と体の関係について理解する。 ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断表などの記録を使い、教科書P 18「やってみよう」をさせる。 ・教科書P. 19のグラフと絵をもとに気付いたことをグループで話し合わせる。話し合ったことを発表させ、一般的な傾向をつかませる。 ・人の体の発育の仕方には個人差があることを理解させる。 ・男女混合のグループになり、ブレインストーミングを行う。 <ブレインストーミングの手法> 批判やコメントはしない。 自由にアイデアを出す。 できるだけ多くの考えを出す。 【評】男女の体つきの変化を見付け、意見を出す活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書P. 20の絵を見て、大人に近づくと起こる体つきの変化についてまとめる。 ・体つきは年齢と共に変化するが男女差、個人差があることを理解させる。 ・作文の中の出来事は、大人の体に近づいていくことによるもので、男子も女子も体の変化があり、病気ではないことを知らせる。 ・「月経」「射精」の仕組みについて説明を加え、新しい命をつくる体の仕組みが働きだしたことを知らせる。 ・体つきの変化、体の中での変化と同じように心の中でも変化が起きてくることを確認する 【評】心の中で起きる変化について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する ・変化は次の世代の子どもを作るための変化であること、変化が現れる時期は個人差があるがだれにでも起きる現象であることを押さえる。 ・教科書P. 26「やってみよう」に丸を付けたり絵を描いたりしながら自分の食生活を振り返る。 ・運動は心臓、肺、筋肉、骨などをつくること今が大切な時期であることを知らせる。 ・寝る時間と成長ホルモンの関係についても押さえ、生活リズムの大切さも確認する。 【評】学習のまとめをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【備 考】

近年、栄養状態の向上により、発育期が早く訪れる傾向にある。本単元では、これから発育期を迎える児童に、自分の体と心に起こる変化を正しく理解させる。また、この変化はだれにでも起こるものであり、自分の体の変化や発育の違いなどについて肯定的に受け止められるよう指導することが大切である。

単元名 ゲーム(ベースボール型ゲーム)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) ベースボール型ゲームでは、その行い方を知るとともに蹴る、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点をとったり防いだりする動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100301_001

【準備等】 ハンドベースボール、テニスラケット、プラスチックバット、カラーコーン など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ベースボール型ゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームに合った作戦を選び、ルールを工夫してゲームを楽しもう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○チームを編成し、役割を分担する。 ○試しのゲームをする。 <p>2～3 簡単なルールでゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベースボール型ゲームに関連した体ほぐしの運動をする ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール・マナー・対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題・作戦・ルール・マナーなど <p>4～6 ルールや作戦を工夫してゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手を確認する。 ○対戦相手と、ルールについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻守を交替し、ボールを投げる、打つ(蹴る)捕るというゲームの特性を理解させる。 ・1チーム5～6人、男女混合で編成する。 ・技能差をできるだけ感じないような、ルールや場の工夫をしてゲームを行う。 <ルールや場の例> スポンジボールを使う ボールを打ったらカラーコーンを回ってきて1点 全員攻撃してチェンジ ピッチャーは味方が打ちやすいボールを投げる ティーバッティングで固定したボールを打つ ボールを打つ物(手のひら、ラケットやプラスチックバットなど)を変化させる ゴロでも捕ったらアウトにする 1塁までの距離を調節する 打った球をある場所(かごなど)に戻すのと走塁との競争にする ボールをとりやすいものにするなど ・<運動の例> 投げ上げたボールを自分でキャッチ 投げてその場で一回転してキャッチ 大きめのボールでキャッチボール ボールを真上に投げ上げ、別の子がキャッチなど ・いろいろなチームと対戦することを知らせる ・児童の実態とゲームのルールや場があっているかを観察し、確認する。 ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームのめあてにそった動きができていないチームやまよりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 【評】ゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じチームと2ゲーム行うことを知らせる。 ・これまでの学習をもとに、相手チームとの話し合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。 <工夫したルールや場の例> 3アウトチェンジ。 2アウトチェンジ。 ノーバウンドで捕球したら一気に2アウト。 ディフェンスエリア内で捕球したらアウト。

○ チームの課題や作戦を話し合う。

- 第1 ゲームをする。
- 反省し、練習をする。

○ 第2 ゲームをする。

- 反省し、まとめをする。
 - ・ 課題・作戦、練習・ルールなど
- 第6 時は、単元のまとめもする。

走塁は2 塁まで。
バッターの能力によってピッチャーの位置を変える。
走っているときにはボールを当ててもアウトにしないなど。

- ・ 課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。

- ・ ゲームの結果から、チームの課題に沿った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。

【評】 チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する

- ・ 第1 ゲームと同じチームと対戦する。

【評】 ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 練習の成果を確認させる。

- ・ チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

3, 4 年生のベースボール型ゲームでは、蹴る、打つ、捕る、投げるなどの動きによって、易しいゲームをすることを目標としている。易しいゲームとは、簡単なボール操作で行える、比較的少人数で行える、身体接触を避けるなど、児童が取り組みやすいように工夫したゲームをいう。技能を身に付けることに時間がかかるため、投げ方、打ち方、捕り方などを体ほぐし運動を通して身に付けさせたり、みんなが楽しめる易しいルールや場でゲームを行ったりする。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・ ボールをフェアグラウンド内に蹴ったり打ったりすることが苦手な児童には、大きなボールや軽いボールを用いたり、手や大きなバット、軽いバット、ラケットなどを用いて打ったり、静止したボールを蹴ったり打ったりすることができるようにするなどの配慮をする。

- ・ 投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げるのが苦手な児童には、的当てゲームを取り入れたり、紙鉄砲やタオルを用いて遊ぶ場を設定したりして、投げる動きが自然に身に付くような練習をするなどの配慮をする。

単元名	体づくり運動(多様な動きをつくる運動)体を移動する動き・かけ足	配当時間	5時間
単元の目標	(1) 多様な動きをつくる運動では、その行い方を知るとともに体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをし、それらを組み合わせることができる。 (2) 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。		

標準的な展開例

04100302_001

【準備等】学習カード、カラーコーン、ストップウォッチ

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 かけ足のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★自分にあったペースで3分間走をしよう。 <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2分間の集団走をする。 ○計測するペアを決める。 ○試しの3分間走をする。 <p>○自分のペース（1分ごとの走行距離）や目標距離（3分間の走行距離）を決め、学習カードに記入する。</p> <p>2～4 自分に合ったペースをつかみ、かけ足をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・鬼遊び、ジグザグ走、おんぶして歩く、背中ずもうなど ○フォームや呼吸法を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・足をあまり高く上げない ・肩に力を入れずに腕を振る ・鼻から吸って口から吐く ・4歩1呼吸 ○2分間の集団走をする。 <p>○ペアでめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1分ごとの走行距離、目標距離など <p>○3分間走をする。</p> <p>○反省し、次回のペースや目標距離を決める。</p> <p>5 かけ足記録会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○3分間の集団走をする。 ○3分間走の記録会を行う。 <p>○単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない一定の速さでかけ足をすることを知らせる。 ・学年、学級の実態に応じて4分間走を行ってもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・トラックに10mごとにカラーコーンを立てペアの児童に1分ごとの走行距離を記録させる。 ・試走の結果から考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動として、鬼遊びを続けて長く行ったり、力試しの運動などをさせたりする。 ・ペアで見合いながら気を付けさせる。 ・声を掛け合い励まし合うよう助言する。 <p>【評】 ペアで協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】 自分にあったペースで走る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで走り方を確認させる。 ・自分の目標記録を決めてそれを目指して行わせる。 ・走るペースが合っているか、ペアが声を掛け自分のペースで走ることができるようにさせる。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

体づくり運動の中の、多様な動きをつくる運動では、体のバランスをとったり移動をしたりする動きや、用具を操作したり力試しをしたりする動きを意図的に育む運動を通して、体の基本的な動きを総合的に身に付けるとともに、それらを組み合わせた動きを身に付けることをねらいとして行う運動である。本単元では体を移動する運動として一定の速さでのかけ足を中心に構成した。また、力試しの運動として人を押したり引いたりする力比べや、人を運んだり支えたりする運動も行う。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・一定の速さで続けて走ることが苦手な児童には、リズムよくしっかりと息を吐きながら、続けることができる速さで行うことを個別に助言するなどの配慮をする。

単元名 器械運動(マット運動)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) マット運動では、その行い方を知るとともに回転計や巧技系の基本的な技ができる。
 (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100303_001

【準備等】 マット、学習カード、カラーコーン、セーフティーマット、踏切板、跳び箱など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 マット運動の内容とねらいを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★いろいろな回転技や倒立技をしよう ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成する。 ○マット運動に関連した体ほぐしの運動をする。 <p>2～3 いろいろな場で、前転や後転をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○前転や後転のいろいろな技を練習する。 <p>＜場の例＞ 坂道マット（踏切板などを入れて） 高マット（マットを重ねて） 細いマット 物（赤白帽子やボールなど）を手前に置いて跳び越す ふわふわマット（セフティーマット） 重ね段マット（ずらして重ねて段のあるマット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、グループでの協力 <p>4～5 新しい技や繰り返し技、組み合わせ技をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○新しい技を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・補助倒立、頭倒立、側方倒立回転など <p>○グループで一緒に技を繰り返したり、組み合わせたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、協力 <p>6 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○自分たちの考えたグループでの技を練習する。 <p>○発表をする。</p> <p>○単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1 グループ5～6人程度がよい。 ・＜体ほぐし運動の例＞ カエルの足打ち（手を前に着き、両足を空中で合わせる。）、ゆりかご、ブリッジ、首倒立など ・いろいろな場での前転や後転を経験し、回転感覚を身に付けるようにする。 【評】いろいろな場で前転や後転をする活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・まだ技が身に付いていない児童のために開脚前転や開脚後転が練習できる場も設ける。 ・ステップに合わせた練習の場を準備する。 安全に気を付けて練習しているか観察し、必要に応じて助言する。 ・相談しながら技を繰り返したり、組み合わせたりすることで、楽しく習熟を図る。 【評】練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・グループで数人が一緒に演技をしてもよいことを伝える。 個々の技能に合わせて、発表する技を選ばせるようする。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

マット運動は技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。すべての児童が運動の楽しさや、喜びに触れることができるよう、技に関連した易しい運動遊びを取り入れたり、場や条件を段階的に設け繰り返し練習していけるよう工夫したい。そこで、遊びながら身体感覚を身に付け、それを基に技の習熟ができるよう授業時間の前半に逆さ感覚や回転感覚、腕支持感覚が身に付くような身体感覚づくりを取り入れた。遊びの中で必要な身体感覚を習得し、それを基に授業の後半で基本的なマット運動の技術の習熟を図れるようにした。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・前転が苦手な児童には、ゆりかごなどの体を揺らす運動遊びや、かえるの逆立ちなどの体を支える運動遊びに取り組んだり、傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりするなどの配慮をする。
- ・後転が苦手な児童には、ゆりかごなどの体を揺らす運動遊びや、かえるの逆立ちなどの体を支える運動遊びに取り組んだり、傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくしたりして、腰を上げたり、体を支えたり、回転の勢いをつけたりする動きが身に付くようにするなどの配慮をする。
- ・壁倒立が苦手な児童には、肋木や壁を活用した運動遊びに取り組んだり、足を勢いよく振り上げるためにゴムなどを活用したりして、体を逆さまにして支えたり、足を勢いよく振り上げたりする動きが身に付くようにするなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ゴール型ゲーム)サッカー

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100304_001

【準備等】 サッカーボール、学習カード、カラーコーン、ハードル、対戦表 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ゴール型ゲームのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームを楽しもう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成する。 ○試しのゲームをする。 <p>2～4 簡単なルールで、ゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型ゲームに関連した体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナー <p>5～8 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○対戦相手と、ルールについて話し合う。 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習、ルール <p>9 サッカー大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーグ戦やトーナメント戦で、サッカー大会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻守が入り交じり、主に足を使って行うゲームの特性を理解させる。 通常のサッカーのルールや場にとらわれず、児童の実態に合ったルールや場で行う。 ＜ゲームの例＞ ラインサッカー、ミニサッカーなど ・1チーム4～7人、男女混合で編成する。 ・＜試しのゲームの例＞ 2ボールサッカー、4ゴールサッカー、ラッキーゾーンサッカー、ノーラインサッカーなど ・毎時間必ず行うようにする。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる ・児童の実態とゲームのルールや場があっているかを観察し、確認する。 ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に沿った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 【評】 いろいろなチームとゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・練習の成果を確認させる。 ・同じチームと2ゲーム行うことを知らせる。 ・ねらい1の学習を基に、相手チームとの話し合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。 ＜工夫したルールの例＞ 誰でもフリーゾーンは入れるようにする。 ボールを柔らかいスポンジボールにする。 サイドラインの外に手でボールを扱える人を作る。 ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に沿った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 【評】 チームにあった課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 ・練習の成果を確認させる。 ・試合方法は、学級の実態に応じて決める。

○単元のまとめをする。

【評】サッカー大会を通して、「知識・技能」を評価する。
・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

ゴール型ゲームはコート内で攻守が入り交じり、手や足などを使って攻防を組み立て、一定の時間内に得点を競い合うことを課題としたゲームである。本単元では、ゲームを中心として簡単なボール扱いや攻め方、守り方を身に付けみんながシュートすることを楽しめるようにする。サッカーの正式なルールに合わせて学習をするのではなく、実態に合ったルールでゲームを構築し、学習する楽しさ、喜びを味わわせる。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

・パスを出したり、シュートをしたりすることが苦手な児童には、ボールを保持する条件を易しくするとともに、ボールを保持した際に周囲の状況が確認できるように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。
・ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することが苦手な児童には、守る者の位置を見るように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。

単元名 ゲーム(ゴール型ゲーム)タグラグビー

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

04100305_001

【準備等】 タグラグビーボール、学習カード、カラーコーン、タグセット（タグと腰ベルト）、ゲームベストなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ゴール型ゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームに合った作戦を選び、ルールを工夫してゲームを楽しもう。 ○マナーや安全の運動の仕方について知る。 ○学習カードの使い方を知る。 ○チームを編成し、役割を分担する。 ○タグラグビーに関連した体ほぐしの運動をする。 ○試しのゲームをする。 <p>2～4 簡単なルールで、タグラグビーを基にした簡易化したゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型ゲームに関連した体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ねことねずみ、タグ取り鬼、ボール運びリレーなど ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○第1ゲームをする。 ○全体で振り返り、ルールを整える。 ○第2ゲームをする。 ○反省しまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー <p>5～8 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習、ルール <p>9 タグラグビー大会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーグ戦やトーナメント戦で、タグラグビー大会を行う ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陣地を取り合うゴール型のゲームであること特性を理解させる。攻守の交替は、ボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数取ることができれば交替。この単元では、タグの取り方や取られたら止まることをしっかり押さえておきたい。 ・ボールを持っているプレーヤーのタグを取る時には「タグ！」を大きな声を出すことはマナーである。 ・1チーム4～7人、男女混合で編成する。 ・チームは4～8チームをつくる。コートは4チームで1コートあるとよい。 ・ラン、パス、フォローについて簡単なゲームを行う。 ・色々なチームと対戦することを知らせる。 ＜ルールやコートの例＞ 守備側のプレーヤーを少なくする。コートの幅を狭くするなど。 ・ゲームの内容を受けて、学級全体でルールを整えていく。 ・第1ゲームとは違うチームで対戦をさせる。 【評】 チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じチームと2ゲーム行うこと知らせる。 ・相手チームとの話合いでマナーやルールの確認をする。必要に応じてルールを変更していく。 ＜ルールの工夫の例＞ 攻守交替になるボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数を変更するなど。少なくすれば攻守交替が早くなるが、トライが決めにくくなる。 ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 【評】 ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 【評】 チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・練習の成果を確認させる。 ・チームに合った作戦を立てさせる。 ・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。 【評】 ゲームを通して、「知識・技能」を評価

【 備 考 】

ゴール型ゲームでは、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、コート内で攻守入り交じって、ボールを手や足でシュートしたり、空いている場所に素早く動いたりする易しいゲーム及び陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むなどの易しいゲームをすることである。タグラグビーは、「陣地を取り合うゲーム」であるため、得点を決めるためには、シュートではなくボールを持ってトライゾーンに走りこむことで得点となる。そのためボール操作であるシュートやドリブルの必要がない。ボールが扱いにくいようであればボールをクッションやぬいぐるみなど扱いやすいものに変えることも必要である。守り側は、ボールを持っているプレーヤーのタグを取ることでそのプレーヤーの動きを止めることができるので、タグを取ろうとすると身体接触をすることがある。そのため、しっかりと爪を切らせておく必要がある。また、ボールを持っているプレーヤー側にも守りのプレーヤーを避けるようにして進まなければならないことを安全管理のために子どもたちにしっかり確認しておく必要がある。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・パスを出したり、シュートをしたりすることが苦手な児童には、ボールを保持する条件を易しくするとともに、ボールを保持した際に周囲の状況が確認できるように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。
- ・ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することが苦手な児童には、守る者の位置を見るように言葉がけを工夫するなどの配慮をする。

単元名 体づくり運動(体ほぐしの運動)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりすることができる。
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100101_001

【準備等】 ゴム風船、ボール、輪、長なわ、短なわ、カセットCDプレーヤー、BGM

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 体ほぐしの運動のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のねらいや進め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「体ほぐしの運動」の意義 ・ 保健との関連 <p>★ 仲間と楽しく運動しながら、自分や仲間の体の状態に気付き、体を動かす楽しさや心地よさを味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ マナーや安全な運動の仕方について知る。 <p>○ 触れ合いの多い体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 円形コミュニケーション ・ 風船サッカー、大根抜き、人間知恵の輪、体じゃんけんなどゲーム的な要素をもった運動 </p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感想を話し合う。 <p>2～4 体ほぐしの運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ クラスみんなで活動的な運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 円形コミュニケーション ・ リズムにのった律動的な運動 ○ ゆったりと静的な運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2人組でストレッチング ・ 力を抜いてリラクゼーション <p>○ 気持ちを合わせて活動的な運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 風船サッカー、大根抜き、人間知恵の輪、地藏運びなどゲーム的な要素をもった運動 ・ ボール、輪、なわなど用具を使った運動 </p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感想を話し合う。 <p>○ 単元のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかった運動 ・ 仲間との関わり ・ 自分や仲間の体についての気付き </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽などを使って楽しい雰囲気がつくれるようにする。 ・ 運動の得意・不得意に関係なく、誰でも楽しめる運動であることを伝え、安心して取り組めるようにする。 ・ 「心と体の関係に気付く」、「仲間と関わり合う」ことを大切にさせる。 ・ みんなで運動して楽しかったことや体についての気付きを発表させる。 ・ 全員が手を離さないように指示する。 ・ 静かな感じのBGMをかける。 ・ 仲間の動きを感じながら、無理をしないように助言する。 ・ ペアを替えながら、行わせる。 <p>【評】 体を動かす楽しさや心地よさを分かって友達と仲よく取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで協力し合う運動を取り上げる。 ・ 声を掛け合いながら行わせる。 <p>【評】 体ほぐしのねらいを考え、自分の体の状態に合わせて運動を選んだり工夫したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や仲間の体の様子について感想を発表させる。 ・ 感想の発表やグループの話し合いなどをさせる ・ またやってみいたいという肯定的な印象が残るように言葉掛けをしていく。

【 備 考 】

本単元は、低学年や中学年の体ほぐしの運動を踏まえ、高学年の発達段階に合った学習内容の工夫が必要である。高学年では、手軽な運動や律動的な運動を通して、心と体が関係し合っていることに気付いたり、運動を通して仲間と豊かに関わる楽しさを体験し、さらには仲間のよさを認め合うことや、心の状態を軽くし、ストレスを軽減することを経験させたりする。そのため、仲間と関わりながら行える運動を取り上げる。また、家庭でも学習したことを活用できるようにする。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・ 心や体の変化に気付くことが苦手な児童には、二人組で気持ちや体の変化を話し合う場面をつくったり、運動を通して感じたことを確かめるような言葉掛けをしたりするなどの配慮をする。
- ・ 仲間と関わり合いながら運動をすることが苦手な児童には、協力や助け合いが必要になる運動を仕組み、仲間と共に運動をすることのよさが実感できるよう言葉掛けをするなどの配慮をする。

単元名 陸上運動(短距離走・リレー)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 短距離走・リレーでは、その行い方を理解するとともに、走る距離やバトンの受渡しなどのルールを決めて競走したり、自己(チーム)の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、一定の距離を全力で走ることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100102_001

【準備等】ストップウォッチ、バトン、旗、カラーコーン、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 短距離走やリレーの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★練習方法や競走の仕方を工夫して、自分の記録に挑戦したり、友達と競走したりしよう。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○短距離走に関連した体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・普通に走る。 ・大股(小股)で走る。 ・スキップ ・ギャロップで走る。 ・後ろ向きに走る。 ・ラダー ・手をつないで走るなど ・いろいろな姿勢からのスタートダッシュ(長座姿勢から、仰向けの姿勢から、伏臥姿勢から、腕立て伏せの姿勢から、スタンディングスタートからなど) ・追いかけてっこをする。(ネコとネズミ、ゴリラとゴジラ、ジャンケン追いかけてっこなど) ○100m走の記録を計測する。 ○チームを編成する。 <p>2～3 走り方や競走の仕方を工夫して短距離走をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○コースやルールについて知り、自分の課題に合わせてコースを選ぶ。 ○いろいろなコースを使って練習をしたり、短距離走を行ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> 第2時：自分で選んだコース内で競走する。 第3時：チーム対抗で競走する。 練習コース：直線走、スタートダッシュ、ピッチ、ストライド(小刻み走・大股走) 競走コース：7秒間走、ハンディ走、シャトル走、100mフラット走など ○反省し、まとめるをする。 <p>4～5 競走の仕方やルールを工夫してリレーをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○コースやルールの確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> コースの例：直線コース、周回コース、ワープリレーコースなど ○課題や作戦について話し合う。 ○課題に合った練習をする。 ○1回目のリレーをする。 ○反省し、練習をする。 ○2回目のリレーをする。 ○反省し、まとめるをする。 <p>6 短距離走・リレーのまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○短距離走の記録会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半は短距離走、後半はリレーを中心に学習し、まとめとして記録会を行うことを知らせる。 ・トラックを回るだけでなく、遊具の間をジグザグに抜けるなど、変化をつけて楽しく行う ・いろいろな姿勢のスタートを体験させる。第2時からも例示したような運動を体ほぐしの運動として行う。 ・運動場の大きさや児童の実態に合わせ、距離を変えてよい。 ・100m走の記録を基に、力が均等な偶数チーム(1チーム5～6人)に分ける。 ・コースのねらいやルールを説明し、自分の課題に合わせてコースを選択できるようにする ・コースを自分の課題に合わせて選ばせる。例示したコース以外に、チームでコースを考えさせてもよい。各チームにストップウォッチを配布し、計測させる。 <p>【評】友達と協力して短距離走を行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バトンパスを取り入れたゲームなども行えるとよい。 ・コースやルールについては児童の実態に合わせて決める。 ・話合いが進まないチームには必要に応じて助言する。 ・教え合ったり競走したりしながら練習を進めさせる。 <p>【評】課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目のリレーをやってみて気付いたことや他のチームの工夫について話し合わせ、2回目のリレーに活用させる。 ・100mの記録会をする。

○リレー大会をする。

○単元のまとめをする。

- ・○秒間走として、その時間に走れた距離で競走してもよい。（例：世界記録に挑戦として9秒58で何m走ることができるかに挑戦させる。）
- ・友達と励まし合いながら挑戦できるようにする。
- ・チームの目標タイムを設定し、そのタイムを目指して大会をさせる。
- 【評】記録会やリレー大会を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

高学年になると、足が速い・遅いをはっきりと自覚するようになり、走ることが好きな児童と嫌いな児童の二極化が見られるようになる。そのため、勝ち負けだけではなく、一人一人が課題をもって達成感が味わえるような学習が必要となる。そこでいろいろな練習コースや競走コースを設定し、自分の課題に合った練習をしたり、挑戦したりする中で、心地よく走る楽しさを味わわせたい。本単元では、走る距離やバトンパスなどのルールを定めて競走したり、自己（チーム）の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりしながら、一定の距離を全力で走ることができるようにする。自己の課題に合わせて練習の場を選んで運動することで習得したことを活用し、友達と励まし合ったり、作戦を工夫したりしながら記録達成を目指せるようにする。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・短距離走で、素早いスタートが苦手な児童には、構えた際に前に置いた足に重心をかけ、低い姿勢で構えるといったポイントを示すなどの配慮をする。
- ・リレーで、減速せずにバトンの受渡しをすることが苦手な児童には、「ハイ」の声をしっかりかけたり、バトンを受ける手の位置や高さを確かめたり、仲間同士でスタートマークの位置を確かめたりするなどの配慮をする。

単元名 表現運動(フォークダンス)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、表したい感じを表現したり踊りで交流したりすることができる。
- (2) 自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100103_001

【準備等】フォークダンス指導用ビデオ、フォークダンス用の曲、フォークダンスの踊り方の解説図、カセットCDプレーヤーなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 フォークダンスの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 <p>★いろいろな国のフォークダンスをみんなで楽しく踊ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習資料の活用の仕方を知る。 ○各国のフォークダンスの特徴を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・コロブチカ（ロシア） ・マイム・マイム（イスラエル） ・グスタフス・スコール（スウェーデン） ・オクラホマ・ミクサー（アメリカ） ・ソーラン節、エイサー、阿波踊り（日本） ○代表的な外国のフォークダンスや日本の民謡を踊る。 <p>2～4 いろいろなフォークダンスを踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○代表的な外国のフォークダンスや日本の民謡を踊る。 <p>○反省し、まとめをする。</p> <p>5～6 みんなで踊りたいフォークダンスを選んで踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ロック、サンバなどの曲の中から自分の好きな曲を選んで踊る。 <ul style="list-style-type: none"> ・1人で、2人組で、グループで ○今まで踊ったフォークダンスの中から、好きなものを選び、みんなで踊る。 <p>○第6時は単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各国のフォークダンスの特徴がつかみやすいようにビデオや解説図を準備する。 ・ステップや組み方の難易度を考慮し、感じの異なった踊りを用意する。 ・地域で親しまれている民謡や日本の代表的な民謡の中からも選択する。 ・基本的なステップや隊形などを身に付けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・難易度を考慮し、感じの異なった踊りを毎時間用意する。 ・ポイントになるステップや動きを指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の代表的な民謡や地域の民謡も取り上げる。 <p>【評】友達と協力して踊りの練習をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲別に踊る場所を分ける。 ・友達のよい動きを取り入れながら自分の踊りを工夫するよう助言する。 <p>【評】曲に合わせて工夫しながら踊る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォークダンスを選ばせ、学級全員で楽しめるようにする。 <p>【評】ダンスを発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

学校や地域の実態に応じてリズムダンスを加えて指導することができる。

フォークダンスは、自分の心と体を解放し、友達と関わり合って踊ることが楽しい運動である。地域に伝わる踊りや世界の代表的な踊りを身に付けて、みんなで楽しく踊って交流する。また、踊りを通していろいろな地域や世界の文化に触れることができるようにする。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・踊ることが苦手な児童には、低学年で既習した簡単な踊りや、前時に学習した踊りを授業の導入で行うなどの配慮をする。
- ・踊りの特徴を捉えて踊ることが苦手な児童には、踊りの由来や背景を伝えたり、映像を見て踊りのイメージを捉えたりするなどの配慮をする。
- ・踊り方を身に付けることが苦手な児童には、教師が曲を口ずさみながら全体を大まかに通して踊り、難しいところは部分練習をするなどの配慮をする。

単元名 保健「心の健康」

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすることができる
 (2) 心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができる。
 (3) 健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

05100104_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 心の発達について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書のP. 6～7を比べ、行動の違いについて気付いたことを話し合い、単元の学習課題をつかむ。 ★心の発達や心と体の関係、不安や悩みへの対処の方法を知り、自分の生活に生かそう。 今の自分の考え方や行動を1年生の時と比べ、どのように変化しているかを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの面、学習の面、行動の面 心のはたらきと年齢による発達を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・心のはたらきは、大きく分けて3つ（感情、社会性、思考力） ・互いに関連し合っていて、脳で行われている。 教科書P. 8「話し合ってみよう」で、感想を話し合う。 学習のまとめをする。 <p>2 心と体は互いに影響し合うことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 心と体が影響し合っていると思われることを発表する。 1年間のできごとを振り返り、その時の気持ちや体の変化について考える。 心と体の関係を表した言葉について考える。 学習のまとめをする。 <p>3 不安や悩みは、誰でももちながら成長することを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今心配なことや気になっていることについて話し合う。 不安や悩みで多かったことやそれ以外の悩みについてまとめる。 不安や悩みの対処の仕方について考える。 悩みがあるときにどうしているかを発表する。 不安や悩みを軽くする方法について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴く、友達と遊ぶ、運動をする、相談するなど 自分に合った解決方法を考える。 悩みを軽くする一つの方法である「体ほぐしの運動」を実際に体験し、感想を話し合う。 単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活のいろいろな場面での、心に関係した行動の違いに目を向けさせる。 話し合わせることで、自分では気付かなかった心の発達についても気付かせる。 教科書P. 8から年齢とともに、どのように感情や社会性、思考力が発達していくのかをとらえさせる。 感じたことを話し合わせることで、問題点や解決方法を考えさせる。 心のはたらきと生活経験を重ねることによって心が発達していくことを押さえる。 自分の経験を基に考えさせる。 教科書P. 10の「やってみよう」を基に、自分の生活を振り返らせ、そのときの気持ちと、体への変化について考えさせる。 教科書P. 11「話し合ってみよう」を基に、心と体は深く関係していることを理解させる。 心と体は、互いに影響し合うことを理解させる。 教科書P. 12の「話し合ってみよう」を基に、話し合わせる。 同じような悩みをもっている友達がいることや、誰もが不安や悩みをもっていることに気付かせる。 教科書P. 12の「話し合ってみよう」を基に考えさせる。 教科書P. 13「しりょう」の体ほぐしの運動などを体験させる。 これからの生活の中で活かしていきたいことを話し合わせる。 【評】学習のまとめをする活動を通して「知識・技能」の評価をする。

【 備 考 】

本単元では、心は年齢とともに発達すること及び心と体は相互に影響し合うことについて理解できるようにするとともに、不安や悩みへの対処について理解できるようにする。また、「心と体の相互の影響」や「不安や悩みへの対処方法」などについて学習して身に付けた知識を活用し、「体ほぐしの運動」において「体を動かす楽しさや心地よさ」などを実際に体験することで、知識が体験を通してより確かなものとして習得できるようにする。

単元名 水泳運動

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) クロール及び平泳ぎでは、その行い方を理解し、手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く泳ぐことができるとともに、安全確保につながる運動では、背浮きや浮き沈みをしながら、続けて長く浮くことができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100105_001

【準備等】学習カード、学習資料、ビート板、ヘルパー、基石、ボールなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 水泳の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★自分の課題をもって、クロールと平泳ぎで安定して泳ごう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○自分の泳力を知り、課題をつかむ。 ○グループを編成する。 <p>2～4 クロールをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を決める。 ○水泳に関連した体ほぐしの運動をする。 ○共通の課題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・け伸びの姿勢 ・よく進むバタ足 ・腕のかき ・クロールの伸びと呼吸など ○自分の課題にそって、泳力を伸ばす。 <ul style="list-style-type: none"> ・泳ぎの習得 ・スピードを高める。 ・長く泳ぐ ・伸びやかに泳ぐなど ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、きまり、心得など <p>5～7 平泳ぎをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を決める。 ○体ほぐしの運動をする。 ○共通の課題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・かえる足陸上練習 ・壁キック ・腕のかき ・呼吸の仕方 ・足、腕、呼吸のタイミング ・け伸びの姿勢 ・よく進むかえる足 ・平泳ぎのリズムなど ○自分の課題にそって、泳力を伸ばす。 <ul style="list-style-type: none"> ・泳ぎの習得 ・スピードを高める。 ・長く泳ぐ ・伸びやかに泳ぐなど ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、きまり、心得など <p>8 着衣泳をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○着衣をして水中を歩いたり、浮いたりする。 ○ゆっくり泳ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をもって、クロールや平泳ぎで泳ぐことを知らせる。 ・カードの記入は教室で行う。 ・プールのきまりや、水泳の心得をしっかり押さえる。 ・クロール、平泳ぎの泳力を測る。 ・児童の実態に応じてグループ編成をする。 ＜グループ編成の例＞ 2人組・泳力が異なる3人組・課題が同じ3人組など ・種目と課題別に、課題例や練習方法を図示したカードを用意する。 ・毎時間体ほぐしの運動を行うようにする。 ・技能的なポイントを指導していく。 ・個別に指導にあたる。 ・課題を解決させるための練習の方法や場が合っているか確認し、助言する。 ・クロール、平泳ぎの習熟した児童には、背泳ぎを指導してもよい。 ・水中からのスタート（プールの底や壁をけり泳ぎにつなげること）も取り上げる。 ・種目と課題別に、課題例や練習方法を図示したカードを用意する。 ・毎時間体ほぐしの運動を行うようにする。 ・技能的なポイントを指導していく。 ・個別に指導にあたる。 ・課題を解決させるための練習の方法や場が合っているか確認し、助言する。 ・クロール、平泳ぎの習熟した児童には、背泳ぎを指導してもよい。 ・水中からのスタート（プールの底や壁をけり泳ぎにつなげること）も取り上げる。 【評】協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】自分に合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・長袖・長ズボンが望ましい。（よく洗った清潔なもの）

<ul style="list-style-type: none"> ○速く泳ぐ。 ○エレメンタリーバックストローク（イカ泳ぎ）で泳ぐ。 ○ペットボトルを使って浮く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルを置く位置は、胸、腹、腰、首前、首後など <p>9～10 記録会、水泳大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クロール、平泳ぎの泳力を測る。 ○水泳大会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・全員リレー ・代表リレー ・基石拾い ・ボール送り ・水上バスケットなど ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服を着たまま、速く泳ぐことの大変さを知り水に落ちたときには、泳がずに浮いて助けを待つことを理解させる。 ・2リットルの空ペットボトルを用意させる。 ・どこに置くと浮きやすいか体感させるとともに、ペットボトルが救命具になることを理解させる。 ・できるようになったことや自分たちの考えた遊びやゲームで楽しむ。 【評】記録会・水泳大会を通して、「知識・技能」を評価する。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。
--	--

【 備 考 】

※学校の実態に応じて時間数を柔軟に変更してもよい。
水泳は、浮く、もぐる、進む、呼吸をするなどの技能によって成立している運動である。クロールや平泳ぎなどで長く泳ぐことをねらいとして、自己の記録を向上させたり、他の人と競争したりするところに楽しさや喜びを味わうことができるようにする。まず、習得の場として安全に気を付けて運動の基礎技能を身に付けることができるような活動を取り入れる。次に個人差に応じた学習活動を保障しながら、活用の場としてできるようになった泳ぎ方で記録に挑戦することができるようにする。また、体ほぐしの運動を行い、水に親しむ時間を設け、生涯にわたって水に親しんでいける態度を養う。水難事故防止のため、着衣泳についても、夏休み前に実施する。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

「クロール」

- ・前方に伸ばした手が下がり、手のかきに呼吸を合わせることが苦手な児童には、両手を必ず前方で揃えてから片手ずつかくための練習をする場や、仲間に手を引っ張ってもらいより前方に手を伸ばす練習をする場を設定したり、補助具をおさえる手に力を入れすぎないように助言したりするなどの配慮をする。
- ・頭が前方に上がり、横向きの息継ぎが苦手な児童には、歩きながら息継ぎの練習をする場を設定したり、へそを見るようにして顎を引き、耳まで浸かって息継ぎをするように助言したりするなどの配慮をする。
- ・手や足をゆっくりと動かすことが苦手な児童には、一定の距離を少ないストローク数で泳ぐ場や、決められたストローク数で泳ぐ距離を仲間と競い合う場を設定するなどの配慮をする。

「平泳ぎ」

- ・かえる足の動きが苦手な児童には、プールサイドに腰かけて足の内側で水を挟んだり、壁や補助具につかまって仲間に足を支えてもらったりして練習する場を設定するなどの配慮をする。
- ・手や足の動きと呼吸のタイミングを合わせることが苦手な児童には、陸上で動きの確認をする場を設定したり、水中を歩きながら仲間に息継ぎのタイミングを助言してもらったりするなどの配慮をする。
- ・キックの後にすぐ手をかいてしまい、伸びることが苦手な児童には、け伸びをしてから「かいて、蹴る」動きを繰り返すことを仲間と確かめ合わせたり、「かいて、蹴って、伸びる」の一連の動作をしたら一度立つように助言し、少ないストローク数で泳ぐ距離を伸ばす場を設定したりするなどの配慮をする。

「安全確保につながる運動」

- ・背浮きの姿勢での呼吸を続けることが苦手な児童には、浅い場所で踵を付けたまま背浮きになる姿勢の練習をしたり、補助具を胸に抱えたり、仲間に頭や腰を支えてもらったりして続けて浮く練習をしたりするなどの配慮をする。

- ・浮き沈みの動きに合わせた呼吸をすることが苦手な児童には、体が自然に浮いてくるまで待ってから息継ぎをすることや、頭を大きく上げるのではなく首をゆっくりと動かし呼吸することを助言するなどの配慮をする。

なお、着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方については、安全確保につながる運動との関連を図り、各学校の実態に応じて積極的に取り組むこと。

単元名 陸上運動(走り幅跳び)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 走り幅跳びでは、その行い方を理解するとともに、試技の回数や踏み切りゾーンの設置などのルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100201_001

【準備等】巻き尺、跳び箱、踏み切り板、砂ならし、ゴムひも、スタンド、輪、ビデオ、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 走り幅跳びの学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★自分に合った課題をもち、練習の仕方を工夫して、リズムカルな助走から踏み切って跳ぼう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○走り幅跳びに関連した体ほぐしの運動をする。 ○走り幅跳びの記録を計測する。 ○目標記録を知り、課題をつかむ。 <p>2～3 自分の課題に合わせた練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○自分の課題に合わせた場を選び、練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・踏み切り足の練習の場、助走の練習の場、強い踏み切りの練習の場、着地の練習の場など ○自分の記録に挑戦する。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・記録の伸び、次時の課題の把握など <p>4～5 自分の記録に挑戦したり、グループで競争したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○学習の進め方や課題を確認する。 ○自分に合った練習の場を選んで練習する。 ○競争の仕方やルールを確認し、競争する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1対1での競争、グループ対抗での競争など ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・練習方法、課題の達成度など <p>6 記録会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○記録会をする。 ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオや学習カード、教師の示範などで運動の仕方を理解させる。 ・学習カードの使い方を例示しながら理解させる。 ・実測で計測させる。 ・＜目標記録の出し方の例＞ <ol style="list-style-type: none"> ①立ち幅跳びの記録×(1.7～2) ②走り幅跳びの記録－立ち幅跳びの記録を得点化する。 ③50m走の記録から推定する(めやす表) ・自分の課題に合った場を選択しているか、安全に気を付けて練習しているかなど観察し、必要に応じて助言する。 ・自分に合った課題がもっているかを確認する ・友達とアドバイスし合えるようにする。 ・目標記録と比較し、学習の成果を確かめさせる。 ・幅30cm～40cm程度の踏み切りゾーンで踏み切ることができるようにする。 ・＜ルールの例＞ <p>得点：目標記録との差、走り幅跳びと立ち幅跳びの記録の差、グループ全員の記録の合計や平均</p> <p>勝敗：1対1の対抗戦、グループの合計得点で競うなど</p> <p>【評】友達と協力して練習したり、競争したりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】自分の課題に向かって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】記録会を通して、「知識・技能」を評価する。</p> ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

- ＜運動が苦手な児童への配慮の例＞
- ・リズムカルな助走から踏み切ることが苦手な児童には、3～5歩程度の短い助走での走り高跳びや跳び箱などの台から踏み切る場などで、力強く踏み切って体が浮くことを経験できるようにしたり、「トン・トン・ト・ト・トン」など、一定のリズムを声に出しながら踏み切る場を設定したりするなどの配慮をする。

単元名 器械運動(マット運動)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や器械・器具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100202_001

【準備等】 マット、跳び箱、踏切板、ビデオ、技の連続図、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 マット運動の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★新しい技を身に付け、安定して行う。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○マット運動に関連した体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・かえる足うち、かえる倒立、川跳び、ゆりかご、ブリッジなど ○試しの運動をし、課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・前転、後転、開脚前転、開脚後転、壁倒立、側方倒立回転など <p>2～4 マット運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○本時の課題や練習方法を確認する。 <p>○いろいろな場で、基本的な技の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技のステップに応じた練習の場で、発展技や新しい技に挑戦する。 <ul style="list-style-type: none"> ・(発展技) 倒立前転、跳び前転、伸膝後転、倒立、倒立ブリッジ、ロンダートなど <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、態度、次時の課題の把握など <p>5 発表の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○演技種目の練習をする。 <p>○反省し、まとめをする。</p> <p>6 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動と演技種目の練習をする。 ○発表をする。 ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や映像などを利用し、技の種類や組み合わせ方を知らせ、学習意欲を高める。 ・器具が速やかに準備できるよう分担する。 ・易しい運動で逆さ感覚などを体験させる。 ・できる技を確認させ、次時の課題をつかませる。 ・自分から進んで取り組めるように、学習カードやビデオ、連続図などを用意し、学習環境を整える。 ・技に応じて、場を設定し、易しい場から段階的に取り組めるようにする。 ・友達と見合い、教え合えるようにする。 ・自己の能力に適した課題に取り組んでいるかを確認する。 ・場や器械・器具の安全に配慮させる。 ・友達と教え合わせ、練習を工夫して行えるようにする。 【評】安全に気を付け、友達と協力して技を練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】自分に合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・発表するマットに補助具や補助者を置いた易しい場を用意し、完全なできばえでなくてもできたことを認め、連続技の一つに加えて発表できるようにする。(発表は、集団マットとして行わせてもよい。) ・単元のまとめとして発表させる。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

<運動が苦手な児童への配慮の例>

- ・開脚前転が苦手な児童には、前転の起き上がる速さをつけたり、傾斜を利用したりして、勢いをつけて回転する動きが身に付くようにするなどの配慮をする。
- ・ロンダートが苦手な児童には、手や足を着く場所が分かるように目印を置くなどして練習したり、側方倒立回転で足を勢いよく振り上げたりして、腰を伸ばした姿勢で体をひねる動きが身に付くようにするなどの配慮をする。
- ・補助倒立が苦手な児童には、壁登り逆立ちや壁倒立などをして、体を逆さまにして支えたり、足を振り上げたりする動きが身に付くようにするなどの配慮をする。

単元名 器械運動(鉄棒運動)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 鉄棒運動では、その行い方を理解するとともに、支持系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や器械・器具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100203_001

【準備等】鉄棒、ビデオ、補助具、技の連続図、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 鉄棒運動の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★新しい技を身に付け、繰り返したり組み合わせたりして回ろう ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成する。 ○鉄棒運動に関連した体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・足抜き回り、前回り下り競争、両膝掛け振り、こうもり振り、布団干しから正面支持など ○試しの運動をし、課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・膝掛け上がり、逆上がり、前方（後方）支持回転、前方（後方）片膝掛け回転、転向前下り、踏み越し下り、こうもり振り下り（両膝掛け振動下り）など <p>2～4 鉄棒運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○本時の課題や練習方法を確認する。 ○いろいろな場で、基本的な技の練習をしたり、できる技を繰り返したり、組み合わせたりする。 <p>○技のステップに応じた練習の場で、発展技や新しい技に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助者を付けて、補助具を付けて ・（発展技）もも掛け上がり <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できれば、態度、次時の課題の把握など <p>5 発表の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 <p>○演技種目の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省し、まとめをする。 <p>6 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動と演技種目の練習をする。 ○発表をする。 ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオや資料などを利用し、技の種類や組み合わせ方を知らせ、学習意欲を高める。 ・2人1組で1グループを作る。 ・易しい遊びやゲームなどを取り入れ、回転感覚や支持感覚、逆さ感覚などを体験させる。 ・学習カードにできる技をチェックさせ、次時の課題をつかませる。 ・学習カードには技の組み合わせ方も例示しておく。 ・技に応じて、場を設定する。 ・易しい場から段階的に取り組めるようにする ・友達と見合い、教え合えるようにする。 ・自己の能力に適した課題に取り組んでいるかを確認する。 ・場や器械・器具の安全に配慮させる。 ・練習を工夫して行えるようにする。 ・2人1組で互いの課題に合った練習の場で協力し合って練習させる。 【評】2人で協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】自分に合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する ・発表する鉄棒に補助具を置いた易しい場を用意し、完全なできればなくてもできたことを認め、発表できるようにする。 ・発表は、友達と合わせたシンクロ技として行わせてもよい。 ・単元のまとめとして発表させる。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。

【備 考】

鉄棒運動は、遊びの中での腕支持や逆さ感覚づくりが大切である。体ほぐしの運動で易しい遊びやゲームを行い、楽しみながら回転感覚や支持感覚、逆さ感覚を身に付けることができるようにする。本単元では、第1～第4時の学習で今できる上り技、回り技、下り技の繰り返しや組み合わせをしたり、もう少しでできそうな技に挑戦したりしていく。児童が運動の楽しさや喜びに触れることができるように、それぞれの技のステップに応じた場を設置し、易しい場や条件でできたことを認め、新たな挑戦課題へと段階的に取り組めるようにする。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

・逆上がりが苦手な児童には、体を鉄棒に引きつける運動に取り組んだり、補助や補助具を利用して足を振り上げながら後方回転をしたりして、体を上昇させながら鉄棒に引きつけ回転する動きが身に付くようにするなどの配慮をする。

単元名 保健「けがの防止」

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすることができる。
 (2) けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現することができる。
 (3) 健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

05100204_001

【準備等】 けがに関する自校資料、けがの手当実習用の器具、校区地図、交通事故の新聞記事 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 けがの種類や原因について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 18～19から挿絵から8人のキャラクターを探し、気を付けることを考え、単元の学習課題をつかむ。 ★けがの防ぎ方について考え、けがの簡単な手当ができるようにしよう。 けがの経験について話し合う。 <p>○けがの原因について理解する。</p> <p>2 交通事故を防ぐためにはどうしたらよいのかを話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 人の行動に主な原因がある交通事故について考える。 環境に主な原因がある交通事故について考える。 学習のまとめをする。 <p>3 学校生活や地域でのけがの防止について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りのけがについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> どのような時間に、どのような場所で、どのような原因で 学校や地域でのけがについて話し合う。 けがを防ぐには、どうすればよいかを話し合う。 学習のまとめをする。 <p>4 身の回りの犯罪の防止について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 犯罪の起こりやすい場所について考える。 危険な目に遭いそうになったときには、どのように行動すればよいか考える。 犯罪から身を守るための方法について考える。 学習のまとめをする。 自然災害から身を守る <p>5 軽いけがの手当について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> けがをしたときの行動の仕方を知る。 軽いけがの手当ての仕方を実習する。 <ul style="list-style-type: none"> 擦り傷、切り傷、やけどなど 学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵の中から8人を見付け、どのような危険にどのような状況にいるのか、どのようなことに気を付ければよいのかを考えさせる。 教科書P. 20の「話し合ってみよう」を基に話し合わせる。 どのようなときに、一時停止をしないで飛び出してしまうのかについても考えさせる。 人間は心の状態や体の調子によって危険な行動をとってしまうことがあることに気付かせる。 教科書P. 22の「やってみよう」の場面で、どのような危険があるか予測し、行動の仕方を考える。 教科書P. 22のグラフから交通事故の傾向を読み取らせる。 通学路にどのような設備があるのか、その場にはどんな危険があるのか、具体的な例をあげて考えさせる。 教科書P. 23の「やってみよう」やP. 18～19の挿絵から見つけたけがの原因を、人の行動によるものと環境によるものとに分けて、どうしたら防げるのかを話し合わせる。 教科書P. 24の「やってみよう」に記入させ、けがの原因について考えさせる。 教科書P. 24のグラフから小学生の事故の原因の傾向を読み取らせる。 教科書P. 25の「やってみよう」を基に危険な予測や安全な行動について整理させる。 けがの防止には、状況を判断し安全な行動を心がけるとともに、周囲の環境を安全に整える必要があること押させる。 教科書P. 26の挿絵を基に考えさせる。 教科書P. 27の「やってみよう」を基に、地域の特色に応じた場面を設定しながら考えさせる。 危険が隠れている場所を見分けるためのポイントや安全な行動について整理させる。 犯罪を防ぐためには、危険な場所には近づかず安全な行動を心掛けることや安全な環境づくりが必要であることを押さえる。 教科書P. 28とP. 29の「話し合ってみよう」を基に話し合わせる。 けがをしたときには、その程度を素早く判断することが大切であることを知らせる。 けがの種類に合わせた手当の仕方があることを理解させる。 教科書P. 31の「やってみよう」の手当ての仕方を実習させる。 発展として、熱中症の対処の仕方についても取り上げる。 けがの防止について、どのように今後の生活の中で生かしていくのかを発表させ、実践への意欲を高める。 <p>【評】 学習したことをまとめる活動を通して、</p>

【 備 考 】

本単元では、けがの発生要因や防止の方法について理解できるようにするとともに、けがの簡単な手当てができるようにする。交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがなどを取り上げ、その防止には、周囲の状況をよく見極め、危険に早く気付いて、的確な判断の下に安全に行動することや、環境を安全に整えることが必要であることを理解させる。また、けがの手当ての実習を取り入れることでより実践的に理解できるようにする。

単元名 ボール運動(ネット型)ソフトバレーボール

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) ネット型では、その行い方を理解するとともに、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができる。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100205_001

【準備等】ソフトバレーボール、ビーチボール、学習資料、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ソフトバレーボールのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 <p>★チームで連携して相手コートにボールを打ち返そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○ソフトバレーボールに関連した、体ほぐしの運動をする ○試しのゲームをし、課題をつかむ。 <p>2～4 ソフトバレーボールを基にした簡易化されたゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組でのパス、チームでのパス、ネットをはさんでのパスなど ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナーなど <p>5～6 チームに合った作戦を工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習方法、ルールなど <p>7～8 ソフトバレーボール大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ソフトバレーボール大会をする。 ○第8時は、単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を理解させる。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・コートはバドミントンコートのサイズを目安とする。 ・1チーム1～2試合行う。 ・1試合7分程度で行う。 ・レシーブ、パスなどについてルールを簡易化したゲームを行う。 ＜ルールの例＞ 4人制、3～5回で返球する、ワンバウンド可、サーブはどこから打ってもよい、サーブは下から打つなど ・いろいろなチームと対戦することを知らせる ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 【評】チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じチームと2ゲーム以上行うことを知らせる。 ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する ・チームに合った作戦を立てさせる。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

ソフトバレーボールは、チームの連携による攻撃や守備によって攻防をするゲームである。本単元では、基

礎技能をラリーゲームなどで楽しく身に付けさせ、簡単な作戦を立て、いろいろなチームとゲームを行う学習と対戦相手を決め、自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・片手、両手もしくは用具を使って、相手コートにボールを打ち返すことが苦手な児童には、飛んできたボールを短時間保持することを認めたり、うまくはじくことができる児童と比較してどこが違うか考えたりする場を設定するなどの配慮をする。
- ・自陣のコート（中央付近）から相手コートに向けサービスを打ち入れることが苦手な児童には、手を使って投げ入れたり、軽い用具や柄の短い用具を用いたり、軽いボールを用いたり、一歩前からサービスをすることを認めたり、ネットの高さを低くしたりするなどの配慮をする。
- ・味方が受けやすいようにボールをつなぐことが苦手な児童には、飛んできたボールをキャッチしてパスしたりすることができるようにするなどの配慮をする。

単元名 ボール運動(ネット型)ミニテニス (攻守一体プレイ)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) ネット型では、その行い方を理解するとともに、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができる。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100206_001

【準備等】ミニテニスボール（少し大きめの柔らかい素材のボールなど）、ミニテニスラケット（段ボール等での自作ラケットなど）、学習カード、学習資料など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ミニテニスのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームで連携して、相手が捕りにくいボールを打ち返そう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○ミニテニスに関連した、体ほぐしの運動をする。 ○試しのゲームをし、めあてをつかむ。 <p>2～4 ミニテニスのボール操作を経験し、ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組でネットをはさんでのボール交換、近い距離からだんだん遠く離れて行うなど。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナーなど <p>5～6 チームに合った作戦を工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・めあて、作戦、練習方法、ルール、など <p>7～8 ミニテニス大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ミニテニス大会をする。 ○第8時は、単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットを挟んで、攻撃と防御が一体となっているゲーム様相のなかで攻撃を考えたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を確認する。 ・用具は、ミニテニス用のラケットや段ボール等を手のひら大サイズに加工したりしたものを使用する。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・コートはバドミントンコートのサイズを目安とする。 ・1チーム1～3試合行う。（ダブルス） ・1試合6分（2分×3ゲーム）程度行う。ダブルスの交代制で行う。 ・ストローク、ボレーなどについてルールを簡易化したゲームを行う。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる <p>〈ルールの例〉</p> <p>サーブはどこから打ってもよい、ネットの高さを調整する（コーンバーで作成する）など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 <p>【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームに合った作戦を立てさせる。 <p>【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

ネット型では、その行い方を理解するとともに、ボール操作とチームの作戦に基づいた位置取りをするなどのボールを持たないときの動きによって、軽くて柔らかいボールを片手、両手もしくは用具を使って操作したり相手が捕りにくいボールを返球したりするチームの連携プレイによる簡易化されたゲームや、自陣から相手コートに向かって相手が捕りにくいボールを返球する手や用具などを使った簡易化されたゲームをすることである。用具などを使った簡易化されたゲームの例示として、バドミントンやテニスを基にした簡易化されたゲームが示されている。

ミニテニスは、ネットを挟んで攻撃と防御が一体となっているゲーム要素の中で、攻撃を考えたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームである。本単元では、基礎技能をラリーゲームなどで楽しく身に付けさせ、簡単な作戦を立て、いろいろなチームとゲームを行う学習と対戦相手を決め、自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。

用具は、ミニテニス用のラケットを用いたり、段ボール等を手のひら大サイズに加工・補強したりしたものを使用する。またボールは、テニスボールより少し大きめの柔らかい素材のボールを使用する。ネットに関しては、コーンバーで設置したり、体育館で行う場合はバドミントンの支柱とネットで高さを調整したりして使用する。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・用具を使って、相手コートにボールを打ち返すことが苦手な児童には、飛んできたボールを短時間保持することを認めたり、うまくはじくことができる児童と比較してどこが違うか考えたりする場を設定するなどの配慮をする。

- ・自陣のコート（中央付近）から相手コートに向けサービスを打ち入れることが苦手な児童には、手を使って投げ入れたり、軽い用具や柄の短い用具を用いたり、軽いボールを用いたり、一歩前からサービスをすることを認めたり、ネットの高さを低くしたりするなどの配慮をする。

単元名 体づくり運動(体の動きを高める運動)1

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 体の動きを高める運動では、その行い方を理解するとともに、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができる。
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100207_001

【準備等】学習カード、カセットCDプレーヤー、軽快な曲、カラーコーン、短なわ、長なわ、ドッジボール、ラダー、フラフープなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 体の動きを高める運動のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>★自分の体力を知り、運動の仕方を工夫して体力を高めよう。</p> <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。</p> <p>○試しの運動をし、課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の柔らかさを高めるための運動：ストレッチ、リンボダンス、体の周りのボール転がし、ボール渡し、棒またぎなど ・巧みな動きを高めるための運動：短なわや長なわを使った運動、いろいろなボールキャッチ、輪や棒を使った運動、ラダー、サイドステップなど ・力強い動きを高めるための運動：腕立て伏せ、手押し車、雲梯、登り棒、人運び、すもう、綱引きなど ・動きを持続する能力を高めるための運動：持久走（5～6分）、固定設備や器械・器具を越えながらのサーキットトレーニング、短なわや長なわを使つての継続的な全身運動など <p>3～6 いろいろな体の動きを高める運動をする。</p> <p>○準備運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムダンス、ペアでのストレッチ、鬼遊びなど <p>○体の動きを高める運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の柔らかさを高めるための運動、巧みな動きを高めるための運動、力強い動きを高めるための運動、動きを持続する能力を高めるための運動 <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の伸び、次時の課題の把握など <p>○単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ体力テストの結果を参考に、自分の体力と課題をつかませておく。 ・体の柔らかさを高めるための運動、巧みな動きを高めるための運動、力強い動きを高めるための運動、動きを持続する能力を高めるための運動の4つから児童の実態に合わせていくつか運動を選び、場を設定して行わせる。 ・体ほぐしの運動を準備運動として取り入れる ・自分の体力を知り、課題をもって運動に取り組めるようにする。 ・児童の実態に合わせて運動を選び、場を設定して行わせる。 ・自分の体力や課題に合わせて運動を選んだり運動を工夫したりできるようにする。 【評】友達と助け合って、安全に運動する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】自分の体力に合わせて運動を選んだり、工夫したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

体の動きを高める運動は、児童の体力の向上を直接のねらいに行われる運動で、基本的には、「体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動」「力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動」で構成される。本単元は、多様な運動の場を設定し、自己の体力や生活に応じて運動に取り組めるようにする。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・体の各部位を伸ばしたり曲げたり、その姿勢を維持したりすることが苦手な児童には、息を吐きながら脱力をし、ゆっくりと体を伸展できるような言葉がけをするなどの配慮をする。
- ・一定の空間をくぐり抜けたり、前屈して用具を操作したりすることが苦手な児童には、空間を広げたり、十分な前屈ができなくても操作しやすい用具を用いたりするなどの配慮をする。

単元名 体づくり運動(体の動きを高める運動)2

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 体の動きを高める運動では、その行い方を理解するとともに、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができる。
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100301_001

【準備等】学習カード、カセットCDプレーヤー、短なわ、長なわ、カラーコーン、ストップウォッチ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 体の動きを高める運動のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>★自分の体力を知り、運動の仕方を工夫して体力を高めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 <p>○短なわで3分間連続跳びをする。</p> <p>○2～3分の集団走をする。</p> <p>○計測するペアを決める。</p> <p>○試しの5分間走（児童の実態に応じて6分間走）をする</p> <p>○自分のペース（1分ごとの走行距離）や目標距離（5分間の走行距離）を決める。</p> <p>2～3 自分の体力を知り、ペースをつかんで持久走をしたりなわとび運動をしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○短なわや長なわを跳ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・短なわ：一人で、ペアで、ランニングしながら ・長なわ：グループで、クラス全員で、8の字跳び ○持久走のフォームや呼吸法を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・腰の位置を高く、足をあまり高く上げない。 ・肩に力を入れずにしっかり腕を振る。 ・呼吸は吸う時よりも、吐く時に強く吐く。 ・鼻から吸って口から吐く。 ○2～3分間の集団走をする。 <p>○ペアで課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1分ごとの走行距離、目標距離など </p> <p>○5分間走をする。</p> <p>○反省し、次のペースや目標距離を決める。</p> <p>4～5 運動の行い方を工夫して、持久走やなわとび運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なわを使って行う運動の方法を決めて跳ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 短なわ：一人で、ペアで、ランニングしながら 長なわ：グループで、クラス全員で、8の字跳び ○持久走を工夫して行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで走る ・コースを工夫する。（固定施設や器械・器具を越えながらのサーキットトレーニング）など ○5分間走をする。 ○反省し、次のペースや目標距離を決める。 <p>6 記録会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なわとび大会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・短なわ連続跳び（一人で、ペアで） ・長なわ連続跳び（グループで、全員で、8の字跳び） ○5分間走をする。 ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない速さや自分のペースで5～6分間の持久走をしたり、なわを跳び続けたりすることで、動きを持続する能力を高めることを知らせる。 ・失敗しても、3分間跳び続けさせる。 <p>・トラックに10mごとにカラーコーンを立て、ペアの児童に、1分ごとの走行距離を記録させる。</p> <p>・試走の結果から考えさせ、学習カードに記入させる。</p> <p>・3～5分間、失敗しても跳ばせるようにする</p> <p>・ペアで見合いながら気を付けさせる。</p> <p>【評】 ペアで協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・持久走のフォームや呼吸法を確認させる。</p> <p>【評】 工夫してなわを跳んだり、持久走をしたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・今まで行った中から選んで行わせる。</p> <p>・記録の推移を確かめ、感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。</p>

【 備 考 】

本単元は、体づくり運動（体の動きを高める運動）の「動きを持続する能力を高めるための運動」の中から持久走やなわを使っての継続的な全身運動も取り上げる。体育の授業だけではなく、日常生活での運動につなげ生涯スポーツへの足掛かりとしたい。持久走は、健康観察を怠ると重大事故につながる場合があるので、児童の運動に取り組んでいる様子を十分に把握することと、児童に体調が悪いときや異変を感じたときには無理をしないように十分指導しておくことが大切である。

単元名 ボール運動(ゴール型)バスケットボール

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) ゴール型では、その行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができる。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100302_001

【準備等】バスケットボール5号、カラーコーン、学習カード、学習資料など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 バスケットボールのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★状況に応じたパスやドリブル、シュートをしよう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成し、役割を分担する。 ○バスケットボールに関連した体ほぐしの運動をする。 ○試しのゲームをし、課題をつかむ。 <p>2～4 バスケットボールを基にした簡易化されたゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ドリルゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドリブルリレー、シュートリレー、パス競争など ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、マナーなど <p>5～6 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ドリルゲームをする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○対戦相手と、ルールについて話し合う。 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻守が入り交じって行うゲームの特性を理解させる。 ・パス、ドリブル、シュートなどの基礎技能の大切さを理解させる。 ・1チーム4～7人、男女混合で編成する。 ・1チーム1～2試合行う。 ・1試合7分程度で行う。 <p>＜基本的なルール＞</p> <p>ボールを持って3歩以上歩かない（トラベリング）、一度ドリブルをやめたら再びドリブルはできない（ダブルドリブル）、相手を押したり、たたいたり、足をかけたりしてはいけない（ファウル）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パス、ドリブルなどについてルールを簡易化したゲームを行う。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる <p>＜ルールや場の例＞</p> <p>3対3などの少人数ゲーム、リングに当たれば1点入れば2点、フリーシュートゾーン、攻撃側のプレーヤーを増やす、守備側のプレーを制限するなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題が合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じチームと2ゲーム以上行うことを知らせる。 ・相手チームとの話合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。 <p>＜ルールや場の工夫例＞</p> <p>グリッドコート、ドリブルなしなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 <p>【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

- 反省し、まとめをする。
 - ・ 課題，作戦，練習方法，ルールなど
- 7～8 バスケットボール大会をする。
 - 体ほぐしの運動をする。
 - バスケットボール大会をする。
- 第8時は，単元のまとめをする。

- る。
- ・ 練習の成果を確認させる。
- ・ チームに合った作戦を立てさせる。
- 【評】 ゲームを通して，「知識・技能」を評価する。
- ・ チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

バスケットボールは，コート内で攻守が入り交じり，得点を競い合うゴール型の運動である。本単元では，パス，ドリブル，シュートなどの基礎技能をドリルゲームなどで楽しく身に付けさせ，いろいろなチームとゲームを行う学習と対戦相手を決め，自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・ 得点しやすい場所に移動し，パスを受けてシュートなどをすることが苦手な児童には，シュートが入りやすい場所に目印を付けたり，ボールを保持した際に最初にゴールを見ることを助言したりするなどの配慮をする。
- ・ ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることが苦手な児童には，仲間にゴールの位置を教えるよ

単元名 ボール運動(ゴール型)サッカー

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) ゴール型では、その行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができる。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100303_001

【準備等】 サッカーボール4号、ソフトサッカーボール、カラーコーン、学習カード、学習資料 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 サッカーのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★状況に応じたパスやドリブル、シュートをしよう。 <p>○学習カードや資料の使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <p>○チームを編成し、役割を分担する。</p> <p>○サッカーに関連した体ほぐしの運動をする。</p> <p>○試しのゲームをし、課題をつかむ。</p> <p>2～4 サッカーを基にした簡易化されたゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ドリルゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドリブルリレー、パス競争など ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <p>○第1ゲームをする。</p> <p>○反省し、練習をする。</p> <p>○第2ゲームをする。</p> <p>○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、マナーなど </p> <p>5～6 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ドリルゲームをする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○対戦相手と、ルールについて話し合う。 <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <p>○第1ゲームをする。</p> <p>○反省し、練習をする。</p> <p>○第2ゲームをする。</p> <p>○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習方法、ルールなど </p> <p>7～8 サッカー大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○サッカー大会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻守が入り交じって主に足を使って行うゲームの特性を理解させる。 パス、ドリブル、シュートなどの基礎技能の大切さを理解させる。 ・1チーム7～10人、男女混合で編成する。 ・1チーム1～2試合行う。 ・1試合各7分程度で行う。 ・キック（パス、シュート）、ドリブルなどについてルールを簡易化したゲームを行う。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる <p>＜ルールや場の例＞ 攻撃側のプレーヤーを増やす、守備側のプレーを制限する、グリッドコート、ミニコート 柔らかいボールなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】 チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じチームと2ゲーム行うことを知らせる。 ・相手チームとの話合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。 <p>＜ルールや場の工夫例＞ キーパーなし、グリッドコート、ボーナス得点など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 <p>【評】 チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習の成果を確認させる。 ・チームに合った作戦を立てさせる。

○第8時は、単元のまとめをする。

・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

サッカーは、攻守が入り交じって主に足を使って行うゴール型のゲームである。本単元では、キック（パス、シュート）、ドリブルなどの基礎技能をドリルゲームなどで楽しく身に付けさせ、いろいろなチームとゲームを行う学習と対戦相手を決め、自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

・得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをすることが苦手な児童には、シュートが入りやすい場所に目印を付けたり、ボールを保持した際に最初にゴールを見ることを助言したりするなどの配慮をする。

・ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることが苦手な児童には、仲間にゴールの位置を教えるよ

単元名 **ボール運動(ゴール型)タグラグビー**配当時間 **9 時間**

単元の目標 (1) ゴール型では、その行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができる。
 (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
 (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

05100304_001

【準備等】 タグラグビーボール、学習カード、カラーコーン、タグセット（タグと腰ベルト）、ゲームベストなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 タグラグビーのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○学習のねらいや進め方を知る。 ★状況に応じたラン・パス・フォローをしよう。</p> <p>○マナーや安全の運動の仕方について知る。</p> <p>○学習カードの使い方を知る。 ○チームを編成し、役割を分担する。 ○タグラグビーに関連した体ほぐしの運動をする。</p> <p>○試しのゲームをし、課題をつかむ。</p> <p>2～4 タグラグビーを基にした簡易化したゲームをする。 ○体ほぐしの運動をする。 ○ドリルゲームをする。 ・ボール運びリレーなど ○ゲームの進め方を確認する。 ・ルール、マナー、対戦相手</p> <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <p>○第1ゲームをする。</p> <p>○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省しまとめをする。 ・課題、作戦、ルール、マナー</p> <p>5～8 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームをする。 ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 ・ルール、マナー、対戦相手</p> <p>○対戦相手とマナーやルールについて対戦相手と話したことを学級全体で確認をする。</p> <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <p>○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。</p> <p>○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 ・課題、作戦、練習、ルール</p> <p>9 タグラグビー大会を行う。 ○リーグ戦やトーナメント戦で、タグラグビー大会を行う ○単元のまとめをする。</p>	<p>・陣地を取り合うゴール型のゲームであること特性を理解させる。攻守の交替は、ボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数取ることができれば交替。その本数はルールを決める中で実態に応じて決めていけばよい。</p> <p>・ボールを持っているプレーヤーのタグを取る時には「タグ！」を大きな声を出すことはマナーである。</p> <p>・1チーム5～8人、男女混合で編成する。 ・チームは4～8チームをつくる。コートは4チームで2コートあるとよい。</p> <p>・ラン、パス、フォローについて簡単なゲームを行う。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる</p> <p>＜ルールやコートの例＞ 攻撃側のプレーヤーを減らす、守備側のプレーヤーを制限する。コートの幅を狭くする。 ・課題が立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。</p> <p>・第1ゲームとは違うチームで対戦をさせる。 【評】チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・同じチームと2ゲーム行うこと知らせる。 ・相手チームとの話合いでマナーやルールの確認をする。必要に応じて学級全体でルールを工夫する。 ・＜ルールの工夫の例＞ 攻守交替になるボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数を変更するなど。少なくすれば攻守交替が早くなるが、トライが決めにくくなる。 ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。</p> <p>・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・練習の成果を確認させる。 ・チームに合った作戦を立てさせる。</p>

チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

ゴール型では、その行い方を理解するとともに、投げる、受ける、蹴る、止める、運ぶ、手渡すといったボール操作とボール保持者からボールを受けることのできる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによって、攻撃側にとって易しい状況の中でチームの作戦に基づいた位置取りをするなどの「攻守入り交じった簡易化されたゲーム」や「陣地を取り合う簡易化されたゲーム」をすることである。

タグラグビーは、その中でも「陣地を取り合うゲーム」であるため、ボール操作のシュートが必要なく、ボールを持たないときの動きを身に付けさせやすい。ボールを持っているプレーヤーのタグを取ることがそのプレーヤーの動きを止めることになるので、タグを取ろうとすると身体接触をすることがある。そのため、安全管理のために「しっかりと爪を切らせておく」「ボールを持っているプレーヤーは、守り側のプレーヤーを避けるようにして進まなければならない」などのことを子どもたちにしっかり確認しておく必要がある。なお、タグラグビーでは、タグを取られたプレーヤーは決められた歩数の間で止まって味方にパスをしなければならぬ。このとき、味方へのパスは、守り側のプレーヤーにカットされたり邪魔されたりすることはないため、慌てることなく、確実に味方にパスをつなげることができる。それでも子どもたちは、ボールを持ってトライゾーンに向けて前進することは、タグを取られることになるため、タグを取られる前に味方にパスを出したくなってしまう。しかし、この単元では、タグを取られることを恐れることなく前進させていきたい。それは、タグを取られた後のパスは必ず味方につなげられることになり、ラグビーの精神である「自己犠牲」を味合わせることにつながるからである。授業ではその姿を称えていきたい。つまり、このタグラグビーでは「ALL FOR ONE, ONE FOR ALL」の気持ちを大切にさせられる単元であると考えられる。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・得点しやすい場所へ移動し、パスを受けてトライすることが苦手な児童には、トライをしやすい、空いている場所を確認したり、ボールを保持した際に最初に守りの位置を見ることを助言したりするなどの配慮をする。
- ・ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることが苦手な児童には、仲間にゴールの位置を教えるようにするなどの配慮をする。

単元名 体づくり運動(体ほぐしの運動)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりすることができる。
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100101_001

【準備等】ゴム風船、ボール、輪、長なわ、短なわ、カセットCDプレーヤー、BGM

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 体ほぐしの運動のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「体ほぐし運動」の意義 ・保健との関連 <p>★仲間と楽しく運動しながら、自分や仲間の体の状態に気付き、体を動かす楽しさや心地よさを味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 <p>○触れ合いの多い体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・円形コミュニケーション ・風船サッカー、大根抜き、人間知恵の輪、体じゃんけんなどゲーム的な要素をもった運動 </p> <ul style="list-style-type: none"> ○感想を話し合う。 <p>2～4 体ほぐしの運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クラスみんなで活動的な運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・円形コミュニケーション ・リズムにのった律動的な運動 ○ゆったりと静的な運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組でストレッチング ・力を抜いてリラクゼーション <p>○気持ちを合わせて活動的な運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・風船サッカー、大根抜き、人間知恵の輪、地藏運びなどゲーム的な要素をもった運動 ・ボール、輪、なわなど用具を使った運動 </p> <ul style="list-style-type: none"> ○感想を話し合う。 <p>○単元のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった運動 ・仲間との関わり ・自分や仲間の体についての気付き </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽などを使って、楽しい雰囲気がつくれるようにする。 ・運動の得意・不得意に関係なく、誰でも楽しめる運動であることを伝え、安心して取り組めるようにする。 ・「心と体の関係に気付く」、「仲間と関わり合う」ことを大切にさせる。 ・みんなで運動して楽しかったことや体についての気付きを発表させる。 ・全員が手を離さないように指示する。 ・静かな感じのBGMをかける。 ・仲間の動きを感じながら、無理をしないように助言する。 ・ペアを替えながら、行わせる。 <p>【評】体を動かす楽しさや心地よさを分かって友達と仲よく取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力し合う運動を取り上げる。 ・声を掛け合いながら行わせる。 <p>【評】体ほぐしのねらいを考え、自分の体の状態に合わせて運動を選んだり工夫したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や仲間の体の様子について感想を発表させる。 ・感想の発表やグループの話し合いなどをさせる ・またやってみいたいという肯定的な印象が残るように言葉掛けをしていく。

【 備 考 】

本単元は、低学年や中学年の体ほぐしの運動を踏まえ、高学年の発達段階に合った学習内容の工夫が必要である。高学年では、手軽な運動や律動的な運動を通して、心と体に関係し合っていることに気付いたり、運動を通して仲間と豊かに関わる楽しさを体験し、さらには仲間のよさを認め合うことや、心の状態を軽くし、ストレスを軽減したりすることを経験させるようにする。そのため、仲間と関わりながら行える運動を取り上げる。また、家庭でも学習したことを活用できるようにする。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・心や体の変化に気付くことが苦手な児童には、二人組で気持ちや体の変化を話し合う場面をつくったり、運動を通して感じたことを確かめるような言葉掛けをしたりするなどの配慮をする。
- ・仲間と関わり合いながら運動することが苦手な児童には、協力や助け合いが必要になる運動を仕組み、仲間と共に運動をすることのよさが実感できるよう言葉掛けをするなどの配慮をする。

単元名 陸上運動(ハードル走)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) インターバルの距離やハードルの台数などのルールを決めて競走したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、ハードルをリズムカルに走り越えることができるようにすることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100102_001

【準備等】 ハードル(フレキハードル)、段ボール箱、ゴムハードル、ストップウォッチ、ビデオ、学習カード など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ハードル走の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★友達と競走したり、自分の記録に挑戦したりしながら、ハードルをリズムカルに走り越えよう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○ハードル走に関連した体ほぐしの運動をする。 ○50m走の記録を計測し、自分の目標タイム、インターバルのめやすを知る。 ○自分にあったインターバルやハードルのコースで練習し記録を計測する。 <p>2～3 自分に合ったコースを見付け、競走する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○学習の進め方や課題を確認する。 ○リズムカルに走り越えることができるコースを見つける ○リズムカルに走り通せる、自分に合ったコースで競走する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1対1の競走 ・チーム対抗での競走 ・リレー形式での競走 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・記録の伸び、次時の課題の把握など <p>4～5 練習の仕方や競走の方法を工夫し、自分の記録に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○学習の進め方や課題を確認する。 ○自分に合った練習の場を選んで練習する。 ○競走の仕方を工夫して、自分の記録に挑戦する。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じインターバルの友達と走る。 ・違うインターバルの友達と走る。 ・1対1の競走、チーム対抗での競走、リレー形式での競走 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオや学習カード、教師の示範などで運動の仕方を理解させる。 ・学習カードの使い方を例示しながら理解させる。 ・できれば2回測定し、よい方の記録を取る。 <p><目標タイムの出し方> 50m走のタイム+0.3×ハードルの台数 <インターバルのめやす> 全力疾走の歩幅×4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時でのインターバルのめやすをもとに、いろいろなインターバルのコースを走り、3～5歩でリズムよくハードルを走り越えることができるコースを見つけさせる。 ・インターバル5～7mのコースを設定する。 ・第1ハードルを決めた足で踏み切り、スピードにのって走り越えることを意識させる。 ・スタートから最後まで、体のバランスをとることを意識させる。 ・<ルールの例> 得点：目標記録との差の得点、はじめの記録からの伸び(0.1秒1点)、50m走の記録との差の得点 勝敗：1対1の対抗戦(何勝何敗)、得点の合計、リレーの結果 【評】ハードル競走を協力して行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題に合った場を選択しているか、安全に気を付けて練習しているかなど観察し、必要に応じて助言する。 ・3～5歩でリズムよく走り越えること、第1ハードルを決めた足で踏み切り、スピードにのって走り越えることを意識させる。 ・スタートから最後まで、体のバランスをとることを意識させる。 ・<ルールの例> 得点：目標記録との差の得点、はじめの記録からの伸び(0.1秒1点)、50m走の記録との差の得点 勝敗：1対1の対抗戦(何勝何敗)、得点の合計、リレーの結果

- 反省し、まとめをする。
 - ・練習方法、課題の達成度など
- 6 記録会をする。
 - 体ほぐしの運動をする。
 - 練習をする。
 - 記録会をする。
- 単元のまとめをする。

【評】課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】記録会を通して、「知識・技能」を評価する。
・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

ハードル走では、友達と競走したり、自分の記録に挑戦したりしながら、リズムカルにハードルを走り越えることを目指している。単元の前半には、リズムカルに走り越えることができる、自分に合ったコースを見付け競走する活動を、後半には、前半に習得した知識・技能を活用し、練習や競走の仕方を工夫し、自分の記録に挑戦する活動を設定した。これは一つの学習展開例であり、1時間の授業の中でこの二つの活動を組み立てることも可能である。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・走り越える時に体のバランスを取ることが苦手な児童には、1歩ハードル走や短いインターバルでの3歩ハードル走で、体を大きく素早く動かしながら走り越える場を設定するなどの配慮をする。
- ・一定の歩数でハードルを走り越えることが苦手な児童には、3歩または5歩で走り越えることができるインターバルを選んでいるかを仲間と確かめたり、インターバル走のリズムを意識できるレーン（レーン上に輪を置く等）を設けたりするなどの配慮をする。

単元名 器械運動(マット運動)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や器械・器具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100103_001

【準備等】 マット、跳び箱、踏切板、ビデオ、技の連続図、学習カードなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 マット運動の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいと進め方を知る。 ★新しい技を身に付け、繰り返したり、組み合わせたりして続けて回ろう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 <p>○マット運動に関連した体ほぐしの運動をする。</p> <p>○試しの運動をし、課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前転、後転、開脚前転、開脚後転、補助倒立、側方倒立回転など <p>2～3 マット運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○本時の課題や練習方法を確認する。 <p>○いろいろな場で、基本的な技の練習をしたり、できる技を繰り返したり、組み合わせたりする。</p> <p>○技のステップに応じた練習の場で、発展技や新しい技に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（発展技）倒立前転、跳び前転、伸膝後転、倒立、倒立ブリッジ、ロンダートなど <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、態度、次時の課題の把握など <p>4 発表の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする ○演技種目の練習をする。 <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、態度、次時の課題の把握など <p>5 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○演技種目の練習をする。 ○発表をする。 <p>○単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映像や資料などを利用し、技の種類や組み合わせ方を知らせ、学習意欲を高める。 ・器具を速やかに準備できるよう分担しておく ・易しい運動で逆さ感覚等を経験させる。 ・できる技を確認させ、次時の課題をつかませる。 ・自分から進んで取り組めるように、学習カードやビデオ、連続図などを用意し、学習環境を整える。 ・技に応じて、場を設定し、易しい場から段階的に取り組めるようにする。 ・友達と見合い、教え合えるようにする。 ・無理な課題に取り組んでいないか、安全に気を付けて練習しているかなど観察し、必要に応じて助言する。 ・友達と教え合わせ、練習を工夫して行えるようにする。 【評】安全に気を付け、友達と協力して技を練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】自分にあった課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する ・発表するマットに補助具や補助者を置いた易しい場を用意し、完全なできばえでなくてもできたことを認め、連続技の一つに加えて発表させる。（発表は、集団マットとして行わせてもよい。） ・単元のまとめとして発表させる。 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

<運動が苦手な児童への配慮の例>

- ・開脚前転が苦手な児童には、前転の起き上がる速さをつけたり、傾斜を利用したりして、勢いをつけて回転する動きが身に付くようにするなどの配慮をする。
- ・補助倒立前転が苦手な児童には、壁倒立をしたり、跳び箱や台などの上に足を置き、逆さの姿勢からの前転を行ったり、壁登り逆立ちから補助を受けながら前転したりして、倒立の姿勢からの前転を行う動きが身に付くようにするなどの配慮をする。
- ・伸膝後転が苦手な児童には、足を伸ばしたゆりかごで体を揺らしたり、傾斜を利用して回転に勢いをつけて転がりやすくなったりして、腰を上げたり、足を伸ばして回転の勢いを付けたりする動きが身に付くようにするなどの配慮をする。

単元名 器械運動(跳び箱運動)

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 跳び箱運動では、その行い方を理解するとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や器械・器具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100104_001

【準備等】跳び箱、マット、セーフティマット、踏切板、踏切板調整器、ビデオ、技の連続図、学習カードなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 跳び箱運動の学習のねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★いろいろな高さや向きの跳び箱を跳んだり、新しい技や発展技を身に付けよう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○跳び箱運動に関連した体ほぐしの運動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・かえる足打ち、馬跳び、跳び下り、跳び箱を使つての腰上げなど ○試しの運動をし、課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・開脚跳び、かかえ込み跳び、台上前転 <p>2～4 跳び箱運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○本時の課題や練習方法を確認する。 <p>○今できる跳び方で高さや向きの違う跳び箱を跳ぶ。</p> <p>○技のステップに応じた練習の場で、発展技や新しい技に挑戦する。 <ul style="list-style-type: none"> ・(発展技) 首はね跳び、頭はね跳び </p> <p>○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・できばえ、態度、次時の課題の把握など </p> <p>5 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 <p>○演技種目の練習をする。</p> <p>○発表をする。</p> <p>○単元のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオや資料などを利用し、技の種類を知らせ、学習意欲を高める。 ・器具が速やかに準備できるよう分担する。 ・腕による体の支持や腕を支点にした体重移動などの感覚を経験させる。 ・できる技を確認させ、次時の課題をつかませる。 ・自分から進んで取り組めるように、学習カード、ビデオ、連続図などを用意し、学習環境を整える。 ・いろいろな場を設定する。 ・易しい場から段階的に取り組めるようにする ・友達と見合い、教え合えるようにする。 ・自己の能力に適した課題に取り組んでいるかを確認する。 ・場や器具の安全に配慮させる。 【評】安全に気を付け、友達と助け合って技を練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】自分に合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する ・単元のまとめとして発表させる。 ・発表する跳び箱に補助具や補助者を置いた易しい場を用意し、完全なできばえでなくてもできたことを認め、発表できるようにする。 ・単元のまとめとして、発表させる。(発表は集団跳び箱として行ってもよい。) 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

跳び箱運動は、「腕による体の支持」「高所からの跳び下り」「体の投げ出しからの腕支持」「腕を支点にした体重移動」などの力や感覚が必要である。これらの力や感覚を体ほぐしの運動の中で、易しい類似の運動によって体験させていく。本単元では、基本的な技に取り組み、安定してできるようにするとともに、できる跳び方で、いろいろな向きや高さの跳び箱に挑戦させたり、発展技や新しい技に挑戦させたりする。児童が運動の楽しさや喜びに触れることができるように、それぞれの技のステップに応じた場を設置し、易しい場や条件でできたことを認め、新たな挑戦課題へと段階的に取り組めるようにする。「ペアやグループで組み合わせた演技」を取り入れてもよい。

<運動が苦手な児童への配慮の例>

・かかえ込み跳びが苦手な児童には、マットを数枚重ねた場を設置して、手を着きやすくしたり、跳び越しやすくしたり、体育館のステージに向かって跳び乗ったりして、跳び越しやすい場で踏切りー着手ー着地までの動きが身に付くようにするなどの配慮をする。

・伸膝台上前転が苦手な児童には、マットを数枚重ねた場や低く設置した跳び箱で腰を上げたり、速さのある前転をしたりして、膝を伸ばして回転する動きが身に付くようにするなどの配慮をする。

単元名 水泳運動

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) クロール及び平泳ぎでは、その行い方を理解し、手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く泳ぐことができるとともに、安全確保につながる運動では、背浮きや浮き沈みをしながら、続けて長く浮くことができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100105_001

【準備等】学習カード、学習資料、ビート板、ヘルパー、基石、ボールなど

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 水泳の学習のねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★自分の課題をもって、クロールと平泳ぎで続けて長く泳ごう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○自分の泳力を知り、課題をつかむ。 ○グループを編成する。 <p>2～4 クロールをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を決める。 ○水泳に関連した体ほぐしの運動をする。 ○共通の課題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・け伸びの姿勢 ・よく進むバタ足 ・腕のかき ・クロールの伸びと呼吸など ○自分の課題にそって、泳力を伸ばす。 <ul style="list-style-type: none"> ・泳ぎの習得 ・スピードを高める。 ・長く泳ぐ ・伸びやかに泳ぐなど ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、きまり、心得など <p>5～7 平泳ぎをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を決める。 ○体ほぐしの運動をする。 ○共通の課題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・かえる足陸上練習 ・壁キック ・腕のかき ・呼吸の仕方 ・足、腕、呼吸のタイミング ・け伸びの姿勢 ・よく進むかえる足 ・平泳ぎのリズムなど ○自分の課題にそって、泳力を伸ばす。 <ul style="list-style-type: none"> ・泳ぎの習得 ・スピードを高める。 ・長く泳ぐ ・伸びやかに泳ぐなど ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、きまり、心得など <p>8 着衣泳をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○着衣をして水中を歩いたり、浮いたりする。 ○ゆっくり泳ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をもって、クロールや平泳ぎで続けて長く泳ぐことを知らせる。 ・カードの記入は教室で行う。 ・プールのきまりや、水泳の心得をしっかり押さえる。 ・クロール、平泳ぎの泳力を測る。 ・児童の実態に応じてグループ編成をする。 ＜グループ編成の例＞ 2人組・泳力が異なる3人組・課題が同じ3人組など ・種目と課題別に、課題例や練習方法を図示したカードを用意する。 ・毎時間体ほぐしの運動を行うようにする。 ・技能的なポイントを指導していく。 ・個別に指導にあたる。 ・課題を解決させるための練習の方法や場が合っているか確認し、助言する。 ・クロール、平泳ぎの習熟した児童には、背泳ぎを指導してもよい。 ・水中からのスタート（プールの底や壁をけり泳ぎにつなげること）も取り上げる。 ・種目と課題別に、課題例や練習方法を図示したカードを用意する。 ・毎時間体ほぐしの運動を行うようにする。 ・技能的なポイントを指導していく。 ・個別に指導にあたる。 ・課題を解決させるための練習の方法や場が合っているか確認し、助言する。 ・クロール、平泳ぎの習熟した児童には、背泳ぎを指導してもよい。 ・水中からのスタート（プールの底や壁をけり泳ぎにつなげること）も取り上げる。 【評】協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】自分に合った課題をもって練習する動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・長袖・長ズボンが望ましい。（よく洗った清潔なもの）

<ul style="list-style-type: none"> ○速く泳ぐ。 ○エレメンタリーバックストローク（イカ泳ぎ）で泳ぐ。 ○ペットボトルを使って浮く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルを置く位置は、胸、腹、腰、首前、首後など <p>9～10 記録会、水泳大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クロール、平泳ぎの泳力を測る。 ○水泳大会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・全員リレー ・代表リレー ・基石拾い ・ボール送り ・水上バスケットなど ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服を着たまま、速く泳ぐことの大変さを知り水に落ちたときには、泳がずに浮いて助けを待つことを理解させる。 ・2リットルの空ペットボトルを用意させる。 ・どこに置くと浮きやすいか体感させるとともに、ペットボトルが救命具になることを理解させる。 ・できるようになったことや自分たちの考えた遊びやゲームで楽しむ。 <p>【評】記録会・水泳大会を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。
--	--

【 備 考 】

※学校の実態に応じて時間数を柔軟に変更してもよい。
水泳は、浮く、もぐる、進む、呼吸をするなどの技能によって成立している運動である。クロールや平泳ぎなどで長く泳ぐことをねらいとして、自己の記録を向上させたり、他の人と競争したりするところに楽しさや喜びを味わうことができるようにする。まず、習得の場として安全に気を付けて運動の基礎技能を身に付けることができるような活動を取り入れる。次に個人差に応じた学習活動を保障しながら、活用の場としてできるようになった泳ぎ方で記録に挑戦することができるようにする。また、体ほぐしの運動を行い、水に親しむ時間を設け、生涯にわたって水に親しんでいける態度を養う。水難事故防止のため、着衣泳についても、夏休み前に実施する。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

「クロール」

- ・前方に伸ばした手が下がり、手のかきに呼吸を合わせることが苦手な児童には、両手を必ず前方で揃えてから片手ずつかくための練習をする場や、仲間に手を引っ張ってもらいより前方に手を伸ばす練習をする場を設定したり、補助具をおさえる手に力を入れすぎないように助言したりするなどの配慮をする。
- ・頭が前方に上がり、横向きの息継ぎが苦手な児童には、歩きながら息継ぎの練習をする場を設定したり、へそを見るようにして顎を引き、耳まで浸かって息継ぎをするように助言したりするなどの配慮をする。
- ・手や足をゆっくりと動かすことが苦手な児童には、一定の距離を少ないストローク数で泳ぐ場や、決められたストローク数で泳ぐ距離を仲間と競い合う場を設定するなどの配慮をする。

「平泳ぎ」

- ・かえる足の動きが苦手な児童には、プールサイドに腰かけて足の内側で水を挟んで動いたり、壁や補助具につかまって仲間に足を支えてもらったりして練習する場を設定するなどの配慮をする。
- ・手や足の動きと呼吸のタイミングを合わせることが苦手な児童には、陸上で動きの確認をする場を設定したり、水中を歩きながら仲間に息継ぎのタイミングを助言してもらったりするなどの配慮をする。
- ・キックの後にすぐ手をかいてしまい、伸びることが苦手な児童には、け伸びをしてから「かいて、蹴る」動きを繰り返すことを仲間と確かめ合わせたり、「かいて、蹴って、伸びる」の一連の動作をしたら一度立つように助言し、少ないストローク数で泳ぐ距離を伸ばす場を設定したりするなどの配慮をする。

「安全確保につながる運動」

- ・背浮きの姿勢での呼吸を続けることが苦手な児童には、浅い場所で踵を付けたまま背浮きになる姿勢の練習をしたり、補助具を胸に抱えたり、仲間に頭や腰を支えてもらったりして続けて浮く練習をしたりするなどの配慮をする。
- ・浮き沈みの動きに合わせた呼吸をすることが苦手な児童には、体が自然に浮いてくるまで待ってから息継ぎをすることや、頭を大きく上げるのではなく首をゆっくりと動かし呼吸することを助言するなどの配慮をする。

なお、着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方については、安全確保につながる運動との関連を図り、各学校の実態に応じて積極的に取り扱うこと。

単元名 表現運動(表現)

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、表したい感じを表現したり踊りで交流したりすることができる。
 (2) 自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
 (3) 運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100201_001

【準備等】軽快な曲（ロック・サンバなど）、動きや踊りのイメージに合った曲（効果音）、模造紙、太ペン、カセットCDプレーヤーなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 表現の学習の課題と内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の課題や進め方を知る。 ★イメージしたことを、表したい感じが強まるように工夫して踊ろう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○体ほぐしの運動をする。 ○「激しく〇〇する」、「急に〇〇する」を題材に、教師の言葉掛けやリードで即興的に踊り、課題をつかむ。 <p>2～3 「激しく〇〇する」、「急に〇〇する」を題材に、思いつく題材を、簡単なひとまとまりの動きにして踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズムにのって体ほぐしの運動をする。 ○「大変だ！〇〇」を題材に、〇〇の部分でグループで相談して出し合い、イメージバスケットを作る。 ○出されたテーマの中から、踊ってみたいものを選び、いろいろなイメージを思いつくまま踊る。 ○気に入った動きを繰り返し、ひと流れの動きにする。 ○ペアグループで見せ合い、アドバイスをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、友達のよい動きなど <p>4～6 「私たちの地球」を題材にテーマを選び、グループで表したい感じが強まるように工夫して踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「私たちの地球」を題材に、イメージバスケットを作りイメージ別にグループを作る。 ○グループで表したいイメージや課題の確認をする。 ○一番表したいところがよくわかるように、動きを工夫して踊る。 ○グループで互いに見せ合ってアドバイスをし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始めは、「激しく〇〇する」、「急に〇〇する」を題材に即興的に踊り、その後「私たちの地球」を題材にイメージを広げ作品をつくることを知らせる。 ・軽快なリズムの音楽に合わせて思いっきり踊らせる。 ・リズムに乗り、友達と関わりながら、自由に踊らせることで心と体を解放させる。 ・満員電車、火山の爆発、フライパンではじけるポップコーン、コンピュータが壊れたなどを取り上げいろいろな動きを体験させる。 ・一つの題材について、差のある動きを三つくらい取り上げるようにする。 ・一つ一つ区切らず、流れが途切れないようにする。 ・教師の言葉掛けやリードにより、即興的に踊ることができるようにする。 ・「激しく〇〇する」、「急に〇〇する」を題材にするが、児童が考えやすいように「大変だ！〇〇」の〇〇の部分を考えさせる。 ・グループは毎回変え、気軽に誰とでも交流できるようにする。 ＜テーマの例＞ 大変だ！嵐が来た、雷が落ちた、コンピュータが壊れた ・始めと終わりのポーズを決め、その間に中心となる動きを繰り返して入れて、ひと流れの動きをつくらせる。 ・2グループでペアグループを作り、互いに見せ合って、相手グループのよい動きや改善するとよい点などについてアドバイスさせる。 ・イメージバスケットの中からやってみたいイメージを選ばせる。 ・同じイメージにたくさん集中した場合はその中でグループを分ける。 ・学習カードに記入させる。 ・「始めー中ー終わり」の3場面をつくらせる ・起伏のある作品にするためにどこを盛り上げるか決め、他の場面は違う感じの動き（静と動、緩と急のように）で構成させる。 ・ラストシーンを印象的にさせる。 【評】イメージを強調できるように工夫しながら踊る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・動きのよかった児童やグループを紹介し、よい動きを共有できるようにする。 ・動きのポイント（メリハリ・誇張・くずし）を押さえる。

<p>○踊り込む。</p> <p>○反省し、まとめをする。 ・動きの工夫、次時の課題の把握など</p> <p>7 発表をする。 ○発表をする。 ○グループごとに作品を踊り込む。 ○発表をする。</p> <p>○友達の良いところを見つけ、カードに感想を書く。</p> <p>○単元のまとめをする。</p>	<p>・ジャンプ、転がる、ひねる、そる、回るなどの動きを大きく見せるポイントを押さえる。 ・表したい感じやイメージを強調させ、ひと流れの動きで表現させる。 【評】友達と踊り込む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・踊りに合わせて、イメージに合った曲をかける。 【評】発表を通して、「知識・技能」を評価する。 ・後で友達に渡すようにする。 友達の動きのよさを見つけさせる。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。</p>
---	--

【 備 考 】

表現運動は、自己の心身を解放し、表したいイメージを膨らませ、踊る楽しさを味わうことができるとともに、互いの違いやよさを生かし合い、仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である。表現する題材は、個人やグループによって広い範囲から選べるようにし、表したい感じやイメージを強調するように、変化を付けたひと流れの動きで即興的に表現したり、グループで「始めー中ー終わり」を付けた簡単なひとまとまりの動きにしたりして表現することができるようにする。本単元では、「激しい感じ」や「急変する感じ」の題材を取り上げ、教師の言葉がけやリードで即興的に踊る学習を行い、いろいろな動きを体験させる。次に、それらをひとまとまりの動きにして踊る学習と、「多様な題材」として「私たちの地球」をテーマに、社会や生活の様々な印象的な出来事の中からグループで表したい感じが強まるように工夫して踊る学習を設定した。

<運動が苦手な児童への配慮の例>

- ・題材の特徴を捉えることが苦手な児童には、二人から四人組などで、題材の特徴的な様子や動きを出し合いながら踊らせるなどの配慮をする。
- ・ひと流れの動きにすることが苦手な児童には、表したい感じやイメージから捉えた変化とメリハリ（緩急・強弱）のある動きを、教師や仲間のリードで幾つか一緒に踊ってみるなどの配慮をする。
- ・簡単なひとまとまりの動きにすることが難しい児童には、一番表したい感じやイメージを明確にするとともに、できたところまでを通して踊ってみながら、表したい感じにふさわしい「始めー中ー終わり」の構成になっているか教師や他のグループに見てもらうようにさせるなどの配慮をする。

単元名 陸上運動(走り高跳び)

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 走り高跳びでは、その行い方を理解するとともに、試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズムミカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100202_001

【準備等】高跳び用スタンド、バー、セーフティマット、マット、ゴムひも、輪、跳び箱、踏切板、ビデオ学習カードなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 走り高跳びの学習の課題と内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の課題や進め方を知る。 ★自分に合った課題をもち、練習の仕方を工夫して、リズムミカルな助走から踏み切って跳ぼう。 ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○走り高跳びに関連した体ほぐしの運動をする。 ○走り高跳びの記録を測定する。 ○目標記録を知り、課題をつかむ。 <p>2～3 自分の課題に合わせた練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○自分の課題に合わせた場を選び、練習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・5歩や7歩のリズムでの踏み切りの練習、ゴムやハードルを使つての振り上げ足や抜き足の練習など ○自分の記録に挑戦する。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・記録の伸び、次時の課題の把握など <p>4～5 自分の記録に挑戦したり、グループで競争したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○学習の進め方や課題を確認する。 ○自分に合った練習の場を選んで練習する。 ○競争の仕方やルールを確認し、競争する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での競争、グループ対抗戦での競争など ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・練習方法、課題の達成度など <p>6 記録会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○練習をする。 ○記録会をする。 ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオや学習カード、教師の示範などで運動の仕方を理解させる。 ・学習カードの使い方を例示しながら理解させる。 ・＜目標記録の出し方＞ <ol style="list-style-type: none"> ①モノグラム ②110または100(定数) + (身長 ÷ 2) - (50m走の記録) × 10 ③(身長 - 座高) + 垂直跳びの記録 ・自分に合った課題がもっているかを確認する ・自分の課題に合った場を選択しているか、安全に気を付けて練習しているかななどを観察し必要に応じて助言する。 ・友達とアドバイスし合えるようにする。 ・目標記録と比較し、学習の成果を確かめさせる。 ・自分の課題に合った場を選択しているか、安全に気を付けて練習しているかななどを観察し助言する。 ・＜ルールの例＞ <p>得点：モノグラムによる得点・はじめの記録からの伸び(1cm1点)など</p> <p>勝敗：1対1の対抗戦・グループの合計得点で競うなど</p> <p>【評】友達と協力して練習したり、競争したりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】自分の課題に向かって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> ・【評】記録会を通して、「知識・技能」を評価する。 ・感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【備 考】

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

・リズムミカルな助走から踏み切ることが苦手な児童には、3～5歩程度の短い助走での走り高跳びや跳び箱などの台から踏み切る場などで、力強く踏み切って体が浮くことを経験できるようにしたり、「トン・トン・ト・ト・トン」など、一定のリズムを声に出しながら踏み切る場を設定したりするなどの配慮をする。

単元名 保健「病気の予防」

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、病気の予防について理解することができる。
- (2) 病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができる。
- (3) 健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

06100203_001

【準備等】 たばこの害・薬物乱用・飲酒の体への影響の資料や映像など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 病気は、病原体・体の抵抗力・生活行動・環境が関わり合って起こることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> よく知っている病気について話し合い、単元の学習課題をつかむ。 <p>★病気の起こり方と予防の仕方について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な病気の原因について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 体が疲れていた、ばい菌が入ったなど かぜをひいた原因を内容によって分類する。 <ul style="list-style-type: none"> 病原体が原因、環境が原因、生活の仕方が原因 体の抵抗力が原因 <p>○学習のまとめをする。</p> <p>2 病原体がもとになって起こる病気の予防について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザなどの予防について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 病原体がもとになって起こる病気を防ぐにはどうしたらよいか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 発生源をなくす方法：熱湯で消毒、薬品で消毒、日光で消毒など うつる道筋を断ち切る方法：うがい、手洗い、学級閉鎖、人ごみをさけるなど 体の抵抗力を高める方法：休養や睡眠、栄養、予防接種など <p>○学習のまとめをする。</p> <p>3 生活の仕方が関わって起こる病気の予防について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の仕方が関係して起こる病気にはどんな病気があるか発表する。 <ul style="list-style-type: none"> がん、脳の血管の病気、心臓病など 生活習慣病について知り、健康によい生活習慣について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病：がん、心臓病、脳の血管の病気 原因：糖分、脂肪、塩分のとりすぎ、喫煙、飲酒、不規則な生活 予防法：食事、運動、睡眠、気分転換 <p>○学習のまとめをする。</p> <p>4 生活の仕方が関わって起こる歯の病気の予防について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> むし歯や歯ぐきの病気の原因について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> むし歯の予防方法を知る。 <p>○学習のまとめをする。</p> <p>5 たばこの害と健康について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> たばこの害について知る。 <ul style="list-style-type: none"> 発がん物質が入っている。 肺や歯が汚れる。 目を刺激する。 のどがあれる。 運動能力が低下する。 血管を収縮させ血液の流れを悪くするなど たばこを吸う場所が少なくなっているのはなぜか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の概要をつかむためにP. 34～P. 35の挿絵を活用するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> かぜを例に挙げて考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 話し合いをもとに、原因を病原体、環境、生活の仕方、体の抵抗力の4種類に分けさせ、それぞれ密接に関わっていることを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザが流行したときの様子を思い出させ、予防方法について考えさせる。 教科書P. 38の「やってみよう」に○を付けさせる。 発生源をなくす方法とうつる道筋を断ち切る方法、体の抵抗力を高める方法に分けられることを説明する。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 42を参考にさせる。 <ul style="list-style-type: none"> グラフから死亡原因の3分の2は生活習慣病によるものであることを気付かせる。 小学生の時期から生活習慣病の予備軍となっていることや、よい生活習慣が病気の予防に大きく関わっていることを理解させる。 教科書P. 43の「やってみよう」をもとに、自分の生活をどのように変えることができるのか具体的に考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 日ごろの経験や聞いたことを発表させる。 発表したものを、病原体、体の抵抗力、生活の仕方、環境に分類する。 教科書P. 45の「やってみよう」を基に考えさせる。 自分の生活をどのように変えることができるのか具体的に考えさせる。 むし歯や歯ぐきの病気の予防には、糖分などを摂りすぎる食事や間食を避けたり、口腔の清潔を保つ生活習慣を身に付けることが大切であることを押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書の写真(肺の断面の比較)やグラフ、映像や資料などを活用する。 <ul style="list-style-type: none"> たばこを吸うと体にどんな影響があるのか、周囲の人にどんな影響があるのか知っていることを発表させる。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 未成年の喫煙は法律により禁止されているわけを考える ○ 喫煙を勧められたときの態度について、ロールプレイングを行って考える。 ○ 学習のまとめをする。 <p>6 飲酒の害と健康について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 酒を飲むとどうなるか知っていることを発表する。 ○ アルコールの体への影響を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 肝臓の病気（肝炎、肝臓がんなど） ・ 脳細胞の萎縮 ・ 記憶力や思考力の低下 ・ 意欲の低下 ・ 生活習慣病の原因など ○ 未成年者の飲酒は法律により禁止されているわけを考える。 ○ 飲酒を勧められたときの態度についてケーススタディを行って考える。 ○ 学習のまとめをする。 <p>7 薬物乱用の害と健康について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 薬物について知っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 意識がもうろうとする。 ・ 現実にないものが見える。 ・ やめられなくなる。 ○ 薬物乱用の心や体に及ぼす影響や、薬物乱用が原因になって起きた事件について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳が萎縮する。（元に戻ることはない。） ・ 脳が正常にはたらかなくなる。 ・ 目が見えなくなる。 ・ 歯が溶けてぼろぼろになる。 ・ 手足がしびれて歩けなくなる。 ・ やめられなくなる。 ○ なぜ薬物乱用がいけないのかを考える。 ○ 学習のまとめをする。 <p>8 地域で行われている保健活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域で行われている保健活動について、知っていることを発表する。 ○ 保健所や保健センターで行われている活動について調べる。 ○ 調べたことを発表する。 ○ 単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフから吸い始めた年齢が早いほどがんになりやすいことに気付かせる。また、たばこの害は細胞がどんどん作られる成長期の子供の方が大人より大きいことを知らせる。 ・ 教科書のP.47の「活用して深めよう」を基に実際に体験させる。 ・ 実際に演じた後、感想を話し合わせる。 ・ 低年齢からの喫煙は特に害が大きく未成年の喫煙は法律で禁止されていることを押さえる <p>【評】学習のまとめをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 酒を飲むと体にどんな影響があるのか知っていることを発表させる。 ・ 教科書の写真（肝臓の比較）やグラフ、映像や資料などを活用する。 ・ すぐに現れる影響、長く飲んでいると現れる影響をまとめさせる。 ・ 発育発達が盛んな時期はアルコールの影響を強く受けることを知らせる。 ・ 教科書P.49「活用して深めよう」を基に、どんな気持ちでどう行動するか予想し、対処の仕方について話し合わせる。 ・ 酒を飲むと体にいろいろな影響が表れ、長期間続けると病気になることがあるということ ・ 低年齢での飲酒は特に害が大きく未成年の飲酒は法律で禁止されていることを押さえる。 ・ 覚醒剤や麻薬があることを知らせ、厳しく取り締まられていることを押さえる。 ・ 教科書の写真（脳の断面の比較）やグラフ、映像や資料などを活用する。 ・ 一度だけならという軽はずみな行動が、やめられなくなることを強調する。 ・ 死に至ることがある、また、交通事故を起こすなど身近な問題になっていることを知らせる。 ・ 保健所や保健センターで行われている活動について、今までの経験をもとに考えさせる。 ・ 教科書P.52を参考にさせながら、目的に合った調べ方ができるように助言する。 ・ 伝える方法は学級の実態に合った方法を選択する。 ・ 病気の予防について、どのように今後の生活の中で生かしていくかを発表させ、実践への意欲を高める。 <p>【評】学習のまとめをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】
本単元では、病気の発生原因や予防方法について理解できるようにする必要がある。また、喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響について理解できるようにする必要がある。インターネットや各種資料を用いて調べ、話し合いの時間を設定することにより理解を深めさせる。また、ロールプレイングやケーススタディなどの学習方法を用いて、思考力や判断力を養い、実際の生活に応用する力を身に付けることをねらう。

単元名 ボール運動(ネット型)ソフトバレーボール

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) ネット型では、その行い方を理解するとともに、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができる。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100204_001

【準備等】ソフトバレーボール、ビーチボール、学習カード、学習資料など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ソフトバレーボールのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームで連携して、相手が捕りにくいボールを打ち返そう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○ソフトバレーボールに関連した、体ほぐしの運動をする ○試しのゲームをし、課題をつかむ。 <p>2～4 ソフトバレーボールを基にした簡易化されたゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組でのパス、チームでのパス、ネットをはさんでのパスなど ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナーなど <p>5～7 チームに合った作戦を工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習方法、ルールなど <p>8～9 ソフトバレーボール大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ソフトバレーボール大会をする。 ○第9時は、単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットを挟んで、攻撃を組み立てたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を確認する。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・コートはバドミントンコートのサイズを目安とする。 ・1チーム1～2試合行う。 ・1試合7分程度で行う。 ・レシーブ、パスなどについてルールを簡易化したゲームを行う。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる <p><ルールの例> 4人制、3～5回で返球する、ワンバウンド可、サーブはどこから打ってもよい、サーブは下から打つなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 <p>【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームに合った作戦を立てさせる。 <p>【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

ソフトバレーボールは、ネットを挟んで攻撃を組み立て、防御を工夫してボールを打ち合うゲームである。本単元では、基礎技能をラリーゲームなどで楽しく身に付けさせ、簡単な作戦を立て、いろいろなチームとゲームを行う学習と対戦相手を決め、自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・片手、両手もしくは用具を使って、相手コートにボールを打ち返すことが苦手な児童には、飛んできたボールを短時間保持することを認めたり、うまくはじくことができる児童と比較してどこが違うか考えたりする場を設定したりするなどの配慮をする。
- ・自陣のコート（中央付近）から相手コートに向けサービスを打ち入れることが苦手な児童には、手を使って投げ入れたり、軽い用具や柄の短い用具を用いたり、軽いボールを用いたり、一歩前からサービスをすることを認めたり、ネットの高さを低くしたりするなどの配慮をする。
- ・味方が受けやすいようにボールをつなぐことが苦手な児童には、飛んできたボールをキャッチしてパスした

単元名 ボール運動(ネット型)ミニテニス (攻守一体プレイ)

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) ネット型では、その行い方を理解するとともに、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができる。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100205_001

【準備等】ミニテニスボール（少し大きめの柔らかい素材のボールなど）、ミニテニスラケット（段ボール等での自作ラケットなど）、学習カード、学習資料など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ミニテニスのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★チームで連携して、相手が捕りにくいボールを打ち返そう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○グループを編成し、役割を分担する。 ○ミニテニスに関連した、体ほぐしの運動をする。 ○試しのゲームをし、めあてをつかむ。 <p>2～4 ミニテニスのボール操作を経験し、ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2人組でネットをはさんでのボール交換、近い距離からだんだん遠く離れて行うなど。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナーなど <p>5～7 チームに合った作戦を工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ラリーゲームをする。 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・めあて、作戦、練習方法、ルール、など <p>8～9 ミニテニス大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ミニテニス大会をする。 ○第9時は、単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットを挟んで、攻撃と防御が一体となっているゲーム様相のなかで攻撃を考えたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームの特性を確認する。 ・用具は、ミニテニス用のラケットや段ボール等を手のひら大サイズに加工したりしたものを使用する。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・コートはバドミントンコートのサイズを目安とする。 ・1チーム1～3試合行う。（ダブルス） ・1試合6分（2分×3ゲーム）程度行う。ダブルスの交代制で行う。 ・ストローク、ボレーなどについてルールを簡易化したゲームを行う。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる <p>〈ルールの例〉</p> <p>サーブはどこから打ってもよい、ネットの高さを調整する（コーンバーで作成する）など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 <p>【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームに合った作戦を立てさせる。 <p>【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

ネット型では、その行い方を理解するとともに、ボール操作と、チームの作戦に基づいた位置取りをするなどのボールを持たないときの動きによって簡易化されたゲームを行う。軽くて柔らかいボールを片手、両手もしくは用具を使って操作したり相手が捕りにくいボールを返球したりするチームの連携プレイや、自陣から相手コートに向かって相手が捕りにくいボールを返球する手段や用具などを使う。用具などを使った簡易化されたゲームの例示として、バドミントンやテニスを基にした簡易化されたゲームが示されている。

ミニテニスは、ネットを挟んで攻撃と防御が一体となっているゲーム要素の中で、攻撃を考えたり、防御を工夫したりしてボールを打ち合うゲームである。本単元では、基礎技能をラリーゲームなどで楽しく身に付けさせ、簡単な作戦を立て、いろいろなチームとゲームを行う学習と、対戦相手を決め、自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。

用具は、ミニテニス用のラケットを用いたり、段ボール等を手のひら大サイズに加工・補強したりしたものを使用する。またボールは、テニスボールより少し大きめの柔らかい素材のボールを使用する。ネットに関しては、コーンバーで設置したり、体育館で行う場合はバドミントンの支柱とネットで高さを調整したりして使用する。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・用具を使って、相手コートにボールを打ち返すことが苦手な児童には、飛んできたボールを短時間保持することを認めたり、うまくはじくことができる児童と比較してどこが違うか考えたりする場を設定したりするなどの配慮をする。

- ・自陣のコート（中央付近）から相手コートに向けサービスを打ち入れることが苦手な児童には、手を使って投げ入れたり、軽い用具や柄の短い用具を用いたり、軽いボールを用いたり、一歩前からサービスをすることを認めたり、ネットの高さを低くしたりするなどの配慮をする。

単元名 体づくり運動(体の動きを高める運動)1

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができる。
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100206_001

【準備等】学習カード、カセットCDプレーヤー、軽快な曲、カラーコーン、短なわ、長なわ、ドッジボール、ラダー、フラフープなど

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 体の動きを高める運動のねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>★自分の体力を知り、運動の仕方を工夫して体力を高めよう。</p> <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。</p> <p>○試しの運動をし、課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の柔らかさを高めるための運動：ストレッチ、リンボーダンス、体の周りのボール転がし、ボール渡し、棒またぎなど ・巧みな動きを高めるための運動：短なわや長なわを使った運動、いろいろなボールキャッチ、輪や棒を使った運動、ラダー、サイドステップなど ・力強い動きを高めるための運動：腕立て伏せ、手押し車、雲梯、登り棒、人運び、すもう、綱引きなど ・動きを持続する能力を高めるための運動：持久走（5～6分）、固定設備や器械・器具を越えながらのサーキットトレーニング、短なわや長なわを使つての継続的な全身運動など <p>3～6 いろいろな体の動きを高める運動をする。</p> <p>○準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムダンス、ペアでのストレッチ、鬼遊びなど <p>○体の動きを高める運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の柔らかさを高めるための運動、巧みな動きを高めるための運動、力強い動きを高めるための運動、動きを持続する能力を高めるための運動 <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の伸び、次時の課題の把握など 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ体力テストの結果を参考に、自分の体力と課題をつかませておく。 ・体の柔らかさを高める運動、巧みな動きを高める運動、力強い動きを高める運動、動きを持続する能力を高める運動の四つから児童の実態に合わせていくつか運動を選び、場を設定して行わせる。 ・体ほぐしの運動を、準備運動として取り入れる。 ・自分の体力を知り、課題をもって運動に取り組めるようにする。 <p>児童の実態に合わせて運動を選び、場を設定して行わせる。</p> <p>自分の体力や課題に合わせて運動を選んだり運動を工夫したりできるようにする。</p> <p>【評】友達と助け合って、安全に運動する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】自分の体力に合わせて運動を選んだり、工夫したりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

体の動きを高める運動は、児童の体力の向上を直接のねらいに行われる運動で、基本的には、「体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動」「力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動」で構成される。本単元は、多様な運動の場を設定し、自己の体力や生活に応じて運動に取り組めるようにする。

単元名 【旧】保健「病気の予防」

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、病気の予防について理解することができる。
 (2) 病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができる。
 (3) 健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

06100207_001

【準備等】 たばこの害・薬物乱用・飲酒の体への影響の資料や映像など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 病気は、病原体・体の抵抗力・生活行動・環境が関わり合って起こることを知る。 ○よく知っている病気について話し合い、単元の学習課題をつかむ。 ★病気の起こり方と予防の仕方について知ろう。 ○なぜ病気になるのか話し合う。 ・体が疲れていた、ばい菌が入ったなど ○かぜをひいた原因を内容によって分類する。 ・病原体が原因、環境が原因、生活の仕方が原因 ・体の抵抗力が原因</p> <p>○学習のまとめをする。</p> <p>2 病原体が基になって起こる病気の予防について知る。 ○インフルエンザなどの予防について話し合う。</p> <p>○病原体がもとになって起こる病気を防ぐにはどうしたらよいか話し合う。 ・発生源をなくす方法：熱湯で消毒、薬品で消毒、日光で消毒など ・うつる道筋を断ち切る方法：うがい、手洗い、学級閉鎖、人ごみをさけるなど ・体の抵抗力を高める方法：休養や睡眠、栄養、予防接種など</p> <p>○学習のまとめをする。</p> <p>3 生活の仕方が関わって起こる病気の予防について知る。 ○生活の仕方が関係して起こる病気にはどんな病気があるか発表する。 ・がん、脳の血管の病気、心臓病など ○生活習慣病について知り、健康によい生活習慣について話し合う。 ・生活習慣病：がん、心臓病、脳の血管の病気 ・原因：糖分、脂肪、塩分のとりすぎ、喫煙、飲酒、不規則な生活 ・予防法：食事、運動、睡眠、気分転換</p> <p>○学習のまとめをする。</p> <p>4 生活の仕方が関わって起こる歯の病気の予防について知る。 ○むし歯や歯ぐきの病気の原因について話し合う。</p> <p>○むし歯の予防方法を知る。</p> <p>○学習のまとめをする。</p> <p>5 たばこの害と健康について知る。 ○たばこの害について知る。 ・発がん物質が入っている。 ・肺や歯が汚れる。 ・目を刺激する。 ・のどがあれする。 ・運動能力が低下する。 ・血管を収縮させ血液の流れを悪くするなど ○たばこを吸う場所が少なくなっているのはなぜか話し合う。</p>	<p>・学習の概要をつかむためにP. 34～P. 35の挿絵を活用するとよい。</p> <p>・かぜを例に挙げて考えさせる。</p> <p>・話し合いをもとに、原因を病原体、環境、生活の仕方、体の抵抗力の4種類に分けさせ、それぞれ密接に関わっていることを理解させる</p> <p>・インフルエンザが流行したときの様子を思い出させ、予防方法について考えさせる。 ・教科書P. 38の「やってみよう」に○を付けさせる。 発生源をなくす方法とうつる道筋を断ち切る方法、体の抵抗力を高める方法に分けられることを説明する。</p> <p>・教科書P. 42を参考にさせる。</p> <p>・グラフから死亡原因の3分の2は生活習慣病によるものであることを気付かせる。 ・小学生の時期から生活習慣病の予備軍となっていることや、よい生活習慣が病気の予防に大きく関わっていることを理解させる。 ・教科書P. 43の「やってみよう」をもとに、自分の生活をどのように変えることができるのか具体的に考えさせる。</p> <p>・日ごろの経験や聞いたことを発表させる。 発表したものを、病原体、体の抵抗力、生活の仕方、環境に分類する。 ・自分の生活をどのように変えることができるのか具体的に考えさせる。 ・むし歯や歯ぐきの病気の予防には、糖分などを摂りすぎる食事や間食を避けたり、口腔の清潔を保つ生活習慣を身に付けることが大切であることを押さえる。</p> <p>・教科書の写真(肺の断面の比較)やグラフ、映像や資料などを活用する。</p> <p>・たばこを吸うと体にどんな影響があるのか、周囲の人にどんな影響があるのか知っていることを発表させる。</p>

- 未成年の喫煙は法律により禁止されているわけを考える
- 喫煙を勧められたときの態度について、ロールプレイングを行って考える。
- 学習のまとめをする。

6 飲酒の害と健康について知る。

- 酒を飲むとどうなるか知っていることを発表する。
- アルコールの体への影響を調べる。
 - ・ 肝臓の病気（肝炎、肝臓がんなど）
 - ・ 脳細胞の萎縮
 - ・ 記憶力や思考力の低下
 - ・ 意欲の低下
 - ・ 生活習慣病の原因など
- 未成年の喫煙は法律により禁止されているわけを考える
- 喫煙を勧められたときの態度について、ロールプレイングを行って考える。
- 学習のまとめをする。

7 薬物乱用の害と健康について知る。

- 薬物について知っていることを発表する。
 - ・ 意識がもうろうとする。
 - ・ 現実にはないものが見える。
 - ・ やめられなくなる。
- 薬物乱用の心や体に及ぼす影響や、薬物乱用が原因になって起きた事件について知る。
 - ・ 脳が萎縮する。（元に戻ることはない。）
 - ・ 脳が正常にはたらかなくなる。
 - ・ 目が見えなくなる。
 - ・ 歯が溶けてぼろぼろになる。
 - ・ 手足がしびれて歩けなくなる。
 - ・ やめられなくなる。
- なぜ薬物乱用がいけないのかを考える。
- 学習のまとめをする。

8 地域で行われている保健活動について知る。

- 地域で行われている保健活動について、知っていることを発表する。
- 保健所や保健センターで行われている活動について調べる。
- 調べたことを発表する。
- 単元のまとめをする。

- ・ グラフから吸い始めた年齢が早いほどがんになりやすいことに気付かせる。また、たばこの害は細胞がどんどん作られる成長期の子供の方が大人より大きいことを知らせる。
- ・ 教科書のP.47の「活用して深めよう」を基に実際に体験させる。
- ・ 実際に演じた後、感想を話し合わせる。
- ・ 低年齢からの喫煙は特に害が大きく未成年の喫煙は法律で禁止されていることを押さえる

【評】 学習のまとめをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 酒を飲むと体にどんな影響があるのか知っていることを発表させる。
- ・ 教科書の写真（肝臓の比較）やグラフ、映像や資料などを活用する。
- ・ すぐに現れる影響、長く飲んでいると現れる影響をまとめさせる。

- ・ 発育発達が盛んな時期はアルコールの影響を強く受けることを知らせる。
- ・ 教科書P.49「活用して深めよう」を基に、どんな気持ちでどう行動するか予想し、対処の仕方について話し合わせる。
- ・ 酒を飲むと体にいろいろな影響が表れ、長期間続けると病気になることがあるということ。低年齢での飲酒は特に害が大きく未成年の飲酒は法律で禁止されていることを押さえる。

- ・ 覚醒剤や麻薬があることを知らせ、厳しく取り締まられていることを押さえる。

- ・ 教科書の写真（脳の断面の比較）やグラフ、映像や資料などを活用する。
- ・ 一度だけならという軽はずみな行動が、やめられなくなることを強調する。

- ・ 死に至ることがある、また、交通事故を起こすなど身近な問題になっていることを知らせる。

- ・ 保健所や保健センターで行われている活動について、今までの経験をもとに考えさせる。
- ・ 教科書P.52を参考にさせながら、目的に合った調べ方ができるように助言する。
- ・ 伝える方法は学級の実態に合った方法を選択する。
- ・ 病気の予防について、どのように今後の生活の中で生かしていくかを発表させ、実践への意欲を高める。

【評】 学習のまとめをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

本単元では、病気の発生原因や予防方法について理解できるようにする必要がある。また、喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響について理解できるようにする必要がある。インターネットや各種資料を用いて調べ、話し合いの時間を設定することにより理解を深めさせる。また、ロールプレイングやケーススタディなどの学習方法を用いて、思考力や判断力を養い、実際の生活に応用する力を身に付けることをねらう。

単元名 体づくり運動(体の動きを高める運動)2

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができる。
- (2) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100301_001

【準備等】学習カード、カセットCDプレーヤー、短なわ、長なわ、カラーコーン、ストップウォッチ など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 体の動きを高める運動のねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>★自分の体力を知り、運動の仕方を工夫して体力を高めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習カードの使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 <p>○短なわで3分間連続跳びをする。</p> <p>○2～3分の集団走をする。</p> <p>○計測するペアを決める。</p> <p>○試しの5分間走（児童の実態に応じて6分間走）をする</p> <p>○自分のペース（1分ごとの走行距離）や目標距離（5分間の走行距離）を決める。</p> <p>2～3 自分の体力を知り、ペースをつかんで持久走をしたりなわとび運動をしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○短なわや長なわを跳ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・短なわ：一人で、ペアで、ランニングしながら ・長なわ：グループで、クラス全員で、8の字跳び ○持久走のフォームや呼吸法を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・腰の位置を高く、足をあまり高く上げない。 ・肩に力を入れずにしっかり腕を振る。 ・呼吸は吸う時よりも、吐く時に強く吐く。 ・鼻から吸って口から吐く。 ○2～3分間の集団走をする。 <p>○ペアで課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1分ごとの走行距離、目標距離など </p> <p>○5分間走をする。</p> <p>○反省し、次のペースや目標距離を決める。</p> <p>4～5 運動の行い方を工夫して、持久走をしたり、なわとび運動をしたする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なわを使って行う運動の方法を決めて跳ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 短なわ：一人で、ペアで、ランニングしながら 長なわ：グループで、クラス全員で、8の字跳び ○持久走を工夫して行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで走る ・コースを工夫する。（固定施設や器械・器具を越えながらのサーキットトレーニング）など ○5分間走をする。 ○反省し、次のペースや目標距離を決める。 <p>6 記録会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なわとび大会をする。（活用） <ul style="list-style-type: none"> ・短なわ連続跳び（一人で、ペアで） ・長なわ連続跳び（グループで、全員で、8の字跳び） ○5分間走をする。 ○単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない速さや自分のペースで5～6分間の持久走をしたり、なわを跳び続けたりすることで、動きを持続する能力を高めることを知らせる。 ・失敗しても、3分間跳び続けさせる。 ・トラックに10mごとにカラーコーンを立て、ペアの児童に、1分ごとの走行距離を記録させる。 ・試走の結果から考えさせ、学習カードに記入させる。 ・3～5分間、失敗しても跳ばせるようにする ・ペアで見合いながら気を付けさせる。 <p>【評】 ペアで協力し合って練習する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持久走のフォームや呼吸法を確認させる。 <p>【評】 工夫してなわを跳んだり、持久走をしたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで行った中から選んで行わせる。 ・記録の推移を確かめ、感想の発表や学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

本単元は、体づくり運動（体の動きを高める運動）の「動きを持続する能力を高めるための運動」の中から持久走やなわを使っての継続的な全身運動も取り上げる。体育の授業だけではなく、日常生活での運動につなげ生涯スポーツへの足掛かりとしたい。持久走は、健康観察を怠ると重大事故につながる場合があるので、児童の運動に取り組んでいる様子を十分に把握することと、児童に体調が悪いときや異変を感じたときには無理をしないように十分指導しておくことが大切である。

単元名 ボール運動(ゴール型)バスケットボール

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) ゴール型では、その行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができる。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100302_001

【準備等】バスケットボール5号、カラーコーン、学習カード、学習資料など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 バスケットボールのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 <p>★仲間からボールを受けやすい場所を見つけて、素早く動こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成し、役割を分担する。 ○バスケットボールに関連した体ほぐしの運動をする。 ○試しのゲームをし、課題をつかむ。 <p>2～4 バスケットボールを基にした簡易化されたゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ドリルゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドリブルリレー、シュートリレー、パス競争など ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 <p>○第2ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、マナーなど <p>5～6 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ドリルゲームをする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○対戦相手と、ルールについて話し合う。 <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 <p>○第2ゲームをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・攻守が入り交じって行うゲームの特性を確認させる。 ・パス、ドリブル、シュートなどの基礎技能の大切さを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・1チーム4～7人、男女混合で編成する。 ・1チーム1～2試合行う。 ・1試合7分程度で行う。 <p>＜基本的なルール＞</p> <p>ボールを持って3歩以上歩かない（トラベリング）、一度ドリブルをやめたら再びドリブルはできない（ダブルドリブル）、相手を押したり、たたいたり、足をかけたりしてはいけない（ファウル）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パス、ドリブル、シュートなどの基礎技能習得のためのゲームを行う。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる <p>＜ルールや場の例＞</p> <p>3対3などの少人数ゲーム、リングに当たれば1点入れば2点、フリーシュートゾーン、攻撃側のプレーヤーを増やす、守備側のプレーを制限するなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じチームと2ゲーム以上行うことを知らせる。 ・相手チームとの話合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。 <p>＜ルールや場の工夫例＞</p> <p>グリッドコート、ドリブルなしなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 <p>【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p>

- 反省し、まとめる。
- ・ 課題，作戦，練習方法，ルールなど
- 7～8 バスケットボール大会をする。
- 体ほぐしの運動をする。
- バスケットボール大会をする。
- 第8時は，単元のまとめをする。

- ・ 練習の成果を確認させる。
- ・ チームに合った作戦を立てさせる。
- 【評】 ゲームを通して，「知識・技能」を評価する。
- ・ チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

バスケットボールは，コート内で攻守が入り交じり，得点を競い合うゴール型の運動である。本単元では，パス，ドリブル，シュートなどの基礎技能をドリルゲームなどで楽しく身に付けさせ，いろいろなチームとゲームを行う学習と対戦相手を決め，自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・ 得点しやすい場所に移動し，パスを受けてシュートなどをすることが苦手な児童には，シュートが入りやすい場所に目印を付けたり，ボールを保持した際に最初にゴールを見ることを助言したりするなどの配慮をする。
- ・ ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることが苦手な児童には，仲間にゴールの位置を教えさせ

単元名 ボール運動(ゴール型)サッカー

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) ゴール型では、その行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができる。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100303_001

【準備等】 サッカーボール4号、ソフトサッカーボール、カラーコーン、学習カード、学習資料 など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 サッカーのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★仲間からボールを受けやすい場所を見つけて、素早く動こう。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。 ○チームを編成し、役割を分担する。 ○サッカーに関連した体ほぐしの運動をする。 ○試しのゲームをし、課題をつかむ。 <p>2～4 サッカーを基にした簡易化されたゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ドリルゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドリブルリレー、パス競争など ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、マナーなど <p>5～6 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ドリルゲームをする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○対戦相手と、ルールについて話し合う。 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習をする。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習方法、ルールなど <p>7～8 サッカー大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○サッカー大会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻守が入り交じって主に足を使って行うゲームの特性を確認させる。 パス、ドリブル、シュートなどの基礎技能の大切さを確認する。 ・1チーム7～10人、男女混合で編成する。 ・1チーム1～2試合行う。 ・1試合各7分程度で行う。 ・キック（パス、シュート）、ドリブルなどについてルールを簡易化したゲームを行う。 ・いろいろなチームと対戦することを知らせる <p>＜ルールや場の例＞ 攻撃側のプレーヤーを増やす、守備側のプレーを制限する、グリッドコート、ミニコート 柔らかいボールなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 <p>【評】 チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じチームと2ゲーム行うことを知らせる。 ・相手チームとの話し合いでルールや場の工夫がうまくいっているか確認する。 <p>＜ルールや場の工夫例＞ キーパーなし、グリッドコート、ボーナス得点など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 <p>【評】 チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習の成果を確認させる。 ・チームに合った作戦を立てさせる。

○第8時は、単元のまとめをする。

・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

サッカーは、攻守が入り交じって主に足を使って行うゴール型のゲームである。本単元では、キック（パス、シュート）、ドリブルなどの基礎技能をドリルゲームなどで楽しく身に付けさせ、いろいろなチームとゲームを行う学習と対戦相手を決め、自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

・得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをすることが苦手な児童には、シュートが入りやすい場所に目印を付けたり、ボールを保持した際に最初にゴールを見ることを助言したりするなどの配慮をする。

・ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることが苦手な児童には、仲間がゴールの位置を教えるよ

単元名 **ボール運動(ゴール型)タグラグビー**配当時間 **8時間**

単元の目標 (1) ゴール型では、その行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができる。
 (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
 (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。

標準的な展開例

06100304_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 タグラグビーのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★状況に応じたラン・パス・フォローをしよう。 <p>○マナーや安全の運動の仕方について知る。</p> <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○チームを編成し、役割を分担する。</p> <p>○タグラグビーに関連した体ほぐしの運動をする。</p> <p>○試しのゲームをし、課題をつかむ。</p> <p>2～3 タグラグビーを基にした簡易化したゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ドリルゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボール運びリレーなど ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <p>○第1ゲームをする。</p> <p>○反省し、練習をする。</p> <p>○第2ゲームをする。</p> <p>○反省しまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、ルール、マナー </p> <p>4～7 チームに合った作戦を立て、ルールを工夫してゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 <p>○対戦相手とマナーやルールについて対戦相手と話したことを学級全体で確認をする。</p> <p>○チームの課題や作戦を話し合う。</p> <p>○第1ゲームをする。</p> <p>○反省し、練習をする。</p> <p>○第2ゲームをする。</p> <p>○反省し、まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題、作戦、練習、ルール </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・陣地を取り合うゴール型のゲームであること特性を理解させる。攻守の交替は、ボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数取ることができれば交替。その本数はルールを決める中で実態に応じて決めていけばよい。 ・ボールを持っているプレーヤーのタグを取る時には「タグ！」を大きな声を出すことはマナーである。 ・1チーム5～8人、男女混合で編成する。 ・チームは4～8チームをつくる。コートは4チームで2コートあるとよい。 ・ラン、パス、フォローについて簡単なゲームを行う。 ・色々なチームと対戦することを知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ＜ルールやコートの例＞ 攻撃側のプレーヤーを減らす、守備側のプレーヤーを制限する。コートの幅を狭くする ・課題が立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームとは違うチームで対戦をさせる。 【評】 チームで協力してゲームをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じチームと2ゲーム行うこと知らせる。 ・相手チームとの話合いでマナーやルールの確認をする。必要に応じて学級全体でルールを工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ＜ルールの工夫の例＞ 攻守交替になるボールを持っているプレーヤーのタグを決められた本数を変更するなど。少なくすれば攻守交替が早くなるが、トライが決めにくくなる。 ・課題を立てられないチームには、話合いに教師が加わって助言する。 【評】 ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 ・第1ゲームと同じチームと対戦させる。 【評】 チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・練習の成果を確認させる。

- 8 タグラグビー大会を行う。
- リーグ戦やトーナメント戦で、タグラグビー大会を行う
 - 単元のまとめをする。

- ・チームに合った作戦を立てさせる。
 - ・チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。
- 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

ゴール型では、その行い方を理解するとともに、投げる、受ける、蹴る、止める、運ぶ、手渡すといったボール操作とボール保持者からボールを受けることのできる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによって、攻撃側にとって易しい状況の中でチームの作戦に基づいた位置取りをするなどの「攻守入り交じった簡易化されたゲーム」や「陣地を取り合う簡易化されたゲーム」をすることである。

タグラグビーは、その中でも「陣地を取り合うゲーム」であるため、ボール操作のシュートが必要なく、ボールを持たないときの動きを身に付けさせやすい。ボールを持っているプレーヤーのタグを取ることがそのプレーヤーの動きを止めることになるので、タグを取ろうとすると身体接触をすることがある。そのため、安全管理のために「しっかりと爪を切らせておく」「ボールを持っているプレーヤーは、守り側のプレーヤーを避けるようにして進まなければならない」などのことを子どもたちにしっかり確認しておく必要がある。なお、タグラグビーでは、タグを取られたプレーヤーは決められた歩数の間で止まって味方にパスをしなければならない。このとき、味方へのパスは、守り側のプレーヤーにカットされたり邪魔されたりすることはないため、慌てることなく、確実に味方にパスをつなげることができる。それでも子どもたちは、ボールを持ってトライゾーンに向けて前進することは、タグを取られることになるため、タグを取られる前に味方にパスを出したくなってしまう。しかし、この単元では、タグを取られることを恐れることなく前進させていきたい。それは、タグを取られた後のパスは必ず味方につなげられることになり、ラグビーの精神である「自己犠牲」を味わわせることにつながるからである。授業ではその姿を称えていきたい。つまり、このタグラグビーでは「ALL FOR ONE, ONE FOR ALL」の気持ちを大切にさせられる単元であると考える。

＜運動が苦手な児童への配慮の例＞

- ・得点しやすい場所へ移動し、パスを受けてトライすることが苦手な児童には、トライをしやすい、空いている場所を確認させたり、ボールを保持した際に最初に守りの位置を見ることを助言したりするなどの配慮をする。
- ・ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることが苦手な児童には、仲間にゴールの位置を教えさせるようにするなどの配慮をする。

令和2年度 知多地方教育計画案

家庭科

家 庭 科

1 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

(3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

○生活の営みに係る見方・考え方を働かせる

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することを示している。

○衣食住などに関する実践的・体験的な活動

調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して理解する学習を展開する。基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、活用して、身近な生活の課題を解決したり、家庭や地域で実践したりできるようにすることを目指す。

○生活をよりよくしようと工夫する資質・能力

この資質・能力とは、「何ができるようになるか」であり、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎として必要なものについて示したものである。

(1)の目標は、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容を取り上げ、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、生活における自立の基礎を培うことについて示している。

○日常生活に必要な基礎的な理解を図る

児童が既存の知識や生活経験と結び付け、学習内容の本質を深く理解するための概念として習得し、家庭や地域などにおける様々な場面で活用されることを意図している。

○それらに係る技能を身に付ける

自分の経験や他の技能と関連付け、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・定着することを意図している。実践的・体験的な活動を重視した学習を通して、児童一人一人のよさや個性を生かしながら身に付けるようにすることが大切である。

(2)の目標は、習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することにより、課題を解決する力を養うことを明確にしたものである。

○日常生活の中から問題を見いだして課題を設定する

既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめることを通して、日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力を育成することについて示している。

○様々な解決方法を考える

課題解決見通しをもち、計画を立てる際、生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を考える力を育成することについて示している。

○実践を評価・改善し、考えたことを表現する

調理や製作等の実習、調査、交流活動等を通して、課題の解決に向けて実践した結果を振り返り、考えたことを発表し合い、他者の意見を踏まえて改善方法を考えるなど、実践活動を評価・改善する力を育成する。また、2学年を見通して、学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を養うことが大切である。

(3)の目標は、(1)及び(2)で身に付けた資質・能力を活用し、家庭生活を大切にする心情を育むとともに、家族や地域の人々と関わり、家庭生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことを明確にしたものである。

○家庭生活を大切にする心情を育む

家庭生活への関心を高め、衣食住を中心とした生活の営みを大切にしようとする意欲や態度を育むことについて示している。

○家族や地域の人々との関わりを考える

自分の生活は家族との協力や、地域の人々との関わりの中で成り立つ。家庭生活は自分と家族との関係だけではなく、地域の人々と関わることでより豊かになることを理解した上で、よりよい生活を工夫して積極的に取り組むことができるようにすることについて述べている。

○家族の一員として

家庭生活を営む上で大切な構成員の一人という自覚をもち、進んで協力しようとする主体的な態度について述べたものである。

○生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度

日常の様々な問題を、協力、健康・快適・安全、生活文化の大切さへの気付き、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、一連の学習過程を通して身に付けた力を、家庭生活をよりよくするために生かして実践しようとする態度について示したものである。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 改訂の趣旨

① 前回改訂の学習指導要領の成果と課題を踏まえた目標の在り方

○生活に役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、学習の関心や有用感が高い。

○社会の変化により、家族への関心が低く、地域、家庭実践、社会参画は十分ではない。

○今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められている。

② 具体的な改善事項

ア 指導内容の示し方の改善

○小・中・高等学校の内容の系統性の明確化

○空間軸と時間軸という二つの視点からの学校段階に応じた学習対象の明確化

○学習過程を踏まえた改善

イ 教育内容の見直し

○人とよりよく関わる力を育成するための学習活動、食育を一層推進するための食事の役割や栄養・調理に関する学習活動の充実

○消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する内容の充実

○衣食住の生活において、日本の生活文化の大切さに気付く学習活動の充実

(2) 改訂の要点

① 目標の改善

育成を目指す資質・能力を三つの柱により明確にし、質の高い深い学びを実現するために、家庭科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることについて示した。

② 内容の改善

ア 内容構成の改善

小学校中学校ともに、「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」の三つの内容となった。

イ 履修についての改善

「A家族・家庭生活」の(1)アをガイダンスとして5年生の最初に履修させるとともに、「A家族・家庭生活」(4)課題と実践では、2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させる。

ウ 社会の変化への対応

家族・家庭生活、食育の推進、日本の生活文化、自立した消費者の育成に関する内容の充実

エ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るための内容の充実

オ 知識及び技能を実生活で活用するための内容の充実

カ 「生活の営みに係る見方・考え方」と関連を図るための内容の充実

第5・6学年 家庭科

1 学年の目標

- | |
|---|
| (1) 家族や家庭，衣食住，消費や環境などについて，日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。 |
| (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，実践を評価・改善し，考えたことを表現するなど，課題を解決する力を養う。 |
| (3) 家庭生活を大切にすることを育み，家族や地域の人々との関わりを考え，家族の一員として，生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 |

2 内容及び内容の取扱い

A 家族・家庭生活

(1) 自分の成長と家族・家庭生活

- ア 自分の成長を自覚し，家庭生活と家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれることに気付く。

AからCまでの各内容の学習と関連を図り，日常生活における様々な問題について，解決に向けて工夫することが大切であると気付かせるようにする。この項目を第5学年の最初に履修させ，2学年間の学習の見通しをもたせるためのガイダンスとして取り扱う。
--

(2) 家庭生活と仕事

- ア 家庭には，家庭生活を支える仕事があり，互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解する。
- イ 家庭の仕事の計画を考え，工夫する。

イについては，内容の「B衣食住の生活」と関連を図り，衣食住に関わる仕事を具体的に実践できるよう配慮する。
--

(3) 家族や地域の人々との関わり

- ア 次のような知識を身に付ける。
- (ア) 家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解する。
- (イ) 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり，地域の人々との協力が大切であることを理解する。
- イ 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え，工夫する。

幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わりについても扱う。また，イについては，他教科等における学習との関連を図るよう配慮する。

(4) 家族・家庭生活についての課題と実践

- ア 日常生活から問題を見いだして課題を設定し，よりよい生活を考え，計画を立てて実践できる。

B 衣食住の生活

(1) 食事の役割

- ア 食事の役割が分かり，日常の食事の大切さと食事の仕方について理解する。
- イ 楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え，工夫する。

(2) 調理の基礎

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

- (ア) 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解する。
- (イ) 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解し、適切に使用できる。
- (ウ) 材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解し、適切にできる。
- (エ) 材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできる。
- (オ) 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し、適切にできる。

イ おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫する。

アの(エ)については、ゆでる材料として青菜やじゃがいもなどを扱う。(オ)については、和食の基本となるだしの役割についても触れる。調理に用いる食品は、生の魚や肉は扱わない。安全・衛生に留意し、食物アレルギーについても配慮する。

(3) 栄養を考えた食事

ア 次のような知識を身に付ける。

- (ア) 体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解する。
- (イ) 食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせるとる必要があることを理解する。
- (ウ) 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解する。

イ 1食分の献立について栄養のバランスを考え、工夫する。

アの(ア)については、五大栄養素と食品の体内での主な働きを中心に扱うこと。(ウ)については、献立を構成する要素として主食、主菜、副菜について扱う。

食に関する指導については、家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮する。また、第4学年までの食に関する学習との関連を図る。

(4) 衣服の着用と手入れ

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

- (ア) 衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解する。
- (イ) 日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し、適切にできる。

イ 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫する。

(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

- (ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解する。
- (イ) 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできる。

イ 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫する。

布を用いた製作は、日常生活で使用する物を入れる袋などの製作を扱う。

調理の基礎、布を用いた製作については、平易な物から段階的に学習できるよう計画する。

(6) 快適な住まい方

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

(ア) 住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解する。

(イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできる。

イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、適切な住まい方を工夫する。

アの(ア)については、主として暑さ・寒さ、通風・換気、採光及び音を取り上げる。
暑さ・寒さについては、(4)のアの(ア)の日常着の快適な着方と関連を図る。

「B衣食住の生活」については、日本の伝統的な生活についても扱い、生活文化に気付くことができるよう配慮する。

C 消費生活・環境

(1) 物や金銭の使い方と買物

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

(ア) 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解する。

(イ) 身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。

イ 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫する。

(1)については、内容の「A家族・家庭生活」の(3)，「B衣食住の生活」の(2)，(5)及び(6)で扱う用具や実習材料などの身近な物を取り上げる。
アの(ア)については、売買契約の基礎について触れる。

(2) 環境に配慮した生活

ア 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解する。

イ 環境に配慮した生活についての物の使い方などを考え、工夫する。

3 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、理解しているとともに、適切にできる。
思考・判断・表現	日常生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、様々な課題方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	生活をよりよくしようとする取組について、課題の解決に向けて、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

第5学年 家庭科 年間計画（標準60時間）

1 学期（20時間）

単 元 名	配当時間	備 考
ガイダンス	1	特活，生活，社会，理科
私の生活，大発見！	4	理科
おいしい楽しい調理の力	6	
ひと針に心をこめて	9	

2 学期（25時間）

単 元 名	配当時間	備 考
持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方	6	
食べて元気！ご飯とみそ汁	10	社会，理科，体育
物を生かして 住みやすく	7	社会
気持ちがつながる家族の時間	2	

3 学期（12時間）

単 元 名	配当時間	備 考
ミシンにトライ！手作りで楽しい生活	11	
5年生のまとめ	1	

1～3 学期（3時間）

単 元 名	配当時間	備 考
生活を変えるチャンス！	3	

第 6 学年 家庭科 年間計画（標準 5 5 時間）

1 学期（2 0 時間）

単 元 名	配当時間	備 考
見つめてみよう 生活時間	2	体育，道德
朝食から健康な 1 日の生活を	1 0	
夏をすずしく さわやかに	8	社会，理科，体育

2 学期（2 4 時間）

単 元 名	配当時間	備 考
思いを形にして 生活を豊かに	1 4	
まかせてね 今日の食事	1 0	体育

3 学期（8 時間）

単 元 名	配当時間	備 考
冬を明るく 暖かく	5	社会，理科
あなたは家庭や地域の宝物	2	社会，道德
2 年間のまとめ	1	

1 ～ 3 学期（3 時間）

単 元 名	配当時間	備 考
生活を変えるチャンス！	3	

【旧】第 6 学年 家庭科 年間計画（標準 5 5 時間）

1 学期（2 0 時間）

単 元 名	配当時間	備 考
私の仕事と生活時間	2	体育，道德
朝食から健康な 1 日の生活を	1 0	
夏をすずしく さわやかに	8	社会，理科，体育

2 学期（2 5 時間）

単 元 名	配当時間	備 考
思いを形に 生活に役立つ布製品	1 5	
まかせてね 今日の食事	1 0	社会

3 学期（1 0 時間）

単 元 名	配当時間	備 考
冬を明るく 暖かく	6	理科，体育
あなたは家庭や地域の宝物	4	社会，道德

第6学年O組 家庭科学習指導案

令和2年11月〇日 〇曜日 第〇時 (家庭科室)
指導者 〇 〇 〇 〇

1 題材 まかせてね 今日の食事

2 題材の目標

- (1) 1食分の献立と環境に配慮した調理について、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 栄養を考えた食事について、課題を見付け、栄養のバランスを考えて1食分の献立を工夫することができる。
- (3) 自分の食生活を見直し、1食分の献立と調理についての知識及び技能を身に付け、栄養のバランスを考えた1食分の献立を考え、家族に喜ばれるおかずを作ろうとする。

3 学習の計画 (10時間完了)

- 第1次 第1時 1食分の食事に必要なことを考え、単元の学習課題をつかむ。
第2次 第2時(本時) 栄養のバランスがよい1食分の献立を考える。
第3時 家族のための1食分の献立を考える。
第4時～第5時 家族が喜ぶおかず作りの調理計画を立てる。
第6時 調理に必要な材料の準備の仕方を考える。
第7時～第8時 自分の立てた調理計画に従い、実習をする。
第3次 第9時 楽しい食事のための工夫について話し合う。
第4次 第10時 家庭実践の報告会をし、単元のまとめをする。

4 本時の学習指導

- (1) 目標
 - 献立作りに必要な条件を踏まえて、食べる人に合った1食分の献立を工夫することができる。
 - 献立作りについて、課題の解決に向けて、主体的に栄養バランスを考えようとする。
- (2) 準備・資料
 - 教師……六つの基礎食品群の掛図、おかずカード(主なおかず、足りない食品を補うおかず)、材料一覧表、色別シール、給食献立表、献立作りシート
- (3) 関連
 - 5年 家庭 食べて元気! ご飯とみそ汁(毎日の食事を振り返り、バランスのよい食生活を考える)
 - 6年 家庭 朝食から健康な1日の生活を(朝食をとることを中心に食事のバランスと健康な生活リズムについて考える)

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかむ	1 食事を考えるときに気を付けていることを発表し合う。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前学習で、家庭で家族から聞いてきたことを自由に発表させる。 ○ 家族の状況によって様々な意見が出てくると考えられるので、詳細は配慮する。 ○ 給食献立表を示し、栄養が偏らないようにするためには、献立を立てる必要があることに気付かせ、学習課題につなげる。
	2 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">栄養のバランスがよい1食分の献立を考えよう。</div>		
追究する	3 ご飯とみそ汁を組み合わせた1食分の献立を、グループで考える。 (1) 献立作りの条件を知る。 ・栄養 ・食べる人の年齢や好み ・季節 ・旬の素材 ・予算 ・いんどり ・調理法	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5年生で学習したご飯とみそ汁を組み合わせ、計画を立てることを知らせる。 ○ 家庭で聞いてきたことや毎日の食事の組み合わせを参考にして考えさせる。 ○ 栄養のバランスを中心に考え、ここでは、食品の組み合わせに重点を置く。 ○ 「お母さん向け」「おじいさん向け」などの対象をグループごとに指定し、材料や味付けなどを考えさせるようにする。 ○ 個人で考えさせた主なおかずを「献立作りシート」に記入させる。 ○ 「おかずカード」(主なおかずとしてよく食べられているものの絵)を参考にさせる。
	(2) 条件を考えながら、1食分の献立を立てる。 ○ グループで、献立を立てる対象の設定を知る。 ○ 主なおかずを考える。(個人で) ・オムレツ ・焼き魚 ・てんぷら など		

追 究 す る	○ 主なおかずに使われている食品を考える。(個人で)		○ いろいろな種類のおかずから、条件に合ったおかずを選ぶように助言する。 ○ 基本となる食品の一覧表を提示し、その中から使う食品を選ぶようにさせる。 ○ 一覧表には「おかずカード」に使われている主な食品を材料として示しておく。 ○ 旬の食品を紹介する。 ○ 主なおかずに含まれる食品を栄養素の働き別に3色に分けさせて、3色のシールを「献立作りシート」に貼らせる。
	○ 主なおかずの栄養チェックをする。(個人で)	20	○ まず個人で考えた主なおかずについてグループ内で意見交換をさせ、次にグループで主なおかずを一つ決めさせる。
	○ 主なおかずを決める。(グループで)		○ 主なおかずのシールの数から栄養のバランスを考えさせ、足りない食品が含まれるおかずを考えるように助言する。 ○ 話し合いが進まないグループには、おかずの例を紹介する。
	○ 足りない食品を補うおかずを決め、全体の栄養のバランスを確かめる。(グループで) ・ ほうれんそうのおひたし ・ 納豆 ・ かぼちの煮物 など ○ みそ汁の実を決める。(グループで)		○ みそ汁の実で、最終的に栄養バランスを調整させる。 評条件に合ったおかずや、おかずに含まれる食品について、主体的に考えようとしている。(話し合い、献立作りシート) 評いろいろな条件を考えながら、おかずの組み合わせを考え、工夫している。(献立作りシート)
	(3) グループごとに献立を発表する。 ・ 育ち盛りの弟、妹向け ・ 働き盛りのお父さん向け ・ 受験生のお兄さん、お姉さん向け ・ 歯の弱いおじいさん、おばあさん向け など	30	○ 各グループで決めた主なおかずをグループの代表者に学級全体で発表させる。 ○ おかずカードを使って、組合せのポイントなどを説明させる。 ○ 組合せや調理の仕方、栄養のバランスなど、発表内容に適宜助言を加える。 ○ 献立を立てておくときにも役立つことを補足する。
		40	
ま と め る	4 献立作りの感想を書き、学習のまとめをする。	45	○ 献立作りの必要性、大変さを振り返らせ、家族への感謝の気持ちをもたせる。 ○ 次時は、各自で家族のために1食分の献立を立てることを伝える。

(5) 本時の評価規準

- 栄養のバランスや食べる人の年齢、好みなど、献立に必要な条件を考えた1食分の献立について、評価したり、改善したりしている。(献立作りシート)
- 条件に合ったおかずや、おかずに含まれる食品について、主体的に考えている。(話し合い、献立作りシート)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 食事への関心は高いが、家庭では自分の好きなものを食べる事が多く、間食の食べ過ぎや偏食なども目立つ。栄養バランスのとれた食事を心掛けている児童は少ない。

(2) 指導の力点

- 栄養のバランスを考えながら、楽しく食事の献立作りができるように「おかずカード」を活用する。また、これらのカードには、カードのおかずに使われている食品名を明記し、おかずと食品の関係を常に意識するように配慮する。

6 指導と評価

単元名 **ガイダンス**配当時間 **1 時間**

単元の目標 (1) 家庭科の目標や内容, 生活を見つめる見方・考え方や学び方について理解し, 自分の成長した点や, それを支えてきた家庭生活や家族の大切さに気付くことができる。
 (2) これからできるようになりたいこと, やってみたいことなどを考える活動を通して, 2 年間の学習への見通しをもつことができる。
 (3) 自分の成長した点やそれを支えてきた家庭生活や家族の大切さに気付く, 2 年間の学習を見通して自分と家族の生活をよりよくしようとする。

標準的な展開例

05090101_001

【準備等】前年度の 5 年生の作品

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 家庭科の学習の仕方を知り, 2 年間の学習活動の見通しをもつ。 ★家庭科の学習の内容と進め方を知ろう</p> <p>○第 4 学年までの学習と生活の中で, 家庭科に関連することを探す。</p> <p>○2 年間の学習を見通して, 知りたいことやできるようになりたいことを書く。</p> <p>○家庭科の学び方や生活の見方・考え方について知る。</p> <p>○どんな自分を目指して学んでいきたいかを発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目次を見ながら, 2 年間を見通したガイダンスを行い, 学習への意欲を高めるとよい。前年度の 5 年生の作品を見せることも効果的である。 ・イラストを参考にし, できるようになったことを発表させる。 ・家族に褒められたり, 喜ばれたりした経験を発表し合い, 自分の生活には家庭生活や家族が関係していることに気付かせる。 【評】今までの生活の中で, 家庭科に関連することを探す活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・目次や p. 2 「いつも確かめよう」などを参照しながら, 知りたいことやできるようになりたいことを書かせる。 【評】知りたいことやできるようになりたいことを書く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・p. 4 「学習の進め方」を参照して, ステップ①→②→③の流れを理解させる。また, p. 4 「家庭科の窓」に示された見方・考え方と自分の願いがどう関連しているかを考えていくことを押さえる。 【評】目指している自分の姿を発表する活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 私生活、大発見！

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 家庭には、家庭生活を支える仕事があり、互いに協力し分担する必要があることを理解するとともに、家族の仕事を分担・実行することができる。
- (2) 家庭の仕事について課題を見付け、それらを解決するために、家庭の仕事の計画を考え、工夫することができる。
- (3) 家庭には、自分や家族の生活を支える仕事があることを知り、様々な課題をもって家族の一員として家族に協力しようとする。

標準的な展開例

05090102_001

【準備等】茶葉、計量カップ、計量スプーン、やかん、きゅうす、湯飲み、茶托、家庭の仕事実行表

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 自分と家族の生活を見つめ、家族との関わりについて考え、学習課題をつかむ。</p> <p>★家庭にある仕事を見付けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「さくらの1日」を参考にして、自分の1日の生活を振り返る。 ○これまでに家族にしてもらっていること、また、自分がして喜ばれたことを思い出して話し合う。 ○家庭にはどんな仕事があるのか考え、気付いたことを発表する。 <p>2～3 自分にできそうな家庭の仕事を見付ける。</p> <p>★家庭で使う用具を知り、その用具を使って実践してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭科室の調理用具探しゲームを行う。 <p>○家庭科室の正しい使い方や、安全面の注意点について話し合う。</p> <p>○ガスこんろの正しい使い方を知り、お茶を入れる。</p> <p>○お茶の入れ方の実習を振り返る。</p> <p>4 家族の一員として自分にできる仕事を見付ける。</p> <p>★「家族のために働こう」の計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分にできる仕事について話し合う。 ○お仕事実行表を作る。 <p>○計画をグループで発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を家庭の仕事や団らんなど家族との関わりの方から振り返らせ、課題に気付かせる。 ・家庭生活に目を向けさせ、これまで生活してきた家庭がもっている機能に気付かせる。 ・p. 7活動1「話し合おう」を活用する。その際、地域の人とつながった仕事があることに気付かせる。 ・家族が協力して家庭の仕事を担い、支え合っていることに気付かせる。 【評】家庭の仕事を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・「量る」「加熱する」「洗う」「切る」「混ぜる・盛りつける」「ごみを始末する」道具を、グループで協力して一つずつ集めさせ、様々な用途の道具があることを全体で確認する。 ・p. 8, 9の調理用具の写真を参考にして、調理室にあるものを、一人一人に見付けさせる ・整理整頓や衛生面について気付かせるようにする。 ・ガスこんろの使い方については、一人一人に扱わせ、器具の安全な扱い方を徹底させる。 ・日本のお茶は伝統的な飲み物であることを押さえる。 ・グループで協力してお茶を入れ、片付けをさせる。 【評】調理用具の扱い方やお茶の入れ方の活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・安全面や衛生面で気を付けたことや、今後の家庭実践で気を付けたいことを確認する。 ・事前にどんなことをしてほしいか、家族にインタビューさせておくことよい。 ・家族がしてほしい仕事を実践させる。また、今までやってこなかった仕事にもチャレンジさせる。 【評】お仕事実行表を作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・友達の考えを参考にし、さらにより実行表になるようにする。 ・お仕事実行表を教室に掲示し、交流できるようにするのもよい。 【評】実践記録を書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 おいしい楽しい調理の力

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 「ゆでる」調理の特徴と材料や目的に応じたゆで方を理解したり、適切な調理技能を身に付け材料や目的に応じたゆで方をしたりすることができる。
- (2) 「ゆでる」調理について、課題を見付け、調理計画や調理の仕方を考え、課題解決に向けて工夫することができる。
- (3) 「ゆでる」調理の知識及び技能を身に付けたり、調理方法や調理の仕方を工夫したりしようとする。

標準的な展開例

05090103_001

【準備等】食品の調理後の写真、ゆでる前と後の野菜、旬の野菜の写真、マナーについての写真

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 調理の目的や手順について考え、調理についての見通しをもつ。</p> <p>★調理の目的や手順を考えよう</p> <p>○食品をどのような調理方法で食べているか考える。</p> <p>○調理をすることでどのようなよい点があるか話し合う。</p> <p>○調理の手順を知り、学習計画を立てる。</p> <p>2 食品や調理の目的に合ったゆで方を知ろう。</p> <p>★野菜やいもの種類によるゆで方の違いを考えよう</p> <p>○ゆでる調理によるかさの変化を知る。</p> <p>○ゆで方の違いを知り、水からと、沸騰した湯からゆでる野菜のそれぞれの共通点を考える。</p> <p>○野菜を、水からか、沸騰した湯からゆでるのかを考えて仲間分けする。</p> <p>○ゆで方が変わる理由を話し合う。</p> <p>3 ゆでる前とゆでた後の変化を調べる。</p> <p>★青菜とじゃがいもをゆでて変化を調べよう</p> <p>○ゆでる前とゆでた後の色や硬さ、かさや味について予想する。</p> <p>○身支度をして、ゆでる実習をする。</p> <p>○実習で分かったことを記録し、変化についてまとめる。</p> <p>4～5 ゆで野菜サラダの実習を行う。</p> <p>★ゆで野菜サラダを作ろう</p> <p>○調理実習の準備をし、調理手順の確認をする。</p> <p>○調理用具の扱い方を知る。</p> <p>○ゆで野菜サラダの実習をする。</p> <p>○盛り付けて、試食する。</p> <p>○後片付けをする。</p> <p>○ゆで野菜サラダ実習の反省をする。</p> <p>6 ゆでる調理の仕方を振り返り、家庭でのおいしい食事作りの計画を立てる。</p> <p>★家族のためのオリジナルゆで野菜サラダを作ろう</p> <p>○調理実習を振り返り、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かさが減った。 ・柔らかくなった。 ・盛り付けがきれいだったからおいしそうに見えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・快適・安全に気を付けて調理をすることを意識させる。特に、安全の視点から食物アレルギーについて必ず触れる。 ・食品の調理後の写真を見せ、様々な調理方法に気付かせる。 【評】調理のよい点を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・単元の学習について見通しをもって取り組むようにする。 ・p. 16の図2を参考にする。また、実際にゆでる前の野菜とゆでた後の野菜を用意するのもよい。 ・p. 16の「活動2 考えよう」を参考にする。 ・野菜の写真やイラストを用意し、仲間分けさせる。実物を用意してもよい。 【評】野菜の仲間分けをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ゆでることで色や硬さ、かさや味がどのように変化するか予想をさせ、実習後、結果を記録させる。 ・今までの食生活の中から想像をさせる。また青菜とじゃがいも以外のゆで野菜を実際に用意して見せてもよい。 ・青菜とじゃがいもをグループで分担して調理させるとよい。 【評】野菜のゆでる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・予想した色や硬さ、かさや味について記録させる。 ・各自が包丁の扱いやゆでる経験ができるようにする。 ・身支度をさせる。 ・包丁、まな板、はかり、計量スプーンの扱い方について指導する。その際、安全面について十分に配慮する。(p. 143) ・相互でチェックをしながら、実習を進めさせる。 【評】ゆで野菜サラダを実習する活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・生ゴミの処理の仕方、調理器具の洗い方、食器の返し方など、実際に見せながら指導をする。 ・よかったところ、気を付けるとよいところを伝え合う。 【評】実習について伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・グループ実習やペア実習、個人実習など学校の実態に合わせて取り組ませる。 ・上手にできた点や課題点について出させ、おいしく調理するためのポイントをまとめる。 【評】調理実習に関する話し合い活動を通して「知識・技能」を評価する。

<ul style="list-style-type: none"> ・味付けが自分の好みでおいしかった。 ○旬の野菜について知る。 ○食するときのマナーについて話し合う。 ○家族のためのオリジナルゆで野菜サラダを作る計画を立てる。 ○単元を振り返り，自己評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式にし，野菜の旬について興味をもたせる。また，旬のよさについて知らせる。 ・みんなで気持ちよく食べるためには，マナーに気を配らなければならないことに気付かせる。マナーについても，クイズ形式で興味をもたせるのもよい。 ・家族が好きな野菜，好きな味を想像させ，計画を立てさせる。 <p>【評】ゆで野菜サラダの計画を立てる活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で実践してきたことを，「トライカード」にまとめさせ，教室に掲示するなどして，交流できるようにするのもよい。 <p>【評】「トライカード」をまとめる活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】

単元名 ひと針に心をこめて

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 手縫いの製作に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
 (2) 手縫いの製作について、課題を見付け、その解決を目指して製作計画を考え、製作を工夫することができる。
 (3) 手縫いの製作に関する知識及び技能を身に付けたり、製作計画や製作をよりよく工夫したりしようとする。

標準的な展開例

05090104_001

【準備等】裁縫道具、映像（玉結び・玉どめ・ボタン付け・なみ縫い）、縫い方・マイミニバッグの見本

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 針と糸を使ってできることについて話し合い、学習課題をつかむ。 ★針と糸を使ってできることを見付けよう ○針と糸を使って作られた物や、自分がしていることについて話し合う。</p> <p>○裁縫用具の名前や安全な扱い方、使い方を知る。 ・針の危険性 ・針さしへの針のさし方 ・はさみの手渡し方</p> <p>○針と糸を使って、できるようになりたいことについて発表する。</p> <p>2～4 針に糸を通したり、玉結びや玉どめ、ボタン付けの練習をしたり、2枚の布を縫い合わせたりする。 ★針と糸を使って布を縫い合わせよう ○針に糸を通す、玉結び、玉どめの練習をする。</p> <p>○手縫いした作品を観察する。 ○なみ縫い、返し縫い、かがり縫い等の練習をする。</p> <p>○給食の白衣についているボタンを観察し、ボタン付けの練習をする。</p> <p>5 マイ・ミニバッグの製作計画を立てる。 ★マイ・ミニバッグの製作計画を立てよう ○作品例を見て、作る物を決める。</p> <p>○製作計画を立てる。</p> <p>6～8 計画に従ってマイ・ミニバッグを作る。 ★マイ・ミニバッグ作りをしよう ○計画に従って製作する。</p> <p>○作品を見せ合い、感想を発表する。</p> <p>9 発表交流会をし、これからの生活に生かせることを話し合う。 ★手縫いのよさを生かして、やってみたいことを考えよう</p> <p>○製作活動の振り返りをする。</p> <p>○作品の工夫したところや、使い方について発表し合う。</p> <p>○発表を聞き、生活の中で手縫いのよさを生かせるところはどこかを話し合う。</p>	<p>・これまでの経験や作ってみたい物を発表させ学習への意欲を高めるようにする。</p> <p>・p.24の写真や身の回りの持ち物を参考に考えさせる。その際、家庭生活とも関連付けながら話し合わせる。</p> <p>・道具の記名を徹底させ、整理・整頓にも気を付けさせる。</p> <p>・針の扱い方については、危険性を伝え、扱い方を徹底させる。</p> <p>・はさみやリッパー等についても安全な扱い方を徹底させる。</p> <p>【評】裁縫用具の種類や扱い方を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>【評】できるようになりたいことについて発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・針や糸の扱いにつまずく児童には、穴が大きい針を使ったり、糸通し器を使ったりするなど、個別に対応するようにする。</p> <p>・どうすればうまくいくのかを考えさせ、話し合いの場を設定するのもよい。</p> <p>・縫い方見本などを提示して、観察させる。</p> <p>・それぞれの縫い方の特徴について伝え、目的に応じた縫い方ができるようにする。</p> <p>・ボタンには裏表があることや、ゆるみをもたせてボタンが付けてあることなどに気付かせる。</p> <p>・初めは、二つ穴ボタンで練習させる。</p> <p>【評】手縫いをする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・個性を生かし、楽しく製作できるように助言する。</p> <p>・実際の大きさが分かりづらいので、実物を用意しておくとうい。</p> <p>・p.98の「布の大きさの決め方」を参考にする。</p> <p>【評】製作計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・布を裁つ前に、教師が必ず点検するようにする。</p> <p>【評】マイ・ミニバッグを製作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・他の人のために製作した場合は、相手の感想を聞いておくようにする。</p> <p>・作品の工夫点や改善点について振り返るようにする。</p> <p>・友達同士で相互評価させる。</p> <p>【評】発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・p.30の「深めよう」を活用する。</p> <p>【評】手縫いのよさを生かす話し合い活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方

配当時間 7時間

単元の目標 (1) 物や金銭の計画的な使い方と買い物, 環境に配慮した生活に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
 (2) 物や金銭の計画的な使い方と買い物, 環境に配慮した生活について課題を見付け, その課題解決を目指して, 物の選び方, 買い方, 使い方を考え, 工夫することができる。
 (3) 物や金銭の計画的な使い方と買い物, 環境に配慮した生活について, 知識及び技能をより深く身に付けようとしたり, 物の選び方, 買い方, 使い方をよりよくしたりしようとする。

標準的な展開例

05090201_001

【準備等】プリペイドカード, マーク見本

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 物を上手に選ぶために, 物との関わりを考える。 ★物を手に入れるためのいろいろな方法を考えよう ○どのように物と関わって生活しているか考える。</p> <p>○消費者の役割について考える。 ○必要な物を手に入れる方法について話し合う。</p> <p>2 買い物について考える。 ★買い物の仕組みについて考えよう ○いろいろな買い物の仕方を考える。 　・お店で買う。 　・電話で注文する。 　・インターネットで買う。 ○売買契約について知る。 ○売買契約が成立する場面を考える。</p> <p>○いろいろな支払い方法について知る。</p> <p>3～4 買い物をするとき, どのように選ぶか考える。 ★買い方の手順を考えよう ○買い物をするとき, どのように選んでいるのかを考える。 ○買い方の手順を知り, どのように選ぶかを話し合う。</p> <p>5～6 買い物の場面を想定して, 何を選ぶかを決める。 ★自分のほしい物を選ぼう ○商品の上手な選び方を考える。 ○商品の表示とマークの意味を知る。</p> <p>○自分の欲しい物を決めて, 選ぶ練習をする。</p> <p>○欲しい物について発表する。</p> <p>7 環境に配慮した生活を工夫する。 ★学習したことを生かして, 環境や資源に配慮した生活を工夫しよう。 ○どのように環境や資源のことを考えて生活しているか話し合う。</p>	<p>・p. 32のイラストを見ながら考えさせる。</p> <p>・出た意見を分類しながら板書していく。 ・持続可能な社会についての視点を意識させるために, 生活の中で関わっている物は, 多くの人の労力や限りある資源やエネルギーを使って作られた物であることを押さえる。 ・消費者という言葉の意味を伝える。 ・必要な物の例は, 児童の身近な物から挙げて話し合わせる。 【評】必要な物を手に入れる方法について話し合う活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・具体的な形のないもの(電車やバスに乗る, DVDを借りるなど)についても取り上げる</p> <p>・p. 34の図2と活動3を活用して, いつ売買契約が成立するのかを考えさせる。 ・p. 34「活動3 考えよう」を活用し, 児童に役割演技をさせる。 【評】売買契約の場面を考える活動を通して, 「知識・技能」を評価する。 ・実際にプリペイドカードを見せるのもよい。</p> <p>・児童の身近な物(ゲーム・服・文房具など)を取り上げて, 考えさせる。 ・p. 36・37「いつも確かめよう」を参考に話し合わせる。 ・環境に配慮した買い方に触れ, エネルギーや物の使い方について意識させる。 【評】欲しい物をどのように選ぶのかを話し合う活動を通して, 「知識・技能」を評価する</p> <p>・生活のために使うお金は, 家族が働いて得た大切なお金であることを意識させ, 計画的に買ったり, 使ったりする必要性に気付かせる</p> <p>・商品を選ぶ際には, いろいろな観点があることを押さえる。</p> <p>・マークは, 実物を用意したり, 事前に探させたりしておくともよい。また, p. 39, 93, 110も活用する。 ・商品を選ぶ際のいろいろな観点や商品表示, マークを見直す時のポイントとさせる。 【評】欲しい物を決める活動を通して, 「思考・判断・表現」を評価する。 ・選んだ観点を中心に発表させる。 【評】欲しい物について発表する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・事前に家の人に, 環境に配慮した生活の工夫を聞いておくようにさせるとよい。</p>

○工夫していること，これから工夫したいことを書く。

・「暮らしキラリカード」に書かせ，友達同士で紹介をさせる。

【評】「暮らしキラリカード」を書く活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 食べて元気！ご飯とみそ汁

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 食事の役割と栄養，米飯及びみそ汁の調理について，基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 米飯及びみそ汁の調理について，課題を見付け，その解決に向けて，調理計画や調理の仕方を考え，工夫することができる。
- (3) 食事の役割と栄養，米飯及びみそ汁の調理についての知識及び技能を身に付けたり，調理計画や調理の仕方をよりよく工夫したりしようとする。

標準的な展開例

05090202_001

【準備等】玄米，精白米，胚芽米，米みそ，豆みそ，麦みそ，煮干し，削り節，昆布，ご飯とみそ汁の作り方の写真，食品カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 毎日の食事について振り返り，食生活について考える。</p> <p>★毎日の食事をふり振り返り，どのような物を食べているのか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の写真の料理には，どのような食品が使われているか話し合う。 日本の伝統的な食事について知る。 学習の見通しを立てる。 <p>2 伝統的な日常食であるご飯とみそ汁について調べる。</p> <p>★米とみそについて知り，ご飯のたき方を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 米とみそについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> 玄米 精白米 無洗米 米みそ 麦みそ 豆みそ ご飯のたき方を調べよう。 <ul style="list-style-type: none"> 米を量り洗う。 水を量り吸水させる。 たく。 むらす。 盛り付ける。 <p>3～4 ご飯の調理実習を行う。</p> <p>★ご飯が出来上がるまでの様子を観察しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りをする。 米と水の量り方について知る。 調理実習を行う。 試食をする。 ご飯をたいて気付いたことや分かったことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 火が強くてこげてしまった。 米がふくらんできた。 水がなくなった。 片付けを行う。 <p>5 伝統的な日常食であるみそ汁について調べる。</p> <p>★だしについて知り，みそ汁の作り方を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> だしについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> 煮干し かつお節 	<ul style="list-style-type: none"> p. 40の写真を見ながら話し合わせる。給食のメニューを活用してもよい。 【評】どのような食品が使われているか話し合う活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 和食という言葉伝える。 ご飯やみそ汁の作り方や食事の必要性について，これから学んでいくことを知らせる。 家庭で食べられているご飯とみそ汁の材料や作り方を事前に調べさせておくとよい。 p. 41の「図2」「図3」を参考にする。 実際に玄米や精白米，様々な種類の味噌を用意し，見せるのもよい。 だしについては，みそ汁の学習で詳しく調べさせるため，ここでは，「だし」が使われていることのみ伝える。 事前に，家庭で調べておいたご飯のたき方について発表させる。 p. 42・43の調理過程の写真を参考にたき方を調べさせる。 【評】ご飯のたき方を調べる活動を通して，「知識・技能」を評価する。 写真を掲示し，ご飯のたき方の流れが分かるようにする。 全員が正しく量れるように，実際に計量カップとはかりを使わせる。 米がご飯に変化する様子が観察できるように耐熱ガラス鍋を使わせる。 【評】調理実習の活動を通して，「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 他のグループのご飯を試食できるようにし，振り返りの参考にさせる。 前時の振り返りで活用した写真を生かし，気付いたことや分かったことを分かりやすくまとめるとよい。 【評】気付いたことや分かったことを発表する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 調理道具の洗い方やしまい方，ガスこんろや流し，床の掃除の仕方が正しく行われているか点検する。 家庭で調べてきただしやみそ汁の作り方を参考にし，手順を確かめさせる。 だしは和食の基本であることを伝える。

<ul style="list-style-type: none"> ・こんぶ ○だしを味わい、気付いたことを発表する。 ○みそ汁の作り方を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・だしを準備する。 ・実を洗ったり切ったりする。 ・だしを取る。 ・にる。 ・みそを加える。 ・盛り付ける。 6～7 みそ汁の実習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ★みそ汁を手順よく、おいしく作ろう ○前時の振り返りを行う。 ○調理実習を行う。 ○試食をし、振り返りをする。 ○片付けを行う。 8～9 食事の役割と栄養のバランスを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ★栄養素の種類と働きについて知ろう ○食事の役割について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・健康になる。 ・体が成長する。 ○五大栄養素と体内での3つの働きについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・炭水化物 ・エネルギーになる。 ・脂質 ・体をつくる。 ・たんぱく質 ・体の調子を整える。 ・無機質 ・ビタミン ○食品を3つの働きに分類する。 <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーになる。(黄) ・体をつくる。(赤) ・体の調子を整える。(緑) 10 調理で身に付いたことを家庭生活に生かす。 <ul style="list-style-type: none"> ★わが家のとっておきのみそ汁を考えよう ○ご飯とみそ汁の調理実習を振り返り、おいしく作るためのポイントを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> (ご飯) <ul style="list-style-type: none"> ・水と米の量 ・火加減 (みそ汁) <ul style="list-style-type: none"> ・だしを入れる。 ・好みの実を入れる。 ・実の切り方や入れる順番。 ・みその種類。 ○学んだことを生かして「わが家のとっておきのみそ汁」を考える。 ○「わが家のとっておきのみそ汁」を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・だしのみ、だしに味噌を溶いた物、湯に味噌を溶いた物を味わわせる。 【評】だしについて発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・p. 44・45の写真や絵を参考に調べさせる。また、実や味噌を入れる順番についても調べさせる。 【評】みそ汁の作り方を調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・環境に配慮した調理や後片付けを意識させるようにする。 ・写真や絵を掲示し、作り方が分かるようにする。 ・だしの味や実の硬さ、汁の濃さについて意識しながら試食させるようにする。 【評】みそ汁を作る活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・調理道具の洗い方やしまい方、ガスこんろや流し、床の掃除の仕方が、正しく行われているか点検をする。 ・3年体育「健康な生活」との関連を図る。 ・p. 142を活用するとよい。ただ、6つの食品群に分けるまでの指導はしない。 ・食品には複数の栄養素が含まれていることから、厳密に分類しなくてもよい場面があることを配慮する。(のりやわかめなど) ・食品カードを用意するとよい。 【評】食品を分類する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・p. 47「活動5 調べよう」の献立や給食の献立を活用する。 ・分類するときには、黄・赤・緑の色分けをさせる。 ・実習後の振り返りで活用したワークシートや黒板掲示に活用した物を参考にさせる。 【評】おいしく作るポイントを話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・おいしく作るポイントや食品の栄養素に注目して考えさせる。 ・調理のポイントを押さえながら発表させる。 【評】「わが家のとっておきのみそ汁」を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
---	--

【 備 考 】

単元名 物を生かして 住みやすく

配当時間 7時間

- 単元の目標 (1) 住まいの整理・整頓や清掃の必要性や仕方を理解し、手順に沿って適切に行うことができる。
 (2) 気持ちのよい住まい方について課題を見付け、その解決を目指して、整理・整頓や掃除の仕方環境に配慮した物の使い方などを考え、自分なりに工夫することができる。
 (3) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、それらについて考え、よりよく工夫しようとする

標準的な展開例

05090203_001

【準備等】整理・整頓されていない場所の写真、仕切り用の箱、ペットボトル、牛乳パック

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身の回りの生活の場を見つめる。 ★身の回りを気持ちよい場所にするために必要な仕事を見付けよう ○ p. 50の写真を見て、気付いたことや問題点を話し合う。 ○ 気持ちのよい部屋にするための改善策を考える。</p> <p>2～3 身の回りを整理・整頓する。 ★道具箱の整理・整とんをしよう ○ 整理や整頓が必要な訳を話し合う。 ・物の数がすぐに分かる。 ・必要な物がすぐに取り出せる。 ○ 整理・整頓の意味を知る。 ・必要でない物を取り除いて整えること。 ・物を使いやすい場所に置くこと。 ○ 整理・整頓の手順を知る。 ○ 整理・整頓の手順に沿って、道具箱を整理・整頓する。</p> <p>○ 整理・整頓して気付いたことを発表し、これからの生活に生かせることを話し合う。</p> <p>4～5 身の回りの汚れについて考える。 ★そうじの方法を考えたり、そうじの問題点を話し合ったりしよう ○ 掃除が必要な訳を話し合う。 ・ごみやよごれを取り除くため ・ダニやカビが増えるから ○ 汚れ調べの方法を知り、汚れ調べをする。</p> <p>○ 記録を基に毎日の掃除の問題点や改善点について話し合う。 ○ 汚れの種類と掃除の仕方や手順について知る。 ○ グループで担当箇所を決め、掃除の方法や必要な道具について話し合う。</p> <p>6 身の回りをきれいにする。 ★よごれているところをそうじしよう ○ グループで決めた担当箇所の掃除の手順を、確認する。 ○ 分担した場所の掃除実習をする。 ○ 実習の結果を報告し合う。</p> <p>7 物を生かして快適に生活する方法を考える。 ★気持ちよく住むための計画を立てよう ○ 家庭から出るごみについて調べてまとめる。 ○ 物の処分の仕方について考える。 ・3R ○ 下級生に掃除の仕方を伝える計画を立てる。</p>	<p>・自分の生活と照らし合わせて、問題点を考えさせるとよい。 ・ p. 51のきれいな部屋の写真を参考にさせる。 【評】問題点や改善策を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・整理・整頓ができていない場所（掃除道具入れ、子ども部屋、図書室等）の写真を掲示するとよい。また、整理・整頓が災害時にも関係していることを伝える。</p> <p>・ p. 52・53の手順を掲示し、児童が確認できるようにするとよい。 ・道具箱以外の整理・整頓させる箱を用意してもよい。 【評】道具箱を整理・整頓する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・仕切りのための、箱やペットボトル、牛乳パックなどを事前に準備しておく。 【評】生活に生かせることを話し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・健康に生活するという視点から、掃除の必要性に気付かせる。</p> <p>・ p. 54「活動3 調べよう」を参考にするとよい。 【評】汚れ調べの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・記録を基に、問題点や改善点を話し合うことを伝えておく。 【評】問題点や改善点を話し合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・調べてきた汚れに合った、掃除の仕方を考える。 【評】掃除の方法や、必要な道具の話し合い活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・グループに分かれ、学校内で行う方法もあるが、各自の家庭での課題としてもよい。 【評】計画に従って掃除をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・事前に家庭でのごみの出し方の決まりについて調べさせておく。</p> <p>・ p. 56の「いつも確かめよう」を基に、ごみを減らす工夫について押さえる。 【評】掃除の仕方を伝える計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 気持ちがつながる家族の時間

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解することができる。
 (2) 家族との触れ合いや団らんについて、課題を見付け、その解決を目指して、家族との関わりについて工夫することができる。
 (3) 家族との触れ合いや団らんについて、知識をより深く身に付けたり、家族との関わりをよりよく工夫したりしようとする。

標準的な展開例

05090204_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 家族と触れ合う時間を見付ける。</p> <p>★団らんのよさを見付け、「わが家の団らんタイム」の計画を立てる</p> <p>○イラストの家族の様子について話し合い、自分の家庭を振り返る。</p> <p>○団らんのよさを見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話が増える。 ・家族の仲が深まる。 ・家族の仕事について知ることができる。 <p>○団らんの計画の方法を知り、「わが家流団らんタイム」を計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ ・どこで ・だれと ・どのように行うのか <p>2 団らんを生活の中に生かそう。</p> <p>★「わが家流団らんタイム」の実践報告をし、さらに工夫しよう</p> <p>○グループで、「わが家流団らんタイム」の実践報告会をする。</p> <p>○家族とのつながりを深めるための「提案書」を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 58のイラストに描かれた団らんの様子を見ながら、自分の家庭を振り返らせる。その中で団らんのよさを見付けさせる。 <p>【評】団らんのよさを見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「協力」の視点で団らんのよさを見付けさせるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでにできるようになったことを生かして、お茶などの飲み物や食べ物を用意するなどの計画が考えられることを伝える。 <p>【評】「わが家流団らんタイム」の計画を立てる活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次時に実践報告会を行うことを伝える。また実践後に家族の感想を聞いておくことも伝えておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の工夫を聞いて、よかった点や改善点を考えさせる。 <p>【評】実践報告会の活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践報告会で話し合った友達の工夫やアドバイスを参考に「提案書」を考えさせる。 <p>【評】「提案書」を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 ミシンにトライ！手作りで楽しい生活

配当時間 11 時間

単元の目標 (1) ミシン縫いによる製作に関する、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
 (2) ミシン縫いによる製作について、課題を見付け、それらの課題の解決を目指して、製作計画を考え、製作を工夫することができる。
 (3) ミシン縫いによる製作の知識及び技能を身に付けようとしたり、製作計画や製作をよりよく工夫しようとしたりする。

標準的な展開例

05090301_001

【準備等】 布見本、布製品見本、段階見本、製作計画表、ミシン、裁縫用具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 ミシン縫いのよさを見付ける。 ★ミシンでぬわれた物の特徴を見付けよう ○学校生活で使っている布製品を観察し、分かったことを話し合う。 ・くり返し洗って使える。・物の形に合わせられる。 ○手縫いとミシン縫いの特徴を理解する。 ○布製品の特徴をまとめる。 2～4 ミシン縫いの基本操作を知り、直線縫いの練習をする ★ミシンの使い方を知ろう ○ミシンの各部の名前を覚える。 ○針の付け方、外し方を練習して、空縫いをする。 ○下糸の巻き方、出し入れの仕方を練習する。 ○上糸のかけ方と下糸の引き出し方を練習する。 ○直線縫いの練習をする。 5～6 製作する物を決めて、製作計画を立てる。 ★生活に役立つ物を作る計画を立てよう ○布製品の手触りや厚み、縫い目などを観察する。 ○製作計画を立てる。 ・製作する物 ・用途 ・材料 ・用具 ・縫い方と手順 7～10 計画に従って製作する。 ★生活に役立つものを作ろう ○製作の手順を確認する。 ・型紙を作る。・しるしを付ける。・布を裁つ。 ・ぬう。 ・アイロンをかけて仕上げをする。 ○手順に従って製作する。 ○困ったことや気付いたことなどを周りの人に教え合う。 ○作品の仕上げをする。 ・糸の始末 ・アイロンがけ 11 世界に一つだけの作品を楽しく使う。 ★手ぬいやミシンぬいの作品やぬい方を生活に生かそう ○製作した作品について話し合う。 ○友達の作品を参考に、ミシンを使って作りたい物を考える。	・p. 62の写真を参考にしたり、あらかじめ家庭で調べさせたりするとよい。 ・手縫いとミシン縫いの作品を見せ、縫い目の特徴やそれぞれの縫い方のよさ、どんな場面で使われているかを考えさせる。 【評】 布製品と手縫いやミシン縫いの特徴を話し合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・p. 63図1と図2の内容を押さえる。 ・実物を触りながら確認できるようにする。 ・必要に応じて個別指導をする。 ・ペアやグループなどで伝え合いながら練習させるとよい。 ・p. 65の練習カードを利用して評価をさせるとよい。 ・返し縫いと角を曲がる方法も練習する。 ・p. 67の「バンダナ」や「ぞうきん」を作らせることで直線縫いの練習をさせるのもよい。 【評】 ミシン縫いの基本操作をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・作品の製作に適した布を考えさせる。 ・児童の技能に合った計画になるように、助言する。 【評】 製作計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・実物見本や段階見本を用意して、製作の見通しをもたせる。 ・布を効率的に使うように型紙の置き方を工夫させ、布を裁つ前には必ず教師が点検する。 ・手順を示範するようにする。 ・困ったときは、p. 136～138の「いつも確かめよう」を確認するよう伝える。 【評】 布製品を製作する活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・アイロンを使うときの注意点 (p. 136) について指導を徹底する。 ・どのように生活に役立たせるか、生活を楽しむことができるかを話し合わせる。 【評】 作品についての話し合い活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ミシン縫いのよさや作品の縫い方を生かした作品を考えさせる。 【評】 作りたい物を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 5年生のまとめ

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) 家庭生活を見直し，よりよい生活を送るために考えたり工夫したりすることができる。
 (3) 1年間の家庭科の学習を振り返り，日常の家庭生活の中で生かしたり，6年生の学習に意欲をもったりしようとする。

標準的な展開例

05090302_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 5年生の家庭科の学習を振り返る。 ★ 1年間の学習を振り返ろう ○ よく分かったり，できるようになったりしたことを発表する。 ○ 学習したことを使って，よりよい生活を送るために工夫できたことを書く。 ○ 6年生でできるようになりたいことを発表する。	・ p. 3の表を使い，これまでの学習を振り返る ・ p. 73の例を参考に考えさせる。 【評】 よりよい生活を送るために工夫できたことを書く活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 できるようになりたいことを発表する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 生活を変えるチャンス！①②

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 学んできたことを生かして、生活をよりよくするための計画を立てることができる。
 (2) 今までの生活を見つめて、課題を見付け、その解決を目指して、生活をよくするための計画を工夫することができる。
 (3) 「協力、健康・快適・安全、生活文化、持続可能な社会」の視点から、家庭生活を見つめ直しよりよい生活を目指していくために工夫しようとする。

標準的な展開例

05090303_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1～2 生活を見つめて課題を決める。 ★学習したことを生かして、どんなことができるか考えよう ○今までに学習したことを振り返る。 ○生活を見つめて、課題を見付ける。 ・弟がすぐに物をなくして困っているからなんとかしたい。 ・妹が野菜がきらいだから、おいしく食べてほしい。 ○課題を解決するために、計画を立てる。 ・夏休みに作ろう。 ・弟の意見を聞いてから作ろう。 ○実践のまとめ方を確認する。 3 実践を分かりやすくまとめて、発表し合う。 ★実践報告会をしよう ○グループで実践報告会をする。 ○実践を振り返り、できたことやできなかったことをまとめる。	・教科書を活用し、今までにできるようになったことを振り返らせる。 ・いつ、どんなことに気を付けて何をするとよいかを考えて、計画を立てさせる。 【評】実践計画を立てる活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 ・学級の実態に合わせて、レポート、ポスター新聞などにまとめさせる。 ・実践を聞いて、参考になったことやよかったところをグループの友達に伝えさせるようにする。 【評】実践報告会の活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・友達の意見も参考にして考えさせるようにする。

【 備 考 】

「生活を変えるチャンス！」は、学習指導要領で新設されたA(4)の「家族・家庭生活の課題と実践」に対応した項目である。学習指導要領では、2学年間で一つまたは二つの課題を設定し履修させることとしている。時期は特定せず、5年生で1回、6年生で1回の実践を想定している。

単元名 見つめてみよう 生活時間

配当時間 2 時間

単元の目標 (1) 生活時間の有効な使い方について理解することができる。
 (2) 生活時間について課題を見付け、その解決を目指して、知識を活用して生活時間の使い方を考え、工夫することができる。
 (3) 家族の一員として、家族との協力の視点から、生活時間の有効な使い方を理解し、その使い方を考え、よりよく工夫しようとする。

標準的な展開例

06090101_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 生活時間を見つめてみよう。 ★ 1 日の生活の仕方を調べ、生活の課題を見付けよう</p> <p>○ 時間軸で自分の時間の使い方を書き出し、生活の課題を見付ける。</p> <p>2 生活時間を工夫して、有効に使おう。 ★ 生活時間の有効な使い方を工夫して、生活に生かそう ○ 「わが家のすてき時間作戦」を考え、生活時間の有効な使い方を工夫する。</p> <p>○ 友達の工夫やアドバイスを参考に更に豊かな家庭生活を作るため、生活時間の有効な使い方を工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5学年の学習を通して、できるようになったことを振り返らせ、更にできることを増やそうとする気持ちをもたせる。 ・ p. 74のイラストを見て、1 日の生活時間を見つめさせる。 ・ p. 75の表にまとめ、気付いたこと、工夫できることから課題とすることを見付け出させる ・ 家族で大切にしたい時間を事前に家族にインタビューさせておく。 【評】 生活の課題を見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 家族にインタビューしてきたことを参考に、家族とともに過ごす時間や家族の触れ合いや絆を深める時間を作り、次時までに実践するよう伝える。 【評】 「わが家のすてき時間作戦」を考える活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 ・ p. 77「深めよう」を参考に、更に快適に楽しく過ごせる計画を立てさせる。 ・ 6年生で行う学習全体を見通し、更に成長した自分の姿を想像させることで、家庭科学習への意欲化を図る。 【評】 生活時間の見直しをする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

【 備 考 】

単元名 朝食から健康な1日の生活を

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 朝食をとることを中心に、食事の役割や大切さについて理解し、いためる調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 朝食の役割と栄養、いためる調理について、課題を見付け、その課題の解決を目指して、調理計画や調理の仕方を考え、工夫することができる。
- (3) 毎日の生活を見直し、朝食をとることを中心に、栄養バランスを考えたり、生活リズムを整えたりして、工夫して健康な生活を送ろうとする。

標準的な展開例

06090102_001

【準備等】食品カード、調理実習用食材、調理用具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 毎日の生活を振り返り、朝食の役割について考え、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★朝食の役割を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の朝食のとり方を振り返る。 ○朝食の役割について話し合う。 ○単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 <p>2～3 栄養素の働きについて知る。</p> <p>★栄養のバランスを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栄養素の働きを調べる。 ○朝食に含まれるいろいろな食品を3つのグループに分ける。 ○栄養のバランスを考えた朝食にするには、どうしたらよいかを考える。 <p>4～5 調理実習の計画を立てる。</p> <p>★いためる調理の計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いためる」調理の特徴を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・加熱によりやわらかくなり、かさが減るため食べやすい。 ○いづれいための実習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・材料に応じた切り方 ・いためる順序 ・火加減 <p>6～7 計画に従い、いためる調理の実習をする。</p> <p>★いためる調理をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計画に従い、調理・盛り付け・試食・片付けをする。 <p>8 いためる調理の実習について振り返る。</p> <p>★いためる調理のポイントについて知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○強火で短時間でいためたときと弱火で長時間いためたときではどのような違いがあるかを調べる。 <p>9 いためる調理の実習について振り返る。</p> <p>★調理実習について振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調理実習で、よかったこと・課題に感じたこと・解決す 	<ul style="list-style-type: none"> ・p. 78「Aさんの3日間の朝食」から、よい点や課題点を話し合い、朝食の役割について考える。また、自分の朝食についても振り返らせる。 ・p. 79の図1～3から、朝食は健康な食生活に欠かせないものであることに気付かせるようにする。 ・自分の朝食のとり方を振り返り、課題を見付け、これから目指す朝食のとり方を考え、単元の学習について見通しをもって取り組めるようにする。 <p>【評】朝食の役割を理解し、自分の朝食の課題を見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある食品を自分なりの観点でグループ分けした後、体内での主な働きによる3つのグループ分けに目を向けるようにする。 ・p. 80の2つの朝食の写真について、主にどのような働きをする食品が含まれているかをp. 80の図4、p. 46、p. 142を参考にして分類させる。 ・3つのグループの食品を組み合わせることにより、栄養バランスのよい食事になることを理解させる。 <p>【評】栄養素の働きについて理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間でできることから、「いためる」調理を朝食のおかずとして取り上げる。 ・材料の切り方・いためる順序・火加減を確かめて、調理の手順を調理計画カードに記入させる。安全と環境にも配慮できるようにする <p>【評】いづれいための計画を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が包丁の扱いやいためる経験ができるようにする。 ・油を使った調理の後始末の方法を知らせる。 <p>【評】調理実習を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで分担して、青菜の油いためとスクランブルエッグを作り、比較させるのもよい <p>【評】調理法の違いについて知る活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進められたか、切り方やいためる

<p>る方法を話し合う。</p> <p>10 朝食作りの学習を振り返り，健康な生活について話し合う。</p> <p>★健康な生活について考えよう</p> <p>○朝食作りの学習で学んだことを話し合う。</p> <p>○調理実習の振り返りを基にして，「朝食名人になろう」の計画を立てる。</p>	<p>順序，火加減や味など，うまくいった点や課題点の解決方法について話し合わせる。</p> <p>【評】調理実習を振り返る活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・朝食を食べることで，栄養面だけではなく，生活のリズムを整えることができること，更には家族を気遣う場面でもあることを押さえる。</p> <p>・ご飯とみそ汁の準備はできたけれど，何か1品足りないときの朝食のおかずの調理計画を立てて取り組ませる。</p> <p>【評】「朝食名人になろう」の計画や実践する活動を通して，「主体的に取り組む態度」を評価する。</p>
--	--

【 備 考 】

内容の取り扱いについては，卵を用いた調理をするため，アレルギーに留意する。

単元名 夏をすずしくさわやかに

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 夏の快適な住まい方や、気持ちのよい衣服の着方と手入れに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 夏の衣生活、住生活について課題を見付け、その課題の解決を目指して、知識及び技能を活用して、自分なりに衣服の着方や住まい方を工夫することができる。
- (3) 自分の生活を見直し、夏の快適な住まい方や衣服の着方と手入れについて考え、工夫して快適な生活を送ろうとする。

標準的な展開例

06090103_001

【準備等】 いろいろな衣服の実物、品質表示のラベル、取り扱い表示のラベル、洗濯物、洗剤、洗いおけ、ハンガー、物干し台、実験用具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 夏の生活の特徴を考え、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★夏の生活を見つめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏の生活の特徴や工夫点を出し合い、自分の生活の問題点に気付く。 ○問題点を基に、解決すべき課題を設定し、学習の見通しをもつ。 <p>2～3 涼しくさわやかな住まい方を考える。</p> <p>★夏の住まい方を見直そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族に聞いた夏を涼しくさわやかに過ごす工夫を発表し合う。 ○気温、湿度、風通し、音についての実験をする。 ○家族に聞いた工夫や実験結果を基にして、夏を涼しくさわやかに過ごすための住まい方を考える。 <p>4 涼しくさわやかな着方について考える。</p> <p>★衣服の快適な着方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな場面で着る衣服と着方の特徴を話し合う。 ○布の性質を比べる。 ○実験結果を基にして、夏を涼しくさわやかに過ごすための着方を考える。 <p>5 衣服の汚れと手入れの仕方を話し合い、実習計画を立てる。</p> <p>★衣服の手入れと片付けの工夫をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○衣服を気持ちよく、長く利用するためには、どんなことに気を付けるとよいか、家族が工夫していることを発表し合う。 ○洗濯の方法を調べ、実習計画を立てる。 <p>6～7 計画に従い、洗濯の実習をする。</p> <p>★手洗いで洗濯をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○衣服の取り扱い表示の見方について調べる。 ○洗濯の実習をし、反省する。 <p>8 学習を振り返り、自己評価する。</p> <p>★実践発表会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実践発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 86「夏の住まいの工夫」のイラストや生活経験を基にする。 ・ 夏を涼しくさわやかに過ごす工夫を次時までに家庭で調べるよう伝える。 【評】自分の生活を見つめ、解決すべき課題を設定する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気温・湿度・風通し・音など視点を絞って涼しく過ごす工夫をまとめる。 ・ p. 88「調べよう」を参考にして実験を行う。 ・ 健康・快適の視点で、生活の問題を解決するための最適な方法を考えさせる。 【評】夏を涼しくさわやかに過ごすための住まい方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ p. 90の図3を参考にして、衣服のもつ保健衛生上・生活活動上の働きを理解できるようにする。 ・ p. 90の資料4を参考にして簡単な実験を行う ・ 快適・安全の視点で、衣服の形や布の種類なども考慮して考えさせるようにする。 【評】夏を涼しくさわやかに過ごすための着方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 衣服の手入れと片付けの工夫を事前に家族にインタビューさせておく。 ・ 洗濯の必要性について、実験や観察を通して具体的に理解させ、洗濯実習への意欲を高め一人ずつ計画を立てさせるようにする。 【評】洗濯の実習計画を通して、「知識・技能」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の着ている衣服や、洗濯する予定の衣服で確かめさせる。 ・ 洗剤の働きには深入りせず、環境に配慮するという視点で使用量を考えさせるようにする ・ 手洗いを中心にし、洗濯機は脱水に利用する程度とする。 【評】洗濯の実習を通して、「知識・技能」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達同士で相互評価して、よいところを認め合うことができるようにする。 【評】実践発表会を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

○家庭で生かしたいと思うことを考える。

○単元の学習を振り返り，自己評価する。

【評】 実践発表会から自分の生活に生かそうとする活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

単元名 【旧】私の仕事と生活時間

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 生活時間の有効な使い方について理解することができる。
 (2) 生活時間について課題を見付け、その解決を目指して、知識を活用して生活時間の使い方を考え、工夫することができる。
 (3) 家族の一員として、家族との協力の視点から、生活時間の有効な使い方を理解し、その使い方を考え、よりよく工夫しようとする。

標準的な展開例

06090104_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 自分の成長を確かめ、家族の一員としてする仕事を考える。 ★自分にできる仕事を考えよう ○家庭科の学習を通して、分かったことやできるようになったことを話し合う。(言語活動) ○家庭で自分が関わって行う仕事を考える。 2 自分の生活時間を見直し、効率のよい時間の使い方や仕事の進め方を考える。 ★仕事を続ける工夫を考えよう ○自分の生活時間の使い方を振り返る。 ○自分の生活時間を見て、問題点を見付け、工夫できることを考える。 ○生活時間を有効的な使い方や、仕事を続ける工夫を考え自分のめあてをもつ。(活用)	・第5学年の学習を通して、できるようになったことを振り返らせ、更にできることを増やそうとする気持ちをもたせる。 ・p. 3「成長の記録」を参考にさせる。 ・次時まで実践する期間を設ける。 ・p. 63の表にまとめる。 ・時間を効率的に使うことで、家庭の仕事をす る時間を確保できるようにする。 【評】自分の生活時間を見つめる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・仕事を実践したことを基に考え、家庭で仕事が続けられるように促す。 ・6年生で行う学習全体を見通し、更に成長した自分の姿を想像させることで、家庭科学習への意欲化を図る。 【評】生活時間の見直しをする活動を通して、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

本単元では生活時間の見直しをするとともに、第5学年の家庭科の学習の成果や、自己の成長に気付くようにすることが大切である。自分の課題を見付け、よりよい生活ができるようにする。言語活動としては、第5学年の家庭科の学習を通してできるようになったことの振り返りの場面で、話し合いを取り入れ、多くの視点から自分たちの成長に気付かせることができるようにする。

本単元の学習は、第5学年の家庭「わが家にズームイン!」、第3学年の保健体育「けんこうな1日の生活のしかた」の内容が関連するため、それを踏まえた指導が必要である。

単元名 【旧】朝食から健康な1日の生活を

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 朝食をとることを中心に、食事の役割や大切さについて理解し、いためる調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 朝食の役割と栄養、いためる調理について、課題を見付け、その課題の解決を目指して、調理計画や調理の仕方を考え、工夫することができる。
- (3) 毎日の生活を見直し、朝食をとることを中心に、栄養バランスを考えたり、生活リズムを整えたりして、工夫して健康な生活を送ろうとする。

標準的な展開例

06090105_001

【準備等】食品カード、給食献立表、調理実習用食材、調理用具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 朝食のとり方を振り返り、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の朝食のとり方を振り返る。 ○朝食の役割について話し合う。 ○単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 <p>★健康な生活をする工夫を考えよう</p> <p>2～3 栄養素の働きについて知る。</p> <p>★栄養のバランスを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栄養素の働きを調べる。 ○給食に含まれるいろいろな食品を3つのグループに分ける。 <p>4～5 調理実習の計画を立てる。</p> <p>★「いためる」調理の実習計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いためる」調理の特徴を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・加熱によりやわらかくなり、かさが減るため食べやすい。 ・弱火でいためると水分が出てしまう。 ○野菜いための実習計画を立てる。 <p>6～7 計画に従い、「いためる」調理の実習をする。</p> <p>★野菜いためを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計画に従い、調理・盛り付け・試食をし、反省をする。 <p>8 調理計画の見直しをする。</p> <p>★調理実習を振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調理実習で、よかったこと、課題に感じたこと、解決する方法を話し合う。 <p>9～10 朝食作りの学習を振り返り、健康な生活について話し合う。</p> <p>★健康な生活について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝食作りの学習で学んだことを話し合う。（言語活動） ○朝食のおかずレシピ集を作る。 ○今後の生活に生かしていきたいことを考える。（活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・p. 64, 65の3つのパターンのどれに近いか考えさせるとよい。 ・朝食はエネルギー源になるだけではなく、排泄のリズムができ、健康が整うことに気付くようにする。 ・単元の学習について見通しをもって取り組むようにする。 ・身の回りにある食品を自分なりの観点でグループ分けした後、体内での主な働きによる3つのグループ分けに目を向けるようにする。 ・給食を例に挙げ、1食分にはたくさんの栄養素が含まれ、バランスよく組み合わせられていることに気付くようにする。 ・p. 66, p. 126を参考にして分類させる。 <p>【評】1食分の栄養バランスを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間でできることから、「いためる」調理を朝食のおかずとして取り上げる。 ・調理の手順、切り方や盛りつけ方の工夫を考えるようにする。 ・安全と環境にも配慮できるようにする。 <p>【評】野菜いための計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が包丁の扱いやいためる経験ができるようにする。 ・油を使った調理の後始末の方法を知らせる。 <p>【評】調理実習を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で実践するときに生かせるようにする。 ・朝食を食べることで、栄養面だけではなく、生活のリズムを整えることができること、さらには家族を気遣う場面でもあることを押さえる。 ・グループ単位や学級全体でまとめ、友達のアイデアが参考にできるようにする。 <p>【評】朝食のおかずレシピ集を作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活改善について考えさせ、家庭実践につなげるようにする。

【備 考】

本単元では、健康的な生活を営むために、規則正しい食生活、とりわけ朝食に焦点を当てる。「いためる」調理の実習を行い、そこから生活リズムを整えていくという展開をする。自分の生活リズムを振り返り、必要

に応じて改善する方法に気付かせていく。言語活動としては、食生活の見直しと、生活改善の工夫の場面で話し合いを取り入れ、さまざまな考えを参考にして自分に合った改善方法に気付くことができるようにする。

本単元の学習は、第5学年の家庭「食べて元気！ごはんのみそ汁」、第6学年の家庭「まかせてね今日の食事」の内容が関連するため、それらを踏まえた指導が必要である。

内容の取り扱いについては、5年生で学習したご飯のみそ汁と組み合わせれば、1食分の献立を自分で作ることができるようになることから、いろいろな食品を組み合わせる栄養のバランスのとれた食事が整えられるように考えさせたい。

単元名 【旧】夏をすずしく さわやかに

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 夏の快適な住まい方や、気持ちのよい衣服の着方と手入れに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 夏の衣生活、住生活について課題を見付け、その課題の解決を目指して、知識及び技能を活用して、自分なりに衣服の着方や住まい方を工夫することができる。
- (3) 自分の生活を見直し、夏の快適な住まい方や衣服の着方と手入れについて考え、工夫して快適な生活を送ろうとする。

標準的な展開例

06090106_001

【準備等】いろいろな衣服の実物、品質表示のラベル、取り扱い絵表示のラベル、洗たく物、洗剤、洗いおけ、ハンガー、物干し台、実験用具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 夏の暮らしの特徴を考え、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ p. 72, 73を参考にして、快適に過ごすための工夫について話し合う。 ○ 単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 ★夏の暮らしを見つめよう <p>2 夏を快適に過ごす住まい方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★自然を生かした住まい方を考えよう ○ 家族に聞いた夏をすずしく過ごす工夫を発表し合う。 ○ 空気の温度や風の通り方と感じ方を調べる。 <p>3 衣服の働きや生活に合った着方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★衣服の役割を考えよう ○ 夏にすずしく過ごす服装を考える。 ○ 布の性質を調べる。 ○ いろいろな場面では着る衣服と着方の特徴を話し合う。 <p>4 衣服の汚れと手入れの仕方を話し合い、実習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★衣服の着方と手入れを工夫しよう ○ 衣服の汚れについて調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 砂や土 ・ 汗 ・ 体から出る汚れ ○ 衣服を洗濯するときに、家族が工夫していることを発表し合う。 ○ 洗濯の方法を調べ、実習計画を立てる。 <p>5～6 計画に従い、洗濯の実習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★手洗いで洗濯してみよう ○ 衣服の取り扱い絵表示の見方について調べる。 ○ 洗たくの実習をし、反省する。 <p>7 自分にできる夏の暮らしの工夫を考え、実践計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★すずしくさわやかに過ごす工夫を考えよう ○ p. 80のイラストを見て、学校ですずしく過ごす工夫について話し合う。 ○ 自分の家でできそうな工夫を考え、実践計画を立てる。 <p>8 学習を振り返り、自己評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★快適な夏の暮らしを実践しよう ○ 実践発表会をする。（言語活動） ○ 家庭で生かしたいと思うことを考える。（活用） ○ 単元の学習を振り返り、自己評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣食住全般に目を向けさせ、季節に合わせた生活の工夫を考えるようにする。 ・ 電気の使用量を抑えることにも気付くようにする。 ・ 単元の学習に見通しをもって取り組むようにする。 ・ あらかじめ家族にインタビューさせておく。 ・ 自然を生かした工夫や、エネルギーの効率的な使い方についても考えるようにする。 ・ 衣服の形や布の種類などの点から考えるようにする。 ・ p. 76の資料を参考にし、簡単な実験を行う。 ・ 衣服のもつ保健衛生上・生活活動上の働きを理解できるようにする。 ・ 洗濯の必要性について、実験や観察を通して具体的に理解させ、洗たく実習への意欲を高める。 ・ 事前に家族にインタビューさせておく。 ・ 一人ずつ計画を立てるようにする。 【評】実習計画を立てる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 自分の着ている衣服や、洗濯する予定の衣服で確かめさせる。 ・ 洗剤の働きには深入りせず、環境に配慮するという視点で使用量を考えるようにする。 ・ 手洗いを中心にし、洗濯機は脱水に利用する程度とする。 【評】実習活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 考えるポイントを示して話し合わせる。 ・ 環境や日本の伝統的な工夫なども考慮し、各家庭で実践可能な計画を立てさせる。 【評】実践計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 友達同士で相互評価して、よいところを認め合うことができるようにする。 【評】発表会を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】家庭で生かしたいことを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

児童の衣服に対する関心は、高学年になるにしたがって、色、デザイン、流行などに対して高くなっていく。そこで本単元では、まず身近な生活場面に目を向け、衣服をなぜ、どのように着るかという視点に立つ。そして気持ちよく生活したり、目的に応じて衣服を選んで着用したりできるよう着方への関心を高め、工夫する力を養うようにする。夏を涼しく過ごす工夫については、打ち水など、日本の伝統的な工夫についても触れる。言語活動としては、各家庭で実践した快適な暮らし方について発表し合う活動を行い、さまざまな工夫を生活に取り入れようとする意欲につなげる。

本単元の学習は、第5学年の家庭「ひと針に心をこめて」、第6学年の家庭「冬を明るく暖かく」、第5学年の社会「さまざまな土地の暮らし〈気候〉」、第3学年の理科「日なたと日かげ」第4学年の理科「もののあたたまり方」、中学校技術・家庭（家庭分野）「社会生活上の働き」の内容が関連しているため、それらを踏まえた指導が必要である。

単元名 思いを形にして 生活を豊かに

配当時間 14時間

- 単元の目標 (1) 布を用いた製作に必要な材料、用具や製作手順、時間の見通しなど基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 布を用いた製作について、課題を見付け、その課題の解決を目指して、目的に合った製作計画を考え、製作を工夫することができる。
- (3) 製作を通して習得した知識及び技能を生かし、便利で豊かな生活をよりよくしようとする。

標準的な展開例

06090201_001

【準備等】布製品の実物見本、段階標本、ミシン、裁縫用具、アイロン、アイロン台

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 生活の中で役立っている布製品について話し合い、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★目的に合った形や大きさ、ぬい方を考えよう</p> <p>○家庭でよく使われている布製品を紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナップザック ・クッションカバー ・手さげなど <p>○自分が作りたい物を考える。</p> <p>○単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>2～3 作りたい物を決め、製作計画を立てる。</p> <p>★計画を立てよう</p> <p>○作りたい物の形や大きさなどを考え、製作計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作手順 ・材料の準備 <p>4～5 できあがりの大きさを考えて型紙を作る。</p> <p>★大きさや形を考えて作ろう</p> <p>○作りたい物の用途を考えながら、布の大きさを決める。</p> <p>○縫い代とゆとりを考えて型紙を作る。</p> <p>6～13 計画に従って製作する。</p> <p>★自分の思いを形にしよう</p> <p>○製作の初めには、製作手順を確かめる。</p> <p>○布目の方向を考えて型紙を置き、まち針でとめる。</p> <p>○わきを縫う。</p> <p>○出し入れ口を縫う。</p> <p>○持ち手を付けて、仕上げをする。</p> <p>14 製作を通して学んだことを生かして、生活を豊かにする計画を立てる。</p> <p>★衣生活を楽しく豊かにしよう</p> <p>○製作の工夫や活用した様子を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかった点 ・改善点 <p>○発表を聞き、生活に生かせそうなことを話し合う。</p>	<p>・本案は、トートバッグ作りに取り組む製作例を示す。</p> <p>・家庭で使われている布製品を持ち寄り、いろいろな物があることに気付かせるようにする</p> <p>・自分が使う物を作っても、他の人のために作ってもよいが、使う目的を明確にさせる。</p> <p>・単元の学習について、見通しをもって取り組ませるようにする。</p> <p>【評】作りたい物を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・児童の興味・関心や技能面での実態に応じて計画を立てさせるようにする。</p> <p>・作品に合う布や、環境に配慮した材料の選び方について考えさせるようにする。</p> <p>・時間の見通しをもたせるようにする。</p> <p>【評】製作計画を通して、「思考・判断・表現」「知識・技能」を評価する。</p> <p>・p. 98の図2のように、中に入れる物をものさしやメジャーで測って布の大きさを決めさせる。縫い代やゆとり分も入れることを押さえる。</p> <p>・包装紙などで包んで、型紙を作らせるとよい</p> <p>・実物見本や段階見本を用意し、主体的に学習できるようにする。</p> <p>・縫い始め、縫い終わりに返し縫いをすることを提示しておく。</p> <p>・布を裏にして型紙を置くことや布目の方向、効率的な置き方について知らせ、点検してから布を裁たせる。</p> <p>・中表に二つ折りにすることと、まち針の打ち方の確認をする。</p> <p>・三つ折りの仕方について確認する。</p> <p>・安全にアイロンを使うようにする。</p> <p>【評】製作活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・他の人のために製作した場合は、相手の感想を聞いておくようにする。</p> <p>・友達同士で相互評価して、よいところを認め合うことができるようにする。</p> <p>【評】生活を豊かにする計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 まかせてね 今日の食事

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 1食分の献立と環境に配慮した調理について、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 栄養を考えた食事について、課題を見付け、栄養のバランスを考えて1食分の献立を工夫することができる。
- (3) 自分の食生活を見直し、1食分の献立と調理についての知識及び技能を身に付け、栄養のバランスを考えた1食分の献立を考え、家族に喜ばれるおかずを作ろうとする。

標準的な展開例

06090202_001

【準備等】給食献立表、おかずカード、野菜（新鮮なもの・古いもの）、品質表示がついている食品やパッケージ、料理の本、調理用具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1食分の食事に必要なことを考え、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★献立の立て方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1食分の食事の食べ物を調べ、その組み合わせを話し合う。 ○ 1食分の食事を考えるときに必要なことは何か考える。 ○ 単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 <p>2～3 バランスのとれた食事の必要性について話し合い、ご飯とみそ汁を組み合わせた1食分の食事の計画を立てる。</p> <p>★1食分の献立を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 献立を立てる必要性や条件を知る。 ○ 1食分の食事の計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主菜 ・ 副菜、汁物 ○ グループで伝え合う。 ○ 各自で1食分の献立を考える。 <p>4～5 調理に必要な材料の準備の仕方を考える。</p> <p>★材料の準備の仕方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 材料の準備の仕方について話し合う。 ○ 生鮮食品の選び方について考える。 ○ 食品の品質表示について知る。 ○ 調理の計画を立てる。 <p>6～9 自分の立てた計画に従い、調理実習をする。</p> <p>★家族が喜ぶおかずを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 計画に従って、料理・盛り付け・試食を行い、反省をする。 <p>10 楽しく食事をするための工夫について考えよう。</p> <p>★楽しく食事をするために計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族が喜ぶ食事作りの計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献立の要素や栄養的なバランスを考えることの大切さに気付かせるようにする。 ・ p. 106の2枚の写真の共通点を探し、どのように1食分の献立が立てられているか話し合わせる。 ・ p. 107の図1を参考にして、献立を立てるときには、栄養のバランスを整えて、主食・主菜・副菜に汁物を加えて食品を組み合わせて作ることを知らせる。 【評】1食分の食事を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 単元の学習について、見通しをもって取り組ませるようにする。 ・ 給食献立表を示し、栄養が偏らないようにするためには献立を立てる必要があることに気付かせるようにする。 ・ おかずカードを使い、p. 108, 109の「献立の立て方」を参考にして、ご飯とみそ汁に組み合わせ献立を立てるようにする。 【評】食事の計画作りを通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 組み合わせや調理の仕方、栄養バランスなどを適宜助言する。 ・ グループの発表を参考にして、各自で献立を考えさせる。 【評】献立を考える活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 生の肉や魚は取り扱わない。 ・ 材料を選ぶときに気を付けるとよいことを考えさせるようにする。 ・ 新鮮な野菜と古い野菜を示し、比較ができるようにする。 ・ 地域の食材の利用（地産地消）についても考えさせる。 ・ 実物を提示するとよい。 ・ 環境に配慮した買い物の仕方についても考えさせるようにする。（p. 111参照） ・ 栄養教諭とのTTや保護者の協力で、安全に調理実習ができるようにするとよい。 ・ 食物アレルギーの児童がいる場合には、十分に配慮する。 ・ 調理するときの環境に配慮した工夫も伝える（p. 110参照） 【評】調理実習を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 学んだことを生かし、いつ・どんなときに・どんな料理を作るとよいかを考えさせる。冬休みなどを利用して実践させ、取り組んだことについてまとめたものを掲示してもよい。 【評】家族が喜ぶ食事作りの計画を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

内容の取り扱いについては、調理に用いる食品には生の魚や肉は扱わず、アレルギーの児童に配慮するなど、安全・衛生に留意する。また、栄養教諭やT Tによりきめ細かな指導を得ることができる。

単元名 **【旧】思いを形に 生活に役立つ布製品**配当時間 **15 時間**

- 単元の目標 (1) 布を用いた製作に必要な材料、用具や製作手順、時間の見通しなど基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 布を用いた製作について、課題を見付け、その課題の解決を目指して、目的に合った製作計画を考え、製作を工夫することができる。
- (3) 製作を通して習得した知識及び技能を生かし、便利で豊かな生活をよりよくしようとする。

標準的な展開例

06090203_001

【準備等】布製品の実物見本、段階標本、ミシン、裁縫用具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 生活の中で役立っている布製品について話し合い、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭でよく使われている布製品を観察し、製作するために必要な条件を考える。 ○自分が作りたい物を考える。 <p>○単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>★生活に役立つ物を作ろう</p> <p>2～3 作りたい物を決め、製作計画を立てる。</p> <p>★生活に役立つ物を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作りたい物を決める。 ・使う目的に合う形や大きさ、材料について考える。 ○製作計画を立てる。 ・製作手順 ・材料の準備 <p>4～5 出来上がりの形や大きさを考えて型紙を作る。</p> <p>★形や大きさを考えて作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作りたい物の用途を考えながら、出来上がりの大きさを決める。 ○縫いしろとゆとりを考えて型紙を作る。 <p>6～13 計画に従って製作する。</p> <p>★自分の思いを形にしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○しるしを付けて布を裁つ。 <p>○わきを縫う。</p> <p>○出し入れ口を縫う。</p> <p>○持ち手を付けて、仕上げをする。</p> <p>14 製作した布製品を活用する計画を立てる。</p> <p>★作った物を使って確かめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○製作活動の振り返りをし、生活の中で活用する場面を考える。 <p>15 発表交流会をし、学習のまとめをする。</p> <p>★製作の工夫や使った感想を話し合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○製作の工夫や活用した様子を発表し合う。 ・よかった点 ・改善点 ○発表を聞き、生活に生かせそうなことを話し合う。(言語活動) <p>○単元を振り返り、自己評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本案は、トートバッグ作りに取り組む製作例を示す。 ・家庭で使われている布製品を持ち寄り、使う目的とそのため工夫に気付くようにする。 ・自分が使う物を作っても、他の人のために作ってもよいが、使う目的をはっきりとさせるようにする。 ・単元の学習について見通しをもって取り組むようにする。 ・児童の興味・関心や、技能面での実態に応じて計画を立てるようにする。 ・着なくなった服のリフォームを、考えてもよい。 ・作品に合う布や、環境に配慮して材料の選び方についても考えるようにする。 <p>【評】製作計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p. 85を参考にして、大きさを考えるようにする。 ・包装紙などに包んで、型紙を作ることもできる。 ・製作するために必要な材料や準備について確認する。 ・実物見本や段階見本を用意し、主体的に学習できるようにする。 ・布目の方向・効率的な置き方について知らせ点検してから裁つようにする。 ・中表に二つ折りにすることと、まち針の打ち方の確認をする。 ・三つ折りにして確認する。 ・安全にアイロンを使うようにする。 <p>【評】製作活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活に役立つ計画を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・作品の工夫点や改善点、活用の様子などについての交流会をする。 ・他の人のために製作した場合は、相手の感想を聞いておくようにする。 ・友達同士で相互評価して、よいところを認め合うことができるようにする。 <p>【評】発表交流会を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

児童は、5年生の学習で、手縫いやミシン縫いの技能を身に付けている。本単元は、これまでに身に付けた技能を生かし、生活に役立つ布製品を考え、工夫して製作する活動である。一人一人の思いや願いに沿って製作計画を立て、個性豊かな製作ができるようにする。また、製作活動を通して学んだことを生活に活用することで、家庭生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を育てていく。言語活動としては、製作の工夫や作品を活用した様子を話し合う活動を行い、今後も学習したことを家庭生活に生かそうとする意欲につなげる。

本単元の学習は、第5学年の家庭「ひと針に心をこめて」の内容が関連しているため、それを踏まえた指導が必要である。

単元名 【旧】まかせてね 今日の食事

配当時間 10時間

- 単元の目標 (1) 1食分の献立と環境に配慮した調理について、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 栄養を考えた食事について、課題を見付け、栄養のバランスを考えて1食分の献立を工夫することができる。
- (3) 自分の食生活を見直し、1食分の献立と調理についての知識及び技能を身に付け、栄養のバランスを考えた1食分の献立を考え、家族に喜ばれるおかずを作ろうとする。

標準的な展開例

06090204_001

【準備等】おかずカード、野菜（新鮮なもの・古いもの）、品質表示がついている食品やパッケージ、料理の本、調理用具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1食分の食事に必要なことを考え、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1食分の食事の食べ物を調べ、その組み合わせを話し合う。 ○ 1食分の食事を考えるときに必要なことは何か考える。 ○ 単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 <p>★家族が喜ぶ食事を作ろう</p> <p>2 バランスのとれた食事の必要性について話し合い、ご飯とみそ汁を組み合わせた1食分の食事の計画を立てる。</p> <p>★栄養バランスがよい1食分の献立を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭で食事を作るときに気を付けていることを発表し合う。（言語活動） ○ 献立を立てる必要性や条件を知る。 ○ グループで1食分の食事の計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者・主なおかず・足りない物を補うおかず ○ グループごとに発表する。 <p>3 家族のための1食分の献立を考える。</p> <p>★家族が喜ぶ献立を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 献立の立て方を発表する。 ○ 各自で家族のために1食分の献立を立てる。 <p>4～5 家族が喜ぶおかず作りの計画を立てる。</p> <p>★家族のためのおかず作りの調理計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ おかず作りの手順について話し合う。 ○ 必要な材料・分量と調理手順を調べる。 <p>6 調理に必要な材料の準備の仕方を考える。</p> <p>★材料の準備の仕方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 材料に準備の仕方について話し合う。 ○ 生鮮食品の選び方について考える。 ○ 食品の品質表示について知る。 ○ 買い物計画を立てる。 <p>7～8 自分の立てた計画に従い、調理実習をする。</p> <p>★家族が喜ぶおかずを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 計画に従って、料理・盛り付け・試食を行い、反省をする。 <p>9 楽しく食事をするための工夫について話し合う。</p> <p>★食事をもっと楽しくしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食事の目的を考え、楽しい食事をするための工夫やマナーについて話し合う。 ○ 家庭実践の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献立の要素や栄養的なバランスを考えることの大切さに気付くようにする。 <p>【評】1食分の食事を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の学習について見通しをもって取り組むようにする。 ・ 各家庭であらかじめ聞いておくようにする。 ・ 給食献立表を示し、栄養が偏らないようにするためには献立を立てる必要があることに気付くようにする。 ・ おかずカードを使い、ご飯とみそ汁に組み合わせ立てるようにする。 <p>【評】食事の計画作りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組み合わせや調理に仕方、栄養バランスなど適宜助言する。 ・ 前時の学習を想起させる。 ・ 個々の家族の条件に合わせて、献立作りに取り組ませるようにする。 ・ 教科書に紹介されていないおかずを作る場合は、材料と作り方が分かるようにしておく。 ・ 調理計画カードに記入するようにする（p. 67参照） <p>【評】家族が喜ぶおかず作りの計画を立てる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料を選ぶときに気を付けるとよいことを考えさせるようにする。 ・ 新鮮な野菜と古い野菜を示し、比較ができるとよい。 ・ 地域の食材の利用についても考えさせる。 ・ 実物を提示するとよい。 ・ 環境に配慮した買い物の仕方についても考えさせるようにする。 ・ 栄養士とのTTや保護者の協力で、安全に調理実習ができるようにするとよい。 ・ 環境に配慮した工夫も伝える。（p. 99参照） <p>【評】調理実習を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養面だけではなく、精神面での役割についても考え、工夫する楽しさを伝える。 ・ 家族の食事や弁当作りの計画を立てさせ、身に付けた技能を家庭で生かすようにする。 <p>【評】実践計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

<p>10 家庭実践の報告会をし、単元のまとめをする。</p> <p>★実践報告会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭での実践の様子を発表し合う。 ○発表を聞き、生活に生かせそうなことを話し合う。（言語活動） ○単元を振り返り、自己評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫した点や家族の反応などについて報告させる。 ・友達同士で相互評価して、よいところを認め合うことができるようにする。 <p>【評】報告会を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理計画カードを掲示したり、レシピ集にしたりして、今後の実践に役立たせるようにする。
---	---

【 備 考 】

本単元は「食」に関する学習のまとめとして構成する。児童は自分の力で簡単な調理ができるようになり、食生活における関心が高まっている。そこで、これまで習得した技能や知識を生かし、バランスのとれた1食分の食事の計画を立て、家庭での実践力を身に付ける。言語活動としては、各家庭における食事作りの工夫や、家庭実践の様子を話し合う活動を行い、よりよい食生活について考える視点を広げる。

また、栄養教諭や栄養士とのTTによりきめ細かな指導を得ることができる。

本単元の学習は、第5学年の家庭「おいしい楽しい調理の力」、第3・4学年の社会「店ではたらく人びとのくらし」、第5学年の社会「これからの食料生産」、中学校の技術・家庭（家庭分野）「生の魚や肉の料理」の内容が関連しているため、それらを踏まえた指導が必要である。

内容の取り扱いについては、調理に用いる食品には生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意する。

単元名 冬を明るく暖かく

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 季節の変化に合わせた生活の仕方を理解し、冬の快適な住まい方や暖かい衣服の着方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 冬の住まい方や衣服の着方について課題を見付け、冬を暖かく快適に過ごすために、自分なりに着方や住まい方を工夫することができる。
- (3) 自分の生活を見直し、冬の快適な住まい方や衣服の着方について考え、工夫して快適な生活を送ろうとする。

標準的な展開例

06090301_001

【準備等】照度計、温度計、方位磁針

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 冬の暮らしの特徴を考え、単元の学習課題をつかむ。</p> <p>★冬の生活を見つめよう</p> <p>○冬の生活の特徴や工夫を出し合い、自分の生活の問題点に気付く。</p> <p>○問題点を基に、解決すべき課題を設定し、学習の見通しをもつ。</p> <p>2 暖かい着方を考える。</p> <p>★暖かい着方を考えよう</p> <p>○重ね着の効果について知る。</p> <p>○暖かい着方についての実験をする。</p> <p>○暖かい衣服の着方について考える。</p> <p>3 暖かい住まい方を考える。</p> <p>★暖房器具を使って、快適に過ごす方法を考えよう</p> <p>○家庭に聞いた暖房器具の使い方の工夫を発表し合う。</p> <p>○暖房器具の種類と特徴を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暖房器具を使うときに起きる危険 ・エネルギーの節約の仕方 <p>○暖房器具を使うときの注意点を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・換気 ・結露やカビ <p>○家族に聞いた工夫や学習したことを基にして、冬を暖かく過ごすための住まい方を考える。</p> <p>4 日光の利用の仕方を考える。</p> <p>★効果的な日光の利用の仕方を考えよう</p> <p>○教室や廊下の暖かさと明るさを調べる。</p> <p>○測定結果を基に、日光の利用の仕方を考える。</p> <p>5 冬の生活を工夫する。</p> <p>★冬の着方や住まい方の工夫を計画しよう</p> <p>○学習したことを生かして、学校ではどのような寒さ対策ができるか話し合う。</p> <p>○冬の生活がもっと快適になるにはどうしたらよいか考える。</p> <p>○冬の健康で快適な生活の計画を立てる。</p>	<p>・p.117の図1「月別電気使用量」やp.140「月別気温と湿度」を参考にして、冬の生活の特徴を書き出す。また、p.116「冬の住まいの工夫」のイラストや生活経験を基にして話し合わせる。</p> <p>・冬を快適に過ごす工夫を家庭で調べておくように伝える。</p> <p>【評】自分の生活を見つめ、解決すべき課題を設定する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・体と衣服の間に空気の層ができることで熱が保たれることをp.118の図2を参考に説明する。</p> <p>・p.118「やってみよう」を参考にして実験を行う。</p> <p>・重ね着の効果について簡単な実験を行うとよい。</p> <p>【評】暖かい着方を考える活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・家庭で工夫していることを事前に調べさせておく。</p> <p>【評】効果的な利用を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・p.119の図3「結露」図5「換気のポイント」を参考にする。</p> <p>【評】冬を暖かく過ごすための住まい方を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・p.120「調べよう」のように、温度計や照度計を用いて測定させる。</p> <p>【評】日光の利用の仕方を考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・冬の住生活を見直して課題を見付け、住まい方を考えさせる。</p> <p>・学校でできる寒さ対策をふまえて、p.121のイラストの男の子の課題を見付け、どのような点を改善したらよいかを考えさせる。</p> <p>【評】冬の生活を快適に過ごすためにはどうしたらよいか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】冬の健康で快適な生活の計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 **あなたは家庭や地域の宝物**配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解することができる。
 (2) 家族や地域の人々との関わりについて課題を見付け、その課題解決を目指して家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫することができる。
 (3) 2年間の家庭科の学習を通して、自分の成長と家庭や地域の大切さに気付き、よりよい生活を築こうとしている。

標準的な展開例

06090302_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 家族や地域の人たちとの関わりを考え、単元の学習課題をつかむ。 ★自分や家族が、地域の人々とどのように関わっているか考えよう ○私たちの生活が、地域の人々とどのように関わっているか話し合う。</p> <p>○家族や地域の一員として、今自分がどのように生活しているか考える。</p> <p>○地域について調べて、地域の人々と心のつながりを深めるために工夫できることを考える。</p> <p>2 これからの生活に生かせる新しい課題を考える。 ★家族の一員として家庭や地域でできることを考えよう ○2年間の家庭科の学習でできるようになったことを発表し合う。 ○p.126, 127の資料2, 3を参考にして、家族の一員として、家庭や地域でできることを考える。</p>	<p>・ p.122のイラストを参考にする。 【評】地域の人々とどのように関わっているか話し合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ p.123のイラストを参考にして、どのように生活しているかを考えさせる。「プロに聞く！」も併せて参考にとするとよい。 【評】家族や地域の一員として、今自分がどのように生活しているか考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ p.124, p.125の地域の人々と心のつながりを深めるために行った四人の実践を参考にして考えさせる。 【評】家庭生活が近隣の人々との関わりで成り立っていることや協力し助け合っていく必要があることについて考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ できるようになったことをp.3「成長の記録」で確かめさせる。 ・ 友達の工夫やアドバイスを参考に家庭や地域をよりよくしていくために、地域の一員としてできることを考えさせる。 【評】家族の一員として、家庭や地域でできることを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 2年間のまとめ

配当時間 1時間

単元の目標

- (2) 家庭生活を見直し，よりよい生活を送るために考えたり工夫したりすることができる。
 (3) 2年間の家庭科の学習を振り返り，日常の家庭生活の中で生かしたり，中学校の学習に意欲をもったりしようとする。

標準的な展開例

06090303_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 2年間の家庭科の学習を振り返る。</p> <p>★ 2年間の学習を振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ よく分かったり，できるようになったりしたことを発表する。 ○ 学習したことを使って，よりよい生活を送るために工夫できたことを書く。 ○ 中学校でできるようになりたいことを発表する。 	<p>・ p.129の例を参考に考えさせる。</p> <p>【評】 よりよい生活を送るために工夫できたことを書く活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 できるようになりたいことを発表する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

単元名 生活を変えるチャンス！③④⑤

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 学んできたことを生かして、生活をよりよくするための計画を立てることができる。
 (2) 今までの生活を見つめて、課題を見付け、その解決を目指して、生活をよくするための計画を工夫することができる。
 (3) 「協力、健康・快適・安全、生活文化、持続可能な社会」の視点から、家庭生活を見つめ直しよりよい生活を目指していこうとする。

標準的な展開例

06090304_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 生活を見つめて課題を決める。</p> <p>★学習したことを生かして、どんなことができるか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今までに学習したことを振り返る。 ○生活を見つめて、課題を見付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・夏は汗をかくので、まくらカバーを取り替えて洗たくすること多いから、枕カバーを作りたい。 ・家族の一員としておせち作りに挑戦したい。 ・成長を支えてくれた家族や地域の方々に、感謝を伝えるパーティーを開きたい。 ○課題を解決するために、計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・家族にまくらカバーの色や柄の好みを聞く。 ・「田作り」や「たたきごぼう」の作り方を家族に聞いたり、パソコンを使ったりして調べる。 ・パーティーで何をするかを決める。 ○実践のまとめ方を確認する。 <p>3 実践を分かりやすくまとめて、発表し合う。</p> <p>★実践報告会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループで実践報告会をする。 <p>○実践を振り返り、できたことやできなかったことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を活用し、今までにできるようになったことを振り返らせる。 ・いつ、どんなことに気を付けて何をするとういかを考えて、計画を立てさせる。 【評】実践計画を立てる活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 ・学級の実態に合わせて、レポート、ポスター新聞などでまとめさせる。 ・実践を聞いて、参考になったことやよかったところをグループの友達に伝えさせるようにする。 【評】実践報告会の活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・友達の意見も参考にして考えさせるようにする。

【 備 考 】

「生活を変えるチャンス！」は、学習指導要領で新設されたA(4)の「家族・家庭生活の課題と実践」に対応した項目である。学習指導要領では、2学年間で一つまたは二つの課題を設定し履修させることとしている。時期は特定せず、5年生で1回、6年生で1回の実践を想定している。

単元名 **【旧】冬を明るく暖かく**配当時間 **6時間**

- 単元の目標 (1) 季節の変化に合わせた生活の仕方を理解し、冬の快適な住まい方や暖かい衣服の着方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。
- (2) 冬の住まい方や衣服の着方について課題を見付け、冬を暖かく快適に過ごすために、自分なりに着方や住まい方を工夫することができる。
- (3) 自分の生活を見直し、冬の快適な住まい方や衣服の着方について考え、工夫して快適な生活を送ろうとする。

標準的な展開例

06090305_001

【準備等】照度計、温度計、方位磁針、省エネに関する資料

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 冬の暮らしの特徴を考え、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 夏と冬の生活の違いを考える。 ○ p. 102, 103を参考にして快適に過ごすための工夫について話し合う。 ○ 単元の学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 ★ 冬の生活を見つめよう <p>2～4 自然を生かした住まい方や、衣服の着方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 快適な住まい方や着方を考えよう ○ いろいろな場所の気温や明るさを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所 ・ 高さ ・ 方角 など ○ 日光の利用について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 採り入れる工夫 ・ 利用する工夫 ・ 暖かさを保つ工夫 ○ 暖かい衣服の着方について考える。 <p>5 効率のよい暖房器具の使い方を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 安全に効率よく暖房器具を使う方法を調べよう ○ 家庭でどのように暖房器具を使っているか発表し合う。 ○ 暖房器具の特徴を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 暖房器具を使うときに起きる危険 ・ エネルギーの節約の仕方 <p>6 家庭実践の計画を立て、単元のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 快適な冬の暮らしを实践しよう ○ 健康で快適な暮らし方の工夫を話し合う。（言語活動） ○ 家庭での実践計画を立てる。（活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 72, 73とp. 102, 103を比較して考えさせる ・ 暖房器具だけではなく、日当たり、明るさなどにも目を向けさせる。 ・ 単元の学習について見通しをもって取り組むようにする。 ・ 温度計や照度計を使って、日光や暖房の効果を確かめるようにする。 ・ 目の健康に必要な明るさを保つための照明の利用にも触れる。 ・ 重ね着の効果について簡単な実験を行うとよい。 <p>【評】 冬の住まい方の工夫を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭で工夫していることを事前に調べさせておく。 ・ p. 106, 107「プロに聞く」を参考にさせる。 <p>【評】 効果的な利用を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の住生活、衣生活を見直して課題を見つけ快適な衣服の着方や住まい方を考えさせる。 ・ 自分に出来そうな暮らし方の工夫についての意見交換を行わせる。 ・ 学級での話し合いを生かした工夫を实践させる。 <p>【評】 実践計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

児童は「夏をすずしくさわやかに」の学習で、暑い季節に快適に暮らす方法を身に付けている。本単元では、季節の変化に伴い、寒い季節の快適な暮らし方について考えていく。日光や採光、暖房、衣服の着方の効果について調査したり、考えたりする活動を通して、快適に過ごすための工夫を考える。また自分の住まいの快適さだけでなく、地域環境や地球環境にも目を向け、エネルギー資源の有効活用などの視点も含めて学習を進めることが大切である。言語活動としては、家庭で実践しようと思うことを話し合う活動を行い、よりよい実践を見つけさせるようにする。

本単元の学習は、第3学年の保健・体育「気持ちのよい生活かんきょう」、第3学年の理科「かげと太陽」、第4学年の理科「もののあたたまり方」、第5学年の社会「日本の国土と人々のくらし」、第6学年の家庭「夏をすずしくさわやかに」の内容が関連しているため、それらを踏まえた指導が必要である。

単元名 **【旧】あなたは家庭や地域の宝物**配当時間 **4時間**

単元の目標 (1) 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解することができる。
 (2) 家族や地域の人々との関わりについて課題を見付け、その課題解決を目指して、家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫することができる。
 (3) 2年間の家庭科の学習を通して、自分の成長と家庭や地域の大切さに気付き、よりよい生活を築こうとする。

標準的な展開例

06090306_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 家族や地域の人たちとの関わりを考え、単元の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分や家族が近隣の人々とどのように関わっているか考える。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★2年間の家庭科学習を通して出来るようになったことを家庭や地域で生かそう <p>2 2年間の家庭科学習を振り返り、学んだことを生活に生かす方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★お世話になった人に気持ちを伝えよう ○2年間の家庭科学習で出来るようになったことを発表し合う。 ○気持ちを伝えるための計画を立てる。(探究) <p>3 報告会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★実践の結果を友達と共有しよう ○家庭で実践した内容を発表し合う。(言語活動) <p>4 中学校で学びたいことについて話し合い、単元のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★自分の成長を確かめよう ○p.127「これからの私たち」の項目をチェックする。 ○これからの家庭生活に生かしたいことや、更に学びたいことを発表し合う。 ○単元を振り返り、自己評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.108のイラストを見て、自分や家族が、近隣の人々とどのように関わっているか考えさせる。 ・p.3「成長の記録」を参考にさせる。 ・学習した領域別に発表させる。 ・前時の学習を想起させる。 ・p.111の「いつも確かめよう」を参考にさせる。 【評】気持ちを伝える計画を立てる活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 ・友達の実践について知り、今後の自分の生活に生かすようにする。 ・それぞれの内容について学習した内容を振り返らせる。 ・できるだけ多くの児童に発表させ、これからの生活や学習に生かしていこうとする意欲を高められるようにする。 【評】今後の目標について発表し合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

本単元では、2年間の家庭科学習を振り返り、その成果や自己の成長を喜び自信をもつようにすることが大切である。学んだことを生活に生かそうとする気持ちや、中学校の学習のめあてをもつことができるようにする。言語活動については、家庭実践の報告会を行い、今後の自分の実践の参考にできるようにする。

令和2年度 知多地方教育計画案

外国語活動・外国語科

外国語活動

1 外国語活動の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 中学年の外国語活動導入の趣旨

これまでの外国語教育の成果と課題を踏まえ、小学校中学年から外国語活動を導入し、音声面を中心とした活動を通じて外国語活動に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高める。

(2) 改訂の要点

各学校段階の学びの接続と「外国語を使って何ができるようになるか」の明確化の観点から目標を設定している。

今回の改訂では、小学校中学年に新たに外国語活動を導入し、高学年の外国語科への円滑な接続を図ることを重視している。中学年の外国語活動では、三つの資質・能力の下で、英語の目標として「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の三つの音声面を中心とした領域を設定し、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。また、より弾力的な指導ができるよう、2学年を通した目標となっている。

3 英語の目標及び内容等

(1) 英語の目標（外国語活動の目標を踏まえて設定される）

英語では、英語学習の特質を踏まえ、以下に示す三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目標としている。

① 聞くこと

ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。

イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。

ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

② 話すこと【やり取り】

ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。

イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり答えたりするようにする。

③ 話すこと〔発表〕

ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

(2) 英語の内容

① 英語の特徴等に関する事項〔知識及び技能〕

外国語活動における「知識及び技能」に関わる目標を達成するためには、相手と主体的にコミュニケーションを図ることの大切さを知るとともに、日本と外国の言語や文化について理解することが大切である。そのため「知識及び技能」の内容は、「コミュニケーションに関する事項」と「言語や文化に関する事項」とで構成しており、高学年外国語科で示された言語材料のうち、適切なものを適宜選択して扱って、実際に英語を用いた言語活動を通して体験的にその内容を身に付けることとしている。

② 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項〔思考力、判断力、表現力等〕

中学年の外国語活動において育成すべき「思考力、判断力、表現力等」は、「伝え合う力の素地」であり、高学年の外国語科における「伝え合う力の基礎」につながる資質・能力である。決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを大切に、以下の二つの事項を身に付けることができるように指導する。

ア 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら伝え合うこと。

イ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。

③ 言語活動及び言語の働きに関する事項

「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、「知識及び技能」に示す「コミュニケーションに関する事項」や「言語や文化に関する事項」を活用して、三つの領域ごとに示された具体的な言語活動を通して指導することや、「言語の働きに関する事項」で示された言語の使用場面や言語の働きを適切に取り上げて指導が行われることが必要である。

4 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成の配慮事項

- ① 第5学年及び第6学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意する。
- ② 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ③ 学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語活動の目標の実現を図る。
- ④ 言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う。また、英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行う。
- ⑤ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、他教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をする。
- ⑥ 外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても理解を深めさせる。
- ⑦ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。

- ⑧ 学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が指導計画を作成し、授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行う。

(2) 内容の取扱い

- ① 児童の発達段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定する。
- ② 文字については、音声によるコミュニケーションを補助するものとして取り扱う。
- ③ ジェスチャーなどを取り上げ、コミュニケーションを支えるものとしての非言語手段の役割を理解させるようにする。
- ④ 個々の児童の特性に応じてペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫する。
- ⑤ 児童の実態や教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、指導の効率化や言語活動の充実を図るようにする。
- ⑥ 言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにする。

5 指導の留意事項

(1) 中学年の外国語活動と高学年の外国語科、中学校外国語科とのつながり

小学校中学年 外国語活動 目標	小学校高学年 外国語科 目標	中学校 外国語科目標
外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語教育においては、小学校から高等学校までの指導のつながりが重要視され、それぞれの目標が段階的に設定されている。

(2) 知多地方教育計画案小学校外国語活動の留意点

① 単元の構成

Unit ごとに単元を構成する。各学年の総時間数は3年生35時間、4年生35時間である。

② 単元の見目標

(1)は、知識及び技能、(2)は、思考力、判断力、表現力等、(3)は学びに向かう力、人間性等を表す。

③ 標準的な展開例

各時間の主な学習活動と活動に対しての留意事項などを記載する。単元を構成する上での留意事項がある場合は備考欄に示す。

④ 評価

ア 「留意事項など」には、その時間に、どのような言語活動を通して、どの資質・能力を評価するかを示す。三つの資質・能力のうち、(1)は、「知識・技能」、(2)は、「思考・判断・表現」、(3)は、「主体的に学習に取り組む態度」と表記する。

イ 単元を中心となる活動では、3観点全てを見取ることが望ましいが、実行可能性を考慮し、本計画案では「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の2観点について評価することとする。

⑤ その他具体的事項

ア 1時間の基本の流れは、①挨拶・ウォームアップ→②基本表現の練習や基本表現を用いた活動→③振り返り・挨拶とする。なお、挨拶は本文中では省略する。

イ 詳細な学習活動、留意事項及び評価規準は指導案例に記述してあるので、本文と併せて参照するとよい。指導案は、担任又は外国語活動を担当する教師が単独で行うことを想定している。

6 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	・外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。 ・日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
思考・判断・表現	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

外国語科

1 外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語科の目標は、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することであり、次の三つの事項を念頭において指導する必要がある。

① 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる。

外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして、相手に十分配慮したりすること。また、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、自分の考えなどを形成、再構築することの重要性が示されている。

② 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、資質・能力を育成する。

高学年においては、中学年の外国語活動の導入を受けて、新たに外国語科を導入し、五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる三つの資質・能力を相互に関連させて育成することが重要である。

③ 外国語教育において育成を目指す三つの資質・能力

(1)は、「何を理解しているか、何ができるか」という「知識及び技能」の習得に関わる目標として示されている。ここでは、外国語の言語材料について、「日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解する」という「知識」の面と、その知識を、「実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能」を身に付けるという「技能」の面とで目標が示されている。

(2)は、「理解していること・できることをどう使うか」という「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わる目標として示されている。学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりする学習過程全体を通じて、三つの資質・能力が相互に関係し合いながら育成されるようにすることが大切である。

(3)は、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関わる目標として示されている。言語活動が、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連づけて繰り返されることで、児童に自信が生まれ主体的に学習に取り組む態度が一層向上する。このような過程を通して「学びに向かう力、人間性等」が育成される。児童が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、さまざまな手立てを通じて児童の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をすることが大切である。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 高学年の外国語科導入の趣旨

これまでの外国語教育の成果と課題を踏まえ、小学校中学年から外国語活動を導入し、音声面を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図る。

(2) 改訂の要点

各学校段階の学びの接続と「外国語を使って何ができるようになるか」の明確化の観点から目標を設定している。

今回の改訂では、中学年に外国語活動を導入し、三つの資質・能力の下で、英語の目標として「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の三つの音声面を中心とした領域を設定し、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成が図られている。その上で、高学年において「読むこと」、「書くこと」を加えた教科として外国語科を導入し、五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することとしている。また、より弾力的な指導ができるよう、2学年を通した目標となっている。

3 英語の目標及び内容等

(1) 英語の目標（外国語科の目標を踏まえて設定）

英語では、以下に示す五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目標としている。

① 聞くこと

- ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
- イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
- ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

② 読むこと

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

③ 話すこと[やり取り]

- ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。
- イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
- ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり答えたりして、伝え合うことができるようにする。

④ 話すこと[発表]

- ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

⑤ 書くこと

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

(2) 英語の内容

① 英語の特徴や決まりに関する事項〔知識及び技能〕

高学年の外国語科の英語においては、言語材料は、「音声」、「文字及び符号」、「語、連語及び慣用表現」及び「文及び文構造」の四つから構成されている。これらの言語材料のうち、五つの領域別の目標を達成するのに適切なものを選択して理解させるとともに、言語材料を言語活動と併せて指導することで、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせる。

② 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項〔思考力、判断力、表現力等〕

「思考力、判断力、表現力等」の育成には、具体的な課題を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、既得の知識や経験と、聞き取ったり読み取ったりした情報を整理しながら自分の考えなどを形成することが必要である。こうして形成された考えなどを表現することを通して、以下の事項を身に付けられるよう指導する。

ア 「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の領域に関するもの

身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。

イ 「読むこと」、「書くこと」の領域に関するもの

身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。

③ 言語活動及び言語の働きに関する事項

「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、「知識及び技能」として身に付けるべき言語材料を活用して、五つの領域ごとに示された具体的な言語活動を通して指導することや、「言語の働きに関する事項」で示された言語の使用場面や言語の働きを適切に取り上げて指導が行われることが必要である。

4 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成の配慮事項

- ① 第3学年及び第4学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意する。
- ② 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ③ 学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語科の目標の実現を図る。
- ④ 言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う。また、中学年で扱った学習内容を繰り返し指導し定着を図る。
- ⑤ 必要に応じて短時間学習を取り入れることにより指導の効果を高めるよう工夫する。
- ⑥ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をする。
- ⑦ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。
- ⑧ 学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行う。

(2) 内容の取扱い

- ① 言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導する。また、児童の発達段階に応じて、聞いたり読んだりして意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意する。
- ② 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら指導する。また、音声と文字とを関連付けて指導する。
- ③ 文や文構造の指導に当たっては、(ア)日本語と英語との語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにすること、(イ)文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、言語活動と関連付けて指導することに留意する。
- ④ 個々の児童の特性に応じてペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫する。
- ⑤ 児童の実態や教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、指導の効率化や言語活動の充実を図るようにする。
- ⑥ 言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにする。

5 指導の留意事項

(1) 中学年の外国語活動、中学校外国語科とのつながり

小学校中学年 外国語活動 目標	小学校高学年 外国語科 目標	中学校 外国語科目標
外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付く、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

高学年の外国語科の指導に当たっては、中学年の外国語活動で「聞くこと」、「話すこと」を中心に慣れ親しんできたことを踏まえ、段階的に「読むこと」、「書くこと」を加えて中学校への接続を図ることに留意する。

(2) 知多地方教育計画案小学校外国語科の留意点

① 単元の構成

Unit ごとに単元を構成し、「Starting Out」, 「Your Turn」, 「Enjoy Communication」, 「Over the Horizon」の四つのパートを通して、段階的に自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養えるようにする。複数の Unit のまとめである「Check Your Steps」は、独立した単元として取り扱う。各学年の総時間数は5年生70時間、6年生70時間である。

② 単元の目標

(1)は、知識及び技能、(2)は、思考力、判断力、表現力等、(3)は学びに向かう力、人間性等を表す。

③ 標準的な展開例

各時間の主な学習活動と活動に対しての留意事項などを記載する。単元を構成する上での留意事項がある場合は備考欄に示す。

④ 評価

ア 「留意事項など」には、その時間に、どのような言語活動を通して、どの資質・能力を評価するかを示す。三つの資質・能力のうち、(1)は、「知識・技能」、(2)は、「思考・判断・表現」、(3)は、「主体的に学習に取り組む態度」と表記する。

イ 単元の中心となる活動では、3観点全てを見取ることが望ましいが、実行可能性を考慮し、本計画案では「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の2観点について評価することとする。

⑤ その他具体的事項

ア 1時間の基本的な流れは、①挨拶・ウォームアップ→②基本表現の練習や基本表現を用いた活動→③振り返り・挨拶とする。なお、挨拶は本文中では省略してある。

イ 詳細な学習活動、留意事項及び評価規準は指導案例に記述してあるので、本文と併せて参照するとよい。

6 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解している。・読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

第3学年 外国語活動 年間計画（標準35時間）

1学期（12時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 1 Hello! あいさつをして友だちになろう	2	
Unit 2 How are you? ごきげんいかが？	2	
Unit 3 How many? 数えてあそぼう	4	
Unit 4 I like blue. すきなものをつたえよう	4	

2学期（13時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 5 What do you like? 何が好き？	4	
Unit 6 ALPHABET アルファベットとなかよし	4	
Unit 7 This is for you. カードをおくろう	5	

3学期（10時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 8 What's this? これなあに？	5	
Unit 9 Who are you? きみはだれ？	5	

第4学年 外国語活動 年間計画（標準35時間）

1学期（13時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 1 Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつをしよう	2	
Unit 2 Let's play cards. すきな遊びをつたえよう	4	
Unit 3 I like Mondays. すきな曜日は何かな？	3	
Unit 4 What time is it? 今、何時？	4	

2学期（13時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 5 Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう	4	
Unit 6 Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう	4	
Unit 7 What do you want? ほしいものは何かな？	5	

3学期（9時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 8 This is my favorite place. お気に入りの場所をしょうかいしよう	4	
Unit 9 This is my day. ぼく・わたしの一日	5	

第5学年 外国語科 年間計画（標準70時間）

1学期（26時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 1 Hello, friends.	8	学び方みつけた！1を含む
Unit 2 When is your birthday?	8	
Unit 3 What do you want to study?	8	
Check Your Steps 1 外国の人に自己紹介をしよう	2	

2学期（26時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 4 He can bake bread well.	8	学び方みつけた！2を含む
Unit 5 Where is the post office?	8	
Unit 6 What would you like?	8	
Check Your Steps 2 地域のおすすめを紹介しよう	2	

3学期（18時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 7 Welcome to Japan.	8	学び方みつけた！3を含む
Unit 8 Who is your hero?	8	
Check Your Steps 3 「日本のすてき」を紹介しよう	2	STORY TIME を含む

第6学年 外国語科 年間計画（標準70時間）

1学期（26時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 1 This is me!	8	学び方みつけた！1を含む
Unit 2 How is your school life?	8	
Unit 3 Let's go to Italy.	8	
Check Your Steps 1 外国の人にメッセージを伝えよう	2	

2学期（26時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 4 Summer Vacations in the World	8	学び方みつけた！2を含む
Unit 5 We all live on the Earth.	8	
Unit 6 Let's think about our food.	8	
Check Your Steps 2 世界と自分のつながりを紹介しよう	2	

3学期（18時間）

単 元 名	配当時間	備 考
Unit 7 My Best Memory	8	学び方みつけた！3を含む
Unit 8 My Future, My Dream	8	学び方みつけた！4を含む
Check Your Steps 3 寄せ書きのメッセージを伝えよう	2	STORY TIME を含む

第4学年O組 外国語活動学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時（〇〇室）

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単元 Unit 3 I like Mondays.

2 単元目標

- (1) 世界の同年代の子供たちの生活を知るとともに、曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- (2) 自分の好きな曜日について、尋ねたり答えたりして伝え合う。
- (3) 相手に配慮しながら、自分の好きな曜日を伝え合おうとする。

3 学習の計画 (3時間完了)

- 第1時 世界の同世代の子供たちの生活の共通点に気付く。
- 第2時 曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- 第3時（本時）好きな曜日について、尋ねたり答えたりして伝え合う。

4 本時の学習指導

- (1) 目標
 - 自分の好きな曜日について尋ねたり答えたりする。
 - 相手に配慮しながら、自分の好きな曜日を伝え合おうとする。
- (2) 準備・資料
 - 教師……教師用デジタルブック、大型テレビ、教師用絵カード、振り返りシート
- (3) 関連
 - 3年 外国語活動 Unit 4 I like blue. (好きかどうかを尋ね合う。)
 - 5年 英語 Unit 1 Hello, friends. (好きな物・ことを尋ね合う。)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかかむ	1 挨拶をする。 ・ Good morning. ・ How are you? ・ I'm fine. / I'm sleepy. / I'm hungry.	1	○ 元気よく挨拶をして、授業に対する意欲を高めるようにする。 ○ 全体に挨拶をした後で、個別に数名の児童に挨拶をする。
	2 ウォームアップをする。 (1) Let's Chant "What day is it?" (2) 曜日の言い方を復習する。	7	○ P. 11のチャンツを流し、一緒に言う。 ○ スムーズに言えるようにスピードを変えて複数回言わせる。 ○ 絵カードを用いてテンポよく、繰り返し確認する。 ○ キーワードゲームで繰り返し単語に触れさせ、慣れ親しませる。
	3 本時の学習課題をつかむ。 自分と同じ曜日が好きな人を探そう。	8	
追究する	4 映像を視聴して、分かったことを書く。 (P. 12 Let's Watch and Think 2) (1) 場面絵を見て、登場人物がどのような会話をしているかを考える。 (2) 映像資料を視聴し、分かったことを書く。		○ 場面絵を提示し、登場人物を確認した上で、どのような会話をしているか想像させてから視聴させる。 ○ 会話が長く難しいので、聞き取れた言葉から発表させる。

追 究 す る	<p>①テニスに誘った。ラケットがなかった。2本あるから大丈夫だった。</p> <p>②さよは日曜日が嫌い。掃除をしないといけないから。エミリーは日曜日が好き。</p> <p>③今日は水曜日。サッカーの試合がある。サッカーに誘った。</p>	18	<p>○全体だけでなく部分的に視聴させたり、スピードを変えたりして、繰り返し聞かせることで児童の理解を助ける。</p> <p>○全てを理解する必要はないことを伝え、聞き取りの観点を提示する。</p> <p>・誘った遊び ・登場人物の好きな曜日</p> <p>・誘った結果</p> <p>○好きな曜日を尋ねる表現を音声から聞き取らせ、次の活動につなげる。</p>
深 め る	<p>5 同じ曜日が好きな友達を探す。(P. 13 Activity)</p> <p>(1) モデル会話を視聴する。</p> <p>A: Do you like Mondays?</p> <p>B: No, I don't. I like Fridays.</p> <p>Do you like Fridays?</p> <p>A: No, I don't. I like Mondays.</p> <p>(2) ペアを見付けて会話する。</p> <p>(3) よいやりとりを全体で共有する。</p> <p>(4) 相手を替えてもう一度会話をする。</p>	38	<p>○指導者が数名の児童とデモンストレーションをして、見通しをもたせる。</p> <p>○相手意識を大切に、うなずきや反応を返すようにすることを伝える。</p> <p>○数組指名して発表させる。</p> <p>○相手に配慮しながら伝え合っている例を全体で共有させ後半の活動につなげる。</p> <p>○最後に数組指名して発表させ、よかった点を学級に伝える。</p> <p>評好きな曜日を尋ねたり答えたりして伝え合っている。(会話)</p> <p>評相手に配慮しながら自分の好きな曜日を伝え合おうとしている。(会話)</p>
ま と め る	<p>6 振り返りカードを記入する。</p> <p>7 挨拶をする。</p>	45	<p>○学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>○主体的に学習に取り組んでいた姿を伝え、次時に向けての意欲をもたせる。</p>

(4) 本時の評価規準

- Do you like...?などの表現を用いて好きな曜日を尋ねたり答えたりしている。(会話)
- うなずきや反応を返しながら自分の好きな曜日を友達と伝え合おうとしている。(会話)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 児童は外国語活動の時間をとても楽しみにしており、どの活動にも積極的に取り組んでいる。しかし、自分のことを話した後、相手が話している際に反応を返すことを忘れてしまったり、最後までアイコンタクトをしながら聞くことができなかつたりする児童もいる。

(2) 指導の力点

- 児童が相手に配慮しながら会話をしようとする意識を高めることができるように、活動を前半と後半に分け、中間評価の時間を取る。中間評価では、相手に配慮しながら会話できているペアを取り上げて紹介し、具体的にどのように相手に反応を返せばよいのか学級で共有させる。その後改めて後半の活動を行うことで、児童が共有したことを生かすことのできる場面を作り、目指す児童の姿に近付ける支援とする。

6 指導と評価

第4学年〇組 外国語活動学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時(〇〇室)

指導者(T1) 〇 〇 〇 〇

ALT(T2) 〇 〇 〇 〇

1 単 元 Unit 3 I like Mondays.

2 単元の目標

- (1) 世界の同年代の子供たちの生活を知るとともに、曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

(中 略)

4 本時の学習指導

(1) 目 標

- 自分の好きな曜日について尋ねたり答えたりする。
- 相手に配慮しながら、自分の好きな曜日を伝え合おうとする。

(2) 準備・資料

- 教師……教師用デジタルブック、大型テレビ、教師用絵カード、振り返りシート

(3) 関 連

3年 外国語活動 Unit 4 I like blue. (好きかどうかを尋ね合う。)

5年 英語 Unit 1 Hello, friends. (好きな物・ことを尋ね合う。)

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つ か む	1 挨拶をする。 ・ Good morning. ・ How are you? ・ I'm fine. / I'm sleepy. / I'm hungry.	1	○元気に挨拶をして、授業に対する意欲を高めるようにする。【T1, 2】 ○全体に挨拶をした後で、個別に数名の児童に挨拶をする。【T2】
	2 ウォームアップをする。 (1) Let's Chant "What day is it?" (2) 曜日の言い方を復習する。	7	○P.11のチャンツを流し、一緒に言う。【T1, 2】 ○スムーズに言えるようにスピードを変えて複数回言わせる。 ○絵カードを用いてテンポよく、繰り返し確認する。【T2】 ○キーワードゲームの進行をする。【T2】
	3 本時の学習課題をつかむ。 自分と同じ曜日が好きな人を探そう。	8	
追 究 す る	4 指導者とALTのやり取りを視聴して、分かったことを書く。(P.12 Let's Watch and Think 2) (1) 場面絵を見て、登場人物がどのような会話をしているかを考える。 (2) やり取りを視聴し、分かったことを書く。 ①テニスに誘った。ラケットがなかった。2本あるから大丈夫だった。 ②さよは日曜日が嫌い。掃除をしない		○場面絵を提示し、登場人物を確認した上で、どのような会話をしているか想像させてから視聴させる。【T1】 ○デジタル教材の映像資料のやり取りを実演する。【T1, 2】 ○会話が長く難しいので、聞き取れた言葉から発表させる。【T1】 ○T1が把握した児童の理解の様子に応じてやり取りをゆっくり繰り返す。【T1, 2】

(後 略)

第6学年O組 英語科学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時(〇〇室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 単元 Unit 4 Summer Vacation in the World

2 単元の目標

- (1) 世界の夏休みの過ごし方を知り、自分の思い出を紹介する語句や表現を身に付けるとともに、活字体の大文字・小文字を理解することができる。
- (2) 世界の夏休みの過ごし方を知り、自分の思い出を紹介する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして紹介することができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に、世界の夏休みの過ごし方を知り、自分の思い出を紹介するとともに、英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

3 学習の計画 (8時間完了)

- | | | |
|-----|---------|--|
| 第1次 | 第1時 | 夏休みの過ごし方について、およその内容を聞き取る。 |
| | 第2時 | 夏休みの過ごし方について、聞き取った内容を発表するとともに、自分の思い出を紹介するために必要な語句や表現を理解する。 |
| 第2次 | 第3時(本時) | 過去に起こった出来事について、尋ねたり応答したりする表現を身に付ける。 |
| | 第4時 | 過去に起こった出来事の感想を尋ねたり応答したりする表現を身に付ける。 |
| 第3次 | 第5時 | 夏休みの思い出を紹介する文を作り、発表に向けて練習する。 |
| | 第6時 | 夏休みの思い出を発表する。 |
| 第4次 | 第7時 | 世界の小学生が夏休みをどのように過ごすのか考える。 |
| | 第8時 | 疑問詞について、英語と日本語の違いを知り、世界についての理解を深める。 |

4 本時の学習指導

- (1) 目 標
 - 過去に起こった出来事について、尋ねたり応答したりする表現を身に付ける。
- (2) 準備・資料
 - 教師……教師用デジタルブック、大型テレビ、教師用絵カード、振り返りシート
- (3) 関 連
 - 4年 外国語活動 Unit 9 This is my day. ぼく・わたしの一日(日課を伝える。)
 - 5年 英語 Unit 7 Welcome to Japan. (日本の四季や文化を紹介する。)
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
導 入	1 挨拶をする。 ・ Good morning. ・ How are you? ・ I'm fine. / I'm sleepy. / I'm hungry.	1	○ 元気よく挨拶をして、授業に対する意欲を高めるようにする。 ○ 全体に挨拶をした後で、個別に数名の児童に挨拶をする。
	2 ウォームアップをする。 (1) Let's Sing "We love summer vacation." (2) Let's Chant "Did you enjoy camping?" (3) Small Talk "Did you enjoy your summer vacation?"	7	○ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ○ 児童と一緒に歌う。 ○ チャンツを流し、一緒に言う。 ○ PD(P.18~19)を参照させ、主な動作などを確認させる。 ○ 指導者と児童のやりとりで見通しをもたせてから児童同士のやりとりにつなげる。
	3 本時の学習課題をつかむ。 昨日食べたものを伝え合おう。	8	
言語 材	4 語句を確認する。(P.36 Word Link) ・ PD(P.9)デザート語句を確認する。	12	○ 確認した語句は、本時の活動で用いるとよいことを伝える。 ○ 難しい語句は繰り返し触れさせる。

料 の 理 解	5 登場人物の夏休みについて聞き取る。 (Let's Listen 1) (1) 英文を聞き、登場人物とその行動に関わりのある絵とを線で結ぶ。 (2) 答え合わせをする。	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。 ○ 何度も音声で聞かせ、語句や表現に慣れ親しませる。 ○ 過去の出来事を伝える表現を確認する。
言 語 材 料 の 追 究	6 昨日食べたものについて、ペアで尋ね合う。(Let's Try 2) (1) モデル会話を視聴する。 (2) やり取りで用いる表現を確認する。 Q: What did you eat? A: I ate curry and rice. (3) 友達と尋ね合う。	30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導者と児童で実際にやり取りをして、活動の見通しをもたせる。 ○ できるだけ多くの友達と会話をさせる。 ○ 活動の時間内に必ず指導者のところへ来て会話をさせる。 ○ 最後に数ペア発表させ、よかった点を取り上げ共通理解させる。
	7 やりとりで用いた表現を書き写す。 (Let's Read and Write 3) ・ I ate <u>curry and rice</u> .	35	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨日食べたものを尋ねたり、自分が食べたものを伝えたりしている。(会話) ○ 下線部を自分が食べたものに変えて書き写させる。(P. 87) ○ 音声での練習を十分にさせてから、書かせる。 ○ PD (P. 8~9)を参照させる。
文 字 練 習 ・ ま と め	8 音と文字のつながりを知る。(P. 92 Sounds and Letters I, i) (1) ink と始まりの音が同じ絵に○を付ける。 (2) アルファベットを書く練習をする。	40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 声に出して読みながら、同じ音を認識させる。 ○ 音と文字を一致させるために、アルファベットの名前を発音しながら書かせる。
	9 本時の学習を振り返る。 (1) 振り返りシートに振り返りを記入する。 (2) 終わりの挨拶をする。 ・ That's all for today. See you.	45	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ○ 活動のよかった点を伝え、次時に向けての意欲付けを図る。

(4) 本時の評価規準

- 昨日食べたものについて尋ねたり、自分が食べたものを伝えたりして、過去の出来事を尋ねたり答えたりする表現を身に付けている。(会話)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 児童は英語の学習に対して意欲的で、チャンツやゲームなどに楽しんで取り組む様子が見られる。しかし、中にはチャンツやゲーム、パターン練習には自信をもって取り組めても、自分のこととして英語を話すことは苦手で、自信をもって話せない児童もいる。

(2) 指導の力点

- 本時で学習する表現を身に付けさせるために、まずは音声を繰り返して十分に聞かせ、そこから活動で用いる表現に気付けるようにする。また、活動の最初にモデルとなる会話を提示することで、見通しと自信をもって活動に入れるようにさせる。

6 指導と評価

第6学年O組 英語科学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時 (〇〇室)

指導者(T1) 〇 〇 〇 〇

ALT(T2) 〇 〇 〇 〇

1 単 元 Unit 4 Summer Vacation in the World

2 単元目標

- (1) 世界の夏休みの過ごし方を知り、自分の思い出を紹介する語彙や表現を身に付けるとともに、活字体の大文字・小文字を理解することができる。

(中 略)

4 本時の学習指導

(1) 目 標

- 過去に起こった出来事について、尋ねたり応答したりする表現を身に付けることができる。

(2) 準備・資料

- 教師……教師用デジタルブック、大型テレビ、教師用絵カード、振り返りシート

(3) 関 連

4年 外国語活動 Unit 9 This is my day. ぼく・わたしの一日(日課を伝える。)

5年 英語 Unit 7 Welcome to Japan. (日本の四季や文化を紹介する。)

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
導 入	1 挨拶をする。 ・ Good morning. ・ How are you? ・ I'm fine. / I'm sleepy. / I'm hungry.	1	○元気に挨拶をして、授業に対する意欲を高めるようにする。【T 1, 2】 ○全体に挨拶をした後で、個別に数名の児童に挨拶をする。【T 2】
	2 ウォームアップをする。 (1) Let's Sing "We love summer vacation." (2) Let's Chant "Did you enjoy camping?" (3) Small Talk "Did you enjoy your summer vacation?"	7	○児童と一緒に歌う。【T 1, 2】 ○チャンツを流し、一緒に言う。【T 1, 2】 ○PD(P. 18~19)を参照させ、主な動作などを確認させる。【T 1】 ○T 1とT 2のやりとりで見通しをもたせてから児童同士のやりとりにつなげる。【T 1, 2】
	3 本時の学習課題をつかむ。 昨日食べたものを伝えよう。	8	
言 語 材 料 の 理	4 語句を確認する。(P. 36 Word Link) ・ PD(P. 9)デザート語句を確認する。		○確認した語彙は、本時の活動で用いるとよいことを伝える。【T 1】 ○難しい語句を繰り返し確認する。【T 2】
	5 登場人物の夏休みについて聞き取る。 (Let's Listen 1) (1) 英文を聞き、登場人物とその行動に関わりのある絵とを線で結ぶ。		○T 1の把握した児童の理解の様子に応じてT 2はゆっくり英文を繰り返す。【T 1, 2】

(後 略)

単元名 Unit 1 Hello! あいさつして友だちになろう！

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 世界にはさまざまな言語があることに気付くとともに、挨拶や名前の言い方に慣れ親しむ。
 (2) 名前を言って挨拶をし合う。
 (3) 相手に伝わるように工夫しながら、名前を言って挨拶を交わそうとする。

標準的な展開例

03160101_001

【準備等】 デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 感情や状態を表す表現を知る。</p> <p>○ ウォームアップ ・ Let's Chant "Hello!"</p> <p>★ ジェスチャーを交えて、挨拶をしよう。</p> <p>○ 様子を尋ねたり、答えたりする表現を知る。 A: How are you? B: I'm ... Fine, tired, sad, happy, hungry, sleepy</p> <p>○ Let's Watch and Think 1 映像見て、どんなことを言っているか考える。</p> <p>○ Let's Sing "Hello Song"</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>○ Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>2 表情やジェスチャーを付けて相手につながるように工夫しながら、挨拶を交わす。</p> <p>○ ウォームアップ ・ Let's Sing "Hello Song"</p> <p>○ Let's Listen 誰がどんな様子を聞いて、線で結ぶ。</p> <p>○ Let's Watch and Think 2 どんなジェスチャーを表しているか考える。</p> <p>○ Activity 友達にどんな様子なのかを聞く。 A: Hello. B: Hello. A: How are you?" B: I'm ... , and you? A: I'm ...</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>○ Let's Sing "Goodbye Song"</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3回繰り返す。 ・ 指導者が元気に言い、英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ 絵カードを使い、様子の言い方を確認する。 ・ ジェスチャーなしで英語を話す時と、ジェスチャーありの時でどちらが相手に伝わるかを考えさせることで、ジェスチャーの大切さに気付かせる。 ・ ジェスチャーは大きく、ゆっくりさせる。 【評】 調子を尋ねたり、答えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 映像を視聴する前に、どんなことを話しているか想像させる。 ・ 何度も音声を聞かせて復唱させる。 ・ 時間があれば、ALTや指導者のやったジェスチャーが何か答えさせるジェスチャーゲームを行う。 ・ オリジナルのジェスチャーを児童に考えさせるなどして、楽しく歌わせる。 ・ 全体で歌ったり、ペアで歌ったりと歌い方に変化を付ける。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3回繰り返す。 ・ 指導者も元気に歌い、英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ "good"の代りに、他の表現を入れ、様子を答える表現に慣れ親しませる。 ・ 聞く前に、絵が何を表しているのかを児童に尋ね一つずつ確認する。 ・ 活動の後に、"How are you?"と数人の児童に尋ね、表現に慣れ親しませる。 ・ アイコンタクトやジェスチャーなどで相手に気持ちを伝えることが大切だと気付かせる。 <p>【評】 日本と海外のジェスチャーを比較する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者と児童でデモンストレーションを行う ・ "eye contact""clear voice""smile"を意識して活動に取り組みさせる。 ・ 活動の途中で止めて、中間評価を行い、ジェスチャーを用いて伝え合わせる。 <p>【評】 友達に感情や状態を尋ねたり、答えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 友達に感情や状態を尋ねたり、答えたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

【 備 考 】
※言語材料

- Hello. Hi. I'm Hinata.
- Goodbye. See you

単元名 Unit 2 How are you? ごきげんいかが?

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 表情やジェスチャーの大切さに気付き、感情や状態を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ
 (2) 表情やジェスチャーを工夫しながら挨拶をし合う。
 (3) 表情やジェスチャーを付けて相手に伝わるように工夫しながら、挨拶をしようとする。

標準的な展開例

03160102_001

【準備等】 デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 感情や状態を表す表現を知る。</p> <p>○ ウォームアップ ・ Let's Chant "Hello!"</p> <p>★ ジェスチャーを交えて、挨拶をしよう。</p> <p>○ 様子を尋ねたり、答えたりする表現を知る。 A: How are you? B: I'm ... Fine, tired, sad, happy, hungry, sleepy</p> <p>○ Let's Watch and Think 1 映像見て、どんなことを言っているか考える。</p> <p>○ Let's Sing "Hello Song"</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>○ Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>2 表情やジェスチャーを付けて相手につながるように工夫しながら、挨拶を交わす。</p> <p>○ ウォームアップ ・ Let's Sing "Hello Song"</p> <p>○ Let's Listen 誰がどんな様子を聞いて、線で結ぶ。</p> <p>○ Let's Watch and Think 2 どんなジェスチャーを表しているか考える。</p> <p>○ Activity 友達にどんな様子なのかを聞く。 A: Hello. B: Hello. A: How are you?" B: I'm ... , and you? A: I'm ...</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>○ Let's Sing "Goodbye Song"</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3回繰り返す。 ・ 指導者が元気に言い、英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ 絵カードを使い、様子の言い方を確認する。 ・ ジェスチャーなしで英語を話す時と、ジェスチャーありの時でどちらが相手に伝わるかを考えさせることで、ジェスチャーの大切さに気付かせる。 ・ ジェスチャーは大きく、ゆっくりさせる。 【評】 調子を尋ねたり、答えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 映像を視聴する前に、どんなことを話しているか想像させる。 ・ 何度も音声を聞かせて復唱させる。 ・ 時間があれば、ALTや指導者のやったジェスチャーが何か答えさせるジェスチャーゲームを行う。 ・ オリジナルのジェスチャーを児童に考えさせるなどして、楽しく歌わせる。 ・ 全体で歌ったり、ペアで歌ったりと歌い方に変化を付ける。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3回繰り返す。 ・ 指導者も元気に歌い、英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ "good"の代りに、他の表現を入れ、様子を答える表現に慣れ親しませる。 ・ 聞く前に、絵が何を表しているのかを児童に尋ね一つずつ確認する。 ・ 活動の後に、"How are you?"と数人の児童に尋ね、表現に慣れ親しませる。 ・ アイコンタクトやジェスチャーなどで相手に気持ちを伝えることが大切だと気付かせる。 <p>【評】 日本と海外のジェスチャーを比較する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者と児童でデモンストレーションを行う ・ "eye contact""clear voice""smile"を意識して活動に取り組みさせる。 ・ 活動の途中で止めて、中間評価を行い、ジェスチャーを用いて伝え合わせる。 【評】 友達に感情や状態を尋ねたり、答えたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】 友達に感情や状態を尋ねたり、答えたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

【 備 考 】
※言語材料

• How are you? I'm ...

単元名 Unit 3 How many? 数であそぼう

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 日本と外国の数の数え方の違いから多様な考え方があることに気づき、1～20までの数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。
 (2) 数について尋ねたり、答えたりして伝え合う。
 (3) 相手に伝わるように工夫しながら、数を尋ねたり答えたりしようとする。

標準的な展開例

03160103_001

【準備等】デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1～20までの数え方を知る。(1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <p>・Let's Sing "Hello Song"</p> <p>★1～20までの数字の言い方を知ろう</p> <p>○Let's Sing "Ten Steps"</p> <p>○Let's Play 1 おはじきゲーム(1)</p> <p>○Let's Play 2じゃんけんゲーム(1)</p> <p>A:Hello B:Hello. A,B:Rock scissors paper, one two three.</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>2 1～20までの数え方を知る。(2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <p>・Let's Sing "Hello Song"</p> <p>・Let's Sing "Ten Steps"</p> <p>★1～20までの言い方を知ろう。</p> <p>○Let's Play 1 おはじきゲーム(2)</p> <p>○キーワードゲームをする。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>3 数について尋ねたり、答えたりして伝え合う。</p> <p>○ウォームアップ</p>	<p>・英語を話そうとする雰囲気をつくる。</p> <p>・1～10と11～20に分かれているため、どちらも2～3回ほど流し、言えるところを指導者と一緒に言わせる。</p> <p>・数字をいくつか選び、その数字の時は歌わずに手拍子するなど体を動かして慣れ親しませる。</p> <p>・一人一人、おはじきを置かせ、何度も繰り返し数字を聞かせ、数字の言い方に慣れさせる</p> <p>・おはじきゲーム 紙面の周りの任意の数におはじきを置き、おはじきを置いている数字が発音されたら、おはじきを取るゲーム。</p> <p>・指導者と児童でじゃんけんのやり方をデモンストレーションで見せる。</p> <p>・隣同士のペアでじゃんけんのやり方を確認させ、活動に安心して取り組めるようにする。</p> <p>・10回じゃんけんをさせ、勝ったら○、引き分けは△、負けたら×を書かせる。</p> <p>・How many circles? と言いながら、勝った回数を尋ねる。</p> <p>【評】じゃんけんの勝敗を数える活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・指導者と一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる</p> <p>・英語を話そうとする雰囲気をつくる。</p> <p>・2～3回ほど繰り返し聞き、歌えるところと一緒に歌わせる。</p> <p>・11からは難易度が高いので、スピードを変化させたり、特定の数の時に手拍子をしたりして、繰り返し歌っても児童が飽きないようにさせる。</p> <p>・おはじきゲームについては、U3第1時指導上の留意点を参考にする。</p> <p>・ペアで行い、おはじきの数もそれぞれ5つほど置き、指導者が発音した数字を取らせる。</p> <p>・キーワードゲーム ペアの間に消しゴムを一個置かせる。 練習した単語の中からキーワードを決める。</p> <p>児童は、指導者がキーワードを発音したときのみ、消しゴムを取ることができる。</p> <p>【評】数字を使ったワードゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・指導者と一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる</p> <p>・英語を話そうとする雰囲気をつくる。</p>

- ・Let's Sing "Hello Song"
- ・Let's Sing "Ten Steps"

★数について尋ねたり答えたりしよう。

○Let's Play 2 じゃんけんゲーム2

○Let's Watch and Think 映像を見て、どの国の数の言い方か□に番号を書く。

○Let's Chant "How many?"

○学習の振り返りをする。

○Let's Sing "Goodbye Song"

4 相手に伝わるように数を尋ねたり答えたりする。

○ウォームアップ

- ・Let's Sing "Hello Song"
- ・Let's Chant "How many?"

★同じ数を選んだ友達を見つけよう

○Let's Play 3 How many apples? クイズ

○Activity 1 同じ数字を選んだ友達を見付ける。

A:Hello.

B:Hello.

A:How many apples?

B:Five apples.

A:Me, too.

○Activity 2 好きな漢字を紹介し合う。

A:How many strokes?

B:One, two, three strokes.

A:Dai.

○学習の振り返りをする。

○Let's Sing "Goodbye Song"

・2～3回ほど繰り返し聞き、歌えるところと一緒に歌わせる。

・1時間目に行ったやり方をもう一度確認することで安心して取り組ませる。

・10回友達とじゃんけんをさせ、2回の合計の勝ち数を数えさせる。

・"How many circles?" "Eleven."のように友達と尋ね合わせる。

【評】じゃんけん勝敗を尋ねたり、答えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する

・日本語と似ているところや違うところに気付かせる。

・日本語の「7」は「なな・しち」と発音するなど日本語でも同じ数字でも違う発音があることに気付かせる。

・2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。

・3つのバージョンがあるので、児童の進路やレベルに応じて聞かせる。

・stroke-字画-という単語が出てくる。次時のActivity2で使用する単語なので、意味をおさえておく。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

・英語を話そうとする雰囲気をつくる。

・2～3回繰り返し聞かせる。言えるところと一緒に言わせる。

・画面を1分見て覚えさせ、画面を消し児童に尋ねる。

・"How many apples?"と尋ねて、児童に数を答えさせる。

・紙面のリンゴの絵に自分の好きな数だけ色をぬらせる。

・指導者と児童でデモンストレーションをする

・制限時間を設ける。

【評】同じ数のりんごをぬった友達を見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】同じ数のりんごをぬった友達を見付ける活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・好きな漢字を紙面に書かせる。

・漢字は、1～13画程度にさせる。

・画数だけで分からないことが予想されるので日本語でヒントを出させる。

【評】好きな漢字の画数を紹介し合う活動を通して、「学びに向かう力・人間性」を評価する。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

【 備 考 】

※言語材料

How many… ?

Ten apples. Yes. That's right. No. Sorry.

many, 数(1～20), 身の回りのもの(counter, ball…)

果物・野菜(apple, tomato…)

単元名 Unit 4 I like blue. 好きなものをつたえよう

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 多様な考え方があることに気付き、色の言い方や、好みを表した、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
 (2) 自分の好みを伝え合う。
 (3) 相手に伝わるように工夫しながら、自分の好みを紹介しようとする。

標準的な展開例

03160104_001

【準備等】 デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、色鉛筆、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 色の言い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" ★ オリジナルの虹を作ろう <ul style="list-style-type: none"> ○ Let's Sing "The Rainbow Song" ○ Activity 1 虹を描く <ul style="list-style-type: none"> ・ What's this? クイズをする。 ・ オリジナルの虹を描き、紹介する。 "My rainbow is red, blue, ... and green." ○ Let's Watch and Think 1 映像を見て、世界の子供たちと自分の虹を比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 虹の色を予想しながら視聴する。 ・ 虹を比較する。 ○ Let's Chant "I like blue." ○ 学習の振り返りをする。 ○ Let's Sing "Goodbye Song" <p>2 好きな物を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" ・ Let's Sing "The Rainbow Song" ・ Let's Chant "I like blue." ★ 自分の好きな色を伝えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ○ Let's Listen 1 誰が何色を好きか聞いて、線で結ぶ。 ○ Let's Listen 2 好き嫌いを聞いて、番号を表に書く。 ○ 好きな色やスポーツをペアで伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> A: I like... B: That's nice. / Me, too. など ○ キーワードゲーム ○ 学習の振り返りをする。 ○ Let's Sing "Goodbye Song" 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ 2～3回繰り返し聞かせ、歌えるところは指導者と一緒に歌わせる。 ・ 歌に出てきた色を尋ね、色の言い方の確認をする。 ・ 7枚の色カードを提示し、児童に英語で答えさせる。"rainbow"という言葉を引き出させる。 ・ 虹は何色でも良いとすることで、多様な虹を描かせたい。 ・ 虹の色や色の順番を尋ねながら、同じ虹がないことに気付かせる。 【評】 虹の色を伝える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 視聴する前に、各国の虹の色を児童と予想しながら見ることで、日本との違いについて考えさせる。 【評】 世界の虹を比較する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。 ・ 慣れてきたら、色ではなくスポーツや食べ物に変えて聞かせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ The Rainbow Songを歌い、色の言い方の確認をする。 ・ "Do you like red?"などと指導者が質問し、児童に"Yes / No"で答えさせるなど、好きな色を児童に尋ねるやり取りをする。 ・ 聞く前に、紙面の人物が何色が好きか予想させる。 ・ 間違えても大丈夫であることを伝え、楽しみながら聞かせる。 ・ スポーツの言い方を確認し、日本語との発音の違いに気付かせる。 ・ 聞く前に、紙面の人物がどのスポーツが好きか予想させる。 ・ 教科書にあるスポーツ以外にも児童が興味がありそうなものを紹介する。 ・ 聞いた後で、"Do you like baseball / basketball?"と聞くなど、児童と好きなスポーツについてやり取りをする。 ・ 【評】 好きな色やスポーツをペアで伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 色とスポーツの名前に限定して行う。 ・ はっきり発音させることを意識させる。 ・ キーワードゲームについては、U3第2時の「留意事項など」を参照する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

3 好きかどうか尋ねる表現を知る。

○ウォームアップ

- ・Let's Sing "Hello Song"
- ・Let's Chant "I like blue."

★友だちの好きなものを尋ねよう。

○Let's Listen 3 二人の会話を聞いて、好きなものを○でかこむ。

T: Do you like ...?

S: Yes, I do. / No, I don't.

○Let's Watch and Think 2 映像を見て、好きなものに○、嫌いなものに△を書く。

○キーワードゲームをする。

○好きかどうか尋ね合う。

A: Do you like ...?

B: Yes, I do. / No, I don't.

○学習の振り返りをする。

○Let's Sing "Goodbye Song"

4 好きな物を紹介する。

○ウォームアップ

- ・Let's Sing "Hello Song"
- ・"Let's Chant "I like blue."

★自分の好きなものをみんなに紹介をしよう。

○ミッシングゲームをする。

○Let's Play 友達の好きな物を予想して、尋ねる。

A: Do you like ...?

B: Yes, I like ... / No, I don't like ...

- ・友だちの好きなものを紹介する。

A: My friend likes ...

○Activity 好きな物を言って、自己紹介する。

Hi I'm... I like ... I don't like ...

○学習の振り返りをする。

○Let's Sing "Goodbye Song"

- ・英語を話そうとする雰囲気をつくる。

- ・2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。
- ・色以外に食べ物や、スポーツの名前など入れ替えながら確認する。

- ・活動に入る前に、児童と好きな物に関してやり取りをし、会話を聞かせる。

【評】二人の会話を聞いて、好きな物を選ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・活動に入る前に、"Do you like ...?"と聞くなど児童と好きなものや嫌いなものに関するやり取りをする。
- ・児童全員で答えを予想してから視聴させることで、意欲的に聞かせる。
- ・紙面に出てきた単語を扱う。
- ・はっきり発音させる。
- ・キーワードゲームについては、U3第2時の「留意事項など」を参照する。
- ・"How about you?"と尋ね返す表現を紹介する

【評】好きかどうか尋ね合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

- ・英語を話そうとする雰囲気をつくる。

- ・2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。

- ・色、スポーツ、食べ物など紙面に出てきた単語で行う。
- ・実態に応じて、隠すカードの枚数を1～4枚にする。

- ・ミッシングゲームについては、U3第4時の「留意事項など」を参照する。
- ・尋ねるものは、日本語でも良いことを伝える

- ・尋ねる表現、答える表現を板書しておき、安心して取り組める環境を作る。
- ・活動に入る前に、ペアで表現の確認をさせる

- ・聞き終わったら、友達の好きな物を発表させることで、相互理解を深めさせる。
- ・指導者が、デジタル教材にある絵を指さしながら、名前、好きな物、嫌いな物の順でモデルを示す。
- ・好きな物、嫌いな物はいくつも言って良いことを伝える。

【評】自己紹介の練習や発表を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- 【評】自己紹介の練習や発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

【備考】

※言語材料

I like ... Do you like ...? Yes, I do. / No, I don't.

単元名 Unit 5 What do you like? 何が好き?

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 日本語と英語の音声の違いに気付き、身の回りの物の言い方や何が好きかを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
 (2) 何が好きかを尋ねたり、答えたりして伝え合う。
 (3) 相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり、答えたりしようとする。

標準的な展開例

03160201_001

【準備等】デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 何が好きか尋ねる表現を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" ★ 何が好きか尋ねたり、答えたりしよう。 ○ スリーヒントクイズをする。 <p>○ Let's Chant "What do you like?"</p> <p>○ カルタゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末の絵カードを切る。 ・ グループでカルタゲームをする。 </p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>○ Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>2 どんなスポーツが好きか尋ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" ・ Let's Chant "What do you like?" <p>★ 友だちに好きなスポーツを尋ねよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Let's Play おはじきゲーム <p>○ インタビューゲームをする。</p> <p>A: What sport do you like? B: I like ... B: What sport do you like? A: I like ... B: Thank you. A: Bye.</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>○ Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>3 何が好きかを尋ねたり、答えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" ・ Let's Chant "What do you like?" 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 誌面のイラストから一つ選び、①食べ物やスポーツなどのカテゴリ②色③味などの三つのヒントを順番に出し、答えさせる。 ・ 分かった人は、言わずに挙手をさせ、最後にクラスで声を合わせて答えを言わせる。 ・ 2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。 ・ 色、果物、食べ物と3つのパターンから、児童の実態に応じて聞かせる。 ・ 慣れてきたら、単語を他の果物や色などに置き換えて言わせる。 ・ 最後の"Wow!! Nice ○○!"をクラスで考えそこに当てはまるような単語を決めさせる。 <p>【評】 Chantsを繰り返し発音したり、オリジナルチャンツを作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3～5人一組を作り、指導者が発音したカードを取らせる。 ・ 慣れてきたら、代表児童に発音させる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。 ・ 前時で作ったクラスのオリジナルチャンツを言わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ おはじきゲーム 誌面の任意のイラストの上におはじきを置きおはじきを置いている絵の語が発音されたらおはじきを取るゲーム。 <p>【評】 おはじきゲームで身の回りのものの単語を聞き分ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に好きな物（スポーツ）を1つ決めさせる。 ・ 自分と同じ物が好きな人を見つけさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 制限時間内にできるだけ多くの仲間を見つけさせる。 <p>【評】 友達に好きな物を尋ねたり、伝えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。

★友だちに好きなものを尋ねよう。

○Let's Listen 誰が何を好きかを聞いて線で結ぶ。

○Activity 1 友達の好きなものを予想して尋ねる。

A:What fruit do you like?

B:I like apples.

A:What color do you like?

B:I like yellow.

A:What sport do you like?

B:I like soccer.

A:Thank you.

○学習の振り返りをする。

○Let's Sing "Goodbye Song"

4 相手に伝わるように工夫して会話する。

○ウォームアップ

・Let's Sing "Hello Song"

・Let's Chant "What do you like?"

★相手に伝わるように会話をしよう。

○Let's Chant "What do you like?"

○Let's Watch and Think 映像を見て、登場人物の好きなものを□に書く。

○Activity 2 友達が何が好きかを尋ね合う。

A:What food do you like?

B:I like ...

A:What color do you like?

B:I like ...

A:What ... do you like?

○学習の振り返りをする。

○Let's Sing "Goodbye Song"

・クラスのオリジナルチャンツを言わせる。

・指導者が"What sport do you like?"や"What food do you like?"と児童に聞く。

・児童に"I like ..."と言わせるなど、好きなスポーツや食べ物についてやり取りをしてから、聞く活動に入る。

・誰が何を好きかを予想して聞かせることで、しっかり聞きたいという気持ちにさせる。

・実態に応じて、一文ずつ止めながら確認していく。

・予想させることで、予想が合っているかを確かめるという目的意識をもたせる。

・指導者と児童でデモンストレーションを行いやり方を確認してから、ペアで確認させ、自信をもって活動に取り組めるようにする。

・活動が終わったら、友達の好きなものを発表させ、クラスで共有する。

【評】好きなものを尋ねたり、伝えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・指導者と一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

・英語を話そうとする雰囲気をつくる。

・2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。

・代表児童を指名し、即興でチャンツを作らせクラスで言う。

・2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。

・クラスのオリジナルチャンツを言わせる。

・代表児童を指名し、即興でチャンツを作らせクラスで言う。

・"Do you like ...?"と尋ね、相手が

"No, I don't."と答えたところで、映像を止める。次に、児童に何が好きだと思うか予想させ、映像を流すようにすることで、児童に聞きたいという意識にさせる。

【評】映像を見て、□に好きなものを書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・指導者と児童でデモンストレーションを行いやり方を確認させる。

・ペアで練習させ、活動に自信をもって取り組めるようにする。

・途中で中間評価を入れ、ジェスチャーをしている児童やアイコンタクトをしている児童など良い例を紹介することで活動に対する意欲や質を高める。

【評】好きなものを尋ね合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】好きなものを尋ね合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・活動後に、感想を言ったり、友だちについて初めて知ったことなどを言わせる。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・指導者と一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

【 備 考 】

※言語材料

・What do you like? I like ...

・What sports do you like? I like ...

・what, color

・スポーツ (sport, volleyball, table tennis)

・飲食物 (food, hamburger, pizza, spaghetti, steak, salad...)

・果物, 野菜 (fruit, grapes, banana, lemon...)

単元名 Unit 6 ALPHABET アルファベットとなかよし

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむ。
 (2) 自分の姓名の頭文字を伝え合う。
 (3) 相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとする。

標準的な展開例

03160202_001

【準備等】デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、アルファベットカード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身の回りにあるアルファベットの大文字とその読み方に慣れ親しむ。</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" <p>★アルファベットの大文字を知ろう。</p> <p>○Let's Watch and Think 映像を見て、アルファベットの大文字について知る。</p> <p>○Activity アルファベットを○で囲む。</p> <p>○Let's Sing "ABC Song"</p> <p>○カルタゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻末のアルファベットカードを切る。 ・3～4人のグループになる。 ・発音されたカードをとる。 <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>2 アルファベットに慣れ親しむ。</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Sing "ABC Song" <p>★アルファベットを使ってゲームをしよう。</p> <p>○ビンゴゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビンゴカードにアルファベットカードを書く。 <p>A:What do you want? B:I want ….</p> <p>○A～Zまでの並び替えゲームをする。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>3 アルファベットの形を意識し、仲間分けする。</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Sing "ABC Song" <p>★アルファベットを形に着目して仲間分けしよう。</p> <p>○列対抗伝言ゲームをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・26文字の音と形を一つずつ確認する。 ・Zの発音はアメリカでは/zi:/イギリスでは、/zed/と発音することに触れ、英語にも多様性があることに気付かせる。 ・P22, 23の誌面から、大文字に○を書かせる。 ・それぞれの単語をなんと読むか考えさせ、発音させる。 【評】アルファベットを意識して、発音する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・2～3回繰り返し聞かせ、歌えるところは指導者と一緒に歌わせる。 ・誌面の文字を指しながら歌わせ、アルファベットの文字と音に慣れ親しませる。 ・"ABC Song"はいろいろな種類があるので、動画サイトなどで検索し、違う種類の"ABC Song"を流してもよい。 ・巻末のアルファベットカードを切らせる。 ・グループで1セット使用し、残りのカードは保管しておく。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる ・英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・2～3回繰り返し聞かせ、歌えるところは指導者と一緒に歌わせる。 ・4×4のビンゴカードを用意し、巻末のアルファベットカードを自由に置かせる。 ・指導者が指名した児童に欲しいアルファベットを言わせることで、遊びの中で英語を話す機会を作る。 ・リーチになったら、元気よくリーチと言わせて立たせる。 ・3～4人グループを作る。 ・アルファベットカードをA～Zに順番に並べさせる。 ・時間があれば、Zから順番に並べさせる。 【評】A～Zまでの並び替えゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる ・英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・2～3回繰り返し聞かせ、歌えるところは指導者と一緒に歌わせる。 ・1列になり、一番後ろの児童に前の児童の背

- Let's Play アルファベットの大きな文字を仲間分けする。
 - ・形に着目してアルファベットを仲間分けする。
 - ・仲間分けの仕方を発表する。

- 神経衰弱をする。

- 学習の振り返りをする。

- Let's Sing "Goodbye Song"

4 自分の姓名の頭文字を伝え合う。

- ウォームアップ
 - ・ Let's Sing "Hello Song"
 - ・ Let's Sing "ABC Song"

★ 頭文字カードを交換しよう。

- カルタゲーム
 - ・ 3～4人のグループになる。
 - ・ 言われたカードをとる。

- Activity 名前の頭文字カードを交換する。

A: Hello. The "O" card, please.
 B: Here you are.
 A: Thank you.
 B: You're welcome.
 ・カードをもらったら、自己紹介の練習をする。
 A: Hello, everyone. I'm Atsushi Takahashi. "A" and "T". Thank you.

- 学習の振り返りをする。

- 学習の振り返りをする。
- Let's Sing "Goodbye Song"

- ・ 中にアルファベットを書かせる。
- ・ 伝言ゲームの要領で、前の人の背中に文字を書かせる。
- ・ 最前列の児童は画用紙に伝えられた文字を書く。
- ・ 初めは簡単な "O" や "T" などを行い、徐々に "R" や "M" など難易度を上げていく。
- ・ スピード勝負にならないよう、最前列の児童は画用紙などに書かせ、全員が画用紙に書き終わったら、一斉に答えを確認する。
- ・ 「直線」「カーブ」「半分に折ると重なるもの」など、児童の発想で自由に仲間分けさせる。
- ・ 面白い発想のものをペアで紹介したり、代表児童に黒板に書かせて説明させることで、いろいろな発想を認めるようにする。
- 【評】 アルファベットを仲間分けする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 巻末のアルファベットカードを2セット使う
- ・ 活動の前に1枚引き、ジョーカーカードを作らせる。
- ・ 引いたカードを児童に発音させ、その発音をグループの他の人にリピートさせる。
- ・ 読み方が分からなかったら、教え合い、発音できれば良いことを伝える。
- 【評】 アルファベットを読んだり、発音したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

- ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。

- ・ 全体で一度アルファベットの発音を確認する
- ・ 児童に "What do you want?" と聞かせて、指導者が "The () card, please." でカルタを取らせる。
- ・ 巻末のアルファベットカードを数セットコピーしておく。
- ・ 初めに、指導者と児童のデモンストレーションを見せ、やり方を確認させる。
- ・ ペアで確認し、自信をもって活動に参加できるようにさせる。
- ・ アルファベットカードをテキストに貼らせ、自己紹介をさせる。
- 【評】 文字カードを友達からもらい、自己紹介する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】 文字カードを友だちからもらい、自己紹介する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

【 備 考 】

※言語材料

- ・ (The "A" card), please. Here you are. Thank you. You're welcome.
- ・ 大文字 (A～Z), the, card, alphabet
- ・ 数 (21～30, 0)

単元名 Unit 7 This is for you. カードを送ろう

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 日本語と英語の音声の違いに気付き、形の言い方や、欲しいものを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
 (2) 欲しいものを尋ねたり、答えたりして伝え合う。
 (3) 相手に伝わるように工夫しながら、自分の作品を紹介しようとする。

標準的な展開例

03160203_001

【準備等】デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、画用紙、のり、はさみ、色紙、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 形の言い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" ・ Let's Sing "ABC Song" ★形の言い方を練習しよう。 ○ サイモンセズゲームをする。 <p>○ Let's Chant "What do you want?"</p> <p>○ Let's Play 1 シェイプ・クイズ S: What shape is this? T: Circle.</p> <p>○ 形クイズを作る。 S: What do you want? T: A (blue)(square), please. S: What do you want T: Two (black) (circles), please. S: A bus.</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>○ Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>2 形の言い方に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" ・ Let's Chant "What do you want?" ★形を言えるようにしよう。 ○ Let's Play 1 シェイプ・クイズ <p>○ Let's Play 2 ポインティングゲーム</p> <p>○ キーワードゲームをする。</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>○ Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>3 欲しいものをインタビューする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ "Stand up."などの教室英語を確認してから行う。 ・ サイモンセズゲーム 指導者が文頭に"Simon says …."と言ったときのみ、児童は動いても良いというゲーム。もし、"Simon says …."と言っていない場合、その行動をしてはいけないゲーム。 ・ 間違いを楽しみ、英語を楽しませるようにする。 ・ 2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。 ・ 2種類のクイズがあるが、1つ目のシェイプ・クイズに取り組ませ、2つ目の動物クイズは、第2時で行わせる。 ・ 指導者が言った形を画用紙に描かせ、何か当てさせる。 ・ 全員描き終わったら、答えカードを見せ、違いを楽しませる。 ・ やり方が分かったら、ペアで行わせる。 【評】色や数、形の言い方を聞いたり、答えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ 2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。 ・ デジタル教材を使って、形の後ろに隠れている動物を当てさせる。 ・ 活動の後で、児童に、"Do you like …?"と聞いたりしながらやり取りをする。 ・ 誌面中の形を確認し、形の言い方を確認する ・ 慣れてきたら、児童に形を言わせる。 ・ ポインティングゲーム 指導者が発話した単語を指で示させる。 ペアで競争させる。 指導者が示す単語を発音させる。 【評】形を言ったり聞き取ったりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ スピードを変えたり、キーワードの数を換えたりして、何度も行い、形の言い方に慣れ親しませたい。 ・ キーワードゲームについては、U3第2時の「留意事項など」を参照する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。

<ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "The Rainbow Song" ・Let's Chant "What do you want?" <p>★欲しいものを尋ねたり，答えたりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Let's Watch and Think 映像を見て，世界のいろいろなグリーティングカードを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・誰にどんなカードを渡すか話し合う。 ○Let's Listen 誰の作品か線で結ぶ。 <p>○キーワードゲームをする。</p> <p>○Activity いろいろな色紙カードでグリーティングカードを作る①。</p> <p>A:What do you want? B:Green triangles, please. A:How many? B:Three, please.</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>4 オリジナルのカードを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Chant "What do you want?" <p>★好きな形を使って，カードを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Activity いろいろな色紙カードでグリーティングカードを作る②。 <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>5 作ったカードを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Chant "What do you want?" <p>★カードを紹介し，友たちに送ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポインティングゲームをする。 <p>○Activity 作ったカードを紹介し，送る。</p> <p>A:Hello ~.This is a panda. Here you are. Happy Birthday. B:Great card. Thank you.</p> <p>○振り返る <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに記入する。 ・Goodbye Song を歌う。 </p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言えるところは指導者と一緒に言わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導者がグリーティングカードの見本を作っておき，児童に見せることで最後の活動に見通しをもたせる。 ・誌面を見て，誰の形か予想させてから聞かせる。 ・キーワードゲームについては，U3 第2時の「留意事項など」を参照する。 ・誰にどんなカードを作り，何を伝えたいか紙面に書かせる。 ・全員にカードが行き渡るよう配慮する。 ・児童が欲しい形カードを事前に用意しておく <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで行う前に，指導者と児童でデモンストレーションを行う。 ・ペアで，どんな形を何枚欲しいかやり取りさせる。 <p>【評】ペアで色紙カードを交換する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・指導者も一緒に歌い，楽しい雰囲気をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・英語を話そうとする雰囲気をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・2～3回繰り返し聞かせ，言えるところは指導者と一緒に言わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・"THANK YOU." "MERRY CHRISTMAS."などのメッセージを書いたり，相手や自分の頭文字を貼らせる。 <p>【評】グリーティングカードを作る活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・指導者も一緒に歌い，楽しい雰囲気をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・英語を話そうとする雰囲気をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・2～3回繰り返し聞かせ，言えるところは指導者と一緒に言わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・P26, 27の形や色でポインティングゲームをする。 ・ポインティングゲームについては，U7 第2時の「留意事項など」を参照する。 ・交換の仕方を繰り返し確認する。 ・交換し終わったら，貰って嬉しかった感想を言わせる。 <p>【評】メッセージカードを交換する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】メッセージカードを交換する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気ですぐ歌えるよう指導者も一緒に歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・指導者も一緒に歌い，楽しい雰囲気をつくる
---	---

【 備 考 】

※言語材料

- ・What do you want? (A star), please. Here you are.
- ・形 (square, rectangle, star) ・動物 (dog, cat, panda…)

単元名 Unit 8 What's this ? これなあに？

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 外来語とそれが由来する英語の違いに気付き、身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
 (2) 身の回りの物を尋ねるクイズを出したり答えたりし合う。
 (3) 相手に伝わるように工夫しながら、クイズを出したり、答えたりしようとする。

標準的な展開例

03160301_001

【準備等】デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、野菜や果物の断面図、中国語の漢字カード、動物の足跡画像、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 わからない物を尋ねる言い方を知る。</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Sing "ABC Song" <p>★これなあに？の言い方を練習しよう。</p> <p>○Let's Play 1 虫眼鏡に映るものが何か考える。 A:What's this? Can you guess? B:It's ...</p> <p>○Let's Chant "What's this?"</p> <p>○キーワードゲームを行う。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>2 外来語と英語の違いに気付き、身の回りの物の言い方を知る。</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Chant "What's this?" <p>★英語で何と言うか知ろう。</p> <p>○Let's Play 2 映像を見て、何かを考える。</p> <p>○写真クイズをする。</p> <p>○キーワードゲームを行う。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>3 身の回りの物でクイズをする。</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Chant "What's this?" <p>★いろいろなクイズにチャレンジしよう</p> <p>○Activity 1 ヒント・クイズをする。 Hint1:A fruit Hint2:Yellow Hint3:Monkey A:What's this?</p>	<p>・英語を話そうとする雰囲気をつくる。</p> <p>・児童の日本語のつぶやきを英語で何と言うか尋ねながら行う。</p> <p>・紙面の絵以外にも、生き物の一部を拡大したカードを用意しておき、What's this?の表現に慣れ親しませる。</p> <p>【評】何の生き物かをあてる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。</p> <p>・スピードを変えたり、キーワードの数を変えたりして、何度も行い、生き物の言い方に慣れ親しませたい。</p> <p>・キーワードゲームについては、U3第2時の「留意事項など」を参照する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる</p> <p>・英語を話そうとする雰囲気をつくる。</p> <p>・単語を前時で学習した生き物に変えて行うことで、活動に変化をつける。</p> <p>・2～3回繰り返し聞かせ、言えるところは指導者と一緒に言わせる。</p> <p>・単語を前時で学習した生き物に変えて行うことで、活動に変化をつける。</p> <p>・ピーマンやトマトなど身の回りにある野菜を英語でどういふか確認し、日本語と英語の発音の違いに気付かせる。</p> <p>・活動の後で、"What's this?" "Do you like it?"などと児童とやり取りをし、表現に慣れ親しませる。</p> <p>・野菜や果物の断面図やシルエットの絵カードや写真を準備しておく。</p> <p>【評】写真クイズの活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・写真クイズで学習した野菜や果物の単語でキーワードゲームを行う。</p> <p>・キーワードゲームについては、U3第2時の「留意事項など」を参照する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる</p> <p>・英語を話そうとする雰囲気をつくる。</p> <p>・誌面に載っている食べ物や物の言い方を確認する。</p> <p>・ヒントを一つずつ言い、分かったところで手を挙げさせる。</p> <p>・指導者が"What's this?"と言い、児童全員に</p>

B:It's a banana.

- Activity 2 漢字クイズをする。
It's a star fish. This kanji means "starfish."

- Activity 3 足跡クイズをする
It's a cat.

- 学習の振り返りをする。

- Let's Sing "Goodbye Song"

4 クイズを出したり、答えたりする。

- ウォームアップ
 - ・Let's Sing "Hello Song"
 - ・Let's Chant "What's this?"
- ★オリジナルクイズを作ろう
- ブラックボックスゲームをする。
A:What's this?
B:It's a ...

- オリジナルクイズを作る。

- 学習の振り返りをする。

- Let's Sing "Goodbye Song"

5 相手に伝わるように、クイズを出したり、答えたりする

- ウォームアップ
 - ・Let's Sing "Hello Song"
 - ・Let's Chant "What's this?"
- ★クイズ大会をしよう。
- クイズ大会をする。

- キーワードゲームをする。

- 学習の振り返りをする。

- Let's Sing "Goodbye Song"

答えを言わせることで、児童に理解したという気持ちをもたせる。

【評】英語を聞き、問題に答える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ・漢字の意味から、日本語を考えさせる。
日本語から、英語で何というか予想させる。

- ・"What's this?"などと質問し、児童に答えさせる。
- ・中国語は日本語と同じ漢字で意味が違うものが多いので、事前にいくつか準備しておく。
- ・動物の足跡をいくつか用意しておく。
- ・"Can you guess?" "Do you like cats?"など児童とやりとりをし、児童に英語を話したいという気持ちにさせる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

- ・英語を話そうとする雰囲気をつくる。

- ・箱の中に物を入れ、触感で何かを当てるさせる。
- ・児童が答えを言う際に、他の児童に"What's this?"と言わせてから答えさせることで、表現の定着をはかる。
- ・クイズの後で、"Do you like this?"などと質問するなどやり取りをし、英語を話したいという意欲をもたせる。
- ・2～3人のグループを作る。
- ・前時で行った三つのクイズから一つ作りたい物を選ばせる。
- ・PC等を使い、画像や漢字、足跡などを選ばせることで、児童が主体的にクイズ作りに取り組めるようにしたい。
- ・時間があれば、他のクイズも作らせる。
- 【評】クイズを作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

- ・英語を話そうとする雰囲気をつくる。

- ・前時に作ったクイズを順番に出題させる。
- ・グループ対抗にすることで、意欲的に活動に参加させる。
- 【評】クイズを出したり、答えたりすることを通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- 【評】クイズを出したり、答えたりすることを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・クイズ大会で出てきた単語でキーワードゲームを行う。
- ・キーワードゲームについては、U3第2時の「留意事項など」を参照する。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる

【 備 考 】

※言語材料

- ・What's this? Hint, please. It's (a fruit). That's right.
- ・it, hint, sea, 動物

単元名 Unit 9 Who are you? きみはだれ?

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付き、誰かと尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
 (2) 絵本などの短い話を聞いて、おおよその内容が分かる。
 (3) 絵本などの短い話を反応しながら聞くとともに、相手に伝わるように台詞をまねて言おうとする。

標準的な展開例

03160302_001

【準備等】デジタル教材, 大型テレビ, 教師用絵カード, 画用紙, 振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 物語の内容を予想して聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" ・ Let's Sing "ABC Song" ★ どんな話か予想して物語を聞こう。 ○ 物語を聞く。 <p>○ ミッシングゲームをする。</p> <p>○ キーワードゲームをする。</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>○ Let's Sing "Goodbye Song"</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ イラストを見て、どんな話か予想させる。 ・ 2～3回読み、言えるところは一緒に言わせる。 【評】物語を予想しながら聞く活動を通して、「主体的に学習するに取り組む態度」を評価する。 ・ 物語に出てくる動物を順番にかくしていく。 ・ ミッシングゲームについては、U3第4時の「留意事項など」を参照する。 ・ 紙面の狐の台詞にある数字の確認をする。 ・ キーワードゲームについては、U3第2時の「留意事項など」を参照する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる
<p>2 物語のおよその内容をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" ・ Let's Sing "ABC Song" ★ 物語の内容をつかもう。 ○ 物語を聞く。 <p>○ チェーンゲームをする。</p> <p>A: Who are you? B: I'm ... C: Who are you? D: You are ... I'm ...</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>○ Let's Sing "Goodbye Song"</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ 2～3回読み、言えるところは一緒に言わせる。 ・ それぞれの動物の特徴を確認する。 ・ 4人グループを作る。 ・ 前に行った動物を覚えながら、自分の動物を言わせる。 ・ 動物を言わせた後で、ジェスチャーをつけさせることで、楽しい雰囲気をつくる。 【評】友達の言った動物を聞き、自分の動物を言う活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる
<p>3 役割演技をする。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Hello Song" ・ Let's Sing "ABC Song" ★ 役割に分かれて演じよう。 ○ 物語を聞く。 <p>○ 動物のお面を作る。</p> <p>○ 役割演技をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話そうとする雰囲気をつくる。 ・ 2～3回読み、言えるところは一緒に言わせる。 ・ それぞれの台詞でどんな言い方をしたらよいか、児童からアイデアを出させる。 ・ 4人グループを作り、役割を分担させる。 ・ 一人に2～3役割り振る。 ・ お面もしくは、ペープサートで使用する絵を作らせる。 ・ 動物の台詞の言い方を工夫したり、ジェスチャーをさせたりする。 【評】役割演技をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

<p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>4 役割演技をする。(2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Sing "ABC Song" <p>★気持ちを考えて台詞を言おう。</p> <p>○物語を聞く。</p> <p>○役割演技をする。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p> <p>5 発表会をする。</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Sing "ABC Song" <p>★発表会をしよう。</p> <p>○発表する。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Let's Sing "Goodbye Song"</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる <p>・英語を話そうとする雰囲気をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～3回読み、言えるところは一緒に言わせる。 ・児童それぞれがどんなことを工夫して台詞を言っているか意見を出させる。 ・実際に児童に言わせ、多様な読み方を認めることで意欲につなげる。 ・動物の台詞の言い方を工夫したり、ジェスチャーをさせたりする。 ・中間発表で、指導者が確認をし、台詞の言い方やジェスチャーについてアドバイスをする <p>【評】役割演技をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる <p>・英語を話そうとする雰囲気をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに工夫したところを言わせ、発表させる。 ・発表が終わったら、ほかのグループに良かったところを言わせることで、英語を話せたという自信につなげたい。 <p>【評】お話を発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】お話を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・指導者も一緒に歌い、楽しい雰囲気をつくる
---	--

【 備 考 】

※言語材料

- ・Are you...? Yes, I am. / No, I'm not.
- ・Who are you? I'm ...

単元名 Unit 1 Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつをしよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) さまざまな挨拶の仕方があることに気付くとともに、さまざまな挨拶の言い方に慣れ親しむ。
 (2) 友達と挨拶をして、自分の好みなどを伝え合う。
 (3) 相手に配慮しながら、友達と挨拶をして、自分の好みなどを伝え合おうとする。

標準的な展開例

04160101_001

【準備等】 デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、国旗カード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 世界の挨拶を言う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ 始めの挨拶の仕方を確認する。 A: How are you? B: I'm ... ・ 3年生の外国語の外国語活動で学習したことを思い出す。 ★ 世界の様々な挨拶の仕方を知り、挨拶をしよう。 ○ Let's Watch and Think 映像を見て、気付いたことを□に書く。 ○ 挨拶ゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣同士、英語で挨拶をし合う。 ・ 国を1つ選び、ジェスチャーを交え、5人と挨拶を交わし、座る。 ○ Let's Listen 1 どの国の挨拶か聞いて、番号を□に書く。 ○ Let's Play 挨拶をして、友達の好きなものを尋ねる。 <ul style="list-style-type: none"> A: Hello. What do you like? B: I like ... Do you like ...? A: Yes. ○ 学習の振り返りをする。 <p>2 自己紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする。 A: How are you? B: I'm ... ★ 好きなものと言って、挨拶をし合おう。 ○ Let's Watch and Think 2 映像を見て、分かったことを□に書く。 ○ Let's Listen 2 登場人物について、分かったことを□に書く。 ○ Activity 挨拶をして、友だちの好きなことや嫌いなことを尋ねたり、答えたりする。 <ul style="list-style-type: none"> A: Hello. I'm ... I like ... I don't like ... Do you like ...? B: Yes, I do. I like ..., too. ○ 学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ fine, happy, hungryなどの感情表現をジェスチャーとともに確認する。 ・ 3年生の外国語活動で学んだ事を想起させる ・ ジェスチャーや、各言語の文字の違いに気付かせる。 ・ 国旗カードを用い、教材と併用して進める。 ・ まず、英語の挨拶を視聴し、他の国を視聴するようにする。 ・ 英語で挨拶を交わした後で、児童に好きな国を選ばせ、教室の中でジェスチャーを交え、挨拶をさせる活動をする。 ・ 国旗カードを用い、国の言い方を確認しながら行うようにする。 【評】世界の挨拶を聞いて、復唱する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ "What do you like?" "I like ..."の表現を繰り返し練習してから進める。 ・ 答えを聞いた後で、"I see." "Me, too."などの反応ができるように児童に指示する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者がジェスチャーを大きくしたり、楽しみながら言ったりすることで、英語を話す雰囲気づくりをする。 ・ 時間や場面に応じた挨拶があることを気付かせる。 ・ 1日の生活のいろいろな場面の挨拶を出し合い、日本語と英語を比較させる。 ・ "I like..."や"I don't like..."の言い方を児童から引き出し、練習させる。 ・ 音声を聞いて、登場人物の名前、好きなものや好きではないものを□に記入させる。 ・ デジタル教材でモデルの音声を聞かせ、どのようなやりとりをしたらよいか見通しをもたせる。 ・ 活動に入る前に繰り返し練習し、児童が自信をもって活動に取り組めるようにさせる。 【評】挨拶をして、好きなもの、好きではないものを伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】挨拶をして、好きなもの、好きではないものを伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※言語材料

- ・ Hello. Good (morning / afternoon / night).
- ・ I like ...
- ・ Goodbye. See you.

単元名 Unit 2 Let's play cards. 好きな遊びを伝えよう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 世界と日本の遊びの共通点と相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、さまざまな動作、遊びや天気の違い、遊びに誘う表現に慣れ親しむ。
 (2) 好きな遊びについて尋ねたり、答えたりして伝え合う。
 (3) 相手に配慮しながら、友達を自分の好きな遊びに誘おうとする。

標準的な展開例

04160102_001

【準備等】デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、天気や体の部位が書かれたカードをグループの数×2セット分、振り返しシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 天気や遊びの言い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ★天気の言い方を知ろう。 <ul style="list-style-type: none"> ○Let's Chant "How's the weather?" ○挿絵を見て、何をしている場面かを考える。 ○Let's Watch and Think 1 映像を見て、日本や世界の子供達の遊びについて知る。 ○Let's Sing "One Little Finger" ○学習の振り返りをする。 <p>2 天気や遊びの言い方に慣れ親しみ、さまざまな動作を表す語句や遊びに誘う表現を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "One Little Finger" ・Let's Chant "How's the weather?" ★自分の好きな遊びに誘う表現を知ろう。 <ul style="list-style-type: none"> ○Let's Listen 1 誰がどんな天気でどんな遊びをするか聞いて、線で結ぶ。 ○Simon Saysゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・動作の言い方を知る。 (sand up, sit down, stop, jump, walk, touch) ・Simon Says Gameを行う。 ○Let's Listen 2 天気と衣類について聞き、線で結ぶ。 ○学習の振り返りをする。 <p>3 天気に応じた遊びに誘う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Chant "How's the weather?" ★天気に応じた遊びに誘おう。 <ul style="list-style-type: none"> ○Let's Listen 3 世界の天気について、天気の絵を口に書く。 ○Let's Watch and Think 2 映像を見て、世界のさまざまな天気とその様子について知る。 ○天気に応じた遊びに誘う。 <ul style="list-style-type: none"> A: It's sunny. Let's play soccer. B: Yes, let's! 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌は、指導者も一緒に歌う。 ・Let's Sing "Hello Song"はLT1 P8を参考にする。 ・最初は聞くだけとし、数回流す。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 ・慣れてきたら、指導者も一緒に歌い、雰囲気づくりをする。 ・日本各地の登場人物が何をしているのかを考えて答えさせる。 ・子供達の遊びの様子を視聴し、自分たちの遊びと世界の子供達の遊びの共通点や、相違点を発表する。 【評】日本と世界の子供達の遊びの相違点や共通点を知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・顔のパーツの名前を確認する。 ・音声を聞かせ、内容を質問する。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・指導者も一緒に歌うことで、英語を話す雰囲気づくりをする。 ・天気についてのやりとりが行われた後で、一度止める。誌面の三つのどれかを尋ねる。その上で、誌面の遊びは何か児童に尋ねる。 【評】音声を聞いて、天気と遊びを聞き取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・動作の言い方はジェスチャーとともに、繰り返し確認させる。 ・音声を聞く前に、衣服の言い方を紹介するようにする。 ・聞く前にどの天気とどの衣類が組み合わせるかを予想させることで、意欲的に聞く活動に取り組ませる。 【評】音声を聞いて、天気と衣類を聞く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・歌は、指導者も一緒に歌うことで、英語を話す雰囲気づくりをする。 ・"Hello Song"はLT1 P8を参考にする。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・他にもどのような天気があるか児童から意見を出させて、活動に入る意欲化を図る。 ・世界にはさまざまな天気や自然環境があることに注意を向けさせる。 ・いろいろな気候の画像を用意するなどして、世界への関心を高めさせたい。 ・【評】天気に応じた遊びに誘う活動を通して「知識・技能」を評価する。

<p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○Play Cards</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルタゲームをする。 ・ババ抜きをする。 <p>4 相手に配慮しながら、友達を自分の好きな遊びに誘おうとする。</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Hello Song" ・Let's Chant "How's the weather?" <p>★友達を好きな遊びに誘おう。</p> <p>○Let's Listen 3 世界の天気について、天気の絵を□に書く。</p> <p>○友達を自分の好きな遊びに誘う。</p> <p>A:I like baseball. Do you like baseball? B:Yes, I do. A:Let's play baseball. B:Yes, let's.</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・4～5人組を作らせる。 ・各グループにカードを2セット配布する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルールをばば抜きと同じにするが、めくったカードを英語で発音させる。 <p>【評】カードゲームで英語を発音する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者も一緒に歌うことで、英語を話す雰囲気づくりをする。 ・"Hello Song"はLT1 P8を参考にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・他にもどのような天気があるか児童から意見を出させて、活動に入る意欲化をはかる。 ・教師と児童でデモンストレーションをして、活動の見通しをもたせる。 <p>【評】友達を好きな遊びに誘う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】友達を好きな遊びに誘う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
--	---

【 備 考 】

※言語材料

- ・How's the weather? It's [sunny, rainy, cloudy, snowy].
- ・Let's play cards. Yes, let's.
- ・Sorry. Stand up. Sit down. Stop. Walk. Turn around,

単元名 Unit 3 I like Mondays. すきな曜日は何かな？

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 世界の同世代の子供たちの生活を知るとともに、曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
 (2) 自分の好きな曜日について、尋ねたり、答えたりして伝え合う。
 (3) 相手に配慮しながら、自分の好きな曜日を伝え合おうとする。

標準的な展開例

04160103_001

【準備等】 デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 世界の同世代の子供たちの生活の共通点に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ Let's Sing "Hello Song" <p>★世界の子供たちと自分たちの生活を比べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スリーヒントクイズ <ul style="list-style-type: none"> ① School lunch ② White ③ Cow ○ Let's Watch and Think 世界の子供たちの生活を自分の生活と比べる。 <p>○ Let's Chant "What day is it?"</p> <p>○ Let's Listen 一週間の予定について聞く。</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>2 曜日の言い方や曜日に尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "What day is it?" <p>★曜日の言い方に慣れよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ミッシングゲームをする。 <p>○ Let's Play 曜日クイズをする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 教師の出すクイズに取り組む。 ② 自分の予定を書く。 ③ デモンストレーションをして、ルールを確認する。 ④ ペアでクイズに答える。 </p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>3 自分の好きな曜日について尋ねたり、答えたりして伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "What day is it?" ・ キーワードゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌は、指導者も一緒に歌うことで、英語を話す雰囲気づくりをする。 ・ "Hello Song"はLT1 P8を参考にする。 ・ 教科書に載っている物やテレビ番組など身近なものからヒントを出し、楽しい雰囲気をつくる。 ・ 国旗を見て、どこの国かを考えさせる。 ・ 共通点を予想させる。 ・ 動画を視聴し、世界の子供たちの生活と自分達の生活を比べ、共通点を考えさせる。 ・ 全てを聞き取ったり、理解したりしなくてもよいことを伝える。 ・ 最初は聞くだけとし、数回流す。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 ・ 長いチャンツであるので、今回は、スクリプトの3行分のみを扱う。 ・ 音声を聞かせる前に、誌面の予定を確認させる。 【評】一週間の予定を聞く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に言い、授業の雰囲気づくりをする。 ・ 最後まで聞き、できるところだけ口ずさめるよう伝える。 ・ 2～3回聞き、表現に慣れ親しませる。 ・ 決して完璧に覚えなくても良いことを伝える ・ 曜日や動作カードを使って行う。 ・ 実態に応じて、隠すカードの枚数を1～4枚にする。 ・ ミッシングゲーム 黒板に単語カードを貼る。 児童に目を閉じさせる。 その間に単語カードを数枚隠す。 目を開け、なくなったカードを当てさせる。 ・ 表に書き入れるのは、イラストや日本語とする。 ・ ヒントは単語や日本語でもよい。 ・ ジェスチャーを入れ、自分の想いを伝える工夫をさせる。 ・ 時間があれば、ペアを変えて繰り返し行わせる。 【評】一週間の予定で曜日クイズをし合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に言い、授業の雰囲気づくりをする。 ・ 曜日を使って行う。 ・ キーワードゲーム ペアの間に消しゴムを一個置かせる。

★自分と同じ曜日が好きな人を探そう。
○Let's Watch and Think 2 好きな曜日を尋ねたり、遊びに誘ったりする様子を見て、分かったことを書く。

○Activity 同じ曜日が好きな友達を探す。
A:Do you like Mondays?
B:No, I don't. I like Fridays.
Do you like Fridays?
A:No, I don't. I like Mondays.

○学習の振り返りをする。

練習した単語の中からキーワードを決める。

児童は、指導者がキーワードを発音したときのみ、消しゴムを取ることができる。

- ・誌面イラストを見て、登場人物を確認した上で、どのような会話をしているか予想させてから視聴させる。
 - ・全てを理解する必要はないことを伝える。
 - ・活動が終わった後で、"Do you like…?" "What TV program do you like?"などと質問をし、次の活動につなげる。
 - ・数名の児童とやり取りの例を示し、やり方を確認する。
 - ・なぜその曜日が好きなのか、理由も聞くことで、自分と違う考えをもっている人がいることに興味をもたせる。
- 【評】自分と同じ曜日が好きな人を探す活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※言語材料

- ・What day is it? It's (Monday).
- ・Do you like (Mondays)? Yes, I do. / No, I don't.
- ・Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday, Sunday

単元名 Unit 4 What time is it? 今、何時?

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 世界の国や地域によって時刻が異なることに気付くとともに、時刻や生活時間の言い方や尋ね方に慣れ親しむ。
 (2) 自分の好きな時間について伝え合う。
 (3) 相手に配慮しながら、自分の好きな時間について伝え合おうとする。

標準的な展開例

04160104_001

【準備等】 デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、ビンゴシート (Unit1-2, 1-3), 振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 時刻の言い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "What day is it?" ★ 時刻の言い方を知ろう。 ○ どんな場面か考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ wake-up, breakfast, study, bath, bed ○ 先生の生活を知る。 <p>○ Let's Watch and Think 1 映像を見て、時刻と日課を線で結ぶ。</p> <p>○ Let's Chant "What time is it?"</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>2 時刻の言い方に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "What time is it?" ★ 時刻の言い方に慣れよう。 ○ ポインティングゲーム <p>○ Let's Watch and Think 2 時刻を聞いて、時計を完成させ、日課と線で結ぶ。 T: It's twelve in Tokyo. T: What time is it in London/ Sanfrancisco/ New York?</p> <p>○ ビンゴゲーム</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>3 時刻を尋ねたり、答えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "What time is it?" ★ 時刻を尋ねたり、答えたりしよう。 ○ Let's Listen 時刻を聞いて、時計を完成させる。 <p>○ Let's Watch and Think 1 映像を見て、時刻と日課のやりとりをする。 T: What time is your "Wake-up Time"? S: It's... ○ 何時に寝ているか調べよう。 S: What time is your "Bed Time"? S: It's ten o'clock.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話す雰囲気をつくる。 ・ 日課の言い方を紹介して、日課の絵カードを黒板に順に掲示する。 ・ 円(時計の外枠)を描き、指導者自身の日課を紹介しながら、時計に見立てた円に短針と長針を描き、時刻を示す。 ・ ALTと授業を行っている場合、ALTにも生活を聞き、児童自身の生活と比べながら聞かせる ・ 児童自身の生活と比べながら聞くよう指示を出し、一つずつ視聴させる。 ・ 日課と時刻を線で結ばせる。 【評】 登場人物がどの時間に何をするか聞く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 最初は聞くだけとし、数回流す。 ・ 慣れてきたら、指導者と一緒に言わせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 2～3回繰り返す。 ・ 指導者も一緒になって言い、楽しい雰囲気をつくる。 ・ ポインティングゲーム <ul style="list-style-type: none"> 指導者が発話した単語を指で示させる。 ペアで競争させる。 指導者が示す単語を発音させる。 ・ 東京の映像を見せ、正午であることを確認する。 ・ "What time is it in London/Sanfrancisco/New York?"と尋ね、時差を感じさせる。 ・ 世界の様々な地域で、それぞれの生活スタイルがあることを感じさせる。 【評】 日本である時刻に、世界では様々な生活が行われていることを知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 3×3マスのビンゴシートを配り、数字の確認をする。 ・ ビンゴシートに1～12の数字を書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に"What time is it?"と尋ねさせ、指導者が答えるようにする。 ・ 実態に応じて、児童間でやりとりをさせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 2～3回繰り返す。 ・ 指導者も一緒になって言い、楽しい雰囲気をつくる。 ・ 前時のビンゴゲームで学習した時間の尋ね方や答え方をもう一度確認してから進める。 ・ 映像を通して見せ、児童に生活の時間を質問しながらやりとりを行う。 ・ Let's Watch and Think 1のやりとりを児童同士でさせる。 ・ 寝る時間など、児童全員に聞き、どの時間が

<p>○学習の振り返りをする。</p> <p>4 自分の好きな時間とその理由を伝え合う。</p> <p>○ウォームアップ Let's Chant "What time is it?"</p> <p>★好きな時間を伝え合おう。</p> <p>○Let's Watch and Think 2 時刻を聞き、やりとりをする</p> <p>○Activity お気に入りの時刻とその理由を伝え合う。 A:Hello B:Hi,A. A:I like 3:00. B:Why? A:It's "Snack Time". I like cakes. How about you? B:I like... A:OK. Thank you. B:Thank you.</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>多かったかななどの調査をするなど、やりとりに必然性をもたせる。</p> <p>【評】友達に寝る時間を尋ねる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・2～3回繰り返す。</p> <p>・指導者も一緒になって言い、楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>・再度デジタル教材を視聴する。映像の中の日課や時刻について"What time is it?"などと聞き、やりとりをする。</p> <p>・次の活動につなげるため、児童数人とやり取りを繰り返し、児童にイメージをつかませる</p> <p>・会話のモデル例を示す。</p> <p>・指導者が"Why"の使い方を伝え、例を示す。</p> <p>・活動を途中でやめ、中間評価を行い、ねらいに沿った活動ができている児童を紹介する。</p> <p>【評】自分の好きな時間を伝えたり、友達に尋ねたりする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】自分の好きな時間を伝えたり、友達に尋ねたりする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p>
---	--

【 備 考 】

※言語材料

- ・What time is it? It's (8:30). It's (Homework Time). How about you?
- ・forty, fifty, sixty

単元名 Unit 5 Do you have a pen ? おすすめの文房具セットをつくろう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 文房具などの学校で使う物や、持ち物を尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
 (2) 文房具など学校で使う物について、尋ねたり答えたりして伝え合う。
 (3) 相手に配慮しながら、文房具など学校で使う物について伝え合おうとする。

標準的な展開例

04160201_001

【準備等】 デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、ビンゴゲームカード、文房具絵カード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 文房具の言い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ Let's Chant "What time is it?" ★ 文房具の言い方を知ろう。 ○ 何があるか予想する。 ・ 教師のかばんの中身を予想する。 <p>○ Let's Watch and Think 1 映像を見て、何がいくつかあるか考える。</p> <p>○ キーワードゲーム</p> <p>○ Let's Play 1 I spy ゲームをする。 I spy with my little eyes ... something blue.</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>2 かばんの中身を尋ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ Let's Chant "What day is it?" ★ 持っている物と持っていない物を伝え合おう。 ○ ビンゴゲーム <p>○ Do you have ゲームをする。 ・ 絵カードを2セット分配る。 A: Do you have a pencil? B: Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>○ Let's Chant "Do you have a pen?"</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>3 かばんの中身を尋ねたり、答えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ ・ Let's Chant "Do you have a pen?" ★ 友達の持っている文房具を尋ねよう。 ○ Let's Listen 登場人物の筆箱の中身を聞き、□に名前を書く。 ○ キーワードゲーム <p>○ Let's Watch and Think 2 映像を見て、世界の子供達のかばんの中身について気付いたことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を話す雰囲気をつくる。 ・ かばんの中に筆箱、ノート、本、教科書、ホッチキス、マグネット、ハンカチなどを入れておく。 ・ 一つずつ紹介していく。 ・ 児童と"Do you have a pencil in your desk?"や"How many pencils?" Let's count together."などと聞き、やり取りをする。 ・ 文房具の言い方を確認して、それぞれがいくつかあるかと尋ねた後で映像を見せる。 ・ 文房具でキーワードゲームをさせる。 ・ キーワードゲームについては、U3第3時の「留意事項など」を参照する。 ・ 指導者が持ち物のヒントを言い、児童の持ち物から同じものを探させる。 ・ 指導者が言ったものを確認させ、合っていたら1ポイントとする。 【評】 指導者が言った文具を聞き取り、それを探す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 英語を話す雰囲気をつくる。 ・ 児童用絵カードを9枚(3×3)並べさせる ・ 指導者が"Do you have ...?"と聞き、ある場合は"Yes, I do."と言わせ、裏返させる。 ・ 慣れてきたら、児童に"Do you have ...?"と尋ねさせる。 ・ 4人一組(偶数)を作り、ババ抜き の要領でゲームを進めさせる。 ・ ゲームを開始する前に、"Do you have...?"の表現を繰り返し確認し、自信をもち活動に取り組ませる。 【評】 持っている文房具を尋ねたり、答えたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 2～3回繰り返しさせる。 ・ 初めは動画を視聴させる。慣れてきたら、ペアになり一人が質問し、もう一人が答えるという形をとる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 2～3回繰り返しさせる。 ・ 指導者も一緒になって言い、楽しい雰囲気をつくる。 ・ 登場人物の文房具の数や色に注意して聞くように伝える。 ・ 文房具でキーワードゲームをさせる。 ・ キーワードゲームについては、U3第3時の「留意事項など」を参照する。 ・ 数名の児童にかばんの中身を尋ね、世界の子供たちのかばんの中身を予想させて聞かせる

o Let's Play 2 文房具セットを作り，友達と伝え合う。
A: Do you have a pen?
B: Yes, I do. / No, I don't.

o 学習の振り返りをする。

4 友達の好みの文房具セットを作る。

o ウォームアップ
Let's Chant "Do you have a pen?"

★文房具セットを作ってプレゼントしよう。

o Activity 文房具セットを作り，友達に送ろう。
Look. This is for ○○ sensei.
I have three blue pencils. One eraser.
I have a blue ruler. I have a blue stapler.
Two notebooks. One blue marker.
○○ sensei likes blue.

o 学習の振り返りをする。

ことで，興味をもち動画を視聴させる。
・ペアを作り，一方に文房具カードを置き，自分の文房具セットを作らせる。
・文房具を見せ合わないよう，ペアの文房具を尋ねさせる。
・活動に入る前に，デモンストレーションをし表現の確認をすることで，自信をもち，活動に入れるようにする。

【評】 ペアの子の文房具を予想し，尋ねる活動を通して，「知識・技能」を評価する。
・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・2～3回繰り返す。
・指導者も一緒になって言い，楽しい雰囲気をつくる。

・お店屋さんごっこの要領で，文房具品を渡す側ともらう側に分ける。
・"Do you have ~?" "Yes, I do. Here you are."
"No, I don't. Sorry." などとやり取りをして必要なものを集めさせる。
・紙に集めた絵カードを貼って，文房具セットを完成させる。
・ワークシート (Unit 5-1, 5-2) から切り取った文房具のカードを使用させる。誰のためにどのようなセットを作ったかを紹介させる

・理由が複雑な場合は，日本語も使ってよいこととする。

【評】 作った文房具セットについて説明する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

【評】 作った文房具セットについて説明する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※言語材料

- ・Do you have ...? Yes, I do. / No, I don't.
- ・This is for you.

単元名 Unit 6 Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。
 (2) 身の回りにあるアルファベットの文字クイズを出したり答えたりする。
 (3) 相手に配慮しながら、アルファベットの文字について伝え合おうとする。

標準的な展開例

04160202_001

【準備等】デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、学区内の標識写真、ビンゴゲームカード、アルファベットカード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身の回りには活字体の文字に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "What day is it?" ★ アルファベットの小文字に慣れよう。 <ul style="list-style-type: none"> ○ どの文字があるか探す。 ○ Let's Watch and Think 映像を見て、アルファベットの 小文字を知る。 ○ Let's Sing "ABC Song" ○ ポインティングゲーム アルファベットを聞き分け、指でさす。 ○ ミッシングゲーム ○ Let's Chant "Alphabet Chant" ○ 学習の振り返りをする。 <p>2 活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "What time is it?" ・ Let's Chant "Alphabet Chant" ★ アルファベットの小文字を使ってゲームをしよう。 <ul style="list-style-type: none"> ○ ミッシングゲーム ○ おはじきゲーム <ul style="list-style-type: none"> ① ペアで相談し、小文字の中から5つ選ぶ。 ② 文字の上におはじきを置く。 ③ 指導者が発音したおはじきをとる。 ○ マッチングゲーム <ul style="list-style-type: none"> ① 4人組を作る。 ② アルファベットの小文字を順番に並べる。 ③ 小文字の上に大文字を並べる。 ○ アルファベット神経衰弱 ○ 学習の振り返りをする。 <p>3 アルファベットの文字について尋ねたり、答えたりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "Do you have a pen?" ・ Let's Sing "ABC Song" ★ アルファベットで文字クイズをしよう。 <ul style="list-style-type: none"> ○ ビンゴゲーム アルファベットの小文字を16枚選び、ビンゴゲームをす 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3回繰り返す。 ・ 指導者も一緒になって言い、楽しい雰囲気をつくる。 ・ テキストにはどのような小文字があるか発表させる。 ・ 大文字と小文字の2つの文字があることに気付かせたい。 ・ デジタル教材の他に、校区内にある看板や標識も意識させる。 ・ 事前に学区内の活字体が使われているものを撮影して印刷しておく。 ・ 筆記体についても軽く触れる。 【評】アルファベットの小文字を知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 指導者も一緒に2～3回繰り返し、アルファベットにたっぷり親しませる。 ・ 慣れてきたら、スピードを変化させたり、児童に言わせたりして、単調にならないように留意する。 ・ ポインティングゲームについては、U4第2時の「留意事項など」を参照する。 ・ ミッシングゲームについては、U3第2時の「留意事項など」を参照する。 ・ 指導者も一緒に確認する。 ・ スピードを変えながら2～3回繰り返し、アルファベットに親しませる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 指導者も一緒に確認する。 ・ 2～3回繰り返し練習させる。 ・ ミッシングゲームについては、U3第2時の「留意事項など」を参照する。 ・ 児童に小文字から5つ選ばせ、文字の上におはじきを置かせる。 ・ 指導者は、小文字カードから10枚選び、児童に、Do you have～? と尋ねさせる。Yes, I do. I have ～. と答えた文字の上にあるおはじきをとらせる。 ・ 実態に応じて、アルファベットを前半後半に分けて並べさせる。 ・ グループ間で競争させ、意欲を高める。 【評】アルファベットを順番に並べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ マッチングゲームで使ったカードを裏向きにしてシャッフルさせる。 ・ 引いたカードを声に出して発音させる。カードが合ったら自分のカードにさせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 2～3回繰り返し言わせる。 ・ 指導者も一緒に言い、楽しい雰囲気をつくる ・ 小文字カードから16枚選び、ビンゴシート4×4で並べさせる。

- る。
- Let's Listen 看板や表示の説明を聞いて、番号を□に書く。
 - 文字クイズをする。
A: I have four letters. I have "G" and "e".
Who am I?
B: You are "Game".

○ 学習の振り返りをする。

4 相手に配慮しながら、アルファベットの文字を伝え合う

- ウォームアップ
 - ・ Let's Sing "ABC Song"
 - ・ Let's Chant "Alphabet Chant"

★使われているアルファベットクイズを伝え合おう。

- Activity 1 好きな看板や表示を選び、その文字を友達と当て合う。
誌面から絵の一つを選ぶ
A: What is my sign?
B: Do you have ~?
A: Yes, I do. / No, I don't.

- Activity 2 好きな色の一つ選んで、その色の文字を友達と当て合う。
①色の言い方の確認をする。
②P18-19の文房具で同じように友達と当て合う。

○ 学習の振り返りをする。

- ・活動の前に、誌面の標識を確認することで、安心して活動に取り組めるようにする。
- ・Let's Listenと同じ要領で、P22, 23ページの町全体の中から一つ単語選び、ペアでクイズを行わせる。

【評】誌面の文字からアルファベットクイズを作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。
・時間があれば、ペアを変えて繰り返し行わせたい。
・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・指導者も一緒に確認する。
- ・2～3回繰り返し練習させる。

- ・児童を指名し、デモンストレーションをし、活動をクラスで確認する。
- ・ペアで、文字について尋ね合わせ、相手の表示を考え答えさせる。

【評】アルファベットクイズを作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】アルファベットクイズを作る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ペアで色のクイズを作ったり、文房具のクイズを作ったりして、アルファベットのクイズを何度も作り、解かせるようにする。
- ・時間があれば、実態に応じて、家庭からお菓子の箱や広告などアルファベットのものを持ち寄り、アルファベット文字辞典を作り、そこから出題させる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【備考】

※言語材料

- ・Look. What's this? Hint, please.
- ・How many letters? I have (six).
- ・Do you have (a "b")? Yes, I do. / No, I don't.
- ・That's right. Sorry. Try again.

単元名 Unit 7 What do you want? ほしいものは何かな?

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 食材の言い方や、欲しい物を尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ
 (2) 欲しい食材などを尋ねたり要求したりするとともに、考えたメニューを紹介し合う。
 (3) 相手に配慮しながら、自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。

標準的な展開例

04160203_001

【準備等】 デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、児童果物・野菜カード、ビンゴゲームカード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 食材の言い方や欲しい物を尋ねたり、要求したりする表現を知る。</p> <p>○ ウォームアップ ・ Let's Sing "ABC Song"</p> <p>★ 食材の言い方を知ろう。</p> <p>○ 好きな野菜や果物を尋ねる。 T: Do you like corns? S: Yes, I do. T: Why?</p> <p>○ Let's Watch and Think 映像を見て、世界の市場と日本の市場を比べる。</p> <p>○ 欲しい物を尋ねたり、要求したりする表現を知る。 T: What fruits do you want? S: I want bananas.</p> <p>○ Let's Chant "What do you want?" ○ 学習の振り返りをする。</p> <p>2 欲しい物を尋ねたり、要求したりする表現に慣れ親しむ</p> <p>○ ウォームアップ ・ Let's Chant "Do you have a pen?" ・ Let's Chant "What do you want?"</p> <p>★ 欲しいものを伝えあって、パフェを作ろう。</p> <p>○ Let's Play おはじきゲーム</p> <p>○ Let's Listen 1 誰がどのパフェが好きか線で結ぶ。</p> <p>○ Activity 1 友達と果物カードをやりとりして、パフェを作る。 A: What do you want? B: I want ..., please. A: OK. How many ...? B: Three, please. A: Three? OK. Here you are. ○ 学習の振り返りをする。</p> <p>3 フルーツパフェについて紹介する。</p> <p>○ ウォームアップ ・ Let's Chant "What do you want?"</p> <p>★ 自分のパフェを紹介しよう。</p> <p>○ キーワードゲーム</p> <p>○ Activity パフェを紹介する。 A: My parfait. I have bananas, peaches and strawberries. I like strawberries. B: Good. Very nice parfait. A: Thank you. How about you?</p>	<p>・ 2～3回繰り返す。</p> <p>・ 指導者も一緒になって言い、楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>・ 教材に載っている食材を題材に、それらが好きかどうかを尋ね、児童とやりとりする。</p> <p>・ 日本と世界の市場を比べ、共通点や相違点に気付かせる。 【評】 動画を視聴し、世界と日本の食文化の違いを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 児童に Let's make a delicious fruit parfait. と呼びかけて、代表児童を店員に見立てて、デモを行う。</p> <p>・ 次時にペアでやることを伝え、何人かの児童に体験させる。</p> <p>・ チャンツを数回流し、指導者も一緒に言う。</p> <p>・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・ 指導者も一緒に言い、英語を話す雰囲気をつくる。</p> <p>・ 児童に What do you want? と尋ねさせ、指導者が I want potatoes (carrots, ...), please. と返す形で進める。</p> <p>・ 登場人物と、それぞれのパフェの中にどんな果物が入っているのかを確認してから聞かせる。</p> <p>・ ペアになり、お店屋さんとお客さんに別れさせる。</p> <p>・ パフェの入れ物の絵を描き、果物カードをそこに貼ってパフェにさせる。 【評】 自分の好きな果物を言い、パフェを作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・ チャンツを数回流し、指導者も一緒に言う。</p> <p>・ 最後のsaladの部分をfruit juiceなどに変え児童と一緒にフルーツでチャンツを作ること、意欲を高める。</p> <p>・ フルーツでキーワードゲームをさせる。</p> <p>・ キーワードゲームについては、U3第3時の「留意事項など」を参照する。</p> <p>・ 前時で作ったパフェカードを使用させる。</p> <p>・ 活動に入る前に代表児童とデモンストレーションを行い、流れのイメージをつかませる。</p> <p>・ 児童同士で十分に練習させ、活動に自信をもち入れるようにさせる。</p> <p>・ 活動の途中で中間評価を行う。 【評】 自分の作ったパフェを紹介する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評</p>

<p>○学習の振り返りをする。</p> <p>4 食材について欲しい物を尋ねたり，答えたりして伝え合う。</p> <p>○ウォームアップ</p> <p>・Let's Chant "What do you want?"</p> <p>★オリジナルピザを作ろう。</p> <p>○Let's Listen 2 野菜・果物について聞いて，線で結ぶ</p> <p>○Activity 2 友達と食べ物カードをやりとりして，オリジナルのピザを紹介する。</p> <p>A:What do you want? B:I want ...,please. A:OK. How many ...? B:Three, please. A:Three? OK. Here you are.</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <p>5 相手に配慮しながら，自分のオリジナルピザを紹介する</p> <p>○ウォームアップ</p> <p>・Let's Chant "What do you want?"</p> <p>★自分のピザを紹介しよう。</p> <p>○キーワードゲーム</p> <p>○Activity ピザを紹介する。</p> <p>A:This is my pizza, (ピザの名前). I have onions, mushrooms and potatoes. I like vegetables. B:Good. Very nice pizza. A:Thahk you. How about you?</p> <p>○ミッシングゲーム</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>価する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・チャンツを数回流し，指導者も一緒に言う。</p> <p>・最後のsaladの部分をpizzaなどに変え，本時の活動へのイメージをもたせる。</p> <p>・聞く活動の後で，どんな野菜が好きかを尋ねながら行う。</p> <p>・今まで学習した野菜の言い方を思い出させたり，野菜の言い方を紹介したりする。</p> <p>・ペアになり，お店屋さんとお客さんに別れさせる。</p> <p>・ピザの絵を描き，野菜カードを台紙に貼ってピザにさせる。</p> <p>・ピザに「元気もりもりピザ」や「健康第一ピザ」などテーマを決めさせ，次時の発表につなげさせる。</p> <p>【評】自分の好きな野菜を言い，ピザを作る活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・チャンツを数回流し，指導者も一緒に言う。</p> <p>・ピザの材料だけで，キーワードゲームをさせる。</p> <p>・キーワードゲームについては，U3第3時の「留意事項など」を参照する。</p> <p>・前時で作ったピザカードを使用させる。</p> <p>・活動に入る前に代表児童とデモンストレーションを行い，流れのイメージをつかませる。</p> <p>・児童同士で十分に練習させ，活動に自信をもち入れるようにさせる。</p> <p>活動の途中で中間評価を行い，やり取りをしているグループを褒められるようにする。</p> <p>【評】自分の作ったピザを紹介する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】自分の作ったピザを紹介する活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ミッシングゲームについては，U3第2時の「留意事項など」を参照する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p>
--	---

【 備 考 】

※言語材料

- ・What do you want? I want (potatoes), please.
- ・How many? (Two), please.
- ・Here you are. Thank you.

単元名 Unit 8 This is my favorite place. お気に入りの場所をしょうかいしよう 配当時間 4時間

単元の目標 (1) 世界と日本の学校生活の共通点や相違点を通して、多様な考えがあることに気付くとともに、教科名や教室の言い方や道案内の仕方に慣れ親しむ。
(2) 自分が気に入っている校内の場所に案内したり、その場所について伝え合ったりしている。
(3) 相手に配慮しながら、自分が気に入っている場所について伝え合おうとしている。

標準的な展開例

04160301_001

【準備等】 デジタル教材，大型テレビ，教師用絵カード，校内の教室や特別教室の写真，学校見取り図，振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 教科名や教室の言い方に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "ABC Song" ★ 教科名や教室の言い方を知ろう。 ○ 学校クイズをする <p>○ Let's Play 1 ポインティングゲーム</p> <p>○ Let's Chant "School Chant"</p> <p>○ Simon saysゲーム "Simon says turn right." "Sit down." "Stand up." "Go straight!"</p> <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>2 道案内の仕方に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "School Chant" ★ 道案内をしよう。 ○ Let's Watch and Think 1 映像を見て、どの場所か考える。 <p>○ Let's Listen 1 地図を見ながら、どの場所か考える。</p> <p>○ 道案内をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ① Simon says ゲーム ② 自分の教室から、道案内をする。 <p>○ 学習の振り返りをする。</p> <p>3 日本と世界の学校の相違点や共通点に気付くとともに、自分のお気に入りの場所について伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "School Chant" ★ お気に入りの場所を伝え合おう。 ○ Let's Play 1 ポインティングゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者も一緒に歌い、英語を話す雰囲気をつくる。 ・ スリーヒントクイズやジェスチャーゲームなどのゲームを通して、教室の名前に出会わせる。 ・ 意欲を高めるため、グループ対抗のゲーム形式にする。 ・ 指導者が言う教室の名前を聞いて、紙面にある教室を指ささせる。 ・ ペアで確認しながら行ったり、競争したりするなどを教室名に親しませる。 ・ 日本語との共通点や相違点にも気付かせるようにする。 <p>【評】 教室の英語の言い方を知り、日本語との違いを確認する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポインティングゲームについては、U4 第2時の「留意事項など」を参照する。 ・ チャンツを数回流し、指導者も一緒に言う。 ・ 指導者が指示する英語に沿って動かせる。 ・ 何度か繰り返し確認し、本単元で使う道案内の指示語に慣れ親しませる。 ・ 慣れてきたら、児童に指示の言葉を言わせる <p>【評】 指示を聞いて、適切に動く活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ チャンツを数回流し、指導者も一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような英語が聞こえてきたかを発表させる。 <p>【評】 道案内の方法を視聴し、やり取りする活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室名を全体で確認してから、聞くことで、児童に安心して取り組ませる。 ・ Simon saysゲームで、道案内の表現を確認させる。 ・ 数回繰り返すことで、無理なく方向指示の表現に慣れ親しませる。 ・ テレビ画面に校舎内の見取り図を映し、自分の教室から、特別教室までの行き方を考えさせる。 ・ 慣れてきたら、ペアになり取り組ませる。 ・ スタート地点とゴール地点は揃え、毎回確認しながら進める。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ チャンツを数回流し、指導者も一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで教室名を確認しながら行い、慣れてきたら競争しながら教室の言い方を確認していく。 ・ ポインティングゲームについては、U4 第2

- Let's Listen 2 誰がどの場所を好きか聞いて、当てはまる場所を線で結ぶ。
- Let's Watch and Think 2 映像を見て、学校の様子について、気付いたことを□に書く。

- Let's Play 2 学校内の好きな場所を伝え合い、□に友達の名前を書く。

- 学習の振り返りをする。

4 相手に配慮しながら、自分の気に入っている場所について紹介する。

- ウォームアップ

・Let's Chant "School Chant"

- ★お気に入りの場所を紹介しよう。

- Let's Listen 2 お気に入りの場所の紹介方法を考える

- Activity 友達と好きな場所を紹介し合う。

A:I like books. The library is my favorite place.

B:Good.

A:How about you?

- お気に入りの場所を発表する。

Hi, everyone. I'm ... Turn right. Go straight.

I like books. The library is my favorite place.

- 学習の振り返りをする。

時の「留意事項など」を参照する。

- ・音声を聞く前に、イラストの人物名と、教室の名前を確認しておく。
- ・外国と日本の違いなど気付いたことを□に書かせる。
- ・数回視聴し、まとまりのある内容で聞くよう意識させる。
- ・すべて理解する必要はないことを伝える。
- 【評】映像を見て、学校の様子を知る活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・児童の実態に応じて、クイズ形式かインタビュー形式かを選択して行う。
- ・活動に入る前に、デモンストレーションを行い、方法を確認させる。ペアで練習させ、児童が安心して取り組めるようにする。
- 【評】学校内で自分のお気に入りの場所を理由とともに伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・チャンツを数回流し、指導者も一緒に言う。

- ・再度音声を聞かせ、どのように紹介するとよいかを考えさせる。
- ・児童とのデモンストレーションを見せ、流れをつかませる。
- ・中間評価を行い、はっきり話をしている児童や、アイコンタクトを意識している児童を紹介し、その後の発表につなげる。
- ・児童の実態に応じて、クラス全体の前で発表するか、グループ内で発表するか選択する。

【評】自分のお気に入りの場所を理由とともに紹介する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】自分のお気に入りの場所を理由とともに紹介する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※言語材料

- ・Go straight. Turn (right / left). Stop. This is (the music room).
- ・This is my favorite place. Why? I like (music).

単元名 Unit 9 This is my day. ぼく・わたしの一日

配当時間 5時間

- 単元の目標 (1) 日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付き、日課を表す表現に慣れ親しむ。
 (2) 絵本などの短い話を聞いて反応したり、およその内容が分かったりする。
 (3) 相手に配慮しながら、絵本などの短い話を聞いて反応しようとする。

標準的な展開例

04160302_001

【準備等】 デジタル教材、大型テレビ、教師用絵カード、日課絵カード、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日課を表す表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "What time is it?" ★ 物語を聞いて、答えよう。 ○ キーワードゲーム ○ 物語を聞く <ul style="list-style-type: none"> どんなことをしていたか話し合う。 What's his name? What time is Kazu's wake up time? ○ どのページかなクイズ ○ 物語の順に並べる。 ○ 学習の振り返りをする。 <p>2 日課を表す表現に慣れ親しみ、絵本などの短いまとまりのある文章を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Chant "What do you want?" ★ 物語を聞いて内容をつかむ。 ○ 物語を聞く。 ○ ミッシングゲーム ○ ジェスチャー・ゲーム <ul style="list-style-type: none"> wash my face, brush my teeth, put away my futon etc. ○ 学習の振り返りをする。 <p>3 絵本などの短いまとまりのある文章を聞き、およその内容をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "ABC Song" ★ およその内容を伝えあう。 ○ 物語を聞く。 ○ カードを並び替える。 ○ ペアで伝え合う。 ○ 学習の振り返りをする。 <p>4 まとまりのある話を聞いて、そのおおまかな内容が分か</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数回流し、英語を話す雰囲気をつくる。 ・ 物語の中に出てくる日課で行う。 ・ キーワードゲームについては、U3 第3時の「留意事項など」を参照する。 ・ 物語を読む前に、初めのページを見せてどんな物語かを予想させる。 ・ 絵の中で英語で言えそうなものを考えさせる <p>【評】 英語の物語を聞き、そこから質問に答える活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者が、Unit 4 で出てくる日課を言い、誌面のページを開かせる。 ・ 読み聞かせの話に合わせて絵カードを並べさせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数回流し英語を話す雰囲気をつくる。 ・ 物語のセリフを言えそうなところは、一緒に言わせる。 ・ 児童と指導者で役割を分けたり、質問をしたりして、繰り返し物語に触れさせる。 ・ 日課でミッシングゲームをさせる。 ・ ミッシングゲームについては、U3 第2時の「留意事項など」を参照する。 ・ 日課を表す動きをジェスチャーで表し、それが何かを児童に答えさせる。 <p>【評】 日課を表す英語を楽しくジェスチャーし伝える活動を通して、「知識・技能」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数回流し、英語を話す雰囲気をつくる。 ・ 2～3回繰り返し聞かせる。 ・ 絵本のセリフで言えそうなところは、一緒に言わせる。 ・ 読める箇所を少しずつ増やして、文字と音声の関係に慣れ親しませる。 ・ ワークシート (Unit9-1, 9-2) の絵カードを切り離れたものを各児童に1セットずつ用意し、ペアで順番になるように並び替えさせる ・ ペアの一人が1枚のカードを選び、そのカードにある物を参考に主人公の気持ちなどを想像して、英語で言わせる。 ・ もう一人に、ペアが説明したカードを選ばせる。 <p>【評】 ペアが説明したカードを予想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

り、反応する。
 ○ウォームアップ
 ・Let's Chant "Do you have a pen?"
 ★好きなページを紹介しよう。
 ○物語を聞こう。

○好きなページを言う。
 I like this page. Kazu, a green curtain...

○ペアで好きなページを紹介する。
 A:What page do you like?
 B:"Wash my face." "I'm sleepy."
 A:Page 35.
 B:That's right. I like sleeping.
 ○学習の振り返りをする。

5 相手に配慮しながら、まとまりのある話を聞き、反応しようとする。

○ウォームアップ
 ・Let's Chant "What time is it?"
 ★内容が伝わるように物語を読もう。
 ○物語を声に出して読む。

○Who am I? クイズに答える。
 I wake up at 6:00. I'm very sleepy.
 I eat breakfast. Yummy.
 I walk with my dog. My dog, Taro. It's cute.
 Do you have a pet / any pets?
 ○Who am I? クイズを作る。

○学習の振り返りをする。

・数回流し、英語を話す雰囲気をつくる。

・2～3回繰り返し聞かせる。
 ・見ないで言えるところは見ないで言わせる。

・ジェスチャーも付けて言わせる。
 【評】物語を聞いて反応する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
 ・What page do you like?と児童に問いかけ、好きなページを決めさせる。代表児童3～5名程度に紹介させる。
 ・ペアになり、好きなページを紹介しあう。
 【評】好きなページを理由とともに紹介する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・数回流し、英語を話す雰囲気をつくる。

・2～3回繰り返し聞かせる。
 ・3時間目で考えた登場人物の感情が伝わるように工夫して読ませる。
 ・一人で読めるように、ペアで読み聞かせ合わせる。
 【評】ペアで読み聞かせる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
 ・指導者の一日を紹介する。
 ・児童とやり取りをしながら紹介する。
 ・時間があれば、校内の先生方の過ごし方について事前に聞いておき、それを紹介する。

・指導者の例をもとに、友達や、好きなキャラクターの生活をクイズにさせる。
 ・好きなスポーツや、食べ物など誰か分かるヒントを入れさせる。
 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※言語材料

- ・I wake up (at 6:00).
- ・I have breakfast (at 7:00).
- ・I go to school.
- ・I go home.

単元名 Unit 1 Hello, friends.

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 名前や好きなもの・ことを伝える語句と表現を身に付けるとともに、活字体の大文字を理解することができる。

(2) 名前や好きなもの・ことを伝える目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、伝え合うことができる。

(3) 他者に配慮しながら、名前や好きなもの・ことを主体的に伝えるとともに、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

05160101_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学び方みいつけた！ 1 / Starting Out (1)</p> <p>○英語を使って将来したいことを書く。</p> <p>○学び方みいつけた！ 1 教室英語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3, 4年の外国語活動で使った英語を発表する。 <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Nice to meet you." ・Let's Chant "How do you spell your name?" ・Small Talk "What is your name?" "My name is … ."または, "I'm … ." <p>★学校でのやり取りを聞いて、正しい場面を選ぼう。</p> <p>○Word Link スポーツ PD(P. 7)</p> <p>○Let's Try 1 ワードゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PD(P. 7)の単語でポインティングゲームをする。 <p>○Starting Out 学校でのやり取りを聞いて、聞こえた順に□に番号を書く。</p> <p>○Sounds and Letters 大文字を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字カードを机の上に並べ、指導者が言う文字カードを見せる。 ・指導者が示す文字カードの名前を言う。 <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Nice to meet you." ・Let's Chant "What sport do you like?" <p>★学校でのやり取りを聞いて、およその内容を聞き取ろう</p> <p>○Word Link 学校 PD(P. 24)</p> <p>○Let's Try 1 ワードゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PD(P. 24)の単語でポインティングゲームをする。 <p>○Starting Out 学校でのやり取りを聞いて、分かったことを発表する。</p> <p>○Let's Watch and Think 外国の小学生について分かったことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞いて分かったことを教科書に書き込む。 ・分かったことを発表する。 <p>○Sounds and Letters 大文字を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字カードを机の上に並べ、指導者が言う文字カードを見せる。 ・指導者が示す文字カードの名前を言う。 <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・P. 2～3の絵を見て、英語が使えるとどんな良いことがあるのかを想起させてから書かせる。 ・挨拶の仕方や授業のルールの確認も行う。 ・3, 4年生で学んだ場面を想起させる。 <p>【評】発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・最初は聞くだけでし、数回流す。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 ・PD(P. 38)を参照させ、名前の答え方などを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声をを使って、スポーツの単語を確認する。 ・ポインティングゲーム 指導者が発話した単語を指で指させる。 ペアで競争させる。 指導者が示す単語を発音させる。 ・絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】学校でのやり取りの聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻末の大文字カードを机の上に並べさせる。 ・指導者は文字の名前を言い、児童にそのカードを見せるように指示する。 ・指導者が文字カードを見せ、児童に名前を言わせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声をを使って、学校の単語を確認する。 ・ポインティングゲームについては、U1 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 <p>【評】学校でのやり取りの聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前、出身地、好きなことなどのポイントをおさえて聞くように指示する。 ・分かったことを発表するとき、アメリカやメキシコについて知っていることを発表させる。 ・巻末の大文字カードを机の上に並べさせる。 ・指導者は文字の名前を言い、児童にそのカードを見せるように指示する。 ・指導者が文字カードを見せ、児童に名前を言わせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自

3 Your Turn (1)

○ウォームアップ

- ・Let's Sing "Nice to meet you."
- ・Let's Chant "What sport do you like?"
- ・Small Talk "What sport do you like?"

★好きなもの・ことについてたずね合おう。

○Word Link 色 PD(P. 6)

○Let's Listen 1 登場人物の好ききらいを聞いて、線で結ぶ。

○Let's Try 2 好きなもの・ことやできるスポーツなどについて、友達とペアで尋ね合う。

A: What color (sport / food) do you like?

B: I like

○Sounds and Letters 大文字を書く。

- ・大文字のA～Gの名前を言いながら書く。

○本時の学習を振り返る。

4 Your Turn (2)

○ウォームアップ

- ・Let's Sing "Nice to meet you."
- ・Let's Chant "How do you spell your name?"

★自分の好きな色と食べ物を表現しよう。

○Word Link 食べ物 PD(P. 8)

○Let's Listen 2 登場人物の名前のつづりを聞き、○で囲む。

○Let's Try 3 自分の好きな色と食べ物を考える。

- ・似顔絵を描き、Iと自分の名前を4線上に書く。
- ・巻末の絵カードを教科書に置く。

○Sounds and Letters 大文字を書く。

- ・大文字のH～Nの名前を言いながら書く。

○本時の学習を振り返る。

5 Enjoy Communication (1)

○ウォームアップ

- ・Let's Sing "Nice to meet you."
- ・Let's Chant "How do you spell your name?"
- ・Let's Chant "What sport do you like?"
- ・Small Talk "What color do you like?"

★名刺交換の準備をしよう。

○Step 1

- (1) 名刺カードを切り取り、自分の名前を大文字で書く
- (2) ペアを組んで、名前のつづりを尋ね合う。

A: How do you spell your name?

B: E-M-I-L-Y. Emily.

○Step 2

- (1) 名刺カードの名前の下に好きなスポーツの絵を描く
- (2) ペアを組んで、好きなスポーツについて尋ね合う。

A: What sport do you like?

B: I like soccer.

○Sounds and Letters 大文字を書く。

- ・大文字のO～Tの名前を言いながら書く。

○本時の学習を振り返る。

6 Enjoy Communication (2)

己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。
- ・PD(P. 7)を参照させ、主なスポーツを確認してもよい。

- ・音声を使って、色の単語を確認する。
- ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・活動のモデルとして、児童に質問させ(例: What color do you like?), 指導者が答え(例: I like red.)を言い、教科書に日本語で答えを記入させる。
- ・同様にスポーツと食べ物についても行い、2人の友達に尋ねさせる。
- 【評】好きなもの・ことなどについてのやり取りを通して、「知識・技能」を評価する。
- ・アルファベットチャートで大文字の名前を確認する。
- ・P. 86に大文字のA～Gを、名前を言わせながら書かせる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。

- ・音声を使って、食べ物の単語を確認する。
- ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・時間があれば、ペアで名前のつづりを尋ね合わせる。
- ・最初に自分の似顔絵と名前のつづりを書かせる。
- ・教科書の空欄に巻末絵カードを置いて文を作り、繰り返し練習させ、児童の語順に対する気付きを促す。
- 【評】英語の語順について考える活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・アルファベットチャートで大文字の名前を確認する。
- ・P. 86～87に大文字のH～Nを、名前を言わせながら書かせる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。

- ・PD(P. 6)を参照させ、主な色を確認してもよい。

- ・モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。
- ・名前のつづりを言うときは、カードを相手に見せながら言うように指示する。

- ・同じカードに自分の好きなスポーツの絵を描くように指示する。
- ・モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。
- 【評】好きなスポーツを書いて尋ね合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・アルファベットチャートで大文字の名前を確認する。
- ・P. 87に大文字のO～Tを、名前を言わせながら書かせる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

<p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Nice to meet you." ・Let's Chant "How do you spell your name?" ・Let's Chant "What sport do you like?" <p>★名刺交換をしよう。</p> <p>○Step 3</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 新しく 2 枚のカードに名前と絵などを新たに記入する。 (2) 3 枚の名刺を交換する。 (3) 新しく作った名刺カードを持ち、同様の活動を行う (4) 名刺カードをP. 34に貼る。 <p>○Sounds and Letters 大文字を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大文字のU～Zの名前を言いながら書く。 <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <p>・P. 15の目標が達成できるように練習させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。 ・活動が終わったら、交換した名刺を本人に返し、1枚をP. 34に貼らせる。 <p>【評】名刺を交換する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】名刺を交換する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットチャートで大文字の名前を確認する。 ・P. 87に大文字のU～Zを、名前を言わせながら書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
<p>7 Over the Horizon (1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Nice to meet you." ・Let's Chant "How do you spell your name?" ・Let's Chant "What sport do you like?" ・Small Talk "What fruit do you like?" <p>★世界の名前について考えよう。</p> <p>○Do you know? 世界の国や文化について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) アメリカ、ベトナム、サウジアラビアという異なる名前の文化について、考えたことや意見を発表する (2) クイズの答えを予想し、空欄に答えを記入する。 (3) クイズの答え合わせをする。 <p>○Challenge 姓と名を分けて伝える自己紹介をする。</p> <p>"I'm (名). My family name is (姓)."</p> <p>○Sounds and Letters Let's Play BINGO!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P. 92のBINGO表にアルファベットを書き込む。 ・指導者が言う文字に○をしてBINGOゲームを行う。 <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <p>・PD(P. 10)を参照させ、主な果物を確認してもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界の国の文化について考えさせる。 ・世界の子供たちの名前を通して、異なる文化について考えさせる。 <p>【評】世界の名前について考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介のモデルを見せることで、My family name is (姓).で、姓を表すことができることに気付かせる。 ・モデルに合わせて、ペアで活動できるように指示する。 ・既習の表現(例: What is your name?)を使うよう指示する。 ・Let's Play BINGO! <p>アルファベットチャートで大文字の名前を確認する。</p> <p>指導者が指定した16文字を、P. 92のBINGOのマスの中に自由に書き込ませる。</p> <p>指導者用絵カードをシャッフルし、16文字を読み上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
<p>8 Over the Horizon (2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Nice to meet you." ・Let's Chant "How do you spell your name?" ・Let's Chant "What sport do you like?" <p>★自分のことを表す日本語について考えよう。</p> <p>○ことば探検 英語の「I」にあたる、自分を表す日本語を空欄に記入し、考えたことや気付いたことを発表する。</p> <p>○日本のすてき インタビューを聞く。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) Findlayさんについての映像や音声を聞き、およその内容を理解する。 (2) 分かったことを記入し発表する。 <p>○Sounds and Letters Let's Play BINGO!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P. 92のBINGO表にアルファベットを書き込む。 ・指導者が言う文字に○をしてBINGOゲームを行う。 <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語と英語を比べてみてどんなことを感じたのかを右のメモ欄に記入させる。 ・考えたことや気付いたこと（例：日本語の表現の豊かさ）を発表させる。 <p>【評】「I」にあたる日本語を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ビンゴについては、U1 第7時の「留意事項など」を参照する。 <p>【評】ビンゴの活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自

【 備 考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし, 余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり, パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- How do you spell your name?
- E-M-I-L-Y. Emily.
- What ... do you like?
- I like
- Nice to meet you.

単元名 Unit 2 When is your birthday?

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 誕生日やほしいものを伝える語句と表現を身に付けるとともに、活字体の小文字を理解することができる。
- (2) 誕生日やほしいものを伝える目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、伝え合うことができる。
- (3) 他者に配慮しながら、誕生日やほしいものを主体的に伝えたとともに、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

05160102_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Starting Out (1)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Happy Birthday!" ・ Let's Chant "When is your birthday?" ・ Small Talk "What day is it today?" <p>★誕生日やほしいものを聞いて、正しい場面を選ぼう。</p> <p>○ Word Link 月 PD(P.14~15)</p> <p>○ Let's Try 1 ワードゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PD(P14~15)の単語でキーワードゲームをする。 <p>○ Starting Out 誕生日やほしいものを聞いて、聞こえた順に口に番号を書く。</p> <p>○ Sounds and Letters 小文字を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字カードを机の上に並べ、指導者が言う文字カードを見せる。 ・ 指導者が示す文字カードの名前を言う。 <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Happy Birthday!" ・ Let's Chant "What do you want?" <p>★誕生日やほしいものについて、およその内容を聞き取ろう。</p> <p>○ Word Link 日付 PD(P.14~15)</p> <p>○ Let's Try 1 ワードゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PD(P14~15)の単語でキーワードゲームをする。 <p>○ Starting Out 誕生日やほしいものを聞いて、分かったことを発表する。</p> <p>○ Let's Watch and Think 行事について分かったことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を聞いて分かったことを教科書に書き込む。 ・ 分かったことを発表する。 <p>○ Sounds and Letters 小文字を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字カードを机の上に並べ、指導者が言う文字カードを見せる。 ・ 指導者が示す文字カードの名前を言う。 <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>3 Your Turn (1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 最初は聞くだけとし、数回流す。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 ・ PD(P.15)を参照させ、主な曜日などを確認してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使って、月の単語を確認する。 ・ キーワードゲーム <p>ペアの間に消しゴムを一個置かせる。 練習した単語の中からキーワードを決める。</p> <p>児童は、指導者がキーワードを発音したときのみ、消しゴムを取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・ 通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・ もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】誕生日やほしいものの聞き取りを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末の小文字カードを机の上に並べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者は文字の名前を言い、児童にそのカードを見せるように指示する。 ・ 指導者が文字カードを見せ、児童に名前を言わせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使って、日付の単語を確認させる。 ・ キーワードゲームについては、U2 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・ 繰り返し聞かせ、誕生日やほしいものを伝えるのに必要な表現に気付かせる。 <p>【評】誕生日やほしいものの聞き取りを通して「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行事の名前、場所などのポイントをおさえて聞くように指導する。 ・ 分かったことを発表するときに、オーストラリアやタイについて知っていることを発表させる。 ・ 巻末の小文字カードを机の上に並べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者は文字の名前を言い、児童にそのカードを見せるように指示する。 ・ 指導者が文字カードを見せ、児童に名前を言わせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

<p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Happy Birthday!" ・Let's Chant "What do you want?" ・Small Talk "When is New Year's Day?" <p>★誕生日についてたずね合おう。</p> <p>○Word Link 衣類 PD(P.21)</p> <p>○Let's Listen 1 登場人物の誕生日やほしいものを聞いて、線で結ぶ。</p> <p>○Let's Try 2 誕生日について、友達とペアで尋ね合い、誕生日チェーンを作る。</p> <p>A: When is your birthday?</p> <p>B: My birthday is July 23rd.</p> <p>○Sounds and Letters 小文字を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小文字のa～gの名前を言いながら書く。 <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>4 Your Turn (2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Happy birthday!" ・Let's Chant "When is your birthday?" <p>★ほしいものについてたずね合おう。</p> <p>○Word Link 状態 PD(P.29)</p> <p>○Let's Try 3 誕生日に欲しいものについて、友達とペアで尋ね合う。</p> <p>A: What do you want for your birthday?</p> <p>B: I want a red cap.</p> <p>○Let's Listen 2 行事について聞いて、日付と何の日かを表に書く。</p> <p>○Let's Try 4 それぞれの行事で欲しいものについて、友達とペアで尋ね合う。</p> <p>A: What do you want for Christmas?</p> <p>B: I want a baseball.</p> <p>○Sounds and Letters 小文字を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小文字のh～nの名前を言いながら書く。 <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>5 Enjoy Communication (1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Happy Birthday!" ・Let's Chant "When is your birthday?" ・Let's Chant "What do you want?" ・Small Talk "What do you want for Christmas?" <p>★バースデーカードの準備をしよう。</p> <p>○Step 1</p> <p>(1) ペアを組んで、誕生日を尋ね合う。</p> <p>A: When is your birthday?</p> <p>B: My birthday is May 5th.</p> <p>(2) 友達の誕生日を切り取ったバースデーカードに書く</p> <p>○Step 2</p> <p>(1) ペアで欲しいものを尋ね合う。</p> <p>A: What do you want for your birthday?</p> <p>B: I want a yellow T-shirt.</p> <p>(2) 友達の欲しいものをカードに書く。</p> <p>(3) メッセージを書いて、バースデーカードを完成する</p> <p>○Sounds and Letters 小文字を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小文字のo～tの名前を言いながら書く。 <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>6 Enjoy Communication (2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Happy Birthday!" ・Let's Chant "When is your birthday?" ・Let's Chant "What do you want?" <p>★バースデーカードを交換しよう。</p> <p>○Step 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・PD(P.28)を参照させ、年中行事を確認してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、衣類の単語を確認させる。 ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。 ・活動のモデルとして、児童に質問させ、指導者が答えを言う。 【評】誕生日について尋ねるやり取りを通して「知識・技能」を評価する。 ・アルファベットチャートで小文字の名前を確認する。 ・P.88に小文字のa～gを、名前を言わせながら書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、状態の単語を確認する。 ・活動のモデルとして、児童に質問させ、指導者が答えを言い、教科書に日本語で答えを記入させる。 ・同様に3人の友達に聞けるように行う。 【評】誕生日に欲しいものについて尋ね合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。 ・Let's Try 3で使用した表現を生かしてやり取りをさせる。 ・表は日本語で書いてもよいことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットチャートで小文字の名前を確認する。 ・P.88～89に小文字のh～nを、名前を言わせながら書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・PD(P.34)を参照させ、主な表現を確認してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。 ・友達の欲しいものは絵で書かせる。 【評】バースデーカードを作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・アルファベットチャートで小文字の名前を確認する。 ・P.89に小文字のo～tを、名前を言わせながら書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・P.23の目標が達成できるように練習させる。
---	--

- (1) あいさつをし、誕生日と欲しいものを尋ねる。
- (2) バースデーカードを贈る。
- (3) バースデーカードをP.34に貼る。

- Sounds and Letters 小文字を書く。
 - ・小文字のu～zの名前を言いながら書く。

- 本時の学習を振り返る。

7 Over the Horizon (1)

- ウォームアップ
 - ・ Let's Sing "Happy Birthday!"
 - ・ Let's Chant "When is your birthday?"
 - ・ Let's Chant "What do you want?"
 - ・ Small Talk "What's the date today?"

★世界の一年について考えよう。

- Do you know? 世界の行事や祝日について考える。
 - (1) 世界の行事や祝日について考えたことや意見を発表する。
 - (2) クイズの答えを予想し、番号に○を付ける。
 - (3) クイズの答え合わせをする。

- Challenge 誕生月にある世界の行事や祝日を伝える。
"My birthday is December 3rd.
Christmas is in December."

- Sounds and Letters Let's Play BINGO!
 - ・ P.92のBINGO表にアルファベットを書き込む。
 - ・ 指導者が言う文字に○をしてBINGOゲームを行う。
- 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

- ウォームアップ
 - ・ Let's Sing "Happy Birthday!"
 - ・ Let's Chant "When is your birthday?"
 - ・ Let's Chant "What do you want?"

★ローマ字と英語のちがいについて考えよう。

- ことば探検 絵にあったローマ字を記入し、気付いたことを発表する。

- 日本のすてき インタビューを聞く。
 - (1) Murasameさんについての映像や音声聞き、およその内容を理解する。
 - (2) 分かったことを記入し発表する。
- Sounds and Letters Let's Play BINGO!
 - ・ P.92のBINGO表にアルファベットを書き込む。
 - ・ 指導者が言う文字に○をしてBINGOゲームを行う。

- 本時の学習を振り返る。

【評】 バースデーカードの交換を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】 バースデーカードの交換を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
 ・ アルファベットチャートで小文字の名前を確認する。
 ・ P.89に小文字のu～zを、名前を言わせながら書かせる。
 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。

- ・ PD(P.14～15)を参照させ、月・日付を確認してもよい。

- ・ 他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界の行事や祝日について考えさせる。
- ・ 例示されている行事や祝日を取り上げて、世界の国々の違いを考えさせる。

【評】 世界の行事や祝日について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
 ・ 伝え方のモデルを見せ、ペアで活動できるように指示する。
 ・ 既習の表現(例: When is your birthday?)を使うよう指示する。
 ・ ビンゴについては、U1 第7時の「留意事項など」を参照する。

- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。

- ・ ローマ字と英語を比べてみてどんなことを感じたのかを右のメモ欄に記入させる。

【評】 ローマ字と英語の違いについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
 ・ 全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにする。

- ・ ビンゴについては、U1 第7時の「留意事項など」を参照する。

【評】 ビンゴの活動を通して、「知識・技能」を評価する。
 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※ 7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし、余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり、パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- ・ When is your birthday?
- ・ My birthday is ….
- ・ What do you want for your birthday?
- ・ I want ….
- ・ Thank you.
- ・ This is for you.
- ・ Here you are.

単元名 Unit 3 What do you want to study?

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 学びたい教科やなりた職業を伝える語句と表現を身に付けるとともに、活字体の大文字と小文字を理解することができる。
- (2) 学びたい教科やなりた職業を伝える目的や場面、状況などに応じて、学習した語句と表現を選択したり付け加えたりして、伝え合うことができる。
- (3) 他者に配慮しながら、学びたい教科やなりた職業を主体的に伝えるとともに、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

05160103_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Starting Out (1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "What do you have on Mondays?" ・Let's Chant "What do you want to study?" ・Small Talk "Do you like rainy days?" <p>★学びたい教科やなりた職業について聞いて、正しい場面を選ぼう。</p> <p>○Word Link 天気・曜日 PD(P. 5, 15)</p> <p>○Let's Try 1 ワードゲーム PD(P. 5, 15)の単語でミッシングゲームをする。</p> <p>○Starting Out 学びたい教科やなりた職業を聞いて、聞こえた順に□に番号を書く。</p> <p>○Sounds and Letters 形の似ている大文字を書く。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "What do you have on Mondays?" ・Let's Chant "What do you want to be?" <p>★学びたい教科やなりた職業についておよその内容を聞き取ろう。</p> <p>○Word Link 気分 PD(P. 4)</p> <p>○Let's Try 1 ワードゲーム PD(P. 4)の単語でミッシングゲームをする。</p> <p>○Starting Out 学びたい教科やなりた職業について聞いて、分かったことを発表する。</p> <p>○Let's Watch and Think 小学生について分かったことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞いて分かったことを教科書に書き込む。 ・分かったことを発表する。 <p>○Sounds and Letters 形の似ている小文字を書く。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>3 Your Turn (1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "What do you have on Mondays?" ・Let's Chant "What do you want to be?" ・Small Talk "What subject do you like?" <p>★学びたい教科についてたずね合おう。</p> <p>○Word Link 教科 PD(P. 24)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・最初は聞くだけとし、数回流す。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 ・PD(P. 5)を参照させ、主な天気などを確認してもよい。 <p>・音声を使って、天気・曜日の単語を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミッシングゲーム 黒板に単語カードを貼る。 児童に目を閉じさせる。 その間に単語カードを数枚隠す。 目を開け、なくなったカードを当てさせる。 ・絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】学びたい教科やなりた職業の聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P. 90にどこが違っているのか、注意深く見ながら書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、気分の単語を確認する。 ・ミッシングゲームについては、U3 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・繰り返し聞かせ、学びたい教科やなりた職業を伝えるために必要な表現に気付かせる。 <p>【評】学びたい教科やなりた職業についての聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びたい教科となりたい職業を聞くように指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・P. 90にどこが違っているのか、注意深く見ながら書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・PD(P. 24)を参照させ、主な教科を確認してもよい。 <p>・音声を使って、教科の単語を確認する。</p>

<p>○Let's Listen 1 どの曜日の時間割かを聞いて、()に番号を書く。</p> <p>○Let's Try 2 学びたい教科について、友達とペアで尋ね合う。</p> <p>A: What do you want to study?</p> <p>B: I want to study science.</p> <p>○Sounds and Letters 形の似ている大文字・小文字を書く。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>4 Your Turn (2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "What do you have on Mondays?" ・Let's Chant "What do you want to study?" <p>★なりたい職業についてたずね合おう。</p> <p>○Word Link 職業 PD(P.30)</p> <p>○Let's Listen 2 登場人物の学びたいことやなりたい職業を聞いて、線で結ぶ。</p> <p>○Let's Try 3 なりたい職業について、友達とペアで尋ね合う。</p> <p>A: What do you want to be?</p> <p>B: I want to be a scientist.</p> <p>○Sounds and Letters 手の動かし方①(P.91)</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>5 Enjoy Communication (1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "What do you have on Mondays?" ・Let's Chant "What do you want to study?" ・Let's Chant "What do you want to be?" ・Small Talk "What do you have on Mondays?" <p>★夢に近づく時間割紹介の準備をしよう。</p> <p>○Step 1</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学びたい教科を決める。 (2) ペアで学びたい教科を尋ね合う。 <p>A: What do you want to study?</p> <p>B: I want to study home economics.</p> <p>○Step 2</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) なりたい職業を決める。 (2) ペアでなりたい職業を尋ね合う。 <p>A: What do you want to be?</p> <p>B: I want to be a baker.</p> <p>(3) 夢に近づく時間割カードに、なりたい職業の絵を描く。</p> <p>○Sounds and Letters 手の動かし方②(P.91)</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>6 Enjoy Communication (2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "What do you have on Mondays?" ・Let's Chant "What do you want to study?" ・Let's Chant "What do you want to be?" <p>★夢に近づく時間割を紹介しよう。</p> <p>○Step 3</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) クラスの時間割の曜日を1つ選んで、1つの教科を入れ替えて夢に近づく時間割を作る。 (2) 夢に近づく時間割となりたい職業を紹介する。 (3) 聞く人ははげます言葉を言う。 (4) 夢に近づく時間割をP.35に貼る。 <p>○Sounds and Letters 手の動かし方③(P.91)</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>7 Over the Horizon (1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "What do you have on Mondays?" ・Let's Chant "What do you want to study?" ・Let's Chant "What do you want to be?" ・Small Talk "What do you want to study?" <p>★世界の授業について考えよう。</p> <p>○Do you know? 世界の授業について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。 ・活動のモデルとして、児童に質問させ、指導者が答えを言う。 <p>【評】学びたい教科について尋ね合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P.90にどこが違っているのか、注意深く見ながら書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、職業の単語を確認する。 ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。 ・活動のモデルとして、児童に質問させ、指導者が答えを言う。 <p>【評】なりたい職業を尋ねる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円を描くような動きを意識して書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・PD(P.24)を参照させ、主な教科を確認してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。 <p>【評】夢に近づく時間割カードを作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下の動きを意識して書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・P.31の目標が達成できるように練習させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・なりたい職業と夢に近づく時間割のつながりを意識させる。 <p>【評】夢に近づく時間割の紹介を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】夢に近づく時間割の紹介を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下に向かう動きを意識して書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・PD(P.24)を参照させ、主な教科を確認してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界
---	--

- (1) 世界の授業について考えたことや意見を発表する。
- (2) クイズの答えを予想し、○を付ける。
- (3) クイズの答え合わせをする。

○ Challenge 学んでみたい授業を伝え合おう。
"I want to study drama."

- Sounds and Letters Let's Play BINGO!
- ・ P. 92のBINGO表にアルファベットを書き込む。
 - ・ 指導者が言う文字に○をしてBINGOゲームを行う。
- 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

- ウォームアップ
- ・ Let's Sing "What do you have on Mondays?"
 - ・ Let's Chant "What do you want to study?"
 - ・ Let's Chant "What do you want to be?"

★職業を表す語の共通点を考えよう。

- ことば探検 職業を表す語の共通点を探し、気付いたことを発表する。

- 日本のすてき インタビューを聞く。
- (1) Aliさんについての映像や音声聞き、およその内容を理解する。
 - (2) 分かったことを記入し発表する。
- Sounds and Letters Let's Play BINGO!
- ・ P. 92のBINGO表にアルファベットを書き込む。
 - ・ 指導者が言う文字に○をしてBINGOゲームを行う。

○ 本時の学習を振り返る。

の授業について考えさせる。

- ・ 例示されている授業を取り上げて、世界の国々の違いを考えさせる。

【評】世界の授業について考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ・ 伝え方のモデルを見せ、ペアで活動できるように指示する。
- ・ 既習の表現(例: What do you want to study?)を使うよう指示する。
- ・ ビンゴについては、U1 第7時の「留意事項など」を参照する。

- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。

- ・ 他にも職業を表す語で共通するものがあれば右のメモ欄に記入させる。
- ・ PD(P. 30)を参考にさせる。

【評】職業を表す語の共通点について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにする。

- ・ ビンゴについては、U1 第7時の「留意事項など」を参照する。

【評】ビンゴの活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし、余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり、パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- ・ What do you want to study?
- ・ I want to study ...
- ・ What do you want to be?
- ・ I want to be ...
- ・ Good luck!

単元名 Check Your Steps 1 外国の人に自己紹介をしよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 外国の人に対して自己紹介する語句や表現を身に付けることができる。
 (2) 外国の人に対する自己紹介の目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、スピーチをすることができる。
 (3) 他者に配慮しながら、主体的に自己紹介のスピーチをしようとする。

標準的な展開例

05160104_001

【準備等】デジタル教科書，大型テレビ，教師用絵カード，画用紙，色鉛筆，振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Check Your Steps (1)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <p>★初めて会う外国人への自己紹介の準備をしよう。</p> <p>○ HOP 自己紹介で伝えたいことを選ぶ。</p> <p>○ STEP</p> <p>(1) 自己紹介スピーチを考える。 例：Hello, ALT. I am Hiromi. H-I-R-O-M-I. Hiromi. I like soccer. I want a new soccer ball for my birthday. My brthday is July 7th.</p> <p>(2) パネルを作る。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Check Your Steps (2)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <p>★初めて会う外国人へ自己紹介をしよう。</p> <p>○ JUMP</p> <p>(1) 声・表情・スピードに気を付けて練習をする。 (2) 自己紹介スピーチをする。 例：Hello, ALT. I am Hiromi. H-I-R-O-M-I. Hiromi. I like soccer. I want a new soccer ball for my birthday. My brthday is July 7th. (ALT: You like soccer. I like baseball. Good job, Hiromi.)</p> <p>(3) スピーチの振り返りをする。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・ Unit 1～3のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲を選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・ Unit 1～3で作成したカードなどを確認し自己紹介で伝える内容を選ばせる。</p> <p>・ Unit 1～3のEnjoy Communicationで使った表現を思い出させながら、スピーチを考えさせる。</p> <p>・ PD(P. 38～39)も参考にさせる。</p> <p>・ 自己紹介の内容にあったパネルを作成させる</p> <p>【評】自己紹介スピーチを考える活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】自己紹介スピーチを考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・ Unit 1～3のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲を選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・ 初めの挨拶，名前とつづり，終わりの挨拶を全体で練習させる。</p> <p>スピーチを聞く側も，声・表情・スピードに気を付けて聞けるように指導する。</p> <p>【評】自己紹介スピーチを通して，「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】自己紹介スピーチを通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p>

【 備 考 】

※ 言語材料

- ・ How do you spell your name?
- ・ E-M-I-L-Y. Emily.
- ・ What ... do you like?
- ・ I like
- ・ Nice to meet you.
- ・ When is your birthday?
- ・ My birthday is
- ・ What do you want for your birthday?
- ・ I want
- ・ Thank you.
- ・ This is for you.
- ・ Here you are.
- ・ What do you want to study?
- ・ I want to study
- ・ What do you want to be?
- ・ I want to be
- ・ Good luck!

単元名 Unit 4 He can bake bread well.

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 地域の身近な人を紹介する語句と表現を身に付けるとともに、活字体の大文字を理解することができる。
 (2) 地域の身近な人を紹介する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句と表現を選択したり付け加えたりして、紹介することができる。
 (3) 他者に配慮しながら、地域の身近な人を主体的に紹介するとともに、英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

05160201_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学び方みいつけた！ 2 / Starting Out (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学び方みいつけた！ 2 アルファベット <ul style="list-style-type: none"> ・ アルファベットを4線の上に正しく書く。 ・ 身の回りのアルファベットを探す。 ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "This is my town." ・ Let's Chant "Who is this?" ・ Small Talk "Can you cook well?" <p>★ 身近な人の紹介について聞いて、正しい場面を選ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Word Link 動作など(1) PD(P.18) ○ Let's Try 1 ワードゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ PD(P.18)の単語でポインティングゲームをする。 ○ Starting Out 身近な人の紹介を聞いて、その場所や人を表す絵の順に口に番号を書く。 <p>○ Sounds and Letters 大文字の書き取り① (P.93)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "This is my town." ・ Let's Chant "I can swim." <p>★ 身近な人の紹介についておよその内容を聞き取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Word Link 建物など PD(P.22) ○ Let's Try 1 ワードゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ PD(P.22)の単語でポインティングゲームをする。 ○ Starting Out 身近な人の紹介を聞いて、分かったことを発表する。 <p>○ Let's Watch and Think 動物について分かったことを線で結ぶ。</p> <p>○ Sounds and Letters アクセント① (P.94)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>3 Your Turn (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "This is my town." ・ Let's Chant "Can you swim fast?" ・ Small Talk "Can you play badminton?" <p>★ できることやできないことについてたずね合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Word Link 楽器 PD(P.25) ○ Let's Listen 1 登場人物の話を聞いて、できることに○を、できないことに△をつける。 ○ Let's Try 2 ① 先生ができるかできないかを予想して尋ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 最初は聞くだけとし、数回流す。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 ・ PD(P.39)を参照させ、主な表現などを確認してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使得、動作など(1)の単語を確認する。 ・ ポインティングゲームについては、U1 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・ 通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・ もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】 身近な人の紹介の聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に大文字を書かせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使得、建物などの単語を確認する。 ・ ポインティングゲームについては、U1 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・ 繰り返し聞かせ、身近な人の紹介に必要な表現に気付かせる。 <p>【評】 身近な人の紹介の聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何ができるのかを聞くように指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を聞いて、アクセントのある場所の○を塗りつぶすよう指示する。 ・ 答え合わせをし、アクセントに注意して発音させてもよい。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 ・ PD(P.39)を参照させ、主な表現などを確認してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使得、楽器の単語を確認する。 ・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。 ・ 先生ができるかできないかを予想して、予想の欄に○か△を書かせる。

S: Can you play volleyball well?
 T: Yes, I can. / No, I can't.
 ○ Let's Try 2 ② 友達にインタビューをする。
 A: Can you play volleyball well?
 B: Yes, I can. / No, I can't.

○ Sounds and Letters 大文字の書き取り② (P.93)

○ 本時の学習を振り返る。

4 Your Turn (2)

○ ウォームアップ

・ Let's Sing "This is my town."

・ Let's Chant "She can sing well."

★ 身近な人のできること・できないことを紹介し合おう。

○ Word Link 家族・人 PD(P.17)

○ Let's Listen 2 登場人物の話聞いて、分かったことを4線に書く。

○ Let's Try 3 登場人物になったつもりで尋ね合う。

A: Who is Ito Yuna?

B: She is my sister. She can skate well.

○ Let's Try 4 インタビューしたことなどをもとに、クラスにその人を紹介する。

・ 似顔絵を描き、インタビューした人の名前と、性別に応じてHeかSheを書く。

例: This is Sakura. She can play volleyball.

○ Sounds and Letters アクセント② (P.94)

○ 本時の学習を振り返る。

5 Enjoy Communication (1)

○ ・ Let's Sing "This is my town."

・ Let's Chant "Who is this?"

・ Let's Chant "I can swim."

・ Small Talk "Is she your teacher?"

★ 「身近な人紹介カード」を作って、たずね合おう。

○ Step 1

(1) 身近な人紹介カードを切り取り、似顔絵を描く。

(2) ペアでカードに描かれた人の名前を尋ね合う。

A: Who is this?

B: This is Mark Smith.

○ Step 2

(1) カードに描いた人のくわしい情報の伝え方を考える

(2) ペアでくわしい情報を尋ね合う。

A: Who is Mark Smith?

B: He is my father. He is a baker.

He can bake bread well.

○ Sounds and Letters 大文字の書き取り③ (P.93)

○ 本時の学習を振り返る。

6 Enjoy Communication (2)

○ ウォームアップ

・ Let's Sing "This is my town."

・ Let's Chant "Can you swim fast?"

・ Let's Chant "She can sing well."

★ 「身近な人紹介カード」を見せながら、ショー・アンド・テルをしよう。

○ Step 3

(1) 発表準備をする。

(2) ペアを組んで、一人ずつショー・アンド・テルをする。

(3) ペアを変えて、同様に行う。

(4) カードをP.63に貼る。

・ 先生にできるかできないか尋ねて、回答の欄に○か△を書く。

・ 友達が"Yes, I can."と答えたら、()に名前を書かせる。

・ 活動のモデルとして、児童に質問させ、指導者が答えを言う。

【評】 できることやできないことについて尋ねる活動を通して、「知識・技能」を評価する

・ 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に大文字を書かせる。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

・ 指導者も児童と一緒に歌う。

・ 音声を聞かせ、内容について質問する。

・ 音声を使って、家族・人の単語を確認する。

・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。

・ PD(P.17)を参考にさせて、登場人物をいろいろな言い方で紹介できるように指示する。

・ 教科書の空欄に巻末絵カードを置いて文を作り、繰り返し練習させ、児童の語順に対する気付きを促す。

【評】 英語の語順について考える活動を通して「知識・技能」を評価する。

・ 音声を聞いて、アクセントのある場所の○を塗りつぶすよう指示する。

・ 答え合わせをし、アクセントに注意して発音させてもよい。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

・ 指導者も児童と一緒に歌う。

・ チャンツを流し一緒に言う。

・ PD(P.38)を参照させ、主な表現を確認してもよい。

・ 似顔絵を描く際に教科書を参考させ、職業やできることをもあわせて描けるように指示する。

・ モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。

・ Heを使うのかSheを使うのかをおさえてから

ペアで尋ね合わせる。

・ モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。

【評】 身近な人の職業やできることを尋ねる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に大文字を書かせる。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

・ 指導者も児童と一緒に歌う。

・ チャンツを流し一緒に言う。

・ P.43の目標が達成できるように練習させる。

・ カードを見て欲しいときの表現、スピーチを聞いてもらった後の表現についても指示する

【評】 ショー・アンド・テルの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】 ショー・アンド・テルの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

o Sounds and Letters アクセント③ (P.94)

o 本時の学習を振り返る。

7 Over the Horizon (1)

- o Let's Sing "This is my town."
- Let's Chant "Who is this?"
- Let's Chant "I can swim."
- Small Talk "Can he play soccer well?"

★世界の町で働く人々について考えよう。

- o Do you know? 世界の町の職業について考える。
 - (1) 国によって異なる職業について考えたことや意見を発表する。
 - (2) クイズの答えを予想する。
 - (3) クイズの答え合わせをする。

- o Challenge 町で働く人を紹介する。
"This is Mr. Takimoto. He is a baker."

o Sounds and Letters 大文字の書き取り④ (P.93)

o 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

- o ウォームアップ
 - Let's Sing "This is my town."
 - Let's Chant "Can you swim fast?"
 - Let's Chant "She can sing well."

★家族を表すことばについて考えよう。

- o ことば探検 家族を表す日本語と英語を比べて、気付いたことを発表する。

- o 日本のすてき インタビューを聞く。
 - (1) Sulisさんについての映像や音声を聞き、およその内容を理解する。
 - (2) 分かったことを記入し発表する。

o Sounds and Letters アクセント④ (P.94)

o 本時の学習を振り返る。

- 音声を聞いて、アクセントのある場所の○を塗りつぶすよう指示する。
- 答え合わせをし、アクセントに注意して発音させてもよい。
- 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- 指導者も児童と一緒に歌う。
- チャンツを流し一緒に言う。
- PD(P.39)を参照させ、主な表現を確認してもよい。

- 他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界の国の文化について考えさせる。
- 例示されている職業も取り上げて、世界の国々の違いを考えさせる。

【評】世界の職業について考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- 町で働く人の紹介のモデルを見せることで、自分の町と世界の町で働く人の表現の違いに気付かせる。
- モデルに合わせて、ペアで活動できるように指示する。
- 既習の表現(例: Who is this?)を使うよう指示する。
- 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に大文字を書かせる。

【評】アルファベットの音を聞いて、書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
• 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- 指導者も児童と一緒に歌う。
- チャンツを流し一緒に言う。

- 日本語と英語を比べてみてどんなことを感じたのかを右のメモ欄に記入させる。
- 考えたことや気付いたこと(例: 兄も弟も brotherで表す)を発表させる。

【評】家族を表す言語について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- 全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにする。

- 音声を聞いて、アクセントのある場所の○を塗りつぶすよう指示する。
- 答え合わせをし、アクセントに注意して発音させてもよい。
- 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし、余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり、パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- Can you ...?
- Yes, I can. / No, I can't.
- I / You / He / She can / can't ...
- Who is this?
- This is ...
- He / She is a baker.
- He / She can ...
- It's my / your turn.

単元名 Unit 5 Where is the post office?

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 場所を尋ねたり、答えたりする語句と表現を身に付けるとともに、活字体の小文字を理解することができる。
- (2) 場所を尋ねたり、答えたりする目的や場面、状況などに応じて、学習した語句と表現を選択したり付け加えたりして、尋ねたり、答えたりすることができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に、場所を尋ねたり、答えたりするとともに、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

05160202_001

【準備等】 デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Starting Out (1)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Excuse me." ・ Let's Chant "Go straight." ・ Small Talk "Is this your school?" <p>★道案内を聞いて、行き先までの道順を書こう。</p> <p>○ Word Link 道案内 PD(P.23)</p> <p>○ Let's Try 1 ワードゲーム PD(P.23)の単語でキーワードゲームをする。</p> <p>○ Starting Out 道案内を聞いて、行き先までの道順を書く。</p> <p>○ Sounds and Letters 小文字の書き取り① (P.93)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Excuse me." ・ Let's Chant "Turn right." <p>★道案内を聞いて、行き先までの道順を聞き取ろう。</p> <p>○ Word Link 位置 PD(P.23)</p> <p>○ Let's Try 2 ワードゲーム PD(P.23)の単語でキーワードゲームをする。</p> <p>○ Starting Out 道案内を聞いて、分かったことを発表する。</p> <p>○ Let's Watch and Think 外国の記号について分かったことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を聞いて分かったことを教科書に書き込む。 ・ 分かったことを発表する。 <p>○ Sounds and Letters アクセント⑤ (P.94)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>3 Your Turn (1)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "Excuse me." ・ Let's Chant "Turn right." ・ Small Talk "Where is my pencil?" <p>★さがしものがどこにあるのかたずね合おう。</p> <p>○ Word Link 日常生活 PD(P.26, 27)</p> <p>○ Let's Listen 1 さがしものがどこにあるのか聞いて、○をつける。</p> <p>○ Let's Try 3 Let's Listen 1の絵を使って、さがしものがどこにあるのか、友達とペアで尋ね合う。</p> <p>A: Where is the racket? B: It's by the desk.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 最初は聞くだけとし、数回流す。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 ・ PD(P.39)を参照させ、主な言語などを確認してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使って、道案内の単語を確認する。 ・ キーワードゲームについては、U2 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・ 通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・ もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】道案内の聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に文字を書かせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使って、位置の単語を確認する。 ・ キーワードゲームについては、U2 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・ 繰り返し聞かせ、道案内に必要な表現に気付かせる。 <p>【評】道案内の聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何を表す記号かを聞くように指示する。 ・ 分かったことを発表するときに、他の記号について知っていることを発表させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を聞いて、アクセントのある場所の○を塗りつぶすよう指示する。 ・ 答え合わせをし、アクセントに注意して発音させてもよい。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ チャンツを流し一緒に言う。 ・ PD(P.23)を参照させ、主な位置の単語を確認してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使って、日常生活の単語を確認する。 ・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。 ・ 活動のモデルとして、児童に質問させ、指導者が答えを言う。 ・ 同様にLet's Listen 1の絵を使って、他のものについても行う。

○ Sounds and Letters 小文字の書き取り② (P.93)

○ 本時の学習を振り返る。

4 Your Turn (2)

○ ウォームアップ

- ・ Let's Sing "Excuse me."
- ・ Let's Chant "Go straight."

★ 友達に道案内をしよう。

○ Word Link 建物など PD(P.22)

○ Let's Listen 2 道案内を聞いて、グリーン先生が尋ねた質問の文の番号を選ぶ。

○ Let's Try 4 Let's Listen 2の地図を使って、友達とペアで道案内をする。

A: Where is the library?

B: Go straight for one block. Turn right. You can see it on your left.

○ Sounds and Letters アクセント⑥ (P.94)

○ 本時の学習を振り返る。

5 Enjoy Communication (1)

○ ウォームアップ

- ・ Let's Sing "Excuse me."
- ・ Let's Chant "Go straight."
- ・ Let's Chant "Turn right."
- ・ Small Talk "What do you want for your town?"

★ 町にあったらよい場所をたずね合おう。

○ Step 1

(1) P. 46, 47の地図の中からお気に入りの場所を決める

(2) ペアでスタート地点を決めて尋ね合う。

A: Where is the post office?

B: Go straight for two blocks.

○ Step 2

(1) 「町にあったらよい場所カード」を切り取り、町にあったらよい場所を考えて書く。

(2) P. 46, 47の地図の好きな場所にカードを置く。

(3) ペアでその位置を尋ね合う。

A: Where is the stadium?

B: Turn right. You can see it on your left.

○ Sounds and Letters 小文字の書き取り③ (P.93)

○ 本時の学習を振り返る。

6 Enjoy Communication (2)

○ ウォームアップ

- ・ Let's Sing "Excuse me."
- ・ Let's Chant "Go straight."
- ・ Let's Chant "Turn right."

★ 教室をオリジナルタウンにして道案内をしよう。

○ Step 3

(1) 机の上に「町にあったらよい場所カード」を置く。

(2) P. 46, 47の地図にあるものと友達の書いた「町にあったらよい場所カード」について尋ね、道案内を聞く

(3) ペアで役割を変えて行う。

(4) 「町にあったらよい場所カード」をP. 63に貼る。

○ Sounds and Letters 始まりの音① (P.95)

○ 本時の学習を振り返る。

7 Over the Horizon (1)

○ ウォームアップ

【評】 さがしものを尋ねる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に文字を書かせる。
・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
・ 指導者も児童と一緒に歌う。
・ チャンツを流し一緒に言う。

・ 音声を使って、建物などの単語を確認する。
・ 活動に入る前に、地図記号の復習をする。
・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
・ 活動のモデルとして、児童に質問させ、指導者が答えを言う。
・ 絵とともに書かれている単語の位置に、PD(P.23)の単語が入るという気付きを促す。

【評】 道案内の活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 音声を聞いて、アクセントのある場所の○を塗りつぶすよう指示する。
・ 答え合わせをし、アクセントに注意して発音させてもよい。
・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
・ 指導者も児童と一緒に歌う。
・ チャンツを流し一緒に言う。

・ PD(P.22)を参照させ、主な建物などを確認してもよい。

・ モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。

・ PD(P.22)を参考にさせてもよい。

・ モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。

【評】 町にあったらよい場所について尋ね合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・ 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に文字を書かせる。
・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
・ 指導者も児童と一緒に歌う。
・ チャンツを流し一緒に言う。

・ 出発点を示すときの表現、案内してもらったときの表現、道を尋ねられても分からないときの表現についても確認する。
・ P. 51の目標が達成できるように練習させる。

【評】 道案内の活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】 道案内の活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 音声を聞いて、始まりの音が同じ絵の口に入点を入れるよう指示する。
・ 答え合わせをし、始まりの音に注意して発音させてもよい。
・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

- ・Let's Sing "Excuse me."
- ・Let's Chant "Go straight."
- ・Let's Chant "Turn right."
- ・Small Talk "Where is the station?"

★世界の地図や標識について考えよう。

- Do you know? 世界の記号の意味について考える。
 - (1) 世界の記号について考えたことや意見を発表する。
 - (2) クイズの答えを予想し、空欄に答えを記入する。
 - (3) クイズの答え合わせをする。

- Challenge ピクトグラムで地域を紹介する。
"We have a post office in our town."

- Sounds and Letters 小文字の書き取り④ (P. 93)

- 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

- ウォームアップ
 - ・Let's Sing "Excuse me."
 - ・Let's Chant "Go straight."
 - ・Let's Chant "Turn right."

★アルファベットの成り立ちについて考えよう。

- ことば探検 絵にあったローマ字を記入し、気付いたことを発表する。

- 日本のすてき インタビューを聞く。
 - (1) Bullさんについての映像や音声を聞き、およその内容を理解する。
 - (2) 分かったことを記入し発表する。
- Sounds and Letters 始まりの音② (P. 95)

- 本時の学習を振り返る。

- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。
- ・PD(P. 23)を参照させ、主な表現を確認してもよい。

- ・他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界の国の文化について考えさせる。
- ・例示されている記号以外の観点も取り上げて世界の国々の違いを考えさせる。

【評】世界の記号の意味について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ピクトグラムの紹介のモデルを見せることで日本の地図記号とピクトグラムでの表現の違いに気付かせる。
- ・モデルに合わせて、ペアで活動できるように指示する。
- ・3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に文字を書かせる。

【評】アルファベットの音を聞いて、書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。

- ・アルファベットの成り立ちについて考えたことを右のメモ欄に記入させる。

【評】アルファベットの成り立ちについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにする。

- ・音声を聞いて、始まりの音が同じ絵の口には点を入れるよう指示する。
- ・答え合わせをし、始まりの音に注意して発音させてもよい。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし、余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり、パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- ・Where is ...?
- ・Go straight.
- ・Turn left / right.
- ・It's in / by / on / under ...
- ・Excuse me.
- ・You're welcome.

単元名 Unit 6 What would you like?

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) ていねいに注文をしたり、値段を尋ねたりする語句と表現を身に付けるとともに、活字体の小文字を理解することができる。
- (2) ていねいに注文をしたり、値段を尋ねたりする目的や場面、状況などに応じて、学習した語句と表現を選択したり付け加えたりして、尋ねたり、答えたりすることができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に、ていねいに注文をしたり、値段を尋ねたりするとともに、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

05160203_001

【準備等】 デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Starting Out (1)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "What would you like?" ・ Let's Chant "I'd like a hamburger." ・ Small Talk "What food do you like?" <p>★ 家族や店員とのやり取りを聞いて、正しい場面を選ぼう</p> <p>○ Word Link デザート PD(P. 9)</p> <p>○ Let's Try 1 ワードゲーム PD(P. 9)の単語でミッシングゲームをする。</p> <p>○ Starting Out 家族や店員とのやり取りを聞いて、聞こえた順に□に番号を書く。</p> <p>○ Sounds and Letters 小文字の書き取り⑤ (P. 93)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "What would you like?" ・ Let's Chant "How much is it?" <p>★ 家族や店員とのやり取りを聞いて、およその内容を聞き取ろう。</p> <p>○ Word Link 味など PD(P. 11)</p> <p>○ Let's Try 1 ワードゲーム PD(P. 11)の単語でミッシングゲームをする。</p> <p>○ Starting Out 家族や店員とのやり取りを聞いて、分かったことを発表する。</p> <p>○ Let's Watch and Think 料理と国旗を線で結ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 映像を視聴して、料理と国旗を線で結ぶ。 ・ 分かったことを発表する。 <p>○ Sounds and Letters 始まりの音③ (P. 95)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>3 Your Turn (1)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "What would you like?" ・ Let's Chant "How much is it?" ・ Small Talk "How much is it?" <p>★ ふるさと料理を考えて、ペアで注文し合おう。</p> <p>○ Word Link 食べ物 PD(P. 8)</p> <p>○ Let's Listen 1 登場人物の注文を聞いて、線で結ぶ。</p> <p>○ Let's Try 2 ふるさと料理やお土産などについて、友</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 最初は聞くだけとし、数回流す。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 ・ PD(P. 8)を参照させ、主な食べ物などを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使って、デザートの単語を確認する。 ・ ミッシングゲームについては、U3 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・ 通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・ もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】 家族や店員とのやり取りの聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に文字を書かせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使って、味などの単語を確認する。 ・ ミッシングゲームについては、U3 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・ 繰り返し聞かせ、店員とのやり取りに必要な表現に気付かせる。 <p>【評】 家族や店員とのやり取りの聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの国の料理なのかを聞くように指示する <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かったことを発表するときに、他の国の料理について知っていることを発表させてもよい。 ・ 音声を聞いて、始まりの音が同じ絵の□にレ点を入れるよう指示する。 ・ 答え合わせをし、始まりの音に注意して発音させてもよい。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ チャンツを流し一緒に言う。 ・ PD(P. 8～9)を参照させ、値段の参考にさせてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使って、食べ物の単語を確認する。 ・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。 ・ 活動のモデルとして、児童に質問させ、指導

達とペアで注文し合う。
 A: What would you like?
 B: I'd like okonomiyaki.
 A: OK. Okonomiyaki.

○ Sounds and Letters 小文字の書き取り⑥ (P.93)

○ 本時の学習を振り返る。

4 Your Turn (2)

○ ウォームアップ

- ・ Let's Sing "What would you like?"
- ・ Let's Chant "I'd like a hamburger."

★ 金額を計算して、友達とメニューを考えよう。

○ Word Link 数字 PD(P.4～5)

○ Let's Try 3 PD(P.8～9)を見ながら、友達とペアで料理の値段を尋ね合う。

A: How much is the cake?

B: It's 250 yen.

○ Let's Listen 2 料理の金額を聞いて、()の中に数字を書く。

○ Let's Try 4 Let's Listen 2の数式を使って、PD(P.8～9)を見ながら、友達とペアで1,000円以内のメニューを考える。

- ・ 考えたメニューを教科書に書き込む。

○ Sounds and Letters 終わりの音① (P.95)

○ 本時の学習を振り返る。

5 Enjoy Communication (1)

○ ウォームアップ

- ・ Let's Sing "What would you like?"
- ・ Let's Chant "I'd like a hamburger."
- ・ Let's Chant "How much is it?"
- ・ Small Talk "How many apples do you want?"

★ 食べてみたい料理で注文と会計をし合おう。

○ Step 1

(1) 食べてみたい日本各地の名物を決めて、絵カードを作る。

(2) ペアで注文し合う。

A: What would you like?

B: I'd like a hamburger and a salad.

○ Step 2

(1) Step 1で注文されたメニューの値段を計算する。

(2) 会計の値段を尋ね合う。

A: How much is it?

B: A hamburger is 570 yen. A salad is 240 yen. 810 yen, please.

○ Sounds and Letters 小文字の書き取り⑦ (P.93)

○ 本時の学習を振り返る。

6 Enjoy Communication (2)

○ ウォームアップ

- ・ Let's Sing "What would you like?"
- ・ Let's Chant "I'd like a hamburger."
- ・ Let's Chant "How much is it?"

★ 外国から来た先生のためにふるさとメニューを考えて、買い物しよう。

○ Step 3

(1) 日本のふるさとメニューを考える。

(2) 「ふるさとメニュートレイ」にメニューを置く。

(3) 注文と会計をする。

(4) 「ふるさとメニュートレイ」をP.62に貼る。

者が答えを言う。

- ・ 教科書の空欄に巻末絵カードを置いて文を作り、繰り返し練習させる。
- ・ 会話を続ける表現をいくつか紹介し、練習させる。
- 【評】注文し合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に文字を書かせる。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。

- ・ 音声を使って、数字の単語を確認する。
- ・ 活動のモデルとして、児童に質問させ、指導者が答えを言う。
- ・ 同様に他の料理についても行わせる。

- ・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・ 数式の言い方を確認する。
- ・ Let's Listen 2で練習した数式の言い方を活用させる。
- ・ 第3時で考えたふるさと料理を使ってもよい。

- 【評】決められた金額以内でメニューを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 音声を聞いて、終わりの音が同じ絵の口印に点を入れるよう指示する。
- ・ 答え合わせをし、終わりの音に注意して発音させてもよい。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。
- ・ PD(P.34)を参照させ、主な表現を確認してもよい。

- ・ モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。

- ・ モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。

- 【評】注文と会計を伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に文字を書かせる。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。

- ・ 必要に応じてカードを作成させる。

- ・ P.59の目標が達成できるように練習させる。

- ・ 3つ以上の料理を注文するとき、お金を受け取ったときの表現についても確認する。
- 【評】買い物をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

○ Sounds and Letters 終わりの音② (P.95)

○ 本時の学習を振り返る。

7 Over the Horizon (1)

○ ウォームアップ

- ・ Let's Sing "What would you like?"
- ・ Let's Chant "I'd like a hamburger."
- ・ Let's Chant "How much is it?"
- ・ Small Talk "What would you like?"

★ 世界の食文化について考えよう。

○ Do you know? 世界の料理について考える。

- (1) 世界の料理を見て、共通点を教科書に書き込む。
- (2) 世界の料理やマナーについて考えたことや意見を発表する。
- (3) クイズの答えを予想し、番号を選ぶ。
- (4) クイズの答え合わせをする。

○ Challenge 地域の特産物を紹介する。
"This is kiritampo. It's delicious."

○ Sounds and Letters 小文字の書き取り⑧ (P.93)

○ 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

○ ウォームアップ

- ・ Let's Sing "What would you like?"
- ・ Let's Chant "I'd like a hamburger."
- ・ Let's Chant "How much is it?"

★ 外国から来たことばについて考えよう。

○ ことば探検

- (1) 外国から来た言葉と国旗を線で結ぶ。
- (2) 外国から来た他の言葉を教科書に書き込む。

○ 日本のすてき インタビューを聞く。

- (1) Lafitteさんについての映像や音声を聞き、およその内容を理解する。
- (2) 分かったことを記入し発表する。

○ Sounds and Letters 終わりの音③ (P.95)

○ 本時の学習を振り返る。

【評】 買い物をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 音声を聞いて、終わりの音が同じ絵の口にレ点を入れるよう指示する。
- ・ 答え合わせをし、終わりの音に注意して発音させてもよい。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。
- ・ PD(P.8～9)を参照させ、主な食べ物などを参考にさせてもよい。

・ 他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界の食文化について考えさせる。

・ 例示されている料理以外も取り上げて、世界の国々の違いを考えさせる。

【評】 世界の食文化について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 地域の特産物の紹介のモデルを見せることで自分の町と世界の町で特産物の違いに気付かせる。

・ モデルに合わせて、ペアで活動できるように指示する。

・ 3文字ずつ聞かせ、聞こえた順に文字を書かせる。

【評】 アルファベットの音を聞いて、書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。

・ どの国から来た言葉かを知って、どんなことを感じたのかを発表させてもよい。

【評】 外国から来た言葉について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにする。

・ 音声を聞いて、終わりの音が同じ絵の口にレ点を入れるよう指示する。

- ・ 答え合わせをし、終わりの音に注意して発音させてもよい。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※ 7, 8 時間目の Over the Horizon を 1 時間完了とし、余剰時間を 3, 4 時間目の Enjoy Communication の活動の充実に当てたり、パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※ 言語材料

- ・ What would you like?
- ・ I'd like ..., please.
- ・ How much is it?
- ・ It's ... yen.
- ・ Sorry.
- ・ No, thanks.

単元名 Check Your Steps 2 地域のおすすめを紹介しよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 地域のおすすめスピーチをする語句と表現を身に付けることができる。
 (2) 地域のおすすめスピーチの目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、スピーチをすることができる。
 (3) 他者に配慮しながら、主体的に地域のおすすめを紹介するスピーチをしようとしている。

標準的な展開例

05160204_001

【準備等】デジタル教科書，大型テレビ，教師用絵カード，画用紙，色鉛筆，振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Check Your Steps (1) ○ ウォームアップ</p> <p>★地域のおすすめを外国の人に紹介する準備をしよう。 ○HOP 地域のおすすめで伝えたいことを選ぶ。</p> <p>○STEP (1) 地域のおすすめスピーチを考える。 例：Hello, ALT. I am Hiromi. This is Nagoya Castle. I like history. I want to see a big castle. You can eat misonikomi. Thank you. (2) パンフレットを作る。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Check Your Steps (2) ○ ウォームアップ</p> <p>★地域のおすすめを外国の人に紹介しよう。 ○JUMP (1) 声・表情・スピードに気を付けて練習をする。 (2) 地域のおすすめスピーチをする。 例：Hello, ALT. I am Hiromi. This is Nagoya Castle. I like history. I want to see a big castle. You can eat misonikomi. Thank you. (ALT: You have a nice castle. I have a big stadium. Good job, Hiromi.) (3) スピーチの振り返りをする。 ○ 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・Unit 4～6のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲を選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・Unit 4～6で作成したカードなどを確認して、地域のおすすめ（建物・人・特産物など）を選ばせる。</p> <p>・Unit 4～6のEnjoy Communicationで使った表現を思い出させながら、スピーチを考えさせる。 PD(P.38～39)も参考にさせる。</p> <p>・おすすめの内容にあったパンフレットを作成させる。 【評】地域のおすすめスピーチを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】地域のおすすめスピーチを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・Unit 4～6のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲を選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・初めの挨拶，おすすめのものや人の伝え方，終わりの挨拶を全体で練習させる。 ・スピーチを聞く側も，声・表情・スピードに気を付けて聞けるように指導する。 【評】地域のおすすめスピーチを通して，「思考・判断・表現」を評価する。 【評】地域のおすすめスピーチを通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p>

【 備 考 】

※言語材料

- ・Can you …?
- ・Yes, I can. / No, I can't.
- ・I / You / He / She can / can't ….
- ・Who is this?
- ・This is ….
- ・He / She is a baker.
- ・He / She can ….
- ・It's my / your turn.
- ・Where is …?
- ・Go straight.
- ・Turn left / right.
- ・It's in / by / on / under ….
- ・Excuse me.
- ・You're welcome.
- ・What would you like?
- ・I'd like …, please.

- How much is it?
- It's ... yen.
- Sorry.
- No, thanks.

単元名 Unit 7 Welcome to Japan.

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 日本の四季や文化について紹介する語句と表現を身に付けるとともに、活字体の大文字と小文字を理解することができる。
- (2) 日本の四季や文化について、目的や場面、状況などに応じて、学習した語句と表現を選択したり付け加えたりして、紹介することができる。
- (3) 他者に配慮しながら、日本の四季や文化について主体的に紹介するとともに、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

05160301_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学び方みいつけた！ 3 / Starting Out (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学び方みいつけた！ 3 英語の文 <ul style="list-style-type: none"> ・強く読まれるところを考える。 ・どんな風に聞こえるかまねて言う。 ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Yokoso!" ・Let's Chant "Why do you like winter?" ・Small Talk "What do you do on New Year's Day?" <p>★日本の文化の紹介を聞いて、正しい場面を選ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Word Link 季節 PD(P.14) ○ Let's Try 1 ワードゲーム PD(P.14)の単語でポインティングゲームをする。 ○ Starting Out 日本の文化の紹介を聞いて、聞こえた順に□に番号を書く。 <p>○ Sounds and Letters Animals Jingle(a, b, c) (P.96)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Yokoso!" ・Let's Chant "What do you do on New Year's Day?" ★日本の文化の紹介についておよその内容を聞き取ろう。 ○ Word Link 形 PD(P.6) ○ Let's Try 1 ワードゲーム PD(P.6)の単語でポインティングゲームをする。 ○ Starting Out 日本の文化の紹介を聞いて、分かったことを発表する。 <p>○ Let's Watch and Think 日本の食べ物について分かったことを線で結ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことを発表する。 <p>○ Sounds and Letters Animals Jingle(d, e, f) (P.96)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>3 Your Turn (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Yokoso!" ・Let's Chant "What do you do on New Year's Day?" ・Small Talk "What season do you like?" <p>★日本の年行事クイズを出し合おう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・最初は聞くだけとし、数回流す。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 ・PD(P.18～19)を参照させ、主な動作などを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、季節の単語を確認する。 ・ポインティングゲームについては、U1 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】日本の文化の紹介の聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前読みでなく音読みを意識して発音させる <ul style="list-style-type: none"> ・音読みをしながら4線上に大文字や小文字を書かせてもよい。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、形の単語を確認する。 ・ポインティングゲームについては、U1 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・繰り返し聞かせ、日本の文化の紹介に必要な表現に気付かせる。 <p>【評】日本の文化の紹介の聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理の名前と国の名前をおさえて聞くように指示する。 ・分かったことを発表するときに、人気がある日本の食べ物について知っていることを発表させる。 ・名前読みでなく音読みを意識して発音させる <ul style="list-style-type: none"> ・音読みをしながら4線上に大文字や小文字を書かせてもよい。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・PD(P.14)を参照させ、季節の単語を確認してもよい。

- Word Link 遊びなど PD(P.27)
- Let's Listen 1 日本の古くからの遊びについて聞いて線で結ぶ。
- Let's Listen 2 日本の年中行事のクイズを聞いて、線で結ぶ。

- Let's Try 2 日本の年中行事について友達とペアでクイズを出し合う。

A: We have this in summer. We usually write our wish on tanzaku. What's this?

B: It's tanabata.

- Sounds and Letters Animals Jingle(g, h, i) (P.96)

- 本時の学習を振り返る。

4 Your Turn (2)

- ウォームアップ

・ Let's Sing "Yokoso!"

・ Let's Chant "Why do you like winter?"

- ★ 日本の年中行事ですることや食べるものをたずね合おう

- Word Link 年中行事 PD(P.28)

- Let's Try 3 それぞれの季節にすることやできることを言う。

例: We have hanami in spring. You can eat hanami-bento. It's nice.

- Let's Listen 3 日本の年中行事と月日について聞いて線で結ぶ。

- Let's Try 4 日本の年中行事について友達とペアで考えて、その行事にすることや食べるものについてたずね合う。

A: What do you do on New Year's Day?

B: I usually play karuta. I usually eat osechi.

- Sounds and Letters Animals Jingle(j, k, l) (P.96)

- 本時の学習を振り返る。

5 Enjoy Communication (1)

- ウォームアップ

・ Let's Sing "Yokoso!"

・ Let's Chant "Why do you like winter?"

・ Let's Chant "What do you do on New Year's Day?"

・ Small Talk "What do you enjoy in winter?"

- ★ 行事でどんなことをするかたずね合おう。

- Step 1

(1) 好きな季節とその理由(行事など)を決める。

(2) ペアで理由を尋ね合う。

A: Why do you like winter?

B: We have New Year's Day in winter.

- Step 2

(1) 「日本の四季ポストカード」を切り取り、Step 1で決めた理由の行事でやることを書く。

(2) ペアで行事にやることを尋ね合う。

A: What do you do on New Year's Day?

B: I usually play karuta.

- Sounds and Letters Animals Jingle(m, n, o) (P.96)

- 本時の学習を振り返る。

6 Enjoy Communication (2)

- ウォームアップ

- ・ 音声を使って、遊びなどの単語を確認する。
- ・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・ 活動に入る前に、絵が表す行事を確認してもよい。
- ・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・ 活動のモデルとして、指導者がクイズを出し児童が答えを言う。
- ・ 1つ目のヒントでその行事の季節について、2つ目のヒントで何をするのかをクイズにさせる。
- ・ 必要に応じて次のヒントも言えるようにさせる。
- 【評】年中行事クイズを通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 名前読みでなく音読みを意識して発音させる

- ・ 音読みをしながら4線の上に大文字や小文字を書かせてもよい。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。

- ・ 音声を使って、年中行事の単語を確認する。
- ・ 活動のモデルを示し、ペアで交代で全ての季節について言えるように指示する。

- ・ 活動に入る前に、月日の言い方について確認する。
- ・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・ 活動のモデルとして、児童に質問させ、指導者が答えを言う。
- ・ PD(P.8, 18~19)を参照させ、主な表現を確認してもよい。
- 【評】年中行事について尋ね合う活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・ 名前読みでなく音読みを意識して発音させる

- ・ 音読みをしながら4線の上に大文字や小文字を書かせてもよい。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。
- ・ PD(P.28)を参照させ、主な行事を確認してもよい。

- ・ モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。
- ・ PD(P.28)を参考にさせてもよい。

- ・ モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。
- 【評】ポストカードを作る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 名前読みでなく音読みを意識して発音させる

- ・ 音読みをしながら4線の上に大文字や小文字を書かせてもよい。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

<p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Yokoso!" ・Let's Chant "Why do you like winter?" ・Let's Chant "What do you do on New Year's Day?" </p> <p>★「日本のすてき」を紹介しよう。</p> <p>○ Step 3</p> <p> (1) 発表準備をする。 (2) ペアを組んで、ポストカードを見せながら発表する。 (3) ペアを変えて同様に行う。 (4) カードをP. 82に貼る。 </p> <p>○ Sounds and Letters Animals Jingle(p, q, r, s) (P. 96)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>7 Over the Horizon (1)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Yokoso!" ・Let's Chant "Why do you like winter?" ・Let's Chant "What do you do on New Year's Day?" ・Small Talk "Do you like kabuki?" </p> <p>★世界に広がる日本文化について考えよう。</p> <p>○ Do you know? 世界に広がる日本文化と日本の魅力について考える。</p> <p> (1) 世界に広がる日本文化と日本の魅力について考えたことや意見を発表する。 (2) クイズの答えを予想し、番号に○を付ける。 (3) クイズの答え合わせをする。 </p> <p>○ Challenge 日本文化を紹介する。 "We have kendama in Japan."</p> <p>○ Sounds and Letters Animals Jingle(t, u, v, w) (P. 96)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>8 Over the Horizon (2)</p> <p>○ ウォームアップ</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "Yokoso!" ・Let's Chant "Why do you like winter?" ・Let's Chant "What do you do on New Year's Day?" </p> <p>★世界に広がる日本語について考えよう。</p> <p>○ ことば探検 英語として使われている日本語を記入し、気付いたことを発表する。</p> <p>○ 日本のすてき インタビューを聞く。</p> <p> (1) Rossさんについての映像や音声を聞き、およその内容を理解する。 (2) 分かったことを記入し発表する。 </p> <p>○ Sounds and Letters Animals Jingle(x, y, z) (P. 96)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p>	<p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 </p> <p>・ P. 71の目標が達成できるように練習させる。</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞きながら教科書にメモを取るよう指示する。 ・モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。 </p> <p>【評】「日本のすてき」紹介の発表を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】「日本のすてき」紹介の発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・ 名前読みでなく音読みを意識して発音させる</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読みをしながら4線の上に大文字や小文字を書かせてもよい。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 </p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・PD(P. 28)を参照させ、主な行事を確認してもよい。 </p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界に広がる日本文化と日本の魅力について考えさせる。 ・例示されている文化や日本を訪れる目的以外の観点も取り上げて、世界の国々の違いを考えさせる。 </p> <p>【評】日本文化と日本の魅力について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化の紹介のモデルを見せることで、世界に広がる日本文化の魅力に気付かせる。 ・モデルに合わせて、ペアで活動できるように指示する。 ・名前読みでなく音読みを意識して発音させる ・音読みをしながら4線の上に大文字や小文字を書かせてもよい。 </p> <p>【評】アルファベットを音読みしながら書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 </p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 </p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語として使われている日本語について考え右のメモ欄に記入させる。 ・英語として使われている日本語について気付いたことを発表させる。 </p> <p>【評】英語として使われている日本語について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにする。 </p> <p>・ 名前読みでなく音読みを意識して発音させる</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読みをしながら4線の上に大文字や小文字を書かせてもよい。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 </p>
---	--

【 備 考 】

※ 7, 8 時間目の Over the Horizon を 1 時間完了とし、余剰時間を 3, 4 時間目の Enjoy Communication の活

動の充実に当てたり，パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- Welcome to Japan.
- We have … in ….
- What do you do on New Year's Day?
- I usually ….
- Oh, really?
- Why do you like winter?

単元名 Unit 8 Who is your hero?

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) あこがれの人について発表する語句と表現を身に付けるとともに、活字体の大文字と小文字を理解することができる。
- (2) あこがれの人について発表する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句と表現を選択したり付け加えたりして、発表することができる。
- (3) 他者に配慮しながら、あこがれの人について発表するとともに、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

05160302_001

【準備等】デジタル教科書，大型テレビ，教師用絵カード，ワークシート，振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Starting Out (1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "My Hero" ・Let's Chant "Who is your hero?" ・Small Talk "What housework do you usually do?" <p>★家事やヒーローについて聞いて、正しい場面を選ぼう。</p> <p>○Word Link 一日の生活 PD(P.20)</p> <p>○Let's Try 1 ワードゲーム PD(P.20)の単語でキーワードゲームをする。</p> <p>○Starting Out 家事やヒーローについて聞いて、聞こえた順に□に番号を書く。</p> <p>○Sounds and Letters Food Jingle(a, b, c) (P.96)</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "My Hero" ・Let's Chant "Why is he your hero?" <p>★家事やヒーローについて聞き取ろう。</p> <p>○Word Link 性格など PD(P.17)</p> <p>○Let's Try 1 ワードゲーム PD(P.17)の単語でキーワードゲームをする。</p> <p>○Starting Out 家事やヒーローについて聞いて、分かったことを発表する。</p> <p>○Let's Watch and Think 海外で活躍する日本人について分かったことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞いて分かったことを教科書に書き込む。 ・分かったことを発表する。 <p>○Sounds and Letters Food Jingle(d, e, f) (P.96)</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>3 Your Turn (1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "My Hero" ・Let's Chant "Why is he your hero?" ・Small Talk "Who is your hero?" <p>★自分の日課で4コーナーゲームをしよう。</p> <p>○Word Link 頻度 PD(P.20)</p> <p>○Let's Listen 1 田中先生の日課を聞いて、線で結ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・最初は聞くだけとし、数回流す。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 ・PD(P.20)を参照させ、主な言語などを確認させる。 ・音声を使って、一日の生活の単語を確認する ・キーワードゲームについては、U2 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 【評】家事やヒーローについての聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・名前読みでなく音読みを意識して発音させる ・音読みをしながら4線上に大文字や小文字を書かせてもよい。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 ・音声を使って、性格などの単語を確認する。 ・キーワードゲームについては、U2 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・繰り返し聞かせ、ヒーローの紹介に必要な表現に気付かせる。 【評】家事やヒーローについての聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。 ・海外で活躍する日本人の得意なおさえて聞くように指示する。 ・分かったことを発表するときに、海外で活躍する日本人について知っていることを発表させる。 ・名前読みでなく音読みを意識して発音させる ・音読みをしながら4線上に大文字や小文字を書かせてもよい。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・PD(P.30)を参照させ、主な表現を確認してもよい。 ・音声を使って、頻度の単語を確認する。 ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解

o Let's Try 2 自分の日課についてクラスで4コーナーゲームをする。

o Sounds and Letters Food Jingle(g, h, i) (P.96)

o 本時の学習を振り返る。

4 Your Turn (2)

o ウォームアップ

・Let's Sing "My Hero"

・Let's Chant "Who is your hero?"

★友達の得意なことや性格を紹介しよう。

o Word Link スポーツ・楽器 PD(P.7, 25)

o Let's Try 3 得意なことや性格などについて、友達とペアで尋ね合う。

A: Are you good at playing soccer?

B: Yes, I am. / No, I'm not.

o Let's Try 4 Let's Try 3で分かった得意なことや性格を紹介する。

例: This is my friend, Emily. She is good at playing soccer. She is always nice to me.

o Let's Listen 2 先生のヒーローについて聞いて、分かったことを表に書く。

o Sounds and Letters Food Jingle(j, k, l) (P.96)

o 本時の学習を振り返る。

5 Enjoy Communication (1)

o ウォームアップ

・Let's Sing "My Hero"

・Let's Chant "Who is your hero?"

・Let's Chant "Why is he your hero?"

・Small Talk "What can he do well?"

★自分のヒーローについて友達とペアでたずね合おう。

o Step 1

(1) 自分のヒーローを決め、「ヒーロー紹介カード」に書く。

(2) ペアで「ヒーロー紹介カード」を見せながら尋ね合う。

A: Who is your hero?

B: My hero is my brother.

o Step 2

(1) ヒーローだと思う理由を考える。

(2) ヒーローだと思う理由をペアで尋ね合う。

A: Why is he your hero?

B: He is good at cooking. He is always kind to me.

o Sounds and Letters Food Jingle(m, n, o) (P.96)

o 本時の学習を振り返る。

6 Enjoy Communication (2)

o ウォームアップ

・Let's Sing "My Hero"

できるようにさせる。

・4コーナーゲーム

教室の4コーナーに頻度を表す語の絵を貼る

指導者が日課を示す。(例:I clean my house.)

自分の日課の頻度に合うコーナーへ移動させる。

コーナーごとに日課を表す文に頻度を入れて発音させる。(例:I usually clean my house.)

・時間があれば、Let's Listen 1に書かれていない日課を示してもよい。

【評】英語の語順について考える活動を通して「知識・技能」を評価する。

・名前読みでなく音読みを意識して発音させる

・音読みをしながら4線上に大文字や小文字を書かせてもよい。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・英語の授業の雰囲気づくりをする。

・指導者も児童と一緒に歌う。

・チャンツを流し一緒に言う。

・音声を使って、スポーツ・楽器の単語を確認する。

・活動のモデルとして、児童に質問させ、指導者が答えを言う。

・同様に絵を見ながらできるだけたくさんの質問をさせる。

・活動のモデルを示し、頻度を表す語を性格を表す語の前に入れられることに気付かせる。

【評】友達の得意なことや性格を紹介する活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。

・表は日本語で書いてもよいことを伝える。

・名前読みでなく音読みを意識して発音させる

・音読みをしながら4線上に大文字や小文字を書かせてもよい。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・英語の授業の雰囲気づくりをする。

・指導者も児童と一緒に歌う。

・チャンツを流し一緒に言う。

・PD(P.18~19)を参照させ、主な表現を確認してもよい。

・モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。

・Let's Try 3, 4の表現を参考にさせてもよい。

・モデル会話を示し、モデルにならって会話をするように指示する。

【評】ヒーローについて尋ね合う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・名前読みでなく音読みを意識して発音させる

・音読みをしながら4線上に大文字や小文字を書かせてもよい。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・英語の授業の雰囲気づくりをする。

・指導者も児童と一緒に歌う。

<p>・Let's Chant "Who is your hero?" ・Let's Chant "Why is he your hero?" ★「ヒーロー紹介カード」を見せながら、ショー・アンド・テルをしよう。</p> <p>○ Step 3 (1) 発表準備をする。 (2) ペアを組んで、一人ずつショー・アンド・テルをする。 (3) ペアを変えて同様に行う。 (4) カードをP.83に貼る。</p> <p>○</p> <p>○ Sounds and Letters Food Jingle(p, q, r) (P.96)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>7 Over the Horizon (1) ○ ウォームアップ ・Let's Sing "My Hero" ・Let's Chant "Who is your hero?" ・Let's Chant "Why is he your hero?" ・Small Talk "Do you usually read the newspaper?" ★日本生まれのヒーローについて考えよう。 ○ Do you know? 日本生まれのヒーローが、海外でどんな活躍をしているのかについて考える。 (1) 日本で生まれたヒーローの活躍について考えたことや意見を発表する。 (2) クイズの答えを予想し、空欄に答えを記入する。 (3) クイズの答え合わせをする。</p> <p>○ Challenge 日本のヒーローを紹介する。 "My Japanese hero is Ichiro."</p> <p>○ Sounds and Letters Food Jingle(s, t, u, v) (P.96)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>8 Over the Horizon (2) ○ ウォームアップ ・Let's Sing "My Hero" ・Let's Chant "Who is your hero?" ・Let's Chant "Why is he your hero?" ★日本語の文と英語の文のちがいについて考えよう。 ○ ことば探検 日本語の文と英語の文の違いについて記入し、気付いたことを発表する。</p> <p>○ 日本のすてき インタビューを聞く。 (1) Kichijitsuさんについての映像や音声を聞き、およその内容を理解する。 (2) 分かったことを記入し発表する。</p> <p>○ Sounds and Letters Food Jingle(w, x, y, z) (P.96)</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・チャンツを流し一緒に言う。</p> <p>・</p> <p>・ P.79の目標が達成できるように練習させる。</p> <p>・ 聞きながらメモを取るように指示する。 【評】ショー・アンド・テルの活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・</p> <p>【評】ショー・アンド・テルの活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・ 名前読みでなく音読みを意識して発音させる</p> <p>・ 音読みをしながら4線上に大文字や小文字を書かせてもよい。</p> <p>・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・</p> <p>・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・ 指導者も児童と一緒に歌う。</p> <p>・ チャンツを流し一緒に言う。</p> <p>・ PD(P.20)を参照させ、主な表現を確認してもよい。</p> <p>・</p> <p>・ 他教科で学んだ知識とも関連付けながら海外で活躍する日本のヒーローについて考えさせる。</p> <p>・ 例示されているヒーロー以外も取り上げて、世界の国々の違いを考えさせる。</p> <p>【評】海外で活躍するヒーローについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 日本のヒーローの紹介のモデルを見せることで、海外で活躍するヒーローに気付かせる。</p> <p>・ モデルに合わせて、ペアで活動できるように指示する。</p> <p>・ 名前読みでなく音読みを意識して発音させる</p> <p>・ 音読みをしながら4線上に大文字や小文字を書かせてもよい。</p> <p>【評】アルファベットを音読みしながら書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・</p> <p>・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・ 指導者も児童と一緒に歌う。</p> <p>・ チャンツを流し一緒に言う。</p> <p>・</p> <p>・ 日本語の文と英語の文を比べてみて、どんなことを感じたのかを右のメモ欄に記入させる</p> <p>【評】日本語の文と英語の文の違いについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにする。</p> <p>・ 名前読みでなく音読みを意識して発音させる</p> <p>・ 音読みをしながら4線上に大文字や小文字を書かせてもよい。</p> <p>・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p>
---	---

【 備 考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし、余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実にあてたり、パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- Who is your hero?
- My hero is ...
- Why is he your hero?
- He is good at ...
- He is always ...
- What can he do well?

単元名 Check Your Steps 3 「日本のすてき」を紹介しよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 「日本のすてき」スピーチをする語句と表現を身に付けることができる。
 (2) 「日本のすてき」スピーチの目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、スピーチをすることができる。
 (3) 他者に配慮しながら、主体的に「日本のすてき」を紹介するスピーチをしようとする。

標準的な展開例

05160303_001

【準備等】デジタル教科書，大型テレビ，教師用絵カード，画用紙，色鉛筆，振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Check Your Steps (1) ○ ウォームアップ</p> <p>★「日本のすてき」紹介の準備をしよう。 ○ HOP 「日本のすてき」で紹介したいことを選ぶ。</p> <p>○ STEP (1) 「日本のすてき」スピーチを考える。 例：Hello, ALT. I am Hiromi. We have yosakoi in summer. My hero is Tsubasa. He is good at yosakoi. He is always fantastic. Thank you. (2) 紹介ガイドを作る。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Check Your Steps (2) / STORY TIME ○ ウォームアップ</p> <p>★「日本のすてき」を英語の先生の紹介しよう。 ○ JUMP (1) 声・表情・スピードに気を付けて練習をする。 (2) 「日本のすてき」スピーチをする。 例：Hello, ALT. I am Hiromi. We have yosakoi in summer. My hero is Tsubasa. He is good at yosakoi. He is always fantastic. Thank you. (ALT: You have yosakoi in summer. We have Independence Day parade in summer. Good job, Hiromi.) (3) スピーチの振り返りをする。 ○ STORY TIME A Bundle of Sticks(P.84) (1) STORY TIMEを聞いて分かったことを発表する。 (2) STORY TIMEを読んで分かったことを発表する。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・Unit 7, 8のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲を選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・Unit 7, 8で作成したカードなどを確認し「日本のすてき」(人・行事・食べ物など)を選ばせる。</p> <p>・Unit 7, 8のEnjoy Communicationで使った表現を思い出させながら、スピーチを考えさせる。</p> <p>・PD(P.38, 40, 41)も参考にさせる。</p> <p>・「日本のすてき」スピーチの内容にあった紹介ガイドを作成させる。 【評】「日本のすてき」スピーチを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】「日本のすてき」スピーチを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・Unit 7, 8のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲を選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・初めの挨拶，終わりの挨拶を全体で練習させる。 スピーチを聞く側も，声・表情・スピードに気を付けて聞けるように指導する。 【評】「日本のすてき」スピーチを通して，「思考・判断・表現」を評価する。 【評】「日本のすてき」スピーチを通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・おじいさんが伝えた内容について考えさせる</p> <p>・指導者の後に続いて読ませたり，ペアで読み合わせたりしてもよい。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p>

【 備 考 】

※言語材料

- ・Welcome to Japan.
- ・We have ... in ...
- ・What do you do on New Year's Day?
- ・I usually ...
- ・Oh, really?
- ・Why do you like winter?
- ・Who is your hero?
- ・My hero is ...
- ・Why is he your hero?

- He is good at ...
- He is always ...
- What can he do well?

単元名 Unit 1 This is me!

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 名前や好きなもの・こと、誕生日を発表する語句や表現を身に付けるとともに、活字体の大文字・小文字を理解することができる。
- (2) 名前や好きなもの・こと、誕生日を発表する目的や場面、状況に応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、伝え合うことができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に、名前や好きなもの・こと、誕生日を発表するとともに、英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

06160101_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学び方みいつけた！ 1 / Starting Out (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> o 学び方みいつけた！ 1 会話の場面 場面から浮かぶ英語を発表する。 o ウォームアップ ・Let's Sing "Hello, everyone." ・Let's Chant "Where are you from?" ・Small Talk "What language do you want to study?" <p>★世界の子供たちのプロフィールについておおよその内容を聞き取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> o Word Link 英語の文字と音 PD(P. 42～43) o Let's Try 1 ワードゲーム PD(P. 42～43)の単語でポインティングゲームをする。 o Starting Out 世界の子供たちのプロフィールを聞いて聞こえた順に□に番号を書く。 o Let's Read and Write 1 I'm Emily. o Sounds and Letters B, b (P. 90) o 本時の学習を振り返る。 <p>2 Starting Out (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ ・Let's Sing "Hello, everyone." ・Let's Chant "Where are you from?" ★世界の子供たちのプロフィールについて聞き取ったことを発表しよう。 o Word Link 国 PD(P. 16) o Let's Try 1 ワードゲーム o Starting Out 世界の子供たちのプロフィールを聞いて分かったことを発表する。 o Let's Read and Write 2 I'm from Singapore. o Sounds and Letters C, c (P. 90) o 本時の学習を振り返る。 <p>3 Your Turn (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の仕方や授業ルールの確認も行う。 ・5年生で学んだ場면을想起させる。 ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・最初は聞くだけとし、数回流す。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 ・PD(P. 16)を参照させ、主な言語などを確認させる。 ・アルファベットジングルで文字の名前と音、単語を確認させる。 ・ポインティングゲーム 指導者が発話した単語を指で示させる。 ペアで競争させる。 指導者が示す単語を発音させる。 ・絵を見てどのような内容が事前に予想させる ・通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 【評】世界の子供たちのプロフィールの聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・bの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・音声を使って、国の単語を確認させる。 ・PD(P. 16)の単語でポインティングゲームをする。 ・ポインティングゲームについては、U1 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・繰り返し聞かせ、自己紹介に必要な表現に気付かせる。 【評】世界の子供たちのプロフィールの聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。 ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・アポストロフィ(')の位置に気付かせる。 ・cの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。

- ・Let's Sing "Hello, everyone."
- ・Let's Chant "Where are you from?"
- ・Small Talk "What is your favorite animal?"
- ★英語の語順について考えよう。
- Word Link 動物 PD(P.12～P.13)
- Let's Listen 1 登場人物の自己紹介を聞き、4線上に名前を、()に出身国を書く。また二人になりきって自己紹介をする。
- Let's Try 2 好きなもの・ことやできるスポーツを伝えたり、尋ねたりする。
巻末の絵カードからカードを選ぶ。
A: I like cats. What animals do you like?
B: I like dogs.
- Let's Read and Write 3 I like dogs.
- Sounds and Letters D, d (P.90)
- 本時の学習を振り返る。
- 4 Your Turn (2)
- ウォームアップ
- ・Let's Sing "Hello, everyone."
- ・Let's Chant "Where are you from?"
- ★先生や友達の名前や誕生日を尋ねて書こう。
- Word Link 月・日付 PD(P.14～P.15)
- Let's Listen 2 歴史上の人物について聞いて、誕生日を書く。
- Let's Try 3 先生や友達の名前や誕生日を尋ねて書く
A: What's your name?
B: My name is Emily. E-m-i-l-y.
- A: When is your birthday?
B: My birthday is May 5th.
- Let's Read and Write 4 My birthday is May 5th.
- Sounds and Letters F, f (P.90)
- 本時の学習を振り返る。
- 5 Enjoy Communication (1)
- ウォームアップ
- ・Let's Sing "Hello, everyone."
- ・Let's Chant "Where are you from?"
- ・Small Talk "When is your birthday?"
- ★「プロフィールカード」を使って、自分についてのスピーチを練習をしよう。
- Step 1
- (1) 例文を音声で聞いた後、声に出して読む。
- (2) P.86の「わたしのセリフ」を声に出して読む。
- (3)) 友達と教科書を交換して、「友達のせりふ」を声に出して読む。
- Step 2
- (1) 「わたしのセリフ」をふくらませる。
- (2) プロフィールカードを完成させる。
- (3) ペアで発表練習をする。
- Sounds and Letters G, g (P.90)
- 本時の学習を振り返る。

- ・主な動物を確認させる。
- ・音声を使って、動物の単語を改めて確認させる。
- ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・何度も音声で聞いて、慣れ親しんだ後、文字や絵も参考にしながら自己紹介を再現させる。
- ・教科書の空欄に巻末絵カードを置いて文を作り、繰り返し練習させる。
- ・会話を続ける表現をいくつか紹介し、練習させる。
- 【評】英語の語順について考える活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
- ・dの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。
- ・音声を使って、月・日付の単語を確認させる。
- ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・名前はつづりを聞いて、ローマ字で書かせる。
- ・誕生日はPD(P.14～P.15)を参考に書き写させる。
- 【評】名前や誕生日を尋ねる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
- ・fの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。
- ・PD(P.14～15)を参照させ、月・日付を確認させる。
- ・プロフィール紹介の核となる部分なので、何度も音声で表現に慣れ親しませる。
- ・Let's Read and Writeで書きためた文を参照させる。
- ・教科書のヒントを手がかりにさせる。
- ・巻末コミュニケーションカードを切り取って使用させる。
- ・プロフィールカードを見せ合いながら行わせる。
- 【評】プロフィールカードの内容を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・gの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。
- ・6年生のコミュニケーション活動の目的は、人前で発表する力を身に付けることと伝える。

6 Enjoy Communication (2)

- ウォームアップ
 - ・Let's Sing "Hello, everyone."
- ・Let's Chant "Where are you from?"
- ★プロフィールカードを使って、自分についてスピーチをしよう。

○Step 3

- (1) 発表準備をし、グループを作る。
- (2) グループ内で一人ずつ発表する。

○Sounds and Letters H, h (P.90)

○本時の学習を振り返る。

7 Over the Horizon (1)

- ウォームアップ
 - ・Let's Sing "Hello, everyone."
- ・Let's Chant "Where are you from?"
- ・Small Talk "Do you have brothers or sisters?"

★世界の国や文化について考えよう。

- Do you know? 世界のあいさつや国旗を通して、異なる習慣や文化について考える。
 - (1) 挨拶や国旗など、世界の国や文化について考える。
 - (2) クイズの答えを予想し、空欄に答えを記入する。

(3) クイズの答え合わせをする。

○Challenge「世界の国クイズ」を作る。

Q:What country is this?

A:It's ...

○Sounds and Letters J, j (P.90)

○本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

- ウォームアップ
 - ・Let's Sing "Hello, everyone."
- ・Let's Chant "Where are you from?"
- ★世界の言語について知ろう。
 - ことば探検 世界の言語についてのグラフから気付いたことを発表する。

○世界のすてき China 旅の案内を聞く。

- (1) China の紹介を聞いて、およその内容を理解する。
- (2) 分かったことを記入し発表する。

○Sounds and Letters Quiz① (P.90)

○本時の学習を振り返る。

- ・大きくはっきりした声で、他者に配慮して話す重要性を伝える。
- ・同時に聞くときの工夫についても考えさせる

・P.11の目標が達成できるように練習させる。

- ・1ペアが残りのペアに向けて一人ずつ発表させるようにする。
- ・「話すときに工夫したこと」「聞くときに工夫したこと」を記入させる。
- ・使い終わった「プロフィールカード」を教科書P.30に貼らせる。
- 【評】自己紹介の発表を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】自己紹介の発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・hの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。
- ・PD(P.17)を参照させ、家族の単語を確認させる。

- ・他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界の国の文化について考えさせる。
- ・例示されている挨拶、国旗以外の観点も取り上げて、世界の国々の違いを考えさせる。

【評】世界の国や文化について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・Do you know?で学んだ内容やテーマをヒントにクイズを作らせる。
- ・クイズは日本語でも英語でもよいことを伝える。
- ・jの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。

・PD(P.16)に掲載されている各国で使用されている言語を参考にさせてもよい。

【評】世界の言語について考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ・全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにさせる。
- ・聞こえた順に()に番号を書かせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる。
- 【評】アルファベットの音を聞いて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし, 余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり, パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- I'm
- I'm from
- I like
- My birthday is

単元名 Unit 2 How is your school life?

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 世界の子供たちの日常生活を知り、自分たちの生活について伝え合う語句や表現を身に付けるとともに、活字体の大文字・小文字を理解することができる。
- (2) 世界の子供たちの日常生活を知り、自分たちの生活について伝える目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、伝え合うことができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に、世界の子供たちの日常生活を知り、自分たちの生活について伝え合うとともに、英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

06160102_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Starting Out (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "My Day" ・Let's Chant "Where do you live?" ・Small Talk "How do you come to school?" <p>★世界の子供たちの学校生活や日課について、およその内容を聞き取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> o Word Link 乗り物 PD(P.23) o Let's Try 1 ワードゲーム PD(P.23)の単語でキーワードゲームをする。 <p>o Starting Out 世界の子供たちの学校生活や日課を聞いて、聞こえた順に□に番号を書く。</p> <p>o Let's Read and Write 1 I live in Ueda in Japan.</p> <p>o Sounds and Letters K, k (P.90)</p> <p>o 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・最初は聞くだけでし、数回流す。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 ・PD(P.23)を参照させ、主な乗り物などを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、乗り物の単語を確認させる。 ・キーワードゲーム ペアの間に消しゴムを一個置かせる。 練習した単語の中からキーワードを決める。 <p>児童は、指導者がキーワードを発音したときのみ、消しゴムを取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】世界の子供たちの学校生活や日課の聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・kの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
<p>2 Starting Out (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "My Day" ・Let's Chant "Where do you live?" ★世界の子供たちの学校生活や日課について聞き取ったことを発表しよう。 o Word Link 一日の時間 PD(P.14) o Let's Try 1 ワードゲーム <p>o Starting Out 世界の子供たちの学校生活や日課を聞いて、分かったことを発表する。</p> <p>o Let's Read and Write 2 I go to Naka Elementary School.</p> <p>o Sounds and Letters L, l (P.90)</p> <p>o 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、一日の時間の単語を確認させる。 ・PD(P.14)の単語でキーワードゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードゲームについては、U2 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・繰り返し聞かせ、学校生活や日課について話すときに必要な表現に気付かせる。 <p>【評】世界の子供たちの学校生活や日課の聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・lの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
<p>3 Your Turn (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "My Day" ・Let's Chant "Where do you live?" 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・PD(P.20)を参照させ、主な時間を確認させて

- Small Talk "
 - What time do you usually go to bed?"
- ★ふだん行っていることについてを伝え合おう。
 - Word Link 一日の生活 PD(P.20)
 - Let's Listen 1 登場人物の話を読み、ふだん見ているテレビ番組を○で囲む。
 - Let's Try 2 ふだんすることについて、友達とペアで尋ね合う。
 - A: What do you usually do on Sundays?
 - B: I usually
 - y watch soccer games on Sundays.
 - Let's Read and Write 3
 - I usually watch soccer games on Sundays.
 - Sounds and Letters M, m (P.90)
 - 本時の学習を振り返る。
- 4 Your Turn (2)
 - ウォームアップ
 - Let's Sing "My Day"
 - Let's Chant "Where do you live?"
 - ★宝物について、友達とペアでたずね合おう。
 - Word Link 日常生活 PD(P.26~27)
 - Let's Listen 2 世界の友達の宝物について聞き、線で結ぶ。
 - Let's Try 3 自分の宝物を空欄に書いて、宝物について友達とペアで尋ね合う。
 - A: What is your treasure?
 - B: My treasure is this soccer ball.
 - Let's Read and Write 4 My treasure is this soccer ball.
 - Sounds and Letters N, n (P.90)
 - 本時の学習を振り返る。
 - 5 Enjoy Communication (1)
 - ウォームアップ
 - Let's Sing "My Day"
 - Let's Chant "Where do you live?"
 - Small Talk
 - "What do you usually do on Sunday mornings?"
 - ★「宝物紹介カード」を使って、自分の日常生活について紹介する練習をしよう。
 - Step 1
 - (1) 例文を音声で聞いた後、声に出して読む。
 - (2) P.86の「わたしのセリフ」を声に出して読む。
 - (3)
 - ）友達と教科書を交換して、「友達のせりふ」を声に出して読む。
 - Step 2
 - (1) 「わたしのセリフ」をふくらませる。
 - (2) 宝物紹介カードを完成させる。
 - (3) ペアで発表練習をする。
 - Sounds and Letters P, p (P.91)
 - 本時の学習を振り返る。
 - 6 Enjoy Communication (2)
 - ウォームアップ
 - Let's Sing "My Day"
 - Let's Chant "Where do you live?"
 - ★「宝物紹介カード」を使って、自分の日常生活をスピー

もよい。

- 音声を使って、一日の生活の熟語を練習させる。
- 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- 何度も音声で聞いて、慣れ親しませる。
- ふだん行っていることを考えさせ、繰り返し練習させる。
- 会話を続ける表現をいくつか紹介し、練習させる。
- 【評】ふだん行っていることについて尋ね合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
- mの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- 指導者も児童と一緒に歌う。
- チャンツを流し一緒に言う。
- 音声を使って、日常生活の単語を確認させる
- 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- 宝物はPD(P.26)を参考に書き写させてもよい
- 【評】宝物を尋ねる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
- nの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- 指導者も児童と一緒に歌う。
- チャンツを流し一緒に言う。
- PD(P.20)を参照させ、主な動作の単語を確認させてもよい。
- 宝物紹介の核となる部分なので、何度も音声で表現に慣れ親しませる。
- Let's Read and Writeで書きためた文を参照させる。
- 教科書のヒントを手がかりにさせる。
- 巻末コミュニケーションカードを切り取って使用させる。
- 宝物紹介カードを見せ合いながら行わせる。
- 【評】宝物紹介カードの内容を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- pの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- 指導者も児童と一緒に歌う。
- チャンツを流し一緒に言う。
- P.19の目標が達成できるように練習させる。
- 「話すときに工夫したこと」「聞くときに工夫したこと」を記入させる。

チをしよう。

○ Step 3

- (1) 発表準備をし、グループを作る。
- (2) グループで、「話す役」「聞く役」「見る役」を決める。
- (3) グループ内で一人ずつ発表する。
- (4) 「話す役」は日常生活を発表し、「聞く役」はそれを聞く。
- (5) 「見る役」は、「話す役」と「聞く役」の良い点を言う。

○ Sounds and Letters Q, q (P.91)

○ 本時の学習を振り返る。

7 Over the Horizon (1)

○ ウォームアップ

- ・ Let's Sing "My Day"
- ・ Let's Chant "Where do you live?"

・ Small Talk "

What is your treasure?"

★世界の人々の日常生活で欠かせない大切なものを考えよう。

○ Do you know? 他国の人々が大切にしているものを知り異なる習慣や文化について考える。

- (1) 他国では、どのようなものが大切にされているのかを考える。
- (2) クイズの答えを予想し、空欄に答えを記入する。

(3) クイズの答え合わせをする。

○ Challenge 自分の日常生活に欠かせない大切なものを紹介しよう。

My treasure is ….

○ Sounds and Letters R, r (P.91)

○ 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

○ ウォームアップ

- ・ Let's Sing "My Day"
- ・ Let's Chant "Where do you live?"

★日本語と英語の表現を比べよう。

○ ことば探検 日本語と英語の表現を比べて、気付いたことを発表する。

○ 世界のすてき Korea 旅の案内を聞く。

- (1) Korea の紹介を聞いて、おおよその内容を理解する。
- (2) 分かったことを記入し発表する。

○ Sounds and Letters Quiz② (P.91)

○ 本時の学習を振り返る。

・ 使い終わった「宝物紹介カード」を教科書P.30に貼らせる。

【評】 日常生活の発表を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】 日常生活の発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ qの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。
- ・ PD(P.26～27)を参照させ、主な生活で使う物の単語などを確認させる。

- ・ 他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界の国の文化について考えさせる。
- ・ 例示されている国以外も取り上げて、世界の国々の違いを考えさせる。

【評】 世界の人々の日常生活で欠かせない大切なものを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ Do you know?で考えたこともヒントにさせる

- ・ rの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。

【評】 日本語と英語の表現方法の違いについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・ 全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにさせる。

- ・ 聞こえた順に()に番号を書かせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる。

【評】 アルファベットの音を聞いて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし、余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり、パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- ・ I live in … in Japan.
- ・ I go to … Elementary School .
- ・ I usually … at ….
- ・ What is my treasure?
- ・ Can you guess?
- ・ It's ….
- ・ Is it …?
- ・ Yes, that's right.
- ・ My treasure is ….

単元名 Unit 3 Let's go to Italy.

配当時間 8時間

単元の目標 (1) 行ってみたい国や地域と、その理由を説明する語句や表現を身に付けるとともに、活字体の大文字・小文字を理解することができる。

(2) 行ってみたい国や地域と、その理由を説明する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、説明することができる。

(3) 他者に配慮しながら、主体的に、行ってみたい国や地域と、その理由を説明するとともに、英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

06160103_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Starting Out (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "I want to go to Italy." ・ Let's Chat "Where do you want to go?" ・ Small Talk "What is this country?" <p>★世界の有名な建物や食べ物などについて、およその内容を聞き取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> o Word Link 国 PD(P.16) o Let's Try 1 ワードゲーム PD(P.16)の単語でミッシングゲームをする。 <p>o Starting Out 世界の有名な建物や食べ物などについて聞いて、聞こえた順に□に番号を書く。</p> <p>o Let's Read and Write 1 Italy is a nice country.</p> <p>o Sounds and Letters S, s (P.91)</p> <p>o 本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "I want to go to Italy." ・ Let's Chat "Where do you want to go?" <p>★世界の有名な建物や食べ物などについて、聞き取ったことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> o Word Link 様子 PD(P.29) o Let's Try 1 ワードゲーム <p>o Starting Out 世界の有名な建物や食べ物などを聞いて分かったことを発表する。</p> <p>o Let's Read and Write 2 You can see the Colosseum.</p> <p>o Sounds and Letters T, t (P.91)</p> <p>o 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 最初は聞くだけとし、数回流す。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 ・ PD(P.16)を参照させ、主な国などを確認させる。 <p>・ 音声を使得、国の単語を改めて確認させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミッシングゲーム 黒板にフラッシュカードを貼る。 児童に目を閉じさせる。 その間に単語カードを数枚隠す。 目を開け、なくなっているカードを当てさせる。 ・ 絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・ 通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・ もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】世界の有名な建物や食べ物などについての聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・ sの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使得、様子を表現する単語を確認させる。 ・ PD(P.29)の単語でミッシングゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ミッシングゲームについては、U3 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・ 繰り返し聞かせ、おすすめの国を紹介するのに必要な表現に気付かせる。 <p>【評】世界の有名な建物や食べ物などについての聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・ tの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

3 Your Turn (1)

- ウォームアップ
 - ・Let's Sing "I want to go to Italy."
- ・Let's Chat
 - nt "Where do you want to go?"
- ・Small Talk "Where do you want to go?"

★旅行代理店のCMで分かったことを伝え合おう。

- Word Link 食べ物・国 PD(P. 8, 16)

- Let's Listen 1 国名クイズを聞き、その答えとなる国旗を○で囲む。

- Let's Listen 2 旅行代理店のCMを聞き、分かったことを線でつなぐ。

- Let's Try 2 Let's Listen 2のCMで分かったことを使って、友達とペアで尋ね合う。

A: Why do you like Italy?

B: You can eat pizza.

- Let's Read and Write 3 You can eat pizza.

- Sounds and Letters V, v (P.91)

- 本時の学習を振り返る。

4 Your Turn (2)

- ウォームアップ
 - ・Let's Sing "I want to go to Italy."
- ・Let's Chat
 - nt "Where do you want to go?"
- ★世界の国の中から、その国で有名なものを探したり、その国でできることを書き写したりしよう。
- Word Link 味など PD(P. 11)

- Let's Try 3 友達と協力して、国と有名なものの名前を口メモをし、その国でできることや感想などを4線に書き写す。

- Let's Read and Write 4 It's delicious.

- Sounds and Letters W, w (P.91)

- 本時の学習を振り返る。

5 Enjoy Communication (1)

- ウォームアップ
 - ・Let's Sing "I want to go to Italy."
- ・Let's Chat
 - nt "Where do you want to go?"
- ・Small Talk "What do you want to eat?"

★「旅行案内カード」を使って、おすすめの国を紹介する練習をしよう。

- Step 1

(1) 例文を音声で聞いた後、声に出して読む。

(2) P. 87の「わたしのセリフ」を声に出して読む。

(3)

友達と教科書を交換して、「友達のせりふ」を声に出して読む。

- Step 2

(1) 「わたしのセリフ」をふくらませる。

(2) 旅行案内カードを完成させる。

(3) ペアで発表練習をする。

- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。
- ・PD(P. 16)を参照させ、主な国を確認させる。

- ・音声を使って、食べ物や国の単語を確認させる。
- ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・何度も音声で聞いて、慣れ親しませる。
- ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・何度も音声で聞いて、慣れ親しませる。
- ・CMで分かったことを考えさせ、繰り返し練習させる。
- ・会話を続ける表現をいくつか紹介し、練習させる。

【評】CMで分かったことを使って尋ね合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。
・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
・vの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。

- ・音声を使って、味を表現する単語を確認させる。
- ・社会科の地図帳やPD(P. 16)を参照させるとよい。

【評】世界の国の中から、その国で有名なものを探したり、その国でできることなど書き写したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。
・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
・wの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。
- ・PD(P. 8)を参照させ、主な食べ物を確認させる。

- ・おすすめの国を紹介する核となる部分なので何度も音声で表現に慣れ親しませる。
- ・Let's Read and Writeで書きためた文を参照させる。

- ・教科書のヒントを手がかりにさせる。
- ・巻末コミュニケーションカードを切り取って使用させる。
- ・旅行案内カードを見せ合いながら行わせる。

【評】旅行案内カードの内容を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
・xの音で終わる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。

○ Sounds and Letters X, x (P.91)

○ 本時の学習を振り返る。

6 Enjoy Communication (2)

○ ウォームアップ

・ Let's Sing "I want to go to Italy."

・ Let's Chat

nt "Where do you want to go?"

★「旅行案内カード」を使って、自分たちのおすすめの国について発表しよう。

○ Step 3

(1) おすすめの国や町が同じ友達同士でグループを作り協力をしてポスターを作る。

(2) グループでどのように発表するかを決める。

(3) 発表順を決める。(1 グループが「旅行代理店役」ほかは「客役」)

(4) 「旅行代理店役」はおすすめの本を発表し、「客役」はそれを聞く。

○ Sounds and Letters Y, y (P.91)

○ 本時の学習を振り返る。

7 Over the Horizon (1)

○ ウォームアップ

・ Let's Sing "I want to go to Italy."

・ Let's Chat

nt "Where do you want to go?"

・ Small Talk "Do you

u like traveling?"

★世界遺産について考えよう。

○ Do you know? 世界遺産について考え、異なる文化について知る。

(1) 世界遺産がどこの国にあり、どのような遺産であるのかを考える。

(2) 日本本世界遺産の数や無形文化遺産について考える。

(3) クイズの答えを予想し、答えを記入する。

(4) クイズの答え合わせをする。

○ Challenge 行ってみたい世界遺産を紹介しよう。

I want to visit ...

○ Sounds and Letters Z, z (P.91)

○ 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

○ ウォームアップ

・ Let's Sing "I want to go to Italy."

・ Let's Chat

nt "Where do you want to go?"

★語の役割について考えよう。

○ ことば探検 語の役割に注目して分類する。

(1) 語の役割に注目して、分類する。

(2) 答え合わせをする。

○ 世界のすてき Australia 旅の案内を聞く。

(1) Australia の紹介を聞いて、およその内容を理解する。

(2) 分かったことを記入し発表する。

○ Sounds and Letters Quiz③ (P.91)

○ 本時の学習を振り返る。

- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。

・ P.27の目標が達成できるように練習させる。

・ 「話すときに工夫したこと」「聞くときに工夫したこと」を記入させる。

・ 使い終わった「旅行案内カード」を教科書 P.31に貼らせる。

【評】 おすすめの本についての発表を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】 おすすめの本についての発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

・ yの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

・ 指導者も児童と一緒に歌う。

・ チャンツを流し一緒に言う。

・ PD(P.16)を参照させ、主な本を確認させる。

・ 他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界の国の文化について考えさせる。

・ 例示されている遺産以外にも取り上げて考えさせる。

【評】 世界遺産について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

・ Do you know?で考えたこともヒントにさせる

・ zの音で始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

・ 指導者も児童と一緒に歌う。

・ チャンツを流し一緒に言う。

【評】 語の役割を分類する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにさせる。

・ 聞こえた順に()に番号を書かせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる。

【評】 アルファベットの音を聞いて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし, 余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり, パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- ... is a nice country.
- You can see
- Do you know ...?
- What can we eat in ...?
- You can eat
- It's delicious.

単元名 Check Your Steps 1 外国の人にメッセージを伝えよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 外国の人にメッセージを伝えるスピーチにおいて、学習した語句や表現を用いることができる
 (2) 外国の人にメッセージを伝える目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、スピーチをすることができる。
 (3) 他者に配慮しながら、主体的に外国の人にメッセージを伝えるスピーチをしようとする。

標準的な展開例

06160104_001

【準備等】デジタル教科書，大型テレビ，教師用絵カード，ワークシート，振り返りシート，画用紙，色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Check Your Steps (1) ○ウォームアップ</p> <p>★外国の人に伝えるメッセージを考えよう。 ○HOP メッセージを伝えたい外国の人を決める。</p> <p>○STEP (1) メッセージを考える。 例：Hi, ALT. I like baseball. Do you like baseball? Let's play baseball tomorrow. Thank you for listening. (2) メッセージカードを完成する。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Check Your Steps (2) ○ウォームアップ</p> <p>★外国の人にメッセージを伝えよう。 ○JUMP (1) 練習をする。 (2) 一人ずつ伝えたい人に向けてメッセージを発表する。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Unit 1～3のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。 外国の人が身の回りにいない場合は、ALTやALTの友達を紹介してもらう。 Unit 1～3で作成したカードやPD(P. 38～41)などを参照させ、これまで学習した表現を組み合わせさせてメッセージを考えさせる。 枠の中にその人の説明や感想を入れてメッセージカードを作らせる。 練習の際は、声、表情、スピードなどを工夫させる。 【評】外国の人にメッセージを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】外国の人にメッセージを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 Unit 1～3のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。 聞いている児童とのやりとりをさせる。 【評】外国の人にメッセージ伝える発表を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】外国の人にメッセージを伝える発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※言語材料

- I'm
- I'm from
- I like
- My birthday is ...
- What is my treasure?
- Can you guess?
- It's
- My treasure is
- ... is a nice country.
- Do you know ...?

単元名 Unit 4 Summer Vacations in the World

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 世界の夏休みの過ごし方を知り、自分の思い出を紹介する語句や表現を身に付けるとともに、活字体の大文字・小文字を理解することができる。
- (2) 世界の夏休みの過ごし方を知り、自分の思い出を紹介する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして紹介することができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に、世界の夏休みの過ごし方を知り、自分の思い出を紹介するとともに、英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

06160201_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学び方みいつけた！ 2 / Starting Out (1)</p> <p>○学び方みいつけた！ 2 書くときのルール</p> <p>(1) 単語を書くときのルールを考え、発表する。</p> <p>(2) 文を書くときのルールを考え、発表する。</p> <p>★夏休みの過ごし方についておよその内容を聞き取ろう。</p> <p>○Word Link したこと PD(P.18)</p> <p>○Let's Try 1 ワードゲーム</p> <p>・PD(P.18)の単語でポインティングゲームをする。</p> <p>○Starting Out 夏休みの過ごし方を聞いて、聞こえた順に□に番号を書く。</p> <p>○Let's Read and Write 1 I went to the mountains.</p> <p>○Sounds and Letters A, a (P.92)</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <p>・Let's Sing "We love summer vacation."</p> <p>・Let's Chant "Did you enjoy camping?"</p> <p>★夏休みの過ごし方を聞いて、聞き取ったことを発表しよう。</p> <p>○Word Link 自然 PD(P.12～13)</p> <p>○Let's Try 1 ワードゲーム</p> <p>PD(P.12～13)の単語でポインティングゲームをする。</p> <p>○Starting Out 夏休みの過ごし方を聞いて、分かったことを発表しよう。</p> <p>○Let's Read and Write 2 I enjoyed camping.</p> <p>○Sounds and Letters E, e (P.92)</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>3 Your Turn (1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <p>・Let's Sing "We love summer vacation."</p> <p>・Let's Chant "Did you enjoy camping?"</p> <p>・Small Talk "Did you enjoy your summer vacation?"</p> <p>★昨日食べたものを伝え合おう。</p> <p>○Word Link デザート PD(P.9)</p> <p>○Let's Listen 1 登場人物が夏休みにどんなことをしたのかを聞き、線で結ぶ。</p>	<p>・本時のめあてを児童と確認する。</p> <p>・音声を使って、したことを表現する単語を確認させる。</p> <p>・ポインティングゲームについては、U1 第1時の「留意事項など」を参照する。</p> <p>・絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。</p> <p>・通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。</p> <p>・もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。</p> <p>【評】夏休みの過ごし方の聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する</p> <p>・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。</p> <p>・aを含む単語に○を付けさせる。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・指導者も児童と一緒に歌う。</p> <p>・チャンツを流し一緒に言う。</p> <p>・本時のめあてを児童と確認する。</p> <p>・音声を使って、自然の単語を確認させる。</p> <p>・ポインティングゲームについては、U1 第1時の「留意事項など」を参照する。</p> <p>・聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。</p> <p>・繰り返し聞かせ、夏休みの思い出を紹介するのに必要な表現に気付かせる。</p> <p>【評】夏休みの過ごし方の聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。</p> <p>・eを含む単語に○を付けさせる。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・指導者も児童と一緒に歌う。</p> <p>・チャンツを流し一緒に言う。</p> <p>・PD(P.18～19)を参照させ、主な動作などを確認させる。</p> <p>・音声を使って、デザート単語を確認させる</p> <p>・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。</p> <p>・何度も音声で聞いて、慣れ親しませる。</p> <p>・CMで分かったことを考えさせ、繰り返し練習させる。</p>

- o Let's Try 2 昨日食べたものについて、友達とペアで尋ね合う。
A: What did you eat?
B: I ate curry and rice.
- o Let's Read and Write 3 I ate curry and rice.
- o Sounds and Letters I, i (P.92)
- o 本時の学習を振り返る。
- 4 Your Turn (2)
 - o ウォームアップ
 - ・ Let's Sing "We love summer vacation."
 - ・ Let's Chant "Did you enjoy camping?"
 - ★ 夏休みの思い出について、友達とペアでたずね合う。
 - o Word Link 味など PD(P.11)
 - o Let's Listen 2 いろいろな国のこどもたちの夏休みの思い出を聞き、線でつなぐ。
 - o Let's Try 3 夏休みの思い出について友達とペアで尋ね合う。
A: What is your treasure?
B: My treasure is this soccer ball.
 - o Let's Read and Write 4 It was great.
 - o Sounds and Letters O, o (P.92)
 - o 本時の学習を振り返る。
- 5 Enjoy Communication (1)
 - o ウォームアップ
 - ・ Let's Sing "We love summer vacation."
 - ・ Let's Chant "Did you enjoy camping?"
 - ・ Small Talk "What did you eat?"
 - ★ 「夏休みの記録メモ」を使って、おすすめの国を紹介する練習をしよう。
 - o Step 1
 - (1) 例文を音声で聞いた後、声に出して読む。
 - (2) P.87の「わたしのセリフ」を声に出して読む。
 - (3) 友達と教科書を交換して、「友達のせりふ」を声に出して読む。
 - o Step 2
 - (1) 「わたしのセリフ」をふくらませる。
 - (2) 夏休みの記録メモを完成させる。
 - (3) ペアで発表練習をする。
 - o Sounds and Letters U, u (P.92)
 - o 本時の学習を振り返る。
- 6 Enjoy Communication (2)
 - o ウォームアップ
 - ・ Let's Sing "We love summer vacation."
 - ・ Let's Chant "Did you enjoy camping?"
 - ★ 「夏休みの記録メモ」を使って、夏休みの思い出を発表しよう。
 - o Step 3
 - (1) 発表準備をし、グループを作る。
 - (2) グループ内で一人ずつ発表する。

- ・ 会話を続ける表現をいくつか紹介し、練習させる。
- 【評】 昨日食べたものについて伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・ 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
- ・ iを含む単語に○を付けさせる。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。
- ・ 音声を使って、味などの単語を練習させる。
- ・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・ 何度も音声で聞いて、慣れ親しませる。
- ・ P.87に書きためた「わたしのせりふ」を確認させる。
- 【評】 夏休みの思い出を尋ね合う活動を通して「知識・技能」を評価する。
- ・ 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
- ・ oを含む単語に○を付けさせる。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。
- ・ PD(P.8)を参照させ、主な食べ物の単語を確認させる。
- ・ 夏休みの思い出を紹介する核となる部分なので、何度も音声で表現に慣れ親しませる。
- ・ Let's Read and Writeで書きためた文を参照させる。
- ・ 教科書のヒントを手がかりにさせる。
- ・ 巻末コミュニケーションカードを切り取って使用させる。
- ・ 夏休みの記録メモを見せ合いながら行わせる
- 【評】 夏休みの記録メモの内容を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・ 上の列はuを含む単語に○を付けさせる。
- ・ 下の列は単語を言わせる。
- ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
- ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・ 指導者も児童と一緒に歌う。
- ・ チャンツを流し一緒に言う。
- ・ P.39の目標が達成できるように練習させる。
- ・ 1ペアが残りのペアに向けて一人ずつ発表するようにさせる。
- ・ 「話すときに工夫したこと」「聞くときに工夫したこと」を記入させる。
- ・ 使い終わった「夏休みの記録メモ」を教科書P.60に貼らせる。
- 【評】 夏休みの思い出の発表を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- 【評】 夏休みの思い出の発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・ a, eを含む単語に○を付けさせ、答え合わせ

o Sounds and Letters Quiz④ (P.92)

o 本時の学習を振り返る。

7 Over the Horizon (1)

o ウォームアップ

・ Let's Sing "We love summer vacation."

・ Let's C

hant "Did you enjoy camping?"

・ Small Talk "What

did you do last Sunday?"

★世界の夏休みについて考えよう。

o Do you know? 他国の人々の夏休みの生活を知り、異なる習慣について考える。

(1) 他国では、どのように夏休みを過ごしているかを考える。

(2) クイズの答えを予想し、空欄に答えを記入する。

(3) クイズの答え合わせをする。

o Challenge 日本の夏を紹介しよう。

I went to ….

o Sounds and Letters Quiz⑤ (P.92)

o 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

o ウォームアップ

・ Let's Sing "We love summer vacation."

・ Let's C

hant "Did you enjoy camping?"

★キーワードになる「W」で始まる言葉について考えよう

o ことば探検 5つの単語の日本語を考える。

(1) 知りたいことを手にいれるためのキーワードを考える。

(2) 答え合わせをする。

o 世界のすてき America 旅の案内を聞く。

(1) America の紹介を聞いて、およその内容を理解する

(2) 分かったことを記入し発表する。

o Sounds and Letters Quiz⑥ (P.92)

o 本時の学習を振り返る。

をした後、声に出して練習させる。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

・ 指導者も児童と一緒に歌う。

・ チャンツを流し一緒に言う。

・ PD(P.18～19)を参照させ、主な動作などを確認させる。

・ 他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界の国の文化について考えさせる。

・ 例示されている国以外も取り上げて、世界の国々の違いを考えさせる。

【評】世界の夏休みについて考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ Do you know?で考えたこともヒントにさせる

・ i, oを含む単語に○を付けさせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる。

【評】音声を聞いて、単語の中にi, oの音がある絵を選ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

・ 指導者も児童と一緒に歌う。

・ チャンツを流し一緒に言う。

【評】「W」で始まる言葉について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにさせる。

・ 上の列は、uを含む単語に○を付けさせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる。

・ 下の列は音声の後に続いて、絵の単語を順番に言わせた後、声に出して練習させる。

【評】アルファベットの音を聞いて、音に合う絵を選ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし、余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり、パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

・ I went to ….

・ I enjoy ….

・ I ate….

・ It was….

単元名 Unit 5 We all live on the Earth.

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 地球に暮らす生き物について考え、そのつながりを発表する語句や表現を身に付けるとともに活字体の大文字・小文字を理解することができる。
- (2) 地球上に暮らす生き物について考え、そのつながりを発表する目的や場面、状況などに応じて学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、発表することができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に、地球に暮らす生き物について考え、そのつながりを発表するとともに、英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

06160202_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Starting Out (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "We all live together." ・ Let's Chan <ul style="list-style-type: none"> t "Sea turtles, sea turtles, where do you live?" ・ Small Talk "What animals can you see in the sea?" <p>★地球に暮らす生き物について、およその内容を聞き取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> o Word Link 海の生き物 PD(P. 13) o Let's Try 1 ワードゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ PD(P. 13)の単語でキーワードゲームをする。 o Starting Out 生き物の暮らしに関するクイズを聞いて聞き取れたことを書く。 <p>o Let's Read and Write 1 Where do sea turtles live?</p> <p>o Sounds and Letters 音つなぎ① (P. 92)</p> <p>o 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 最初は聞くだけとし、数回流す。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 ・ PD(P. 13)を参照させ、主な海の生き物などを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声をを使って、海の生き物の単語を改めて確認させる。 ・ キーワードゲームについては、U2 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ No. 1～No. 5を通して聞かせ、大まかな内容をつかませながらメモを書かせる。 ・ もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】生き物の暮らしに関する聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・ 音声を聞いて文字を書かせる。音と文字を結びつけるよう意識させる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
<p>2 Starting Out (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "We all live together." ・ Let's Chan <ul style="list-style-type: none"> t "Sea turtles, sea turtles, where do you live?" <p>★地球に暮らす生き物について、聞き取ったことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> o Word Link 自然・からだ PD(P. 12～13, 21) o Let's Try 1 ワードゲーム <ul style="list-style-type: none"> PD(P. 13)の単語でキーワードゲームをする。 o Starting Out 生き物の暮らしに関するクイズを聞いて分かったことを発表する。 <p>o Let's Read and Write 2 Sea turtles live in the sea.</p> <p>o Sounds and Letters 音つなぎ② (P. 92)</p> <p>o 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声をを使って、自然・からだの単語を確認させる。 ・ キーワードゲームについては、U2 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・ 繰り返し聞かせ、生き物が暮らす場所や食べ物などについて話すときに必要な表現に気付かせる。 <p>【評】生き物の暮らしに関する聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・ 音声を聞いて文字を書かせる。音と文字を結びつけるよう意識させる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
<p>3 Your Turn (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "We all live together." ・ Let's Chan <ul style="list-style-type: none"> t "Sea turtles, sea turtles, where do you live?" ・ Small Talk "What can penguins do well?" 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ チャンツを流し一緒に言う。 ・ PD(P. 13)を参照させ、主な海の生き物などを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声をを使って、動物の単語を確認させる。 ・ 複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。 ・ 何度も音声中で聞いて、慣れ親しませる。

<p>★生き物たちの暮らしを伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Word Link 動物 PD(P.12～13) ○Let's Listen 2 それぞれの地域にどんな生き物が暮らし、何を食べているのかを書く。 ○Let's Try 2 生き物たちがどこに暮らし、何を食べているか、友達とペアで尋ね合う。 <ul style="list-style-type: none"> A: Where do lions live? B: Lions live in the savanna. <p>A: What do lions eat?</p> <p>B: Lions eat zebras.</p> <p>○Let's Read and Write 3 What do sea turtles eat?</p> <p>○Sounds and Letters 音つなぎ③ (P.93)</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>4 Your Turn (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "We all live together." ・Let's Chan <ul style="list-style-type: none"> t "Sea turtles, sea turtles, where do you live?" <p>★どんな生き物が何を食べるかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Word Link 虫 PD(P.13) ○Let's Listen 2 ウミガメの話聞いて、当てはまる絵の順に□に番号を書く。 ○Let's Try 3 どんな生き物が何を食べるかを考え、巻末の絵カードからカードを選ぶ。 ○Let's Read and Write 4 Sea turtles eat jellyfish. ○Sounds and Letters 音つなぎ④ (P.93) ○本時の学習を振り返る。 <p>5 Enjoy Communication (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "We all live together." ・Let's Chan <ul style="list-style-type: none"> t "Sea turtles, sea turtles, where do you live?" ・Small Talk "Where do lions live?" <p>★「フードチェーンカード」を使って、生き物たちの暮らしを紹介する練習をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Step 1 <ol style="list-style-type: none"> (1) 例文を音声で聞いた後、声に出して読む。 (2) P.88の「わたしのセリフ」を声に出して読む。 <p>(3)) 友達と教科書を交換して、「友達のせりふ」を声に出して読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Step 2 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「わたしのセリフ」をふくらませる。 (2) フードチェーンカードを完成させる。 (3) ペアで発表練習をする。 ○Sounds and Letters 音つなぎ⑤ (P.93) ○本時の学習を振り返る。 <p>6 Enjoy Communication (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "We all live together." ・Let's Chan 	<ul style="list-style-type: none"> ・Let's Listen 2を参考にさせる。 ・分かったことを考えさせ、繰り返し練習させる。 ・会話を続ける表現をいくつか紹介し、練習させる。 <p>【評】生き物たちの暮らしについて伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・音声を聞いて文字を書かせる。音と文字を結びつけるよう意識させる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、虫の単語を確認させる。 ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。 ・何度も音声で聞いて、慣れ親しませる。 ・教科書の空欄に巻末絵カードを置いて文を作り、語順を意識して練習させる。 <p>【評】生き物が食べるものを表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・音声を聞いて文字を書かせる。音と文字を結びつけるよう意識させる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・PD(P.13)を参照させ、主な海の生き物などを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・食物連鎖を紹介する核となる部分なので、何度も音声で表現に慣れ親しませる。 ・Let's Read and Writeで書きためた文を参照させる。 ・教科書のヒントを手がかりにさせる。 ・巻末コミュニケーションカードを切り取って使用させる。 ・フードチェーンカードを見せ合いながら行わせる。 <p>【評】フードチェーンカードの内容を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞いて文字を書かせる。音と文字を結びつけるよう意識させる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・P.47の目標が達成できるように練習させる。 ・理科の教科書なども使わせるとよい。 ・「話すときに工夫したこと」「聞くときに工夫したこと」を記入させる。 ・使い終わった「フードチェーンカード」を教科書P.60に貼らせる。 <p>【評】生き物の暮らしについての発表を通して</p>
---	--

t "Sea turtles, sea turtles, where do you live?"
★「フードチェーンカード」を使って、生き物の暮らしについて発表しよう。

o Step 3

- (1) 発表準備をし、グループを作る。
- (2) 発表用の食物連鎖のポスターを作る。
- (3) グループでどのように発表するかを決める。
- (4) 発表順を決める。(発表グループと聞くグループに分かれる)
- (5) 発表をする。

o Sounds and Letters Quiz⑦ (P.93)

7 Over the Horizon (1)

o ウォームアップ

・Let's Sing "We all live together."

・Let's Chan

t "Sea turtles, sea turtles, where do you live?"

・Small Talk "What do penguins eat?"

★環境について考えよう。

o Do you know? 絶滅危惧種を知り、環境を守るためにできることを考える。

(1) 絶滅危惧種の答えを予想し、答えを○で囲む。

(2)

) クイズの答え合わせをする。

(3) ワンガリ・マータイさんが感銘を受けた日本語の言葉を予想し、答えを○で囲む。

(4) クイズの答え合わせをする。

o Challenge 環境を守るためにわたしたちにできることを考えよう。

We can reuse clothes.

o Sounds and Letters Quiz⑧ (P.93)

o 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

o ウォームアップ

・Let's Sing "We all live together."

・Let's Chan

t "Sea turtles, sea turtles, where do you live?"

★言葉の語順について考えよう。

o ことば探検 言葉の語順について考える。

(1) 文に合う絵を考える。

(2) 答え合わせをする。

(3) 気付いたことを書く。

o 世界のすてき Brazil 旅の案内を聞く。

(1) Brazil の紹介を聞いて、およその内容を理解する

(2) 分かったことを記入し発表する。

o Sounds and Letters Quiz⑨ (P.93)

o 本時の学習を振り返る。

「思考・判断・表現」を評価する。

【評】生き物の暮らしについての発表を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

・音声を聞かせ、絵に合う文字を線で結ばせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる

・英語の授業の雰囲気づくりをする。

・指導者も児童と一緒に歌う。

・チャンツを流し一緒に言う。

・PD(P.13)を参照させ、主な海の生き物などを確認させる。

【評】環境について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・Do you know?で考えたこともヒントにさせる

・音声を聞かせ、絵に合う文字を線で結ばせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる

【評】アルファベットの音を聞いて、音に合う絵を選ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・英語の授業の雰囲気づくりをする。

・指導者も児童と一緒に歌う。

・チャンツを流し一緒に言う。

【評】言葉の語順について考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

・全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにさせる。

・音声を聞かせ、絵に合う文字を線で結ばせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる

【評】アルファベットの音を聞いて、音に合う絵を選ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし、余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実にあてたり、パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

・Where do ... live?

- ... live in
- What do ... eat?
- ... eat

単元名 Unit 6 Let's think about our food.

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 食材を通じて世界のつながりを考え、メニューを発表する語句や表現を身に付けるとともに、活字体の大文字・小文字を理解することができる。
- (2) 食材を通じて世界のつながりを考え、メニューを発表する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、発表することができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に、食材を通じて世界のつながりを考え、メニューを発表するとともに、英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

06160203_001

【準備等】デジタル教科書，大型テレビ，教師用絵カード，ワークシート，振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Starting Out (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "What did you eat?" ・ Let's Chant "Are you hungry?" <ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk <p>"What do you usually have for breakfast?"</p> <p>★登場人物が食べたものについておよその内容を聞き取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> o Word Link 食べ物 PD(P.8) o Let's Try 1 ワードゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ PD(P.8)の単語でミッシングゲームをする。 o Starting Out 登場人物が食べたものを聞いて、聞き取れたことを書く。 <p>o Let's Read and Write 1 I ate curry and rice last night.</p> <p>o Sounds and Letters 音つなぎ⑥ (P.93)</p> <p>o 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 最初は聞くだけとし、数回流す。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 ・ PD(P.8)を参照させ、主な食べ物などを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使つての単語を改めて確認させる。 ・ ミッシングゲームについては、U3 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・ 通して聞かせ、大まかな内容をつかませながらメモさせる。 ・ もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】登場人物の食べたものの聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・ 音声を聞いて文字を書かせる。音と文字を結びつけるよう意識させる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
<p>2 Starting Out (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "What did you eat?" ・ Let's Chant "Are you hungry?" <p>★登場人物が食べたものを聞いて、聞き取ったことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> o Word Link 食事 PD(P.11) <ul style="list-style-type: none"> o Let's Try 1 ワードゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ PD(P.11)の単語でミッシングゲームをする。 o Starting Out 登場人物が食べたものを聞いて、聞き取れたことを書く。 <p>o Let's Read and Write 2 I usually eat beef curry at home.</p> <p>o Sounds and Letters 音つなぎ⑦ (P.93)</p> <p>o 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ チャンツを流し一緒に言う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使つて、食事の単語を改めて確認させる。 ・ ミッシングゲームについては、U3 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・ 繰り返し聞かせ、普段食べているものを紹介するのに必要な表現に気付かせる。 <p>【評】登場人物の食べたものの聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・ 音声を聞いて文字を書かせる。音と文字を結びつけるよう意識させる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。
<p>3 Your Turn (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> o ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's Sing "What did you eat?" ・ Let's Chant "Are you hungry?" <ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk "What did you eat last night?" 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ チャンツを流し一緒に言う。 ・ PD(P.8)を参照させ、主な食べ物を確認させてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を使つて、食材の単語を確認させる。

★ポイントアンドセイゲームをし、食べ物について伝え合おう。

- Word Link 食材 PD(P.22)
- Let's Listen 1 教科書の空欄に巻末絵カードを置いて文を作る。
- Let's Try 2 食べ物の表現を使って友達とポイントアンドセイゲームをする。
A:Where is the beef from?
B:The beef is from Australia.

○Let's Read and Write 3
The beef is from Australia.

○Sounds and Letters 音つなぎ⑧ (P.93)

○本時の学習を振り返る。

4 Your Turn (2)

- ウォームアップ
・Let's Sing "What did you eat?"
- ・Let's Chant "Are you hungry?"

★食べ物かどの栄養素のグループに分けられるのかを考えよう。

- Word Link 果物・野菜 PD(P.10)
- Let's Listen 2 食べ物がどの栄養素のグループに分けられるのかを聞いて、カードを置いたり、4線の上に書いたりする。
- Let's Try 3 絵カードをシャッフルし、めくった食べ物カードかどの栄養素に分類できるのかを友達とペアで尋ね合う。
A:Beef is in the red group.
B:Bread is in the yellow group.
- Let's Read and Write 4 Beef is in the red group.
- Sounds and Letters 音つなぎ⑨ (P.93)
- 本時の学習を振り返る。

5 Enjoy Communication (1)

- ウォームアップ
・Let's Sing "What did you eat?"
- ・Let's Chant "Are you hungry?"
- ・Small Talk "How much is it?"

★「オリジナルカレーメモ」を使って、オリジナルカレーを紹介する練習をしよう。

- Step 1
(1) 例文を音声で聞いた後、声に出して読む。
(2) P.88の「わたしのセリフ」を声に出して読む。
- (3) 友達と教科書を交換して、「友達のせりふ」を声に出して読む。
- Step 2
(1) 「わたしのセリフ」をふくらませる。
(2) オリジナルカレーメモを完成させる。
(3) ペアで発表練習をする。
- Sounds and Letters 音つなぎ⑩ (P.94)
- 本時の学習を振り返る。

- ・教科書の空欄に巻末絵カードを置いて文を作り、繰り返し練習させる。
- ・教科書 (P.56～57) を参照させる。
- ・ポイントアンドセイゲーム
友達が発話した単語を指で指させる。
ペアで競争させる。
友達が示す単語を発音させる。
できるだけたくさんのかを伝えられることを目標とする。
- 【評】食べ物について伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
- ・音声を聞いて文字を書かせる。音と文字を結びつけるよう意識させる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。

- ・音声をを使って、果物・野菜の単語を確認させる。
- ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・何度も音声で聞いて、慣れ親しませる。
- ・家庭科で学んだ知識とも関連付けながら考えさせる。
- ・家庭科の教科書などを参照させてもよい。
- 【評】食べ物かどの栄養素のグループに分けられるのかを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
- ・音声を聞いて文字を書かせる。音と文字を結びつけるよう意識させる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。
- ・PD(P.8)を参照させ、主な食べ物や値段を確認させる。

- ・オリジナルカレーを紹介する核となる部分なので、何度も音声で表現に慣れ親しませる。
- ・Let's Read and Writeで書きためた文を参照させる。
- ・教科書のヒントを手がかりにさせる。
- ・巻末コミュニケーションカードを切り取って使用させる。
- ・オリジナルカレーメモを見せ合いながら行わせる。
- 【評】オリジナルカレーメモの内容を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・音声を聞いて文字を書かせる。音と文字を結びつけるよう意識させる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。
- ・指導者も児童と一緒に歌う。
- ・チャンツを流し一緒に言う。

6 Enjoy Communication (2)

○ウォームアップ

・Let's Sing "What did you eat?"

・Let's Chant "Are you hungry?"

★「オリジナルカレーメモ」を使って、オリジナルカレーについて発表しよう。

○Step 3

- (1) グループを作り、「オリジナルカレーメモ」を参考に、食材を決める。
- (2) グループでどのように発表するかを決める。
- (3) カレーショップと客のグループに分かれる。
- (4) 「カレーショップの店員役」はオリジナルカレーを発表し、「客役」はどのグループのカレーを食べたいかを話し合う。

○Sounds and Letters Quiz⑩ (P.94)

○本時の学習を振り返る。

7 Over the Horizon (1)

○ウォームアップ

・Let's Sing "What did you eat?"

・Let's Chant "Are you hungry?"

・Small Talk "Where is it from?"

★外国から来る食べ物について考えよう。

○Do you know? 日本と世界の食料事情を調べて、できることを考える。

- (1) 日本の食材ごとの食料自給率を調べて()に書く
- (2) 日本の自給率の答えを予想し、答えを□に書く。

(3) クイズの答え合わせをする。

(4) 世界の食料事情を知る。

○Challenge 地元でとれる食材を使った地産地消カレーを考えよう。

Let's eat beef tongue curry.

The beef is from Miyagi.

○Sounds and Letters Quiz⑪ (P.94)

○本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

○ウォームアップ

・Let's Sing "What did you eat?"

・Let's Chant "Are you hungry?"

★漢字の熟語が英語でどのような表現になるのかを考えよう。

○ことば探検 漢字の熟語の英語表現を考える。

- (1) 英語でどのような表現になるのかを想像する。

(2)

) 答え合わせをする。

(3) 気付いたことを書く。

○世界のすてき Switzerland 旅の案内を聞く。

- (1) Switzerlandの紹介を聞いて、およその内容を理解する。

(2) 分かったことを記入し発表する。

○Sounds and Letters Quiz⑫ (P.94)

・P.55の目標が達成できるように練習させる。

- ・「話すときに工夫したこと」「聞くときに工夫したこと」を記入させる。
- ・使い終わった「オリジナルカレーメモ」を教科書P.61に貼らせる。

【評】オリジナルカレーについての発表を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】オリジナルカレーについての発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・音声を聞かせ、絵に合う文字を線で結ばせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・英語の授業の雰囲気づくりをする。

・指導者も児童と一緒に歌う。

・チャンツを流し一緒に言う。

・PD(P.16)を参照させ、その国で有名な食べ物などを確認させる。

【評】外国から来る食べ物について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・Do you know?で考えたこともヒントにさせる

・音声を聞かせ、絵に合う文字を線で結ばせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる

【評】アルファベットの音を聞いて、音に合う絵を選ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・英語の授業の雰囲気づくりをする。

・指導者も児童と一緒に歌う。

・チャンツを流し一緒に言う。

・Do you know?で学んだこともヒントにさせる

【評】漢字熟語の英語表現を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにさせる。

・音声を聞かせ、絵に合う文字を線で結ばせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる

【評】アルファベットの音を聞いて、音に合う絵を選ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

○ 本時の学習を振り返る。

【 備 考 】

※ 7, 8 時間目のOver the Horizonを1時間完了とし, 余剰時間を 3, 4 時間目のEnjoy Communicationの活動の充実にあてたり, パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※ 言語材料

- I ate … last night.
- I usually eat … at home.
- … is from ….
- … is in the … group.

単元名 Check Your Steps 2 世界と自分のつながりを紹介しよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 世界と自分のつながりを発見して紹介するスピーチにおいて、学習した語句や表現を用いることができる。
- (2) 世界と自分のつながりを発見して紹介する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、スピーチをすることができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に世界と自分のつながりを紹介するスピーチをしようとする。

標準的な展開例

06160204_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート、画用紙、色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Check Your Steps (1)</p> <p>○ウォームアップ</p> <p>★世界と自分のつながりを発見しよう。</p> <p>○HOP 身の回りのもの（持ち物・動物・食べ物など）から世界と自分のつながりをさがす。</p> <p>○STEP</p> <p>(1) 世界と自分のつながりを紹介するスピーチを考える</p> <p>例：Hi, evryone. What's this? (It's your T-shirts.) Yes, this is my T-shirts. I went shopping last Sunday. I bought it. (How much is it?) This T-shirts is 900 yen.</p> <p>○例：This T-shirts is from Korea. Is it cool? Thank you for listening.</p> <p>(2) ポスターを完成する。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Check Your Steps (2)</p> <p>○ウォームアップ</p> <p>★世界と自分のつながりを紹介しよう。</p> <p>○JUMP</p> <p>(1) 練習をする。</p> <p>(2) 一人ずつ世界と自分のつながりをスピーチする。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p>	<p>・Unit 4～6のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・P. 33～59を参照させ、これまで学習した内容から、つながりを考えさせる。</p> <p>・Unit 4～6で作成したカードやPD(P. 38～41)などを参照させ、これまで学習した表現を組み合わせさせてスピーチを考えさせる。</p> <p>・枠の中に紹介したいものの説明や世界とのつながりを入れてポスターを作らせる。</p> <p>・練習の際は、声、表情、スピードなどを工夫させる。</p> <p>【評】世界と自分のつながりを紹介するスピーチを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】世界と自分のつながりを紹介するスピーチを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・Unit 4～6のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・聞いている児童とのやりとりをさせる。</p> <p>【評】世界と自分のつながりを紹介するスピーチを通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】世界と自分のつながりを紹介するスピーチを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p>

【 備 考 】

※言語材料

- ・I went to ….
- ・I enjoy ….
- ・I ate….
- ・It was….
- ・Where do … live?
- ・… live in ….
- ・What do … eat?
- ・… eat ….
- ・I ate … last night.
- ・I usually eat … at home.
- ・… is from ….

単元名 Unit 7 My Best Memory

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 小学校生活の思い出を伝え合う語句や表現を身に付けるとともに、活字体の大文字・小文字を理解することができる。
- (2) 小学校生活の思い出を伝え合う目的や場面、状況に応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、伝え合うことができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に小学校生活の思い出を伝え合うとともに、英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

06160301_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学び方みいつけた！ 3 / Starting Out (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学び方みいつけた！ 3 文のつくり Mr. Turtleの自己紹介の内容について考える。また、いろいろな人になりきって自己紹介をする。 ○ ウォームアップ ・ Let's Sing "Four Seasons" ・ Let's Chant "What is your best memory?" ・ Small Talk "Did you enjoy sports day?" <p>★ 日本や世界の子供たちの小学校生活の思い出について、およその内容を聞き取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Word Link 学校行事 PD(P. 28) ○ Let's Try 1 ワードゲーム ・ PD(P. 28)の単語でポインティングゲームをする。 ○ Starting Out 日本や世界の子供たちの小学校生活の思い出を聞いて、聞こえた順に□に番号を書く。 ○ Let's Read and Write 1 My best memory is our school trip. ○ Sounds and Letters ch (P. 94) ○ 本時の学習を振り返る。 <p>2 Starting Out (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ ・ Let's Sing "Four Seasons" ・ Let's Chant "What is your best memory?" <p>★ 日本や世界の子供たちの小学校生活の思い出について、聞き取ったことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Word Link したこと PD(P. 18) ○ Let's Try 1 ワードゲーム ・ PD(P. 18)の単語でポインティングゲームをする。 ○ Starting Out 日本や世界の子供たちの小学校生活の思い出を聞いて、分かったことを発表する。 ○ Let's Read and Write 2 We went to Kyoto in June. ○ Sounds and Letters sh (P. 94) ○ 本時の学習を振り返る。 <p>3 Your Turn (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウォームアップ ・ Let's Sing "Four Seasons" ・ Let's Chant "What is your best memory?" 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 最初は聞くだけとし、数回流す。 ・ 音声を聞かせ、内容について質問する。 ・ PD(P. 28)を参照させ、主な学校行事などを確認させる。 ・ 音声を使って、学校行事の単語を改めて確認させる。 ・ ポインティングゲームについては、U1 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・ 通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・ もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 【評】子供たちの小学校生活の思い出の聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・ chで始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ チャンツを流し一緒に言う。 ・ 音声を使って、したことを表現する単語を確認させる。 ・ ポインティングゲームについては、U1 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・ 聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・ 繰り返し聞かせ、小学校の思い出を紹介するのに必要な表現に気付かせる。 【評】子供たちの小学校生活の思い出の聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・ shで始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。 ・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 ・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・ 指導者も児童と一緒に歌う。 ・ チャンツを流し一緒に言う。 ・ PD(P. 28)を参照させ、主な学校行事などを確認させてもよい。

- s your best memory?"
- ・Small Talk "Was the game exciting?"

★修学旅行で見たものについて伝え合おう。

- Word Link 建物など PD(P.22)
- Let's Listen 1 登場人物の学校行事についての話を聞き、線で結ぶ。

- Let's Listen 2 登場人物の絵に対する感想を表す語を4線上に書き写す。

- Let's Try 2 修学旅行で見たものについて、友達とペアで尋ね合う。

A: What did you see?

B: We saw many temples.

- Let's Read and Write 3 We saw many temples.

- Sounds and Letters th① (P.94)

- 本時の学習を振り返る。

4 Your Turn (1)

- ウォームアップ

- ・Let's Sing "Four Seasons"

- ・Let's Chant "What is your best memory?"

★思い出に残った行事をたずねたり、書いたりしよう。

- Word Link 動作など(1)(2) PD(P.18~19)

- Let's Try 3 一番思い出に残った行事を尋ね合い、4線上に書く。また、そこで楽しんだことをメモして尋ね合う。

A: What did you enjoy?

B: I enjoyed talking with my friends.

- Let's Read and Write 4 I enjoyed talking with my friends.

- Sounds and Letters th② (P.94)

- 本時の学習を振り返る。

5 Enjoy Communication (1)

- ウォームアップ

- ・Let's Sing "Four Seasons"

- ・Let's Chant "What is your best memory?"

- ・Small Talk

"What did you see on your school trip?"

★「アルバムシート」を使って、小学校の思い出アルバムを紹介する練習をしよう。

- Step 1

(1) 例文を音声で聞いた後、声に出して読む。

(2) P.89の「わたしのセリフ」を声に出して読む。

(3)

友達と教科書を交換して、「友達のせりふ」を声に出して読む。

- Step 2

(1) 「わたしのセリフ」をふくらませる。

(2) アルバムシートを完成させる。

(3) ペアで発表練習をする。

- Sounds and Letters wh (P.94)

- 本時の学習を振り返る。

6 Enjoy Communication (2)

- ウォームアップ

- ・Let's Sing "Four Seasons"

- ・音声を使って、建物の単語を確認させる。
- ・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。
- ・何度も音声で聞いて、慣れ親しませる。
- ・P.32の書くときのルールを確認させる。

- ・会話を続ける表現をいくつか紹介し、練習させる。

【評】修学旅行で見たものについて伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。
- ・thで始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。

- ・指導者も児童と一緒に歌う。

- ・チャンツを流し一緒に言う。

- ・音声を使って、「動作など(1)(2)」を表現する単語を確認させる。

- ・メモは日本語でもよい。

【評】一番思い出に残った行事や楽しんだことを、尋ねたり書いたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。

- ・thを含む単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。

- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。

- ・指導者も児童と一緒に歌う。

- ・チャンツを流し一緒に言う。

- ・PD(P.28)を参照させ、主な学校行事などを確認させてもよい。

- ・小学校の思い出を紹介する核となる部分なので、何度も音声で表現に慣れ親しませる。

- ・Let's Read and Writeで書きためた文を参照させる。

- ・教科書のヒントを手がかりにさせる。

- ・巻末コミュニケーションカードを切り取って使用させる。

- ・アルバムシートを見せ合いながら行わせる。

【評】アルバムシートの内容を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・whで始まる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。

- ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- ・英語の授業の雰囲気づくりをする。

- ・指導者も児童と一緒に歌う。

- ・チャンツを流し一緒に言う。

- ・P.69の目標が達成できるように練習させる。

- ・「話すときに工夫したこと」「聞くときに工

- Let's Chant "What is your best memory?"
- ★「アルバムシート」を使って、小学校の思い出のアルバムを紹介し合おう。
- Step 3
 - (1) 発表準備をし、グループを作る。
 - (2) シートを集めてアルバムを作る。
 - (3) グループでどのように発表するかを決める。
 - (4) グループ内で発表順を決める。
 - (5) 思い出を紹介し合う。

○ Sounds and Letters ck (P.94)

○ 本時の学習を振り返る。

7 Over the Horizon (1)

- ウォームアップ
 - Let's Sing "Four Seasons"
- Let's Chant "What is your best memory?"
 - Small Talk "What is your best memory?"

★世界の学校生活について考えよう。

- Do you know? 他国の人々の学校生活を知り、異なる習慣について考える。
 - (1) 他国では、日本と学校生活でどのような違いがあるのかを考える。
 - (2) クイズの答えを予想し、答えを○で囲む。
 - (3) クイズの答え合わせをする。

○ Challenge わたしたちの学校
自分の学校の施設や行事などについて、「学校自慢」を考える。

We have a great school trip.

○ Sounds and Letters ng (P.95)

○ 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

- ウォームアップ
 - Let's Sing "Four Seasons"
- Let's Chant "What is your best memory?"
- ★英語の文のリズムを考えよう。
- ことば探検 英語の文のリズムを考える。
 - (1) 黒い丸の部分をもとに読むと英語らしいリズムになるかを考える。
 - (2) 答え合わせをする。
 - (3) 気付いたことを書く。
- 世界のすてき Ghana 旅の案内を聞く。
 - (1) Ghanaの紹介を聞いて、およその内容を理解する。
 - (2) 分かったことを記入し発表する。
- Sounds and Letters Quiz⑬ (P.95)

○ 本時の学習を振り返る。

夫したこと」を記入させる。

- 使い終わった「アルバムシート」を教科書P.80に貼らせる。

【評】小学校の思い出についての紹介を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【評】小学校の思い出についての紹介を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- ckで終わる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- 指導者も児童と一緒に歌う。
- チャンツを流し一緒に言う。
- PD(P.28)を参照させ、主な学校行事などを確認させてもよい。

- 他教科で学んだ知識とも関連付けながら世界の国の文化について考えさせる。
- 例示されている国以外も取り上げて、世界の国々の違いを考えさせる。
- 【評】世界の学校生活について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- Do you know?で考えたこともヒントにさせる

- ngで終わる単語に○を付けさせてから、文字を書かせる。
- 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

- 英語の授業の雰囲気づくりをする。
- 指導者も児童と一緒に歌う。
- チャンツを流し一緒に言う。

- 答え合わせをした後、声に出して練習させる

【評】英語の文のリズムを考える活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する

- 全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにさせる。
- 聞こえた音の順に()に番号を書かせ、答え合わせをした後、声に出して練習させる。

- 【評】音声を聞いて、音に合うアルファベットを選ぶ活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

【 備 考 】

※7, 8時間目のOver the Horizonを1時間完了とし、余剰時間を3, 4時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり、パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※言語材料

- My best memory is ….
- We went went to ….
- We saw ….
- I enjoyed ….

単元名 Unit 8 My Future, My Dream

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 中学校生活や将来について考え、夢を発表する語句や表現を身に付けるとともに、活字体の大文字・小文字を理解することができる。
- (2) 中学校生活や将来について考え、夢を発表する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、発表することができる。
- (3) 他者に配慮しながら、主体的に、中学校生活や将来を考え、夢を発表するとともに、英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

標準的な展開例

06160302_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学び方みいつけた！ 4 / Starting Out (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学び方みいつけた！ 4 中学校に進むあなたへこれまでの学習を整理する。 ○ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "My Future Dream" ・Let's Chant <p>"What do you want to do in junior high school?"</p> <p>・Small Talk "What club do you want to join?"</p> <p>★中学校生活や将来の夢について、およその内容を聞き取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Word Link 部活動 PD(P.31) ○Let's Try 1 ワードゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・PD(P.31)の単語でキーワードゲームをする。 ○Starting Out 登場人物の中学校生活や将来の夢を聞く <p>○Let's Read and Write 1</p> <p>I want to join the volleyball team.</p> <p>○Sounds and Letters 名前読みの音① (P.95)</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Starting Out (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップ <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Sing "My Future Dream" ・Let's Chant <p>"What do you want to do in junior high school?"</p> <p>★中学校生活や将来の夢について、聞き取ったことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Word Link 学校行事 PD(P.28) ○Let's Try 1 キーワードゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・PD(P.28)の単語でキーワードゲームをする。 ○Starting Out 中学校生活や将来の夢を聞いて、分かったことを発表する。 <p>○Let's Read and Write 2</p> <p>I want to enjoy sports day.</p> <p>○Sounds and Letters 名前読みの音② (P.95)</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>3 Your Turn (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・最初は聞くだけとし、数回流す。 ・音声を聞かせ、内容について質問する。 ・PD(P.31)を参照させ、主な部活動などを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、部活動の単語を改めて確認させる。 ・キーワードゲームについては、U2 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・絵を見てどのような内容か事前に予想させてもよい。 ・通して聞かせ、大まかな内容をつかませながら番号を書かせる。 ・もう一度聞かせ、聞き取れたことを発表させる。 <p>【評】中学校生活や将来の夢の聞き取りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・音声を聞かせ、それぞれの文字の名前読みと音読みを声に出して練習させる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・本時のめあてを児童と確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・音声を使って、学校行事の単語を確認させる <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードゲームについては、U2 第1時の「留意事項など」を参照する。 ・聞き取りの観点を示したワークシートを準備する。 ・繰り返し聞かせ、中学校生活や将来の夢を紹介するのに必要な表現に気付かせる。 <p>【評】中学校生活や将来の夢の聞き取りを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。 ・始まりの音を聞き取らせ、絵にあった文字を線で結ばせ、答え合わせした後、声に出して練習させる。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の雰囲気づくりをする。 ・指導者も児童と一緒に歌う。 ・チャンツを流し一緒に言う。 ・PD(P.24)を参照させ、主な教科などを確認させる。

・Let's Sing "My Future Dream"

・Let's Chant

"What do you want to do in junior high school?"

・Let's Chant

"What do you want to do in junior high school?"

★中学校で楽しみたい学校行事と得意なことについて伝え合おう。

○Word Link 動作など(1)・教科 PD(P.18, 24)

○Let's Listen 1 登場人物の中学生に向けたスピーチを聞いて、分かったことを口を書く。

○Let's Try 2 中学校で楽しみたい学校行事と得意なことについて、友達と尋ね合い、分かったことを表に書く

A: What school event do you want to enjoy?

B: I want to enjoy sports day.
I'm good at running.

○Let's Read and Write 3 I'm good at running.

○Sounds and Letters 名前よみのA, a (P.95)

○本時の学習を振り返る。

4 Your Turn (2)

○ウォームアップ

・Let's Sing "My Future Dream"

・Let's Chant

"What do you want to do in junior high school?"

★中学校で入りたい部活動や将来になりたい職業について尋ね、分かったことを書こう。

○Word Link 職業 PD(P.30)

○Let's Listen 2 登場人物の中学生に向けたスピーチを聞いて、分かったことを口を書く。

○Let's Try 3 中学校で入りたい部活動と将来になりたい職業について尋ね合い、分かったことを表に書く。

A: What club do you want to join?

B: I want to join the volleyball team.
I want to be a volleyball player.

○Let's Read and Write 4 I want to be a volleyball player.

○Sounds and Letters 名前よみのE, e (P.95)

○本時の学習を振り返る。

5 Enjoy Communication (1)

○ウォームアップ

・Let's Sing "My Future Dream"

・Let's Chant

"What do you want to do in junior high school?"

・Small Talk

"What school event do you want to enjoy?"

★「夢宣言カード」を使って、今後の自分についてスピーチの練習をしよう。

○Step 1

(1) 例文を音声で聞いた後、声に出して読む。

(2) P.89の「わたしのセリフ」を声に出して読む。

(3) 友達と教科書を交換して、「友達のせりふ」を声に出して読む。

○Step 2

(1) 「わたしのセリフ」をふくらませる。

・音声を使って、「動作など(1)・教科」を表現する単語を確認させる。

・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。

・何度も音声で聞いて、慣れ親しませる。

・会話を続ける表現をいくつか紹介し、練習させる。

【評】中学校の生活について伝え合う活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。

・音声を聞いて、A, a (名前読み)を含む単語に○を付けさせて、答え合わせした後、声に出して練習させる。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・英語の授業の雰囲気づくりをする。

・指導者も児童と一緒に歌う。

・チャンツを流し一緒に言う。

・音声を使って、職業の単語を確認させる。

・複数回聞かせ、分かるところから徐々に理解できるようにさせる。

・何度も音声で聞いて、慣れ親しませる。

・会話を続ける表現をいくつか紹介し、練習させる。

【評】中学校で入りたい部活動や将来になりたい職業についてを尋ね合い、分かったことを書く活動を通して、「知識・技能」を評価する

・初めに音声を聞かせ、声に出して読む練習を十分にしてから書かせる。

・音声を聞いて、E, e (名前読み)を含む単語に○を付けさせて、答え合わせした後、声に出して練習させる。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・英語の授業の雰囲気づくりをする。

・指導者も児童と一緒に歌う。

・チャンツを流し一緒に言う。

・PD(P.28)を参照させ、主な学校行事などを確認させる。

・今後の自分についてのスピーチの核となる部分なので、何度も音声で表現に慣れ親しませる。

・Let's Read and Writeで書きためた文を参照させる。

・教科書のヒントを手がかりにさせる。

・巻末コミュニケーションカードを切り取って使用させる。

・夢宣言カードを見せ合いながら行わせる。

【評】「夢宣言カード」を考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・音声を聞いて、I, i (名前読み)を含む単語に○を付けさせて、答え合わせした後、声に出して練習させる。

・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・英語の授業の雰囲気づくりをする。

・指導者も児童と一緒に歌う。

・チャンツを流し一緒に言う。

- (2) 夢宣言カードを完成させる。
- (3) ペアで発表練習をする。

○ Sounds and Letters 名前よみのI, I (P.95)

○ 本時の学習を振り返る。

6 Enjoy Communication (2)

○ ウォームアップ

・ Let's Sing "My Future Dream"

・ Let's Chant

"W

hat do you want to do in junior high school?"

★「夢宣言カード」を使って、今後の自分についてスピーチをしよう。

○ Step 3

(1) 一人ずつ前に出て、スピーチをする。

(2) 「夢宣言カード」を集めてシャッフルする。

(3) 順番に読んで、だれのカードかを当てる。

○ Sounds and Letters 名前よみのO, o (P.95)

7 Over the Horizon (1)

○ ウォームアップ

・ Let's Sing "My Future Dream"

・ Let's Chant

"W

hat do you want to do in junior high school?"

・ S

mall Talk "What do you want to be?"

★世界とつながる仕事について考えよう。

○ Do you know?

(1) 英語を使う仕事にはどのような仕事があるかを考える。

(2) 海外で働く日本人の数を予想し、答えを○で囲む。

(3) クイズの答え合わせをする。

○ Challenge 英語を使って将来どのようなことがしたいかを考える。

I want to be a taxi driver.

○ Sounds and Letters 名前よみのU, u (P.95)

○ 本時の学習を振り返る。

8 Over the Horizon (2)

○ ウォームアップ

・ Let's Sing "My Future Dream"

・ Let's Chant

"W

hat do you want to do in junior high school?"

★ことばについて考えよう。

○ ことば探検 ことばが伝えることについて考える。

(1) ことばがなかったらどんなことが起こるかを想像してみる。

(2) 気付いたことを書く。

○ 世界のすてき Saudi Arabia 旅の案内を聞く。

(1) Saudi Arabiaの紹介を聞いて、およその内容を理解する。

(2) 分かったことを記入し発表する。

○ Sounds and Letters Quiz⑭ (P.95)

・ P.77の目標が達成できるように練習させる。

・ 「話すときに工夫したこと」「聞くときに工夫したこと」を記入させる。

・ 使い終わった「夢宣言カード」を教科書P.81に貼らせる。

【評】今後の自分についての発表を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【評】今後の自分についての発表を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 音声を聞いて、O, o (名前読み)を含む単語に○を付けさせて、答え合わせした後、声に出して練習させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

・ 指導者も児童と一緒に歌う。

・ チャンツを流し一緒に言う。

・ PD(P.30)を参照させ、主な職業などを確認させる。

・ 他教科で学んだ知識とも関連付けながら英語を使う仕事について考えさせる。

【評】世界とつながる仕事について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ Do you know?で考えたこともヒントにさせる

・ 音声を聞いて、U, u (名前読み)を含む単語に○を付けさせて、答え合わせした後、声に出して練習させる。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

・ 英語の授業の雰囲気づくりをする。

・ 指導者も児童と一緒に歌う。

・ チャンツを流し一緒に言う。

・ 思いっただけ出し合わせる。

【評】ことばの意義について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・ 全体を通して聞かせた後、ヒントを与えたり複数回聞かせたりして、徐々に理解できるようにさせる。

・ 音声を聞いて、上下の音と文字を比べさせ、答え合わせした後、声に出して練習させる。

【評】上下の音と文字を比べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・ 振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。

○ 本時の学習を振り返る。

【 備 考 】

※ 7, 8 時間目のOver the Horizonを1時間完了とし, 余剰時間を3, 4 時間目のEnjoy Communicationの活動の充実に当てたり, パフォーマンステストや単元のまとめテストを実施したりしてもよい。

※ 言語材料

- I want to join ….
- I want to enjoy … .
- I'm good at ….
- I want to be ….

単元名 Check Your Steps 3 寄せ書きのメッセージを伝えよう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 寄せ書きのメッセージを紹介するスピーチにおいて、学習した語句や表現を用いることができる。
 (2) 寄せ書きのメッセージを紹介する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、スピーチをしている。
 (3) 他者に配慮しながら、主体的に寄せ書きのメッセージを紹介するスピーチをしようとする。

標準的な展開例

06160303_001

【準備等】デジタル教科書、大型テレビ、教師用絵カード、ワークシート、振り返りシート、画用紙、色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 Check Your Steps (1) ○ウォームアップ</p> <p>★寄せ書きのメッセージを伝えよう。 ○HOP (1) 卒業記念としてクラスみんなに伝えたいメッセージを考える。 例: My best memory is our school trip.</p> <p>I want to be a baseball player.</p> <p>(2) 寄せ書きを書き合う。 ○STEP (1) メッセージを紹介するスピーチを考える。 例: Hi, evryone. This is my message. What is Emily's best memory? Her best memory is her school trip. We saw many temple s. Hiroshi is good at speaking English. He w ants to be an English teacher.</p> <p>○例: What do you want to be? I want to be a nurse. I want to help people. Thank you for listening.</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>2 Check Your Steps (2) / STORY TIME ○ウォームアップ</p> <p>★寄せ書きのメッセージを紹介しよう。 ○JUMP (1) 練習をする。 (2) 一人ずつ寄せ書きのメッセージを発表する。</p> <p>○STORY TIME Butterfly Friends ストーリータイムを読む。 ○本時の学習を振り返る。</p>	<p>・Unit 7～8のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・Unit 7～8で作成したカードやPD(P. 38～41)などを参照させ、これまで学習した表現を組み合わせさせてスピーチを考えさせる。 ・P. 89で書きためた文を参照させてもよい。</p> <p>・練習の際は、声、表情、スピードなどを工夫させる。</p> <p>【評】寄せ書きを紹介するスピーチを考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】寄せ書きを紹介するスピーチを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p> <p>・Unit 7～8のLet's Sing, Let's Chantの中から数曲選んで、英語の授業の雰囲気づくりをする。</p> <p>・聞いている児童とのやりとりをさせる。 【評】寄せ書きのメッセージを紹介するスピーチを通して、「思考・判断・表現」を評価する。 【評】寄せ書きのメッセージを紹介するスピーチを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・P. 82～83を見ながら読ませる。</p> <p>・振り返りシートに学習して分かったことや自己評価を記入させる。</p>

【 備 考 】

※言語材料

- ・ My best memory is ….
- ・ We went went to ….
- ・ We saw ….
- ・ I enjoyed ….
- ・ I want to join ….

- I want to enjoy
- I'm good at
- I want to be

令和2年度 知多地方教育計画案

特別の教科 道徳

道徳教育

参考文献：小学校学習指導要領解説総則編 以下『小総則』と略記する。

中学校学習指導要領解説総則編 以下『中総則』と略記する。

1 道徳教育の目標（小総則 P. 24，中総則 P. 24）

学校における道徳教育は，特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，外国語活動（小学校），総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童生徒の発達の段階を考慮して，適切な指導を行わなければならない。

【小学校 道徳教育の目標】

教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者とともにによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。



【中学校 道徳教育の目標】

教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，人間としての生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者とともにによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

学校における道徳教育は，児童生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としており，児童生徒一人一人が将来に対する夢や希望，自らの人生や未来を拓いていく力を育む源となるものでなければならない。

【道徳教育を進めるに当たっての留意事項】（小総則 P. 28，中総則 P. 28）

- ア 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭，学校，その他社会における具体的な生活の中に生かす
- イ 豊かな心をもつ
- ウ 伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛し，個性豊かな文化の創造を図る
- エ 平和で民主的な国家及び社会の形成者として，公共の精神を尊び，社会及び国家の発展に努める
- オ 他国を尊重し，国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する
- カ 未来を拓く主体性のある日本人を育成する

2 道徳教育推進上の配慮事項（小総則 P. 128，中総則 P. 131）

(1) 道徳教育の指導体制

各学校においては，道徳教育の目標を踏まえ，道徳教育の全体計画を作成し，校長の方針の下に，道徳教育推進教師を中心に，全教師が協力して道徳教育を展開すること。

- ① 校長が道徳教育の方針を明示することにより，全教師が道徳教育の重要性について認識を深めるとともに，学校の道徳教育の重点や推進すべき方向について共通に理解し，具体的な指導を行うことができる。
- ② 道徳教育推進教師が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する上での中心となり，全教師の参画，分担，協力の下に，その充実が図られるよう働きかけていくことが望まれる。道徳教育推進教師の役割としては，以下に示すような事柄が考えられる。
 - ・道徳教育の指導計画の作成に関すること
 - ・全教育活動における道徳教育の推進，充実に関すること
 - ・道徳科の充実と指導体制に関すること
 - ・道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
 - ・道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
 - ・道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること

- ・道徳教育の研修の充実に関すること
- ・道徳教育における評価に関すること など

(2) 道徳教育の全体計画

道徳教育の全体計画の作成に当たっては、児童生徒、学校及び地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針や内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動（小学校）、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。

① 全体計画の意義

道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画である。

全体計画は、特に次の諸点において重要な意義をもつ。

- ・人格の形成及び国家、社会の形成者として必要な資質の育成を図る場として学校の特色や実態及び課題に即した道徳教育が展開できる
- ・学校における道徳教育の重点目標を明確にして取り組むことができる
- ・道徳教育の要として、道徳科の位置付けや役割が明確になる
- ・全教師による一貫性のある道徳教育が組織的に展開できる
- ・家庭や地域社会との連携を深め、保護者や地域住民の積極的な参加や協力を可能にする

② 全体計画の内容

基本的把握事項

- ・教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策
- ・学校や地域の実態と課題、教職員や保護者の願い
- ・児童生徒の実態や発達の段階等

具体的計画事項

- ・学校の教育目標、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
- ・道徳科の指導の方針
- ・年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の指導の工夫、校長や教頭等の参加、他の教師との協力的な指導等を記述
- ・各教科、外国語活動（小学校）、総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育の指導の方針、内容及び時期
- ・特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連
- ・学級、学校の人間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針
- ・家庭、地域社会、関係機関、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等との連携の方法や方針
- ・道徳教育の推進体制



別葉の作成

- ◆必要な各事項について文章化したり、具体化したりしたものを加えるなどの工夫をし、年間を通して具体的に活用しやすいもの
- ・各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの
- ・道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
- ・道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

③ 全体計画作成上の創意工夫と留意点

ア 校長の明確な方針の下に道徳教育推進教師を中心として全教師の協力・指導体制を揃える

イ 道徳教育や道徳科の特質を理解し、教師の意識の高揚を図る

- ウ 各学校の特色を生かして重点的な道德教育が展開できるようにする
- エ 学校の教育活動全体を通じた道德教育の相互の関連性を明確にする
- オ 家庭や地域社会，学校間交流，関係諸機関等との連携に努める
- カ 計画の実施及び評価・改善のための体制を確立する

(3) 各教科等における指導の基本方針（小総則 P. 21，中総則 P. 22）

各教科等は，各教科等の目標に基づいてそれぞれに固有の指導を充実させる過程で，道德性が養われ，育まれることを考え，見通しをもって指導することが重要である。各教科等の指導を通じて児童生徒の道德性を養うためには，教師の用いる言葉や児童生徒への接し方，授業に望む姿勢や熱意といった教師の態度や行動による感化とともに，道德教育と各教科の目標，内容及び教材との関わり，学習活動や学習態度への配慮といった視点が挙げられる。

3 指導内容の重点化（小総則 P. 138，中総則 P. 141）

【小学校】

児童の発達段階や特性等を踏まえるとともに，学校，地域社会等の実態や課題に応じて，学校としての指導の重点に基づき各学年段階の指導内容についての重点化を図ることが大切である。

(1) 各学年を通じて配慮すること

小学校においては，生きる上で基盤となる道德的価値観の形成を図る指導を徹底するとともに自己の生き方についての指導を充実する観点から，各学年を通じて，自立心や自律性，生命を尊重する心，他者を思いやる心の育成に配慮することが大切である。

(2) 学年段階ごとに配慮すること

各学年を通じて配慮することに加えて，各学年段階においては，次の事項に留意することが求められる。

ア 第1学年及び第2学年

挨拶などの基本的な生活習慣を身に付けることや善悪を判断し，してはならないことをしないこと，社会生活上のきまりを守ることにについて配慮して指導に当たることが求められる。

イ 第3学年及び第4学年

善悪を判断し，正しいと判断したことを行うこと，身近な人々と協力し助け合うこと，集団や社会のきまりを守ることに配慮して指導に当たることが求められる。

ウ 第5学年及び第6学年

相手の考え方や立場を理解して支え合うこと，法やきまりの意義を理解して進んで守ること，集団生活の充実に努めること，伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重することに配慮することが大切になる。

【中学校】

小学校における道德教育の指導内容を更に発展させ，中学生という発達の段階や特性等を踏まえるとともに，学校，地域社会等の実態や課題に応じて，学校としての指導の重点に基づき指導内容についての重点化を図ることが大切である。

(1) 自立心や自律性を高め，規律ある生活をする

(2) 生命を尊重する心や自分の弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること

(3) 法やきまりの意義に関する理解を深めること

(4) 自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと

(5) 伝統と文化を尊重し，それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重すること，国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けること

4 豊かな体験活動の充実といじめの防止（小総則 P. 141，中総則 P. 143）

(1) 学校や学級内の人間関係や環境を整えること

児童生徒の道德性の多くの部分は，日々の人間関係の中で養われる。学校や学級における人的な環境は，主に教師と児童生徒及び児童相互，生徒相互の関わりにおいて形成される。

また，児童生徒の道德性を養う上で，言語環境の充実，整理整頓され掃除の行き届いた校舎や教室の整備，各種掲示物の工夫など，物的な環境も大切である。

(2) 豊かな体験の充実

学校外の様々な人や事物に出会う体験活動は、児童生徒の世界を広げ、実生活や実社会の生きた文脈の中で様々な価値や自己の生き方について考えることができる貴重な経験となる。

児童生徒に体験活動を通して道德教育に関わるどのような内容を指導するのか指導の意図を明確にしておくことが必要であり、実施計画にもこのことを明記することが求められる。

(3) 道德教育の指導内容と児童生徒の日常生活

日常生活において、物事を多面的・多角的に考え、自らの判断により、適切な行為を選択し、実践するなど、道德教育の指導内容が児童生徒の日常生活に生かされるようにすることが大切である。

特に、いじめの防止や安全の確保といった課題についても、道德教育や道德科の特質を生かし、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うことで、児童生徒がそれらの課題に主体的に関わることができるようにしていくことが大切である。

ア いじめの防止

いじめの防止等と道德教育との関連を考えた場合、いじめ防止対策推進法第15条に「児童等の豊かな情操と道德心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うことがいじめの防止に資することを踏まえ、全ての教育活動を通じた道德教育及び体験活動等の充実を図らなければならない」と示されている。

なお、道德教育の全体計画を立案するに当たっても、いじめの防止等に向けた道德教育の進め方について具体的に示し、教職員の共通理解を図ることが大切である。

イ 安全の確保

自律的に判断することやよく考えて行動し、節度、節制に心掛けることの大切さ、生きている喜びや生命のかけがえのなさなど生命の尊さの自覚、力を合わせよりよい集団や社会の実現に努めようとする社会参画の精神などを深めることが、自他の安全に配慮して安全な行動をとったり、自ら危険な環境を改善したり、安全で安心な社会づくりに向けて学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加し、貢献したりするなど、児童生徒が安全の確保に積極的に関わる態度につながる。交通事故及び犯罪、自然災害から身を守ることや危機管理など安全に関する指導に当たっては、学校の安全教育の目標や全体計画、各教科等との関連などを考えながら進めることが大切である。

5 家庭や地域社会との連携（小総則 P. 144，中総則 P. 147）

(1) 道德教育に関わる情報発信

学校で行う道德教育をより強化・充実するためには、家庭や地域社会との連携、協力が重要になり、学校と家庭や地域社会との間に、児童生徒の道德性を養う上での共通理解を図ることが不可欠である。

道德教育は学校が主体的に行う教育活動であることから、学校が道德教育の方針を家庭や地域社会に伝え、理解と協力を得るようにしなければならない。

具体的には、学校通信や学校のホームページなどで道德教育の全体計画を示したり、道德教育の成果としての児童生徒のよさや成長の様子を知らせたりすることなどが考えられる。

(2) 家庭や地域社会との相互連携

学校の道德教育の充実を図るためには、学校の実態に応じて相互交流の場を設定することが望まれる。

[例]

- ・学校での道德教育の実情について説明したり、家庭や地域社会における児童生徒のよさや成長などを知らせてもらったりする情報交換会を定例化する
- ・児童生徒の道德性の発達や学校、家庭、地域社会の願いを交流し合う機会をもつ
- ・情報交換会で把握した問題点や要望などに着目した講演会を開催する
- ・情報交換会や講演会を学校だけでなく、地域の公民館等で行う
- ・学校運営協議会制度などを活用して、学校の道德教育の成果などを具体的に話し合ったり報告したりする中で、学校が家庭や地域社会と連携する方法を検討する

特別の教科 道徳（道徳科）

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 以下『小解説』と略記する。

中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 以下『中解説』と略記する。

1 道徳科の目標（小解説 P. 16，中解説 P. 13）

(1) 道徳科の目標

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目指す。

【小学校】

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



【中学校】

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(2) 道徳性を養うために行う道徳科における学習の具体的な目標

① 小学校における具体的な目標

- ア 道徳的諸価値について理解する
- イ 自己を見つめる
- ウ 物事を多面的・多角的に考える
- エ 自己の生き方についての考えを深める

② 中学校における具体的な目標

- ア 道徳的諸価値についての理解を基にする
- イ 自己を見つめる
- ウ 物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- エ 人間としての生き方についての考えを深める

(3) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳教育は道徳性（人間としてよりよく生きようとする人格的特性）を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度を養うことを求めている。

これらの道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではない。一人一人の児童生徒が、道徳的価値を自覚し、小学校においては自己の生き方についての考えを深め、中学校においては人間としての生き方について深く考え、日常生活や今後出会うであろう様々な場面及び状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。

- ・道徳的判断力は、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力である。的確な道徳的判断力をもつことによって、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。
- ・道徳的心情は、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。それは、道徳的行為への動機として強く作用するものである。
- ・道徳の実践意欲と態度は、道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味する。道徳の実践意欲は、道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられ

た具体的な道徳的行為への身構えとすることができる。

2 指導計画作成上の配慮事項（小解説 P. 72，中解説 P. 70）

（1）年間指導計画の意義 ※_____は、中学校のみに記載

年間指導計画は、道徳科の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、各教科等の年間指導計画との関連をもちながら、児童生徒の発達の段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。

年間指導計画の重要な意義

- ・小学校においては6年間、中学校においては3年間を見通した計画的、発展的な指導を可能にする。
- ・個々の学級において道徳科の学習指導案を立案するよりどころとなる。
- ・学級相互、学年相互の教師間の研修などの手掛かりとなる。

（2）年間指導計画の内容

① 各学年の基本方針

② 各学年の年間にわたる指導の概要

- ・指導の時期 ・主題名 ・ねらい ・教材 ・主題構成の理由
- ・学習指導過程と指導の方法 ・他の教育活動等における道徳教育との関連 など

※校長や教頭などの参加や保護者や地域の人々の参加・協力の計画などを示すことも考えられる。

※指導の時期，主題名，ねらい及び教材を一覧にした配列表だけでは年間指導計画としては機能しにくいいため，一覧表を示す場合においても，学習指導過程等を含むものなど，各時間の指導の概要が分かるようなものを加えることが求められる。

③ 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点

- ・主題の設定と配列を工夫する
- ・計画的，発展的な指導ができるように工夫する
- ・重点的な指導ができるように工夫する
- ・各教科等，体験活動等との関連的指導を工夫する
- ・複数時間の関連を図った指導を取り入れる
- ・特に必要な場合には他学年段階の内容を加える（小学校）
- ・時期，時数の変更やねらいの変更等，計画の弾力的な取扱いについて配慮する
- ・年間指導計画の評価と改善を計画的に行うようにする

3 道徳科の指導（小解説 P. 78，中解説 P. 76）

（1）指導の基本方針 ※_____は、中学校のみに記載

道徳教育においては，各教科，外国語活動（小学校），総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら，年間指導計画に基づき，児童生徒や学級の実態に即し，道徳科の特質に基づく適切な指導を展開しなければならない。そのためには，以下のような指導の基本方針を，小学校においては確認する必要がある，中学校においては明確にして指導に当たる必要がある。

【小学校】

- ① 道徳科の特質を理解する
- ② 教師と児童，児童相互の信頼関係を基盤におく
- ③ 児童の自覚を促す指導方法を工夫する
- ④ 児童の発達や個に応じた指導を工夫する
- ⑤ 問題解決的な学習，体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする
- ⑥ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

【中学校】

- ① 道徳科の特質を理解する
- ② 信頼関係や温かい人間関係を基盤におく
- ③ 生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫する

- ④ 生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫する
- ⑤ 問題解決的な学習，体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする
- ⑥ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

4 指導の配慮事項 ※_____は，中学校のみに記載（小解説 P. 87，中解説 P. 86）

(1) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制

道徳科は，主として児童を周到に，生徒をよく理解している学級担任が計画的に進めるものであるが，学校の道徳教育の目標の達成に向けて，学校や学年として一体的に進めるものでなくてはならない。そのために，指導に際して全教師が協力し合う指導体制を充実することが大切になる。

(2) 道徳科の特質を生かした計画的・発展的な指導

各教科等で行う道徳教育は，全体計画によって計画的に行うものもあれば，児童生徒の日々の教育活動の中で見られる具体的な行動の指導を通して対処的に行うものもある。道徳科の指導は，学校の道徳教育の目標に向かって，教育活動全体を通じて行う道徳教育との関連を図りながら計画的・発展的に行うものである。

(3) 児童が主体的に道徳性を養うため，生徒が主体的に道徳性を育むための指導

道徳教育の本来の使命に鑑みれば，特定の価値観を押し付けたり，主体性をもたず言われるままに行動するように行動するように指導したりすることは，道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。むしろ，多様な価値観の，時に対立がある場合を含めて，人間としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い，いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢こそ道徳教育が求めるものと言える。

(4) 多様な考え方を生かすための言語活動

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言語は，知的活動だけでなく，コミュニケーションや感性，情緒の基盤である。道徳科においても，その言葉を生かした教育についての充実が図られなければならない。

(5) 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

道徳科の特質を生かすことに効果があると判断した場合には，多様な方法を活用して授業を構想することが大切である。道徳科の特質を生かした授業を行う上で，各教科等と同様に問題解決的な学習や体験的な学習等を有効に活用することが重要である。その際，中学校では生徒の発達の段階や特性等を考慮した上で，人間としての生き方について多面的・多角的に考え，話し合いや討論することを通して，主体的かつ自発的な学習を展開できるように創意工夫することが求められる。

(6) 情報モラルと現代的な課題に関する指導

社会の情報化が進展する中，児童生徒は，学年が上がるにつれて，次第に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っており，学校や児童生徒の実態に応じた対応が学校教育の中で求められる。これらは，学校の教育活動全体で取り組むべきものであるが，道徳科においても同様に，情報モラルに関する指導を充実する必要がある。

また，現代社会を生きる上での課題を扱う場合には問題解決的な学習を行ったり，小学校では話し合いを，中学校では討論を深めたりするなどの指導方法を工夫し，課題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てることが大切である。

(7) 家庭や地域社会との連携による指導

道徳科は全教育活動を通じて行う道徳教育の要であり，その授業を公開することは，学校における道徳教育への理解と協力を家庭や地域から得るためにも，極めて大切である。

また，道徳科は家庭や地域社会との連携を進める重要な機会となる。その実施や教材の開発，活用などに，保護者や地域の人々の参加や協力を得られるよう配慮していくことが考えられる。

5 道徳教育・道徳科における評価の意義（小解説 P. 107，中解説 P. 109）

(1) 道徳教育における評価の意義

- ・他者との比較ではなく児童生徒一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面，進歩の様子などを把握し，年間や学期にわたって児童生徒がどれだけ成長したかという視点を大

切にすることが重要である。

- ・教師が児童生徒一人一人の人間的な成長を見守り，児童生徒自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し，それを勇気付ける働きをもつようにすることが求められる。

(2) 道徳科における評価の意義

- ・児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。
- ・道徳科において養うべき道徳性は，児童生徒の人格全体に関わるものであり，数値などによって不用意に評価してはならない。
- ・授業における指導のねらいと関わりにおいて，児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えて，個々の成長を促すとともに，授業者の指導を評価し，改善に努めることが大切である。

6 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

(小解説 P.109，中解説 P.111)

(1) 評価の基本的態度

- ・道徳科で養う道徳性は，児童生徒が将来いかに人間としてよりよく生きるか，いかに諸問題に適切に対応するかといった個人の問題に関わるものである。よって小・中学校それぞれの段階でどれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することはふさわしくない。
- ・教師と児童生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解を基盤として，その上で児童生徒の成長を見守り，努力を認めたり，励ましたりすることによって，児童生徒が自らの成長を実感し，更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指す。
- ・道徳性は，極めて多様な児童生徒の人格全体に関わるものであることから，評価に当たっては，個人内の成長の過程を重視すべきである。

(2) 道徳科における評価

① 道徳科に関する評価の基本的な考え方

- ・道徳性の諸様相である道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度のそれぞれについて分節し，学習状況を分析的に捉える観点別評価を通じて見取ろうとすることは，道徳科の評価として妥当ではない。
- ・道徳科の目標に掲げる学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を，一定のまとまりの中で，児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ，学習活動全体を通して見取ることが求められる。
→個々の内容項目ごとではなく，大きくくりなまとまりを踏まえた評価
→他の児童生徒との比較による評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め，励ます個人内評価として記述式で行う。

〈重視するポイント〉

- ・学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ，自律的に思考する中で，一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

② 個人内評価として見取り，記述により表現することの基本的な考え方

ここに挙げる視点はいずれについても例示であり，指導する教師一人一人が，質の高い多様な指導方法へと指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにするという道徳科の評価の趣旨を理解したうえで，学校の状況や児童生徒一人一人の状況を踏まえた評価を工夫することが求められる。

ア「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている」ことに関する視点の例

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する。
- ・自分と違う立場や考え方，感じ方を理解しようとしていることに着目する。

- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしていることに着目する。

イ「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている」ことに関する視点の例

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する。
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目する。
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めていることに着目する。
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしていることに着目する。

ウ 発言が多くない生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒が、教師や他の児童（生徒）の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表出する生徒の姿に着目するということも重要。

エ 年間や学期を通じて、当初は感想文や質問紙に、感想をそのまま書いただけであった児童（生徒）が、学習を重ねていく中で、読み物教材の登場人物に共感したり、自分なりに考えを深めた内容を書くようになっていたりすることや、既習の内容と関連づけて考えている場面に着目するなど、一単位時間の授業だけでなく、生徒が一定の期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、道徳的価値の理解が深まったりしていることを見取るという視点もある。

③ 評価のための具体的な工夫

児童生徒が学習活動を通じて多面的・多角的な見方へと発展させていることや、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めていることを見取るための様々な工夫が必要である。

ア 学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したものや道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したものを評価に活用すること、作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握することなどが考えられる。

評価に当たっては、記録物や実演自体など成果物そのものに優劣を付けて評価するわけではないことに注意することが必要である。

イ 児童生徒が行う自己評価や相互評価は、それ自体が児童生徒の学習活動であり、教師が行う評価活動ではない。しかし、児童生徒自身がよい点や可能性に気付くことを通じ、主体的に学ぶ意欲を高めることなど、学習の在り方を改善していくことに役立つものとして、効果的に活用し学習活動を深めていくことは重要である。年度当初に自らの課題や目標を捉えるための学習を行ったり、年度途中や年度末に自分自身を振り返る学習を工夫したりすることも考えられる。

ウ 年に数回、教師が交代で学年の全学級を回って授業を行うことは、教師が専門教科など、得意分野に引きつけて授業を展開できたり、何度も同じ教材で授業を行うことにより指導力の向上につながったりするなど指導面の利点がある。また、学級担任が自分のクラスの授業を参観することが可能となり、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握することができるといった評価の改善の観点からも有効である。

④ 児童生徒の状況に応じた指導と評価

発達障害等のある児童生徒や海外から帰国した児童生徒、外国人の児童生徒など、いわゆる外国につながる児童生徒に対する指導や評価を行う上では、学習の過程で考えられる「困難さの状態」を把握した上で必要な配慮が求められる。評価に当たっては、配慮を伴った指導を行った結果として、多面的・多角的な見方へ発展させていたり道徳的価値を自分のこととして捉えていたりしているか見取る必要がある。

7 道徳科の授業に対する評価 ※ は、中学校に記載（小解説 P. 115，中解説 P. 117）

- ・学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の

生き方について（中：人間としての生き方について）考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。

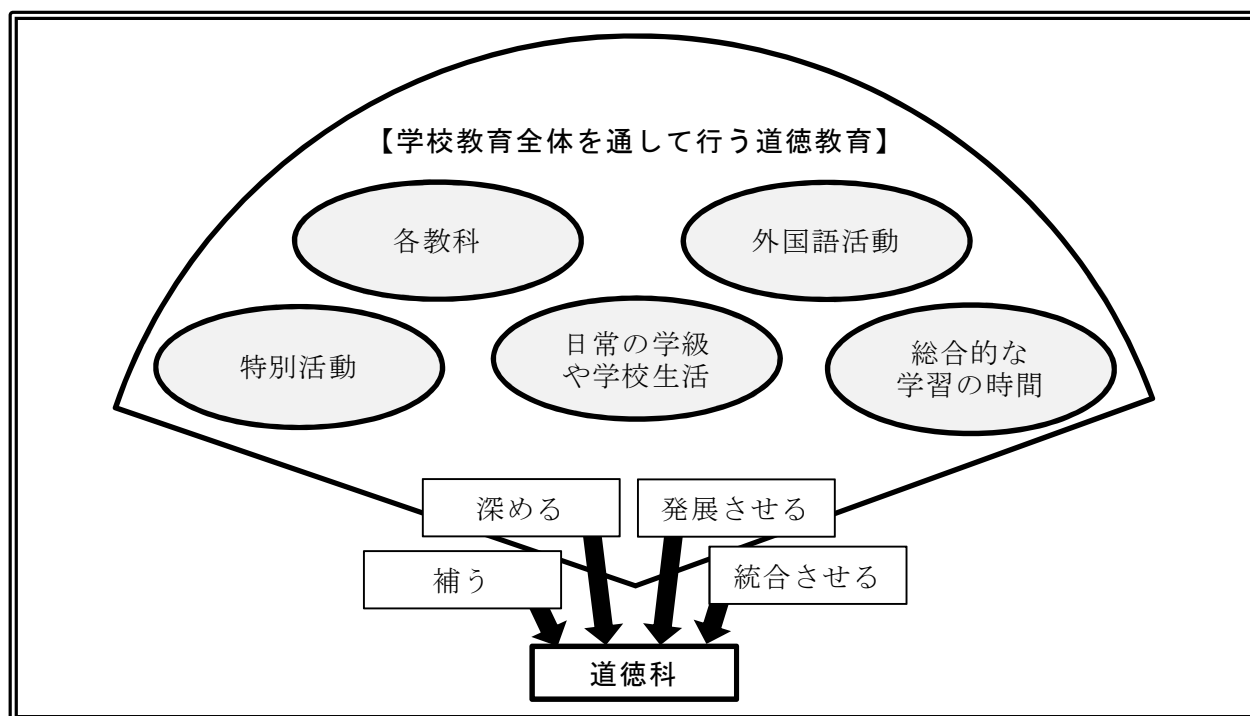
- ・発問は、児童生徒が広い視野から多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- ・児童生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童生徒の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- ・自分自身との関わりで、物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- ・ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童生徒の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- ・特に配慮を要する児童生徒に適切に対応していたか。

道徳科の授業を構成する手立て

1 教育課程編成の一般方針

道徳教育は、学校や児童生徒の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。

道徳科は、各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。



【小学校の時期】

6年間の発達の段階を考慮するとともに、幼児期の発達の段階を踏まえ、中学校の発達の段階への成長の見通しをもつ



【中学校の時期】

3年間の発達の段階を考慮するとともに、特に中学校に入学して間もない時期には小学校高学年段階における指導との接続を意識しつつ、また学年が上がるにつれて高等学校等における人間としての在り方生き方に関する教育への見通しをもつ

道徳科においては、発達の段階を前提としつつも、指導内容や指導方法を考える上では、個々人としての特性等から捉えられる個人差に配慮することも重要となる。児童生徒の実態を把握し、指導内容、指導方法を決定してこそ、適切に指導を行うことが可能となる。

2 道徳科の授業に取り組む基本的な構え

道徳科の指導は、学校の道徳教育の目標を達成するために行うものであることから、道徳教育推進教師を中心として、道徳教育の全体計画や道徳科の年間指導計画に基づく道徳科の指導を行う必要がある。言うなれば、年間指導計画に基づいて様々な内容項目を取り扱うことで、計画的に児童生徒の心を育んでいくことが道徳科の役割である。

また、道徳科の目標を達成するためには、児童生徒がすでに分かっていることを再確認するのではなく、授業で取り扱う内容項目について「なぜそのことが大切なのか」「分かっているのになぜ行おうことができないのか」といったことについて考えたり議論したりすることが重要となる。

3 授業構想・指導案作成の流れ（例）

(1) 主題名＝1時間の授業が概観できるような言葉で表される

道徳科の主題は、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものである。原則として年間指導計画における主題名を記述し、指導する視点を表すアルファベットと内容項目を主題名の後に明記する。

(2) 主題設定の理由

児童生徒の肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方を心掛けるようにする。

抽象的な捉え方をするのではなく、児童生徒の学習場面を予想したり、発達の段階や指導の流れを踏まえたりしながら、より具体的で積極的な教材の生かし方を記述する。

① 価値観＝ねらいや指導内容についての教師の捉え方

学年段階ごとに示されている内容項目は、その全てが道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育における学習の基本となるものである。それぞれの内容項目の発展性や特質及び児童生徒の発達の段階などを全体にわたって理解し、児童生徒が主体的に道徳性を養うことができるようにしていく必要がある。

② 児童観・生徒観＝価値観に関連する児童生徒の学習状況や実態と教師の児童生徒観

道徳科の授業を行う際に、学級担任として児童生徒一人一人のよさを発見し、その道徳性の発達段階について正確に把握しておくことが肝要である。実態を把握する方法としては、生活場面での観察、道徳授業での観察、日記や作文等の生活記録の読み取り、調査、カウンセリング、検査などが考えられる。

③ 教材観＝使用する教材の特質や取り上げた意図及び児童生徒の実態と関わらせた教材を生かす具体的な活用方法

教科用図書や副読本等の教材について、授業者が児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討する。道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、道徳教育の特性を鑑みれば、多様な教材を併せて活用することが重要となる。

教材について、ねらいとの関りで道徳的価値がどのように含まれているかについて検討する際には、指導者自身が、教材の構造や表現の意図、そこに含まれる道徳的価値や人間性を深く理解することが大切である。

(3) 本時のねらい

年間指導計画に踏まえてねらいを記述する。本時の授業でねらいとする道徳的価値について明記し、複数の道徳的価値をねらいとして構成しないように留意する。

(4) 関連

年間指導計画を基に、同一学年で複数時間行う内容項目について、その教材名と主題名を確認する。複数時間行わない内容項目については、学習指導案作成上での記述は省略する。

(5) 学習指導過程

道徳科の授業＝道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる＝道徳性を養う時間

(小) ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習指導過程となるようにする。

(中) ねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習指導過程となるようにする。

① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習 〈ねらい〉

教材の登場人物の心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。

〈指導方法の効果〉

教材の登場人物の心情と自分との関わりについて、多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法である。登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

〈留意事項〉

教師に明確な主題設定がなく、指導観に基づく発問でなければ、登場人物の心情理解のみの指導になりかねない。

導入	道徳的価値に関する内容の提示 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・価値への方向付け ・教材への方向付け
展開	登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、自分との関わりで考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・簡潔に「あらすじ」を確認する。 ・教材をもとに、主人公等の思いや考え方に共感させる。 ・級友の価値観と照らし合わせさせることで、自分の感じ方や考え方の位置を知らせ、自分の価値観を深化させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 教師の主な発問（例） 〔共感的活用〕 主人公等の考え方、感じ方に共感させることによって、自分の現在の価値観に気付かせ自覚を促す方法。 <ul style="list-style-type: none"> ・そのとき主人公はどのような気持ちだっただろう。 ・そのとき主人公は何を考えていただろう。 ・そのとき主人公は何を悩んでいただろう。 〔感動的活用〕 教材が深い感銘を与える場合、生徒の感動を特に重視しながら、ねらいとする価値把握を図る方法。 <ul style="list-style-type: none"> ・心に残ったところはどこだろう。 ・なぜそこが心に残ったのだろう。 ・なぜみんなを感動させるのだろう。 〔範例的活用〕 主人公等の行った道徳的行為を、児童生徒に一つの手本や範例として受け取らせる方法。 <ul style="list-style-type: none"> ・手本にしたいところはどのようなところか。 ・見習いたいところはどのようなところか。 ・どうしてこんな立派な行為ができたのだろう。 〔批判的活用〕 主人公等の行為や考え方を児童生徒に批判させ、互いの意見を交わすことにより道徳的な考え方、感じ方を深めさせる方法。 <ul style="list-style-type: none"> ・このときの主人公の考えをどう思うか。 ・この主人公の行為をどう思うか。 ・この行為をした主人公をどう思うか。 </div> 振り返り（価値の内面的自覚を図る） 本時の授業を踏まえ、各自で道徳的価値に関わる自分の在り方や生き方を振り返り、交流する。
終末	まとめ 教師による説話などでまとめる。

② 問題解決的な学習

〈ねらい〉

問題解決的な学習を通して、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

〈指導方法の効果〉

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問によって、価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

- ・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効
- ・他者と対話や協同しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性
- ・問題解決の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決プロセスに価値がある
- ・考え、議論する中で図られるコミュニケーション自体に道徳的価値がある

〈留意事項〉

明確なテーマ設定のもとで、

- ・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
- ・「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
- ・議論し、探求するプロセスが重視されているか。

といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。

【パターン１】

導入	問題の発見 教材や日常生活から道徳的な問題を見付ける。
展開	問題の探究 発見した問題について、グループなどで「なぜ問題となっているのか」「問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのか」などについて、多面的・多角的に考え、議論を深める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 教師の主な発問（例） <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ思いやりは大切なのだろうか。 ・どうすれば思いやりを表現できるだろうか。 ・同じ場面に出会ったら、自分ならどのように行動するか。 ・なぜそのように行動するのか。 ・よりよい解決方法はないだろうか。 </div> 問題の解決 問題の探究を踏まえ、問題に対する自分なりの考えや解決方法を導き出す。
終末	まとめ 本時を振り返り、学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。

【パターン２】

導入	道徳的価値の想起 個人的な経験や具体的な事例から道徳的価値を考える。
展開	道徳的な問題の状況の分析 教材を読んで、道徳的問題の状況を分析する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 教師の主な発問（例） <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 </div> 複数の解決策の構想 問題場面对し、様々な解決策を構想する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 教師の主な発問（例） <ul style="list-style-type: none"> ・主人公はどうしたらよいのだろう。 ・自分ならどうしただろう。 </div> シミュレーション 考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。

終末	<p>まとめ</p> <p>今後の生活でどのように生かせるかを問い、価値の内面化から道徳的实践へと促す。</p>
----	---

③ 体験的な学習

〈ねらい〉

役割演技などの体験的な学習を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

〈指導方法の効果〉

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解し、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面を实际体験してみること、また、それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための実践的な資質・能力を養うことができる。

- ・心情と行為をすり合わせるにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことに有効
- ・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで、内面も強化していくことが可能
- ・実際の行為の難しさやその対処法を考え、議論する中で図られるコミュニケーション自体に道徳的価値

〈留意事項〉

明確なテーマのもとでの検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒指導・生活指導になりかねない。

- ・心情と行為との葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。
- ・問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。

【パターン１（役割演技）】

導入	<p>教材の提示</p> <p>教材の概要の説明や登場人物の確認などを行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>提示の例</p> <p>・電車の中で席を譲るか譲らないかという葛藤場面</p> </div>
展開	<p>道徳的な問題場面の提示</p> <p>ペア・インタビューなどを通して、登場人物の心情を理解し、何が問題になっているのか、状況を把握する。</p> <p>再現の役割演技</p> <p>グループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤を理解するとともに、取り得る行動を多面的・多角的に考える。</p> <p>新たな場面の提示</p> <p>同様の新たな問題場면을提示し、グループで何が問題になっているかを考え、取り得る行動を多面的・多角的に考える。</p> <p>解決の役割演技</p> <p>新たに提示された場面について考えた取り得る行動を、役割演技を通して再現し、解決を図る。</p>
終末	<p>まとめ</p> <p>感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、自分の取り得る行動について振り返る。</p>

【パターン２（道徳的行為）】

導入	道徳的価値に関する内容の提示 分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、理由を考える。
展開	教材の提示 道徳的価値の含まれた映像教材を視聴し、登場人物の行動に想いを巡らせ、行動の意味やその際の心情を考える。 自分の行動を振り返る 教材を踏まえ、なかなか実践できない道徳的行為について、実践するには勇気がいることなど、気持ちと行動をつなげることの難しさや大切さを考える。 体験的な学習 これまでの授業を踏まえ、実際に問題場面を設定し、道徳的な行為を体験する。体験を通して実生活における道徳的な問題の解決に見通しをもたせる。
終末	まとめ 体験をした感想を交流し、今後の生活にどのようにつなげていくかを考えるなどする。

【パターン３（問題解決的な学習＋体験的な学習）】

導入	道徳的価値の考察 道徳的価値の本当の意味や意義を考える。
展開	道徳的な問題の状況の分析 教材を読んで、道徳的問題の状況を分析する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 教師の主な発問（例） ・ここでは何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 </div> 複数の解決策の構想 問題場面对し、様々な解決策を構想する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 問題解決への示唆（例） ・自分が同じようにされてもよいのか。 ・いつ、どこで、誰にでも同じようにするのか。 ・それで皆が幸せになれるか。 </div> 体験的な学習 自分ならどのように行動するかということを、役割演技などを通して実際に経験する。
終末	まとめ 導入における根本的な問いに対し、自分なりの結論を出す。

④ その他、道徳科に生かす指導方法の工夫

ア 話合いの工夫

- ・児童生徒相互の考えを深める中心的な学習活動であり、道徳科においても重要な役割を果たす。考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話合いが行われるよう工夫する。
- ・話すことと聞くことが並行して行われ、友達の考え方についての理解を深めたり自分の考えを明確にしたりすることができる。

イ 書く活動の工夫

- ・児童生徒が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な役割をもつ。
- ・自分自身とじっくりと向き合ったり自分なりにじっくりと考えたりすることができる。

- ・ 1冊のノートなどを活用することによって、学習を継続的に深めていくことができ、児童生徒の成長の記録として活用したり、評価に生かしたりすることもできる。
- ウ 動作化、役割演技等の表現活動の工夫
- ・ 児童生徒に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫
 - ・ 動きやせりふ、言葉を模倣して理解を深める動作化の工夫
 - ・ 音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫
など
- エ 板書を生かす工夫
- ・ 教師の伝えたい内容を示したり、その順序や構造を示したり、内容の補足や補強をしたりするなど、板書は多様な機能をもっている。
 - ・ 思考の流れや順序を示すような順接的な板書、違いや多様さを対比的、構造的に示す板書、中心部分を浮き立たせる板書などの工夫が大切である。
- オ 説話の工夫
- ・ 説話とは、児童生徒がねらいの根底にある道徳的価値を一層主体的に考えられるようにするものである。
 - ・ 教師の体験談や願い、様々な事象についての所感、日常生活における問題や身近な話題、関心や視野を広げる時事問題、ことわざや格言、心に残る標語、地域の自然や伝統文化に関することなどが考えられる。

指導案について

主題名は、原則として年間指導計画に記載されているものを記述する。

算用数字は、1桁の場合は全角、2桁以上の場合は半角で表記する。

四つの視点を表すアルファベットと内容項目を記述する。
※番号は記述しなくてもよい。

第5学年○組
令和○年○月○日
○曜日
第○時
指導者 ○ ○ ○ ○

道徳科学習指導案

1 主題名 人のために役立つ C 勤労、公共の精神

2 主題設定の理由

(1) 価値観
勤労は、日々の糧を自ら得て自立することを目的とする。単に自分の生活の維持向上を目的とするだけではなく、働くことで得られる達成感や満足感、人の役に立つうれしさややりがいをもたらす。同時に社会への奉仕活動など公共のために役立つ活動を積み重ねることで、今日の地域社会や国家がつけられている。そこで、働くことの意義を理解し、自分の充実感を得るためだけでなく、よりよい社会をつくるために社会に奉仕しようとする意欲や態度を養いたい。

(2) 児童観
本学級の児童は、校外学習やメディアを通してさまざまな仕事があることを知っている。また、勤労は、自分や家族の生活を支えていることや人の役に立つことにも気が付いている。学校生活の中では、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して仕事を成し遂げた際の喜びや手応えを感じ始めている。働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうことで、勤労は、公共のために役立つことであることを捉えさせたい。同時に、みんなのために働こうとする意欲をもたせ、進んで公共のために役立つようとする態度を培うことができるようにしたい。

(3) 教材観
本教材は、常滑の陶業のために尽力した伊奈長太郎の話である。長太郎は茶器を焼く家に生まれた。長太郎は土管やタイルを焼く事業を広めようと考え、アメリカへ渡り、陶業界を視察した。帰国後、長太郎はアメリカで学んだことを惜しみなく工場の参観者に見せた。5年がかりで生み出した陶土を掘るときにくずの利用方法も躊躇なく公表した。学びや研究の成果を常滑の人や国のために還元する長太郎がいたからこそ、今のわたしたちの便利な生活がある。地域に実在した人物の話なので、児童は関心をもちやすいであろう。長太郎を児童とかけ離れた偉人として扱うのではなく、長太郎の生き方と児童の生き方をつなげて考えさせたい。

3 本時のねらい
○働くことや社会に奉仕することの意義を理解し、公共のために役立つようとする気持ちを高める。

4 準備・教材
○教材名「それでええじゃないか」 出典「明るい心」
○教師・・・ワークシート

5 関連
道徳「お父さんは救急救命士」（働くことの意義）

6 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
導 入	1 写真を見て、登場人物について知る。 ○この写真は、何の写真でしょう。 ・製品 ・工場や働く人 ・常滑工場の地図	4	○伊奈長太郎の会社に関わりのある写真を掲示する。 ○写真を掲示することで、教材への興味付けをする。
展 開	2 本教材を読み、話し合う。 <div>長太郎は、どんな気持ちで工場を丁寧に説明したのでしょうか。</div> <div>・アメリカで知った工場のすばらしさを多くの人に知ってほしい。 ・全国から来た参加者の期待に応えたい。 ・自分の技術を受け継ぐ人を育てたい。 ・この技術がみんなのためになってほしい。</div>	15	○かつての日本の工場と、アメリカの最先端の工場との違いを押さえる。 ○最先端の技術を参観者に伝えたいという長太郎の気持ちについて考えさせる。
開 閉	<div>長太郎は、どんな思いで「それでええじゃないか」と言ってきたのだろう。</div> <div>・もうけることより、人のためになる方がよい。 ・常滑の人たちが喜んでくれたらうれしい。 ・常滑が発展し、人々の暮らしがよくなればよい。 ・この技術が人々のためになってほしい。 ・この技術が知れ渡り、国が豊かになってほしい。</div>		○公共のために役立てたいという長太郎の気持ちを感じ取らせる。 ○学級全体で話し合わせる。 <div>補長太郎はアメリカの工場で何を学んで来たのだろう。</div> <div>補長太郎は、どんな気持ちで陶土に変える技術を雑誌に発表したのだろう。</div>

指導する内容項目を端的に表す言葉は、すべて記述する。

(1) 価値観
(2) 児童観（生徒観）
(3) 教材観
と明記する。

(1) 学習指導要領の内容や解説の内容項目についての記述を十分に踏まえること。
(2) この時期にこのねらいを取り上げる理由を児童生徒の具体的な実態を踏まえて述べる。
(3) 教材の取り扱い方や効果的な活用について明記する。

(1) 年間指導計画を踏まえてねらいを記述する。
(2) 本時の授業でねらいとする道徳的価値について明記する。
(3) 複数の道徳的価値をねらいとして構成しないように留意する。

教科書以外の資料を用いるときは、出典を書く。

複数時間行う内容項目についての同学年の道徳の関連を示す。
「教材名」（主題名）
複数時間行わないときは省略し、「5 学習指導過程」とする。

児童生徒の活動に対応した指導上の留意事項を書き、「○」で書き始める。
・指導の要点や方法
・発問の意図
・視聴覚機器の使用
・教材を示すときの注意事項
・その他留意しておきたいこと

基本発問は、四角囲みをする。

中心発問は、二重線で囲む。

補助発問は、点線の野線で囲み補で書き始める。

展 開		32	評長太郎の考えから、人の役に立つことのすばらしさに気付いている。 (話し合い)		
	長太郎にとって、人の役に立つということは、どんなことだろう。			価値の把握の発問は、四角囲みをする。	
終 末	3	気付いたことを基に、自己を見つめる。	40	○ 中心発問から出た、人の役に立つという視点から、公共の精神についての考えを深める。 ○ 長太郎が惜しむことなく技術を公開したことを押さえる。	経過予定時間を学習の区切りごとに示す。また、罫線で区切る。
	今日の授業でどんなことを学びましたか。				価値の自覚の発問は、四角囲みをする。
		働くことは、お金をもうけるだけでなく、人のためになる。 生活の中で、人のためになることをしてみたい。 困っている人がいたら、助けてあげたい。	45	○ 授業で感じたことや考えたことを、ワークシートに自分の言葉でまとめさせる。 ○ ワークシートに記入している内容を机間指導で把握する。 評働くことの意義や公共の役に立つことについて考えている。 (ワークシート)	「評」には、学習活動の流れの中での評価の観点を記述する。評価方法については()内に略記する。
7 本時の評価 ○ 働くことは、単にお金儲けをするだけでなく、公共のために役に立つ側面があるということについて考えている。 (話し合い、ワークシート)					本時の学習を通して目標がどの程度達成できたかを確かめる観点を示す。評価方法については、右詰で()内に略記する。
8 備考 ○ 知多半島出身の著名な人物に着目し、自分たちの住む地域に近いところで大きな社会貢献をした人物を取り上げることで、親しみを感じながら学習できるようにする。 ○ 補助発問を用意し、長太郎の気持ちに深く迫ることで、社会に奉仕することの意義について、より一層考えられるようにする。					
9 指導と評価					

指導後の反省を記入して保存しておきたい。

- ・ 主題を取り上げる時期はよかったか。
- ・ 教材は適切であったか。
- ・ ねらい、内容、時間に問題はなかったか。

1～7に書かなかったことで、本時の指導上必要なことがらを示す。

- ・ 教科用図書を使用せず、副読本等を使用した意図
- ・ 特殊な指導形態をとった場合の根拠
- ・ 他領域、教科との関わり
- ・ 学校の現職教育の主題を踏まえた授業構成や手だて
- ・ 事前や事後の指導の工夫
- ・ その他、板書計画や座席表等

道徳科の学習指導過程には特に決められた形式はない。

一般的には「導入→展開→終末」と各段階を設定する方法が広く行われている。「導入→展開（前段）→展開（後段）→終末」や「方向付け→価値の追求・把握→価値の自覚→まとめ」といった設定をすることもある。

学習指導案には、児童生徒がねらいとする道徳的価値の自覚を深めるために、教材を活用して、どのような手順で指導をすすめるのかを示す。

1 ----- 児童生徒の認識過程をふまえた各段階における児童生徒の活動

- ----- 具体的な学習活動
- ・ ----- 予想される児童生徒の反応（具体的な学習活動を明記する必要があるときは○の位置から書き始める）

基本発問
人間関係を把握したり、状況をつかんだりするための補助的な発問。
教材により省略することもある。

中心発問
本時のねらいとする価値に迫るための多様な価値観を引き出す発問。
読み物教材中の主人公等が「ねらい」とする価値を十分把握できず、悩んだり苦しんだりする場面で設定されることが多い。

価値の把握の発問
本時のねらいを把握することができる、主人公の気持ちを問う発問。
主人公が本時のねらいとする価値に気が付き、よりよく生きていこうとする場面で設定されることが多い。

価値の自覚の発問
本時に学んだことを通し、今までの自分自身を振り返る発問。
基本的には、主人公と同じような経験を問い、今までの生活を振り返らせることになるが、対話や小集団による話し合い、主人公へ手紙を書かせるなどの工夫をすることで指導効果を高めることができる。

補助発問
本時のねらいにせまるために、本音を引き出し、考え方を深めるため、掘り起こしや切り返しの追発問で、中心発問に対して設定する。

◆ 発問に対して児童生徒の予想される発言は……

- ・ 共感や批判で分類したり、価値観により類型化したりするなど工夫して記す。
- ・ 価値の低いものから順に記す。
- ・ 体言止めの文末には句点を付けない。

第1学年〇組 道徳科学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 人の気持ちを考えて B 親切, 思いやり

2 本時のねらい

- 身近にいる人に温かい心で接し, 親切にしようとする心を育てる。

3 準備・教材

- 教材名「はしのうえのおおかみ」
- 教師・・・場面絵, お面

4 関 連

道徳 「くりのみ」(温かい心で)

道徳 「ねずみくんのきもち」(相手を思って)

5 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 点
方向付け	1 教材への方向付けをする ○一本橋について確認する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の場面を想起させるために, 教室中央に画用紙で橋を作っておき, 一本橋のイメージをもたせる。 ○児童二人を両端から歩かせ, 一本橋で出会う場面を演じさせる。
価値	2 おおかみの気持ちについて話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> ○範読をして, あらすじを確認させる。 ○話の内容を把握させるために, 場面絵を黒板に提示する。
追	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは, 強いんだぞ。 ・いじわるするのは, 楽しいな。 ・みんな, 弱いなあ。 ・いばるっておもしろいな。 ・どうだ, すごいだろう。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ○おおかみの気持ちを考えやすいように数人にお面を使わせて動作化させる。 ○橋を歩かせることでおおかみの気持ちを考えさせる。 ○自分よりも弱い動物たちに意地悪をして喜んでいるおおかみの気持ちを捉えさせる。
求	くまに抱き上げられ, 「そっと」後ろに下ろしてもらったとき, おおかみはどんな気持ちだったでしょう。		
把	<ul style="list-style-type: none"> ・くまも自分と同じように意地悪すると思っていたのに, びっくりした。 ・やさしくされてうれしいな。 ・くまさんはやさしいな。 ・くまさんはすごいな。 	25	<ul style="list-style-type: none"> ○おおかみの気持ちについて考えさせるために, くまを教師が役割演技し, おおかみを児童一人一人に役割演技させてそれぞれの気持ちを確認させる。 ○教師がくま役となり, 実際に抱き上げて後ろに「そっと」下ろすことでおおかみの気持ちを考えさせる。 <p>評くまに親切にされたことで, おおかみの気持ちに変化したことに気付いている。</p> <p>(発表)</p>

価値の追求・把握	うさぎを抱き上げ「そっと」下ろしたとき、おおかみはどんな気持ちだったのでしょうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・優しくすると、気持ちがいいな。 ・これからは、いじわるはやめて優しくしよう。 	35	<ul style="list-style-type: none"> ○親切にするよさを実感できたおおかみの気持ちを考えさせる。 ○親切にすることが自分の喜びにつながっていくことに気付かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">補 前よりずっといい気持ちになったのはなぜですか。</div>
価値の自覚	3 本時の価値について話し合う。		
まとめ	今日の話の中で、おおかみのよかったところはどこですか？		
	<ul style="list-style-type: none"> ・いじわるをやめたところ。 ・いばることをやめたところ。 ・うさぎのことをそっとうしろにおろしたところ。 ・やさしくできたところ。 	40	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が、想起できない場合は、場面絵で振り返り、親切にされてうれしかったことを確認する。 <p>評 親切にされるよさを感じ取り、人に親切にしようとする気持ちの大切さに気付いている。 (発表)</p>
	4 本時の授業を振り返り、感想を発表させる。	45	<ul style="list-style-type: none"> ○親切にして気持ちがよくなったり、親切にすることが、自分の喜びにつながっていくことなど感想を述べさせる。

6 本時の評価

- 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることの大切さに気付いている。 (発表)

7 板書計画

はしのうえのおおかみ

おおかみ
うさぎ

「もどれ、もどれ。」といったとき
 ・ぼくは、つよいんだぞ。
 ・いじわるするのはたのしい。
 ・どうだ、すごいだろう。

くま
おおかみ

「そっと」下ろしてもらったとき
 ・やさしくしてくれてうれしいな。
 ・くまさんはやさしいな。
 ・くまさんはすごいな。

おおかみ
うさぎ

「そっと」下ろしたとき
 ・やさしくすると、きもちがいいな。
 ・これからはやさしくしよう。

おおかみのよかったところはどこですか。

- ・いじわるをやめたところ
- ・やさしくできたところ

第1学年O組 道徳科学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 あたたかい心で、人にやさしくしよう B 親切、思いやり

2 本時のねらい

○身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる。

3 準備・教材

○教材名「はしのうえのおおかみ」

○教師・・・発問カード、場面絵、ペープサート

4 関 連

道徳 「くりのみ」(温かい心で)

道徳 「ねずみくんのきもち」(相手を思って)

5 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
方向付け	1 価値への方向付けをする。 ○自分より年下の人や友達に優しくしてあげたことはありますか。 ・保育園の子が転んだときに、「大丈夫」と声を掛けてあげた。	4	○日常の些細なことでもよいので、いくつか発表させるようにする。
価値の追求・把握	2 教材「はしのうえのおおかみ」を聞き、話し合う。		○登場人物が一本橋の上を行き来する状況を児童が理解できるように、ペープサートを用いる。
	<div> おおかみは、うさぎやきつね、たぬきを追い返したとき、どんな気持ちだったのでしょうか。 </div>		
	・ 追い返すのって楽しいな。 ・ 弱い子に意地悪をするのはおもしろいな。	15	○自分より弱い者に意地悪をして喜んでいるおおかみの気持ちを押さえる。
	<div> おおかみは、くまの後ろ姿を見ながら、どんなことを思っていたでしょう。 </div>		
	・ くまは優しくてすごい。 ・ くまと自分を比べると、恥ずかしくなるなあ。 ・ 弱い者いじめをして、いけなかったな。 ・ これからはくまをお手本にしたいな。	25	○くまの優しさやすごさについて具体的に聞くことで、価値の本質に迫る。 ○くまの温かい気持ちにふれたことで、おおかみが感じたことを考えさせる。 <div> 補 そっと下ろしてもらったとき、おおかみはどんな気持ちだっただろう。 </div>
	<div> うさぎをそっと下ろしてあげたおおかみは、どんなことが心に浮かびましたか。 </div>		
	・ 気持ちがよい。 ・ 意地悪をしなくても気持ちがいいんだな。 ・ ウサギも喜んでくれてうれしいな。	34	○優しくされたうさぎの表情にも注目させ、考えさせる。 ○おおかみが意地悪をしていたときの気持ちと比べさせ、気持ちのよさが異なることについて詳しく発表させる。

価値の自覚	3 現在の自分を見つめ、これからの生活について考えを発表する。		
	自分と似ているのはどのおおかみですか。それはなぜですか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達について意地悪をしてしまうから、意地悪をしてしまうおおかみと似ている。 ・くまがすごいと思ったから、くまの後ろ姿を見ているおおかみと似ている。 	41	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの場面絵から現在の自分の価値に近いものを選ばせ、理由と共に発表させる。 ○今後の生活で身近な人にどのように接したいかを考えさせる。 <p>評挿絵から自分と似ているおおかみを選ぶことで、自分自身を見つめている。</p> <p>(発表)</p>
まとめ	4 教師の話聞く。	45	<ul style="list-style-type: none"> ○最も身近な存在である友達だけでなく、自分より幼い子や高齢者などにも目を向けられるような話をする。

6 本時の評価

- 自分より幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることの大切さに気付いている。
- (発表)

7 板書計画

じぶんと似ているのはどのおおかみ

挿 絵

- ・ きもちがよい。
- ・ いじわるしなくてもきもちがよい。
- ・ うさぎもよろこんでくれた。

うさぎをうしろにおろしてあげて

挿 絵

- ・ くまはやさしい。
- ・ はずかしい。
- ・ よわいものいじめはいけなかった。
- ・ くまをおてほんにしたい。

うしろすがたをみながら

挿 絵

- ・ たのしい。
- ・ いじわるはおもしろい。

うさぎやきつね、たぬきをおいかえたとき

おおかみのペープサート

うさぎのペープサート

くまのペープサート

はしのうえのおおかみ

第1学年〇組 道徳科学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時
指導者 〇 〇 〇 〇

- 1 主 題 名 親切にする心 B 親切, 思いやり
- 2 本時のねらい
 - 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し, 親切にしようとする態度を養う。
- 3 準備・資料
 - 教材名「はしのうえのおおかみ」
 - 教師・・・挿絵を利用した紙芝居
- 4 関 連
 - 道徳 「くりのみ」(温かい心で)
 - 道徳 「ねずみくんのきもち」(相手を思っ
- 5 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
方向付け	1 友達にされて, 嫌だったと感じたことは, ありますか。 ・遊ぶときに, 仲間はずれにあった。 ・教科書を忘れたとき, 見せてくれなかった。	5	○ うさぎの気持ちが捉えやすくなるように, 友達にされて嫌だった経験を想起させる。 ○ 個人名を挙げるのではなく, 経験した様子を発表させる。
	2 本教材を読み, 内容について話し合う。		○ 本資料を紙芝居にして, 範読する。 ○ 紙芝居を黒板に貼り, あらすじを確認する。
価値の追求・把握	うさぎがびっくりして, すごすごと後戻りしたとき, どんな気持ちだったでしょう。		
	・いやだな。怖い。 ・何ていじわるなんだ。 ・怖くて, 渡れない。	15	○ 「すごすご」の具体的なイメージがもてるように演じてみせる。 ○ おおかみと出会って, 怖がっているうさぎの気持ちを押さえる。
	うさぎは, おおかみにそっと下ろされたとき, どう思ったでしょう。		
	・ありがとう。 ・どうして優しくしてくれるのだろう。 ・うれしいな。 ・とても親切だな。	20	○ そっと下ろされたときの挿絵を活用して考えさせる。 ○ 怖いイメージから変容したおおかみの様子を捉えさせる。
価値の自覚	うさぎは, おおかみに次に会ったら, どんな言葉をかけると思いますか。		
	・このあいだは, ありがとう。 ・抱いてくれて, びっくりしたよ。 ・優しくしてくれて, 嬉しかったよ。 ・他の動物が来ても, 同じように優しくしてね。	30	○ うさぎの気持ちを類型化して板書する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 補なぜおおかみに感謝しているのかな。 補うさぎだけに親切にすればいいのかな。 </div> 評 うさぎの気持ちを通して, 優しく接してくれたおおかみの親切心に気付いている。(発表)
	3 生活を振り返り, 自己を見つめる。		
まとめ	周りの人に親切にしてもらって, うれしかったことはありますか。		
	・放課に怪我をしたとき, 保健室に連れて行ってもらった。 ・友達とけんかして泣いていたときに, 声をかけてくれた。	40	○ 生活の中での具体的な場面を提示し想起させる。
	4 内容にあったふさわしい歌を聴く。	45	○ 内容にあった歌を聴いて余韻をもって, 終わらせる。

- 6 本時の評価
 - 身近にいる人に温かい心で接し, 親切にしようとする気持ちについて考えている。(発表)

第3学年〇組 道徳科学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 すべての命を大切に D 生命の尊さ

2 本時のねらい

- 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

3 準備・資料

- 教材名「ヒキガエルとロバ」
- 教師・・・挿絵

4 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
方向付け	1 価値への方向付けをする。 ○ どんな生き物を飼ったことがあるかを話し合う。 ・家で、犬を飼っている。 ・金魚をもらって飼っている。 ・ハムスターを飼っているけれど、世話するのを忘れてしまう。	5	○ 資料についての興味・関心を高める。 ○ 身近な生き物の命を思い起こすために、飼った経験のある生き物についての話をする。 ○ 「生き物の命」への方向付けをする。
価値	2 教材を読み、内容について話し合う。		○ 教材を範読し、内容を把握させる。
	アドルフはどんな気持ちでヒキガエルに石を投げたのでしょうか。		
	・気持ち悪いから投げてやれ。 ・当たったぞ。面白い。 ・もっと困らせてやろう。	10	○ 面白半分で、石を投げてヒキガエルを困らせていることを押さえる。 ○ 小さい命を軽く見ている心情を捉えさせる。
追求	アドルフは、ロバがヒキガエルをひかないように、新しいわだちをつけて行くのを見たとき、どんなことを思ったでしょう。		
	・ どうしてひかずに、新しいわだちにしたんだろう。 ・ ロバは、荷物が重くて大変そうなのに、よくわだちを変えたな。 ・ 力を振り絞って、ヒキガエルを救おうなんて信じられない。 ・ 小さな命を救おうとして、一生懸命だな。	15	○ ロバが年を取っていて大変な状況にも関わらず、一生懸命わだちを変えようとしている場面を確かめる。 ○ アドルフとロバの違いが対比できるように板書の両極にまとめる。
把握	アドルフは、ヒキガエルとロバをいつまでもながめながら、どんなことを考えていたでしょう。		
	・ ヒキガエルにかわいそうなことをしてしまった。 ・ 自分たちは、なんて残酷なことをしてしまったんだろう。 ・ あんなに苦しそうにしていたのに、ロバはすごいな。 ・ どんな命であっても大切にしないとけないな。	25	○ いつまでも眺める場面から、アドルフのいろいろな気持ちを引き出し、板書で気持ちを膨らませる。 補 アドルフたちの行動と比べるとどう思うか。 補 アドルフの手から石が足下に滑り落ちたのは、どうしてだろう。 評 どんな生命も大切にしようとする気持ちを高めようとしている。（発表）

価値の自覚	3 今日の学習を振り返る。	
	今日の学習からどんな大切なことを学びましたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命も大切だが、小さい物にも命があり、それだって大切なものだ。 ・命を粗末にせず、大切にしていきたい。 	35 <ul style="list-style-type: none"> ○生き物に対する考えの変容を基に、これからどうしていきたいか考えさせる。 ○命に大きさはなく、かけがえのないものだと感じられるようにさせたい。 ○板書から大切なことに気付けるようにさせる。
まとめ	4 生活の中で命を大切にしている行動を紹介する。	45 <ul style="list-style-type: none"> ○児童の身近な姿から、命を大切にしようとする行動があれば、それを紹介する。

5 本時の評価

- 生命の尊さを感じ取り、生命あるもの全てを大切にしようとする心情を高めている。(発表)

6 板書計画

ヒキガエルとロバ

P.98の挿絵

アドルフのヒキガエルに対する気持ち。
・気持ち悪い。
・当たったぞ。
・面白い。
・困らせてやろう。



P.100上の挿絵

ロバの行動を見て、どう思ったか。
・どうして。
・ヒキガエルをすくおうとしている。
・ロバは一生けん命。

第3学年〇組 道徳科学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 命を大切に D 生命の尊さ

2 本時のねらい

- 生命の尊さを知り，生命あるものを大切にしようとする態度を育てる。

3 準備・資料

- 教材名「ヒキガエルとロバ」
- 教師・・・挿絵，ワークシート

4 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
導 入	1 価値への方向付けをする。 ○ 命と聞いて思い浮かぶことはありますか。 ・大切な命 ・かけがえのない命	3	○ 互いに表情を見合って話し合うために，座席はコの字型とする。 ○ いくつか発表させることで，本時の価値への方向付けをする。
展 開	2 本教材を読み，内容について話し合う。		○ 範読をし，あらすじを確認する。 ○ 挿絵を黒板に掲示する。 ○ アドルフ，ロバ，ヒキガエルの行動を簡単に押さえる。
	ヒキガエルを助けたときロバはどんな気持ちだったでしょう。		
	・守ることができてよかった。 ・頑張ったね，ヒキガエルさん。	10	○ 自分が大変な状況にあっても，小さな命を大切にしようとしたロバの気持ちを考えさせる。
	ロバのとった行動はどんなところがよかったでしょう。		
開	・ロバがヒキガエルの命を守ろうとしたところがよかった。 ・アドルフたちが，自分たちの行動を振り返るきっかけとなったところ。 ・ロバが小さな命も大切にしようとしたところ。		○ よい所を話し合っている際に，小さな命も大きな命も大切といった意見が出てきた場合には，本時の価値につなげて展開していく。 ○ 児童の意見を取り上げ，中心発問へつなげる。
	大切な命についてイメージをふくらませてみよう。		
	○ 命のイメージマップを作る。 ・お母さん ・お父さん ・食べているもの ○ 黒板で命のイメージを共有する。 ○ 全体で考えを共有する。 ・どんな生き物にもたった一つの命がある。 ・生き物に愛情をもって接することを大切にすること。		○ 命のイメージを考えやすくするために，自分の思いをワークシートに書かせる。 ○ ワークシートに記入してあるイメージを児童に黒板へ書かせる。 ○ できるだけ全員の意見が反映されるように支援する。 補 <small>小さな生き物の命と大きな生き物の命の価値は違うのだろうか。</small> 補 <small>友達の考える命についてどう思いますか。</small> ○ 発表を聞く中で，自分なりに命の大切さについて考えさせる。

展 開	・自分の命はいろいろな人や物とながっている。同じように、他の生き物もいろいろなつながりがあると思う。	35	評生命の尊さについて考えている。(発表)
終 末	3 本時の授業を振り返り、感想を発表する。 ・自分の命と同じように、他の命も大切にしたい。	45	評生命あるものを大切にすることについての意識を高めている。(発表) ○授業で感じたことや考えたことを、自分の言葉でワークシートにまとめさせる。 ○数人に感想を述べさせる。

5 本時の評価

- 命あるものを大切にしようとする心情をを高めている。(発表)

6 備 考

- 命に関連した授業（国語科の学習「ちいちゃんのかげおくり」など）の後に本授業を行うことで、イメージマップに広がりをもたせることができる。

7 板書計画

命について考えたこと

- ・大きな命も小さな命もみんな同じだと思う。
- ・どんな生き物にも命があるから大切にしたい。
- ・命は一つだけれども、たくさんのつながりから命が生まれている。

ロバのよいところはどんなところでしょう。

ヒキガエルとロバ

P98 の挿絵

P100 上の挿絵

ヒキガエルを助けたときの気持ち

- ・助けられてよかった。
- ・がんばったね。ヒキガエルさん。

第5学年〇組 道徳科学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 真の友情 B 友情

2 本時のねらい

- 〇互いに信頼し理解し合って友情を深め、心から助け合っていこうとする心情を育てる。

3 準備・資料

- 〇教材名「ロレンゾの友達」
- 〇教師・・・ホワイトボード

4 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
方向付け	1 価値への方向付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> 〇友達がいてよかったと思うときは、どんなときだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・困っているとき、助けてくれる。 ・勉強を教えてくれる。 ・一緒に遊んで楽しめる。 ・辛いとき、励ましてくれる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 〇資料についての興味・関心を高める。 〇アンケート結果を紹介する。 〇楽しいだけの友達だけでなく、支え合い助け合う姿にも触れ、真の友情について考える手がかりとする。
	2 教材を読み、内容について話し合う。		<ul style="list-style-type: none"> 〇教材を範読し、内容を把握させる。
価値の追求・把握	ロレンゾから手紙が来たとき、3人はどんなことを考えましたか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・信じられない。何かの間違いだ。 ・ロレンゾは、きっとしていない。 ・罪を犯したのだろうか。 ・彼は、変わってしまったのか。 ・もし、会いに来たらどうしよう。 	13	<ul style="list-style-type: none"> 〇3人の話から、ロレンゾの置かれている状況を把握させる。 〇しばらく会っていない友人に、何が起きたのか不安に思う気持ちを確認する。
	自分が、ロレンゾの友達だったらどうするか、3人の考え方で近いなと思うものを選ぼう。考えがまとまったら、友達と意見を交わそう。		
	(アンドレ) <ul style="list-style-type: none"> ・警察に通報するのは辛い。 ・友達だから逃がしてやりたい。 ・友達を裏切れない。 (サバイユ) <ul style="list-style-type: none"> ・友達の気持ちを大事にしたい。 ・よくないから、自首を勧める。 ・無理には、警察に連れて行けない。 (ニコライ) <ul style="list-style-type: none"> ・逃げても罪は軽くない。 ・いけないことは、いけない。 ・友達だから、警察に知らせる。 	23	<ul style="list-style-type: none"> 〇自分の考えをまとめさせ、3人のどの意見に近いか選択させる。 〇誰の考えに近いのか、黒板にネームプレートを貼らせる。 〇ホワイトボードを持たせ、友達の意見を聞いて、メモを取らせる。 〇できるだけ、自分とは違う考えの児童と触れるように、声を掛ける。 〇迷っている児童がいたら、誰の考え方が一番友達のことを考えているのか問いかける。 評友情について意見を述べ、交流している。 (ホワイトボード)
本当の友達なら、どうすればよいのだろうか。友達の意見を聞いて考えたことを発表しよう。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を聞いて、アンドレは 		<ul style="list-style-type: none"> 〇友達の意見も紹介させ、自分の意見

	<p>ロレンゾのことを考えていないと思ったが、3人を信頼しているロレンゾを裏切れない気持ちも分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニコライの行動が本当は正しいと思う。でも友達だったらアンドレのようにしてしまうかも知れない。 ・友達の意見から、ロレンゾが納得するまで、話をすることがよい方法だと思った。 	30	<p>が変わったり、影響を受けたりして、どう感じたかを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一義的な考えではなく、多様な考え方を知り、3人の考えは違っても、本気で友達のことを考えていることを押さえる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>補 3人に共通している思いはどんなことだろう。</p> </div> <p>評真の友情について考えを深め、多面的・多角的に捉えようとしている。 (発表)</p>
価値の自覚	3 生活を振り返り、自己を見つめる。		
	<p>本当の友情とは、どのような友達関係なのだろう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・助け合い、協力する。 ・友達の考えを大切にする。 ・悪いことを悪いと言える仲。 ・本音で会話ができる。 ・信頼できる関係。 ・相手の気持ちを尊重するのが大切。 	40	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の中で、望ましい人間関係を築くには、どうしていったらよいか考えさせる。 ○授業を通しての「友達」に対する考えの変化を捉えられるようにする。
まとめ	4 友情について、教師の話聞く。	45	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説話を聞き、今日の授業で感じたこと、考えたことを振り返らせる。

5 本時の評価

- 互いに信頼し理解し合って友情を深め、心から助け合っていこうとする心情を高めている。
(ホワイトボード、発表)

6 板書計画

ロレンゾの友達

手紙が来たとき、3人はどんなことを考えたか。

- ・信じられない。
- ・ロレンゾは、きっとしていい。
- ・もし、会いに来たらどうしよう。

3人の考え方で近いものを選ぼう。

(アンドレ)

- ・警察に通報するのは辛い。
- ・友達だから裏切れない。

(サバイユ)

- ・友達の気持ちを大事にしたい。
- ・無理には、警察に連れて行けない。

(ニコライ)

- ・逃けても罪は軽くない。
- ・友達だからこそ、警察に知らせる。

本当の友情なら、どうすればいいだろうか。

友達の意見を聞いて考えたことを発表しよう。

- ・アンドレは、ロレンゾのことを考えていないと思ったが、ロレンゾを裏切れない気持ちも分かった。
- ・サバイユのように無理に説得するのではなく、ロレンゾの気持ちを尊重するのも大切だと思う。

本当の友情とは、どのような友達関係なのだろう。

- ・助け合い、協力する。
- ・友達の考えを大切にする。
- ・悪いことを悪いと言える仲。
- ・信頼できる関係。

考え方の近いところに
ネームプレートを貼る。

第5学年〇組 道徳科学習指導案

令和2年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

1 主 題 名 友達のために B 友情

2 本時のねらい

- 友達との関わりについて考えながら、友情を育もうとすることができる。

3 準備・資料

- 教材名「ロレンゾの友達」
- 教師・・・挿絵

4 学習指導過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
導 入	1 価値への方向付けをする。 ○ あなたが友達だと感じている人は、どんな友達ですか。 ・一緒に遊んでくれる友達 ・困っているときに助けてくれる友達	3	○いくつか発表させることで、本時の価値への方向付けをする。 ○普段友達とどんな風に関わっているのか、自分がどんな人を友達だと思っているのか押さえる。
展 示	2 本教材を読み、内容について話し合う。		○範読をし、あらすじを確認する。
	夜中にロレンゾが訪ねてきたら3人はどうすると考えていましたか。		
	<アンドレ> ・逃がす。 ・捕まったらかわいそう。 <サバイユ> ・自首を勧める。 ・本人が納得しないなら逃がす。 <ニコライ> ・自首を勧める。 ・本人が納得しなくても警察に知らせる。	13	○3人の考え方の違いを押さえ、意見を発表させる。 ○3人が思い悩んでる様子が読み取れるように挿絵を掲示する。 ○それぞれの行動と思いを視覚化することで簡単に内容を把握させる。 ○共通する部分や違う部分を板書で整理し、捉えさせる。
開	友達としてよりふさわしい順位に並べてみましょう。		
	○自分の考えをワークシートに書く。 ○隣の席の児童と意見を交換する。 ・自首を勧めて、納得してないなら逃がすサバイユが一番友達としてふさわしいと思う。一番ロレンゾのことを考えているように感じる。 ・自首を勧めて、警察に連れていくニコライが一番友達思いだ。警察に連れていくことは辛いことだが、それをやってこそ本当の友達だと思う。	25	○順位を考えさせることで自分の考える友達について考えさせたい。三つの行動を順位付けし、理由を話させるようにする。 ○友達のことを考えて逃がしてあげるのは良いことなのかと問いかける。 ○3人の考え方は違っていても、ロレンゾを思う気持ちは同じということを押さえる。 ○順位について考えさせた後、実際に自分だけだっただけなのかどうか投げかける。 ○自分の考えと、実際の行動とは異なる児童も多いことを確認した上で、次の発問につなげる。 ○自分では分かっているけど行動に移しにくいという発言が出てきたら、その点についても話し合い、中心発問へつなげていく。

もし自分だったら、友達のために思って考えたことが伝えにくい内容の時どうしますか。	
展	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ やっぱ言えないから友達に伝えてもらう。 ・ 言えないけれど、手紙や電話であれば伝えられそう。 ・ 言ってあげてこそ友達だから、あえて伝える。 ○ 全体の中で発表する。
開	3 気付いた価値を基に自己を見つめる。 <div>35</div>
今日の話で考えたことは何ですか。	
終	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のことを本当に思っていると言えないこともある。でも伝えていける人になりたい。 ・ 伝えることが相手のためなら、伝えるべきだと思う。
末	4 本時の授業を振り返り、感想を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手のことを考えてこそ本当の友達だと思う。 <div>45</div>

5 本時の評価

- 友達との関わりについて考えながら、どうやって友情を築くべきか考えている。(発表)

6 板書計画

友達と感じているのはどんな友達か

- ・ 一緒に遊んでくれる。
- ・ 困っているときに助けてくれる。

アンドレ

逃がす。

ニコライ

自首を勧める。

本人が納得しないなら逃がす。

サバイユ

自首を勧める。

本人が納得しなくても警察に知らせる。

友達としてよりふさわしい順位に並べてみよう。

アンドレ

ニコライ

サバイユ

アンドレ

ニコライ

サバイユ

ニコライ

サバイユ

アンドレ

サバイユ

ニコライ

アンドレ

もし自分だったらどうしますか。

- ・ 電話で伝える。
- ・ 友達に言うてもらう。

価値が高いことは分かっているけど、自分だったら、サバイユにはなれない。

学校の道徳教育重点目標を基に設定した、学年の重点目標を示す。

- ・道徳の年間指導計画に従い、「教材名」と「内容項目」の番号を入れる。
- ・道徳の時間において「わたしたちの道徳」を活用する場合には、★などの印をつける。

【地域・家庭などとの連携の方法】
家庭・地域社会・他の学校や関係機関との連携の方法を具体的に記述する。

・協力体制づくり	・道徳科の授業公開
・広報活動	・保護者や地域の人々の参加や協力の内容

各教科等の方針に基づいて進める道徳性の育成に関わる指導の方針や内容及び時期を整理して示す。

各時期の道徳科で扱う内容が、それぞれの教科等のどの内容と関連しているかを、並べて明示する。

【行事例】

学校や地域の特色を生かした取組や集団宿泊活動、ボランティア活動、自然体験活動などの体験活動や、実践活動における徳徳性育成の方針・内容及び時期等を整理して示す。また、豊かな体験活動がなされるよう計画するとともに、体験活動を生かした徳徳の学習が効果的に展開されるよう工夫する。

【徳教科】

全ての内容項目を一時間以上扱う。特に、学校及び学年の徳徳教育の重点目標に関わる内容は複数時間扱う。体験活動を生かした徳徳科が効果的に展開されるよう工夫する。

【地域との連携】
協力的体制づくりや道徳科の授業公開、広報活動、保護者や地域の人々の参加や協力内容及び時期、具体的な計画等を記述する。

【特活／教科】
各教科等の方針に基づいて進める道徳性の育成に関わる指導の方針や内容及び時期を整理して示す。道徳科が要として役割が果たせるよう計画を工夫する。

各教科等の目標や内容には、児童の道徳性の育成に深い事柄が直接、間接に含まれている。各教科等において道徳教育を適切に行うためには、まず、それぞれの特質に応じて道徳教育に関わる側面を明確に把握する必要がある。それらに含まれる道徳的価値を意識しながら指導することにより、道徳教育の効果も一層高めることができる。(小解説P.102、中解説P.107)